Xanadu でのアプリケーションのビルドまたは変更

最終更新日: **2024年11月7日**

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ここで示したいくつかの例と図は、説明の目的でのみ提供されています。
ServiceNow 製品またはサービスへの実際の関連付けやつながりは意図されておらず、推測されるものではありません。

ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは
米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の
商標または登録商標です。その他の会社名および
製品名は、それぞれの所有者の
商標です。

下記の ServiceNow ウェブサイト利用規約をお読みください。 www.servicenow.com/terms-of-use.html

本社
2225 Lawson Lane
Santa Clara, CA 95054
United States
(408) 501-8550

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

servicenow

目次

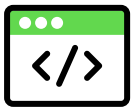
アプリケーションのビルド....4
ServiceNow Now Platform での開発についての学習....6
ServiceNow 開発者向け製品をすばやく検索....7
プログラミングの基礎....24
アプリケーションの構造....26
個人開発者インスタンスガイド....40
Early Availability ガイド....54
ローコード開発とプロコード開発....56
アプリケーションの変更とビルド....59
さまざまな UI エクスペリエンスを理解する....59
開発者向けのサポート....61
アプリケーションコラボレーション....62
コンテキスト開発環境....67
ライセンス....106
アプリケーションスコープにわたる作成制限....106
アプリケーションの計画立案....108
アプリ開発のためのアイデアの送信....109
アプリケーションのデータを指定....111
委託開発と展開....112
チーム開発....124
アプリケーションの開発....163
ノーコードアプリケーションのビルド....165
ローコードアプリケーションのビルド....305
プロコードアプリケーションのビルド....803
ビルダーライブラリ....1353
アプリケーションのテストとデバッグ....1881
ATF を使用したアプリのテスト....1881
アプリケーションの展開....2270
システムアップデートセット....2271
アプリケーションの管理....2309
アプリケーションのメンテナンス....2341

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションのビルド

Now Platform ローコードツールを使用してアプリケーション開発者になる方法を学びます。知識のある所から始めて、再利用可能なコンポーネントと公開済みアプリケーションのライブラリを使用して、従来のプロセスを最新化するようにしてください。

開始するには

アプリケーション作成についての学習 アプリケーション開発に関する基本情報を学習します。	フェーズ 1：アプリケーションの計画立案 アプリケーションをどのように機能させるかを計画します。	フェーズ 2：アプリケーションの開発  コンポーネントとコンテンツをアプリケーションに追加します。
フェーズ 3：アプリケーションのテストとデバッグ アプリケーションがビジネス要件を満たしていることを確認します。	フェーズ 4：アプリケーションの展開 アプリケーションを本番環境に展開します。	フェーズ 5：アプリケーションのメンテナンス アプリケーションのステータスを確認し、必要に応じて変更します。

アプリ開発フェーズ

アプリケーション作成についての学習

新しいアプリケーションをビルドするか、既存のアプリケーションを拡張するかを決定します。既存のソリューションについては、ServiceNow Store と ServiceNow Community を確認してください。

最初のアプリケーションを構築する前に、アプリケーション開発に関する基本情報を理解しておく必要があります。このフェーズはオプションであり、他のフェーズの作業中にいつでも完了することができます。

- Now Platform がテーブルとレコードでどのように構成されているか。スプレッドシートをレコードデータに変換する方法を学習します。
- アプリケーションの作成を練習するために開発インスタンスの取得方法。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- サブスクリプションが必要なアプリケーション機能のライセンスを確認する方法。
- アプリケーション開発について質問するための開発者向けのサポートへの連絡方法。

フェーズ 1：アプリケーションの計画立案

アプリケーション開発プロセスは計画立案から始まります。そのアプリケーションがどのように機能するか、誰が使用するか、それによってユーザーエクスペリエンスがどのように向上するかを検討してください。アプリケーション計画では、次の質問に答える必要があります。

- アプリケーションの目標、目的、および出力は何ですか？
- 誰がアプリケーションを使用しますか？
- アプリケーションのパーツにアクセスできるのは誰ですか？
- ユーザーはアプリケーションを使用してどのようなタスクを実行しますか？
- データをどこから取得しますか？
- ユーザーはどのような方法でアプリケーションを操作しますか？
- アプリケーションはどのようなプロセスをサポートする必要がありますか？
- アプリケーションはどのような UI エクスペリエンスを使用しますか？
- 使用または拡張できる ServiceNow Store または ServiceNow Community で利用可能な既存のアプリケーションはありますか？
- アプリケーションにはどのサブスクリプションが必要ですか？

フェーズ 2：アプリケーションの開発

開発フェーズでは、アプリケーションのコンポーネントとコンテンツを追加します。 ほとんどのアプリケーションは、次の要素で構成されています。

データ

情報は、構成したテーブルを介してアプリケーションに保存されます。たとえば、従業員の電話番号やオフィスの場所などです。

エクスペリエンス

エクスペリエンスは、ユーザーが操作するグラフィカルインターフェイスです。たとえば、ユーザーが情報を検索し、要求を送信し、ビジネスタスクを実行できるポータルを作成できます。

ロジックと自動化

ロジックと自動化を追加することで、アプリケーションのすべての作業を自動化します。たとえば、誰かが要求を行ったときにアドミニストレーターに通知を送信するフローをビルドできます。

セキュリティ

ロールとアクセス制御を構成して、アプリケーションを使用できるユーザーを限定します。たとえば、アプリケーションデータへのアクセスを、特定のロールを持つユーザーに制限できます。

アプリケーションが提供するユーザーエクスペリエンスのタイプに一致するビルダーを選択してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ローコード開発の詳細については、「App Engine Studio を使用したアプリのビルド」を参照してください。
- フローデザイナー または プロセスオートメーションデザイナー を使用した自動化の作成については、「ワークフローのビルド」を参照してください。
- 特殊なアプリケーションリソースについては、「ビルダーライブラリ」を参照してください。

フェーズ 3：アプリケーションのテストとデバッグ

アプリケーションがビジネス要件を満たしていることを確認します。 テストには次の要素を含める必要があります。

- 作成、読み込み、更新、削除などのレコード操作
- ビューや UI ポリシーなどのユーザーインターフェイス要素
- ビジネスルールやイベントスクリプトアクションなどの実行時の操作

フェーズ 4：アプリケーションの展開

アプリケーションをテストしたら、ビルダーツールを使用して本番環境に展開します。

- App Engine 管理センター を使用したアプリ開発の管理 の詳細については、「App Engine 管理センター」を参照してください。
- ServiceNow アプリケーションリポジトリ の詳細については、「アプリケーションリポジトリ」を参照してください。
- 更新セットを使用した従来の展開については、「システムアップデートセット」を参照してください。

フェーズ 5：アプリケーションのメンテナンス

フェーズ 2 ビルダーツールを使用して、アプリケーションを更新および変更します。
フェーズ 3 テストツールを使用して、アプリケーションが引き続き正常に機能することを検証します。

アプリケーションと機能

- ServiceNow Now Platform での開発についての学習
- アプリケーションの計画立案
- アプリケーションの開発
- アプリケーションのテストとデバッグ
- アプリケーションの展開
- アプリケーションのメンテナンス

ServiceNow Now Platform での開発についての学習

ServiceNow の Creator Workflow 製品を使用すると、強力な Now Platform で実行される直感的なエクスペリエンスを作成できます。

このドキュメントの内容

このドキュメントを使用して、次の方法を確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- すべての ServiceNow 開発者向け製品を検索する
- ローコードとプロコードの開発を理解する
- ServiceNow ライセンスを理解する
- 開発者としてサポートを受ける
- さまざまな ServiceNow ユーザーインターフェイスを理解する
- 開発者としての基礎を学ぶ

読者フィードバック機能を使用して、他のトピックを提案してください。

ServiceNow 開発者向け製品をすばやく検索

Now Platform で優れた製品を構築するのに役立つ ServiceNow 開発者向け製品を検索します。

必要な開発者向け製品を見つける

ServiceNow 開発者向け製品を検索するには、次のツールを使用します。

- 開発者向け製品にガイドする ServiceNow ウィジェット
- 開発者製品をリストする ServiceNow テーブル

どこから始めればよいかわからない場合は、営業担当者にお問い合わせください。解決しようとしている問題とその解決方法を理解するのに役立ちます。

ServiceNow 開発者向け製品の検索

次のウィジェットを使用して、強力な Now Platform で実行されるアプリケーションの作成に役立つ ServiceNow 開発者向け製品を検索します。

アプリケーションのビルドに役立つ製品を検索

適切な ServiceNow 開発者向け製品と情報を見つけるには、次のいずれかのタイルを選択します。

私はコーディングに慣れています	私はコードを書いたり、スクリプトを書いたりしません
カスタムコードで ServiceNow アプリをビルドします。	ローコード環境内で ServiceNow アプリをビルドします。

実行すべきこと

以下のオプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのビルド ServiceNow プラットフォームでの開発について学びます。	自分のアプリを管理 ServiceNow アプリケーションをカスタマイズします。	顧客へのエンゲージメント ServiceNow プラットフォームを使用して顧客とコミュニケーションを取る方法を学びます。
レポートの作成 ServiceNow プラットフォームでデータを使用してレポートを作成します。	ServiceNow プラットフォームの詳細 ServiceNow プラットフォームで何ができるかをご覧ください。 	ヘルプの入手 ServiceNow プラットフォームで役立つリソースを検索します。

アプリのビルド

ServiceNow プラットフォームを使用してアプリをビルドします。

AES 開発と展開を迅速に行うため、構造化された環境でアプリをビルドします。	モバイルアプリビルダー ServiceNow モバイルアプリケーションをビルドします。
VS Code 拡張機能 VS Code 向け ServiceNow 拡張機能を活用して、Visual Studio Code で ServiceNow アプリケーションを編集します。	ServiceNow スタジオ ServiceNow プラットフォームを使用してカスタムアプリケーションをビルドします。

アプリケーションを管理

ServiceNow アプリを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自分のアプリのカスタマイズ ServiceNow プラットフォームでアプリをカスタマイズします。	自分のアプリの自動化 ServiceNow アプリケーションを自動化します。	アプリの保護 ServiceNow アプリケーションを保護します。
自分のアプリのテスト ServiceNow プラットフォームでアプリをテストします。	自分のアプリの展開 ServiceNow プラットフォームでアプリを展開します。	自分のアプリの管理 ServiceNow プラットフォームでアプリを管理します。

自分のアプリのカスタマイズ

ServiceNow アプリをカスタマイズします。

UI ビルダー ServiceNow プラットフォームでカスタムエクスペリエンスを作成する方法を学びます。	**Table Builder** テーブルビルダー を使用してデータをカスタマイズします。
Workspace Builder ワークスペースビルダー を使用してデータをカスタマイズします。	スクリプト ServiceNow プラットフォームでカスタムスクリプトを使用します。

アプリの自動化

ServiceNow アプリを自動化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オートメーションディスカバリー ServiceNow プラットフォームでのワークフローの自動化の機会を特定します。	のフローワークフロースタジオ プロセスオーナーが ServiceNow プラットフォームでの作業を自動化できるようにします。	ディシジョンビルダー 開発者は意思決定ルールを作成して維持することで、意思決定ロジックをコードから切り離すことができます。
プロセスオートメーションデザイナー プロセスオーナーが、企業間ワークフローを作成し、単一の統一されたプロセスを作成できるようにします。	プレイブックエクスペリエンス デフォルトのプレイブックユーザーエクスペリエンスをカスタマイズして、目的のビジネスプロセスワークフローとやり取りできます。	ビジネスルール ビジネスルールを作成して、特定の条件が満たされたときにフォームフィールドの値を自動的に変更するなどのタスクを実現します。

アプリの保護

ServiceNow アプリを保護します。

App Engine Studioロールと権限 アプリの使用または編集を許可するユーザーを制御します。	エッジ暗号化 社内の機密データを暗号化してから、インスタンスをインターネット経由で送信します (送信中に暗号化)。	UI ポリシー フォーム上の情報の動作を動的に変更し、タスクのカスタムプロセスフローを制御します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール

アプリケーションおよびモジュールの機能へのアクセスを制御します。

アクセス制御

インスタンスにアクセスできるカスタマーサービスおよびサポートの従業員とそのタイミングをコントロールします。

ユーザーとグループ

システムにユーザーとして定義することで、インスタンスにアクセスできる個人を管理します。

アプリのテスト

ServiceNow アプリをテストします。

自動テストフレームワーク (ATF)

自動テストを作成して実行し、変更後にインスタンスが機能することを確認します。

テスト管理

テストプロセスの管理を簡素化し、ソフトウェア製品をより効率的かつ少ないエラー数で提供できるようにします。

スクリプトデバッガ

セッションログと Now Platform デバッグツール (ウォークスルースクリプトデバッガーや UI に表示されるエラーメッセージなど) を使用して、スクリプトをデバッグします。

スクリプトトレーサー

デバッグの検索をフィルタリングして、スクリプトの問題を素早く絞り込みます。

セッションログ

ビジネスルール、スクリプトインクルード、およびカスタム UI のセッションログを表示およびダウンロードします。

ユーザーの代理操作

テスト目的で他の認証されたユーザーの代理操作を行い、代理操作ログを表示します。

NOW コマンドラインインターフェイス **(CLI)**

コマンドラインインターフェイスでローカルシステムからインスタンス操作を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリを展開する

ServiceNow アプリを展開します。

Next Experience

App Engine 管理センター

本番インスタンスで App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、App Engine Studio (AES) の要求、展開、アプリケーション、共同開発者を追跡および管理します。

コア UI 技術スタック

アプリケーションリポジトリ

ServiceNow プラットフォームでの開発について学びます。

クラウドプロビジョニングとガバナンス

ServiceNow® クラウドプロビジョニングとガバナンス アプリケーションを使用すると、単一のインターフェイスでクラウドリソースにアクセスして、クラウド製品をカタログに公開し、それらのリソースの使用状況を管理できます。

アプリのメンテナンス

ServiceNow アプリをメンテナンスします。

Next Experience

システムアップデートセット

この機能により、アドミニストレーターは一連の変更を名前付きセットにグループ化し、テストまたはデプロイメントのために別のシステムにユニットとして移動できます。

サービスマッピング

ServiceNow® サービスマッピング アプリケーションは、組織内のすべてのアプリケーションサービスを検出し、それらのアプリケーションサービスで使用するすべてのデバイス、アプリケーション、および構成プロファイルの包括的なマップをビルドします。

顧客へのエンゲージメント

ServiceNow アプリを使用して顧客とやり取りします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

チャットボット

仮想エージェントデザイナー

ServiceNow プラットフォームを使用して、仮想エージェントトピックを作成および管理します。

仮想エージェントダッシュボード

会話型アナリティクスダッシュボードは、会話データに関する詳細なインサイトを提供することで、ユーザーとの仮想エージェントのインタラクションを改善するのに役立ちます。

人工知能

自然言語理解 **(NLU)** ワークベンチ

NLU ワークベンチ を使用して、人間の言語の形態素表現を作成します。

プラットフォームアナリティクス

プラットフォームアナリティクス、仮想エージェント、および機械学習を使用して、プロセスを最適化し、生産性を向上させます。

予測インテリジェンス

ServiceNow アプリケーション全体の機能を高める人工知能のレイヤーを提供して、作業の満足度を高めます。

レポートの作成

ServiceNow プラットフォームでデータを使用してレポートを作成します。

パフォーマンスアナリティクスとレポート

パフォーマンスアナリティクス、仮想エージェント、および機械学習を使用して、プロセスを最適化し、生産性を向上させます。

アナリティクスハブ

アナリティクスハブは、より詳細な分析に使用されるインジケーターの探索的ビューです。特定のインジケーターの傾向、予測、ブレークダウン、および関連レコードを表示することができます。

アナリティクスセンター

アナリティクスセンターでは、インスタンスのすべてのダッシュボード、可視化、分析回答、およびインサイトを 1 つのページに表示する プラットフォームアナリティクス ワークスペースを使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パフォーマンスアナリティクスダッシュボード

ServiceNow ダッシュボード製品を使用すると、複数のパフォーマンスアナリティクス、レポート、およびその他のウィジェットを 1 つの画面に表示できます。

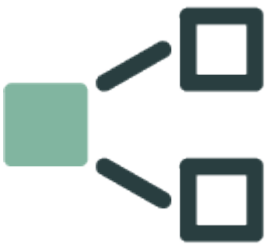
仮想エージェントダッシュボード

会話型アナリティクスダッシュボードは、会話データに関する詳細なインサイトを提供することで、ユーザーとの仮想エージェントのインタラクションを改善するのに役立ちます。

ローコードツール：アプリを構築するためにできること

ローコードアプリを構築するときは、アプリをカスタマイズしたり、使用状況に関するレポートを作成したりできます。

アプリの構築



ServiceNow プラットフォームでの開発について学びます。

自分のアプリの管理

ServiceNow アプリケーションをカスタマイズします。

顧客へのエンゲージメント

ServiceNow プラットフォームを使用して顧客とコミュニケーションを取る方法を学びます。

レポートの作成

ServiceNow プラットフォームでデータを使用してレポートを作成します。

ServiceNow プラットフォームの詳細

ServiceNow プラットフォームで何ができるかをご覧ください。

ヘルプの入手

ServiceNow プラットフォームで役立つリソースを検索します。

アプリのビルド

ServiceNow プラットフォームを使用してアプリをビルドします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES 開発と展開を迅速に行うため、構造化された環境でアプリをビルドします。	モバイルアプリビルダー ServiceNow モバイルアプリケーションをビルドします。

アプリの管理

ServiceNow アプリを管理します。

自分のアプリのカスタマイズ ServiceNow プラットフォームでアプリをカスタマイズします。	自分のアプリの自動化 ServiceNow アプリケーションを自動化します。	アプリの保護 ServiceNow アプリケーションを保護します。
自分のアプリのテスト ServiceNow プラットフォームでアプリをテストします。	自分のアプリの展開 ServiceNow プラットフォームでアプリを展開します。	自分のアプリの管理 ServiceNow プラットフォームでアプリを管理します。

自分のアプリのカスタマイズ

ServiceNow アプリをカスタマイズします。

UI ビルダー ServiceNow プラットフォームでカスタムエクスペリエンスを作成する方法を学びます。	**Table Builder** テーブルビルダー を使用してデータをカスタマイズします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workspace Builder

ワークスペースビルダー を使用してデータをカスタマイズします。

アプリの自動化

ServiceNow アプリを自動化します。

オートメーションディスカバリー ServiceNow プラットフォームでのワークフローの自動化の機会を特定します。	のフローワークフロースタジオ プロセスオーナーが ServiceNow プラットフォームでの作業を自動化できるようにします。	ディシジョンビルダー 開発者は意思決定ルールを作成して維持することで、意思決定ロジックをコードから切り離すことができます。
プロセスオートメーションデザイナー プロセスオーナーが、企業間ワークフローを作成し、単一の統一されたプロセスを作成できるようにします。	プレイブックエクスペリエンス デフォルトのプレイブックユーザーエクスペリエンスをカスタマイズして、目的のビジネスプロセスワークフローとやり取りできます。	ビジネスルール ビジネスルールを作成して、特定の条件が満たされたときにフォームフィールドの値を自動的に変更するなどのタスクを実現します。

アプリの保護

ServiceNow アプリを保護します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine Studioロールと権限

アプリの使用または編集を許可するユーザーを制御します。

エッジ暗号化

社内の機密データを暗号化してから、インスタンスをインターネット経由で送信します (送信中に暗号化)。

UI ポリシー

フォーム上の情報の動作を動的に変更し、タスクのカスタムプロセスフローを制御します。

ロール

アプリケーションおよびモジュールの機能へのアクセスを制御します。

アクセス制御

インスタンスにアクセスできるカスタマーサービスおよびサポートの従業員とそのタイミングをコントロールします。

ユーザーとグループ

システムにユーザーとして定義することで、インスタンスにアクセスできる個人を管理します。

アプリのテスト

ServiceNow アプリをテストします。

自動テストフレームワーク (ATF)

自動テストを作成して実行し、変更後にインスタンスが機能することを確認します。

テスト管理

テストプロセスの管理を簡素化し、ソフトウェア製品をより効率的かつ少ないエラー数で提供できるようにします。

スクリプトデバッガ

セッションログと Now Platform デバッグツール (ウォークスルースクリプトデバッガーや UI に表示されるエラーメッセージなど) を使用して、スクリプトをデバッグします。

スクリプトトレーサー

デバッグの検索をフィルタリングして、スクリプトの問題を素早く絞り込みます。

セッションログ

ビジネスルール、スクリプトインクルード、およびカスタム UI のセッションログを表示およびダウンロードします。

ユーザーの代理操作

テスト目的で他の認証されたユーザーの代理操作を行い、代理操作ログを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

NOW コマンドライン インターフェイス (CLI)

コマンドラインインターフェイスでローカルシステムからインスタンス操作を実行します。

アプリを展開する

ServiceNow アプリを展開します。

Next Experience

App Engine 管理センター

本番インスタンスで App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、App Engine Studio (AES) の要求、展開、アプリケーション、共同開発者を追跡および管理します。

コア UI 技術スタック

アプリケーションリポジトリ

ServiceNow プラットフォームでの開発について学びます。

クラウドプロビジョニングとガバナンス

ServiceNow® クラウドプロビジョニングとガバナンス アプリケーションを使用すると、単一のインターフェイスでクラウドリソースにアクセスして、クラウド製品をカタログに公開し、それらのリソースの使用状況を管理できます。

アプリのメンテナンス

ServiceNow アプリをメンテナンスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Next Experience

システムアップデートセット

この機能により、アドミニストレーターは一連の変更を名前付きセットにグループ化し、テストまたはデプロイメントのために別のシステムにユニットとして移動できます。

サービスマッピング

ServiceNow® サービスマッピング アプリケーションは、組織内のすべてのアプリケーションサービスを検出し、それらのアプリケーションサービスで使用するすべてのデバイス、アプリケーション、および構成プロファイルの包括的なマップをビルドします。

顧客へのエンゲージメント

ServiceNow アプリを使用して顧客とやり取りします。

チャットボット

仮想エージェントデザイナー

ServiceNow プラットフォームを使用して、仮想エージェントトピックを作成および管理します。

仮想エージェントダッシュボード

会話型アナリティクスダッシュボードは、会話データに関する詳細なインサイトを提供することで、ユーザーとの仮想エージェントのインタラクションを改善するのに役立ちます。

人工知能

自然言語理解 **(NLU)** ワークベンチ

NLU ワークベンチ を使用して、人間の言語の形態素表現を作成します。

プラットフォームアナリティクス

プラットフォームアナリティクス、仮想エージェント、および機械学習を使用して、プロセスを最適化し、生産性を向上させます。

予測インテリジェンス

ServiceNow アプリケーション全体の機能を高める人工知能のレイヤーを提供して、作業の満足度を高めます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポートの作成

ServiceNow プラットフォームでデータを使用してレポートを作成します。

パフォーマンスアナリティクスとレポート パフォーマンスアナリティクス、仮想エージェント、および機械学習を使用して、プロセスを最適化し、生産性を向上させます。	アナリティクスハブ アナリティクスハブは、より詳細な分析に使用されるインジケーターの探索的ビューです。特定のインジケーターの傾向、予測、ブレークダウン、および関連レコードを表示することができます。	アナリティクスセンター アナリティクスセンターでは、インスタンスのすべてのダッシュボード、可視化、分析回答、およびインサイトを 1 つのページに表示する プラットフォームアナリティクス ワークスペースを使用できます。
パフォーマンスアナリティクスダッシュボード ServiceNow ダッシュボード製品を使用すると、複数のパフォーマンスアナリティクス、レポート、およびその他のウィジェットを 1 つの画面に表示できます。	仮想エージェントダッシュボード 会話型アナリティクスダッシュボードは、会話データに関する詳細なインサイトを提供することで、ユーザーとの仮想エージェントのインタラクションを改善するのに役立ちます。	

問題を解決する **ServiceNow** 製品

このテーブルを使用して、問題の解決に役立つ ServiceNow 製品を検索します。

したいこと	使用	**ServiceNow** 製品またはトピック
開発の概要を把握する		• 製品について理解する：ServiceNow • 開発インスタンスの取得 • 実演 • Now Platform の仕組み • ライセンス • ローコード開発とは？

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

したいこと	使用	ServiceNow 製品またはトピック
アプリケーション開発の支援を受ける		• Now Platform の使用を開始するための手引き • ServiceNow開発者コミュニティ • カスタマーサポート • ナレッジベース • Customer Success Center • ServiceNowトレーニング • 追加サポート • 既知のエラーポータル
アプリケーションの作成を計画する		• 委託開発 • App Engine Studio での委託開発 • ソースコントロール • 共通サービスデータモデル (CSDM)
アプリケーションを作成	• ノーコード • Next Experience	App Engine Studio
	• コーディングとスクリプティング • コア UI 技術スタック • フォームとリスト	• ServiceNow Studio • Visual Studio Code 向けの ServiceNow 拡張 • REST API • ガイド付きアプリケーションクリエーター • Now Platform のフォーム、フィールド、およびリスト
	Mobile Platform	• モバイルアプリビルダー • モバイルカードビルダー
アプリケーションをカスタマイズする	UI ページ	• UI ビルダー • Workspace Builder (App Engine Studio 内のみ)
	データ、テーブル	テーブルビルダー
	スクリプト	• ノーコードスクリプティング (アクションデザイナー - カスタムアクションのビルド) • コードエディター

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

したいこと	使用	ServiceNow 製品またはトピック
		• クライアント側スクリプティング • サーバー側スクリプティング • スクリプトデバッガー • ServiceNow CLI
	サービスポータル	• サービスポータル デザイナーを使用したページの作成と編集 • サービスポータルウィジェット • ネクストエクスペリエンス のテーマと設定の構成
自動化を追加する		• Automation Discovery • ワークフロースタジオ • ディシジョンテーブルの探索 • プロセスオートメーションデザイナー • プレイブックエクスペリエンスの設定 • ジャーニーデザイナー • クラシックビジネスルール
ServiceNow と自分のアプリケーションを統合する	自動化とフロー	• 統合ハブ • のフローワークフロースタジオ
	API	• REST API リファレンス • サーバー API リファレンス • クライアント API リファレンス • 製品別に API を参照 • アクションデザイナー - カスタムアクションのビルド • 統合ハブリモートプロセス同期
アプリケーションを保護	ノーコード (App Engine Studio のみ)	AES のペルソナとロールの構成
	コーディングとスクリプティング、コア UI 技術スタック	• エッジ暗号化 • UI ポリシー • ロールの管理 • ServiceNow® アクセス制御 • ユーザー管理

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

したいこと	使用	ServiceNow 製品またはトピック
顧客へのエンゲージメント	チャットボットダイアログのカスタマイズ	• の開始仮想エージェントデザイナー • 会話型アナリティクスダッシュボード
	人工知能	• ビジネスプロセスの分析と最適化 Now Intelligence • 予測インテリジェンス
アプリケーションのテスト	App Engine Studio アプリの場合	自動テストフレームワーク (ATF)
	コーディング、コア UI 技術スタック	• 自動テストフレームワーク (ATF) • テスト管理アプリケーション • スクリプトデバッガー • スクリプトトレーサー • セッションログ • ユーザーの代理操作を行う • ServiceNow CLI
アプリケーションの展開	ノーコード (App Engine Studio のみ)	App Engine 管理センター
	コーディング、コア UI 技術スタック	• ServiceNow アプリケーションリポジトリ • クラウドプロビジョニングとガバナンス
アプリケーションのメンテナンス		• Now Platform の保守と監視 • Now Platform の保守と監視 システムアップデートセット • サービスマッピング • インスタンスデータレプリケーション (IDR) • メトリックベース
レポートの作成		• CMDB ワークスペースの CMDB 360 ビュー • ビジネスプロセスの分析と最適化 - パフォーマンスアナリティクスレポート • アナリティクスハブ • アナリティクスセンター • 会話型アナリティクスダッシュボード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

したいこと	使用	ServiceNow 製品またはトピック
インスタンスのコピー		インスタンスデータレプリケーション (IDR)
エクスペリエンスのパーソナライズ		エクスペリエンスのパーソナライズ

プログラミングの基礎

通常、ソフトウェア開発には標準的な一連のステップが含まれます。アプリケーションの開発が初めての場合は、このまま読み進めてください。

開発者としての仕事

アプリケーション開発が初めての場合でも、ServiceNow には App Engine Studio と呼ばれるローコード開発プラットフォームが用意されており、アプリケーションを作成できます。開発を初めて行う方にも、ローコードツールは簡単に使用できます。ためらわずにアプリを開発してください。

ソフトウェア開発者は多くのことを行いますが、共通しているのはコンピューターコードを使用して問題を解決することです。ServiceNow は、コーディング経験、中程度のコーディング経験、および専門的なコーディング経験を必要としないコーディングプラットフォームを提供します。必要なコーディングが少ないほど、コーディングプラットフォームが行う作業が多くなります。したがって、経験豊富なソフトウェア開発者でも、App Engine Studio などの低～中レベルのコーディングプラットフォームを評価します。

ソフトウェア開発ライフサイクル

アプリケーション開発の一般的なステージは次のとおりです。

1. 問題を定義します。
2. ソリューションを計画します。
3. ソリューションをコーディングします。
4. アプリケーションをテストします。
5. アプリケーションを展開します。
6. アプリケーションを文書化します。

これらのステップは、一般にソフトウェア開発ライフサイクルと呼ばれます。ServiceNow開発者ドキュメントは、次の手順に従ってグループ化されます。

本当に新しいアプリケーションを作成する必要があるか

最初のステップは、アプリケーションの作成が必要かどうかを判断することです。次の点を考慮してください。

- 新しいアプリケーションを作成する代わりに、既存のアプリケーションを拡張できますか？
- アプリケーションは何人のユーザーにサービスを提供しますか？多くない場合、取り組む価値はありますか？
- 時間の経過とともに変化するアプリケーションをメンテナンスしますか？
- どのくらいの頻度でこのアプリケーションを使用しますか？頻繁でない場合、取り組む価値はありますか？

新しいアプリケーションを作成することに意味がある場合は、次に進みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題の定義

アプリケーションの作成を計画している場合は、何を実行するのかについての考えが必要です。ただし、ソリューションの詳細なアイデアがない場合があります。少なくとも、以下を詳細に定義する必要があります。

- 必要なアプリケーション出力
- アプリケーションに入るデータ

取り込まれるデータは通常、データのテーブルから取得されます。テーブル名とその中のデータのタイプを知る必要があります。Table Builder などの ServiceNow ツールを使用して、データを格納およびカスタマイズできます。

目的とする出力は、ダッシュボード、テーブルに格納されているデータ、または従業員に送信される機器です。出力を決定する前に、出力のモックアップを多くの人に示して、出力の改善を提案できるかどうかを確認します。このステップをスキップしないでください。

ソリューションの計画立案

必要な出力を生成するアルゴリズムを作成するには、さまざまな方法があります。最も簡単な方法は、入力データから始まり、出力につながるプロセスの各ステップを示すフローチャートを使用することです。フローチャートを使用すると、実行したいことの全体像に焦点を当て、それを実行する方法を避けることができます。フローチャートを注意深く見てプロセスを最適化します。

データのテーブルを使用するための権限、またはアプリケーションを作成するための権限が必要になる場合があります。たとえば、市民開発者には App Engine 管理センターを通じてアプリ開発権限が付与されます。

ServiceNow 計画立案ツールの詳細については、「アプリケーションの計画立案」を参照してください。

アプリケーションのコーディング

アプリケーションをコーディングするには、以下を使用します。

- App Engine Studio などのローコード ServiceNow ツール
- ServiceNow Studioなどのプロコード ServiceNow ツール

ServiceNow コーディングプラットフォームの詳細については、「アプリケーションの開発」を参照してください。

アプリケーションのテスト

アプリケーションをテストするには、結果が正確であることを確認するためのデータを入力する必要があります。誤ったデータであっても大量のデータを入力して、アプリケーションが正しい入力と誤った入力をどの程度処理するかを確認することが重要です。大きすぎるデータまたは間違ったタイプのデータを入力してください。データをまったく入力しないでください。ユーザーによる中断を防ぐため、アプリケーションの中断を試みてください。エラー条件を適切に処理することは、優れたカスタマーエクスペリエンスにとって重要です。

ServiceNow テストツールの詳細については、「アプリケーションのテストとデバッグ」を参照してください。

アプリケーションの展開

アプリケーションのテストが完了したので、顧客が使用できるように展開します。アプリケーションの展開は、開発者ではなくシステムアドミニストレーターが行います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow 展開ツールの詳細については、「アプリケーションの展開」を参照してください。

アプリケーションのメンテナンス

アプリケーションのメンテナンスでは、サーバーの過負荷、アプリケーションエラー、機能の更新などの問題に対処します。機能の更新を管理するのは開発者の仕事です。アプリケーションの動作状況を確認するのはシステムアドミニストレーターの仕事です。

アプリケーションのメンテナンスに役立つ ServiceNow ツールの詳細については、「アプリケーションのメンテナンス」を参照してください。

アプリケーションの文書化

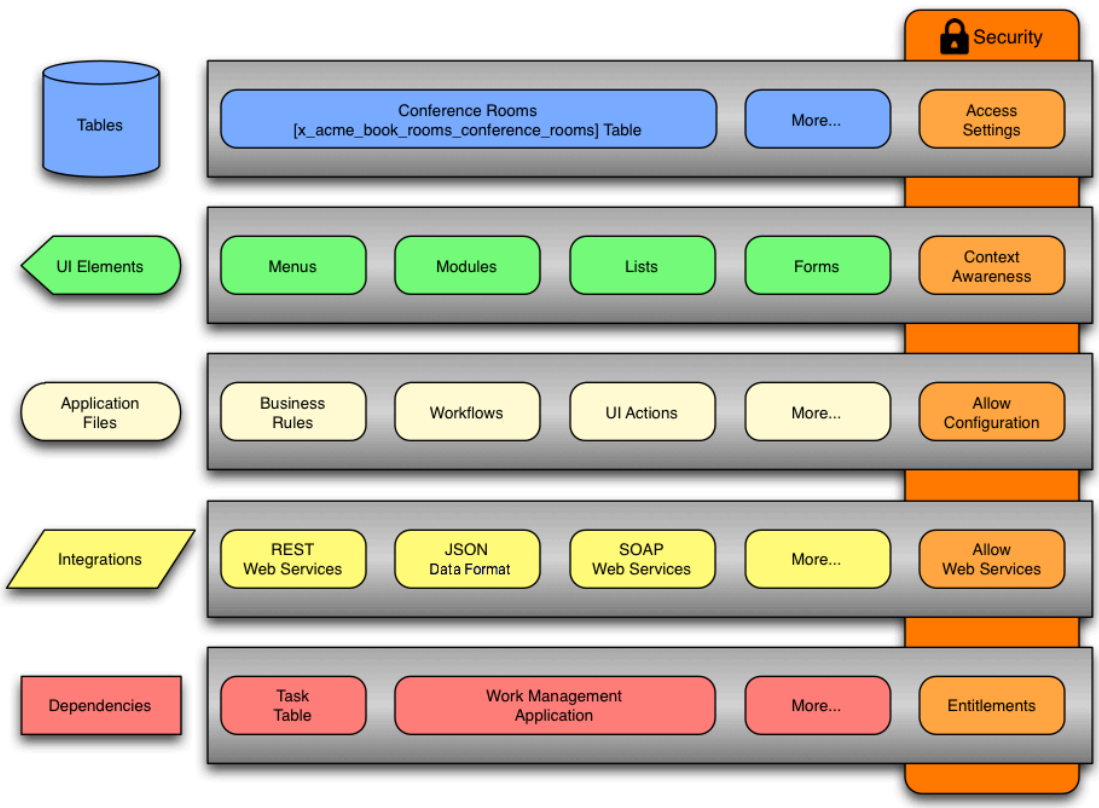
アプリケーション開発は、アプリケーションが文書化されるまで完了しません。アプリケーションを文書化する理由は多数あります。

- 内部メモは、他の開発者がアプリケーションで作業するのに役立ちます。プログラミングの決定と方法論の背後にある理由を理解するには、多くの時間がかかります。これらを文書化すると、将来の開発者がアプリケーションをメンテナンスするのに役立ちます。
- ユーザーはアプリケーションの使用方法を知る必要があります。アプリケーションの透明性を高くしたつもりでも、使用しようとすると不満を感じる人も少なくありません。アプリケーションとドキュメントのユーザビリティテストを実行して、ユーザーが問題に遭遇する箇所を確認します。対象者が広いほど、アプリケーションが重要になり、ドキュメントが重要になります。経験豊富なテクニカルライターを使用してドキュメントを作成することを検討してください。

アプリケーションの構造

アプリケーションは、いくつかのタイプのファイルとレコードで構成されており、それらの集合としてサービスを提供します。

アプリケーションモデル



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタムアプリケーションレコード

カスタムアプリケーションレコードは、アプリケーションとそれに関連するすべてのアーティファクトを定義し、識別します。

これは、アプリケーションの最新の構成が格納される点で、テーブルや列のシステムディクショナリーレコードと似ています。カスタムアプリケーションレコードは、アプリケーション作成のプロセス中に自動的に作成されます。アプリケーション開発者は、このレコードを使用して次のタスクを実行できます。

- アプリケーション名を変更する。
- アプリケーションのバージョンを変更する。
- アプリケーションファイルと設定レコードを識別するためにシステムが使用するスコープを表示する。
- スコープ指定管理を有効にする。
- アプリケーションの設計時および実行時のアクセスを管理する。
  - アプリケーションでサポートする JavaScript 標準を選択する。
  - 実行時の API 操作の追跡方法を選択する。
  - テーブルに対する他のアプリケーションからのアクセスを許可または制限する。
- サブスクリプションを監視または適用する。
- アプリケーション モジュールを表示するデフォルトのメニューを選択する。
- アプリケーションに対するアクセスに必要なユーザーロールを設定する。
- ロゴを追加または更新する。
- すべてのアプリケーションファイルを表示する。
- アプリケーションが依存する他のアプリケーションのリソースを表示する。
- アプリケーションがアクセスを許可されている実行時リソースを表示する。
- アプリケーションがアクセスを許可されている設計時リソースを表示する。

アプリケーションバージョン

インストールされる各アプリケーションには、アプリケーション開発者がカスタムアプリケーションレコードに定義したバージョンが設定されます。

システムは、このバージョン情報を使用して、ServiceNow アプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store から入手可能な更新があるかどうかを判断します。

アプリケーションスコープ

アプリケーションスコープは、アプリケーションファイルやデータに対するアクセスを識別して制限することによって、アプリケーションを保護します。

アドミニストレーターは、アプリケーションのどの部分を他のアプリケーションからアクセスできるようにするのかを、以下から指定することができます。

- カスタムアプリケーションレコード。
- 各アプリケーション テーブル レコード。

たとえば、会議室予約アプリケーションをそのアプリケーション独自のアプリケーションスコープで作成するとします。デフォルトでは、そのアプリケーションはアプリケーション自体のテーブルとビジネスロジックにアクセスして変更できますが、他のアプリケーションは、明示的な権限が付与されないかぎり、それらのテーブルやビジネスロジックにアクセスして変更することはできません。アプリケーションスコープにより、次のことが保証されます。

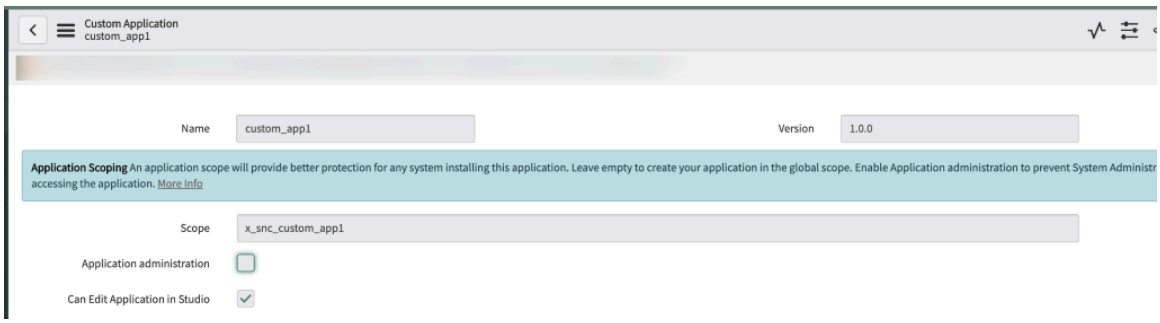
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 会議室予約アプリケーションがコアビジネスサービスを中断しない。
- 他のアプリケーションによって、このアプリケーションの通常機能が妨げられることはありません。

デフォルトでは、すべてのカスタムアプリケーションにプライベートスコープがあり、アプリケーション自体とその関連アーティファクトが名前空間識別子によって一意に識別されます。アプリケーションスコープにより命名の競合を防止し、コンテキスト開発環境では、許可する変更 (変更がある場合) を判断することができます。アプリケーション開発者は、アプリケーションを作成するときにアプリケーションスコープを指定します。

ヒント: グローバルアプリが、変更したくないデータを変更する可能性があります。スコープ対象のアプリを活用して新しいテーブルを作成し、古いテーブルをスコープ対象のアプリに移行することを検討する必要があります。これにより、委託開発で責任を分割できます。委任開発の詳細については、「委託開発と展開」を参照してください。

[スタジオでアプリケーションの編集が可能] オプションを選択しても、インスタンスで開発中のカスタムアプリケーションまたはグローバルアプリケーションには影響しません。アプリケーションの所有者がアプリケーションの公開を選択した場合は、Studio でのカスタマイズの開発を制限できます。**[Studio** でアプリケーションの編集が可能] を false に設定してから公開すると、アプリケーションを自分のインスタンスにダウンロードしたユーザーは、そのアプリケーションを Studio で編集できなくなります。ただし、Studio 内の ソースコントロールの統合 機能にはアクセスできます。



関連情報

アプリケーションテーブルへの実行時アクセス

グローバルスコープ

グローバルスコープは、アプリケーションスコープが実装される前に開発されたアプリケーションや、他のすべてのグローバルアプリケーションにアクセスできることを意図したアプリケーションを識別する、特別なアプリケーションスコープです。

グローバル スコープ内のアプリケーションでは、アプリケーション名に一意の名前空間識別子が付加されません。開発者が複数のグローバル アプリケーションを同じ名前で作成すると、グローバルアプリケーション間で命名の競合とデータの衝突が起こる可能性があります。

すべてのグローバルアプリケーションは同じスコープ内にあるため、スコープ保護をバイパスします。グローバル アプリケーションでは、他のグローバル アプリケーションがテーブルにアクセスして以下の処理を実行できます。

- レコードを読み取る。
- API リクエストを実行する。
- 設定レコードを作成する。

グローバルスコープ内には、通常、ServiceNow が提供するアプリケーションのみが属します。ただし、アプリケーションスコープが実装される前に作成されたカスタムアプリケーションもまた、グローバルスコープ内に属します。さらに、sn_g_app_creator.app_creator ロールを持つ開発者は、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

グローバルスコープ内でアプリケーションを作成できます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのグローバルアプリケーション開発の許可」を参照してください。

グローバルスコープ内のアプリケーションは、ServiceNow Store ではなく、アプリケーションリポジトリへのアップロードが適しています。

関連情報

- アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開
- ServiceNow Store にアプリケーションを公開する

名前空間識別子

システムにより、テーブル、スクリプト、および設定レコードなどのアプリケーションアーティファクトの先頭に名前空間識別子が付加されます。

この識別子は、変更したりアプリケーション アーティファクトから削除したりすることはできません。それにより、常に正しいアプリケーションに関連付けられ、一意な名前を持つことが保証されます。

システムは、以下の情報から名前空間識別子を生成します。

名前空間識別子を生成するために使用される要素

要素	要件	サンプル値
スコープ対象のアプリケーションのプリフィックス文字	スコープ対象のアプリケーションは常にプリフィックス x_ で始まります。	x_
お客様のインスタンスプリフィックス (glide.appcreator.company.code)	この文字列の長さは 2 ～ 5 文字です。ServiceNow が顧客ごとにこのプリフィックスを生成します。インスタンスは、プリフィックスを *glide.appcreator.company.code* システム プロパティに格納します。	ACME
アプリケーション ID	この文字列の長さは最大 40 文字です。文字列が 18 文字を超える場合、アプリケーション名は切り捨てられ、プリフィックス `x_<glide.appcreator.company.code>_` に追加されます。アプリケーション開発者が、アプリケーションを作成するときにこの ID を設定します。デフォルトでは、システムによってアプリケーション名が使用されます。	book_rooms

このサンプル値からは、x_acme_book_rooms という名前空間識別子が生成されます。

名前空間識別子の例

次の例は、アプリケーション、テーブル、およびフィールドの名前空間識別子の生成を示しています。

名前空間識別子の例

アクション	生成される要素	説明
1. Book Rooms と呼ばれるプライベート スコー	x_acme_book_rooms	これは、ベンダー プリフィックスとアプリケーショの組み合わせです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前空間識別子の例 (続く)

アクション	生成される要素	説明
プ アプリケーションの名前空間識別子を生成する。		
2. Marketing Events と呼ばれるグローバルスコープ アプリケーションの名前空間識別子を生成する。	なし	グローバル アプリケーションについては、システムによって名前空間プリフィックスは生成されません。
3. Book Rooms アプリケーションに conference rooms テーブルを追加する。	x_acme_book_rooms_conference_rooms	このテーブルは Book Rooms のスコープ内にあるた先頭に名前空間識別子が付加されます。
4. グローバル アプリケーションに Marketing Event テーブルを追加する。	u_marketing_event	グローバル スコープ内のカスタム テーブルには、常前空間識別子 `u_` が使用されます。
5. アプリケーション ピッカーで Book Rooms を選択し、conference room テーブルに キャパシティ フィールドを追加する。	capacity	このフィールドはテーブルと同じスコープ内にあるため、独自の名前空間識別子はありません。ただし、スクリプトでこのフィールドをドット連結する場合、`x_acme_book_rooms_conference_rooms.` のように、テーブルの名前空間識別子を含む完全パ使用します。
6. アプリケーション ピッカーで Book Rooms を選択し、Marketing Event テーブルに **Theme** フィールドを追加する。	x_acme_book_rooms_theme	このフィールドはテーブルとは異なるスコープ内にあるため、名前空間識別子 `x_acme_book_rooms` がプリフィックスとして付加されます。スクリプトでこのフィールドをドット連結する場合、`u_marketing_event.x_acme_book_rooms` のように、フィールドの名前空間識別子を含む完全を使用します。 **注:** この例では、Marketing Event テーブルてのアプリケーションスコープでのフィールドの作が許可されていることを前提としています。
7. アプリケーション ピッカーで Marketing Events を選択し、Marketing Event テーブルに **Theme**	u_theme	グローバルスコープ内のカスタムフィールドには、プリフィックス **u_** が使用されます。スクリプトでこのフィールドをドット連結するには、`u_marketing_event.u_theme` を使用します

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前空間識別子の例 (続く)

アクション	生成される要素	説明
フィールドを追加する。		

アプリケーション テーブル

アプリケーション開発者は、ユーザーがレコードを追加および更新できるように、テーブルと、それに関連付けられたリストとフォームを作成します。

アプリケーションはテーブルの所有者であり、他のアプリケーションがそのテーブルのリソースにアクセスできるかどうかを決定します。たとえば、Book Rooms アプリケーションは、conference room データを Conference Rooms [x_acme_book_rooms_conference_rooms] テーブルに保存し、他のアプリケーションがこのデータを読み取ることを許可できます。

システムは、標準のアクセスコントロールを使用して、アプリケーションデータに対するユーザーアクセスを管理します。開発者は、アプリケーションの作成時に、これらのアクセスコントロールにアプリケーション固有のユーザーロールを指定できます。また、アプリケーションのアクセス設定を使用して、アプリケーションテーブルに対するランタイムアクセスおよび設計時アクセスを管理することもできます。

注: 特定の Now Platform サブスクリプションには、カスタムテーブルエンタイトルメントが含まれています。任意の目的で、最大でサブスクリプションのエンタイトルメント制限まで、カスタムテーブルを作成できます。作成したカスタムテーブルを使用アドミニストレーターがサブスクリプションにマッピングする方法の詳細については、「サブスクリプション管理 での製品サブスクリプションへのカスタムテーブルのマッピング」を参照してください。

次のデータベースの制限に注意してください。

- システムがテーブルごとに設定できるのは最大で 1000 列です。1000 列が指定された制限ですが、この制限はテーブル内に物理的に 1000 列を持つことができるという意味ではありません。テーブル内の列数は、Now Platform ではなく ServiceNow データセンターで使用されるデータベースによって定義されます。
- ストレージエンジンに関係なく、すべてのテーブルの最大行サイズは 65,535 バイトです。ストレージエンジンでは、この制限に追加の制約が課せられ、有効な最大行サイズが減少する場合があります。
- システムは、単一のテーブルに対して中程度の長さ以上の文字列フィールドを 10 を超えて持つことはできません。11 以上の文字列フィールドに多数の文字を保存しようとすると、次のエラーが発生する可能性があります：データベースによって検出された構文エラーまたはアクセスルール違反 (行サイズが大きすぎる (> `8126`))。
- フィールドを作成すると、u_ プリフィックスが自動的に列名に追加されます。入力した列ラベルの先頭に数字が含まれている場合は、u_ プリフィックスに置き換えられます。

データベースの制限と ServiceNow インスタンス内のテーブルに関する一般的な質問の詳細については、KB0749585 を参照してください。

関連情報

アプリケーションのアクセス設定

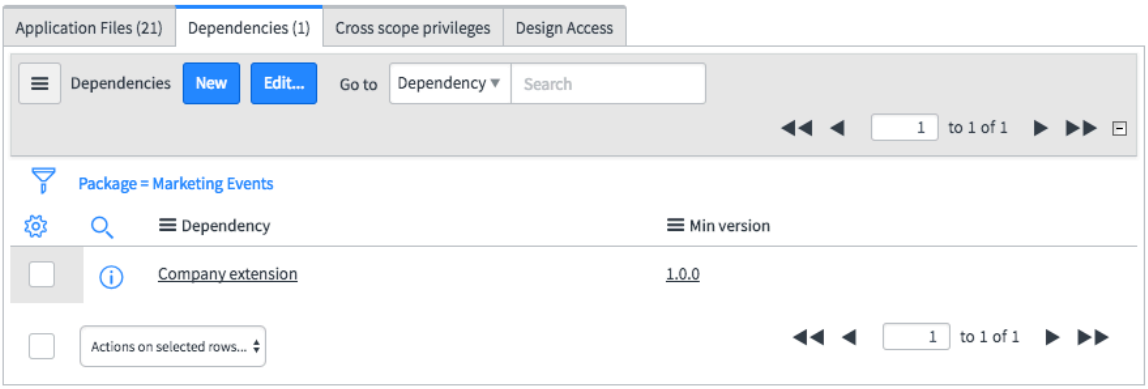
カスタムアプリケーションの依存関係

すべてのカスタムアプリケーションレコードには、他のアプリケーションとの依存関係を識別する関連リストが含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アドミニストレーターは、このリストをレビューして、アプリケーションが既存のプロセスやデータにリスクを与えるかどうかを判断できます。アプリケーション開発者は、このリストを使用して、アプリケーションに他のアプリケーションに対する正当なアクセス権限を持たせることができます。

アプリケーション依存関係の例



アプリケーションファイル

アプリケーションファイルは、開発者がアプリケーションの機能を拡張できるようにする設定レコードです。

アプリケーション開発者は、ビジネスルール、ワークフロー、スクリプトインクルードなど、アプリケーション ロジックの設定レコードを追加するときに、アプリケーションファイルを作成します。スコープ対象のアプリケーションは、これらのテーブルの所有者ではありませんが、これらのテーブル内のレコード (ファイル) の所有者です。たとえば、使用可能な部屋を Conference Room テーブルで確認するビジネス ルールを追加すると、ビジネス ルール [sys_script] テーブルにアプリケーションファイルが追加されます。アプリケーション開発者は、カスタムアプリケーションレコードからアプリケーションファイルの完全なリストを表示できます。

アプリケーション ファイル [sys_metadata] テーブルは、設定レコードを含むすべてのテーブルの親テーブルです。これは、設定レコードの属性を定義する一連の標準フィールドを提供します。設定レコードを含むテーブルは、アプリケーションファイルテーブルを拡張します。たとえば、ビジネスルール [sys_script] テーブルは、アプリケーション ファイル テーブルを拡張します。

開発者が、アプリケーションファイルテーブルからアプリケーションファイルレコードを直接作成することはありません。そうではなく、設定レコードを作成または変更すると、関連するアプリケーションファイルレコードがシステムによって作成または変更されます。ほとんどの設定レコードテーブルでは、アプリケーションファイルテーブルの参照フィールドまたは関連リストは表示されません。デフォルトでは、アプリケーション ファイル テーブルへの参照が存在するのは、アプリケーション [sys_scope] とテーブル [sys_db_object] のみです。

システムは、更新セットのアプリケーションファイルレコードも追跡します。アプリケーション ファイル レコードまたは関連する設定レコードが変更されるたびに、対応するレコードがシステムによってカスタマー アップデート [sys_update_xml] テーブルに追加されます。システムは、単一の更新レコードを使用することで、インスタンス間でアプリケーションを転送するときに設定レコードとそのアプリケーションファイルの同期が維持されるようにします。衝突を避けるために、別の更新セットで以前に編集されたアプリケーションファイルを編集するときに警告が表示されます。

アドミニストレーターは、以下の操作を実行できます。

- 設定レコードのファイル プロパティを表示する。
- アップグレード中にアプリケーションファイルが変更されないようにする。
- 設定レコード間の親子関係を表示する。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

アプリケーションファイルをアプリケーションに追加する

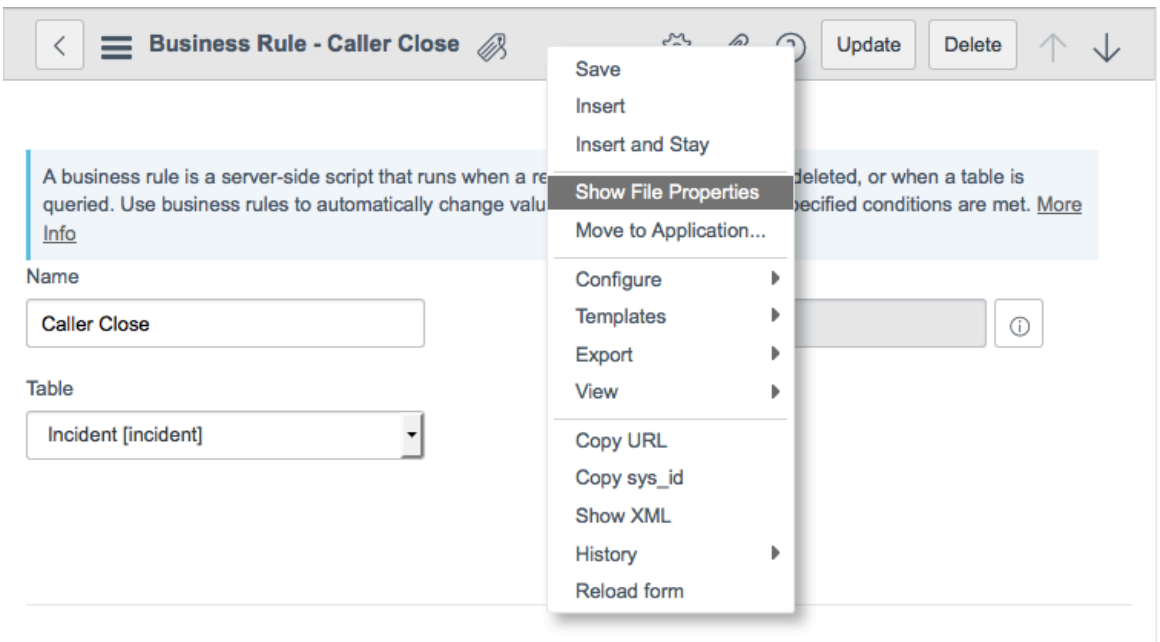
ファイルプロパティの表示

アドミニストレーターは、1 つのレコードのアプリケーションファイルプロパティを表示できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

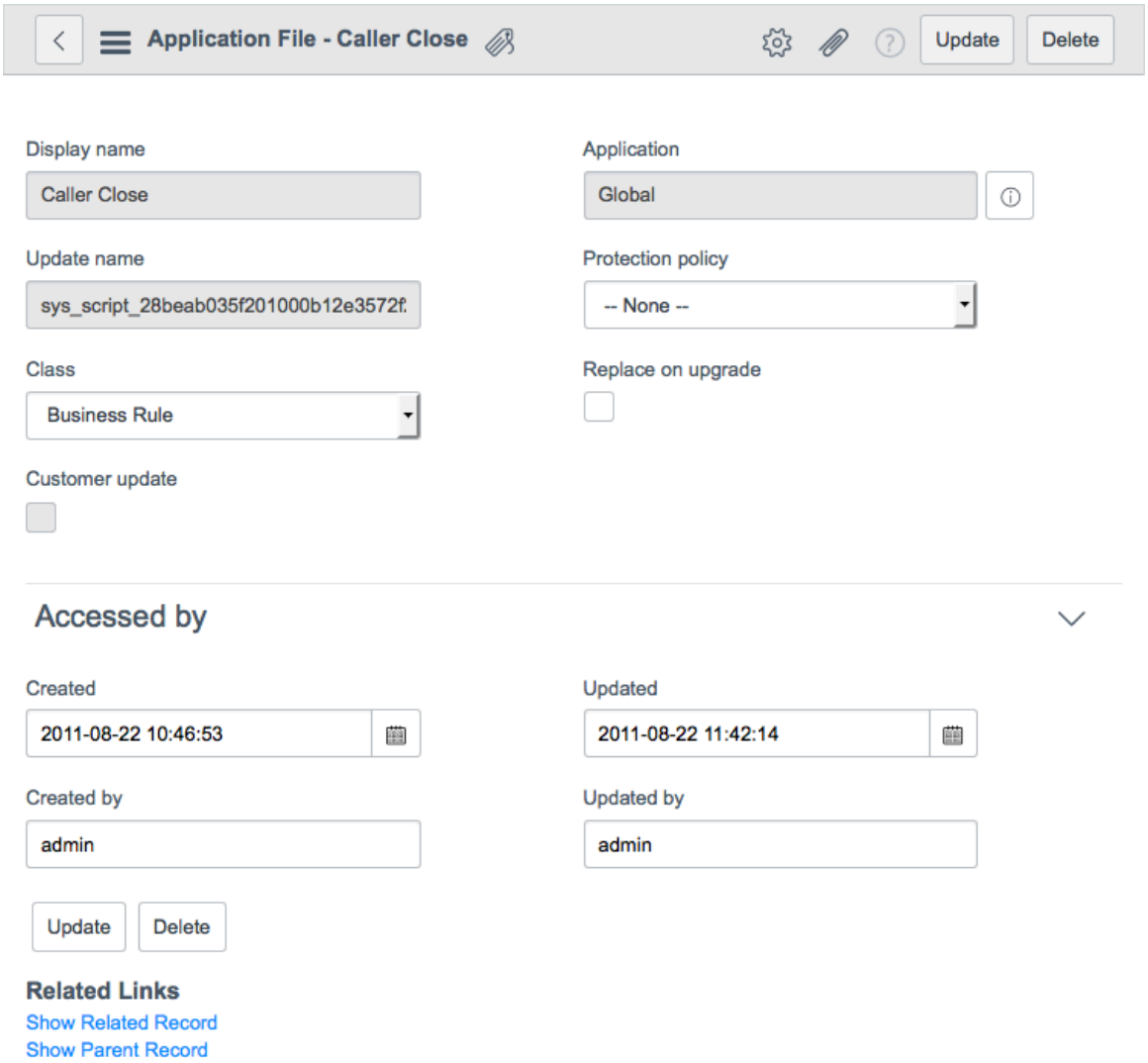
1. 設定レコードのフォーム ビューに移動します。
   たとえば、[すべて] > [システム定義] > [ビジネスルール] に移動して、インシデントテーブルのビジネスルールを選択します。
2. フォーム ヘッダーを右クリックし、 を選択します。



   アプリケーションファイルテーブルは、設定レコードの属性を定義する一連の標準フィールドを提供します。

3. 設定レコードのビューに戻るには、 関連リンクをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. カスタマーアップデートレコード、ファイルプロパティビュー、および設定レコード ビューの間を移動します。

オプション	説明
関連リンク	設定レコードに移動します。
関連リンク	現在の設定レコードの親レコードに移動します。
関連リンク	フィールドラベルの翻訳など、子の設定レコードを表示します。

アプリケーションファイルフォーム

アプリケーションファイルフォームを使用して、アプリケーションと設定レコードの関係を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションファイルフォームのフィールド

フィールド	説明
表示名	設定レコードの表示名です。
更新名	この設定レコードに対する一意の識別子です。この値は、レコードのバージョンと更新を識別するために使用されます。
クラス	この設定レコードを含むテーブルです。
アプリケーション	この設定レコードを含むアプリケーションです。
保護ポリシー	設定レコードが変更から保護されているかどうかを判別するポリシーです。詳しくは「保護されたアプリケーションファイル」を参照してください。
作成日時	この設定レコードの作成日です。
作成者	この設定レコードを作成したユーザーです。
更新日時	この設定レコードの最終更新日です。
更新者	この設定レコードを最後に更新したユーザーです。
関連するレコード バージョン	関連する設定レコードのバージョン レコードです。バージョン レコードは、ユーザーが関連レコードを変更するたびに作成されます。このリストを使用して、設定レコードのバージョンを比較したり、以前のバージョンに戻したりします。詳しくは「バージョン」を参照してください。
関連するレコードの更新	関連する設定レコードのローカル更新レコードです。更新レコードは、特定の更新セット内にある関連レコードに対する最新の変更について作成されます。詳しくは「更新セット」を参照してください。

注: このフォームに [所有者] (owned_by) フィールドを手動で追加すると便利な場合があります。アプリケーションごとに、IT 内の誰がアプリケーションを所有し、それに関する情報の管理責任を担っているかを示します。データ認定機能は、このフィールドを使用して、四半期ごとまたは設定された任意の時間間隔で認定タスクを送信します。認定タスクを他のユーザーにアサインできますが、このフィールドを使用すると構成作業が制限されます。フォームへのフィールドの追加とデータ認定の詳細については、「フォームデザイナーの使用」および「データ認定」を参照してください。

アプリケーションファイル保護ポリシー

読み取り専用の保護ポリシーは、アプリケーションファイルまたはその関連レコードが変更されないようにします。

ServiceNow システムに付属する一部のアプリケーション コードには特別な保護が必要です。この保護ポリシーを変更し、アプリケーションファイルやその関連レコードを変更できるのは、ServiceNow の従業員のみです。ServiceNow の従業員は、このポリシー指定を変更してからでないと、保護されたファイルを編集できません。

カスタマイズした内容がシステムのアップグレードによって上書きされないようにするため、アップグレード プロセスでは、顧客が更新したレコードに対する変更を自動的にスキップします。アップグレード時に後から読み取り専用と指定されたアプリケーションファイルまたは関連レコードを変

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更すると、アプリケーションファイルは、デフォルトの保護ポリシーである書き込みのまま維持します。このため、既存の変更を維持したまま、レコードを引き続き変更できます。

注: カスタマイズされたファイルをベースライン状態に戻すと、レコードは新しい保護ポリシーも継承します。たとえば、レコードが書き込みの保護ポリシーから読み取り専用の保護ポリシーに変更されます。

設定レコード間の関係

アプリケーションファイルタイプテーブルは、設定レコード間の親子関係を定義します。

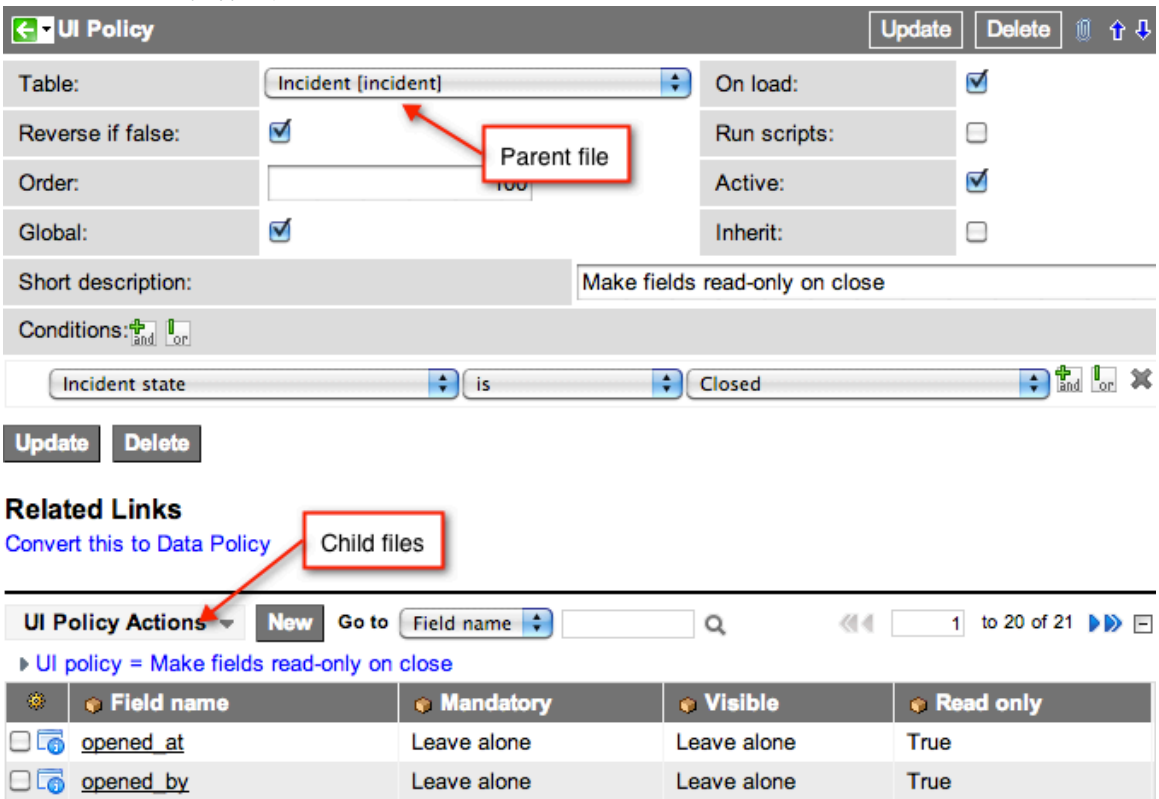
システムは、この構造を使用して、通常は同じアプリケーション内にまとめられる設定レコードを保持します。

注: アプリケーションファイルタイプテーブルは、システム機能を提供するものであるため変更しないでください。

たとえば、UI ポリシーの親子関係を考えてみましょう。

- UI ポリシーは、アプリケーション テーブルの子である。
- UI ポリシー アクションは、UI ポリシーの子である。
- UI ポリシー アクションには、親にあたる UI ポリシーと祖父母にあたるアプリケーション テーブルがある。
- UI ポリシー アクションと UI ポリシーは、すべてアプリケーション テーブルの子孫である。

設定レコードの関係の例



修復スクリプト

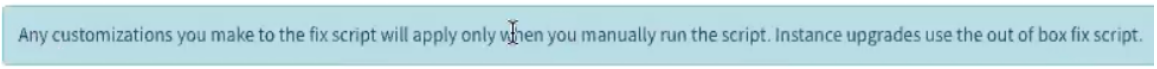
修正スクリプトは、アプリケーションのインストールまたはアップグレード後に実行するサーバー側 JavaScript コードです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

修正スクリプトは、アプリケーションのデータ完全性や製品安定性に必要な変更を加えるために含めます。

アドミニストレーターは、修正スクリプトを作成、管理、および実行できます。script_fix_admin ロールを持つユーザーは、修正スクリプトを作成および管理できますが、修正スクリプトを実行することはできません。

注: 既存の修正スクリプトを開くか、新しい修正スクリプトを作成すると、次のメッセージを含む注釈が表示されます。



修正スクリプトの作成

修正スクリプトを作成して、システムがアプリケーションを適切にインストールまたは更新できるようにします。

始める前に

必要なロール： script_fix_admin または admin

このタスクについて

修正スクリプトを使用して、ルール、スクリプト、プロパティ設定を含むデータを追加、更新、および削除します。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [修復スクリプト]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力して、修正スクリプトを定義します。

フィールド	説明
名前	修正スクリプトの一意の分かりやすい名前。
読み込み不能	修正スクリプトの実行時に顧客アップデートレコード [sys_update_xml] を作成するオプション。 修正スクリプトテストでは、[読み込み不能] オプションが強制されます。
前	アプリケーションをインストールまたはアップグレードする前に修正スクリプトを実行するオプション。
ロールバック用に記録	必要に応じて元に戻せるように、スクリプトの実行を記録するオプション。
説明	修正スクリプトの説明。
スクリプト	修正スクリプトのコード。

4. [送信] をクリックします。
5. 修正スクリプトをテストし、必要な変更を行います。

修正スクリプトのテスト

修正スクリプトをテストして、期待どおりにアプリケーションがインストールまたは更新されることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
修正スクリプトでは、ルール、スクリプト、プロパティ設定を含むデータが追加、更新、削除されます。

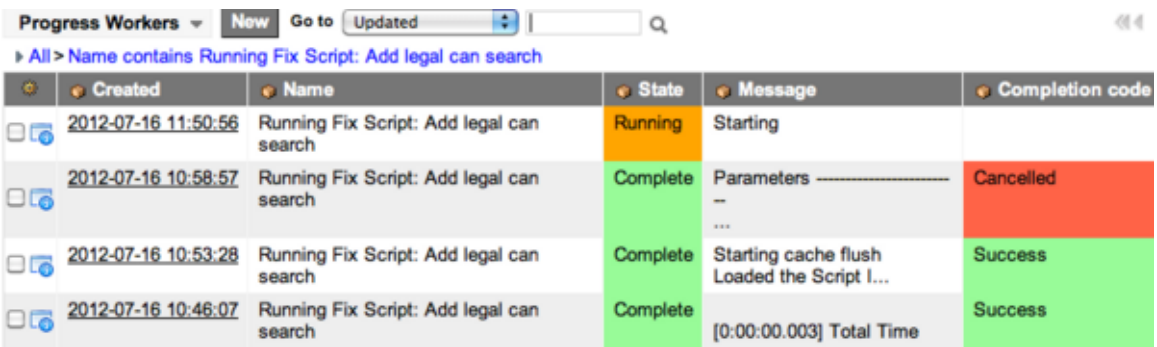
注: 本番インスタンスで修正スクリプトをテストしないでください。

手順

1. 修正スクリプト レコードを開きます。
2. コード設計をレビューして、同じシステム上で複数回実行しても支障を与えないようにします。たとえば、デフォルトでプロパティにロールを追加する修正スクリプトを記述することが考えられます。最初のインストール後にスクリプトを再実行する必要がない場合でも、既存のデータを上書きせずに同じシステム上で複数回実行できるようにスクリプトを設計してください。
3. 関連リンクをクリックします。
テストでは [読み込み不能] オプションを強制します。
4. スクリプトの実行方法を確認します。

オプション	説明
バックグラウンドで進行	実行に時間が掛かるスクリプトの場合、または予想される実行時間がわからない場合は、このオプションを使用します。
続行	スクリプトを直ちに実行し、結果を確認ウィンドウに表示する場合は、このオプションを使用します。

5. 関連リストで結果をレビューし、必要な変更を行います。
6. 実行中の修正スクリプトを手動で停止するには、次の操作を実行します。
   a. 関連リストから 状態のワーカーを選択します。
   b. 関連リンクを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

修正スクリプトの実行

修正スクリプトは、最初のインストール時に実行されるか、アプリケーションに追加された後に更新されます。ただし、以前の修正スクリプトは後続のアプリケーションの更新では実行されないため、必要な修正スクリプトを手動で実行する必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
修正スクリプトを実行するには、次の操作を実行します。

手順

1. [すべて]**[** > システム定義]**[** > 修復スクリプト]に移動します。
2. フィルターを編集してアプリケーション名を検索します。
   たとえば、 | [次の値に等しい] | [Book Rooms] のように指定します。
3. 修正スクリプト レコードを開きます。
4. [修正スクリプトの実行] をクリックします。

フルフィルメントテーブル

本番インスタンスで ServiceNow Store アプリの使用資格を適用できるようにするには、レコードの所有者または登録済みアプリのユーザーだけが更新できるテーブルを構成します。

カスタムアプリケーションをサポートするために開発者が作成または拡張するすべてのテーブルについて、そのテーブルをフルフィルメントテーブルとして指定できます。フルフィルメントテーブルでは、登録済みの履行者ユーザーのみが履行者アクション (一般には、所有していないレコードの作成/更新/削除) を実行できます。

これに対し、フルフィルメントテーブルではないテーブルの場合、登録していないユーザーであっても依頼者として関与できます。その目的は、使用アドミニストレーターが、そのアプリケーションを実装しているすべての本番インスタンスでサブスクリプションを適用できるようにすることです。

フルフィルメントテーブルのレコードの所有権
履行者アクションをシステムが識別できるようにするために、テーブル内のレコードの所有権を決定する方法を定義します。 アプリケーション開発者は、ユーザーがレコードを所有しているかどうかを判断する一連の条件を指定します。たとえば、*UserA* がレコードを開いたか、別のリソースが *UserA* の代わりにレコードを開いた場合、*UserA* はタスクテーブルのレコードを所有します。

サブスクリプションが必要なタスク拡張テーブル、タイムカード、アプリの場合、テーブルはデフォルトでフルフィルメントテーブルとして設定され、所有権条件が自動で割り当てられます。アプリをサポートするために作成したテーブルでは、テーブルをフルフィルメントテーブルとしてマーク付けし、所有権条件を指定できます (たとえば、フィルター **[opened_by][is][currentUser] OR [caller_id][is][currentUser]** を使用します)。

システムのデフォルトの所有権条件

アクション	所有権条件 **[owner_condition]**
タスク拡張	opened_by (読み取り専用)
カタログ要求	requested_for (読み取り専用)
サブスクリプションが必要なアプリ内の他のテーブル	sys_created_by (読み取り専用)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	所有権条件 **[owner_condition]**
サブスクリプションが必要なアプリに対して開発者が作成したテーブル	開発者によって指定

テーブルがフルフィルメントテーブルであることの指定

テーブルをフルフィルメントテーブルとして設定すると、アプリに登録していないユーザーによる更新を防止できます。ServiceNow Store アプリでは、テーブルをフルフィルメントテーブルとして設定し、フルフィルメントの使用をサブスクリプション使用ポリシーに準拠させることができます。

始める前に
必要なロール：usage_admin、admin

手順

1. テーブルを操作しているときに、[テーブルサブスクリプション構成] 関連リストを開きます。
2. [フルフィルメントテーブル] を選択します。
3. レコードを所有するエンドユーザーと登録済みの履行者ユーザーの両方がレコードを更新できるように、システムがテーブル内のレコードの所有権を決定する方法を指定します。所有権条件を指定します。
   たとえば、フィルターを **[opened_by]**[次の値に等しい **(=)][currentUser] OR [caller_id]**[次の値に等しい **(=)][currentUser]** と指定します。

個人開発者インスタンスガイド

ServiceNow® では、開発者プログラムのメンバーに無料の個人開発者インスタンス (PDI) を提供し、Now Platform® を学習、探索、および試用できるようにします。

ServiceNow® では、Now Platform® でアプリケーションを開発したりスキルを向上させたりしたい開発者プログラムメンバーに、無料の個人開発者インスタンス (PDI) を提供しています。PDI は、Now Platform を試してビジネスのためのより大きな価値をビルドするためのサンドボックス環境をメンバーに提供します。ServiceNow® 開発者プログラムでは、各メンバーがインスタンスを 1 つだけ持つことができ、すべての開発者プログラムメンバーがこの貴重なリソースを最大限に活用できます。

個人開発者インスタンス (PDI) を使用すると、顧客またはパートナーのインスタンスに影響を与えることなく、アプリケーションのアイデアをテストできます。PDI の使用目的は、Now Platform® の学習、探索、および試用です。PDI は、ビジネス目的または本番目的での使用を意図したものではありません。ビジネスまたは本番で PDI を使用することは、ServiceNow® 開発者プログラムの契約に違反します。PDI を使用すると、Now Platform® が提供するすべての機能に対するアドミンレベルのアクセス権が付与されます。PDI を継続的に使用すれば、永久に使用できます。

PDI について

PDI では、特定のリリースを選択し、一貫した使用を維持して休止状態を回避する必要があります。

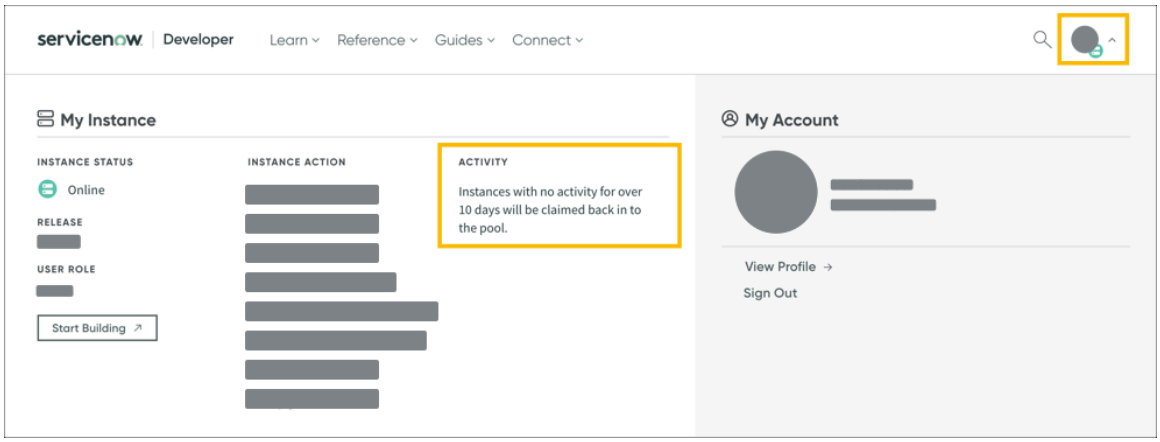
開発者サイトにサインインして、PDI をアクティブなままにします。一定期間非アクティブになると、インスタンスは再利用されます。データの損失を防ぐために、定期的に作業をバックアップしてください。

> **注:** 作業を保存するには、作業をソースコントロールにコミットするか、更新セットを作成します。保存されていない作業は、インスタンスの再利用によって失われる可能性があります。

PDI が再利用されると、インスタンスのアサインが解除され、元の状態にリセットされて別の開発者プログラムのメンバーに再アサインされます。インスタンスを再利用することで、開発者プログラムは無料のインスタンスでアクティブなプログラムメンバーをサポートできます。開発者サイトへッ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダーの [アカウント] メニューの [アクティビティ] セクションには、非アクティブ状態が 10 日間継続していることを示すリマインダーが含まれています。



インスタンスでサインインするか、次のような開発者タイプのアクティビティを実行して、PDI をアクティブな状態に保ちます。

- アプリケーションの作成
- テーブルの作成
- テーブルへのフィールドの追加
- スクリプトインクルードの作成

休止状態

開発者プログラムを無料に保ち、PDI を必要とするすべてのユーザーに PDI を提供するために、インスタンスはアイドル状態のときに休止状態になります。PDI が休止状態になると、コンピューティングリソースを節約するためにデータベースとアプリケーションサーバーがシャットダウンされます。PDI が休止状態になったときは、すべてのデータが保持されます。開発者サイトにサインインすることで、休止状態のインスタンスを起動させることができます。インスタンスを休止状態から起動させると、10 日間の非アクティブカウントダウンがリセットされます。

さらに、次の点にも注意する必要があります。

- PDI は、10 日間使用されない場合、利用可能なインスタンスのプールに返されます。期間は空き状況により変更される場合があります。
- 空き状況は保証されません。
- PDI は、顧客またはパートナーのインスタンスのクローンターゲットまたはクローンソースにすることはできません。
- PDI は ServiceNow® に属しているため、チーム開発を介して顧客またはパートナーのインスタンスにリンクすることはできません。
- PDI は、ServiceNow アプリケーションリポジトリや ServiceNow® ストアにアプリケーションを公開することはできません。
- PDI は、機械学習、インスタンスデータレプリケーション (IDR)、またはメトリックベースでは機能しません。
- 多くの ServiceNow® Store アプリケーションは PDI にインストールできません。

メンテナンス

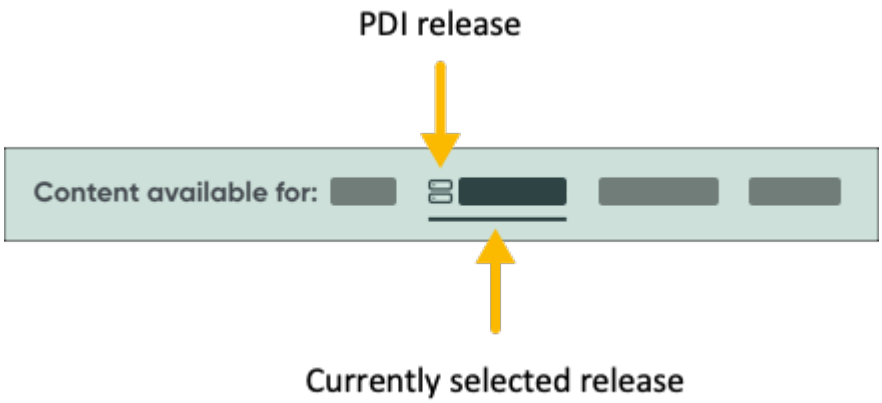
ServiceNow® は、PDI に関連付けられた基礎となるインフラストラクチャのメンテナンスを実行する必要がある場合があります。メンテナンスには、ソフトウェア、ファームウェアの更新とパッチ適用、およびハードウェアの交換が含まれます。メンテナンス中は、PDI にアクセスできない場合が

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

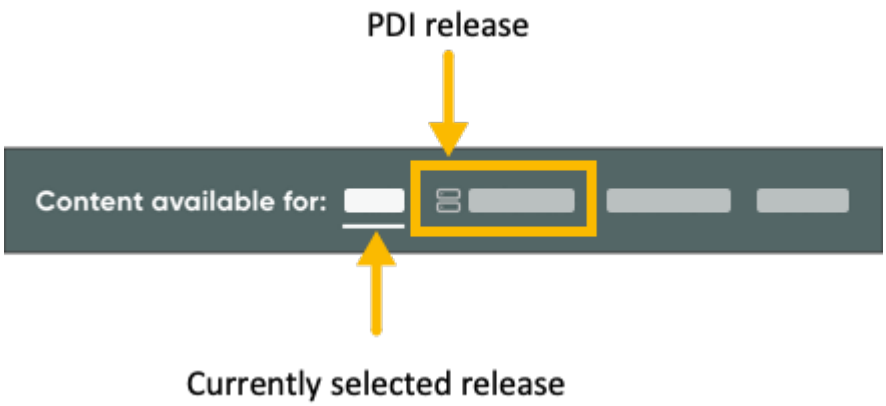
あります。メンテナンスに必要な時間は、メンテナンスのタイプによって異なります。利用可能な場合、[自分のインスタンス (My Instance)] ページには、計画済みメンテナンスの予想完了時間が表示されます。PDI の作業とデータは、計画済みメンテナンスの影響を受けません。

PDI とリリースセレクター

さまざまなリリースのコンテンツが利用可能な場合は、リリースセレクターを使用してリリースを選択します。リリース名の横にあるサーバーアイコンは、PDI のリリースを示します。リリース名の下のバーは、選択したリリースを示します。PDI で作業するときは、コンテンツが PDI と一致していることを確認してください。



コンテンツが PDI リリースと一致しない場合は、サーバーアイコンのあるリリースをクリックして、PDI のリリースと一致するコンテンツを表示します。



セレクターには、コンテンツが PDI リリースで利用できない場合を除き、コンテンツの現在のページが利用可能なリリースのみが表示されます。コンテンツが PDI リリースで利用できない場合、PDI リリースはグレー表示され、選択できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PDI が最新リリースでない場合は、PDI のアップグレード手順に従って最新リリースを入手してください。

開発インスタンスの取得

アプリケーションをビルドおよびテストするための個人開発インスタンスを要求します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
無料の ServiceNow 個人開発者インスタンス (PDI) を取得します。サンドボックス内でアプリケーションをビルドして、アプリケーションビルダーと展開戦略をテストします。

手順

1. ブラウザーで開発者サイトに移動します。
2. ServiceNow 開発者アカウントがない場合は、[サインイン] または [サインアップしてビルドを開始 **(Sign up and Start Building)]** を選択します。
3. ServiceNow 開発者サイトにログインした後、[ガイド] を選択します。
4. [ガイドの概要 **(Guides Overview)]**を選択します。
5. サイドナビゲーションで [個人開発者インスタンス **(PDI)** ガイド **(Personal Developer Instance (PDI) Guide)]** を選択します。
6. 指示に従って、個人開発者インスタンスを取得します。

PDI の取得

新しいインスタンスを取得して、最新の一般提供リリースで PDI を実行します。

始める前に
必要なロール：なし

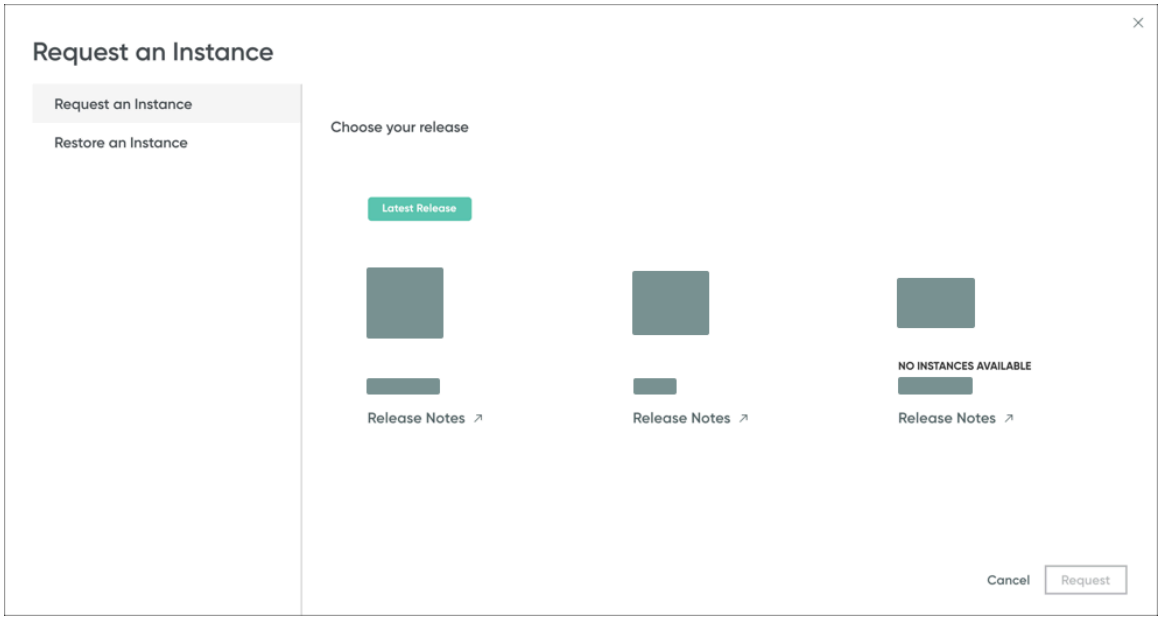
このタスクについて
開発者サイトに初めてサインインすると、最新の一般提供リリースを実行している PDI が提供されます。この PDI は、アクティブにしておく限り使用できます。以前のリリースを実行している PDI が必要な場合は、PDI をリリースして新しいインスタンスを要求します。

PDI をリリースしたか、10 日間以上アクティビティがなかったために PDI がない場合は、が新しいインスタンスを要求できます。

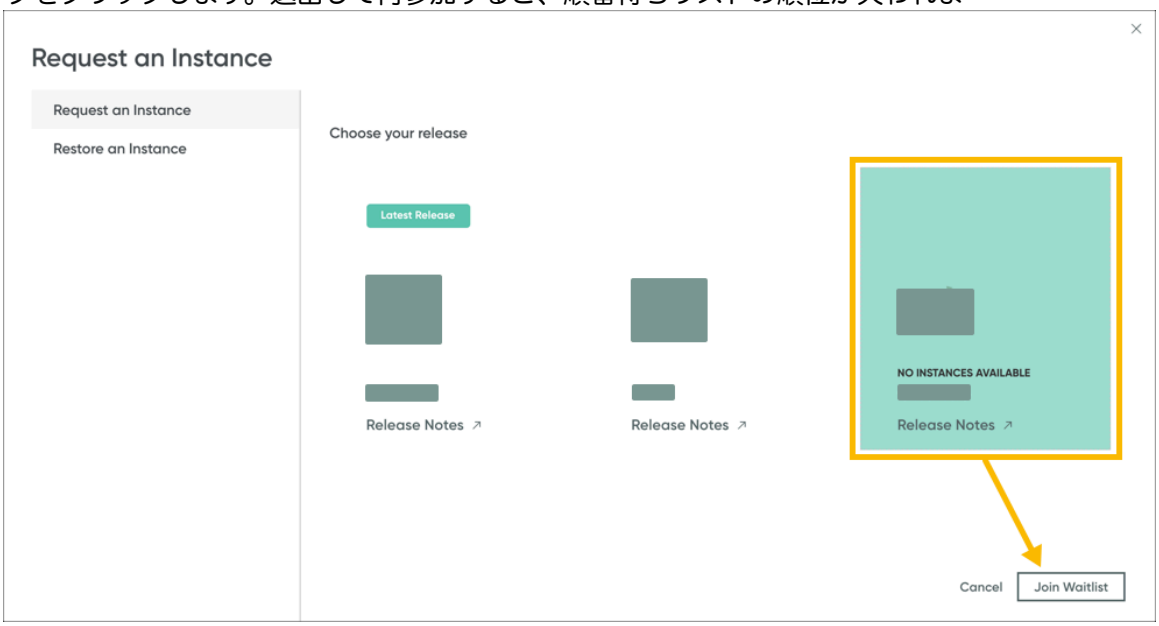
手順

1. 開発者サイトにサインインします。
2. ヘッダーの [インスタンスの要求] ボタンをクリックします。
3. [インスタンスの要求 **(Request an Instance)]** ダイアログで、インスタンスの ServiceNow® リリースを選択し、[要求] ボタンをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

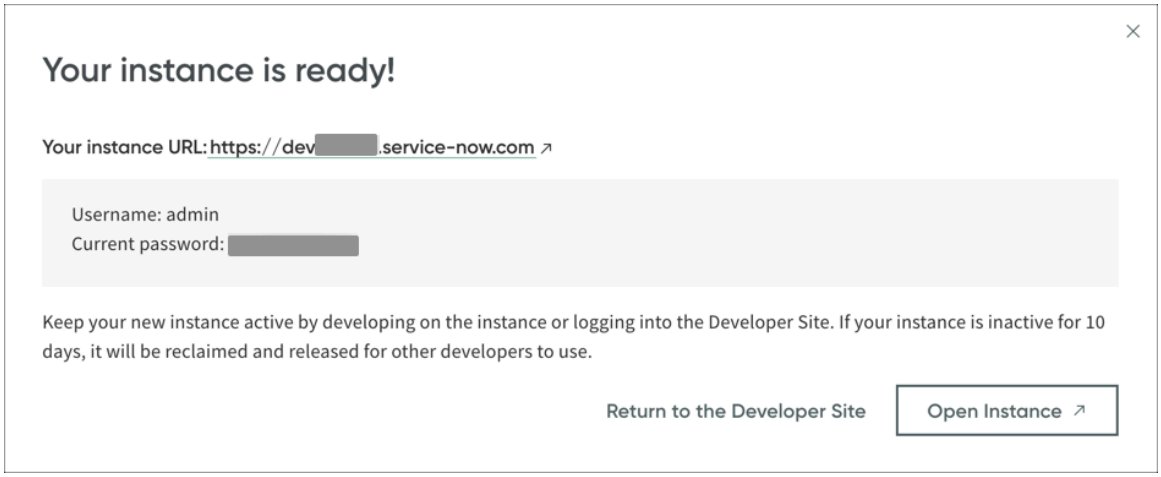


- PDI は限られたリソースです。目的のリリースで利用可能な PDI がない場合は、リリースのリリースカードを選択し、[順番待ちリストに参加 **(Join Waitlist)]** ボタンをクリックします。PDI が利用可能になると通知されます。
- 順番待ちリストから退出するには、ヘッダーの [順番待ちリストから退出 **(Leave Waitlist)]** リンクをクリックします。退出して再参加すると、順番待ちリストの順位が失われます。



4. インスタンスがアサインされると、 [インスタンスの準備ができました **(Your instance is ready!)]** ダイアログで、インスタンス URL とパスワードを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [インスタンスを開く] ボタンをクリックして、新しいブラウザータブでインスタンスを開きます。

PDI へのアクセス

PDI を開き、インスタンスでビルドを開始します。

始める前に

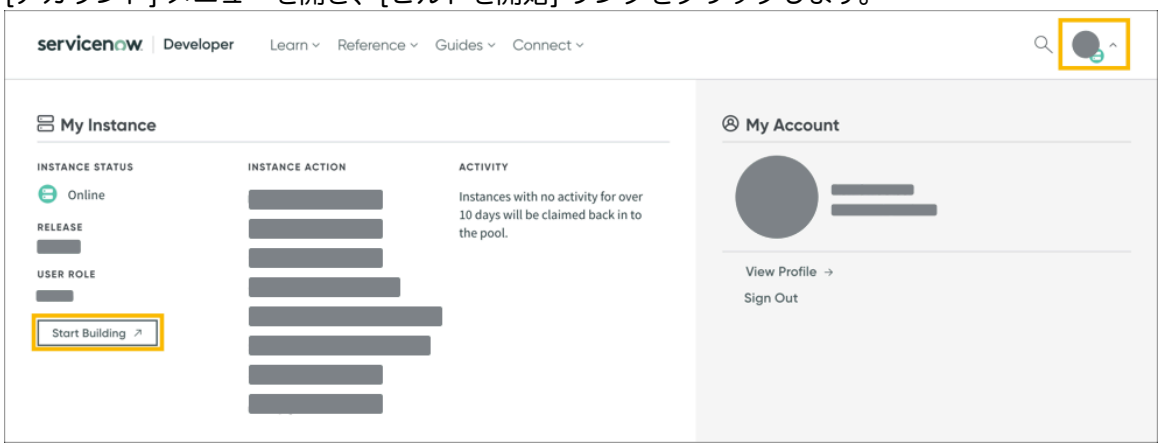
必要なロール：なし

このタスクについて

PDI を取得したら、[アカウント] メニューからインスタンスを開くことができます。

手順

1. 開発者サイトにサインインします。
2. [アカウント] メニューを開き、[ビルドを開始] リンクをクリックします。



3. PDI が休止中の場合は、PDI が起動してアクセスできるようになるまで数分待ちます。
   開発者サイトにサインインすると、PDI は自動的に休止状態から起動します。
4. 開発者サイトにサインインしている間に PDI が休止状態になった場合は、[インスタンスを更新] インスタンスアクションを選択し、[インスタンスを起動 **(Wake Instance)]** ボタンをクリックして、PDI を休止状態から起動させます。
5. インスタンスがメンテナンス中の場合は、メンテナンスが完了するまで待ってから PDI にアクセスする必要があります。
6. PDI へのアクセスに問題がある場合は、このガイドの「インスタンスのサポートを受ける」セクションで実行できる手順を確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PDI からのプラグインのアクティブ化

インスタンスの使用を開始する 1 つのオプションは、PDI のプラグインを直接アクティブ化することです。

始める前に

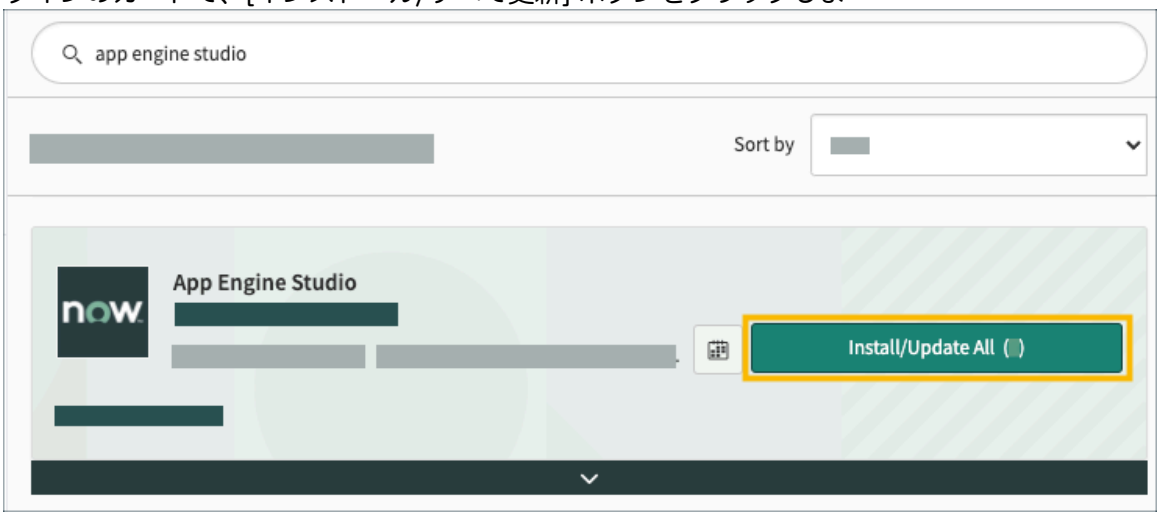
必要なロール：なし

このタスクについて

ほとんどのプラグインは PDI で直接アクティブ化できます。プラグインを有効にする の指示に従います。

手順

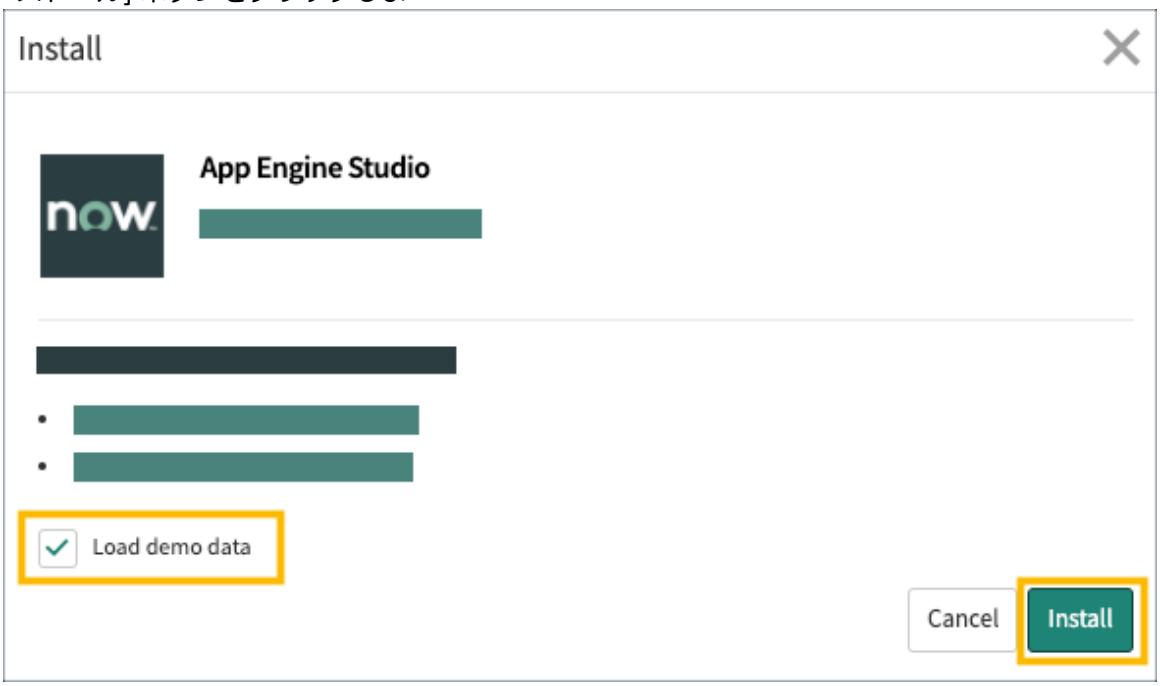
1. PDI で、[システム定義] > [プラグイン]を開きます。
2. [検索] フィールドに、`<インストールするプラグインの名前>` (`app engine studio` など) を入力します。
3. プラグインのカードで、[インストール/すべて更新] ボタンをクリックします。



4. オプション：[インストール] ダイアログで、[デモデータのロード] オプションを選択して、プラグインのサンプルデータをインストールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [インストール] ボタンをクリックしま



す。

6. インストールが完了したら、[インストール] ダイアログの [閉じる] ボタンをクリックします。

開発者サイトからの **PDI** プラグインのアクティブ化

開発者サイトから PDI プラグインを有効にして、インスタンスでの作業を開始します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

一部のプラグインは、会社およびパートナーのインスタンスで ServiceNow® 担当者によるアクティブ化が必要です。プラグインリストからこれらのプラグインをアクティブ化することはできません。これらのプラグインは、[アカウント] メニューの [自分のインスタンス **(My Instance)**] セクションから有効にできる場合があります。

注: 多くの ServiceNow® Store アプリケーションは PDI にインストールできません。

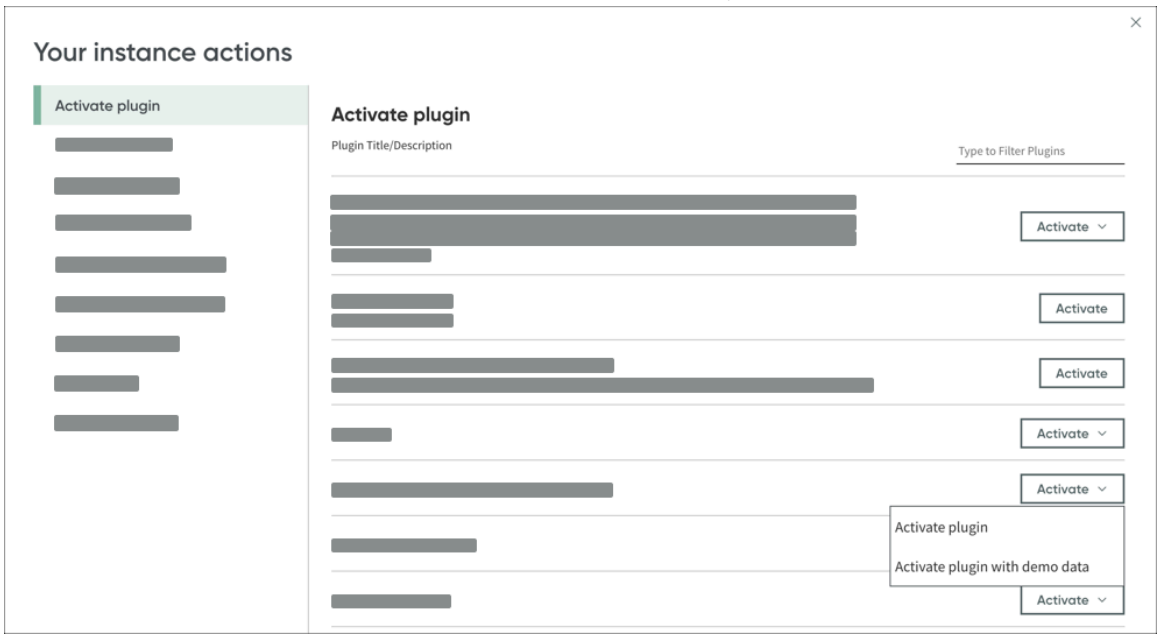
手順

1. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)**] セクションにアクセスします。
2. [プラグインのアクティブ化] インスタンスアクションをクリックします。
3. [インスタンスアクション **(Your instance actions)**] ダイアログで、プラグインを見つけて [アクティブ化] ボタンをクリックします。
4. プラグインにデモデータがある場合は、次の手順を実行します。

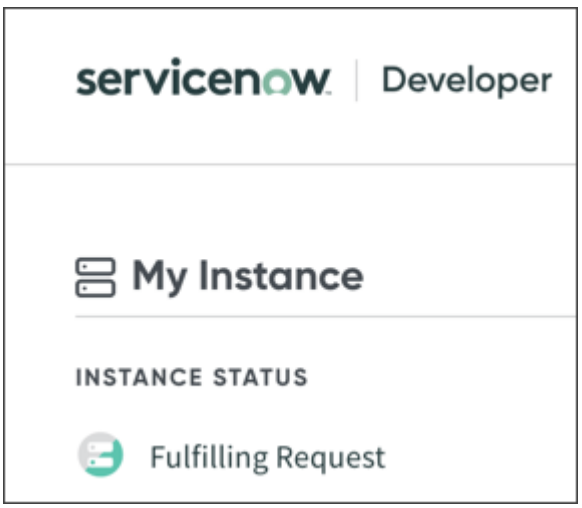
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [プラグインのアクティブ化] メニュー項目を選択して、デモデータがないプラグインをアクティブ化します。

b. [デモデータがあるプラグインのアクティブ化 **(Activate plugin with demo data)]** メニュー項目を選択して、デモデータがあるでプラグインをアクティブ化します。



プラグインがアクティブになっている間は、他のインスタンスアクションを実行できません。プラグインがアクティブになっている間は、[インスタンスステータス] は [要求の実行中 **(Fulfilling Request)]** です。



タスクの結果
プラグインのアクティブ化が完了すると、開発者サイトからメールを受信します。ServiceNow® 担当者によるアクティブ化が必要なプラグインは、PDI のプラグインリストに表示されません。[利用可能なプラグイン] ダイアログにプラグインのアクティブ化ステータスが表示されません。

プラグインを使用するには、PDI にログインしたブラウザーウィンドウを再ロードします。

PDI のメールプロパティの管理

PDI 内のプロパティを設定して、メールの送受信を開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ServiceNow® インスタンスはメールを送受信できます。メールの構成は通常、アプリケーション開発者ではなくシステムアドミニストレーターの責任です。PDI でメールを送受信するには、メールの送受信を設定する必要があります。

残念ながら、個人開発者インスタンス (PDI) は、スパムメールを送信するために誤って悪意を持って使用されてきました。スパムを防止しつつ PDI での通知を許可するために、メールサーバーの送信先を単一ドメイン guerrillamail.com に制限しました。PDI は、guerrillamail.com を除くすべてのドメインからメールを受信できます。

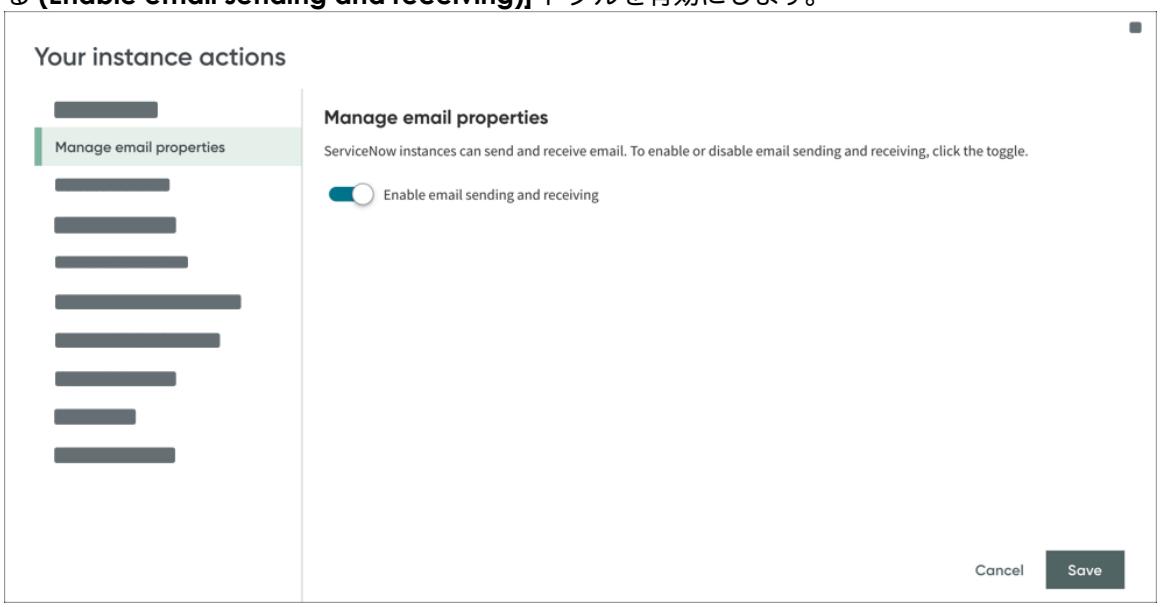
手順

1. 開発者サイトからのメール送受信を有効にするには、次の手順を実行します。

   a. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)**] セクションにアクセスします。

   b. [メールプロパティの管理] インスタンスアクションをクリックします。

   c. [インスタンスアクション **(Your instance actions)**] ダイアログで、[メールの送受信を有効にする **(Enable email sending and receiving)**] トグルを有効にします。



   d. [保存] ボタンをクリックします。

2. メールの送受信を無効にするには、[メールの送受信を有効にする **(Enable email sending and receiving)**] トグルを無効にします。

PDI のリリース

PDI をリリースしてインスタンスのアサインを解除し、元の状態にリセットして、別の開発者プログラムのメンバーに再アサインします。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
PDI が不要になった場合、または長期間使用できない場合は、作業を保存してインスタンスをリリースします。PDI がリリースされると、インスタンスのアサインが解除され、元の状態にリセットされて別の開発者プログラムのメンバーに再アサインされます。インスタンスを要求するか、インスタンスを復元すると、異なるインスタンス名と URL の PDI を受け取ります。

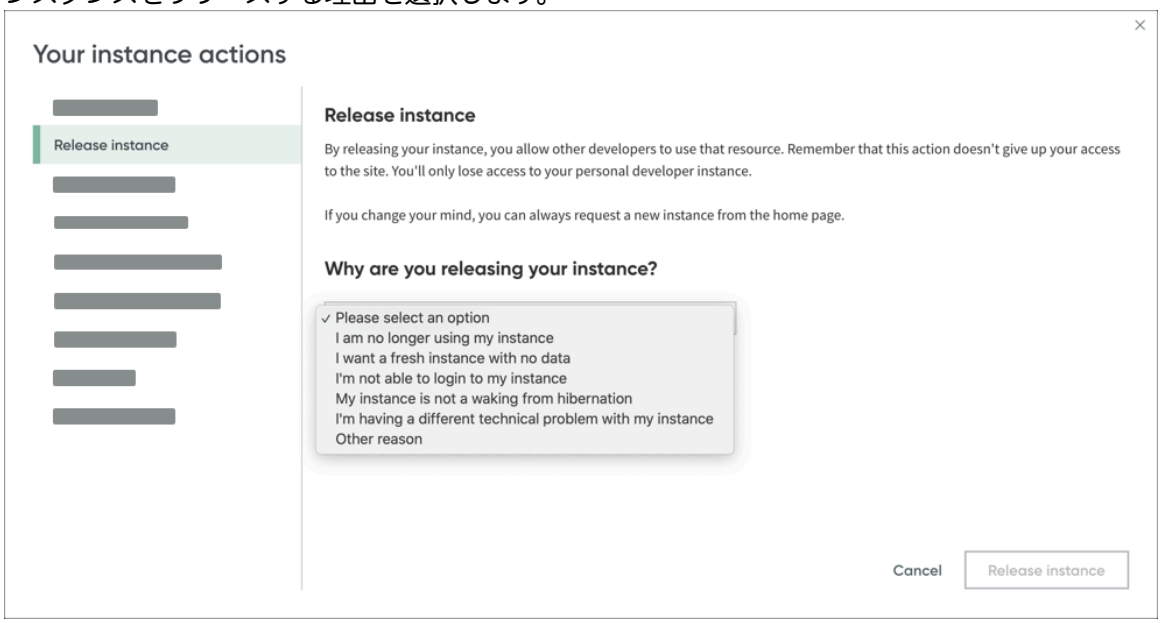
手順

PDI をリリースするには、次の手順を実行します。

a. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)]** セクションにアクセスします。

b. [リリースインスタンス] インスタンスアクションをクリックします。

c. [インスタンスアクション **(Your instance actions)]** ダイアログで詳細を読み、選択リストからインスタンスをリリースする理由を選択します。



d. [インスタンスをリース **(Release instance)]** ボタンをクリックします。

インスタンスのユーザーロールの変更

さまざまなビューとアクセスレベルを使用するには、PDI ユーザーロールを App Engine Studio 作成者またはアドミニストレーターに変更します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
学習またはテストのニーズに応じて、PDI のユーザーロールを変更する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

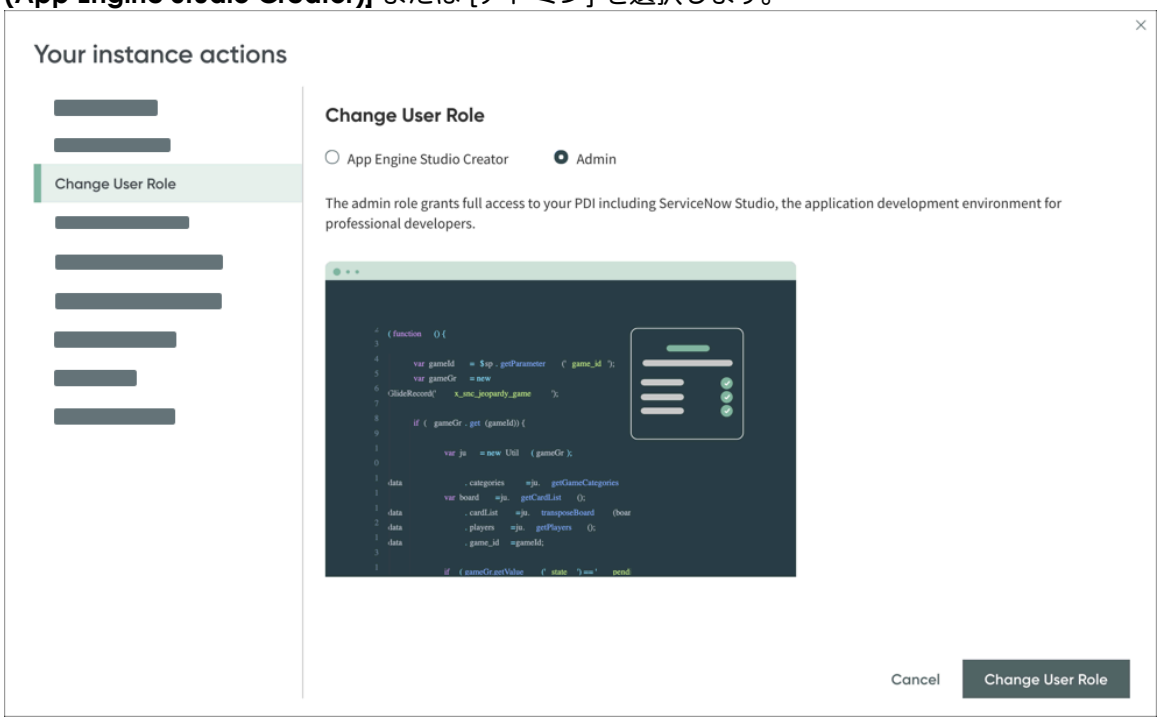
手順

1. ユーザーロールを変更するには、次の手順を実行します。

   a. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)]** セクションにアクセスします。

   b. [ユーザーロールを変更 **(Change User Role)]** インスタンスアクションをクリックします。

   c. [インスタンスアクション **(Your instance actions)]** ダイアログで、**[App Engine Studio** 作成者 **(App Engine Studio Creator)]** または [アドミン] を選択します。



   d. [ユーザーロールを変更 **(Change User Role)]** ボタンをクリックします。

   e. ユーザーロールの変更要求が正常に完了すると、メッセージが表示されます。

2. ユーザーロールの変更を表示するには、次の手順を実行します。

   a. 開いている PDI ブラウザータブをすべて閉じます。

   b. [アカウント] メニューの [ビルド開始 **(Start building)]** ボタンをクリックして、PDI を再起動します。

PDI からのデモデータの削除

デフォルトで含まれている PDI のデモデータが不要な場合は、PDI から削除します。

始める前に
必要なロール：なし

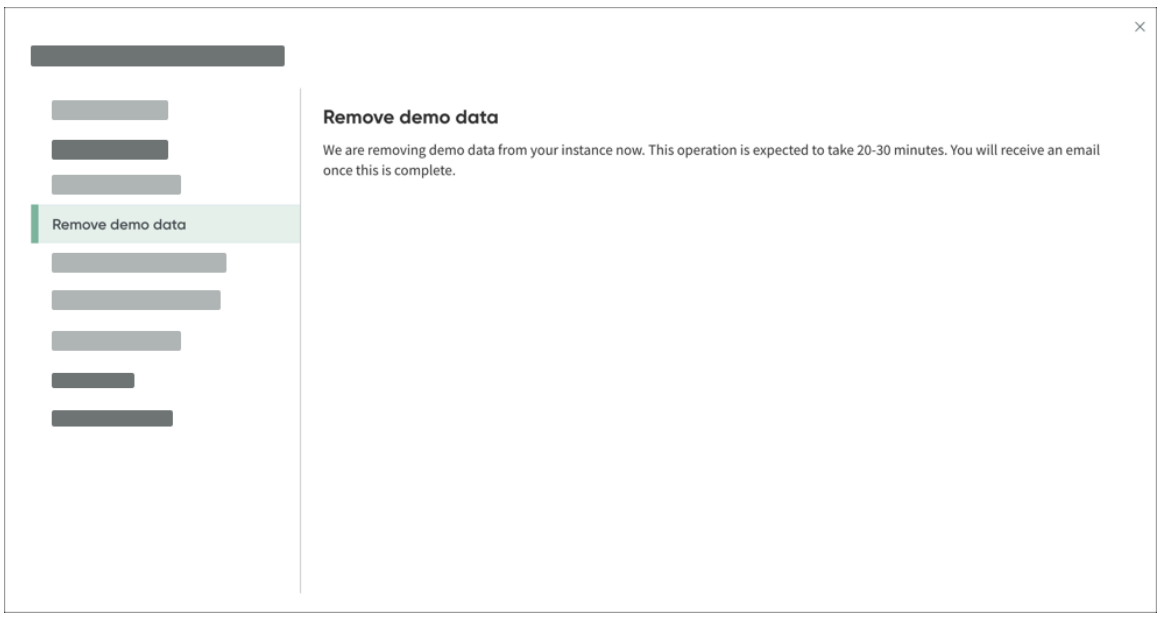
このタスクについて
デフォルトでは、PDI にはデモデータが含まれています。開発者サイトで PDI からデモデータを削除できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)**] セクションにアクセスします。
2. [デモデータの削除] インスタンスアクションをクリックします。
3. [インスタンスアクション **(Your instance actions)**] ダイアログで説明を読み、デモデータを復元できないことを確認し、[デモデータの削除] ボタンをクリックします。

タスクの結果
デモデータの削除には 20 ～ 30 分かかります。プロセスが完了すると、開発者サイトからメールが送信されます。



PDI の初期状態へのリセット

PDI を初期状態にリセットして、新しいインスタンスで作業を開始します。

始める前に
必要なロール：なし

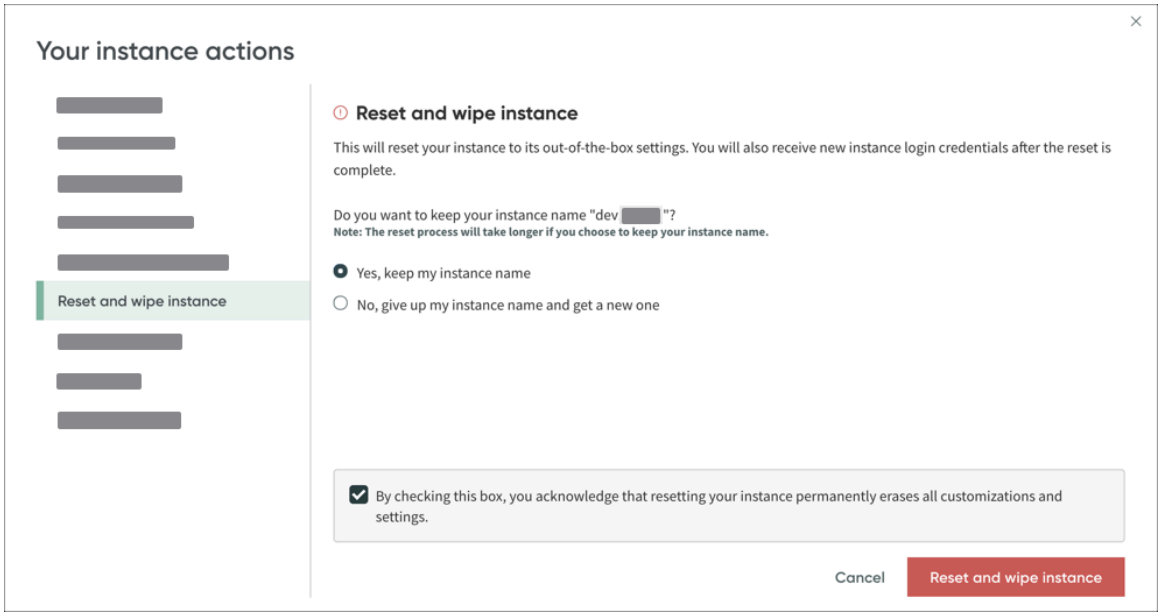
このタスクについて
新しいアプリケーションで作業を開始する場合、または新しいインスタンスで作業する場合は、PDI を初期状態にリセットできます。

> **注:** インスタンスをリセットしてワイプすると、PDI に対して行ったカスタマイズと構成が失われます。作業をソースコントロールにコミットするか、更新セットを作成して、保存したい作業を必ずバックアップしてください。

手順

1. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)**] セクションにアクセスします。
2. [インスタンスをリセットおよびワイプ **(Reset and wipe instance)**] インスタンスアクションをクリックします。
3. [インスタンスアクション **(Your instance actions)**] ダイアログで、インスタンスをリセットする方法を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



- [はい、インスタンス名を保持します **(Yes, keep my instance name)]**：インスタンスをデフォルトステータスにリセットします。インスタンスのリセットとワイプが完了するまでに数時間かかる場合があります。プロセスが完了すると、メールが届きます。
- [いいえ、インスタンス名を破棄し、新しいインスタンス名を取得します **(No, give up my instance name and get a new one)]**：リセットプロセスを待たずに新しいインスタンスを取得します。

4. [このボックスをオンにすると、インスタンスをリセットするとすべてのカスタマイズと設定が完全に消去されることを確認したことになります **(By checking this box, you acknowledge that resetting your instance permanently erases all customizations and settings)]** 免責事項を選択します。
5. [インスタンスをリセットおよびワイプ **(Reset and wipe instance)]** ボタンをクリックします。

PDI のアップグレード

インスタンスにパッチまたは新しいリリースを適用して、PDI をアップグレードします。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

ServiceNow® がパッチと新しいリリースをリリースしたら、開発者サイトからパッチまたはリリースを PDI に適用できます。PDI のアップグレードには 2 つのオプションがあります。

> **注:** ServiceNow パッチ適用プログラム へのコンプライアンスを維持するために、リリースのパッチは、最大で月に 1 回 PDI に自動的に適用されます。通常のパッチ適用スケジュール以外にパッチを適用できるようになる場合があります。[インスタンスをアップグレード **(Upgrade instance)]** オプションを使用して、パッチを手動で適用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [アカウント] メニューを開き、[自分のインスタンス **(My Instance)]** セクションにアクセスします。
2. [インスタンスをアップグレード **(Upgrade instance)]** インスタンスアクションをクリックします。
3. [インスタンスアクション] ダイアログで、PDI に適用するパッチまたはリリースを選択し、[インスタンスをアップグレード **(Upgrade instance)]** ボタンをクリックします。

タスクの結果
インスタンスのアップグレードが完了するまでに数時間かかる場合があります。アップグレードを実行する時間ができるまで、アップグレードを実行しないでください。

アップグレードが完了すると、メールを受信します。

インスタンスのサポートを受ける

インスタンスへのアクセスに関する一般的な問題についてサポートを受け、フィードバックを提供します。

PDI にアクセスできない場合、または [インスタンスは現在オフラインです **(Your instance is currently offline)]** ページが表示される場合は、PDI が休止状態から起動処理中か、PDI がパッチ適用を完了したばかりで再起動が必要である可能性があります。PDI は 5 分以内に利用可能になります。

5 分経っても PDI が利用できない場合は、開発者サイトにサインインし、[自分のインスタンス] ページを確認して、PDI がまだメンテナンス中であるかどうかを確認します。

開発者サイト の PDI に問題がある場合は、開発者サイト ページのフッターにある [フィードバックを追加] ボタンを使用してください。詳細については、開発者サイト を参照してください。フィードバックをする際は、必ず詳細な説明を含めてください。

Early Availability ガイド

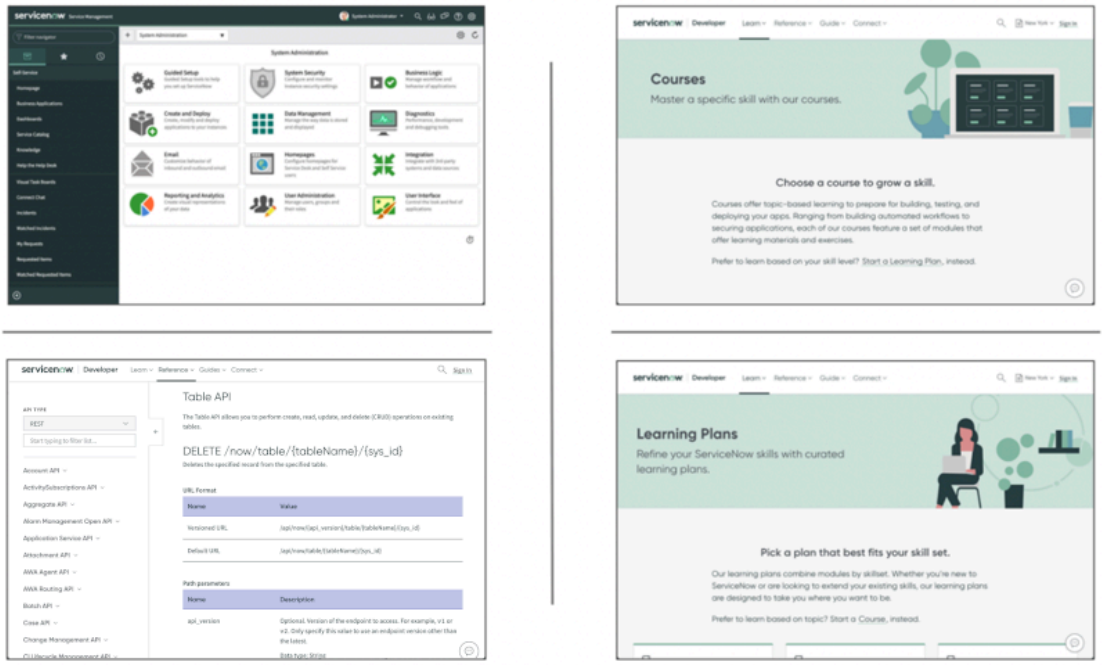
Early Availability では、市場投入によりすべての顧客が使用できるようになる 1 か月以上前に、最新リリースに独占的にアクセスできます。

ServiceNow 開発者プログラムは、プレリリースバージョンに対する Early Availability を提供します。ServiceNow 開発者サイトから、プレリリースバージョンとリソースにアクセスできます。開発者プログラムのメンバーは、Early Availability によって、市場投入によりすべての顧客が使用できるようになる 1 か月以上前に、最新の ServiceNow リリースに独占的にアクセスできます。Early Availability には次のものが含まれます。

- 個人開発者インスタンス (PDI)
- 学習計画
- トレーニングコース
- API 一覧
- ドキュメント

開発者プログラムのメンバーは、Early Availability を通じて最新の ServiceNow リリースに最初に精通することができます。Early Availability では、業界の他の開発者とは一線を画すスキルを学ぶ機会を提供します。最新の機能とアップグレードを活用して、新しいアプリケーションをビルドできます。

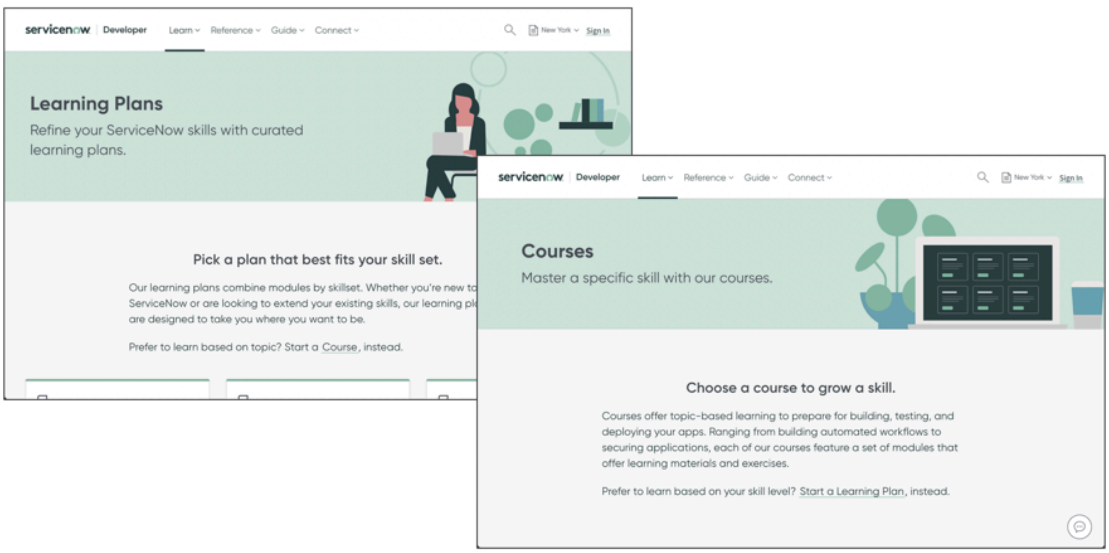
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



Early Availability 学習計画とトレーニングコース

Early Availability では、最新リリース専用の学習計画とトレーニングコースにアクセスできます。

開発者プログラムでは、自分のペースでリリースを調べるために必要なトレーニングを提供します。Early Availability では、最新リリース専用の学習計画とトレーニングコースにアクセスできます。現在の知識と経験に基づいて、わかりやすいトレーニングコースまたは学習計画から選択してください。どちらを選択しても、最新の Now Platform® でアプリケーション開発スキルをビルドまたは向上させることができます。



Early Availability API ドキュメント

Early Availability には、最新リリースの API ドキュメントへのアクセスが含まれます。

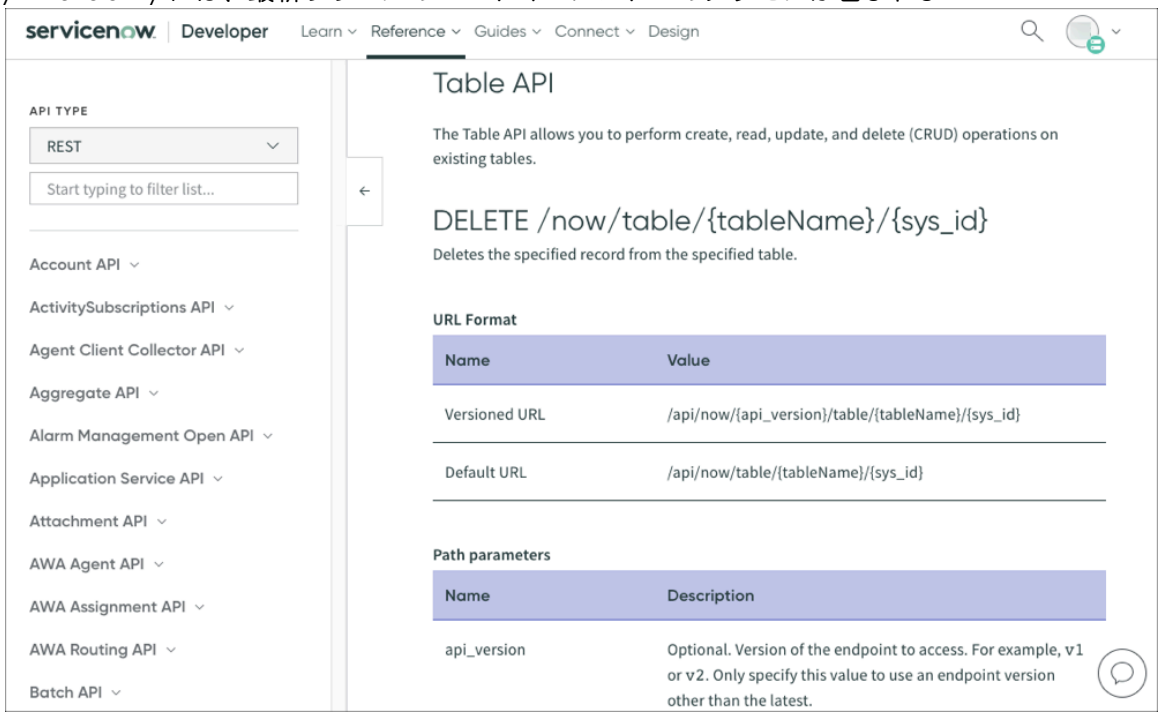
開発者プログラムには、以下に関する API ドキュメントも含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- サーバーサイド API (スコープ対象およびグローバル)
- クライアントサイド API
- REST API
- Now Experience UI フレームワーク

サーバーサイドのスコープ対象の API は、スコープ対象のアプリケーション内で使用するためのものであり、グローバルスコープ内では動作が異なる場合があります。サーバーサイドの従来の API は、グローバルスコープでの開発作業用に文書化されています。新しいアプリケーションは、スコープ対象の API を使用してビルドする必要があります。

Early Availability には、最新リリースの API ドキュメントへのアクセスが含まれます。



ローコード開発とプロコード開発

Now Platform でのローコードとプロコードのソリューションの違いについて学習します。

ローコード開発とは？

ローコード開発は、コーディング経験が少ないユーザーでも強力なアプリを作成できる、アプリ作成の新しいアプローチです。ローコード開発プラットフォームは、手動でのコーディングではなく、グラフィカルインターフェイスと構成に依存しています。これらの新しいローコード開発プラットフォームにより、より多くのユーザーがアプリを迅速かつ効率的に作成して展開できるようになります。

ローコード開発のメリット

ローコードアプリ開発により、開発プロセスが簡素化され、より多くのアプリをより迅速にビルドできます。ローコードソリューションでは、開発者数が少なくて済み、開発者以外のユーザーもアプリをビルドできます。ビルド済みのテンプレートを使用すると、開発者はアプリのビルドをすぐに開始できます。システムアドミニストレーターは、アプリ開発を一元管理し、他の開発者と共同作業を行うことができます。Now Platform で事前定義されたワークフローを使用して、アプリの展開にかかる時間を短縮します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow ローコード開発ツール

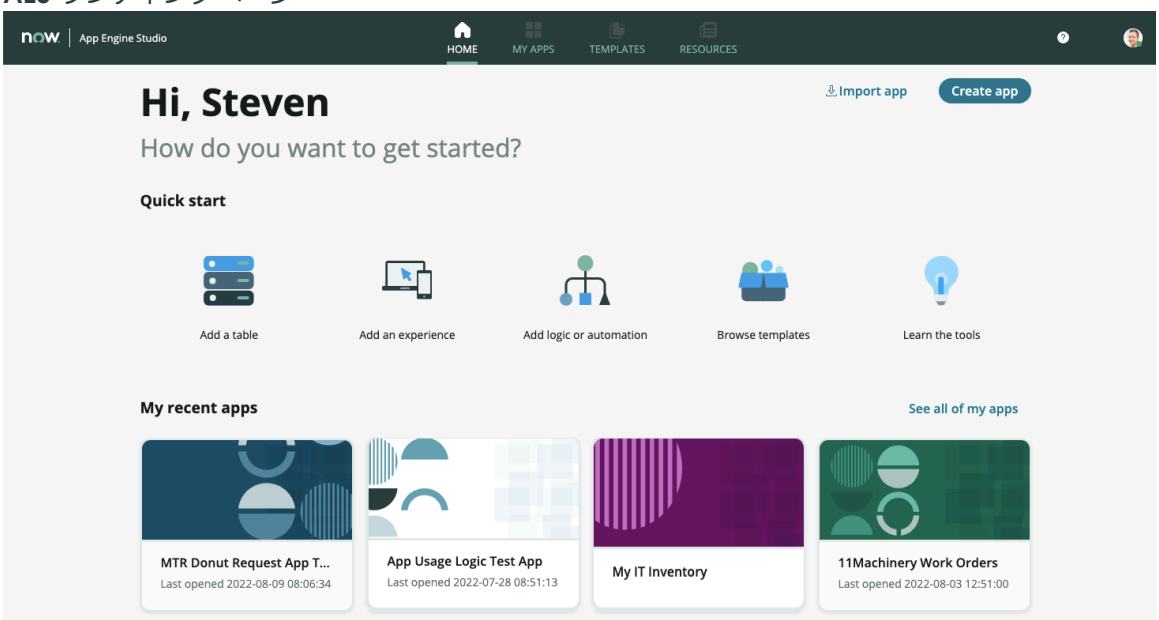
- App Engine Studio
- UI ビルダー
- テーブルビルダー
- のフローワークフロースタジオ
- ワークスペースビルダー
- ディシジョンテーブルの探索

ローコード開発ツールの詳細については、「ローコードアプリケーションのビルド」を参照してください。

ローコード開発ツールの例

App Engine Studio (AES)は、ローコード開発者が Now Platform の機能を活用できるようにして、企業のローコード開発のニーズに対応するように設計されています。ガイダンス主導型のフローとカスタマイズしやすいテンプレートにより、市民開発者はすぐに使い始めることができます。

AES ランディングページ



プロコード開発とは？

プロコード開発は、開発者がローコードツールではビルドできない複雑なアプリを作成するために使用します。従来、プロコード開発は、カスタムコードを使用してゼロからアプリを作成し、ビジネスニーズを解決するために使用されました。開発者には、コーディングの知識と、アプリをビルドするためのプログラミング言語の使用方法が必要です。

プロコード開発のメリット

プロコード開発の利点は、ツールの制限なしでカスタムアプリを作成できることです。ビジネスニーズに合わせた独自のカスタムアプリを無制限にビルドできます。開発者は、会社のブランディングに合わせたカスタムルックアンドフィールでアプリを作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow プロコード開発ツール

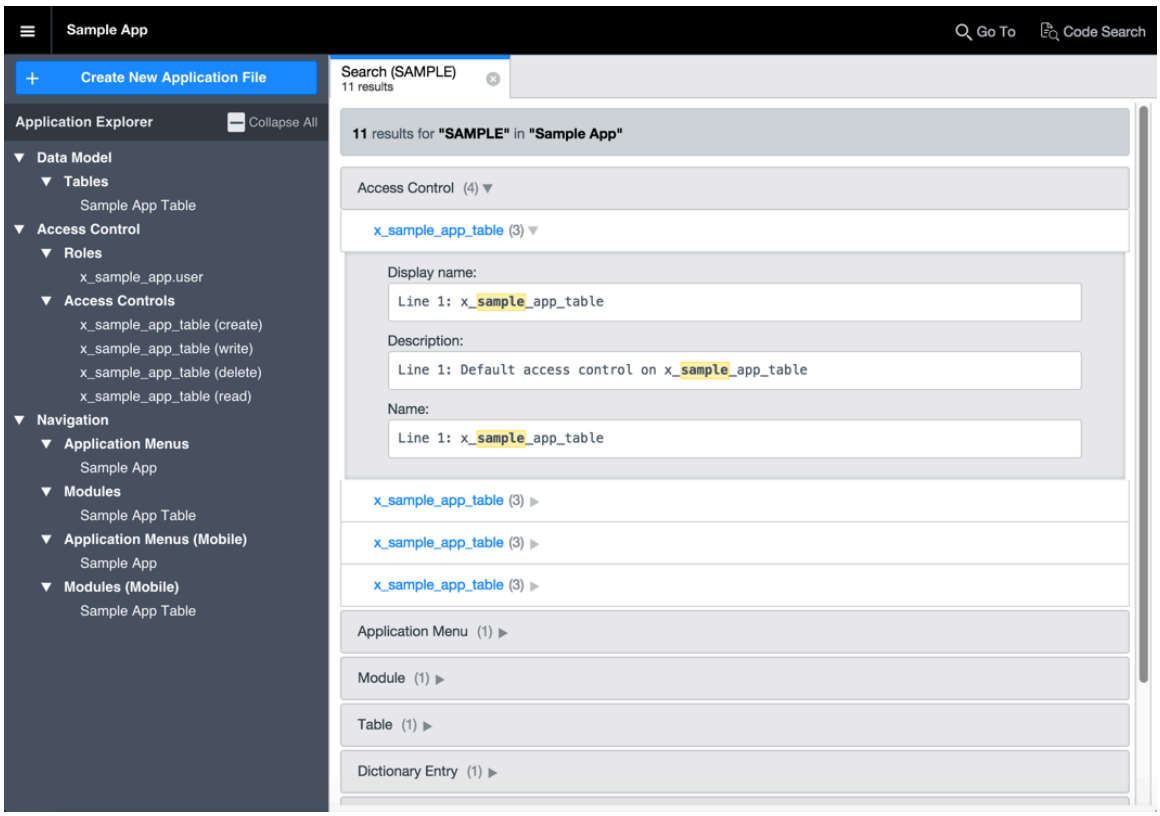
- UI ビルダー
- ServiceNow Studio
- ServiceNow IDE
- ServiceNow SDK
- REST API
- ガイド付きアプリケーションクリエーター
- スクリプティング
- Visual Studio Code 向けの ServiceNow 拡張

プロコード開発ツールの詳細については、「プロコードアプリケーションのビルド」を参照してください。

プロコード開発ツールの例

ServiceNow Studio は、アプリケーション開発者がカスタムアプリケーションを 1 か所で開発できるようにするための、統合開発環境 (IDE) に似たインターフェイスを提供します。タブ付き環境でアプリケーションファイルを簡単に作成、レビュー、更新することができます。

ServiceNow スタジオサンプルアプリ



ローコードとノーコード

ローコードとノーコードという用語は同じ意味で使用される傾向がありますが、まったく同じものではありません。ローコードとノーコードのソリューションはどちらもアプリ開発を簡素化するためのツールを提供しますが、その違いは考慮する価値があります。

ローコード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ローコードプラットフォームは、プロの開発者や技術者以外のビジネスユーザー向けに設計されています。トレーニングや経験はほとんど必要なく、ビジュアルベースのモデリングを使用して開発プロセスを簡素化します。また、コーディング経験があるユーザーは、必要に応じて手動でコーディングすることもできます。

ノーコード

ノーコードプラットフォームは開発経験を必要とせず、市民開発者とビジネスユーザー向けに特別に設計されています。ノーコードソリューションは、実質的にすべてのユーザーにアプリ開発を可能にしますが、シャドー IT (組織内の認可されていないアプリ開発) につながる可能性があります。

アプリケーションの変更とビルド

アプリケーションのライフタイムには、新しいアプリケーションを作成して古いアプリケーションを置き換えた方が合理的であるというタイミングがあります。新しいアプリで利用可能なコスト削減、メンテナンスの労力、および機能は、新しいアプリケーションをビルドするか既存のアプリケーションを変更するかを判断するのに役立ちます。

次の理由から、新しいアプリケーションをビルドすることを検討してください。

- 既存のアプリケーションが古いため、新しいハードウェアで正常に動作しません。
- 新しいアプリケーションをビルドすると、既存のアプリケーションを更新および維持するよりもコストを削減できます。
- 既存のアプリケーションは基本的にビジネスニーズを満たしていません。
- 既存のアプリケーションの機能を新しいアプリケーションに簡単に移行できます。
- 既存のアプリケーションを更新すると、追加する機能がサポートされていないため、UI とワークフローが大幅に中断されます。
- 新しいアプリケーションは、既存のアプリケーションよりも UI が更新され、機能が多く、使いやすいため、より多くのユーザーに支持されます。
- App Engine Studio (AES) のようなローコードプラットフォームでは、既存のアプリケーションを管理するよりも、新しいアプリケーションをビルドする方が迅速で簡単です。

さまざまな UI エクスペリエンスを理解する

Next Experience UI、ワークスペース UI、クラシック環境、およびコア UI の Now Platform ユーザーインターフェイスで開発できます。このトピックでは、これらのユーザーインターフェイスについて説明します。

次の表の情報を使用して、自分とチームに最適な UI エクスペリエンスを選択してください。

Now Platform の UI エクスペリエンス

UI エクスペリエンス	メリット
ネクストエクスペリエンス UI	統一ナビゲーション • 使用しているアプリケーションに関係なく、コンテキストアプリピル、メニューアイテム、検索などのアプリシェルアイテムに、プラットフォーム全体を通じて 1 つの場所からアクセスできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Platform の UI エクスペリエンス (続く)

UI エクスペリエンス	メリット
	• ナビゲーションメニューを固定および固定解除して、メニューアイテムにアクセスしたり、画面のスペースを解放したりします。 その他のメニュー • [お気に入り]、[履歴]、および [ワークスペース] メニューアイテムを使用して、重要なリソースに移動して固定します。 • コア UI アプリケーションと構成可能なワークスペースを簡単に切り替えることができます。 • 1 つのメニューで最近表示したアイテムを検索します。 • エンドユーザー向けのカスタムメニューを作成します。詳細については、「のカスタムメニューの構成 統一ナビゲーション」を参照してください。
Workspace UI	エージェントの効率向上 最適化された直感的なレイアウトで複数の問題を同時に処理します。 迅速な解決 機械学習を利用した自動提案により、問題を迅速に解決します。 重大なインシデントの予測 問題の頻度と影響度に基づいて、潜在的な重大インシデントを通知します。 エージェントの可視化の向上 ライブアクティビティフィードと分析により、最新情報を常に把握し、重要なインサイトを得ることができます。
クラシック環境での作業	リストとフォームでの作業 従来の Now Platform 環境で作業し、レコードからリストを作成します。 強力なアプリの作成と開発

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Platform の UI エクスペリエンス (続く)

UI エクスペリエンス	メリット
	Now Platform のすべての機能を使用してアプリケーションを作成します。
コア UI での作業	コア UI インターフェイスは、外観を更新し使いやすさを向上させます。 注目すべき機能には、リアルタイムのフォーム更新、ユーザープレゼンス、[お気に入り] タブと [履歴] タブを備えた再設計されたアプリケーションナビゲーター、改善されたアクティビティストリームなどがあります。コア UI は、新しいインスタンスのデフォルトのユーザーインターフェイスです。アップグレードされたインスタンスの場合、アドミニストレーターはコア UI を有効にする必要があります。

開発者向けのサポート

ServiceNow 開発者がサポートを受けられる場所は次のとおりです。

開発者サポートを受けられる場所

リソース	説明
ServiceNow コミュニティ または ServiceNow Community	• 製品ハブ：製品エリアを選択します。 ◦ リソースに接続し、統合について学習します。 ◦ エキスパートおよびピアのアドバイスを取得します。 ◦ ピアとのネットワーク。 • 開発者ディスカッション - 開発者とつながり、質問したり、ソリューションを提供したり、一緒にビルドしたりできます。 • 開発者ブログ - 開発者支援チームの意見を参照してください。
開発者サイト	• 無料のアカウントで Now Platform にサインアップしてビルドを開始します。 • ServiceNow 開発者プログラムに参加します。 • 学習リソースにアクセスします。 • 製品およびリリースのドキュメント、API、CLI、およびコンポーネントのドキュメントにアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開発者サポートを受けられる場所 (続く)

リソース	説明
	• Now Platform の概要と、新規または経験豊富な開発者向けの開始方法に関するガイドにアクセスします。 • 同様の問題に取り組んでいる他のユーザーとつながり、協力する方法を学びます。
ServiceNowトレーニング	トレーニングと認定を開始します。
ServiceNow	ServiceNow へのアクセス

アプリケーションコラボレーション

アドミン権限を持つユーザーは、アプリケーションで共同作業する開発者の権限を管理できます。

コラボレーション記述子

アクティベーションを行う標準の事前定義されたコラボレーション記述子を使用するか、カスタムのコラボレーション記述子を作成できます。コラボレーション記述子を使用すると、委託開発権限をアサイン、管理、および監視できます。

コラボレーション記述子

記述子	説明
所有者	他の協力者を管理し、アプリケーションを削除できるアプリケーションの所有者。
編集者	協力者を招待するための標準記述子。
カスタム	ユーザーによって作成された非標準 (カスタム) 記述子。

開発権限

権限を設定することで、システムの制御を保持できます。開発者 (またはアプリケーションを展開するユーザー) に権限をアサインして、アプリケーションを開発または展開できるようにします。

開発権限

権限	説明
アプリケーション管理	アプリケーションおよびバージョンのソースコントロールアクセスを削除する機能。
ファイルタイプアクセス	ユーザーがアクセスできるファイルタイプ。
セキュリティ/エンタイトルメント	アプリケーションセキュリティを管理する機能。
プログラミングツール	スクリプトフィールドにアクセスするための機能。
展開	展開機能。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションコラボレーションユーザー

アプリコラボレーションユーザーを作成することで、個々のユーザーにコラボレーション記述子をアサインできます。ユーザーには、任意のアプリケーションの 1 つのコラボレーション記述子のみをアサインできます。

アプリケーションコラボレーショングループ

アプリコラボレーショングループを作成することで、ユーザーのグループにコラボレーション記述子をアサインできます。グループには、任意のアプリケーションの 1 つのコラボレーション記述子のみをアサインできます。

アプリコラボレーションアプリケーションのインストール

UI でコラボレーション機能を表示できるように、アプリコラボレーションアプリケーションをインストールします。

始める前に

コラボレーション機能を表示できるように、アプリコラボレーションアプリケーションをダウンロードします。

App Engine ライセンスが必要です 。

必要なロール：admin

手順

1. [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて] に移動します。
2. 画面の中央にある検索アイコン ( ) をクリックして、アプリケーションコラボレーションアプリケーションを検索します。
3. [インストール]をクリックします。

   注: アプリコラボレーションがすでにインストールされている場合、[インストール] ボタンは非アクティブです。

4. [アクティブ化] をクリックします。

タスクの結果

アプリコラボレーション機能がアクティブになります。
アプリコラボレーションプラグインをインストールしてアクティブ化すると、委任されたすべての開発者は、現在の権限とアプリケーションに基づいてカスタムコラボレーション記述子を受け取ります。ベースシステムテーブルは、コラボレーション機能で使用される標準の所有者および編集者のコラボレーション記述子を提供します。

アプリケーション用の App Engine Studio (AES) なしでこのプラグインをインストールする場合は、このプラグインを使用して委託開発権限を管理するか、以前の [開発者の管理] 画面を使用して権限を管理する必要があります。委託開発権限を管理するために、プラグインと [開発者の管理] 画面の両方を使用しないでください。

以前の [開発者の管理] 画面を使用するには、アプリケーションを選択し、フォームの関連リンクで [開発者の管理] を選択します。

権限をアサインするためのコラボレーション記述子の作成

ユーザーまたはグループに権限をアサインできるように、コラボレーションアプリケーションで記述子を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて

注: グローバルスコープの [オーナー] と [エディター] 以外に、コラボレーション記述子を作成する必要があります。AES でコラボレーション記述子を表示して使用する場合は、その記述子を `standard = TRUE` に設定する必要があります。AES はカスタムスコープで作成されたコラボレーション記述子をサポートしないため、非標準のコラボレーション記述子は AESでレンダリングされません。

アクティブ化を行う標準の事前定義されたコラボレーション記述子を使用するか、カスタムコラボレーション記述子を作成します。コラボレーション記述子を使用すると、アプリケーションごとに、または複数のアプリケーションにわたり均一に、委託開発権限をアサイン、管理、および監視できます。1 つのアプリケーションで 1 つのコラボレーション記述子を各協力者にアサインできます。ただし、コラボレーション記述子がすでにアサインされているグループにユーザー属している場合、そのユーザーは同時に複数のコラボレーション記述子を保持できます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [コラボレーション] > [記述子] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

アプリコラボレーション記述子フォーム

フィールド	説明
名前	記述子の名前。
説明	権限機能を含む記述子の説明。次に例を示します。 ◦ 所有者 ◦ 編集者
アプリケーション	コラボレーション記述子のスコープ。現在、すべてのコラボレーション記述子をグローバルスコープに作成する必要があります。
標準	このロールを持つ他の協力者を招待するためのオプション。

4. [送信] をクリックします。

コラボレーション記述子への権限の追加

コラボレーション記述子に権限を追加して、アプリケーションの削除や協力者の管理など、ユーザーの機能を管理します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [コラボレーション] > [記述子] に移動します。
2. 権限を変更するには、関連リストからコラボレーション記述子を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 権限のオプションを表示するには、関連リストで [編集...] をクリックします。
4. 記述子の権限を追加または削除するには、矢印をクリックします。
   権限のリストについては、「コラボレーション権限」を参照してください。
5. [保存] または [更新] をクリックします。

ユーザーへのコラボレーション記述子のアサイン

特定のアプリケーションのコラボレーション記述子をユーザーにアサインし、これらのユーザーの特定の権限を定義できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 関連リストで、[アプリケーションコラボレーションユーザー] をクリックします。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

コラボレーションユーザーフォーム

フィールド	説明
コラボレーションアプリケーション	ユーザーが作業するアプリケーション。
コラボレーションユーザー	アプリケーションで作業するユーザー。
コラボレーション記述子	このアプリケーションのユーザーの記述子。

4. [送信] をクリックします。

グループへのコラボレーション記述子のアサイン

特定のアプリケーションのユーザーグループにコラボレーション記述子をアサインし、これらのユーザーグループの特定の権限を定義できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 関連リストで、[アプリケーションコラボレーショングループ] をクリックします。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

コラボレーショングループフォーム

フィールド	説明
コラボレーションアプリケーション	グループが作業するアプリケーション。
コラボレーショングループ	コラボレーショングループの名前。
コラボレーション記述子	このアプリケーションのグループの記述子。

4. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コラボレーション権限

権限を割り当てて、協力者ができることを定義します。

コラボレーション権限

権限	説明
プロセスオートメーションデザイナー	プロセスオートメーションデザイナー 設計環境を操作してプロセスを作成するためのアクセス権を付与します。アクティビティサブフローまたはアクションを編集するには、フローデザイナー権限が必要です。
すべてのメタデータ	すべてのメタデータを操作するためのアクセス権を付与します。
統合	Web サービス API、REST API、データソース、および 統合ハブ - インポートへのアクセス権を付与します。
UI ビルダー	UI ビルダー を使用してより複雑なインターフェイスをビルドするためのアクセス権を付与します。
モバイルビルダー	モバイルアプリビルダー などを使用してモバイルエクスペリエンスをビルドするためのアクセス権を付与します。
セキュリティ管理	アクセス制御リストやロールなどのセキュリティ管理ファイルへのアクセス権を付与します。
サービスポータル	サービスポータル のエディターとツールを操作するためのアクセス権を付与します。
Notifications	自動電子メール通知を作成し、電子メールテンプレートを操作するためのアクセス権を付与します。
協力者を招待	開発者をアプリで共同作業するよう招待するためのアクセス権を付与します。
ワークフロー	ワークフローエディターおよびアクティビティクリエーターへのアクセス権を付与します。
Reporting	レポートおよびスケジュール済みレポートへのアクセス権を付与します。
フローデザイナー	フローとアクションを作成するための フローデザイナー 設計環境へのアクセス権を付与します。
サービスカタログ	カタログアイテム、レコードプロデューサー、変数などのカタログ関連のファイルタイプを操作して、カタログアイテムをアプリに追加するためのアクセス権を付与します。
テーブルとフォーム	テーブル列、フォームレイアウト、リストレイアウトなど、モデルおよびレイアウト関連のファイルタイプへのアクセス権を付与します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コラボレーション権限 (続く)

権限	説明
ディシジョンテーブル	ディシジョンテーブル を操作して、複数の if-then ルールに基づいて意思決定ロジックを作成するためのアクセス権を付与します。

コンテキスト開発環境

このプラットフォームは、コンテキスト開発環境であり、現在選択されているアプリケーションを表示する、すべてのアプリケーション アーティファクトのスコープを特定する、アプリケーションのアクセス設定に違反する変更を防ぐことができます。

アプリケーション開発者は、コンテキスト開発環境を使用して以下のことを実行できます。

- アプリケーション コンテキストを決定する。
- アプリケーションを表示および選択する。
- アプリケーションのバージョン標準を適用する。
- アプリケーション リソースの抑制を実施する。
- スクリプト保護ポリシーを実施する。

アプリケーションコンテキスト

アプリケーション開発者が新しいレコードを作成すると、アプリケーション ピッカー内で現在選択されているアプリケーションに対して自動的にレコードが割り当てられます。

アプリケーション開発者が既存のレコードを変更しようとしたときは、現在選択されているアプリケーションがアプリケーション アーティファクトのスコープと一致するかどうかがチェックされます。一致した場合、アプリケーション開発者はアーティファクトに変更を保存できます。異なる場合、システムによってユーザーインターフェイスが次のように変更されます。

- 現在のレコードのすべてのフィールドが読み取り専用になる。
- アプリケーションアーティファクトが別のスコープに属しているという警告メッセージが表示される。

アプリケーションのアクセス設定

アプリケーションのアクセス設定によって、あるアプリケーションが別のアプリケーションのリソースにアクセスできるかどうかが決まります。

アプリケーションのアクセス設定は、特定のリソースに対するアクセスを制限できる点でアクセスコントロール (ACL) と似ていますが、ユーザーに対してテーブルやレコードを制限するのではなく、他のアプリケーションに対してアプリケーション リソースを制限します。クロススコープ アクセスを設定する方法はいくつかあります。

設定タイプ	使用方法	説明	アクセス設定場所
アプリケーションの設計時と実行時の設定	アプリケーションまたはアプリケーション スクリプトがクロススコープ リソースにアクセスする必要があります。	アプリケーション設計者は、アプリケーション全体に対して以下のアプリケーション アクセス設定を設定できます。	呼び出し元アプリケーションが所有するクロススコープ権限レコードによって決定されるアクセス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

設定タイプ	使用方法	説明	アクセス設定場所
		• 設計時のアクティビティでクロススコープ テーブルを選択できるかどうかを指定します。 • クロススコープ リソースでスクリプトを実行できるタイミングを指定します。 • アプリケーションでサポートする JavaScript 標準を指定します。	
テーブルの設計時と実行時の設定	クロススコープ アプリケーションまたは Web サービスがテーブルの CRUD 操作を実行するためのアクセス権限を必要とします。	アプリケーション開発者は、個々のテーブルのアプリケーション アクセス設定を設定することもできます。 • テーブルを他のアプリケーションスコープで使用できるかどうかを指定します。 • テーブルがサポートする、他のアプリケーションスコープからの実行時の操作を指定します。 • 設計時のアクティビティでテーブルを選択できるかどうかを指定します。 • Web サービスからテーブルにアクセスできるかどうかを指定します。	ターゲット テーブルでの設定によって決定されるアクセス
限定呼び出し元アクセス特権の設定	クロススコープ アプリケーションまたはスクリプトがアプリケーションまたはアプリケーション リソースにアクセスする必要があります。	アドミンユーザーは、アプリケーションスコープまたはアプリケーションリソースの全体に対して以下のアプリケーションアクセス設定を設定できます。 • クロススコープスクリプトがアプリケーションスコープまたはアプリケーションリソースにアクセスできるかどうかを指定します。 • アプリケーション リソースに対するアクセスのクロススコープ要求を追跡します。 • アプリケーション リソースにアクセスするためのクロススコープ要求を承認または拒否します。	ターゲットアプリケーションが所有する制限付きの申請者アクセスレコードによって決定されるアクセス。

アプリケーションの設計時と実行時の設定

アプリケーションの設計時と実行時の設定によって、アプリケーションがクロススコープ リソースにアクセスできるかどうかが決まります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

設計時および実行時のフィールド

フィールド	説明
JavaScript モード	このアプリケーションがサポートする JavaScript 標準です。**ECMAScript 2021 (ES12)** を選択して ECMAScript 12th エディションの機能をサポートするか、**ES5 Standards Mode** を選択して ECMAScript 5th エディションの機能をサポートします。互換モードを選択すると初期の ECMAScript エディションをサポートします。
実行環境アクセス追跡	他のアプリケーションのリソースに対するスクリプト アクセス要求をこのアプリケーションでどのように処理するかを指定します。無しを選択するとログインなしで全てのクロススコープリソースにアクセスする権限を与えます。 を選択すると、クロススコープ リソースに対するすべてのアクセス要求をログに記録して許可します。 を選択すると、クロススコープ リソースに対するアクセス要求をログに記録しますが、アドミニストレーターが各要求を許可する必要があります。
テーブル選択を制限	アプリケーションの設計時のクロススコープ テーブルの可用性です。そのオプションをクリアすると、アプリケーションが他のアプリケーションスコープからテーブルを見ることを許します。そのオプションを選択すると、設計の選択を同じアプリケーション内のテーブルのみに制限できます。

実行時のアクセストラッキング

アドミニストレーターは、実行時のアクセス追跡により、実行を許可するスクリプト操作とターゲットのリストを作成して、アプリケーション リソースに対するスクリプト アクセスを管理できます。

実行時のアクセス追跡には、次のオプションがあります。

実行時のアクセス追跡のオプション

オプション	追跡内容	許可内容	結果
なし	システムは、実行時のアクセス要求を追跡しません。	システムは、アクセス要求を実行するのに許可を必要としません。	アプリケーション スクリプトは、テーブルレベルのアクセス設定で許可されている限り、他のアプリケーションのリソースにアクセスできます。
追跡中	開発中は、システムが実行時のアクセス要求ごとにクロススコープ特権レコードを作成します。 インストール後は、システムが新たに実行時のアクセス要求を追跡することはありません。	システムは、クロススコープ権限レコードのステータスを に設定します。	システムは、テーブルレベルのアクセス設定で許可されている限り、追跡された操作を実行します。
強制	開発中は、システムが実行時のアクセス要求ごとにクロススコープ特権レコードを作成します。 インストール後は、システムが新たに実行時のア	システムは、クロススコープ権限レコードのステータスを [要求済み] に設定します。	アドミニストレーターがステータスを手動で に変更し、かつ、テーブルレベルのアクセス設定で許可されていない限り、追跡された操作は実行されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行時のアクセス追跡のオプション (続く)

オプション	追跡内容	許可内容	結果
	クセス要求を追跡することはありません。		

開発中に、アプリケーション設計者は、アプリケーションのスクリプトロジックをすべて実行して、他のアプリケーションに対するアクセス要求が追跡され許可されるようにする必要があります。

クロススコープ特権レコード

実行時のアクセス追跡では、クロススコープ特権レコードを使用して、システムが実行を許可するスクリプト操作とターゲットを特定します。

システムは、以下の場合にクロススコープ権限レコードを作成します。

- 実行時のアクセス追跡が または に設定されているとき。
- スクリプトが別のアプリケーションに対するアクセスを試みたとき。

クロススコープ特権 [sys_scope_privilege] テーブルの各クロススコープ特権レコードには、次の情報が含まれます。

クロススコープ特権フィールド

フィールド	説明
ソース スコープ	他のアプリケーションのリソースに対して実行時アクセスを要求するアプリケーション。
ターゲットスコープ	リソースが要求されているアプリケーション。
ターゲット名	要求されているテーブル、スクリプトインクルード、またはスクリプト オブジェクトの名前。
ターゲットタイプ	要求のタイプ：テーブル、スクリプトインクルード、またはスクリプト オブジェクト。
操作	スクリプトがターゲットに対して実行する操作。ターゲット タイプによって、使用可能な操作が決まります。テーブルでは、読み取り、書き込み、作成、および削除の操作がサポートされます。スクリプトインクルードおよびスクリプトオブジェクトでは、API 実行操作のみがサポートされます。
ステータス	このレコードの許可：要求済み、許可、または拒否。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アドミニストレーターは、アクセスするクロススコープ リソースをアプリケーション開発者に伝える前に、開発者のクロススコープ特権レコードを手作業で作成できます。たとえば、これらのクロススコープ特権レコードを作成することで、インシデント管理のリソースに対するアクセスをアプリケーション開発者に許可することができます。

クロススコープ特権レコードの例

ソース スコープ	ターゲットスコープ	ターゲット名	操作	ステータス
自分のアプリケーション	グローバル	incident	読み取り	許可
自分のアプリケーション	グローバル	incident	書き込み	許可
自分のアプリケーション	グローバル	ScopedGlideRecord	API の実行	許可

アプリケーション開発者は、テスト中にアプリケーション スクリプト ロジックをすべて実行して、必要なクロススコープ特権レコードがシステムによって確実に作成されるようにする必要があります。アプリケーションの公開後は、有効なクロススコープ特権レコードを持つ実行時要求のみが実行を許可されます。

注: テーブル特権の付与は、最大でテーブルオブジェクト (sys_db_object) レコードに設定されている権限に制限されます。たとえば、インシデントのテーブルオブジェクトで「スコープの削除可能」が許可されていない場合、テーブルインシデントに削除するスコープ特権を付与することはできません。

アプリケーション設計時アクセス レコード

アドミニストレーターは、アプリケーション設計時アクセス レコードを使用して、アプリケーション作成中に開発者が使用できるその他のアプリケーションを指定します。

アドミニストレーターがアプリケーションのテーブル選択を制限する場合、アプリケーション設計時アクセス レコードを作成して、選択したアプリケーションのテーブルに対するアクセスを開発者に対して許可できます。

各アプリケーション設計時アクセス レコードには、以下の情報が含まれています。

アプリケーション設計時アクセス フィールド

フィールド	説明
ソース スコープ	他のアプリケーションのテーブルに対して設計時アクセスを要求するアプリケーション。
ターゲットパッケージ	設計時アクセスの対象にできるテーブルを持つアプリケーション。
アプリケーション	このレコードが属するアプリケーション。

アドミニストレーターは、アプリケーション設計時アクセス レコードを使用して、アプリケーション開発者が使用できるリソースを完全にコントロールすることができます。アプリケーション開発者が設定レコードを作成するときに、別のアプリケーションからテーブルを選択できるのは、そのアプリケーションに対するアクセスを許可するアプリケーション設計時アクセス レコードがある場合に限定されます。たとえば、アドミニストレーターは、次のアプリケーション設計時アクセスレコードを作成することで、インシデント管理と問題管理のテーブルに対するアクセスを開発者に対して許可できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション設計時アクセス レコードの例

ソース スコープ	ターゲットパッケージ
自分のアプリケーション	インシデント
自分のアプリケーション	問題管理

開発者が他のアプリケーションに対する設定レコードを作成すると、システムではこれらのアプリケーションが依存関係があるものとして表示されます。

テーブルの設計時と実行時の設定

アプリケーション アクセス フィールドは、設計時または実行時の操作中に他のアプリケーションからテーブルにアクセスできるかどうかを決定します。

アプリケーション アクセス フィールド

フィールド	説明
他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可	このチェック ボックスをオンにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトがこのテーブルに格納されているレコードを読み取ることができます。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケーション内のスクリプトでこのテーブルのデータに対するクエリを実行できます。他の API レコード操作を許可するには、先に読み取りアクセスを選択する必要があります。
書き込み可能	このチェックボックスをオンにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトがこのテーブルに格納されているレコードを変更することができます。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケーション内のスクリプトでこのテーブルのフィールド値を変更できます。このオプションは、[他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ使用できます。 このチェックボックスをオフにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトはこのテーブルに格納されているデータを変更できなくなります。
他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可	このチェックボックスをオンにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトがこのテーブルにレコードを作成することができます。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケーション内のスクリプトでこのテーブルに新しいレコードを挿入できます。このオプションは、[他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ使用できます。 このチェックボックスをオフにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトはこのテーブルにレコードを作成できなくなります。
他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可	このチェックボックスをオンにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプト オブジェクトがこのテーブルからレコードを削除することができます。このオプションは実行時保護を提供します。たとえば、別のアプリケーション内のスクリプトでこのテーブルからレコードを削除できます。このオプションは、[他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション アクセス フィールド (続く)

フィールド	説明
	このチェックボックスをオフにすると、他のアプリケーションスコープのスクリプトオブジェクトはこのテーブルからレコードを削除できなくなります。
Web サービスでのやり取りを許可	このチェック ボックスをオンにすると、ユーザーはこのテーブルに対して受信 Web サービス クエリを実行することができます。このオプションは設計時保護と実行時保護の両方を提供します。このチェック ボックスをオンにしている場合でも、クエリを実行するユーザーは、このテーブルにアクセスするための適切な権限を持っている必要があります。 このチェック ボックスをオフにすると、ユーザーはこのテーブルに対して Web サービス クエリを実行できません。

アプリケーションテーブルへの実行時アクセス

実行時アクセスでは、API または Web サービスの呼び出しをアプリケーション テーブルに対して実行できるかどうかを決定します。

以下のアクセスポイントに対してアクセス権限を設定できます。

実行時アクセスポイント

アクセスポイント	説明
スクリプト API	GlideRecord 呼び出しなど、スコープ指定のシステム API からの、サポートされているオブジェクトまたはメソッドの呼び出し。
Web サービス	REST、JSON、SOAP Web サービスなど、サポートされている Web サービスの呼び出し。

システムは、アプリケーション テーブルに対する API または Web サービスの呼び出しを作成できないようにするのではなく、その API または Web サービスの呼び出しをアプリケーション テーブルに対して実行できるかどうかを判断します。アプリケーション テーブルのアクセス権限に違反する API または Web サービスの呼び出しが行われると、エラーになります。たとえば、保護されたアプリケーションテーブルに対して Web サービス呼び出しを行うと、403 Forbidden の HTTP エラーが発生します。

デフォルトの実行時アクセス権限

デフォルトの実行時アクセス権限は、新しいアプリケーション データ テーブルに適用されます。

デフォルトでは、新しいアプリケーション テーブルでは、他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスのみが許可されます。

デフォルトの実行時アクセス

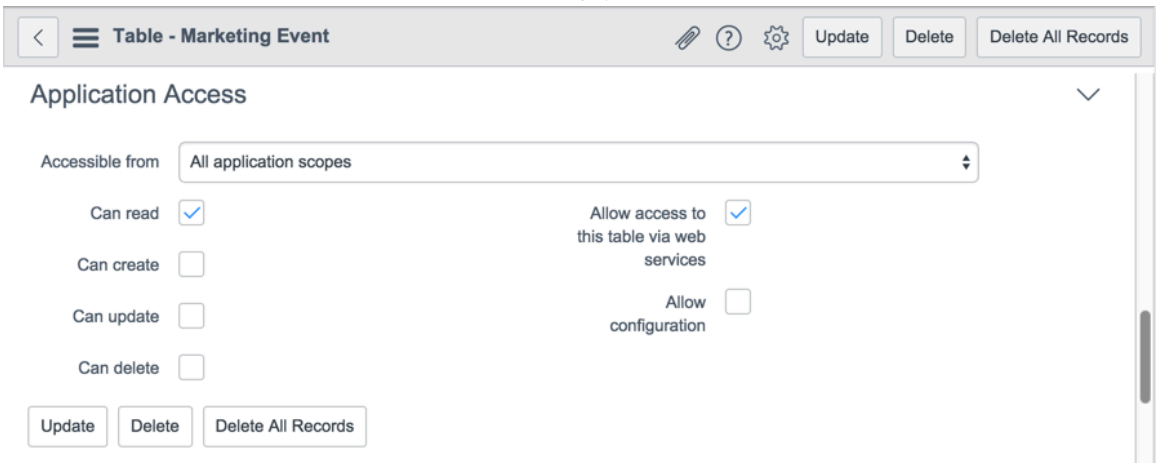
フィールド	値
Accessible from	すべてのアプリケーションスコープ
他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可	有効
他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可	無効

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルトの実行時アクセス (続く)

フィールド	値
他のアプリケーションスコープからの書き込みアクセスを許可	無効
他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可	無効
Web サービスでのやり取りを許可	有効

テーブル レコードのアプリケーション アクセス権限



アプリケーション テーブルへの実行時アクセスの設定

これらのアクセス権限は、実行時にアプリケーション テーブルを保護するために設定します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [アプリケーション] に移動します。
2. 編集するアプリケーション タイプのボタンをクリックします。

オプション	説明
開発	このインスタンスに作成されたアプリケーションを表示します。
ダウンロード	このインスタンスにダウンロードされたアプリケーションを表示します。

3. 操作するアプリケーション名またはアプリケーションの ボタンをクリックします。
4. 関連リストから、アクセス権限を設定するテーブルを選択します。
5. セクションで、実行時アクセス権限を設定します。
6. [更新] をクリックします。

テーブルへのすべての実行時アクセスを拒否する例

他のアプリケーションスコープからのスクリプト API および Web サービスの呼び出しを防ぐことができます。

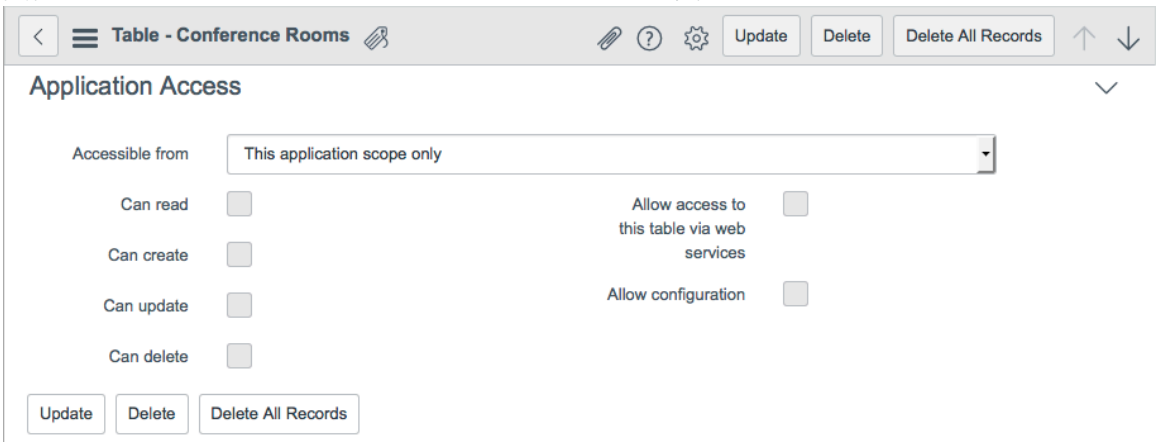
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通常、これは他のアプリケーションがテーブル内のデータを作成または変更するのを防ぐことを目的とします。アクセスを拒否するためには、テーブル レコードに次の値を設定する必要があります。

すべての実行時アクセスの拒否

フィールド	値
Accessible from	このアプリケーションスコープのみ
他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可	無効
他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可	無効
他のアプリケーションスコープからの書き込みアクセスを許可	無効
他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可	無効
Web サービスでのやり取りを許可	無効

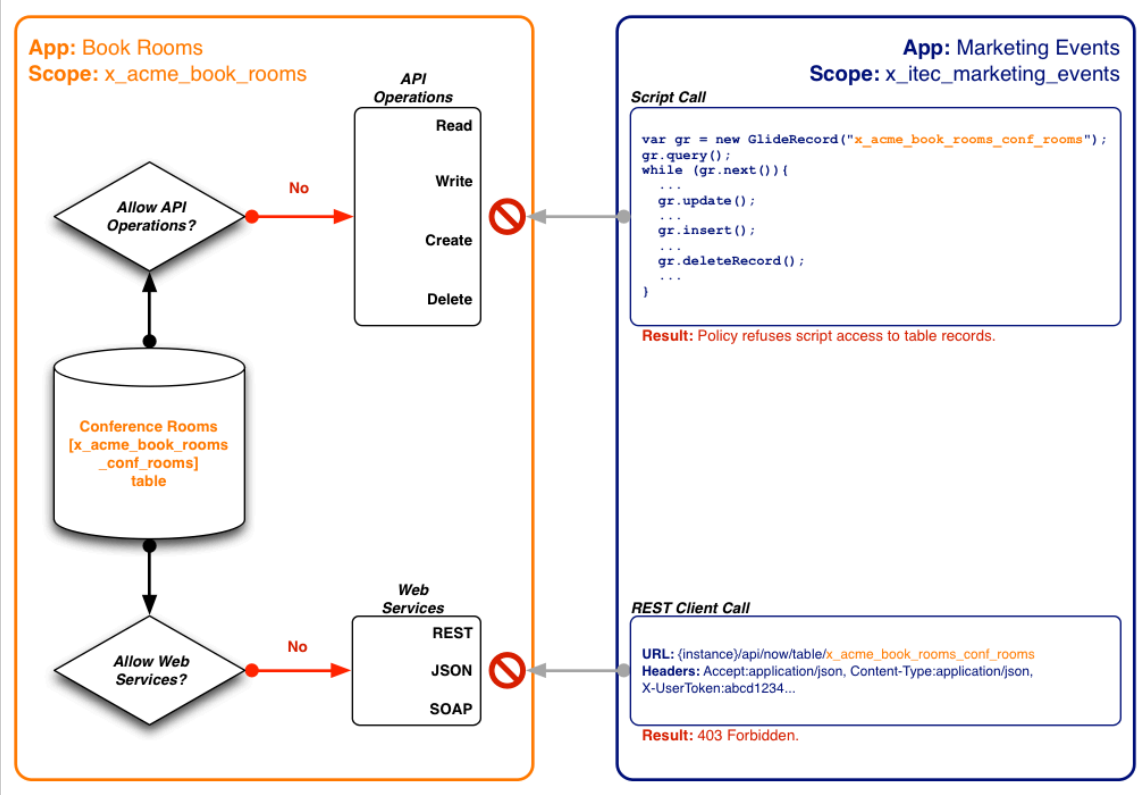
実行時アクセスをこのアプリケーションスコープのみに制限する



次の図は、他のアプリケーションスコープがスクリプト API と Web サービスの呼び出しからアプリケーション テーブルにアクセスするのを拒否する場合の影響を示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション テーブルに対するすべての実行時アクセス権限を拒否する



テーブルへのすべての実行時アクセスを許可する例

他のアプリケーションスコープからの実行時スクリプト API および Web サービスの呼び出しを、一部またはすべて許可することができます。

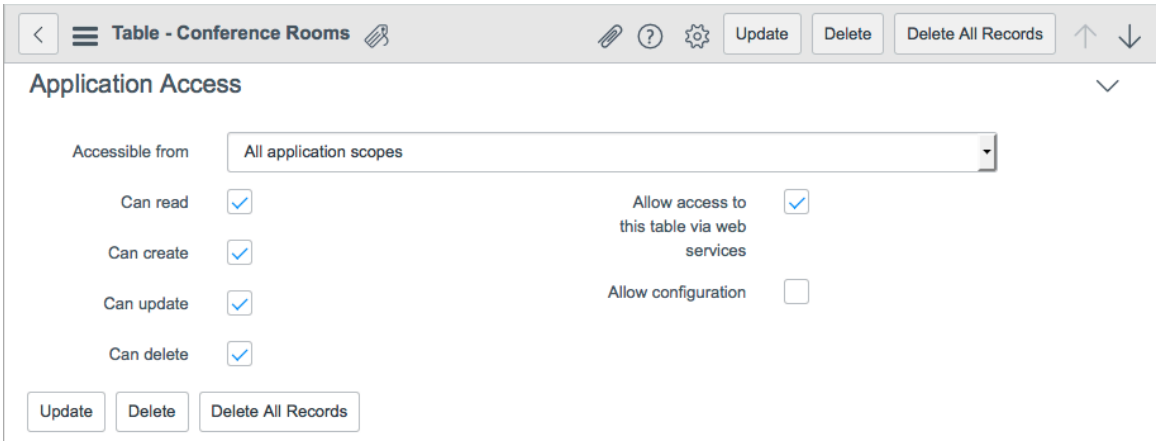
アクセスを許可するには、テーブル レコードに次の値を設定する必要があります。

すべての実行時アクセスの許可

フィールド	値
Accessible from	すべてのアプリケーションスコープ
他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可	有効
他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可	有効
他のアプリケーションスコープからの書き込みアクセスを許可	有効
他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可	有効
Web サービスでのやり取りを許可	有効

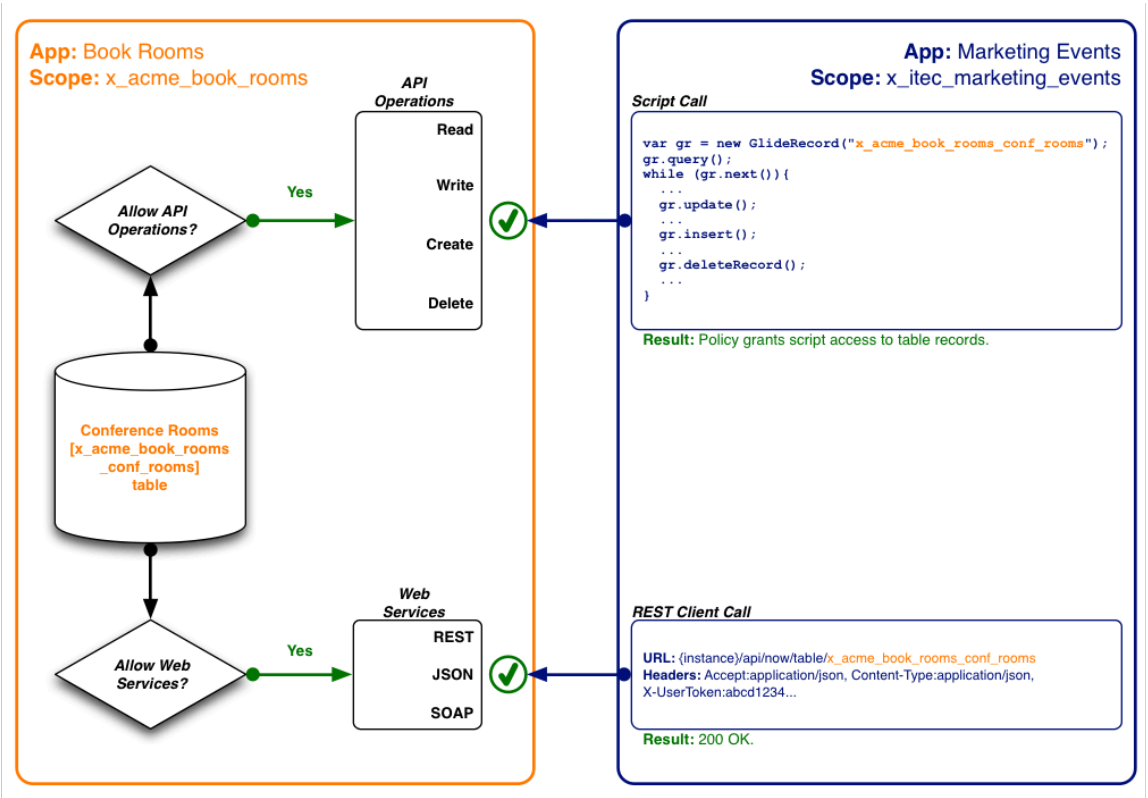
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

他のアプリケーションスコープにすべての実行時アクセス権限を許可する



次の図は、他のアプリケーションスコープが API コールと Web サービスからアプリケーション テーブルにアクセスするのを許可する場合の影響を示します。

アプリケーションテーブルへの許可されたアクセス



アプリケーションテーブルへの設計時アクセス

アプリケーション開発者は、設定レコードを作成する権限を他のアプリケーションに対して付与または拒否することができます。設定レコードは、アプリケーションの機能を拡張するもので、アプリケーションファイルとも呼ばれます。

この権限は、次のような、アプリケーション データ テーブルの機能を拡張するあらゆるプラットフォーム機能に適用されます。

- ビジネスルール
- UI アクション
- クライアントスクリプト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらのアクセス権限によって、設計時にアプリケーション データ テーブルが保護されます。システムは、 フィールドのオプションとしてアプリケーション データ テーブルを表示しないことで、設定レコードを作成できないようにします。たとえば、保護されたアプリケーション テーブルは、UI アクションやクライアントスクリプトなどの設定レコードを作成するときにオプションとして表示されません。

設定レコードを作成する権限が付与されている場合でも、一部の設定レコードには、他のアプリケーションスコープからの不要な変更からアプリケーションデータを保護するための追加の制限事項があります。

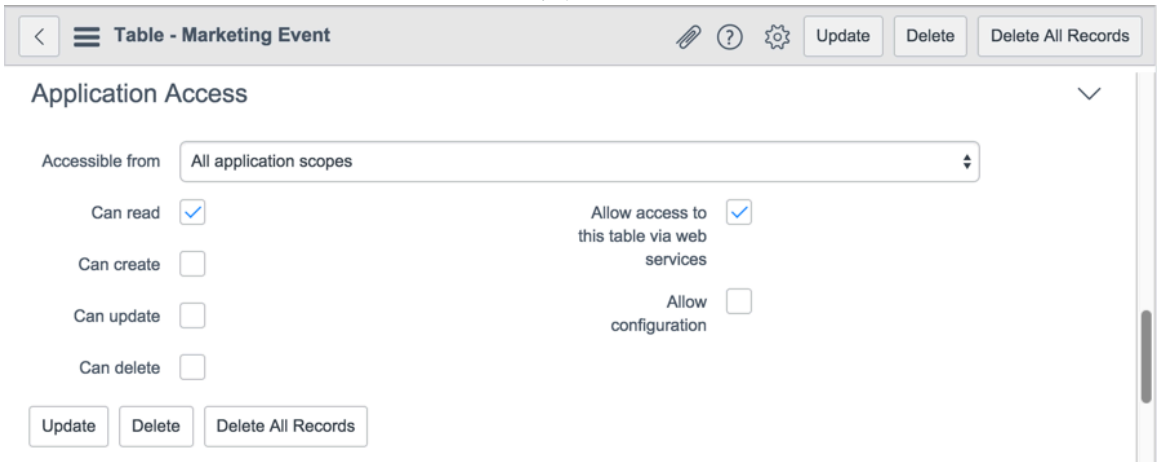
デフォルトの設計時アクセス権限

デフォルトでは、新しいアプリケーション テーブルでは、他のアプリケーションスコープがアプリケーション データ テーブルに設定レコードを作成することはできません。これにより、他のアプリケーションがテーブルの機能を変更するのを防ぐことができます。

デフォルトの設計時アクセス

フィールド	値
Accessible from	すべてのアプリケーションスコープ
他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可	有効
他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可	無効
他のアプリケーションスコープからの書き込みアクセスを許可	無効
他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可	無効
Web サービスでのやり取りを許可	有効
構成を許可	無効

設定レコードに対するデフォルトのアクセス権限



アプリケーションテーブルへの設計時アクセスの設定

これらのアクセス権限は、設計時にアプリケーション テーブルを保護するために設定します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
実行時アクセス権限を設定するには、次のように操作します。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。
2. 編集するアプリケーション タイプのボタンをクリックします。

オプション	説明
開発	このインスタンスに作成されたアプリケーションを表示します。
ダウンロード	このインスタンスにダウンロードされたアプリケーションを表示します。

3. 操作するアプリケーション名またはアプリケーションの ボタンをクリックします。
4. 関連リストから、アクセス権限を設定するテーブルを選択します。
5. セクションで、設計時アクセス権限を設定します。
6. [更新] をクリックします。

関連情報

テーブルへのすべての設計時アクセスを拒否する例

テーブルの設定レコードを許可する例

テーブルへのすべての設計時アクセスを拒否する例

他のアプリケーションスコープがアプリケーション データ テーブルに設定レコードを作成するのを拒否することができます。

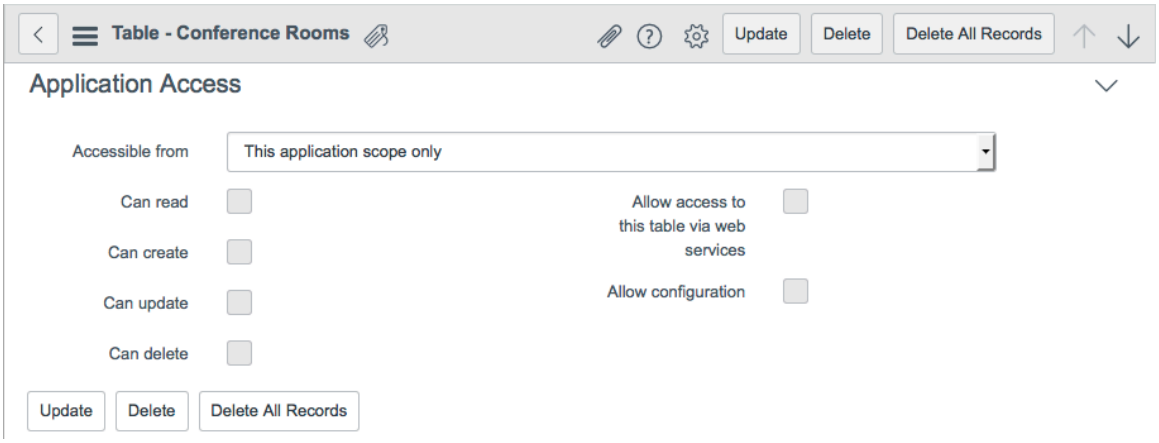
通常、これは他のアプリケーションがテーブルの機能を変更しないようにするのが目的です。アクセスを拒否するためには、テーブル レコードに次の値を設定する必要があります。

すべての設計時アクセスの拒否

フィールド	値
Accessible from	このアプリケーションスコープのみ
他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可	無効
他のアプリケーションスコープからの作成アクセスを許可	無効
他のアプリケーションスコープからの書き込みアクセスを許可	無効
他のアプリケーションスコープからの削除アクセスを許可	無効
Web サービスでのやり取りを許可	無効
構成を許可	無効

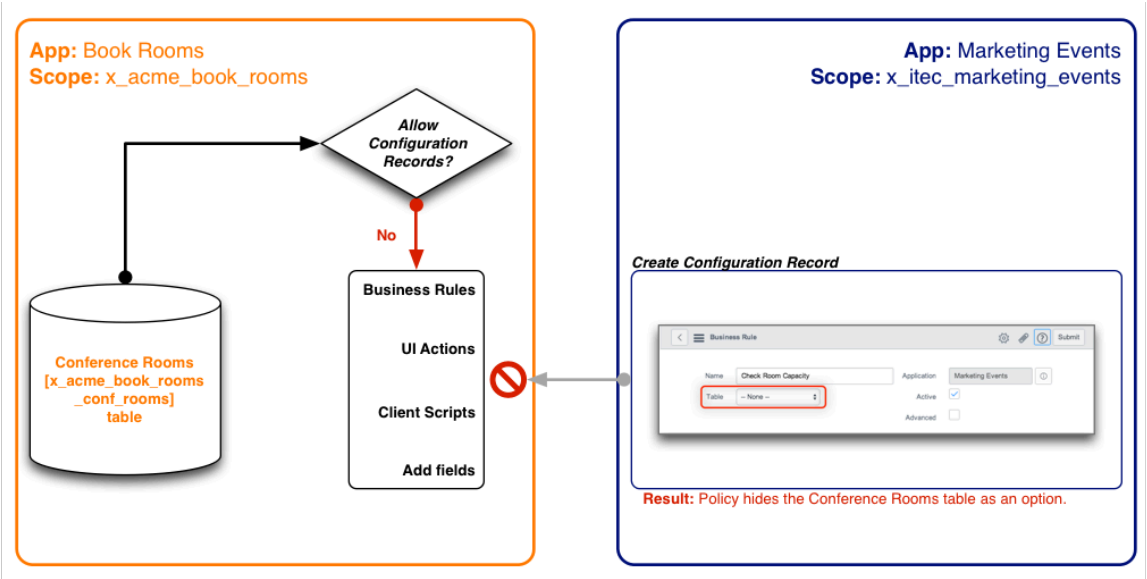
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

設計時アクセスをこのアプリケーションスコープのみに制限する



次の図は、他のアプリケーションスコープによる設定レコードの作成を拒否する場合の影響を示しています。

設計時アクセスをこのアプリケーションスコープのみに制限する



テーブルの設定レコードを許可する例

他のアプリケーションスコープがアプリケーション データ テーブルに設定レコードを作成するのを許可することができます。

これらの設定を使用して、次の設定レコードに対するアクセスを許可できます。

設定レコードに対するアクセスの許可

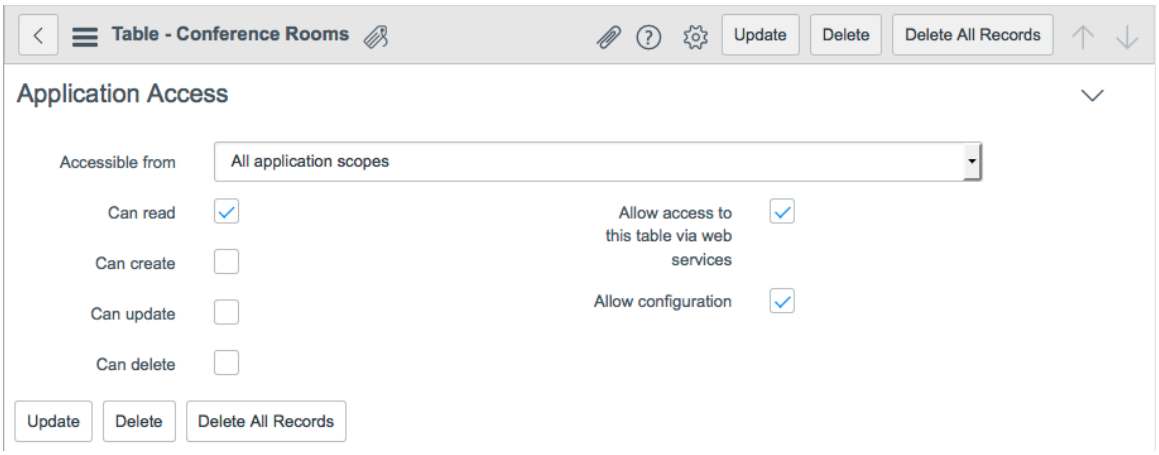
設定レコード	アクセスを許可するために必要な設定
アクセス制御	• [アクセス可能] を [すべてのアプリケーションスコープ] に設定 • [他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] をオン
ビジネスルール	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

設定レコードに対するアクセスの許可 (続く)

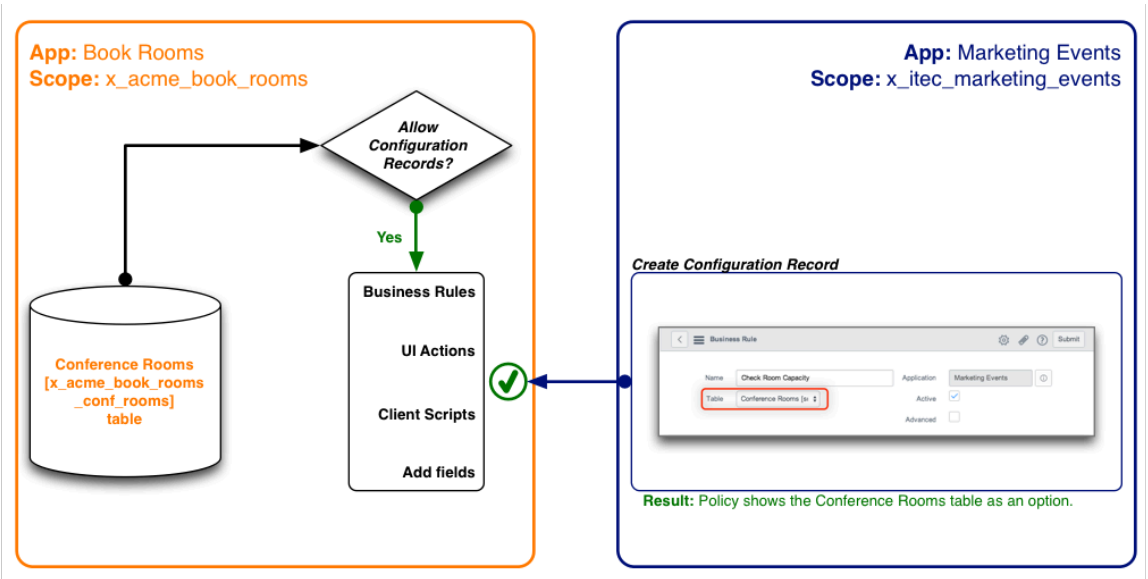
設定レコード	アクセスを許可するために必要な設定
クライアントスクリプト	• [アクセス可能] を [すべてのアプリケーションスコープ] に設定 • [他のアプリケーションスコープからの読み取りアクセスを許可] をオン • をオン
ディクショナリー エントリー (新しいフィールドのみ)	
UI アクション	

他のアプリケーションスコープに設計時アクセスを許可



次の図は、他のアプリケーションスコープによる設定レコードの作成を許可する場合の影響を示しています。

設定レコードへのアクセスの許可



限定呼び出し元アクセス特権の設定

アプリケーション、アプリケーションリソース (アクセス制御ロール、ビジネスルール、UI アクション、スクリプトインクルードなど)、またはイベントへのクロススコープアクセスを定義します。これらの設定を使用して、アクセス要求を許可または拒否することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

限定呼び出し元アクセス特権の設定の概要

限定呼び出し元アクセス [sys_restricted_caller_access] レコードは、Now Platform でのアプリケーション、アプリケーションリソース、またはイベントに対するアクセスを要求するクロススコープアプリケーションやスクリプトを追跡します。Now Platform は、次のいずれかのアクションが発生したときに sys_restricted_caller_access レコードを作成します。

- 呼び出し元アクセスが または に設定されているとき。
- クロススコープ スクリプトがアプリケーション リソースまたはイベントに対してアクセスを試みたとき。

> **注:** システムスコープ対ターゲットスコープは、クロススコープの一例です。

これらのレコードを使用して、次のタスクを実行できます。

- アプリケーション リソースに対するアクセスのクロススコープ要求を追跡する。アクセス要求を使用して、他のアプリケーションスコープのリソースとデータにアクセスする必要があるアプリケーションを特定できます。
- アプリケーション リソースまたはイベントに対するアクセスに対するクロススコープ要求を承認または拒否する。たとえば、限定呼び出し元アクセスレコードを作成して、すべてのスコープ対スコープ要求についてアクセスを許可できる。

詳細については、「要求された制限付きの申請者アクセス (RCA)」を参照してください。

限定呼び出し元アクセス特権の設定の組み合わせ

限定呼び出し元アクセスの特権設定のさまざまな組み合わせを定義し、関係ごとにアクセスを許可するか制限するかを指定できます。このプロセスにより、アプリケーションに、不要なスコープではなく、正しいスコープにアクセスするための特権を確保します。次の設定のさまざまな組み合わせを定義できます。

スコープ
: 選択したソース スコープまたはターゲット スコープ内にあるすべてのアプリケーション リソースアプリケーションスコープの詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

ソース
: 選択したソース スコープ内にある特定のアプリケーション リソース

ターゲット
: 選択したターゲット スコープ内にある特定のアプリケーション リソース

これらの限定呼び出し元アクセス特権設定の組み合わせには、次の組み合わせが含まれますが、これらに限定されません。

- スコープ対スコープ
- スコープ対ターゲット
- ソース対スコープ
- ソース対ターゲット

> **注:** これらのアクセス設定の組み合わせの詳細と、各組み合わせの作成方法については、「アプリケーションスコープ、アプリケーションリソース、およびイベントへのアクセスの設定」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション限定呼び出し元アクセスのアクティブ化

次のいずれかの方法で、アプリケーション限定呼び出し元アクセスをアクティブ化できます。

- スコープ対象のアプリケーション限定呼び出し元アクセス プラグイン (com.glide.scope.access.restricted_caller) をアクティブ化する。
- HR サービスデリバリ (HRSD) または セキュリティインシデントレスポンス のアプリケーションを要求する。これらのアプリケーションでは、限定呼び出し元アクセスはデフォルトでアクティブ化されている。
- フローデザイナー の限定呼び出し元アクセスシステムプロパティをアクティブ化します。

詳細については、「アプリケーションの制限付きの申請者アクセスのアクティブ化」を参照してください。

アプリケーションの制限付きの申請者アクセスのアクティブ化

admin ロールがある場合は、スコープ指定アプリケーション限定呼び出し元アクセス プラグイン (com.glide.scope.access.restricted_caller) をアクティブ化できます。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。
3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

   注: ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます：「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません：<プラグイン名> のプラグインの有効化 (`Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>`)」

   インストールが完了するとメッセージが表示されます。

関連情報

プラグインのリスト (madrid)

アプリケーションリソースへのクロススコープアクセスの定義

アプリケーションリソースへのアクセスのクロススコープ要求を追跡し、要求を承認または拒否します。

始める前に

ターゲットアプリケーションのアプリケーション管理が有効である場合、アプリケーションに対するアクセスを設定できるのはターゲットアプリケーションのアプリケーションアドミニストレーターのみです。アプリケーション管理が有効でない場合、アドミンユーザーがアプリケーションに対するアクセスを設定できます。

必要なロール：admin または application admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: アプリケーション固有のアドミンロールと委任開発の詳細については、「アプリケーション管理アプリのアクセス制御ルール」および「委託開発と展開」を参照してください。

手順

1. アプリケーション リソースに対するアクセスを定義するには、アプリケーション リソース レコードに移動します。
   利用可能なアプリケーションリソースには、次のオプションが含まれます。
   - テーブル
   - スクリプトインクルード
2. [アクセス可能] フィールドを [すべてのアプリケーションスコープ] に設定します。
   [このアプリケーションスコープのみ] に設定されている場合、他のアプリケーションスコープはリソースにアクセスできません。
3. [呼び出し元アクセス] フィールドで適切なアクセス レベルを選択します。

オプション	説明
なし	リソースに対するクロススコープ呼び出しは、 フィールドの値に基づいて承認または拒否されます。
申請者制限	リソースに対する呼び出しは手動で承認する必要があります。アクセス要求は、 ステータスを使用して限定呼び出し元アクセス テーブルで追跡されます。
申請者追跡	リソースに対する呼び出しは自動的に承認されます。呼び出しは、 ステータスを使用して限定呼び出し元アクセス テーブルで追跡されます。

4. 呼び出し元アプリケーションからのアクセス要求を許可または拒否します。
   クロススコープアプリケーションが [申請者制限] に設定されたリソースにアクセスしようとすると、システムはリソースへのアクセスを拒否し、 [要求済み] ステータスのレコードを [制限付きの申請者アクセス] テーブルに作成します。アドミンユーザーまたはアプリケーションアドミニストレーターは、要求を許可または拒否する必要があります。アクセスが許可されると、以後のすべてのアクセス試行は制限付きのリソースへのアクセス権を取得します。

   申請元のリソースが変更された場合 (ビジネスルールのスクリプトが変更された場合など)、制限付きの申請者アクセスレコードのステータスは [無効] に変わります。アドミンユーザーまたはアプリケーションアドミニストレーターは、ステータスを更新して または にする必要があります。

   a. アプリケーション レコードで、 タブに移動します。

   b. ステータスが [要求済み] のレコードを確認します。
      それぞれの制限付きの申請者アクセス特権レコードには、実行された操作、コールソースに関する情報、および要求されたターゲットリソースに関する情報がリストされます。

   c. 列で、値を から または に設定します。

   コールソースが許可されると、以後のすべてのコールが許可されます。

アプリケーションスコープ、アプリケーションリソース、およびイベントへのアクセスの設定

限定呼び出し元アクセス特権 [sys_restricted_caller_access] テーブルにレコードを作成して、クロススコープリソースアクセス要求を設定します。ソーススコープまたはソーススコープのアプリケーションリソースからターゲットスコープまたはターゲットスコープのアプリケーションリソースへの要求を承認または拒否します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
ターゲットアプリケーションのアプリケーション管理が有効である場合、アプリケーションに対するアクセスを設定できるのはターゲットアプリケーションのアプリケーションアドミニストレーターのみです。アプリケーション管理が有効でない場合、アドミンユーザーがアプリケーションに対するアクセスを設定できます。

必要なロール：application admin または admin

注: アプリケーション固有のアドミンロールと委任開発の詳細については、「アプリケーション管理アプリのアクセス制御ルール」および「委託開発と展開」を参照してください。

このタスクについて
次の限定呼び出し元アクセス特権設定の組み合わせを設定できます。

- スコープ対スコープ
- スコープ対ターゲット
- ソース対スコープ
- ソース対ターゲット

注: Rome リリースでは、リソースへのアクセスを許可するために RCA 権限レコードがターゲットアプリケーションに存在する必要があります。つまり、ターゲットスコープがアプリケーションスコープと一致する必要があります。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [アプリケーションの制限付きの発信者アクセス **(Application Restricted Caller Access)]**に移動します。
2. フォームのフィールドに入力します。

限定呼び出し元アクセスのフィールド

フィールド	説明
操作	ターゲットリソースで実行された操作 ◦ 読み取り ◦ 書き込み ◦ 作成 ◦ 削除 ◦ API の実行
ソース	制限付きのアプリケーションリソースにアクセスしているクロススコープレコード。
ソース スコープ	呼び出し元アプリケーションスコープ
ソーステーブル	ソース レコードを含むテーブル
ソースタイプ	アプリケーションリソースを呼び出すレコードのタイプ： ◦ ACL ◦ ビジネスルール ◦ ドキュメントタイトル ◦ フロー ◦ フローアクション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

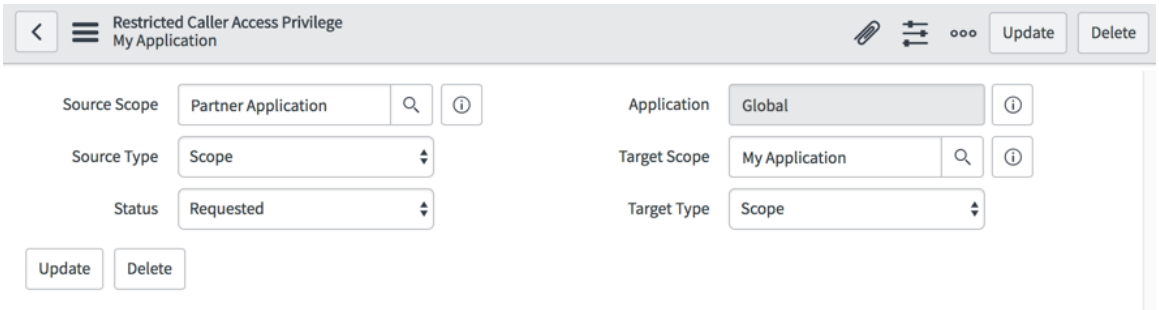
フィールド	説明
	◦ GlideScopedEvaluator ◦ 受信メールスクリプト ◦ オーケストレーション RunScript アクティビティ ◦ レコードプロデューサースクリプト ◦ サービスポータルウィジェット ◦ スケジュール設定済みスクリプト ◦ スコープ ◦ スクリプトインクルード ◦ UI アクション ◦ UI マクロ ◦ UI ページ ◦ ワークフローアクティビティ たとえば、アプリケーション全体からのアクセスを許可するには、[スコープ] を選択します。
ステータス	アクセス要求のステータス： ◦ 要求済み ◦ 拒否 ◦ 許可 ◦ 無効 **注:** 呼び出し元のリソースが変更された場合、限定呼び出し元アクセス レコードのステータスは に変化します。アプリケーション管理を有効にした場合、要求のステータスを更新できるのはターゲットアプリケーションのアプリケーションアドミニストレーターのみです。
ターゲット	要求されたリソースのレコード
ターゲットスコープ	要求されたリソースのスコープ
ターゲットテーブル	ターゲット レコードを含むテーブル
ターゲットタイプ	要求されたリソースのタイプ ◦ イベント **注:** イベントは、限定呼び出し元アクセスのターゲットの特別なタイプです。ターゲットスコープ内のイベントを選択することにより、ターゲットアプリケーションの一部として登録されたイベントをソースアプリケーションがキューに入れることを許可します。ただし、イベント登録の申請者アクセスを [なし] に設定すると、イベントへのクロススコープアクセス呼び出しは阻止されます。この設定の組み合わせは 1 対 1 の関係です。イベントとその機能の詳細については、「イベント」を参照してください。イベント登録で申請者アクセスを [なし] に設定した場合、イベントへのクロススコープアクセス呼び出しは拒否されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ スコープ ◦ テーブル ◦ スクリプトインクルード たとえば、アプリケーション全体に対するアクセスを許可するには、[スコープ] を選択します。

スコープ対スコープ設定

ソーススコープ内にあるすべてのアプリケーションリソースからターゲットスコープ内にあるすべてのアプリケーションリソースに対するアクセスを許可または拒否します。この設定の組み合わせは、多対多の関係です。



スコープ対スコープの限定呼び出し元アクセスの次のフィールド設定を入力します。

フィールド	エントリ
ソース スコープ	ソースアプリケーションリソースを含む呼び出し元アプリケーションのスコープ
ソースタイプ	アプリケーション リソースを呼び出すレコードのタイプアプリケーション全体からのアクセスを許可するには、[スコープ] を選択します。
ステータス	アクセス要求のステータス [許可] を選択してアクセスを許可するか、[拒否] を選択してこのソースとターゲットのリソース関係のアクセスを制限します。
ターゲットスコープ	ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求するターゲットアプリケーションリソースを含む要求されたリソースのスコープ。
ターゲットタイプ	要求されたリソースのタイプ ターゲットスコープにすべてのアプリケーションリソースを含めるには、[スコープ] を選択します。

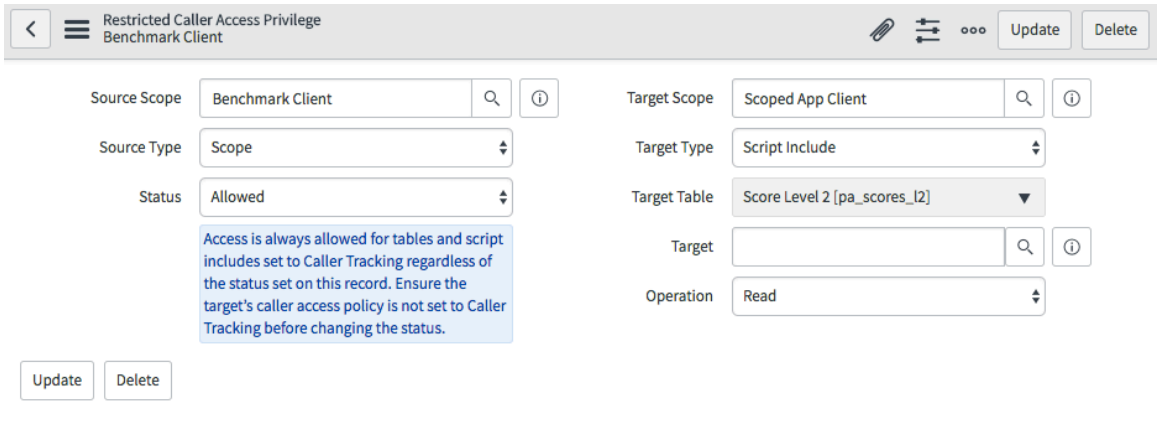
スコープ対ターゲット設定

ソーススコープ内にあるすべてのアプリケーションリソースからターゲットスコープ内にある特定のアプリケーションリソース (ビジネスルール、テーブル、スクリプトインクルード、イベントなど) へのアクセスを許可または拒否します。

この設定の組み合わせは、多対 1 の関係です。たとえば、ソーススコープ A 内にあるすべてのアプリケーションリソースが、ターゲットスコー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プ B 内にあるスクリプトインクルードにアクセスできるように指定できま



す。

スコープ対ターゲットの限定呼び出し元アクセスの次のフィールド設定を入力します。

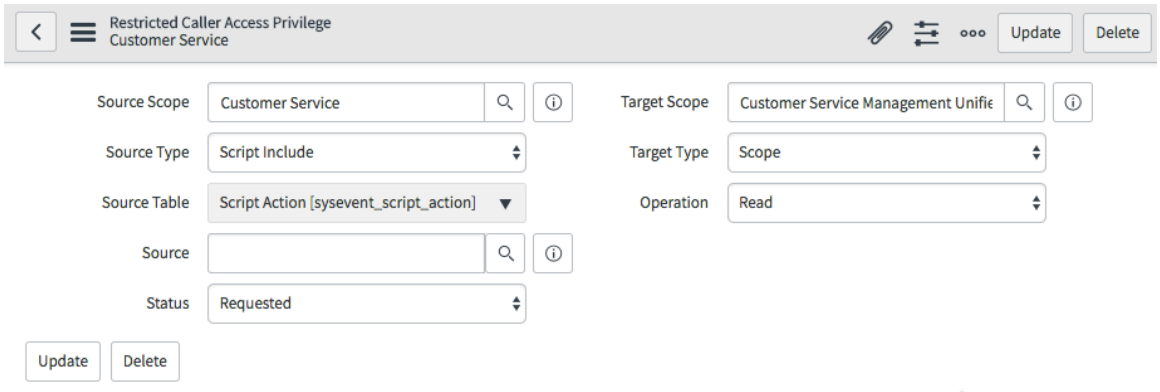
フィールド	エントリ
ソース スコープ	ソースアプリケーションリソースを含む呼び出し元アプリケーションのスコープ
ソースタイプ	アプリケーション リソースを呼び出すレコードのタイプソーススコープにすべてのアプリケーションリソースを含めるには、[スコープ] を選択します。
ステータス	アクセス要求のステータス [許可] を選択してアクセスを許可するか、[拒否] を選択してこのソースとターゲットのリソース関係のアクセスを制限します。
ターゲットスコープ	ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求するターゲットアプリケーションリソースを含む要求されたリソースのスコープ。
ターゲットタイプ	要求されたリソースのタイプソースアプリケーションリソースがアクセスを要求する、特定のアプリケーションリソース (ビジネスルール、スクリプトインクルード、UI ページ、イベントなど) を選択します。
操作	ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求する、ターゲットアプリケーションリソースにおける操作のタイプ (読み取り、書き込みなど)。

ソース対スコープ設定

ソーススコープ内にある特定のアプリケーションリソースからターゲットスコープ内にあるすべてのアプリケーションリソースに対するアクセスを許可または拒否します。

この設定の組み合わせは 1 対多の関係です。たとえば、ソーススコープ A 内にある特定のビジネスルールが、ターゲットスコープ B 内にあるすべてのアプリケーションリソースにアクセスできるように指定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ソース対スコープの限定呼び出し元アクセスの次のフィールド設定を入力します。

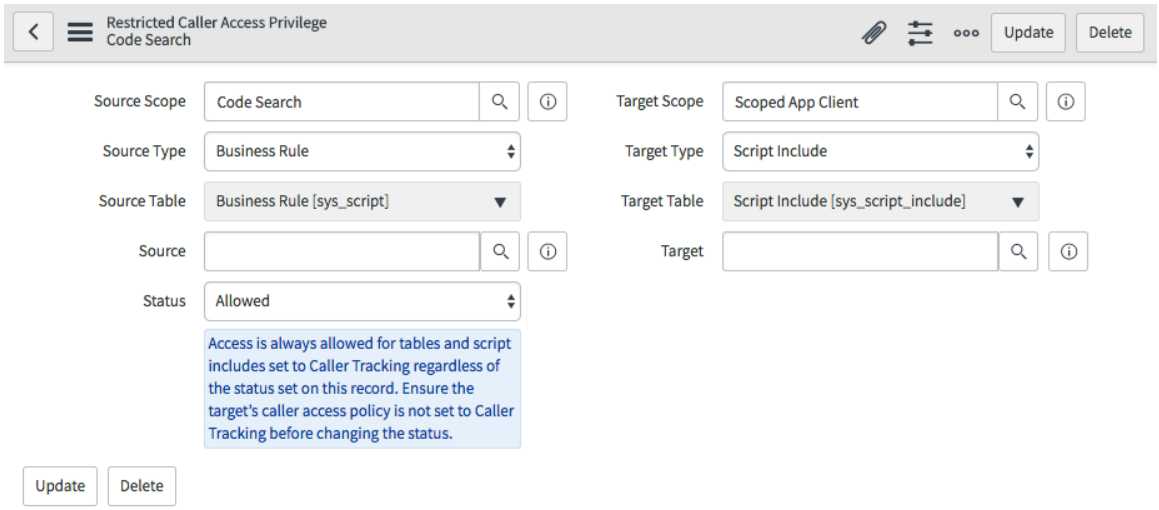
フィールド	エントリ
ソース スコープ	ターゲットスコープアプリケーションリソースに対するアクセスを要求するソースアプリケーションリソースを含む呼び出し元アプリケーションのスコープ。
ソースタイプ	アプリケーション リソースを呼び出すレコードのタイプ指定したターゲットスコープアプリケーションリソースに対するアクセスを要求する、特定のアプリケーションリソース (ビジネスルールやスクリプトインクルードなど) を選択します。
ステータス	アクセス要求のステータス [許可] を選択してアクセスを許可するか、[拒否] を選択してこのソースとターゲットのリソース関係のアクセスを制限します。
ターゲットスコープ	ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求するターゲットアプリケーションリソースを含む要求されたリソースのスコープ。
ターゲットタイプ	要求されたリソースのタイプ選択したターゲットスコープにすべてのアプリケーションリソースを含めるには、[スコープ] を選択します。
操作	ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求する、ターゲットアプリケーションリソースにおける操作のタイプ (読み取り、書き込みなど)。

ソース対ターゲット設定

ソーススコープ内にある特定のアプリケーションリソースからターゲットスコープ内にある特定のアプリケーションリソースに対するアクセスを許可または拒否します。

この設定の組み合わせは 1 対 1 の関係です。 、ソーススコープ A 内の特定のビジネスルールが、ターゲットスコープ内の特定のアプリケーションリソース (ビジネスルール、テーブル、スクリプトインクルード、イベントなど) にアクセスできるように指定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ソース対ターゲットの限定呼び出し元アクセスの次のフィールド設定を入力します。

フィールド	エントリ
ソース スコープ	ソースアプリケーションリソースを含む呼び出し元アプリケーションのスコープ
ソースタイプ	アプリケーション リソースを呼び出すレコードのタイプ指定したターゲットスコープアプリケーションリソースに対するアクセスを要求する、特定のアプリケーションリソース (ビジネスルール、スクリプトインクルード、UI ページなど) を選択します。
ステータス	アクセス要求のステータス [許可] を選択してアクセスを許可するか、[拒否] を選択してこのソースとターゲットのリソース関係のアクセスを制限します。
ターゲットスコープ	ソースアプリケーションリソースがアクセスを要求するターゲットアプリケーションリソースを含む要求されたリソースのスコープ。
ターゲットタイプ	要求されたリソースのタイプソースアプリケーションリソースがアクセスを要求する、特定のアプリケーションリソース (ビジネスルール、スクリプトインクルード、イベントなど) を選択します。

要求された制限付きの申請者アクセス (RCA)

要求済み RCA を使用して、次のファミリリリースを待たずに、 Now Platform の保護されたリソースへのアクセスをストアアプリに付与できます。システムアドミニストレーターまたはアプリケーションアドミニストレーターロールを保持している場合は、要求済み RCA をレビューして、それらを承認または拒否できます。

RCA は次の 2 つのカテゴリに分類されます。

- 実際の RCA：sys_scope==target_scope
- 要求済み RCA：sys_scope!=target_scope

例：実際の RCA レコードは、アプリケーションスコープとターゲットスコープが一致するレコードです。要求済み RCA は、ターゲットスコープへのアクセスの承認を待機中のレコードです。

アプリケーションをインストールすると、スケジュール済みジョブによって、ソースアプリケーションにパッケージ化されている要求済み RCA レコードごとに、ターゲットアプリケーションで [要求済み] ステータスの RCA レコードが生成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: アップグレードサマリが実行されると、ジョブが生成されます。

ストアアプリがテーブルにアクセスする方法の例

HR 統合フレームワークというストアアプリが人事コアケーステーブルにアクセスするとします。このテーブルは、[統合サービス] テーブルの「ケースの検索」と呼ばれるビジネスルールにあります。

アクセスを要求するために、HR 統合フレームワークアプリでは、次のように RCA 特権が専用のスコープにパッケージ化されている必要があります。

- sys_scope = HR 統合フレームワーク
- ターゲット = 人事コアケース
- ステータス = 許可
- target_scope = 人事：コア
- ソース = ケースの検索

開発者向けのアプリ開発の例

アプリケーションの開発中に、ターゲットに申請者制限がある場合、実際の RCA が [要求済み] ステータスで生成されます。ターゲットに申請者トラッキングがある場合、ステータスは [許可] になります。開発者は、アプリケーションが機能するために必要なすべての実際の RCA レコードをレビューして確定できます。たとえば、ステータスが [許可] の RCA などです。

開発者は、関連リンクの [現在のアプリで **RCA** 権限を生成] をクリックして、現在のアプリケーションにパッケージ化されている要求済み RCA を生成できます。要求済み RCA は実際の RCA と同期されます。つまり、実際の RCA が更新または削除されると、要求済み RCA も更新または削除されます。

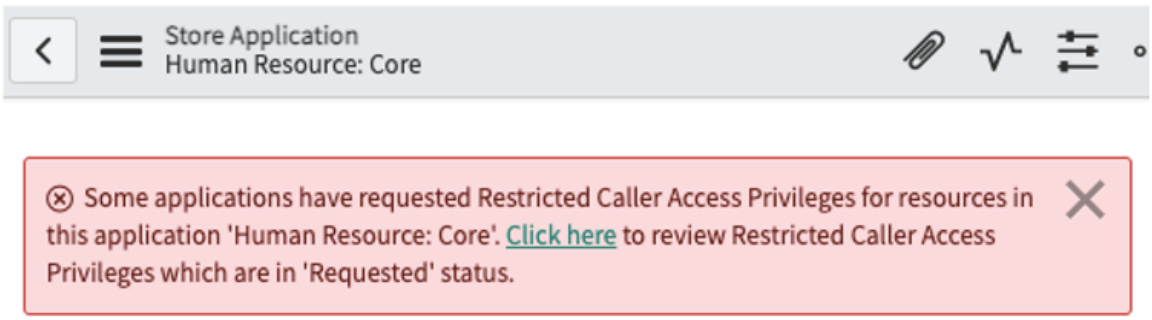
これで、HR 統合フレームワークアプリケーションをパッケージ化し、お客様のインスタンスにインストールできるようになりました。

アドミン向けのアプリインストール例

お客様のインスタンスにアプリをインストールすると、ターゲットアプリケーションに実際の RCA が生成されます。実際の RCA には、ステータスが [要求済み] の [人事：コア] が含まれます。このプロセスは、スケジュール済みジョブで非同期に実行されるため、遅延時間が発生する可能性があります。

RCA のレビュー待ちについてターゲットアプリアドミニストレーターに通知するために、メッセージがアプリケーションページに追加されました。次に例を示します。

RCA レビュー待ちメッセージ



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアアプリの下位互換性

ストアアプリに互換性があり、Rome より前のインスタンスにインストールできる場合は、ステータスが [許可] の専用スコープ内の RCA レコードをパッケージ化する必要があります。

注: このプロセスにより、ストアアプリは確実にすべてのバージョンで機能するようになります。

Rome にアップグレードする場合は、1 回限りの修正スクリプトを構成して、ソーススコープ内の RCA をターゲットスコープに移動できます。Rome では、ターゲットアプリに必要な RCA レコードがすでに存在する場合、ソースアプリによってパッケージ化される RCA の RCA レコードは生成されません。

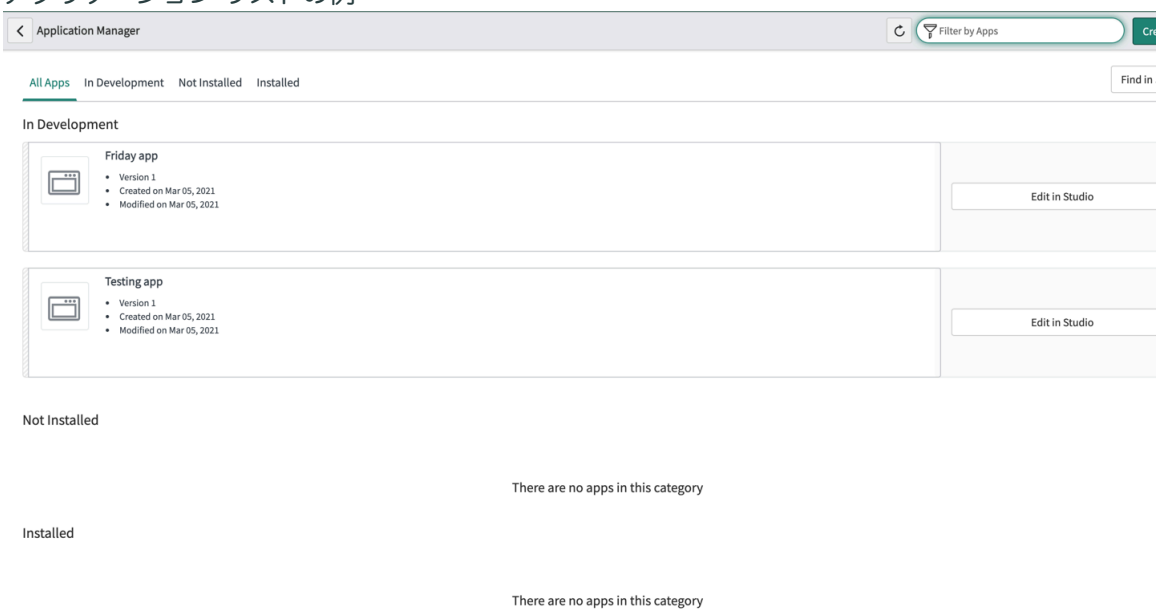
アプリケーションリスト

アプリケーションリストを使用すると、アプリケーション開発者はアプリケーションを表示および選択できます。

アプリケーション開発者は、アプリケーション リストを使用してカスタムアプリケーション レコードを開くことができます。別のアプリケーションスコープでアプリケーション アーティファクトを編集していることがコンテキスト開発環境によって検出された場合は、警告メッセージが表示され、別のアプリケーションに切り替えるために使用できます。

アドミニストレーターは、アプリケーション リストから次のオプションを選択できます。

アプリケーション リストの例



アプリケーション リストのオプション

タブ名	使用可能なオプション	アプリケーション ソース
開発	• 新規アプリケーションの作成 • 既存アプリケーションの編集	このインスタンスで開発されたアプリケーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション リストのオプション (続く)

タブ名	使用可能なオプション	アプリケーション ソース
	• アプリケーションの共有 • アプリケーションを削除します	
ダウンロード	• インストール • インストールされたファイルの表示 • インストールされたファイルの編集 • アンインストール	• 会社のアプリケーションリポジトリで共有されるアプリケーション • 共有されるアプリケーション ServiceNow Store
更新	• 更新 • バージョン情報の表示	• 会社のアプリケーションリポジトリで共有されるアプリケーション • 共有されるアプリケーション ServiceNow Store

アプリケーション リストには、次の情報が表示されます。

アプリケーション リスト

タイプ	説明
開発	このインスタンスに作成されたアプリケーションを表示します。
ダウンロード済み	このインスタンスにダウンロードされたアプリケーションを表示します。
更新	このインスタンスにダウンロードされたアプリケーションで使用可能な更新を表示します。

アプリケーションピッカー

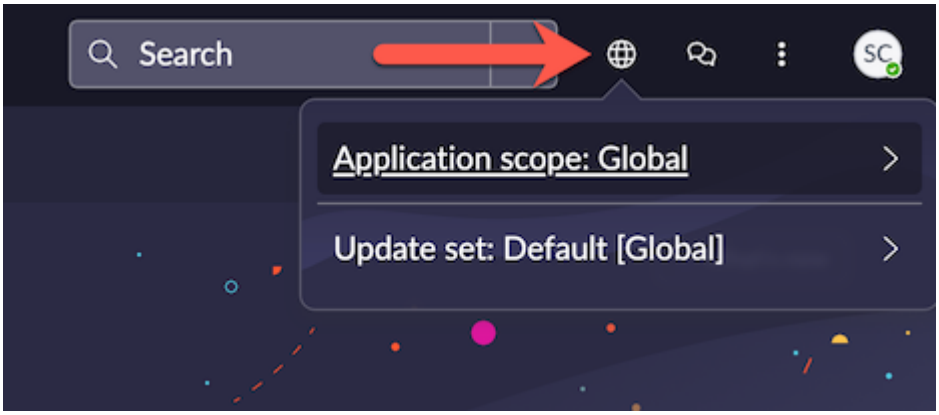
アプリケーションピッカーを使用すると、アプリケーション開発者は、変更が適用されるアプリケーションスコープを表示および選択できます。

アプリケーションピッカーは 統一ナビゲーション メニューにあります。ピッカーアイコン ( ) を選択し、[アプリケーションスコープ] を選択して、アクセスできるアプリケーションスコープのリストを開きます。

アプリケーションスコープが非グローバルスコープに設定されている場合、ピッカーアイコンに赤いリング ( ) が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統一ナビゲーションのアプリケーションスコープピッカー



リソース

アプリケーションピッカーは ネクストエクスペリエンス ピッカーの一部です。詳細については、「ネクストエクスペリエンス ピッカーの探索」を参照してください。

アプリケーションスコープの詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

スコープ対象のアプリケーションのリストとフォーム

スコープ対象のアプリケーションのリストやフォームを操作するときに使用できるカスタマイズやフォーム設計のオプションは、現在のアプリケーションコンテキストによって決まります。

ユーザーインターフェイスでは、ビジュアルインジケーターを使用して、同一または異なるアプリケーションスコープ内のリストまたはフォームを特定します。

使用可能なレイアウトと設計アクション

カスタムアプリケーションのリストまたはフォームを操作する際は、次のレイアウトおよび設計のアクションが可能です。

使用可能なレイアウトと設計アクション

アクション	許可されるアクセス	メモ
リスト ビューを作成する	常に許可	このアクションは、カスタマイズ機能にアクセスできるユーザーは常に使用できます。
フォーム ビューを作成する	常に許可	このアクションは、カスタマイズ機能にアクセスできるユーザーは常に使用できます。
フォームセクションの作成	常に許可	このアクションは、カスタマイズ機能にアクセスできるユーザーは常に使用できます。
ビューに表示するフィールドを選択する	現在のスコープと一致するビュー内のセクションに対してのみ許可されます。	この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。アドミニストレーターもこの制限はバイパスできません。
ビュー内のセクションの順序を変更する	現在のスコープと一致するビューに対してのみ許可されます。	この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。アドミニストレーターもこの制限はバイパスできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用可能なレイアウトと設計アクション (続く)

アクション	許可されるアクセス	メモ
セクションに表示するフィールドを選択する	現在のスコープと一致するセクションに対してのみ許可されます。	この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。アドミニストレーターもこの制限はバイパスできません。
セクションの列を追加または削除する	現在のスコープと一致するセクションに対してのみ許可されます。	この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。アドミニストレーターもこの制限はバイパスできません。
フォーム セクションを削除する	現在のスコープと一致するセクションに対してのみ許可されます。	この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。アドミニストレーターもこの制限はバイパスできません。
新規フィールドを作成する	オプションが有効な場合に、現在のスコープと一致するセクションに対してのみ許可されます。	この制限は、ユーザーのロールとは関係ありません。アドミニストレーターはこの制限をバイパスできません。

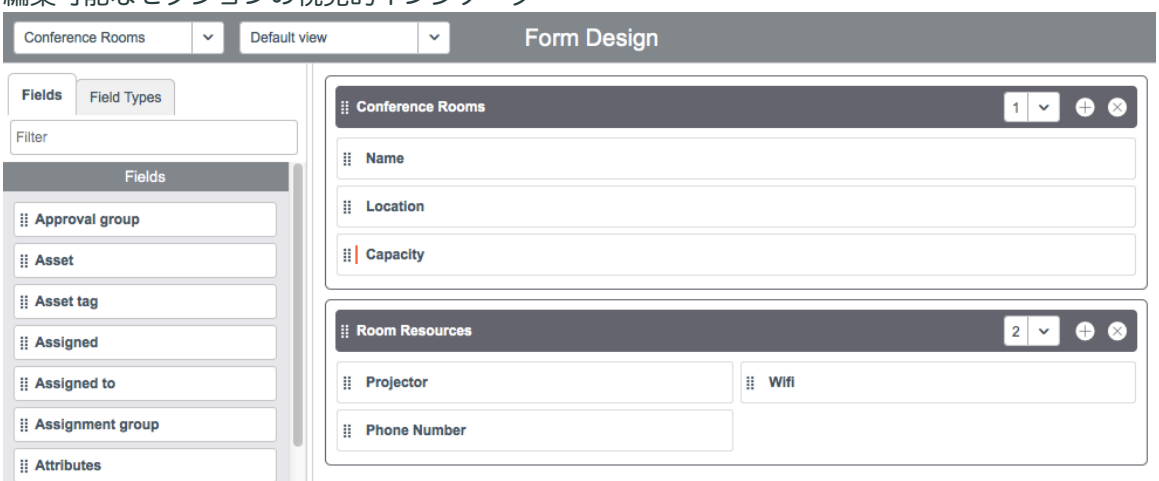
フォーム設計のビジュアルインジケーター

カスタムアプリケーションでフォームを設計するときは、UI に次の視覚的インジケーターが表示されます。

ビューとセクションは、フォームと同じアプリケーションスコープ内にある場合にのみ編集できます。編集可能なセクションには次の項目が表示されます。

- 単色の背景を持つセクション見出し
- セクションの周りの実線
- 列数を設定するコントロール
- ボタン
- セクション見出しの横にあるグリップ アイコン
- フィールドの横にあるグリップ アイコン

編集可能なセクションの視覚的インジケーター

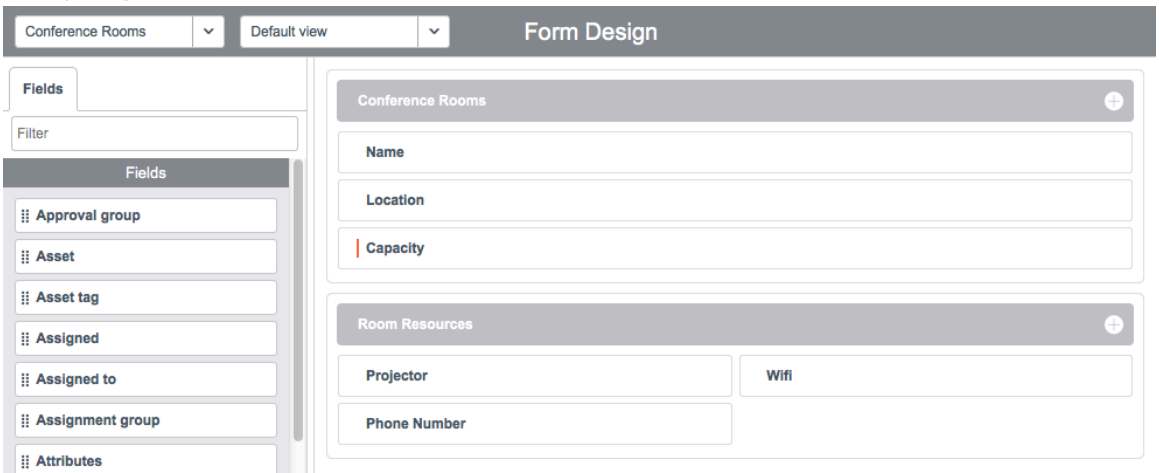


別のアプリケーションスコープ内にあるビューとセクションは、読み取り専用として表示されます。読み取り専用のセクションには次の項目があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- グレーの背景を持つセクション見出し
- セクションの周りのグレーの線
- 列数を設定するコントロールはありません
- ボタンはありません
- セクション見出しの横にグリップ アイコンはありません
- フィールドの横にグリップ アイコンはありません

読み取り専用セクションのビジュアルインジケーター



デフォルトのフォームデザイン権限

新しいアプリケーション データ テーブルには、デフォルトで次のフォーム設計のアクセス権限が設定されます。

デフォルトのフォームデザイン権限

フォーム設計アクション	権限設定
別のアプリケーションスコープに属するテーブルに新しいセクションを作成する。	許可
同じアプリケーションスコープに属するセクションに新しいフィールドを作成する。	デフォルトは拒否。アプリケーション テーブルの場合は、アプリケーション設計者が に設定する必要があります。
同じアプリケーションスコープに属するセクションのフィールドを追加または削除する。	許可
同じアプリケーションスコープに属するセクションのフィールドの順序を変更する。	許可
同じアプリケーションスコープに属するセクションの順序を変更する。	許可
別のアプリケーションスコープに属するセクションのフィールドを追加または削除する。	拒否

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルトのフォームデザイン権限 (続く)

フォーム設計アクション	権限設定
別のアプリケーションスコープに属するセクションのフィールドの順序を変更する。	拒否
別のアプリケーションスコープに属するセクションの順序を変更する。	拒否
別のアプリケーションスコープに属するセクションに新しいフィールドを作成する。	拒否

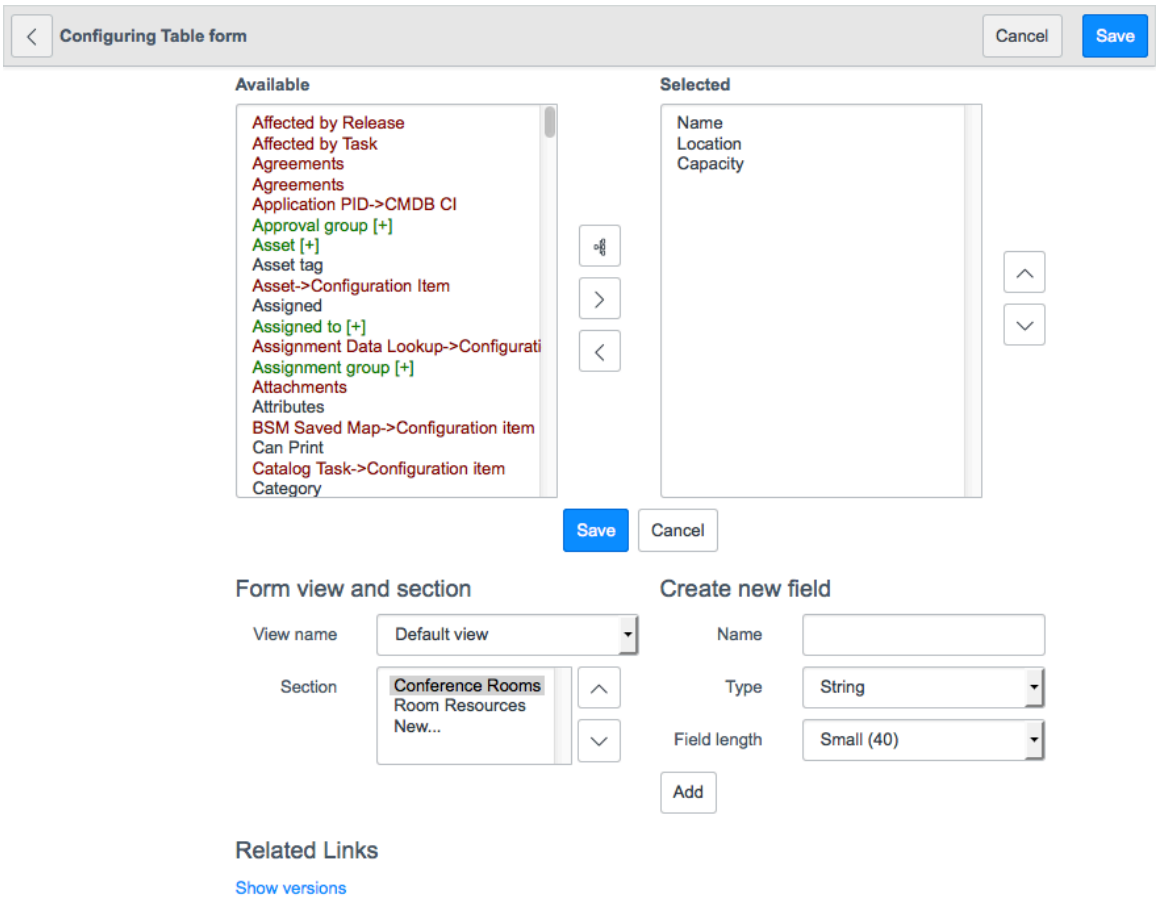
レイアウトのビジュアルインジケーター

カスタムアプリケーションのリストまたはフォームのレイアウトを設定するときは、UI に次の視覚的インジケーターが表示されます。

フォームと同じアプリケーションスコープ内にいる場合は、フィールド、ビュー、およびセクションのみを編集できます。編集可能なセクションには次の項目が表示されます。

- 白色の背景を持つフィールド選択。
- フィールドを追加または削除するボタン。
- 青色の背景の ボタン。
- セクションの編集可能なフィールド。

編集可能なセクションの視覚的インジケーター

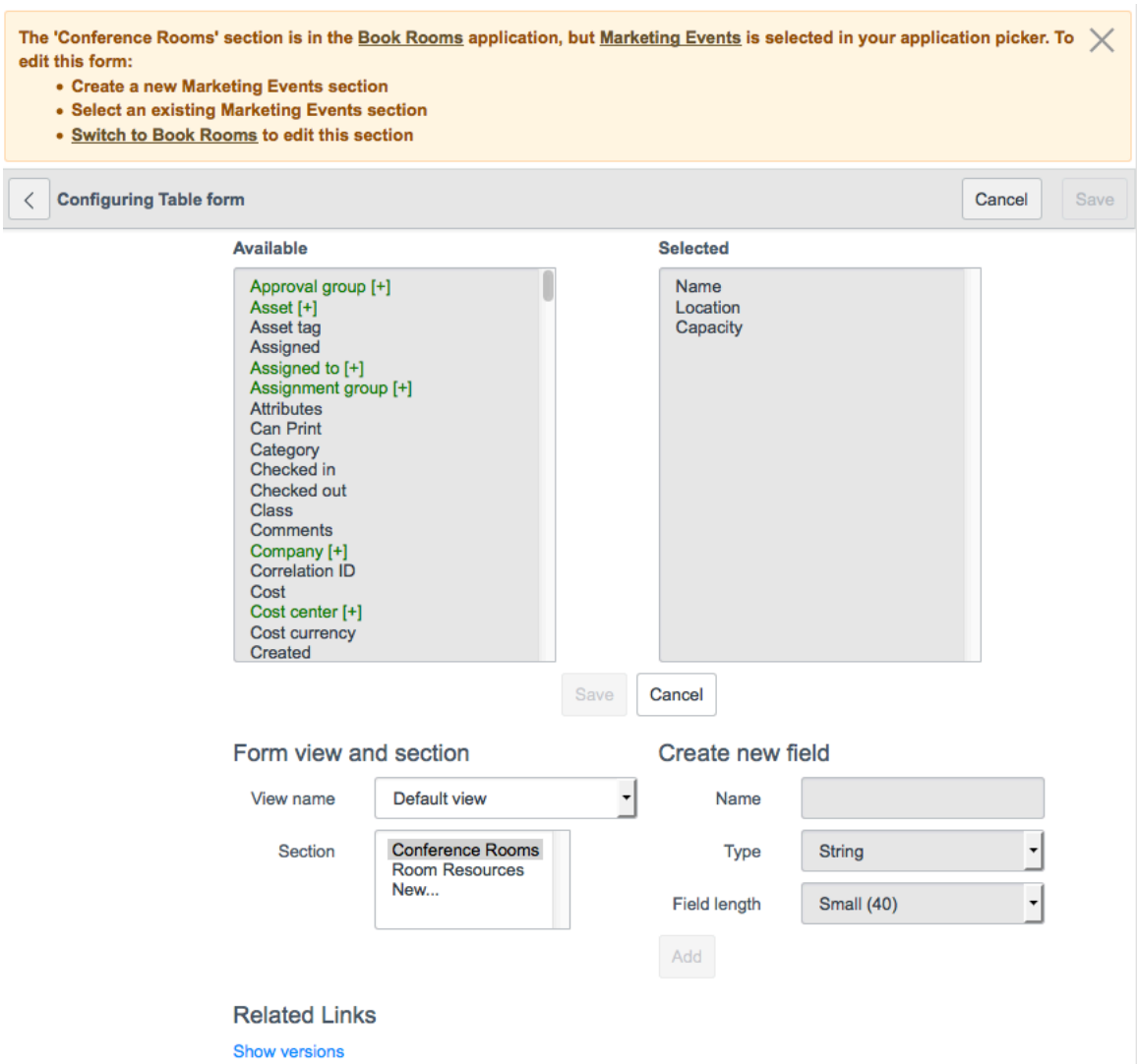


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

別のアプリケーションスコープ内にあるビューとセクションは、読み取り専用として表示されます。読み取り専用のセクションには次の項目があります。

- 現在選択されているアプリケーションスコープとフォームのスコープに関する警告メッセージ。
- グレーの背景を持つフィールド選択。
- フィールドを追加または削除するボタンはない。
- グレーの背景の ボタン。
- セクションの読み取り専用フィールド。

読み取り専用セクションのビジュアルインジケーター



関連情報

スコープ対象のアプリケーションのリストとフォーム

使用可能なレイアウトと設計アクション

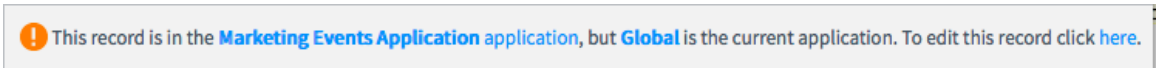
フォーム設計のビジュアルインジケーター

コンテキスト開発の編集メッセージ

別のアプリケーションスコープにいるときに、ストアアプリケーションレコードを編集しようとすると、プラットフォームからメッセージが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション コンテキスト編集メッセージ



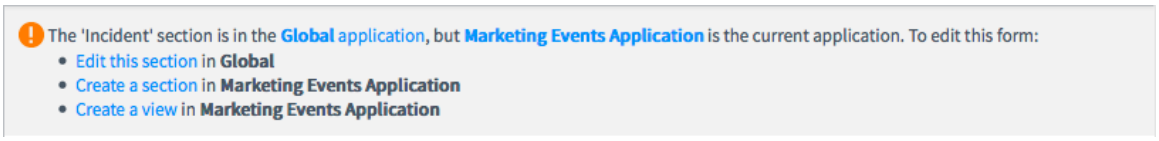
このメッセージは次の目的で使用できます。

- 現在の設定レコードが属するアプリケーションを開く。
- アプリケーション ピッカーで現在選択されているアプリケーションのアプリケーションを開く。
- 現在の設定レコードが属するアプリケーションに一時的に切り替えて編集する。

注: レコードを保存またはキャンセルすると、現在のアプリケーション コンテキストに戻ります。

ユーザーが別のアプリケーションスコープから作業しているときにリストまたはフォーム レイアウトを設定しようとした場合も、メッセージが表示されます。

フォームのレイアウトまたは設計のアプリケーション コンテキストの編集メッセージ



このメッセージには、有効なオプションのリストが表示されます。

- 現在のセクションを所有するアプリケーションに一時的に切り替えて、現在のセクションを編集する。
- 現在のアプリケーション コンテキストに新しいセクションを作成する。
- 現在のアプリケーション コンテキストで新しいビューを作成する。

注: レコードを保存またはキャンセルすると、現在のアプリケーションコンテキストに戻ります。

スクリプト保護ポリシー

アプリケーション開発者は、カスタムアプリケーションの一部として公開されているスクリプトインクルードの保護ポリシーを設定できます。このポリシーは、アプリケーションをインスタンスにインストールした後に、スクリプトインクルードを表示または編集できるようにするかどうかを決定します。

アプリケーション開発者は、カスタムアプリケーションのスクリプトインクルードを保護するために次のオプションを使用できます。

スクリプトインクルードの保護ポリシーのオプション

保護ポリシー	説明
なし	他のアプリケーション開発者がスクリプトインクルードをカスタマイズできるようにするには、このオプションを選択します。
読み取り専用	他のアプリケーション開発者がスクリプト ロジックを表示できるが変更はできないようにするには、このオプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトインクルードの保護ポリシーのオプション (続く)

保護ポリシー	説明
保護	他のアプリケーション開発者が知的財産を変更できないようにするには、このオプションを選択します。

アプリケーション管理

アプリケーション管理を使用してユーザーがアプリケーション固有のロールを取得する方法を制限することにより、機密のアプリケーションデータを保護します。

アプリケーション管理の機能

アプリケーション管理を使用して以下を行うことができます。

- 権限のないユーザーが財務記録や個人特定可能な情報などの機密データにアクセスするのを防止する。
- アプリケーション固有のロール (アプリケーションのアドミニストレーターおよび指定された開発者など) を割り当てることができるユーザーを制限する。
- システムレベルの admin ロールを持つユーザーが以下の操作をできないようにする。
  - 保護されたアプリケーション ロールを自分自身に割り当てる。
  - 保護されたアプリケーション ロールを含むグループを自分自身に割り当てる。
  - アクセス制御を作成して、保護されたアプリケーションに対する既存のアクセス制御をバイパスする。
  - 保護されたアプリケーション ロールを持つユーザーのパスワードを変更する。
  - 開発者またはアドミニストレーターが保護されたアプリケーションロールを持っていない場合に、そのロールを持つユーザーとして代理操作を行う。
  - 保護されたアプリケーションロールを継承する。
  - 保護されたアプリケーションに対する既存のアクセスコントロールを上書きする。
  - 保護されたアプリケーション レコードにアクセスするスクリプトを実行する。

アプリケーション管理におけるロール

[ロール構成 (Role Configuration)] で [アプリケーションアドミニストレーター] チェックボックスをオンにすると、任意のロールをアプリケーション固有のアドミニストレーターにすることができます。詳細については、「アプリケーションへのアクセスの制限」を参照してください。慣例により、次のロールを作成します。

アプリケーション管理ロール

ロール名	説明
アプリケーション固有のアドミン	このロールを持つユーザーは、他のユーザーをそのアプリケーションのアプリケーション固有のロールに割り当てることができます。たとえば、 my_application.admin という名前のロールを作成できます。アプリケーションの admin ロールであることを示すサフィックス「admin」を付けて、制限付きのアプリケーションの名前を含める必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション管理ロール (続く)

ロール名	説明
アプリケーション固有の開発者	このロールを持つユーザーは、制限付きアプリケーションにアクセスできます。たとえば、my_application.developer という名前のロールを作成できます。アプリケーションの開発者ロールであることを示すサフィックス「developer」を付けて、制限付きのアプリケーションの名前を含める必要があります。開発者ロールには、アプリケーションファイルを変更するためのアプリケーションアドミニストレーターと委任開発の両方の権限が必要です。 詳細については、「委託開発と展開」と「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。

アプリケーション固有の **admin** ロール

アプリケーション固有の admin ロールにより、ユーザーは特定のアプリケーションにアクセスできますが、その他のアドミン権限をユーザーに付与することはできません。ユーザーが次のタスクを実行できるようにするには、システムレベルの admin ロールをユーザーにアサインします。

- フォームとリストのレイアウトを設定する。
- アプリケーションのテーブルとフィールドを変更します。
- 新しいユーザーにアプリケーション固有の admin ロールを割り当てる。

アプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーにシステムレベルの admin ロールを付与しない場合は、以下のようにします。

- システムレベルの admin ロールをユーザーに割り当てない。アプリケーション固有の admin ロールのみを割り当てる。
- ユーザーが自分自身にアプリケーション固有の開発者ロールを割り当てる。

アプリケーション固有のアドミニストレーターは、システムレベルの admin ロールを持たなくても管理タスクのサブセットを実行できます。

注: アプリケーション固有の admin ロールを複数のユーザーに割り当てます。これにより、アプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーが退職しても、アプリケーションを変更できます。

アプリケーション管理の有効化とアプリケーション固有のロールの割り当て

アプリケーションレコードからアプリケーションのアプリケーション管理を有効にし、ユーザーロールレコードからのアプリケーション固有のロールの割り当てを制限することができます。

注: アプリケーションの開発を完了した後、アプリケーションレコードを追加する前にアプリケーション管理を有効にし、アプリケーション固有のロールを割り当ててください。このプラクティスにより、アプリケーションレコード内の機密データが権限のないユーザーによるアクセスから保護されます。

ターゲットインスタンスには、アプリケーション固有の admin ロールを持つ承認されたユーザーが少なくとも 1 人必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アプリケーションのアプリケーション管理を有効にしても、アプリケーション固有のロールを割り当てない場合、ユーザーはアプリケーションにアクセスできません。
- アプリケーション固有のロールを 1 つだけアサインした場合、そのロールは削除できません。

アプリケーションのアプリケーション管理を有効にしても、アプリケーションのロールのアサインに必要なアプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーがいない場合は、警告が表示されます。この警告により、アプリケーションのアドミニストレーターおよび開発者のアプリケーション固有のロールを割り当てるよう通知されます。

複数のユーザーがアプリケーション固有の admin ロールを保持することを必須にするには、*[scoped_app_name].min_admin_count property* を設定します。アプリケーション固有の admin ロールを複数のユーザーにアサインすると、スコープ対象のアプリケーションからロックアウトされるリスクが軽減されます。*[scoped_app_name].min_admin_count* プロパティには次の制限事項があります。

- プロパティに無効な値を指定すると、少なくとも 1 人のアプリケーション固有のアドミンをアサインするというデフォルト要件が適用されます。
- プロパティに有効な値を指定すると、指定された値を超えない限り、アプリケーション固有のアドミンを削除することはできません。たとえば、値を 2 に指定し、アプリケーション固有のアドミニストレーターが 3 人いる場合は、そのうちの 1 つのロールのみを削除できます。
- アサインされたアプリケーション固有のアドミンの実際の数よりも大きい値を指定できます。ただし、指定された値を超えないかぎり、アプリケーション固有のアドミニストレーターは削除できません。たとえば、値を 6 に指定しても、アプリケーション固有のアドミニストレーターが 3 人しかいない場合、それらのいずれのロールも削除できません。

手順については、「アプリケーションへのアクセスの制限」を参照してください。

アプリケーション管理によるアプリケーションの開発

アプリケーション管理によって保護されているアプリケーションを展開するには、開発者インスタンスと本番インスタンスの両方でシステムレベルの admin ロールが必要です。プロセスについては、以降のステップで概説します。

1. 開発インスタンス上でアプリケーションを開発します。
2. アプリケーション固有の admin ロールを作成します。
3. アプリケーション固有の admin ロールをシステムレベルのすべてのアドミンユーザーに付与します。
4. アプリケーションレコードを更新してアプリケーション管理を有効にし、アプリケーションへのアクセスを制限します。
5. アプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開します。
6. 本番インスタンスから、アプリケーションリポジトリのアプリケーションをインストールします。
7. 本番インスタンスにおけるシステムレベルのアドミニストレーターとして、アプリケーション固有の admin ロールを適切なユーザーに付与します。
8. システムレベルの admin ロールを持つすべてのユーザーからアプリケーション固有の admin ロールを削除します。

アプリケーション管理を有効にしてアプリケーション固有のロールの割り当てを制限する手順については、「アプリケーションへのアクセスの制限」を参照してください。

トレーニング

ServiceNow® 開発者サイト には「アプリケーションの保護」のトレーニングがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

委託開発と展開

アプリケーションへのアクセスの制限

権限のないユーザーがアプリケーションに管理権限を割り当てたり、アプリケーションレコード内の機密情報にアクセスしたりすることを防止するために、アプリケーションの管理とそのアプリケーションへのアクセスを制限します。

始める前に

- 必要なレコード：
  - アプリケーション固有の admin ロールとしてロールを指定するロールレコード
  - アプリケーション固有の admin ロールをユーザーに割り当てるユーザーレコード
  - 特定のアプリケーションに対してアプリケーション管理を有効にするアプリケーションレコード
- 必要なロール：admin

アプリケーション固有の admin ロールがまだ存在しない場合は、この手順を開始する前にそのロールを作成します。たとえば、制限付きアプリケーションの名前にサフィックス "admin" を付けた my_application.admin という名前のロールを作成して、それがアプリケーションの admin ロールであることを示すことができます。

手順

1. [すべて] > **[System Secirity]** > [ユーザーとグループ] > [ロール] または [ユーザー管理] > [ロール] に移動します。
2. アプリケーション固有の admin ロールのロールレコードを開きます。
3. フォームを設定して フィールドを追加します。

   注: [アプリケーションアドミニストレーター] チェックボックスが [アサイン担当者] フィールドに取って代わっています。デフォルトでは、Jakarta 以前のリリースを Kingston 以降のリリースにアップグレードすると、[アサイン担当者] フィールドにあったロールはアプリケーション固有の admin ロールとして定義され、[アプリケーションアドミニストレーター] チェックボックスが選択されます。

4. ロールレコードで、[アプリケーションアドミニストレーター] チェックボックスをオンにして、[更新] をクリックします。
5. [システムセキュリティ] > [ユーザーとグループ **(Users and Groups)]** > [ユーザー] に移動します。
6. アドミンユーザーのユーザーレコードを開きます。
7. [ロール] タブで、アプリケーション固有のロールを追加します。
   アプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーのみがアプリケーションのアプリケーション管理を有効にすることができます。

   注: アプリケーション固有の admin ロールを複数のユーザーに割り当てます。これにより、アプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーが退職しても、アプリケーションの変更を実行できます。

8. [更新] をクリックします。
9. ログアウトしてから、アプリケーション固有の admin ロールでログインします。
10. [システムアプリケーション] > [アプリケーション] に移動します。
11. アプリケーション管理を有効にするアプリケーションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

12. アプリケーションレコードで、[アプリケーション管理 **(Application administration)]** を選択します。
13. [更新] をクリックします。
    以下の要件が満たされていることがシステムによって確認されます。
    - アプリケーション固有の admin ロールがあること ([アプリケーションアドミニストレーター] がオンになっているロールが少なくとも 1 つあること)。
    - 現在のユーザーがアプリケーション固有の admin ロールを持っていること。

    確認に合格すると、システムによってアプリケーション レコードが更新します。それ以外の場合、次のエラーメッセージが表示され、アプリケーションレコードは更新されません。

```
Application Administration uses the 'Application Administrator' role
 to define what users are application administrators. None of the roles
 defined by this application have 'Application Administrator' enabled.
```

14. オプション: 関連リンクから、次のいずれかのオプションを選択できます。

関連リンク	説明
開発者管理	アプリケーション固有のアドミニストレーターが次のタスクを管理できるようにするモーダル ◦ アプリケーションの開発者を指定する。 ◦ 自分自身を委任開発者にする。アプリケーション固有のアドミニストレーターが委任開発者になると、アプリケーション固有のアドミニストレーターはシステムレベルの admin ロールを持たなくても管理タスクのサブセットを実行できます。 詳細を見る： 委託開発と展開
すべてのアドミニストレーターにアプリケーション管理を付与。	システムレベルの admin ロールの包含ロール [sys_user_role_contains] レコードを作成するモーダル。これにより、アプリケーション固有の admin ロールがシステムレベルの admin ロールの包含ロールとして追加されます。 **注:** このレコードを使用してアプリケーションを公開すると、アプリケーション固有の admin ロールを持つユーザーは、インストール後にアプリケーションにアクセスできます。

アプリケーション管理アプリのアクセス制御ルール

デフォルトでは、スコープ対象のアプリケーションに対してアプリケーション管理が有効になっている場合、スコープ対象のアプリケーションの ACL ルールが適用されます。スコープ対象のアプリケーションの ACL ルールが見つからない場合は、グローバル ACL ルールを適用できます。

この動作は、アプリケーション ファイル [sys_metadata] テーブルを拡張するテーブルに作成された設定レコードにのみ適用されます。デフォルトの動作を変更することもできます。

アプリケーション管理アプリのアクセスコントロール (ACL) ルールが定義されていない場合、アプリケーション管理アプリの設定レコードにグローバル ACL ルールを適用できます。詳細については、「アプリケーションファイル」を参照してください。

注: すべてのアプリケーションがグローバル ACL ルールを使用するわけではありません。想定どおりにアクションを実行できない場合は、アプリケーションがグローバル ACL ルールを許可していることを確認してください。そうでない場合は、一部のアプリケーションに対して特定の ACL ルールを作成する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション管理アプリのテーブルがグローバル ACL ルールを継承できるようにするには、 システムのプロパティが true であることを確認し、アプリケーション管理アプリのテーブルがグローバル ACL ルールを継承するための構成 で説明されている手順に従います。

- `glide.security.scoped_administration.honor_global_acl` システム プロパティ：スコープ指定の ACL ルールが定義されていない場合、アプリケーション管理アプリはグローバル ACL ルールを継承できる。デフォルトでは、このプロパティは、新しいインスタンスとアップグレードされたインスタンスに対して有効。
- アプリケーション管理 ACL の継承 [sys_scoped_admin_acl_inheritance] テーブル：アプリケーション管理アプリの ACL ルールが見つからない場合、このリストに追加されたテーブルはグローバル ACL ルールを継承する。この構成テーブルのアプリケーション管理アプリが所有するレコードの追加、削除、読み取りを実行できるのは、アプリケーション管理アプリのアドミンのみ。

アプリケーション管理アプリのテーブルがグローバル **ACL** ルールを継承するための構成

アプリケーションでグローバル ACL (アクセス制御ルール) が重複しないようにするため、スコープ対象のアプリケーションの ACL ルールが見つからない場合はグローバル ACL を継承するように、アプリケーション管理アプリのアプリケーションファイルテーブルを設定できます。

始める前に

必要な役割：アプリケーションの admin ロール

手順

1. ナビゲーション フィルターに `sys_scoped_admin_acl_inheritance.list` と入力します。
   アプリケーション管理 ACL の継承テーブル [sys_scoped_admin_acl_inheritance] が開きます。
2. [新規] をクリックします。
3. [テーブル] フィールドで、アプリケーション管理アプリからアプリケーション ファイル テーブル (アプリケーション ファイル [sys_metadata] テーブルを拡張するテーブル) を選択します。
   この設定テーブルのアプリケーション管理アプリが所有するレコードの追加、削除、読み取りを実行できるのは、アプリケーション管理アプリのアドミンのみです。
4. [送信] をクリックします。
   アプリケーション管理アプリの ACL ルールが見つからない場合、このリストに追加されたテーブルはグローバル ACL ルールを継承します。

ServiceNow Store アプリへのアクセスの適用

すべての本番インスタンスは、ServiceNow Store アプリの使用パターンに関するレポートを監視、生成します。サブスクリプションの適用が有効になっていると、アプリに登録していないユーザーは、アプリで履行者アクションを実行できません。

概要

本番インスタンスで、利用資格に基づく ServiceNow Store アプリの使用を強制できるようにするには、次のアクションが必要です。

1. 組織の使用アドミニストレーターは、サブスクリプション管理 アプリケーションを使用して、履行者ユーザーをサブスクリプションに割り当てることができます。
2. 次のいずれかの強制モードを決定します。
   - 強制なしで使用状況を監視および報告する (デフォルト)
   - 使用状況のモニタリングとレポートに加えて、すべての使用状況は登録済み履行者ユーザーによるものでなければならないことを強制します。
3. 登録済みユーザーのみの使用を強制するには、レコード所有者または登録済み履行者ユーザーのみが更新できるテーブルをフルフィルメント テーブルとして設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ライセンス

ServiceNow アプリケーションで利用可能なさまざまなタイプのソフトウェアライセンスとサブスクリプションを理解します。

ライセンス

注: 契約に固有の情報については、ライセンスについて ServiceNow アカウント担当者と話し合ってください。

アプリケーションのエンタイトルメントを取得するにはライセンスが必要です。特定のアプリのエンタイトルメントがある場合は、ServiceNow Store でアクティブ化できます。

すべてのソフトウェアライセンスは、著作権法を侵害することなくソフトウェアを使用する方法を正確に示しています。ソフトウェアライセンスにはさまざまなサブカテゴリがあります。これらのカテゴリは必ずしも排他的ではありません。異なる種類のソフトウェアが重複することがよくあります。

さまざまなタイプのソフトウェアライセンスの詳細については、「ソフトウェアライセンスとは？」を参照してください。

サブスクリプション

サブスクリプションを使用すると、ServiceNow Store とやり取りせずにファミリーリリースをアップグレードできます。たとえば、Tokyo を使用中でアプリのサブスクリプションを持っている場合、Xanadu が一般リリースになった時点で自動アップグレードされます。

サブスクリプションのタイプによって、ユーザーの割り当て、アプリケーションへのアクセス、カスタムアプリケーションとテーブルのエンタイトルメントが決まります。ServiceNow アプリケーションで利用可能なサブスクリプションのタイプの詳細については、「サブスクリプション管理 のサブスクリプションのタイプ」を参照してください。

アプリケーションスコープにわたる作成制限

現在のアプリケーションスコープが設定レコードのターゲットテーブルのアプリケーションスコープと一致しない場合は、一部の設定レコードの作成が制限されます。

これらの制限は、ターゲットテーブルが別のアプリケーションに属している設定レコードを作成する場合にのみ適用されます。これらの制限は、ターゲット テーブルが別のアプリケーションに属している設定レコードを作成する場合にのみ適用されます。同じアプリケーションスコープに属する設定レコードには、これらの制限はありません。

開発者が別のアプリケーションスコープに属する設定レコードを追加すると、常に以下の作成制限が適用されます。

設定レコードの作成制限

設定レコードのタイプ	ターゲットテーブルが別のアプリケーションスコープ内にある場合の作成制限
アクセス制御	• ロールベースの要件を持つフィールドレベルのアクセスコントロールのみを作成できます。 • 別のアプリケーションスコープ内のテーブル用のテーブルレベルのアクセスコントロールを作成することはできません。 • すべてのフィールドに適用されるフィールドレベルのアクセスコントロールを作成することはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

設定レコードの作成制限 (続く)

設定レコードのタイプ	ターゲットテーブルが別のアプリケーションスコープ内にある場合の作成制限
	• 条件を使用するアクセスコントロールを作成することはできません。 • スクリプトベースの条件を使用するアクセスコントロールは作成できません。
ビジネスルール	• 次のいずれかのオプションを使用して、 が のルールを作成できます。 ◦、、および のデータベース操作。 は選択できない。 ◦アクションとスクリプト (フィールド)。 • 次のいずれかのオプションを使用して、[時期] が [次の前] であるルールを作成できます。 ◦、、および のデータベース操作。 は選択できない。 ◦アクションのみ。データポリシー
計算されたフィールド	別のアプリケーションスコープ内のテーブル用に計算されたフィールドを作成することはできません。
データ ポリシー	• 別のアプリケーションスコープ内のフィールド用にデータポリシールールを作成することはできません。 • フィールドを必須にすることはできません。
フィールドスタイル	別のアプリケーションスコープ内のフィールド用にフィールドスタイルを作成することはできません。
フォームセクション	• 別のアプリケーションスコープ内で作成された既存のフォームセクションは変更できません。 • 新しいフォームセクションを作成できます。
レコードプロデューサー	レコードプロデューサーからレコードを作成するには、アプリケーションテーブルに対する作成アクセス権限が必要です。
UI ポリシー	• 別のアプリケーションスコープ内のフィールド用に UI ポリシールールを作成することはできません。 • フィールドを必須にすることはできません。
UI スクリプト	スコープ対象のアプリケーションからグローバル UI スクリプトを作成することはできません。
ビュー	• 新しいビューを作成できます。 • 別のアプリケーションスコープ内で作成された既存のビューは変更できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションの計画立案

アプリケーション開発プロセスは計画立案から始まります。そのアプリケーションがどのように機能するか、誰が使用するか、それによってユーザーエクスペリエンスがどのように向上するかを検討してください。

ネクストエクスペリエンス での計画立案

アプリ取り込み

入念に計画されたアイデアがあれば、App Engine Studio (AES) で承認および開発するために Application Intake 経由で送信する準備ができています。

アプリケーションレコードのテーブルとフィールドの定義

アプリケーションは、テーブルとレコードを使用して、インシデント、問題、CMDB などのデータとプロセスを管理します。

セキュリティ：App Engine Studio のロールと権限

アドミニストレーターはロールを割り当てて、AES を構成または使用する権限をチームメンバーに付与します。

UI16 での計画立案

委託開発

委託開発により、システムアドミニストレーターのロールを持たない指定ユーザーが、Now Platform でアプリケーションを開発または展開できるようになります。

テーブルのスキーママップ

スキーママップは、テーブルの詳細とテーブル間の関係を視覚的に表示し、アドミニストレーターがデータベーススキーマのさまざまな部分を表示して、簡単にアクセスできるようにします。

テーブルアドミニストレーション

アドミニストレーターは、テーブルアドミニストレーションを使用してデータベース構造を表示および変更できます。

チーム開発

チーム開発 は、複数の非本番 ServiceNow インスタンス上の並列開発をサポートします。

関連アプリケーションと機能

セキュリティ：アクセス制御

デフォルトでは、スコープ対象のアプリケーションに対してアプリケーション管理が有効になっている場合、スコープ対象のアプリケーションのアクセス制御 (ACL) ルールが適用されます。スコープ対象のアプリケーションの ACL ルールが見つからない場合は、グローバル ACL ルールを適用できます。

セキュリティ：エッジ暗号化

ServiceNow® エッジ暗号化は、社内の機密データを暗号化し (送信中に暗号化)、インターネット経由で ServiceNow インスタンスに送信します。インスタンスでは保存時もデータは暗号化されたままです。

セキュリティ：ロール

UI ビルダー インスタンスのセキュリティとロールを設定します。UI ビルダー のセキュリティとロールは、アプリケーションスコープ、ドメインセパレーション、および保護ポリシーの設定によって制御されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セキュリティ：UI ポリシー

UI ポリシーを作成して、タスクのカスタムプロセスフローを定義します。

セキュリティ：ユーザーとグループ

Now Platform ユーザー管理機能を使用して、新しいユーザーとグループを作成します。

ServiceNow アプリケーションリポジトリ

カスタムアプリケーションを開発してテストした後、アプリケーションを ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開することで、会社のインスタンスで使用できるようにすることができます。

ソースコントロールの統合

アプリケーション開発者が Git ソースコントロールリポジトリと統合できるようにします。非本番インスタンスから、アプリケーションの複数のバージョンを保存および管理します。

アプリ開発のためのアイデアの送信

入念に計画されたアイデアがあれば、App Engine Studio (AES) で承認および開発するためにアプリケーション取り込み経由で送信する準備ができています。

始める前に

まだ [市民開発の申請] 標準カタログアイテムをアクティブ化していない場合は、この手順を実行する前にアクティブ化する必要があります。

必要なロール：なし

このタスクについて

取り込み要求プロセスは、アプリ開発のアイデアの送信を簡素化します。アプリケーション取り込みを使用すると、アイデアはレビューのために App Engine Studio アドミニストレーターと共有されます。アドミニストレーターは、アイデアのビジネス価値の販売実績に基づいて、要求を承認または拒否します。

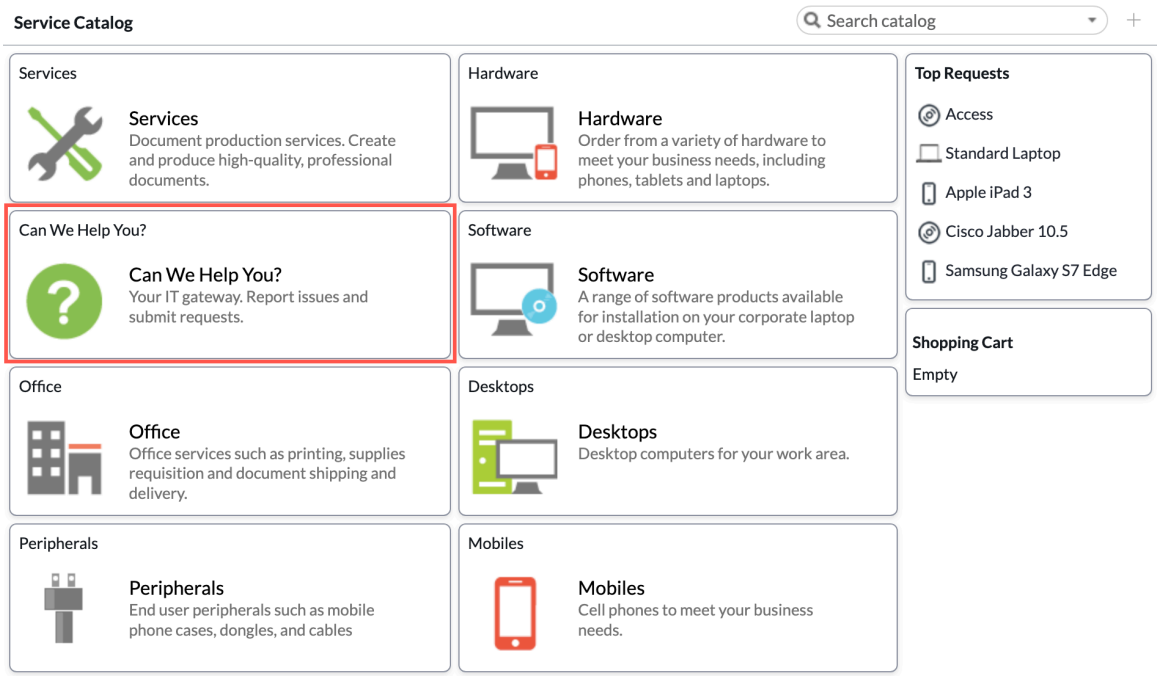
アイデアが承認されると、開発者は App Engine Studio が提供するガイド付きの直感的なアプリ開発環境を使用してアプリをビルドできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

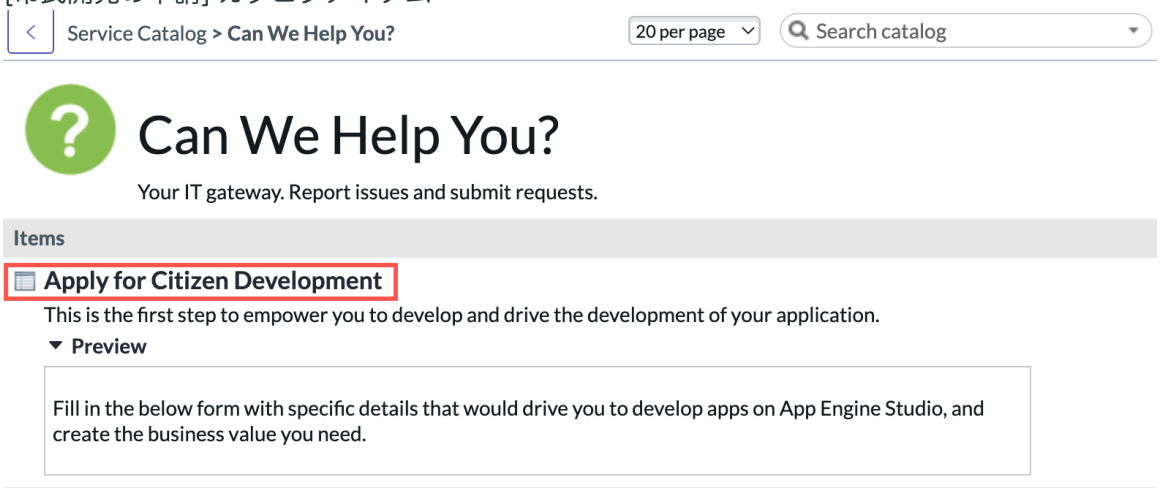
1. [すべて] > [セルフサービス] > [サービスカタログ] に移動します。

サービスカタログ



2. サービスカタログ で [何かお困りですか？] カテゴリを選択します。

[市民開発の申請] カタログアイテム



3. [市民開発の申請] カタログアイテムを選択して、[アプリケーション取り込み] フォームを開きます。
4. フォームのフィールドに入力します。

[市民開発の申請] フォームのフィールド

フィールド	説明
アプリケーション名	アプリの一意の名前。
アイデアの簡単な説明	アプリケーションの簡単な説明。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
プロセスは繰り返し可能ですか？	アプリのアイデアをビジネスの他の領域で使用できるかどうかを示すオプション。
メールまたは Excel ベースのプロセスはありますか？	このアプリケーションで置き換える既存のプロセスがあるかどうかを示すオプション。
これには何人のユーザーが関与していますか？	作成されたアプリケーションを使用するユーザーの数。
これに機密/PII データは含まれますか？	アプリケーションがユーザーの健康、財務、または個人識別情報を使用するかどうかを示すオプション。
他の部門のデータが必要ですか？	他の部門がアプリケーションにデータを提供する必要があるかどうかを示すオプション。
このアプリケーションのデータにアクセスできるユーザーは誰ですか？	アプリケーションへのアクセスを必要とするユーザーまたはグループ。

5. [今すぐ注文] を選択します。

タスクの結果

アドミニストレーターが要求を承認すると、App Engine Studio でアプリのビルドを開始できます。アプリをビルドするためのアクセス権を含む確認メールが届きます。

要求を承認するアドミンの場合は、「AEMC 要求の管理」の詳細を参照してください。

アプリケーションのデータを指定

最も基本的な形式では、Now Platform でアプリケーションをビルドすることは、何らかの方法でデータを格納して使用することを意味します。アプリケーションのデータモデルの定義はユーザー次第であり、ビルドするアプリケーションのタイプに基づいています。

次の 3 つの方法を自由に組み合わせて、アプリケーションのデータモデルを定義できます。

- 既存のテーブルとフィールドを再利用してレコードデータを格納します。たとえば、既存のタスクテーブルを使用して、インシデントや問題などの既存のレコードタイプを処理します。通常、このオプションは、グローバルスコープ内のテーブルまたはすべてのアプリケーションスコープでデータを使用できるようにするテーブルでのみ使用できます。
- 既存のテーブルを拡張してレコードデータを格納します。たとえば、タスクテーブルを拡張して VIP インシデントを作成します。拡張テーブルは親テーブルからフィールドを継承しますが、必要に応じて新しいフィールドを追加できます。
- 新しいテーブルとフィールドを作成してレコードデータを格納します。利用可能なさまざまなツールを使用して、新しいテーブルを作成できます。App Engine Studio へのアクセス権がある場合は、アプリケーションをビルドするときに テーブルビルダー を使用して新しいテーブルとフィールドを作成します。または、Now Platform の基本的なテーブルアドミニストレーションを使用して、アプリケーション開発とは別にテーブルとフィールドを作成できます。

その他のリソース

これらの概念については、App Engine Studio、テーブルビルダー、およびテーブルアドミニストレーションのドキュメントで詳しく説明されています。

アプリケーションのデータモデルの作成

App Engine Studio でビルドするアプリにデータを追加します。

テーブルアドミニストレーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

現在、テーブルアドミニストレーションには、テーブルを管理するためのより包括的な機能とオプションが含まれています。

Table Builder

テーブルビルダー を使用すると、Now Platform でテーブルとフォームを視覚的にビルドできます。

委託開発と展開

委託開発により、システム admin のロールを持たない指定されたユーザーが、Now Platform でアプリケーションを開発または展開できるようになります。

アプリケーション固有の admin ロールまたはシステムレベルの admin ロールがある場合は、アプリケーションレベルで指定された開発者にアプリケーション開発を委任することができます。

委任展開タスク

開発者や、アドミン以外のユーザー (変更管理担当者など) に、展開タスク (アプリケーションの公開、初回インストール、または更新) を委任することもできます。展開タスクは、アプリケーションレベルで特定のユーザーに委任するか、インスタンス レベルで特定のユーザーロールを割り当てることで委任します。

割り当て方法	適用先	利用可能なオプション
で展開権限を設定します。「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。	特定のアプリケーション	特定のアプリケーションの公開とアップグレード。公開オプションには、アプリケーションリポジトリ、ServiceNow Store、更新セットも含まれます。
特定のユーザーに展開ユーザーロールを割り当てます。「インスタンス固有の展開ユーザーロール」を参照してください。	ローカル非本番インスタンス (開発や QA など)	現在のインスタンスと同じ会社を含むすべてのアプリケーションの初回インストールおよびアップグレード。 たとえば、ABC 社と XYZ 社のアプリケーションは [アプリケーションクライアント] ページに表示されます。このロールを持つユーザーは、XYZ 社のインスタンスにログインしている場合にのみ、XYZ 社のアプリケーションをインストールできます。このユーザーは ABC 社のアプリケーションをインストールすることはできません。

アプリケーション固有の権限

開発者権限と展開権限は、アプリケーション固有です。たとえば、あるアプリケーションのすべてのファイルタイプにアクセスする権限を持っている開発者が、別のアプリケーションの開発者権限を持っているとは限りません。アドミニストレーターは、各アプリケーションの開発者権限 (およびオプションで展開権限) を設定する必要があります。アドミニストレーターは、開発者権限を設定するためには、アプリケーションファイルとシステムテーブルの構造に精通している必要があります。た

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

とえば、詳細なビジネスルールを作成することが想定される開発者には、[すべてのファイルタイプ] と [スクリプティングを許可] の両方の開発者権限が必要です。

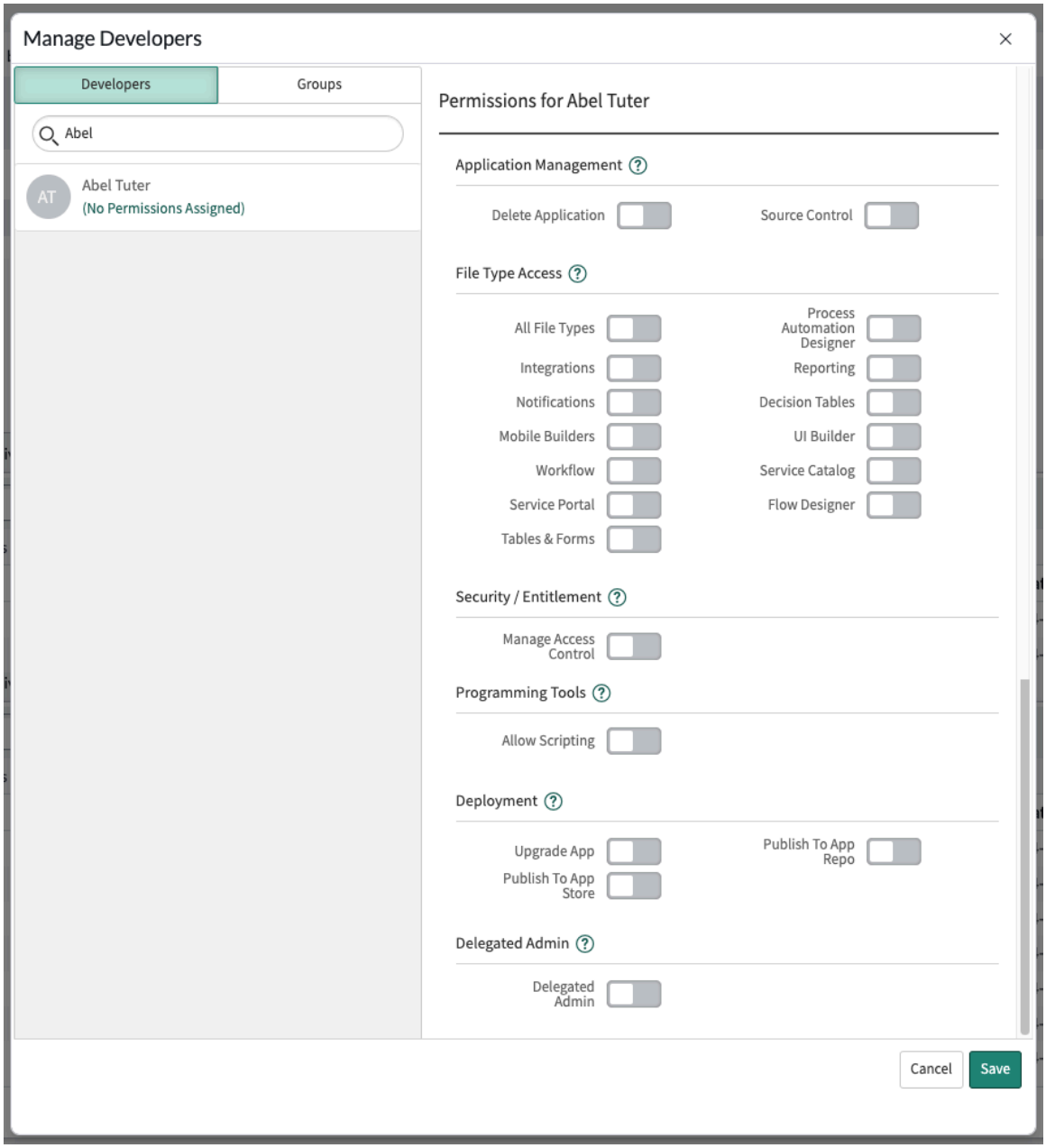
重要: アプリケーション管理が有効になっている場合、ターゲットアプリケーションのアプリケーションアドミニストレーターのみが、アプリケーションの開発者を委任できます。アプリケーションアドミニストレーターにはシステムアドミニストレーター権限がありません。委任された開発者が開発者権限で付与された機能を実行できるようにするには、委任された開発者にもアプリケーションアドミニストレーターロールが付与されている必要があります。

各権限を設定すると、1 つ以上のシステム管理の委託開発ロールが付与され、システムアドミンはシステムのコントロールを保持できます。システムアドミンは、アプリケーションの開発や展開を行えるようにするために、開発者 (またはアプリケーションを展開するユーザー) をシステムアドミンロールに昇格させる必要がなくなります。

開発者権限と展開権限の例

システムアドミニストレーターとして、開発インスタンス内の特定のアプリケーションについて、特定の開発者権限と展開権限を Abel Tuter に割り当てる必要があります。開発者権限と展開権限の詳細については、「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



関連情報

- アプリケーションファイル
- ServiceNow Store アプリケーションのインストール
- ServiceNow Store アプリケーションへの更新のインストール
- アプリケーションの共有

開発と展開の権限を担当者に委任する

システムアドミンは、アドミニストレーター以外のユーザーまたはグループを、特定のアプリケーションの開発者または展開リソースとして割り当てることができます。アサインされたユーザーが現在のインスタンスで実行できる、特定のアクションを指定する権限を設定できます。または、ユーザーを代理アドミニストレーターにして、一度にすべての権限へのアクセス権を付与できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 必要なロール：admin または application administrator

  アプリケーション管理が有効になっている場合は、ターゲット アプリケーションのアプリケーションアドミニストレーターのみが、アプリケーションに開発者を委任できます。アプリケーション管理が有効になっていない場合は、admin ユーザーが開発者を委任できます。

- 必要なレコード：
  - アプリケーション
  - ユーザー
  - グループ

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。
2. 開発者を追加するアプリケーションの名前を選択します。
   アプリケーション レコードが開きます。
3. [開発者の管理] を選択します。

   注: アプリコラボレーションコンポーネントがインストールされている場合、リンクは [協力者の管理] として表示されます。

   [開発者権限] ウィンドウが表示されます。

   注: [開発者権限] は、グローバルアプリではなく、スコープ対象アプリでのみ使用できます。

4. 割り当てる開発者 (またはシステムアドミンロールを持たないユーザー) のタイプを選択します。

オプション	説明
開発者	個別のユーザーを開発者またはデプロイヤーとして追加します。
グループ	グループのすべてのメンバーを開発者またはデプロイヤーとして追加します。

5. または に、開発者権限または展開権限を付与するユーザーまたはグループの名前を入力します。
6. アプリケーションの特定の開発者権限と展開権限を選択するか、[代理アドミン] を選択してアプリケーションのすべての権限へのアクセス権を迅速に付与します。
   詳細については、「開発者権限と展開権限」を参照してください。
7. [保存] を選択します。
   アプリケーションの指定された開発者権限と展開権限がアサインされます。

開発者権限と展開権限

アドミニストレーターは、開発者管理を使用して、特定のアプリケーションについて、グループまたはユーザーに 1 つ以上の開発者権限と展開権限を割り当てることができます。これらの権限は、割り当てられたユーザーがアプリケーションに対して実行できる特定のアクションを指定します。

たとえば、アプリケーションのアップグレードと、アプリケーションリポジトリおよび ServiceNow Store への公開はできるが、更新セットへの公開はできないようにする権限をユーザーに付与できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開発者権限

注: アプリコラボレーションコンポーネントがインストールされている場合、リンクは [協力者の管理] として表示されます。

権限	説明
アプリケーションを削除	スコープ対象のアプリ内でアサインされた開発者に、アプリケーションを削除する権限を付与します。
ソースコントロール	アサインされた開発者にソースコントロールへのフルアクセス権を付与します。
すべてのファイルタイプ	他のオプションでは付与されないものを含め、すべてのアプリケーションファイルタイプへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。この権限は、ユーザーに admin ロールを付与するのと同じですが、いくつかの制限があります。具体的には、Application Creator の [開発者の管理] タスクに従ってアプリケーションで構成されているすべてのファイルタイプへのアクセス権を提供します。このようなファイルタイプの例については、「委託開発と展開」の権限の例を参照してください。
プロセスオートメーションデザイナー	プロセスを作成するための プロセスオートメーションデザイナー 設計環境へのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。アクティビティサブフローまたはアクションを編集するには、フローデザイナー権限が必要です。
統合	Web サービス API、REST API、データソース、および 統合ハブ - インポートへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。
レポート	レポートおよびスケジュール設定済レポートへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。
通知	割り当てられた開発者に、自動メール通知を操作するためのアクセス権を付与します。
ディシジョンテーブル	複数の if-then ルールに基づいて意思決定ロジックを作成するために、アサインされた開発者に ディシジョンテーブル へのアクセス権を付与します。
モバイルビルダー	アサインされた開発者に、モバイルアプリビルダー などのモバイルビルダーへのアクセス権を付与します。
UI ビルダー	エクスペリエンスのページを作成するために、アサインされた開発者に UI ビルダー へのアクセス権を付与します。
ワークフロー	ワークフローエディターとアクティビティクリエーターへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。
サービスカタログ	アサインされた開発者に、カタログアイテム、レコードプロデューサー、変数などのカタログ関連のファイルタイプへのアクセス権を付与します。
サービスポータル	サービスポータルのエディターとツールへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

権限	説明
フローデザイナー	フローおよびアクションを作成するための フローデザイナー 設計環境へのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。スクリプトアクションのステップでは、[スクリプティングを許可 **(Allow Scripting)]** 権限が必要です。
テーブルとフォーム	テーブル列、フォームレイアウト、リストレイアウトなどのモデルとレイアウトに関連したファイルタイプへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。
ACL とロールの管理	アクセス制御やユーザーロールなどのセキュリティ関連のファイルタイプへのアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。
スクリプティングを許可	ビジネスルール、クライアントスクリプト、フローデザイナー のスクリプトアクションステップなどでのスクリプトフィールドへの書き込みアクセス権がアサインされた開発者に付与されます。
協力者の管理	ユーザーとグループを招待して管理する機能がアサインされた開発者に付与されます。この権限により、委任開発者はさらに他の開発者をアプリケーションに招待して管理することができます。
協力者を招待	ユーザーとグループを招待する機能がアサインされた開発者に付与されます。この権限により、委任開発者はさらに他の開発者をアプリケーションに招待することができます。
代理アドミン	すべての委託開発権限に対するアクセス権を付与し、個別に権限を付与する必要がないようにします。

展開権限

更新セットの展開権限はデフォルトでは非表示になっており、システムアドミニストレーターがシステムのプロパティを使用してアクティブ化する必要があります。詳細については、「更新セットの展開権限を表示または非表示にする」を参照してください。

[展開の送信]、[協力者の管理]、および [協力者を招待] の委託開発権限セットは、開発者協力者機能でのみ使用できます。[開発者管理] には表示されません。

権限	説明
アプリをアップグレード	現在のインスタンスにインストールされた後に、関連アプリケーションをアップグレードする権限を委任開発者ロールがアサインされたユーザーに付与します。
更新セットに公開	関連アプリケーションを現在のインスタンスの更新セットに公開する権限を委任開発者ロールがアサインされたユーザーに付与します。 **注:** この権限を持つユーザーは、[更新セットの管理] 権限を持つことはできません。
アプリストア	関連アプリケーションを現在のインスタンスの ServiceNow Store に公開する権限を委任開発者ロールがアサインされたユーザーに付与します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

権限	説明
に公開	注: デフォルトでは、[アプリをアップグレード]、[アプリリポジトリに公開]、および [アプリストアに公開] 権限が表示されます。[更新セットに公開] 権限は、システムアドミニストレーターが手動でアクティブ化した場合にのみ表示されます。詳細については、「更新セットの展開権限を表示または非表示にする」を参照してください。
更新セットの管理	ローカルおよび取得された更新セットを管理する権限を委任開発者ロールがアサインされたユーザーに付与します。この権限により、ユーザーはローカル更新セットの作成、更新、削除、および取得した更新セットのプレビュー、競合の解決、およびコミットを行うことができます。 注: この権限を持つユーザーは、[更新セットに公開] 権限を持つことはできません。
アプリリポジトリに公開	関連アプリケーションを現在のインスタンスのアプリケーションリポジトリに公開する権限を委任開発者ロールがアサインされたユーザーに付与します。
展開の送信	アサインされた委任開発者ロールのアクセス許可を持つユーザーに、関連アプリケーションをレビューと展開のために送信する権限を付与します。

開発者の削除

ユーザーを開発者として削除すると、ユーザーは現在のインスタンスでアプリケーションを開発、変更、または展開することができなくなります。

始める前に

必要なロール：admin または application administrator

アプリケーション管理が有効になっている場合は、ターゲット アプリケーションのアプリケーションアドミニストレーターのみが、アプリケーションに開発者を委任できます。アプリケーション管理が有効になっていない場合は、admin ユーザーが開発者を委任できます。

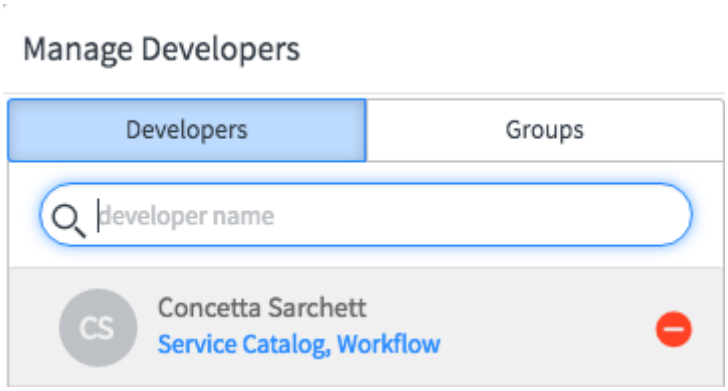
手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [アプリケーション] に移動します。
2. 開発者を削除するアプリケーションのアプリケーション名を選択します。
   アプリケーション レコードが開きます。
3. [開発者の管理] を選択します。

   注: アプリコラボレーションコンポーネントがインストールされている場合、リンクは [協力者の管理] として表示されます。

   [開発者権限] ウィンドウが表示されます。
4. 削除する開発者をポイントします。
   開発者名の横にマイナスアイコンが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. 開発者名の横にあるマイナスアイコンを選択します。
   開発者および関連するすべてのアプリケーションロールが削除されます。

更新セットの展開権限を表示または非表示にする

[開発者管理] ダイアログから更新セットの展開権限を表示または非表示にします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
[更新セットに公開] および **[Update Sets** の管理 **(Manage Update Sets)]** 権限の可視化は、システムプロパティによって制御されます。デフォルトでは、更新セットの展開権限は両方とも非表示になっています。

手順
1. ナビゲーションフィルターに「`sys_properties.list`」と入力します。
   システムプロパティ [sys_properties] テーブル内のプロパティの全リストが表示されます。

   注: システムプロパティを追加して有効にする方法の詳細については、「システムプロパティを追加する」を参照してください。

2. 次のシステムプロパティを追加または更新して、特定の展開権限を有効または無効にします。

展開権限

システムプロパティ	説明
com.snc.dd.manage_update_set_enabled	**[Update Sets** の管理 **(Manage Update Set)]** 権限の表示を有効または無効にします。 このシステムプロパティのデフォルト値は **false** です。この権限の表示を有効にするには、この値を **true** に設定します。
com.snc.dd.publish_to_app_repo_enabled	[アプリリポジトリに公開] 権限の表示を有効または無効にします。 このシステム プロパティのデフォルト値は **true** です。この権限の表示を無効にするには、この値を **false** に設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムプロパティ	説明
com.snc.dd.publish_to_app_store_enabled	[アプリ ストアに公開] 権限の表示を有効または無効にします。 このシステム プロパティのデフォルト値は **true** です。この権限の表示を無効にするには、この値を **false** に設定します。
com.snc.dd.publish_to_update_set_enabled	権限の表示を有効または無効にします。 このシステム プロパティのデフォルト値は **false** で、この権限の表示は無効になっています。この権限の表示を有効にするには、この値を **true** に設定します。
com.snc.dd.upgrade_app_enabled	権限の表示を有効または無効にします。 このシステム プロパティのデフォルト値は **true** です。この権限の表示を無効にするには、この値を **false** に設定します。

インスタンス固有の展開ユーザーロール

アドミン以外のユーザーが特定のインスタンス内ですべてのアプリケーションをインストールまたはアップグレードできるようにするロールを割り当てます。インスタンスごとに特定のユーザーロールを手動で割り当てることで、これらのタスクを委任します。

たとえば、変更管理担当者にユーザーロールを割り当てて、非本番 (開発または QA) インスタンスでアプリケーションをインストールできるようにすることができます。

重要: インストールとアップグレードのユーザーロールを、どのユーザーに、どのインスタンスで割り当てるかは、慎重に検討してください。これらのロールを、非本番インスタンス (開発や QA など) の非システムアドミンにのみ割り当てて、本番インスタンスでは割り当てないようにすることもできます。アプリケーションのインストールとアップグレードの潜在的な影響を考慮して、本番インスタンスでのインストールとアップグレードの責任をシステムアドミニストレーターに任せたい場合もあります。

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

展開ユーザーロールの追加

システムアドミンは、最初のアプリケーションのインストールのみを実行できるようにするユーザーロールや、ローカル インスタンスでアプリケーションをインストールおよびアップグレードできるようにするユーザーロールを、特定の担当者に割り当てることができます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [ユーザー管理] > [ユーザー]に移動して、ユーザーレコードを開きます。

   注: ユーザーにロールを割り当てる方法の詳細については、「ユーザーロールの割り当て」を参照してください。

2. [ロール] 関連リストで、[編集] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [コレクション] リストで目的の展開ロールを選択し、[追加] を選択します。

委任展開ロール

ユーザーロール	説明
sn_appclient.app_client_company_installer	指定されたユーザーが、現在のインスタンスと同じ会社を含む、[アプリケーション クライアント] ページに表示されているアプリケーションの初回インストールを実行できるようにします。このロールを持つユーザーは、別の会社のアプリケーションをインストールすることはできません。 たとえば、ABC 社と XYZ 社のアプリケーションは [アプリケーションクライアント] ページに表示されます。このロールを持つユーザーは、XYZ 社のインスタンスにログインしている場合にのみ、XYZ 社のアプリケーションをインストールできます。このユーザーは ABC 社のアプリケーションをインストールすることはできません。 **注:** このロールではユーザーにアプリケーションのアップグレード権限は付与されませんが、初回インストールの実行後に委任開発者にアップグレード ロールが自動的に追加されます。その後、ユーザーはローカル インスタンス内でアプリケーションのアップグレードを実行できます。詳細については、「システム管理の開発者ロールと展開ロール」を参照してください。
sn_appclient.app_client_user	指定されたユーザーが、[アプリケーション クライアント] ページに表示されているすべてのアプリケーションをインストールおよびアップグレードできるようにします。

4. [保存] を選択します。

システム管理の開発者ロールと展開ロール

システムアドミニストレーターはユーザーロールを手動でアサインおよび削除できますが、以下の委任開発者ロールはシステムで管理することをお勧めします。

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

ロール	説明
delegated_developer	ユーザーに 1 つ以上の開発者権限があります。
プリフィックス sn_dd で始まるロール (sn_dd_<app_name>_upgrade_app など)	ユーザーにアプリケーション固有の開発者権限があります。ロール名は、適用されるアプリケーションスコープを示します。 たとえば、sn_appclient.app_client_company_installer

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール	説明
	ロールを持つユーザーが会社のアプリケーションをインストールすると、sn_dd_<app_name>_upgrade_app という委任展開ロールが自動的に付与されます。このロールにより、今後の更新が [アプリケーション クライアント] ページに公開されたときに、ユーザーはアプリケーションをアップグレードできます。
glide.security.add_admin_contained_roles_to_system	デフォルト値：true プロパティが true の場合、admin ロールに直接的または間接的に含まれるすべてのロール (scoped-admin ロールを含む) がシステムユーザーに追加されます。 **注:** プロパティを false に設定すると、以前の動作になります。この場合、システムユーザーは admin ロールを保持しますが、admin ロールに含まれる scoped-admin ロールは保持しません。 例：admin ロールに *sn_templated_snip.template_snippet_admin* ロールが含まれている 以前の動作：システムユーザーには *sn_templated_snip.template_snippet_admin* ロールがありません。 新しい動作：システムユーザーは、*sn_templated_snip.template_snippet_admi* ロールとそれに含まれる他のスコープ対象のロールを保持します。

注: 委任開発者ロールを持つユーザーは、システムの admin ロールを追加または削除することはできません。

ソースコントロール権限のアサイン

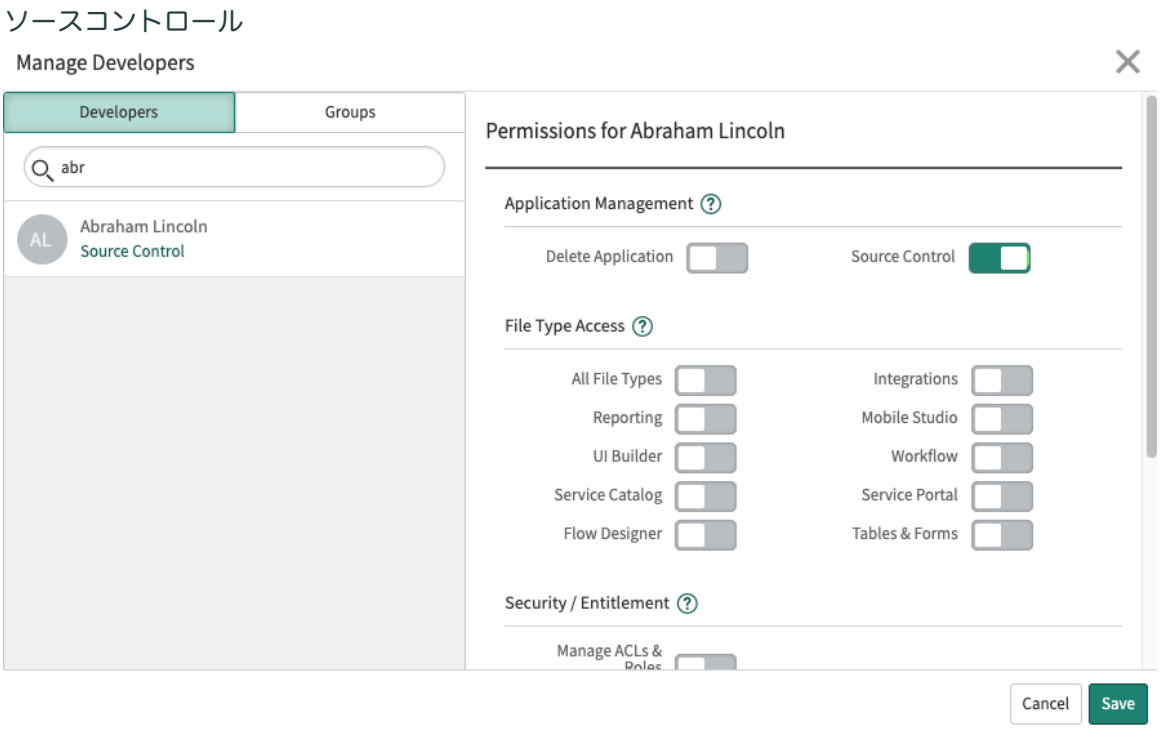
特定のスコープのソースコントロールへのフルアクセス権を委任開発者にアサインする機能。[ソースコントロール] メニューは、使用しているアプリケーションの適切な権限を持っている場合にのみ表示されます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。
2. 委任開発者権限をアサインするアプリケーションを開きます。
3. システムアドミニストレーターとして、[ファイル] > [マネージャー開発者 **(Manager Developers)]** を選択します。
4. 委任開発者権限を適用する開発者を選択します。
5. [ソースコントロール] をオンにして、[保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. 委任開発者は、[ソースコントロール] メニューオプションにアクセスできるようになりました。ソースコントロールのオプションの詳細については、「利用可能なソースコントロール操作」を参照してください。

削除権限のアサイン

アプリケーションを削除する機能を委任開発者にアサインする機能。

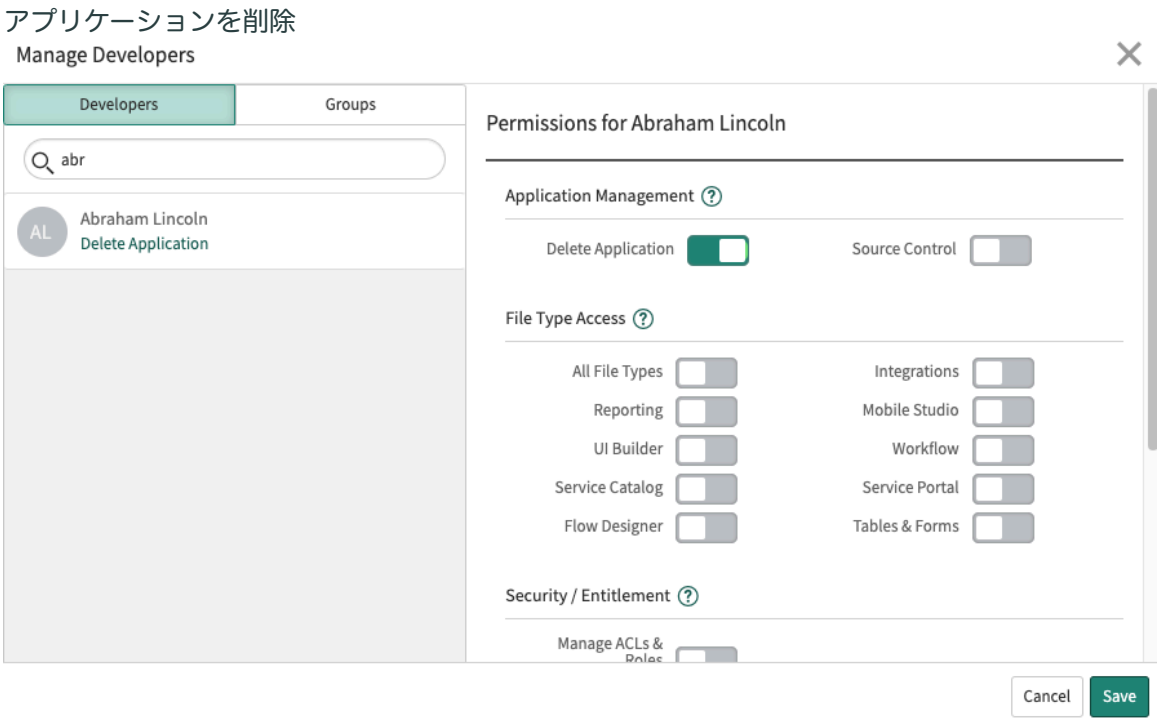
始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。
2. 委任開発者権限をアサインするアプリケーションを開きます。
3. システムアドミニストレーターとして、[ファイル] > [マネージャー開発者 **(Manager Developers)]** を選択します。
4. 委任開発者権限を適用する開発者を選択します。
5. [アプリケーションを削除] をオンにして、[保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. 委任開発者がアプリケーションを削除できるようになりました。

ドメインセパレーションと委託開発

ドメインセパレーションは、委託開発機能ではサポートされていません。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル: サポートなし

- ドメインフィールドがデータテーブル に存在している可能性がありますが、データを管理するロジックがありません。
- このレベルでは、ドメイン分割は考慮されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

チーム開発

チーム開発は、複数の非本番ServiceNowインスタンス上の並列開発をサポートします。

チーム開発は次の機能を提供します。

- インスタンス間のレコードバージョンのプッシュとプルを含む分岐操作。
- 開発インスタンスを他の開発インスタンスと比較する機能。
- すべてのチーム開発活動の中心的なダッシュボード。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

チーム開発

チーム開発を使用すると、開発者は開発プロセスを通じてコードを共有して競合を解決しながら、別々の開発インスタンスで作業できます。

インスタンス階層を設定すると、ローカル開発インスタンスの変更を開発できます。チームダッシュボードを使用して、次のようなチーム開発活動を管理します：

- ローカルな変更を追跡し、親開発インスタンスに昇格する変更を決定する。
- 親インスタンスからの変更を引き出し、ローカル変更を伴う競合があれば解決する。
- インスタンスを他の開発インスタンスと比較し、他の開発プロジェクトとの競合があれば解決する。
- ある機能がテストされ、親開発インスタンスに昇格する準備ができると、変更をプッシュする。

開発インスタンスと親インスタンスへの管理アクセス権を持つ開発者は、チーム開発を使用できます。別のアクセス設定については、開発者へのアクセス権の付与を参照してください。

関連情報

インスタンス階層を設定する

チーム開発を使用すべき場合

チーム開発では、複数の開発者がアプリケーション上で働けます。

展開オプション	適する場面	今後の検討事項
更新セット	ベースシステムまたはインストールされたアプリケーションに変更を保存する。 特定のバージョンのアプリケーションを保存して適用する。 エクスポート用のファイルを作成する。	特定のアプリケーションバージョンを格納する更新セットを手動で作成できます。 更新セットを使用して、インストールされているアプリケーションへのパッチまたは変更を展開します。 注: アプリケーションをインストールするために更新セットを使用しないでください。代わりに、アプリケーションリポジトリまたはServiceNow Storeを使ってアプリケーションをインストールします。
アプリケーションリポジトリ	すべての会社インスタンスでのアプリケーションのインストールと更新。 アプリケーション更新セットを自動的に管理する。 同じ会社にアプリケーションへのアクセスを制限する。 完成したアプリケーションをエンドユーザーに展開します。	アプリケーションを他のユーザーと共有するようServiceNow Storeにアップロードすることを検討します。 最新のアプリケーションバージョンのみのインストールと更新を許可します。 更新セットを使用して、以前のアプリケーションのバージョンを保存します。 注: チーム開発と使用する場合は、親インスタンスからアプリケーションのみを発行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ローカル変更

ローカル変更テーブルは、カスタマイズされたレコードのうち、現在のバージョンが開発インスタンスに存在し、親インスタンスには存在しないものを追跡します。

ローカル変更を使用して、プッシュの準備の変更を収集します。

プッシュする準備ができているローカル変更をキューします。各開発インスタンスは、変更を開発またはキューに入れる人に関係なく、単一のキューを維持します。プッシュしたくないローカル変更を無視します。たとえば、開発インスタンスと本番インスタンスを視覚的に区別するカラースキームの変更を無視したいかもしれません。変更をキューから削除するか、変更を無視して停止できます。

親インスタンスまたは調整を変更すると、キューに入れられていないか無視されているローカル変更のリストを再作成します。以前にローカル変更をキューまたは無視していた場合、その指定は維持されます。

ローカル変更リスト

チームダッシュボードでは、ローカル変更リストには、次のプッシュのためにキューに入れられていないか、すべてのプッシュに対して無視されたローカルの変更を表示します。

プッシュ準備完了リストには、キューに入れられた変更が表示され、無視された リストは無視された変更を示します。これらの方法のいずれかを使用して、ローカル変更のリストをナビゲートします。

ローカル変更

アクション	オプション
行の横にある参照アイコンをクリックする。	ローカル変更レコード自体を開きます。
最初の列のリンクをクリックする。	カスタマイズしたレコードを開きます。
行を右クリックし、最後のプルから変更を表示するを選択する。以前のバージョンが存在しないケースでは (たとえば、新しく作成されたレコードの場合)、エラーメッセージが表示されます。以前のバージョンが利用可能な場合は、比較ウィンドウからそのバージョンに戻すことができます。	現在のローカルバージョンと、最近親から取得または親にプッシュされたバージョンとの比較を表示します。
行を右クリックし、アプリケーションファイルを表示するを選択する。	カスタマイズされたレコードのアプリケーションファイルを開きます。
行を右クリックし、バージョンを表示するを選択する。	現在のバージョンレコードを開きます。

例外をプルする

特定の条件が発生したときにプルするとバージョンを無視します。

プル例外テーブル

問題	説明
一致する除外ポリシー	除外ポリシーは、ポリシー条件に一致するレコードの変更をプルするのを防ぎます。プルは変更を識別するが、これらのレコードのバージョンは含みません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プル例外テーブル (続く)

問題	説明
プライベートプロパティ	プライベートプロパティは、全ての更新セットから除外され、プルします。
競合	プルされたバージョンと現在のローカルバージョンの両方に同じレコードに対する変更が含まれている場合、競合が検知されます。プッシュする前に競合を解決しなければなりません。
以前に解決済みの競合	プルされたバージョンまたはローカルバージョンのレコードを受け入れて競合を解決したとき、プルはその決定を記憶し、「以前に解決された競合」として示したバージョンを受け入れます。
スキップ	バージョンが壊れているか欠落しているなど、バージョンレコードに問題がある場合は、バージョンをスキップする。

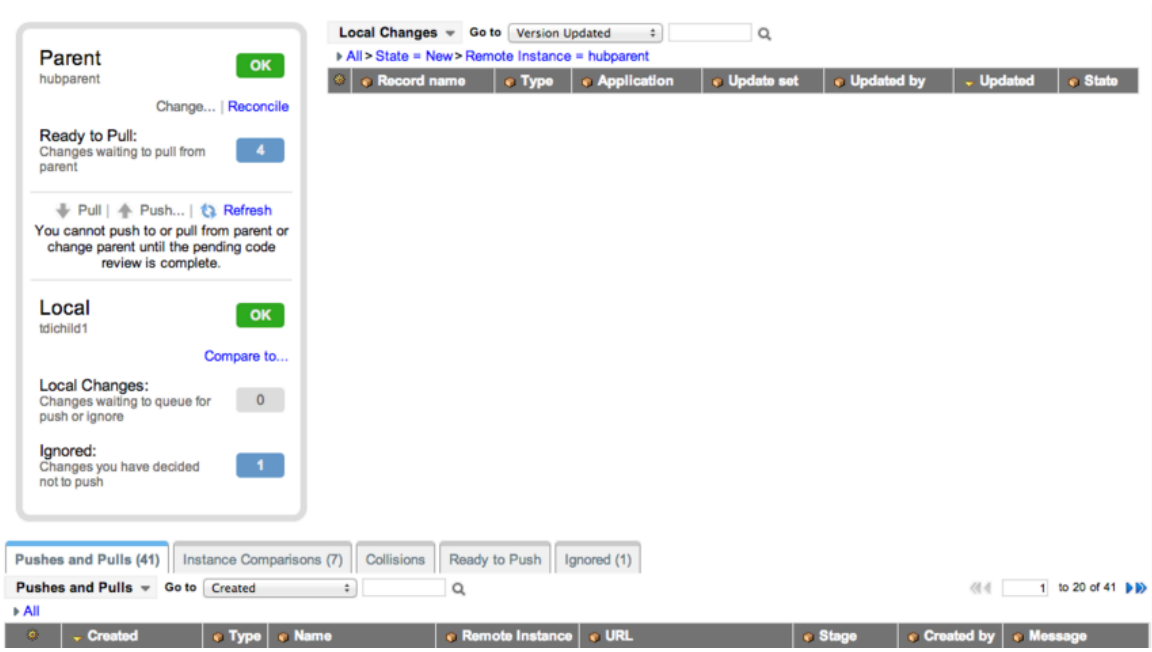
チームダッシュボード

チームダッシュボードは、開発インスタンス上のすべてのチーム開発アクティビティを管理するための中心的な場所を提供します。

ローカル変更を追跡し、ローカルインスタンスと親インスタンス間で変更をプルおよびプッシュし、ローカルインスタンスを他の開発インスタンスと比較して、競合を解決することができます。また、現在の親インスタンスと調整したり、親インスタンスを変更することもできます。

ダッシュボードにアクセスするには、チーム開発 > チームダッシュボードに行きます。

チームダッシュボード



左上のコントロールパネルは、ステータスインジケーターとチーム開発アクションを提供します。

- 親：親インスタンスへの接続の状態を示す。問題または警告が検知された場合は、インジケータにポイントしてエラーメッセージを表示するか、インジケータをクリックしてリモートインスタンスレコードを開く。
- 変化 ：親インスタンスを変更する。親インスタンスの変更を見る。
- 照合 ：開発インスタンスを親インスタンスと比較する。照合を参照。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- プル準備完：ローカルインスタンスにプルされていない親の変更の数を示す。
- プル ：プルを開始する。プルバージョン を見る。
- プッシュ ：プッシュ前に変更内容を確認できるページが開く。プッシュバージョンを見る。
- リフレッシュ ：コントロールパネルの状態インジケーターを更新する。ダッシュボードは、ページをリロードまたは更新するときにのみ更新する。
- ローカル：別のインスタンスとの最新の比較の状態を示す。競合が検知された場合は、インジケータをクリックしてリストを開き、競合を解決する。「チーム開発の競合を解決する」を参照してください。
- 競合：ローカルの変更が親から引き出されたバージョンと競合し、競合の数を示す場合にのみ表示される。インジケータをクリックしてリストを開き競合を解決する。「チーム開発の競合を解決する」を参照してください。
- 比較する ：ローカルインスタンスと比較して別の開発インスタンスを選択できる。ピアインスタンスとの比較を参照。
- プッシュ準備完：次のプッシュのためにキューに入れられたローカル変更の数を示す。キューイングとローカル変更の無視を見る。
- ローカル変更：キューに入れられていないか無視されていないローカル変更の数を示す。インジケータをクリックすると、これらの変更のリストが表示される。
- 無視：ローカルの変更が無視され、無視された変更の数を示す場合にのみ表示される。インジケータをクリックすると、これらの変更のリストが表示される。

チームダッシュボードには、ローカルの変更を追跡したり、チーム開発アクティビティの履歴を表示するためのリストが含まれています。

- ローカル変更：キューに入れられていないか無視されていないローカル変更が表示される。
- プッシュとプル：プッシュとプルの履歴を提供する。行を展開して、プッシュまたはプルの一部としてバージョンが転送されカスタマイズされたレコードを表示する。
- インスタンス比較：他の開発インスタンスとの比較履歴を提供する。
- 競合：次のプルまたはプッシュ前に解決する必要がある競合をリストする。行を右クリックして競合を解決する。競合の解決を参照。
- プッシュの準備でき：次のプッシュのためにキューに入れられたローカル変更をリストする。
- 無視：すべてのプッシュに対して無視されるローカルの変更をリストする。

関連情報

チーム開発

バージョンをプル

例外をプルする

チーム開発の競合を解決する

複数の競合を解決する

ローカル変更

ローカル変更リスト

プッシュのローカル変更をキューに入れる

ローカル変更を無視する

ローカル変更を取り消す

バージョンをプッシュ

プッシュを承認または却下する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プッシュされた変更のレビューステータスを確認します

コードレビュー要求をキャンセル

ピアインスタンスと比較

親インスタンスを変更

変更を検証する

プッシュを承認または却下する

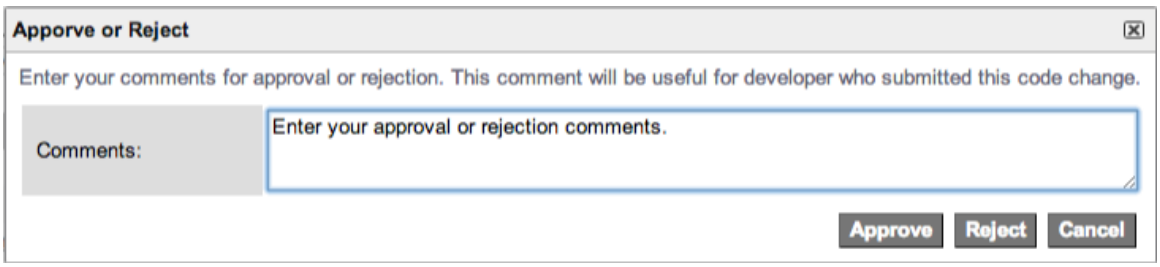
コードレビュー担当者はチーム開発アプリケーションからのプッシュを承認または拒否する必要があります。

このタスクについて

レビュー担当者は、プッシュ内で個々のバージョンを確認できますが、プッシュ全体を承認または拒否する必要があります。

手順

1. コードレビューが必要な親インスタンスにログインします。
2. チーム開発 > コードレビューリクエストに行きます。
3. コードレビューを待つステージにある変更を選択します。
4. プッシュまたはプルバージョン関連リストにある変更をレビューします。
5. 承認または却下をクリックします。
6. オプション: コメントにコメントコメントを入力。
   これらのコメントは、プッシュとプルの履歴を見れる人には見えます。
7. 承認するまたは拒否 のいずれかを適切にクリックします。



注: *URL*とリモートインスタンスフィールドには、変更が発生したインスタンスのアドレスと名前が表示される。

ローカル変更を取り消す

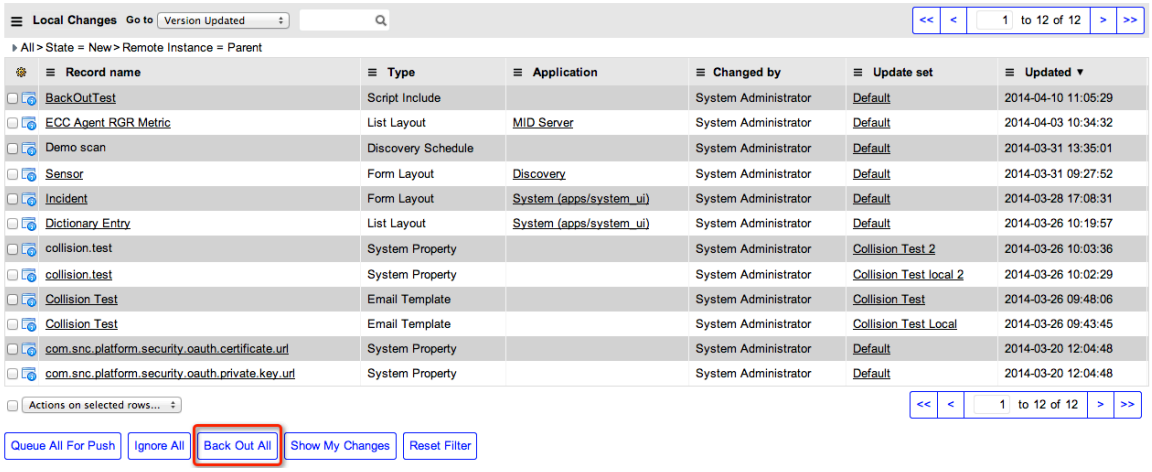
すべてのローカル変更を取り消して、親インスタンスとの最新のバージョンを回復します。

手順

1. 親インスタンスを定義します。
2. 親インスタンスからの変更をプルします。
3. チーム開発 > チームダッシュボードに行きます。
4. ローカル変更リストをフィルターして、元に戻す変更のみを表示します。
5. 次のいずれかのアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- すべてを取り戻す をクリックします。
- 取り消したいローカルの変更を右クリックし、取り消し をクリックします。



コードレビュー要求をキャンセル

開発者はコードレビューを待つステージにある提出したプッシュをキャンセルできます。

このタスクについて

要求を取り消すと、プッシュを提出するインスタンス上でコードレビュー要求がキャンセルされたステージに設定します。サブミット インスタンスはプッシュのバージョン履歴を保持しますが、親インスタンスは保持しません。

手順

1. 変更をプッシュしたインスタンスにログインします。
2. チーム開発 > プッシュとプル に行きます。
3. 取り消したいプッシュをフィルターします。

   注: 承認または拒否されているプッシュはキャンセルできません。

4. プッシュまたはプルレコードを選択します。
5. コードレビューをキャンセルをクリックする。

親インスタンスを変更

インスタンス階層を変更する必要が生じた場合は、開発インスタンスの親を変更できます。

このタスクについて

親を変更すると、開発インスタンスと新しい親インスタンスの完全な比較を開始します。比較速度を最適化してその後にレビューが必要な競合とローカル変更の数を減らすには、新しい親インスタンスが適切なインスタンス(たとえば、本番インスタンスなど)から最近クローンされたことを確認します。親インスタンスを変更する前に、変更が変更管理プロセスまたは他の開発努力と競合していないことを確認します。

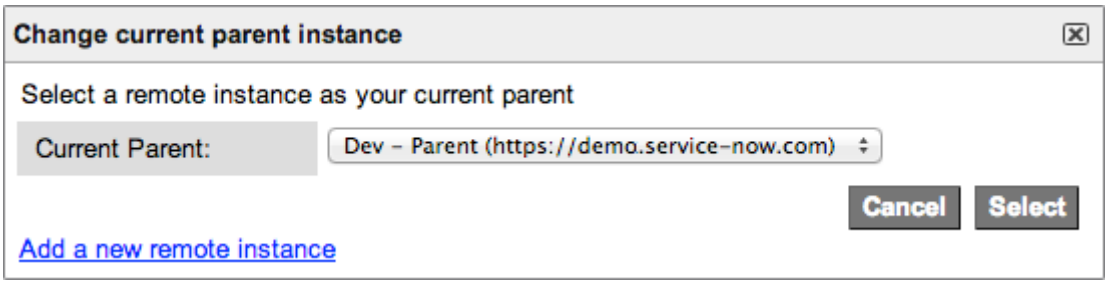
開発インスタンスの親を変更するには：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 開発インスタンスで、チーム開発 > チームダッシュボードに行きます。
2. コントロールパネルで、変更をクリックします。
3. 親として使用するリモートインスタンスを選択し、 選択 をクリックします。

   別の方法として、新しいリモートインスタンスを定義するへのリンクをクリックします。次に、手順1～3を繰り返し、定義したリモートインスタンスを選択します。



   システムは、ローカルインスタンスを親と比較してローカル変更のリストを生成し、親からプルする準備ができた変更の数を計算する調整を開始します。

4. 完了ページで、チームダッシュボードをクリックします。
5. 親インスタンスからプルバージョンしそして競合があれば解決します。
6. ローカル変更リストをレビューし、適切に 変更をキューまたは無視する。

プッシュされた変更のレビューステータスを確認します

親インスタンスでプッシュされた変更がコードレビューを受ける必要がある場合、変更はコードレビューを待つステージに置かれます。

このタスクについて
通知を提出するように親インスタンスを構成した場合、プッシュされた変更が承認または拒否されたときに、提出する開発者に通知を送ります。開発者は、提出するインスタンス上のプッシュとプルモジュールからプッシュされた変更の状態を手動で確認することもできます。

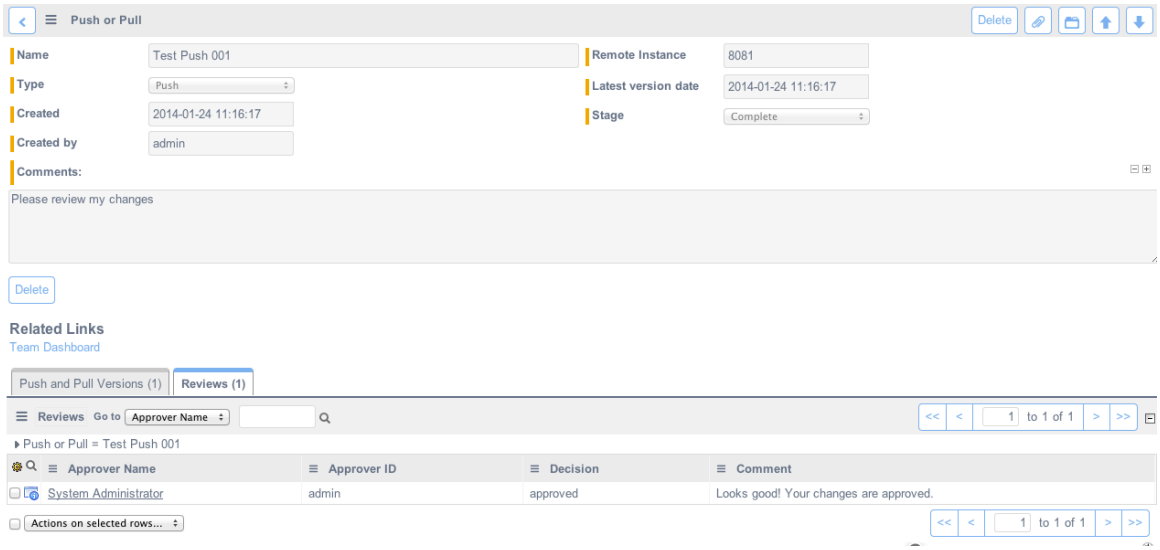
手順

1. レビューのためにコードを提出したインスタンスにログインします。
2. チーム開発 > プッシュとプル に行きます。
3. レビューしたいプッシュをフィルタリングします。

   - 完了ステージでのプッシュは承認され、親インスタンスに適用されます。
   - 競合したステージでのプッシュは競合のために拒絶されます。
   - コードレビューを待つステージにあるプッシュはレビューを待っています。
   - コード変更拒否ステージにあるプッシュは審査員によって拒絶されます。
   - コードレビュー要求がキャンセルされたステージにあるプッシュは、提出する開発者によってキャンセルされます。
4. レビュー関連のリストをクリックして以下の情報を見ます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 誰がレビュー決定を提出しましたか。
- 決定はどちらだったか：承認か拒否ですか。
- 査読者が提供した場合コメントは何ですか。



プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較する

コードレビュー担当者は、プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較して、変更の可能性ある影響を確認できます。

手順

1. コードレビューが必要なインスタンスにログインします。
2. チーム開発 > コードレビューリクエストに行きます。
3. コードレビューを待つステージにある変更を選択します。
4. プッシュまたはプルバージョン関連リストにある変更をレビューします。
5. リスト内の行を右クリックし、そして現在と比較をクリックします。
   プッシュされたバージョンとローカルバージョンの違いの比較が表示される。

関連情報

- 結合用ツール
- 現在のバージョンと比較
- 記事の 2 つのバージョンの比較
- 個々のレコードの競合の解決
- チーム開発の競合を解決する
- 変更を元に戻す
- カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

ピアインスタンスと比較

ローカルインスタンスを他のリモートインスタンスと比較し、開発インスタンスのリモートインスタンスから現在のバージョンを収容できます。

このタスクについて

比較すると、共通の親にプッシュしなくてもインスタンス間でコードを共有できます。

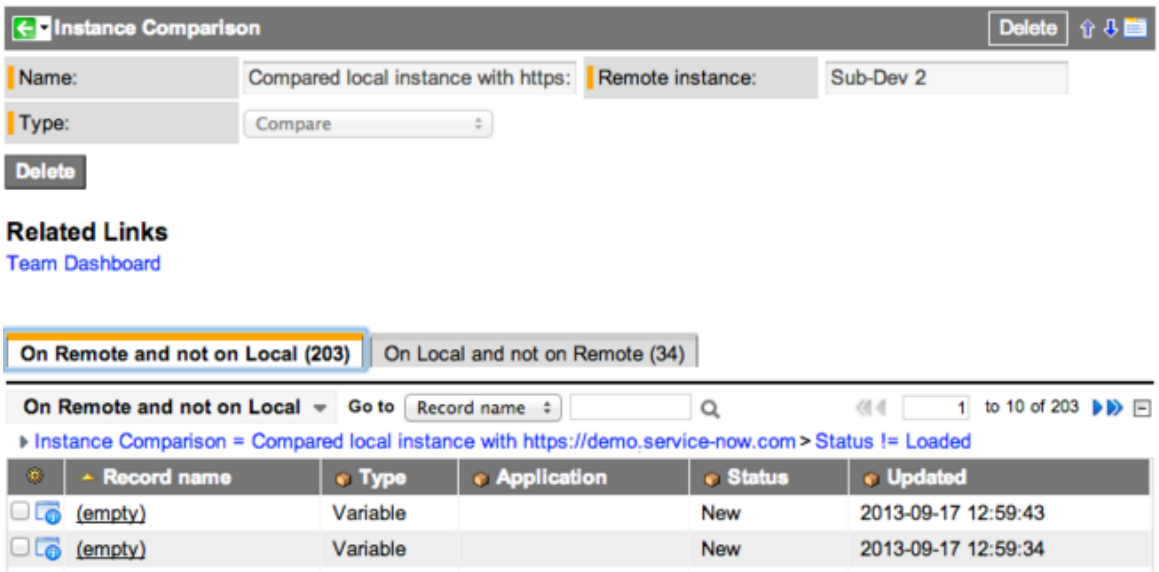
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インスタンスを比較しても、ローカルインスタンスのバージョンは自動的に収容されません。リモートインスタンスのすべての変更とローカルインスタンスのすべての変更の完全比較を開始し、どのカスタマイズされたレコードが異なった現バージョンを持っているかを報告します．リモートインスタンスからバージョンを選択的に収容するか、ローカルインスタンスのバージョンと比較することができます。差異の評価が終了すると、インスタンス比較レコードを削除できます。

ローカル インスタンスとピア インスタンスを比較するには、次のようにします。

手順

1. ピアインスタンスがリモートインスタンスとして定義されるのを確認します。
2. チーム開発 > チームダッシュボードに行きます。
3. コントロールパネルで、比較する をクリックします。
4. ローカルインスタンスと比較するピアインスタンスを選択し、比較 をクリックします。
5. 完了ページで、結果を示す をクリックします。
   インスタンス比較レコードが開きます。



6. そのリモートでローカルではないに関連するリストをレビューし，ピアインスタンスの現在のバージョンがローカルインスタンスにない所のカスタマイズされたレコードを表示します。

   カスタマイズされたレコードごとに、以下を行えます。

   - 現在のリモートバージョンと現在のローカルバージョンを比較するには、行を右クリックして、現在と比較を選択します。
   - 現在のリモートバージョンを現在のローカルバージョンとしてロードするには、行を右クリックし、この変更をロードするを選択する。

ローカル変更を無視する

ローカル変更を無視すると、レコードの更新によってローカル変更リストに新しいバージョンが生成されなくなります。

このタスクについて

無視されたローカル変更は常にレコードの現在のバージョンを指します。無視されたレコードを別のインスタンスにプッシュすることはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

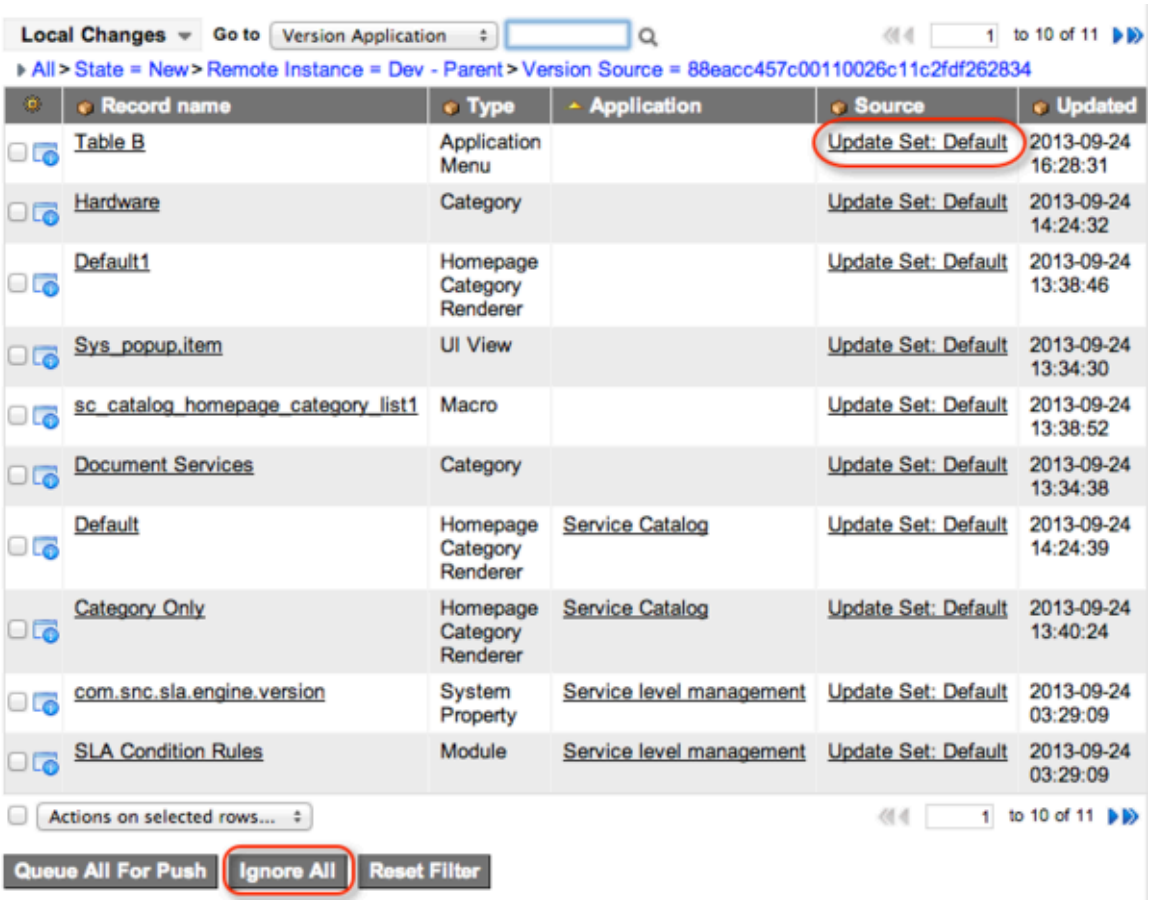
ローカル変更アクションリスト

アクション	結果
プッシュのためにキューに入れられたバージョンを持つレコードを無視する。	キューに入れられた変更は削除されます。
コードレビューのためにキューに入れられたバージョンを持つレコードを無視する。	キューに入れられた変更は削除されます。
無視されたレコードの変更をプルする。	衝突
親バージョンを採用して競合を解決する。	無視するローカル変更がなくなります。
ローカルバージョンを維持して競合を解決する。	無視された変更はローカルインスタンスに残ります。

手順

1. [すべて] > [チーム開発] > [チームダッシュボード] に移動します。
2. ローカル変更リストをフィルタリングして無視したい変更のみを表示します。

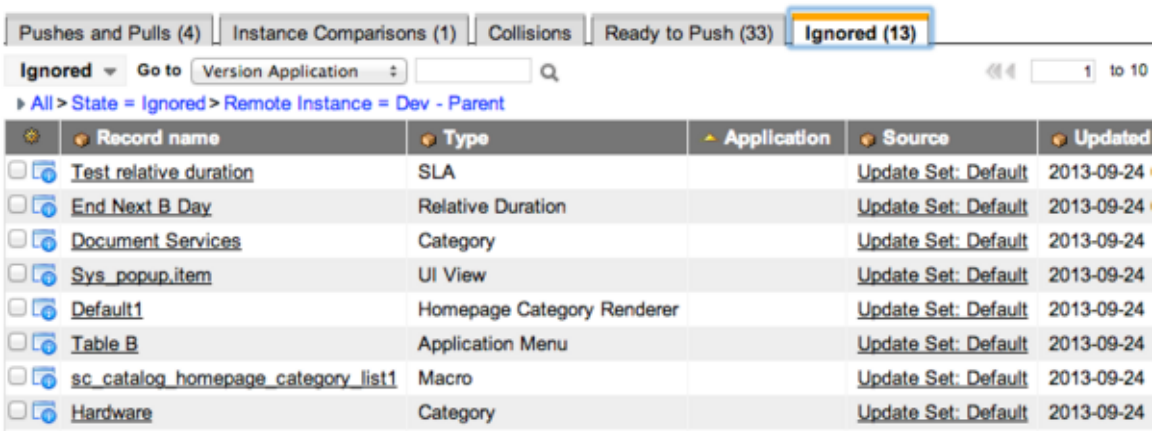
   たとえば、リストをフィルタリングして、デフォルトの更新セットのすべての変更を表示します。



3. 全無視をクリックします。
4. [無視] リストをレビューし正しい変更が無視されることを確認します。
   このステップは推奨されるベストプラクティスです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
変更の無視を停止するには	行の横にあるチェックボックスをオンにして、行動選択リストから無視しないを選択します。
変更を無視するのを止めその代りにそれらをキューに追加するには	行の横にあるチェックボックスをオンにして、行動選択リストからプッシュをキューを選択します。



バージョンをプル

プルは、カスタマイズされたバージョンのレコードを親インスタンスから取り出し、それらを開発インスタンスに追加します。プルでは、システムのアップグレードによって変更されたバージョンは取得しないが、現在のバージョンだけでなく、ユーザーが行った変更のすべてのバージョンを取得します。

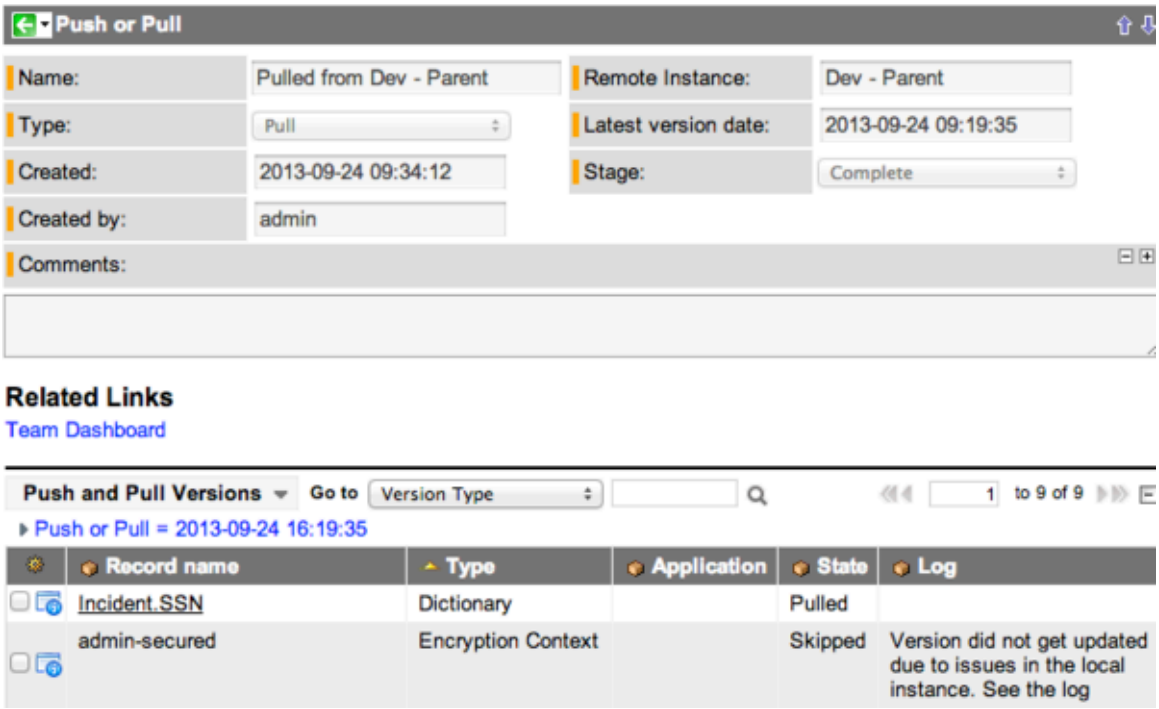
このタスクについて

プルは、まだ開発インスタンスにプルされていないユーザーが行った変更のすべてのバージョンを取得しますが、プルするバージョンを選択することはできません。親インスタンスから初めてプルすると、ユーザーが行った変更のすべてのバージョンを取得します。その後のプルでは、最後のプルから新しいバージョンを取得します。各プルは開発インスタンスの`sys_sync_history` テーブルのプッシュまたはプルで記録されます。履歴バージョンは、履歴 の状態で保存します。

手順

1. [すべて] > [チーム開発] > [チームダッシュボード] に移動します。
2. コントロールパネルで、プルをクリックします。
3. 完了ページで、結果を示す をクリックします。
   [プッシュまたはプル] フォームの [プッシュおよびプルのバージョン] 関連リストは、バージョンが取得されたカスタマイズされたレコードを表示し、プルの例外が存在するかどうかを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. 競合を解決します。

バージョンをプッシュ

プッシュは、開発インスタンスから親インスタンスへの変更を促進し、開発インスタンス上のカスタマイズされたレコードの現バージョンを親インスタンスの現バージョンとして収容します。

このタスクについて

プッシュは、すべての開発バージョンではなく、現開発バージョンのみを親に追加します。

> **注:** 異なるアプリケーションからのレコードの更新は、同じプッシュ/プルでプッシュ/プルすることはできません。他のアプリケーションへの更新が混在しているケースでエラーを解決するには、他のアプリケーションへの更新を戻しキューします。1 アプリケーションのプッシュ1 つのアプリケーションへの更新を再キューします。プッシュしてから、必要に応じて繰り返します。

プッシュすると、完了したとマークされた親にローカル更新セットを作成します。プッシュされた変更は、親のローカルの変更としても追跡します。したがって、更新セットを転送するか、ローカルの変更をプッシュすることで、開発およびテストの階層構造を通じて変更を促進できます。各プッシュは、開発インスタンスのプッシュまたはプルテーブルに記録します。

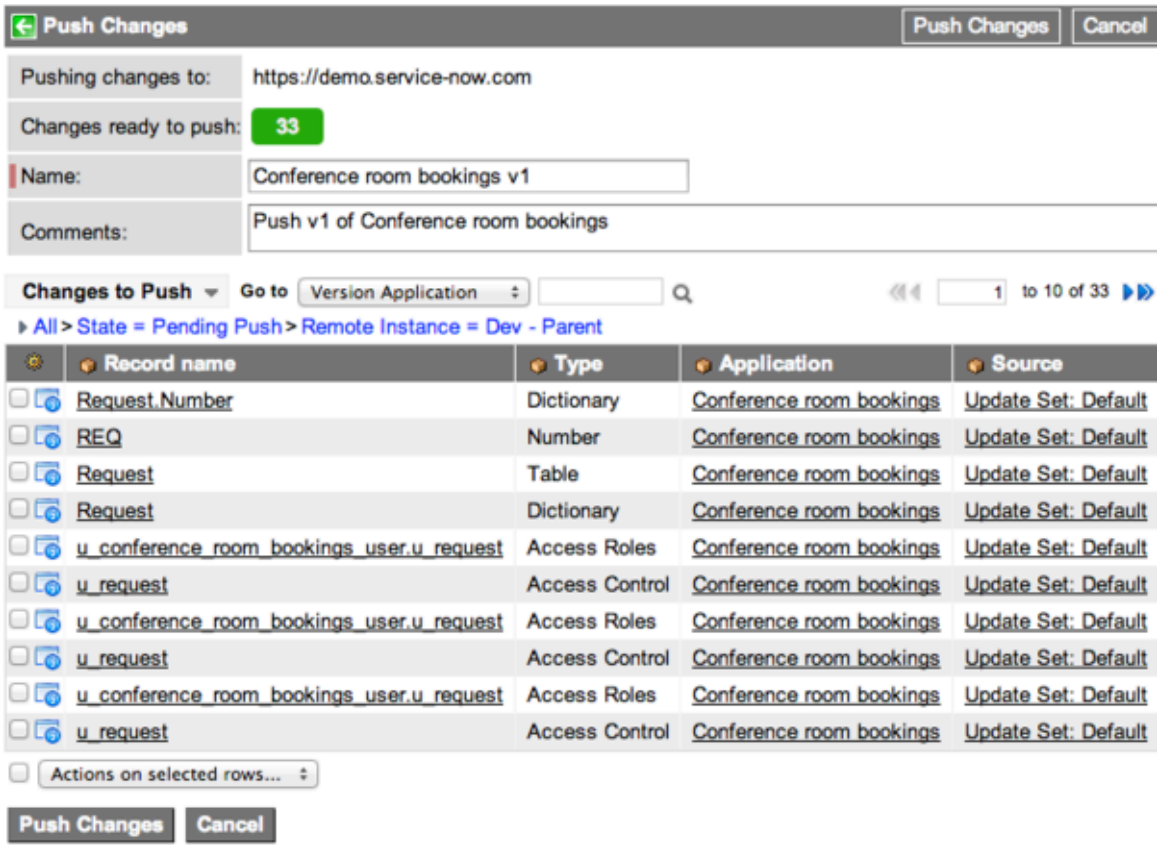
手順

1. [すべて] > [チーム開発] > [チームダッシュボード] に移動します。
2. プッシュする準備ができているローカルの変更をキューに入れます。
3. 親インスタンスからプルバージョンしそして競合があれば解決します。

   競合が検知された場合、親インスタンスに変更をプッシュすることはできません。
4. コントロールパネルで、プッシュをクリックします。
   のページが開きます。
5. 変更のために名を提供します。
6. 変更のリストをレビューして、正しい変更がインクルードされていることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
プッシュしたくない変更を削除するには	行の横にあるチェックボックスをオンにして、行動選択リストからプッシュしないを選択します。
変更を追加するには	キャンセルをクリックし、ステップ2 から手順を繰り返します。



7. オプション: 名前を編集。
   名前は、開発インスタンスのプッシュレコードと、親インスタンスのローカル更新セットレコードを識別します。
8. オプション: コメントを入力。
   コメントは、開発インスタンスのプッシュレコードと親インスタンスのローカル更新セットレコードに追加します。
9. プッシュ変更をクリック。

   システムはプッシュを開始して、プッシュが進む前に競合がないことを確認します。

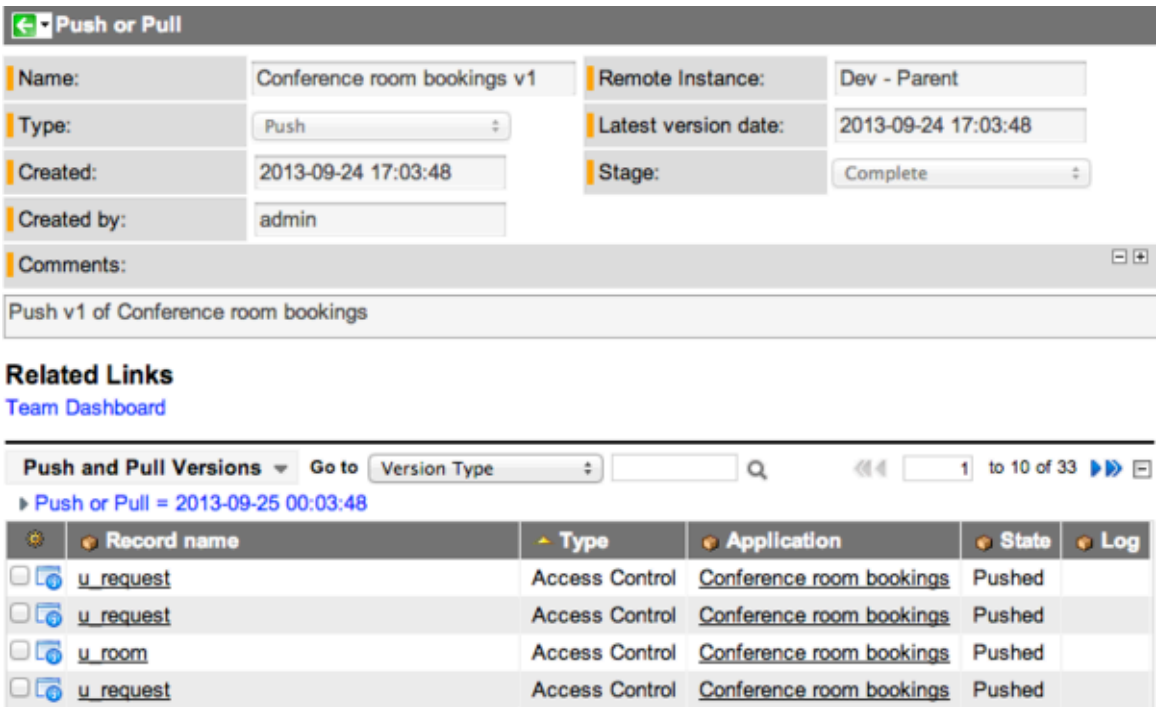
   - 競合が検知された場合、プッシュは自動的にキャンセルされ、ステップ3 から手続きを繰返す必要があります。
   - 競合が検知されない場合、変更は親インスタンスでステージングされます。親では、各バージョンは検証され、レコード間の依存関係を維持するために正しい順序で収容されます。たとえば、新しいテーブルがそのテーブルのフィールドの前に収容され、そのテーブル上のフィールドが正しく作成されていることを確認します。

   注: インスタンス間にバージョンの競合がある、またはプッシュするインスタンスにコードレビューを待つステージにある変更がある場合にはプッシュできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. 完了ページで、結果を示す をクリックします。
11. エラーまたはスキップされた変更のプッシュレコードをレビューします。
    - プッシュされた状態の変化は親インスタンスで収容されます。
    - スキップされた状態を持つ変化は親インスタンスで収容されず、開発インスタンスでローカル変更としてキューに入ったままになります。
12. スキップされた各変更について、ログメッセージを確認して、変更がスキップされた理由を判断します。

    親インスタンスで目的のバージョンを収容するために必要な変更を開発し、それをプッシュします。変更がスキップされる理由の例は次を含みます：
    - テーブルは、開発インスタンス上でプラグインをアクティブ化したときに作成されたため、親には存在しません。親でそのプラグインが有効になっていることを確認し、変更を再度プッシュします。
    - プッシュ中にエラーが発生したもう一度プッシュしてみます。
    - 現在のバージョンは無効以前のバージョンに戻して、バージョンが有効であることを確認するために再度変更を行います。
    - プッシュ中に親にエラーが発生したプッシュレコードのログフィールドは例外メッセージを含みます。親インスタンスのシステムログをレビューし、インスタンスの問題のトラブルシューティングを行います。



プッシュを取り消す

アプリケーション開発者は、望ましくない変更を削除するためにプッシュを取り消せます。

手順

1. チーム開発>プッシュとプルに行きます。
2. 取り消すプッシュを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 取り消しをクリックします。
4. 確認メッセージが表示されるとOKをクリックする。

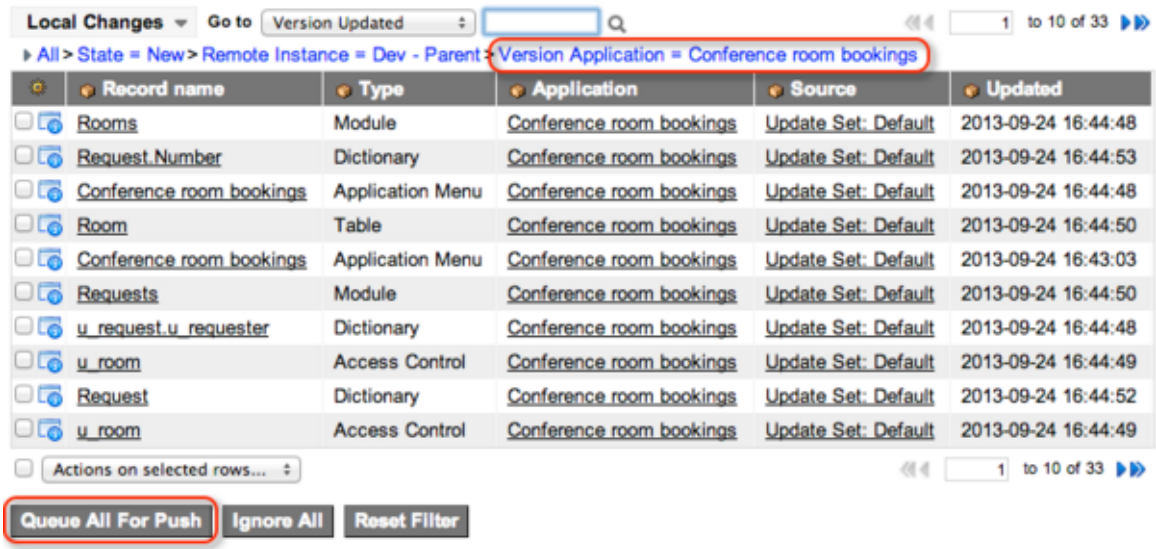
プッシュのローカル変更をキューに入れる

アプリケーション開発者はプッシュのローカル変更をキューに入れ、変更が他の開発者に利用可能であることを保証するプッシュをします。

手順

1. [すべて] > [チーム開発] > [チームダッシュボード] に移動します。
2. ローカル変更リストをフィルタリングして、プッシュする準備ができた変更のみを表示します。

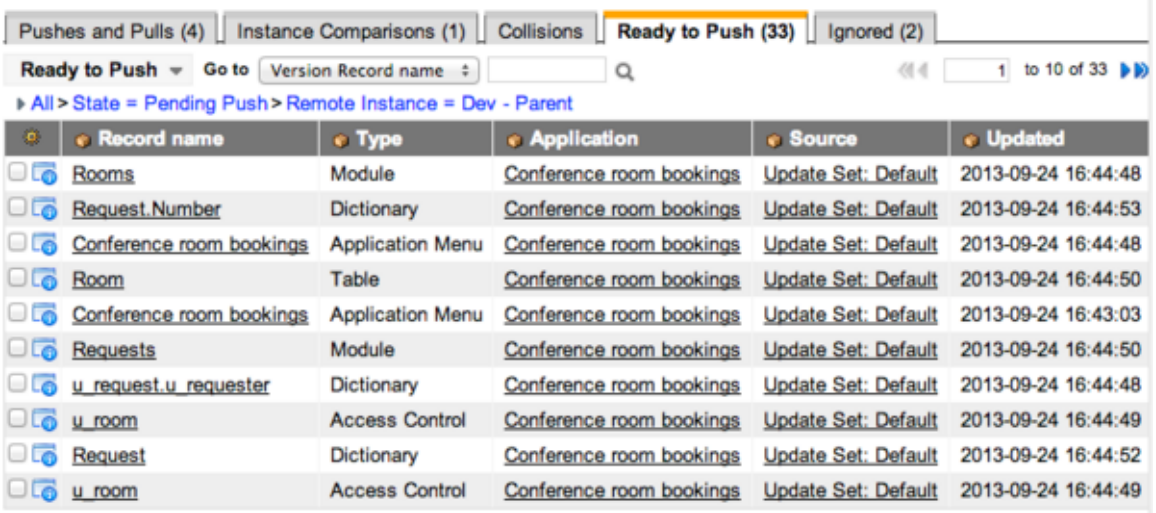
   たとえば、リストをフィルタリングして、特定のアプリケーションに関連付けられた変更のみを表示します。



3. すべてをプッシュのキューをクリックします。
4. [プッシュの準備完了] リストをレビューし、キューに正しい変更が含まれていることを確認します。
   このステップは推奨されるベストプラクティスです。

オプション	説明
キューから変更を削除するには	行の横にあるチェックボックスをオンにして、行動選択リストから プッシュしないを選択します。
変更をキューから削除し、代わりに無視することを選択するには	行の横にあるチェックボックスをオンにして、行動選択リストから この変更を無視するを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: ローカル変更リストについて、フィルターをリセットするをクリックし、追加したフィルタ条件をすべて削除し、キューに入れられていないか無視されているローカル変更をすべて見る。

変更を検証する

最初に比較検証すると、ローカルインスタンスを親と比較し、それからローカル変更のリストを生成し、親からプルする準備ができた変更の数を計算します。

このタスクについて

比較検証は、親インスタンスを選択すると自動的に行われます。クローンやフェールオーバーなど、親インスタンスで外部からの障害イベントが発生した後に手動で比較検証する必要がある場合があります。

注: このプロセスは、インスタンスのサイズと経過時間に応じて完了するまでに時間がかかることがあります。

手順

1. [すべて] > [チーム開発] > [チームダッシュボード] に移動します。
2. コントロールパネルで、をクリックします。比較検証をクリックします。
3. 確認ダイアログボックスで **OK**をクリックします。

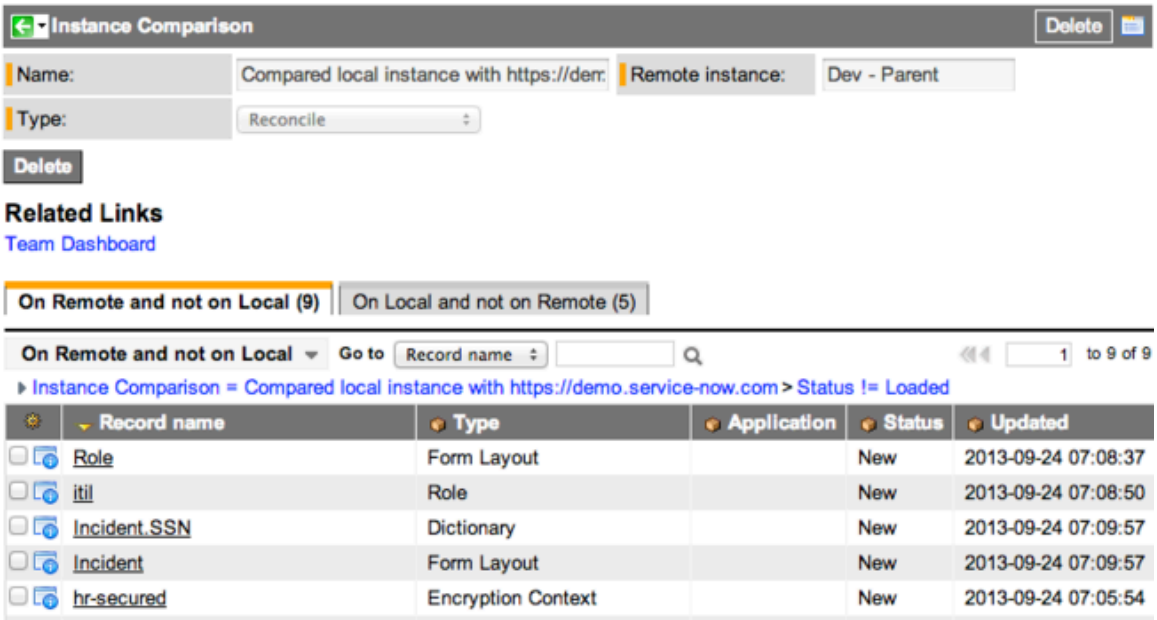
   キューに入れられていないか無視されたローカル変更のリストが再作成されます。以前にローカル変更をキューまたは無視していた場合、その指定は維持されます。

4. オプション: 完了ページで、結果を示す をクリックします。

   インスタンス比較レコードをレビューします。

   - リモートでローカルではない関連リストには、親から引き出す準備ができているバージョンが表示されます。
   - ローカルで、リモートではない関連リストにはキューまたは無視する準備ができているローカルバージョンが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. チームダッシュボードをクリックします。
6. 親インスタンスからプルバージョンし競合があれば解決します。
7. ローカル変更リストをレビューし、適切に 変更をキューまたは無視する。

チーム開発の競合を解決する

競合はプルされたバージョンと現在のローカルバージョンが別のバージョンの変更である場合に検知され、他の誰かがあなたが変更した同じレコードを変更したことを示します。チームダッシュボードには、ローカルインスタンスと親インスタンスの間の競合の数が表示されます。

このタスクについて

変更が他の開発作業と競合しないようにするには、競合が特定されるとすぐに解決する必要があります。プッシュする前に競合を解決しなければなりません。

手順

1. [すべて] > [チーム開発] > [チームダッシュボード] に移動します。
2. コントロールパネルで、競合をクリックするかまたは競合数をクリックします。
   競合のリストが開きます。
3. 行を右クリックし、競合を解決するを選択します。
   または、レコードを開いて、[競合を解決 **(Resolve Collision)]** 関連リンクをクリックします。
   [競合を解決 (Resolve Collision)] ページには、親から取得したバージョンとローカルレコードの比較が表示されます。そのページには違いが強調表示されています。
4. 違いを確認し、アクションを実行します。

オプション	アクション
現在のバージョンとしてローカルレコードを維持するには	ローカルバージョンを使用をクリックします。プルされたバージョンがレコードのバージョン履歴に追加されます。
現バージョンとして親からプルしたバージョンをロードするには	取り込んだバージョンを使用をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
選択したバージョンから設定を移動して現バージョンを更新するには 注: いくつかのタイプのレコードは、このメソッドをサポートしていません。詳細については、「レコードの更新に関する制限」を参照してください。	変更を移動するには、そのフィールドの > (右に移動)ボタンを押します。スクリプトやテキストフィールドを操作するには、フィールド内をクリックし、必要に応じてテキストを変更します。レコードがニーズに適合すると、結合を保存して競合を解決するをクリックします。

システムはそのアクションを実行し、将来のプッシュ/プルについても競合をクリアします。

5. 残りの競合ごとにこのプロセスを繰り返します。

タスクの結果

システムはマージされた変更を保存し、競合を解決する。

関連情報

- 現在のバージョンと比較
- プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較する
- 記事の 2 つのバージョンの比較
- 個々のレコードの競合の解決
- 変更を元に戻す
- カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

レコードの更新に関する制限

現在と競合の解決ページを比較して違いを解決する間に、結合できないレコードがいくつかあります。

プルしたまたは現在のレコードを元に戻すか受け入れるかだけを選択できるレコードタイプ

次のレコードタイプでは、個々の値を結合することはできません。代わりに、次のレコードタイプに関連する違いは、読み取り専用の比較を表示し、更新と復帰のどちらかを選択できます：

- sys_choice [選択]
- sys_choice_set [選択セット]
- sys_ui_form [フォーム]
- sys_ui_list [リスト]
- sys_ui_related_list [関連リスト]
- sys_ui_section [フォームセクション]
- wf_workflow [ワークフロー]
- wf_workflow_version [ワークフローバージョン]

チーム開発、競合の解決ページ： プルしたバージョンの使用そしてローカルバージョンを使用するオプション。

アップグレード履歴、現在のページと比較：非現在の更新バージョンと現在の更新バージョンの比較。ベースシステムに戻すオプションのみ許可します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

結合をサポートしないフィールド型

次のフィールドタイプは、バージョンまたは更新の個々の結合をサポートしていません：

- auto_increment [自動インクリメント]
- auto_number [自動番号]
- breakdown_element [ブレークダウン要素]
- catalog_preview [カタログプレビュー]
- collection [コレクション]
- color_display [カラー表示]
- composite_field [複合フィールド]
- compressed [圧縮]
- counter [カウンター]
- currency [通貨]
- data_array [アレイデータ]
- data_object [オブジェクトデータ]
- data_structure [構造データ]
- date
- datetime
- days_of_week [曜日]
- document_id [ドキュメントID]
- due_date [期限日付]
- Email [電子メール]
- external_names [外部名]
- field_list [フィールドリスト]
- float [浮動小数点数]
- glide_action_list [UIアクションリスト]
- glide_precise_time [正確な時刻]
- glide_var [グライド変数]
- image
- index_name [インデックス名]
- int
- integer_time [整数時間]
- ip_address [IPアドレス]
- journal [定期報告]
- journal_input [ジャーナル入力]
- journal_list [ジャーナルリスト]
- long
- mask_code [マスクコード]
- metric_absolute [メトリクス絶対]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- metric_counter [メトリクスカウンタ]
- metric_derive [メトリクス導出]
- metric_gauge [メトリクスゲージ]
- mid_config [MID サーバー構成]
- month_of_year [年中の月]
- multi_small [複数行小テキストエリア]
- name_values [名前/値]
- nl_task_int1 [NL タスク整数1]
- order_index [指数インデックス]
- password [パスワード (1 方向暗号化)]
- percent_complete [パーセント 完全]
- ph_number [電話番号]
- phone_number [電話番号 (使用せず)]
- phone_number_e164 [電話番号(E164)]
- price [価格]
- reference_name [参照名]
- related_tags [関連タグ]
- reminder_field_name [リマインダーフィールド名]
- repeat_count [繰り返し回数]
- repeat_type [繰り返しタイプ]
- replication_payload [レプリケーションペイロード]
- schedule_date_time [スケジュールの日付/時刻]
- short_field_name [ショート フィールド名]
- short_table_name [短いテーブル名]
- Slushbucket [スクラッシュ バケット]
- source_id [ソース ID]
- source_name [ソース名]
- source_table [ソーステーブル]
- string_boolean [<なし>]
- sys_class_name [システムクラス名]
- sysrule_field_name [システムルールフィールド名]
- table []
- text []
- time []
- timer [タイマー]
- translated [翻訳された]
- tree_code [ツリーコード]
- tree_path [ツリーパス]
- user_image [画像]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- user_input [ユーザー入力]
- variables [変数]
- version [バージョン]
- video [ビデオ]
- week_of_month [月の週]
- wide_text [幅広テキスト]
- wms_job [WMS ジョブ]
- workflow [ワークフロー]

関連情報

チーム開発の競合を解決する

複数の競合を解決する

ローカルとプルされたバージョンの違いをレビューすることなく、複数の競合を解決できます。

手順

1. [すべて] > [チーム開発] > [チームダッシュボード] に移動します。
2. コントロールパネルで、競合回数をクリックします。
   競合のリストが開きます。
3. 解決したい行の横にあるチェックボックスをオンにします。
4. [アクション *(Actions)*] 選択リストで、次のいずれかの方法を使用して競合を解決します。

オプション	説明
親から引き出されたバージョンを、選択されたすべての競合の現在のバージョンとして読み込みます。	プルされたバージョンを使用を選択します。
選択したすべての競合の現バージョンとしてローカル バージョン(ローカル レコード)を維持します。 プルされたバージョンは、レコードのバージョン履歴に追加します。	ローカルバージョンを使用を選択します。

チーム開発のセットアップ

複数の非本番インスタンスで並列開発を可能にするために、アドミニストレーターはチーム開発インスタンス階層を設定し、開発者にアクセス権を付与できます。

開発者のアクセス権

チーム開発を使用するには、アプリケーション開発者はチーム開発階層内の各インスタンスの認証情報セットを持っていることが必要です。

チーム開発の階層内のインスタンスの配置は必要とする認証情報を決定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

チーム開発アクセスの認証情報

希望するアクセス	認証情報の要件
チーム開発アプリケーションへのアクセス	アクセスしているインスタンスでアドミンロールを持つユーザー
リモートインスタンスを登録するための権利	次の内のいずれか: • 登録しているインスタンスでアドミンロールを持つユーザー • 登録しているインスタンスでteamdev_userロールを持つユーザー
開発インスタンスから親インスタンスへの変更をプッシュする権利	次の内のいずれか: • 親インスタンスでadminロールを持つユーザー • 親インスタンス上のteamdev_userロールを持つユーザー
登録されたリモートインスタンスと比較する権利	次の内のいずれか: • 登録された開発インスタンスのアドミンロールを持つユーザー • 登録された開発インスタンスでteamdev_userロールを持つユーザー
コードレビューリクエストモジュールへのアクセス	次の内のいずれか: • 親インスタンスでアドミンロールを持つユーザー • 親インスタンスに対するteamdev_code_reviewer ロールを持つユーザー

注: teamdev_user ロールはチーム開発アプリケーションへのアクセスを許可しません。また、開発者がローカル開発インスタンスで作業することを意図していません。親インスタンスやピア開発インスタンスなどのリモートインスタンスへの非アドミンアクセスを開発者に付与することを目的としている。

除外ポリシーを作成

アプリケーション開発者は、チーム開発階層内の特定のインスタンスへのプッシュまたはプルを防止するための除外ポリシーを作成できます。

手順

1. [すべて] > [チーム開発] > [除外ポリシー] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 除外ポリシーのフォームを完了します(表を参照ください)。
4. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

除外ポリシーフォーム

フィールド	説明
名前	ポリシーのユニークな記述を入力します。
ポリシー	ポリシーが適用されるときに選択します。次のオプションが含まれます。 ◦ プッシュのみ ◦ プッシュおよびプル ◦ プルのみ
リモートインスタンス	[オプション]プル操作中からの変更を無視する特定のリモートインスタンスを選択します。このフィールドを空白のままにすると、すべてのリモートインスタンスからの変更を無視します。
テーブル	変更を無視するテーブルを選択します。
条件	変更が表名以外を無視するために満たさなければならない追加条件を選択します。このフィールドは、ポリシーがプッシュのみの時にのみ表示されます。

リモートインスタンスを定義

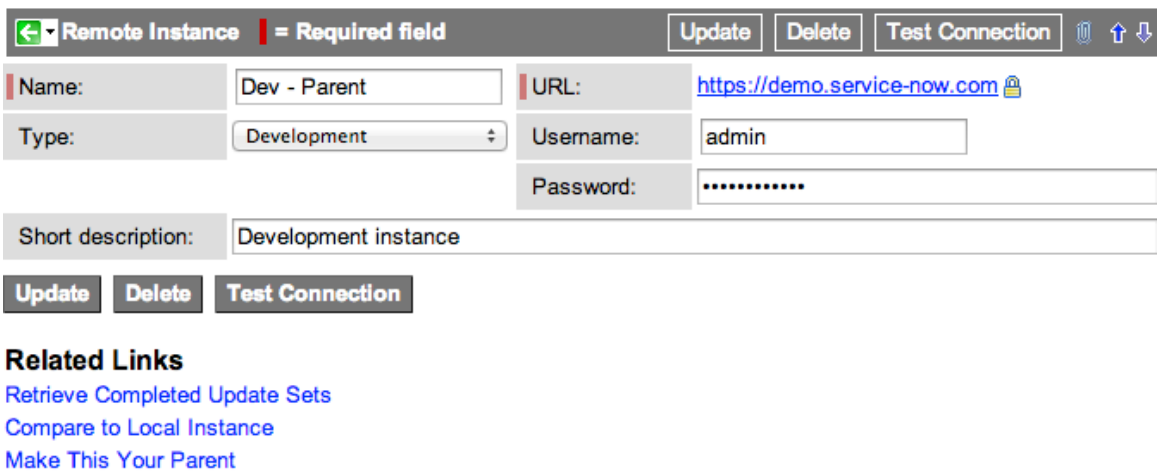
各インスタンスについて、階層内の他のインスタンスをリモートインスタンスとして定義します。

このタスクについて

たとえば、Sub-Dev 1のリモートインスタンスを設定するには：

手順

1. IP アドレスアクセスコントロールが有効な場合は、リモートインスタンスにログインし、Sub-Dev 1を例外として追加します。
2. Sub-Dev 1で、チーム開発 > リモートインスタンス に行きます。
3. [新規] をクリックします。
4. フォームを完了することによって、Dev-Parentなどのリモートインスタンスを定義します(表参照)。



5. [送信] をクリックします。
6. このインスタンスがプッシュしてプルする必要がある階層内の各インスタンス(Sub-Dev 2やSub-Dev 3など)に対してステップ1 からステップ5 までを繰り返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートインスタンスフォーム

フィールド	説明
名前	インスタンスを説明する一意の名前を入力します。
タイプ	リモートインスタンスが開発、テスト、またはUATインスタンスのいずれであるかを指定します。
有効	ローカルインスタンスがチーム開発のメンバーとしてリモートインスタンスと通信するかどうかを指定します。インスタンス間の変更の比較や親インスタンスの選択などのチーム開発操作は、アクティブなリモートインスタンスでのみ使用できます。
URL	適切な転送プロトコルを使用してリモートインスタンスのURLを指定します。各リモートインスタンスレコードにはユニークなURLが必要です。同じURLを持つ重複レコードを作成すると、エラーが発生する可能性があります。
ユーザー名	インスタンスに対するチーム開発操作を認可するリモートインスタンスにユーザーを入力します。このユーザーアカウントには、リモートインスタンスに対して適切なロールが必要です。
パスワード	承認ユーザーのパスワードを入力します。
簡単な説明	[オプション]リモートインスタンスに関するその他の関連情報を入力します。

コードレビューを有効にする

インスタンスにプッシュされたすべての変更のコードレビューを要求できます。

手順

1. [すべて] > [チーム開発] > [プロパティ] に移動します。
2. このプロパティが*Yes*に設定されている場合、このインスタンスにプッシュする前にコードレビューが必要であるのチェックボックスにはいを選択します。
   (com.snc.teamdev.requires_codereview)。
3. [保存] をクリックします。

   このプロパティを設定すると、コードレビューリクエストモジュールがアプリケーションメニューに追加され、このインスタンスにプッシュされたすべての変更がコードレビューを待つステージにチーム開発コード審査員グループの誰かがそれらを承認するまで留まる。

親インスタンスを選択する

インスタンスは、複数のピアインスタンスを持つことができますが、親インスタンスは1つのみです。

このタスクについて

親インスタンスは、そこから変更をプルしそして変更をプッシュできる唯一のインスタンスです。

親インスタンスは、ローカルインスタンスと同じリリースファミリになければなりません。たとえば、Genevaリリースファミリの開発インスタンスには、Genevaリリースファミリの親インスタンスも必要です。異なるリリースファミリから親を選択すると、チーム開発ダッシュボードにエラーメッセージが表示され、変更をプルし比較検証することはできなくなります。別のパッチリリースか

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ら親を選択した場合、ダッシュボードには警告メッセージが表示されますが、変更を取り込んで調整できます。

プロダクションインスタンスまたはテストインスタンスでチーム開発を使用しません。

- テストまたは本番インスタンスをチーム開発の親インスタンスとして使用しない。
- どのインスタンスも本番インスタンスの親としない。
- 本番インスタンスは親を持ってはいけない。

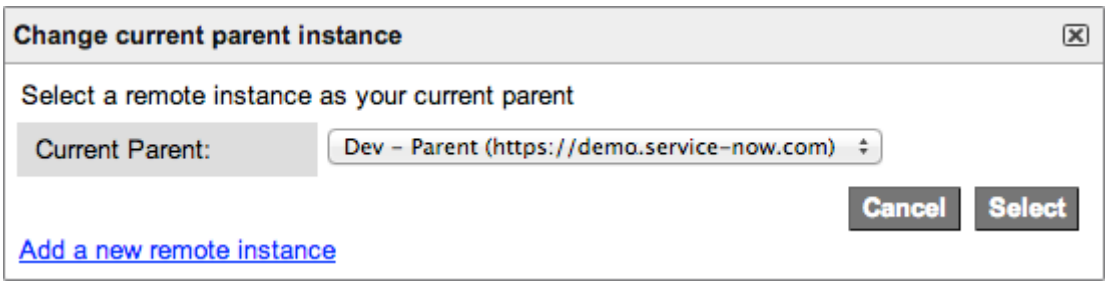
チーム開発インスタンス上の変更を取り消す場合、その変更をソースインスタンス上の仕事を戻すことを含めて、その連鎖の最後に戻るまで取り消します。この行動はテストと本番インスタンスに重要な問題を引き起こすかもしれません。

手順

1. [すべて] > [チーム開発] > [チームダッシュボード] に移動します。
2. コントロールパネルで、適切なリンクをクリックします。

チームダッシュボードコントロールパネルのオプション

オプション	説明
<instance name and URL> を使用する	最後に定義されたリモートインスタンスを親インスタンスとして選択します。
別のインスタンスを選択	別のリモートインスタンスを選択したり、新しいリモートインスタンスを定義したりするためのダイアログボックスを開きます。
新しいインスタンスを登録するか、すべてのリモートインスタンスをリスト表示する	新しいインスタンスを定義できるリモートインスタンスフォームまたはリストを開きます。これらのオプションは、リモートインスタンスが定義されていない場合に使用できます。



3. 手順2で新しいリモートインスタンスを定義した場合は、ステップ1 からステップ2 までを繰り返しそして定義したリモートインスタンスを選択します。

   システムは、ローカルインスタンスを親と比較する比較検証を開始します。その後、ローカル変更のリストを生成し、親から引き出す準備ができた変更の数を計算します。比較検証は、インスタンスのバージョンも検証します。

4. 両方のインスタンスが同じリリースファミリにある場合は、親インスタンスからすべての変更をプルします。

   注: 親インスタンスは、 `glide.apps.hub.current` システムプロパティに保存する。

インスタンス階層を設定する

開発ライフサイクルを最もよくサポートするインスタンス階層を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
この例では、いくつかのピアサブ開発インスタンスが同じ親開発インスタンスを持つインスタンス階層を設定する方法を提示しますが、複数のプロジェクトチームや他の顧客要件を処理するためにより複雑な構成が必要な場合があります。

プロダクションインスタンスまたはテストインスタンスでチーム開発を使用しません。

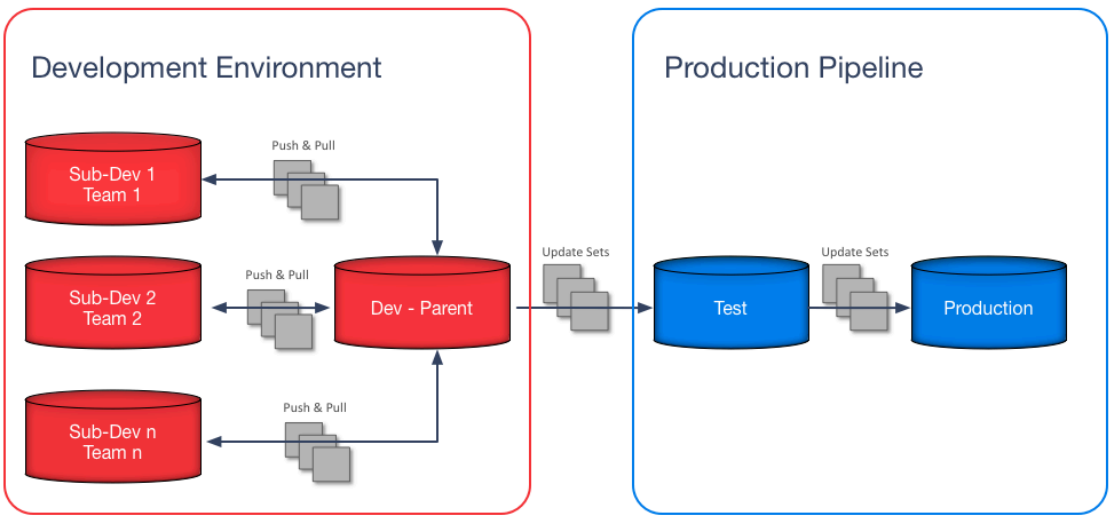
- テストまたは本番インスタンスをチーム開発の親インスタンスとして使用しない。
- どのインスタンスも本番インスタンスの親としない。
- 本番インスタンスは親を持ってはいけない。

チーム開発インスタンス上の変更を取り消す場合、その変更をソースインスタンス上の仕事を戻すことを含めて、その連鎖の最後に戻るまで取り消します。この行動はテストと本番インスタンスに重要な問題を引き起こすかもしれません。

手順

1. プロダクションなどのターゲットインスタンスとして、Dublin などの同じソフトウェアバージョンで親開発インスタンスを使えるようにします。
2. 本番インスタンスを親開発インスタンスにクローンします。
   このステップは推奨されるベストプラクティスです。
3. 親開発インスタンスと同じソフトウェアバージョンのサブ開発インスタンスを使えるようにします。
4. オプション: 親開発インスタンスにログインし、サブ開発インスタンスにクローンします。
5. 各サブ開発インスタンスで：

   a. リモートインスタンス接続をこのインスタンスがプッシュおよびプルする必要がある階層内の他のインスタンスに向けて定義します。
   b. 親インスタンスを定義します。
   c. すべての変更を親インスタンスからプルします。
   d. 適切な開発者にアクセス権を与えます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードレビュー

チーム開発アドミニストレーターは、プッシュを受け入れる前にプッシュをコードレビューする必要があります。

コードレビューが有効になっている場合、変更を親インスタンスにプッシュすると、コードレビューワークフローをトリガします。デフォルトでは、teamdev_code_reviewerロールを持つユーザーは変更を確認するための通知を受け取り、変更を承認または拒否できます。チーム開発コード査読者には、teamdev_code_reviewer ロールがあります。

各変更について、査読者は以下の情報を見ることができます。

- どのリモートインスタンスからプッシュされた変更が来ているか。
- 誰が変更を親にプッシュしたのか。
- 何が変わったのか。
- いつ変更が作成されたのか。
- 変更に含まれるバージョン。

査読者はチーム開発アプリケーションからのプッシュを承認または拒否する必要があります。

変更が親インスタンスでレビューされている間、子インスタンスは親インスタンスに関連する次のアクティビティを実行できません：

- 親インスタンスへ変更をプッシュする。
- 親インスタンスからの変更をプルする。
- 親インスタンスで変更を比較検証する。
- 親インスタンスを別のインスタンスに変更する。
- 親インスタンスのリモートインスタンスレコードを削除する。

コードレビューの通知

コードレビュー通知を送付するには、そのインスタンスのコードレビューが必要なインスタンスで電子メール通知を有効にする必要があります。

チーム開発コードレビューワークフローは、次の場合にチーム開発コード審査員グループのメンバーに通知を送ります。

- プッシュにはコードレビューが必要です。
- ユーザーはプッシュをキャンセルします。

変更をプッシュしたユーザーが、コードレビューが必要なインスタンスに電子メールアドレスを持つユーザーレコードがある場合、ユーザーは承認ステージが完了 (承認済み)またはコード変更拒否 に設定されたときに通知を受け取ります。

コードレビュー通知には、次の情報が含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードレビュー通知テーブル

通知の名称	テーブル	コンテンツ
開発者向けコードレビューの更新	プッシュまたはプル [sys_sync_history]	• プッシュ名 • プッシュの承認段階(承認済みまたは却下済み) • コードレビュー要求が行われたインスタンスへのリンク
キャンセルされたレビューのコードレビュー担当者に通知する	プッシュまたはプル [sys_sync_history]	• レビューをキャンセルしたユーザー • キャンセルされたプッシュ

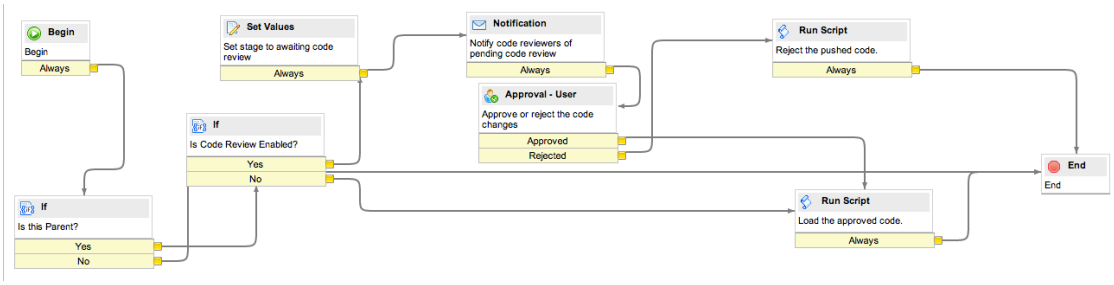
コードレビューワークフロー

チーム開発コードレビューワークフローは、変更がどのように親にプッシュされるかを管理します。

デフォルトでは、このワークフローは：

- 変更が親インスタンスにプッシュされたときに開始する。
- コードレビュープロパティが親インスタンスでアクティブであることを検証する。
- 承認が必要な変更のステージを コードレビューを待つに設定する。
- 設定されている場合は、プッシュされた変更をレビューするようにチーム開発コード査読者グループに通知する。
- 承認された変更をロードするか、ステージをコード変更拒否 にセットする。

チーム開発コードレビューワークフロー



警告: コードレビュー機能が適切に機能しない可能性があるため、このワークフローを変更するときは注意が必要である。

除外ポリシー

除外ポリシーを作成すると、特定のファイルを変更追跡から除外できます。

変更が除外ポリシーと一致する場合、変更はローカル変更リストにレコードを生成しません。この変更は、ローカルバージョンレコードと更新セットレコードを正常として生成します。除外ポリシーの作成を参照してください。

注: 除外ポリシーは、調整操作中に特定された変更に適用します。比較検証後に除外ポリシーを作成すると、チーム開発は引き続き次の調整まで変更を追跡します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インスタンス階層

チーム開発は、複数のServiceNow各インスタンスがソースリポジトリまたはブランチとして機能するインスタンスの間で分散バージョンコントロールシステムを設定するのを許可します。

開発者は、別々のインスタンスを使用して、異なる機能、アプリケーション、または製品リリースを同時に処理します。チーム開発を使用すると、開発者はこれらのインスタンス間でコードを共有し、開発プロセス全体で競合を解決できます。

チーム開発はインスタンス間の階層関係を確立する必要に応じて更新セットプロセスと統合するインスタンス間の変更を転送するためのメカニズムを提供するのを可能とします。チーム開発インスタンス階層では、各非本番インスタンスには親インスタンスがあります。親インスタンスが同じインスタンスはピアインスタンスです。共有親インスタンスは中央ハブまたはリポジトリになり、そしてすべてのピアインスタンスがそれに同期する。

プッシュおよびプル

開発者は、カスタマイズされたレコードのバージョンをプルおよびプッシュし、親インスタンスと開発インスタンスのバージョン間の競合を解決することによって、インスタンスを親インスタンスに同期させます。

開発者は、バージョンを親インスタンスにプッシュする前に、ピアインスタンスを互いに比較し、コードを共有したり、競合を解決したりすることができます。

親からプルすると、カスタマーアップデートを含むレコードのバージョンが取得されます。プルでは、履歴インスタンスを含む、開発インスタンスにまだプルされていないすべてのバージョンが取得されます。プルするバージョンを選択することはできません。さらにプルまたはプッシュする前に、競合があれば解決する必要があります。

親にプッシュすると、すべての開発バージョンではなく、現在の開発バージョンのみが親に追加されます。親にプッシュする変更を選択できます。プッシュすると、完了したとマークされた親にローカル更新セットを作成します。プッシュされたバージョンは、親のローカル変更としても追跡されます。したがって、更新セットを転送するか、ローカルの変更をプッシュすることで、開発およびテストの階層構造を通じて変更を促進できます。

比較することで、２つのピアインスタンスの違いをレポートします。ピアインスタンスからプルするバージョンを選択できます。

チームダッシュボードの [プッシュとプル] 関連リストには、変更を作成したユーザーと、変更が作成されたリモートインスタンスが表示されます。

チーム開発手順

基本的なチーム開発プロセスは、インスタンス階層を設定し、開発者のアクセス権を付与し、開発インスタンスからテストインスタンスへの開発変更の移動を管理し、アプリケーションを本番インスタンスに昇格させます。

手順

1. インスタンス階層を設定するに述べたように開発インスタンスの階層を設定します。

   a. ターゲットインスタンスと同じソフトウェアバージョンで開発インスタンスを使えるようにします。たとえば、本番インスタンスで実行されているソフトウェアバージョンを使用します。

   b. [推奨]ターゲットを開発インスタンスにクローンします。

   c. 各インスタンスについて、親インスタンスを定義します。

   d. [オプション]各インスタンスに対して、ピアインスタンスを定義します。

   e. 各インスタンスについて、すべての変更を親インスタンスからプルします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. サブ開発インスタンスの場合は、適切な開発者にアクセス権を与えます。
3. サブ開発インスタンスのカスタマイズを開発します。

   チームダッシュボードを使用して開発活動を追跡します。

   - 他のサブ開発インスタンスからプッシュされたバージョンなど、親インスタンスからバージョンをプルします。必要に応じて、現在のローカルバージョンとの競合を調整します。
   - ローカル変更を追跡します。親開発インスタンスにプッシュする準備ができている変更をキューに入れます。
   - ピアインスタンスのバージョンを比較します。競合を調整します。
4. 機能が親開発インスタンスに昇格する準備ができると、カスタマイズされたレコードの現在のバージョンをプッシュします。
5. オプション: コードレビュー担当者に、プッシュされたバージョンを承認または却下してもらいます。
6. テストおよびリリース管理プロセスに従って、機能をテストし、プロダクションにプロモートする。

関連情報

チーム開発

開発者のアクセス権

バージョンをプッシュ

チーム開発ロール

チーム開発を使用するには、開発者が開発インスタンスにアドミン権限を持っている必要があります。

親インスタンスにプッシュを許可するには、リモートインスタンス接続は親インスタンスへの管理アクセス権を持つユーザーアカウントで定義する必要があります。

開発者の親インスタンスへのアクセスを制限するには、開発者にアクセス権を与えるを参照下さい。

コードレビュー機能を使用するには、teamdev_code_reviewerロールが必要です。コードレビューを参照してください。

バージョン

バージョンレコードは、アドミニストレーターが後で特定のバージョンと比較したり元に戻したりできるように、カスタマイズされたレコードの変更を時間とともに追跡します。

アドミニストレーターは、更新セットまたはチーム開発を使用してインスタンス間でバージョンを転送できる。

バージョンレコードナビゲーション

オブジェクトのバージョンのリストを表示するには、さまざまな方法があります。

- フォームには、ヘッダーを右クリックし、そして設定 > フォームレイアウトを選択する。
- リストには、リストバージョンに合わせて適切なアクションを実行する。
  - リスト V2: ヘッダーを右クリックし設定 > リストレイアウトを選択する。
  - リスト V3: リストタイトルメニューを開き、リストレイアウト選択する。
- バージョンの表示関連リンクをクリックする。

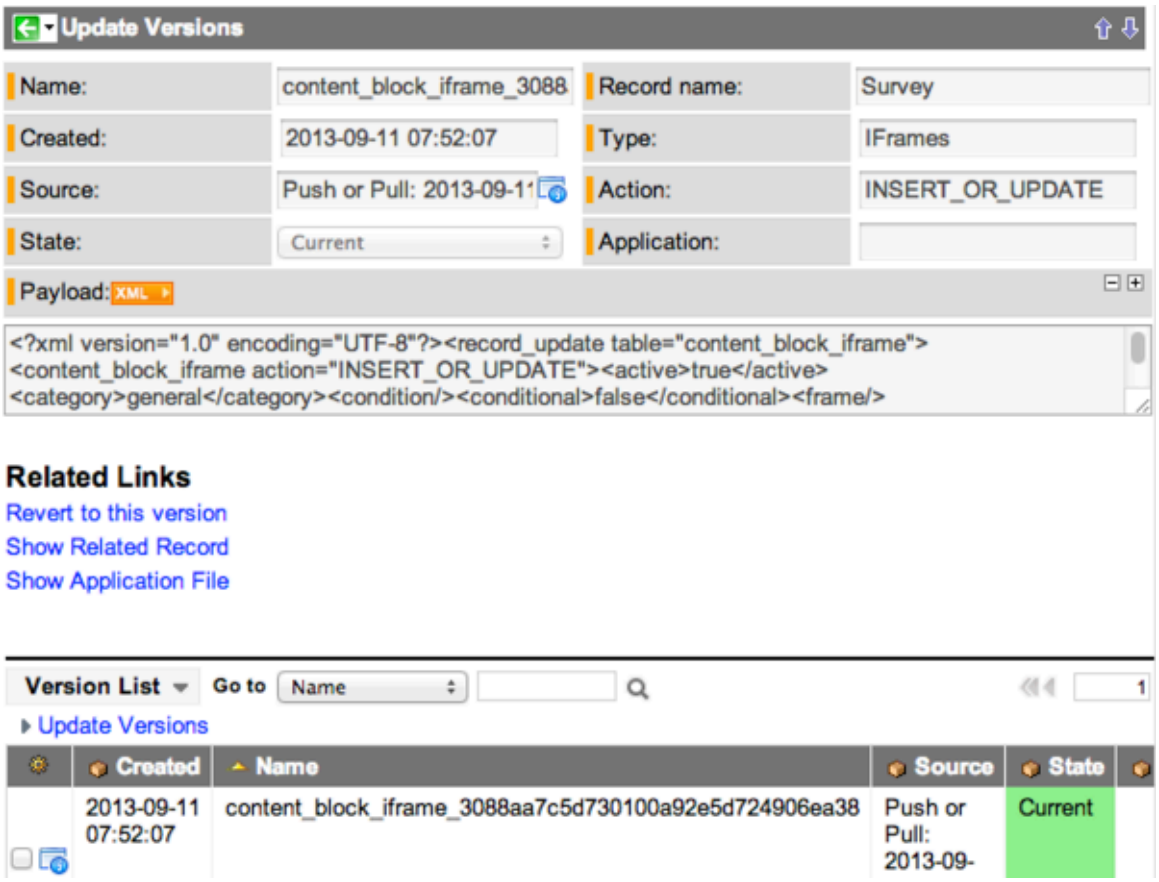
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- update_synchプロパティを使用するテーブルの場合は、 バージョンに関連するリストをフォームに追加する。このリストは、ビジネスルール、UIアクション、クライアントスクリプトなど、デフォルトでいくつかの形式で表示されます。
- カスタマイズ可能なオブジェクトの場合は、フォームヘッダーを右クリックし、アプリケーションファイルを表示し、次にスクロールダウンして関連レコード バージョン関連リストに行く。

バージョン レコードから次のものに行ける:

- カスタマイズされたオブジェクト： 関連レコードを表示関連リンクをクリックする。
- オブジェクトのアプリケーションファイルレコード： アプリケーションファイルを表示する関連リンクをクリックする。

バージョンレコード



転送するバージョン

アドミニストレーターは、更新セットまたはチーム開発アプリケーションでカスタマイズを移動して、インスタンス間でバージョンレコードを転送します。

- 更新セット：更新セットを収容するとバージョンが追加となる。更新セットの各更新には、更新に対応するバージョンがローカルインスタンスに追加される。
- チーム開発:
  - プルすると、親インスタンスから、まだプルされていないカスタマイズされたレコードのすべてのバージョンが取得され、ローカルインスタンスに追加される。
  - プッシュすると、すべてのローカルバージョンではなく、現在のローカルバージョンのみが親インスタンスに追加される。
  - ピアインスタンスから変更をロードすると、選択したバージョンがローカルインスタンスに追加される。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

バージョンレコード

更新バージョン `[sys_update_version]` テーブルには、特定の時間にカスタマイズ可能なオブジェクトの状態を表すレコードが含まれています。

カスタマイズ可能なレコードは、ビジネスルールやスクリプトインクルードなど、更新セットによって追跡されるオブジェクトです。ユーザーがカスタマイズ可能なレコードを変更するか、カスタマイズ可能なレコードのアプリケーションファイルを変更するたびに、新しいバージョンレコードが自動的に作成されます。

レコードは、最新のアップグレードで提供されたベースシステムオブジェクトのバージョンを表します。ベースラインバージョンは、ユーザーによって変更されたオブジェクトに対してのみ作成され、システムがアップグレードされるたびに更新されます。

更新バージョンテーブル

フィールド	説明
名前	同様にカスタマイズされたレコードのバージョンを統合するための一意の識別子。
レコード名	カスタマイズされたレコードの名前。
ソース	インスタンスにバージョンがどのように追加されたかを示すインジケータ。 • システムアップグレード：ソフトウェアアップグレード(ベースラインバージョン)から。 • 更新セット：インスタンス上で作成または収容された更新セットから。 • プルヒストリー：チーム開発のプルから。
状況	そのバージョンがインスタンスにロードされているかどうかを示すインジケータ。 • 現在：バージョンが現在ロードされています。 • 以前：以前にバージョンがインスタンスにロードされていました。現在のバージョンが新しいバージョンに置き換えられると、それは以前のバージョンになります。 • 履歴：バージョンはインスタンスにはロードされたことはなく、チーム開発で親からバージョンを取得するなど、来歴上の目的でのみ挿入されました。
アプリケーション	それがアプリケーションに割り当てられている場合のカスタマイズされたレコードのためのアプリケーション。
ペイロード	このバージョンのカスタマイズされたレコードのデータ。
リストビューの追加フィールド	
戻す前	このバージョンが古いバージョンに戻すことで作成された場合、古いバージョンのレコードへの参照。
フォームを構成することによって追加できるフィールド	
インスタンス名	バージョンが最初に作成されたリモートインスタンスの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新バージョンテーブル (続く)

フィールド	説明
インスタンス ID	元々バージョンが作成されたリモートインスタンスのURL。
フォームビューでの関連したリスト	
バージョンリスト	インスタンスで使用可能なカスタマイズされたレコードのすべてのバージョン。

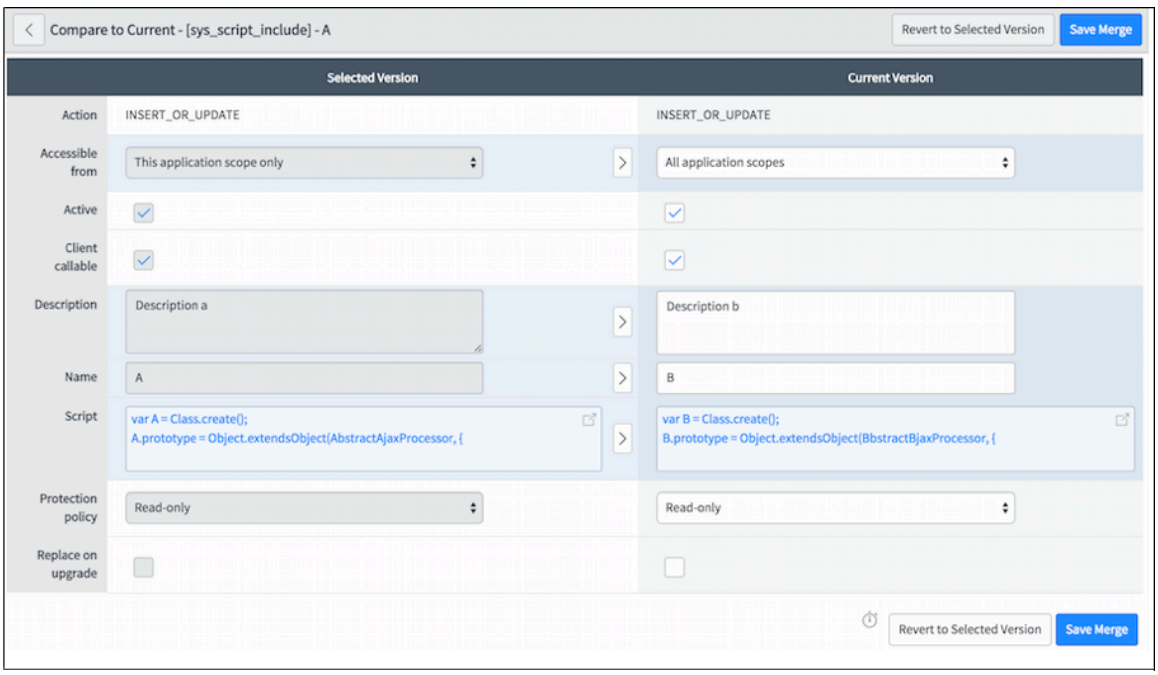
関連情報

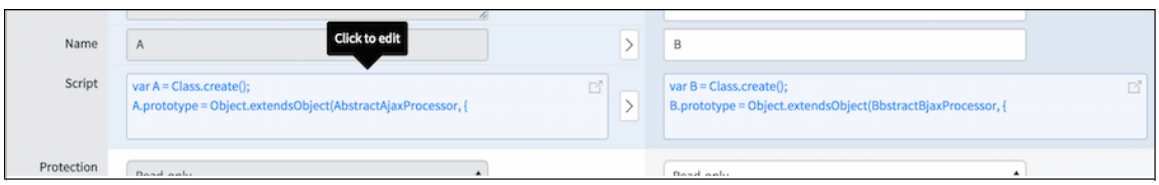
チーム開発

結合用ツール

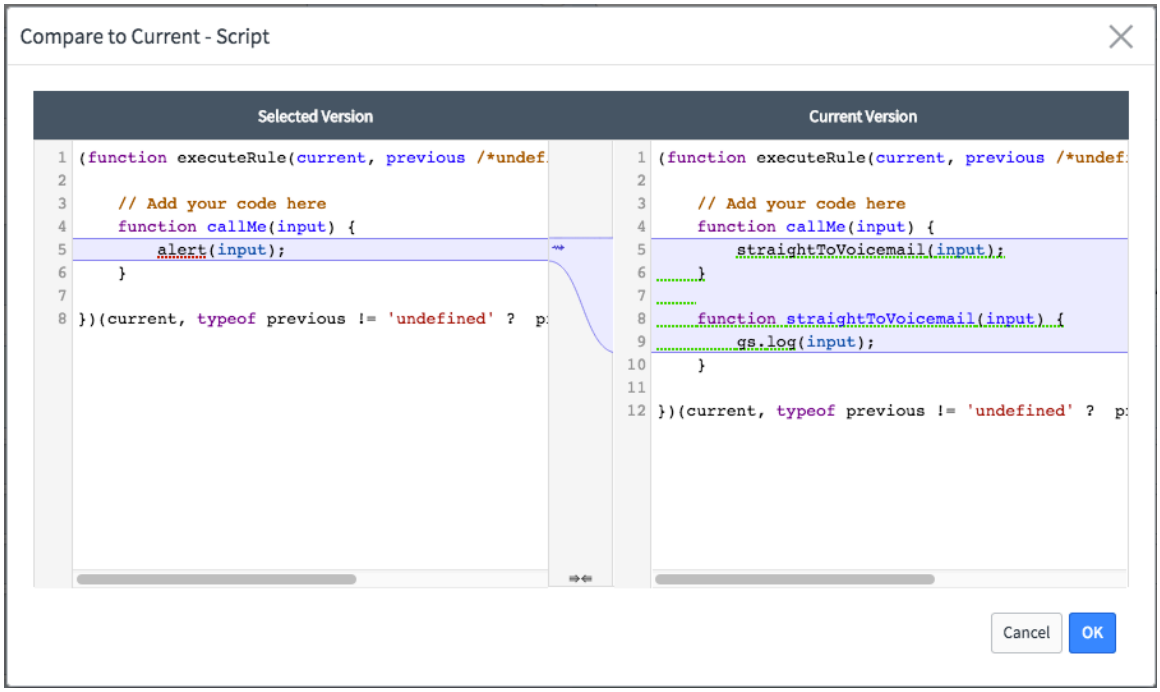
差異結合ツールを使用すると、管理ユーザーはレコードの2つのバージョン間の相違点を比較できます。

アドミニストレーターは、2つのバージョン間のフィールドレベルの変更を比較したり、Move Right フィールドレベルのコピー機能を使用して変更を適用し、その後で結果を結合したり、非現行バージョンに戻せます。差異結合ツールには、開発中またはアップグレード後にバージョンの比較、競合の解決、または競合の解決によってアクセスできます。





© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



アクセス可能性機能

このプラットフォームは、ウェブコンテンツアクセスアクセシビリティガイドライン (WCAG) 2.0 レベル A に対応し、障害のあるユーザーがインターフェイスにアクセスできるようにするアクセシビリティ機能が含まれています。これらの機能により、プラットフォーム機能にアクセスする際のユーザーエクスペリエンスがアクセシビリティ機能の使用によって向上します。

一般的に、次の一連の標準的なキーボードナビゲーション機能を使用できます。

- タブを押すことでモジュール内の標準インターフェイスコントロール(フィールドとリスト)間の移動、タブ内のレコード間の移動など、あらかじめ定義された順序で主要なグループをナビゲートできます。
- シフトタブを押すと、あらかじめ定義された順序で逆方向に移動します。

視覚障害のあるユーザーは、差異結合ツールでナビゲートできます。画面リーダーはすべての重要なページのコンテンツを読めます。クリティカルなセクションを読む必要がある場合は、すべてのリンクとボタンにアクセスできます。ボイスオーバーで可聴な手がかりは、読み上げる必要のあるセクションの内容を述べます。

アクセス可能性機能を有効にするには、アドミニストレーターは次のsys_propertiesを設定する必要があります。

1. **glide.ui.javascript_editor** をfalseに設定すると、次の関数がアクセス可能になります。
   - スクリプトフィールド(Script Includeなど)。
   - サイドバイサイドスクリプトの比較。
2. sys_propertiesのカラー設定を設定すると、コントラストの高い視認性が得られ、視覚障害のあるユーザーが左右の列にアクセスしやすくなり、読みやすくなります。
   - **mergetool.bg.left.highlight** - バージョン間で値が異なる場合は、左列のセルを着色します。
   - **mergetool.bg.right.highlight** - バージョン間で値が異なる場合は、右側のセルを着色します。
   - **mergetool.bg.left** - バージョン値が同じ場合、左列のセルを着色します。
   - **mergetool.bg.right** - バージョン値が同じ場合は、右列のセルを着色する。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- 現在のバージョンと比較
- プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較する
- 記事の 2 つのバージョンの比較
- 個々のレコードの競合の解決
- チーム開発の競合を解決する
- 変更を元に戻す
- カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

現在のバージョンと比較

フォームレイアウトやビジネスルールなど、ユーザーが変更したカスタマイズ可能なオブジェクトのバージョンを現在のバージョンと比較できます。チーム開発では、オブジェクトのローカルおよび現在のプルバージョンを比較できます。アドミニストレーターは特定のテーブルのバージョンを非表示にできる。

このタスクについて

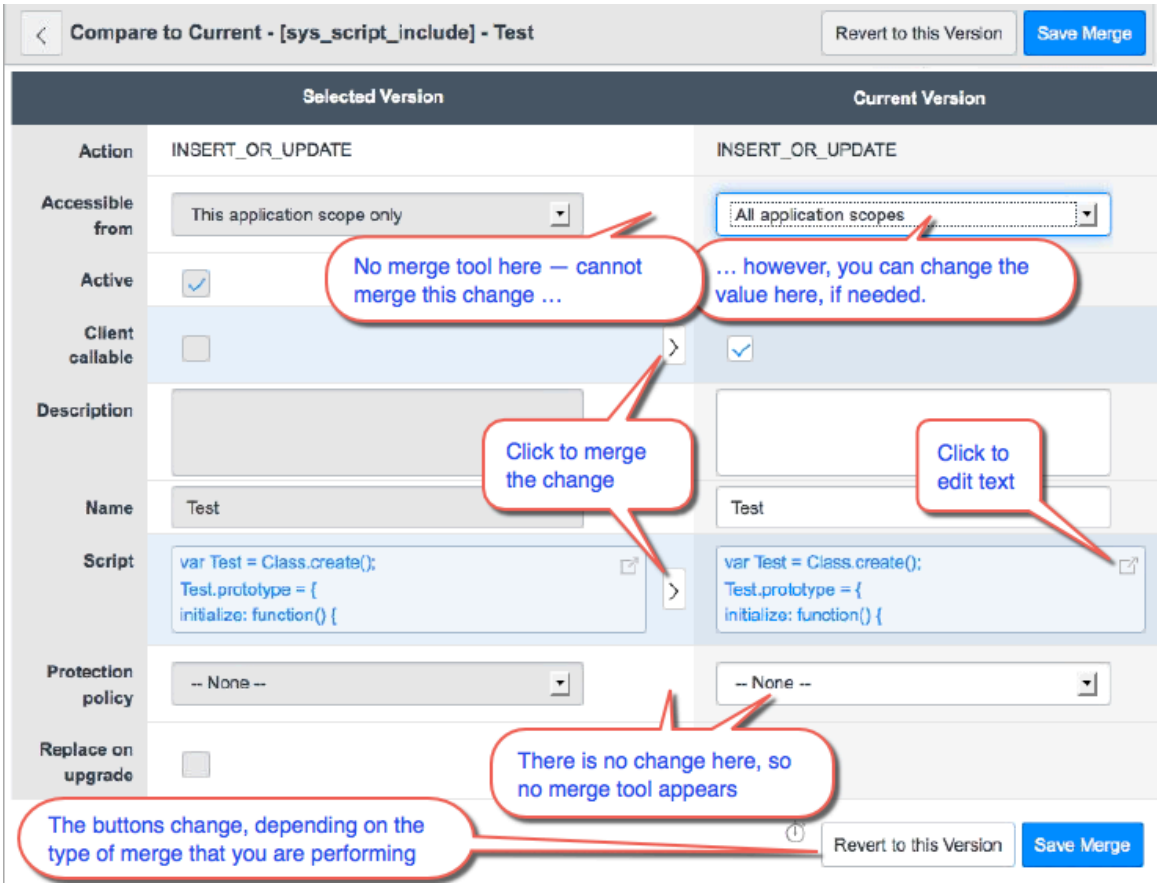
バージョンをオブジェクトの現在のバージョンと比較するには：

手順

1. 次のテーブルに示すいずれかの方法を使用して、[現在と比較] ページを開きます。

オプション	アクション
バージョンリストから	バージョンを右クリックし、現在と比較を選択します。
バージョンフォーム更新から	現在と比較関連リンクをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



2. [現在と比較] ページで、異なるフィールドを確認します。

オプション	アクション
以前のバージョンを選択して相違を解決するには	◦ チーム開発：選択したバージョンに戻す をクリックします。 ◦ オブジェクトのバージョンに対して：ローカルバージョンを使用するをクリックしローカルレコードを現在のバージョンとして維持します。プルされたバージョンがレコードのバージョン履歴に追加されます。
現在のバージョンを変更し結合された変更を保存して相違を解決するには **注:** いくつかのタイプのレコードは、このメソッドをサポートしていません。詳細については、「レコードの更新に関する制限」を参照してください。	現在のレコードの設定を更新するか、選択したバージョンから現在のバージョンに設定を移動できます。変更を移動するには、差分/結合ツールのフィールドの > ボタンをクリックします。スクリプトやテキストフィールドを操作するには、フィールド内をクリックし、必要に応じてテキストを変更します。レコードがニーズを満たすなら、次をクリックします： ◦ チーム開発：結合を保存をクリックし現在のバージョンに変更を保存します。 ◦ チーム開発：プルードバージョンの使用またはローカルバージョンを使用するのオプショ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	ンをクリックし必要に応じてすべての変更を承認または拒否します。 ◦ アップグレード履歴で現在のフォームと比較するには、唯一のオプションはベースシステムに戻すである

関連情報

- 結合用ツール
- 現在のバージョンと比較
- プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較する
- 記事の 2 つのバージョンの比較
- 個々のレコードの競合の解決
- チーム開発の競合を解決する
- 変更を元に戻す
- カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

変更を元に戻す

古いバージョンに戻すことで、カスタマイズしたレコードの変更を元に戻せます。

手順

1. オブジェクトのバージョンレコードリストを表示します。
2. オプション: 現在のバージョンと古いバージョンを比較して、必要な変更を元に戻すことを確認します。
3. 古いバージョンを右クリックし、このバージョンに戻すを選択します。
   確認ダイアログ ボックスが表示されます。

   このバージョンに戻すと、データベーススキーマが変更されるためにデータが失われる場合、ダイアログボックスに警告メッセージが表示されます。
4. **OK** をクリックするとそのアクションを確認します。
   - 現在のバージョンは以前のバージョンとしてマークされます。
   - 前の手順で選択したバージョンを複製した新しいバージョンレコードが追加されます。この新しいバージョンは現在のバージョンとしてマークされます。

   注: 最新のベースラインバージョンに戻せます。古いベースラインバージョンには戻せない。

関連情報

- 結合用ツール
- 現在のバージョンと比較
- 記事の 2 つのバージョンの比較
- プッシュされたバージョンとローカルバージョンを比較する
- チーム開発の競合を解決する
- 個々のレコードの競合の解決
- カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

バージョンを表示しない

アドミニストレーターは、 `[sys_update_version]` 表のバージョンのカスタマイズを追跡しないようにテーブルを構成できます。

このタスクについて

⚠ **警告:** テーブルのバージョンを非表示にすると、チーム開発が正しく動作しない可能性があり、テーブルのレコードのバージョンを比較したり元に戻すことができない場合があります。

手順

1. **sys_properties.list** に移動します。
2. 新しいプロパティを作成します。
   - 名：glide.update.suppress_update_version
   - タイプ：文字列
   - 値：テーブルのコンマ分離リストデフォルト値：sys_user、sys_import_set_row

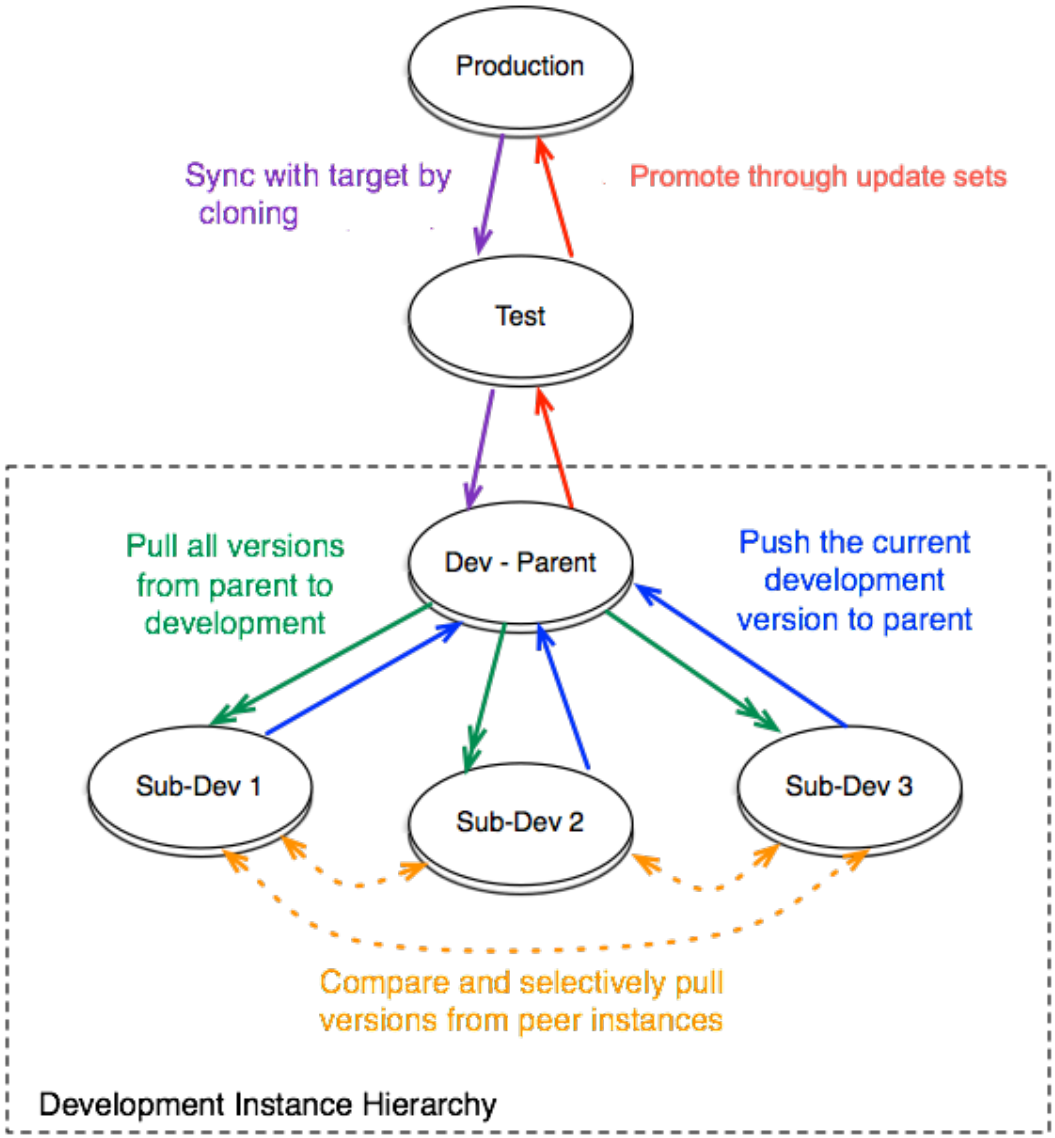
バージョンとローカル変更

バージョンレコードは、後で特定のバージョンと比較または元に戻すことができるように、カスタマイズ可能なレコードへの変更を追跡します。

開発者がカスタマイズ可能なレコードを変更するたびにバージョンレコードが作成されるため、単一のレコードに複数のバージョンレコードを関連付けできます。開発者がカスタマイズ可能なレコードを変更するたびに、現在のバージョンを参照するようにローカルの変更レコードが作成または更新されるため、１つのレコードに関連付けられたローカルの変更レコードは１つだけです。

ローカル変更レコードは、カスタマイズされたレコードが親インスタンスにない開発インスタンスの変更を追跡するので、プッシュの準備のために変更を収集できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

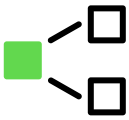


開発者は、カスタマイズ可能なレコードの以前のバージョンを回復するために、ローカルの変更を取り消せます。取り消しアクションは、ローカルのカスタマイズ可能レコードを、調整アクションによって識別された最後のリビジョンに設定します。

アプリケーションの開発

組織のビジネスニーズを満たすカスタムアプリケーションをビルドします。作成するユーザーエクスペリエンスまたはワークフローのタイプに適したビルダーを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

を使用したノーコードアプリケーションのビルドクリエータースタジオ シンプルなノーコード環境でカスタムアプリケーションを作成および管理します。	ローコードアプリケーションのビルド：App Engine  作成者を増やし複雑さを軽減してイノベーションを加速します。あらゆるスキルレベルの開発者が大規模にアプリケーションをビルドできるようにします。
プロコードアプリケーションのビルド 既存のアプリケーションとユーザーエクスペリエンスを拡張または保守します。企業全体のアプリケーションとデータを接続します。	ビルダーライブラリ ビルダーツールを選択して、アプリケーションを迅速に開発します。

最適な **ServiceNow** ビルダーを選ぶ

クリエータースタジオ を使用して、コードを書くことなく簡単にアプリをビルドできます。ただし、誰かが何かを要求し、他の人がそれを承認または却下するアプリしか作成できません。オフィス機器要求アプリのように、ユーザーがフォームに入力してキーボードを要求し、誰かがその要求を承認または却下するなど。

要求の作成と実行とは関係のないアプリを作成する場合、App Engine Studio はアプリを作成するための最も簡単なローコードオプションです。

ServiceNow プラットフォームの機能をフルに活用したいプロコーダーは、クリエータースタジオと App Engine Studio に加えて ServiceNow スタジオ を使用できます。

クリエータースタジオ でノーコードアプリケーションをビルドする

コーディングなしでアプリケーションを作成

クリエータースタジオ で、コードを使用せずに、シンプルな環境で要求実行アプリケーションをビルドします。

App Engine でのローコードアプリケーションのビルド

ローコードアプリを迅速にビルドし、作成者を増やし、複雑さを軽減します。ユーザーが必要とする企業間エクスペリエンスを安全に拡張します。

作成者を支援

ミッションクリティカルなタスクのために、Creator Workflows アプリを迅速に本番環境に移行します。包括的なローコード開発エクスペリエンスに含まれるガイダンスとテンプレートを使用して設計します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ローコード開発のスケール

ビジネスと IT でローコードアプリ開発のコラボレーション、管理、および統制を可能にします。 開発ガードレールの設定、標準の適用、コンプライアンスのチェックを一元的に行います。

プロセスの自動化の促進

ネイティブ統合とローコードにより、プロセスを迅速に自動化し、価値を迅速に示します。ワークフローをシンプルなものから複雑なものに拡張し、企業全体で一貫性を保ちます。

ユーザーのエンゲージメント

わかりやすく統一された最新のエクスペリエンスでユーザーを引き付けます。直感的なローコードデザイナーを使用して、モバイルファーストのエクスペリエンスをビルドします。

プロコードアプリケーションのビルド

きめ細かな制御を設定したアプリをビルドし、展開します。コードをデバッグし、ソースコントロールを管理し、中央ハブからアプリを公開します。

アプリの迅速なビルド

すべての作業を一元的に行うことで、コーディングから展開までのプロセスを迅速化できます。

ソースコードのアプリケーションの開発

統合開発環境でアプリケーションメタデータを定義するコードを記述します。

ソースの管理

統合されたソースコントロールを使用して、Git リポジトリーにコミット、分岐、および結合します。

チームとしての作業

特定のアプリケーションリソースへの個々の開発者アクセスを提供して、コラボレーションを強化します。

ビルダーライブラリ

各ビルダーは、ディシジョンビルダー、UI ビルダー、ワークスペースビルダー などの特定のニーズを満たしたり、特定タイプのデータを生成したりします。ビルダーの全リストについては、「ビルダーライブラリ」を参照してください。

ノーコードアプリケーションのビルド

シンプルなノーコード環境でカスタムアプリケーションを作成および管理します。

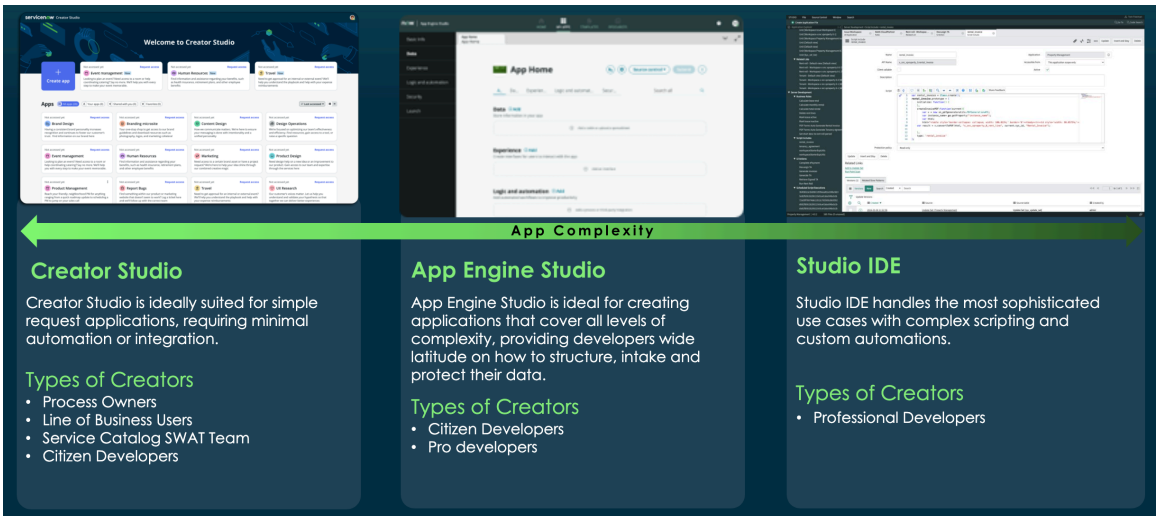
クリエータースタジオ

アプリケーションを作成したいのにコーディング方法がわからなかった、という経験はありますか？クリエータースタジオが最適です！

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリの作成に使用すべきビルダー

ビルダーの種類



コードなしで簡単にアプリをビルドしたい場合

クリエータースタジオ は、コードを書かずに要求を履行するアプリケーションの作成を支援することに特化しています。たとえば、フォームに入力して事務用品を要求するアプリケーションで、誰かが要求を承認または拒否するなどです。詳細については、「クリエータースタジオ：コードを記述せずにアプリケーションを作成する」を参照してください。

より一般的なアプリが必要だけれどローコードオプションが必要な場合

App Engine Studio を使用すると、プログラミングのプロでなくても、クリエータースタジオ よりも幅広いアプリをビルドできます。詳細については、「App Engine Studio を使用したアプリのビルド」を参照してください。

一元化されたユーザーインターフェイスでより詳細に制御したい開発者の場合

ServiceNow スタジオ はアプリケーション開発者が一元化された場所でカスタムアプリケーションで作業するためのインターフェイスで、ある程度のコーディングスキルが必要です。詳細については、「ServiceNow Studio」を参照してください。

業界標準の開発ツールやプロセスを使用したい開発者の場合

ServiceNow IDE と ServiceNow SDK は、ServiceNow Fluent を使用したソースコードでのアプリケーション開発、JavaScript モジュールの作成、およびサードパーティライブラリの使用をサポートしています。ServiceNow Fluent は、コードでアプリケーションメタデータを作成するためのドメイン固有のプログラミング言語です。

ServiceNow IDE は、Now Platform 上の Visual Studio Code for the Web の実装です。ServiceNow SDK は Visual Studio Code Desktop をローカルで使用します。詳細については、「ソースコードでアプリケーションをビルドする」を参照してください。

関連アプリケーションと機能

App Engine 管理センター

App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、クリエータースタジオ の要求、展開、アプリケーション、共同開発者を追跡および管理します。

App Engine Studio

AES で クリエータースタジオ アプリを開いて、メール通知や追加のセキュリティなど、さらに多くのカスタムエクスペリエンスをビルドします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログビルダー

視覚的なガイド付きエクスペリエンスを使用して、カタログアイテムを作成または編集します。

フォームビルダー

フォームビルダー のフォームエディターを使用して、ユーザー向けのさまざまなフォームビューを視覚的に作成、構成、カスタマイズします。

ワークフロースタジオ

ワークフローの作成、構成、および監視を単一のページエクスペリエンスに統合します。

ワークスペース

ワークスペースで顧客の要求や問題に対処します。ワークスペースには、エージェント、ケースマネージャー、ヘルプデスク担当者、マネージャーがツールを使用して顧客のニーズを解決するためのツール群が用意されています。

クリエータースタジオ：コードを記述せずにアプリケーションを作成する

アプリケーションを作成したいのに、コーディング方法がわからない場合は、クリエータースタジオが最適です！

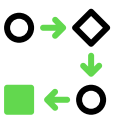
クリエータースタジオは、要求実行アプリケーションの作成を支援することに特化しています。この種のアプリでは、ある人が新しいキーボードが欲しいといった要求を出すと、別の人がその要求に応えてキーボードを提供します。

キーボード、自動車部品、表彰ギフトカードなど、従業員が会社で申請して使用するすべてのアイテムを想像してください。出張の承認、新しい機器の受領、購入、休暇取得の許可などの要求をアプリで処理できます。アプリでは、誰かが要求を確認、承認、拒否することもできます。

クリエータースタジオ では次回の月面着陸モジュール用のアプリケーションを記述することはできませんが、その目的を考えれば多くのことができます。

アプリケーションの作成が初めてでも心配する必要はありません。あらゆる段階で皆さんをガイドします。作成に飛び込む準備はできていますか？

開始するには

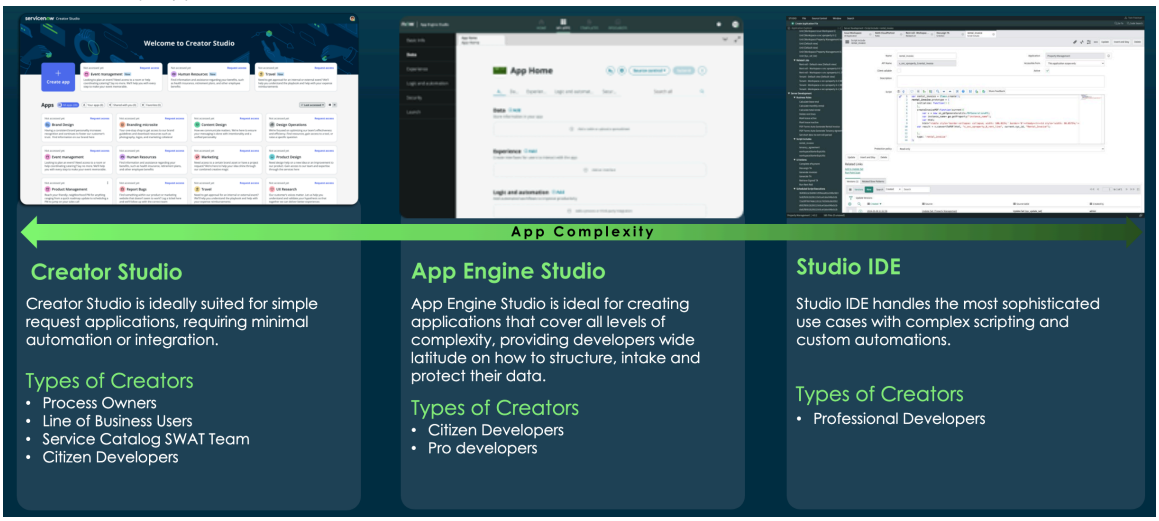
探索	構成	管理
		
クリエータースタジオの概念と機能について学びます。	クリエータースタジオツールをインストールして構成し、アクセスします。	クリエータースタジオの要求と展開を管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビルド	参照	
クリエータースタジオのフォームと自動化を使用してアプリをビルドします。	フィールド、テーブル、プロパティなどのクリエータースタジオコンポーネントの詳細情報を取得します。	

アプリの作成に使用すべきビルダー

ビルダーの種類



コードなしで簡単にアプリをビルドしたい場合

クリエータースタジオ は、コードを書かずに要求を履行するアプリケーションの作成を支援することに特化しています。たとえば、フォームに入力して事務用品を要求するアプリケーションで、誰かが要求を承認または拒否するなどです。詳細については、「クリエータースタジオ：コードを記述せずにアプリケーションを作成する」を参照してください。

より一般的なアプリが必要だけれどローコードオプションが必要な場合

App Engine Studio を使用すると、プログラミングのプロでなくても、クリエータースタジオ よりも幅広いアプリをビルドできます。詳細については、「App Engine Studio を使用したアプリのビルド」を参照してください。

一元化されたユーザーインターフェイスでより詳細に制御したい開発者の場合

ServiceNow スタジオ はアプリケーション開発者が一元化された場所でカスタムアプリケーションで作業するためのインターフェイスで、ある程度のコーディングスキルが必要です。詳細については、「ServiceNow Studio」を参照してください。

業界標準の開発ツールやプロセスを使用したい開発者の場合

ServiceNow IDE と ServiceNow SDK は、ServiceNow Fluent を使用したソースコードでのアプリケーション開発、JavaScript モジュールの作成、およびサードパーティライブラリの使用をサポー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トしています。ServiceNow Fluent は、コードでアプリケーションメタデータを作成するためのドメイン固有のプログラミング言語です。

ServiceNow IDE は、Now Platform 上の Visual Studio Code for the Web の実装です。ServiceNow SDK は Visual Studio Code Desktop をローカルで使用します。詳細については、「ソースコードでアプリケーションをビルドする」を参照してください。

クリエータースタジオでアプリをビルドした後にできること

クリエータースタジオで単純なアプリをビルドし、後でそれを複雑にしたい場合は、他の ServiceNow ビルダーのいずれかでアプリを開くことができます。たとえば、ワークフロースタジオでより複雑な自動化を追加したり、App Engine Studio で別のインターフェイスを追加したりできます。

クリエータースタジオ のその他のリソース

クリエータースタジオ に関する詳細	ServiceNow リソース
クリエータースタジオ は、要求実行アプリを迅速にビルドするのに役立つノーコードツールです。	以下でアプリを迅速にビルド - クリエータースタジオ クリエータースタジオFAQ クリエータースタジオコミュニティ

トラブルシューティングとサポート

- ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください。
- Ask or answer questions in the クリエータースタジオ community forum
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 独自のアプリを作成する方法の詳細については、開発者サイトを参照してください。
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

クリエータースタジオ の詳細

クリエータースタジオ は、アプリの作成をシンプルな手順に分割することで、アプリの作成を容易にします。このセクションでは、それぞれの手順について説明します。

すべてのステップに要求が伴います。そこで、まず クリエータースタジオ が要求を保存する方法について説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サマリー: このセクションを読むと、次のことが理解できるようになります。

- 要求の保存方法
- 要求の入力方法
- アプリが自動的に処理を行う仕組み

要求の保存について

ユーザーが要求を行った場合、後で誰かがレビューできるように、それをどこかに保存する必要があります。

テーブルが要求を保持する

クリエータースタジオは要求をテーブルに保存します。そのテーブルの各行が要求です。以下は、3 つの要求が含まれるテーブルの簡略化されたバージョンです。

ユースケース:

- モニターが動作しなくなりました。新しいものが必要です。
- 自宅とオフィスで使用できるように、新しいマウスを要求しています。
- 私のラップトップは 4 年以上前のものです。交換を要求したいと思います。

ユーザーがフォームを使用して要求を入力する

最終的にアプリのテーブルに保存される要求を、ユーザーはどのように入力するのでしょうか？ユーザーは皆さんのアプリを使用してフォームに記入します。フォームの質問には、履行者が必要とする情報が含まれています。

このアプリのテーブルでは、質問はフォーム上のすべての情報で構成されるレコードの一部として保存されます。

要求	名前	メール	要求日
新しいモニターが必要です。	Sushma Singh	SushmaSingh@example.com	04-05-2024
新しいラップトップが必要です。	Peter Smith	PeterSmith@example.com	05-01-2024

この例では、フォームに 4 つのフィールドがあります。

- 要求
- 要求者の名前
- 要求者のメールアドレス
- 要求日

これらのフィールドには、レビュー担当者が要求を承認または拒否するために必要なすべての情報が含まれています。レビュー担当者の意思決定に必要な情報をすべて把握する必要があります。後の「クリエータースタジオ でのフォームの操作」セクションでフォームの作成方法を説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

主要な用語:

要求者

機器や何かの実施許可など、何かを要求する人。

履行者

要求に対応する人。履行者は、アプリの承認の自動化に応じて、要求を承認または拒否することもできます。

ここまで、要求者がフォームに記入して要求を作成し、クリエータースタジオ がそれらの要求をアプリのテーブルに保存することを理解しました。

PDI で クリエータースタジオ を試す

パーソナル開発インスタンス (PDI) で クリエータースタジオ を試してみませんか？最新のパッチ 3 バージョンにアップグレードするだけで、最終的に アプリケーションマネージャー からインストールできます。

クリエータースタジオ クイックスタート

このクイックスタートでは、クリエータースタジオ で最初のアプリをビルドし、その展開を要求するプロセスについて説明します。

このタスクについて

始める前に
最初のアプリをビルドすることは、クリエータースタジオ でどの程度簡単にアプリを作成できるかを理解する良い方法です。

システムアドミニストレーターは、ユーザーを クリエータースタジオ ユーザーグループに追加する必要があります。

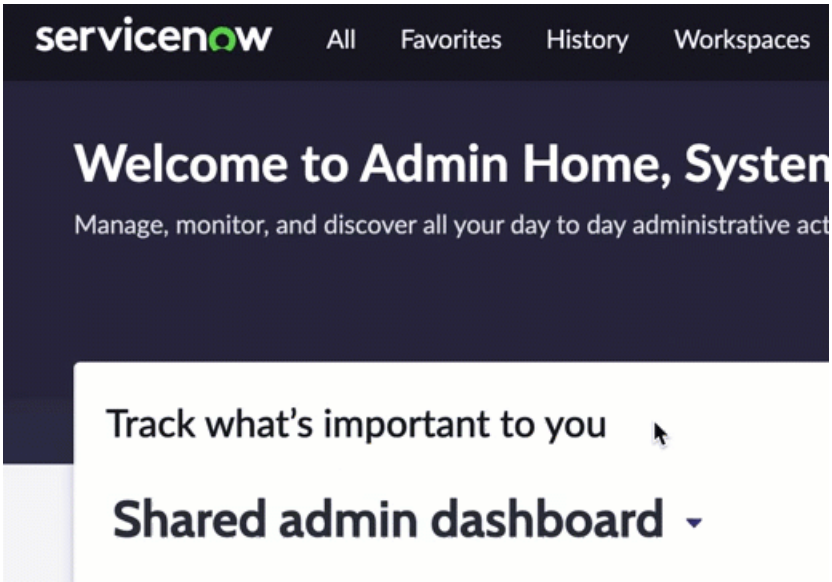
このタスクについて
少なくとも、アプリの基盤を作成し、ユーザーが実行要求を送信するフォームをカスタマイズする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページに移動します。

クリエータースタジオ の起動

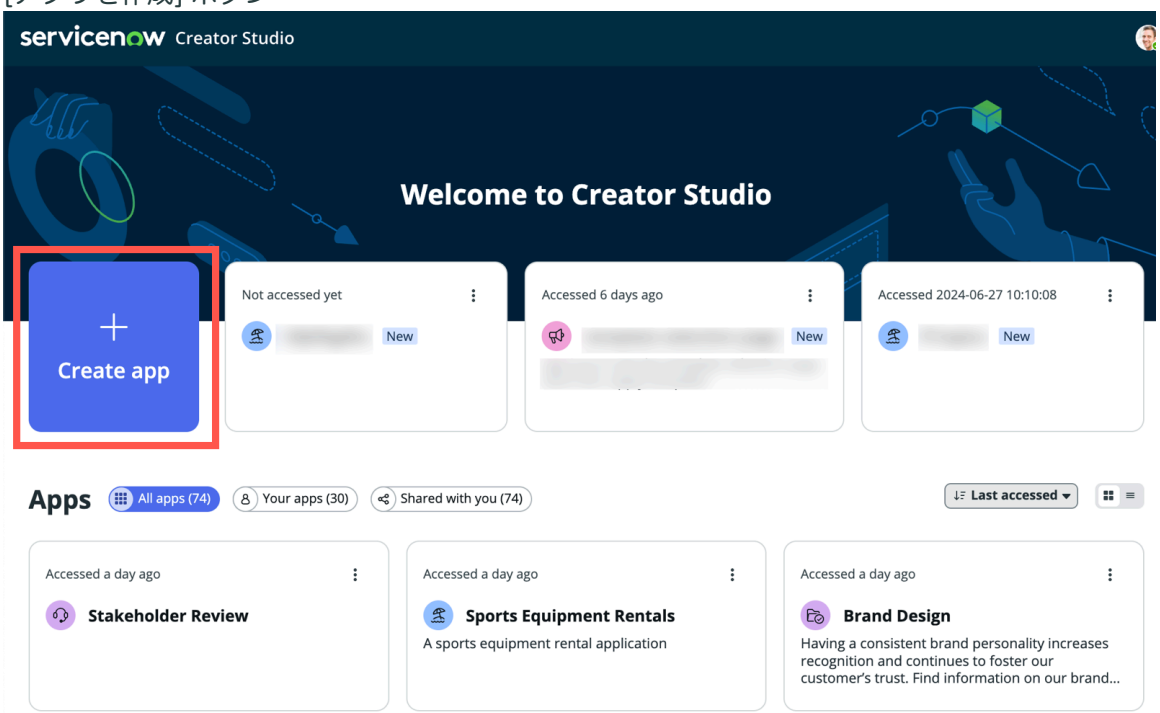


クリエータースタジオ ホームページが表示されます。ホームページでの作業の詳細については、「クリエータースタジオ での既存アプリの検索」を確認してください。

2. アプリを作成します。

a. [アプリを作成] ボタンを選択して、アプリの作成プロセスを開始します。

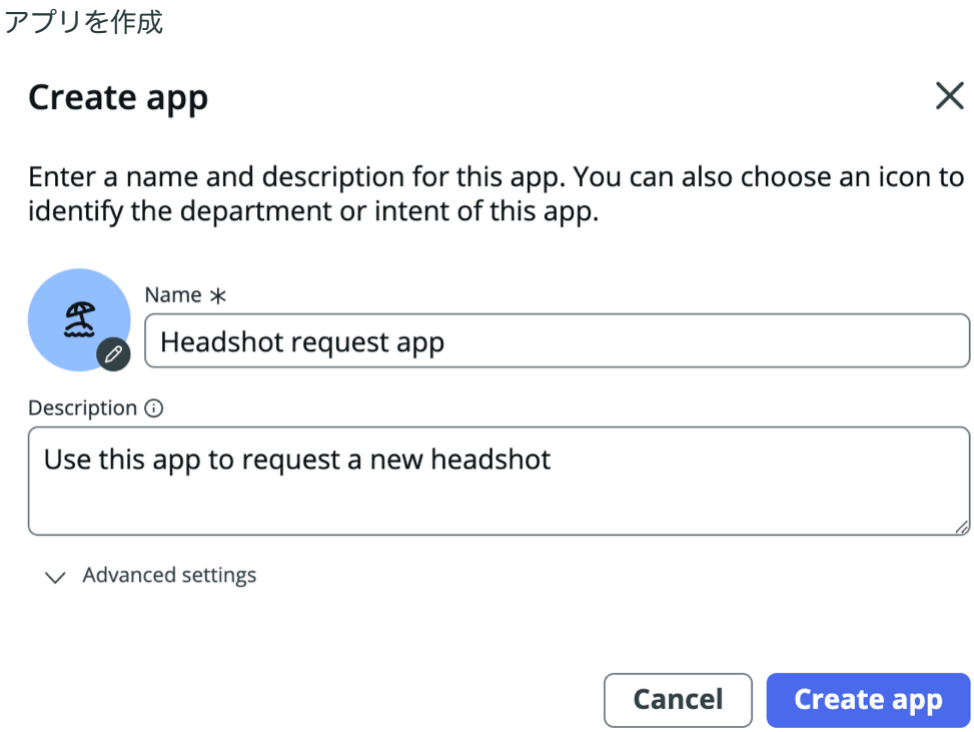
[アプリを作成] ボタン



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- システムアドミニストレーターの場合は、「アプリケーションコラボレーション」でこのトピックの詳細を読むことができます。
- アドミンにアプリの作成を要求する方法を知りたい場合は、「クリエータースタジオ でアドミンにアプリの作成を依頼する」を確認してください。

b. ポップアップするモーダルで、アプリの目的の [名前] と簡単な [説明] を入力します。



c. [アプリを作成] を選択して、アプリの基盤のビルドを完了します。

これで、独自のアプリケーションの開始部分を作成できました！名前を付けて説明を入力しました。カタログテンプレートのリストが表示されます。

3. アドミンがカスタマイズできるカタログテンプレートをリストから選択し、[このテンプレートを適用] を選択します。

必要なカタログテンプレートが表示されない場合があります。最も近いものを選択してください。近いものがない場合は、アドミンが削除していない場合、[クリエータースタジオのデフォルトテンプレート **(Creator Studio Default Template)]** オプションを選択します。それが最善策です。

ヒント: カタログテンプレートのリストを自由にクリックしてみてください。希望のものを選択するのにプレビューが役立ちます。

選択できる他のカタログテンプレートが表示されなくても心配はいりません。アドミンがまだカスタムカタログテンプレートを作成していない可能性があります。

4. カタログにフォームを追加して、そのビジネスエリアを指定します。

注: 現時点ではこのステップをスキップして、どこに当てはまるかがよくわかったら後で再検討できます。

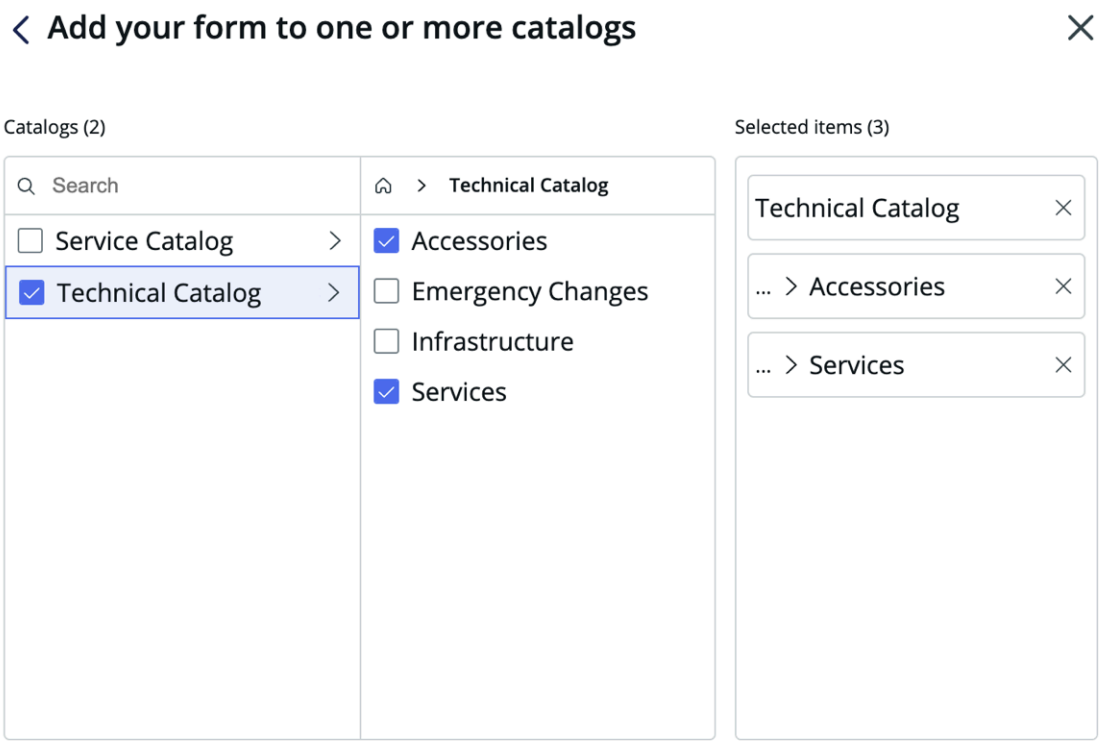
利用可能なカタログはアドミンによって構成されます。必要なカタログが表示されない場合は、アドミンに問い合わせてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. カタログとカテゴリカードの [編集] ボタン (Edit) を選択します。

b. アプリが使用するビジネスエリアを表すカタログを選択します。
たとえば、ソフトウェアとラップトップケーブルを含むサービスカタログを選択します。各カタログのカラットを展開すると、そのサブカタログが表示されます。

カタログを選択します。



c. カタログから必要な数のアイテムを選択します。

d. [適用] を選択します。

アプリの作成が完了したら、アプリの基本設定をいつでも編集できます。詳細については、「クリエータースタジオ のフォーム設定」を参照してください。

5. 次に、1 つ以上のトピックを選択して、フォームの表示場所を指定します。
トピックの詳細は「 カタログアイテムを 従業員センター の分類トピックに関連付ける 」を、分類方法である分類の詳細については、「 従業員センター の 統一された分類方法 」を参照してください。

注: 現時点ではこのステップをスキップして、どこに当てはまるかがよくわかったら後で再検討できます。

a. トピックカードの [編集] ボタン (Edit) を選択します。

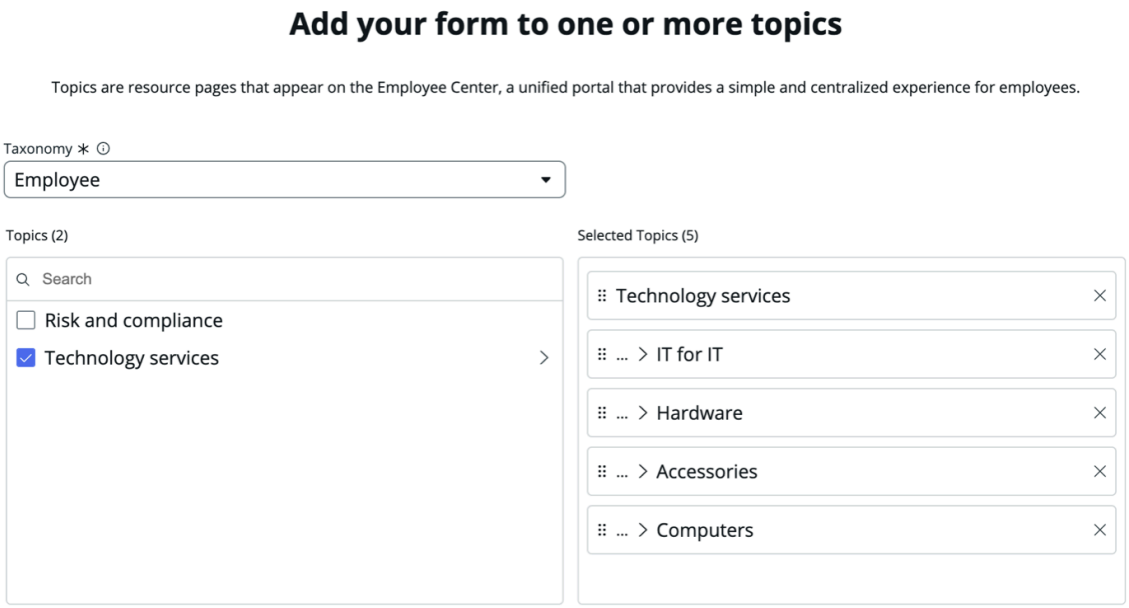
b. フォームを表示する[分類] ページ ([従業員] など) を選択します。
分類は、従業員センター が使用する分類の方法です。

c. フォームを表示する 従業員センター 領域を表すトピックを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

たとえば、テクノロジーサービスを含むトピックを選択し、そのカラットを展開してサブトピックを表示します。

フォームを表示するトピックを選択する



d. フォームを表示するトピックを必要な数だけ選択します。

e. [適用] を選択します。

6. [保存して続行] を選択します。
7. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

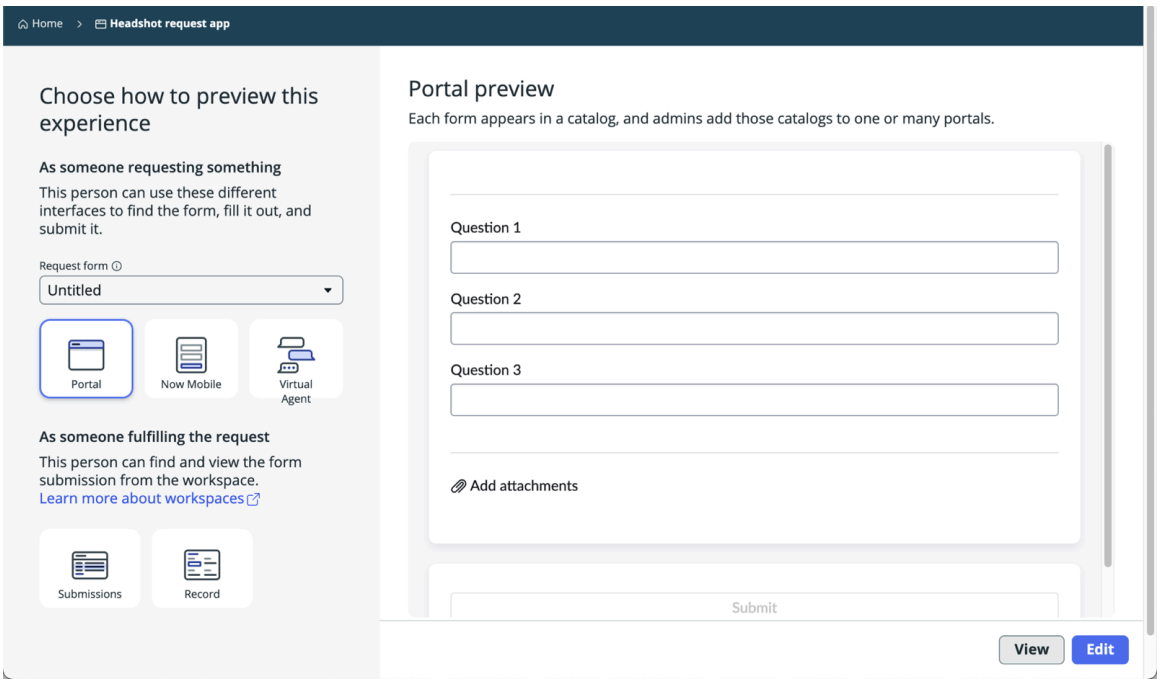
   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

   > **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

[表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

8. まず、[要求フォーム] タブでフォームの外観をカスタマイズするには、次のオプションの手順のいずれかを実行します。

   a. フォームに表示される画像を追加または変更するには、[画像を追加] アイコンを選択 ( ) し、画像を選択します。

   b. フォームのタイトル、簡単な説明、その他のテキストを変更するには、フォームの各部分を選択して変更内容を入力します。
   リッチテキストを使用して、フォントの変更やサイズ変更など、長い [説明] の表示方法を強化できます。

9. 次に、履行者が要求を評価するために必要な質問をフォームに追加します。質問を追加してカスタマイズするには、次の手順を実行します。

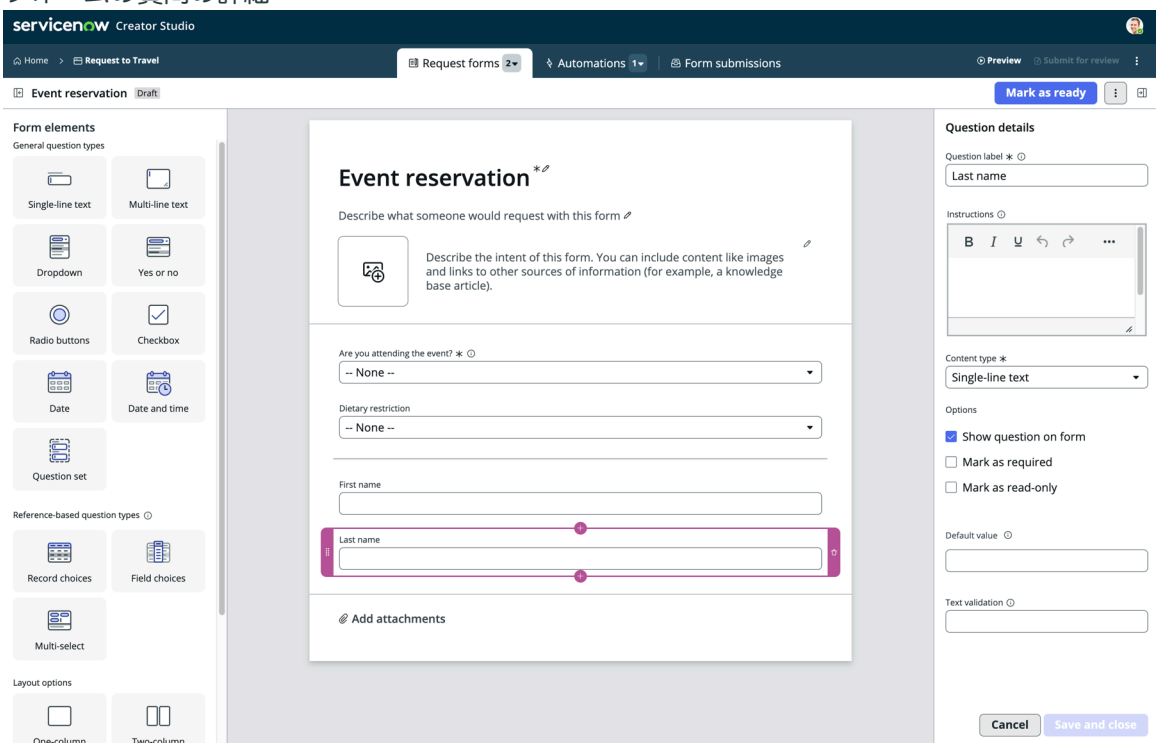
   a. [フォーム要素] パネルで、必要な質問のタイプをフォームでドラッグし、キャンバス上の目的の場所にドロップします。フォーム上の既存の質問をクリックすると表示される [追加] アイコン (+) を選択して、質問を追加することもできます。
   事前設定された [質問セット] を追加する場合は、質問セットをフォームにドラッグしたときに表示されるモーダルから質問セットを選択する必要があります。

   質問タイプとその使用方法の説明については、「クリエータースタジオ で利用可能な質問のタイプ」を参照してください。

   b. [質問の詳細] パネルで、要求者がフォームを送信するには質問に回答する必要があるかどうかなど、追加した質問に関する情報を指定します。
   詳細は質問タイプによって異なります。たとえば、[ドロップダウン] の質問を追加する場合は、選択するオプションを指定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームの質問の詳細



c. 質問の変更が完了したら、[保存して閉じる] を選択します。

d. この手順を使用して、フォームの質問を修正するか、フォームに質問を追加します。質問タイプを変更するには、質問を選択してから、[質問の詳細] パネルの [コンテンツタイプ] フィールドで新しい質問タイプを選択します。新しいタイプを選択すると、新しい値を指定しなければならない場合があります。
質問を作成する際は、次の仕様を念頭に置いてください。

- 既存の質問を質問セットに変更することはできません。質問セットをフォームに含めるには、その質問セットをフォームに新たに追加する必要があります。
- フォームに 2 つのチェックボックスの質問を並べて配置すると、セクションが作成されます。そのセクションに他のタイプの質問を追加することはできません。

10. それでは、フォームに追加した質問と画像を配置しましょう。

a. [フォーム要素] パネルから、目的のレイアウトオプションをフォームでドラッグし、表示する場所 ([分割線]など) にドロップします。
レイアウトが気に入らなくても心配はいりません。別のレイアウトをフォームのキャンバスにドラッグして試してみてください。

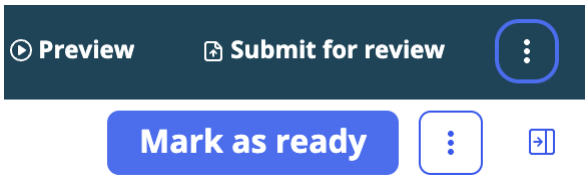
b. [セクションの詳細] または [質問の詳細] パネル (作業中のレイアウトによって異なります) を使用して、選択したフォームレイアウトを変更します。テキストを太字にしたり、リンクを追加したりできます。
詳細については、「クリエータースタジオにおけるフォームのレイアウトオプション」を参照してください。

c. フォームのレイアウトの変更が完了したら、[セクションの詳細]/[質問の詳細] パネルで [保存] を選択します。

11. 最後に、準備ができたら、[準備完了としてマーク] ボタンを選択してフォームを公開します。

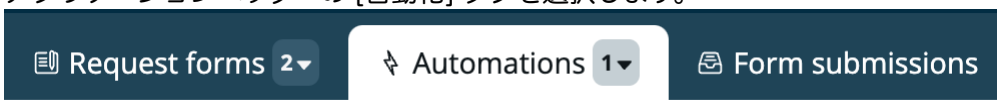
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームを公開すると、公開されたアプリの本番インスタンスでカタログアイテムとして使用できるようになります。



12. 次に、プレイブックを追加してアプリの自動化を作成します。たとえば、承認のためにマネージャーにレコードを自動的にアサインします。

    a. アプリケーションヘッダーの [自動化] タブを選択します。



    b. [プレイブックを作成 **(Create a playbook)**] ボタンを選択します。

    c. [プレイブックを作成 (Create playbook)] モーダルでプレイブックの一般的な属性を指定します。

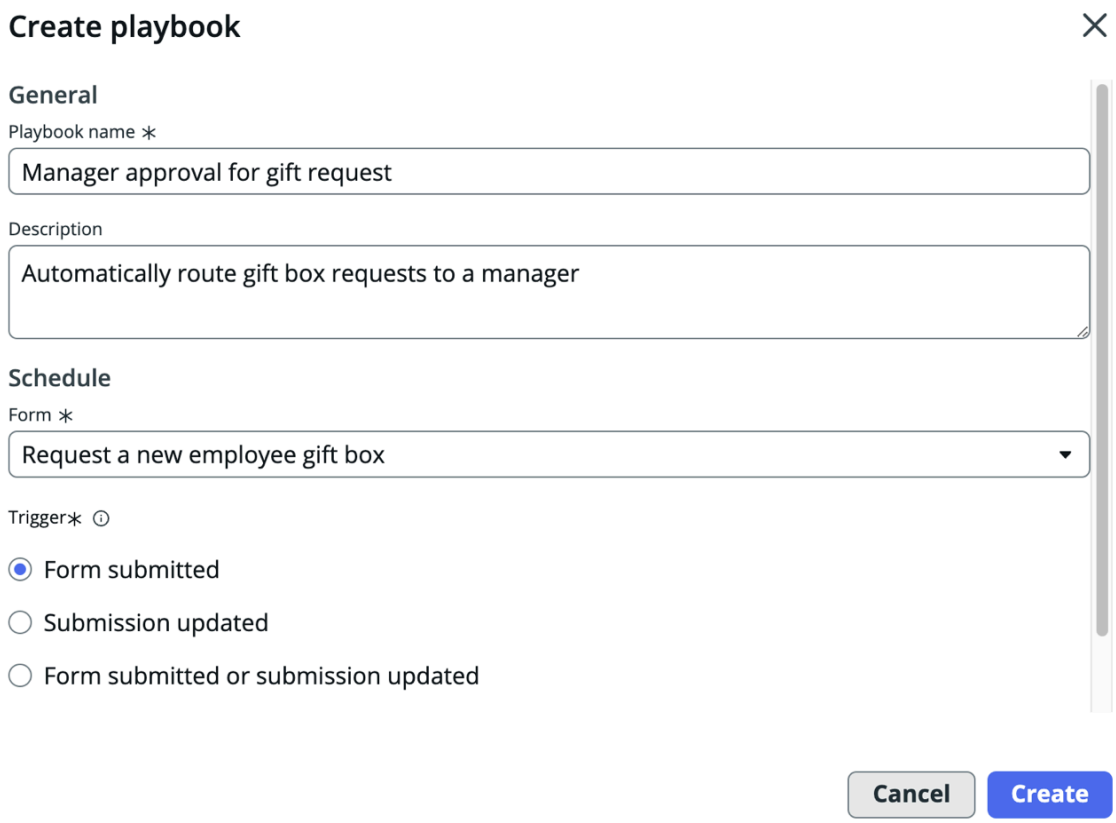
一般的なプレイブック定義フィールド

フィールド	説明
プレイブック名	作成するプレイブックのわかりやすい名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	プレイブックが実行する内容の短い説明 (レコードタイプの最終目標など)。

プレイブックを作成



13. プレイブックのスケジュールを指定します。

a. プレイブックを実行するレコードタイプを生成するカタログアイテムを持つフォームを選択します。
選択したフォームのテーブルは常にアプリのタスクテーブルであり、アプリの作成時に指定されます。

b. プレイブックを開始する [トリガー] のタイプを選択します。

プレイブックトリガーのオプション

トリガー	説明
フォームが送信されました	選択したフォームをユーザーが送信すると、プレイブックの実行が開始されます。
フォームが更新されました	選択したフォームをユーザーが更新すると、プレイブックの実行が開始されます。
フォームが送信または更新された (Form submitted or updated)	選択したフォームをユーザーが送信または更新すると、プレイブックの実行が開始されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** プレイブックの作成が完了した後は、プレイブックのトリガータイプを変更することはできません。代わりに、別のトリガーを使用して新しいプレイブックを作成します。
>
> ただし、質問に対する特定の回答に基づいて条件付きでプレイブックを実行するなど、トリガー条件を編集することはできます。詳細については、「クリエータースタジオでプレイブックのトリガーを編集する」を参照してください。

c. 更新中のフォームを含むトリガーを選択した場合は、アプリがプレイブックを実行する頻度を指定します。
オプションは次のとおりです。

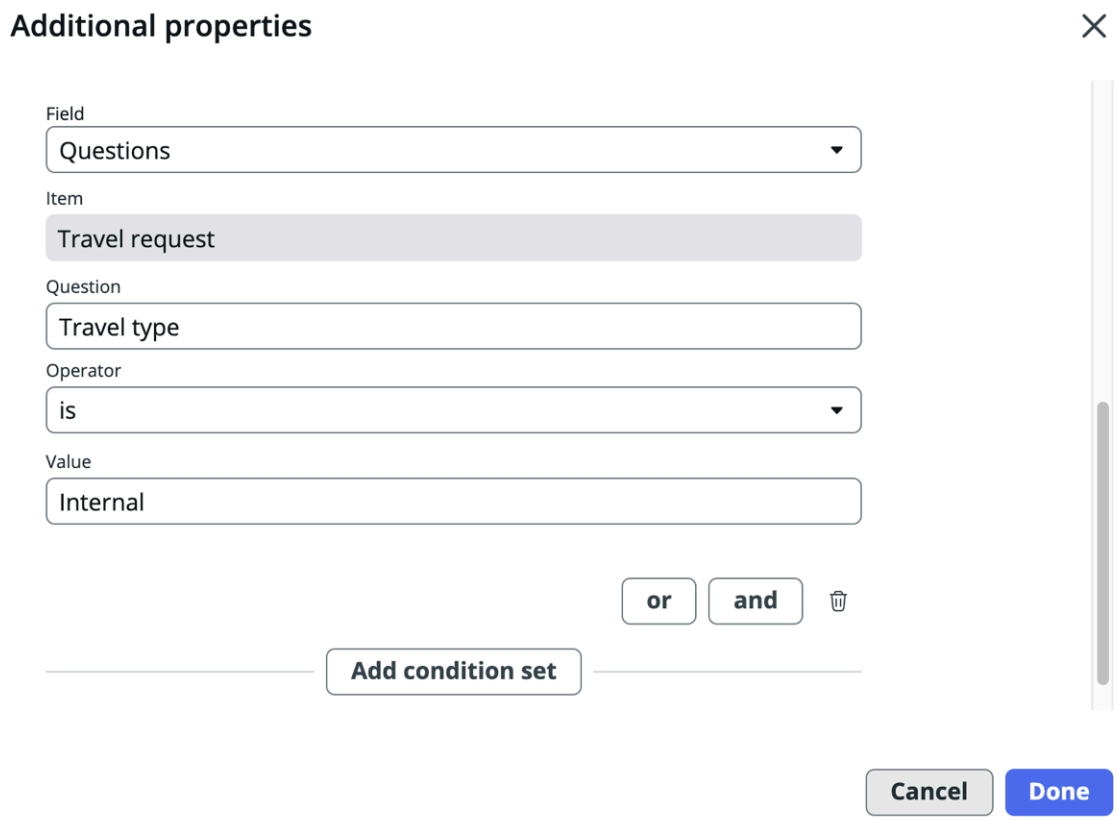
- **1 回**
- **For each unique change** (それぞれ一意の変更の場合)
- 現在実行されていない場合のみ
- 更新ごと

d. [条件セットを追加] を選択して、プレイブックの実行を開始するために満たす必要がある条件を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テーブルの列の値に基づいてプレイブックをトリガーする場合は、トリガーする [フィールド] 、およびその条件 [演算子] と特定のトリガー [値] を選択します。たとえば、[開始日] が [日付] の [後] である必要がある場合など。
- フォームからの応答に基づいてプレイブックをトリガーする場合は、トリガー [フィールド] として [質問] を選択します。次に、[質問] フィールドで目的の質問を選択し、条件の [演算子] と回答の [値] を選択します。

自動化のトリガーとしての質問の回答



必要なだけ条件を追加します。詳細については、「条件ビルダーを使用して条件ステートメントを作成します。」を参照してください。

14. 先に進む前に [保存] を選択してアクティビティを追加します。
アクティビティの状況を定義するために if/then ステートメントを含める場合は、意思決定を追加します。詳細については、「クリエータースタジオでアプリのプレイブックに意思決定を追加する」を参照してください。
15. プレイブックにアクティビティを追加します。

    a. アクティビティを追加するコネクタ上の [追加] アイコン を選択し、表示されるメニューに表示されり四角い [アクティビティを追加] アイコン を選択します。

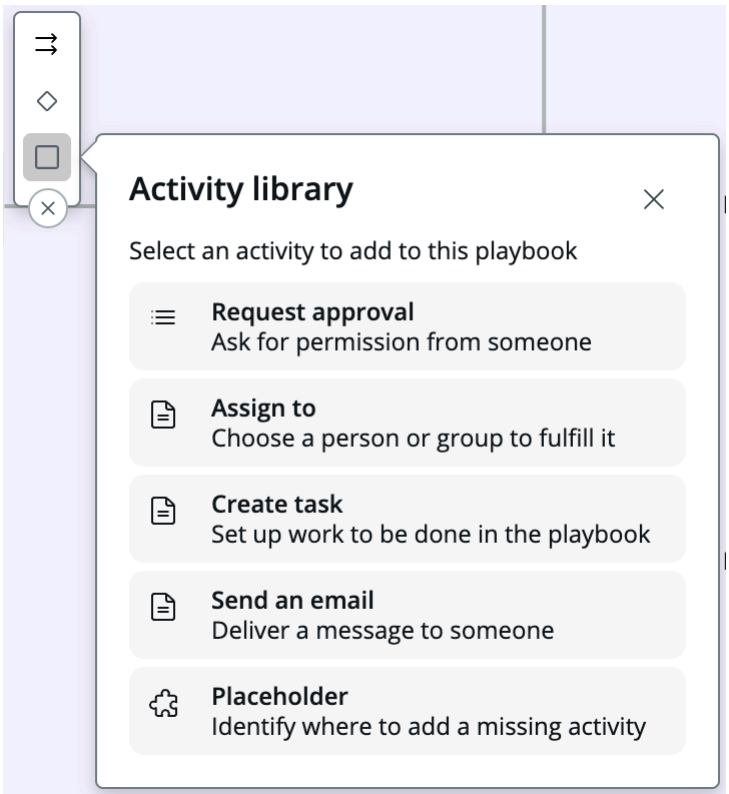
    b. [アクティビティライブラリ (Activity library)] ポップアップから必要なアクティビティのタイプを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティのタイプ

アクティビティタイプ	説明
承認を要求	タスクを実行するために誰かに許可を求めます。
アサイン先	タスクを履行する必要がある人を選択します。
タスクの作成	プレイブックの一部として実行する必要があるプロセスを指定します。
メールの送信	1 人または複数の人にメールを送信します。自動的に送信されるメールの画像を指定したり、テキストを充実させたりすることができます。
プレースホルダー	後で指定する未定義のアクティビティ、またはアクティビティ完了時のメール通知など、より高度なアクティビティを設定します。 プレースホルダーアクティビティにはまだロジックがアサインされていないため、ワークフロースタジオで編集する必要があります。または、後で クリエータースタジオ の別のタイプのアクティビティと入れ替えることもできます。

プレイブックのアクティビティライブラリ



c. アクティビティの基本的な詳細を入力します。

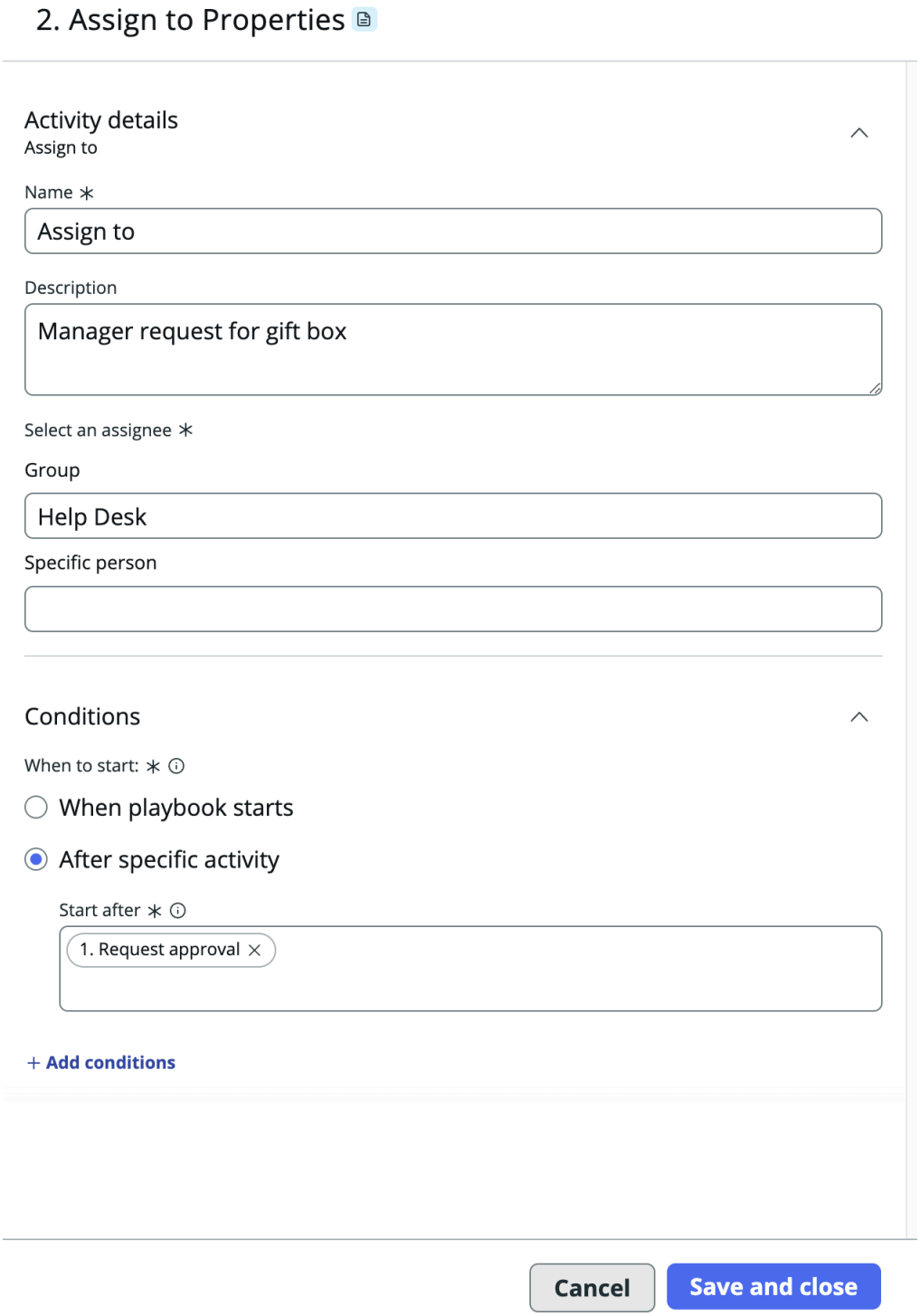
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一般的なアクティビティの詳細

フィールド	説明
名前	アクティビティの一意のユーザー向けの名前。プレイブックの実行中にエージェントと履行者に表示されます。
説明	アクティビティが達成する内容に関するオプションの詳細。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティの詳細パネル



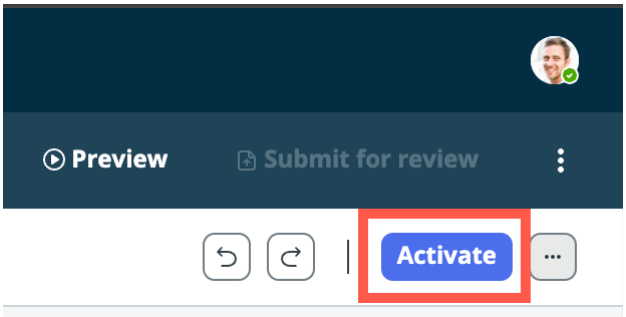
d. アクティビティの作成を完了する方法に関する クリエータースタジオ でアプリのプレイブックにアクティビティを追加する を使用して、アクティビティの詳細を入力します。

e. [保存して閉じる] ボタンを選択して、アクティビティの設定を終了します。

16. 自動化が完了したら、[アクティブ化] ボタンを選択してアクティブ化します。
プレイブックをアクティブ化すると、非本番の開発インスタンスで関連フォームが作成または更新されたときに実行できるようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

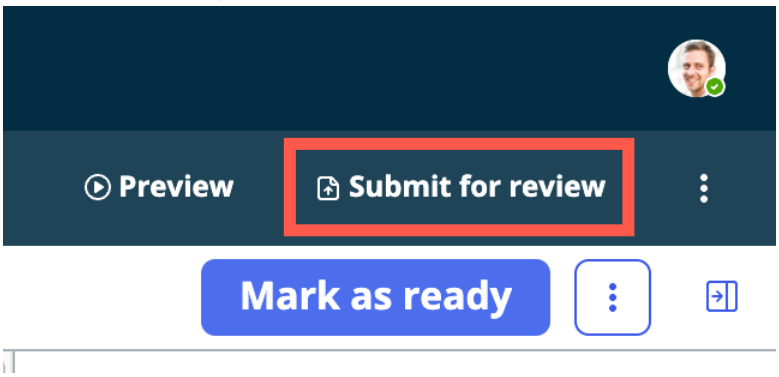
プレイブックをアクティブ化する



17. アプリを作成したら、アドミンが承認して展開できるよう、レビュー用に送信します。

a. アプリケーションヘッダーで、[レビューのため送信] を選択します。

レビューのため送信

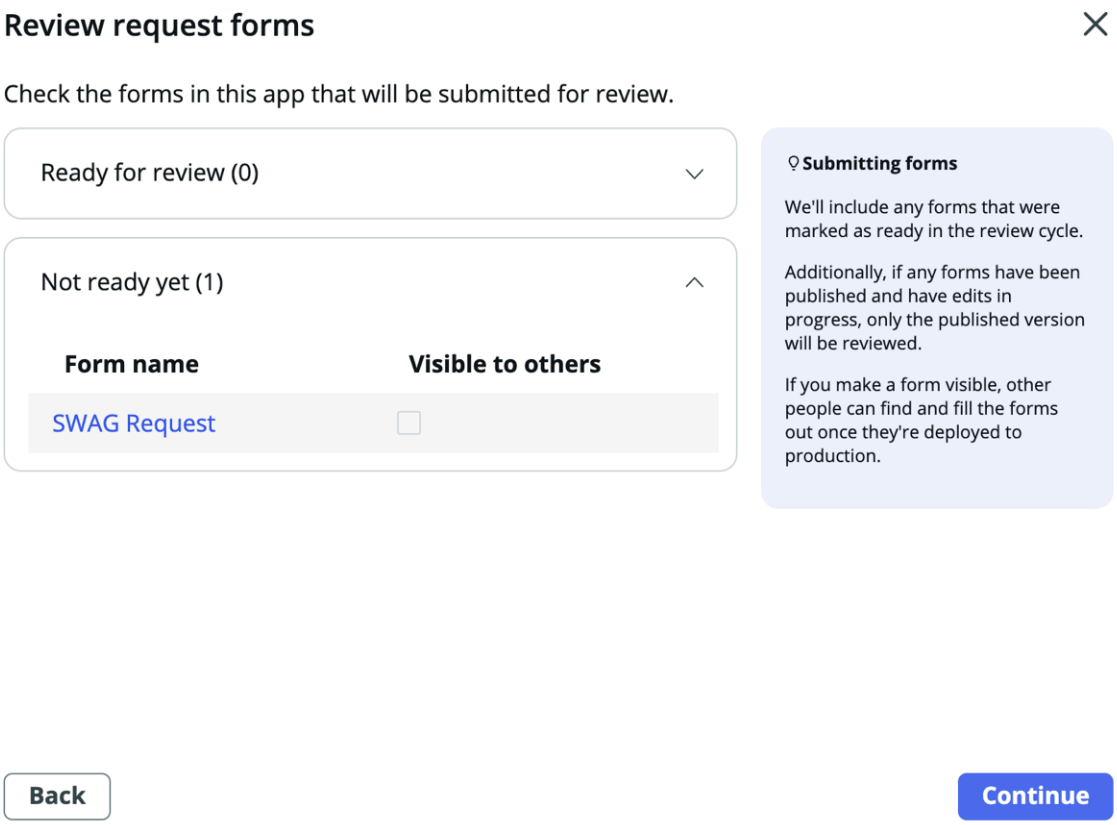


b. [レビューのためアプリを送信 (Submit app for review)] モーダルで [続行] を選択します。

c. 次に、カタログでユーザーに表示する公開済みフォームを選択する必要があります。レビュー要求フォームモーダルの [レビュー準備完了] セクションで、[他のユーザーに表示 **(Visible to others)]** オプションを選択して、アプリの展開後に利用できるようにするアプリの公開済みフォームを 選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

展開のための要求フォームのレビュー



d. 本番環境に展開されるフォームに問題がなければ、[続行] を選択します。

e. 次に、アプリのアクティブ化されたプレイブックのうち、アプリの展開後に本番環境で実行するものを決定する必要があります。プレイブックのレビューモーダルで、アプリが生成するレコードで実行する各プレイブックの [本番環境で実行 **(Run on production)]** オプションを選択します。

> **注:** プレイブックを選択できない場合は、クリエータースタジオ の [自動化] タブに戻り、プレイブックをアクティブ化する必要があります。これについて復習する必要がある場合は、「クリエータースタジオ でプレイブックをアクティブ化する」を確認してください。

f. 本番環境で実行するために展開されるプレイブックに問題がなければ、[続行] を選択します。

g. 最後に、公開されたアプリのすべてのリリースの詳細が正しいことを確認します。

展開のためのバージョニングオプション

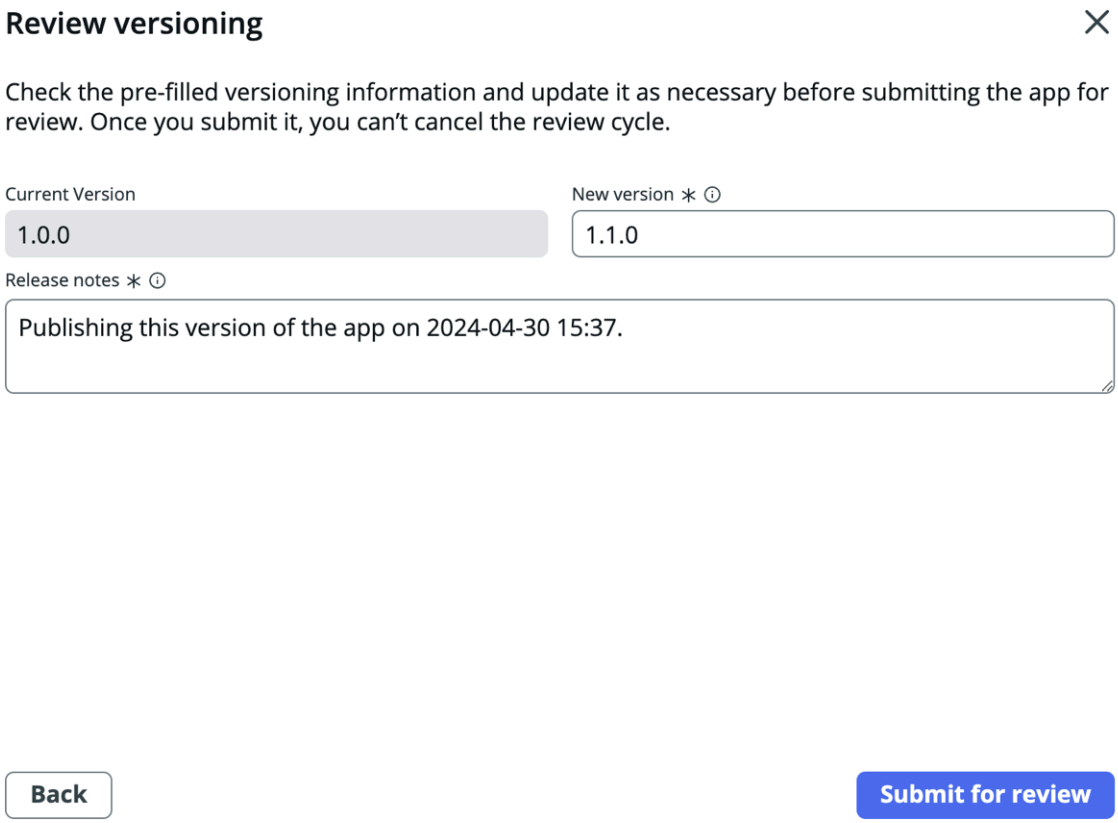
フィールド	説明
新しいバージョン	展開を要求しているアプリのバージョン番号。クリエータースタジオ は更新されたバージョン番号を自動的に生成しますが、これを変更できます。 組織のバージョニングガイドラインに従うか、x.y.z 形式を使用します (x = メジャーアッ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	プデート、y = マイナーアップデート、z = パッチ)。
リリースノート	アプリのこの新しいバージョンでの変更点の詳細、またはこれが最初のバージョンの場合はアプリの機能の一般的な説明。

展開の要求の手順の詳細については、「クリエータースタジオ アプリのバージョン管理とリリースノート」を参照してください。

アプリのバージョン情報



h. すべて正しく、アドミンがレビューして展開する準備ができたら、[レビューのため送信] を選択します。

タスクの結果

おめでとうございます: やりました！アプリを作成し、フォームをカスタマイズし、自動化を追加して、レビュー用に送信しました。アドミンがアプリをレビューして展開すると、ユーザーは新しいアプリを使用して要求を行います。

クリエータースタジオ で最初のアプリを作成する

クリエータースタジオ を使用すると、アプリをより小さな部分に分割して作成できます。それぞれの部分で専門の処理を実施します。順番に取り組んでいきましょう。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サマリー: このセクションを読むと、次のことが理解できるようになります。

- アプリをビルドするための一般的なワークフロー
- アプリのアイデアに盛り込まれるもの
- 誰にサポートを求めるか

各部分で何をするのか、概要を説明しましょう。

1. 私たちにお任せください。まず、作成するアプリに近いカタログテンプレートを選択します。たとえば、IT の問題に対応するアプリを作成している場合、IT 関連の問題を指定するためのフィールドが事前に設計されているカタログテンプレートが存在する可能性があります。このテンプレートは必要なものをすべてカバーしているわけではありませんが、出発点としては確実です。クリエータースタジオ でアプリの基盤を作成する でアプリの最初のフォームを作成するためのカタログテンプレートの選択方法を確認してください。
2. または、他の人のアプリで作業できるよう依頼します！作業したいのにアクセス権がないというアプリが見つかった場合は、そのアプリへのアクセス権を要求できます。その方法については「クリエータースタジオ でアプリの開発を依頼する」を参照してください。
3. 必要な情報を求めます。デフォルトのカタログテンプレートをカスタマイズして、履行者が必要とする特定の情報を要求します。どのようなカスタマイズを行うべきか、どうやって判断しますか？履行者が要求を履行するためにどのような情報を必要とするか、自問してください。「クリエータースタジオ でアプリのフォームをカスタマイズする」でフォームフィールドを追加、削除、および変更する方法を説明します。
4. フォームを利用できるようにします。フォームの準備ができたら、それを公開して、要求者がアクセスできるようにします。このプロセスは簡単です。「クリエータースタジオでアプリのフォームを公開する」で説明します。
5. フォームがトリガーする自動アクションを指定します。要求者がフォームを送信または修正したときに、アプリで何らかのアクションを実行するようにしたいとします。たとえば、新しい要求によってマネージャーからの承認がトリガーされるなど。別のアクションとしては、要求者に電子メールを送信して、要求送信を確認し、トラッキング番号を提供することが考えられます。「クリエータースタジオ で自動化を操作する」で、さらに自動化の可能性を調べてみてください。
6. 履行者が使用するワークスペースをカスタマイズします。 クリエータースタジオ は、履行者がすぐに利用可能な要求を処理するフォーム送信ワークスペースカテゴリを自動的に作成します。ただし、ニーズに合わせて調整することができます。その方法については「クリエータースタジオ でフォーム送信ワークスペースを操作する」を参照してください。
7. アプリを本番環境に展開します。アプリが改良され、テストされ、準備が整ったら、実際のユーザーがアプリを使用して要求を行えるように、アドミンにアプリを本番環境に移行するよう依頼します。その方法については「クリエータースタジオ から本番環境へのアプリの展開を要求する」を参照してください。

ユースケース: Example Company での Sam の仕事は、オフィス機器に対する従業員の要求に応えることです。メールを受信し、スプレッドシートで要求、要求者、機器、価格、日付、履行内容を保管することで、Sam はこの作業を何年も行ってきました。Sam の会社は成長しており、現在では要求の数が膨大になっています。「要求の確認にすべての時間を費やしていて、自分の他の仕事はまったくできません」Sam は、人々がオフィス機器を要求できるようにし、要求の確認メールを自動的に送信し、要求を保存し、ボタンをクリックするだけで要求を実行または拒否できるアプリを作成したいと考えています。人生で 1 行もコードを書いたことがなくても、クリエータースタジオ を使用すると希望どおりのアプリケーションを作成できます。

クリエータースタジオ アプリとテーブル

クリエータースタジオではカタログテンプレートを使用して、アプリの作成プロセスを簡素化します。アプリはタスク テーブルを使用し、送信された要求ごとに新しい行を生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サマリー: このセクションを読むと、次のことが理解できるようになります。

- アプリをビルドするための構成要素
- アプリからの要求の宛先
- 要求を格納するためにテーブルを使用する方法

アプリビルドの構成要素

アプリには、次の構成要素の 1 つまたはすべてが含まれています。

アプリの構成要素

機能	説明
フォーム	フォームに入力すると、関連するタスクまたはワークフローを含むレコードが Now Platform に作成されます。
自動化	自動化にはプレイブックまたは限定されたアクションを含む自動化プロセスが含まれており、ユーザーがレコードを更新し、複数のアクティビティにわたるタスクを完了できるようにします。
フォーム送信ワークスペース	標準およびカスタマイズ可能なフィルターされたリストとともに、クリエータースタジオ に組み込まれたアプリの要求を表示するワークスペース。

アドミンは、フォームビルドプロセスをガイドするカタログテンプレートを作成できます。詳細については、「クリエータースタジオ でのフォームの操作」を参照してください。

アプリからの要求の宛先

クリエータースタジオ 内のすべてのアプリは、ユーザーがアプリを使用するときに開かれているすべてのレコードが保存されるタスクテーブルを自動的に作成します。クリエータースタジオ アプリが生成するテーブルは、タスクテーブルを拡張する、クリエータースタジオ に付属する要求タスクテーブルを拡張します。

テーブルを拡張するということは、新しいテーブルが親 (拡張) テーブルの列とそのビジネスロジックを継承することを意味します。タスクテーブルの詳細については、「タスクテーブルの操作」を参照してください。

システムアドミン専用：クリエータースタジオ でビルドされるすべてのアプリは、要求アプリ構成テーブルにレコードを追加します。テーブルの名前は、scope_request の形式に従います (例：x_snc_02_03_request)。

主要な用語:

レコード

レコードは、アプリを介して送信された要求ごとに Now Platform が生成するものです。各レコードは、アプリのタスクテーブルの行に対応しています。

フォーム、自動化、アプリの公開、アクティブ化、および展開のワークフロー

クリエータースタジオ でアプリをビルドする場合、フォームと自動化を作成する必要があります。すべてが本番環境に展開される前に、フォーム送信ワークスペースをカスタマイズすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリエータースタジオ でアプリを開発する際、次のセクションを順番に進める必要があります。たとえば、アプリの [自動化] セクションで作業を開始する前に、クリエータースタジオ の [フォーム] セクションでアプリのすべてのフォームを準備完了としてマークする必要があります。

1. フォームの作成が完了したら、準備完了としてマークして、公開します。

   公開されたフォームは、開発に使用している非本番インスタンスのカタログで使用できるようになります。

2. 自動化されたプレイブック (作成済みのフォームに基づく) の準備ができたら、アクティブ化します。

   公開されたプレイブックは、開発に使用している非本番インスタンスでフォームが作成または更新されたときにトリガーできます。

3. アプリのフォーム送信ワークスペースは、テストとカスタマイズのために開発に使用している非本番インスタンスで既に利用可能です。
4. すべて問題がなく、アプリを本番環境に展開する準備ができたら、レビュー用に送信します。
5. アドミンがアプリを本番環境に展開すると、アクセス権が付与されたロールを持つユーザーがアプリを利用できるようになります。本番インスタンスにおいて：
   - ユーザーがアプリを利用できます
   - カタログには、公開されているすべてのフォームが含まれます
   - アクティブ化されたプレイブックが該当するレコードでトリガーされます
   - 非アクティブ化されたプレイブックは展開されますが、実行する前にアドミンがアクティブ化する必要があります
   - ユーザーはワークスペースにアクセスしてアプリのフォーム送信を確認できます
6. 公開されたアプリを変更するには、非本番インスタンスで変更を行い、更新されたアプリを本番環境に再展開するようアドミンに要求します。

クリエータースタジオ の構成

アドミンは、ユーザーがアプリのビルド開始を構成できるようにする前に、クリエータースタジオ をインストールする必要があります。

構成の概要

以下は、クリエータースタジオ のインストールと構成の一般的な概要です。

1. インスタンス戦略、たとえば開発 (非本番) インスタンスと本番インスタンスについて、を決定します。詳細については、「クリエータースタジオ 開発インスタンス戦略」を参照してください。
2. ServiceNow Store から クリエータースタジオ をダウンロードして、インストールします。詳細については、「ServiceNow Store から クリエータースタジオ をインストールする」を参照してください。
3. ガイド付きセットアップ を実行して、管理とコラボレーションを構成します。詳細については、「ガイド付きセットアップを使用してクリエータースタジオを構成する」を参照してください。
4. アクセス権が必要なすべてのユーザーに正しいロールがあることを確認します。詳細については、「クリエータースタジオ のロールとペルソナ」を参照してください。

ガイド付きセットアップ による クリエータースタジオ の実装

ガイド付きセットアップ には一連のタスクがあり、ご利用の ServiceNow インスタンスで クリエータースタジオ を設定するのに役立ちます。現在、ガイド付きセットアップ は次の設定に役立ちます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 誰が クリエータースタジオ を管理できるかを定義するアドミングループ
- アプリのオーナーやエディターが実行できることを管理するためのコラボレーション記述子
- クリエータースタジオ でアプリを作成するための完全アクセス権と制限付きアクセス権を持つユーザー

クリエータースタジオ の ガイド付きセットアップ を開くには、[すべて] > **[App Engine]** > [ガイド付きセットアップ：共有 **(Guided Setup – Shared)]**に移動します。

詳細については、「ガイド付きセットアップ 」を参照してください。

クリエータースタジオ のカタログ構成要件

フォームがユーザーに正しく表示されるようにするには、非本番インスタンスと本番インスタンスのサービスカタログ とそのすべてのカテゴリが同じである必要があります。

仮想エージェント チャットボットプレビューの構成

仮想エージェント チャットボットにフォームを表示するには、必要なプラグインをインストールする必要があります。詳細については、「 仮想エージェント のアクティブ化 」を参照してください。

ServiceNow Store から クリエータースタジオ をインストールする

ServiceNow Store から クリエータースタジオ をインストールすると、ユーザーがインスタンス上でアプリをビルドできるようになります。

クリエータースタジオ をインストールして構成するには、会社に App Engine Enterprise ライセンスが必要です。

ServiceNow Store からクリエータースタジオおよび他の製品をインストールする手順については、「ServiceNow Store アプリケーションのインストール 」を参照してください。

> **注:** 仮想エージェント チャットボットにフォームを表示するには、必要なプラグインをインストールする必要があります。詳細については、「 仮想エージェント のアクティブ化 」を参照してください。

クリエータースタジオがインスタンスにインストールされたら、アドミンはそれを構成する必要があります。これを行う最も簡単な方法はガイド付きセットアップを使用することです。その方法は「ガイド付きセットアップを使用してクリエータースタジオを構成する」を参照してください。

クリエータースタジオ 開発インスタンス戦略

本番インスタンスを含め、ユーザーがアプリケーションを構築するすべての ServiceNow インスタンスに クリエータースタジオ をインストールしてください。

インスタンス戦略の決定

社内の クリエータースタジオ へのアクセスを管理する方法を決定する必要があります。次のオプションを検討してください。

- オープンアクセス：社内の全員が クリエータースタジオ を使用してアプリを作成できるようにします。
- 制限されたアクセス：アクセスを特定のユーザーグループに制限します。
- 要求ベースのアクセス：ユーザーがアクセスを申請できるフォームを設定します。アドミニストレーターはこれらの要求を確認し、アクセスを許可するかどうかを決定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開発および本番インスタンスへの展開

本番インスタンスと同様に構成された非本番インスタンスが、テスト環境の最適な候補です。これにより、アプリケーションを本番環境に展開した場合に発生する可能性のある問題をより正確に見つけることができます。

開発者が非本番インスタンスで、クリエータースタジオ のアプリをビルドし、準備ができて承認されたアプリを本番環境に展開する必要があります。

アプリを展開すると、レコードは本番インスタンスのストアアプリ [sys_store_app] テーブルで参照されます。ただし、アプリを開発しているときは、レコードはシステムアプリケーション [sys_app] テーブルで参照されます。したがって、本番環境で開発する場合は、[sys_store_app] ではなく [sys_app] テーブルを使用して開発しています。

インスタンス戦略を確立したら、承認またはレビューのプロセスを確立して自動化する必要があります。クリエータースタジオ は非本番環境で実行され、アドミンが本番環境にアプリを展開します。展開プロセスの詳細については、「クリエータースタジオ アプリを展開する」を参照してください。

組織に複数の非本番環境がある場合は、クリエータースタジオ を実行する非本番環境を決定する必要があります。また、どのパイプラインを使用して特定の非本番インスタンスからテストインスタンスにアプリを昇格させるか、そして最終的にそのアプリの実際の本番環境に昇格させるか、決定する必要があります。詳細については、「パイプラインと展開」を参照してください。

クリエータースタジオ のカタログ構成要件

フォームがユーザーに正しく表示されるようにするには、非本番インスタンスと本番インスタンスのサービスカタログ とそのすべてのカテゴリが同じである必要があります。

開発者ロールとインスタンスでのアプリのテスト

sn_creatorstudio.user または sn_creatorstudio.restricted_user の クリエータースタジオ ロールを持っている場合、非本番インスタンスの要求アプリワークスペースでビルドしたアプリをテストすることはできません。クリエータースタジオ のアプリプレビューを使用して、非本番インスタンスでアプリをテストできるはずです。本番環境に展開されたアプリのワークスペースで、履行者としてアプリをテストできます。

ユースケース:

あるユーザーは クリエータースタジオ ユーザーグループに属しているため、アプリをビルドすると、そのアプリの委託開発権限が付与されます。その後、このユーザーは要求フォームを公開でき、フォームに必要なロールがない場合は、フォームを使用して要求を送信できます。

ただし、このユーザーは x_acme_user_app.agent ロールを持たず、そのロールを自分自身に付与できないため、要求を履行し、要求アプリワークスペースにアクセスすることはできません。アドミニストレーターは、必要に応じて追加のロールをアサインする必要があります。

クリエータースタジオ とともにインストールされるコンポーネント

クリエータースタジオ プラグインをアクティブ化すると、テーブルやユーザーロールなどのさまざまなコンポーネントが自動的にインストールされます。

注: アプリケーションファイルテーブルには、このアプリケーションとともにインストールされたコンポーネントがリストされています。このテーブルへのアクセス手順については、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

クリエータースタジオ をアクティブ化するのに必要なプラグイン

クリエータースタジオ に次のプラグインをインストールする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- クリエータースタジオ [sn_creatorstudio]
- クリエータースタジオ - Global [com.glide.creator_studio.global]

クリエータースタジオ と一緒にインストールされるロール

次の表に、クリエータースタジオ とともにインストールされるすべてのロールを示します。ロールとクリエータースタジオ の連携の詳細については、「クリエータースタジオ のロールとペルソナ」を参照してください。

クリエータースタジオ と一緒にインストールされるロール

ロール	説明	ロールを含む
sn_creatorstudio.user	• クリエータースタジオ へのアクセスを提供します • ユーザーは新しいアプリを作成できます	• catalog_builder_editor • sn_collab_request.basic_write • sn_udc.basic_read • sn_creatorstudio.basic_read • sn_collab_request.basic_read • app_template_runner • sn_g_app_creator.app_creator
sn_creatorstudio.restricted_user	• クリエータースタジオ へのアクセスを提供します • ユーザーは新しいアプリを作成できません	• catalog_builder_editor • sn_creatorstudio.app_requestor • sn_collab_request.basic_write • sn_udc.basic_read • sn_creatorstudio.basic_read • sn_collab_request.basic_read • app_template_runner
sn_creatorstudio.basic_read	クリエータースタジオ リソースへのプリミティブ読み取りアクセス	
sn_creatorstudio.basic_write	クリエータースタジオ リソースへのプリミティブ書き込みアクセス	
sn_creatorstudio.admin_write	クリエータースタジオ へのアドミン書き込みアクセス	• sn_creatorstudio.basic_read • sn_creatorstudio.basic_write
sn_creatorstudio.app_requestor	クリエータースタジオ リソースへのプリミティブアプリ要求者アクセス	
sn_creatorstudio.basic_fulfiller	一部の履行者に以下を提供します。	canvas_user

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリエータースタジオ と一緒にインストールされるロール (続く)

ロール	説明	ロールを含む
	• 要求アプリワークスペースへのアクセス • sn_creatorstudio_task テーブルの一部のフィールドを編集する機能	

クリエータースタジオ とともにインストールされるテーブル

インストールされるテーブル

テーブル	説明
要求サブタスク [sn_creatorstudio_child_task]	タスクテーブルを拡張します。
新規アプリケーションアドミンタスク [sn_creatorstudio_new_application_admin_task]	タスクテーブルを拡張します。
新規アプリケーションタスク [sn_creatorstudio_new_application_task]	タスクテーブルを拡張します。
要求アプリ構成 [sn_creatorstudio_request_app_config]	アプリケーションファイルテーブルを拡張します。
要求タスク [sn_creatorstudio_task]	クリエータースタジオ で行われたアプリからのすべての要求が保存されるテーブル。 注: 要求タスクテーブルが、非本番インスタンスだけでなく本番インスタンスにもインストールされている必要があります。

ガイド付きセットアップを使用してクリエータースタジオを構成する

これで、インスタンスにクリエータースタジオがインストールされました。次のステップは以下のとおりです。ユーザーがアプリのビルドを開始する前に、構成する必要があります。

始める前に

クリエータースタジオを構成する前に、インスタンスにインストールする必要があります。詳細については、「ServiceNow Store から クリエータースタジオ をインストールする」を参照してください。

フォームがユーザーに正しく表示されるようにするには、非本番インスタンスと本番インスタンスのサービスカタログ とそのすべてのカテゴリが同じである必要があります。

必要なロール：admin

このタスクについて

ガイド付きセットアップでは、クリエータースタジオの構成を簡素化し、完了した内容が追跡されるため、設定を中断しても、その時点から再開できます。

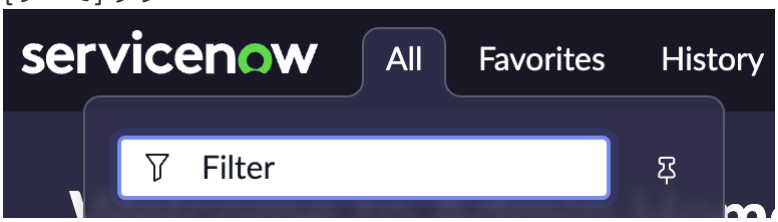
このガイド付きセットアップでは、ユーザーアクセスとコラボレーション設定を構成して、クリエータースタジオで誰が何を実行できるかを制御します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ガイド付きセットアップを開いてみましょう。インスタンスで [すべて] タブを選択します。

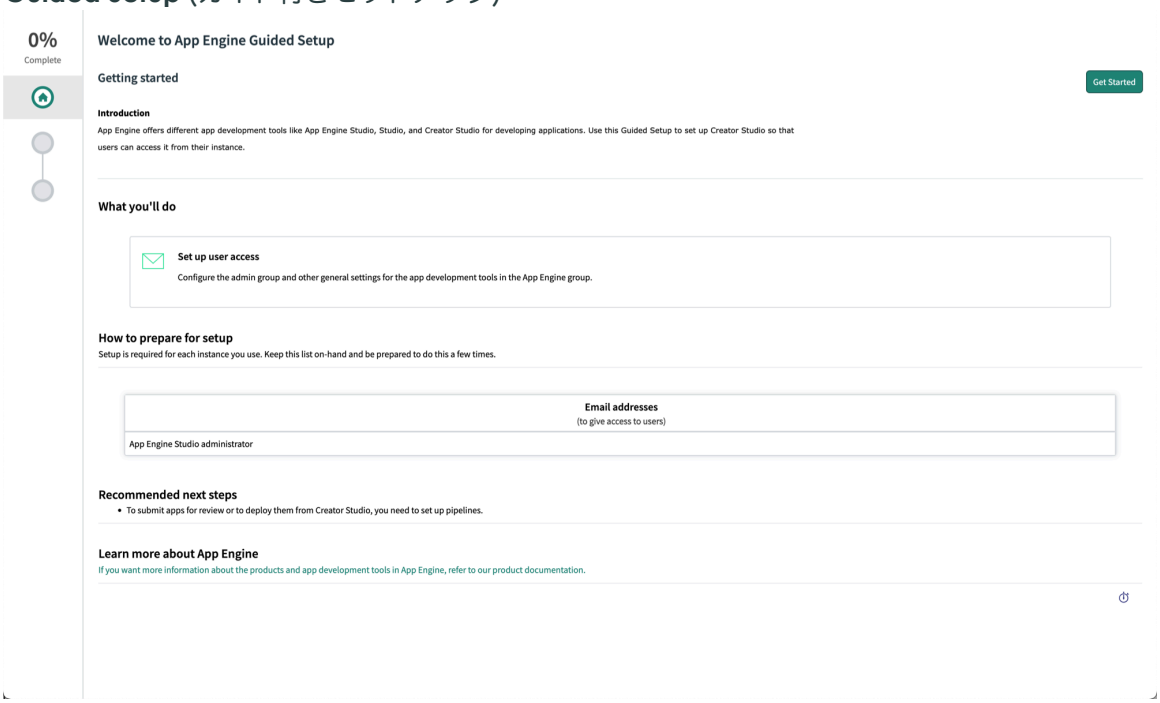
[すべて] タブ



このタブでは、インスタンスにインストールされているすべてのアプリを確認できます。

2. 白いテキストフィールドに「`App Engine`」と入力します。
テキストボックスの下に表示されるアプリのリストは、App Engine のみに関連するようになりました。
3. リストで、「ガイド付きセットアップ：共有 **(Guided Setup – Shared)**」を選択すると、構成プロセスが開始されます。
ガイド付きセットアップアプリが開き、いくつかの基本的な構成を行います。

Guided Setup (ガイド付きセットアップ)



4. [開始] ボタンを選択して、セットアッププロセスを開始します。
5. [ユーザーアクセスの設定]セクションの [開始] ボタンを選択して、ユーザーアクセスを構成します。
6. ServiceNow アドミニストレーターがアクセスしてクリエータースタジオを操作および構成できるように、アドミングループを設定します。

   a. [アドミングループを設定する (Set up the admin group)] セクションの [構成] ボタンを選択します。

   b. App Engine アドミングループに変更を加えます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine アドミニストレーターは、制限されたユーザーがアプリを作成する必要がある場合など、アプリ開発のタスクを承認します。

c. レコードを更新して変更を保存します。

d. ガイド付きセットアップページの [完了としてマーク] ボタンを選択して、このステップが完了したことを示します。

7. コラボレーション記述子を設定して、アプリのオーナーとエディターのコラボレーションタイプが実行できることを管理します。
デフォルトでは、オーナーはアプリ上で何でもできるのに対し、エディターはできることが制限されています。詳細については、「クリエータースタジオ でのコラボレーション」を参照してください。

a. [ユーザーの機能を管理するためのコラボレーション記述子の設定 (Set up collaboration descriptors to manage your user's capabilities)] セクションの [構成] ボタンを選択します。

b. コラボレーションロールをカスタマイズするか、新しいロールを追加します。
詳細については、「アプリケーションコラボレーション」を参照してください。

c. レコードを更新して変更を保存します。

d. ガイド付きセットアップページの [完了としてマーク] ボタンを選択して、このステップが完了したことを示します。

8. **[App Engine** ガイド付きセットアップの開始 **(Welcome to App Engine Guided Setup)]** ブレッドクラムリンクを選択して、ガイド付きセットアップのメインページに戻ります。

9. [クリエータースタジオへのアクセスを設定する (Set up access to Creator Studio)] セクションの [開始] ボタンを選択して、クリエータースタジオにフルアクセスできるユーザーを設定します。このセクションでは、クリエータースタジオ内のアプリで作業するためのフルアクセス権をどのユーザーに付与し、誰により制限された機能を付与するかを決定します。たとえば、制限されたユーザーは、アドミンに新しいアプリを作成するように要求する必要があります。詳細については、「クリエータースタジオ のロールとペルソナ」を参照してください。

10. [クリエータースタジオのユーザーへのフルアクセスの付与 (Grant full Creator Studio access to users)] セクションの [構成] ボタンを選択して、ユーザーにフルアクセス権を設定します。

a. クリエータースタジオユーザーグループにユーザーを追加します。
クリエータースタジオユーザーグループのユーザーはアプリを操作するためのフルアクセス権を持ち、アドミンの助けを必要とせずにアプリを作成できます。

b. レコードを更新して変更を保存します。

c. ガイド付きセットアップページの [完了としてマーク] ボタンを選択して、このステップが完了したことを示します。

11. [クリエータースタジオ の制限付きアクセスの付与 (Grant Creator Studio Restricted access)] セクションの [構成] ボタンを選択して、ユーザーに制限付きアクセス権を設定します。

a. クリエータースタジオの制限付きユーザーグループにユーザーを追加します。
クリエータースタジオの制限付きユーザーグループのユーザーは、アプリを操作するための制限付きアクセス権を持ち、アドミンにアプリの作成を要求する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. レコードを更新して変更を保存します。

c. ガイド付きセットアップページの [完了としてマーク] ボタンを選択して、このステップが完了したことを示します。

次のタスク
クリエータースタジオ の構成が完了したら、パイプラインと展開 を構成して、クリエータースタジオ に組み込まれたアプリをビルドして本番環境に展開できます。方法については、「パイプラインと展開 の構成」を参照してください。

クリエータースタジオ に組み込まれたアプリを展開するための パイプラインと展開 の構成

パイプラインと展開 をインストールし、コントローラーインスタンスを構成して、クリエータースタジオ に組み込まれたアプリを本番インスタンスに展開できます。

パイプラインと展開 の設定方法に関する詳細については、「パイプラインと展開 の構成」を参照してください。

クリエータースタジオ のロールとペルソナ

ロールは、一緒に作業する全員がクリエータースタジオで何を実行できるかを制御します。アドミニストレーターはロールを割り当てて、クリエータースタジオ を構成または使用する権限をチームメンバーに付与します。

クリエータースタジオの 2 つのロールは、新しいアプリの作成からのアクセスを制限するために使用され、インスタンスが冗長なアプリ、計画外のアプリ、または未使用のアプリで満杯にならないようにするために役立ちます。

クリエータースタジオ を使用するペルソナ

ペルソナは明示的に クリエータースタジオ の一部ではありませんが、アドミニストレーターはロールをアサインして、チームメンバーに クリエータースタジオ を構成または使用する権限を付与します。

ローコード/市民開発者

ローコード/市民開発者は技術に精通しており、アプリの作成に興味があります。正式なコーディングやアプリ開発のトレーニングを受けていない場合でも、市民開発者は新しいアプリのアイデアを送信し、承認された場合は クリエータースタジオを使用してビルドできます。

ローコード/市民開発者は、sn_creatorstudio.user ロールまたは sn_creatorstudio.restricted_user ロールを持っています。

App Engine アドミン

App Engine アドミンは、クリエータースタジオ のアプリ開発に関連するすべてのプロセスを管理します。通常は App Engine 管理センター で、新しいアプリのアイデアをレビューし、アプリの展開を処理し、協力者を管理します。

App Engine アドミンは app_engine_admin ロールを持ち、app_engine_admin グループに属している必要があります。

セキュリティアドミン

セキュリティアドミンは、アプリのロールとアクセス制御リストを作成および変更します。このロールはプラットフォームレベルで設定され、クリエータースタジオ のロールを更新するために必要です。

システムアドミニストレーター

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムアドミニストレーターは、セキュリティ上の制約に関係なく、すべてのシステム機能、機能、およびデータにアクセスできます。この権限は慎重に付与してください。保護する必要がある HR レコードなどの機密情報がある場合は、その領域のカスタム admin ロールを作成し、それらのレコードを表示する権限を持つユーザーをアドミニストレーターとしてトレーニングする必要があります。

ロールとそのロールがクリエータースタジオでできること

次のテーブルのロールに加えて、admin ロールと delegated_developer ロールを持つユーザーもクリエータースタジオ にアクセスできます。

各ロールに含まれるロールの詳細については、「クリエータースタジオ とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

クリエータースタジオのロール

ロール	名前	説明
クリエータースタジオ ユーザー	sn_creatorstudio.user	• ユーザーは、クリエータースタジオでアプリを作成できます。 • ユーザーはアプリのオーナーとして自動的に委任されます。詳細については、「委託開発と展開」を参照してください。 • sn_g_app_creator.app_creator が含まれます。 **注:** このロールには、アプリの作成時またはアクセス時に delegated_developer ロールがアサインされます。
クリエータースタジオ 制限付きユーザー	sn_creatorstudio.restricted_user	• ユーザーは、クリエータースタジオでアプリを作成できません。 • ユーザーは、アプリの作成やアプリでの作業を要求できます。 • ユーザーは、開発者として指定されたアプリで作業できます。 • アプリでの作業をアサインされると、このユーザーはそのアプリの delegated_developer ロールを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリエータースタジオのロール (続く)

ロール	名前	説明
App Engineアドミン	app_engine_admin	• 制限されたユーザーからのアプリ作成要求を承認します。 • コラボレーション要求を承認します。 • アドミンが承認する必要があるアプリを確認できるようにするための sn_creator_studio.admin_write と sn_creator_studio.basic_write が含まれています。

注:

ユーザーがインスタンスバージョンに関係なくコラボレーション承認ワークフローを使用できるようにするには、アドミンは catalog_builder_editor ロールをクリエータースタジオユーザーグループにアサインする必要があります。

ユーザーグループとそのユーザーグループがクリエータースタジオでできること

グループは、ユーザーを追加することでクリエータースタジオへのアクセスを迅速に制御できる標準機能です。

クリエイタースタジオのユーザーグループ

グループ	説明
クリエータースタジオ ユーザー	• ユーザーは、クリエータースタジオでアプリを作成することを自動的に承認されます。 • sn_creatorstudio.user が含まれます。
クリエータースタジオ 制限付きユーザー	• このグループのユーザーは、自分に代わってクリエータースタジオでアプリケーションを作成するように要求する必要があります。 • sn_creatorstudio.restricted_user が含まれます。

開発者ロールとインスタンスでのアプリのテスト

sn_creatorstudio.user または sn_creatorstudio.restricted_user の クリエータースタジオ ロールを持っている場合、非本番インスタンスの要求アプリワークスペースでビルドしたアプリをテストすることはできません。クリエータースタジオ のアプリプレビューを使用して、非本番インスタンスでアプリをテストできるはずです。本番環境に展開されたアプリのワークスペースで、履行者としてアプリをテストできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユースケース:

あるユーザーは クリエータースタジオ ユーザーグループに属しているため、アプリをビルドすると、そのアプリの委託開発権限が付与されます。その後、このユーザーは要求フォームを公開でき、フォームに必要なロールがない場合は、フォームを使用して要求を送信できます。

ただし、このユーザーは x_acme_user_app.agent ロールを持たず、そのロールを自分自身に付与できないため、要求を履行し、要求アプリワークスペースにアクセスすることはできません。アドミニストレーターは、必要に応じて追加のロールをアサインする必要があります。

異なるバージョンでのコラボレーションロールとインスタンス

アドミンがクリエータースタジオを実装する際、クリエータースタジオのない旧バージョンの Now Platform 上に本番インスタンスがあるにもかかわらず、非本番インスタンスにインストールすることがあります。このインスタンスバージョンの不一致は、非本番インスタンスをソースとして、本番インスタンスをコントローラーとして指定するコラボレーション承認ワークフローに影響します。クリエータースタジオをサポートするバージョンのコラボレーションプラグインがコントローラーにない場合、コラボレーションはサポートされません。

ユーザーがインスタンスバージョンに関係なくコラボレーション承認ワークフローを使用できるようにするには、アドミンは catalog_builder_editor ロールをクリエータースタジオユーザーグループにアサインする必要があります。

ロールとアプリ開発のコラボレーション

ロールは、クリエータースタジオへのユーザーアクセスを定義します。個々のアプリで作業する権限は、アプリごとに制御されます。つまり、他の市民開発者を招待してアプリで一緒に作業したり他の人のアプリへの参加を要求したりすることで、アプリごとに協力者を管理する必要があります。詳細については、「クリエータースタジオ でのコラボレーション」を参照してください。

クリエータースタジオ とドメインセパレーション

Domain Separation は クリエータースタジオ ではサポートされません。つまり、Now Platform 内で、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる個別のグループに分離することはできません。

ドメインセパレーションはサポートされていません

クリエータースタジオ が使用するデータテーブルでドメインが指定されている場合がありますが、クリエータースタジオ ではドメインに基づくデータの特別な処理は提供されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

クリエータースタジオ の管理

アドミンには、通常のユーザーにはない、クリエータースタジオ でタスクを承認および更新する特別な権限があります。たとえば、アドミンは、制限付きユーザー向けのアプリの作成、コラボレーション要求の管理、本番環境へのアプリの展開を行うことができます。

クリエータースタジオ要求を承認してアプリを作成する

自分でアプリを作成できないユーザーによるアプリ作成要求に応答し、組織内にアプリが多すぎたり冗長になったりしないようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：app_engine_admin

このタスクについて
クリエータースタジオ制限付きユーザーロールを持つユーザーは、自分でアプリを作成することはできませんが、アドミンが [要求アプリ管理 (Request App Administration)] の [アプリケーションタスク (Application Tasks)] テーブルで作成を承認した後は、アプリを操作することができます。

組織に App Engine 管理センターがある場合は、そこで要求を承認することもできます。詳細については、「クリエータースタジオ からのアプリ要求の管理」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [要求アプリ管理 **(Request App Administration)]** > [アプリケーションタスク **(Application Tasks)]**に移動します。
   アプリ作成要求を通知する受信メール内のリンクを選択することもできます。
2. 承認または拒否する要求を見つけます。
   要求を探しにくい場合は、列でフィルターするか検索バーを使用します。
3. 確認する要求の番号を選択します。
4. [承認] または [却下] ボタンを選択して、アプリ作成要求を承認または拒否します。

タスクの結果
要求を行ったユーザーには、承認結果がメール通知されます。承認すると、ユーザーはクリエータースタジオでアプリのビルドを開始できます！

クリエータースタジオ でのコラボレーションの管理

クリエータースタジオ では、アドミニストレーターまたは App Engine アドミンとして、プロジェクトでのユーザーの共同作業方法を管理できます。

コラボレーション要求を承認して、委任された開発者がアプリで連携するようにできます。

コラボレーション記述子は、ユーザーがアプリで実行できることを定義する権限レベルのようなものです。アドミンは、コラボレーション記述子をアサイン、カスタマイズできます。

クリエータースタジオ では次のコラボレーション記述子を使用できます。

コラボレーション記述子

権限	説明	アプリでできること
協力者の管理	アプリにアクセスできるユーザーと実行できることを制御できます。	• ユーザーとグループの権限を変更する。 • アプリでの作業からユーザーを削除する。
協力者を招待	アプリで作業する新しいユーザーを呼び込むことができます。	• ユーザーやグループをアプリに参加するよう招待する。 • 招待されたユーザーはアプリのエディターになり、変更を加えることができる。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コラボレーション要求を承認する

アドミンと App Engine アドミンは、クリエータースタジオ でアプリの開発に参加するユーザーの要求を確認して承認 (または却下) できます。

始める前に

コントローラーインスタンスが構成されている場合は、クリエータースタジオ の非本番インスタンスではなく、コントローラーインスタンスでコラボレーション要求を承認する必要があります。通常、コントローラーインスタンスは本番インスタンスですが、パイプラインと展開 アプリケーションの構成方法によって異なる場合があります。詳細については、「コントローラーインスタンスの構成」を参照してください。

必要なロール：app_engine_admin

このタスクについて

注: 委任開発者ロールを持つユーザーは、コラボレーションのために自動的に承認されます。

手順

1. [すべて] > *App Engine* > [コラボレーション] > [コラボレーションタスク]に移動します。
2. コラボレーションテーブルの [番号] 列でコラボレーション要求を選択します。
   [アプリ名] または [招待者の名前] 列を検索またはフィルタリングすると、要求をより速く見つけることができます。
3. [状況] フィールドの承認ステータスを更新します。
   - 承認してクローズ
   - クローズ済み (却下済み)
   - キャンセル
   - クローズ済み (失敗)
4. レコードを更新して変更を保存します。

Now Platform での クリエータースタジオ コラボレーション権限の管理

クリエータースタジオ では、コラボレーション記述子と呼ばれる権限を設定することで、ユーザーがアプリで共同作業する方法を制御できます。これらの記述子は、ユーザーができることとできないことを定義します。

始める前に

必要なロール：app_engine_admin、および協力者を管理する権限

このタスクについて

協力者を管理する権限を持つユーザーは、自分が所有するアプリで共同作業を行えるユーザーを調整できます。詳細については、「クリエータースタジオでアプリの協力者を管理する」を参照してください。

注: コラボレーション権限の表示方法は、インスタンスに App Engine Studio がインストールされているかどうかによって異なる場合があります。

手順

1. [すべて] > *App Engine* > [コラボレーション] > [記述子]に移動します。
2. 所有者や編集者などのコラボレーション記述子の権限を編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 変更する記述子の名前を見つけて選択します。

b. [サービスカタログ] などの [開発権限セット] を選択して、その権限を更新します。
権限のリストについては、「コラボレーション権限」を参照してください。

c. [保存] と [更新] を選択します。

3. 更新された記述子をユーザーまたはグループにアサインします。

a. 記述子の [名前] ([オーナー]や[エディター]など) を選択します。

b. 該当するいずれかのタブを選択して、ユーザーまたはグループをアサインします。
- [アプリコラボレーションユーザー] タブ：個々のユーザー用
- [アプリコラボレーショングループ] タブ：ユーザーグループ用

c. [新規] ボタンを選択します。

d. フォームのフィールドに入力します。
詳細は、以下のトピックを参照してください。
- ユーザーへのコラボレーション記述子のアサイン
- グループへのコラボレーション記述子のアサイン

e. [保存] を選択します。

4. オプション: 新しいコラボレーション記述子が必要な場合は、カスタムコラボレーション記述子を作成します。

a. [新規] ボタンを選択します。

b. フォームのフィールドに入力します。

アプリコラボレーション記述子フォーム

フィールド	説明
名前	記述子の名前。
Description (説明)	記述子が実行できることの説明。次に例を示します。 - 所有者 - 編集者
アプリケーション	コラボレーション記述子のスコープ。現在、すべてのコラボレーション記述子をグローバルスコープで作成する必要があります。
標準	このロールを持つ他の協力者を招待するためのオプション。

c. [送信] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
コラボレーション記述子を設定し、権限を定義して、特定のアプリのユーザーとグループにロールをアサインしました。コラボレーションアプリの使用の詳細については、「アプリケーションコラボレーション」を参照してください。

クリエータースタジオでカスタマイズされたアプリコラボレーション権限

コラボレーション権限をカスタマイズすると、ユーザーがクリエータースタジオで操作できるより詳細なアクションやアプリの部分を選択できます。

これらの権限は、アドミンまたはアプリオーナーとしてコラボレーションを管理するときに使用します。詳細は、以下のトピックを参照してください。

- Now Platform での クリエータースタジオ コラボレーション権限の管理
- クリエータースタジオでアプリの協力者を管理する

ファイルタイプのカスタムコラボレーション権限

ファイルタイプのコラボレーション権限

権限	説明	オーナーのデフォルト設定	エディターのデフォルト設定
すべてのファイルタイプ	他のオプションでは付与されない追加のファイルタイプを含む、すべてのタイプのファイルを操作するためのアクセス権を付与します。	はい	はい
統合	Web サービス API、REST API、データソース、および 統合ハブ - インポートへのアクセス権を付与します。	はい	はい
レポート	レポートおよびスケジュール済みレポートへのアクセス権を付与します。	はい	はい
モバイルビルダー	モバイルアプリビルダー などを使用してモバイルエクスペリエンスをビルドするためのアクセス権を付与します。	はい	はい
UI ビルダー	UI ビルダー を使用してより複雑なインターフェイスをビルドするためのアクセス権を付与します。	はい	はい
ワークフロー	ワークフローエディターおよびアクティビティクリエーターへの	はい	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイルタイプのコラボレーション権限 (続く)

権限	説明	オーナーのデフォルト設定	エディターのデフォルト設定
	アクセス権を付与します。		
サービスポータル	サービスポータル のエディターとツールを操作するためのアクセス権を付与します。	はい	はい
フローデザイナー	フローとアクションを作成するための フローデザイナー 設計環境へのアクセス権を付与します。	はい	はい
サービスカタログ	カタログアイテム、レコードプロデューサー、変数などのカタログ関連のファイルタイプを操作して、カタログアイテムをアプリに追加するためのアクセス権を付与します。	はい	はい
テーブルとフォーム	テーブル列、フォームレイアウト、リストレイアウトなど、モデルおよびレイアウト関連のファイルタイプへのアクセス権を付与します。	はい	はい
ディシジョンテーブル	ディシジョンテーブルを操作して、複数の if-else ルールに基づいて意思決定ロジックを作成するためのアクセス権を付与します。	はい	はい
プロセスオートメーションデザイナー	プロセスオートメーションデザイナー 設計環境を操作してプロセスを作成するためのアクセス権を付与します。アクティビティサブフローまたはアクションを編集するには、フローデザイナー権限が必要です。	はい	はい
通知	自動電子メール通知を作成し、電子メールテンプレートを操作するためのアクセス権を付与します。	はい	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セキュリティ/権限のカスタムコラボレーション権限

[アクセスコントロールの管理 **(Manage access control)]** は、アクセス制御リストやロールなどのセキュリティ管理ファイルへのアクセス権を付与します。

オーナーとエディターの両方のデフォルト設定が選択されます。

プログラミングツールのカスタムコラボレーション権限

[スクリプティングを許可 **(Allow Scripting)]** は、[ビジネスルール]、[UI アクション]、[クライアントスクリプト] などにあるスクリプトフィールドへのアクセス権を付与します。

オーナーとエディターの両方のデフォルト設定が選択解除されます。

アプリケーション管理のカスタムコラボレーション権限

アプリケーション管理のコラボレーション権限

権限	説明	オーナーのデフォルト設定	エディターのデフォルト設定
アプリケーションを削除します	アプリを削除するためのアクセス権を付与します。	はい	いいえ
協力者の管理	アプリで共同作業する開発者とその権限を変更するためのアクセス権を付与します。	はい	いいえ
ソースコントロール	ソースコントロールツール統合を操作するためのアクセス権を付与します。	いいえ	いいえ
協力者を招待	開発者をアプリで共同作業するよう招待するためのアクセス権を付与します。	はい	はい

展開のカスタムコラボレーション権限

展開のコラボレーション権限

権限	説明	オーナーのデフォルト設定	エディターのデフォルト設定
アプリをアップグレード	アプリケーションをアップグレードするためのアクセス権を付与します。	いいえ	いいえ
展開の送信	アプリの展開を要求するためのアクセス権を付与します。	はい	いいえ
アプリをリポジトリに公開	アプリをリポジトリに公開するためのアクセス権を付与します。	いいえ	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

展開のコラボレーション権限 (続く)

権限	説明	オーナーのデフォルト設定	エディターのデフォルト設定
アプリストアに公開	アプリをアプリストアに公開するためのアクセス権を付与します。	いいえ	なし

クリエータースタジオ のテンプレートとフォームの管理

アドミンは、カスタムテンプレートと事前設定された質問を作成して、ユーザーが クリエータースタジオ でアプリをビルドするのを簡素化およびガイドすることができます。

クリエータースタジオ アプリで使用するカタログテンプレートの作成

ServiceNow アドミンは、サービスカタログ でカスタマイズしたカタログテンプレートを作成し、クリエータースタジオ にフォームを追加する方法をユーザーにガイドできます。

たとえば、ユーザーが IT フルフィルメント用に複数のアプリをビルドする場合は、IT サービス要求のみを含むカタログテンプレートを作成できます。

ユーザーが クリエータースタジオ でフォームを作成できるようにカタログテンプレートを追加する場合は、次の構成を使用する必要があります。

- レコードプロデューサーテンプレートを作成します。
- [宛先テーブル] (クリエータースタジオでは [レコード送信テーブル] と呼ばれます) は未定義のままにしておきます。
- クリエータースタジオユーザーグループがテンプレートにアクセスできることを確認します。テンプレートはすべてのユーザーが利用できるようにすることもできます。

さらに、カタログテンプレートを使用して、アプリの作成時にユーザーが選択できるカタログを制限することもできます。

カタログテンプレートを追加する方法の詳細については、「カタログアイテムテンプレートの作成または編集」を参照してください。

クリエータースタジオ フォームで使用する質問セットの作成

アドミンは、クリエータースタジオ で変更することなく、複数のフォームで再利用できる事前設定された質問セットを作成できます。

質問セットを使用して、アドミンはキュレーションされた編集不可能な質問を作成し、ユーザーがコンテンツの微調整することなくフォームに含めることができます。

さらに、複数の再利用可能な質問を常にグループ化する場合は、複数の質問を含む質問セットを作成できます。

サービスカタログ で質問セットを作成する方法については、「変数セットを作成してアイテムに追加する」を参照してください。

クリエータースタジオ の展開の管理とアプリの使用状況の監視

ユーザーは、アプリを作成したら、アドミンがレビューおよび展開するためにそのアプリを送信します。どのように展開するかは、インスタンスに App Engine 管理センター (AEMC) がインストールされているかどうかによって異なります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AEMC を使用したアプリの展開の管理

アプリはクリエータースタジオから直接展開されません。代わりに、App Engine 管理センター (AEMC) を使用します。

詳しくは、AEMC でのパイプラインを使用した展開の管理 でのアプリの展開に関する詳細をご覧ください。

AEMC を使用しないアプリの展開の管理

AEMC がインストールされていない場合は、パイプラインと展開 と展開タスクテーブルを使用して アプリケーションリポジトリ に公開できます。詳細については、「パイプラインと展開 ワークフローバージョン 24.1.2」を参照してください。

パイプラインと展開 の [スケジュール済み展開 **(Scheduled Deployments)**] タブで展開の詳細を表示および編集できます。詳細については、「パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理」を参照してください。

展開されたアプリの使用状況の監視

アプリを本番環境に展開した後、カタログアイテム/レコードプロデューサーまたはスコープ対象アプリの場合と同じ方法で、各要求フォームの使用状況、アダプション、および応答率を監視できます。

たとえば、AEMC を使用してアプリを監視できます。詳細については、「AEMC を使用したカスタムアプリの管理」を参照してください。

ユーザーがアプリを作成したときに クリエータースタジオ が生成するアーティファクト

ユーザーが クリエータースタジオ でアプリを作成すると、 Now Platform はテーブルなどいくつかのメタデータアーティファクトを作成します。

ユーザーが クリエータースタジオ にアプリを追加すると、次のアーティファクトが Now Platform に追加されます。

作成した各アプリとともにインストールされるもの

アーティファクト	詳細
ベース要求タスクテーブルから拡張された新しいテーブル。	• 名前：[スコープ]_request (例：x_snc_marketing_request) • ラベル：[アプリ名] + 要求 (例：マーケティング要求) **注:** すべてのフォームの質問は、アプリの要求タスクテーブルにカタログ変数として保存されます。
履行者ロール	• 名前：[スコープ].agent • アプリによって作成されたテーブルへのアクセスを提供
アクセス制御リスト (ACL)	履行者ロールと要求者ロールに新しいテーブルへの CRUD アクセス権を付与します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

作成した各アプリとともにインストールされるもの (続く)

アーティファクト	詳細
新しいアプリのワークスペースのカテゴリ	名前：[アプリ名] + 要求
新しいワークスペースカテゴリのデフォルトリスト	• オープン (active=true) • オープン - 未アサイン (active=true^assigned_toISEMPTY) • クローズ済み (active=false) • すべて (条件なし)
新しいワークスペースカテゴリのダッシュボード	ダッシュボード名：[アプリ名] + 要求 コンテンツ： • 単一スコアの行： ◦ オープンの要求 (active=true) ◦ 未アサインの要求 (active=true かつアサイン先が空) ◦ 過去 30 日間にクローズ済み (30 日以上前にクローズ済み) • すべてのオープンの要求を表示する簡易リスト

展開された クリエータースタジオ アプリのユーザーアクセスの管理

ユーザーが クリエータースタジオ でアプリをビルドし、本番環境に展開した後、アドミンはそれらのアプリへのアクセス権をユーザーに付与する責任があります。

本番環境でユーザーアクセスをアサインする

アプリケーションは本番インスタンスに展開する必要があり、ここでユーザーアクセスをアサインします。

エージェントロールを持つユーザーは履行者で、クリエータースタジオ に組み込まれたアプリに自動的にアクセスできます。

ユーザーにアプリのスコープのエージェントロールをアサインします。たとえば、スコープが `x_snc_jd_it_fulf_0` のアプリの場合、`x_snc_jd_it_fulf_0.agent` など。ユーザーにロールをアサインする方法の詳細については、「ロールの管理」を参照してください。

フォームへのユーザーアクセスの制限

デフォルトでは、本番インスタンスのすべてのユーザーが クリエータースタジオ でビルドされたフォームにアクセスできますが、クリエータースタジオ の開発者は、アクセスを制限する場合、既存のアクセス基準から選択できます。[利用可能] および [利用不可] フォームの設定は、ユーザー基準レコードのリストです。詳細については、「アイテムとカテゴリのセキュリティの設定」を参照してください。

開発者はアドミンと協力して、アプリのフォームに新しいアクセス基準を定義し、クリエータースタジオ 内からの適切なアクセスを定義できます。詳細については、「クリエータースタジオでフォームの設定を編集する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリエータースタジオ でビルドされたアプリのペルソナ

要求者

機器や何かの実施許可など、何かを要求する人。

履行者

要求に対応する人。履行者は、アプリの承認の自動化に応じて、要求を承認または拒否することもできます。

クリエータースタジオ でのアプリのビルド

これまで、システムアドミンが クリエータースタジオ を設定し、アプリをビルドする権限が付与され、要求実行アプリの素晴らしいアイデアが浮かびました。クリエータースタジオ を使用してアプリを作成する場合、どのように考える必要がありますか？

要求情報を収集するフォームを作成する

完成すると、アプリはユーザーが要求できるアイテムのカタログのようになります。アプリを作成するには、次の手順を実行します。

1. 利用可能ないずれかのカタログテンプレートを選択します。
2. WYSIWYG エディターを使用して、カタログに含めるフォームをカスタマイズします。

フォームでは、カタログ内の 1 つのアイテムを説明し、ラップトップのモデル番号など、要求者が希望する内容の詳細を指定するための質問用のスペースを提供します。カタログに複数のアイテムが必要な場合は、複数のフォームを作成できます。

プレイブックを使用してワークフローを自動化してタスクを簡素化する

要求実行プロセスの簡素化は、単なる情報収集にとどまりません。クリエータースタジオ では、強力なプレイブックを使用してタスクを自動化できます。これらは、フォームが送信された後に開始される、事前にプログラムされたワークフローと考えてください。

プレイブックで実行できることは次のとおりです。

- 簡単な承認ルーティング：承認のために要求を適切な担当者に自動的にルーティングし、手動のステップとボトルネックをなくします。ラップトップの要求が自動的に IT マネージャーに送信され、承認されることを想像してみてください。
- 直感的なプレイブックビルダー：コーディングは不要です。使いやすいエディターを使用してカスタムプレイブックを作成します。

作成するプレイブックでは、ユーザーがフォームに入力するときに提供する情報が使用されます。そのため、要求する詳細が多ければ多いほど、プロセスはよりスムーズに実行されます。

ワークスペースは履行者が要求に対応する場所を提供

アプリが展開されると、独自のワークスペースカテゴリに配置され、履行者が要求に簡単に回答できるようになります。ワークスペースをカスタマイズすることも、そのまま使用することもできます。

システムアドミン専用：クリエータースタジオ でビルドされるすべてのアプリは、要求アプリ構成テーブルにレコードを追加します。テーブルの名前は、scope_request の形式に従います (例：x_snc_02_03_request)。

クリエータースタジオ での既存アプリの検索

他のユーザーが作成したアプリで作業する権限が与えられている場合や、アプリのカタログに新しいアイテムを追加したい場合があります。クリエータースタジオ ホームページは中心的なハブとして機

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

能し、社内のユーザーが クリエータースタジオ を使用してビルドしたすべてのアプリをリストします。

始める前に

サマリー: このトピックでは、次の方法について説明します。

- クリエータースタジオ でアプリを検索する。
- 既存のアプリを開く。
- アプリを開かずにアクションを実行する。

権限を取得する

アプリで作業するには、システムアドミニストレーターが sn_creatorstudio.user または sn_creatorstudio.restricted_user ロールをそのユーザーにアサインする必要があります。

このタスクについて

技術的な詳細: クリエータースタジオ のホームページにリストされているすべてのアプリには、要求アプリ構成テーブル (sn_creatorstudio_request_app_config) のエントリがあります。

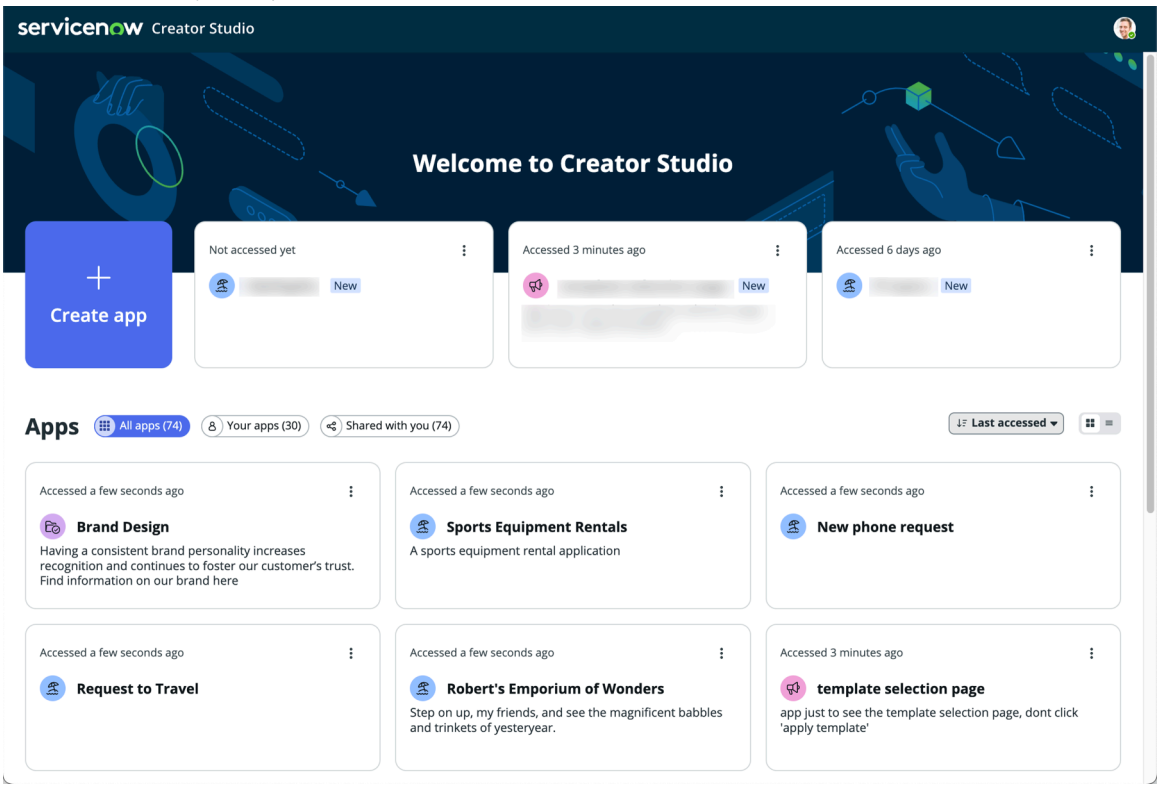
作業するアプリを検索する

クリエータースタジオ ホームページには多くのアプリがリストされている可能性があります。ここでは、作業したいアプリを見つける方法をご紹介します。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動します。
   クリエータースタジオ のホームページが表示され、クリエータースタジオ を使用して会社の全員が最近作成したアプリが表示されます。

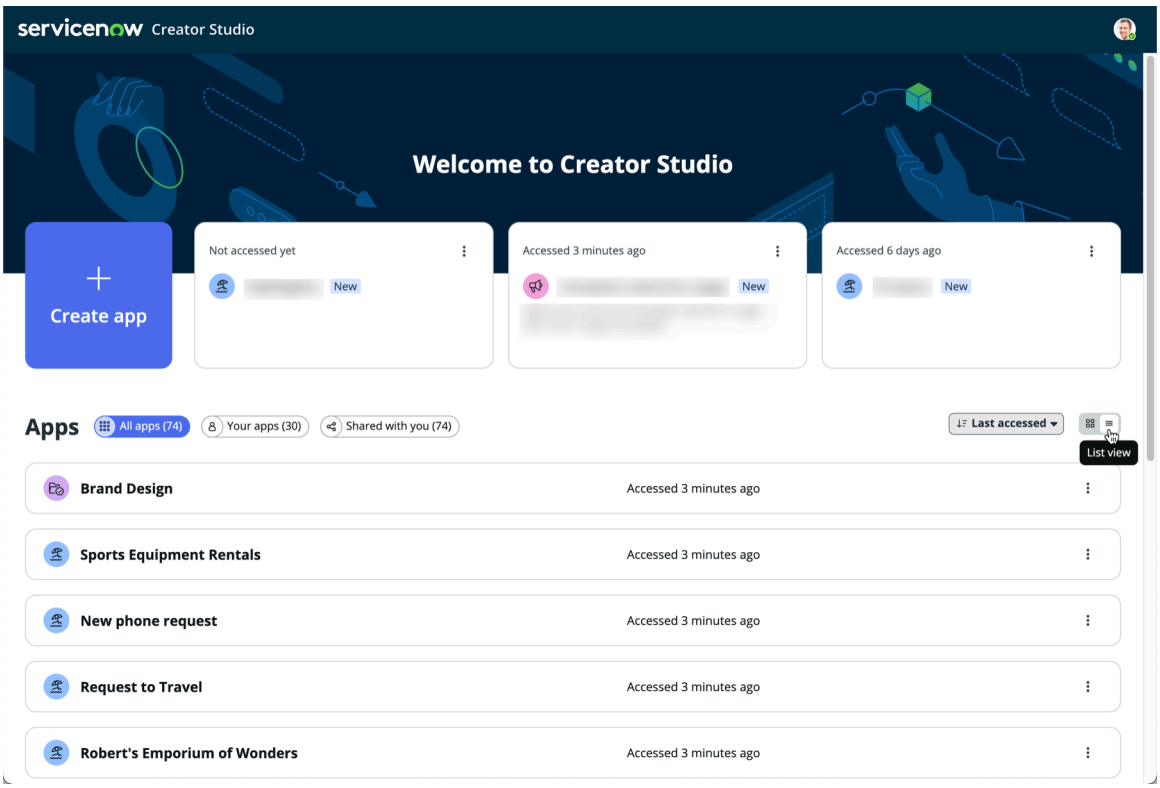
ホームページで利用可能なアプリを表示する



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. オプション: アプリをカードとして表示するのではなく、リストで表示しますか？[ビュー] アイコン ( ) を選択し、[リストビュー] に切り替えます。

ホームページのアプリのリストビュー



3. オプション: 次のいずれかを選択して、表示されるアプリのリストを絞り込みます。
   - [すべてのアプリ]：クリエータースタジオ を使用して会社のすべてのユーザーが作成したすべてのアプリが表示されます。
   - [自分のアプリ **(Your apps)**]：自分が作成したアプリのみが表示されます。(作成したアプリの所有権は自分にあります。)
   - [あなたと共有 **(Shared with you)**]：自分は作成していないけれど、オーナーが作業可能と言ったアプリのみが表示されます。

     アプリでの共同作業の詳細については、「委託開発と展開」を参照してください。

4. オプション: ドロップダウンのソートメニューを選択し、次のいずれかのオプションを選択して、表示されているアプリのリストをソートします。
   - [前回アクセス]：最後に作業した時間に基づいて、表示されるアプリをリストします。最も最近アクセスしたアプリがリストの最初に表示されます。
   - [最新]：アプリを作成日の順に新しいものから古いものの順にリストします。
   - [最も前]：アプリを作成日の古いものから新しいものの順にリストします。
   - **[A-Z]** または **[Z-A]**：表示されたアプリを選択した順序でアルファベット順にリストします。
5. オプション: 5. アプリを選択して クリエータースタジオ で開くか、[その他のアクション] アイコン ( ) を選択して、次のいずれかを選択します。
   - [新しいタブで開く]：別のブラウザタブでアプリを開きます。
   - [協力者の管理]：アプリの所有者は、他のユーザーを招待して、一緒にアプリで作業できます。詳細については、「クリエータースタジオでアプリの協力者を管理する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [リンクのコピー]：協力者にアプリへのリンクを送信して、協力者が見つけられるようにします。
- [設定]：アプリの画像やその他の設定を更新します。詳細については、「クリエータースタジオでアプリの設定を編集する」を参照してください。

6. オプション: [アクセスの要求] を選択して、作業するアクセス権限のないアプリを開きます。
アプリを開くには、自分がアプリを所有しているか、所有者から権限を与えられている必要があります。アクセスの要求の詳細については、「クリエータースタジオ でアプリの開発を依頼する」を参照してください。

タスクの結果

おめでとうございます: お疲れさまでした。アプリを見つけて開けたか、アプリでアクションを実行できました。次に、そこでの作業方法を見ていきます。

クリエータースタジオでのアプリ作成

独自のアプリを作成することを夢見たことはありませんか？クリエータースタジオ を使って、思ったよりすぐに実現できるかもしれません。次のリンクから、このガイドの各セクションに移動できます。ここでは、手順を順を追って説明します。

アプリを作成する権限はありますか？

自分でアプリをビルドする権限がない場合は、アドミンに問い合わせてください。アドミンに権限を与えてもらうか、アドミンにアプリ名と簡単な説明を与えてアドミンがアプリを起動することができます。その後、後から参加して編集できます。

アプリをゼロからビルドしない

アプリケーションをゼロから作成するには、多くの作業が必要です。クリエータースタジオ が基本的な作業をすべて行うのはそのためです。ユーザーは、フォームテンプレート (スターターキットなど) を選択し、基本的な情報 (名前など) を指定するだけです。後ほど、アプリをカスタマイズする方法を紹介します。

アプリのルックアンドフィールを編集する

アプリを目立たせたいですか？設定を編集することで、一意の名前、目を引く画像、その他の優れた機能を与えることができます。

クリエータースタジオ でアプリの基盤を作成する

ユーザーが使用するアプリをビルドする前に、その基盤を作成する必要があります。後でデフォルト値をカスタマイズする必要がありますが、次の手順では、最初のフォームのカタログテンプレートを選択し、クリエータースタジオ でビルドするアプリの基本情報を指定します。

始める前に

アプリを作成する権限がない場合は、チームメイトにアプリの作成を要求できます。詳細については、「クリエータースタジオ でアドミンにアプリの作成を依頼する」を参照してください。

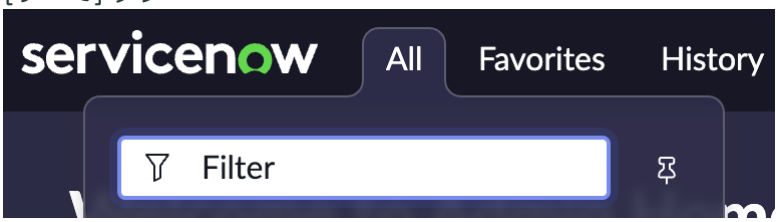
システムアドミニストレーターは、ユーザーを クリエータースタジオ ユーザーグループに追加する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. クリエータースタジオを開きましょう。インスタンスで [すべて] タブを選択します。

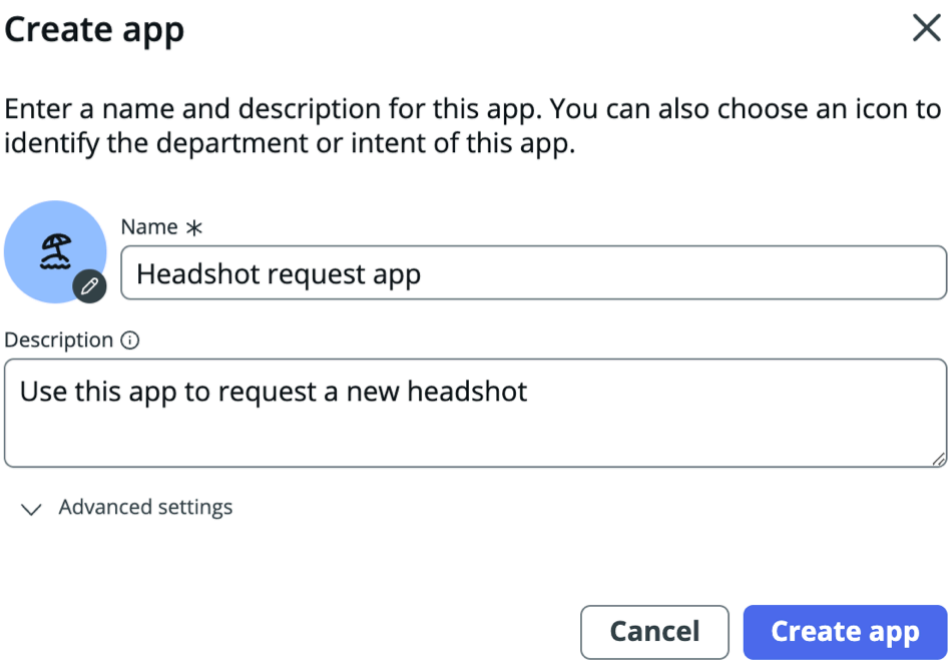
[すべて] タブ



このタブでは、インスタンスにインストールされているすべてのアプリを確認できます。

2. 白いテキストフィールドに「`App Engine`」と入力します。
テキストボックスの下に表示されるアプリのリストは、App Engine のみに関連するようになりました。
3. リストで、[クリエータースタジオ] を選択します。
これがクリエータースタジオを開く方法です！ホームページにたどり着きました。[アプリ] の下には、ユーザーがすでに作成したすべてのアプリが表示されています。
4. [アプリを作成] を選択してジャーニーを開始します。
   - システムアドミニストレーターの場合は、「アプリケーションコラボレーション」でこのトピックの詳細を読むことができます。
   - アドミンにアプリの作成を要求する方法を知りたい場合は、「クリエータースタジオ でアドミンにアプリの作成を依頼する」を確認してください。
5. 表示されたモーダルのフィールドに入力します。

アプリを作成



a. アプリに名前を付けます。これは、わかりやすく直感的なものでなければなりません。

b. アプリの処理内容を [説明] に記述します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

たとえば、「このアプリを使用するとオフィス機器を要求できます」と入力します。

c. オプション: [詳細設定] を選択し、[スコープ] を指定して、アプリの名前とテーブルが一意であることを確認します。
スコープの詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

d. [アプリを作成] を選択します。

これで、独自のアプリケーションの開始部分を作成できました！名前を付けて説明を入力しました。カタログテンプレートのリストが表示されます。

6. アドミンがカスタマイズできるカタログテンプレートをリストから選択します。

必要なカタログテンプレートが表示されない場合があります。最も近いものを選択してください。近いものがない場合は、アドミンが削除していない場合、[クリエータースタジオのデフォルトテンプレート **(Creator Studio Default Template)]** オプションを選択します。それが最善策です。

ヒント: カタログテンプレートのリストを自由にクリックしてみてください。希望のものを選択するのにプレビューが役立ちます。

選択できる他のカタログテンプレートが表示されなくても心配はいりません。アドミンがまだカスタムカタログテンプレートを作成していない可能性があります。

7. [このテンプレートを適用 **(Apply this template)]** を選択します。
8. カタログにフォームを追加して、そのビジネスエリアを指定します。

注: 現時点ではこのステップをスキップして、どこに当てはまるかがよくわかったら後で再検討できます。

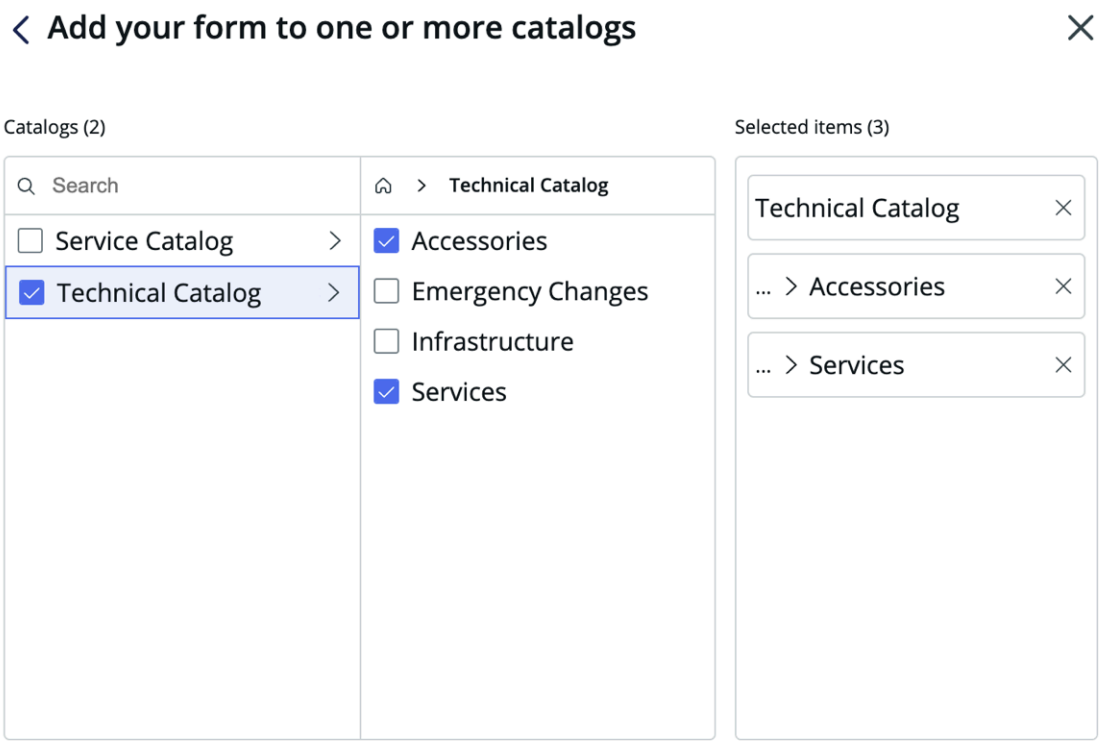
利用可能なカタログはアドミンによって構成されます。必要なカタログが表示されない場合は、アドミンに問い合わせてください。

a. カタログとカテゴリカードの [編集] ボタン (Edit) を選択します。

b. アプリが使用するビジネスエリアを表すカタログを選択します。
たとえば、ソフトウェアとラップトップケーブルを含むサービスカタログを選択します。各カタログのカラットを展開すると、そのサブカタログが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログを選択します。



c. カタログから必要な数のアイテムを選択します。

d. [適用] を選択します。

アプリの作成が完了したら、アプリの基本設定をいつでも編集できます。詳細については、「クリエータースタジオ のフォーム設定」を参照してください。

9. 次に、1 つ以上のトピックを選択して、フォームの表示場所を指定します。
トピックの詳細は「 カタログアイテムを 従業員センター の分類トピックに関連付ける 」を、分類方法である分類の詳細については、「 従業員センター の 統一された分類方法 」を参照してください。

> **注:** 現時点ではこのステップをスキップして、どこに当てはまるかがよくわかったら後で再検討できます。

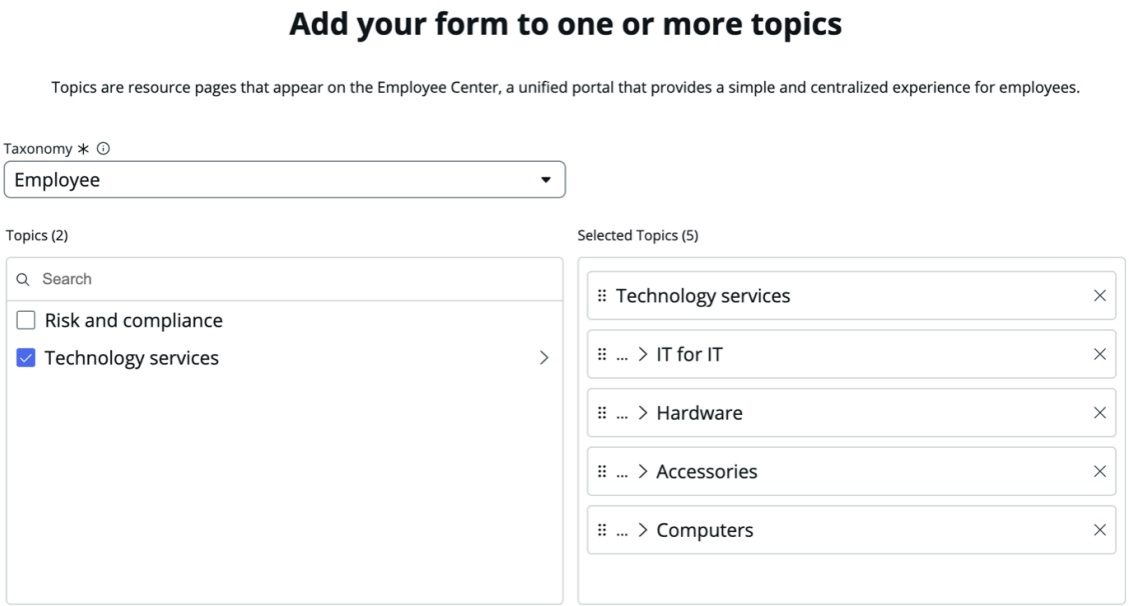
a. トピックカードの [編集] ボタン (Edit) を選択します。

b. フォームを表示する[分類] ページ ([従業員] など) を選択します。
分類は、従業員センター が使用する分類の方法です。

c. フォームを表示する 従業員センター 領域を表すトピックを選択します。
たとえば、テクノロジーサービスを含むトピックを選択し、そのカラットを展開してサブトピックを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームを表示するトピックを選択する



d. フォームを表示するトピックを必要な数だけ選択します。

e. [適用] を選択します。

10. [保存して続行] を選択します。

11. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

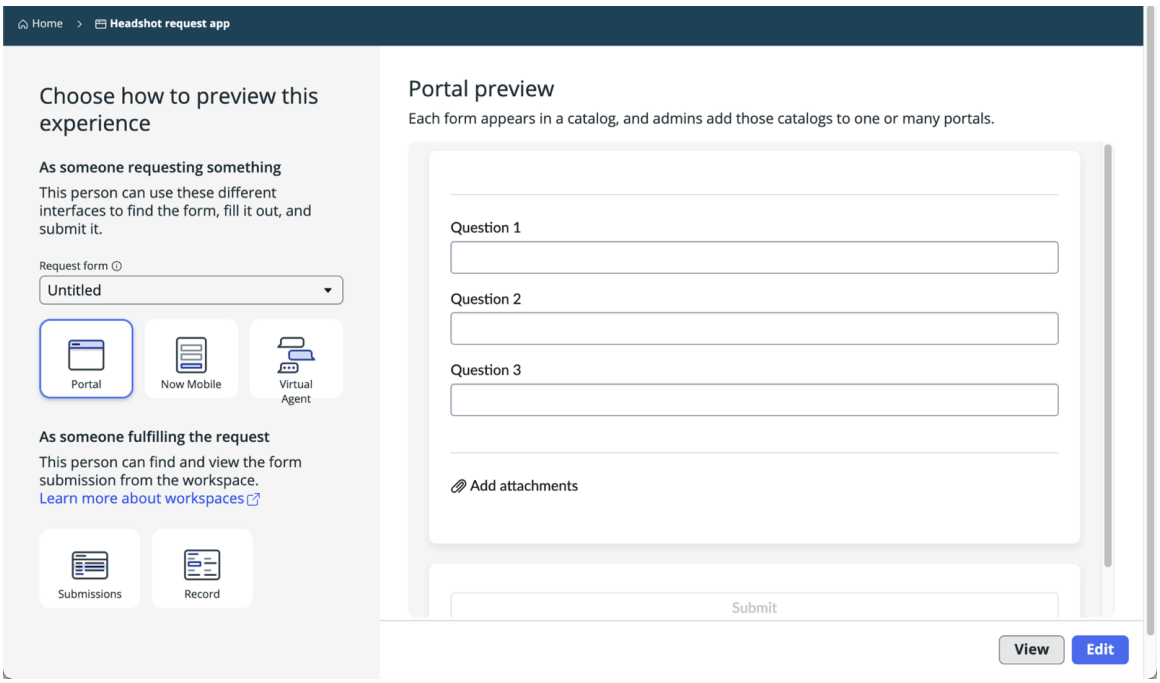
- [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
- **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
- 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

> **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

[表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

タスクの結果

おめでとうございます: やりました！アプリに名前を付け、アプリの最初のフォームの外観と動作の基本を提供するカタログテンプレートを選択しました。次は「クリエータースタジオ でのフォームの操作」セクションで、ユーザーがアプリで要求を記入するために使用するフォームをカスタマイズします。

アプリをビルドするときにアプリ所有者として実行できるすべての操作については、「アプリケーションコラボレーション」を参照してください。

システムアドミン専用：クリエータースタジオ でビルドされるすべてのアプリは、要求アプリ構成テーブルにレコードを追加します。テーブルの名前は、scope_request の形式に従います (例：x_snc_02_03_request)。

クリエータースタジオ でアドミンにアプリの作成を依頼する

アプリをビルドする権限がない場合、基本的なアプリの作成から開始できるよう、アドミンに依頼してください。名前を伝え、アプリで何をしたいかを伝えるだけです。アドミンが作成を開始したら、それを引き継いで変更します。

始める前に

アプリの作成を要求するには、アドミンから sn_creatorstudio.restricted_user ロールをアサインしてもらう必要があります。

このタスクについて

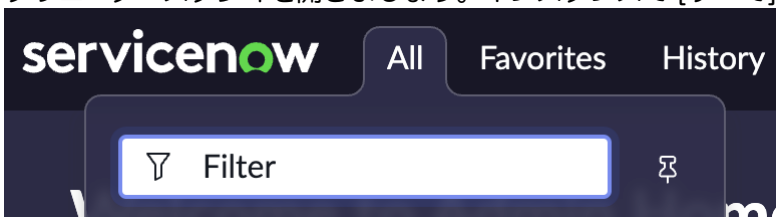
アドミンにアプリの作成を依頼すると、自動的にそのアプリのオーナーになります。詳細については、「クリエータースタジオ でのコラボレーション」を参照してください。

アドミンにアプリの作成を依頼する方法は次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. クリエータースタジオを開きましょう。インスタンスで [すべて] タブを選択します。



このタブでは、インスタンスにインストールされているすべてのアプリを確認できます。

2. 白いテキストフィールドに「`App Engine`」と入力します。
テキストボックスの下に表示されるアプリのリストは、App Engine のみに関連するようになりました。
3. リストで、[クリエータースタジオ] を選択します。
これがクリエータースタジオを開く方法です！ホームページにたどり着きました。[アプリ] の下には、ユーザーがすでに作成したすべてのアプリが表示されています。
4. 要求を開始するには、[アプリを作成] を選択します。
5. 表示されたモーダルのフィールドに入力します。

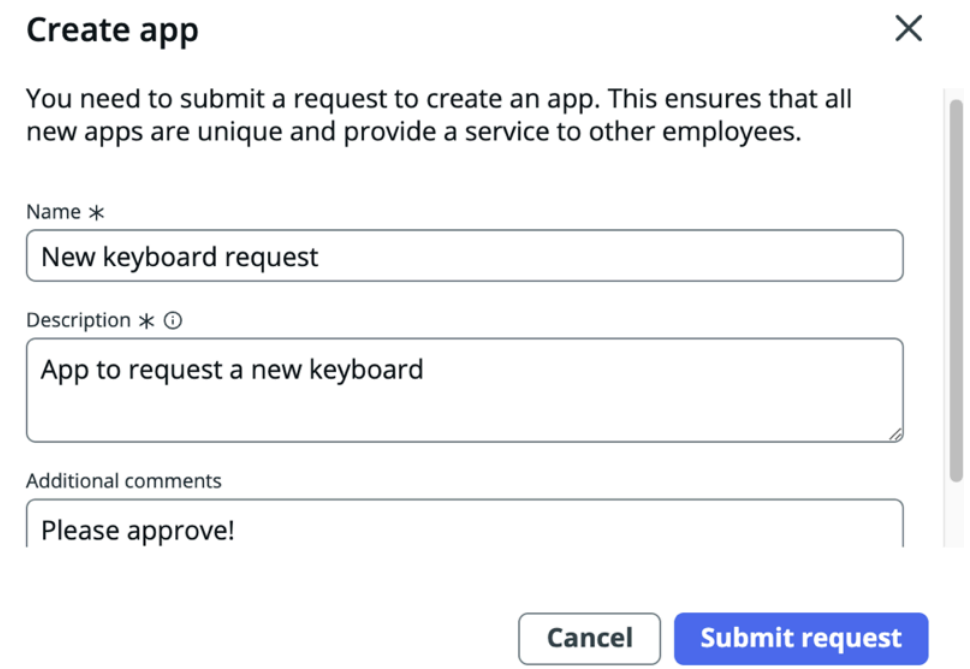
   a. アプリに名前を付けます。これは、わかりやすく直感的なものでなければなりません。

   b. アプリの処理内容を [説明] に記述します。

   たとえば、`This app enables a person to request office equipment.` と入力します。

   c. アドミンが要求を承認するときに知らせる追加のコメントを入力します。

アプリの作成を要求



6. [要求を送信] ボタンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
アドミンにアプリの作成を依頼すると、アドミンが要求を確認して承認します。アドミンがアプリの詳細を必要とする場合があります。アドミンが承認して作成すると、メール通知が届きます。その時点では、あなたがアプリのオーナーです。クリエータースタジオ でアプリを見つけて、アプリのフォーム、自動化、ワークスペースカテゴリのビルドを開始できます。

アプリをビルドするときにアプリ所有者として実行できるすべての操作については、「アプリケーションコラボレーション」を参照してください。

アドミン向け:

- クリエータースタジオ でビルドされるすべてのアプリは、要求アプリ構成テーブルにレコードを追加します。テーブルの名前は、scope_request の形式に従います (例：x_snc_02_03_request)。
- [要求アプリ管理 (Request App Administration)] アプリの [アプリケーションタスク (Application Tasks)] テーブルで、アプリ要求を確認して承認します。

クリエータースタジオでアプリの設定を編集する

たとえば、新しい名前を付けたり、説明を微調整したり、新しい画像を入れ替えたりして、アプリを少し華やかにしたい場合があります。設定を数回クリックするだけで、実現できます。技術の専門家でなくても、それをどのようにできるかを詳しく見ていきましょう。

始める前に
アプリの設定を編集するには、アプリで作業する権限を付与されている必要があります。

このタスクについて
テーブルやスコープなど、アプリの作成後に変更できないものがいくつかあります。大きく変えたい場合は、新しいアプリでゼロから始める必要があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページに移動します。
   ホームページにすべてのアプリのリストが表示されます。
2. 作業するアプリを選択します。
   画面が開き、変更を開始できます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

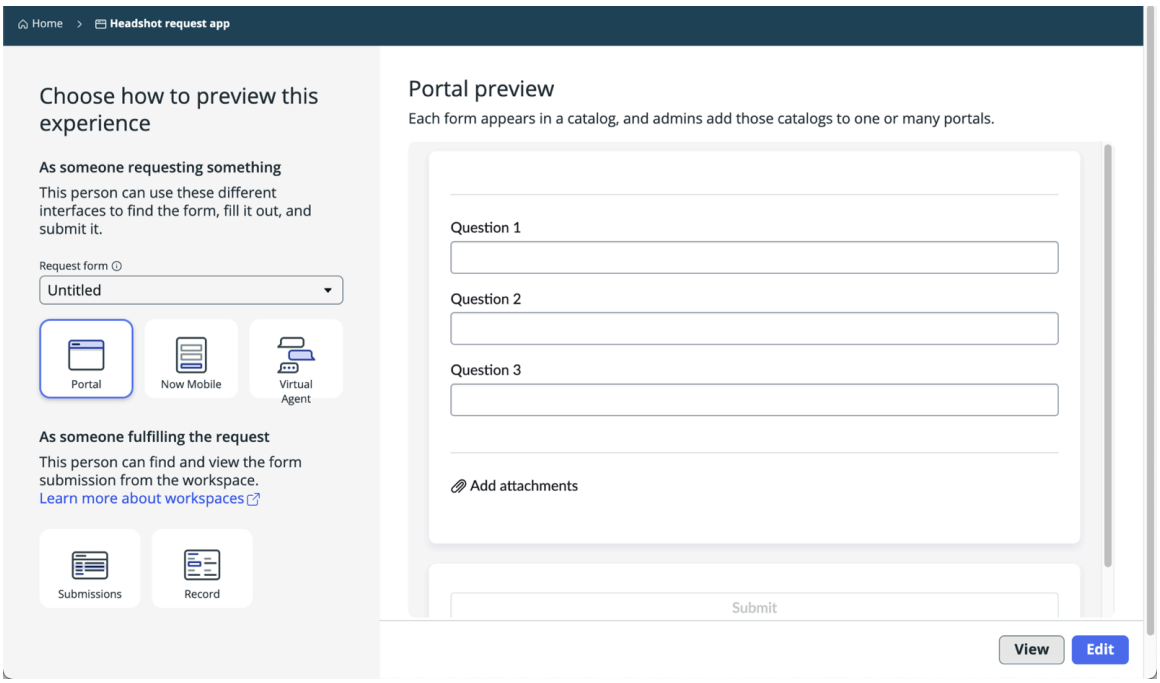
   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

     注: 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

   [表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

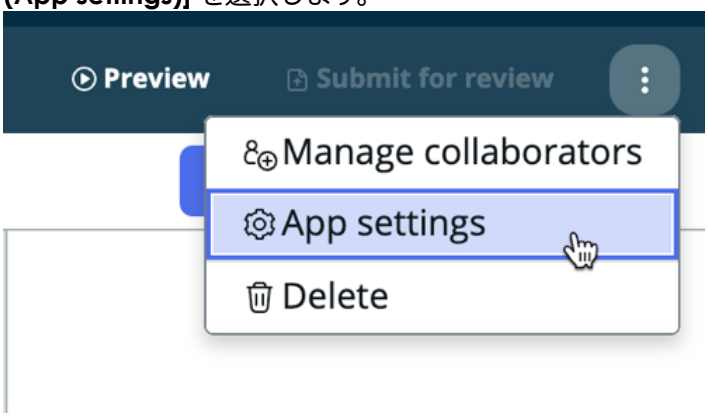
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



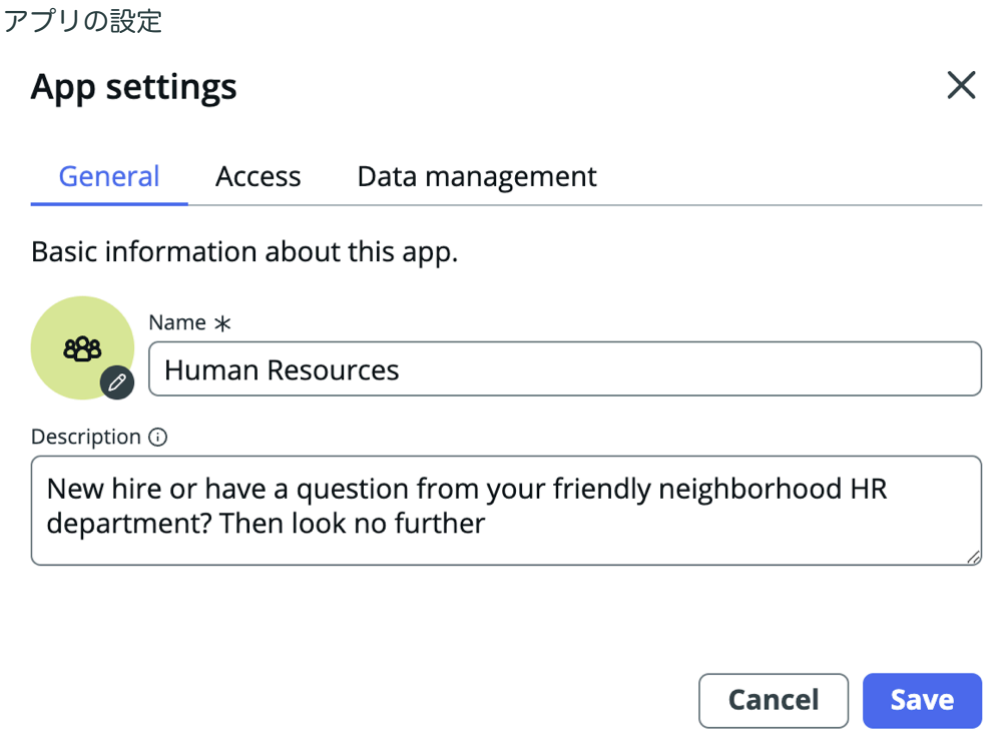
[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. [その他のオプション] アイコン ( ) を選択し、ポップアップするメニューから [アプリの設定 **(App settings)]** を選択します。



5. [一般 **(General)]** タブで、アプリの画像の更新などの変更を加えます。
アプリの作成後は、[アクセス] タブのセキュリティ設定を変更することはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. すべてが完了したら、[保存] ボタンを選択します。

タスクの結果

これで完了です。簡単な手順で、アプリをまったく新しい雰囲気に変えることができました。創造力を発揮して、自分のアプリを作成しましょう！

クリエータースタジオ でのコラボレーション

アプリのビルドでサポートが必要な場合がありますが、問題ありません。また、他の人がアプリの構築であなたのサポートを必要とすることもありますが、それは素晴らしいことです。そこで登場するのがコラボレーションです。

編集する権限を要求することで、自分が所有していないアプリでコラボレーションでき、また共に作業している他のユーザーを招待して、自分のアプリでコラボレーションできます。

コラボレーション (委託開発とも呼ばれます) は、Now Platform に設定されている既存の委託開発機能に基づいてビルドされます。これにより、開発者は他の開発者をアプリに招待し、共同でアプリを作成、開発できるようになります。権限に応じて、アプリでコラボレーションするように他の人を招待したり、他の人のアプリへの参加を要求したりできます。

> **注:** コラボレーションを最大限に活用するには、App Engine Enterprise ライセンスが必要です。

Now Platform コラボレーションアプリは、クリエータースタジオとともに自動的にインストールされます。コラボレーションアプリの詳細については、「アプリケーションコラボレーション」を参照してください。

コラボレーション記述子：オーナーとエディター

アプリについてサポートが必要なことや、他のユーザーがアプリをビルドするのをサポートする必要があることに気付いたとします。次のステップは何でしょうか？適切なコラボレーションロールが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

他の人とアプリを共同開発する場合、標準的な協力者にはオーナーとエディターの 2 種類があります。これら 2 つのロールは、コラボレーション記述子と呼ばれます。ユーザーにアサインされているコラボレーション記述子によって、委託開発権限をアサイン、管理、監視できるかどうかが決まります。たとえば、オーナーであるユーザーは、エディターのコラボレーションタイプのユーザーよりも多くのことができます。

必要に応じて、アドミンは、クリエータースタジオ ガイド付きセットアップまたはコラボレーションアプリで協力者を管理するときに選択するカスタムコラボレーション記述子を定義できます。カスタム記述子の詳細については、「ガイド付きセットアップを使用してクリエータースタジオを構成する」および「権限をアサインするためのコラボレーション記述子の作成」を参照してください。

デフォルトのコラボレーション記述子

記述子	説明
Owner (所有者)	アプリケーションのオーナー。 • アプリを作成した場合は、自動的にオーナーになります。 • オーナーは、アプリの他の協力者を管理できます。 • オーナーはアプリの削除権限を持ち、名前、説明、アイコンなどのアプリ設定を編集できます。 • オーナーは、アプリの delegated_developer ロールを自動的に取得します。
エディター	• エディターは協力者を招待できます。 • エディターがアプリを編集する機能は限られています。

コラボレーション開発者権限

アプリでオーナーとエディターを指定しましたが、次はどうすればよいでしょうか？アプリで作業する他の協力者を招待する必要があります。

コラボレーション権限により、クリエータースタジオ でアプリをビルドするユーザーを制御できます。開発者 (またはアプリケーションを展開するユーザー) に権限をアサインして、アプリケーションを開発および展開できるようにします。

アプリでのコラボレーションに誰かを招待し、その人が委任開発者 (delegated_developer) ロールを持っていない場合、App Engine アドミンはコラボレーション要求を承認する必要があります。詳細については、「委託開発と展開」を参照してください。

ユーザーまたはグループを追加すると、バックグラウンドでコラボレーションタスクが生成され、承認フローが開始されます。App Engine 管理センター (AEMC) がインストールされている場合、アドミンはそこでこれらのコラボレーション要求タスクを確認して承認/拒否できます。AEMC がインストールされていない場合、アドミンは[すべて] > *App Engine* > [コラボレーション] > [コラボレーションタスク]に移動できます。

アドミンに送信されるコラボレーションタスクは、開発者がどのアプリケーションに追加され、どの権限が付与されるかについての情報を提供します。承認者は、開発者をアプリケーションに追加する前に、これらのタスクレコードを確認しなければならない場合があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オーナーとエディターができること

クリエータースタジオユーザーグループに属している場合は、アプリでコラボレーションしているすべてのユーザーとグループ、およびそのコラボレーション記述子を表示できます。

ユーザーとグループが表示されない場合は、より制限のある別の権限が設定されている可能性があります。でも心配は無用です。アプリの担当者について質問がある場合は、いつでもアドミンにお問い合わせください。

次のテーブルは、オーナーとエディターが クリエータースタジオ で実行できることの一般的なデフォルトのリストです。

注: オーナーとエディターの協力者のデフォルトのコラボレーションタイプ権限のリストについては、「クリエータースタジオでカスタマイズされたアプリコラボレーション権限」を参照してください。

クリエータースタジオ 機能のコラボレーション

クリエータースタジオ の機能	オーナー	エディター
協力者を招待	はい	はい
協力者の管理	はい	いいえ
名前、説明、アイコンなどのアプリ設定を編集する	はい	いいえ
フォームを作成、編集、削除する	はい	はい
自動化を作成、編集、削除する	はい	はい
フォーム送信用のワークスペースを管理する	はい	はい
アプリを展開用に送信する	はい	いいえ
アプリを削除	はい	いいえ

異なるバージョンでのコラボレーションロールとインスタンス

アドミンがクリエータースタジオを実装する際、クリエータースタジオのない旧バージョンの Now Platform 上に本番インスタンスがあるにもかかわらず、非本番インスタンスにインストールすることがあります。このインスタンスバージョンの不一致は、非本番インスタンスをソースとして、本番インスタンスをコントローラーとして指定するコラボレーション承認ワークフローに影響します。クリエータースタジオをサポートするバージョンのコラボレーションプラグインがコントローラーにない場合、コラボレーションはサポートされません。

ユーザーがインスタンスバージョンに関係なくコラボレーション承認ワークフローを使用できるようにするには、アドミンは catalog_builder_editor ロールをクリエータースタジオユーザーグループにアサインする必要があります。

クリエータースタジオ でアプリの開発を依頼する

アプリで作業したいけれど、アプリにアクセスできない場合はどうすればよいですか？心配ありません。アクセスを依頼する方法を説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
まず最初に、参加するには適切なアクセス権が必要です。システムアドミニストレーターに、sn_creatorstudio.user または sn_creatorstudio.restricted_user ロールを付与してもらう必要があります。

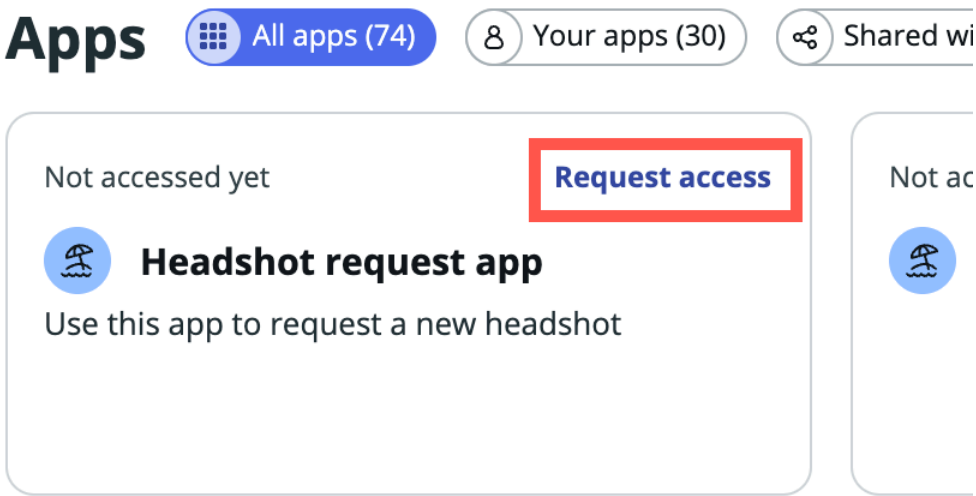
このタスクについて
アプリ開発作業の権限を付与されると、その開発を委任され、協力して開発を進められます。詳細については、「委託開発と展開」を参照してください。

注: アドミンにはすべてのアプリへのアクセスが許可されているため、 [アクセスの要求] オプションは表示されません。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して クリエータースタジオ に移動します。
   クリエータースタジオ に組み込まれているすべてのアプリのリストがホームページに表示されます。
2. サポートするアプリを探し、そのアプリの [アクセスの要求] リンクを選択します。

   アクセスの要求



3. オプション: アプリへの参加に関心がある理由を説明する簡単なメモを残すには、[オプションのメッセージを入力 **(Enter an optional message)]** フィールドを使用します。素晴らしいアイデアが浮かんだり、単にプロセスを知りたいだけの場合もあります。
4. 準備ができたら、[アクセスの要求] ボタンを選択します。

タスクの結果
運が良ければ、App Engine アドミンが要求を承認し、参加できます。次に、積極的にアプリの作業を開始します。

注: 委任開発者ロールを持つユーザーは、コラボレーションのために自動的に承認されます。

次のタスク

重要: アプリへの参加要求が承認されたら、アプリにアクセスするには、Now Platform からサインアウトしてから再度サインインする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

組織で App Engine 管理センター (AEMC) を使用している場合、App Engine アドミンはそこでコラボレーション要求を承認します。

組織に AEMC がない場合、アドミンはコラボレーションタスクテーブルのアプリへの参加要求を承認します。詳細については、「コラボレーション要求を承認する」を参照してください。

クリエータースタジオでアプリの協力者を管理する

[協力者の管理] オプションを使用して、アプリで作業できるユーザーを追加または削除したり、アプリに対する権限を変更したりできます。

始める前に

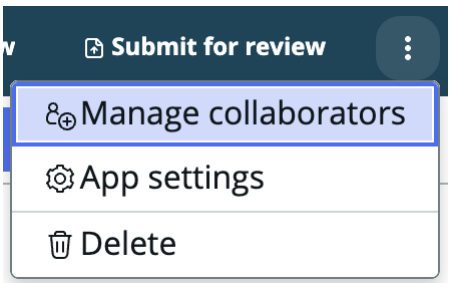
システムアドミニストレーターに、協力者の管理権限をアサインしてもらう必要があります。アドミンはまた、協力者を管理することもできます。

このタスクについて

各アプリの権限に応じて、協力者を招待または管理できます。たとえば、協力者の管理権限を持っている場合、エディターや所有者など、既存の協力者の協力者タイプを変更することはできません。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 協力者を管理するアプリを見つけます。
3. 次の 2 つの方法のいずれかで、[他のユーザーとの協力者 (Collaborators with others)] モーダルにアクセスします。
   - クリエータースタジオホームページから、アプリのその他のアクションアイコン ( ) を選択し、表示されるメニューから [協力者の管理] を選択します。
   - アプリを開き、[編集] を選択し、アプリケーションヘッダーの [その他のアクション] アイコンを選択し、表示されるメニューから [協力者の管理] を選択します。



4. [記述子を選択] フィールドを使用して、[協力者] セクションで既存の協力者の権限を変更します。
   - [所有者] は、ユーザーまたはグループをアプリの所有者に変更します。
   - [エディター] は、ユーザーまたはグループをアプリのエディターに変更します。
   - [権限をカスタマイズ] では、ユーザーがアプリで実行できる特定の処理を選択できます。詳細については、「クリエータースタジオでカスタマイズされたアプリコラボレーション権限」を参照してください。
   - [削除] は、ユーザーまたはグループがアプリで作業するアクセス権を取り消します。

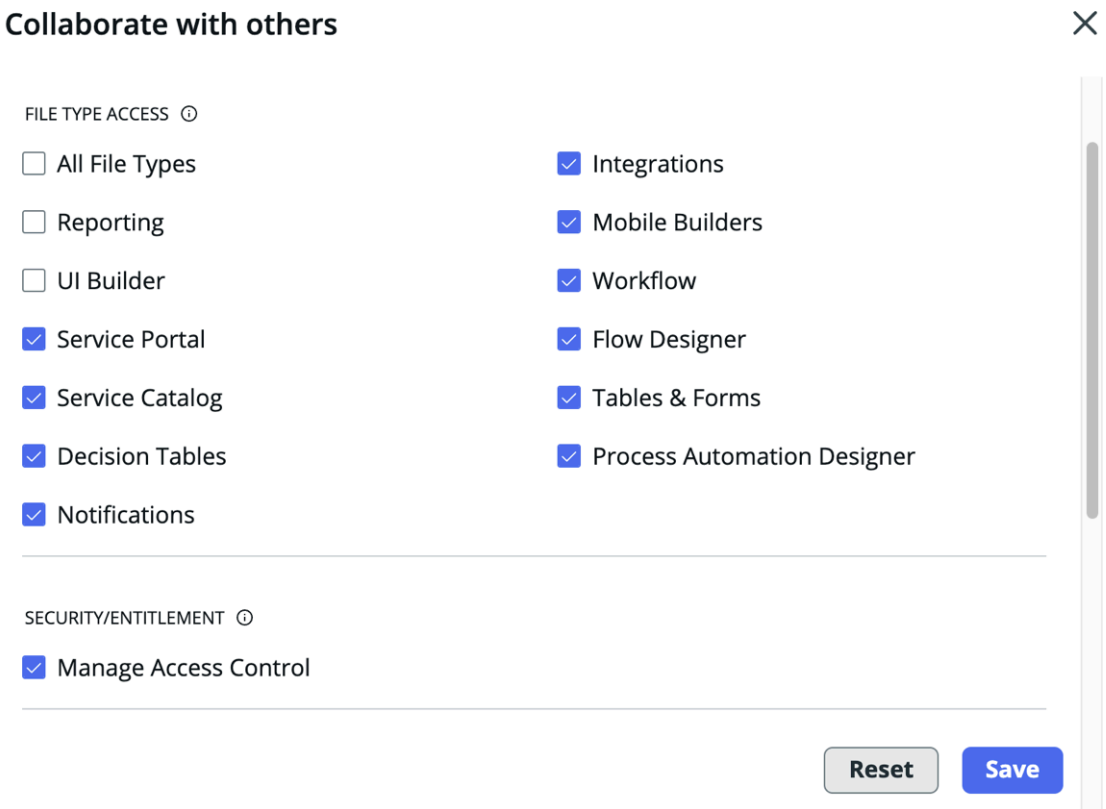
   注: 他のユーザーが使用するには、コラボレーション記述子がグローバルスコープ内にある必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コラボレーション権限をカスタマイズする

5. [権限をカスタマイズ] を選択し、ユーザーに付与する必要がある権限を選択して、コラボレーション権限をカスタマイズします。

コラボレーション権限をカスタマイズする



6. オプション: 追加の協力者があれば追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [名前またはグループでユーザーを招待] フィールドに、招待するユーザーまたはグループを入力し始めます。

b. [記述子を選択] フィールドでコラボレーションレベルを指定します。

c. [送信] ボタンを選択して承認プロセスを開始します。
必要な数のユーザーとグループを指定できます。

タスクの結果

[保存] ボタンが必要な権限をカスタマイズしていない限り、[他のユーザーとのコラボレーション] モーダルを閉じると、変更内容が自動的に保存されます。

次のタスク

App Engine アドミンは、協力者に対する変更を承認する必要があります。

クリエータースタジオ でのフォームの操作

アイテムまたはサービスをカタログに追加するには、要求されているものごとに新しいフォームを作成する必要があります。

サマリー: このトピックを読むと、次のことが理解できるようになります。

- フォームテンプレートを使用して独自のフォームの作成を開始する方法。
- フォームのレイアウトと質問をカスタマイズする方法。
- フォーム (別名カタログアイテム) をアプリに表示する方法。
- アプリにフォームが表示されないようにする方法。

フォームとは何ですか。

フォームは、要求を行うためにユーザーが回答する質問のリストです。ユーザーが、キーボードやノートパソコン、休暇の許可などを求めるかもしれません。これらの質問に対する回答により、履行者は要求を満たすために必要なすべての情報を得ることができます。たとえば、誰かがラップトップを要求した場合、履行者はサイズ、メーカー、モデル番号、オペレーティングシステム、配送日などを知る必要があります。

フォームには、質問の他に、質問を説明する画像、見出し、テキストによる説明を含めることができます。

要求者が要求できるアイテムまたは要求の種類ごとに、異なるフォームが必要になります。その理由は、キーボードについて尋ねる必要がある質問は、要求者に休暇を取る許可を与えるために必要な質問とは異なるためです。そのため、ユーザーが作成できる要求の種類ごとに 1 つのフォームがあります。フォームはカタログアイテムを表すと考えることができます。

アプリには複数のフォームがあり、要求者が要求できるものが複数ある可能性があります。フォームのコレクションをアイテムのカタログと呼びます。

主要な用語:

アイテム
: 要求者が要求できるもの。各アイテムには独自のフォームが必要です。

カタログ
: 要求者が要求できるすべてのアイテムを表すアイテムのコレクション。

カタログとアイテムの例

次の表は、3 つのカタログを示しています。右側の列には、各カタログのアイテムの名前が表示されます。アイテムが 3 つある場合は、3 つのフォームが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログとそのアイテムの例

サービスカタログ	サンプルアプリ	サンプルカタログアイテム
HR セルフサービス	ヒューマンリソース (HR) グローバル人材ポータルアプリ	• 福利厚生に関する質問 • 休暇要求 • 必要な住所の変更
ブランディングリソース	マーケティングおよびブランディングアプリ	• PowerPoint テンプレート • 承認済みの Zoom 背景 • ロゴファイル
IT フルフィルメント	ハードウェア要求アプリ	• マウス • ヘッドセット • 交換用充電ケーブル

クリエータースタジオ で有利なスタートを

フォームテンプレートを選択してアプリの作成を開始すると、クリエータースタジオ は、使用すると思われる質問を含むフォームを作成します。質問とレイアウトでフォームが構成されます。

主要な用語:

フォームテンプレート

クリエータースタジオ が提供するフォームに配置された一連の質問。

クリエータースタジオ が提供するフォームテンプレートは、クリエータースタジオのデフォルトテンプレートと呼ばれます。開始するための 3 つの質問が含まれています。フォームで質問をカスタマイズ、追加、削除することができます。

システムアドミニストレーターは、デフォルトのテンプレートを削除したり、追加のフォームテンプレートを作成したり、フォームに入力できるユーザーを制限したりすることができます。システムアドミニストレーターの場合は、「クリエータースタジオ アプリで使用するカタログテンプレートの作成」でこのトピックの詳細を読むことができます。

要求者が入力するフォームを保存するため、クリエータースタジオ はデフォルトでテーブルを作成します。1 つの行は、入力された 1 つのフォームを表します。

アプリケーションには、必要な数のフォームを含めることができます。新しいフォームを作成すると、クリエータースタジオ はアプリの要求テーブルを使用して、フォームごとに送信された回答を保持します。アプリのすべてのフォームからのすべての要求は、同じテーブルに保存されます。

質問のタイプ

要求者に尋ねる質問を選びます。クリエータースタジオ には、次の 2 種類の質問があります。

- [一般的な質問] は、簡単な回答 (名前やメールなど) を書き込むための空のボックス、または選択肢を選ぶリスト (ドロップダウンメニューや記入する小さな丸など) を要求者に提供します。
- [参照ベースの質問 **(Reference-based question)**] は、テーブルで定義する選択肢のリストを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

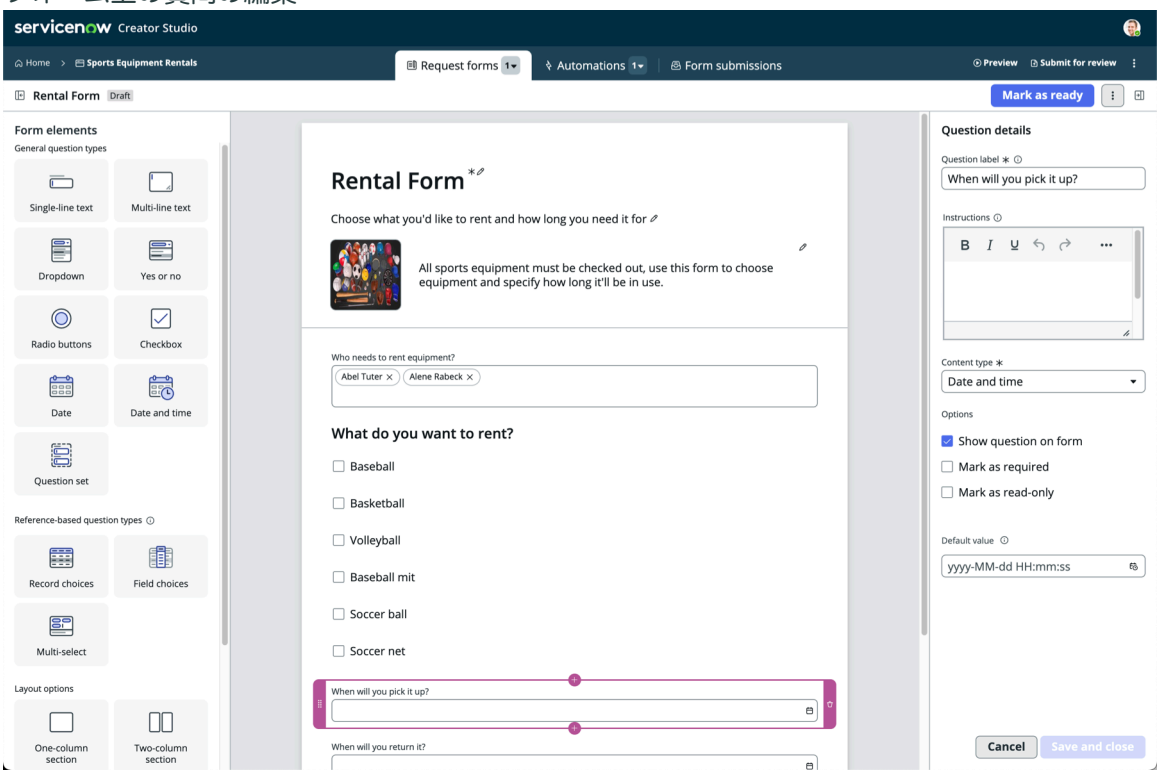
アドミンによって事前設定され、編集できないフォームに、質問を追加することもできます。[質問セット] 要素をフォームに追加して、キュレーションされたオプションから選択できます。

質問のレイアウト

クリエータースタジオ はデフォルトフォームの初期レイアウトを提供します。列、画像、区切り線などを使用して、フォーム上の質問のレイアウトをカスタマイズできます。フォームのカスタマイズに使用できる手順は 2 つあります。

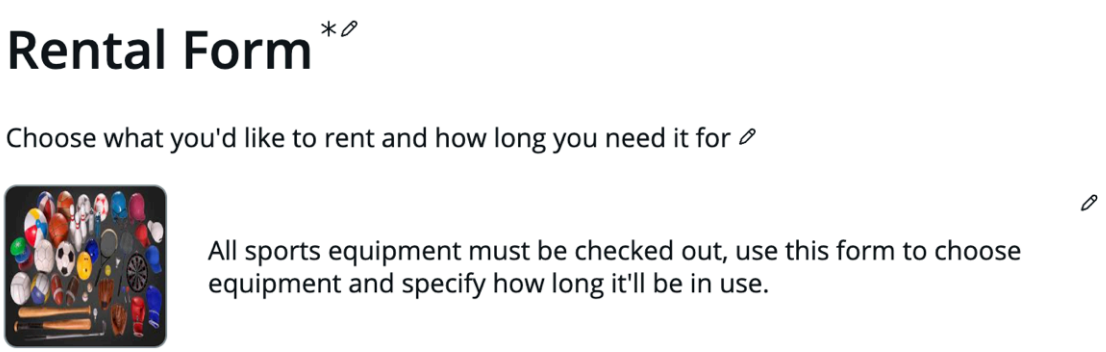
- 質問の変更 – 質問の数や質問内容を変更し、フォーム上の質問の表示場所を調整します。その情報については、クリエータースタジオ でアプリのフォームをカスタマイズする を参照してください。

フォーム上の質問の編集



- フォームのルックアンドフィールを変更する – 画像を追加し、質問を説明するテキストを記述でき、質問がスムーズに流れるように移動することもできます。これについては、「クリエータースタジオ でアプリのレコードのレイアウトを変更する」を参照してください。

アプリのタイルのルックアンドフィールを編集



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームを確認できる場所

展開後、アプリはフォームの作成時に指定した サービスカタログ とカテゴリにフォームとして表示されます。

ユーザーは、これらのフォームに サービスカタログ、サービスポータル、従業員センター で直接アクセスできます。

アプリのフォームを 1 つ以上のトピックに関連付けると、従業員センター の動的に作成された関連するトピックページに、そのフォームが表示されます。 トピックの詳細は「カタログアイテムを 従業員センター の分類トピックに関連付ける」を、分類方法である分類の詳細については、「 従業員センター の 統一された分類方法」を参照してください。

アプリでフォームを使用できるようにする

フォームには次の 2 つのステータスがあります。

- ドラフト
- 公開済み

フォームを [ドラフト] ステータスにしておくと、完了するまで作業できます。フォームが完成したら、[準備完了としてマーク] ボタンを選択して公開します。そうすることでのみ、アプリケーションに表示されます (アプリが展開されていると仮定します)。

公開されたフォームは、オファリングのカタログにアイテムとして表示されます。たとえば、サイトで要求者がコンピューター、マウス、モニター、キーボード、テクニカルサポートなどを要求できるようにすることができます。アイテムごとに異なるフォームが必要で、アプリでは異なるカタログアイテムとして表示されます。

主要な用語: アプリの展開とフォームの公開を混同しないでください。

- フォームを公開すると、そのフォームはアプリが展開された後にのみカタログアイテムとして表示されます。そのため、ボタンのラベルは [準備完了としてマーク] になっています。
- アプリの展開は、ユーザーがアプリを使用できるようにするためにシステムアドミンが行うことです。

公開済みフォームの変更

これは避けられません。アプリを展開して、フォームの質問を修正する必要があることがわかりました。大丈夫です！フォームを作成したときと同じように編集するだけです。

フォームを編集すると、フォームの新しいドラフトバージョンが作成され、それを更新して、完了したら[準備完了としてマーク] することができます。ドラフトバージョンに保存した変更は、展開されたアプリのカタログアイテムには影響しません。展開されたアプリのフォームを更新するには、アプリを再展開する必要があります。

フォームの変更を元に戻す

フォーム ヘッダーの [その他のオプション] アイコン ( ) にある [すべての変更を元に戻す **(Undo all change)]** オプションを選択すると、フォームを最後に公開されたバージョンにリセットできます。

公開済みフォームの削除

[ドラフト] ステータスでも [公開済み] ステータスでも、フォームは削除できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [ドラフト] ステータスの場合は、[準備完了としてマーク] しないでください。
- フォームが [公開済み] ステータスの場合は、非表示にしてカタログに表示されないようにすることができます。詳細については、「Now Platform の クリエータースタジオで使用できないようにフォームを非表示にする」を参照してください。

クリエータースタジオ でアプリのフォームをカスタマイズする

フォームは、新しいキーボードや休暇の許可など、必要なことについて尋ねるのに役立ちます。クリエータースタジオ でアプリを作成するときに追加されるデフォルトのフォームには、要求に関する情報を収集するための質問ラベルの追加など、ニーズに合わせていくつかの変更が必要です。

始める前に

フォームをカスタマイズするには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて

必要に応じて、アプリケーションにフォームを追加できます。追加のフォームは、アプリの同じテーブルに保存されます。現時点ではこれらのテーブルについて心配する必要はありませんが、アプリの作成時に生成されたフォーム以外のフォームを追加する方法を知りたい場合は、クリエータースタジオでアプリにフォームを追加する を確認してください。

サマリー: 次の手順を完了すると、次のことについて理解できます。

- アプリ作成時に自動生成されたフォームを開く方法。
- フォームに質問や画像を追加する方法。
- 追加した質問や画像を配置する方法。

フォームを開いてカスタマイズしましょう。

注: たとえば、食事の好みやアクセシビリティのニーズなどの質問を含む、会社のイベントへの登録に使用するフォームを作成できます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動します。
   クリエータースタジオ に組み込まれているすべてのアプリがホームページに表示されます。
2. カスタマイズするフォームを含むアプリケーションを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

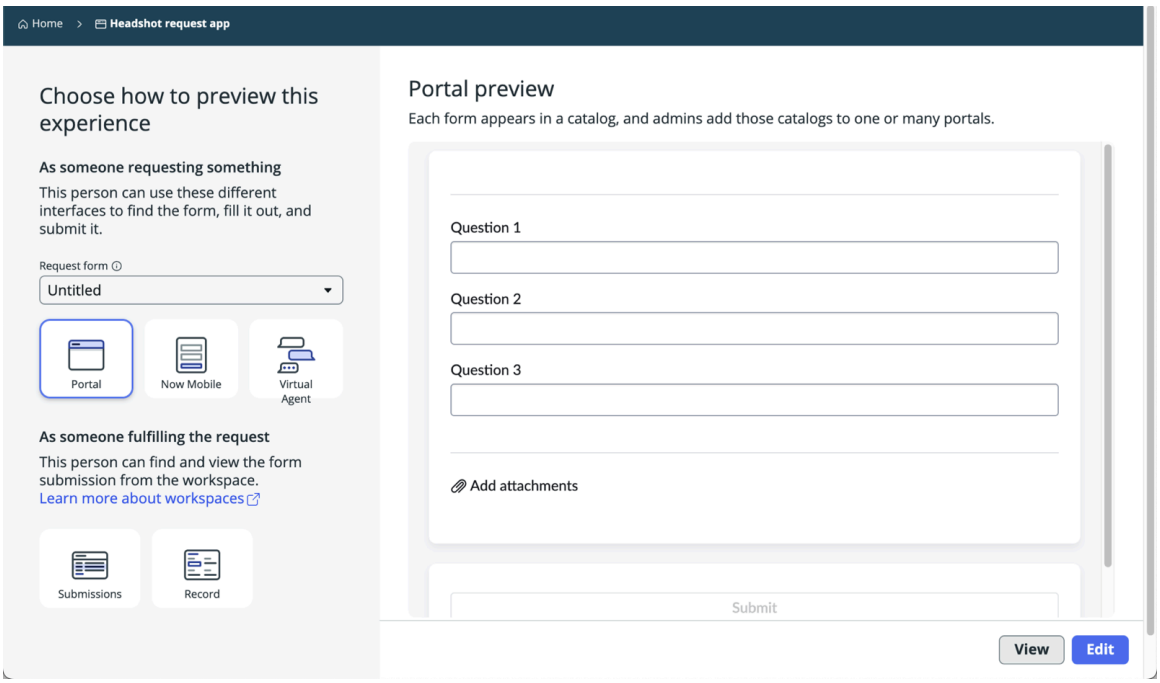
   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

     注: 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

   [表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

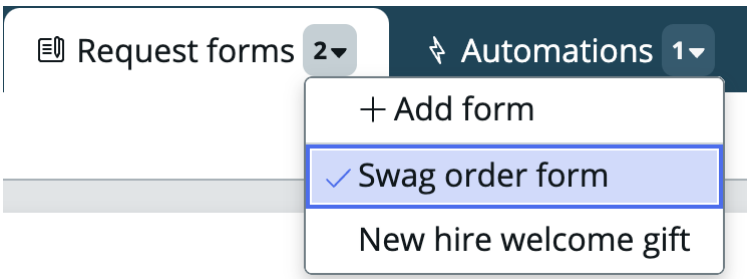
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. [要求フォーム] タブを選択して、アプリの正しいフォームを編集していることを確認します。
そうでない場合は、編集するフォームを選択します。



5. 次のオプションの手順を 1 つ以上実行して、フォームをカスタマイズしましょう。

   a. フォームに表示される画像を追加または変更するには、[画像を追加] アイコンを選択 ( ) し、画像を選択します。

   b. フォームのタイトル、簡単な説明、その他のテキストを変更するには、フォームの各部分を選択して変更内容を入力します。
   リッチテキストを使用して、フォントの変更やサイズ変更など、長い [説明] の表示方法を強化できます。

6. 次に、履行者が要求を評価するために必要な質問をフォームに追加します。質問を追加してカスタマイズするには、次の手順を実行します。

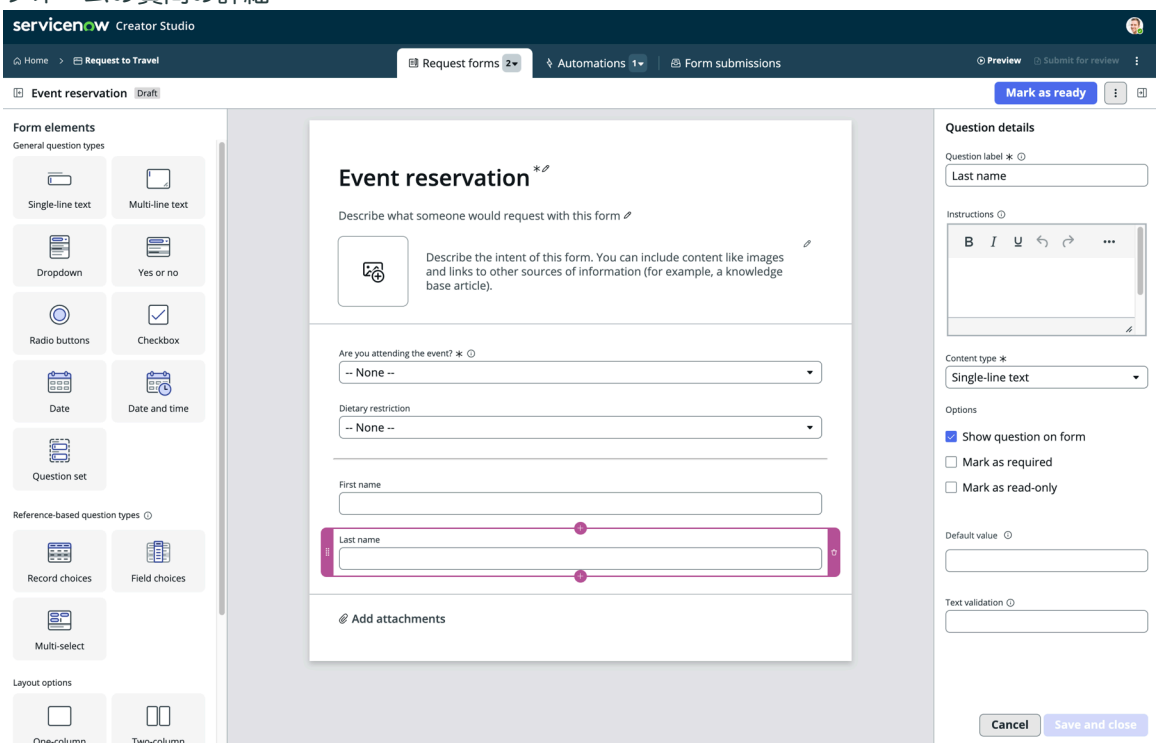
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [フォーム要素] パネルで、必要な質問のタイプをフォームでドラッグし、キャンバス上の目的の場所にドロップします。フォーム上の既存の質問をクリックすると表示される [追加] アイコン (+) を選択して、質問を追加することもできます。
事前設定された [質問セット] を追加する場合は、質問セットをフォームにドラッグしたときに表示されるモーダルから質問セットを選択する必要があります。

質問タイプとその使用方法の説明については、「クリエータースタジオ で利用可能な質問のタイプ」を参照してください。

b. [質問の詳細] パネルで、要求者がフォームを送信するには質問に回答する必要があるかどうかなど、追加した質問に関する情報を指定します。
詳細は質問タイプによって異なります。たとえば、[ドロップダウン] の質問を追加する場合は、選択するオプションを指定する必要があります。

フォームの質問の詳細



c. 質問の変更が完了したら、[保存して閉じる] を選択します。

d. この手順を使用して、フォームの質問を修正するか、フォームに質問を追加します。質問タイプを変更するには、質問を選択してから、[質問の詳細] パネルの [コンテンツタイプ] フィールドで新しい質問タイプを選択します。新しいタイプを選択すると、新しい値を指定しなければならない場合があります。
質問を作成する際は、次の仕様を念頭に置いてください。

- 既存の質問を質問セットに変更することはできません。質問セットをフォームに含めるには、その質問セットをフォームに新たに追加する必要があります。
- フォームに 2 つのチェックボックスの質問を並べて配置すると、セクションが作成されます。そのセクションに他のタイプの質問を追加することはできません。

7. それでは、フォームに追加した質問と画像を配置しましょう。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [フォーム要素] パネルから、目的のレイアウトオプションをフォームでドラッグし、表示する場所 ([分割線]など) にドロップします。
レイアウトが気に入らなくても心配はいりません。別のレイアウトをフォームのキャンバスにドラッグして試してみてください。

b. [セクションの詳細] または [質問の詳細] パネル (作業中のレイアウトによって異なります) を使用して、選択したフォームレイアウトを変更します。テキストを太字にしたり、リンクを追加したりできます。
詳細については、「クリエータースタジオにおけるフォームのレイアウトオプション」を参照してください。

c. フォームのレイアウトの変更が完了したら、[セクションの詳細]/[質問の詳細] パネルで [保存] を選択します。

タスクの結果

おめでとうございます: お疲れさまでした。アプリに付属するデフォルトのフォームをカスタマイズしました。

次のタスク
次に、フォームを公開準備完了としてマークし、アプリで使用できるようにする必要があります。これを行う方法については、「クリエータースタジオでアプリのフォームを公開する 」をご覧ください。

フォーム ヘッダーの [その他のオプション] アイコン ( ) にある [すべての変更を元に戻す **(Undo all change)]** オプションを選択すると、フォームを最後に公開されたバージョンにリセットできます。

クリエータースタジオ のフォームの開発ステータス

アプリは、アイテムのカタログを含むオンラインストアと考えてください。何かを要求するには、フォームに入力する必要があります。クリエータースタジオ を使用して、カタログ内の各アイテムのフォームを作成しカスタマイズします。

サマリー: フォームには次の 2 つのステータスがあります。

ドラフト

編集時のフォームのステータス。新しいフォームまたは公開済みフォームの可能性があります。このステータスのフォームはカタログに表示されません。

公開済み

カタログに表示される、すべてデザインされたフォームのステータス。

準備が整ったときにのみフォームを公開し、作業中の中途半端なバージョンは公開しません。フォームにステータスがあるのはそのためです。

フォームの [ドラフト] ステータス

[ドラフト] ステータスのフォームは、アイテムのカタログに表示されません。つまり、オンラインカタログに影響を与えることなく作業できます。

編集するフォームは、新しいフォーム、または既に公開されているフォームのコピーの場合があります。このステータスでは、フォームを好きなだけ変更できますが、フォームを公開するまで、変更内容はバックグラウンドで保持されます。そのため、[ドラフト] ステータスのときにフォームが未完成のままになる心配はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームの [公開済み] ステータス

フォームの編集が完了したら、フォームを準備完了としてマークします。これにより、フォームは [公開済み] ステータスになります。このバージョンのフォームは、指定されたアイテムのカタログに表示されます。

> **注:** 公開されたフォームは、アプリを開発している非本番インスタンスにのみ表示されます。フォームを本番インスタンスのカタログに表示するには、アドミンにアプリを本番環境に展開するように要求する必要があります。

公開されているフォームを編集すると、クリエータースタジオ がフォームのコピーを作成し、そのコピーを [ドラフト] ステータスにするので、それで作業できます。フォームの公開済みバージョンは、フォームの変更済みのコピーを送信し、公開済みフォームを置き換えるまで、オンラインカタログで引き続き利用されます。

クリエータースタジオでアプリにフォームを追加する

アプリのカタログアイテムを作成するために必要なだけフォームを追加します。たとえば、駐車スペースの要求用、机の要求用、会議室の予約用の 3 つの異なるフォームを備えたオフィス予約アプリを作成できます。

始める前に

フォームをアプリに追加するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて

> **注:** IT フルフィルメントアプリには、ハードウェアアクセサリ (マウスやヘッドフォンなど) を要求するためのフォームがすでに 1 つあり、ソフトウェアアプリケーションを要求するための 2 つ目のフォームを追加できます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. フォームを追加するアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

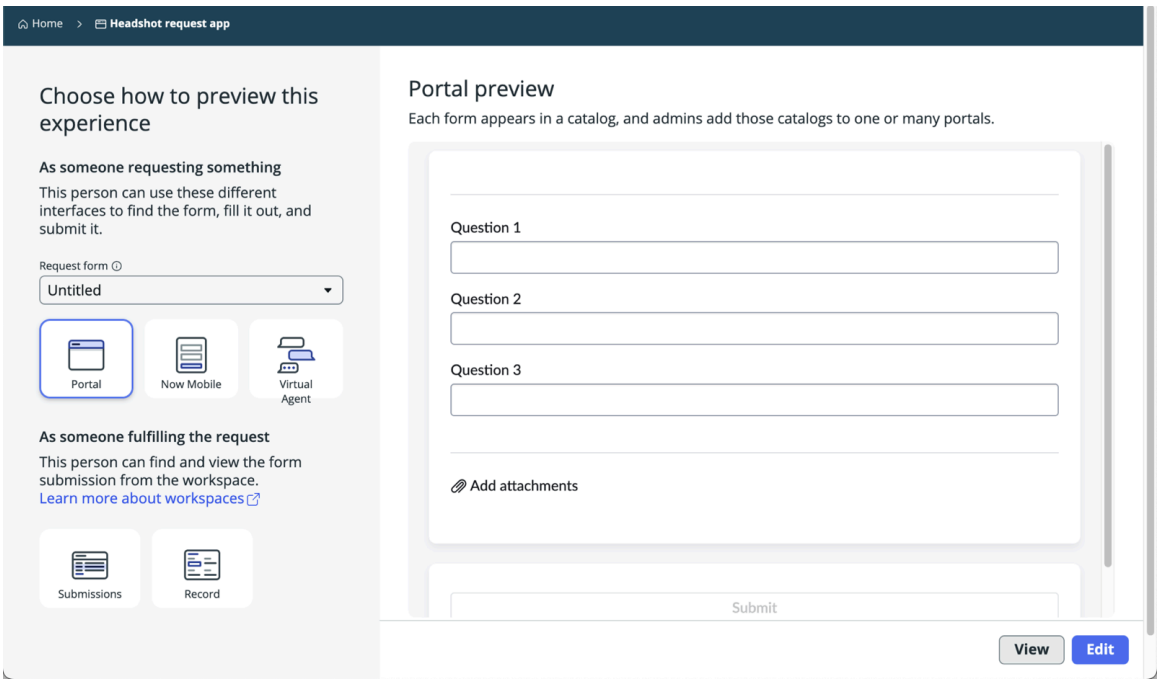
   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

     > **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

   [表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

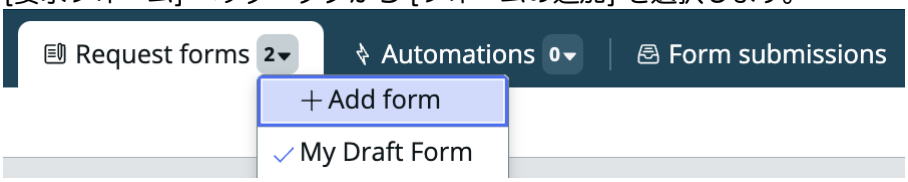
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. [要求フォーム] ヘッダータブから [フォームの追加] を選択します。



5. フォームの作成に使用するカタログテンプレートをリストから選択します。
6. [このテンプレートを適用 **(Apply this template)**] ボタンを選択します。
[プレビュー] ボタンを選択すると、変更を加えなくてもフォームがどのように見えるかを示す簡単なモックアップを確認できます。
7. カタログにフォームを追加して、そのビジネスエリアを指定します。

   注: 現時点ではこのステップをスキップして、どこに当てはまるかがよくわかったら後で再検討できます。

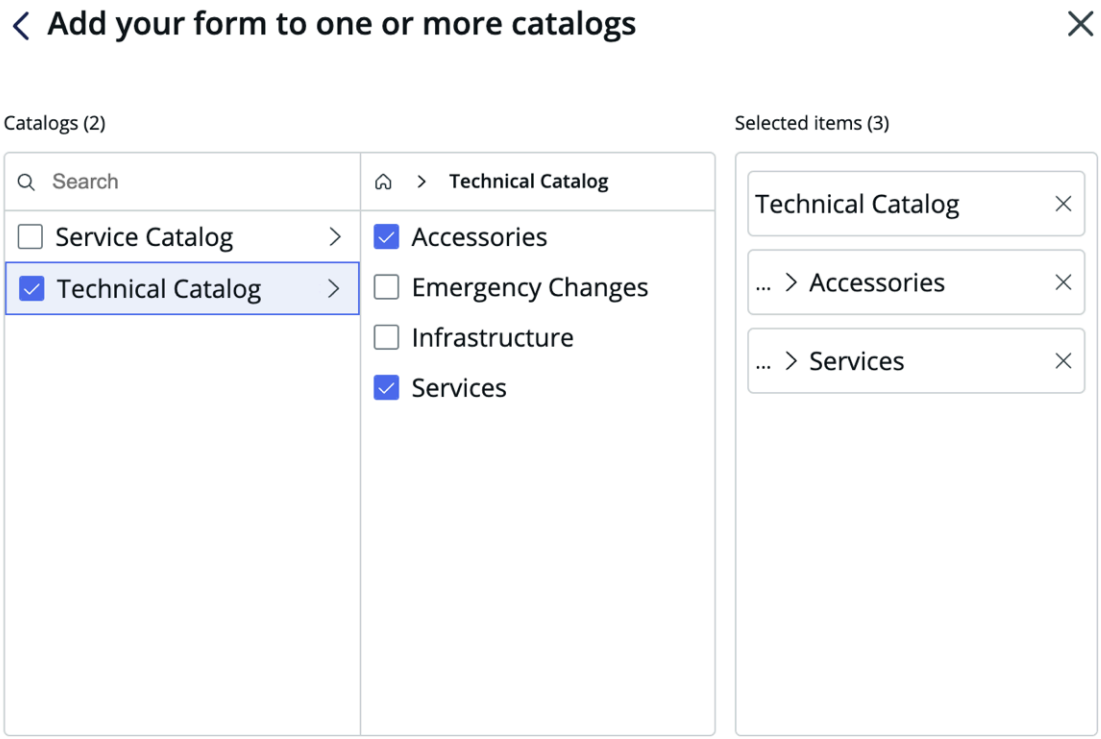
   利用可能なカタログはアドミンによって構成されます。必要なカタログが表示されない場合は、アドミンに問い合わせてください。

   a. カタログとカテゴリカードの [編集] ボタン (Edit) を選択します。

   b. アプリが使用するビジネスエリアを表すカタログを選択します。
   たとえば、ソフトウェアとラップトップケーブルを含むサービスカタログを選択します。各カタログのカラットを展開すると、そのサブカタログが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログを選択します。



c. カタログから必要な数のアイテムを選択します。

d. [適用] を選択します。

アプリの作成が完了したら、アプリの基本設定をいつでも編集できます。詳細については、「クリエータースタジオ のフォーム設定」を参照してください。

8. 次に、1 つ以上のトピックを選択して、フォームの表示場所を指定します。
トピックの詳細は「 カタログアイテムを 従業員センター の分類トピックに関連付ける 」を、分類方法である分類の詳細については、「 従業員センター の 統一された分類方法 」を参照してください。

> **注:** 現時点ではこのステップをスキップして、どこに当てはまるかがよくわかったら後で再検討できます。

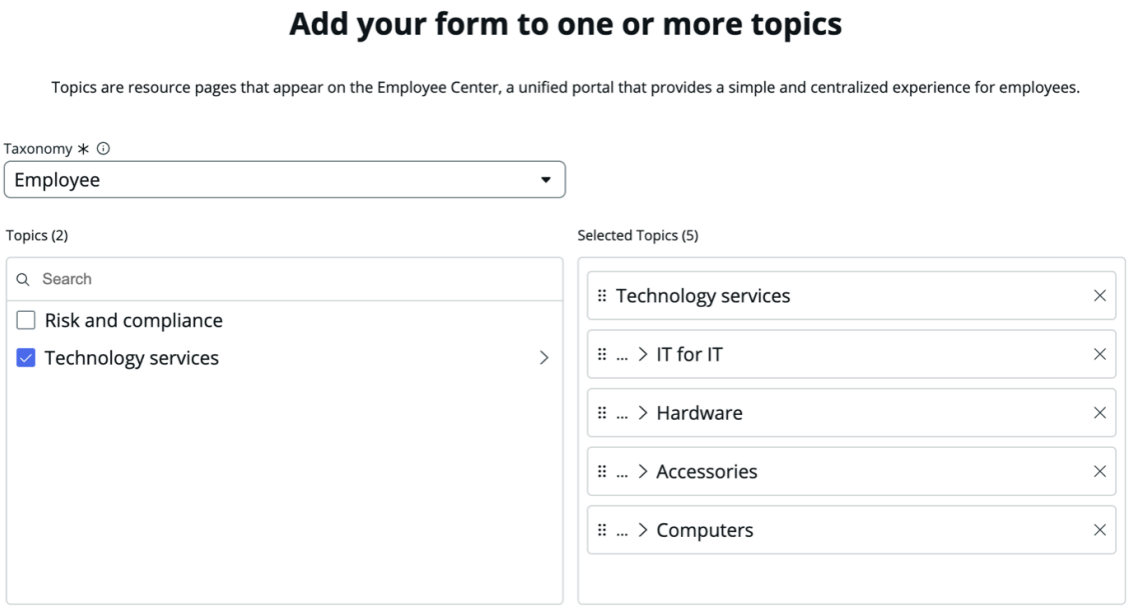
a. トピックカードの [編集] ボタン (Edit) を選択します。

b. フォームを表示する[分類] ページ ([従業員] など) を選択します。
分類は、従業員センター が使用する分類の方法です。

c. フォームを表示する 従業員センター 領域を表すトピックを選択します。
たとえば、テクノロジーサービスを含むトピックを選択し、そのカラットを展開してサブトピックを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームを表示するトピックを選択する



d. フォームを表示するトピックを必要な数だけ選択します。

e. [適用] を選択します。

9. [保存して続行] ボタンを選択します。

タスクの結果

おめでとうございます: やりました！アプリに別のフォームが追加されました。

次のタスク

次に、フォームを編集して質問を入力し、レイアウトをカスタマイズできます。詳細については、「クリエータースタジオ でアプリのフォームをカスタマイズする」を参照してください。

クリエータースタジオでフォームの設定を編集する

関連する画像や添付ファイルの許可など、基本属性を変更する必要がある場合は、フォーム設定を編集します。

始める前に

フォームの設定を編集するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて

注: アプリを作成した後、その[テンプレート] を編集することはできません。変更する場合は、別のカタログテンプレートを使用して新しいフォームを作成します。[レコード送信テーブル] は自動的に生成され、変更することはできません。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 編集するフォームを含むアプリケーションを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

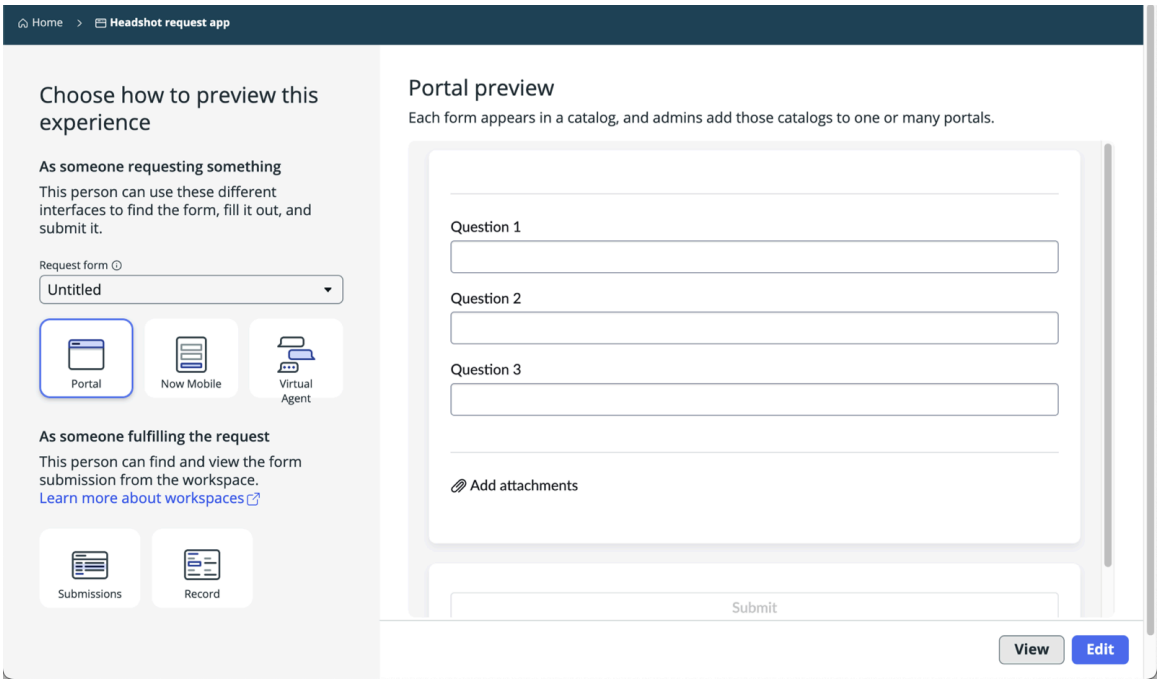
さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

- [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
- **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
- 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

> **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

[表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



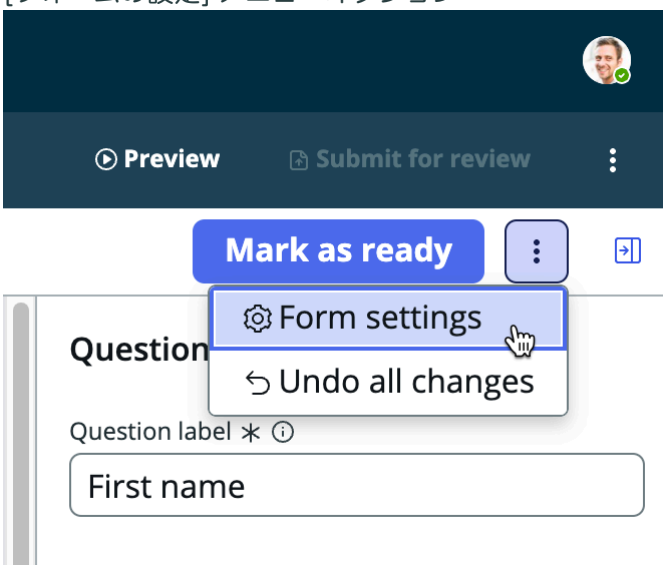
[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. [要求フォーム] タブからフォームを選択し、アプリの正しいフォームを編集していることを確認します。

5. [その他のアクション] アイコン ··· を選択します。
6. [フォームの設定] を選択します。

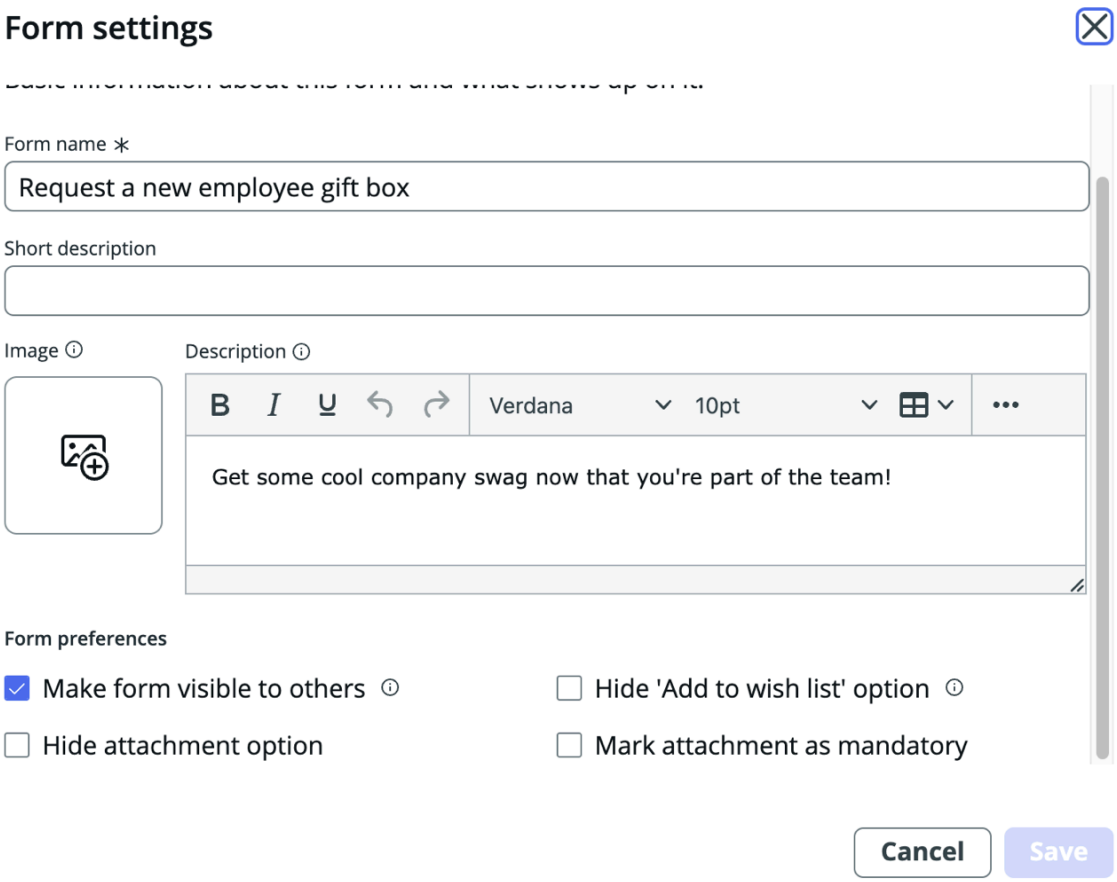
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[フォームの設定] メニューオプション



7. [全般] タブの設定を更新します。
   具体的なフォーム設定の詳細については、「クリエータースタジオ のフォーム設定」を参照してください。

フォームの設定モーダル



8. [場所] タブを選択して、フォームがカタログ内に表示される場所、フォームの分類方法、フォームが表示されるトピックを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [カタログとカテゴリ] カードの [編集] アイコン (Edit) を選択します。

b. アプリが使用するビジネスエリアを表すカタログを選択します。
たとえば、IT フルフィルメントアプリ用のソフトウェアやラップトップケーブルを含むサービスカタログを選択できます。

c. 各カタログのカラットを展開すると、そのサブカタログが表示されます。

d. カタログ内のアイテムを必要なだけ選択します。

e. [戻る] アイコン (<) を選択して、[場所] タブに戻ります。
[戻る] アイコンをクリックすると、選択したカタログとアイテムが自動的に保存されます。

f. フォームを表示する[分類] ページ ([従業員] など) を選択します。
分類は、従業員センター が使用する分類の方法です。

g. フォームを表示する 従業員センター 領域を表すトピックを選択します。
たとえば、テクノロジーサービスを含むトピックを選択し、そのカラットを展開してサブトピックを表示します。

h. フォームを表示するトピックを必要な数だけ選択します。

i. [戻る] アイコン (<) を選択して、[場所] タブに戻ります。
[戻る] アイコンをクリックすると、選択したトピックが自動的に保存されます。

j. [すべての設定を保存 **(Save all settings)**] を選択します。

9. [アクセス] タブを選択して、フォームを表示および送信できるロールとグループを変更します。

a. [編集] アイコン (Edit) を選択して、フォームを利用可能にするユーザーを編集します。

b. フォームにアクセスできるロールとグループを選択します。

c. [編集] アイコン (Edit) を選択して、フォームを利用不可にするユーザーを編集します。

d. フォームにアクセスできないロールとグループを選択します。
アドミンと協力して、非本番環境および本番環境でこの設定のロールとグループへのアクセスを制限または提供します。詳細については、「展開された クリエータースタジオ アプリのユーザーアクセスの管理」を参照してください。

10. [保存] を選択します。

クリエータースタジオでアプリのフォームを公開する

フォームの準備を整えて公開すると、公開されたアプリの本番インスタンスでカタログアイテムとして使用できるようになります。

始める前に

フォームを公開するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
フォームを公開すると、作業中のインスタンス上の指定したカタログでそのフォームを使用できるようになります。ただし、ユーザーがフォームにアクセスできるように、アプリを本番インスタンスに展開する必要があります。詳細については、「クリエータースタジオ アプリを展開する」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 公開するフォームを含むアプリケーションを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

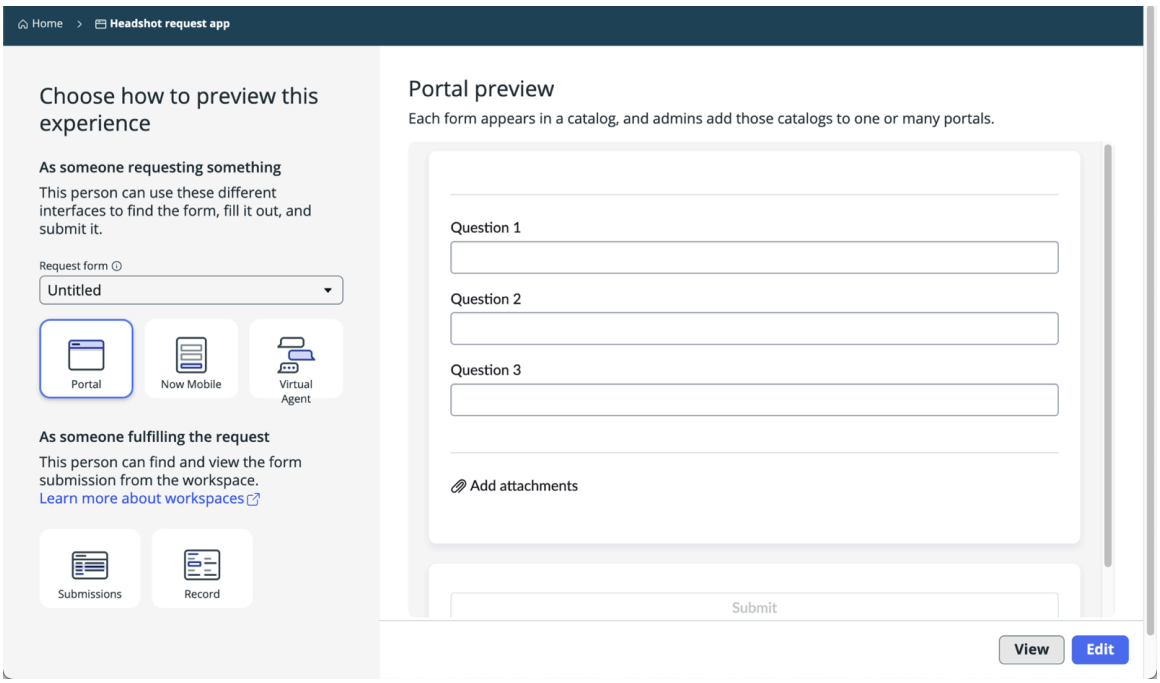
   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

   > **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

[表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

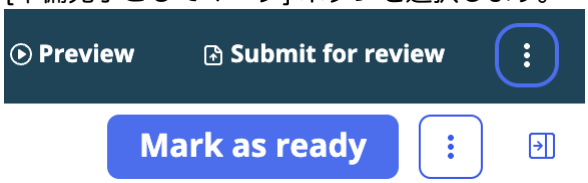
アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [要求フォーム] タブからフォームを選択し、アプリの正しいフォームを操作していることを確認します。
5. [準備完了としてマーク] ボタンを選択します。



タスクの結果
フォームのカタログアイテムをアプリとともに展開する準備ができました。アプリが展開されると、関連するサービスカタログでフォームが使用できるようになります。フォームのアプリが展開されていない場合は、それを展開する必要があります。

Now Platform の クリエータースタジオで使用できないようにフォームを非表示にする

アプリのフォームのカタログアイテムを非表示にすると、フォームを効果的に非アクティブにできます。非表示のフォームは、アプリとそれが属するカタログの両方で使用できません。

始める前に
フォームを非表示にするには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて
クリエータースタジオではフォームを削除することができません。代わりに、ワークフローが損なわれないようにフォームを非表示にします。

すでに公開されているフォームのみを非表示にできます。詳細については、「クリエータースタジオアプリを展開する」を参照してください。

手順
1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 非表示にするフォームが含まれているアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

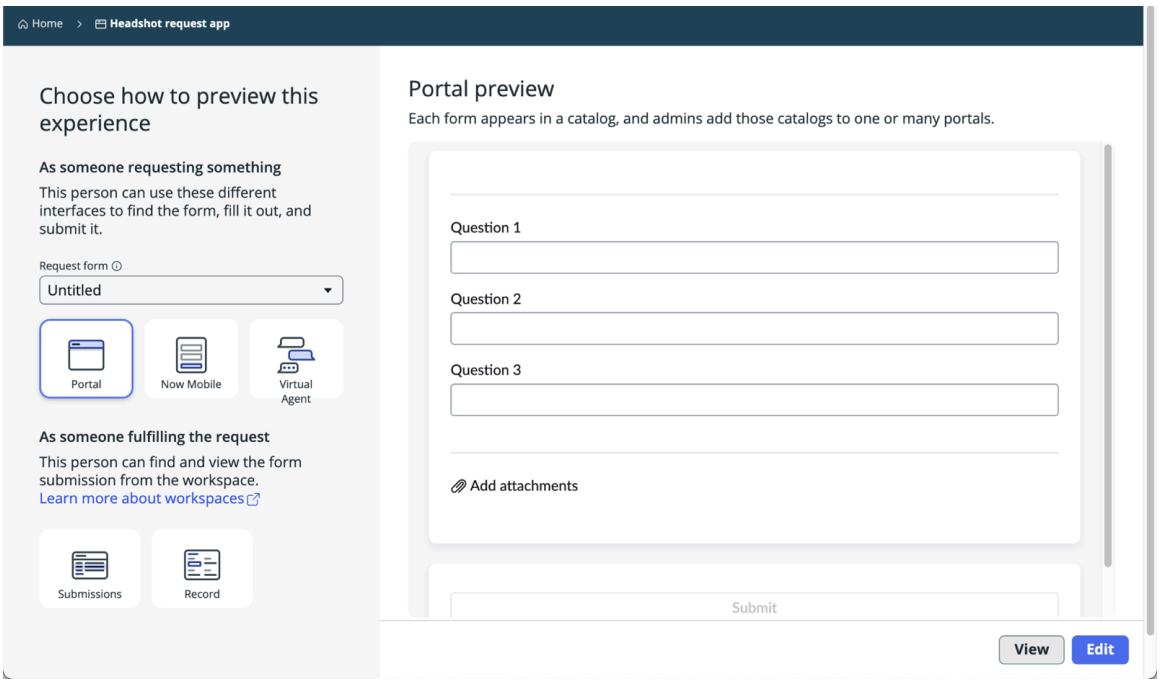
   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

   > **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

   [表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

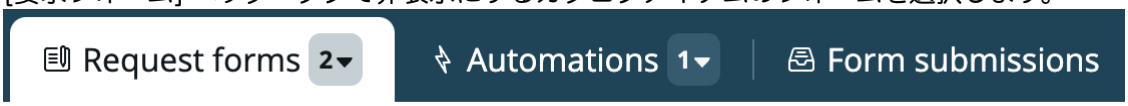
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



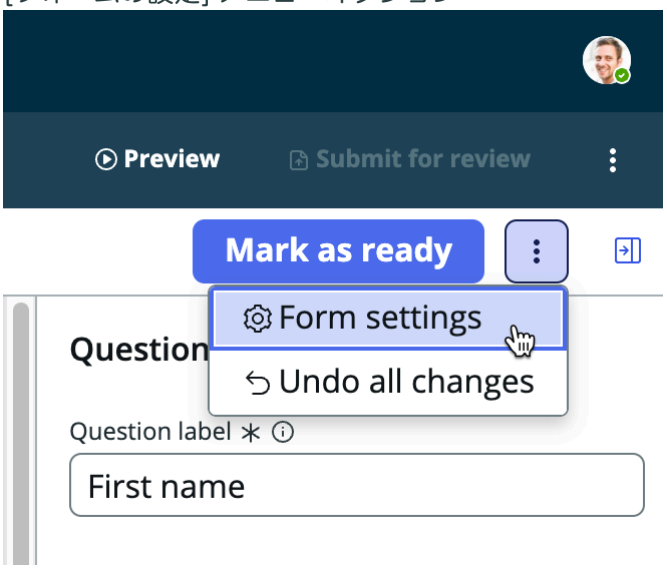
[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. [要求フォーム] ヘッダータブで非表示にするカタログアイテムのフォームを選択します。



5. [その他のアクション] アイコン ( ) を選択します。
6. [フォームの設定] を選択します。

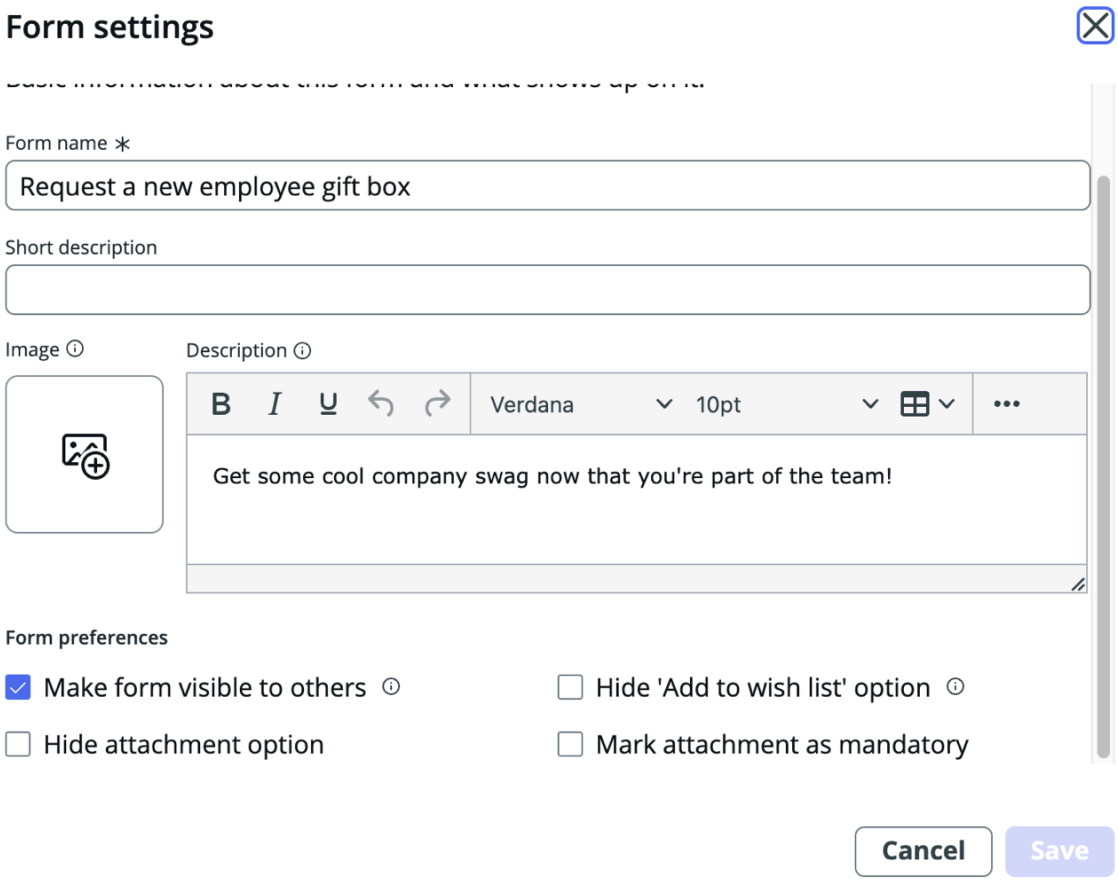
[フォームの設定] メニューオプション



7. [他のユーザーがフォームを表示できるようにする **(Make form visible to others)]** オプションの選択を解除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームの設定モーダル



8. [保存] を選択します。

次のタスク
本番インスタンス上で非アクティブなフォーム (カタログアイテム) を非表示にするには、アプリを再展開する必要があります。

クリエータースタジオ で自動化を操作する

履行者のタスクをどのように簡素化および合理化しますか？自動化を活用しましょう！たとえば、要求のタイプに基づいてタスクを自動的に誰かにアサインすることができます。プレイブックを使用して、この自動化をアプリに追加します。

サマリー: このセクションを読むことで、自動化を使用した次の方法を理解できます。

- プレイブックを使用して、エージェントと履行者にプロセスを最初から最後までガイドし、カスタマーエクスペリエンスとタスクの実行方法を改善する。
- タスクまたはアクティビティを実行するための一貫したプロセスを作成する。
- 組織全体でビジネス上の意思決定とプロセスを統合する。

注: プレイブックはフォームに基づいているため、自動化の作業を開始する前に、アプリのフォームのビルドを完了する必要があります。

プレイブックは、トリガーに基づいて行われる一連のアクティビティです。これらは、一連の if-then ステートメントのようなものと考えてください。もしこれが起きたら、次にそれが起きます。必要に応じて、複数のプレイブックをアプリに追加できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

主要な用語:

アクティビティ

プレイブックのアクティビティは、承認の取得、レコードのアサイン、メールの送信などの自動化されたタスクを完了します。

自動化

手動介入なしでワークフロー内を移動するタスクまたは要求。

プレイブック

トリガーと呼ばれる開始アクションに基づく一連のアクション。

レコード

対応する必要があるタスクまたは要求。ServiceNow テーブルのすべての行は個別のレコードです。レコードのステータスは、実行されたアクションによって異なります。

トリガー

プレイブックの実行を開始するイベント。

ワークフロー

レコードの作成から完了までのパス。

自動化とは何か？

クリエータースタジオ の自動化により、基本的な自動ワークフローである簡略化されたプレイブックを作成できます。シンプルなプレイブックは、トリガー (レコードのステータス変更、ユーザーによる質問に対する特定の回答の選択など) とアクティビティ (レコードが新しいユーザーにアサインされるなど) で構成されます。

- アクティビティを自動化に追加して、ワークフローのパスを定義する。
- 意思決定を追加して、意思決定の結果に応じて異なるパスまたは分岐を作成する。

プレイブックにより、タスクのアサインを推測する必要がなくなり、ユーザーは自分の仕事にとって重要なタスクと情報に集中できるようになります。適切に設計されたプレイブックでは、次のことができます。

- タスクのアサインなど、さまざまなタイプのレコードの変更を自動的に開始またはトリガーする。
- 既に作成した他のワークフローのアクティビティとビジネス上の意思決定を再利用する。
- 履行者がレコードのライフサイクルを完了する次のステップに進むために実行する必要がある次のステップを明確に示す。

プレイブックに追加できるアクティビティにはいくつかの種類があります。これらのアクティビティを意思決定と組み合わせることで、タスクに取り組むときに次に何をすべきかを手動で考える必要がなくなります。現時点では、次のことができます。

- タスクの承認を要求する
- タスクを他のユーザーにアサインする
- 次のステップとして新しいタスクを作成する
- メールを送信する

プレースホルダーアクティビティは、クリエータースタジオ の外部で設定する必要があるより複雑なアクティビティや、後で別のアクティビティをスワップインするためにも使用できます。複雑なアクティビティは、ワークフロースタジオ と呼ばれる別のツールで構成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化のビルドの要素

クリエータースタジオ の自動化には、次の部品が含まれます。

自動化の部品

コンセプト	説明
プレイブック	レコードステータスの変更に基づいてユーザーにタスクをガイドする自動ワークフロー。プレイブックの作成の詳細は、クリエータースタジオ でアプリに自動プレイブックを追加する をご覧ください。
トリガー	フォームが送信されたとき、または特定のステータスに更新されたときなど、プレイブックの実行を開始するタイミングを指定するイベント。詳細については、クリエータースタジオでプレイブックのトリガーを編集する をご確認ください。
アクティビティ	タスクのアサインや承認の要求など、プレイブック中に行われること。 注: プレイブックのオプションのアクティビティに既に慣れている場合は、それでよいでしょう。ただし、自動化を簡素化してシンプルに保つために、クリエータースタジオ はオプションのアクティビティをサポートしていません。オプションのアクティビティを作成する必要がある場合は、クリエータースタジオ でプレースホルダーアクティビティを追加し、ワークフロースタジオ でプレースホルダーを編集するか、後で クリエータースタジオ で別のアクティビティとスワップすることができます。 アクティビティを追加する方法については、「クリエータースタジオ でアプリのプレイブックにアクティビティを追加する」を参照してください。
決定	意志決定の結果に基づいてユーザーが従うさまざまな分岐または条件付きパスを作成する一連の入力、条件、および結果。意思決定の追加に関しては、「クリエータースタジオでアプリのプレイブックに意思決定を追加する」を参照してください。
分岐	意思決定の結果からの明確なパス、または意思決定で可能な各選択肢で起きること。詳細については、「クリエータースタジオでアプリのプレイブックに意思決定を追加する」を参照してください。
並列処理	アクティビティの別の分岐と並行して実行される、アクティビティおよびステージの分岐。並列処理については、「クリエータースタジオ で

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化の部品 (続く)

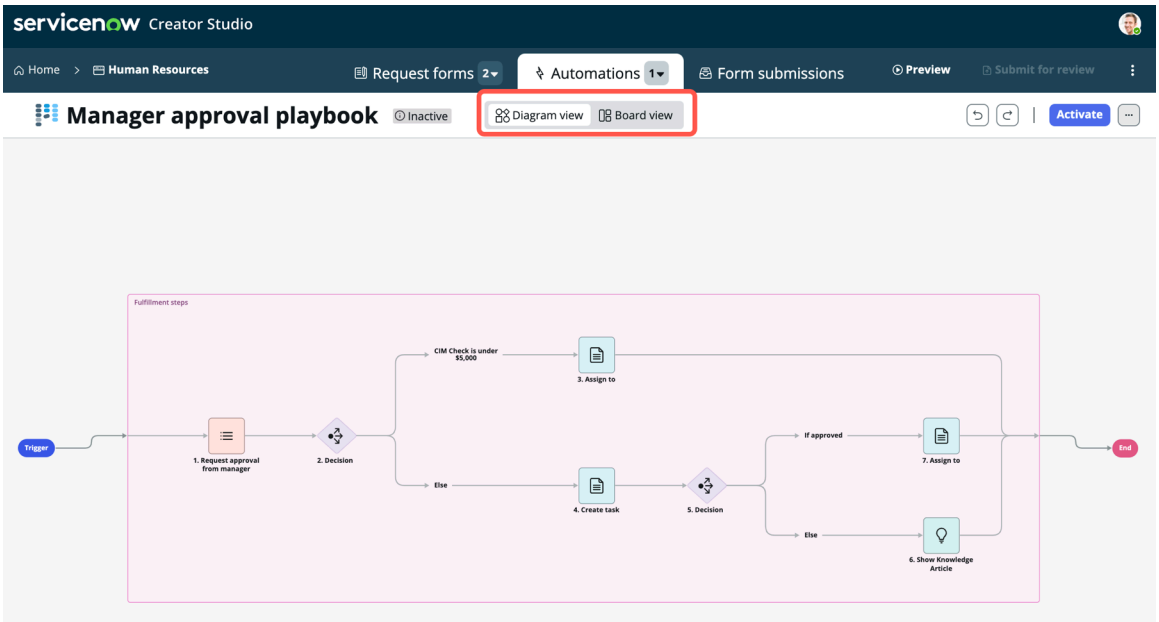
コンセプト	説明
	アプリのプレイブックに並列処理を追加する」を参照してください。
コネクタ	プレイブック内のアクティビティと意思決定を接続する線。アクティビティ、意志決定、並列処理をさらに追加できます。アクティビティ間でコネクタをドラッグして、並列アクティビティを作成できます。

プレイブックのボードビューとダイアグラムビュー

クリエータースタジオには、プレイブックを操作する 2 つの方法として、ボードビューとダイアグラムビューが用意されています。

ダイアグラムビューは、プレイブック内でアクティビティが発生する順序を示す、視覚的に直感的なダイアグラムです。トリガーや意思決定などのアクティビティを選択すると、詳細を編集できるモーダルがポップアップ表示されます。意思決定を追加するには、ダイアグラムビューを使用する必要があります。

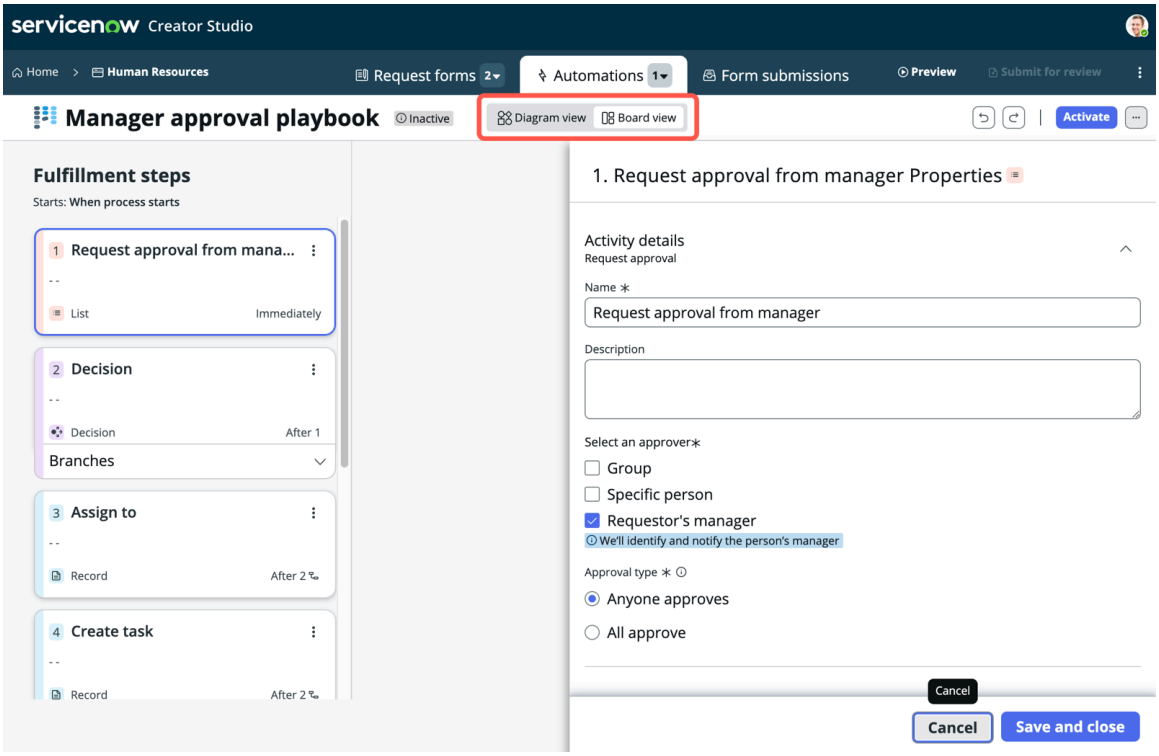
プレイブックのダイアグラムビュー



ボードビューは、より伝統的なレイアウトで、各アクティビティがナビゲーションパネルにカードとして表示されます。タスクなどのアクティビティを選択すると、その編集可能な詳細がキャンバスに表示され、操作できるようになります。アクティビティを再配置するには、ボードビューを使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックのボードビュー



このヘルプドキュメントでは、主にダイアグラムビューを使用した手順を説明し、ボードビューで自動化タスクを完了する方法についての別の手順も説明します。

Now Platform でプレイブックが実行される場所

ユーザーは、Now Platform の要求アプリワークスペースで要求を処理します。このワークスペースには、各要求のレコードがリストされます。プレイブックは、アプリのワークスペースカテゴリ内の指定されたレコードで実行されます。

具体的には、レコード詳細の [カタログタスク] タブで、タスクを完了してレコードをクローズするために必要なアクティビティをユーザーに案内します。

クリエータースタジオで自動化を作成するためのワークフロー

自動化されたプレイブックをアプリに追加することで、アプリから生成されたレコードに対処する際のガイダンスを組織の履行者に提供します。

始める前に

注: プレイブックはフォームに基づいているため、自動化の作業を開始する前に、アプリのフォームのビルドを完了する必要があります。

自動化を操作するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

手順

1. アプリを作成します。
   作成したいものに近い既存のプレイブックがある場合は、それを複製して編集できます。これは、まったく新しいプレイブックを作成するよりも速い場合があります。詳細については、「クリエータースタジオで自動化されたプレイブックをコピーする」を参照してください。
2. 自動化されたプレイブックをアプリに追加します。
   詳細については、「クリエータースタジオ でアプリに自動プレイブックを追加する」を参照してください。
3. アクティビティをプレイブックに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「クリエータースタジオ でアプリのプレイブックにアクティビティを追加する」を参照してください。

4. プレイブックに意思決定を追加して、プレイブックのさまざまな分岐を作成します。
詳細については、「クリエータースタジオでアプリのプレイブックに意思決定を追加する」を参照してください。
5. オプション: プレイブックで同時に実行する並列プロセスを作成します。
詳細については、「クリエータースタジオ でアプリのプレイブックに並列処理を追加する」を参照してください。
6. プレイブックのトリガーに他の変更を加えます。
詳細については、「クリエータースタジオでプレイブックのトリガーを編集する」を参照してください。
7. プレイブック設定に他の変更を加えます。
詳細については、「クリエータースタジオでプレイブックを編集する」を参照してください。
8. 準備ができたら、プレイブックをアクティブ化します。
詳細については、「クリエータースタジオ でプレイブックをアクティブ化する」を参照してください。

クリエータースタジオ でアプリに自動プレイブックを追加する

自動化されたプレイブックを作成します。これは、アプリの指定されたフォームによってレコードが作成または更新されるたびに実行されるプロセスです。

始める前に

プレイブックはフォームに基づいているため、自動化の作業を開始する前に、アプリのフォームのビルドを完了する必要があります。

プレイブックはアプリ用に作成したカタログアイテムによって生成されたレコードで実行されるため、自動化を追加する前にアプリにフォームを追加する必要があります。詳細については、「クリエータースタジオ でのフォームの操作」を参照してください。

プレイブックを追加するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて

注: さまざまなタイプの出張の許可を求めることができる出張要求アプリを構築できます。これにより、承認のために要求が自動的にマネージャーにルーティングされます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 自動化を追加するアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)

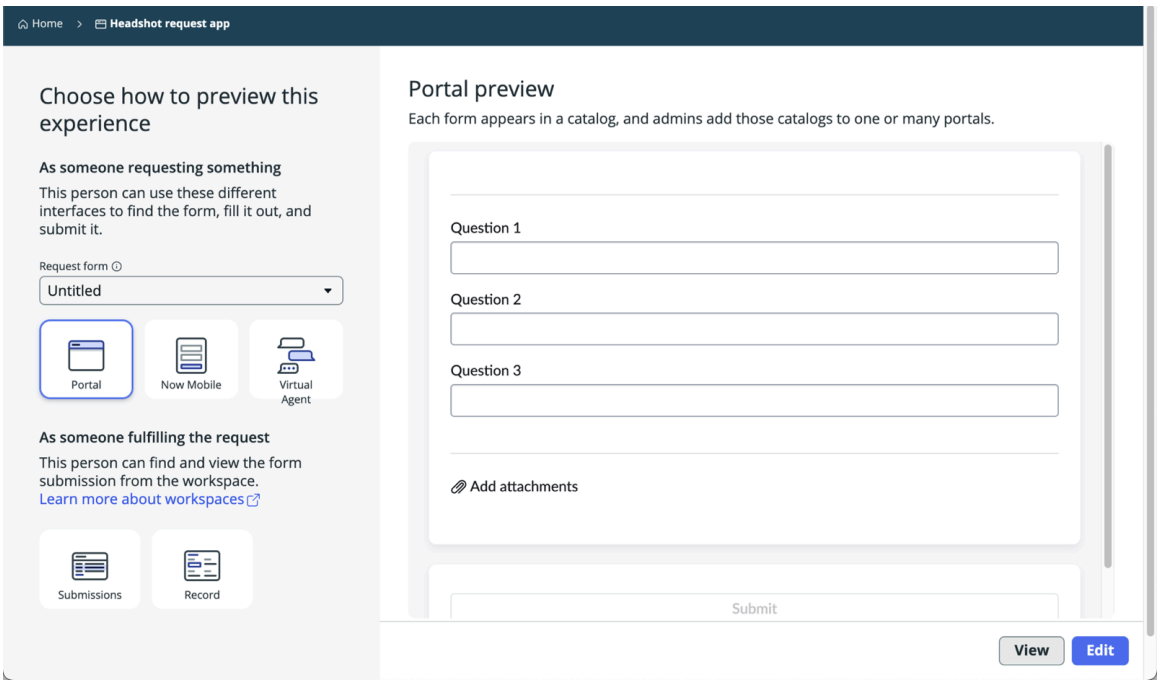
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

> **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

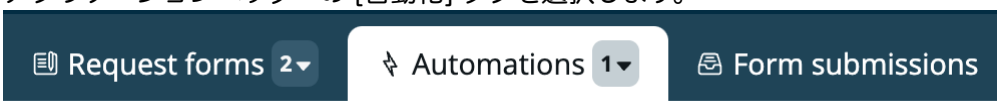
[表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. アプリケーションヘッダーの [自動化] タブを選択します。



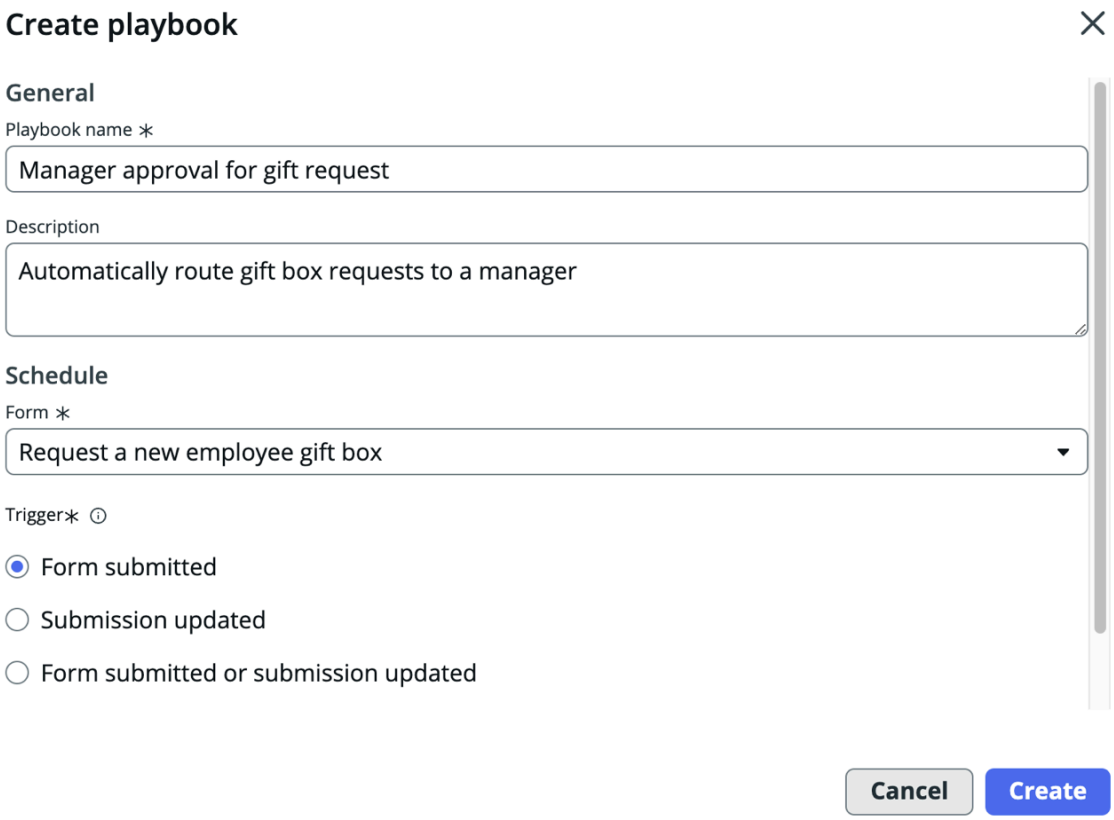
5. [プレイブックを作成 **(Create a playbook)]** ボタンを選択します。
自動化がすでに存在する場合は、[自動化] タブを選択し、[新しいプレイブックを追加 **(Add new playbook)]**を選択します。
6. [プレイブックを作成 (Create playbook)] モーダルでプレイブックの一般的な属性を指定します。

一般的なプレイブック定義フィールド

フィールド	説明
プレイブック名	作成するプレイブックのわかりやすい名前。
説明	プレイブックが実行する内容の短い説明 (レコードタイプの最終目標など)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックを作成



7. プレイブックのスケジュールを指定します。

   a. プレイブックを実行するレコードタイプを生成するカタログアイテムを持つフォームを選択します。
   選択したフォームのテーブルは常にアプリのタスクテーブルであり、アプリの作成時に指定されます。

   b. プレイブックを開始する [トリガー] のタイプを選択します。

   プレイブックトリガーのオプション

トリガー	説明
フォームが送信されました	選択したフォームをユーザーが送信すると、プレイブックの実行が開始されます。
フォームが更新されました	選択したフォームをユーザーが更新すると、プレイブックの実行が開始されます。
フォームが送信または更新された (Form submitted or updated)	選択したフォームをユーザーが送信または更新すると、プレイブックの実行が開始されます。

   注: プレイブックの作成が完了した後は、プレイブックのトリガータイプを変更することはできません。代わりに、別のトリガーを使用して新しいプレイブックを作成します。

   ただし、質問に対する特定の回答に基づいて条件付きでプレイブックを実行するなど、トリガー条件を編集することはできます。詳細については、「クリエータースタジオでプレイブックのトリガーを編集する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

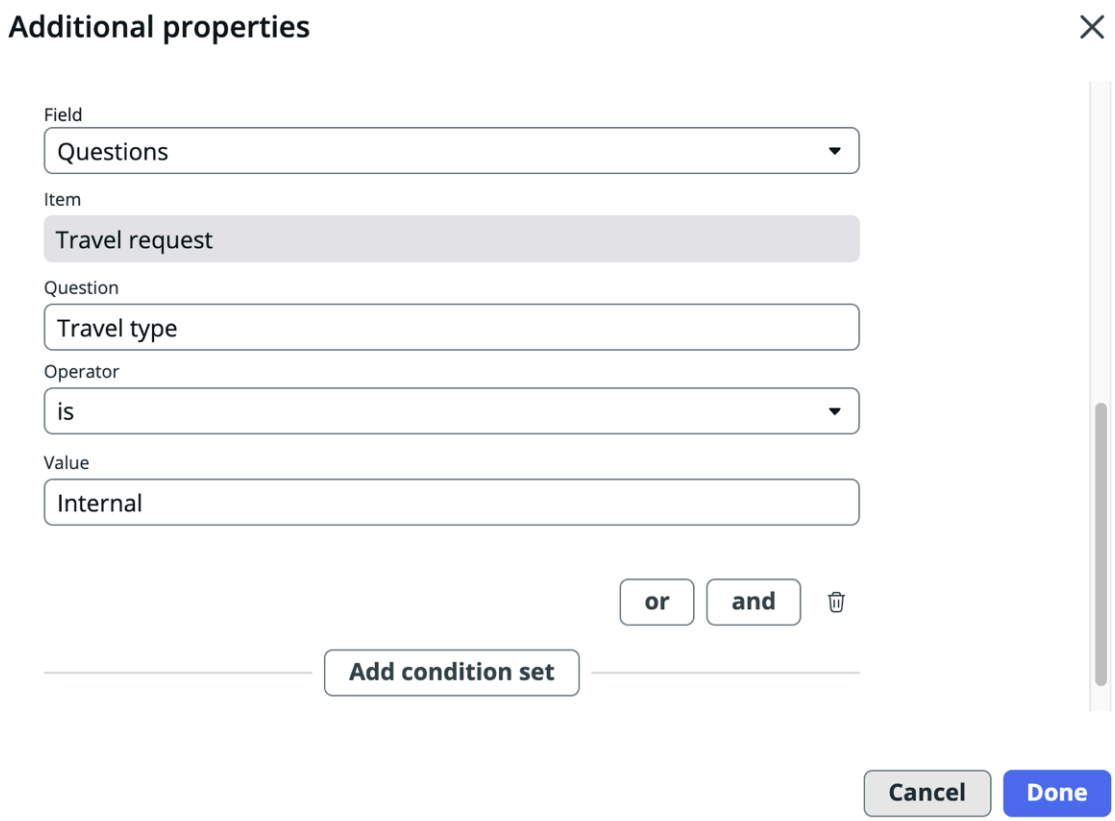
c. 更新中のフォームを含むトリガーを選択した場合は、アプリがプレイブックを実行する頻度を指定します。
オプションは次のとおりです。

- **1 回**
- **For each unique change** (それぞれ一意の変更の場合)
- 現在実行されていない場合のみ
- 更新ごと

d. [条件セットを追加] を選択して、プレイブックの実行を開始するために満たす必要がある条件を指定します。

- テーブルの列の値に基づいてプレイブックをトリガーする場合は、トリガーする [フィールド] 、およびその条件 [演算子] と特定のトリガー [値] を選択します。たとえば、[開始日] が [日付] の [後] である必要がある場合など。
- フォームからの応答に基づいてプレイブックをトリガーする場合は、トリガー [フィールド] として [質問] を選択します。次に、[質問] フィールドで目的の質問を選択し、条件の [演算子] と回答の [値] を選択します。

自動化のトリガーとしての質問の回答



必要なだけ条件を追加します。詳細については、「条件ビルダーを使用して条件ステートメントを作成します。」を参照してください。

8. [保存] を選択します。

タスクの結果

おめでとうございます: おめでとうございます。自動化が作成されました！

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
次に、アクティビティをプレイブックに追加する必要があります。詳細については、「クリエータースタジオ でアプリのプレイブックにアクティビティを追加する」を参照してください。

クリエータースタジオで自動化されたプレイブックをコピーする

既存の プレイブック を複製し、それに小さな変更を加えます。まったく新しい自動化されたプレイブックを作成するよりも、この方が速い場合があります。

始める前に
プレイブックはフォームに基づいているため、自動化の作業を開始する前に、アプリのフォームのビルドを完了する必要があります。

プレイブックをコピーするには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

手順
1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. コピーするプレイブックが含まれるアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

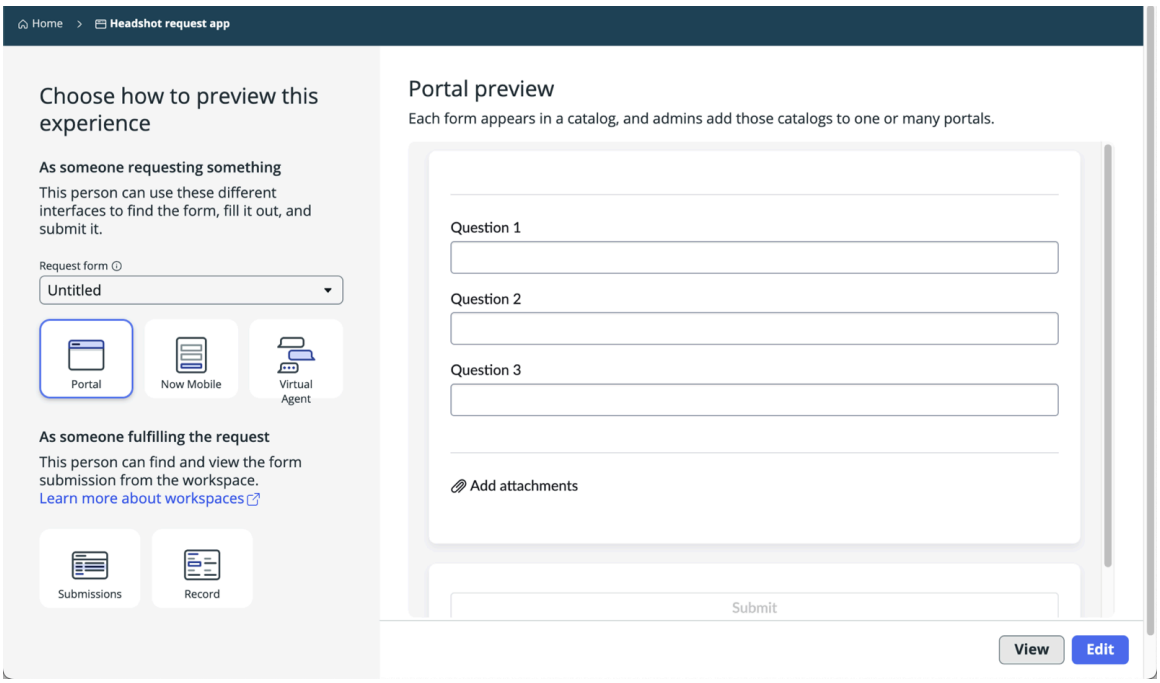
   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

     注: 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

   [表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

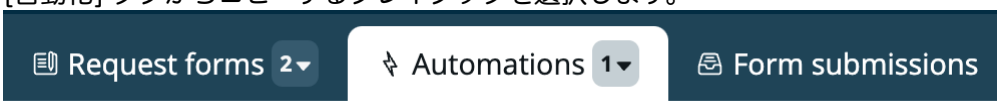
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

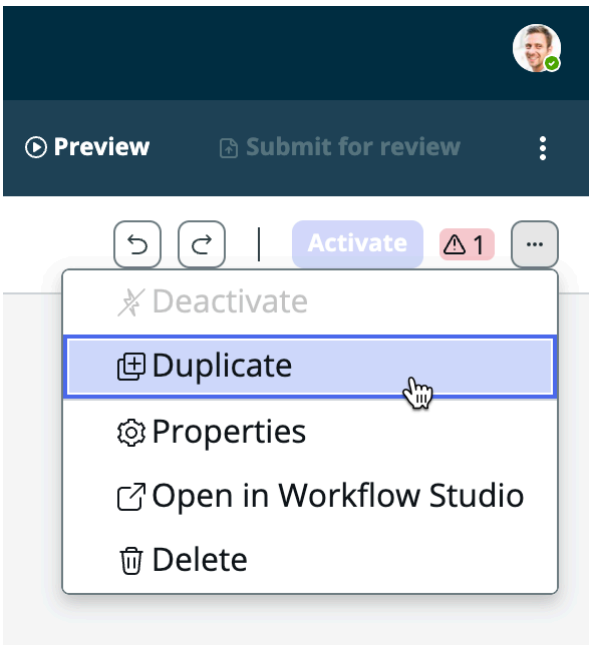
4. アプリケーションヘッダーの [自動化] タブを選択します。
5. [自動化] タブからコピーするプレイブックを選択します。



6. [その他のアクション] メニューアイコン ( ) を選択します。
7. [複製] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックのコピー



8. 確認モーダルで [複製] ボタンを選択します。

クリエータースタジオ でアプリのプレイブックにアクティビティを追加する

アプリのプレイブックにアクティビティを追加して、指定されたレコードタイプに対して自動化が実行する内容を指定します。アクティビティは、プレイブックの実行時に実際に何が発生するかを定義します。

始める前に

プレイブックにアクティビティを追加するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて

プレイブックに追加できるアクティビティは、組織に適切なアクティビティを使用できるようにアドミニストレーターによって制限されています。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. アクティビティを追加するプレイブックが含まれているアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)

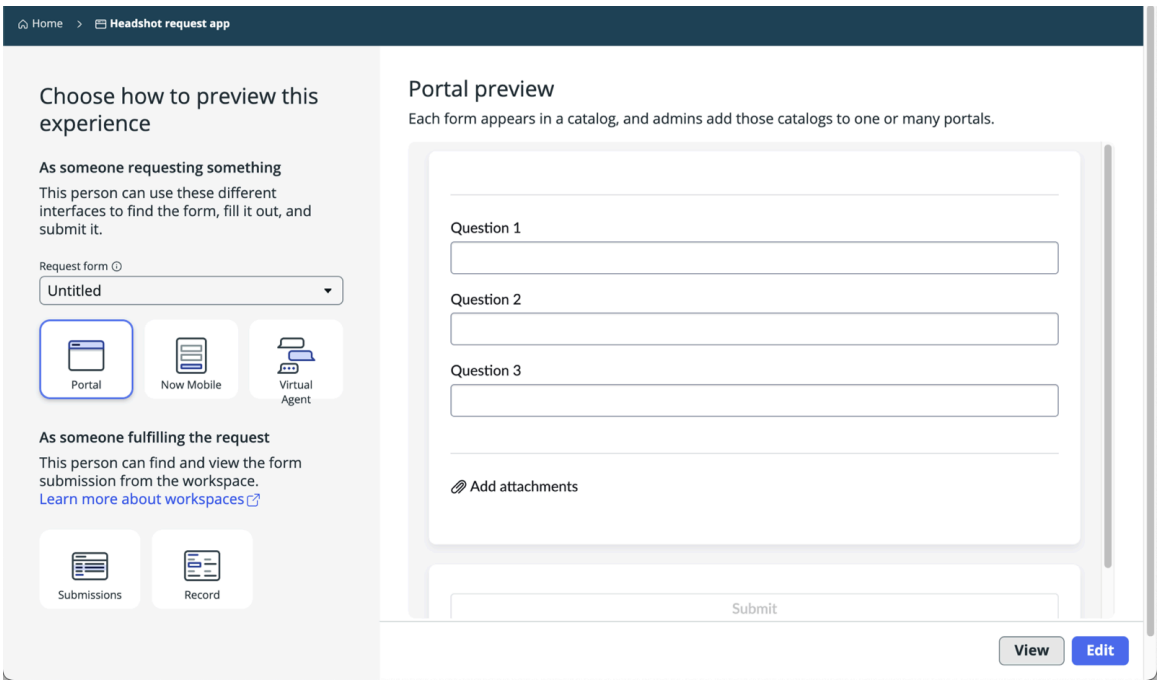
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

> **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

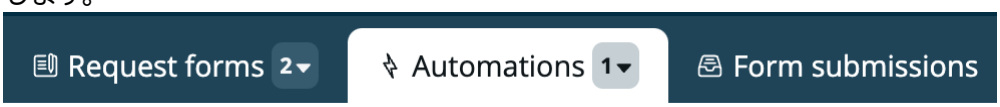
[表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. アプリケーションヘッダーの [自動化] タブを選択します。
5. [自動化] タブからプレイブックを選択し、アプリの正しいプレイブックを編集していることを確認します。



6. アクティビティを追加するコネクタ上の [追加] アイコン を選択し、表示されるメニューに表示されり四角い [アクティビティを追加] アイコン を選択します。

ボードビューとダイアグラムビューでアクティビティを追加する方法

ビュー	ステップ
図	**a.** ステージの **[+]** アイコンを選択します。 **b.** ミニピッカーで、正方形のアイコン ( ) を選択してアクティビティを追加します。
ボード	**[+** アクティビティを追加] を選択します。

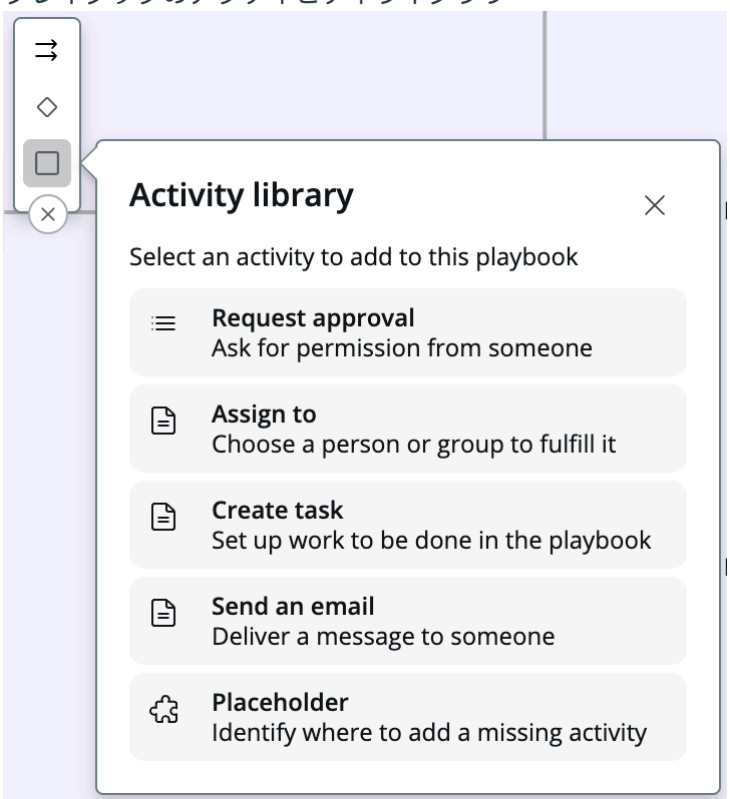
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [アクティビティライブラリ (Activity library)] ポップアップから必要なアクティビティのタイプを選択します。

アクティビティのタイプ

アクティビティタイプ	説明
承認を要求	タスクを実行するために誰かに許可を求めます。
アサイン先	タスクを履行する必要がある人を選択します。
タスクの作成	プレイブックの一部として実行する必要があるプロセスを指定します。
メールの送信	1 人または複数の人にメールを送信します。自動的に送信されるメールの画像を指定したり、テキストを充実させたりすることができます。
プレースホルダー	後で指定する未定義のアクティビティ、またはアクティビティ完了時のメール通知など、より高度なアクティビティを設定します。 プレースホルダーアクティビティにはまだロジックがアサインされていないため、ワークフロースタジオで編集する必要があります。または、後で クリエータースタジオ の別のタイプのアクティビティと入れ替えることもできます。

プレイブックのアクティビティライブラリ



新しいアクティビティとその [アクティビティのプロパティ] パネルが表示され、そこでアクティビティの内容を定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

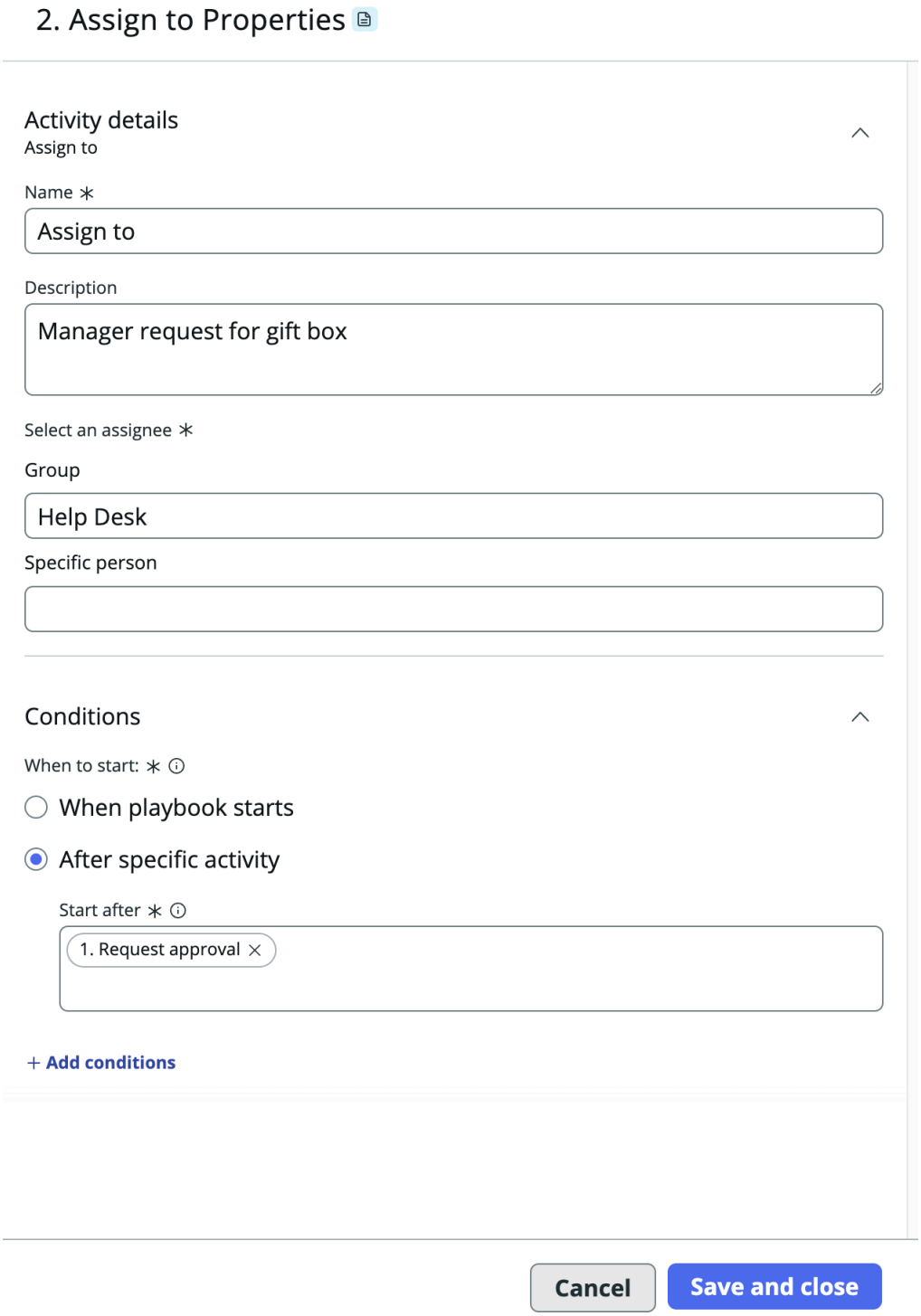
8. アクティビティの基本的な詳細を入力します。

一般的なアクティビティの詳細

フィールド	説明
名前	アクティビティの一意のユーザー向けの名前。プレイブックの実行中にエージェントと履行者に表示されます。
説明	アクティビティが達成する内容に関するオプションの詳細。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティの詳細パネル



9. 必要に応じて、[承認者を選択 **(Select an approver)]** または [アサイニーを選択] フィールドで、承認者またはアサイニーを指定します。
承認者とアサイニーは、タスクを承認する必要がある人、またはタスクがアサインされる人です。
オプションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [グループ]：表示されるフィールドに 1 つ以上のユーザーグループを入力します。たとえば、「`App Engine アドミン`」。
- [特定のユーザー **(Specific person)**]：Now Platform に表示されるユーザーの名前を入力します。グループを入力した場合は、指定したグループ内のユーザーのみを選択できます。
- [要求者のマネージャー]：(要求承認アクティビティのみ) 要求を行っているユーザーのマネージャーに承認を自動的にルーティングします。

10. 特定のタイプのアクティビティの詳細を入力します。

a. 要求承認アクティビティの場合のみ、[承認タイプ] を指定します。
承認タイプは、1 人の承認者が必要か、全員が要求を承認する必要があるかを定義します。オプションは次のとおりです。

- [誰でも承認可能]：指定された承認者のうち 1 人だけが要求を承認する必要があります。
- [すべて承認]：指定された承認者の全員が要求を承認する必要があります。

  このオプションを選択し、グループを指定した場合は、グループのすべてのメンバーが要求を承認する必要があります。

b. [タスクの作成] アクティビティで、[優先度]を指定します。
オプションは次のとおりです。

- 重大
- 高
- 中
- 低
- 計画立案

c. メールを送信アクティビティで、メールの受信者と内容を指定します。

- メールを受信するユーザーの名前 (Now Platform ユーザーの場合) またはメールアドレスを [宛先] フィールドと **[CC]** フィールドに入力します。

  [宛先] または **[CC]** フィールドの [要求者] オプションを選択して、メールの受信者で要求を行ったユーザーを含めます。

- [件名] フィールドにメールの件名を入力します。
- テキストボックスにメールの本文を入力します。[追加のツールバー] ボタンアイコン ( ) を選択して、その他の書式設定オプションを表示します。たとえば、画像、表、リンクをメールに追加できます。

11. [条件] セクションの [開始時期] フィールドで、アクティビティの実行を開始する時期を選択します。
オプションは次のとおりです。

- **[**プレイブックの開始時]：承認要求はトリガーが発生したときに実行されます。トリガーは、フォームのレコードの作成または更新です。
- [具体的なアクティビティの後 **(After specific activity)**]：承認要求は 1 つ以上のアクティビティの実行後に実行されます。アクティビティを [次以降に開始] フィールドで指定する必要があります。作業中のアクティビティの前に連続して発生するアクティビティのみを選択できます。

  注: このオプションは、プレイブックの最初のアクティビティでは使用できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

12. オプション: **[+ 条件を追加]** を選択して、アクティビティが発生するために満たす必要がある追加の条件を定義します。
表示される条件ビルダーを使用して、アクティビティを実行するために必要なその他の設定を指定します。詳細については、「条件ビルダーを使用して条件ステートメントを作成します。」を参照してください。
13. [保存して閉じる] ボタンを選択して、アクティビティの設定を終了します。

次のタスク
引き続きアクティビティと意思決定、必要に応じてコネクタと並列プロセスを追加して、プレイブックの作成を完了します。意思決定の詳細については、「クリエータースタジオでアプリのプレイブックに意思決定を追加する」を参照してください。

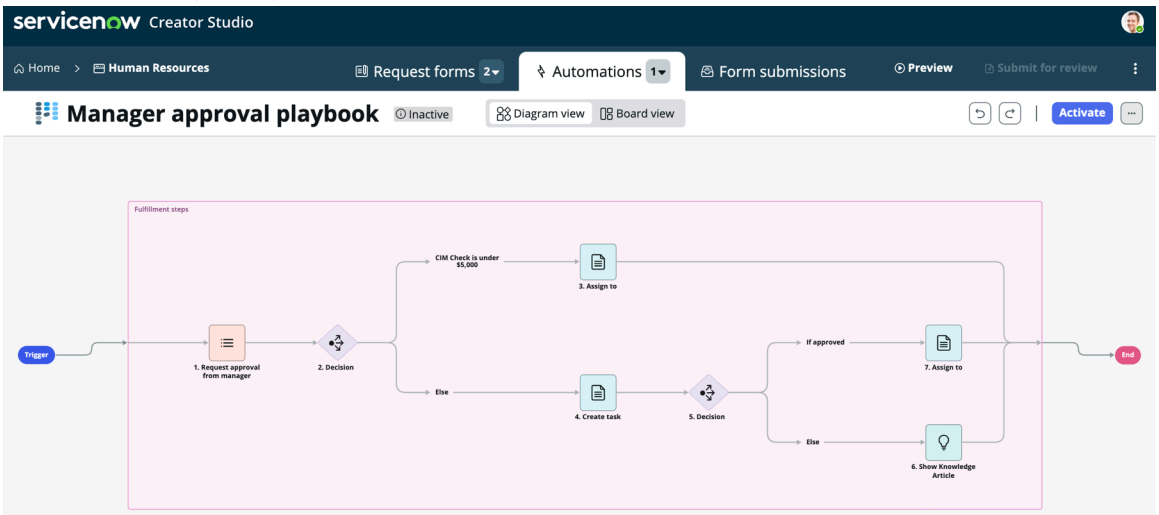
クリエータースタジオでアプリのプレイブックに意思決定を追加する

if/then 条件である意思決定を追加して、クリエータースタジオで自動化のプレイブックの分岐または別のパスを定義します。

始める前に
プレイブックに意思決定を追加するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて
各意思決定には少なくとも 2 つの分岐があり、各分岐は意思決定の考えられる結果を表します。2 番目の分岐は ELSE 分岐にすることができますが、これは必須です。他の分岐の他のすべての条件が false の場合、ELSE 分岐に従います。else 分岐は、意思決定の予備的なケースと考えてください。

分岐を持つ意思決定の例



手順
1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 意思決定を追加するプレイブックが含まれているアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)

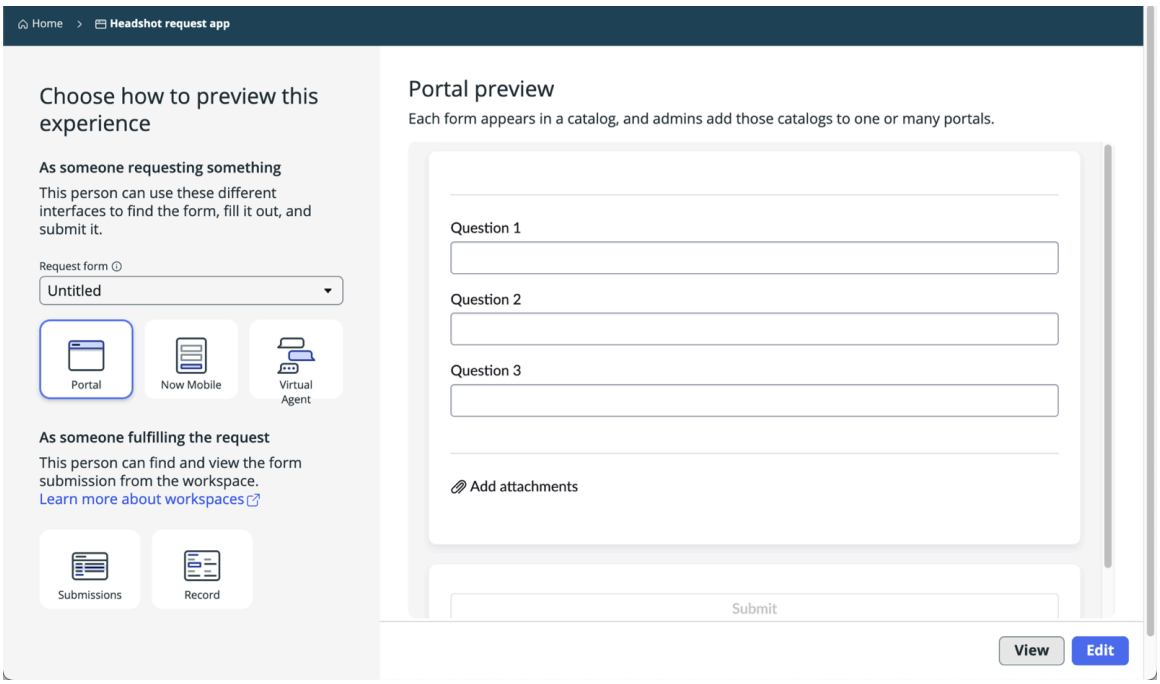
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

> **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

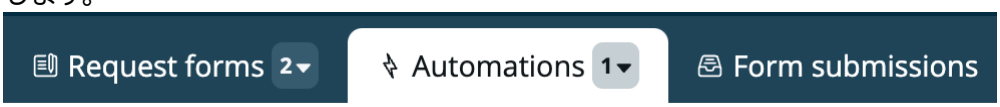
[表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. アプリケーションヘッダーの [自動化] タブを選択します。
5. [自動化] タブからプレイブックを選択し、アプリの正しいプレイブックを編集していることを確認します。



6. 意思決定を追加するコネクタ上で [追加] アイコン ( ) を選択し、表示されるメニューでダイヤモンド形の [意思決定の追加] アイコン ( ) を選択します。
意思決定を追加するには、ダイアグラムビューにいる必要があります。
7. 表示される [意思決定のプロパティ (Decision properties)] パネルの [詳細] タブで意思決定の基本属性を指定します。

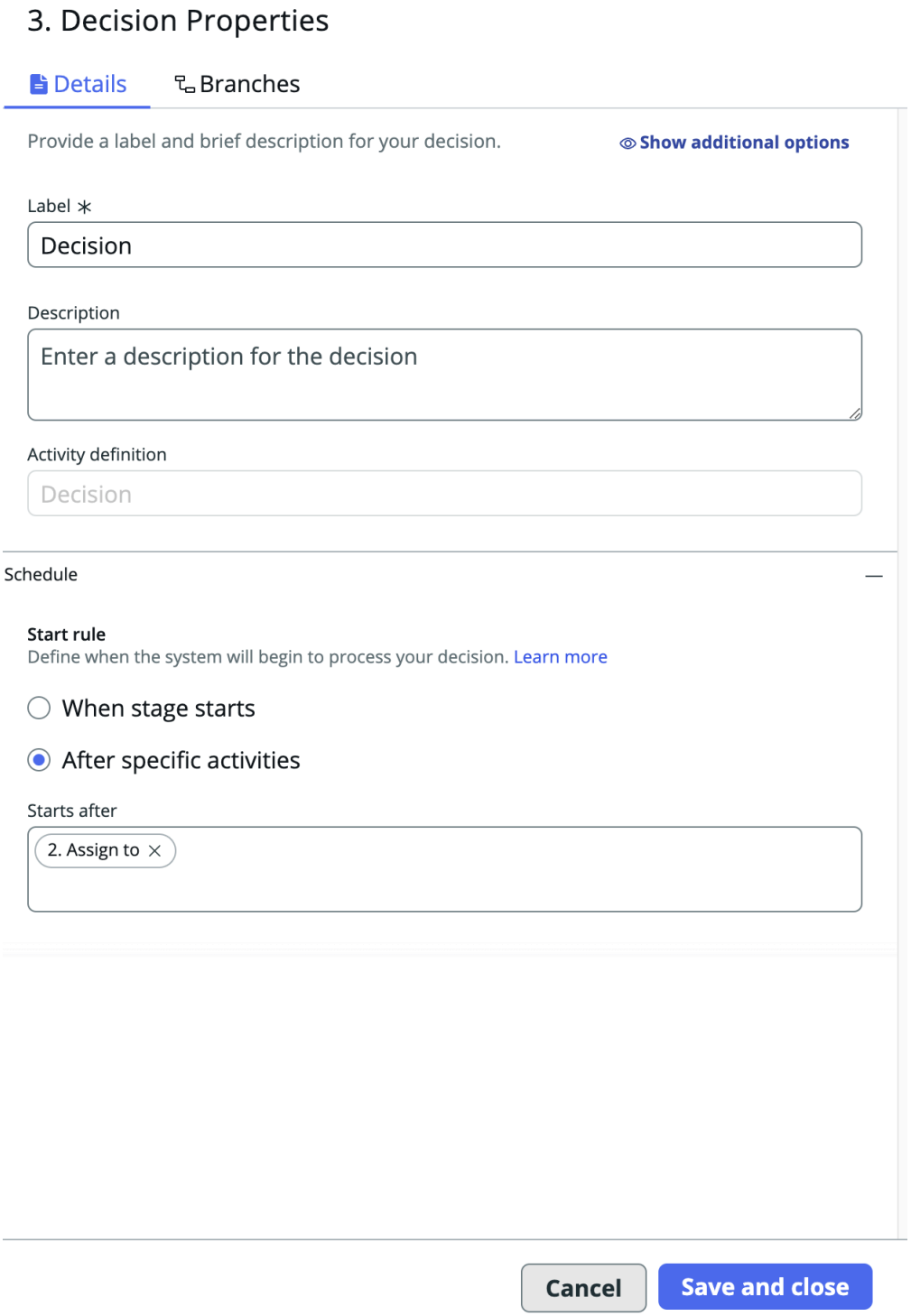
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

意思決定の基本的なオプション

フィールド	説明
プレイブック名	意思決定の一意のユーザー向けの名前。プレイブックの実行中にエージェントと履行者に表示されます。
説明	意思決定が達成する内容に関するオプションの詳細。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックの意思決定プロパティ



8. 意思決定のスケジュールを定義します。

意思決定スケジュールのオプション

フィールド	説明
開始ルール	アクティビティの実行を開始するタイミングを選択します。オプションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ [ステージ開始時 **(When stage starts)**]：ステージの実行が開始されるとすぐに、意思決定の実行が開始されます。これにより、プレイブックがトリガーされます。 ◦ [具体的なアクティビティの後]：指定したアクティビティの実行が終了した後に意思決定の実行が開始されます。
次以降に開始	意思決定が発生するために実行を終了する必要があるアクティビティを選択します。このフィールドは、[具体的なアクティビティの後] ルールを開始することを選択した場合にのみ編集可能です。プレイブックでこの意思決定の前に発生するアクティビティのみを選択できます。

9. オプション: [他のオプションを表示] を選択して、遅延があるかどうかなど、意思決定のためのスケジュール条件をさらに指定します。

意思決定スケジュールの他のオプション

フィールド	説明
表示順序	このアクティビティがプレイブックの実行時に発生する順番。
遅延から開始	開始ルールが満たされた後、意思決定を実行する前に Now Platform が一定時間待機することを指定する場合に切り替えます。遅延時間を指定する方法の詳細については、「遅延入力プロパティから開始」を参照してください。
再起動ルール	プレイブックが再起動されたときに意思決定で何を実行するか。オプションは次のとおりです。 ◦ [再起動時にスキップ **(Skip on restart)**]：プレイブックの実行が再起動による場合は、この意思決定をスキップします。 ◦ [常に実行]：最初の実行を含め、この意思決定を常に実行します。 ◦ [初回実行時にスキップ **(Skip on first run)**]：初回実行中はこの意思決定をスキップします。 詳細については、「プレイブックの再起動」を参照してください。

10. [意思決定のプロパティ (Decision properties)] パネルの [分岐] タブで、各分岐の条件、または意思決定の考えられる結果を作成します。

    a. [分岐ラベル] フィールドに分岐の名前を入力します。

    b. [条件を追加] ボタンを選択し、分岐を有効にするために満たす必要がある条件を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「条件ビルダーを使用して条件ステートメントを作成します。」を参照してください。

c. オプション: [新しい分岐を追加] ボタンを選択し、必要な数のブランチを追加します。

d. 複数の分岐を追加する場合は、意思決定アクティビティでさまざまな分岐を実行する方法を選択します。

分岐処理の指示

オプション	説明
true であるすべての分岐を処理する	アプリは、条件を満たすすべての分岐を処理します。
true である最初のもののみを処理します	アプリは、条件を満たす最初にリストされた分岐のみを処理します。 このオプションを選択した場合は、最初に処理する分岐を一番上にドラッグします。

e. オプション: 必要に応じて、分岐を新しい位置にドラッグして、分岐の順序を調整します。

11. **[Save and close** (保存して閉じる)] を選択します。

クリエータースタジオ でアプリのプレイブックに並列処理を追加する

クリエータースタジオ で並列処理を作成して、アプリ内で同時に処理を実行します。

始める前に

並列処理をプレイブックに追加するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて

プロセスの並列分岐のアクティビティは、指定された他の並列アクティビティと同時に実行されます。意思決定アクティビティとは異なり、並列上のアクティビティとステージは他の分岐と同じ条件で実行できます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 並列処理を追加するプレイブックが含まれているアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)

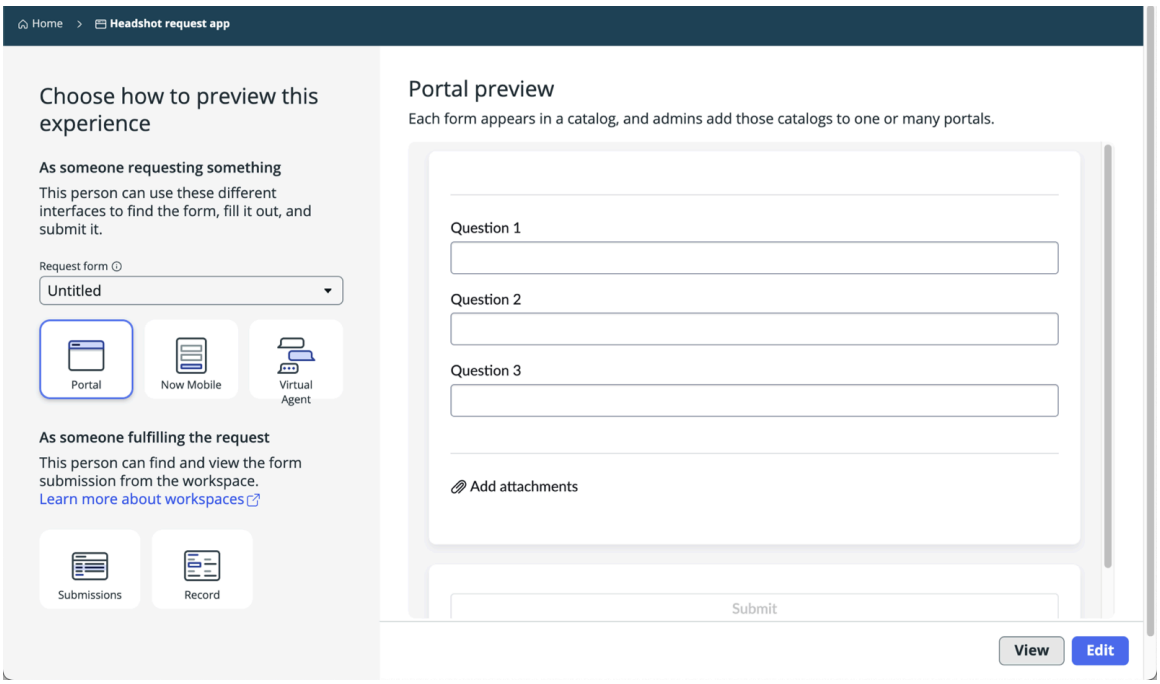
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

> **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

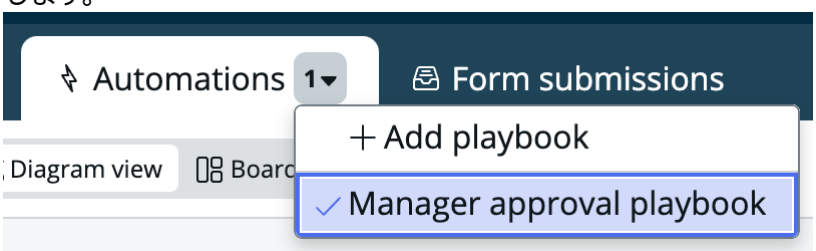
[表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

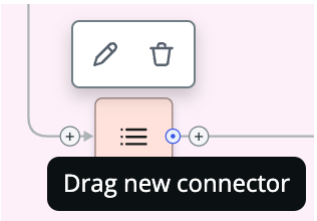
4. アプリケーションヘッダーの [自動化] タブを選択します。
5. [自動化] タブからプレイブックを選択し、アプリの正しいプレイブックを編集していることを確認します。



6. 次のいずれかの方法を選択して、ダイアグラムビューに並列分岐を追加します。
   ◦ [追加] アイコン ( ) を選択し、表示されるメニューで [並列パスを追加 **(Add a parallel path)**] アイコン ( ) を選択します。
   ◦ 並列プロセスの開始アクティビティの [新しいコネクタをドラッグ (Drag new connecter)] ドットアイコン ( ) を選択し、それを並列処理の終了点となるアクティビティまたは意思決定にドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: [新しいコネクタをドラッグ] ドットアイコンが表示されない場合は、表示するためにアクティビティにカーソルを合わせる必要があります。



7. 必要に応じて、アクティビティを並列分岐に追加します。
詳細については、「クリエータースタジオ でアプリのプレイブックにアクティビティを追加する」を参照してください。
8. プレイブックがトリガーされたらすぐに複数のアクティビティを並行処理で実行する場合は、次の手順を実行します。
   a. ボードビューを表示します。
   b. プレイブックのトリガー時に並行して発生するアクティビティごとに、アクティビティのカードを選択し、[開始時期] フィールドを [プレイブックが起動するタイミング **(When playbook starts)]** に設定します。
   c. [保存して閉じる] ボタンを選択します。

クリエータースタジオでプレイブックのトリガーを編集する

プレイブックのトリガーをクリエータースタジオで定義して、プレイブックの実行を開始する要因を指定します。

始める前に

トリガーは、アプリのフォームのいずれかで実行するプレイブックを開始します。たとえば、ユーザーが質問に対する特定の回答を選択すると、プレイブックの実行が開始されます。 フォームをトリガー用に選択するには、選択したフォームが既に構成されている必要があります。

プレイブックのトリガーを編集するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて

注: プレイブックの作成後にプレイブックのトリガー (プレイブックを開始するためにフォームが送信されるのか更新されるのか) や実行頻度を変更することはできません。代わりに、別のトリガーを使用して新しいプレイブックを作成します。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. アクションを追加するプレイブックが含まれているアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)

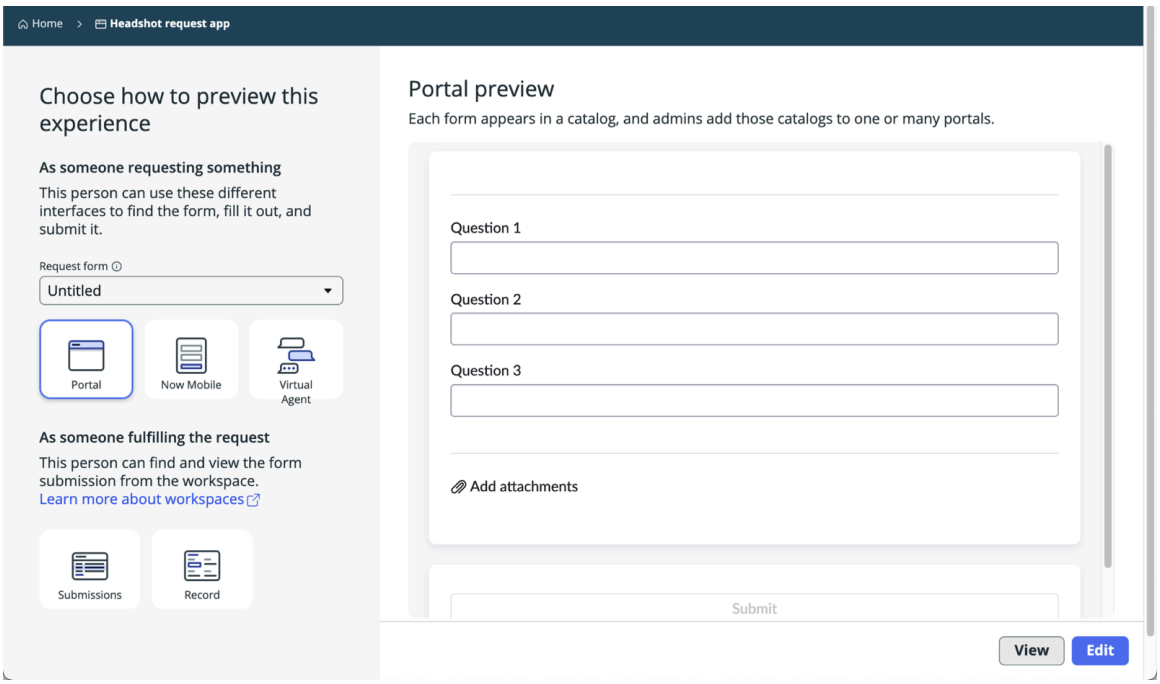
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

> **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

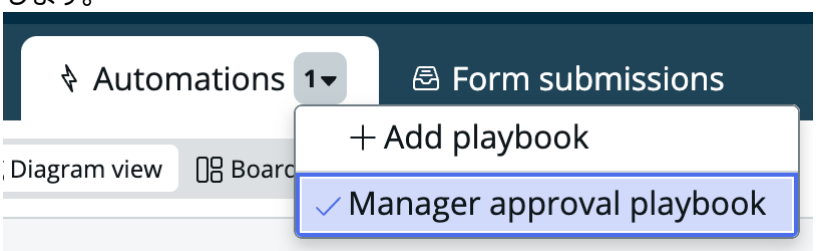
[表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. アプリケーションヘッダーの [自動化] タブを選択します。
5. [自動化] タブからプレイブックを選択し、アプリの正しいプレイブックを編集していることを確認します。



6. [トリガー] (Trigger) を選択します。
[追加のプロパティ] モーダルが表示され、トリガーの設定の一部を編集できます。
7. トリガーの一般的な属性を変更します。

一般的なプレイブック定義フィールド

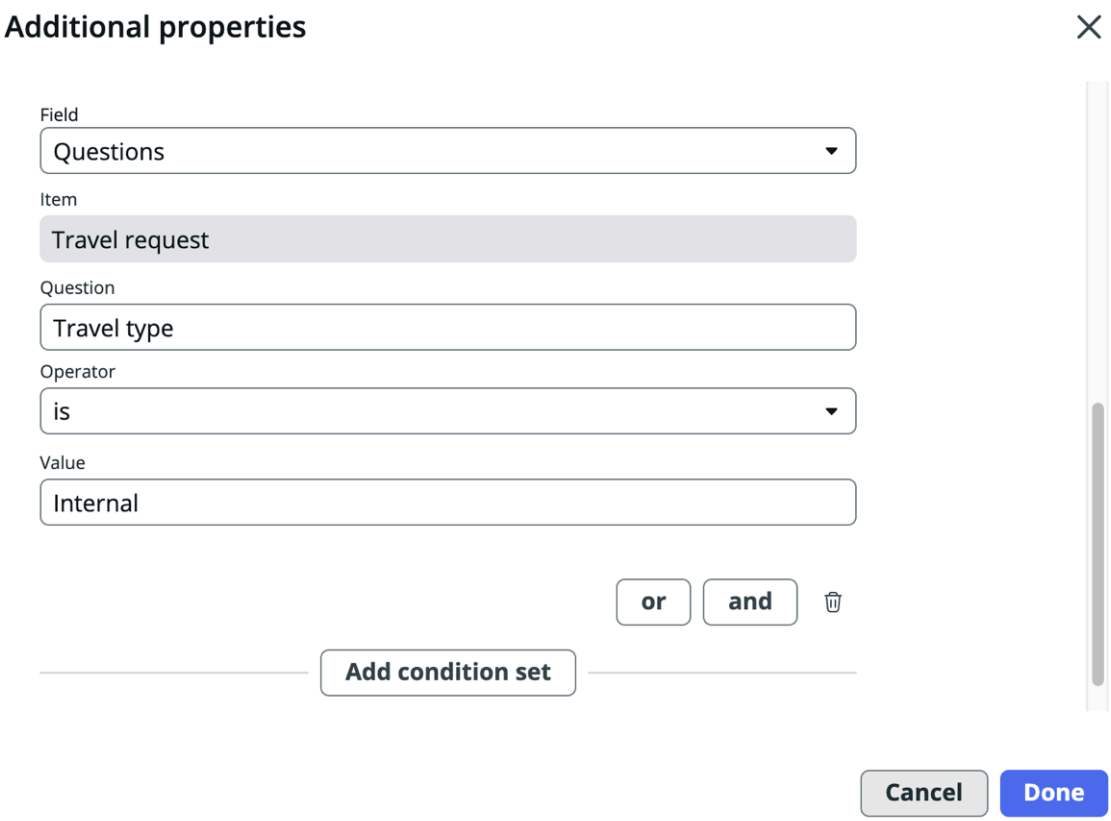
フィールド	説明
プレイブック名	作成するプレイブックのわかりやすい名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	プレイブックが実行する内容の短い説明 (レコードタイプの最終目標など)。

8. 必要に応じて、プレイブックを実行するレコードタイプを生成するカタログアイテムを持つ[フォーム] を変更します。
9. [条件セットを追加] を選択して、プレイブックの実行を開始するために満たす必要がある条件を変更します。
   - テーブルの列の値に基づいてプレイブックをトリガーする場合は、トリガーする [フィールド] 、およびその条件 [演算子] と特定のトリガー [値] を選択します。たとえば、[開始日] が [日付] の [後] である必要がある場合など。
   - フォームからの応答に基づいてプレイブックをトリガーする場合は、トリガー [フィールド] として [質問] を選択します。次に、[質問] フィールドで目的の質問を選択し、条件の [演算子] と回答の [値] を選択します。

     自動化のトリガーとしての質問の回答



   必要なだけ条件を追加します。詳細については、「条件ビルダーを使用して条件ステートメントを作成します。」を参照してください。
10. [完了] ボタンを選択して変更を保存します。

クリエータースタジオでプレイブックを編集する

プレイブックを更新して設定を変更したり、タスクを再配置または削除したりして、アプリで機能するようにします。

始める前に

プレイブックを編集するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

注:

プレイブックに追加できるすべてのアイテム (通知など) が クリエータースタジオ でサポートされているわけではありません。

複雑でサポートされていないアイテム (オプションのアクティビティ、複数のステージ、以前のアクティビティからのデータピルなど) をプレイブックに追加する場合は、ワークフロースタジオ でそのプレイブックを開いて編集する必要があります。ワークフロースタジオ でプレイブックを編集した後は、クリエータースタジオ で編集できなくなります。ただし、アプリの残りの部分はクリエータースタジオで引き続き作業できます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 編集するプレイブックを含むアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

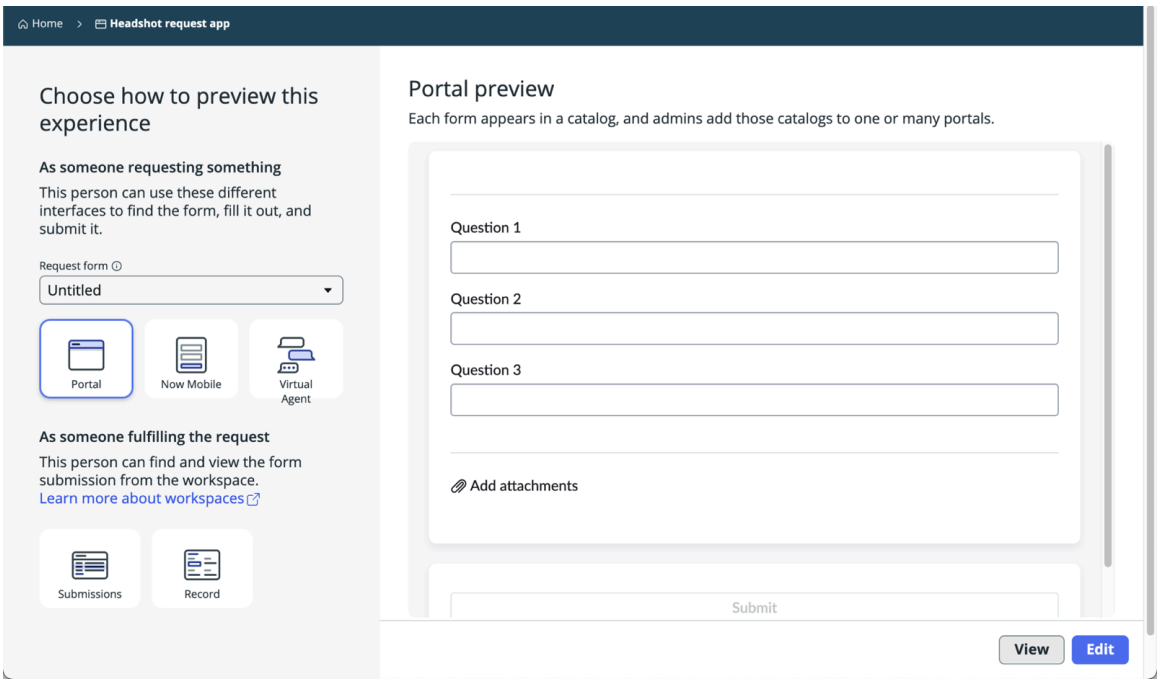
   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

     注: 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

   [表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

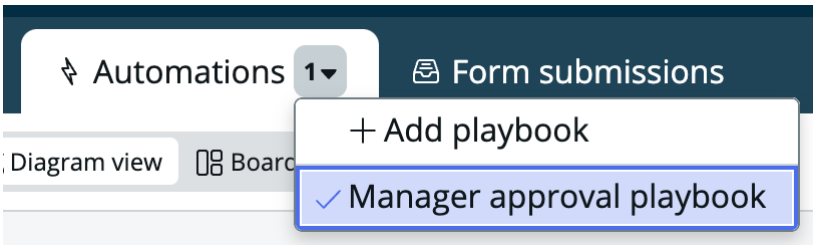
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする



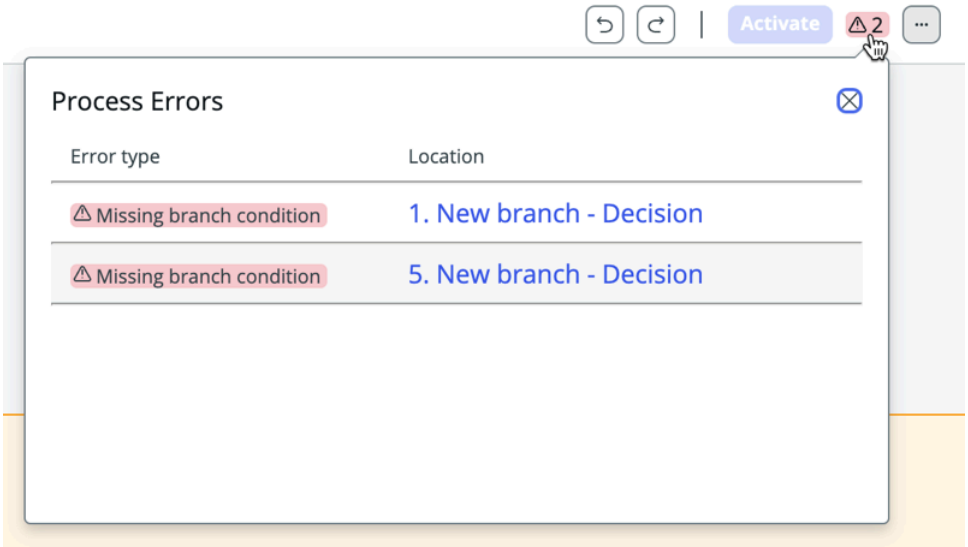
[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. アプリケーションヘッダーの [自動化] タブを選択します。
5. [自動化] タブからプレイブックを選択し、アプリの正しいプレイブックを編集していることを確認します。



6. エラーメッセージアイコンを選択して、プレイブックのロジック内のエラーに対処します。
表示されるエラートレイで [場所] リンクを選択すると、プロパティを開いて各エラーを修正できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. プレイブックの設定を編集します。

   a. [その他のアクション] アイコン ( ) を選択し、[プロパティ] を選択します。

   b. 設定を更新します。

      注: プレイブックのトリガーは、作成後に変更することはできません。代わりに、別のトリガーを使用して新しいプレイブックを追加します。

   c. [**Done**] ボタンをクリックします。

8. 必要に応じてタスクの順序を並べ替えます。

   a. プレイブックのボードビューを表示します。

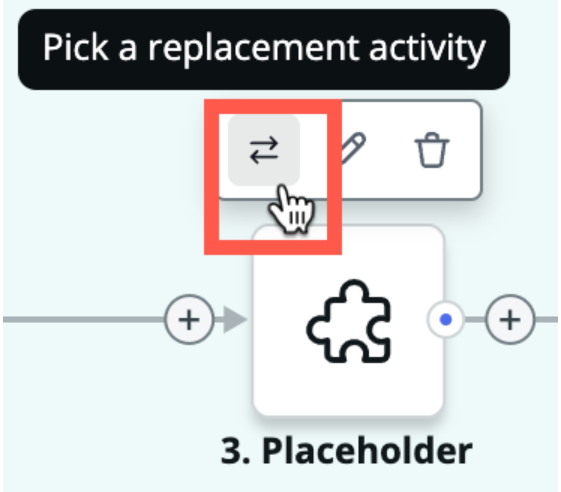
   b. 各アクティビティのカードを希望の順序にドラッグします。
   クリエータースタジオによって変更が自動的に保存されます。

9. プレースホルダーアクティビティを別のアクティビティタイプに置き換える場合は、プレースホルダーアクティビティを入れ替えます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. プレースホルダーアクティビティにカーソルを合わせ、[アクティビティを置換] アイコン (⇄) を選択して、アクティビティピッカーを直接開きます。

プレースホルダーアクティビティをスワップする



b. アクティビティピッカーから新しいアクティビティを選択します。

c. オプション: 必要に応じて [ラベル] と [説明] を更新するか、アクティビティの他のプロパティを更新します。
詳細については、「クリエータースタジオ でアプリのプレイブックにアクティビティを追加する」を参照してください。

10. 不要なアクティビティを削除するには、そのアクティビティの上にマウスを置き、[削除] アイコン (🗑)を選択します。

11. [その他のアクション] アイコン (···) を選択し、[ワークフロースタジオで開く **(Open in Workflow Studio)]** を選択し、ワークフロースタジオ で詳細な編集を行います。

クリエータースタジオ でプレイブックをアクティブ化する

プレイブックをアクティブ化すると、非本番環境の開発インスタンスで関連フォームが作成または更新されたときに実行されるようになります。ただし、アプリを本番環境に展開する必要があります。

始める前に

プレイブックをアクティブ化する前に、プレイブック内のエラーを解決する必要があります。

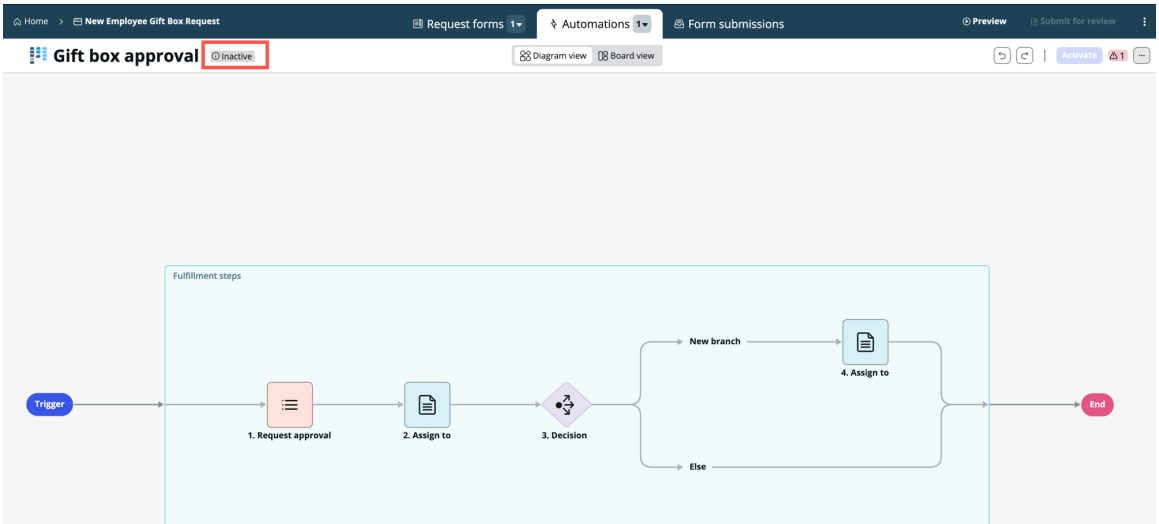
プレイブックをアクティブ化するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて

プレイブックのアクティブ化ステータスは、[自動化] タブのヘッダーでいつでも確認できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックのアクティブ化ステータス



プレイブックをアクティブ化せず、そのアプリが本番環境に展開されている場合、該当するレコードでは自動化が実行されません。ただし、App Engine アドミンは展開されたプレイブックを有効にすることができます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. アクティブ化するプレイブックが含まれているアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

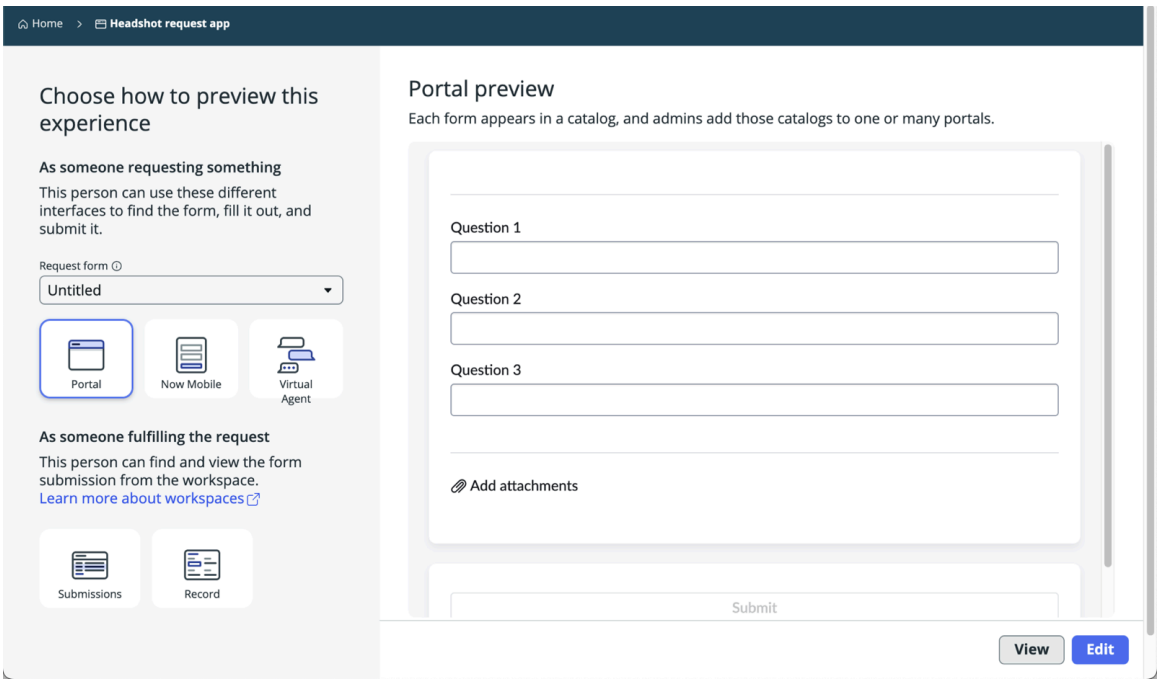
   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

     注: 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

   [表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

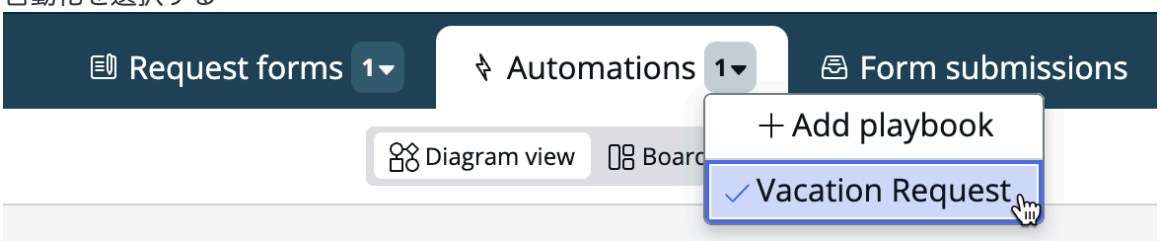
アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

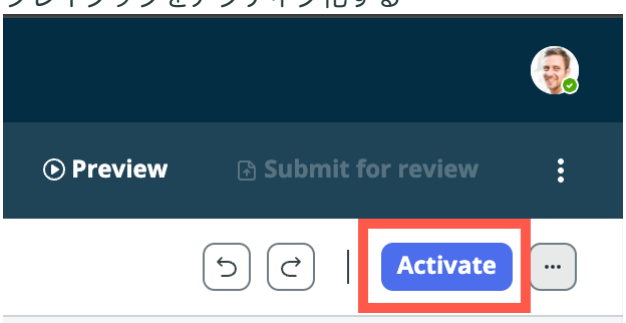
4. アプリケーションヘッダーの [自動化] タブを選択します。
5. [自動化] タブからプレイブックを選択し、アプリの正しいプレイブックをアクティブ化していることを確認します。

自動化を選択する



6. [アクティブ化] ボタンを選択します。

プレイブックをアクティブ化する



タスクの結果
[自動化] タブのヘッダーに表示されるステータスが [非アクティブ] から [保存中]、そして [アクティブ] に更新され、変更が行われたときに通知されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プレイブックをアプリとともに展開する準備ができました。アプリが展開されると、関連するサービスカタログでフォームが使用できるようになります。フォームのアプリが展開されていない場合は、それを展開する必要があります。

クリエータースタジオでプレイブックを削除する

プレイブックを削除すると、プレイブックがアプリから完全に削除されます。

始める前に

プレイブックを削除するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 削除するプレイブックが含まれているアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

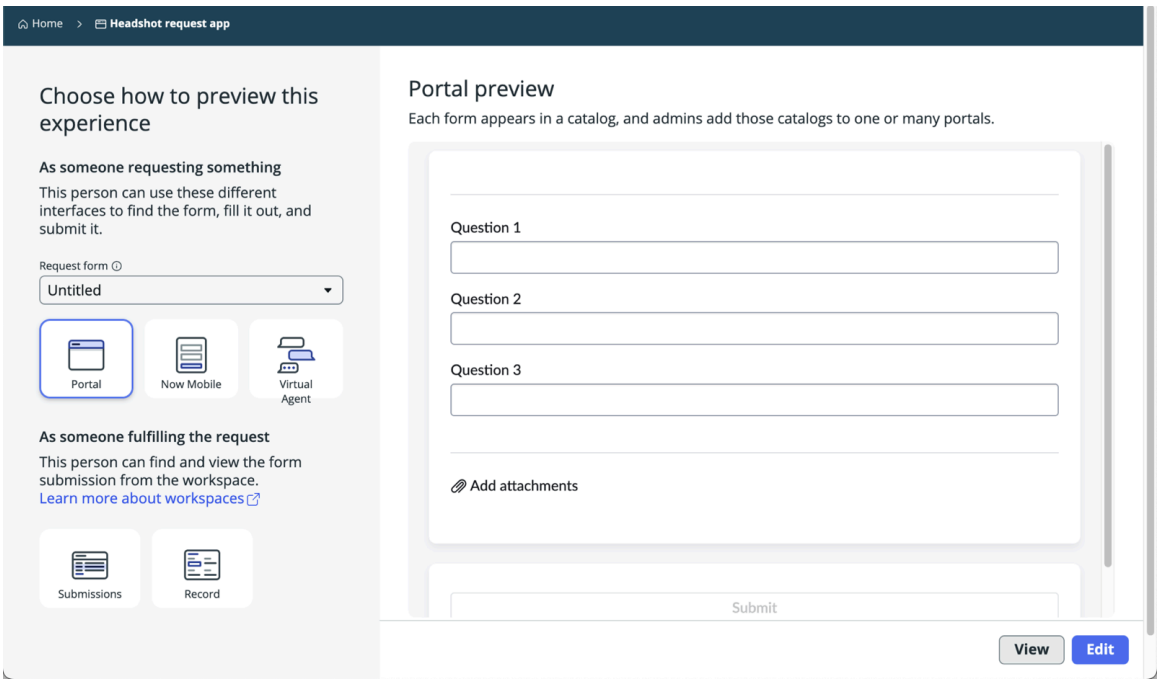
   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

   > **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

   [表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする

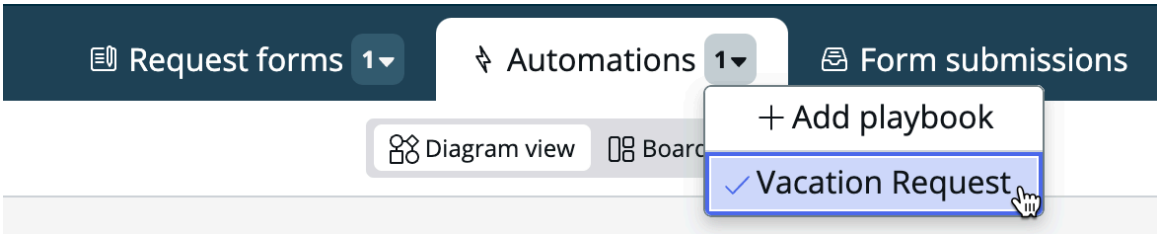


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

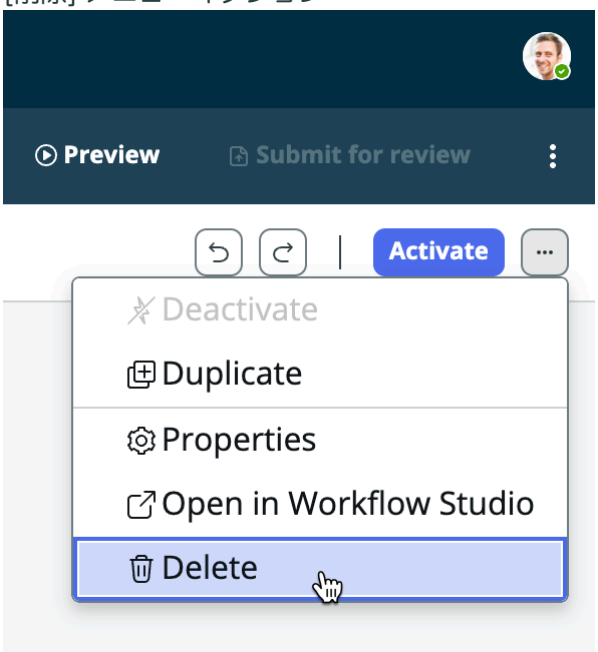
4. アプリケーションヘッダーの [自動化] タブを選択します。
5. [自動化] タブからプレイブックを選択し、アプリの正しいプレイブックを削除していることを確認します。

自動化を選択する



6. [その他のアクション] アイコン ( ) を選択します。
7. [削除] を選択します。

[削除] メニューオプション



8. 確認モーダルで、[削除] ボタンを選択します。

クリエータースタジオ でフォーム送信ワークスペースを操作する

アプリをビルドし、ユーザーがそれを介して要求を送信しました。ただし、これらの要求が送信された後、どこに行くのか疑問に思われるかもしれません。簡単に言うと、これらの要求はフォーム送信ワークスペース にあり、ニーズに合わせて クリエータースタジオ でカスタマイズできます。

ワークスペースについて

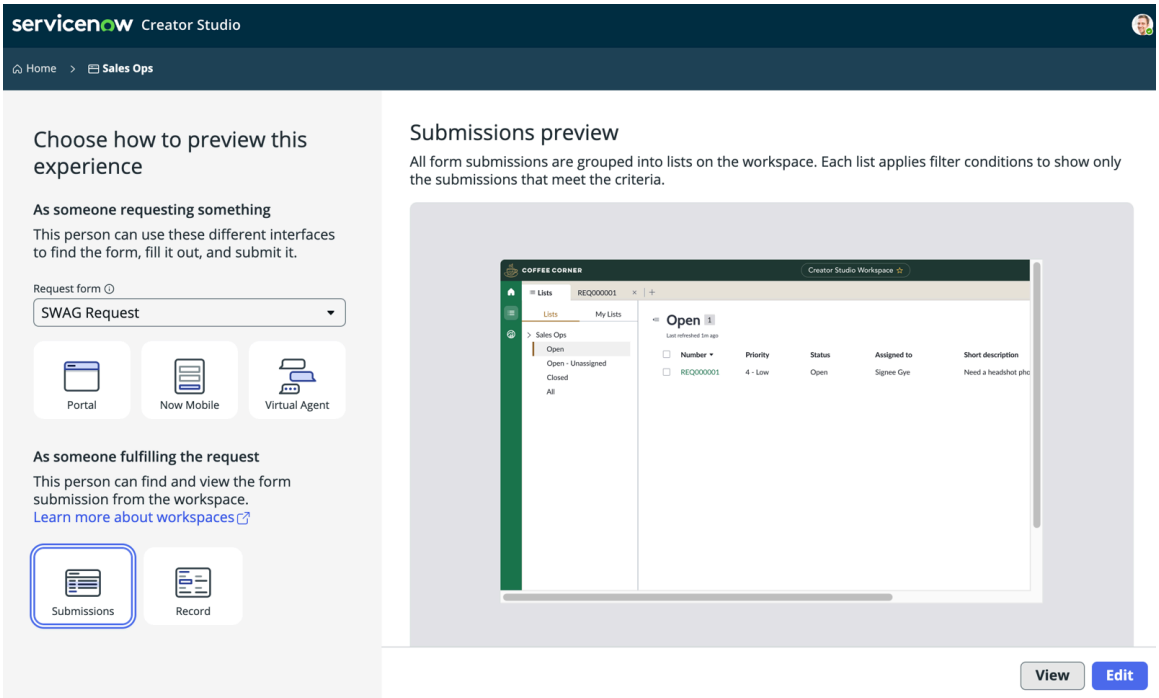
要求アプリワークスペースには、各アプリからのフォーム送信が保持されます。履行者 (要求を処理するユーザー) は、Now Platform を介してワークスペースにアクセスし、アサインされているすべてのアプリの送信を確認できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリエータースタジオ でビルドする各アプリは、フォームや自動化の数に関係なく、要求アプリワークスペースに独自のカテゴリを持ちます。

アプリオーナーは、アプリの履行者が使用するワークスペースのルックアンドフィールについて責任を負います。幸いなことに、ワークスペースはすぐに利用可能ですが、クリエータースタジオ のアプリの [フォームの送信] **(Form submissions)** タブでカスタマイズすることもできます。

フォームカスタマイズプレビュー



[フォームの送信] **(Form submissions)** タブを開くと、デフォルトのワークスペースに表示されるフィルター処理されたリストが表示されます。これらのフィルター済みリスト ([オープン]、[オープン - 未アサイン]、[クローズ済み]、[すべて]) は、履行者がすべてのフォーム送信をすばやく確認できるようにするためのものです。必要に応じてフィルター済みリストを追加できます。たとえば、アプリの各フォームやキャンセルされた要求に対してフィルター済みリストを追加できます。

履行者が追加のカテゴリを持てるようサポートする場合は、Now Platform のリストカテゴリ [sys_ux_list_category] テーブルを使用してカテゴリを追加するようアドミンに依頼する必要があります。

複数のフォームをサポートする新しいリストの作成

履行者がワークスペースを開いてアプリのフォーム送信を表示すると、デフォルトの [オープン] リストには、アプリを通じて行われたすべてのオープン中の要求が表示されます。ただし、アプリに複数のフォームがある場合は、履行者は、アプリ内のフォームごとに個別の [オープン] リストを用意する方が簡単だと考える場合があります。その場合は、個別のフォームごとに新しいリストを作成し、フォームにちなんだ名前を付ける必要があります。その方法については「クリエータースタジオでフィルター済みリストをワークスペースに追加する」を参照してください。

あるいは、履行者は ワークスペース の [自分のリスト] 機能を使用して、ニーズに合ったカスタムリストを作成することもできます。ワークスペースでの自分のリストの作成 の使い方を履行者に教えてください。

ワークスペース で履行者が 送信されたフォームにアクセスする方法

履行者は、[すべて] > **[App Engine]** > [要求アプリワークスペース **(Request App Workspace)**]に移動して、Now Platform のデフォルトのワークスペースにアクセスします。要求アプリワークスペースには、各アプリのカテゴリと、デフォルトと追加したエクストラの両方のレコードのフィルターさ

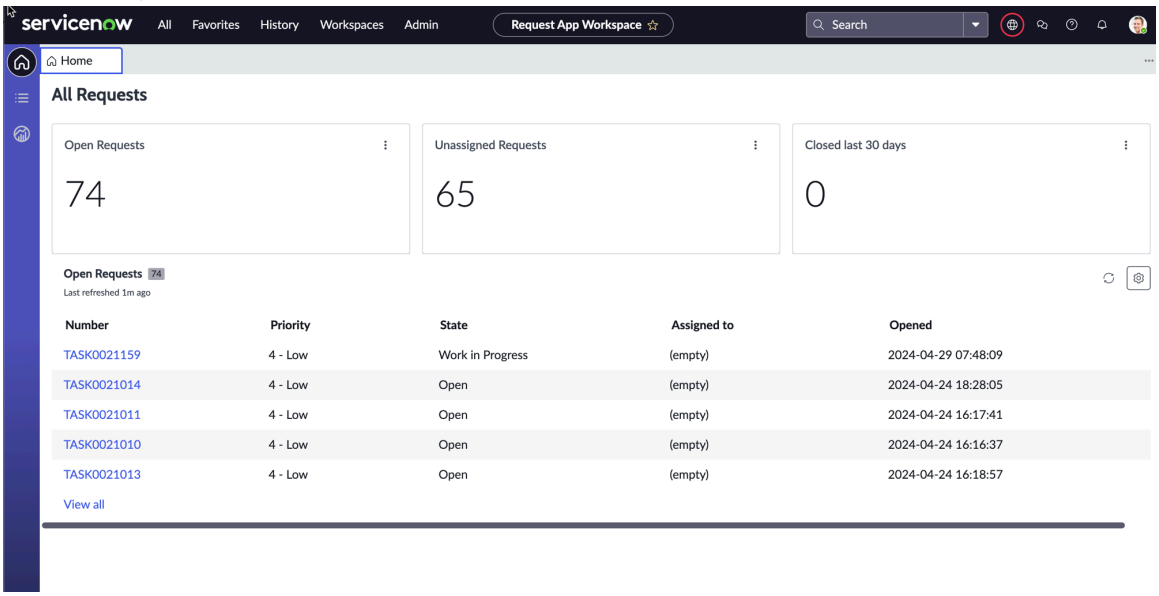
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

れたリストが表示されます。次に、履行者はレコードを選択して要求の詳細を表示し、必要に応じて更新を行います。

> **注:** アプリの所有者として要求アプリワークスペースにアクセスすることはできませんが、アドミンまたは該当するエージェントロールも持っている場合はアクセスできます。

要求アプリワークスペースで履行者が表示できる内容は、権限によって異なります。たとえば、アドミンは、クリエータースタジオ に組み込まれているすべてのアプリのワークスペースカテゴリを表示できます。しかし、多くのユーザーは、特定のアプリのワークスペースカテゴリしか見ることができません。

フォーム送信ワークスペース



履行者がワークスペース内のレコードを表示すると、[カタログタスク] タブに クリエータースタジオ で構成した プレイブック が表示されます。

履行者またはアドミンは、要求が届いたときにアプリのパフォーマンスを監視することもできます。ここで、要求アプリワークスペースの アナリティクスセンター が役に立ちます。[アナリティクス] タブには、各アプリに独自のアナリティクスダッシュボードがあり、オープン中の要求の数やアプリに関連するタスクなど、適用可能なデータが表示されます。ここには役立つ情報がたくさんあります。データの操作の詳細は、 アナリティクスセンター を参照してください。

クリエータースタジオでフィルター済みリストをワークスペースに追加する

アプリのワークスペースにカスタムのフィルター済みリストを作成して、特定の条件を満たすレコードを表示します。たとえば、アプリに複数のフォームがある場合、レコードタイプでフィルターすることにより、各フォームのリストを作成できます。

始める前に

ワークスペースにリストを追加するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて

> **注:** フィルター済みリストを作成して、特定のユーザーにアサインされたオープン中のレコード、またはキャンセルされたすべての要求を表示できます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. リストを追加するワークスペースが含まれているアプリを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

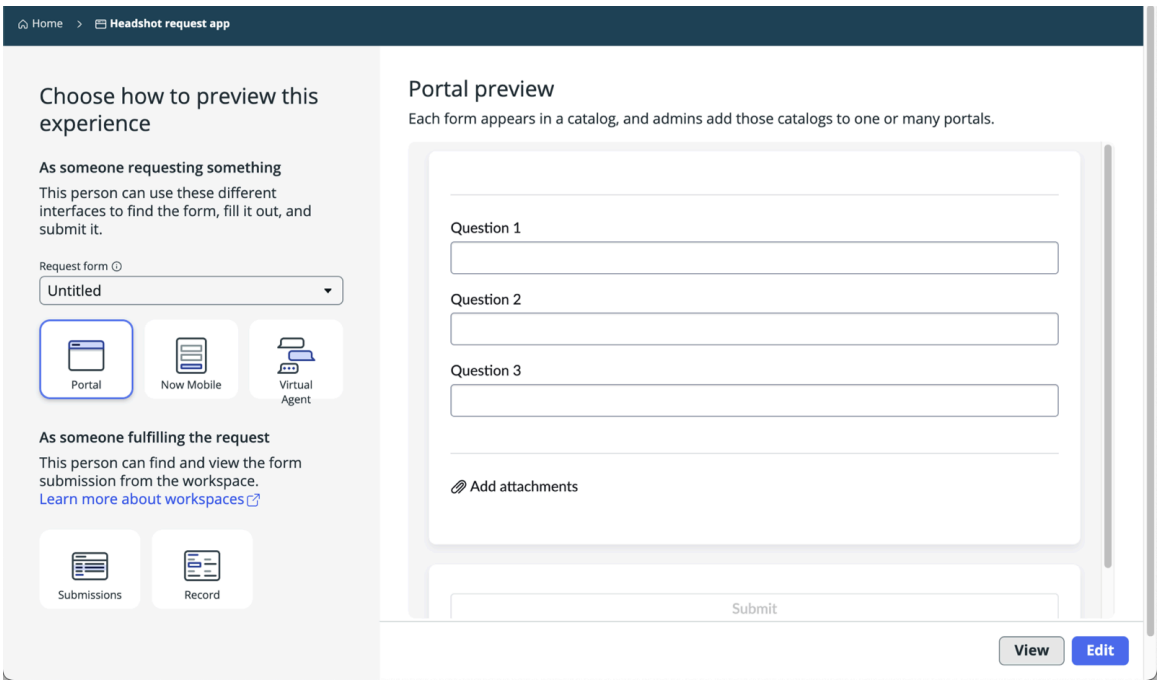
   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

   > **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

   [表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

   アプリのエクスペリエンスをプレビューする

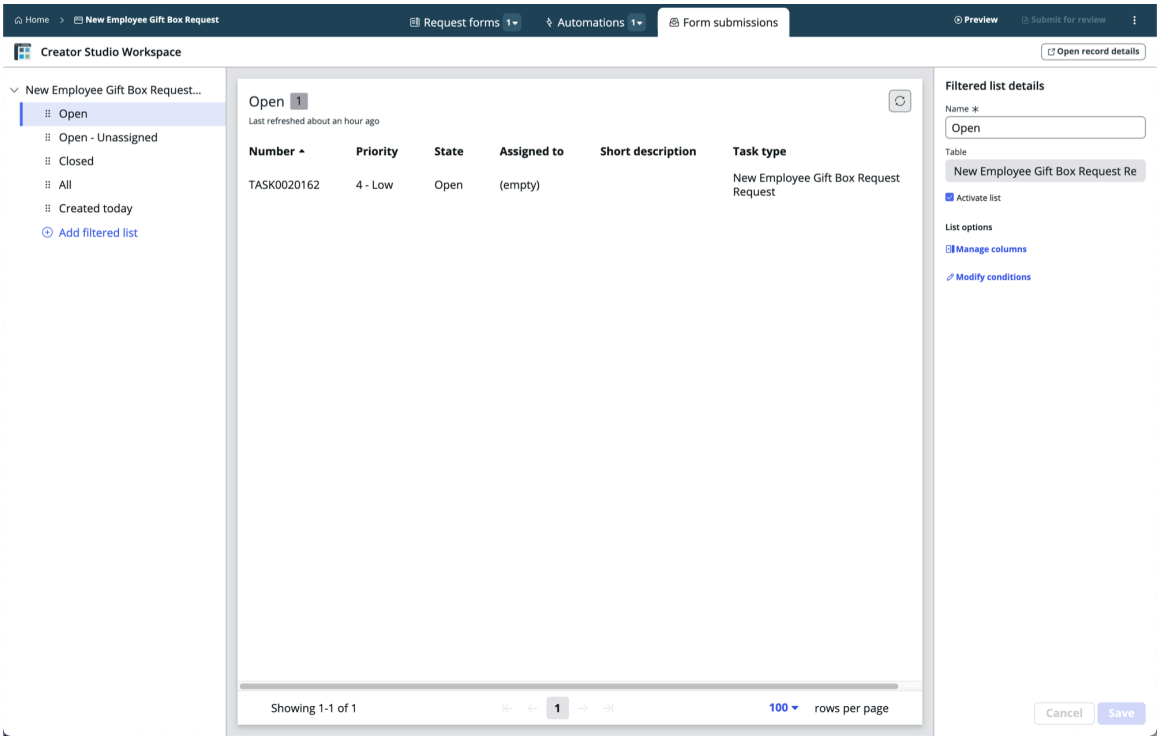
   

   [送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. アプリケーションヘッダーの [フォームの送信 **(Form submissions)]** タブを選択します。

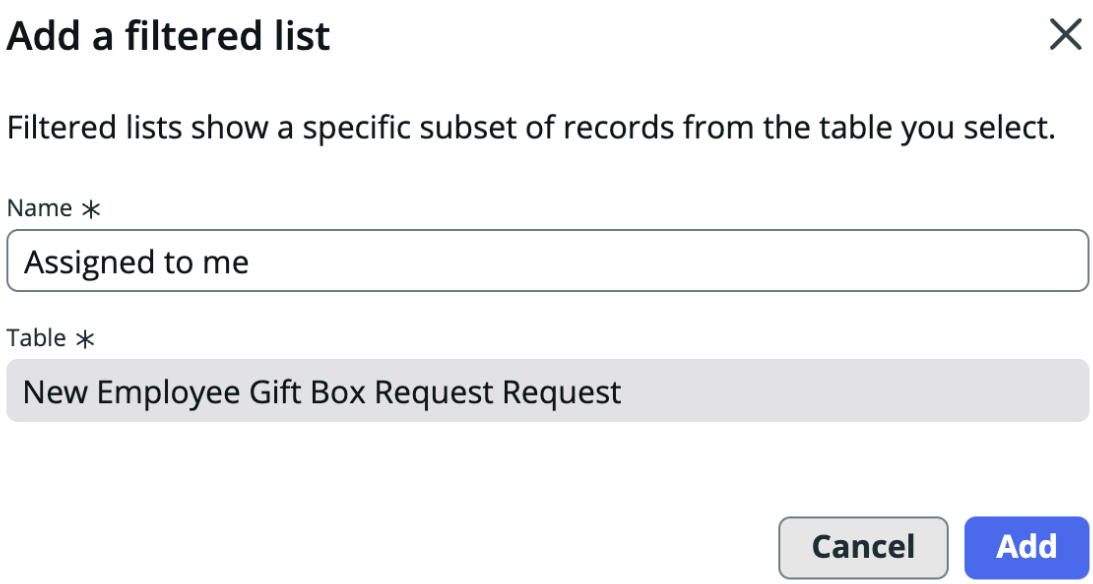
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリエータースタジオのフォーム送信ワークスペース



5. [フィルター済みリストを追加] を選択します。

フィルタリングされたリストを追加



6. 表示されるモーダルに、新しいリストの [名前] を入力します。

`HR timeoff requests` など、ユーザーがワークスペースのカテゴリを簡単に識別できるような名前を選択します。

注: ワークスペースのテーブルはアプリにリンクされているため、変更できません。

7. [追加] ボタンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいリストがカテゴリの下に表示され、その詳細が [フィルター済みリストの詳細 (Filtered list details)] パネルに表示されます。

8. [フィルター済みリストの詳細 (Filtered list details)] パネルで [条件を適用] を選択し、条件ビルダーを使用してリストに含めるレコードのタイプを指定し、完了したら [適用] を選択します。たとえば、フィールドとして [緊急度]、値として [高] を選択すると、リストに緊急のレコードのみが表示されます。詳細については、「条件ビルダーを使用して条件ステートメントを作成します。」を参照してください。

   たとえば、次の条件はオープン中の要求とクローズ済み要求を指定します。

   - [アクティブ][は次の値に等しい][True] は、オープン中のレコードのみを指定します。
   - [アクティブ][は次の値に等しい][False] は、クローズ済みのレコードのみを指定します。

9. オプション: [列を管理] を選択して、表示される列とその表示順序を変更します。
   a. [列の管理] ダイアログボックスで、列を [利用可能な列] から [選択した列] に移動します。
   b. ドラッグして列を並べ替えます。
   c. [適用] を選択します。
10. [リストをアクティブ化] オプションが選択されていることを確認します。

タスクの結果
新しいリストは、アドミンが展開した後、要求アプリワークスペースに表示されます。

クリエータースタジオ でアプリのワークスペースをカスタマイズする

クリエータースタジオ に組み込まれたアプリから送信された要求を履行者がレビューするアプリのワークスペースカテゴリを変更して、表示方法を調整します。たとえば、リスト内の列を並べ替え、要求アプリによって生成されたレコードの外観をカスタマイズできます。

始める前に
フォーム送信ワークスペースの表示方法をカスタマイズするには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 編集するフォーム送信ワークスペースを含むアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

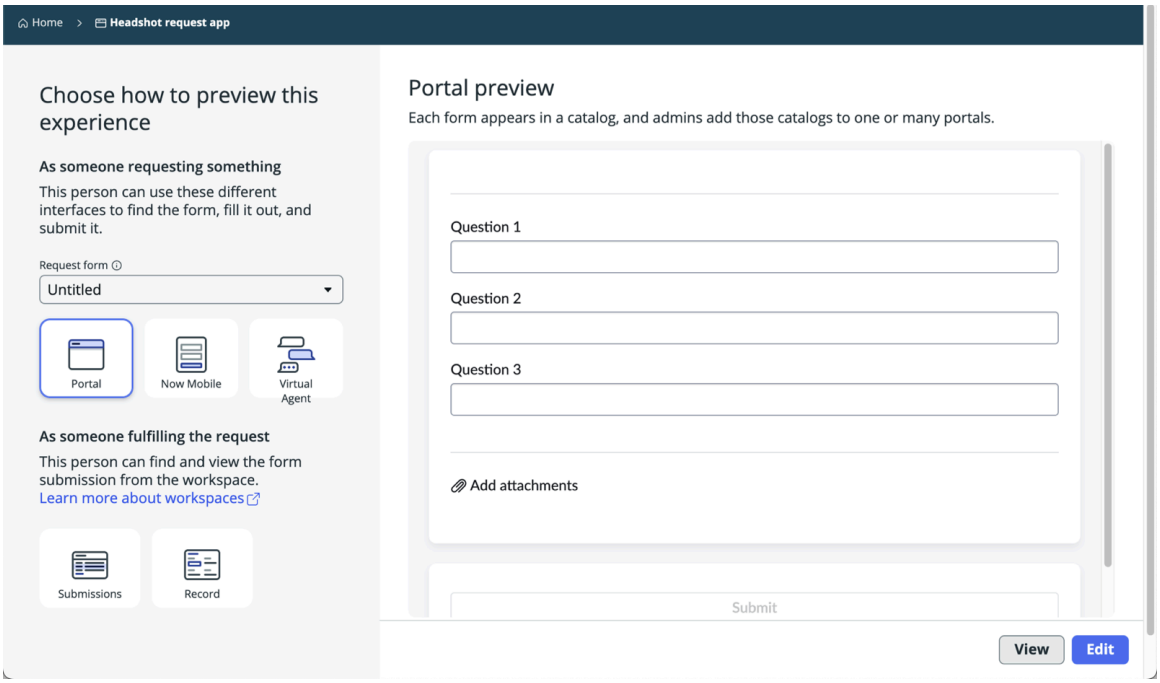
   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

   > **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

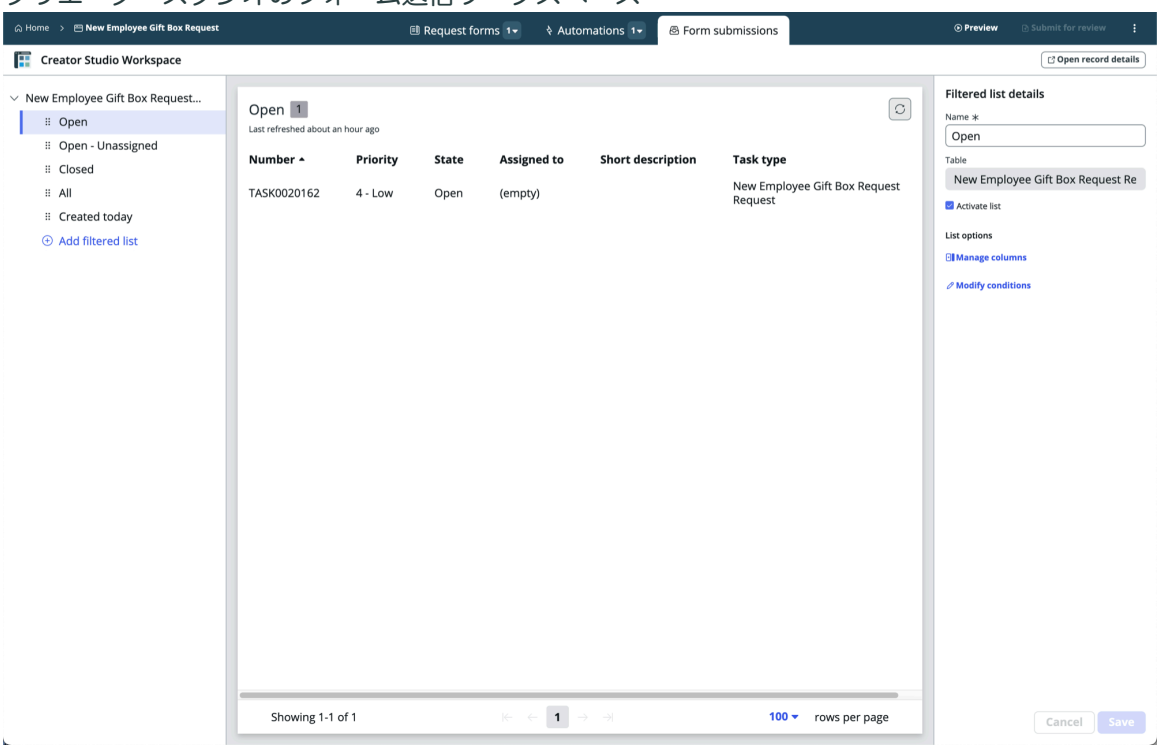
アプリのエクスペリエンスをプレビューする



[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. アプリケーションヘッダーの [フォームの送信 **(Form submissions)]** タブを選択します。

クリエータースタジオのフォーム送信ワークスペース



5. ワークスペースのカスタマイズに必要な編集を行います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースに加えられる編集

更新	プロセス
フィルター済みリストの名前を編集する	**a.** リストナビゲーションパネルでリストを選択します。 **b.** 表示される [フィルター済みリストの詳細 (Filtered list details)] パネルでリストの名前を更新します。 **c.** [保存] を選択します。
列を管理して、表示される列とその表示順序を変更します。	**a.** [列の管理] ダイアログボックスで、列を [利用可能な列] から [選択した列] に移動します。 **b.** ドラッグして列を並べ替えます。 **c.** [適用] ボタンを選択して更新を保存します。
リストに表示されるレコードのタイプを更新する	たとえば、フィールドとして [緊急度]、値として [高] を選択すると、リストに緊急のレコードのみが表示されます。詳細については、「条件ビルダーを使用して条件ステートメントを作成します。」を参照してください。 **a.** [フィルター済みリストの詳細 (Filtered list details)] パネルで [条件を変更 **(Modify conditions)]** を選択します。 **b.** 条件ビルダーを使用して、リストに含める必要があるレコードのタイプを更新します。 **c.** [適用] ボタンを選択して更新を保存します。
リストを削除する	**a.** リストナビゲーションパネルで、削除するリストの上にマウスを置きます。 **b.** 表示される削除アイコン ( ) を選択します。 **c.** [削除] ボタンを選択して表示されるモーダルで、削除を確認します。

6. [フィルター済みリストの詳細 (Filtered list details)] パネルで [保存] ボタンを選択して、すべての更新が保存されるようにします。

クリエータースタジオ でアプリのレコードのレイアウトを変更する

クリエータースタジオ で、アプリが生成するレコードの外観 (フィールドの表示順序など) を調整します。

始める前に

フォーム送信ワークスペースでアプリのレコードのレイアウトを変更するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

このタスクについて

アプリのタスクテーブルのすべての列は、レコードページのフィールドとして使用できますが、調整することもできます。たとえば、[優先度] フィールドを移動してレコード上でより目立つように表示

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

し、履行者が要求の重要性を認識できるようにすることができます。その後、優先度が高に変更されたときに実行される自動化されたプレイブックをビルドできます。

> **注:** UI ポリシーを編集したり、クリエータースタジオ内のフォームに対してより高度な編集を行ったりすることはできません。高度な編集を行うには、テーブルビルダー内のレコードを開きます。詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 編集するフォーム送信ワークスペースを含むアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

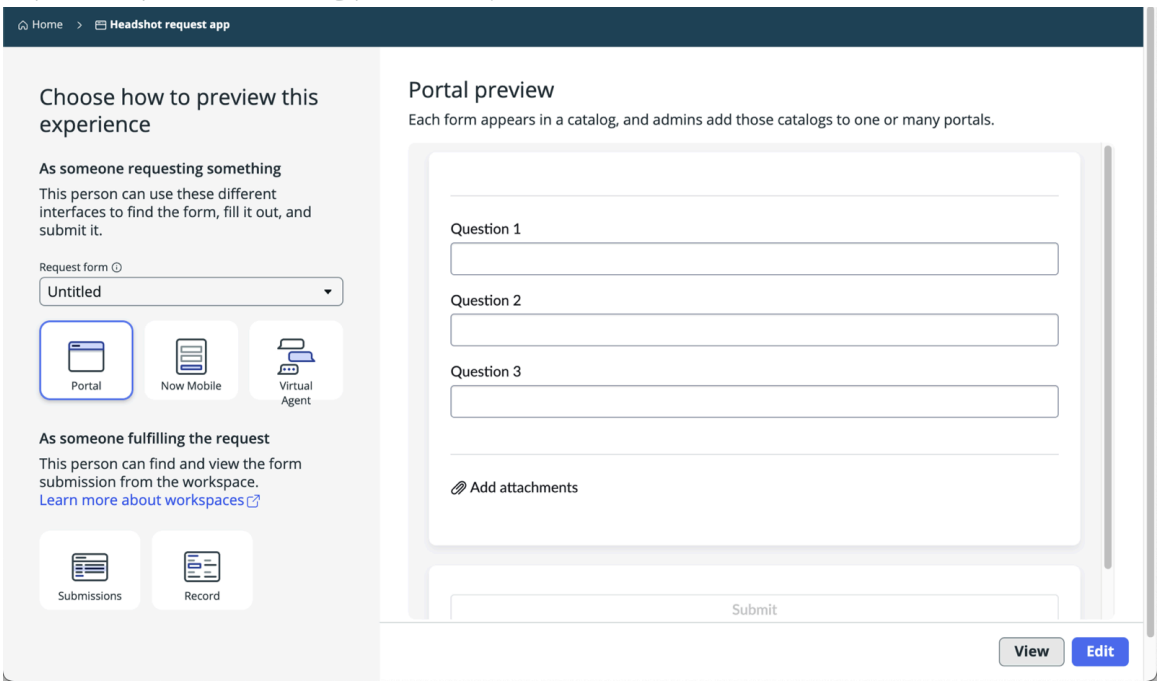
   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

   > **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

[表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

アプリのエクスペリエンスをプレビューする

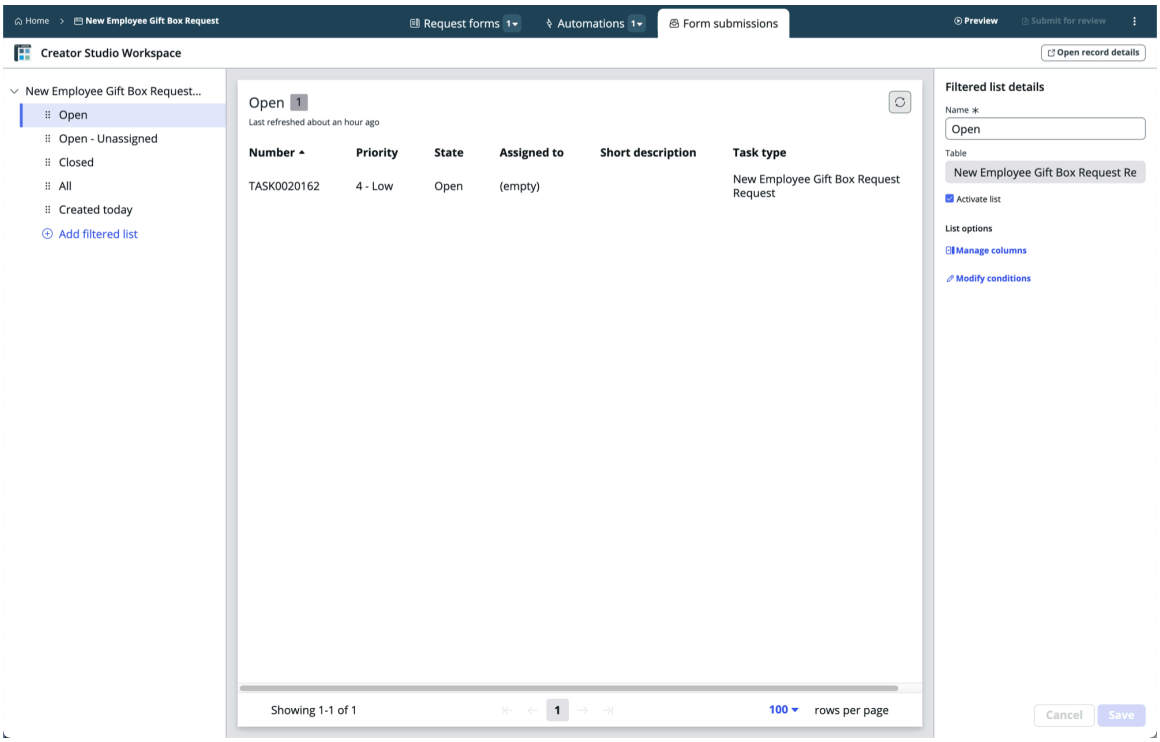


[送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

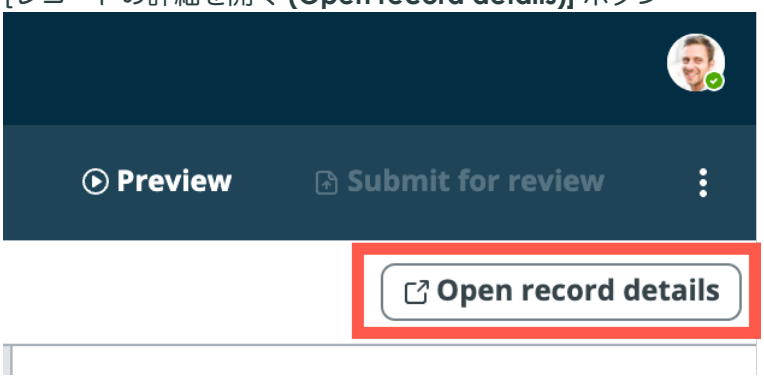
4. アプリケーションヘッダーの [フォームの送信 **(Form submissions)**] タブを選択します。

クリエータースタジオのフォーム送信ワークスペース



5. [レコードの詳細を開く **(Open record details)**] ボタンをクリックします。

[レコードの詳細を開く **(Open record details)**] ボタン

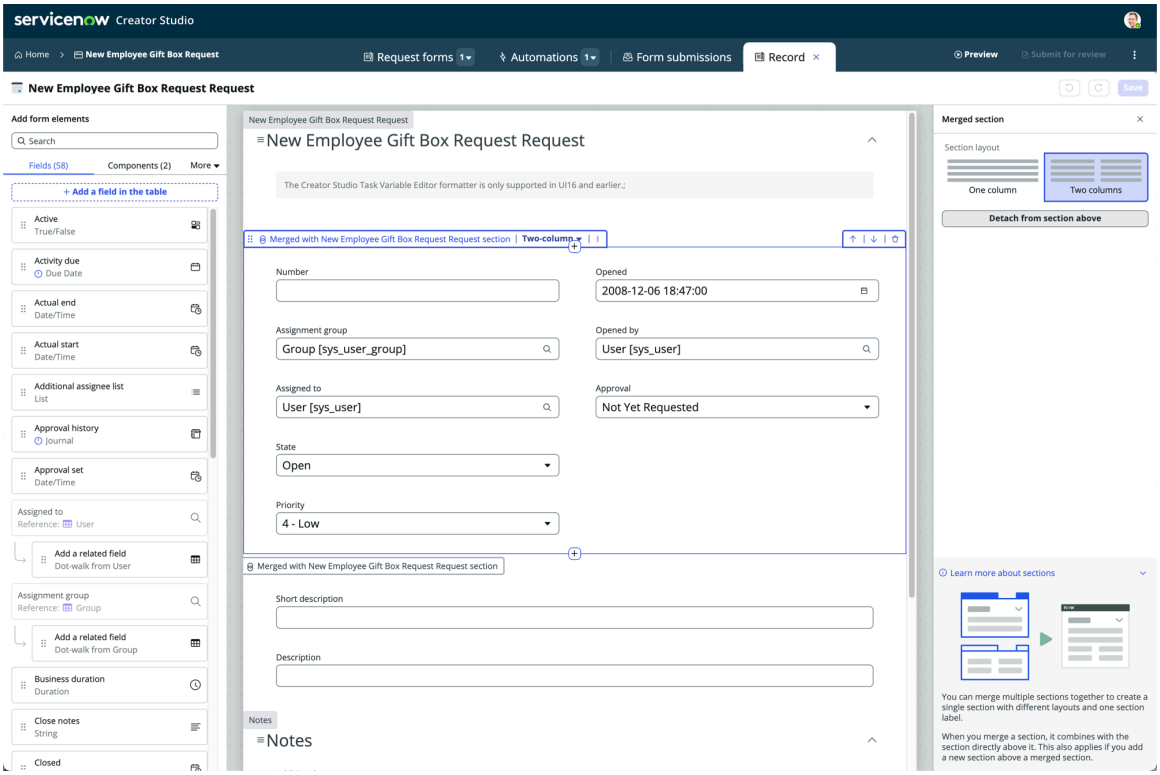


レコードの詳細が新しい [レコード] アプリケーションタブに表示されます。

6. フィールドを移動するなど、レコードの表示方法に追加の変更を加えます。
最も一般的に使用される操作可能なフィールドとその定義のリストについては、「重要なタスクテーブルのフィールド」を確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコード詳細



7. [保存] を選択します。

クリエータースタジオ アプリを展開する

おめでとうございます。アプリをビルドし、最初のバージョンを世界と共有する準備が整いました。素晴らしいです！展開は、プロセスの次のステップです。

展開とは、アプリを開発や QA などの非本番インスタンスから本番に移行するプロセスを表す用語です。本番は、顧客に表示されるインスタンス、つまり「ライブ」インスタンスです。このプロセスを開始するには、非本番インスタンスでアプリをビルドし、準備ができたら本番インスタンスに展開するようアドミンに依頼する必要があります。

アプリを展開すると、アプリだけでなく、そこに含めた公開済みのフォームやアクティブ化されたプレイブックもすべて本番インスタンスに自動的に公開されます。

展開では、パイプラインと展開で構成されたパイプラインを使用します。パイプラインが構成されていない場合、クリエータースタジオホームページにアラートが表示され、アドミンにパイプラインの設定を依頼するよう提案されます。

Now Platform は アプリケーションリポジトリ を使用してインスタンス間でアプリを移動するため、リリースノートとバージョン番号が必要です。詳細については、「クリエータースタジオ アプリのバージョン管理とリリースノート」をご覧ください。

本番環境へのアプリ展開の要求

アプリとそのすべての公開されたフォーム、およびアクティブ化されたプレイブックを、非本番インスタンスでテストする必要があります。準備ができたら、本番環境に展開するためにアプリを送信できます。詳細については、「クリエータースタジオ から本番環境へのアプリの展開を要求する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリはクリエータースタジオから直接展開されません。代わりに、アドミンがパイプラインと展開を使用します。アドミンは AEMC でのパイプラインを使用した展開の管理 を確認する必要があります。

アプリとフォームや自動化の同時展開

この時点で、アプリが実際に準備ができているかどうか躊躇するかもしれません。小さなステップを踏んで、必要なフォームとアクティブ化されたプレイブックだけを展開要求に含めることができます。

アプリを展開用に送信すると、アプリの公開済みフォームとアクティブ化されたプレイブックがすべて展開可能になります。ただし、展開を要求する場合は、次のことを指定できます。

- アプリが本番環境に展開された後にカタログに表示したくない公開済みフォーム。
- アプリが本番環境に展開された後、ユーザーがアプリによって生成されたレコードを表示するときに表示したくないアクティブ化されたプレイブック。

プレイブックをアクティブ化せず、そのアプリが本番環境に展開されている場合、該当するレコードでは自動化が実行されません。ただし、App Engine アドミンは展開されたプレイブックを有効にすることができます。

展開されたアプリへのユーザーのアサイン

アプリが正式に公開され、使用される準備が整いました。おめでとうございます。しかし、誰がそれを使用し、その人たちはアクセスできるのでしょうか？アドミンがこれについて責任を負います。

アドミンは、アプリを本番環境に展開した後、アプリにアクセスできるユーザーとグループをアサインする必要があります。つまり、展開/公開プロセスでユーザーアクセスをアサインすることはできません。アプリの公開された部分のアクセスする場所の詳細については、「クリエータースタジオでアプリをビルドした後のステップ」をご覧ください。

クリエータースタジオ アプリのバージョン管理とリリースノート

アプリの展開された各バージョンには、アドミニストレーターがアプリの使用状況と変更を追跡するのに役立つバージョン番号とリリースノートが必要です。

アプリのバージョン番号

バージョン番号を使用して、アドミンは各インスタンスに展開されているアプリのバージョンを追跡できます。 組織のバージョニングガイドラインに従うか、x.y.z 形式を使用します (x = メジャーアップデート、y = マイナーアップデート、z = パッチ)。

クリエータースタジオ は、展開されたアプリを更新すると、次のバージョンを自動的に更新します (たとえば、1.0.0 から 1.1.0、次に 1.2.0 など)。

アプリのリリースノート

リリースノートは、アドミンがアプリのバージョン間の変更点を追跡するのに役立ちます。展開するアプリを送信する際、アプリのバージョン間の違いを理解するのに役立つ情報を指定します。

クリエータースタジオ から本番環境へのアプリの展開を要求する

開発インスタンスなどの非本番インスタンス、アプリのフォーム、プレイブック、ワークスペース カテゴリをテストした後、本番インスタンスに展開します。それにより、ユーザーがアクセスできます。

始める前に

アプリの本番環境への展開を要求するには、アプリで作業する権限が付与されている必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
展開レビューのためにアプリを送信した後はレビューサイクルをキャンセルすることはできないため、アプリの準備が整っていることを確認してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [クリエータースタジオ]に移動して、クリエータースタジオ ホームページですべてのアプリを表示します。
2. 本番環境に展開するアプリを開きます。
3. さまざまなエクスペリエンスでさまざまなフォームがどのように表示されるかを [プレビュー] することを選択するか、[表示] または [編集] ボタンを選択してアプリケーションを表示または編集します。

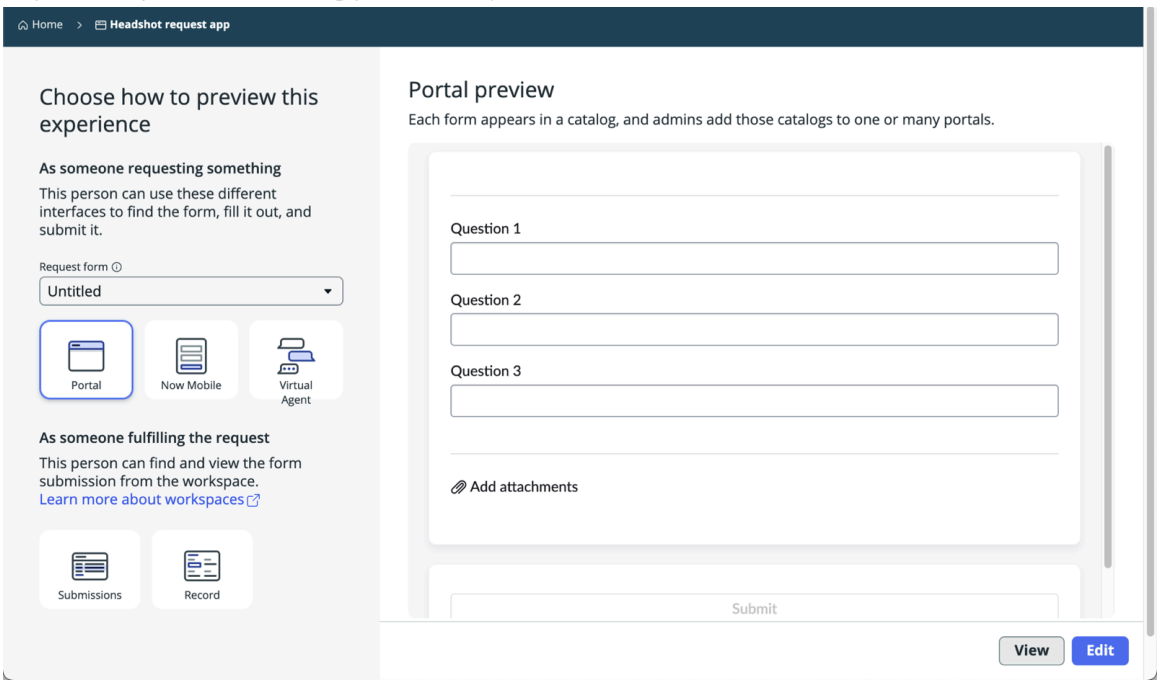
   さまざまなプレビューオプションを選択し、正しいアプリケーションを選択していることを確認し、次の形式でどのように表示されるかを確認します。

   - [ポータル] (デスクトップの Web サイトでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - **[Now Mobile]** (携帯電話またはデバイスでどのように表示されるかのプレビューを表示)
   - 仮想エージェント (チャットボットインターフェイスでどのように表示されるかを確認)

   > **注:** 仮想エージェント でフォームがどのように表示されるかを確認するには、組織が適切なプラグインをインストールしている必要があります。興味がある方は、仮想エージェント でのフォームとそのカタログアイテムのプレビューの詳細について、アドミンに問い合わせ、「カタログビルダープレビュートピックの会話」を参照してください。

   [表示] ボタンは、公開されたフォームを表示し、開発用の新しいドラフトフォームを明示的に作成することはありません。[編集] ボタンをクリックすると、開発フォーム (既に公開されているフォームの新しいドラフトバージョンなど) に移動します。

   アプリのエクスペリエンスをプレビューする

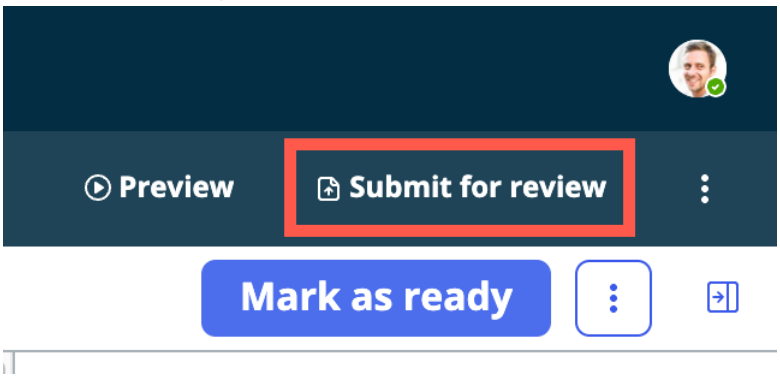


   [送信] プレビューを選択して、フォーム送信ワークスペースがどのように表示されるか、およびアプリが生成するレコード ([レコード] プレビューを選択) をチェックアウトすることもできます。

4. アプリケーションヘッダーで、[レビューのため送信] を選択します。

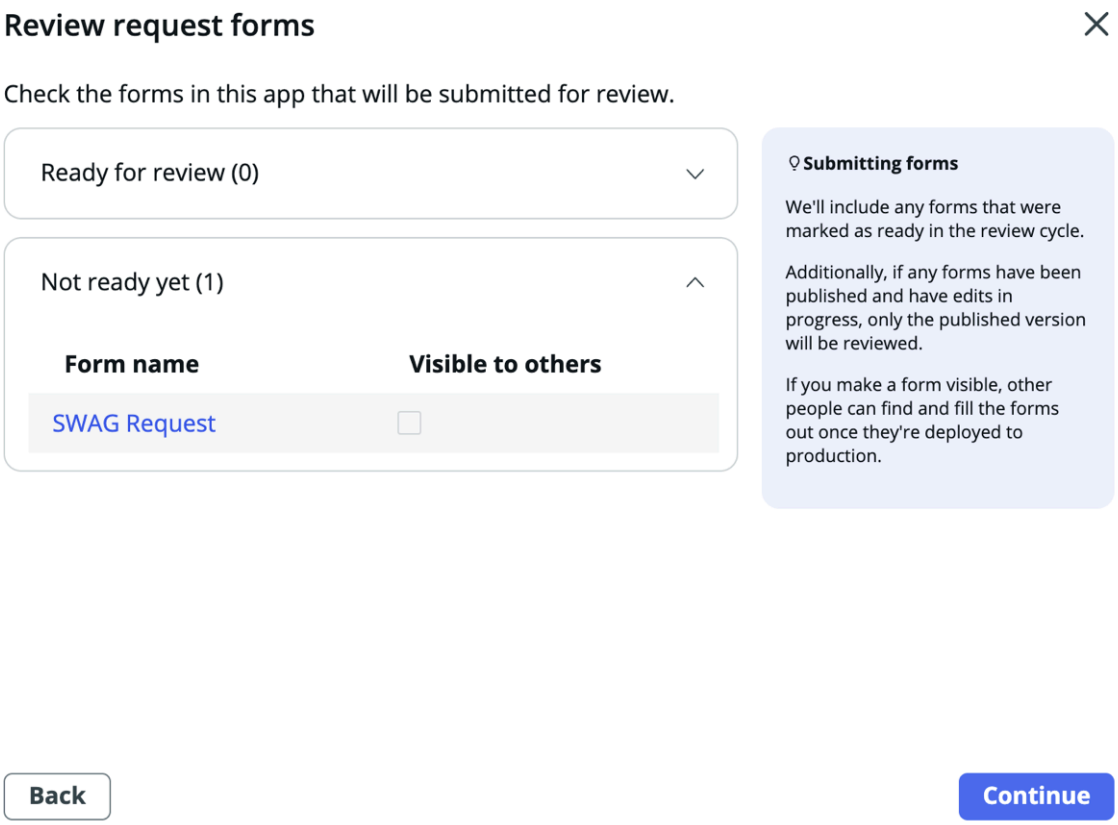
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レビューのため送信



5. [レビューのためアプリを送信 (Submit app for review)] モーダルで [続行] を選択します。
6. 次に、カタログでユーザーに表示する公開済みフォームを選択する必要があります。レビュー要求フォームモーダルの [レビュー準備完了] セクションで、[他のユーザーに表示 **(Visible to others)**] オプションを選択して、アプリの展開後に利用できるようにするアプリの公開済みフォームを 選択します。

展開のための要求フォームのレビュー



7. 本番環境に展開されるフォームに問題がなければ、[続行] を選択します。
8. 次に、アプリのアクティブ化されたプレイブックのうち、アプリの展開後に本番環境で実行するものを決定する必要があります。プレイブックのレビューモーダルで、アプリが生成するレコードで実行する各プレイブックの [本番環境で実行 **(Run on production)**] オプションを選択します。

> **注:** プレイブックを選択できない場合は、クリエータースタジオ の [自動化] タブに戻り、プレイブックをアクティブ化する必要があります。これについて復習する必要がある場合は、「クリエータースタジオ でプレイブックをアクティブ化する」を確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティブ化されていないプレイブックは、アプリと共に本番環境に展開されますが、アドミンが本番環境でアクティブ化するか、プレイブックがアクティブ化された状態でアプリを再展開しない限り、レコードでは実行されません。

9. 本番環境で実行するために展開されるプレイブックに問題がなければ、[続行] を選択します。
10. 最後に、公開されたアプリのすべてのリリースの詳細が正しいことを確認します。

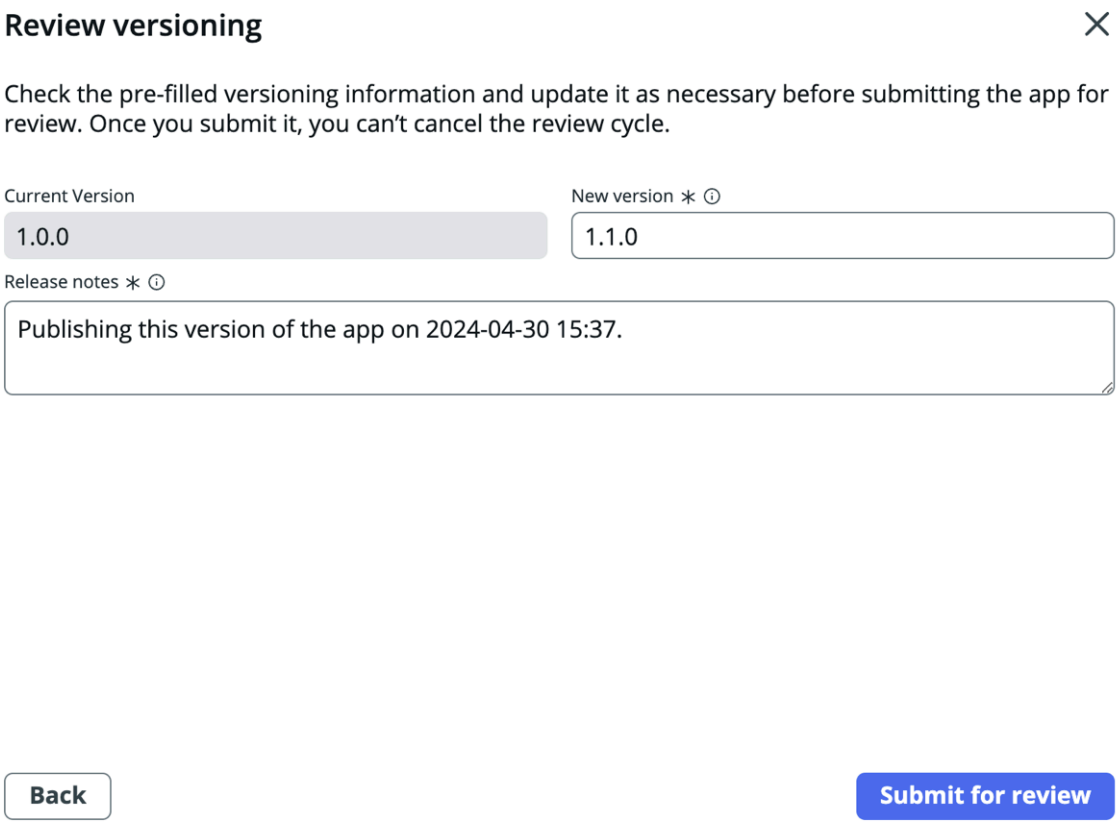
展開のためのバージョニングオプション

フィールド	説明
新しいバージョン	展開を要求しているアプリのバージョン番号。クリエータースタジオ は更新されたバージョン番号を自動的に生成しますが、これを変更できます。 組織のバージョニングガイドラインに従うか、x.y.z 形式を使用します (x = メジャーアップデート、y = マイナーアップデート、z = パッチ)。
リリースノート	アプリのこの新しいバージョンでの変更点の詳細、またはこれが最初のバージョンの場合はアプリの機能の一般的な説明。

展開の要求の手順の詳細については、「クリエータースタジオ アプリのバージョン管理とリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリのバージョン情報



11. すべて正しく、アドミンがレビューして展開する準備ができたら、[レビューのため送信] を選択します。

タスクの結果
そのとおりです！アプリの展開をレビューする準備ができました。

次のタスク
アドミンはパイプラインと展開を使用して、アプリを本番環境に展開します。アプリの展開後も変更を加えることができます。必要なのは、準備ができたときに再展開を要求することだけです。

アドミンの場合は、アプリの展開のスコープについて、「AEMC でのパイプラインを使用した展開の管理」を確認してください。

クリエータースタジオ でアプリをビルドした後のステップ

アプリにフォームと自動化を追加し、フォーム送信ワークスペースをカスタマイズしました。次のステップは以下のとおりです。

レビューのためにアプリを送信後に行われること

アプリの作成が完了し、[レビューのため送信] を選択すると、アドミンが展開要求を受け取ります。その後、アドミンがアプリの展開要求を確認し、アプリを本番環境に移行します。

アプリが本番環境に展開されると、Now Platform でフォームが使用できるようになります。

展開後のアプリを確認できる場所

展開後、アプリはフォームの作成時に指定した サービスカタログ とカテゴリにフォームとして表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーは、これらのフォームに サービスカタログ、サービスポータル、従業員センター で直接アクセスできます。

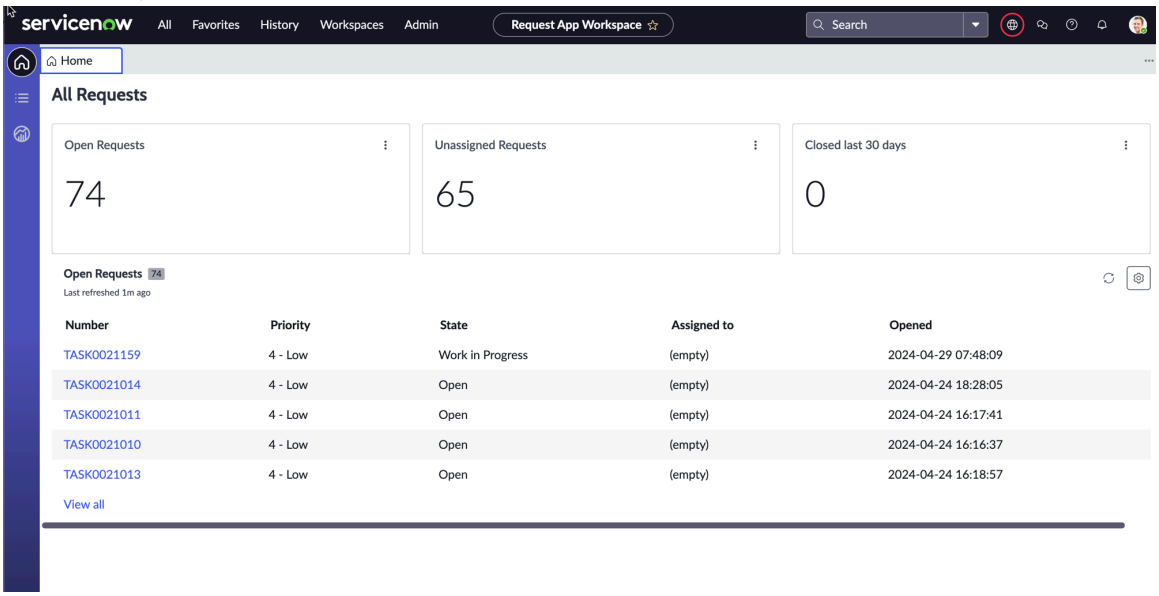
アプリのフォームを 1 つ以上のトピックに関連付けると、従業員センター の動的に作成された関連するトピックページに、そのフォームが表示されます。 トピックの詳細は「カタログアイテムを 従業員センター の分類トピックに関連付ける」を、分類方法である分類の詳細については、「 従業員センター の 統一された分類方法」を参照してください。

送信されたフォームを履行者が処理する場所

履行者は、[すべて] > **[App Engine]** > [要求アプリワークスペース **(Request App Workspace)]**に移動して、Now Platform のデフォルトのワークスペースにアクセスします。要求アプリワークスペースには、各アプリのカテゴリと、デフォルトと追加したエクストラの両方のレコードのフィルターされたリストが表示されます。次に、履行者はレコードを選択して要求の詳細を表示し、必要に応じて更新を行います。

注: アプリの所有者として要求アプリワークスペースにアクセスすることはできませんが、アドミンまたは該当するエージェントロールも持っている場合はアクセスできます。

フォーム送信ワークスペース



他の **Now Platform** ビルダーでアプリの開発を続行できるか

クリエータースタジオ アプリを他のビルダーで開くことができます。たとえば、App Engine Studio でアプリを開くと、エクスペリエンスや複雑な自動化を追加できます。

FAQ を確認する

他に質問がありますか？「クリエータースタジオコミュニティサイトの FAQ」をご確認ください。

クリエータースタジオの要求のクローズとアプリ通知

フォームの入力時にアプリが作成するレコードは自動的にクローズされません。また、一部の通知は自動ではないため、構成する必要があります。

クリエータースタジオアプリによって生成される要求のクローズ

アプリの自動化が完了し、要求が履行された後、ユーザーは要求アプリワークスペースで要求レコードを手動で閉じる必要があります。履行者が要求を手動で閉じると、Now Platform はその要求を作成した人にメールで要求がクローズされたことを通知します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

さらに、アプリでプレイブックを作成して、要求がクローズされたときに要求者に自動的にメールを送信することもできます。詳細については、「クリエータースタジオ でアプリのプレイブックにアクティビティを追加する」を参照してください。

クリエータースタジオでビルドされたアプリのデフォルト通知

クリエータースタジオで作成されたアプリは、デフォルトで次の通知を送信します。

デフォルトのアプリ通知

イベント	受信者	トリガー
要求がオープンされた	アプリからの要求を開いたユーザー	アプリのタスクテーブルにレコードが作成された
要求がユーザーにアサインされた	要求がアサインされたユーザー	アプリのタスクテーブルにレコードが作成または更新された
要求がグループにアサインされた	要求がアサインされたグループ内のすべてのユーザー	アプリのタスクテーブルにレコードが作成または更新された
要求がクローズされた*	要求をオープンしたユーザー	レコードが [完了] または [キャンセル] などのクローズ済みステータスに更新された

* 要求レコードは手動でクローズする必要があることに注意してください。

Now Platform からの通知の詳細については、「通知の受信」を参照してください。

アプリのビルドに関してクリエータースタジオが送信する通知

デフォルトのアプリ通知

イベント	受信者
クリエータースタジオ制限付きユーザーが新しいアプリ要求を送信する	App Engine 管理グループ
要求されたアプリがアドミンによって承認され、作成された	アプリの作成を要求したクリエータースタジオ制限付きユーザー
アプリ作成要求が履行された	App Engine 管理グループ

クリエータースタジオ の参照情報

考えられるすべてのタイプの質問の説明やフォームのレイアウトオプションなど、クリエータースタジオ のアプリのビルドの部品の詳細を確認してください。

クリエータースタジオ のフォーム設定

クリエータースタジオ で、アプリのフォームの設定をいつでも編集できます。たとえば、アクセス可能なユーザーを変更する場合などです。

全般的なフォーム設定

[全般] タブでは、フォームの基本情報とフォーム上での表示方法を定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリ設定の [全般] タブ

フィールド	説明
フォーム名	フォームの名前。アプリには、複数のフォームを含めることができます。別のフォームの設定を編集する場合は、[要求フォーム] タブでそのフォームを選択します。
簡単な説明	フォームの使用目的の短い説明。たとえば、「ラップトップ要求フォーム」などです。
イメージ	フォームに表示される画像。ロゴを選択し、アップロードする JPG、PNG、または SVG ファイルに移動します。
説明	このフォームを使用する必要がある理由を説明する情報。ビデオ、画像、その他のソースへのリンク (ナレッジベース記事など) といったコンテンツを含めることができます。
他のユーザーがフォームを表示できるようにする (Make form visible to others)	フォームをアプリの外部 (たとえば、指定したカタログ内) で使用できるようにするオプション。 このオプションは、公開済みのフォームに対してのみ編集できます。 注: また、アプリを展開する準備ができたら、展開後にフォームを表示するかどうかを指定することもできます。「クリエータースタジオ から本番環境へのアプリの展開を要求する」でその方法をご覧ください。
[ウィッシュリストに追加] を非表示にする (Hide "Add to wish list" option)	ユーザーがウィッシュリストでフォームをお気に入りに登録できないようにするオプション。フォームをお気に入りに設定すると、見つけやすくなります。
添付ファイルオプションを非表示にする	ユーザーがフォームに添付ファイルを追加できないようにするオプション。
添付を必須としてマーク	フォームに添付ファイルを要求するオプション。[添付ファイルオプションを非表示にする **(Hide attachment option)]** 設定を選択した場合、この設定は選択できません。

編集できないフォーム設定

アプリを作成した後、その[テンプレート] を編集することはできません。変更する場合は、別のカタログテンプレートを使用して新しいフォームを作成します。[レコード送信テーブル] は自動的に生成され、変更することはできません。

カタログの場所のフォーム設定

場所の設定では、フォームがカタログ内のどこに表示されるか、どのように分類されるか、どのトピックに表示されるかを定義します。カタログとトピックの設定を変更するには、[編集] アイコン (Edit) を選択する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリが使用するビジネスエリアを表すカタログを選択します。 たとえば、IT フルフィルメントアプリ用のソフトウェアやラップトップケーブルを含むサービスカタログを選択できます。 各カタログのカラットを展開すると、そのサブカタログが表示されます。次に、カタログから必要な数のアイテムを選択します。

アプリのフォームを 1 つ以上のトピックに関連付けると、従業員センター の動的に作成された関連するトピックページに、そのフォームが表示されます。 トピックの詳細は「カタログアイテムを 従業員センター の分類トピックに関連付ける」を、分類方法である分類の詳細については、「 従業員センター の 統一された分類方法」を参照してください。

ユーザーアクセスのフォーム設定

[編集] アイコン (Edit) を選択して、次のロールとグループのアクセスを定義します。

- [利用可能]：フォームにアクセスできるロールとグループを検索して選択します。
- [利用不可]：フォームにアクセスできないロールとグループを検索して選択します。

クリエータースタジオ で利用可能な質問のタイプ

クリエータースタジオ内のフォームでさまざまな種類の質問を使用してアプリをビルドします。

要求者に尋ねる質問を選びます。クリエータースタジオ には、次の 2 種類の質問があります。

- [一般的な質問] は、簡単な回答 (名前やメールなど) を書き込むための空のボックス、または選択肢を選ぶリスト (ドロップダウンメニューや記入する小さな丸など) を要求者に提供します。
- [参照ベースの質問 **(Reference-based question)]** は、テーブルで定義する選択肢のリストを指定します。

[質問の詳細] パネルの [コンテンツタイプ] フィールドで選択した質問のタイプによって、表示される質問の設定が変わります。

一般的な質問のタイプ

一般的な質問タイプのフォーム要素

コンテンツタイプ	説明
短い回答 ([1 行テキスト])	1 行の質問。
複数行テキスト	複数行にわたる長い質問も入るスペースを提供する、より長いオプション。
ドロップダウン	事前定義された回答のリストを含み、ユーザーがドロップダウンメニューから選択する形式の質問。ユーザーは回答を 1 つだけ選択できます。
ラジオボタン	事前定義された回答のリストを含み、ユーザーがラジオボタンを選択する形式の質問。ユーザーは回答を 1 つだけ選択できます。
チェックボックス	ユーザーが該当するチェックボックスを選択して回答する正誤問題。 **注:** フォームに 2 つのチェックボックスの質問を並べて配置すると、セクションが作成されます。そのセクションに他のタイプの質問を追加することはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一般的な質問タイプのフォーム要素 (続く)

コンテンツタイプ	説明
はい/いいえ	ユーザーが回答として [はい] または [いいえ] を選択する質問。
日付	ユーザーがカレンダーから日付を選択する形式の質問。
日時	ユーザーが日時を指定する形式の質問。
質問セット	変更できない事前設定された質問。 アドミンが サービスカタログ で質問セットを作成します。詳細については、「サービスカタログ変数セット」を参照してください。 注: • 既存の質問を質問セットに変更することはできません。質問セットをフォームに含めるには、その質問セットをフォームに新たに追加する必要があります。 • フォームに 2 つのチェックボックスの質問を並べて配置すると、セクションが作成されます。そのセクションに他のタイプの質問を追加することはできません。

参照ベースの質問のタイプ

参照ベースの質問は、[ソーステーブル]として指定する必要があるテーブルから可能な値を取得します。

参照ベースの質問フォームの要素

コンテンツタイプ	説明
レコードの選択肢 (Record choices)	定義する必要のあるフィルター条件が満たされた場合に、指定された追加のテーブルから回答が取得される質問。 インシデントテーブルを使用するフォームなど、別のフォームのデータを参照するフォームでこの質問を使用します。「関連インシデントを選択」はレコード選択の質問の例で、可能な回答の選択肢としてインシデントのフィルター済みリストを使用できます。
フィールド選択肢 (Field choices)	フィルター条件 (これも定義する必要があります) が満たされた場合に、指定されたテーブルのフィールドから回答が取得される質問。 たとえば、「国」フィールドを持つテーブルにフィールド選択の質問を作成し、ユーザーがそれを使用して国を選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

参照ベースの質問フォームの要素 (続く)

コンテンツタイプ	説明
複数選択	フィルター条件 (これも定義する必要があります) が満たされた場合に、指定されたテーブルから取得される複数の回答を選択できる質問。 この質問は、複数の個別のインシデントテーブルから回答を取得するフォームなど、他の複数のフォームのデータを参照するフォームで使用します。

質問の詳細

フォームに追加する質問のタイプに応じて、次の詳細の一部を指定する必要があります。

質問タイプの詳細

フィールド	説明	利用可能 **(Available for)**
質問ラベル	質問、または質問の内容を説明する記述。	すべての質問タイプ
ヘルプテキスト	ユーザーが情報アイコンの上にマウスを移動したときに、ユーザーをガイドするツールチップとして表示される追加情報。	すべての質問タイプ
フォームに質問を表示 (Show questions on form)	このオプションを選択しないままにすると、フォームから質問が非表示になります。	すべての質問タイプ
必須としてマーク (Mark as required)	ユーザーがフォームを送信する前に質問を必須にするオプション。	すべての質問タイプ
読み取り専用としてマーク (Mark as read-only)	質問を読み取り専用にするオプション。 このオプションを使用すると、アプリのタスクテーブルにデータを追加することで、データをバックグラウンドでフォームに関連付けることができます。 たとえば、ユーザーのロールをフォームのタスクテーブルに自動的に取り込まない場合は、デフォルト値がそのロール (営業など) である「1 行テキスト」の質問を作成し、それを非表示にすることができます。フォームから質問を非表示にして、データ交換がユーザーに見えないようにすることもできます。	すべての質問タイプ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

質問タイプの詳細 (続く)

フィールド	説明	利用可能 **(Available for)**
デフォルト値	フォームを開いたときに質問の回答に自動入力される値。 ソーステーブルを指定する参照ベースの質問では、[デフォルト値] フィールドで値を検索するときに、ワイルドカードとしてアスタリスク (`*`) を使用する必要があります。 たとえば、質問がユーザーテーブルを参照していて、「Abel Tuter」を探している場合、`Tuter` と入力してもそのユーザーは見つかりませんが、`*Tuter` と入力すると見つかります。	すべての質問タイプ
選択肢	質問に対するカスタマイズ可能な回答。ドラッグして新しい順序に並べ替えることができます。	• ドロップダウン • ラジオボタン
選択肢として「なし」を含める (Include "None" as a choice)	質問の考えられる回答として [なし] を含めるオプション。	• ドロップダウン • ラジオボタン • フィールド選択肢 (Field choices)
デフォルトの最初の選択肢 (Default to the first choice)	ユーザーが質問を表示したときに、最初の選択肢を考えられる回答として表示するオプション。	ラジオボタン
ソーステーブル	質問に対する回答のデータを提供するテーブルの場所。	• レコードの選択肢 (Record choices) • フィールド選択肢 (Field choices) • 複数選択
フィールド	考えられる回答が取得される、指定されたソーステーブル内のフィールド。	フィールド選択肢 (Field choices)
フィルター条件	特定の選択肢を表示するために満たさなければならない条件。[条件を追加] を選択し、条件ビルダーを使用してフィルターを作成します。詳細については、「条件ビルダー」を参照してください。	• レコードの選択肢 (Record choices) • フィールド選択肢 (Field choices) • 複数選択

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリエータースタジオにおけるフォームのレイアウトオプション

レイアウトオプションを使用して、カタログアイテムを作成するフォームがクリエータースタジオ内でどのように表示されるかを調整します。

レイアウトオプションを使用して、[フォーム要素] パネルからフォームキャンバスにドラッグして、フォームをデザインできます。レイアウトオプションをドラッグして並べ替えることもできます。

レイアウトオプション

要素	説明	詳細
1 列セクション	オプションのヘッダー (ラベル) を持つセクション。フォームのそのセクション内のすべての質問が 1 つの列に表示されます。	• セクションにヘッダーを付けるには、[セクションラベル] を指定します。 • セクションヘッダーを表示するには、[フォームにセクションラベルを表示 **(Show section label on form)]** を選択します。
2 列セクション	オプションのヘッダー (ラベル) を持つセクション。フォームのそのセクション内のすべての質問が 2 つの列に表示されます。	• セクションにヘッダーを付けるには、[セクションラベル] を指定します。 • セクションヘッダーを表示するには、[フォームにセクションラベルを表示 **(Show section label on form)]** を選択します。
分割線	質問またはセクションの間に線を表示します。	該当なし
見出し	ユーザーにフォームでの入力を求める情報の種類に基づいた質問またはステートメントなど、ヘッダーテキストを表示します。	[名前] フィールドでヘッダーテキストを指定します。
リッチテキスト	リンク、さまざまなフォント、箇条書きや表などのオプションを使用して強調できる長いテキストを表示します。	リッチテキストエディターを使用して、次の文字体裁で補足テキストを強調します。 • 太字/斜体/下線 • フォントフェイスとサイズ • フォントの色と背景色 • テーブル • リンク • 画像 • スクリプティングを含むソースコード • 位置調整

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レイアウトオプション (続く)

要素	説明	詳細
		• 箇条書きリスト • 番号付きリスト

クリエータースタジオ の用語集

クリエータースタジオ で使用される用語と概念について説明します。

アクティビティ

プレイブックのアクティビティは、承認の取得、レコードのアサイン、メールの送信などの自動化されたタスクを完了します。

自動化

手動介入なしでワークフロー内を移動するタスクまたは要求。

ボードビュー

プレイブックを表示する伝統的なレイアウトで、各アクティビティがナビゲーションパネルのカードとして表示されます。タスクなどのアクティビティを選択すると、その編集可能な詳細がキャンバスに表示され、操作できるようになります。

カタログ

要求者が要求できるすべてのアイテムを表すアイテムのコレクション。

コラボレーション記述子

開発者にアサインされた共同アクセスのレベル。ユーザーにアサインされているコラボレーション記述子によって、委託開発権限をアサイン、管理、監視できるかどうかが決まります。たとえば、アプリのオーナーであるユーザーは、エディターのコラボレーションタイプのユーザーよりも多くのことができます。

委託開発

開発者が他のユーザーをアプリに招待し、そのユーザーが共同でアプリを作成および開発できるようにする共同プロセス。

展開

開発や QA などの非本番インスタンスから本番に移行するアプリのプロセス。本番は、顧客に表示されるインスタンス、つまり「ライブ」インスタンスです。

ダイアグラムビュー

プレイブックでアクティビティが発生する順序を示す、視覚的に直感的なダイアグラム。トリガーや意思決定などのアクティビティを選択すると、詳細を編集できるモーダルがポップアップ表示されます。

テーブルの拡張

既存のテーブルに基づいてテーブルを作成する場合。テーブルを拡張するということは、新しいテーブルが親 (拡張) テーブルの列とそのビジネスロジックを継承することを意味します。クリエータースタジオ に組み込まれたアプリは、タスクテーブルを拡張します。

フィールド

クリエータースタジオ のフィールドは、関連するタスクテーブルの列です。条件ビルダーを使用している場合、フィールドはテーブルの列またはフォームからの質問のいずれかです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォーム

データベーステーブルの単一レコードのフィールドと値を表示するコンテンツページ。

フォームテンプレート

クリエータースタジオ が提供するフォームに配置された、事前定義された一連の質問。

履行者

要求に対応する人。履行者は、アプリの承認の自動化に応じて、要求を承認または拒否することもできます。

アイテム

新しいコンピュータ機器や休暇など、要求者が要求できるもの。各アイテムには、クリエータースタジオ の独自のフォームが必要です。

プレイブック

要求が承認されたときにメールを送信するなど、トリガーに基づいて発生する自動化された一連のアクティビティ。プレイブックは、フォームが送信された後に開始される、事前にプログラムされたワークフローと考えてください。これらは、if/then ステートメントのようなもので、もしこれが起きたら、次にそれが起きます。

レコード

対応する必要があるタスクまたは要求。アプリのテーブル内のすべての行は個別のレコードです。レコードのステータスは、実行されたアクションによって異なります。

参照ベースの質問

定義したテーブルから可能な回答を取得するフォーム上の質問。

リリースノート

展開されたアプリの新しいバージョンごとに含まれているものに関する情報で、アドミンがアプリのバージョン間の変更を追跡するのに役立ちます。

要求者

機器などのもの、または休暇の取得など何かを行うための許可を要求する人。

ターゲットテーブル

クリエータースタジオ で作成されたアプリが要求を保存するテーブル。

トリガー

自動化プレイブックの実行を開始するイベント。たとえば、要求を送信すると、その要求が自動的にマネージャーにアサインされるなど。

バージョン番号

アプリに割り当てられ、その後展開されるたびに増加する番号。

ワークフロー

アプリケーションのプロセスを自動化する一連のアクティビティ。

ローコードアプリケーションのビルド

シンプルなローコード環境でカスタムアプリケーションを作成および管理します。

App Engine Studio

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ガイド付きローコード開発に App Engine Studio を使用して、カスタムアプリをゼロから、またはテンプレートを使用してビルドします。

クリエータースタジオ

クリエータースタジオ を使用して、サービスカタログ で便利なテンプレートを使用して要求/実行アプリをすばやく作成します。

ERP 統合

ERP 統合 を使用して、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムに接続し、ERP モデルを作成し、ERP システムからデータ (受注、データレコード、購買ドキュメントなど) を抽出します。これで、Now Platform でローコードアプリをビルドするときに ERP データを使用できるようになります。

ERP Customization Mining

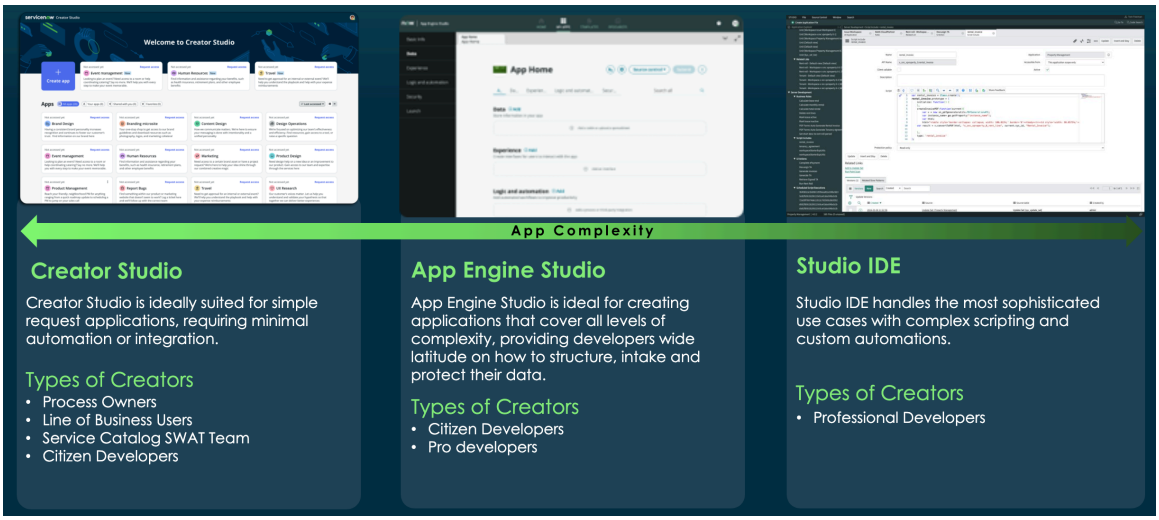
ERP Customization Mining を使用して、SAP から Now Platform へのプラットフォーム移行など、ERP システムのカスタムアプリケーションを検索します。

ServiceNow CLI

ServiceNow CLI を使用すると、カスタムコマンドを作成して、ローカルシステムのコマンドラインからアプリケーションを管理できます。

アプリの作成に使用すべきビルダー

ビルダーの種類



コードなしで簡単にアプリをビルドしたい場合

クリエータースタジオ は、コードを書かずに要求を履行するアプリケーションの作成を支援することに特化しています。たとえば、フォームに入力して事務用品を要求するアプリケーションで、誰かが要求を承認または拒否するなどです。詳細については、「クリエータースタジオ：コードを記述せずにアプリケーションを作成する」を参照してください。

より一般的なアプリが必要だけれどローコードオプションが必要な場合

App Engine Studio を使用すると、プログラミングのプロでなくても、クリエータースタジオ よりも幅広いアプリをビルドできます。詳細については、「App Engine Studio を使用したアプリのビルド」を参照してください。

一元化されたユーザーインターフェイスでより詳細に制御したい開発者の場合

ServiceNow スタジオ はアプリケーション開発者が一元化された場所でカスタムアプリケーションで作業するためのインターフェイスで、ある程度のコーディングスキルが必要です。詳細については、「ServiceNow Studio」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

業界標準の開発ツールやプロセスを使用したい開発者の場合

ServiceNow IDE と ServiceNow SDK は、ServiceNow Fluent を使用したソースコードでのアプリケーション開発、JavaScript モジュールの作成、およびサードパーティライブラリの使用をサポートしています。ServiceNow Fluent は、コードでアプリケーションメタデータを作成するためのドメイン固有のプログラミング言語です。

ServiceNow IDE は、Now Platform 上の Visual Studio Code for the Web の実装です。ServiceNow SDK は Visual Studio Code Desktop をローカルで使用します。詳細については、「ソースコードでアプリケーションをビルドする」を参照してください。

関連アプリケーションと機能

ディシジョンテーブルの探索

ディシジョンビルダー を使用して、意思決定テーブルを作成および管理します。ビジネスロジックを一連の if-then 意思決定ルールに埋め込みます。

のフローワークフロースタジオ

フローデザイナー は、プロセスと反復作業を自動化し、効率とエクスペリエンスを向上させます。

テーブルビルダー

テーブルビルダー を使用して、単一のユーザーインターフェイスにより視覚的にテーブル、フォーム、およびフローを設計します。

UI ビルダー

UI ビルダー を使用して、CSM 構成可能ワークスペース、App Engine Studio によって生成されたワークスペースとポータル、または ネクストエクスペリエンスのコンポーネント とカスタム Web コンポーネントを使用するカスタム Web エクスペリエンスのための Web ユーザーインターフェイスをビルドします。

ワークフロースタジオ

ワークフローの作成、構成、および監視を単一のページエクスペリエンスに統合します。

ワークスペースビルダー

ワークスペースビルダー for App Engine により、App Engine Studio (AES) からカスタムワークスペースを迅速かつ効率的に作成できます。

App Engine Studio を使用したアプリのビルド

ServiceNow® App Engine Studio (AES) はガイド付きのローコードツールで、情報を格納し、ビジネスプロセスを自動化し、ビジネス上の課題を解決するリッチな Web アプリケーションを開発するためのものです。かつてアドミニストレーターにアサインされていた作業は、AES を使用したトレーニングをほとんどまたはまったく受けていない社員に委任できるようになりました。

このビデオでは、App Engine Studio を使用したアプリ作成プロセスの概要を視覚的に示しています。

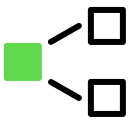
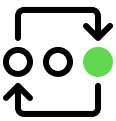
App Engine Studio の概要

開始するには

組織内の市民開発者に開発を委任することで、アドミニストレーターはより戦略的なシステム全体の優先事項に取り組むことができます。AES は、次のことを行うのに役立ちます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ガイド付きワークフローやテンプレートなどの一連の開発ツールを使用して、あらゆるビジネスニーズに合わせて強力なアプリを迅速にビルドします。
- カタログビルダー、ワークフロースタジオ、ワークスペースビルダー、モバイルアプリビルダー、およびその他の統合ツールを使用して、ユーザーに好まれるエクスペリエンスを作成します。
- App Engine 管理センター (AEMC) などの、市民開発者とプロ開発者の両方をサポートする簡単なガバナンスとツールを使用して、スプロール化することなくアプリを拡張します。

詳細 App Engine Studio の概念と機能について学びます。	インストール App Engine Studio およびその関連アプリをインストールします。	構成 環境、ツール、ユーザーアクセスを構成します。
ビルド  App Engine Studio を使用してアプリケーションをビルドします。	展開  アプリケーションを開発から本番へのパイプライン内のインスタンスに展開します。	参照 フィールド、テーブル、プロパティなどの App Engine Studio コンポーネントの詳細情報を確認します。

App Engine Studio のその他のリソース

App Engine Studio に関する詳細	ServiceNow のリソース
App Engine Studio はガイド付きのローコードツールで、情報を格納し、ビジネスプロセスを自動化し、ビジネス上の課題を解決するリッチな Web アプリケーションを開発するためのものです。	App Engine Studio でアプリを迅速に作成
	App Engine でアプリを迅速にビルド

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine Studio に関する詳細	ServiceNow のリソース
	App Engine Studio を使い始める

ストアで AES を要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

AES を使用する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。ダウンロードが完了したら、インスタンスに表示する前にローカルキャッシュをクリアする必要があります。

App Engine Studio のヘルプ

- ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください。

  会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください

- App Engine Studio コミュニティフォーラムで質問または回答する
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 独自のアプリを作成する方法の詳細については、開発者サイトを参照してください。
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

App Engine Studio の詳細

ローコードアプリ開発ツールである App Engine Studio (AES) を使用して、ガイド付きセットアップ、事前定義されたテンプレート、およびワークフローを使用して強力なアプリケーションをビルドする方法について説明します。

このビデオでは、App Engine Studio を使用したアプリ作成プロセスの概要を視覚的に示しています。

App Engine Studio の概要

App Engine Studioユーザー

ユーザー

ユーザー	説明
市民開発者	プログラミングの経験がない市民開発者でも、グラフィカルインターフェイスとテンプレートを使用するシンプルなローコード、ノーコードのプラットフォームで、アプリケーションを効率的に作成できます。参入障壁が低いということは、あらゆるスキルレベルの開発者がアプリケーションをビルドできることを意味します。
プロコード開発者	プロコード開発者は、プログラミング言語を使用してアプリケーションをビルドすることに精通しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー (続く)

ユーザー	説明
App Engine Studio アドミン	App Engine Studio アドミンは、AES のアプリケーション開発に関連するプロセスを管理します。通常は App Engine 管理センター で、新しいアプリケーションのアイデアをレビューし、アプリケーションの開発と展開を管理し、協力者のアクセスを管理します。

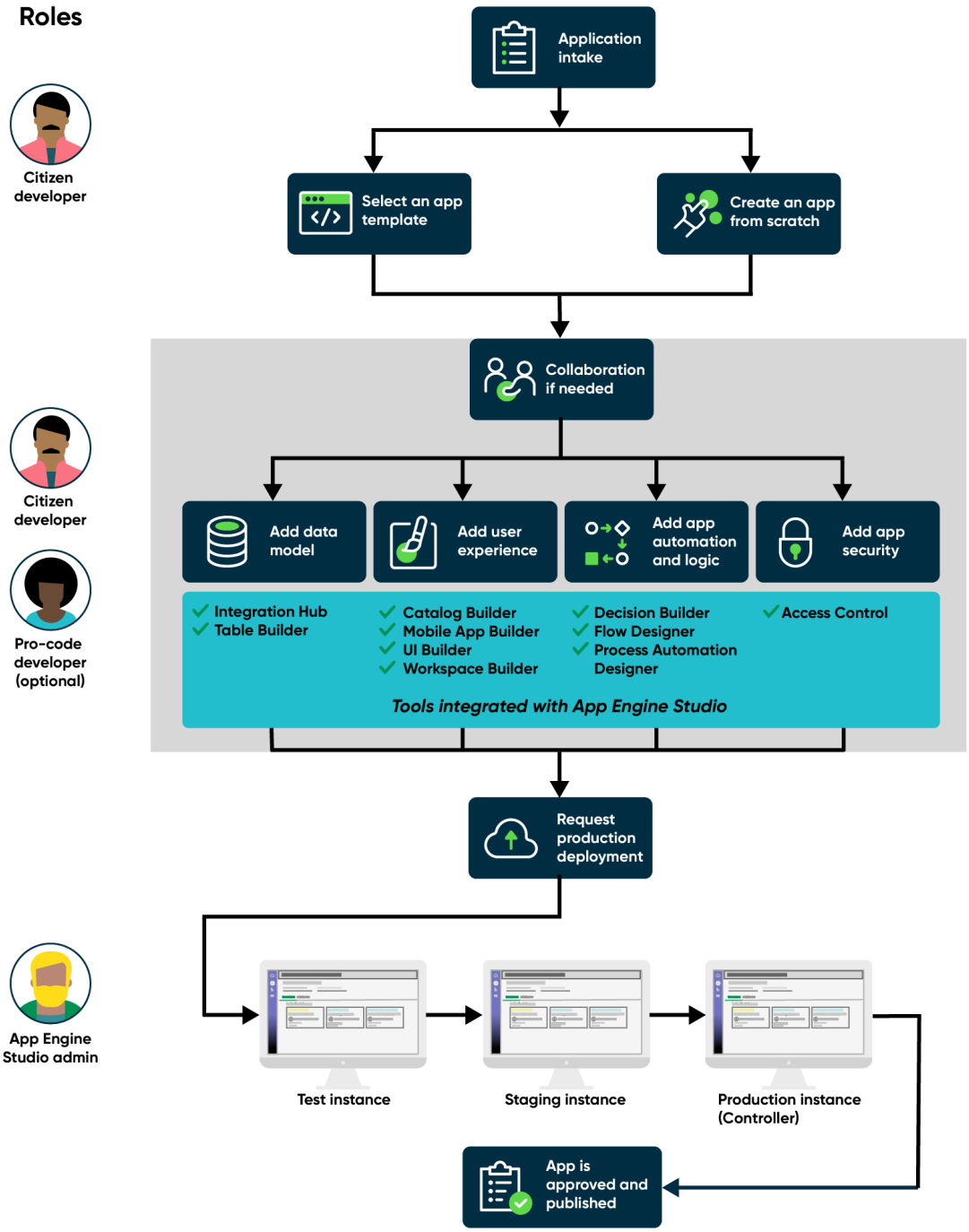
App Engine Studio を使用してアプリを作成するためのワークフロー

次の図は、App Engine Studio を使用したアプリの作成に関連する基本的なタスクを示しています。詳細な手順については、「App Engine Studio でのアプリのビルド」を参照してください。

注: 画像を選択すると拡大されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES を使用したアプリケーション作成プロセス



App Engine Studio でアプリを作成するためのワークフローは次のとおりです。

1. 市民開発者は、AES の承認と開発のために、アプリケーション取り込みからアプリの計画を提出します。
2. AES アドミニストレーターが取り込み要求をレビューします。却下された場合、要求はクローズされます。ただし、いつでもアイデアを更新して新しい要求を提出できます。
3. 要求が承認されたら、事前定義されたテンプレートを使用してアプリを作成するか、ゼロから作成するかを決定する必要があります。利用可能なテンプレートを探索する必要があります。テンプレートにより時間を大幅に節約できます。
4. 次に、自分でアプリをビルドするためのリソースがあるかどうかを判断する必要があります。支援が必要な場合は、コラボレーションを要求することもできます。また、AES アドミニストレーターにコラボレーションする開発者をアサインしてもらうこともできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは、米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である可能性があります。

App Engine Studio のその他のリソース

App Engine Studio に関する詳細	ServiceNow のリソース
App Engine Studio はガイド付きのローコードツールで、情報を格納し、ビジネスプロセスを自動化し、ビジネス上の課題を解決するリッチな Web アプリケーションを開発するためのものです。 **注:** AES には App Engine サブスクリプションまたはそれがパッケージ化された製品が必要です。詳細については、「App Engine Studio のインストール」を参照してください。詳細については、アカウント担当者にお問い合わせください。	App Engine Studio プレイリスト App Engine Studio とStudio ServiceNow コミュニティサイト 初めての App Engine Studio アプリケーションのビルド - ServiceNow Developer サイト App Engine 移行アセスメント

AES の紹介

AES は、ローコード開発者が Now Platform の機能を活用できるようにして、企業のローコード開発のニーズに対応するように設計されています。ガイダンス主導型のフローとカスタマイズしやすいテンプレートにより、市民開発者はすぐに使い始めることができます。

市民開発者は、スキルレベルに関係なく、AES を使用することで生産性が向上します。カスタムアプリをゼロからビルドする場合でも、テンプレートを使用する場合でも、AES の簡素化されたローコードエクスペリエンスにより、Now Platform での開発がスピードアップします。

AES の主な機能は次のとおりです。

- 初めてのユーザー向けのガイド付きエクスペリエンス： AES開発者向けのガイド付きエクスペリエンスを備えているため、環境を簡単にナビゲートできます。初めてガイダンスを使用するときは、アプリケーションを作成するプロセス全体を直線的に進めます。その後、作業している内容に関連する支援がガイダンスに表示されます。ガイダンスを非表示にするには、[今後これを表示しない] を選択してポップアップを終了します。
- アプリテンプレート：アプリテンプレートはアプリ開発プロセスを簡素化します。実証済みのユースケースに基づくテンプレートを使用することで、開発者は学習曲線なしで強力なアプリを作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ガードレール： 市民開発者は、途中でツールヒントと推奨事項を受け取りながら作業を進めます。承認のためにアプリを提出することで、品質も保証されます。
- コラボレーション：あらゆるスキルレベルの開発者が、AES のローコード環境でアプリ開発にシームレスに協力できます。
- 統合ツール：AES が複数との統合である場合に、なぜ複数のローコードツールを使用するのでしょうか？テーブルの設計からカタログのビルド、カスタムフローの作成まで、AES にはすべてが揃っています。

App Engine Studio のメリット

App Engine Studio には次のメリットがあります。

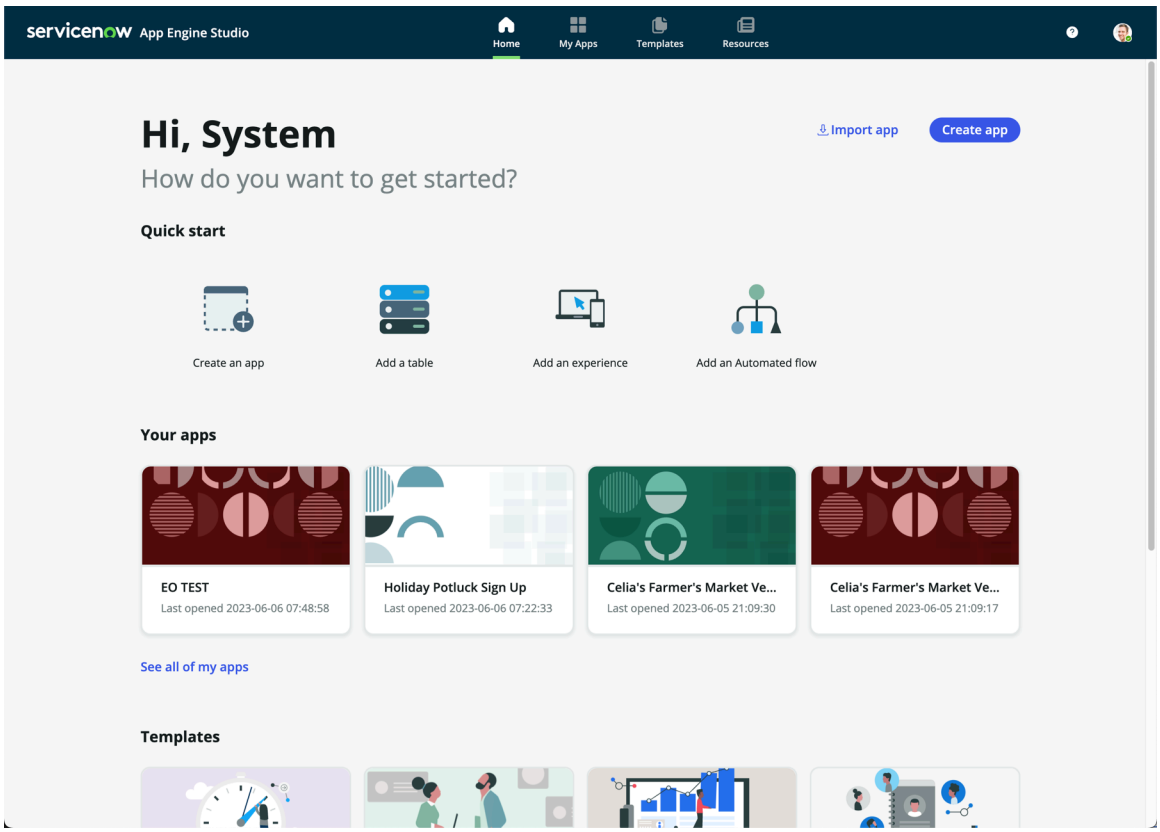
メリット	機能	ロール
アプリのアイデアを送信し、アドミニストレーターが承認します。	アプリ開発のためのアイデアの送信	市民開発者
新しいアプリをすばやく作成してカスタマイズするための開始点として、Procurement ポータルや休暇申請などの標準的なアプリケーションタイプのテンプレートを使用します。	アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成	市民開発者
テーブルビルダー や ワークスペースビルダー など、1 つのインターフェイスで複数の開発ツールにアクセスします。	AES の統合開発ツール	市民開発者
展開前にアプリケーションをレビューおよびテストするプロセスを維持しながら、開発を拡張します。	App Engine 管理センター を使用したアプリ開発の管理	アドミニストレーター

AES でローコード開発を促進

App Engine Studio のローコード開発環境を使用すると、市民開発者は高品質のアプリを迅速にビルドできます。市民開発者とは、組織内の個人であり、経験豊富なプログラマーではありませんが、アプリ作成のためのアイデアを持っている該当分野の専門家です。承認されたアイデアを使用して、市民開発者はアプリテンプレートを選択し、いくつかのパラメーターを入力して AES アプリをビルドします。作成されたアプリケーションには、データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティが含まれ、すべて組織のニーズに合わせてカスタマイズできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES ランディングページ



テンプレートから作成されたアプリは、市民開発者が定義した要件を満たすように簡単に変更できます。また、新しいアプリを最初から作成することもできます。

AES を使用して作成されたアプリをカスタマイズするには、次のタスクを実行できます。

タスク	説明
データ基盤を簡単に作成	App Engine Studio テンプレートには、ベースシステムアプリ機能を提供するために必要なものがすべて組み込まれたデフォルトのデータテーブルがあります。AES に組み込まれている テーブルビルダー アプリを使用すると、新しいテーブルの編集または追加、列の追加と削除、テーブルタイプの変更などを行うことができます。 スプレッドシートから既存のデータをインポートして、既存の手動でのスプレッドシート主導型のワークフローを簡単に自動化することもできます。
優れたエクスペリエンスの提供	エクスペリエンスは、エンドユーザーがアプリを操作するためにアクセスするロールベースのユーザーインターフェイスです。AES には、構成可能なワークスペース、ポータル、カタログアイテム、モバイルエクスペリエンスなど、いくつかの異なるエクスペリエンスタイプが含まれています。 いくつかの簡単な手順に従って、エクスペリエンスを追加できます。たとえば、名前と説明、URL、およびワークスペースにアクセスできるロールを追加して、ワークスペースをすばやく作成できます。次に、AES 内の ワークスペースビルダー ツールを使用して、組織のニーズに合わせてワークスペースエクスペリエンスを調整できます。より高度な構成は UI ビルダー で編集できます。
ワークフローテンプレートを使用し	AES テンプレートには、ユーザーエクスペリエンスを簡素化し、生産性を向上させ、ビジネスプロセスを強化するために使用できる、一連の強力なデジタルワークフローが含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスク	説明
たアプリの自動化	一般的な自動化アクティビティのリストから選択するだけで、ウィザードに従ってワークフローの構成をすばやく行うことができます。テンプレートで生成されたワークフローをニーズに合わせるには、フローデザイナー アプリを起動してワークフローを編集します。
アプリのセキュリティの維持	AES にロールを追加することで、アプリを使用するユーザーに対する制御を維持できます。アプリテンプレートには事前定義されたロールが含まれているため、セキュリティ面で有利なスタートを切ることができます。既存のロールを追加または削除したり、セキュリティニーズを満たすロールを作成したりできます。

監視を維持しながらの開発の拡張

App Engine Studio を使用すると、ガードレールを確立して維持しながら、組織全体での開発を拡張できます。AES へのアクセスを制御できます。市民開発者によって作成されたアプリを、パイプライン経由で移動させて本番環境に公開する前にレビューすることもできます。このレビュープロセスにより、作成、リリース、および展開するアプリの品質を信頼性の高いものにできます。

次に探索する内容

App Engine Studioを構成して使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- App Engine Studio および関連アプリの構成
- App Engine Studio でのアプリのビルド
- App Engine Studio 参照

AES ユーザーインターフェイス

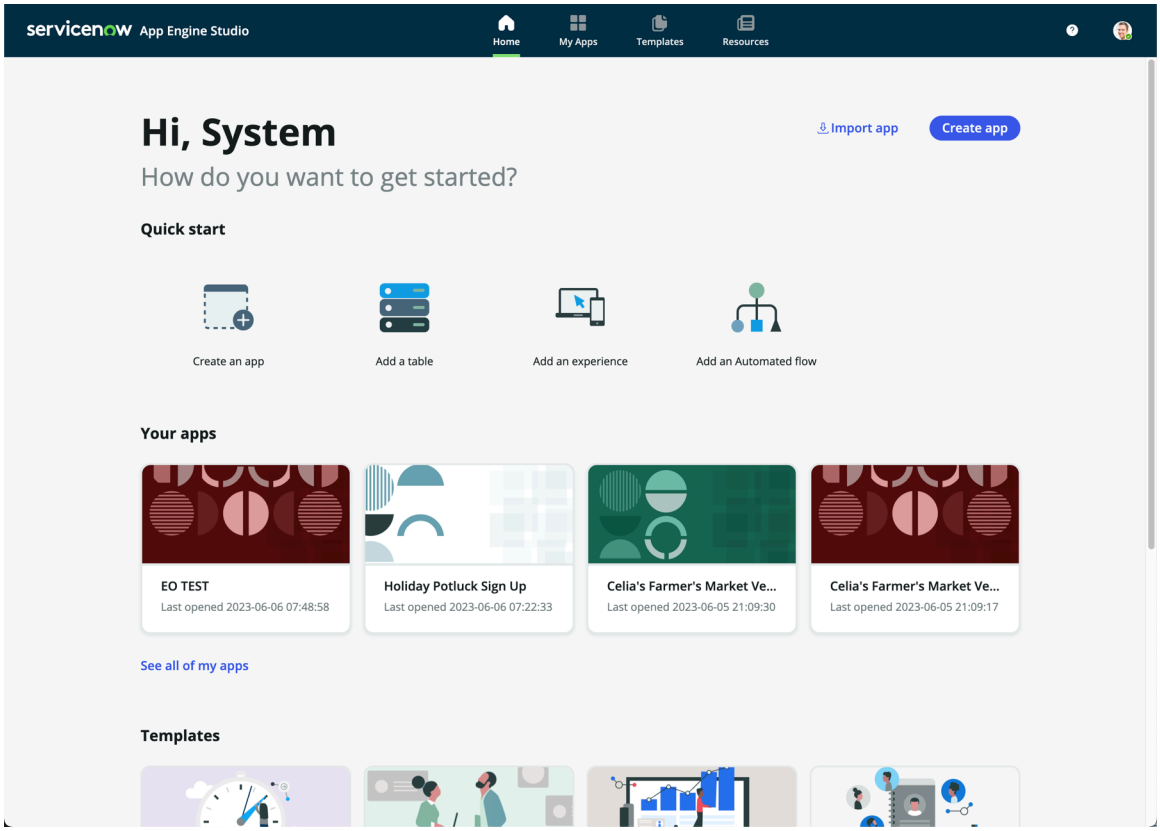
App Engine Studio (AES) ユーザーインターフェイスについて説明します。

AES は組織のカスタムアプリケーションをビルドするための Web ユーザーインターフェイスです。組織のニーズに合わせてカスタマイズできるテンプレートを使用して、アプリケーションをビルドできます。

App Engine Studio ホーム

App Engine Studio のホームページでは、アプリの作成、アプリの表示、クイックスタートアクション、およびテンプレートに簡単にアクセスできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



上部のナビゲーションバーを使用すると、アプリの表示、アプリテンプレートへのアクセス、ヘルプリソースの検索ができます。右上の を選択して、Help Center にアクセスすることもできます。

ユーザーは、AES では次の操作にアクセスできます。

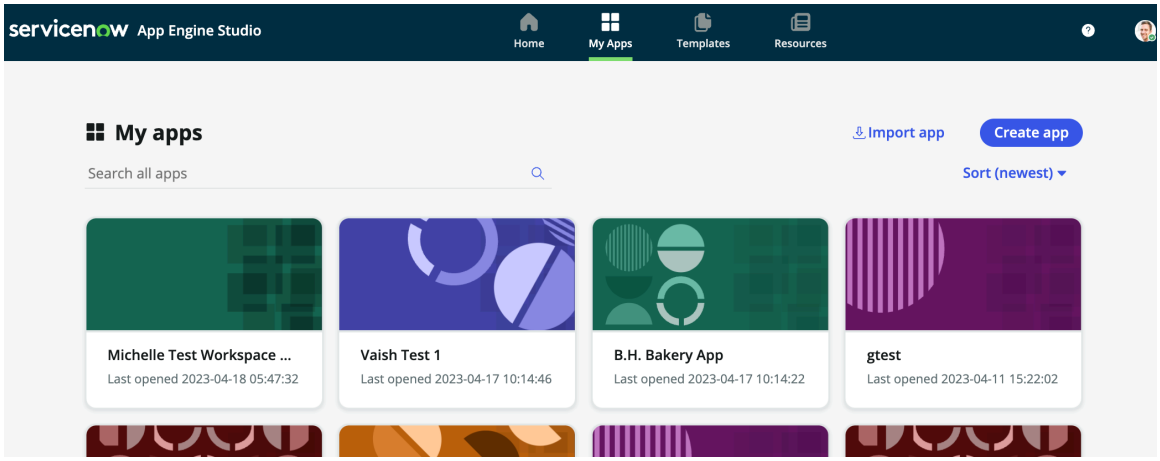
- [アプリを作成]：アプリケーションを最初から作成します。
- [クイックスタート]：アプリへのオブジェクトの追加、アプリテンプレートの参照、および App Engine Studio ツールの詳細確認のためのリンクです。
- [最近のアプリ]：App Engine Studio を使用して最近アクセスしたアプリケーションのリストです。
- [テンプレート]：事前設定されたデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティを使用してアプリケーションを作成するために使用できるテンプレートのリストです。

> **注:** App Engine Studio ユーザー制限グループに属している場合、このタブにテンプレートは表示されません。

[自分のアプリ] タブ

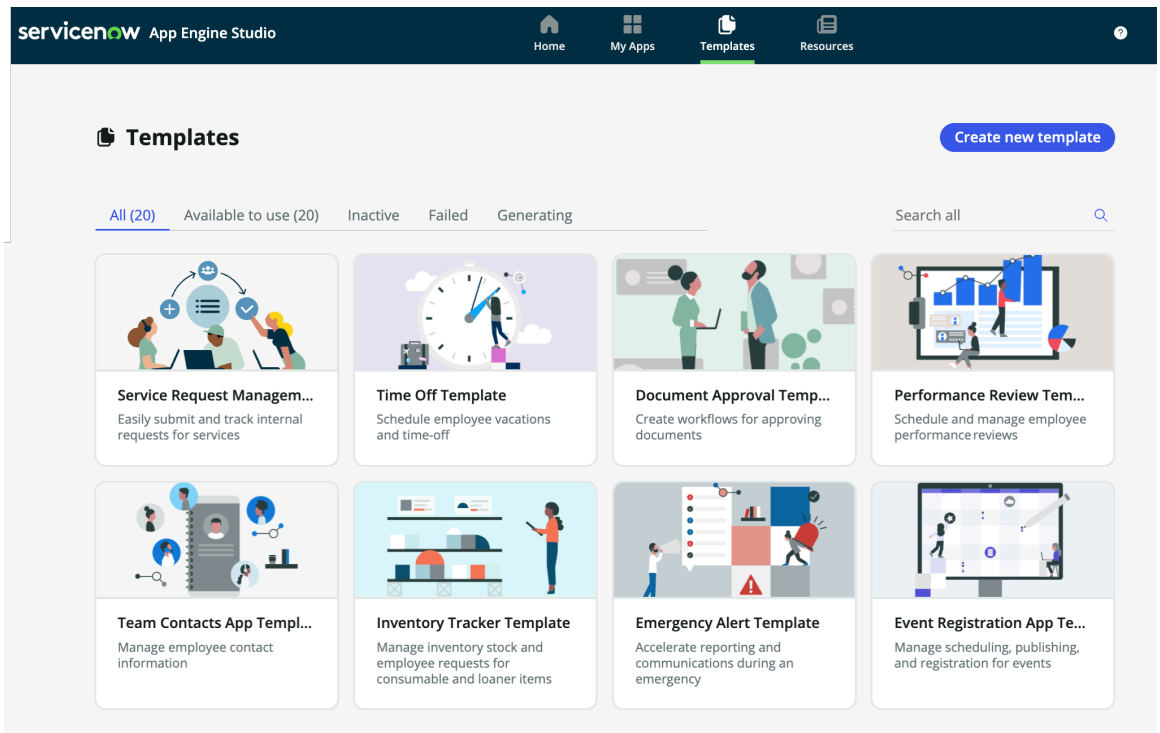
自分が作成したアプリケーションを表示および検索します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[テンプレート] タブ

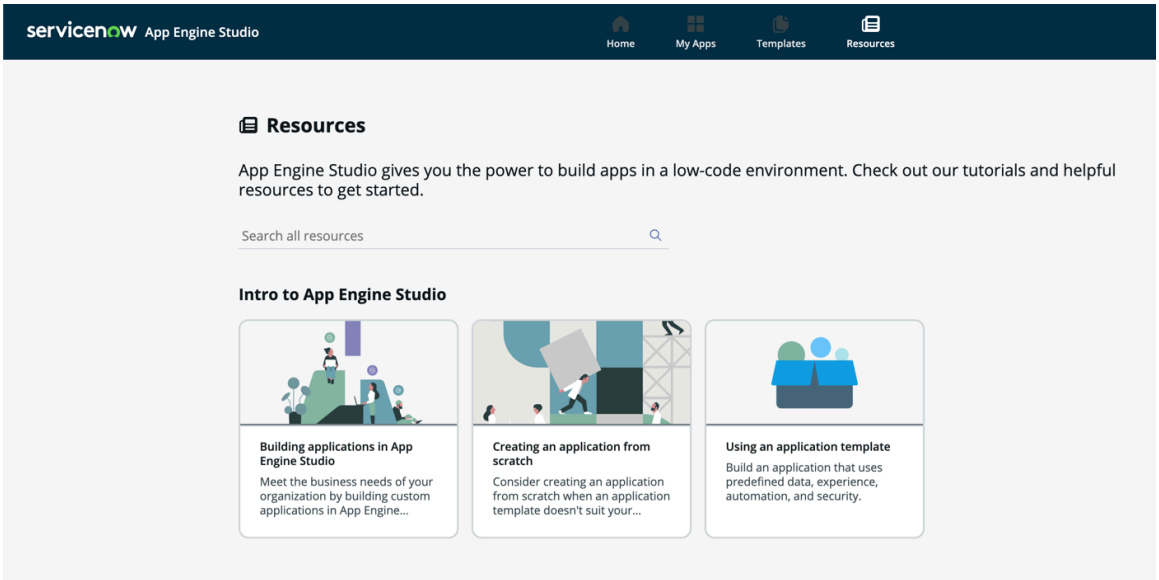
利用可能なアプリテンプレートのリストを示します。



[リソース] タブ

AES を開始するためのチュートリアルと役に立つリソースを表示します。

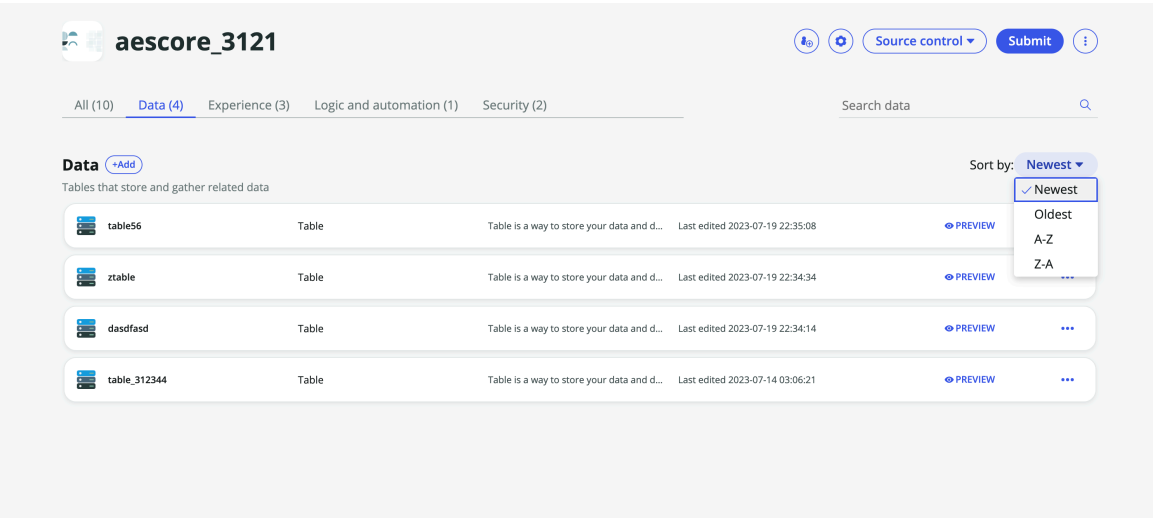
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



アプリホーム

アプリホームでは、アプリにデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティを追加します。

注: AESでアプリのホームページを表示しているときに、3 つを超えるアイテムを含むセクション (テーブルやエクスペリエンスなど) にタブ移動した場合、[ソート基準] オプションを使用して、アルファベット順または一時的に、[新しい順] または [古い順] でアイテムを表示できます。

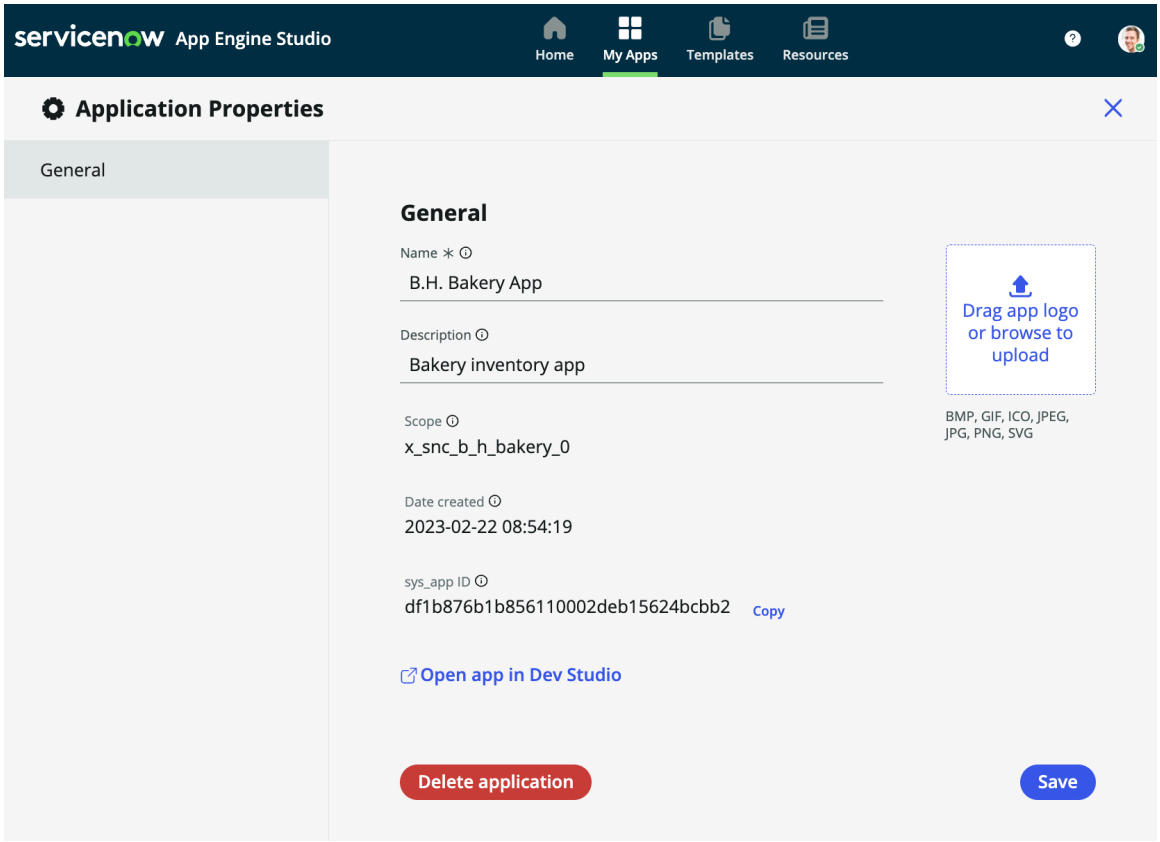


ロールに応じて、一部のオブジェクトにアクセスする必要があります。[システムアドミニストレーターにお問い合わせください] を選択して委任開発者になると、アクセス権を要求できます。委任開発者ロールの詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

アプリケーションプロパティ

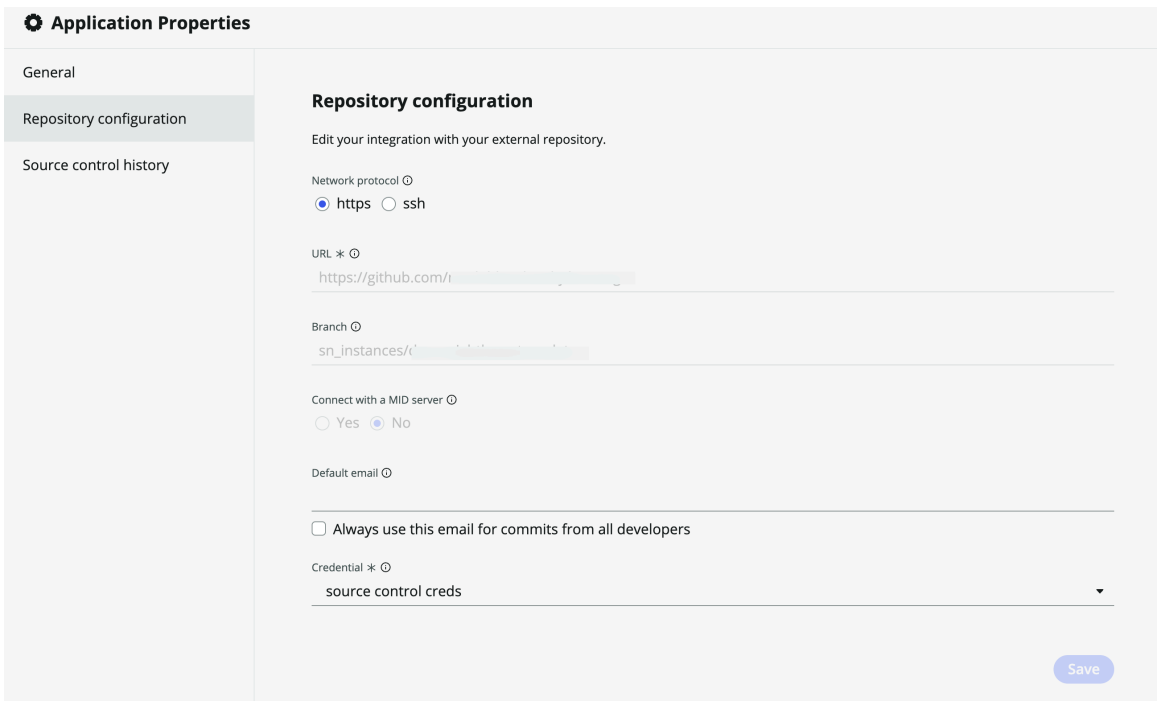
名前、説明、ロゴなど、アプリケーションの全般設定を表示します。また、ServiceNow スタジオでは自分のアプリケーションを開いたり、削除したりできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



リポジトリ構成

アプリケーションのソースコントロールリポジトリ設定を表示および編集します。



AES の統合開発ツール

App Engine Studio (AES) を使用すると、Now Platform 開発スイートで利用可能ないくつかのツールにすぐにアクセスできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine Studio を使用してアプリを作成すると、これらの強力な開発ツールで機能を拡張できます。

App Engine Studio の開発ツールと機能

ツール	説明	参照
アクセス制御	アプリケーションのアクセス制御とロールを操作します。	「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。
カタログビルダー	サービスカタログをビルドするためのガイド付きツールに、レコードプロデューサーカタログアイテムを追加します。	「標準カタログアイテムの追加」を参照してください。
の意思決定テーブルワークフロースタジオ	意思決定テーブルを使用して、意思決定ルールを追加して意思決定ロジックをコードから切り離します。	「意思決定の追加」を参照してください。
メール通知	レコードが作成または更新されたときに自動的に送信されるメール通知を作成および編集します。メール通知は、フローで参照として使用されるか、またはイベントによってトリガーすることもできます。	「メール通知の追加」を参照してください。
ERP 統合	ERP (エンタープライズリソースプランニング) データモデルをビルドし、ERP システムからデータを抽出します。	「ERP 統合」を参照してください。
ERP Customization Mining (ECM)	ERP システムのすべてのカスタマイズを特定します。	「ERP Customization Mining (ECM)」を参照してください。
のフローワークフロースタジオ	フローを追加してアプリケーションプロセスを自動化します。	「フローを最初から追加」を参照してください。
Integration Hub - インポート	データをインポートして既存のテーブルにマッピングします。	「データ統合を作成する」を参照してください。
モバイルアプリビルダー	モバイルエクスペリエンスを追加します。	「モバイルエクスペリエンスの追加」を参照してください。
プロセスオートメーションデザイナー	部門横断型プロセスを編集し、自動化されたタスク指向のビューに統合します。	「プロセスを編集する」を参照してください。
テーブルビルダー	表形式のデータモデルを操作します。テーブルビルダー は	「空白のテーブルを作成する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine Studio の開発ツールと機能 (続く)

ツール	説明	参照
	App Engine Studio 専用であり、アプリの作成に必要です。	
UI ビルダー	高度に構成可能な UI 開発ツールを使用して、ワークスペースとポータルエクスペリエンスを編集します。	「ワークスペースの追加」および「ポータルの追加」を参照してください。
Workspace Builder	カスタムワークスペースをすばやくビルドして、ユーザーがサービスデスクのようなエクスペリエンスでチケットを管理できるようにします。	次のトピックを参照してください。 • AES でのワークスペースのビルド • ワークスペースビルダー でのワークスペースの構成 • ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成 • ワークスペースビルダー でのワークスペースホームページの構成 • ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。 • ワークスペースビルダー でのワークスペースのリストの構成 • ワークスペースビルダー でのワークスペースの分析の構成

App Engine および **App Engine Studio**

App Engine は、ワークフローを自動化することで生産性を向上させる Now Platform® 製品スイートです。スターターバージョンと完全 App Engine バージョンがあります。完全バージョンには、ローコードアプリをビルドするための App Engine Studio (AES) が含まれています。

App Engine によるアプリ開発の簡素化

App Engine スターターバージョンと完全バージョン

次の表は、利用可能なアプリと、App Engine スターターバージョンと完全 App Engine バージョンの違いを示しています。

App Engine スターターと完全 **App Engine**

App Engine スターター	完全 **App Engine** バージョン
制限付きカスタムテーブル	カスタムテーブルに制限なし
ビルドできるアプリの数が限られている	無制限のアプリをビルド

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine スターターと完全 **App Engine** (続く)

App Engine スターター	完全 **App Engine** バージョン
標準の App Engine アプリ作成ツール： • UI ビルダー • 自動テストフレームワーク (ATF) • 委託開発 • ワークフロースタジオ のフロー • サービスクリエーター • サービスポータル • スタジオ IDE • ガイド付きアプリケーションクリエーター • Now® Mobile • モバイルアプリビルダー • エージェントワークスペース • ワークフロースタジオのプレイブック	標準の App Engine アプリ作成ツール： • UI ビルダー • 自動テストフレームワーク (ATF) • 委託開発 • ワークフロースタジオ のフロー • サービスクリエーター • サービスポータル • スタジオ IDE • ガイド付きアプリケーションクリエーター • Now® Mobile • モバイルアプリビルダー • エージェントワークスペース • ワークフロースタジオのプレイブック
適用外	追加の製品およびオファリング： • App Engine 管理センター (AEMC) • App Engine 内の App Engine Studio 専用アプリ ◦ App Engine 向け テーブルビルダー ◦ App Engine 向け ワークスペースビルダー • 動的翻訳 • Mobile Publishing • ビルド済みアプリ、フロー、および UI テンプレート • パフォーマンスアナリティクス • 予測インテリジェンス • ユニバーサル要求 Pro • 仮想エージェント

App Engine スターターはすべての製品に含まれています (つまり、無料です)。App Engine スターター以外の追加機能にアクセスするには、App Engine サブスクリプションの有料ライセンスが必要です。完全 App Engine バージョンでは、ユーザーは無制限のカスタムアプリと無制限のカスタムテーブルの履行者として機能できます。顧客のエンタイトルメントは、購入した App Engine サブスクリプションのタイプによって異なる場合があります。エンタイトルメントの確認については、アカウントチームにお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine に関する追加情報

App Engine に関する詳細	追加の ServiceNow リソース
ServiceNow は App Engineに関するいくつかの追加リソースを提供します。	App Engine Enterprise の購入概要とバージョンの比較 App Engine Enterprise データシート (PDF) サブスクリプション製品のエンタイトルメント カスタムテーブルガイド (PDF)

App Engine Studio の使用を開始するための学習計画

ServiceNow は、市民開発者に App Engine Studio (AES) でローコードアプリのビルドを開始するためのいくつかのクイックトレーニングモジュールを提供します。

ServiceNow 開発者サイトでは、AES でアプリを開発するための多数のリソースを提供しています。

次の学習モジュールを使用すると、アプリをビルドする方法をすぐに確認できます。

ServiceNow 開発者サイトの学習モジュール

コース	説明
初めての App Engine Studio アプリケーションのビルド	AES を使用してコレクションを追跡するアプリケーションを作成します。アプリケーションは安全で自動化され、魅力的なユーザーエクスペリエンスを提供します。
アプリとデータモデルの作成	アプリケーションで使用されるデータモデルを含む AES を使用して、ゼロからアプリケーションを作成します。データモデルは、他の学習モジュールでアプリケーションにユーザーエクスペリエンス、ロジック、自動化、およびセキュリティを追加する方法を学習するための基盤です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow 開発者サイトの学習モジュール (続く)

コース	説明
レコードプロデューサーのユーザーエクスペリエンスの作成	AES にレコードプロデューサーカタログアイテムを作成します。ユーザーは、サービスポータルのサービスカタログアイテムを使用して、要求を送信したり、タスクを作成したりできます。
ワークスペースのユーザーエクスペリエンスの作成	AES で作成されたアプリケーションでデータをレポートおよび管理するためのワークスペースを作成します。
モバイルのユーザーエクスペリエンスの作成	AES でモバイルエクスペリエンスを作成してテストし、ユーザーがどこからでもアプリケーションにアクセスできるようにします。
フローによるプロセスの自動化	AES でフローを作成して、ビジネスプロセスを自動化します。フローは人為的なミスを減らし、効率を向上させ、アプリの動作を改善します。
安全なアプリとデータ	AES を使用して、ロールを作成し、ユーザーにロールを割り当て、アプリケーションデータへのユーザーアクセスをテストすることで、アプリケーションを保護します。

その他の学習リソース

アプリケーション開発の詳細を見る
市民開発者がイノベーションを創出する方法については、ServiceNow ブログで学ぶことができます。
アプリケーションリソースへのクロススコープアクセスの定義と要求の承認または拒否の詳細については、「アプリケーションリソースへのクロススコープアクセスの定義」を参照してください。

App Engine Studio および関連アプリの構成

App Engine Studio (AES) のガイド付きセットアップでは、実装プロセスが 1 ステップずつ説明されます。各セットアップ手順を終了すると、次の手順を開始するように求められます。

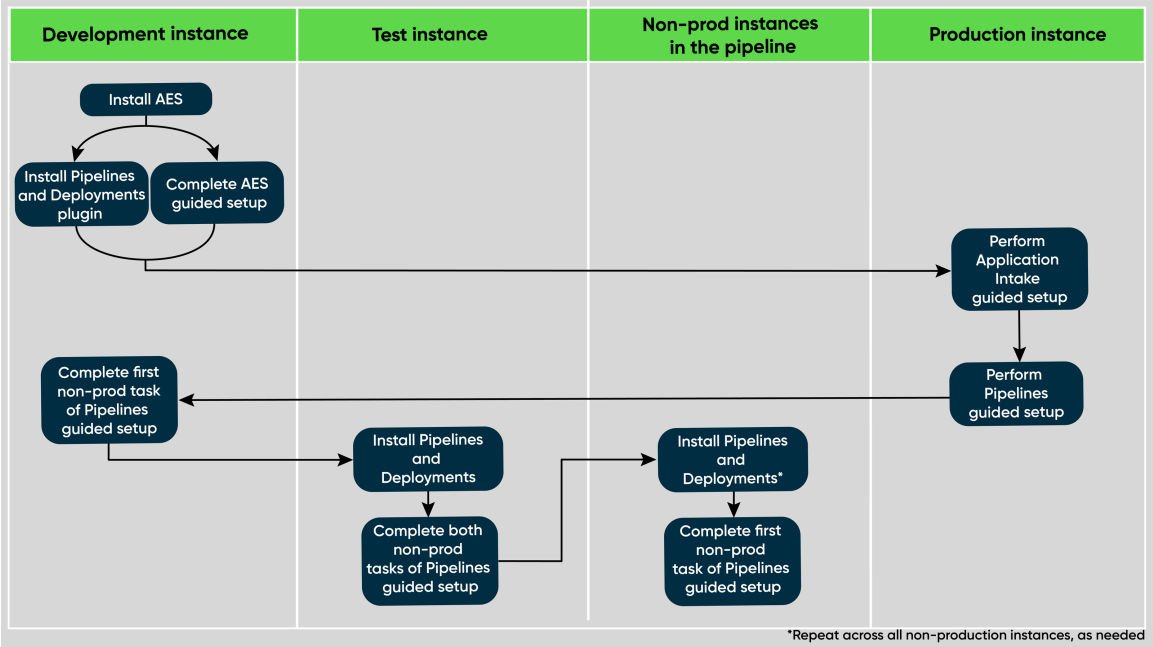
AES の構成が完了したら、AES に関連する他の製品を構成することもできます。

- App Engine 管理センター (AEMC)
- Application Intake
- パイプラインと展開

これらの各製品には、それぞれのガイド付きセットアップがあります。1 つまたは複数の製品を構成済みで、それを再度構成するように求められた場合は、その指示を無視してかまいません。次の図は、AES および関連アプリケーションを実装するための推奨方法を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES の実装



AES 通常、実装は次の手順に従います。

1. 開発インスタンスで、AES と パイプラインと展開 プラグインをインストールします。詳細については、「App Engine Studio のインストール」を参照してください。
2. AES ガイド付きセットアップを完了します。詳細については、「App Engine Studio の構成」を参照してください。
3. 本番インスタンス：
   a. アプリケーション取り込みガイド付きセットアップを完了します。詳細については、「Application Intake の構成」を参照してください。
   b. パイプラインと展開 ガイド付きセットアップを完了します。詳細については、「パイプラインと展開 の構成」を参照してください。
4. 開発インスタンスで、パイプラインと展開 ガイド付きセットアップの最初の非本番タスクを完了します。
5. テストインスタンスで、パイプラインと展開 をインストールします。
6. テストインスタンスで、パイプラインと展開 ガイド付きセットアップの両方の非本番タスクを完了します。
7. パイプライン内の他のすべての非本番インスタンス：
   a. パイプラインと展開 をインストールします。
   b. パイプラインと展開 ガイド付きセットアップの最初の非本番タスクを完了します。
8. 必要に応じて、すべての非本番インスタンスでステップ 7 を繰り返します。
9. パイプライン内の各インスタンスに AEMC プラグインをインストールします。詳細については、「App Engine 管理センター の構成」を参照してください。

   AEMC を使用すると、アドミニストレーターはアプリ開発を取り込みから本番インスタンスでの本番稼働まで管理できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 本番インスタンスを 1 つ以上の非本番インスタンスにクローンする予定の場合は、クローン作成の前に、AES 製品も本番インスタンスにインストールする必要があります。詳細については、「システムクローン」と「AES によるインスタンスのクローン作成」を参照してください。

AES とドメインセパレーション

App Engine Studio (AES) ではドメインセパレーションはサポートされていません。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル: サポートなし

- ドメインフィールドがデータテーブル に存在している可能性がありますが、データを管理するロジックがありません。
- このレベルでは、ドメイン分割は考慮されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

App Engine Studio のインストール

admin ロールを持っている場合は、App Engine Studio (AES) アプリケーション (com.snc.app-engine-studio) をインストールできます。このアプリケーションは、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします (まだインストールされていない場合)。

AES の試用版

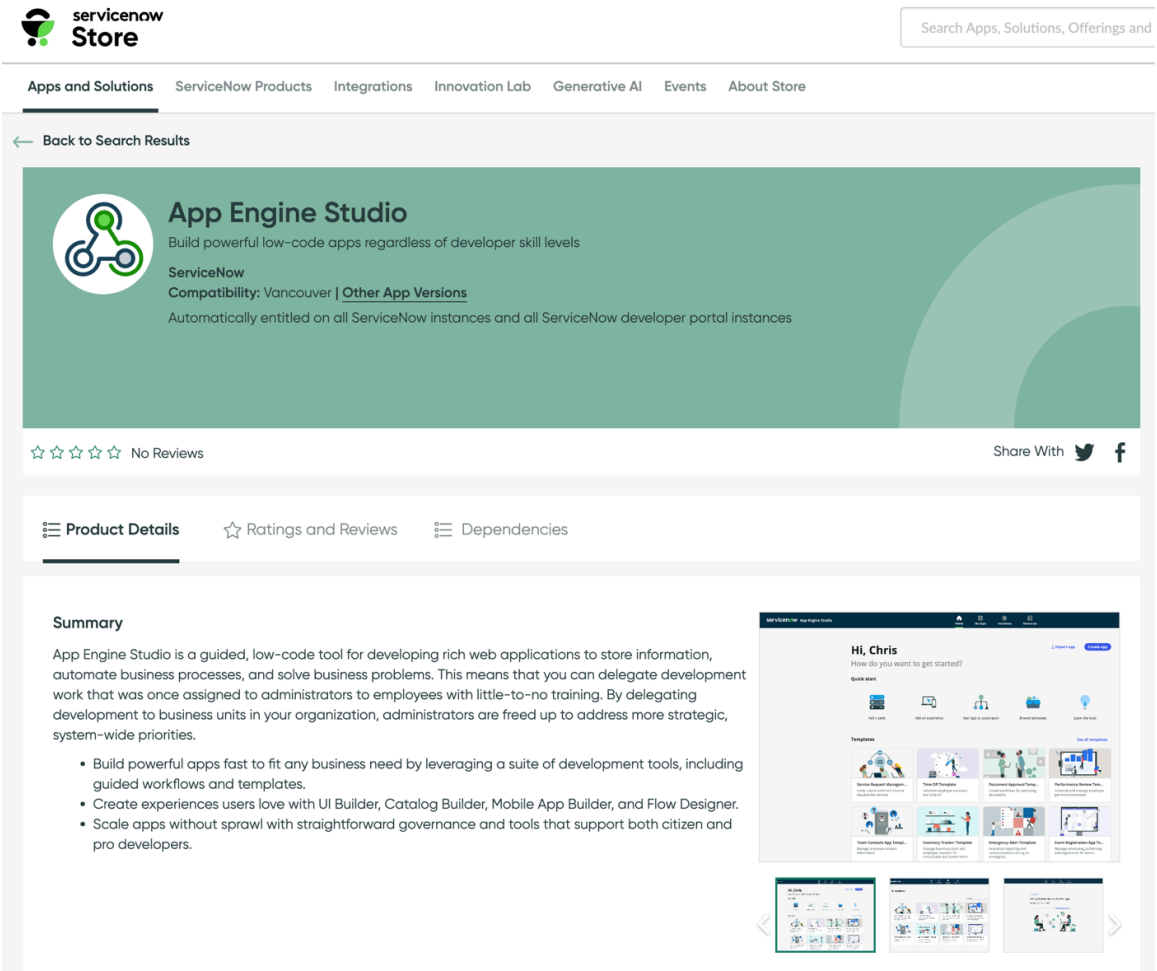
ライセンスを購入する前に AES を試すには、ライセンスを個人開発者インスタンスにインストールします。詳細については、「ServiceNow開発者プログラム」を参照してください。

注: 本番インスタンスまたは非本番インスタンスにインストールするには、App Engine Studio のサブスクリプションが必要です。詳細は、ServiceNow 担当者にお問い合わせください。

ServiceNow Store による AES のインストール

ServiceNow Store を使用すると、コア製品とアプリケーションをダウンロードできます。製品には、グループとしてライセンスされる 1 つ以上のアプリケーションが含まれています。たとえば、App Engine Studio は、テーブルビルダー や モバイルアプリビルダー などの多数のツールやアプリケーションを含む製品です。完全な AES 製品ではなく、基本的な AES アプリケーションをインストールした場合、すべての機能とツールを使用することはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、「AES アプリのエンタイトルメントの取得」を参照してください。

AES をインストールすると、次の関連アイテムもインストールされます。

- ロールとグループ
- テーブル
- プラグイン

詳細については、「AES とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

AES のインストールワークフロー

AES を初めてインストールするときに実行する必要があるタスクの概要は、次のとおりです。

1. のインスタンス戦略AESを策定します。
2. のエンタイトルメントAESを取得してライセンスがあることを確認します。
3. ServiceNow Store から、アプリケーションではなく完全な製品の をインストールAESします。
4. AES 統合およびプラグインをインストールします。

または、次の手順を実行して、既存の AES インストールを更新することもできます。

- 以前にインストールした AES バージョンの更新
- AES インスタンスの次のファミリリリースへのアップグレード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES インストールの詳細	追加の ServiceNow リソース
ServiceNow には、App Engine Studio のインストールと管理に関する追加リソースがいくつかあります。	App Engine Studio リリースノート ServiceNow コミュニティサイト Now Learning App Engine Studio の概要オンデマンドコース

AES のインスタンス戦略

ユーザーがアプリケーションを開発するすべての ServiceNow インスタンスに、App Engine Studio (AES) をインストールする必要があります。

AES に対する会社のインスタンス戦略を確立する必要があります。次のようなことを決定する必要があります。

- 社内の誰もが AES にアクセスしてアプリのビルドを開始できるようにするかどうか。
- 選択したユーザーグループにアクセス権を付与するかどうか。
- 個人がビルドしようとしているアプリに関する情報を入力できるフォームを設定して、ケースバイケースでアクセス権を付与するかどうか。その後、IT が、それらの個人にそのアプリをビルドするためのアクセス権を付与するかどうかを決定します。

本番インスタンスと同様に構成された非本番インスタンスが、テスト環境の最適な候補です。これにより、アプリケーションを本番環境に展開した場合に発生する可能性のある問題をより正確に見つけることができます。

> **注:** 本番インスタンスを 1 つ以上の非本番インスタンスにクローンする予定の場合は、クローン作成の前に、AES 製品も本番インスタンスにインストールする必要があります。詳細については、「システムクローン」と「AES によるインスタンスのクローン作成」を参照してください。

インスタンス戦略を確立したら、承認またはレビューのプロセスを確立して自動化する必要があります。AES は非本番環境で実行される製品です。複数の非本番環境を運用する組織では、どの非本番環境で AES を実行するか決定する必要があります。また、どのパイプラインを使用して特定の非本番インスタンスからテストインスタンスにアプリを昇格させるか、そして最終的にそのアプリの実際の本番環境に昇格させるか、決定する必要があります。詳細については、「パイプラインと展開」を参照してください。

AES および ServiceNow Store

App Engine Studio (AES) を使用すると、新しい機能や更新された機能をより迅速に取得できます。AES を使用する前に、そのためのエンタイトルメントがあること、つまり使用するための有効

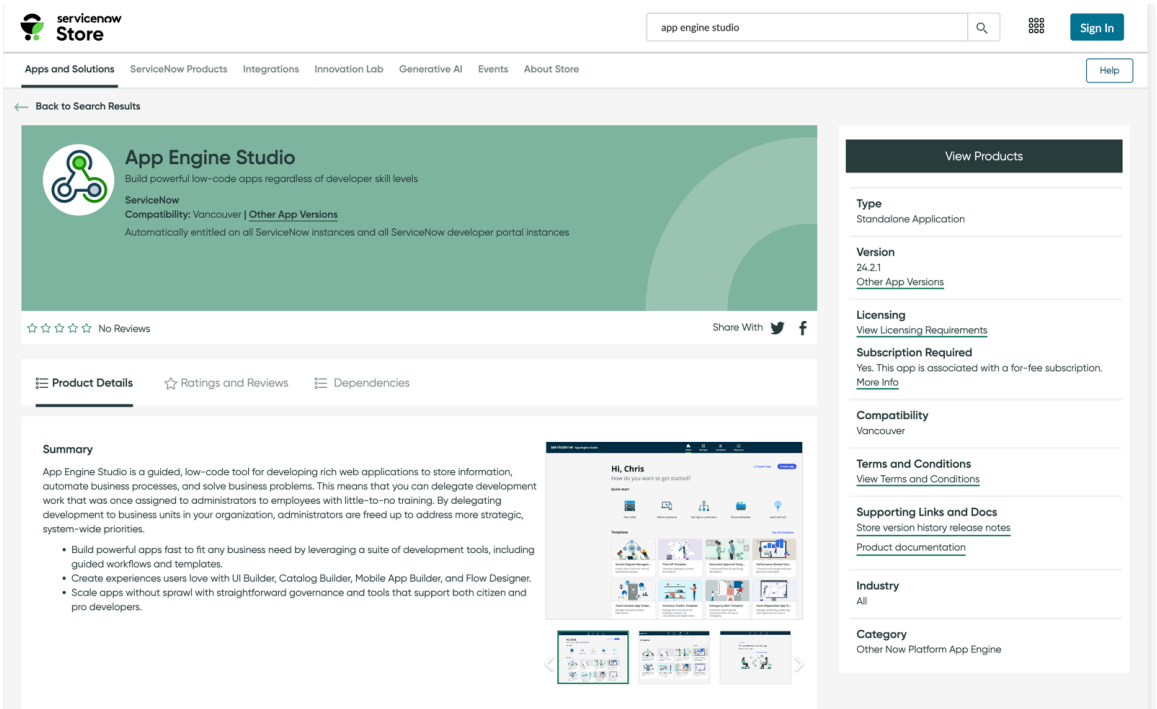
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

なライセンスがあることを確認する必要があります。続いて、AES とそのプラグインを ServiceNow Store からインストールできます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

ServiceNow Store の AES リスト



AES のインストール方法

AES を取得するために使用するプロセスは、初めて AES をインストールしているか、以前に ServiceNow Store からインストールした AES のバージョンを更新しているか、またはあるファミリリリースから次のファミリリリースにアップグレードしているかによって異なります。

AES アプリのエンタイトルメントの取得

アプリケーションまたは製品に有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認して、App Engine Studio (AES) をインストールします。エンタイトルメントとは、その製品をインストールするライセンスがあることを意味します。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。

AES アプリのエンタイトルメントを取得する

始める前に

注: 本番インスタンスまたは非本番インスタンスにインストールするには、App Engine Studio のサブスクリプションが必要です。詳細は、ServiceNow 担当者にお問い合わせください。

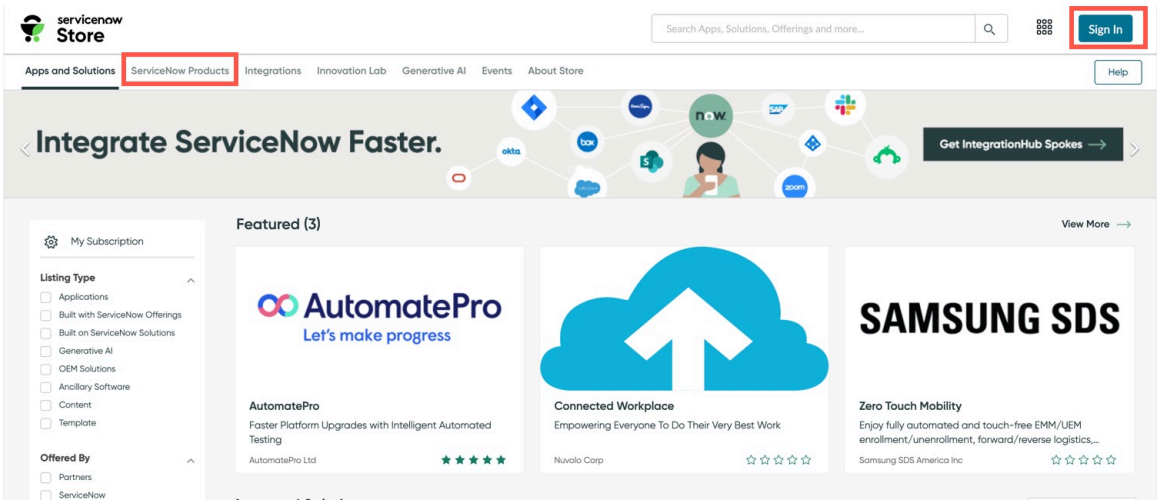
エンタイトルメントを実行する個人には、Now Support アカウントと、検討中のインスタンスのアプリケーションを要求する権限が必要です。

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

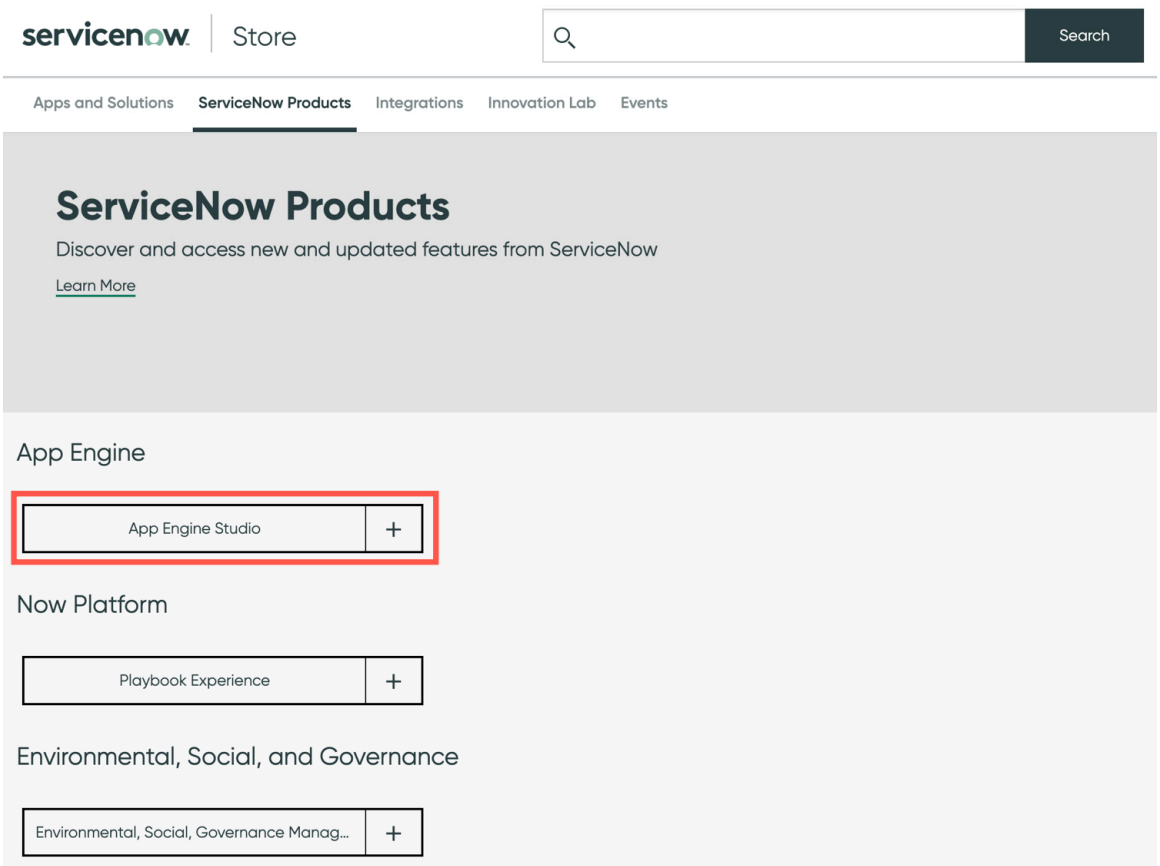
手順

1. ServiceNow Store に移動します。
2. [サインイン] を選択し、Now Support 認証情報を使用してログインします。



統合とその他のタイプのコンテンツが [認定アプリ **(Certified Apps)**] タブに表示されます。

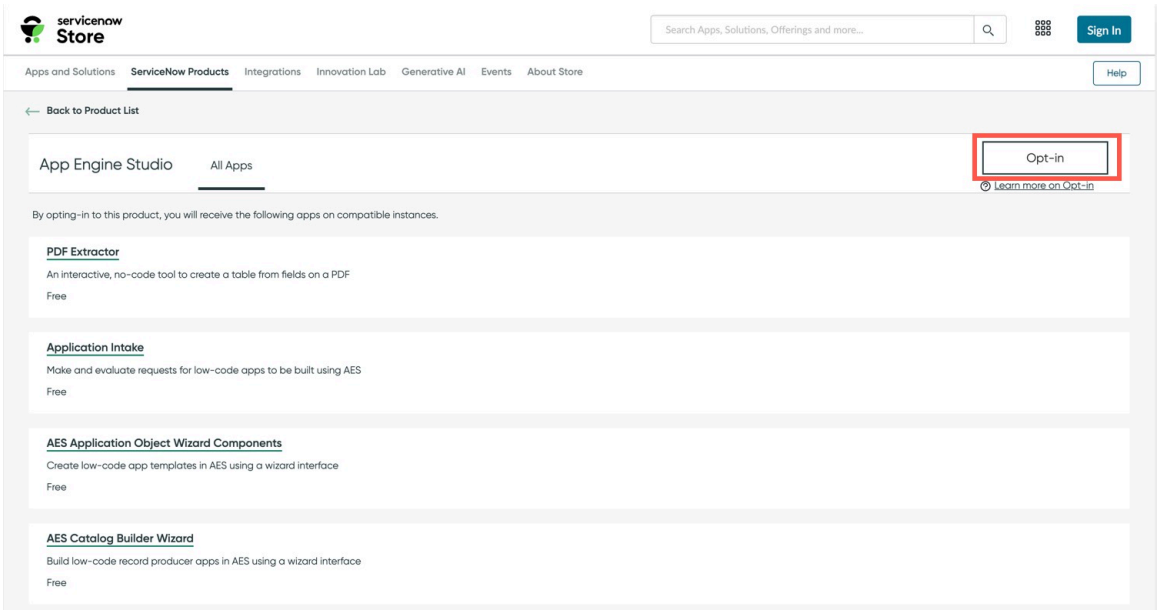
3. **[ServiceNow** 製品] タブを選択して、利用可能なすべての ServiceNow 製品を表示します。



4. **[App Engine Studio]** を選択します。

> **注:** コア製品のエンタイトルメントを取得すると、その下にリストされているアプリケーションについてもエンタイトルメントを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



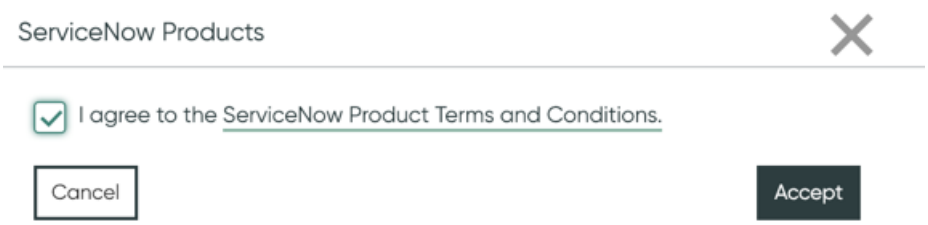
このページには、エンタイトルメントを取得している AES 製品に関連付けられているすべてのアプリケーションが一覧表示されます。

5. [オプトイン] を選択して、製品とアプリケーションのエンタイトルメントがあることを確認します。

   注: AES サブスクリプションを購入しない限り、[オプトイン] ボタンは使用できません。

6. ServiceNow Store で ServiceNow の契約条件を読んで同意することを求められたら、チェックボックスをオンにして [承認] を選択します。

   エンタイトルメントについてのオプトインは、製品ごとに 1 回限りのプロセスです。



   製品名の横にチェックマークが表示され、[エンタイトルメントを管理 **(Manage Entitlements)**] ボタンが表示されます。このボタンは、ユーザーが製品とその関連アプリケーションに登録されていることを示します。

7. [エンタイトルメントを管理 **(Manage Entitlements)**] ボタンを選択し、次のいずれかのオプションを指定して、エンタイトルメントを持つアプリケーションの影響を受けるインスタンスを変更します。
   - すべてのエンタイトルメントを解除する **(Remove all existing entitlements)**
   - すべてのインスタンスにエンタイトルメント **(Entitle all instances)**
   - 選択したインスタンスにエンタイトルメント **(Entitle selected instances)**

タスクの結果

AES をインストールしてアクティブ化します。[すべて] > [会社のアプリケーション] に移動し、App Engine Studio を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow Store から初めて AES をインストールする

ServiceNow Store から App Engine Studio (AES) を初めてインストールします。インストールにはいくつかの簡単な手順が含まれます。ServiceNow Store で実行される手順と、Now Platform のインスタンスで実行される手順があります。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

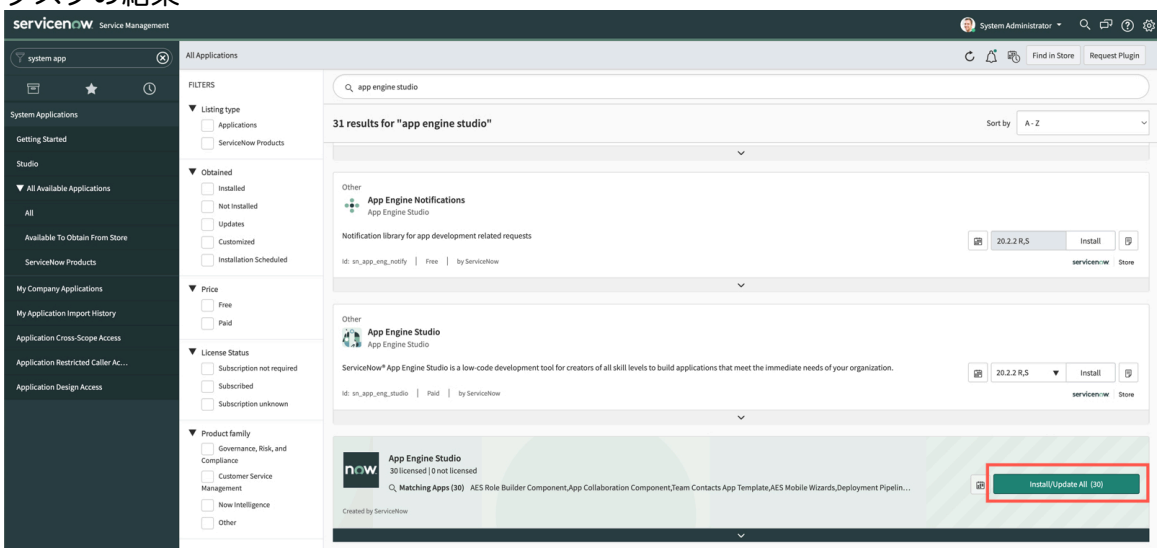
ServiceNow Store を使用すると、コア製品とアプリケーションをダウンロードできます。製品には、グループとしてライセンスされる 1 つ以上のアプリケーションが含まれています。たとえば、App Engine Studio は、テーブルビルダー や モバイルアプリビルダー などの多数のツールやアプリケーションを含む製品です。完全な AES 製品ではなく、基本的な AES アプリケーションをインストールした場合、すべての機能とツールを使用することはできません。

AES 製品とともにインストールされるすべての依存関係とツールのリストについては、ServiceNow Store のリストを参照してください。

手順

1. ServiceNow Store で、製品とその依存アプリケーションに対するエンタイトルメント (またはライセンス) があることを確認します。
2. ServiceNow Store から AES をインストールします。
3. インスタンスでインストールを実行し、すべてのプラグインを承認します。

タスクの結果



AES 製品と統合のインストール

App Engine Studio (AES) 製品をインストールして、すべての依存関係、統合、ツール (テンプレートやビルダーなど) を取得したことを確認します。

始める前に

ストアのインストールには Now Support アカウントが必要です。サポートしているインスタンスのアプリケーションを要求する権限も必要です。

必要なロール：admin

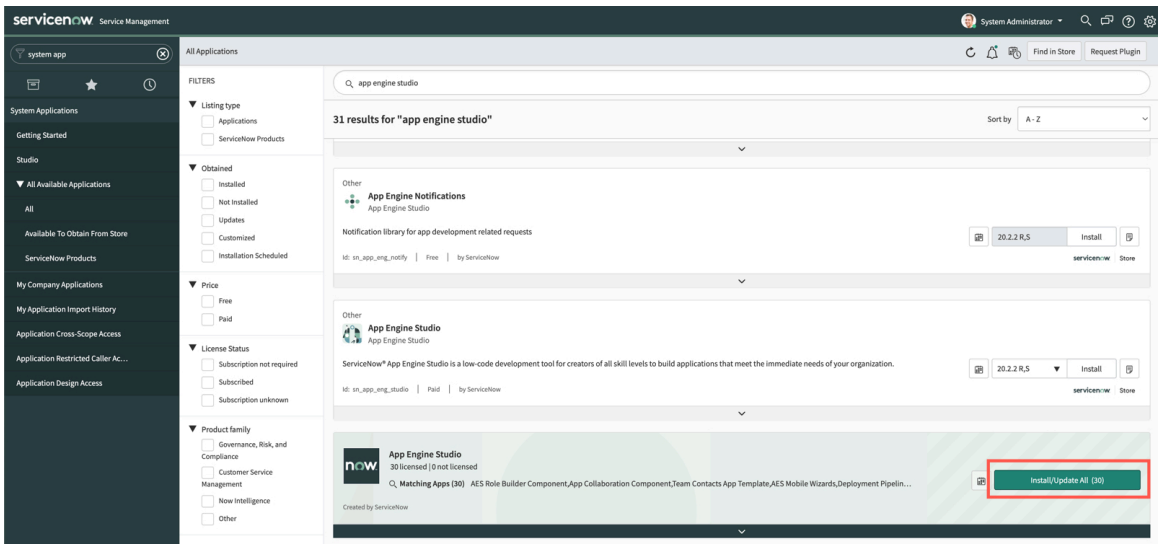
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. App Engine Studio 製品 (アプリケーションではなく) を見つけて、[インストール] をクリックします。

   ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

   注: アプリケーションではなく、AES 製品を選択する必要があります。



3. [インストール] ダイアログボックスで、インストールするアプリケーションと依存関係のリストを確認します。
   依存するプラグインとアプリケーションがインストールされている場合、現在インストールされている場合、またはインストールする必要がある場合は、リストに表示されます。インストールする必要があるプラグインまたはアプリケーションがある場合は、App Engine Studio をインストールする前にインストールする必要があります。
4. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

   重要: インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

5. [インストール] を選択します。

タスクの結果
App Engine Studio が使用しているインスタンスにインストールされます。

以前にインストールした AES バージョンの更新

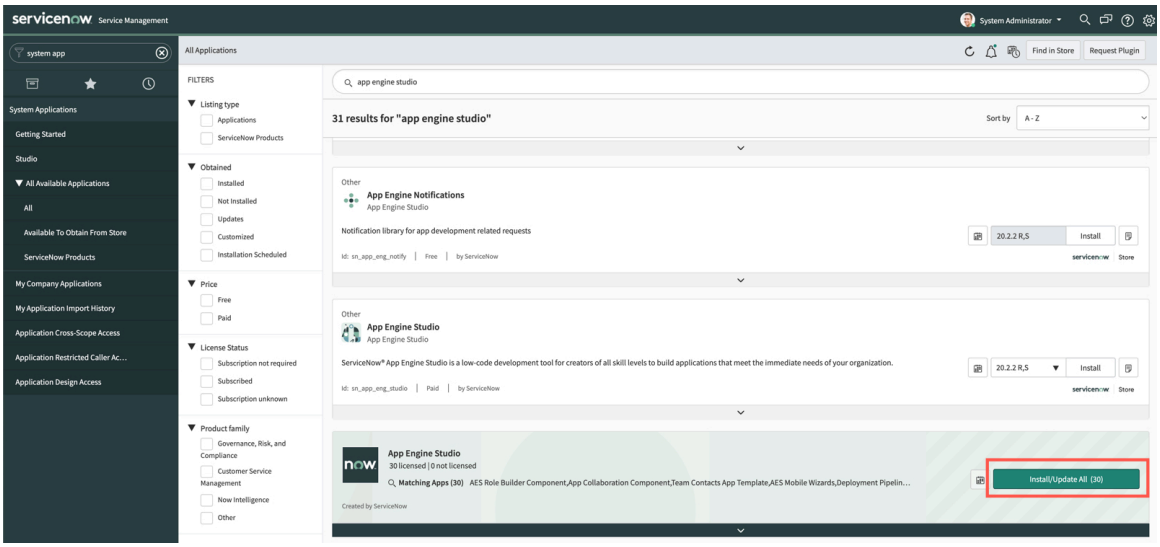
以前に ServiceNow Store から App Engine Studio (AES) をインストールしていて、新しいバージョンが利用可能な場合は、インスタンスのバージョンを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて] に移動します。
2. `App Engine Studio` を検索します。



3. 更新するバージョンを選択し、[更新] または [インストール/すべて更新 **(Install/Update All)]** を選択します。

タスクの結果
App Engine Studio は、インスタンス上で自動的に更新されます。

AES インスタンスの次のファミリリリースへのアップグレード

現在ファミリリリース (Rome など) を実行していて、App Engine Studio (AES) を次のリリースにアップグレードする場合は、ServiceNow Store からアプリケーションを取得する必要はありません。

プラットフォームが必要な最低バージョンに更新されると、アプリケーションが自動的に更新されます。

AES とともにインストールされるコンポーネント

いくつかのタイプのコンポーネント (テーブル、ユーザーロールなど) が、App Engine Studio (AES) プラグインのアクティブ化とともにインストールされます。

注: アプリケーションファイルテーブルには、このアプリケーションとともにインストールされたコンポーネントがリストされています。このテーブルへのアクセス手順については、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるロール

ロール タイトル [名前]	説明	ロールを含む
App Engine Studio admin [app_engine_admin]	ユーザー、アプリ構成、その他の管理タスクを含む AES を管理します。 このロールは、App Engine Studio アドミングループのユーザーに自動的にアサインされます。	• sn_request_read • sn_request_write • sn_app_eng_studio.user
App Engine Studio アプリテンプレートアドミン [app_template_admin]	テンプレートの使用、共有、アクティブ化または非アクティブ化を管理します。 このロールは、アドミニストレーターによって個々のユーザーに割り当てられます。詳細については、「テンプレートアクセスの管理」を参照してください。	• app-template-author • app-template-runner • flow-designer • flow-operator
App Engine Studio ユーザー [sn_app_eng_studio.user]	App Engine Studio でアプリケーションをビルドします。 このロールは、App Engine Studio ユーザーグループのユーザーに自動的にアサインされます。詳細については、「AES へのユーザーアクセスの許可」を参照してください。	• catalog_builder_editor • app_template_runner • sn_g_app_creator.app_creator • sn_table_builder.user

インストールされるテーブル

テーブル	説明
アプリの詳細 [sn_app_eng_studio_app_details]	開発者が App Engine Studio でアプリケーションを作成するために使用した操作の詳細。このテーブルは、開発者が App Engine Studio でアプリケーションをビルドすると自動的に更新されます。
プロジェクト内のアプリケーション [sn_app_eng_studio_project_application_m2m]	開発者が App Engine Studio で作成するアプリケーション。このテーブルは、開発者が App Engine Studio でアプリケーションをビルドすると自動的に更新されます。
環境	アプリケーションの開発、テスト、または起動に使用するインスタンス。App Engine

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明
[sn_pipeline_environment]	Studio の環境を定義するときに、このテーブルを更新します。
展開要求 [sn_deploy_pipeline_deployment_request]	App Engine Studio で開発者が作成したアプリケーションのレビューと公開を要求します。レビュー担当者は、展開要求フォームで、アプリケーションをさまざまな環境に展開したり、アプリケーションを承認または却下したり、開発者にフィードバックを送信したりできます。詳細については、「パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理」を参照してください。
パイプライン [sn_pipeline_pipeline]	アプリケーションをさまざまな環境に展開するための構成。一度にアクティブ化できるパイプラインは 1 つだけです。App Engine Studio からアプリケーションを展開するためのパイプラインを作成するときに、このテーブルを更新します。詳細については、「パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理」を参照してください。
プロジェクト管理 [sn_app_eng_studio_project]	App Engine Studio 開発セッションの詳細。開発者が App Engine Studio でアプリケーションを作成すると、プロジェクトが自動的に作成されます。このテーブルは、開発者が App Engine Studio でアプリケーションをビルドすると自動的に更新されます。
リソースコンテンツ [sn_app_eng_studio_resources_content]	App Engine Studio で開発者がアクセスできるヘルプリソース。このテーブルには、App Engine Studio のデフォルトのユーザーエクスペリエンスをサポートする構成が含まれています。
リソースコンテンツのトピック [sn_app_eng_studio_resources_content_topic]	App Engine Studio のヘルプリソースの分類。このテーブルには、App Engine Studio のデフォルトのユーザーエクスペリエンスをサポートする構成が含まれています。
分類 [sn_app_eng_studio_taxonomy]	App Engine Studio で開発者が作成するアプリケーションファイル。このテーブルは、開発者が App Engine Studio でアプリケーションをビルドすると自動的に更新されます。
分類カテゴリ [sn_app_eng_studio_taxonomy_category]	App Engine Studio のアプリケーションファイルの分類。デフォルトでは、アプリケーションファイルはデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、またはセキュリティとして分類されます。このテーブルに

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明
	は、App Engine Studio のデフォルトのユーザーエクスペリエンスをサポートする構成が含まれています。
分類の詳細 [sn_app_eng_studio_taxonomy_details]	App Engine Studio で開発者が作成するアプリケーションファイルの詳細。このテーブルには、App Engine Studio のデフォルトのユーザーエクスペリエンスをサポートする構成が含まれています。

注: パイプラインに関連するテーブルに、次のデータプリザーバーが追加されます。

- 環境
- パイプライン
- パイプライン環境注文
- パイプラインタイプ

データプリザーバーは、非本番インスタンスでのクローン作成中に、これらのテーブルのレコードが上書きされないようにします。詳細については、「クローン作成ターゲットインスタンスのデータ保持」を参照してください。

App Engine Studio の構成

App Engine Studio (AES) のガイド付きセットアップには一連のタスクがあり、使用している ServiceNow インスタンスで AES を構成するために役立ちます。

App Engine Studio は、アプリケーションを開発する予定のインスタンスにインストールする必要があります。以前のバージョンでは、パイプライン内のすべてのインスタンスに AES をインストールする必要がありました。

本番インスタンスを 1 つ以上の非本番インスタンスにクローンする予定の場合は、クローン作成の前に、AES 製品も本番インスタンスにインストールする必要があります。詳細については、「システムクローン」を参照してください。

AES 構成の詳細	追加の ServiceNow リソース
ServiceNow には、App Engine Studio の構成と管理に関するいくつかの追加リソースがあります。	App Engine Studio リリースノート ServiceNow コミュニティサイト

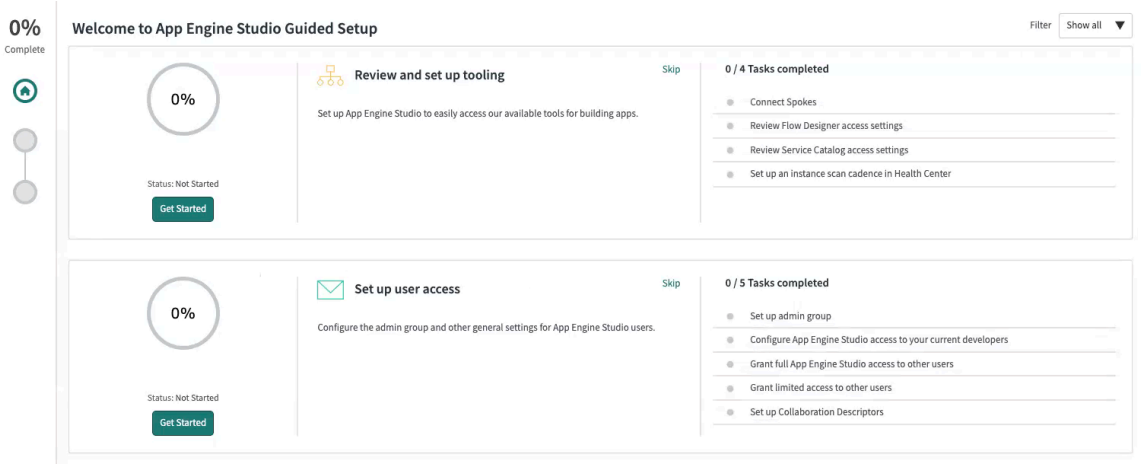
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES 構成の詳細	追加の ServiceNow リソース
	セキュリティの追加に関する App Engine Studio ビデオ

AES を構成するためのガイド付きセットアップ

App Engine Studioガイド付きセットアップのガイド付きセットアップを開くには、[すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]** > [構成] > [ガイド付きセットアップ] に移動します。

ランディングページには、さまざまなツールとユーザーアクセスに関する情報が表示されます。右上隅にある [開始] ボタンを選択して、構成を開始します。



App Engine Studio の [ガイド付きセットアップ] ページには、さまざまなカテゴリのリストが表示されます。各カテゴリの下にある [開始] ボタンを選択して、App Engine Studio の構成を開始します。

注: 以前にいずれかのガイド付きセットアップタスクを開始し、完了せずに終了した場合、[開始] ボタンには [続行] というラベルが付けられます。

ガイド付きセットアップから開始されたタスクの詳細な手順については、「AES 構成タスクの実行」を参照してください。

AES のペルソナとロールの構成

スタッフの責任は、各メンバーにアサインされるロールによって制御されます。ペルソナは明示的に App Engine Studio (AES) の一部ではありませんが、アドミニストレーターはロールをアサインして、チームメンバーに AES を構成または使用する権限を付与します。

ローコード/市民開発者

ローコード/市民開発者は技術に精通しており、アプリの作成に興味があります。正式なコーディングやアプリ開発のトレーニングを受けていない場合でも、市民開発者は新しいアプリのアイデアを送信し、承認された場合は AESを使用してビルドできます。

App Engine Studio admin

App Engine Studio アドミニストレーターは、AES のアプリ開発に関連するすべてのプロセスを管理します。通常は App Engine 管理センターで、新しいアプリのアイデアをレビューし、アプリ開発と展開を管理し、協力者を管理します。

アプリテンプレートアドミン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリテンプレートアドミニストレーターは、App Engine Studio のアプリ開発用に適切なユーザーが事前定義されたカスタムテンプレートにアクセスできるようにします。

アプリテンプレート作成者

アプリテンプレート作成者は、App Engine Studio でカスタムアプリテンプレートを作成および編集し、他のユーザーまたはグループと共有できます。

セキュリティアドミン

セキュリティアドミンは、アプリのロールとアクセス制御リストを作成および変更します。このロールはプラットフォームレベルで設定され、App Engine Studio のロールを更新するために必要です。

システムアドミニストレーター

システムアドミニストレーターは、セキュリティ上の制約に関係なく、すべてのシステム機能、機能、およびデータにアクセスできます。この権限は慎重に付与してください。保護する必要がある HR レコードなどの機密情報がある場合は、その領域のカスタム admin ロールを作成し、それらのレコードを表示する権限を持つユーザーをアドミニストレーターとしてトレーニングする必要があります。

プロフェッショナルの ServiceNow 開発者

プロフェッショナルの ServiceNow 開発者は、通常は市民開発者の協力者として App Engine Studio で作業できます。ただし、コーディングの知識と開発の経歴により、より複雑なビルドツールを使用して Now Platformでアプリをビルドおよびカスタマイズする可能性が高くなります。

AES のペルソナ

ペルソナ	必要なロール	役割
ローコード/市民開発者	App Engine Studio ユーザーグループ (sn_app_eng_studio.user)	• App Engine Studio でビルドする新しいカスタムアプリケーションの要求を送信します。 • ServiceNow およびアプリケーション開発のベストプラクティスを理解します。 • App Engine Studio でアプリケーションをビルドおよびテストします。 • IT レビューのために App Engine Studio アプリケーションを送信します。 • 取り込みプロセス中に決定された場合、アプリケーションをライフサイクル中に管理および変更します。
	App Engine Studio ユーザー制限グループ (sn_app_eng_studio.user)	• 表示する権限を与えられたアプリケーションで他のユーザーとコラボレーションします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES のペルソナ（続く）

ペルソナ	必要なロール	役割
		• IT レビューのために App Engine Studio アプリケーションを送信します。 • ServiceNow およびアプリケーション開発のベストプラクティスを理解します。 **注:** App Engine Studio ユーザー制限グループのユーザーは新しいアプリを作成できません。
App Engine Studio 管理グループ	• atf_test_designer • scan_admin • app_engine_admin	• App Engine Studio のプロセスとプロパティを管理します。 • システムアドミニストレーターによって定義された取り込みガードレールに基づいて、送信されたアプリケーション要求をレビューして承認/却下します。 • App Engine Studio ユーザーアクセスをプロビジョニングします。 • 送信された App Engine Studio アプリケーションをレビューします。 • 展開要求を管理します。 • インスタンス全体で App Engine Studio アプリケーションの昇格を管理します。 • テストインスタンスで ATF テスト/スイートを実行します。 • インスタンススキャンが適切な定義で実行されていることを確認します。 • システムアドミニストレーターと協力して、プラットフォームで発生するアプリケーションの競合を解決します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES のペルソナ（続く）

ペルソナ	必要なロール	役割
アプリテンプレートアドミン	app_template_admin	• カスタムテンプレートと事前定義されたテンプレートへのアクセスを制御します。 • テンプレートをアクティブ化または非アクティブ化します。 • テンプレートをグローバルに共有するか、ユーザーやグループと共有します。
アプリテンプレート作成者	app_template_author	• App Engine Studio でカスタムテンプレートを作成および編集します。 • カスタムテンプレートをユーザーまたはグループと共有します。
セキュリティアドミン	security_admin	• ロールとアクセス制御リストを作成および変更します。 • App Engine Studio のロールを更新するために必要です。
システムアドミニストレーター	管理	• App Engine Studio とその依存アプリをインストールして構成します。 • 環境を定義します。 • パイプラインを構成します。 • App Engine Studio アドミングループへのアクセスをプロビジョニングします。 • App Engine Studio アプリケーションをアップグレードします (該当する場合)。 • AES アドミニストレーターがアプリケーション取り込み要求を承認または却下できるガードレールを定義します。 • プロフェッショナルの ServiceNow 開発者と協力して、プラットフォームのインスタンススキャン定義を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES のペルソナ（続く）

ペルソナ	必要なロール	役割
		• AES アドミニストレーターと協力して、プラットフォームで発生するアプリケーションの競合を解決します。
プロフェッショナルの ServiceNow 開発者	• atf_test_admin • delegated_developer • scan_admin • sn_app_eng_studio.user	• ServiceNow スタジオ および App Engine Studioでアプリケーションをビルドおよびテストします。 • 必要に応じて市民開発者と協力して、App Engine Studio でアプリケーションを展開します。これには次のタスクが含まれます。 ◦ 市民開発者が、アプリケーション開発と組織のベストプラクティスに従うことを確認します。 ◦ 送信された App Engine Studio アプリケーションのレビューとテストを支援します。 ◦ UI ビルダー、モバイルアプリビルダー、ワークフロースタジオ、またはその他のビルダーツールを使用して複雑な構成をビルドします。 • アプリケーションの ATF テスト/スイートを作成します。 • システムアドミニストレーターと協力して、プラットフォームのインスタンススキャン定義を作成します。

AES 構成タスクの実行

App Engine Studio (AES) ガイド付きセットアップの手順を実行するときに、さまざまな構成タスクを実行する必要があります。

環境、ツール、ユーザーアクセスの設定

App Engine Studio を構成するためのタスクと、それらを完了するための詳細な手順へのリンクを以下に示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine Studio 構成タスク

タスク	説明
開発インスタンスに App Engine Studio をインストールします。	admin ロールを持っている場合は、App Engine Studio アプリケーション (com.snc.app-engine-studio) をインストールできます。 このアプリケーションは、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします (まだインストールされていない場合)。 詳細な手順については、「App Engine Studio のインストール」を参照してください。
インスタンス認証情報を設定します。	使用しているインスタンスごとに、接続情報と認証情報エイリアスを作成します。エイリアスタイプが [接続および認証情報]ではなく、[認証情報] であることを確認します。 詳細な手順については、「インスタンス認証情報の設定」を参照してください。
プロセスオートメーションデザイナーをアクティブ化します。	App Engine Studio でプロセスを編集できますが、開始するには、App Engine Studio の プロセスオートメーションデザイナーを有効にし、**APP** エンジンのプロセスオートメーションデザイナー **[com.glide.pad.license]** プラグインを有効にする必要があります。詳細については、「 プレイブックをアクティブ化します」を参照してください。
IntegrationHub スポークを設定します。	スポークをアクティブ化して、統合専用のコンテンツで フローデザイナー および App Engine Studio エクスペリエンスを向上させます。 App Engine Studio では次のスポークを使用できます。 • Gmail スポーク • Google Sheets Spoke • Jira スポーク • Microsoft 365 Excel Spoke • Microsoft Teams スポーク • Slack スポーク • Twilio スポーク • Twitter スポーク • Zoom スポーク
開発インスタンスでワークフローデザイナーのアクセス設定を確認します。	開発者が最適な編集機能を使用できるようにします。 詳細な手順については、「フローデザイナーのアクセス設定を確認」を参照してください。
カタログビルダーのアクセス設定を確認します。	開発者が適切なカタログとカテゴリにアイテムを追加できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine Studio 構成タスク (続く)

タスク	説明
	詳細な手順については、「カタログビルダーのアクセス設定の確認」を参照してください。
Health Center でインスタンスのスキャン周期を設定します。	App Engine Studio でのアプリケーション開発で発生する可能性のある問題を特定できるように、インスタンスの定期的なスキャンをスケジュールします。 詳細な手順については、「Health Center でのインスタンスのスキャン周期の設定」を参照してください。
本番インスタンスで、App Engine Studio アドミングループにユーザーを追加します。	メンバーをグループに追加して、アプリや展開に関連する要求をレビューできるようにします。また、グループの連絡先のメールアドレスを定義します。 詳細な手順については、「App Engine アドミングループへのユーザーの追加」を参照してください。
開発インスタンスで、App Engine Studio ユーザーグループに開発者を追加します。	組織内の開発者が App Engine Studio でアプリケーションをビルドできるようにします。 詳細な手順については、「AES へのユーザーアクセスの許可」を参照してください。
開発インスタンスで、App Engine Studio ユーザー制限グループにユーザーを追加します。	組織内の開発者が App Engine Studio で作成したアプリケーションで共同作業できるようにします。 詳細な手順については、「AES へのユーザーアクセスの許可」を参照してください。
コラボレーション記述子の設定	App Engine Studio で使用するグローバルスコープ内のカスタムコラボレーション記述子を設定します。 詳細な手順については、「カスタムコラボレーション記述子の設定」を参照してください。
非本番インスタンスで、アプリテンプレートアドミンを指定します。	App Engine Studio でテンプレートのアクティブ化、非アクティブ化、共有を管理するユーザーに、app_template_admin ロールを付与します。 詳細な手順については、「テンプレートアクセスの管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES 構成の詳細	追加の ServiceNow リソース
ServiceNow には、App Engine Studio の構成と管理に関するいくつかの追加リソースがあります。	App Engine Studio リリースノート ServiceNow コミュニティサイト セキュリティの追加に関する App Engine Studio ビデオ

App Engine アドミングループへのユーザーの追加

本番インスタンスの App Engine アドミングループにユーザーを追加して、App Engine Studio (AES) に対する管理権限を付与します。グループの連絡先のメールアドレスも指定する必要があります。App Engine アドミングループのメールアドレスを構成すると、メンバーはアプリ開発関連の要求 (アプリ取り込み要求など) の通知を受信できます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
パイプラインを使用していない場合は、開発インスタンスの App Engine アドミングループにもユーザーを追加する必要があります。

手順

1. [すべて] > [ユーザー管理] > [グループ] に移動します。
2. App Engine アドミングループを開きます。
3. [グループメンバー] 関連リストを選択し、[編集] を選択します。
4. [コレクション] リストで 1 つ以上の名前を選択します。
5. また、グループの連絡先のメールアドレスを入力します。
6. [追加] を選択します。
7. [保存] を選択します。

AES へのユーザーアクセスの許可

AESユーザーグループまたは AES ユーザー制限グループにユーザーを追加して、App Engine Studio (AES) でアプリケーションをビルドできるユーザーを制御します。

始める前に
必要なロール：user_admin またはアドミニストレーター

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
組織の開発インスタンスの App Engine Studio ユーザーグループにユーザーを追加することで、AES 内でアプリケーションをビルドするためのアクセス権を付与します。各グループメンバーには、sn_app_eng_studio.user ロールが自動的にアサインされます。

ユーザーのアクセスを制限して、App Engine Studio での作業はできるものの、アプリの作成やテンプレートの表示はできないようにするには、ユーザーを App Engine Studio ユーザー制限グループに追加します。

手順

1. [すべて] > [ユーザー管理] > [グループ] に移動します。
2. **[App Engine Studio** ユーザー] グループまたは **[App Engine Studio** ユーザー制限] グループを選択して、ユーザーを追加します。
   a. [グループメンバー] 関連リストで、[編集] を選択します。
   b. [メンバーの編集] ページで、各開発者を [コレクション] から [グループメンバーリスト **(Group Members List)]** に移動します。
   c. [保存] を選択します。
   d. グループレコードで、[更新] を選択します。

関連情報

AES とともにインストールされるコンポーネント

テンプレートアクセスの管理

app_template_admin ロールを使用して、どのユーザーが App Engine Studio (AES) のテンプレートにアクセスできるか制御します。アプリテンプレートのアドミニストレーターは、テンプレートをアクティブ化および非アクティブ化し、他のユーザーにテンプレートを共有するためのアクセス権を付与します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
アドミニストレーターは、テンプレートのアクティブ化、非アクティブ化、共有を管理するユーザーに、app_template_admin ロールを付与します。このロールは、App Engine Studio ユーザーがテンプレートを作成および使用する非本番インスタンスで付与する必要があります。

AES でアプリを作成してテンプレートを操作するには、ユーザーがアドミニストレーターまたは App Engine Studio ユーザーグループに属している必要があります。AES ユーザー制限グループに属している場合は、既存のアプリの編集のみが可能で、新しいアプリの作成はできません。

手順

1. [すべて] > [ユーザー管理] > [ユーザー]に移動します。
2. app_template_admin ロールを付与するユーザーを選択します。
3. [ロール] 関連リストで、[編集] を選択します。
4. **app_template_admin** を [コレクション] リストから [ロール] リストに移動します。
5. [保存] を選択します。

カスタムコラボレーション記述子の設定

ガイド付きセットアップを使用して、App Engine Studio (AES) にリストする開発協力者のセットをカスタマイズします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
所有者と編集者のコラボレーション記述子は AES ですぐに利用可能で、特別な機能があります。各記述子に含まれる開発権限は、プラットフォームのニーズに合わせて構成できます。AES で使用できるように、グローバルスコープでカスタム記述子を作成することもできます。

> **注:** グローバルスコープの [オーナー] と [エディター] 以外に、コラボレーション記述子を作成する必要があります。AES でコラボレーション記述子を表示して使用する場合は、その記述子を `standard = TRUE` に設定する必要があります。AES はカスタムスコープで作成されたコラボレーション記述子をサポートしないため、非標準のコラボレーション記述子は AES でレンダリングされません。

協力者を招待するアドミニストレーターまたは委任開発者は、これらの記述子を使用してさまざまなタイプの作業を委任できます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]** > [ガイド付きセットアップ]に移動します。
2. [開始する] を選択します。

   > **注:** 以前にいずれかのガイド付きセットアップタスクを開始し、完了せずに終了した場合、[開始] ボタンには [続行] というラベルが付けられます。

3. [ユーザーアクセスの設定] セクションで、[コラボレーション記述子の設定] を選択します。
4. [コラボレーション記述子の設定] セクションで、[構成] を選択します。
5. [新規] を選択します。
6. 新しいアプリコラボレーション記述子に名前と説明を付けます。
7. [送信] を選択します。

次のタスク
App Engine Studio で協力者の権限をさらにカスタマイズします。詳細については、「協力者の権限の変更」を参照してください。

AES を使用する開発者の委任

委託開発により、システムアドミニストレーターのロールを持たない指定ユーザーが、Now Platform でアプリケーションを開発または展開できるようになります。これにより、アドミニストレーターと委任開発者が連携して、App Engine Studio (AES) を用いてカスタムアプリケーションを提供できます。

アドミニストレーターは要求をレビューしてから、組織の開発環境で App Engine Studio を開くリンクを開発者に提供することで、開発作業を委任します。アドミニストレーターは、以下の操作を実行できます。

- リンクをメールで開発者に直接送信する
- ポータルページにリンクを投稿する
- 委任開発者が App Engine Studio へのアクセスを要求するためのカタログアイテムを作成する

AES の委任開発者ロール

委任開発者ロールを使用すると、アドミンは App Engine Studio の特定のアクセス権を持つ専用ロールにユーザー権限を昇格させることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

委任開発者が持つ権限は、ユーザーよりも多いですが、アドミンよりは少なくなります。委任開発者にはそれぞれ独自の権限があります。

1 人のアドミニストレーターに複数の委任開発者がいて、それぞれが独自の権限セットを持つ場合があります。たとえば、休暇申請を作成するために指定された開発者と、サポートチケットを作成するための別の権限を持つ他の開発者が必要な場合があります。

権限によっては、委任開発者が AES の一部の機能にアクセスできない場合があります。ロールにより、オブジェクトへのアクセスとその編集、追加が可能です。App Engine Studio の機能を利用できない場合は、システムアドミニストレーターにお問い合わせください。

委託開発とアクセス権の詳細については、「委託開発と展開」を参照してください。

アプリを作成する制限付き機能

委託開発に加えて、アドミニストレーターは、AES ユーザーがアプリを作成できるか、既存のアプリでのみ作業できるかを定義できます。

- 組織の開発インスタンスの App Engine Studio ユーザーグループにユーザーを追加することで、AES 内でアプリケーションをビルドするためのアクセス権を付与します。各グループメンバーには、sn_app_eng_studio.user ロールが自動的にアサインされます。
- ユーザーのアクセスを制限して、App Engine Studio での作業はできるものの、アプリの作成やテンプレートの表示はできないようにするには、ユーザーを App Engine Studio ユーザー制限グループに追加します。

Git ソースコントロールリポジトリと AES の統合

アプリケーション開発者が App Engine Studio (AES) を Git ソースコントロールリポジトリと統合し、非本番インスタンスから複数のバージョンのアプリケーションを保存および管理できるようにします。

アプリケーションをソースコントロールにリンクすると、非本番インスタンスですべてのアプリケーション開発者が次の操作を実行できます。

- Git リポジトリからアプリケーションをインポートします。
- Git リポジトリからリモート変更をプルして適用します。
- インスタンスのすべてのローカル変更を Git リポジトリにコミットします。
- 指定されたバージョンのアプリケーションに永続的にリンクするタグを作成します。
- 分岐を作成して、アプリケーションの複数のバージョンを同時に管理します。

統合の要件

アプリケーションをソースコントロールにリンクするには

- ユーザーにはアドミンロールが必要です。
- 非本番インスタンスには、Git リポジトリへのネットワークアクセスが必要です。
- 各アプリケーションは、それ自体の Git リポジトリ内に存在する必要があります。
- リポジトリユーザーの認証情報は、読み取りおよび書き込みアクセス権を付与する必要があります。

注: インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、リポジトリごとに 1 組の認証情報を共有します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine Studio で利用可能なオプション

アプリケーションをソースコントロールにリンクした後に、アプリケーション開発者は、App Engine Studioをリポジトリ管理に使用できます。開発者は App Engine Studio から次のことができます

- アプリケーションリポジトリの認証情報を編集します。
- インスタンスのすべてのローカル変更をコミットします。
- リポジトリからのリモート変更を適用します。
- 分岐を作成します。
- 分岐を切り替えます。
- リモートリポジトリからアプリケーションをインポートします。

ソースコントロール統合は、本番インスタンスでのアプリケーションの管理をサポートしていません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または App Engine Studio を使用して、本番インスタンスでアプリケーションを管理できます。本番インスタンスでのアプリケーション管理の詳細については、「アプリケーションの共有」を参照してください。

Git リポジトリから利用可能なオプション

ServiceNow プラットフォームには、インスタンス外のリンクされたアプリケーションファイルを変更するための限定的なサポートがあります。開発者は Git から次の操作を実行できます。

- アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動します。
- App Engine Studio の外部でアプリケーションファイルを編集します。

リポジトリのルートレベルで、`sn_source_control.properties` と呼ばれるプロパティテキストファイルが生成されます。アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動するために、アプリケーション開発者は *`path`* パラメーターを設定して、アプリケーションファイルを含むサブフォルダーパスを指定できます。たとえば、アプリケーションを `src/app` サブフォルダーに移動した場合は、*`path`* を `path=src/app` に設定します。

システムは、App Engine Studio の外部でアプリケーションファイルが変更されたかどうかを判断するために、Git リポジトリに `checksum.txt` ファイルを生成します。ファイルのチェックサム値が現在のチェックサム値と一致する場合、統合は検証とサニタイズのプロセスをスキップします。チェックサム値が一致しない場合、統合はソースコントロール操作の一部としてアプリケーションファイルを検証してサニタイズします。サニタイズプロセス：

- 実行されたサニタイズアクションごとに、アップグレードログエントリを作成します。
- サポートされていないフォルダーとファイルをリポジトリから削除します。
- システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、すべてのソースコントロール操作を中止します。たとえば、データベースディクショナリレコードが XML スキーマの検証に失敗した場合、システムはすべての操作を中止します。
- 非システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、現在のソースコントロール操作をスキップします。

Git 統合は、`sn_source_control.properties` ファイルにリストされているアプリケーションパス内のコンテンツのみをサニタイズします。アプリケーションパス外のリポジトリコンテンツは無視されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MID サーバーのサポート

既存の MID サーバーを使用して、ソースコントロールリポジトリに接続します。MID サーバーを介してアプリケーションを接続すると、ファイアウォールの背後にあるリポジトリにアクセスできます。

ソースコントロール権限

ロールと協力者の詳細については、「アプリケーションコラボレーション」を参照してください。

アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズをソースコントロールにリンクすると、アプリケーション開発者は Git リポジトリから App Engine Studio (AES) の変更を管理できます。

始める前に

- アプリケーションのカスタマイズの管理 の詳細を確認してください。
- アプリケーションの専用 Git リポジトリを作成します。セキュリティを強化するには、Git リポジトリに対するマルチファクター認証をアクティブ化します。
- 認証情報レコードを作成しながら、パスワードとマルチファクター認証パスキーの代わりにソースコントロール統合で使用できるアクセストークンを生成します。個人アクセストークンを GitHub または GitLab で検索する。
- アクセストークンの権限を制限して、Git リポジトリへの読み取りおよび書き込みアクセス権を付与します。
- 非本番インスタンスに Git リポジトリへのネットワークアクセスがあることを検証します。
- ユーザーが Git リポジトリへのコミットで使用するそれぞれのユーザーテーブル (ServiceNow sys_user) レコードに、メールアドレスを追加していることを確認します。
- 必要なロール：admin

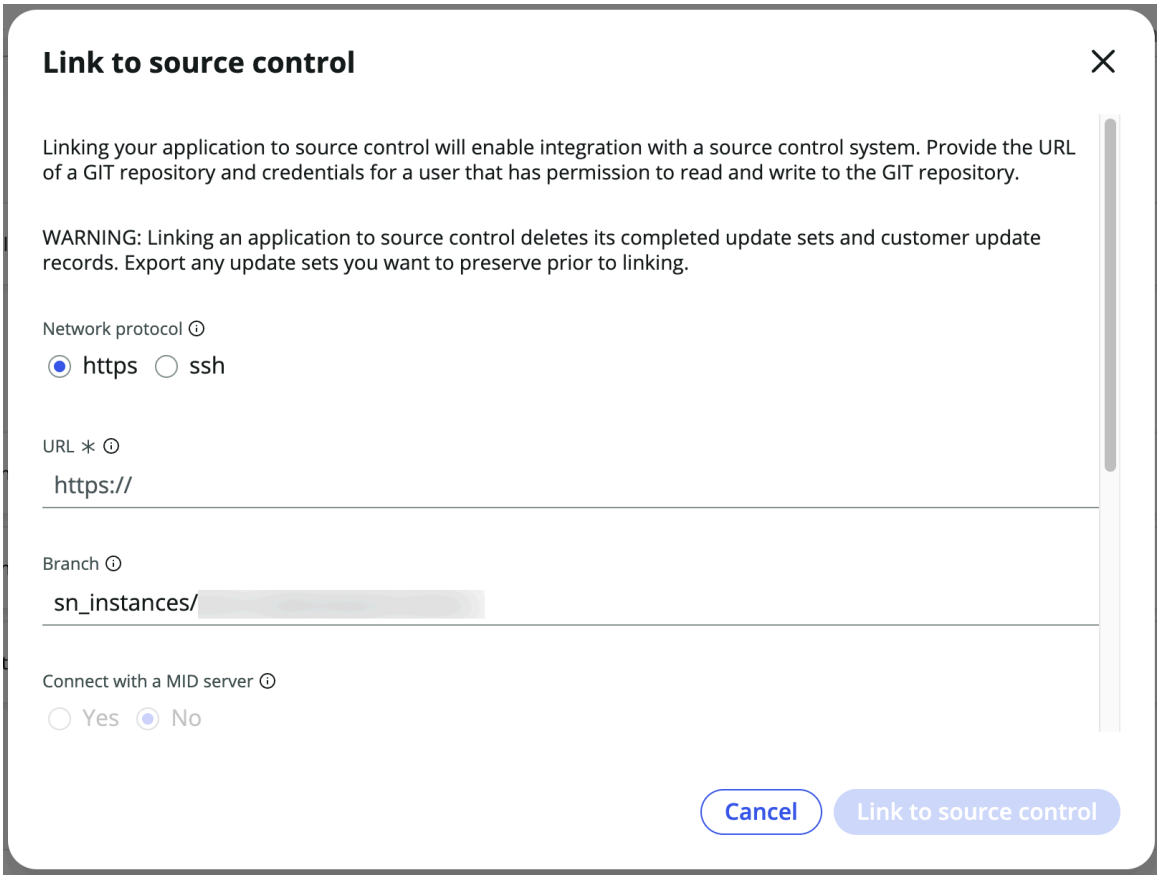
このタスクについて

ソースコントロール統合は、本番インスタンス上のアプリケーションまたはカスタマイズへのリンクをサポートしません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または App Engine Studio から本番インスタンス上にアプリケーションをインストールします。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [ソースコントロール] > [ソースコントロールにリンク] を選択します。
   App Engine Studio に [ソースコントロールにリンク] ダイアログボックスが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. Git リポジトリの接続の詳細を入力します。

ソースコントロール接続の詳細

フィールド	説明
ネットワークプロトコル	セキュリティ保護されたチャネルデータ交換を可能にする HTTPS または SSH 認証情報タイプ。
URL	アプリケーションファイルを保存する Git リポジトリの URL。SSH プロトコルの場合は、コマンドを使用して秘密キー `ssh-keygen -t rsa -m PEM -b 4096 -C "email@address"` を生成します。 **注:** Git サーバーが提供する SSH の Git リポジトリ URL が機能しない場合は、Git サーバーのオーナーまたはプロバイダーに正しい URL を確認してください。Git リポジトリ URL が機能するために、追加仕様 (スキームプロトコルプリフィックス、ポート番号など) が必要な場合があります。
分岐	アプリケーション内で機能するリポジトリ分岐。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: この分岐はコミットに使用されます。リモートリポジトリにまだ設定されていない場合、デフォルトの分岐は「メイン」に設定されます。リモートの Git リポジトリにデフォルトの分岐がない場合、インスタンスは「メイン」という名前の新しいデフォルトの分岐を作成します。これは、`glide.source_control.git_default_branch` システムのプロパティを使用して構成されます。
MID サーバー名	リンクが経由する既存の MID サーバーの名前。 **注:** ディスカバリー アクティビティとの競合を防ぐために、個別の MID サーバーを使用します。 MID サーバーのユーザーが sys_attachment テーブルにファイルを作成でき、そのテーブルが「バンドル」タイプのファイルを受け入れることができることを確認してください。 MID サーバーを介したリンクまたはアプリケーションを使用すると、ファイアウォールの背後にあるリポジトリにアクセスできます。詳細については、「MID サーバー」を参照してください。
デフォルトのメール	コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。ただし、コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力して、後で変更することもできます。すべてのケースでそのデフォルトのメールアドレスを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。
認証情報	選択したプロトコルで使用する認証情報。認証情報の作成の詳細については、「認証情報の開始」を参照してください。 **注:** SSH ネットワークプロトコルを選択した場合は、SSH 秘密キータイプの有効な認証情報を入力します。https プロトコルを選択した場合は、基本認証情報タイプの有効な認証情報を入力します。
コミットのコメント	リポジトリまたはアプリケーションの付随的説明

注: インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、1 組のリポジトリ認証情報を共有します。

5. [ソースコントロールにリンク] を選択します。
システムは接続とユーザーの認証情報を検証し、成功メッセージを表示します。

インスタンスのすべてのアプリケーション開発者は、リンクされた Git リポジトリを使用して変更を管理できます。

関連情報

MID サーバー

認証情報の開始

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

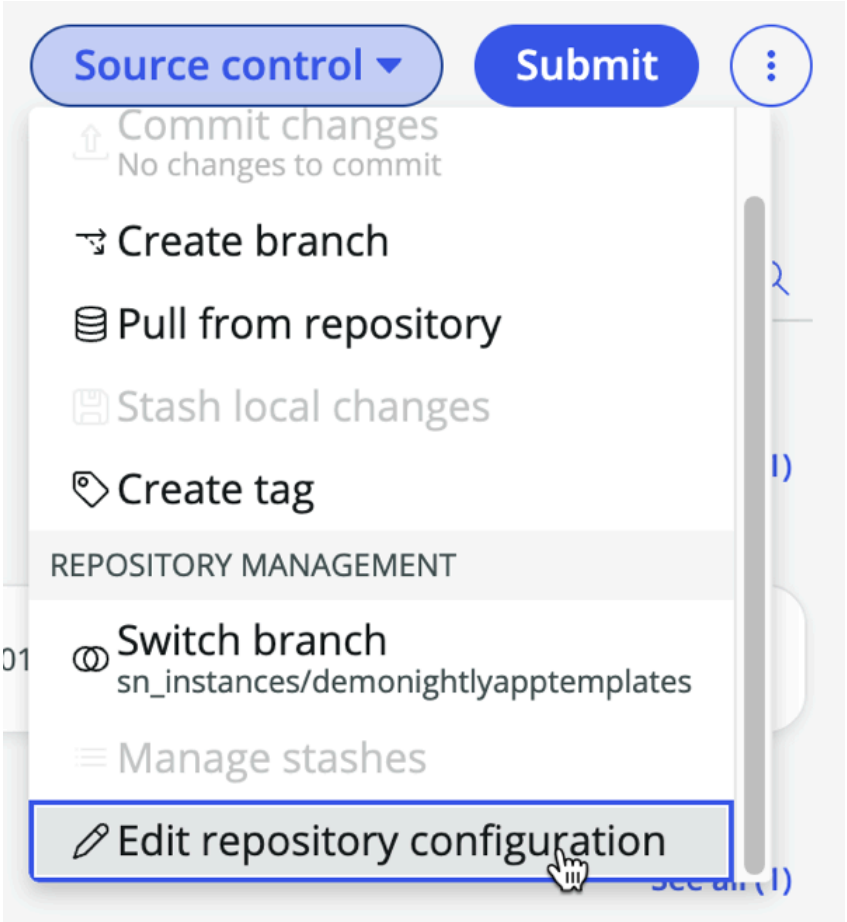
Git リポジトリ構成の編集

Git リポジトリの App Engine Studio (AES) との 統合を編集して、ネットワークプロトコルの選択、認証情報、またはその他のフィールドエントリを変更できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [ソースコントロール] > [リポジトリ構成を編集] を選択します。



4. フォームのフィールドに入力します。

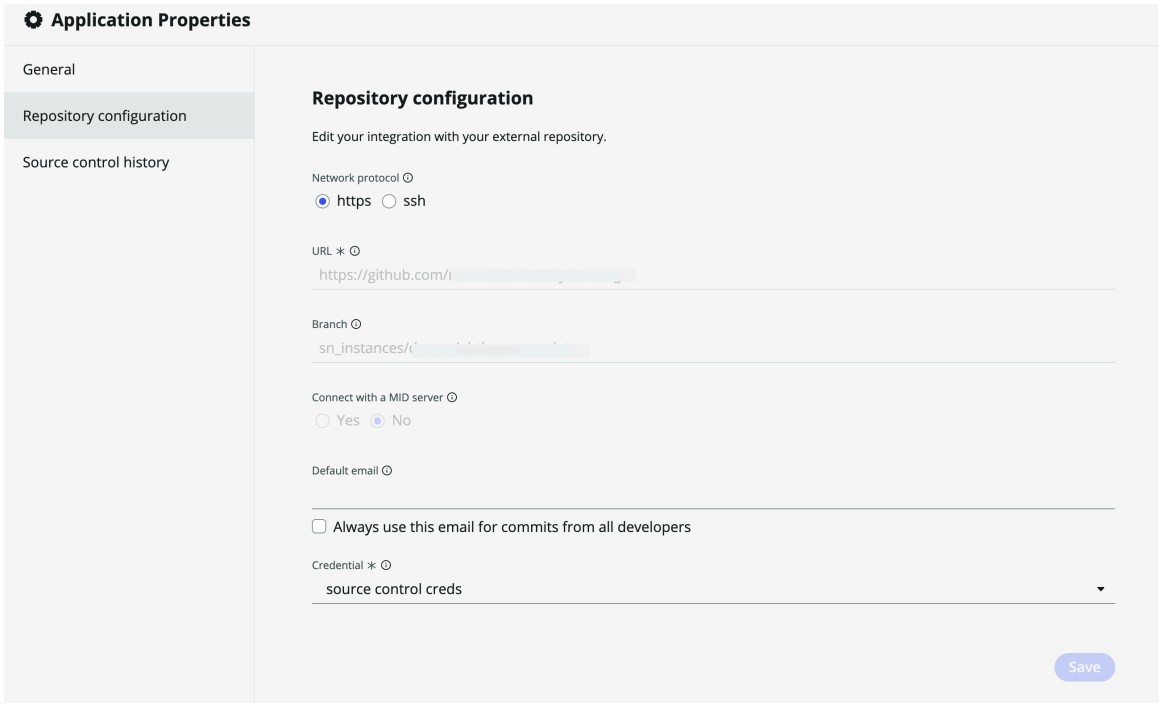
リポジトリ構成フィールド

フィールド	定義
ネットワークプロトコル	ソースコントロールのプロトコル (**https** または **ssh**)。
URL	リポジトリの URL アドレス。
分岐	リポジトリの現在の分岐。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	定義
MID サーバーに接続する	ファイアウォールの背後にあるリポジトリへのアクセスを可能にする MID サーバー接続を使用するかどうか。 **注:** MID サーバー名がない場合は、ドロップダウンリストから新しい名前を選択できます。新しい MID サーバーを選択する場合は、[ソースコントロール] メニューで選択してからその後のソースコントロール操作を行って、エラーを回避します。
デフォルトのメール	コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。 コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力し、[すべての開発者からのコミットには常にこのメールを使用します] チェックボックスをオンにして、後で変更することもできます。
認証情報	ソースコントロール接続に使用する保存済み認証情報。 インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、リポジトリごとに 1 つの認証情報のセットを共有します。認証情報の操作の詳細については、「認証情報の開始」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [保存] を選択します。

App Engine 管理センター の構成

App Engine 管理センター (AEMC) ガイド付きセットアップを使用して、Application Intake および パイプラインと展開 アプリケーションの初期設定を行います。Application Intake ガイド付きセットアップはオプションですが、AEMC を使用する場合は、パイプラインと展開 ガイド付きセットアップが必要です。

始める前に

AEMC が本番インスタンスとすべての非本番インスタンス (開発、テストなど) にインストールされていることを確認します。

必要なロール：admin

このタスクについて

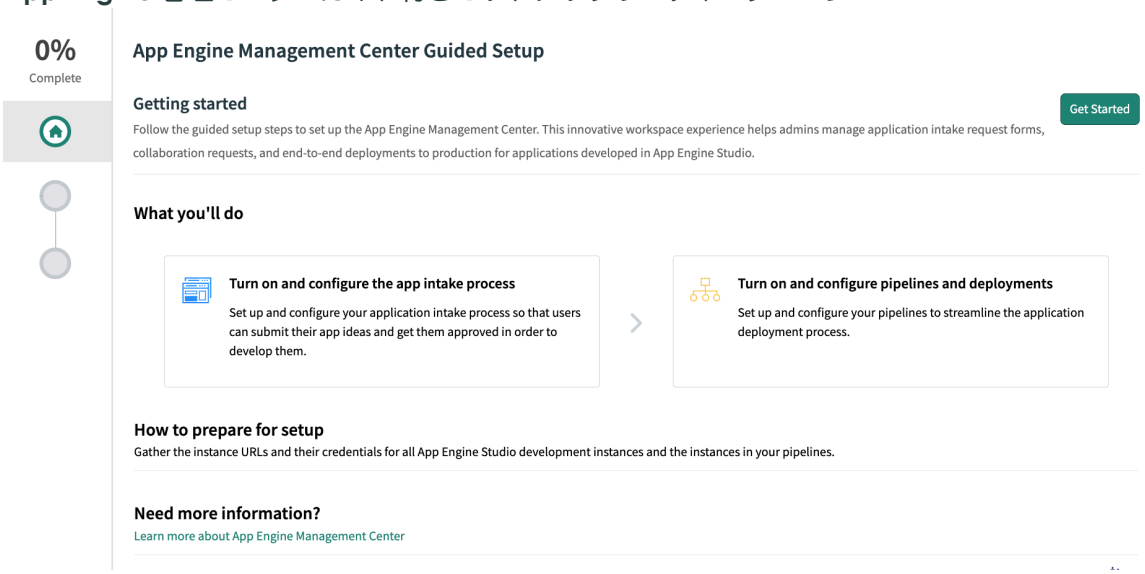
基本的に、AEMC ガイド付きセットアップには、Application Intake と パイプラインと展開 の両方のアプリケーションのガイド付きセットアップステップが含まれています。これらのアプリケーションのいずれかまたは両方を既に構成している場合は、ガイド付きセットアップのこれらの手順をスキップできます。

手順

1. 本番インスタンスで、[すべて] > **[App Engine]** > [管理] > [ガイド付きセットアップ] に移動します。
   ランディングページには、構成する必要がある 2 つのアプリケーション (Application Intake と パイプラインと展開) に関する情報が表示されます。

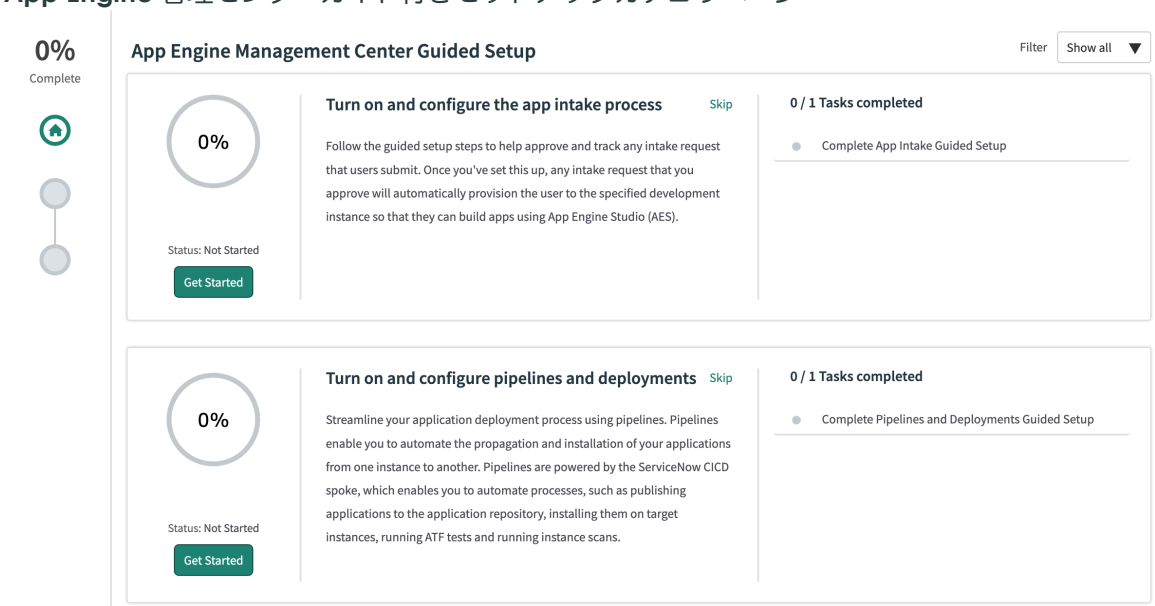
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine 管理センターガイド付きセットアップランディングページ



2. ガイド付きセットアップを開始するには、[開始] を選択します。
[App Engine 管理センター ガイド付きセットアップ] カテゴリページには、AEMC を使用する前に完了する必要があるさまざまなカテゴリのタスクのリストが表示されます。

App Engine 管理センターガイド付きセットアップカテゴリページ



注: 以前にいずれかのガイド付きセットアップタスクを開始し、完了せずに終了した場合、[開始] ボタンには [続行] というラベルが付けられます。

3. 最初の [開始] ボタンを選択して、Application Intake のガイド付きセットアップを開始します。
完了する必要があるいくつかのApplication Intake 構成タスクがあります。
   a. [市民開発の申請] カタログアイテムのアクティブ化。
   b. App Engine アドミングループへのユーザーの追加。
   c. 開発環境レコードの作成。
   このカテゴリのすべてのタスクを完了すると、[カテゴリ] 画面が再び表示されます。
4. 次の [開始] ボタンを選択して、パイプラインと展開 のガイド付きセットアップを開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

完了する必要があるいくつかのパイプラインと展開 構成タスクがあります。

本番インスタンス：

a. 環境認証情報の構成。

b. パイプライン環境の構成。

c. パイプラインの構成。

d. App Engine アドミングループへのユーザーの追加。

e. テスト用の ATF およびインスタンススキャンスイートの追加。

> 注: ATF およびインスタンススキャンスイートをテスト用に追加できるのは、それらを既に作成してテストインスタンスを設定している場合のみです。まだ行っていない場合は、このステップに戻る必要があります。

f. 変更管理 統合の有効化。

g. 変更管理を統合するプロパティの構成。

テストインスタンスで次の手順を実行します。

a. 環境認証情報の構成。

b. コントローラーインスタンスの構成。

c. 自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティをアクティブ化する。

d. 自動テストフレームワーク (ATF) スイートを構成します。

e. インスタンススキャンスイートを構成します。

他の非本番インスタンスで次の手順を実行します。

a. 環境認証情報の構成。

b. コントローラーインスタンスの構成。
2 番目のカテゴリのタスクを完了すると、[カテゴリ] ページが再び表示されます。これで、App Engine 管理センター のガイド付きセットアップを完了しました。

5. オプション: AEMC でシステムの動作を制御するために使用する追加のプロパティを構成します。

非本番インスタンスで App Engine 管理センター 機能をテストする

本番環境に移行する前に、非本番インスタンスで App Engine 管理センター (AEMC) をテストして、すべてが期待どおりに機能していることを確認します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

本番環境に進む前に AEMC とパイプラインをテストするには、テスト目的で 2 つの非本番インスタンスを選択します。これらの非本番インスタンスの 1 つが本番インスタンスであるかのように、パイプラインと展開 ガイド付きセットアップに従います。システムは、環境レコードのインスタンスタイプが実際に本番インスタンスであることを確認しないため、2 番目の非本番インスタンスのインスタンスタイプを [本番] 環境に設定できます。

手順

1. 「パイプラインと展開 構成タスク」の説明に従って、パイプラインと展開 ガイド付きセットアップタスクを開始します。

2. パイプライン環境を構成するタスクを開始したら、非本番インスタンスの 1 つを選択し、パイプライン環境レコードで本番インスタンスとして指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通常のプロセスの詳細については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。

3. AEMC とパイプラインの機能をテストします。
4. テストが完了したら、非本番パイプライン環境レコードの [インスタンスタイプ] を正しいタイプのインスタンスに変更します。

Application Intake の構成

App Engine Studio (AES) Application Intake ガイド付きセットアップを使用して、Application Intake アプリケーションの初期設定を行います。各ステップの詳細な手順については、製品ドキュメントの後続のセクションを参照してください。

始める前に

Application Intake を使用してアプリケーションアイデアを送信する前に、App Engine Studio アプリケーションがインストールされていることを確認する必要があります。

必要なロール：admin

このタスクについて

Application Intake ガイド付きセットアップには一連のタスクがあり、Now Platform® で Application Intake アプリを構成するために役立ちます。各タスクの詳細については、「Application Intake 構成タスク」を参照してください。

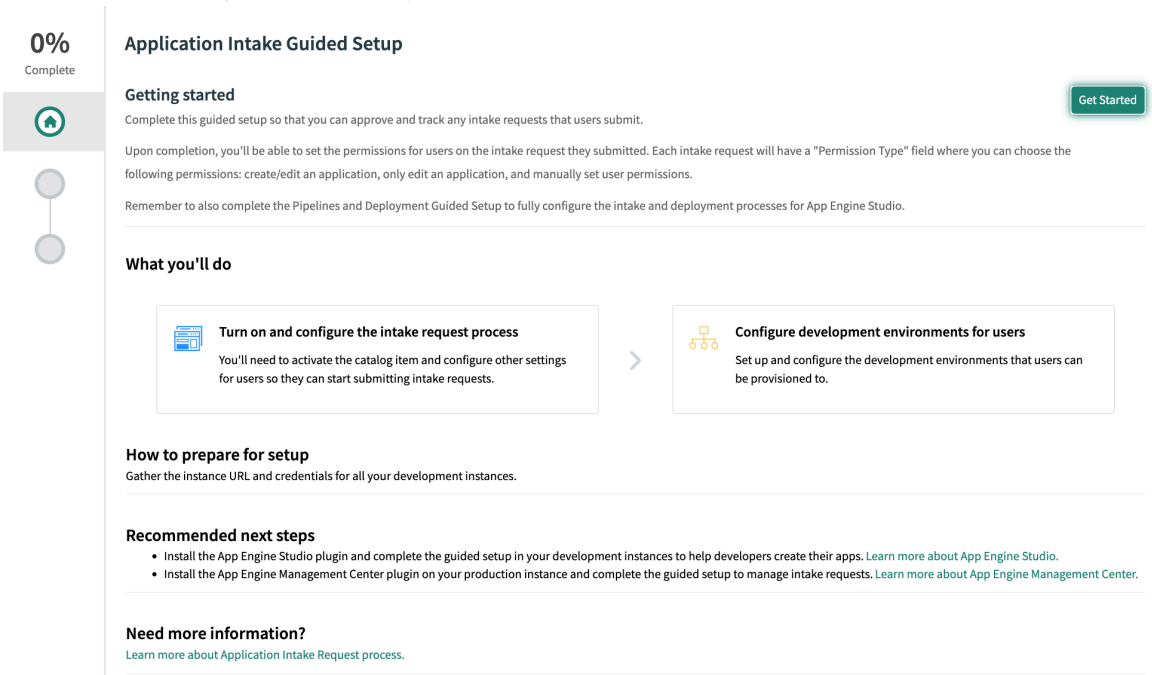
ガイド付きセットアップの詳細については、「ガイド付きセットアップ」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [アプリケーション取り込み] > [ガイド付きセットアップ に移動します。

   ランディングページには、さまざまなカテゴリ、ツール、ユーザーアクセスに関する情報が表示されます。

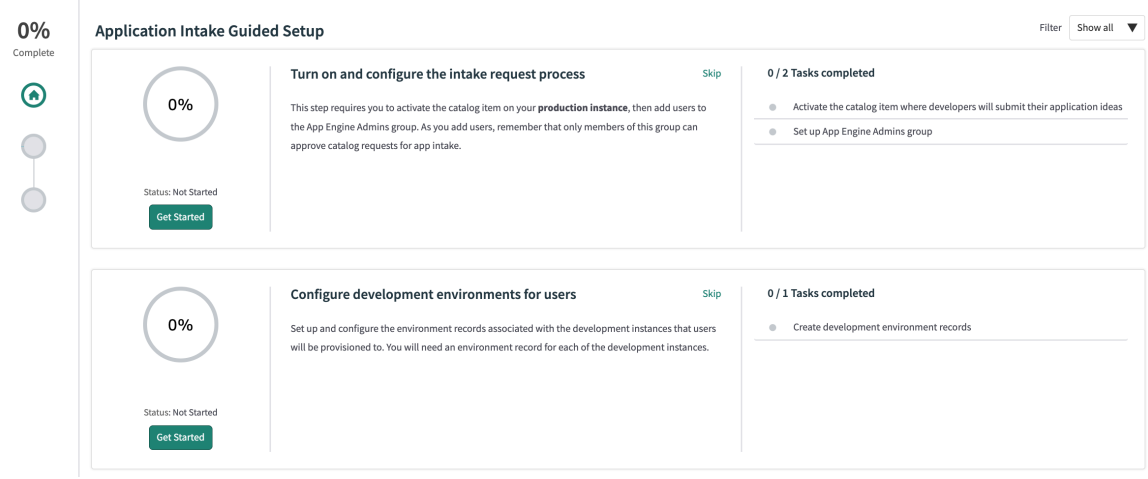
   アプリケーション取り込みガイド付きセットアップのランディングページ



2. ガイド付きセットアップを開始するには、[開始] を選択します。
   [Application Intake ガイド付きセットアップ] ページには、アプリケーション取り込みを使用して要求を送信する前に完了する必要がある、さまざまなタスクのリストが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アプリケーション取り込みガイド付きセットアップ] カテゴリページ



注: 以前にいずれかのガイド付きセットアップタスクを開始し、完了せずに終了した場合、[開始] ボタンには [続行] というラベルが付けられます。

3. 最初の [開始] ボタンを選択して、Application Intake ガイド付きセットアップを開始します。
   完了する必要があるいくつかのApplication Intake 構成タスクがあります。
   a. [市民開発の申請] カタログアイテムのアクティブ化。
   b. App Engine アドミングループへのユーザーの追加。
   このカテゴリのすべてのタスクを完了すると、[カテゴリ] 画面が再び表示されます。
4. 次の [開始] ボタンを選択して、ユーザーの開発環境を構成するタスクの実行を開始します。
   本番インスタンスで、ユーザーをプロビジョニングする開発インスタンスごとに開発環境レコードを作成します。このプロセスにより、本番インスタンスを開発インスタンスに接続できるようになります。

   注: これらのレコードがパイプラインと展開のガイド付きセットアップですでに設定されている場合は、この手順をスキップできます。2 番目のカテゴリのタスクを完了すると、[カテゴリ] 画面が再び表示されます。

   おめでとうございます! これで、Application Intakeのガイド付きセットアップを完了しました。

Application Intake 構成タスク

App Engine Studio (AES) Application Intake ガイド付きセットアップの手順を実行するときに、さまざまな構成タスクを実行する必要があります。

取り込み要求プロセスのアクティブ化と構成、および開発環境の設定

Application Intake を構成するためのタスクと、それらを完了するための詳細な手順へのリンクを以下に示します。

Application Intake 構成タスク

タスク	説明
開発者がアプリケーションアイデアを送信するカタログアイテムをアクティブ化する	市民開発者がアプリケーションのアイデアを送信できるように、[市民開発の申請] カタログアイテムをアクティブ化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Application Intake 構成タスク (続く)

タスク	説明
	詳細な手順については、「[市民開発の申請] カタログアイテムのアクティブ化」を参照してください。
[市民開発の申請] カタログアイテムの設定	迅速にセットアップして使用するには、カタログビルダーで事前定義された [市民開発の申請] カタログアイテムを使用します。アプリ取り込みフォームをカスタマイズするには、[市民開発の申請] カタログアイテムを更新するか、AES アプリの取り込みテンプレートを開始点として使用し、必要に応じて質問とフィールドを追加します。 詳細な手順については、「カタログビルダーのアプリ取り込みフォームのカスタマイズ」を参照してください。
App Engine アドミングループへのユーザーの追加	App Engine アドミングループにユーザーを追加します。App Engine アドミングループのメールアドレスが構成されると、メンバーはアプリ開発関連の要求 (アプリケーション取り込み要求など) の通知を受信できます。 **注:** すでに AES ガイド付きセットアップ または パイプラインと展開 の構成 ガイド付きセットアップを使用して本番インスタンスにユーザーを追加している場合は、この手順をスキップできます。 詳細な手順については、「App Engine アドミングループへのユーザーの追加」を参照してください。
開発環境レコードの作成	本番インスタンスで、ユーザーをプロビジョニングする開発インスタンスごとに「開発」タイプの環境レコードを作成します。これにより、本番インスタンスを開発インスタンスに接続できるようになります。 **注:** これらのレコードがパイプラインと展開のガイド付きセットアップですでに設定されている場合は、この手順をスキップできます。 詳細な手順については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。

Application Intake ガイド付きセットアップを完了したら、パイプラインと展開ガイド付きセットアップ に進んで App Engine Studio を完全に構成します。

[市民開発の申請] カタログアイテムのアクティブ化

市民開発者がアプリケーションのアイデアを送信できるようにするには、[市民開発の申請] カタログアイテムをアクティブ化します。これは、App Engine Studio (AES) Application Intake アプリを構成する最初のステップです。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [アプリケーション取り込み] > [ガイド付きセットアップ] に移動します。
   詳細については、「App Engine Studio の構成」を参照してください。
2. プロセスを開始するか、進行中のプロセスを続行します。
   - プロセスを開始するには、[ようこそ] を選択します。
   - それまでに 1 つ以上のタスクを完了している場合は、[続行] を選択します。
3. [取り込み要求プロセスをオンにして構成する] セクションで、[開始] を選択します。
4. [開発者がアプリケーションのアイデアを送信するカタログアイテムを有効にする] セクションで、[構成] を選択します。
5. [市民開発の申請]カタログアイテムレコードで、[アクティブ] チェックボックスを選択します。
6. [更新] を選択します。
7. ブラウザーウィンドウを閉じて、Application Intake ガイド付きセットアップに戻ります。

カタログビルダーのアプリ取り込みフォームのカスタマイズ

カタログビルダーの App Engine Studio (AES) [アプリ取り込み] フォームのフィールドと質問を編集して、組織のカスタムアプリ取り込みエクスペリエンスを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
このカタログアイテムに関連付けられ、すぐに利用可能な変数は、読み取り専用に設定されています。[アプリ取り込み (App Intake)] フォームを編集するには、既存の [市民開発の申請] カタログアイテムのコピーを作成する必要があります。次に、元のカタログアイテムを無効にし、[市民開発の申請のコピー **(Copy of Apply for Citizen Development)]** カタログアイテムの編集を続けます。詳細については、「カタログアイテムのコピー」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [サービスカタログ] > [カタログビルダー]に移動します。
2. [カタログアイテム] タブで、作成した [市民開発の申請] のコピーを選択します。
3. [編集] を選択します。
4. [質問] タブの [アプリの取り込み] フォームで質問を定義します。

アクション	その他の情報について
新しい質問の挿入	カタログビルダーでのカタログアイテムの質問の作成
既存の質問の編集	カタログビルダーでの質問の編集
質問の順番の変更	質問の順番の変更
既存の質問の動的な動作を定義する	既存の [アプリ取り込み] フォームの質問の動的動作を定義する
質問の非アクティブ化または削除	[アプリ取り込み] フォームからの質問の非アクティブ化

5. 変更するフォームのその他の設定を編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [レビューと送信] タブで、フォームのプレビューを確認し、[プレビュー] を選択して必要な修正を行います。
7. 変更内容を保存します。
   - フォームを送信せずに変更を保存するには、[保存] を選択します。
   - フォームを送信するには、[送信] を選択します。

アプリ取り込みフォームの質問の順番の変更

質問が表示される順番を変更して、[アプリ取り込み] フォームをカスタマイズします。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [サービスカタログ] > [カタログビルダー]に移動します。
2. [カタログアイテム] タブで、カタログアイテムのリストから [市民開発の申請] を選択します。
3. [編集] を選択します。
4. [質問] タブで、移動する質問をポイントします。
5. 質問の左側で、行のドラッグアンドドロップグリッパーアイコン (アイコン) を選択し、質問を新しい位置にドラッグします。

既存の [アプリ取り込み] フォームの質問の動的動作を定義する

他の質問への回答に基づいて、[アプリ取り込み] フォームで質問の動的動作を定義します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
ユーザーが [アプリ取り込み] フォームの 1 つの質問に対して特定の回答をした場合、さらに情報を収集するためにフォローアップの質問が必要になることがあります。たとえば、ServiceNow トレーニングを受けたかどうかを尋ね、その回答が「いいえ」の場合、ユーザーは次の表示されている質問に進みます。回答が「はい」の場合、完了したトレーニングコースを尋ねる別の質問が表示されます。このタイプの動的な動作を定義するには、次の手順を使用します。

手順
1. [すべて] > [サービスカタログ] > [カタログビルダー]に移動します。
2. [カタログアイテム] タブで、カタログアイテムのリストから [市民開発の申請] を選択します。
3. [編集] を選択します。
4. [質問] タブで、更新する質問をポイントします。
5. 更新する質問の横にある [動的な動作を追加] アイコン ( ) を選択します。
6. [新しい動作を定義] を選択します。
7. [アクション] タブで、特定の条件が満たされたときの質問の動作を指定します。

[アクション] タブ

フィールド	説明
トリガー条件が満たされたときのこの質問の動作を指定します	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
質問を必須にする	次のオプションを使用して、動的動作設定がフィールドの必須ステータスにどのように影響するかを指定します。 ◦ 何もしない ◦ あり ◦ いいえ
質問を表示する	次のオプションを使用して、動的動作設定がフィールドの表示ステータスにどのように影響するかを指定します。 ◦ 何もしない ◦ あり ◦ いいえ
質問を読み取り専用にする	次のオプションを使用して、動的動作設定がフィールドの読み取り専用ステータスにどのように影響するかを指定します。 ◦ 何もしない ◦ あり ◦ いいえ
値をクリア	質問値をクリアするオプション。

8. [条件] タブで、この質問に対するアクションをトリガーする条件を指定します。条件をビルドするステートメントの詳細については、「 条件ビルダー 」を参照してください。
9. [設定] タブで、動作設定が適用されるシナリオを指定します。

設定タブ

フィールド	説明
適用	
この動的な動作が適用されるシナリオ	
アイテムが要求されているときに適用 (Applies when the item is being requested)	アイテムが要求されているときに動的な動作を適用するかどうかを指定するオプション。
要求の送信後、カタログタスクを表示するときに適用 (Applies while viewing the catalog tasks after the request is submitted)	要求の送信後、カタログタスクを表示するときに動的な動作を適用するかどうかを指定するオプション。
要求の送信後、要求されたアイテムレコードを表示するときに適用されます	送信されたレコードを表示するときに動的な動作を適用するかどうかを指定するオプション。

10. [動作を追加] を選択します。

[アプリ取り込み] フォームからの質問の非アクティブ化

[アプリ取り込み] フォームからの質問を非アクティブ化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [サービスカタログ] > [カタログビルダー]に移動します。
2. [カタログアイテム] タブで、カタログアイテムのリストから [市民開発の申請] を選択します。
3. [編集] を選択します。
4. [質問] タブで、削除する質問をポイントします。
5. [質問の非アクティブ化] アイコン (⊗) を選択して、フォームから質問を削除します。
6. [非アクティブ化] を選択します。

Application Intake のユーザーグループを管理する

Application Intake プロセス中に、アドミンが クリエータースタジオ および App Engine Studio アプリ開発権限を付与できるユーザーグループを制御します。これらのグループは、ユーザーグループ権限タイプ [sn_app_intake_permission_type] テーブルで管理されます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[sn_app_intake_permission_type.list]**に移動します。
2. リスト内のレコードを選択して更新します。
3. グループレコードで、[アクティブ] オプションのステータスを変更して、Application Intake ガイド付きセットアップでグループを使用できるかどうかを制御します。

次のタスク
App Engine 管理センター のアプリケーション要求に正しいアクティブグループが表示されていることを確認します。

パイプラインと展開 の構成

App Engine Studio (AES) パイプラインと展開 ガイド付きセットアップを使用して、パイプラインと展開 の初期設定を行います。各ステップの詳細な手順については、製品ドキュメントの後続のセクションを参照してください。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
パイプラインと展開 ガイド付きセットアップには一連のタスクがあり、Now Platform® で パイプラインと展開 を構成するために役立ちます。各タスクの詳細については、「パイプラインと展開 構成タスク」を参照してください。

ガイド付きセットアップの詳細については、「ガイド付きセットアップの使用」を参照してください。

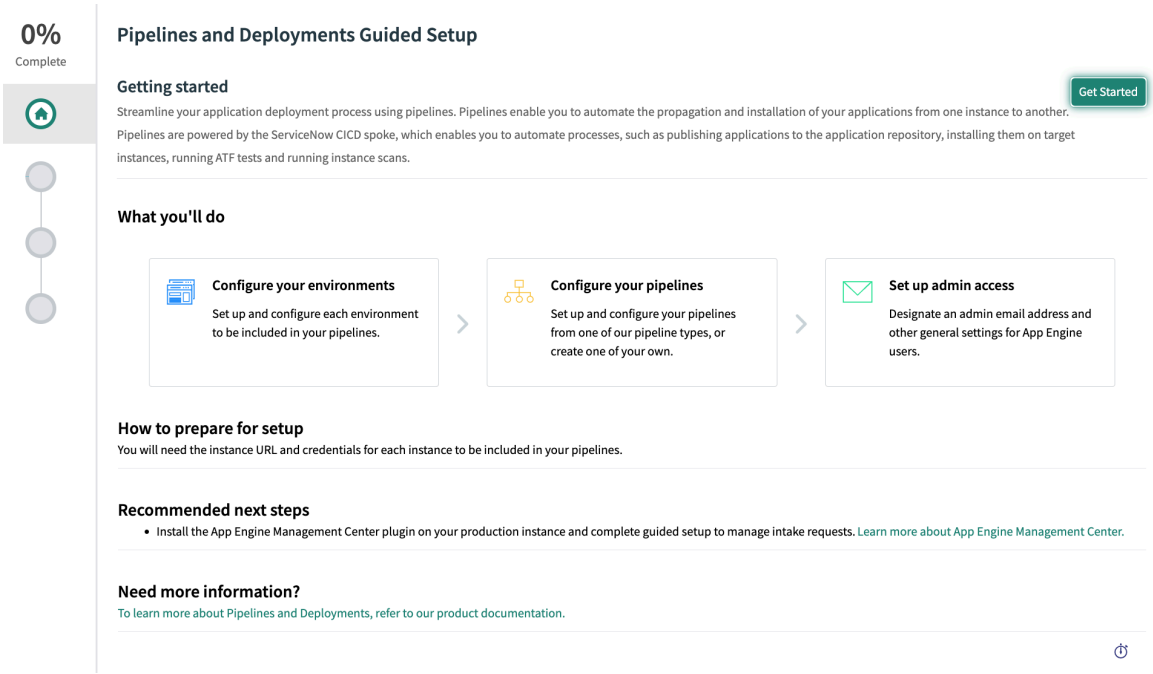
手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [パイプラインと展開] > [ガイド付きセットアップ] に移動します。

   ランディングページには、さまざまなカテゴリ、ツール、ユーザーアクセスに関する情報が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パイプラインと展開 ガイド付きセットアップのランディングページ



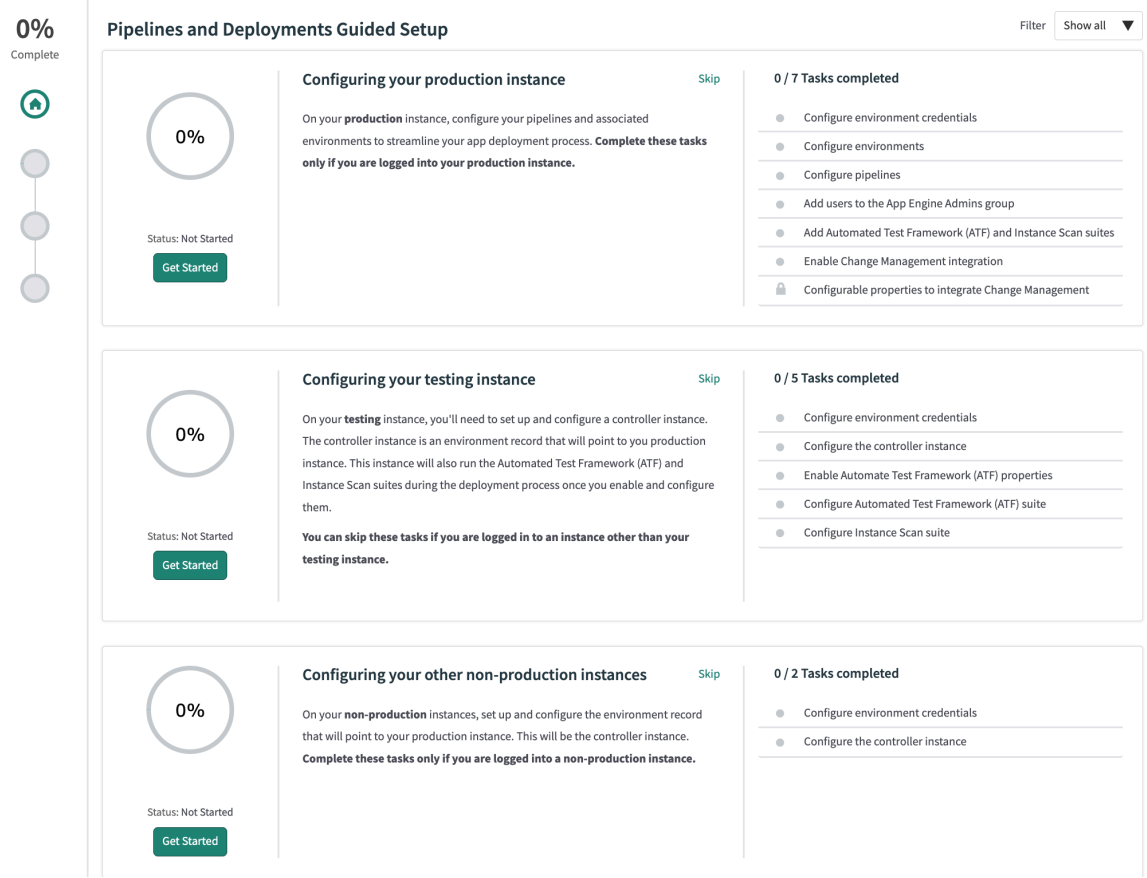
2. ガイド付きセットアップを開始するには、[開始] を選択します。

   [パイプラインと展開 ガイド付きセットアップ] カテゴリページには、パイプラインと展開を使用する前に完了する必要があるさまざまなカテゴリのタスクのリストが表示されます。

   注: 以前にいずれかのガイド付きセットアップタスクを開始し、完了せずに終了した場合、[開始] ボタンには [続行] というラベルが付けられます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パイプラインと展開 ガイド付きセットアップのカテゴリページ



重要: ここに表示されている各カテゴリのタスクは、パイプライン内のさまざまな環境で実行されることに注意してください。

3. 最初の [開始] ボタンを選択して、本番環境で構成タスクの実行を開始します。
   a. 環境認証情報の構成。
   b. パイプライン環境の構成。
   c. パイプラインの構成。
   d. App Engine アドミングループへのユーザーの追加。
   e. テスト用の ATF およびインスタンススキャンスイートの追加。

      注: ATF およびインスタンススキャンスイートをテスト用に追加できるのは、それらを既に作成してテストインスタンスを設定している場合のみです。まだ行っていない場合は、このステップに戻る必要があります。

   f. 変更管理 統合の有効化。
   g. 変更管理を統合するプロパティの構成。

   このカテゴリのすべてのタスクを完了すると、ガイド付きセットアップ画面が再び表示されます。

4. 次の [開始] ボタンを選択して、テスト環境で構成タスクの実行を開始します。
   a. 環境認証情報の構成。
   b. コントローラーインスタンスの構成。
   c. 自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティをアクティブ化する。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. 自動テストフレームワーク (ATF) スイートを構成します。

e. インスタンススキャンスイートを構成します 。

このカテゴリのすべてのタスクを完了すると、ガイド付きセットアップ画面が再び表示されます。

5. 最後の [開始] ボタンを選択して、パイプラインの他のすべての非本番 (テスト、開発、ステージングなど) インスタンスのタスクの実行を開始します。

a. 環境認証情報の構成。

b. コントローラーインスタンスの構成。
おめでとうございます! これで、パイプラインと展開アプリケーションのガイド付きセットアップを完了しました。

パイプラインと展開 構成タスク

パイプラインと展開 ガイド付きセットアップの手順を実行するときに、さまざまな構成タスクを実行する必要があります。

環境、パイプラインレコード、ユーザーアクセスの設定

パイプラインと展開 を構成するためのタスクと、それらを完了するための詳細な手順へのリンクを以下に示します。これらのタスクは相互にビルドされているため、ガイド付きセットアップに一覧表示されている順序で完了することが重要です。

パイプラインと展開 構成タスク

タスク	説明
環境認証情報を構成する。	AEMC で使用されるフローがパイプライン内のインスタンスにアクセスできるように、パイプライン内の各インスタンスの認証情報を構成します。 詳細な手順については、「環境認証情報の構成」を参照してください。
環境を構成する。	各インスタンスへのアクセスに使用する URL と認証情報を追加して、本番環境と非本番環境 (開発、テスト、ステージングなど) を設定します。 詳細な手順については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。
パイプラインを構成します。	各パイプラインを構成および構成するために、パイプラインに名前を付け、そのパイプラインに関連付けられるそれぞれの環境を特定し、そのパイプライン内の環境間にアプリを展開する順番を指定します。 詳細な手順については、「パイプラインの構成」を参照してください。
App Engine アドミングループにユーザーを追加する。	このタスクのフローに関連するユーザーを App Engine アドミングループに追加します。 注: すでに AES ガイド付きセットアップ または Application Intake の構成 ガイド付きセットアップ を使用して本番インスタンスにユーザーを追加している場合は、この手順をスキップできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パイプラインと展開 構成タスク (続く)

タスク	説明
	詳細な手順については、「App Engine アドミングループへのユーザーの追加」を参照してください。
自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) およびインスタンススキャンスイートの追加	AEMC の標準であるインスタンススキャンおよび ATF テストスイートに加えて、カスタマイズされたテストスイートをアプリケーション展開の一部として追加します。 詳細な手順については、「テスト用の ATF およびインスタンススキャンスイートの追加」を参照してください。
非本番インスタンスでコントローラーインスタンスを構成する。	パイプライン展開フローを含むコントローラーインスタンスと、パイプラインに関連付けられているすべてのデータを特定します。各インスタンスは、アサインされたタスクを完了すると、コントローラーインスタンスと通信して展開の次のステージの実行場所を決定します。 **注:** 本番インスタンスはコントローラーとして特定されます。 詳細な手順については、「コントローラーインスタンスの構成」を参照してください。
タイプがテストのインスタンスで ATF のプロパティをアクティブ化する。	展開プロセス中に ATF スイートを実行できるようにするシステムプロパティをアクティブ化します。これらのプロパティをアクティブ化しない場合、展開プロセス中に警告が表示されますが、展開は続行できます。 **注:** 本番インスタンスを 1 つ以上の非本番インスタンスにクローンする場合は、これらの設定のデータプリザーバーを作成するか、本番インスタンスでこれらの設定をアクティブ化する必要があります。詳細については、「システムクローン」を参照してください。 詳細な手順については、「自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティをアクティブ化する」を参照してください。
変更管理 統合の有効化	既存の 変更管理 プログラムと AEMC を接続すると、変更要求状況と予定されている変更時間帯に基づいて、パイプラインから本番環境への展開が自動的にスケジュールされます。 詳細な手順については、「変更管理 統合の有効化」を参照してください。
変更管理 を統合するプロパティの構成	変更要求と構成アイテム (CI) は、既存の 変更管理 プログラムで設定された仕様を使用して作成されます。アプリの展開中に使用される変更モデル、変更テンプレート、または CI 作成サブフローを変更する場合は、ガイド付きセットアップでこれらのプロパティを構成する必要があります。 詳細な手順については、「変更管理を統合するプロパティの構成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

環境認証情報の構成

App Engine 管理センター (AEMC) で使用されるフローが異なるインスタンスにアクセスできるように、本番インスタンスで認証情報を構成します。

始める前に

パイプラインで使用する認証情報を作成するには、アドミン権限を持つ機能ユーザーアカウントを使用する必要があります。このユーザーアカウントには、次の特性が必要です。

- 組織内のユーザーに関連付けることはできません。
- パスワードを定期的にリセットする必要はありません。
- アドミニストレーターが制御する必要があります。
- パイプライン内のすべてのインスタンスに対するアドミン権限が必要です。

パイプライン認証情報専用の新しい機能ユーザーアカウントを作成するか、これらの特性を持つ以前に作成したアカウントを使用できます。いずれにせよ、パイプライン認証情報を作成する前に、このユーザーアカウントを作成する必要があります。このユーザーの作成の詳細については、「ユーザーの作成」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

[sys_users] テーブルで作成した機能ユーザーアカウントを使用して、パイプライン認証情報を作成します。たとえば、Pipeline Runner というユーザーアカウントを作成し、アドミン権限を付与します。このアカウントのユーザー名とパスワードは、認証情報レコードの設定に使用されます。

手順

1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームで、[タイプ] を [認証情報] に変更します。
   タイプを変更すると、いくつかのフィールドがフォームから削除されます。
4. フォームの残りのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	認証情報レコードの一意の名前。「Pipeline Credentials (パイプライン認証情報)」など。
アプリケーション	レコードが作成されるスコープ。これはグローバルである必要があります。
ID	認証情報レコードの一意の ID。このフィールドは名前に基づいて自動的に入力されます。ID は [scope_name.credential_name] の形式で記述されます。アプリケーションがグローバルスコープ内にある場合を除き、ID は単なる認証情報名です。

5. [送信] を選択します。
   [接続および資格情報エイリアス] テーブルが再度開きます。
6. 作成した認証情報を開き、認証情報レコードを追加します。
7. [認証情報] タブで、[新規] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [作成する認証情報の種類は？**(What kind of Credentials would you like to create?)**] リストから [基本認証情報 **(Basic Auth Credentials)**] を選択します。

   注: パイプラインで代わりに OAuth 認証情報を使用する場合は、「パイプラインと展開 で使用する OAuth 認証情報の構成」を参照してください。

9. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	基本認証情報レコードの一意の名前。「Pipeline Credentials (パイプライン認証情報)」など。
順序	使用しているフローが認証情報レコードを読み取る順序。たとえば、バックアップ用の認証情報が複数ある場合は、100、200、300 のように並べます。フローはリストの一番上から読み取ります。
ユーザー名	機能アカウントのユーザー名。例：pipeline.runner
パスワード	機能ユーザーアカウントのパスワード。
アクティブ	レコードを有効にするオプション。
認証情報エイリアス	認証情報レコード ID から繰り返されるレコードのエイリアス。エイリアスが存在するのは、特定のユーザーのみがユーザー名とパスワードを確認できるようにするためです。フローが実行されると、アプリをインストールできるように認証情報エイリアスが使用されます。

10. [送信] を選択します。
11. パイプライン内の各非本番インスタンスでこのプロセスを繰り返します。
    認証情報レコードには、パイプラインが本番インスタンスにアクセスするために使用するユーザー名とパスワードを使用します。

パイプラインと展開 で使用する **OAuth** 認証情報の構成

パイプラインで OAuth 認証情報を使用して、パイプラインに別のレベルのセキュリティを追加します。このタスクは、パイプラインで使用する OAuth 認証情報を作成および構成するのに役立ちます。

始める前に

インスタンスの右上で、アプリケーションスコープが [グローバル] に設定されていることを確認します。個別のブラウザタブですべてのインスタンス (開発、テスト、本番など) を開きます。次のタスクは、3 つのインスタンスの環境の手順を示しています。ただし、他の非本番インスタンス (ステージなど) を使用する場合は、そのインスタンスでタスクを繰り返す必要があることを詳述するステップがあります。

必要なロール：admin

このタスクについて

OAuth 認証情報の作成と接続は、指定された順序で完了する必要があるいくつかのタスクで構成されています。各ステップで正しいインスタンスを操作するように注意してください。詳細については、「OAuth 2.0」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 指定されたインスタンスの 外部クライアント用の OAuth API エンドポイントの作成 の下にあるすべての手順を完了します。
2. 指定されたインスタンスの サードパーティ OAuth プロバイダーレコードの作成 の下にあるすべての手順を完了します。
3. 指定されたインスタンスの OAuth を使用してパイプライン認証情報を作成する の下にあるすべての手順を完了します。

次のタスク
パイプライン環境の構成 のときは、構成しているインスタンスの正しいインスタンス認証情報レコードを選択していることを確認してください。

外部クライアント用の **OAuth API** エンドポイントの作成

OAuth API エンドポイントを作成して、コントローラーインスタンスが非本番インスタンスと双方向通信できるようにします。指定されたインスタンスで各ステップを慎重に実行してから、サードパーティ OAuth プロバイダーレコードの作成に進みます。

外部クライアント用の OAuth API エンドポイントの作成方法のデモ

始める前に
インスタンスの右上で、アプリケーションスコープが [グローバル] に設定されていることを確認します。

個別のブラウザータブですべてのインスタンス (開発、テスト、本番など) を開きます。

必要なロール：admin

このタスクについて
外部クライアント用の OAuth API エンドポイントを作成して、パイプラインで OAuth を使用するには、パイプライン内の異なるインスタンスでそれぞれ複数のレコードを作成する必要があります。本番インスタンスであるコントローラーインスタンスで開始します。

手順

1. 本番インスタンスで、[すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. [外部クライアント用の **OAuth API** エンドポイントを作成します] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	アクション
名前	「`Pipeline Controller Client`」と入力します。
リダイレクト URL	**a.** フィールドをロック解除します。 **b.** 本番インスタンス、開発インスタンス、およびテストインスタンスの URL を入力します。それぞれにバックスラッシュの後に `oauth_redirect.do` を付けます。 **c.** フィールドをロックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	アクション
	3 つの URL はそれぞれカンマとスペースで区切ります。例：`https://<production instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do, https://<development instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do, https://<test instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do`

5. [送信] を選択します。

重要: 開発インスタンスの次の手順を完了します。

6. 開発インスタンスで、[すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
7. [新規] を選択します。
8. [外部クライアント用の **OAuth API** エンドポイントを作成します] を選択します。
9. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	アクション
名前	「`Pipeline Development Client`」と入力します。
リダイレクト URL	a. フィールドをロック解除します。 b. 本番インスタンスと開発インスタンスの URL を入力します。それぞれにバックスラッシュの後に `oauth_redirect.do` を付けます。 c. フィールドをロックします。 2 つの URL はカンマとスペースで区切ります。例：`https://<production instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do, https://<development instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do`

10. [送信] を選択します。

重要: テストインスタンスの次の手順を完了します。

11. テストインスタンスで、[すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
12. [新規] を選択します。
13. [外部クライアント用の **OAuth API** エンドポイントを作成します] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

14. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	アクション
名前	「Pipeline Test Client」と入力します。
リダイレクト URL	a. フィールドをロック解除します。 b. 本番インスタンスとテストインスタンスの URL を入力します。それぞれにバックスラッシュの後に oauth_redirect.do を付けます。 c. フィールドをロックします。 2 つの URL はカンマとスペースで区切ります。例：https://<production instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do, https://<test instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do

15. [送信] を選択します。
16. オプション: 他の非本番インスタンス (ステージングなど) について、このプロセスの手順 11 ~ 15 を繰り返します。

次のタスク
指定されたインスタンスで、サードパーティ OAuth プロバイダーレコードの作成の手順に従います。

サードパーティ **OAuth** プロバイダーレコードの作成

サードパーティ OAuth プロバイダーレコードを作成して、作成した API エンドポイントに各インスタンスがアクセスできるようにします。

始める前に
外部クライアント用の OAuth API エンドポイントの作成のタスクを完了します。

インスタンスの右上で、アプリケーションスコープが [グローバル] に設定されていることを確認します。

個別のブラウザタブですべてのインスタンス (開発、テスト、本番など) を開きます。本番インスタンスで以下の手順を開始します。

必要なロール：admin

手順

1. 本番インスタンスで、[すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
   ここでは、3 つのインスタンス (開発、テスト、本番) のそれぞれに 1 つずつ、合計 3 つのレコードを作成する必要があります。追加の非本番インスタンス (ステージングなど) がある場合は、ここに示す方法に従って、それぞれのインスタンスのレコードを作成します。

   本番インスタンスで最初の 3 つのレコードを作成する方法のデモンストレーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. **[New** (新規)] を選択します。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択して、開発インスタンスのレコードを作成します。
4. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	アクション
名前	「`Dev Instance Connection`」と入力します。
クライアント ID	**a.** 開発インスタンスで、[アプリケーションレジストリ] リストを開きます ([すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ])。 **b.** [パイプライン開発クライアント] レコードを開きます。 **c.** クライアント **ID** をコピーします。 **d.** 本番インスタンスで、開発インスタンスからクライアント ID を [クライアント **ID]** フィールドに貼り付けます。
クライアント シークレット	**a.** 開発インスタンスで、[アプリケーションレジストリ] リストを開きます ([すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ])。 **b.** [パイプライン開発クライアント] レコードを開きます。 **c.** [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをコピーします。 **d.** 本番インスタンスで、開発インスタンスからクライアントシークレットを [クライアントシークレット] フィールドに貼り付けます。
デフォルトの権限許可タイプ	[認証コード] に変更します。
認証 URL	**a.** フィールドをロック解除します。 **b.** 開発インスタンスの URL を入力し、その後に「`oauth_auth.do`」と入力します。 **c.** フィールドをロックします。 例：`https://<development instance name>.service-now.com/oauth_auth.do`
トークン URL	**a.** フィールドをロック解除します。 **b.** 開発インスタンスの URL を入力し、その後に「`oauth_token.do`」と入力します。 **c.** フィールドをロックします。 例：`https://<development instance name>.service-now.com/oauth_token.do`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [送信] を選択します。
6. **[New** (新規)] を選択します。
7. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択して、テストインスタンスのレコードを作成します。
8. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	アクション
名前	「`Test Instance Connection`」と入力します。
クライアント ID	a. テストインスタンスで、[アプリケーションレジストリ] リストを開きます ([すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ])。 b. [パイプラインテストクライアント] レコードを開きます。 c. クライアント **ID** をコピーします。 d. 本番インスタンスで、テストインスタンスからクライアント ID を [クライアント **ID]** フィールドに貼り付けます。
クライアント シークレット	a. テストインスタンスで、[アプリケーションレジストリ] リストを開きます ([すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ])。 b. [パイプラインテストクライアント] レコードを開きます。 c. [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをコピーします。 d. 本番インスタンスで、テストインスタンスからクライアントシークレットを [クライアントシークレット] フィールドに貼り付けます。
デフォルトの権限許可タイプ	[認証コード] に変更します。
認証 URL	a. フィールドをロック解除します。 b. テストインスタンスの URL を入力し、その後に「`oauth_auth.do`」と入力します。 c. フィールドをロックします。 例：`https://<test instance name>.service-now.com/oauth_auth.do`
トークン URL	a. フィールドをロック解除します。 b. テストインスタンスの URL を入力し、その後に「`oauth_token.do`」と入力します。 c. フィールドをロックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	アクション
	例：`https://<test instance name>.service-now.com/oauth_token.do`

9. [送信] を選択します。
10. [アプリケーションレジストリ] リストで、[パイプラインコントローラークライアント] レコードを選択します。
11. クライアント **ID** をコピーし、メモアプリケーションなどの場所に貼り付けます。
12. [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをコピーして、クライアント ID とともにメモに貼り付けます。
13. [アプリケーションレジストリ] リストに戻って、[新規] を選択します。
14. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択して、本番インスタンスのレコードを作成します。
15. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	アクション
名前	「`Prod Instance Connection`」と入力します。
クライアント ID	**a.** メモしたクライアント **ID** をコピーします。 **b.** クライアント ID を [クライアント **ID**] フィールドに貼り付けます。
クライアント シークレット	**a.** メモしたクライアントシークレットをコピーします。 **b.** [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをフィールドに貼り付けます。
デフォルトの権限許可タイプ	[認証コード] に変更します。
認証 URL	**a.** フィールドをロック解除します。 **b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「`oauth_auth.do`」と入力します。 **c.** フィールドをロックします。 例：`https://<production instance name>.service-now.com/oauth_auth.do`
トークン URL	**a.** フィールドをロック解除します。 **b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「`oauth_token.do`」と入力します。 **c.** フィールドをロックします。 例：`https://<production instance name>.service-now.com/oauth_token.do`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

16. [送信] を選択します。

> **重要:** 開発インスタンスの次の手順を完了します。

17. 開発インスタンスで、[すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。

    開発インスタンスとテストインスタンスの両方で本番インスタンス用のレコードを作成する方法のデモンストレーション

18. **[New** (新規)] を選択します。
19. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択して、本番インスタンスのレコードを作成します。
20. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	アクション
名前	「`Prod Instance Connection`」と入力します。
クライアント ID	**a.** メモしたクライアント **ID** をコピーします。 **b.** クライアント ID を [クライアント **ID]** フィールドに貼り付けます。
クライアント シークレット	**a.** メモしたクライアントシークレットをコピーします。 **b.** [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをフィールドに貼り付けます。
デフォルトの権限許可タイプ	[認証コード] に変更します。
認証 URL	**a.** フィールドをロック解除します。 **b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「`oauth_auth.do`」と入力します。 **c.** フィールドをロックします。 例：`https://<production instance name>.service-now.com/oauth_auth.do`
トークン URL	**a.** フィールドをロック解除します。 **b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「`oauth_token.do`」と入力します。 **c.** フィールドをロックします。 例：`https://<production instance name>.service-now.com/oauth_token.do`

21. [送信] を選択します。

> **重要:** テストインスタンスの次の手順を完了します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

22. テストインスタンスで、[すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
23. **[New** (新規)] を選択します。
24. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択して、本番インスタンスのレコードを作成します。
25. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	アクション
名前	「`Prod Instance Connection`」と入力します。
クライアント ID	**a.** メモしたクライアント **ID** をコピーします。 **b.** クライアント ID を [クライアント **ID]** フィールドに貼り付けます。
クライアント シークレット	**a.** メモしたクライアントシークレットをコピーします。 **b.** [クライアントシークレット] フィールドのロックを解除し、テキストをフィールドに貼り付けます。
デフォルトの権限許可タイプ	[認証コード] に変更します。
認証 URL	**a.** フィールドをロック解除します。 **b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「`oauth_auth.do`」と入力します。 **c.** フィールドをロックします。 例：`https://<production instance name>.service-now.com/oauth_auth.do`
トークン URL	**a.** フィールドをロック解除します。 **b.** 本番インスタンスの URL を入力し、その後に「`oauth_token.do`」と入力します。 **c.** フィールドをロックします。 例：`https://<production instance name>.service-now.com/oauth_token.do`

26. [送信] を選択します。
27. オプション: 他の非本番インスタンス (ステージングなど) について、手順 22 ~ 26 を繰り返します。

次のタスク

OAuth を使用するための事前作業が完了したので、指定されたインスタンスでOAuth を使用してパイプライン認証情報を作成するのすべての手順を完了します。

OAuth を使用してパイプライン認証情報を作成する

各インスタンスで認証情報レコードを作成し、パイプラインでそれを OAuth で使用できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
外部クライアント用の OAuth API エンドポイントの作成とサードパーティ OAuth プロバイダーレコードの作成のタスクを完了します。

インスタンスの右上で、アプリケーションスコープが [グローバル] に設定されていることを確認します。

個別のブラウザータブですべてのインスタンス (開発、テスト、本番など) を開きます。

必要なロール：admin

このタスクについて
認証情報を正しく構成するには、本番インスタンスで本番インスタンスと非本番インスタンスのそれぞれのレコードを作成する必要があります。次に、非本番インスタンスのそれぞれに本番インスタンスのレコードを作成し、それらをすべて接続する必要があります。各セクションのビデオを使用して、手順を実行します。本番インスタンスで開始します。

手順

1. 本番インスタンスで、[すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス] に移動します。
   本番インスタンスで認証情報レコードを作成します
2. [新規] を選択します。
3. [タイプ] を [認証情報] に変更します。
4. [名前] フィールドに「`Pipeline Dev OAuth`」と入力します。
5. [送信] を選択します。
6. 作成したレコード (Pipeline Dev OAuth) を再び開きます。
7. [認証情報] 関連リストで、[新規] を選択します。
8. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
9. フォームのフィールドに入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	アクション
名前	「`Dev OAuth`」と入力します。
OAuth エンティティプロファイル	[開発インスタンス接続のデフォルトプロファイル **(Dev Instance Connection default profile)]**を検索して選択します。

10. [送信] を選択します。
11. **[Dev OAuth]** 認証情報レコードを再び開きます。
    予想されるエラーが表示され、OAuth 構成を確認し、**[OAuth** トークンを取得] を選択して新しいトークンを要求するように指示されます。
12. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。
    開発インスタンスが開き、ServiceNow アカウントへの接続を要求されます。
13. [許可] を選択します。
14. [接続および資格情報エイリアス] リスト ([すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]) に戻ります。
15. [新規] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

16. [タイプ] を [認証情報] に変更します。
17. [名前] フィールドに「`Pipeline Test OAuth`」と入力します。
18. [送信] を選択します。
19. 作成したレコード (Pipeline Test OAuth) を再び開きます。
20. [認証情報] 関連リストで、[新規] を選択します。
21. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
22. フォームのフィールドに入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	アクション
名前	「`Test OAuth`」と入力します。
OAuth エンティティプロファイル	[テストインスタンス接続のデフォルトプロファイル **(Test Instance Connection default profile)]**を検索して選択します。

23. [送信] を選択します。
24. [Test OAuth] 認証情報レコードを再び開きます。
予想されるエラーが表示され、OAuth 構成を確認し、**[OAuth** トークンを取得] を選択して新しいトークンを要求するように指示されます。
25. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。
テストインスタンスが開き、ServiceNow アカウントへの接続を要求されます。
26. [許可] を選択します。
27. [接続および資格情報エイリアス] リスト ([すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]) に戻ります。
28. [新規] を選択します。
29. [タイプ] を [認証情報] に変更します。
30. [名前] フィールドに「`Pipeline Prod OAuth`」と入力します。
31. [送信] を選択します。
32. 作成したレコード (Pipeline Prod OAuth) を再び開きます。
33. [認証情報] 関連リストで、[新規] を選択します。
34. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
35. フォームのフィールドに入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	アクション
名前	「`Prod OAuth`」と入力します。
OAuth エンティティプロファイル	[本番インスタンス接続のデフォルトプロファイル **(Prod Instance Connection default profile)]**を検索して選択します。

36. [送信] を選択します。
37. [Prod OAuth] 認証情報レコードを再び開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

予想されるエラーが表示され、OAuth 構成を確認し、**[OAuth** トークンを取得] を選択して新しいトークンを要求するように指示されます。

38. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。
本番インスタンスが開き、ServiceNow アカウントへの接続を要求されます。
39. [許可] を選択します。
40. オプション: 他の非本番インスタンス (ステージングなど) がある場合は、上記の方法を使用して、本番インスタンスでそれぞれの認証情報レコードを作成します。

> **重要:** 本番インスタンスで上記の手順を完了したら、以下の手順に従って、非本番インスタンスのそれぞれに 1 つの認証情報レコードを作成し、本番インスタンスに接続します。開発インスタンスの次の手順を完了します。

41. 開発インスタンスで、[すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
開発インスタンスで認証情報レコードを作成し、本番に接続します。
42. [新規] を選択して、開発インスタンスを本番インスタンスに接続するレコードを作成します。
43. [タイプ] を [認証情報] に変更します。
44. [名前] フィールドに「`Pipeline Prod OAuth`」と入力します。
45. [送信] を選択します。
46. 作成したレコード (Pipeline Prod OAuth) を再び開きます。
47. [認証情報] 関連リストで、[新規] を選択します。
48. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
49. フォームのフィールドに入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	アクション
名前	「`Prod OAuth`」と入力します。
OAuth エンティティプロファイル	[本番インスタンス接続のデフォルトプロファイル **(Prod Instance Connection default profile)]**を検索して選択します。

50. [送信] を選択します。
51. [Prod OAuth] 認証情報レコードを再び開きます。
予想されるエラーが表示され、OAuth 構成を確認し、**[OAuth** トークンを取得] を選択して新しいトークンを要求するように指示されます。
52. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。
本番インスタンスが開き、ServiceNow アカウントへの接続を要求されます。
53. [許可] を選択します。

> **重要:** テストインスタンスの次の手順を完了します。

54. テストインスタンスで、[すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
テストインスタンスで認証情報レコードを作成し、本番に接続します。
55. [新規] を選択して、テストインスタンスを本番インスタンスに接続するレコードを作成します。
56. [タイプ] を [認証情報] に変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

57. [名前] フィールドに「`Pipeline Prod OAuth`」と入力します。
58. [送信] を選択します。
59. 作成したレコード (Pipeline Prod OAuth) を再び開きます。
60. [認証情報] 関連リストで、[新規] を選択します。
61. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
62. フォームのフィールドに入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	アクション
名前	「`Prod OAuth`」と入力します。
OAuth エンティティプロファイル	[本番インスタンス接続のデフォルトプロファイル **(Prod Instance Connection default profile)]**を検索して選択します。

63. [送信] を選択します。
64. [Prod OAuth] 認証情報レコードを再び開きます。
予想されるエラーが表示され、OAuth 構成を確認し、**[OAuth** トークンを取得] を選択して新しいトークンを要求するように指示されます。
65. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。
本番インスタンスが開き、ServiceNow アカウントへの接続を要求されます。
66. [許可] を選択します。
67. オプション: 他の非本番インスタンス (ステージングなど) がある場合は、手順 54 ～ 66 を使用して、そのインスタンス上で本番用の認証情報レコードを作成します。

次のタスク
インスタンスを接続するすべての認証情報レコードを作成したので、それらのレコードを使用してパイプライン環境を構成できます。詳細については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。

パイプライン環境の構成

各インスタンスへのアクセスに使用する URL と認証情報を追加して、App Engine Studio (AES) 本番環境と非本番環境 (開発、テスト、ステージングなど) を設定します。

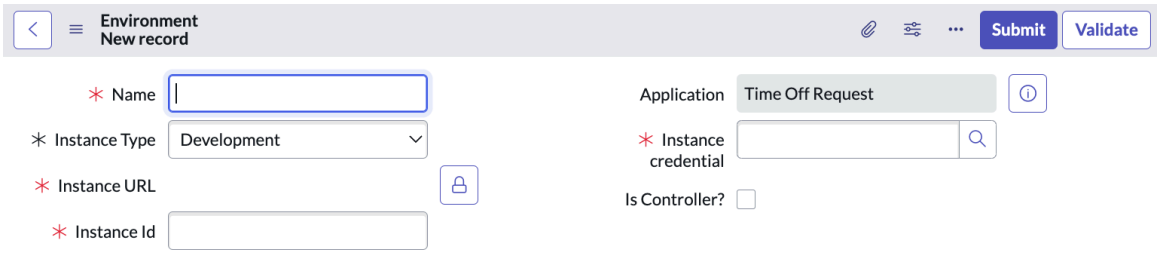
始める前に
必要なロール：admin

> **注:** システムアドミニストレーター (admin) ロールを持つユーザーのみが、 環境のインスタンス認証情報を定義できます。App Engine アドミン [sn_app_eng_notify.app_engine_admin] ロールを持つユーザーは、環境レコードを表示できます。ただし、[インスタンス認証情報] フィールドは表示されません。

手順
1. 本番インスタンスで、[すべて] > **[App Engine]** > [パイプラインと展開] > [環境] に移動します。
2. [新規] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

環境 - 新規レコード



3. フォームのフィールドに入力します。

[環境] フォーム

フィールド	説明
名前	環境の名前。開発、テスト、または本番環境としてインスタンスを区別する名前を入力します。たとえば、開発環境を定義する場合は、名前に `Dev` を含めることができます。
インスタンスタイプ	定義する環境のタイプ： ◦ サンドボックス ◦ 開発 ◦ テスト ◦ ステージング ◦ 本番
インスタンス URL	ServiceNow インスタンスの Web アドレス。
インスタンス ID	インスタンスの instance_id sys_property。 **注:** 他のすべてのフィールドに入力して [検証] を選択すると、インスタンス ID が自動的に生成されます。
アプリケーション	環境のアプリケーションスコープ。
インスタンス認証情報	環境として構成しているインスタンスに関連する認証データ。 **注:** OAuth 2.0 認証情報を使用している場合は、インスタンスレコードの適切な認証情報を選択します。たとえば、開発インスタンスレコードでは OAuth 開発認証情報を選択し、テストインスタンスレコードでは OAuth テスト認証情報を選択します。
コントローラーとは？	このインスタンスがコントローラーかどうかを示します。これは、展開要求を管理する予定の本番環境レコードに対して選択する必要があります。詳細については、「コントローラーインスタンスの構成」を参照してください。

4. [送信] を選択します。
5. パイプラインの残りの各環境を定義するときには、それまでの手順を繰り返します。
たとえば、本番環境を定義した場合は、手順をもう一度繰り返して開発環境を定義します。次に、その手順をもう一度繰り返してテスト環境を定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パイプラインの構成

App Engine Studio (AES) パイプラインを構成して、アドミニストレーターがアプリケーションをある環境から別の環境にすばやく移動できるようにします。

始める前に

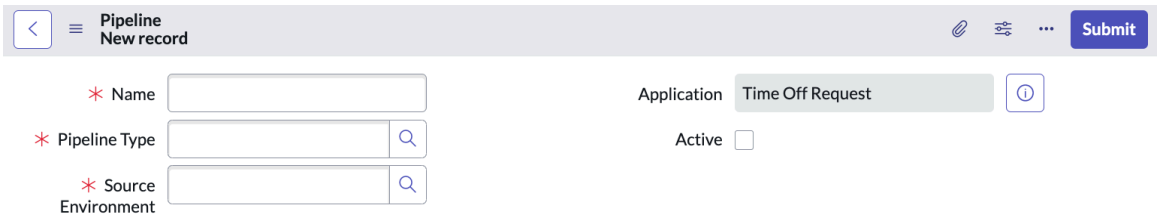
これらの手順を完了する前に、すべてのパイプライン環境レコードを作成する必要があります。詳細については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。

必要なロール：admin または app_engine_admin

手順

1. 本番インスタンスで、[すべて] > **[App Engine]** > [パイプラインと展開] > [パイプライン] に移動します。
2. [新規] を選択します。

パイプライン - 新規レコード



3. フォームのフィールドに入力します。

[パイプライン] フォーム

フィールド	説明
名前	パイプラインの名前。このパイプラインを他のパイプラインと区別する名前を入力します。
パイプラインタイプ	定義しているパイプラインのタイプ。パイプラインの最も一般的なユースケースは [アプリケーションの展開] を選択することですが、必要に応じて他のタイプを定義できます。
ソース環境	このパイプラインの環境 (通常は開発環境)。
アプリケーション	パイプラインのアプリケーションスコープ。
有効	このパイプラインをアクティブ化するには、このチェックボックスをオンにします。

4. [送信] を選択します。
5. 作成したパイプラインレコードを再度開きます。
6. [パイプライン環境注文] セクションで、[ソース環境] を除くパイプラインの環境を選択し、パイプラインを介してアプリを展開する順番を指定します。
7. [更新] を選択します。

コントローラーインスタンスの構成

App Engine Studio (AES) パイプライン内のいずれかのインスタンスをコントローラーインスタンスとして特定する必要があります。パイプライン内のアプリケーションの展開順番を含む、パイプラインのインスタンス間のすべての通信は、コントローラーインスタンスで行われます。

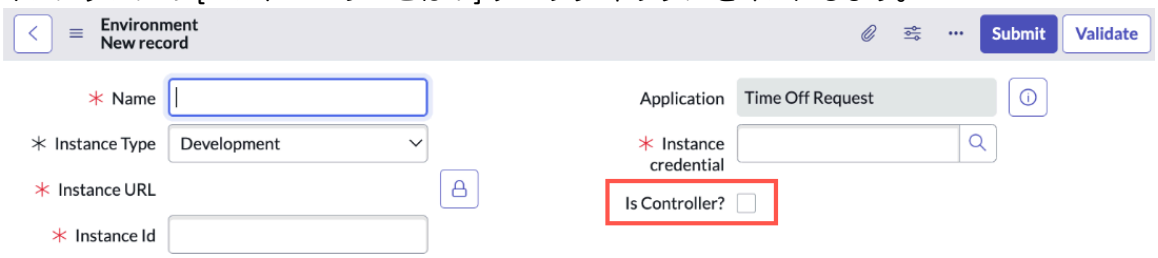
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
通常、本番インスタンスがコントローラーインスタンスとして特定されます。すべての要求レコードと承認レコードは、コントローラーインスタンスに保存されます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [パイプラインと展開] > [環境] に移動します。
2. パイプライン環境を構成するときは、コントローラーとして使用するインスタンスを決定し、そのインスタンスの [コントローラーとは？] チェック ボックスをオンにします。



3. [保存] を選択します。
パイプラインのワークフローが実行されると、非本番インスタンスはコントローラーインスタンスと通信して、次にアプリを展開するインスタンスを決定します。

テスト用の ATF およびインスタンススキャンスイートの追加

AEMC の標準であるインスタンススキャンおよび自動テストフレームワーク (ATF) テストスイートに加えて、カスタマイズされたテストスイートをアプリケーション展開の一部として追加します。

始める前に
ATF およびインスタンススキャンスイートはテストインスタンスにのみ存在するため、このタスクを完了するにはパイプラインを設定する必要があります。詳細については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

1. 本番インスタンスで、[すべて] > **[App Engine]** > [パイプラインと展開] > [スキャンスイート] に移動します。
2. このテーブルを初めて表示する場合は、[デフォルトのスイートを入力] を選択して、ServiceNow が提供するインスタンスと ATF スキャンスイートをロードします。
3. [新規] を選択して、新しいスキャンスイートを追加します。
4. フォームのフィールドに入力します。

スキャンスイートフォーム

フィールド	説明
スイート	テストインスタンスに存在するすべての ATF およびインスタンススキャンスイートを含むテーブル。
エラーの重大度	テストに合格しないスキャンスイートの重大度を示すエラーオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
インスタンスタイプ	スキャンスイートが実行されるインスタンスのタイプ。このフィールドは [テスト] に設定する必要があります。

5. [送信] を選択します。
   追加したスイートは、テスト中に選択したインスタンスにインストールされているアプリで実行されます。

自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティをアクティブ化する

App Engine Studio (AES) パイプラインと展開 アプリには、アプリケーション展開テストスイートと呼ばれるアプリケーションテストフレームワーク (ATF) スイートが含まれています。2 つのシステムプロパティが、アプリがテスト環境に展開されるたびにテストを自動的に実行するかどうかを制御します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
アプリケーション展開テストスイートのテストは本番インスタンスで実行できます。ただし、ベースシステムに含まれるフローは非本番 (テスト) インスタンスでのみ実行されます。また、テストは [テスト中] の [インスタンスタイプ] で定義されたインスタンスでのみ実行する必要があります。詳細については、「パイプライン環境の構成」を参照してください。

> **注:** 本番インスタンスを 1 つ以上の非本番インスタンスにクローンする場合は、これらの設定のデータプリザーバーを作成するか、本番インスタンスでこれらの設定をアクティブ化する必要があります。詳細については、「システムクローン」を参照してください。

手順
1. ナビゲーションフィルターに「`sys_properties.list`」と入力して **Enter** キーを押して、[システムのプロパティ] テーブルにアクセスします。
2. 次の 2 つのプロパティを見つけます。
   - sn_atf.runner.enabled
   - sn_atf.schedule.enabled
3. アプリをテストインスタンスに展開するたびに、これらのテストを非本番インスタンスで自動的に実行する場合は、各プロパティレコードを開き、[値] フィールドを [true] に変更して [更新] を選択します。

変更管理 統合の有効化

変更管理 と AEMC の統合を有効にすると、変更要求状況と予定されている変更時間帯に基づいて、パイプラインから本番環境への展開が自動的にスケジュールされます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
このタスクはガイド付きセットアップシステム内で完了でき、[構成] を選択するとガイド付きセットアップ内で開きます。必要であれば、以下の手順に従って、ガイド付きセットアップの外部で同じ構成タスクにアクセスできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ナビゲーションフィルターに「`sys_properties.list`」と入力して **Enter** キーを押して、[システムのプロパティ] テーブルにアクセスします。
2. プロパティ sn_deploy_pipeline.change_management.enabled を見つけます。
3. [値] フィールドを `true` に変更して、既存の 変更管理 プロセスを AEMC に接続します。
4. [更新] を選択します。
5. パイプラインと展開 ガイド付きセットアップで、[完了としてマーク] を選択します。
   イネーブルメントステップを完了としてマークすると、変更モデル、変更テンプレート、CI 作成サブフローなど、変更管理 統合に関連するプロパティを構成できます。詳細については、「変更管理を統合するプロパティの構成」を参照してください。

変更管理を統合するプロパティの構成

パイプラインと展開 のガイド付きセットアップで事前定義されたプロパティを構成し、会社のニーズに合わせて 変更管理 と AEMC の統合をカスタマイズします。これらのプロパティの構成はオプションです。

変更モデルの構成

アプリケーションの展開時に使用する変更モデルを構成します。構成されていない場合は、通常の変更モデルがデフォルトで使用されます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
特定のユースケースの変更アクティビティとフローの調整に使用できる変更モデルがいくつかあります。各タイプのモデルの詳細については、「変更モデル」を参照してください。以下の手順を使用して、アプリの展開中に使用する変更モデルを選択します。

このタスクはガイド付きセットアップシステム内で完了でき、[構成] を選択するとガイド付きセットアップ内で開きます。必要であれば、以下の手順に従って、ガイド付きセットアップの外部で同じ構成タスクにアクセスできます。

手順

1. ナビゲーションフィルターに「`sys_properties.list`」と入力して **Enter** キーを押して、[システムのプロパティ] テーブルにアクセスします。
2. プロパティ sn_deploy_pipeline.change_management.default.model を見つけます。
   このプロパティの値、つまり使用されているモデルを変更するには、切り替え先の変更モデルの **sys_id** を特定する必要があります。
   a. [すべて] > [変更] > [管理] > [変更モデル]に移動します。
   b. アプリ展開のデフォルトにする変更モデル ([標準] など) を選択します。
   c. レコードのヘッダーバーを右クリックして、**[sys_id** のコピー] を選択します。
3. **sn_deploy_pipeline.change_management.default.model** プロパティで、コピーした sys_id を [値] フィールドに貼り付け、現在の内容を置き換えます。
4. [更新] を選択します。
5. パイプラインと展開 のガイド付きセットアップの [変更モデルの構成 **(Configure Change Model)]** セクションで、[完了としてマーク] を選択します。

変更テンプレートの構成

アプリの展開中に変更要求ごとに作成する変更テンプレートの **sys_id** を構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
変更要求を作成するためのデフォルトテンプレートとして使用できるテンプレートがいくつかあります。詳細については、「変更要求テンプレートの作成」を参照してください。以下の手順を使用して、アプリの展開中に使用する変更テンプレートを選択します。

このタスクはガイド付きセットアップシステム内で完了でき、[構成] を選択するとガイド付きセットアップ内で開きます。必要であれば、以下の手順に従って、ガイド付きセットアップの外部で同じ構成タスクにアクセスできます。

手順

1. ナビゲーションフィルターに「`sys_properties.list`」と入力して **Enter** キーを押して、[システムのプロパティ] テーブルにアクセスします。
2. プロパティ sn_deploy_pipeline.change_management.default.template を見つけます。
   このプロパティの値、つまり使用されているテンプレートを変更するには、切り替え先の変更テンプレートの **sys_id** を特定する必要があります。
   a. [すべて] > [変更] > [標準的な変更] > [すべてのテンプレート]に移動します。
   b. アプリ展開のデフォルトにする変更テンプレートを選択します。
   c. テンプレートレコードのヘッダーバーを右クリックし、**[sys_id** のコピー] を選択します。
3. **sn_deploy_pipeline.change_management.default.template** プロパティで、コピーした sys_id を [値] フィールドに貼り付け、現在の内容を置き換えます。
4. [更新] を選択します。
5. パイプラインと展開 のガイド付きセットアップの [変更テンプレートの構成 **(Configure Change Template)]** セクションで、[完了としてマーク] を選択します。

CI 作成サブフローの構成

AEMC を使用して、アプリケーション展開中に構成アイテム (CI) を作成する方法をカスタマイズします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
デフォルトでは、**[CMDB CI** が存在しない場合は作成 **(Create CMDB CI if not present)]** サブフローが展開中に自動的に実行され、アプリケーションの CI が存在しない場合は作成されます。ただし、次の手順を使用して、展開中に構成アイテム (CI) を作成する方法を変更できます。

手順

1. ナビゲーションフィルターに「`sys_properties.list`」と入力して **Enter** キーを押して、[システムのプロパティ] テーブルにアクセスします。
2. プロパティ sn_deploy_pipeline.change_management.config_ci_creation_subflow を見つけます。
   このプロパティの値、つまり使用されているテンプレートを変更するには、切り替え先のサブフローの **sys_id** を特定する必要があります。
   a. [すべて] > [フローデザイナー] に移動します
   b. [サブフロー] タブを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [名前] 列で、[テンプレート: CMDB CI が存在しない場合は作成 (Template: Create CMDB CI if not present)]、または [CMDB CI が存在しない場合は作成 (Create CMDB CI if not present)] を検索して開きます。

d. [その他のアクション] メニューアイコン (⋮) を選択し、[サブフローのコピー] を選択します。

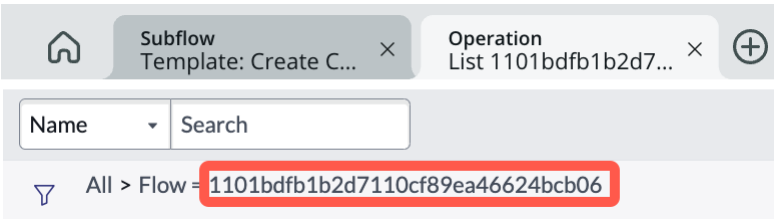
e. サブフローの名前を入力し、アプリケーションが展開パイプラインスコープ内にあることを確認します。

f. コピー を選択します。

g. サブフローを変更し、[保存] を選択します。

h. サブフローの sys_id を見つけるには、[その他のアクション] メニューアイコン (⋮) を選択し、[実行] を選択します。

i. sys_id をコピーします。
sys_id は、[すべて] > [フロー= **(Flow=)]** の後、ページの上部に表示されます。



3. **sn_deploy_pipeline.change_management.config_ci_creation_subflow** プロパティで、コピーした sys_id を [値] フィールドに貼り付け、現在の内容を置き換えます。
4. [更新] を選択します。
5. パイプラインと展開 のガイド付きセットアップの **[CI** 作成サブフローを構成 **(Configure CI Creation Subflow)]** セクションで、[完了としてマーク] を選択します。

AES によるインスタンスのクローン作成

システムクローンを使用して本番環境から非本番環境にインスタンスをコピーするときに、App Engine Studio で作成したデータ、テーブル、およびテンプレートを保護する方法について説明します。

クローン作成時のデータとテーブルの保持

AES を使用してインスタンスをクローンするための要件は次のとおりです。

1. すべての AES プラグインがすべてのインスタンスにインストールされていることを確認します。
2. 本番インスタンスをクローンする場合は、本番インスタンスで 自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) および インスタンススキャン プロパティをアクティブ化する必要があります。
3. 開発および展開データを収集する場合は、App Engine 管理センター (AEMC) プラグインをすべてのインスタンスにインストールする必要があります。

本番インスタンスから非本番インスタンスにデータとテーブルをクローン作成すると、非本番テーブルのデータが上書きされる可能性があります。開発環境でデータが失われないようにするには、コラボレーション用のクローン作成戦略を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 次のテーブルには、インスタンス間でテーブルが正しくクローンされるようにデータが保持されています。

   注: 次のテーブルの場合、保持はグローバルスコープのみに適用されます。

   - コラボレーション記述子テーブル：
     - アプリコラボレーション記述子 (sys_appcollab_descriptor)
     - アプリコラボレーション記述子の権限 (sys_appcollab_permission_m2m)
   - コラボレーションユーザーおよびグループテーブル：
     - アプリコラボレーションユーザー (sys_appcollab_user)
     - アプリコラボレーショングループ (sys_appcollab_group)

   データ保持により、開発インスタンスのテーブルにデータが確実に保持されます。
2. 次のテーブルにはクローン除外があります。
   - コラボレーション記述子テーブル：
     - アプリコラボレーション記述子 (sys_appcollab_descriptor)
     - アプリコラボレーション記述子の権限 (sys_appcollab_permission_m2m)
   - コラボレーションユーザーおよびグループテーブル：
     - アプリコラボレーションユーザー (sys_appcollab_user)
     - アプリコラボレーショングループ (sys_appcollab_group)

   クローン除外により、本番インスタンスのデータが開発インスタンスにコピーされないようにします。
3. AES が認証情報テーブルを使用する唯一のアプリケーションである場合は、認証情報エイリアス、基本認証、およびディスカバリー認証情報のデータプリザーバーを作成することを検討してください。それ以外の場合は、本番インスタンスを非本番インスタンスにクローンするときにこれらのテーブルが上書きされないようにする必要があります。
4. 次のユーザーは、クローン作成後にロールを再アサインされる必要があります。
   - AES ユーザーグループのユーザー
   - AES ユーザー制限グループのユーザー
   - 非本番インスタンスで sn_app_eng_studio.user ロールを持つユーザー
5. クローン後、[コラボレーション権限を再同期] クローン後クリーンアップスクリプトが自動的に実行されるため、本番インスタンスと開発インスタンスで同じだったアプリケーションには、自動的に協力者が同期されます。開発者はすぐに開発を再開できます。

   注: クローンされたインスタンスでは、コラボレーションプラグインが有効化されている必要があります。

6. 一部のアプリケーションがクローン作成前にバックアップされ、クローン作成後に取得された場合は、sys_app レコードの [コラボレーション権限を再同期] 関連リンクを使用して、ユーザーとグループを適切な委託開発権限に再アサインできます。
7. クローン後にコラボレーション記述子がユーザーまたはグループに関連付けられなくなった場合 (開発アプリがソースインスタンス内になかったためにクローン中にワイプされた場合)、[空の参照のあるレコードをクリーンアップ] 関連リンクを選択して、参照されていないユーザーまたはグループをコラボレーションテーブルから削除します。この UI アクションは、クローン作成が完了し、保持されているすべてのアプリケーションが取得された後 ([コラボレーション権限を再同期] が既に実行されているとき) に実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のテーブルには、インスタンス間でテーブルが正しくクローンされるようにデータが保持されています。

- パイプラインインスタンス
- 認証要求キー
- 展開要求
- 展開環境の要求

クローン作成時にアプリテンプレートを保持

アドミニストレーターは、クローンプロセス中にカスタムテンプレートが上書きされないように保護する必要があります。保護しないと、AES で作成されたテンプレート (既存のアプリケーションから作成したものと最初から作成したものの両方) がクローン作成中に消えてしまう可能性があります。

AES でテンプレートを作成すると、インスタンスのカスタムアプリケーション [sys_app.list] テーブルにスコープ対象のアプリが自動的に生成されます。内容は異なりますが、テンプレートアプリケーションと標準カスタムアプリケーションは Now Platform で同様に扱われます。そのため、システムクローン作成中のアプリテンプレートの保存は、アプリケーションの保存と同じように機能します。

非本番インスタンスでアプリテンプレートを保護するには、「システムクローン中の開発におけるアプリケーションとカスタマイズの保持」のプロセスに従います。

クローン作成とデータ保持に関する詳細情報

クローン作成とデータ保持の詳細については、次のトピックを参照してください。

- システムクローン ツールの使用の詳細については、「システムクローン」を参照してください。
- データ保持の詳細については、「クローン作成ターゲットインスタンスのデータ保持」を参照してください。
- AES を使用したインスタンスのクローン作成の詳細については、Now Learning の『App Engine Studio システムアドミニストレーターガイド』を参照してください。

AES でのインスタンスのクローン作成の詳細	追加の ServiceNow リソース
ServiceNow は、App Engine Studio を使用したインスタンスのクローン作成に関する追加リソースをいくつか提供しています。	クローン作成の基本に関するナレッジ記事 インスタンスのクローン作成のヒントとコツに関するナレッジ記事 インスタンスのクローン作成に関する広範な FAQ のナレッジ記事

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES でのインスタンスのクローン作成の詳細	追加の ServiceNow リソース
	App Engine Enterprise - Data Preservation During System Clone Whitepaper (システムクローン中のデータ保持に関するホワイトペーパー) 注: このリソースにアクセスするには、Now Learning にログインする必要があります。

App Engine Studio でのアプリのビルド

App Engine Studio (AES) でカスタムアプリケーションをビルドして、組織のビジネスニーズを満たします。

App Engine Studio のビルドプロセス

高いレベルでは、App Engine Studio で新しいアプリケーションをビルドする主な手順は 7 つあります。各ステップを選択すると、詳細が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションビルドプロセス

1. アプリ開発の計画
2. アプリ開発のためのアイデアの送信
3. AES を使用する開発者の委任
4. アプリの作成 または Now Assist for Creator でアプリを生成する
5. 他の開発者とのコラボレーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 承認と公開のためのアプリの送信
7. パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理

考慮事項

App Engine Studio でアプリケーションをビルドする際に念頭におく必要があるいくつかの考慮事項があります。

- App Engine Studio にアクセスするには、**[App Engine Studio]** > **[App Engine Studio]** に移動するか、次の Web アドレスを使用します。`<instance-name>.service-now.com/now/appenginestudio`。有効なリンクがない場合は、アドミニストレーターにお問い合わせください。
- App Engine Studio で異なるアプリケーション間を移動すると、それに応じてアプリケーションスコープが変更されます。

データ、エクスペリエンス、自動化、およびセキュリティの操作

App Engine Studio を使用すると、必要な数のデータテーブル、エクスペリエンスのタイプ、ロジックと自動化、セキュリティロールを必要に応じて追加できます。ただし、アプリが必要としない場合は、4 つのカテゴリすべてをアプリに追加する必要はありません。

アプリ開発の計画

App Engine Studio (AES) のアプリケーション開発プロセスは、次の効果的なアプリのアイデアを出すことから始まります。ビジネスに利益を提供するアプリを開発するには、慎重に計画することが重要になります。

Now Platform への適合性

アプリケーションの特性を考慮して、Now Platform に適しているかどうかを判断します。

適合性が高い場合	適合性が低い場合
• 簡易フォーム • タスク管理 • 要求管理 • スプレッドシート駆動のプロセス • 繰り返し可能なプロセス • サードパーティ統合 • 複数のシステムのオーケストレーション • 複数のシステムの機能からの単一のエクスペリエンス • 同じアプリとデータへの Web およびモバイルアクセス	• 非構造化データ • 繰り返し不可能なプロセス • グラフィック処理が必要なコンテンツ • ストリーミングオーディオまたはビデオ • 高度にカスタマイズされたユーザーインターフェイス

ビルド前の計画

アプリケーションをビルドするには、ServiceNow インスタンスと、そのインスタンスのアドミニストレーターまたは委任開発者ロールにアクセスする必要があります。委任開発者権限を持っている場合、アプリケーションを開発できますが、アドミンよりも権限は少なくなります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

基本的に、アプリケーションはユーザーのタスクをサポートするデジタルプログラムです。アプリを計画する際は、次の表の質問を考慮してください。

質問	回答と考慮事項
アプリケーションの目標、目的、および出力は何ですか？どのようなビジネス上の問題を解決しようとしていますか？	明確な事業達成目標がないと、アプリケーションの成功を評価したり、組織内での継続的な使用を正当化したりすることが困難になる可能性があります。
スプレッドシートを ServiceNow アプリケーションに変換しますか、それともアプリケーションは別の場所に存在しますか？	この質問に対する回答は、作業をサポートするために Now Platform 内で使用するツールを決定するのに役立ちます。
アプリケーションを使用するのは誰ですか？	対象者を明確にすることは、アプリケーションに含める機能、キャプチャすることを選択するデータ、およびアプリケーションに提供するインターフェイスに直接影響します。
どのユーザーにも同じようにアプリケーションの一部を表示および編集できるようにしますか？それとも一部のユーザーのアクセス権を他のユーザーよりも増やしたり減らしたりする必要がありますか？	誰がどの情報にアクセスできるのかを計画段階で明確にすることは、アプリケーションを開発する上で重要なステップです。
アプリケーションの主な使用目的は何ですか？アプリケーションは、情報の提供、情報の収集、情報のルーティング、情報の検索、要求、または情報の共同作業に使用されていますか？	アプリケーションの目的を特定することで、アプリケーションにビルドする必要がある機能を確立できます。
アプリケーションで情報を入力する必要がありますか？ それともアプリケーション内のデータが ServiceNow インスタンス (つまりユーザーデータ) に存在しますか？データは外部ソースからインポートされますか？	利用可能なデータソースを可能な限り使用して、データの重複を回避し、ビジネスゴールを達成するために必要なデータがアプリケーションに含まれるようにします。
ユーザーはアプリケーションをどのように操作しますか？ユーザーはコンピューターまたはモバイルデバイスを使用してアプリケーションにアクセスしますか？	ユーザーがアプリケーションにアクセスする手段を把握することは、アプリケーションの機能のビルド方法に影響します。
アプリケーションについてステークホルダーにどのようにレポートしますか？	アプリケーションがビジネス目的を満たしている場合は、アプリケーションに関連する使用状況、定着、および主要な事業達成目標を示すレポートを提供する必要があります。
このアプリケーションをどのように維持しますか？	アプリケーションのメンテナンスを最初に計画することで、開発プロセスの障害を防ぐことができます。

これらの質問に対する回答は、事前定義されたテンプレートに基づいてアプリケーションを作成するか、または新規にアプリを作成するかを決定するために役立ちます。

不可逆的な考慮事項

アプリケーションのビルド時に実行する一部のアクションは、取り消すことができません。そういったアクションを意識して事前に計画してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	考慮事項
スコープ対象のアプリケーションまたはグローバルアプリケーションの作成	アプリケーションを作成するときは、プライベートスコープ (スコープ対象のアプリケーション) またはグローバルスコープ (グローバルアプリケーション) のどちらで作成するかを選択できます。スコープ対象のアプリケーションには、開発、アプリケーション展開、およびデータセキュリティを管理するための追加機能があります。デフォルトでは、すべてのアプリケーションはプライベートスコープで作成されます。 市民開発者は通常、スコープ対象のアプリケーションを操作する必要があります。
異なるインスタンスの使用	Proof of concept (PoC) アプリケーションは、ServiceNow開発者サイト から取得した個人開発者インスタンス (PDI) でビルドできます。 • PDI 名は dev12345.service-now.com のようになります。 • PoC アプリケーションは PDI で再ビルドできます。PoC アプリを PDI にインポートしないでください。 組織が使用する本番アプリケーションは、組織のテストおよび展開プロセスに従うことができるように、開発インスタンスで作成する必要があります。最終的に組織の本番インスタンスに展開されるアプリケーションの開発に使用するインスタンスについては、ServiceNow アドミニストレーターにお問い合わせください。
アプリケーション名の選択	オートコンプリートは、アプリケーションの表示名に基づいて、アプリケーションスコープとも呼ばれる内部名の提案を表示します。アプリケーションスコープは x_[会社コード]_[app_name] の形式で記述され、たとえば x_acme_legal_request のようになります。 アプリケーションで作成されたすべてのプロパティはアプリケーションスコープ名を継承するため、アプリケーションの開発を開始する前に慎重に選択してください。 **注:** アプリケーションの表示名はいつでも変更できますが、アプリケーションスコープ名は変更できません。
テーブル名とフィールドの選択	アプリケーションを作成したら、テーブルとフィールドの作成を開始します。テーブルとフィールドには、作成時にのみ編集する必要がある内部データベース名があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション取り込みプロセス

組織のメンバーは、アプリケーション取り込みと呼ばれるプロセスを通じてアプリ開発のアイデアを送信できます。アイデアが送信されて承認されると、開発者は App Engine Studio のガイド付きの直感的なアプリ開発環境を使用してアプリのビルドを開始できます。

アプリケーション取り込み要求プロセスには、次のメリットがあります。

- アプリのアイデアを要求、承認、追跡、保存するプロセスを簡素化します。
- すべてのアプリアイデアを可視化することで、計画を強化します。
- 繰り返しの要求を除外するための効率的なプロセスを提供します。

詳細については、「アプリ開発のためのアイデアの送信」を参照してください。

- 取り込み要求フォームは、標準 サービスカタログ から入手できます。このフォームを変更する方法については、「サービスカタログアイテム」を参照してください。
- 取り込み要求プロセスはワークフロースタジオでフローを使用して承認フローを決定します。承認フローを調整する場合は、「フロー」を参照してください。
- アドミニストレーターは、次で取り込みアプリケーション要求をレビューします：App Engine 管理センター 。詳細については、「App Engine 管理センター を使用したアプリ開発の管理」を参照してください。

アプリケーションテンプレート

アプリケーションテンプレートは、特定の目的をサポートするための事前定義されたコンテンツを提供します。たとえば、出張要求テンプレートは、従業員の出張要求を送信および承認するためのアプリケーションコンテンツを提供します。アプリケーションの目標に最も適したテンプレートを選択してください。

利用可能なテンプレートがアプリケーションの目的に適合しない場合は、最初からアプリを作成し、開発プロセスのすべての側面を制御できます。

アプリ開発の計画に関するその他のリソース

アプリ開発の計画について詳しく見る	ServiceNow リソース
ServiceNow はアプリ開発の計画に関するその他のリソースを提供します	効果的な市民開発プログラムの立ち上げ

アプリの作成

App Engine Studio (AES) のテンプレートを使用して、データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティをアプリケーションに自動的に組み込みます。または、最初からアプリを作成し、必要に応じてカスタマイズします。

注: アプリを作成する前に、アプリ開発の計画 を行ってください。

App Engine Studio でアプリケーションをビルドするには、次のコンテンツを追加します。

データ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションに保存されている情報です。たとえば、従業員の電話番号やオフィスの場所などです。テーブルを使用してアプリケーションデータを設定します。

エクスペリエンス

ユーザーが操作するグラフィカルインターフェイスです。たとえば、ユーザーが情報を検索し、要求を送信し、ビジネスタスクを実行できるポータルを作成できます。

ロジックと自動化

ロジックと自動化を追加することで、アプリケーションのすべての作業を自動化します。たとえば、誰かが要求を行ったときにアドミニストレーターに通知を送信するフローをビルドできます。

セキュリティ

アプリケーションを使用できるユーザーを限定するロールとアクセス制御です。

注: AES でアプリを作成するには、アドミンであるか、App Engine Studio ユーザーグループに所属している必要があります。App Engine Studio ユーザー制限グループに属している場合、既存のアプリの編集のみ可能で、新しいアプリを作成することはできません。

アプリケーションテンプレートを使用する場合、1 つ以上のこれらのアイテムがアプリケーションに自動的に追加されます。その後でそれらを編集して、特定のビジネスニーズに合わせてカスタマイズできます。テンプレートを使用して作成したアプリケーションに、さらにデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、またはセキュリティを追加することもできます。

アプリケーションを新規にビルドするには、データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティをアプリケーションに追加し、それぞれを編集します。

アプリ生成のための **Now Assist**

ServiceNow® クリエーターの Now Assist アプリケーションを使用して生成 AI を使用し、アプリの作成を簡素化します。開発者が作成したいアプリについて話し合った後、クリエーターの Now Assist がアプリを生成し、それは App Engine Studio で変更できます。

開始するには

探索 開発者が会話を通じてアプリを作成する方法を学びます	構成 開発者向けのアプリ生成を設定します
生成 会話を通じてアプリをビルドします	参照 プロパティ、ロールなどの詳細情報を取得します

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: Now Assist の一部の製品/機能は現在、FedRAMP、NSC DOD IL5、オーストラリアの IRAP で保護されたデータセンターのお客様、セルフホスト型のお客様、またはその他の制限された環境のお客様は利用できません。詳細については、Now Support ナレッジベース 記事「KB0743854」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。

トラブルシューティングとサポート

- ServiceNow コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先カスタマーサービス & サポート

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、ユースケースに適した精度についてこのアプリケーションの使用をテストおよび評価し、必要に応じて人間によるレビューを採用し、意思決定の目的のために AI で生成された出力のみに依存しないようにすることを強くお勧めします。これは、医療、ファイナンス、法務、雇用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。

データ処理

このアプリケーションでは、ServiceNow 顧客の個々のインスタンスから一元化された ServiceNow 環境にデータを転送する必要があります。この環境は、インスタンスが存在するデータセンターとは異なるデータセンターリージョンに配置されている可能性があり、場合によっては Microsoft Azure などのサードパーティクラウドプロバイダーにも転送されます。このデータは、コアコンプライアンスポータル から利用可能なポリシーを含む、ServiceNow の内部ポリシーと手順に従って処理されます。

データコレクション

ServiceNow は、このアプリケーションの入力、出力を収集して使用し、出力を編集して、ServiceNow モデルや AI 製品などの ServiceNow テクノロジーを開発および改善します。さらに、このアプリケーションは アプリの生成が使用されたアプリケーション (および関連するアプリケーションファイル) に関する情報。 お客様は、「 Now Assistオプトアウトに関するページ 」の説明に従って、いつでも将来のデータコレクションをオプトアウトできます。

アプリ生成の詳細を確認する

クリエーターの Now Assist アプリケーションを使用して、開発者は生成 AI との会話を通じてアプリケーションを作成できます。

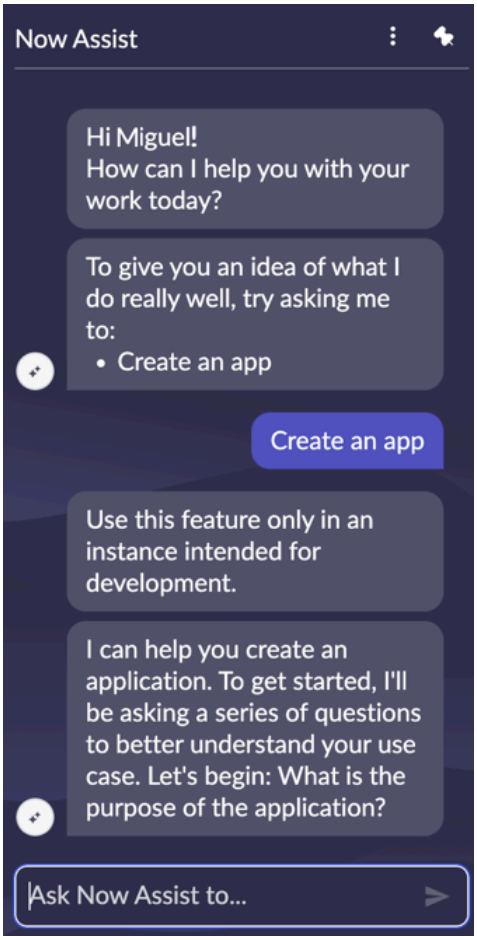
アプリ生成の概要

開発者は、生成 AI との自然な会話を通じてアプリケーションの作成を開始できます。ビジネスプロセスを説明し、Now Assist と繰り返し会話して、組織向けのアプリケーションを開発できます。この機能により、組織はカスタマイズ可能な基本アプリの初期開発を迅速化できます。

注: アプリの生成を使用するには、アドミニストレーターと開発者に admin ロールと now.assist.creator ロールがアサインされている必要があります。アプリの生成の使用の詳細については、「クリエーターの Now Assist でアプリを生成する」を参照してください。

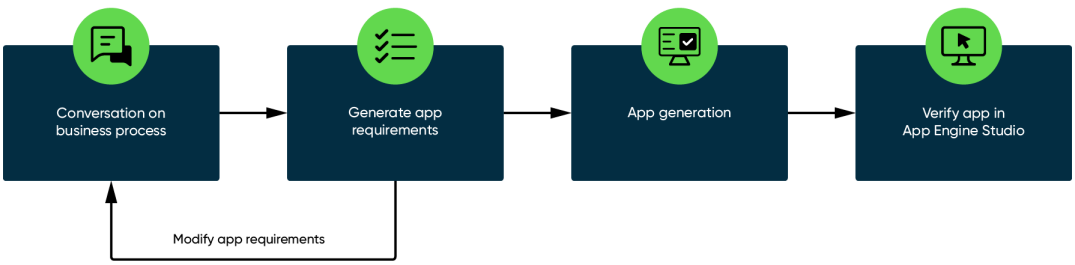
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリの生成を開始する



アプリ生成スキルを使用して クリエーターの Now Assist でアプリをビルドするフェーズは 3 つあり、App Engine Studio でアプリを検証するフェーズは 4 つあります。

アプリ生成ワークフロー



会話

開発者は クリエーターの Now Assist とチャットして、目標、ユーザー、ワークフロー、エクスペリエンスの詳細など、アプリケーションに必要なビジネスプロセスを指定できます。

絞り込み

クリエーターの Now Assist は、会話中に収集された情報に基づいて、アプリケーション要件の概要を提供します。開発者は各概要を確認し、要件がアプリケーションのニーズを満たしている場合は、アプリの生成を進めます。開発者が変更を加えたい場合は、会話を通して編集を続けることができます。Now Assist は、コメントに基づいてアプリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ケーション要件の絞り込みを続け、開発者がアプリケーションの生成を続行するまでサマリーを提供します。

生成

クリエーターの Now Assist は、アプリケーション、およびテーブル、ロール、アクセス制御リスト (ACL)、レコードプロデューサーなどの関連コンポーネントを生成します。

開発者は App Engine Studio で生成されたすべてのものを開いて検証でき、それは クリエーターの Now Assist で使用可能です。開発者は、組織のニーズに合わせてアプリを変更できます。たとえば、フローや自動化、スクリプトインクルード、ビジネスルールなどの機能を追加することで、アプリの機能を拡張できます。

アプリを生成すると、次のコンポーネントとメタデータが生成されます。

サポートされているメタデータ

ラベル	名前	使用法
テーブル	sys_db_object	テーブルは、簡単に参照できるようにデータを行と列に整理します。 • 情報を含むレコードのコレクション • レコードには、アプリケーションのデータを格納するフィールドが含まれる • 各レコードはテーブルの行に対応し、レコードの各フィールドはテーブルの列に対応する
ロール	sys_user_role	ユーザーとグループに割り当てられる権限のセット
アクセス制御リスト (ACL)	sys_security_acl	ACL は、アプリケーションのロールベースのアクセス制御を管理します。 • リソースへのロールアクセスおよび許可された操作を定義するルール • フィールドまたはテーブルレベルで適用できる ACL
フォーム	sys_ui_form	ユーザーがデータを送信してテーブル内のレコードを作成または更新できるようにするインターフェイス
レコードプロデューサー	sc_cat_item_producer	タスクベースのレコードを生成する情報をユーザーが入力できるようにするフォームのタイプ

アプリ生成のメリット

メリット	機能	ユーザー
迅速に出発点に到達し、さらなる開発のための基盤を確立できます。	クリエーターの Now Assist でアプリを生成する	開発者

アプリ生成を使用するための一般的なガイドライン

アプリ生成スキルを使用するための一般的なガイドラインについて説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

会話をする

アプリの生成を最大限に活用するため、ステートメントを慎重に作成し、詳細を含めるようにします。

開始

Now Assist はアプリケーションの主な目的を尋ねます。

一般的なステートメントから始めることができます。たとえば、社内での従業員の出張方法を管理したいなど。

会話

アプリをどのように動作させたいかを Now Assist に伝え、問い合わせに応答する、継続的なプロセスに関与します。

自分が何を望んでいるのかが正確にわかっている場合、直接的かつ具体的に伝えます。例：

- 従業員名、目的地、出張期間などのフィールドを持つ出張要求のテーブルが必要。
- 従業員が要求を作成して送信できるようにしたい。マネージャーはこれらを表示し、承認または拒否できる。従業員は、自分が送信した要求を表示できるが、他のユーザーが送信した要求は表示できない。
- 従業員が要求を送信するためのフォームと、マネージャーがそれらの要求を確認して応答するための別のフォームが必要。

また、あなたは自分が知っていることだけを伝え、Now Assist と協力してギャップを埋めることもできます。例：

- 従業員の出張ごとに関連データを収集して監視する必要がある。何か提案してもらえないか？

  Now Assist は次のように提案します：

  もちろんです、基本から始めることができます。従業員の名前、目的地、出張期間、出張目的、予算などを取り込んでみてはいかがでしょうか。それが良い出発点ではないでしょうか？

- そうだね、ありがとう。私のアプリの各ユーザーについて権限を管理する必要がある。そのために何かお願いできないだろうか？

  Now Assist は次のように説明します：

  権限を管理するためのロールを作成させていただきます。アプリケーションのユーザーのタイプと、そのユーザーが実行できるべき操作について詳しく教えてください。

- 了解。現在、従業員は出張承認のためのメールをマネージャーに送信し、マネージャーは部門レベルの予算に従って、従業員が出張するかどうかを決定している。

  Now Assist は次のように説明します：

  それでは、従業員には自分の要求を作成したり表示できるようにして、マネージャーにはすべての要求を表示したり承認できるようにしてはいかがでしょうか？

- それは良さそうだ、ありがとう。

  Now Assist は、ワークフローを理解し、必要な機能を実装する方法を提案します。

  従業員が出張要求を送信したり更新するためのフォームも作成しますか？

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

マネージャーが出張要求を承認したり却下するためのフォームを作成しますか？

レコードプロデューサーも作成できます。これにより、従業員はサービスカタログから直接出張要求を送信できるようになります。この機能をアプリケーションに含めますか？

会話全体を通して、ユーザーの入力に基づき、Now Assist がアプリケーション要件の理解を調整します。

アプリ生成の構成

アプリケーションのビルドを開始できるように、クリエーターの Now Assist アプリケーションのアプリ生成スキルを有効にします。

アプリ生成用に **Now Assist** をインストールする

クリエーターの Now Assist アプリケーションをインストールすると、組織向けアプリケーションの作成を開始できます。

始める前に

- 依存関係、ライセンスとサブスクリプションの要件、リリースの互換性について知るには、ServiceNow Store にある クリエーターの Now Assist アプリケーションを確認してください。クリエーターの Now Assist は、アプリ生成アプリケーション用に Now Assist をインストールします。

必要なロール：admin

手順

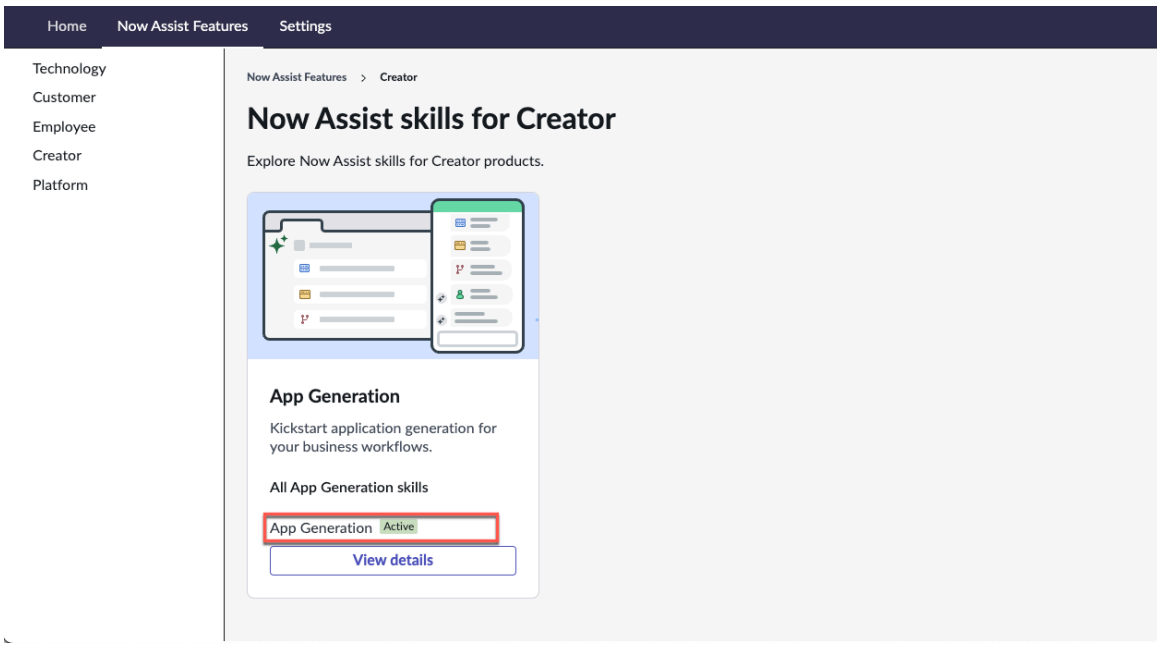
1. ServiceNow Store の クリエーターの Now Assist アプリケーションに移動します。
2. クリエーターの Now Assist アプリケーションページで、[アプリを要求] を選択します。
3. 要求が承認されたら、[すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
4. フィルター基準と検索バーを使用して、クリエーターの Now Assist アプリケーション (sn_now_creator) を検索します。
5. [インストール] を選択します。
6. クリエーターの Now Assist がインストールされていることを確認します。

   a. [すべて] > *Now Assist* アドミン > [機能]に移動します。

   b. ワークフローリストで、[作成者] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. アプリ生成カードで、アプリ生成スキルがアクティブであることを確認します。



Now Assist アドミンコンソールを使用して Now Assist アプリケーションの設定、構成、監視に関する情報にアクセスする方法の詳細については、「Now Assist アドミンコンソール」を参照してください。

次のタスク
アプリ生成を使用する各ユーザーに、now.assist.creator ロールを付与します。アプリケーションの生成を開始するには、「クリエーターの Now Assist を使用してアプリを生成する」を参照してください。

関連情報

Now Assist for Creator のインストール

クリエーターの **Now Assist** を使用してアプリを生成する

クリエーターの Now Assist アプリケーションと会話して、アプリケーションのビルドを開始します。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。

https://player.vimeo.com/video/996001913?h=35af70a157&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に
アプリ生成を使用するには、クリエーターの Now Assist のスキルをアクティブ化する必要があります。詳細については、「アプリ生成用に Now Assist をインストールする」を参照してください。

必要なロール：admin、now.assist.creator

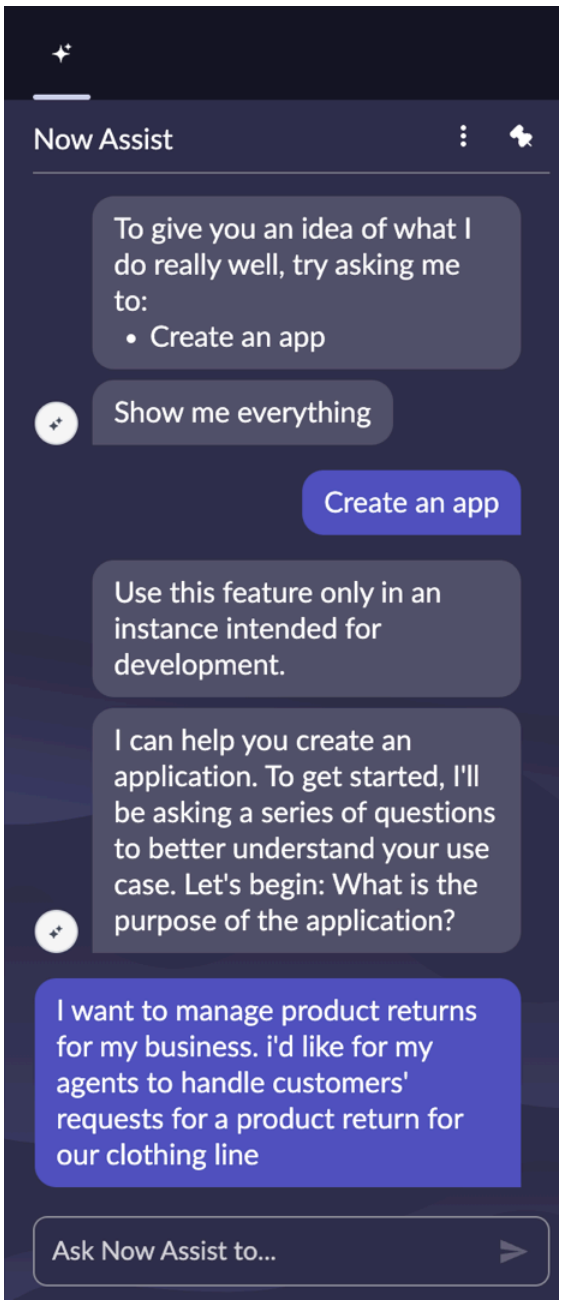
このタスクについて
インスタンスでアプリ生成が有効になっている場合、ホームページのバナーに [Now Assist] アイコン (✦) が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. Now Assist アイコンを選択して Now Assist パネルを開きます。
   [ピン] アイコン ( ) を選択して、Now Assist パネルを画面の横に固定できます。
2. [Now Assist] パネルで、[アプリを作成] を選択します。
   Now Assist にアプリケーションの説明を求められます。
3. 現在のビジネスプロセスを要約します。

   Now Assist がアプリケーションの目的を理解できるように、アプリケーションのユースケースを説明します。自分が何を望んでいるのかが明確であれば、高度に詳細化できます。明確でない場合は、大まかな説明から始めます。Now Assist がアプリの要件を絞り込みます。



4. アプリの動作の詳細を入力して、Now Assist との会話を続けます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

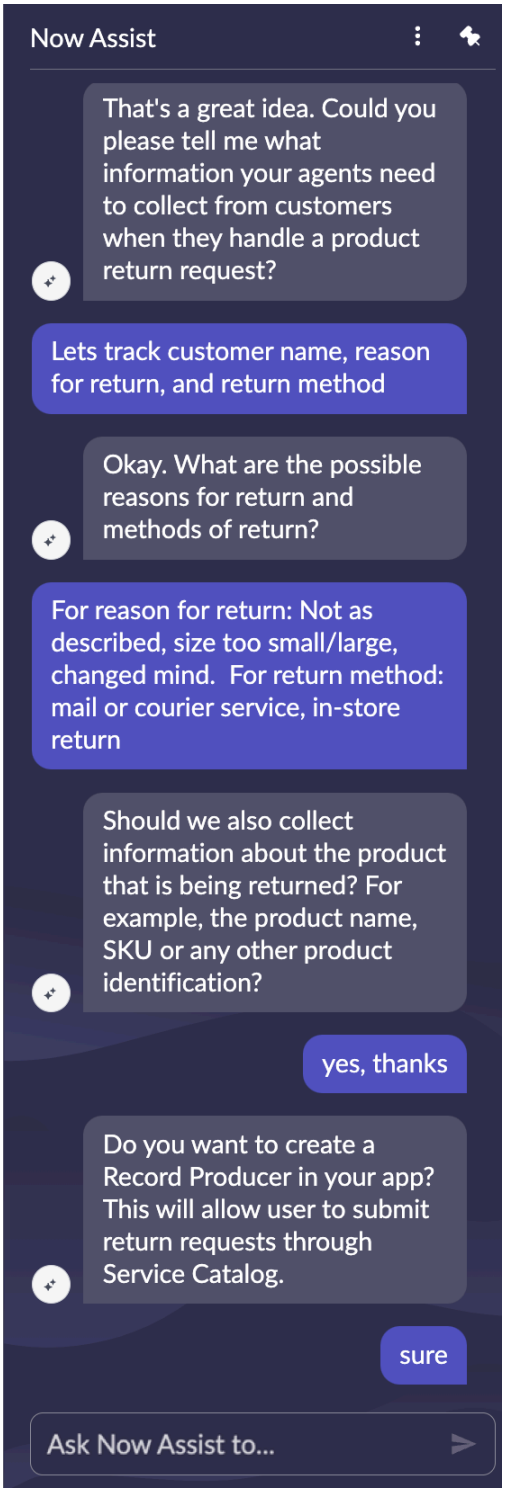
Example

Now Assist が、収集するデータ、関係するユーザーとその権限、および目的のインターフェイスを理解するための質問をします。この回答は、Now Assist がアプリケーションに適したテーブル、ロール、アクセス制御リスト (ACL)、およびフォームとレコードプロデューサーを作成するのに役立ちます。

アプリをどのように動作させたいかが正確に分かっている場合は、その機能を具体的に伝えます。分かっていない場合は、Now Assist とやり取りして、正しいアプリケーション要件を決定します。詳細については、「アプリ生成を使用するための一般的なガイドライン」を参照してください。

Now Assist が十分な情報を収集すると、アプリケーション要件の詳細な概要が提供されます。

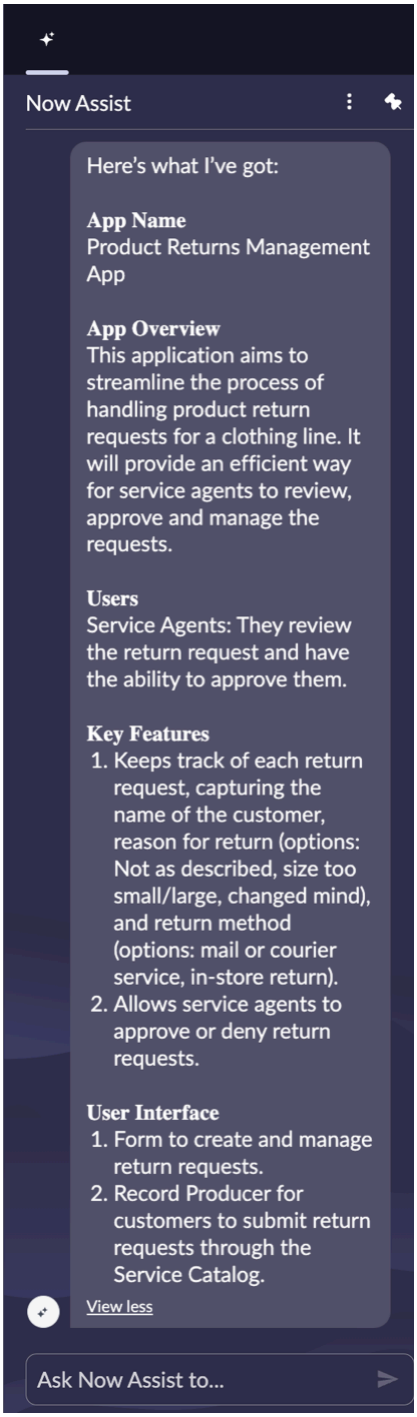
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. アプリケーション要件の概要を確認します。

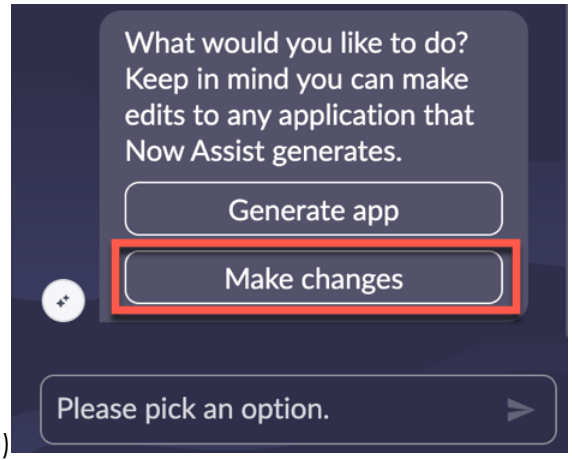
   注: 情報は AI によって生成されるため、テキストを確認して正確であることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



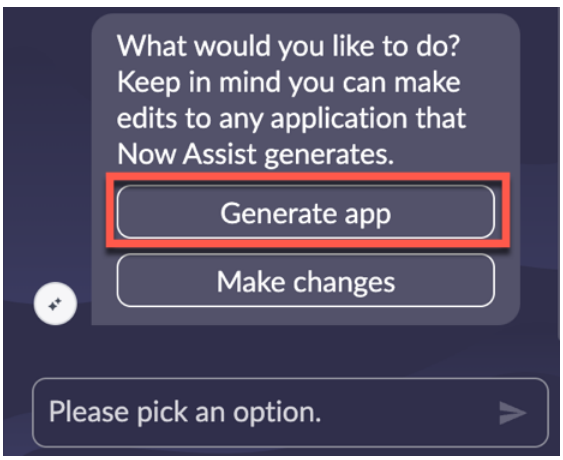
6. オプション: 変更を加えるには、[変更を加える] を選択して Now Assist パネルを開いたままにして、編集を続行できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

(Optional) 

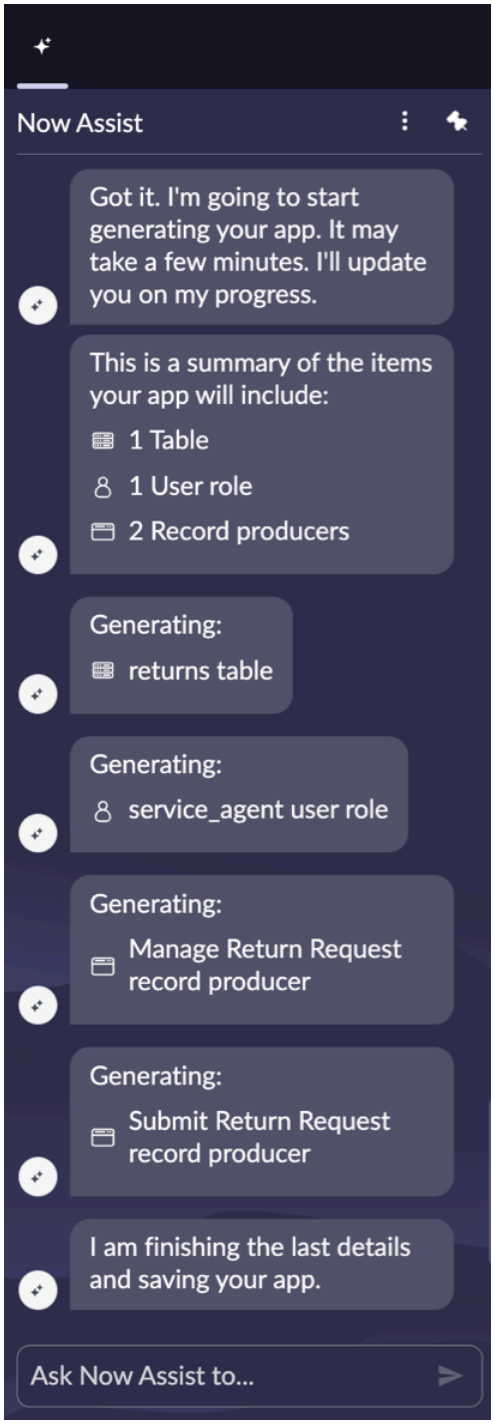
生成される概要がアプリの要件と一致するまで、Now Assist とのやり取りを続けます。

7. アプリケーションの要件に問題がなければ、[アプリを生成] を選択します。



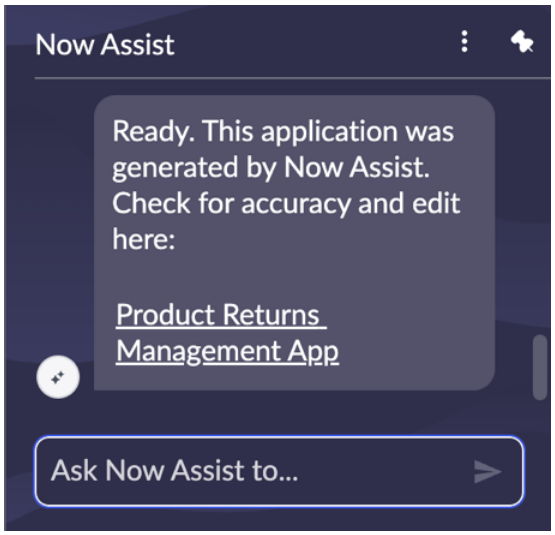
Now Assist は、生成している内容を通知します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Assist は、App Engine Studio でアプリとそれをサポートするコンポーネントを開くためのリンクを提供します。



タスクの結果
アプリが作成されたので、その内容を確認して、正確であることを確認します。App Engine Studio のツールを使用して、さらに機能を追加し、アプリを強化します。詳細については、「クリエーターの Now Assist によって生成されたアプリをレビューする」を参照してください。

クリエーターの **Now Assist** によって生成されたアプリをレビューする

App Engine Studio の開発環境を使用して、クリエーターの Now Assist が作成したアプリケーションを検証および変更します。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。

https://player.vimeo.com/video/995459091?badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に
クリエーターの Now Assist を使用してアプリケーションを作成しました。

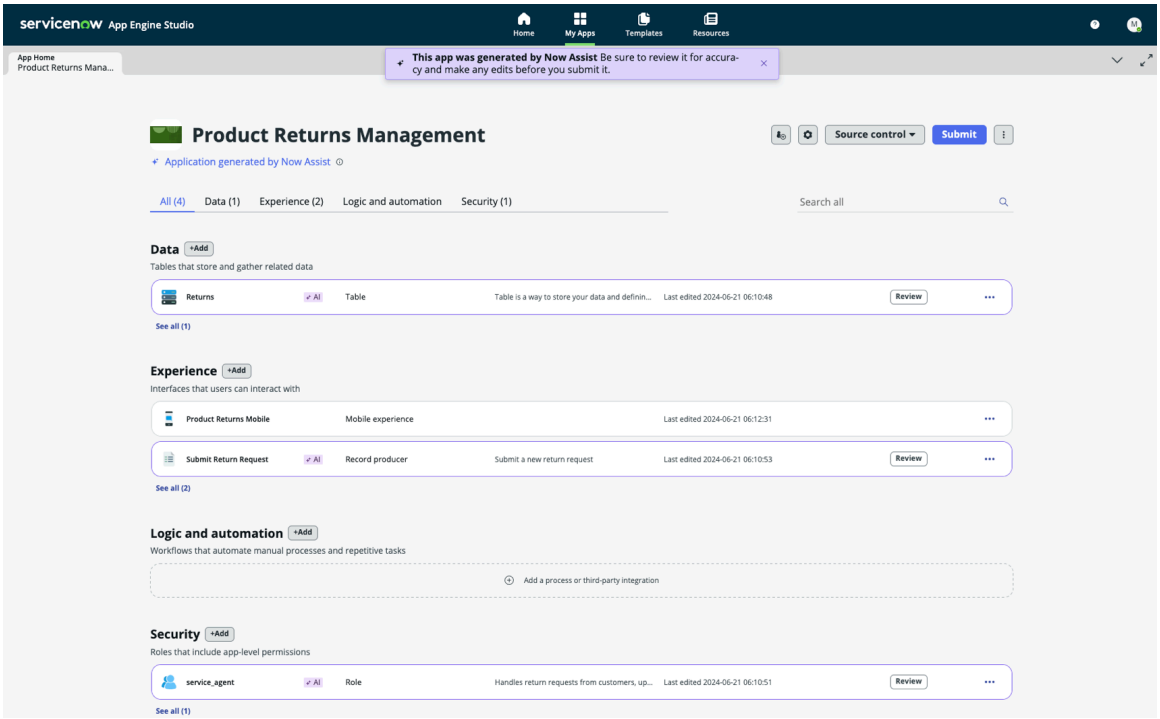
必要なロール：admin、now.assist.creator

このタスクについて
Now Assist によって生成されたアプリケーションは、さらなる開発の出発点となります。その内容を調べて、ビジネスプロセスに一致していることを確認します。必要に応じて機能を追加して、アプリケーションを強化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. App Engine Studio のアプリのホームページに移動します。



Now Assist によって生成されたアイテムは、識別しやすくなっています。

- バナーが、生成されたアイテムを確認するよう求める。
- 各メタデータレコードには、AI によって生成されたことを示すラベルが付けられる。
- 各メタデータレコードには、レビューが必要なレコードを特定するのに役立つ [レビュー] ボタンがある。

対照的に、Product Returns Mobile エクスペリエンスは Now Assist なしで作成されており、これらの要素は含まれていません。

AES アプリホームページの詳細については、「アプリホーム」を参照してください。

2. 生成されたテーブルを確認します。

   a. [データ] 見出しで、アプリケーションの既存のテーブルの [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。
   アプリケーションのデータを編集するために、データテーブルを選択するか、[他のアクション] メニュー (•••) で [編集] を選択すると、テーブルビルダー が起動します。テーブルビルダーは、アプリケーションに追加したデータテーブルを編集するためのツールです。

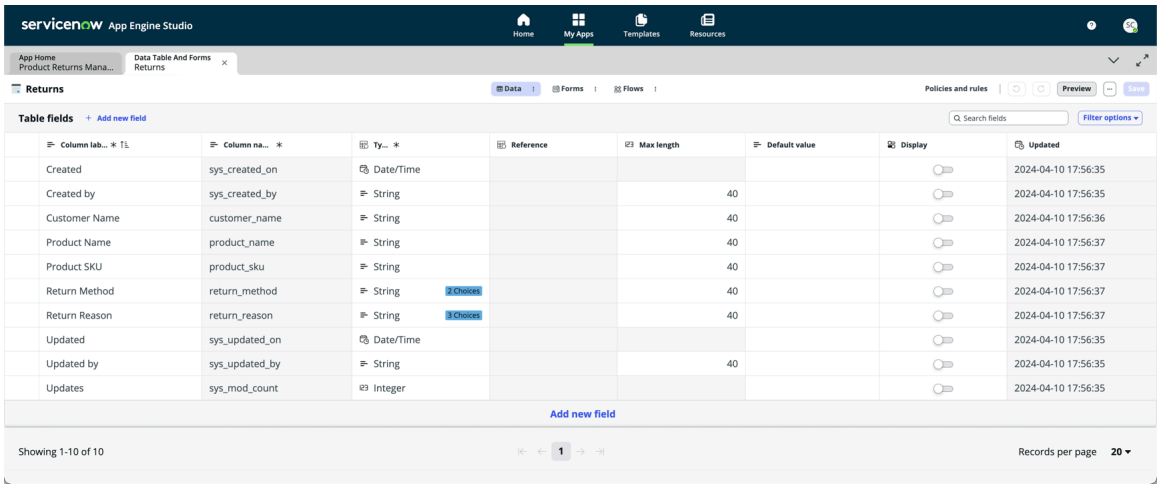
   b. テーブルデータの正確性と完全性を確認します。

   [データ] タブで、アプリケーションデータテーブルを管理します。

   - テーブルのフィールドを管理する。
   - テーブルとフィールドの列のプロパティを編集する。
   - 生成された選択肢が正しく実装されていることを確認する。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Assist が指示に基づいてテーブルを作成しました。テーブルが収集する目的のデータをキャプチャしていることを確認します。たとえば、次のテーブルには、会話中に話し合われたフィールドが含まれています。



テーブルビルダー でのテーブルの編集の詳細については、「アプリケーションデータテーブルの変更」を参照してください。

3. 生成されたロールとアクセス制御リスト (ACL) を確認します。

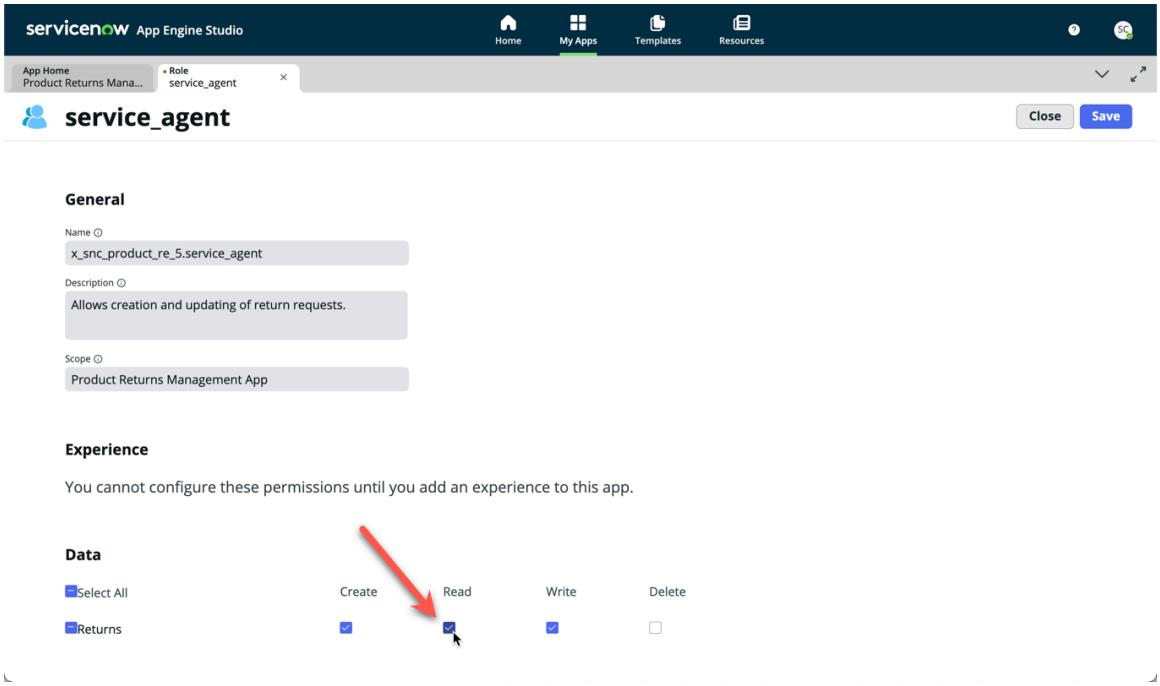
   a. [セキュリティ] 見出しで、ロールの横にある [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

   表示するロールをリストするバーを選択することもできます。

   b. 作成されたロールとアサインされた権限が、アプリケーションのユーザーを正確に表していることを確認します。

   ロールとその権限をワークフローに合わせて構成できます。たとえば、次の例のロールには、返品要求を作成および更新する権限が付与されています。要求を読み取るためのこのロールが必要なため、 [ロール] ページでこのアクセス権を構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ロールとアクセス権の構成の詳細については、「ロールの操作」を参照してください。

4. 生成されたフォームとレコードプロデューサーを確認します。

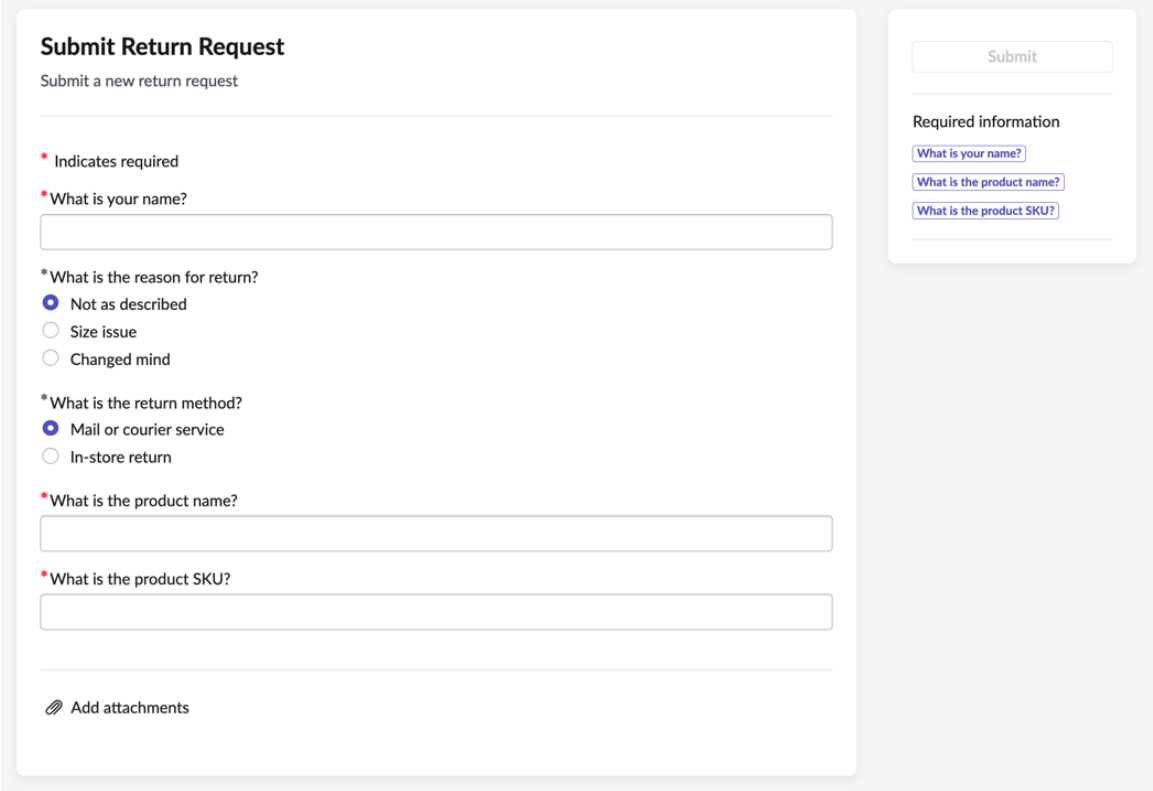
   a. [エクスペリエンス] 見出しで、アプリケーションのフォームまたはレコードプロデューサーの [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

      表示するエクスペリエンスをリストするバーを選択することもできます。

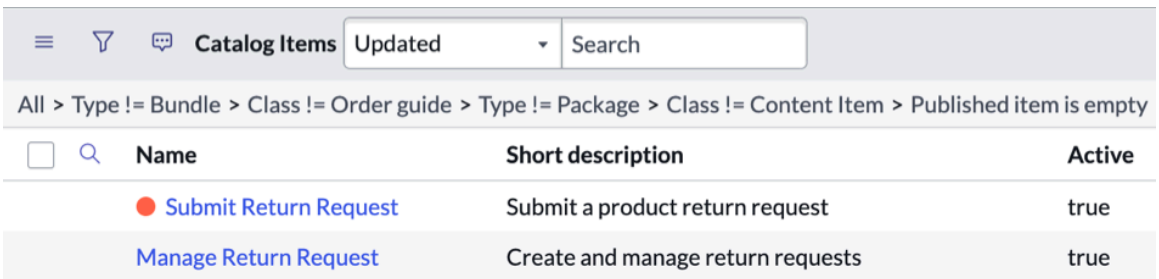
   b. 必要に応じてアイテムを変更します。

      アイテムをプレビューできます。質問フィールドタイプが意図した目的に一致していることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



レコードプロデューサーのカタログアイテムが サービスカタログ に表示されることを確認します。詳細については、「 サービスカタログ 」を参照してください。



変更を加える場合は、App Engine Studio を使用してエクスペリエンスを微調整できます。詳細については、「レコードプロデューサーの追加」を参照してください。

次のタスク

事前定義されたルールまたはロジックに従ってタスクを実行するようにアプリケーションを設定します。フローの追加、ディシジョンテーブルの作成、プレイブックのビルド、スクリプトインクルードとビジネスルールの記述、またはメール通知の構成を行うことができます。詳細については、「ロジックと自動化の追加」を参照してください。

アプリ生成の参照

参照トピックには、構成プロパティ、ロールなどに関するその他の情報が記載されています。

アプリ生成のロール

クリエーターの Now Assist のアプリ生成スキルで使用するために、次のロールがインストールされます。

Now Assist Creator [now.assist.creator]

生成 AI との会話を通じてアプリケーションを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールを含む

ロール内に含まれるロールのリスト。

なし。

グループ

このロールがデフォルトでアサインされているグループのリスト。

なし。

特別な考慮事項

なし。

アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成

事前定義されたデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティを使用するアプリケーションを App Engine Studio (AES) でビルドします。アプリをテンプレートコンテンツに追加し、組織に合わせてカスタマイズします。

始める前に

注: AES でアプリを作成するには、アドミンであるか、App Engine Studio ユーザーグループに所属している必要があります。App Engine Studio ユーザー制限グループに属している場合、既存のアプリの編集のみ可能で、新しいアプリを作成することはできません。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

このタスクについて

App Engine Studio でテンプレートを使用すると、アプリケーション作成の時間と労力を節約できます。ServiceNow Store からいくつかのテンプレートをダウンロードすることも、既存のアプリケーションからテンプレートを作成することもできます。PDI にテンプレートをインストールするには、「PDI からのプラグインのアクティブ化」を参照してください。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。

テンプレートからアプリを作成する短いビデオ

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [テンプレート] タブで、利用可能なテンプレートを参照します。
3. 使用するテンプレートにカーソルを合わせ、[テンプレートを使用] を選択します。
4. アプリケーションの名前と説明を入力します。
5. オプション: 画像を AES ページにドラッグするか、コンピューターでファイルを参照して、ロゴを追加します。
6. [続行] を選択します。
7. サマリー画面で、[アプリホームに移動] を選択します。
8. アプリホームから、テンプレートを使用して作成されたデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティを確認します。
   ビジネスニーズに合わせてアプリケーションをカスタマイズするために、これらの事前定義されたアイテムを編集したり、独自のアイテムを追加したりできます。詳細については、「アプリの拡張」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
アプリケーションのビルドが完了したら、承認のためにアプリケーションを送信し、アドミニストレーターにレビューと展開を実施してもらいます。詳細については、「承認と公開のためのアプリの送信」を参照してください。

利用可能なテンプレート

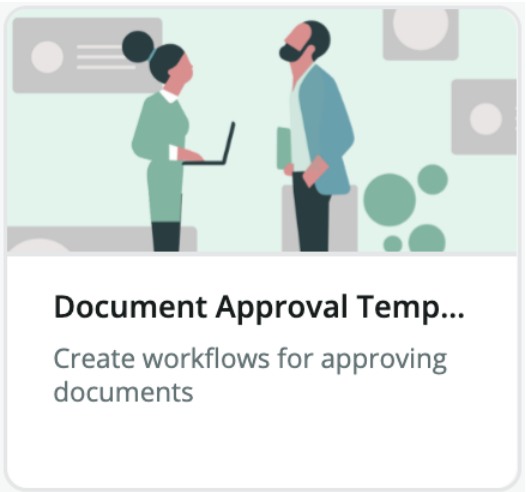
App Engine Studio (AES) でアプリケーションテンプレートを使用して、事前設定されたデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティを使用してアプリケーションを作成します。

テンプレートは、ビルドする可能性のある多くのアプリケーションの出発点として利用できます。テンプレートを使用してアプリケーションを開始し、アプリケーションをカスタマイズすることもできます。以下のテンプレートのいずれかを使用して、本格的なアプリケーションをビルドできます。またこれらのテンプレートを、ニーズに合わせてカスタマイズしたアプリを作成する出発点として使用することもできます。

ドキュメント承認テンプレート

ドキュメント承認テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションをビルドし、組織内のドキュメントの承認を管理します。

ドキュメント承認テンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。



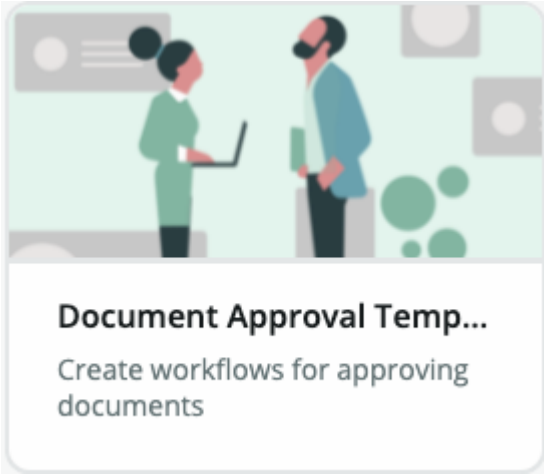
ドキュメント承認アプリを使用すると、ユーザーがドキュメント承認ワークフローをすばやく作成して使用できます。ドキュメント所有者と送信者は、承認が必要なドキュメントをアップロードし、それらの承認の進捗状況を確認できます。指定された承認者は、ドキュメントを承認または却下するか、コメントを付けて返すことができます。

アドミニストレーターは、ドキュメント承認アプリケーションを使用して、ドキュメントタイプごとに異なるワークフローを作成できます。

このアプリテンプレートは、ドキュメントを処理するための内部ワークフローを迅速かつ効率的に作成するための方法として理想的です。ドキュメント所有者と送信者は、独自のワークフローを介して自動的に送信を行うシンプルなアップロード機能を使用して、承認が必要なドキュメントをポータルにアップロードできます。ドキュメントが受信されると、指定されたユーザーがドキュメントを承認、却下、または編集のために返却する間、送信者はドキュメントの進捗状況をフォローします。送信者と承認者はどちらも、コメントを使用して、今後の参照のためにシステムに保存されるメモとフィードバックを送信に追加します。このアプリをさらに多様化するために、アドミニストレーターは、各ドキュメントタイプとユーザー向けにカスタマイズされたワークフローを無制限に作成し、ドキュメントカテゴリに必要な内容に応じて複数のステージと承認者を設定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドキュメント承認テンプレート



テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

ドキュメント承認テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) のドキュメント承認テンプレートに含まれています。

ドキュメント承認アプリテンプレートのテーブル

テーブルラベル **[name]**	説明
ドキュメント承認者テーブル [x_ <company-code>_ <document_approver>]	ドキュメント承認者、そのコメント、およびドキュメントのステータスを追跡します。
ドキュメント承認カテゴリテーブル [x_ <company-code>_ <document_approval_category>]	ドキュメント承認要求のカテゴリを追跡します。
ドキュメント承認テーブル [x_ <company-code>_ <document_approval>]	ドキュメント承認要求を追跡します。

ドキュメント承認アプリテンプレートでのエクスペリエンス

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
ドキュメント承認 | デフォルトビュー	フォーム	ドキュメント承認要求を作成するためのフォーム。
ドキュメント承認 | ポータル	フォーム	ドキュメント承認要求を作成するためのシンプルなフォーム。
ドキュメント承認カテゴリ | デフォルトビュー	フォーム	ドキュメント承認レコードにフローを添付するためのフォーム。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
ドキュメント承認カテゴリ | ワークスペース	フォーム	ドキュメント承認レコードにフローを添付するためのフォーム。
アプリ名ワークスペース	ワークスペース	メインのドキュメント承認アプリワークスペースでは、ワークスペースでドキュメントのアップロード、承認ステータスの確認、ドキュメントの編集、送信の表示を行うことができます。承認者は、アサインされた承認を表示し、以前の送信を表示して、送信を承認または却下できます。
ドキュメント承認者 | ワークスペース	フォーム	ドキュメント承認者をレコードにアサインするためのフォーム。
ドキュメント承認 | ワークスペース	フォーム	ドキュメント承認要求を作成するためのフォーム。
ドキュメント承認者 | デフォルトビュー	フォーム	承認者は、アサインされた承認を表示し、送信を承認または却下できます。
アプリ名ポータル	ポータル	承認のためにドキュメントを送信し、以前の送信を管理するためのメインポータル。
ドキュメント承認モバイルエクスペリエンス	モバイル体験	従業員とマネージャーが承認ステータスを確認し、ドキュメントを承認または却下して、組織の iOS または Android アプリを使用して送信を表示できるモバイルアプリ。

ドキュメント承認アプリテンプレートの自動ワークフロー

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
ドキュメント承認 - マスターフロー	フロー - レコード	新しいドキュメント承認レコードが送信されたときに実行されます。その後で、ドキュメントカテゴリから実行するフローを取得して実行します。
ドキュメント承認通知	メール	ドキュメント承認の変更をユーザーに通知します。
単一ステージ承認	フロー	ユーザーのマネージャーが承認者になり、承認、返却、または却下時に基本的なメール通知を生成できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドキュメント承認アプリテンプレートのロール

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
承認者 [x_<company-name>_ <document_approval_app>.approver]	承認者は、すべてのドキュメントの作成、読み取り、削除、およびドキュメント承認カテゴリデータの読み取りを行うことができます。	作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて)
アドミン [x_<company-name>_ <document_approval_app>.admin]	アドミニストレーターは、ドキュメント承認 [x_ <company-code>_ <document_approval>] およびドキュメント承認カテゴリ [x_ <company-code>_ <document_approval_category>] テーブルで、作成、読み取り、書き込み、および削除を行うことができます。	作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて)、削除 (すべて)
送信者 [x_<company-name>_ <document_approval_app>.submitter]	送信者は、ドキュメントの作成し、自分のドキュメントの読み取り、ステータスが送信済み以外の場合に自分のドキュメントの編集、自分のドキュメントの削除を実行できます。ドキュメント承認カテゴリからデータを読み取ることもできます。	作成、読み取り (自分のもの)、編集 (ステータスが送信済み以外で自分のもの)、削除 (自分のもの)

緊急アラートテンプレート

緊急アラートテンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションをビルドし、緊急時に通信を管理し、重要なリソースを追跡します。

緊急アラートテンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。

緊急アラートアプリを使用すると、自然災害や COVID-19 などの感染症の際に、組織が従業員に情報を提供し、接続を維持できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

緊急アラートテンプレートを使用して、コマンドセンターのダッシュボードとモバイルアプリを作成し、最新のニュースを監視して従業員に通知できます。従業員は、自分のステータスを自己報告し、在宅勤務または休暇を申請し、緊急時に指示を受けることができます。マネージャーは、それぞれのチームへの影響の評価、要求の承認または却下、ステータスの要求を行い、さらに緊急時に実行するアクションに関する指示を自動的に受け取ることができます。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

緊急アラートテンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) の緊急アラートテンプレートに含まれています。

緊急アラートアプリテンプレートのテーブル

テーブルラベル **[name]**	説明
ステータスレポート要求テーブル [x_<company>_<my emergency_alert_app>_status_report_requests]	従業員によってレポートされた緊急事態の重大度を追跡します。たとえば、ステータス、危険レベルに関連付けられた色、条件などです。
セルフレポートテーブル [x_<company>_<my emergency_alert_app>_status_report]	従業員またはマネージャーによって作成されたレポート済みの緊急事態を追跡します。たとえば、緊急事態の詳細、ステータス、期間、感染した個人などです。
緊急アラートテーブル [x_<company>_<my emergency_alert_app>_emergency_alert]	会社の緊急アラートを追跡します。たとえば、緊急タイプ、アラートの作成者、アラートの閲覧者などです。
作業ステータス要求タスクテーブル [x_<company>_<my emergency_alert_app>_work_status_request_task]	緊急の作業ステータス要求を追跡します。たとえば、要求者、アサイニー、作業のステータスなどです。

緊急アラートアプリテンプレートでのエクスペリエンス

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
緊急アラート | SendEmergency AlertWS	フォーム	新しい緊急アラートレコードを作成するフォーム。
セルフレポート | 従業員ビュー	フォーム	従業員が緊急事態をレポートするためのフォーム。
セルフレポート | デフォルトビュー	フォーム	従業員が緊急事態をレポートするためのフォーム。
緊急アラート - ポータル	ポータル	従業員が、レポートされた緊急事態やチームのステータスを表示し、セルフレポートを送信できるポータル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
緊急アラート	デフォルトビュー	フォーム	新しい緊急アラートを作成し、ナレッジリソースをそれに接続するフォーム。
セルフレポート	レポートを更新	フォーム	従業員が自身の健康状態を自己報告するためのフォーム。
セルフレポート	アクティビティビュー	フォーム	セルフレポートに関するコメントを追加するフォーム。
セルフレポート	RequestReportWS	フォーム	特定の期間内の緊急事態を自己報告するフォーム。
ステータスレポート要求	デフォルトビュー	フォーム	緊急事態に関する最新情報と時間と場所の詳細を送信するフォーム。
セルフレポート	ステータスレポートを更新	フォーム	緊急事態に関する最新情報を追加するフォーム。
アプリ名ワークスペース	ワークスペース	アドミニストレーターが通知を設定および送信し、ダッシュボードを表示し、リストとフォームを構成できるワークスペース。
作業ステータス要求タスク	デフォルトビュー	フォーム	作業ステータス要求について従業員に最新情報を通知するフォーム。

緊急アラートアプリテンプレートの自動ワークフロー

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
Emergency report/update state for managers	メール	ソースが空の場合に緊急レポートを更新するようにマネージャーに通知します。
Emergency Alert App - Please report or update status	フロー - レコード	作業のステータス更新を要求します。
Emergency Alert App - Status request for employees from manager	フロー - レコード	マネージャーによってステータス要求が行われたことを従業員に通知します。
Self report submitted without manager	メール	従業員がマネージャーをリストせずに経費要求を送信したことを通知します。
Emergency Alert App - Create Work Status Task When Self Report is created	フロー - レコード	セルフレポートの緊急事態が送信されたときに作業ステータスタスクを開始します。
Emergency Alert App - Create Status Report Requests for Affected	フロー	ステータスレポート要求を作成または更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
Emergency alert app - Create App Self Reports	フロー - レコード	レポート要求が作成または更新されたときに通知を送信します。
Emergency Alert App - Request for WFH/Time off submitted	フロー - レコード	在宅勤務または休暇申請の承認フローを開始します。
Emergency instructions for employees	メール	ステータスの更新が要求された場合にユーザーに通知します。
Emergency Alert App - Employee emergency report changes to submitted	フロー - レコード	従業員のセルフレポートが送信されたときに通知を送信します。
Emergency Alert App - Request for WFH/Time off approved/denied	フロー - レコード	在宅勤務申請や休暇申請が承認または拒否されたときに従業員に通知を送信します。
Emergency Alert App - Employee emergency report request response submitted	フロー - レコード	従業員の緊急レポートが送信されたときに通知を送信します。
Request for WFH approved	メール	在宅勤務の要求が承認されたことを従業員に通知します。
Emergency alert app - Emergency instructions for employees	フロー - レコード	緊急時に従う指示を従業員に送信します。
Please report/update status of employee	メール	従業員のステータスに関する情報を要求します。
Self-report submitted for manager	メール	緊急アラートが作成され、レビューが必要であることをマネージャーに通知します。
Emergency Instructions for managers	メール	要求が作成され、要求に関する情報がチームに送信されることをマネージャーに通知します。
Please report/update status	メール	ステータスの変更がコミットされたときに通知を送信します。
Request for WFH/Time off submitted	メール	在宅勤務または休暇の申請が正常に送信されたことを従業員に通知します。
Employee Emergency report submitted	メール	緊急レポートが正常に送信されたことを従業員に通知します。
Emergency Alert App - Manager emergency request submitted	フロー - レコード	マネージャーの緊急レポートが送信されたときに通知を送信します。
Emergency Alert App - Employee emergency report submitted	フロー - レコード	従業員が緊急レポートの変更を送信したときに通知を送信します。
KB 記事を作成	フロー - レコード	新しい緊急アラートが作成されたときにナレッジベース記事を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
Employee emergency report request submit	メール	ステータスの要求が送信され、マネージャーに通知されることを従業員に通知します。
Emergency Alert App - Cancel work status task if self report closed	フロー - レコード	セルフレポートがクローズされた場合に作業ステータス要求をキャンセルします。
Manager emergency request submitted	メール	緊急レポートが送信されたことをマネージャーに通知します。
Please report/update status of employee	メール	セルフレポートに対して必要なアクションを従業員に通知します。
Request for WFH denied	メール	在宅勤務の要求が拒否されたことを従業員に通知します。
Emergency Alert App - Emergency report/update state for managers	フロー - レコード	緊急アラートレポートの変更に基づいて通知を送信します。

緊急アラートアプリテンプレートのロール

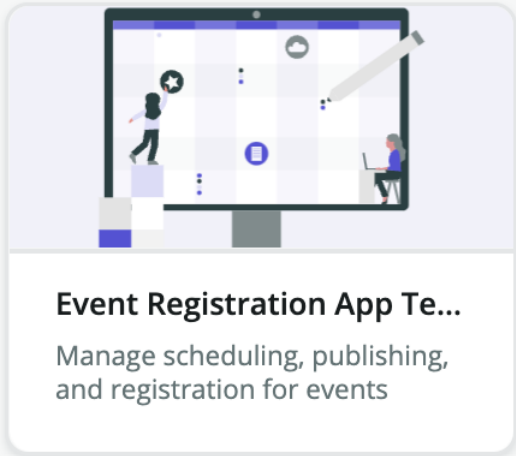
ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
緊急アラートアドミン [x_<company-code>_ <my emergency_alert_app>.emergency_alert_admin]	アドミニストレーターはアプリを管理し、ダッシュボードを設定します。	作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて)、削除
緊急アラートマネージャー [x_<company-code>_ <my emergency_alert_app>.manager]	マネージャーは、要求の承認または却下、ダッシュボードへのアクセス、通知の送信を行うことができます。	作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて)
緊急アラート従業員 [x_<company-name>_ <my emergency_alert_app>.emergency_alert_employee]	緊急アラートのセルフレポート	作成、読み取り (自分のもの)、編集 (自分のもの)
アドミン	システムアドミニストレーターロール。このロールは、セキュリティ上の制約に関係なく、システムの機能とデータすべてにアクセスできます。	作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて)、削除
公開	public ロールで機能にアクセスするのにログインは必要ありません。	デフォルトではアクセスできません。

イベント登録テンプレート

イベント登録テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションをビルドし、会社のイベントのスケジュール、予約、および登録を管理します。

イベント登録テンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



内部イベント登録アプリを使用すると、イベント主催者はイベントのリストを従業員に公開し、一元化されたデータベースで出席者を集めることができます。このアプリは、イベントの検出と登録のプロセスを簡素化するのに役立ちます。

イベント主催者は、イベントと順番待ちリストを管理し、新しいイベントを公開し、登録済みユーザーの詳細を表示できます。従業員と参加者は、イベントのリストを表示し、イベント情報を表示して、ポータルで参加を登録できます。主催者はイベントのサイズを設定することができ、要求者は自動的に順番待ちリストに追加されます。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成の詳細については、「アプリケーションテンプレートの使用」を参照してください。

イベント登録テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) のイベント登録テンプレートに含まれています。

イベント登録アプリテンプレートのテーブル

テーブルラベル **[name]**	説明
出席者テーブル [x_<company-code>_<attendee>]	名前、ステータス、送信日などのイベント出席者の情報を追跡します。
イベントテーブル [x_<company-code>_<event>]	イベント名、イベントの日付、キャパシティなどのイベント情報を追跡します。
イベントの場所テーブル [x_<company-code>_<event_location>]	キャパシティや場所などのイベントの場所の詳細を追跡します。

イベント登録アプリテンプレートでのエクスペリエンス

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
イベントの場所 | ワークスペース	フォーム	主催者とアドミニストレーターがイベントを設定し、イベントアプリケーションを作成して、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
		リストを表示できるワークスペース。
アプリ名ポータル	ポータル	主催者がイベントの詳細を作成および表示するためのメインポータル。
出席者 | デフォルトビュー	フォーム	出席者がイベント名を表示し、ステータスを変更して、イベントに関するメモを取ることができるフォーム。
イベント | デフォルトビュー	フォーム	主催者がイベントを作成するために使用できるフォーム。
アプリ名ワークスペース	ワークスペース	ユーザーがイベントに登録することができ、アドミン/主催者が登録情報を管理できるワークスペース。
イベントの場所 | デフォルトビュー	フォーム	主催者がイベントの場所名、住所、ステータス、およびキャパシティを追加するためのフォーム。
イベント | ワークスペース	フォーム	主催者がイベント名、場所の詳細、タイムライン、およびコメントを追加するためのフォーム。
出席者 | ワークスペース	フォーム	出席者がイベントに登録し、イベントに関するメモを追加するためのフォーム。
主催者向けモバイルアプリ	モバイル体験	主催者は、組織の iOS または Android アプリを使用して、イベントを表示または編集し、出席者を表示できます。

イベント登録アプリテンプレートの自動ワークフロー

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
Event Details Have Changed	メール	イベントの変更をユーザー/出席者に通知します。
Event Reminder - Confirmed attendees	メール	イベントに関するリマインダーを確認済みの出席者に送信します。
Attendee registered confirmed	メール	確認済みの登録を出席者に通知します。
Send Event Reminder Email	フロー	イベント出席者にリマインダーメールを送信します。
Send Event Details Changed Email	フロー - レコード	イベントの詳細が変更された場合、またはイベントがキャンセルされた場合に、すべての確認

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
		済みおよび順番待ちリストに登録された出席者にメールを送信します。
Send Waitlist Confirmation Email	フロー - レコード	出席者がイベントの順番待ちリストに追加されたときにメールを送信します。
イベント登録キャンセル済みイベント	フロー - レコード	イベントがキャンセルされたときに出席者レコードを更新します。
Update Event Registration attendee records	フロー	イベントがキャンセルされたときまたは終了日が過ぎたときに出席者レコードを更新します。
Attendee waitlisted confirmed	メール	イベント順番待ちリストに登録された出席者を確認します。
Event Registration expired events	フロー	イベントの終了後に [イベント状況] フィールドを [期限超過] に設定し、[出席者] フィールドを [イベント終了] に設定します。
Send On Hold Confirmation	フロー - レコード	出席者がイベントへの参加を保留しているときに、主催者が出席者にメールを送信できるようにします。
Event Registration Confirmation Email	フロー - レコード	出席者がイベントへの参加を確定したときに出席者にメールを送信します。
Attendee registration on hold	メール	登録が保留中であることを出席者に通知します。
Event Has Been Cancelled	メール	イベントのキャンセルをユーザーに通知します。
Event Registration Process Flow	フロー	すべての要求処理待ちを処理します。

イベント登録アプリテンプレートのロール

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
主催者 [x_<company-name>_<my events app>.organizer]	主催者がイベントを作成および管理します。	作成、読み取り (すべて)、更新 (すべて)。
出席者 [x_<company-name>_<my events app>.attendee]	出席者は、イベントの検索、サインアップ、および出欠の返信を行うことができます。	作成、読み取り (すべて)、更新 (自分のもの)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
アドミン [x_<company-name>_<my events app>.admin]	アドミニストレーターは、イベントの場所とアプリケーションを設定します。	作成、読み取り (すべて)、更新 (すべて)、削除。
公開 [x_<company-name>_<my events app>.public]	public ロールで機能にアクセスするのにログインは必要ありません。	デフォルトではアクセスできません。

経費事前承認テンプレート

経費事前承認テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションをビルドし、組織内で計画される経費を作成、追跡、および管理します。

経費事前承認テンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。

Expense Pre-Approval Te...

Create, track, and manage planned expenses in your organization

従業員は、経費事前承認アプリケーションを使用して予定経費を簡単に送信し、複数レベルの承認を受けることができます。マネージャーは、送信されたすべての要求をレビューできます。承認済みの要求は予算レビューグループにアサインされます。そこで要求を承認または却下できます。従業員は、要求の最終ステータスを示す通知を受け取ります。

コンプライアンスを確保してファイナンシャルプランを改善するために、アドミニストレーターは意思決定テーブルを使用して既存のフローと承認のレベルをカスタマイズできます。詳細については、「ディシジョンテーブルの探索」を参照してください。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

経費事前承認テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) の経費事前承認テンプレートに含まれています。

経費事前承認アプリテンプレートのテーブル

テーブルラベル **[name]**	説明
予算定義	すべての予算の説明。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルラベル **[name]**	説明
[x_<company-code>_<expense_approval_app>_budget_definition]	
経費要求 [x_<company-code>_<expense_approval_app>expense_request]	従業員によって送信された経費要求。
経費ラインアイテム [x_<company-code>_<expense_approval_app>_expense_line_item]	経費要求の各経費ラインアイテム。

経費事前承認アプリテンプレートでのエクスペリエンス

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
経由要求 | デフォルトビュー	フォーム	新しい経費要求を作成するためのフォーム。
予算定義 | デフォルトビュー	フォーム	指定された期間の予算を定義するフォーム。
予算レビュー担当者	モバイル体験	予算レビュー担当者のモバイルエクスペリエンスを定義する方法。
経費要求 | ワークスペース	フォーム	新しい経費要求を作成するためのフォーム。
経費要求 | コスト承認	フォーム	アドミンからの新しい経費要求を作成するフォーム。
マネージャー	モバイル体験	マネージャーのモバイルエクスペリエンスを定義する方法。
予算定義 | ワークスペース	フォーム	指定された期間の予算を定義するワークスペースビューのフォーム。
アプリ名 - 予算ワークスペース	ワークスペース	すべての予算要求の概要を構成する方法。
経費要求	レコードプロデューサー	従業員が経費要求を送信する方法。
経費ライン | デフォルトビュー	フォーム	経費要求に経費ラインアイテムを追加するフォーム。
経費要求 SLA | デフォルトビュー	フォーム	Service Level Agreement (SLA) の違反に基づいて経費要求を作成するためのフォーム。
予算定義 | コスト承認	フォーム	指定された期間の予算を定義するコスト承認ビューのフォーム。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
アプリ名 - マネージャーワークスペース	ワークスペース	マネージャーがアサインされた経費要求を承認または却下できるワークスペース。
コスト承認モバイルアプリ	モバイル体験	次のアクションに使用される iOS または Android アプリ： • 経費要求の承認または却下。 • 予算と経費要求を比較するための履歴データを表示するダッシュボードの表示。 • 予算レビュー担当者による予算の作成または変更。
コスト承認ワークスペース - 予算レビュー担当者	ワークスペース	予算レビュー担当者は、次のアクションにワークスペースを使用できます。 • 経費要求の承認または却下。 • 予算の作成または変更。 • 割り当て済み、消費済み、利用可能、および将来のために割り当てられた予算資金に関するデータの表示。 • 予算と経費要求を比較するための履歴データを表示するダッシュボードの表示。

経費事前承認アプリテンプレートの自動ワークフロー

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
Expense request approved - reviewer	メール	経費要求が承認されたことをユーザーに通知します。
Expense Request Assigned	メール	経費要求がアサインされたことをユーザーに通知します。
Expense request - SLA breached	メール	Service Level Agreement (SLA) に違反していることをユーザーに通知します。
Budget Creation	フロー - レコード	予算レビュー担当者が予算を作成するときに実行されます。経費要求の開始日をチェックし、要求を対応する期間の予算に関連付けます。
Expense request - SLA- close to due	メール	Service Level Agreement (SLA) の期日が近いことをユーザーに通知します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
Expense Request Reassigned	メール	要求が再アサインされたことをユーザーに通知します。
Expense request comment added - Assigned	メール	要求に追加されたコメントについてユーザーに通知します。
New Expense Request or manager approval	メール	新しい経費要求についてユーザーに通知します。
Expense request reject	メール	要求が却下されたことをユーザーに通知します。
Budget state update	フロー	優先度別に各予算レコードを更新します。
Expense Request Inserted - Requestor	メール	要求が正常に作成されたことをユーザーに通知します。
Expense Request Approved	メール	要求が承認されたことをユーザーに通知します。
Expense request work note added	メール	要求に作業メモが追加されたことをユーザーに通知します。
通知チーム - 作業メモを追加	メール	要求に作業メモが追加されたことをチームに通知します。
Expense request comment added - Employee	メール	要求にコメントが追加されたことをユーザーに通知します。
Expense Request Rejected	メール	要求が却下されたことをユーザーに通知します。
Budget Updation	フロー - レコード	予算レビュー担当者が予算を変更するときに実行されます。予算が変更された後に、このフローは対応する経費要求の [予算] フィールドを更新します。
Notify Requestor - Comments added	メール	要求にコメントが追加されたことをユーザーに通知します。
SLA Notification - Expense Request - warning	フロー - レコード	潜在的な Service Level Agreement (SLA) の問題についてアドミニストレーターに警告します。
Budget Approval Process	フロー - レコード	次のシナリオで経費承認を取得するために実行されます。 • 従業員がマネージャーの承認を得るために経費要求を送信した場合。 • マネージャーの承認後、経費要求は最終レベルの承認のために予算レビュー担当者に送信されます。
Budget Calculations	フロー	予算レビュー担当者が次のいずれかのアクションを実行したと

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
		きに、費やされた予算と利用可能な予算を再計算します。 • 予算を作成する • 既存の予算を変更する • 経費要求を承認する

経費事前承認アプリテンプレートのロール

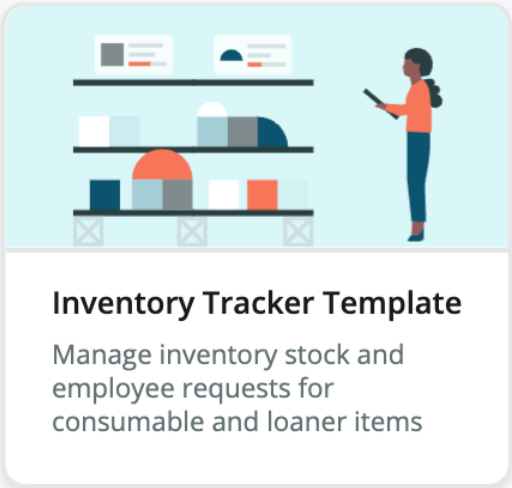
ロールラベル [名前]	説明
予算レビュー担当者 [x_<company-code>_<expense_approval_app>.Budget reviewer]	予算レビュー担当者は、予算を作成または変更し、経費要求に対して最終レベルの承認を提供できます。
マネージャー [x_<company-code>_<expense_approval_app>.Manager]	マネージャーは、第 1 レベルで経費要求を送信、表示、承認、または却下できます。
従業員 [x_<company-code>_<expense_approval_app>.Employee]	従業員は経費要求を送信および追跡できます。
アドミン	システムアドミニストレーターロール。このロールは、セキュリティ上の制約に関係なく、システムの機能とデータすべてにアクセスできます。

インベントリトラッカーテンプレート

インベントリトラッカーテンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションをビルドし、インベントリと資産のステータスを追跡します。

インベントリトラッカーテンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



インベントリトラッカーアプリを使用すると、会社とチームが、何を持っているか、どこにあるか、誰が持っているかを簡単に追跡できます。いつでも、どこでも、どのデバイスでも。会社がアイテムの在庫を追跡する必要がある場合は、このアプリを自宅または倉庫でインベントリ管理ツールまたはインベントリトラッカーとして使用できます。

このアプリは、消耗品、貸与、製造中止の 3 つのインベントリユースケースをカバーしています。従業員は、モバイルアプリまたは Web ポータルを介して任意の倉庫からアイテムを要求できます。インベントリマネージャーは再注文レベルを設定でき、アイテムの在庫が減少した場合に自動的に通知されます。未処理の在庫がある製造中止アイテムは引き続き要求できますが、インベントリマネージャーに再注文を要求することはありません。インベントリマネージャーは、手動で、またはスプレッドシートをアップロードして、アイテムを作成できます。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

在庫トラッカーテンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) の在庫トラッカーテンプレートに含まれています。

インベントリトラッカーアプリテンプレートのテーブル

テーブルラベル **[name]**	説明
インベントリ管理テーブル [inventory_ x_<company-code>_<my_inventory_tracker_app>_inventory_control]	ビジネスで使用するアイテムの在庫を追跡します。たとえば、アイテム名、メーカー、画像、カテゴリ、場所などです。
インベントリ要求テーブル [x_<company-code>_<my_inventory_tracker_app>_inventory_request]	従業員によって送信されたインベントリ要求を追跡します。たとえば、要求者の名前と部門、在庫の場所、数、要求日、返却日などです。
在庫の場所テーブル [x_<company-code>_<my_inventory_tracker_app>_stock_location]	在庫アイテムの場所を追跡します。たとえば、名前、住所、インベントリマネージャーなどです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

在庫トラッカーアプリテンプレートのエクスペリエンス

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
インベントリ管理 | ポータル	フォーム	アドミンおよびマネージャーがインベントリアイテムを追加し、在庫数量を表示し、在庫の場所を追加するためのフォーム。
インベントリ要求 | ワークスペース	フォーム	従業員がインベントリ要求を送信および管理するためのフォーム。
インベントリ管理 | デフォルトビュー	フォーム	アドミンおよびマネージャーがインベントリアイテムを管理し、在庫数量を表示し、在庫の場所を管理するためのフォーム。
アプリ名 | ポータル	ポータル	すべてのユーザーがインベントリ要求と追跡を管理できるポータル。
インベントリ要求 | デフォルトビュー	フォーム	アドミンおよびマネージャーが、インベントリアイテム、在庫数量、在庫の場所を表示し、メモを追加するためのフォーム。
インベントリ要求 | ポータル	フォーム	アドミンおよびマネージャーがインベントリアイテムを要求するためのフォーム。
アプリ名 | ワークスペース	ワークスペース	すべてのインベントリトラッカーアプリ構成を管理するワークスペース。
在庫の場所 | ワークスペース	フォーム	インベントリマネージャーが在庫名、住所、および説明を追加するためのフォーム。
在庫の場所 | デフォルトビュー	フォーム	インベントリマネージャーが在庫名、住所、説明、部門を追加するためのフォーム。
インベントリ管理 | ワークスペース	フォーム	アドミンおよびマネージャーがインベントリアイテムを管理し、在庫数量と在庫の場所を表示するためのフォーム。
インベントリトラッカーアプリ	フォーム	従業員が、組織の iOS または Android アプリを使用して、インベントリリストを表示、在庫数の確認、アイテムの要求、要求のステータスの確認を行うためのフォーム。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

在庫トラッカーアプリテンプレートの自動ワークフロー

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
インベントリトラッカー要求を完了：アドミン/マネージャー	フロー - レコード	インベントリ要求が完了したときに通知を送信します。
Request Update as Submitted - Manager	メール	要求アイテムに新しい更新があることをマネージャーに通知します。
アイテムが在庫切れ：アドミン	メール	在庫切れのアイテムをアドミニストレーターに通知します。
Return Date Updated - Manager	メール	更新された返却日をマネージャーに通知します。
Inventory Tracker Request Submitted - Manager	フロー - レコード	在庫要求が送信されたときにマネージャーに通知します。
Inventory Tracker Inventory track Created - Admin	フロー - レコード	インベントリ追跡が作成されたときにアドミニストレーターに通知します。
Stock Location Updated - Admin	メール	更新された在庫の場所をアドミニストレーターに通知します。
インベントリトラッカーをチェックアウト：従業員	フロー - レコード	アイテムがチェックアウトされたときに従業員に通知します。
Request Overdue - Manager	メール	期限切れの要求をマネージャーに通知します。
Item Returned - Manager	メール	返却されたアイテムをマネージャーに通知します。
Request Completed - Manager	メール	完了した要求をマネージャーに通知します。
インベントリトラッカー要求の承認：従業員/アドミン/マネージャー	フロー - レコード	インベントリ要求が承認されたときに従業員、アドミン、マネージャーに通知します。
インベントリトラッカー要求を送信：従業員	フロー - レコード	インベントリ要求が送信されたときに従業員に通知します。
Checked Out - Employee	メール	チェックアウトされたアイテムを従業員に通知します。
Inventory Tracker Out of Stock - employee	フロー - レコード	在庫アイテムが在庫切れの場合に従業員に通知します。
返却日を更新：アドミン	メール	更新された返却日をアドミニストレーターに通知します。
Request Canceled - Manager	メール	要求がキャンセルされたときにマネージャーに通知します。
Inventory Tracker Stock Location Updated - Admin	フロー - レコード	在庫の場所が更新されたときにアドミニストレーターに通知します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
Item Out of Stock - Manager	メール	アイテムが在庫切れになったときにマネージャーに通知します。
Inventory Tracker Item Returned - Employee/ Manager	フロー - レコード	アイテムが返却されたときに従業員またはマネージャーに通知します。
Inventory Tracker Inventory track updated- Admin	フロー - レコード	インベントリ追跡が更新されたときにアドミニストレーターに通知します。
Item returned - Employee	メール	返却されたアイテムを従業員に通知します。
要求を却下：アドミン	メール	拒否された要求をアドミニストレーターに通知します。
Inventory Tracker Stock Location Created - Admin	フロー - レコード	在庫の場所が作成されたときにアドミニストレーターに通知します。
製造中止のインベントリアイテム：アドミン	メール	製造中止になったアイテムをアドミニストレーターに通知します。
Request Approved - Manager	メール	承認された要求をマネージャーに通知します。
インベントリアイテムを更新：アドミン	メール	更新されたインベントリアイテムをアドミニストレーターに通知します。
インベントリトラッカーインベントリ追跡を作成：アドミン	フロー - レコード	在庫追跡が作成されたときにアドミニストレーターに通知します。
Out of stock - Employee	メール	在庫切れになったアイテムを従業員に通知します。
インベントリトラッカー要求を却下：アドミン	フロー - レコード	インベントリ要求が却下されたときにアドミニストレーターに通知します。
Request Approved - Employee	メール	承認された要求を従業員に通知します。
インベントリトラッカーアイテムが在庫切れ：アドミン/マネージャー	フロー - レコード	在庫アイテムが在庫切れの場合にアドミニストレーターとマネージャーに通知します。
Request Approved - Admin	メール	承認された要求をアドミニストレーターに通知します。
Request submitted - Manager	メール	送信された要求をアドミニストレーターに通知します。
要求が期限切れ：アドミン	メール	期限切れになった要求をアドミニストレーターに通知します。
Request Denied - Manager	メール	拒否された要求をマネージャーに通知します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
在庫の場所を作成：アドミン	メール	在庫の場所が作成されたときにアドミニストレーターに通知します。
Overdue - Employee	メール	期限切れになったアイテムを従業員に通知します。
インベントリトラッカー要求を更新：マネージャー	フロー - レコード	在庫要求が更新されたときにマネージャーに通知します。
Request Denied - Employee	メール	拒否された要求を従業員に通知します。
Inventory Tracker Inventory Discontinued - Admin	フロー - レコード	インベントリアイテムが製造中止になったときに通知を送信します。
インベントリトラッカー返却日が変更：アドミン/マネージャー	フロー - レコード	返却日が変更されたときにアドミニストレーターとマネージャーに通知を送信します。
Comments Added - Manager	メール	追加されたコメントについてマネージャーに通知します。
コメントを追加：アドミン	メール	追加されたコメントについてアドミニストレーターに通知します。
インベントリトラッカー要求を却下：従業員	フロー - レコード	在庫要求が拒否されたときに従業員に通知を送信します。
Request Submitted - Employee	メール	従業員が要求を送信したときに従業員に通知します。
Request created - Admin	メール	要求が作成されたときにアドミニストレーターに通知します。
Inventory Tracker Comments Added - Admin/Manager	フロー - レコード	インベントリ要求にコメントが追加されたときにアドミニストレーターとマネージャーに通知を送信します。
Request Canceled - Admin	メール	キャンセルされた要求をアドミニストレーターに通知します。
Inventory Tracker Request Overdue - Employee/ Manager/Admin	フロー	要求が期限切れになった場合に従業員、マネージャー、アドミニストレーターに通知を送信します。
インベントリアイテムを作成：アドミン	メール	インベントリアイテムが作成されたときにアドミニストレーターに通知します。
要求を完了：アドミン	メール	要求が完了したときにアドミニストレーターに通知します。
インベントリトラッカー要求をキャンセル：アドミン/マネージャー	フロー - レコード	従業員が在庫要求をキャンセルしたときにアドミニストレーターとマネージャーに通知を送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
Inventory tracker Request Created - Admin	フロー - レコード	インベントリ要求が作成されたときにアドミニストレーターに通知を送信します。

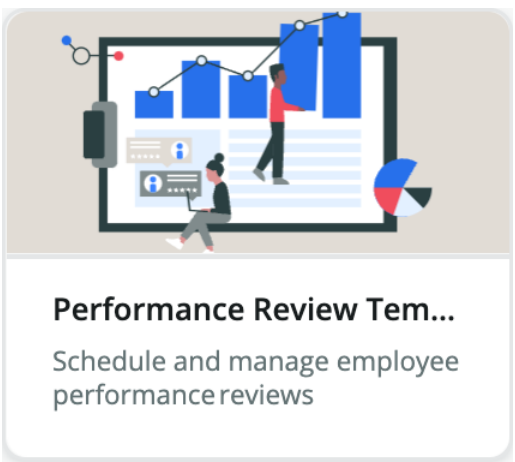
在庫トラッカーアプリテンプレートのロール

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
従業員 [x_<company-name>_<my_inventory_tracker_app>.employee]	従業員は、インベントリリストの表示、在庫の確認、アイテムの要求、要求のステータスの確認を行うことができます。	作成、読み取り (自分のもの)、更新 (自分のもの)
アドミン [x_<company-name>_<my_inventory_tracker_app>.admin]	アドミニストレーターは、複数のインベントリマネージャーと在庫の場所を設定できます。	作成、読み取り (すべて)、更新 (すべて)、削除
インベントリマネージャー [x_<company-name>_<my_inventory_tracker_app>.inventory_manager]	インベントリマネージャーは、インベントリアイテムの作成、アイテムのタイプの定義、インベントリレベルの監視、ベンダー情報の更新を行うことができます。	作成、読み取り (すべて)、更新 (すべて)
公開 [x_<company-name>_<my_inventory_tracker_app>.public]	公開ユーザーは、public ロールで機能にアクセスするためにログインする必要はありません。	ロールを含みません。

パフォーマンスレビューテンプレート

パフォーマンスレビューテンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションをビルドし、パフォーマンスレビューのスケジュール、通知、およびフィードバックを自動化します。

パフォーマンスレビューテンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。



パフォーマンスレビューアプリは、年次または四半期レビューのスケジュール設定、従業員のパフォーマンスのレビュー、マネージャーのフィードバックの提供のプロセスを自動化します。アプリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

にはデフォルトでレポート情報が表示され、マネージャーは従業員のパフォーマンスレビューを表示、更新、要求できます。

従業員は、Web ポータルを介して自己評価を完了し、ステータスを監視し、評価を確認できます。アプリは、自動的に従業員とマネージャーに評価を送信するように通知します。

マネージャーは、自己評価の更新の要求、マネージャー評価の送信、評価の確認を行い、さらにポータルを介してチームの送信のステータスを監視することができます。

HR/admin ロールは、年ごと、半年ごと、または四半期ごとのレビュープロセススケジュールを選択し、自己評価テンプレートとマネージャー評価テンプレートの両方を編集できます。HR/アドミンは、部門、組織、またはマネージャー別のすべての評価ステータスを監視できます。

次の機能を組み込むことで、このテンプレートを改善できます。

- 継続オプションをレビュープロセスとして追加する
- プレイブックを使用してレビュースケジュールを管理する
- セルフレビューとマネージャーレビューの両方に HR レビュー/エスカレーションプロセスを含める
- ピアレビュープロセスを追加する
- 目標設定または目標と主要な結果 (OKR) を追加する
- HR ソフトウェアとのデータ連携を追加する
- スキルセットアセスメントメトリクスを追加する
- パフォーマンス改善計画 (PIP) プロセス/個々の開発計画を追加する
- 報酬情報/年次パフォーマンス評価 (APR) を含める

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

パフォーマンスレビューテンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) のパフォーマンスレビューテンプレートに含まれています。

パフォーマンスレビューアプリテンプレートのテーブル

テーブルラベル **[name]**	説明
パフォーマンスレビューテーブル [x_<company-code>_<my performance_review_app>_performance_review]	従業員とマネージャーによって作成されたパフォーマンス評価を追跡します。たとえば、従業員の名前、レビューのステータス、マネージャーのフィードバックなどです。

パフォーマンスレビューアプリテンプレートのエクスペリエンス

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
パフォーマンスレビュー | 設定の編集	フォーム	マネージャーがパフォーマンスレビュー設定を構成し、通知を追加できるフォーム。
アプリ名 | ワークスペース	ワークスペース	アドミニストレーターとマネージャーがレビュースケジュールを設定し、評価テンプレートを

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
		更新し、すべての評価のステータスを監視できるワークスペース。
パフォーマンスレビューテスト | 従業員マネージャーのフィードバック	フォーム	マネージャーが従業員評価の質問を作成し、ステータスを監視し、フィードバックを残すためのフォーム。
パフォーマンスレビュー | マネージャーレビュー	フォーム	マネージャーが質問を含め、従業員の回答をレビューし、フィードバックを残すために使用できるフォーム。
パフォーマンスレビュー | セルフレビュー WS	フォーム	従業員がセルフレビューの質問に入力するためのフォーム。
パフォーマンスレビュー | ワークスペース	フォーム	マネージャーがチームの送信のステータスを監視するためのフォーム。
アプリ名 | ポータル	ポータル	従業員が評価を送信、更新、レビュー、および確認できるポータル。
パフォーマンスレビュー | デフォルトビュー	フォーム	マネージャーと従業員がパフォーマンスレビューを表示するために使用できるフォーム。
パフォーマンスレビュー | セルフレビュー	フォーム	従業員とマネージャーが自分のパフォーマンスの自己評価を送信するために使用できるフォーム。
モバイルアプリ	モバイル体験	従業員は、組織の iOS または Android アプリを使用してパフォーマンスレビューにアクセスできます。

パフォーマンスレビューアプリテンプレートの自動ワークフロー

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
Perf Review - Send PR Employee Update Self-Eval email	フロー - レコード	PR 従業員更新の自己評価メールをトリガーします。
PR Employee Manager - Eval submitted	メール	評価が送信されたことをマネージャーに通知します。
Perf Review - Send PR Employee Complete Evaluation email	フロー - レコード	PR 従業員評価完了メールをトリガーします。
PR Employee Manager - Eval submitted DJ	メール	自己評価が送信されたことをマネージャーに通知します。
PR Admin Eval Deadline Passed	メール	評価期限が過ぎたときにアドミニストレーターに通知します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
PR Reminder: Manager need to submit eval	メール	マネージャーに評価を送信するように通知します。
PR Manager Self Evaluation Submitted	メール	マネージャーが自己評価を送信したことをアドミニストレーターに通知します。
Perf Review - Send PR Employee Manager - Eval submitted	フロー - レコード	PR Employee Manager - Eval submitted メールをトリガーします。
PR Reminder - Employee Self Evaluation	メール	自己評価を送信するように従業員に通知します。
Perf Review - Send deadline email	フロー	システムのプロパティで指定された日付に期限リマインダーメールをトリガーします。
PR Employee Complete Evaluation	メール	評価が完了したことを従業員に通知します。
PR Employee Update Self Evaluation	メール	自己評価を更新する必要があることを従業員に通知します。
Perf Review - Main Flow	フロー	レビューのトリガー、メールのリマインダー、およびレビュー期間の終了のタイミングを制御します。これは、毎日トリガーされるメインフローです。
Perf Review - Send reminder emails	フロー	sys_properties で指定された日付にリマインダーメールをトリガーします。
Perf Review - Create records	フロー	sys_properties で指定された日付にレビューレコードをトリガーします。
Perf Review - Set review inactive	フロー	sys_properites で指定されたレビュー期間の終了日にレビューを無効にします。
PR Admin Self - Eval Submitted w/o Manager	メール	マネージャーまたは役職なしで自己評価が送信された場合にアドミニストレーターに通知します。
PR Reminder Employee Update Self Eval	メール	自己評価を更新するように従業員に通知します。
Perf Review - Send Manager/ Admin Self-Evaluation Submitted email	フロー - レコード	マネージャーなしで PR Admin Self-Evaluation Submitted メールをトリガーするか、PR Manager Self Evaluation Submitted メールをトリガーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

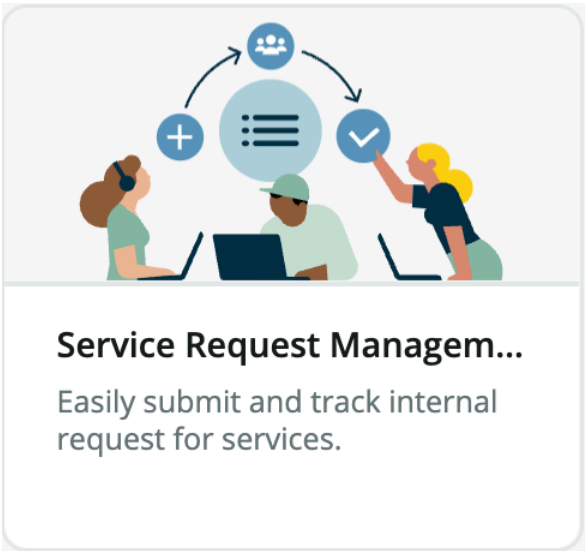
パフォーマンスレビューアプリテンプレートのロール

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
従業員 [x_<company-name>_ <my performance_review_app>.employee	従業員は自己評価を完了/更新し、評価を確認できます。	読み取り (自分のもの) および更新 (自分のもの)
HR/アドミン [x_<company-name>_ <my performance_review_app>.admin	HR/アドミンは、レビューのスケジュール設定 (年ごと、半年ごと、カスタム、または手動)、自己評価およびマネージャー評価テンプレートの編集、すべてのレビューのステータスの監視を行うことができます。	作成、読み取り (自分のもの)、更新 (自分のもの)、削除 (すべて)
マネージャー [x_<company-name>_ <my performance_review_app>.manager	マネージャーは、自己評価の更新を要求し、マネージャー評価を送信し、評価の送信に関連する問題を監視することができます。	読み取り (自分のチーム) および更新 (自分のチーム)

サービス要求管理テンプレート

サービス要求管理テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) にアプリケーションをビルドし、組織内のサービス要求を作成、追跡、管理します。

サービス要求管理テンプレートを使用するには、 アプリケーションを ServiceNow Store からインストールします。



サービス要求管理テンプレートのペルソナ

このテンプレートには、何らかの形でアプリを使用する可能性がある個人またはグループに対応するいくつかの重要なロールが含まれています。次の情報は、各ペルソナがビルドするアプリケーションとやり取りする方法について説明しています。各ロールに含まれる権限の詳細については、「セキュリティ」セクションを参照してください。

要求者

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要求を持っている人です。

問題：職務を完了するためにサービスまたは物理的なアイテムが必要です。要求が進行中であることを確認し、進行していることを確認する必要があります。質問がある場合や要求が変更された場合は、要求の作業者にそのことを伝える必要があります。

アプリの目標：必要な情報は何か、などのプロセスを通じて従業員を支援すること。承認プロセスを透明にし、要求のステータスと結果を常に最新の状態に保ちます。

履行者

タイムリーにタスクを完了する必要がある個人またはチームです。

問題：タスクをアサインするタイミングを、タスクを実行する準備ができている場合、つまり、必要な承認または依存タスク (関連する場合) がクローズされた後のみに限定してほしいと思っています。特に SLA に準拠している場合は、要求が適切なタイミングでクローズされるようにする必要があります。

アプリの目標：履行者の注意を自分とそのチームにアサインされたタスクに向けること。要求情報や SLA などの必要な情報を提供することで、顧客を支援します。

履行者のマネージャー

実行チームのマネージャーであり、タスクを実行できます。

問題：チームによってタスクが効率的にクローズされていることを確認する必要があります。サービス要求が多すぎてタスクのバックログができる、履行者のパフォーマンスが低い、承認が遅いため履行者がタスクを完了できない、などのボトルネックを特定したいと思っています。

アプリの目標：SLA が満たされるように、履行者のマネージャーに即時の対応が必要なタスクを指示すること。必要に応じて作業の優先順位を変更できるように、チームの作業内容を明確に示します。

サービスオーナー

アプリ内のサービスの所有者です。

問題：サービスの実行状況を分析し、注意が必要なサービスを特定する必要があります。必要に応じて、プロセスの改善を推奨するのに役立つ情報が必要です。

アプリの目標：解像度と応答時間で測定された各サービスのパフォーマンスを示す集計情報を提供すること。

承認者

ゲートキーパーであり、要求に応答または拒否することで、履行者の時間を節約できます。

問題：要求を実行チームに割り当てる前にレビューして、チケットが適切であることを確認する必要があります。

アプリの目標：承認が必要な要求に承認者の注意を向けること。要求や SLA 情報などの必要な情報を提供することで、顧客を支援します。

関連概念

サービス要求管理アプリケーションのサービスを設定する方法については、「サービスカタログのセットアップ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービス要求管理テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) のサービス要求管理テンプレートに含まれています。

サービス要求管理 アプリテンプレートのテーブル

テーブルラベル **[name]**	説明
プライマリ [x_ <company-code>_<primary>]	タスクテーブルを拡張し、サービス要求管理：プライマリカタログアイテムに対して発生した要求の詳細を格納するテーブル。新しいサービスとテーブルを作成するには、この [プライマリ] テーブルを拡張します。
要求の例 [x_ <company-code>_<example_request>]	出張要求カタログアイテムから送信された詳細を格納する [プライマリ] テーブルを拡張して作成された [要求] テーブルの例。
履行者タスク [x_ <company-code>_<fulfiller_task>]	履行者タスクを格納し、アドミニストレーターがサービス要求を整理するのを支援します。

サービス要求管理アプリテンプレートのエクスペリエンス

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
出張要求 | 履行者ビュー	フォーム	履行者が出張要求レコードを作成するためのフォーム。
プライマリ | 履行者ビュー	フォーム	履行者がサービス要求レコードを作成するためのフォーム。
履行者タスク | デフォルトビュー	フォーム	ユーザーが履行者タスクを作成するためのフォーム。
履行者ワークスペース	ワークスペース	履行者が注意の必要な要求を確認し、要求を作成し、要求のアサインを表示し、要求に関連するデータと分析を確認するためのワークスペース。
承認者ワークスペース	ワークスペース	承認者が承認待ちの要求を表示し、要求を承認または拒否し、要求に関連するデータと分析を確認するためのワークスペース。
履行者タスク | 履行者タスクビュー	フォーム	ユーザーが履行者タスクを作成するためのフォーム。
サービス要求管理：プライマリ	レコードプロデューサー	サービス要求に関連する情報を追加し、ドキュメントを添付するための質問が含まれています。
出張要求	レコードプロデューサー	出張要求に関連する情報を追加し、ドキュメントを添付するための質問が含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
プライマリ | デフォルトビュー	フォーム	ユーザーがサービス要求レコードを作成するためのフォーム。
履行者のマネージャー	ワークスペース	履行者のマネージャーが、承認待ちの要求を表示し、要求を作成し、要求を承認または拒否し、自分やチームの要求に関連するデータや分析を確認するためのワークスペース。
出張要求 | デフォルトビュー	フォーム	ユーザーが出張要求レコードを作成するためのフォーム。

サービス要求管理アプリテンプレートでの自動化ワークフロー

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
履行者タスク作業メモを追加	メール	履行者タスクに作業メモが追加されたときに、[アサイン先] フィールド、[作業メモ] リスト、および [ウォッチリスト] のユーザーに通知します。
履行プロセスのトリガー	メール	履行者タスクが作成されたが、デフォルトの履行者または履行アサイン先グループがない場合に、サービスオーナーに通知します。
空の挿入時のアサイン先	メール	要求レコードが作成され、アサイニーがいない場合にアサイン先グループに通知します。
挿入時/アサイン先の変更	メール	要求レコードがアサインされたことをユーザーに通知します。
アサインプロセス	フロー - レコード	アサイン、承認、および実行プロセスを移動するときに、新しいレコードを作成および更新します。
履行者の意思決定	ディシジョンテーブル	各サービスのデフォルトの履行者ユーザーと履行者アサイン先グループを定義します。
承認プロセス	フロー	承認プロセスを通じてレコードを移動します。
承認者の意思決定	ディシジョンテーブル	各サービスのデフォルトの承認者と承認者アサイン先グループを定義します。
履行プロセス	フロー	履行プロセスを通じてレコードを移動します。
追加された子作業メモ	メール	出張要求タスクに作業メモが追加されたときに、[アサイン先] フィールド、[作業メモ] リスト、および [ウォッチ] リス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
		トで指定されたユーザーに通知します。
プライマリ作業メモを追加	メール	[プライマリ] テーブルの要求レコードに作業メモが追加されたときに、[アサイン先] フィールド、[作業メモ] リスト、ウォッチリストのユーザーに通知します。

サービス要求管理アプリテンプレートでのロール

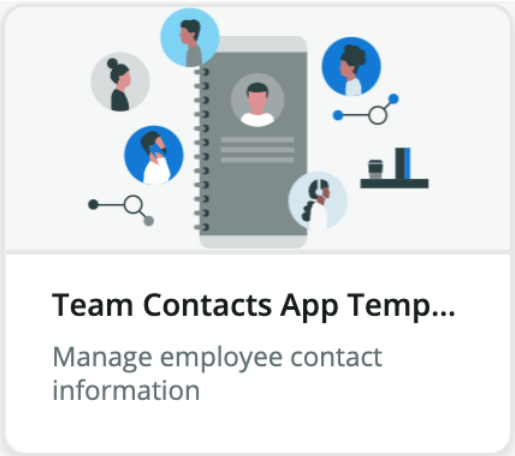
ロールタイトル [名前]	説明
承認者 [x_<company-name>_ <app_name>.approver]	承認者ワークスペースへのアクセス権を提供し、プライマリ [x_ <company-code>_<primary>] および出張要求 [x_ <company-code>_<travel_request>] テーブルへの読み取りおよび書き込みアクセスを提供します。
アプリアドミン [x_<company-name>_ <app_name>.app_admin]	サービス要求管理データおよびワークスペースへの完全なアクセス権を付与します。
履行者のマネージャー [x_<company-name>_ <app_name>.fulfillers_manager]	履行者マネージャーワークスペースへのアクセス権を提供し、プライマリ [x_ <company-code>_<primary>]、出張要求 [x_ <company-code>_<travel_request>] テーブル、および履行者タスク [x_ <company-code>_<fulfiller_task>] テーブルへの読み取りおよび書き込みアクセスを提供します。
リクエスタ [x_<company-name>_ <app_name>.requestor]	サービスポータルからデフォルトレコードプロデューサーの要求を送信するためのアクセスを提供し、プライマリ [x_ <company-code>_<primary>] および出張要求 [x_ <company-code>_<travel_request>] テーブルへの読み取りおよび書き込みアクセスを提供します。
履行者 [x_<company-name>_ <app_name>.fulfiller]	履行者ワークスペースへのアクセス権を提供し、プライマリ [x_ <company-code>_<primary>]、出張要求 [x_ <company-code>_<travel_request>] テーブル、および履行者タスク [x_ <company-code>_<fulfiller_task>] テーブルへの読み取りおよび書き込みアクセスを提供します。
admin [x_<company-name>_ <app_name>.admin]	システムアドミニストレーターロール。このロールは、セキュリティ上の制約に関係なく、システムの機能とデータすべてにアクセスできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

チーム連絡先テンプレート

チーム連絡先テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションをビルドし、組織内のユーザーの連絡先情報を管理します。

チーム連絡先テンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。



チーム連絡先アプリは、モバイルエクスペリエンスを使用して、従業員の連絡先情報を表示し、お気に入りにタグを付け、プライバシーメモを追加します。アプリでは、デフォルトでレポート情報を表示し、従業員が従業員を検索したり、従業員プロファイルを表示したり、お気に入りの従業員の連絡先リストを作成したりできます。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

チーム連絡先テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) のチーム連絡先テンプレートに含まれています。

チーム連絡先アプリテンプレートのテーブル

テーブルラベル **[name]**	説明
連絡先の関係性テーブル [x_<company-code>_<team_contact>_relationship_contact]	従業員の連絡先情報を追跡します。たとえば、連絡先名、作成日、お気に入り、更新などです。
リマインダーテーブル [x_<company-code>_<team_contact>_relationship_contact_reminders]	チームによって作成されたリマインダーを追跡します。たとえば、リマインダーを送信するタイミングとリマインダーの件名などです。
関係メモテーブル [x_<company-code>_<team_contact>_relationship_notes]	従業員が相互に作成するメモを追跡します。たとえば、従業員の名前、連絡先の理由、HTML メモ、連絡先をお気に入りとしてマークするオプションなどです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

チーム連絡先アプリテンプレートのエクスペリエンス

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
従業員モバイルエクスペリエンス	モバイル体験	従業員が組織の iOS または Android アプリを使用して、従業員ディレクトリおよび関係メモにアクセスできるようにします。
チーム連絡先	ポータル	従業員とマネージャーが、Web サイトを使用して従業員プロファイルを表示し、お気に入りの連絡先をマークし、関係メモを追加できるポータル。チーム連絡先ポータルには、サインインページ、ホームページ、および関係メモを追加するためのページが含まれています。
メモ | デフォルトビュー	フォーム	連絡先情報にメモを追加するフォーム。
連絡先の関係性	フォーム	連絡先情報を表示するフォーム。
リマインダー | ポータル	フォーム	従業員とマネージャーがリマインダーを設定するためのフォーム。
リマインダー | デフォルトビュー	フォーム	従業員とマネージャーがリマインダーを設定するためのフォーム。
メモ | ポータル	フォーム	マネージャーと従業員が連絡先にメモを追加するためのフォーム。

チーム連絡先アプリテンプレートの自動ワークフロー

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
Team Contact Reminder Push	メール	リマインダープッシュを従業員に送信します。
通知コンタクトリマインダー	フロー - レコード	従業員が関係メモに設定したリマインダーに関する通知を送信します。通知には、関係メモの詳細が含まれています。
Team Contact Reminder Notification	メール	リマインダーを従業員に送信します。
Team Contact Reminder Ackn Notification	メール	通知を確認するためのリマインダーを従業員に送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

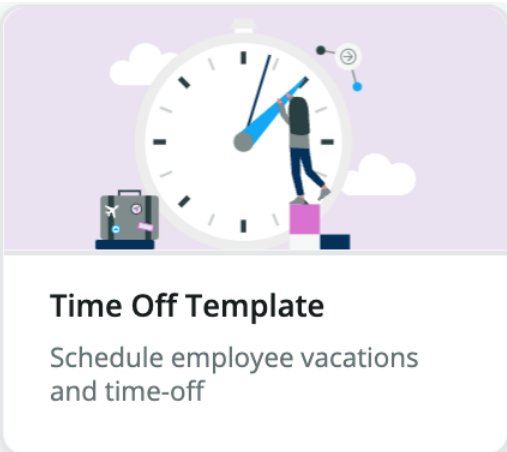
チーム連絡先アプリテンプレートのロール

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
マネージャー [x_<company-name>_ <app-name>.manager]	マネージャーは、プロファイル情報を表示し、関係メモを追加し、直属の部下を確認できます。	作成、読み取り (自分のもの)、更新 (自分のもの)、削除 (自分のもの)
アドミン [x_<company-name>_ <app-name>.admin]	マネージャーは、チーム連絡先アプリを設定し、アプリへのアクセス権を付与できます。	読み取り (すべて)、更新 (すべて)、削除
従業員 [x_<company-name>_ <app-name>.employee]	従業員は、チームに関する情報の表示、従業員の検索、従業員プロファイルの表示、お気に入りの連絡先のマーク付けを行うことができます。	作成、読み取り (自分のもの)、更新 (自分のもの)、削除 (自分のもの)
キャンバスユーザー	キャンバスコアアプリケーションのユーザーロール	

休暇テンプレート

休暇申請テンプレートを使用して App Engine Studio (AES) でアプリケーションをビルドし、従業員の休暇をスケジュールできるようにします。

休暇テンプレートを使用するには、ServiceNow Store からこのアプリケーションをインストールします。



休暇申請を作成して、従業員が単一のモバイルまたは Web ベースのフォームで休暇を申請するプロセスを簡素化します。要求が送信されると、マネージャーにメールで通知されます。モバイルアプリまたは Web ベースのポータルを使用して、従業員またはチーム全体の要求の履歴および要求処理待ちを月別または年別に表示できます。これにより、マネージャーは情報に基づいた意思決定を行い、今後の作業の計画を改善し、シフトをカバーする必要がある部分を特定できます。要求が承認または却下されると、その理由とともに従業員に自動的に通知されます。計画の変更や承認済みの要求の更新が必要な場合、従業員はポータルを使用して要求を編集し、承認を得るために再送信できます。

テンプレートを使用したアプリケーションの作成については「アプリケーションテンプレートを使用したアプリの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

休暇テンプレートのコンテンツ

次のテーブル、エクスペリエンス、自動ワークフロー、ロールは、App Engine Studio (AES) の休暇テンプレートに含まれています。

休暇アプリテンプレートのテーブル

テーブルラベル **[name]**	説明
休暇申請テーブル [x_<company-code>_<my_time_off_request_app>_request]	Time Off Request アプリを使用して、従業員が作成した休暇申請を追跡します。たとえば、従業員名、作成日、マネージャー、要求された休暇、休暇申請のステータスなどです。

休暇アプリテンプレートのエクスペリエンス

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
休暇申請 | デフォルトビュー	フォーム	マネージャーおよびアドミニストレーターが休暇申請のテンプレートとして使用するフォーム。
休暇申請 | ワークスペース	フォーム	マネージャーが休暇申請を表示、送信、承認または却下できるワークスペース。ワークスペースには、チーム、従業員、および時間別に表示できる履歴レコードも含まれています。
アプリ名 | ポータル	ポータル	マネージャーおよびアドミニストレーターが休暇申請を表示、送信、承認または却下し、従業員が休暇申請を表示、編集、レビュー、またはキャンセルするためのポータル。
アプリ名 | ワークスペース	ワークスペース	マネージャーおよびアドミニストレーターが休暇申請を表示、送信、承認または却下するために使用できるワークスペース。
休暇申請 | レコード	フォーム	マネージャーが休暇申請を表示、送信、承認、または却下するために使用できるフォーム。
休暇申請 | 新規	フォーム	ユーザーは、休暇申請の新規作成 (保存、送信、またはキャンセル)、更新 (保存、送信、削除、またはキャンセル)、およびレビュー (承認または却下) を行うことができます。
モバイルアプリ	モバイル体験	従業員は休暇を申請し、その申請にアクセスできます。マネージャーは、組織の iOS または Android アプリを使用して、休

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンス	エクスペリエンスタイプ	説明
		暇申請を送信、表示、更新、承認、または却下できます。
ダッシュボード	モバイル体験	マネージャーおよびアドミニストレーターは、組織の iOS または Android アプリを使用して、休暇申請を表示できます。

休暇アプリテンプレートの自動ワークフロー

ワークフロー名	ワークフロータイプ	説明
Time off request - Send comments	フロー - レコード	休暇申請にコメントが追加されたときに、従業員またはマネージャーに通知を送信します。
Daily Time Off inactivating records	フロー	残り日数が 0 に設定されるまで休暇申請レコードの残り時間を更新します。
Time Off Req Approved	メール	承認された休暇申請を従業員に通知します。
Time Off Req Updated/ resubmitted	メール	更新/再送信された休暇申請をマネージャーに通知します。
Time Off Comments	メール	休暇申請にコメントが追加されたことを従業員またはマネージャーに通知します。
Time Off requests - Send notifications	フロー - レコード	休暇申請のステータスが変更されたときに、従業員またはマネージャーに通知を送信します。通知には、休暇申請の詳細が含まれています。
Time Off Request Cancelled	メール	休暇申請がキャンセルされたことを従業員またはマネージャーに通知します。
Time Off Request Rejected	メール	却下された休暇申請を従業員に通知します。
Time Off Request - updated/ resubmitted	フロー - レコード	休暇申請が更新/再送信されたことの通知を従業員またはマネージャーに送信します。
Time Off Req Submitted	メール	休暇申請が送信されたときにマネージャーに通知します。
休暇申請	メール	従業員は休暇申請をドラフト作成、要求、承認、却下、およびキャンセルできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

休暇アプリテンプレートのロール

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
マネージャー [x_<company-name>_ <my time_off_request_app>.manager]	マネージャーは休暇申請を送信、表示、承認、または却下することができます。	作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて)
従業員 [x_<company-name>_ <my time_off_request_app>.employee]	従業員は休暇申請を送信、表示、編集、キャンセルできます。	作成、読み取り (自分のもの)、編集 (自分のもの)、削除 (自分のもの)
アドミン [x_<company-name>_ <my time_off_request_app>.admin]	アドミニストレーターは休暇アプリを管理し、すべてのレコードを表示できます	作成、読み取り (すべて)、編集 (すべて)、削除 (すべて)
公開	公開ユーザーは、アプリケーションの機能にアクセスするためにログインする必要はありません。	デフォルトでは、ロールにはアクセス権がありません。

カスタムテンプレートのビルド

App Engine Studio (AES) には、事前定義されたさまざまなアプリケーションテンプレートがあります。ただし、あるアプリケーションのタイプを複数回作成する場合は、カスタムテンプレートを作成すると本番稼働までの時間を短縮できます。

カスタムテンプレートを最初から作成することも、既存のコンテンツを開始点として使用することもできます。事前定義された AES テンプレートにニーズに近いものがある場合は、そのテンプレートを拡張し、ニーズに合わせてカスタマイズすることを検討してください。データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、アクセスのためのセキュリティロールを追加およびカスタマイズして、テンプレートを完成させます。

既存のアプリケーションからのカスタムテンプレートのビルド

既存のアプリケーションを開始点として使用して、App Engine Studio (AES) でカスタムテンプレートをビルドします。アプリケーションの既存のデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティロールが、カスタムテンプレートに自動的に追加されます。

始める前に

必要なロール：admin、app_template_author

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [テンプレート] ページで、[新規テンプレートを作成] を選択します。
3. [既存のアプリ] を選択し、[続行] を選択します。
4. [アプリの選択] 画面でカスタムテンプレートを作成用の既存のアプリケーションを選択し、[続行] を選択します。
   次の結果が考えられます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [すべてのアイテムがサポートされています (All items are supported)]：カスタムテンプレートが作成されます。すべてのオブジェクトがカスタムテンプレートとそのカスタムテンプレートから作成されたアプリで使用できます。
- [一部のアイテムはサポートされていません]：テンプレートの作成は続行できますが、このカスタムテンプレートで使用できないアイテムがあります。カスタムテンプレートや、そのテンプレートから作成されたアプリには影響しません。
- [一部のアイテムが拒否されました (Some items are denied)]：カスタムテンプレートの作成者にはエラーメッセージが表示され、そのエラーを修正するまで続行できません。 作成者は、アプリを既存のアプリから作成した場合はアプリを変更し、最初から作成した場合はテンプレートを変更する必要があります。

注: 詳細については、「カスタムテンプレートでサポートされている機能とメタデータ」を参照してください。

5. カスタムテンプレートの名前と説明を入力します。
6. アプリケーションのロゴを承認または変更します。
   - 既存のアプリケーションに SVG 形式のロゴがある場合は、同じロゴがカスタムテンプレートに適用されます。
   - ロゴがないか、あっても SVG 以外の形式の場合は、**[SVG** 画像を参照またはドラッグする] フィールドに画像をドラッグするか、そのフィールドを選択してファイルディレクトリから画像を選択してから [開く] を選択して、カスタムテンプレートの SVG ロゴをアップロードします。
7. [続行] を選択します。
8. このテンプレートにアクセスできるユーザーまたはグループを指定します。

オプション	説明
特定のユーザーとグループとの共有	**a.** [共有先] リストから、[特定のユーザーとグループ] を選択します。 **b.** ユーザーを個別またはグループで追加します。 **c.** [アクセス権を付与] を選択します。 **d.** [続行] を選択します。
すべてのユーザーおよびグループと共有する	**a.** [共有先] リストから、[すべてのユーザーとグループ] を選択します。 **b.** [続行] を選択します。

テンプレートの共有と権限の詳細については、「アプリテンプレートの共有」を参照してください。

9. 次のいずれかの方法で、カスタムテンプレートにアクセスします。

オプション	アクション
すべてのテンプレートに移動します	テンプレートライブラリからカスタムテンプレートにアクセスする。
ビューテンプレート	作成したカスタムテンプレートにアクセスする。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
カスタムテンプレートが作成され、使用できるようになりました。カスタムテンプレートがアクティブ化され、アクセス権を持つ App Engine Studio ユーザーが使用できるようになります。

カスタムテンプレートを最初からビルドする

事前定義された App Engine Studio (AES) テンプレートがどれもビジネスニーズに合わない場合、または開始点になるような既存のアプリケーションがない場合は、カスタムテンプレートを最初からビルドします。

始める前に
必要なロール：admin、app_template_author

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [テンプレート] ページで、[新規テンプレートを作成] を選択します。
3. [最初から開始] を選択し、[続行]を選択します。
4. カスタムテンプレートの名前と説明を入力します。
5. オプション: **[SVG** 画像を参照またはドラッグする] フィールドに画像をドラッグするか、そのフィールドを選択してファイルディレクトリから画像を選択してから [開く] を選択して、カスタムテンプレートにロゴを追加します。
6. [続行] を選択します。
   空のカスタムテンプレートが作成されると、進行状況メッセージが表示されます。
7. このテンプレートにアクセスできるユーザーまたはグループを指定します。

オプション	説明
特定のユーザーとグループとの共有	a. [共有先] リストから、[特定のユーザーとグループ] を選択します。 b. ユーザーを個別またはグループで追加します。 c. [アクセス権を付与] を選択します。 d. [続行] を選択します。
すべてのユーザーおよびグループと共有する	a. [共有先] リストから、[すべてのユーザーとグループ] を選択します。 b. [続行] を選択します。

   テンプレートの共有と権限の詳細については、「アプリテンプレートの共有」を参照してください。
8. [テンプレートの詳細] 画面で、[テンプレートダッシュボードに移動します] を選択します。
9. カスタムテンプレートに、データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティ対策を追加します。
   詳細は、以下のトピックを参照してください。
   - アプリケーションのデータモデルの作成
   - アプリケーションエクスペリエンスの追加
   - ロジックと自動化の追加
   - アプリケーションセキュリティの追加
10. [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
カスタムテンプレートの概要を指定し、テンプレートをアクティブ化して、テンプレートライブラリから App Engine Studio ユーザーが使用できるようにします。詳細については、「カスタムテンプレートのコンテンツとプロパティの更新」を参照してください。

アプリテンプレート作成エラーの特定と修正

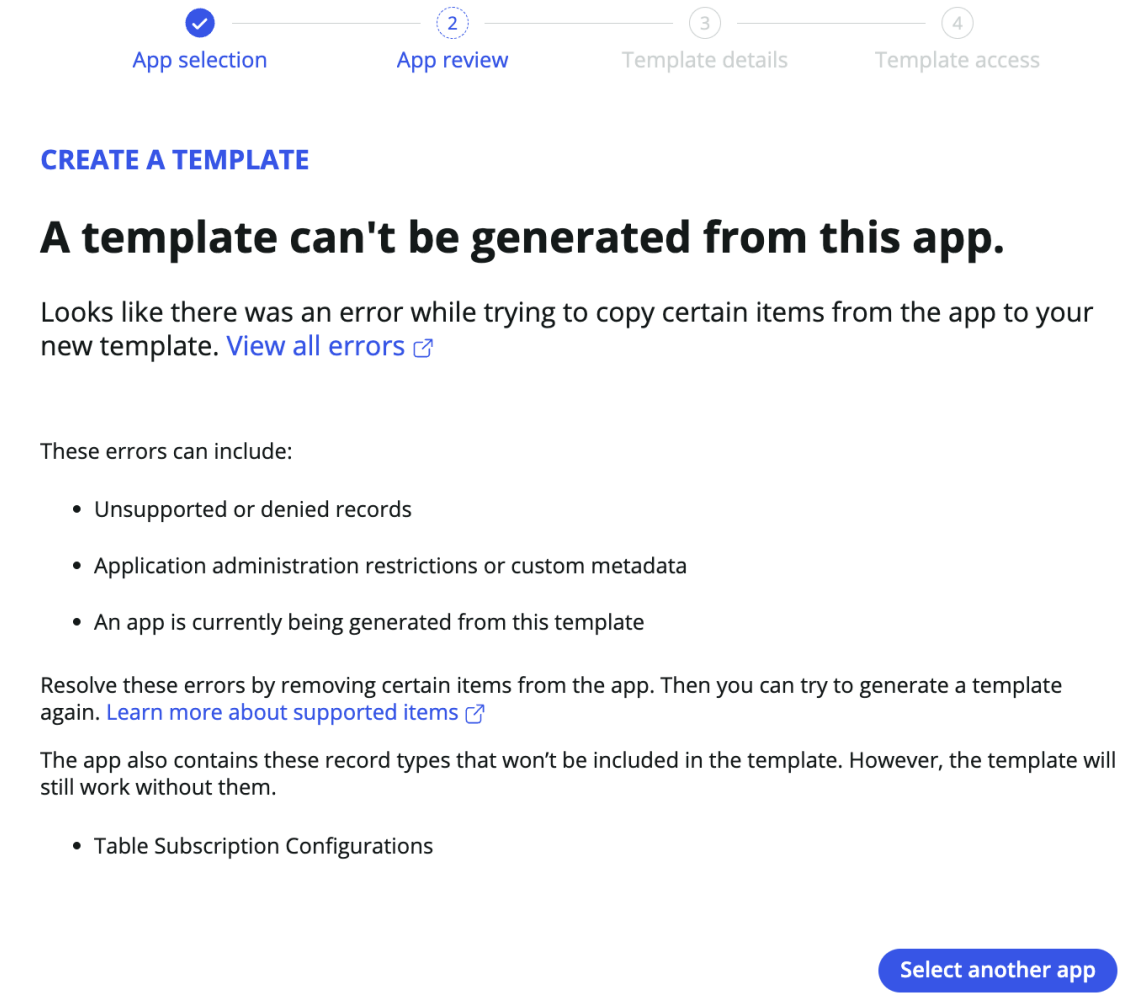
サポートされていない機能またはメタデータが App Engine Studio (AES) のテンプレート作成プロセスを停止した場合に、アプリを特定して修正する方法について説明します。

サポートされていない機能

カスタムテンプレートを作成したソースアプリケーションのアイテムが、テンプレートでサポートされていない場合があります。アプリケーションからテンプレートを作成する前に、サポートされていないアイテムを削除する必要があります。

テンプレートの作成プロセス中にエラーが発生すると、エラーメッセージが表示されます。

テンプレート作成失敗通知



[すべてのエラーを表示] を選択すると、アプリケーションのどの要素がテンプレートの作成プロセスを失敗させているかを特定できます。これにより、スキャン失敗 [sys_app_scan_failure] テーブルが表示されます。テーブル内のエラーとその原因の詳細については、「スキャン失敗テーブルのテンプレート作成エラー」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スキャン失敗テーブルのテンプレート作成エラー

スキャン失敗 [sys_app_scan_failure] テーブルに表示されるカスタムテンプレートの作成中に発生したエラーとその原因。

エラーメッセージ

許可およびスキップされるレコードのタイプの詳細については、「カスタムテンプレートでサポートされている機能とメタデータ」を参照してください。

エラーメッセージ	定義	詳細
Unsupported_table	許可ルールがなく、不明なレベルのサポートがあるレコードクラス。	1 つ以上のサポートされていないレコードが App Engine Studio によって認識されません。テンプレートの作成プロセスを続行するには削除する必要があります。
Denied_table	拒否ルールがあり、テンプレートの作成がサポートされていないレコードクラス。	レコードクラスは明示的に拒否され、テンプレートの作成プロセスを続行するには削除する必要があります。
Scripted_record	アプリ内の各レコードで実行されるスクリプト化されたルール。	現在のスクリプト化された拒否ルールには次のものが含まれます。 • カスタムメタデータ：アプリには sys_metadata テーブルを拡張するテーブルがあります。 • スコープ指定管理：アプリでスコープ指定管理がオンになっています。 • テンプレート実行中：ソースアプリに関連付けられたテンプレートが現在実行されています。
Scripted_app	アプリに対して 1 回実行されるスクリプト化されたルール。	

カスタムテンプレートを公開する権限のアサイン

カスタムテンプレートをアプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store に公開するための権限を開発者にアサインします。特定のカスタムテンプレートを公開するか、App Engine Studio (AES) の既存のすべてのカスタムテンプレートを公開する権限を付与できます。

個別のカスタムテンプレートを公開する権限のアサイン

個別の App Engine Studio (AES) カスタムテンプレートをアプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store に公開するための権限を開発者にアサインします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [テンプレート] > [アプリケーションテンプレート] に移動します。
2. [リストをカスタマイズ] アイコン (⚙) を選択します。
3. [パッケージ] 列を追加するには、[パッケージ] の値を [対応可能] リストから [選択されました] リストに移動し、**[OK]** を選択します。
4. [パッケージ] 列から、カスタムテンプレートのパッケージリンクを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [関連リンク] 見出しで、[協力者の管理]を選択します。
6. 新規または既存の協力者に権限をアサインします。

選択肢	アクション
新しいユーザーまたはグループに権限を割り当てる	a. [名前またはグループでユーザーを招待] フィールドに、協力者として追加するユーザー名またはグループ名を入力します。 b. [コラボレーション記述子] から、[編集者] を選択します。 c. [送信] を選択します。 コラボレーション要求が承認されると、そのユーザーまたはグループがカスタムテンプレートの協力者として追加されます。 d. [コラボレーション記述子] から、[カスタマイズ] を選択します。 e. [協力者の管理] ウィンドウで、[アプリリポジトリに公開 **(Publish To App Repo)]** および [アプリストアに公開 **(Publish To App Store)]** チェックボックスをオンにします。 f. [保存] を選択します。
既存のユーザーまたはグループに権限をアサインする	a. 協力者のリストから、ユーザーまたはグループを選択します。 b. [カスタマイズ] を選択します。 c. [協力者の管理] ウィンドウで、[アプリリポジトリに公開 **(Publish To App Repo)]** および [アプリストアに公開 **(Publish To App Store)]** チェックボックスをオンにします。 d. [保存] を選択します。

タスクの結果
これで、指定されたユーザーまたはグループが、個別のカスタムテンプレートを公開する権限を持ちます。

カスタムテンプレートおよびアプリを公開する権限のアサイン

カスタムの App Engine Studio (AES) テンプレートおよびアプリケーションをアプリリポジトリまたは ServiceNow Store に公開するための権限を開発者にアサインします。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > **[App Engine]** > [コラボレーション] > [記述子] に移動します。
2. [すべてのコラボレーション記述子 (All Collaboration Descriptors)] ページの [名前] フィールドで、[所有者 **(Owner)]** を検索して選択します。
3. [開発権限セット] タブで、[編集] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [アプリリポジトリに公開 **(Publish To App Repo)]** および [アプリストアに公開 **(Publish To App Store)]** の値を [コレクション] リストから [開発権限セット] リストに移動します。
5. [保存] を選択します。

タスクの結果
これで、アプリケーションを所有する開発者は、すべてのカスタムテンプレートを自分のアプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store に公開するためのプラットフォームレベルの権限を持つことになります。

カスタムテンプレートの公開

App Engine Studio (AES) を使用して、ゼロから、または既存のアプリケーションからビルドされたカスタムテンプレートを公開できます。

始める前に
カスタムテンプレートを公開するには、権限が必要です。詳細については、「カスタムテンプレートを公開する権限のアサイン」を参照してください。

必要なロール：admin、app_template_author

手順
1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]** > [テンプレート] に移動します。
2. カスタムテンプレートをポイントし、[その他のアクション] アイコン (••• アイコン) を選択して、[プロパティ] を選択します。
3. [全般] タブで、[このテンプレートをアクティブ化] チェックボックスをオンにします。
4. [テンプレートを公開] を選択します。
5. オプション: カスタムテンプレートをゼロから作成する場合は、[公開する] を選択します。

   (Optional) App Engine Studio に[テンプレートを公開] フィールドが表示されます。
6. フィールドに入力します。

   バージョン番号とリリースノートを入力してください

フィールド	説明
バージョン	カスタムテンプレートの新しいバージョン番号を入力します。
リリースノート	カスタムテンプレートに加えられた変更の簡単な説明を入力します。
オプションを公開	カスタムテンプレートを公開する場所を選択します。 ◦ テンプレートを自分のアプリケーションリポジトリに公開するには、[自分のアプリケーションリポジトリ (アプリを自分のインスタンスで使用可能にします)] を選択します。 ◦ テンプレートを ServiceNow Store に公開するには、**[ServiceNow Store** (レビューのためにこのアプリを **ServiceNow Store**に送信してください)] を選択します。

7. [続行] を選択します。
8. 確認画面で、[クローズ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
カスタムテンプレートが公開され、アプリテンプレートアドミニストレーターと共有しているユーザーがそれを使用できるようになります。

カスタムテンプレートのコンテンツとプロパティの更新

App Engine Studio (AES) のコンテンツまたはプロパティを更新して、カスタムテンプレートの有効性を向上させます。

始める前に
必要なロール：admin、app_template_author

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [テンプレート] タブを選択します。
3. テンプレートのさまざまな側面を変更して、ニーズに合わせてより役立つようにします。

選択肢	手順
テンプレートのコンテンツを更新する	**a.** カスタムテンプレートをポイントし、[その他のアクション] アイコン (••• アイコン) を選択して、[テンプレートを編集] を選択します。 **b.** データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティを編集して、カスタムテンプレートを変更します。 詳細は、以下のトピックを参照してください。 ▪ アプリケーションデータテーブルの変更 ▪ アプリケーションエクスペリエンスの追加 ▪ ロジックと自動化の追加 ▪ アプリケーションセキュリティの追加 **c.** [テンプレートを保存] を選択します。
テンプレートのプロパティを更新する	**a.** カスタムテンプレートをポイントし、[その他のアクション] アイコン (•••) を選択して、[プロパティの編集] を選択します。 **b.** [**General**] を選択します。 **c.** テンプレートのアスペクトを変更します。 ▪ カスタムテンプレートの名前を変更するには、[名前] フィールドを更新します。 ▪ カスタムテンプレートの説明を書き換えるには、[説明] フィールドを更新します。 ▪ カスタムテンプレートのロゴを置き換えるには、[画像の削除] を選択して新しいロゴを追加します。 **d.** [プロパティを保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択肢	手順
テンプレートの共有設定を更新する	**a.** カスタムテンプレートをポイントし、[その他のアクション] アイコン (•••) を選択して、[プロパティの編集] を選択します。 **b.** [共有設定] を選択し、次のいずれかの方法でテンプレートを共有します。 **i.** 一部のユーザーまたはグループと共有する。 **ii.** すべてのユーザーおよびグループと共有する。 **c.** [全般] タブで、[プロパティを保存] を選択します。
[テンプレートの詳細] ページのコンテンツを更新する	**注:** 新規に作成されたテンプレートにのみ、編集可能な [テンプレートの詳細] ページがあります。既存のテンプレートから作成されたテンプレートには、編集する [テンプレートの詳細] ページがないため、ヘッダー、キャッチコピー、その他のテンプレート情報などのアイテムを変更することはできません。 **a.** カスタムテンプレートをポイントし、[その他のアクション] アイコン (•••) を選択して、[プロパティの編集] を選択します。 **b.** [詳細ページ] を選択します。 **c.** テンプレートの詳細を更新します。これはユーザーがテンプレートの機能と、それをアプリケーション用に選択する理由を理解するのに役立ちます。 **d.** [プロパティを保存] を選択します。
カスタムテンプレートを削除する	カスタムテンプレートを削除するには、アドミン権限または削除する権限があることを確認してください。[テンプレートを削除] を選択し、「`Delete`」と入力して選択を確定し、[削除] を選択します。 **注:** 削除する権限を要求するには、アドミニストレーターにお問い合わせください。

テンプレートのアクティブ化の管理

テンプレートのアクティブ化と非アクティブ化を管理して、App Engine Studio (AES) でアプリを作成するユーザーがニーズに最適なアプリケーションテンプレートにアクセスできるようにします。

始める前に
必要なロール：app_template_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
アプリテンプレートアドミニストレーターは、非本番インスタンスでアクティブなテンプレートを管理し、どのユーザーがそれらのテンプレートを表示および使用できるか決定します。アドミニストレーターは、会社の標準から逸脱したカスタムテンプレートやユーザーのニーズに合わないカスタムテンプレートを非アクティブ化することもできます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [テンプレート] > [アプリケーションテンプレート] に移動します。
2. アクティブ化または非アクティブ化するテンプレートをリストから選択します。
3. テンプレートを編集するには、表示されるメッセージの [ここ] を選択します。
4. テンプレートをアクティブ化または非アクティブ化します。
   - テンプレートをアクティブ化するには、[アクティブ **(Active)]** チェックボックスをオンにします。
   - テンプレートを非アクティブ化するには、[アクティブ **(Active)]** チェックボックスをオフにします。
5. [更新] を選択します。

アプリテンプレートの共有

App Engine Studio (AES) で事前定義されたテンプレートとカスタムテンプレートにアクセスできるユーザーとグループを指定します。

暗黙的な共有

テンプレートは組織内の一部のユーザーと暗黙的に共有されます。つまり、共有を決定する共有レコードは存在しません。暗黙的な共有を管理する 3 つのルールは次のとおりです。

- インスタンスアドミニストレーターは、すべてのテンプレートを表示して使用できます。
- アプリテンプレートアドミン (app_template_admin ロールを持つユーザー) も、すべてのテンプレートを表示して使用できます。
- アプリテンプレート作成者 (app_template_author ロールを持つユーザー) は、テンプレートが存在するスコープを編集する権限を持っている場合に、共有されていないテンプレートを表示できます。

これらの共有ルールは、テンプレートがアクティブかどうかに関係なく適用されます。

明示的な共有

組織内の任意のユーザーとアプリテンプレートを共有するには、そのユーザーまたはグループの共有レコードを作成します。ただし、共有権限に関係なく、そのユーザーまたはグループは、テンプレートを表示して使用するための sn_app_eng_studio.user ロールを持っている必要があります。テンプレートを共有する 3 つの方法は次のとおりです。

- 組織内のすべてのユーザーとグローバルに共有する
- 指定されたユーザーグループと共有する
- 指定された 1 人のユーザーと共有する

注: 個別のユーザーとのテンプレートの共有を停止しても、そのユーザーがそのテンプレートを共有しているグループに含まれる場合、そのユーザーは引き続きそのテンプレートを表示および使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレート共有権限の管理

App Engine Studio (AES) テンプレートをグローバル、グループ、または個別のユーザーと共有して、それらのユーザーが適切なテンプレートにアクセスできるようにします。

始める前に

必要なロール：app_template_admin

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [テンプレート] > [アプリケーションテンプレート] に移動します。
2. 共有権限を変更するテンプレートを選択します。
3. [テンプレート共有権限] 関連リストで、[新規] を選択します。
4. 共有オプションを選択します。

選択肢	権限
グローバル	組織内の全員と共有します。
ユーザーグループ	リストから選択したグループと共有します。
ユーザー	リストから選択した個別のユーザーと共有します。

5. [送信] を選択します。

アプリケーションのゼロからの作成

App Engine Studio (AES) で利用可能なアプリケーションテンプレートがアプリケーションの目的に適合しない場合は、データ、エクスペリエンス、ロジック、自動化、およびセキュリティを追加できる空のアプリケーションを作成します。

始める前に

注: AES でアプリを作成するには、アドミンであるか、App Engine Studio ユーザーグループに所属している必要があります。App Engine Studio ユーザー制限グループに属している場合、既存のアプリの編集のみ可能で、新しいアプリを作成することはできません。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [アプリを作成] を選択します。
3. アプリケーションの名前と説明を入力します。
4. オプション: [アプリのロゴをアップロードするには、ドラッグまたは参照します] フィールドに画像をドラッグするか、そのフィールドを選択してファイルディレクトリから画像を選択してから [開く] を選択して、ロゴを追加します。
5. [続行] を選択します。
6. ロールを追加またはカスタマイズすることで、アプリケーションのコンテンツを作成、読み取り、書き込み、削除するアクセス権を持つユーザーを制御します。
   アプリにセキュリティロールを追加するには、[ロールを追加] を選択し、ロールの名前と説明を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** アプリケーションセキュリティを更新するには、少なくとも 1 つのロールに読み取りアクセス権が必要です。

7. [続行] を選択します。
8. サマリー画面で、[アプリダッシュボードに移動します] を選択します。
9. オプション: ウィンドウの左下隅にある [ガイダンス] トグル ( ) をアクティブ化して、アプリケーションの各セクションのガイド情報を確認します。
10. データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティをアプリに追加して、アプリケーションのビルドを続行します。
    詳細は、以下のトピックを参照してください。
    - アプリケーションのデータモデルの作成
    - アプリケーションエクスペリエンスの追加
    - ロジックと自動化の追加
    - アプリケーションセキュリティの追加

次のタスク
アプリケーションのビルドが完了したら、承認のためにアプリケーションを送信し、アドミニストレーターにレビューと展開を実施してもらいます。詳細については、「承認と公開のためのアプリの送信」を参照してください。

承認を受けるアプリの準備

アプリの名前の変更、アプリの説明の編集、アプリの画像の置換などの必要な変更を加えて、承認プロセスに対してアプリを準備します。間違えて処理した場合は、そのアプリを App Engine Studio (AES) から削除することもできます。

始める前に
必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user

このタスクについて
自分の権限に基づいて、アプリケーションの特定の機能を変更できます。削除する権限を要求するには、アドミニストレーターにお問い合わせください。

手順
1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリホームから、[アプリケーションプロパティの編集] アイコン (アイコン) を選択します。
4. アプリケーションプロパティを更新します。
    - アプリケーションの名前を変更するには、[名前] フィールドを更新します。
    - アプリケーションの説明を書き換えるには、[説明] フィールドを更新します。
    - 画像を置き換えるには、[画像の削除] を選択してから新しい画像を追加します。
    - アプリケーションを削除するには、[アプリケーションを削除] を選択し、「削除」と入力して選択を確定し、[削除] を選択します。
5. [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリの拡張

App Engine Studio (AES) でテンプレートを使用する場合もゼロからアプリを作成する場合も、データモデル、ユーザーエクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティを作成してアプリを拡張する必要があります。

アプリケーションをビルドするときは、次のトピックをガイドとして使用してください。

アプリを拡張するためのリソース

データ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、およびセキュリティをアプリケーションに追加するときには、Now Platform のさまざまな部分を操作する可能性があります。次の表のリンクは、App Engine Studio、テーブルビルダー、UI ビルダー、ディシジョンビルダー、App Engine 管理センター、Now Platform にコンテンツを追加するためのリソースを示しています。

アプリケーションにコンテンツを追加するためのリソース

データを追加	エクスペリエンスの追加	ロジックと自動化の追加	セキュリティの追加
App Engine Studio でアプリケーションにデータを追加します。 • アプリケーションのデータモデルの作成 • 空白のテーブルを作成する • スプレッドシートを使用してデータを追加する • PDF を使用してデータテーブルを作成する • データ統合を作成する • アプリケーションデータテーブルの変更	App Engine Studio で作業して、アプリケーションにエクスペリエンスを追加します。 • アプリケーションエクスペリエンスの追加 • レコードプロデューサーの追加 • 標準カタログアイテムの追加 • ワークスペースの追加 • ポータルの追加 • モバイルエクスペリエンスの追加 • App Engine Studio でのエクスペリエンスの編集	App Engine Studio でアプリケーションにロジックと自動化をビルドします。 • ロジックと自動化の追加 • テンプレートを使用したビルド済みフローの追加 • フローを最初から追加 • 意思決定の追加 • メール通知の追加 • プロセスを編集する	App Engine Studio でアプリケーションのセキュリティを管理するロールを構成します。 • アプリケーションセキュリティの追加 • アプリケーションの新しいロールのビルド • アプリケーションに対する既存のロールの使用 • 他の開発者とのコラボレーション • ロールのアクセス設定の変更 • ロールの削除
Table Builder の使用にシームレスに移行して、アプリケーションのデータを拡張します。 • テーブルビルダー の詳細 • テーブルビルダー 内のデータ • テーブルビルダー のフォーム	ワークスペースビルダー と UI ビルダー を使用して、アプリケーションのエクスペリエンスをさらに強化します。 • ワークスペースの追加 • ワークスペースビルダー でのワークスペースの構成	ディシジョンビルダーを使用すると、アプリケーションのビジネスロジックを簡単に管理できます。 • ワークフロースタジオに意思決定テーブルを作成 • Excel での意思決定テーブルの管理 • ワークフロースタジオでのディシジョン	Now Platform と App Engine 管理センターを使用して、組織とアプリケーションのロールを構成および管理します。 • AES のペルソナとロールの構成 • ユーザーとグループの設定 • App Engine アドミングループへのユーザーの追加

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションにコンテンツを追加するためのリソース (続く)

データを追加	エクスペリエンスの追加	ロジックと自動化の追加	セキュリティの追加
• テーブルビルダー でのポリシーとルール • テーブルビルダー のフロー	• UI ビルダー および構成可能なワークスペース • UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する • コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ	テーブル構造の変更 • ワークフロースタジオでのディシジョンテーブルルールの変更	• AES を使用する開発者の委任 • AEMC を使用した開発者の管理 • コラボレーション要求の管理

アプリケーションのデータモデルの作成

アプリケーションデータを収納するテーブルを作成することで、アプリケーションのデータモデルを App Engine Studio (AES) に作成します。新規にテーブルを作成するか、スプレッドシートまたは PDF をアップロードするか、既存のテーブルをテンプレートとして使用して、アプリケーションで使用するデータテーブルを作成します。スプレッドシートをアプリケーションの既存のテーブルにマッピングすることで、データインポートを作成してスケジュール設定することもできます。

データモデルを作成してユーザーインターフェイスにデータを入力することは、新しいアプリケーションでは絶対に必要な出発点です。ユーザーはフォームに入力するときに名前や電話番号などのデータを入力でき、他のユーザーは要求を実行するときにそのデータを参照できます。

App Engine Studio では、アプリケーションデータがテーブル形式で格納されます。ユーザーがアプリケーションデータを更新すると、テーブルに行が作成されるか、既存の行が変更されます (各行はデータレコードとも呼ばれます)。既存の Now Platform テーブル、またはスプレッドシートや PDF からテーブルを作成することも、アプリケーションでレコードを保存するためのまったく新しいテーブルをカスタマイズすることもできます。

アプリケーションに保存されるデータレコードは、複数のソースから取得される場合があります。あるテーブルには、アプリケーションを使用しているユーザーが入力したデータレコードが格納される場合があります。別のテーブルには、スプレッドシートからのデータのインポートとマッピング、または別の Now Platform テーブルからのデータでデータレコードを更新するスクリプトを介して入力される場合があります。

アプリケーションテンプレートとデータ

アプリケーションテンプレートは、自動的にアプリケーションにデータを追加します。テンプレートを使用してアプリケーションを作成する場合は、追加されたテーブルを編集したり、さまざまなテーブルを追加したりすることができます。

フォーム

アプリにデータを追加すると、関連するフォームビューがアプリの [エクスペリエンス] セクションに表示されます。フォームを編集するには、[エクスペリエンス] セクションでフォームを選択します。フォームビューは、テーブルビルダー の [フォーム] タブで編集できます。詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル拡張

組織が他のアプリケーションですでに使用している可能性があるテーブルがいくつかあります。たとえば組織では、構成データを格納するアプリケーションとして構成アイテム [cmdb_ci] テーブルを使用することがあります。このような既存のテーブルを拡張することで、自分のアプリケーションのテーブルを作成できます。

テーブル拡張を使用すると、テーブルのフィールドとレコードを親テーブルと共有できます。ユーザーがアプリケーションのさまざまなフォームビューで同様のフィールドに入力することが想定される場合は、テーブルを拡張することもできます。たとえば、チケットタイプのテーブルを作成するには、タスク [task] テーブルを拡張します。タスクテーブルには、[番号] や [担当者 **(Assigned to)]** など、ほとんどの作業チケットに標準的なフィールドが含まれています。

多くの組織では、市民開発者がアプリを設計するときに使用するための拡張可能な標準化されたテーブルを作成します。これにより、開発者は組織内の複数のアプリケーションでデータを使用する方法を標準化できます。

アプリケーションのテーブルを拡張可能にするには、テーブルの作成時に [拡張性を高める] を選択します。既存のテーブルを拡張した後、列を追加してその新しいテーブルをさらにカスタマイズできます。

次の表は、Now Platform で一般的に拡張されるテーブルのリストです。一般的に拡張されるテーブルおよび拡張用のモデルの詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。

一般的に拡張されるテーブル

テーブル	簡単な説明	説明
タスク	タスク	Incident Management、問題管理、変更管理などのコアアプリケーションのフィールドを格納します。タスクを拡張する各テーブルで使用される、一連の標準フィールドがあります。タスクテーブルを拡張するテーブルはいずれも、タスクを推進するためにタスク固有の機能を利用できます。
cmdb_ci	構成アイテム	構成アイテムを格納します。このテーブルは、ハードウェアやサービスなどの構成アイテム用に拡張できます。
sn_customerservice_case	カスタマーサービスケース	カスタマーサービスケースレコードを保存します。
sm_order	サービスオーダー	実行する必要がある作業を定義および管理するデータを格納します。
sm_task	サービスタスク	1 つのセッション (1 つの場所で 1 回) で 1 人のユーザーが実行する作業のユニットを格納します。
planned_task	計画タスク	計画されたマルチステージプロセスの一環として、時間と労力

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一般的に拡張されるテーブル (続く)

テーブル	簡単な説明	説明
		に関連するタスクの追加フィールドを格納します。
cmn_location	ロケーション	場所情報を格納します。
cmdb_serviceorder_product_model	サービスオーダーモデル	サービスオーダーテンプレートを格納します。
cmdb_servicetask_product_mode	サービスタスクモデル	サービスタスクテンプレートを格納します。
cmdb_qb_result_base	クエリ結果	CMDB クエリビルダーによって作成されたクエリ結果を格納します。
alm_asset	資産	資産に関する一般的、財務的、契約上の情報を格納します。
cmdb_ci_service	ビジネスサービス	ビジネスプロセスを直接サポートする IT サービスデータを格納します。
sys_user	ユーザー	ユーザーデータを格納します。ユーザーテーブルには、すべてのシステムユーザーとその関連部門のリストが表示されます。
sys_user_group	ユーザーグループ	共通の目的を共有する一連のユーザーを格納してグループ化します。グループは、変更要求の承認、インシデントの解決、メール通知の受信、作業指示タスクの実行などのタスクを実行できます。
core_company	会社	会社の情報を格納します。
cmn_schedule	スケジュール	タイムゾーンとスケジュールのタイプを指定し、1 つ以上のスケジュールエントリを使用するレコードを格納します。
cmn_department	部門	すべての部門と関連する事業部門のリストを格納します。
cmn_cost_center	コストセンター	コストセンターレコードを格納します。これは、財務システムと IT の間の参照です。コストセンターレコードはビジネスエンティティを表し、コストセンターのビジネスサービス消費を測定する CI コストセンターリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一般的に拡張されるテーブル (続く)

テーブル	簡単な説明	説明
		レーションシップの関連リストがあります。
cmdb_model	製品モデル	特定のバージョンまたはさまざまな構成の資産です。モデルは、製品カタログ、資産管理、Procurement などのさまざまな ServiceNow プラットフォーム資産アプリケーションを通じて、資産の管理や追跡をするために使用されます。
life_cycle_stage	ライフサイクルステージ	CI のライフサイクルステージを追跡するための標準フィールドと値を格納します。これらの標準値をアプリケーション全体で使用することで、ライフサイクルの移行を通じて効率よく資産を追跡することができます。
life_cycle_stage _status	ライフサイクル状況	CI のライフサイクルステージステータスを追跡するための標準フィールドと値を格納します。これらの標準値をアプリケーション全体で使用することで、ライフサイクルの移行を通じて効率よく資産を追跡することができます。
incident	インシデント	予想される運用基準からの逸脱を格納します。
sysapproval	承認	作業が終了する前に、タスクに関する承認を要求できるようにするデータを格納します。すべてのタスクに対して承認を定義し、ユーザーまたはグループをタスクに関連付けてそれらを承認または却下することができます。

以下にリストされている方法を使用して、データモデルを作成し、アプリケーションにデータを追加します。

空白のテーブルを作成する

自分または他のユーザーが以前に作成した既存のテーブルから、またはゼロからアプリケーションにデータテーブルを追加します。

始める前に
必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、または delegated_developer

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [データ] 見出しの横にある追加アイコン ( ) を選択します。
4. [空白のテーブルを作成する] を選択し、[続行] を選択します。
5. 次の選択肢から選択します。

オプション	説明
新テーブルの作成	空白のテーブルを最初から作成するには、このオプションを選択します。 **a.** [新テーブルの作成] を選択します。 **b.** [続行] をクリックします。
拡張可能なテーブルから作成	Now Platform の既存の拡張可能テーブルから新しい空のテーブルを作成するには、このオプションを選択します。 **a.** [拡張可能なテーブルから作成] を選択します。 **b.** 既存のテーブルを検索して選択します。 **注:** 既にアプリにあるテーブルがリストの最初に表示され、次に推奨される Now Platform テーブルが、テーブルに格納されている情報のタイプの簡単な説明とともに表示されます。 **c.** [続行] を選択します。

6. フォームで、新しいテーブルのプロパティを入力します。

フィールド	説明
テーブル ラベル	テーブルを識別する一意のラベル。
テーブル名	テーブルのデータベース名。テーブルラベルを入力すると、列名が自動的に作成されます。必要に応じてその名前を編集できます。
拡張性を高める	他のテーブルがこのテーブルのデータを共有できるようにするオプション。テーブルの拡張の詳細については、「テーブル拡張」を参照してください。
自動番号	一意の番号でテーブルレコードを追跡するオプション。このオプションを選択する場合は、[プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] を定義します。
プリフィックス	レコード番号の先頭に追加するテーブルの省略名。たとえば、「Laptop」テーブルを作成する場合、プリフィックスは「LPTP」または「LT」のようになります。
開始番号	テーブルに作成された最初のレコードを識別する番号。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
桁数	レコード番号の最大桁数。この値は、最大のレコード番号を決定します。たとえば、「7」と入力した場合、最大値は 9999999 です。

7. [続行] を選択します。
8. 既存のロールに対して、新規ロールを追加したり、作成、読み取り、書き込み、削除権限を必要に応じて定義することで、このテーブルのコンテンツを作成、読み取り、書き込み、および削除するアクセス権を持つユーザーを制御します。

   テーブルで作成したロールはアプリケーション全体で保持され、追加した他のテーブルでさらに定義できます。セキュリティ権限の仕組みの詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。

   注: テーブルをプレビューするには、少なくとも 1 つのロールに読み取りアクセス権が必要です。

9. [続行] を選択して新しいテーブルを追加します。
10. アプリケーションのホームページに戻るか、テーブルの編集を続行します。
    - [完了] を選択すると、アプリケーションのホームページに戻ります。
    - [テーブルの編集] を選択し、テーブルビルダー で、テーブルに追加された列を確認して編集を続行します。
11. 編集を続行する場合は、新しいタブを開いてテーブルの列を確認します。

    各テーブル列は テーブルビルダー では行として表示されます。

    拡張されたテーブルの列の横に、ロックアイコン ( ) が表示されます。これらの列は変更できません。

12. テーブルの列を追加してテーブルをカスタマイズします。

    a. テーブルビルダー で、**[+** 新しいフィールドを追加] を選択します。

    b. 空の行で、フィールドに入力します。

テーブル列のプロパティ

フィールド	説明
列ラベル	列の一意のラベル。
列名	列のデータベース名。
タイプ	列に含まれる情報のタイプ。たとえば、列にプレーンテキストを含める場合は、[文字列] を選択します。 選択したタイプによっては、他のフィールドに入力してテーブル列をさらに定義します。たとえば、[文字列] を選択した場合は、文字列入力の文字数制限を定義します。または、[選択肢] を選択した場合は、ユーザーが選択できる選択肢を定義します。 「フィールドタイプ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
参照	列に関連付けられているテーブル。このフィールドは、列タイプが [参照] の場合にのみ適用されます。
最大長	ユーザーがフィールドに入力できる最大文字数。
デフォルト値	新しいレコードが作成された後にフィールドに自動的に入力される値。
表示	その列をテーブルの表示値として設定するオプション。 参照フィールドには、参照先のテーブルの表示値が表示されます。たとえば、タスクテーブルの [オープン者 **(Opened by)]** 列はユーザーテーブルを参照します。ユーザーテーブルの表示値はユーザー名であるため、[オープン者 **(Opened by)]** フィールドには「**Beth Anglin**」や「**Joe Employee**」のように表示されます。表示値を選択するときは、個々のレコードの適切なタイトルとして機能するテーブル列を選択します。 テーブルの表示値として機能できるのは 1 つの列のみです。

13. [保存] を選択します。

次のタスク
テーブルビルダー の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

スプレッドシートを使用してデータを追加する

Microsoft Excel スプレッドシートをアップロードして、アプリケーションにデータテーブルとレコードを追加します。

次の手順でスプレッドシートをアップロードし、それを使用してデータテーブルを作成し、データレコードをインポートします。最初にスプレッドシートをインポート手順を使用してスプレッドシートをアップロードし、必要に応じてスプレッドシートのインポートからデータテーブルを作成します。

スプレッドシートをインポート

Microsoft Excel スプレッドシートをアップロードし、それを使用してアプリケーションデータモデルを作成します。

始める前に
スプレッドシートが次の要件を満たしていることを確認します。

- 水平列とそれぞれのヘッダーラベルでフォーマットされている
- XLSX ファイルタイプとして保存されている

> **注:** アップロードする Excel スプレッドシートには複数のワークシートタブを含めることができますが、そのいずれもデータテーブルの作成に使用できます。複数のワークシートが存在する場合は、ファイルのアップロード後にどのワークシートのタブを使用してテーブルを作成するかの選択を求められます。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user または委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。

2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [データ] 見出しの横にある追加アイコン (⊕) を選択します。
4. [スプレッドシートをインポート] を選択した後、[続行] を選択します。
5. スプレッドシートをアップロードした後、[続行] を選択します。

   スプレッドシートファイルを App Engine Studio にドラッグするか、コンピューターを参照できます。

6. 次のいずれかのパスが表示されます。
   - スプレッドシートのワークシートタブが 1 つしかない場合は、次のステップに進みます。
   - スプレッドシートに複数のワークシートタブがある場合は、シートのリストが表示されて、そこから選択します。このシートのリストから、最初にアプリケーションにテーブルとして追加するワークシートタブを選択できます。

   a. [テーブルヘッダーの行数を入力します] フィールドに、シートの列ヘッダーの行番号を入力します。
   たとえば、ヘッダーが 2 行目にある場合は、「2」と入力します。

   b. オプション: シートの列ヘッダーの下にある情報 (すなわちスプレッドシートのデータ) をアップロードするには、[スプレッドシートデータをインポート] オプションを選択します。
   列ヘッダーのみをアップロードするには、このチェックボックスをオフのままにします。このテーブルをテンプレートとして使用し、他のデータを自分の AES テーブルに追加しない場合は、ヘッダーのみをアップロードします。

7. 次のいずれかを選択します。
   - 複数のワークシートタブを含む Excel ファイルをアップロードした場合は、[テーブルに変換します] を選択して、選択したワークシートタブをテーブルに変換してから、次のステップに進みます。
   - 単一のワークシートタブを含む Excel ファイルをアップロードした場合は、[続行] を選択します。

   ファイルのインポート先のオプションが表示されます。
8. スプレッドシートデータで何を実行するかに基づいて、次のいずれかの手順に移動して続行します。

オプション	説明
スプレッドシートのインポートから直接新しいテーブルを作成する	次の手順については、「スプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する」を参照してください。
既存のテーブルを拡張して新しいテーブルを作成し、スプレッドシートのインポートを使用して更新する	次の手順については、「拡張可能なテーブルとスプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する」を参照してください。
スプレッドシートのインポートを使用して既存のアプリケーションテーブルを更新する	次の手順については、「スプレッドシートのインポートを使用して既存のテーブルを変更する」を参照してください。

スプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する

Microsoft Excel スプレッドシートのインポートから直接新しいテーブルを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

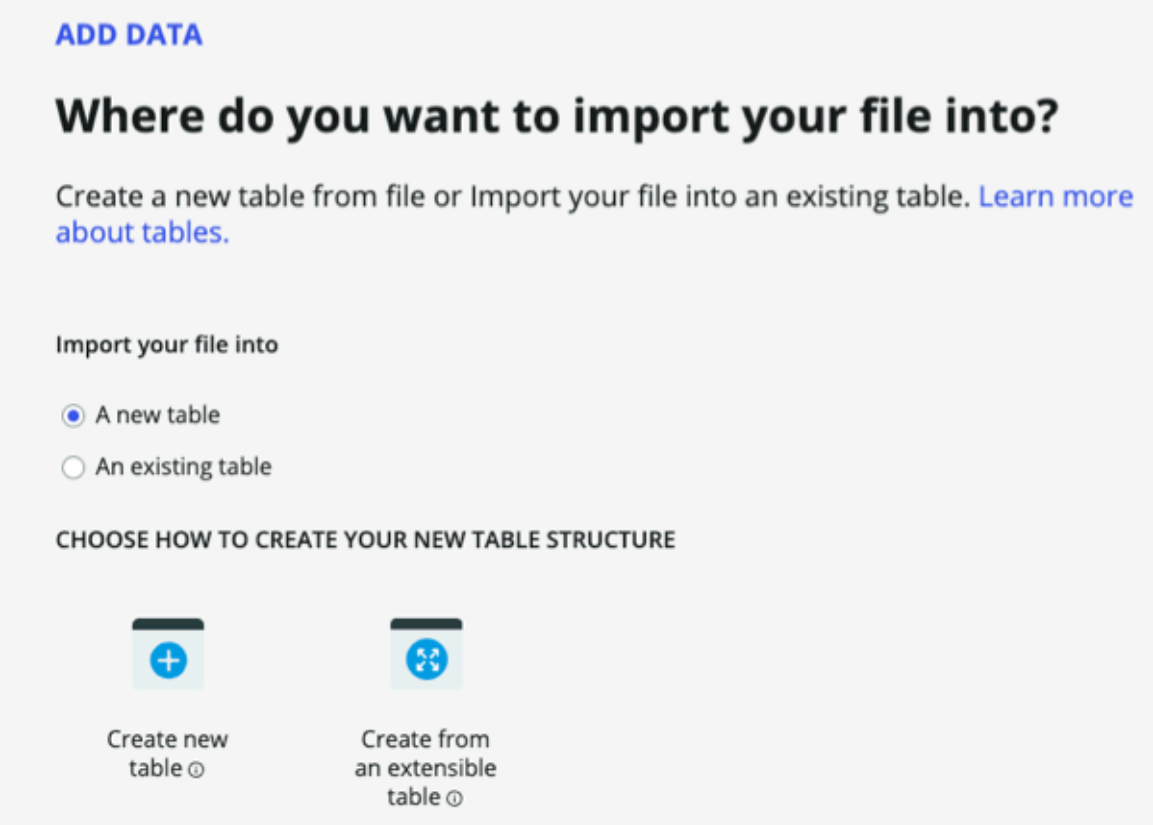
- スプレッドシートを App Engine Studio にインポートします。「スプレッドシートをインポート」を参照してください。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user または委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. スプレッドシートをインポート の説明に従ってスプレッドシートをアップロードした後、表示されたウィザードで、インポートされたデータで実行する処理を選択します。

スプレッドシートから新しいテーブルを作成する



   a. [新しいテーブル] を選択します。
   b. [新テーブルの作成] を選択します。
2. [続行] を選択します。
3. [オプションを展開します]ドロップダウンを使用してさらにプロパティを表示して、各列ヘッダーのプロパティを確認します。

列ヘッダープロパティ	説明
フィールドラベル	列の一意のラベル。
フィールド名	列のデータベース名。
タイプ	列に含まれる情報のタイプ。たとえば、列にプレーンテキストを含める場合は、[文字列] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

列ヘッダープロパティ	説明
	選択したタイプによっては、他のフィールドに入力してテーブル列をさらに定義します。たとえば、[文字列] を選択した場合は、文字列入力の文字数制限を定義します。または、[選択肢] を選択した場合は、ユーザーが選択できる選択肢を定義します。 「フィールドタイプ」を参照してください。
文字数制限	格納できる文字列の最大長。
表示	その列をテーブルの表示値として設定するオプション。 参照フィールドには、参照先のテーブルの表示値が表示されます。たとえば、タスクテーブルの [オープン者 **(Opened by)**] 列はユーザーテーブルを参照します。ユーザーテーブルの表示値はユーザー名であるため、[オープン者 **(Opened by)**] フィールドには「**Beth Anglin**」や「**Joe Employee**」のように表示されます。表示値を選択するときは、個々のレコードの適切なタイトルとして機能するテーブル列を選択します。 テーブルの表示値として機能できるのは 1 つの列のみです。
必須	新しいレコードを保存する前に、その列が値を持つ必要があるかどうかのオプション。

テーブルに別の列を追加するには、[新しいフィールドを追加] を選択します。

列を削除するには、ごみ箱アイコン () を選択します。

4. [続行] を選択してテーブルのプロパティを定義します。
5. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
テーブル ラベル	テーブルを識別する一意のラベル。
テーブル名	テーブルのデータベース名。テーブルラベルを入力すると、列名が自動的に作成されます。必要に応じてその名前を編集できます。
拡張性を高める	他のテーブルがこのテーブルのデータを共有できるようにするオプション。テーブルの拡張の詳細については、「テーブル拡張」を参照してください。
自動番号	一意の番号でテーブルレコードを追跡するオプション。このオプションを選択する場合は、[プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] を定義します。
プリフィックス	レコード番号の先頭に追加するテーブルの省略名。たとえば、「Laptop」テーブルを作成する場合、プリフィックスは「LPTP」または「LT」のようになります。
開始番号	テーブルに作成された最初のレコードを識別する番号。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
桁数	レコード番号の最大桁数。この値は、最大のレコード番号を決定します。たとえば、「7」と入力した場合、最大値は 9999999 です。

6. [続行] を選択します。
7. 既存のロールに対して、新規ロールを追加したり、作成、読み取り、書き込み、削除権限を必要に応じて定義することで、このテーブルのコンテンツを作成、読み取り、書き込み、および削除するアクセス権を持つユーザーを制御します。

   テーブルで作成したロールはアプリケーション全体で保持され、追加した他のテーブルでさらに定義できます。セキュリティ権限の仕組みの詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。

   注: テーブルをプレビューするには、少なくとも 1 つのロールに読み取りアクセス権が必要です。

8. [続行] を選択して、スプレッドシートから作成した新しいテーブルをアプリに追加します。
9. オプション: ファイルに複数のワークシートタブが含まれている場合は、残りのワークシートを変換します。

   - 注: 変換するシートごとに [テーブルに変換] を選択し、この手順の手順を繰り返すか、追加のワークシートに対して別の経路を選択する必要があります (手順については 拡張可能なテーブルとスプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する または スプレッドシートのインポートを使用して既存のテーブルを変更する を参照)。
   - 複数のワークシートがない場合は、次の手順に進みます。

10. サマリー画面で、[完了] を選択します。
    または、テーブルビルダー でテーブルを表示するには、サマリー画面で [テーブルの編集] を選択します。

次のタスク

テーブルビルダー でのデータテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

拡張可能なテーブルとスプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する

既存のテーブルを拡張して新しいテーブルを作成し、Microsoft Excel スプレッドシートのインポートを使用して更新またはカスタマイズします。

始める前に

- スプレッドシートを App Engine Studio にインポートします。「スプレッドシートをインポート」を参照してください。

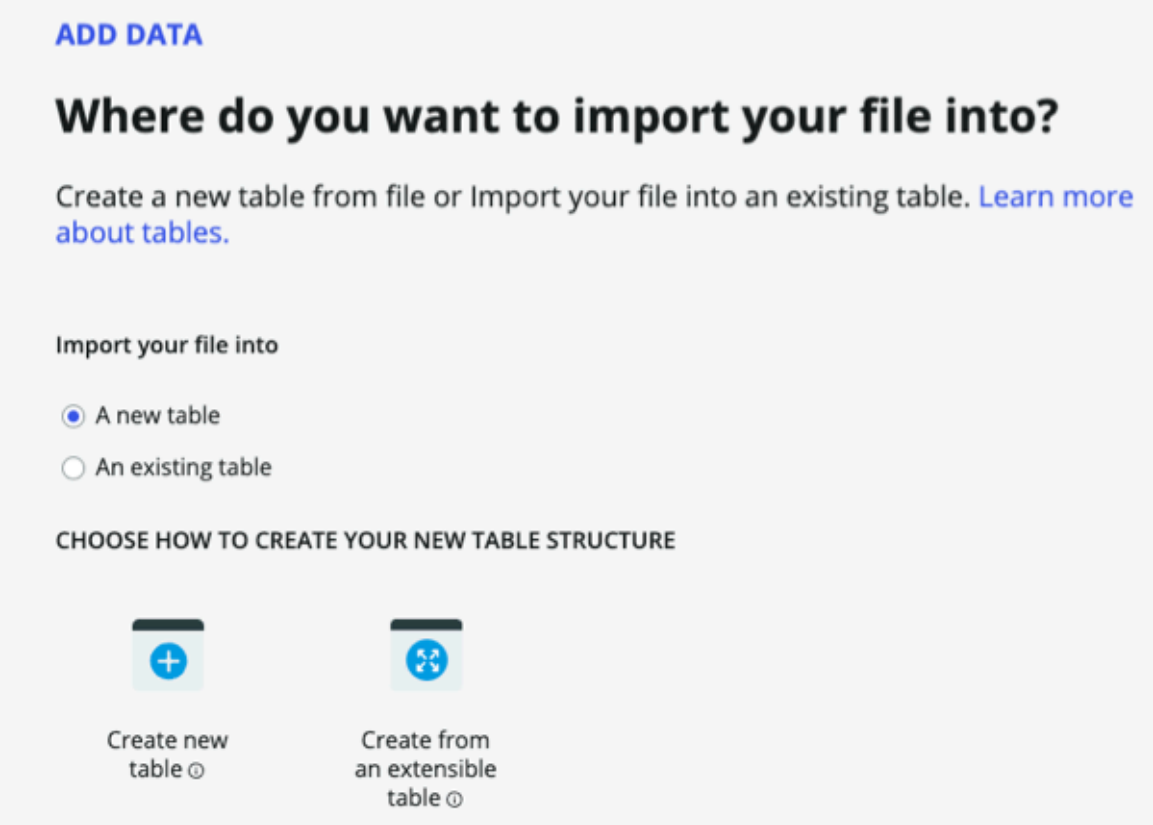
必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、データのインポートとマッピングのオプションを表示するには、「統合」の委任開発者権限が必要です。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. スプレッドシートをインポート の説明に従ってスプレッドシートをアップロードした後、表示されたウィザードでファイルをインポートする場所を選択します。

新しいデータテーブルへのインポート



a. [新しいテーブル] を選択します。

b. [拡張可能なテーブルから作成] を選択します。

2. [続行] を選択します。

3. 既存の [テーブル] を検索して、そのテーブルのデータをアプリに追加し、分岐ロジックを使用して拡張を作成します。

> **注:** 既にアプリにあるテーブルがリストの最初に表示され、次に推奨される Now Platform テーブルが、テーブルに格納されている情報のタイプの簡単な説明とともに表示されます。

4. [続行] を選択します。

5. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
テーブル ラベル	テーブルを識別する一意のラベル。
テーブル名	テーブルのデータベース名。テーブルラベルを入力すると、列名が自動的に作成されます。必要に応じてその名前を編集できます。
拡張性を高める	他のテーブルがこのテーブルのデータを共有できるようにするオプション。テーブルの拡張の詳細については、「テーブル拡張」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
自動番号	一意の番号でテーブルレコードを追跡するオプション。このオプションを選択する場合は、[プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] を定義します。
プリフィックス	レコード番号の先頭に追加するテーブルの省略名。たとえば、「Laptop」テーブルを作成する場合、プリフィックスは「LPTP」または「LT」のようになります。
開始番号	テーブルに作成された最初のレコードを識別する番号。
桁数	レコード番号の最大桁数。この値は、最大のレコード番号を決定します。たとえば、「7」と入力した場合、最大値は 9999999 です。

6. [続行] を選択します。
7. 既存のロールに対して、新規ロールを追加したり、作成、読み取り、書き込み、削除権限を必要に応じて定義することで、このテーブルのコンテンツを作成、読み取り、書き込み、および削除するアクセス権を持つユーザーを制御します。

   テーブルで作成したロールはアプリケーション全体で保持され、追加した他のテーブルでさらに定義できます。セキュリティ権限の仕組みの詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。

   > **注:** テーブルをプレビューするには、少なくとも 1 つのロールに読み取りアクセス権が必要です。

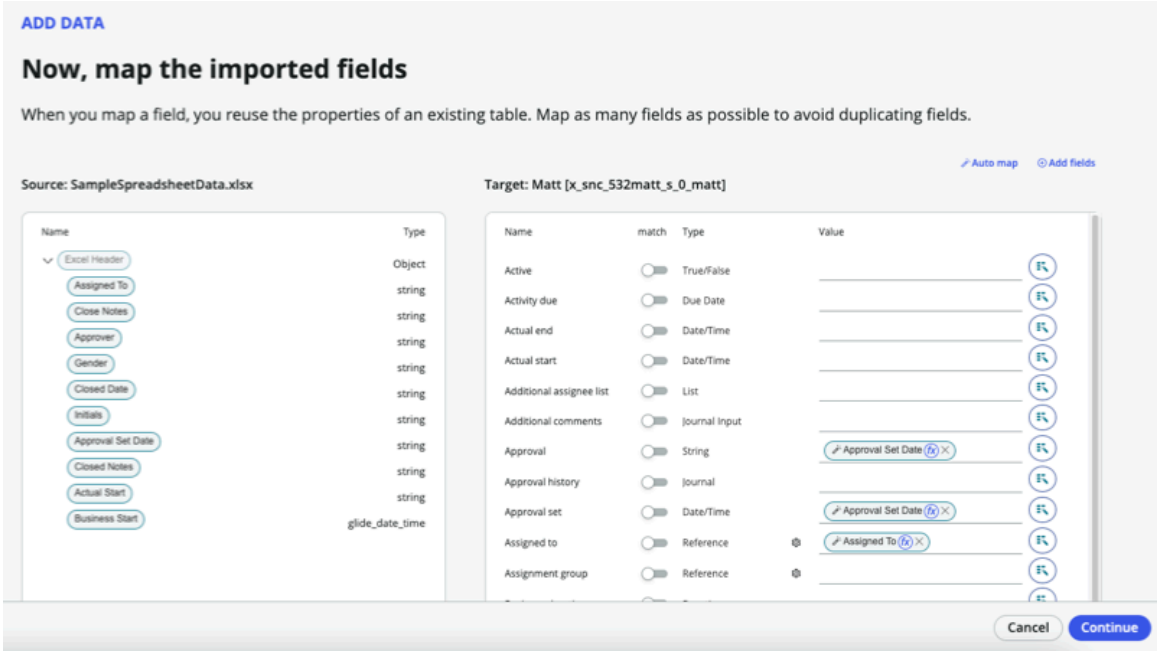
8. [続行] を選択します。

   > **注:** これでテーブルにデータを格納する準備ができました。次のステップでは、インポートのフィールドが新しく拡張されたテーブルのフィールドと照合されます。マッピングを調整するか、インポートから新しいフィールドを作成することができます。

9. [続行] を選択してマッピングフィールドに進みます。
   左側のソーススプレッドシートのフィールド列を、右側に作成した新しく拡張されたターゲットテーブルのフィールド列にマッピングできる画面が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インポートされたフィールドのマッピング



10. このステップでは、次の選択肢を使用できます。

オプション	説明
自動マッピングを使用したフィールドのバッチマッピング	スプレッドシートのフィールドを選択したターゲットテーブルの表示されたフィールドに自動的にマッピングするには、[自動マッピング] を選択します。自動マッピングは、ソースエンティティを同様の名前のターゲットエンティティにマッピングします。既にマッピングされているターゲットエンティティの場合、[自動マッピング] を選択してもその値は変更されません。自動マッピングされたフィールドには、データピルに杖のアイコンがあります。
ドラッグアンドドロップによるフィールドのマッピング	インポートされたスプレッドシートの列を表すデータピルをターゲットテーブルの [値] 列にドラッグして、インポートからターゲットテーブルにフィールドをマッピングします。各ターゲットテーブルフィールドの右側にあるピルピッカーを使用して、フィールドをマッピングすることもできます。
データピッカーを使用したフィールドのマッピング	ターゲットテーブルの右側にあるピルピッカー ( ) を使用してデータをマッピングします。[値] 列には複数の値を入力でき、テキストを入力することもできます。
変換オプション	右側のペインで FX アイコン ( ) をクリックして、マッピングされた個々のスプレッドシートフィールドの変換オプションを追加します。たとえば、大文字変換機能を使用して、入力

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	文字列をすべて大文字に変換できます。これらを使用してインポートされたスプレッドシートフィールドのデータをトリミングする方法については、「変換関数」を参照してください。 **注:** フローデザイナーで利用可能なすべての変換関数が利用できるわけではありません。
データレコードの照合をアクティブ化する	システムが一致するデータをチェックする必要があるフィールドを指定し、見つかった場合は、ターゲットテーブルで [一致] トグルをアクティブ化して、新しいレコードを作成する代わりに既存のレコードを更新します。たとえば、ターゲットテーブルに [注文番号] フィールドと注文番号が 743 のレコードがある場合、一致する可能性のあるものを処理するためのオプションが 2 つあります。 ◦ [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオンの場合、システムは一致するデータをチェックします。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルの既存のレコードを更新します。 ◦ [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオフの場合、システムは一致するデータをチェックしません。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルに新しいレコードを作成します。この場合、ターゲットテーブルには 2 つのレコードがあり、どちらも注文番号は 743 です。
参照および選択肢フィールドの動作の構成	[選択肢] および [参照] フィールドタイプの動作を構成します。 **a.** 歯車アイコン (⚙) をクリックします。 **b.** [フィールド] で、ターゲットテーブルの受信レコード値を照合するフィールド列を選択します。 **c.** [一致するレコードがない場合は、次の操作を行います] で、そのレコードがターゲットテーブルに見つからない場合の対処方法を指定します。 ▪ [新しい選択肢/レコードを作成]：フィールドにインポートされたデータから、ターゲットテーブルの一致するフィールド列に選択肢またはレコードを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	▪ [このフィールドを無視]：ターゲットテーブルのそのフィールドを無視し、null のままにします。 ▪ [このレコードをスキップ]：ターゲットテーブルのレコード (行) 全体の追加をスキップします。 **d.** [完了] をクリックします。
ターゲットテーブルへの新しいフィールド列の追加	インポートからターゲットテーブルにマッピングされていないフィールド列を追加するか、ターゲットテーブルに新しいフィールドを作成します。 **a.** 右側のターゲットテーブルの上にある [フィールドを追加] を選択します。 **b.** 左側のチェックボックスをオンにしてターゲットテーブルに追加するフィールドを選択するか、[すべて] を選択してすべてのフィールドを選択します。 **c.** 次の機能を実行することもできます。 ▪ インポートされたフィールドの [フィールドラベル] を編集します。 ▪ インポートされたフィールドのフィールドプロパティを編集するには、[編集] アイコン ( ) を選択します。 ▪ ウィンドウの右上隅にある [新規フィールドの作成] をクリックして、新しいフィールドを作成します。 **d.** [フィールドを追加] を選択して、選択したフィールドをターゲットテーブルに追加します。

11. [続行] を選択してデータインポートマッピングを作成し、ターゲットテーブルを更新します。

12. オプション: ファイルに複数のワークシートタブが含まれている場合は、残りのワークシートを変換します。

- **注:** 変換するシートごとに [テーブルに変換] を選択し、この手順の手順を繰り返すか、追加のワークシートに対して別の経路を選択する必要があります (手順については スプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する または スプレッドシートのインポートを使用して既存のテーブルを変更する を参照)。
- 複数のワークシートがない場合は、次の手順に進みます。

13. サマリー画面で、[完了] を選択します。
または、テーブルビルダー でテーブルを表示するには、サマリー画面で [テーブルの編集] を選択します。

次のタスク

テーブルビルダー でのデータテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スプレッドシートのインポートを使用して既存のテーブルを変更する

Microsoft Excel スプレッドシートのインポートを使用して、既存のアプリケーションテーブルを更新します。

始める前に

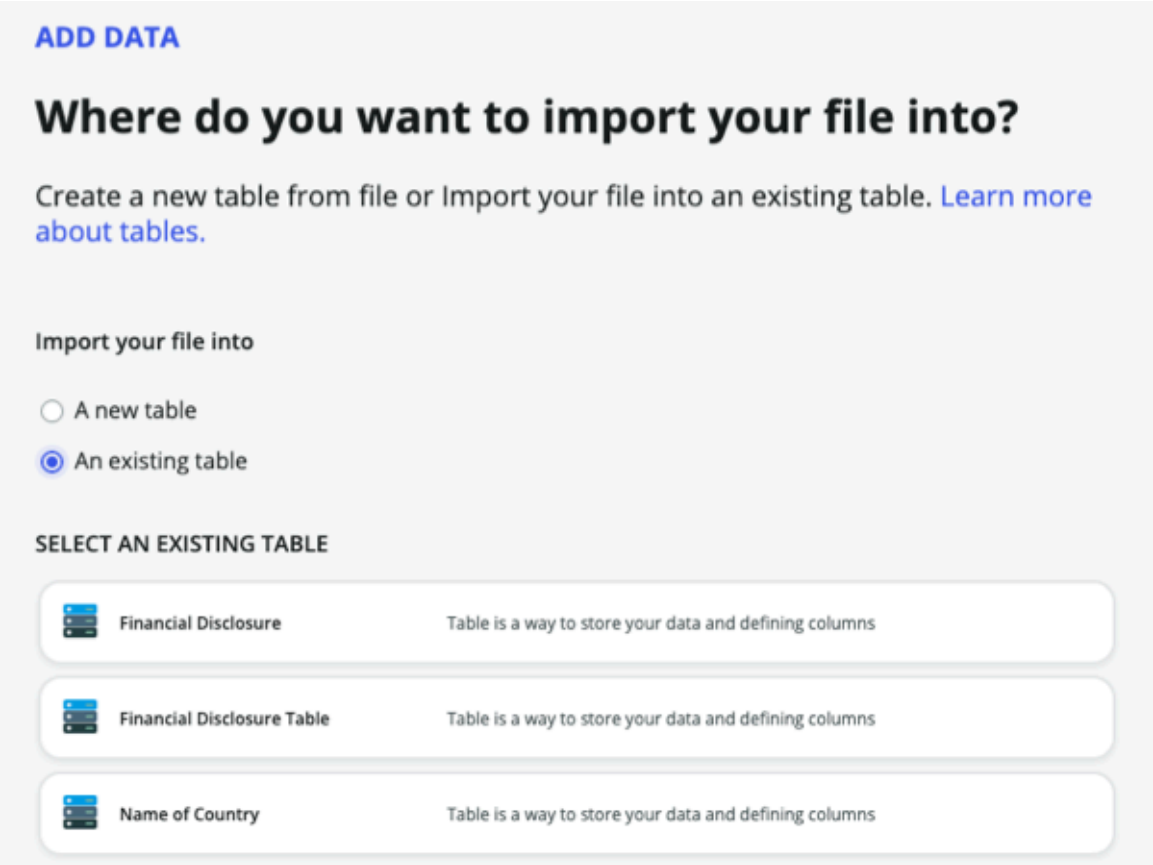
- スプレッドシートを App Engine Studio にインポートします。「スプレッドシートをインポート」を参照してください。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user または委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. スプレッドシートをインポート の説明に従ってスプレッドシートをアップロードした後、表示されたウィザードでファイルをインポートする場所を選択します。

既存のアプリケーションテーブルへのインポート



   a. [既存のテーブル] を選択します。

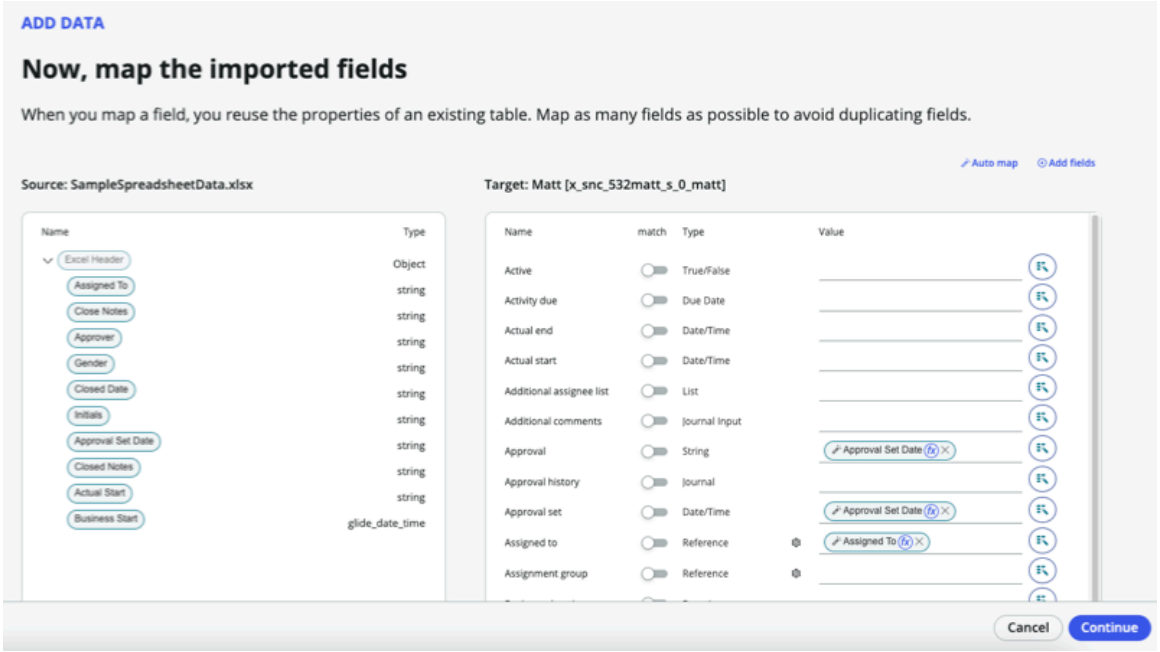
   b. 表示されるリストから既存のアプリケーションテーブルを選択します。

2. [続行] を選択します。
   左側のソーススプレッドシートのフィールド列を、右側の既存のターゲットアプリケーションテーブルのフィールド列にマッピングできる画面が表示されます。

   注: マッピングを調整するか、インポートから新しいフィールドを作成することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インポートされたフィールドのマッピング



3. このステップでは、次のアクションを使用できます。

オプション	説明
自動マッピングを使用したフィールドのバッチマッピング	スプレッドシートのフィールドを選択したターゲットテーブルの表示されたフィールドに自動的にマッピングするには、[自動マッピング] を選択します。自動マッピングは、ソースエンティティを同様の名前のターゲットエンティティにマッピングします。既にマッピングされているターゲットエンティティの場合、[自動マッピング] を選択してもその値は変更されません。自動マッピングされたフィールドには、データピルに杖のアイコンがあります。
ドラッグアンドドロップによるフィールドのマッピング	インポートされたスプレッドシートの列を表すデータピルをターゲットテーブルの [値] 列にドラッグして、インポートからターゲットテーブルにフィールドをマッピングします。各ターゲットテーブルフィールドの右側にあるピルピッカーを使用して、フィールドをマッピングすることもできます。
データピッカーを使用したフィールドのマッピング	ターゲットテーブルの右側にあるピルピッカー ( ) を使用してデータをマッピングします。[値] 列には複数の値を入力でき、テキストを入力することもできます。
変換オプション	右側のペインで FX アイコン ( ) をクリックして、マッピングされた個々のスプレッドシートフィールドの変換オプションを追加します。たとえば、大文字変換機能を使用して、入力

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	文字列をすべて大文字に変換できます。これらを使用してインポートされたスプレッドシートフィールドのデータをトリミングする方法については、「変換関数」を参照してください。 **注:** フローデザイナーで利用可能なすべての変換関数が利用できるわけではありません。
データレコードの照合をアクティブ化する	システムが一致するデータをチェックする必要があるフィールドを指定し、見つかった場合は、ターゲットテーブルで [一致] トグルをアクティブ化して、新しいレコードを作成する代わりに既存のレコードを更新します。たとえば、ターゲットテーブルに [注文番号] フィールドと注文番号が 743 のレコードがある場合、一致する可能性のあるものを処理するためのオプションが 2 つあります。 ◦ [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオンの場合、システムは一致するデータをチェックします。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルの既存のレコードを更新します。 ◦ [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオフの場合、システムは一致するデータをチェックしません。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルに新しいレコードを作成します。この場合、ターゲットテーブルには 2 つのレコードがあり、どちらも注文番号は 743 です。
参照および選択肢フィールドの動作の構成	[選択肢] および [参照] フィールドタイプの動作を構成します。 **a.** 歯車アイコン (⚙) をクリックします。 **b.** [フィールド] で、ターゲットテーブルの受信レコード値を照合するフィールド列を選択します。 **c.** [一致するレコードがない場合は、次の操作を行います] で、そのレコードがターゲットテーブルに見つからない場合の対処方法を指定します。 ▪ [新しい選択肢/レコードを作成]：フィールドにインポートされたデータから、ターゲットテーブルの一致するフィールド列に選択肢またはレコードを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	▪ [このフィールドを無視]：ターゲットテーブルのそのフィールドを無視し、null のままにします。 ▪ [このレコードをスキップ]：ターゲットテーブルのレコード (行) 全体の追加をスキップします。 **d.** [完了] をクリックします。
ターゲットテーブルへの新しいフィールド列の追加	インポートからターゲットテーブルにマッピングされていないフィールド列を追加するか、ターゲットテーブルに新しいフィールドを作成します。 **a.** 右側のターゲットテーブルの上にある [フィールドを追加] を選択します。 **b.** 左側のチェックボックスをオンにしてターゲットテーブルに追加するフィールドを選択するか、[すべて] を選択してすべてのフィールドを選択します。 **c.** 次の機能を実行することもできます。 ▪ インポートされたフィールドの [フィールドラベル] を編集します。 ▪ インポートされたフィールドのフィールドプロパティを編集するには、[編集] アイコン ( ) を選択します。 ▪ ウィンドウの右上隅にある [新規フィールドの作成] をクリックして、新しいフィールドを作成します。 **d.** [フィールドを追加] を選択して、選択したフィールドをターゲットテーブルに追加します。

4. [続行] を選択してデータインポートマッピングを作成し、ターゲットテーブルを更新します。

   注: スプレッドシートにマッピングされていないフィールドが残っている場合は、プロンプトが表示されます。これらのフィールドをマッピングすることも、マッピングせずに続行することもできます。

5. オプション: ファイルに複数のワークシートタブが含まれている場合は、残りのワークシートを変換します。

   ◦ 注: 変換するシートごとに [テーブルに変換] を選択し、この手順の手順を繰り返すか、追加のワークシートに対して別の経路を選択する必要があります (手順については スプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する または 拡張可能なテーブルとスプレッドシートのインポートから新しいテーブルを作成する を参照)。

   ◦ 複数のワークシートがない場合は、次の手順に進みます。

6. サマリー画面で、[完了] を選択します。
   または、テーブルビルダー でテーブルを表示するには、サマリー画面で [テーブルの編集] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
テーブルビルダー でのデータテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

PDF を使用してデータテーブルを作成する

App Engine Studio の PDF エクストラクターツールを使用して、PDF フォームからテーブルを作成します。

> **注:** この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine の テーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

概要

App Engine Studio の PDF エクストラクターを使用すると、PDF をアップロードしてから、カスタムアプリで使用するテーブルフィールドを抽出できます。これにより、フィールドラベルを手動で入力する必要がなくなるため、既存の PDF フォームからアプリケーションデータテーブルをビルドするプロセスが簡素化されます。

> **注:** Now Platform に既に存在するテーブルの再作成について、十分考慮するようにしてください。たとえば、ユーザーの人口統計データを含む PDF で、PDF から新しいテーブルを作成せずに既存のユーザーデータテーブルを参照するかどうかを決定します。

一般的なナビゲーション

次の表は、PDF エクストラクターツール内の他の基本的なナビゲーション要素の一部のリストを示しています。

PDF エクストラクターのナビゲーション要素

ナビゲーション要素	説明
折りたたみ/展開アイコン ( )	これらのアイコンを選択して、PDF ペインとテーブルペインの折りたたみと展開を切り替えます。
ページコントロール ()	PDF の下部にある矢印を使用して、ドキュメントを 1 ページずつ移動するか、ドキュメントの最初または最後に直接移動します。
ズームコントロール ( )	ズームコントロールを使用して、PDF をズームインまたはズームアウトします。
[新しいフィールドを追加] アイコン ( )	**[+** 新しいフィールドを追加] を選択してテーブルにフィールド列を追加し、詳細を直接入力します。テーブルビルダー の [データ] タブでフィールドを追加する方法に似ています。
[参照テーブルを追加] アイコン ( )	右側のパネルで [参照テーブルを追加] を選択して、新しいテーブルを指す参照フィールドをテーブルに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PDF エクストラクターのナビゲーション要素 (続く)

ナビゲーション要素	説明
[データテーブルとフォームを開く] アイコン ( )	[データテーブルとフォームを開く] を選択して、テーブルビルダー 内の選択したテーブルを開きます。
テーブルの他のアクションリスト ( )	テーブルの他のアクションメニューを使用してテーブルの基本プロパティを編集するか、参照テーブルを追加した場合は [削除] を選択してテーブルを削除します。
ゴミ箱アイコン ( )	テーブルからフィールドを削除するには、ゴミ箱アイコン ( ) を選択します。

PDF 解析の制限

現在、このツールを使用して PDF をアップロードする場合は、次の制限があります。

- PDF は画像から変換できません。
- PDF は 25 ページを超えることはできません。
- PDF ファイルサイズは 5 MB を超えることはできません。
- 現在、英語とフランス語以外の言語はサポートされていません。

PDF フォームからのテーブルの作成

App Engine Studio で PDF をアップロードして、アプリケーションにデータテーブルを追加します。

始める前に

注: この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

PDF が次の要件を満たしていることを確認します：

- PDF は画像から変換できません。
- PDF は 25 ページを超えることはできません。
- PDF ファイルサイズは 5 MB を超えることはできません。
- 現在、英語とフランス語以外の言語はサポートされていません。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、または delegated_developer

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [データ] 見出しの横にある追加アイコン ( ) を選択します。
4. [空白のテーブルを作成する] を選択し、[続行] を選択します。

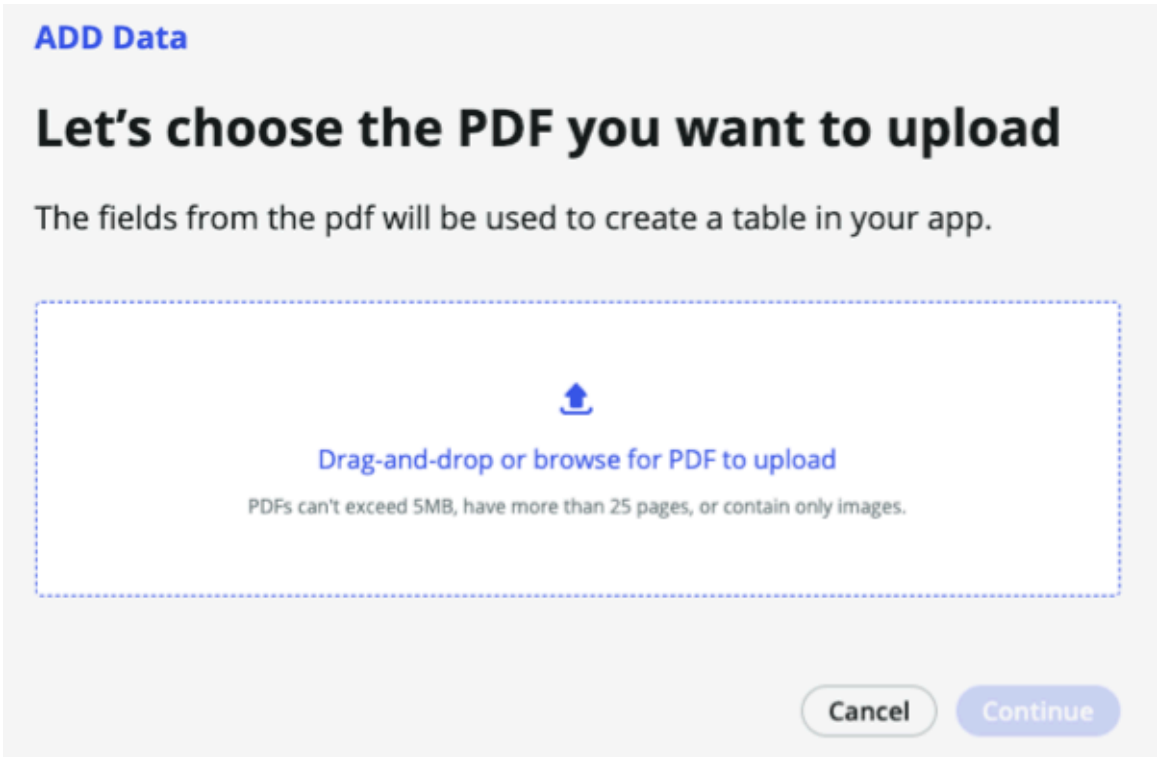
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. **[PDF** をアップロード] を選択した後、[続行] を選択します。
6. PDF を選択してアップロードします。

   PDF ファイルを App Engine Studio にドラッグすることも、コンピューターを参照することもできます。

   注: PDF のロードに少し時間がかかる場合があります。ゴミ箱アイコン (🗑) を選択して、PDF の選択を解除します。

   アップロードする **PDF** を選択する



7. [続行] を選択します。

   注: PDF の解析には最大 1 分かかる場合があります。

8. 新しいテーブルのプロパティを定義します。

プロパティ	説明
テーブル ラベル	テーブルを識別する一意のラベル。
テーブル名	テーブルのデータベース名。テーブルラベルを入力すると、列名が自動的に作成されます。これが作成されると、このフィールドは読み取り専用になります。
拡張性を高める	他のテーブルがこのテーブルのデータを共有できるようにするオプション。テーブルの拡張の詳細については、「テーブル拡張」を参照してください。
自動番号	一意の番号でテーブルレコードを追跡するオプション。このオプションを選択する場合

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ	説明
	は、[プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] を定義します。
プリフィックス	レコード番号の先頭に追加するテーブルの省略名。たとえば、「Laptop」テーブルを作成する場合、プリフィックスは「LPTP」または「LT」のようになります。

9. [続行] を選択します。
   新しいデータテーブルの権限を構成できるようになりました。
10. 既存のロールに対して、新規ロールを追加したり、作成、読み取り、書き込み、削除権限を必要に応じて定義することで、このテーブルのコンテンツを作成、読み取り、書き込み、および削除するアクセス権を持つユーザーを制御します。

    テーブルで作成したロールはアプリケーション全体で保持され、追加した他のテーブルでさらに定義できます。セキュリティ権限の仕組みの詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。

    注: テーブルをプレビューするには、少なくとも 1 つのロールに読み取りアクセス権が必要です。

11. テーブルの権限を構成したら、[続行] を選択します。
12. **[PDF** エクストラクターに移動] を選択して、PDF エクストラクターで PDF を開きます。

次のタスク

次に、アップロードされた PDF からフィールドを追加します。PDF フォームからの新しいフィールドの追加 の手順に従って、新しいデータテーブルにフィールド列を入力します。

PDF フォームからの新しいフィールドの追加

App Engine Studio の PDF エクストラクターを使用して、フィールド列をデータテーブルに追加します。

始める前に

注: この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、または delegated_developer

手順

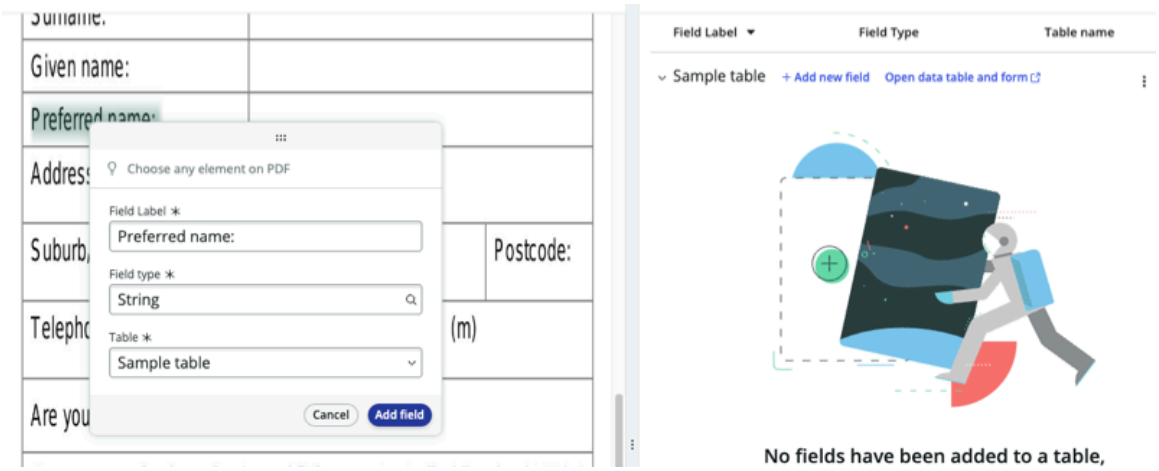
1. 次のいずれかのオプションを選択します。
   - 前の手順で説明した手順に従って、PDF をアップロードします (PDF フォームからのテーブルの作成 を参照)。
   - 既に PDF をアップロードしている場合は、テーブルビルダー の [フォーム] タブまたは [テーブル] タブで **[PDF** エクストラクターツールを開く] 要素を選択して、PDF エクストラクターツールを起動します。

   PDF フォームが表示されます。
2. PDF を確認します。
   [PDF] ペインのナビゲーションコントロールを使用して、フィールドの追加を開始します。「一般的なナビゲーション」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [選択] をクリックしてテキスト選択モードにします。
4. PDF で、フィールドまたはテキストフレーズをクリックしてハイライト表示し、新しいフィールドの基礎として使用します。

PDF からのフィールドの追加



5. 必要に応じて、追加する新しいフィールドの [フィールドラベル] で抽出されたテキストを編集します。
6. [フィールドタイプ] を選択します。

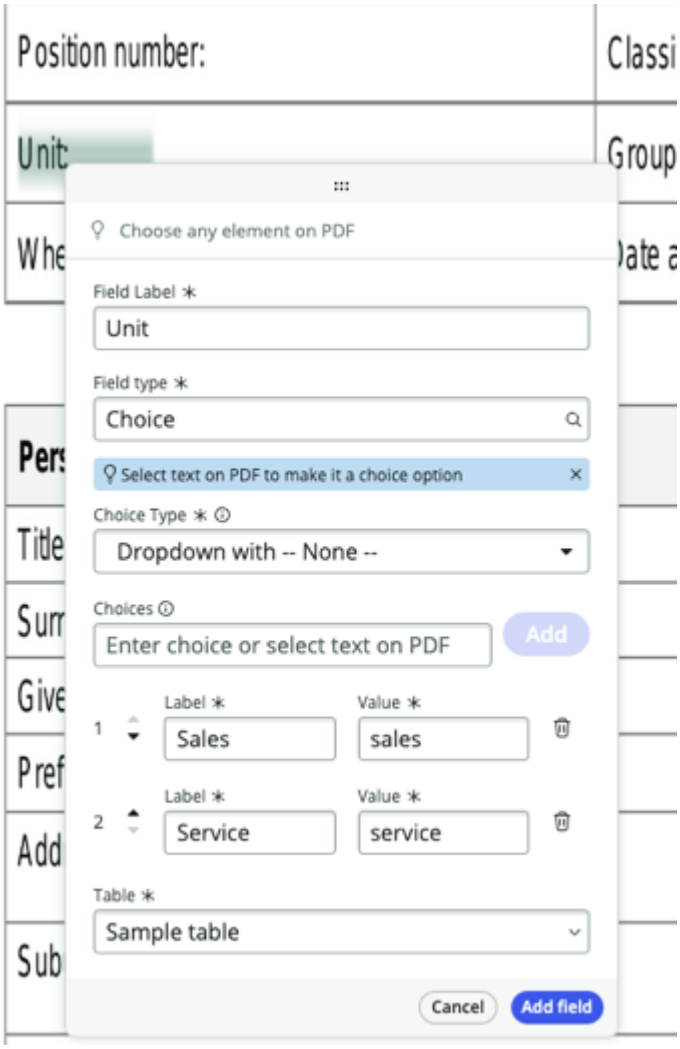
   フィールドタイプは、新しい列に格納されるデータのタイプを参照します。たとえば、列にプレーンテキストを格納する場合は、[文字列] を選択します。基本的なフィールドプロパティを理解するには、「テーブルのフィールドを追加およびカスタマイズする」を参照してください。

   選択したタイプによっては、テーブルの列をさらに定義するために、他のフィールドへの入力が必要になる場合があります。たとえば、参照フィールドタイプを使用して、参照する適切なデータテーブルを検索して選択します。

   a. オプション: 選択肢フィールドの作成を選択した場合は、次のアクションを実行して選択肢フィールドのオプションを入力します。
      i. メニューから [選択肢タイプ] を選択します。これは、リストにオプションとして [なし] があるかどうかをコントロールします。
      ii. [選択肢] フィールドをクリックし、テキストを手動で入力するか、PDF のテキストを選択して自動的に抽出します。
      iii. [追加] をクリックして、選択内容をリストに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択肢フィールドの追加



b. オプション: 選択肢フィールドにすべての選択肢が追加されるまで、前の手順を繰り返します。

7. 新しいフィールドを追加する [テーブル] を選択します。
参照テーブルを追加した場合は、複数のオプションが表示されることがあります。デフォルトでは、元のテーブルが選択されています。
8. [フィールドを追加] を選択して、右側のテーブルのフィールドのリストにフィールドを追加します。

   注: 右側のテーブルに追加したフィールドは、PDF 内で緑色で強調表示されたままになり、それらから関連フィールドを作成したことがわかります。右側のテーブルからフィールドを削除すると、抽出されたテキストはハイライト表示されなくなります。

9. PDF から追加するすべてのフィールドを追加するまで、上記の手順を繰り返します。

   注: 右側のテーブルで [+新しいフィールドを追加] をクリックし、テーブルビルダー の [テーブル] タブでフィールドを追加するのと同じように詳細を直接入力することで、フィールドを手動で追加することもできます。

10. テーブルのフィールドを確認し、必要に応じて編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルペインのアクション

アクション	説明
テーブル間でのフィールドの移動	PDF エクストラクター内のテーブル間でフィールドを移動するには、選択した [テーブル名] を目的のテーブルの場所に変更します。
参照テーブルを削除	テーブルの右上隅にある [他のアクション] リスト (⋮) から [削除] を選択して、追加した他の参照テーブルを削除します。
新しいフィールドを追加	**[+** 新しいフィールドを追加] を選択してテーブルにフィールド列を追加し、詳細を直接入力します。テーブルビルダー の [データ] タブでフィールドを追加する方法に似ています。
フィールドを編集	フィールドのプロパティ (フィールドタイプなど) を編集するには、フィールドのプロパティをクリックして選択し、編集します。
フィールドを削除する	テーブルからフィールドを削除するには、ゴミ箱アイコン (🗑) を選択します。
テーブルビルダー 内でテーブルを開く	[データテーブルとフォームを開く] を選択して、テーブルビルダー 内の選択したテーブルを開きます。

11. [保存] を選択します。

次のタスク

テーブルビルダーでデータテーブルを開くには、表示されたテーブルの上にある [データテーブルとフォームを開く] を選択します。テーブルビルダー でのデータテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

参照テーブルを追加するには、「PDF フォームからの参照テーブルの追加」を参照してください。

PDF フォームからの参照テーブルの追加

App Engine Studio の PDF エクストラクターを使用して、新しい参照データテーブルにフィールドを移動します。

始める前に

ℹ 注: この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、または delegated_developer

このタスクについて

フォーム情報の一部を、元のテーブルから参照され、他のテーブルから参照できる個別のテーブルに追加する場合があります。たとえば、保険会社で働いている場合、情報が単一の PDF フォームから抽出されていても、別々のデータテーブルとして参照できる別々のデータテーブルを作成することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

参照フィールドを追加し、対応する参照データテーブルを App Engine Studio の PDF エクストラクターから直接作成できます。

> **注:** アプリの新しい参照テーブルを作成する前に、Now Platform に既に存在するテーブルを誤って再作成していないことを確認することをお勧めします。

手順

1. 次のいずれかのオプションを選択します。
   - 前の手順で説明した手順に従って、PDF をアップロードします (PDF フォームからのテーブルの作成 を参照)。
   - 既に PDF をアップロードしている場合は、テーブルビルダー の [フォーム] タブまたは [テーブル] タブで **[PDF** エクストラクターツールを開く] 要素を選択して、PDF エクストラクターツールを起動します。

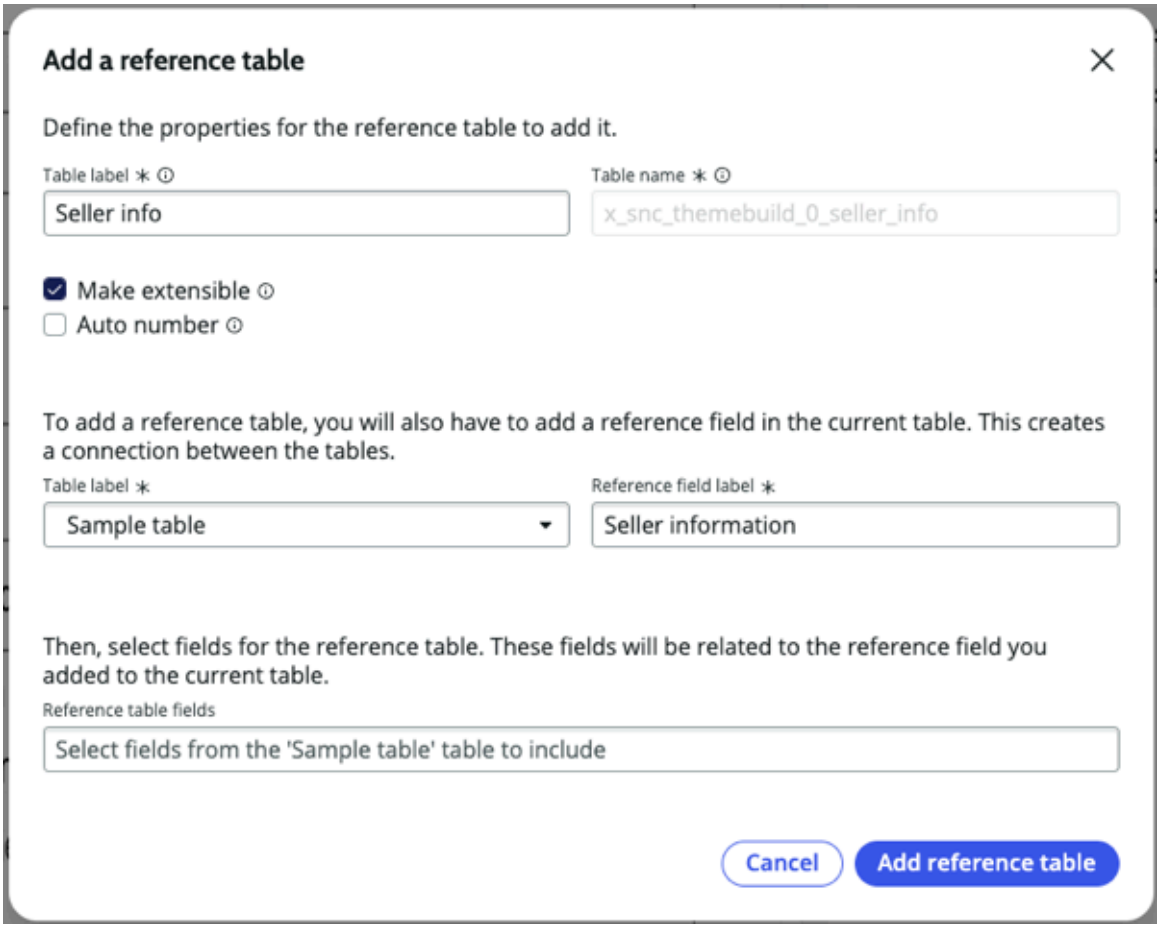
   PDF フォームが表示されます。
2. 右側のパネルで [参照テーブルを追加] を選択して、参照テーブルをテーブルに追加します。
3. 参照テーブルの次のプロパティを入力します。

列ヘッダープロパティ	説明
テーブル ラベル	参照テーブルの一意のラベル。
テーブル名	参照テーブルのデータベース名。
拡張性を高める	他のテーブルがこのテーブルのデータを共有できるようにするオプション。テーブルの拡張の詳細については、「テーブル拡張」を参照してください。
自動番号	一意の番号でテーブルレコードを追跡するオプション。このオプションを選択する場合は、[プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] を定義します。

   次に、編集している元のテーブルに参照フィールドを追加します。これにより、テーブル間の接続が作成されます (「販売者情報」など)。
4. 参照フィールドを追加するテーブルの [テーブルラベル] を選択します (デフォルトでは元のテーブルが選択されています)。
   [テーブルラベル] フィールドでは、デフォルトで元のテーブルが選択されています。
5. この新しい参照フィールドの [参照フィールドラベル] (「販売者情報」など) を入力します。
6. 元のテーブルからフィールドを選択して、新しい参照テーブルに追加します。
   これらのフィールドは、現在のテーブルに追加した参照フィールドに関連しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

参照テーブルを追加



7. [参照テーブルを追加] を選択します。
   参照テーブルが、元のテーブルで選択したフィールドが含まれた状態で下に表示されます。
8. フィールドとテーブルのプロパティを確認し、必要に応じて編集します。

テーブルペインのアクション

アクション	説明
テーブル間でのフィールドの移動	PDF エクストラクター内のテーブル間でフィールドを移動するには、選択した [テーブル名] を目的のテーブルの場所に変更します。
参照テーブルを削除	テーブルの右上隅にある [他のアクション] リスト (⋮) から [削除] を選択して、追加した他の参照テーブルを削除します。
新しいフィールドを追加	**[+** 新しいフィールドを追加] を選択してテーブルにフィールド列を追加し、詳細を直接入力します。テーブルビルダー の [データ] タブでフィールドを追加する方法に似ています。
フィールドを編集	フィールドのプロパティ (フィールドタイプなど) を編集するには、フィールドのプロパティをクリックして選択し、編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
フィールドを削除する	テーブルからフィールドを削除するには、ゴミ箱アイコン (🗑) を選択します。
テーブルビルダー 内でテーブルを開く	[データテーブルとフォームを開く] を選択して、テーブルビルダー 内の選択したテーブルを開きます。

テーブルペインのその他のナビゲーションコントロールの詳細については、「一般的なナビゲーション」を参照してください。

9. [保存] を選択します。

次のタスク

テーブルビルダーでデータテーブルを開くには、表示されたテーブルの上にある [データテーブルとフォームを開く] を選択します。テーブルビルダー でのデータテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。

データ統合を作成する

統合ハブ の機能を使用してアプリケーション内の既存のテーブルにインポートすることで、新しい情報または更新された情報を現在のデータセットに追加します。特定の時刻にデータを追加するために、将来のインポートをスケジュールします。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。

https://player.vimeo.com/video/982217306?badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に

- アプリケーションに既存のテーブルが必要です。詳細については、「空白のテーブルを作成する」を参照してください。

  注: 現在、ユーザーがアップロードできるデータ形式は Excel ファイルのみです。

- 必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [データ] 見出しの横にある追加アイコン (⊕) を選択します。
4. [データ統合を作成する] を選択します。

データインポートソースを構成

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 次の手順を実行して、データインポートソースを構成します。

   a. データ統合のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	統合の名前
簡単な説明	統合の説明。
アプリケーション	統合のアプリケーションスコープの名前。

   b. [保存して続行] を選択します。

   c. データソースタイプを選択するための [ソースタイプ] メニューを使用します。

   - Excel ファイルまたは CSV ファイルを選択するには、**[AD-HOC]** > > [ファイル] を選択してから **[Excel]** または **[CSV]** 選択します。[ファイルのアップロード] セクションで、XLSX、XLS、CSV または ZIP ファイルをアップロードします。
   - データストリームアクションを選択するには、[スポーク] を選択します。アクティブ化されているデータストリームがスポーク別に整理され、アルファベット順にリストされます。[接続] セクションで、接続エイリアスを選択します。接続エイリアスを使用するデータストリームアクションでは、デフォルトの接続エイリアスをその子エイリアスで上書きできます。詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。

   d. データソースの設定

   - Excel スプレッドシートを設定するには、使用するシートとヘッダーに使用する行番号を指定します。1 つのシートと 1 つのヘッダーのみを指定できます。
   - CSV ファイルを設定するには、区切り文字を選択します。
   - データストリームアクションを設定するには、必要な入力項目を入力します。このセクションは、データストリームアクションに入力すべき項目がある場合にのみ表示されます。入力のあるデータストリームアクションには一意の入力があるため、このセクションのフィールドは、選択されたデータストリームアクションとその設定によって異なります。スポーク入力によって既に設定されているデフォルト値は、事前に入力されています。データストリームアクションの詳細を表示するには、その横にある情報アイコン ( ) をクリックします。このアイコンをクリックすると、データストリームアクションの設定ページが開きます。

6. [**Save**] ボタンを選択します。

ターゲットテーブルを選択し、インポートオプションを構成します

7. [ターゲットにマッピング] タブを選択します。
8. 作成するデータ統合のターゲットテーブルとオプションを選択します。
   ソースデータをターゲットテーブルにマッピングすることで、アップロードしたデータをシステムでどのように処理するかを制御できます。

   a. [ソースからターゲットテーブルへのデータマッピング] ページで、[テーブルを追加する] をクリックします。

   b. マッピングプロパティウィンドウで、次のフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ターゲットテーブル	データの変換先のテーブルの名前。
インポート時にテーブルのビジネスルールを実行する	データをインポートするときにターゲットテーブルのビジネスルールを実行するオプション。
インポートを同期的に実行	インポートを同期的に実行するオプション。データが並列変換され、特定の結合値を持つ複数のソースレコードが存在する場合、このオプションをオンにすると、その結合値を持つレコードが一度に 1 つだけ挿入されます。詳細については、「同時インポート」ページの「挿入を同期する」セクションを参照してください。

c. [保存] を選択します。

統合には複数のターゲットテーブルを追加できます。追加するターゲットテーブルごとに、ステップ 4a ~ 4c を繰り返します。

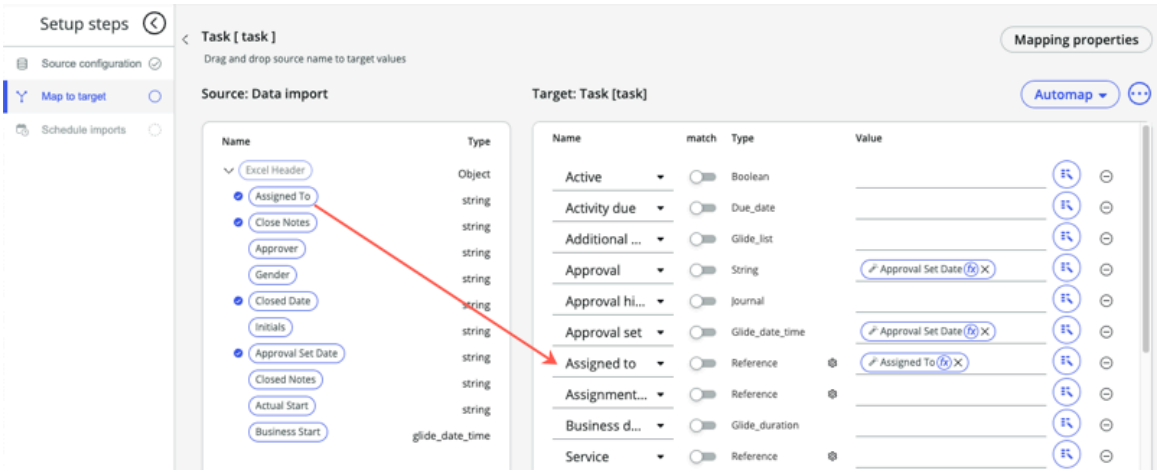
テーブルは、追加された順に一覧表示されます。各テーブルカードの左側にあるドラッグアイコン を使用してカードを別の位置にドラッグすると、順序を変更できます。テーブルカードの順序によって、実行時にデータがターゲットテーブルに変換される順序が決まります。

注: 同じテーブルを複数回選択することはできません。また、拡張テーブルまたは既に統合に含まれているテーブルの親テーブルを選択することもできません。

インポートフィールドをターゲットテーブルにマッピング

9. 次のアクションを実行して、インポートのフィールドをターゲットテーブルにマッピングします。

ターゲットテーブルへのデータのマッピング



a. [ソースからターゲットテーブルへのデータマッピング] ページで、マッピング先のターゲットテーブルのボタンを選択します。
これにより、テーブルのデータマッピングセクションが開きます。ページの左側にはソースデータが表示されます。右側はターゲットテーブル用です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. [フィールドを追加 **(Add a field)]**、[すべてのフィールドを追加] または [自動マッピング] ボタンを使用して、ターゲットサイドを設定し、マッピングデータを開始します。

- ターゲットテーブルのすべてのフィールドを追加するには、[すべてのフィールドを追加] を選択します。フィールドはアルファベット順に追加されます。
- フィールドを個別に追加するには、[フィールドを追加 **(Add a field)]** を選択し、リストからフィールド名を選択します。フィールドは 1 回のみ追加できます。
- フィールドを追加して自動的にマッピングするには、[自動マッピング] を選択します。自動マッピングは、ソースエンティティを同様の名前のターゲットエンティティにマッピングします。[自動マッピング] ボタンには 2 つのオプションがあります。
  - [ターゲットテーブル内のすべての一致フィールド] に、すべてのフィールドが追加され、一致するフィールドがマッピングされます。
  - [ターゲット選択でマッピングされていないすべてのフィールド] は、既に追加されているがまだマッピングされていないフィールドのみをマッピングします。フィールドがまだ追加されていない場合、このオプションは使用できません。
- 既にマッピングされているターゲットエンティティの場合、[自動マッピング] を選択してもその値は変更されません。自動マッピングされたフィールドには、データピルに杖のアイコンがあります。

  デフォルトでは、自動マップは最大 1 つのソースエンティティをターゲットエンティティにマッピングします。これを変更するには、*glide.ih.automap.extractone* プロパティを false に設定します。

  自動マッピングは、80% 以上一致する列名を探して、ソースとターゲットのエンティティを照合します。これは、*glide.ih.automap.minimum.score* のプロパティで変更できます。たとえば、60% の類似性に基づいて照合するには、*glide.ih.automap.minimum.score* を 60 に設定します。

c. データをマッピングするには、データピルをソースからターゲットテーブルの [値]列にドラッグします。

ターゲットテーブルの右側にあるピルピッカー ( ) を使用してデータをマッピングすることもできます。[値] 列には複数の値を入力でき、テキストを入力することもできます。

ソースフィールドをターゲットフィールドにマッピングすると、ソースフィールド名の横に小さなチェックマークアイコン ( ) が表示されます。カーソルをチェックマークに移動すると、ソースフィールドがマッピングされているターゲットフィールド (最大 5 つのフィールド) がツールヒントに一覧表示されます。

d. オプション: [一致] トグルスイッチを使用して、一致するデータをシステムがチェックするフィールドを指定し、見つかった場合は、新しいレコードを作成する代わりに既存のレコードを更新します。

(Optional) たとえば、ターゲットテーブルに [注文番号] フィールドと注文番号が 743 のレコードがある場合、一致する可能性のあるものを処理するためのオプションが 2 つあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオンの場合、システムは一致するデータをチェックします。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルの既存のレコードを更新します。
- [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオフの場合、システムは一致するデータをチェックしません。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルに新しいレコードを作成します。この場合、ターゲットテーブルには 2 つのレコードがあり、どちらも注文番号は 743 です。

e. オプション: 選択フィールドと参照フィールドでは、データのマッピング先の列を指定します。

i. 歯車アイコン ( ) を選択します。

ii. [フィールド] で、マッピング先の列を選択します。

iii. [一致するレコードがない場合は、次の操作を行います] で、その列が利用できない場合の対処方法を指定します。

- [新しい選択肢/レコードを作成]：ターゲットテーブルに選択肢またはレコードを作成します。
- [このフィールドを無視]：ターゲットテーブルのそのフィールドのみを無視します。
- [このレコードをスキップ]：ターゲットテーブルのレコード全体をスキップします。

iv. [完了] を選択します。

f. オプション: 変換機能を適用して、データを変更または修正します。
たとえば、大文字変換機能を使用して、入力文字列をすべて大文字に変換できます。詳細については、「変換機能」を参照してください。

> **注:** フローおよびサブフローの作成時に利用可能なすべての変換機能が 統合ハブ - インポートで利用できるわけではありません。

i. 変換機能アイコン ( ) を選択します。

ii. メニューから変換機能を選択し、**[OK]** を選択します。

iii. 追加の変換関数を適用するには、[新しい変換を追加] を選択します。変換機能は、選択された順序で適用されます。

iv. すべての変換機能を追加したら、[完了] を選択します。

10. マッピングが完了したら、[保存] をクリックします。

ファイルのインポート、またはデータインポートのスケジュール

11. 作成してマッピングしたデータインポートの処理方法を選択します。

- アップロードしたデータセットを今すぐインポートするには、[インポート実行] を選択します。
- データを後でインポートするように設定するには、[インポートをスケジュール] を選択します。「データインポートの実行またはスケジュール」を参照してください。

12. オプション: インポートを実行した場合は、テーブルをプレビューして追加のコンテンツが表示されることを確認するために、ターゲットテーブルに戻り、ブラウザー画面を更新して、[プレビュー] をクリックします。

13. オプション: インポート中に新しい列を追加してそれらをターゲットテーブルに表示する場合は、[リストをカスタマイズ] を選択して表示される列を編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションデータテーブルの変更

テーブルビルダーを使用して、アプリケーションで使用されるデータテーブルを変更します。

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、または delegated_developer

アプリケーションに関連付けられたデータテーブルを変更するには：

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]** に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [データ] 見出しで、アプリケーションの既存のテーブルの [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

データテーブルをクリックするか、[他のアクション] メニュー (•••) の [編集] を選択してアプリケーションのデータを編集すると、テーブルビルダー が起動します。テーブルビルダー は、アプリケーションに追加したデータテーブルを編集するためのツールです。

テーブルビルダー では次のアクションを実行できます。

- [データ] タブでアプリケーションデータテーブルを管理します。
  - テーブルのフィールドを管理します。
  - テーブルとフィールドの列のプロパティを編集します。
  - データテーブル間のスキーマ関係を表示します。

    注: この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

- フォームビューを作成および管理し、[フォーム] タブのテーブルに関連付けられているロジックを表示します。
- [フロー] タブでテーブルの更新時または作成時にトリガーされるフローを作成および管理します。

  注: この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

テーブルビルダー でのテーブルの編集の詳細については、「テーブルビルダー 内のデータ」を参照してください。

注: アプリケーションからテーブルを削除するには、アプリケーションの既存のテーブルの [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[削除] を選択して指示に従います。

アプリケーションエクスペリエンスの追加

App Engine Studio (AES) を使用してエクスペリエンスをアプリに追加します。エクスペリエンスは、ユーザーがアプリを操作する方法のインターフェイスまたはラッパーです。

アプリケーションテンプレートは、自動的にアプリケーションにエクスペリエンスを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンスのタイプ

エクスペリエンス	定義	例	参照
標準カタログアイテム	標準カタログアイテムは、アイテムまたはサービスを要求するフォームなど、ユーザーが要求を作成するために入力できるフォームを表示します。標準カタログアイテムは、要求テーブルを利用して要求レコードを生成します。さらに、生成された要求アイテムは、ワークフロー、カタログタスク、および関連する承認にリンクされます。ユーザーは、標準カタログアイテムを使用して、複数のアイテムをカートに追加し、要求されたアイテムごとに要求を生成できます。サービスカタログフォームで要求を生成し、ワークフロー、承認、タスクなどを入力する場合は、カタログアイテムを使用します。	休暇を要求するためのフォームなどのカタログアイテムフォームを作成します。そのフォームを送信すると、マネージャーが承認または却下するための要求が作成されます。	• 標準カタログアイテムの追加 • 標準カタログアイテムのサンプル
レコードプロデューサー	レコードプロデューサーは、ユーザーが入力するフォームを表示する簡易タイプのカタログアイテムで、設定したカスタムターゲットテーブルを選択して新しいデータレコードを挿入できます。このタイプのカタログアイテムを使用すると、ユーザーはインシデントレコードなどのタスクベースのレコードを作成できます (標準のカタログアイテムの使用に伴うより複雑な機能 (要求の作成など) は使用しません)。サービスカタログフォームで、要求ではない簡易タイプのレコード (インシデント、変更、拡	要求の代わりに、インシデントなどのタスクレコードを生成するサービスカタログフォームを作成します。	• レコードプロデューサーの追加 • レコードプロデューサーのサンプル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンスのタイプ (続く)

エクスペリエンス	定義	例	参照
	張などのタスクレコードなど) を作成する場合は、レコードプロデューサーを使用します。		
ワークスペース	ワークスペースは、エージェント、ケースマネージャー、ヘルプデスク担当者、その他マネージャーが、顧客の質問に回答し、顧客の問題を解決する際に役立つツール群です。	従業員がラップトップやその他のアイテムを要求できる機器フルフィルメントダッシュボードを作成します。ワークスペースはポータルに似ていますが、範囲が限定されます。	• ワークスペースの追加 • AES でのワークスペースのビルド • ワークスペースビルダー でのワークスペースの構成 • ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成 • ワークスペースビルダー でのワークスペースホームページの構成 • ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。 • ワークスペースビルダー でのワークスペースのリストの構成 • ワークスペースビルダー でのワークスペースの分析の構成 • ビルドできるサンプルワークスペース
ポータル	ポータルは、組織内のユーザーが情報を検索し、要求を送信し、ビジネスタスクを実行できるサイトです。	従業員が要求を行いナレッジベースを参照するためのセルフサービスポータル、またはエントリーポイントを作成します。これにより、追加のワークスペースとカタログを設定できます。	• ポータルの追加 • ビルドできるサンプルポータル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンスのタイプ (続く)

エクスペリエンス	定義	例	参照
モバイル	モバイルエクスペリエンスを使用すると、ユーザーは ServiceNow ネイティブモバイルアプリからアプリケーションにアクセスできます。その後、アプリにデータを入力する必要があります。	モバイル用の休暇要求アプリケーションを作成して、マネージャーがモバイルデバイスの Now Mobile アプリで要求を承認または却下できるようにします。	• モバイルエクスペリエンスの追加 • モバイルエクスペリエンスのサンプル

レコードプロデューサーとカタログアイテムのいずれかの選択

App Engine Studio (AES) のレコードプロデューサーと標準カタログアイテムの両方が、ユーザーがサービスポータルを介して要求を送信できるエクスペリエンスを作成します。ただし、レコードプロデューサーはより拡張性が高く、ユーザーが任意のテーブルにレコードを作成できます。

カスタマイズのレベルの検討

レコードプロデューサーを使用すると、より多くのカスタマイズが可能になり、App Engine ツールを最大限に活用してエクスペリエンスを新規にビルドできます。

カタログアイテムは、ユーザーが要求できるサービスまたはアイテムを表します。すべてのアイテムのカタログはサービスカタログと呼ばれ、サービスカタログ管理の一部です。

レコードプロデューサーと標準カタログアイテムの比較

機能エリア	レコードプロデューサー	カタログアイテム
目的	App Engine 自動化ツールを使用して、カスタム履行エクスペリエンスを作成します。	IT ハードウェアとソフトウェアの要求など、事前定義された承認および認定プロセスが存在するシンプルな要求管理アプリケーションをサポートします。
拡張性	カスタマイズ可能。	事前定義済み。
例	パスワードリセット要求を作成するパスワードリセットフォーム。	駐車許可を要求するフォーム。
開発モデル	プロセスは次のとおりです。 1. ビジネスに焦点を当てたデータモデルを設定します。 2. ユーザーが利用するエクスペリエンスの種類を定義します。 3. 自動化またはビジネスロジックを定義します。 4. アプリを使用するユーザーロールを定義します。	カタログアイテムは、正確で一貫した中心的なデータソースである サービスカタログ で定義されたアイテムを履行するための要求実行プロセスに大きく依存しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機能エリア	レコードプロデューサー	カタログアイテム
レポート	専用のデータモデルを使用すると、ダッシュボードを簡単に作成できます。	データベースビューを作成し、変数を他のテーブルに収集して特定のレポートを構成するためのスクリプトを作成する必要があります。
スケーラビリティ	ビジネスに焦点を当てたアプリを使用すると、より簡単にローコード環境でリソースを見つけてアプリを変更することができます。	通常は、各カタログを管理する専任チームによるサービスカタログ管理運用の一部です。
セキュリティ	スコープ対象のアプリを使用すると、アドミンでなくとも権限を柔軟に管理できます。	カタログアイテムは通常、特定のスコープでビルドされ、柔軟性が低くなります。

レコードプロデューサーと標準カタログアイテムに関するヘルプトピック

詳細は、以下のトピックを参照してください。

- レコードプロデューサー：
  - レコードプロデューサーの追加
  - レコードプロデューサーのサンプル
- 標準カタログアイテム：
  - 標準カタログアイテムの追加
  - 標準カタログアイテムのサンプル

レコードプロデューサーの追加

レコードプロデューサーを使用すると、ユーザーが要求を作成せずに、App Engine Studio (AES) で作成したアプリでインシデントレコードなどのタスクベースのレコードを作成できるようになります。簡素化されたフォームを使用して要求を標準化することで、エンドユーザーのエクスペリエンスを向上させることができます。

始める前に

ユーザーがフォームに入力したときにレコードプロデューサーが新しいレコードを追加するデータテーブルを作成します。詳細については、「アプリケーションのデータモデルの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて

レコードプロデューサーは、ユーザーが入力するフォームを表示する簡易タイプのカタログアイテムで、設定したカスタムターゲットテーブルを選択して新しいデータレコードを挿入できます。このタイプのカタログアイテムを使用すると、ユーザーはインシデントレコードなどのタスクベースのレコードを作成できます (標準のカタログアイテムの使用に伴うより複雑な機能 (要求の作成など) は使用しません)。サービスカタログフォームで、要求ではない簡易タイプのレコード (インシデント、変更、拡張などのタスクレコードなど) を作成する場合は、レコードプロデューサーを使用します。 レコードプロデューサーを追加すると、レコードプロデューサーの基本バージョンが作成されます。展開する準備ができるまで、カタログビルダーで編集を続ける必要があります。

> **注:** テンプレートを使用してアプリケーションを作成した場合は、レコードプロデューサーがすでにアプリケーションに追加されている可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[エクスペリエンス] の横にある [追加] を選択します。
4. [レコードプロデューサー] を選択して [開始] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

レコードプロデューサーフォーム

フィールド	説明
名前	レコードプロデューサーの名前。
簡単な説明	レコードプロデューサーの簡単な概要。

6. [レコードプロデューサーを編集] を選択します。
7. カタログビルダーで、必要な情報を指定します。
   各ステップを完了したら、[保存] を選択します。

カタログビルダーのステップ

ステップ	説明
詳細	◦ 基本情報：レコードプロデューサー名と簡単な説明。 ◦ アイテムの詳細：レコードプロデューサーの説明。 **注:** グラフィック、画像、ビデオ、または外部ソースの情報へのリンクなどのファイルを添付することができます。
移動先	レコードプロデューサーがレコードを作成するテーブル。
ロケーション	◦ カタログ：レコードプロデューサーが属するカタログの名前。 ◦ カテゴリ：レコードプロデューサーにリンクできる使用可能なカテゴリ。
質問	レコードプロデューサーの質問。 [新しい質問の挿入] リストから、追加の質問セット、質問、非アクティブ化した質問、1 列コンテナー、2 列コンテナー、改行を含めることができます。質問とサポートされている質問タイプの作成については「カタログビルダーでのカタログアイテムの質問の作成」を参照してください。 質問には動的フォーム動作も追加できます。動的フォーム動作の追加については「カタログ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステップ	説明
	ビルダーでの質問の編集 」を参照してください。 注: ◦ 質問セット内の質問は編集できません。質問セットは、ドラッグ & ドロップすることで並べ替えることができます。 ◦ テンプレートで指定された質問セットは削除できませんが、ユーザーが追加した質問セットは削除できます。 ◦ 質問セットを削除してもアイテムに対する関連付けが削除されるだけで、質問セットは削除されません。 ◦ 1 列の質問セットは、1 列または 2 列のコンテナーに追加できます。2 列の質問セットはコンテナに追加できません。
設定	レコードプロデューサーの動作をカスタマイズするオプション。 ◦ [ウィッシュリストに追加] ボタンを非表示：レコードプロデューサーの [ウィッシュリストに追加] ボタンを非表示にするオプション。 ◦ [添付ファイル] ボタンを非表示：レコードプロデューサーの [添付ファイル] ボタンを非表示にするオプション ◦ 添付を必須に設定：レコードプロデューサーの [添付ファイル] フィールドを必須にするオプション。
アクセス	レコードプロデューサーを使用可能または使用不可能なグループまたは個々のユーザー。
レビューと送信	レコードプロデューサーをレビューおよび送信します。

8. ポータルまたは Now Mobile でカタログアイテムをプレビューするには、[プレビュー] をクリックします。

   注: アイテムをプレビューする際は、アイテムを操作できますが送信できません。

   a. ポータルでアイテムをプレビューするには、[次での表示] フィールドで [ポータル] を選択します。

      注: ポータルプレビューは、カタログビルダー用に構成されたポータル URL に基づいて表示されます。

   b. Now Mobile でアイテム表現を表示するには、[次での表示] フィールドで **[Now Mobile]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. 新しいタブでプレビューを開くには、[新しいタブでプレビューを開く] を選択します。

> **注:** アイテムを変更して保存すると、開いているタブでプレビューが動的に更新されます。

9. [送信] を選択します。

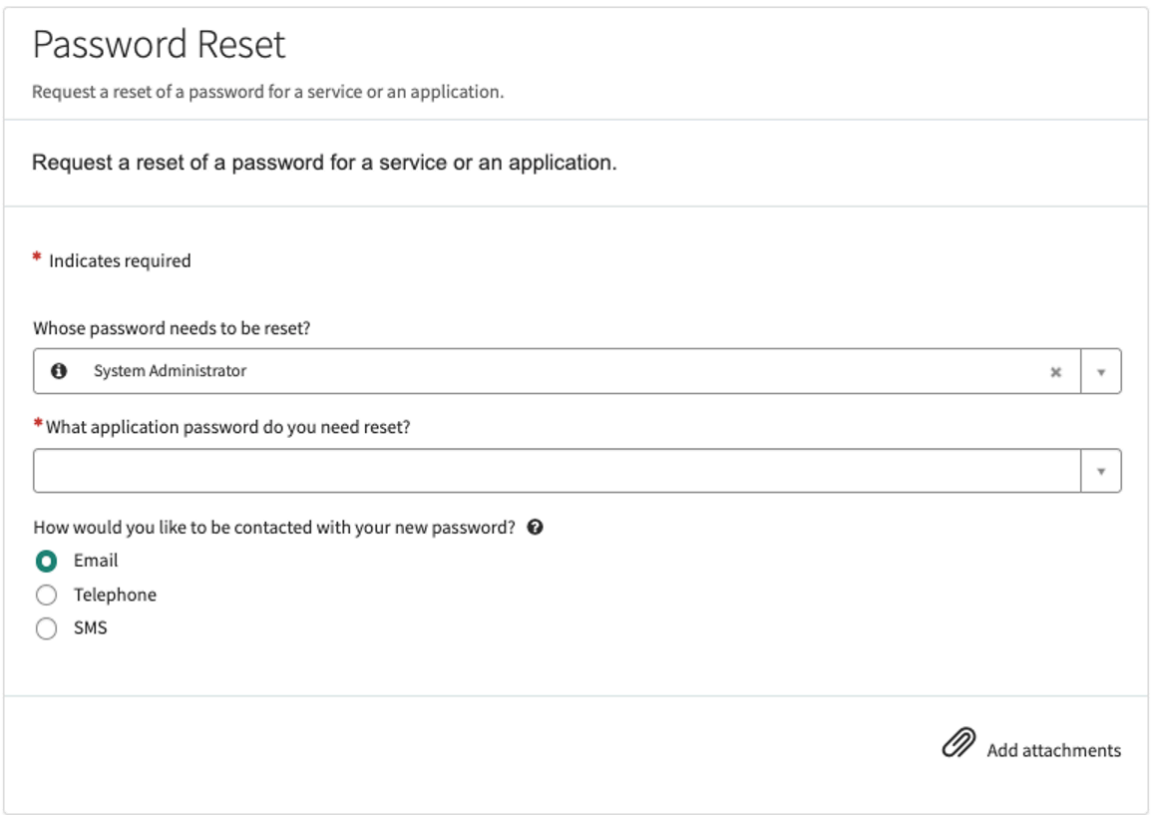
次のタスク
編集するレコードプロデューサーのメニューアイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

レコードプロデューサーのサンプル

App Engine Studio (AES) で作成するレコードプロデューサーエクスペリエンスは、要求ではなくタスクレコード (インシデントなど) を生成するサービスカタログフォームです。

レコードプロデューサーの例

次に、パスワードリセット要求を作成するレコードプロデューサーの例を示します。



標準カタログアイテムの追加

App Engine Studio (AES) でアプリケーションに標準カタログアイテムを追加して、ユーザーがサービスとオファリングの要求を送信できるようにします。

始める前に
必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
標準カタログアイテムは、アイテムまたはサービスを要求するフォームなど、ユーザーが要求を作成するために入力できるフォームを表示します。標準カタログアイテムは、要求テーブルを利用して要

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

求レコードを生成します。さらに、生成された要求アイテムは、ワークフロー、カタログタスク、および関連する承認にリンクされます。ユーザーは、標準カタログアイテムを使用して、複数のアイテムをカートに追加し、要求されたアイテムごとに要求を生成できます。サービスカタログフォームで要求を生成し、ワークフロー、承認、タスクなどを入力する場合は、カタログアイテムを使用します。 標準カタログアイテムを追加するときは、カタログアイテムの基本バージョンを作成します。これを展開できるようにするには、カタログビルダーで編集を続行する必要があります。

> **注:** テンプレートを使用してアプリケーションを作成した場合は、標準カタログアイテムがすでにアプリケーションに追加されている可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[エクスペリエンス] の横にある [追加] を選択します。
4. [標準カタログアイテム] を選択し、[開始] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

[ADD EXPERIENCE] フォーム

フィールド	説明
名前	標準カタログアイテムの名前。
簡単な説明	標準カタログアイテムの簡単な概要。

6. [カタログアイテムの編集] を選択します。
7. 必要な情報を指定します。

各ステップを完了したら、[保存] を選択します。

カタログビルダーのステップ

ステップ	説明
詳細	◦ 基本情報：標準カタログアイテム名と簡単な説明。 ◦ アイテムの詳細：標準カタログアイテムの説明。 **注:** グラフィック、画像、ビデオ、または外部ソースの情報へのリンクなどのファイルを添付することができます。
ロケーション	◦ カタログ：標準カタログアイテムが属するカタログの名前。 ◦ カテゴリ：標準カタログアイテムとリンクできる利用可能なカテゴリ。
質問	標準カタログアイテムに対する質問。 [新しい質問の挿入] リストから、追加の質問セット、質問、非アクティブ化した質問、1 列コンテナー、2 列コンテナー、改行を含めるこ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステップ	説明
	とができます。質問とサポートされている質問タイプの作成については「カタログビルダーでのカタログアイテムの質問の作成」を参照してください。 質問には動的フォーム動作も追加できます。動的フォーム動作の追加については「カタログビルダーでの質問の編集」を参照してください。 **注:** ◦質問セット内の質問は編集できません。質問セットは、ドラッグ & ドロップすることで並べ替えることができます。 ◦テンプレートで指定された質問セットは削除できませんが、ユーザーが追加した質問セットは削除できます。 ◦質問セットを削除してもアイテムに対する関連付けが削除されるだけで、質問セットは削除されません。 ◦1 列の質問セットは、1 列または 2 列のコンテナーに追加できます。2 列の質問セットはコンテナに追加できません。
設定	要求の方法に基づいて標準カタログアイテムを構成します。 要求の方法： ◦注文：この方法は、企業のラップトップ要求などのシナリオ、で使用します。 ◦要求：この方法は、コードアクセス要求などのシナリオ、で使用します。 ◦送信：この方法は、パスワードのリセット要求などのシナリオ、で使用します。 その他のオプション： ◦[カートに追加] ボタンを非表示：標準カタログアイテムの [カートに追加] ボタンを非表示にするオプション。このオプションは、[要求の方法] が [要求] または [送信] の場合は自動的に選択されます。 ◦[ウィッシュリストに追加] ボタンを非表示：標準カタログアイテムで [ウィッシュリストに追加] ボタンを非表示にするオプション。 ◦数量セレクターを非表示：標準カタログアイテムで [数量] リストを非表示にするオプション。 ◦配送日時を非表示：標準カタログアイテムで [配送日時] フィールドを非表示にするオプ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステップ	説明
	ション。このオプションは、[要求の方法] を [送信] に設定した場合は自動的に選択されます。 ◦ [添付ファイル] ボタンを非表示：標準カタログアイテムで [添付ファイル] ボタンを非表示にするオプション。 ◦ 添付を必須に設定：標準カタログアイテムで [添付ファイル] フィールドを必須にするオプション。
アクセス	標準カタログアイテムを利用できるまたは利用できないグループまたは個々のユーザーを指定します。
達成	標準カタログアイテムを関連付けられるフロー。このフローは、標準カタログアイテムの履行プロセスを定義します。フローの詳細については、「フロー」を参照してください。
レビューと送信	標準カタログアイテムを確認して送信します。

8. ポータルまたは Now Mobile でカタログアイテムをプレビューするには、[プレビュー] をクリックします。

   注: アイテムをプレビューする際は、アイテムを操作できますが送信できません。

   a. ポータルでアイテムをプレビューするには、[次での表示] フィールドで [ポータル] を選択します。

      注: ポータルプレビューは、カタログビルダー用に構成されたポータル URL に基づいて表示されます。

   b. Now Mobile でアイテム表現を表示するには、[次での表示] フィールドで **[Now Mobile]** を選択します。

   c. 新しいタブでプレビューを開くには、[新しいタブでプレビューを開く] を選択します。

      注: アイテムを変更して保存すると、開いているタブでプレビューが動的に更新されます。

9. [送信] を選択します。

次のタスク

編集する標準カタログアイテムのメニューアイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

標準カタログアイテムのサンプル

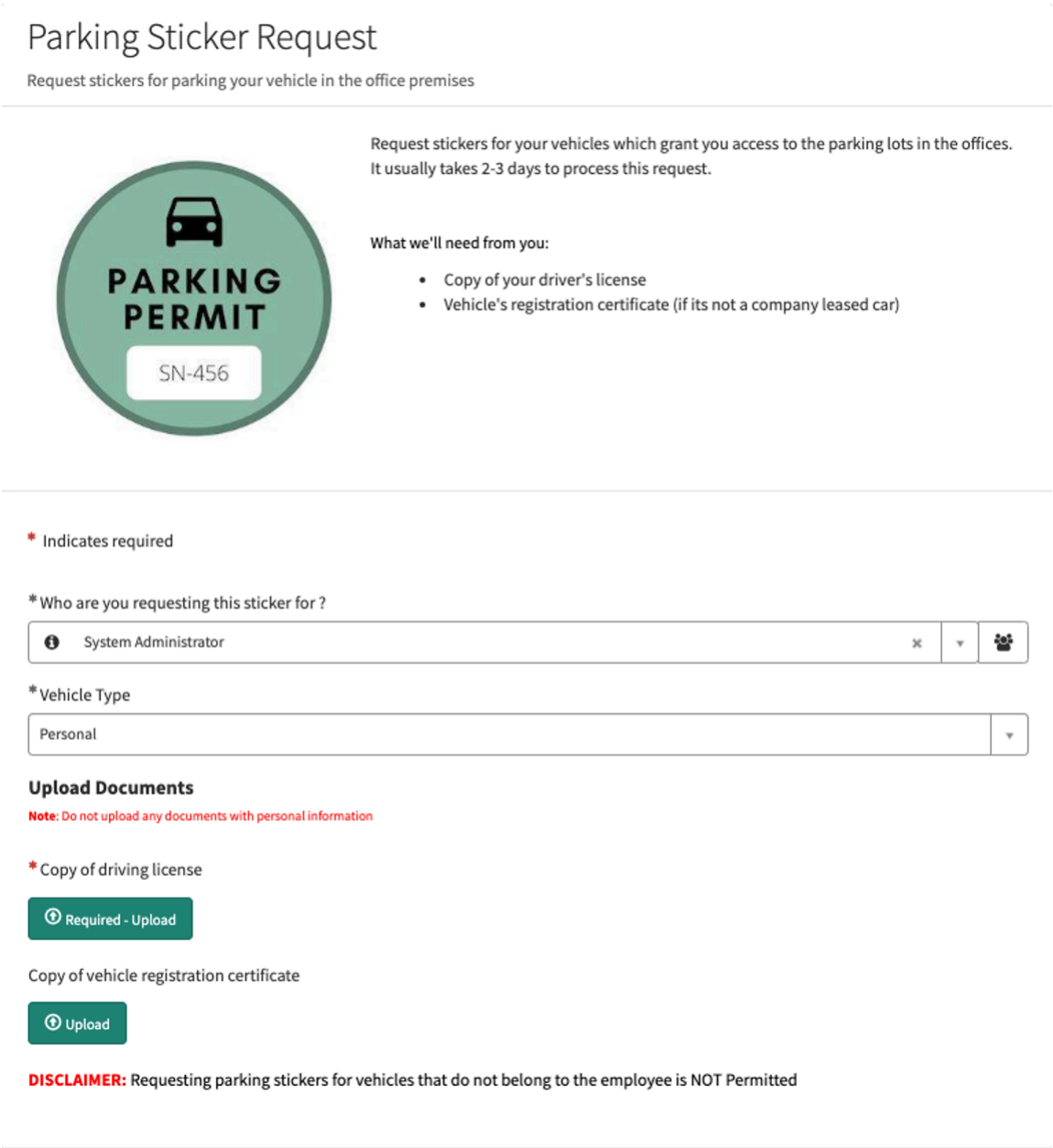
標準カタログアイテムは、アイテムまたはサービスを要求するフォームなど、ユーザーが要求を作成するために入力できるフォームを表示します。標準カタログアイテムは、要求テーブルを利用して要求レコードを生成します。さらに、生成された要求アイテムは、ワークフロー、カタログタスク、および関連する承認にリンクされます。ユーザーは、標準カタログアイテムを使用して、複数のアイテムをカートに追加し、要求されたアイテムごとに要求を生成できます。サービスカタログフォームで要求を生成し、ワークフロー、承認、タスクなどを入力する場合は、カタログアイテムを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

たとえば、従業員は [カタログアイテム] フォームに入力して休日の休暇を申請できます。そのフォームを送信すると、マネージャーが承認または却下するための要求が作成されます。

標準カタログアイテムの例

次に、駐車許可を要求するための標準カタログアイテムの例を示します。



ワークスペースの追加

App Engine Studio (AES) でワークスペースを作成して、エージェント、ケースマネージャー、ヘルプデスク担当者、マネージャーが顧客の質問に回答し、顧客の問題を解決できるスペースをビルドします。 ワークスペースは主に、チケットを管理するサービスデスクなどの要求および履行プロセスに使用されます。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。

このビデオでは、ワークスペースを追加する方法について説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
ワークスペースを追加するときは、その基本バージョンを作成します。これを展開できるようにするには、ワークスペースビルダー で編集を続行する必要があります。 より複雑なカスタマイズを行うには、UI ビルダー でワークスペースを編集します。

App Engine Studio のワークスペースエクスペリエンステンプレートからワークスペースを作成すると、ワークスペースビルダー でホームページ、リスト、レコードページを編集できます。ただし、アプリケーションテンプレートを使用してワークスペースを作成する場合は、UI ビルダー でそのワークスペースのページとオブジェクトの一部を編集する必要があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[エクスペリエンス] の横にある [追加] を選択します。
4. [ワークスペース] を選択し、[開始] を選択し ます。
5. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	ユーザーに表示されるワークスペースの名前。デフォルトでは、ワークスペースはアプリケーションと同じ名前を共有します。 ヒント: 他のエクスペリエンスからそのワークスペースを一意に識別できる名前を使用します。たとえば、「`Office art requests workspace` (オフィスのアート要求ワークスペース)」などです。
説明	ワークスペースの説明。
URL	ワークスペースの一意の Web アドレス。デフォルトでは、ワークスペースの URL はアプリケーション名に基づいていますが、編集可能です。
ロール	ワークスペースにアクセスできるユーザーを限定するユーザーロール。 ◦ ワークスペースへのアクセス権を付与するには、少なくとも 1 つのロールを指定する必要があります。 ◦ ワークスペースに対してカスタムロールを使用するには、最初に [セキュリティ **(Security)]** で作成する必要があります。 詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。

6. [続行] を選択してワークスペースのデータを定義します。
7. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
[プライマリ] テーブル	ワークスペースユーザーが表示または更新するデータテーブル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
セカンダリテーブル	ワークスペースユーザーが表示および更新する追加データテーブル。

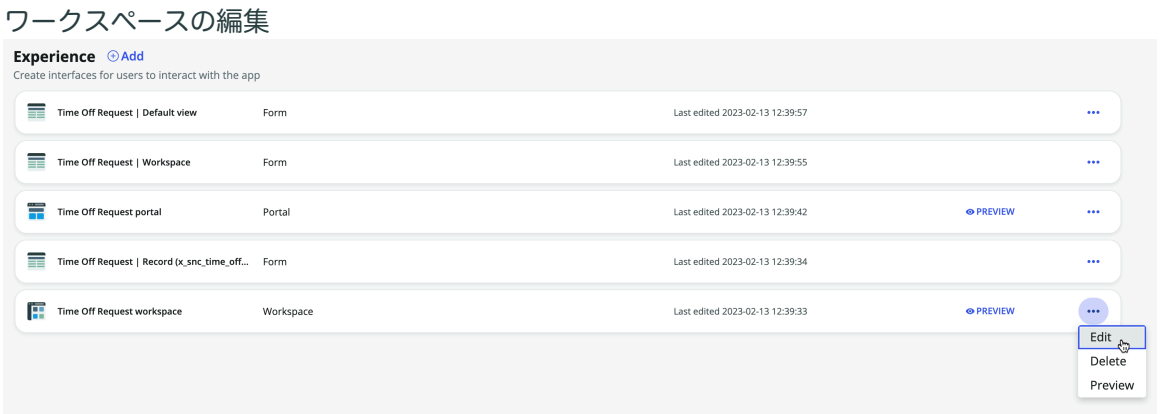
> **注:** デフォルトビューのテーブルのみを選択できます。 アプリで既に利用可能なテーブルと、アプリスコープ外のすべてのテーブルの 2 つのセクションから選択できます。

ワークスペースビルダー は、選択したテーブルのレコードページを自動的に生成します。

8. [続行] を選択し、[完了] を選択します。
AES でワークスペースを作成した後、ワークスペースビルダー で、各ページでコンポーネントを追加または構成して、そのワークスペースを編集する必要があります。

9. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

   アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。



10. オプション: [プレビュー] を選択して、インラインエディターでワークスペースホームページを編集します。

    a. ワークスペースのホームページで、[編集] を選択します。
    [編集] が表示されない場合は、そのワークスペースホームページの編集に必要な権限がない可能性があります。

    b. ワークスペースにアクセス制御リスト (ACL) がない場合は、[ユーザーロールを追加して続行 (Add user roles to continue)] モーダルにアクセスする必要があるロールを入力し、[ロールの追加] ボタンを選択します。
    詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成」と「アクセス制御リストのルール」を参照。

    c. サイズ変更、再編成、または再構成して、ホームページの要素とウィジェットを調整します。

    ワークスペースのホームページの編集は、ワークスペースでのダッシュボードの編集と同様に機能します。詳細については、「ダッシュボード プラットフォームアナリティクス 編集」を参照してください。

    > **注:** ワークスペースが Tokyo より前に作成された場合は、UI ビルダー で編集する必要があります。詳細については、「UI ビルダー」を参照してください。

    テクニカルダッシュボードが含まれるワークスペースを作成した場合、ワークスペースを編集しようとすると、ワークスペースビルダー は **UI** ビルダーで開くように求めます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [新しい要素を追加] を選択して、ワークスペースのホームページにアイテムを追加します。

e. [編集モードを終了] を選択して、インラインエディターでの編集を停止します。

11. ワークスペースビルダー でワークスペースを編集します。詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースの構成」を参照してください。

    必要に応じて、ワークスペースにさらにレコードページを追加することもできます。

    注: デフォルトのワークスペースレコードページは読み取り専用であり、編集することはできません。各レコードページのコンテンツを変更するには、ページのバリアントを作成し、そのバリアントを編集します。

ビルドできるサンプルワークスペース

App Engine Studio (AES) は、ホームページ、レコードページ、リスト、アナリティクスセンター、その他の機能を含む基本的なワークスペースを提供します。

App Engine Studio で作成するワークスペースには、複数のデフォルトページが含まれています。これらのページをそのまま使用することも、ビジネスニーズに合わせて編集することもできます。

次に、追加した後にワークスペースに適用できるページのカスタマイズの例を示します。

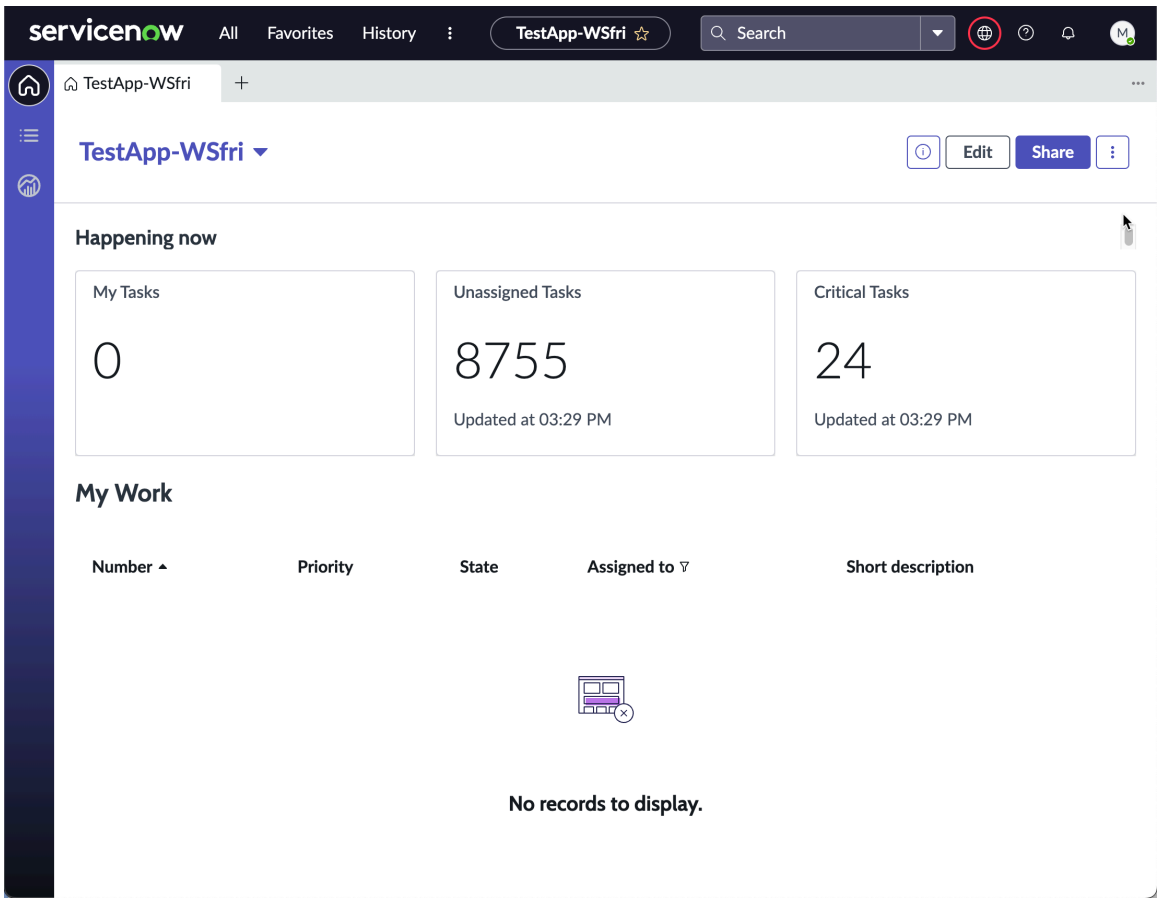
- ホームページへ。
- リスト ページ
- レコードページ
- 検索ページ
- アナリティクスセンター

ワークスペースのホームページ

注: ホームページに変更を加えることはできますが、他のすべてのページを編集するには、ページのバリアントまたはコピーを作成する必要があります。ページを直接編集すると、システムアップグレードで最新のコードが取得されません。

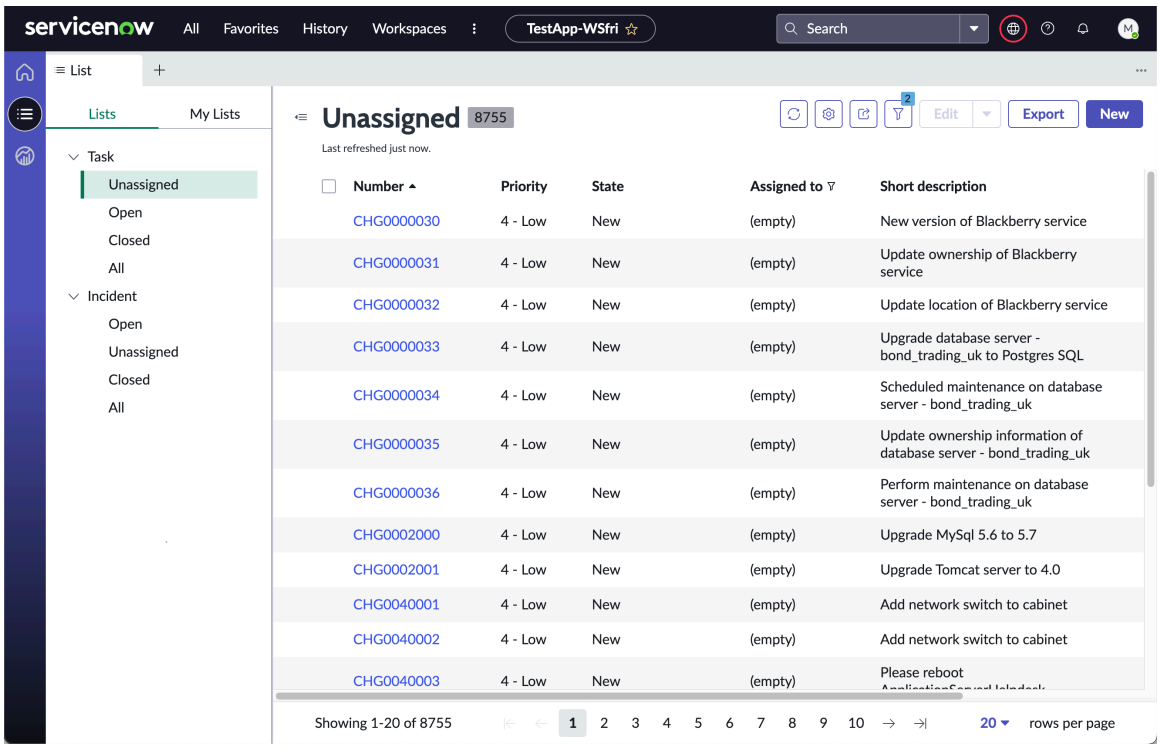
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ホームページへ。



ワークスペースのリストページ

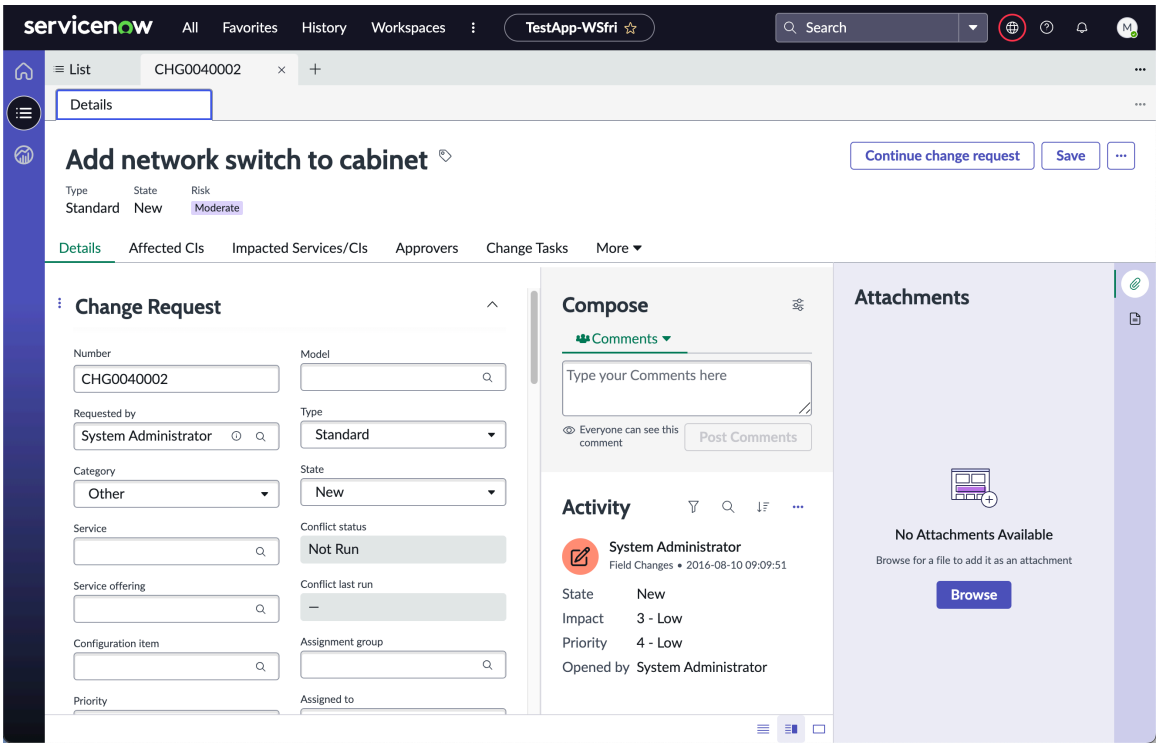
リスト ページ



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

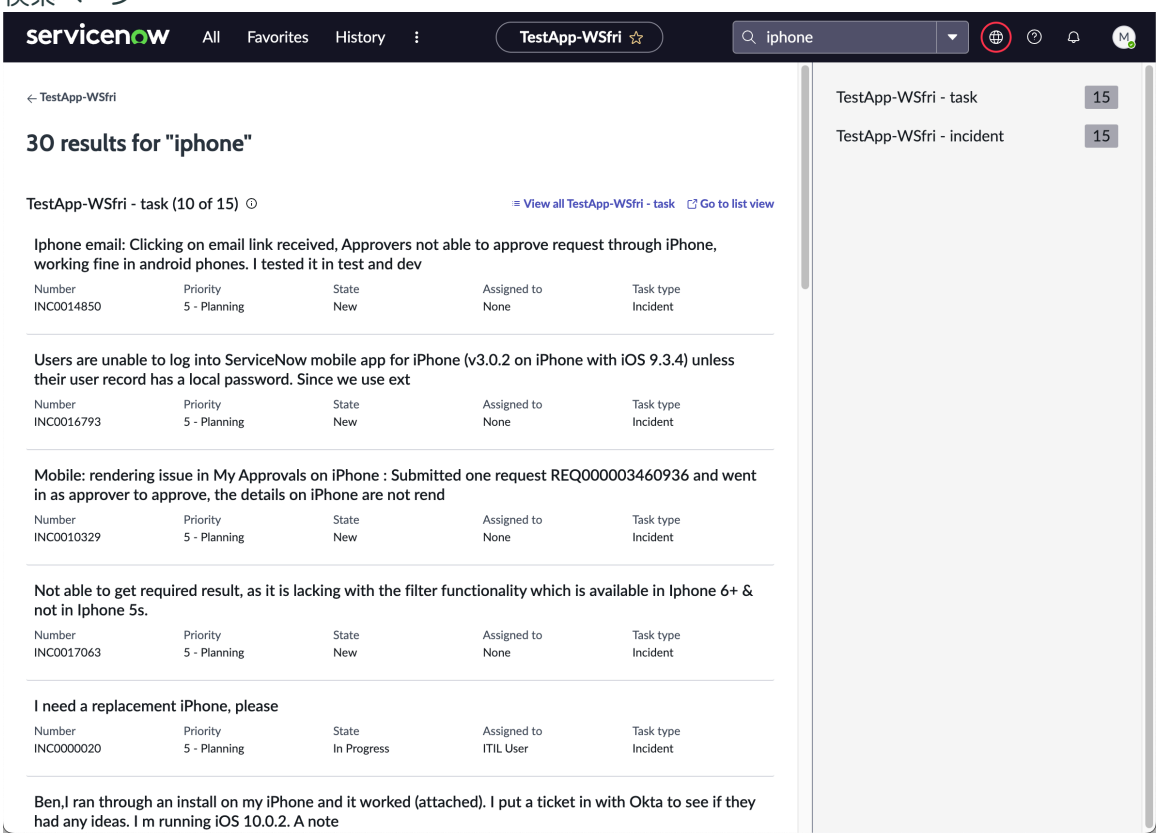
ワークスペースのレコードページ

レコードページ



ワークスペースの検索ページ

検索ページ



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペース アナリティクスセンター

アナリティクスセンターには次のコンポーネントが含まれます。

アナリティクス Q&A

プロセスの傾向と健全性について自然言語で質問できるフィールドです (自然言語クエリ機能が必要です)。

インジケータースコアカード

ロールに基づいてアクセスが許可されている パフォーマンスアナリティクス インジケーターのリストです。構成によっては、インジケーターを選択すると KPI 詳細で開くことができます。

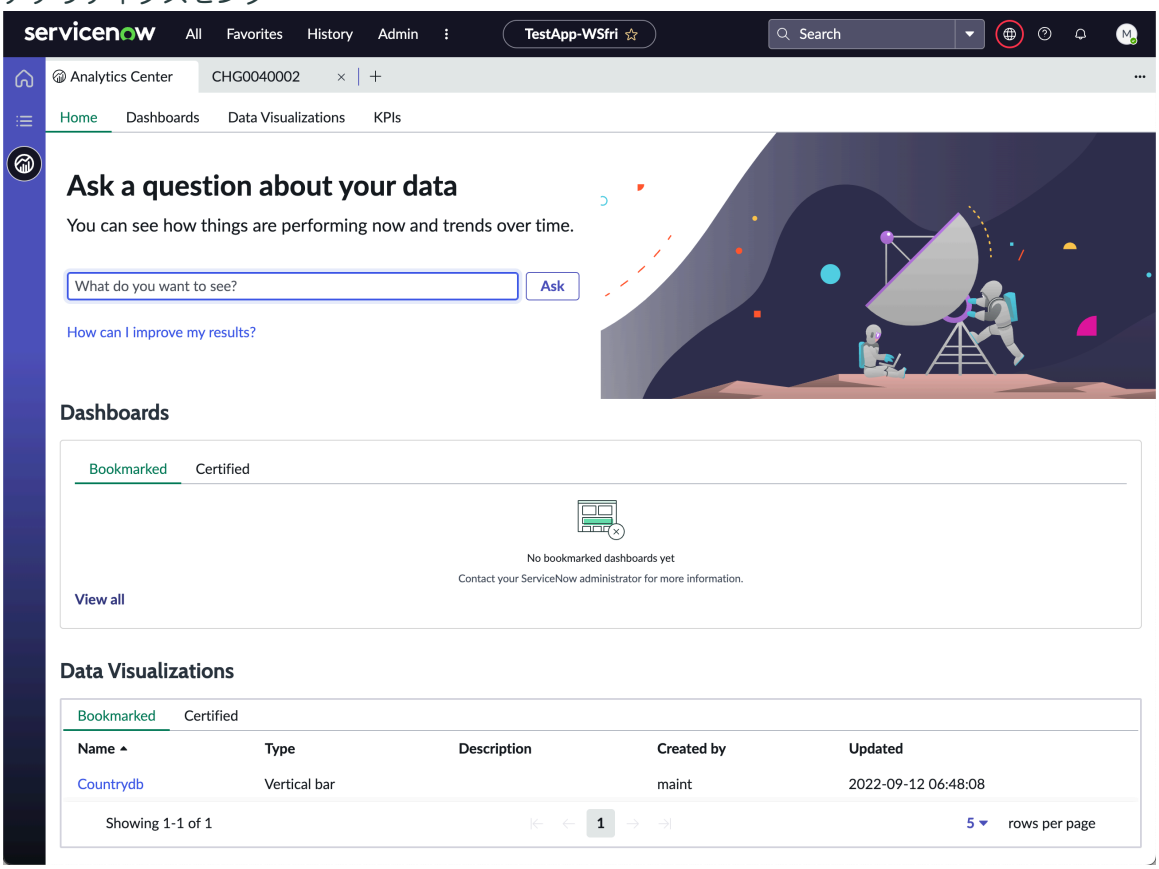
ダッシュボードの概要

インスタンス上のアクセスが許可されている各ダッシュボードのタイルのセットです。タイルを選択すると、そのダッシュボードが開きます。

> **注:** ダッシュボードをインラインで作成および編集できます。詳細については、「プラットフォームアナリティクス ダッシュボードの詳細を構成する」を参照してください。

アナリティクスセンター の詳細については、「アナリティクスセンター」を参照してください。

アナリティクスセンター



AES でのワークスペースのビルド

ワークスペースビルダー for App Engine は、App Engine Studio (AES) 内から迅速かつ効率的にカスタムワークスペースを作成できる、簡素化されたノーコード環境です。

ワークスペースビルダー を使用することで、Xanadu 以降でビルドされたワークスペースのワークスペースをすばやく作成できます。ワークスペースビルダー を使用すると、ワークスペースのホームページ、リストページ、レコードページのコンテキストサイドパネルを ワークスペースビルダー プ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レビューキャンバスで直接編集できます。Xanadu より前に作成されたワークスペースの場合、またはより堅牢な機能と構成が必要な場合は、AES 内のタブから UI ビルダー でワークスペースを編集します。

ワークスペースの構成要素

次のページと要素を含めて、ワークスペースをビルドします。

ワークスペースのページと要素

コンポーネント	定義
ホーム	ワークスペースのランディングページ。ダッシュボードが含まれており、ユーザーが最初にワークスペースにアクセスしたときに表示されます。 **注:** ホームページはワークスペースの重要な部分であるため、非表示にしたり削除したりすることはできません。 ホームページの構成の詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースホームページの構成」を参照してください。 ワークスペースの基本設定の詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成」を参照してください。
リスト	指定されたテーブルのレコードリストページ。ユーザーがワークスペース内の個々のレコードを検索する際に役立ちます。 **注:** リストページやルートを削除する場合は、ワークスペースビルダー ではなく UI ビルダー を使用してワークスペースを編集する必要があります。 リストカテゴリを作成し、リストカテゴリごとにフィルター済みリストを追加できます。フィルター済みリストは一意の条件を適用し、レコードのフィルター済みサブセットのみが表示されるようにします。 ワークスペースビルダー でのリストの追加と編集の詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースのリストの構成」を参照してください。
アナリティクス	カスタマイズ可能な アナリティクスセンター を使用すると、ユーザーはインスタンスのダッシュボード、データ可視化、およびインスタンスのインサイトを使用してレコードと使用率を追跡および分析できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースのページと要素 (続く)

コンポーネント	定義
	注: ワークスペースに対するアナリティクスセンターのページやルートが存在しなくても、ワークスペースビルダー は使用できますが、アナリティクスセンター タブがワークスペースに表示されません。 ワークスペースの アナリティクスセンター の有効化の詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースの分析の構成」を参照してください。
レコードページ	ユーザーがタスク、問題、またはインシデントを処理するのに有用な情報を提供するテーブル内のページ。有用な情報には、優先度、ステータス、アクティビティなどを含めることができます。 レイアウトのさまざまなセクションでコンテナとコンポーネントを使用して、レコードページを作成およびカスタマイズします。レコードページに プレイブックエクスペリエンス を追加することもできます。 詳細については、「ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。」を参照してください。

注: ワークスペースを ワークスペースビルダー で編集するには、ホームページとリストが必要です。ホームページとリストが存在しない場合は、UI ビルダー でワークスペースを編集する必要があります。

ワークスペースビルダー のレイアウト

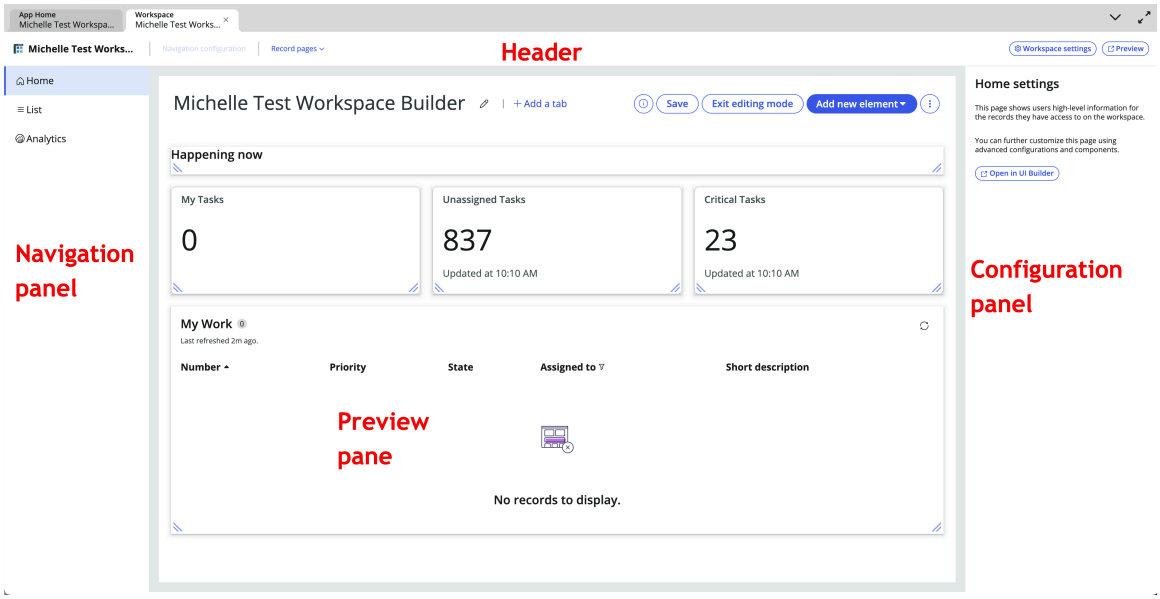
初めて ワークスペースビルダー にアクセスすると、ワークスペースビルダー で実行できる内容の簡単なツアーがオンボーディングモーダルに表示されます。

ワークスペースビルダー は、次のセクションで構成されています。

- ユーザーがワークスペース内で移動できるページを構成するための左側のナビゲーションパネル
- 中央キャンバスのワークスペースのプレビュー
- 選択したワークスペースコンポーネントを構成するための右側の構成パネル
- 新しいブラウザータブでワークスペースをプレビューするオプション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースビルダー レイアウト



ワークスペースビルダー のヘッダーには、タブの真下に次のナビゲーションオプションがあります。そこから次の操作を行うことができます。

- ナビゲーション構成
- レコードページ

ワークスペースビルダー プラグイン

ワークスペースビルダー を使用するには、sn_ws_builder スコープで com.devsnc_sn_workspace_builder プラグインを有効にする必要があります。これは com.snc.aes.starter_workspace_template の依存関係です。

ワークスペースビルダー でのワークスペースの構成

ワークスペースビルダー でワークスペースを編集して、App Engine Studio (AES) をカスタマイズします。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。

ワークスペースビルダーでのワークスペースの構成

始める前に
ワークスペースビルダー でワークスペースを構成する前に、まずワークスペースを作成する必要があります。「ワークスペースの追加」を参照してください。

必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
ワークスペースビルダー では、重要な要素とコンポーネントをカスタマイズできます。より複雑な構成の場合、または AES の完全なエンタイトルメントがない場合は、UI ビルダー でそのワークスペースを編集する必要があります。

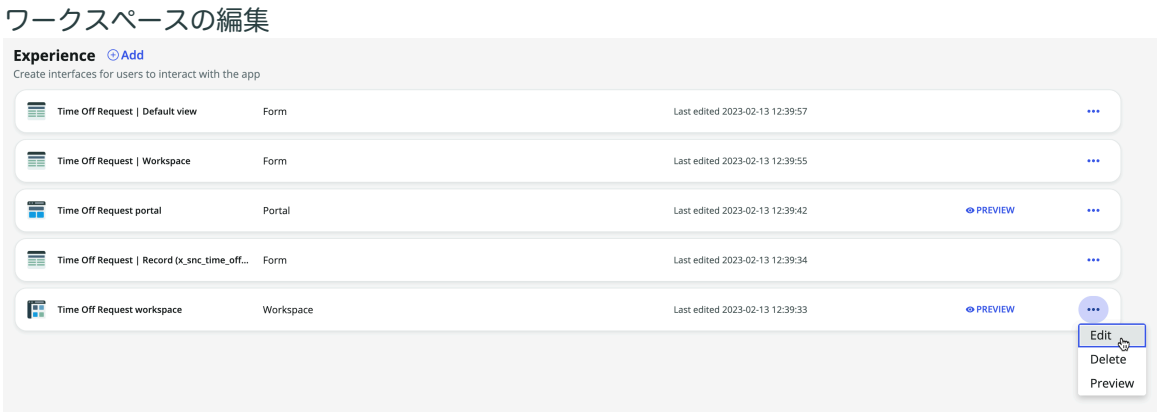
手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

   アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。

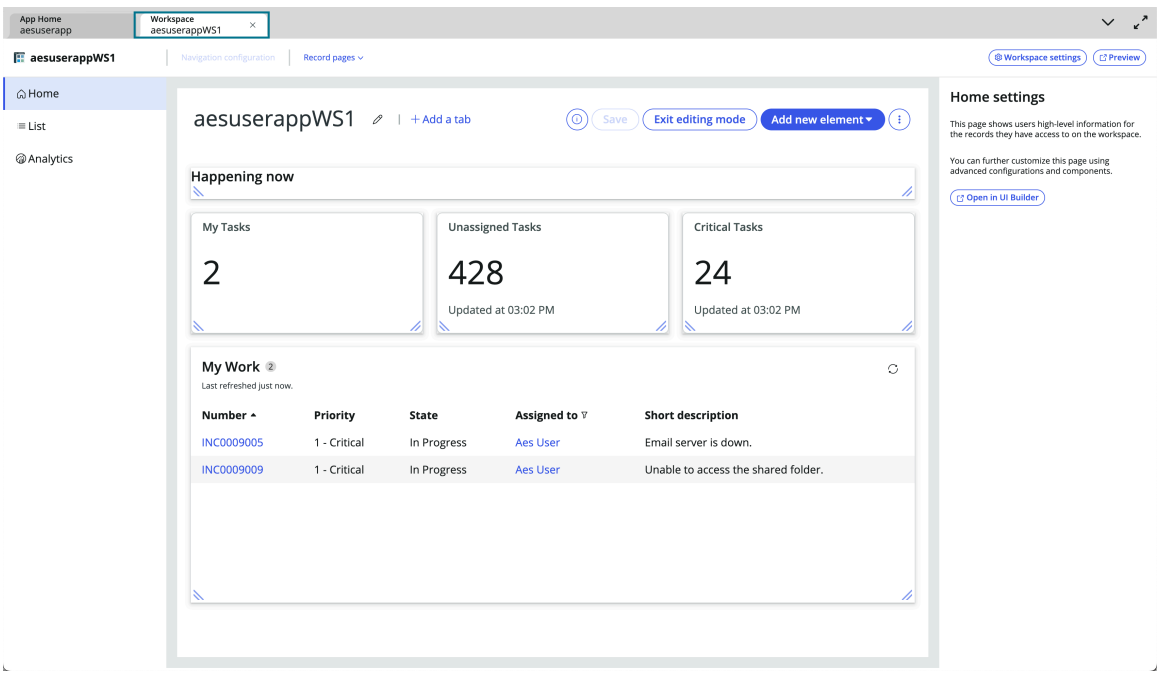


[ワークスペースビルダー] タブには、AES 内のワークスペースが表示されます。

- 左側のナビゲーションパネルは、ワークスペースに含めることができるページ、コンポーネント、またはページの構成要素のリストです。

  > **注:** ホームページはワークスペースの重要な部分であるため、非表示にしたり削除したりすることはできません。

- 中央のキャンバスは、Tokyo 以降の AES で作成されたワークスペースのホームページ用のインライン編集スペースです。リストやその他のページの場合、中央のキャンバスは、右側の構成パネルで構成した内容のプレビューです。Tokyo より前でビルドされたワークスペースのホームページは ワークスペースビルダー でプレビューできますが、UI ビルダー で編集する必要があります。
- 右側の構成パネルは、選択したコンポーネントを操作するための構成パネルです。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テクニカルダッシュボードが含まれるワークスペースを作成した場合、ワークスペースを編集しようとすると、ワークスペースビルダー は **UI** ビルダーで開くように求めます。

4. [ワークスペースの設定] を選択して、ワークスペースの基本設定を編集します。
詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成」を参照してください。
5. サイズ変更、再編成、または再構成して、ホームページの要素とウィジェットを調整します。

   クリック可能なホームページの編集の詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースホームページの構成」を参照してください。

   注: ワークスペースが Tokyo より前に作成された場合は、UI ビルダー で編集する必要があります。詳細については、「UI ビルダー」を参照してください。

6. リストカテゴリと後続のフィルター済みリストを追加または編集します。
詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースのリストの構成」を参照してください。
7. オプション: ワークスペースの アナリティクスセンター をアクティブ化します。
詳細については、「ワークスペースビルダー でのワークスペースの分析の構成」を参照してください。
8. レコードページを追加および編集して、ワークスペースでサポートする必要がある設定、テーブル、および関連リンクを構成します。

   レコードページを作成するとき、レコードのタイプに応じたレコードページテンプレートを使用して、メタデータビュー (シェル) を作成します。次に、テーブルビルダー でレコードページを編集します。ワークスペースビルダー 内では、コンテキストサイドパネルと関連アイテムのみを変更できます。

   詳細については、「ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。」を参照してください。

9. [プレビュー] をクリックして、新しいブラウザータブでワークスペースをプレビューします。

タスクの結果

UI ビルダー のワークスペースに対して、コンテキストサイドパネルやカスタムコンポーネントへのカスタム追加など、より複雑な構成を行った場合、それらの変更が ワークスペースビルダー に表示されないことがあります。

注: ワークスペースを ワークスペースビルダー で編集するには、ホームページとリストが必要です。ホームページとリストが存在しない場合は、UI ビルダー でワークスペースを編集する必要があります。

ワークスペースビルダー でのワークスペース設定の構成

App Engine Studio (AES) でワークスペース設定を定義して、名前やレコードページのナビゲーションなど、ワークスペースの基本機能をコントロールします。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。

このビデオでは、ワークスペースビルダーでワークスペース設定を構成する方法を説明します。

始める前に

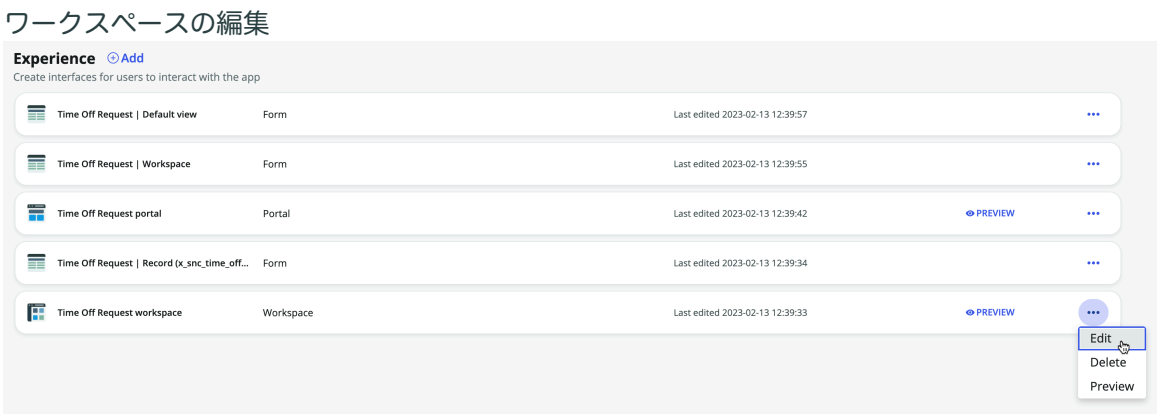
必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

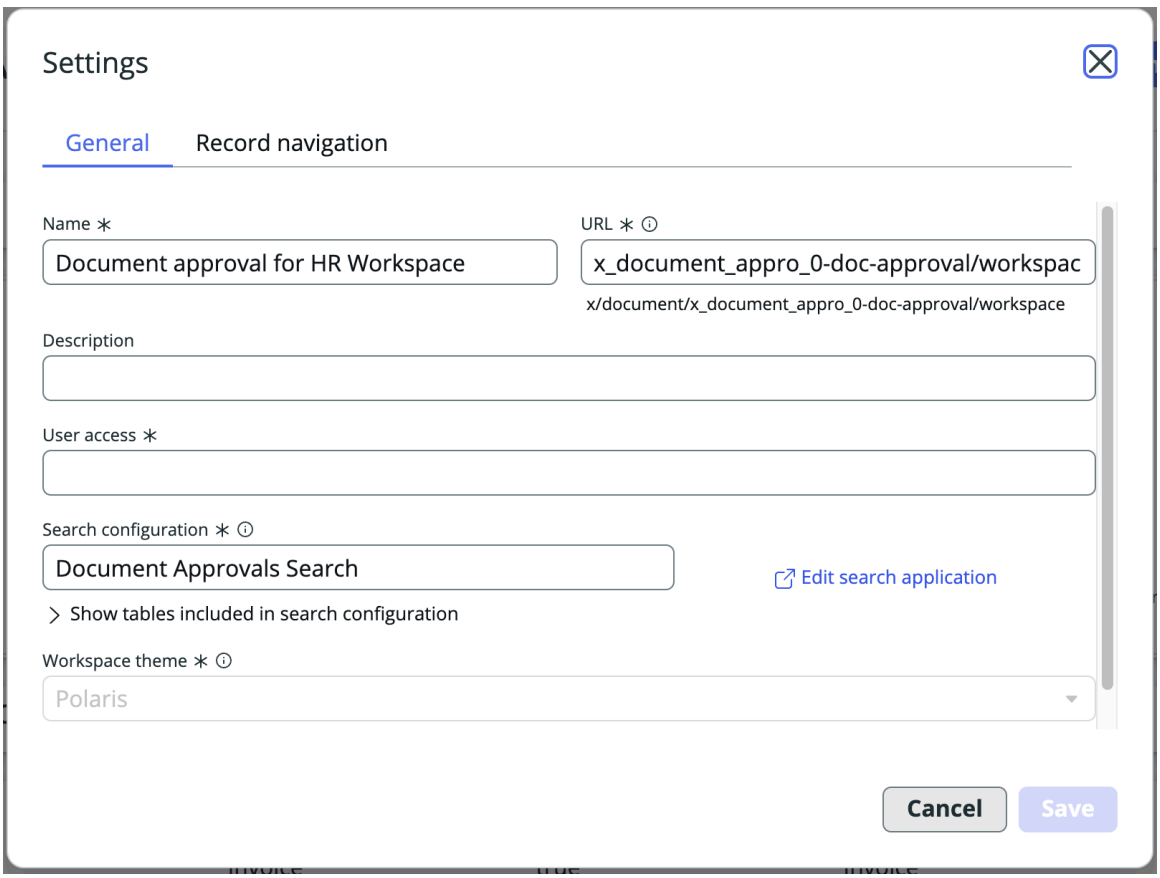
1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

   アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。



   ワークスペースビルダー にワークスペースが表示されます。

4. ワークスペースビルダー ヘッダーの [ワークスペース設定] を選択して、[設定] フォームを表示します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. フォームの [全般] タブで、編集可能なフィールドに入力して、ワークスペースの基本設定を指定または変更します。

   注: 一部の設定はワークスペースの追加時に指定され、変更できません。

   ワークスペースの全般設定

フィールド	説明
名前	ユーザーに表示されるワークスペースの名前。
URL	ワークスペースの相対 URL。パスはワークスペースの名前に基づいて自動的に作成され、先頭にインスタンス URL が付きます。ただし、このフィールドのパスはカスタマイズできます。
説明	ワークスペースの目的の簡単な説明。
ユーザーアクセス	ワークスペースにアクセスできるユーザーとグループ。ワークスペースへの無制限のアクセスを許可するには、このフィールドを空のままにします。
検索構成	ユーザーがワークスペースで検索を実行するときの情報ソース。メニューからプロファイルを選択することで、既存の検索構成を再利用できます。[検索アプリケーションを編集] リンクを選択して、追加の高度な構成変更を行います。 AI 検索 プロファイルを選択すると、次の機能を使用できます。 ◦ 複数のファセット値を同時に選択し、条件ビルダーを使用して適用できる機能。 ◦ ダウンロード可能な、リンクされた添付ファイルを含む親ドキュメントを表示する機能。 ◦ ダークモード。 注: AI 検索 プロファイルを選択するには、インスタンスで AI 検索 を有効にする必要があります。 詳細については、「AI 検索」を参照してください。
検索構成に含まれるテーブルを表示	ワークスペースがソースとして検索する 1 つ以上のテーブルを表示するオプション。
ワークスペースのテーマ (Workspace theme)	ワークスペースの表示スタイルを定義するテーマ。インスタンスで Polaris が有効になっていない場合にのみ選択できます。テーマは、UX テーマ **[sys_ux_theme]** テーブルから取得されます。。

   Trouble?
   一度に 1 つのユーザーアクセスロールのみを追加します。詳細については、このナレッジ記事を参照してください。

6. **[Save** (保存)] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. フォームの [レコードナビゲーション] タブを選択し、フィールドに入力して、ユーザーが作成できるレコードのタイプを指定します。

レコードナビゲーションワークスペースの設定 **(Record navigation workspace settings)**

フィールド	定義
ナビゲーションタイプ	ユーザーがワークスペースを操作または移動する方法です。 [タブ付きナビゲーション] では、ページごとに個別のタブが作成されるため、ユーザーは一度に複数のレコードで作業できます。ユーザーがレコード間をすばやく移動する必要があると予想される場合は、タブを選択します。タブを使用すると、ユーザーはナビゲーションから直接レコードを作成できます。 **注:** AES に組み込まれたワークスペースのデフォルトのナビゲーションタイプはタブを使用しており、ワークスペースの作成後に変更することはできません。ブレッドクラムナビゲーションを指定するには、UI ビルダー にワークスペースを作成する必要があります。ワークスペースの作成後にナビゲーションタイプを変更することはできません。
テーブル	ユーザーがレコードを作成するときに追加されるデータテーブル。選択したテーブルには、リストが自動的に関連付けられます。 **注:** ワークスペースの作成時に指定されたテーブルが自動的に表示されます。[テーブルを追加します] を選択して、追加のテーブルをワークスペースに組み込みます。 テーブルを削除するには、その削除アイコンを選択します ( )。確認メッセージは表示されませんが、[キャンセル] を選択して削除内容を元に戻すことができます。
ラベル	ユーザーが新しいレコードメニューを選択したときに表示されるオプションの簡単なラベル。ユーザーに対してレコードの用途を伝えるラベルを指定します。

8. **[Save** (保存)] を選択します。

ワークスペースビルダー でのワークスペースホームページの構成

App Engine Studio (AES) でワークスペースのホームページを編集します。ワークスペース (ダッシュボード) に初めてアクセスしたときに表示される内容を調整します。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このビデオでは、ワークスペースビルダーでワークスペースホームページを構成する方法を説明します。

始める前に
必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
Tokyo 以降に作成されたワークスペースに対してのみ、ワークスペースビルダー でワークスペースのホームページを編集できます。UI ビルダー で古いワークスペースを編集できます。

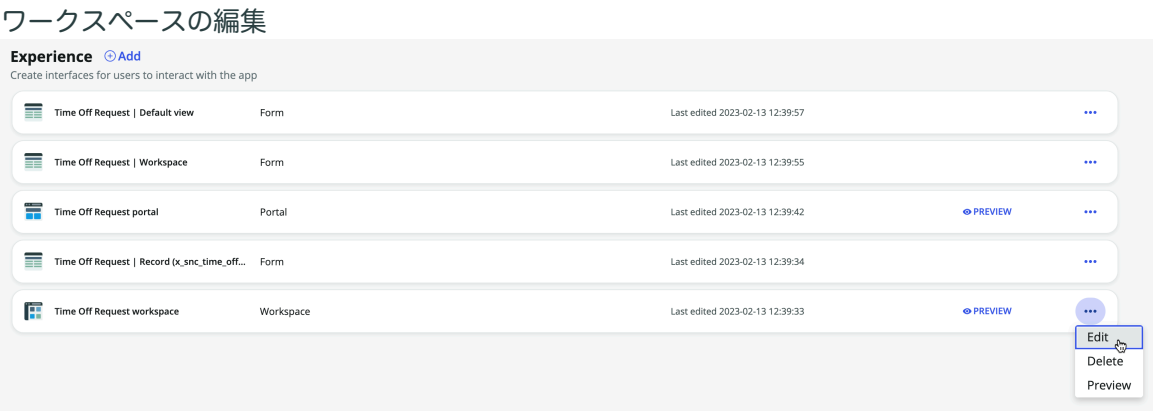
> **注:** ホームページはワークスペースの重要な部分であるため、非表示にしたり削除したりすることはできません。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

   アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。

   ワークスペースの編集

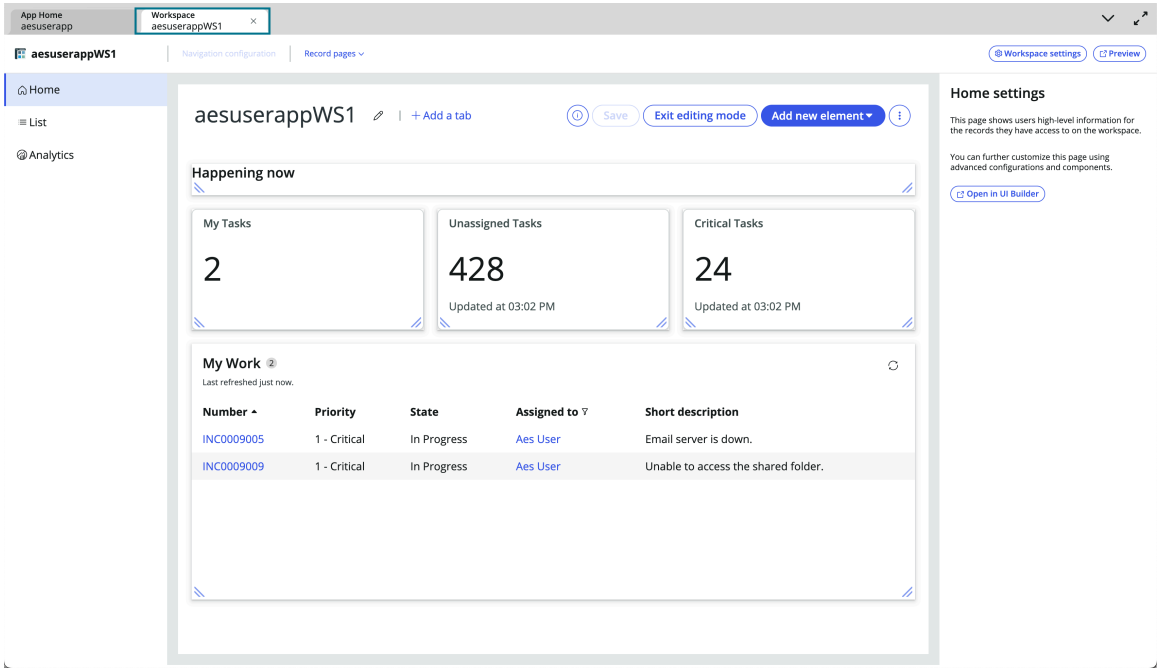
   ワークスペースのホームページが ワークスペースビルダー に表示され、そこで要素やコンポーネントをドラッグしてページを設計できます。

   テクニカルダッシュボードが含まれるワークスペースを作成した場合、ワークスペースを編集しようとすると、ワークスペースビルダー は **UI** ビルダーで開くように求めます。

4. ページに要素を追加します。
   ワークスペースビルダー の [ナビゲーション構成] タブが表示されている必要があります。既に [ナビゲーション構成] タブが表示されている場合は選択できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. ナビゲーションパネルで、[ホーム] を選択します。



b. ホームページのキャンバスで、[新しい要素を追加] を選択します。

c. リストから、追加する要素またはコンポーネントを選択します。

たとえば、指定したテーブルからデータのグラフィックを追加するには、[データの可視化] を選択し、[新規データの可視化] または [保存済みデータの可視化] を選択します。

ワークスペースビルダー のホームページに次の要素を追加できます。

ホームページ要素

要素	説明	詳細情報
データの表示方法	現在のインスタンスデータのグラフィカルでビジュアルな表現。 [ライブラリから可視化を選択] モーダルで選択し、[ダッシュボードに追加] を選択することで、新しいデータの可視化を作成したり、既存のデータ可視化を再利用したりすることができます。 データのビジュアル化に加えて、ライブラリ要素を選択して、既に保存されているデータのビジュアル化をホームページに追加できます。	▪ のデータの可視化 プラットフォームアナリティクス ▪ Visualization Designer (可視化デザイナー) での単一スコアデータの可視化の作成 ▪ 開発者サイトのデータビジュアル化コンポーネントのリスト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要素	説明	詳細情報
フィルター	指定された基準に基づいてダッシュボードのビジュアル化を洗練します。フィルターは、テーブルとインジケーターの両方に適用できます。	▪ のフィルター プラットフォームアナリティクス ▪ 開発者サイトフィルターコンポーネントのリスト
見出し	ホームページまたはセクションの上部のタイトルまたはテキスト。	▪ UI ビルダー の見出しコンポーネント ▪ 開発者サイトの見出しコンポーネントのリスト
画像	ワークスペースの静的な画像やアニメーションの画像、または写真。	▪ UI ビルダー の画像コンポーネント ▪ 開発者サイトの画像コンポーネントのリスト
リスト：簡易	ダッシュボードの対象者用にカスタマイズできるテーブルデータ。	▪ 簡易リスト ウィジェット またはリスト - 簡易な使用法 - 開発者サイト ▪ 開発者サイトリスト - シンプルなコンポーネントのリスト

ホームページの ワークスペースビルダー コンポーネント にはホームページ要素の詳細が含まれています。詳細については、「 プラットフォームアナリティクス のダッシュボードの概要 」を参照してください。

[新しい要素を追加] メニューで利用できない追加の要素を含める場合は、UI ビルダー のワークスペースを編集する必要があります。UI ビルダー に追加できる要素の全リストについては、ServiceNow でコンポーネントのドキュメントを参照してください。

要素がダッシュボードに表示され、そこで編集を行うことができます。

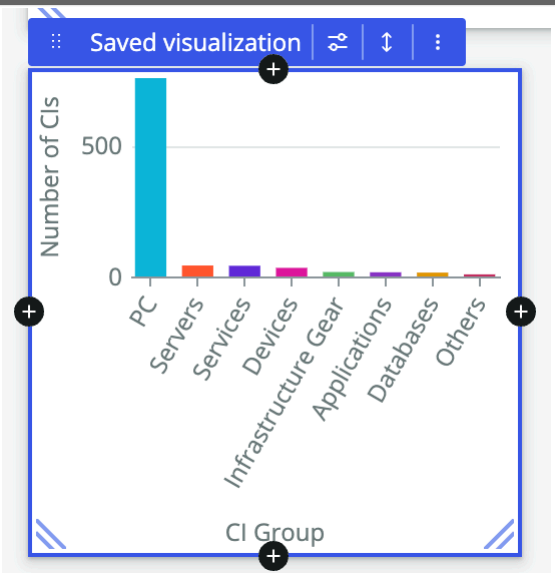
d. 要素をドラッグして、移動またはサイズ変更します。

e. キャンバスヘッダーで、[保存] を選択します。

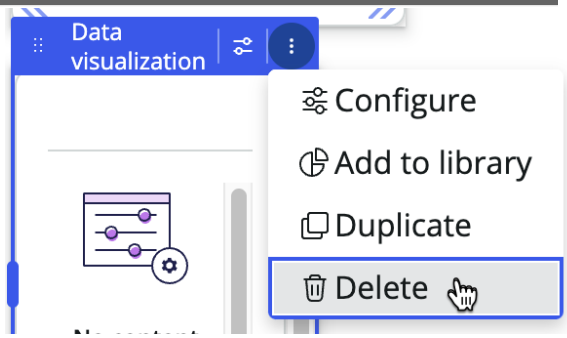
5. オプション: 必要に応じて、要素の追加の変更を行います。

オプション	説明
要素を編集する	**a.** データのビジュアル化など、編集する要素を選択します。 (Optional) 要素タイプの名前とともにヘッダーが表示されます。

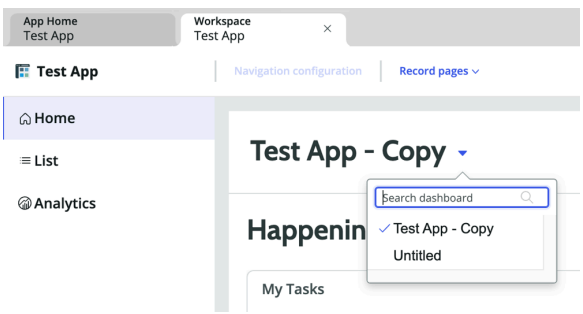
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	 **b.** 要素ヘッダーで設定アイコン ( ) を選択して、キャンバス内の構成パネルを開きます。 注: コンテキストメニューアイコン ( ) を選択し、[構成] を選択して要素を編集することもできます。 **c.** 必要に応じて、構成パネルで要素の構成を編集します。 (Optional) たとえば、データビジュアル化を編集する場合は、ソーステーブルを指定する必要があります。コンポーネントの編集の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。 **d.** キャンバスヘッダーで、[保存] を選択します。
ホームページで再利用する要素をコピーする	コンテキストメニューアイコン ( ) を選択し、[複製] を選択して要素をコピーします。その後、コピーした要素に追加の変更を加えることができます。
再利用のためにライブラリに要素を追加する	コンテキストメニューアイコン ( ) を選択し、[ライブラリに追加] を選択して、ライブラリに要素を追加して他のダッシュボードで再利用します。
ワークスペースのダッシュボードから要素を削除する	**a.** 削除する要素を選択します。 (Optional) 要素タイプの名前とともにヘッダーが表示されます。 **b.** ヘッダーで、コンテキストメニューアイコン ( ) を選択し、[削除] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	 注: 確認メッセージはありません。要素がダッシュボードに表示されなくなります。

6. オプション: 必要に応じて、ダッシュボードの追加の構成変更を行います。

オプション	説明
ダッシュボードのレイアウトを設定する	要素全体を選択してドラッグし、ダッシュボードレイアウト内で動かします。 (Optional) 要素のサイズを変更するには、要素の下隅にあるハンドルバー ( ) を選択してドラッグします。
ダッシュボードを複製	ダッシュボードのコピーを作成するには、次の手順を実行します。 ◦ ダッシュボードの [その他のオプション] アイコン ( ) を選択します。 ◦ [複製] を選択します。 ◦ コピーしたダッシュボードの新しい名前と説明をモーダルに入力します。 ◦ [複製] を選択します。 編集モードを終了し、ダッシュボード名のドロップダウンメニューから新しいダッシュボードを選択して、複製されたダッシュボードにアクセスします。 

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
ワークスペースにタブを追加し、必要に応じて編集する	**a.** [タブを追加] を選択して、ホームページにタブを追加します。 最初のタブをホームページのダッシュボードに追加すると、レイアウトの新しい部分がタイトルの下に表示されます。タブに追加した要素は、ユーザーがどのタブにいるかに関係なく表示されます。 [無題] というラベルの付いたタブが既存のタブの横に追加されます。 **b.** タブ名を選択し、編集アイコン ( ) を選択し、新しい名前を入力して **Enter** キーを押して、タブの名前を変更します。 **c.** タブを選択し、新しい位置にドラッグして、タブを並べ替えます。 **d.** タブの削除アイコン ( ) を選択し、[削除] を選択して、タブを削除します。 **注:** 確認メッセージは表示されません。タブがダッシュボードに表示されなくなります。
ワークスペースのプレビューとインライン編集	インラインエディターを使用してワークスペースをプレビューするときに、基本的な編集を行います。 **a.** ワークスペースビルダー のヘッダーで、[プレビュー] を選択します。 **b.** 新しいブラウザータブに表示されるプレビューで、[編集] を選択します。 **c.** サイズ変更、再編成、または再構成して、ホームページの要素とウィジェットを調整します。 詳細については、「ダッシュボード プラットフォームアナリティクス 編集」を参照してください。 **d.** [新しい要素を追加] を選択して、ワークスペースのホームページにアイテムを追加します。 **e.** [編集モードを終了] を選択して、インラインエディターでの編集を停止します。
ダッシュボードの印刷対応バージョンを開く	ダッシュボードの [その他のオプション] アイコン ( ) を選択し、[印刷対応] を選択して、印刷に適した形式でワークスペースのホームページを表示します。
アナリティクスセンター へのブックマークの追加	ダッシュボードの [その他のオプション] アイコン ( ) を選択し、[ブックマークに追加] を選

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	択して、アナリティクスセンター ブックマーク セクションにワークスペースのブックマークを含めます。
ホームページの追加構成または詳細構成	構成パネルで、**[UI** ビルダーで開く] を選択します。
ダッシュボードの削除	ダッシュボードの [その他のオプション] アイコン ( ) を選択し、[削除] を選択します。確認するには、[削除] を再度選択する必要があります。 **注:** ワークスペースには、少なくとも 1 つのダッシュボードホームページが必要です。

7. ダッシュボードを共有します。

   a. ダッシュボードの [その他のオプション] アイコン ( ) を選択し、[共有] を選択します。

   b. モーダルのフィールドに入力します。

   ダッシュボード共有のオプション

オプション	説明
アクセス権を付与	ダッシュボードにアクセスできるユーザーとグループ。
受信者がこのダッシュボードに関連付けられた共有権限を追加、編集、削除できるようにします	ダッシュボードを共有しているユーザーとグループが、任意のユーザー、グループ、またはロールの共有権限を追加、編集、および削除できるようにするオプション。
閲覧者として追加/エディターとして追加	ダッシュボードの読み取り専用アクセスまたは書き込みアクセスを指定するオプション。
アクセスを管理	ダッシュボードにアクセスできるロール。検索ボックスでロールを検索して選択します。アクセス権を持つロールごとに、アクセスレベルを選択します。 ▪ 編集可能 ▪ 表示可能 ▪ 共有可能
フィルターを含むリンクをコピー	現在適用されているフィルターを使用して、指定されたユーザーとロールのダッシュボード URL をコピーするボタン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
リンクをコピー	フィルターを使用せずに、指定されたユーザーとロールのダッシュボード URL をコピーするボタン。

c. [確認] を選択します。

8. ワークスペースビルダー ヘッダーで、[保存] を選択します。

ホームページの ワークスペースビルダー コンポーネント

いくつかの UI ビルダー コンポーネントを、ワークスペースビルダー でホームページとコンテキストサイドパネルをビルドする要素として使用できます。ワークスペースビルダー を使用すると App Engine Studio (AES) で素早くワークスペースを作成できます。

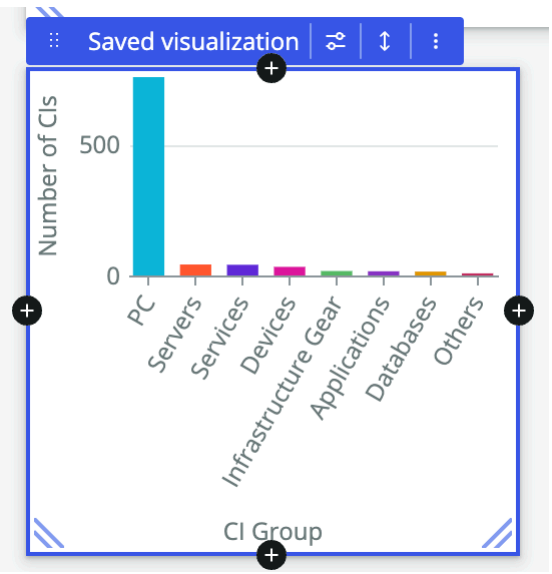
すべての要素とコンポーネントの詳細については、ServiceNow®開発者サイト を参照してください。

データビジュアル化コンポーネント

データ可視化コンポーネントは、ワークスペースビルダー ホームページで利用可能なチャートタイプのコンテナです。アプリケーションに応じてさまざまな方法でデータを表示するチャートタイプを選択します。 [ライブラリから可視化を選択] モーダルで選択し、[ダッシュボードに追加] を選択することで、新しいデータの可視化を作成したり、既存のデータ可視化を再利用したりすることができます。

データ可視化コンポーネントの詳細については、次のトピックとソースを参照してください。

- のデータの可視化 プラットフォームアナリティクス
- Visualization Designer (可視化デザイナー) での単一スコアデータの可視化の作成
- 開発者サイトのデータビジュアル化コンポーネントのリスト



フィルターコンポーネント

フィルターを使用すると、ビジュアル化を変更せずにデータのビジュアル化をフィルタリングできます。キャンバスでホームページを操作するときに、フィルター要素を追加します。次に、テーブル、フィールド、およびその他のプロパティを選択してフィルターを構成します。ユーザーがフィールド

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

の値を 1 つ以上選択すると、同じデータソースに基づくデータビジュアル化にフィルターが適用されます。

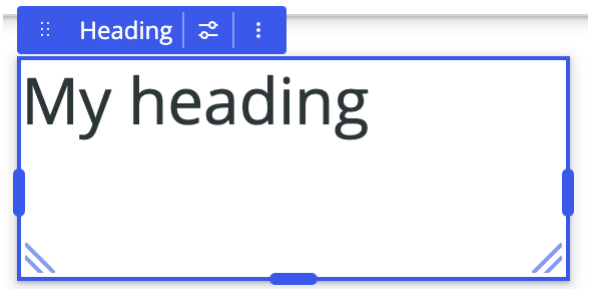
フィルターコンポーネントを使用してワークスペースをビルドする方法の詳細については、次のトピックとソースを参照してください。

- Next Experience フィルター
- 開発者サイトフィルターコンポーネントのリスト

見出しコンポーネント

見出しコンポーネントは、ワークスペースのホームページで使用できます。 見出しコンポーネントを使用してランディングページにタイトルを追加します。

次の画像は、「My Heading」という見出しを示しています。



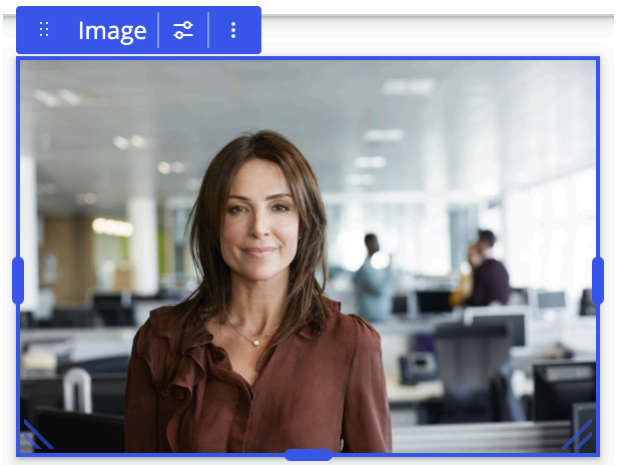
見出しコンポーネントの詳細については、次のトピックとソースを参照してください。

- 開発者サイトの見出しの概要
- UI ビルダー の見出しコンポーネント

画像コンポーネント

画像コンポーネントを使用してランディングページに画像を追加します。

[画像コンポーネント] アイコン ( ) をプレビューペインにドラッグすると、変更やサイズ変更が可能なストック画像が表示されます。画像の URL を指定することで、ストック画像を変更できます。



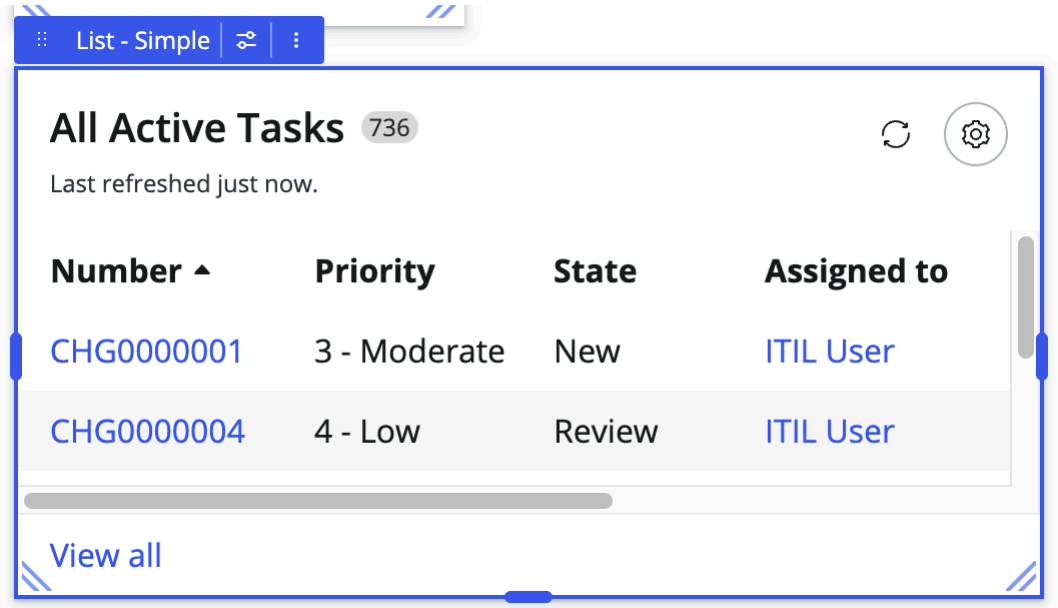
画像コンポーネントの詳細については、「UI ビルダー の画像コンポーネント」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リストコンポーネント

リストコンポーネントを使用して、ランディングページにリストを追加します。

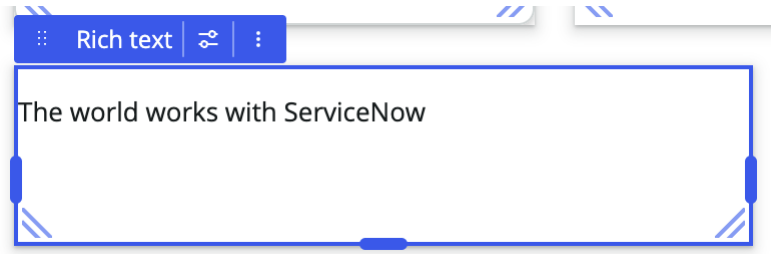
[リストコンポーネント] アイコン (List) をプレビューペインにドラッグすると、サンプルリストが表示されます。



リストコンポーネントの詳細については、「UI ビルダー のリストコンポーネント」を参照してください。

リッチテキストコンポーネント

ランディングページの一部を説明するリッチテキストコンポーネントを使用してランディングページに追加します (たとえば、「これらの優先度 1 のインシデントに対処してください」)。



リッチテキストコンポーネントの詳細については、「UI ビルダー のリッチテキストコンポーネント」を参照してください。

ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。

App Engine Studio (AES) でワークスペースのレコードページを構成します。コンテナとコンポーネントを使用して、エクスペリエンスを通じてユーザーをガイドします。各レコードページは 1 つのデータテーブルにのみリンクされています。

始める前に
必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
コンポーネントはページの構成要素です。コンポーネントをページに追加して、ワークスペースエクスペリエンスをビルドまたはカスタマイズします。たとえば、ユーザーが要求を送信できるボタンコンポーネントをページに追加します。

コンテナは、他のコンポーネントを含めることができるコンポーネントの一種です。コンテナにはレイアウトプロパティが適用されています。ページレイアウトと表示スタイルを変更して、レコードページを独自のエクスペリエンスにします。

注: AES ワークスペース UI テンプレート v22.0.3 リリース以降にビルドされたワークスペースからは、ワークスペースビルダー でレコードページを操作できます。旧式のワークスペースでは、UI ビルダー でレコードページを編集する必要があります。

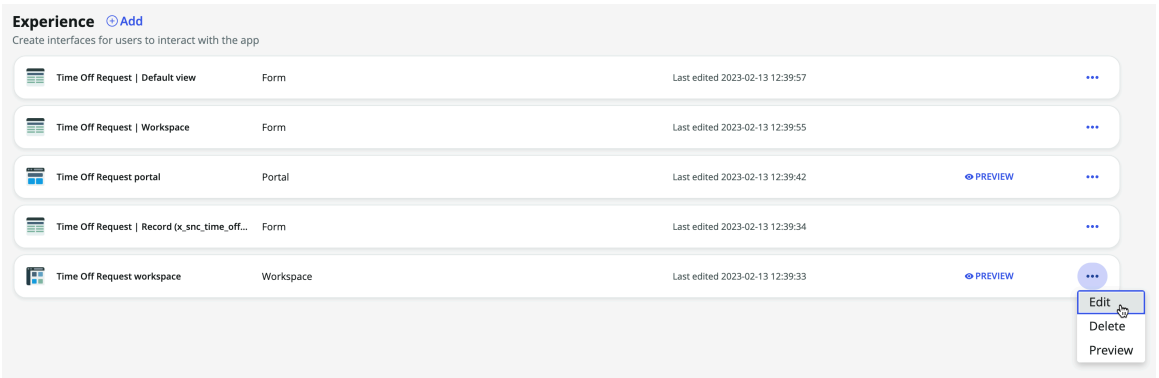
ワークスペース用に構成したテーブルのレコードページが表示されない場合は、このナレッジ記事 で詳細を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

   アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。

   ワークスペースの編集

   ワークスペースビルダー にワークスペースが表示されます。
4. レコードページを作成します。
   AES は、ワークスペースの作成時に選択したテーブルのレコードページを自動的に生成します。

   a. ワークスペースビルダー のヘッダーで、[レコードページ] メニューから [新規作成] を選択します。

   b. フォームのフィールドに入力します。

   レコードページ設定

フィールド	説明
名前	レコードページの目的を識別する簡単な名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

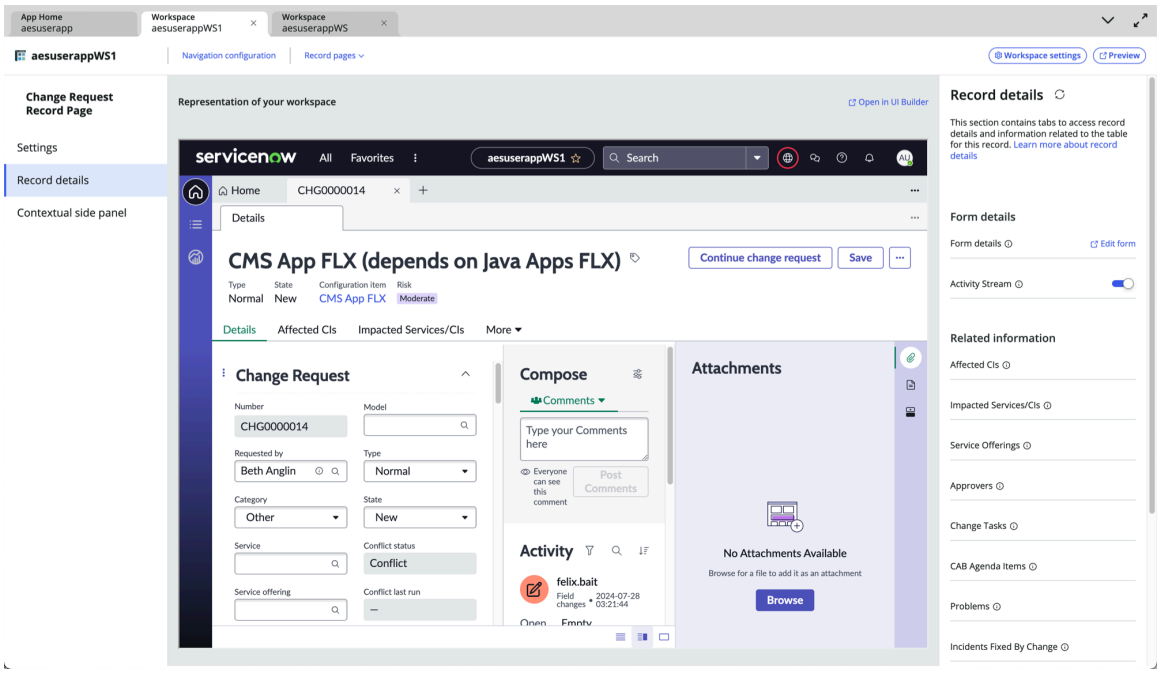
フィールド	説明
テーブル	レコードページがリンクされて更新されるテーブル。 次のルールが適用されます。 ▪ 自分または組織の誰かが作成したテーブルを使用している場合、そのテーブルには少なくとも 1 つの新しいフィールドまたは列が含まれている必要があります。そうでない場合、フォームビューとテーブルのレコードを作成できません。 ▪ 各テーブルは 1 つのレコードページにのみリンクできます。 アプリで既に利用可能なテーブルと、アプリスコープ外のすべてのテーブルの 2 つのセクションから選択できます。

c. [作成] を選択します。

ページが作成され、プレビューパネルに表示されます。[レコードページ] メニューからページを選択できます。

5. レコードページのレコードの詳細を編集します。

a. ナビゲーションパネルで、[レコード詳細] を選択します。



b. 表示される構成パネルの [フォームの詳細] セクションで、フォームに入力します。

レコードページのフォームの詳細

フィールド	説明
フォームの詳細	AES 内の テーブルビルダー タブでフォームを編集するためのリンク。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	AES は、フォームの選択されたビューに対して、テーブルビルダー でフォームビルダーを自動的に開きます。 **注:** レコードページの テーブルビルダー タブを終了すると、このページをリロードすることを求めるダイアログが表示されます。 レコードページのフォームの編集の詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。
アクティビティストリーム	レコードページの アクティビティストリーム を有効にするオプション。 アクティビティストリーム を使用すると、ワークスペースユーザーは要求者とやり取りして、レコードに対して行われた作業に関する内部メモを記録できます。アクティビティストリーム の詳細については、「アクティビティストリーム」を参照してください。

6. レコードページの構成パネルの関連情報セクションで、関連情報を設定します。
   関連情報には、[子インシデント] などのタブとして表示される、レコードに関連するテーブルが含まれます。関連情報の構成の詳細については、「関連リスト」を参照してください。

   注: レコードページに関連情報のテーブルを作成することはできません。テーブルは Now Platform に存在する必要があります。

   a. 関連リストがまだ存在しない場合は、[関連情報] セクションで [タブを追加] を選択して、新しい関連リストを追加します。
   レコードページに関連リストが存在する場合は、構成パネルの [関連情報を管理] リンクを選択します。

   b. AES 内の新しいタブに表示されるフォームで、タブとして表示する関連リストを [利用可能] パネルから [選択済み] パネルに移動します。

   c. 矢印ボタンを使用して、選択したリストを表示する順番に移動します。

   d. [保存] を選択し、AES 内の [ワークスペースビルダー] タブに戻ります。

   e. 表示されるダイアログボックスで [このページをリロード] を選択して、行った変更を表示します。

   各関連情報コンポーネントには、選択するとその関連テーブルが表示される情報アイコン (ⓘ) があります。

7. プレイブック を指定することで、ビジネス間のワークフローの可視化と、これらのワークフローを完了するために使用される実行可能なタスクを履行者に提供します。
   プレイブックの詳細については、「バージョン情報 プレイブックエクスペリエンス」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** プレイブックエクスペリエンス プラグインをインストールしておく必要があります。テンプレートを使用してアプリを作成した場合、プレイブックをレコードページに追加することはできません。テンプレートから作成されたワークスペースに プレイブックを追加する方法の詳細については、 このナレッジベース記事 を参照してください。

a. 構成パネルの Playbook セクションで、[プレイブックを追加] を選択します。

b. フォームのフィールドに入力します。

プレイブックの詳細

フィールド	説明
タブ名	プレイブック を含むレコードタブのラベル。
プレイブックエクスペリエンス	レコードに追加する既存の プレイブック。 **注:** テーブルで利用可能なプレイブックからのみ選択できます。

c. [追加] を選択します。

d. 設定アイコン ( ) を選択し、変更を行ってから、[更新] を選択して、プレイブックを更新します。

> **注:** プレイブック にさらに変更を加える場合は、プロセスオートメーションデザイナー で プレイブック を開いて編集する必要があります。

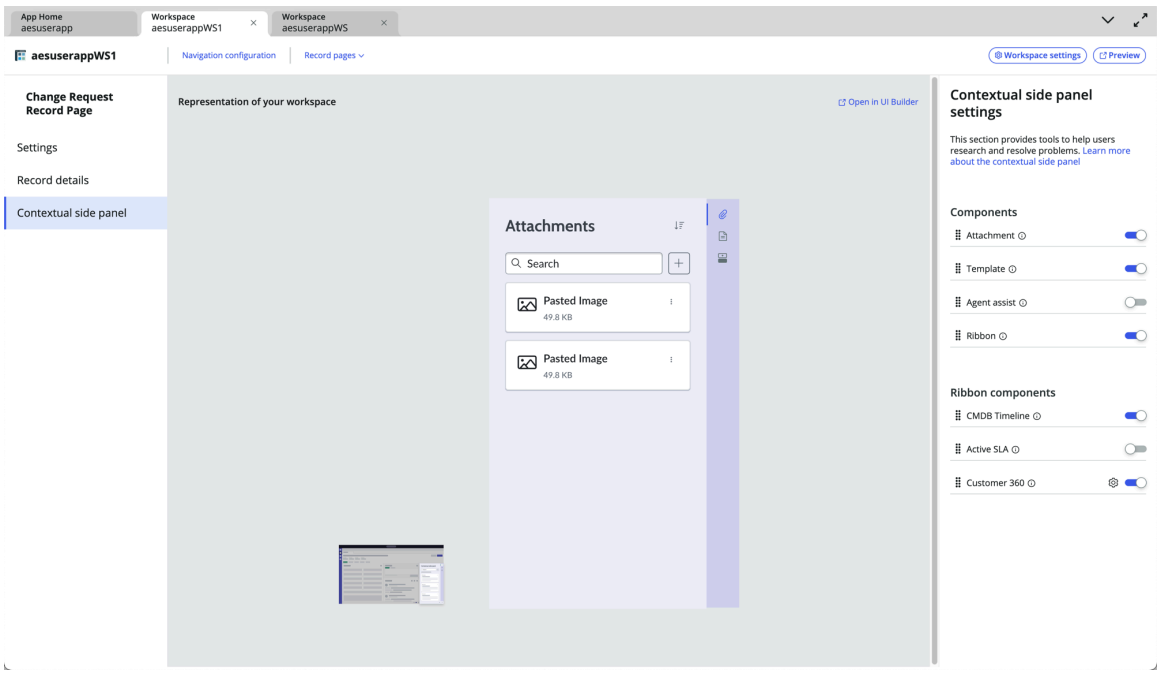
e. Playbook の削除アイコン ( ) を選択し、確認ダイアログで [削除] を選択して、ワークスペースから プレイブックを削除します。

8. レコードページのコンテキストサイドパネルを構成します。このパネルには、ページの右側に表示されるツールのアイコンが含まれています。
コンテキストサイドパネルには、エージェントがさまざまな Now Platform ツールを使用して問題を調査および解決できるようにするためのアイコンがあります。組織が UI ビルダー で右側タブのカスタムコンポーネントを作成した場合は、それらも追加できます。詳細については、「 従来のワークスペース でのコンテキストサイドパネルの設定 」を参照してください。

> **注:** テンプレートを使用してアプリを作成した場合、コンテキストサイドパネルをレコードページに追加することはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. レコードページのナビゲーションパネルで、[コンテキストサイドパネル] を選択します。



b. 構成パネルで、レコードページに表示する各コンポーネントとリボンコンポーネントの切り替えスイッチを選択します。
たとえば、レコードに対して エージェントアシスト と添付ファイルを含めることができます。添付ファイルとテンプレートはデフォルトでアクティブ化されていますが、切り替えオプションの選択を解除することで無効にできます。

ワークスペースビルダー の [コンテキストサイドパネル] では、次のコンポーネントが利用可能です。既存のカスタムコンポーネントを追加するには、UI ビルダー でワークスペースを編集します。

[コンテキストサイドパネル] のコンポーネント

ツール	タイプ	説明	詳細情報
アクティブな SLA	リボン コンポーネント	残り時間、Service License Agreements (SLA) ステータス、違反など、ケースのアクティブな SLA が表示されます。	SLA リボン
エージェントアシスト	コンポーネント	エージェントが開いているレコードに対して考えられる解決策を示す、自動検索結果が表示されます。	エージェントアシスト
添付ファイル	コンポーネント	画像や PDF などの添付ファイルをレコードに追加します。	添付ファイル
構成管理データベース (CMDB) タイムライン	リボン コンポーネント	ステータスの変更や、エージェントと要求者 (通常は顧客) 間のや	タイムラインのリボンコンポーネント

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ツール	タイプ	説明	詳細情報
		り取りなど、ケースのアクティビティの時系列の概要が表示されます。リボンには、履行者と要求者がケースに費やした時間も表示されます。	
Customer 360	リボン コンポーネント	連絡先またはコンシューマーの名前、メールアドレス、電話番号などの顧客情報が表示されます。	Customer 360 リボン コンポーネント
リボン	コンポーネント	エージェントが問題を解決する際に役立つツールを含むコンテキストサイドパネルリボンを表示します。 リボンコンポーネントには、他のコンポーネントを追加できます。	コンテキストサイドパネルでのリボン情報の表示
テンプレート	コンポーネント	レコードフィールドに自動的に入力することで、エージェントが要求者への応答に費やす時間を短縮するのに役立つテンプレートを表示します。	コンテキストサイドパネル内でテンプレートを設定する

選択したツールがレコードページのプレビューキャンバスに表示されます。

c. 構成パネルで、コンポーネントをドラッグして並べ替えます。

d. オプション: 設定アイコン (⚙) を選択して、コンポーネントの追加の構成を完了します。
たとえば、Customer 360 では、コンポーネントがレコードページで機能する前に、追加の設定を指定する必要があります。

ワークスペースビルダー は、コンテキストサイドパネルへの変更を自動的に保存します。

9. 追加の変更と構成を完了します。

オプション	説明
レコードページの名前を更新する	注: ページを作成した後で、レコードページがリンクされているテーブルを変更することはできません。レコードページのテーブルを変更するには、別の新しいレコードページを作成する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	a. [レコードページ] メニューから、編集するページを選択します。 レコードページのプレビューが表示されます。 b. ナビゲーションパネルで、[設定] を選択します。 c. 表示される [レコードページ設定] 構成パネルで、新しいページ名を入力します。 d. [保存] を選択します。
新しいブラウザータブでレコードページをプレビュー	ワークスペースビルダー のヘッダーで、[プレビュー] を選択します。 レコードページがワークスペースに表示されます。テーブルのデータが存在しない場合、AES はテーブルにデータを追加できるページを表示します。
レコードページを削除	a. [レコードページ] リストから、ページを選択します。 b. ナビゲーションパネルで、[設定] を選択します。 c. 構成パネルの下部で、[レコードページを削除] を選択します。 d. 確認ダイアログで、[削除] を選択します。

ワークスペースビルダー でのワークスペースのリストの構成

テーブルレコードをリストするページを追加するには、App Engine Studio (AES) でリストカテゴリを作成します。フィルター条件を追加し、列を変更してリストにバリエーションを作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて

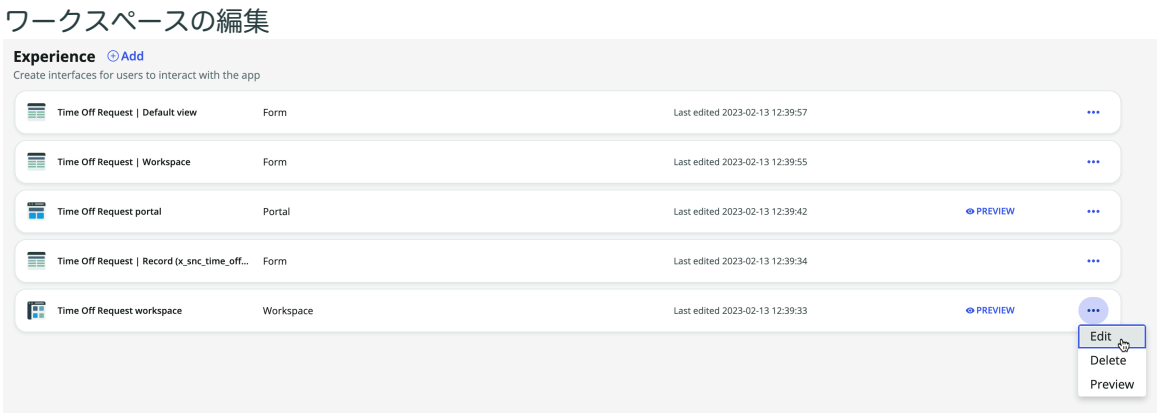
注: リストページやルートを削除する場合は、ワークスペースビルダー ではなく UI ビルダーを使用してワークスペースを編集する必要があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

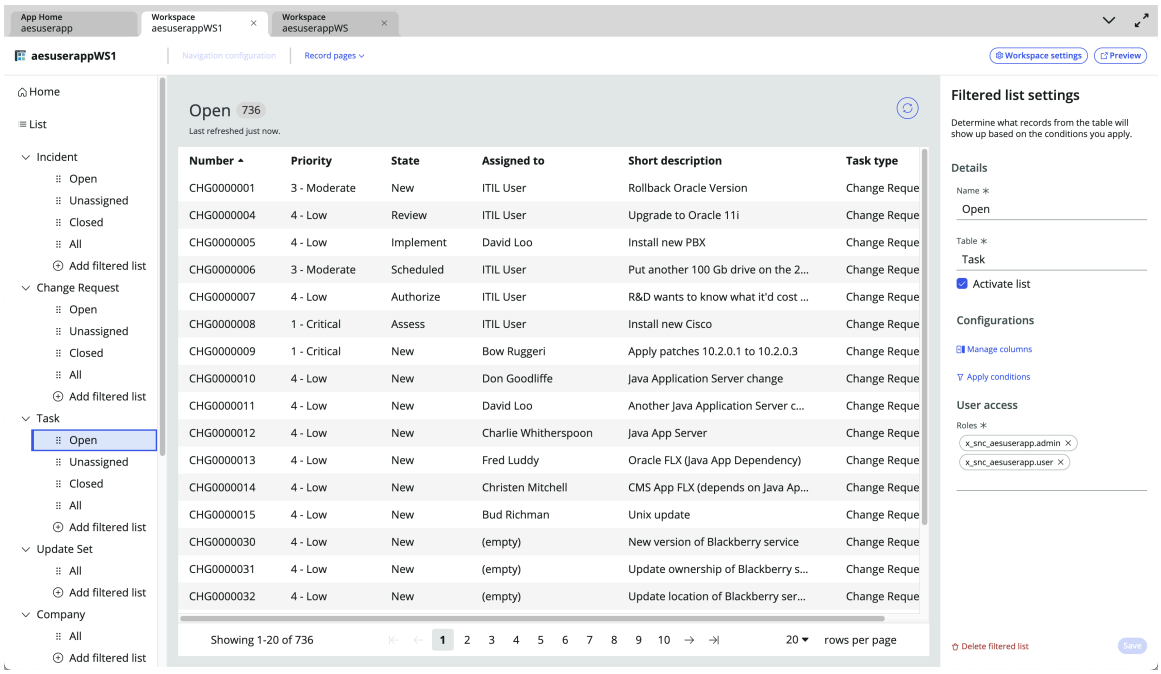
   アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ワークスペースビルダー にワークスペースが表示されます。

4. リストがまだアクティブ化されていない場合は、リストをアクティブ化してワークスペースでアクティブ化します。
   ワークスペースビルダー の [ナビゲーション構成] タブが表示されている必要があります。既に [ナビゲーション構成] タブが表示されている場合は選択できません。
   a. ナビゲーションパネルで、[リスト] を選択します。
   b. 構成パネルで、[リストをアクティブ化] オプションを選択します。



5. リストカテゴリを追加します。
   a. [リスト] セクションのナビゲーションパネルで、[リストカテゴリを追加] を選択します。
      ワークスペースに関連付けられているテーブルがコアテーブルでない場合は、新しいリストカテゴリを追加する必要があります。
   b. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リストカテゴリの設定

フィールド	定義
名前	リストカテゴリを識別するための名前。
説明	開発者が目的を理解するのに役立つ、リストカテゴリのコンテンツの簡単な説明。 注: この説明は、ワークスペースのユーザーには表示されません。

c. [追加] を選択します。

6. オプション: 表示されるオーダーリストのカテゴリを並べ替えるには、新しい位置にドラッグします。
7. フィルター済みリストをリストカテゴリに追加します。
たとえば、タスクテーブルのリストカテゴリで、[オープン]、[未割り当て]、および [クローズ (Closed)] のタスクに対して個別のフィルター済みリストを作成できます。

a. ナビゲーションパネルで、フィルター済みリストを作成するリストカテゴリを展開します。

b. [フィルター済みリストを追加] を選択します。

c. フォームのフィールドに入力します。

フィルター済みリストの設定

フィールド	定義
名前	フィルター済みリストを識別する名前。
テーブル	フィルター済みリストに表示されるレコードのサブセットを含むテーブル。アプリで既に利用可能なテーブルと、アプリスコープ外のすべてのテーブルの 2 つのセクションから選択できます。

d. [追加] を選択します。

プレビューキャンバスには、フィルター済みリストの内容が表示されます。

8. フィルター条件を追加して表示内容を絞り込み、フィルター済みリストの内容を絞り込みます。
フィルター済みリストに追加の構成を行うことができます。

a. ナビゲーションパネルで、変更するフィルター済みリストを選択します。

b. 構成パネルで、追加の設定を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィルター済みリストの追加の設定

フィールド	定義
リストをアクティブ化	ユーザーがフィルター済みリストを操作できるようにするオプション。
列を管理	表示される列を選択して配置するためのオプション。 [列の管理] ダイアログボックスで、列を [利用可能な列] から [選択した列] に移動し、ドラッグして列を並べ替え、[適用] を選択します。 ドット連結することで、関連テーブルのフィールドを選択できます。詳細については、「関連テーブルのデータへのドット連結」を参照してください。
フィルター条件の追加	フィルター条件をリストに追加するためのオプション。表示されるダイアログボックスでは、次の操作を実行できます。 ▪ 事前定義フィルターを適用するには、[既存のフィルターを使用] を選択してフィルターを検索します。 ▪ 既存の条件を表示するには、[フィルターの概要] セクションを展開します。 ▪ フィルター条件を作成するには、条件ビルダーを使用します。条件ビルドの詳細については、「条件ビルダー」を参照してください。 ▪ フィルター結果のソート順を変更するには、[ソート基準] セクションを展開して変更を加えます。 ▪ 作成したフィルター条件を再利用のために保存するには、[フィルターの保存] を選択します。 フィルター条件の作成が完了したら、[フィルターを適用] を選択します。 リストのフィルターの操作の詳細については、「Filters (フィルター)」を参照してください。

c. 構成パネルで、[保存] を選択します。

9. リストの追加アクションを完了します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
リストカテゴリの編集	a. ナビゲーションパネルで、リストカテゴリを選択します。 b. 構成パネルで、[リストカテゴリ設定] を指定します。 c. [保存] を選択します。
ナビゲーションパネルでリストを選択して、フィルター済みリストの表示方法を変更する	a. 構成パネルで、[列の管理] を選択します。 b. 表示されるフォームで、列を [利用可能な列] から [選択した列] に移動し、ドラッグして列を並べ替え、**[OK]** を選択します。 c. キャンバスヘッダーでリフレッシュアイコン ( ) を選択して、キャンバスのプレビューをリフレッシュします。
リストカテゴリを削除	a. ナビゲーションパネルで、リストカテゴリを選択します。 b. 構成パネルで、[リストカテゴリを削除] を選択します。 c. 確認ダイアログで、[削除] を選択します。
フィルター済みリストを削除	a. ナビゲーションパネルで、フィルター済みリストを選択します。 b. 構成パネルで、[フィルター済みリストを削除] を選択します。 c. 確認ダイアログで、[削除] を選択します。

ワークスペースビルダー でのワークスペースの分析の構成

App Engine Studio (AES) でワークスペースの アナリティクスセンター を有効化します。アナリティクスセンター を使用すると、ユーザーはインスタンスのダッシュボード、データ可視化、およびインスタンスのインサイトを使用してレコードと使用率を追跡および分析できます。

始める前に

必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて

ワークスペースに対するアナリティクスセンターのページやルートが存在しなくても、ワークスペースビルダー は使用できますが、アナリティクスセンター タブがワークスペースに表示されません。

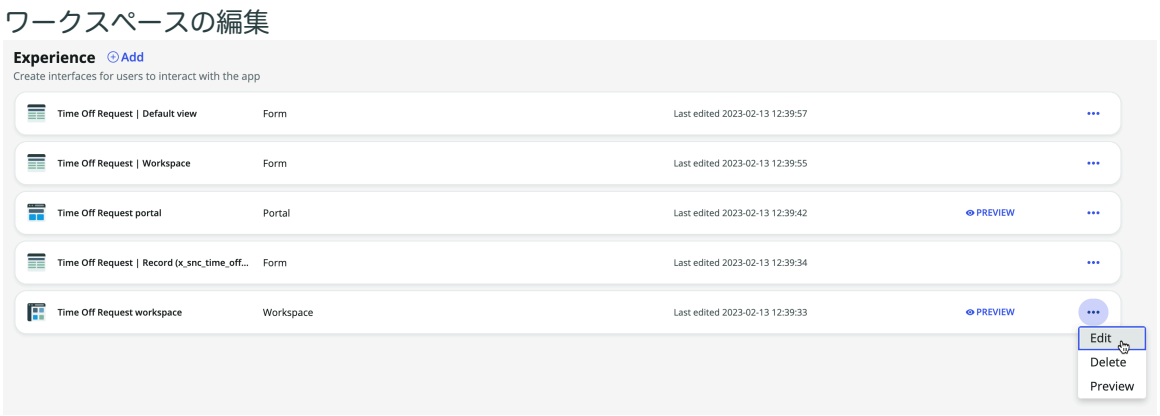
アナリティクスセンター は常に、現在の更新されたコンテンツを表示します。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 作成したワークスペースの横にある [他のアクション] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

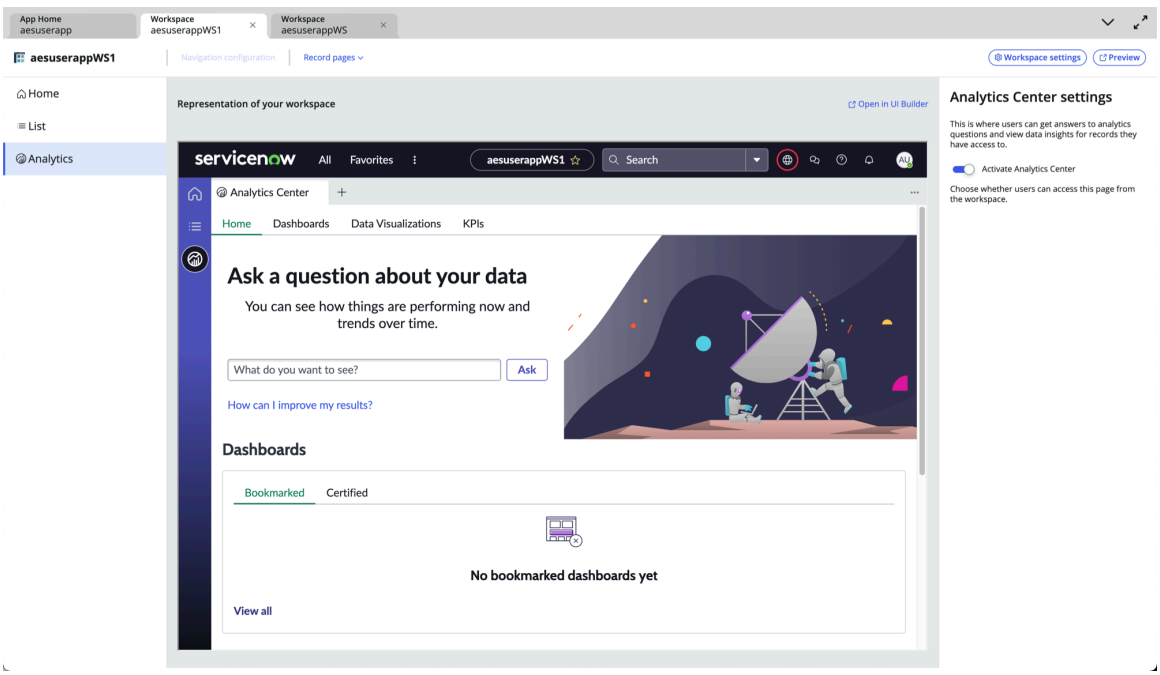
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリの [エクスペリエンス] セクションで、そのワークスペースを一覧表示するバーを選択してもかまいません。



ワークスペースビルダー にワークスペースが表示されます。

4. ナビゲーションパネルで、[分析] を選択します。
ワークスペースビルダー の [ナビゲーション構成] タブが表示されている必要があります。既に [ナビゲーション構成] タブが表示されている場合は選択できません。
アナリティクスセンター のモックアップがプレビューパネルに表示されます。



5. 構成パネルで、[アナリティクスセンターをアクティブ化] 切り替えオプションを選択します。
6. キャンバスヘッダーの **[UI** ビルダーで開く] リンクを選択して、アナリティクスセンター に対して追加の構成更新を行います。

タスクの結果

アナリティクスセンター の操作の詳細については、「のダッシュボード プラットフォームアナリティクス 」を参照してください。

ポータルの追加

App Engine Studio (AES) でポータルを作成して、ユーザーが情報を検索し、要求を作成し、ビジネスタスクを完了できるサイトを提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
ポータルを追加するときは、その基本バージョンを作成します。これを展開できるようにするには、UI ビルダー で編集を続行する必要があります。

注: テンプレートを使用してアプリケーションを作成した場合は、ポータルがすでにアプリケーションに追加されている可能性があります。

ほとんどの会社は最大 3 つのポータルを実装し、そこにカタログを追加します。

手順

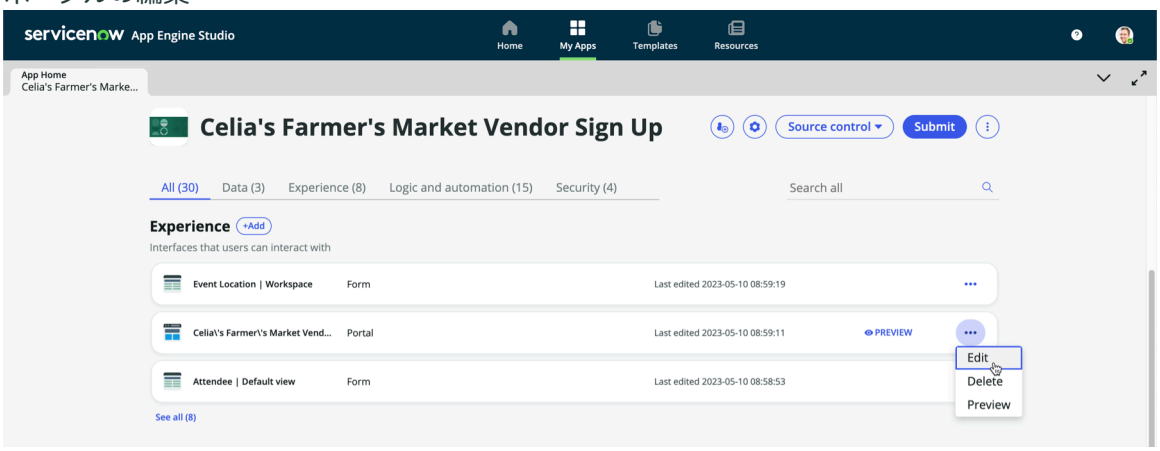
1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[エクスペリエンス] の横にある [追加] を選択します。
4. [ポータル **(Portal)]** を選択し、[開始] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	ポータルの名前。デフォルトでは、ポータルはアプリケーションと同じ名前を共有します。 ヒント: 他のエクスペリエンスからそのポータルを一意に識別できる名前を使用します。たとえば、「`Office art portal` (オフィスのアートポータル)」などです。
説明	ポータルの説明。
URL	ポータルの Web アドレス。デフォルトでは、URL はアプリケーション名に基づきます。
ロール	ポータルにアクセスできるユーザーを限定するユーザーロール。ポータルに対してカスタムロールを使用するには、最初に [セキュリティ **(Security)]** で作成する必要があります。詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。

6. [続行] を選択し、[完了] を選択します。
AES でポータルを作成した後、UI ビルダー で、各ページでコンポーネントを追加または構成してそのポータルを編集する必要があります。
7. 作成したポータルの横にあるメニューアイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポータルの編集



8. UI ビルダー で、各ページでコンポーネントを追加または構成してそのポータルを編集します。必要に応じて、ポータルにさらにページを追加することもできます。

   注: デフォルトのポータルページは読み取り専用であり、編集はできません。各ページのコンテンツを変更するには、ページのバリアントを作成し、そのバリアントを編集します。

次のタスク
UI ビルダー を使用してポータルを編集する方法の詳細については、「UI ビルダー」を参照してください。

ビルドできるサンプルポータル

ポータルは、組織内のユーザーが情報を検索し、要求を送信し、ビジネスタスクを実行できるサイトです。

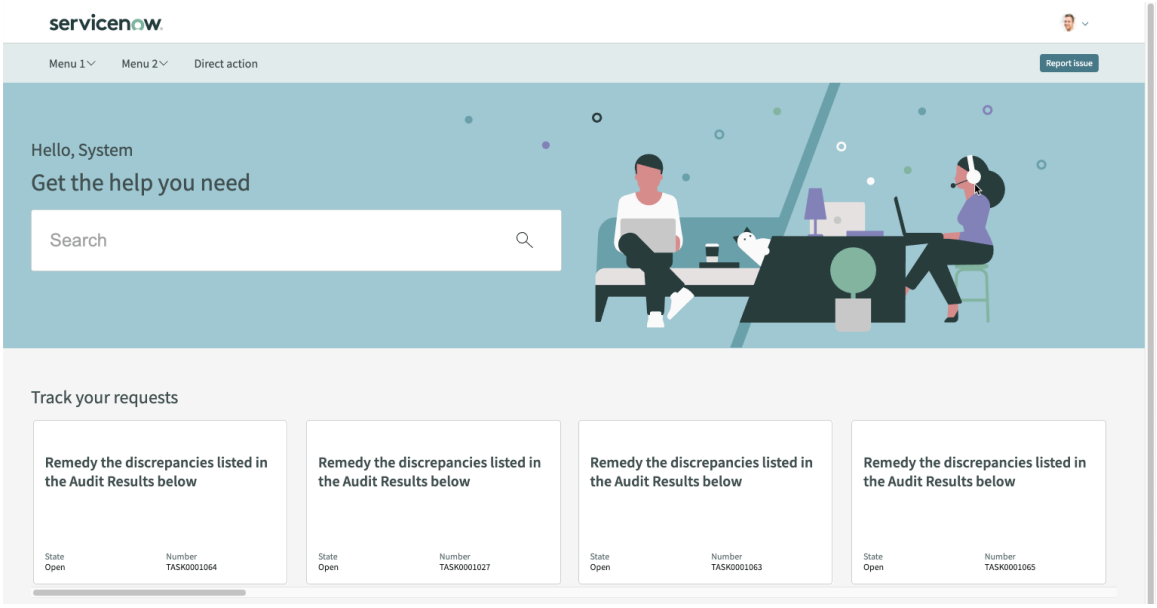
App Engine Studio で作成するポータルには、いくつかのデフォルトページが含まれています。これらのページをそのまま使用することも、ビジネスニーズに合わせて編集することもできます。

- 記事ページ
- カタログアイテムページ
- ランディング ページ
- ログイン
- 注文の成功
- レコードページ (要求)
- レコードページ (タスク)
- 検索ページ
- 設定ページ
- タスク承認済み
- 却下されたタスク

注: サービスポータル とは異なり、App Engine Studio で作成できるポータルは ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク にビルドされます。UI ビルダー でページとコンポーネントを構成して、ポータルを編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ホームページへ。



モバイルエクスペリエンスの追加

モバイルエクスペリエンス (インターフェイス) を追加して、ユーザーが ServiceNow ネイティブモバイルアプリからアプリケーションにアクセスできるようにします。

始める前に

必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて

モバイルエクスペリエンスを追加するときは、そのモバイルアプリの基本バージョンを作成します。これを展開できるようにするには、モバイルアプリビルダー で編集を続行する必要があります。

モバイルアプリビルダー を使用して、AES でビルドしたモバイルアプリ内でワークフローを構成する画面とレコードをビルドして管理します。たとえば、電話アプリでタブとして表示される Web ページやリストを追加できます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[エクスペリエンス] の横にある [追加] を選択します。
4. [モバイル体験] を選択し、[開始] を選択します。
5. エクスペリエンスを追加する場所を選択し、[続行] を選択します。
   - モバイルエージェント
   - Now Mobile
6. フォームのフィールドに入力します。

[ADD EXPERIENCE] フォーム

フィールド	説明
アイコンを追加	この画面の内容を最もよく反映しているアイコン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
エクスペリエンスのラベル	画面の説明。
ロール	画面にアクセスできるロール。複数のロールを指定できますが、[ロール] フィールドへの入力を開始すると表示されるリストから、1 つずつ選択する必要があります。 注: ロールを指定しない場合、すべてのユーザーがモバイルエクスペリエンスにアクセスできます。
オフラインで利用可能	エクスペリエンスをオフラインで利用できるようにするオプション。 注: オフラインエクスペリエンスは モバイルエージェント アプリでのみ利用できます。

7. [続行] を選択します。
8. 追加する画面のタイプを選択し、[続行] を選択します。

画面のタイプのオプション

オプション	説明
リスト	既存のデータテーブルから取得した情報を一覧表示する画面です。これは次のステップで選択します。 注: リスト画面を作成すると、データテーブルのすべての値がモバイルエクスペリエンスに追加されます。
Web ページ	既存の Web ページを表示する画面で、次のステップで URL を指定します。

9. モバイルエクスペリエンスにリストページを追加するには、次の操作を行います。

   a. 画面にリストとして表示されるテーブルを選択します。
   データテーブルを選択すると、そのコンテンツの一部がページに表示されます。

   b. テーブルを条件付きにするには、[このテーブルの条件を設定] を選択し、条件ビルダーを使用してデータを表示するための条件を定義します。

   詳細については、「条件ビルダー」を参照してください。

   c. [続行] を選択します。

   d. テーブルから抽出されたデータの属性を指定し、[続行] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルデータの識別子

フィールド	説明
アイコンを追加	テーブル内のデータを反映しているアイコン。
画面ラベル	リスト画面を説明する簡単なラベル。

10. モバイルエクスペリエンスに Web ページを追加するには、次の操作を行います。

    a. テーブルデータの属性を指定し、[続行] を選択します。

テーブルデータの識別子

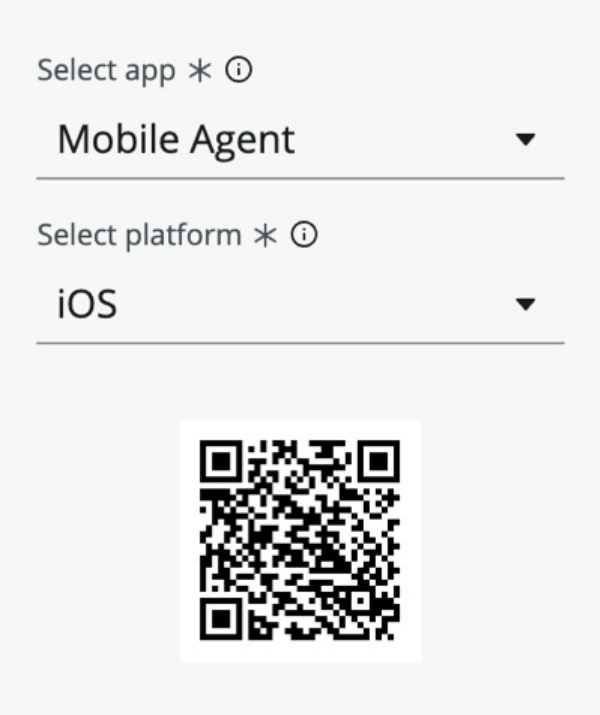
フィールド	説明
アイコンを追加	Web ページを反映するアイコン。
画面ラベル	Web ページを説明する簡単なラベル。
URL	Web ページの絶対 URL または相対 URL。

11. 操作を完了したかどうかに応じて、次のいずれかを実行します。
    - モバイルエクスペリエンスへの画面の追加が完了したら、[画面の追加が完了しました] を選択します。
    - モバイルエクスペリエンスにさらに画面を追加するには、[画面をさらに追加] を選択します。
12. モバイルエクスペリエンスの作成を終了するには、[完了] を選択します。
    AES でモバイルエクスペリエンスを作成した後、モバイルアプリビルダー で編集する必要があります。
13. 作成したモバイルエクスペリエンスの横にあるメニューアイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。
14. モバイルアプリビルダー でモバイルエクスペリエンスを編集します。
    詳細については、「 モバイルアプリビルダー 」を参照してください。

次のタスク

[アプリを選択] フィールドと [プラットフォームを選択] フィールドを使用して、モバイルエクスペリエンスの QR コードをスキャンまたはコピーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



モバイルエクスペリエンスの変更の詳細については、「モバイルアプリビルダー」を参照してください。

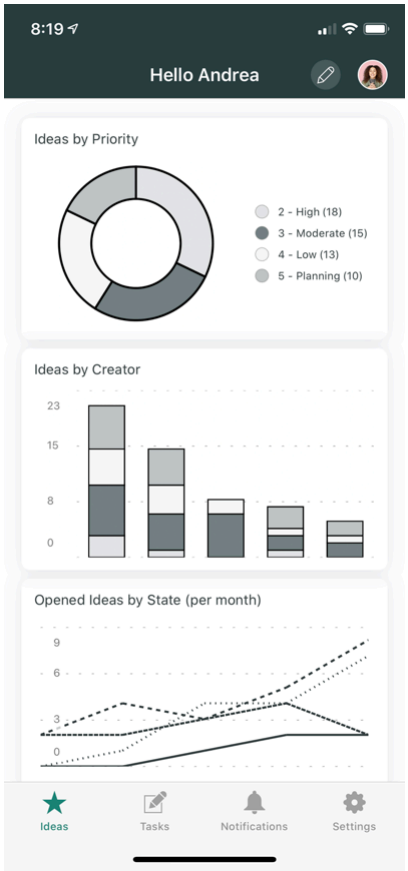
モバイルエクスペリエンスのサンプル

モバイルエクスペリエンスを使用すると、ユーザーは ServiceNow ネイティブモバイルアプリからアプリケーションにアクセスできます。

モバイルエクスペリエンスの例

次に、モバイルエクスペリエンスの例を示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



App Engine Studio でのエクスペリエンスの編集

モバイルアプリやカタログアイテムなどのインターフェイスを App Engine Studio (AES) でビルドすることで、ビジネスニーズに合わせてアプリのエクスペリエンスをカスタマイズします。

ワークスペースの編集：ワークスペースビルダー

ワークスペースビルダー は、AES に組み込まれたカスタムワークスペースをすばやく簡単に構成できる、簡素化されたノーコードツールです。ワークスペースビルダーの使用に関する詳細については、AES でのワークスペースのビルドを参照してください。 より複雑なカスタマイズを行うには、UI ビルダー でワークスペースを編集します。

テーブルビルダー で作成されたフォームの編集

アプリにデータを追加すると、関連するフォームビューがアプリの [エクスペリエンス] セクションに表示されます。フォームを編集するには、[エクスペリエンス] セクションでフォームを選択します。フォームビューは、テーブルビルダー の [フォーム] タブで編集できます。詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。

エクスペリエンスのプレビュー

App Engine Studio (AES) に組み込まれたアプリケーションエクスペリエンスをブラウザーでプレビューして、ユーザーにどのように表示されるかを確認します。

始める前に
アプリケーションにエクスペリエンスを追加します。詳細については、「アプリケーションエクスペリエンスの追加」を参照してください。

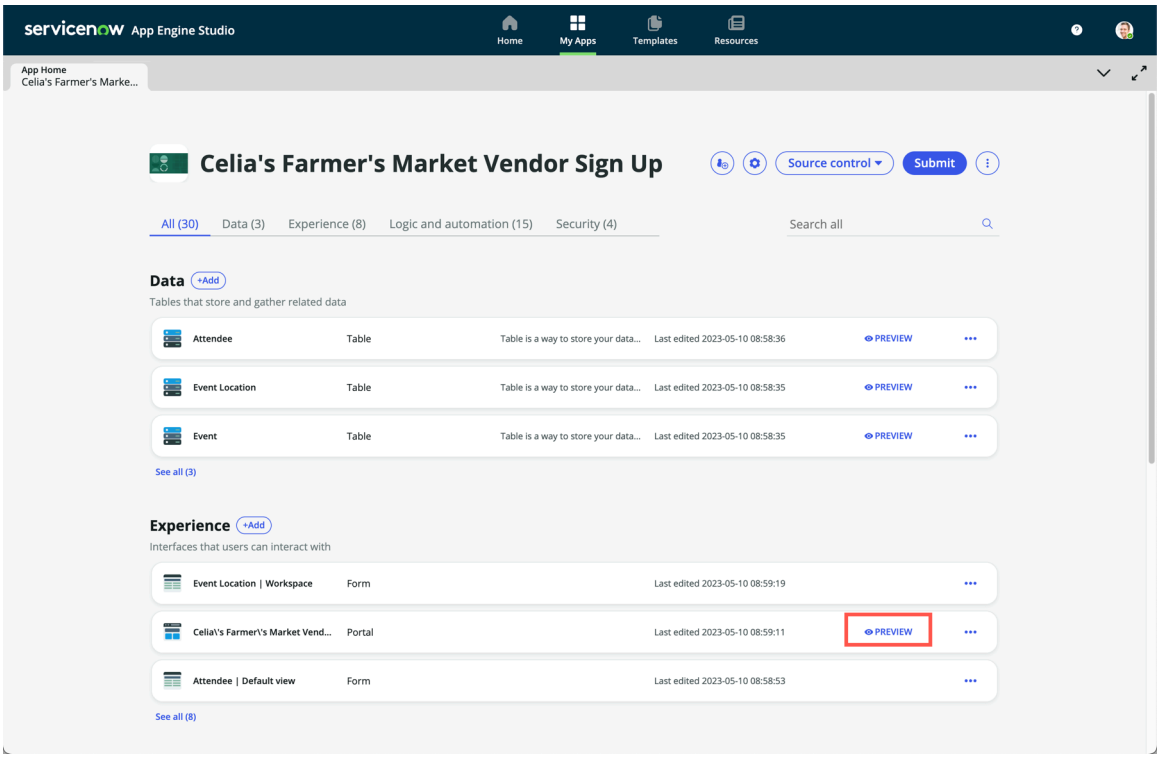
必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. エクスペリエンスの横にある [プレビュー] を選択します。

エクスペリエンスのプレビュー



4. ブラウザータブが開いたら、エクスペリエンスを確認します。

次のタスク
エクスペリエンスの外観や動作が予想と異なる場合は、エクスペリエンスを編集します。

エクスペリエンスの削除

App Engine Studio (AES) 内で不要になったエクスペリエンス (ポータルやレコードプロデューサーフォームなど) を削除します。

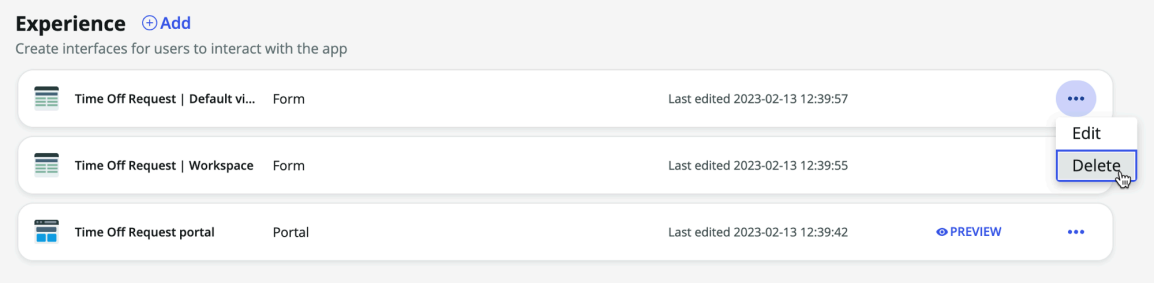
始める前に
必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. エクスペリエンスの横にあるメニューアイコン (•••) を選択し、[削除] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスペリエンスの削除



4. 表示されるダイアログボックスで、「`delete`」と入力し、[削除] を選択します。

ロジックと自動化の追加

App Engine Studio (AES) でアプリにロジックと自動化を追加することで、手動作業を置き換えます。

アプリケーションテンプレートは、自動的にアプリケーションにロジックと自動化を追加します。

自動化のタイプ

自動化	定義	例	参照
決定	既存のレコード、外部データソース、または実行時に提供されるデータからデータを評価する入力など、意思決定ルールを作成することでコードからロジックを切り離す決定です。	注文個数の増加に基づいて、さまざまな製品に対して自動的にカスケード割引を適用します。	• 意思決定の追加 • ワークフロースタジオ でのディシジョンテーブル構造の変更
メール通知	通知は、指定された条件が満たされたときに自動的に送信されるメールです。	新しいサポートレコードが作成されたときに、メールを自動的に送信します。	• メール通知の追加 • メール通知の変更
フロー	フローは一連の再利用可能なアクションで、トリガーイベントによって開始され、アクション間で変数を渡します。	インシデントがクローズされたときに自動的に Twitter の投稿を生成したり、特定のテーブルのレコードが更新または作成されたときにメールを送信したり	• フローを最初から追加 • フローの変更

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化のタイプ (続く)

自動化	定義	例	参照
		します (レコードベースのフロー)。	• Table Builder でのレコードベースのフローの操作 注: この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダーがインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。
プロセス	プロセスは、単一の統一されたプロセスを作成できるようにする企業間ワークフローです。プロセスには複数のフローを含めることができます。	エージェントが VIP ユーザーとのチャットインタラクションを処理する方法を標準化および自動化します。	• プレイブック を作成 • プロセスを編集する

注: ソースコントロールを使用して他の開発者と共同作業している場合、他の開発者はチェックインされた変更のみを使用できます。たとえば、アドミニストレーターが Git にリンクされているアプリの新しいフローを作成した場合、アドミニストレーターがフローを Git にチェックインするまで、他の AES ユーザーは新しいフローをアプリで使用できません。

テンプレートを使用したビルド済みフローの追加

ビルド済みのフローを使用して、App Engine Studio (AES) でビルド中のアプリの手動作業を迅速に自動化します。

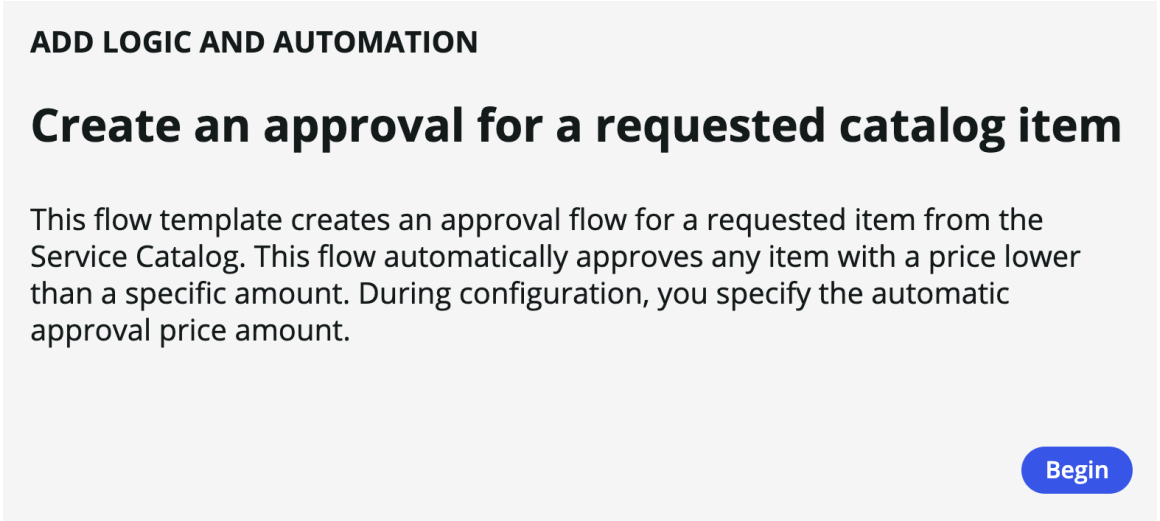
始める前に

必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションの [ロジックと自動化] セクションで [追加] を選択します。
4. [フロー] のカードを選択します。
5. 自動化テンプレートのギャラリーで、テンプレートを選択して [開始] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. 選択したテンプレートのウィザードを完了します。
7. サマリー画面で、[完了] を選択します。

次のタスク
フローを編集して、ビジネスニーズに合わせて調整できます。自動化の操作の詳細については、「フローの変更」を参照してください。

フローを最初から追加

既存の自動化テンプレートがアプリケーションの目的に合致しない場合は、App Engine Studio (AES) で新しいフローをビルドして、カスタム自動化を定義します。

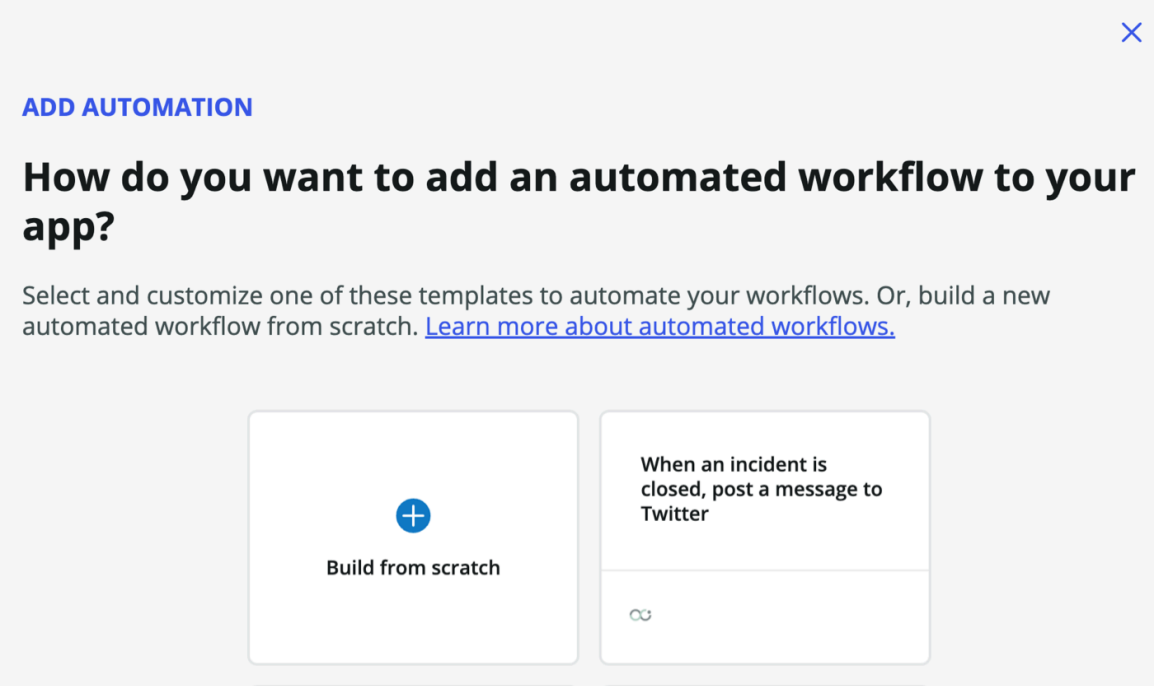
始める前に
必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
ビルド済みのフローがすでに存在する場合は、そのテンプレートをアプリに簡単に追加してカスタマイズできます。詳細については、「テンプレートを使用したビルド済みフローの追加」を参照してください。

手順
1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションの [ロジックと自動化] セクションで [追加] を選択します。
4. [フロー] のカードを選択します。
5. [ゼロからビルドします] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ゼロからビルドします



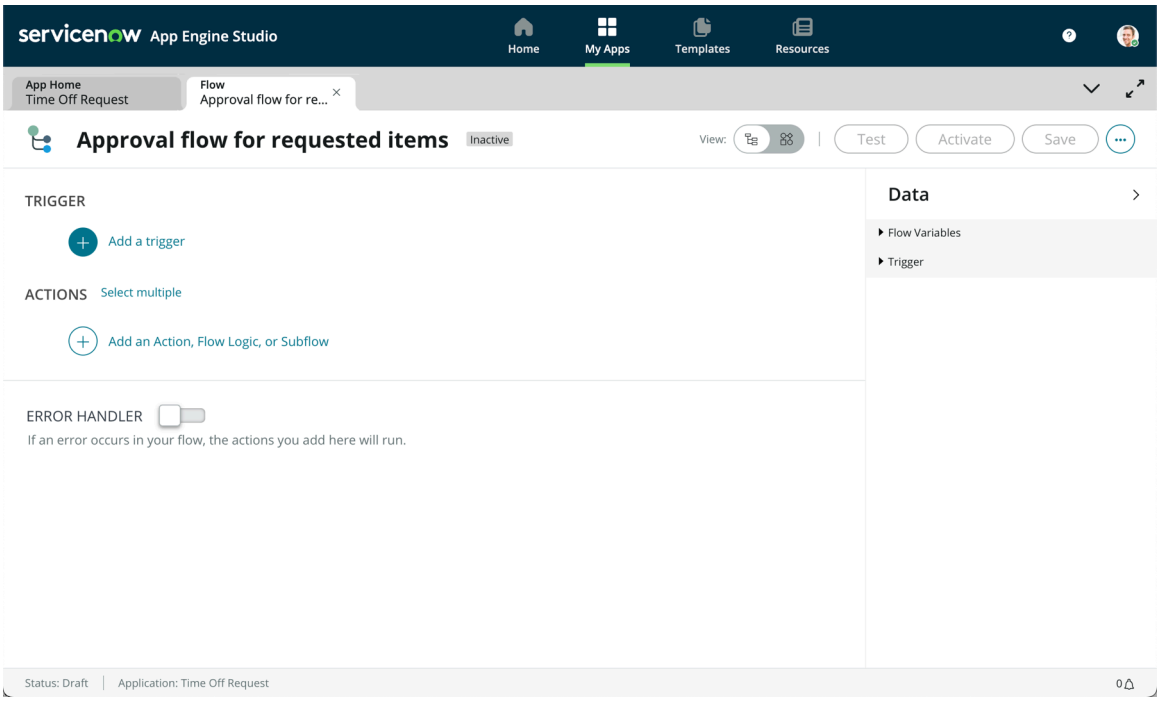
6. フォームでフィールドに入力し、[続行] を選択します。

フィールド	説明
名前	フローを識別する名前です。
説明	フローの説明です。
保護	フローのアクセス設定です。次のいずれかのオプションを選択できます。 -- なし -- 他のユーザーがフローを編集できるようにするオプション。 読み取り専用 他のユーザーがフローを表示できても編集できないようにするオプション。
実行方法	そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定する選択肢です。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、[セッションを開始するユーザー] を選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合です。
ロールを使用して実行	フローを実行するロールです。[実行方法 **(Run as)]** が [セッションを開始するユーザー] に設定されている場合にのみ、このオプションを利用できます。 フローに対してカスタムロールを使用するには、最初に [セキュリティ **(Security)]** で作成する必要があります。詳細については、「アプリケーションセキュリティの追加」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [サマリー (summary)] 画面で、[このフローを編集します] を選択してフローを開きます。

フローデザイナー



フローのビルド方法の例については、「フローデザイナーで最初のフローをビルドする」を参照してください。

8. フローにトリガーを追加します。

   a. [トリガー] セクションで [トリガーを追加] を選択します。

   b. [トリガー] リストから、フローの実行を開始するトリガーを選択します。
   トリガー タイプの詳細については、「 ワークフロースタジオ フロートリガータイプ」を参照してください。
   選択したトリガーのタイプに応じて、一連のフィールドが表示されます。

   c. フィールドに入力してトリガーを設定します。
   たとえば、レコードベースのトリガーの場合、テーブルを選択し、フィールド条件を設定します。この条件が満たされると、フローの実行が開始されます。

   d. [完了] をクリックします。

9. アクション、フロー、サブフロー、またはフローロジックを追加するには、[アクション、フローロジック、またはサブフローを追加] を選択します。

   a. オプションを選択します。

オプション	説明
アクション	目的のアクションを選択します。ワークフロースタジオ には、フローとサブフローで使用可能な ワークフロースタジオ アクション が含まれています。または、action_designer ロールを持つユーザーは、フローに追加する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	アクションを作成できます。 統合ハブ プラグインと スポーク プラグインは、追加のアクションをインストールします。 [その他のアクション] メニューからドラフトアクションを追加するには、[ドラフトアクションを表示] を **true** に設定します。 ServiceNow Store で利用可能なスポークを表示するには、 [その他のアクション] メニューから [ストアスポークを表示] を **true** に設定します。 注: [スポークが未インストール] の下に、ServiceNow のバージョンとの互換性や ワークフロースタジオ のアプリケーションの依存関係に基づいて ServiceNow Store で利用可能なスポークが表示されます。
フローロジック	条件付き操作または繰り返し操作を指定するオプションを選択します。
サブフロー	公開されたサブフローを選択し、入力値を定義します。フローアクションとしてサブフローを追加することに加えて、[その他のアクション] メニューから [トリガーフローを表示] オプションを有効にして、有効になったフローを選択し、必要な入力を定義することができます。トリガーされたフローを実行すると、そのトリガー条件は無視され、すべてのアクションが実行されます。

フロー内のアクションの順序を変更するには、アクションの左側にあるハンドルを目的の場所にドラッグします。

選択したオプションに応じて、一連のフィールドが表示されます。

b. アクション、フローロジック、またはサブフローを設定するには、フィールドに入力します。

c. [完了] を選択します。

d. 完了するまでアクションの追加を繰り返します。

10. アプリでのエラー処理方法を指定するには、[エラーハンドラー **(ERROR HANDLER)]** スイッチをアクティブ化してフィールドに入力します。
フローでのエラー処理方法の構成の詳細については、「フローエラーハンドラー」を参照してください。
11. [保存] を選択します。
Now Platform によって、フロー、トリガー、アクションのドラフトが保存されます。

次のタスク
フローをアクティブ化する準備ができるまで、フローをテストします。フローのテストおよび編集の詳細については、「フローをアクティブ化する」を参照してください。

注: アプリケーションは、アクティブ化されたフローのみをトリガーできます。

フローの変更

App Engine Studio (AES) でビルドしたアプリの既存のフローを更新または変更するには、編集します。

始める前に
必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

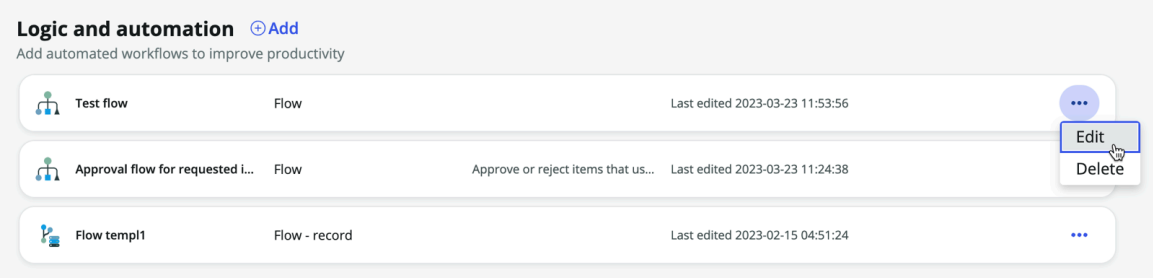
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションにロジックと自動化を追加します。テンプレートを使用してアプリケーションを作成した場合は、ロジックと自動化がすでにアプリケーションに追加されている可能性があります。カスタムロジックと自動化の追加の詳細については、「ロジックと自動化の追加」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. フローの横にあるメニューアイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

フローを編集する



> **注:** データテーブルでのレコードの作成または更新によってフローがトリガーされる場合、そのフローはレコードベースのフローと呼ばれます。レコードベースのフローは、ロジックと自動化のリスト上に個別のアイコン ( ) で表示されます。これらのフローは、App Engine のテーブルビルダー のライセンスがあり、インストールされている場合、テーブルビルダー の [フロー] タブ内で開きます。詳細については、アカウントチームにお問い合わせください。テーブルビルダー のフロー機能の詳細については、「テーブルビルダー のフロー」を参照してください。

4. 該当する操作を実行してフローを編集します。

オプション	説明
フロー名、説明、またはロールを変更する	メインヘッダーで [プロパティ] を選択し、該当するフィールドに適切な値を入力して [更新] を選択します。
トリガーを編集するには	フローでトリガーの説明を選択し、必要に応じてフィールドに入力して [完了] を選択します。 **注:** トリガーを変更すると、参照されているアクション構成が削除される可能性があります。
既存のアクションを編集するには	フローでアクションの説明を選択し、必要に応じてフィールドに入力して [完了] を選択します。
新しいアクションを追加するには	フローで [アクション] セクションのプラスアイコンを選択し、新しいフローにアクションを追加する場合と同じように続行します。

フローの編集の詳細については、「フローを編集する 」を参照してください。

5. 変更を保存するには、[保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
フローをテストして、想定どおりに機能することを確認します。フローのテストの詳細については、「フローをテストする」を参照してください。

意思決定の追加

App Engine Studio (AES) で意思決定の自動化を作成します。自動化は、意思決定ルールを作成および管理できるようにすることで、意思決定ロジックをコードから切り離します。

始める前に
必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションの [ロジックと自動化] セクションで [追加] を選択します。
4. [ロジックと自動化を追加] 画面で、[決定] を選択してから [開始] を選択します。
5. ディシジョンテーブルの名前とスコープを指定します。

ディシジョンテーブルフォーム

フィールド	説明
名前	ディシジョンテーブルの名前。
アクセス可能	ディシジョンテーブルを使用できるスコープ。可能な値： ◦ すべてのアプリケーションスコープ ◦ このアプリケーションスコープのみ

6. [完了] を選択します。

次のタスク
ディシジョンテーブルを作成したら、それを編集して入力とトリガーを指定する必要があります。意思決定テーブルの編集に関する詳細については、「 ワークフロースタジオ でのディシジョンテーブル構造の変更」を参照してください。

AES での意思決定に関する詳細	追加の **ServiceNow** リソース
ServiceNow は、App Engine Studio で意思決定を追加するための追加リソースを提供しています。	ディシジョンビルダー YouTube ビデオを開始する 初めての App Engine Studio アプリケーションのビルド

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AES での意思決定に関する詳細	追加の ServiceNow リソース
	Now Learning App Engine Studio の概要オンデマンドコース

決定の編集

App Engine Studio (AES) でビルドしたアプリの既存の意思決定を更新または変更するには、ワークフロースタジオ で編集します。

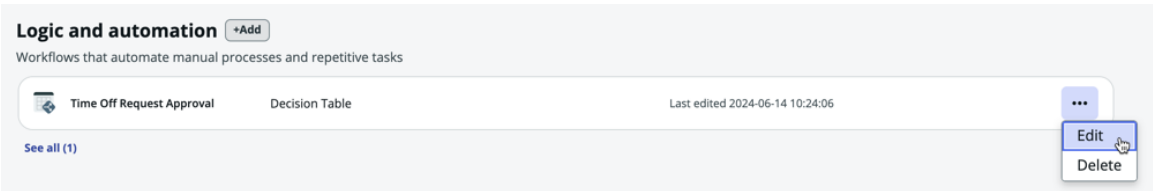
始める前に

アプリケーションにロジックと自動化を追加します。テンプレートを使用してアプリケーションを作成した場合は、ロジックと自動化がすでにアプリケーションに追加されている可能性があります。カスタムロジックと自動化の追加の詳細については、「ロジックと自動化の追加」を参照してください。

必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 意思決定の横にあるメニューアイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。



4. 該当するアクションを実行して、意思決定を編集します。
   意思決定テーブルの編集に関する詳細については、「 ワークフロースタジオ でのディシジョンテーブル構造の変更 」を参照してください。
5. 変更を保存するには、[保存] を選択します。

メール通知の追加

App Engine Studio (AES) の通知の作成は、テンプレートまたはカスタムメッセージを使用してイベントの自動メール通知を作成します。

始める前に

アプリケーションのアドミニストレーターまたは開発者は、このタスクを実行できます。必要な開発者権限は、[すべてのファイルタイプ] です。アプリケーションの開発者であることの詳細については、「Delegated development in App Engine Studio (App Engine Studio の委託開発)」を参照してください。

必要なロール：admin または delegated_developer

このタスクについて

メール通知を使用すると、インシデントの更新や変更要求など、システム内の特定のアクティビティについて、選択したユーザーにメールを送信できるようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 現在、他のタイプ (SMS メッセージなど) の自動通知を作成することはできません。

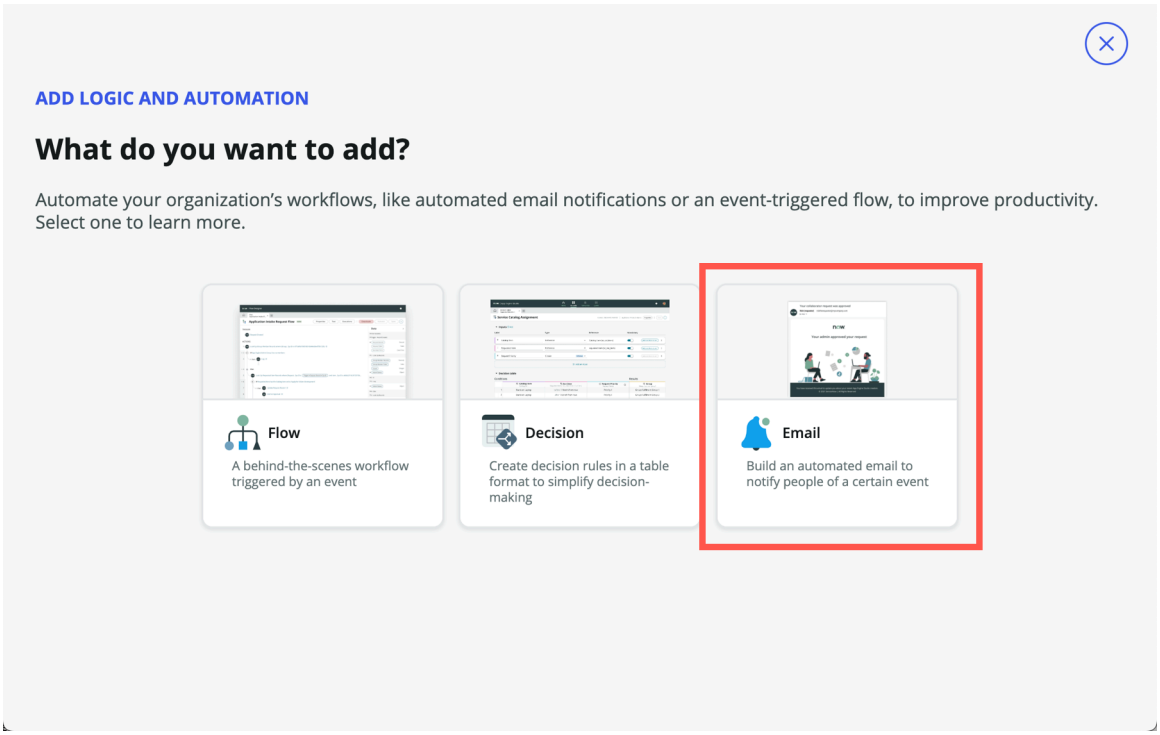
メール通知を作成するときに、送信時期、受信者、内容を指定できます。

アドミニストレーターが Now Platform でメールテンプレートを作成してある場合は、それをそのまま使用することも、内容を上書きすることもできます。メールテンプレートの詳細については、「メールテンプレート」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションの [ロジックと自動化] セクションで [追加] を選択します。
4. [メール] のカードを選択します。

メール通知の追加



5. フォームで、基本設定のフィールドに入力します。

通知フォームの基本設定の追加

フィールド	説明
名前	メール通知の名前。記述的な名前はメール通知の目的を特定するのに役立ちます。たとえば、「`Incident Opened＆Unassigned` (未アサインのオープンインシデント)」などです。
簡単な説明	通知の目的の簡単な説明。

6. フォームの [通知トリガー設定] セクションで、フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通知フォームの [通知トリガー設定] の追加

フィールド	説明
メール通知の送信	通知が送信される状況 (何かが発生した後やテーブルが変更された場合など) です。選択肢は次のとおりです。 ◦ レコードが作成または更新されたとき ◦ レコードが作成された場合のみ ◦ レコードが更新された場合のみ ◦ フローアクションを介してトリガーされたとき ◦ イベントが発生したとき このフィールドは自動的に [レコードが作成または更新されたとき] に設定されます。 フローアクション をトリガーとしてメール通知を作成した後、フローデザイナー でフローを作成するときにその通知を指定します。詳細については、「「通知」ステップ 」を参照してください。
テーブル	通知トリガーのリンク先のレコードをホストするデータベーステーブル。たとえば、インシデント [incident] テーブルです。 [メール通知の送信] フィールドを次のいずれかの値に設定する場合は、テーブルが必要です。 ◦ レコードが作成または更新されたとき ◦ レコードが作成された場合のみ ◦ レコードが更新された場合のみ アプリで既に利用可能なテーブルと、アプリスコープ外のすべてのテーブルの 2 つのセクションから選択できます。
イベント名	通知をトリガーするイベント。このフィールドは、[メール通知の送信] フィールドで [イベントが発生した場合] を選択した場合にのみ表示されます。

同じトリガーが複数の通知を生成する場合、通知は 1 つだけ送信されます。他のすべての通知は、件名と本文が異なる場合でもシステムで重複しているとみなされます。「重複を無視する」のビジネス ルールで、この機能を制御します。

7. 条件ビルダーを使用してトリガーを条件付きにします。

   通知トリガーで満たす必要がある条件セットと値を定義します。詳細については、「条件ビルダー 」を参照してください。

   注: 通知トリガーがフローアクションであることを指定した場合、条件ビルダーは使用できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. フォームの [受信者] セクションで、通知の受信者を指定します。

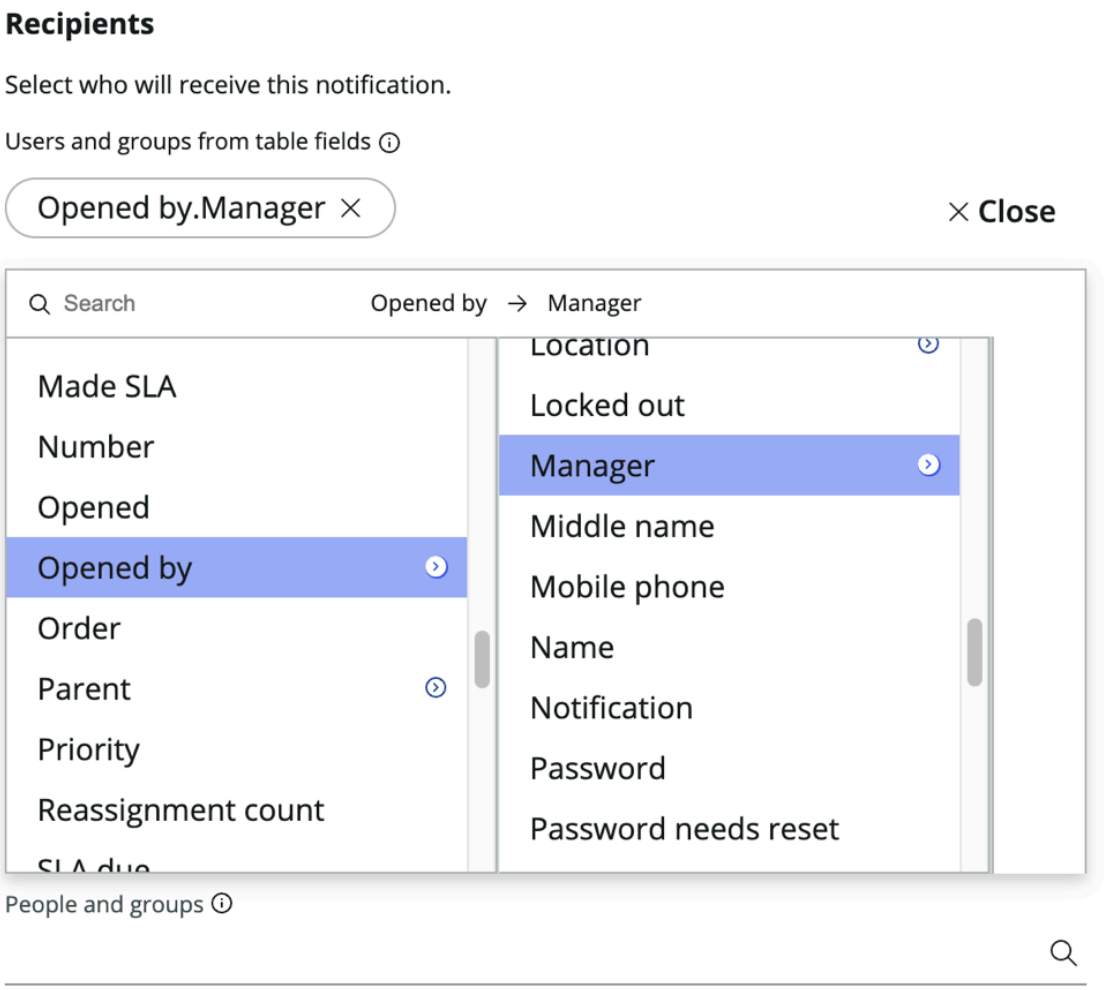
   以下のことを行うことができます。

   - ユーザーとグループの検索。
   - [追加] を選択して動的受信者を定義します。その場合は通知トリガーの詳細でテーブルを指定する必要があります。

   通知フォームの [受信者設定] の追加

フィールド	説明
テーブルフィールドからのユーザーとグループ (Users and groups from table fields)	テーブルに基づいてメールを受信する動的なユーザーとグループ。たとえば、通知でインシデント [incident] テーブルが使用されている場合は、[開始者] フィールドを選択すると、インシデントを開始したユーザーまたはグループに通知を送信できます。一部のフィールドでは、[作成者] > [マネージャー **(Manager)]** などの参照フィールドに含まれる値を選択することもできます。 [追加] ボタンを選択して、指定したテーブルのフィールドに基づいて動的なユーザーとグループを検索します。 **注:** テーブルを指定しない場合、[追加] ボタンは使用できません。
人とグループ (People and groups)	メール通知を受信するユーザーとグループの静的アドレス。ユーザーとグループを検索することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



9. フォームの [メールコンテンツ] セクションで、テンプレートを選択するか、独自のコンテンツを記述します。

通知フォームの [メールコンテンツ設定 **(Email content settings)**] の追加

フィールド	説明
メールテンプレート	既存のコンテンツを適用するために使用できる事前定義されたメールテンプレートで、上書きもできます。次の条件に該当するテンプレートのみを選択できます。 ◦通知と同じテーブル ◦テーブルが指定されていない テンプレートを使用して上書きしない場合、アドミニストレーターがそのテンプレートを更新すると、それを使用したメール通知の内容も自動的に更新されます。
テンプレートを上書き	選択したメールテンプレートの内容を上書きするオプション。 メールテンプレートを使用する場合、そのテンプレートに含まれる画像は、それを上書きする

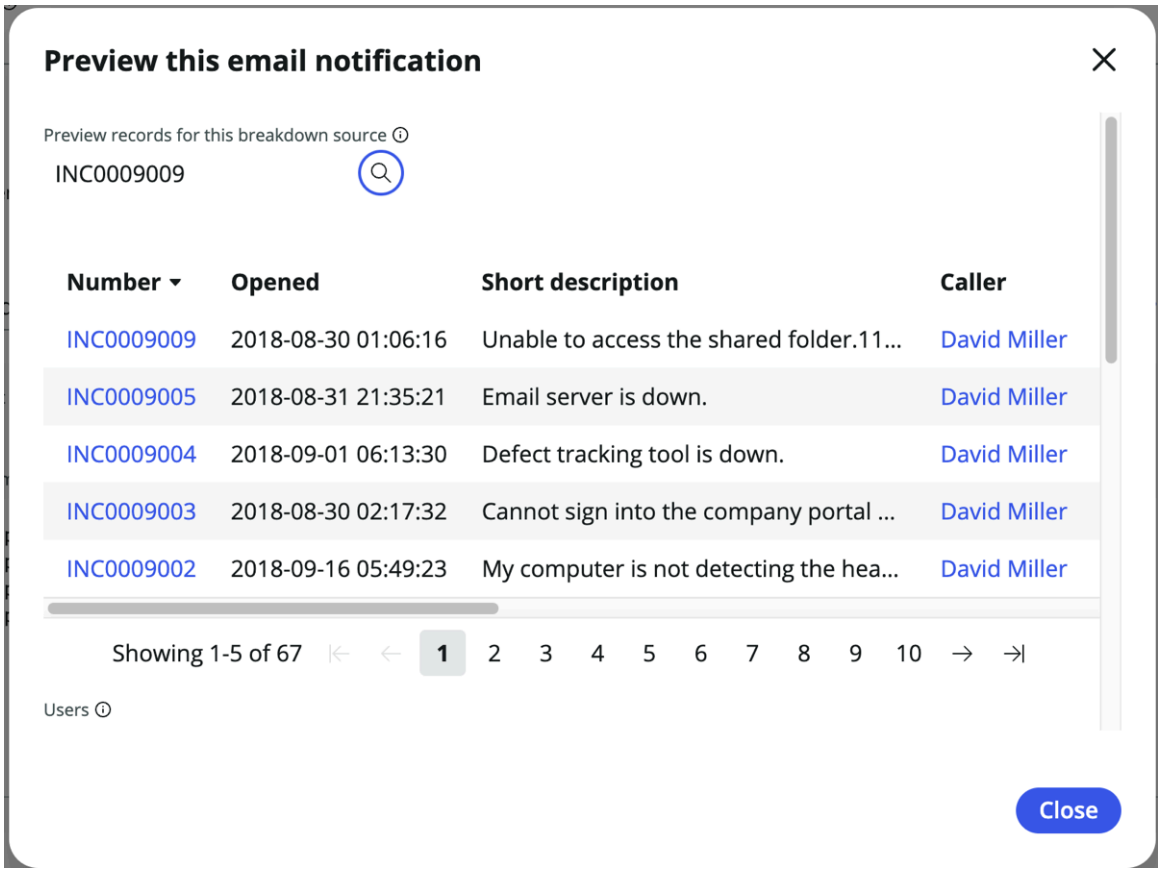
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	かどうかにかかわらず引き続きテンプレートに属します。アドミニストレーターがテンプレートを更新すると、通知に含まれる画像も自動的に更新されます。 メールテンプレートを上書きして選択したテンプレートを変更すると、上書きが削除され、新しいテンプレートのコンテンツに置き換えられます。
件名	メールの件名。 件名を動的にするには、[メールメッセージ] の横にある [メール変数] フィールドを使用してメッセージ本文に変数構文を生成します。次に、変数構文をコピーして件名に貼り付けます。 空の場合は、[メール テンプレート] の [件名] の値が使用されます。このフィールドに値を入力すると、テンプレートが上書きされます。
メールメッセージ	メール通知メッセージの内容で、変数を含めることができます。 リッチテキストエディターのアイコンを使用して、メールメッセージの内容を書式設定できます。 空の場合は、[メール テンプレート] の [メッセージ **(Message)]** の値が使用されます。このフィールドに値を入力すると、入力値でテンプレートの値が上書きされます。
変数を追加	指定されたテーブルのフィールドから派生した動的変数または値。 **注:** [変数を追加] ボタンを表示するには、テーブルを指定する必要があります。 [メール変数] フィールドで変数を選択し、矢印を使用してそれらを [メールメッセージ] に移動します。 変数を使用して、インシデントの短い説明やコメント、作業メモなど、テーブルのレコードの値を含めることができます。変数は、指定されたテーブルの利用可能なフィールドです。

10. [作成] を選択します。
    通知が保存され、プレビューできます。
11. [プレビュー] を選択して、メール通知がどのように表示されるかを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

表示されるプレビューを確認します。通知がどのように表示されるかを確認するには、プレビューで検索アイコンを選択し、プレビューするレコードを選択します。



タスクの結果

AES で通知を作成すると、その通知は現在ビルドしているアプリケーションにのみ保存されます。

メール通知の変更

App Engine Studio (AES) でアプリ用に作成されたメール通知を編集して変更します。たとえば、メール通知を送信するタイミング、受信者、内容を変更します。

始める前に

アプリケーションのアドミニストレーターまたは開発者は、このタスクを実行できます。必要な開発者権限は、[すべてのファイルタイプ] です。アプリケーションの開発者であることの詳細については、「Delegated development in App Engine Studio (App Engine Studio の委託開発)」を参照してください。

必要なロール：admin または delegated_developer

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. 通知の横にあるメニューアイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。
4. 適切なアクションを実行して通知を編集します。
   通知フィールドの操作の詳細については、「メール通知の追加」を参照してください。
5. 使用しているテンプレートを変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [メールテンプレート] フィールドから別のテンプレートを選択します。

メールテンプレートを上書きして選択したテンプレートを変更すると、上書きが削除され、新しいテンプレートのコンテンツに置き換えられます。

b. 表示されるダイアログボックスで [変更テンプレート] を選択して、以前のテンプレートを上書きして行った変更がなくなることを確認します。

6. 変更を保存するには、[保存] を選択します。

プロセスを編集する

App Engine Studio (AES) でビルドしたアプリの既存のプロセスを更新または変更するには、プロセスオートメーションデザイナー で編集します。

始める前に

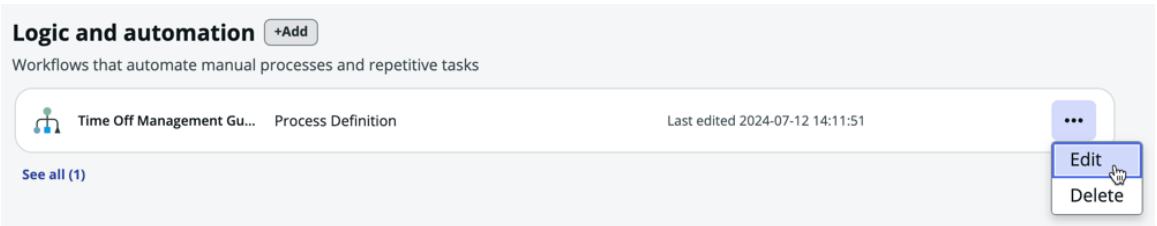
プロセスを編集する前に、プロセスオートメーションデザイナー にプロセスを追加する必要があります。詳細については、「プロセス定義の作成」を参照してください。

App Engine Studio でプロセスを編集できますが、開始するには、App Engine Studio の プロセスオートメーションデザイナー を有効にし、**APP** エンジンのプロセスオートメーションデザイナー **[com.glide.pad.license]** プラグインを有効にする必要があります。 詳細については、「プレイブックをアクティブ化します」を参照してください。

必要なロール：sn_app_eng_studio.user または delegated_developer。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. プロセスの横にある [メニュー] アイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。



4. 該当するアクションを実行して、プロセスを編集します。
5. 変更を保存するには、[保存] を選択します。

次のタスク

プロセスをテストして、想定どおりに機能することを確認します。プロセスのテストの詳細については、「プロセスをテストする」を参照してください。

アプリケーションセキュリティの追加

App Engine Studio (AES) でロールを設定して、アプリケーションの使用または編集を許可するユーザーを制御します。

App Engine Studio、UI ビルダー、カタログビルダーでのセキュリティの追加

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールの操作

ロールを定義することで、アプリケーションにセキュリティを追加します。ロールは、アプリケーションへのアクセスを制限および制御するために使用されます。ロールに対して定義したアクセス権は、そのロールにアサインされるすべてのユーザーに付与されます。

注: アプリのロールを操作する権限がない場合は、[セキュリティ] セクションの [追加] ボタンが表示されますが、選択することはできません。

アドミニストレーターは、ロールが許可する作業の種類に基づいて、適切なユーザーにロールをアサインします。たとえば、マネージャーが従業員の要求を読み取って承認できるようにするには、アドミニストレーターが、関連するテーブルのレコードを読み取って更新するためのアクセス権を持つロールをアサインします。このロールには、マネージャーが要求を表示するポータルまたはワークスペースへのアクセス権も必要です。

アプリケーションテンプレートは、自動的にアプリケーションにセキュリティを追加します。テンプレートを使用してアプリケーションを作成する場合は、追加されたロールを編集したり、さまざまなロールを追加したりすることができます。

AES のロールとセキュリティの詳細	追加の ServiceNow リソース
App Engine Studio には、アプリケーションに使用できるデフォルトのロールが含まれています。 または、アプリケーションのカスタムロールをビルドすることもできます。 ユーザーがアプリケーションを送信した後に、アドミニストレーターが、定義されたロールをアサインすることで要求元のチームをオンボーディングします。	セキュリティとは- ServiceNow 開発者サイト セキュリティとロール - ServiceNow 開発者サイト 特権の昇格 - ServiceNow 開発者サイト

アプリケーションの新しいロールのビルド

App Engine Studio (AES) で、アプリケーションのカスタムロールを作成します。

始める前に

必要なロール：admin、security admin、または delegated_developer ([セキュリティ管理] 権限を含む)

注: アドミンの場合は、必ず自分のロールを昇格してください。

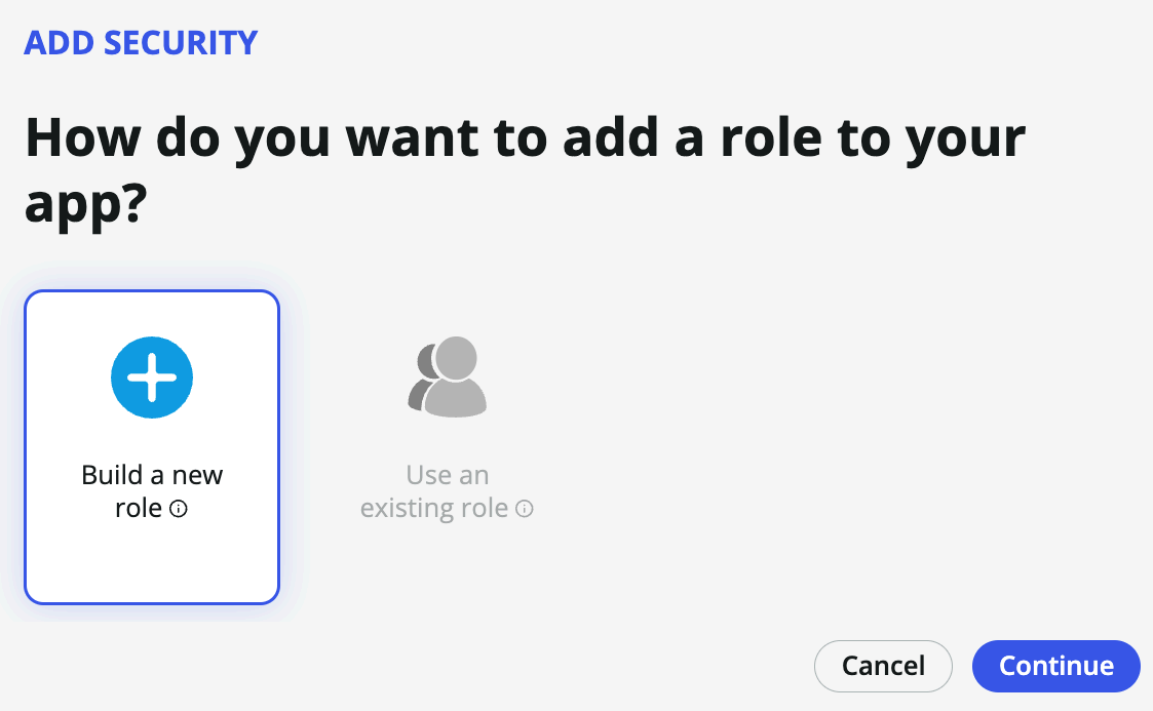
手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. アプリケーションで、[セキュリティ (Security)] の横にある追加アイコン ( ) をクリックします。
4. [新しいロールをビルドします] を選択し、[続行] を選択します。

新しいロールをビルドするオプション



5. ロールの名前と説明を入力し、[続行]を選択します。

ヒント: 既存のロール名との一貫性を保つために、ロール名はすべて小文字でスペースの代わりにアンダースコアを使用してください。たとえば、オフィスのアート要求者ロールの場合は、「`office_art_requester`」と入力します。

6. アプリケーションのテーブルごとに、このロールのアクセス制御を 1 つ以上選択します。

作成
: このロールを持つユーザーは、データテーブルに新しいレコードを作成できます。

読み取り
: このロールを持つユーザーは、テーブルに格納されているデータを読み込むことができます。

書き込み
: このロールを持つユーザーは、テーブルの既存のレコードを更新できます。

削除
: このロールを持つユーザーは、テーブルのレコードを削除できます。

7. [エクスペリエンス] タブを選択し、このロールを持つユーザーがアクセスできるエクスペリエンスを選択します。
8. [続行] を選択し、[サマリー (summary)] 画面で [完了] を選択します。

アプリケーションに対する既存のロールの使用

App Engine Studio (AES) で、以前に作成したロールをアプリケーションに使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

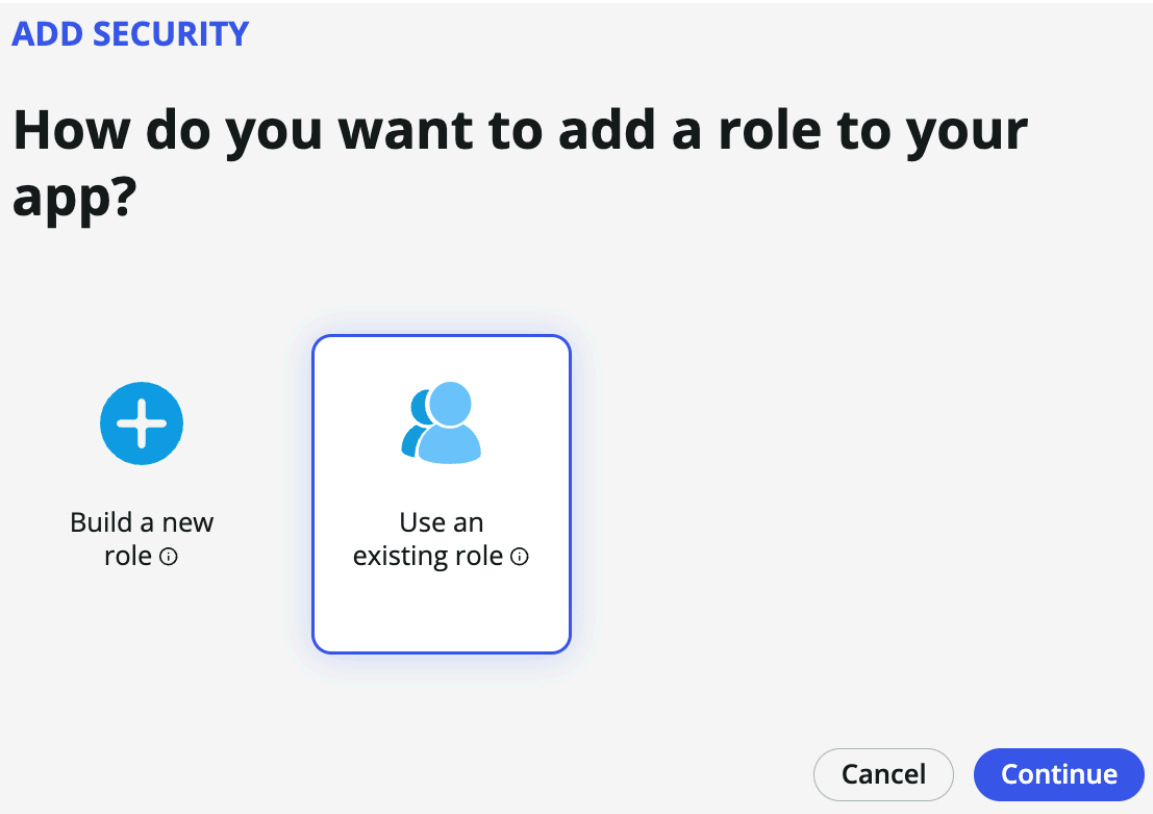
始める前に
必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、または delegated_developer

このタスクについて
App Engine Studio には、アプリケーションに使用できるデフォルトのロールが含まれています。デフォルトのロールに関する詳細については、「ベースシステムロール」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[セキュリティ (Security)] の横にある追加アイコン ( ) をクリックします。
4. [既存のロールを使用します] を選択し、[続行] を選択します。

既存のロールを使用するためのオプション



5. 検索フィールドを選択し、リストからロールを選択します。
6. [編集] を選択します。
既存のロールのアクセス制御を設定するための新しいタブが開きます。
7. [エクスペリエンス] セクションで、このロールを持つユーザーがアクセスできるエクスペリエンスを選択します。
8. [データ] セクションで、利用可能な各テーブルのアクセス制御を設定します。

作成

このロールを持つユーザーは、データテーブルに新しいレコードを作成できます。

読み取り

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このロールを持つユーザーは、テーブルに格納されているデータを読み込むことができます。

書き込み

このロールを持つユーザーは、テーブルの既存のレコードを更新できます。

削除

このロールを持つユーザーは、テーブルのレコードを削除できます。

9. [保存] を選択します。

ロールのアクセス設定の変更

App Engine Studio (AES) でロールのアプリケーション権限を制御します。

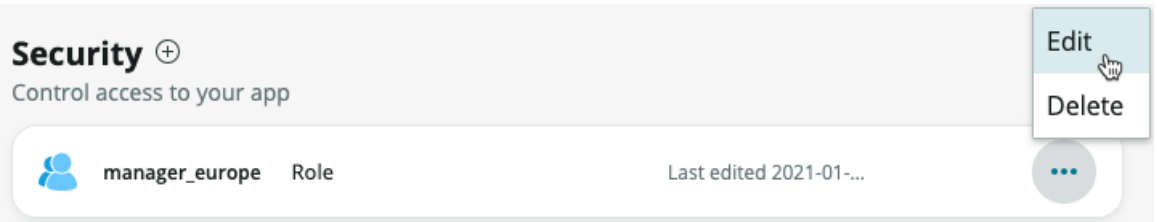
始める前に

必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、または delegated_developer

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. ロールの横にあるメニューアイコン (•••) を選択し、[編集] を選択します。

ロールの編集



ロールを編集するための新しいタブが開きます。

4. [エクスペリエンス] セクションで、このロールを持つユーザーがアクセスできるエクスペリエンスを選択します。
5. [データ] セクションで、利用可能な各テーブルのアクセス制御を設定します。

作成

このロールを持つユーザーは、データテーブルに新しいレコードを作成できます。

読み取り

このロールを持つユーザーは、テーブルに格納されているデータを読み込むことができます。

書き込み

このロールを持つユーザーは、テーブルの既存のレコードを更新できます。

削除

このロールを持つユーザーは、テーブルのレコードを削除できます。

6. [保存] を選択します。

ロールの削除

App Engine Studio (AES) で不要になったロールを削除します。

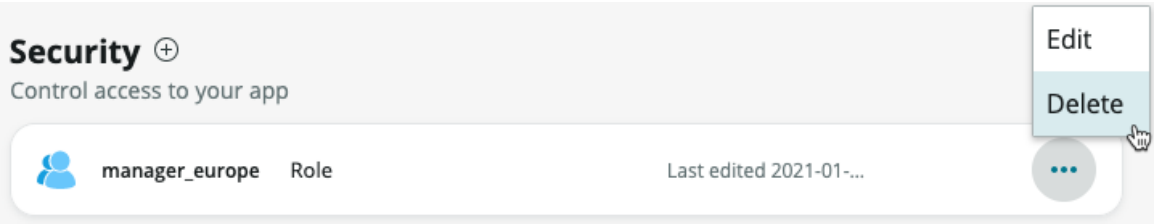
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin、sn_app_eng_studio.user、または delegated_developer

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. ロールの横にあるメニューアイコン (•••) を選択し、[削除] を選択します。

ロールの削除



4. 表示されるダイアログボックスで、「`delete`」と入力し、[削除] を選択します。

他の開発者とのコラボレーション

App Engine Studio (AES) では、アプリケーションについて協力者になるユーザーやグループを追加または削除できます。

ユーザーは、コラボレーション機能のアクションについてさまざまなレベルの権限を持ちます。高レベル：

次の権限を持つユーザーは	次のアクションを実行できます
アプリケーションについての協力者の委託開発の管理の権限	可能な操作： • 協力者とその記述子のリストの表示 • ユーザーとグループの検索 • ユーザーまたはグループのコラボレーション記述子の選択または変更 (ただし、ユーザーはカスタマイズされたユーザーまたはグループを変更できず) • 招待の送信による協力者の追加 • ユーザーまたはグループの削除 (ただし、ユーザーはカスタマイズされたユーザーまたはグループを削除できず) 不可能な操作： • ユーザーまたはグループの権限のカスタマイズ • 更新セットを介した展開
アプリケーションについての協力者の委託開発への招待の権限	可能な操作：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の権限を持つユーザーは	次のアクションを実行できます
	• 協力者とその記述子のリストの表示 • ユーザーとグループの検索 • 招待の送信による協力者の追加 不可能な操作： • ユーザーまたはグループのコラボレーション記述子の選択または変更 • ユーザーまたはグループの削除 • ユーザーまたはグループの権限のカスタマイズ
アプリケーションに対する協力者関連のロールがない	協力者とその記述子の読み取り専用リストを表示できます。 不可能な操作： • ユーザーとグループの検索 • ユーザーまたはグループのコラボレーション記述子の選択または変更 • 招待の送信による協力者の追加 • ユーザーまたはグループの削除 • ユーザーまたはグループの権限のカスタマイズ
アドミニストレーター	コラボレーション機能を使用するには、アドミニストレーターが security_admin ロールに昇格する必要があります。詳細については、「昇格された権限ロール」を参照してください。 アドミニストレーターは、以下の操作を実行できます。 • 協力者とその記述子のリストの表示 • グループのメンバーの表示/非表示 • ユーザーとグループの検索 • ユーザーまたはグループのコラボレーション記述子の選択または変更 (カスタマイズされたユーザーまたはグループの変更、および所有者の変更を含む) • 招待の送信による協力者の追加 • ユーザーまたはグループの削除 (カスタマイズされたユーザーおよびグループの削除、および所有者が 1 人のみの場合の所有者の削除を含む) • ユーザーまたはグループの権限のカスタマイズ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** グローバルスコープの [オーナー] と [エディター] 以外に、コラボレーション記述子を作成する必要があります。AES でコラボレーション記述子を表示して使用する場合は、その記述子を `standard = TRUE` に設定する必要があります。AES はカスタムスコープで作成されたコラボレーション記述子をサポートしないため、非標準のコラボレーション記述子は AES でレンダリングされません。

ユーザーまたはグループを追加すると、コラボレーションタスクが生成され、承認フローが開始されます。すべてのコラボレーションタスクを見つけるには、[すべて] > **[App Engine]** > [コラボレーション] > [コラボレーションタスク] に移動します。コラボレーションタスクは、開発者がどのアプリケーションに追加され、どの権限が付与されるかについての情報を提供します。承認者は、開発者をアプリケーションに追加する前に、これらのタスクレコードを確認しなければならない場合があります。

アドミンは、コラボレーション要求フローを変更できます。ベースシステムのコラボレーション要求フローは、次のようにコラボレーション要求を処理します。

- ユーザーが AES または委任開発者権限を持ち、そのプラットフォームを以前に使用したことがある場合、コラボレーション要求承認レコードは自動承認されます。
- ユーザーが AES または委任開発者権限を持たず、そのプラットフォームを初めて使用する場合は、承認が必要です。

アドミニストレーターは、開発者が委託開発権限をアサインするために使用するコラボレーション記述子を変更できます。ベーステーブルには、所有者と編集者のコラボレーション記述子があります。デフォルトでは、所有者には「協力者の委託開発の管理」権限が設定され、編集者には「協力者の委託開発への招待」権限が設定されています。

> **注:** ソースコントロールを使用して他の開発者と共同作業している場合、他の開発者はチェックインされた変更のみを使用できます。たとえば、アドミニストレーターが Git にリンクされているアプリの新しいフローを作成した場合、アドミニストレーターがフローを Git にチェックインするまで、他の AES ユーザーは新しいフローをアプリで使用できません。

ユーザーまたはグループのコラボレーションへの追加

コラボレーション機能を使用して、App Engine Studio (AES) で他の開発者と共同作業する権限をユーザーまたはグループに付与します。

始める前に

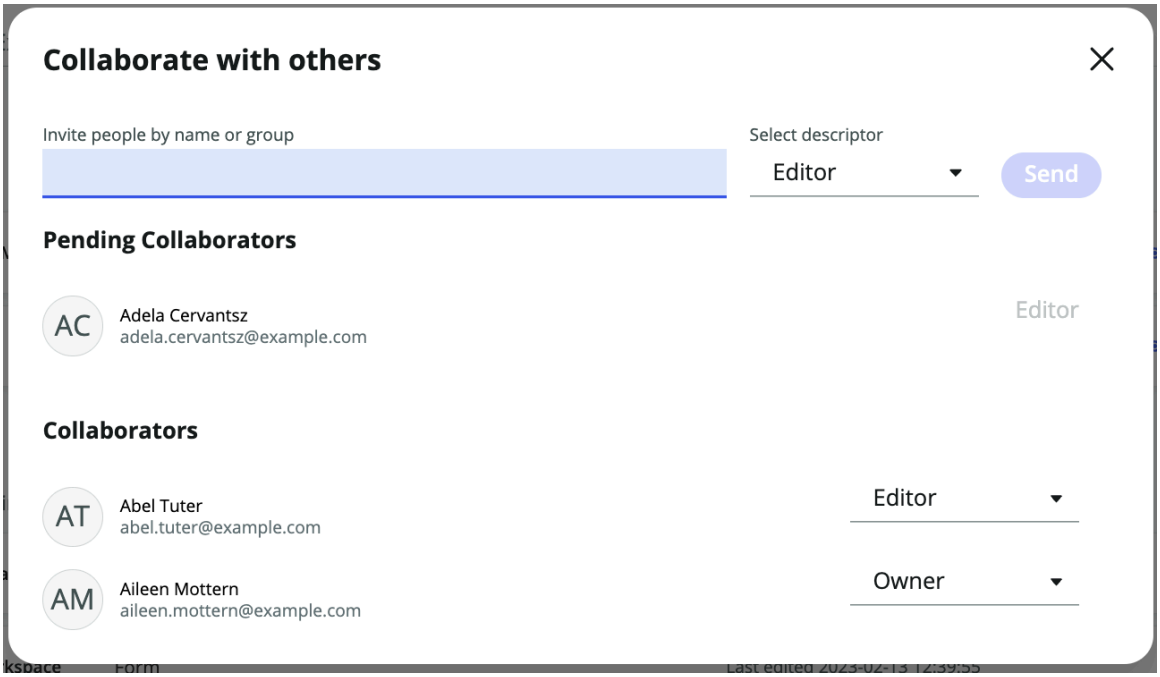
必要なロール：admin、協力者の委任開発の管理ロール、または協力者の委任開発への招待ロール

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [協力者の管理] ボタンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

他のユーザーとのコラボレーション



4. 別のユーザーまたはグループを協力者として追加するには、[名前またはグループでユーザーを招待] フィールドにユーザー名またはグループ名を入力します。
5. 名前の最初の数文字を入力して、特定のユーザーまたはグループを検索します。
一致するユーザー名とグループのドロップダウンリストが表示され、追加するユーザーまたはグループを選択できます。ドロップダウンリストに表示されているユーザーまたはグループを選択できない場合は、既に協力者として追加されており、再度選択することはできません。
6. 追加するユーザーまたはグループのコラボレーション記述子を選択します。
コラボレーション権限のリストについては、「委託開発およびコラボレーション権限」を参照してください。

   注: [協力者を招待] 権限を持つユーザーはこれを行うことができず、デフォルトで [エディター] オプションが使用されます。

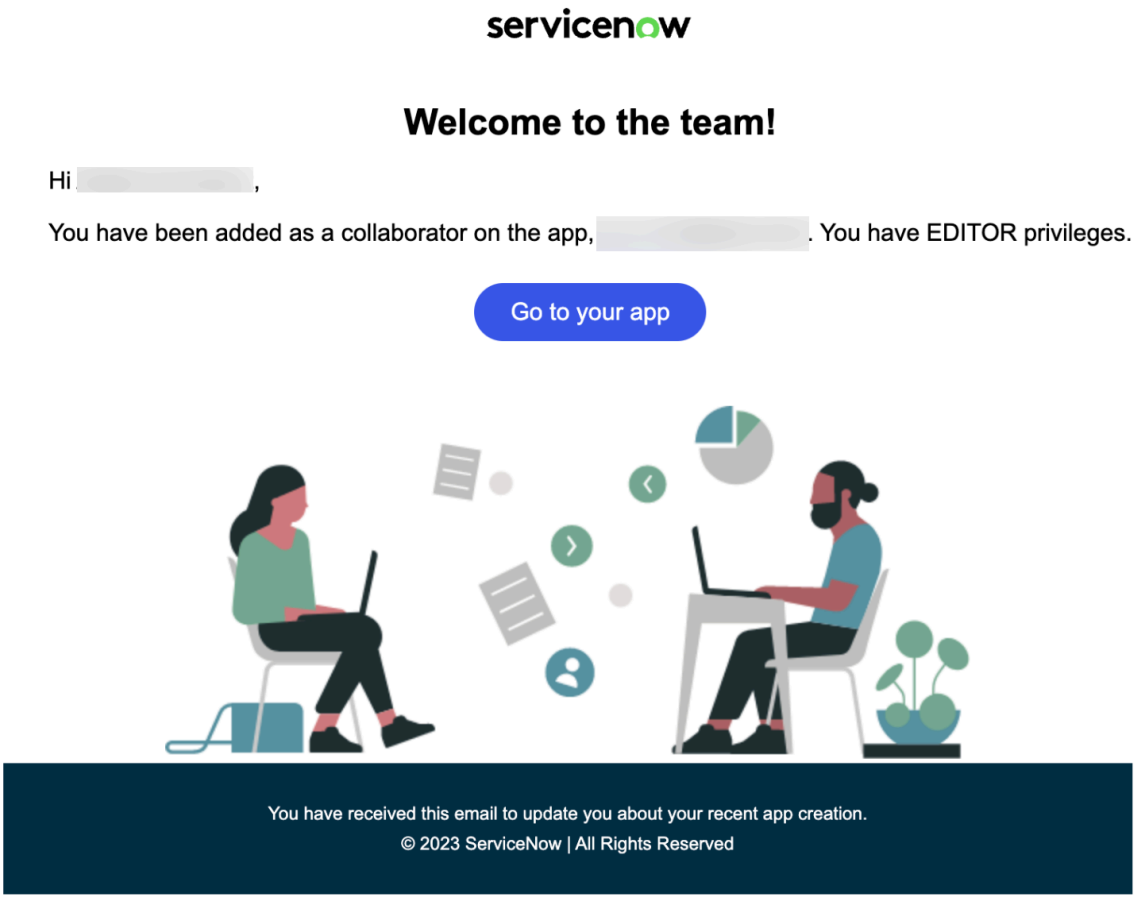
   グローバルスコープで定義され、標準オプションが選択されているアプリコラボレーション記述子のみがリストに表示されます。

7. [送信] を選択します。

   ◦ ユーザーが AES または委任開発者権限を持ち、そのプラットフォームを初めて使用する場合、そのユーザーは [要求処理待ち] セクションにリストされ、承認が必要になります。要求が承認されると、要求者とユーザーの両方に、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーがアプリケーションに追加されたことを示すメールが送信されま



す。

- ユーザーが AES または委任開発者権限を持ち、そのプラットフォームを以前に使用したことがある場合、コラボレーション要求は自動承認されます。要求者とユーザーの両方に、ユーザーがアプリケーションに追加されたことを示すメールが送信されます。

注: コラボレーション要求の作成元のインスタンスで有効なコントローラーが構成されている場合、そのコントローラーインスタンスにコラボレーション要求タスクが作成されます。作成元のインスタンスがコントローラーで構成されていない場合、承認が付与される前にインスタンスを構成する必要があることを示す作業メモが、要求レコードに自動的に追加されます。作成元インスタンスがコントローラーであるか、有効なコントローラーが構成されていない場合、コラボレーション要求タスクは要求インスタンスに作成されます。詳細については、「コントローラーインスタンスの構成」を参照してください。

協力者の権限の変更

協力者に割り当てられている権限を変更するか、カスタムコラボレーション権限を作成して、App Engine Studio (AES) でユーザーができることを有効にします。

始める前に

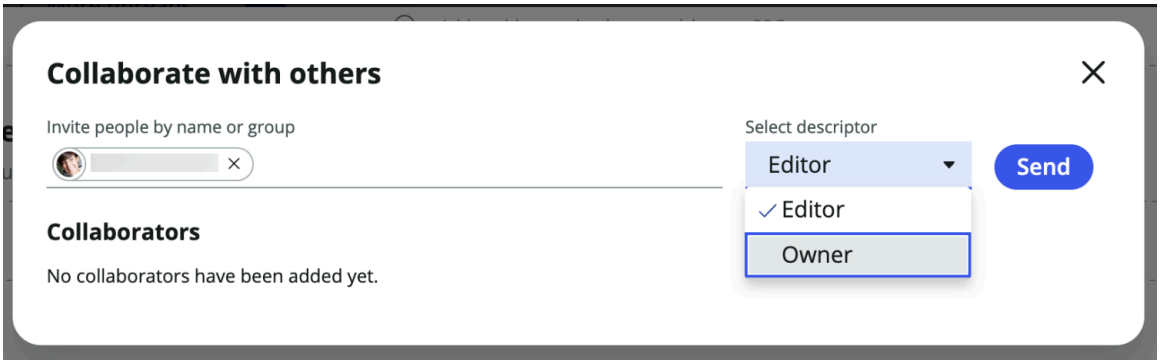
必要なロール：admin または協力者の委任開発の管理ロール

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [協力者の管理] ボタンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 変更するユーザーまたはグループについて、ドロップダウンリストから別の協力者記述子を選択しま



す。
カスタマイズされたユーザーとグループは、アドミン以外は編集できません。

5. アドミンのみ：アプリケーションの特定のユーザーに対してカスタム コラボレーション権限を作成します。

   a. AES で、ユーザーの名前の横にあるドロップダウンリストから [権限をカスタマイズ] を選択します。

   b. ユーザーまたはグループの委任開発の権限を選択またはクリアします。
   コラボレーション権限のリストについては、「委託開発およびコラボレーション権限」を参照してください。

   別の標準的なコラボレーション記述子の選択と一致する選択をした場合は、続行する前にプロンプトが表示されます。各委託開発権限の詳細については、「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。

6. [保存] を選択します。

委託開発およびコラボレーション権限

コラボレーション権限は、App Engine Studio (AES) でユーザーが実行できる内容を定義します。

ファイルタイプのアクセス権限

ファイルタイプのアクセス権限は、アプリケーションファイルタイプにアクセス権を付与します。

ファイルタイプのアクセス権限

権限	説明
すべてのファイルタイプ	すべてのファイルタイプで共同作業するためのアクセス権を付与します。 注: このオプションには、個別の権限にリストされていない追加のファイルタイプへのアクセスが含まれます。
統合	Web サービス API、REST API、データソース、および 統合ハブ - インポートへのアクセス権を付与します。
Reporting	レポートおよびスケジュール済みレポートへのアクセス権を付与します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイルタイプのアクセス権限 (続く)

権限	説明
モバイルビルダー	モバイルアプリビルダー などを使用してモバイルエクスペリエンスをビルドするためのアクセス権を付与します。
UI ビルダー	UI ビルダー を使用してより複雑なインターフェイスをビルドするためのアクセス権を付与します。
ワークフロー	ワークフローエディターおよびアクティビティクリエーターへのアクセス権を付与します。
サービスポータル	サービスポータル のエディターとツールを操作するためのアクセス権を付与します。
フローデザイナー	フローおよびアクションを作成するための ワークフロースタジオ フロー設計環境へのアクセス権を付与します。スクリプトアクションのステップでは、[スクリプティングを許可 **(Allow Scripting)]** 権限が必要です。
サービスカタログ	カタログアイテム、レコードプロデューサー、変数などのカタログ関連のファイルタイプを操作して、カタログアイテムをアプリに追加するためのアクセス権を付与します。
テーブルとフォーム	テーブル列、フォームレイアウト、リストレイアウトなど、モデルおよびレイアウト関連のファイルタイプへのアクセス権を付与します。
プロセスオートメーションデザイナー	プロセスオートメーションデザイナー 設計環境を操作してプロセスを作成するためのアクセス権を付与します。アクティビティサブフローまたはアクションを編集するには、フローデザイナー権限が必要です。
ディシジョンテーブル	ディシジョンテーブル を操作して、複数の if-then ルールに基づいて意思決定ロジックを作成するためのアクセス権を付与します。
通知	アプリで自動メール通知を作成するためのアクセス権を付与します。

セキュリティ/エンタイトルメント権限

[ACL とロールの管理] 権限は、アクセス制御リストやロールなどのセキュリティ管理ファイルへのアクセス権を付与します。

プログラミングツールの権限

[スクリプティングを許可 **(Allow scripting)]** 権限は、ビジネスルール、UI アクション、クライアントスクリプトなどのスクリプトフィールドへのアクセス権を付与します。

アプリケーション管理権限

アプリケーション管理権限は、協力者の管理などの基本的なアプリ管理機能へのアクセス権を付与します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション管理権限

権限	説明
アプリケーションを削除	スコープ対象のアプリ内で協力者に、アプリケーションを削除する権限を付与します。
協力者の管理	アプリの協力者を管理および招待するためのアクセス権を付与します。
ソースコントロール	ソースコントロールを使用するためのフルアクセス権を付与します。
協力者を招待	開発者をアプリで共同作業するよう招待するためのアクセス権を付与します。

展開権限

展開権限は、アプリのインストール、アップグレード、および公開へのアクセス権を付与します。

展開権限

権限	説明
アプリをアップグレード	現在のインスタンスにインストールされた後、関連アプリケーションをアップグレードするためのアクセス権を付与します。
展開の送信	レビューおよび展開のために関連アプリケーションを送信するためのアクセス権を付与します。
アプリリポジトリに公開	関連アプリケーションを現在のインスタンスのアプリケーションリポジトリに公開するためのアクセス権を付与します。
アプリストアに公開	関連アプリケーションを現在のインスタンスの ServiceNow Store に公開するためのアクセス権を付与します。

ユーザーまたはグループのコラボレーションからの削除

コラボレーションからユーザーとグループを削除して、アプリの所有や編集を制限します。

始める前に

必要なロール：admin または協力者の委任開発の管理ロール

このタスクについて

アプリの最終的な所有者と編集者を削除できます。アプリに所有者がなく、所有者が必要な場合は、アドミニストレーターが追加する必要があります。

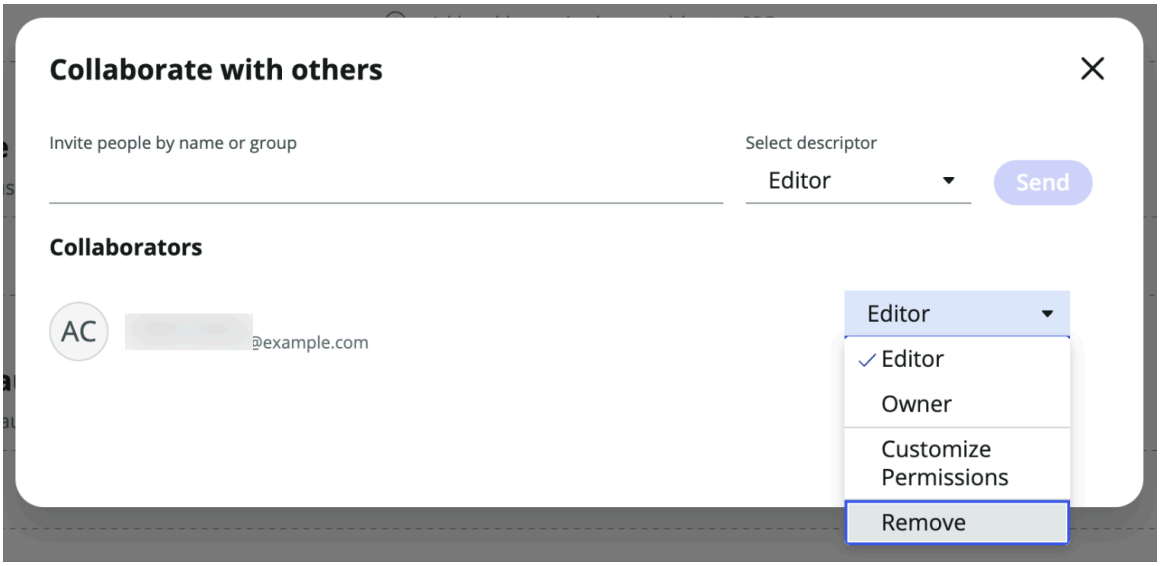
手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [協力者の管理] ボタンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[他のユーザーとコラボレーション] モーダルに、現在の協力者のリストが表示されます。

4. ユーザーまたはグループを協力者として削除するには、ドロップダウンリストから [削除] を選択しま



す。

AES と Git ソースコントロールリポジトリの使用

App Engine Studio (AES) で作業するアプリ開発者は、さまざまな方法でデータリポジトリを管理できます。

アドミニストレーターがアプリケーションをソースコントロールにリンクすると、非本番インスタンスのすべてのアプリケーション開発者が次のアクションを実行できます。

- Git リポジトリからアプリケーションをインポートします。
- Git リポジトリからリモート変更をプルして適用します。
- インスタンスのすべてのローカル変更を Git リポジトリにコミットします。
- 指定されたバージョンのアプリケーションに永続的にリンクするタグを作成します。
- 分岐を作成して、アプリケーションの複数のバージョンを同時に管理します。

> **注:** ソースコントロールを使用して他の開発者と共同作業している場合、他の開発者はチェックインされた変更のみを使用できます。たとえば、アドミニストレーターが Git にリンクされているアプリの新しいフローを作成した場合、アドミニストレーターがフローを Git にチェックインするまで、他の AES ユーザーは新しいフローをアプリで使用できません。

App Engine Studio で利用可能なオプション

アプリケーションをソースコントロールにリンクした後に、アプリケーション開発者は App Engine Studio を使用してリポジトリを管理できます。開発者は App Engine Studio から次のことができます

- アプリケーションリポジトリの認証情報を編集します。
- インスタンスのすべてのローカル変更をコミットします。
- リポジトリからのリモート変更を適用します。
- 分岐を作成します。
- 分岐を切り替えます。
- リモートリポジトリからアプリケーションをインポートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースコントロール統合は、本番インスタンスでのアプリケーションの管理をサポートしていません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または App Engine Studio を使用して、本番インスタンスでアプリケーションを管理できます。本番インスタンスでのアプリケーション管理の詳細については、「アプリケーションの共有」を参照してください。

Git リポジトリから利用可能なオプション

ServiceNow プラットフォームには、インスタンス外のリンクされたアプリケーションファイルを変更するための限定的なサポートがあります。開発者は Git から次の操作を実行できます。

- アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動します。
- App Engine Studio の外部でアプリケーションファイルを編集します。

リポジトリのルートレベルで、`sn_source_control.properties` と呼ばれるプロパティテキストファイルが生成されます。アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動するために、アプリケーション開発者は *`path`* パラメーターを設定して、アプリケーションファイルを含むサブフォルダーパスを指定できます。たとえば、アプリケーションを `src/app` サブフォルダーに移動した場合は、*`path`* を `path=src/app` に設定します。

システムは、App Engine Studio の外部でアプリケーションファイルが変更されたかどうかを判断するために、Git リポジトリに `checksum.txt` ファイルを生成します。ファイルのチェックサム値が現在のチェックサム値と一致する場合、統合は検証とサニタイズのプロセスをスキップします。チェックサム値が一致しない場合、統合はソースコントロール操作の一部としてアプリケーションファイルを検証してサニタイズします。サニタイズプロセス：

- 実行されたサニタイズアクションごとに、アップグレードログエントリを作成します。
- サポートされていないフォルダーとファイルをリポジトリから削除します。
- システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、すべてのソースコントロール操作を中止します。たとえば、データベースディクショナリレコードが XML スキーマの検証に失敗した場合、システムはすべての操作を中止します。
- 非システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、現在のソースコントロール操作をスキップします。

ソースコントロール統合は、`sn_source_control.properties` ファイルにリストされているアプリケーションパス内のコンテンツのみをサニタイズします。アプリケーションパス外のリポジトリコンテンツは無視されます。

MID サーバーのサポート

既存の MID サーバーを使用して、ソースコントロールリポジトリに接続します。MID サーバーを介してアプリケーションにアクセスすると、ファイアウォールの背後にあるリポジトリにアクセスできます。

App Engine Studio でのソースコントロールの操作

ソースコントロール統合は、主に App Engine Studio (AES) から操作をサポートしますが、一部の操作を直接 Git リポジトリからサポートすることもできます。

利用可能なソースコントロール操作

操作	説明	入手先
ソースコントロールからインポート	アプリケーションをリポジトリからローカルインスタンスにインポートします。詳細については、「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールからインポート」を参照してください。	App Engine Studio

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用可能なソースコントロール操作 (続く)

操作	説明	入手先
ソースコントロールにリンク	開発者は Git リポジトリからアプリケーションの変更を管理できます。詳細については、「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク」を参照してください。	App Engine Studio
リポジトリ構成を編集	Git リポジトリのユーザー認証情報を更新します。詳細については、「Git リポジトリ構成の編集」を参照してください。	App Engine Studio
リモート変更を適用	リポジトリのバージョンと一致するようにアプリケーションのローカルバージョンを更新します。詳細については、「リポジトリからの変更のプル」を参照してください。	App Engine Studio
変更を収容	ローカルバージョンと一致するように、アプリケーションのリポジトリバージョンを更新します。詳細については、「リポジトリに変更をコミット」を参照してください。	App Engine Studio
ローカルな変更を隠す	後で作業するためにローカルの変更を削除して保存します。詳細については、「ローカル変更をスタッシュ」を参照してください。	App Engine Studio
分岐を切り替え	アプリケーションのローカルバージョンを更新して、リポジトリ分岐バージョンと一致させます。詳細については、「分岐の切り替え」を参照してください。	App Engine Studio
分岐を作成	リポジトリに分岐を作成して、異なるバージョンのアプリケーションを保存します。詳細については、「ブランチを作成」を参照してください。	• App Engine Studio • Git リポジトリ
タグを作成	特定のアプリケーションバージョンにリンクするようタグをリポジトリに作成します。詳細については、「特定のアプリケーションバージョンにリンクするためのタグを作成する」を参照してください。	• App Engine Studio • Git リポジトリ
しまいこみを管理	開発者がしまい込んだ変更を適用または削除できるようにします。詳細については、「スタッシュを管理」を参照してください。	App Engine Studio
リポジトリを作成する	アプリケーションの変更を保存するリポジトリを作成します。	Git リポジトリ
認証情報の作成	リポジトリへの認証情報を作成します。	Git リポジトリ
リポジトリへのア	特定の認証情報セットに関連付けられたリポジトリへの読み書きアクセスを提供します。	Git リポジトリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用可能なソースコントロール操作 (続く)

操作	説明	入手先
クセスを許可する		

アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールからインポート

このインスタンスで開発を続行するために、ソースコントロールリポジトリからアプリまたはアプリのカスタマイズを App Engine Studio (AES) にインポートします。

始める前に

- 必要なロール：admin
- 非本番インスタンスに Git リポジトリへのネットワークアクセスがあることを検証します。
- リポジトリに有効なアプリケーションが含まれていることを確認する。
- ユーザーが Git リポジトリへのコミットで使用するそれぞれのユーザーテーブル [sys_user] レコードに、メールアドレスを追加していることを確認します。
- アプリケーションのカスタマイズの詳細については、「アプリケーションのカスタマイズの管理」を参照してください。

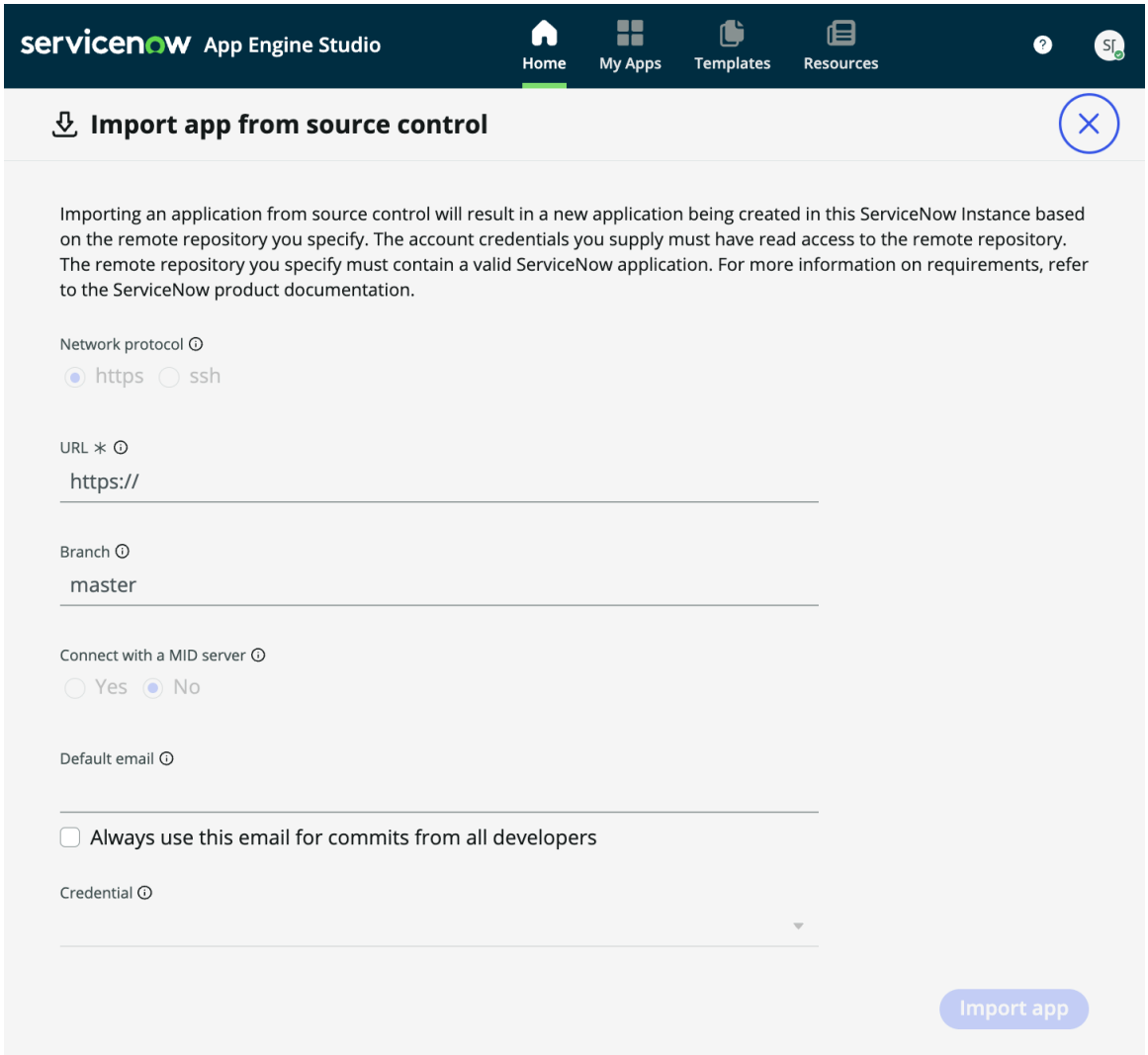
このタスクについて

ソースコントロール統合では、制作インスタンス上のアプリケーションのインポートはサポートされていません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または App Engine Studio から制作インスタンス上にアプリケーションをインストールします。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [アプリをインポート] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. フォームのフィールドに入力します。

ソースコントロールフィールドからのインポート

フィールド	説明
ネットワークプロトコル	セキュリティ保護されたチャネルデータ交換を可能にする https または ssh 認証情報タイプ。
URL	アプリケーションファイルが存在する Git リポジトリの URL。 **注:** Git サーバーが提供する SSH の Git リポジトリ URL が機能しない場合は、Git サーバーのオーナーまたはプロバイダーに正しい URL を確認してください。Git リポジトリ URL が機能するために、追加仕様 (スキームプロトコルプリフィックス、ポート番号など) が必要な場合があります。
分岐	アプリケーション内で機能するリポジトリ分岐。 **注:**

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	デフォルトの分岐には、インスタンスの名前が付けられます。名前を選択しない場合、分岐はデフォルトで [マスター] になります。
MID サーバー名	既存の MID サーバーを選択して、企業ファイアウォールの背後に格納されている Git リポジトリにリンクします。 **注:** ディスカバリー アクティビティとの競合を防ぐために、個別の MID サーバーを使用します。 詳細については、「MID サーバー」を参照してください。
デフォルトのメール	コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。ただし、コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力して、後で変更することもできます。すべてのケースでそのデフォルトのメールアドレスを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。
認証情報	Git リポジトリの認証情報を選択します詳細については、「認証情報の開始」を参照してください。 **注:** ssh ネットワークプロトコルを選択した場合は、[SSH プライベートキー] タイプの有効な認証情報を入力します。https プロトコルを選択した場合は、基本認証情報タイプの有効な認証情報を入力します。

注: インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、Git リポジトリをアプリケーションにリンクするための認証情報を共有します。

4. [アプリをインポート] を選択します。
   `checksum.txt` ファイル内のチェックサムが、現在のチェックサムと比較されます。チェックサム値が一致すると、統合は検証をスキップしてアプリケーションをインポートします。チェックサム値が一致しない場合、統合は最初にアプリケーションファイルを検証してサニタイズしてから、それらをインポートします。
5. [アプリケーションを選択] を選択します。
   App Engine Studio アプリケーションをウィンドウに新しい選択肢として表示します。

次のタスク

- インポート中にアプリケーションファイルに適用されたサニタイズのアップグレードログを確認します。
- インポートしたアプリケーションを選択して編集する。

関連情報

MID サーバー

認証情報の開始

Git での変更の操作

App Engine Studio (AES) を使用する開発者は、Git リポジトリで変更をプルおよびコミットできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: ソースコントロールを使用して他の開発者と共同作業している場合、他の開発者はチェックインされた変更のみを使用できます。たとえば、アドミニストレーターが Git にリンクされているアプリの新しいフローを作成した場合、アドミニストレーターがフローを Git にチェックインするまで、他の AES ユーザーは新しいフローをアプリで使用できません。

リポジトリからの変更のプル

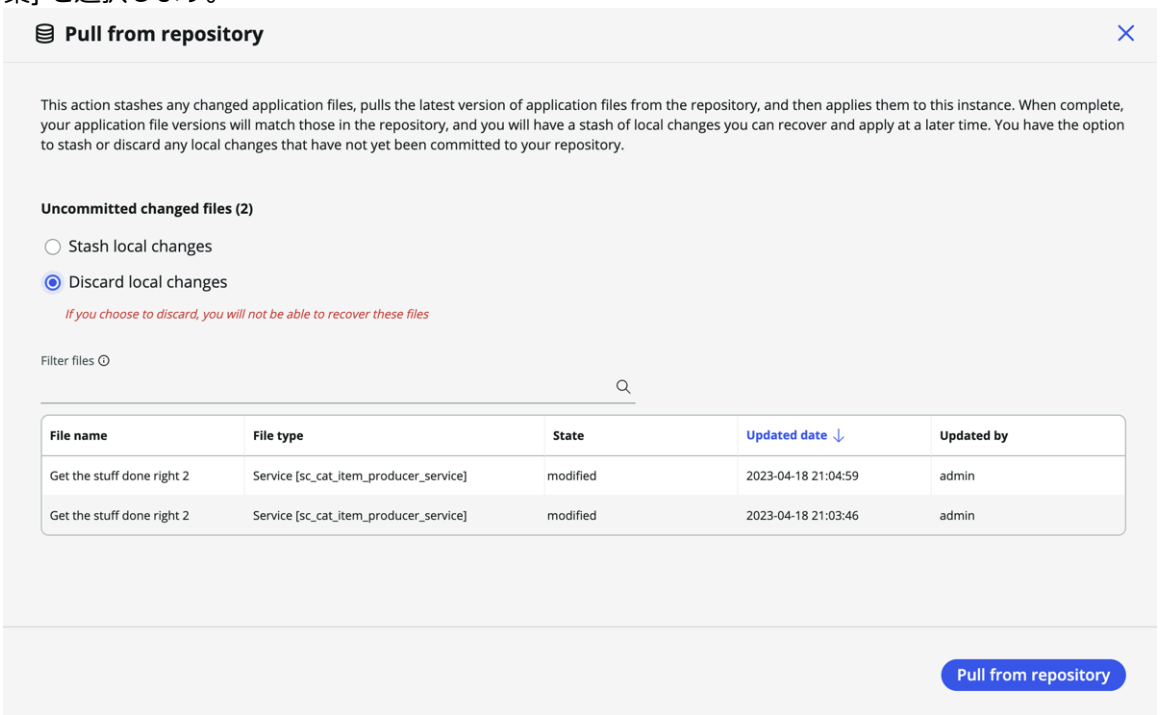
App Engine Studio (AES) を使用するアプリ開発者は、リンクされた Git リポジトリから変更をプルして、リモート変更をローカルインスタンスに適用できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [ソースコントロール] > [リポジトリからプル] を選択します。
4. コミットされていないファイルを確認し、[ローカル変更をスタッシュ] または [ローカル変更を破棄] を選択します。



5. [リポジトリからプル] を選択します。
   次の操作が行われます：
   - システムは、リモートリポジトリから最新の変更を取ってくる。
   - システムは、リモート変更をインスタンスに適用する。
   - システムは解決を必要とする変更の競合を特定する。

   競合が発生した場合、システムは競合を解決するためのウインドウを表示します。

   システムプロパティのデフォルトでデルタロードがアクティブ化されているため、データは削除されません。データを自動的に削除する場合は、この機能を無効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
変更の競合を解決します。

リポジトリに変更をコミット

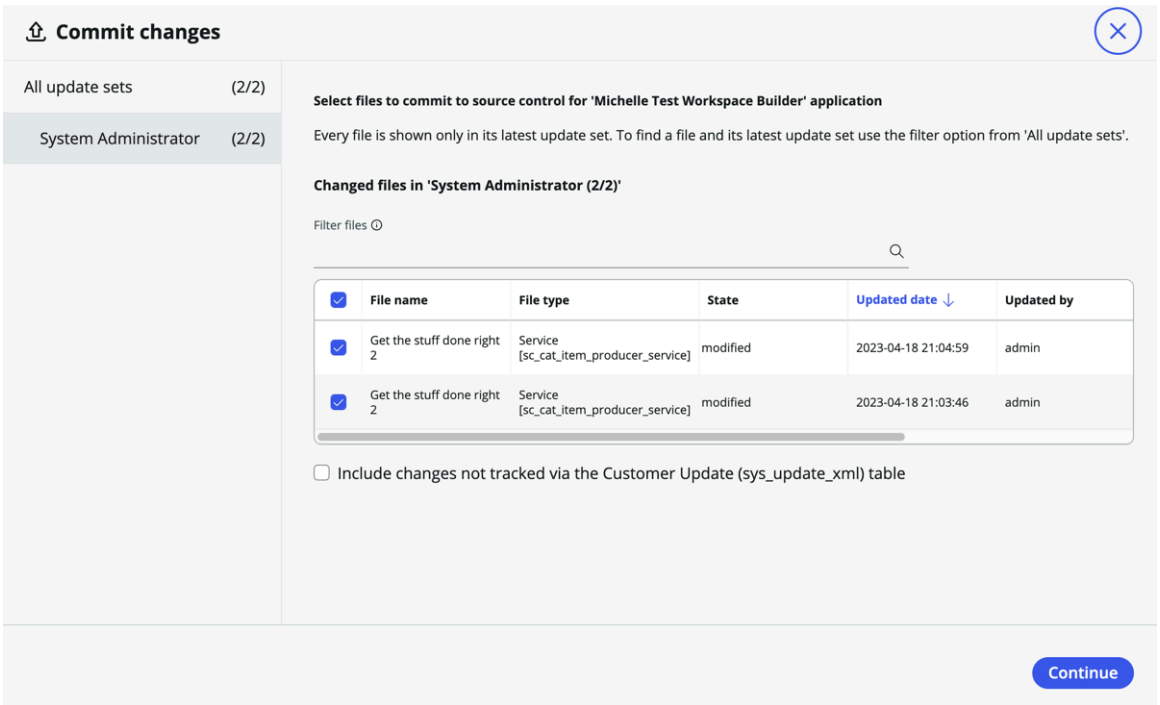
App Engine Studio (AES) でアプリケーションに加えられた変更を、リンクされた Git リポジトリにコミットします。変更をいくつか選択してコミットすることも、インスタンスに対するすべての変更を一度にコミットすることもできます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [ソースコントロール] > [変更を収容] を選択します。
   [ソースコントロールにコミットするファイルを選択] ウィンドウが表示されます。すべての更新セットからのファイル変更が表示されます。デフォルトでは、現在の更新セットからのファイル変更が表示されます。



4. コミットするファイル変更を選択します。
5. 追跡されていない変更を含めるには、[顧客アップデート **[sys_update_xml]** テーブルを介して追跡されない変更を含める] チェックボックスをオンにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- このチェックボックスのデフォルトは、**[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティを介して設定されます。
  - プロパティは、**[include_untracked]** または **[exclude_untracked]** に設定できます。
  - **[include_untracked]** モードは、sys_update_xml レコードを生成しないアプリケーションに対する更新とともに、ユーザーが選択した更新をコミットします。
  - **[exclude_untracked]** モードでは、[ソースコントロールにコミットするファイルを選択] ダイアログでユーザーが選択した更新のみがコミットされます。
- プロパティのベースシステム設定は **[exclude_untracked]** です。
- チェックボックスを非表示にして **[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティの値を使用するには、**[sn_devstudio.vcs.allow_commit_mode_selection]** プロパティを作成して [false] に設定します。
- このチェックボックスをオンにすると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

注:

次の場合、コミットは常に **[include_untracked]** モードで発生します。

- 初めてソースコントロールにリンクするとき (詳細については、「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク」を参照してください)。
- App Engine Studio からソースコントロールにリンクされたアプリケーションを公開するとき。
- 選択的コミットモードが無効のとき。

6. [続行] を選択します。
7. [コメントをコミット] に、変更のコメントを入力します。
8. [コミットファイル] を選択します。
   次の操作が行われます：
   - システムは全てのローカルな変更を識別します。
   - システムは、リモートリポジトリにすべてのローカル変更を収容します。

注: 顧客更新レコードがなく、追跡もされていない既知のファイルのリストについては、「顧客アップデートテーブル」を参照してください。

Git でのバージョンと分岐の作成

App Engine Studio (AES) を使用するアプリ開発者は、Git リポジトリにバージョンと分岐を作成できます。

特定のアプリケーションバージョンにリンクするためのタグを作成する

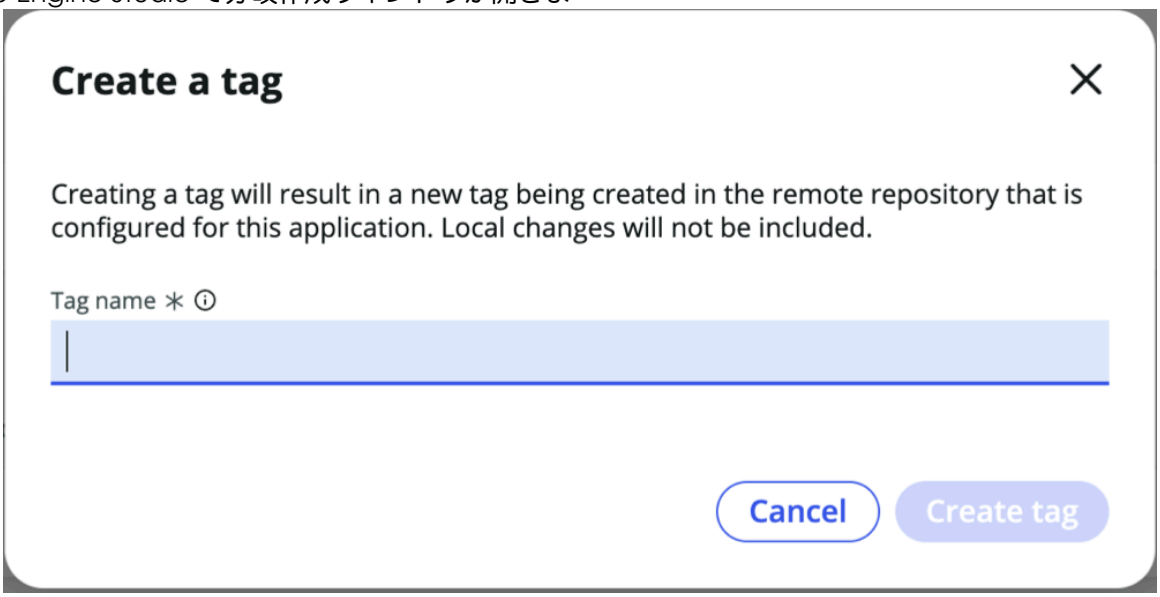
App Engine Studio (AES) の特定のアプリバージョンにリンクするためのタグをリポジトリに作成します。

始める前に

- 必要なロール：admin または sn_group_creator.app_creator
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [ソースコントロール] > [タグを作成] を選択します。
   App Engine Studio で分岐作成ウィンドウが開きま
   

   す。
4. [タグ名] を入力します。
5. [タグを作成] を選択します。
   App Engine Studio でタグが作成されます。
6. [クローズ] を選択します。

次のタスク
新しい分岐への変更をコミットします。

分岐の切り替え

アプリケーション開発者は App Engine Studio (AES) を使用して、別のリポジトリ分岐に切り替えて、アプリケーションの別のバージョンで作業できます。

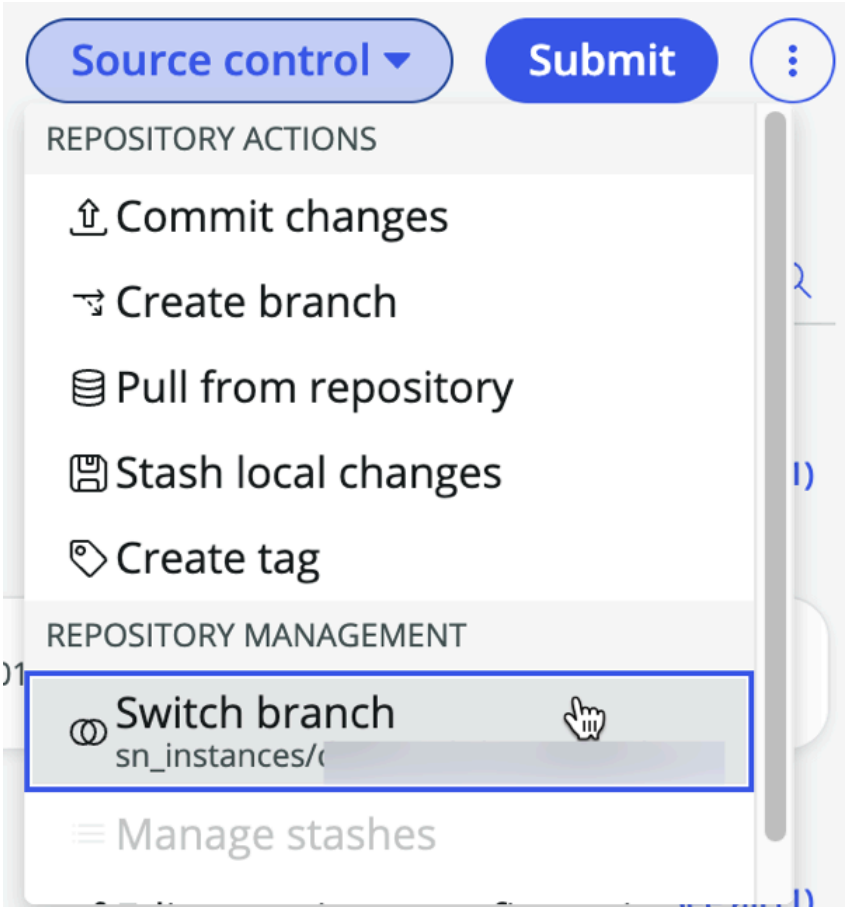
始める前に

- 必要なロール：admin
- 1 つ以上の利用可能な分岐を持つ Git リポジトリ

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [ソースコントロール] > [分岐を切り替え] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[分岐を切り替え] ウィンドウが表示されます。

4. オプション: インスタンスにローカルで変更があった場合は、それらを保存または破棄できます。

オプション	説明
ローカル変更を保存	代替分岐に切り替える前にローカルの変更を保存します。後で保存された変更を合併または破棄できます。
ローカル変更を破棄	代替分岐に切り替える前に、すべてのローカル変更を完全に削除します。

注: ローカルな変更を破棄するときは注意します。すべてのアプリケーション開発者はリポジトリの認証情報を共有するため、1 組のユーザー変更だけを破棄する方法はありません。後で破棄した変更を回復することはできません。

5. 切り替え先の分岐を選択します。
6. [分岐を切り替え] を選択します。
App Engine Studio ではリポジトリからの分岐バージョンと一致するようにローカルアプリケーションが更新されます。

ブランチを作成

アプリケーション開発者は、App Engine Studio (AES) で分岐を作成して、既存のアプリの新しいバージョンで作業できます。

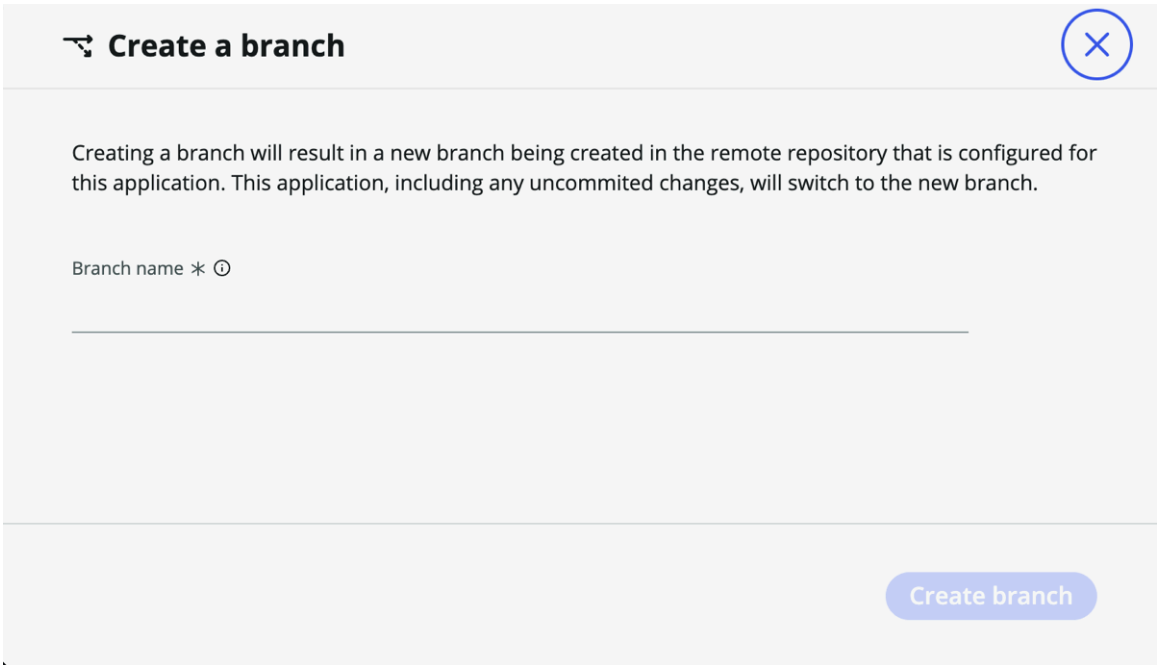
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 必要なロール：admin または sn_group_creator.app_creator
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

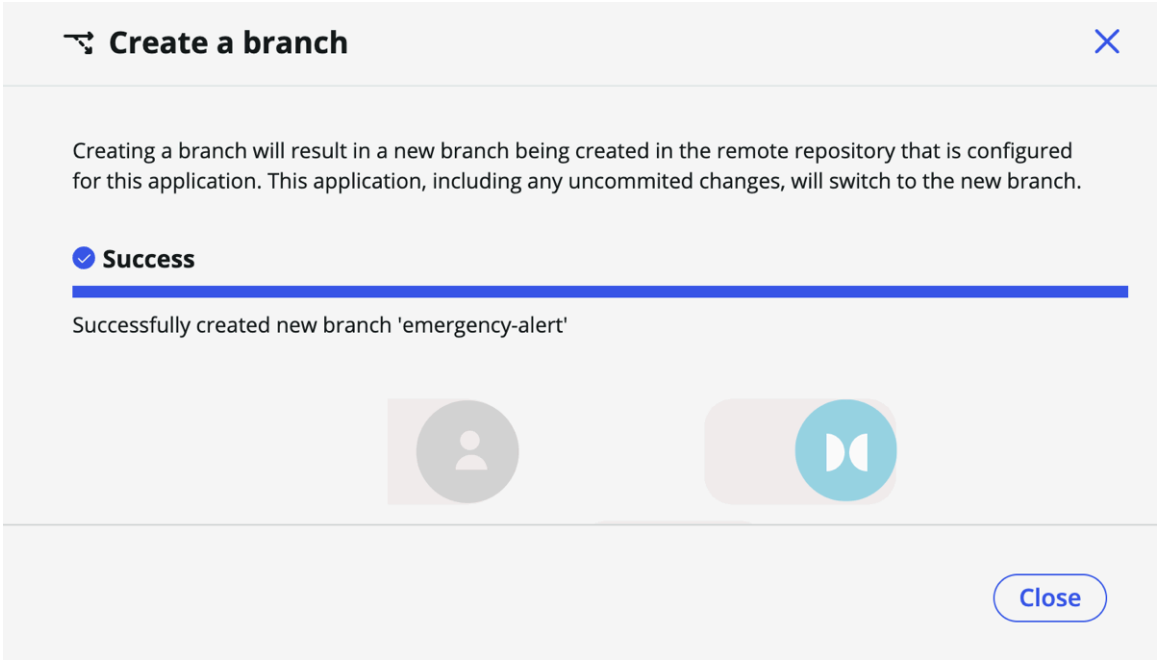
手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [ソースコントロール] > [分岐を作成] を選択します。
   App Engine Studio で分岐作成ウィンドウが開きます。



4. [分岐名] を入力します。
5. オプション: タグから分岐を作成するには、[タグから作成] ドロップダウンリストを選択して既存のタグを選択します。
6. [分岐を作成]を選択します。
   App Engine Studio で分岐が作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. [クローズ] を選択します。

次のタスク
新しい分岐への変更をコミットします。

デフォルト分岐の設定

新しい変更またはメインの App Engine Studio (AES) 開発リポジトリとしてメイン以外の分岐を使用する場合は、デフォルト分岐を設定します。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

手順

1. システムプロパティを追加する の手順に従ってください。
2. **[glide.source_control.default_branch_name]** プロパティを追加し、(プル要求、コードコミットなどの) 作業をする Git ソースコントロールリポジトリのデフォルト分岐の名前を指定します。アプリケーション開発者の作業は、特に指定されていない限り、デフォルトの分岐から管理され、そこに保存されます。変更されない限り、この値のデフォルトは「sn_instances/<instance_name>」に設定されます。

スタッシュの変更

開発者は App Engine Studio (AES) から、変更を削除して後で適用するためにローカルに保存し、スタッシュされた変更を管理できます。

ローカル変更をスタッシュ

アプリ開発者は App Engine Studio (AES) で、変更を削除して後で適用するためにローカルに保存できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

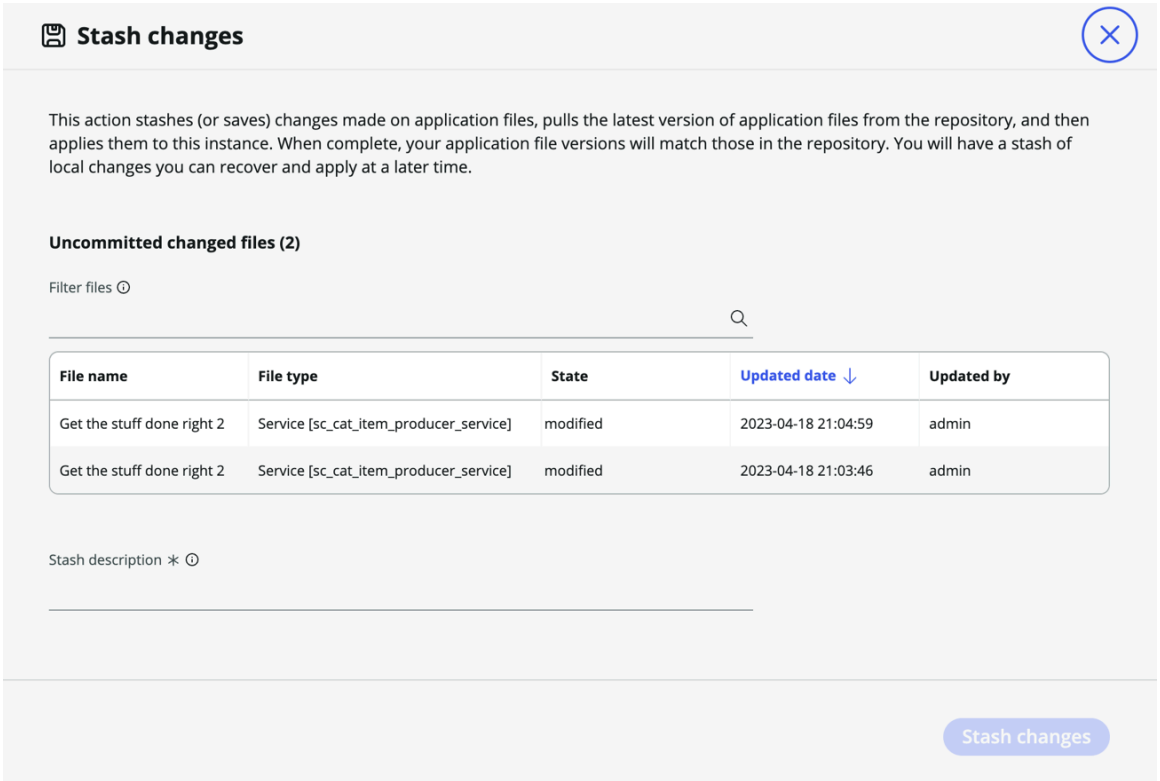
- 必要なロール：admin
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする
- 1つまたは複数のアプリケーションファイルを変更する。

このタスクについて

変更をしまい込むと、現アプリケーションからその変更が除去され、後ほど開発者が適用または削除するために保存します。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [ソースコントロール] > [ローカル変更をスタッシュ] を選択します。
   システムがローカルで変更されたファイルのリストを表示します。
4. 説明を入力します。
5. [スタッシュの変更] を選択します。
   システムは現在の変更を保存し、成功メッセージを表示します。



次のタスク

- ダイアログを閉じる
- スタッシュを管理

詳細については、「認証情報の開始」を参照してください。

スタッシュを管理

アプリ開発者は App Engine Studio (AES)から、スタッシュされた変更を適用または削除できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする。
- １つまたは複数のアプリケーションファイルの変更をしまい込む。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. [ソースコントロール] > [スタッシュを管理] を選択します。
   システムはローカルにしまい込まれた変更のリストを表示します。
4. 管理するスタッシュの横にあるアクションをクリックします。

オプション	説明
適用	アプリケーションにしまい込まれた変更を収容し、競合をチェックします。
削除	しまい込まれた変更を削除する。

競合の解決

アプリ開発者は、App Engine Studio (AES) でリモートの変更またはスタッシュされた変更を適用するときに使用する、アプリファイルのバージョンを選択できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする
- しまい込んだ変更の適用

このタスクについて

競合は、同じアプリケーションファイルに複数の変更バージョンがある場合に発生します。1 つはリモートまたはスタッシュされたバージョンの変更セットで、もう 1 つはローカルバージョンの変更セットです。App Engine Studio では、開発者はリモートまたはスタッシュされた変更を適用する前に競合を解決する必要があります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. リポジトリからプルするか、ローカル変更をスタッシュします。
   システムが競合を識別すると、[競合の解決] ダイアログを表示します。
4. 競合を解決する方法を選択します。

オプション	説明
アクションを選択	すべてのしまい込み変更を適用または破棄します。ステップ 3 に進みます。
変更を手動で合併	適用する変更を個別に選択します。ステップ 6 に進みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 全てのしまい込まれた変更を適用または破棄したい場合には、アクションを選択します。

オプション	説明
しまい込んだ変更を取得	しまい込んだ変更からアプリケーションファイルのバージョンを適用します。
しまい込んだ変更を破棄	リポジトリから最新引出したものからアプリケーションファイルのバージョンを適用します。

6. [スタッシュされた変更を適用] を選択します。
   選択した変更を適用します。
7. [ダイアログを閉じる] を選択します。
8. 競合する変更を結合する場合は、[手動で適用] を選択します。
   バージョン差異のリストをフィールド毎に表示します。
9. 合併されたアプリケーションファイルに含めたいフィールドの値を選択します。
10. [結合の保存] を選択します。
    選択した変更が適用されます。

収容の履歴を表示

アプリ開発者は App Engine Studio (AES) で、ソースコントロールリポジトリにリンクされているアプリのコミット履歴を表示できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- Git リポジトリへの既存のリンク

手順

1. [すべて] > [ソースコントロール] > [履歴を表示] に移動します。
   履歴ウィンドウを表示します。

2. ソートの注文タイプの収容を選択します。

オプション	説明
日付	収容日付でソートします。
コミット担当者	ユーザー名でソートします。

3. ソート順の方向を選択します。

オプション	説明
降順	最も新しい日付から最も古い日付までにソートします。ユーザー名を逆アルファベット順でZからAに並べ替えます。
昇順	最も古い日付から最新の日付までにソートします。アルファベット順でAからZにユーザー名をソートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムは、選択したソート順で収容をソートします。

4. 収容を選択します。
   選択した収容の収容の詳細が表示されます。
5. 収容の詳細を確認します。

収容の詳細

フィールド	説明
コミット担当者	変更を収容したユーザー
日付	収容の日時スタンプ
SHA-1	リポジトリ内のこの収容を識別する確実なハッシュ値
メッセージ	この収容に関連する収容メッセージ
ファイル	この収容で変更されたアプリケーションファイルのリスト

6. 履歴ウィンドウを閉じます。

Git リポジトリのアプリケーションファイルの移動

App Engine Studio (AES) での作業時に、ソースコントロールにリンクされたアプリケーションファイルをリポジトリの任意のフォルダーに移動します。アプリケーション開発者は、サポートするアプリケーションと同じリポジトリに自動テストなどのサポートコンテンツを保存できます。

始める前に

- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク
- 必要なロール：書き込みアクセス権を持つソースコントロール認証情報

このタスクについて

アプリケーションをソースコントロールにリンクすると、リポジトリのルートレベルで、`sn_source_control.properties` と呼ばれるプロパティテキストファイルが生成されます。そのプロパティファイルは、アプリケーションファイルを含むフォルダーを指定します。統合は `checksum.txt` ファイルを生成することで、これらのアプリケーションファイルに対する変更を追跡します。チェックサムが一致する場合、統合は検証とサニタイズのプロセスをスキップします。チェックサムが一致しない場合、統合はソースコントロール操作の一部としてアプリケーションファイルを検証してサニタイズします。統合は、アプリケーションパス外のすべてのリポジトリコンテンツを無視します。

注: システムのプロパティ **[glide.source_control.checksum_required]** を設定すると、オプションのチェックサムの検証とサニタイズが有効になり、**[glide.source_control.checksum_quick_install]** を設定すると、チェックサムが一致したときにサニタイズのステップをバイパスできます。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

手順

1. アプリケーションにリンクされたソースコントロールリポジトリにログインします。
2. アプリケーションファイルの移動先フォルダーを作成します。

   Example
   たとえば、`src/app` フォルダーを作成します。
3. アプリケーションファイルを含むフォルダーを移動先フォルダーに移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example
たとえば、`demo_my_app` フォルダーを `src/app` に移動します。

4. リポジトリのルートレベルに移動します。
5. テキストエディターで `sn_source_control.properties` テキストファイルを開きます。
6. `path=` プロパティには、アプリケーションファイルを移動したフォルダーパスを入力します。

Example
たとえば、「`path=src/app`」と入力します。

7. プロパティファイルを保存します。

次のタスク
インスタンスにログインし、App Engine Studio からApp Engine Studio でのソースコントロールの操作を実行します。

アプリの公開

App Engine Studio (AES) でアプリが完成したら、承認と公開のために提出する必要があります。使用するプロセスは、自分がソースコントロールにリンクされているかどうかによって異なります。

承認と公開のためのアプリの送信

App Engine Studio (AES) でビルドしたアプリケーションをアドミンレビューのために送信して、公開するプロセスを開始します。

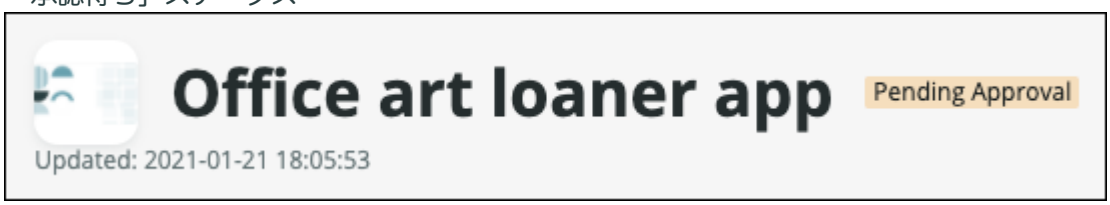
始める前に
必要なロール：権限 (目的のアクションに応じて、[展開の送信 **(Submit for deployment)]**、 [アプリリポジトリに公開 **(Publish to app repo)]**、または [アプリストアに公開 **(Publish to app store)]**) を持つ委任開発者

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリホームから、[送信] を選択します。
4. 表示されるダイアログボックスで、送信の詳細を確認し、[送信] を選択します。

次のタスク
アドミニストレーターは送信されたアプリケーションをレビューし、潜在的な問題がないかチェックします。アプリケーションのステータスは、App Engine Studio のアプリケーションホームから確認できます。

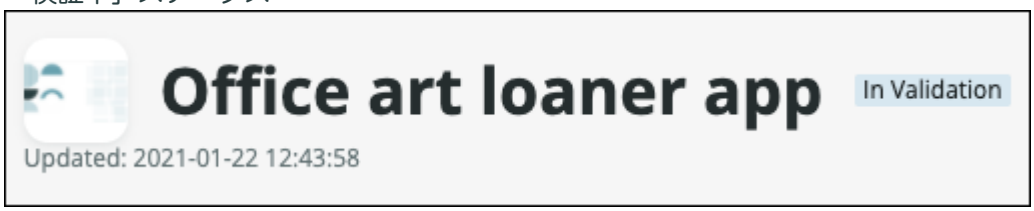
「承認待ち」ステータス



レビュー担当者がアプリケーションのテストを開始すると、ステータスが [検証中] に変わります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「検証中」ステータス



アドミニストレーターは、アプリケーションのさまざまなロール用のテストアカウントを提供する場合があります。これらの各アカウントでログインし、アプリケーションが想定どおりに機能することを確認します。

レビュー担当者がアプリケーションを却下すると、ステータスが [却下] に変わります。レビュー担当者のコメントを含むメールを受け取ることもあります。フィードバックを使用してアプリケーションを改善してから、アプリケーションを再送信します。

「却下」ステータス

アプリケーションがテストに合格すると、アドミニストレーターがアプリケーションを公開し、ステータスが [公開] に変更されます。アドミニストレーターがアプリケーションを要求したチームをオンボーディングします。たとえば、アプリケーションに特定のセキュリティロールを指定した場合、アドミニストレーターはそのロールを関連するユーザーに割り当てます。

「公開」ステータス

関連情報

AES を使用する開発者の委任

App Engine Studio からのアプリの公開 (ソースコントロールにリンクされている場合)

ソースコントロールにリンクされている場合、App Engine Studio (AES) からカスタムアプリケーションを公開できます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

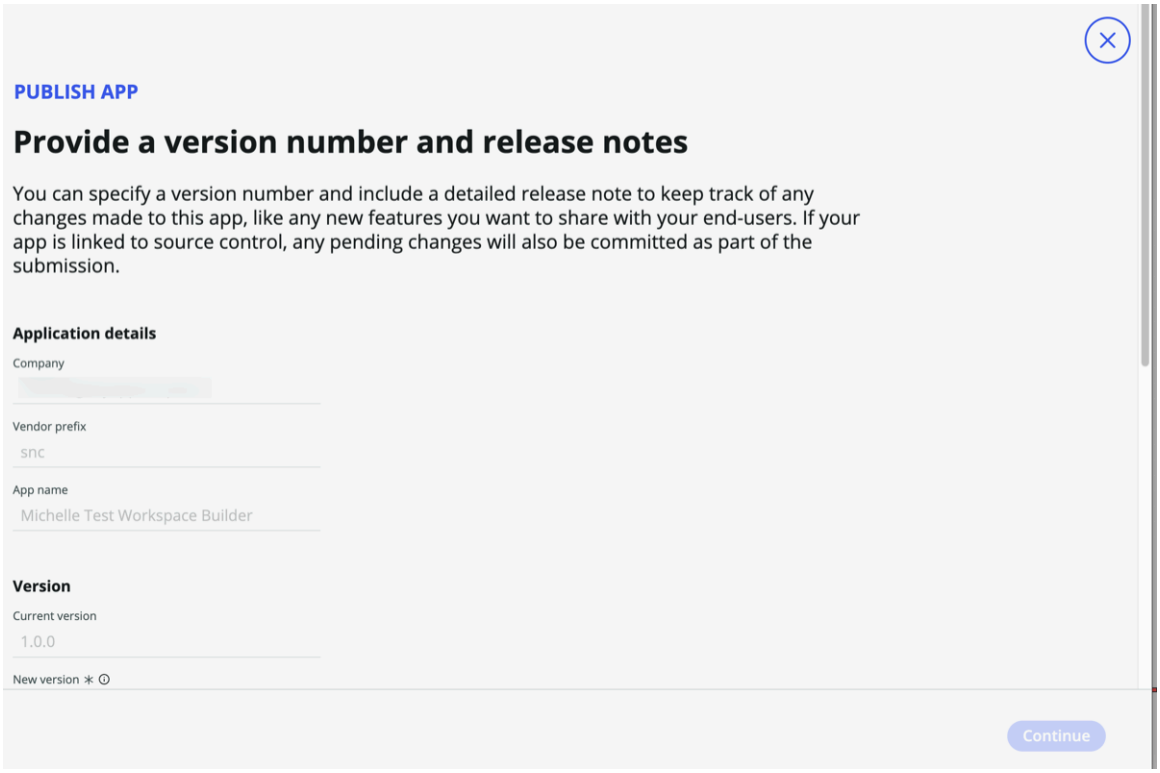
ソースコントロールにリンクされている App Engine Studio からアプリケーションを公開すると、sys_app または sys_store_app の [公開] 関連リンクを介して公開する場合とは異なる結果になります。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. アプリホームから、[公開] を選択します。
   App Engine Studio に [アプリを公開] フィールドが表示されます。



4. 次のフィールド値を入力します。

バージョン番号とリリースノートを入力してください

フィールド	説明
バージョン	現在のアプリバージョンを表示し、アプリケーションの新しいバージョン番号を入力します。 注: バージョン番号を変更するには、[展開の送信 **(Submit for deployment)]**、[アプリリポジトリに公開 **(Publish to app repo)]**、または [アプリストアに公開 **(Publish to app store)]** のいずれかの展開権限が必要です
リリースノート	アプリケーションに加えた変更の簡単な説明を入力します。
オプションを公開	アプリケーションをアプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store に公開するかどうかを選択します。

注: インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、Git リポジトリをアプリケーションにリンクするための認証情報を共有します。

5. [続行] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 追跡されていない変更やコミットされていない変更を含む、アプリケーションの現在のステータスがソースコントロールにコミットされます。
[glide.sourcecontrol.default_commit_mode] プロパティの値は無視されます。
これは、アプリケーションが公開されるときに、追跡されない変更やコミットされない変更もすべて公開されるために発生します。したがって、Git リポジトリ内のアプリケーションのステータスは、公開されているものと一致します。**[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティの詳細については、「リポジトリに変更をコミット」のトピックを参照してください。
7. 新しいバージョンのソースコントロールタグが作成され、アプリケーションが公開されます。
必要に応じて、sys_app レコードが新しいストア相関 ID で更新されます。

> **注:** アプリケーションがソースコントロールにリンクされ、App Engine Studio の外部で新しいバージョンを公開すると、ソースコントロールのコミットとタグは作成されません。

パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理

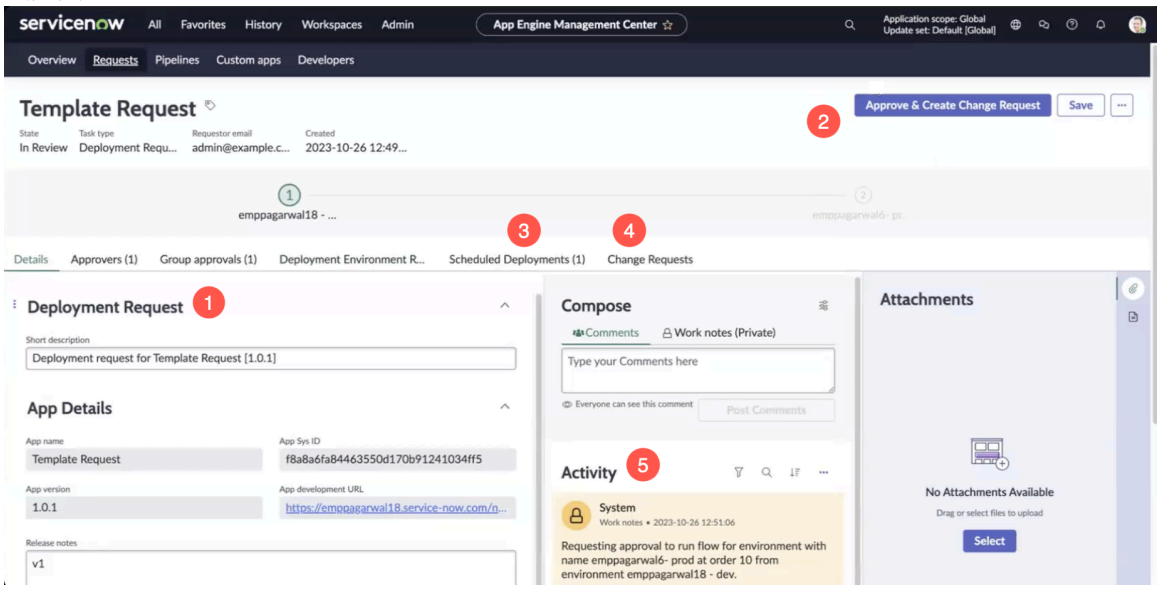
開発者が App Engine Studio (AES) を使用してビルドしたアプリケーションを確認し、自信を持って展開できるようにします。

展開要求

開発者が App Engine Studio でアプリケーションを送信すると、展開要求が作成されます。展開要求は、送信されたアプリケーションのレビューを追跡するためのレコードです。

レビュー担当者は、App Engine 管理センター を使用して、アプリをテスト環境に展開、却下、または公開できます。既存の 変更管理プログラムを AEMC と統合し、アプリを本番に展開する準備ができている場合は、変更要求を作成し、指定された変更時間帯内にアプリを展開できます。

展開要求



1. 展開要求と展開中のアプリケーションの詳細を表示します。
2. アプリの展開の準備ができたら、[変更要求の承認と作成 **(Approve & Create Change Request)**] を選択します。このアクションにより、ガイド付きセットアップを使用して構成した 変更管理 プロセスが開始されます。

> **注:** パイプラインと展開 と統合された既存の 変更管理 プログラムがない場合は、[アプリを承認して展開 **(Approve & Deploy app)**] を選択して、展開を次のステージに移動します。

3. [スケジュール済み展開 **(Scheduled Deployments)**] タブで展開の詳細を表示および編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [変更要求] タブで変更要求の詳細を表示します。ロールによっては、要求の詳細を変更できる場合があります。
5. [アクティビティ] ストリームで、テスト結果、変更要求の進捗状況、その他の展開の詳細を確認します。

> **注:** パイプライン内のすべてのインスタンスをアップグレードせずに展開要求を送信した場合は、既存のパイプラインが引き続き使用されます。

展開要求のレビューの詳細については、「パイプラインと展開 アプリの [展開要求] フォーム」を参照してください。

アプリケーションのテスト

送信されたアプリケーションを公開する前に、非本番インスタンスでテストします。テストを開始するには、アドミニストレーターが展開要求を開いて [承認] を選択する必要があります。パイプラインレコードを読み取って、要求の次のステータスを決定します。

アプリケーションをテストする目的は、本番インスタンスの実行可能性を確認することです。アプリが [テスト中] ステータスに移行すると、適切なプロパティがアクティブ化されている場合に ServiceNow 自動テストフレームワーク (ATF) のテストが実行されます。

アプリケーションがテストに合格しない場合は、展開要求を却下します。

テスト環境への展開

アプリケーションをテスト環境に展開またはインストールすると、次の 2 つのジョブが自動的に実行されます。

- アプリケーション展開テストスイート
- スコープ対象アプリ定義のインスタンススキャン

これらのテストは、アドミニストレーターがアプリを展開する前に問題を診断するのに役立ちます。アプリケーション展開中の詳細については、「パイプラインと展開 ワークフローバージョン 24.1.2」を参照してください 。

展開中に自動的に実行されるジョブ

ジョブ	説明
アプリケーション展開テストスイート	自動テストフレームワーク (ATF) の一連のテストです。このスイートは、[ログ] と呼ばれる単一のテストで構成されています。テストが実行されると、スキャン結果がテスト結果 [sys_atf_test_result] テーブルに記録されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

展開中に自動的に実行されるジョブ (続く)

ジョブ	説明
	注: アプリケーション展開テストスイートを実行するには、次の 2 つのシステムプロパティをアクティブ化する必要があります。 • sn_atf.runner.enabled • sn_atf.schedule.enabled これらがアクティブ化されていない場合は、インスタンススキャンのみが実行されます。詳細については、「自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティをアクティブ化する」を参照してください。
スコープ対象アプリ定義のインスタンススキャン	インスタンススキャンは、非本番インスタンスの健全性の問題を診断し、ベストプラクティスに対応するのに役立ちます。詳細については、「インスタンススキャン」を参照してください。 インスタンススキャンでは、タスク [task] を拡張するアプリ内のすべてのテーブルがチェックされます。

アドミニストレーターは、展開要求の [展開環境の結果] タブを選択することで、トラブルシューティングのためにスキャンの結果を表示できます。

インスタンスのレコードを開くだけです。結果は 3 つのタブに分割されます。

- **ATF** の結果
  - テストスイート名
  - テスト URL
  - 成功と失敗の件数
  - 全体のエラー数
- インスタンススキャン結果
  - スキャンスイート名
  - スキャン URL
  - スキャンの結果数
- [結果 **(JSON)**] には、ATF のフォーマットされていない JSON コードとインスタンスのスキャン結果、およびスキャン中に特定されたすべてのエラーが含まれます。この JSON は [メモ **(Notes)**] 関連リストにもあります。

アプリケーションの公開

アプリケーションがテストに合格した場合は、展開要求を開き、アプリケーションを本番環境に展開します。これで組織内のすべての従業員がアプリケーションを利用できるようになります。詳細については、「AEMC でのパイプラインを使用した展開の管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細について

詳細情報が必要な場合は、ServiceNow が提供している外部ガイドをご覧ください。

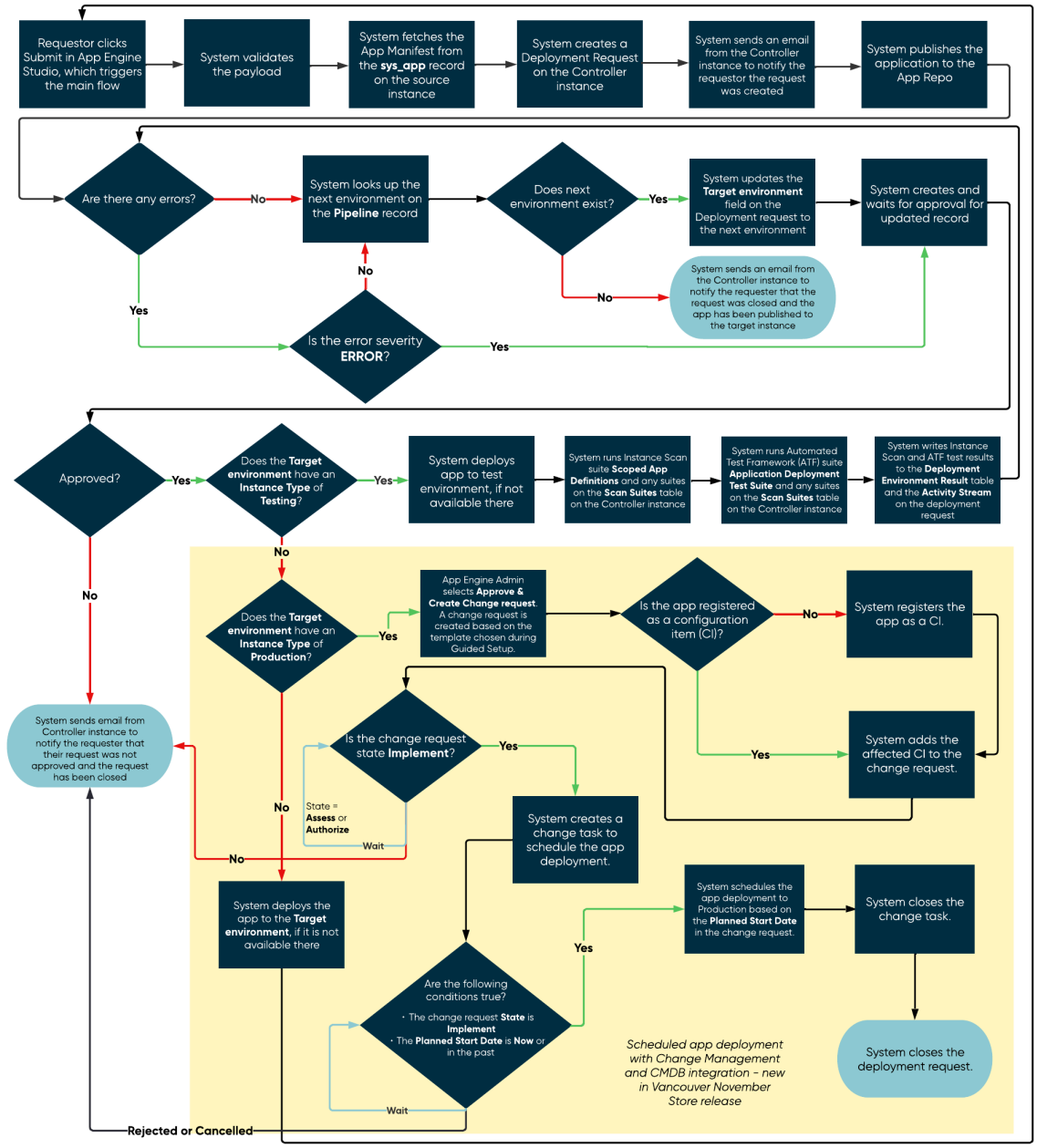
パイプラインと展開 に関する詳細	追加の **ServiceNow** リソース
パイプラインと展開 アプリは、App Engine Studio を使用して作成しているアプリを、インスタンス間に事前定義された順番で展開するために使用されます。 以前のバージョンとは異なり、パイプラインと展開 を使用すると、アプリの作成、テスト、ステージング、本番の各インスタンスにアプリを無制限に展開できます。	AES パイプラインを介したアプリの昇格 App Engine Studio でアプリを迅速に作成

パイプラインと展開 ワークフローバージョン **24.1.2**

App Engine 管理センター (AEMC) でアプリ展開の要求を管理するときは、このワークフローを使用して、2023 年 11 月リリースのバージョン 24.1.2 でアプリ展開がパイプラインをどのように移動するかを把握します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パイプラインと展開 のワークフロー



このワークフローの場合：

1. 要求者が App Engine Studio で [送信] を選択すると、メインフローがトリガーされます。
2. システムは、バックグラウンドで次のタスクを実行します。
   a. ペイロードを検証します。
   b. ソースインスタンスの **sys_app** レコードからアプリマニフェストをフェッチします。
   c. コントローラーインスタンスで展開要求を作成します。
   d. コントローラーインスタンスからメールを送信して、要求が作成されたことを要求者に通知します。
   e. アプリケーションを アプリケーションリポジトリ に公開します。
3. 公開中にエラーがあるかどうかに応じて、システムは異なるアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. アプリの公開にエラーがあり、エラーの重大度が [エラー] の場合、システムは更新されたレコードを作成して承認を待機します。

b. エラーがない場合、またはエラーはあるがエラーの重大度が [エラー]ではない場合、システムは [パイプライン **(Pipeline)]** レコードで次の環境を検索します。

   i. 次の環境がない場合、システムはコントローラーインスタンスからメールを送信して、要求がクローズされ、アプリがターゲットインスタンスに公開されたことを要求者に通知します。このアクションにより、ワークフローが終了します。

   ii. 次の環境がある場合、システムは展開要求の [ターゲット環境 **(Target environment)]** フィールドを次の環境に更新します。次に、システムは更新されたレコードを作成し、承認を待ちます。

4. 新しいレコードが承認されたかどうかに応じて、システムはさまざまなアクションを実行します。

a. レコードが承認されなかった場合、システムはコントローラーインスタンスからメールを送信して、要求が承認されず、クローズされたことを要求者に通知します。このアクションにより、ワークフローが終了します。

b. レコードが承認され、 [ターゲット環境 **(Target environment)]** が [テスト中 **(Testing)]** である場合、システムは次のアクションを実行します。

   i. アプリがテスト環境で利用できなければ、アプリをテスト環境に展開します。

   ii. [スコープ対象アプリの定義 **(Scoped App Definitions)]** インスタンスのスキャンスイート、およびコントローラーインスタンスの [スキャンスイート] [scan_suites] テーブルの他のスイートを実行します。

   iii. [アプリケーション展開テストスイート **(Application Deployment Test Suite)]** の自動テストフレームワーク (ATF) スイート、およびコントローラーインスタンスの [スキャンスイート] [scan_suites] テーブルの任意のスイートを実行します。

   iv. インスタンススキャンと ATF のテスト結果を、展開要求の [展開環境の結果 **(Deployment Environment Result)]** テーブルと [アクティビティストリーム **(Activity Stream)]** に書き込みます。

   v. ワークフローをステップ 3 に戻して、エラーがないかをチェックします。

c. レコードが承認され、[ターゲット環境] が [本番] の場合、アプリは変更管理統合でスケジュール設定済み展開プロセスを開始します。

   i. App Engine アドミニストレーターは、[変更要求の承認と作成 **(Approve & Create Change Request)]** を選択します。ガイド付きセットアップで選択したテンプレートに基づいて変更要求が作成されます。

   ii. アプリが構成アイテム (CI) として登録されているかどうかに応じて、システムはさまざまなアクションを実行します。

      1. アプリが CI として登録されていない場合、システムはアプリを CI として登録し、影響を受ける CI を変更要求に追加します。

      2. アプリが CI として登録されている場合、システムは影響を受ける CI を変更要求に追加します。

   iii. 変更要求が [実装] ステータスにあるかどうかに応じて、システムはさまざまなアクションを実行します。

      1. 変更要求状況が [実装] ではなく、ステータスが [評価] でも [許可] でもない場合、システムはコントローラーインスタンスからメールを送信して、要求が承認されず、クローズされたことを要求者に通知します。これにより、ワークフローが終了します。

      2. 変更要求状況が [実装] ではなく、ステータスが [評価] または [許可] である場合、システムはステータスが [実装] になるまで待機します。

      3. 変更要求状況が [実装] である場合、システムは変更タスクを作成してアプリの展開をスケジュールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

iv. 変更要求状況が [実装] であり、[開始予定日] が [今] でも過去の日付でもない場合、システムはこれら 2 つの条件が満たされるまで待機します。

v. 変更要求状況が [実装] であり、[開始予定日] が [今] または過去の日付であるが、要求が [却下] または [キャンセル] である場合、システムはコントローラーインスタンスからメールを送信して、要求が承認されず、クローズされたことを要求者に通知します。これにより、ワークフローが終了します。

vi. 変更要求状況が [実装] であり、[開始予定日] が [今] または過去の日付である場合、システムは変更要求の [開始予定日] に基づいて本番へのアプリの展開をスケジュールします。システムは変更タスクをクローズしてから、展開要求をクローズします。これにより、ワークフローが終了します。

d. レコードが承認され、[ターゲット環境 **(Target environment)]** が[テスト中 **(Testing)]** でも [本番] でもない場合、ターゲット環境でアプリを利用できなければ、システムはアプリをターゲット環境に展開します。

要求者が App Engine Studio で [送信] を再度選択すると、ワークフローが再開されます。

App Engine Studio からのアプリの削除

適切な権限がある場合は、App Engine Studio (AES) からアプリケーションを削除できます。

始める前に

必要なロール：admin、アプリケーション削除、または権限を持つ委任開発者詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて

委任開発者は、権限に基づいてアプリケーションを削除できます。削除する権限を要求するには、アドミニストレーターにお問い合わせください。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > **[App Engine Studio]**に移動します。
2. [自分のアプリ] ページからアプリケーションを開きます。
3. アプリケーションで、[アプリケーションプロパティの編集] アイコン (アイコン) を選択します。
4. [アプリケーションを削除] を選択します。
5. ダイアログボックスに、「削除」と入力してから、[削除] を選択します。

App Engine 管理センター を使用したアプリ開発の管理

本番インスタンスの App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、App Engine Studio (AES) および クリエータースタジオ の要求、展開、アプリケーション、共同開発者を追跡および管理します。さらに、AEMC を使用すると、アドミニストレーターはアプリ開発を取り込みから本番まで管理できます。

AEMC は、パイプラインと展開 を使用して、さまざまなインスタンスを介してアプリケーションを展開します。パイプラインと展開 は、アプリケーションリポジトリ を使用してこれらの展開を管理します。詳細については、「ServiceNow アプリケーションリポジトリ」を参照してください。

各アプリケーションは、アプリケーションリポジトリ または システムアップデートセット を使用して展開できます。過去に更新セットを使用していても、アプリケーションリポジトリ を使用するように切り替えたい場合は、代わりに アプリケーションリポジトリ を使用して 1 回限りの変換を行い、アプリを展開できます。すべてのアプリが同じ展開に従う必要はありません。詳細については、「アプリケーションリポジトリでカスタムアプリケーションを変換してアップグレードする」と「システムアップデートセット」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine 管理センターのその他のリソース

App Engine 管理センター に関する詳細	ServiceNow リソース
AEMC はどのインスタンスでも使用できますが、完全に機能させるには AEMC を本番インスタンスにインストールする必要があります。また、本番環境のコントローラーインスタンスを使用して展開パイプラインを設定する必要があります。詳細については、「パイプラインと展開 の構成」を参照してください。	App Engine 管理センターを使用して大規模なローコードアプリ開発を管理する クリエーターツールボックス | App Engine 管理センター アプリ管理センターを使用して大規模なローコードアプリ開発を管理する

AEMC のナビゲーション

AEMC の概要画面から、プライマリナビゲーション バーのアイコンを選択して、[要求]、[パイプライン]、[カスタムアプリ]、[開発者] の 4 つの追加ビューに移動できます。

AEMC プライマリナビゲーションバー

ページ	説明
概要	すべての取り込み、アプリ、コラボレーション、展開要求の概要ビューで、過去 90 日間の各タイプの新しい要求をグラフで示します。また、パイプラインとアプリケーション測定基準の概要を表示することもできます。
要求	承認ステータス別に分類された各要求タイプの完全なリストです。
パイプライン	各インスタンスおよび各パイプライン内のオープンな展開要求の数の概要ビューです。パイプラインまたはパイプライン内の環境を選択すると、すべてのアクティブな展開要求が表示されます。 **注:** 本番インスタンスの展開要求を表示すると、その環境のすべての [クローズ済み (公開済み)] の展開要求が一覧表示されます。
カスタムアプリケーション	アクティブなアプリケーションのステータスを示すチャートとグラフ、および開発中または本

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AEMC プライマリナビゲーションバー (続く)

ページ	説明
	番環境のすべてのカスタムアプリのリスト。使用情報、展開履歴、協力者など、個々のアプリの詳細を表示できます。
開発者	開発者の総数とアクティブ開発者、および部門別の開発者を示すチャートおよびグラフです。協力者として関与したアプリや要求履歴など、個々の開発者の詳細を表示できます。

AEMC を使用した要求の管理

App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、取り込み、アプリ、コラボレーション、および展開要求を追跡、承認、または却下できます。

より効率的に作業するために、要求をフィルタリングして検索することもできます。

取り込み要求の管理

App Engine 管理センター (AEMC) ダッシュボードの App Engine Studio で、開発者によって送信された取り込み要求の詳細を表示し、それらを承認または拒否します。

始める前に

取り込み要求を AEMC に表示する前に、Application Intake アプリケーションが適切に構成されていることを確認する必要があります。詳細については、「Application Intake の構成」を参照してください。取り込み要求を送信する方法の詳細については、「アプリ開発のためのアイデアの送信」を参照してください。

クリエータースタジオ の制限付きユーザーから送信されたアプリ要求は、[要求] ページの [アプリ] タブで管理されます。詳細については、「クリエータースタジオ からのアプリ要求の管理」を参照してください。

必要なロール：sn_app_eng_notify.app_engine_admin

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [アドミニストレーション] > **[App Engine** 管理センター]に移動します。

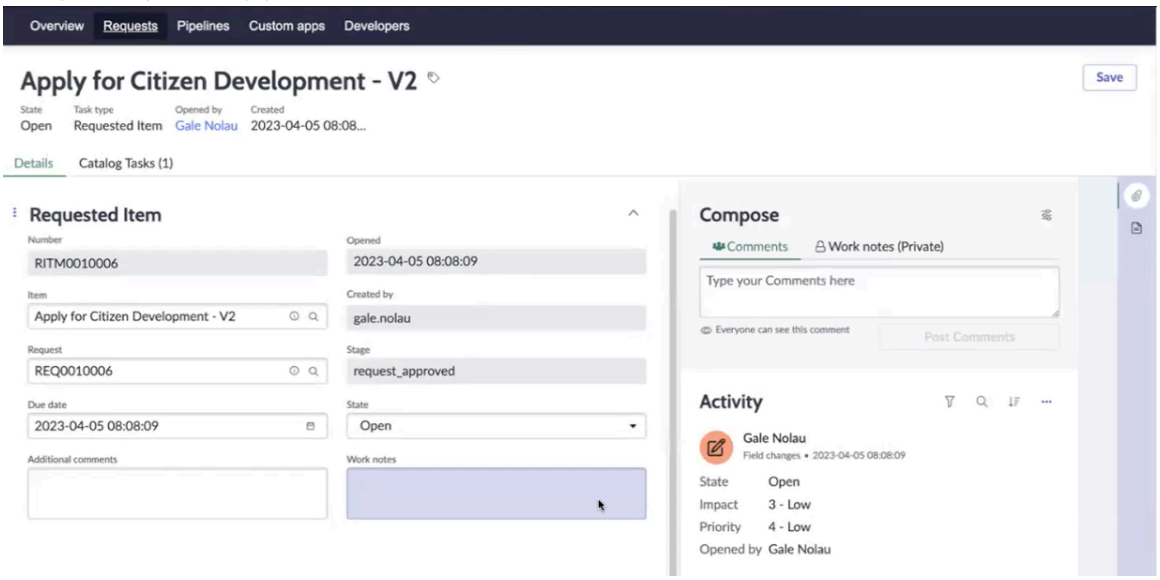
   AEMC ダッシュボードには、処理待ちの取り込み要求の数が表示されます。

   注: すべての取り込み要求のリストを表示するには、要求の数を選択するか、[要求] ページを選択します。

2. 取り込み要求を選択して、その詳細を確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

処理待ちの取り込み要求



3. [詳細] タブに戻って要求を確認します。

   注: [アドミニストレーション] セクションには [開発インスタンス] フィールドが含まれています。開発者が使用する予定の開発インスタンスが選択されていることを確認します。また、ユーザーがそのインスタンスで定義されていない場合は、メッセージが表示され、そのインスタンスにユーザーを手動で追加する必要があります。詳細については、「ユーザーの作成」を参照してください。

4. [管理] セクションの [権限タイプ] リストを使用して、このアプリケーションにグループをプロビジョニングするため、次のいずれかのオプションを選択します。

権限タイプ	説明
グループを選択	このアプリケーションを開発するため、次の 1 つ以上のグループ権限を付与するオプション。 ◦ App Engine Studio ユーザー制限あり ◦ App Engine Studio ユーザー ◦ クリエータースタジオ 制限付きユーザー ◦ クリエータースタジオ ユーザー このリストに表示されるグループを制御する方法の詳細については、「Application Intake のユーザーグループを管理する」を参照してください。
ユーザーを手動でプロビジョニングします	アプリケーションにグループを手動で追加するオプション。
要求者権限を付与しない	要求時にアプリケーションにグループを追加しないオプション。

5. その要求を承認または却下します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 要求が承認されると、ユーザーは App Engine Studio ユーザーグループに追加され、App Engine Studio ユーザーロールが付与されます。AES ユーザーロールにより、開発者は承認されたインスタンスで AES のアプリケーションの作成を開始できます。ユーザーは、プロビジョニングされたインスタンスへのリンクを含むメール通知も受信します。AES ユーザーロールの詳細については、「App Engine Studio とともにインストールされるコンポーネント (Components installed with App Engine Studio)」を参照してください。
- 要求が却下された場合は、却下メールがユーザーに送信されます。ユーザーは新しい要求を送信できます。ただし、却下された要求は編集できません。

クリエータースタジオ からのアプリ要求の管理

クリエータースタジオ 制限付きロール (sn_creator_studio_restricted_user) を持つユーザーが作成するアプリに関して送信する、App Engine 管理センター (AEMC) での新しいアプリ要求を表示および管理します。

始める前に
必要なロール：sn_app_eng_notify.app_engine_admin

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [アドミニストレーション] > **[App Engine** 管理センター]に移動します。
2. [要求] ページで [アプリ] タブを選択して、すべてのアプリ要求を表示します。
3. アプリ要求を選択すると、詳細が表示されます。
4. 要求を承認または却下します。
   - アプリが組織にとって有用な場合は、要求を承認します。
   - アプリ要求に問題がある場合は、要求を却下します。アプリ要求が拒否された場合、元の要求者は、再検討のための変更を反映したアプリの新しい要求を入力する必要があります。

コラボレーション要求の管理

アドミニストレーターは、アプリケーションのビルドを支援する開発者からの App Engine 管理センター (AEMC) のコラボレーション要求を表示、承認、または却下します。

始める前に
AEMC でコラボレーション要求を表示するには、最初に本番インスタンスでパイプラインと展開を設定する必要があります。そうしないと、要求は元のインスタンス (App Engine Studio (AES) がインストールされたインスタンス) で作成されます。

必要なロール：sn_app_eng_notify.app_engine_admin

このタスクについて
コラボレーション権限を持つ開発者は、アプリケーションの特定の部分にアクセスして開発できます。コラボレーションの要求は、App Engine Studio または クリエータースタジオ から送信される場合があります。

協力者からの要求は、協力者がすでに持っている権限またはロールに応じて、自動的に承認される場合があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- AES のコラボレーション要求の場合、AES ユーザーロールを持つユーザーは自動的に承認されます。
- 既にアプリを作成している (または作成したことがある) クリエータースタジオ ユーザーには委託開発権限があり、他のアプリでのコラボレーションが自動的に承認されます。
- クリエータースタジオ ユーザーロールまたは クリエータースタジオ 制限付きユーザーロールを持たない現在の委任開発者は、クリエータースタジオ でのコラボレーションを自動的に承認されます。

コラボレーションと権限の管理の詳細については、「他の開発者とのコラボレーション」を参照してください。

手順

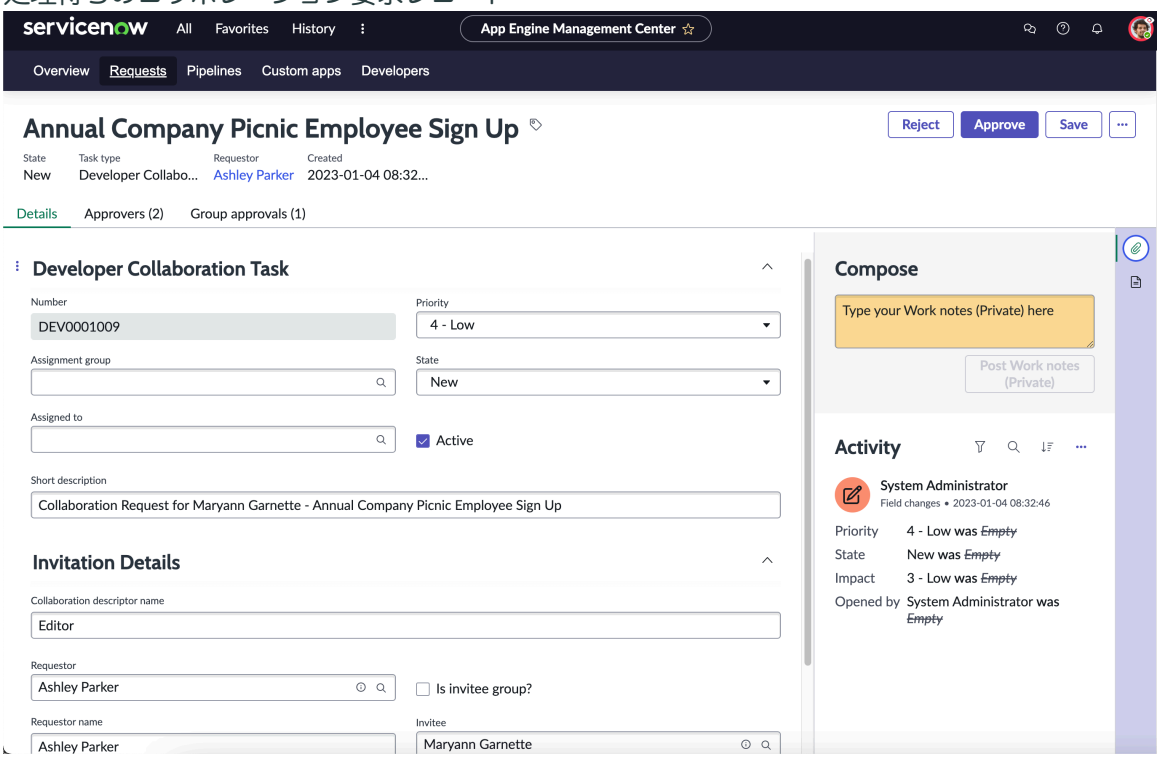
1. [すべて] > **[App Engine]** > [アドミニストレーション] > **[App Engine** 管理センター] に移動します。

   AEMC ダッシュボードには、処理待ちのコラボレーション要求の数が表示されます。

   注: すべてのコラボレーション要求のリストを表示するには、要求の数を選択するか、[要求] ページを選択します。

2. コラボレーション要求を選択して、その詳細を確認します。

処理待ちのコラボレーション要求レコード



3. [詳細] タブに戻って要求を確認します。
4. その要求を承認または却下します。
   - 要求が承認されると、協力者として招待されたユーザーが指定されたアプリに開発者として追加されます。その協力者は、コラボレーション記述子で定義されたアプリの一部で作業できるようになりますが、AES で同時に他のアプリを開発することはできません。AES ユーザー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールの詳細については、「App Engine Studio とともにインストールされるコンポーネント (Components installed with App Engine Studio)」を参照してください。

- 要求が却下された場合、その要求はクローズされ、プライマリ開発者にメールで通知されます。

展開要求の管理

アプリケーションが開発から本番に移行するときに、App Engine Studio App Engine 管理センター (AEMC) で展開要求をレビューして承認または却下します。

始める前に

必要なロール：sn_app_eng_notify.app_engine_admin

このタスクについて

AEMC で展開要求を表示するには、パイプラインを正しく構成する必要があります。詳細については、「パイプラインと展開 の構成」を参照してください。

手順

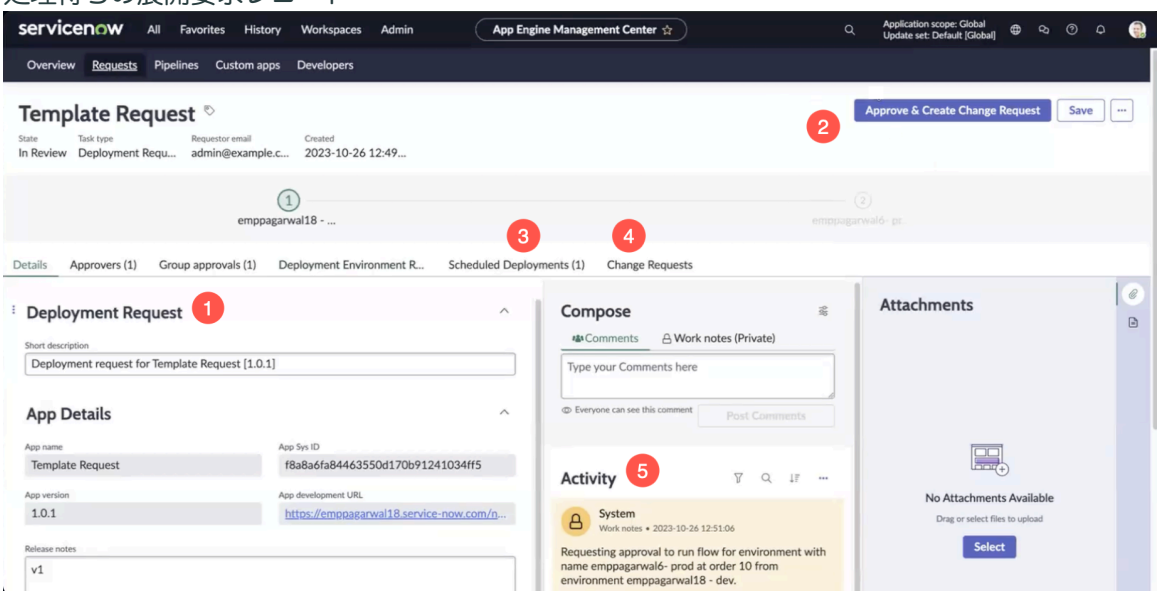
1. [すべて] > **[App Engine]** > [アドミニストレーション] > **[App Engine** 管理センター] に移動します。

   AEMC ダッシュボードには、展開要求の数が表示されます。

   注: すべての展開要求のリストを表示するには、要求の数を選択するか、[要求] ページを選択します。

2. 展開要求を選択して、その詳細を確認します。

   処理待ちの展開要求レコード



3. 展開要求の詳細を確認しますが、それにはアプリケーション、展開を要求した開発者、展開プロセスについての詳細などが含まれます。

   各展開要求の上部には、パイプライン内のアプリの現在の位置が表示されます。

   注: 要求がテスト環境にある場合は、アクティビティストリームまたは [展開環境の結果] タブで、自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) テストとインスタンススキャンの結果を確認できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. アプリマニフェストのメモとアプリケーションアクティビティ、および開発者が追加した重要な詳細を確認します。
5. 別の App Engine Studio (AES) アドミニストレーターがその展開要求を確認する必要がある場合は、要求のアサイニーを更新して [保存] を選択します。
6. その要求を承認または却下します。
   - アプリケーションを次の展開ステージに移動するには、[アプリを承認して展開 **(Approve & Deploy app)]** を選択します。
   - 既存の 変更管理 プロセスを AEMC と統合している場合は、[変更要求の承認と作成 **(Approve & Create Change Request)]** を選択します。このアクションにより変更要求が作成され、[変更要求] タブで表示および監視できます。
   - アプリケーションの準備ができていないか、次の展開ステージに移行した場合に問題が発生する可能性がある場合は、[却下] を選択します。[作業メモ] を追加して、却下された理由と、アプリケーションを展開するために必要な変更を特定します。

> **注:** 変更管理 ロールがアサインされていない限り、[変更要求] タブのほとんどの情報は読み取り専用です。変更要求を監視し、ステータスの変化を確認できます。ただし、変更管理 権限がある場合は、開始予定日と終了予定日、ステータスなど、変更要求の特定のフィールドを更新できる場合があります。

AEMC での要求のフィルタリングと検索

App Engine 管理センター (AEMC) アプリケーションには、要求を見つけるためのツールがあります。要求レコードのグローバル検索を実行するか、現在の要求のリストをフィルタリングして、作業する要求を見つけることができます。

要求のフィルタリング

[要求]、[パイプライン]、[カスタムアプリ]、および [開発者] のページでは、いくつかの異なる基準で要求のリストをフィルタリングできます。

フィルターを作成するには、フィルターアイコン ( ) を選択し、[詳細ビュー] を選択して、基準を追加します。フィールド、演算子、および値を含む条件を追加して、フィルターを作成します。既存のフィルターを使用して作成した内容を保存し、フィルターを使用できるユーザーを制限することができます。**[or]** および **[and]** コネクタを使用して、より複雑なフィルターを作成します。必要な数のフィルターを追加し、[更新] を選択します。

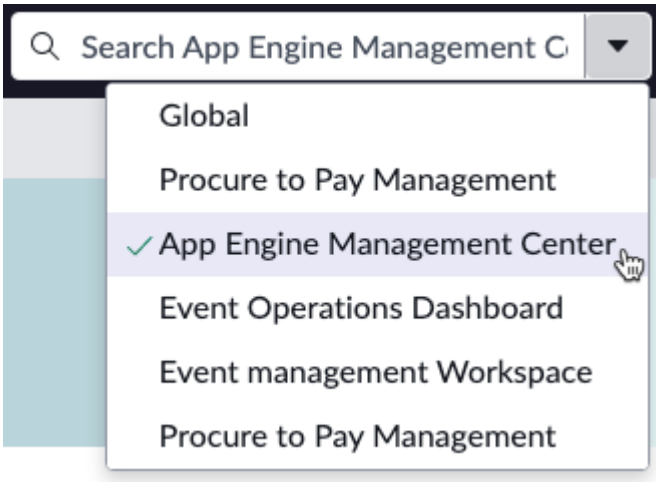
[パイプライン] タブでフィルタリングすると、フィルタリング基準に一致する要求があるインスタンスのみで情報が表示されます。たとえば、パイプラインの 3 つのインスタンスで要求データが表示される場合、そのうちの 1 つのインスタンスでのみ使用されるアプリ名でフィルタリングすると、そのインスタンスのみが結果を返します。

要求の検索

任意の AEMC 画面の上部にある [検索] フィールドを使用して、送信された要求を検索できます。要求番号の全部または一部 (アスタリスクのワイルドカード文字を使用) を入力し、[結果を表示] を選択します。

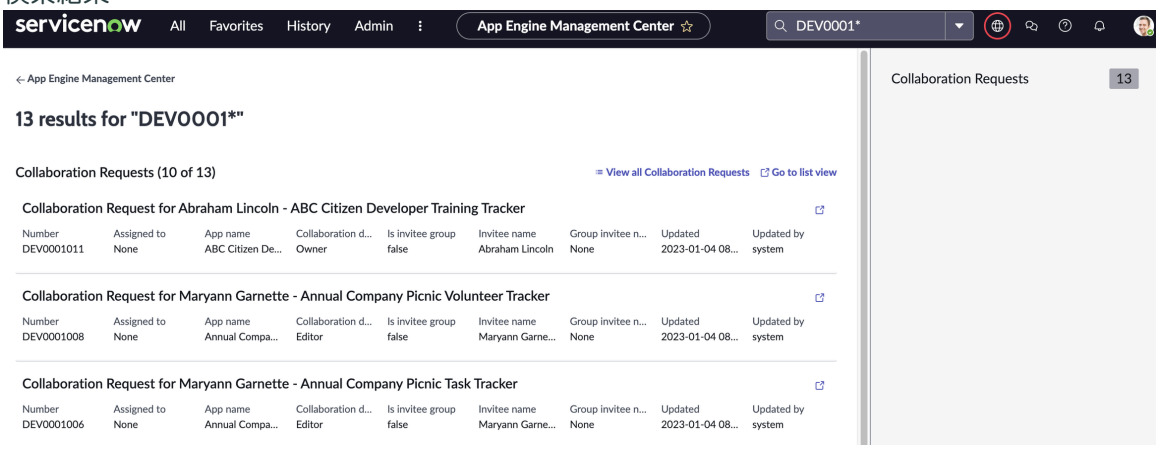
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

検索



たとえば、「DEV0001*」と入力して [結果を表示] を選択すると (または単に **Enter** キーを押すと)、DEV0001 で始まるすべてのコラボレーション要求のリストが返されます。

検索結果

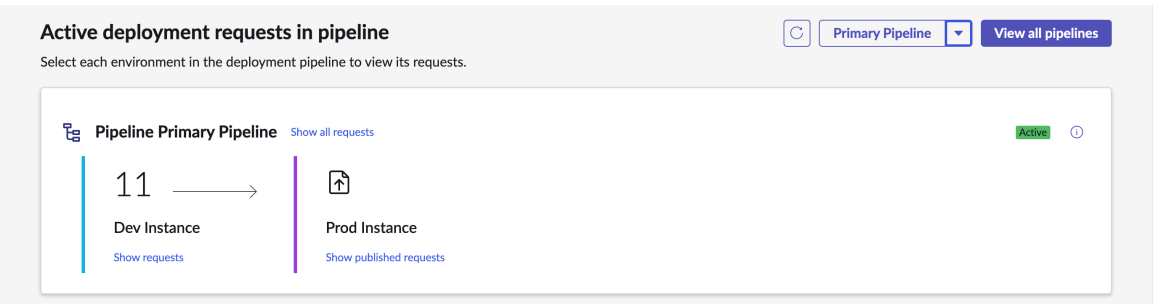


次に、レビューするレコードを選択できます。

AEMC でのパイプラインを使用した展開の管理

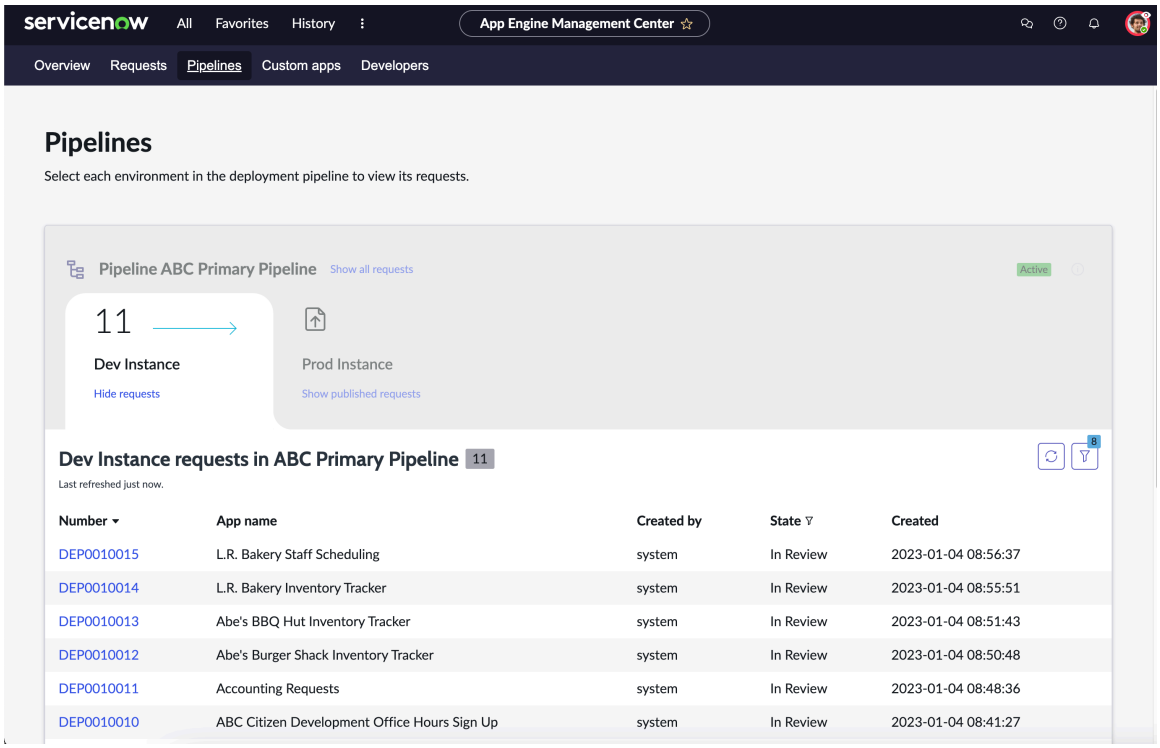
App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、展開のすべてのステージでアプリケーションを管理し、複数のパイプラインを表示し、展開要求を承認または却下します。

AEMC 概要ページの [パイプライン] セクションのアクティブな展開要求には、各パイプライン内の各展開段階でのアプリの数が表示されます。対応するセクションの横にある [すべての要求を表示]、[要求を表示]、または [公開要求を表示] を選択すると、要求の各グループの概要を表示できます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのパイプライン展開要求の全体像については、AEMCの [パイプライン] ページにアクセスしてください。すべてのパイプラインを表示し、各展開要求レコードにすばやくアクセスし、各パイプラインセクションをフィルタリングして、基準に一致する要求のみを表示します。



変更管理 の統合

既存の 変更管理 プログラムをアプリ展開プロセスと統合して、展開に監視を追加し、スケジュールされた変更時間帯に従ってアプリを展開できます。詳細については、「展開要求の管理」を参照してください。

AEMC でのアプリの展開のスケジュール

App Engine 管理センター (AEMC) を使用し、システムの負荷を分散するために、後で本番環境にアプリを展開するようにスケジュールします。

始める前に

必要なロール：admin または app_engine_admin

このタスクについて

パイプラインを介してアプリを展開するには、ある程度の処理能力が必要です。組織のニーズに応じて、他の場所で必要な処理能力が少ないときや、一般的に都合の良いときに展開をスケジュールすることができます。

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [アドミニストレーション] > **[App Engine** 管理センター] に移動します。
2. [要求] ページで、本番環境に移行する準備ができているアプリケーションの展開要求を選択します。
3. [アプリを展開] を選択します。
4. 今すぐアプリを展開するか、将来の展開時間を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 今すぐ展開するには、[展開] を選択します。
- 将来展開するには、[後で使用するためにスケジュール] を選択します。

5. オプション: 後で展開をスケジュールした場合は、日時ピッカーを使用してアプリを展開するタイミングを選択し、**[OK]** を選択して、[展開] を選択します。
アクティビティストリームには、展開の詳細と、選択した日時に展開されるアプリのバージョンが表示されます。アプリは、選択した展開時間の 15 分以内に展開されます。この期間を変更する場合は、[すべて] > [システム定義] > [スケジュール済みジョブ] > [スケジュール済み展開]に移動して、展開ワークフローがスケジュール済み展開レコードをチェックする頻度を更新します。
6. [保存] を選択します。

AEMC での展開要求の更新

App Engine 管理センター (AEMC) で展開要求の詳細を変更します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [アドミニストレーション] > **[App Engine** 管理センター] に移動します。
2. [要求] ページで、更新する展開要求を選択します。
3. [スケジュール済み展開] タブで、更新する展開レコードを選択します。
4. [スケジュール済み展開日] フィールドで、アプリを本番環境に展開する更新された日時を選択します。
5. [保存] を選択します。

AEMC でのスケジュール済み展開のキャンセル

アプリを本番環境に展開する必要がなくなった場合は、App Engine 管理センター (AEMC) でスケジュール済みのアプリの展開をキャンセルします。スケジュール済みの展開要求をキャンセルすると、スケジュール済みの展開と要求自体もキャンセルされます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[App Engine]** > [アドミニストレーション] > **[App Engine** 管理センター] に移動します。
2. [要求] ページで、更新する展開要求を選択します。
3. 展開要求で、[展開をキャンセル] を選択します。

AEMC を使用したカスタムアプリの管理

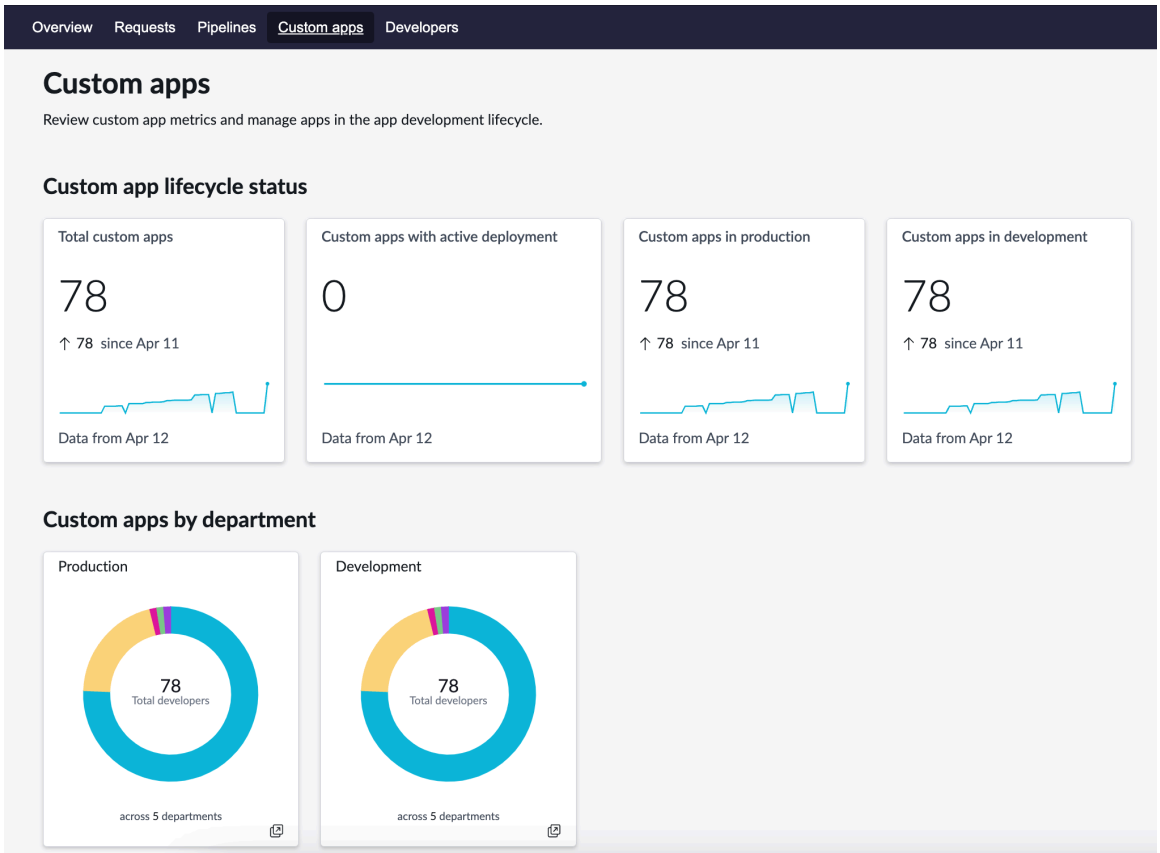
App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、カスタムアプリのメトリクスを確認し、開発ライフサイクルを通じてアプリを管理します。

AEMC 概要ページの App Engine 定着メトリクスセクションには、開発環境と本番環境にあるアプリの数が表示されます。各 [カスタムアプリ] カードで大きな番号を選択して、より多くの情報にアクセスします。

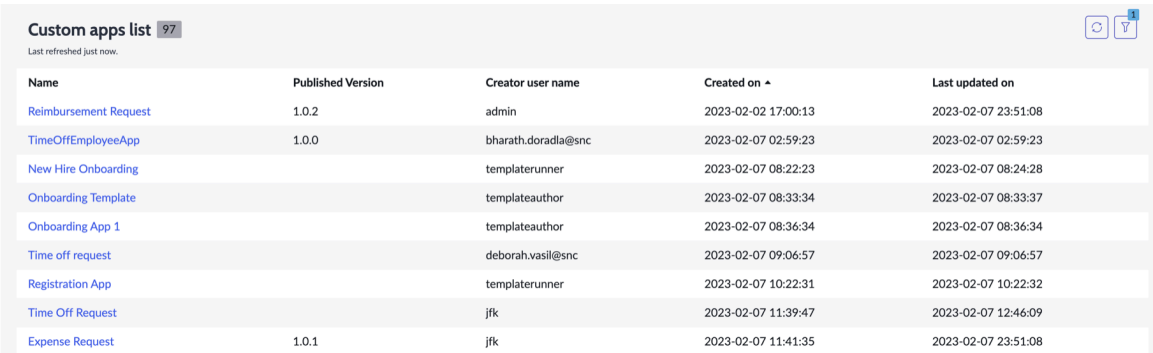
AEMC の [カスタムアプリ] ページには、より詳細なメトリクスとアプリケーションの完全なリストが表示されます。[カスタムアプリのライフサイクル状況 (Custom app lifecycle status)] セクションの各タイルには、過去 90 日間の傾向データが表示されます。[カスタムアプリ] リスト内のすべて

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

のアプリを表示するか、フィルターを使用して特定のタイプのアプリケーションのみに制限することができます。傾向グラフを選択して、これらの基準でリストをフィルタリングします。



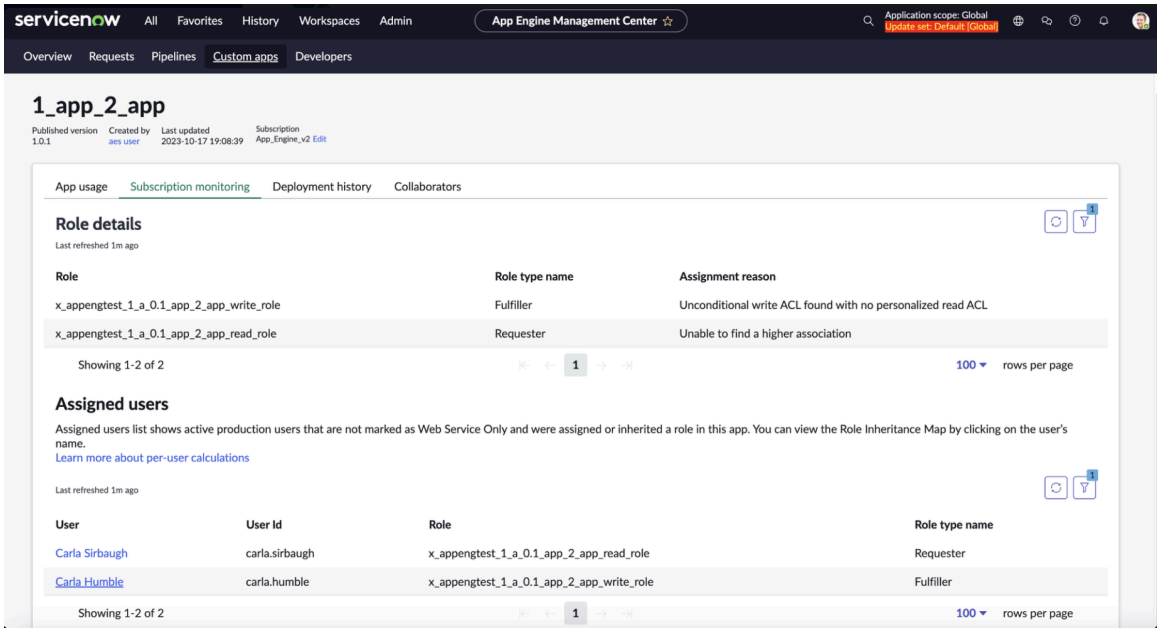
また、[カスタムアプリ] ページには、すべてのアプリケーションが個別にリストされ、アプリケーションごとに 1 つのレコードが表示されます。アプリが本番環境に公開されている場合は、[発行済みのバージョン] 列にバージョン番号が表示されます。[発行済みのバージョン] 列が空白の場合、アプリは開発中には存在しますが、本番環境に公開されていません。



Name	Published Version	Creator user name	Created on	Last updated on
Reimbursement Request	1.0.2	admin	2023-02-02 17:00:13	2023-02-07 23:51:08
TimeOffEmployeeApp	1.0.0	bharath.doradla@snc	2023-02-07 02:59:23	2023-02-07 02:59:23
New Hire Onboarding		templaterunner	2023-02-07 08:22:23	2023-02-07 08:24:28
Onboarding Template		templateauthor	2023-02-07 08:33:34	2023-02-07 08:33:37
Onboarding App 1		templateauthor	2023-02-07 08:36:34	2023-02-07 08:36:34
Time off request		deborah.vasil@snc	2023-02-07 09:06:57	2023-02-07 09:06:57
Registration App		templaterunner	2023-02-07 10:22:31	2023-02-07 10:22:32
Time Off Request		jfk	2023-02-07 11:39:47	2023-02-07 12:46:09
Expense Request	1.0.1	jfk	2023-02-07 11:41:35	2023-02-07 23:51:08

リストからアプリケーション名を選択すると、アプリの使用率データ、サブスクリプション監視の詳細、展開履歴、協力者 (存在する場合) が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[App Engine Studio で開く] を選択してアプリのコンテンツを表示し、詳細情報にアクセスします。App Engine Studio アプリケーションが新しいブラウザーウィンドウで開きます。

アプリ使用率

[アプリ使用率] タブを選択して、本番インスタンスのアプリの使用率データの概要を表示します。データには、現在の月に集計されたユーザー数、挿入数、および更新数が含まれます。

- ユーザー数：アプリケーションにアクセスしたユーザーの数。
- 挿入数：アプリケーション内のテーブルの新しいレコードの数。
- 更新数：更新されたアプリケーション内のレコードの数。

アプリケーションの使用率データを知ることには、いくつかのメリットがあります。

- アプリが使用されているかどうかを検出します。ユーザーはアプリを使用していますか？レコードを作成していますか？そうでない場合は、アプリを更新または削除することを検討してください。
- アプリの問題を調査して修正します。データがいつどのように変更されたかを知ることで、問題が発生した場所を特定できます。
- アプリのトラフィックが常に増加する可能性がある状況を確認して、インスタンスの処理能力を負荷分散する必要があるかどうかを判断します。

[ユーザーエクスペリエンスアナリティクス] ダッシュボードセクションでエクスペリエンスを選択すると、アクティブなユーザー、セッション、ページビューなどの詳細データを表示します。このデータを理解して使用する方法の詳細については、「ユーザーエクスペリエンスアナリティクスを使用する」を参照してください。

サブスクリプション監視

カスタムアプリケーションで使用されるロールと、ライセンスとサブスクリプションへの影響を理解します。このセクションのデータには、各ロールと、各ロールにアサインされているユーザーの詳細が含まれています。

各アプリケーションのサブスクリプションとライセンスのデータ情報を知ることには、いくつかのメリットがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- カスタムアプリケーションでアクティブなロールを検出します。
- 各ロールがアサインされているユーザーと、そのユーザーが持つ権限レベルを検出します。
- 各ライセンスタイプのコストへの影響と、アプリ内での使用場所を確認します。

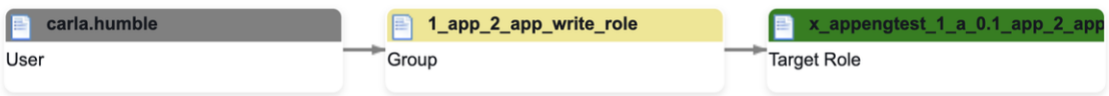
システムアドミニストレーターは、アプリがマッピングされているサブスクリプションを確認し、サブスクリプションを変更できます。いくつかの要因がこのセクションの内容に影響します。

- アプリが App Engine サブスクリプションにマッピングされている場合は、[サブスクリプション監視 **(Subscription Monitoring)]** タブが表示されます。
- アプリが ITSM など別のサブスクリプションにマッピングされている場合は、[サブスクリプション監視 **(Subscription Monitoring)]** タブが表示されません。
- アプリが App Engine にマッピングされ、別のサブスクリプションに切り替わり、さらに App Engine に戻った場合は、[サブスクリプション監視 **(Subscription Monitoring)]** タブが再度表示されます。

App Engine アドミニストレーターには、サブスクリプションを変更する権限がありません。ただし、アプリが本番環境にあり、[サブスクリプション監視 **(Subscription Monitoring)]** タブがある場合、App Engine アドミニストレーターはアプリが App Engine サブスクリプションにマッピングされていると推測できます。[サブスクリプション監視 **(Subscription Monitoring)]** タブがない場合、そのアプリは App Engine にマッピングされていません。

[割り当てられたユーザー **(Assigned Users)]** セクションでユーザーの名前を選択すると、ロール継承マップを表示できます。このマップは、このユーザーが親ロール、グループアサイン、または別の継承のいずれから、どのようにロールを継承したかを示します。この情報は、いずれかのユーザーに不適切なロールがアサインされており、それを変更したい場合に対応するのに役立ちます。

ロール継承マップ



アプリの展開

[展開履歴] タブで、アプリが実行した展開のリストを表示します。

展開履歴情報を知ることには、いくつかのメリットがあります。

- アプリが本番環境に展開されたときに欠陥がある場合は、アプリがいつ展開されたかをすばやく確認し、問題を追跡できます。
- アプリが複数回展開されている場合は、複数回の展開にわたって変更内容をすばやく追跡できます。
- アプリが本番環境に展開されている場合は、アプリの展開を承認したユーザーをすばやく確認できます。

アプリ協力者

[協力者] タブを選択して、アプリの協力者を表示します。すべての協力者は開発インスタンスに保存されます。

問題や欠陥を修正するためにアプリケーションでクイックアクションを実行する必要がある場合は、アプリを変更できるユーザーとその権限をすばやく確認できます。

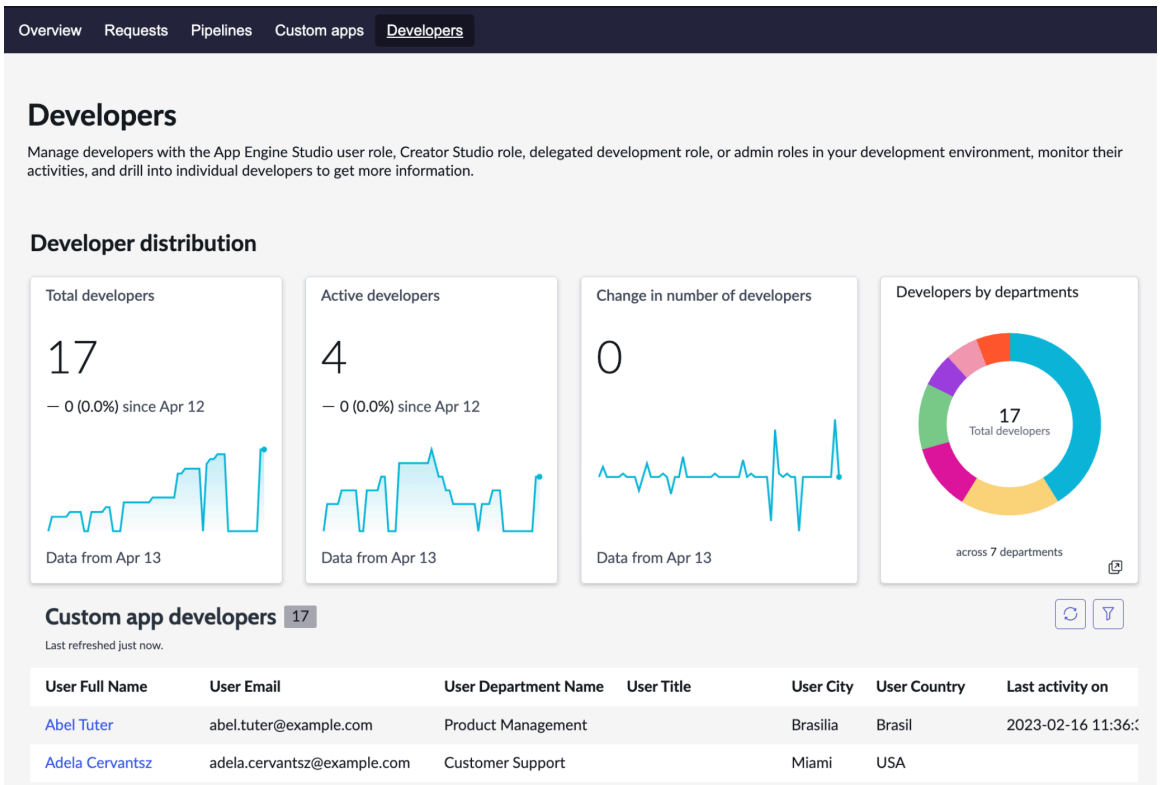
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AEMC を使用した開発者の管理

App Engine 管理センター (AEMC) を使用して、App Engine Studio と クリエータースタジオ のアプリで作業している開発者の詳細を表示します。

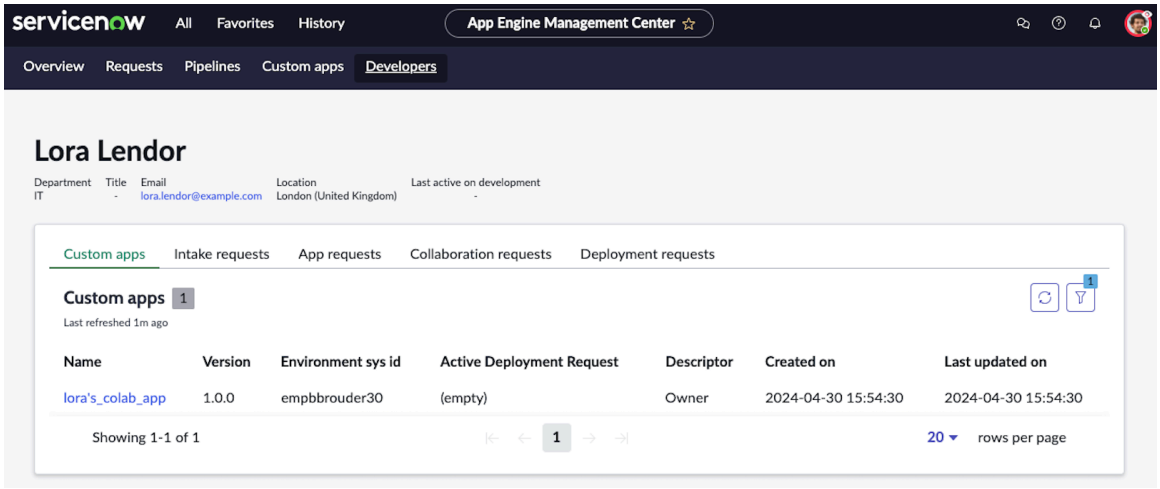
AEMC 概要ページの App Engine 定着メトリクスセクションには、App Engine Studio (AES) で作業している開発者の数とその部門が表示されます。[開発者] ページを選択して、より多くの情報にアクセスします。

AEMC の [開発者] ページには、開発環境で AES ユーザーロール、AES ユーザー制限付きロール、クリエータースタジオ ユーザーロール、クリエータースタジオ 制限付きユーザーロール、 または委託開発ロールを持つすべての開発者が表示されます。このページでは、アクティビティを監視し、個々の開発者を選択して詳細情報を取得できます。



開発者レコードを選択すると、作成したカスタムアプリとその取り込み要求、アプリ要求、コラボレーション要求、および展開要求に関する詳細情報が表示されます。各タブのコンテンツをフィルタリングして特定の結果を探したり、このページからアプリを選択して、その使用率、展開履歴、および協力者を表示したりできます。表示されたレコードのいずれかを選択して、履歴を表示するか、要求を承認、却下、または削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



App Engine Studio 参照

参照トピックには、App Engine Studio (AES) を構成および管理するために使用しているリストとフォームに関する追加情報があります。

AES の用語集

App Engine Studio (AES) 固有の用語や概念について説明します。

アプリケーションテンプレート

特定のユースケースをサポートするために、事前定義されたデータ、エクスペリエンス、ロジックと自動化、セキュリティを提供します。たとえば、出張要求テンプレートは、従業員の出張要求を送信および承認するためのアプリケーションコンテンツを提供します。

使用可能なテンプレートの詳細については、「利用可能なテンプレート」を参照してください。

ロジックと自動化

ロジックと自動化を追加することで、アプリケーションのすべての作業を自動化します。たとえば、誰かが要求を行ったときにアドミニストレーターに通知を送信するフローをビルドできます。

データ

アプリケーションに保存されている情報です。たとえば、従業員の電話番号やオフィスの場所などです。テーブルを使用してアプリケーションデータを設定します。

展開要求

送信されたアプリケーションのレビューを追跡するチケットです。レビュー担当者は、展開要求フォームで、アプリケーションをさまざまな環境に展開したり、アプリケーションを承認または却下したり、開発者にフィードバックを送信したりできます。

環境

アプリケーションの開発、テスト、起動に使用するインスタンスです。App Engine Studio を設定するには、環境として使用している各インスタンスで、環境を定義する必要があります。

エクスペリエンス

ユーザーが操作するグラフィカルインターフェイスです。たとえば、ユーザーが情報を検索し、要求を送信し、ビジネスタスクを実行できるポータルを作成できます。使用可能なアプリケーションエクスペリエンスの詳細については、「アプリケーションエクスペリエンスの追加」を参照してください。

パイプライン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションをさまざまな環境に展開するための構成です。

セキュリティ

アプリケーションを使用できるユーザーを限定するロールとアクセス制御です。

AES のプロパティ

システムプロパティは、システムの動作を制御します。このセクションのプロパティは、App Engine Studio (AES) アプリケーションに固有のものです。AES のシステムプロパティにアクセスするには、[すべて] > **[App Engine Studio]** > [構成] > [プロパティ] に移動します。

sn_app_eng_studio.aes_admin_contact

App Engine Studio アドミンの連絡先メールを定義します。システムは、このプロパティにリストされている各メールアドレスに展開要求通知を送信します。詳細については、「App Engine アドミングループへのユーザーの追加」を参照してください。

- タイプ：文字列
- デフォルト値：なし

sn_app_eng_studio.illustration_supported_content_types

分類カテゴリの図のサポートされているコンテンツタイプを定義します。このプロパティは読み取り専用です。

- タイプ：文字列
- デフォルト値：image/svg+xml

sn_app_intake.instance_can_provision_users

現在のインスタンスがユーザーのプロビジョニングをサポートできるかどうかを決定します。このインスタンスのユーザーは別のインスタンスにプロビジョニングされます。ユーザーのプロビジョニングの詳細については、「Application Intake の構成」を参照してください。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false

パイプラインと展開 アプリの [展開要求] フォーム

[展開要求] フォームには、App Engine Studio (AES) パイプラインと展開 アプリ内からアクセスします。

[展開要求] フォームを表示するには、[すべて] > **[App Engine]** > [パイプラインと展開] > [展開要求] に移動して、レコードを開きます。

[展開要求] フォーム

フィールド	説明
数値	展開要求を追跡する番号。
アサイン先グループ	展開要求がアサインされているグループ。
ステータス	展開要求のステータス。すべての状況は、パイプラインフローによって自動的に更新されます。 新規 送信された要求は新規です。 レビュー中 送信された要求はレビューする準備ができています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[展開要求] フォーム (続く)

フィールド	説明
	クローズ済み (公開済み) 送信された要求が本番インスタンスに展開されました。 却下してクローズ 送信された要求は公開する準備ができていません。展開プロセス中に関連する承認レコードで [却下] を選択すると、このステータスが有効になります。申請が却下される理由を入力するように求められます。これらのコメントは、[要求者の詳細] 関連リストの [要求者メール] フィールドに含まれているアドレスにメールで送信されます。 クローズ済み (失敗) このステータスは、何らかの理由でパイプラインフローまたはサブフローが失敗した場合に有効になります。 キャンセル 送信された要求がキャンセルされました。
アサイン先	この要求がアサインされているアサイン先グループのユーザー。
簡単な説明	要求の簡単な説明。
リリースノート	公開後にこのアプリケーションの ServiceNow Store に表示されるテキスト。
アプリの詳細	
アプリ名	送信されたアプリケーションの名前。
アプリバージョン	送信されたアプリケーションのバージョン。
アプリの Sys ID	送信されたアプリケーションのシステム ID。
App Development URL	App Engine Studio でのアプリへのリンク。
要求者の詳細	
要求者の姓名	アプリの展開を要求したユーザーの姓名。
要求者ユーザー ID	アプリの展開を要求したユーザーの ID。
要求者メール	アプリの展開を要求したユーザーのメールアドレス。
展開の詳細	
作成元環境	作成元環境のインスタンス。
パイプライン	展開に使用されているパイプライン。
現在の環境	アプリのターゲット環境。
メモ	
追加コメント (顧客に表示)	アプリのマニフェストなど、顧客と共有する追加のコメント。アプリ内の各ファイルタイプの数が一覧表示され、ATF またはインスタンスのスキャン結果が表示されます。
作業メモ	内部メモ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームを保存すると、承認関連の情報用の追加タブが表示されます。AES アドミンは、これらのタブを使用して要求を承認できます。

カスタムテンプレートでサポートされている機能とメタデータ

App Engine Studio (AES) のカスタムテンプレートは、テーブル、フォーム、ロール、ACL、レコードプロデューサー、シンプルなワークスペース、フロー、アクションなど、ほとんどの機能とメタデータをサポートしています。

カスタムテンプレートは、ゼロから作成するか、既存のスコープ対象アプリケーションを開始点として使用して作成できます。

カスタムテンプレートを作成すると、事前スキャンでアプリケーションのすべてがサポートされていることが確認されます。考えられる結果は次の 3 つです。

- [すべてのアイテムがサポートされています (All items are supported)]：カスタムテンプレートが作成されます。すべてのオブジェクトがカスタムテンプレートとそのカスタムテンプレートから作成されたアプリで使用できます。
- [一部のアイテムはサポートされていません]：テンプレートの作成は続行できますが、このカスタムテンプレートで使用できないアイテムがあります。カスタムテンプレートや、そのテンプレートから作成されたアプリには影響しません。
- [一部のアイテムが拒否されました (Some items are denied)]：カスタムテンプレートの作成者にはエラーメッセージが表示され、そのエラーを修正するまで続行できません。 作成者は、アプリを既存のアプリから作成した場合はアプリを変更し、最初から作成した場合はテンプレートを変更する必要があります。

テンプレートの作成プロセスの詳細については、「カスタムテンプレートのビルド」を参照してください。

サポートされているメタデータ

ラベル	名前
アクセス制御	sys_security_acl
アクセス許可ロール	sys_security_acl_role
アクションのアサイン	sys_declarative_action_assignment
アクションカテゴリ	sys_hub_category
アクション定義	sys_declarative_action_definition
アクションの除外	sys_workspace_declarative_action_exclusion
アクションの入力	sys_hub_action_input
アクションインスタンス	sys_hub_action_instance
アクションアイテム	sys_sg_write_back_action_item
アクションモデルフィールド	sys_declarative_action_model_field
アクションの出力	sys_hub_action_output
アクション パラメーターのマッピング	sys_sg_action_param_map
アクションペイロード定義	sys_declarative_action_payload_definition
アクションペイロードフィールド	sys_declarative_action_payload_field
アクションペイロードマッピング	sys_declarative_action_payload_mapping

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前
アクションタイプ	sys_hub_action_type_definition
アクティビティ定義	sys_pd_activity_definition
アクティビティストリーム画面	sys_sg_activity_stream_screen
アナリティクスプレビュー	sys_sg_chart
アナリティクスセクション	sys_sg_chart_section
アプリケーションメニュー	sys_app_application
アプリケーションメニュー	sys_ui_application
アプリケーション検索ソース	m2m_search_context_config_search_source
対象者	sys_ux_applicability
基本認証構成	sys_auth_profile_basic
ビルダーテンプレート	sys_uib_template
ビジネスルール	sys_script
カード	sys_sg_view_config
カード要素	sys_sg_view_config_element
カード要素の属性	sys_sg_view_config_element_attribute
カードテンプレート	sys_sg_view_template
カードテンプレート要素	sys_sg_view_template_slot
カードテンプレート要素の属性	sys_sg_view_template_slot_attribute
カタログクライアントスクリプト	catalog_script_client
カタログアイテム	sc_cat_item
利用可能なカタログアイテム	sc_cat_item_user_criteria_mtom
カタログアイテムカテゴリ	sc_cat_item_category
利用不可のカタログアイテム	sc_cat_item_user_criteria_no_mtom
カタログアイテムカタログ	sc_cat_item_catalog
カタログ UI ポリシー	catalog_ui_policy
カタログ UI ポリシーアクション	catalog_ui_policy_action
カタログ変数セット	io_set_item
カテゴリプロパティ	sys_properties_category_m2m
チャートの色	sys_report_chart_color
チャート画面	sys_sg_chart_screen
選択肢	sys_choice
選択肢セット	sys_choice_set
クライアントスクリプト	sys_script_client
色定義	sys_report_color
複合オブジェクト	sys_complex_object

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前
復号データブローカー	sys_ux_data_broker_composite
含まれているロール	sys_user_role_contains
クロススコープ権限	sys_scope_privilege
データブローカースクリプトレット	sys_ux_data_broker_scriptlet
データブローカーサーバースクリプト	sys_ux_data_broker_transform
データ アイテム	sys_sg_data_item
データパラメーター	sys_sg_item_parameter
データポリシー	sys_data_policy2
データポリシールール	sys_data_policy_rule
意思決定	sys_decision_question
意思決定条件	sn_decision_table_decision_condition
意思決定の入力	sys_decision_input
ディシジョンテーブル	sys_decision
ディシジョンテーブルの複数の結果	sys_decision_multi_result
画面の詳細	sys_sg_details_screen
辞書エントリ	sys_dictionary
辞書エントリに上書きする	sys_dictionary_override
動的フィルターオプション	sys_filter_option_dynamic
Email Address Filter	sys_email_address_filter
メールアドレスフィルタードメイン	sys_email_address_filt_domain
メールクライアントの構成	sys_email_client_configuration
メールクライアントの送信元アドレス	sys_email_client_from_address
メールクライアントテンプレート	sys_email_client_template
メールフィルター	sys_email_filter
メールレイアウト	sys_email_layout
メール返信セパレーター	sys_email_reply_separator
Email スクリプト	sys_script_email
メールテンプレート	sysevent_email_template
埋め込みヘルプロール優先度	sys_embedded_help_role
空ステータス	sys_sg_empty_state
EVAM データフィルター	sys_ux_composite_data_filter
EVAM データソースフィルター	sys_ux_composite_datasource_filter
EVAM データソース	sys_ux_composite_datasource
EVAM データソース M2M	sys_ux_composite_data_m2m_datasource
EVAM 定義	sys_ux_composite_data

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前
EVAM ビュー構成	sys_ux_composite_data_template_predicate
EVAM ビュー構成アクションアサイン M2M	sys_ux_predicate_m2m_action_assignment
EVAM ビュー構成バンドル	sys_ux_composite_data_template_predicate_bundle
EVAM ビュー構成バンドル M2M	sys_ux_composite_data_m2m_predicate_bundle
イベント登録	sysevent_register
エクスポート定義	sys_export_definition
エクスポートセット	sys_export_set
エクスポートターゲット	sys_export_target
拡張フローロジック入力	sys_hub_flow_logic_ext_input
拡張ステップ入力変数	sys_hub_step_ext_input
拡張ステップ出力変数	sys_hub_step_ext_output
拡張インスタンス	sys_extension_instance
拡張ポイント	sys_extension_point
ファセット	sys_search_facet
フィールドラベル	sys_documentation
フィールドマップ	sys_impex_entry
フィルター	sys_filter
フィルターアクション	sys_email_filter_action
フロー	sys_hub_flow
フローカタログ変数	sys_flow_cat_variable
フロー入力	sys_hub_flow_input
フローロジックインスタンス	sys_hub_flow_logic
フロースナップショット	sys_hub_flow_snapshot
フローステージ	sys_hub_flow_stage
フロー変数	sys_hub_flow_variable
フォーム	sys_ui_form
フォームヘッダー	sys_aw_form_header
フォームセクション	sys_ui_section
関数	sys_sg_button
機能インスタンス	sys_sg_button_instance
GraphQL データブローカー	sys_ux_data_broker_graphql
ハイライト表示される値	sys_highlighted_value
ハイライト表示される値の条件	sys_highlighted_value_condition
HTTP ヘッダー	sys_rest_message_headers
HTTP ヘッダー	sys_rest_message_fn_headers

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前
HTTP メソッド	sys_rest_message_fn
REST メッセージ関数パラメーター定義	sys_rest_message_fn_param_defs
アイコン	sys_sg_icon
アイコンセクション宛先ランチャー	sys_sg_navigation_section_destination_applet_launcher
イメージ	db_image
インポートエクスポートマップ	sys_impex_map
受信メールアクション	sysevent_in_email_action
インデックス	sys_index
ランチャーのヘッダータイトル	sys_sg_applet_launcher_header
ランチャー画面	sys_sg_applet_launcher
ランチャーのセクションマッピング	sys_sg_applet_launcher_m2m_section
[ランチャー] タブ	sys_sg_applet_launcher_tab
レイアウト適用性	sys_ux_applicability_m2m_layout
従来のカード	sys_sg_item_view
従来のアイコンセクション	sys_sg_icon_section
リスト	sys_ui_list
リスト適用性	sys_ux_applicability_m2m_list
リストコントロール	sys_ui_list_control
リストアイテム構成	sys_sg_master_item
リスト画面	sys_sg_list_screen
リストストリーム	sys_sg_item_stream
M2M アクションアサインの UX アクション構成	sys_ux_m2m_action_assignment_action_config
M2M ワークスペースヘッダーの UX ヘッダー構成	sys_ux_m2m_workspace_header_ux_header_config
多対多リレーションの定義	sys_m2m
メッセージ	sys_ui_message
モバイル UI ルール	sys_sg_ui_rule
モバイル UI ルールのアクション	sys_sg_ui_rule_action
モジュール	sys_ui_module
モジュール	sys_app_module
ナビゲーションタブマップ	sys_sg_navigation_tab_map
新規レコード メニュー アイテム	sys_aw_new_menu_item
通知	sys_notification
通知	sysevent_email_action
通知カテゴリ	sys_notification_category
通知の一般的なコンテンツ	sys_notification_common_content

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前
通知ルート	notification_route
通知ワークスペースのコンテンツ	sys_notification_workspace_content
番号	sys_number
プレイブックアクティビティの上書き	sys_playbook_activity_renderer
プレイブックアクティビティ UI	sys_playbook_experience_activity_ui
プレイブックエクスペリエンスアクション割り当てマップ	sys_playbook_experience_action_assignment_map
プレイブックエクスペリエンスレコードジェネレーター	sys_playbook_experience_record_generator
プレイブックエクスペリエンス	sys_playbook_experience
プロセス定義	sys_pd_process_definition
プロセス定義スイムレーン画像	sys_pd_swim_lane_image
プロセスフロートリガープラン	sys_flow_trigger_plan
公開ページ	sys_public
プッシュ通知	sys_sg_push_notification
プッシュ通知インストール	sys_push_notif_app_install
プッシュ通知メッセージ	sys_push_notif_msg
プッシュ通知メッセージコンテンツ	sys_push_notif_msg_content
質問の選択肢	question_choice
クイックアクションメニュー	sys_sg_alp_quick_action_map
受信者の修飾子	sys_recipient_qualifier
レコードプロデューサー	sc_cat_item_producer
レコード画面	sys_sg_form_screen
レコード画面セグメント	sys_sg_form_segment
レコードセクション	sys_sg_item_section
リダイレクト宛先フィールド	sys_sg_redirect_dest_field
関連リスト	sys_ui_related_list
関係	sys_relationship
関係性データアイテム	sys_sg_relationship_data_item
レポート	sys_report
レポートユーザーおよびグループ	sys_report_users_groups
REST データブローカー	sys_ux_data_broker_rest
REST メッセージ	sys_rest_message
結果	sys_decision_multi_result_element
ロール	sys_user_role
ルート構成	sys_ux_dynamic_route_config

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前
ルートマッピング	sys_ux_dynamic_route_mapping
スケジュール済みスクリプト実行	sysauto_script
画面適用性	sys_ux_applicability_m2m_screen
画面の各フィールド	sys_sg_screen_field
画面パラメーターのマッピング	sys_sg_screen_param_map
画面セグメント	sys_sg_item_stream_segment
[画面] タブ	sys_sg_applet_tab
画面 UI ポリシー	sys_sg_ui_policy
スクリプトアクション	sysevent_script_action
スクリプトインクルード	sys_script_include
Scripted REST API	sys_ws_definition
スクリプト化済み REST クエリパラメーター	sys_ws_query_parameter
スクリプト化済み REST クエリパラメーターの関連性	sys_ws_query_parameter_map
スクリプト化済み REST リソース	sys_ws_operation
アプリケーション構成を検索	sys_search_context_config
検索構成	sys_sg_global_search
M2M アイテム構成の検索	sys_sg_global_search_m2m_master_item
検索ソース	sys_search_source
セカンダリ値	sys_aw_form_header_secondary_values
サービス遂行の承認ステップ	sc_service_fulfillment_approval_step
サービス遂行ステージ	sc_service_fulfillment_stage
サービス遂行手順	sc_service_fulfillment_step
サービス遂行タスクのステップ	sc_service_fulfillment_task_step
サービスオファリング SLA	service_offering_sla
SLA 定義	contract_sla
SLA タイマー構成	sla_timer_config
SLA タイマー構成マッピング	sla_timer_config_mapping
ステップインスタンス	sys_hub_step_instance
ストリーム M2M アイテム構成	sys_sg_item_stream_m2m_master_item
ストリーム M2M セグメント	sys_sg_item_stream_m2m_segment
スタイル	sys_ui_style
サブフローインスタンス	sys_hub_sub_flow_instance
サブフローインスタンス入力	sys_hub_sub_flow_instance_inputs
提案リーダーと提案リーダーグループの関係	m2m_sys_suggestion_reader_sys_suggestion_reader_group
提案リーダーグループ	sys_suggestion_reader_group

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前
システム UX M2M アクションレイアウトアイテム	sys_ux_m2m_action_layout_item
システム UX M2M のハイライト表示される値の構成	sys_ux_m2m_highlighted_value_config
Sys Ux M2m ワークスペースビュールール Ux ビュールール構成	sys_ux_m2m_workspace_view_rule_ux_view_rule_config
システムのプロパティ	sys_properties
システムプロパティカテゴリ	sys_properties_category
テーブル	sys_db_object
タスクリレーションシップタイプ	task_rel_type
許可されたタスクリレーションシップ	task_rel_allowed
テンプレート	sys_template
変換スクリプト	sys_transform_script
トリガー定義	sys_pd_trigger_definition
トリガーの実行	sys_flow_trigger_auto_script
トリガーインスタンス	sys_hub_trigger_instance
UI アクション	sys_ui_action
UI アクションのレイアウト	sys_aw_form_uiaction_layout
UI アクションロール	sys_ui_action_role
UI フォーマッター	sys_ui_formatter
UI ページ	sys_ui_page
UI のパラメーター	sys_sg_ui_parameter
UI ポリシー	sys_ui_policy
UI ポリシーアクション	sys_ui_policy_action
UI ポリシー ルール	sys_sg_ui_policy_rule
UI スクリプト	sys_ui_script
UI ビュー	sys_ui_view
UIB 画面テスト値	sys_uib_screen_test_values
UX アクション構成	sys_ux_action_config
UX アドオンイベントマッピング	sys_ux_addon_event_mapping
UX アプリ構成	sys_ux_app_config
UX アプリルート	sys_ux_app_route
UX アプリのテーマ	m2m_app_config_theme
UX アプリケーション	sys_ux_page_registry
UX アプリケーションカテゴリ M2M	sys_ux_registry_m2m_category
UX 資産	sys_ux_lib_asset

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前
UX クライアントスクリプト	sys_ux_client_script
UX クライアントスクリプトインクルード	sys_ux_client_script_include
ユーザーエクスペリエンスカスタムコンテンツ拡張	sys_ux_custom_content_root_elem
UX ダッシュボードのルート権限	sys_ux_route_permission
UX イベント	sys_ux_event
UX フォームアクション	sys_ux_form_action
UX フォームアクションレイアウト	sys_ux_form_action_layout
UX フォームアクションレイアウトグループ	sys_ux_form_action_layout_group
UX フォームアクションレイアウトアイテム	sys_ux_form_action_layout_item
UX ヘッダー構成	sys_ux_header_config
UX のハイライト表示される値の構成	sys_ux_highlighted_value_config
UX リスト	sys_ux_list
UX リストカテゴリ	sys_ux_list_category
UX リストメニュー構成	sys_ux_list_menu_config
UX Macroponent 定義	sys_ux_macroponent
ユーザーエクスペリエンスページ要素の権限	sys_ux_page_element_m2m_role
ユーザーエクスペリエンスページプロパティ	sys_ux_page_property
UX リボン構成	sys_ux_ribbon_config
UX 画面	sys_ux_screen
UX 画面コレクション	sys_ux_screen_type
UX 画面条件	sys_ux_screen_condition
UX テーマ	sys_ux_theme
UX テーマ資産	sys_ux_theme_asset
UX テーマ資産	sys_ux_theme_m2m_asset
UX ビュールール構成	sys_ux_view_rules_configuration
変数	item_option_new
変数セット	item_option_new_set
SOAP メッセージパラメーター	sys_rest_message_fn_parameters
表示ルール	sysrule_view_workspace
表示ルール	sysrule_view
ビューテンプレート	sys_ux_composite_data_template
ワークスペース	sys_aw_master_config
ワークスペース グローバル検索の構成	sys_aw_global_search_config
ワークスペースリスト	sys_aw_list
ワークスペース リスト カテゴリ	sys_aw_list_category

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前
ワークスペースモジュール	sys_aw_module

スキップされる機能とメタデータ

テンプレート作成プロセスは、テンプレートまたはテンプレートから作成されたアプリに影響を与えないアイテムのみをスキップします。

ラベル	名前
アクティビティデザイナー	wf_element_activity
アクティビティ変数	wf_activity_variable
コンテンツリンク	content_link
コンテンツテーマ	content_theme
コンテンツタイプ	content_type
データベースビュー	sys_db_view
詳細ページ	content_type_detail
詳細コンテンツ	content_block_detail
実行中のテンプレートが存在する場合、「最初から作成」テンプレートを再テンプレート化することを禁止する	
ダイナミックコンテンツ	content_block_programmatic
Flash ムービー	content_block_flash
フローテンプレートマッピング	sys_app_flow_template_mapping
IFrames	content_block_iframe
入力の詳細	sys_app_template_input_detail
コンテンツリスト	content_block_lists
ログインルール	content_page_rule
メニューアイテム	menu_item
メニューセクション	menu_section
メタタグ	content_page_meta
ナビゲーションメニュー	content_block_menu
ページ	content_page
ペイロード	sys_app_scan_payload
ペイロードローダールール	sys_app_payload_loader_rule
ペイロードルール	sys_app_payload_unloader_rule
プロセッサ	sys_processor
サイト	content_site
スポークの構成	sys_app_template_spoke_configuration
ステージのデフォルト	wf_stage_default

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラベル	名前
スタティック コンテンツ	content_block_static
スタイルシート	content_theme_css
サブテンプレート	sys_app_subtemplate
テンプレート	sys_app_template
テンプレートの依存関係	sys_app_template_dependency
テンプレート依存関係定義	sys_app_template_dependency_definition
テンプレートの詳細	sys_app_template_detail
テンプレート機能タイプ	sys_app_template_function_type
テンプレート入力変数	sys_app_template_input_var
テンプレートマニフェスト	sys_app_template_manifest
テンプレート出力変数	sys_app_template_output_var
テンプレートページ	sys_app_template_page
テンプレートページの構成	sys_app_template_page_configuration
テンプレートウィザード	sys_app_template_wizard
変数	sys_app_scan_variable
変数タイプ	sys_app_scan_variable_type
ビューフィールド	sys_db_view_table_field
ビューテーブル	sys_db_view_table
ワークフロー	wf_workflow
ワークフローアクティビティ定義	wf_activity_definition
ワークフローインスタンス	wf_workflow_instance
ワークフロー SC 変数	wf_variable
ワークフロースケジュール	wf_workflow_schedule
ワークフロー UI ポリシー	wf_ui_policy

ServiceNow CLI

ServiceNow CLI は、ローカルシステムからインスタンス操作を実行できるコマンドラインインターフェイスです。CLI を拡張して、アプリケーションのニーズを満たす新しいコマンドを含めることができます。

利点

ServiceNow CLI では次のことができます。

- インスタンス内のレコードに対して基本的な CRUD 操作を実行します。
- カスタムコンポーネントを開発し、インスタンスに展開して UI をカスタマイズします。
- コマンドラインからカスタムアプリケーションを管理できるようにするカスタムコマンドを作成します。
- スクリプトで ServiceNow CLI を使用すると、セットアップタスクと運用アクティビティが簡素化されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アーキテクチャ

コマンドは、接続先のインスタンスのテーブルに保存されます。ServiceNow CLI がインスタンスに接続すると、そのインスタンスでサポートされているすべての利用可能なコマンドを受け取ります。

コマンドは、非同期で実行される REST エンドポイントにマッピングされます。詳細については、「ServiceNow CLI でのカスタムコマンドの作成」を参照してください。

ServiceNow CLI のアクティブ化

ServiceNow Store から要求することで、ServiceNow CLI をインストールします。 ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート 」を参照してください。

構成ファイル

ServiceNow CLI は、デフォルトでは次のパスのホームディレクトリに格納される `config.json` ファイルにプロファイル情報を格納します。

- Linux および Mac：`~/.snc/config.json`
- Windows：`%USERPROFILE%\.snc\config.json`

CLI はこのファイルを使用して、インスタンスへの接続に使用する情報と、出力の生成に使用する設定を決定します。デフォルトでは、ServiceNow CLI はデフォルトのプロファイルの設定を使用してインスタンスに接続します。別の設定を使用する場合は、追加の名前付きプロファイルを作成して参照することができます。 詳細については、「ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理」を参照してください。

次の例は、デフォルトプロファイルと名前付きプロファイルを含む構成ファイルを示しています。各プロファイルは、異なる認証情報を使用し、異なるホストと出力形式を指定できます。

```
{
   "profiles":{
      "default":{
         "host":"https://myinstance.service-now.com",
         "loginmethod":"basic",
         "username":"admin",
         "output":"json",
         "hostversion":"Paris",
         "appversion":"1.0"
         },
      "user1":{
         "host":"https://otherinstance.service-now.com",
         "loginmethod":"basic",
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
          "username":"user1",
          "output":"yaml",
          "hostversion":"Paris",
          "appversion":"1.0"
          }
       }
}
```

注: 機密の認証情報は OS キーチェーンにのみ保存され、構成ファイルには保存されません。

コマンド構造

ServiceNow CLI コマンドは次の構造に従います。

1. `snc` プログラムへの基本呼び出し。
2. トップレベルのコマンドグループとそれに続く子コマンドグループ。
3. 実行する操作を指定するコマンド。
4. 操作に必要な一般的な CLI 引数。引数は任意の順序で指定できます。

```
$ snc <command-group> <command> [arguments]
```

引数は、数値、文字列、JSON オブジェクトなどのさまざまなタイプの入力値を取ることができます。サポートされるタイプは、指定するコマンドによって異なります。

引数の値

ServiceNow CLI 内の引数の値の多くは、次の例のテーブルやテーブル名のように、単純な文字列または数値です。

```
$ snc record create --table incident --data "{short_description: 'New
 Incident'}"
```

スペース文字を含まない文字列も、引用符で囲むことができます (任意)。ただし、1 つ以上のスペース文字を含む文字列は、引用符で囲む必要があります。

出力の形式

ServiceNow CLI は次の 4 つの出力形式をサポートしています。

- `json`：出力は JSON としてフォーマットされます。これがデフォルトです。

```
{
   "default": {
      "appversion": "1.0.8",
      "host": "https://myinstance.service-now.com",
      "hostversion": "Paris",
      "loginmethod": "basic",
      "output": "json",
      "username": "admin"
   },
   "user1": {
      "appversion": "1.0.8",
      "host": "https://otherinstance.service-now.com",
      "hostversion": "Paris",
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      "loginmethod": "basic",
      "output": "yaml",
      "username": "admin"
   }
}
```

- `yaml`：出力は YAML としてフォーマットされます。YAML を使用して、YAML 形式の文字列を発行または使用するサービスおよびツールで出力を処理します。

```
default:
   appversion: 1.0.8
   host: https://myinstance.service-now.com
   hostversion: Paris
   loginmethod: basic
   output: json
   username: admin
user1:
   appversion: 1.0.8
   host: https://otherinstance.service-now.com
   hostversion: Paris
   loginmethod: basic
   output: yaml
   username: admin
```

- `text`：出力は、タブ区切りの文字列値の複数の行としてフォーマットされます。この出力は、grep、sed、awk などの従来の UNIX テキストツールと、PowerShell によって実行されるテキスト処理で使用します。

```
default   https://myinstance.service-now.com   Paris   1.0.8   basic
 admin   json
user1   https://otherinstance.service-now.com   Paris   1.0.8   basic
 admin   yaml
```

- `table`：出力は、人間が判読可能な形式で情報が表示されるテーブルとしてフォーマットされます。

```
NAME   HOST   HOST   VERSION   APP   VERSION   LOGIN   METHOD
 USERNAME   OUTPUT
------------------------------------------------------------------------
--------
default   myinstance   Paris   1.0.8   basic   admin   json
user1   otherinstance   Paris   1.0.8   basic   admin   yaml
```

- `none`：CLI は出力をコンソールに出力しません。成功、エラー、および進捗状況のメッセージは引き続き表示されます。

コマンド出力は、次の 2 とおりの方法で指定できます。

構成ファイルの名前付きプロファイルで `output` オプションを使用する

次の例では、デフォルトの出力形式をテキストに設定します。

```
{
    "profiles":{
       "default":{
          "output":"text"
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        }
}
```

コマンドラインで `--output` 引数を使用する

次の例では、単一のコマンドの出力を JSON に設定します。コマンドのこのオプションは、構成ファイルに現在設定されている値を上書きします。

```
$ snc record query --table incident --query 'active=true'
 --output json
```

ServiceNow CLI をインストールする

Mac、Windows、または Linux マシンへの ServiceNow CLI のインストール

ServiceNow CLI の最新バージョンは 1.1.0 です。インストールされているバージョンを見つけて更新する必要があるかどうかを確認するには、`snc version` を実行します。

ServiceNow CLI のインストールには次のものが必要です。

- マシンにソフトウェアをインストールするためのアドミン権限。
- ダウンロードしたパッケージを展開または解凍するためのソフトウェア。

すべての CLI 機能をサポートするには、sn_cl_metadata プラグインをインスタンスにインストールする必要があります。

必要なロール：admin

次のオペレーティングシステムで使用できます。

- Mac
- Windows
- Linux

ServiceNow CLI の Mac へのインストール

インストーラーを使用して Mac OS に ServiceNow CLI をインストールします。

始める前に

Apple がサポートする Mac OS (64 ビットバージョン) が必要です。
必要なロール：admin

手順

1. ブラウザーで、 からインストーラーバンドルをダウンロードします ServiceNow Store 。
2. OS 固有のインストーラーを展開します。
3. `snc-1.0.0-osx-installer` ファイルを開きます。
4. 画面の指示に従います。
   a. プロンプトが表示されたら、[パスに追加 **(Add to PATH)]** オプションが選択されていることを確認します。
   このオプションには、ルートアカウントアクセスが必要です。
5. インストールが成功したことを確認するには、次のコマンドを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
$ which snc

/usr/local/bin/snc
```

```
$ snc version

{
 "extensions": {},
 "snc": "1.0.0"
}
```

ServiceNow CLI の Windows へのインストール

インストーラーを使用して Windows OS に ServiceNow CLI をインストールします。

始める前に
Windows 10 以降 (64 ビットバージョン) が必要です。
必要なロール：admin

手順

1. ブラウザーで、 からインストーラーバンドルをダウンロードします ServiceNow Store 。
2. OS 固有のインストーラーを展開します。
3. `snc-1.0.0-windows-x64-installer.exe` ファイルを開きます。
4. 画面の指示に従います。
   デフォルトでは、CLI は `C:\Program Files\ServiceNow CLI` にインストールされます。
5. インストールを確認するには、次のコマンドを使用してコマンドラインでバージョンを確認します。

```
C:\>snc version

{
 "extensions": {},
 "snc": "1.0.0"
}
```

Windows がプログラムを見つけることができない場合は、コマンドプロンプトウィンドウを閉じてから再度開き、パスを更新します。

ServiceNow CLI の Linux へのインストール

インストーラーを使用して Linux マシンに ServiceNow CLI をインストールします。

始める前に
CentOS または Ubuntu の最新のディストリビューション (64 ビットバージョン) が必要です。
必要なロール：admin

手順

1. ブラウザーで、 からインストーラーバンドルをダウンロードします ServiceNow Store 。
2. OS 固有のインストーラーを展開します。
3. `snc-1.0.0-linux-x64-installer.run` ファイルを開きます。
4. 画面の指示に従います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. プロンプトが表示されたら、[パスに追加 **(Add to PATH)]** オプションが選択されていることを確認します。
このオプションには、ルートアカウントアクセスが必要です。

5. インストールが成功したことを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
$ which snc

~/ServiceNow CLI/bin/snc
```

```
$ snc version

{
 "extensions": {},
 "snc": "1.0.0"
}
```

ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理

接続プロファイルを作成して、インスタンスへの接続、接続プロファイルの表示、接続および利用可能なコマンドの更新、または不要になったプロファイルの削除を行います。

ServiceNow CLI は、デフォルトでは次のパスのホームディレクトリに格納される `config.json` ファイルにプロファイル情報を格納します。

- Linux および Mac：`~/.snc/config.json`
- Windows：`%USERPROFILE%\.snc\config.json`

CLI はこのファイルを使用して、インスタンスへの接続に使用する情報と、出力の生成に使用する設定を決定します。デフォルトでは、ServiceNow CLI はデフォルトのプロファイルの設定を使用してインスタンスに接続します。別の設定を使用する場合は、追加の名前付きプロファイルを作成して参照することができます。 詳細については、「ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理」を参照してください。

次の例は、デフォルトプロファイルと名前付きプロファイルを含む構成ファイルを示しています。各プロファイルは、異なる認証情報を使用し、異なるホストと出力形式を指定できます。

```
{
   "profiles":{
      "default":{
         "host":"https://myinstance.service-now.com",
         "loginmethod":"basic",
         "username":"admin",
         "output":"json",
         "hostversion":"Paris",
         "appversion":"1.0"
         },
      "user1":{
         "host":"https://otherinstance.service-now.com",
         "loginmethod":"basic",
         "username":"user1",
         "output":"yaml",
         "hostversion":"Paris",
         "appversion":"1.0"
         }
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        }
}
```

デフォルトプロファイルの作成

ServiceNow CLI がデフォルトで使用する接続プロファイルを作成します。インスタンスとの CLI の初期接続を設定するには、デフォルトのプロファイルを作成する必要があります。

このタスクについて

デフォルトでは、使用するプロファイルを明示的に指定していないコマンドを実行すると、このプロファイルの情報が使用されます。

注: 機密の認証情報は OS キーチェーンにのみ保存され、構成ファイルには保存されません。

手順

1. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

   ```
   $ snc configure profile set
   ```

   CLI では、詳細情報の入力を求められます。

2. 要求された値を入力します。
   情報の入力を求めるときに、CLI は現在の値を角括弧 [ ] で囲んで表示します。既存の値を保持するには、Enter キーを押します。

要求された情報	説明
ホスト	接続するインスタンスのホスト名。完全な URL (https://my-instance.service-now.com) またはホスト名のみ (my-instance) の両方をサポートします。
ログイン方法	インスタンスへの接続に使用するログイン方法。基本、`OAuth`、および `OAuth + MFA` をサポートします。
ユーザー名	インスタンスへの接続に使用するユーザー名。
パスワード	インスタンスへの接続に使用するパスワード。
クライアント ID	ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアント ID。
クライアントシークレット	ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアントシークレット。
認証コード	ログイン方法が OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用する認証コード。
デフォルトの出力形式	コマンドの結果のフォーマット方法を指定します。オプションは `json`、`yaml`、`text`、および `table` です。

Example

```
$ snc configure profile set

Host:
https://myinstance.service-now.com

Login Method (Basic, OAuth, OAuth + MFA):
Basic
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
Username:
myusername

Password:
mypassword
```

3. コマンドから `--profile` 属性を省略して、デフォルトのプロファイルで指定された値を使用してコマンドを実行します。

   Example

   ```
   $ snc record create
   ```

   このコマンドは、指定された接続オプションを使用して、デフォルトプロファイルで指定されたインスタンスにレコードを作成します。

名前付きプロファイルの作成

特定のコマンドで使用する名前付き接続プロファイルを作成します。これにより、特定のコマンドに異なるインスタンスまたは接続プロトコルを指定できます。

始める前に

インスタンスと通信するには、まずデフォルトのプロファイルが存在している必要があります。

このタスクについて

注: 機密の認証情報は OS キーチェーンにのみ保存され、構成ファイルには保存されません。

手順

1. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。
2. *`profile-name`* 引数に名前付きプロファイルの名前を指定します。

   ```
   $ snc configure profile set [--profile profile-name]
   ```

   CLI では、詳細情報の入力を求められます。
3. 要求された値を入力します。
   情報の入力を求めるときに、CLI は現在の値を角括弧 [ ] で囲んで表示します。既存の値を保持するには、Enter キーを押します。

要求された情報	説明
ホスト	接続するインスタンスのホスト名。完全な URL (https://my-instance.service-now.com) またはホスト名のみ (my-instance) の両方をサポートします。
ログイン方法	インスタンスへの接続に使用するログイン方法。基本、`OAuth`、および `OAuth + MFA` をサポートします。
ユーザー名	インスタンスへの接続に使用するユーザー名。
パスワード	インスタンスへの接続に使用するパスワード。
クライアント ID	ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアント ID。
クライアントシークレット	ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアントシークレット。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要求された情報	説明
認証コード	ログイン方法が OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用する認証コード。
デフォルトの出力形式	コマンドの結果のフォーマット方法を指定します。オプションは `json`、`yaml`、`text`、および `table` です。

Example

```
$ snc configure profile set --profile user1

Host:
https://mytestinstance.service-now.com

Login Method (Basic ,OAuth ,OAuth + MFA):
Basic

Username:
myusername

Password:
mypassword
```

4. コマンドに `--profile# <profile-name>` 属性を追加して、名前付きプロファイルで指定された値を使用してコマンドを実行します。

Example

```
$ snc record create --profile user1
```

このコマンドは、指定された接続オプションを使用して、`user1` プロファイルで指定されたインスタンスにレコードを作成します。

プロファイルの表示

構成ファイルに設定されているすべての接続プロファイルを表示するか、特定のプロファイルに関する情報を表示します。

始める前に
インスタンスと通信するには、まずデフォルトのプロファイルが存在している必要があります。

このタスクについて
プロファイルごとに、CLI にホスト情報、バージョンの詳細、ユーザー名、ログイン方法、優先出力形式が表示されます。パスワードやクライアント ID などの機密情報は表示されません。

手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

単一のプロファイルの接続情報を表示するには、`[--profile profile-name]` 引数を含めます。それ以外の場合、CLI はすべてのプロファイルの情報をリストします。

```
$ snc configure profile list [--profile profile-name]
```

Example

このコマンドは、構成されているすべてのプロファイルを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
$ snc configure profile list
```

CLI は次の出力を提供します。

```
{
   "profiles":{
      "default":{
      "host":"https://myinstance.service-now.com",
      "loginmethod":"basic",
      "username":"admin",
      "output":"json",
      "hostversion":"Paris",
      "appversion":"1.0"
   }
}
```

プロファイルの削除

不要になった名前付き接続プロファイルを構成ファイルから削除します。

始める前に

インスタンスと通信するには、まずデフォルトのプロファイルが存在している必要があります。

このタスクについて

このコマンドを使用してデフォルトの接続プロファイルを削除することはできません。デフォルトの接続プロファイルを削除するには、構成ファイルを手動で編集します。

手順

1. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。
2. *profile-name* 引数に名前付きプロファイルの名前を指定します。

```
$ snc configure profile remove [--profile profile-name]
```

タスクの結果

CLI は、指定されたプロファイルを構成ファイルから削除します。

接続のリフレッシュ

指定されたプロファイルのインスタンスから利用可能なコマンドを更新します。CLI を最新の状態に保つために、対応するインスタンスのいずれかのコマンドを変更した後は接続を更新します。

始める前に

インスタンスと通信するには、まずデフォルトのプロファイルが存在している必要があります。

手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

名前付きプロファイルからの接続情報をリフレッシュするには、`[--profile profile-name]` 引数を含めます。引数を含めない場合、CLI はデフォルトのプロファイルをリフレッシュします。

```
$ snc configure profile refresh [--profile profile-name]
```

タスクの結果

CLI は指定された接続プロファイルのインスタンスに接続し、変更された可能性があるコマンドを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow CLI のヘルプ

利用可能なコマンド、コマンドオプション、例を表示するか、デバッグログ出力を生成します。

始める前に

- ServiceNow CLI をインストールする
- ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理
- 必要なロール：なし

このタスクについて

デバッグログ出力オプションに加えて、CLI は次の場所にあるログファイルにすべてのコマンド実行を記録します。

- Linux および Mac： `~/.snc/.logs`。
- Windows：`%USERprofile%\.snc\.logs`。

手順

1. 利用可能なコマンドと引数を表示するには、システムのコマンドラインツールを開き、ヘルプを参照したいコマンドを入力し、続けて `--help` 引数を指定します。

   Example

   次の例では、使用可能なトップレベルのコマンドのヘルプを表示しています。

   ```
   $ snc --help
   ```

   Example

   次の例では、使用可能なプロファイル固有のコマンドを表示しています。

   ```
   $ snc configure profile --help
   ```

   CLI は、要求されたコマンドのヘルプを 8 つのセクションに分割して表示します。

   名前

   コマンドの名前。

   ```
   Name
        set
   ```

   説明

   コマンドの実行内容とその戻り値の説明。

   ```
   Description
        Configure connection profiles. This command is
   interactive and will prompt you for each configuration
   value.
   ```

   概要

   コマンドとそのオプションを使用するための基本的な構文。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
Synopsis
     snc configure profile set [arguments]
```

利用可能なコマンド

現在のコマンドグループで使用可能なコマンド。

```
Available Commands
 list    : Lists the configured connection profiles.
 refresh : Updates the available commands from the instance
 for the given profile.
 remove  : Removes the specified connection profile.
 set     : Configures connection profiles in order to
 communicate with an instance.
```

コマンドグループ

現在のコマンドグループで使用可能なコマンドグループ。

```
Command Groups
     profile : Set, view, and remove connection profiles.
```

引数

コマンドが受け入れる各引数の説明。

```
Arguments
     -p, --profile string : Use a specific connection profile
 when executing a command.
```

グローバル引数

コマンドが受け入れるグローバル引数。

```
Global Arguments
     -d, --debug Print logs to console.
     -h, --help Display detailed help information.
     -o, --output string Set the format for printing command
 output.
```

例

要求されるコマンドの例。

```
Examples
   Create a new profile to save as the default:
      $ snc configure profile set
         Host:
         Login method:
         Username:
         Password:
         Client id:
         Client secret:
```

2. デバッグログ出力を生成するには、システムのコマンドラインツールを開き、デバッグするコマンドに続けて `--debug` 引数を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example

次の例では、操作を実行しようとすると、デバッグログ出力が生成されます。

```
$ snc record delete --table incident --sysid
 552c48888c033300964f4932b03eb092 --debug
```

CLI は、コマンドを実行するとデバッグログ出力を生成します。

ServiceNow CLI を使用したレコード操作の実行

ServiceNow CLI コマンドラインツールを使用して、インスタンスのレコードの作成、読み取り、更新、削除、クエリを行います。

- ServiceNow CLI をインストールする
- ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理

注: レコード操作を実行するには、接続先のインスタンスの ServiceNow Store から CLI メタデータアプリケーションをインストールします。

レコードを作成

指定されたテーブルに単一のレコードを挿入します。

始める前に
必要なロール：sn_cli_metadata.cli_admin、sn_cli_metadata.cli_user、または admin

このタスクについて

注: このコマンドを使用して複数のレコードを挿入することはできません。

手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc record create [--table table --data data]
```

これらの引数に値を渡します。

パラメーター	説明
table	必須です。レコードを保存するテーブルの名前。
data	必須です。指定されたレコードで JSON 文字列形式で定義するフィールド名と各フィールドの関連値。

タスクの結果
指定されたテーブルにレコードが作成され、新しいレコードのフィールドと値のペアが返されます。

Example:

```
$ snc record create --table incident, --data "{'short_description':
 'Unable to open file', 'impact':'3'}"
```

レコードは JSON 形式で返されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
{
   "result": {
      "active": "true",
      "activity_due": "",
      "additional_assignee_list": "",
      "approval": "not requested",
      "approval_history": "",
      "approval_set": "",
      "assigned_to": "",
      "assignment_group": "",
      "business_duration": "",
      "business_service": "",
      "business_stc": "",
      "calendar_duration": "",
      "calendar_stc": "",
      "caller_id": "",
      "category": "inquiry",
      "caused_by": "",
      "child_incidents": "0",
      "close_code": "",
      "close_notes": "",
      "closed_at": "",
      "closed_by": "",
      "cmdb_ci": "",
      "comments": "",
      "comments_and_work_notes": "",
      "company": "",
      "contact_type": "",
      "contract": "",
      "correlation_display": "",
      "correlation_id": "",
      "delivery_plan": "",
      "delivery_task": "",
      "description": "",
      "due_date": "",
      "escalation": "0",
      "expected_start": "",
      "follow_up": "",
      "group_list": "",
      "hold_reason": "",
      "impact": "3",
      "incident_state": "1",
      "knowledge": "false",
      "location": "",
      "made_sla": "true",
      "notify": "1",
      "number": "INC0010005",
      "opened_at": "2021-01-27 22:49:11",
      "opened_by": {
         "link":
 "https://my-
instance.service-now.com/api/now/table/sys_user/6816f79cc0a8016401c5a33be
04be441",
         "value": "6816f79cc0a8016401c5a33be04be441"
      },
      "order": "",
```


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      "parent": "",
      "parent_incident": "",
      "priority": "5",
      "problem_id": "",
      "reassignment_count": "0",
      "reopen_count": "0",
      "reopened_by": "",
      "reopened_time": "",
      "resolved_at": "",
      "resolved_by": "",
      "rfc": "",
      "route_reason": "",
      "service_offering": "",
      "severity": "3",
      "short_description": "Unable to open file",
      "sla_due": "",
      "state": "1",
      "subcategory": "",
      "sys_class_name": "incident",
      "sys_created_by": "admin",
      "sys_created_on": "2021-01-27 22:49:11",
      "sys_domain": {
         "link":
 "https://my-
instance.service-now.com/api/now/table/sys_user_group/global",
         "value": "global"
      },
      "sys_domain_path": "/",
      "sys_id": "6a6a4f5cdbcae850d7055268dc9619d4",
      "sys_mod_count": "0",
      "sys_tags": "",
      "sys_updated_by": "admin",
      "sys_updated_on": "2021-01-27 22:49:11",
      "task_effective_number": "INC0010005",
      "time_worked": "",
      "universal_request": "",
      "upon_approval": "proceed",
      "upon_reject": "cancel",
      "urgency": "3",
      "user_input": "",
      "watch_list": "",
      "work_end": "",
      "work_notes": "",
      "work_notes_list": "",
      "work_start": ""
   }
}
```


レコードの削除

指定されたテーブルから指定されたレコードを削除します。

始める前に

必要なロール：sn_cli_metadata.cli_admin、sn_cli_metadata.cli_user、または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc record delete [--table table --sysid sys_id]
```

これらの引数に値を渡します。

パラメーター	説明
table	必須です。レコードを削除するテーブルの名前。
sysid	必須です。削除するレコードの sys_id。

Example:

```
$ snc record delete --table incident --sysid
 552c48888c033300964f4932b03eb092
```

レコードの取得

指定された sys_id に基づいて指定されたテーブルから単一のレコードを取得します。

始める前に
必要なロール：sn_cli_metadata.cli_admin、sn_cli_metadata.cli_user、または admin

手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc record get [--table table --sysid sys_id]
```

これらの引数に値を渡します。

パラメーター	説明
table	必須です。レコードの取得元のテーブルの名前。
sysid	必須です。取得するレコードの sys_id。

Example:

```
$ snc record get --table incident --sysid
 552c48888c033300964f4932b03eb092
```

レコードは JSON 形式で返されます。

```
{
   "result": {
      "active": "true",
      "activity_due": "",
      "additional_assignee_list": "",
      "approval": "not requested",
      "approval_history": "",
      "approval_set": "",
      "assigned_to": "",
      "assignment_group": "",
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      "business_duration": "",
      "business_service": "",
      "business_stc": "",
      "calendar_duration": "",
      "calendar_stc": "",
      "caller_id": {
         "link":
 "https://my-
instance.service-now.com/api/now/table/sys_user/005d500b536073005e0addeef
f7b12f4",
         "value": "005d500b536073005e0addeeff7b12f4"
      },
      "category": "inquiry",
      "caused_by": "",
      "child_incidents": "0",
      "close_code": "",
      "close_notes": "",
      "closed_at": "",
      "closed_by": "",
      "cmdb_ci": "",
      "comments": "",
      "comments_and_work_notes": "",
      "company": "",
      "contact_type": "",
      "contract": "",
      "correlation_display": "",
      "correlation_id": "",
      "delivery_plan": "",
      "delivery_task": "",
      "description": "",
      "due_date": "",
      "escalation": "0",
      "expected_start": "",
      "follow_up": "",
      "group_list": "",
      "hold_reason": "",
      "impact": "3",
      "incident_state": "1",
      "knowledge": "false",
      "location": "",
      "made_sla": "true",
      "notify": "1",
      "number": "INC0010112",
      "opened_at": "2019-07-29 18:48:43",
      "opened_by": {
         "link":
 "https://my-
instance.service-now.com/api/now/table/sys_user/6816f79cc0a8016401c5a33be
04be441",
         "value": "6816f79cc0a8016401c5a33be04be441"
      },
      "order": "",
      "parent": "",
      "parent_incident": "",
      "priority": "5",
      "problem_id": "",
      "reassignment_count": "0",
```


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      "reopen_count": "0",
      "reopened_by": "",
      "reopened_time": "",
      "resolved_at": "",
      "resolved_by": "",
      "rfc": "",
      "route_reason": "",
      "service_offering": "",
      "severity": "3",
      "short_description": "Assessment :  ATF Assessor",
      "sla_due": "",
      "state": "1",
      "subcategory": "",
      "sys_class_name": "incident",
      "sys_created_by": "admin",
      "sys_created_on": "2019-07-29 18:49:28",
      "sys_domain": {
         "link":
 "https://my-
instance.service-now.com/api/now/table/sys_user_group/global",
         "value": "global"
      },
      "sys_domain_path": "/",
      "sys_id": "552c48888c033300964f4932b03eb092",
      "sys_mod_count": "0",
      "sys_tags": "",
      "sys_updated_by": "admin",
      "sys_updated_on": "2019-07-29 18:49:28",
      "task_effective_number": "INC0010112",
      "time_worked": "",
      "universal_request": "",
      "upon_approval": "proceed",
      "upon_reject": "cancel",
      "urgency": "3",
      "user_input": "",
      "watch_list": "",
      "work_end": "",
      "work_notes": "",
      "work_notes_list": "",
      "work_start": ""
   }
}
```


レコードのクエリ

指定されたテーブルから複数のレコードを取得します。

始める前に

必要なロール：sn_cli_metadata.cli_admin、sn_cli_metadata.cli_user、または admin

手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc record query [--displayvalue displayValue --fields fields --limit
 limit --offset offset --query query --table table]
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらの引数に値を渡します。

パラメーター	説明
displayValue	参照フィールドと選択フィールドの表示値をデータベースから取得するには、`--displayvalue` を含めます。実際の値を取得するためにこのパラメーターを含めないでください。
フィールド	データベースから返すカンマで区切られたフィールド名のリストです。
limit	返されるレコードの最大数。
offset	レコード取得を開始する開始レコードインデックス。この値を使用して、レコード取得をページネーションします。
クエリ	必須です。次の形式で結果セットをフィルタリングするために使用されるエンコードされたクエリ： `--query '<column_name><operator><value>'`
table	必須です。レコードのクエリを実行するテーブルの名前。

Example:

```
$ snc record query --displayvalue --fields short_description,state
 --query '123TEXTQUERY321=email' --table incident
```

CLI はクエリに一致するレコードを返します。

```
{
   "result": [
      {
         "short_description": "Unable to connect to email",
         "state": "Closed"
      }
   ]
}
```

レコードを更新

指定されたレコードを指定されたデータ属性で更新します。

始める前に

必要なロール：sn_cli_metadata.cli_admin、sn_cli_metadata.cli_user、または admin

手順

システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc record update [--sysid sys_id --table table --data data]
```

これらの引数に値を渡します。

パラメーター	説明
table	必須です。レコードを保存するテーブルの名前。
sysid	必須です。更新するレコードの sys_id。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーター	説明
data	必須です。指定されたレコードで JSON 文字列形式で定義するフィールド名と各フィールドの関連値。

Example:

```
$ snc record update --sysid 9ef81de2db0d6090d7055268dc961978 --table
 incident --data "{'short_description': 'Email servers down',
 'urgency':'1'}"
```

更新されたレコードのフィールドと値のペアが返されます。


```
{
   "result": {
      "active": "true",
      "activity_due": "",
      "additional_assignee_list": "",
      "approval": "not requested",
      "approval_history": "",
      "approval_set": "",
      "assigned_to": "",
      "assignment_group": {
         "link":
 "https://my-
instance.service-now.com/api/now/table/sys_user_group/287ebd7da9fe198100f
92cc8d1d2154e",
         "value": "287ebd7da9fe198100f92cc8d1d2154e"
      },
      "business_duration": "",
      "business_service": "",
      "business_stc": "",
      "calendar_duration": "",
      "calendar_stc": "",
      "caller_id": "",
      "category": "inquiry",
      "caused_by": "",
      "child_incidents": "0",
      "close_code": "",
      "close_notes": "",
      "closed_at": "",
      "closed_by": "",
      "cmdb_ci": "",
      "comments": "",
      "comments_and_work_notes": "",
      "company": "",
      "contact_type": "",
      "contract": "",
      "correlation_display": "",
      "correlation_id": "",
      "delivery_plan": "",
      "delivery_task": "",
      "description": "",
      "due_date": "",
      "escalation": "0",
      "expected_start": "",
      "follow_up": "",
```


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      "group_list": "",
      "hold_reason": "",
      "impact": "2",
      "incident_state": "1",
      "knowledge": "false",
      "location": "",
      "made_sla": "true",
      "notify": "1",
      "number": "INC0010003",
      "opened_at": "2020-12-15 21:17:05",
      "opened_by": {
         "link":
 "https://my-
instance.service-now.com/api/now/table/sys_user/6816f79cc0a8016401c5a33be
04be441",
         "value": "6816f79cc0a8016401c5a33be04be441"
      },
      "order": "",
      "parent": "",
      "parent_incident": "",
      "priority": "2",
      "problem_id": "",
      "reassignment_count": "0",
      "reopen_count": "0",
      "reopened_by": "",
      "reopened_time": "",
      "resolved_at": "",
      "resolved_by": "",
      "rfc": "",
      "route_reason": "",
      "service_offering": "",
      "severity": "3",
      "short_description": "Email servers down",
      "sla_due": "",
      "state": "1",
      "subcategory": "",
      "sys_class_name": "incident",
      "sys_created_by": "admin",
      "sys_created_on": "2020-12-15 21:17:05",
      "sys_domain": {
         "link":
 "https://my-
instance.service-now.com/api/now/table/sys_user_group/global",
         "value": "global"
      },
      "sys_domain_path": "/",
      "sys_id": "9ef81de2db0d6090d7055268dc961978",
      "sys_mod_count": "1",
      "sys_tags": "",
      "sys_updated_by": "admin",
      "sys_updated_on": "2021-01-27 22:56:33",
      "task_effective_number": "INC0010003",
      "time_worked": "",
      "universal_request": "",
      "upon_approval": "proceed",
      "upon_reject": "cancel",
      "urgency": "1",
```


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        "user_input": "",
        "watch_list": "",
        "work_end": "",
        "work_notes": "",
        "work_notes_list": "",
        "work_start": ""
    }
}
```

ServiceNow CLI でのカスタムコマンドの作成

ServiceNow CLI でカスタムコマンドを作成して、コマンドラインからカスタムアプリケーションを管理します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

ServiceNow CLI コマンドは、エンドポイント [sn_cl_metadata_end_point] テーブルのスクリプト化された REST エンドポイントにマッピングされます。スクリプト化された REST エンドポイントを定義してカスタムアプリケーションで機能を実行するか、既存の REST エンドポイントを使用できます。次に、CLI コマンドをマッピングして REST 呼び出しを実行します。

手順

1. ServiceNow CLI コマンドで REST エンドポイントを使用できるようにします。

   a. [コマンドラインインターフェイス **(CLI)]** > [エンドポイント] に移動します。

   b. [新規] を選択し、フォームに入力します。

フィールド	説明
リソースパス	必須です。コマンドのマッピング先のインスタンス上のエンドポイントへのパス。受信 REST API またはスクリプト化された REST API へのパスを指定できます。例：`api/now/table/{table}/{sysid}`。詳細については、「利用可能な REST API」および「スクリプト済み REST API」を参照してください。
HTTP メソッド	必須です。ユーザーが関連付けられたコマンドを実行するときに使用する HTTP メソッド。
アプリケーション	エンドポイントの読み取り専用アプリケーションスコープです。

2. オプション: コマンドグループを作成します。
   または、既存のコマンドグループに新しいコマンドを追加することもできます。

   a. [コマンドラインインターフェイス **(CLI)]** > [コマンドグループ] に移動します。

   b. [新規] を選択し、フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	必須です。コマンドグループの名前。
親グループ	親コマンドグループ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
参照グループ	参照するコマンドグループ。たとえば、既存のコマンドグループのエイリアスとして新しいコマンドグループを作成できます。ユーザーが新しいコマンドグループを使用して参照したコマンドを呼び出すと、元のコマンドが実行されます。これにより、新しいコマンドと既存のコマンドの両方を含むカスタムアプリケーションに固有のコマンドグループを作成できます。
簡単な説明	必須です。コマンドグループの簡単な説明。
説明	ユーザーがコマンドグループで `--help` コマンドを実行するときにヘルプテキストとして使用されるコマンドグループの説明。
アプリケーション	コマンドグループの読み取り専用アプリケーションスコープ。
有効	選択すると、コマンドグループがアクティブになります。

3. コマンドを作成します。

   a. [コマンドラインインターフェイス **(CLI)**] > [コマンド] に移動します。

   b. [新規] を選択し、フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	必須です。コマンドの名前。
コマンドグループ	必須です。コマンドが属するコマンドグループ。
参照コマンド	参照するコマンド。たとえば、既存のコマンドのエイリアスとして新しいコマンドを作成できます。ユーザーが新しいコマンドを呼び出すと、元のコマンドが実行されます。これにより、既存の機能を実行するカスタムアプリケーションに固有のコマンドを作成できます。 **注:** コマンドは、別のコマンドを参照するコマンド、または子孫コマンド、先祖コマンド、またはコールバックコマンドを参照することはできません。
API エンドポイント	必須です。ユーザーがコマンドを実行するときに実行する API 呼び出し。
簡単な説明	必須です。コマンドの簡単な説明。
アプリケーション	コマンドの読み取り専用アプリケーションスコープ。
有効	選択すると、コマンドがアクティブになります。
コールバックコマンドである	true の場合、コマンドをコールバックコマンドとして指定します。CLI クライアントからのコマンドを非表示にして、ユーザーがコマンドラインからそのコマンドを呼び出せないようにするには、このオプションを選択します。 このフィールドは、プライマリコマンドの [コールバック] セクションで使用します。コールバックコマンドは、プライマリコマンドが完了すると実行されます。
ヘルプテキスト	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	ユーザーが `--help` コマンドを実行するときにヘルプテキストとして使用されるコマンドの説明。
例	ユーザーが `--help` コマンドを実行するときにヘルプテキストとして使用されるコマンドの例。
式	
成功の式	サーバーからの応答を評価し、コマンドが成功したかどうかを判断するために使用される式。例：`result.code = 1`。
失敗の式	サーバーからの応答を評価し、コマンドが失敗したかどうかを判断するために使用される式。
メッセージ	
成功メッセージ	コマンドが成功したときに CLI クライアントに表示されるメッセージ。
進行状況メッセージ	コマンドの処理中に CLI クライアントに表示されるメッセージ。
失敗メッセージ	コマンドが失敗したときに CLI クライアントに表示されるメッセージ。
コールバック	
コールバック式	コールバックコマンドを実行するかどうかを決定するために使用される式。たとえば、実行時間の長いプロセスをチェックする式を記述できます。式が特定の結果を生成すると、コールバックが実行されます。
コールバックコマンド	[コールバック式] が満たされたときに実行するコマンド。[コールバックコマンドである] フィールドが選択されたコマンドである必要があります。
コールバック間隔	コールバックコマンドの実行間隔。 単位：ミリ秒 デフォルト：1,000
最大再試行回数	コールバックコマンドを実行する最大回数。 デフォルト：10

c. [コマンド引数] 関連リストで、コマンドに必要なコマンド引数を作成します。

コマンド引数を作成して、ユーザーがコマンドの実行時にオプションを設定できるようにします。

フィールド	説明
名前	必須です。コマンド引数の名前 (例： `data`)。
短い名前	コマンド引数の短い名前 (例：`d`)。
データタイプ	必須です。コマンド引数の想定されるデータタイプ。次のオプションが含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	▪ 文字列：ユーザーが文字列を入力できるようにします。 ▪ 整数：ユーザーが数値を入力できるようにします。 ▪ ブーリアン：ユーザーが入力として `true` または `false` を入力できるようにします。 ▪ ファイル入力：ユーザーが入力としてファイルをアップロードできるようにします。次のステップで、この引数を [API エンドポイント引数] 関連リストの本文の [パラメータータイプ] にマッピングします。ユーザーは、プレーンテキスト、YAML、JSON、または REST API で受け入れられる別のファイルタイプを渡すことができます。ユーザーが YAML ファイルを送信すると、CLI クライアントはデフォルトで JSON 形式にファイルを変換します。[前処理をスキップ **(Skip Pre-processing)]** フィールドを使用して、この動作を無効にします。 ▪ パスワード：ユーザーがパスワードを安全に入力できるようにします。 **注:** ファイル入力データタイプの場合、ファイルサイズ制限はデフォルトで 10 MB です。ただし、*glide.rest.scripted.max_inbound_content_length_mb* システムのプロパティを使用してこの制限を変更できます。
前処理をスキップ (Skip Pre-processing)	CLI クライアントが YAML ファイルを要求で送信する前に JSON 形式に変換しないようにするには、このフラグを設定します。[データタイプ] が [ファイル入力] に設定されている場合、ユーザーが YAML ファイルを送信すると、デフォルトでは、CLI クライアントはコマンドを実行する前にファイルを JSON に変換します。 **注:** [データタイプ] が [ファイル入力]に設定されている場合にのみ適用されます。
デフォルト値	ユーザーが値を渡さない場合に使用するデフォルト値。
簡単な説明	必須です。コマンド引数の簡単な説明。ユーザーが `--help` コマンドを実行するときにヘルプテキストとして使用されます。
アプリケーション	引数の読み取り専用アプリケーションスコープ。
コマンド	必須です。引数の適用先のコマンド。
必須	選択した場合、ユーザーは関連付けられたコマンドを実行するときに引数の値を入力する必要があります。
プロンプト	ユーザーからの情報を要求するためのプロンプト。ユーザーがコマンドに必要な引数を含めていない場合、CLI で情報の入力を求められます。
可視化の式	CLI が引数を要求するかどうかを決定するために使用される式。通常、前の引数に指定された値に基づいて引数を表示するために使用されます。
順番	引数の入力を要求する順番。

d. [API エンドポイント引数] 関連リストで、コマンドに必要な任意の API エンドポイント引数を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[コマンド引数] 関連リストのコマンド引数を、REST エンドポイントのパラメーターにマッピングします。

フィールド	説明
名前	必須です。引数の名前。
値	必須です。REST エンドポイントに渡すコマンドの値。静的な値、または `{flags.table}` などの式を渡すことができます。コマンド引数にアクセスするには、`flags` グローバル変数を使用します。
パラメータタイプ	必須です。[値] を渡す REST エンドポイントのパラメーターのタイプ。たとえば、[本文] を選択すると、CLI は [値] フィールドの値 を REST エンドポイント本文に渡します。次のオプションが含まれます。 ▪ 本文 ▪ ヘッダー ▪ パス ▪ クエリ
アプリケーション	引数の読み取り専用アプリケーションスコープ。
コマンド	必須です。引数の適用先のコマンド。

e. [戻り値] 関連リストで、コマンドに必要な戻り値を作成します。

応答から特定のキーのみを返す戻り値を作成します。

フィールド	説明
パス式	必須です。返すキーへのパスを表す式。
エイリアス	戻り値を割り当てる変数名。
アプリケーション	コマンドの読み取り専用アプリケーションスコープ。
コマンド	必須です。戻り値が適用されるコマンド。

タスクの結果

ユーザーが ServiceNow CLI コマンドを実行すると、関連付けられた REST API 呼び出しが実行され、結果が ServiceNow CLI に返されます。

ServiceNow CLI 拡張の管理

ServiceNow CLI に拡張を追加して、追加の機能やコマンドをロードしたり、既存の拡張を更新したり、不要になった拡張を削除したりします。

手順

1. 利用可能な拡張を検索します。

a. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc extension list-available -o table
```

利用可能な拡張と関連付けられた詳細がリストされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
NAME        DESCRIPTION                                              VERSION
        INSTALLED
-------------------------------------------------------------------------------
----------------
ui-component         Build and deploy components
 19.0.0-alpha.15      false
```

2. 拡張をインストールします。

   a. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

   ```
   $ snc extension add --name <extension-name>
   ```

3. オプション: 拡張を更新します。

   a. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

   ```
   $ snc extension update --name <extension-name>
   ```

4. オプション: 拡張を削除します。

   a. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

   ```
   $ snc extension remove --name <extension-name>
   ```

ServiceNow CLI の利用可能なコマンド

ベースシステム ServiceNow CLI で使用可能なコマンドとコマンド引数。

グローバルコマンド引数

コマンド引数を使用して、任意の CLI コマンドのオプションを設定します。

--help

説明、サポートされている引数、例を含む、指定されたコマンドのヘルプ情報を提供します。詳細については、「ServiceNow CLI のヘルプ」を参照してください。

```
$ snc --help
```

--debug

コマンドの実行時に、デバッグログ記録出力を提供します。詳細については、「ServiceNow CLI のヘルプ」を参照してください。

```
$ snc record delete --table incident --sysid
 552c48888c033300964f4932b03eb092 --debug
```

--profile

コマンドに使用する名前付きプロファイルを指定します。詳細については、「ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理」を参照してください。

```
$ snc configure profile set --profile <profilename>
```

--output

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コマンドに使用する出力形式を指定します。ServiceNow CLI は次の出力形式をサポートしています。

- `json`：出力は JSON としてフォーマットされます。これがデフォルトです。

```
{
   "default": {
      "appversion": "1.0.8",
      "host": "https://myinstance.service-now.com",
      "hostversion": "Paris",
      "loginmethod": "basic",
      "output": "json",
      "username": "admin"
   },
   "user1": {
      "appversion": "1.0.8",
      "host": "https://otherinstance.service-now.com",
      "hostversion": "Paris",
      "loginmethod": "basic",
      "output": "yaml",
      "username": "admin"
   }
}
```

- `yaml`：出力は YAML としてフォーマットされます。YAML を使用して、YAML 形式の文字列を発行または使用するサービスおよびツールで出力を処理します。

```
default:
   appversion: 1.0.8
   host: https://myinstance.service-now.com
   hostversion: Paris
   loginmethod: basic
   output: json
   username: admin
user1:
   appversion: 1.0.8
   host: https://otherinstance.service-now.com
   hostversion: Paris
   loginmethod: basic
   output: yaml
   username: admin
```

- `text`：出力は、タブ区切りの文字列値の複数の行としてフォーマットされます。この出力は、grep、sed、awk などの従来の UNIX テキストツールと、PowerShell によって実行されるテキスト処理で使用します。

```
default   https://myinstance.service-now.com   Paris   1.0.8
  basic   admin   json
user1   https://otherinstance.service-now.com   Paris   1.0.8
   basic   admin   yaml
```

- `table`：出力は、人間が判読可能な形式で情報が表示されるテーブルとしてフォーマットされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
NAME    HOST    HOST    VERSION    APP    VERSION    LOGIN    METHOD
   USERNAME    OUTPUT
-------------------------------------------------------------------
------------------
default    myinstance    Paris    1.0.8    basic    admin    json
user1    otherinstance    Paris    1.0.8    basic    admin    yaml
```

- `none`：CLI は出力をコンソールに出力しません。成功、エラー、および進捗状況のメッセージは引き続き表示されます。

```
$ snc record query --table incident --query 'active=true'
 --output json
```

--no-interactive

CLI がユーザーに引数値の入力を要求しないようにします。ユーザーが必須引数の値を渡さない場合は、デフォルト値が使用されます。デフォルト値が定義されていない場合は、エラーがスローされます。

--no-verbose

コマンドはメッセージなしでサイレント実行されます。自動テストシナリオでは、この引数を使用します。

プロファイルの設定

接続プロファイルを作成して、インスタンスへの接続、接続プロファイルの表示、接続および利用可能なコマンドの更新、または不要になったプロファイルの削除を行います。 プロファイルの設定の詳細については、「ServiceNow CLI 接続プロファイルの構成と管理」を参照してください。

デフォルトプロファイルの設定

ServiceNow CLI がデフォルトで使用する接続プロファイルを作成します。インスタンスとの CLI の初期接続を設定するには、デフォルトのプロファイルを作成する必要があります。

```
$ snc configure profile set
```

次の情報の入力を求められます。

要求された情報	説明
ホスト	接続するインスタンスのホスト名。完全な URL (https://my-instance.service-now.com) またはホスト名のみ (my-instance) の両方をサポートします。
ログイン方法	インスタンスへの接続に使用するログイン方法。基本、`OAuth`、および `OAuth + MFA` をサポートします。
ユーザー名	インスタンスへの接続に使用するユーザー名。
パスワード	インスタンスへの接続に使用するパスワード。
クライアント ID	ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアント ID。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要求された情報	説明
クライアントシークレット	ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアントシークレット。
認証コード	ログイン方法が OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用する認証コード。
デフォルトの出力形式	コマンドの結果のフォーマット方法を指定します。オプションは `json`、`yaml`、`text`、および `table` です。

名前付きプロファイルの設定

特定のコマンドで使用する名前付き接続プロファイルを作成します。これにより、特定のコマンドに異なるインスタンスまたは接続プロトコルを指定できます。

```
$ snc configure profile set [--profile profile-name]
```

次の情報の入力を求められます。

要求された情報	説明
ホスト	接続するインスタンスのホスト名。完全な URL (https://my-instance.service-now.com) またはホスト名のみ (my-instance) の両方をサポートします。
ログイン方法	インスタンスへの接続に使用するログイン方法。基本、`OAuth`、および `OAuth + MFA` をサポートします。
ユーザー名	インスタンスへの接続に使用するユーザー名。
パスワード	インスタンスへの接続に使用するパスワード。
クライアント ID	ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアント ID。
クライアントシークレット	ログイン方法が OAuth または OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用するクライアントシークレット。
認証コード	ログイン方法が OAuth + MFA の場合にインスタンスへの接続に使用する認証コード。
デフォルトの出力形式	コマンドの結果のフォーマット方法を指定します。オプションは `json`、`yaml`、`text`、および `table` です。

プロファイルの表示

構成ファイルに設定されているすべての接続プロファイルを表示するか、特定のプロファイルに関する情報を表示します。

```
$ snc configure profile list [--profile profile-name]
```

プロファイルの削除

不要になった名前付き接続プロファイルを構成ファイルから削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
$ snc configure profile remove [--profile profile-name]
```

プロファイルのリフレッシュ

指定されたプロファイルのインスタンスから利用可能なコマンドを更新します。CLI を最新の状態に保つために、対応するインスタンスのいずれかのコマンドを変更した後は接続を更新します。

```
$ snc configure profile refresh [--profile profile-name]
```

レコード操作の実行

ServiceNow CLI コマンドラインツールを使用して、インスタンスのレコードの作成、読み取り、更新、削除、クエリを行います。 レコード操作の実行の詳細については、「ServiceNow CLI を使用したレコード操作の実行」を参照してください。

レコードを作成

指定されたテーブルに単一のレコードを挿入します。

```
$ snc record create [--table table --data data]
```

これらの引数に値を渡します。

パラメーター	説明
table	必須です。レコードを保存するテーブルの名前。
data	必須です。指定されたレコードで JSON 文字列形式で定義するフィールド名と各フィールドの関連値。

レコードの削除

指定されたテーブルから指定されたレコードを削除します。

```
$ snc record delete [--table table --sysid sys_id]
```

これらの引数に値を渡します。

パラメーター	説明
table	必須です。レコードを削除するテーブルの名前。
sysid	必須です。削除するレコードの sys_id。

レコードの取得

指定された sys_id に基づいて指定されたテーブルから単一のレコードを取得します。

```
$ snc record get [--table table --sysid sys_id]
```

これらの引数に値を渡します。

パラメーター	説明
table	必須です。レコードの取得元のテーブルの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーター	説明
sysid	必須です。取得するレコードの sys_id。

レコードのクエリ

指定されたテーブルから複数のレコードを取得します。

```
$ snc record query [--displayvalue displayValue --fields fields
 --limit limit --offset offset --query query --table table]
```

これらの引数に値を渡します。

パラメーター	説明
displayValue	参照フィールドと選択フィールドの表示値をデータベースから取得するには、`--displayvalue` を含めます。実際の値を取得するためにこのパラメーターを含めないでください。
フィールド	データベースから返すカンマで区切られたフィールド名のリストです。
limit	返されるレコードの最大数。
offset	レコード取得を開始する開始レコードインデックス。この値を使用して、レコード取得をページネーションします。
クエリ	必須です。次の形式で結果セットをフィルタリングするために使用されるエンコードされたクエリ： `--query '<column_name><operator><value>'`
table	必須です。レコードのクエリを実行するテーブルの名前。

レコードを更新

指定されたレコードを指定されたデータ属性で更新します。

```
$ snc record update [--sysid sys_id --table table --data data]
```

これらの引数に値を渡します。

パラメーター	説明
table	必須です。レコードを保存するテーブルの名前。
sysid	必須です。更新するレコードの sys_id。
data	必須です。指定されたレコードで JSON 文字列形式で定義するフィールド名と各フィールドの関連値。

拡張の操作

ServiceNow CLI に拡張を追加して、追加の機能やコマンドをロードしたり、既存の拡張を更新したり、不要になった拡張を削除したりします。詳細については、「ServiceNow CLI 拡張の管理」を参照してください。

利用可能な拡張の検索

```
$ snc extension list-available -o table
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

拡張のインストール

```
$ snc extension add --name <extension-name>
```

拡張の更新

```
$ snc extension update --name <extension-name>
```

拡張の削除

```
$ snc extension remove --name <extension-name>
```

UI コンポーネント拡張の使用

UI コンポーネント拡張の追加

UI コンポーネントエクステンション を ServiceNow CLI に追加します。

```
$ snc extension add --name ui-component
```

プロジェクトの設定

コンポーネントプロジェクトと、コンポーネントの開発に必要なファイルのセットを作成します。インスタンスに接続してコンポーネントのアプリケーションスコープを作成するか、後で検証するためにスコープを予約することができます。

```
$ snc ui-component project [--name name --description
 description --scope scope --offline]
```

これらの引数に値を渡します。

名前	説明
name	必須です。プロジェクト名。有効な一意の npm パッケージ名である必要があります。
説明	npm レジストリとインスタンスのプラグインリストで使用できるプロジェクトの説明。
scope	このプロジェクトとそのコンポーネントにアサインする提案されたアプリケーションスコープ。指定されている場合、インスタンスは名前を検証します。 インスタンスでのアプリケーション開発には、名前空間識別子のガイドラインを使用します。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。 最大：18 文字。 ケース：スネークケース。 デフォルト：`x_customerprefix_componentname`、ここで： • `customerprefix` は、インスタンスの *`glide.appcreator.company.code`* システムのプロパティの値です。 • `componentname` は、プロジェクトの作成時にコンポーネントの `name` パラメーターで指定された値です。 または、`now-ui.json` ファイルで `scopeName` パラメーターに値を追加することもできます。詳細については、「コンポーネントのアプリケーションスコープの変更」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明
offline	true の場合、インスタンスから切断されている間にコンポーネントを作成してスキャフォールディングします。指定されたスコープ名の検証をスキップします。 デフォルト値：`false`。

開発サーバーの実行

コンポーネントコードを追加し、ローカルの開発サーバーを使用してテストします。

```
$ snc ui-component develop [--entry entry --open --port port
 --host host]
```

これらの引数に値を渡します。

名前	説明
エントリー	コンポーネントプロジェクト内のテストモジュールへのパス。 デフォルト： `example/index.js`。
open	デフォルトのブラウザーを開き、テストページに移動します。 デフォルト値：false。
port	開発サーバーが実行されているポート。 デフォルト：8081。
host	ローカル開発サーバーを他のユーザーが外部からアクセスできるようにする場合に使用するホストアドレス。通常は `0.0.0.0` に設定します

インスタンスへのコンポーネントの展開

アプリケーションプラグインとしてインスタンスに表示するコンポーネントを展開します。

```
$ snc ui-component deploy [--open --force]
```

これらの引数に値を渡します。

名前	説明
open	true の場合、デフォルトのブラウザーが開き、インスタンスの UI ビルダー に移動します。 デフォルト値：false
force	コンポーネントの変更を展開し、既存のコンポーネントレコードを上書きします。 デフォルト値：false。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CMDB アプリケーションの CLI および API とともにインストールされるコマンド

app-cmdb-api-cli プラグインがインストールされている場合に ServiceNow CLI で使用できるコマンドとコマンドグループ。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

企業全体の自動化をサポートする重要な操作をスクリプト化するために、ユーザーインターフェイスを使用する代わりに、API を活用するか、CMDB アプリケーション CLI および API ストアアプリが提供するコマンドライン操作を実行できます。CMDB アプリケーション CLI および API ストアアプリは、アプリケーションサービスに関連するすべての API と、それらの API へのインターフェイスにアクセスできるようにするコマンドラインを統合する堅牢なフレームワークを提供します。

CMDB アプリケーションの CLI および API コマンドは、次のタスクを有効にします。

- アプリケーションサービスの登録と作成、およびアップストリームの関係の確立
- 指定されたアプリケーションサービスとそのアップストリームの関係の詳細の取得
- ビジネスアプリケーションやビジネスサービスオファリングなどの上位レベルの構成要素の接続
- 指定された入力タイプのアプリケーションサービスへの入力
- アプリケーションサービスのステータスの変更

REST API ソリューションについては、「SG サービス API」を参照してください。

アプリケーションサービスへの変換

手動または空のタイプのアプリケーションサービスを計算されたアプリケーションサービスに変換します。変換中、アプリケーションサービスレコードは新しくアサインされたクラスとともに [cmdb_ci_service_calculated] テーブルに移動します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service convert --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

JSON オブジェクトのプロパティ

名前	説明
<IRE field name>	アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 データタイプ：文字列
levels	変換に含めるレベルの数。 データタイプ：文字列
number	アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 データタイプ：文字列
sys_id	アプリケーションサービスの sys_id。 データタイプ：文字列

例

```
snc service-graph app-service convert --data '{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0","levels":8}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

アプリケーションサービス関係の作成

ビジネスアプリケーション、ビジネスサービスオファリング、その他のアプリケーションサービスなどのアップストリームの関係をビルドします。 このコマンドを実行すると、1 つの親と対応する子オブジェクトを含む入力を取得して、関係が作成されます。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service create-relationship --data
 '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

JSON オブジェクトのプロパティ

名前	説明

child	関係を作成する子アプリケーションサービスを特定する情報。アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブル内にある子。
	
	動的 CI グループは子として追加できますが、親になることはできません。
	
	データタイプ：オブジェクト
	
	`"child": {`
	`  "<IRE field name>": "String",`
	`  "number": "String",`
	`  "sys_id": "String"`
	`}`

child.<IRE field name>	子アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 データタイプ：文字列
child.number	子アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 データタイプ：文字列
child.sys_id	アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] にリストされている子アプリケーションサービスの sys_id。 データタイプ：文字列

parent	関係の作成に使用する親アプリケーションサービスを特定する詳細情報。
	
	データタイプ：オブジェクト
	
	`"parent": {`
	`  "<IRE field name>": "String",`
	`  "number": "String",`
	`  "sys_id": "String",`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JSON オブジェクトのプロパティ (続く)

名前	説明

	<pre>"class_name": "String"
	}</pre>

parent.<IRE field name>	アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 データタイプ：文字列
parent.number	アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 データタイプ：文字列
parent.sys_id	アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] にリストされるアプリケーションサービスの sys_id。 データタイプ：文字列
parent.class_name	アプリケーションサービスを含むクラスの名前。 親クラス名は、次のいずれかのテーブルからのものである必要があります。 • cmdb_ci_service_auto • cmdb_ci_service_discovered • cmdb_ci_service_by_tags • cmdb_ci_service_calculated • service_offering • cmdb_ci_business_app デフォルト：cmdb_ci_service_auto データタイプ：文字列

例

```
snc service-graph app-service create-relationship --data
 '{"child":{"name":"wdfsdf","environment":"Test","version":"1.0
"},"parent":{"sys_id":"abcdefg","name":"business
 App1","class_name":"service_offering"}}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

アプリケーションサービスの削除

アプリケーションサービスを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service delete --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

JSON オブジェクトのプロパティ

名前	説明
<IRE field name>	アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 データタイプ：文字列
number	アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 データタイプ：文字列
sys_id	アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブルにリストされるアプリケーションサービスの sys_id。 データタイプ：文字列

例

```
snc service-graph app-service delete --data '{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0"}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションサービス関係の削除

アプリケーションサービスのアップストリームの関係を削除します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service delete-relationship --data
 '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

JSON オブジェクトのプロパティ

名前	説明

child	サービスアプリケーションから削除する子の関係を説明する情報。
	
	データタイプ：オブジェクト
	
	`"child": {`
	`  "<IRE field name>": "String",`
	`  "number": "String",`
	`  "sys_id": "String"`
	`}`

child.<IRE field name>	子アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 データタイプ：文字列
child.number	子アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 データタイプ：文字列
child.sys_id	アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] にリストされている子アプリケーションサービスの sys_id。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JSON オブジェクトのプロパティ (続く)

名前	説明
	データタイプ：文字列

parent	関係の削除元となる親アプリケーションサービスを特定する詳細情報。
	
	データタイプ：オブジェクト
	
	`"parent": {`
	`  "<IRE field name>": "String",`
	`  "number": "String",`
	`  "sys_id": "String",`
	`  "class_name": "String"`
	`}`

parent.<IRE field name>	アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 データタイプ：文字列
parent.number	アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 データタイプ：文字列
parent.sys_id	アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブルにリストされるアプリケーションサービスの sys_id。 データタイプ：文字列
parent.class_name	アプリケーションサービスを含むクラスの名前。 親クラス名は、次のいずれかのテーブルからのものである必要があります。 • cmdb_ci_service_auto • cmdb_ci_service_discovered • cmdb_ci_service_by_tags • cmdb_ci_service_calculated • service_offering • cmdb_ci_business_app デフォルト：cmdb_ci_service_auto データタイプ：文字列

例

```
snc service-graph app-service delete-relationship
 --data '{"child":{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0"},"parent":{"nam
e":"business Service
 Offering1","class_name":"service_offering"}}'
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

値を返す

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

アプリケーションサービスの検索

指定されたアプリケーションサービスとそのアップストリームの関係の詳細を検索します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin – このロールは、アプリケーションサービスを無制限に表示できます。

app_service_user – このロールは、運用ステータスのアプリケーションサービスのみを表示できます。

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service find --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

JSON オブジェクトのプロパティ

名前	説明
<IRE field name>	アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 データタイプ：文字列
number	アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 データタイプ：文字列
sys_id	アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブルにリストされるアプリケーションサービスの sys_id。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JSON オブジェクトのプロパティ (続く)

名前	説明
	データタイプ：文字列

例

```
snc service-graph app-service find --data '{"name" : "Test App
 Service1"}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
    "aliases": null,
    "asset": null,
    "asset_tag": null,
    "assigned": "",
    "assigned_to": null,
    "assignment_group": null,
    "attestation_score": null,
    "attested": "0",
    "attested_by": null,
    "attested_date": "",
    "attributes": null,
    "bucket": null,
    "business_contact": null,
    "business_need": null,
    "business_relation_manager": null,
    "business_unit": null,
    "busines_criticality": "4 - not critical",
    "can_print": "0",
    "category": null,
    "change_control": null,
    "checked_in": "",
    "checked_out": "",
    "checkout": null,
    "comments": null,
    "company": null,
    "compatibility_dependencies": null,
    "consumer_type": "internal",
    "correlation_id": null,
    "cost": null,
    "cost_cc": "USD",
    "cost_center": null,
    "delivery_date": "",
    "delivery_manager": null,
    "department": null,
    "discovery_source": "Manual Entry",
    "dns_domain": null,
    "due": "",
    "due_in": null,
    "duplicate_of": null,
    "end_date": "",
    "environment": null,
    "fault_count": "0",
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    "first_discovered": "2021-07-19 20:09:48",
    "fqdn": null,
    "gl_account": null,
    "hide_from_dashboard": "0",
    "install_date": "",
    "install_status": "1",
    "invoice_number": null,
    "ip_address": null,
    "justification": null,
    "last_discovered": "2021-07-19 20:09:48",
    "last_review_date": "",
    "layer": null,
    "lease_id": null,
    "life_cycle_stage": null,
    "life_cycle_stage_status": null,
    "location": null,
    "mac_address": null,
    "maintenance_schedule": null,
    "managed_by": null,
    "managed_by_group": null,
    "manufacturer": null,
    "model_id": null,
    "model_number": null,
    "monitor": "0",
    "monitoring_requirements": null,
    "name": "Test App Service1",
    "number": "SNSVC0001014",
    "operational_status": "2",
    "order_date": "",
    "owned_by": null,
    "parent": null,
    "portfolio_status": "pipeline",
    "po_number": null,
    "prerequisites": null,
    "price_model": "per_unit",
    "price_unit": null,
    "published_ref": null,
    "purchase_date": "",
    "schedule": null,
    "serial_number": null,
    "service_classification": "Application Service",
    "service_level_requirement": null,
    "service_owner_delegate": null,
    "service_status": "requirements",
    "severity": null,
    "short_description": null,
    "skip_sync": "0",
    "sla": null,
    "spm_service_portfolio": null,
    "spm_taxonomy_node": null,
    "stakeholders": null,
    "start_date": "",
    "state": null,
    "subcategory": null,
    "supported_by": null,
    "support_group": null,
    "sys_class_name": "cmdb_ci_service_auto",
```


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    "sys_class_path": "/!!/!7/!(",
    "sys_created_by": "admin",
    "sys_created_on": "2021-07-19 20:09:48",
    "sys_domain": "global",
    "sys_domain_path": "/",
    "sys_id": "a2f0618040697410f87713b656474255",
    "sys_mod_count": "0",
    "sys_updated_by": "admin",
    "sys_updated_on": "2021-07-19 20:09:48",
    "unit_description": null,
    "unverified": "0",
    "used_for": "Production",
    "user_group": null,
    "vendor": null,
    "version": null,
    "view_service": "61e1cb757f23220002d31ccebefa9120",
    "warranty_expiration": "",
    "relationships": [
      {
        "name": "Test Biz App1",
        "sys_id": "0250a94040697410f87713b656474250",
        "number": "APM0001001",
        "class_name": "cmdb_ci_business_app",
        "relationship": "Consumes::Consumed by"
      },
      {
        "name": "Tech Service Offering1",
        "sys_id": "98d0ed4040697410f87713b6564742ef",
        "number": "BSN0001005",
        "class_name": "service_offering",
        "relationship": "Contains::Contained by"
      }
    ]
  }
}
```


アプリケーションサービスの入力

サービスの作成方法を使用して、アプリケーションサービスを設定します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service populate --data '{JSON}'
```

引数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

JSON オブジェクトのプロパティ

名前	説明
<IRE field name>	アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 データタイプ：文字列
番号	アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 データタイプ：文字列
population_method	必須。入力するコンテンツを識別するための入力方法とそれに付随するプロパティを識別します。 タイプごとに 1 つの付随オブジェクトのみが有効です。 データタイプ：オブジェクト

population_method.group_id	cmdb_group 入力タイプで構成された CMDB グループのグループ ID。
	
	データタイプ：「文字列」
	
	`"population_method": {`
	`  "group_id": "String",`
	`  "type": "cmdb_group"`
	`}`
	
	関連付けられた入力タイプ：cmdb_group

population_method.levels	サービスのビルドに使用するレベルの数。レベル値が指定されていない場合、システムは値の sys_property をチェックします。svc.manual.convert.levels.default_value が入力されていない場合は、デフォルト値の 3 が使用されます。
	
	データタイプ：数値
	
	`"population_method": {`
	`  "levels": Number,`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JSON オブジェクトのプロパティ (続く)

名前	説明
	<pre> "type": "dynamic_service" }</pre> 関連する入力タイプ：dynamic_service デフォルト：sys_property にレベル値が設定されていない場合は 3

population_method.service_candidate	サービス候補の一意の識別子。
	
	データタイプ：文字列
	<pre>"population_method": {
	  "service_candidate": "String",
	  "type":
	 "tag_based_service_family"
	}</pre>
	関連する入力タイプ：
	tag_based_service_family

population_method.service_relations	アプリケーションサービス内の CI の階層データを含むオブジェクトのリスト。すべての CI は親および子 CI とのペアを形成します。アプリケーションサービスのエントリーポイントと呼ばれるトップレベル CI には親 CI がありません。
	
	データタイプ：アレイ
	<pre>"population_method": {
	
	  "service_relations":[
	     {
	      "child": "String",
	      "parent": "String"
	     }
	  ],
	
	  "type": "service_hierarchy"
	}</pre>
	関連する入力タイプ： service_hierarchy

population_method.service_relations.child	CI に関連する子 CI の名前。 データタイプ：文字列
population_method.service_relations.parent	CI に関連する親 CI の名前。 データタイプ：文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JSON オブジェクトのプロパティ (続く)

名前	説明

population_method.tags	CI に関連付けるタグを含むオブジェクトのリスト。この情報は、キー値 [cmdb_key_value] テーブルにあります。
	
	データタイプ：アレイ
	
	`"population_method": {`
	
	`"tags": [`
	`{`
	`"tag": "String",`
	`"value": "String"`
	`}`
	`],`
	
	`"type": "tag_list"`
	`}`
	
	関連付けられた入力タイプ：tag_list

population_method.tags.tag	タグ名。 データタイプ：文字列
population_method.tags.value	タグ値。 データタイプ：文字列
population_method.type	必須。アプリケーションサービスに追加する入力タイプ。 データタイプ：オブジェクト 有効な値： • cmdb_group • service_hierarchy • dynamic_service • tag_list • tag_based_service_family
sys_id	アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブルにリストされるアプリケーションサービスの sys_id。 データタイプ：文字列

例

```
snc service-graph app-service populate --data '{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0","population_met
hod":{"group_id":"String","type":"cmdb_group"}}'
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

値を返す

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

アプリケーションサービスの登録

アプリケーションサービス、タグを作成し、ビジネスアプリケーション、ビジネスサービスオファリング、その他のアプリケーションサービスなどのアップストリームの関係をビルドします。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service register --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

JSON オブジェクトのプロパティ

名前	説明
<IRE field name>	アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 データタイプ：文字列
number	アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 データタイプ：文字列
relationships	タイプ別に分類されたアップストリームの関係。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JSON オブジェクトのプロパティ (続く)

名前	説明
	データタイプ：オブジェクト `"relationships": { "business_app": [Array], "business_service_offering": [Array], "parent_app_service": [Array], "technical_service_offering": [Array] }` 関係の最大数は 25 です。
relationships.business_app	ビジネスアプリケーション関係タイプを表すオブジェクトのリスト。これらの値は、次のいずれかのアイテムをキーと値のペアとして使用して定義できます。 • <IRE field name> • number • sys_id データタイプ：アレイ
relationships.business_service_offering	ビジネスサービスオファリング関係タイプを表すオブジェクトのリスト。これらの値は、次のアイテムをキーと値のペアとして使用して定義できます。 • <IRE field name> • number • sys_id データタイプ：アレイ
relationships.parent_app_service	アプリケーションサービス関係タイプを表すオブジェクトのリスト。これらの値は、次のアイテムをキーと値のペアとして使用して定義できます。 • <IRE field name> • number • sys_id データタイプ：アレイ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JSON オブジェクトのプロパティ (続く)

名前	説明
relationships.technical_service_offering	テクニカルサービスオファリング関係タイプを表すオブジェクトのリスト。これらの値は、次のアイテムをキーと値のペアとして使用して定義できます。 • <IRE field name> • number • sys_id データタイプ：アレイ
sys_id	アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブルにリストされるアプリケーションサービスの sys_id。 データタイプ：文字列
tags	キーと値のペアとしてのタグ定義を含むオブジェクトのリスト。 `"tags": [ { "key": "String", "value": "String" }]` データタイプ：アレイ
tags.key	タグカテゴリ名。 データタイプ：文字列
tags.value	タグ値。 データタイプ：文字列

例

```
snc service-graph app-service register --data '{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0","number":"
 SNSVC0001014","relationships":{"business_application":[{"sys_i
d":"0250a94040697410f87713b656474250"},{"number":"APM0001002
"},{"name":"Test Biz
 App1"}],"business_service_offering":[{"sys_id":"ed32e980406974
10f87713b656474259"}],"technical_service_offering":[{"sys_id":"
80e12d8040697410f87713b65647421c"},{"number":"BSN0001005"},{"na
me":"Tech Service
 Offering2"}],"parent_app_service":[{"sys_id":"a2f0618040697410
f87713b656474255"}]},"tags":[{"key":"key1","value":"value1"},{"
key":"key2","value":"value2"}]}'
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

値を返す

```
{
  "result": {
    "app_service": {
      "sys_id": "99b2a54040697410f87713b6564742ad",
      "name": "Test Register",
      "number": "SNSVC0001014"
    },
    "message": "Service registered successfully",
    "status": "INSERT"
  }
}
```

アプリケーションサービスの更新

提供された既存のアプリケーションサービスを更新し、指定されたアプリケーションサービスのタグを作成します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service update --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

JSON オブジェクトのプロパティ

名前	説明
<fields or tags to update>	キーと値のペアを使用して、更新する各フィールドまたはタグを特定します。 基本的な情報のみを更新できます。アップストリームの関係は更新できません。 データタイプ：文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JSON オブジェクトのプロパティ (続く)

名前	説明
<IRE field name>	アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 データタイプ：文字列
番号	アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 データタイプ：文字列
sys_id	アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] にリストされるアプリケーションサービスの sys_id。 データタイプ：文字列

例

```
snc service-graph app-service update --data '{"name": "Test
 Register", "version": "2.0"}'
```

値を返す

```
{
  "result": {
    "sys_id": "99b2a54040697410f87713b6564742ad",
    "name": "Test Register",
    "number": "SNSVC0001014",
    "version": "2.0"
  }
}
```

アプリケーションサービスステータスの更新

アプリケーションサービスのライフサイクル状況をアクティブ化、非アクティブ化、または廃止に変更します。

コマンドグループ：

- 親グループ：service-graph
- 子グループ：app-service

必要なロール

app_service_admin

サービスマッピング関連サービスを使用する場合、ユーザーはそのサービスマッピング関連サービスに必要なロールを持っている必要があります。

コマンド構造

```
snc service-graph app-service update-state --data '{JSON}'
```

引数

このコマンドは、*data* パラメーターを使用して JSON オブジェクトを渡します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CI を識別する以下のプロパティは、次のように優先されます。

1. sys_id – sys_id の場合、システムは sys_id のみを使用し、追加の値は無視します。
2. 数値 – sys_id なしで指定された場合、システムは数値のみを使用し、追加の値は無視します。
3. <IRE field name> – sys_id または数値が指定されていない場合のみ、システムはこれらの値を使用します。

JSON オブジェクトのプロパティ

名前	説明
<IRE field name>	アプリケーションサービスを特定する 1 つ以上の IRE フィールド。たとえば、名前やバージョン。 データタイプ：文字列
番号	アプリケーションサービスを特定する一意の番号。 データタイプ：文字列
state	必須です。アプリケーションサービスのライフサイクル状況。これらの値は、アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] テーブル内で更新されます。 有効な値： • ACTIVATE – ライフサイクルが運用中で、使用中です。 ◦ operational_status=Operational ◦ life_cycle_stage=Operational ◦ life_cycle_stage_status=In Use • DEACTIVATE – ライフサイクルが運用されておらず、設計段階です。 ◦ operational_status=Non-Operational ◦ life_cycle_stage=Design ◦ life_cycle_stage_status=Build • 廃止 – 提供終了。 ◦ operational_status=Retired ◦ life_cycle_stage=End Of Life ◦ life_cycle_stage_status=Retired データタイプ：文字列
sys_id	アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] にリストされるアプリケーションサービスの sys_id。 データタイプ：文字列

例

```
snc service-graph app-service update-state --data
 '{"name":"Test
 Register","environment":"Test","version":"1.0"}'
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

戻り値

```
{
  "result": {
  "status": "success"
  }
}
```

Now Platform を使用した ERP 用 App Engine

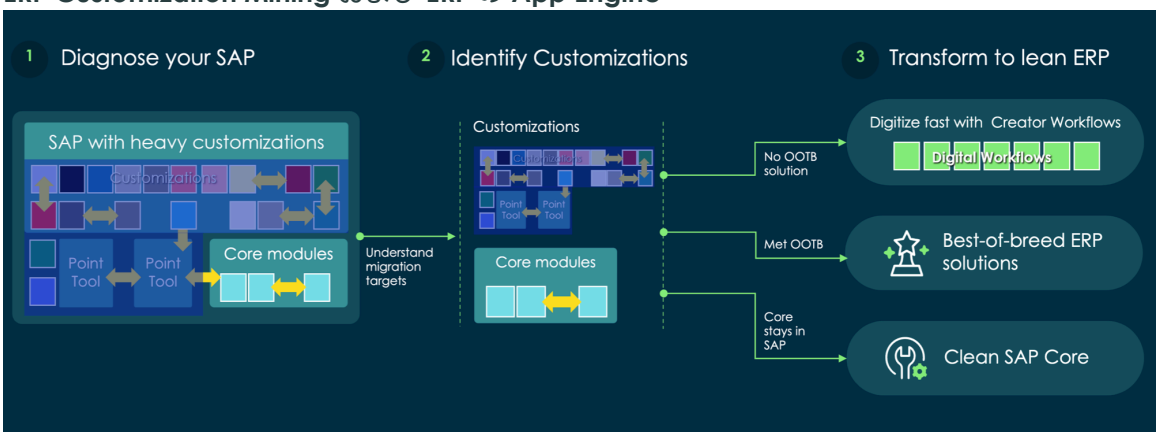
ERP 統合 を使用して従来の ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムを読み取り、更新し、ERP Customization Mining (ECM) を使用してカスタマイズを識別します。その後、App Engine Studio (AES) などの追加の Now Platform アプリを使用して、ERP データを整理および再プラットフォーム化できます。

再プラットフォーム化は、従来の ERP システムコードをスキャンして、新しいアプリとして Now Platform インスタンスに移行する潜在的な候補を見つけるプロセスです。ERP システムからのデータを、Now Platform 上にビルドされたアプリのソースとして使用し、パフォーマンスの向上、 セキュリティの強化、メンテナンスの削減を実現できます。

ERP 統合 と ECM の統合のメリットを組み合わせてアプリを再プラットフォーム化する

SAP などの従来の SoR には、新しいバージョンの SoR に移行するためにより多くの時間と労力を必要とする、古くて複雑なカスタムコードとデータが含まれている場合があります。ERP 統合 と ECM を使用して SoR をスキャンし、カスタムコードを見つけてデジタル化されたワークフローに置き換えることで、クリーンな ERP コアを実現します。

ERP Customization Mining および ERP の App Engine



レガシーコードの再プラットフォーム化により、レガシーシステムの知識がなくても SoR 上で迅速なイノベーションが可能になります。これにより、データベースアドミニストレーターと開発者は、SoR でデータベースビューやエンドポイントを作成するという時間のかかる作業から解放され、移行などの他のプロジェクトに取り組むことができます。

再プラットフォーム化されたデータはすぐに利用でき、管理しやすいテーブルやアプリに反映されます。ユーザーはデータベースアドミニストレーターに情報を要求して数週間待つ必要がなくなります。 再プラットフォーム化されたアプリは、ERP SoR をライブデータソースとして使用します。

ERP 統合 および ECM のワークフロー

ソリューション統合コンサルタントは、ERP 統合 と ECM を併用することで、次のワークフローを実装できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. アドミニストレーターは 接続情報と認証情報 アプリを使用して、ERP 統合 を ERP SoR に接続するための認証情報を構成します。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。
2. 構成した接続および資格情報エイリアスを使用して、ERP 統合 で ERP システムを作成します。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの作成」を参照してください。
3. ERP 統合 では、開発インスタンスで ERP システム、ERP モデル、テーブルをビルドします。
   a. SoR 内の指定された ERP モジュールで利用可能なテーブルとフィールドをスキャンする ERP モデルを作成またはクローンします。抽出テーブルとリモートテーブルで使用する ERP モデルのテーブルとフィールドに注意してください。詳細については、「ERP 統合 での ERP モデルのクローン」を参照してください。
   b. ERP モデルに追加のデータを含めるための新しいテーブル、フィールド、テーブル結合を追加します。詳細は、以下のトピックを参照してください。
      - モデルが ERP システムを読み取りおよび更新する方法の管理
      - ERP テーブル間の結合の追加
   c. 必要に応じて、ERP システム上のデータを更新するための BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) を使用して、更新操作を作成します。
   d. App Engine Studio でアプリをビルドする場合などに、リモートテーブルをビルドしてカスタマイズし、データソースとして使用できるようにします。リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。詳細については、以下を参照してください。
      - ERP 統合 での ERP リモートテーブルの詳細の表示と編集
      - ERP 統合 で ERP リモートテーブルのフィールドをカスタマイズする
      - ERP 統合 を使用したリモートテーブルのクエリ
   e. ETL 抽出テーブルを使用して、SoR を定期的にスキャンし、データをステージングテーブルに抽出します。 抽出テーブルは、スケジュール済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。
      - サポートされている国ごとに 1 つずつなど、必要に応じて個別の抽出テーブルを作成します。詳細については、「ERP 統合 でのデータの抽出と変換」を参照してください。
      - 最初に、(SoR 上の) ソーステーブルを Now Platform の Glide テーブルに接続するテーブル変換マップを作成する必要があります。テーブル変換マップの作成の詳細については、「変換マップを作成」を参照してください。
      - 抽出プロセスは、それらを使用する ServiceNow アプリで構成されます 。ワークフロースタジオ など。
      - 抽出プロセスの実行後、インポートセットを使用して、インポートされたデータを Now Platform テーブルにマッピングします。詳細については、「インポートセット」を参照してください。
4. ECM を使用してモダナイズおよび再プラットフォーム化する従来の ERP システムのカスタマイズを特定します。
5. ERP 統合 システム、ERP モデル、テーブルの準備ができたら、本番環境に移行します。詳細については、「ERP 統合 で ERP 開発パイプラインを管理する」を参照してください。
   a. 顧客と面談し、顧客の ERP SoR で ERP Customization Mining を使用して分析を実行することに同意します。
   b. ERP 統合 を使用して、顧客の ERP SoR を ServiceNow インスタンスに接続します。

      注: ほとんどの顧客は独自のインスタンスを持っています。

      ECM は、ERP 統合 で構成されたシステム接続を使用します。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの操作」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. ERP 統合 を使用して、前のワークフローステップで指定した利用可能なリモートテーブルのフィールドから ERP モデルをビルドします。

d. ERP Customization Mining を実行して候補を検索します。候補は、ServiceNow アプリで置き換えることができる、SoR 内のカスタムコードです。詳細については、「ECM で候補の概要を参照する」を参照してください。

e. 再プラットフォーム化する候補を選択します。詳細については、「再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存」を参照してください。

f. ECM 内の候補の詳細を、候補に関連するコメントを入力して添付ファイルを保存する中心的な場所として使用します。詳細については、「ECM で候補の詳細を表示して操作する」を参照してください。

g. 候補の詳細で、再プラットフォーム化された単一アプリに結合できる類似の候補を特定します。詳細については、「ECM による再プラットフォーム化候補のスコアと可能性の決定方法」を参照してください 。

h. ERP 統合 に戻って、リモートテーブルと抽出テーブルを使用してデータモデルのビルドを続行します。必要なすべてのデータが Now Platform で利用可能であることを確認します。詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルのビルドと管理」を参照してください。

6. Now Platform でアプリをビルドするときには、次のような、データソースとして使用できる ERP データを使用します。
   - App Engine Studio：詳細については、「アプリケーションのデータモデルの作成」を参照してください。
   - ワークフロースタジオのフロー：詳細については、「フローの構成」を参照してください。
   - テーブルビルダー：詳細については、「テーブルビルダー 内のデータ」を参照してください。
   - UI ビルダー：詳細については、「UI ビルダーページでデータを動的に公開する (高度な機能)」を参照してください。
   - ワークフロースタジオ：詳細については、「フローの構成」を参照してください。
   - ワークスペースビルダー：詳細については、「ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。」を参照してください。
7. お好みの分析ツールで適用可能なメトリクスとパラメーターを使用して、新しいアプリのパフォーマンスを測定および監視します。

ERP 統合 と ECM を統合するための要件

1. ERP 統合 のインストール要件は次のとおりです。
   - 有効なライセンス
   - Now Platform プラグイン
   - MID サーバー構成
   - スポークの統合
   - SAP 構成

   詳細については、「ERP 統合 のインストール要件」を参照してください。
2. ECM のインストール要件は次のとおりです。
   - ライセンスとエンタイトルメント。詳細については、「ERP 統合 のインストール」を参照してください。
   - Now Platform プラグイン。詳細については、「ERP 統合 のインストール」を参照してください。
   - SAP 構成。詳細については、「SAP を ECM 用に構成する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 と ECM を使い始める

以下のタスクを完了することで、ERP 統合 と ECM を使い始めることができます。

1. ERP 統合 をインストールして設定します。詳細については、「ERP 統合 の構成」を参照してください。
2. ECM をインストールして設定します。詳細については、「ERP Customization Mining の構成」を参照してください。
3. 次のような、ERP データを使用する追加の Now Platform アプリとビルダーをインストールして構成します。
   - App Engine Studio のインストール
   - でのフローの構成ワークフロースタジオ
   - テーブルビルダー の詳細
   - プレイブックの開始
   - UI ビルダークイックスタート
   - ワークフロースタジオ
   - ワークスペースビルダー

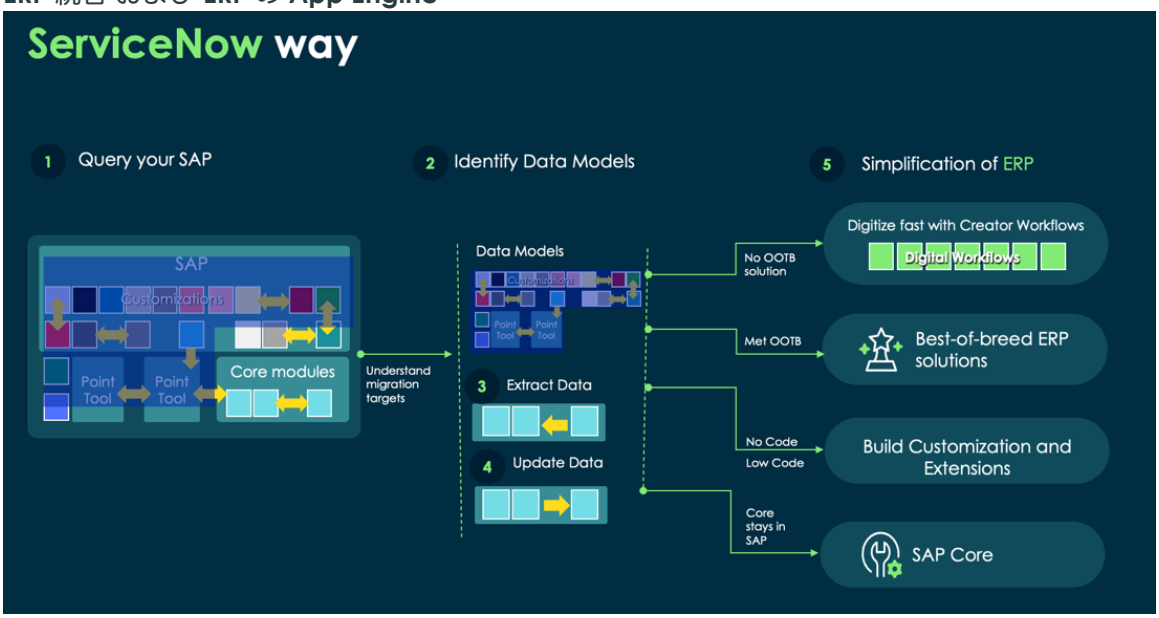
ERP 統合

ERP 統合 (エンタープライズリソースプランニング) は ServiceNow のスコープ対象アプリで、SAP など、SoR からの ERP データを取得および更新できます。

SAP などの従来の SoR には、新しいバージョンの SoR に移行するためにより多くの時間と労力を必要とする、古くて複雑なカスタムコードとデータが含まれている場合があります。ERP 統合 と ECM を使用して SoR をスキャンし、カスタムコードを見つけてデジタル化されたワークフローに置き換えることで、クリーンな ERP コアを実現します。

レガシーコードの再プラットフォーム化により、レガシーシステムの知識がなくても SoR 上で迅速なイノベーションが可能になります。これにより、データベースアドミニストレーターと開発者は、SoR でデータベースビューやエンドポイントを作成するという時間のかかる作業から解放され、移行などの他のプロジェクトに取り組むことができます。

ERP 統合 および ERP の App Engine



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP アプリのデータ基盤として ERP モデルを使用します。これらのモデルには、リモートテーブルと抽出テーブルの ERP システムデータが含まれます。ERP システムは読み取りおよび更新することができます。ERP モデルを作成すると、抽出され変換されたデータを使用して、App Engine Studio や クリエータースタジオ などの ERP モデルにアクセスするアプリ、または ワークフロースタジオ のフローで ERP データを使用するアプリをすばやくビルドできます。

探索	構成
 ERP 統合 の概念と機能について学びます。	 ERP 統合 リモートテーブルと接続をインストールして構成します。
作業	**参照**
 ERP 統合 を使用して、リモートテーブルと抽出テーブルを用いて ERP モデルをビルドします。	 テーブル、用語などの ERP 統合 コンポーネントの詳細情報を取得します。

ERP Customization Mining の学習リソース

ERP 統合 に関する詳細	ServiceNow のリソース
ERP 統合には、始めるためのトレーニングと学習リソースが複数あります。	Partner Essentials：Clean Core for App Engine (App Engine のクリーンコア)
	ERP Clean Core with App Engine Overview (ERP クリーンコアと App Engine の概要)
	ERP の最新化：クリーンなコアに向けた取り組み

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアで ERP 統合 を要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

ERP 統合 を使用する前に、まず ServiceNow Store からアプリケーションをダウンロードする必要があります。ダウンロードが完了したら、ERP 統合 がインスタンスに表示される前にローカルキャッシュのクリアが必要な場合があります。

ERP 統合 のヘルプ

ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください。

会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください

ERP 統合 の詳細

ERP 統合 を使用して、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムに接続し、リモートテーブルと抽出テーブルに更新を送信し、データを抽出して Now Platform で使用できます。

ERP 統合 の概要

ERP 統合 は ServiceNow 内のプラットフォームとして機能し、ERP システムの統一データモデルが提供されます。ERP 統合 を使用すると、ERP モデル内でグループ化された標準フィールドとカスタムフィールドの両方を含むテーブルを管理できます。データセットのサイズと更新のニーズに応じて、SoR 上の ERP テーブルに更新を送信し、ERP テーブルからデータを抽出して、リモートテーブルや抽出テーブルに保存できます。

- リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。
- 抽出テーブルは、スケジュール済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

データの取得に加えて、ERP 統合 は BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) を使用して ERP システムを更新することもできます。

Now Platform の統合データモデルにより、ERP データが Now Platform にシームレスに統合され、ユーザーは効率的かつ簡単にビジネスデータにアクセスして使用できます。ERP 統合 によって ERP データ管理は簡素化され、Now Platform や ServiceNow のインスタンス内でデータにアクセスして実行できるようになります。

注: ERP 統合 は Now Platform にデータを複製しません。ERP SoR に存在するデータをミラーリングするため、データはそこで保護されたままになります。

ERP 統合 のワークフロー

1. アドミニストレーターは 接続情報と認証情報 アプリを使用して、ERP SoR に接続するための認証情報を構成します。詳細については、「ERP 統合 の認証情報と接続の構成」を参照してください。
2. 構成した接続および資格情報エイリアスを使用して、ERP 統合 で ERP システムを作成します。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** 残りのワークフローの手順は ERP 統合 にあります。開発インスタンスで ERP システム、ERP モデル、およびテーブルをビルドし、準備ができたらそれらを本番インスタンスに昇格させます。詳細については、「パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理」を参照してください。

3. SoR 内の指定された ERP モジュールで利用可能なテーブルとフィールドをスキャンする ERP モデルをクローンまたは作成します。抽出テーブルとリモートテーブルで使用する ERP モデルのテーブルとフィールド、および SoR を読み取って更新するためのマッピングパラメーターに注意してください。詳細については、「ERP 統合 での ERP モデルのクローン」を参照してください。
4. ERP モデルに追加のデータを含めるために、テーブルを追加し、フィールドをマッピングし、テーブル結合をビルドすることで、ERP システムに接続するための読み取りおよび更新操作を作成します。詳細は、以下のトピックを参照してください。
   - モデルが ERP システムを読み取りおよび更新する方法の管理
   - ERP テーブル間の結合の追加
5. App Engine Studio でアプリをビルドする場合などに、リモートテーブルを操作してデータソースとして使用できるようにします。リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。詳細は、以下のトピックを参照してください。
   - ERP 統合 での ERP リモートテーブルの詳細の表示と編集
   - ERP 統合 で ERP リモートテーブルのフィールドをカスタマイズする
   - ERP 統合 を使用したリモートテーブルのクエリ
6. ETL 抽出テーブルを使用して、SoR を定期的にスキャンし、データをステージングテーブルに抽出します。 抽出テーブルは、スケジュール済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。
   - サポートされている国ごとに 1 つずつなど、必要に応じて個別の抽出テーブルを作成します。詳細については、「ERP 統合 でのデータの抽出と変換」を参照してください。
   - 最初に、(SoR 上の) ソーステーブルを Now Platform の Glide テーブルに接続するテーブル変換マップを作成する必要があります。テーブル変換マップの作成の詳細については、「変換マップを作成」を参照してください。
   - 抽出プロセスは、それらを使用する ServiceNow アプリで構成されます 。ワークフロースタジオ など。
   - 抽出プロセスの実行後、インポートセットを使用して、インポートされたデータを Now Platform テーブルにマッピングします。詳細については、「インポートセット」を参照してください。
7. ワークフロースタジオ でフローをビルドして、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムをクエリまたは更新するときの詳細を指定します。詳細については、「ERP システムを読み取りまたは更新するフローのビルド」を参照してください。
8. ERP システム、ERP モデル、テーブル、操作、フローの準備ができたら、本番環境に移行します。詳細については、「ERP 統合 で ERP 開発パイプラインを管理する」を参照してください。
9. Now Platform でアプリをビルドするときには、次のような、データソースとして使用できる ERP データを使用します。
   - App Engine Studio：詳細については、「アプリケーションのデータモデルの作成」を参照してください。
   - ワークフロースタジオのフロー：詳細については、「フローの構成」を参照してください。
   - ワークフロースタジオ のプレイブック：詳細については、「Process Automation の使用を開始する」を参照してください。
   - テーブルビルダー：詳細については、「テーブルビルダー 内のデータ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- UI ビルダー：詳細については、「UI ビルダーページでデータを動的に公開する (高度な機能)」を参照してください。
- ワークスペースビルダー：詳細については、「ワークスペースビルダー でワークスペースのレコードページを構成します。」を参照してください。

ERP 統合 のメリット

ERP 統合 の主な特長

メリット	機能	ロール
SoR への接続を構成する	ERP 統合 での ERP システムの操作	sn_erp_integration.erp_admin
ERP モデルをビルドして、読み取りおよび更新操作を作成し、ミラーリングされた ERP データを整理する	ERP データを操作する ERP モデルのビルドと管理	sn_erp_integration.erp_admin
リモートテーブルを操作し、クエリを実行して SoR の ERP データを表示する	ERP 統合 での ERP リモートテーブルの使用	• リモートテーブルを変更するには：sn_erp_integration.erp_admin • リモートテーブルを読み取るには：sn_erp_integration.erp_user
標準リモートテーブルへのアクセス	ERP 統合 の標準リモートテーブル	• sn_erp_integration.erp_user • 追加のテーブル固有ロールが必要です。詳細については、「ERP 統合 ロール」を参照してください。
ERP システムからカスタムデータを定期的にプルするように抽出テーブルを構成する	ERP 統合 でのデータの抽出と変換	sn_erp_integration.erp_admin

ERP 統合 のその他のリソース

ERP 統合 に関する詳細	ServiceNow リソース
ERP 統合 は ServiceNow アプリで、SAP など、SoR の ERP データの使用を簡素化できます。	App Engine for ERP の概要：Now Learning 注：このリソースにアクセスするには、Now Learning にログインする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 に関する詳細	ServiceNow リソース
	ServiceNow コミュニティサイト ビデオ：ERP システムの可能性を最大限に引き出す

ERP 統合 を使用して **ERP** システムからデータを抽出した後の次の手順

ERP 統合 で ERP (エンタープライズリソースプランニング) データを識別して抽出した後に、そのデータを Now Platform で製品およびアプリのデータソースとして使用できます。

取得した **ERP** データをフローで使用する

ワークフロースタジオ でフローをビルドして、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムをクエリまたは更新するときの詳細を指定します。

たとえば、ERP システムからの応答ごとにレコードを生成し、そのデータを Now Platformで使用できるようにすることができます。詳細については、「ERP システムを読み取りまたは更新するフローのビルド」を参照してください。

ERP データを使用する **ServiceNow** アプリのビルド

SoR の ERP データは、ERP 統合 で構成するリモートテーブルと ERP 抽出テーブルで使用できます。テーブル変換マップを使用して、抽出された ERP データを Glide テーブルに格納することもできます。

ERP データが Now Platform のテーブルで使用可能になると、それらのテーブルをアプリビルダーの基盤として使用できます。たとえば、App Engine Studio でデータを追加するときに、ERP テーブルをデータソースとして使用できます。詳細については、「アプリケーションのデータモデルの作成」を参照してください。

ServiceNow ローコードおよびプロコードビルダー

カスタムデータを使用してアプリを作成するには、次の ServiceNow ビルダーのいずれかを使用します。

- App Engine Studio
- フロー - ワークフロースタジオ
- のプレイブックワークフロースタジオ
- テーブルビルダー
- UI ビルダー
- ワークスペースビルダー

Glide を使用した **ERP** データのクエリ

Glide API を介して SoR からデータにアクセスすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「ERP 統合 での ERP データに対するサンプルの Glide クエリ」を参照してください。

ERP 統合 で ERP 開発パイプラインを管理する

ERP (エンタープライズリソースプランニング) システム、ERP モデル、テーブル、操作、フローの準備ができたら、開発インスタンスから本番環境に移行します。

開発インスタンスから本番インスタンスに昇格できる変更には、次のものが含まれます。

- テーブルにフィールドを追加する
- ERP モデルにテーブルまたは BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) を追加する
- テーブル結合とフィールドをリンクテーブルに追加する
- 読み取り操作と更新操作を追加する
- ERP データの使用アクションでビルドされたフローをクエリに追加し、SoR を更新する

> **注:** 開発は非本番インスタンスで実行する必要があります。本番インスタンスで変更を行い、変更を非本番インスタンスから本番インスタンスに昇格させると、以前に本番インスタンスで行った変更はすべて上書きされます。

Now Platform の本番インスタンスに変更を移動するには、いくつかの方法があります。

1. システムアップデートセット を使用して、開発インスタンスから非本番インスタンスに、その後本番インスタンスに変更を転送すします。詳細については、「システムアップデートセット」を参照してください。
2. 変更を ServiceNow Store に追加し、[他のユーザーと共有 **(Share with others)**] オプションを使用して、本番インスタンスに更新をインストールします。詳細については、「更新セットにアプリケーションを公開する」を参照してください。

ERP 更新を公開する方法の詳細については、「アプリケーションの共有」を参照してください。

ERP 統合 と ECM で再プラットフォーム化する ERP 候補の特定

ERP 統合 を使用すると、ERP (エンタープライズリソースプランニング) SoR に接続し、そのデータを整理できます。

従来の ERP アプリの Now Platform への再プラットフォーム化

再プラットフォーム化は、従来の ERP システムコードをスキャンして、新しいアプリとして Now Platform インスタンスに移行する潜在的な候補を見つけるプロセスです。ERP システムからのデータを、Now Platform 上にビルドされたアプリのソースとして使用し、パフォーマンスの向上、 セキュリティの強化、メンテナンスの削減を実現できます。

ERP 統合 を使用して、リモートテーブルと ERP 抽出テーブルの標準フィールドにアクセスできますが、 ERP Customization Mining (ECM) を使用すると、SoR から Now Platform への再プラットフォーム化に適した候補を見つけることができます。

ECM は、候補と可能な次のステップ (ERP データにアクセスするためのリモートテーブルや抽出テーブルの更新など) を提案します。リモートテーブルは、データを添付ファイルとして ServiceNow インスタンスに送信します。このデータは、AI/ML を使用して分析され、再プラットフォーム化する類似の候補が特定されます。

ERP 統合 および ECM でのリモートテーブルと抽出テーブルの使用

リモートテーブルと抽出テーブルを組み合わせて使用すると、従来の ERP システムからデータを取得できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。
- 抽出テーブルは、スケジュール済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

リモートテーブルは、SoR のような、外部ソースから取得するデータのスキーマを記述します。Now Platform をサードパーティソースまたは別のインスタンスに接続して、外部データを取得して必要に応じてメモリにキャッシュできるようにします。リストまたはフォームで外部データを表示して、標準の Glide スクリプトで処理することができます。また、標準の内部テーブルの場合と同様に、データをグループ化、ソート、集計、フィルタリングできます。

リモートテーブルを使用すると、外部ソースから、または REST サービスあるいは SOAP サービスを使用して別のインスタンスからデータを取得できます。外部データは読み取り専用モードでメモリ内に存在するため、Now Platform 内でデータは一時的なものになります。外部データをインポートしたり保存したりすることなく、外部データを表示および操作できます。詳細については、「リモートテーブル」を参照してください。

大量の ERP データを処理するには、抽出テーブルを使用します。ERP 抽出テーブルは、Now Platform 上のローカル変換テーブルに定期的にデータを保存し、それを処理して、再プラットフォーム化されたアプリのデータ基盤として使用できます。

ERP 統合 カスタムフィールドの例

ERP 統合 は、カスタム ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリや SoR 内のフィールドをすばやく特定し、Now Platform でそれらのデータに簡単にアクセスできるようにします。ERP システムには、ERP 統合 によってアクセスされる標準フィールドとカスタムフィールドの両方を含めることができます。

ERP カスタムデータの再プラットフォーム化の例

この例では、ある農業従事者が販売するための収穫を行います。その農業従事者は、重量や販売価格などの標準値のエントリをテーブルに持っています。

ただし、穀物の販売価格は、穀物の含水率に依存します。穀物の収穫の前日に降った場合、生産者は水分量を反映するように販売価格を調整する必要があります。したがって、[日付] や [重量] などの標準フィールドに加えて、ERP システムで収穫量を追跡する従来のテーブルには、カスタムの [含水率] フィールドが必要です。

この農業従事者は、ERP 統合 を使用して従来の SoR に接続し、カスタムフィールドを含むテーブルを特定できます。次に、[含水率] フィールドを含むリモートテーブルまたは抽出テーブルを使用して ERP 統合 で ERP モデルを作成できます。

カスタムデータが入った ERP モデルがあれば、App Engine Studio または他の ServiceNow 製品を使用して、穀物の売上を追跡するアプリを短期間で構築できます。グレイン販売アプリが消費するデータは、従来の SoR に引き続き存在します。

ERP 統合 とセキュリティ

ロールベースのセキュリティとアクセス制御に加えて、ERP 統合 は他の方法で個人を特定できるデータを保護します。

個人を特定できるデータは、ERP 統合 と ECM を使用していくつかの方法で保護されます。

- ERP モデルとリモートテーブルをカスタマイズして、メールアドレスなどの特定のフィールドの個人データを除外できます。
- すべてのリモートテーブルは、アクセス制御ルール (ACL) を使用して保護されます。機密データを含むリモートテーブルがある場合は、ACL を使用してそのテーブルを ServiceNow ユーザーから制限します。詳細については、「ServiceNow® アクセス制御」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 の構成

ERP 統合 をインストールして、ERP (エンタープライズリソースプランニング) SoR、および ERP Customization Mining、フィールドサービス管理の調達、プロセス最適化 などの他の ServiceNow 製品への接続を構成します。

ERP 統合 はベーシック認証を使用して、ServiceNow インスタンスを SoR (SAP など) 上のインスタンスに接続します。

接続を構成した後、ERP モデルを使用して ERP 統合 で SoR を読み取って更新し、リモートテーブルと抽出テーブルを作成できます。

さらに、ERP Customization Mining (ECM) を使用して、従来のアプリケーションの中から再プラットフォーム化に適切な候補を特定し、そのデータを Now Platform ですぐに使用可能にできます。詳細については、「ERP Customization Mining (ECM)」を参照してください。

複数のインスタンスへの接続

ServiceNow インスタンスごとに保持できる ERP 接続の数は、ライセンスによって異なります。ECM ライセンスをお持ちの場合は、インスタンスごとに 1 つの接続を取得します。

ERP 統合 のインストール要件

ERP 統合 をインストールする前に、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムと Now Platform の両方でいくつか構成を完了する必要があります。

ライセンス

インストールには、ERP 統合 のライセンスとエンタイトルメントの取得が必要です。詳細については、「ライセンス」を参照してください。

Now Platform プラグイン

ERP 統合 をインストールするには、次のプラグインとサーバーが必要です。

- 統合ハブ プラグイン
- リモートテーブル プラグイン
- MID サーバー：ERP 統合 をインストールするには、MID サーバーを構成する必要があります。詳細については、次のセクションを参照してください。

MID サーバーの要件

MID サーバーを介して SoR と通信するには、有効な接続および資格情報エイリアスが必要です。

> **注:** ERP 統合 接続に指定する認証情報は、SoR のサービスユーザー認証情報と一致する必要があります。

ERP 統合 および ECM は現在、ECC および S/4HANA SAP システムをサポートしています。

Now Platform の [すべて] > **[MID サーバー]** > [サーバー] で MID サーバーを見つけます。選択し、以下を追加します。

1. [サポートされているアプリケーション] タブで、ERP 統合 を含めるようにリストを編集します。
2. [機能 **(Capabilities)**] タブで、ERP 統合 を含めるようにリストを編集します。

詳細については、「MID サーバー」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要な SAP 認証

認証情報には、次の SAP 認証オブジェクトを必要とする SoR の SAP サービスタイプのユーザーアカウントを使用します。

- S_RFC
  - BAPI_MONITOR_GETLIST
  - BAPI_TRANSACTION_COMMIT
  - BAPI_TRANSACTION_ROLLBACK
  - RFC_TYPE = FUGR, FUNC
  - RFC_METADATA_GET
  - RFC_NAME = RFC_GET_FUNCTION_INTERFACE, RFC_READ_TABLE, DDIF_FIELDINFO_GET
  - ACTVT = 16
- S_RFCACL
- S_TABU_DIS
- S_TABU_NAM

該当する場合は、[アクティビティ] フィールドに `*` を追加する必要があります。

スポークの統合

必要なスポークについては、SAP ECC RFC アカウントのアドミニストレーターに連絡し、次の SAP 独自の JAR およびその他の必要なファイルを入手してください。

- 「SAP Jco Dll」というレコードを作成し、`sapjco3.dll` を添付します。MID サーバーが Windows Server にインストールされている場合は、このファイルを使用します。
- 「SAP Jco so」というレコードを作成し、`libsapjco3.so` を添付します。MID サーバーが Linux Server にインストールされている場合は、このファイルを使用します。
- 「SAP Jco Jar」というレコードを作成し、`sapjco3.jar` を添付します。このファイルは、Windows と Linux の両方で使用します。
- MID サーバーは、このプロセス中に複数回再起動します。

スポーク統合の詳細については、「SAP ECC RFC スポーク」を参照してください。

SAP 構成

ERP 統合 をインストールする前に、JCO コネクタを構成する必要があります。詳細については、SAP のドキュメントを参照してください。

他にも ERP システムには次のものが必要です。

- SAP ECC (SAP Netweaver 7.3 以上)
- SAP S/4HANA (すべてのバージョンがサポートされています)
- SAP Java Connector

ERP 統合 のインストール

ServiceNow Store のアドミンロールがある場合は、ERP 統合 (エンタープライズリソースプランニング) アプリケーション (sn_erp_integration) をインストールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
ライセンス情報を含む、ERP 統合 をインストールするためのすべての前提条件については、「ERP 統合 のインストール要件」を参照してください。

必要なロール：admin

手順
1. ServiceNow Store で、製品と依存アプリケーションに対するエンタイトルメント (またはライセンス) があることを確認します。
   インスタンスのホームページで [インストールするアプリをレビュー] を選択してストアにアクセスできます。
2. **[ERP** データハブ] を検索し、[インストール] を選択します。
3. [インストール] を選択し、ERP 統合 のインストールを確認します。
   インストールが完了したら、[クローズ **(Close)]** を選択して、ストアに戻ります。
4. `[ERP データハブ]` を検索し、[インストール] を選択します。
5. [インストール] を選択し、ERP 統合 フレームワークのインストールを確認します。

次のタスク
ERP 統合をインストールした後、ユーザーが ERP モデルをカスタマイズできるように、*`sn_erp_integration.enableModelModification`* プロパティを有効にする必要があります。*`sn_erp_integration.enableModelModification`* プロパティを有効にした後、ERP 統合 は、モデルを管理するときに使用するすべてのテーブルと BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) を取得します。システムプロパティはシステムプロパティテーブル [sys_properties] で管理されており、モジュールナビゲーターを使用するか、ナビゲーターフィルターに `sys_properties.list` を直接入力してアクセスできます。

ERP 統合 の ガイド付きセットアップ を実行する
ガイド付きセットアップ を実行して ERP 統合 を構成します。

始める前に
まず、ServiceNow Store から ERP 統合 をダウンロードしてインストールする必要があります。

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin

このタスクについて
ガイド付きセットアップ の使用に関する詳細については、ガイド付きセットアップ を参照してください。

手順
1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブガイド付きセットアップ]に移動します。
2. [MID サーバーセットアップ (MID Server setup)] セクションで MID サーバーを設定します。

   a. **[MID** ユーザーを作成 **(Create MID user)]** を選択し、MID サーバーに接続する ServiceNow インスタンスのユーザーアカウントを作成します。
   たとえば、mid.user を作成できます。

   b. **[MID** をダウンロードおよびインストール **(Download and install MID)]** を選択し、指示に従って、オペレーティングシステムに適した MID サーバーインストーラーアーカイブをダウンロードします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. **[MID** サーバーファイルを構成 **(Configure MID server files)]** を選択し、「ガイド付きセットアップ」に記載されている指示に従って、必要な MID サーバーファイルを構成します。
詳細については、「ERP 統合 のインストール」を参照してください。

3. 接続と資格情報を設定します。

a. **[ERP** システムの認証情報レコードを作成 **(Create credential record for the ERP system)]** を選択し、手順に従います。

b. **[ERP** データハブの接続レコードを作成 **(Create a connection record for ERP Data Hub)]** を選択し、手順に従います

c. [接続と機能を構成 **(Configure connection and capabilities)]** を選択し、手順を完了します。
または、ガイド付きセットアップ を使用することなく行うこともできます。詳細については、「ERP 統合 の認証情報と接続の構成」を参照してください。

4. ERP システムを作成して検証します。

a. [システムを作成 **(Create system)]** を選択し、手順に従います。

b. [システムを検証 **(Validate system)]** を選択し、手順に従います。
または、ガイド付きセットアップ を使用することなく行うこともできます。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの作成」を参照してください。

5. リモートテーブルと抽出ソースを構成します。

a. [リモートテーブルを構成 **(Configure remote tables)]** を選択し、手順に従います。
または、ガイド付きセットアップ を使用することなく行うこともできます。詳細については、「ERP 統合 での ERP リモートテーブルの詳細の表示と編集」を参照してください。

b. [抽出ソースを構成 **(Configure extraction sources)]** を選択し、手順に従います。
または、ガイド付きセットアップ を使用することなく行うこともできます。詳細については、「ERP 統合 での新しい ERP 抽出テーブルの追加」を参照してください。

ERP 統合 の認証情報と接続の構成

ERP 統合 を SoR (SAP など) に直接接続するか、ロードバランサーを使用して、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムへのアクセスを有効にします。ERP システムを設定するときは、既存の構成済み接続を選択する必要があります。

始める前に

最初に ERP 統合 のエイリアスを作成する必要があります。詳細については、「接続情報および認証情報エイリアスの作成」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

ERP 統合 および ECM は現在、ECC および S/4HANA SAP システムをサポートしています。

注: ERP 統合 接続に指定する認証情報は、SoR のサービスユーザー認証情報と一致する必要があります。

または、ガイド付きセットアップ を実行できます。詳細については、「ERP 統合 の ガイド付きセットアップ を実行する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報 **(Connections & Credentials)]** > [接続および認証情報エイリアス]に移動します。
2. 関連リンクから [新しい接続 **&** 認証情報の作成] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   同時に使用する接続とログイン認証情報を指定する必要があります。つまり、構成する接続は、その接続で定義されたログイン認証情報を使用します。

   フィールド値の説明については、「ERP 統合 接続と認証情報フィールドの説明」を参照してください。
4. ERP 統合 接続を設定します。

   a. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。

   b. サイドパネルで [システム] アイコン ( ) を選択し、[ERP システム] リストを開きます。

   c. [接続] 列で、[(空の) **(empty)]** セルを選択します。

   重要: 新しい行を作成するのではなく、空の行を選択する必要があります。

   d. 表示される検索ボックスで、検索アイコン ( ) を選択します。

   e. [接続および資格情報エイリアス] ダイアログで、**[sn_erp_integration.ERP_Integration]** を選択します。

   f. 選択アイコン ( ) を選択します。

ERP 統合 ロール

アドミニストレーターはロールを割り当てて、ERP 統合 を構成または使用する権限をチームメンバーに付与します。

重要: ユーザーに ERP 統合 (エンタープライズリソースプランニング) ロールをアサインする場合は、 スコープを含める必要があります。たとえば、`erp_admin` ではなく、`sn_erp_mining.erp_admin` ロールを割り当てます。

ロールの割り当ての詳細については、「ユーザーへのロールのアサイン」を参照してください。

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「 サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

ERP 統合 ロール

注: 必要なロールはすべて、開発インスタンスと本番インスタンスで同じです。ただし、本番インスタンスのデータの読み取りに必要なのは sn_erp_integration.erp_user のみです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 ロール

ロール	説明	追加アクセス
sn_erp_integration.erp_admin	アプリケーション設定を更新するためのアクセス権をユーザーに付与します。	sn_erp_integration.erp_user が含まれています。
sn_erp_integration.erp_data_pill	リモートテーブル 要求を行うために必要なすべてのテーブルへの読み取りアクセス権をユーザーに付与します。 このロールは、任意の単一の リモートテーブル ロールと組み合わせることができます。たとえば、sn_erp_integration.erp_data_pill と sn_erp_integration.sap_company_code_user を組み合わせると、SAP 会社コードのリストが有効になります。	--
sn_erp_integration.erp_mid_server	MID サーバーが添付ファイルを ServiceNow インスタンスに送り返すことができるように、API を使用するアクセス権をユーザーに付与します。	--
sn_erp_integration.erp_user	すべてのリモートテーブルの読み取りアクセス権をユーザーに付与します。	sn_erp_integration.erp_data_pill とすべての リモートテーブル ロールが含まれています。 • sn_erp_integration.sap_company_code_us • sn_erp_integration.sap_country_user • sn_erp_integration.sap_currency_user • sn_erp_integration.sap_customer_invoice_u • sn_erp_integration.sap_distribution_channe • sn_erp_integration.sap_division_user • sn_erp_integration.sap_language_user • sn_erp_integration.sap_material_stock_user • sn_erp_integration.sap_purchase_documer • sn_erp_integration.sap_purchasing_organiz • sn_erp_integration.sap_sales_customer_use • sn_erp_integration.sap_sales_delivery_user • sn_erp_integration.sap_sales_document_us • sn_erp_integration.sap_sales_organization_ • sn_erp_integration.sap_sales_revenue_reco • sn_erp_integration.sap_vendor_invoice_use • sn_erp_integration.sap_vendor_user

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

追加の ERP データモデルロール

ユーザーに購入や請求書など特定の ERP データモデルを操作するためのアクセス権が必要な場合は、ERP 統合 の次のロールとアクセス権をアサインします。

ERP 統合 の ERP データモデル固有のロール

ペルソナ	ロール	アクセス
ERP MID サーバーユーザー	erp_mid_server	• sys_attachments • sn_erp_integration_queue
顧客請求書ユーザー	sap_customer_invoice_user	sn_erp_integration_st_sap_customer_invoice
品目インベントリユーザー	sap_material_stock_user	sn_erp_integration_st_sap_material_stock
購買ドキュメントユーザー	sap_purchase_document_user	sn_erp_integration_st_sap_purchase_docume
購買組織ユーザー	sap_purchasing_organization_user	sn_erp_integration_st_sap_purchasing_organi
営業顧客ユーザー	sap_sales_customer_user	sn_erp_integration_st_sap_sales_customer
営業デリバリユーザー	sap_sales_delivery_user	sn_erp_integration_st_sap_sales_delivery
営業ドキュメントユーザー	sap_sales_document_user	sn_erp_integration_st_sap_sales_document
営業組織ユーザー	sap_sales_organization_user	sn_erp_integration_st_sap_sales_organization
営業収益認識ユーザー	sap_sales_revenue_recognition_user	sn_erp_integration_st_sap_sales_revenue_rec
ベンダー請求書ユーザー	sap_vendor_invoice_user	sn_erp_integration_st_sap_vendor_invoice
ベンダーユーザー	sap_vendor_user	sn_erp_integration_st_sap_vendor

ERP 統合 での ERP システムの操作

ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムは、ERP SoR のセクションへの接続を表します。たとえば、受注またはベンダー請求書です。

ERP システムによる SoR への接続の整理

このシステムが、データの同期、共有、およびコラボレーションにおいて重要な役目を果たし、ERP モデルおよびそれとつながった ERP システムの間のシームレスな統合と運用を実現します。

ERP 統合 には、SAP 品目在庫や SAP 購買ドキュメントといった標準的な ERP モデルのセットが入っています。また、新しいモデルをビルドすることもできます。変更するためにクローンを作成する必要がある標準の ERP モデルのリストについては、「ERP 統合 の標準 ERP モデルと抽出テーブル」を参照してください。

ERP システムの構成と接続の確認

ERP システムは ServiceNow アドミニストレーターによって構成されます。 ERP 統合 を 1 つインストールするごとに、システムが 10 個まで追加可能になります。ただし、ERP 統合 は、一度に 1 つのライブ ERP システムにのみ接続できます。

ERP 統合 は、ERP システム接続への ping が現在成功しているかどうかを示す最新のハートビートについて、接続されているすべての ERP システムを定期的にスキャンします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 での ERP システムの作成

ERP 統合 で ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムを構成し、SoR への接続を整理します。

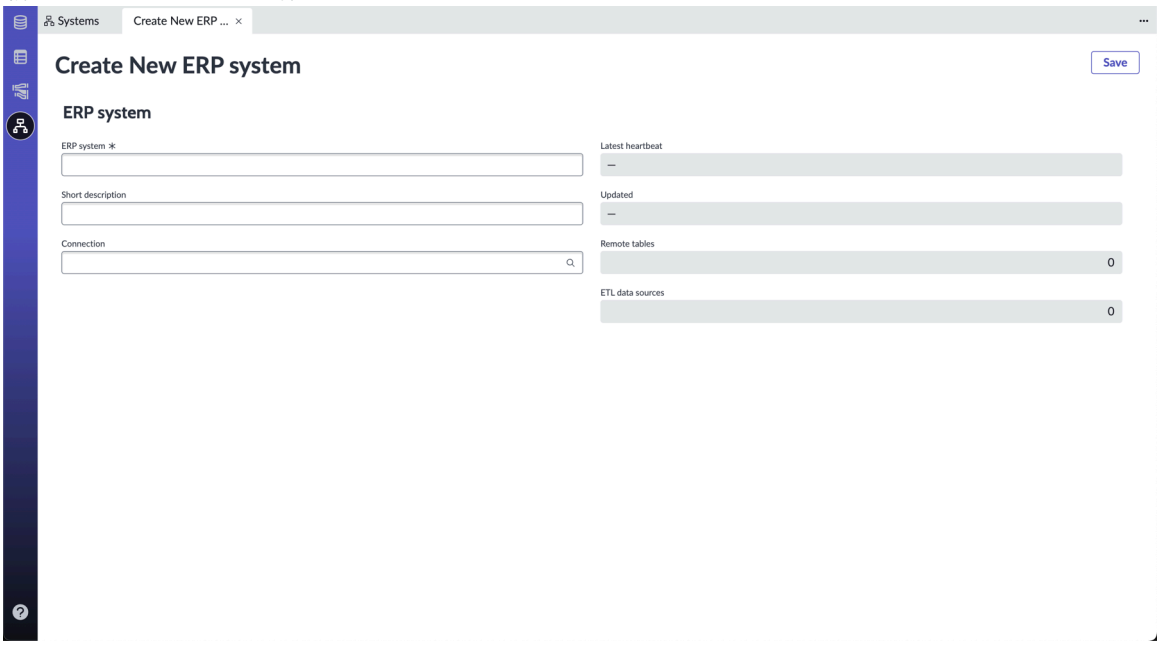
始める前に
必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin

このタスクについて
ERP 統合 を 1 つインストールするごとに、システムが 10 個まで追加可能になります。ただし、ERP 統合 は、一度に 1 つのライブ ERP システムにのみ接続できます。

または、ガイド付きセットアップ を実行できます。詳細については、「ERP 統合 の ガイド付きセットアップ を実行する」を参照してください。

手順
1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルで [システム] アイコン ( ) を選択し、[ERP システム] リストを開きます。
3. [新規] を選択します。

新しい **ERP** システムの作成



4. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「ERP 統合 の新しいシステムフィールドの説明」を参照して ください。
5. [保存] を選択します。

タスクの結果
システムを作成したら、[ERP システム] リストページでその健全性と接続ステータスを表示できます。詳細については、「ERP システムの健全性の表示と監視」を参照してください。

ERP システムの健全性の表示と監視

ERP 統合 の ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムリストを確認し、ERP システムへの接続の監視とトラブルシューティングを行います。

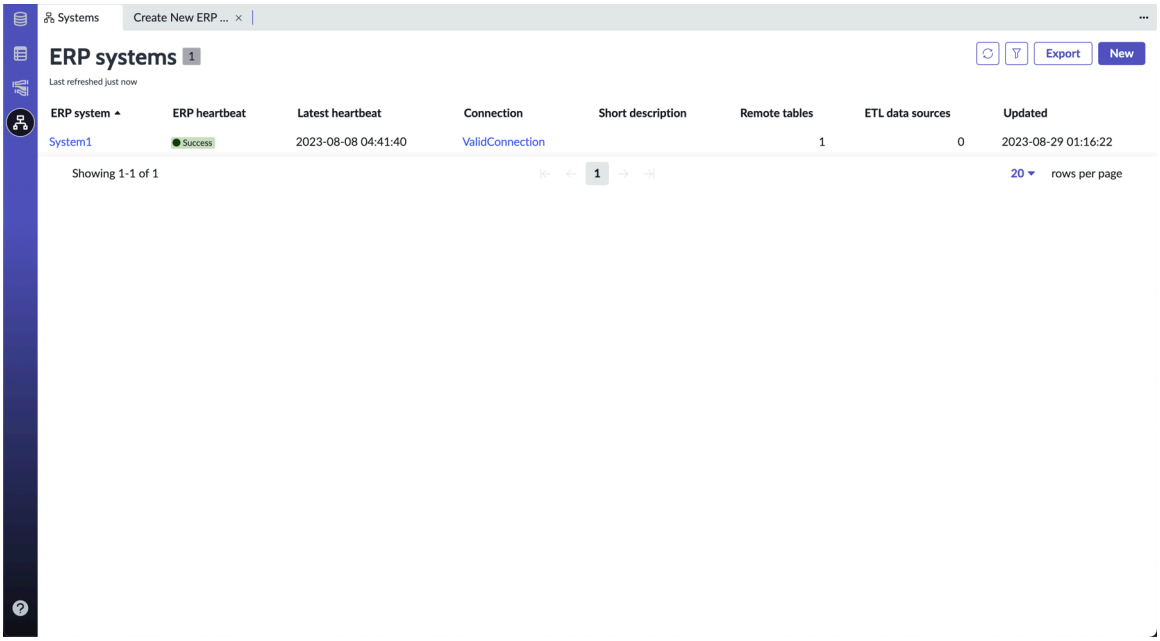
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルで [システム] アイコン ( ) を選択し、[ERP システム] リストを開きます。

ERP 統合 システムのリスト



3. 各システムの情報をチェックし、接続の問題がないことを確認します。
   フィールド値の説明については、「ERP 統合 のシステムリストフィールドの説明」を参照して ください。

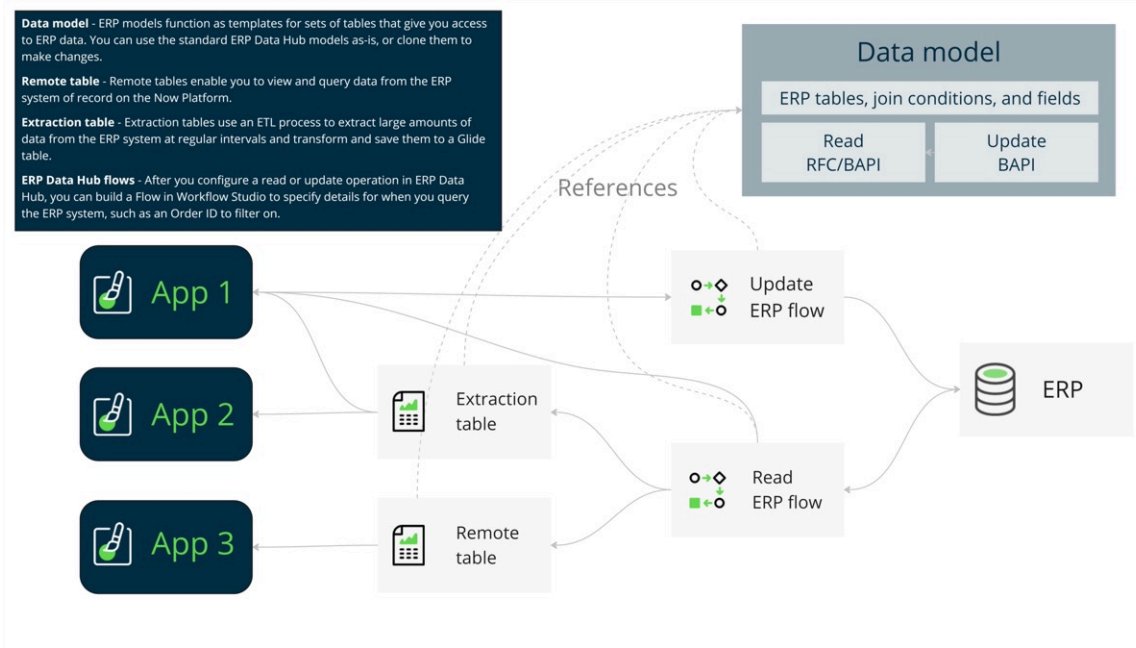
ERP モデル、抽出テーブル、およびリモートテーブルの操作

ERP 統合 を使用して、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデル、リモートテーブル、抽出テーブルを操作し、SoR の ERP データを Now Platform に統合します。

ERP 統合 のワークフローは、通常、メインセクションで構成されています。各メインセクションには、コンテキストサイドパネルのセクションアイコンを選択してアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データモデルと **ERP** データ



ワークフロースタジオ でフローをビルドして、取得した ERP データを ERP 統合 の外部のプロセスまたはタスクに使用することもできます。詳細については、「ERP システムを読み取りまたは更新するフローのビルド」を参照してください。

リモートテーブルと抽出テーブルを使用して ERP モデルをビルドし、ERP データに加え、ERP システムをクエリするフローを整理、ロード、変換します。

ERP 統合 の一部

ERP 統合 セクション	説明
ERP モデル	ERP モデルは、ERP データへのアクセスに利用できる一連のテーブルのテンプレートとして機能します。標準の ERP 統合 モデルをそのまま使用しても、クローンを作成して変更してもかまいません。 ウィザーテーブル読み取り操作または BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) を使用して、ERP システムの読み取りと更新のために入力データと出力データをマッピングするモデルを管理します。 詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルのビルドと管理」を参照してください。
ERP データをクエリするフロー	ワークフロースタジオ のフローをビルドし、モデルで指定されたパラメーターを使用して、ERP システムをクエリするための詳細を指定します。
リモートテーブル	リモートテーブルを使用すると、Now Platform の ERP SoR からデータを表示してクエリすることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 の一部 (続く)

ERP 統合 セクション	説明
	詳細については、「ERP 統合 での ERP リモートテーブルの使用」を参照してください。
ERP 抽出テーブル	抽出テーブルは、ETL プロセスを使用して、ERP システムから定期的に大量のデータを抽出し、変換して Glide テーブルに保存します。 詳細については、「ERP 統合 でのデータの抽出と変換」を参照してください。

ERP データを操作する **ERP** モデルのビルドと管理

ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルは、ERP データへのアクセスが可能なテーブルセットのテンプレートとして機能します。モデル管理を使用して、指定された入力と出力を使用して ERP システムにアクセスし、Now Platform で使用するフィールドにマッピングする読み取りおよび更新操作を作成します。

データセットを表し、ステージング領域を作成する **ERP** モデル

ERP モデルは、エンタープライズリソースプランニングシステムからのデータの論理構造と編成を表します。ERP モデルは、ERP システム内のビジネスプロセスとデータ要素をキャプチャして表すエンティティ、属性、読み取り/更新操作、およびテーブル結合関係を定義します。ERP 統合 を初めて開くと、インスタンスの ERP モデルのリストが表示されます。

ERP 統合 には、SAP 品目在庫や SAP 購買ドキュメントといった標準的な ERP モデルのセットが入っています。また、新しいモデルをビルドすることもできます。変更するためにクローンを作成する必要がある標準の ERP モデルのリストについては、「ERP 統合 の標準 ERP モデルと抽出テーブル」を参照してください。

ERP モデルは、ビジネス要件を満たすように ERP システムを構成、カスタマイズ、統合するための詳細計画として機能します。 ERP モデルは、リモートテーブルと抽出テーブルおよび読み取り操作と更新操作に追加できる可能性のあるすべてのフィールドを含むステージング領域として機能します。その後、テーブルとクエリされたデータを Now Platform のデータソースとして使用できます。

ワークフロースタジオ でフローをビルドして、取得した ERP データを ERP 統合 の外部のプロセスまたはタスクに使用することもできます。詳細については、「ERP システムを読み取りまたは更新するフローのビルド」を参照してください。

既存の ERP モデルのリストを表示することも、新しいモデルを追加してカスタムデータセットを作成することもできます。リモートテーブルを追加した後、モデルを管理して入力パラメーターと出力パラメーターをマッピングし、BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) を使用して ERP システムを更新し、テーブル結合を作成できます。また、ERP システムから大量のフィルター済みデータを定期的にプルする抽出テーブルを作成することもできます。ワークフロースタジオ でカスタム ERP アクションを使用して、クエリされた ERP データを他の Now Platform プロセスで使用することもできます。

ERP モデルは必要な数だけ作成できますが、フィールド名は編集できません。

ERP モデルの構造

各モデルは、SoR の ERP テーブルと、Now Platform のリモートテーブルと ERP 抽出テーブルにリンクされています。 同じテーブルを、複数の異なる ERP モデルに接続できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP モデルは、モデルごとに 1 つの ERP システムに接続されています。接続された ERP システム：

- フィールドとテーブルの情報にアクセスできるようにします。
- データの同期、共有、コラボレーションを調整し、ERP モデルと ERP システムの間のシームレスな統合と運用を実現します。

ERP 統合 の ERP モデルには、統合的なデータセットを作成するために、SoR からのリモートテーブルと、API および ERP 抽出テーブル、読み取り/更新操作が含まれています。たとえば、受注用の ERP システムとインベントリ用の別の ERP システムを使用できます。

注:

ERP 統合をインストールした後、ユーザーが ERP モデルをカスタマイズできるように、*sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にする必要があります。*sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にした後、ERP 統合 は、モデルを管理するときに使用するすべてのテーブルと BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) を取得します。システムプロパティはシステムプロパティテーブル [sys_properties] で管理されており、モジュールナビゲーターを使用するか、ナビゲーターフィルターに `sys_properties.list` を直接入力してアクセスできます。

ERP システムを読み取りおよび更新するモデルの管理

ERP モデルを作成またはクローンした後、[ERP モデルマネージャー (ERP model manager)] ページを使用して ERP 統合 が ERP システムに対して読み取りおよび書き込みを行う方法を指定できます。モデルを管理する場合、API に似たリモートプロシージャ SAP 関数呼び出しである BAPI を使用するオプションがあります。

各モデルで、1 つの読み取り操作と 1 つの更新操作のみを定義できます。

詳細については、「モデルが ERP システムを読み取りおよび更新する方法の管理」を参照してください。

ERP モデルの基盤の表示および編集

ERP 統合 で ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルを構築し、ERP システムからのリモートテーブルと抽出テーブル、読み取り操作と更新操作を含めて、総合的なデータセットを作成します。

始める前に

ERP モデルとテーブルを編集、カスタマイズ、クローン作成するには、アドミニストレーターが *sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にする必要があります。*sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にすると、ERP 統合 は、モデルを管理するときに使用するすべてのテーブルと BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) を取得します。このプロパティは、非本番ステータスまたは本番ステータスのいずれかで構成する必要があります。システムプロパティはシステムプロパティテーブル [sys_properties] で管理されており、モジュールナビゲーターを使用するか、ナビゲーターフィルターに `sys_properties.list` を直接入力してアクセスできます。

注: 正しいスコープで *sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にする必要があります。本番インスタンスで *sn_erp_integration.enableModelModification* を有効にすると、ERP 統合 に新しいモデルとフィールドが追加されたときに、新しいメタデータレコードを作成できます。

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて

ERP 統合 には、SAP 品目在庫や SAP 購買ドキュメントといった標準的な ERP モデルのセットが入っています。また、新しいモデルをビルドすることもできます。変更するためにクローンを作成す

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

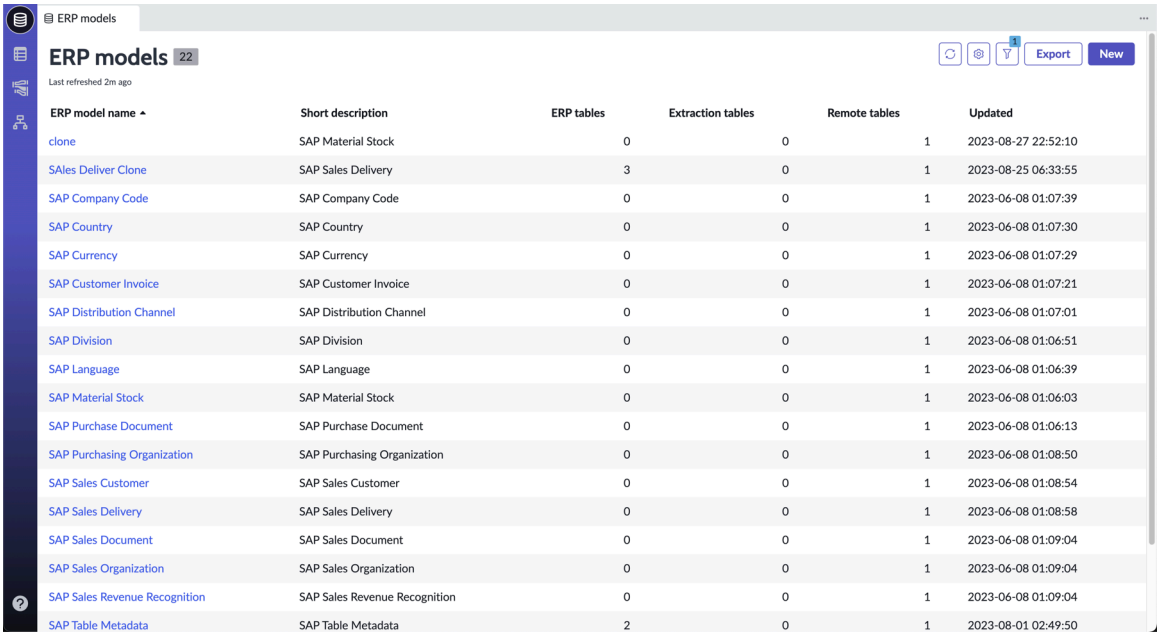
る必要がある標準の ERP モデルのリストについては、「ERP 統合 の標準 ERP モデルと抽出テーブル」を参照してください。

ERP モデルは、リモートテーブルと抽出テーブルおよび読み取り操作と更新操作に追加できる可能性のあるすべてのフィールドを含むステージング領域として機能します。その後、テーブルとクエリされたデータを Now Platform のデータソースとして使用できます。

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルで [ERP モデル] アイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。

ERP 統合 モデル



3. ERP モデルのリストを確認します。

ERP モデル列

列	説明
ERP モデル名	ERP モデルの名前。
簡単な説明	ERP モデルが表す内容の簡単な説明。
ERP テーブル	SoR の ERP テーブルの数。
抽出テーブル	ERP モデルにリンクされている Now Platform 上の抽出テーブルの数
リモートテーブル	ERP モデルにリンクされている Now Platform 上のリモートテーブルの数

4. ERP モデルを選択し、そのモデルの詳細を表示および編集します。

ERP モデルの [詳細] タブ

フィールド	説明
ERP モデル名	ERP モデルの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ERP モジュール	SoR 上の ERP ビジネスエリアの簡単な名前。
ERP システム	ERP SoR のビジネスセクションへの接続を表す ERP システム
アプリケーション	ERP モデルがリンクされているアプリケーションスコープ。たとえば、カスタムモデルを作成した場合、モデルはそのスコープ内に含まれます。
簡単な説明	ERP モデルが表す内容の簡単な説明。
長いテキスト	ERP データモデルに関する説明や情報。

5. オプション: ERP モデルの [詳細] タブで、以下を表示して操作します。
   - 公開コメントとプライベート作業メモを表示および追加します。
   - モデルの アクティビティストリーム。
   - 添付ファイルを表示および追加します。
6. [保存] を選択します。
7. ERP モデルレコードの [モデルエンティティ] タブを選択して、モデルに含まれるテーブルエンティティを表示および確認します。
   [モデルエンティティ] タブでテーブル名を選択して、個々のテーブルの詳細を表示します。

   ERP 統合リンクされた ERP システムを自動的にスキャンして、最新のエンティティデータを取得します。ただし、[リフレッシュ] アイコンを選択して、オンデマンドでデータをリフレッシュできます。

   [ERP モデルエンティティ] タブの詳細

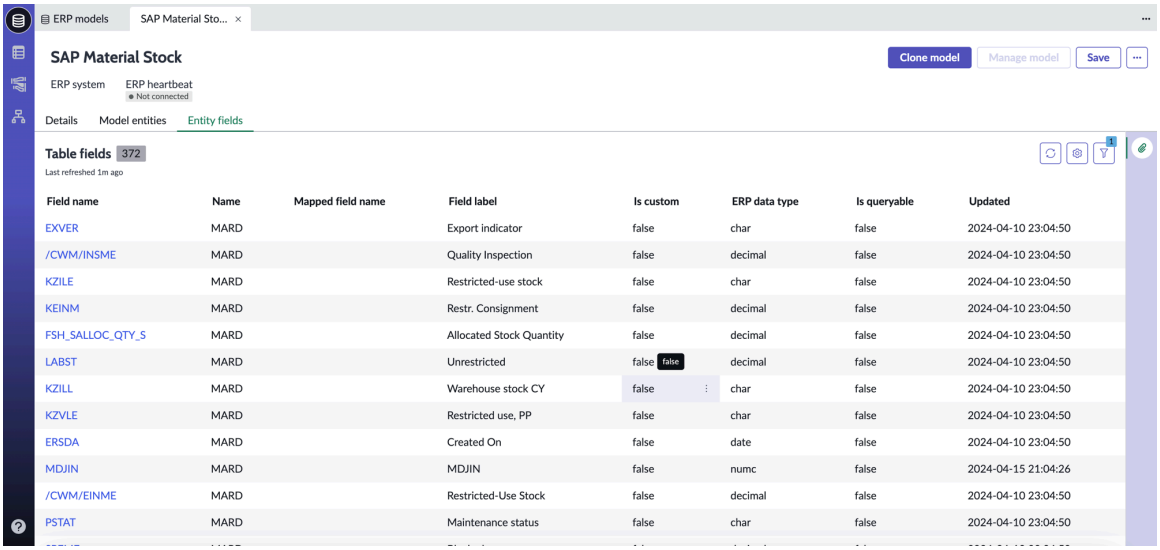
フィールド	説明
名前	SoR のモデルテーブルの名前。
別名	テーブルのエイリアス。 エイリアスは、テーブルの代替名を参照します。 エイリアスを使用すると、容易に参照および識別できるようにわかりやすい名前を割り当ててカスタマイズすることができます。 エイリアスは最大 40 文字で、a ～ z、A ～ Z、0 ～ 9、およびアンダースコアを含めることができます。
ステータス	[取得されたテーブルデータ] などのデータ同期のステータス。

8. オプション: [エクスポート] ボタンを選択して、モデル内のテーブルのリストをエクスポートします。
   [JSON] や **[Excel]** などの [ファイルの種類]、および [ダウンロード] などの [配信の種類] を選択できます。
9. ERP モデルレコードの [エンティティフィールド] タブを選択して、ERP モデルに含まれるテーブルエンティティフィールドを表示および確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド値の説明については、「ERP 統合 の ERP モデルテーブルフィールドの説明」を参照してください。

ERP 統合 テーブルエンティティフィールド



次のタスク
使用可能なフィールドとテーブルを確認した後、モデルを管理することで、新しいテーブルエンティティをモデルに追加できます。モデルを管理する場合、テーブルの読み取りと BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) を使用して、読み取り操作と更新操作を作成することもできます。詳細については、「モデルが ERP システムを読み取りおよび更新する方法の管理」を参照してください。

ERP 統合 での ERP モデルのクローン

ERP 統合 に同梱されている標準 ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルのクローンを作成します。モデルのクローンを作成した後、新しいフィールドやテーブルを追加することで、変更を加えることができます。

始める前に
ERP モデルとテーブルを編集、カスタマイズ、クローン作成するには、アドミニストレーターが *sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にする必要があります。*sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にすると、ERP 統合 は、モデルを管理するときに使用するすべてのテーブルと BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) を取得します。このプロパティは、非本番ステータスまたは本番ステータスのいずれかで構成する必要があります。システムプロパティはシステムプロパティテーブル [sys_properties] で管理されており、モジュールナビゲーターを使用するか、ナビゲーターフィルターに `sys_properties.list` を直接入力してアクセスできます。

> **注:** 正しいスコープで *sn_erp_integration.enableModelModification* プロパティを有効にする必要があります。本番インスタンスで *sn_erp_integration.enableModelModification* を有効にすると、ERP 統合 に新しいモデルとフィールドが追加されたときに、新しいメタデータレコードを作成できます。

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて
ERP 統合 には、SAP 品目在庫や SAP 購買ドキュメントといった標準的な ERP モデルのセットが入っています。また、新しいモデルをビルドすることもできます。変更するためにクローンを作成する必要がある標準の ERP モデルのリストについては、「ERP 統合 の標準 ERP モデルと抽出テーブル」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP モデルをクローンしてカスタマイズすることで、変更によって他の Now Platform アプリケーションへの接続が切断されることがなくなります。

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルで [ERP モデル] アイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。
3. クローンを作成する ERP モデルを選択します。
4. [モデルをクローン] ボタンを選択します。
5. [このモデルをクローン] モーダルで、新しい **[ERP** モデル名] を入力します。
6. [このモデルをクローン] ボタンを選択します。
   ERP 統合 がモデルのクローンを作成し、クローン作成されたモデルの詳細を編集のために表示します。
7. 名前を更新するなどして、[詳細] タブで ERP モデルの詳細を変更します。

> ⚠ **警告:** ERP モデルに接続されている ERP システムを変更すると、利用可能なリモートテーブルと抽出テーブルに影響します。ERP システムを変更する場合は、警告モーダルで変更を確認する必要があります。

フィールド値の説明については、「ERP 統合 のクローンモデルフィールドの説明」を参照してください。

次のタスク

次に、モデルを管理して、読み取りと結合を行うテーブル、読み取り操作と更新操作、入出力パラメーターの定義など、追加の条件を指定します。詳細については、「モデルが ERP システムを読み取りおよび更新する方法の管理」を参照してください。

新しい **ERP** モデルの追加

ERP 統合 に ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルを追加し、SoR からの ERP テーブルを含むデータセットを作成し、読み取りと ERP システムへの更新の送信を可能にします。

始める前に

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて

ERP モデルは、リモートテーブルと抽出テーブルおよび読み取り操作と更新操作に追加できる可能性のあるすべてのフィールドを含むステージング領域として機能します。その後、テーブルとクエリされたデータを Now Platform のデータソースとして使用できます。

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルで [ERP モデル] アイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。
3. **[New** (新規)] を選択します。
4. 新規モデルタブで、フィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「ERP 統合 の新しいモデルフィールドの説明」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

次のタスク

新しい ERP モデルを追加した後、ERP モデルを管理して、読み取って結合するテーブル、入力と出力のパラメーター、SoR を更新するために BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングイン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ターフェイス) を使用するかどうかなどの追加の基準を指定できます。詳細は、以下のトピックを参照してください。

- モデルが ERP システムを読み取りおよび更新する方法の管理
- ERP テーブル間の結合の追加

モデルが **ERP** システムを読み取りおよび更新する方法の管理

ERP 統合 で ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルを作成した後、パラメーターを使用して ERP システムを読み取りおよび更新する方法を指定できます。

読み取りまたは更新操作を作成する場合、最初に操作を追加してから、[ERP モデルマネージャー (ERP model manager)] ページの次のタブで操作エンティティとパラメーターを定義します。

- エンティティの管理 **(Manage entities)**：読み取るテーブル、または ERP システムの読み取りまたは更新に使用する BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス、API に似たリモートプロシージャコール) を指定します。
- 入力を指定 **(Specify inputs)**：ERP システムのフィールドをパラメーターにマッピングする方法を定義して、データのクエリ方法を指定します。パラメーターを取得できない場合に ERP システムに渡すデフォルト値を定義することもできます。
- 出力を選択 **(Choose output)**：出力を指定して、返されたデータを Now Platform に格納する方法のパラメーターを定義します。

ERP システムの読み取り操作と更新操作

ERP 統合 は、読み取り操作および更新操作を使用して ERP システムにアクセスします。

- テーブルの読み取りまたは BAPI を使用して、ERP システムを読み取ることができます。
- 更新操作には BAPI を使用する必要があります。
- 読み取り操作のモデルには、テーブル読み取りまたは BAPI 関数呼び出しのいずれかを追加することができますが、両方を追加することはできません。
- テーブル読み取り操作に複数のテーブルを追加することができますが、関数呼び出しの読み取り操作に指定できる BAPI は 1 つだけです。

ERP 操作のテーブルとエンティティの管理

エンティティは、操作が ERP システムにアクセスして読み取りまたは更新する方法の基盤です。[エンティティの管理 **(Manage entities)**] タブを使用して、BAPI またはテーブルの名前を指定して、要求とその応答の内容を定義します。

操作にエンティティを追加する場合は、次の情報を指定する必要があります。

- ERP 統合 が ERP システムからデータを取得する方法、または ERP システムに更新を送信する方法。
  - 読み取り操作では、ERP システム上のテーブルを読み取るか、事前定義された BAPI を使用してシステムを読み取るかを指定する必要があります。
  - 更新操作では、BAPI を使用する必要があります。
- 読み取るテーブルまたは使用する BAPI の名前。

エンティティの追加手順については、「ERP 統合 での読み取り操作または更新操作のモデルへの追加」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

操作入力パラメーターの管理

操作のテーブルまたは BAPI を指定すると、ERP 統合 によって [入力を指定 **(Specify inputs)]** タブに必要な入力パラメーターが自動的に入力されます。

ERP 統合 は、メソッド/関数呼び出しの一部としてパラメーターを使用して、ERP システムに渡されるデータを定義およびマッピングします。

- [出力パラメーター] セクションでは、ERP システムのクエリに使用されるパラメーターのオプションのデフォルト値を入力します。モデルのクエリ時に入力値が指定されていない場合は、各パラメーターの [デフォルト値] がフォールバックとして使用されます。デフォルト値は、定数のマッピングにも使用できます。
- テーブル (読み取り操作用)/関数呼び出し (BAPI 操作用) セクションでは、ERP 統合 が操作のパラメーターとして送信する ERP システムからのフィールドを定義してマッピングします。フィールドを選択すると、自動マッピング機能を使用してその [マッピングされた値] が自動的に更新され、パラメーターの行が [出力パラメーター] セクションに追加されます。[タイプ] として [定数] を定義し、[マッピングされた値] フィールドに定数値を入力すると、マッピングされた入力がフィルター基準として機能します。関連するパラメーターは、必要な数だけ追加してネストすることができます。

  他の複数のパラメーター (番地用、市区町村用、国用) を含む住所など、複雑なネストされたパラメーターを追加する場合、 ERP 統合 は追加の関連パラメーターが必要であることを自動的に識別し、関連する値の入力のために表示する必要がある新しいネストされたパラメーター行を作成します。ネストできるのは、データタイプがオブジェクトまたはアレイのパラメーターのみです。

パラメーターに使用可能なデータタイプは次のとおりです。

- オブジェクト
- アレイ
- 文字列
- 日時
- 日付
- 時刻
- Char
- 10 進数

注:

ユースケースの例としては、受注 BAPI を実行して、受注に含まれている明細を調べることが挙げられます。[マッピングされた値] フィールドで参照されるフィールドを定義するための自動マッピングオプションを使用して、テーブル (読み取り操作用)/関数呼び出し (BAPI 操作用) セクションでマッピングされたフィールドとして注文 ID を指定する必要があります。すべての操作の入力と出力を定義したら、ワークフロースタジオ でフローをビルドして、フローを実行して ERP システムを呼び出すときに使用するパラメーターとして注文 ID を入力できます。

別の例としては、[テーブルフィールド] (テーブル読み取り操作用)/[関数呼び出し] (BAPI 操作用) セクションに [注文請求日 **(Order billing date)]** のパラメーターを追加し、その期間のすべての注文を取得する日付または日付範囲を指定できるフローを ワークフロースタジオ でビルドします。

注: パラメーターを定義する順序は関係ありません。保存すると、ERP 統合 では、オプションのパラメーターがアルファベット順に表示されます。

入力の管理手順については、「ERP モデル操作の入力パラメーターの管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

読み取り操作の出力の選択

データを ERP システムにマッピングして Now Platform に保存する方法を定義する出力パラメーターを作成する必要があります。

出力の管理手順については、「ERP モデルの出力パラメーターの選択」を参照してください。

取得した **ERP** フィールドのテーブルへの追加

マッピングされたフィールドまたはパラメーターを出力として追加し、ERP システムを正常に読み取りまたは更新すると、各パラメーターがリモートテーブルまたは抽出テーブルに追加できるフィールドとして表示されます。リモートテーブルまたは抽出テーブルのフィールドを管理して、取得したパラメーターを追加します。詳細は、以下のトピックを参照してください。

- ERP 統合 で ERP リモートテーブルのフィールドをカスタマイズする
- ERP 統合 での抽出テーブルのフィールドの選択

ERP システムを呼び出すフローのビルド

すべてのパラメーターを定義し、読み取り操作または更新操作をビルドして実行したら、定義したパラメーターを使用するフローを ワークフロースタジオ でビルドできます。

フローのアクションの [必須項目] でパラメーターを選択するときに値を指定して、フィルター基準を入力します。詳細については、「ERP システムを読み取りまたは更新するフローのビルド」を参照してください。

ERP 統合 での読み取り操作または更新操作のモデルへの追加

ERP 統合 で ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルに読み取り操作または更新操作を追加して、ERP システムからデータを取得する方法、または ERP システムにデータを書き込む方法を定義します。

始める前に

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて

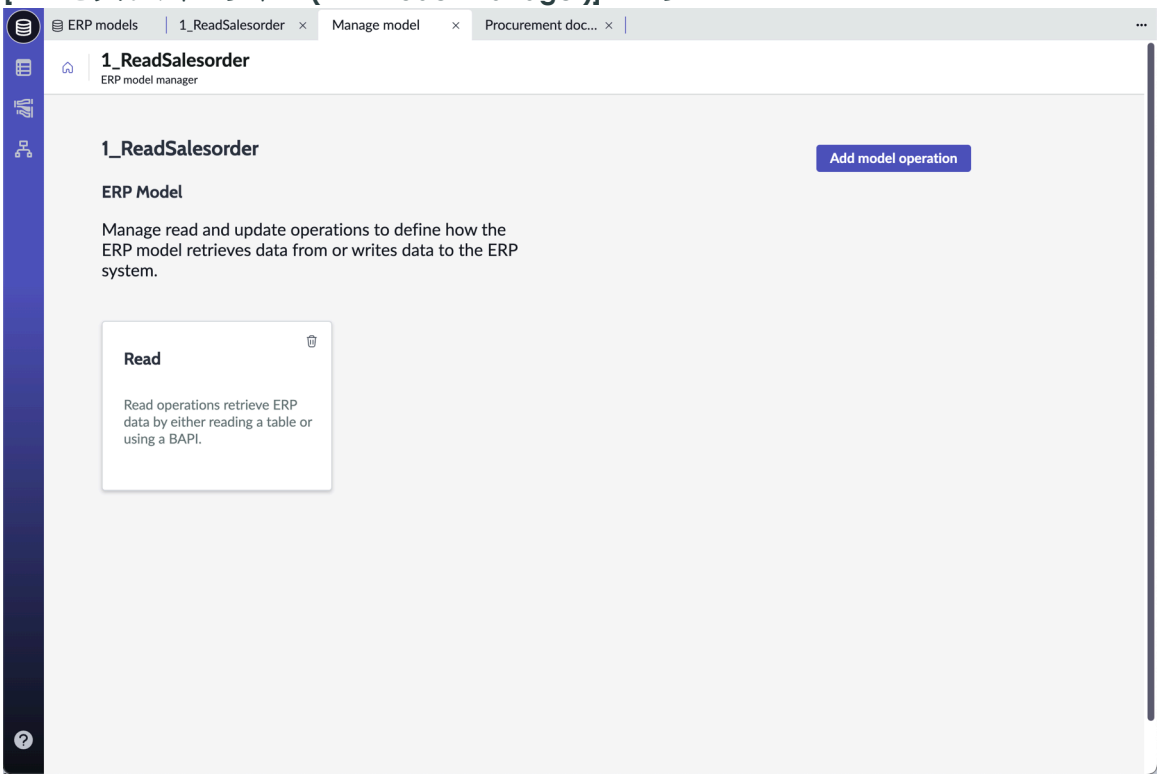
- 読み取り操作は、テーブルを読み取るか、BAPI を使用して ERP データを取得します。
- 更新操作は、BAPI を使用して ERP システムに更新を書き込みます。

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルで [ERP モデル] アイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。
3. 操作を追加するモデルを選択します。
4. [モデルを管理 **(Manage model)]** ボタンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

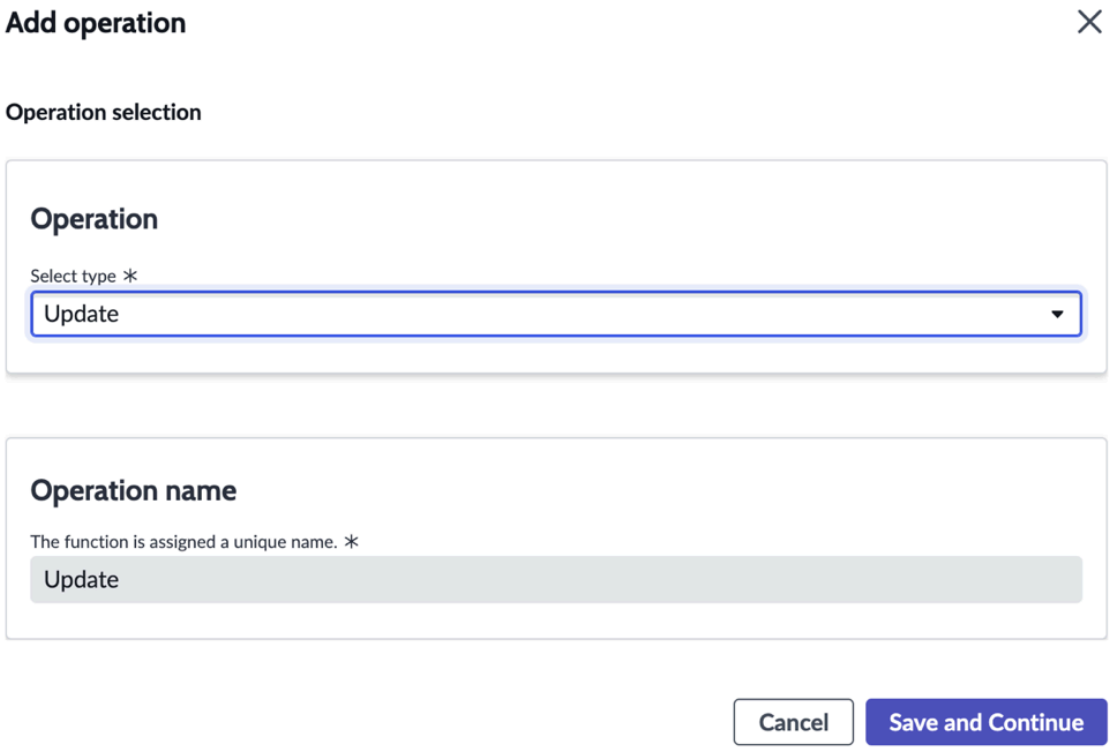
[ERP モデルマネージャー (ERP model manager)] ページ



5. [モデル操作を追加 **(Add model operation)]** ボタンを選択します。
6. [操作を追加] モーダルの [タイプの選択] フィールドで、追加する操作のタイプを指定します。
   - [読み取り] は、ERP システムからデータを読み取って取得し、Now Platform に取り込みます。
   - [更新] は、ERP システムに書き込むため、データを返信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

操作を追加



7. [保存して続行] を選択します。

タスクの結果
操作の基盤が作成されます。

次のタスク
次に、読み取りまたは更新のエンティティを操作に追加する必要があります。詳細については、「ERP 統合 でのモデルへの読み取りまたは更新エンティティの追加」を参照してください。

操作カードの [削除] アイコン (🗑) を選択して、不要な操作を削除、またはやり直すことができます。

ERP 統合 でのモデルへの読み取りまたは更新エンティティの追加

ERP 統合 が ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムの読み取りまたは更新に使用するテーブルまたは BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) の操作エンティティを指定します。

始める前に
エンティティを追加する前に、読み取り操作または書き込み操作を追加しておく必要があります。詳細については、「ERP 統合 での読み取り操作または更新操作のモデルへの追加」を参照してください。

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

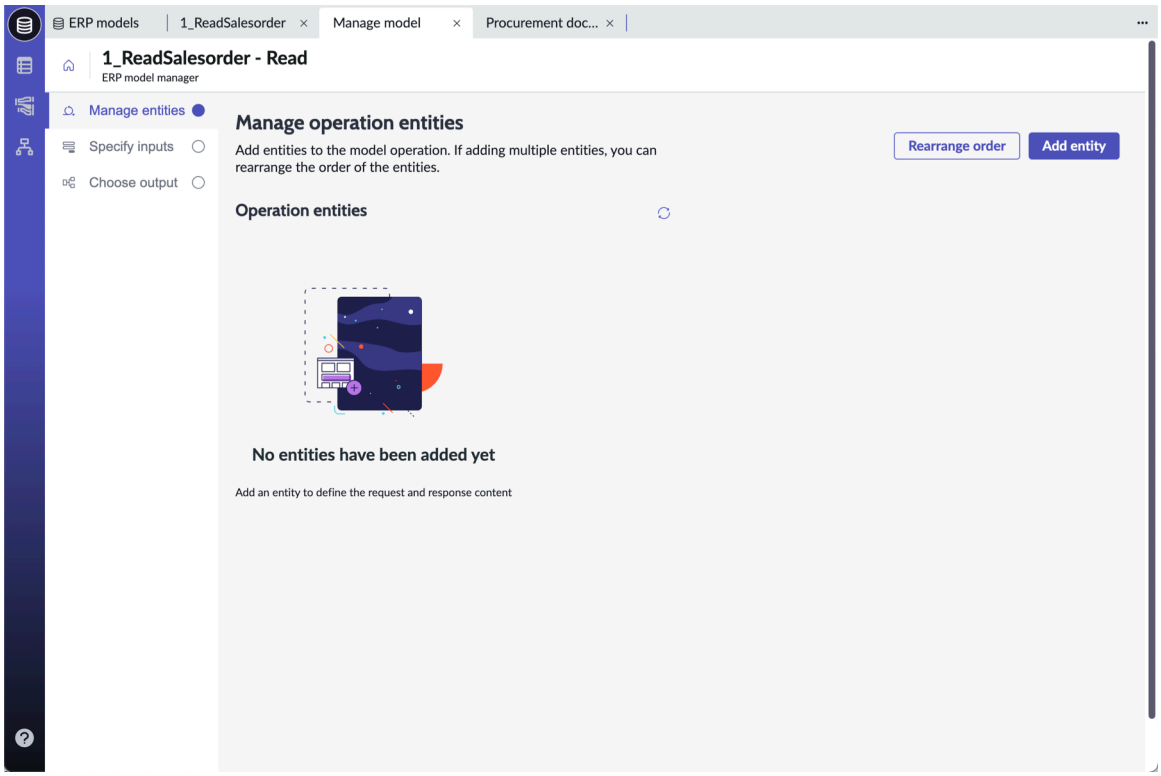
このタスクについて
- 読み取り操作は、テーブルを読み取るか、BAPI を使用して ERP データを取得します。
- 更新操作は、BAPI を使用して ERP システムに更新を書き込みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルで [ERP モデル] アイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。
3. 操作エンティティを追加するモデルを選択します。
4. [モデルを管理 **(Manage model)]** ボタンを選択します。
5. [ERP モデルマネージャー (ERP model manager)] ページで [読み取り] または [更新] 操作カードを選択して、エンティティを追加する操作を選択します。
6. [エンティティの管理 **(Manage entities)]** タブの [エンティティの追加] ボタンを選択します。

[エンティティの管理 **(Manage entities)]** タブ

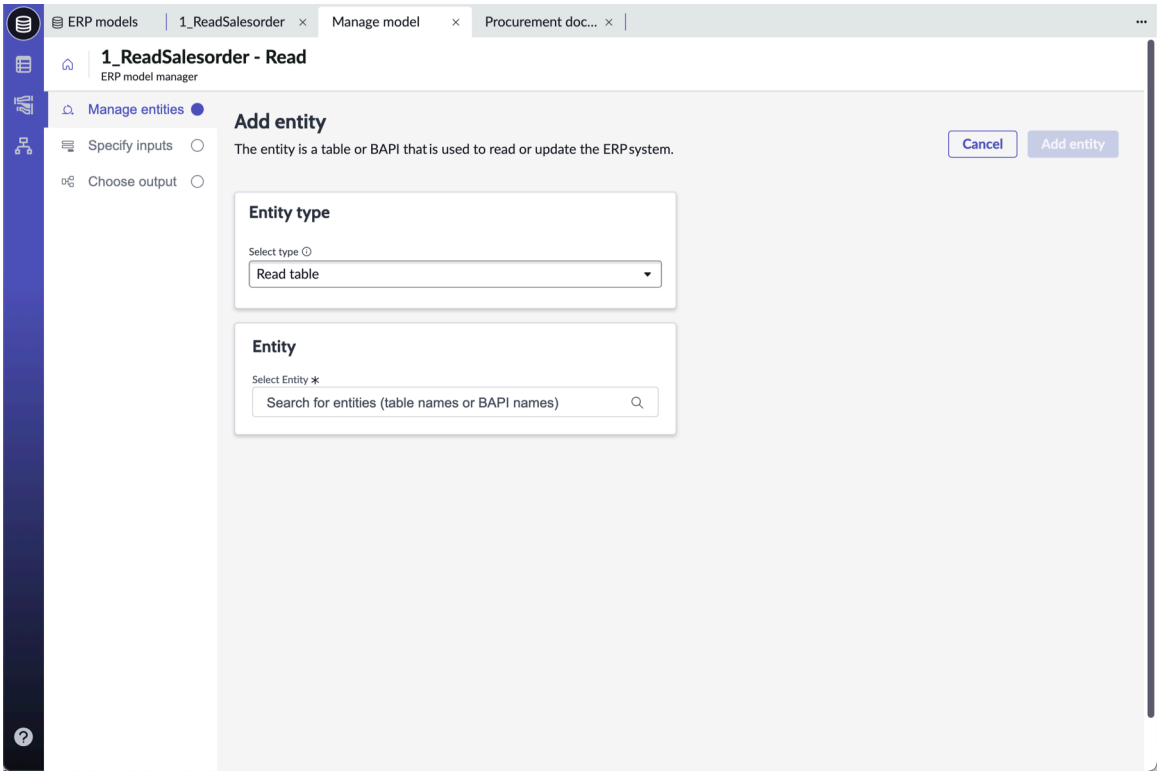


7. 読み取り操作の場合は、追加する読み取り操作のタイプを、[エンティティタイプ] セクションの [タイプの選択] フィールドで選択して指定します。
   - [テーブルの読み取り] は、ERP システムのテーブルから直接データを読み取り、データを取得する読み取り操作エンティティを定義します。
   - 関数呼び出し **(BAPI)** は、BAPI リモートプロシージャコールを使用する読込操作エンティティを定義します。

   注: 更新操作エンティティは BAPI 関数呼び出しを使用する必要があるため、このフィールドは更新操作に対してのみ読み込まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティの追加



8. [エンティティ] セクションの [エンティティを選択] フィールドで、読み取るテーブルの名前または使用する BAPI を指定して、エンティティを定義します。

   このフィールドの AI 検索 は、たとえば `T005` の代わりに `Countries` を入力するなど、探しているものをすばやく見つけるのに役立ちます。AI 検索 はまた、接続された ERP システム内のテーブルと BAPI の提案もします。

   テーブル読み取り操作の場合は、現在または別の関連モデルの [モデルエンティティ] タブを確認してテーブル名を取得するか、SAP アドミンに問い合わせる必要があります。詳細については、「ERP モデルの基盤の表示および編集」を参照してください。

9. [エンティティの追加] ボタンを選択して、エンティティの追加を完了します。
10. オプション: 必要に応じて、テーブルエンティティを再配置および削除します。

    重要: 並べ替えると、並べ替えられたエンティティの既存のテーブル結合が削除されます。

    a. [順序の再配置 **(Rearrange order)**] ボタンを選択します。

    b. テーブルを目的の順序にドラッグします。

    c. テーブルのカードの [削除] アイコン (🗑) を選択して、不要なテーブルを削除します。
    エンティティを削除すると、関連するすべてのフィールドマッピングとテーブル結合が削除されます。

    d. [再配置の確認 **(Confirm reorder)**] ボタンを選択します。

タスクの結果
操作にエンティティが追加されます。ERP 統合 は指定されたエンティティを使用して ERP システムに接続し、入力パラメーターと出力パラメーターの定義に使用できるデータを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[操作エンティティの管理 (Manage operation entities)] ページでエンティティを表示すると、Now Platform が現在データを取得しているか、データの取得を完了しているかがステータスに表示されます。

[テーブルの読み取り **(Read table)]** 操作を追加した場合は、このプロセスを繰り返して、操作に必要な数のテーブルを追加できます。次に、結合を追加してテーブル間の関係を作成できます。

注: 1 つの操作に対して複数のテーブルがある場合は、テーブルを結合する必要があります。

詳細については、「ERP テーブル間の結合の追加」を参照してください。

テーブルが ERP システムに接続されると、ERP モデルの [エンティティフィールド] タブに新しいテーブルが自動的に入力されます。必要に応じて詳細を表示します。詳細については、「ERP 統合 の ERP モデルテーブルフィールドの説明」を参照してください。

次のタスク
次に、操作の入力パラメーターを指定する必要があります。詳細については、「ERP モデル操作の入力パラメーターの管理」を参照してください。

ERP テーブル間の結合の追加

SoR から複数の ERP (エンタープライズリソースプランニング) テーブルをリンクし、テーブル結合を使用して ERP 統合 で ERP モデルをビルドします。

始める前に
テーブル結合には、テーブル読み取りエンティティを使用する読み取り操作が必要です。詳細については、「ERP 統合 での読み取り操作または更新操作のモデルへの追加」を参照してください。

テーブル結合を追加すると、親テーブルが [ERP モデルマネージャー (ERP model manager)] ページの [エンティティの管理 **(Manage entities)]** タブにリストされる最初のテーブルになります。子テーブルは、親テーブルから情報を取得します。

注:

- 1 つの操作に対して複数のテーブルがある場合は、テーブルを結合する必要があります。
- テーブル結合は、テーブル読み取り操作に対してのみ作成でき、BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) を使用する操作に対しては作成できません。

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて
テーブル結合は、共有フィールドを介して異なるテーブルをリンクします。結合を使用すると、テーブル間の論理関係に基づいて複数のテーブルのデータにアクセスできます。関係は条件付きにすることができ、結合条件を使用して指定します。

結合フィールドは、子テーブルのレコードを対応する親レコードに接続するために使用される共通の属性またはキーを定義します。

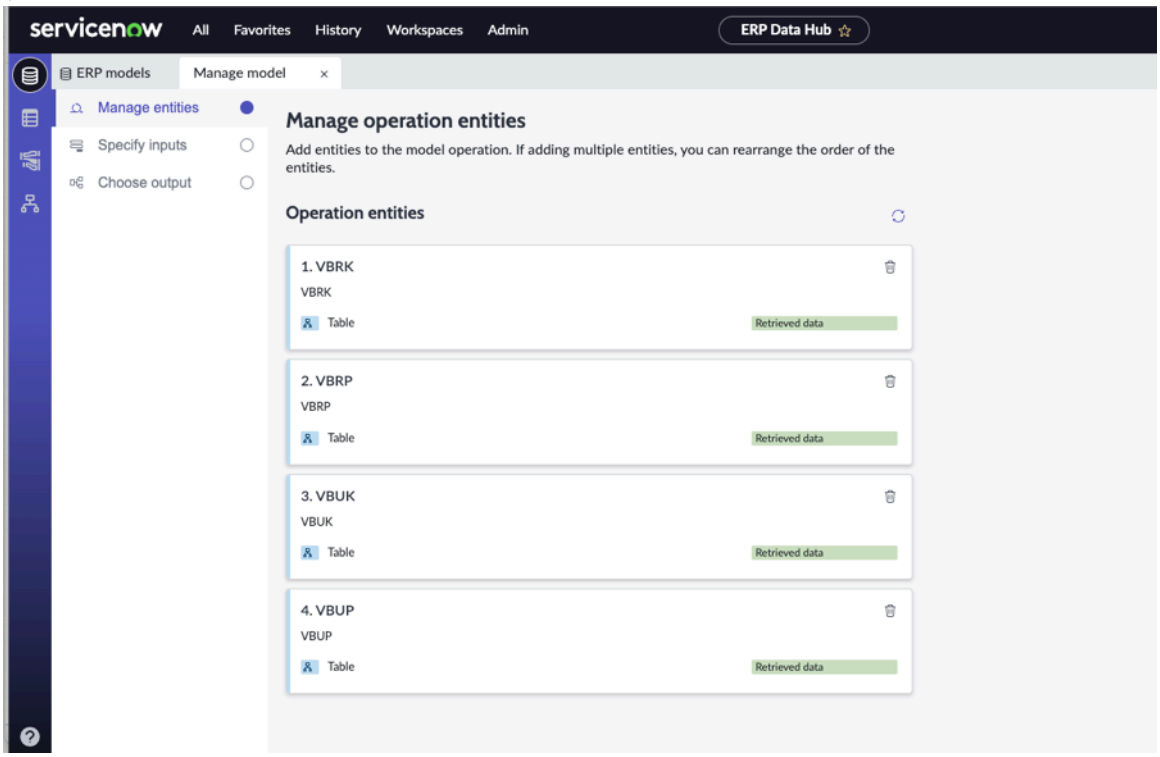
手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルで [ERP モデル] アイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。
3. 結合を追加するモデルを選択します。
4. [モデルを管理 **(Manage model)]** ボタンを選択します。
5. テーブル結合を追加する [読み取り] 操作を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. オプション: モデルにまだ追加されていない場合は、[テーブル読み取り **(Table read)**] 操作エンティティとして結合するテーブルを追加します。
詳細については、「ERP 統合 でのモデルへの読み取りまたは更新エンティティの追加」を参照してください。

結合するテーブル



7. [エンティティの管理 **(Manage entities)**] タブでテーブルを再配置して、結合の親テーブルを [ERP モデルマネージャー (ERP model manager)] ページにリストされる最初のテーブルとして配置します。

> **重要:** 並べ替えると、並べ替えられたエンティティの既存のテーブル結合が削除されます。

   a. [順序の再配置 **(Rearrange order)**] ボタンを選択します。
   b. テーブルを目的の順序にドラッグし、親テーブルをページの最初のテーブルとして表示します。
   c. [再配置の確認 **(Confirm reorder)**] ボタンを選択します。
8. [入力を指定 **(Specify inputs)**] タブを選択します。ここで入力パラメーターを更新して、テーブル結合をパラメーターとして指定します。
各テーブルの入力パラメーターが表示されます。
9. テーブル結合パラメータを作成します。

   a. [出力パラメーター] セクションで親結合フィールドとなるパラメーターを見つけて、その名前をメモします。

   b. 追加 (+) アイコンを選択して、テーブルに新しいマッピングされたフィールド行を追加します。

   c. 新しいフィールド行で、親結合の [フィールド名] を入力または選択します。

   d. [タイプ] フィールドから [結合] を選択します。

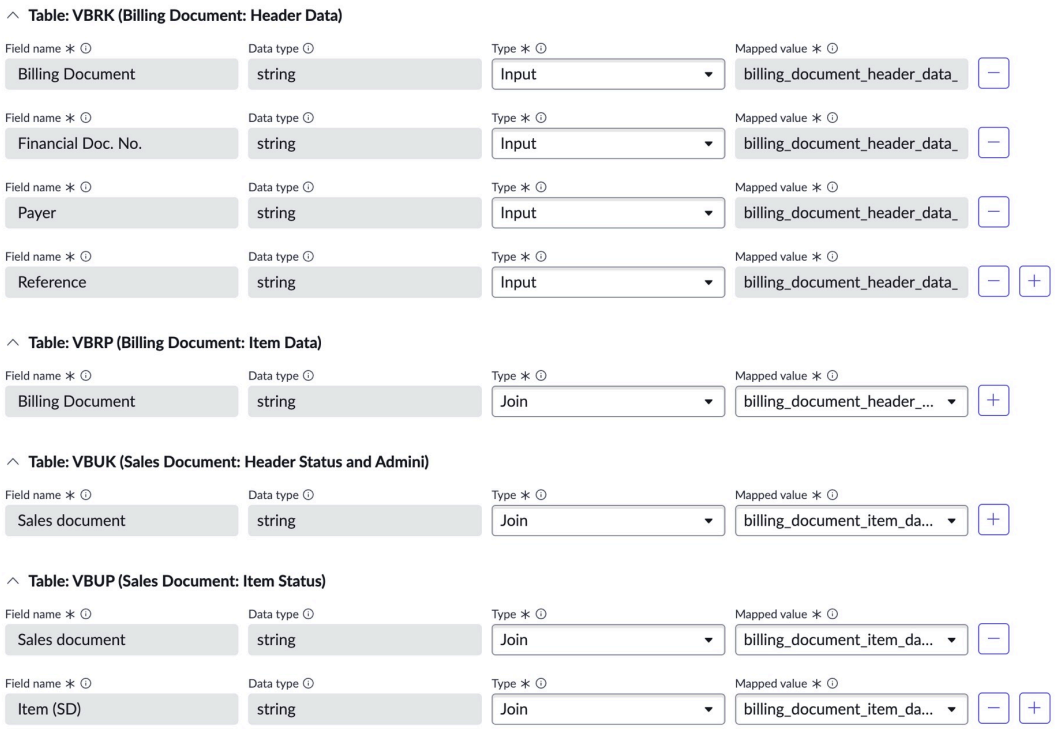
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

子テーブルの [マッピングされた値] フィールドの値は、結合されたフィールド名で自動的に更新されます。

たとえば、SAP 品目在庫モデルで、[フィールド名] フィールドの [品目] を親フィールドとして指定し、親の [マッピングされた値] フィールドに `mard_material_matnr` と入力して、品目 ID と結合できます。

e. [保存] を選択します。

テーブル結合フィールド



10. オプション: 必要に応じて、[出力パラメーター] セクションで出力パラメーターを追加または更新します。
入力として追加し、結合されたパラメーターは、[出力を選択 **(Choose output)**] タブに自動的に追加されます。

詳細については、「ERP モデルの出力パラメーターの選択」を参照してください。

タスクの結果

テーブル結合の作成が完了したら、返された ERP データの送信先を指定し、データを取得して出力するフローをビルドできます。詳細は、以下のトピックを参照してください。

- ERP システムデータの保存先の指定
- ERP システムを読み取りまたは更新するフローのビルド

ERP モデル操作の入力パラメーターの管理

ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムのフィールドを入力パラメーターとその値にマッピングして、ERP 統合 から SoR を読み取りまたは更新する操作の入力を定義する方法を指定します。

始める前に

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

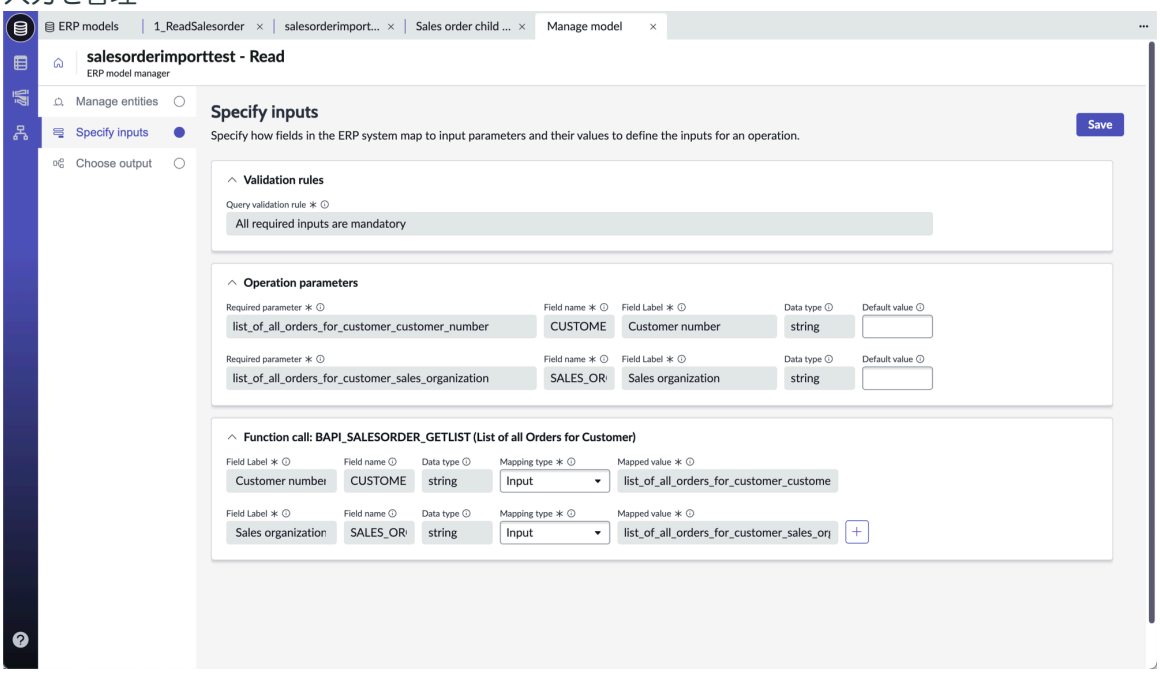
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
既にモデルの管理プロセスに入っていて、入力を指定する準備ができている場合は、手順 5 にスキップできます。

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルで [ERP モデル] アイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。
3. 入力を追加する操作を含むモデルを選択します。
4. [モデルを管理 **(Manage model)]** ボタンを選択します。
5. [入力を指定 **(Specify inputs)]** タブを選択します。
   操作に必要なパラメーターは、次の両方の場所に表示されます。
   - 操作が失敗した場合に使用するデフォルト値を定義する、[操作パラメーター] セクション。
   - 操作で使用するパラメーターを定義する、[テーブル/関数呼び出し (Tables/Function call)] セクション。読み取り操作の場合は [テーブル] セクションが表示され、BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) 操作の場合は [関数呼び出し] セクションが表示されます。

入力を管理



6. [クエリ検証ルール **(Query validation rule)]** フィールドで操作入力を必須にするかどうかを定義します。
   - [すべての入力が必須 **(All inputs are mandatory)]**
   - [少なくとも **1** つの入力が必須 **(At least one input is mandatory)]**
   - [入力は必須ではない **(No inputs are mandatory)]**
7. 操作に対して既に定義されている必須パラメーターとオプションパラメーターを確認し、何を追加するべきかをメモします。
8. ERP システムのクエリ時に送信する新しい入力パラメーターを定義します。
   テーブル読み取り操作の場合、定義された各テーブルエンティティの [マッピングされたテーブルフィールド (mapped table fields)] セクションに [テーブル] セクションが表示されます。正しいテーブルのパラメーターを追加していることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: パラメーターを定義する順序は関係ありません。保存すると、ERP 統合 では、オプションのパラメーターがアルファベット順に表示されます。

a. 最後に定義したパラメーターの横にある追加アイコン (+) を選択します。

b. フィールドに入力してパラメーターを定義します。

入力パラメーターを定義するフィールド

フィールド	説明
フィールド名	パラメーターとして定義している ERP システムのフィールドの名前。ERP 統合 は、操作エンティティで定義されたテーブルからフィールドを自動的に取得します。
データタイプ	(読み取り専用) パラメーターに含まれるデータのタイプを指定する、自動的に入力される値。
タイプ	パラメーターの送信方法の定義。 ▪ [入力] パラメーターには、自動マッピングしたときに自動的に入力される [マッピングされた値] があります。 ▪ [定数] は、たとえばフィルター基準として使用するなど、値が変化しないパラメーターを定義します。パラメーターの [マッピングされた値] フィールドで値を指定する必要があります。 ▪ [結合] (テーブル読み取り操作のみ) は、テーブル結合を作成していることを示します。詳細については、「ERP テーブル間の結合の追加」を参照してください。
マッピングされた値	パラメーターの特定の値。 ▪ [入力] パラメーターには、次のステップで値を自動マッピングする必要があります。 ▪ [定数] パラメーターには、パラメーターに対して常に送信される設定値を入力します。 ▪ [結合] パラメーターには、パラメーターを結合するフィールドを選択します。結合の作成の詳細については、「ERP テーブル間の結合の追加」を参照してください。

他の複数のパラメーター (番地用、市区町村用、国用) を含む住所など、複雑なネストされたパラメーターを追加する場合、 ERP 統合 は追加の関連パラメーターが必要であることを自動的に識別し、関連する値の入力のために表示する必要がある新しいネストされたパラメーター行を作成します。ネストできるのは、データタイプがオブジェクトまたはアレイのパラメーターのみです。

9. [自動マッピング] アイコン ( ) を選択して、新しく定義したパラメーターを [出力パラメーター] セクションに含めます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 は [テーブル/関数呼び出し (Tables/Function call)] パラメーターの [マッピングされた値] を自動的に更新し、パラメーターの行を [出力パラメーター] セクションに追加します。

10. オプション: [出力パラメーター] セクションに新しく追加された [オプションのパラメーター] 行で、パラメーターに使用する [デフォルト値] を指定します。
    [デフォルト値] は、入力パラメーターがクエリで指定されていない場合に使用されます。
11. オプション: [削除] (-) アイコンを選択して、ERP システムをクエリするときに不要なオプションのパラメーターを削除します。
    [必須パラメーター] は削除できません。
12. 既存のパラメーターをさらに編集します。
13. [保存] を選択します。

次のタスク

次に、必要に応じて操作の出力パラメーターを確認して更新します。詳細については、「ERP モデルの出力パラメーターの選択」を参照してください。

ERP モデルの出力パラメーターの選択

ERP 統合 で ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムの読み取り操作または更新操作の出力パラメーターを指定し、ERP システムから Now Platform へのフィールドとパラメーターのマッピング方法を定義します。出力パラメーターは、返されたデータを Now Platform に格納する方法も定義します。

始める前に

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて

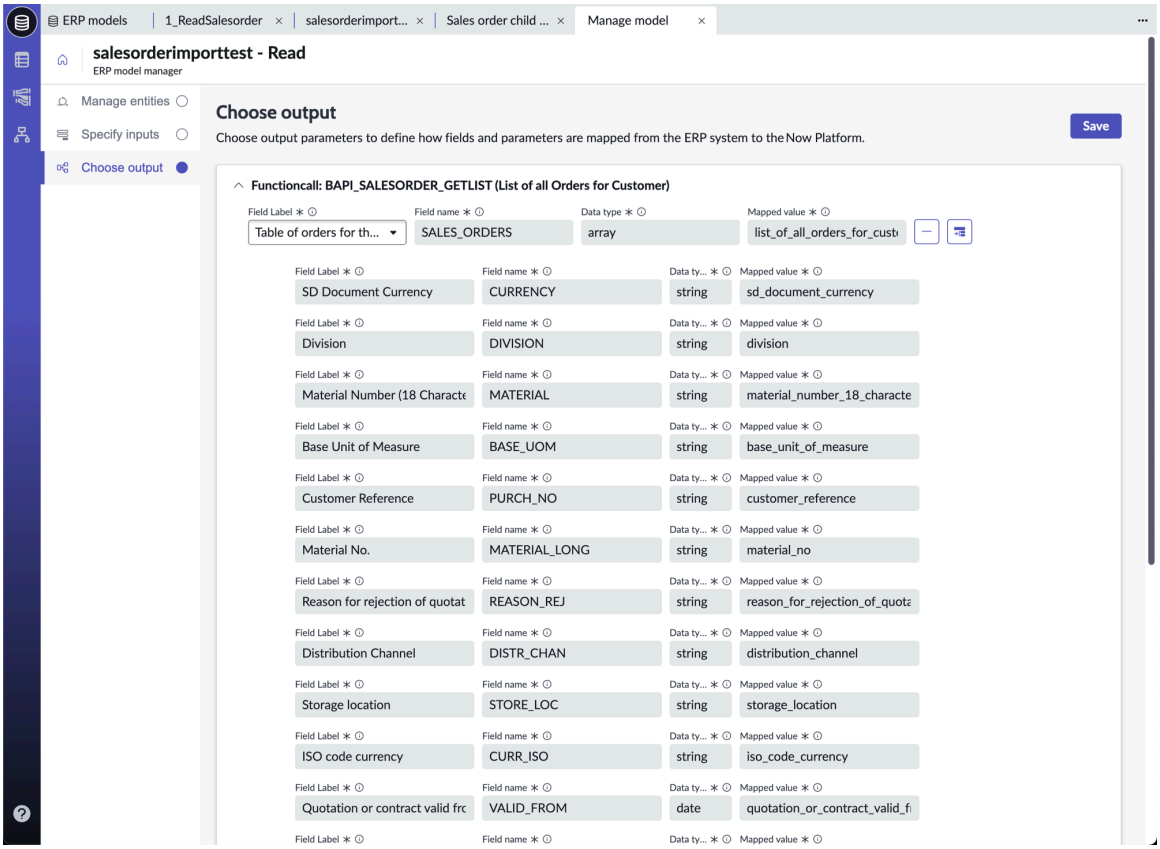
既にモデルの管理プロセスに入っていて、出力を指定する準備ができている場合は、手順 5 にスキップできます。

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルで [ERP モデル] アイコン ( ) を選択して、[ERP モデル] ページを開きます。
3. 読み取り操作を追加するモデルを選択します。
4. [モデルを管理 **(Manage model)]** ボタンを選択します。
5. [出力を選択 **(Choose output)]** タブを選択します。
6. 既存の出力を確認し、パラメーターを追加する必要があるかどうかを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力を選択



7. 新しい出力フィールドまたはパラメーターを追加します。

   a. 最後に定義したパラメーターの横にある追加アイコン (+) を選択します。
   テーブル読み取り操作用にマッピングされたフィールドを追加する場合は、該当するテーブルセクションにフィールドを追加してください。

   b. テーブル読み取り操作の場合は [フィールド名] を、BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) 操作の場合は [パラメーター名] を検索して選択します。
   [データタイプ] フィールドは、選択可能な値で自動的に更新されます。

   c. [マッピングされた値] フィールドに対応する値を入力します。

   他の複数のパラメーター (番地用、市区町村用、国用) を含む住所など、複雑なネストされたパラメーターを追加する場合、 ERP 統合 は追加の関連パラメーターが必要であることを自動的に識別し、関連する値の入力のために表示する必要がある新しいネストされたパラメーター行を作成します。ネストできるのは、データタイプがオブジェクトまたはアレイのパラメーターのみです。

8. オプション: ネストされた出力フィールドまたはパラメーターを追加して、複合パラメーターからどのデータを含めるかを選択します。
   たとえば、オブジェクトパラメーターに完全な請求先住所がありながら、出力として市区町村と郵便番号のみを含める必要がある場合があります。

   a. 親の出力フィールドまたはパラメーターを指定します。

   b. 親行の設定 ( ) または追加アイコン (+) を選択します。

   c. 表示されるモーダルで、含めるべき追加の関連フィールドまたはパラメーターを選択します。
   親は、選択した関連するネストされたフィールドまたはパラメーターで自動的に更新されます。

9. [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
マッピングされたフィールドまたはパラメーターを出力として追加し、ERP システムを正常に読み取りまたは更新すると、各パラメーターがリモートテーブルまたは抽出テーブルに追加できるフィールドとして表示されます。リモートテーブルまたは抽出テーブルのフィールドを管理して、取得したパラメーターを追加します。詳細は、以下のトピックを参照してください。

- ERP 統合 で ERP リモートテーブルのフィールドをカスタマイズする
- ERP 統合 での抽出テーブルのフィールドの選択

ERP システムデータの保存先の指定

ERP 統合 が ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムから取得したデータは、リモートテーブル、抽出テーブルで使用し、ワークフロースタジオ のデータピルとしてフローに追加できます。

取得したデータをリモートテーブルと抽出テーブルに追加する

フローの出力の [応答] の JSON コンテンツを使用して、次の方法で ERP データを保存します。

- データをリモートテーブルに保存する。 リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。
- データを抽出テーブルに保存する。 抽出テーブルは、スケジュール済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

マッピングされたフィールドまたはパラメーターを出力として追加し、ERP システムを正常に読み取りまたは更新すると、各パラメーターがリモートテーブルまたは抽出テーブルに追加できるフィールドとして表示されます。リモートテーブルまたは抽出テーブルのフィールドを管理して、取得したパラメーターを追加します。詳細は、以下のトピックを参照してください。

- ERP 統合 で ERP リモートテーブルのフィールドをカスタマイズする
- ERP 統合 での抽出テーブルのフィールドの選択

取得した ERP データをフローで使用する

[ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションは、[応答]と呼ばれる出力データピルで ERP データを返します。[応答] ピルは、[ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションを使用して ワークフロースタジオ でフローをビルドするときに使用できます。[応答] データピルは、アクションの次の場所で使用できます。

- [出力] タブ
- [データ] ペインの [出力] セクション

その後、その[応答] データピルまたは任意の子 [レコード] データピルをフローに追加して、返された JSON を解析できます。

たとえば、ERP システムからの応答ごとにレコードを生成し、そのデータを Now Platformで使用できるようにすることができます。詳細については、「ERP システムを読み取りまたは更新するフローのビルド」を参照してください。

ERP システムを読み取りまたは更新するフローのビルド

ERP 統合 で操作を構成した後、ワークフロースタジオ でフローをビルドして、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムのクエリの詳細を指定できます。たとえば、注文 ID でフィルタリングするフローをビルドします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP システムを呼び出すための ワークフロースタジオ のアクション

ERP 統合 をインストールすると、ワークフロースタジオ で [ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションが自動的に利用可能になります。

[ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションを使用すると、他のプロセスで ERP 統合 外の ERP データを使用できます。たとえば、[ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションを使用して、ERP データに基づくタスクまたはインシデントを作成できます。

ERP 統合 でのモデルの作成と管理が完了したら、ワークフロースタジオ に移動し、[ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションを使用してモデルの入力と出力をテストします。

アクションをテストするときは、使用しているモデル、読み取りまたは更新するフィールド、および ERP システムを指定する必要があります。アクションの詳細については、「ERP 統合 のフロー用 [ERP データの使用 (Use ERP Data)] アクションの詳細」を参照してください。

パラメーターを使用したデータ要求のフィルタリング

[ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションのテストに成功したら、そのアクションを使用して ERP システムの指定したデータを取得または更新するフローをビルドします。

フローに [ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションを追加する際、モデルを管理したときに入力として定義された [必須フィールド] と [オプションフィールド] を指定できます。必須フィールドとオプションフィールドは、必須およびオプションの入力パラメーターとして設定されている必要があります。

システムクエリのパラメーターとして定義されたフィールドを選択した場合は、フィルタリングする値を入力できます。たとえば、[ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションを使用するフローをビルドし、SAP 在庫移動モデルを指定する場合、必須フィールドとして **[iseg_fiscal_year]** を選択し、返されるデータをフィルタリングする年を入力できます (例：`2023`)。

ERP データを取得するフローをビルドするプロセス

ERP 統合 外のプロセスまたはタスクに ERP データを使用する場合は、次のワークフローを使用します。

1. ワークフロースタジオ で、[テストアクション] モーダルの [システム] フィールドでモデルを選択し、入力を指定して、**[ERP** データを使用 **(Use ERP Data)]** アクションをテストします。
   - アクションのテストの詳細については、「アクションのテスト」を参照してください。
   - アクションの入力の詳細については、「ERP 統合 のフロー用 [ERP データの使用 (Use ERP Data)] アクションの詳細」を参照してください。
2. テスト実行後、アクション実行の詳細を表示します。詳細については、「フロー実行の詳細」を参照してください。
3. アクションのテストから返されたデータは、出力データの [応答] フィールドに表示されます。
   - アクションの出力の詳細については、「ERP 統合 のフロー用 [ERP データの使用 (Use ERP Data)] アクションの詳細」を参照してください。
   - 返された ERP データの組み込みの詳細については、「ERP システムデータの保存先の指定」を参照してください。
4. [ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションを実行するフローをビルドします。

   [ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションは、[応答]と呼ばれる出力データピルで ERP データを返します。[応答] ピルは、[ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションを使用して ワークフロースタジオ でフローをビルドするときに使用できます。[応答] データピルは、アクションの次の場所で使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ [出力] タブ

◦ [データ] ペインの [出力] セクション
その後、その[応答] データピルまたは任意の子 [レコード] データピルをフローに追加して、返された JSON を解析できます。

詳細については、「フローのビルド」を参照してください。

注: ワークフロースタジオ で作業すると、ERP 統合 は **ERP** 統合として表示されます。

ERP 統合 での **ERP** リモートテーブルの使用

ERP 統合 で ERP (エンタープライズリソースプランニング) リモートテーブルを使用すると、Now Platform の ERP SoR からデータを表示してクエリすることができます。

注: ERP 統合 は Now Platform にデータを複製しません。ERP SoR に存在するデータをミラーリングするため、データはそこで保護されたままになります。

リモートテーブルの **ERP** モデルへのリンク

各 ERP リモートテーブルは 1 つの ERP モデルに接続されていて、ERP モデルは、リモートテーブルを ERP システムおよびその他の関連値にリンクします。リモートテーブルをビルドする際、ERP モデルを介して接続されている ERP SoR をスキャンするときに ERP 統合 が検出するフィールドを追加できます。フィールドをスキャンして追加すると、アプリをビルドするときにテーブルをデータソースとして使用する場合などに、必要なフィールドをすべて利用できます。

リモートテーブルの [詳細] タブで指定された、関連付けられた ERP モデルによって、利用可能なフィールドがリモートテーブルで制御されます。リモートテーブルの ERP モデルを変更すると、使用可能なフィールドも変更されます。

リモートテーブルの制限事項

データの整合性を確保するために、ERP 統合 に新しいリモートテーブルを作成することはできませんが、既存の ERP モデルのクローンを作成し、標準の ERP リモートテーブルを拡張してカスタマイズすることはできます。詳細については、「ERP 統合 での ERP モデルのクローン」を参照してください。

ERP リモートテーブルのレコード数は 1,000 に制限されています。大量のデータが必要な場合は、ERP 抽出テーブルを使用します。詳細については、「ERP 統合 でのデータの抽出と変換」を参照してください。

ERP 統合 での **ERP** リモートテーブルの詳細の表示と編集

添付ファイルの設定や簡単な説明など、ERP 統合 の ERP (エンタープライズリソースプランニング) リモートテーブルの詳細を表示および編集します。

始める前に
必要なロール：

- リモートテーブルを変更するには：sn_erp_integration.erp_admin
- リモートテーブルを読み取るには：sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて
データの整合性を確保するために、ERP 統合 に新しいリモートテーブルを作成することはできませんが、既存の ERP モデルのクローンを作成し、標準の ERP リモートテーブルを拡張してカスタマイズすることはできます。詳細については、「ERP 統合 での ERP モデルのクローン」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

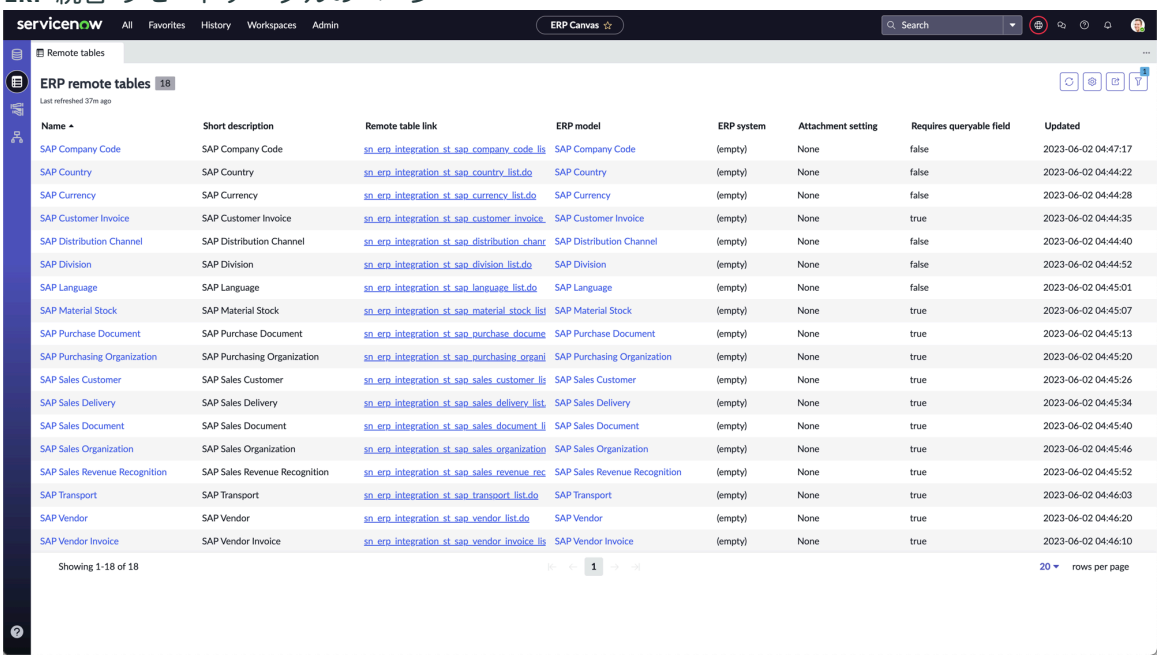
リモートテーブルのフィールドの追加や削除の詳細については、「ERP 統合 で ERP リモートテーブルのフィールドをカスタマイズする」を参照してください。

ERP リモートテーブルのレコード数は 1,000 に制限されています。大量のデータが必要な場合は、ERP 抽出テーブルを使用します。詳細については、「ERP 統合 でのデータの抽出と変換」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルの [リモートテーブル] アイコン ( ) を選択して、[リモートテーブル] ページを開きます。

ERP 統合 リモートテーブルのページ



3. リモートテーブルの [名前] を選択して、リモートテーブルの詳細を表示します。
4. オプション: [添付ファイルデータを更新] ボタンを選択して、スケジュールされたサイクル外でリモートテーブル添付ファイルに保存されたデータを更新します。
   リモートテーブル添付ファイルは、ERP システムからキャッシュされた応答です。リモートテーブルの [添付ファイル設定] フィールドが [添付ファイルを使用] に設定されている場合、ERP 統合では誰かがリモートテーブルからデータをフェッチしたときに ERP システムを呼び出しません。
5. 必要に応じてリモートテーブルの詳細を編集します。
   フィールド値の説明については、「ERP 統合 のリモートテーブルフォームフィールドの説明」を参照して ください。
6. [リモートテーブルフィールド] タブを選択して、リモートテーブルのフィールドを表示します。
7. オプション: [リモートテーブルリストを開く] ボタンを選択して、Now Platform の ERP リモートテーブルを .list として表示します。
8. **[Save** (保存)] を選択します。

ERP 統合 で **ERP** リモートテーブルのフィールドをカスタマイズする

ERP 統合 でリモートテーブルの列を追加または削除して、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルを作成します。たとえば、誕生日などの機密情報を含むフィールドを削除することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：

- リモートテーブルを変更するには：sn_erp_integration.erp_admin
- リモートテーブルを読み取るには：sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて
ERP 統合 が ERP モデルの SoR をスキャンし、リモートテーブルに追加できる利用可能なすべてのフィールドを検索します。ERP モデルの ERP システムから利用可能なすべてのフィールドを表示できます。[フィールドを管理 (Manage fields)] モーダルを使用して、ERP システムからリモートテーブルに利用可能な列を追加すると、リモートテーブルに列が自動的に作成されます。

リモートテーブルに追加するフィールドが表示されない場合は、最初にそれらをモデルに追加する必要があります。詳細については、「ERP モデルの出力パラメーターの選択」を参照してください。

リモートテーブルの [詳細] タブで指定された、関連付けられた ERP モデルによって、利用可能なフィールドがリモートテーブルで制御されます。リモートテーブルの ERP モデルを変更すると、使用可能なフィールドも変更されます。

注: リモートテーブルのフィールド名を編集することはできませんが、フィールドの新しいラベルを追加することはできます。

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルの [リモートテーブル] アイコン ( ) を選択して、[リモートテーブル] ページを開きます。
3. [名前] を選択して、作業するテーブルを選択します。
4. [フィールドを管理 **(Manage fields)]** ボタンを選択して、列を管理してリモートテーブルをビルドします。

   a. モーダルで、検索ボックスを使用して、リモートテーブルに追加するフィールドを見つけて選択します。

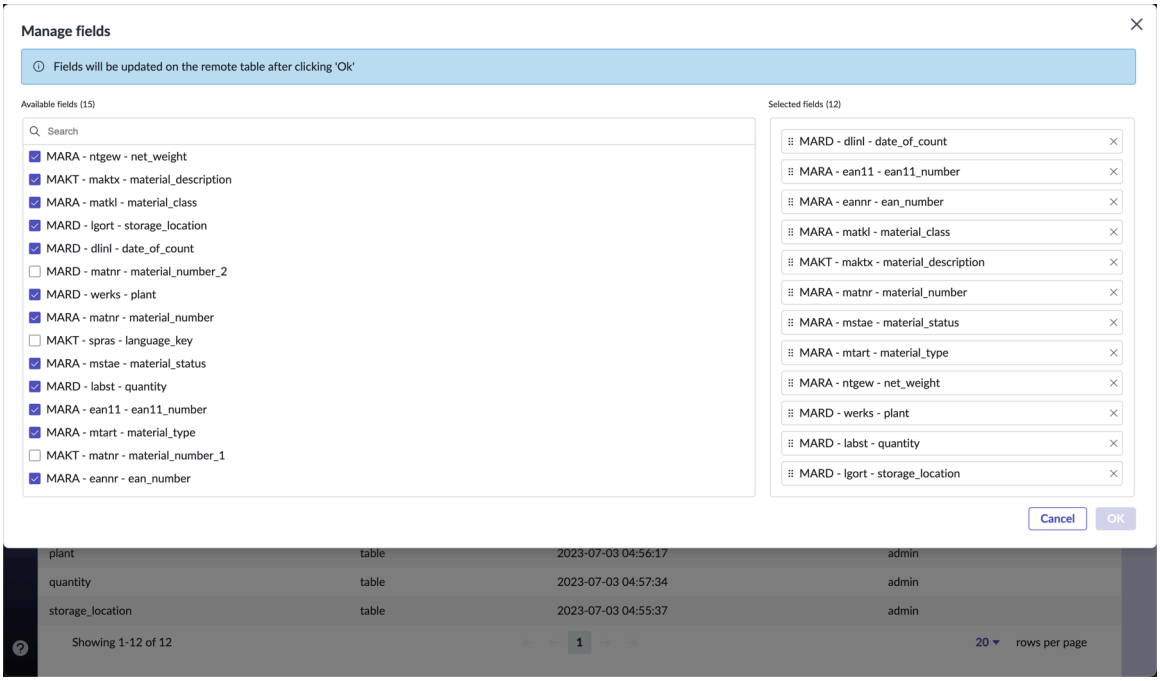
   b. ボタンを選択して、フィールドを [利用可能なフィールド] リストから [選択されたフィールド]リストに移動します。

   c. フィールドをドラッグして並べ替えて、テーブル内での表示を調整します。

   d. すべてのフィールドの追加が完了したら、**[OK]** を選択して変更を保存します。
   Now Platform は、リモートテーブルのフィールドを変更内容で更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 によるリモートテーブルのカスタマイズ



5. [リモートテーブルフィールド] タブを選択して、フィールドがリモートテーブルの列として正しく表示されることを確認します。

ERP 統合 を使用したリモートテーブルのクエリ

ERP 統合 を使用して、[すべて] メニューから直接 SoR の ERP (エンタープライズリソースプランニング) リモートテーブルをクエリします。

始める前に

必要なロール：sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて

SoR をクエリし、ERP プロセスの ERP モデルを作成できます。詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルのビルドと管理」を参照してください。

> **注:** ERP 統合 は Now Platform にデータを複製しません。ERP SoR に存在するデータをミラーリングするため、データはそこで保護されたままになります。

手順

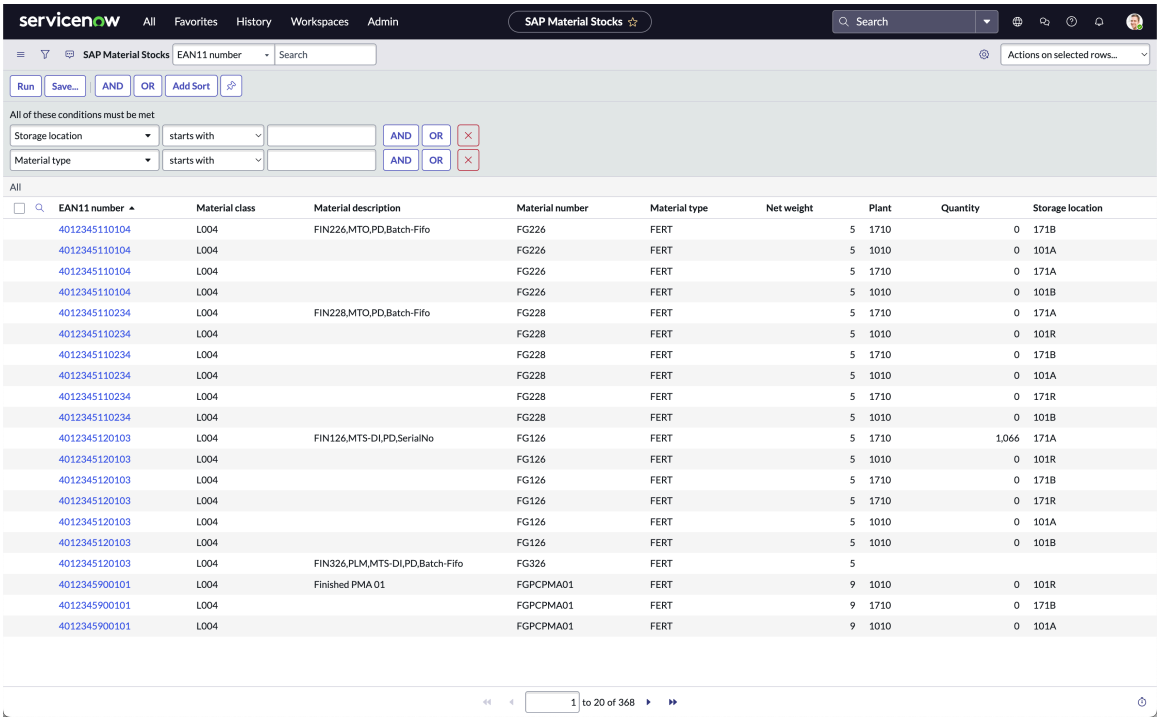
1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルの [リモートテーブル] アイコン ( ) を選択して、[リモートテーブル] ページを開きます。
3. ナビゲーションメニューから、**SAP** 品目在庫などのリモートテーブルを選択します。
4. Glide for SAP を使用してリモートテーブルをクエリします。

   たとえば、[ストレージの場所] などの列を右クリックして、[この値で絞り込み] のレコードを選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件ビルダーなどの標準的な Now Platform の検索、ソート、およびフィルタリングを使用して、SAP データにアクセスして操作できます。詳細については、「条件ビルダー」を参照してください。

ServiceNow テーブルでの SoR からのデータの表示



ERP 統合 でのデータの抽出と変換

ERP (エンタープライズリソースプランニング) 抽出テーブルを使用すると、大量のデータを抽出する日次プロセスを作成できます。次に、抽出したデータを ERP 統合 の ERP モデルに含めることができます。

抽出テーブルに大量のデータを保持する

ETL (抽出、変換、およびロード) データソースである抽出テーブルを使用して、毎日大量のデータを抽出します。

たとえば、当月のすべての未完了の発注書を 1 日 1 回、設定された時刻に SAP システムから Glide テーブルに抽出することができます。その後、Source-to-Pay オペレーション、または App Engine Studio で作成された PO ワークスペースなどの Now Platform を介してそのデータにアクセスできます。

抽出プロセスの実行後、インポートセットを使用して、インポートされたデータを Now Platform テーブルにマッピングします。詳細については、「インポートセット」を参照してください。

抽出テーブルによる変換テーブルマップの使用

ERP 抽出テーブルは、Now Platform のローカル変換テーブルにデータを保存します。変換テーブルは、データ統合または変換のプロセス中にデータを保持する一時テーブルです。変換テーブルは、データがさらに処理、クリーニング、またはターゲットの宛先にロードされる前の中間ステップです。たとえば、インポート後に、抽出テーブルは変換テーブルで Glide クエリを実行し、出力を複数の異なるターゲットテーブルに保存できます。

カスタム変換テーブルを使用する場合は、最初に Now Platform にテーブルを作成する必要があり、そのテーブルはアプリケーションスコープ内にある必要があります。テーブル変換マップの作成の詳細については、「変換マップを作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 の ETL プロセスは、ERP 統合 ではなく、データを必要とする Now Platform アプリで構成されます。たとえば、ワークフロースタジオ のフローで抽出プロセスを構成できます。

自動的に利用可能な標準の抽出テーブル

ERP 統合 をインストールすると、Now Platform によって作業用に標準の ERP 抽出テーブルが自動的にロードされます。たとえば、売上テーブル、配送テーブル、調達テーブルなどです。標準の抽出テーブルのリストについては、「ERP 統合 の標準 ERP モデルと抽出テーブル」を参照してください。

ERP Customization Mining をインストールした場合、そのアプリは、ERP アプリケーションアクティビティ、コレクターディレクトリデータ、名前空間データなどの追加の抽出テーブルに入力します。

ERP 抽出テーブルの表示

ERP 統合 で ETL (抽出、変換、ロード) プロセスを操作し、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムから大量の ERP データを抽出します。抽出されたデータは、Now Platform の Glide テーブルに格納されます。

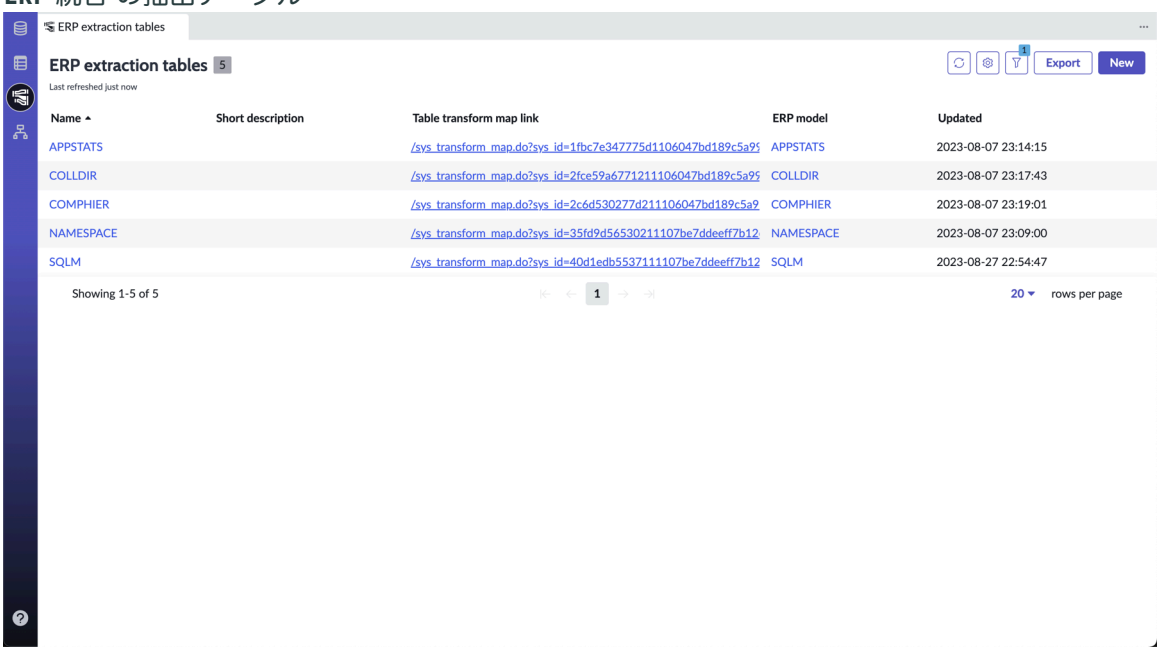
始める前に
必要なロール：sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて
ERP 抽出テーブルは、データを抽出し、Now Platform の変換テーブルに保存します。 変換テーブルは、データ統合または変換のプロセス中にデータを保持する一時テーブルです。変換テーブルは、データがさらに処理、クリーニング、またはターゲットの宛先にロードされる前の中間ステップです。

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルの [ERP 抽出テーブル] アイコン ( ) を選択して、[ERP 抽出テーブル] ページを開きます。

ERP 統合 の抽出テーブル



3. ERP 抽出テーブルのリストを表示し、ERP モデルのビルドに使用できるテーブルを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ETL ソース列

列	説明
名前	ETL プロセスの名前。
簡単な説明	ETL プロセスの目的の簡潔な説明。
テーブル変換マップリンク	抽出されたデータがキャッシュされて保存されるテーブル。 テーブル名を選択すると、新しいブラウザタブで Now Platform のテーブルが表示されます。 テーブル変換マップの作成の詳細については、「変換マップを作成」を参照してください。
ERP モデル	ETL 抽出で使用される ERP モデル。 ERP モデル名を選択して、その詳細を表示します。詳細については、「ERP モデルの基盤の表示および編集」を参照してください。

4. オプション: 抽出テーブルのテーブル名を選択して、その詳細を表示します。

次のタスク

抽出プロセスの実行後、インポートセットを使用して、インポートされたデータを Now Platform テーブルにマッピングします。詳細については、「インポートセット」を参照してください。

ERP 統合 での新しい **ERP** 抽出テーブルの追加

新しい ERP (エンタープライズリソースプランニング) 抽出テーブルを作成し、毎日 SoR から大量のデータをキャプチャし、変換 (ステージング) テーブルにデータを保存します。データは Now Platform で使用可能になり、抽出データを ERP モデルやリモートテーブルに追加することができます。

始める前に

ソーステーブル、ターゲットテーブル、およびテーブル変換マップを構成してから、これらのテーブルを ERP 抽出テーブルに追加する必要があります。テーブル変換マップの作成の詳細については、「変換マップを作成」を参照してください。

必要なロール：

- 抽出テーブルを変更するには：sn_erp_integration.erp_admin
- 抽出テーブルを読み取るには：sn_erp_integration.erp_user

このタスクについて

ERP 統合 には多数の標準の抽出テーブルが用意されており、そのまま使用できます。標準の抽出テーブルを変更する必要がある場合は、テーブルをコピーしてから、コピーしたバージョンを更新します。

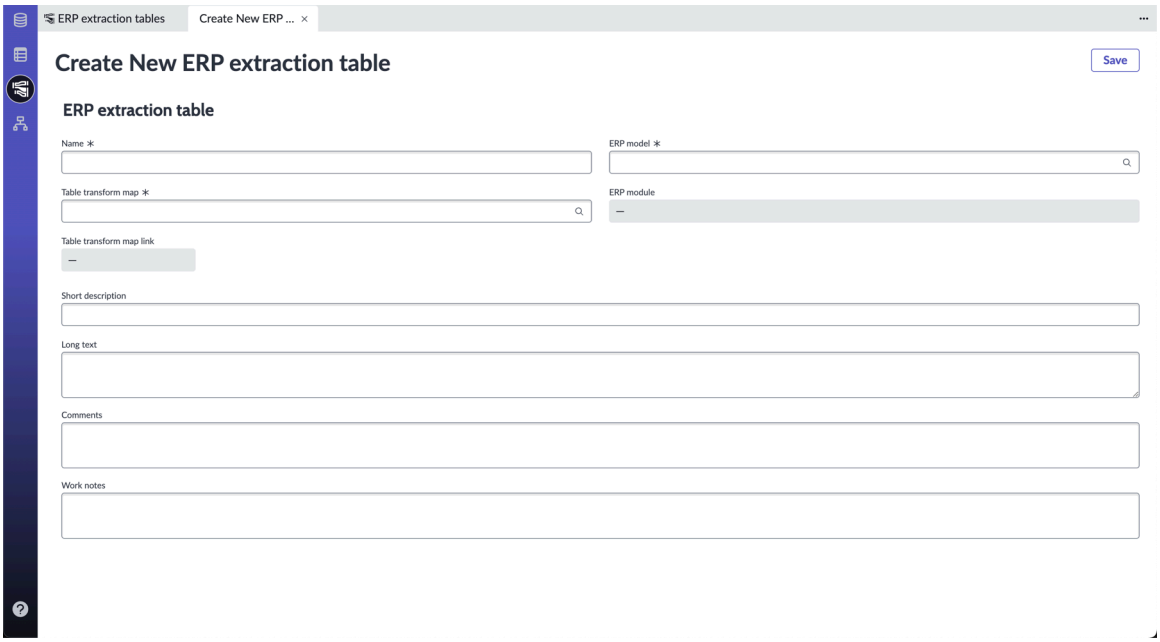
複数の ERP 抽出テーブルを作成でき、複数の抽出テーブルで同じ ERP モデルを使用できます。たとえば、販売契約、販売照会、および古い受注に関して個別の抽出テーブルを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルの [ERP 抽出テーブル] アイコン ( ) を選択して、[ERP 抽出テーブル] ページを開きます。
3. [新規] ボタンを選択します。

ERP 統合 での抽出テーブルの追加



4. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「ERP 統合 の抽出テーブルフィールドの説明」を参照して ください。
5. [保存] を選択します。

ERP 統合 での抽出テーブルのフィールドの選択

ERP 統合 で抽出テーブルのフィールドを追加または削除して、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルの仕様を定義します。たとえば、誕生日などの機密情報を含むフィールドを削除することができます。

始める前に
抽出テーブルに追加するフィールドが表示されない場合は、最初にそれらをモデルに追加する必要があります。詳細については、「ERP モデルの出力パラメーターの選択」を参照してください。

必要なロール：

- 抽出テーブルを変更するには：sn_erp_integration.erp_admin
- 抽出テーブルを読み取るには：sn_erp_integration.erp_user

手順

1. [すべて] > **[ERP** データハブ] > **[ERP** データハブホーム]に移動します。
2. サイドパネルの [ERP 抽出テーブル] アイコン ( ) を選択して、[ERP 抽出テーブル] ページを開きます。
3. [名前] を選択して、作業する抽出テーブルを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [フィールドを選択] ボタンを選択して、抽出テーブルをビルドする列を管理します。

   a. モーダルで、検索ボックスを使用して、抽出テーブルに追加するフィールドを見つけて選択します。

   b. ボタンを選択して、フィールドを [利用可能な列] リストから [選択された列] リストに移動します。

   c. フィールドをドラッグして並べ替えて、テーブル内での表示を調整します。

   d. すべてのフィールドの追加が完了したら、**[OK]** を選択して変更を保存します。
   Now Platform が、変更とともに抽出テーブルのフィールドを更新します。

5. [抽出テーブルのフィールド] タブを選択して、フィールドが抽出テーブルの列として正しく表示されていることを確認します。

ERP 統合 の参照

ERP (エンタープライズリソースプランニング) テーブルの詳細や用語集など、ERP 統合 の参照情報を検索します。

ERP 統合 とドメインセパレーション

ERP 統合 (エンタープライズリソースプランニング) では、ドメインセパレーションはサポートされていません。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル: サポートなし

- ドメインフィールドがデータテーブル に存在している可能性がありますが、データを管理するロジックがありません。
- このレベルでは、ドメイン分割は考慮されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

ERP 統合 での ERP データに対するサンプルの Glide クエリ

Glide API を介して ERP (エンタープライズリソースプランニング) SoR のデータにアクセスします。

顧客名をフェッチする Glide クエリの例を次に示します。

```
var sap_customer_gr = new
 GlideRecord('sn_erp_integration_st_sap_sales_customer');
sap_customer_gr.get('customer_number', '100032');
sap_customer_gr.getValue('name');
```

ERP 統合 の標準のテーブル、フィールド、およびモデル

ERP 統合 の標準 ERP (エンタープライズリソースプランニング) のリモートテーブル、抽出テーブル、フィールド、モデルに関する詳細を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 の標準リモートテーブル

ERP 統合 は、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルの複数の標準リモートテーブルにアクセスします。

次のリモートテーブルは、ERP 統合 および ECM から利用できます。

ERP 統合 と ECM のリモートテーブル

ラベル	名前	ERP モジュール
SAP 会社コード	sn_erp_integration_st_sap_company_code	基準
SAP 国	sn_erp_integration_st_sap_country	基準
SAP 通貨	sn_erp_integration_st_sap_currency	基準
SAP 言語	sn_erp_integration_st_sap_language	基準
SAP 品目在庫	sn_erp_integration_st_sap_material_stock	調達
SAP 購買ドキュメント	sn_erp_integration_st_sap_purchase_document	調達
SAP 購買組織	sn_erp_integration_st_sap_purchasing_organization	調達
SAP 顧客請求書	sn_erp_integration_st_sap_customer_invoice	営業
SAP 流通チャネル	sn_erp_integration_st_sap_distribution_channel	営業
SAP 部門	sn_erp_integration_st_sap_division	営業
SAP 営業顧客	sn_erp_integration_st_sap_sales_customer	営業
SAP 営業デリバリ	sn_erp_integration_st_sap_sales_delivery	営業
SAP 営業ドキュメント	sn_erp_integration_st_sap_sales_document	営業
SAP 営業組織	sn_erp_integration_st_sap_sales_organization	営業
SAP 営業収益認識	sn_erp_integration_st_sap_sales_revenue_recognition	営業
SAP ベンダー	sn_erp_integration_st_sap_vendor	営業
SAP ベンダー請求書	sn_erp_integration_st_sap_vendor_invoice	営業
SAP トランスポート	sn_erp_integration_st_sap_transport	トランスポート (Transport)

リモートテーブルの操作の詳細については、「リモートテーブル」を参照してください。

ServiceNow 製品でアプリを構築する場合は、次のような標準リモートテーブルをデータソースとして使用できます。

- App Engine Studio
- フロー - ワークフロースタジオ
- のプレイブックワークフロースタジオ
- テーブルビルダー
- UI ビルダー
- ワークスペースビルダー

Glide API を介して SoR からデータにアクセスすることもできます。

顧客名をフェッチする Glide クエリの例を次に示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var sap_customer_gr = new
 GlideRecord('sn_erp_integration_st_sap_sales_customer');
sap_customer_gr.get('customer_number', '100032');
sap_customer_gr.getValue('name');
```

リモートテーブル内の標準 ERP 統合 フィールド

ERP 統合 で使用できる標準の ERP (エンタープライズリソースプランニング) リモートテーブルには、追加の SAP テーブルのフィールドが含まれています。

標準のリモートテーブルには、次の追加フィールドが含まれています。標準テーブルの詳細については、「ERP 統合 の標準リモートテーブル」を参照してください。

リモートテーブル内の標準の ERP 統合 テーブルと ECM テーブル

リモートテーブル	ソーステーブル	ERP フィールド名	マッピングされたフィールド名
SAP 営業ドキュメント	VBAK	VBELN	document_number
SAP 営業ドキュメント	VBAK	ERDAT	date_of_document
SAP 営業ドキュメント	VBAK	ERZET	time_of_document
SAP 営業ドキュメント	VBAK	VKORG	sales_organization
SAP 営業ドキュメント	VBAK	VBTYP	document_category
SAP 営業ドキュメント	VBAK	AUART	document_type
SAP 営業ドキュメント	VBAK	AUGRU	order_reason
SAP 営業ドキュメント	VBAK	LIFSK	delivery_block
SAP 営業ドキュメント	VBAK	FAKSK	billing_block
SAP 営業ドキュメント	VBAK	KUNNR	customer_number
SAP 営業ドキュメント	VBAK	AUFNR	order_number
SAP 営業ドキュメント	VBAK	NETWR	document_value
SAP 営業ドキュメント	VBAK	WAERK	currency_code
SAP 営業ドキュメント	VBUK	LFGSK	delivery_status
SAP 営業ドキュメント	VBAP	MATNR	material_number
SAP 営業ドキュメント	VBAP	ARKTX	material_description
SAP 営業ドキュメント	VBAP	KWMENG	ordered_quantity
SAP 営業ドキュメント	VBAP	KLMENG	confirmed_quantity
SAP 営業ドキュメント	VBAP	NETWR	item_value
SAP 営業ドキュメント	VBAP	VRKME	sales_unit
SAP 営業ドキュメント	VBAP	ROUTE	delivery_route
SAP 営業ドキュメント	MARA	MTART	material_type
SAP 営業ドキュメント	VBUP	GBSTA	overall_item_status
SAP 営業顧客	KNA1	KUNNR	customer_number
SAP 営業顧客	KNA1	LAND1	country_code
SAP 営業顧客	KNA1	NAME1	name

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** 統合 テーブルと **ECM** テーブル (続く)

リモートテーブル	ソーステーブル	**ERP** フィールド名	マッピングされたフィールド名
SAP 営業顧客	KNA1	ORT01	city
SAP 営業顧客	KNA1	PSTLZ	postal_code
SAP 営業顧客	KNA1	STRAS	street
SAP 営業顧客	KNA1	STKZU	vat_liable
SAP 営業顧客	KNA1	STCEG	vat_reg_number
SAP 営業顧客	KNVV	VKORG	sales_organization
SAP 営業顧客	KNVV	VTWEG	distribution_channel
SAP 営業顧客	KNVV	SPART	division
SAP 営業顧客	KNVV	INCO1	inco_terms
SAP 顧客請求書	VBRK	VBELN	document_number
SAP 顧客請求書	VBRK	FKART	billing_type
SAP 顧客請求書	VBRK	WAERK	currency_code
SAP 顧客請求書	VBRK	ZTERM	payment_terms
SAP 顧客請求書	VBRK	NETWR	document_value
SAP 顧客請求書	VBRK	KUNRG	payer
SAP 顧客請求書	VBUK	GBSTK	overall_document_status
SAP 顧客請求書	VBRP	MATNR	material_number
SAP 顧客請求書	VBRP	ARKTX	material_description
SAP 顧客請求書	VBRP	NETWR	item_value
SAP 顧客請求書	VBRP	FKLMG	billing_quantity
SAP 顧客請求書	VBRP	VRKME	sales_unit
SAP 顧客請求書	VBRP	SHKZG	is_returns_item
SAP 顧客請求書	VBUP	GBSTA	overall_item_status
SAP 営業組織	TVKO	VKORG	sales_organization
SAP 営業組織	TVKO	EKORG	purchase_organization
SAP 営業組織	TVKO	BUKRS	company_code
SAP 購買ドキュメント	EKKO	EBELN	document_number
SAP 購買ドキュメント	EKKO	BUKRS	company_code
SAP 購買ドキュメント	EKKO	BSTYP	document_category
SAP 購買ドキュメント	EKKO	LIFNR	vendor_number
SAP 購買ドキュメント	EKKO	ZTERM	payment_terms
SAP 購買ドキュメント	EKKO	EKORG	purchase_organization
SAP 購買ドキュメント	EKKO	WAERS	currency_code
SAP 購買ドキュメント	EKKO	IHREZ	ext_reference

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** 統合 テーブルと **ECM** テーブル (続く)

リモートテーブル	ソーステーブル	**ERP** フィールド名	マッピングされたフィールド名
SAP 購買ドキュメント	EKKO	RESWK	supplying_plant
SAP 購買ドキュメント	EKKO	BEDAT	date_of_document
SAP 購買ドキュメント	EKPO	MATNR	material_number
SAP 購買ドキュメント	EKPO	EMATN	supplier_material_number
SAP 購買ドキュメント	EKPO	MENGE	ordered_quantity
SAP 購買ドキュメント	EKPO	MEINS	order_unit
SAP 購買ドキュメント	EKPO	NETPR	item_value
SAP 購買ドキュメント	EKPO	MWSKZ	vat_applicable
SAP 購買ドキュメント	EKPO	ELIKZ	fully_delivered
SAP 購買ドキュメント	EKPO	REPOS	fully_invoiced
SAP 品目在庫	MARA	MATNR	material_number
SAP 品目在庫	MARA	MTART	material_type
SAP 品目在庫	MARA	MATKL	material_class
SAP 品目在庫	MARA	NTGEW	net_weight
SAP 品目在庫	MARA	EANNR	ean_number
SAP 品目在庫	MARA	EAN11	ean11_number
SAP 品目在庫	MARA	MSTAE	material_status
SAP 品目在庫	MAKT	MAKTX	material_description
SAP 品目在庫	MARD	WERKS	plant
SAP 品目在庫	MARD	LGORT	storage_location
SAP 品目在庫	MARD	LABST	数量
SAP 品目在庫	MARD	DLINL	date_of_count
SAP ベンダー請求書	RSEG	BELNR	document_number
SAP ベンダー請求書	RSEG	GJAHR	document_year
SAP ベンダー請求書	RSEG	EBELN	purchase_document_number
SAP ベンダー請求書	RSEG	EBELP	purchase_document_item
SAP ベンダー請求書	RSEG	MATNR	material_number
SAP ベンダー請求書	RSEG	BUKRS	company_code
SAP ベンダー請求書	RSEG	WERKS	plant
SAP ベンダー請求書	RSEG	WRBTR	amount
SAP ベンダー請求書	RSEG	SHKZG	credit_debit_indicator
SAP ベンダー請求書	RSEG	MWSKZ	vat_applicable
SAP ベンダー請求書	RSEG	MENGE	数量
SAP 購買組織	T024E	EKORG	purchase_organization

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** 統合 テーブルと **ECM** テーブル (続く)

リモートテーブル	ソーステーブル	**ERP** フィールド名	マッピングされたフィールド名
SAP 購買組織	T024E	EKOTX	name
SAP 購買組織	T024E	BUKRS	company_code
SAP 営業デリバリ	LIKP	VBELN	document_number
SAP 営業デリバリ	LIKP	KUNNR	customer_number
SAP 営業デリバリ	LIKP	ERDAT	date_of_document
SAP 営業デリバリ	LIKP	ERZET	time_of_document
SAP 営業デリバリ	LIKP	VKORG	sales_organization
SAP 営業デリバリ	LIKP	LFART	delivery_type
SAP 営業デリバリ	LIKP	ROUTE	delivery_route
SAP 営業デリバリ	VBUK	GBSTK	overall_document_status
SAP 営業デリバリ	LIPS	MATNR	material_number
SAP 営業デリバリ	LIPS	CHARG	batch_number
SAP 営業デリバリ	LIPS	WERKS	plant
SAP 営業デリバリ	LIPS	LFIMG	数量
SAP 営業デリバリ	LIPS	NTGEW	net_weight
SAP 営業デリバリ	LIPS	GEWEI	delivery_unit
SAP 営業デリバリ	LIPS	VOLUM	volume
SAP 営業デリバリ	LIPS	VOLEH	volume_unit
SAP 営業デリバリ	LIPS	ARKTX	material_description
SAP ベンダー	LFA1	LIFNR	vendor_number
SAP ベンダー	LFA1	NAME1	name
SAP ベンダー	LFA1	ORT01	city
SAP ベンダー	LFA1	PSTLZ	postal_code
SAP ベンダー	LFA1	STRAS	street
SAP ベンダー	LFA1	STCEG	vat_reg_number
SAP ベンダー	LFA1	WERKS	plant
SAP ベンダー	LFM1	EKORG	purchase_organization
SAP ベンダー	LFM1	WEBRE	gr_invoice_indicator
SAP 営業収益認識	VBREVK	VBELN	document_number
SAP 営業収益認識	VBREVK	POSNR	document_item
SAP 営業収益認識	VBREVK	SAKRR	accr_val_clearing_account_number
SAP 営業収益認識	VBREVK	SAKRRK	offset_clearing_account_number
SAP 営業収益認識	VBREVK	ACC_VALUE	total_accrued_value
SAP 営業収益認識	VBREVK	WRBTR	amount

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** 統合 テーブルと **ECM** テーブル (続く)

リモートテーブル	ソーステーブル	**ERP** フィールド名	マッピングされたフィールド名
SAP 営業収益認識	VBREVK	RVAMT	revenue_amount
SAP 営業収益認識	VBREVK	WAERK	currency_code
SAP 国	T005	LAND1	country_code
SAP 国	T002	SPRAS	language_code
SAP 国	T002	LAISO	language_iso_code
SAP 国	T005T	LANDX	説明
SAP 言語	T002	SPRAS	language_code
SAP 言語	T002	LAISO	language_iso_code
SAP 通貨	TCURC	WAERS	currency_code
SAP 通貨	TCURC	ISOCD	currency_iso_code
SAP 通貨	TCURT	LTEXT	説明
SAP 流通チャネル	TVTW	VTWEG	distribution_channel
SAP 流通チャネル	TVTWT	VTEXT	説明
SAP 部門	TSPA	SPART	division
SAP 部門	TSPAT	VTEXT	説明
SAP 会社コード	T001	BUKRS	company_code
SAP 会社コード	T001	BUTXT	説明
SAP 会社コード	T001	LAND1	country_code
SAP 会社コード	T001	WAERS	currency_code
SAP 会社コード	T001	SPRAS	language_code
SAP トランスポート	E071	AS4DATE	date_of_transport
SAP トランスポート	E071	AS4TIME	time_of_transport
SAP トランスポート	E071	AS4USER	ユーザー
SAP トランスポート	E071	TRFUNCTION	type
SAP トランスポート	E071	TRKORR	番号
SAP トランスポート	E071	TRSTATUS	ステータス
SAP トランスポート	E071	OBJECT	object_type
SAP トランスポート	E071	OBJ_NAME	object_name
SAP トランスポート	E071	PGMID	program_id

ERP 統合 の標準 **ERP** モデルと抽出テーブル

ERP 統合 には、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルにリンクできる多数の標準抽出テーブルが用意されています。

ERP モデルは、ERP データへのアクセスに利用できる一連のテーブルのテンプレートとして機能します。標準の ERP 統合 モデルをそのまま使用しても、クローンを作成して変更してもかまいません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の抽出テーブルは、ERP 統合 から利用できます。

ERP 統合 の抽出テーブル

ラベル	**ERP** モジュール
SAP 会社コード	基準
SAP 国	基準
SAP 通貨	基準
SAP 言語	基準
SAP 品目在庫	調達管理
SAP 購買ドキュメント	調達管理
SAP 購買組織	調達管理
SAP 顧客請求書	営業
SAP 流通チャネル	営業
SAP 部門	営業
SAP 営業顧客	営業
SAP 営業デリバリ	営業
SAP 営業ドキュメント	営業
SAP 営業組織	営業
SAP 営業収益認識	営業
SAP ベンダー	営業
SAP ベンダー請求書	営業
SAP トランスポート	トランスポート (Transport)

リモートテーブルの操作の詳細については、「リモートテーブル」を参照してください。

ERP 統合 フィールドの説明

ERP Customization Mining (ECM) のフィールド説明のテーブルの中には、タスクトピックで管理するには大きすぎるものがあります。このセクションにある大きいテーブルに関する情報を参照してください。

ERP 統合 接続と認証情報フィールドの説明

接続および認証情報エイリアスモーダルには、ERP 統合 から ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムへの接続方法を指定する、接続および認証情報の詳細が含まれています。

接続情報フィールドの説明を入力します

接続情報フィールドの説明を入力します

フィールド	説明
接続名	接続のラベルまたはエイリアス。
SAP アプリケーションサーバーまたはロードバランサーへのホスト名または IP アドレス	ERP システムに接続する ERP システムサーバーまたは負荷分散ホストのホスト名または IP アドレス。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続情報フィールドの説明を入力します (続く)

フィールド	説明
ログイン言語	接続先の ERP サーバーの言語の 2 文字の言語コード。
SAP クライアント	SAP インスタンスがインストールされている接続ホストのクライアント値。
SAP システム番号	SAP インスタンスがインストールされている接続ホストのシステム番号。 指定している接続がロードバランサー用である場合は、このフィールドに何も入力しないでください。
負荷分散：SAP メッセージサーバーのポート番号または論理名	メッセージサーバーホストのポート番号または名前。 指定している接続がロードバランサー用である場合にのみ、この値を入力してください。
負荷分散：SAP R3 名	アドレス指定される ABAP システムの 3 文字のシステム ID。 指定している接続がロードバランサー用である場合にのみ、この値を入力してください。
負荷分散：SAP 負荷分散グループ	ロードバランサーの名前。 指定している接続がロードバランサー用である場合にのみ、この値を入力してください。

認証情報フィールドの説明を入力します

認証情報フィールドの説明を入力します

フィールド	説明
ユーザー名	ERP データにアクセスするために SoR にログインするユーザー名。
パスワード	認証して SoR にログインするためのパスワード。
認証情報名	ログイン認証情報のエイリアスまたは名前。

ERP 統合 の新しいシステムフィールドの説明

ERP 統合 の [新しいシステムを作成 (Create new system)] フォームには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムの接続詳細に関する情報が含まれています。

新しい **ERP** システムフィールドの作成

フィールド	説明
ERP システム	ビジネスエリアを識別するための ERP システムの名前

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい **ERP** システムフィールドの作成 (続く)

フィールド	説明
最新のハートビート	Now Platform が ERP システムに最後に接続した日時。 このフィールドは編集できません。ERP システムが正常に保存され、接続された場合にのみ値が設定されます。
簡単な説明	ERP システムの目的 (注文など) の簡単な説明。
更新日時	ERP システム設定が最後に保存された日時
接続	SoR に接続するために構成した接続および資格情報のエイリアス。ERP 統合 スコープ内の接続からのみ選択できます。 詳細については、「ERP 統合 の認証情報と接続の構成」を参照してください。
リモートテーブル	ERP システム内のリモートテーブルの数。 ERP 統合 の ERP リモートテーブルレコードにシステムを追加して、システムをリモートテーブルにリンクします。詳細については、「ERP 統合 での ERP リモートテーブルの詳細の表示と編集」を参照してください。
ETL データソース	ERP システム内の ERP 抽出テーブルの数。 ERP 統合 の ERP 抽出テーブルレコードにシステムを追加して、システムを抽出テーブルにリンクします。詳細については、「ERP 統合 での新しい ERP 抽出テーブルの追加」を参照してください。

ERP 統合 のシステムリストフィールドの説明

ERP 統合 の [新しいシステムを作成 (Create new system)] フォームには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムの接続詳細に関する情報が含まれています。

ERP システムリストの詳細

列	説明
ERP システム	ERP システムの名前。
ERP ハートビート	ERP システム接続への ping が現在成功しているかどうかを示します。
最新のハートビート	Now Platform が ERP システムに最後に接続した日時。
Connection (接続)	接続の認証情報のエイリアス。値を選択して、保存された接続と資格情報を開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP システムリストの詳細 (続く)

列	説明
	接続情報と認証情報 の詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。
簡単な説明	ERP システムの用途に関する簡単な説明。たとえば、受注またはベンダー請求書です。
リモートテーブル	ERP システム内のリモートテーブルの数。
ETL データソース	ERP システム内の ERP 抽出ソースの数。
更新日時	Now Platform で ERP システム設定が最後に変更された日時。

ERP 統合 の **ERP** モデルテーブルフィールドの説明

ERP 統合 の ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルの [エンティティフィールド] タブには、ERP モデルに含まれるテーブルフィールドが表示されます。

ERP 統合リンクされた ERP システムを自動的にスキャンして、最新のエンティティデータを取得します。ただし、[リフレッシュ] アイコンを選択して、オンデマンドでデータをリフレッシュできます。

[エンティティフィールド] タブの詳細

列	説明
フィールド名	SoR のフィールドの名前。
名前	フィールドを含む SoR のテーブルの名前
マッピングされたフィールド名	マッピングされたフィールドの名前。 Now Platform は SoR 上のリンクされたテーブルをスキャンした後、ERP モデル内にマッピングされたこのフィールドの名前を自動的に作成します。
フィールド ラベル	Now Platform で自動的にマッピングされたフィールドの自然言語フィールド名
カスタムか	SoR のフィールドが標準かカスタマイズされているかを示すオプション。
ERP データタイプ	フィールドに含まれるデータタイプ。オプションは次のとおりです。 • char (文字) • date • 10 進数 • numc (番号) • time

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[エンティティフィールド] タブの詳細 (続く)

列	説明
クエリ可能	ソーステーブルのクエリを行わずにフィールドからデータを取得できるかどうかを示すオプション 通貨テーブルなどの小さなテーブルでは、データをローカルに格納できるため、フィールドを取得するためのクエリは必要ありません。

ERP 統合 のクローンモデルフィールドの説明

ERP 統合 の [ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルのクローン (Clone ERP (Enterprise Resource Planning) model)] フォームを使用すると、ERP モデルをクローンして変更を加えることができます。

ERP モデルのフィールド

フィールド	説明
ERP モデル名	ERP モデルの名前。
ERP モジュール	SoR の ERP モジュール。たとえば、受注や在庫です。 ERP モジュールは、ビジネスプロセスまたはアクティビティに対応するように調整された個別の機能セットを表します。
ERP システム	ERP モデルが接続する ERP システム。 接続された ERP システムにより、フィールドとテーブルに関する情報へのアクセス、およびモデルと接続された ERP システム間のインタラクションが可能になります。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの作成」と「ERP システムの健全性の表示と監視」を参照。
アプリケーション	ERP モデルがリンクされているアプリケーションスコープ。たとえば、カスタムモデルを作成した場合、モデルはそのスコープ内に含まれます。
簡単な説明	ERP モデルが表す内容の簡単な説明。
長いテキスト	ERP データモデルに関する説明や情報。
作業メモ	ERP モデルに関するメモ。作業メモはプライベートであり、他の Now Platform ユーザーは表示できません。
コメント	ERP モデルに関するコメント。コメントは公開され、他の Now Platform ユーザーに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 の新しいモデルフィールドの説明

ERP 統合 の [新しいシステムを作成 (Create new system)] フォームには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルの詳細情報が含まれています。

ERP モデルのフィールド

フィールド	定義
ERP モデル名	ERP モデルの名前。
ERP モジュール	SoR 内の ERP モジュール (受注やインベントリなど)。 ERP モジュールは、ビジネスプロセスまたはアクティビティに対応するように調整された個別の機能セットを表します。
ERP システム	ERP モデルが接続する ERP システム。 接続された ERP システムにより、フィールドとテーブルに関する情報へのアクセス、およびモデルと接続された ERP システム間のインタラクションが可能になります。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの作成」と「ERP システムの健全性の表示と監視」を参照してください。
アプリケーション	ERP モデルがリンクされているアプリケーションスコープ。たとえば、カスタムモデルを作成した場合、モデルはそのスコープ内に含まれます。
簡単な説明	ERP モデルが表す内容の簡単な説明。
長いテキスト	ERP データモデルに関する説明や情報。
作業メモ	ERP モデルに関するメモ。作業メモはプライベートであり、他の Now Platform ユーザーは表示できません。
コメント	ERP モデルに関するコメント。コメントは公開され、他の Now Platform ユーザーに表示されます。

ERP 統合 のリモートテーブルフォームフィールドの説明

ERP 統合 のリモートテーブルフォームを使用すると、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルでリモートテーブルを作成および編集できます。

リモートテーブルの詳細

フィールド	説明
名前	Now Platform のリモートテーブルの名前。
ERP モデル	リモートテーブルに接続されている ERP モデル。ERP モデルは、リモートテーブルで利用可能なフィールドを制御します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブルの詳細 (続く)

フィールド	説明
	注: ERP モデルを変更すると、新しいモデルでは使用できない、以前に構成されたテーブルフィールドが削除されます。 ERP リモートテーブルのモデルを変更するには、確認ダイアログで **[ERP** モデルフィールドのロックを解除] ボタンを選択してから、[モデル変更のロック解除] ボタンを選択する必要があります。
ERP モジュール	ERP システム内の機能エリアまたはコンポーネント。モジュールは、ビジネスプロセスまたはアクティビティのセットに対応するように調整された個別の機能セットを表します。
ERP システム	リモートテーブルのリンク先の ERP システム。 接続されたシステムは、モデルにリンクされている ERP インスタンスを表し、モデルと接続された ERP システム間のデータフローとインタラクションを可能にします。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの作成」を参照してください。
リモートテーブルリンク	Now Platform のリモートテーブルの名前とリンク。 リモートテーブルリンクを選択すると、リモートテーブルの探索、クエリ、管理を実行できる新しいブラウザタブが開きます。
添付ファイルの設定	リモートテーブルが ERP システムのリモートデータを含む添付ファイルを使用する方法。 オプションは次のとおりです。 • なし：リモートテーブルに添付ファイルは使用されません。 • 添付ファイルを保存：スケジュールされたクエリで指定された場合、または [添付ファイルデータを更新] ボタンを選択した場合に、新しい添付ファイルを生成します。 • 添付ファイルを使用 **(Use attachment)**：現在の添付ファイルが利用可能な場合、ローカルで使用されます。
簡単な説明	ERP リモートテーブルの簡単な説明。
長いテキスト	リモートテーブルのコンテンツに関するその他の詳細。
クエリ可能なフィールドが必要	ソーステーブルのクエリを行わずにリモートテーブルからデータを取得できるかどうかを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブルの詳細 (続く)

フィールド	説明
	通貨テーブルなどの小さなテーブルでは、データをローカルに格納できるため、フィールドを取得するためのクエリは必要ありません。
スケジュールの有効化	添付ファイルデータの新しいバージョンをフェッチするためのスケジュール済みクエリ (ETL 抽出) を作成するオプション。 **注:** このオプションを使用するには、[添付ファイル設定] フィールドを [添付ファイルを保存 **(Save attachment)**] または [添付ファイルを使用] に設定する必要があります。
日次スケジュール時間	スケジュールを毎日実行する時刻を 24 時間形式で示したもの。
スケジュール済みエンコードクエリ	リモートテーブルに対するスケジュール済み抽出クエリの詳細。 リモートテーブルリストのフィルターを使用してエンコードされたクエリ文字列を作成し、その文字列を [エンコードクエリ] フィールドに貼り付けます。エンコードされたクエリの作成の詳細については、「エンコードされたクエリ文字列」を参照してください。

ERP 統合 の抽出テーブルフィールドの説明

ERP 統合 の抽出テーブルフォームを使用すると、ERP (エンタープライズリソースプランニング) モデルで抽出テーブルを作成および編集できます。

新しい **ERP** 抽出テーブルフィールド

フィールド	説明
名前	ERP 抽出テーブルの名前。
ERP モデル	抽出テーブルソースの ERP モデル。選択できるように構成されている必要があります。
テーブル変換マップ	抽出されたデータがキャッシュされて保存されるテーブル。 変換テーブルは、データ統合または変換のプロセス中にデータを保持する一時テーブルです。変換テーブルは、データがさらに処理、クリーニング、またはターゲットの宛先にロードされる前の中間ステップです。 指定された Glide テーブルは、抽出されたデータのソース ERP 抽出テーブルとターゲットテーブルを接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい **ERP** 抽出テーブルフィールド (続く)

フィールド	説明
	カスタム変換テーブルを使用する場合は、最初に Now Platform にテーブルを作成する必要があり、そのテーブルはアプリケーションスコープ内にある必要があります。テーブル変換マップの作成の詳細については、「変換マップを作成」を参照してください。
ERP モジュール	ERP 抽出テーブルにリンクされた ERP モジュールの名前。ERP モデルによって制御されます。
テーブル変換マップリンク	抽出された ERP データがキャッシュされて保存される Glide テーブルへのリンク。 抽出テーブルを保存した後、リンクを選択すると、Now Platform テーブルが新しいブラウザタブで開きます。
System	SoR で ETL (抽出、変換、ロード) プロセスがデータを抽出する ERP システム。システムがすでに構成されている必要があります。
簡単な説明	ETL ソースの簡単な説明。
長いテキスト	ERP 抽出テーブルを説明する追加のテキスト。
コメント	ERP 抽出テーブルで作業しているすべてのユーザーに表示される公開コメント。
作業メモ	自分だけが表示できるプライベートメモ。

ERP 統合 のフロー用 **[ERP** データの使用 **(Use ERP Data)]** アクションの詳細

ERP 統合 でのモデルの作成と管理が完了したら、ワークフロースタジオ に移動し、[ERP データを使用 (Use ERP Data)] アクションを使用してモデルの入力と出力をテストします。 次に、ERP (エンタープライズリソースプランニング) データを Now Platformに組み込むアクションを含むフローをビルドできます。

[ERP データの使用 (Use ERP Data)] アクションを使用して ERP データを取得する方法については、「ERP システムを読み取りまたは更新するフローのビルド」を参照してください。

ロールと使用可用性

ERP 統合 の一部として利用できます。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「 ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、ピルピッカーを使用してデータピルを選択することもできます。

ModelName

データタイプ：*Dynamic Choice*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

読み取り操作または更新操作を含む ERP モデルの名前。モデルはすでに作成されており、ERP 統合 で読み取り操作または更新操作が定義されている必要があります。詳細については、「モデルが ERP システムを読み取りおよび更新する方法の管理」を参照してください。

ModelOperation

データタイプ：*Dynamic Choice*

ERP システムを [読み取り] するか [更新] するか。読み取りエンティティまたは更新エンティティは、ERP 統合 で既に定義されている必要があります。詳細については、「ERP 統合 でのモデルへの読み取りまたは更新エンティティの追加」を参照してください。

必須フィールド

データタイプ：*Dynamic Template*

操作に必要なフィールド。ERP 統合 でモデルを管理する場合、フィールドが必須の入力パラメーターとして既に定義されている必要があります。詳細については、「ERP モデル操作の入力パラメーターの管理」を参照してください。

オプションのフィールド

データタイプ：*Dynamic Template*

操作のオプションのフィールド。モデルを管理する場合、フィールドが必須の入力パラメーターとして既に定義されている必要があります。詳細については、「ERP モデル操作の入力パラメーターの管理」を参照してください。

システム

データタイプ：*Reference*

接続されている ERP システムの名前。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの操作」を参照してください。

出力

これらの出力は、他のアイテムの入力として使用できます。

アクションステータス

データタイプ：*Object*

アクションに関する現在のランタイムの詳細を含むデータピル。[アクションステータス] オブジェクトは、コードとメッセージから構成されています。

エラーとして扱わない

データタイプ：*True/False*

フローに戻ったときにアクションステータスをエラーまたは成功としてレポートするオプション。

エラーメッセージ

データタイプ：*String*

アクション、ステップまたはシステム操作によって生成されたエラーメッセージを含む文字列データピルです。

応答

データタイプ：*Dynamic Object*

ERP システムから返された要求データ。詳細については、「ERP モデルの出力パラメーターの選択」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 付属のフロー

ERP 統合 には、自動的に実行される 2 つの ERP (エンタープライズリソースプランニング) フローが含まれています。

フローをアクティブ化するために何もする必要はありませんが、必要に応じて ワークフロースタジオ でフローをカスタマイズできます。たとえば、毎日実行する時間を変更するなど。詳細については、「フローを編集する」を参照してください。

注: ワークフロースタジオ で作業すると、ERP 統合 は **ERP** 統合として表示されます。

ERP 統合 が自動的に実行するフローは次のとおりです。

- [システムがアクティブになったときに **SAP BAPI** とテーブルを取得 **(Get SAP BAPIs and tables when system becomes active)]**：このフローは、ERP システムの ERP ハートビートがライブになると即座に自動的にトリガーされます。モデルを管理するときに使用できる BAPI (ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス) とテーブルを検出して取得します。
- [すべてのシステムからの **ETL SAP BAPI** とテーブル **(ETL SAP BAPIs and Tables From all systems)]**：このフローは、[システムがアクティブになったときに **SAP BAPI** とテーブルを取得 **(Get SAP BAPIs and tables when system becomes active)]** フローを毎晩呼び出して、ERP システムで利用可能な BAPI とテーブルに対する変更を取得します。

フローは、変更内容を次のテーブルに保存します。

- sn_erp_integration_sap_tables_list
- sn_erp_integration_sap_bapi_list_list

ERP 統合 と ECM の用語集

ERP 統合 および ERP Customization Mining (ECM) に適用される ERP (エンタープライズリソースプランニング) の用語や概念について説明します。

BAPI

ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス (BAPI) は、API に類似した SAP 製品のビジネスオブジェクトモデルへの標準インターフェイスです。

候補

候補は、システム内のカスタムトランザクション (ERP ルート) に基づいてアプリケーションを作成するために使用できる推奨リモートテーブルのグループです。従来の ERP SoR 上に存在する既存のアプリケーションを候補にすることもできます。

現在、再プラットフォーム化の良い候補は、SoR からデータを使用する小さなアプリケーションである傾向があります。

候補スコア

スコアは、カスタムアプリケーション (ERP ルート) が ERP Customization Mining のリモートテーブルにどの程度適合するかを示す測定基準です。

接続および認証情報エイリアス

認証情報エイリアスは、ServiceNow 認証情報エイリアスで管理されているシステム接続アクセスの実現要因です。認証情報エイリアスは、ERP SoR へのアクセスに使用されます。

カスタムフィールド

カスタムフィールドは、顧客がテーブルに追加する値です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティ

ERP 統合 が SoR の読み取りまたは更新に使用するテーブルまたはビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス (BAPI) 関数呼び出し。

ERP アプリケーション

ERP Customization Mining を使用して再プラットフォーム化するために選択する ERP (エンタープライズリソースプランニング) カスタムアプリケーションは、ERP システムの ERP ルートです。

ERP モデル

ERP モデルは、特定のビジネスプロセスまたはアクティビティに対応するように調整された独自の機能セットを表します。ERP モデルには、SoR の複数のテーブルと、API および ETL プロセスが含まれ、全体的なデータセットを作成します。たとえば、受注用の ERP システムとインベントリ用の別の ERP システムを使用できます。

ERP モジュール

ERP システムの機能的なビジネスエリア。ERP ルートでは、1 つのビジネスエリアのみを選択できます。

ERP システム

ERP システムは、ERP SoR のセクションへの接続を表します。 このシステムが、データの同期、共有、およびコラボレーションにおいて重要な役目を果たし、ERP モデルおよびそれとつながった ERP システムの間のシームレスな統合と運用を実現します。

ERP テーブル

ERP システムの個々のテーブル (カスタムテーブルと標準テーブルの両方) は、リモートテーブルの一部です。たとえば、営業では、ERP テーブルに VBAK、VBAP、VBFA、VBPA、VBEP、MKPF、または MSEG を含めることができます。

抽出テーブル

抽出テーブルは、スケジュール済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

マッピングされた値

ERP 統合 の操作パラメーターとしてマッピングされている ERP システム上のフィールドの値。

操作

SoR の読み取りまたは更新のために実行される個々のメンテナンスタスク。

リモートテーブル

リモートテーブルは、1 つのテーブルに収集されたときに値を提供する SoR のテーブルの集計です。リモートテーブルは、ERP モデルの基盤です。候補は複数のリモートテーブルで構成できます。

SoR

ERP SoR とは、データが格納されており、たとえば SAP などからデータを配布する場所です。

ERP Customization Mining (ECM)

ServiceNow® ERP Customization Mining (ECM) 製品を使用すると、ソリューション統合コンサルタントは、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システム内のカスタマイズされたコードを使用してアプリケーション候補を見つけることができます。ECM は、Now Platform に再プラットフォーム化する候補の適合性をランク付けします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP Customization Mining と App Engine

ERP 統合および ERP Customization Mining (ECM) は、ServiceNow の ERP 製品向け App Engine です。これらは、企業による従来のコードの最新化とオーケストレーションを支援し、SAP などの既存の SoR では不十分なプロセスと統合を補完します。ERP 統合 と ECM を併用することで、従来の ERP システムのデータを使用して、Now Platform でのアプリケーションのビルドを迅速かつ簡単に行うことができます。

再プラットフォーム化は、従来の ERP システムコードをスキャンして、新しいアプリとして Now Platform インスタンスに移行する潜在的な候補を見つけるプロセスです。ERP システムからのデータを、Now Platform 上にビルドされたアプリのソースとして使用し、パフォーマンスの向上、 セキュリティの強化、メンテナンスの削減を実現できます。

レガシーコードの再プラットフォーム化により、レガシーシステムの知識がなくても SoR 上で迅速なイノベーションが可能になります。これにより、データベースアドミニストレーターと開発者は、SoR でデータベースビューやエンドポイントを作成するという時間のかかる作業から解放され、移行などの他のプロジェクトに取り組むことができます。

詳細

ERP Customization Mining の概念と機能について学びます。

構成

ECM 接続をインストールして構成します。

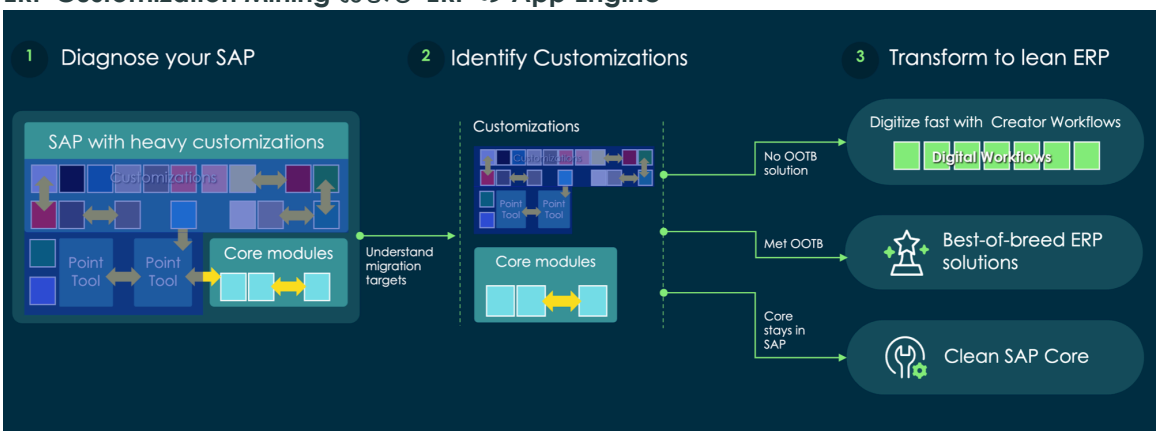
作業

ECM を使用して再プラットフォーム化の候補を特定します。

参照

テーブル、用語などの ECM コンポーネントの詳細情報を取得します。

ERP Customization Mining および ERP の App Engine



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP Customization Mining の学習リソース

ERP Customization Mining に関する詳細	ServiceNow のリソース
ERP Customization Mining には、始めるためのトレーニングと学習リソースが多数あります。	Partner Essentials：Clean Core for App Engine (App Engine のクリーンコア)
	ERP Customization Mining Overview (ERP Customization Mining の概要)
	ERP Clean Core with App Engine Overview (ERP クリーンコアと App Engine の概要)
	Get to a clean ERP core with ServiceNow ERP Customization Mining (ServiceNow ERP Customization Mining でクリーンな ERP コアを実現)

ストアで ERP Customization Mining を要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

ECM を使用する前に、まず ServiceNow Store から ECM をダウンロードする必要があります。ダウンロードが完了したら、ECM がインスタンスに表示される前にローカルキャッシュのクリアが必要な場合があります。

ECM をダウンロードしたら、インスタンスにインストールします。詳細については、「ERP Customization Mining のインストール」を参照してください。

ERP Customization Mining のヘルプ

ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください。

会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP Customization Mining の詳細

ERP Customization Mining (ECM) では、再プラットフォーム化の候補を特定できます。これらの候補は、迅速な再プラットフォーム化を必要とする、従来の ERP (エンタープライズリソースプランニング) システム上にビルドされたカスタムアプリケーションです。

ECM で再プラットフォーム化する候補の特定

従来の ERP システムには、メンテナンスが困難になったカスタムフィールドを含む古いテーブルが含まれている場合があります。ERP 統合 と ECM を使用して、カスタムフィールドを持つ候補を特定し、リモートテーブルまたは抽出テーブルとしてインスタンスに抽出します。そうすることで、ローコード開発者は、従来の ERP フィールドを App Engine Studio などの Now Platform でビルドされたアプリのデータソースとして使用し、再プラットフォーム化できるようになります。

リモートテーブルと抽出テーブルを組み合わせて使用すると、従来の ERP システムからデータを取得できます。

- リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。
- 抽出テーブルは、スケジュール済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

再プラットフォーム化は、従来の ERP システムコードをスキャンして、新しいアプリとして Now Platform インスタンスに移行する潜在的な候補を見つけるプロセスです。ERP システムからのデータを、Now Platform 上にビルドされたアプリのソースとして使用し、パフォーマンスの向上、 セキュリティの強化、メンテナンスの削減を実現できます。

再プラットフォーム化する ERP 候補が見つかると、ECM は次のアクションや類似の候補を提案します。 ECM は、アドミニストレーターが ERP 統合 で構成する ERP モジュールまたは機能領域をサポートしています。モジュールの例としては、経理、調達、営業などがあります。詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルのビルドと管理」を参照してください。

再プラットフォーム化されたデータはすぐに利用でき、管理しやすいテーブルやアプリに反映されます。ユーザーはデータベースアドミニストレーターに情報を要求して数週間待つ必要がなくなります。 再プラットフォーム化されたアプリは、ERP SoR をライブデータソースとして使用します。

カスタマイズされた ERP アプリケーションを再プラットフォーム化するためのワークフロー

ソリューション統合コンサルタントは、ERP Customization Mining (ECM) を使用して、Now Platform の SoR からのカスタムコードで従来の ERP データを再プラットフォーム化するために、次のワークフローを実行します。

1. 顧客と面談し、顧客の ERP SoR で ERP Customization Mining を使用して分析を実行することに同意します。
2. ERP 統合 を使用して、顧客の ERP SoR を ServiceNow インスタンスに接続します。

   > **注:** ほとんどの顧客は独自のインスタンスを持っています。

   ECM は、ERP 統合 で構成されたシステム接続を使用します。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの操作」を参照してください。

3. ERP 統合 を使用して、利用可能なリモートテーブルのフィールドから ERP モデルをビルドします。詳細は、以下のトピックを参照してください。
   - ERP データを操作する ERP モデルのビルドと管理
   - ERP 統合 での ERP リモートテーブルの使用

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. ERP Customization Mining を実行して候補を検索します。候補は、ServiceNow アプリで置き換えることができる、SoR 内のカスタムコードです。詳細については、「ECM で候補の概要を参照する」を参照してください。
5. 再プラットフォーム化する候補を選択します。詳細については、「再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存」を参照してください。
6. ECM 内の候補の詳細を、候補に関連するコメントを入力して添付ファイルを保存する中心的な場所として使用します。詳細については、「ECM で候補の詳細を表示して操作する」を参照してください。
7. 候補の詳細で、再プラットフォーム化された単一アプリに結合できる類似の候補を特定します。詳細については、「ECM による再プラットフォーム化候補のスコアと可能性の決定方法」を参照してください 。
8. ERP 統合 に戻って、リモートテーブルと抽出テーブルを使用してデータモデルのビルドを続行します。必要なすべてのデータが Now Platform で利用可能であることを確認します。詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルのビルドと管理」を参照してください。
9. App Engine Studio (AES) または別の ServiceNow アプリケーションで、再プラットフォーム化されたデータをソースとして使用してスコープ対象アプリをビルドします。詳細については、「App Engine Studio を使用したアプリのビルド」を参照してください。
10. お好みの分析ツールで適用可能なメトリクスとパラメーターを使用して、新しいアプリのパフォーマンスを測定および監視します。

ECM のメリット

ERP 統合 のメリット

メリット	機能	ロール
ERP アドミンの介入を待たずに、カスタムコードを使用して迅速に候補を特定し、再プラットフォーム化します。	再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存	sn_erp_mining.erp_admin、sn_erp_mining.erp
再プラットフォーム化の次の手順とアクションの提案を表示します。	ECM で候補の推奨事項を確認する	sn_erp_mining.erp_admin、sn_erp_mining.erp
選択した候補を保存してリストにまとめます。	再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存	sn_erp_mining.erp_admin、sn_erp_mining.erp

ECM のその他のリソース

ECM に関する詳細	ServiceNow リソース
ソリューション統合コンサルタントは ECM を使用して、ERP システム内でカスタマイズされたコードを用いてアプリケーション候補を見つけることができます。	App Engine for ERP の概要：Now Learning 注: このリソースにアクセスするには、Now Learning にログインする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ECM に関する詳細	ServiceNow リソース
	ServiceNow コミュニティサイト ビデオ：ERP システムの可能性を最大限に引き出す

ECM でデータを抽出および処理する方法

ERP Customization Mining (ECM) は、エクストラクターを使用して ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムからデータを取得し、Now Platform でデータが使用可能になる前に処理します。

SAP エクストラクターを使用して ERP データソースを分析し、構文を検証します。次のエクストラクターを使用して、ERP システムからデータを取得できます。

- APPstats
- COMPHIER
- SQLM

サポートされているすべてのエクストラクターは、Now Platform テーブルを使用してデータを処理します。

SAP データエクストラクター

エクストラクター	フルネーム	説明	Now Platform の処理テーブル	入力される Now Platform テーブル
APPstats	アプリケーション統計情報	ERP アプリケーションからシステムレベルの統計情報とパフォーマンスメトリクスを収集して分析します。	sn_erp_mining_erp_application_stg sn_erp_mining_erp_user_stg	sn_erp_mining_erp_application sn_erp_mining_erp_user
COMPHIER	コンポーネント階層	ビジネスプロセスやモジュール構成など、SAP のさまざまなコンポーネント間の階層と関係を分析します。	sn_erp_mining_erp_component_stg sn_erp_mining_erp_component_stg	sn_erp_mining_erp_application sn_erp_mining_erp_module
SQLM	SQL モニター	実行中の ABAP アプリケーションによって実行されるすべての SQL ステートメントおよび操作	sn_erp_mining_erp_sql_stg sn_erp_mining_erp_sql_stg	sn_erp_mining_erp_application sn_erp_mining_erp_table sn_erp_mining_erp_application_t

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SAP データエクストラクター (続く)

エクストラクター	フルネーム	説明	**Now Platform** の処理テーブル	入力される **Now Platform** テーブル
		の監視を有効にします。SQLM によって収集されたデータは、実行されたすべてのデータベース操作について集計されたパフォーマンスインジケーター (実行回数、実行時間、影響を受けた行数など) を提供します。		sn_erp_mining_erp_application_u

ECM による再プラットフォーム化候補のスコアと可能性の決定方法

ERP Customization Mining (ECM) は、従来の ERP (エンタープライズリソースプランニング) 候補の Now Platform への再プラットフォーム化の可能性をランク付けするスコアを生成します。

すべての候補は、候補の詳細で指定された ERP モジュールを ECM に持っています。ERP モジュールは、再プラットフォーム化の候補の潜在的なスコア、およびモデルに含まれるリモートテーブルと抽出テーブルを評価するために使用されます。

- リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。
- 抽出テーブルは、スケジュール済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

注:

アドミニストレーターは、最初に ERP 統合 で ERP システムへの接続を構成する必要があります。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの操作」を参照してください。

候補の潜在的能力に対する高スコアと低スコア

ECM は、テーブルとフィールドが Now Platform でどの程度サポートされているかに基づいて候補を評価します。

- 「可能性が高い」ということは、追加の変更を加えることなく、アプリケーション候補の ERP モデルに一致するリモートテーブルと抽出テーブルをすぐに使用できることを示します ECM 。
- 「可能性が低い」ということは、アプリケーション候補が ERP 統合 の ERP モデルのリモートテーブルや抽出テーブルとあまり一致しないことを示します。

スコアの計算方法

候補の潜在的なスコアは、次のメトリクスを使用して計算されます。

- ERP モデル：候補がリモートテーブルと抽出テーブルを使用する ERP モデルの数。
- 類似の候補：テーブルベースの類似性とモデルベースの類似性の両方を考慮に入れた上で、しきい値を超える類似スコアを持つ候補の数。

  しきい値はシステムプロパティ [sys_properties] テーブルで調整でき、デフォルトの `OR` 条件は `AND` に変更できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- サポートされているテーブルのスコア：ERP モデルでサポートされているカスタムアプリテーブルの数と、カスタムアプリテーブルの数の比率。

  注: テクニカルまたは ServiceNow のテーブルクラスターに属するテーブルは、これらの計算から無視されます。

- サポートされているテーブルの使用率：カスタムアプリで使用されている、関連する ERP モデルでサポートされているテーブルの比率。
- サポートされていないモデルのペナルティ：ERP モデルのテーブルでサポートされていない操作の数に対するペナルティ。サポートされていない操作の数はシグモイド関数を介して渡されるため、範囲は 0.0 ～ 1.0 になります。
- サポートされていないテーブル拡張：モデル拡張としても提案されているカスタムアプリテーブルの数。
- モデルの不正確さ：関連する ERP モデルでサポートされているテーブルの中で、カスタムアプリで使用されず、シグモイド関数を介して渡されるテーブルの数。

ECM と ERP 統合 およびリモートテーブルとの連携の仕組み

ERP 統合 を使用すると、ERP (エンタープライズリソースプランニング) SoR に接続し、そのデータを整理できます。

ERP 統合 を使用して、リモートテーブルと ERP 抽出テーブルの標準フィールドにアクセスできますが、 ERP Customization Mining (ECM) を使用すると、SoR から Now Platform への再プラットフォーム化に適した候補を見つけることができます。

ECM は、候補と可能な次のステップ (ERP データにアクセスするためのリモートテーブルや抽出テーブルの更新など) を提案します。リモートテーブルは、データを添付ファイルとして ServiceNow インスタンスに送信します。このデータは、AI/ML を使用して分析され、再プラットフォーム化する類似の候補が特定されます。

再プラットフォーム化する候補を特定し、ECM で推奨されるアクションを実行したら、リモートテーブルと抽出テーブルにアクセスするために ERP 統合 のみ使用する必要があります。これらのテーブルは、アプリ、フロー、およびワークスペースを構築するためのデータソースです。

ERP 統合 および ECM でのリモートテーブルと抽出テーブルの使用

リモートテーブルと抽出テーブルを組み合わせて使用すると、従来の ERP システムからデータを取得できます。

- リモートテーブルは、外部データソースに対して関連スクリプトを実行することでレコードを取得します。
- 抽出テーブルは、スケジュール済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

リモートテーブルは、SoR のような、外部ソースから取得するデータのスキーマを記述します。Now Platform をサードパーティソースまたは別のインスタンスに接続して、外部データを取得して必要に応じてメモリにキャッシュできるようにします。リストまたはフォームで外部データを表示して、標準の Glide スクリプトで処理することができます。また、標準の内部テーブルの場合と同様に、データをグループ化、ソート、集計、フィルタリングできます。

リモートテーブルを使用すると、外部ソースから、または REST サービスあるいは SOAP サービスを使用して別のインスタンスからデータを取得できます。外部データは読み取り専用モードでメモリ内に存在するため、Now Platform 内でデータは一時的なものになります。外部データをインポートしたり保存したりすることなく、外部データを表示および操作できます。詳細については、「リモートテーブル」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

大量の ERP データを処理するには、抽出テーブルを使用します。ERP 抽出テーブルは、Now Platform 上のローカル変換テーブルに定期的にデータを保存し、それを処理して、再プラットフォーム化されたアプリのデータ基盤として使用できます。

ECM の推奨事項と類似の候補

ERP Customization Mining (ECM) の各候補のレコードには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリの再プラットフォーム化に役立つ、推奨される次の手順や類似の候補に関する情報が表示されます。

候補に関する推奨アクション

候補を表示すると、ECM に推奨アクションまたは次のステップの数が表示されます。 候補の詳細には [推奨事項] タブもあり、提案されたアクションを表示し、それらを選択して関連するアプリを Now Platform で開くことができます。

たとえば、ある候補のワークフローを フローデザイナー で作成し、別の候補の統合スポークを更新し、3 番目の候補の抽出テーブルまたはリモートテーブルを読み取る必要がある場合があります。

推奨アクションにはそれぞれ工数概算があります。これは、Now Platform にどの程度一致している機能があるか評価する数値スコアです。緑のアクションはほとんどまたはまったく労力を必要としませんが、赤いアクションはより困難です。

推奨アクションの詳細については、「ECM で候補の推奨事項を確認する」を参照してください。

候補の詳細での類似の候補

ECM は各候補の [類似の候補 **(Similar candidates)**] タブを表示し、それぞれの類似の候補、2 つの候補の関連性を表す数値スコア、他の類似の候補へのリンクを一覧表示します。

同様の候補は、従来のアプリを最適に再プラットフォーム化する方法を計画するときに役立ちます。SoR からカスタムアプリを再プラットフォーム化する場合、古いアプリを正確に複製する必要はありません。再プラットフォーム化プロセスを使用して、より良いアプリを設計します。おそらく、Now Platform でローコードツールを使用してビルドされた単一の新しいアプリで、複数の類似の候補のニーズに対応するアプリです。

ECM でアプリを ServiceNow に再プラットフォーム化する場合の次の手順

ERP Customization Mining (ECM) を使用して従来の ERP (エンタープライズリソースプランニング) の候補を特定したら、Now Platform のその他の製品とリソースを使用してアプリを再プラットフォーム化します。

まず、ECM を使用して ERP システムから再プラットフォーム化するカスタマイズを特定します。

次に、候補のマイニング結果でリンクされているリモートテーブルと抽出テーブルを使用して、ERP データに迅速にアクセスします。

この ERP データは、App Engine Studio などで Now Platform に新しいアプリをビルドするときにデータソースとして使用できます。

ERP データを使用する ServiceNow アプリのビルド

App Engine for ERP (エンタープライズリソースプランニング) による再プラットフォーム化の次のステップは、ERP データを使用するアプリを Now Platform にビルドすることです。

従来のアプリを Now Platform 上に再プラットフォーム化する場合は、データの取得元を考慮して行ってください。 たとえば、古いアプリでは、サードパーティのデータを SoR に取得する場合があります。再プラットフォーム化された新しいアプリを Now Platform 上に構築する際に、ERP 統合モデルで、ERP システムからデータをプルするのではなく、そのサードパーティから直接プルするように新しいアプリを構成できます。そうすることで、取得対象のステップを追加できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリを再プラットフォーム化する際に類似の候補を使用する

ECM が候補に類似の候補が多数あることを示している場合は、プラットフォームを再構築するときに、類似の候補の一部またはすべてのニーズを満たす 1 つのアプリを構築することを検討してください。

SoR からカスタムアプリを再プラットフォーム化する場合、古いアプリを正確に複製する必要はありません。再プラットフォーム化プロセスを使用して、より良いアプリを設計します。おそらく、Now Platform でローコードツールを使用してビルドされた単一の新しいアプリで、複数の類似の候補のニーズに対応するアプリです。 App Engine Studio は最も簡単に使用できるアプリですが、ライセンスに応じて他のビルダーも利用できます。

ServiceNow ローコードおよびプロコードビルダー

再プラットフォーム化する ERP データを特定すると、市民開発者は ServiceNow ビルダーを使用してデータから迅速にアプリを作成できます。SAP などの ERP SoR に存在するカスタムフィールドは、Now Platform を使用してビルドするアプリで活用できます。市民開発の詳細については、「委託開発と展開」を参照してください。

カスタムデータを使用してアプリを作成するには、次の ServiceNow ビルダーのいずれかを使用します。

- App Engine Studio
- フロー - ワークフロースタジオ
- のプレイブックワークフロースタジオ
- テーブルビルダー
- UI ビルダー
- ワークスペースビルダー

たとえば AES では、テンプレートを使用し (またはアプリをゼロからビルドし)、ERP モデルとリモートテーブルを使用してリモートテーブルを組み込みます。ERP モデルおよびリモートテーブルの従来のデータを、テーブル内の他の ServiceNow データと組み合わせることができます。

Glide を使用した ERP データのクエリ

Glide API を介して SoR からデータにアクセスすることもできます。

Gilde クエリの例については、「ERP Customization Mining での ERP データに対するサンプルの Glide クエリ」を参照してください 。

カスタムコードを ServiceNow アプリに再プラットフォーム化した後

Now Platform の再プラットフォーム化されたアプリは、コードを書き戻すことなく、SoR のライブデータを使用します。

再プラットフォーム化する候補を特定し、ECM で推奨されるアクションを実行したら、リモートテーブルと抽出テーブルにアクセスするために ERP 統合 のみ使用する必要があります。これらのテーブルは、アプリ、フロー、およびワークスペースを構築するためのデータソースです。

SoR の従来のコードが他のどこでも参照されていないことが確実な場合は、ServiceNow インスタンスに再プラットフォーム化した後にシステムから削除できます。

ERP Customization Mining の構成

ERP Customization Mining (ECM) を設定して、アプリが SoR をスキャンして再プラットフォーム化する候補を探せるようにします。アドミニストレーターは、ERP (エンタープライズリソースプラ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ンニング) 接続の健全性をすばやく確認して問題を調査したり、エラーに関連するナレッジ記事を表示したりすることもできます。

ERP Customization Mining をインストールする前に、ERP 統合 をインストールし、接続と ERP データモデルを構成する必要があります。

サーバーの要件

認証情報には、次の S_RFC SAP 認証オブジェクトを必要とする SoR の SAP サービスタイプのユーザーアカウントを使用します。

- RFC_TYPE = FUGR, FUNC
- RFC_NAME = SAPWL_WORKLOAD_GET_STATISTIC, SQLM_API_GET_NEXT_DATA_PACKAGE, SWNC_COLLECTOR_GET_AGGREGATES, SWNC_COLLECTOR_GET_DIRECTORY
- ACTVT = 16

ERP 統合 には追加の認証が必要です。詳細については、「ERP 統合 の構成」を参照してください。

注: ERP 統合 接続に指定する認証情報は、SoR のサービスユーザー認証情報と一致する必要があります。

利用可能な接続のタイプと数

ERP 統合 および ECM は現在、ECC および S/4HANA SAP システムをサポートしています。

注: ECM をインストールするたびに、システムが 10 個まで追加可能になります。ただし ECM は、一度に 1 つのライブ ERP システムにのみ接続できます。

ECM をインストールして構成する前に、ERP 統合 をインストールして認証情報を追加する必要があります。詳細については、「ERP 統合 の認証情報と接続の構成」を参照してください。

ServiceNow インスタンスごとに保持できる ERP 接続の数は、ライセンスによって異なります。ECM ライセンスをお持ちの場合は、インスタンスごとに 1 つの接続を取得します。

接続情報と認証情報 の詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

ERP Customization Mining のプラグイン

次のプラグインをインストールする必要があります。

ECM のプラグイン

プラグイン	フルネーム	依存関係
ERP 統合	com.snc.sn_erp_integration	com.glide.script.vtable
ERP Customization Mining	com.snc.uib.sn_erp_mining	• com.snc.sn_erp_integration • com.glide.platform_ml

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SAP を ECM 用に構成する

ERP Customization Mining (ECM) をインストールする前に、本番システムで SQLM (SQL モニター) を有効にし、日次作業負荷の ST03 (作業負荷モニター) が収集されていることを確認します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
⚠ 警告: 本手順の SAP 構成を実行せず、SAP にデータがない場合、ECM は機能しません。

手順
1. SAP システムで SQLM を有効にして、本番環境から SQLM 情報を収集します。
   a. 本番システムで、トランザクション SQLM を開始します。
      詳細については、「SAP SQL Monitor documentation (SAP SQL モニタードキュメント)」を参照してください。
   b. [アクティブ化ステータス **(Activation state)**] フィールドが [グローバルにアクティブ **(Globally active)**] に設定されていることを確認します。
   c. SQLM がアクティブでない場合は、トランザクション SQLM を再度開始します。
   d. **[SQL** モニター] > [設定] > [全般設定]に移動します。
   e. **[Delete Older Than [Days]**([日] より古いものを削除)] オプションが最小の `365` 日に設定されていることを確認し、[確認] を選択します。
   f. [すべてのサーバー] を選択して、設定を有効にします。
2. 本番環境から毎日の作業負荷の ST03 が収集されていることを確認します。
   a. 本番システムで、トランザクション ST03 を開始します。
   b. [作業負荷データ **(Workload data)**] フィールドが [日次 **(Daily)**] に設定されていることを確認します。

ERP Customization Mining のインストール

ServiceNow Store からのアドミンロールを持っている場合は、ERP Customization Mining (ECM) アプリケーション (sn_erp_mining) をインストールします。

始める前に
次のことを行う必要があります。

- アプリケーションをインストールする前に、ライセンスを持ち、ECM のエンタイトルメントを取得してください。

  詳細については、「ライセンス」を参照してください。
- ERP 統合 をインストールします。アプリケーションを使用して、SoR および ERP (エンタープライズリソースプランニング) データモデルへの接続を構成します。
- ECM をインストールする前に、JCO コネクタを構成します。詳細については、SAP のドキュメントを参照してください。

次のプラグインが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

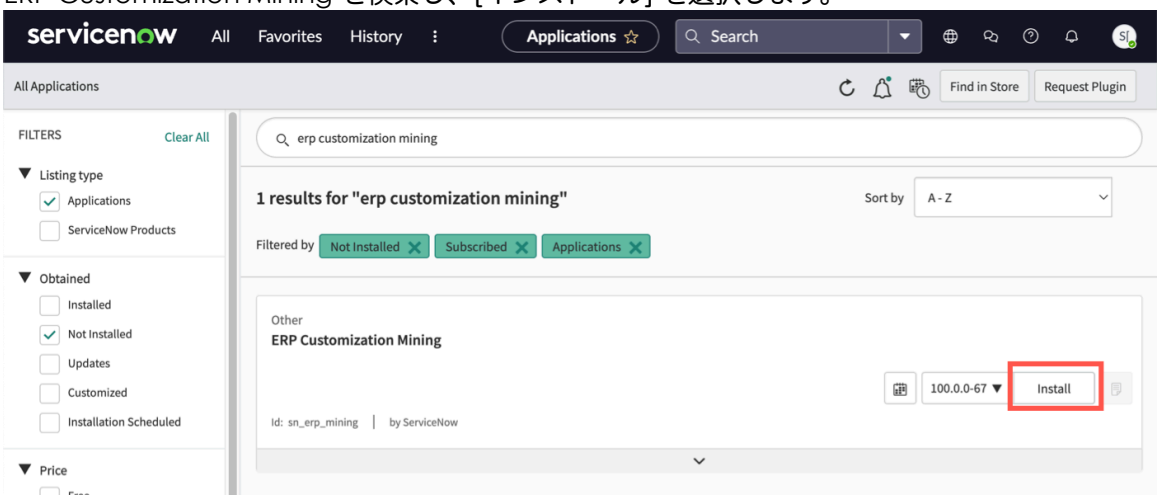
- ERP 統合
- 予測インテリジェンス

必要なロール：admin

このタスクについて

手順

1. ServiceNow Store で、製品と依存アプリケーションに対するエンタイトルメント (またはライセンス) があることを確認します。
   インスタンスのホームページで [インストールするアプリをレビュー] を選択してストアにアクセスできます。
2. ERP Customization Mining を検索し、[インストール] を選択します。



3. オプション: [デモデータのロード] を選択して、アプリでデモデータを作成します。
4. [インストール] を選択して、ECM のインストールを確認します。

タスクの結果
これでインストールは完了です。[終了 **(Close)]** を選択し、ServiceNow Store に戻ります 。

次のタスク
ECM をインストールすると、接続された SoR からの ERP データが ERP 統合 の ERP 抽出テーブル (ERP アプリケーションアクティビティ、コレクターディレクトリデータ、名前空間データなど) に入力されます。その後、抽出されたデータを ERP データモデルとリモートテーブルに組み込んで、ServiceNow でアプリをビルドするときにデータソースとして使用できます。詳細は、以下のトピックを参照してください。

- ERP 抽出テーブルの表示
- ERP 統合 の標準 ERP モデルと抽出テーブル

ERP Customization Mining の ガイド付きセットアップ を実行する

ガイド付きセットアップ を実行して ERP Customization Mining (ECM) を構成します。

始める前に
まず、ServiceNow Store から ECM をダウンロードしてインストールする必要があります。

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_mining.erp_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

ガイド付きセットアップ の使用に関する詳細については、ガイド付きセットアップ を参照してください。

または、ガイド付きセットアップ を使用することなく行うこともできます。詳細については、「新しい ERP Customization Mining 接続の設定」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[ERP Customization Mining]** > **[ERP Customization Mining** ガイド付きセットアップ**]** に移動します。
2. **[ERP** データハブを構成 **(Configure ERP Data Hub)]**を選択して、ERP 統合 の ガイド付きセットアップ を完了します。

   ERP 統合 は ECM がシステムに接続するために必要です 。

   手順に従って ERP 統合 を構成し、[続行 **(Continue)]** を選択します。詳細については、「ERP 統合 の ガイド付きセットアップ を実行する」を参照してください。

3. ERP Customization Mining を ERP システムに接続します 。
   a. [接続する **ERP** システムの選択 **(Select the ERP system to connect)]** を選択し、手順に従って [続行 **(Continue)]** を選択します。
   b. [接続状態の検証 **(Validate the connection status)]** を選択し、手順に従って [続行 **(Continue)]** を選択します。

新しい **ERP Customization Mining** 接続の設定

ERP Customization Mining (ECM) の 接続情報と認証情報 エイリアスを指定し、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムに接続します。

始める前に

ECM をインストールして構成する前に、ERP 統合 をインストールして認証情報を追加する必要があります。詳細については、「ERP 統合 の認証情報と接続の構成」を参照してください。

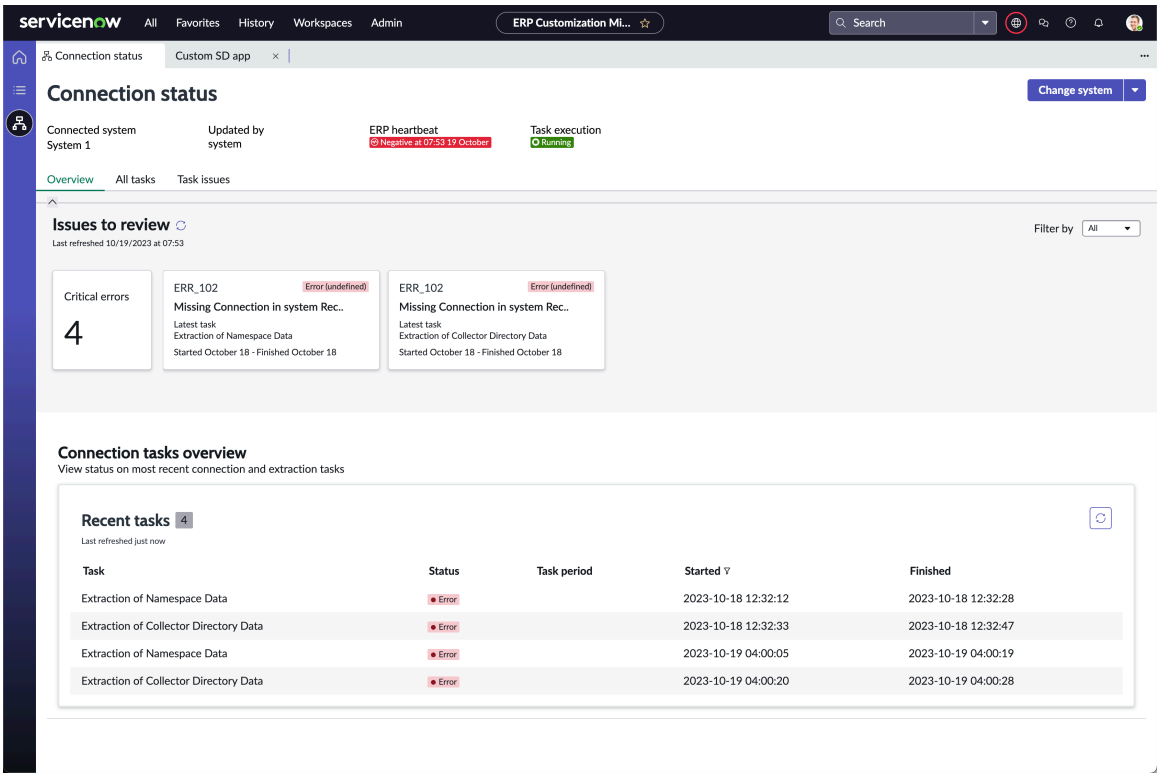
必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_mining.erp_admin

手順

1. [すべて] > **[ERP** 基盤 **(ERP Foundation)]** > **[ERP Customization Mining]**に移動します。
2. サイドパネルで接続ステータスアイコン ( ) を選択します。
3. [接続を選択] ボタンを選択します。
   すでにシステム接続を構成していて、別の接続と資格情報を使用したい場合は、「ECM 接続の更新」を参照してください。
4. [接続および資格情報エイリアス] ボックスで、ERP 統合 で構成した認証情報を [接続および資格情報エイリアスの選択] フィールドから選択します。
5. [接続] を選択します。
   ECM は接続からデータの抽出を開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 各 [リフレッシュ] アイコン ( ) を選択し、[レビューすべき問題] リストと [Executed tasks (実行済みタスク)] リストをリフレッシュします。



次のタスク

システムが接続されたら、[接続ステータス] ページでいつでも接続ステータスを確認し、エラーを調査できます。詳細については、「ERP Customization Mining のデータリフレッシュステータスの確認とトラブルシューティング」を参照してください。

ECM 接続の更新

ERP Customization Mining (ECM) の 接続情報と認証情報 エイリアスを更新し、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムへの接続を変更します。たとえば、非本番システムから本番システムに変更する場合があります。

始める前に

ECM をインストールして構成する前に、ERP 統合 をインストールして認証情報を追加する必要があります。詳細については、「ERP 統合 の認証情報と接続の構成」を参照してください。

必要なロール：sn_erp_integration.erp_admin、sn_erp_mining.erp_admin

このタスクについて

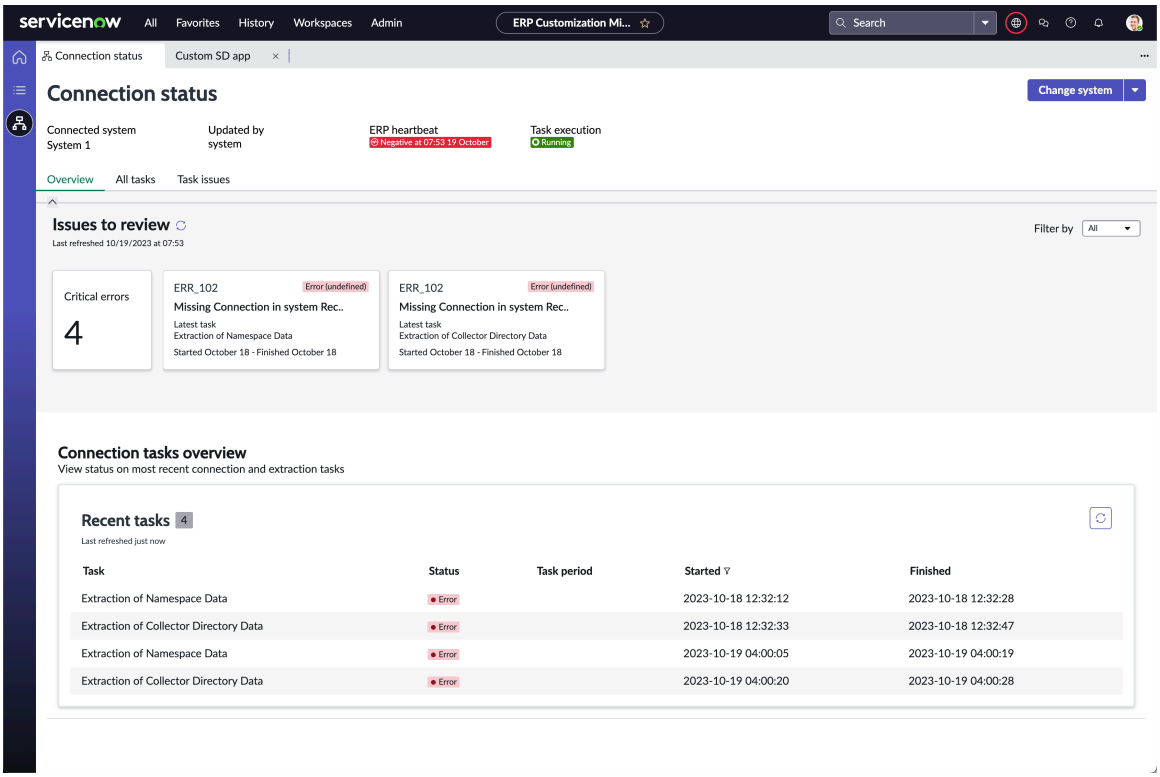
⚠ **警告:** システムおよび認証情報エイリアスを変更すると、ECM ワークスペース内の既存のデータがすべて削除され、データ統合プロセスが再開されます。

手順

1. [すべて] > **[ERP 基盤 (ERP Foundation)]** > **[ERP Customization Mining]**に移動します。
2. サイドパネルで接続ステータスアイコン ( ) を選択します。
3. [システムの変更] ボタンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [システムの変更とデータの削除] ボックスで、[変更するシステムを選択] フィールドから ERP 統合で構成した接続を選択します。
5. [はい、システムを変更してデータを削除します] オプションを選択して、選択を確定します。
6. [データを変更して削除 **(Change and delete data)]** ボタンを選択します。
   ECM で現在のデータの削除が開始され、データ統合プロセスが再開されます。
7. 各 [リフレッシュ] アイコン ( ) を選択し、[レビューすべき問題] リストと [Executed tasks (実行済みタスク)] リストをリフレッシュします。



次のタスク
システムが接続されたら、[接続ステータス] ページでいつでも接続ステータスを確認し、エラーを調査できます。詳細については、「ERP Customization Mining のデータリフレッシュステータスの確認とトラブルシューティング」を参照してください。

ERP Customization Mining のデータリフレッシュステータスの確認とトラブルシューティング

データリフレッシュステータスをチェックし、ERP Customization Mining (ECM) が最後に SoR から ERP (エンタープライズリソースプランニング) データをロードしたタイミングを確認します。

始める前に
必要なロール：sn_erp_mining.erp_admin、sn_erp_mining.erp_user

このタスクについて
Now Platform® が ERP SoR と同期されていることを確認するために、Now Platform は SoR から 24 時間ごとにデータを再ロードします。

接続タスクの成功と失敗について、メール通知を受信できます。詳細については、「ERP Customization Mining 接続の更新に関する通知を受け取る」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[ERP 基盤 (ERP Foundation)]** > **[ERP Customization Mining]**に移動します。
2. サイドパネルで接続ステータスアイコン ( ) を選択します。
   [概要] タブに、確認する必要がある接続問題の概要と、最新のアクティブな接続タスクのリストが表示されます。
3. [接続ステータス] ページのヘッダーで、最も重要な接続の詳細を確認します。

接続ステータスヘッダーの詳細

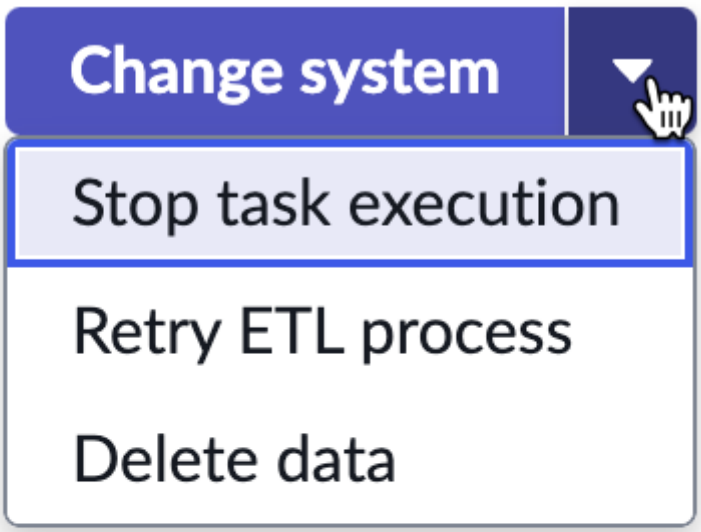
フィールド	定義
認証情報エイリアス	ERP 統合 で構成された接続資格情報のエイリアス。
更新者	接続資格情報を更新する最後のアカウントの名前。
ERP ハートビート	接続への ping が現在成功しているかどうかを示します。
タスク実行	Now Platform® が現在インスタンスへの接続を試行しているかどうかを示します。

4. オプション: 次のいずれかのタブを選択して、接続タスクの絞り込まれたサブセットを表示します。

タブ	説明
すべてのタスク	すべての接続タスクのログリスト。
タスクの問題	エラーまたは警告ステータスになっているすべての接続タスクのログリスト。

5. システム接続の問題をトラブルシューティングします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



Trouble?

- [システムの変更] ボタンを選択し、[タスク実行を停止] を選択して、タスクの実行を一時停止します。
- [システムの変更] ボタンを選択し、**[ETL** プロセスを再試行する] を選択して、ETL (抽出、変換、読み込み) プロセスを再開します。
- ECM のすべてのデータを削除して最初からやり直すには、[システムの変更] ボタンを選択し、[データを削除] を選択します。確認ダイアログで、[はい、データを削除します] オプションを選択し、[データを削除] ボタンを選択する必要があります。

> ⚠ **警告:** このアクションにより、ECM ワークスペース内の既存のデータがすべて削除され、データ統合プロセスが再開されます。

6. 各タスクの情報を表示し、タスクリストまでスクロールして必要なアクションを確認します。
フィールド値の説明については、「ECM のタスクリストフィールドの説明」を参照して ください。

   任意の列で、[その他のオプション] アイコン ( ) を選択して、[この値で絞り込み] や [除外] などの追加のアクションを実行できます。

7. オプション: エラーが発生しているオープンタスクのステータスを更新し、そのステータの変更を示します。
ECM でエラーを直接解決することはできませんが、[解決済み (Resolved)] または [該当なし (Irrelevant)] としてマークできます。

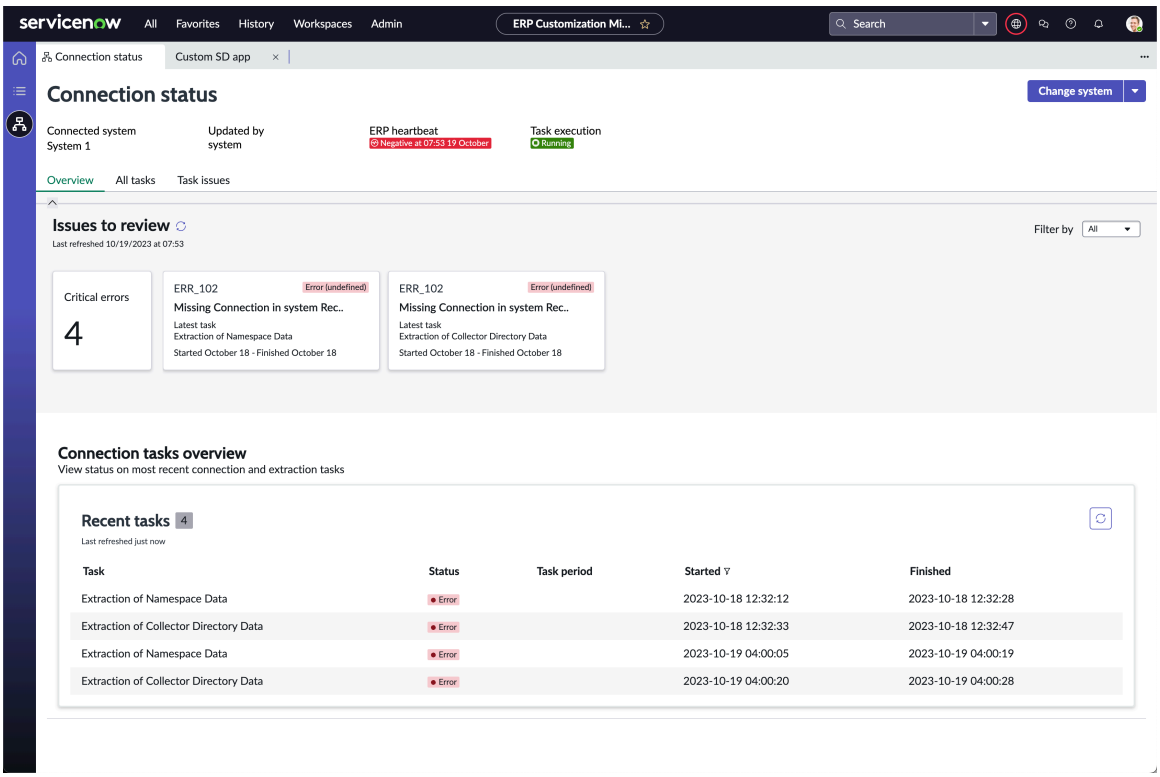
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [タスク] タブを選択します。

b. [タスク] タブで、更新するタスクを選択します。

c. タスクレコードの [ステータス] を [解決済み **(Resolved)]** または [該当なし **(Irrelevant)]** に更新します。

8. 各 [リフレッシュ] アイコン ( ) を選択し、[レビューすべき問題] リストと [Executed tasks (実行済みタスク)] リストをリフレッシュします。



ERP Customization Mining 接続の更新に関する通知を受け取る

ERP Customization Mining (ECM) は、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システム接続の成功と失敗に関するメールを送信できます。

成功と失敗に関する通知

ECM カスタマイズマイニングジョブは、再プラットフォーム化の候補を見つけるために実行します。通知を使用して、カスタマイズマイニングタスクが成功または失敗した場合にメールを受け取ることができます。

- 成功通知は、すべてのカスタマイズマイニングタスクがエラーなしで実行が完了したことを示します。
- 失敗通知は、1 つ以上のカスタマイズマイニングタスクがエラーステータスにあることを示します。

受信する通知メールには、カスタマイズマイニングジョブのレコードに移動するリンクが含まれています。[トレーニング進捗状況を表示する] 関連リンクを選択して、タスクの進捗状況を表示できます。そこに表示されるタスクは、[接続ステータス] ページの [概要] タブにある [接続タスクの概要] リストにも表示されます。その後、[接続タスクの概要] リストで、その日の [タスク期間] の値で [この値で絞り込み] を選択して、その日のすべてのタスクのステータスを表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メール通知の選択

通知メールはデフォルトでは有効になっていないため、Now Platform の設定で自身で構成する必要があります。通知の構成の詳細については、「ECM タスクの通知の構成」を参照してください。

ユーザーが自分で通知を設定するには、事前にアドミンがそのユーザーを ERP Customization Mining 通知グループに追加しておく必要があります。詳細については、「グループにユーザーを追加」を参照してください。

通知は [通知] テーブルにも表示

通知は [通知] テーブルに表示されます。このテーブルには、[すべて] > [システム通知] > [通知]に移動してアクセスできます。

通知を実行するフロー

ワークフロースタジオ の ECM 統計データエクストラクターフローが自動的に実行され、通知が有効になります。フローをアクティブ化するために何もする必要はありませんが、ワークフロースタジオでフローをカスタマイズできます。詳細については、「フローを編集する」を参照してください。

ECM タスクの通知の構成

通知を有効にして、ERP (エンタープライズリソースプランニング) SoR のマイニングジョブで ERP Customization Mining (ECM) が成功または失敗した場合に確認できます。

始める前に

ユーザーが自分で通知を設定するには、事前にアドミンがそのユーザーを ERP Customization Mining 通知グループに追加しておく必要があります。詳細については、「グループにユーザーを追加」を参照してください。

必要なロール：sn_erp_mining.erp_admin、sn_erp_mining.erp_user

このタスクについて

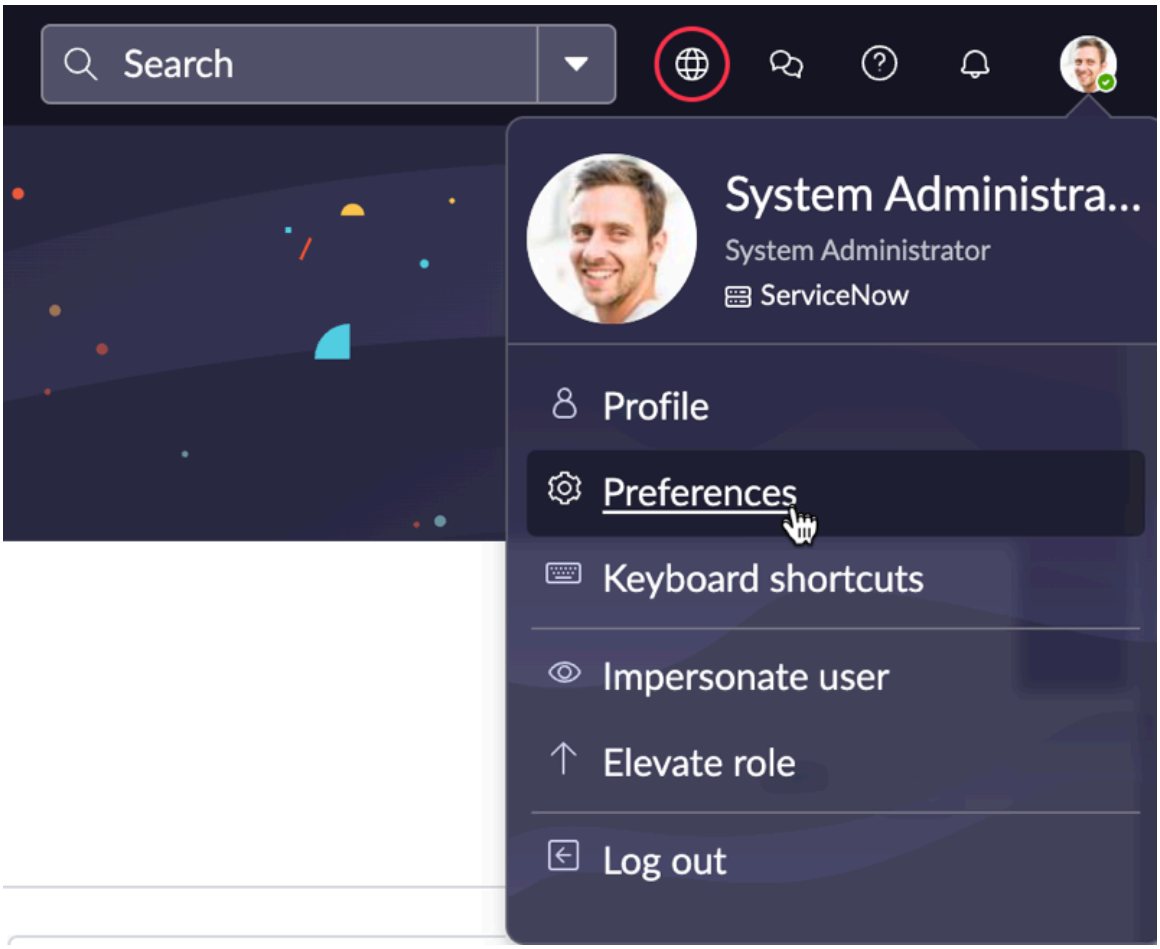
設定に関する一般的な情報については、「 ネクストエクスペリエンス のシステム通知とカスタム通知および配送チャネルの設定」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ユーザープロファイルから、[設定] に移動します。

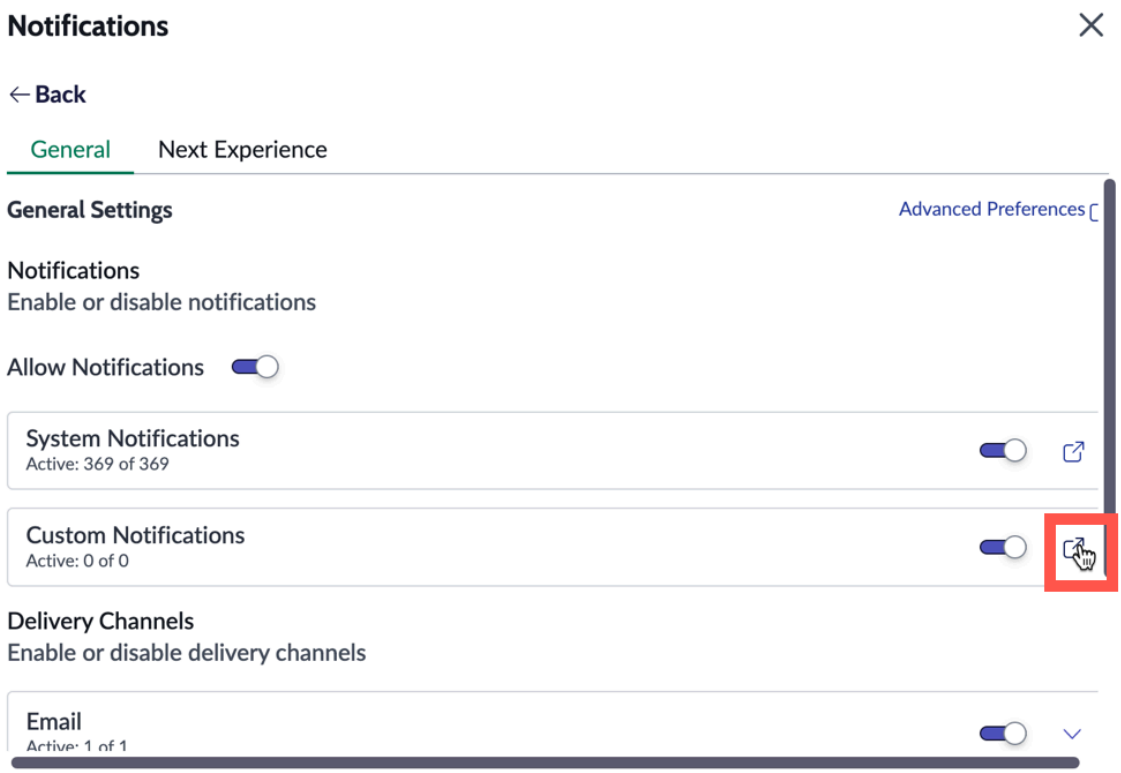
ユーザー設定を選択する



2. [通知] カードを選択します。
3. [全般] タブの [カスタム通知] の切り替えを有効にします。
4. [カスタム通知] の [新しいタブで開く] アイコンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタム通知を開く



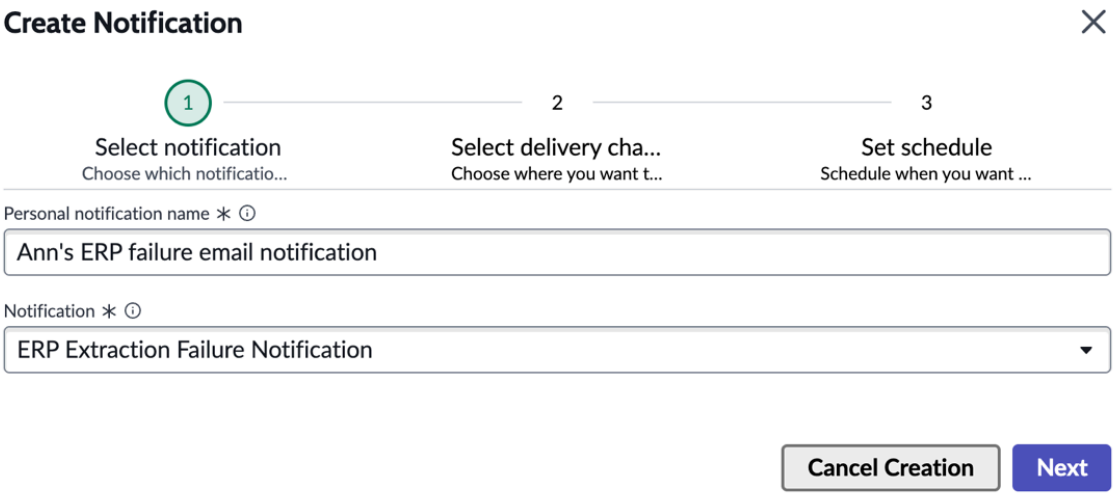
5. [通知を作成] ボタンを選択します。
6. [通知を作成] モーダルの [通知を選択] セクションで、通知の基本的な詳細を入力します。

基本通知フィールド

フィールド	説明
個人通知名	設定している通知のわかりやすい名前。たとえば、`Ann's ERP failure email notification` など。
通知	必要な通知を選択します。オプションは次のとおりです。 ◦ **[ERP 抽出完了通知 (ERP Extraction Completion Notification)]** ◦ **[ERP 抽出失敗通知 (ERP Extraction Failure Notification)]**

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通知モーダルを作成する



7. [次へ] ボタンをクリックします。
8. 配信チャネルを選択します。
   a. [メール] など、通知の方法を展開します。
   b. 通知を受信するメールアドレスの切り替えを有効にします。
      メールアドレスは、Now Platform ユーザーアカウントに既に関連付けられている必要があります。
   c. [次へ] ボタンをクリックします。
9. 通知の [スケジュール] を選択します。
10. [保存] ボタンを選択して、通知の設定を完了します。

タスクの結果

受信する通知メールには、カスタマイズマイニングジョブのレコードに移動するリンクが含まれています。[トレーニング進捗状況を表示する] 関連リンクを選択して、タスクの進捗状況を表示できます。そこに表示されるタスクは、[接続ステータス] ページの [概要] タブにある [接続タスクの概要] リストにも表示されます。その後、[接続タスクの概要] リストで、その日の [タスク期間] の値で [この値で絞り込み] を選択して、その日のすべてのタスクのステータスを表示できます。

ERP Customization Mining ロール

アドミニストレーターはロールをアサインし、ERP Customization Mining (ECM) を構成または使用する権限をチームメンバーに付与します。

重要: ユーザーに ECM ロールをアサインする場合は、 スコープを含める必要があります。たとえば、`erp_admin` ではなく、`sn_erp_mining.erp_admin` ロールを割り当てます。

ロールの割り当ての詳細については、「ユーザーへのロールのアサイン」を参照してください。

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「 サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ECM ロール

ロール	説明	追加アクセス
sn_erp_mining.erp_admin	アプリケーション設定を更新するためのアクセス権をユーザーに付与します。	sn_erp_mining.erp_user が含まれています。
sn_erp_mining.erp_user	ERP Customization Mining に必要なすべてのテーブルに対する読み取りアクセス権と、sn_erp_mining_app_candidate テーブルの一部のフィールドレベルの書き込みアクセス権を付与します。	次のロールが含まれています。 • sn_erp_integration.erp_data_pill • sn_erp_integration.erp_user

ECM とセキュリティ

ロールベースのセキュリティとアクセス制御に加えて、ERP Customization Mining (ECM) は他の方法で個人を特定できる ERP (エンタープライズリソースプランニング) データを保護します。

個人を特定できるデータは、ERP 統合 と ECM を使用していくつかの方法で保護されます。

- ERP モデルとリモートテーブルをカスタマイズして、メールアドレスなどの特定のフィールドの個人データを除外できます。
- すべてのリモートテーブルは、アクセス制御ルール (ACL) を使用して保護されます。機密データを含むリモートテーブルがある場合は、ACL を使用してそのテーブルを ServiceNow ユーザーから制限します。詳細については、「ServiceNow® アクセス制御」を参照してください。

再プラットフォーム化の候補を見つけて使用する

ERP Customization Mining (ECM) を使用して、再プラットフォーム化の対象となる潜在的な ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリ候補を特定します。

再プラットフォーム化は、従来の ERP システムコードをスキャンして、新しいアプリとして Now Platform インスタンスに移行する潜在的な候補を見つけるプロセスです。ERP システムからのデータを、Now Platform 上にビルドされたアプリのソースとして使用し、パフォーマンスの向上、 セキュリティの強化、メンテナンスの削減を実現できます。

ERP Customization Mining がアプリケーション候補を評価し、数値スコアを表示します。スコアが高いほど、候補が再プラットフォーム化に適しています。

- 「可能性が高い」ということは、追加の変更を加えることなく、アプリケーション候補の ERP モデルに一致するリモートテーブルと抽出テーブルをすぐに使用できることを示します ECM 。
- 「可能性が低い」ということは、アプリケーション候補が ERP 統合 の ERP モデルのリモートテーブルや抽出テーブルとあまり一致しないことを示します。

現在、再プラットフォーム化の良い候補は、SoR からデータを使用する小さなアプリケーションである傾向があります。

注:

ECM から候補を削除すると、次回 ERP システムがスキャンされたときに自動的に再表示されます。候補を削除する代わりに、[潜在的な候補として保存 **(Save as potential candidate)]** 機能を使用して候補を整理します。

ECM が候補に類似の候補が多数あることを示している場合は、プラットフォームを再構築するときに、類似の候補の一部またはすべてのニーズを満たす 1 つのアプリを構築することを検討してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ECM で候補の概要を参照する

ERP Customization Mining (ECM) のホームページで、Now Platform に再プラットフォーム化する ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリ候補の概要を確認します。

始める前に

アドミニストレーターは、最初に ERP 統合 で ERP システムへの接続を構成する必要があります。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの操作」を参照してください。

必要なロール：sn_erp_mining.erp_user

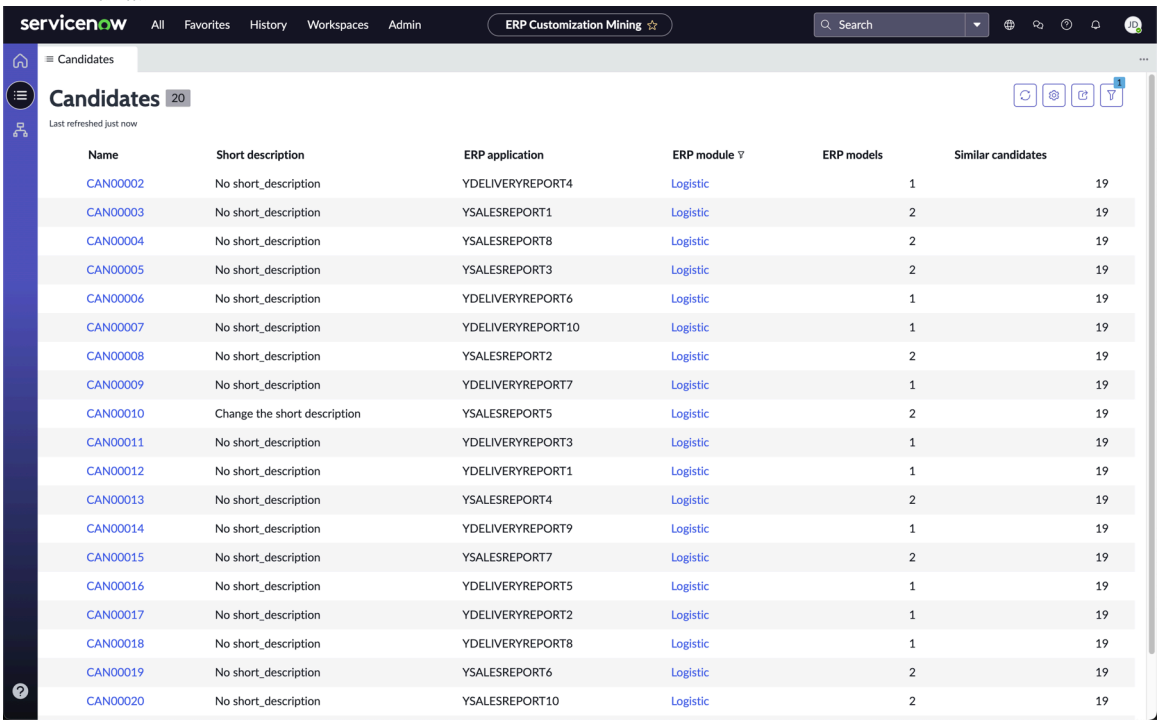
手順

1. [すべて] > **[ERP 基盤 (ERP Foundation)]** > **[ERP Customization Mining]**に移動します。
2. オプション: [ERP モジュールごとにグループ化された候補] セクションでモジュールのカードを選択し、ERP モジュールで潜在的な候補をフィルタリングします。
3. 潜在的な候補のリストを表示します。

   フィールド値の説明については、「ECM の候補リストフィールドの説明」を参照して ください。

   注: コンテキストサイドパネルで候補アイコン ( ) を選択すると、同じ候補のリストを表示できます。

   ECM の候補リスト



Name	Short description	ERP application	ERP module	ERP models	Similar candidates
CAN00002	No short_description	YDELIVERYREPORT4	Logistic	1	19
CAN00003	No short_description	YSALESREPORT1	Logistic	2	19
CAN00004	No short_description	YSALESREPORT8	Logistic	2	19
CAN00005	No short_description	YSALESREPORT3	Logistic	2	19
CAN00006	No short_description	YDELIVERYREPORT6	Logistic	1	19
CAN00007	No short_description	YDELIVERYREPORT10	Logistic	1	19
CAN00008	No short_description	YSALESREPORT2	Logistic	2	19
CAN00009	No short_description	YDELIVERYREPORT7	Logistic	1	19
CAN00010	Change the short description	YSALESREPORT5	Logistic	2	19
CAN00011	No short_description	YDELIVERYREPORT3	Logistic	1	19
CAN00012	No short_description	YDELIVERYREPORT1	Logistic	1	19
CAN00013	No short_description	YSALESREPORT4	Logistic	2	19
CAN00014	No short_description	YDELIVERYREPORT9	Logistic	1	19
CAN00015	No short_description	YSALESREPORT7	Logistic	2	19
CAN00016	No short_description	YDELIVERYREPORT5	Logistic	1	19
CAN00017	No short_description	YDELIVERYREPORT2	Logistic	1	19
CAN00018	No short_description	YDELIVERYREPORT8	Logistic	1	19
CAN00019	No short_description	YSALESREPORT6	Logistic	2	19
CAN00020	No short_description	YSALESREPORT10	Logistic	2	19

4. 候補を選択して、候補の詳細を表示および編集します。
   詳細については、「再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存」を参照してください。

ECM で候補の詳細を表示して操作する

ERP Customization Mining (ECM) で、候補の詳細と推奨アクションを表示して編集します。ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムのスキャン結果、リンクされている ERP モデル、使用状況、類似の候補を分析します。

始める前に

必要なロール：sn_erp_mining.erp_user

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[ERP 基盤 (ERP Foundation)]** > **[ERP Customization Mining]**に移動します。
2. サイドパネルで、候補アイコン ( ) を選択します。
3. 候補リストで候補の [名前] を選択し、ECM の新しいタブで候補の基本的な詳細を表示して編集します。

   または、ECM のホームページで候補を直接選択することもできます。詳細については、「ECM で候補の概要を参照する」を参照してください。

   候補の [詳細] タブでは、基本的な詳細の確認や更新を行ったり、コメント、添付ファイル、アクティビティストリーム を操作したりできます。

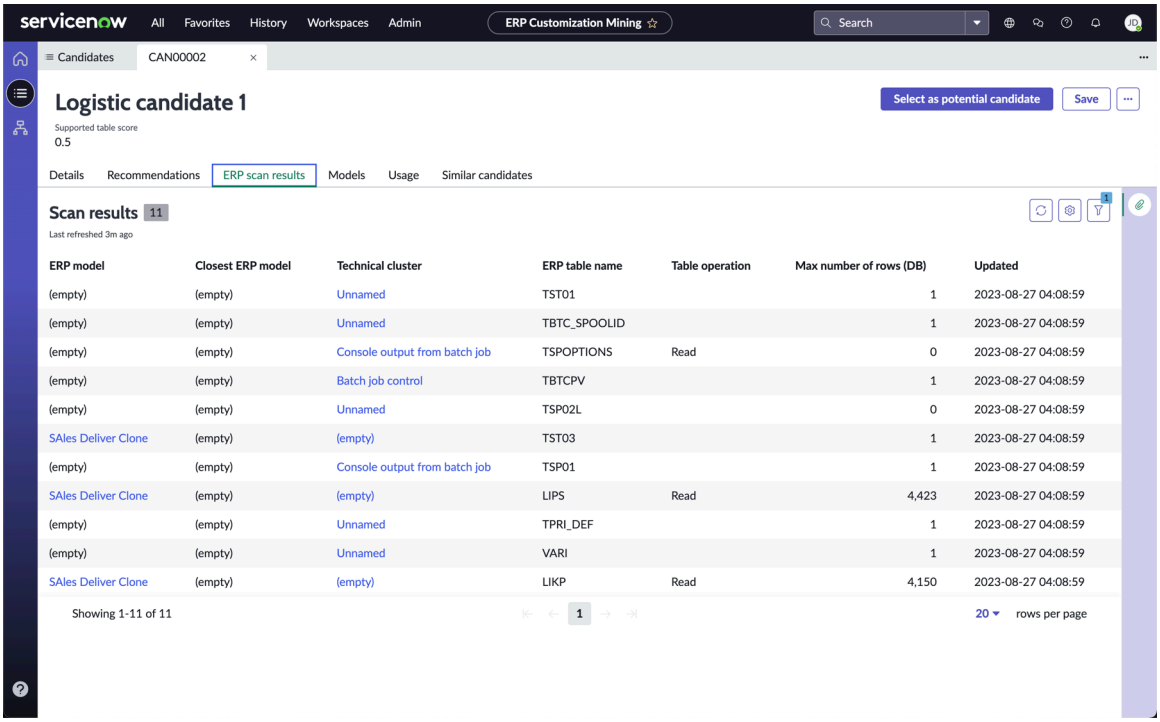
   候補の基本的な詳細

フィールド	説明
名前	自動的に生成される潜在的な候補のレコード番号
ステータス	候補のステータス ([ドラフト] または [潜在])。 ドラフト候補を評価し、その候補が再プラットフォーム化に適していると判断したら、ステータスを [ドラフト] から [潜在] に変更できます。
ERP アプリケーション	ERP システム上の ERP アプリケーションの名前。
ERP モジュール	営業など、ERP システムの機能別のビジネスエリア。
簡単な説明	候補の簡単な説明、アプリケーションの内容。
長いテキスト	候補に関するその他の詳細情報。

4. [推奨事項 **(Recommendations)]** タブを選択し、推奨される次の手順を実行します。
   詳細については、「ECM で候補の推奨事項を確認する」を参照してください。
5. **[ERP** スキャン結果 **(ERP Scan Results)]** タブを選択し、候補に関連したテーブルの詳細と、ERP システムでのスキャンの詳細を表示します。
   フィールド値の説明については、「ECM の候補スキャン結果フィールドの説明」を参照して ください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

候補のスキャン結果



6. [モデル] タブを選択し、ECM が候補に関連すると特定した ERP モデルを確認し、メモします。

[モデル] タブの詳細

フィールド	説明
モデルタイプ	候補に関連する ERP モデル。これは、(ERP 統合 で操作する) 標準 ERP モデル、ワークフロー、またはカスタムビジネスエリアになります。
実装との関連性	再プラットフォーム化に ERP モデルが必要であるかどうかです。
モジュール	営業など、SoR 上のモデルの ERP ビジネスエリア。
テーブル名	ERP システム上の ERP モデルのテーブルの名前。
更新日時	リストが最後に更新された日時。

ERP 統合 では、どの ERP モデルで作業するかを確認できます。

7. オプション: [使用率] タブを選択し、候補アプリケーションを使用するシステムユーザーの数を確認します。
8. [類似の候補 **(Similar candidates)**] タブを選択し、現在の候補と各テーブルに関連する候補を調査します。

同様の候補は、従来のアプリを最適に再プラットフォーム化する方法を計画するときに役立ちます。 SoR からカスタムアプリを再プラットフォーム化する場合、古いアプリを正確に複製する必要はありません。再プラットフォーム化プロセスを使用して、より良いアプリを設計します。おそらく、Now Platform でローコードツールを使用してビルドされた単一の新しいアプリで、複数の類似の候補のニーズに対応するアプリです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド値の説明については、「ECM の類似候補フィールドの説明」を参照して ください。

9. [保存] ボタンを選択し、候補の詳細に加えた変更を保存します。

次のタスク
候補の詳細を操作して類似の候補を特定した後に、次のことができます。

- ECM で候補の推奨事項を確認する。
- 再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存。
- ERP 統合 で関連する ERP モデルのリモートテーブルと抽出テーブルのビルドを続行し、Now Platform でデータを利用できるようにします。詳細については、「ERP モデル、抽出テーブル、およびリモートテーブルの操作」を参照してください。

注:

ECM から候補を削除すると、次回 ERP システムがスキャンされたときに自動的に再表示されます。候補を削除する代わりに、[潜在的な候補として保存 **(Save as potential candidate)]** 機能を使用して候補を整理します。

ECM で候補の推奨事項を確認する

ERP (エンタープライズリソースプランニング) 候補の再プラットフォーム化を容易にするために、ERP Customization Mining (ECM) が提案するアクションを確認します。

始める前に
必要なロール：sn_erp_mining.erp_user

このタスクについて
候補を表示すると、ECM に推奨アクションまたは次のステップの数が表示されます。

たとえば、ある候補のワークフローを フローデザイナー で作成し、別の候補の統合スポークを更新し、3 番目の候補の抽出テーブルまたはリモートテーブルを読み取る必要がある場合があります。

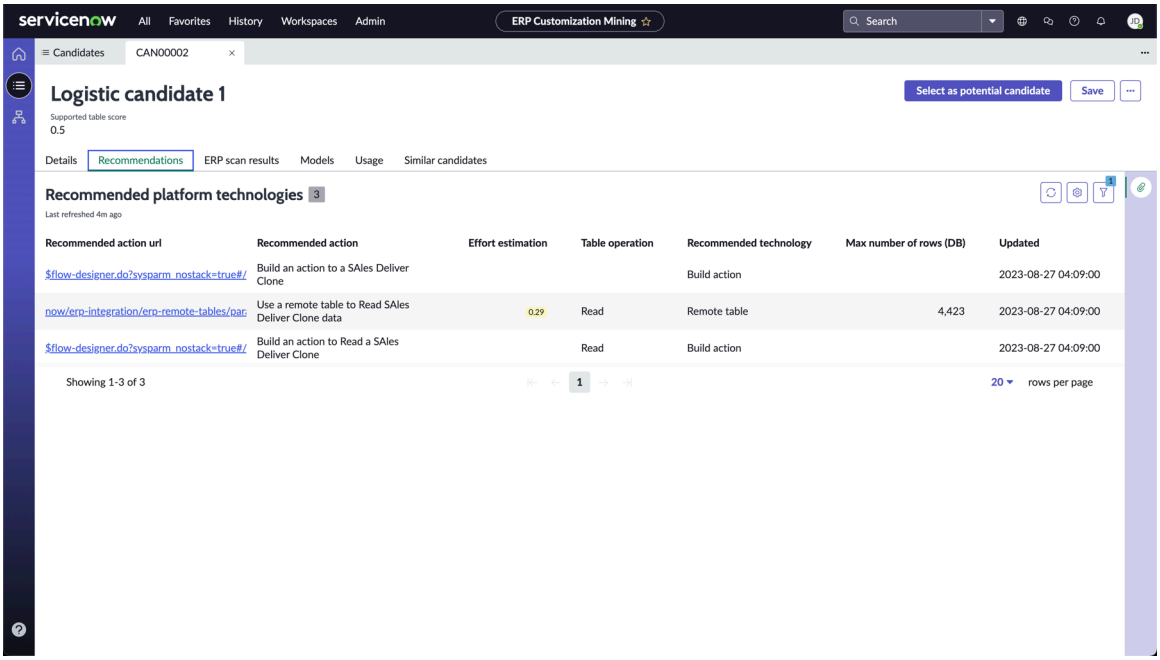
手順

1. [すべて] > **[ERP 基盤 (ERP Foundation)]** > **[ERP Customization Mining]**に移動します。
2. サイドパネルで、候補アイコン ( ) を選択します。
   または、ECM のホームページで候補を直接選択することもできます。詳細については、「ECM で候補の概要を参照する」を参照してください。
3. 推奨される次のアクションを表示する候補を選択します。
4. 提案された各アクションの概要を示す [推奨事項 **(Recommendations)]** タブを選択します。

   フィールド値の説明については、「ECM の候補推奨事項フィールドの説明」を参照して ください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ECM の推奨事項



5. [推奨アクション **URL]** を選択し、Now Platform で関連するリンク先を新しいブラウザタブで開きます。
   たとえば、推奨事項が抽出テーブルの読み取りである場合は、[推奨アクション **(Recommended action)]** リンクを選択して ERP 統合 で ERP モデルを開き、提案されたテーブルを追加できます。

再プラットフォーム化の潜在的な候補の保存

ERP Customization Mining (ECM) を使用して、再プラットフォーム化の対象となる ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリ候補を保存します。

始める前に

アドミニストレーターは、最初に ERP 統合 で ERP システムへの接続を構成する必要があります。詳細については、「ERP 統合 での ERP システムの操作」を参照してください。

必要なロール：sn_erp_mining.erp_user

このタスクについて

候補は、ERP システムのカスタムアプリケーションです。ECM は SoR をスキャンし、アプリケーションログとデータベースアクティビティログに基づいてプロファイルをビルドします。ECM は、カスタマイズされた名前空間やその他の基準に基づいてカスタムアプリケーションもスキャンします。 再プラットフォーム化されたアプリは、ERP SoR をライブデータソースとして使用します。

> **注:**
>
> ECM から候補を削除すると、次回 ERP システムがスキャンされたときに自動的に再表示されます。候補を削除する代わりに、[潜在的な候補として保存 **(Save as potential candidate)]** 機能を使用して候補を整理します。

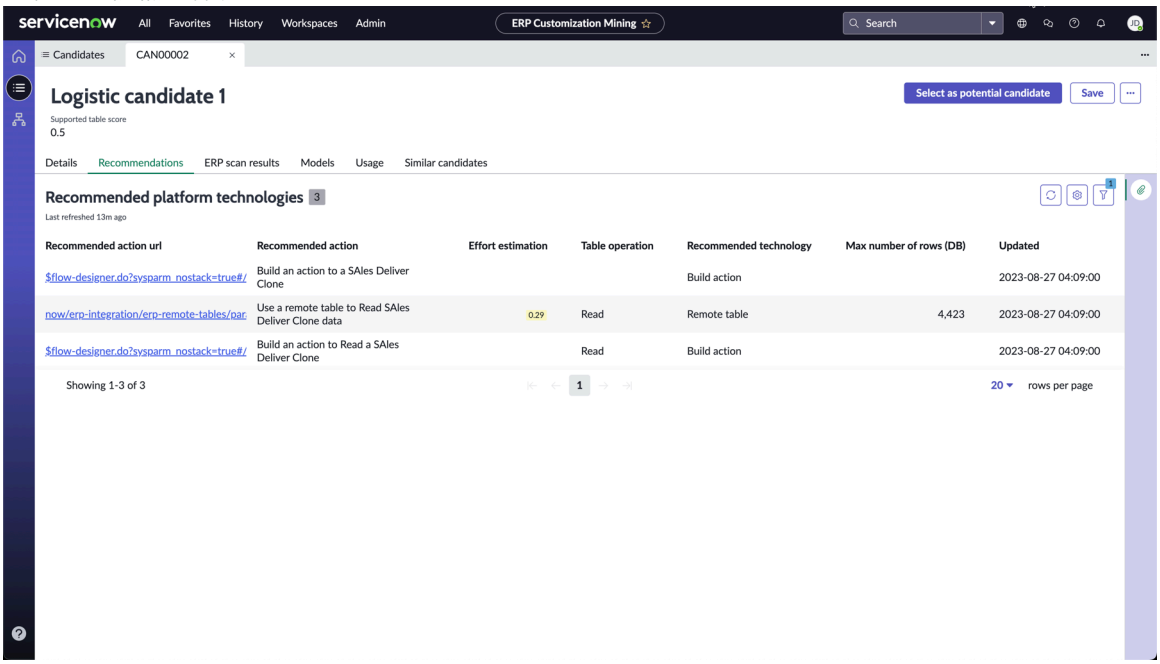
手順

1. [すべて] > **[ERP 基盤 (ERP Foundation)]** > **[ERP Customization Mining]**に移動します。
   ECM は、SoR のインスタンスを呼び出すリモートテーブルにアクセスし、Now Platform でそのデータを一時的にミラーリングします。
2. サイドパネルで、候補アイコン ( ) を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 潜在的な候補として保存する候補を選択します。
   または、ECM のホームページで候補を直接選択することもできます。詳細については、「ECM で候補の概要を参照する」を参照してください。
4. [潜在的な候補として選択 **(Select as potential candidate)]** ボタンを選択します。

潜在的な候補の保存



状況が変わり、潜在的な候補リストから候補を削除する場合は、[ドラフト候補に変更 **(Change to draft candidate)]** ボタンを選択します。

タスクの結果

候補を潜在的な候補として選択すると、候補のステータスが [ドラフト] から [潜在] に変わります。選択した候補が、ホームページの [選択した潜在的な候補 (Your selected potential candidates)] リストに追加されます。

次のタスク

候補を特定したら、ERP 統合 を使用してリモートテーブルと抽出テーブルのカスタムフィールドを表示し、ERP モデルに追加します。詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルのビルドと管理」を参照してください。

ECM は、各候補に考えられる次の手順を推奨しています。詳細については、「ECM で候補の推奨事項を確認する」を参照してください。

ERP Customization Mining に関する参照情報

テーブルの詳細や用語集など、ERP Customization Mining (ECM) に関する ERP (エンタープライズリソースプランニング) の参照情報を検索します。

ERP Customization Mining とドメインセパレーション

ERP Customization Mining (ECM) ではドメインセパレーションはサポートされていません。ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートレベル: サポートなし

- ドメインフィールドがデータテーブル に存在している可能性がありますが、データを管理するロジックがありません。
- このレベルでは、ドメイン分割は考慮されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート) 」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

ERP Customization Mining での ERP データに対するサンプルの Glide クエリ

Glide API を介して ERP (エンタープライズリソースプランニング) SoR のデータにアクセスします。

顧客名をフェッチする Glide クエリの例を次に示します。

```
var sap_customer_gr = new
 GlideRecord('sn_erp_integration_st_sap_sales_customer');
sap_customer_gr.get('customer_number', '100032');
sap_customer_gr.getValue('name');
```

ECM システムの接続タスク

ERP Customization Mining (ECM) は、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムへの接続時に多くのタスクを実行します。

- ERP アクティビティの日次抽出の集計
- 候補の特定
- 最終インポートのカーブアウトとビューデータの準備
- コレクターディレクトリデータの抽出
- 日次 ERP アプリケーションアクティビティの抽出
- 日次 ERP アプリケーション SQL アクティビティの抽出
- 日次 ERP モジュールアクティビティの抽出
- 名前空間データの抽出
- ML 類似性分析の実行

ECM の標準のテーブルとフィールド

ERP Customization Mining (ECM) の標準 ERP (エンタープライズリソースプランニング) のリモートテーブル、抽出テーブル、フィールドの詳細を参照します。

ECM の標準リモートテーブル

ERP Customization Mining (ECM) は、ERP (エンタープライズリソースプランニング) データの複数の標準リモートテーブルにアクセスします。

次のリモートテーブルは、ERP 統合 および ECM から利用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ERP 統合 と **ECM** のリモートテーブル

ラベル	名前	ERP モジュール
SAP 会社コード	sn_erp_integration_st_sap_company_code	基準
SAP 国	sn_erp_integration_st_sap_country	基準
SAP 通貨	sn_erp_integration_st_sap_currency	基準
SAP 言語	sn_erp_integration_st_sap_language	基準
SAP 品目在庫	sn_erp_integration_st_sap_material_stock	調達
SAP 購買ドキュメント	sn_erp_integration_st_sap_purchase_document	調達
SAP 購買組織	sn_erp_integration_st_sap_purchasing_organization	調達
SAP 顧客請求書	sn_erp_integration_st_sap_customer_invoice	営業
SAP 流通チャネル	sn_erp_integration_st_sap_distribution_channel	営業
SAP 部門	sn_erp_integration_st_sap_division	営業
SAP 営業顧客	sn_erp_integration_st_sap_sales_customer	営業
SAP 営業デリバリ	sn_erp_integration_st_sap_sales_delivery	営業
SAP 営業ドキュメント	sn_erp_integration_st_sap_sales_document	営業
SAP 営業組織	sn_erp_integration_st_sap_sales_organization	営業
SAP 営業収益認識	sn_erp_integration_st_sap_sales_revenue_recognition	営業
SAP ベンダー	sn_erp_integration_st_sap_vendor	営業
SAP ベンダー請求書	sn_erp_integration_st_sap_vendor_invoice	営業
SAP トランスポート	sn_erp_integration_st_sap_transport	トランスポート (Transport)

リモートテーブルの操作の詳細については、「リモートテーブル」を参照してください。

ServiceNow 製品でアプリを構築する場合は、次のような標準リモートテーブルをデータソースとして使用できます。

- App Engine Studio
- フロー - ワークフロースタジオ
- のプレイブックワークフロースタジオ
- テーブルビルダー
- UI ビルダー
- ワークスペースビルダー

Glide API を介して SoR からデータにアクセスすることもできます。

顧客名をフェッチする Glide クエリの例を次に示します。

```
var sap_customer_gr = new
 GlideRecord('sn_erp_integration_st_sap_sales_customer');
sap_customer_gr.get('customer_number', '100032');
sap_customer_gr.getValue('name');
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準 **ECM** フィールド

ERP Customization Mining (ECM) で使用できる標準の ERP (エンタープライズリソースプランニング) リモートテーブルには、その他の SAP テーブルのフィールドが含まれています。

標準のリモートテーブルには、次の追加フィールドが含まれています。標準テーブルの詳細については、「ECM の標準リモートテーブル」を参照してください。

リモートテーブル内の標準の **ERP** 統合 テーブルと **ECM** テーブル

リモートテーブル	ソーステーブル	**ERP** フィールド名	マッピングされたフィールド名
SAP 営業ドキュメント	VBAK	VBELN	document_number
SAP 営業ドキュメント	VBAK	ERDAT	date_of_document
SAP 営業ドキュメント	VBAK	ERZET	time_of_document
SAP 営業ドキュメント	VBAK	VKORG	sales_organization
SAP 営業ドキュメント	VBAK	VBTYP	document_category
SAP 営業ドキュメント	VBAK	AUART	document_type
SAP 営業ドキュメント	VBAK	AUGRU	order_reason
SAP 営業ドキュメント	VBAK	LIFSK	delivery_block
SAP 営業ドキュメント	VBAK	FAKSK	billing_block
SAP 営業ドキュメント	VBAK	KUNNR	customer_number
SAP 営業ドキュメント	VBAK	AUFNR	order_number
SAP 営業ドキュメント	VBAK	NETWR	document_value
SAP 営業ドキュメント	VBAK	WAERK	currency_code
SAP 営業ドキュメント	VBUK	LFGSK	delivery_status
SAP 営業ドキュメント	VBAP	MATNR	material_number
SAP 営業ドキュメント	VBAP	ARKTX	material_description
SAP 営業ドキュメント	VBAP	KWMENG	ordered_quantity
SAP 営業ドキュメント	VBAP	KLMENG	confirmed_quantity
SAP 営業ドキュメント	VBAP	NETWR	item_value
SAP 営業ドキュメント	VBAP	VRKME	sales_unit
SAP 営業ドキュメント	VBAP	ROUTE	delivery_route
SAP 営業ドキュメント	MARA	MTART	material_type
SAP 営業ドキュメント	VBUP	GBSTA	overall_item_status
SAP 営業顧客	KNA1	KUNNR	customer_number
SAP 営業顧客	KNA1	LAND1	country_code
SAP 営業顧客	KNA1	NAME1	name
SAP 営業顧客	KNA1	ORT01	city
SAP 営業顧客	KNA1	PSTLZ	postal_code
SAP 営業顧客	KNA1	STRAS	street

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** 統合 テーブルと **ECM** テーブル (続く)

リモートテーブル	ソーステーブル	**ERP** フィールド名	マッピングされたフィールド名
SAP 営業顧客	KNA1	STKZU	vat_liable
SAP 営業顧客	KNA1	STCEG	vat_reg_number
SAP 営業顧客	KNVV	VKORG	sales_organization
SAP 営業顧客	KNVV	VTWEG	distribution_channel
SAP 営業顧客	KNVV	SPART	division
SAP 営業顧客	KNVV	INCO1	inco_terms
SAP 顧客請求書	VBRK	VBELN	document_number
SAP 顧客請求書	VBRK	FKART	billing_type
SAP 顧客請求書	VBRK	WAERK	currency_code
SAP 顧客請求書	VBRK	ZTERM	payment_terms
SAP 顧客請求書	VBRK	NETWR	document_value
SAP 顧客請求書	VBRK	KUNRG	payer
SAP 顧客請求書	VBUK	GBSTK	overall_document_status
SAP 顧客請求書	VBRP	MATNR	material_number
SAP 顧客請求書	VBRP	ARKTX	material_description
SAP 顧客請求書	VBRP	NETWR	item_value
SAP 顧客請求書	VBRP	FKLMG	billing_quantity
SAP 顧客請求書	VBRP	VRKME	sales_unit
SAP 顧客請求書	VBRP	SHKZG	is_returns_item
SAP 顧客請求書	VBUP	GBSTA	overall_item_status
SAP 営業組織	TVKO	VKORG	sales_organization
SAP 営業組織	TVKO	EKORG	purchase_organization
SAP 営業組織	TVKO	BUKRS	company_code
SAP 購買ドキュメント	EKKO	EBELN	document_number
SAP 購買ドキュメント	EKKO	BUKRS	company_code
SAP 購買ドキュメント	EKKO	BSTYP	document_category
SAP 購買ドキュメント	EKKO	LIFNR	vendor_number
SAP 購買ドキュメント	EKKO	ZTERM	payment_terms
SAP 購買ドキュメント	EKKO	EKORG	purchase_organization
SAP 購買ドキュメント	EKKO	WAERS	currency_code
SAP 購買ドキュメント	EKKO	IHREZ	ext_reference
SAP 購買ドキュメント	EKKO	RESWK	supplying_plant
SAP 購買ドキュメント	EKKO	BEDAT	date_of_document
SAP 購買ドキュメント	EKPO	MATNR	material_number

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** 統合 テーブルと **ECM** テーブル (続く)

リモートテーブル	ソーステーブル	**ERP** フィールド名	マッピングされたフィールド名
SAP 購買ドキュメント	EKPO	EMATN	supplier_material_number
SAP 購買ドキュメント	EKPO	MENGE	ordered_quantity
SAP 購買ドキュメント	EKPO	MEINS	order_unit
SAP 購買ドキュメント	EKPO	NETPR	item_value
SAP 購買ドキュメント	EKPO	MWSKZ	vat_applicable
SAP 購買ドキュメント	EKPO	ELIKZ	fully_delivered
SAP 購買ドキュメント	EKPO	REPOS	fully_invoiced
SAP 品目在庫	MARA	MATNR	material_number
SAP 品目在庫	MARA	MTART	material_type
SAP 品目在庫	MARA	MATKL	material_class
SAP 品目在庫	MARA	NTGEW	net_weight
SAP 品目在庫	MARA	EANNR	ean_number
SAP 品目在庫	MARA	EAN11	ean11_number
SAP 品目在庫	MARA	MSTAE	material_status
SAP 品目在庫	MAKT	MAKTX	material_description
SAP 品目在庫	MARD	WERKS	plant
SAP 品目在庫	MARD	LGORT	storage_location
SAP 品目在庫	MARD	LABST	数量
SAP 品目在庫	MARD	DLINL	date_of_count
SAP ベンダー請求書	RSEG	BELNR	document_number
SAP ベンダー請求書	RSEG	GJAHR	document_year
SAP ベンダー請求書	RSEG	EBELN	purchase_document_number
SAP ベンダー請求書	RSEG	EBELP	purchase_document_item
SAP ベンダー請求書	RSEG	MATNR	material_number
SAP ベンダー請求書	RSEG	BUKRS	company_code
SAP ベンダー請求書	RSEG	WERKS	plant
SAP ベンダー請求書	RSEG	WRBTR	amount
SAP ベンダー請求書	RSEG	SHKZG	credit_debit_indicator
SAP ベンダー請求書	RSEG	MWSKZ	vat_applicable
SAP ベンダー請求書	RSEG	MENGE	数量
SAP 購買組織	T024E	EKORG	purchase_organization
SAP 購買組織	T024E	EKOTX	name
SAP 購買組織	T024E	BUKRS	company_code
SAP 営業デリバリ	LIKP	VBELN	document_number

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** 統合 テーブルと **ECM** テーブル (続く)

リモートテーブル	ソーステーブル	**ERP** フィールド名	マッピングされたフィールド名
SAP 営業デリバリ	LIKP	KUNNR	customer_number
SAP 営業デリバリ	LIKP	ERDAT	date_of_document
SAP 営業デリバリ	LIKP	ERZET	time_of_document
SAP 営業デリバリ	LIKP	VKORG	sales_organization
SAP 営業デリバリ	LIKP	LFART	delivery_type
SAP 営業デリバリ	LIKP	ROUTE	delivery_route
SAP 営業デリバリ	VBUK	GBSTK	overall_document_status
SAP 営業デリバリ	LIPS	MATNR	material_number
SAP 営業デリバリ	LIPS	CHARG	batch_number
SAP 営業デリバリ	LIPS	WERKS	plant
SAP 営業デリバリ	LIPS	LFIMG	数量
SAP 営業デリバリ	LIPS	NTGEW	net_weight
SAP 営業デリバリ	LIPS	GEWEI	delivery_unit
SAP 営業デリバリ	LIPS	VOLUM	volume
SAP 営業デリバリ	LIPS	VOLEH	volume_unit
SAP 営業デリバリ	LIPS	ARKTX	material_description
SAP ベンダー	LFA1	LIFNR	vendor_number
SAP ベンダー	LFA1	NAME1	name
SAP ベンダー	LFA1	ORT01	city
SAP ベンダー	LFA1	PSTLZ	postal_code
SAP ベンダー	LFA1	STRAS	street
SAP ベンダー	LFA1	STCEG	vat_reg_number
SAP ベンダー	LFA1	WERKS	plant
SAP ベンダー	LFM1	EKORG	purchase_organization
SAP ベンダー	LFM1	WEBRE	gr_invoice_indicator
SAP 営業収益認識	VBREVK	VBELN	document_number
SAP 営業収益認識	VBREVK	POSNR	document_item
SAP 営業収益認識	VBREVK	SAKRR	accr_val_clearing_account_number
SAP 営業収益認識	VBREVK	SAKRRK	offset_clearing_account_number
SAP 営業収益認識	VBREVK	ACC_VALUE	total_accrued_value
SAP 営業収益認識	VBREVK	WRBTR	amount
SAP 営業収益認識	VBREVK	RVAMT	revenue_amount
SAP 営業収益認識	VBREVK	WAERK	currency_code
SAP 国	T005	LAND1	country_code

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモートテーブル内の標準の **ERP** 統合 テーブルと **ECM** テーブル (続く)

リモートテーブル	ソーステーブル	**ERP** フィールド名	マッピングされたフィールド名
SAP 国	T002	SPRAS	language_code
SAP 国	T002	LAISO	language_iso_code
SAP 国	T005T	LANDX	説明
SAP 言語	T002	SPRAS	language_code
SAP 言語	T002	LAISO	language_iso_code
SAP 通貨	TCURC	WAERS	currency_code
SAP 通貨	TCURC	ISOCD	currency_iso_code
SAP 通貨	TCURT	LTEXT	説明
SAP 流通チャネル	TVTW	VTWEG	distribution_channel
SAP 流通チャネル	TVTWT	VTEXT	説明
SAP 部門	TSPA	SPART	division
SAP 部門	TSPAT	VTEXT	説明
SAP 会社コード	T001	BUKRS	company_code
SAP 会社コード	T001	BUTXT	説明
SAP 会社コード	T001	LAND1	country_code
SAP 会社コード	T001	WAERS	currency_code
SAP 会社コード	T001	SPRAS	language_code
SAP トランスポート	E071	AS4DATE	date_of_transport
SAP トランスポート	E071	AS4TIME	time_of_transport
SAP トランスポート	E071	AS4USER	ユーザー
SAP トランスポート	E071	TRFUNCTION	type
SAP トランスポート	E071	TRKORR	番号
SAP トランスポート	E071	TRSTATUS	ステータス
SAP トランスポート	E071	OBJECT	object_type
SAP トランスポート	E071	OBJ_NAME	object_name
SAP トランスポート	E071	PGMID	program_id

ECM フィールドの説明

ERP Customization Mining (ECM) のフィールド説明のテーブルの中には、タスクトピックで管理するには大きすぎるものがあります。このセクションにある大きいテーブルに関する情報を参照してください。

ECM のタスクリストフィールドの説明

ERP Customization Mining (ECM) のタスクリストには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムの接続タスクに関する情報が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクリストの詳細

列	定義
タスク	Now Platform 内のタスクの名前 (抽出用のバックグラウンドスクリプト、ETL タスク、分析トレーニングスクリプトなど)。
簡単な説明	接続タスクエラーの簡単な説明。 注: この列は [タスクの問題 **(Task issues)]** タブにのみ表示されます。
コード番号	エラーまたは警告のエラーコード番号。 注: この列は [タスクの問題 **(Task issues)]** タブにのみ表示されます。
カテゴリ	問題のタイプ ([エラー] または [警告])。
ステータス	タスクのステータス ([新規] または [データ不足 **(Insufficient data)]** など)。
現在のステップ	Now Platform が現在実行している接続タスクのステップ。
総ステップ数	接続タスクを完了するために必要な合計ステップ数。
タスク期間	接続タスクが最後に更新された日付。
開始	接続タスクの実行が開始された日時。
完了	接続タスクの実行が終了した日時。

ECM の候補リストフィールドの説明

ERP Customization Mining (ECM) の候補リストには、各候補の基本的な詳細に関する情報が表示されます。

候補リストの詳細

列	説明
名前	アプリケーション候補の名前 (Now Platform 上のレコード番号)。
簡単な説明	候補がアクセスするテーブルに関する簡単な情報。
ERP アプリケーション	候補の ERP アプリケーションのレコード。
ERP モジュール	SoR 内の ERP 機能エリアの名前。たとえば、ロジスティクス、調達、営業などです。
潜在的な	候補が再プラットフォーム化にどの程度適しているかの評価。 値は、候補のリモートテーブルと抽出テーブルがアプリケーションとどの程度一致しているかを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

候補リストの詳細 (続く)

列	説明
	• 「可能性が高い」ということは、追加の変更を加えることなく、アプリケーション候補の ERP モデルに一致するリモートテーブルと抽出テーブルをすぐに使用できることを示します ECM 。 • 「可能性が低い」ということは、アプリケーション候補が ERP 統合 の ERP モデルのリモートテーブルや抽出テーブルとあまり一致しないことを示します。 注: この列は、ホームページではなく、[候補] ページの候補リストでのみ使用できます。
類似候補	類似の候補の数。類似性はリモートテーブルに基づいています。
ERP モデル	候補が属する ERP モデルの数。 ERP モデルは ERP 統合 で構成されます。ERP モデルは、リモートテーブルと抽出テーブルおよび読み取り操作と更新操作に追加できる可能性のあるすべてのフィールドを含むステージング領域として機能します。その後、テーブルとクエリされたデータを Now Platform のデータソースとして使用できます。 詳細については、「ERP データを操作する ERP モデルのビルドと管理」を参照してください。 注: この列は、ホームページではなく、[候補] ページの候補リストでのみ使用できます。
更新日時	ERP 統合 が最後に候補を評価した日時。

ECM の候補スキャン結果フィールドの説明

ERP Customization Mining (ECM) の候補リストには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) システムの最新のスキャンに関する情報が表示されます。

[ERP スキャン結果 (ERP Scan Results)] タブの詳細

フィールド	説明
ERP モデル	候補が使用する関連 ERP モデル。ERP 統合 で構成されています。 ERP モデルを選択し、ERP 統合 でモデル を開きます。
最も近い ERP モデル	ERP 統合 でテーブルを追加できる、提案された最も近い一致する ERP モデル 。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ERP スキャン結果 **(ERP Scan Results)]** タブの詳細 (続く)

フィールド	説明
	この列は、標準の ERP モデルの一部ではないため、**[ERP** モデル] 列にテーブルがリスト表示されないカスタムテーブルの場合に役立ちます。ERP モデルを選択し、ERP 統合 でモデルを開きます。
テクニカルクラスター	ERP システムのテーブルのタイプ。
ERP テーブル名	ERP システムのテーブルの名前。
テーブルの操作	ECM がスキャンされたテーブルに対して実行したアクション (作成、読み取り、更新、または削除)。
最大行数 (DB)	スキャンされたテーブル上の最大行数です。候補の制限を把握するのに役立ちます。
更新日時	テーブルが最後にスキャンされた日時。

ECM の候補推奨事項フィールドの説明

ERP Customization Mining (ECM) の候補推奨事項リストには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) 候補を再プラットフォーム化するために推奨される次のアクションに関する情報が表示されます。

推奨事項リストの詳細

フィールド	説明
推奨アクションの URL	推奨アクションへのリンク。 推奨事項のリンクを選択し、Now Platform で関連するリンク先を開きます 。たとえば、 [ワークフローのビルド **(Build a workflow)]** の推奨 URL は ワークフロースタジオ のフローにリンクされます。
推奨アクション	ECM が再プラットフォーム化の際に候補に対して実行を提案するアクションの簡単な説明。
工数概算	推奨アクションに必要な工数を示す数値スコア。 推奨アクションにはそれぞれ工数概算があります。これは、Now Platform にどの程度一致している機能があるか評価する数値スコアです。緑のアクションはほとんどまたはまったく労力を必要としませんが、赤いアクションはより困難です。
テーブルの操作	テーブルに実行する必要があるアクション ([読み取り] や [更新] など)
推奨テクノロジー	推奨アクションを実行する Now Platform 上のアプリまたは製品。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

推奨事項リストの詳細 (続く)

フィールド	説明
最大行数 (DB)	推奨アクションで許可される SoR のデータベース行の最大数。
更新日時	推奨アクションが最後に更新された日時。

ECM の類似候補フィールドの説明

ERP Customization Mining (ECM) の [類似の候補 (Similar candidates)] タブには、ERP (エンタープライズリソースプランニング) アプリを再プラットフォーム化するための類似の候補に関する情報が表示されます。

[類似の候補 **(Similar candidates)**] タブの詳細

フィールド	説明
類似候補	類似候補のレコード番号です。Now Platform によって自動的に生成されます 。
簡単な説明	類似候補の簡単な説明。たとえば、類似の候補が読み取るテーブルなどです。
ERP アプリケーション	ERP システム上の ERP アプリケーションの名前。
ERP モジュール	営業など、ERP システムの機能別のビジネスエリア。
類似性	候補の類似度を表す数値スコア (0 ～ 1)。 スコアが高いほど (0.94 など)、候補が非常に類似していることを示します。 詳細については、「ECM の推奨事項と類似の候補」を参照してください。
潜在的な	候補が再プラットフォーム化にどの程度適しているかの評価。 値は、候補のリモートテーブルと抽出テーブルがアプリケーションとどの程度一致しているかを示します。 • 「可能性が高い」ということは、追加の変更を加えることなく、アプリケーション候補の ERP モデルに一致するリモートテーブルと抽出テーブルをすぐに使用できることを示します ECM 。 • 「可能性が低い」ということは、アプリケーション候補が ERP 統合 の ERP モデルのリモートテーブルや抽出テーブルとあまり一致しないことを示します。 詳細については、「ECM による再プラットフォーム化候補のスコアと可能性の決定方法」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[類似の候補 **(Similar candidates)]** タブの詳細 (続く)

フィールド	説明
類似の候補	類似の候補の数。 この列の値を選択し、その他の類似候補のリストを表示します。
ERP モデル	類似の候補が表示される ERP モデルの数。 ERP モデルは ERP 統合 で構成および管理されます。
更新日時	類似候補の詳細が最後に更新された日時。

ERP 統合 と ECM の用語集

ERP 統合 および ERP Customization Mining (ECM) に適用される ERP (エンタープライズリソースプランニング) の用語や概念について説明します。

BAPI

ビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス (BAPI) は、API に類似した SAP 製品のビジネスオブジェクトモデルへの標準インターフェイスです。

候補

候補は、システム内のカスタムトランザクション (ERP ルート) に基づいてアプリケーションを作成するために使用できる推奨リモートテーブルのグループです。従来の ERP SoR 上に存在する既存のアプリケーションを候補にすることもできます。

現在、再プラットフォーム化の良い候補は、SoR からデータを使用する小さなアプリケーションである傾向があります。

候補スコア

スコアは、カスタムアプリケーション (ERP ルート) が ERP Customization Mining のリモートテーブルにどの程度適合するかを示す測定基準です。

接続および認証情報エイリアス

認証情報エイリアスは、ServiceNow 認証情報エイリアスで管理されているシステム接続アクセスの実現要因です。認証情報エイリアスは、ERP SoR へのアクセスに使用されます。

カスタムフィールド

カスタムフィールドは、顧客がテーブルに追加する値です。

エンティティ

ERP 統合 が SoR の読み取りまたは更新に使用するテーブルまたはビジネスアプリケーションプログラミングインターフェイス (BAPI) 関数呼び出し。

ERP アプリケーション

ERP Customization Mining を使用して再プラットフォーム化するために選択する ERP (エンタープライズリソースプランニング) カスタムアプリケーションは、ERP システムの ERP ルートです。

ERP モデル

ERP モデルは、特定のビジネスプロセスまたはアクティビティに対応するように調整された独自の機能セットを表します。ERP モデルには、SoR の複数のテーブルと、API および ETL プロ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セスが含まれ、全体的なデータセットを作成します。たとえば、受注用の ERP システムとインベントリ用の別の ERP システムを使用できます。

ERP モジュール

ERP システムの機能的なビジネスエリア。ERP ルートでは、1 つのビジネスエリアのみを選択できます。

ERP システム

ERP システムは、ERP SoR のセクションへの接続を表します。 このシステムが、データの同期、共有、およびコラボレーションにおいて重要な役目を果たし、ERP モデルおよびそれとつながった ERP システムの間のシームレスな統合と運用を実現します。

ERP テーブル

ERP システムの個々のテーブル (カスタムテーブルと標準テーブルの両方) は、リモートテーブルの一部です。たとえば、営業では、ERP テーブルに VBAK、VBAP、VBFA、VBPA、VBEP、MKPF、または MSEG を含めることができます。

抽出テーブル

抽出テーブルは、スケジュール済みクエリを使用して 1 日に 1 回大量のデータを取得し、変換テーブルを使用して Now Platform 上で使用するデータを処理します。

マッピングされた値

ERP 統合 の操作パラメーターとしてマッピングされている ERP システム上のフィールドの値。

操作

SoR の読み取りまたは更新のために実行される個々のメンテナンスタスク。

リモートテーブル

リモートテーブルは、1 つのテーブルに収集されたときに値を提供する SoR のテーブルの集計です。リモートテーブルは、ERP モデルの基盤です。候補は複数のリモートテーブルで構成できます。

SoR

ERP SoR とは、データが格納されており、たとえば SAP などからデータを配布する場所です。

プロコードアプリケーションのビルド

従来のプロコードツールを使用して、カスタムアプリケーションをゼロから作成および管理します。

ガイド付きアプリケーションクリエーター

ガイド付きアプリケーションクリエーター は、Now Platform でアプリケーションをビルドするための直感的な開発インターフェイスを提供します。ステップバイステップのプロセスで、最初のアプリケーションのビルドをガイドします。

サービスクリエーター

サービスクリエーターを使用すると、部門はサービスカタログを通じてカスタムサービスを提供できます。たとえば、HR 部門は、継続教育のための奨学制度を提供できます。

Visual Studio Code 向けの ServiceNow 拡張

VS Code エディターの ServiceNow 拡張機能を使用すると、アプリケーションをオフラインで ServiceNow インスタンス内で編集できます。

ServiceNow IDE

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow IDE は、Now Platform 上の Visual Studio Code for the Web の実装です。ServiceNow IDE を使用して、ソースコードでスコープ対象のアプリケーションを作成および開発し、JavaScript モジュールを作成し、サードパーティライブラリを使用できます。

ServiceNow SDK

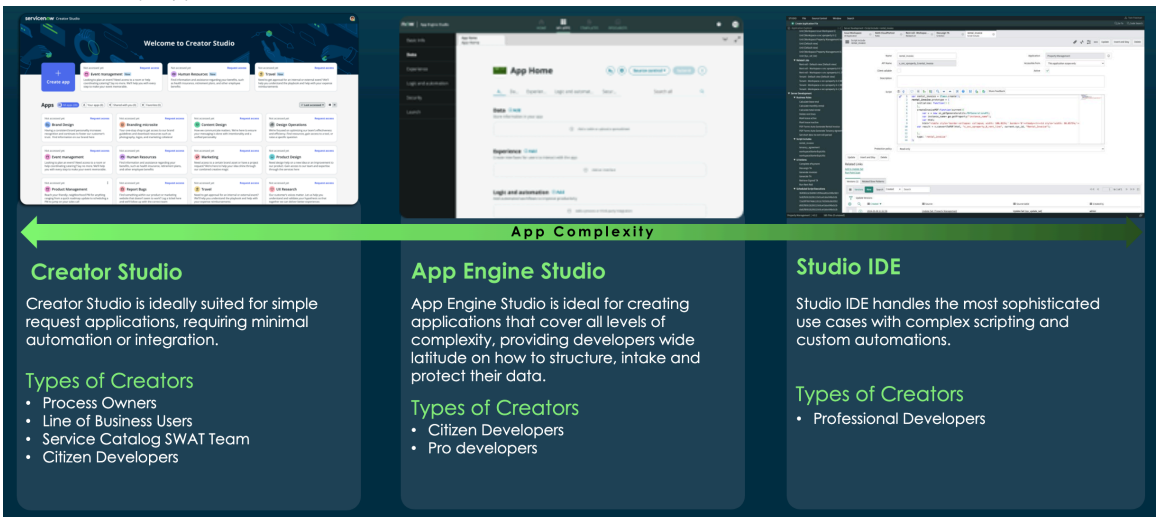
ServiceNow SDK を使用して、開発者は Visual Studio Code Desktop でソースコード内のスコープ対象のアプリケーションをローカルに作成し、変更を ServiceNow インスタンスにアップロードできます。また、ServiceNow SDK を使用して JavaScript モジュールを作成し、サードパーティのライブラリを使用することもできます。

ServiceNow Studio

ServiceNow Studio は、アプリケーション開発者がカスタムアプリケーションを 1 か所で開発できるようにするための、統合開発環境 (IDE) に似たインターフェイスを提供します。タブ付き環境でアプリケーションファイルを簡単に作成、レビュー、更新することができます。

アプリの作成に使用すべきビルダー

ビルダーの種類



コードなしで簡単にアプリをビルドしたい場合

クリエータースタジオ は、コードを書かずに要求を履行するアプリケーションの作成を支援することに特化しています。たとえば、フォームに入力して事務用品を要求するアプリケーションで、誰かが要求を承認または拒否するなどです。詳細については、「クリエータースタジオ：コードを記述せずにアプリケーションを作成する」を参照してください。

より一般的なアプリが必要だけれどローコードオプションが必要な場合

App Engine Studio を使用すると、プログラミングのプロでなくても、クリエータースタジオ よりも幅広いアプリをビルドできます。詳細については、「App Engine Studio を使用したアプリのビルド」を参照してください。

一元化されたユーザーインターフェイスでより詳細に制御したい開発者の場合

ServiceNow スタジオ はアプリケーション開発者が一元化された場所でカスタムアプリケーションで作業するためのインターフェイスで、ある程度のコーディングスキルが必要です。詳細については、「ServiceNow Studio」を参照してください。

業界標準の開発ツールやプロセスを使用したい開発者の場合

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow IDE と ServiceNow SDK は、ServiceNow Fluent を使用したソースコードでのアプリケーション開発、JavaScript モジュールの作成、およびサードパーティライブラリの使用をサポートしています。ServiceNow Fluent は、コードでアプリケーションメタデータを作成するためのドメイン固有のプログラミング言語です。

ServiceNow IDE は、Now Platform 上の Visual Studio Code for the Web の実装です。ServiceNow SDK は Visual Studio Code Desktop をローカルで使用します。詳細については、「ソースコードでアプリケーションをビルドする」を参照してください。

スクリプティング

アクションデザイナー

アクションデザイナー を使用して、フロー内の繰り返し可能なタスクを一連の関連ステップとして自動化します。フロー作成者が最小限の設定で複数のフローにアクションを追加できるようにします。

クライアント側スクリプティング

クライアントスクリプトを使用すると、フォームの読み込み時、フォームの送信後、フィールドの値の変更時など、クライアントベースのイベントが発生したときに、システムがクライアント (Web ブラウザー) で JavaScript を実行できます。

Now Assist によるコード生成

コード生成用の Now Assist を使用して、開発者はテキストまたはコードプロンプトに基づいて AI が生成したコード提案を使用して、スクリプトをすばやく記述できます。

Now コードエディター

Now コードエディターは、カスケードスタイルシート (CSS)、ハイパーテキストマークアップ言語 (HTML)、JavaScript、拡張マークアップ言語 (XML)、および JavaScript Object Notation (JSON) をサポートするリッチテキストエディターインターフェイスを提供します。Now コードエディターを使用して、ネクストエクスペリエンス UI ビルダー コンポーネントの UI 構成、データリソース構成、スタイル、イベント、クライアント側およびサーバー側のスクリプトを変更します。

サーバー側スクリプティング

サーバースクリプトはサーバーまたはデータベースで実行されます。スクリプトは Now Platform の外観や動作を変更するため、またレコードやテーブルへのアクセスや変更に対するビジネスルールとして実行するために使用できます。

コア機能

グループ

グループにロールを割り当てることで、ユーザー管理を簡素化します。グループを参照するビジネスルール、アサインルール、システムロール、または属性は、すべてのグループメンバーに自動的に適用されます。

通知

ServiceNow 通知を使用して、システムメールの管理、システム通知の作成、受信メールへのシステムの応答方法の設定を行います。

ロール

ロールは、アプリケーションおよびモジュールの機能へのアクセスを制御します。admin ロールは、すべての機能へのアクセスを提供します。

ServiceNow プラグイン

プラグインは、ServiceNow インスタンス内で特定の機能を提供するソフトウェアコンポーネントです。

UI ポリシー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ポリシーは、フォーム上の情報の動作を動的に変更し、タスクのカスタムプロセスフローを制御します。

ユーザー

ユーザーレコードは、個人と ServiceNow インスタンスとの関係を確立します。ユーザーレコードは、ユーザー名、パスワード、および個人に関する情報 (連絡先情報、場所、役職など) で構成されます。

関連アプリケーションと機能

JavaScript API

アプリケーションの機能を変更したり、新しいアプリケーションを作成したりする場合に記述するスクリプトで JavaScript API を使用します。

UI ビルダー

UI ビルダー を使用して、CSM 構成可能ワークスペース、App Engine Studio によって生成されたワークスペースとポータル、または ネクストエクスペリエンスのコンポーネント とカスタム Web コンポーネントを使用するカスタム Web エクスペリエンスのための Web ユーザーインターフェイスをビルドします。

ソースコードでアプリケーションをビルドする

使い慣れた開発ツールとプロセスを使用して、ソースコードでカスタムアプリケーションを作成および開発します。

概要

スコープ対象のアプリケーションを、Now Platform 上の ServiceNow IDE を使用してコード内で作成、または ServiceNow SDK を使用して Visual Studio Code デスクトップでローカルに作成できます。

どちらの開発環境でも、ドメイン固有のプログラミング言語である ServiceNow Fluent を使用して、アプリケーションを構成するメタデーターを定義します。ServiceNow Fluent には、さまざまなタイプのメタデータを定義するための API が含まれています。

ServiceNow IDE または ServiceNow SDK を使用して、JavaScript モジュールを作成し、アプリケーションのサードパーティライブラリを使用して、スコープ対象のアプリケーション内のスクリプトのコードの再利用を最適化することもできます。

ソースコードでアプリケーションを開発および管理すると、使い慣れた開発環境での作業、複雑なアプリケーションの作成と変更、ソースコントロールでの容易なコードの管理、ビルド時のエラーのキャッチが可能になります。

ServiceNow IDE	ServiceNow SDK
Now Platform 上の IDE のコードでアプリケーションを開発します。	コードでアプリケーションをローカルで開発し、変更をインスタンスにアップロードします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow IDE と ServiceNow SDK の比較

機能	ServiceNow IDE	ServiceNow SDK
開発環境	オンライン ServiceNow インスタンス	ローカル開発とオフライン作業能力
ユーザーインターフェイス	Visual Studio Code for the Web ベースの IDE	Visual Studio Code デスクトップ
コラボレーション	コードまたは埋め込み Now Platform ユーザーインターフェイスで、ユーザーの変更をリアルタイムで表示します。 ソースコントロール内のアプリケーションで他の開発者と共同作業を行います。	ServiceNow SDK CLI を使用して変更をフェッチしてインスタンスに展開し、他のユーザーと共同作業を行います。 ソースコントロール内のアプリケーションで他の開発者と共同作業を行います。
ソースコントロール	最も一般的な Git 機能と、選択した Git プロバイダーとの統合をサポートします。 インスタンスごと、リポジトリごとに 1 つの同時分岐。	フルサポート
アプリケーションの変換	ServiceNow IDE または ServiceNow SDK で作成されたスコープ対象のアプリケーションのみをサポートします。 変換されたアプリケーションは、ServiceNow IDE ではサポートされていません。	ServiceNow IDE または ServiceNow SDK で作成されていない既存のスコープ対象のアプリケーションの変換をサポートします。
ServiceNow Fluent	フルサポート	フルサポート
JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ	フルサポート	フルサポート

アプリケーションの構造

ServiceNow IDE または ServiceNow SDK で作成されたカスタムスコープ対象のアプリケーションには、ソースコードファイルとメタデータ XML ファイルが含まれます。`package.json` ファイルと `now.config.json` ファイルは、Node.js アプリケーションまたは Node Package Manager (npm) パッケージの構造に似たアプリケーション構造を定義します。

デフォルトでは、アプリケーションには次のディレクトリとファイルが含まれます。`now.config.json` ファイルで、アプリケーション構造の特定の要素をニーズに合わせて変更できます。

.now
: ビルドプロセスと展開プロセスのキャッシュとメトリクスの情報を含むディレクトリ。

dist/app
: パッケージ化用のビルドアーティファクトを含むディレクトリ。このディレクトリは、ServiceNow SDK でのみ使用できます。

メタデータ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

既存の ServiceNow アプリケーションと同じディレクトリ構造で編成された、テーブルスキーマやビジネスルールなどのアプリケーションのアプリケーションメタデータ (XML) を含むディレクトリ。

> **注:** アプリケーションメタデータは、XML ファイルから編集しないでください。アプリケーションメタデータは、ソースコードまたは Now Platform で編集します。

node_modules

アプリケーションが依存するサードパーティ Node.js モジュールを含むディレクトリ。

src

サンプルファイルを含む、アプリケーションのソースコードを含むディレクトリ。このディレクトリには、次のサブディレクトリが含まれています。

- `fluent`：アプリケーションメタデータ (`.now.ts`) を定義するためのソースコードファイルを含むディレクトリ。`generated` サブディレクトリには、ServiceNow Fluent で生成されたアプリケーションファイルが含まれます。
- `server`：サーバー側スクリプトで使用する JavaScript モジュールコード (`.js` または `.ts`) を含むディレクトリ。

target

インスタンスにアップロードする展開可能パッケージを含むディレクトリ。このディレクトリは、ServiceNow SDK でのみ使用できます。

.eslintrc.json

ESLint 構成を含むファイル。ESLint は、アプリケーションコードの問題を特定して修正するのに役立ちます。

.gitignore

Git が無視するディレクトリまたはファイルのリストを含むファイル。これらのファイルはソースコントロールで追跡されません。

now.config.json

ServiceNow アプリケーション構成を含むファイル。`package.json` ファイルは、アプリケーションのベースディレクトリに存在する必要があります。

次のパラメーターを追加して、アプリケーションのディレクトリ構造を構成できます。
例：

```
{
  "scope": "x_snc_example_app",
  "scopeId": "2f8400eb07426110f736e28f69d3017a",
  "metadataDir": "metadata",
  "appOutputDir": "dist/app",
  "sourceDir": "src",
  "fluentDir": "src/fluent",
  "serverModulesDir": "src/server",
  "packOutputDir": "target",
  "transpiledSourceDir": "dist/modules",
  "maxInlineScriptLines": 15,
  "ignoreTransformTableList":
 ["ua_table_licensing_config", "sys_embedded_help_role"]
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされている **now.config.json** パラメーター

パラメーター	説明
metadataDir	アプリケーションのメタデータを XML ファイルとして含むディレクトリ。 デフォルト：`metadata`
appOutputDir	アプリケーションのビルド時にパッケージ化するためにビルドアーティファクトを出力するディレクトリ。このディレクトリは、ServiceNow SDK でのみ使用できます。 デフォルト：`dist/app`
sourceDir	アプリケーションのソースコードを含むディレクトリ。 デフォルト：`src`
fluentDir	ソースコードでアプリケーションメタデータを定義する ServiceNow Fluent ファイル (`.now.ts`) を含むディレクトリ。 デフォルト：`src/fluent`
serverModulesDir	サーバー側スクリプトで使用するために JavaScript モジュールに組み込まれる JavaScript または TypeScript ファイルを含むディレクトリ。 デフォルト：`src/server`
packOutputDir	アプリケーションのビルド時にインスタンスにアップロードする zip ファイルを出力するディレクトリ。このディレクトリは、ServiceNow SDK でのみ使用できます。 デフォルト：`target`
transpiledSourceDir	トランスパイルされた JavaScript ファイルを含むディレクトリ。 デフォルト：*`sourceDir`* パラメーターの値
maxInlineScriptLines	スクリプトが自動的に別のファイルに移動し、`script` タグを使用してソースコードで定義されたインラインスクリプトの最大行数。スクリプトファイルは、ソースコードの *`script`* プロパティから参照されます。 デフォルト値：10

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされている **now.config.json** パラメーター (続く)

パラメーター	説明
ignoreTransformTableList	アプリケーションメタデータをソースコードに変換するときに無視するテーブル。

package-lock.json

依存関係とそのバージョンに関する完全な情報を含む自動更新ファイル。このファイルは、ServiceNow SDK でのみ使用できます。

package.json

アプリケーションとカスタムまたはサードパーティのモジュールの依存関係に関する情報を含むファイル。`package.json` ファイルは、アプリケーションのベースディレクトリに存在する必要があります。

関連アプリケーションと機能

JavaScript API

アプリケーションの機能を変更したり、アプリケーションを作成したりする場合に記述するスクリプトで JavaScript API を使用します。

関連情報

ServiceNow Fluent

JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ

ServiceNow Fluent

ServiceNow Fluent ドメイン固有のプログラミング言語を使用して、ソースコードでアプリケーションメタデータを定義します。

概要

ServiceNow Fluent は、アプリケーションを構成するメタデータファイル [sys_metadata] を定義するための TypeScript に基づくドメイン固有言語 (DSL) であり、テーブル、ロール、ACL、ビジネスルール、自動テストフレームワーク (ATF) テストなど、さまざまなタイプのメタデータの API が含まれています。

開発者は、フォームやビルダーツールのユーザーインターフェイスではなく、数行のコードでこのメタデータを定義します。ServiceNow IDE または ServiceNow SDK で作成されたアプリケーションは、ServiceNow Fluent での開発をサポートします。

ServiceNow Fluent は双方向同期をサポートしています。これにより、メタデータへの変更を他の Now Platform ユーザーインターフェイスからソースコードに同期し、ソースコードへの変更をインスタンス全体のメタデータに同期することができます。

注: 自動テストフレームワーク (ATF) のテスト API は一方向の同期のみをサポートします。ソースコードで ATF テストを定義した後、メタデータがソースコードの外部で変更された場合、それらの変更は同期されず、ソースコードに反映されません。

ServiceNow IDE または ServiceNow SDK の使用を開始するには、『ServiceNow IDE』または『ServiceNow SDK』のドキュメントを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

API

ServiceNow Fluent には、次のタイプのメタデータの API が含まれています。レコード API を使用して、専用 API を持たないアプリケーションメタデータを定義できます。API と例の詳細については、「ServiceNow Fluent API リファレンス」を参照してください。

- アクセス制御リスト (ACL)
- アプリケーションメニュー
- 自動テストフレームワーク (ATF) テスト
- ビジネスルール
- クライアントスクリプト
- リスト
- プロパティ
- レコード
- ロール
- スクリプト済み REST API
- テーブル

使用法

拡張子が `.now.ts` のファイルで、ServiceNow Fluent API のオブジェクトを使用して、アプリケーションのメタデータを定義します。また、`@servicenow/sdk/core` からの API に、必要なインポートも含める必要があります。

次の例には、アプリケーションのテーブル、クライアントスクリプト、およびビジネスルールの定義が含まれています。ビジネスルールは、`script.js` JavaScript モジュールの関数を使用します。

```
import '@servicenow/sdk/global'
import { BusinessRule } from '@servicenow/sdk/core'
import { ClientScript } from '@servicenow/sdk/core'
import { Table, DateColumn, StringColumn } from '@servicenow/sdk/core'
import { showStateUpdate } from '../server/script.js'

//creates todo table, with three columns (deadline, status and task)
export const x_snc_example_to_do = Table({
    name: 'x_snc_example_to_do',
    schema: {
        deadline: DateColumn({ label: 'deadline' }),
        state: StringColumn({
            label: 'State',
            choices: {
                ready: { label: 'Ready' },
                completed: { label: 'Completed' },
                in_progress: { label: 'In Progress' },
            },
        }),
        task: StringColumn({ label: 'Task', maxLength: 120 }),
    },
})
```

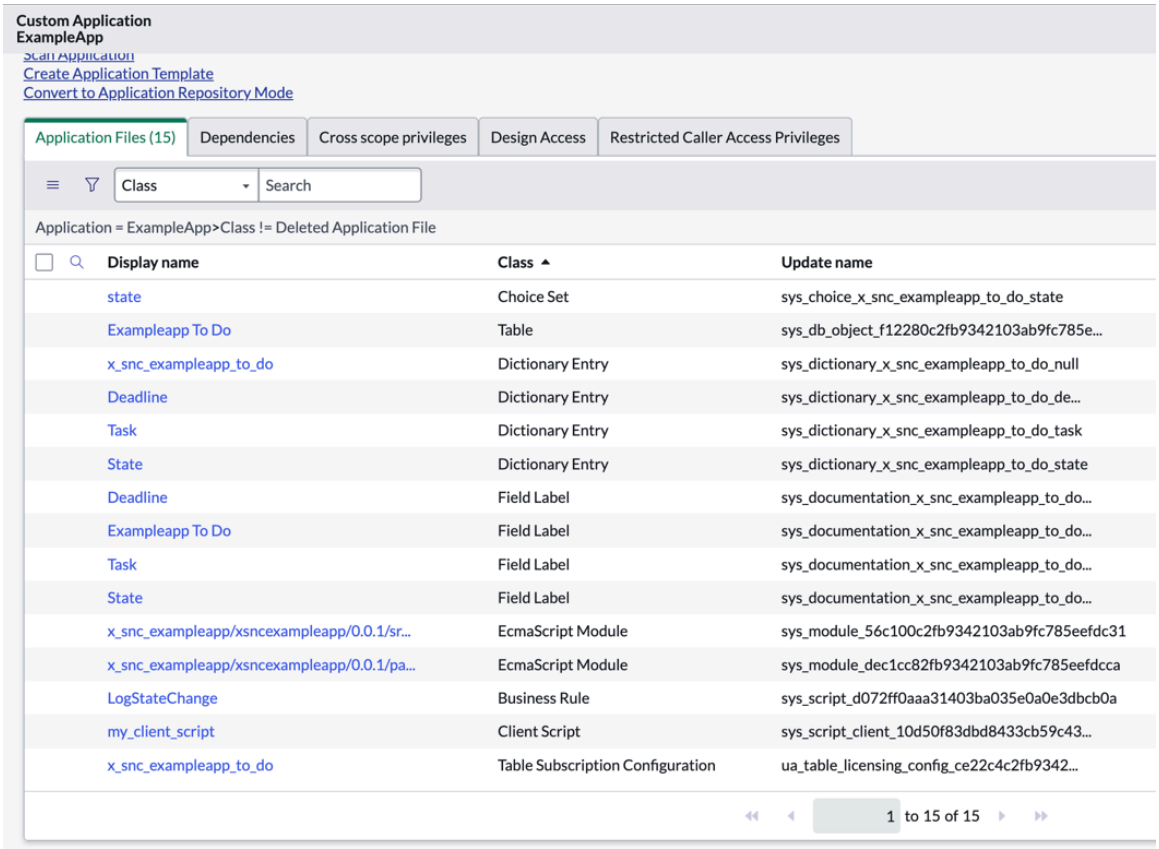
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
//creates a client script that pops up 'Table loaded successfully!!' message everytime todo
 record is loaded
ClientScript({
    $id: Now.ID['cs0'],
    name: 'my_client_script',
    table: 'x_snc_example_to_do',
    active: true,
    applies_extended: false,
    global: true,
    ui_type: 'all',
    description: 'Custom client script generated by Now SDK',
    messages: '',
    isolate_script: false,
    type: 'onLoad',
    script: script`function onLoad() {
        g_form.addInfoMessage("Table loaded successfully!!")
    }`,
})

//creates a business rule that pops up state change message whenever a todo record is
 updated
BusinessRule({
    $id: Now.ID['br0'],
    action: ['update'],
    table: 'x_snc_example_to_do',
    script: showStateUpdate,
    name: 'LogStateChange',
    order: 100,
    when: 'after',
    active: true,
})
```

アプリケーションのビルド後、このソースコードはインスタンスで次のアプリケーションメタデータファイルを生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow Fluent コードから生成されたアプリケーションメタデータ



関連情報

- ServiceNow IDE の ServiceNow Fluent を使用してコードでアプリケーションメタデータを定義する
- ServiceNow Fluent と ServiceNow SDK を使用してコードでアプリケーションメタデータを定義する

JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ

JavaScript モジュールを使用してコードベースを最適化し、関連するコードをグループ化したり、サードパーティライブラリを追加してアプリケーション内でコードを再利用したりします。

概要

モジュールは JavaScript ファイルであり、インスタンス上のアプリケーション内で共有および再利用される関連コードが含まれています。ServiceNow IDE で作成されたスコープ対象のアプリケーションと、ServiceNow SDK を使用して作成または変換されたアプリケーションの JavaScript モジュールとサードパーティライブラリを追加できます。アプリケーションをビルドする前に、TypeScript を使用してモジュールを作成し、それを JavaScript にコンパイルすることもできます。インスタンスでは、JavaScript モジュールは EcmaScript モジュール [sys_module] テーブルに保存されます。

モジュールでは、`export` ステートメントで再利用するコードを特定します。次に、`import` ステートメントまたは `require` ステートメントを使用して、アプリケーションの他の場所でコードを再利用します。アプリケーションは、モジュールコードを使用するために、サードパーティのノードパッケージマネージャー (npm) ライブラリへの依存関係を宣言する必要があります。JavaScript モジュールの作成に使用される構文に関する一般的な情報については、MDN Web Docs Web サイトの「JavaScript modules (JavaScript モジュール)」ページを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: グローバル Glide API をモジュールで使用するには、`@servicenow/glide` パッケージからインポートする必要があります。例：`import { gs } from '@servicenow/glide'`。

制限事項

- グローバルアプリケーションとアプリケーションのカスタマイズはサポートされていません。
- モジュールは、追加されたアプリケーションスコープ内でのみ使用できます。アプリケーションスコープ全体で使用することはできません。
- ECMAScript 機能のサブセットは、「JavaScript エンジン機能のサポート」に従ってモジュールでサポートされます。
- Node.js API はモジュールではサポートされていません。
- Web API に関連するグローバル変数はサポートされていません。
- アプリケーションに追加されたサードパーティライブラリは、ServiceNow API に対するアクセスや呼び出しはできません。
- サードパーティライブラリからの CommonJS モジュールは、エクスポートが定義されていない限りサポートされません。サブパスのインポートは CommonJS モジュールではサポートされていません。サードパーティライブラリからの ECMAScript モジュールはサポートされています。
- *`import`* ステートメントと *`export`* ステートメントは、モジュールでのみサポートされています。ビジネスルールやスクリプトインクルードなど、スクリプトにモジュールコードをインポートするには、*`require`* ステートメントを使用します。
- JavaScript モジュール [sys_module] は、ServiceNow IDE 内、または ServiceNow SDK の Visual Studio Code でのみ変更できます。

重要: サポートされていない API や ECMAScript 機能など、サポートされていない機能に依存するサードパーティライブラリを使用することはできません。

モジュールのエクスポート

モジュールで、*`export`* ステートメントで再利用するコードを特定します。名前付きエクスポートまたはデフォルトのエクスポートを使用できます。名前付きエクスポートは変数、定数、関数、またはクラスに使用できますが、デフォルトのエクスポートは関数またはクラスのみに使用できます。次の例は、モジュール内の複数の機能 (関数と変数) の名前付きエクスポートを追加する 1 つの方法です。

```
export { myFunction, myVariable };
```

モジュールのインポート

再利用するモジュールコードをインポートするには、他のモジュールで *`import`* ステートメントを使用するか、サーバーサイドスクリプトで *`require`* ステートメントを使用します。

次の例は、エクスポートされた機能をモジュールにインポートする 1 つの方法です。

```
import { feature } from "path/to/module";
```

次の例は、エクスポートされた機能をスクリプトにインポートする 1 つの方法です。

```
const { feature } = require("path/to/module");
```

短縮形を使用してモジュールコードをインポートするには、アプリケーションの `package.json` ファイルの *`imports`* フィールドでサブパスを使用します。例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
{
 "name": "math",
 "version": "1.0.0",
 "exports": {
  "./functions/*.js": "./src/functions/*.js",
  "./functions/private-functions/*": null
 },
 "imports": {
  "#calc": "calculus",
  "#derivative": "calculus/derivative"
 },
 "dependencies": {
  "calculus": "1.0.0"
 }
}
```

この例に基づくと、`math` アプリケーションにインポートするたびに `derivative.js` への相対パスを書き出す代わりに、`#derivative` 短縮形を使用できます。サブパスを *`imports`* フィールドで使用して、`#calc` などの依存関係の短縮形を使用することもできます。

```
import { derivative } from '#derivative';
import * as calculus from '#calc';
```

依存関係の追加

アプリケーションは、モジュールコードを使用するために、サードパーティライブラリへの依存関係を宣言する必要があります。アプリケーションの `package.json` ファイルに、依存関係のパッケージ名とバージョンを含めます。たとえば、「math」ライブラリのモジュールを「test」アプリケーションで使用するために、「math」パッケージを依存関係として追加します。

```
{
 "name": "test",
 "version": "1.0.0",
 "dependencies": {
  "math": "1.0.0"
 }
}
```

関連情報

ServiceNow IDE のアプリケーションで JavaScript モジュールを作成して使用する

ServiceNow SDK を使用してアプリケーションで JavaScript モジュールを作成して使用する

ServiceNow IDE

Now Platform 上の統合開発環境 (IDE) のソースコードでスコープ対象のアプリケーションを作成および開発することで、開発チーム間のコラボレーションを改善し、アプリケーション開発を加速します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開始するには

探索 ServiceNow IDE でのアプリケーション開発について説明します。	構成 開発者が使用する ServiceNow IDE をインストールして構成します。	統合 ソースコントロールプロバイダーと統合します。
ビルド ソースコードでアプリケーションを開発します。	参照 ServiceNow Fluent API の詳細を取得します。	

アプリの作成に使用すべきビルダー

業界標準の開発ツールやプロセスを使用したい開発者の場合

ServiceNow IDE と ServiceNow SDK は、ServiceNow Fluent を使用したソースコードでのアプリケーション開発、JavaScript モジュールの作成、およびサードパーティライブラリの使用をサポートしています。ServiceNow Fluent は、コードでアプリケーションメタデータを作成するためのドメイン固有のプログラミング言語です。

ServiceNow IDE は、Now Platform 上の Visual Studio Code for the Web の実装です。ServiceNow SDK は Visual Studio Code Desktop をローカルで使用します。詳細については、「ソースコードでアプリケーションをビルドする」を参照してください。

一元化されたユーザーインターフェイスでより詳細に制御したい開発者の場合

ServiceNow スタジオ はアプリケーション開発者が一元化された場所でカスタムアプリケーションで作業するためのインターフェイスで、ある程度のコーディングスキルが必要です。詳細については、「ServiceNow Studio」を参照してください。

より一般的なアプリが必要だけれどローコードオプションが必要な場合

App Engine Studio を使用すると、プログラミングのプロでなくても、クリエータースタジオ よりも幅広いアプリをビルドできます。詳細については、「App Engine Studio を使用したアプリのビルド」を参照してください。

コードなしで簡単にアプリをビルドしたい場合

クリエータースタジオ は、コードを書かずに要求を履行するアプリケーションの作成を支援することに特化しています。たとえば、フォームに入力して事務用品を要求するアプリケーションで、誰かが要求を承認または拒否するなどです。詳細については、「クリエータースタジオ：コードを記述せずにアプリケーションを作成する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Xanadu リリースの新機能の詳細については、「ServiceNow IDE リリースノート」を参照してください。
- ServiceNow Community の ServiceNow IDE、SDK、および Fluent フォーラム
- ServiceNow Community の ServiceNow IDE、SDK、および Fluent の記事
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

関連情報

ServiceNow Fluent

JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ

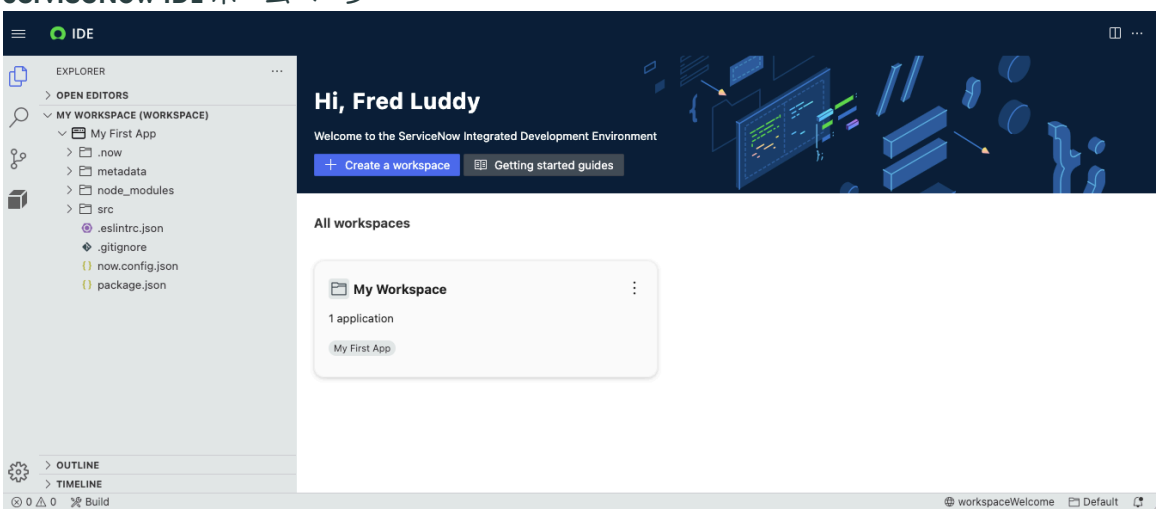
ServiceNow IDE の詳細

ServiceNow IDE のソースコードでのスコープ対象のアプリケーションの開発について説明します。

ServiceNow IDE の概要

ServiceNow IDE は、Now Platform 上の Visual Studio Code for the Web の実装です。この ServiceNow IDE を使用して、使い慣れたツールと業界標準の開発手法を使用して、スコープ対象のアプリケーションのビルドを迅速に開始できます。

ServiceNow IDE ホームページ



ServiceNow IDE には、タイプセーフ、IntelliSense、依存関係の適用、コード検索、ソースコントロールの統合など、Visual Studio Code と同じ機能が多数あります。

ServiceNow IDE では、ServiceNow Fluent を使用してアプリケーションメタデータ [sys_metadata] を定義し、ソースコード内でスコープ対象のアプリケーションを作成できます。変更内容をリアルタイムで並べて視覚的に表示するため、ServiceNow IDE 内に埋め込まれた他の Now Platform ユーザーインターフェイスでアプリケーションメタデータを開くことができます。

必要に応じて、JavaScript モジュールを作成し、サードパーティのライブラリを使用して、スコープ対象のアプリケーション内のコードを整理して再利用できます。

バックグラウンドで、この機能は、ServiceNow IDE でアプリケーションをビルドする ServiceNow SDK アプリケーションパッケージングサービスによって有効になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow IDE のワークフロー

1. ServiceNow Store から、アドミニストレーターは ServiceNow IDE アプリケーションを非本番インスタンスにインストールします。
2. 認証方法に応じて、アドミニストレーターまたは開発者は Git プロバイダーへの接続に必要な認証情報を構成します。
   - OAuth 2.0 認証を使用するには、アドミニストレーターが GitHub、GitLab、または Bitbucket で、およびインスタンスで OAuth 2.0 アプリケーションレジストリを構成します。
   - ベーシック認証を使用するには、開発者が Git プロバイダーから個人用アクセストークンを生成します。
3. Git プロバイダーから、開発者がアプリケーションの専用 Git リポジトリを作成します。
4. 開発者は ServiceNow IDE から Git 認証情報を構成します。
5. 開発者は、ServiceNow IDE でワークスペースとスコープ対象のアプリケーションを作成します。
6. 開発者は、アプリケーションのローカル Git リポジトリを初期化し、それを作成したリモートリポジトリにプッシュして、ソースコントロールでアプリケーションを管理します。
7. 開発者は、ServiceNow Fluent を使用してソースコードでアプリケーションメタデータを定義したり、カスタム JavaScript モジュールを作成したり、サードパーティライブラリを使用したりできます。
8. 変更を保存した後、開発者がアプリケーションをビルドすると、ソースコードがコンパイルされ、アプリケーションメタデータに変換されます。
9. ビルドが完了すると、開発者は ServiceNow IDE を離れることなく、他の埋め込み Now Platform ユーザーインターフェイスに反映された変更を表示できます。
10. 開発者は変更をステージングし、コミットして、Git リポジトリにプッシュします。
11. ServiceNow IDE から、他の開発者はリポジトリのクローンを作成し、分岐を作成し、アプリケーションでコラボレーションを開始できます。

他のユーザーは、開発者がソースコードを変更するのと同時に、アプリケーションメタデータを変更できます。開発者は、アプリケーション内の他のモジュールまたはスクリプトのモジュールコードを再利用できます。双方向同期をサポートする ServiceNow Fluent API の場合、アプリケーションメタデータへの変更のソースコードへの同期は自動的に行われます。

ServiceNow IDE のメリット

価値・効果	機能	ユーザー
Now Platform 上の Visual Studio Code で IDE ベースのアプリケーションを開発する	ServiceNow IDE ユーザーインターフェイス	開発者
ServiceNow アプリケーションを構成するメタデータを定義するソースコードを記述する	ServiceNow Fluent ServiceNow IDE の ServiceNow Fluent を使用してコードでアプリケーションメタデータを定義する	開発者
カスタム JavaScript モジュールとサードパーティの JavaScript ユーティリティを使用して、スコープ対象のアプリケーション内のコードを整理して再利用する	JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ ServiceNow IDE のアプリケーションで	開発者

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

価値・効果	機能	ユーザー
	JavaScript モジュールを作成して使用する ServiceNow IDE のアプリケーションでサードパーティライブラリを使用する	
さまざまなスキルセットのユーザーとアプリケーションでコラボレーションする	ServiceNow IDE でアプリケーションをビルドする	開発者
ソースコントロールを、選択した Git プロバイダーと統合する	ソースコントロールと ServiceNow IDE の統合	開発者

ServiceNow IDE ユーザーインターフェイス

ServiceNow IDE ユーザーインターフェイスには、Visual Studio Code for the Web と同じ機能が多数含まれており、ServiceNow アプリケーションを作成するための独自の機能もいくつか含まれています。

概要

ServiceNow IDE は、Now Platform 上の Visual Studio Code for the Web の実装であり、次の機能が含まれています。

- 基本的な編集とキーボードショートカット
- IntelliSense
- コードナビゲーション
- コードとファイルの検索
- コマンドパレット
- ソースコントロールの統合

Visual Studio Code for the Web は Visual Studio Code Desktop と似ていますが、デスクトップインターフェイスで使用できるすべての機能をサポートしているわけではありません。Visual Studio Code のブラウザベースの実装については、Visual Studio Code for the Web を参照してください。次の Visual Studio Code 機能は ServiceNow IDE ではサポートされていません。

- 統合端末
- デバッガ
- マーケットプレイス拡張機能
- 統合単体テスト
- リモート開発

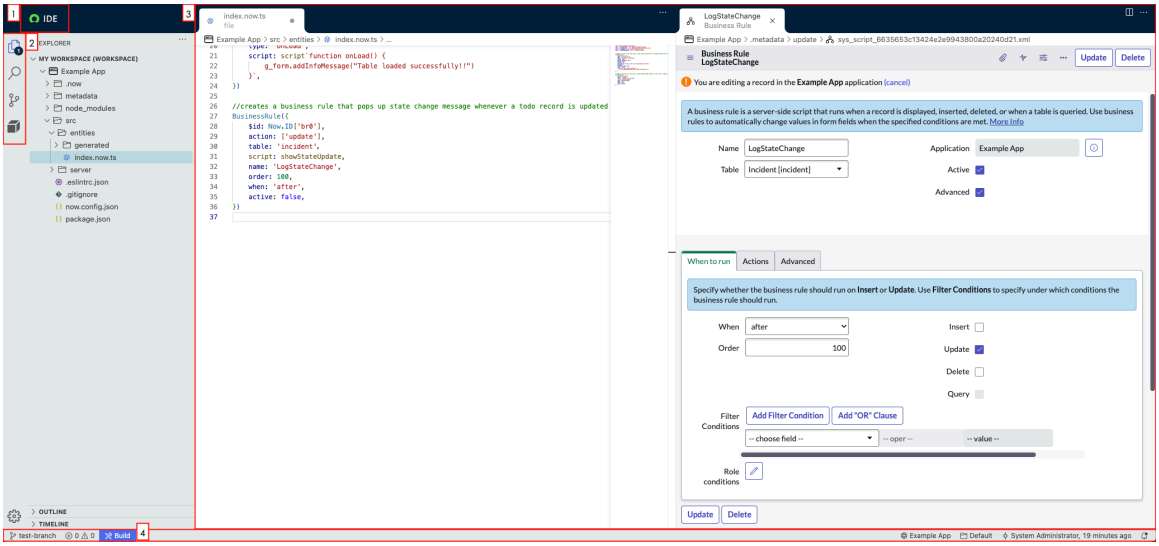
Visual Studio Code と ServiceNow IDE の一般的な機能に関する一般的な情報については、Visual Studio Code のドキュメント Web サイトを参照してください。

ServiceNow IDE の機能

ServiceNow IDE のユーザーインターフェイスの機能について説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow IDE ユーザーインターフェイス

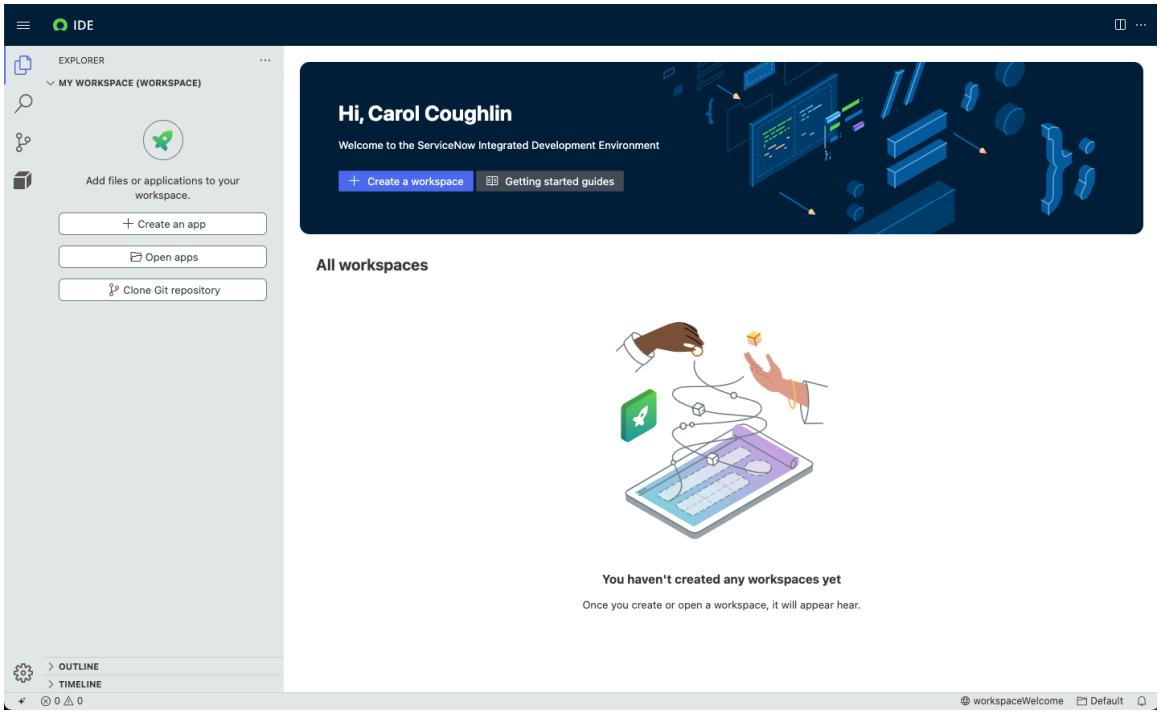


1. ホームページ：ワークスペースとアプリケーションの作成を開始し、既存のワークスペースを表示します。
2. アクティビティバー
   - ファイルエクスプローラー：ワークスペース内のアプリケーションとそのコード間を移動します。
   - 検索：ファイル内のコンテンツを検索します。
   - ソースコントロール：コードのバージョン管理のために Git リポジトリと統合します。
   - メタデータエクスプローラー：アプリケーションメタデータを移動、表示および変更します。
3. エディター：埋め込み Now Platform ユーザーインターフェイスを使用して、ソースコードを記述し、アプリケーションメタデータを表示します。
4. ステータスバー：アプリケーションとファイル、およびビルドアプリケーションに関するステータス情報を表示します。

これらの機能に加えて、コマンドパレットを開いて、アプリケーションの開発、ファイルの管理、ソースコントロールの使用などを行うさまざまなコマンドを実行できます。詳細については、「コマンドパレット」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ホームページ

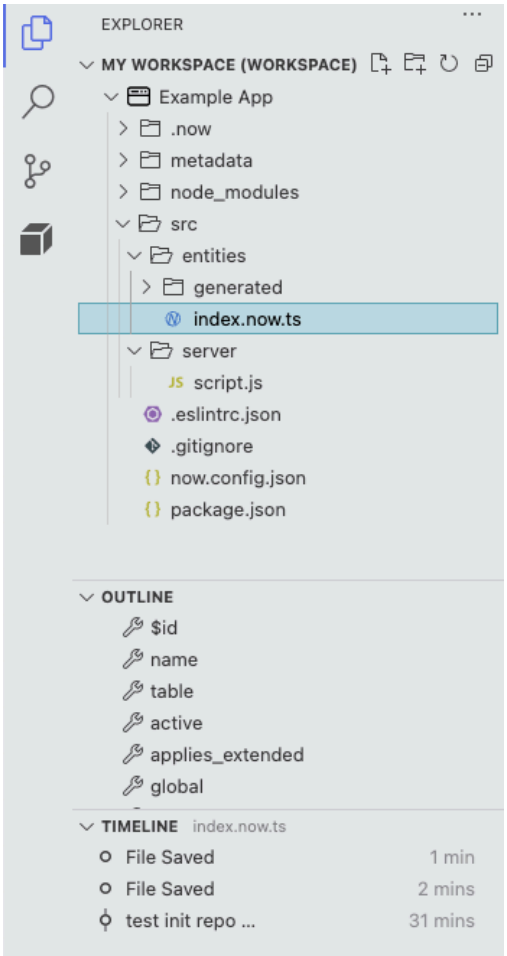


ワークスペースを作成し、既存のワークスペースにアクセスし、アプリケーションを作成または開きます。Git リポジトリのクローンを作成して、リモートリポジトリから既存のアプリケーションを追加します。ワークスペースとアプリケーションの作成、またはリポジトリのクローン作成を開始するには、次のトピックを参照してください。

- ServiceNow IDE でワークスペースを作成する
- ServiceNow IDE でアプリケーションを作成する
- ServiceNow IDE で Git リポジトリのクローンを作成する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

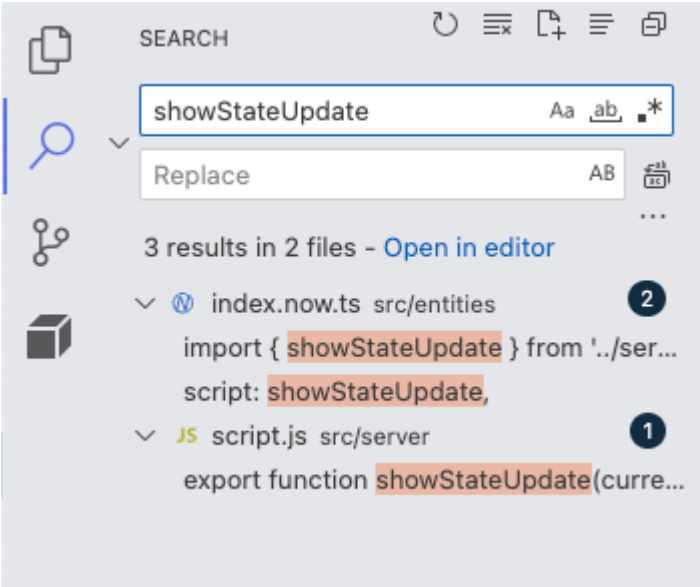
ファイルエクスプローラー



ワークスペース内のアプリケーション間を移動し、ファイルまたはフォルダーを追加します。[アウトライン] セクションで、エディター内のアクティブなファイルのアウトラインを表示します。[タイムライン] セクションで、アクティブなファイルに対する変更の履歴を表示します。デフォルトのアプリケーションファイル構造については、「ソースコードでアプリケーションをビルドする」トピックの アプリケーションの構造 セクションを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

検索



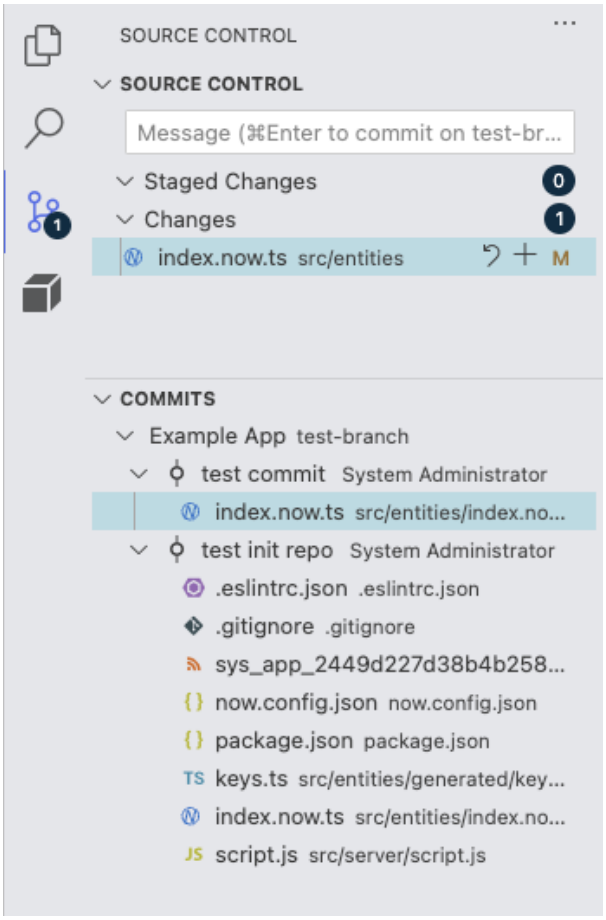
アクティブなワークスペース内のファイルを検索します。検索ビューは、正規表現の使用、検索と置換、および高度な検索オプションをサポートしています。

ファイルを名前で検索するには、次のキーボードショートカットを使用して検索ボックスを開きます。

- Windows：Ctrl-P
- Mac：Cmd-P

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

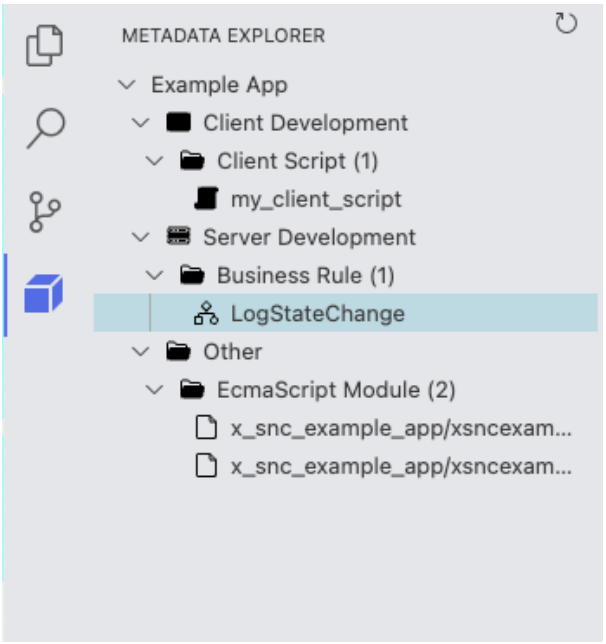
ソースコントロール



ファイルへの変更を、アプリケーションと変更のタイプでグループ化して表示します。リモートリポジトリへの変更をステージング、コミット、プッシュし、変更をローカルリポジトリにプルします。アプリケーションの分岐を作成してチェックアウトします。[コミット] セクションで、リポジトリ内のブランチのコミット履歴を表示します。ソースコントロールプロバイダーとの統合を開始するには、「ソースコントロールと ServiceNow IDE の統合」を参照してください。

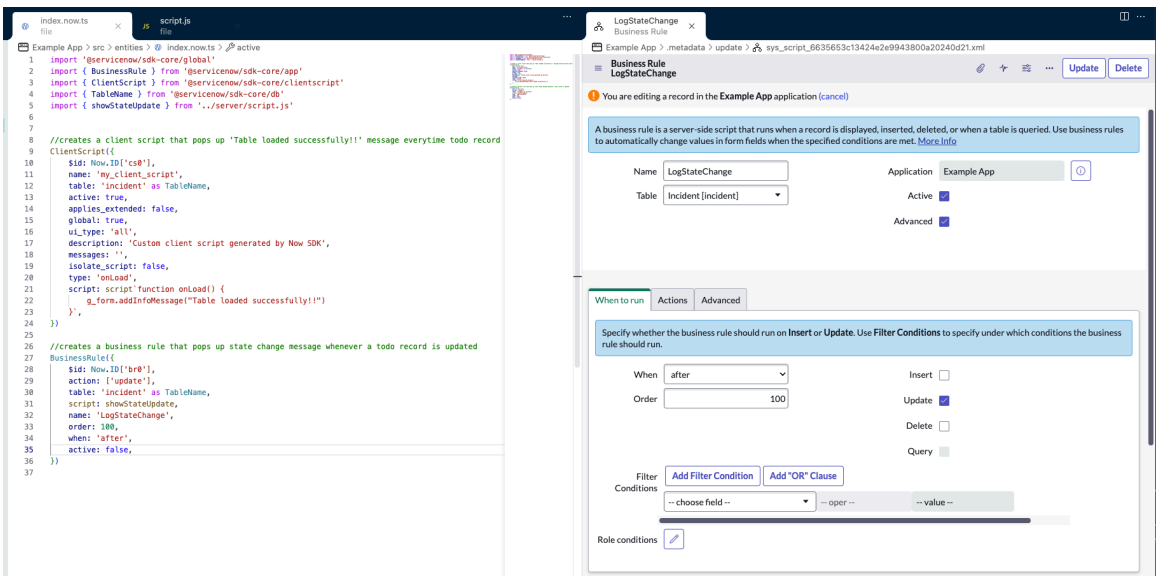
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メタデータエクスプローラー



エディターの最適な埋め込み Now Platform ユーザーインターフェイスでアプリケーションメタデータに移動して開きます。詳細については、「エディター」を参照してください。

エディター

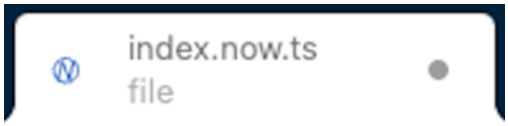


コードエディターでコードを編集します。コードエディターには、IntelliSense、ServiceNow Fluent のカスタム言語処理と検証、並列編集などが含まれています。

アプリケーションをビルドした後、ServiceNow IDE を離れることなく、埋め込み Now Platform ユーザーインターフェイスで、ServiceNow Fluent ソースコードへの変更をアプリケーションメタデータとしてレビューします。アプリケーションメタデータは、最適な埋め込み Now Platform ユーザーインターフェイスで開きます。また、埋め込み Now Platform ユーザーインターフェイスからアプリケーションメタデータを更新および保存することもできます。

タブを切り替えて、エディターをグループに分割します。ファイルに未保存の変更がある場合、[ファイル] タブにドットアイコンが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ソースコードでのアプリケーションの開発を開始するには、「ServiceNow IDE を使用したアプリケーションの開発」を参照してください。

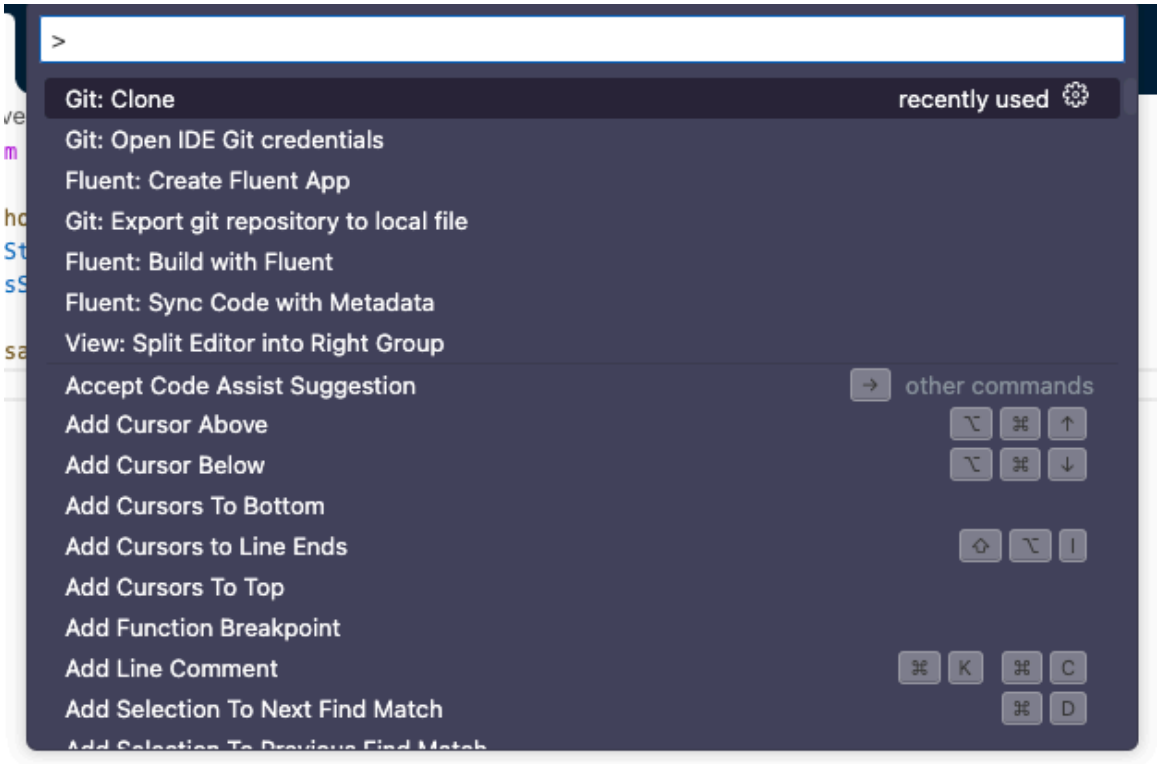
ステータスバー

アプリケーションのステータスに関する情報を取得し、アプリケーションをビルドします。アプリケーションを作成、ビルド、同期するときの進捗状況を表示します。さらに、ステータスバーには、アクティブな分岐、コード内の問題、アクティブなアプリケーションスコープ、アクティブな更新セットなどが表示されます。

ステータスバーからパネルが開き、アプリケーションの作成、ビルド、同期に関連するコードとログ記録の問題に関する詳細情報が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コマンドパレット



コマンドを実行して、ユーザーインターフェイスの構成、アプリケーションの開発、ファイルの管理、ソースコントロールの使用、キーボードショートカットのリストへのアクセスなどを行います。コマンドパレットには、ServiceNow IDE および Visual Studio Code コマンドに固有のコマンドが含まれています。

コマンドパレットを開くには、次のいずれかのキーボードショートカットを使用します。

- Windows：Ctrl-Shift-P
- Mac：Cmd-Shift-P

コマンドパレットを閉じるには、Esc キーを押します。

ServiceNow IDE の構成

開発者が ServiceNow インスタンスで使用する ServiceNow IDE をインストールして設定します。

ServiceNow IDE をインストールする

ServiceNow® Store から ServiceNow IDE アプリケーション (sn_glider) をインストールします。

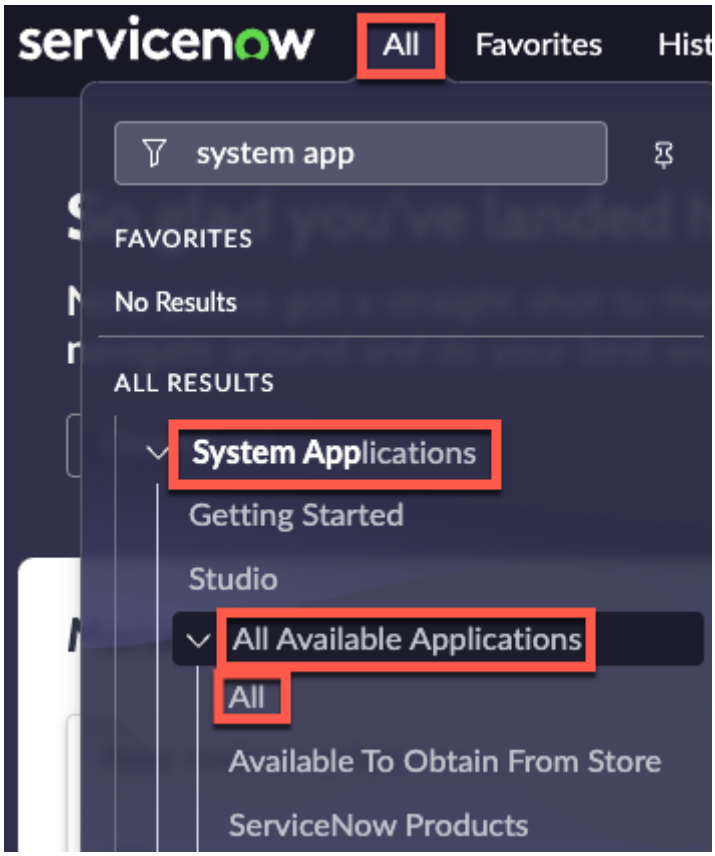
始める前に
依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、ServiceNow Store の ServiceNow IDE アプリケーションリストを確認してください。

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。



2. フィルター基準と検索バーを使用して、ServiceNow IDE アプリケーション (sn_glider) を検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store に要求する必要が生じる場合があります。

   [インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

   表示されるインストールダイアログボックスには、アプリケーションと併せてインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエンタイトルメントを取得します。

5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

   > **重要:** インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

6. [インストール] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースコントロールと **ServiceNow IDE** の統合

リモート Git リポジトリと統合して、ServiceNow IDE を使用してソースコントロールでアプリケーションを管理します。

ベーシック認証または OAuth 2.0 認証を使用して Git プロバイダーに接続できます。次に、ServiceNow IDE 内のアプリケーションのリポジトリを初期化してリモートリポジトリにプッシュするか、アプリケーションを含むリモートリポジトリのクローンを作成します。認証を設定してリポジトリに接続すると、一般的な Git コマンドを使用してソースコントロールでアプリケーションを管理できます。

ServiceNow IDE でソースコントロールの使用を開始する方法については、次のトピックを参照してください。

ServiceNow IDE のベーシック認証を使用した **Git** プロバイダーへの接続

ベーシック認証認証情報を使用して Git ドメインまたはリポジトリに接続し、ServiceNow IDE からソースコントロール内のアプリケーションを管理します。

始める前に

- Git ドメインではなくリポジトリの認証情報を設定するには、GitHub、GitLab、Bitbucket などの Git プロバイダーでアプリケーションの専用 Git リポジトリを作成します。
- Git プロバイダーから、Git ドメインまたはリポジトリへのベーシック認証に使用する個人用アクセストークンを生成します。ServiceNow IDE の認証情報を構成するときは、Git ユーザー名と個人用アクセストークンを指定する必要があります。

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[ServiceNow IDE]**に移動します。
2. コマンドパレットを開くには、次のいずれかのキーボードショートカットを使用します。
   - Windows：Ctrl-Shift-P
   - Mac：Cmd-Shift-P
3. `Git: Set IDE Git credentials` と入力し、Enter キーを押します。
4. [新規 Git 認証情報 (New Git credential)] フォームで [基本認証] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

[新規 **Git** 認証情報 **(New Git credential)]** フォーム

Field (フィールド)	**Description** (説明)
Git リポジトリの URL (Git repository URL)	Git プロバイダーのドメイン名またはリポジトリ URL。 Git プロバイダーのドメイン名を指定すると、この認証情報がドメイン内のすべてのリポジトリに使用されます。
Git ユーザー名 (Git username)	Git ユーザー名。
個人アクセストークン	Git プロバイダーから生成する個人用アクセストークン。

6. [送信] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
リポジトリを初期化またはクローンした後、ソースコントロールの使用を開始できます。詳細については、「ServiceNow IDE でソースコントロールを使用する」を参照してください。

既存の Git 認証情報を管理するには、コマンドパレットから `Git: Manage Git credentials` コマンドを使用します。

ServiceNow IDE で Git リポジトリを初期化する

アプリケーションのローカル Git リポジトリを初期化し、それをリモート Git リポジトリにプッシュして、ソースコントロールでアプリケーションを管理します。

始める前に

- ServiceNow IDE でスコープ対象のアプリケーションを作成します。詳細については、「ServiceNow IDE でアプリケーションを作成する」を参照してください。
- Git プロバイダーから、アプリケーションの専用 Git リポジトリを作成します。
- Git リポジトリに接続するための ServiceNow IDE のベーシック認証情報または OAuth 2.0 認証情報を設定します。詳細については、「ServiceNow IDE のベーシック認証を使用した Git プロバイダーへの接続」または「」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
インスタンス上のアプリケーションは、一度に 1 つのリポジトリにのみ接続できます。リモート Git リポジトリに存在するアプリケーションのクローンを作成するには、「ServiceNow IDE で Git リポジトリのクローンを作成する」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[ServiceNow IDE]**に移動します。
2. Git リポジトリに接続されていないアプリケーションを含むワークスペースを開きます。
3. アクティビティバーから、[ソースコントロール] ビュー ( ) を選択します。
4. [リポジトリの初期化 **(Initialize Repository)]** を選択するか、またはコマンドパレットから `Git: Initialize Repository` コマンドを使用することもできます。
5. Git リポジトリを初期化するアプリケーションを選択し、Enter キーを押します。
6. デフォルトの分岐名として [メイン] を選択するか、別の名前を入力して Enter キーを押します。
7. [追跡されていない変更をすべてステージング (Stage All Untracked Change)] アイコン ( ) を選択します。
8. コミットメッセージを入力し、[コミット] アイコン ( ) を選択します。
9. [その他のアクション] メニューアイコン ( ) を選択し、[プッシュ] を選択します。
10. リモートリポジトリの URL を入力し、Enter キーを押します。

タスクの結果
アプリケーションはリモートリポジトリで使用可能です。

Trouble?
Git 認証情報が構成されていないか非アクティブである場合、アプリケーションはリモートリポジトリにプッシュされません。認証情報の構成を求められたら、[構成] を選択して Git 認証情報を構成し、もう一度お試しください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
リポジトリ内の分岐をチェックアウトまたは作成し、変更をリモートリポジトリにプッシュできます。詳細については、「ServiceNow IDE でソースコントロールを使用する」を参照してください。

ServiceNow IDE で Git リポジトリのクローンを作成する

リモート Git リポジトリのクローンを作成して、ソースコントロール内のアプリケーションを ServiceNow IDEとコラボレーションします。

始める前に
- アプリケーション用のワークスペースを作成します。詳細については、「ServiceNow IDE でワークスペースを作成する」を参照してください。
- Git リポジトリに接続するための ServiceNow IDE のベーシック認証情報または OAuth 2.0 認証情報を設定します。詳細については、「ServiceNow IDE のベーシック認証を使用した Git プロバイダーへの接続」または「」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
ServiceNow IDE または ServiceNow SDK で作成されたアプリケーションを含むリモート Git リポジトリのクローンを作成できます。リポジトリには、ベースディレクトリに `now.config.json` ファイルと `package.json` ファイルを含むアプリケーションが含まれている必要があります。

手順
1. [すべて] > **[ServiceNow IDE]**に移動します。
2. アプリケーションを追加するワークスペースを開きます。
3. コマンドパレットを開くには、次のいずれかのキーボードショートカットを使用します。
   - Windows：Ctrl-Shift-P
   - Mac：Cmd-Shift-P
4. `Git: Clone` と入力し、Enter キーを押します。
5. リモート Git リポジトリの URL を入力し、Enter キーを押します。

タスクの結果
リモートリポジトリのファイルを含むアプリケーションがインスタンスとワークスペースに追加されます。アプリケーション名は、`now.config.json` ファイルの *`scope`* パラメーターの値です。

次のタスク
リポジトリ内の分岐をチェックアウトまたは作成し、変更をリモートリポジトリにプッシュできます。詳細については、「ServiceNow IDE でソースコントロールを使用する」を参照してください。

ServiceNow IDE でソースコントロールを使用する

ServiceNow IDE で Git コマンドやその他のソースコントロール機能を使用して、開発チーム全体でアプリケーションへの変更を管理します。

Git コマンド

Git リポジトリを初期化またはクローン作成して Git プロバイダーに接続した後、[ソースコントロール] ビュー ( ) またはコマンドパレットから、次の Git コマンドを実行できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow IDE の Git コマンド

コマンド	説明
クローン (··· > [クローン]) コマンドパレット：**Git: Clone**	リモートリポジトリのクローンを作成して、アプリケーションをワークスペースに追加します。 詳細については、「ServiceNow IDE で Git リポジトリのクローンを作成する」を参照してください。
チェックアウト先 (··· > [チェックアウト先 **(Checkout to...)**]) コマンドパレット：**Git: Checkout to...**	リポジトリから別の分岐をチェックアウトします。リストから分岐を選択するか、分岐を作成してリモートリポジトリにプッシュします。 インスタンス上で一度にチェックアウトできる分岐は、リポジトリごとに 1 つだけです。
ステージ (+) コマンドパレット：**Git: Stage Changes**	コミットする作業ディレクトリ内の変更をステージングします。変更をステージングすると、ファイルは [変更] リストから [ステージング済みの変更 (Staged Changes)] リストに移動します。
コミット (✓) コマンドパレット：**Git: Commit**	ステージングされた変更をローカルリポジトリにコミットします。変更内容を説明するコミットメッセージを入力します。
プッシュ (··· > [プッシュ]) コマンドパレット：**Git: Push**	コミットした変更をリモートリポジトリにプッシュします。
プル (··· > [プル]) コマンドパレット：**Git: Pull**	プルして、リモートリポジトリからローカルリポジトリに最新の変更をマージします。
スタッシュ (··· > [スタッシュ]) コマンドパレット：**Git: Stash**、**Git: Pop**、**Git: Drop**、**Git: List**、**Git: Apply**、**Git: Clear**	コミットされていないすべての変更をスタッシュして作業ディレクトリにローカルで保存し、後で戻ります。 スタッシュ時に、pop、drop、list、apply、および clear サブコマンドがサポートされます。[スタッシュ] > [適用]を選択して、作業ディレクトリの変更を再適用します。
破棄 (↶) コマンドパレット：**Git: Discard Changes**	変更を破棄して、アプリケーションへの変更を元に戻します。
分岐を作成 (··· > [分岐] > [分岐を作成...]) コマンドパレット：**Git: Create branch...**	リポジトリに分岐を追加してチェックアウトします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

マージの競合

ファイル内のローカル変更とリモート変更間に競合がある場合、そのファイルは [ソースコントロール] ビュー( ) の [結合の競合 (Merge conflicts)] の下に一覧表示されます。エディターで競合を確認し、現在の変更または受信する変更を受け入れるか、両方を受け入れるか、ファイルを手動で編集することで、解決できます。

コミット履歴

分岐のコミット履歴は、[ソースコントロール] ビュー ( ) の [コミット] セクションにリストされ、コミットの詳細が含まれます。ファイルのコミット履歴を表示するには、[ファイルエクスプローラー] ビュー ( ) に移動し、ファイルを選択して、[タイムライン] セクションを展開します。コミットを選択すると、変更を比較する差分エディターが開きます。

リポジトリの変更

アプリケーションが接続されているリモートリポジトリを更新するには、コマンドパレットから `Git: Update remote origin` コマンドを使用し、別のリモートリポジトリの URL を入力します。

ServiceNow IDE を使用したアプリケーションの開発

ServiceNow IDE を使用して、ソースコードでアプリケーションを作成および開発します。アプリケーションをビルドして、インスタンス全体で変更を使用できるようにして、あらゆるスキルセットのユーザーとコラボレーションします。

ServiceNow IDE では、ServiceNow Fluent を使用してアプリケーションメタデータ [sys_metadata] を定義し、ソースコード内でスコープ対象のアプリケーションを作成および開発します。必要に応じて、JavaScript モジュールを作成し、サードパーティのライブラリを使用して、スコープ対象のアプリケーション内のコードを整理して再利用できます。

変更を保存して準備ができたら、アプリケーションをビルドしてソースコードをアプリケーションメタデータにコンパイルし、インスタンス全体でユーザーが変更を使用できるようにします。他のユーザーがアプリケーションメタデータを変更すると、その変更は自動的にソースコードに同期されます。

次のトピックで、ServiceNow IDE を使用してアプリケーションの開発を開始する方法を説明します。

関連情報

- ソースコントロールと ServiceNow IDE の統合
- ServiceNow Fluent API リファレンス

ServiceNow IDE でワークスペースを作成する

ワークスペースを作成して、ServiceNow IDE で作業しているアプリケーションを表示および整理します。

始める前に
ServiceNow IDEをインストールします。詳細については、「ServiceNow IDE をインストールする」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
ワークスペースはユーザーごとに固有です。ServiceNow IDE を開くと、最後に作業していたワークスペースが開きます。

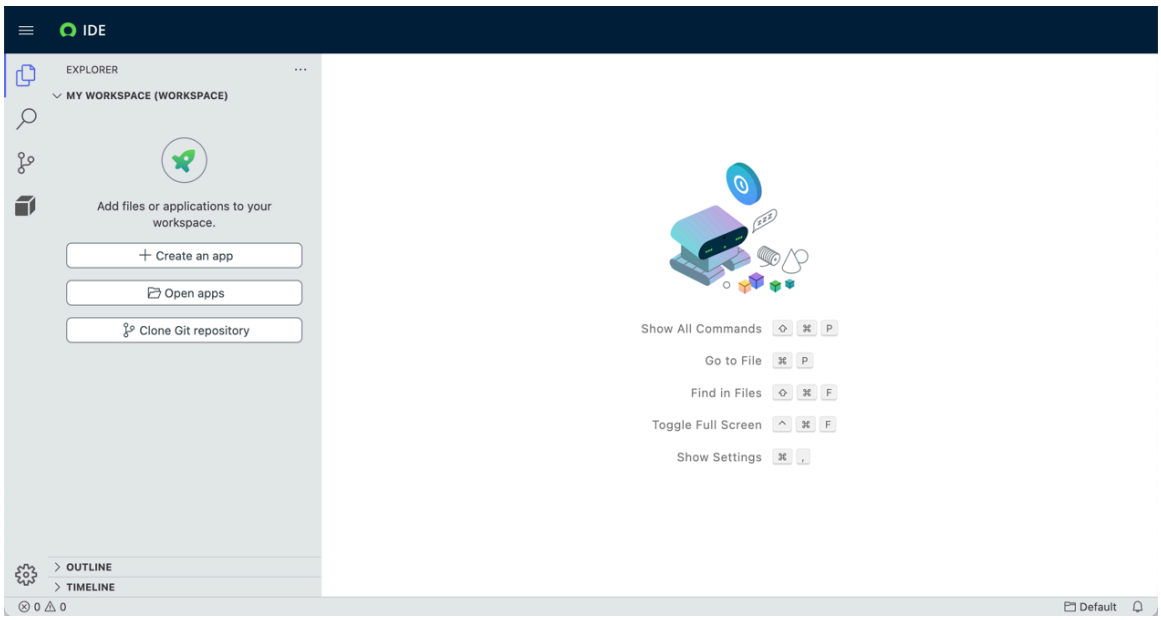
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[ServiceNow IDE]**に移動します。
2. ServiceNow IDE ホームページ (IDE) に移動し、[ワークスペースを作成 **(Create a workspace)]** を選択します。

   ヒント: コマンドパレットから `Workspaces: Create a Workspace` コマンドを使用することもできます。

3. ワークスペースの名前を入力し、Enter キーを押します。
4. ワークスペースの説明を入力し、Enter キーを押します。
   ワークスペースがアクティブなワークスペースになります。



5. オプション: 既存のアプリケーションをワークスペースに追加します。

   a. [アプリを開く **(Open apps)]** を選択します。

   b. アプリケーションを選択します。
      ServiceNow IDE または ServiceNow SDK で作成されたアプリケーションのみを追加できます。
      ワークスペースにアプリケーションを追加するには、メインメニューまたはコマンドパレットで `Workspaces: Add Application to Workspace` コマンドを使用します。

次のタスク
ワークスペースでアプリケーションを作成するには、「ServiceNow IDE でアプリケーションを作成する」を参照してください。

アクティブなワークスペースを切り替えるには、ServiceNow IDE ホームページ (IDE) から、またはコマンドパレットの `Workspaces: Browse Workspaces` コマンドを使用して、他のワークスペースを参照して選択します。

アプリケーションを含むリモート Git リポジトリのクローンをワークスペースに作成するには、「ServiceNow IDE で Git リポジトリのクローンを作成する」を参照してください。

ServiceNow IDE でアプリケーションを作成する

ServiceNow IDE を使用して、ソースコードで開発するスコープ対象のアプリケーションを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

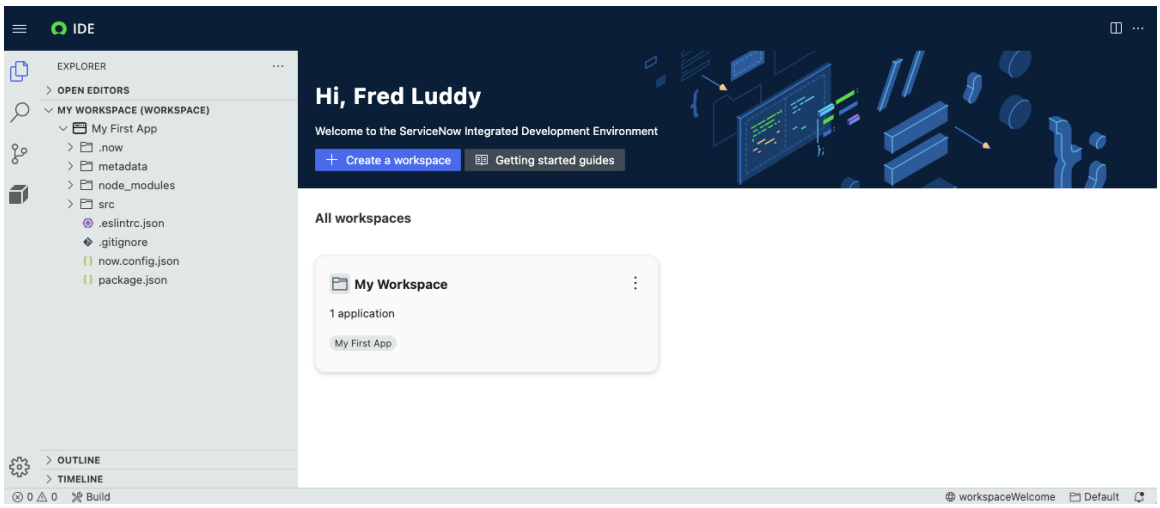
始める前に
アプリケーション用のワークスペースを作成します。詳細については、「ServiceNow IDE でワークスペースを作成する」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[ServiceNow IDE]**に移動します。
2. コマンドパレットを開くには、次のいずれかのキーボードショートカットを使用します。
   - Windows：Ctrl-Shift-P
   - Mac：Cmd-Shift-P
3. `Fluent: Create Fluent App` と入力し、Enter キーを押します。
4. アプリケーションの名前を入力し、Enter キーを押します。
5. アプリケーションの説明を入力し、Enter キーを押します。
6. アプリケーションのスコープを入力し、Enter キーを押します。
   スコープ名はインスタンス上で一意で、x_<prefix> で始まり、12 文字以下である必要があります。詳細については、「名前空間識別子」を参照してください。
7. アプリケーションのパッケージ名を入力し、Enter キーを押します。
   パッケージ名は、NPM パッケージの命名基準に準拠している必要があります。

タスクの結果
デフォルトのアプリケーション構造を持つスコープ対象のアプリケーションがインスタンスに追加され、ワークスペースで開きます。 アプリケーション構造の詳細については、「ソースコードでアプリケーションをビルドする」トピックの「アプリケーションの構造」セクションを参照してください。



Trouble?
ステータスバーに、アプリケーションが作成されたかどうかを確認するメッセージが表示されます。アプリケーションの作成に失敗した場合は、パネルの出力ログを確認します。

次のタスク
Git プロバイダーから、アプリケーションの専用 Git リポジトリを作成します。アプリケーションのローカル Git リポジトリを初期化し、リモートリポジトリにプッシュします。詳細については、「ServiceNow IDE で Git リポジトリを初期化する」を参照してください。

ServiceNow IDE では、ServiceNow Fluent を使用したソースコードでのアプリケーションの開発、カスタム JavaScript モジュールの作成、またはサードパーティライブラリの追加を開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow IDE の ServiceNow Fluent を使用してコードでアプリケーションメタデータを定義する

コードでアプリケーションメタデータを定義するServiceNow Fluent を ServiceNow IDE で使用します。

始める前に

ServiceNow IDE で、スコープ対象のアプリケーションを作成またはクローン作成します。詳細については、「ServiceNow IDE でアプリケーションを作成する」または「ServiceNow IDE で Git リポジトリのクローンを作成する」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

ServiceNow Fluent は、アプリケーションを構成するメタデータファイル [sys_metadata] を定義するための TypeScript に基づくドメイン固有言語 (DSL) であり、テーブル、ロール、ACL、ビジネスルール、自動テストフレームワーク (ATF) テストなど、さまざまなタイプのメタデータの API が含まれています。 ServiceNow Fluent API と例の詳細については、「ServiceNow Fluent API リファレンス」を参照してください。

ServiceNow IDE には、ServiceNow Fluent API の言語処理と検証がデフォルトで用意されています。これには、`.now.ts` ファイル内の必要なプロパティとインポートのチェックが含まれます。

手順

1. [すべて] > **[ServiceNow IDE]**に移動します。
2. アプリケーションでワークスペースを開きます。
3. アクティビティバーから、[ファイルエクスプローラー] ビュー( ) を選択します。
4. `src/fluent` ディレクトリに、拡張子が `.now.ts` のファイルを追加します。
   アプリケーションメタデータは、1 つのファイルまたは任意の数の `.now.ts` ファイルで定義し、`fluent` ディレクトリ内のディレクトリにファイルを整理できます。

   ヒント: `fluent` ディレクトリでは、`index.now.ts` という名前のサンプルファイルを参照できます。

5. `.now.ts` ファイルで、ServiceNow Fluent API のオブジェクトを使用して、アプリケーションのメタデータを定義します。

   Example

   たとえば、アプリケーションでテーブル [sys_db_object] を作成するには、テーブル API を使用します。次の例では、必要なプロパティと値を持つ *`Table`* オブジェクトを使用して、To Do リスト用のシンプルなテーブルを作成しています。

```
export const x_snc_example_to_do = Table({
    name: 'x_snc_example_to_do',
    schema: {
        deadline: DateColumn({ label: 'deadline' }),
        state: StringColumn({
            label: 'State',
            choices: {
                ready: { label: 'Ready' },
                completed: { label: 'Completed' },
                in_progress: { label: 'In Progress' },
            },
        }),
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        task: StringColumn({ label: 'Task', maxLength: 120 }),
    },
})
```

注: レコード API を使用して、専用 API を持たないアプリケーションメタデータを定義できます。

6. `@servicenow/sdk/core` から API に必要なインポートを追加します。

   Example

   たとえば、日付列と文字列列を持つテーブルを定義するには、使用する対応するオブジェクトをテーブル API からインポートします。

   ```
   import { Table, DateColumn, StringColumn } from '@servicenow/sdk/core'
   ```

7. オプション: ビジネスルールなどのサーバー側スクリプトを使用する ServiceNow Fluent API の場合は、JavaScript モジュールからコードをインポートして、オブジェクトのスクリプトプロパティから呼び出します。

   Example
   この例では、スクリプトプロパティから参照できる `showStateUpdate` 関数をインポートします。

   ```
   import { showStateUpdate } from '../server/script.js'
   ```

8. 変更内容を保存します。

Example: ServiceNow Fluent を使用してソースコードでアプリケーションメタデータを定義する

拡張子が `.now.ts` のファイルで、ServiceNow Fluent API のオブジェクトを使用して、アプリケーションのメタデータを定義します。また、`@servicenow/sdk/core` からの API に、必要なインポートも含める必要があります。

次の例には、アプリケーションのテーブル、クライアントスクリプト、およびビジネスルールの定義が含まれています。ビジネスルールは、`script.js` JavaScript モジュールの関数を使用します。

```
import '@servicenow/sdk/global'
import { BusinessRule } from '@servicenow/sdk/core'
import { ClientScript } from '@servicenow/sdk/core'
import { Table, DateColumn, StringColumn } from '@servicenow/sdk/core'
import { showStateUpdate } from '../server/script.js'

//creates todo table, with three columns (deadline, status and task)
export const x_snc_example_to_do = Table({
    name: 'x_snc_example_to_do',
    schema: {
        deadline: DateColumn({ label: 'deadline' }),
        state: StringColumn({
            label: 'State',
            choices: {
                ready: { label: 'Ready' },
                completed: { label: 'Completed' },
                in_progress: { label: 'In Progress' },
            },
```

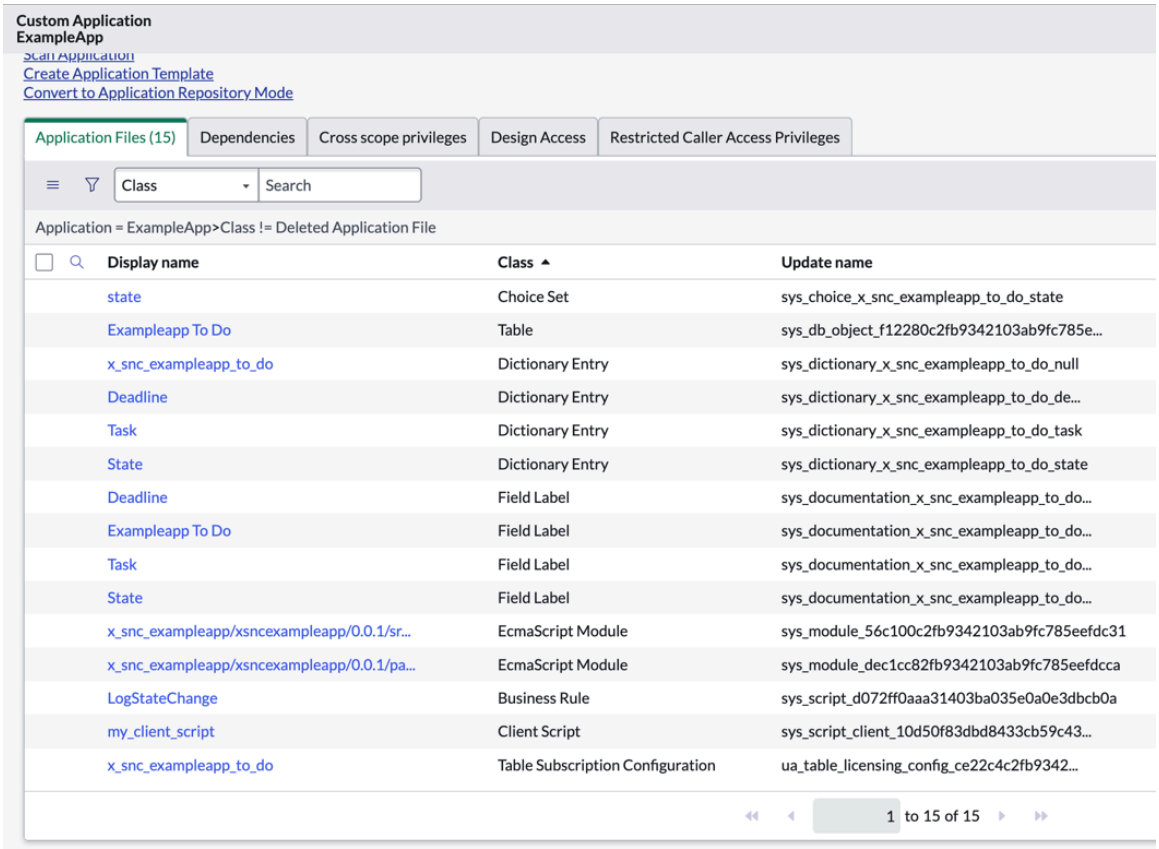
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        }),
        task: StringColumn({ label: 'Task', maxLength: 120 }),
    },
})

//creates a client script that pops up 'Table loaded successfully!!' message everytime todo record is loaded
ClientScript({
    $id: Now.ID['cs0'],
    name: 'my_client_script',
    table: 'x_snc_example_to_do',
    active: true,
    applies_extended: false,
    global: true,
    ui_type: 'all',
    description: 'Custom client script generated by Now SDK',
    messages: '',
    isolate_script: false,
    type: 'onLoad',
    script: script`function onLoad() {
        g_form.addInfoMessage("Table loaded successfully!!")
    }`,
})

//creates a business rule that pops up state change message whenever a todo record is updated
BusinessRule({
    $id: Now.ID['br0'],
    action: ['update'],
    table: 'x_snc_example_to_do',
    script: showStateUpdate,
    name: 'LogStateChange',
    order: 100,
    when: 'after',
    active: true,
})
```

アプリケーションのビルド後、このソースコードはインスタンスで次のアプリケーションメタデータファイルを生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow Fluent コードから生成されたアプリケーションメタデータ



次のタスク
アプリケーションをビルドして、ソースコードをアプリケーションメタデータにコンパイルし、変更をインスタンス全体で使用できるようにします。詳細については、「ServiceNow IDE でアプリケーションをビルドする」を参照してください。

関連情報

ServiceNow Fluent

ServiceNow IDE のアプリケーションで **JavaScript** モジュールを作成して使用する

ServiceNow IDE で、JavaScript モジュールで再利用可能なコードブロックを定義して、コードベースを最適化します。

始める前に

- ServiceNow IDE で、スコープ対象のアプリケーションを作成またはクローン作成します。詳細については、「ServiceNow IDE でアプリケーションを作成する」または「ServiceNow IDE で Git リポジトリのクローンを作成する」を参照してください。
- スコープ対象のアプリケーションでの、JavaScript モジュールの使用のサポートについて、制限事項とともに説明します。詳細については、「JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
JavaScript モジュールの作成に使用される構文に関する一般的な情報については、MDN Web Docs Web サイトの「 JavaScript modules (JavaScript モジュール) 」ページを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[ServiceNow IDE]**に移動します。
2. アプリケーションでワークスペースを開きます。
3. アクティビティバーから、[ファイルエクスプローラー] ビュー( ) を選択します。
4. アプリケーションの `src/server` ディレクトリに、再利用するモジュールコードを含む JavaScript または TypeScript ファイルを作成します。
5. オプション: グローバル Glide API をインポートして、モジュールから呼び出します。

```
import { gs } from '@servicenow/glide'
```

6. モジュールで、エクスポートするコードを *`export`* ステートメントで指定します。

   名前付きエクスポートまたはデフォルトのエクスポートを使用できます。名前付きエクスポートは変数、定数、関数、またはクラスにすることができますが、デフォルトのエクスポートは関数またはクラスのみにすることができます。

   Example
   次の例は、モジュール内の複数の機能 (関数と変数) の名前付きエクスポートを追加する 1 つの方法です。

```
export { myFunction, myVariable };
```

7. エクスポートされたモジュールのコードを他のモジュールまたはサーバー側スクリプトで使用します。

ファイル	ステップ
モジュール	**a.** `src/server` ディレクトリから、JavaScript モジュールを作成するか開きます。 **b.** *`import`* ステートメントを使用してモジュールコードをインポートします。 次の例は、エクスポートされた機能をモジュールにインポートする 1 つの方法です。 `import { feature } from "path/to/module";` **c.** このモジュールからモジュールコードを呼び出し、再利用します。
ソースコード内のサーバー側スクリプト	**a.** ソースコード (`.now.ts` ファイル) で、ビジネスルールなどのサーバー側スクリプトを含むアプリケーションメタデータの定義を作成するか、開きます。 **b.** *`script`* プロパティで、モジュールコードをインポートして呼び出し、再利用します。 関数をインポートするか、`script` タグが前に付いたインラインスクリプトを指定できます。 ▪ エクスポートされた関数、関数式、またはデフォルト関数をインポートします。例： `script: FunctionExport,` ▪ インラインスクリプトでは、*`require`* ステートメントを使用してモジュールコードをインポートする必要があります。例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイル	ステップ
	``` script: script` const { process } = require('./dist/modules/server/handler.js') process(request, response)`, ``` ソースコードのサーバー側スクリプトの詳細については、「ServiceNow Fluent API リファレンス」を参照してください。
サーバー側スクリプトレコード	**a.** ビジネスルールなどのサーバー側スクリプトのレコードを開きます。 **b.** *require* ステートメントを使用してモジュールコードをインポートします。 次の例は、エクスポートされた機能をスクリプトにインポートする 1 つの方法です。 ```const { feature } = require("path/to/module");``` **c.** このスクリプトからモジュールコードを呼び出し、再利用します。

8. 変更内容を保存します。
9. ステータスバーから、[ビルド] (Build) を選択します。
   エディターで開いているアクティブなファイルによって、ビルドするアプリケーションが決まります。ファイルが開いていない場合は、プロンプトが表示されたらビルドするアプリケーションを選択します。
   ビルド後、モジュールは EcmaScript モジュール [sys_module] テーブルに追加されます。

次のタスク
JavaScript モジュールでサードパーティライブラリを使用するには、「ServiceNow IDE のアプリケーションでサードパーティライブラリを使用する」を参照してください。

関連情報
JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ

ServiceNow IDE のアプリケーションでサードパーティライブラリを使用する
ServiceNow IDE で、アプリケーションでサードパーティライブラリを呼び出して、既存のオープンソース機能を使用します。

始める前に
JavaScript モジュールを作成します。詳細については、「ServiceNow IDE のアプリケーションで JavaScript モジュールを作成して使用する」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
サードパーティライブラリは JavaScript モジュールとしてアプリケーションに追加されます。JavaScript モジュールの作成に使用される構文に関する一般的な情報については、MDN Web Docs Web サイトの「 JavaScript modules (JavaScript モジュール) 」ページを参照してください。

重要: サポートされていない API や ECMAScript 機能など、サポートされていない機能に依存するサードパーティライブラリを使用することはできません。サポートされていない機能の詳細については、「JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[ServiceNow IDE]**に移動します。
2. アプリケーションでワークスペースを開きます。
3. アクティビティバーから、[ファイルエクスプローラー] ビュー( ) を選択します。
4. アプリケーションの `package.json` ファイルを開きます。
5. `dependencies` フィールドに、パッケージ名と、使用するサードパーティライブラリのバージョンを入力します。

   Example

   ```
   "dependencies": {
       "<package name>": "<version>"
     }
   ```

6. JavaScript モジュールで、*`import`* ステートメントを使用してライブラリをインポートします。

   Example

   この例では、モジュールに lodash モジュールの名前空間インポートが含まれています。

   ```
   import * as lodash from "lodash"
   ```

   この例では、モジュールに lodash モジュールの camelCase 関数の名前付きインポートが含まれています。

   ```
   import camelCase from 'lodash'
   ```

7. モジュールでライブラリからインポートされたコードを呼び出して再利用します。
8. ステータスバーから、[ビルド] ( ) を選択します。
   エディターで開いているアクティブなファイルによって、ビルドするアプリケーションが決まります。ファイルが開いていない場合は、プロンプトが表示されたらビルドするアプリケーションを選択します。
   ビルド後、サードパーティのライブラリがアプリケーションに追加され、そのモジュールは EcmaScript モジュール [sys_module] テーブルに追加されます。

関連情報

JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ

ServiceNow IDE でアプリケーションをビルドする

アプリケーションをビルドして、ソースコードをコンパイルし、アプリケーションの変更を ServiceNow IDE からインスタンス全体に展開します。

始める前に

ServiceNow IDE で、スコープ対象のアプリケーションを作成またはクローン作成します。詳細については、「ServiceNow IDE でアプリケーションを作成する」または「ServiceNow IDE で Git リポジトリのクローンを作成する」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

アプリケーションをビルドするには、ServiceNow Fluent コードはアプリケーションメタデータにコンパイルされ、アプリケーション内のモジュールがインスタンスで EcmaScript モジュール [sys_module] テーブルに追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[ServiceNow IDE]**に移動します。
2. アプリケーションでワークスペースを開きます。
3. アクティビティバーから、[ファイルエクスプローラー] ビュー( ) を選択します。
4. 次のいずれかの方法でアプリケーションを変更し、変更内容を保存します。
   - ServiceNow IDE の ServiceNow Fluent を使用してコードでアプリケーションメタデータを定義する
   - ServiceNow IDE のアプリケーションで JavaScript モジュールを作成して使用する
   - ServiceNow IDE のアプリケーションでサードパーティライブラリを使用する
5. ステータスバーから、[ビルド] ( ) を選択します。
   エディターで開いているアクティブなファイルによって、ビルドするアプリケーションが決まります。ファイルが開いていない場合は、プロンプトが表示されたらビルドするアプリケーションを選択します。

   Trouble?
   ステータスバーには、ビルドが成功したか失敗したかを確認するメッセージが表示されます。ビルドが失敗した場合は、パネルから出力ログとコードの問題を確認します。
6. オプション: 変更をアプリケーションメタデータとして確認します。

   a. アクティビティバーから、[メタデータエクスプローラー] ビュー ( ) を選択します。

   b. 変更したメタデータファイルを開き、埋め込み Now Platform ユーザーインターフェイスから変更を確認します。

      ヒント: ソースコードとメタデータの変更を並べて表示するには、[分割エディター (Split Editor)] アイコン ( ) を選択するか、タブを右クリックして [分割] オプションの 1 つを選択します。
7. オプション: インスタンス全体のアプリケーションメタデータに対する最新の変更をソースコードに手動で同期します。
   同期は、アプリケーションに変更が加えられると自動的に行われます。最新の変更があることを確認するため、追加の変更を行う前に、アプリケーションへの変更を手動でフェッチできます。

   a. コマンドパレットを開くには、次のいずれかのキーボードショートカットを使用します。
      - Windows：Ctrl-Shift-P
      - Mac：Cmd-Shift-P

   b. `Fluent: Sync Code with Metadata` と入力し、Enter キーを押します。
      エディターで開いているアクティブなファイルによって、同期するアプリケーションが決まります。ファイルが開いていない場合は、プロンプトが表示されたら同期するアプリケーションを選択します。

タスクの結果
インスタンスでアプリケーションが更新され、変更が反映されます。他のユーザーがソースコードの変更と同時にアプリケーションメタデータを変更できます。また、他の開発者は、アプリケーション内の他のモジュールまたはスクリプトでモジュールコードを再利用できます。双方向同期をサポートする ServiceNow Fluent API の場合、アプリケーションメタデータへの変更のソースコードへの同期は自動的に行われます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
ソースコントロールを使用して、リモート Git リポジトリへの変更のステージング、コミット、およびプッシュを行います。詳細については、「ServiceNow IDE でソースコントロールを使用する」を参照してください。

ServiceNow SDK

Visual Studio Code Desktop でソースコード内にスコープ対象のアプリケーションをローカルで作成および開発し、ServiceNow ソフトウェア開発キット (SDK) を使用して、インスタンスに変更をアップロードします。

開始するには

探索 ServiceNow SDK でのアプリケーション開発について説明します。	構成 ServiceNow SDK をローカルにインストールして構成します。
ビルド ソースコードでアプリケーションを開発します。	参照 ServiceNow SDK CLI および ServiceNow Fluent API の詳細を取得します。

アプリの作成に使用すべきビルダー

業界標準の開発ツールやプロセスを使用したい開発者の場合

ServiceNow IDE と ServiceNow SDK は、ServiceNow Fluent を使用したソースコードでのアプリケーション開発、JavaScript モジュールの作成、およびサードパーティライブラリの使用をサポートしています。ServiceNow Fluent は、コードでアプリケーションメタデータを作成するためのドメイン固有のプログラミング言語です。

ServiceNow IDE は、Now Platform 上の Visual Studio Code for the Web の実装です。ServiceNow SDK は Visual Studio Code Desktop をローカルで使用します。詳細については、「ソースコードでアプリケーションをビルドする」を参照してください。

一元化されたユーザーインターフェイスでより詳細に制御したい開発者の場合

ServiceNow スタジオ はアプリケーション開発者が一元化された場所でカスタムアプリケーションで作業するためのインターフェイスで、ある程度のコーディングスキルが必要です。詳細については、「ServiceNow Studio」を参照してください。

より一般的なアプリが必要だけれどローコードオプションが必要な場合

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

App Engine Studio を使用すると、プログラミングのプロでなくても、クリエータースタジオ よりも幅広いアプリをビルドできます。詳細については、「App Engine Studio を使用したアプリのビルド」を参照してください。

コードなしで簡単にアプリをビルドしたい場合

クリエータースタジオ は、コードを書かずに要求を履行するアプリケーションの作成を支援することに特化しています。たとえば、フォームに入力して事務用品を要求するアプリケーションで、誰かが要求を承認または拒否するなどです。詳細については、「クリエータースタジオ：コードを記述せずにアプリケーションを作成する」を参照してください。

トラブルシューティングとサポート

- Xanadu リリースの新機能の詳細については、「 ServiceNow SDK リリースノート 」を参照してください。
- ServiceNow Community の ServiceNow IDE、SDK、および Fluent フォーラム
- ServiceNow Community の ServiceNow IDE、SDK、および Fluent の記事
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

関連情報

ServiceNow Fluent

JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ

ServiceNow SDK の詳細

ソースコードでスコープ対象のアプリケーションをローカルで開発し、ServiceNow SDK を使用してインスタンスに変更を展開する方法について説明します。

ServiceNow SDK の概要

ServiceNow SDK を使用して、Visual Studio Code Desktop でスコープ対象のアプリケーションをローカルで作成および変更し、それらのアプリケーションを Xanadu リリースの非本番インスタンスに展開できます。アプリケーションをローカルで開発することで、オフラインで作業し、Visual Studio Code では使用できて、ServiceNow IDE では使用できない機能を使用できます。

Visual Studio Code では、ServiceNow Fluent を使用してソースコードでスコープ対象のアプリケーションを開発でき、アプリケーションメタデータ [sys_metadata] を定義したり、カスタム JavaScript モジュールを作成したり、サードパーティライブラリを追加したりできます。

ServiceNow SDK には、インスタンスとローカルアプリケーション間の変更を管理するためのコマンドラインインターフェイス (CLI) が含まれています。シンプルな CLI コマンドを使用して、アプリケーションを作成、変換、ビルド、展開、フェッチできます。

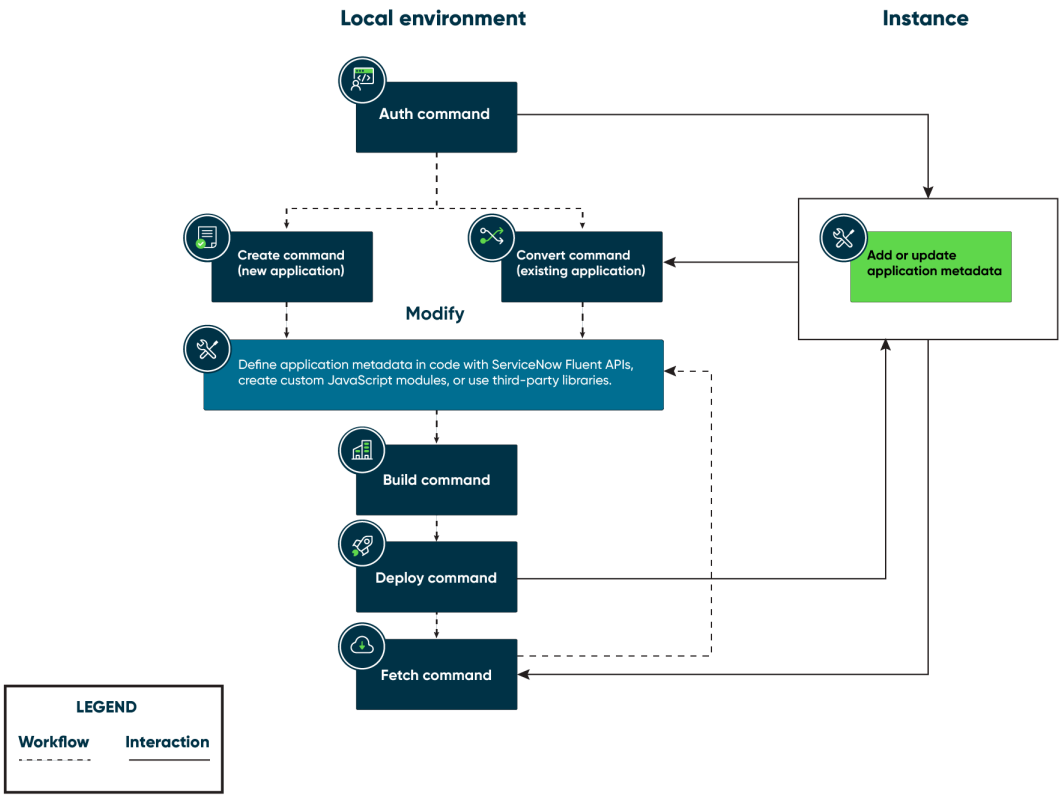
ServiceNow SDK はまた、ServiceNow IDE でアプリケーションをビルドするアプリケーションパッケージングサービスとしても機能します。詳細については、「ServiceNow IDE の詳細」を参照してください。

ServiceNow SDK のワークフロー

次のインフォグラフィックは、開発者が ServiceNow SDK を使用してアプリケーションの開発を開始するためのワークフローを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow SDK を使用したアプリケーションの開発



1. 開発者が ServiceNow SDK をローカルにインストールします。詳細については、「ServiceNow SDK をインストールする」を参照してください。
2. 開発者は CLI で `now-sdk auth` コマンドを使用して、ローカル環境とインスタンス間のインターフェイスとなる非本番インスタンスに対して認証を行います。開発者は、インスタンスで admin ロールを持っている必要があります。
3. 開発者は、スコープ対象のアプリケーションを作成するか (`now-sdk create`)、ServiceNow SDK で使用するためにインスタンスから既存のスコープ対象のアプリケーションを変換します (`now-sdk convert`)。
4. Visual Studio Code で、開発者は ServiceNow Fluent を使用してソースコードでアプリケーションメタデータを定義したり、カスタム JavaScript モジュールを作成したり、サードパーティライブラリを使用したりできます。
5. 開発者がアプリケーションをビルドし、それによりソースコードがコンパイルされ、インスタンスのアプリケーションメタデータに変換され、展開可能なパッケージ (`now-sdk build`) が生成されます。
6. 開発者はアプリケーションをインスタンスに展開します (`now-sdk deploy`)。
7. 他のユーザーはインスタンスのアプリケーションメタデータを引き続き変更でき、開発者はアプリケーション内の他のモジュールまたはスクリプトのモジュールのコードを再利用できます。
8. 開発者は、インスタンス上のアプリケーションをフェッチして、アプリケーションメタデータの最新の更新をローカルで取得します (`now-sdk fetch`)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow SDK のメリット

価値・効果	機能	ユーザー
Visual Studio Code で、インスタンスの外でオフラインでアプリケーションを開発する	ServiceNow SDK を使用したアプリケーションの開発 Visual Studio Code ドキュメント	開発者
ServiceNow アプリケーションを構成するメタデータを定義するソースコードを記述する	ServiceNow Fluent	開発者
カスタム JavaScript モジュールとサードパーティの JavaScript ユーティリティを使用して、スコープ対象のアプリケーション内のコードを整理して再利用する	JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ	開発者

ServiceNow SDK の構成

ServiceNow SDK をローカルでインストールまたはアップグレードし、Visual Studio Code で ServiceNow Fluent の言語処理と検証を取得します。

ServiceNow SDK をインストールする

ノードパッケージマネージャー (npm) を使用して、ServiceNow ソフトウェア開発キット (SDK) をローカルにインストールします。

始める前に

システムは、最新バージョンの ServiceNow SDK を使用するために、次の最小要件を満たしている必要があります。

- Node.js v18.16.1
- npm v8.19.3

Node.js または npm をインストールまたはアップグレードするには、npm Web サイトのインストール手順を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

ServiceNow SDK は、公開 npm レジストリから npm パッケージとして入手できます。

手順

1. システムでコマンドラインツールを開きます。
2. システムが要件を満たしていることを確認します。
   a. 「`node -v`」と入力して、Node.js がインストールされているかどうかと、どのバージョンであるかを確認します。
   b. 「`npm -v`」と入力して、npm がインストールされているかどうかと、どのバージョンであるかを確認します。
3. 次のコマンドを入力して ServiceNow SDK をインストールします。

```
npm install --global @servicenow/sdk
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
ServiceNow Fluent 言語サーバーをインストールして、Visual Studio Code の ServiceNow Fluent の言語処理と検証を取得します。詳細については、「Visual Studio Code に ServiceNow Fluent 言語サーバーをインストールする」を参照してください。

スコープ対象のアプリケーションを作成するか、既存のアプリケーションを ServiceNow SDK で使用できるように変換します。詳細については、「ServiceNow SDKを使用してアプリケーションを作成または変換する」を参照してください。

ServiceNow SDK のアップグレード

Xanadu リリースのインスタンスで使用するには、最新バージョンの ServiceNow SDK にアップグレードします。

始める前に
システムは、最新バージョンの ServiceNow SDK を使用するために、次の最小要件を満たしている必要があります。

- Node.js v18.16.1
- npm v8.19.3

Node.js または npm をインストールまたはアップグレードするには、npm Web サイトのインストール手順 を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
以前システムに ServiceNow SDK をインストールしている場合は、Xanadu リリースのインスタンスで最新バージョンを使用するようにアップグレードできます。

ServiceNow SDK をアップグレードしても、以前 ServiceNow SDK で作成または変換したアプリケーションは更新されません。ServiceNow Fluent を使用してソースコードでアプリケーションを開発するには、新しいスコープ対象のアプリケーションを作成します。詳細については、「ServiceNow SDKを使用してアプリケーションを作成または変換する」を参照してください。

この手順では、ServiceNow SDK コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用します。コマンドと使用可能なパラメーターの詳細については、「ServiceNow SDK CLI」を参照してください。

手順
1. システムでコマンドラインツールを開きます。
2. 次のコマンドを入力して、最新バージョンの ServiceNow SDK にアップグレードします。

```
now-sdk upgrade --debug true
```

次のタスク
ServiceNow Fluent 言語サーバーをインストールして、Visual Studio Code の ServiceNow Fluent の言語処理と検証を取得します。詳細については、「Visual Studio Code に ServiceNow Fluent 言語サーバーをインストールする」を参照してください。

スコープ対象のアプリケーションを作成するか、既存のアプリケーションを ServiceNow SDK で使用できるように変換します。詳細については、「ServiceNow SDKを使用してアプリケーションを作成または変換する」を参照してください。

Visual Studio Code に ServiceNow Fluent 言語サーバーをインストールする

ServiceNow Fluent 言語サーバーを使用して、Visual Studio Code の ServiceNow Fluent の言語処理と検証を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
ServiceNow Fluent 言語サーバーは、必要なプロパティーやインポートの検査、ServiceNow SDK 構成ファイル (`now.config.json`) の検査など、ServiceNow Fluent 言語ファイル (`.now.ts`) のコード補完機能と検証を提供します。

手順

1. Visual Studio Code で、アクティビティバーから [拡張] ビューを選択します。
2. `ServiceNow® Fluent Language` を検索します。
3. [インストール] を選択します。

次のタスク
スコープ対象のアプリケーションを作成するか、既存のアプリケーションを ServiceNow SDK で使用できるように変換します。詳細については、「ServiceNow SDKを使用してアプリケーションを作成または変換する」を参照してください。

ServiceNow SDK を使用するアプリケーションで ServiceNow Fluent を使用するには、「ServiceNow Fluent と ServiceNow SDK を使用してコードでアプリケーションメタデータを定義する」を参照してください。

ServiceNow SDK を使用したアプリケーションの開発

ServiceNow SDK を使用して、Visual Studio Code Desktop でローカルにソースコードのアプリケーションを作成および開発します。アプリケーションをビルドして展開し、インスタンスで変更を使用できるようにします。

ServiceNow SDK をインストールした後、インスタンスに対して認証を行い、スコープ対象のアプリケーションを作成したり、ServiceNow SDK コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して既存のアプリケーションを変換したりできます。

Visual Studio Code で、ServiceNow Fluent を使用したソースコードでのアプリケーションの開発、カスタム JavaScript モジュールの作成、またはサードパーティライブラリの追加を開始します。

変更の準備ができたら、ServiceNow SDK CLI を使用してローカルアプリケーションをビルドして、インスタンスに展開し直します。インスタンスからアプリケーションメタデータに対する変更をフェッチして、追加の変更を行う前に、アプリケーションをローカルで最新の状態に保つ必要があります。

次のトピックで、ServiceNow SDK を使用してアプリケーションの開発を開始する方法を説明します。

関連情報

- ServiceNow SDK で JavaScript モジュールの TypeScript を使用する
- ServiceNow SDK CLI
- ServiceNow Fluent API リファレンス

ServiceNow SDKを使用してアプリケーションを作成または変換する

ServiceNow SDK を使用してソースコードで開発するには、スコープ対象のアプリケーションを作成するか、既存のアプリケーションを変換します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
npm を使用して ServiceNow SDK をインストールまたはアップグレードします。詳細については、「ServiceNow SDK をインストールする」または「ServiceNow SDK のアップグレード」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
この手順では、ServiceNow SDK コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用します。コマンドと使用可能なパラメーターの詳細については、「ServiceNow SDK CLI」を参照してください。

手順

1. アプリケーションを追加するディレクトリから、システム上のコマンドラインツールを開きます。
2. ServiceNow SDK を開始します。

```
now-sdk
```

ServiceNow SDK は、使用可能なコマンドに関する情報を返します。

ヒント: コマンドに関する追加情報を取得するには、そのコマンドと `--help` または `-h` パラメーターを入力します。たとえば、`now-sdk auth --help` などです。

3. 非本番 ServiceNow インスタンスに対して認証します。
インスタンスは Xanadu リリースである必要があります。

a. `auth` コマンドでエイリアスを使用して、ユーザー認証情報を保存します。

```
now-sdk auth save [<alias>] [--host <instance url>] [--username <admin
 username>]
```

認証情報は、システムのデバイスキーチェーンまたは認証情報マネージャーに保存されます。

このエイリアスをデフォルトのエイリアスとして設定するには、`--default` または `-d` パラメーターをコマンドに追加します。

Example
例：

```
now-sdk auth save devuser1 --host https://myinstance.service-now.com
 --username user1 --default
```

b. プロンプトで、パスワードを入力します。

4. スコープ対象のアプリケーションを作成するか、既存のアプリケーションを ServiceNow SDK で使用できるように変換します。

オプション	ステップ

スコープ対象のアプリケーションの作成	a. `create` コマンドを使用して、一連のガイド付きプロンプトに従ってアプリケーションを作成します。
	`now-sdk create <scopeName> --interactive`
	例：
	`now-sdk create x_snc_example --interactive`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	ステップ
	注: スコープ名はインスタンス上で一意で、x_<prefix> で始まり、12 文字以下である必要があります。詳細については、「名前空間識別子」を参照してください。 **b.** 次のプロンプトに応答します。 ▪ スコープ対象のアプリケーションの名前：`<application name>` ▪ sys_app に関連付けられた説明 (Description associated with sys_app): `<description>` ▪ プロジェクトテンプレートか？ (Project template?)`TypeScript` または `JavaScript` を選択 ▪ NPM パッケージ名：`<package name>` ▪ アプリケーションにサンプルテーブルを追加しますか？ (Add a sample table to the application?) `[Yes/No]` ▪ Fluent または JS モジュールのプロジェクト構造を作成しますか？`Fluent` または `Module` を選択します このオプションにより、アプリケーションで ServiceNow Fluent および JavaScript モジュールとサードパーティライブラリを使用するか (`fluent`)、JavaScript モジュールとサードパーティライブラリのみを使用するか (`module`) に基づいて、デフォルトのアプリケーション構造が決定されます。

既存アプリケーションの変換	`convert` コマンドを使用して、インスタンスから既存のスコープ対象のアプリケーションを変換します。
	
	`now-sdk convert <scopeName> <packageName> --projectType <type>`
	
	`--projectType` パラメーターを使用して、作成するアプリケーションのタイプを指定します。 このオプションにより、アプリケーションで ServiceNow Fluent および JavaScript モジュールとサードパーティライブラリを使用するか (`fluent`)、JavaScript モジュールとサードパーティライブラリのみを使用するか (`module`) に基づいて、デフォルトのアプリケーション構造が決定されます。
	
	例：
	
	`now-sdk convert x_snc_example example-app --projectType fluent`
	
	アプリケーションを変換すると、ServiceNow SDK をローカルで使用するために必要なファイルとディレクトリが追加され、プロジェクトの種類に応じて、アプリケーションメタデータが ServiceNow Fluent ソースコードまたは XML ファイルとしてダウンロードされます。インスタンス上のアプリケーションは変更されません。

タスクの結果

デフォルトのアプリケーション構造を持つスコープ対象のアプリケーションは、ローカルで使用できます。アプリケーション構造の詳細については、「ソースコードでアプリケーションをビルドする」トピックの「アプリケーションの構造」セクションを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションがビルドされ、インスタンスに展開されている場合、CLI はアプリケーションへの URL を返します (例： `https://myinstance.service-now.com/sys_app.do?sys_id=<sysID>`)。作成時にインスタンスでアプリケーションをビルドおよび登録しないことを選択した場合、ビルドおよび登録するまでアプリケーションはインスタンスに展開されません。詳細については、「ServiceNow SDK でアプリケーションをビルドして展開する」を参照してください。

次のタスク

Visual Studio Code、 ServiceNow Fluent を使用したソースコードでのアプリケーションの開発、カスタム JavaScript モジュールの作成、またはサードパーティライブラリの追加を開始します。内

ServiceNow Fluent と ServiceNow SDK を使用してコードでアプリケーションメタデータを定義する

ServiceNow SDK および コードでアプリケーションメタデータを定義するServiceNow Fluent。

始める前に

- ServiceNow Fluent 言語サーバーをインストールして、Visual Studio Code の ServiceNow Fluent の言語処理と検証を取得します。詳細については、「Visual Studio Code に ServiceNow Fluent 言語サーバーをインストールする」を参照してください。
- ServiceNow SDK を使用して、スコープ対象のアプリケーションを作成または変換します。`--projectType` パラメーターは、アプリケーションを作成または変換するときに `fluent` に設定する必要があります。詳細については、「ServiceNow SDKを使用してアプリケーションを作成または変換する」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

ServiceNow Fluent は、アプリケーションを構成するメタデータファイル [sys_metadata] を定義するための TypeScript に基づくドメイン固有言語 (DSL) であり、テーブル、ロール、ACL、ビジネスルール、自動テストフレームワーク (ATF) テストなど、さまざまなタイプのメタデータの API が含まれています。 ServiceNow Fluent API と例の詳細については、「ServiceNow Fluent API リファレンス」を参照してください。

手順

1. Visual Studio Code で、スコープ対象のアプリケーションのディレクトリを開きます。
2. `src/fluent` ディレクトリに、拡張子が `.now.ts` のファイルを追加します。
   アプリケーションメタデータは、1 つのファイルまたは任意の数の `.now.ts` ファイルで定義し、`fluent` ディレクトリ内のディレクトリにファイルを整理できます。

   > **ヒント:** `fluent` ディレクトリでは、`index.now.ts` という名前のサンプルファイルを参照できます。

3. `.now.ts` ファイルで、ServiceNow Fluent API のオブジェクトを使用して、アプリケーションのメタデータを定義します。

   Example

   たとえば、アプリケーションでテーブル [sys_db_object] を作成するには、テーブル API を使用します。次の例では、必要なプロパティと値を持つ *`Table`* オブジェクトを使用して、To Do リスト用のシンプルなテーブルを作成しています。

```
export const x_snc_example_to_do = Table({
    name: 'x_snc_example_to_do',
    schema: {
        deadline: DateColumn({ label: 'deadline' }),
        state: StringColumn({
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
            label: 'State',
            choices: {
                ready: { label: 'Ready' },
                completed: { label: 'Completed' },
                in_progress: { label: 'In Progress' },
            },
        }),
        task: StringColumn({ label: 'Task', maxLength: 120 }),
    },
})
```

注: レコード API を使用して、専用 API を持たないアプリケーションメタデータを定義できます。

4. `@servicenow/sdk/core` から API に必要なインポートを追加します。

   Example

   たとえば、日付列と文字列列を持つテーブルを定義するには、使用する対応するオブジェクトをテーブル API からインポートします。

   ```
   import { Table, DateColumn, StringColumn } from '@servicenow/sdk/core'
   ```

5. オプション: ビジネスルールなどのサーバー側スクリプトを使用する ServiceNow Fluent API の場合は、JavaScript モジュールからコードをインポートして、オブジェクトのスクリプトプロパティから呼び出します。

   Example
   この例では、スクリプトプロパティから参照できる `showStateUpdate` 関数をインポートします。

   ```
   import { showStateUpdate } from '../server/script.js'
   ```

6. 変更内容を保存します。

Example: ServiceNow Fluent を使用してソースコードでアプリケーションメタデータを定義する

拡張子が `.now.ts` のファイルで、ServiceNow Fluent API のオブジェクトを使用して、アプリケーションのメタデータを定義します。また、`@servicenow/sdk/core` からの API に、必要なインポートも含める必要があります。

次の例には、アプリケーションのテーブル、クライアントスクリプト、およびビジネスルールの定義が含まれています。ビジネスルールは、`script.js` JavaScript モジュールの関数を使用します。

```
import '@servicenow/sdk/global'
import { BusinessRule } from '@servicenow/sdk/core'
import { ClientScript } from '@servicenow/sdk/core'
import { Table, DateColumn, StringColumn } from '@servicenow/sdk/core'
import { showStateUpdate } from '../server/script.js'

//creates todo table, with three columns (deadline, status and task)
export const x_snc_example_to_do = Table({
    name: 'x_snc_example_to_do',
    schema: {
        deadline: DateColumn({ label: 'deadline' }),
```

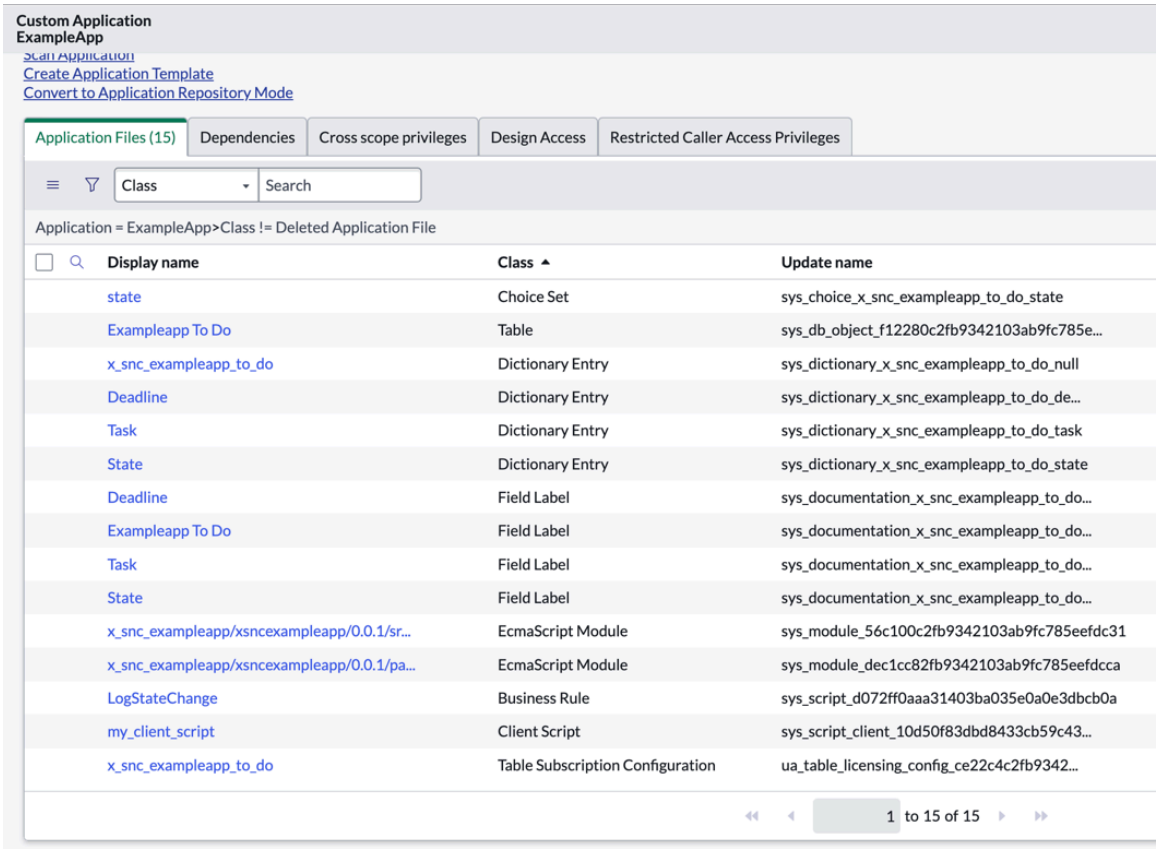
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        state: StringColumn({
            label: 'State',
            choices: {
                ready: { label: 'Ready' },
                completed: { label: 'Completed' },
                in_progress: { label: 'In Progress' },
            },
        }),
        task: StringColumn({ label: 'Task', maxLength: 120 }),
    },
})

//creates a client script that pops up 'Table loaded successfully!!' message everytime todo
 record is loaded
ClientScript({
    $id: Now.ID['cs0'],
    name: 'my_client_script',
    table: 'x_snc_example_to_do',
    active: true,
    applies_extended: false,
    global: true,
    ui_type: 'all',
    description: 'Custom client script generated by Now SDK',
    messages: '',
    isolate_script: false,
    type: 'onLoad',
    script: script`function onLoad() {
        g_form.addInfoMessage("Table loaded successfully!!")
    }`,
})

//creates a business rule that pops up state change message whenever a todo record is
 updated
BusinessRule({
    $id: Now.ID['br0'],
    action: ['update'],
    table: 'x_snc_example_to_do',
    script: showStateUpdate,
    name: 'LogStateChange',
    order: 100,
    when: 'after',
    active: true,
})
```

アプリケーションをビルドて展開した後、このソースコードはインスタンスに次のアプリケーションメタデータファイルを生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow Fluent コードから生成されたアプリケーションメタデータ



次のタスク
アプリケーションをビルドおよび展開して、ソースコードをアプリケーションメタデータにコンパイルして、変更をインスタンスで使用できるようにします。詳細については、「ServiceNow SDK でアプリケーションをビルドして展開する」を参照してください。

関連情報

ServiceNow Fluent

ServiceNow SDK を使用してアプリケーションで **JavaScript** モジュールを作成して使用する

ServiceNow SDK および JavaScript モジュールで再利用可能なコードブロックを定義して、コードベースを最適化します。

始める前に

- ServiceNow SDK を使用して、スコープ対象のアプリケーションを作成または変換します。詳細については、「ServiceNow SDKを使用してアプリケーションを作成または変換する」を参照してください。
- スコープ対象のアプリケーションでの、JavaScript モジュールの使用のサポートについて、制限事項とともに説明します。詳細については、「JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
JavaScript モジュールの作成に使用される構文に関する一般的な情報については、MDN Web Docs Web サイトの「 JavaScript modules (JavaScript モジュール) 」ページを参照してくださ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

い。モジュールで TypeScript を使用するには、「ServiceNow SDK で JavaScript モジュールの TypeScript を使用する」を参照してください。

手順

1. Visual Studio Code で、スコープ対象のアプリケーションのディレクトリを開きます。
2. アプリケーションの `src/server` ディレクトリに、再利用するモジュールコードを含む JavaScript または TypeScript ファイルを作成します。
3. オプション: グローバル Glide API をインポートして、モジュールから呼び出します。

```
import { gs } from '@servicenow/glide'
```

4. モジュールで、エクスポートするコードを *`export`* ステートメントで指定します。

   名前付きエクスポートまたはデフォルトのエクスポートを使用できます。名前付きエクスポートは変数、定数、関数、またはクラスにすることができますが、デフォルトのエクスポートは関数またはクラスのみにすることができます。

   Example
   次の例は、モジュール内の複数の機能 (関数と変数) の名前付きエクスポートを追加する 1 つの方法です。

```
export { myFunction, myVariable };
```

5. エクスポートされたモジュールのコードを他のモジュールまたはサーバー側スクリプトで使用します。

ファイル	ステップ
モジュール	**a.** `src/server` ディレクトリから、JavaScript モジュールを作成するか開きます。 **b.** *`import`* ステートメントを使用してモジュールコードをインポートします。 次の例は、エクスポートされた機能をモジュールにインポートする 1 つの方法です。 `import { feature } from "path/to/module";` **c.** このモジュールからモジュールコードを呼び出し、再利用します。
ソースコード内のサーバー側スクリプト	**a.** ソースコード (`.now.ts` ファイル) で、ビジネスルールなどのサーバー側スクリプトを含むアプリケーションメタデータの定義を作成するか、開きます。 **b.** *`script`* プロパティで、モジュールコードをインポートして呼び出し、再利用します。 関数をインポートするか、`script` タグが前に付いたインラインスクリプトを指定できます。 ▪ エクスポートされた関数、関数式、またはデフォルト関数をインポートします。例： `script: FunctionExport,` ▪ インラインスクリプトでは、*`require`* ステートメントを使用してモジュールコードをインポートする必要があります。例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイル	ステップ
	``` script: script`     const { process } = require('./dist/modules/server/handler.js')     process(request, response)`, ``` ソースコードのサーバー側スクリプトの詳細については、「ServiceNow Fluent API リファレンス」を参照してください。

サーバー側スクリプトレコード	**a.** ビジネスルールなどのサーバー側スクリプトのレコードを開きます。
	b. *require* ステートメントを使用してモジュールコードをインポートします。
	次の例は、エクスポートされた機能をスクリプトにインポートする 1 つの方法です。
	``
	const { feature } = require("path/to/module");
	``
	c. このスクリプトからモジュールコードを呼び出し、再利用します。

6. 変更内容を保存します。

次のタスク
JavaScript モジュールでサードパーティライブラリを使用するには、「ServiceNow SDK のアプリケーションでサードパーティのライブラリを使用する」を参照してください。

アプリケーションをビルドし、モジュールを EcmaScript モジュール [sys_module] テーブルに追加するには、「ServiceNow SDK でアプリケーションをビルドして展開する」を参照してください。

関連情報

JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ

ServiceNow SDK で JavaScript モジュールの TypeScript を使用する

ServiceNow SDK で JavaScript モジュールを作成する場合は、TypeScript を使用します。

TypeScript は、静的型指定と型注釈を使用して、開発者が Visual Studio Code でコードを記述しているときにエラーを早期に検出できるようにサポートします。

TypeScript の使用に関する一般的な情報については、typescriptlang.org Web サイトの TypeScript ドキュメント を参照してください。

JavaScript モジュールの TypeScript を使用する

アプリケーションに TypeScript のサポートを追加することで、JavaScript モジュールの TypeScript を使用します。

始める前に
TypeScript バージョン 4.8.4 以降をインストールします。インストール手順については、typescriptlang.org Web サイトの「Download TypeScript (TypeScript のダウンロード)」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
ServiceNow SDK バージョン 2.0.1 以降では、`now-sdk create` コマンドと `now-sdk convert` コマンドの `template` パラメーターを使用して、TypeScript を使用するように構成されたアプリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ケーションを作成または変換できます。詳細については、「ServiceNow SDK CLI」を参照してください。モジュールで TypeScript を使用するように既存のアプリケーションを更新するには、次の手順に従います。

手順

1. アプリケーションの `package.json` ファイルで、次の変更を行います。

   a. `devDependencies` オブジェクトで、TypeScript パッケージとバージョンを追加します。

   Example

   ```
   "devDependencies": {
         "typescript": "<version>",
         "@servicenow/sdk": "2.0.0",
         "@servicenow/glide": "26.0.1",
         "eslint": "8.50.0",
         "@servicenow/eslint-plugin-sdk-app-plugin": "2.0.0"
      }
   ```

   b. `scripts` オブジェクトで、TypeScript (`.ts`) モジュールを JavaScript (`.js`) にコンパイルするようにビルドスクリプトを更新して、インスタンスで使用できるようにします。

   Example

   ```
   {
         "scripts": {
               "build": "tsc -b && now-sdk build",
         }
   }
   ```

2. アプリケーションのベースディレクトリに、アプリケーションをコンパイルするためのオプションを定義する `tsconfig.json` ファイルを追加します。

   Example

   ```
   {
         "compilerOptions": {
               "rootDir": "src",
               "outDir": "dist/src",
               "module": "nodenext",
               "target": "es2021",
               "moduleResolution": "nodenext",
         },
         "include": ["src/**/*.ts"],
         "exclude": ["node_modules", "src/fluent/**"],
         "references": []
   }
   ```

3. アプリケーションの `now.config.json` ファイルで、`transpiledSourceDir` パラメーターを `tsconfig.json` ファイルの `outDir` パラメーターと同じ値に設定します。

   Example

   ```
   {
      "transpiledSourceDir": "dist/src",
   ```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  "scope": "x_snc_example_app",
  "scopeId": "2f8400eb07426110f736e28f69d3017a"
}
```

4. `src/server` ディレクトリに、モジュールコードを含む少なくとも 1 つの `.ts` ファイルを追加します。
5. TypeScript ファイルを JavaScript モジュールにコンパイルし、アプリケーションをビルドします。

   a. アプリケーションディレクトリから、システム上のコマンドラインツールを開きます。

   b. 次のコマンドを入力します。

```
npm run build
```

API のタイプ定義の追加

Glide API の外部にある API およびスクリプト可能オブジェクトの先行入力サポートを取得します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

ServiceNow SDK アプリケーションでモジュールを直接宣言して、先行入力をサポートするために API へのスタブアクセスを行います。これらのモジュールはアプリケーションパッケージにはパッケージ化されませんが、アプリケーションのソースコントロールリポジトリで追跡し、開発者間で共有できます。

手順

1. アプリケーションディレクトリで、タイプ定義用の TypeScripe (`.ts`) ファイルを追加します。
2. TypeScript ファイルで、API とスクリプト可能オブジェクトのモジュールを宣言します。

   Example

   この例では、API 名空間 (`sn_app_api`) を使用して API のモジュールを宣言します。

```
declare module '@servicenow/glide/sn_app_api' {
 class AppStoreAPI {
  static canUpgradeAnyStoreApp(): boolean
 }
}
```

   この例では、スクリプトインクルードのスコープ (`x_1234_scope`) を使用して、スクリプトインクルードで定義されたオブジェクトにアクセスするためのモジュールを宣言します。

```
declare module '@servicenow/glide/x_1234_scope' {
 class MyLogItemClass {
  myLogFunction()
 }
}
```

3. アプリケーションの JavaScript モジュールで、宣言されたモジュールをインポートします。

   Example

   この例では、AppStoreAPI に対して宣言されたモジュールをインポートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
import { gs } from '@servicenow/glide'
import { AppStoreAPI } from '@servicenow/glide/sn_app_api'

export const canUpgradeStoreApp = function () {
 var canUpgrade = AppStoreAPI.canUpgradeAnyStoreApp()
 if (canUpgrade) {
  gs.addInfoMessage(`You can upgrade store apps!`)
 } else {
  gs.addInfoMessage(`You cannot upgrade store apps!`)
 }
}
```

この例では、MyLogItemClass オブジェクトに対して宣言されたモジュールをインポートします。

```
import { MyLogItemClass } from '@servicenow/glide/x_1234_scope'

export const myLogFunction = function (status) {
 const myLogItem = new MyLogItemClass()
 myLogItem.myLogFunction(status)
}
```

注: モジュールは、グローバルスクリプト可能オブジェクトまたは同じアプリケーションスコープ内のスクリプト可能オブジェクトにのみアクセスできます。

ServiceNow SDK のアプリケーションでサードパーティのライブラリを使用する

ServiceNow SDK で、アプリケーションでサードパーティライブラリを呼び出して、既存のオープンソース機能を使用します。

始める前に

JavaScript モジュールを作成します。詳細については、「ServiceNow SDK を使用してアプリケーションで JavaScript モジュールを作成して使用する」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

サードパーティライブラリは JavaScript モジュールとしてアプリケーションに追加されます。JavaScript モジュールの作成に使用される構文に関する一般的な情報については、MDN Web Docs Web サイトの「 JavaScript modules (JavaScript モジュール) 」ページを参照してください。

重要: サポートされていない API や ECMAScript 機能など、サポートされていない機能に依存するサードパーティライブラリを使用することはできません。サポートされていない機能の詳細については、「JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ」を参照してください。

手順

1. Visual Studio Code で、スコープ対象のアプリケーションのディレクトリを開きます。
2. アプリケーションディレクトリから、統合されたターミナルウィンドウを開きます。
3. ライブラリの npm パッケージをインストールします。

Example

```
npm install <package name>
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ライブラリのパッケージがアプリケーションの `node_modules` ディレクトリに追加され、ライブラリが依存関係としてアプリケーションの `package.json` ファイルに追加されます。

```
"dependencies": {
    "<package name>": "<version>"
  }
```

4. JavaScript モジュールで、*`import`* ステートメントを使用してライブラリをインポートします。

Example

この例では、モジュールに lodash モジュールの名前空間インポートが含まれています。

```
import * as lodash from "lodash"
```

この例では、モジュールに lodash モジュールの camelCase 関数の名前付きインポートが含まれています。

```
import camelCase from 'lodash'
```

5. モジュールでライブラリからインポートされたコードを呼び出して再利用します。

次のタスク
変更をビルドしてインスタンスに展開します。詳細については、「ServiceNow SDK でアプリケーションをビルドして展開する」を参照してください。

関連情報

JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ

ServiceNow SDK でアプリケーションをビルドして展開する

ServiceNow SDK で開発されたローカルアプリケーションビルドして、ServiceNow インスタンスに展開します。

始める前に
必要なロール： admin

このタスクについて
この手順では、ServiceNow SDK コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用します。コマンドと使用可能なパラメーターの詳細については、「ServiceNow SDK CLI」を参照してください。

手順

1. アプリケーションディレクトリから、システム上のコマンドラインツールを開きます。
2. インスタンス上のメタデータの変更を最新の状態に保つため、`fetch` コマンドを使用してアプリケーションをフェッチします。

```
now-sdk fetch --auth <alias>
```

> **注:** インスタンスからアプリケーションメタデータをフェッチする際に、JavaScript モジュールの更新は含まれません。

3. `ビルド` コマンドを使用してアプリケーションをビルドします。

ソース タイプ	コマンド
JavaScript ソース	`now-sdk build`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソース タイプ	コマンド
TypeScript ソース	`npm run build` このコマンドは、TypeScript ファイルを JavaScript モジュールにコンパイルし、アプリケーションをビルドします。アプリケーションでの TypeScript の使用の詳細については、「ServiceNow SDK で JavaScript モジュールの TypeScript を使用する」を参照してください。

ビルドアーティファクトは `dist/app` ディレクトリに出力され、メタデータが `dist/app/update` ディレクトリ内に XML ファイルとして含まれます。展開可能パッケージが `target` ディレクトリに出力されます。

4. `deploy` コマンドを使用してアプリケーションを展開します。

```
now-sdk deploy --auth <alias>
```

⚠ 警告: `deploy` コマンドで `-reinstall true` パラメーターを使用すると、インスタンスで他の開発者が作成したアプリケーションメタデータを削除できます。ビルドプロセス中に生成されたローカル展開パッケージに存在しないインスタンス上のアプリケーションメタデータは、すべて展開中に削除されます。アプリケーションをビルドする前に、`now-sdk fetch` コマンドを使用して、ローカルメタデータをインスタンスのメタデータと同期します。

タスクの結果
インスタンスでアプリケーションが更新され、ローカルの変更が反映されます。 ServiceNow Fluent コードはアプリケーションメタデータにコンパイルされ、アプリケーション内のモジュールがインスタンスで EcmaScript モジュール [sys_module] テーブルに追加されます。

ℹ 注: EcmaScript モジュールの [sys_module] テーブルに不要となった以前のバージョンのモジュールがある場合、reinstall パラメーター (`now-sdk deploy --reinstall true`) を使用してアプリケーションを展開すると、以前のバージョンのアプリケーションのモジュールがテーブルから削除されます。

ServiceNow SDK の参照情報

参照トピックは、ServiceNow SDK CLI コマンドと ServiceNow Fluent API に関する追加情報を提供します。

ServiceNow SDK CLI

ServiceNow SDK コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して、ローカルアプリケーションとインスタンス上のアプリケーション間の変更を管理します。

システムのコマンドラインツールから、「`now-sdk`」と入力して CLI を起動し、使用可能なコマンドのリストを返すか、「`now-sdk [command]`」と入力して ServiceNow SDK の使用を開始します。

CLI には、次のコマンドとグローバルオプションが含まれています。

グローバルオプション

オプション	説明
--version	CLI のバージョンを返します。
--help、-h	コマンド、サブコマンド、パラメーターに関する情報を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アップグレード

Xanadu リリースのインスタンスで使用するには、最新バージョンの ServiceNow SDK にアップグレードします。

ServiceNow SDK をアップグレードしても、以前 ServiceNow SDK で作成または変換したアプリケーションは更新されません。

`upgrade` コマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk upgrade [--debug <flag>]
```

オプションのパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
--debug、-d	ブーリアン	アップグレードプロセス中に生成されたデバッグログを返すオプション。	false

例：

```
now-sdk upgrade --debug true
```

認証

インスタンスで認証し、システム上のインスタンスにアクセスするためのユーザー認証情報を格納、更新、または表示します。

`auth` コマンドには `save`、`clear`、`list`、`set-default` サブコマンドと次の構造があります。

```
now-sdk auth [<subcommand>]
```

保存

システムのデバイスキーチェーンまたは認証情報マネージャーに認証情報を保存します。プロンプトで、インスタンスを認証するためのパスワードを入力します。

`save` サブコマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk auth save [<alias>] [--host <hostname>] [--username <username>]
 [--default]
```

必要なパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
エイリアス	文字列	ホストおよびユーザーの認証情報の一意の識別子。 エイリアスは、`create`、`convert`、`fetch`、`deploy` コマンドによる認証に使用できます。	—
--host	文字列	アクセスするターゲットインスタンス、およびアプリケーションを展開およびフェッチするターゲットインスタンス。インスタンスは Xanadu リリースである必要があります。	—

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なパラメーター (続く)

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
--username	文字列	インスタンスに対する認証の Now Platform ユーザー名。ユーザーにはアドミンアクセスが必要です。	—

オプションのパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
--default、-d	ブール	`alias` をデフォルトのエイリアスとして設定するオプション。	false

例：

```
now-sdk auth save devuser1 --host https://myinstance.service-now.com
 --username user1 --default
```

クリア

システムのデバイスキーチェーンまたは認証情報マネージャーの認証情報を削除します。

`clear` サブコマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk auth clear [<alias>]
```

オプションのパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
エイリアス	文字列	ホストおよびユーザーの認証情報の一意の識別子。	すべて

例：

```
now-sdk auth clear devuser1
```

リスト

システムのデバイスキーチェーンまたは認証情報マネージャーに保存された認証情報を表示します。パスワードは返されません。

`list` サブコマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk auth list [<alias>]
```

オプションのパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
エイリアス	文字列	ホストおよびユーザーの認証情報の一意の識別子。	すべて

例：

```
now-sdk auth list devuser1
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

set-default

コマンドでデフォルトで使用される認証情報を設定します。

`set-default` サブコマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk auth set-default [<alias>]
```

必要なパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
エイリアス	文字列	ホストおよびユーザーの認証情報の一意の識別子。	—

例：

```
now-sdk auth set-default devuser1
```

作成

カスタムのスコープ対象のアプリケーションを作成し、指定されている場合はインスタンスに展開します。

`create` コマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk create <scopeName> <directory> [--appName <name>] [--packageName
 <name>] [--description <description>] [--sampleTable <flag>] [--offline
 <flag>] [--auth <alias>] [--interactive <flag>] [--open-browser <flag>]
 [--projectType <type>] [--template <type>]
```

必要なパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
scopeName	文字列	アプリケーションのスコープ。 スコープ名はインスタンス上で一意で、x_<prefix> で始まり、12 文字未満である必要があります。詳細については、「名前空間識別子」を参照してください。	—
ディレクトリ	文字列	アプリケーションのディレクトリとファイルを作成するローカルディレクトリ。	現在の作業ディレクトリ

オプションのパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
--appName	文字列	アプリケーションの名前。	—
--packageName	文字列	`package.json` ファイルで使用されるアプリケーションパッケージの名前。	—

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプションのパラメーター (続く)

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
		パッケージ名は、NPM パッケージの命名基準に準拠している必要があります。	
--description	文字列	アプリケーションの簡単な説明。	—
--sampleTable	ブール	アプリケーションでサンプルテーブルを作成するためのオプション。 true の場合、<scope>_to_do という名前のサンプルテーブルが作成されます。	false
--offline、-o	ブール	インスタンスへのアプリケーションの展開をスキップするためのオプション。 true の場合、スコープ名は作成中に検証されないため、インスタンスに展開する前にスコープ名が有効であることを確認する必要があります。 注: `auth` パラメーターが設定されている場合、このパラメーターは無視されます。	false
--auth、-a	文字列	インスタンスへの認証に使用する認証情報のエイリアス。	設定されている場合は、デフォルトのエイリアス。
--interactive、-i	ブール	アプリケーションを作成するためのプロンプトのガイド付きセットに回答するオプション。	false
--open-browser、-b	ブール	アプリケーションを正常に展開した後に、デフォルトのブラウザでアプリケーションレコードを開くオプション。 注: `offline` パラメーターが true に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。	false
--projectType	文字列	作成するアプリケーションのタイプを指定するオプション。 このオプションにより、アプリケーションで ServiceNow Fluent および JavaScript モジュールとサードパーティライブラリを使用するか (`fluent`)、JavaScript モジュールとサードパーティライブラリのみを使用するか (`module`) に基づいて、	fluent

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプションのパラメーター (続く)

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
		デフォルトのアプリケーション構造が決定されます。	
--template、-t	文字列	モジュールで JavaScript と TypeScript のどちらを使用するかを指定するオプション。このオプションは、`package.json` ファイルと `now.config.json` ファイルの構成を決定し、TypeScript プロジェクトの `tsconfig.json` ファイルを追加します。	javascript

例：

```
now-sdk create x_snc_example /path/to/app_folder --appName example-app
 --description example_app_description --sampleTable true --auth devuser1
 --open-browser true --projectType fluent --template typescript
```

convert

インスタンスから既存のアプリケーションを変換して、Visual Studio Code でのローカル変更、および ServiceNow SDK でのアプリケーション変更のインスタンスへの展開をサポートします。

アプリケーションを変換すると、ServiceNow SDK をローカルで使用するために必要なファイルとディレクトリが追加され、プロジェクトの種類に応じて、アプリケーションメタデータが ServiceNow Fluent ソースコードまたは XML ファイルとしてダウンロードされます。インスタンス上のアプリケーションは変更されません。

`convert` コマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk convert <scopeName> <packageName> [<directory>] [--auth <alias>]
 [--projectType <type>] [--template <type>]
```

必要なパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
scopeName	文字列	既存アプリケーションのスコープ。	—
packageName	文字列		—

オプションのパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
ディレクトリ	文字列	アプリケーションのディレクトリとファイルを作成するローカルディレクトリ。	現在の作業ディレクトリ
--auth、-a	文字列	インスタンスへの認証に使用する認証情報のエイリアス。	設定されている場合は、デフォルトのエイリアス。
--projectType	文字列	作成するアプリケーションのタイプを指定するオプション。 このオプションにより、アプリケーショ	fluent

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプションのパラメーター (続く)

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
		ンで ServiceNow Fluent および JavaScript モジュールとサードパーティライブラリを使用するか (`fluent`)、JavaScript モジュールとサードパーティライブラリのみを使用するか (`module`) に基づいて、デフォルトのアプリケーション構造が決定されます。	
--template、-t	文字列	モジュールで JavaScript と TypeScript のどちらを使用するかを指定するオプション。このオプションは、`package.json` ファイルと `now.config.json` ファイルの構成を決定し、TypeScript プロジェクトの `tsconfig.json` ファイルを追加します。	javascript

例：

```
now-sdk convert x_snc_example example-app /path/to/app_folder --auth
 user1-dev --projectType fluent --template typescript
```

fetch

インスタンスからアプリケーションメタデータをダウンロードし、それに合わせてローカルアプリケーションのソースコードとメタデータファイルを更新します。

インスタンスからアプリケーションメタデータをフェッチする際に、JavaScript モジュールの更新は含まれません。

`fetch` コマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk fetch [--directory <package path>] [--auth <alias>] [--debug
 <flag>]
```

オプションのパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
--directory	文字列	アプリケーションへのパス。	現在の作業ディレクトリ
--auth、-a	文字列	インスタンスへの認証に使用する認証情報のエイリアス。	設定されている場合は、デフォルトのエイリアス。
--debug、-d	ブーリアン	フェッチプロセス中に生成されたデバッグログを返すオプション。	false

例：

```
now-sdk fetch --auth devuser1 --directory /path/to/package --debug true
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビルド

ソースファイルをコンパイルし、展開可能なパッケージを生成します。サードパーティライブラリの依存関係は、アプリケーションとともにインストールできる XML ファイルに変換されます。

`build` コマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk build <source> [--debug <flag>] [--generate-deletes <flag>]
 [--lint <flag>] [--optimize <flag>]
```

オプションのパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
ソース	文字列	アプリケーションの `package.json` ファイルへのパス。 `package.json` は、アプリケーションのベースディレクトリに存在する必要があります。	現在の作業ディレクトリ
--debug、-d	ブール	ビルドプロセス中に生成されたデバッグログを返すオプション。	false
--generate-deletes	ブール	ビルド間で削除されたファイルの削除レコードの更新を生成するオプション。	true
--lint	ブーリアン	ビルド前にソースファイルをリントするオプション。	true
--optimize、-o	ブーリアン	変更されていない依存関係 XML ファイルを再利用してパッケージ化を最適化するオプション。	true

例：

```
now-sdk build /path/to/package --debug true --generate-deletes true
 --lint true --optimize true
```

deploy

アプリケーションをインスタンスに展開します。`deploy` コマンドを使用する前に、`build` コマンドを使用して展開可能パッケージを生成する必要があります。

`deploy` コマンドの構造は次のとおりです。

```
now-sdk deploy [--source <package path>] [--reinstall <flag>] [--auth
 <alias>] [--open-browser <flag>]
```

オプションのパラメーター

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
--source	文字列	アプリケーションの `package.json` ファイルへのパス。	現在の作業ディレクトリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプションのパラメーター (続く)

パラメーター	タイプ	説明	デフォルト値
		`package.json` は、アプリケーションのベースディレクトリに存在する必要があります。	
--reinstall、-r	ブーリアン	インスタンス上のアプリケーションをアンインストールして再インストールし、インスタンス上のメタデータが展開パッケージ内のメタデータと一致するようにするオプション。 ⚠ **警告:** インスタンスにはあるがローカルアプリケーションにはないメタデータは削除されます。 EcmaScript モジュールの [sys_module] テーブルに不要となった以前のバージョンのモジュールがある場合、reinstall パラメーター (`now-sdk deploy --reinstall true`) を使用してアプリケーションを展開すると、以前のバージョンのアプリケーションのモジュールがテーブルから削除されます。	false
--auth、-a	文字列	インスタンスへの認証に使用する認証情報のエイリアス。	設定されている場合は、デフォルトのエイリアス。
--open-browser、b	ブール	アプリケーションを正常に展開した後に、デフォルトのブラウザでアプリケーションレコードを開くオプション。	false
--info、-i	ブール	更新されたステータスやレコードなど、このアプリケーションの最新の展開に関する詳細を返すオプション。このパラメーターを使用すると、アプリケーションは展開されません。	false

例：

```
now-sdk deploy --auth devuser1 --source /path/to/package --reinstall
 false --open-browser true
```

ServiceNow Fluent API リファレンス

ServiceNow Fluent API を使用して、ServiceNow IDE または ServiceNow SDK を使用してソースコードでスコープ対象のアプリケーションを構成するメタデータを定義します。

ServiceNow Fluent とその使用方法の概要については、「ServiceNow Fluent」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクセス制御リスト API - ServiceNow Fluent

アクセス制御リスト API には、アプリケーションの一部を保護するアクセス制御リスト [sys_security_acl] を定義するオブジェクトが含まれています。

ACL オブジェクト

新しいオブジェクトへのアクセスを保護するため、またはデフォルトのセキュリティ動作を変更するため、カスタム ACL ルール [sys_security_acl] を構成します。

ACL には、1 つ以上のロール、セキュリティ属性、条件、またはスクリプトが含まれている必要があります。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、`<value>` は文 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
table	文字列	ACL が適用されるテーブルの名前。 このプロパティは、*type* プロパティが ux_data_broker、ux_page、ux_route、pd_actio
フィールド	文字列	保護するテーブルのフィールドの名前。ワイルドカード文字 (`"*"`) を使用して、すべての このプロパティは、*type* プロパティが ux_data_broker、ux_page、ux_route、pd_actio
name	文字列	ACL の名前。 このプロパティは、*type* プロパティが rest_endpoint、ui_page、processor、graphql、のみ適用され、必須です。
operation	文字列	必須。この ACL ルールが保護する操作。ACL ルールは 1 つの操作のみを保護できます。 *type* プロパティが client_callable_flow_object、client_callable_script_include、graph 有効な値：execute、create、read、write、delete、edit_task_relations、edit_ci_relat
type	文字列	この ACL ルールが保護するオブジェクトのタイプ。タイプによって、使用可能な操作が決 ACL ルールを作成した後、タイプを変更する場合は、ACL を削除し、正しいタイプで新し 有効な値：record、rest_endpoint、ui_page、processor、graphql、pd_action、ux_d デフォルト：record
active	ブーリアン	ACL ルールが適用されるかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：ACL ルールが適用されます。 • false：ACL ルールは適用されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
		デフォルト：true
roles	アレイ	*Role* オブジェクトの変数識別子、またはユーザーがオブジェクトにアクセスするために必 ACL には、1 つ以上のロール、セキュリティ属性、条件、またはスクリプトが含まれてい 注: admin ロールを持つユーザーは、他のすべてのロールが自動的に付与されるため
script	スクリプト	`script` タグが前に付いた関数またはインラインスクリプト。カスタムスクリプトで、オ ACL には、1 つ以上のロール、セキュリティ属性、条件、またはスクリプトが含まれてい 注: *type* プロパティが graphql の場合、スクリプトはサポートされません。 関数には、JavaScript モジュールからエクスポートされて `.now.ts` ファイルにインポー ついては、「JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ」を参照してください。 インラインスクリプトは、`script` タグを次の形式で使用します。 `script: script`gs.info('info')`,` スクリプトは、`current` および `previous` のグローバル変数、およびシステムプロパテ る必要があります。 • true または false の値に設定された回答変数を返します。 • true または false に評価します。 いずれの場合も、スクリプトが true と評価され、ユーザーが ACL ルールの条件を満たし するには、条件とスクリプトの両方が true と評価される必要があります。 注: 評価されたアイテムが関連リストにある場合、現在のポイントは、ACL の現在の が関連リストにない場合、現在のポイントは実際のアイテムを指します。
admin_overrides	ブーリアン	admin ロールを持つユーザーがこの ACL ルールの権限チェックに自動的に合格するかど 有効な値： • true：アドミニストレーターは自動的に権限チェックに合格します。 • false：アドミニストレーターは、保護されたオブジェクトにアクセスするために、この 用して、アドミニストレーターが合格する必要がある権限チェックを作成します。 admin ユーザーは、適用されるスクリプトまたはロールに関係なく合格します。ただし、 先されます。ACL に nobody ロールがアサインされている場合、*admin_overrides* が ムのロール」を参照してください。 デフォルト：true
condition	文字列	ユーザーがオブジェクトにアクセスするために true でなければならないフィールドと値を てください。 ACL には、1 つ以上のロール、セキュリティ属性、条件、またはスクリプトが含まれてい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
description	文字列	この ACL ルールによって保護されるオブジェクトまたは権限の説明。
local_or_existing	文字列	適用するセキュリティ属性のタイプ。 有効な値： • Local：*condition* プロパティに基づくセキュリティ属性。作成された ACL に対しての • Existing：*security_attribute* プロパティで参照する既存のセキュリティ属性。 デフォルト：Local
security_attribute	文字列	使用する事前定義された条件。たとえば、ユーザーが別のユーザーの代理操作を行っている を参照してください。 ACL には、1 つ以上のロール、セキュリティ属性、条件、またはスクリプトが含まれてい 注: [*Is localized*] フィールドが [true] に設定されているセキュリティ属性の場合 *localized* フィールドが false の場合、*local_or_existing* プロパティを [Existin 有効な値： role_explicit、group_explicit、user_is_authenticated、impersonating、interactive_s
decision_type	文字列	ACL がアクセスを許可するか拒否するか。 有効な値： • allow：ACL はアクセスを許可します。 • deny：ACL はアクセスを拒否します。 デフォルト：allow

```
import { Acl } from "@servicenow/sdk/core";

export default Acl({
    $id: Now.ID['task_delete_acl'],
    active: true,
    admin_overrides: true,
    type: 'record',
    table: 'task',
    field: 'description',
    operation: 'delete',
    roles: [adminRole, managerRole],
})
```

参照されるロールは、*Role* オブジェクトを使用して定義されます。

```
import { Role } from "@servicenow/sdk/core";

const managerRole = Role({
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    $id: Now.ID['manager_role'],
    name: 'x_snc_example.manager'
})

const adminRole = Role({
    $id: Now.ID['admin_role'],
    name: 'x_snc_example.admin',
    contains_roles: [managerRole]
})
```

アプリケーションメニュー API - ServiceNow Fluent

アプリケーションメニュー API には、アプリケーションナビゲーター [sys_app_application] のメニューを定義するオブジェクトが含まれています。

ApplicationMenu オブジェクト

アプリケーション [sys_app_application] のメニューを作成します。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、`<value>` は文字列または数値です。 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
title	文字列	必須。アプリケーションナビゲーターのメニューのラベル。
active	ブーリアン	アプリケーションナビゲーターにメニューが表示されるかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：メインメニューが表示されます。 • false：メニューは非表示です。 デフォルト：true
roles	アレイ	*Role* オブジェクトの変数識別子またはメニューにアクセスできるロールの名前のリスト。詳細については、「ロール API - ServiceNow Fluent」を参照してください。
カテゴリ	参照	ナビゲーションメニューのスタイルを定義するメニューカテゴリ [sys_app_category] の変数識別子。メニューカテゴリを定義するには、レコード API - ServiceNow Fluent を使用します。 メニューカテゴリの一般的な情報については、「メニューカテゴリのカスタマイズ」を参照してください。
hint	文字列	ユーザーがメニューにカーソルを合わせたときに表示されるツールヒントテキスト。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
description	文字列	アプリケーションの機能に関する追加情報。
name	文字列	同じタイトルのアプリケーションを区別するための内部名。
order	番号	アプリケーションナビゲーター内のアプリケーションメニューの相対位置。 デフォルト：100

```
import { ApplicationMenu } from "@servicenow/sdk/core";

ApplicationMenu({
    $id: Now.ID['my_app_menu'],
    title: 'My App Menu',
    hint: 'This is a hint',
    description: 'This is a description',
    category: appCategory,
    roles: ['admin'],
    active: true,
})
```

参照されるカテゴリは、*Record*オブジェクトを使用して定義されます。

```
import { Record } from "@servicenow/sdk/core";

export const appCategory = Record({
    table: 'sys_app_category',
    $id: Now.ID[9],
    data: {
        name: 'example',
        style: 'border-color: #a7cded; background-color: #e3f3ff;',
    },
})
```

自動テストフレームワーク (ATF) テスト API - ServiceNow Fluent

テスト API には、変更後にインスタンスが動作することを確認するための自動化テスト [sys_atf_test] を作成して実行するオブジェクトが含まれます。

> **注:** 自動テストフレームワーク (ATF) のテスト API は一方向の同期のみをサポートします。ソースコードで ATF テストを定義した後、メタデータがソースコードの外部で変更された場合、それらの変更は同期されず、ソースコードに反映されません。

Test オブジェクト

実行する一連のステップを含む自動化テスト [sys_atf_test] を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、`<value>` は文字列または数値です。 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
name	文字列	テストの一意の名前。
description	文字列	テストの内容の説明。
active	ブーリアン	テストがアクティブかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：テストはアクティブです。 • false：テストはアクティブではありません。 デフォルト：true
failOnServerError	ブーリアン	テスト中にサーバーエラーが発生した場合に失敗するかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：サーバーエラーが発生するとテストは失敗します。 • false：サーバーエラーが発生してもテストは失敗しません。 デフォルト：true

configurationFunction	関数	テストのステップ。テストステップは、*`atf`*関数内のステートメントとして渡されます。
		`(atf) => {`
		`  atf.form.openNewForm({`
		`  table: 'sn_example_table',`
		`  formUI: 'standard_ui',`
		`  view: '',`
		`  })`
		`}`
		テストステップの詳細については、「サポートされているテストステップ」を参照してください。

出力変数を含むテストステップの出力値は、変数として保存され、`output.<output-variable>` 構文を使用して他のステップへの入力として使用できます。出力変数は、適切なフィールドの入力として直接使用、または次の例の `atf.server.log` のようにテンプレート文字列内で使用できます。

```
import { Test } from '@servicenow/sdk/core'
import '@servicenow/sdk-core/global'

Test(
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    {
        active: true,
        failOnServerError: true,
        name: 'Simple example',
        description: 'An illustrative test written in fluent',
        $id: Now.ID[1],
    },
    (atf) => {
        atf.form.openNewForm({
            table: 'sn_table_app_reptile_table',
            formUI: 'standard_ui',
            view: '',
        })
        atf.form.setFieldValue({
            table: 'sn_table_app_reptile_table',
            formUI: 'standard_ui',
            fieldValues: {
                reptiles: 'lizard' as any,
            },
        })
        const output =
 atf.form.submitForm({ assertType: 'form_submitted_to_server',
 formUI: 'standard_ui' })
        atf.server.recordValidation({
            recordId: output.record_id,
            table: 'sn_table_app_reptile_table',
            assertType: 'record_validated',
            enforceSecurity: true,
            fieldValues: 'reptiles=lizard',
        })
        atf.server.log({
            log: `Submitted record with sys_id: ${output.record_id} to
 table ${output.table}`
        })
    }
)
```

サポートされているテストステップ

次のテストステップがサポートされています。ステップのプロパティについては、テストステップのカテゴリ ドキュメントを参照してください。

注: フォームのテストステップに使用できる一部のフィールドは、ServiceNow Fluent のプロパティとして使用できません。

テストステップ

カテゴリ	ステップ
アプリケーションナビゲーターカテゴリ	• atf.applicationNavigator.moduleVisibility • atf.applicationNavigator.navigateToModule • atf.applicationNavigator.applicationMenuVisibility

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストステップ (続く)

カテゴリ	ステップ
メールのカテゴリ	• atf.email.validateOutboundEmailGeneratedByNotification • atf.email.generateRandomString • atf.email.generateInboundReplyEmail • atf.email.validateOutboundEmailGeneratedByFlow • atf.email.generateInboundEmail • atf.email.validateOutboundEmail
サービスポータル のフォームカテゴリ	• atf.form_SP.openForm_SP • atf.form_SP. openServicePortalPage • atf.form_SP.setFieldValue_SP • atf.form_SP. fieldValueValidation_SP • atf.form_SP.fieldStateValidation_SP • atf.form_SP.uiActionVisibilityValidation_SP • atf.form_SP.clickUIAction_SP • atf.form_SP.submitForm_SP
サービスポータルのサービスカタログカテゴリ	• atf.catalog_SP.openRecordProducer_SP • atf.catalog_SP.openOrderGuide_SP • atf.catalog_SP.openCatalogItem_SP • atf.catalog_SP.saveCurrentRowOfMultiRowVariableSet_SP • atf.catalog_SP.addRowToMultiRowVariableSet_SP • atf.catalog_SP.setVariableValue_SP • atf.catalog_SP.validateVariableValue_SP • atf.catalog_SP.variableStateValidation_SP • atf.catalog_SP.validatePriceAndRecurringPrice_SP • atf.catalog_SP.navigatewithinOrderGuide_SP • atf.catalog_SP.setCatalogItemQuantity_SP • atf.catalog_SP.validateOrderGuideItem_SP • atf.catalog_SP.reviewOrderGuideSummary_SP • atf.catalog_SP.reviewIteminOrderGuide_SP • atf.catalog_SP.addItemtoShoppingCart_SP • atf.catalog_SP.addOrderGuidetoShoppingCart_SP • atf.catalog_SP.submitOrderGuide_SP • atf.catalog_SP.submitRecordProducer_SP • atf.catalog_SP.orderCatalogItem_SP

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストステップ (続く)

カテゴリ	ステップ
ダッシュボード のクイックスタートテスト	• atf.reporting.responsiveDashboard • atf.reporting.responsiveDashboardSharing
REST カテゴリ	• atf.rest.assertResponseJSONPayloadIsValid • atf.rest.assertXMLResponsePayloadElement • atf.rest.assertResponseXMLPayloadIsWellFormed • atf.rest.assertStatusCodeName • atf.rest.sendRestRequest • atf.rest.assertStatusCode • atf.rest.assertResponseTime • atf.rest.assertJsonResponsePayloadElement • atf.rest.assertResponseHeader • atf.rest.assertResponsePayload
サーバーカテゴリ	• atf.server.recordUpdate • atf.server.impersonate • atf.server.recordValidation • atf.server.createUser • atf.server.recordDelete • atf.server.log • atf.server.checkoutShoppingCart • atf.server.recordQuery • atf.server.recordInsert • atf.server.searchForCatalogItem • atf.server.replayRequestItem
サービスカタログ カテゴリ	• atf.catalog.addItemToShoppingCart • atf.catalog.validatePriceAndRecurringPrice • atf.catalog.openRecordProducer • atf.catalog.setCatalogItemQuantity • atf.catalog.orderCatalogItem • atf.catalog.openCatalogItem • atf.catalog.setVariableValue • atf.catalog.submitRecordProducer

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストステップ (続く)

カテゴリ	ステップ
	• atf.catalog.validateVariableValue • atf.catalog.variableStateValidation
フォームカテゴリ	• atf.form.uiActionVisibility • atf.form.clickModalButton • atf.form.fieldValueValidation • atf.form.openNewForm • atf.form.openExistingRecord • atf.form.setFieldValue • atf.form.submitForm • atf.form.clickDeclarativeAction • atf.form.clickUIAction • atf.form.declarativeActionVisibility • atf.form.fieldStateValidation

ビジネスルール **API - ServiceNow Fluent**

ビジネスルール API には、レコードが表示、挿入、更新、または削除されるとき、またはテーブルがクエリされるときに実行されるサーバー側スクリプト [sys_script] を定義するオブジェクトが含まれます。

BusinessRule オブジェクト

特定のサーバー側条件が満たされたときにフォームフィールドの値を自動的に変更するビジネスルール [sys_script] を作成します。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、`<value>` は文字列または数値です。 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
name	文字列	必須。ビジネスルールの名前。
table	文字列	必須。ビジネスルールが実行されるテーブルの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
order	整数	このビジネスルールを実行する順序を示す番号。特定のアクティビティに複数のルールがある場合、ルールは指定された順序 (昇順) で実行されます。 デフォルト：100
script	スクリプト	`script` タグが前に付いた関数またはインラインスクリプト。カスタムスクリプトは、定義された条件が true の場合に実行されます。 関数には、JavaScript モジュールからエクスポートされて `.now.ts` ファイルにインポートされた関数、関数式、またはデフォルト関数の名前を使用します。JavaScript モジュールの詳細については、「JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ」を参照してください。 インラインスクリプトは、`script` タグを次の形式で使用します。 `script: script`gs.info('info')`,`
when	文字列	このビジネスルールを実行するタイミング。ビジネスルールを実行するタイミングの詳細については、「ビジネスルールの仕組み」を参照してください。 有効な値：before、after、async、display デフォルト：before
action	アレイ	ビジネスルールが適用されるレコードオプション。ビジネスルールアクションの詳細については、「ビジネスルールの仕組み」を参照してください。 有効な値：insert、update、delete、query
active	ブーリアン	ビジネスルールを使用するかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：ビジネスルールが適用されます。 • false：ビジネスルールは適用されません。 デフォルト：true
add_message	ブーリアン	ビジネスルールの実行時に表示されるメッセージを追加するかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：メッセージを表示します。 • false：メッセージを表示しません。 デフォルト値：false
abort_action	ブーリ	現在のデータベーストランザクションを中止するかどうかを示すフラグ。たとえば、挿入前のビジネスルールで、条件が満たされている場合は、レコードをデータベースに挿入しません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
	アン	有効な値： • false：現在のデータベーストランザクションを中止しません。 • true：現在のデータベーストランザクションを中止します。フィールド値の設定やスクリプトの実行など、レコードに対して追加のアクションを実行することはできません。*add_message* プロパティと *message* プロパティを使用して、ユーザーにメッセージを表示することはできます。 デフォルト値：false
message	文字列	ビジネスルールの実行時に表示されるメッセージ。
role_conditions	アレイ	テーブル内のレコードを変更するユーザーが、このビジネスルールを実行するために保持している必要がある *Role* オブジェクトの変数識別子のリスト。詳細については、「ロール API - ServiceNow Fluent」を参照してください。
condition	文字列	ビジネスルールを実行するために true でなければならないフィールドと値を指定する JavaScript 条件ステートメント。条件ステートメントを *filter_condition* または *script* プロパティに含める場合は、このプロパティを使用しないでください。 このプロパティに条件ステートメントを追加することで、条件を個別に評価し、条件が true の場合にのみビジネスルールを実行するようシステムに指示します。非同期ビジネスルールを実行する前にインスタンスで条件ステートメントを再評価するには、システムプロパティ *glide.businessrule.async_condition_check* を追加し、値を true に設定します。
filter_condition	文字列	ビジネスルールを実行するために true でなければならないフィールドと値を指定するフィルタークエリ。詳細については、「フィルターとクエリに使用できる演算子」を参照してください。
set_field_value	文字列	テーブルのフィールドを設定する値。これは、`set_field_value: 'sec_created=false^EQ'` などのエンコードされたクエリとして指定できます。
description	文字列	ビジネスルールの実行内容の説明。

```
import { BusinessRule } from '@servicenow/sdk/core'
import { FunctionExport, FunctionExpression } from '../server/scripts.js'
import DefaultExportFunction from '../server/scripts.js'

const BR1 = BusinessRule({
    name: 'exportedFunction',
    table: 'x_snc_table',
    when: 'after',
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    action: ['update', 'delete', 'insert'],
    script: FunctionExport,
    order: 100,
    active: true,
    add_message: false,
    message: '<p>message</p>',
    abort_action: false,
    $id: Now.ID[0],
})

const BR2 = BusinessRule({
    name: 'businessrule2',
    table: 'x_snc_table',
    script: FunctionExpression,
    when: 'after',
    action: ['update'],
    $id: Now.ID[1],
})

const BR3 = BusinessRule({
    name: 'businessrule3',
    table: 'x_snc_table',
    script: DefaultExportFunction,
    when: 'after',
    action: ['update'],
    filter_condition:
 `sys_updated_onSTARTSWITHb^sys_updated_bySTARTSWITHm^EQ
    <item goto="false" or="false" field="sys_updated_on" endquery="false" value="b"
 operator="STARTSWITH" newquery="false"/>
    <item goto="false" or="false" field="sys_updated_by" endquery="false"
 value="m" operator="STARTSWITH" newquery="false"/>
    <item goto="false" or="false" field="" endquery="true" value="" operator="="
 newquery="false"/>`,
    $id: Now.ID[2],
})

const BR4 = BusinessRule({
    name: 'templateBR',
    action: ['insert'],
    when: 'after',
    table: 'x_snc_table',
    role_conditions: [admin],
    order: 100,
    active: true,
    add_message: true,
    message: '<p>message</p>',
    script: script`gs.info('info')`,
    abort_action: false,
    $id: Now.ID[3],
})
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントスクリプト API - ServiceNow Fluent

クライアントスクリプト API には、フォームの読み込み時、フォームの送信後、フィールドの値の変更時など、クライアントベースのイベントが発生したときに、クライアント (Web ブラウザ) で JavaScript を実行するクライアントスクリプト [sys_script_client] を定義するオブジェクトが含まれます。

ClientScript オブジェクト

ユーザーがフォームを使用しているときに、フォーム、フォームフィールド、およびフィールド値を構成するクライアントスクリプト [sys_script_client] を作成します。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、`<value>` は文字列または数値です。 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
table	文字列	必須。クライアントスクリプトが実行されるテーブルの名前。
name	文字列	必須。クライアントスクリプトの名前。
active	ブーリアン	クライアントスクリプトが有効かどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：スクリプトは有効です。 • false：スクリプトは有効ではありません。 デフォルト：true
applies_extended	ブーリアン	クライアントスクリプトが指定されたテーブルから拡張されたテーブルに適用されるかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：スクリプトは拡張テーブルに適用されます。 • false：スクリプトは拡張テーブルに適用されません。 デフォルト値：false
ui_type	文字列	クライアントスクリプトが適用されるユーザーインターフェイス。 有効な値：desktop、mobile_or_service_portal、all デフォルト：desktop
description	文字列	クライアントスクリプトの機能と目的の説明。
messages	文字列	*`getmessage('[message]')`* を使用してローカライズされたメッセージとして、クライアントスクリプトに使用できるテキスト文字列。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
		詳細については、「クライアントスクリプトメッセージの翻訳」を参照してください。
isolate_script	ブーリアン	スクリプトが strict モードで実行され、直接 DOM、jQuery、prototype、および window オブジェクトへのアクセスがオフになっているかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：スクリプトを分離し、strict モードで実行しません。 • false：スクリプトを strict モードで実行します。 デフォルト値：false
script	スクリプト	`script` タグが前に付いた、次の形式のインラインスクリプト： `script: script`gs.info('info')`,` 注: JavaScript モジュールまたはサードパーティライブラリからの関数のインポートは、クライアントスクリプトではサポートされていません。
global	ブーリアン	クライアントスクリプトがテーブルのどのビューで実行されるかを示すフラグ。 有効な値： • true：スクリプトはすべてのビューで実行されます。 • false：スクリプトは指定されたビューでのみ実行されます。 デフォルト：true
view	文字列	クライアントスクリプトが実行されるテーブルのビュー。このプロパティは、*global* プロパティが false に設定されている場合にのみ適用されます。
type	文字列	クライアントスクリプトのタイプ。実行するタイミングを定義します。サポートされているタイプの詳細については、「クライアントスクリプト」を参照してください。 有効な値：onCellEdit、onChange、onLoad、onSubmit
field	文字列	クライアントスクリプトが適用されるテーブルのフィールド。このプロパティは、*type* プロパティが onChange または onCellEdit に設定されている場合にのみ適用されます。

```
import { ClientScript } from '@servicenow/sdk/core'

export const cs = ClientScript({
    $id: Now.ID['my_scripts'],
    name: 'my_scripts',
    table: 'incident',
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
   active: true,
   applies_extended: false,
   global: true,
   ui_type: 'all',
   messages: '',
   isolate_script: false,
   type: 'onLoad',
   script: script`function onLoad() { const x = 'util'
 g_form.addInfoMessage(x) }`,
})
```

リスト API - ServiceNow Fluent

リスト API には、テーブルのリストビュー [sys_ui_list] を定義するオブジェクトが含まれます。

List オブジェクト

リスト [sys_ui_list] とそのビューを構成します。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、<value> は文字列または数値です。 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
table	文字列	必須。リストのテーブルの名前。
view	参照	必須。リストまたは default_view に適用される UI ビュー [sys_ui_view] の変数識別子。UI ビューを定義するには、レコード API - ServiceNow Fluent を使用します。 デフォルトビュー (`default_view`) をインポートする場合は、それを使用することもできます。 `import { default_view } from '@servicenow/sdk/core'`
columns	アレイ	必須。リスト内の列名と位置を使用して指定される、リストに表示するテーブル内の列のアレイ。

```
import { List } from "@servicenow/sdk/core";

List({
    $id: Now.ID["app_task_view_list"],
    table: "cmdb_ci_server",
    view: app_task_view,
    columns: [
        { element: "name", position: 0 },
        { element: "business_unit", position: 1 },
        { element: "vendor", position: 2 },
        { element: "cpu_type", position: 3 },
    ],
});
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

参照される UI ビューの定義は、*Record*オブジェクトを使用して定義されます。

```
import { Record } from "@servicenow/sdk/core";

const app_task_view = Record({
   $id: Now.ID['app_task_view'],
   table: 'sys_ui_view',
   data: {
        name: 'app_task_view',
        title: 'app_task_view'
   }
})
```

プロパティ API - ServiceNow Fluent

プロパティ API には、システムプロパティ [sys_properties] を定義するオブジェクトが含まれます。

Property オブジェクト

アプリケーションのアスペクトを構成するためのシステムプロパティ [sys_properties] を追加します。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、<value> は文字列 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
name	文字列	必須。<scope>.<name> 形式の、アプリケーションスコープで始まるプロパティの名前。
value	任意	プロパティの値。値は正しいデータタイプである必要があります。 プロパティ値はすべて文字列として格納されます。*gs.getProperty()* メソッドを使用して えば、true | false プロパティでは、相当するブール値ではなく、「true」または「false」の
type	文字列	プロパティ値のデータタイプ。 有効な値： string、integer、boolean、choicelist、color、date_format、image、password、passwo
description	文字列	プロパティの機能の説明。
choices	アレイ	選択肢値のカンマ区切りリスト。このプロパティは、*type* プロパティが choicelist に設定 別の選択肢ラベルと値が必要な場合は、等号 (=) を使用してラベルと値を区切ります。たとえ とすると、リストに青、赤、緑が表示され、対応する 16 進値がプロパティ値のフィールドに保

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明

roles	オブジェクト	`Role` オブジェクトの変数識別子、またはプロパティへの読み取りまたは書き込みアクセス権を
		ServiceNow Fluent」を参照してください。
		`roles: {`
		`  read: [activity_admin, 'app_user'],`
		`  write: [admin]`
		`}`

ignoreCache	ブーリアン	プロパティの値が設定されたときに、フラッシュをキャッシュするかどうかを示すフラグ。 構成設定のためにデータベースが照会されないように、システムプロパティ値はサーバー側の と、システムプロパティ [sys_properties] テーブルのキャッシュがフラッシュされます。この バー側キャッシュからフラッシュするかどうかを決定します。 有効な値： • true：システムは一部のサーバー側キャッシュのフラッシュを無視し、システムプロパティ のすべてのキャッシュの前のプロパティ値を保持します。このオプションにより、すべての フォーマンスコストが回避されます。通常、システムプロパティが月に 1 回より頻繁に変更 ルにのみ保存される場合に限り、このプロパティを `true` に設定する必要があります。 • false：システムはすべてのサーバー側キャッシュをフラッシュし、データベースから現在の ティ値を保持するには、このプロパティを `false` に設定します。 デフォルト値：false
isPrivate	ブーリアン	更新セットを介したインポートからプロパティを除外するかどうかを示すフラグ。 システムプロパティを private にすると、あるインスタンスの設定が別のインスタンスの値を ムプロパティに本番インスタンスと同じ値を使用したくない場合に使用します。 有効な値： • true：プロパティは更新セットに含まれてません。 • false：プロパティは更新セットに含まれます。 デフォルト値：false

```
import { Property } from '@servicenow/sdk/core'

Property({
   $id: Now.ID['1234'],
   name: 'x_snc_app.some.new.prop',
   type: 'string',
   value: 'hello',
   description: 'A new property',
   roles: {
      read: ['admin'],
      write: [adminRole, managerRole],
   },
   ignoreCache: false,
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    isPrivate: false,
})
```

参照されるロールは、*Role* オブジェクトを使用して定義されます。

```
import { Role } from "@servicenow/sdk/core";

const managerRole = Role({
    $id: Now.ID['manager_role'],
    name: 'x_snc_example.manager'
})

const adminRole = Role({
    $id: Now.ID['admin_role'],
    name: 'x_snc_example.admin',
    contains_roles: [managerRole]
})
```

レコード API - ServiceNow Fluent

レコード API には、任意のテーブルのレコードを定義するオブジェクトが含まれます。

レコード API を使用して、専用 API を持たないアプリケーションメタデータを定義できます。

Record オブジェクト

レコードを含むテーブルにデータを追加します。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、`<value>` は文字列または数値です。 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
table	文字列	必須。レコードが属するテーブルの名前。
データ	オブジェクト	テーブル内のフィールドとその値。 `data: { state: 'Ready', task: 'Add demo data' }`

```
import { Record } from "@servicenow/sdk/core";

export const appCategory = Record({
    table: 'sys_app_category',
    $id: Now.ID[9],
    data: {
        name: 'example',
        style: 'border-color: #a7cded; background-color: #e3f3ff;',
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    },
})
```

ロール API - ServiceNow Fluent

ロール API には、アプリケーションのユーザーのロール [sys_user_role] を定義するオブジェクトが含まれます。

Role オブジェクト

アプリケーションとその機能へのアクセスを制御するロール [sys_user_role] を作成します。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、`<value>` は文字列または数値です。 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
name	文字列	`<scope>.<name>` 形式の、アプリケーションスコープで始まるロールの名前。
assignable_by	文字列	このロールをユーザーにアサインできるその他のロール。
can_delegate	ブーリアン	ロールを他のユーザーに委任できるかどうかを示すフラグ。詳細については、「ロールの委任」を参照してください。 有効な値： • true：ロールを他のユーザーに委任できます。 • false：ロールを他のユーザーに委任することはできません。 デフォルト：true
description	文字列	ロールがアクセスできるものの説明。
elevated_privilege	ブーリアン	ロールの機能にアクセスする前に、ロールを使用する責任を手動で受け入れる必要があるかどうかを示すフラグ。昇格された権限の詳細については、「昇格された権限ロール」を参照してください。 有効な値： • true：機能にアクセスする前に、ロールを使用する責任を手動で受け入れる必要があります。 • false：ロールを使用してその機能にアクセスする責任を手動で受け入れる必要はありません。 デフォルト値：false
grantable	ブーリアン	ロールを個別に付与できるかどうかを示すフラグ。 有効な値：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
		• true：ロールを個別に付与できます。 • false：ロールを個別に付与することはできません。 デフォルト：true
contains_roles	アレイ	このロールに含まれる他の *Role* オブジェクトの変数識別子。
scoped_admin	ブーリアン	ロールがアプリケーションアドミニストレーターロールかどうかを示すフラグ。アプリケーション管理ロールの一般的な情報については、「アプリケーション管理」を参照してください。 有効な値： • true：ロールはアプリケーションアドミニストレーターです。 • false：ロールはアプリケーションアドミニストレーターではありません。 デフォルト値：false

```
import { Role } from "@servicenow/sdk/core";

const managerRole = Role({
   $id: Now.ID['manager_role'],
   name: 'x_snc_example.manager'
})

const adminRole = Role({
   $id: Now.ID['admin_role'],
   name: 'x_snc_example.admin',
   contains_roles: [managerRole]
})
```

スクリプト済み **REST API - ServiceNow Fluent**

スクリプト済み REST API には、スクリプト済み REST サービス [sys_ws_definition] のエンドポイント、クエリパラメーター、およびヘッダーを定義するオブジェクトが含まれます。

RestApi オブジェクト

スクリプト済み REST API [sys_ws_definition] を作成して、Web サービスエンドポイントを定義します。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列ま	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、`<value>` は文字列または数値です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
	または数値	`$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
name	文字列	必須。API ドキュメントで使用される API の名前。
service_id	文字列	必須。URI パスでこの API を区別するために使用される API 識別子。API 名前空間内で一意である必要があります。
active	ブーリアン	API が要求を処理できるかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：API は要求を処理できます。 • false：API は要求を処理できません。 デフォルト：true
short_description	文字列	API ドキュメントで使用される API の簡単な説明。
consumes	文字列	API のリソースが消費できるメディアタイプのリスト。 デフォルト：application/json、application/xml、text/xml
doc_link	文字列	API に関する静的ドキュメントにリンクする URL。
enforce_acl	アレイ	リソース [sys_security_acl] へのアクセス時に適用する *ACL* オブジェクトの変数識別子または ACL の sys_ids のリスト。詳細については、「アクセス制御リスト API - ServiceNow Fluent」を参照してください。 ACL を適用しない場合は、このプロパティを空のアレイ (`[]`) に設定します。 `enforce_acl: ['sys_id', acl_variable_identifier]` デフォルト：スクリプト済み REST 外部デフォルト
produces	文字列	API のリソースが生成できるメディアタイプのリスト。 デフォルト：application/json、application/xml、text/xml
routes	アレイ	API のリソース [sys_ws_operation]。詳細については、「routes オブジェクト」を参照してください。
policy	文字列	アプリケーションファイルをダウンロードまたはインストールするときに保護する方法に関するポリシー。 有効な値：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
		• read：ファイルは表示のみ可能です。 • protected：パスワード権限を持つユーザーがファイルを編集できます。
versions	アレイ	API のバージョン [sys_ws_version] のリスト。詳細については、「versions オブジェクト」を参照してください。 バージョンを指定すると、API のさまざまなバージョンとそのステータス (アクティブ、デフォルトバージョン、廃止など) を管理できます。

```
import { RestApi } from '@servicenow/sdk/core'
import { process } from '../server/handler.js'

RestApi({
    $id: Now.ID['rest1'],
    name: 'customAPI',
    service_id: 'custom_api',
    consumes: 'application/json',
    routes: [
        {
            $id: Now.ID['route1'],
            path: '/home/{id}',
            script: process,
            parameters: [{ $id: Now.ID['param1'],  name: 'n_param' }],
            headers: [{ $id: Now.ID['header1'],  name: 'n_token' }],
            enforce_acl: [acl],
            version: 1,
        },
    ],
    enforce_acl: [acl],
    versions: [
        {
            $id: Now.ID['v1'],
            version: 1,
        },
    ],
})
```

参照される ACL は、*ACL* オブジェクトを使用して定義されます。

```
import { Acl } from "@servicenow/sdk/core";

const acl = Acl({
    name: 'My random ACL',
    type: 'rest_endpoint',
    script: `answer = (Math.random() > 0.5)`,
    active: true,
    admin_overrides: false,
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    operations: ['execute'],
})
```

routes オブジェクト

スクリプト済み REST リソース [sys_ws_operation] を作成して、HTTP メソッドと処理スクリプトを定義し、親サービスからの設定を上書きします。

RestApi オブジェクト内の *routes* オブジェクトを使用します。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、<value> は文字列または数値です。 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
name	文字列	API ドキュメントで使用される API リソースの名前。 デフォルト：*path* プロパティの値
script	スクリプト	必須。`script` タグが前に付いた関数またはインラインスクリプト。カスタムスクリプトは、操作が要求を解析して応答する方法を定義します。 関数には、JavaScript モジュールからエクスポートされて `.now.ts` ファイルにインポートされた関数、関数式、またはデフォルト関数の名前を使用します。JavaScript モジュールの詳細については、「JavaScript モジュールとサードパーティライブラリ」を参照してください。 インラインスクリプトは、`script` タグを次の形式で使用します。 `script: script`gs.info('info')`,`
active	ブーリアン	リソースが使用されるかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：リソースが使用されます。 • false：リソースは使用されません。 デフォルト：true
path	文字列	ベース API パスに対するリソースの相対パス。相対 URI には、`/abc/{id}` などのパスパラメーターを含めることができます。 デフォルト：/
short_description	文字列	API ドキュメントで使用される、リソースの簡単な説明。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
consumes	文字列	リソースが消費できるメディアタイプのリスト。 このプロパティは、PUT、PATCH、または POST メソッドで上書きできます。 デフォルト：*RestApi* オブジェクトの *consumes* プロパティの値
enforce_acl	アレイ	リソース [sys_security_acl] へのアクセス時に適用する *ACL* オブジェクトの変数識別子または ACL の sys_ids のリスト。詳細については、「アクセス制御リスト API - ServiceNow Fluent」を参照してください。 ACL を適用しない場合は、このプロパティを空のアレイ (`[]`) に設定します。 `enforce_acl: ['sys_id', acl_variable_identifier]` デフォルト：スクリプト済み REST 外部デフォルト
produces	文字列	リソースが生成できるメディアタイプのリスト。 デフォルト：*RestApi* オブジェクトの *produces* プロパティの値
request_example	文字列	API ドキュメントで使用される、リソースの有効なサンプル要求の本文ペイロード。
method	文字列	リソースが実装する HTTP メソッド。 有効な値：GET、POST、PUT、PATCH、DELETE デフォルト：GET
authorization	ブーリアン	リソースにアクセスするためにユーザーが認証される必要があるかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：ユーザーはリソースにアクセスするために認証される必要があります。 • false：リソースへのアクセスに認証は必要ありません。 デフォルト：true
認証	ブーリアン	リソースへのアクセス時に ACL を適用するかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：リソースへのアクセス時に ACL が適用されます。 • false：リソースへのアクセス時に ACL は適用されません。 デフォルト：true
internalRole	ブーリ	ルートに snc_internal ロールが必要かどうかを示すフラグ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
	アン	このプロパティは、明示的なロールプラグイン (com.glide.explicit_roles) が有効な場合のみサポートされます。 有効な値： • true：ルートには snc_internal ロールが必要です。 • false：ルートに snc_internal ロールは必要ありません。 デフォルト：true
policy	文字列	アプリケーションファイルをダウンロードまたはインストールするときに保護する方法に関するポリシー。 有効な値： • read：ファイルは表示のみ可能です。 • protected：パスワード権限を持つユーザーがファイルを編集できます。
version	番号	API のバージョン。 *versions* プロパティが *RestApi* オブジェクトで使用されている場合、このプロパティは必須です。 このプロパティで指定されたバージョンは、`/api/management/v1/table/{tableName}` などのバージョンで URI を自動的に生成するために使用されます。バージョン番号は、URI がアクセスするエンドポイントのバージョンを識別します。バージョン番号を指定することで、既存の統合に影響を与えることなく変更をテストおよび展開できます。

```
routes: [
   {
      $id: Now.ID['route1'],
      path: '/home/{id}',
      script: process,
      parameters: [{ $id: Now.ID['param1'],  name: 'n_param' }],
      headers: [{ $id: Now.ID['header1'],  name: 'n_token' }],
      enforce_acl: [acl],
      version: 1,
   },
],
```

パラメーターとヘッダーのオブジェクト

スクリプト済み REST API でルートのクエリパラメーター [sys_ws_query_parameter] とヘッダー [sys_ws_header] を作成します。クエリパラメーターは、要求ユーザーが要求 URI で渡すことができる値を制御します。ヘッダーは、API が受け入れ、応答できる内容を指定します。

routes オブジェクト内の *parameters* オブジェクトと *headers* オブジェクトを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、<value> は文字列または数値です。 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
name	文字列	必須。API ドキュメントで使用されるパラメーターまたはヘッダーの名前。
required	ブーリアン	パラメーターまたはヘッダーが必須かどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：パラメーターまたはヘッダーは必須です。 • false：パラメーターまたはヘッダーは必要ありません。 デフォルト値：false
example_value	文字列	API ドキュメントで使用される、パラメーターまたはヘッダーの有効な値の例。
short_description	文字列	API ドキュメントで使用されるパラメーターまたはヘッダーの簡単な説明。

```
parameters: [{ $id: Now.ID['param1'],  name: 'n_param' }],
headers: [{ $id: Now.ID['header1'],  name: 'n_token' }],
```

versions オブジェクト

スクリプト済み REST API [sys_ws_version] のバージョンを作成して、Web サービスエンドポイントを定義します。

RestApi オブジェクト内の *versions* オブジェクトを使用します。

プロパティ

名前	タイプ	説明
$id	文字列または数値	必須。次の形式で提供されるメタデータオブジェクトの一意の ID。ここで、<value> は文字列または数値です。 `$id: Now.ID[<value>]` アプリケーションをビルドすると、この ID は一意の sys_ID にハッシュされます。
version	番号	必須。REST API のバージョン。
active	ブーリアン	REST API のバージョンが要求を処理できるかどうかを示すフラグ。 有効な値：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
		• true：API のバージョンは要求を処理できます。 • false：API のバージョンは要求を処理できません。 デフォルト：true
deprecated	ブーリアン	REST API のバージョンが廃止されているかどうかを示すフラグ。廃止されたバージョンに属するリソースは要求を処理できますが、ドキュメントでは「廃止」として識別されます。 有効な値： • true：API のバージョンは廃止として識別されます。 • false：API のバージョンは廃止として識別されません。 デフォルト値：false
short_description	文字列	API ドキュメントに表示される REST API のバージョンの簡単な説明。
is_default	ブーリアン	REST API のバージョンがデフォルトバージョンかどうかを示すフラグ。クライアントは、バージョニングされている URI パスまたはバージョニングされていない URI パスを使用して、デフォルトバージョンにアクセスできます。 有効な値： • true：API のバージョンがデフォルトバージョンです。 • false：API のバージョンはデフォルトバージョンではありません。 デフォルト値：false

```
versions: [
 {
   $id: Now.ID['v1'],
   version: 1,
 },
],
```

テーブル **API - ServiceNow Fluent**

テーブル API には、スコープ対象のアプリケーションのテーブル [sys_db_object] を定義するオブジェクトが含まれます。

Table オブジェクト

スコープ対象のアプリケーションにテーブル [sys_db_object] を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ

名前	タイプ	説明
name	文字列	必須。アプリケーションスコープで始まり、すべて小文字で、形式：`<scope> <name>` で表記されたテーブルの名前。名前は、*`Table`* オブジェクトの変数識別子と一致する必要があります。 **注:** 別のアプリケーションスコープの既存のテーブルに列を追加するには、アプリケーションスコープなしでテーブルの名前、その後に `as any` を指定します。列名は、代わりにアプリケーションスコープで始める必要があります。 最大長：80
schema	アレイ	*`Column`* オブジェクトのリスト。詳細については、「Column オブジェクト」を参照してください。
extends	文字列	テーブルの基になっている他のテーブルの名前。 ベーステーブルを拡張すると、元のテーブルのすべてのフィールドが組み込まれ、新しいテーブルのシステムフィールドが作成されます。拡張可能とマークされたテーブルは、同じスコープ内にある場合、または他のスコープからの構成が許可されている場合に拡張可能です。
label	文字列	リストビューとフォームビューのテーブルの一意のラベル。 最大長：80 デフォルト：*`name`* プロパティの値
display	文字列	デフォルトの表示列。*`schema`* プロパティの列名を使用します。
extensible	ブーリアン	他のテーブルがテーブルを拡張できるかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：他のテーブルがテーブルを拡張できます。 • false：他のテーブルはテーブルを拡張できません。 このプロパティを true から false に変更すると、追加の子テーブルの作成はできなくなりますが、既存の子テーブルは変更されません。 デフォルト値：false
live_feed	ブーリアン	テーブル内のレコードでライブフィードが可能かどうかを示すフラグ。 有効な値：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
		• true：テーブル内のレコードでライブフィードが提供されます。このオプションにより、[ライブフィードを表示] オプション ( ) がフォームヘッダーに追加されます。 • false：テーブル内のレコードにライブフィードは提供されません。 デフォルト値：false
auto_number	オブジェクト	テーブルの自動番号付け構成 [sys_number]。詳細については、「auto_number オブジェクト」を参照してください。
accessible_from	文字列	テーブルにアクセスできるアプリケーションスコープ。 有効な値：public、package_private デフォルト：public
caller_access	文字列	クロススコープ要求のアクセスレベル。 有効な値： • restricted：リソースへの呼び出しを手動で承認する必要があります。アクセス要求は、 ステータスを使用して限定呼び出し元アクセス テーブルで追跡されます。 • tracking：リソースに対する呼び出しは自動的に承認されます。呼び出しは、 ステータスを使用して限定呼び出し元アクセス テーブルで追跡されます。 • none：リソースへのクロススコープ呼び出しは、*accessible_from* プロパティの値に基づいて承認または拒否されます。 詳細については、「限定呼び出し元アクセス特権の設定」を参照してください。 デフォルト：none
actions	アレイ	アクセスオプションのリスト。 有効な値：read、create、update、delete デフォルト：read
allow_web_service_access	ブーリアン	Web サービスがテーブルを呼び出せるかどうかを示すフラグ。 有効な値：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
		• true：Web サービスはテーブルを呼び出すことができます。 • false：Web サービスはテーブルを呼び出せません。 デフォルト値：false
allow_new_fields	ブーリアン	他のアプリケーションスコープから、テーブル上の新しいフィールドの設計時の構成を許可するかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：他のアプリケーションスコープから、テーブル上の新しいフィールドの設計時の構成を許可します。 • false：他のアプリケーションスコープから、テーブル上の新しいフィールドの設計時の構成を許可しません。 デフォルト値：false
allow_ui_actions	ブーリアン	他のアプリケーションスコープから、テーブル上の UI アクションの設計時の構成を許可するかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：他のアプリケーションスコープから、テーブル上の UI アクションの設計時の構成を許可します。 • false：他のアプリケーションスコープから、テーブル上の UI アクションの設計時の構成を許可しません。 デフォルト値：false
allow_client_scripts	ブーリアン	他のアプリケーションスコープから、テーブル上のクライアントスクリプトの設計時の構成を許可するかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：他のアプリケーションスコープから、テーブル上のクライアントスクリプトの設計時の構成を許可します。 • false：他のアプリケーションスコープから、テーブル上のクライアントスクリプトの設計時の構成を許可しません。 デフォルト値：false
audit	ブーリアン	テーブル内のすべてのレコードの作成、更新、削除を追跡するかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：テーブル内のすべてのレコードの作成、更新、削除を追跡します • false：テーブル内のすべてのレコードの作成、更新、削除を追跡しません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
		デフォルト値：false
read_only	ブーリアン	ユーザーがテーブル内のフィールドを編集できるかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：ユーザーはテーブル内のフィールドを編集できません。 • false：ユーザーはテーブル内のフィールドを編集できます。 デフォルト値：false
text_index	ブーリアン	検索エンジンがテーブル内のテキストにインデックスを付けるかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：テーブルのテキストにインデックスが付けられます。 • false：テーブルのテキストにインデックスは付けられません。 デフォルト値：false

attributes	オブジェクト	サポートされている辞書属性 [sys_schema_attribute] のキーと値のペア。
		`attributes:`
		`{`
		`update_sync_custom: true,`
		`native_recordlock: false`
		`}`
		詳細については、「辞書属性」を参照してください。

index	アレイ	テーブルのメタデータ XML にインデックスを生成する列参照のリスト。
		データベースインデックスを使用すると、テーブルからデータにアクセスする速度が向上しますが、追加のストレージを使用するコストがかかります。
		`index: [`
		`{`
		`name: 'deadline index',`
		`element: 'deadline',`
		`unique: true`
		`},`
		`{`
		`name: 'state index',`
		`element: 'state',`
		`unique: false`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明

		}, {
		name: 'task index',
		element: 'task',
		unique: false
		}
		]

列の先行入力をサポートするには、 *Table* オブジェクトを、*name* プロパティと同じ名前でエクスポートされた変数にアサインします。

```
import { Table, StringColumn } from "@servicenow/sdk/core";
import { myFunction } from "../server/myFunction.js"

export const x_snc_example_to_do = Table({
    name: 'x_snc_example_to_do',
    label: 'My To Do Table',
    extends: 'task',
    schema: {
        status: StringColumn({ label: 'status' }),
        deadline: StringColumn({
            label: 'deadline',
            active: true,
            mandatory: false,
            read_only: false,
            maxLength: 40,
            dropdown: 'none',
            attributes: {
                update_sync: false,
            },
            default: 'today',
            dynamic_value_definitions: {
                type: 'calculated_value',
                calculated_value: '',
            },
            choices: {
                choice1: {
                    label: 'choice1 Label',
                    sequence: 0,
                    inactive_on_update: false,
                    dependent_value: '5',
                    hint: 'hint',
                    inactive: false,
                    language: 'en',
                },
                choice2: { label: 'choice2 Label', sequence: 1 },
            },
        }),
        dynamic1: StringColumn({
            dynamic_value_definitions: {
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
                type: 'calculated_value',
                calculated_value: myFunction,
            },
        }),
        dynamic2: StringColumn({
            dynamic_value_definitions: {
                type: 'dynamic_default',
                dynamic_default: `gs.info()`,
            },
        }),
        dynamic3: StringColumn({
            dynamic_value_definitions: {
                type: 'dependent_field',
                column_name: 'status',
            },
        }),
        dynamic4: StringColumn({
            dynamic_value_definitions: {
                type: 'choices_from_other_table',
                table: 'sc_cat_item',
                field: 'display',
            },
        }),
    },
    actions: ['create', 'read'],
    display: 'deadline',
    accessible_from: 'package_private',
    allow_client_scripts: true,
    allow_new_fields: true,
    allow_ui_actions: true,
    allow_web_service_access: true,
    extensible: true,
    live_feed: true,
    caller_access: 'none',
    auto_number: {
        number: 10,
        number_of_digits: 2,
        prefix: 'abc',
    },
    audit: true,
    read_only: true,
    text_index: true,
    attributes: {
        update_sync: true,
    },
    index: [
        {
            name: 'idx',
            element: 'status',
            unique: true,
        },
    ],
})
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Column オブジェクト

テーブルに列 [sys_dictionary] を追加します。

Table オブジェクトの *schema* プロパティで *Column* オブジェクトを使用します。

フィールドタイプに基づく多くのタイプの列があります。Column オブジェクトは *<Type>Column* 形式で、*<Type>* はフィールドタイプです。フィールドタイプの詳細については、フィールドタイプ を参照してください。

サポートされている列の種類は、*ListColumn*、*RadioColumn*、*StringColumn*、*ChoiceColumn*、*ScriptColumn*、*BooleanColumn*、*Cond*
TranslatedFieldColumn、*GenericColumn*、*DateColumn*、*DateTimeColumn*、*CalendarDateTime*、*Basic*
および *OtherDateColumn* です。

プロパティ

名前	タイプ	説明
label	文字列	リスト見出しとフォームフィールドに表示される列の一意のラベル。 ラベルを更新すると、現在の言語の言語ファイル内のラベルも更新されます。ラベルが指定されていない場合、column オブジェクトで使用されるキーはラベルです。
maxLength	番号	列の値の最大長。 長さが 254 未満のテキストフィールドは、1 行のテキストフィールドとして表示されます。255 文字以上になると、複数行のテキストボックスとして表示されます。 **注:** データが失われないようにするため、新しいアプリケーションを開発する場合にのみ文字列フィールドの長さを短くし、フィールドにデータが含まれているときは短くしないでください。 デフォルト：40
active	ブーリアン	リストとフォームのフィールドを表示するかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：フィールドを表示します。 • false：フィールドを非表示にします。 デフォルト：true
mandatory	ブーリアン	レコードを保存するためにフィールドに値が含まれている必要があるかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：フィールドに値が含まれている必要があります。 • false：フィールドは必須ではありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明
		デフォルト値：false
read_only	ブーリアン	フィールド値を編集できるかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：値を変更することはできず、フィールドのデータが計算されて表示されます。 • false：フィールド値を変更できます。 デフォルト値：false
default	任意	レコード作成時のフィールドのデフォルト値。値は、列のタイプに基づいて正しいタイプを使用する必要があります。
choices	オブジェクト	列の選択肢 [sys_choice] のリスト。詳細については、「choices オブジェクト」を参照してください。 このプロパティは、*ChoiceColumn* および選択肢列を拡張する列タイプにのみ適用されます。これには、プリミティブ値のアレイまたは一連の選択肢オブジェクトを含めることができます。

attributes	オブジェクト	サポートされている辞書属性 [sys_schema_attribute] のキーと値のペア。
		
		`attributes:`
		`  {`
		`  update_sync_custom: true,`
		`  native_recordlock: false`
		`  }`
		
		詳細については、「辞書属性」を参照してください。

function_definition	文字列	フィールドが実行する関数の定義。
		
		`glidefunction:` で始まり、そのあとに実行される操作 (`concat` など)、関数のパラメーターが続きます。定数は単一引用符で囲む必要があります。
		
		たとえば、次の関数定義では、簡単な説明、空白、発信者名の順に示すフィールドが作成されます。
		
		`glidefunction:concat(short_description, '',`
		`caller_id.name)`
		
		関数定義の詳細については、「機能フィールド」を参照してください。

dynamic_value_definitions	オブジェクト	動的フィルターに基づいて動的に生成されるデフォルト値。ダイナミックデフォルトを指定するには、タイプと関連する動作キーの組み合わせを指定します。次のタイプがサポートされています：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

名前	タイプ	説明

		• dynamic_default：[sys_filter_option_dynamic] からの関数を指定します。
		`dynamic_value_definitions: {`
		`  type: 'dynamic_default',`
		`  dynamic_default: `gs.info()`,`
		`},`
		• dependent_field：同じテーブルから別の列名を指定します。
		`dynamic_value_definitions: {`
		`  type: 'dependent_field',`
		`  column_name: 'status',`
		`},`
		• calculated_value：値を計算するための関数を指定します。関数を JavaScript モジュールからインポート、またはインラインで定義できます。
		`dynamic_value_definitions: {`
		`  type: 'calculated_value',`
		`  calculated_value: function,`
		`},`
		• choices_from_other_table：別のテーブルの列から選択肢を指定します。
		`dynamic_value_definitions: {`
		`  type: 'choices_from_other_table',`
		`  table: 'sc_cat_item',`
		`  field: 'display',`
		`},`

dropdown	文字列	フォームのユーザーに対して選択肢のリストがどのように表示されるか。このプロパティは、*`ChoiceColumn`* および選択肢列を拡張する列タイプにのみ適用されます。 有効な値： • none：選択肢は強制されません。 • dropdown without none：**-- None --** オプションを含まないメニュー。このオプションを選択する場合は、列の *`default`* プロパティを設定する必要があります。 • dropdown with none：**-- None --** オプションを含むメニュー。デフォルト値は **-- None --** です。 • suggestion：提案値のリストに選択肢が表示されます。 デフォルト：none

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

列名は、列定義とペアになったオブジェクトキーとして指定します。

```
schema: {
   deadline: DateColumn({ label: 'deadline' }),
   state: StringColumn({
      label: 'State',
      choices: {
         ready: { label: 'Ready' },
         completed: { label: 'Completed' },
         in_progress: { label: 'In Progress' },
      }
   }),
   task: StringColumn({ label: 'Task', maxLength: 120 }),
},
```

テーブル名にアプリケーションスコープが含まれない場合は、代わりに列名にプリフィックスとしてアプリケーションスコープを付ける必要があります。

```
schema: {
   x_scope_myColumn: StringColumn({...})
}
```

choices オブジェクト

テーブルの列の選択肢 [sys_choice] を構成します。

Table オブジェクトの *schema* プロパティで、サポートされている列タイプを含む *choices* オブジェクトを使用します。特定の列のタイプのみが、選択肢列のタイプ (*ChoiceColumn*) を拡張し、選択肢を含めることができます。

プロパティ

名前	タイプ	説明
label	文字列	必須。リスト内の選択肢で表示するテキスト。
dependent_value	文字列	*Column* オブジェクトの *dynamic_value_definitions* プロパティの *dependent_field* にマッピングする値。
hint	文字列	選択肢にカーソルを合わせたときにツールヒントとして表示される、選択肢の簡単な説明。
language	文字列	翻訳された選択肢の言語の BCP 47 コード。 デフォルト値：en
sequence	整数	選択肢のリスト内で選択が行われる順序。
inactive	ブーリアン	リストに選択肢を表示するかどうかを示すフラグ。 有効な値： • true：選択肢はリストに表示されません。 • false：選択肢がリストに表示されます。 デフォルト値：false

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

`choices` オブジェクトには一連の choice オブジェクトが含まれ、選択肢の名前は choices 定義とペアになったオブジェクトキーとして指定します。

```
choices: {
   choice1: {
      label: 'choice1 Label',
      sequence: 0,
      inactive_on_update: false,
      dependent_value: '5',
      hint: 'hint',
      inactive: false,
      language: 'en',
   },
   choice2: { label: 'choice2 Label', sequence: 1 },
},
```

auto_number オブジェクト

テーブルの自動番号付け [sys_number] を構成します。

`Table` オブジェクト内の *`auto_number`* オブジェクトを使用します。

プロパティ

名前	タイプ	説明
prefix	文字列	テーブル内のすべてのレコード番号のプリフィックス。たとえば、インシデントの場合は INC です。 デフォルト：pre
number	整数	このテーブルのベース番号。レコード番号は自動的にインクリメントされ、次の番号はカウンター [sys_number_counter] テーブルに保持されます。 ベース番号を現在のカウンターより大きい値に設定すると、次のレコード番号では新しいベース番号が使用されます。それ以外の場合は、次のレコード番号で現在のカウンターが使用されます。カウンターがそれ自体よりも小さいベース番号にリセットされることはありません。 デフォルト：1000
number_of_digits	整数	プリフィックスの後に使用する最小桁数。 必要に応じて、自動番号に先行ゼロが追加されます。たとえば、INC0001001 には 3 つの先行ゼロが含まれています。桁数が最小長を超えることがあります。たとえば、*`number_of_digits`* が 2 で、テーブルに 99 を超えるレコードが作成された場合、その番号は 100 を超えて継続します (INC101 など)。 ⚠ **警告:** このフィールドを変更して、テーブルの既存レコードのすべての番号値を更新できます。本番インスタンスでこのフィールドを変更する場合は注意が必要です。 デフォルト値：7

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
auto_number: {
   prefix: 'TODO',
   number: 2000,
   digits: 9,
}
```

ガイド付きアプリケーションクリエーター

ガイド付きアプリケーションクリエーター は、Now Platform® でアプリケーションを構築するための直感的な開発インターフェイスです。最初のアプリケーションビルドをガイドするステップバイステップのプロセスを提供します。

ガイド付きアプリケーションクリエーターを使用して、インポートされたスプレッドシートでワークスペース、モバイル、クラシック用の新しいアプリケーションを作成する方法について説明します。

ガイド付きアプリケーションクリエーター の開始方法については、この 4 分間のビデオをご覧ください。

注: ビデオでは ガイド付きアプリケーションクリエーター でのワークスペースの作成について説明していますが、この機能はサポートされなくなりました。代わりに、App Engine Studio を使用してワークスペースを作成できます。詳細については、「App Engine Studio でのアプリケーションのビルド」を参照してください。

ガイド付きアプリケーションクリエーター の使用

ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションの設定には以下が含まれます。

- アプリケーションレコードの作成
- ユーザーロールの定義
- データテーブルの指定
- さまざまなユーザーエクスペリエンスに合わせたアプリケーションの設計

ガイド付きアプリケーションクリエーター を使用してアプリケーションレコードを作成し、後で スタジオ で構成することもできます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーターでのアプリケーションレコードの作成」を参照してください。

ユーザーエクスペリエンス

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定すると、アプリケーションを次のユーザーエクスペリエンスで使用できるようになります。

ユーザーエクスペリエンス	説明
モバイル	ServiceNow エージェント モバイルアプリ。モバイルデバイスで作業するユーザーをサポートするには、このユーザーエクスペリエンスを選択します。
クラシック	クラシック Now Platform エクスペリエンス。ユーザーがリストとフォームを使用してアプリケーションで作業できるようにするには、このユーザーエクスペリエンスを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ガイド付きアプリケーションクリエーター およびアプリケーション作成プロセス

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定しても、アプリケーションの作成プロセス全体がキャプチャされるわけではありません。これはプロセスの 1 つのステップにすぎません。ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定する前に、ビジネス要件に必要なアプリケーションの種類を計画してからビルドします。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定した後、スタジオ、Flows in ワークフロースタジオ、チーム開発 を使用して、アプリケーションを追加で開発できます。アプリケーションのビルドが完了したら、アプリケーションをテストして、それをユーザーと共有できます。

アプリケーション作成プロセスの詳細については、「アプリケーションのビルド」を参照してください。

アクティベーション情報

ガイド付きアプリケーションクリエーター は、ガイド付きアプリケーションクリエーター (com.glide.sn-guided-app-creator) プラグインを介して有効になります。このプラグインは、Now Platform でデフォルトでアクティブになっています。

ガイド付きアプリケーションクリエーター で作業するには、別のブラウザーを使用します。Internet Explorer 11 のサポートの詳細については、 KB0683275 を参照してください。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションの設定

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定して、情報を保存し、ビジネスプロセスを管理します。

ガイド付きアプリケーションクリエーター を使用して、ServiceNow プラットフォームでノーコードアプリケーションを迅速かつ簡単に作成する方法を示します。

> **注:** ビデオでは ガイド付きアプリケーションクリエーター でのワークスペースの作成について説明していますが、この機能はサポートされなくなりました。代わりに、App Engine Studio を使用してワークスペースを作成できます。詳細については、「App Engine Studio でのアプリケーションのビルド」を参照してください。

要件

アプリケーションをビルドする前に計画します。組織のビジネス要件を定義し、アプリケーションが追跡する情報を特定します。アプリケーション開発プロセスの詳細については、「アプリケーションのビルド」を参照してください。

ガイド付きアプリケーションクリエーター で作業するには、別のブラウザーを使用します。Internet Explorer 11 のサポートの詳細については、 KB0683275 を参照してください。

ガイド付きアプリケーションクリエーター にアクセスするには、sn_g_app_creator.app_creator ロールまたは admin ロールが必要です。

実行すべきこと

1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成。

   ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションレコードを作成して、カスタムアプリケーションを識別します。

2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタムアプリケーションを使用する組織のメンバーのために、 ガイド付きアプリケーションクリエーター でロールを作成または選択します。

3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択。

   ユーザーが ServiceNow エージェント モバイルアプリまたはリストとフォームを使用してアプリケーションにアクセスできるようにします。

4. ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定。

   既存のテーブルを選択するか、ガイド付きアプリケーションクリエーター でカスタムテーブルを作成して、カスタムビジネスアプリケーションのデータを保存します。

5. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ。

   選択した各ユーザーエクスペリエンスでのアプリケーションのビジュアル化をカスタマイズします。

ヒント: ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定するプロセス全体を完了します。終了する場合は、スタジオ およびさまざまなフォーム間でアプリケーションの設定を続行する必要があります。ガイド付きアプリケーションクリエーター で中断したところから再開することはできません。

次のステップ

アプリケーションはすぐに使用できますが、組織のニーズに合わせてアプリケーションをカスタマイズする必要があります。

ServiceNow スタジオ で、次の内容を構成します。

- システム通知
- フォームレイアウト
- UI ポリシー
- レポート

Flows in ワークフロースタジオ でアプリケーションのプロセスを自動化してビジネスロジックを作成する方法を学ぶこともできます。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションレコードを作成して、カスタムアプリケーションを識別します。

始める前に

デフォルトでは、開発者は ガイド付きアプリケーションクリエーター でグローバルスコープにアプリケーションを作成することはできません。追加のロールをアサインすることで、グローバルアプリケーションの開発を特定の開発者に制限できます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのグローバルアプリケーション開発の許可」を参照してください。

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > **[Studio]** に移動して、[アプリケーションの作成] を選択します。
   ガイド付きアプリケーションクリエーター を初めて起動する場合は、ようこそ画面で [始めましょう。] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. 画面でフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	アプリケーションの名前。
説明	自分のアプリケーションの説明です。
スコープ	自分のアプリケーションのスコープです。アプリケーションに名前を付けると、アプリケーションスコープが自動的に設定されます。 グローバルスコープが利用可能な場合は、ここでアプリケーションを作成することもできます。 アプリケーションスコープの詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

3. オプション: アプリケーションにロゴ画像を指定します。
[ロゴ] フィールドに画像をドラッグアンドドロップするか、[ロゴをアップロードするには、ドラッグアンドドロップまたは参照してください。] を選択します。

4. [作成] を選択してアプリケーションのロールをアサインします。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションのビルドを続行するには、ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義 の手順に従います。

[このアプリのいくつかのロールを作成しましょう。] 画面で ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了して、アプリケーションを保存し、後で機能を追加することもできます。終了するには、**[X]** を選択して画面を閉じ、[はい、閉じます] を選択します。

ヒント: ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを設定するプロセス全体を完了します。終了する場合は、スタジオ およびさまざまなフォーム間でアプリケーションの設定を続行する必要があります。ガイド付きアプリケーションクリエーター で中断したところから再開することはできません。

タスクの結果

アプリケーションレコードは、カスタムアプリケーション [sys_app] テーブルに保存されます。作成者はアプリケーションの委任開発者として追加されます。自分のアプリケーションを後で表示するには、[システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義

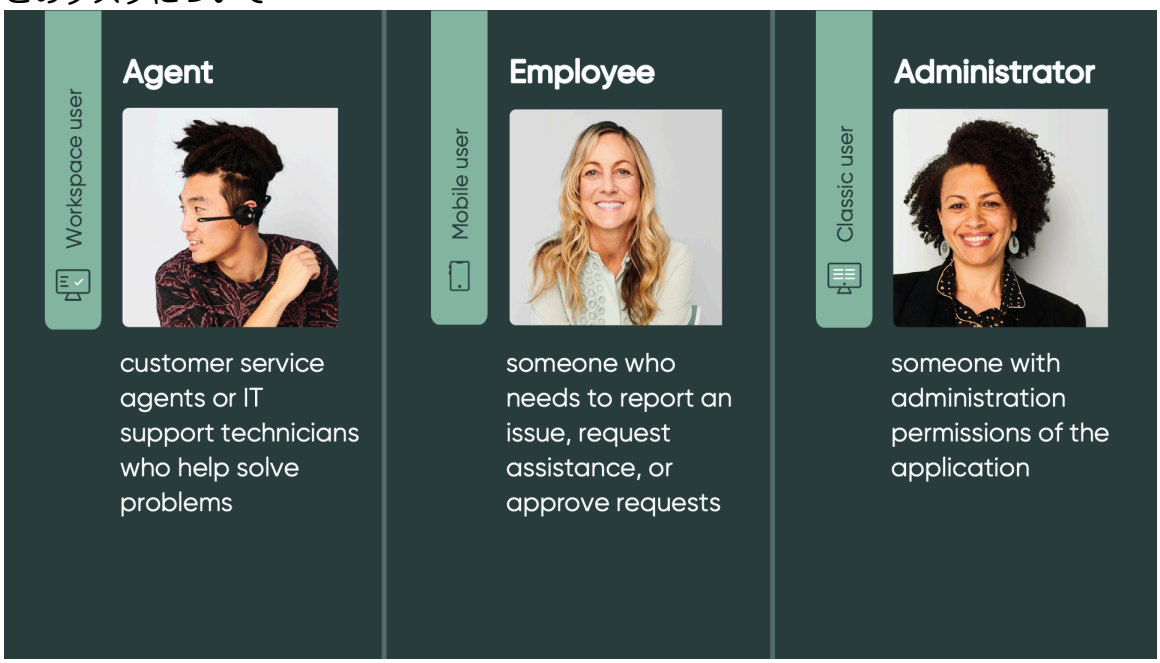
カスタムアプリケーションを使用する組織のメンバーのために、 ガイド付きアプリケーションクリエーター でロールを作成または選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成」の手順を完了してください。

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

このタスクについて



手順

1. アプリケーションのロールを定義します。

   既存のロールを選択するか、ロールを作成できます。

オプション	手順
既存のロールの選択	**a.** [ロール] フィールドにロール名を入力します。 **b.** リストでロール名を選択します。
ロールを作成する	**a.** **[+ 新しいロールを作成 (+ Create new role)]** を選択します。 **b.** ロール名を入力します。 **c.** [作成] を選択します。
既存のロールを選択してロールを作成する	**a.** [ロール] フィールドに既存のロール名を入力します。 **b.** リストで既存のロール名を選択します。 **c.** **[+ 新しいロールを作成 (+ Create new role)]** を選択します。 **d.** ロール名を入力します。 **e.** [作成] を選択します。

2. [続行] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションのユーザーエクスペリエンスを選択する画面が表示されます。

> **注:** ロールを作成した場合は、[続行] を選択してインスタンスにロールを保存する必要があります。[続行] を選択する前に ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、作成したロールは保存されません。

次のタスク
「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択」の手順に従ってアプリケーションのビルドを続行します。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択

ユーザーが ServiceNow エージェント モバイルアプリまたはリストとフォームを使用してアプリケーションにアクセスできるようにします。

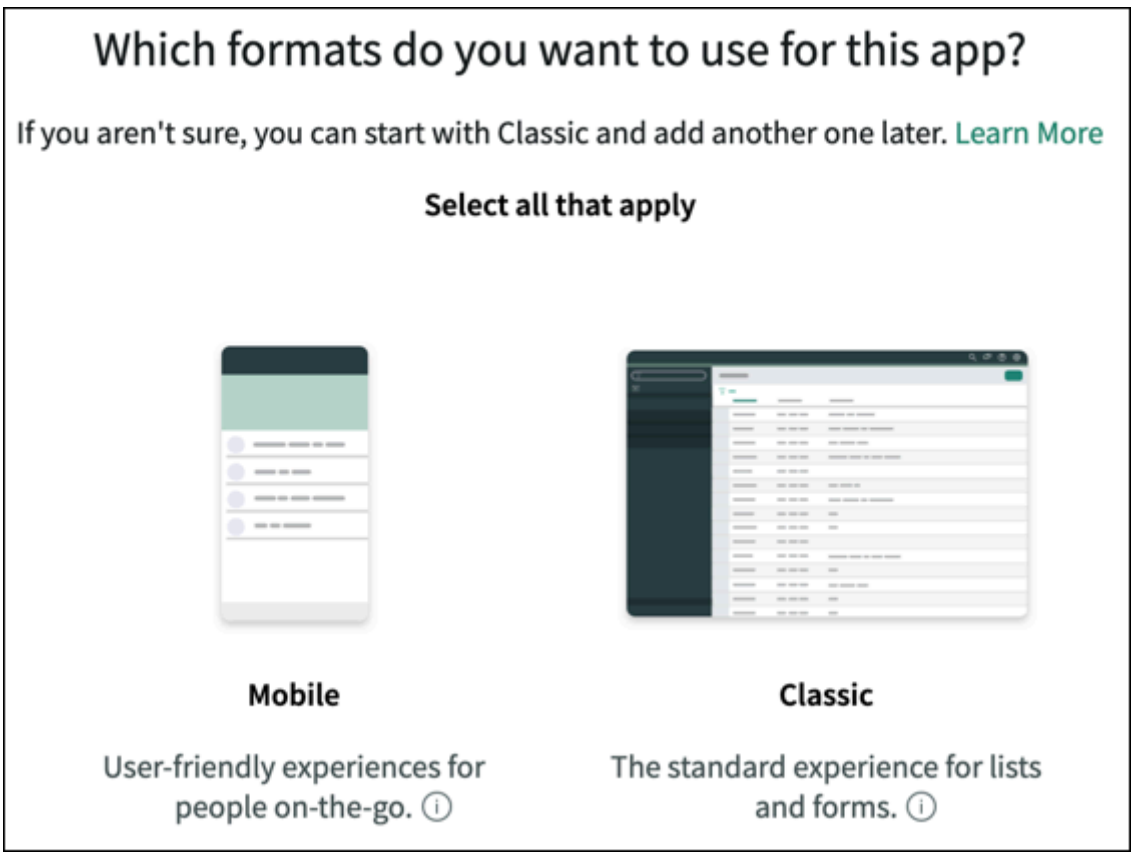
始める前に
完了：

1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

手順

1. アプリケーションを利用可能にするユーザーエクスペリエンスを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーエクスペリエンス	説明
モバイル	ServiceNow エージェント モバイルアプリ。モバイルデバイスで作業するユーザーをサポートするには、このユーザーエクスペリエンスを選択します。
クラシック	クラシック Now Platform エクスペリエンス。ユーザーがリストとフォームを使用してアプリケーションで作業できるようにするには、このユーザーエクスペリエンスを選択します。

ガイド付きアプリケーションクリエーター には、ワークスペースを作成するオプションはありません。代わりに、App Engine Studio を使用してワークスペースを作成できます。詳細については、「App Engine Studio でのアプリケーションのビルド」を参照してください。

2. [続行] を選択してアプリケーションのデータテーブルを指定します。

次のタスク
「ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定」の手順に従ってアプリケーションのビルドを続行します。ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、選択したユーザーエクスペリエンスはアプリケーションに保存されません。

ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定

既存のテーブルを選択するか、ガイド付きアプリケーションクリエーター でカスタムテーブルを作成して、カスタムビジネスアプリケーションのデータを保存します。

始める前に
完了：

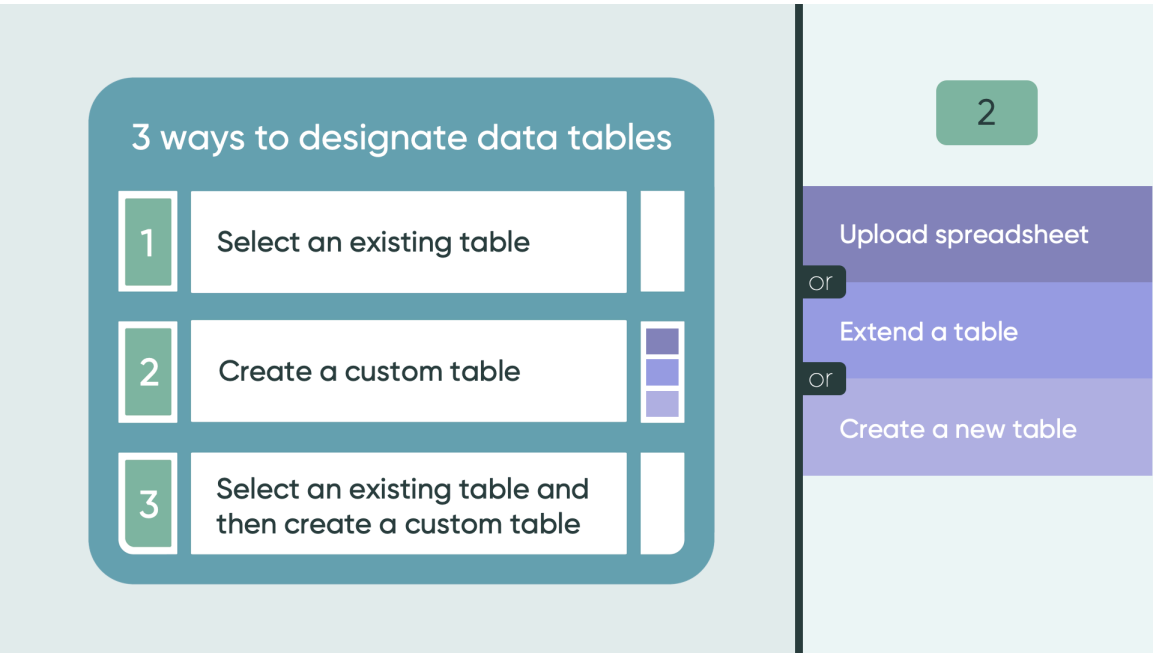
1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義
3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択

カスタムデータテーブルを作成する予定の場合は、ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルガイドライン を確認して、テーブルの作成後にシステムが期待どおりに動作することを確認します。

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて



手順

アプリケーションのデータテーブルを指定します。
既存のテーブルを選択することも、カスタムテーブルを作成することもできます。

オプション	手順
カスタムテーブルを作成せずに既存のテーブルを選択する	**a.** [テーブル] フィールドにテーブル名を入力します。 **b.** リストでテーブル名を選択します。 **c.** [テーブルで完了しました] を選択します。
既存のテーブルを選択せずにカスタムテーブルを作成する	**a.** [新テーブルの作成] を選択します。 **b.** テーブルの作成方法を選択します。 **c.** 選択したテーブル作成方法のステップを実行します。 ◦ ガイド付きアプリケーションクリエーターへのスプレッドシートのアップロード ◦ ガイド付きアプリケーションクリエーターのテーブルの拡張 ◦ ガイド付きアプリケーションクリエーターでのテーブルの作成
既存のテーブルを選択してカスタムテーブルを作成する	**a.** [テーブル] フィールドに、アプリケーションに指定する既存のテーブルの名前を入力します。 **b.** リストでテーブル名を選択します。 **c.** [新テーブルの作成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	手順
	d. テーブルの作成方法を選択します。 **e.** 選択したテーブル作成方法のステップを実行します。 ◦ ガイド付きアプリケーションクリエーターへのスプレッドシートのアップロード ◦ ガイド付きアプリケーションクリエーターのテーブルの拡張 ◦ ガイド付きアプリケーションクリエーターでのテーブルの作成

次のタスク
「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ」の手順に従ってアプリケーションのビルドを続行します。ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、指定したデータテーブルはアプリケーションに保存されません。

ガイド付きアプリケーションクリエーター へのスプレッドシートのアップロード

スプレッドシートを ガイド付きアプリケーションクリエーター のカスタムテーブルに変換して、カスタムアプリケーションのデータを保存します。

始める前に
完了：

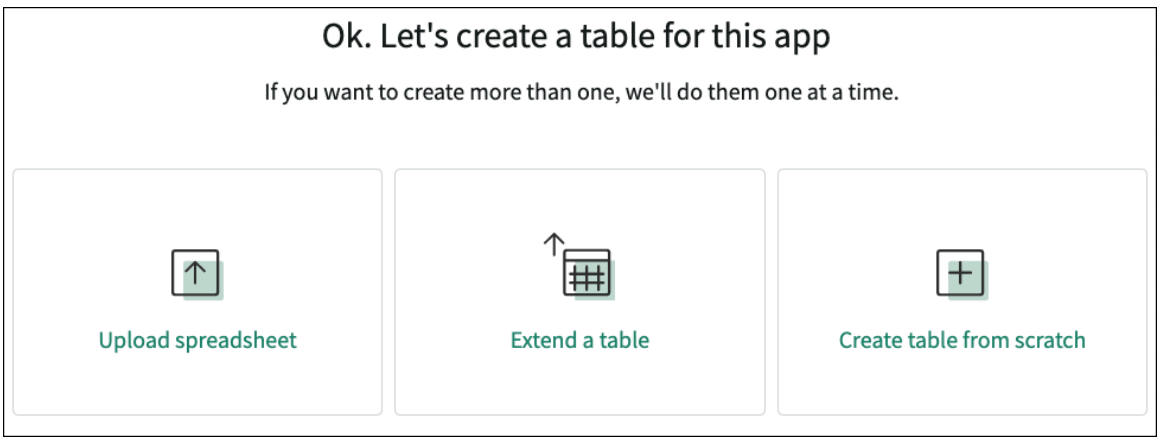
1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義
3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択
4. ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定

スプレッドシートのガイドラインを確認し、データが想定どおりにアップロードされていることを確認します。

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

手順

1. テーブルの作成方法を選択するには、画面で [スプレッドシートをアップロード] を選択し、[続行] を選択します。



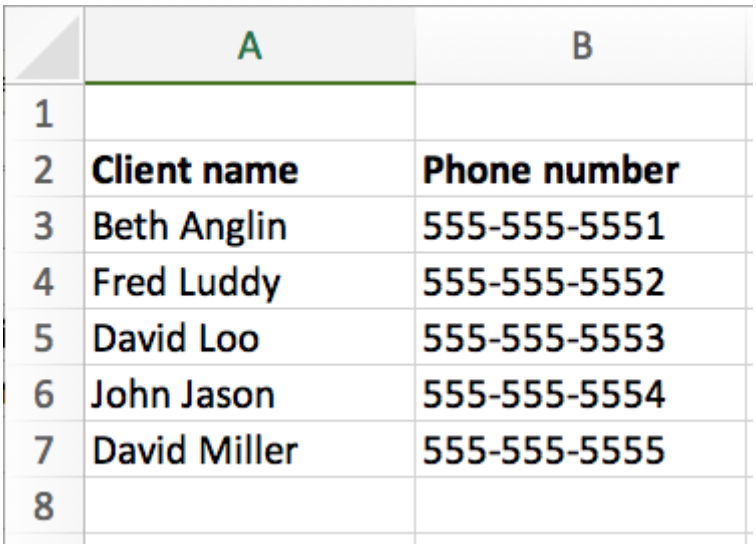
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. スプレッドシートをアップロードします。

   スプレッドシートファイルをドラッグアンドドロップするか、システムを参照してスプレッドシートファイルを選択できます。

3. [テーブルヘッダーの行を入力してください。] に、スプレッドシートのヘッダー行の番号を入力します。

   たとえば、(次の画像のように) スプレッドシートに 2 つの列があり、ヘッダーが 2 行目にある場合は、「2」と入力します。



	A	B
1		
2	**Client name**	**Phone number**
3	Beth Anglin	555-555-5551
4	Fred Luddy	555-555-5552
5	David Loo	555-555-5553
6	John Jason	555-555-5554
7	David Miller	555-555-5555
8		

4. [スプレッドシートデータをインポート] オプションを選択します。
5. [続行] を選択します。

   スプレッドシートのコンテンツがカスタムテーブルのフィールドに解析されます。

6. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
フィールドラベル	フィールドの一意のラベル。
フィールド名	データベース内のフィールド名。
フィールドタイプ	フィールドのタイプ。さまざまなフィールドタイプの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。 デフォルトでは、選択できるフィールドタイプ数は 18 だけです。プロパティを追加して、さらに多くのフィールドタイプを ガイド付きアプリケーションクリエーター に含めることができます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのフィールドタイプの追加」を参照してください。
表示	参照フィールドとして使用されるフィールドは、テーブルの表示値として使用されます。テーブルの表示値として定義できるフィールドは 1 つだけです。
必須	レコードを保存するには、そのフィールドに値を含める必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [続行] を選択して、カスタムテーブルのプロパティと権限を定義します。
8. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
テーブル ラベル	テーブルの一意のラベル ([ラップトップ] や [シンクライアント] など) です。ラベルは、テーブルのリストおよびフォームビューに表示されます。「データ辞書テーブル」の「フィールドラベル」を参照してください。
テーブル名	データベース内のテーブルの名前。テーブル名は、事前に定義したテーブルラベルとアプリケーションスコープに基づいて自動的に入力されます。
拡張性を高める	他のテーブルがこのテーブルを拡張できるようにするオプションです。 詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。
自動番号	数値フィールドをテーブルに追加して ID 番号が追加されると ID 番号を自動的にインクリメントするオプションです。
アクセスを管理	アプリケーションのユーザー権限です。以前に選択したロールごとに、さまざまなレベルのアクセス権を付与できます。 作成 ユーザーが新しいレコード (行) をテーブルに挿入できるようにします。 読み取り ユーザーがテーブルのレコードを表示できるようにします。 書き込み/更新 ユーザーがテーブル内のレコードを更新できるようにします。 削除 ユーザーがテーブルからレコードを削除したり、テーブルを削除したりできるようにします。

9. [続行] を選択します。
10. 確認画面で、[続行] を選択します。
11. アプリケーションにさらにテーブルを追加するには、「ガイド付きアプリケーションクリエーターのデータテーブルの指定」の手順に従います。
12. テーブルの指定を終了するには、[**Done with tables**] を選択します。

次のタスク

「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ」の手順に従ってアプリケーションのビルドを続行します。ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、構成したテーブルはシステムに保存されません。

ガイド付きアプリケーションクリエーター のテーブルの拡張

ガイド付きアプリケーションクリエーター のテーブルを拡張して、既存のテーブルをコピーするカスタムテーブルを作成します。子テーブルにさらにフィールドを追加できます。

始める前に

完了：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

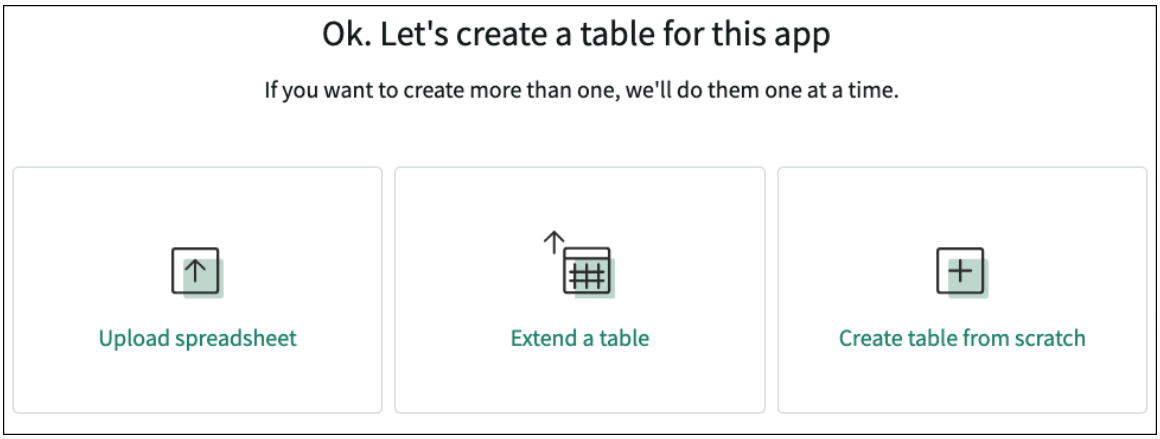
1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義
3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択
4. ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定

どのテーブルを拡張するか計画します。「拡張モデル」を確認して、自分のテーブルを拡張した後にどのデータベーステーブルが作成されたか追跡できるようにします。

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

手順

1. テーブルの作成方法を選択するには、画面で [テーブルを拡張] を選択します。



2. [テーブル] フィールドで拡張するテーブルを選択します。
3. [続行] を選択します。

   親テーブルのフィールドがカスタムテーブルにコピーされます。コピーされたフィールドを変更することはできません。

4. 子テーブルにフィールドを追加するには、**[+ 新しいフィールドを追加 (+ Add a new field)]** を選択してフィールドに入力します。

フィールド	説明
フィールドラベル	フィールドの一意のラベル。
フィールド名	データベース内のフィールド名。
フィールドタイプ	フィールドのタイプ。さまざまなフィールドタイプの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。 デフォルトでは、選択できるフィールドタイプ数は 18 だけです。プロパティを追加して、さらに多くのフィールドタイプを ガイド付きアプリケーションクリエーター に含めることができます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのフィールドタイプの追加」を参照してください。
表示	参照フィールドとして使用されるフィールドは、テーブルの表示値として使用されます。テーブルの表示値として定義できるフィールドは 1 つだけです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 拡張テーブルは、親テーブルの表示値を継承します。拡張テーブルに個別の表示値を設定すると、親テーブルの表示値が上書きされます。
必須	レコードを保存するには、そのフィールドに値を含める必要があります。

5. [続行] を選択して、カスタムテーブルのプロパティと権限を定義します。
6. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
テーブル ラベル	テーブルの一意のラベル ([ラップトップ] や [シンクライアント] など) です。ラベルは、テーブルのリストおよびフォームビューに表示されます。「データ辞書テーブル」の「フィールドラベル」を参照してください。
テーブル名	データベース内のテーブルの名前。テーブル名は、事前に定義したテーブルラベルとアプリケーションスコープに基づいて自動的に入力されます。
拡張性を高める	他のテーブルがこのテーブルを拡張できるようにするオプションです。 詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。
自動番号	数値フィールドをテーブルに追加して ID 番号が追加されると ID 番号を自動的にインクリメントするオプションです。
アクセスを管理	アプリケーションのユーザー権限です。以前に選択した各ロールに、さまざまなアクセスのレベルを指定できます。 作成 ユーザーが新しいレコード (行) をテーブルに挿入できるようにします。 読み取り ユーザーがテーブルのレコードを表示できるようにします。 書き込み/更新 ユーザーがテーブル内のレコードを更新できるようにします。 削除 ユーザーがテーブルからレコードを削除したり、テーブルを削除したりできるようにします。

7. [続行] を選択します。
8. 確認画面で、[続行] を選択します。
9. アプリケーションにさらにテーブルを追加するには、「ガイド付きアプリケーションクリエーターのデータテーブルの指定」の手順に従います。
10. テーブルの指定を終了するには、[**Done with tables**] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ」の手順に従ってアプリケーションのビルドを続行します。ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、構成したテーブルはシステムに保存されません。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でのテーブルの作成

ガイド付きアプリケーションクリエーター にテーブルを作成し、ビジネスニーズに合わせてアプリケーションをカスタマイズします。

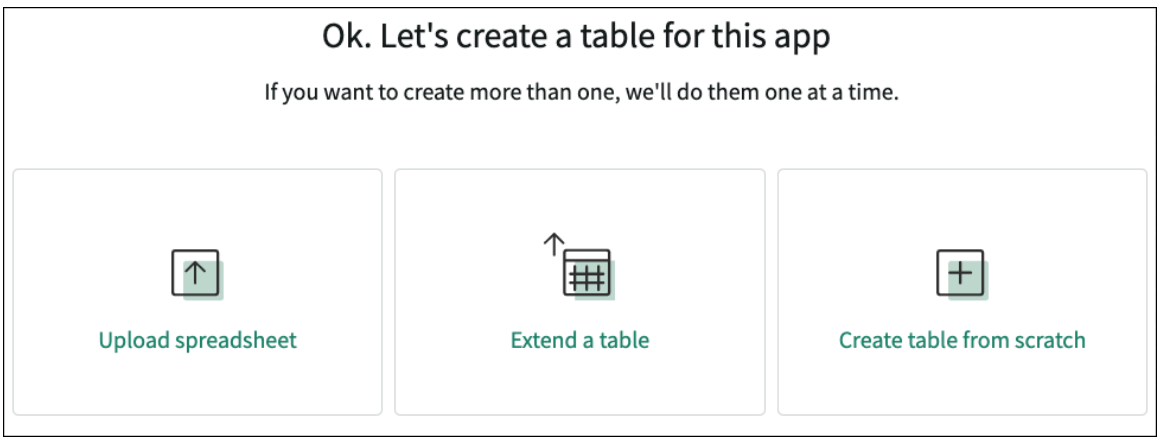
始める前に
完了：

1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義
3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択
4. ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

手順

1. テーブルの作成方法を選択するには、画面で [テーブルを最初から作成] を選択し、[続行] を選択します。



2. カスタムテーブルにフィールドを追加します。

   a. **[+ 新しいフィールドを追加 (+ Add a new field)]** を選択します。

   b. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
フィールドラベル	フィールドの一意のラベル。
フィールド名	データベース内のフィールド名。
フィールドタイプ	フィールドのタイプ。さまざまなフィールドタイプの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。 デフォルトでは、選択できるフィールドタイプ数は 18 だけです。プロパティを追加して、さらに多くのフィールドタイプを ガイド付きアプ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	リケーションクリエーター に含めることができます。詳細については、「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのフィールドタイプの追加」を参照してください。
表示	参照フィールドとして使用されるフィールドは、テーブルの表示値として使用されます。テーブルの表示値として定義できるフィールドは 1 つだけです。
必須	レコードを保存する前に、そのフィールドに値を指定する必要があるかどうかのオプション。

3. [続行] を選択して、カスタムテーブルのプロパティと権限を定義します。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
テーブル ラベル	テーブルの一意のラベル ([ラップトップ] や [シンクライアント] など) です。ラベルは、テーブルのリストおよびフォームビューに表示されます。「データ辞書テーブル」の「フィールドラベル」を参照してください。
テーブル名	データベース内のテーブルの名前。テーブル名は、事前に定義したテーブルラベルとアプリケーションスコープに基づいて自動的に入力されます。
拡張性を高める	他のテーブルがこのテーブルを拡張できるようにするオプションです。 詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。
自動番号	数値フィールドをテーブルに追加して ID 番号が追加されると ID 番号を自動的にインクリメントするオプションです。
アクセスを管理	アプリケーションのユーザー権限です。以前に選択した各ロールに、さまざまなアクセスのレベルを指定できます。 作成 ユーザーが新しいレコード (行) をテーブルに挿入できるようにします。 読み取り ユーザーがテーブルのレコードを表示できるようにします。 書き込み/更新 ユーザーがテーブル内のレコードを更新できるようにします。 削除 ユーザーがテーブルからレコードを削除したり、テーブルを削除したりできるようにします。

5. [続行] を選択します。
6. 確認画面で、[続行] を選択します。
7. アプリケーションにさらにテーブルを追加するには、「ガイド付きアプリケーションクリエーターのデータテーブルの指定」の手順に従います。
8. テーブルの指定を終了するには、[**Done with tables**] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

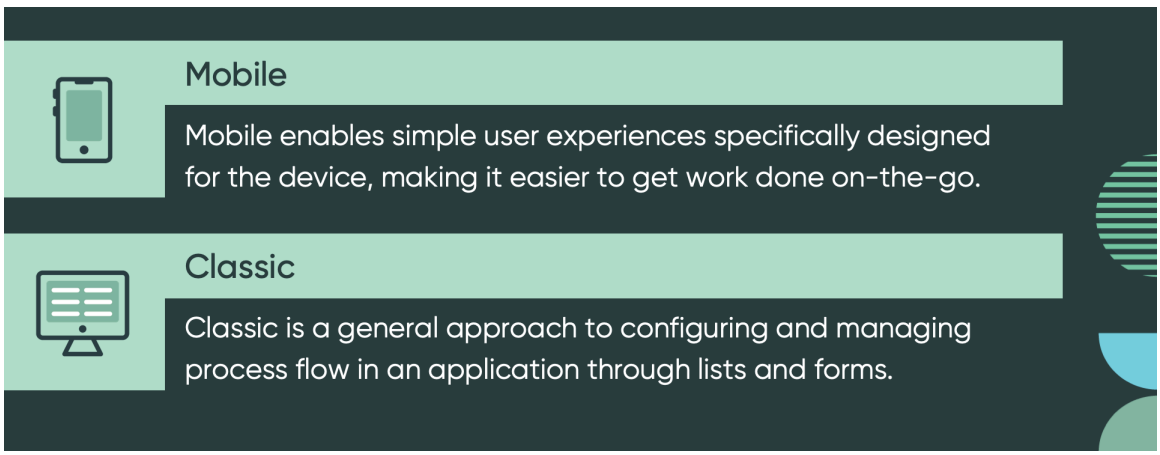
次のタスク
「ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ」の手順に従ってアプリケーションのビルドを続行します。ガイド付きアプリケーションクリエーター を終了すると、構成したテーブルはシステムに保存されません。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスのカスタマイズ

選択した各ユーザーエクスペリエンスでのアプリケーションのビジュアル化をカスタマイズします。

事前準備：

1. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのアプリケーションレコードの作成
2. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのロールの定義
3. ガイド付きアプリケーションクリエーター でのユーザーエクスペリエンスの選択
4. ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルの指定



アプリケーションを モバイルエージェント モバイルアプリ用にカスタマイズする

アプリケーションのユーザーエクスペリエンスとして モバイルエージェント モバイルアプリを選択した場合は、モバイルアプリでのそのアプリケーションの表示方法をカスタマイズできます。

始める前に

必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

手順

1. [モバイル] の横にある [開始] を選択して、アプリケーションの詳細を設定します。
2. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
アプリアイコン	モバイルアプリのアプリケーションホームページに表示されるアイコン。
オフラインで利用可能	ユーザーがオフラインモードでアプリケーションレコードを更新できるようにするオプション。このオプションは、SG Offline Support (com.glide.sg.offline) プラグインがアクティブ化されている場合にのみ使用できます。 オフラインモードの詳細については、「Updating records without an internet connection (インターネット接続なしでレコードを更新する)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	アプリケーションのホームページに表示されるアプリケーションの名前。デフォルトでは、この値は以前に作成したアプリケーション名です。
説明	自分のアプリケーションの説明です。デフォルトでは、この値は以前に作成したアプリケーションの説明です。
テーブル	モバイルアプリでアプレットとして表示されるテーブル。アプレットはアプリケーションの下のサブセクションであり、アプリケーション内の情報とビジネスプロセスを分類します。
ロール	モバイルアプリでアプリケーションにアクセスできるユーザーロール。デフォルトでは、これらの値は以前に定義したロールです。

3. [作成] を選択します。

次のタスク
これで、モバイルエージェント モバイルアプリ用のアプリケーションのカスタマイズが完了しました。別のユーザーエクスペリエンスを選択した場合は、次にそのユーザーエクスペリエンスをカスタマイズします。カスタマイズするユーザーエクスペリエンスがこれ以上ない場合は、[アプリで完了しました] を選択します。

Now Platform のクラシックエクスペリエンス用のアプリケーションのカスタマイズ

アプリケーション用に Now Platform のクラシックエクスペリエンスを選択した場合は、アプリケーションナビゲーターでのそのアプリケーションの表示方法をカスタマイズできます。

始める前に
必要なロール：sn_g_app_creator.app_creator または admin

手順
1. [クラシック] の横にある [開始] を選択して、アプリケーションの詳細を設定します。

2. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	アプリケーションナビゲーターに表示されるアプリケーションの名前。デフォルトでは、この値は以前に作成したアプリケーション名です。
説明	自分のアプリケーションの説明です。デフォルトでは、この値は以前に作成したアプリケーションの説明です。
テーブル	アプリケーションのテーブル。アプリケーションモジュールはテーブルごとに作成されます。デフォルトでは、これらの値は以前に指定したデータテーブルです。
ロール	アプリケーションにアクセスできるユーザーロール。デフォルトでは、これらの値は以前に定義したロールです。

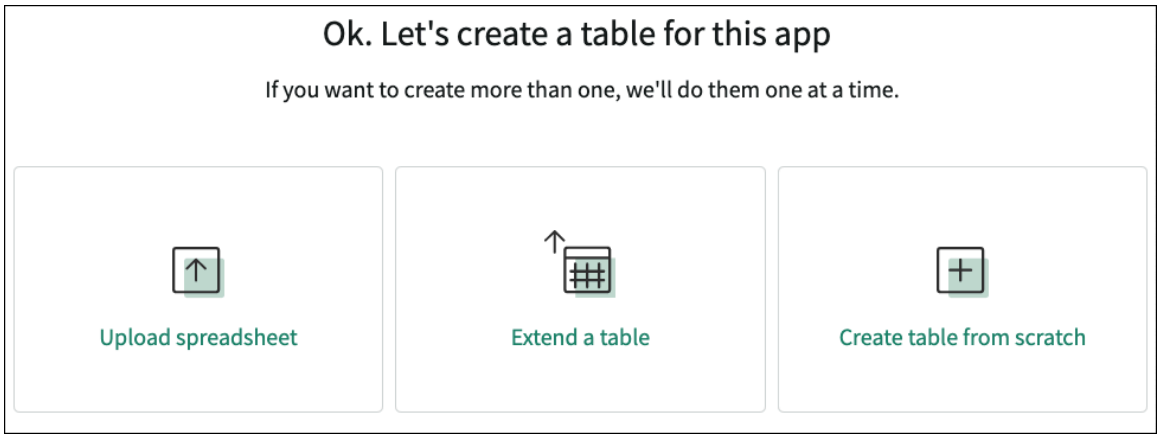
3. [作成] を選択します。

次のタスク
これで、クラシックの Now Platform エクスペリエンス用のアプリケーションのカスタマイズは終了しました。別のユーザーエクスペリエンスを選択した場合は、次にそのユーザーエクスペリエンスをカスタマイズします。カスタマイズするユーザーエクスペリエンスがこれ以上ない場合は、[アプリで完了しました] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ガイド付きアプリケーションクリエーター のデータテーブルガイドライン

ガイド付きアプリケーションクリエーター でアプリケーションを作成する場合は、オプションでアプリケーションのデータテーブルを作成できます。サブスクリプションの制限内であること、およびアプリケーションが想定どおりに動作することを確認するために、データテーブルを作成する前にデータテーブルガイドラインを確認します。



注:

Now Platform アプリケーションサブスクリプションにはカスタムテーブルエンタイトルメントが含まれています。任意の目的で、最大でサブスクリプションのエンタイトルメント制限まで、カスタムテーブルを作成できます。作成したカスタムテーブルを使用アドミニストレーターがサブスクリプションにマッピングする方法の詳細については、「サブスクリプション管理 での製品サブスクリプションへのカスタムテーブルのマッピング」を参照してください。

スプレッドシートのガイドライン

ガイド付きアプリケーションクリエーター に新しいデータテーブルを作成する 1 つの方法は、外部スプレッドシートをアップロードすることです。データをシームレスに転送してカスタムアプリケーションを迅速にビルドできるように、事前にスプレッドシートを準備します。

スプレッドシートが次の状態であることを確認します。

- 水平列とそれぞれのヘッダーラベルでフォーマットされている
- XLSX ファイルタイプとして保存されている

たとえば、スプレッドシートを次のようにフォーマットします。

	A	B
1		
2	**Client name**	**Phone number**
3	Beth Anglin	555-555-5551
4	Fred Luddy	555-555-5552
5	David Loo	555-555-5553
6	John Jason	555-555-5554
7	David Miller	555-555-5555
8		

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ガイド付きアプリケーションクリエーター で 2 行目をヘッダー行として指定し、[クライアント名] と [電話番号] をテーブルフィールドとしてアップロードします。

テーブル拡張のガイドライン

ガイド付きアプリケーションクリエーター でデータテーブルを作成するオプションの 1 つは、既存のデータテーブルをコピーして、新しく作成されたテーブルにフィールドを追加することです。データテーブルを拡張する前に、テーブルの拡張モデルを確認して、拡張後にどのデータベーステーブルが作成されたか追跡できるようにします。

ベーステーブルを拡張すると、元のテーブルのすべてのフィールドが組み込まれ、新しいテーブルのシステムフィールドが作成されます。拡張可能とマークされたテーブルは、同じスコープ内にある場合、または他のスコープからの構成が許可されている場合に拡張可能です。

拡張モデルの詳細については、「テーブル拡張とクラス 」を参照してください。

テーブル作成のガイドライン

オプションで ガイド付きアプリケーションクリエーター に新しいテーブルを作成できますが、サブスクリプションで許可されるよりも多くのカスタムテーブルを作成する可能性があります。確実にサブスクリプションの制限内に収めるには、組織のカスタムテーブルエンタイトルメントを確認してください。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でのグローバルアプリケーション開発の許可

デフォルトでは、開発者は ガイド付きアプリケーションクリエーター でグローバルスコープにアプリケーションを作成することはできません。追加のロールをアサインすることで、グローバルアプリケーションの開発を特定の開発者に制限できます。

始める前に

重要: グローバルスコープで作成したアプリケーションはスコープの保護をバイパスするため、ライセンスの問題が発生する可能性があります。グローバルスコープでアプリケーションを作成する場合の想定については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

ガイド付きアプリケーションクリエーター を使用するユーザーを指定するには、そのユーザーに sn_g_app_creator.app_creator ロールをアサインします。sn_g_app_creator.global ロールもアサインすると、このユーザーはグローバルスコープでアプリケーションを作成できるようになります。

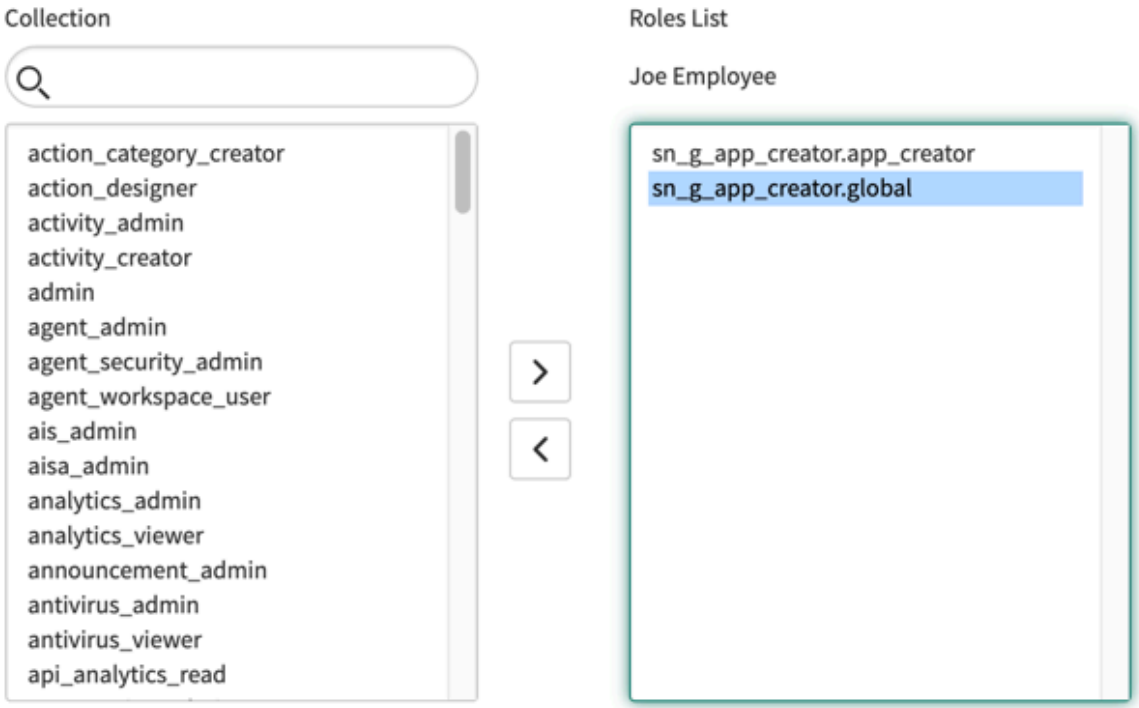
または、sn_g_app_creator.app_creator ロールを持つすべてのユーザーがグローバルスコープでアプリケーションを作成できるようにするには、*sn_g_app_creator.allow_global* システムプロパティを追加して **[true]** に設定します。プロパティ追加の詳細については、「システムプロパティを追加する 」を参照してください。

注: admin ロールを持つユーザーは、sn_g_app_creator.global ロールを持っているかどうかに関係なく、グローバルスコープでアプリケーションを作成できます。

手順

1. [すべて] > [ユーザー管理] > [ユーザー] に移動して、開発者のユーザーレコードを開きます。
2. [ロール] 関連リストで、[編集...] を選択します。
3. [メンバーの編集] ページで、sn_g_app_creator.global ロールを [コレクション] から [ロールリスト **(Roles List)**] に移動します。

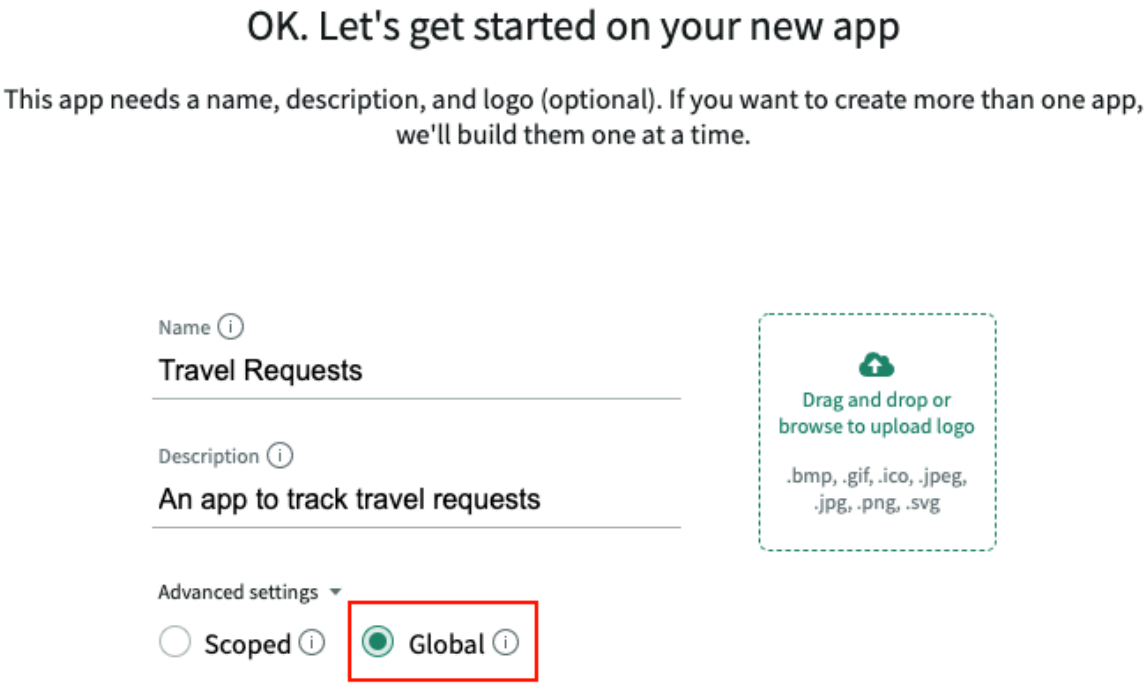
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



sn_g_app_creator.app_creator ロールも選択されていることを確認します。ガイド付きアプリケーションクリエーター のグローバルスコープでアプリケーションを作成する開発者には、sn_g_app_creator.app_creator ロールと sn_g_app_creator.global ロールの両方が必要です。

4. [保存] を選択します。
5. ユーザーレコードで、[更新] を選択します。

タスクの結果
グローバルスコープでアプリケーションを作成するオプションは、sn_g_app_creator.global ロールを持つ開発者が使用できます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ガイド付きアプリケーションクリエーター でのフィールドタイプの追加

ガイド付きアプリケーションクリエーター でカスタムテーブルにフィールドを追加する場合、デフォルトでは 18 個のフィールドタイプしか使用できません。プロパティを追加して、さらに多くのフィールドタイプを含めることができます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
Now Platform で使用可能なフィールドタイプのリストについては、「フィールドタイプ」を参照してください。

手順

1. 次の設定を使用して、 システムプロパティを追加します。
   - 名前： *sn_g_app_creator.field_types*
   - タイプ：文字列
2. [値] フィールドに、フィールドタイプ名のカンマ区切りリストを入力します。
   たとえば、[イメージ (Image)] および [ドキュメント ID] というフィールドタイプを追加するには、「`user_image,document_id`」と入力します。
3. [送信] を選択します。

スクリプティング

スクリプトを使用して、標準構成を超えてインスタンスを拡張します。スクリプトを使用すると、プロセスの自動化、機能の追加、インスタンスと外部アプリケーションの統合などを行うことができます。

API (アプリケーションプログラミングインターフェイス) は、スクリプトで使用できるクラスとメソッドを提供し、機能を定義します。ServiceNow は、統合のための JavaScript クラス、Web サービス、およびその他の接続ポイントとして API を提供します。一般的に使用される JavaScript オブジェクト (DOM や Window など) にはアクセスできないことに注意してください。Jelly スクリプトは一部のモジュールでも使用されます。Jelly は XML を HTML に変換するために使用され、クライアントサイドとサーバーサイドの両方のスクリプトを含めることができます。

スクリプトは、サーバーサイドにするか (サーバーまたはデータベースで実行)、クライアントサイドにするか (ユーザーのブラウザーで実行)、または MID サーバーで実行できます。

注: スクリプトを作成する際には、予約語を使用できません。

インスタンスのカスタマイズを開始する前に JavaScript を理解し、Jelly スクリプトを展開する場合は Jelly も理解しておきます。

サーバーサイドスクリプト

データベース操作を実行します。たとえば、サーバーサイドスクリプトを使用してレコードを更新します。スコープ対象のアプリケーションまたはグローバルスコープでスクリプトを作成します。各実行コンテキストには、使用可能な API のセットが含まれています。

スコープ付き環境

スコープ対象のアプリケーションでスクリプティングする場合は、スコープ付き API を使用します。スコープ付き *Glide* API には、グローバル *Glide* API に含まれているすべてのメソッドは含まれていません。また、スコープ対象のアプリケーションではグローバル *Glide* API を呼び出すことはできません。

グローバル環境

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

グローバルスコープは、アプリケーションスコープが実装される前に開発されたアプリケーションや、他のすべてのグローバルアプリケーションにアクセスできることを意図したアプリケーションを識別する、特別なアプリケーションスコープです。グローバルスコープでスクリプティングする場合はグローバル API を使用します。

サーバーサイドスクリプトの詳細については、「サーバーサイドスクリプト」を参照してください。
アプリケーションスコープの詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

クライアントサイドのスクリプト

フォームの外観を変更したり、入力された値に基づいてさまざまなフィールドを表示したり、その他のカスタム表示オプションを変更したりします。

- onLoad クライアントスクリプトは、フォームまたはページが読み込まれたときに実行されます
- onChange クライアントスクリプトは、特定のものが変更され、かつフォームやページが読み込まれたときに実行されます
- onSubmit クライアントスクリプトは、フォームが送信されたときに実行されます

クライアントスクリプトは、UI ポリシーを含む他のスクリプトまたはモジュールで呼び出すこともできます。クライアントサイドスクリプトの詳細については、「クライアント側スクリプティング」を参照してください。

利用可能なスクリプトタイプ

スクリプトは多くの場所で使用できます。最も重要な点は、スクリプトがクライアントまたはサーバーのどちらで実行されるかです。

スクリプトのタイプと実行場所

スクリプト	説明	実行場所
アクセス制御	指定された操作のアクセス権が特定のエンティティに付与されるかどうかを決定します。 • 保護されているエンティティのタイプ • 保護されている操作 • オブジェクトを説明する一意の識別子 ロール、条件式、またはスクリプトで定義できます。	サーバー - スクリプトと条件はサーバーで実行されます。
Ajax スクリプト	クライアントがサーバーからデータを取得して、ページ全体を再ロードすることなくページに動的に組み込むことができるようにします。 • Ajax クライアントスクリプトは、情報やアクション、またはその両方を要求します。 • Ajax サーバースクリプトは、Ajax クライアントスクリプトの要求を実行します。	• クライアント - Ajax クライアントスクリプトはクライアントで実行されます。 • サーバー - Ajax サーバースクリプトはサーバーで実行されます。
ビジネスルール	システムの動作をカスタマイズします。	サーバー - スクリプトと条件はサーバーで実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトのタイプと実行場所 (続く)

スクリプト	説明	実行場所
	• データベースアクション (クエリ、挿入、更新、または削除) が発生したときに実行されます。 • スクリプトは次のように実行される可能性があります。 ◦ データベースアクションの実行前または後 (データベース操作の一部として実行) ◦ 非同期 (データベース操作後の特定の時点) ◦ 表示中 (データをフォームに表示する場合)	
サービスカタログ UI ポリシー	変数セットまたはカタログアイテム (サービスカタログから) の表示を定義します。	• クライアント - [True の場合実行] フィールドまたは [False の場合実行] フィールドのスクリプトはクライアントで実行されます。 • サーバー - すべての条件はサーバーで実行されます。
クライアントスクリプト	フォームの外観を変更したり、入力された値やその他のカスタム表示オプションに基づいてさまざまなフィールドを表示したりするために使用されます。 • onLoad は、フォームまたはページが読み込まれたときにクライアントスクリプトが実行されることを意味します。 • onChange は、特定のものが変更され、かつフォームやページが読み込まれたときにクライアントスクリプトが実行されることを意味します。 • onSubmit は、フォームが送信されたときにクライアントスクリプトが実行されることを意味します。 クライアントスクリプトは、UI ポリシーを含む他のスクリプトまたはモジュールで呼び出すこともできます。	クライアント
スクリプトアクション	イベントが発生したときに実行されるスクリプトが含まれています。以下にそのイベントの例を示します。 • 承認がキャンセルされた • 変更が承認された • 問題が割り当てられた	サーバー - スクリプトと条件はサーバーで実行されます。

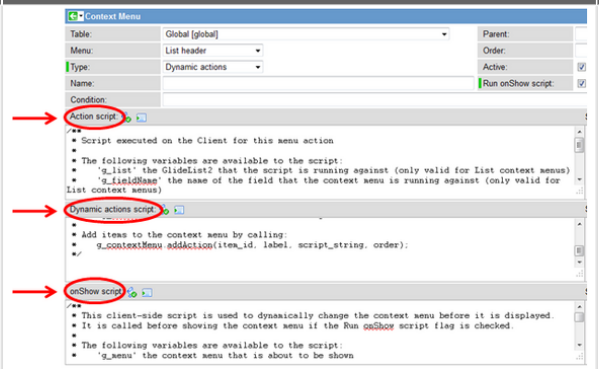
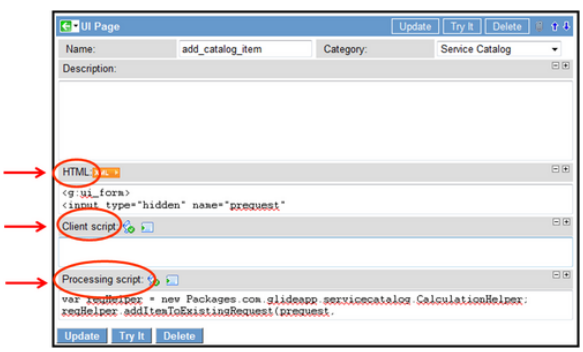
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトのタイプと実行場所 (続く)

スクリプト	説明	実行場所
	それが true のときにスクリプトを実行する条件を指定できます。通常は、スクリプトインクルードを呼び出すために使用されます。	
スクリプトインクルード	関数またはクラスにすることができるスクリプトが含まれます。これらのスクリプトは、他のスクリプト (多くの場合、ビジネスルール) によって呼び出された場合にのみ実行されます。 複雑なまたは再利用可能なサーバースクリプト (とりわけ、複雑なビジネスルール) は、スクリプトインクルードにする必要があります。	server
変換マップ	データのインポートに使用されます。 • テーブル間のマッピング関係を定義します。 • そのデータをインポートするために、ビジネスルール、その他のスクリプトやその他のオプションを使用できます。 スクリプトが含まれないこともあります。	server
UI アクション	ボタンやリンクのクリックなどの特定のアクションを選択する機能を作成します。 UI アクションは、次のアイテムをフォームとリストに配置します。 • ボタン • リンク • コンテキストメニューアイテム • リスト選択肢	• クライアント - [クライアント] ボックスをオンにすると、スクリプトフィールドのスクリプトはクライアントで実行されます。 • サーバー - [クライアント] ボックスをオフにすると、スクリプトフィールドのスクリプトはサーバーで実行されます。 • クライアント - [クライアント] ボックスをオンにすると、onClick スクリプトが使用可能になります。このスクリプトには JavaScript を含めることができますが、通常はスクリプトフィールドで指定された関数を呼び出します。 • サーバー - すべての条件はサーバーで実行されます。
UI コンテキスト メニュー	どの「右クリックメニュー」をどの領域にポップアップさせるか、および利用可能なメニューの選択肢を定義します	• クライアント - onShow スクリプトはクライアントで実行されます。 • クライアント - アクションスクリプトはクライアントで実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトのタイプと実行場所 (続く)

スクリプト	説明	実行場所
	 **注:** 左利き用のマウス構成を使用する場合、「右クリック」とは「反対側のボタンをクリックする」ことを意味します。	• サーバー - 動的アクションスクリプトはサーバーで実行されます。 • サーバー - すべての条件はサーバーで実行されます。
UI マクロ	Jelly を含めることができ、UI ページによって呼び出されるモジュール式の再利用可能なコンポーネントが含まれます。また、さまざまなタイプのスクリプトが含まれており、同じページで複数回呼び出される場合があります。 **注:** Jelly は XML を HTML に変換します。	• サーバー - UI マクロ自体はサーバーで実行されます。 • サーバー - サーバー上で実行されるコンテンツ (Jelly 式または Jelly 構成内の JavaScript) が含まれる場合があります。 • クライアント - クライアントで実行される出力を生成する場合があります (次に埋め込まれた JavaScript：<script> tags)
UI ページ	フォーム、ダイアログ、リスト、その他の UI コンポーネントの作成と表示に使用されます。スタンドアロンベースで表示することも、使用可能なコンポーネントとして、より大きなページの一部として呼び出すこともできます。  次が含まれる可能性があります。 • クライアントスクリプト • 処理スクリプト (サーバースクリプト) • HTML	• サーバー - Jelly XML がサーバー上で実行され、HTML が生成されます。 • クライアント - HTML には、クライアントで実行される埋め込み JavaScript が含まれている場合があります。 • クライアント - クライアントスクリプトはクライアントで実行されます。 • サーバー - 処理スクリプトはサーバーで実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトのタイプと実行場所 (続く)

スクリプト	説明	実行場所
	• Jelly • UI マクロ • また、他のスクリプトを呼び出すこともあります。 注: Jelly は XML を HTML に変換します。	
UI ポリシー	フォーム上のフィールドの動作と可視化を定義します。 • 必須 • 表示 • 読み取り専用 可能な場合は常に、クライアントスクリプトではなく UI ポリシーを使用します。 • UI ポリシーは常に 1 つのテーブルに添付されます • UI ポリシーには多くの場合、それが true の場合に実行する条件を持ちます。	• クライアント - [True の場合実行] フィールドまたは [False の場合実行] フィールドのスクリプトはクライアントで実行されます。 • サーバー - すべての条件はサーバーで実行されます。
UI プロパティ	インスタンスがどのように表示されるかを指定します。	• サーバー - プロパティはサーバーで設定されます。 • クライアント - 結果はクライアントに表示されます。 スクリプトなし
UI スクリプト	再利用のために格納されたクライアントスクリプトが含まれます。他のスクリプトから呼び出された場合にのみ使用されます。 使用は推奨されません。	クライアント
妥当性検証スクリプト	値が指定された形式になっていることを検証します。 たとえば、検証スクリプトは、特定のフィールドで許可されている値が整数のみであることを確認できます。	クライアント
ワークフローエディター	ワークフローを作成または変更するために使用されます。スクリプトは、ワークフロー内の任意の時点で実行することができます。異なるスクリプトは異なる時点で実行できます。	サーバー - スクリプトと条件はサーバーで実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトのタイプと実行場所 (続く)

スクリプト	説明	実行場所
	スクリプトはすべてのワークフローアクティビティ内にあり、変更することもできます (ただし、その際は十分注意してください)。	

Glide クラスの概要

ServiceNow Glide クラスは、JavaScript の API を公開しており、スクリプトを使用してテーブルを便利に操作することができます。

Glide API を使用すると、SQL クエリを記述せずにデータベース操作を実行したり、UI ページを表示したり、UI アクションを定義したりできます。次の表に、Glide クラスの要約と詳細情報へのリンクを示します。

サーバーサイドの **Glide** クラス

クラス	説明
GlideRecord	SQL クエリを記述する代わりに、このクラスをデータベース操作に使用します。GlideRecord は、JavaScript でネイティブ JavaScript クラスとまったく同じように使用できる特別な Java クラスです。GlideRecord は、1 つのテーブルのレコードを含むオブジェクトです。「GlideRecord」を参照してください。
GlideElement	このクラスを使用して、現在の GlideRecord のフィールドを操作します。「GlideElement」を参照してください。
GlideSystem	このクラスを使用して、システムに関する情報を取得します。「GlideSystem」を参照してください。
GlideAggregate	このクラスを使用して、COUNT、SUM、MIN、MAX、AVG などのデータベース集計クエリを実行し、計算されたフィールドでカスタマイズされたレポートや計算を作成します。「GlideAggregate」を参照してください。
GlideDateTime	このクラスを使用して、date-time 計算、date-time の書式設定、date-time 形式間の変換などの date-time の操作を実行します。「GlideDateTime」を参照してください。

クライアントサイドの **Glide** クラス

クラス	説明
GlideAjax	このクラスを使用して、クライアントからサーバーサイドコードを実行します。「GlideAjax」を参照してください。
GlideDialogWindow	このクラスを使用して、ダイアログウィンドウを表示します。「GlideDialogWindow」を参照してください。
GlideForm	このクラスを使用して、フォームをカスタマイズします。「GlideForm」を参照してください。
GlideList2	このクラスを使用して、通常リストや関連リストを含む (v2) リストをカスタマイズします。「GlideList2」を参照してください。
GlideMenu	このクラスを使用して、UI コンテキストメニューのアイテムをカスタマイズします。「GlideMenu」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントサイドの **Glide** クラス (続く)

クラス	説明
GlideUser	このクラスを使用して、現在のユーザーと現在のユーザーロールに関するセッション情報を取得します。「GlideUser」を参照してください。

Glide スタック

Glide は、Java で記述された拡張可能な Web 2.0 開発プラットフォームであり、フォームベースのワークフローアプリケーション (作業指示書、トラブルチケット、プロジェクト管理 (PM)など) の迅速な開発を支援します。

ユーザーインターフェイススタックのテクノロジーマップ

Java パッケージ		使用されているテクノロジー
	ユーザーインターフェイス (ブラウザー)	• AngularJS • HTML • CSS • JavaScript
com.glide.ui com.glide.jelly	GlideServlet	Apache Jelly
com.glide.script	ビジネスルール	Mozilla Rhino
com.glide.db	永続	JDBC

ユーザーインターフェイススタックのテクノロジーマップの説明

名前	説明	属性
GlideServlet	Glide のプライマリドライバーであり、システム内の唯一のサーブレットは GlideServlet.java にあります。GlideServlet は次を実行します。	• 受信アクション要求を処理 • ページを表示 • データをフォームと結合 • ユーザーに提示 • スクリプトレイヤーを使用したインターフェイス
ビジネスルール		• Mozilla Rhino に基づく ECMA/JavaScript の実装 • JDBC レコードセットインターフェイスを使用した永続

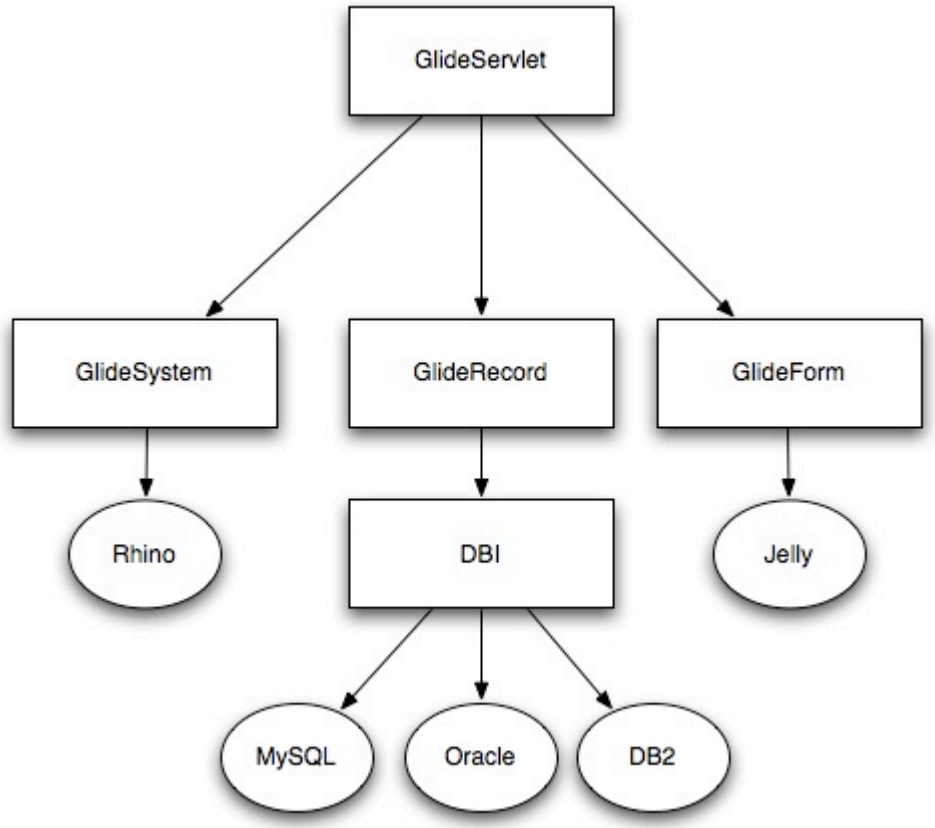
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーインターフェイススタックのテクノロジーマップの説明 (続く)

名前	説明	属性
		レイヤーがあるインターフェイス • 簡単な相関付けのために永続レイヤーのメタデータをデータと結合
永続		• 永続は任意の格納を意味 ◦ RDBMS ◦ LDAP ◦ ファイルシステム • 格納のタイプに関係なくアクセスを統一 • QUID およびメタデータ機能を提供 • インターフェイスを発信者に提示 ◦ RecordSet ◦ TableDescriptor ◦ ElementDescriptor

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Glide サーブレット



スクリプトとエンジンの実行順序

スクリプト、アサインルール、ビジネスルール、ワークフロー、エスカレーション、およびエンジンはすべて、挿入や更新などのデータベース操作に関連して有効です。多くの場合、これらのイベントの順序は重要です。

注: ブラウザで Ajax を使用したり JavaScript として実行したりするクライアントベースのコードは、常にサーバーへフォームを送信する前に実行されます。

実行順序は次のとおりです。

1. ビジネスルールの前：1000 未満の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
2. エンジンの前：以下は、特定の順序で実行されません。
   - 承認エンジン (タスクおよび sys_approval_approver テーブル用)
   - 割り当てルールエンジン (タスクテーブル用)
   - データポリシーエンジン
   - エスカレーションエンジン
   - フィールド正規化エンジン
   - ロールエンジン - sys_user_has_role テーブルと同期してロール変更を保持 (sys_user、sys_user_group、sys_user_grmember、および sys_user_role テーブル用)
   - 実行計画エンジン (タスクテーブル用)
   - バージョン エンジンの更新 - sys_update_xml エントリが書き込まれるときにバージョン エントリを作成 (sys_update_xml テーブル用)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- データ検索エンジンの挿入または更新
- ワークフローエンジン (デフォルトのワークフロー用)

3. ビジネスルールの前：1000 以上の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
4. データベース操作 (挿入、更新、削除)
5. ビジネスルールの後：1000 未満の順番でデータベース操作の前に実行するように構成されたスクリプト
6. エンジンの後：以下は、特定の順序で実行されません。
   - ラベルエンジン
   - リスナーエンジン
   - テーブル通知エンジン
   - ロールエンジン - sys_user_has_role テーブルと同期してロール変更を保持 (sys_user、sys_user_group、sys_user_grmember、および sys_user_role テーブル用)
   - テキストインデックス作成エンジン
   - 同期エンジンの更新
   - ワークフローエンジン (保留ワークフロー用)
   - トリガーエンジン (すべての フローデザイナー フロー用)
7. メール通知：通知レコードの重みに基づいて、以下が実行されます。
   - 挿入、更新、または削除時に送信される通知
   - イベントベースの通知
8. ビジネスルールの後 (アクティブなレコードのみ)。1000 以上の順序のデータベース運用の後に実行するように構成されたスクリプト。

データタイプ別のフィールドのスクリプト評価

スクリプトフィールドは、入力のフィールドタイプに基づいてデータを評価します。

データタイプ別のフィールドの評価

タイプ	スクリプト内での評価	例
文字列	文字列	"dog" > "dog"
10 進数	小数点以下第 2 位までの数字	12.34 > 12.34
整数	小数点以下の桁がない数字	12 > 12
True/False	true または false	> true > false
日付	yyyy-mm-dd 形式の日付	2008-11-04

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ別のフィールドの評価 (続く)

タイプ	スクリプト内での評価	例
日付と時刻	yyyy-mm-dd hh:mm:ss 形式の日時	2008-11-04 06:46:20
期間	「1970 年 1 月 1 日 00:00:00 + 保存された期間」の日付 **注:** この日付はシステムのタイムゾーンに対応しています。別のユーザーのタイムゾーンが指定されている場合、そのユーザーには異なる日付と時刻の値が表示されることがあります。	> "1970-01-01 00:00:00" > "1970-01-02 02:03:04"
選択肢	その選択肢に関連付けられた `sys_choice` レコードの値フィールドの内容を返します。選択リスト内の特定のアイテムに関連付けられた	> "2" (この値は文字列であることに注意してください)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ別のフィールドの評価 (続く)

タイプ	スクリプト内での評価	例
	値を返す方法の詳細については、「選択リスト」を参照してください。	
ジャーナル	そのジャーナルフィールドに対して作成されたすべてのエントリの文字列を返します。ジャーナルタイプフィールドのスクリプティングについては、「ジャーナルフィールド」を参照してください	Web サーバーが停止している > Web サーバーが停止している
参照	参照されるレコードの `sys_id` を返します	> "287ee6fea9fe198100ada7950d0b1b73"
画像	画像へのパスを返します	> images/icons/image_name.gif
URL	文字列を返します	> "http://www.service-now.com"
Glide リスト	カンマ区切りのシステム ID の文字列を返します	> 5137153cc611227c000bbd1bd8cd2007,46d14f04a9fe19810142e40c6b071512

アラート、情報、およびエラーメッセージのスクリプティング

メッセージは、アラート、情報メッセージ、またはエラーメッセージとして顧客に送信できます。

ビジネスルールおよびその他の汎用スクリプト

スクリプト	結果
`current.field_name.setError("Hello World");`	赤色のエラーメッセージで、指定されたフィールドの下に `Hello World` を追加します。
`gs.addInfoMessage("Hello World");`	青色の情報メッセージで、ブラウザーウィンドウの上部に `Hello World` を追加します。
`gs.addErrorMessage("Hello World");`	赤色のエラーメッセージで、ブラウザーウィンドウの上部に `Hello World` を追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスルールおよびその他の汎用スクリプト (続く)

スクリプト	結果
`gs.print("Hello World");`	`Hello World` をファイルシステムのテキストログに書き込みますが、データベースの sys_log テーブルには書き込みません。
`gs.log("Hello World");`	`Hello World` をデータベースとログファイルに書き込みます。 **注:** gs.log を頻繁に使用すると、パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。

クライアントサイドスクリプト

スクリプト	結果
`alert("Hello World");`	`Hello World` が表示さた、**[OK]** ボタンがあるウィンドウを表示します。
`confirm("Hello World");`	`Hello World` が表示された、**[OK]** ボタンと [キャンセル] ボタンがあるウィンドウを表示します。
`g_form.showFieldMsg("field_name", "Hello World", "error");`	赤色のエラーメッセージで、指定されたフィールドの下に `Hello World` を追加します。
`g_form.hideFieldMsg("field_name");`	指定されたフィールドの最新のメッセージを非表示にします。

重要: この表のメソッドは、クライアントスクリプトでのみ使用します。

必要に応じてクライアントスクリプトを使用して、他のカスタムメッセージをフォームに追加することもできます。

画面上部の情報およびエラーメッセージのテキストサイズはカスタマイズ可能です。2 つのプロパティでこれを制御します。フォームを構成したら、次のプロパティの追加が必要になる場合があります。

注: クライアントスクリプトアラートオプションは、自動テストフレームワーク (ATF) では使用できません。

エラーおよびアラートのテキストサイズのプロパティ

プロパティ	説明
`css.outputmsg.info.text.font-size`	情報メッセージのサイズを設定します。デフォルトは 11 ポイントです。
`css.outputmsg.error.text.font-size`	エラーメッセージのサイズを設定します。デフォルトは 11 ポイントです。

Now Assist によるコード生成

ServiceNow® Now Assist をコード生成に使用すると、テキストやコードプロンプトに基づいて、AI が生成したコードを使用してスクリプトをすばやく記述できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開始するには

探索

AI が生成したコードを使用して開発者がスクリプトを作成する方法について学習します。

構成

インスタンスのコード生成機能を構成します。

プロンプトからスクリプトを生成する

AI が生成したコードを使用してスクリプトをすばやく記述します。

参照

プロパティ、ロールなどの詳細情報を取得します。

トラブルシューティングとヘルプ

- ServiceNow コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、ユースケースに適した精度についてこのアプリケーションの使用をテストおよび評価し、必要に応じて人間によるレビューを採用し、意思決定の目的のために AI で生成された出力のみに依存しないようにすることを強くお勧めします。これは、医療、ファイナンス、法務、雇用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。

データ処理

このアプリケーションでは、ServiceNow 顧客の個々のインスタンスから一元化された ServiceNow 環境にデータを転送する必要があります。この環境は、インスタンスが存在するデータセンターとは異なるデータセンターリージョンに配置されている可能性があり、場合によっては Microsoft Azure などのサードパーティクラウドプロバイダーにも転送されます。このデータは、コアコンプライアンスポータル から利用可能なポリシーを含む、ServiceNow の内部ポリシーと手順に従って処理されます。

データコレクション

ServiceNow は、このアプリケーションの入力、出力を収集して使用し、出力を編集して、ServiceNow モデルや AI 製品などの ServiceNow テクノロジーを開発および改善します。さらに、このアプリケーションは ：コード生成用の Now Assist が呼び出されるスクリプト (および関連するスクリプトレコード) に関する情報。 お客様は、「 Now Assistオプトアウトに関するページ 」の説明に従って、いつでも将来のデータコレクションをオプトアウトできます。

詳細については、Now Assistドキュメント を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

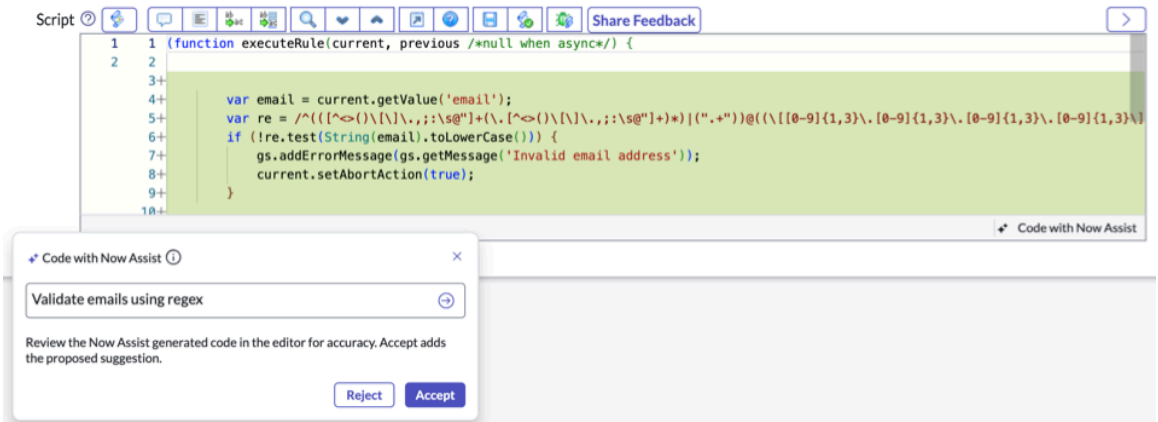
コード生成の詳細

AI が生成するコードが、Now Platform でスクリプトを作成する開発者にとってどれだけ役立つかを説明します。

コード生成の概要

クリエーターの Now Assist は、コード生成スキルをアクティブ化します。コード生成は、生成するコードを説明するテキストを提供し、Now Platform のフォームおよび フローデザイナー のスクリプトステップで JavaScript エディターのコード提案を取得します。コード生成を使用すると、Now Platform でのスクリプティング経験レベルにかかわらず、あらゆる開発者がカスタムスクリプトの作成を開始したり、スクリプトをより効率的に反復したりすることができます。

コード提案を生成するには、生成するコードのゴールを、[Now Assist を使用したコード (Code with Now Assist)] ダイアログボックスで説明します。コード提案はプロンプトの後の行に表示されますが、承認されるまでスクリプトには追加されません。

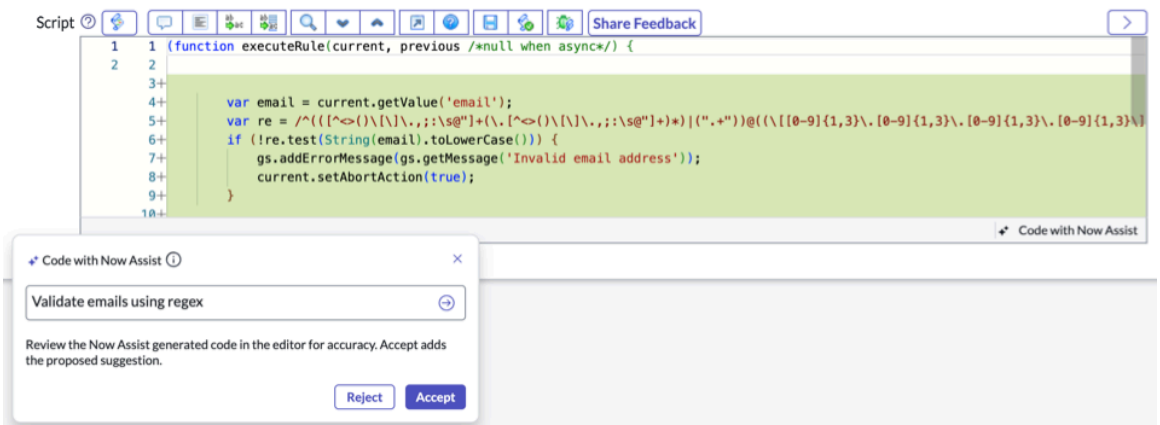


注: コード生成を使用するには、開発者に now.assist.creator ロールがアサインされている必要があります。コード生成の使用の詳細については、「AI によるコード生成を使用してスクリプトを生成する」を参照してください。

コード生成ワークフロー

1. 開発者は、スクリプトエディターから [Now Assist を使用したコード (Code with Now Assist)] ダイアログボックスを開き、生成するコードを記述します。
2. 開発者は、コード提案の生成をトリガーします。

   次の例では、開発者が [Now Assist を使用したコード (Code with Now Assist)] ダイアログボックスでスクリプトの実行内容を記述します。コード提案がスクリプトエディターでハイライト表示されます。

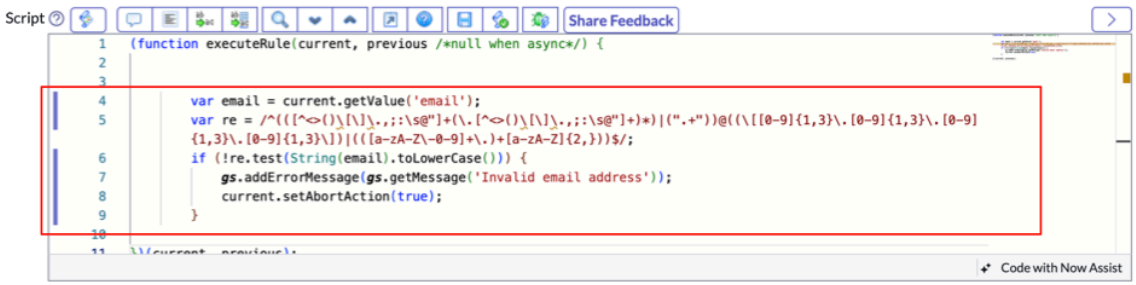


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 開発者は、AI が生成したコード提案をレビューし、承認または却下します。
   - 承認すると、コードがスクリプトに追加され、レビューに基づいて必要な編集を行うことができます。
   - 却下すると、コードはスクリプトに追加されず、プロンプトを変更して新しいコード提案を生成できます。

   次の例では、行番号の横に線が表示されていますが、これは AI によって作成され、編集されていないコードを示しています。AI が生成したコードを編集した場合、それらのコード行に行インジケーターは表示されません。

   AI が生成したコード行



オプションで、コード補完機能をオンにして、コード生成用の Now Assist とともに、スクリプトエディターでコードまたは単発プロンプトを使用できます。

コード生成のメリット

メリット	機能	ユーザー
スクリプトの品質を向上させ、反復的なコーディングタスクを自動化し、コードの検索や呼び出しにかかる時間を短縮します。	テキストからコードへ、およびコード補完	開発者
AI が生成したコード提案を自動的に取得する	自動コード提案	開発者、アドミニストレーター
AI が生成したコードを特定する	AI が生成したコードの追跡	開発者、アドミニストレーター

コード生成の一般的なガイドライン

コード生成に関するこれらの一般的なガイドラインを使用して、より適切なコード提案を取得し、有用で正確なスクリプトを作成します。

プロンプトを記述する

明確で具体的、かつ簡潔なプロンプトを作成する

期待される結果とコンテキストを指定し、タスク要件、特定の API (既知の場合)、制約などの必要な詳細を含めます。

さまざまなプロンプトを試す

改善と試行錯誤を繰り返すにつれて、Now LLM サービス はこのフィードバックを利用して学習と改善を行います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- タスクの指示を調整し、例を組み込んで、プロンプトのスタイルと詳細レベルの変更によりコード提案がどのように変わるかを確認します。
- 単一のプロンプトでスクリプトを開始する方法の例として、短いコードスニペットを含めてみてください。
- 変更や仕様を満たすプロンプトを生成するための指示を含めて、プロンプトを追跡します。この追跡によって、比較分析のために過去の結果を簡単に再生成できます。

コード生成のプロンプトの例

強力なプロンプト	弱いプロンプト	メモ
関連タスクを含むインシデントを取得する	タスクを含むインシデントを取得する	十分な詳細が含まれています。
Glide アグリゲートを使用し、3 月 3 日から 4 月 13 日の間にアドミンにアサインされたクローズ済みの P1 インシデントの数をカウントする	3-3 と 4-13 の間の P1 インシデントをカウントする	API 名とより具体的な言語が含まれています。
オープンな変更要求が P1 の場合、作成者でない限り重大度を引き下げることはできない	P1 変更要求の変更は許可しない	変更すべきではない点について、より具体的な指示が含まれています。
直近の変更の Gliderecord	最新の変更	API 名とより具体的な言語が含まれています。

コードをレビューする

レビューコード

厳密で詳細なレビューを実施して、AI によって生成されたコードの精度、効率、コーディング標準への準拠レベルを判断します。

テストコード

管理された環境でテストケースに対してコードを実行し、要件に従って機能することを確認します。

コード生成の構成

開発者がインスタンスでコード生成をどのように使用できるかを構成します。

コード生成用に **Now Assist** をインストールする

ServiceNow® Store から ServiceNow® クリエーターの Now Assist アプリケーションをインストールして、コード生成のために Now Assist を取得します。

始める前に

- 依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、リリースの互換性については、ServiceNow Store の クリエーターの Now Assist アプリケーションリストを確認してください。クリエーターの Now Assist はコード生成アプリケーション (sn_now_assist_code) 用に Now Assist をインストールします。

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

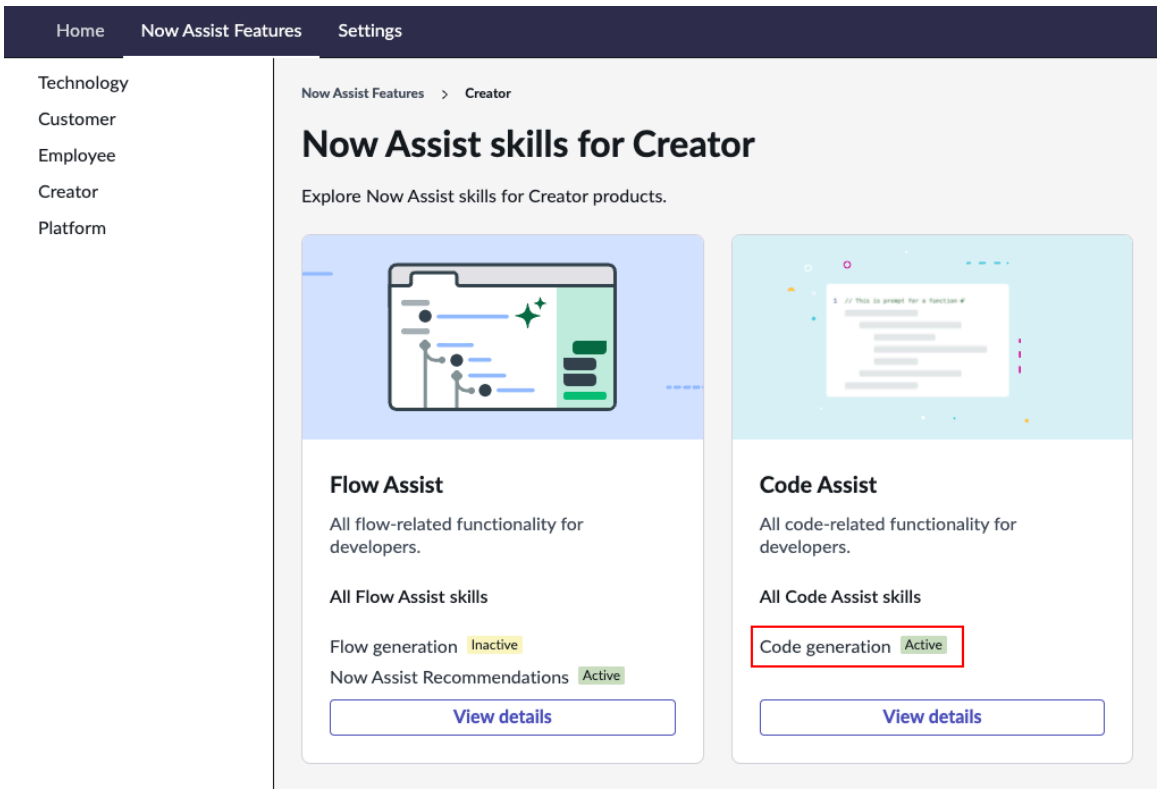
手順

1. ServiceNow Store の クリエーターの Now Assist アプリケーションページで、[アプリを要求] を選択します。
2. 承認を取得した後で、インスタンスで、[すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
3. 検索バーを使用して、クリエーターの Now Assist アプリケーション (sn_now_creator) を検索します。
4. [インストール] を選択します。
5. クリエーターの Now Assist がインストールされていることを確認します。

   a. [すべて] > *Now Assist* アドミン > [機能]に移動します。

   b. ワークフローリストで、[作成者] を選択します。

   c. コード補完カードで、コード生成スキルがアクティブであることを確認します。



Now Assist アドミン の詳細については、「Now Assist」を参照してください。

次のタスク
コード生成を使用する各ユーザーに、now.assist.creator ロールを付与します。

関連情報

Now Assist for Creator のインストール

コード補完を有効にする

スクリプトエディターでコード補完を有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ナビゲーションフィルターで、「`sys_properties.list`」と入力します。
2. [名前] 列のフィルターに *`sn_now_assist_code.enable_promptless_experience`* を入力し、システムのプロパティ [sys_properties] リストをフィルタリングします。
3. *`sn_now_assist_code.enable_promptless_experience`* を選択し、プロパティレコードを開きます。
4. [値] フィールドに「`true`」と入力します。
5. [更新] を選択します。

タスクの結果
スクリプトエディターで、開発者がコードまたはコードとテキストの組み合わせをコードコメントに入力して、AI が生成したコード提案を取得できます。詳細については、「コードからスクリプトを生成する」を参照してください。

自動コード提案をオンにする

コード生成を手動でトリガーすることなく、スクリプトエディターで AI が生成したコード提案を取得します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
デフォルトでは、キーボードショートカットを使用してスクリプトエディターでコード提案の生成をトリガーする必要があります。自動コード提案では、プロンプトを入力し、入力またはカーソルの移動を 2.5 秒間停止した後に、コード提案を受信します。次のいずれかの条件に該当する場合、コード提案を自動的に受信しません。

- 最後に入力されたキーがスペース、タブ、改行などのホワイトスペースである。
- 入力したプロンプトが無効である。
- 最後の編集が行の途中で行われた。
- 最後の変更がコード提案の承認だった。

また 2.5 秒が経過する前に、コード提案の生成を手動でトリガーし続けることもできます。

有効にすると、インスタンスでコード生成を使用するすべての開発者が、自動コード提案を受け取ります。

手順

1. ナビゲーションフィルターで、「`sys_properties.list`」と入力します。
2. [名前] 列のフィルターに *`sn_now_assist_code.enable_auto_trigger`* を入力し、システムのプロパティ [sys_properties] リストをフィルタリングします。
3. *`sn_now_assist_code.enable_auto_trigger`* を選択し、プロパティレコードを開きます。
4. [値] フィールドに「`true`」と入力します。
5. [更新] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI が生成したコードの追跡

コードが AI によって生成されたものであることを追跡し、それを表示するタイミングを制御します。

コード提案を受け入れると、AI が生成したコード行が追跡され、スクリプトエディターの行番号の横に線で示されます。AI が生成したコードを編集した場合、それらのコード行に行インジケーターは表示されません。

AI が生成したコードの追跡のオンとオフを切り替えたり、スクリプトエディターで AI が生成したコードを記録および識別する期間を設定したりできます。デフォルトでは、AI が生成したコードは 6 か月間、記録および識別されます。

AI が生成したコードを表示する期間を構成する

コード提案を受け入れた後に、指定された期間、AI がコードを生成したことをスクリプトエディターに表示します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ナビゲーションフィルターで「`sys_auto_flush.list`」と入力します。
2. **[Tablename]** 列のフィルターに *`sn_now_assist_code_ai_generated_lines`* を入力し、自動フラッシュ [sys_auto_flush] リストをフィルタリングします。
3. *`sn_now_assist_code_ai_generated_lines`* を選択してレコードを開きます。
4. [経過時間 (秒)] フィールドに、AI が生成したコードを作成後に記録し表示する期間を秒単位で入力します。
5. [更新] を選択します。

タスクの結果
設定された期間より前に作成された AI 生成コードは記録されず、スクリプトエディターに表示されません。

AI が生成したコードの追跡をオフにする

AI が生成したコードを追跡して表示する機能をオフにします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
AI が生成したコードを追跡して表示するには、更新セットに含まれる変更が必要です。更新セットにこれに関連する変更を含めない場合は、AI が生成したコードを追跡して表示する機能をオフにすることができます。

手順

1. ナビゲーションフィルターで、「`sys_properties.list`」と入力します。
2. [名前] 列のフィルターに *`sn_now_assist_code.show_ai_code_line_marker`* を入力し、システムのプロパティ [sys_properties] リストをフィルタリングします。
3. *`sn_now_assist_code.show_ai_code_line_marker`* を選択し、プロパティレコードを開きます。
4. [値] フィールドに「`false`」と入力します。
5. [更新] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
AI 生成コードは記録されず、スクリプトエディターに表示されません。

AI によるコード生成を使用してスクリプトを生成する

AI によるコード生成を使用して、テキスト、コード、またはその両方の組み合わせからスクリプトを生成します。

インスタンスでコード生成が有効になっている場合、スクリプトエディターに [Now Assist] アイコン (✨) が表示されます。

コード生成を使用するには、開発者に now.assist.creator ロールがアサインされている必要があります。

テキストからスクリプトを生成する

スクリプトの実行内容を Now Assist に伝えることで、AI が生成したコードを使用してスクリプトをすばやく記述できます。

始める前に
より適切なコード提案を生成するためのプロンプトを記述する方法について説明します。詳細については、「コード生成の一般的なガイドライン」を参照してください。

必要なロール：now.assist.creator

手順

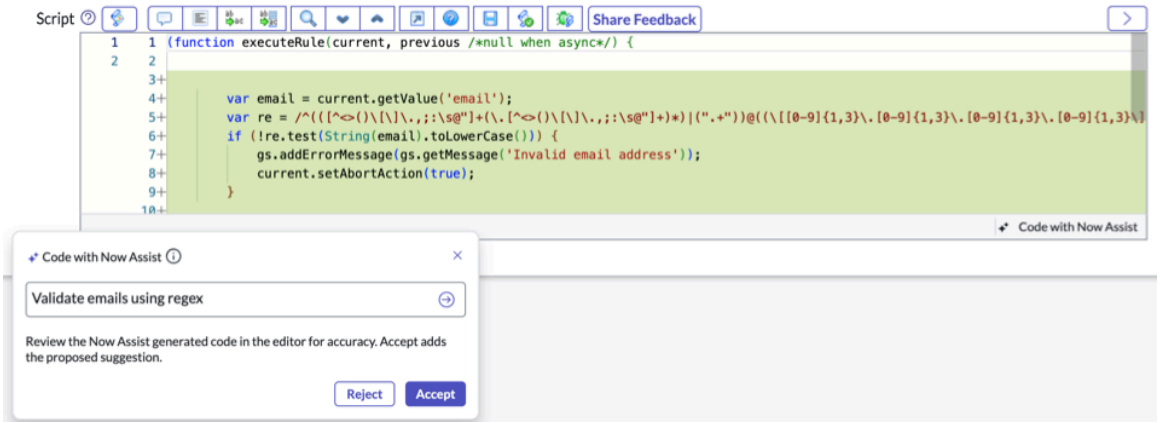
1. スクリプトフィールドのあるフォームに移動します。

   Example
   たとえば、スクリプトインクルードフォームを開くには、[すべて] > [システム定義] > [スクリプトインクルード]に移動し、[新規] を選択するか、ナビゲーションフィルターに `sys_script_include.do` と入力します。
2. スクリプトエディターで、コードを追加する場所にカーソルを置きます。
3. 右クリックして **[Now Assist** でコードを開く **(Open Code with Now Assist)]** を選択するか、次のキーボードショートカットのいずれかを使用します。
   - Windows：Ctrl-Enter
   - Mac：Cmd-Enter

   ヒント: [ヘルプ] アイコン (🔵) を選択すると、関連するキーボードショートカットのリストにアクセスできます。
4. **[Now Assist** を使用したコード **(Code with Now Assist)]** ダイアログボックスで、生成するコードのゴールを説明するテキストを入力します。

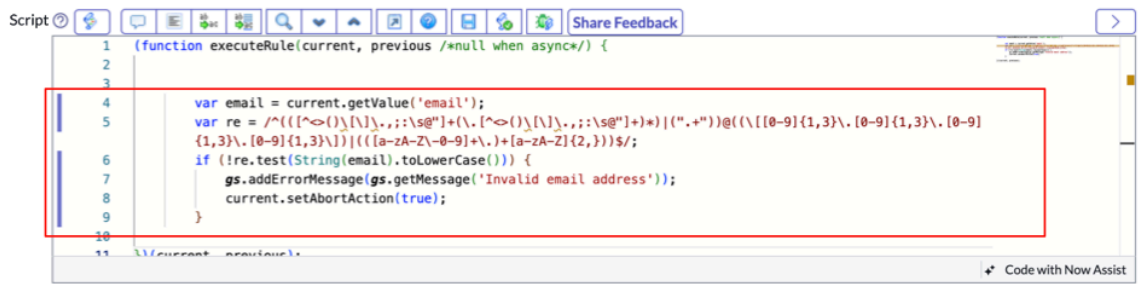
   入力するテキストは 1,000 文字未満にする必要があります。
5. Enter キーを押して、コード提案を生成します。
   コード提案がスクリプトエディターでハイライト表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. コード提案を確認し、次のいずれかの手順を実行します。
   - スクリプトに含めて編集するには、[承認] を選択します。
   - 提案を再生成するには、ダイアログボックスのテキストを変更し、矢印アイコン ( ) を選択します。
   - スクリプトから削除するには、[却下] を選択します。

   コード提案を承認すると、行番号の横に線が表示され、どのコードが AI によって作成され、編集されていないかが示されます。AI が生成したコードを編集した場合、それらのコード行に行インジケーターは表示されません。



Trouble?
コード提案が要件を満たしていない場合は、プロンプトのガイダンスに従ってプロンプトを変更して、別のコード提案を生成してください。

7. [送信] または [更新] を選択し、変更を保存します。

コードからスクリプトを生成する

AI が生成したコード補完により、スクリプトをすばやく記述できます。

始める前に

インスタンスのコード補完をオンにする必要があります。詳細については、「コード補完を有効にする」を参照してください。

必要なロール：now.assist.creator

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. スクリプトフィールドのあるフォームに移動します。

   Example
   たとえば、スクリプトインクルードフォームを開くには、[すべて] > [システム定義] > [スクリプトインクルード]に移動し、[新規] を選択するか、ナビゲーションフィルターに `sys_script_include.do` と入力します。

2. スクリプトフィールドに、コード、またはテキストとコードの組み合わせを入力します。

   Example

   - 関数やその他のコードの先頭を入力すると、自動的に補完されます。例：

     ```
     var email = current.getValue('email');
     var regex =
     ```

   - コードコメントに、生成するコードのゴールを説明するテキストの組み合わせと、それに続いてコードの開始方法の例を入力します。例：

     ```
     // Validate emails using regex
     var email = current.getValue('email');
     var regex =
     ```

3. 右クリックして [コード補完を自動生成 **(Auto-generate code completion)]** を選択するか、次のキーボードショートカットのいずれかを使用して、コード提案を生成します。

   - Windows：Ctrl-Windows ロゴキー-Enter
   - Mac：Ctrl-Cmd-Enter

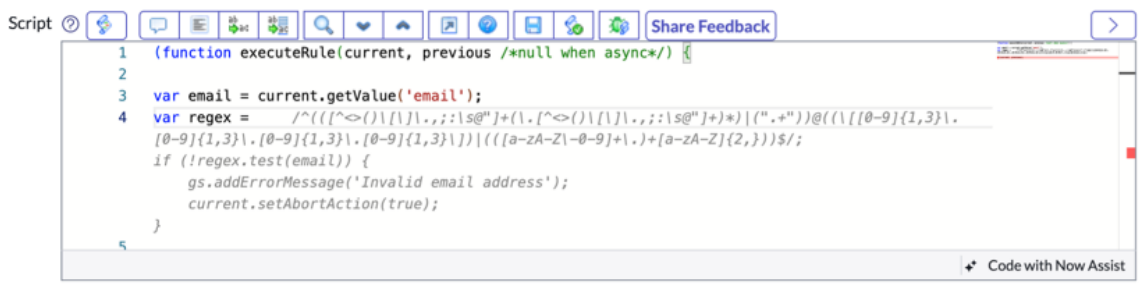
   ヒント: [ヘルプ] アイコン ( ) を選択すると、関連するキーボードショートカットのリストにアクセスできます。

   コード生成をトリガーする場合、カーソルの前のコードは 1,000 文字未満である必要があります。

   注: 自動コード提案が有効になっている場合、プロンプトを入力し、入力またはカーソルの移動を 2.5 秒間停止すると、自動的にコード提案が取得されます。詳細については、「自動コード提案をオンにする」を参照してください。

   コード生成をトリガーした後にプロンプトを編集することはできません。コード提案が返される前にプロンプトを編集する必要がある場合は、Backspace キーを押してコード生成をキャンセルできます。

   提案を生成している間、スピナーアイコン ( ) が表示されます。コード提案はプロンプトの後の行に表示されますが、承認するまでスクリプトには追加されません。

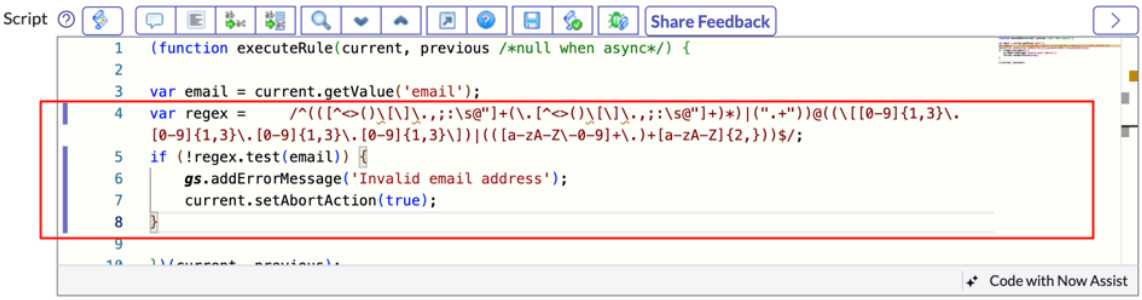


4. スクリプトに含める場合はコードを承認し、スクリプトから削除する場合はコードを却下します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 承認：Tab キーまたは右矢印キーを押します。提案されたコード内で選択しても、提案は承認されます。
- 却下：Esc キー、左矢印キー、または上矢印キーを押します。スクリプト内で提案されたコードの外側で入力または選択すると、その提案も削除されます。

コード提案を承認すると、行番号の横に線が表示され、どのコードが AI によって作成され、編集されていないかが示されます。AI が生成したコードを編集した場合、それらのコード行に行インジケーターは表示されません。



Trouble?
コード提案が要件を満たしていない場合は、コードを変更して別のコード提案を生成してください。

5. [送信] または [更新] を選択し、変更を保存します。

コード生成のリファレンス

参照トピックには、構成プロパティ、ロールなどに関するその他の情報が記載されています。

コード生成プロパティ

いくつかの詳細プロパティを使用して、コード生成がインスタンスでどのように機能するかを調整できます。

注: システムプロパティ [sys_properties] テーブルを開くには、ナビゲーションフィルターに「`sys_properties.list`」と入力します。

コード生成のプロパティ

プロパティ	説明
sn_now_assist_code.enable_code_assist	サポートされているスクリプトエディターでコード生成を使用できるようにします。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル • 詳細：Now Assist アドミン からコード生成を有効にすることもできます。詳細については、「Now Assist スキルのアクティブ化」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コード生成のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
sn_now_assist_code.enable_promptless_experience	スクリプトエディターでコード補完を使用できるようにします。 • タイプ：true | false • デフォルト値：false • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル • 詳細を見る： コード補完を有効にする
sn_now_assist_code.enable_prompt_modal	[Now Assist を使用したコード (Code with Now Assist)] ダイアログボックスを使用してテキストプロンプトを指定できるようにします。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル • 詳細を見る： テキストからスクリプトを生成する
sn_now_assist_code.show_ai_code_line_marker	AI が生成したコード行を追跡できるようにします。このコードは、スクリプトエディターのコード行の横に線で示されます。AI が生成したコードを編集する場合、それらのコード行に行インジケーターは表示されません。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル • 詳細を見る： AI が生成したコードの追跡
sn_now_assist_code.enable_auto_trigger	プロンプトを入力した後、2.5 秒間入力またはカーソルの移動を行わなかった場合に、コード提案が自動的に返されるかどうかを指定します。また 2.5 秒が経過する前に、コード提案の生成を手動でトリガーし続けることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コード生成のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	false の場合は、キーボードショートカットを使用して手動でコード生成をトリガーする必要があります。 • タイプ：true | false • デフォルト値：false • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル • 詳細を見る： 自動コード提案をオンにする
sn_now_assist_code.collect_schema_for_code_assist	コード生成を使用するときに、ビジネスルールまたはクライアントスクリプトが実行されるテーブルのデータスキーマを収集するかどうかを指定します。このプロパティを false に設定すると、コード提案が迅速に返されますが、コンテキストに関連した提案が少なくなる可能性があります。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル

コード生成ロール

コード生成で使用するために、次のロールがインストールされます。

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「 サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理 」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

Now Assist Creator [now.assist.creator]

AI を利用したコード生成を使用してスクリプトを記述します。

グループ

このロールはデフォルトでどのグループにもアサインされません。

ロールを含む

このロールに含まれるロールはありません。

昇格

このロールは昇格したロールではありません。

特別な考慮事項

なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JavaScript シンタックスエディター

シンタックスエディターは、JavaScript スクリプトの編集をサポートしています。

シンタックスエディターには次のような機能があります。

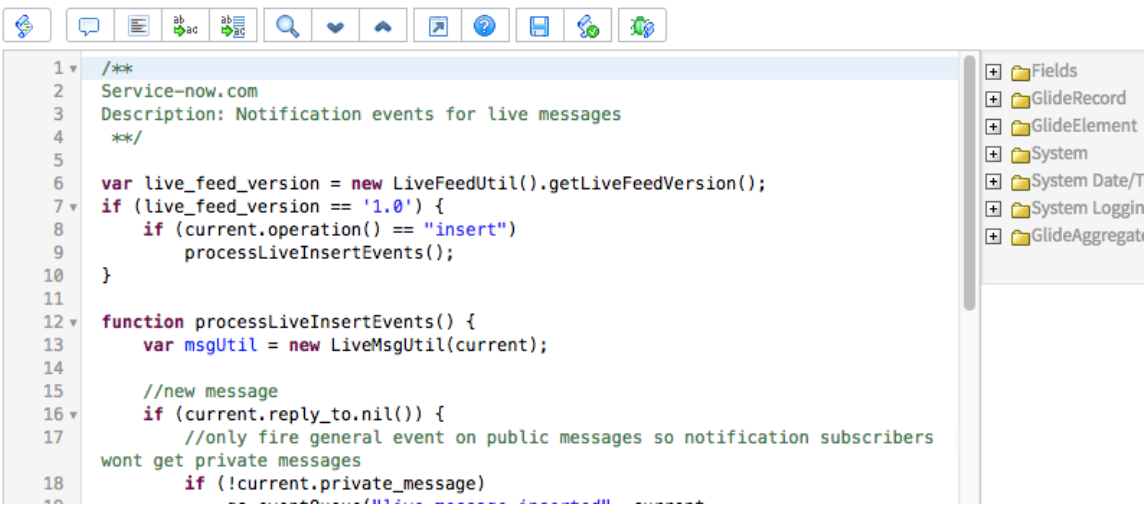
- JavaScript 構文の自動色分け、インデント、行番号、閉じ括弧と引用符の自動作成
- JavaScript のサポート
- ESLint ユーティリティを使用したリンティング

  注: システムプロパティ [sys_properties] テーブルの *glide.ui.syntax_editor.linter.eslint_config* プロパティにアクセスして、デフォルトのリンティング構成を変更または表示します。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ 」を参照してください。

- スクリプトインクルード、API、テーブルのコンテキストメニュー
- 一般的なコードのショートカットのためのスクリプトマクロ

この機能には、シンタックスエディター (com.glide.syntax_editor) プラグインが必要です。

JavaScript エディター



シンタックスエディタープラグイン

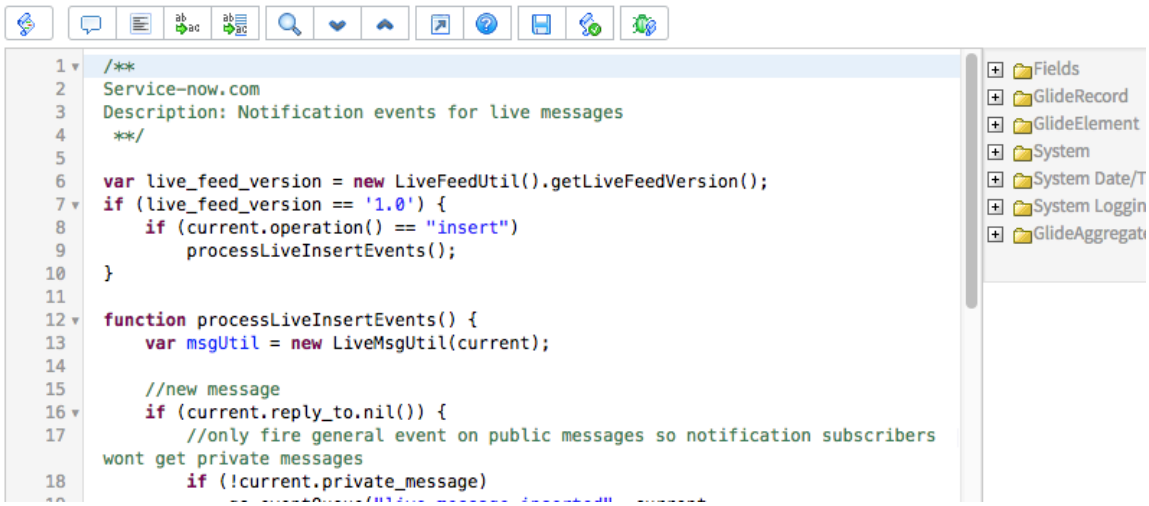
シンタックスエディターを使用するには、シンタックスエディタープラグインを有効にします。

シンタックスエディターは、すべてのスクリプトフィールドで次の機能を有効にします。

- JavaScript 構文の自動色分け、インデント、行番号、閉じ括弧と引用符の自動作成
- コード編集機能
- コード構文チェック
- 一般的なコードのショートカットのためのスクリプトマクロ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JavaScript シンタックスエディター



シンタックスエディターを無効または有効にするには、sys_properties.list の *glide.ui.javascript_editor* プロパティを変更します。さらに、アドミニストレーターは *glide.ui.syntax_editor.show_warnings_errors* プロパティを変更することで、エラーを含むコード行の横にエラーインジケーターと警告インジケーターを表示するようにシンタックスエディターを構成できます。sys_properties.list の詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

注: アドミニストレーターは、ユーザー設定に関係なく、すべてのユーザーに対してシンタックスエディターを無効または有効にすることができます。

シンタックスエディターの JavaScript のサポート

シンタックスエディターは、JavaScript スクリプトの編集をサポートする編集機能を備えています。

JavaScript 編集機能

アイコン	キーボードショートカット	名前	説明
	適用外	シンタックスエディターの切り替え	シンタックスエディターを無効にします。もう一度ボタンをクリックすると、シンタックスエディターは有効になります。
	アクセスキー + R	コードの書式設定	スクリプトに適切なインデントを適用します。
	アクセスキー + C	選択したコードのコ	選択したコードをコメント化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイコン	キーボードショートカット	名前	説明
		メント化	
	アクセスキー + U	選択したコードのコメント解除	選択したコードからコメントコードを削除します。
	適用外	構文のチェック	コードの構文エラーをチェックします。デフォルトでは、スクリプトフィールドの入力時に、自動的に構文エラーがチェックされます。エラーまたは警告が見つかった場合、シンタックスエディターではエラーまたは警告を含むスクリプト行の横に中黒が表示されます。このチェックはすべてのスクリプトフィールドで行われます。
	アクセスキー + \	検索の開始	スクリプトフィールド内で、検索語のすべての出現箇所をハイライト表示して、最初の出現箇所を見つけます。アイコンをクリックし、検索用語を入力して、**Enter** キーを押します。正規表現 をスラッシュで囲んで、検索用語を定義できます。たとえば、*/a{3}/* と入力すると、*aaa* を検出できます。
	アクセスキー + [	次を探す	スクリプトフィールドで、現在の検索語の次の出現箇所を検出します。[検索の開始] を使用して、現在の検索用語を変更します。
	アクセスキー +]	前を探す	スクリプトフィールドで現在の検索語の前の出現箇所を検出します。[検索の開始] を使用して、現在の検索用語を変更します。
	アクセスキー + W	置換	スクリプトフィールド内でテキスト文字列の次の出現箇所を置き換えます。 1. アイコンをクリックし、置換する文字列を入力し、**Enter** キーを押します。正規表現をスラッシュで囲んで、置換する文字列を定義できます。たとえば、*/a{3}/* と入力すると、*aaa* を検出できます。 2. 置換文字列を入力して、**Enter** キーを押します。
	アクセスキー + ;	すべて置換	スクリプトフィールド内で、特定のテキスト文字列のすべての出現箇所を置き換えます。 1. アイコンをクリックし、置換する文字列を入力し、**Enter** キーを押します。正規表現をスラッシュで囲んで、置換する文字列を定義できます。たとえば、*/a{3}/* と入力すると、*aaa* を検出できます。 2. 置換文字列を入力して、**Enter** キーを押します。
	適用外	保存	現在のビューを離れずに変更を保存します。このボタンを全画面モードで使用すると、標準のフォームビューに戻らずに保存できます。
	アクセスキー + L	全画面表示モードの切り替え	スクリプトフィールドを展開して、全画面のフォームビューで編集しやすくします。このボタンをもう一度クリックすると、標準フォーム ビューに戻ります。この機能は Internet Explorer では使用できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイコン	キーボードショートカット	名前	説明
	アクセスキー + P	ヘルプ	キーボードショートカットのヘルプ画面を表示します。

JavaScript 編集のヒント

- コードブロックを折りたたむには、ブロックの最初の行の横にあるマイナス記号をクリックします。マイナス記号は、折りたたみ可能なブロックの横にのみ表示されます。コードブロックを展開するには、プラス記号をクリックします。
- コード内の任意の位置に固定スペースを挿入するには、Tab キーを押します。
- コードの 1 行をインデントするには、行の先頭の空白をクリックして Tab キーを押します。
- コードの 1 行以上の行をインデントするには、対象のコードを選択して Tab キーを押します。インデントを減らすには、Shift + Tab キーを押します。
- コードの行の先頭から 1 つのタブを削除するには、行内をクリックし、Shift + Tab キーを押します。

JavaScript のリソース

スクリプトは ECMA 262 標準の JavaScript を使用します。役立つリソースには、次のようなものがあります。

- Mozilla：http://developer.mozilla.org/en/docs/Core_JavaScript_1.5_Reference
- ECMA 標準 (PDF 形式)： http://www.ecma-international.org/publications/files/ECMA-ST/Ecma-262.pdf
- 履歴と概要：http://javascript.crockford.com/survey.html
- JavaScript 番号参照：http://www.hunlock.com/blogs/The_Complete_Javascript_Number_Reference

シンタックスエディターのキーボードショートカットとアクション

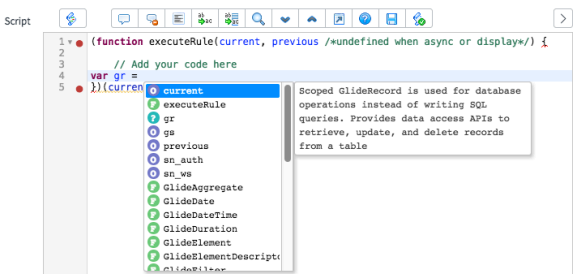
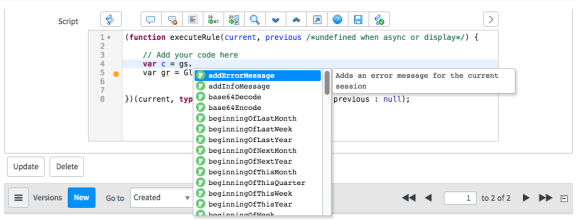
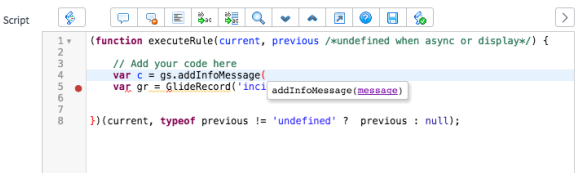
シンタックスエディターには、コードの記述を支援するキーボードショートカットとアクションが用意されています。

コードを記述するためのシンタックスエディターのキーボードショートカットとアクション

キーボードショートカットまたはアクション	説明	例
コードの記述		

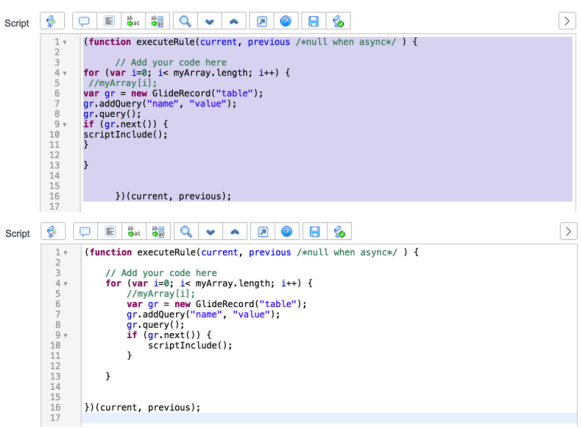
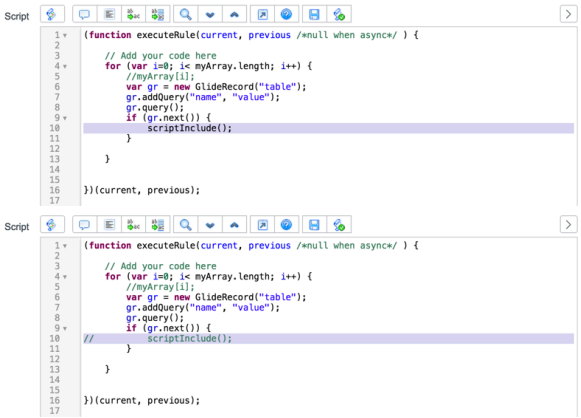
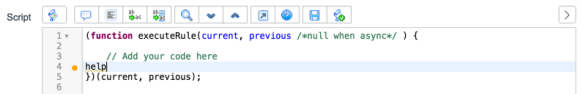
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードを記述するためのシンタックスエディターのキーボードショートカットとアクション (続く)

キーボードショートカットまたはアクション	説明	例
スクリプト支援機能 Control + スペースバー	挿入ポイントに次のような有効な要素のリストを表示します。 • クラス名 • 関数名 • オブジェクト名 • 変数名 エントリーをダブルクリックして、スクリプトに追加します。 **注:** これらの要素は、サーバーまたはクライアントタイプのスクリプトに基づいています。ただし、使用できる要素は選択した UI タイプに基づいたものです。たとえば、spUtil はサービスポータルのクライアントスクリプトに使用でき、g_navigation はデスクトップスクリプトに使用できます。	
有効なクラス名の後にピリオド文字を入力します。	クラスのメソッドのリストを表示します。 エントリーをダブルクリックして、スクリプトに追加します。	
有効なクラス、関数、メソッド名の後に開き丸括弧文字を入力します。	クラスまたはメソッドに想定されるパラメーターを表示します。 必要に応じて、想定されるパラメーターを入力します。	
全画面表示モードの切り替え Control + M	フォームの全画面表示と通常表示を切り替えます。	

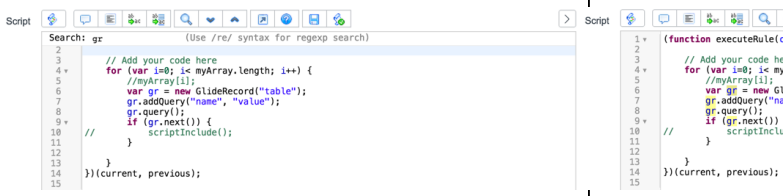
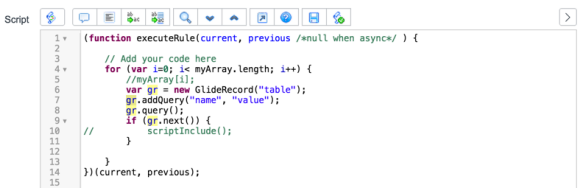
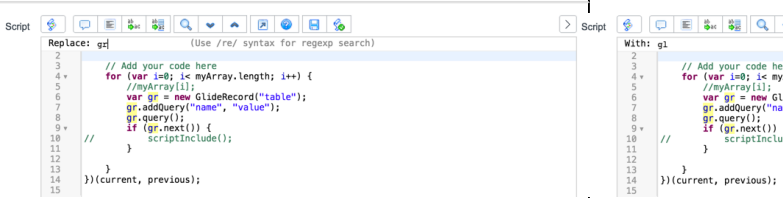
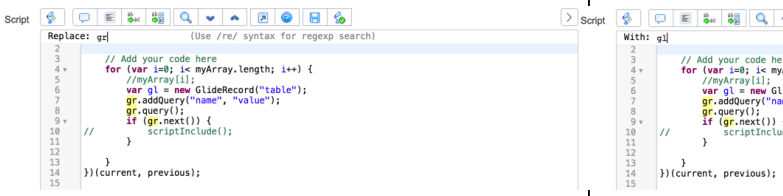
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードを記述するためのシンタックスエディターのキーボードショートカットとアクション (続く)

キーボードショートカットまたはアクション	説明	例
コードの書式設定 • Windows：Control + Shift + B • Mac：Command + Shift + B	選択した行を書式設定して読みやすくします。	
コメントの切り替え • Windows：Control+/ • Mac：Command +/	選択した行のコメント文字 `//` を追加または削除します。	
マクロテキストの挿入 1. [スクリプト] フィールドに、マクロキーワードのテキストを入力します。たとえば、「`help`」です。 2. Tab キーを押します。	現在の位置にマクロテキストを挿入します。	
検索		

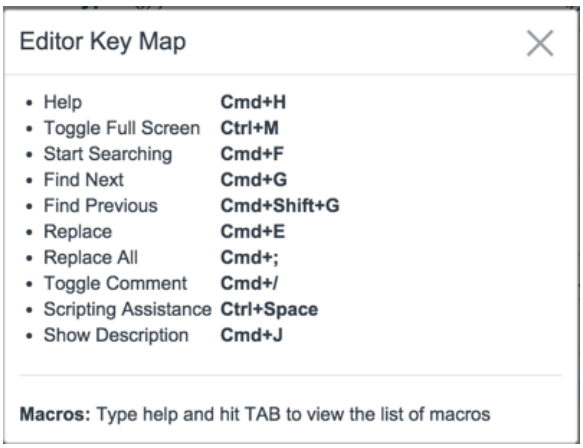
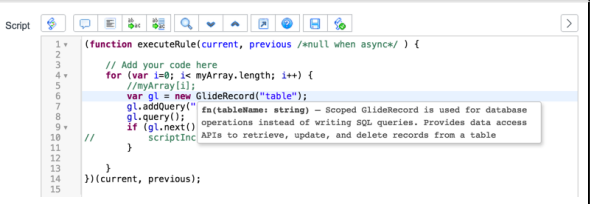
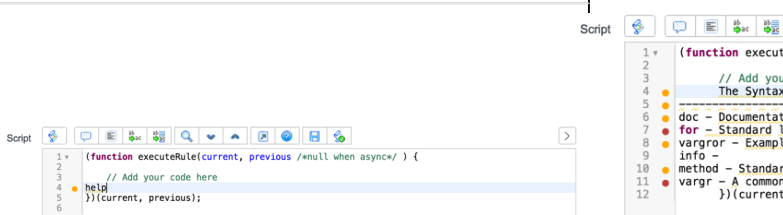
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードを記述するためのシンタックスエディターのキーボードショートカットとアクション (続く)

キーボードショートカットまたはアクション	説明	例
検索の開始 • Windows：Control + F • Mac：Command + F	スクリプトフィールド内で、検索語のすべての出現箇所をハイライト表示して、最初の出現箇所を見つけます。 検索用語をスラッシュ文字で囲むことで、正規表現 を作成できます。たとえば、検索用語 `/a{3}/` を入力すると、文字列 `aaa` を検出できます。	
次を探す • Windows：Control + G • Mac：Command + G	スクリプトフィールドで、現在の検索語の次の出現箇所を検出します。[検索の開始] を使用して、現在の検索用語を変更します。	
前を探す • Windows：Control + Shift + G • Mac：Command + Shift + G	スクリプトフィールドで現在の検索語の前の出現箇所を検出します。[検索の開始] を使用して、現在の検索用語を変更します。	
置換 • Windows：Control + E • Mac：Command + E	スクリプトフィールド内でテキスト文字列の次の出現箇所を置き換えます。	
すべて置換 • Windows：Control + ; • Mac：Command + ;	スクリプトフィールド内で、特定のテキスト文字列のすべての出現箇所を置き換えます。	
ヘルプ		

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードを記述するためのシンタックスエディターのキーボードショートカットとアクション (続く)

キーボードショートカットまたはアクション	説明	例
ヘルプ • Windows：Control + H • Mac：Command + H	シンタックスエディターキーボードショートカットのリストを表示します。	
説明を表示 • Windows：Control + J • Mac：Command + J	現在のカーソル位置にあるスクリプト要素の API ドキュメントを表示します。	
マクロを表示 1. [スクリプト] フィールドに「help」と入力します。 2. Tab キーを押します。	利用可能なシンタックスエディターマクロのリストをスクリプトフィールド内にテキストとして表示します。	

シンタックスエディターマクロ

スクリプトマクロは、よく使用されるコードを入力するためのショートカットを提供します。スクリプトフィールドにマクロテキストを挿入するには、 マクロキーワードに続けてタブを入力します。

vargr

- 単一の値に対する標準の *GlideRecord* クエリを挿入します。
- 出力：

```
var now_GR = new GlideRecord("");
gr.addQuery("name", "value");
gr.query();
if (gr.next()) {

}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

vargror

- OR 条件で 2 つの値の *GlideRecord* クエリを挿入します。
- 出力：

```
var now_GR = new GlideRecord('');

var qc = gr.addQuery('field', 'value1');

qc.addOrCondition('field', 'value2');
gr.query();

while (gr.next()) {

}
```

for

- アレイを使用して標準の再帰ループを挿入します。
- 出力：

```
for (var i=0; i< myArray.length; i++) {
 //myArray[i];

}
```

情報

- *GlideSystem* 情報メッセージを挿入します。
- 出力：

```
gs.addInfoMessage("");
```

メソッド

- 空白の JavaScript 関数テンプレートを挿入します。
- 出力：

```
/*_____________________________________________________________________
______
   * Description:
   * Parameters:
   * Returns:


 ____________________________________________________________________
___*/
: function() {

},
```

doc

- 関数またはパラメーターを説明するためのコメントブロックを挿入します。
- 出力：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
/**

 * Description:

 * Parameters:

 * Returns:
*/
```

スクリプトマクロのメンテナンス

アドミニストレーターは、新しいスクリプトマクロを定義したり、既存のスクリプトマクロを変更したりすることができます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
スクリプトマクロは、よく使用されるコードを入力するためのショートカットを提供します。いくつかのスクリプトマクロがデフォルトで利用可能です。アドミニストレーターは、新しいスクリプトマクロを定義したり、既存のスクリプトマクロを変更したりすることができます。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [シンタックスエディターマクロ]に移動します。
2. [新規] をクリックするか、編集するマクロを選択します。
3. 以下のテーブルにリストされているフィールドを使用して、マクロの詳細を定義します。

エディターマクロのフィールド

フィールド	説明
名前	ユーザーがマクロテキストを挿入するために入力するマクロキーワードテキスト。
コメント	マクロの説明。このテキストは、ユーザーが「*help*」と入力すると表示されます。
テキスト	エディター内でマクロ名を置き換える完全なマクロテキスト。

シンタックスエディターのコンテキストメニュー

JavaScript シンタックスエディターで、スクリプトインクルード、Glide API、およびテーブルのコンテキストメニューを表示します。

コンテキストメニューオプションを使用して、ユーザーは次の場所に移動できます。

- スクリプトインクルード定義
- Glide API ドキュメント
- システムおよびカスタムテーブルの定義とデータ

シンタックスエディターでは、コンテキストメニューがあるトークンに太字フォントが使用されます。トークンを右クリックすると、コンテキストメニューオプションが表示されます。Mac を使用している場合は、Command キーを押しながらクリックするショートカットを使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンテキストメニューのオプション

トークンタイプ	コンテキストメニューのオプション	説明
スクリプトインクルード	定義を開く	新しいウィンドウでのスクリプトインクルードの定義。
	参照を検索	スクリプトインクルードを参照するファイルのリスト。 **注:** • ファイルのプレビューを表示するには、[スクリプトをプレビュー] アイコン をクリックします。 新しいウィンドウでファイルを開くには、[ファイルを開く] をクリックします。 • スクリプトインクルードを参照するすべてのファイルを表示するには、[すべてのファイルを表示] をクリックします。
Glide API	ドキュメントを表示	Glide API のドキュメントページ。
テーブル	定義を表示	システムテーブルまたはカスタムテーブルの定義を新しいウィンドウで表示します。
	データを表示	現在のユーザーのロールに基いて、テーブル内のレコードを表示します。

システムプロパティ [sys_properties] テーブルの *glide.ui.syntax_editor.context_menu* プロパティを使用して、スクリプトエディターのコンテキストメニューを有効または無効にします。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

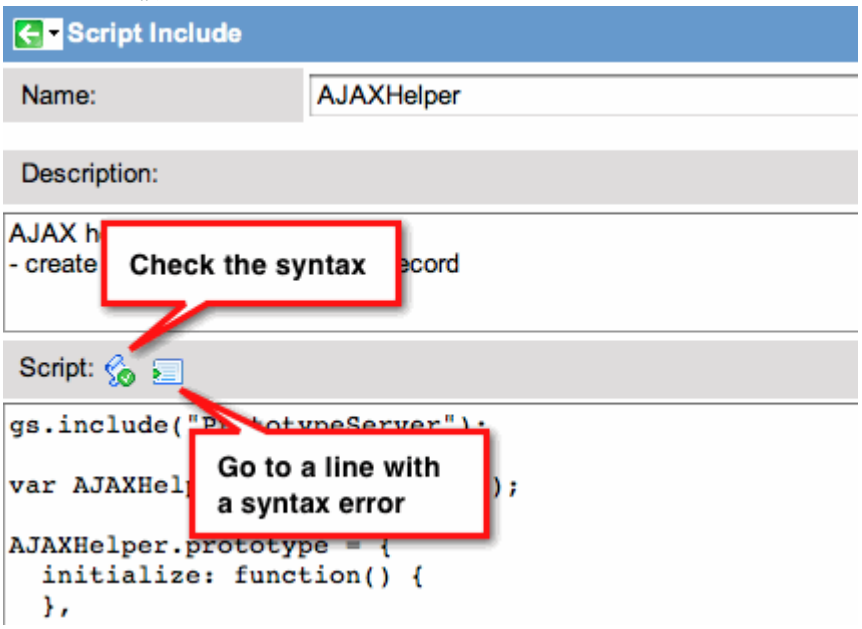
注: コンテキストメニューのオプションにアクセスできるのは、ブラウザーが SharedWorker をサポートしている場合のみです。たとえば、GoogleChrome および Mozilla Firefox です。

スクリプト構文エラーチェック

すべてのスクリプトフィールドで、エラーの構文をチェックし、エラーが発生した場合は、その場所を簡単に見つけるためのコントロールを提供します。スクリプトエディターでは、構文エラーの箇所にカーソルを置き、スクリプト内のエラーの行番号を検索できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

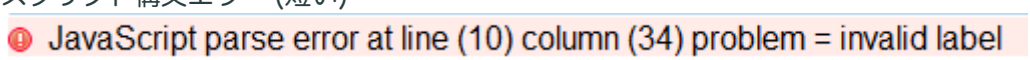
スクリプト構文チェック



スクリプトエディターは、次の状況でスクリプトの構文エラーを通知します。

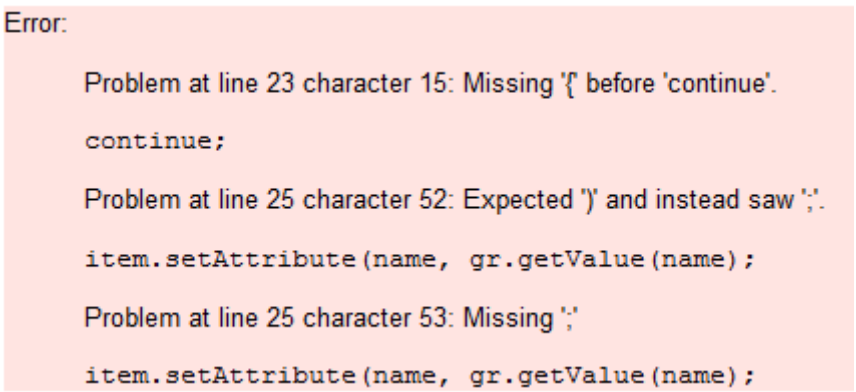
- 新しいレコードを保存するか、既存のレコードを更新したとき。最初のエラーの場所 (行番号と列番号) を示すバナーがエディターの下部に表示され、エラーの箇所にカーソルが表示されます。保存または更新時に提示される警告では、一度に 1 つのエラーのみが表示されます。

  スクリプト構文エラー (短い)

- レコードを保存または更新する前に、構文チェックアイコンをクリックしたとき。スクリプト内のすべてのエラーの場所を示すバナーがエディターの下部に表示され、最初のエラーの箇所にカーソルが表示されます。

  スクリプト構文エラー

行ごとのエラーの検索

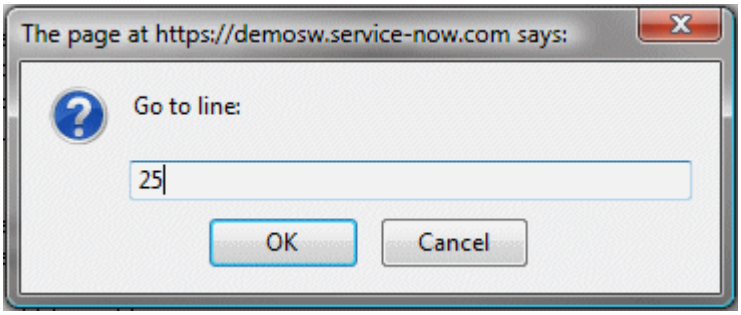
大きなスクリプト内でエラーの正確な位置を特定するには、[行に移動] アイコンをクリックします。

この機能は、ServiceNow レコード自体ではなくログファイルで構文エラーが発生した場合に特に役立ちます。この場合に、レコードに移動して、エラーの行番号を検索できます。表示されるダイアログボックスで、エラーの行番号を入力し、**[OK]** をクリックします。エラーの場所にビューが移動し、カーソルによって正しい行と列がマークされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: この機能を使用するには、シンタックスエディターを無効にする必要があります。

スクリプトエラーに移動



行番号に移動

シンタックスエディターが無効になっている場合、ユーザーは [行に移動] アイコン ( ) を使用して、コード内の特定の行に移動できます。

始める前に
シンタックスエディターを無効にします。

必要なロール：admin

手順

1. [行に移動] アイコン ( ) をクリックします。

注: このアイコンは、エディターが有効になっている場合は使用できません。

2. フィールドに番号を入力し、**Enter** キーを押します。

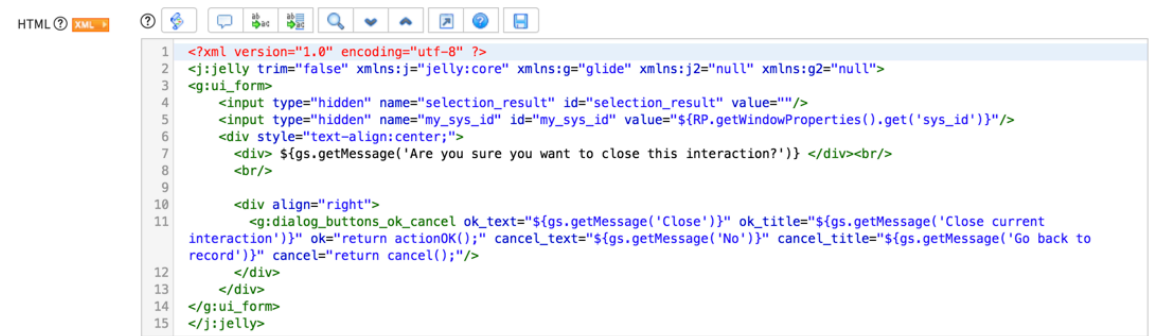
HTML シンタックスエディター

HTML シンタックスエディターは、HTML および Jelly スクリプトの編集をサポートし、ページが表示されるときにレンダリングされる内容を定義します。HTML シンタックスエディターには、静的 XHTML または Jelly として定義された動的に生成されたコンテンツを含めることができ、スクリプトインクルードと UI マクロを呼び出すことができます。

シンタックスエディターには次のような機能があります。

- HTML および Jelly スクリプトのサポート
- HTML および Jelly 構文の自動色分け、インデント、行番号、閉じ括弧と引用符の自動作成
- HTML および Jelly タグの自動提案
- 一般的なコードのショートカットのためのスクリプトマクロ

HTML シンタックスエディター



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML および Jelly 編集機能

アイコン	キーボードショートカット	名前	説明
	適用外	シンタックスエディターの切り替え	シンタックスエディターを無効にします。[シンタックスエディターの切り替え] アイコン ( ) を再度クリックすると、シンタックスエディターは有効になります。
	Cmd +/	コメントの切り替え	選択したコードをコメント化します。
	Cmd +E	置換	スクリプトフィールド内でテキスト文字列の次の出現箇所を置き換えます。 1. [置換] アイコン ( ) をクリックして、置換する文字列を入力し、Enter キーを押します。正規表現をスラッシュで囲んで、置換する文字列を定義できます。たとえば、`/a{3}/` と入力すると、`aaa` を検出できます。 2. 置換文字列を入力して、Enter キーを押します。
	Cmd	すべて置換	スクリプトフィールド内で、特定のテキスト文字列のすべての出現箇所を置き換えます。 1. [すべて置換] アイコン ( ) をクリックして、置換する文字列を入力し、Enter キーを押します。正規表現をスラッシュで囲んで、置換する文字列を定義できます。たとえば、`/a{3}/` と入力すると、`aaa` を検出できます。 2. 置換文字列を入力して、Enter キーを押します。
	Cmd +F	検索の開始	スクリプトフィールド内で、検索語のすべての出現箇所をハイライト表示して、最初の出現箇所を見つけます。[検索の開始] アイコン ( ) をクリックして、検索語を入力し、Enter キーを押します。
	Cmd +G	次を探す	スクリプトフィールドで、現在の検索語の次の出現箇所を検出します。[検索の開始] アイコン ( ) をクリックして、現在の検索語を変更します。
	Cmd +Shift +G	前を探す	スクリプトフィールドで現在の検索語の前の出現箇所を検出します。[検索の開始] アイコン ( ) をクリックして、現在の検索語を変更します。
	Ctrl +M	全画面表示の切り替え	スクリプトフィールドを展開して、全画面のフォームビューで編集しやすくします。[全画面表示の切り替え] アイコン ( ) を再度クリックすると、標準のフォームビューに戻ります。この機能は Internet Explorer では利用できません。
	Cmd +H	ヘルプ	キーボードショートカットのヘルプ画面を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML および Jelly 編集機能 (続く)

アイコン	キーボードショートカット	名前	説明
	適用外	保存	現在のビューを離れずに変更を保存します。全画面モードで [保存] アイコン ( ) をクリックすると、標準フォームビューに戻らずに保存を実行できます。

編集のヒント

- コード内の任意の位置に固定スペースを挿入するには、Tab キーを押します。
- コードの 1 行をインデントするには、行の先頭の空白をクリックして Tab キーを押します。
- コードの 1 行以上の行をインデントするには、対象のコードを選択して Tab キーを押します。インデントを減らすには、Shift+Tab キーを押します。
- コードの行の先頭から 1 つのタブを削除するには、行をクリックして Shift+Tab キーを押します。

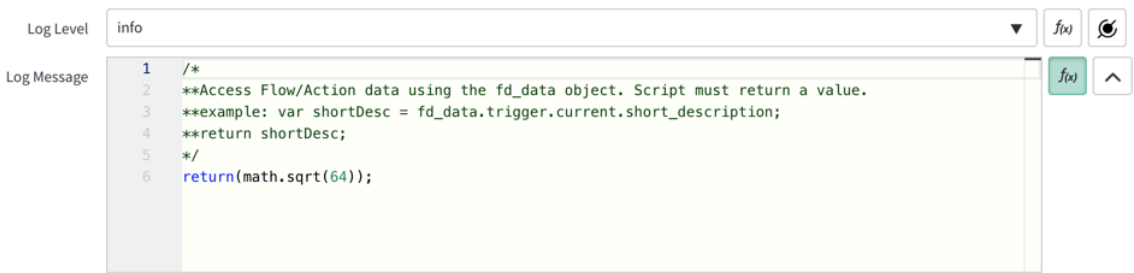
コードエディター

コードエディターは、テキストエディターでプログラミング言語サービスを使用するためのサポートを提供し、スクリプトで使用されます。

コードエディターには、サポートされている言語サービスおよびインラインスクリプト 用の機能があります。

- 構文の色分け、インデント、行番号、閉じ括弧と引用符の自動作成
- 自動提案およびオートコンプリート

コードエディター



編集のヒント

- コード内の任意の位置に固定スペースを挿入するには、Tab キーを押します。
- コードの 1 行をインデントするには、行の先頭の空白をクリックして Tab キーを押します。
- コードの 1 行以上の行をインデントするには、対象のコードを選択して Tab キーを押します。インデントを減らすには、Shift+Tab キーを押します。
- コードの行の先頭から 1 つのタブを削除するには、行をクリックして Shift+Tab キーを押します。
- 変数を宣言するには、`var` キーワードを使用して、適切な JavaScript スコープ内に留まるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サーバーサイドスクリプト

サーバースクリプトはサーバーまたはデータベースで実行されます。それらは ServiceNow の外観や動作を変更したり、レコードやテーブルがアクセスまたは変更されたときのビジネスルールとして実行したりできます。

サーバーサイド Glide API (アプリケーションプログラミングインターフェイス) は、サーバーサイドのタスクを実行するためにスクリプトで使用できるクラスとメソッドを提供します。

即時実行関数

スクリプトが変換マップの作成などの単一のコンテキストで実行されると、即時実行関数が使用されます。複数のコンテキストから実行される関数は、代わりにスクリプトインクルードを使用します。

即時実行関数でスクリプトを囲むと、次のことができます。

- グローバル変数の上書きなどによって、スクリプトが製品の他の領域に影響を与えないようにすることができます。
- 有用な変数またはオブジェクトをパラメーターとして渡します。
- スタックトレースで関数名を特定します。
- 個別の関数呼び出しを行う必要がなくなります。

即時実行関数式は次の形式で記述します。

```
(function functionName(parameter){

  //The script you want to run

})('value');//Note the parenthesis indicating this function should run.
```

即時実行関数の中で関数を宣言できます。これらの内部関数は、即時実行関数内からのみアクセスできます。

```
(function functionName(parameter){

  function helperFunction(parameter){//return some value}

  var value = helperFunction(parameter);//Valid function call.

  //perform any other script actions

})('value');

var value2 = helperFunction(parameter);//Invalid. This function is not
 accessible from outside the self-executing function.
```

Glide サーバー API

ServiceNow は Glide サーバー用の API を提供します。

GlideAggregate

GlideAggregate クラスは *GlideRecord* の拡張であり、データベース集計 (COUNT、SUM、MIN、MAX、AVG) クエリを実行できます。これは、カスタマイズされたレポートの作成や計算フィールドの計算に役立ちます。

注: この機能を使用するには、JavaScript のナレッジが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、GlideAggregate API を参照してください。

GlideAggregate の例

GlideAggregate は *GlideRecord* の拡張であり、一連の例を参照することでその使用法を最もよく理解できます。

注: この機能を使用するには、JavaScript のナレッジが必要です。

以下は、テーブル内のレコード数を取得する簡単な例です。

```
var count = new GlideAggregate('incident');
count.addAggregate('COUNT');
count.query();
var incidents = 0;
if(count.next())
   incidents = count.getAggregate('COUNT');
```

前の例に関連付けられたクエリはありません。オープンであったインシデントの数を取得する場合は、*GlideRecord* を使用するときと同じようにクエリを追加するだけです。アクティブなインシデントの数を取得する例を次に示します。

```
var count = new GlideAggregate('incident');
count.addQuery('active','true');
count.addAggregate('COUNT');
count.query();
var incidents = 0;
if(count.next())
   incidents = count.getAggregate('COUNT');
```

すべてのオープンインシデントの数をカテゴリ別に取得する場合、コードは次のようになります。

```
var count = new GlideAggregate('incident');
count.addQuery('active','true');
count.addAggregate('COUNT','category');
count.query();
while(count.next()){
  var category = count.category;
  var categoryCount = count.getAggregate('COUNT','category');
  gs.log("The are currently "+ categoryCount +" incidents with a category
 of "+ category);}
```

出力は次のとおりです。

```
*** Script: The are currently 1.0 incidents with a category of Data
      *** Script: The are currently 11.0 incidents with a category of
 Enhancement
      *** Script: The are currently 1.0 incidents with a category of
 Implementation
      *** Script: The are currently 197.0 incidents with a category of
 inquiry
      *** Script: The are currently 13.0 incidents with a category of
 Issue
      *** Script: The are currently 1.0 incidents with a category of
      *** Script: The are currently 47.0 incidents with a category of
 request
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例では、複数の集計を使用して、[最小値]、[最大値]、および [平均] の値を使用してレコードが変更された回数を確認します。

```
var count = new GlideAggregate('incident');
count.addAggregate('MIN','sys_mod_count');
count.addAggregate('MAX','sys_mod_count');
count.addAggregate('AVG','sys_mod_count');
count.groupBy('category');
count.query();
while(count.next()){
  var min = count.getAggregate('MIN','sys_mod_count');
  var max = count.getAggregate('MAX','sys_mod_count');
  var avg = count.getAggregate('AVG','sys_mod_count');
  var category = count.category.getDisplayValue();
  gs.log(category +" Update counts: MIN = "+ min +" MAX = "+ max +" AVG =
 "+ avg);}
```

出力は次のとおりです。

```
      *** Script: Data Import Update counts: MIN = 4.0 MAX = 21.0 AVG =
 9.3333
      *** Script: Enhancement Update counts: MIN = 1.0 MAX = 44.0 AVG =
 9.6711
      *** Script: Implementation Update counts: MIN = 4.0 MAX = 8.0 AVG
 = 6.0
      *** Script: inquiry Update counts: MIN = 0.0 MAX = 60.0 AVG =
 5.9715
      *** Script: Inquiry / Help Update counts: MIN = 1.0 MAX = 3.0 AVG
 = 2.0
      *** Script: Issue Update counts: MIN = 0.0 MAX = 63.0 AVG =
 14.9459
      *** Script: Monitor Update counts: MIN = 0.0 MAX = 63.0 AVG =
 3.6561
      *** Script: request Update counts: MIN = 0.0 MAX = 53.0 AVG =
 5.0987
```

次のさらに複雑な例は、ある月と翌月のアクティビティを比較する方法を示しています。

```
var agg = new GlideAggregate('incident');
agg.addAggregate('count','category');
agg.orderByAggregate('count','category');
agg.orderBy('category');
agg.addQuery('opened_at','>=','javascript:gs.monthsAgoStart(2)');
agg.addQuery('opened_at','<=','javascript:gs.monthsAgoEnd(2)');
agg.query();
while(agg.next()){
  var category = agg.category;
  var count = agg.getAggregate('count','category');
  var query = agg.getQuery();
  var agg2 = new GlideAggregate('incident');
  agg2.addAggregate('count','category');
  agg2.orderByAggregate('count','category');
  agg2.orderBy('category');
  agg2.addQuery('opened_at','>=','javascript:gs.monthsAgoStart(3)');
  agg2.addQuery('opened_at','<=','javascript:gs.monthsAgoEnd(3)');
  agg2.addEncodedQuery(query);
  agg2.query();
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  var last ="";
  while(agg2.next()){
     last = agg2.getAggregate('count','category');}
  gs.log(category +": Last month:"+ count +" Previous Month:"+ last);

}
```

出力は次のとおりです。

```
*** Script: Monitor: Last month:6866.0 Previous Month:4468.0
*** Script: inquiry: Last month:142.0 Previous Month:177.0
*** Script: request: Last month:105.0 Previous Month:26.0
*** Script: Issue: Last month:8.0 Previous Month:7.0
*** Script: Enhancement: Last month:5.0 Previous Month:5.0
*** Script: Implementation: Last month:1.0 Previous Month:0
```

次の例は、グループクエリでフィールドの個別のカウントを取得する方法です。

```
var agg = new GlideAggregate('incident');
agg.addAggregate('count');
agg.addAggregate('count(distinct','category');
agg.addQuery('opened_at', '>=', 'javascript:gs.monthsAgoStart(2)');
agg.addQuery('opened_at', '<=', 'javascript:gs.monthsAgoEnd(2)');
//
agg.groupBy('priority');
agg.query();
while (agg.next()) {
// Expected count of incidents and count of categories within each
 priority value (group)
  gs.info('Incidents in priority ' + agg.priority + ' = ' +
 agg.getAggregate('count') +
            ' (' + agg.getAggregate('count(distinct','category') + '
 categories)');
}
```

出力は次のとおりです。

```
*** Script: Incidents in priority 1 = 13 (3 categories)
*** Script: Incidents in priority 2 = 10 (5 categories)
*** Script: Incidents in priority 3 = 5 (3 categories)
*** Script: Incidents in priority 4 = 22 (6 categories)
```

SUM 集計は、*groupBy()* メソッドの使用の有無にかかわらず実施できます。*groupBy()* メソッドを使用しない場合、SUM の結果は、SUM を要求したフィールドのさまざまな値の累積値になります。たとえば、固定資産テーブルの total_cost フィールドを SUM で集計する場合、固定資産テーブルに合計で 12 のレコードが含まれていると、次のようになります。

- total_cost が $12 である 3 つのレコード
- total_cost が $10 である 4 つのレコード
- total_cost が $5 である 5 つのレコード

レコードセットを SUM で集計すると、*getAggregate()* メソッドは $36、$40、$25 の 3 つの異なる合計を返します。

次のコードは、*groupBy()* メソッドを使用せずに SUM 集計を実施する方法を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var totalCostSum = new GlideAggregate('fixed_asset');
totalCostSum.addAggregate('SUM', 'total_cost');
totalCostSum.query();

while (totalCostSum.next()) {
  var allTotalCost = 0;
  allTotalCost = totalCostSum.getAggregate('SUM', 'total_cost');
  aTotalCost = totalCostSum.getValue('total_cost');
  gs.print('Unique field value: ' + aTotalCost + ', SUM = ' +
 allTotalCost + ', ' + allTotalCost/aTotalCost + ' records');
}
```

この例の出力は次のとおりです。

```
*** Script: Unique field value: 12, SUM = 36, 3 records
*** Script: Unique field value: 10, SUM = 40, 4 records
*** Script: Unique field value: 5, SUM = 25, 5 records
```

前の例と同じデータポイントを使用して、*groupBy()* メソッドを使用すると、SUM 集計は指定されたフィールドのすべての値の合計を返します。

次の例は、*groupBy()* メソッドを使用して SUM 集計を実施する方法を示しています。

```
var totalCostSum = new GlideAggregate('fixed_asset');
totalCostSum.addAggregate('SUM', 'total_cost');
totalCostSum.groupBy('total_cost');
totalCostSum.query();
if(totalCostSum.next()){  // in case there is no result
   var allTotalCost = 0;
   allTotalCost = totalCostSum.getAggregate('SUM', 'total_cost');
   gs.print('SUM of total_cost: = ' + allTotalCost);
}
```

この例の出力は次のとおりです。

```
*** Script: SUM of total_cost: 101
```

GlideRecord

*GlideRecord*は、JavaScript でネイティブ JavaScript クラスとまったく同じように使用できる特別な Java クラス (*GlideRecord.java*) です。

GlideRecord:

- SQL クエリを記述する代わりにデータベース操作に使用されます。
- 1 つのテーブルからの 0 個以上のレコードを含むオブジェクトです。別の言い方をすると、GlideRecord は順序付きリストです。

GlideRecord にはレコード (行) とフィールド (列) の両方が含まれます。フィールド名は、基礎となるデータベースの列名と同じです。詳細については、「GlideRecord - スコープ対象」を参照してください。

注: `gs.sql()` スクリプト構文の使用は Geneva で廃止されました。代わりに標準*GlideRecord*構文を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideRecordSecure の使用

GlideRecordSecure は *GlideRecord* から継承されるクラスであり、*GlideRecord* と同じ関数を実行し、ACL も適用します。

書き込み不可能なフィールド

GlideRecordSecure を使用すると、書き込み不可能なフィールドがデータベースへの書き込み試行時に NULL に設定されることに注意してください。デフォルトでは、列上の *canCreate()* が列上の *canWrite()* で置き換えられます。false を返す場合、列の値は NULL に設定されます。

NULL 値の確認

ACL がアクセスを制限するために要素を読み取ることができない場合、このレコードのメモリに NULL 値を作成します。GlideRecord を使用する場合、レコードへの読み取りアクセスを制限する可能性のある ACL を明示的にチェックする必要があります。これを行うには、レコードを読み取ることができるかどうかを確認する、次のような if ステートメントが必要です。

```
if ( !grs.canRead() ) continue;
```

GlideRecordSecure を使用する場合、*canRead()* を使用して読み取りアクセスを明示的にチェックする必要はありません。代わりに、*next()* 自体を使用して次のレコードに移動できます。次の例は、*GlideRecord* と *GlideRecordSecure* の比較を示しています。

```
var count  = 0;
var now_GR  = new GlideRecord('mytable');
now_GR. query();
while (now_GR. next()) {
    if (!now_GR. canRead()) continue;
    if (!now_GR. canWrite()) continue;
    if (!now_GR. val. canRead() || !now_GR. val. canWrite())
        now_GR. val = null;
    else
        now_GR. val = "val-" + now_GR. id;
    if (now_GR. update())
        count ++;
}
```

```
var count  = 0;
var grs  = new GlideRecordSecure('mytable');
grs. query();
while (grs. next()) {
    grs. val = "val-" + grs. id;
    if (grs. update())
        count ++;
}
```

例

これらは *GlideRecordSecure* を使用する簡単な 2 つの例です。

```
var att  = new GlideRecordSecure ('sys_attachment');
att. get('$[sys_attachment.sys_id]');
var sm  = GlideSecurityManager.get();
var checkMe  = 'record/sys_attachment/delete';
var canDelete  = sm.hasRightsTo(checkMe,att);
gs. log('canDelete: ' + canDelete);
canDelete;
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var grs = new GlideRecordSecure('task_ci');
grs.addQuery();
grs.query();
var count  = grs. getRowCount();
if (count  > 0 ) {
    var allocation  = parseInt(10000/count) / 100;
    while (grs.next()) {
      grs.u_allocation = allocation;
      grs.update();
    }
}
```

GlideSystem

GlideSystem API は、情報を取得するためのメソッドを提供します。

GlideSystem (ビジネスルールでは変数名「*gs*」で参照) は、システムや現在ログインしているユーザーなどの情報を取得するための多数の便利なメソッドを提供しています。たとえば、メソッド *addInfoMessage()* は、ユーザーとの通信を許可します。

```
gs.addInfoMessage('Email address added for notification');
```

GlideSystem メソッドの多くは、日付をクエリ範囲に簡単に含めることができ、フィルターとレポートで最もよく使用されます。

詳細については、「GlideSystem」を参照してください。

GlideDateTime

GlideDateTime クラスは、*GlideDateTime* オブジェクトのインスタンス化や *glide_date_time* フィールドの操作など、*GlideDateTime* オブジェクトに対する操作を実行するためのメソッドを提供します。

上で説明したインスタンス化メソッドに加えて、*getGlideObject()* メソッドを使用して *glide_date_time* フィールドから GlideDateTime オブジェクトをインスタンス化できます (例：`var gdt = gr.my_datetime_field.getGlideObject();`)。

一部のメソッドでは、日付と時刻の値を取得または変更するときに Java 仮想マシンのタイムゾーンを使用します。このようなメソッドを使用すると、予期しない動作が発生する可能性があります。可能な限り、同等の現地時間と UTC メソッドを使用してください。

GlideDate と GlideDateTime の例

GlideDate および *GlideDateTime* API を使用して、日時の値を操作します。

注: この機能を使用するには、JavaScript のナレッジが必要です。

詳細については、「GlideDate API」および「GlideDateTime API」を参照してください。

GlideDate オブジェクトを *GlideDateTime* コンストラクターにパラメーターとして渡すことで、*GlideDate* オブジェクトから *GlideDateTime* オブジェクトを作成できます。デフォルトでは、*GlideDateTime* オブジェクトは、内部形式 yyyy-MM-dd HH:mm:ss とシステムタイムゾーン UTC で表されます。

```
var gDate = new GlideDate();
gDate.setValue('2015-01-01');
gs.info(gDate);

var gDT = new GlideDateTime(gDate);
gs.info(gDT);
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力:

```
2015-01-01
2015-01-01 00:00:00
```

「GlideDateTime フィールド値の変更」も参照してください。

スクリプトでの期間フィールド値の設定

期間フィールド値の設定に使用できる JavaScript の例。

注: 負の期間値はサポートされていません。

GlideDateTime.subtract() メソッドの使用

GlideDateTime の *subtract(GlideDateTime start, GlideDateTime end)* メソッドを使用すると、指定された開始日時と終了日時を使用して期間値を設定できます。タスクがオープンされた時間に期間を設定する方法の例：

```
var duration = GlideDateTime.subtract(start, end);
```

数値で返される値を日付または期間の計算に使用する場合は、戻り値をミリ秒に変換します。

```
var time = GlideDateTime.subtract(start,end).getNumericValue();
```

イベントと現在の日付/時刻の間の時間に期間を設定する場合：

```
<duration_field> = GlideDateTime.subtract(new
 GlideDateTime(<start_time>.getValue()),gs.nowDateTime());
```

GlideDateTime.subtract に示される時間値は、ユーザーのタイムゾーン、ユーザーの形式であることが予期されます。

期間フィールドのデフォルト値の設定

期間フィールドのデフォルト値の設定は、前のトピックで使用した方法と似ています。

クライアントスクリプトでの期間フィールド値の設定

このスクリプトは、クライアントスクリプトで *duration_field* 値を設定します。インスタンスのフィールド名で *duration_field* を置き換えます。

```
g_form.setValue('<duration_field>','11 01:02:03');
```

クライアントスクリプトを使用した期間の計算と設定

クライアントスクリプトを使用して値を返したり入力したりする方法の例を次に示します。

次のコードを含む `onChange` クライアントスクリプトを作成します。`onLoad` スクリプトまたはその他の方法で計算を実行する必要がある場合は、このスクリプトを変更できます。

```
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading){
var strt = g_form.getValue('<start_field>');
var end = g_form.getValue('<end_field>');
var ajax = new GlideAjax('AjaxDurCalc');
  ajax.addParam('sysparm_name','durCalc');
  ajax.addParam('sysparm_strt',strt);
  ajax.addParam('sysparm_end',end);
  ajax.getXMLWait();
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  var answer = ajax.getAnswer();
  g_form.setValue('<duration_field>', answer);}
```

要求を処理する *AjaxDurCalc* というシステムスクリプトインクルードファイルを作成します。これは他の関数でも再利用できます。

```
var AjaxDurCalc = Class.create();
AjaxDurCalc.prototype = Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor,{
 durCalc:function(){return
 GlideDuration.subtract(this.getParameter('sysparm_strt'),this.getParamet
er('sysparm_end'));}});
```

期間フィールド値の変更

時間を加算/減算して期間の値を操作する場合は、期間の数値を取得および設定できる関数を使用します。期間の数値の測定単位はミリ秒です。次の例は、現在のレコードの *duration* フィールドに 11 秒を追加します。

```
var timems = current.duration.dateNumericValue();
timems = timems + 11*1000;
current.duration.setDateNumericValue(timems);
```

解決時間の書式設定

[解決時間] または [ビジネス解決時間] フィールドを期間として書式設定して、大きい整数ではなく期間として表示するには、これらのフィールドに次の属性を追加します。

```
format=glide_duration
```

フィールドの辞書エントリを変更し、 属性を追加します。既存の属性がある場合は、複数の属性をカンマで区切ります。

最大測定単位の設定

max_unit 辞書属性は、期間で使用される時間の最大単位を定義します。たとえば、`max_unit=minutes` の場合、期間が 3 時間 5 分 15 秒であれば、185 分 15 秒と表示されます。期間の最大測定単位を設定するには、次の辞書属性を *duration* フィールドに追加します。

```
max_unit=<unit>
```

日付形式のガイドライン

特定の日付と時刻パターンの文字列シーケンスを使用して、日付形式を指定できます。パターン文字列は、A から Z までの 1 つ以上の大文字と小文字で構成されます。引用符で囲まれたテキストは無視され、代わりに日付出力にコピーされます。

文字列	説明	出力形式	例
G	年代指定子	テキスト	AD
y	年	年	2019; 19
Y	年の週	年	2019; 19
M	年の月 (日付内)	月次	July; Jul; 07
L	年の月 (スタンドアロン値)	月次	July; Jul; 07
w	年の週	番号	52

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

文字列	説明	出力形式	例
W	月の週	番号	1
D	年の日	番号	365
d	月の日	番号	2
F	月の曜日	番号	3
E	曜日名	テキスト	水曜日; 水
u	週の日の番号	番号	3
a	午前または午後	テキスト	p.m.
H	0 ～ 23 の日の時間	番号	0
k	1 ～ 24 の日の時間	番号	24
K	午前または午後 0 時から 11 時までの時間	番号	0
h	午前または午後 1 時から 12 時までの時間	番号	12
m	分	番号	59
s	秒	番号	1
S	ミリ秒	番号	500
z	デフォルト形式のタイムゾーン	デフォルト形式のタイムゾーン	太平洋標準時; PST
Z	RFC 822 形式のタイムゾーン	RFC 822 形式のタイムゾーン	-0800
X	ISO 8601 形式のタイムゾーン	ISO 8601 形式のタイムゾーン	-08; -0800; -08:00

クラシックビジネスルール

ビジネスルールとは、レコードが表示、挿入、更新、または削除されるとき、またはテーブルに対してクエリが実行されるときに実行する、サーバー側スクリプトです。

ビジネスルールは、特定のサーバー側の条件が満たされたときに実行されるスクリプトです。ビジネスルール条件には、データベース操作に関連してビジネスルールを実行するタイミングと、ビジネスルールが適用されるレコード操作が含まれます。クライアントスクリプトや UI アクションなど、クライアント側の条件に関してプラットフォームで利用できる他のスクリプトオプションがあります。

注: ビジネスルールは、スクリプティングに依存する従来の自動化ソリューションです。新しいプロセス自動化に フローデザイナー を使用して、拡張、再利用、理解、アップグレードが容易な自動化を作成します。多くの組織が本番環境でビジネスルールを用意しているため、このドキュメントを使用して既存のビジネスルールを操作する方法を学習してください。

ビジネスルールの仕組み

ビジネスルールを構成するには、最初にビジネスルールを実行するタイミングと実行するアクションを決定する必要があります。

ビジネスルールの実行タイミング

ビジネスルールは次の 2 つの基準セットに基づいて実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- データベース操作に関連してビジネスルールを実行するタイミング。
- ビジネスルールが適用されるレコード操作。

ビジネスルールを実行するタイミングを決定するために、次のオプションが提供されています。

ビジネスルールを実行するタイミング

オプション	ルールが実行されるタイミング
前	ユーザーがフォームを送信した後で、データベース内のレコードに対してアクションが実行される前。
後	ユーザーがフォームを送信した後で、さらにデータベース内のレコードに対してアクションが実行された後。
非同期	ユーザーがフォームを送信した後と、ビジネスルールから作成されたスケジュール済みジョブがスケジューラーによって実行された後。ユーザーがフォームを送信してから、データベース内のレコードに対して何らかのアクションが実行されるまでに、システムがビジネスルールからスケジュール済みジョブを作成します。 **注:** 新しく作成されたビジネスルールはアップグレード中に実行されます。 レコードのデータに基づいて意思決定を行う非同期ビジネスルールがレコードにある場合、レコードを立て続けに複数回更新すると、ビジネスルールが順序どおりに実行されなかったり、正しく実行されなかったりする可能性があります。 複数の非同期ビジネスルールが同じレコードを更新する場合、実行順序が保証されていないため、あるスクリプトによって実行された更新が別のスクリプトによって上書きされたり、予期しない順序で更新されたりする可能性があります。このような状況では、ビジネスルールの [後] オプションまたはシステムイベントを代わりに使用できます。
表示	フォームがユーザーに提示された後で、データがデータベースから読み取られた直後。

注:

- 非同期ビジネスルールは、以前のバージョンのレコードにはアクセスできません。そのため、`changes()`、`changesTo()`、および `changesFrom()` `GlideElement` メソッドは非同期ルールスクリプトでは機能しません。ただし、条件ビルダーと条件フィールド (詳細ビュー) はどちらも `changes()`、`changesTo()`、および `changesFrom()` メソッドをサポートしています。
- ビジネスルールは、優先するように指定されるまで ACL を優先しません。詳細については、「ビジネスルールとアクセス制御ルール (ACL) の関係」を参照してください。

ビジネスルールを適用するレコード操作を決定するために、次のオプションが提供されています。

ビジネスルールが適用されるレコード操作

オプション	ルールが実行されるタイミング
挿入	ユーザーが新しいレコードを作成し、システムがそれをデータベースに挿入するとき。
更新	ユーザーが既存のレコードを変更したとき。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

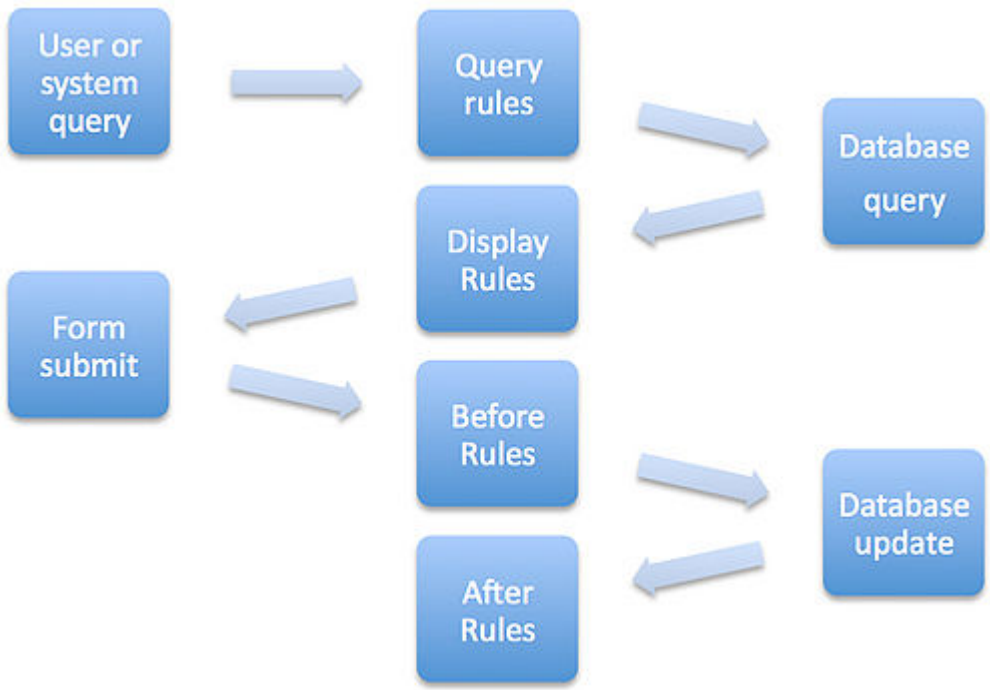
ビジネスルールが適用されるレコード操作 (続く)

オプション	ルールが実行されるタイミング
クエリ	レコードまたはレコードリストのクエリをユーザーがデータベースに送信したとき。通常は、ビジネスルールの前にクエリ操作を使用する必要があります。
削除	ユーザーがレコードを削除したとき。

注: ビジネスルールでは、GlideRecord API から呼び出された場合にのみレコード操作が実行されます。一部のアプリケーションは、意図的にビジネスルールの処理をバイパスして、レコード操作を直接実行します。さらに、ビジネスルールは setWorkflow() メソッドを false に設定して実行された API 呼び出しを無視します。

この画像は、さまざまなタイプのビジネスルールの実行タイミングを示しています。

ビジネスルールの処理フロー



注: ビジネスルールは、フォーム、リスト、または Web サービスからアクセスできるかどうかには関係なく、一貫してレコードに適用されます。これは、ビジネスルールと、フォームの編集時にのみ適用されるクライアントスクリプトとの間の大きな違いの 1 つです。

ビジネスルールのアクション

ビジネスルールはさまざまなアクションを実行できます。一般的なアクションのタイプは次のとおりです。

- ユーザーが更新しているフォームのフィールド値を変更します。フィールド値は、そのフィールドで使用可能な特定の値、他のフィールドからコピーされた値、およびユーザーのロールによって決定される相対値に設定できます。
- ユーザーに情報メッセージを表示します。
- 親タスクの変更に基づいて子タスクの値を変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ユーザーがフォーム上の特定のフィールドにアクセスしたり、フィールドを変更したりできないようにします。
- 現在のデータベーストランザクションを中止します。たとえば、特定の条件が満たされている場合に、ユーザーがデータベースにレコードを保存できないようにします。

アドミニストレーターは、スクリプトを作成せずにフィールド値の設定、情報メッセージの作成、トランザクションの中止を行うことができます。

再帰ビジネスルールの防止

ビジネスルールスクリプトでは `current.update()` を使用しないでください。`update()` メソッドは、挿入操作と更新操作のために同じテーブルで実行するビジネスルールをトリガーします。これにより、ビジネスルールが繰り返し呼び出されます。前のビジネスルールがすべて完了すると、前のビジネスルールに加えられた変更は自動的に保存されます。後のビジネスルールは、関連する、現行のものではないオブジェクトの更新に最適です。再帰ビジネスルールが検出されると、システムはそれを停止し、システムログにエラーを記録します。`current.update()` はシステムパフォーマンスの問題を引き起こすため、必要ありません。

false パラメーターを指定して `setWorkflow()` メソッドを使用すると、再帰ビジネスルールを防ぐことができます。`update()` および `setWorkflow()` メソッドの組み合わせは、上記の通常の前と後のガイドラインが要件を満たさない特別な状況でのみ推奨されます。

スコープ対象アプリケーションのビジネスルール

すべてのビジネスルールは、プライベートアプリケーションスコープまたはグローバルスコープのいずれかに割り当てられます。

作成できるビジネスルールのタイプとそれらのルールへのアクセス方法は、ビジネスルールのスコープと、それが実行されるテーブルのスコープによって異なります。

注: グローバルという用語は、ビジネスルールの 2 つの異なる側面、つまり、それが実行されるテーブルと、それが実行されるスコープを指します。ビジネスルールは、特定のテーブルに対して実行することも、グローバルにすることもできます。また、グローバルスコープまたはプライベートアプリケーションスコープに含めることもできます。

特定のテーブルのビジネスルール

ほとんどのビジネスルールは、[テーブル] フィールドで定義されている特定のテーブルで実行されます。同じスコープ内のテーブル、および別のアプリケーションスコープからの構成レコードを許可するテーブルに対して、ビジネスルールを作成できます。

ビジネスルールレコードとは異なるスコープ内のテーブルの場合は、ルールのタイプが制限されます。

- 次のいずれかのオプションを使用して、[時期] が [非同期] のルールを作成できます。
  - 、、および のデータベース操作。 は選択できない。
  - アクションとスクリプト (フィールド)。
- 次のいずれかのオプションを使用して、[時期] が [次の前] であるルールを作成できます。
  - 、、および のデータベース操作。 は選択できない。
  - アクションのみ。スクリプトを書くことはできず、データベース トランザクションを中断することはできません。
- 異なるスコープのテーブルに他のタイプのビジネスルールを作成することはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

特定のテーブルに対するビジネスルールに、他のビジネスルールやスクリプトからアクセスすることはできません。

グローバルビジネスルール

⚠ **警告:** グローバルビジネスルールの代わりにスクリプトインクルードを使用することを検討してください。スクリプトインクルードは要求時にのみロードされますが、グローバルビジネスルールはシステム内のすべてのページでロードされます。

グローバルビジネスルールは、[テーブル] フィールドが [グローバル] に設定されているビジネスルールですグローバルビジネスルールは、スコープ保護に応じて、複数のテーブルでアクセスでき、他のスクリプトからアクセスできます。グローバルビジネスルールの場合は、[アクセス元] フィールドを設定して、スコープの保護を定義します。

- [このアプリケーションスコープのみ]：ビジネスルールとは異なるスコープ内のアプリケーションがこのビジネスルールを呼び出すことを防止します。
- [すべてのアプリケーションスコープ]：任意のアプリケーションによるこのビジネスルールの呼び出しを許可します。

ℹ **注:** グローバルビジネスルールはドメインセパレーションをサポートしていません。

スコープ対象のビジネスルールのスクリプト

ビジネスルールでスクリプトを作成すると、以下にアクセスできます。

- ビジネスルールと同じスコープ内のすべてのスクリプトインクルードとグローバルビジネスルール。
- 異なるスコープ内のアプリケーションに呼び出しを許可するスクリプトインクルードとグローバルビジネスルール。別のスコープから関数を呼び出すには、関数のスコープを指定する必要があります。
- 一意のスコープにあるビジネスルールの場合は、スコープ対象のシステム API にのみアクセスできます。

ビジネスルールの作成

レコードが表示、挿入、更新、または削除されるとき、あるいはテーブルに対してクエリが行われるときに実行される、任意のタイプのビジネスルールを作成できます。

このタスクについて

ℹ **注:** これらの手順と例は、この機能を実装する方法に関する一般的なガイダンスを提供します。独自のユースケースについては、 開発者コミュニティフォーラム を参照してください。ここでは、質問をしたり、他の開発者とやり取りしたり、既存のソリューションを検索したりすることができます。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [ビジネスルール]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 必要に応じてフィールドに入力します。

ℹ **注:** すべてのフィールドを表示するようにフォームを設定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスルールのフィールド

フィールド	説明
名前	ビジネスルールの名前を入力します。
テーブル	ビジネスルールが実行されるテーブルを選択します。 注: リストには、ビジネスルールのスコープ保護を満たすテーブルとデータベースビューのみが表示されます。データベースビューに対して定義されたビジネスルールは、クエリでのみ実行できます。データベースビューのビジネスルールは、挿入、更新、または削除では実行できません。
アプリケーション	このビジネスルールを含むアプリケーション。
アクセス可能	グローバルビジネスルールのスコープ保護。 注: このフィールドは、[テーブル] フィールドが [グローバル] に設定されている場合にのみ表示されます。特定のテーブルで実行されるルールには適用されません。
アクティブ	ビジネスルールを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
詳細	フォームの詳細バージョンを表示するには、このチェックボックスをオンにします。
実行タイミング	
時期	[上級] ビジネスルールの実行タイミングを選択します：データベース操作の完了に関連して、[表示]、[次の前]、[非同期]、または [次の後] から選択します。 注: 関連するスケジュール済みジョブを作成するときにこの値が使用されるため、非同期ビジネスルールに対して [順番] を設定することを検討してください。 新しく作成された非同期ビジネスルールは、アップグレード時に自動的に実行されます。 既存の非同期ビジネスルールを移行して、新しい非同期動作を使用できます。
順番	[上級] このビジネスルールを実行する順序を示す番号を入力します。特定のアクティビティに複数のルールがある場合、ルールはここで指定された順序 (昇順) で実行されます。
挿入	レコードがデータベースに挿入されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。
更新	レコードが更新されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。
削除	[上級] レコードがデータベースから削除されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。
クエリ	[上級] テーブルに対してクエリが実行されたときにビジネスルールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
フィルター条件	選択したテーブルのフィールド値に基づいてビジネスルールを実行する必要があるタイミングを決定するには、条件ビルダーを使用します。[条件] フィールドを使用して、スクリプトで条件をビルドすることもできます。 注: 文字列の比較に基づくフィルターでは、大文字と小文字が区別されます。
ロールの条件	テーブル内のレコードを変更するユーザーが実行するビジネスルールに対して保持している必要があるロールを選択します。
アクション	
フィールド値の設定	選択リストを使用して、選択したテーブルのフィールドの値を設定します。 ◦ フィールド ◦ 割り当てオペレーター： ▪ 次の値：厳密にそのとおりの値 ▪ 次から取得：別のフィールドの値 ▪ 次の値 (動的)： ビジネスルールを構成するユーザーまたは特定のロールを持つユーザーに関連する値 ◦ 値
メッセージの追加	このチェックボックスをオンにし、このビジネスルールが実行されたときに表示されるメッセージを入力します
アクションの中止	現在のデータベーストランザクションを中止するには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、挿入前のビジネスルールで、条件が満たされている場合は、レコードをデータベースに挿入しません。 このオプションを選択した場合、レコードに対する追加のアクション (フィールド値の設定やスクリプトの実行など) は実行できません。[メッセージの追加] チェックボックスをオンにしてメッセージを作成することにより、引き続きユーザーにメッセージを表示できます。
詳細	
条件	ビジネスルールの実行タイミングを指定する JavaScript 条件ステートメントを作成します。このフィールドに条件ステートメントを追加することで、条件を個別に評価し、条件が true の場合にのみビジネスルールを実行するようにシステムに指示します。[スクリプト] フィールドに条件ステートメントを含める場合、または条件ビルダーを使用する場合は、このフィールドを空のままにします。非同期ビジネスルールを実行する前にインスタンスで条件ステートメントを再評価するには、システムプロパティ *glide.businessrule.async_condition_check* を追加し、値を true に設定します。
スクリプト	[上級] 定義された条件が true である場合に実行されるスクリプトを作成します。 ◦ onAfter ◦ onAsync

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ onBefore ◦ onDisplay 詳細と例については、「サンプルのビジネスルールスクリプト」を参照してください。
関連リスト：バージョン	
バージョン	ビジネスルールのすべてのバージョンを表示します。バージョンを比較したり以前のバージョンに戻したりするには、このリストを使用します。

4. [送信] をクリックします。

ビジネスルールのグローバル変数

ビジネスルールで使用するための定義済みのグローバル変数があります。

次の事前定義されたグローバル変数を使用して、ビジネスルールスクリプトでシステムを参照します。

グローバル変数	説明
current	参照されるレコードの現在の状態。この変数を使用する前に、以下の「null ポインター例外の防止」を参照して null を確認してください。
previous	実行コンテキスト中に行われた更新の前に参照されたレコードの状態。実行コンテキストは、最初の更新または削除操作で始まり、スクリプトと参照されたビジネスルールが実行された後に終了します。1 つの実行コンテキスト内でレコードに複数の更新が行われた場合、*previous* は最初の更新または削除操作の前のレコードの状態を保持し続けます。更新および削除操作でのみ使用できます。非同期操作では使用できません。この変数を使用する前に、以下の「null ポインター例外の防止」を参照して null を確認してください。
g_scratchpad	スクラッチパッドオブジェクトは表示ルールで使用でき、クライアントスクリプトからアクセスできるようにクライアントに情報を渡すために使用されます。
gs	GlideSystem 関数への参照。

変数 *current*、*previous*、*g_scratchpad* は、トランザクションに対して実行されるすべてのビジネスルールでグローバルです。

null ポインター例外の防止

場合によっては、ビジネスルールの実行時にレコードの *current* の状態または *previous* の状態がないことがあります。これは、変数が null であることを意味します。変数を使用する前に null をチェックするには、次のコードをビジネスルールに追加します。

```
if (current == null) // to prevent null pointer exceptions.
return;
```

変数の定義

ユーザー定義変数のスコープは、デフォルトでグローバルです。新しい変数が順序 100 のビジネスルールで宣言されている場合、次に実行される順序 200 のビジネスルールも変数にアクセスできます。これにより、予期しない動作が発生する可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このような予期しない動作を防ぐために、コードは必ず関数でラップしてください。これにより変数が、関数でラップされていない他のビジネスルール内のシステム変数やグローバル変数との競合を防ぐことができます。また、*current* などの変数を使用するには、関数が呼び出されたときに使用可能になっている必要があります。

次のスクリプトは、他のコードとの競合に対して脆弱です。変数 *now_GR* が他のルールで使用されている場合、変数の値が予期せず変更される可能性があります。

```
var now_GR = new GlideRecord('incident');
now_GR.query();
while(now_GR.next()) {

   //do something

}
```

このスクリプトが関数でラップされている場合、変数はその関数内でのみ使用でき、*now_GR*という名前の変数を使用する他の関数と競合することはありません。

```
myFunction();

function myFunction() {
  var now_GR = new GlideRecord('incident');
  now_GR.query();
  while(now_GR.next()) {
    //do something
} }
```

ビジネスルールとクライアントスクリプトを使用したフィールド値の制御

フィールドにビジネスルールとクライアントスクリプトの両方を実装し、ユーザーがフォームとリストの両方を使用してレコード値を正しく設定できるようにします。また、編集が行われるときにフォームの値が即座に変更されるようにします。

クライアントスクリプトまたはビジネスルールのみを使用してフィールドの更新を制御する場合の問題は、フォームまたはリストのいずれかでフィールドが変更される可能性があるということです。クライアントスクリプトと UI ポリシーはフォームでのみ実行され (クライアントサイド)、リストの編集には適用されません。フォーム内のフィールドでクライアントスクリプトを実行している状態でのリスト編集を許可すると、正しくないデータがレコードに保存されるおそれがあります。クライアントスクリプトまたは UI ポリシーがフォームに適用されるシステムでは、リスト編集を無効にするか、適切なビジネスルールまたはアクセス制御を作成して、リストエディターでの値の設定を制御します。この副作用として、クライアントスクリプトに実装されたセキュリティ対策は簡単に回避されるようになります。ユーザーに必要とされるのはリスト内のフィールドを編集することだけです。

フォームのビジネスルールは動的ではありません。変更を表示するには、ユーザーがレコードを更新する必要があります。そのために、クライアントスクリプトを使用してフォームのフィールド値を制御することをお勧めします。

ビジネスルールとクライアントスクリプトの両方を使用してフィールド値を制御する場合、更新動作はシステム全体で同じです。これは、フォームのリストを使用して変更するかどうかでは、更新される値は異ならないことを意味します。これは、同じ機能を 2 回 (クライアントスクリプトに 1 回、ビジネスルールまたはアクセス制御に 1 回) 実装する必要があることを意味します。

例：ユーザーレコードのインポート中にビジネスルールを使用してメールアドレスを作成する

組織には、ユーザーのメールアドレスを `first.last@company.com` に設定するクライアントスクリプトがあります。アドミニストレーターがこれを行うと、ユーザーの情報を入力すると即座にメールアドレスが表示されます。次に、アドミニストレーターは、ユーザーの姓と名を含むスプレッド

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シートからユーザーの一括インポートを実行します。各ユーザーのメールアドレスは、フォームの編集時に自動的に設定されることが想定されています。クライアントスクリプトはフォーム (レコードへのインターフェイス) でのみ実行されるため、そのインターフェイスの外部からレコードにインポートされたデータに影響はなく、メールアドレスは作成されません。この問題を解決するために、アドミニストレーターはインポート時に実行されるビジネスルールを実装し、メールアドレスを作成します。

例：フォームで編集できないフィールドのリスト編集を防止する

組織は、アサイン先グループが [開発] の場合、インシデントフォームの [優先度] フィールドを非表示にします。これを行うためにインシデントフォームで UI ポリシーを作成しますが、ユーザーは引き続きリストエディターを使用して [優先度] フィールドを表示および編集できます。これを修正するには、アサイン先グループが [開発] のときに [優先度] フィールドへの読み取りアクセスを防止するアクセス制御を適用します。

フィールド値としての **NULL** の使用

文字列 NULL は、スクリプト内で特定のロールを持つ予約語です。

予約語はすべて大文字の NULL です。**Null** や **null** などの値を持つフィールドは受け入れ可能です。NULL は、特定のフィールドをクリアするためにのみ使用します。

インポートセットデータソースから取得された NULL フィールド値は、空のフィールド値としてステージングテーブルに挿入されます。インポートセット変換マップや、[名] フィールドまたは [姓] フィールドでは、フィールド値として NULL という用語を使用しないでください。また、参照フィールドでは NULL を使用しないでください。この値は予約語ではなく用語 NULL を含む文字列として解釈されます。

ビジネスルールの表示

表示ルールは、ユーザーがレコードフォームを要求したときに処理されます。

データベースからデータが読み込まれ、表示ルールが実行されて、フォームがユーザーに表示されます。current のオブジェクトが利用可能で、データベースから取得されたレコードを表します。フィールドの変更はまだデータベースに送信されていないため、一時的なものです。クライアントには、フォームの値はデータベースの値のように見えます。値が表示ルールから変更された形跡は示されません。これは計算フィールドと同様の概念です。

表示ルールの主な目的は共有されるスクラッチパッドオブジェクト *g_scratchpad* を使用することです。このオブジェクトはフォームの一部としてクライアントにも送信されます。この動作は、表示されるレコードには通常含まれていないサーバーデータを必要とするクライアントスクリプトをビルドする場合に役立つことがあります。ほとんどの場合、これによってクライアントスクリプトはサーバーへのコールバックが必要になります。フォームが表示される前にデータを判別できる場合は、初期ロード時にクライアントにデータを提供する方が効率的です。フォームスクラッチパッドオブジェクトは、デフォルトでは空のオブジェクトであり、データの名前:値ペアを格納するためにのみ使用されます。

表示ルールからデータをフォームスクラッチパッドに入力するには、次のようにします。

```
// From display business rule
g_scratchpad.someName = "someValue";
g_scratchpad.anotherName = "anotherValue";

// If you want the client to have access to record fields not being
 displayed on the form
g_scratchpad.created_by = current.sys_created_by;
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
// These are simple examples, in most cases you will probably perform
 some other
// queries to test or get data
```

クライアントスクリプトからのフォームスクラッチパッドデータにアクセスするには、次のようにします。

```
// From client script
if(g_scratchpad.someName == "someValue") {
  //do something special
}
```

タスクアクティブ状況管理ビジネスルール

このビジネスルールは、[状態] フィールドの変更に基づいてアクティブなフィールドの値を変更する必要があるかどうかを判断します。

タスクアクティブ状況管理ビジネスルールは、タスクレコードの状態が変更されたときに実行されます。実行順序は 50 で、他のほとんどのタスクビジネスルールの前に実行されます。

現在のタスクテーブルで、テーブルに *close_states* 属性が定義されている場合、または上位レベルのテーブルからそれが継承されている場合は、アクティブなフィールドを変更する必要があるかどうかがルールによって決定されます。これは、前の状況値と現在の状況値を比較することによって行われます。

- 状態がアクティブ状態から非アクティブ状態に変わると、[アクティブ] フィールドは false に設定されます。
- 状態が非アクティブ状態からアクティブ状態に変わると、[アクティブ] フィールドは true に設定され、タスクを効果的に再アクティブ化または再オープンします。

タスクを非アクティブまたはアクティブとしてマークする各タスクテーブルでルールを作成するのではなく、ビジネスルールで *(current.active.changesTo([true/false])* アクションを活用することをお勧めします。

サンプルのビジネスルールスクリプト

組織の要件に役立つサンプルのビジネスルールスクリプトを検索します。

注: これらの手順と例は、この機能を実装する方法に関する一般的なガイダンスを提供します。独自のユースケースについては、 開発者コミュニティフォーラム を参照してください。ここでは、質問をしたり、他の開発者とやり取りしたり、既存のソリューションを検索したりすることができます。

ビジネスルールでの日付フィールドの比較

ビジネスルール内の 2 つの日付フィールドまたは 2 つの日付と時刻のフィールドを比較し、それらが正しくない場合はレコードの挿入または更新を中止できます。

たとえば、開始日を終了日より前にすることが必要になる場合があります。スクリプトの例を次に示します。

```
if ((!current.u_date1.nil()) && (!current.u_date2.nil())) {
  var start = current.u_date1.getGlideObject().getNumericValue();
  var end = current.u_date2.getGlideObject().getNumericValue();
  if (start > end) {
    gs.addInfoMessage('start must be before end');
    current.u_date1.setError('start must be before end') ;
    current.setAbortAction(true);
 } }
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この例はグローバルスクリプトでテストされています。スコープ付きスクリプトで機能させるためには、変更が必要になる場合があります。API の変更が必要になる可能性があることに加えて、スコープ付きスクリプトではセキュリティがより厳格になります。

ビジネスルールは、挿入および更新アクションの前のルールにすることをお勧めします。サンプルのスクリプトは次のようになります。

- *u_date1* と *u_date2* は 2 つの日付フィールドの名前です。これらの名前を独自のフィールド名に置き換えます。
- 最初の行では、両方のフィールドに実際に値があることを確認します。
- 次の 2 つの行では、日付の数値を持つ変数を作成します。
- 次の 2 つの行では、エンドユーザーに対して異なるアラートメッセージを作成します。1 つはフォームの上部に、もう 1 つはフォームの *[u_date1]* フィールドの横に表示されます。
- 日付フィールドが正しくない場合、最終行で挿入または更新は中止されます。

上記の比較のより複雑な例を次に示します。開始日と終了日のペアが複数ある場合は、アレイを次のように使用できます。また、このスクリプトでは、入力日付が特定の範囲内である必要があります。このケースでは、過去は 30 日以上、将来は 365 日以内です。

```
// Enter all start and end date fields you wish to check, as well as the
 previous values
// Make sure that you keep the placement in the sequence the same for all
 pairs
var startDate = new Array(current.start_date,current.work_start);
var prevStartDate = new Array(previous.start_date,previous.work_start);
var endDate = new Array(current.end_date,current.work_end);
var prevEndDate = new Array(previous.end_date,previous.work_end);

// The text string below is added to the front of ' start must be before
 end'
var userAlert = new Array('Planned','Work');

// Set the number of Previous Days you want to check
var pd = 30;
// Set the number of Future Days you want to check
var fd = 365;

// You shouldn't have to modify anything below this line

var nowdt = new GlideDateTime();
nowdt.setDisplayValue(gs.nowDateTime());
var nowMs = nowdt.getNumericValue();
var pdms = nowMs;

// Subtract the product of previous days to get value in milliseconds
pdms -= pd * 24 * 60 * 60 * 1000;
var fdms = nowMs;

// Add the product of future days to get value in miliseconds
fdms += fd * 24 * 60 * 60 * 1000;
var badDate = false;

 // Iterate through all start and end date / time fields
for (x = 0; x < startDate.length; x ++) {
  if ((!startDate[x].nil()) && (!endDate[x].nil())) {
    var start = startDate[x].getGlideObject().getNumericValue();
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    var end = endDate[x].getGlideObject().getNumericValue();
    if (start > end) {
      gs.addInfoMessage(userAlert[x] + ' start must be before end');
      startDate[x].setError(userAlert[x] + ' start must be before end');
      badDate = true; }
    else if ((prevStartDate[x]) != (startDate[x])) {
      if (start < pdms) {
         gs.addInfoMessage(userAlert[x] + ' start must be fewer than ' +
 pd + ' days ago');
         startDate[x].setError(userAlert[x] + ' start must be fewer than
 ' + pd  + ' days ago');
         badDate = true; } }
    else if ((prevEndDate[x]) != (endDate[x])) {
      if (end > fdms) {
         gs.addInfoMessage(userAlert[x] + ' end must be fewer than ' + fd
 + ' days ahead');
         endDate[x].setError(userAlert[x] + ' end must be fewer than ' +
 fd + ' days ahead');
         badDate  = true ;
} } } }
if (badDate == true ) {
  current. setAbortAction ( true ) ; }
```

XML ペイロードの解析

XML 形式のフィールドは、システムの *getXMLText* 関数を使用して解析できます。

ecc_event 行のペイロードなど、XML 形式でデータベースに挿入されるフィールドは、システムの *getXMLText* 関数を使用して解析できます。*getXMLText* 関数は、文字列と XPATH 式を受け取ります。例：

```
var name = gs.getXMLText("<name>joe</name>", "//name");
```

文字列「joe」を返します。

フィールド「payload」に XML が含まれていると仮定すると、関数呼び出しは次のようになります。

```
var name = gs.getXMLText(current.payload, "//name");
```

XPATH の詳細については、「w3schools」を参照してください。

前のビジネスルールでのデータベースアクションの中止

前のビジネスルールスクリプトで、*setAbortAction()* メソッドを使用して現在のデータベースアクションをキャンセルまたは中止できます。

たとえば、前のビジネスルールが挿入アクション中に実行され、スクリプトに current.setAbortAction(true) を呼び出す条件がある場合、current に保存される新しいレコードはデータベース内には作成されません。このビジネスルールは *setAbortAction()* を呼び出した後も実行を継続し、後続のすべてのビジネスルールは正常に実行されます。このメソッドを呼び出すと、データベースアクションの実行のみが防止されます。

isActionAborted() メソッドを使用して、現在のデータベースアクション (挿入、更新、削除) を中止するかどうかを決定できます。*isActionAborted()* は新しいスレッド用に初期化され、*next()* メソッドはその値を明示的に false に設定します。

> **注:** *setAbortAction()* は、アクションが中止されるレコードと同じスコープからのみ実行できます。current.setAbortAction は、別のスコープで定義されているビジネスルールで実行された場合、優先されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスルールでトリガーされる操作の決定

複数のデータベースアクションでトリガーされるビジネスルールのスクリプトを作成できます。

イベントをトリガーしたアクションに応じてビジネスルールスクリプトを動的に分岐させる場合は、*operation()* 関数を使用できます。例：

```
if(current.operation() == "update") {
  current.updates ++; }
  if(current.operation() == "insert") {
    current.updates = 0; }
```

ビジネスルールでの **OR** 条件の使用

OR 条件は、ビジネスルール内の任意のクエリ部分に追加できます。

OR 条件は、*addOrCondition()* メソッドによってビジネスルール内の任意のクエリ部分に追加できます。次の例は、優先度が 1 または 2 のすべてのインシデントを検索するためのクエリを示しています。最初の *addQuery()* 条件は変数として定義され、**OR** 条件で使用されます。

```
var inc = new GlideRecord('incident');
var qc = inc.addQuery('priority','1');
qc.addOrCondition('priority','2');
inc.query();
while(inc.next()) {
  // processing for the incident goes here
}
```

次のスクリプトはより複雑な例で、2 つのクエリ条件変数を使用して、`(priority = 1 OR priority = 2) AND (impact = 2 OR impact = 3)` と同等の実行をします。**OR** 条件の結果は、2 つの変数 *qc1* と *qc2* を使用して実行されます。これにより、`IF` 条件や `WHILE` ループ内など、スクリプトの後半でクエリ条件オブジェクトを操作できます。

```
var inc = new GlideRecord('incident');
var qc1 = inc.addQuery('priority','1');
qc1.addOrCondition('priority','2');
var qc2 = inc.addQuery('impact','2');
qc2.addOrCondition('impact','3');
inc.query();
while(inc.next()) {
  // processing for the incident goes here
}
```

ビジネスルールからの **Glide** リストの参照

Glide リストとして定義されたフィールドは、単一のフィールドに格納される値のアレイです。

ビジネスルールを記述するときに glide_list フィールドを処理する方法の例を次に示します。通常、glide_list フィールドには、他のテーブルへの参照値のリストが含まれています。

例

たとえば、タスク内の [ウォッチリスト] フィールドは、ユーザーレコードへの参照を含む glide_list です。

次のコードに、フィールドを参照する方法を示します。

```
// list will contain a series of reference (sys_id) values separated by a
 comma
// array will be a javascript array of reference values
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var list = current.watch_list.toString();
var array = list.split(",");
for (var i=0; i < array.length; i++) {
   gs.print("Reference value is: " + array[i]);
}
```

出力：

```
*** Script: Reference value is: 62826bf03710200044e0bfc8bcbe5df1
*** Script: Reference value is: c2826bf03710200044e0bfc8bcbe5d45
*** Script: Reference value is: 5f74e421c0a8010e01ec0d74a7ee2cc6
*** Script: Reference value is: 06826bf03710200044e0bfc8bcbe5d57
```

また、次に示すように *getDisplayValue()* メソッドを使用して、参照値に関連付けられた表示値を取得することもできます。

```
// list will contain a series of display values separated by a comma
// array will be a javascript array of display values
var list = current.watch_list.getDisplayValue();
var array = list.split(",");
for (var i=0; i < array.length; i++) {
   gs.print("Display value is: " + array[i]);
}
```

出力：

```
*** Script: Display value is: Abel Tuter
*** Script: Display value is:  Ashley Leonesio
*** Script: Display value is:  Charles Beckley
*** Script: Display value is:  Cherie Fuhri
```

indexOf("searchString") を使用して Glide リスト内の文字列を検索する

Glide リストフィールド (ウォッチリストなど) に少なくとも 1 つの値がある場合は、*indexOf*("*searchString*") を使用してメソッドに渡される文字列の場所を返します。

フィールドが空の場合は、`undefined` が返されます。未定義の値を返さないようにするには、次のいずれかを実行します。

- フィールドを強制的に文字列にします。例：*watch_list.toString().indexOf*("*searchString*")
- *indexOf()* を使用する前に、条件がある空の Glide リストフィールドを確認します。例：if (*watch_list.nil()* || *watch_list.indexOf*("*searchString*") == -1)

ユーザーアカウントのロック

ユーザーがアクティブでない場合は、ユーザーアカウントをロックできます。

次のビジネスルールスクリプトは、ユーザーが LDAP ディレクトリでアクティブでない場合、またはユーザーがインスタンスへのセルフサービス、itil、またはアドミニストレーターアクセス権を持っていない場合に、ユーザーアカウントをロックします。

```
// Lock accounts if bcNetIDStatus != active in LDAP and user does not
// have self-service, itil or admin role
var rls = current.accumulated_roles.toString();
if(current.u_bcnetidstatus == 'active' && (rls.indexOf(',itil,') > 0 ||
  rls.indexOf(',admin,') > 0 ||
  rls.indexOf(',ess,') > 0 )) {
  current.locked_out = false; }
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
else {
  current.locked_out = true; }

var now_GR = new GlideRecord("sys_user");
now_GR.query();
while(now_GR.next()) {
  now_GR.update();
  gs.info("updating " + gr.getDisplayValue());
}
```

デフォルトのクエリ前ビジネスルール

データベースクエリの実行前に実行されるクエリビジネスルールを使用できます。

このクエリビジネスルールを使用して、ユーザーが特定のレコードにアクセスできないようにします。インシデントレコードへのアクセスを制限するデフォルトのビジネスルールの以下の例を考慮してください。

- 名前：incident query
- テーブル：インシデント
- タイミング：クエリ前
- スクリプト：

```
if(!gs.hasRole("itil") && gs.isInteractive()) {
  var u = gs.getUserID();
  var qc =
 current.addQuery("caller_id",u).addOrCondition("opened_by",u).addOrCondi
tion("watch_list","CONTAINS",u);
  gs.print("query restricted to user: " + u); }
```

この例では、ユーザーは、itil ロールを持っているか、または **[Caller]** あるいは **[Opened by]** フィールドでリストされていない限り、インシデントレコードにアクセスできません。そのため、セルフサービスユーザーがインシデントのリストを開くと、自分が送信したインシデントしか表示されません。

注: ユーザーに表示されるレコードは、アクセス制御を使用して制限することもできます。

スクリプトインクルード

スクリプトインクルードは、サーバー上で実行される JavaScript の格納に使用されます。

スクリプトインクルードを作成して、サーバースクリプトで使用できるように JavaScript の関数およびクラスを格納します。各スクリプトインクルードは、オブジェクトクラスまたは関数のいずれかを定義します。

スクリプトインクルードは要求時にのみロードされるため、グローバルビジネスルールの代わりにスクリプトインクルードを使用することを検討してください。詳細については、「クライアント呼び出し可能スクリプトインクルードのプライバシー設定」と「ディスカバリースクリプトインクルード」を参照してください。

スクリプトのその他の例については、「有用なスクリプト」を参照してください。

スクリプトインクルードフォーム

スクリプトインクルードには、名前、説明、およびスクリプトがあります。また、それらがアクティブかどうか、およびクライアントスクリプトから呼び出すことができるかどうかも指定します。スクリプトインクルードフォームを使用して、既存のスクリプトインクルードを表示するか、新しいスクリプトインクルードを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトインクルードにアクセスするには、[システム定義] > [スクリプトインクルード] に移動します。

スクリプトインクルードフォーム

フィールド	説明
名前	スクリプトインクルードの名前。クラスを定義する場合、これはクラスの名前、プロトタイプ、およびタイプと一致する必要があります。クラスレス (オンデマンド) スクリプトインクルードを使用する場合、名前は関数名と一致する必要があります。
API 名	読み取り専用で自動入力される API 名。
クライアント呼び出し可能	スクリプトインクルードをクライアントスクリプト、リスト/レポートフィルター、参照修飾子として使用できるように、または URL の一部として指定できるようにします。選択すると、[アクセス制御] 関連リンクが使用可能になります。詳細については、「クライアント呼び出し可能スクリプトインクルードのプライバシー設定」を参照してください。
アプリケーション	このスクリプトインクルードが存在するアプリケーション。
アクセス可能	このスクリプトインクルードにアクセスできるアプリケーションを設定します。 すべてのアプリケーションスコープ 任意のアプリケーションスコープからアクセスできます。 このアプリケーションスコープのみ 現在のアプリケーションスコープからのみアクセスできます。
アクティブ	選択すると、スクリプトインクルードが有効になります。アクティブなフィールドの選択を解除して、スクリプトインクルードを無効にします。
説明	スクリプトインクルードに関する説明的なコンテンツを提供します。
スクリプト	他のスクリプトから呼び出されたときに実行するサーバーサイドスクリプトを定義します。 スクリプトは、単一の JavaScript クラスまたはグローバル関数を定義する必要があります。クラス名または関数名は [名前] フィールドと一致する必要があります。
パッケージ	このスクリプトインクルードを含むパッケージ。
作成者	このスクリプトインクルードを作成したユーザー。
更新者	このスクリプトインクルードを最後に更新したユーザー。
保護ポリシー	スクリプトインクルードの保護レベルを設定します。 なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトインクルードフォーム (続く)

フィールド	説明
	このダウンロードまたはインストールされたスクリプトインクルードの読み取りと編集をすべてのユーザーに許可します。 読み取り専用 このダウンロードまたはインストールされたスクリプトインクルードからの値の読み取りをすべてのユーザーに許可します。スクリプトインクルードをダウンロードまたはインストールするインスタンスのスクリプト値は、どのユーザーも変更できません。 保護 アプリケーション開発者に知的財産権保護を提供します。スクリプトインクルードをダウンロードした顧客は、スクリプトフィールドの内容を表示できません。スクリプトは、権限のないユーザーがプレーンテキストで表示することを防ぐために、メモリ内で暗号化されます。
フォームビューの関連リスト：	
バージョン	スクリプトインクルードのすべてのバージョンを表示します。バージョンを比較したり以前のバージョンに戻したりするには、このリストを使用します。「バージョン」を参照してください。
アクセス制御	[クライアント呼び出し可能] チェックボックスがオンになっていて、かつ標準のスクリプトインクルードから非表示になっている場合に使用可能になります。パブリックアクセスが許可されていない場合に、CCSI を不正使用から保護するために使用します。

スクリプトインクルードの使用

スクリプトインクルードは [システム定義] または [システム UI] の下にあります。既存のスクリプトインクルードをスクリプトから呼び出すことも、新しいスクリプトインクルードを作成することもできます。

まったく新しいスクリプトインクルードを作成するときには、既存のいずれかのスクリプトインクルードの形式に従うこともできます。この例では、スクリプトインクルードの名前は `NewInclude` であり、`myFunction` と呼ばれる 1 つの関数があります。スクリプトインクルードの名前が、クラスの名前、プロトタイプ、およびタイプと一致することが重要です。新しいスクリプトインクルードを作成して名前を付けると、クラスとプロトタイプが適切に設定されたコードスニペットが提供されます。

```
var NewInclude =Class.create();

NewInclude.prototype={
  initialize :function(){},

  myFunction :function(){<Put function code here>},

  type :'NewInclude'};
```

次のように `myFunction` 行を使用できます。

```
var foo =new NewInclude();
foo.myFunction();
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアント呼び出し可能スクリプトインクルード

クライアント呼び出し可能スクリプトインクルード (CCSI) は、クライアントスクリプト、リスト/レポートフィルター、参照修飾子、または URL の一部として指定された場合に、スクリプトインクルードを使用できるようにします。

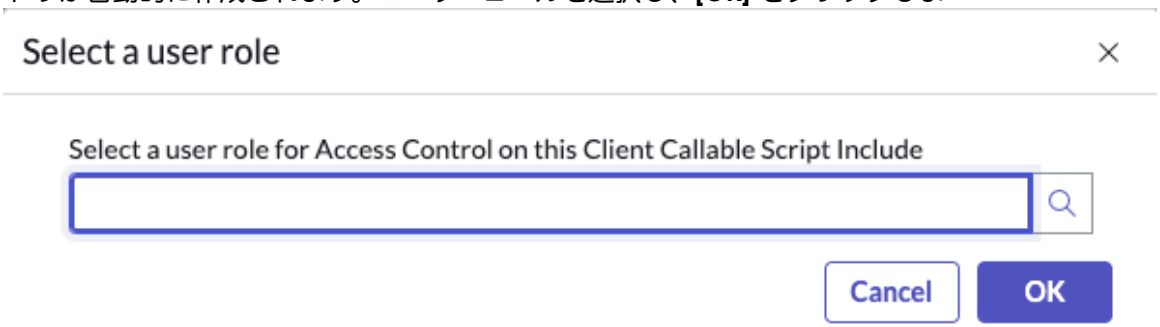
始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [システム定義] > [スクリプトインクルード] に移動します。
2. [新規] を選択するか、表示または編集する既存のスクリプトインクルードを選択します。
   スクリプトインクルードの記述の詳細については、「スクリプトインクルードの使用」を参照してください。
3. フォームを完成させて、[クライアント呼び出し可能] チェックボックスを選択します。

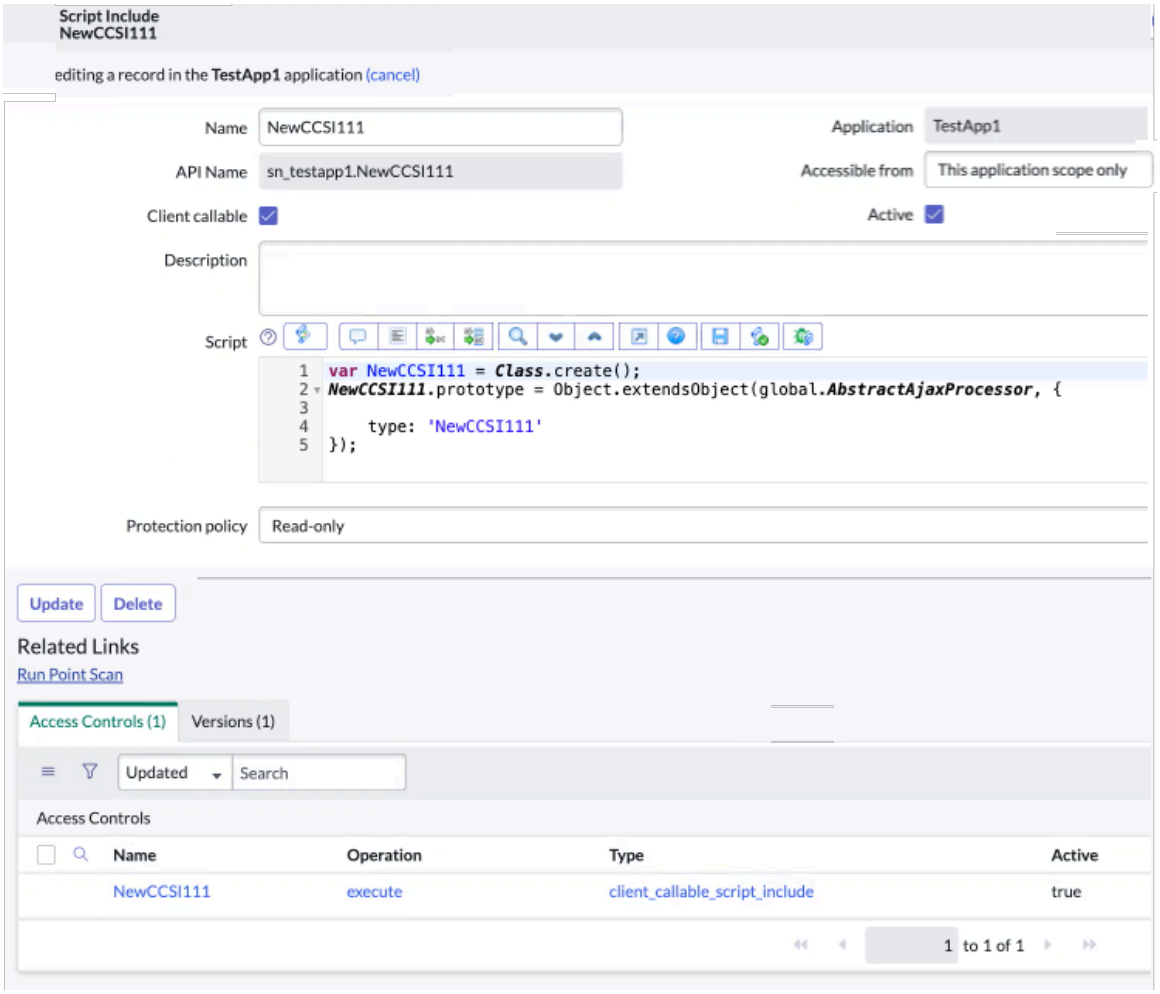
   ユーザーロールを選択するためのロールセレクターがポップアップし、アクセス制御エントリが自動的に作成されます。ユーザーロールを選択し、**[OK]** をクリックします。



> **注:** ロールセレクターウィンドウを無効にするには、*glide.script.ccsi.enable_acl_create_ux* を **false** に設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールベースのアクセス制御を持つ新しい CCSI レコードが作成されます。アクセス制御関連リンクは、[クライアント呼び出し可能] チェックボックスをオンにすると利用可能になります。



クライアント呼び出し可能スクリプトインクルードのプライバシー設定

クライアント呼び出し可能スクリプトインクルード (CCSI) のプライバシー設定により、クライアント呼び出し可能スクリプトインクルードにアクセスできるユーザーが決定されます。

プライベートプライバシー設定

プライベートプライバシー設定は、公開ページにアクセスするゲストがクライアント呼び出し可能スクリプトインクルードにアクセスできないことを意味します。非公開スクリプトは、ログインしていないユーザーは実行できません。

公開プライバシー設定

公開プライバシー設定は、適切な HTTP 要求を作成するログインしていないユーザーが、クライアントスクリプトを実行できることを意味します。クライアントスクリプトが機密情報を提供する場合、これによりセキュリティ上の問題が発生する可能性があります。

次のスクリプトインクルードは、デフォルトでは公開のままです。これは、UI ページを公開または非公開にする が、次のスクリプトインクルードにアクセスする必要があるためです。

- GlideSystemAjax
- SysMessageAjax
- KnowledgeMessagingAjax

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- KnowledgeAjax
- PasswordResetAjax

クライアント呼び出し可能スクリプトインクルードのプライバシーの設定

すべてのクライアント呼び出し可能スクリプトインクルードのプライバシー設定の変更

すべてのクライアント呼び出し可能スクリプトインクルードをさらに制御するために、アドミニストレーターは *glide.script.ccsi.ispublic* プロパティを追加できます。このプロパティは、すべてのクライアント呼び出し可能スクリプトインクルードを公開または非公開にすることで、その可視化を変更します。プロパティを以下のとおり構成します。

プロパティの構成

タイトル	プロパティ
名前	glide.script.ccsi.ispublic
タイプ	true | false
値	false

注: このプロパティの詳細については、「インスタンスセキュリティ強化設定」の「クライアント呼び出し可能スクリプトインクルードのプライバシー」を参照してください。

単一のクライアント呼び出し可能スクリプトインクルードのプライバシー設定の変更

isPublic() 関数を追加することにより、単一のクライアント呼び出し可能スクリプトインクルードのプライバシー設定を変更します。

isPublic() 設定は *glide.script.ccsi.ispublic* プロパティよりも優先されます。たとえば、このプロパティが **false** に設定されていて、すべてのクライアント呼び出し可能スクリプトインクルードが非公開で、かつスクリプトで *isPublic()* が **true** に設定されている場合、そのスクリプトは公開されます。

単一のクライアント呼び出し可能スクリプトインクルードのプライバシーを変更するには、次のメソッドをスクリプトインクルードに追加します。

```
isPublic:function(){return[true/false];},
```

NewInclude クライアントスクリプトを非公開にします。

```
var NewInclude =Class.create();

NewInclude.prototype={
   initialize:function(){},

   myFunction:function(){//Put function code here},
   isPublic:function(){return  false;},

   type:'NewInclude'};
```

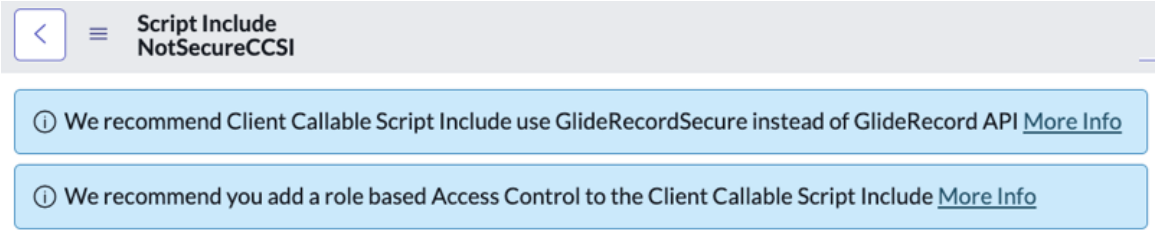
クライアント呼び出し可能スクリプトインクルードのセキュリティ

クライアント呼び出し可能スクリプトインクルード (CCSI) を不正使用から保護します。顧客アプリケーションで作成されたすべての CCSI レコードについて、セキュリティリスクを軽減するための推奨事項が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CCSI を作成するときに、次のセキュリティ推奨事項がまだ構成されていない場合は、それらの推奨事項が表示されます。

- CCSI にパブリックアクセスがない場合は、アクセス制御を追加または定義します。
- スクリプトがデータベースにクエリを実行する場合は、*GlideRecord* API の代わりに *GlideRecordSecure* を使用してセキュリティを強化します。



注: セキュリティ推奨メッセージを無効にするには、sys_properties テーブルでプロパティ *glide.script.ccsi.customer_scoped.security_msgs_enabled* を **false** に設定します。デフォルト値は **true** になっています。

セキュリティコンプライアンスの詳細については、「インスタンスセキュリティ強化設定」を参照してください。

ディスカバリースクリプトインクルード

ディスカバリー スクリプトインクルードは、ディスカバリー タスクを実行するために使用できる JavaScript クラスを定義します。

注: discovery_admin ロールを持つユーザーは、スクリプトインクルードを書き込むことができます。サーバー側およびクライアント側のスクリプティングのベストプラクティスに従って、セキュリティ上の問題を防止します。詳細については、ナレッジ記事「KB0550828」を参照してください。

GlideRecordUtil を使用した GlideRecord の操作

GlideRecordUtil は、ディスカバリー 実行時に、GlideRecord 操作に役立つメソッドを提供するユーティリティクラスです。使用可能なメソッドの説明については、「GlideRecordUtil」を参照してください。

GlideRecord インスタンスの取得

指定された構成アイテムの、正しいクラスとテーブルの *GlideRecord* インスタンスを取得するには、*getCIGR(sys_id)* メソッドを使用します。たとえば次のコードは、CI の GlideRecord を取得します。その sys_id は 2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe5d56 です。

```
var now_GR = new
 GlideRecordUtil().getCIGR("2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe5d56");
```

クラスタイプが未知の場合に階層テーブルを取得するには、*getGR(base_table, sys_id)* メソッドを使用します。たとえば、コンピュータークラス CI の GlideRecord を取得するには、コンピュータークラス、Windows サーバー、または Linux サーバークラスを区別することが必要になる場合があります。このメソッドを使用すると、GlideRecord が正しいクラスを持っていることが保証されます。異なるクラスには異なる属性があります。このユースケースでは、Windows サーバーは Linux サーバーとは異なる属性を持ちます。次の例は、正しいクラスの GlideRecord をその属性とともに取得する方法を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var now_GR = new
 GlideRecordUtil().getGR( "cmdb_ci_computer", "2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe
5d56");
```

GlideRecord のすべてのフィールドの取得

getFields(now_GR) メソッドは、指定された GlideRecord に存在するすべてのフィールドまたは属性の JavaScript オブジェクト (ハッシュマップなど) を返します。

```
var now_GR = new
 GlideRecordUtil().getGR("cmdb_ci_computer", "2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe5
d56");
var fields = new GlideRecordUtil().getFields(now_GR);
gs.log(fields.join(" ")); // List all the fields that are in a computer CI
```

GlideRecord オブジェクトフィールドの入力

populateFromGR(hashmap, gr,ignore) メソッドを使用すると、GlideRecord オブジェクトを取得して、そのフィールドと値を JavaScript オブジェクトに入力できます。3 番目の引数 (*ignore*) は、特定のフィールドを除外できるようにするオプションの JavaScript オブジェクトです。たとえば、GlideRecord の *sys_created_by* または *sys_updated_by* フィールドを気にする必要がない場合があります。

```
var objectToPopulate = { };
var now_GR = new
 GlideRecordUtil().getGR("cmdb_ci_computer", "2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe5
d56");
var ignore = {"sys_created_on": true, "sys_updated_by": true};
new GlideRecordUtil().populateFromGR(objectToPopulate, now_GR, ignore);
// Now the objectToPopulate contains field/value pairs from the computer GlideRecord
```

mergeToGR(hashmap, gr,ignore) メソッドを使用すると、GlideRecord にフィールド/値のペアのオブジェクトを入力できます。ignore 引数は、指定されたフィールドの更新を停止します。次のコード例では、コンピューターレコードの *name* フィールドと *os* フィールドが更新されますが、*sys_created_by* フィールドは更新されません。

```
var now_GR = new
 GlideRecordUtil().getGR("cmdb_ci_computer", "2dfd7c8437201000deeabfc8bcbe5
d56");
var obj = {"name": "xyz", "os": "windows 2000", "sys_created_by", "aleck.lin"};
var ignore = {"sys_created_by": true};
new GlideRecordUtil().mergeToGR(obj, gr, ignore);
gr.update();
```

テーブル階層の取得

getTables(table) メソッドは、次の例に示すように、テーブル階層のリストを返します。

```
var tables = new GlideRecordUtil().getTables("cmdb_ci_linux_server");
gs.log(tables.join(","));
// The result would be "cmdb_ci, cmdb_ci_computer, cmdb_ci_server,
 cmdb_ci_linux_server".
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DiscoveryException と AutomationException の使用

ディスカバリー センサーとセンサー関連のスクリプトを記述するときに、 DiscoveryException または AutomationException を使用して、ディスカバリー から例外が発生したことを示すことができます。

DiscoveryException スクリプトインクルードは *AutomationException* を拡張し、それは *GenericException* クラスを拡張します。次の例では、*DiscoveryException* を使用して例外をスローします。

```
function foo() {
  if (//condition matches) throw new DiscoveryException("The message", "The cause"); }
```

最初の引数は例外のメッセージを受け取り、2 番目の引数 (オプション) は例外の原因を受け取ります。次の例に示すように、例外を捕捉してログに記録することもできます。

```
try {
  foo();
}
catch(e) {
   if(e instanceof DiscoveryException)
     gs.log("A DiscoveryException occurred. It is " + e. getMessage() + " caused by
" + e.getCause()); }
```

上記の例は、*AutomationException* にも適用されます。*DiscoveryException* は通常、特にディスカバリーに例外処理を提供するために使用され、*AutomationException* はオーケストレーションと ディスカバリー の両方に適用される例外処理に使用されます。

プロセッサー

プロセッサーは、任意のサーバーサイド JavaScript コードを実行して TEXT または JSON などを出力できる、カスタマイズ可能な URL エンドポイントを提供します。カスタムプロセッサーの作成は廃止されました。

注: この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用します。

警告: プロセッサーを作成するときは、必ずプロセッサーに固有のパラメーター名を使用してください。たとえば、プロセッサーが法務レコードリストをエクスポートし、必要なパラメーターが受信者のメールアドレスである場合に、「email」といった語をパラメーター名として使用しないでください。プロセッサーの固有度が高いパラメーター名 (legal_export_recipient_email など) を作成します。これに従わずに、id、table、sys_id、service、catalog_id、view などをインスタンスパラメーター名として使用すると、予期しない結果が生じる可能性があります。

プロセッサーを作成するタイミング

カスタムプロセッサーを作成しないでください。この機能は廃止されました。カスタムプロセッサーを作成する代わりに REST API を使用してください。残りの情報は既存のプロセッサーのためにのみ残されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセッサーフォーム

フィールド	説明
名前	プロセッサーの一意の名前。
タイプ	プロセッサースクリプトのプログラミング言語。 次のオプションが含まれます。 • java：このオプションを選択しないでください • スクリプト
アプリケーション	このレコードを含んでいるアプリケーションです。
アクティブ	レコードを有効または無効にするフラグ。
CSRF 保護	インスタンスが CSRF トークンを使用しない限り、プロセッサーが実行されないように保護するオプション。
説明	プロセッサーの機能または目的の説明。
パラメーター	利用可能な入力パラメーターのリスト。 URL のパラメーター値を *<parameter name>=<parameter value>*として指定します。 **注:** パラメーター名はプロセッサー固有である必要があります。他のプロセッサーが使用する可能性がある一般的なパラメーター名は選択しないでください。プロセッサーで `id`、`sys_id`、`table` などの一般的なパラメーター名を使用すると、他の機能が中断させられる可能性があります。これは、そのパラメーターが URL に存在する場合に、プロセッサーの方が優先されるためです。たとえば、`id` パラメーターを持つプロセッサーは、同じレコード内のパス値に関係なく、ページ識別のためにそのパラメーターに依存する サービスポータル を中断します。
パス	このプロセッサーを呼び出すために使用される URI パス。 URL から次のようにプロセッサーを呼び出します。 `https://<instance name>.service-now.com/<Path>.do`
スクリプト	システムがこのプロセッサーを呼び出すときに実行される、即時実行関数。 この関数は、次の API オブジェクトの入力パラメーターを自動的に提供します。 • g_request • g_response • g_processor

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
保護ポリシー	このレコードのスクリプトを保護するために使用するポリシー。 次のオプションが含まれます。 • なし • 読み取り専用 • 保護

プロセッサー API コンポーネント

プロセッサーは、専用の API クラス、オブジェクト、およびメソッドにアクセスできます。

プロセッサー API コンポーネント

クラス、オブジェクト、またはメソッド	説明
`g_response`	HttpServletResponse タイプのオブジェクト。「GlideServletResponse」を参照してください。
`setContentType('text/html;charset=UTF-8')`	クライアントに送信される応答のコンテンツタイプを設定する GlideServletResponse メソッド。
`g_request`	HttpServletRequest タイプのオブジェクト。「HttpServletRequest」を参照してください。
`getParameter()`	URL パラメーターの値を取得する Glide メソッド。
`canRead()`	ユーザーがテーブルからデータを読み取ることができるかどうかを判断する GlideRecord メソッド。「GlideRecord」を参照してください。
`g_processor`	プロセッサー用の簡素化されたサーブレット。「GlideScriptedProcessor」を参照してください。
`writeOutput()`	クライアントに情報を表示する GlideScriptedProcessor メソッド。
`g_target`	プロセッサー URL のターゲットテーブル名を含むオブジェクト。たとえば、`incident.do` という URI を含むプロセッサーは、インシデントテーブルに適用されます。

プロセッサーのセキュリティ保護

ロール制限を使用してプロセッサーを不正使用から保護し、CSRF トークンを要求することで保護できます。

このタスクについて

注: この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用します。

テーブルのユーザーロール制限を再利用して、プロセッサーによるアクセスから保護することができます。この保護方法では、プロセッサーがテーブルデータにアクセスすることを前提としています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. プロセッサースクリプトが呼び出すテーブルにアクセスできるユーザーロールを作成または選択します。
2. [システム定義] > [プロセッサー] に移動します。
3. [スクリプト] で、次のコードブロックを追加します。

```
var now_GR = new GlideRecord('your_table_name');
// canRead() compares the table's ACL to the user making this request,
 and returns true if the logged-in user has read access to this table
if(gr.canRead())
{
  // Perform table query here
  g_processor.writeOutput('Success!');
} else {
  g_processor.writeOutput('You do not have permission to read table
 your_table_name');
}
```

4. 必要に応じて他のアクセス制限を使用するようにコードブロックを更新します。

   使用可能なアクセス関数には、次のものがあります。

   - *canCreate()*
   - *canRead()*
   - *canWrite()*
   - *canDelete()*

5. [更新] をクリックします。

CSRF トークンによるプロセッサーの保護

CSRF トークンを要求することで、プロセッサーを保護できます。

このタスクについて
スクリプトタイプのプロセッサーは、プロセッサーの実行前に CSRF トークンチェックを要求できます。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [プロセッサー]に移動します。
2. プロセッサーレコードを開きます。
3. **[CSRF** 保護] オプションを選択します。
4. [更新] をクリックします。

単純なプロセッサーの作成

URL クエリからスクリプトを実行する単純なプロセッサーを作成します。この機能は廃止されました。

始める前に
独自のデモインスタンスが必要です。

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

注: この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用します。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [プロセッサー]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. 以下の情報を入力します。

フィールド	値
名前	こんにちは
タイプ	スクリプト
パス	こんにちは
スクリプト	`var name= g_request.getParameter("name"); g_processor.writeOutput("text/plain","Hello "+name);`

4. [送信] を選択します。
5. インスタンスへの URL クエリを `https://instance.service-now.com/processor_name.do?parameter=value` の形式で入力します。
   例：`https://<instancename>.service-now.com/Hello.do?name=world`

複数テーブルプロセッサーの作成

インスタンス上のテーブルの行数をレポートする複数テーブルプロセッサーを作成します。この機能は廃止されました。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて

注: この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用してください

複数テーブルプロセッサーは、ユーザーがテーブルを読み取る権限を持っていることを確認することで、パフォーマンスとセキュリティの違反から保護します。大きすぎて安全に照会できない特定のテーブルについてはレポートしません。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [プロセッサー]に移動します。
   プロセッサーのリストが表示されます。
2. [新規] を選択します。
3. 以下の情報を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	TableSize
タイプ	**Javascript** を選択します
説明	テーブル内のレコード数を返します
パラメーター	サイズ
パス	<leave empty>

スクリプト：

```
g_response.setContentType('text/html;charset=UTF-8');
if(g_target === 'sys_email' || g_target === 'sys_log' )
{
  g_processor.writeOutput(g_target + ' table is too large to quickly
 count');
  } else {
    var count = new GlideAggregate(g_target);
    if( count.canRead() ) {
      count.addAggregate('COUNT');
      count.query();
      var records = 0;
      if (count.next()) {
        records = count.getAggregate('COUNT');
       }
       g_processor.writeOutput('table ' + g_target + ' has ' + records
 + ' records');
      } else {
       g_processor.writeOutput('You do not have access to table ' +
 g_target);
  }
}
```

4. [保存] を選択します。
5. 次の URL を入力して、新しいプロセッサーをテストします。
   `https://<instancename>.service-now.com/incident.do?SIZE` および `https://<instancename>.service-now.com/sys_user.do?SIZE`
   インスタンスはテーブル内のレコードの数をレポートします。たとえば、テーブルインシデントには `82` のレコードがあります。

カスタムプロセッサを作成

URL クエリからスクリプトを実行するカスタムプロセッサーを作成します。この機能は廃止されました。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

注: この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用します。

完了すると、次のタスクを実行できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 新しいプロセッサーの作成
- URL クエリからのスクリプトの実行

次の手順の例では、独自のデモンストレーション インスタンスがあることを前提としています。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [プロセッサー]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. [名前] フィールドに「`Hello`」と入力します。
4. [タイプ] フィールドで [スクリプト] を選択します。
5. [パス] フィールドに「`Hello`」と入力します。
6. [スクリプト] フィールドに次のコードを入力します。

```
var name = g_request.getParameter("name");
g_processor.writeOutput("text/plain", "Hello " + name);
```

7. [送信] を選択します。
8. インスタンスをログアウトし、新しいブラウザーウィンドウを開きます。
9. インスタンスへの URL クエリを `https://instance.service-now.com/processor_name.do?parameter=value` の形式で入力します。
   例：`https://<instance name>.service-now.com/Hello.do?name=world`
10. プロンプトが表示されたら、有効なユーザーの認証情報を入力します。

[スクリプト - バックグラウンド] モジュール

アドミニストレーターは [スクリプト - バックグラウンド] モジュールを使用して、サーバーから任意の JavaScript コードを実行できます。

[スクリプト - バックグラウンド] モジュールは、次のコンポーネントで構成されています。

- JavaScript を入力するテキストボックス
- アプリケーションスコープを指定するセレクター
- [スクリプトの実行 **(Run script)]** ボタン
- 利用可能なスコープのリスト
- [ロールバック用に記録？ **(Record for rollback?)]** チェックボックス。デフォルトで選択されています。スクリプト実行のロールバックコンテキストを作成します。スクリプトが実行された後、[スクリプトの実行と利用可能な復旧はこちら **(Script execution and recovery available here)]** リンクをクリックして、スクリプトをロールバックできる [スクリプト実行履歴] フォームに移動します。
- [サンドボックスで実行？ **(Execute in sandbox?)]** チェックボックス。制限などのサンドボックスでスクリプトを実行できるようにします。オンにした場合、データの挿入、更新、削除ができなくなります。
- [スクリプトレットとして実行？ **(Execute as scriptlet?)]** チェックボックス。スクリプトをスクリプトレットとして実行できるようにします。これにより、グローバルスコープおよびサーバー側の機能またはオブジェクトへのアクセス権がスクリプトに付与されます。チェックボックスがオフの場合、スクリプトはグローバルスコープで実行されますが、サーバー側の機能やオブジェクトにはアクセスできません。
- **[4** 時間後にキャンセル **(Cancel after 4 hours)]** チェック ボックス。デフォルトで選択されています。スクリプトが 4 時間経過しても実行されている場合は、スクリプトの実行をキャンセルします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトが実行されると、インスタンスは結果、情報、エラーメッセージを画面上部に表示します。

> **注:** フリーフォームの JavaScript を実行すると、システムが中断されたりデータが失われたりする可能性があります。本番インスタンスからはフリーフォームのスクリプトを実行しないでください。

デフォルトで、アドミニストレーターは権限を昇格させずにこのモジュールにアクセスできます。このモジュールにアクセスするために昇格された権限が必要な場合は、システムプロパティ *glide.script_processor.admin* を *security_admin* に設定します。

インストール設定

インストール設定は、計算された名前を持つグローバルビジネスルールです。インストール設定は、レコードが表示される直前に計算され、アクセス権とロールの動的な決定が容易になります。インストール設定では、設定をプログラムで決定できます。

フィールドとレコードへのアクセスを制御するインストール設定は、次のとおりです。

- CanRead()
- CanWrite()
- CanCreate()
- CanDelete()

これらの関数は、アクセスが許可されている場合は true を返し、許可されていない場合は false を返します。ロールを使用して計算された権限を使用する戻り値はありません。この関数は、変数 current コードを介して現在のレコードにアクセスします。

レコードの権限をチェックする関数の名前は、次のように設定名の前にレコード名を付けることによって形成されます。

```
record_nameCanRead()
```

同様に、レコード内のフィールドに対する権限は、関数名の前にレコード名、アンダースコア、およびフィールド名を付けることによって形成されます。

```
record_name_field_nameCanRead()
```

命名の例：

```
function incidentCanWrite() {} //  can user write to this record?
 function incident_numberCanWrite() {}  // can user write to the number
 field?
```

このサンプルビジネスルールは、以下に示すように、エントリが存在する場合に、sys_dictionary ファイルの名前フィールドの書き込みを制限します。

```
  // the element name cannot be written unless this is a new record (not
 yet in database)
  function sys_dictionary_nameCanWrite() {
    if (current.isNewRecord())
      return;

    return false;
  }
```

DurationCalculator を使用して期日を計算する

DurationCalculator スクリプトインクルードを使用すると、単純な期間またはスケジュールに基づく相対期間を使用して、期日を計算できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のスクリプトは、グローバル API DurationCalculator を使用して期日を計算する方法を示しています。スクリプトの最初の部分は、setStartDateTime() メソッドを使用して開始日時を設定し、calcDuration() メソッドを使用して、指定された開始日時から経過した連続時間「x」(秒数)で期日を決定する方法を示しています。スクリプトの後半は、*DurationCalculator* を使用してスケジュールに基づいて期日を計算する方法を示しています。スケジュールを使用すると、計算に勤務週の日数のみを含めるなど、将来の時間に対して「フィルター」を適用できます。たとえば、期間の計算に「平日」(月曜日から金曜日のみを含む) というスケジュールを適用し、開始日時が金曜日の 5:00 pm だとすると、2 日間の期間が追加されたときに、期日は火曜日の 5:00 pm となります。スケジュールを使用しなかった場合、期日は日曜日の 5:00 pm になります。スケジュールの詳細については、「スケジュールの作成と使用」を参照してください。

このスクリプトは切り取って、[スクリプト - バックグラウンド] ページに貼り付け、そのまま実行できます。また、ビジネスルールや UI アクションを作成するためのサンプルとして役立てることができ、サーバーサイドスクリプトを作成できるその他の場所でも使用できます。

```
/**
 * Demonstrate the use of DurationCalculator to compute a due date.
 *
 * You must have a start date and a duration. Then you can compute a
 * due date using the constraints of a schedule.
 */

gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */
function executeSample(){

    // First we need a DurationCalculator object.
    var dc = new DurationCalculator();

    // --------------- No schedule examples ------------------

    // Simple computation of a due date without using a schedule. Seconds
    // are added to the start date continuously to get to a due date.
    var gdt = new GlideDateTime("2012-05-01 00:00:00");
    dc.setStartDateTime(gdt);
    if(!dc.calcDuration(2*24*3600)){ // 2 days
      gs.log("*** Error calculating duration");
      return;
    }
    gs.log("calcDuration no schedule: " + dc.getEndDateTime()); //
 "2012-05-03 00:00:00" two days later

    // Start in the middle of the night (2:00 am) and compute a due date
 1 hour in the future
    // Without a schedule this yields 3:00 am.
    var gdt = new GlideDateTime("2012-05-03 02:00:00");
    dc.setStartDateTime(gdt);
    if(!dc.calcDuration(3600)){
      gs.log("*** Error calculating duration");
      return;
     }
    gs.log("Middle of night + 1 hour (no schedule): "+
 dc.getEndDateTime()); // No scheduled start date, just add 1 hour
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
   // -------------- Add a schedule to the date calculator
---------------------
   addSchedule(dc);

   // Start in the middle of the night and compute a due date 1 hour in
the future.
   // Since we start at 2:00 am the computation adds the 1 hour from the
start
   // of the day, 8:00am to get to 9:00am
   var gdt = new GlideDateTime("2012-05-03 02:00:00");
   dc.setStartDateTime(gdt);
   if(!dc.calcDuration(3600)){
     gs.log("*** Error calculating duration");
     return;
   }
   gs.log("Middle of night + 1 hour (with 8-5 schedule): " +
dc.getEndDateTime()); // 9:00 am

   // Start in the afternoon and add hours beyond quiting time. Our
schedule says the work day
   // ends at 5:00pm, if the duration extends beyond that, we roll over
to the next work day.
   // In this example we are adding 4 hours to 3:00pm which gives us
10:00 am the next day.
   var gdt = new GlideDateTime("2012-05-03 15:00:00");
   dc.setStartDateTime(gdt);

   if(!dc.calcDuration(4*3600)){
     gs.log("*** Error calculating duration");
     return;}
   gs.log("Afternoon + 4 hour (with 8-5 schedule): " +
dc.getEndDateTime()); // 10:00 am.

   // This is a demo of adding 2 hours repeatedly and examine the
result. This
   // is a good way to visualize the result of a due date calculation.
   var gdt = new GlideDateTime("2012-05-03 15:00:00");
   dc.setStartDateTime(gdt);
   for(var i=2; i<24; i+=1){
     if(!dc.calcDuration(i*3600)){
       gs.log("*** Error calculating duration");
       return;
     }
     gs.log("add "+ i +" hours gives due date: " + dc.getEndDateTime());
   }

   // Setting the timezone causes the schedule to be interpreted in the
specified timezone.
   // Run the same code as above with different timezone. Note that the
8 to 5 workday is
   // offset by the two hours as specified in our timezone.
   dc.setTimeZone("GMT-2");
   var gdt = new GlideDateTime("2012-05-03 15:00:00");
   dc.setStartDateTime(gdt);
   for(var i=2; i<24; i+=1){
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      if(!dc.calcDuration(i*3600)){
        gs.log("*** Error calculating duration");
        return;
      }
        gs.log("add "+ i +" hours gives due date (GMT-2): " +
 dc.getEndDateTime());
    }
}

/**
 * Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
 *
 * @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
 */
function addSchedule(durationCalculator){
    // Load the "8-5 weekdays excluding holidays" schedule into our
 duration calculator.
    var scheduleName = "8-5 weekdays excluding holidays";
    var grSched = new GlideRecord('cmn_schedule');
    grSched.addQuery('name', scheduleName);
    grSched.query();
    if(!grSched.next()){
      gs.log('*** Could not find schedule "'+ scheduleName +'"');
      return;
    }
    durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue(),"GMT");
}
```

DurationCalculator を使用した単純な期間の計算

単純な期間とは、2 つの日時の間の秒数です。

スケジュールを使用しない場合は、単純な日時減算になります。スケジュールを使用する場合は、スケジュールを参照して非勤務時間を計算から除外します。「休日を除く平日の 8:00 am ～ 5:00 pm」というスケジュールを使用するとします。この場合、月曜日の正午から火曜日の正午までの勤務時間は 9 時間です。単純な期間を計算するには、グローバル API *DurationCalculator* を初期化し、calcScheduleDuration() メソッドを呼び出します。

このスクリプトは、*DurationCalculator* を使用して単純な期間を計算する方法を示しています。

```
/**
 * Sample script demonstrating use of DurationCalculator to compute
 simple durations
 *
 */

gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */
function executeSample(){

    // First we need a DurationCalculator object.
    var dc = new DurationCalculator();

    // Compute a simple duration without any schedule. The arguments
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    // can also be of type GlideDateTime, such as fields from a
 GlideRecord.
    var dur = dc.calcScheduleDuration("2012-05-01", "2012-05-02");
    gs.log("calcScheduleDuration no schedule: " + dur); // 86400 seconds
 (24 hours)

    // The above sample is useful in limited cases. We almost always want
 to
    // use some schedule in a duration computation, let's load a
 schedule.
    addSchedule(dc);

    // Compute a duration using the schedule. The schedule
    // specifies a nine hour work day. The output of this is 32400
 seconds, or
    // a nine hour span.
    dur = dc.calcScheduleDuration("2012-05-23 12:00:00","2012-05-24
 12:00:00");
    gs.log("calcScheduleDuration with schedule: " + dur); // 32400
 seconds (9 hours)

    // Compute a duration that spans a weekend and holiday. Even though
 this
    // spans three days, it only spans 9 work hours based on the
 schedule.
    dur = dc.calcScheduleDuration("2012-05-25 12:00:00", "2012-05-29
 12:00:00");
    gs.log("calcScheduleDuration with schedule spaning holiday: " +
 dur); // 32400 seconds (9 hours)

    // Use the current date time in a calculation. The output of this is
    // dependent on when you run it.
    var now = new Date();
    dur = dc.calcScheduleDuration("2012-05-15", new GlideDateTime());
    gs.log("calcScheduleDuration with schedule to now: " + dur); //
 Different on every run.
}

/**
 * Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
 *
 * @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
 */
function addSchedule(durationCalculator){
    // Load the "8-5 weekdays excluding holidays" schedule into our
 duration calculator.
    var scheduleName = "8-5 weekdays excluding holidays";
    var grSched = new GlideRecord('cmn_schedule');
    grSched.addQuery('name', scheduleName);
    grSched.query();
    if(!grSched.next()){
        gs.log('*** Could not find schedule "'+ scheduleName +'"');
        return;
    }
    durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue());
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

相対期間の使用

相対期間は、差分計算から除外する 1 日の部分をスクリプトを使用して決定すること以外は、単純な期間とよく似ています。

このスクリプトは cmn_relative_duration テーブルに格納されており、[システムスケジューラー] > [スケジュール] > [相対期間] に移動して調べることができます。すぐに利用可能なインスタンスには、相対期間スクリプトの例がいくつかあります。

相対期間 sys_id は、初期化後にグローバル API DurationCalculator クラスのメソッド *calcRelativeDuration()* に渡されます。このメソッドが呼び出されると、DurationCalculator オブジェクトが変数 *calculator* として相対期間スクリプト (テーブル cmn_relative_duration に格納) に渡されます。したがって、作成して cmn_relative_duration に格納した相対期間スクリプトは、実行中の DurationCalculator に変数 *calculator* を介してアクセスでき ます。

次のスクリプトは、*DurationCalculator* を使用して相対期間を計算する方法を示しています。

```
/**
 * Sample use of relative duration calculation.
 *
 */

gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */
function executeSample(){

    // First we need a DurationCalculator object. We will also use
    // the out-of-box relative duration "2 bus days by 4pm"
    var dc = new DurationCalculator();
    var relDur = "3bf802c20a0a0b52008e2859cd8abcf2"; // 2 bus days by 4pm
 if before 10am
    addSchedule(dc);

    // Since our start date is before 10:00am our result is two days
 from// now at 4:00pm.
    var gdt = new GlideDateTime("2012-05-01 09:00:00");
    dc.setStartDateTime(gdt);
    if(!dc.calcRelativeDuration(relDur)){
      gs.log("*** calcRelativeDuration failed");
      return;
    }
    gs.log("Two days later 4:00pm: "+ dc.getEndDateTime());

    // Since our start date is after 10:00am our result is three days
 from
    // now at 4:00pm.
    var gdt = new GlideDateTime("2012-05-01 11:00:00");
    dc.setStartDateTime(gdt);
    if(!dc.calcRelativeDuration(relDur)){
      gs.log("*** calcRelativeDuration failed");
      return;
    }
    gs.log("Three days later 4:00pm: "+ dc.getEndDateTime());}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
/**
 * Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
 *
 * @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
 */
function addSchedule(durationCalculator){
    // Load the "8-5 weekdays excluding holidays" schedule into our
 duration calculator.
    var scheduleName ="8-5 weekdays excluding holidays";
    var grSched =new GlideRecord('cmn_schedule');
    grSched.addQuery('name', scheduleName);
    grSched.query();
    if(!grSched.next()){
      gs.log('*** Could not find schedule "'+ scheduleName +'"');
      return;}
    durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue(),"GMT");}
```

スクリプトでのテーブルのクエリ

GlideRecord API のメソッドを使用すると、テーブルからすべてのレコードを返したり、テーブルから特定の条件を満たすレコードを返したり、テキストインデックスグループ内の単一のテーブルまたは複数のテーブルから文字列を含むレコードを返したりできます。

GlideRecord API を使用してテーブルにクエリを実行します。API リファレンスについては、「GlideRecord - スコープ対象」を参照してください。

テーブルからすべてのレコードを返す

テーブルにクエリを実行するには、最初に GlideRecord オブジェクトを作成します。GlideRecord を作成するには、スクリプトで次を作成します。

```
var target = new GlideRecord('incident');
```

GlideRecord を作成すると、インシデントテーブルの GlideRecord オブジェクトである `target` 変数が作成されます。

インシデントテーブルのすべてのレコードを処理するには、次のスクリプトを追加します。

```
target.query(); // Issue the query to the database to get all records
while (target.next()) {
  // add code here to process the incident record
}
```

このスクリプトは、データベースに *`query()`* を発行します。*`next()`* を呼び出すたびに、処理のために次のレコードがロードされます。

クエリ条件を満たすテーブルからレコードを返す

ほとんどの場合、特定のレコードまたは特定のレコードのセットを取得する必要があり、取得するレコードを定義するいくつかの基準 (クエリ条件) があります。たとえば、優先度の値が 1 のすべてのインシデントレコードを取得する必要があるとします。これを実行するコードを次に示します。

```
var target = new GlideRecord('incident');
target.addQuery('priority',1);
target.query(); // Issue the query to the database to get relevant
 records
while (target.next()) {
  // add code here to process the incident record
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプルスクリプトに `target.addQuery('priority', 1);` が含まれていることに注目してください。この行は、*priority* フィールドが 1 に等しいレコードのみを要求していることを示しています。一般に、実行するクエリのほとんどは等価クエリです。つまり指定した値と等しいフィールドを持つレコードを検索するクエリです。そのため、等価演算子を指定する必要はありません。ただし、たとえば *priority* フィールドが 1 より大きいすべてのインシデントを検索するとします。この場合には、クエリに適用する演算子を指定します。

```
var target = new GlideRecord('incident') ;
target.addQuery('priority','>',1);
target.query(); // Issue the query to the database to get relevant
 records
while (target.next()) {
  // add code here to process the incident record
}
```

テーブルから文字列を含むレコードを返す

予約名 `'123TEXTQUERY321'` を使用して、テーブルのすべてのフィールドで一致する文字列を検索します。たとえば、このスクリプトは、文字列 'email' を含むフィールド値を持つレコードをインシデントテーブルから返します。

```
var now_GR = new GlideRecord('incident');
gr.addQuery('123TEXTQUERY321', 'email');
gr.query();
```

`'123TEXTQUERY321'` は、`addQuery()` メソッドの *name* パラメーターの予約済みオプションです。このオプションは、エンコードされたクエリ文字列で使用できます。たとえば、`gr.addQuery('123TEXTQUERY321', 'email');` の代わりに、`gr.addEncodedQuery('123TEXTQUERY321=email')` を使用できます。

文字列の検索では大文字と小文字が区別されません。`email`、`Email`、または `EMAIL` のいずれを検索しても、同じ結果が返されます。

注: 文字列検索を使用してクエリを実行する前に、検索するテーブルのテキストインデックス作成 (およびオプションで検索属性) を構成する必要があります。詳細については、「インデックス作成と検索のための単一のテーブルの構成」を参照してください。

テキストインデックスグループの複数のテーブルから文字列を含むレコードを返す

テキストインデックスグループのテーブル内の文字列を検索するには、`'123TEXTINDEXGROUP321'` 予約名を使用します。このオプションは、テキストインデックスグループの設定を使用して計算された関連性スコアの結果を返します。

注: テキストインデックスグループで一度にクエリできるテーブルは 1 つだけです。複数の単一テーブルクエリを発行して結果を結合し、関連性スコアで並べ替える場合は、このオプションを使用します。このオプションの利点は、個々のテーブルクエリの検索結果の関連性スコアが、テキストインデックスグループ内のすべてのテーブルで一貫して正規化されることです。

たとえば、このスクリプトは、「portal」インデックスグループに対して計算された関連性スコアと、キーワード「email」を含むレコードをナレッジテーブルから返します。

```
var now_GR = new GlideRecord('kb_knowledge');
gr.addQuery('123TEXTQUERY321', 'email');
gr.addQuery('123TEXTINDEXGROUP321', 'portal');
gr.query();
```

検索する「ポータル」インデックスグループ内の追加のテーブルごとに同様のクエリを作成し、個々のクエリの結果を結合して、関連性スコアが最も高い結果を最初に表示することができます。これら

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

の検索クエリはすべて同じテキストインデックスグループ検索設定を使用するため、結果の関連性スコアはすべて一貫して正規化されます。`gr.addQuery('123TEXTINDEXGROUP321', 'portal')` メソッドを使用せずに同じテーブルセットを検索した場合、個々のクエリの関連性スコアは異なる方法で正規化され、結合された結果セットをソートするための基準として役立ちません。

`'123TEXTINDEXGROUP321'` は、`addQuery()` メソッドの *name* パラメーターの予約済みオプションです。このオプションは、エンコードされたクエリ文字列で使用できます。たとえば、`gr.addQuery('123TEXTINDEXGROUP321', 'portal');` の代わりに、`gr.addEncodedQuery('123TEXTINDEXGROUP321=portal')` を使用できます。

複数のテーブルの文字列の検索では大文字と小文字が区別されません。`email`、`Email`、または `EMAIL` のいずれを検索しても、同じ結果が返されます。

注: インデックスグループ内のテーブルをクエリする前に、それらのテーブルのテキストインデックス作成と検索属性を構成し、インデックスグループにそれらを含める必要があります。詳細については、「インデックス作成と検索用の複数のテーブルの構成」を参照してください。インデックスグループ内のすべてのテーブルは、V4 インデックス形式を使用する必要があります。

使用可能な JavaScript 演算子

addQuery() 要求内で使用できる演算子について説明します。

使用可能な **JavaScript** 演算子

フィールド	定義	addQuery
=	フィールドは、指定された値と等しい必要があります。	addQuery('priority', '=', 1);
>	フィールドは、指定された値より大きい必要があります。	addQuery('priority', '>', 1);
<	フィールドは、指定された値より小さい必要があります。	addQuery('priority', '<', 3);
>=	フィールドは、指定された値以上である必要があります。	addQuery('priority', '>=', 1);
<=	フィールドは、指定された値以下である必要があります。	addQuery('priority', '<=', 3);
!=	フィールドは、指定された値と等しくなっていない必要があります。	addQuery('priority', '!=', 1);
STARTSWITH	フィールドは、指定された値で始まる必要があります。右側の例は、*short_description* フィールドが「Error」というテキストで始まるすべてのレコードを返します。	addQuery('short_description', 'STARTSWITH', 'Error');
CONTAINS	フィールドは、テキストのどこかに、指定された値が含まれている必要があります。右側の例では、*short_description* フィールド内のどこかに「Error」というテキストが含まれているすべてのレコードが返されます。 **注:** LIKE 演算はサポートされていません。アドミニストレーターは、クエリで CONTAINS を使用する必要があります。	addQuery('short_description', 'CONTAINS', 'Error');

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用可能な **JavaScript** 演算子 (続く)

フィールド	定義	addQuery
IN	カンマを許可する値のマップを取得し、他の要件を満たすレコードのコレクションを収集します。`Select * from <table> where short_description IN ('Error', 'Success', 'Failure')` と同じように動作します。これは `Select * from <table> where short_description='Error'` と同じです。たとえば、特定のアクティビティに属するすべての変数値のクエリを実行するには、*IN* 節を使用して、その sys_id をマップまたはカンマ区切りリストに格納します。次に、変数値テーブルにクエリを実行し、この sys_id のリストを指定します。	addQuery('short_description', 'IN', 'Error,Success,Failure');
ENDSWITH	フィールドは、指定された値で終了する必要があります。右側の例では、*short_description* フィールドが「Error」というテキストで終わるすべてのレコードを返します。	addQuery('short_description', 'ENDSWITH', 'Error');
DOES NOT CONTAIN	フィールドのパターンに一致しないレコードを選択します。この演算子は空のフィールドを取得しません。空の値の場合は、「is empty」または「is not empty」という演算子を使用します。右側の例では、*short_description* フィールドに「Error」という語が含まれていないすべてのレコードが返されます。	addQuery('short_description', 'DOES NOT CONTAIN', 'Error');
NOT IN	カンマを許可する値のマップを取得し、他の要件を満たすレコードのコレクションを収集します。次と同じように動作します。`Select * from <table> where short_description NOT IN ('Error')`	addQuery('short_description', 'NOT IN', 'Error,Success,Failure');
INSTANCEOF	拡張テーブルの指定された「クラス」のレコードのみを取得する特殊な演算子。右側のコード例は、コンピューターとして分類されているすべての構成アイテムを取得する方法を示しています。	addQuery('sys_class_name', 'INSTANCEOF', 'cmdb_ci_computer');

フィルターとクエリに使用できる演算子の詳細については、「フィルターとクエリに使用できる演算子」を参照してください。

NULL または NOT NULL のデータを検索するために使用できる特殊なメソッドもあります。*short_description* フィールドが指定されていない (null である) すべてのインシデントを検索するには、次のクエリを使用します。

```
var target = new GlideRecord('incident');
target.addNullQuery('short_description');
target.query(); // Issue the query to the database to get all records
while (target.next()) {
  // add code here to process the incident record
}
```

short_description が指定されているすべてのインシデントを検索するには、次のクエリを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var target = new GlideRecord('incident');
target.addNotNullQuery('short_description');
target.query(); // Issue the query to the database to get all records
while (target.next()) {
  // add code here to process the incident record
}
```

GlideRecord API とその使用可能なメソッドの詳細については、「GlideRecord」を参照してください。

GlideRecord クエリの例

これらの例は、さまざまな *GlideRecord* クエリを実行する方法を示しています。

クエリ

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.query();
while(rec.next()) {
  gs.print(rec.number + ' exists'); }
```

update

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.addQuery('active',true);
rec.query();
while(rec.next()) {
  rec.active = false;
  gs.print('Active incident ' + rec.number = ' closed');
  rec.update(); }
```

insert

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.initialize();
rec.short_description = 'Network problem';
rec.caller_id.setDisplayValue('Joe Employee');
rec.insert();
```

delete

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.addQuery('active',false);
rec.query();
while(rec.next()) {
  gs.print('Inactive incident ' + rec.number + ' deleted');
  rec.deleteRecord(); }
```

サービスカタログテーブルのクエリ

サービスカタログ要求アイテムテーブル [sc_req_item] の変数について直接クエリを実行することはできません。代わりに、変数名用と値用の 2 つのクエリを追加して、変数所有権テーブル [sc_item_option_mtom] にクエリを実行します。クエリは、要求アイテムにドット連結することができる多対多の関係を返します。次の例では、変数 *item_name* がありその値が *item_value* である要求アイテムを検索し、要求アイテム番号を表示します。

```
var now_GR = new GlideRecord('sc_item_option_mtom');
gr.addQuery('sc_item_option.item_option_new.name','item_name');
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
gr.addQuery('sc_item_option.value','item_value');
gr.query();

while(gr.next()) {
  gs.addInfoMessage(gr.request_item.number); }
```

詳細については、「GlideRecord」を参照してください。

注文ガイドの自動実行

サービスカタログ注文ガイドを使用すると、複数の注文アイテムを生成できる単一のサービスカタログ要求を作成できます。アドミニストレーターは注文ガイドを自動的に実行するように構成でき、サービスカタログ要求を手動で送信しなくてもワークフローまたはスクリプトから注文済みアイテムのセットを生成できます。アドミニストレーターは、注文ガイドの失敗を確認して再処理することもできます。

ユースケースとして、新しい従業員のオンボーディングワークフローで自動的に注文ガイドを実行し、その従業員のアイテムを注文できます。

注: 注文ガイド (つまり、最初のランディングページのオプション) ではなく、カタログアイテムのみを保存できます。

スクリプトからの注文ガイドの実行

サーバーサイドスクリプトを使用した注文ガイドの実行は、ワークフローを使用する場合よりも複雑ですが、柔軟性が高く、ワークフロー以外の状況でも使用できます。

たとえば、UI アクションまたはサーバーサイドのビジネスルールで注文ガイドスクリプトを使用できます。

注: 注文ガイドが自動的に実行されると、注文ガイドの UI ポリシーは適用されません。また、[オプションを選択] 画面のオプションは選択できないため、注文ガイドルールでこれらのオプションの合理的なデフォルトを定義して、処理の失敗を回避してください。

`SNC.ScriptableOrderGuide` Java クラスを使用して、スクリプトで注文ガイドを実行します。

`SNC.ScriptableOrderGuide(String orderGuideId)` コンストラクターを使用して、新しい ScriptableOrderGuide オブジェクトを作成します。

メソッドの概要

メソッド	リターン値	説明
process(String json)	ブーリアン	注文ガイドの入力として JSON エンコード文字列パラメーターを使用して、注文ガイドを実行します。処理が成功したかどうかに応じて *true* または *false* が返されます。 **注:** `opened_by` と `requested_for` の両方のパラメーターを注文ガイドに渡す必要があり、その両方に、有効なユーザーレコードの sys_id 値が必要です。 処理が成功し、注文ガイドによって要求が作成された場合は、`getRequest()` を使用して要求 GlideRecord を取得できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メソッド	リターン値	説明
		処理に失敗した場合は、*getFailure()* を使用して失敗した GlideRecord を取得し、reprocess を使用して再処理のためにスクリプトを送信できます。
reprocess(GlideRecord failure)	ブーリアン	失敗した GlideRecord に格納されている JSON エンコード文字列パラメーターを使用して、注文ガイドを再度実行します。
getMessage()	文字列	処理または再処理後に入力されたメッセージを取得します。
getRequest()	GlideRecord	要求 GlideRecord を取得します。
getFailure()	GlideRecord	スクリプト可能注文ガイド失敗 [sc_script_order_guide_failure] テーブルから、失敗 GlideRecord を取得します。

スクリプトの例

このスクリプトは、*IT Onboarding SOG* と呼ばれる注文ガイドを処理します。

```
// Creating the object to later be JSON encoded
var json =
 {"opened_by":"62826bf03710200044e0bfc8bcbe5df1","requested_for":"06826bf
03710200044e0bfc8bcbe5d8a","department":"221f3db5c6112284009f4becd3039cc9
"};

var now_GR = new GlideRecord("sc_cat_item_guide");
if (gr.get("name","IT Onboarding SOG")) {
  var sog = new SNC.ScriptableOrderGuide(gr.getValue("sys_id"));
  var result = sog.process(new JSON().encode(json));
  if(!result)
    gs.log("Processing the scriptable order guide failed with message: "
 + sog.getMessage());
  else {
    var request = sog.getRequest();
    gs.log("Request created - " + request.sys_id); } }
```

ワークフローからの注文ガイドの実行

より広範なワークフローベースのプロセスの一部として注文ガイドを含める場合は、ワークフローからの注文ガイドの実行が適しています。

たとえば、新しい従業員のオンボーディングワークフロー内のアクティビティで自動的に注文ガイドを実行し、その従業員のアイテムを注文できます。

注: 注文ガイドが自動的に実行されると、注文ガイドの UI ポリシーは適用されません。また、[オプションを選択] 画面のオプションは選択できないため、注文ガイドルールでこれらのオプションの合理的なデフォルトを定義して、処理の失敗を回避してください。

ワークフローから注文ガイドを実行するには、[スクリプト可能注文ガイド] ワークフローアクティビティを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローからの注文ガイドの実行

フィールド	説明
注文ガイド	このアクティビティが処理する注文ガイドの名前。たとえば、「サンプルの従業員オンボーディング **IT**」などです。
スクリプト	注文ガイドに情報を渡すスクリプトです。この情報は、*answer* 変数に割り当てられた JSON エンコード文字列パラメーターとして送信されます。 スクリプトは次の要件を満たす必要があります。 • スクリプト内の変数の名前は、注文ガイド内で使用されている名前と一致する必要があります。たとえば、注文ガイドがルール条件で *department* 変数を使用する場合、スクリプトは *department* パラメーターも渡す必要があります。 • *opened_by* と *requested_for* の両方のパラメーターを注文ガイドに渡す必要があり、その両方に、有効なユーザーレコードの sys_id 値が必要です。

結果

- 成功：アクティビティが注文ガイドを正常に処理しました。これは、要求が作成されたことを意味するものではありません。要求が作成された場合、要求 sys_id が、*sc_request* 変数の下のワークフロースクラッチパッドに追加されます。
- 失敗：注文ガイドの処理中にエラーが発生し、失敗レコードが作成されました。処理が失敗した場合は、失敗レコードを表示して編集できます。

ワークフローの例

サンプルの従業員オンボーディング **IT** ワークフローというワークフローでは、この例を使用して、オンボーディングプロセスの一部として新しい従業員の IT カタログアイテムを生成します。

アクティビティは、このスクリプトを使用して次のことを行います。

1. 以前に HR 変更レコードから生成された JSON 文字列を取得します。
2. その文字列に必須の *opened_by* および *requested_for* パラメーターを追加します。
3. 注文ガイドで処理する新しい文字列を送信します。

```
var parameters  = new JSON().decode(current.payload);

// Need to amend the json object to include additional values.
parameters.opened_by = current.opened_by + "";
parameters.requested_for = current.opened_for + "";

answer = new JSON().encode(parameters);
```

注文ガイドの失敗の表示

たとえば、実行中の注文ガイドが存在しない場合、注文ガイドの処理は失敗する可能性があります。注文ガイドの処理中にエラーが発生した場合、[失敗した注文ガイド処理] サブモジュールを使用して、エラーを確認して再処理できます。各失敗のレコードが作成されます。初期エラーの原因となったエラーを修正した後で、失敗した注文ガイドを再処理できます。

このタスクについて

失敗が発生した場合、スクリプト可能注文ガイド失敗 [sc_script_order_guide_failure] テーブルで失敗レコードが作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

障害の詳細を表示するには、[サービスカタログ] > [カタログ管理] > [失敗した注文ガイド処理] に移動して、失敗レコードを開きます。

障害の再処理：初期エラーの原因となったエラーを修正した場合は、失敗した注文ガイドを再処理できます。

手順

1. [サービスカタログ] > [カタログ管理] > [失敗した注文ガイド処理] に移動します。
2. 失敗レコードを開きます。
3. [再処理] 関連リンクをクリックします。

   1 つ以上の失敗を再処理するには、次のようにします。

   a. [サービスカタログ] > [カタログ管理] > [失敗した注文ガイド処理] に移動します。

   b. 再処理する 1 つ以上のレコードの横にあるチェックボックスをオンにします。

   c. [アクション] 選択リストから [再処理] を選択します。

実行計画のスクリプト可能なアサイン

各カタログアイテムには実行計画が関連付けられており、そのタイプのアイテムが注文されるたびに使用されます。計画が指定されていない場合は、デフォルトの計画が使用されます。このデフォルトはほとんどの組織で有効ですが、追加の基準に基づいて、実行計画を変更することが必要になる場合があります。

たとえば、基本システムのサービスカタログでは、新しい PC の要求は常に PC 配送計画を使用します。ただし、要求者がリモートの場所で作業している場合など、例外的な状況では、この計画を変更する必要があります。

この柔軟性を提供するために、スクリプトを使用して特定のカタログアイテムのデフォルトの実行計画を上書きできます。

スクリプト実行時の制限

実行計画スクリプトには、実装時に考慮する必要がある制限があります。

実行計画スクリプトの実行中：

- カタログタスクは実行計画が選択された後にのみ作成されるため、カタログタスクを操作することはできません。
- [合計配送時間] や [期日] などの一部のフィールドはまだ計算されていませんが、要求自体は `current.request()` を介してスクリプト内で使用できます。
- 承認はまだ生成されていません。

スクリプトの作成

実行計画スクリプトを記述するときは、次のガイドラインに従ってください。

実行計画スクリプトは、他のサーバーサイドの実行計画と同じグローバル変数や他の関数にアクセスできます。

- `current` は現在要求されているカタログアイテム `sc_req_item` です。
- `current.delivery_plan()` は、このカタログアイテムにアサインされた実行計画です。

スクリプトからの評価値は、実行計画の `sys_id` として使用されます。

簡単な例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
current.delivery_plan.setDisplayValue('PC Delivery Plan')
```

未定義または見つからないなどの無効な値が返された場合は、既存のアサイン値が使用されます。

複雑な例：

```
getexecutionplan();
function getexecutionplan() {
var location = current.request.requested_for.location.getDisplayValue();
// if we're in Atlanta
if (location == 'Atlanta') {
   // use the remote pc delivery plan instead of the normal one
   var remote_plan = new GlideRecord('sc_cat_item_delivery_plan');
   remote_plan.addQuery('name', 'Remote PC Delivery Plan');
   remote_plan.query();
   remote_plan.next();
   current.delivery_plan = remote_plan.sys_id;
   return remote_plan_sys_id;
   }
   return current_delivery_plan;
}
```

この例では、要求が Atlanta のユーザーに対するものである場合は常に、ServiceNow はリモート PC 配送計画を使用します。そうでない場合、実行計画は上書きされず、ServiceNow はカタログアイテムの通常の実行計画である PC 配送計画を使用します。

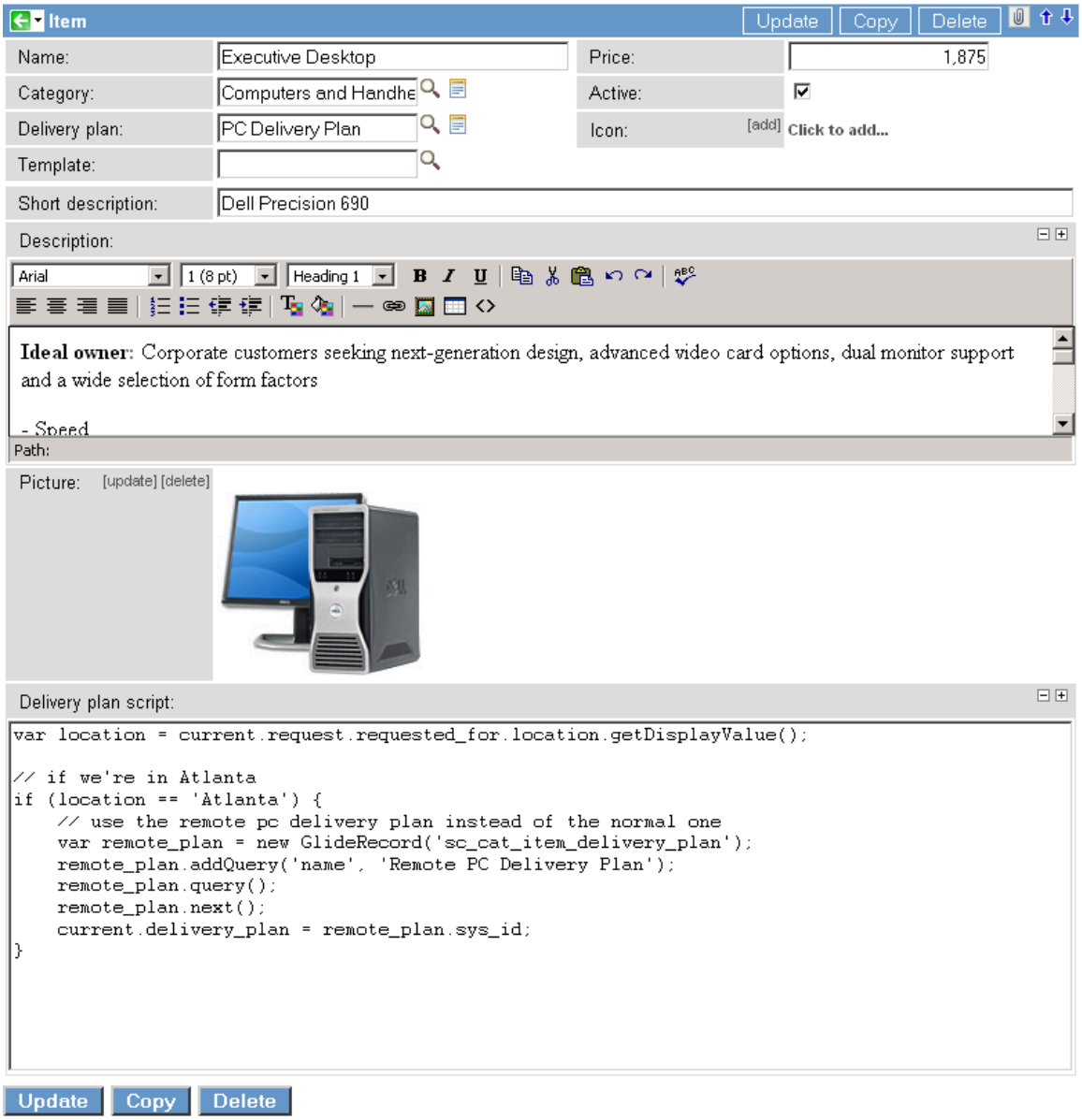
スクリプトのカタログアイテムへの追加

カタログアイテムにスクリプトを追加して、ユーザーがそのアイテムを要求するたびにスクリプトが実行されるようにすることができます。

手順

1. [すべて] > [サービスカタログ] > [アイテムの管理]に移動します。
2. スクリプトを追加する関連カタログアイテムを選択します。
3. カタログアイテムフォームを構成して、実行計画スクリプトフィールド (たいていは「配送計画スクリプト」という名前) を追加します。
4. スクリプトの詳細を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. アイテムフォームを変更して更新します。

タスクの結果

アイテムが要求されるたびにスクリプトが実行され、そのアイテムで実行する実行計画が選択されます。

スクリプトを使用した実行計画の承認

承認ルールスクリプトを使用して、実行計画を承認できます。

手順

1. 承認計画承認タスクを取得します。

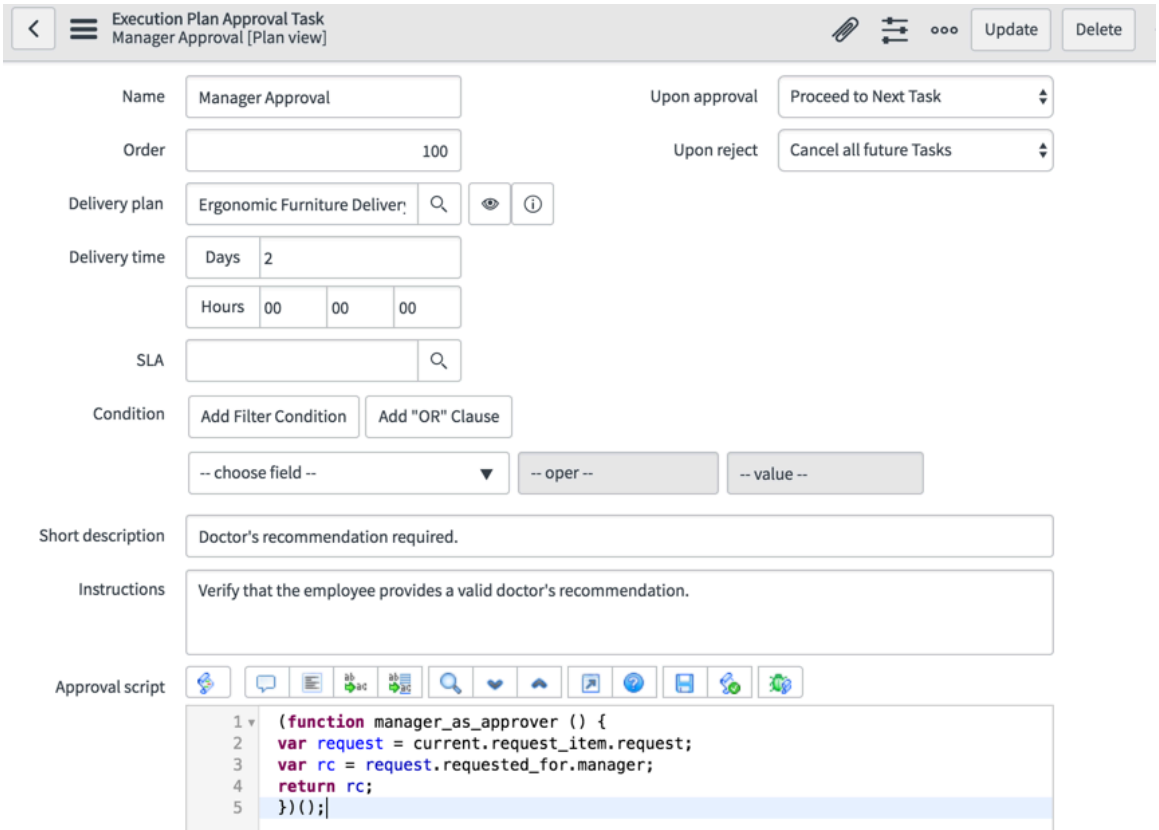
2. [承認スクリプト] フィールドを表示します。

3. 承認ルールで使用するものと同じ構文とルールを使用して、承認スクリプトを入力します。

Example:
たとえば、以下のスクリプトでは、要求者のマネージャーが承認者です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認者を指定するスクリプト



サーバーサイドスクリプトでの正規表現の使用

JavaScript 正規表現では、拡張された正規表現エンジンが自動的に使用されます。これにより、パフォーマンスが向上し、Mozilla JavaScript で定義されている標準正規表現のすべての動作がサポートされます。拡張正規表現エンジンは、正規表現での Java 構文の使用をサポートしています。

SNC.Regex API はスコープ対象のアプリケーションには使用できません。スコープ対象のアプリケーションの場合は、*SNC.Regex* API を削除し、標準の JavaScript 正規表現を使用します。

JavaScript 正規表現の詳細については、正規表現 と RegExp に関する Mozilla JavaScript のドキュメントを参照してください。

JavaScript 正規表現での Java 構文の使用

拡張正規表現エンジンには、Java 構文を JavaScript 正規表現で使用できるようにするための追加のフラグが含まれています。

追加フラグを含む正規表現は、正規表現が予期される `String.prototype.split` や `String.prototype.replace` などのすべての場所で機能します。正規表現で Java 構文を使用するには、Java インラインフラグ「j」を使用します。例： `/(?ims)ex(am)ple/j`

拡張正規表現フラグ

フラグ	説明
j	Java 正規表現エンジンを使用して実行する正規表現を定義します。これを使用すると、正規表現の Java 専用機能 (後読み、否定後読みなど) にアクセスしたり、Java 正規表現を JavaScript 正規表現に変換せずに使用したりすることができます。例： `var regex = /ex(am)ple/j;`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SNC 正規表現を拡張正規表現に変換

Eureka パッチ 5 以降のリリースにアップグレードする場合は、*SNC.Regex* API を使用するスクリプトを、正規の JavaScript 式を使用するように変換する必要があります。

手順

1. `SNC.Regex("/expr/is");` などの元の式から、スラッシュを削除したパターンを使用して、新しい正規表現オブジェクトを作成します。

   Example

   ```
   new RegExp('expr');
   ```

2. Java のインラインフラグの特別な構成を使用して、*SNC.Regex* フラグを式の先頭に移動します。

   Example

   ```
   new RegExp('(?is)expr');
   ```

3. `RegExp` に「*j*」フラグを追加して、式を Java 式として扱うようにエンジンに指示します。

   注: 変換されるスクリプトが Java 構文を使用していないとわかっている場合は、「*j*」フラグを使用する必要はありません。

   Example

   ```
   new RegExp('(?is)expr', 'j');
   ```

4. 複数の一致またはグローバル置換を処理するには、「*g*」フラグを追加します。

   Example

   ```
   new RegExp('(?is)expr', 'jg');
   ```

Example:
SNC.Regex の使用：

```
var r = new SNC.Regex('/world/');
var str = 'helloworld';
var replaced = r.replaceAll(str, 'there');
// replaced == 'hellothere'
```

JavaScript 正規表現の使用：

```
var r = new RegExp('world', 'jg');
var str = 'helloworld';
var replaced = str.replace(r, 'there');
// replaced == 'hellothere'
```

スクリプト可能サービスカタログ変数

スクリプティングを使用して、スコープ指定された環境およびスコープ指定されていない環境内のテーブルから任意の要求アイテム変数を参照できます。

変数参照の例を次に示します。

```
current.variables.<variable_name>
```

ここで current は現在のレコードを指し、*<variable_name>* は変数の名前です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: JavaScript から変数を参照するには、その変数に名前が必要です。

変数が変数セットの一部である場合、変数を current.variables.<variable_name> または current.variables.<variable_set_name>.<variable_name> として参照できます。

変数セットは、サービスカタログの第一級要素でもあります。変数と同様に、変数セットには読み取り、書き込み、作成の各ロールがあります。変数セットにロールが指定されている場合、ロールはそのセット内の変数に適用されます。個々の変数のロールは、変数セットのロールによって上書きされます。

変数を出力する

```
var original = current.variables.original_number;
gs.print(original);
```

変数を設定する

```
current.variables.name = "Auto-Generated:" + current.variables.asset_tag;
```

変数からフィールドセットでインベントリアイテムを作成する

```
doCreation();

function doCreation ( ) {
var create = current.variables.create_item;
if (create == 'true') { // we want to create an asset
  var computer = new GlideRecord('cmdb_ci_computer');
  computer.initialize();
  computer.asset_tag = current.variables.asset_tag;
  computer.serial_number = current.variables.serial_number;
  computer.name = current.variables.name;
  computer.manufacturer = current.variables.company;
  computer.insert(); } }
```

GlideRecord に関連付けられた変数と変数セットの **GlideElementVariable** を取得する

```
now_GR.variables
```

GlideRecord に関連付けられた変数の名前の値のペアを取得する

```
now_GR.variables.getVariableValue();
```

タスクレコード内の変数の **GlideElementVariable** のリストを取得する

```
now_GR.variables.getElements();
```

タスクレコード内の変数 (複数行の変数セットを含む) の **GlideElementVariable** のリストを取得する

```
now_GR.variables.getElements(true);
```

注: *`getElements()`* メソッドは、ラベル、ブレーク、コンテナ終了、コンテナ分割などのフォーマッター変数を除く、指定されたタスクレコードに存在するすべての変数を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideElementVariable の API

- *now_GR.variables.<var_name>.isMultiRow()*：GlideElementVariable が複数行の変数セットであるか変数であるかどうかを取得します。
- *now_GR.variables.<var_name>.getQuestion()*：変数の Question オブジェクトを取得します。変数 (*isMultiRow()* は false) にのみ適用され、複数行の変数セットには適用されません。
- *now_GR.variables.<var_name>.getLabel()*：GlideElementVariable のラベルを取得します。変数には、変数のラベルが返されます。複数行の変数セットには、変数セットのタイトルが返されます。
- *now_GR.variables.<var_name>.canRead()*：ユーザーが変数または複数行の変数セットを表示できるかどうかを取得します。
- *now_GR.variables.<var_name>.canWrite()*：ユーザーが変数または複数行の変数セットを編集できるかどうかを取得します。
- *now_GR.variables.<var_name>.getDecryptedValue()*：マスク済み変数の復号化された値を取得します。マスク済み変数にのみ適用されます。
- *now_GR.variables.<var_name>.getRows()*：複数行の変数セットの行オブジェクトのリストを取得します。複数行の変数セット (*isMultiRow()* は true) にのみ適用されます。
- *now_GR.variables.<var_name>.getRowCount()*：複数行の変数セットの行数を取得します。複数行の変数セット (*isMultiRow()* は true) にのみ適用されます。

タスクテーブルの GlideRecord の変数にアクセスする例

```
var now_GR = new GlideRecord('sc_req_item');
if (now_GR.get('635a1f5387320300e0ef0cf888cb0b73')) {
    var variables = now_GR.variables.getElements();
    for (var i=0;i<variables.length;i++) {
        var question = variables[i].getQuestion();
        gs.log(question.getLabel() + ":" + question.getValue())
    }
}
```

タスクテーブルの GlideRecord の複数行の変数セットにアクセスする例

```
var now_GR = new GlideRecord('sc_req_item');
now_GR.get('02c38dcd87013300e0ef0cf888cb0bb2');

var vars = now_GR.variables.getElements(true);

for (var i=0; i<vars.length; i++) {
    var now_V = vars[i];
    if (now_V.isMultiRow()) {
        var rows = now_V.getRows();
        for (var j=0; j<now_V.getRowCount(); j++) {
            var row = rows[j];
            var cells = row.getCells();
            for (var k=0; k<cells.length; k++) {
                var cell = cells[k];
                gs.info(cell.getLabel() + ":" +
 cell.getCellDisplayValue())
            }
        }
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    }
}
```

複数行の変数セット

複数行の変数セット

運用	使用法
テーブルの操作	
JSON アレイの値を文字列として返す	`now_GR.variables.table_var`
複数行の変数セットの値を設定する	`now_GR.variables.table_var = <val>` 注: 順序付けされた (キー、値) ペアのアレイも入力として適用できます。
複数行変数セットの列 var1 の値を取得する	`now_GR.variables.table_var.var1`
変数セット var1 の値を設定する	`now_GR.variables.table_var.var1 = <val>` 注: 順序付けされた (キー、値) ペアのアレイも入力として適用できます。
行の操作	
現在の行数を取得する	`now_GR.variables.table_var.getRowCount()`
変数「i」で指定された行を返す - getRow(<int> i)	`var row = now_GR.variables.table_var.getRow(<int> i);`
<var_name> にマップされた質問列のセル値を取得する	`row.<var_name>`
<var_name> にマップされた質問列のセル値を設定する	`row.setCellValue('<var_name>',value)`
<var_name> にマップされた質問列のセル値を設定する	`row.<var_name> = value`
テーブルの最後に空の行を追加し、スクリプト可能オブジェクトを返す	`var row = now_GR.variables.table_var.addRow()`
行を削除する	`row.deleteRow()`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注意と制限

- // table_Var の単一の列
- now_GR.variables.table_var.var1
- now_GR.variables.table_var.var1 = <val>

1. 前のビジネスルールに変数を設定することのみが可能です。後のルールに設定された変数はデータベースに書き込まれません。
2. 変数との名前空間の衝突を防ぐ方法は用意されていません。computer_speed という名前の 2 つの変数を作成すると、そのうちの 1 つだけが表示され、2 番目の変数で最初の変数が上書きされます。
3. 日付/時刻変数は、システム内の他のすべての日付と同じタイムゾーンのフォーマットおよびストレージルールを使用します。それらは GMT で内部的に保存されますが、表示用にはユーザーのローカルのタイムゾーンと形式に変換されます。

GlideRecord 変数を null に設定

GlideRecord 変数 (current を含む) は、データベース内での初期状態は null です。これらを空の文字列、スペース、または JavaScript null 値に戻しても、この初期状態には戻りません。

注: この機能を使用するには、JavaScript のナレッジが必要です。

初期状態に設定を戻すには、値を「NULL」に設定します。*update()* 関数は、現在のオブジェクトではなくレコードで実行されることに注意してください。オブジェクトは、レコードから再度呼び出されるまで初期値を表示します。

注: ここで説明する機能には、**admin** ロールが必要です。

例 1

```
var grIncident = new GlideRecord('incident');
grIncident.addNotNullQuery("assigned_to");
grIncident.query();
if (grIncident.next()) {
  gs.log(“The incident record that is going to be updated is ” +
 grIncident.number);
  gs.log("Previous Value of 'Assigned To' field: " +
 grIncident.assigned_to);
  grIncident.assigned_to = "NULL";
  grIncident.update();
  gs.log("Current Value of 'Assigned To' field: " +
 grIncident.assigned_to);
}
```

例 2 (ビジネスルール)

```
current.u_affected_value = 'NULL';
current.update();
```

スケジュールページ

スケジュールページは、カレンダーまたはタイムライン表示のカスタム生成を可能にする、スクリプトのコレクションを含むレコードです。

タイムラインスケジュールページを作成するには、ページ/イベントフローを理解し、クライアントおよびサーバーサイドの JavaScript を作成できる必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュールページフォーム

スケジュールページにアクセスするには、[システムスケジューラー] > [スケジュール] > [スケジュールページ] に移動します。

フォームには、選択したビュータイプに応じて次のフィールドが表示されます。

スケジュールページフォーム

フィールド	フィールドタイプ	説明
名前	文字列	現在のスケジュールページの識別に使用する一般名。
スケジュールタイプ	文字列	スケジュールタイプは、「sysparm_page_schedule_type」URI パラメーターを介してスケジュールを一意に識別するために使用する文字列です。たとえば、次のようにスケジュールページにアクセスです。 `/show_schedule_page.do?sysparm_type=gantt_chart&sysparm_timeline_task_id=d530bf907f0000015ce594fd9` または、「*sysparm_page_sys_id*」URI パラメーターをスケジュールページの 32 文字からなる 1 構成される一意のシステム識別子に設定すると、スケジュールページにもアクセスできます。
ビュータイプ	選択肢	各ビュータイプには、異なるフィールドの組み合わせが表示されます。利用可能なオプションは 2 つです。 • カレンダー • タイムライン
説明	文字列	現在のスケジュールページに関する詳細情報を表示する一般的な説明。このフィールドは必須ではあん。
Init 関数名	文字列	**注:** この機能は、[カレンダー] タイプのスケジュールページでのみ使用されます。 init 関数名は、[カレンダー] タイプのスケジュールページの [クライアントスクリプト] 関数内で呼び JavaScript 関数の名前を指定します。
HTML	文字列	**注:** この機能は、[カレンダー] タイプのスケジュールページでのみ使用されます。 HTML フィールドは、Jelly によって解析され、カレンダーの残りの部分より前に表示ページに挿入さ クリプト可能セクションです。これはサーバーから変数を渡すために使用し、必要かつ余分なフィー 義できます。
クライアントスクリプト	文字列	クライアントスクリプトは、スケジュールページの表示オプションを設定できるスクリプト作成可能ションです。API はスケジュールページのビュータイプによって異なり、説明は次のとおりです。
サーバー AJAX プロ	文字列	**注:** この機能は、[カレンダー] タイプのスケジュールページでのみ使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュールページフォーム (続く)

フィールド	フィールドタイプ	説明
セッサー		サーバー AJAX プロセッサーは、カレンダータイプのスケジュールページに特有のもので、表示するジュールアイテムとスパンのセットを返すために使用されます。

タイムラインスケジュールページ

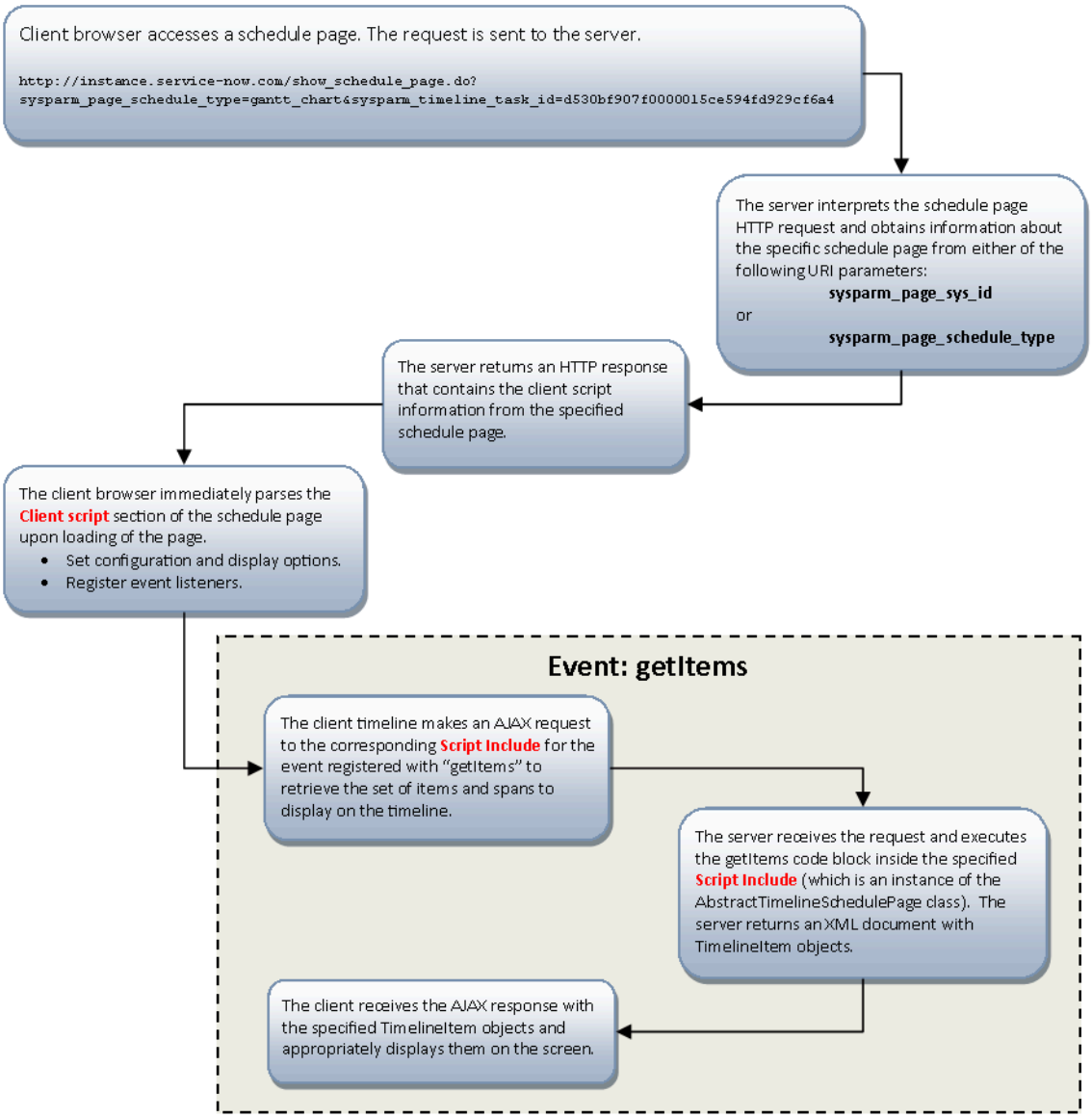
タイムラインスケジュールページは、時間ベースのポイントとスパンを「タイムライン」のような形式で表示するための構成情報を含む特定のレコードです。

タイムラインスケジュールページは、AbstractTimelineSchedulePage から拡張されたスクリプトインクルードを参照して、さまざまなイベントや条件に基づいてタイムラインを動的に変更します。スケジュールページとタイムライン生成用のスクリプトインクルードはどちらも、高度なカスタマイズが可能です。対応するアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) を以下に示します。

次の図は、タイムラインのスケジュールページにアクセスしたときに発生する一連のイベントを示しています。タイムラインがロードされると、タイムラインのインタラクション (タイムラインスパンの移動など) から発生するイベントなど、後続のすべてのイベントは、灰色のイベントボックスに表示されるものと同じロジックフローに従います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイムラインフロー



スケジュールページを使用してタイムラインを生成するアプリケーション

- プロジェクト管理
- メンテナンススケジュール
- グループオンコールローテーション
- フィールドサービス管理 (FSM)

タイムラインスケジュールページの例

次の例は、上記の API の大部分を利用して、対応するスクリプトインクルードでタイムラインスケジュールページを作成する方法を示しています。

この例では、プロジェクトサポートマネージャーのインシデントサマリータイムラインを作成して、すべての新しいインシデントをビジュアル化します。すべての新しいインシデントは、ポイントアイコンの違いでインシデントの優先度が区別される、単一のポイントとして表示されます。さらに、すべてのクローズ済みインシデントは、クローズされる前のインシデントの期間を示す別のグループとしてタイムラインに表示する必要があります。プロジェクトマネージャーは、解決済みの新しいアイテムをフォームリストを使用せずに簡単にクローズできる必要があるため、垂直移動イベントを処理

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

して、新しいインシデントをクローズ済みインシデントグループまたはその中のアイテムにドラッグできるようにします。

スケジュールページ

次のプロパティで新しいスケジュールページを作成します。

- 名前：ハードウェアインシデント
- スケジュールタイプ：incident_timeline
- ビュータイプ：タイムライン
- クライアントスクリプト：

```
// Set our page configuration
glideTimeline.setReadOnly(false);
glideTimeline.showLeftPane(true);
glideTimeline.showLeftPaneAsTree(true);
glideTimeline.showTimelineText(true);
glideTimeline.showDependencyLines(false);
glideTimeline.groupByParent(true);
glideTimeline.setDefaultPointIconClass('milestone');

// We will define what items to display and provide a custom event
 handler for moving new items to the closed state
glideTimeline.registerEvent('getItems', 'IncidentTimelineScriptInclude');
glideTimeline.registerEvent('elementMoveY',
 'IncidentTimelineScriptInclude');
```

スクリプトインクルード

スケジュールページが作成されたので、登録されたイベントの一致するスクリプトインクルードを生成する必要があります。次のプロパティで新しいスクリプトインクルードを作成します。

- 名前： IncidentTimelineScriptInclude
- アクティブ：オン
- クライアント呼び出し可能：オン
- **Script :**

```
// Class Imports

var IncidentTimelineScriptInclude = Class.create();
IncidentTimelineScriptInclude.prototype =
 Object.extendsObject(AbstractTimelineSchedulePage, {

  ////////////////////// //
 GET_ITEMS ////////////////////////////////////
  getItems:function() {
    // Specify the page title
    this.setPageTitle('My Custom Incident Summary Timeline');

    var groupNew = new GlideTimelineItem('new');
    groupNew.setLeftLabelText('New Incidents');
    groupNew.setImage('../images/icons/all.gifx');
    groupNew.setTextBold(true);
    this.add(groupNew);
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
   var groupClosed = new GlideTimelineItem('closed');
   groupClosed.setLeftLabelText('Closed Incidents');
   groupClosed.setImage('../images/icons/all.gifx');
   groupClosed.setTextBold(true);
   groupClosed.setIsDroppable(true);

   // This allows us to drag an open incident onto the closed group row.
   this.add(groupClosed);

   // Get all the incidents and let's add only the new/closed ones
 appropriately
   var now_GR = new GlideRecord('incident');
   gr.query();
   while(gr.next()) {
      // Only loop through new/closed incidents
      if(gr.incident_state != '1' && gr.incident_state != '7') continue;

      // Ok, we have a new/closed incident. Create the item and the span
 first.
      var item = new GlideTimelineItem(gr.getTableName(), gr.sys_id);
      var span = item.createTimelineSpan(gr.getTableName(), gr.sys_id);

      // Specific properties for a new incident
      if(gr.incident_state == '1') { // New
        item.setParent(groupNew.getSysId());
        item.setImage('../images/icons/open.gifx');

 span.setTimeSpan(gr.getElement('opened_at').getGlideObject().getNumericV
alue(),

 gr.getElement('opened_at').getGlideObject().getNumericValue());

        // We will show different colors based upon the priorities only
 for new incidents
        switch(gr.getElement('priority').toString()) {
          case '1': span.setPointIconClass('red_circle'); break;
          case '2': span.setPointIconClass('red_square'); break;
          case '3': span.setPointIconClass('blue_circle'); break;
          case '4': span.setPointIconClass('blue_square'); break;
          case '5': span.setPointIconClass('sepia_circle'); break;
          default: // Otherwise, the default point icon class will be
 used (Milestone)
         }
        }
       // Specific properties for a closed incident
       else if(gr.incident_state == '7') {
         item.setParent(groupClosed.getSysId());
         item.setImage('../images/icons/closed.gifx');

 span.setTimeSpan(gr.getElement('opened_at').getGlideObject().getNumericV
alue(),

 gr.getElement('closed_at').getGlideObject().getNumericValue()); }

        // Common item properties
        item.setLeftLabelText(gr.short_description);
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        // Common span properties
        span.setSpanText(gr.short_description);
        span.setTooltip('<strong>' +
GlideStringUtil.escapeHTML(gr.short_description) + '</strong><br>' +
gr.number);
        span.setAllowXMove(false);
        span.setAllowYMove(gr.canWrite() ? true:false);
        span.setAllowYMovePredecessor(false);
        span.setAllowXDragLeft(false);
        span.setAllowXDragRight(false);

        // Now we add the actual item
        this.add(item);
        } } ,


   ////////////////////////// //
ELEMENT_MOVE_Y //
////////////////////////////////////////////////////////////

   /**
   * This is one of the AbstractTimelineSchedulePage event handler
methods that corresponds to a vertical
   * move. The arguments for this function are defined in the API section
of the event handler methods.
   */
 elementMoveY: function(spanId, itemId, newItemId) {

    // Get information about the current incident
    var now_GR = new GlideRecord('incident');
    gr.addQuery('sys_id', spanId);
    gr.query();
    if(!gr.next())
      return this.setStatusError('Error', 'Unable to lookup the current
incident.');

    // Only allow the new incidents to have their state adjusted.
    if(gr.incident_state != '1')
      return this.setStatusError('Error','Only new incidents can have
their state adjusted.');

    // Get information about the dropped GlideTimelineItem. If it was
dropped in an item on the "New Incidents"
    // group let's do nothing. If it was dropped in the "Closed
Incidents" then let's adjust the state automatically.
    var grDropped = new GlideRecord('incident');
    grDropped.addQuery('sys_id', newItemId );
    grDropped.query();
    if(!grDropped.next() || grDropped.incident_state == '7') {
       // This means the dropped item was either the 'Closed Incidents'
group (which has no record or sys_id) or an
       // existing incident that is closed. The 'New Incidents' also has
no sys_id; however, the default behavior for
       // items without a sysId is to be non-droppable. This is why we
explicitly denoted the 'Closed Incidents' to
       // be marked as "droppable".
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      // Return a dialog prompt
      this.setStatusPrompt('Confirm', 'Are you sure you want to close: '
+
             '<div style="margin:10px 0 10px
14px;padding:4px;background-color:#EBEBEB;"><strong>' +
              GlideStringUtil.escapeHTML(gr.short_description) +
              '</strong><br/><div class="font_smaller">' + now_GR.
number + '</div></div>',
              'this._elementMoveYHandler_DoClose', // This function is
for when the OK button is clicked.
              'this._elementMoveYHandler_DoNothing', // This function is
for when the Cancel button is clicked.
              'this._elementMoveYHandler_DoNothing'); // This function
is for when the Close button is clicked.
      } } ,

 _elementMoveYHandler_DoClose: function(spanId, itemId, newItemId) {
   // Notice that this function takes the same function arguments as the
original function for which it
   // is a custom event handler for.

   // Update the database record from 'New' to 'Closed'.
   var now_GR = new GlideRecord('incident');
   gr.addQuery('sys_id', spanId);
   gr.query();
   gr.next();
   gr.setValue('incident_state', '7');
   gr.update();

   // This will re-render the timeline showing the updated item in the
closed group.
   this.setDoReRenderTimeline(true);

   // Let's show a success message
   this.setStatusSuccess('Success', '<strong>' + gr.short_description +
'</strong> was successfully closed.'); } ,

 // Since the user clicked cancel or close we simply do nothing.
 _elementMoveYHandler_DoNothing: function(spanId, itemId, newItemId) { }

});
```

スクリーンショット/結果

1. 移動先：

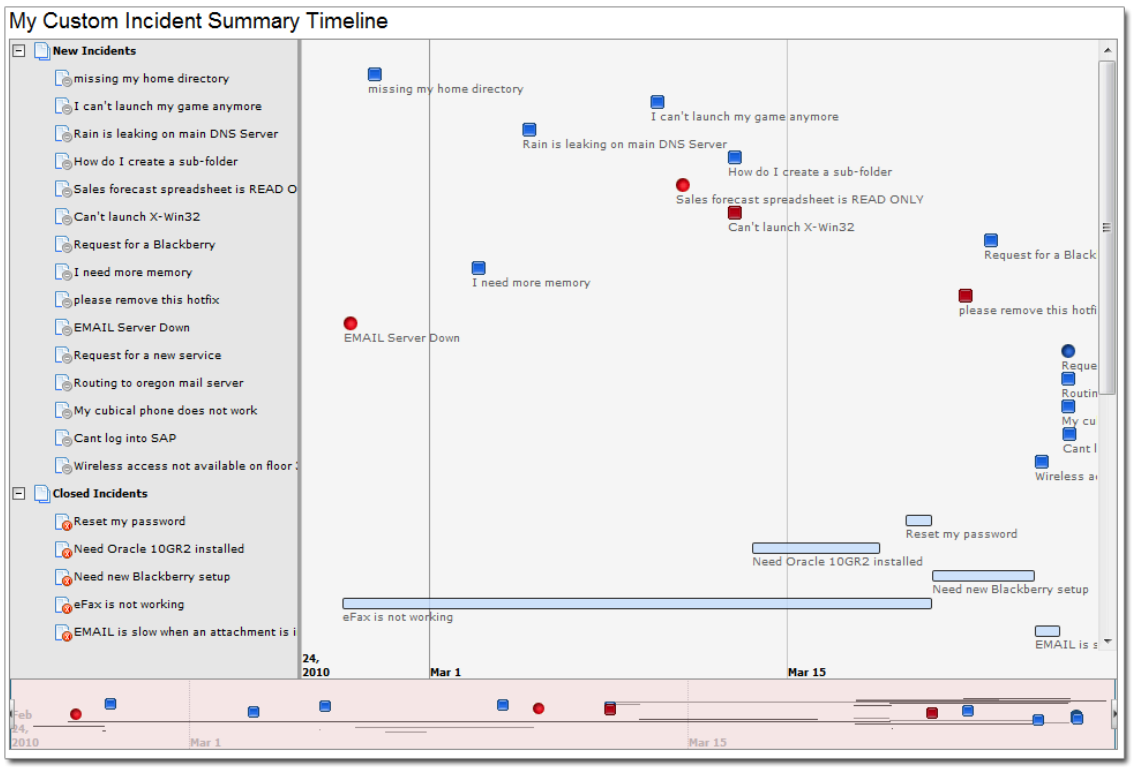
   ```
   http://[YOURINSTANCE]:8080/show_schedule_page.do?
   sysparm_page_schedule_type=incident_timeline
   ```

   太字のテキストは、スケジュールページの [スケジュールタイプ] フィールドの値です。

2. ページには、スケジュールページで指定されたタイムラインと作成されたスクリプトインクルードが表示されます。このページへのリンクを作成し、必要に応じてモジュールまたは UI アクションとして配置できます。

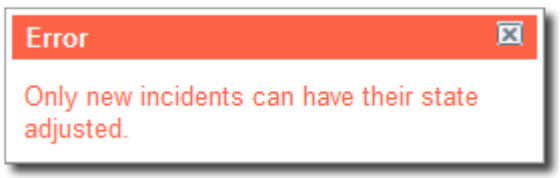
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイムラインのインシデントのプレビューの例



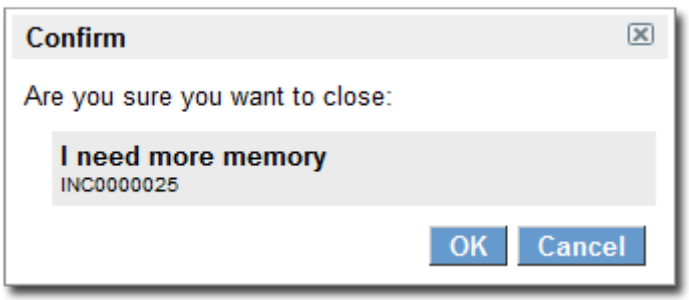
3. クローズ済みインシデントをいずれかの場所に移動しようとすると、予想されるエラーメッセージが表示されます。

タイムラインの移動エラーの例



4. インシデントの移動：次の確認ボックスに「さらにメモリが必要 *(I need more memory)*」と表示されます 。

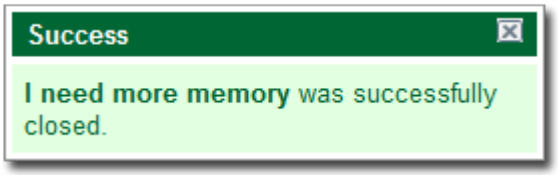
タイムラインのクローズ確認の例



5. [キャンセル] ボタンをクリックすると、オーバーレイが閉じられます。**[OK]** ボタンをクリックすると、実際にはレコードの incident_state が更新され、次の成功ボックスが表示されます。

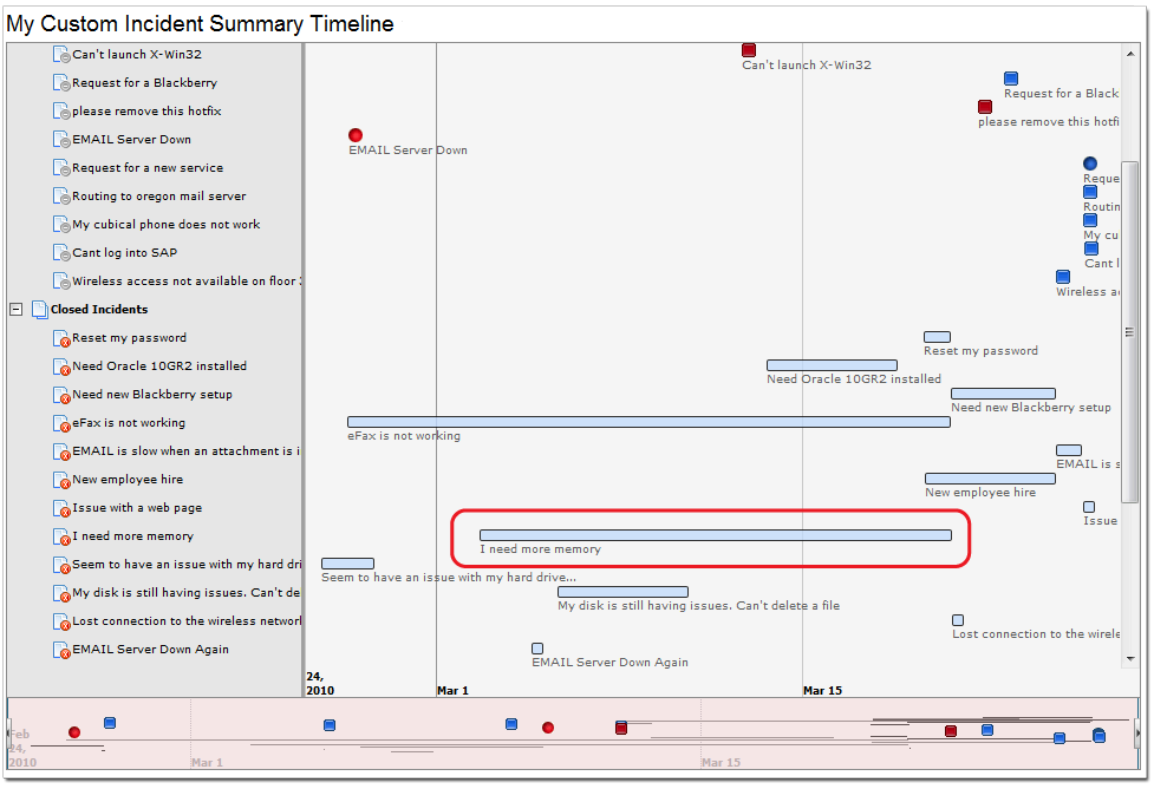
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイムラインのクローズ成功の例



6. **[OK]** をクリックすると、インシデントは [クローズ済みインシデント] グループにリストされるようになります。

タイムラインのインシデント更新の例



XMLDocument スクリプトオブジェクト

XML ドキュメント (文字列) から XML データを解析および抽出するための JavaScript オブジェクトラッパー。

この Javascript クラスを使用して、XML 文字列からオブジェクト (通常は Web サービスの呼び出しからの戻り値)、または ECC キューの XML ペイロードをインスタンス化します。Javascript ビジネスルールで XMLDocument オブジェクトを使用すると、XML 要素と属性から直接、値のクエリを実行できます。

コンストラクター

スクリプトオブジェクトのコンストラクターは、使用するオブジェクトの新しいインスタンスを作成します。

```
var xmlString = "<test>" +
                "  <one>" +
                "    <two att=\"xxx\">abcd1234</two>" +
                "    <three boo=\"yah\" att=\"yyy\">1234abcd</three>" +
                "    <two>another</two>" +
                "  </one>" +
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
                "  <number>1234</number>" +
                "</test>";

var xmldoc = new XMLDocument(xmlString);
```

名前空間で修飾された XML 文字列の XML 解析を実行するには、XMLDocument コンストラクターの 2 番目の引数に「true」を指定します。次の例は、要素の名前空間修飾を含む XML 文字列の解析です。

```
var xmlString = "<bk:book xmlns:bk='urn:loc.gov:books'
 xmlns:isbn='urn:ISBN:0-395-36341-6'>" +
                  "<bk:title>Cheaper by the Dozen</bk:title>" +
                  "<isbn:number>1568491379</isbn:number>" +
                "</bk:book>";

var xmldoc = new XMLDocument(xmlString, true); // XML document is name
 space aware
```

ノードと要素の配置

XMLDocument オブジェクトを準備できたので、次の API を呼び出して、XML ドキュメントのノードと要素を検索したり、そこからテキストを直接抽出したりできます。ノードと属性を検索するためのクエリ構文は、XPath に基づいています。

注: このオブジェクトの XML 解析は名前空間を認識しません。つまり、名前空間があるノード名 (たとえば「<names:myelement> ...」など) を検索する場合に、XPath 検索文字列は「//myelement」になります。

XPath でノードを検索し、結果のノードからテキスト値を取得する例を次に示します。

```
var str = xmldoc.getNodeText("//two"); // returns the first occurrence of
 the node
// str == "abcd1234"

str = xmldoc.getNodeText("//three");
// str == "1234abcd"

str = xmldoc.getNodeText("/test/one/*");
// str == "abcd1234"

str = xmldoc.getNodeInt("//number");
// str == 1234
```

次の例では、XPath でノードを検索し、ノードと要素で API を使用して属性と値を取得します。

```
var node = xmldoc.getNode("/test/one/two");
// node.getNodeName() == "two"
// node.getNodeType() == "1" // 1 == ELEMENT_NODE
// node.getLastChild().getNodeType() == "3" // 3 == TEXT_NODE
// node.getLastChild().getNodeValue() == "abcd1234"
```

または、次の便利な関数を使用してノード名とタイプを取得することもできます

```
str = xmldoc.getNodeName("//three");
// str == "three"

str = xmldoc.getNodeType("//three");
// str == "1"
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

反復できる、または位置により直接アクセスできるノードのリストを取得することもできます

```
var nodelist = xmldoc.getNodes("//one/*"); // two, three, and two
// nodelist.getLength() == "3"
// nodelist.item(0).getNodeName() == "two"
// nodelist.item(1).getNodeName() == "three"
```

次の例は、名前空間で修飾された XML 文字列の解析です。

```
var xmlString = "<bk:book xmlns:bk='urn:loc.gov:books'
 xmlns:isbn='urn:ISBN:0-395-36341-6'>" +
                  "<bk:title>Cheaper by the Dozen</bk:title>" +
                  "<isbn:number>1568491379</isbn:number>" +
                "</bk:book>";

var xmldoc = new XMLDocument(xmlString, true);
var str = xmldoc.getNodeText("//bk:title"); // returns the first
 occurence of the node
gs.log(str);

str = xmldoc.getNodeText("/bk:book/*");
gs.log(str);

str = xmldoc.getNodeInt("//isbn:number");
gs.log(str);
```

属性値の取得

属性は単なるノードの拡張であるため、まったく同じ API を持ちます。

次の例は、ノードにクエリを実行して、その属性を位置で取得する方法を示しています

```
node = xmldoc.getNode("//two");
// node.getAttributes().item(0).getNodeValue() == "xxx"

str = xmldoc.getAttribute("//two", "att");
// str == "xxx"
```

XPath には、属性ノードを直接検索するためのクエリ構文もあります。以下に例を示します。

```
str = xmldoc.getNodeText("//*[@att=\"yyy\"]");
// str == "1234abcd"

str = xmldoc.getNode("//@boo").getNodeValue();
// str == "yah"
```

新しい要素の作成

XML ドキュメントが作成されれば、XML ドキュメントのどのレベルでも XML 要素を作成できます。*setCurrent* 関数を使用して新しい要素を子要素として作成する位置を指定し、*createElement* 関数を使用して要素を作成します。

```
var xmlString = "<test>" +
                "  <one>" +
                "    <two att=\"xxx\">abcd1234</two>" +
                "    <three boo=\"yah\" att=\"yyy\">1234abcd</three>" +
                "    <two>another</two>" +
                "  </one>" +
                "  <number>1234</number>" +
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
                "</test>";

var xmldoc = new XMLDocument(xmlString);
xmldoc.createElement("new", "test"); // creates the new element at the
 document element level if setCurrent is never called
xmldoc.createElement("new2"); // calling without a value will create a
 new element by itself

var el = xmldoc.createElement("new3");
xmldoc.setCurrent(el); // this is now the parent of any new elements
 created subsequently using createElement()
xmldoc.createElement("newChild", "test");
```

結果の XML ドキュメントは次のようになります

```
<test>
  <one>
    <two att="xxx">abcd1234</two>
    <three boo="yah" att="yyy">1234abcd</three>
    <two>another</two>
  </one>
  <number>1234</number>
  <new>test<new>
  <new2/>
  <new3>
      <newChild>test</newChild>
  </new3>
</test>
```

XMLHelper

XML ヘルパースクリプトインクルードを使用すると、スクリプト内の XML を簡単に解析できます。

XML を JSON に、または JSON を XML にエクスポートするには、次のメソッドを使用します。

- *toObject()* メソッドは、XML 要素を JSON プロパティとして返します。このメソッドは、指定されたパラメーターが XML ドキュメントまたは XML 文字列のどちらであるとしても正常に機能します。このメソッドには、 コンストラクターで XML 入力を指定する代替として、変換の XML 入力のオプションのパラメーターがあります。
- *toXMLDoc()* メソッドは、XML 要素として提供された JSON を返します。

注: XML 内のアンパサンド文字 (&) はエスケープする必要があります。そうしないと、変換はサイレントで失敗します。

例

次の例は、XML ドキュメントを JSON に変換し、再帰関数を使用して各メンバーを出力する方法を示しています。再帰関数は、XML ドキュメント構造が JSON としてどのようにレンダリングされるかを示すのに役立ちます。

```
var xmlString = "<company>" + "<employee>" + "<id>10</id>"
 + "<firstname>Tom</firstname>" + "<lastname>Cruise</lastname>" +
 "<test>test1</test>"
 + "<test>test3</test>" + "</employee>" + "<employee>" + "<id>20</id>" +
 "<firstname>Paul</firstname>"
 + "<lastname>Enderson</lastname>" + "<test>test6</test>" +
 "<test>test5</test>" + "</employee>" + "<employee>"
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
 + "<id>30</id>" + "<firstname>Paul</firstname>" +
 "<lastname>Bush</lastname>" + "<test>test2</test>"
 + "<test>test4</test>" + "</employee>" + "</company>";
var helper = new XMLHelper(xmlString);
var obj = helper.toObject();
logObj(obj, "*");

function logObj(obj, sep) {
  for (x in obj) {
    if (typeof obj[x] != "function") {
      gs.log(sep + x + ":: " + obj[x]);
    }
    logObj(obj[x], sep + "*");
  }
}
```

出力：

```
*** Script: *employee:: [object Object],[object Object],[object Object]
*** Script: **2:: [object Object]
*** Script: ***id:: 30
*** Script: ***test:: test2,test4
*** Script: ****0:: test2
*** Script: ****1:: test4
*** Script: ***firstname:: Paul
*** Script: ***lastname:: Bush
*** Script: **0:: [object Object]
*** Script: ***id:: 10
*** Script: ***test:: test1,test3
*** Script: ****0:: test1
*** Script: ****1:: test3
*** Script: ***firstname:: Tom
*** Script: ***lastname:: Cruise
*** Script: **1:: [object Object]
*** Script: ***id:: 20
*** Script: ***test:: test6,test5
*** Script: ****0:: test6
*** Script: ****1:: test5
*** Script: ***firstname:: Paul
*** Script: ***lastname:: Enderson
```

プラットフォーム上の **JavaScript** エンジン

サーバーサイドスクリプトを評価する JavaScript エンジンは、ECMAScript 2021 (ES12) 標準をサポートしています。

新しい JavaScript エンジンをインストールする際に、プラグインやプロパティは必要ありません。

新しいエンジンのメリットは次のとおりです。

- オプションのチェーン、デストラクチャリング、const 宣言、let 宣言、アロー関数などの最新のライブラリコードとスクリプト機能
- 標準 ECMAScript 2021 に準拠した動作

留意点

JavaScript エンジンは、スクリプトを開発するための改善された環境を提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Xanadu リリース以降、新しいスクリプトを作成すると、アプリケーションで構成されている JavaScript モードに関係なく、ECMAScript 2021 (ES12) モードがデフォルトでオンになります。
- Tokyo リリース以降、新規および既存のスコープ対象のアプリケーションは ECMAScript 2021 (ES12) モードで実行できます。
- 互換モードは、従来の JavaScript エンジンに対する従来の変更点をサポートしています。
- 従来のコードは引き続き機能します。

JavaScript エンジンが使用するモードは、アプリケーションのデザインおよびランタイム設定で構成します。使用可能なモードは、ECMAScript 2021 (ES12)、ES5 標準、および互換性です。

関連情報

カスタムアプリケーションレコードを更新する

JavaScript モード

JavaScript モードは、カスタムアプリケーションとスクリプトの設計および実行時の設定です。既存のサーバー側スクリプトと、ECMAScript 2021 標準に合わせて新しく開発されたスクリプトをサポートするために、JavaScript エンジンには ECMAScript 2021 (ES12)、ES5 標準、および互換の 3 つのモードがあります。

JavaScript モードは、アプリケーションまたはスクリプトでアクセスできる JavaScript 機能を制御します。新しいスコープ対象のアプリケーションのデフォルトモードは ECMAScript 2021 (ES12) で、新しいグローバルアプリケーションのデフォルトモードは ES5 標準です。ES5 標準または互換モードを使用するアプリケーションの個々のスクリプトに対して、ECMAScript 2021 (ES12) モードを有効にすることもできます。

ECMAScript 2021 (ES12) および ES5 標準モードでサポートされている機能の詳細については、「JavaScript エンジン機能のサポート」を参照してください。

ECMAScript 2021 (ES12) モード

スコープ対象のアプリケーションを新しく作成する場合は、ECMAScript 2021 (ES12) モードがデフォルトモードになります。新しいスクリプトを作成すると、アプリケーションで構成されている JavaScript モードに関係なく、ECMAScript 2021 (ES12) モードがデフォルトでオンになります。このモードは、Tokyo より前の JavaScript エンジンの従来動作を保持せず、グローバルスクリプトを操作しません。

ECMAScript 2021 (ES12) モードは、ECMAScript 2021 (ES12) および ECMAScript 2022 (ES13) 構文と機能のサブセットをサポートしており、それには次の機能が含まれます。

- デフォルトの関数パラメーター
- Rest パラメーター
- For-of ループ
- テンプレートリテラル
- デストラクチャリング
  - 宣言
  - アサイン
  - パラメーター
- const 宣言
- let 宣言
- アロー関数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- class 宣言
- マップセット
- オプションのチェーン演算子 `(?.)`

特定の ECMAScript 2021 (ES12) 機能については、ServiceNow 開発プログラム YouTube チャネルの「Let's Learn ECMAScript 2021 (ECMAScript 2021 を学びましょう)」のビデオを参照してください。

ES5 標準モード

ES5 標準モードは、グローバルアプリケーションのデフォルトモードであり、スコープ対象のアプリケーションのオプションです。このモードは、Helsinki より前の JavaScript エンジンの従来動作を保持することはありません。

ES5 標準モードは、ECMAScript5 構文と機能をサポートしており、それには次の機能が含まれます。

- 「use strict」宣言
- オブジェクトの拡張性の制御
- オブジェクトの get プロパティと set プロパティ (アクセサー)
- オブジェクトプロパティの書き込み、構成、および列挙の制御
- 新しい Array メソッドと Date メソッド
- ネイティブ JSON のサポート
- lodash.js や moment.js などの最新のサードパーティ製ライブラリのサポート

互換モード

互換性モードは、ES5 標準モードが追加される前に開発されたすべてのスクリプトに使用されます。互換性モードには、以前の JavaScript エンジンとは異なる点があります。

JSON サポートの変更 :

- `JSON.stringify()` および `JSON.parse()` は、ES5 ネイティブ JSON オブジェクトを使用して実装されています。
- 新しい `JSON().encode()` と新しい `JSON().decode()` は引き続きサポートされますが、レガシー動作が必要となる場合にのみ使用してください。

サードパーティの JavaScript ライブラリの使用は、互換性モードではサポート対象外です。

アプリケーションの JavaScript モードを設定する

JavaScript モードを選択して、アプリケーションで使用できる ECMAScript 機能を構成します。

始める前に

必要なロール：フルアクセスまたはアドミン権限を付与する委任開発者ロール

このタスクについて

JavaScript モードは、カスタムアプリケーションとスクリプトの設計および実行時の設定です。既存のサーバー側スクリプトと、ECMAScript 2021 標準に合わせて新しく開発されたスクリプトをサポートするために、JavaScript エンジンには ECMAScript 2021 (ES12)、ES5 標準、および互換の 3 つのモードがあります。各モードの詳細については、「JavaScript モード」を参照してください。

ES5 標準または互換モードを使用するアプリケーションでは、アプリケーションの個々のスクリプトに対して ECMAScript 2021 (ES12) を有効にすることもできます。詳細については、「スクリプトの ECMAScript 2021 (ES12) モードを有効にする」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 既存のアプリケーションで JavaScript モードを ECMAScript 2021 (ES12) に切り替えると、スクリプトの動作が変わる場合があります。詳細については、「」を参照してください。

手順

1. アプリケーションナビゲーターで、`sys_app.list` と入力します。
2. アプリケーションを選択します。
3. **[JavaScript** モード] フィールドで、使用するモードを選択します。
   - ECMAScript 2021 (ES12)：ECMAScript 2021 (ES12) および ECMAScript 2022 (ES13) 構文と機能のサブセットをサポートします。
   - ES5 Standards モード：ECMAScript5 の構文と機能をサポートします。
   - 互換モード：ES5 標準モードが追加される前に開発されたすべてのスクリプトに使用されます。
4. [更新] を選択します。

関連情報

カスタムアプリケーションレコードを更新する

スクリプトの **ECMAScript 2021 (ES12)** モードを有効にする

ES5 標準モードまたは互換モードを使用するアプリケーションのサーバー側スクリプトで、ECMAScript 2021 (ES12) モードでサポートされている最新の JavaScript 機能を使用します。

始める前に
必要なロール：委任開発者ロールまたは admin

このタスクについて
ES5 標準モードまたは互換モードを使用するように構成されたグローバルまたはスコープ対象のアプリケーションのスクリプトには、個々のスクリプトで ECMAScript 2021 (ES12) モードをオンにするオプションがあります。JavaScript モードが ECMAScript 2021 (ES12) に設定されているアプリケーションのすべてのスクリプトは、ECMAScript 2021 (ES12) を使用します。既存のスクリプトの JavaScript モードを ECMAScript 2021 (ES12) に切り替えると、スクリプトの動作が変わる可能性があります。

注: グローバルアプリケーションは、個々のスクリプトで ECMAScript 2021 (ES12) モードを使用できますが、アプリケーション全体では使用できません。

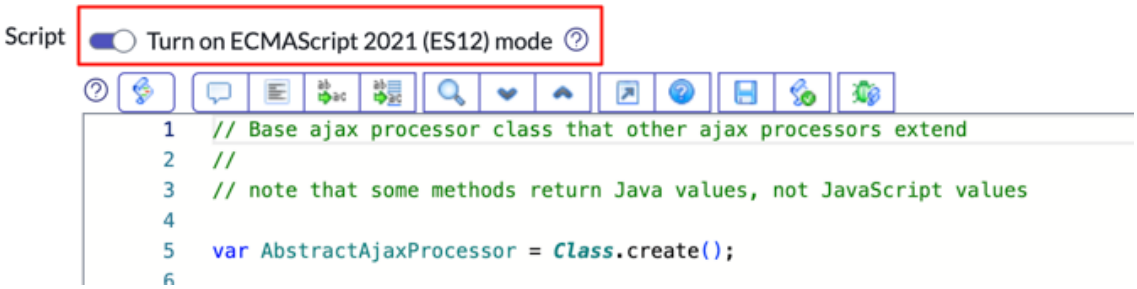
手順

1. スクリプトフィールドのあるフォームに移動します。

   Example
   たとえば、スクリプトインクルードフォームを開くには、[すべて] > [システム定義] > [スクリプトインクルード]に移動するか、ナビゲーションフィルターに `sys_script_include.list` と入力します。
2. 既存のスクリプトまたは [新規] を選択します。
3. **[ECMAScript 2021 (ES12)** モードをオンにする] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example



4. [送信] または [更新] を選択し、変更を保存します。

ES5 標準モードのスクリプトへのコードの移植

ES5 標準モードでは、互換モードで許容されるエラーが捕捉されます。

ES5 標準モードを使用して既存のスクリプトから新しいスコープ対象のスクリプトにコードを移植する場合は、次の動作の変化を考慮してください。

- ECMAScript5 は、`new Boolean(false)` という語を true に評価します。互換モードでは false と評価されていました。
- 存在しないプロパティが参照されると、ECMAScript5 は EcmaError をスローします。互換モードでは、エラーはスローされませんでした。
- 存在しない関数が呼び出されると、ECMAScript5 は EcmaError をスローします。互換モードでは、エラーはスローされませんでした。
- ECMAScript5 は新しい行を正しく処理します。以前は、コメントの後の改行文字が認識されていましたが、これは誤りです。この例では、互換モードで 3 つの関数がすべて呼び出されます。ECMAScript5 では、最初の関数のみが呼び出されます。

```
var expr = doFoo();  // do foo
           doBar();  // do bar
           finish();    // all done
 eval(expr);
```

- ECMAScript5 では、末尾インクリメントとデクリメントが正しく処理されます。この例では、互換モードの場合に変数 *x* がインクリメントされた値を取得しますが、これは誤りです。

```
var x = gr.limit++;
```

JavaScript エンジン機能のサポート

Xanadu の ECMAScript 2021 (ES12) と ES5 標準 JavaScript モード間の ECMAScript 機能を比較します。どちらのモードも ECMAScript 機能のサブセットをサポートしています。

これらの機能の詳細については、Ecma International の Web サイトで ECMAScript 言語仕様 (ECMA-262) を参照してください。

サポート定義

サポート対象

この機能はテストおよび検証済みです。

サポート対象外

この機能は現在のリリースでは検証されていません。

許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この機能は Now Platform プログラミングモデルに適合していないか、セキュリティまたはパフォーマンス上のリスクがあります。許可されていない機能はエラーになります。

ECMAScript 2022 (ES13) の機能

重要: コードを本番環境に展開する前に、サポートされている ECMAScript 2022 (ES13) 機能を使用してスクリプトを十分にテストする必要があります。これは、この ECMAScript バージョン全体で機能が新しく追加され、部分的にサポートされているためです。

インスタンスクラスのフィールド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
public instance class fields	サポート対象	サポート対象外
private instance class fields basic support	サポート対象外	サポート対象外
private instance class fields initializers	サポート対象外	サポート対象外
optional private instance class fields access	サポート対象外	サポート対象外
optional deep private instance class fields access	サポート対象外	サポート対象外
computed instance class fields	サポート対象	サポート対象外

Static class fields

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
public static class fields	サポート対象	サポート対象外
static class fields use [[Define]]	サポート対象	サポート対象外
private static class fields	サポート対象	サポート対象外
computed static class fields	サポート対象	サポート対象外

プライベートクラスのメソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
private instance methods	サポート対象外	サポート対象外
private static methods	サポート対象	サポート対象外
private accessor properties	サポート対象外	サポート対象外
private static accessor properties	サポート対象	サポート対象外

組み込みインデックス可能オブジェクトの **.at()** メソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Array.prototype.at()	サポート対象外	サポート対象外
String.prototype.at()	サポート対象	サポート対象外
%TypedArray%.prototype.at()	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Object.hasOwn

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Basic functionality	サポート対象	サポート対象外
ToObject called before ToPropertyKey	サポート対象	サポート対象外

Error.cause プロパティ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Error has cause	サポート対象	サポート対象外
Error.prototype lacks cause	サポート対象	サポート対象外
EvalError has cause	サポート対象	サポート対象外
EvalError.prototype lacks cause	サポート対象	サポート対象外
RangeError has cause	サポート対象	サポート対象外
RangeError.prototype lacks cause	サポート対象	サポート対象外
ReferenceError has cause	サポート対象	サポート対象外
ReferenceError.prototype lacks cause	サポート対象	サポート対象外
SyntaxError has cause	サポート対象	サポート対象外
SyntaxError.prototype lacks cause	サポート対象	サポート対象外
TypeError has cause	サポート対象	サポート対象外
TypeError.prototype lacks cause	サポート対象	サポート対象外
URIError has cause	サポート対象	サポート対象外
URIError.prototype lacks cause	サポート対象	サポート対象外
AggregateError has cause	サポート対象	サポート対象外
AggregateError.prototype lacks cause	サポート対象	サポート対象外

正規表現一致インデックス (「hasIndices」/「d」フラグ)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
constructor supports it	サポート対象外	サポート対象外
shows up in flags	サポート対象外	サポート対象外

Ergonomic brand checks for private fields

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Ergonomic brand checks for private fields	サポート対象外	サポート対象外

Class static initialization blocks

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Class static initialization blocks	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ECMAScript 2021 (ES12) の機能

Promise.any

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
fulfillment	許可されていない	許可されていない
AggregateError	許可されていない	許可されていない

WeakReferences

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
WeakRef minimal support	許可されていない	許可されていない
FinalizationRegistry minimal support	許可されていない	許可されていない

論理アサイン

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
||= basic support	サポート対象	サポート対象外
||= short-circuiting behavior	サポート対象	サポート対象外
||= setter not unnecessarily invoked	サポート対象	サポート対象外
&&= basic support	サポート対象	サポート対象外
&&= short-circuiting behavior	サポート対象	サポート対象外
&&= setter not unnecessarily invoked	サポート対象	サポート対象外
??= basic support	サポート対象	サポート対象外
??= short-circuiting behavior	サポート対象	サポート対象外
??= setter not unnecessarily invoked	サポート対象	サポート対象外

数値セパレーター

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
numeric separators	サポート対象	サポート対象外

String.prototype.replaceAll

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
String.prototype.replaceAll	サポート対象	サポート対象

ECMAScript 2020 (ES11) の機能

String.prototype.matchAll

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

String.prototype.matchAll (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
throws on non-global regex	サポート対象	サポート対象外

BigInt

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	サポート対象外	サポート対象外
constructor	サポート対象外	サポート対象外
BigInt.asUintN	サポート対象外	サポート対象外
BigInt.asIntN	サポート対象外	サポート対象外
BigInt64Array	サポート対象外	サポート対象外
BigUint64Array	サポート対象外	サポート対象外
DataView.prototype.getBigInt64	サポート対象外	サポート対象外
DataView.prototype.getBigUint64	サポート対象外	サポート対象外

globalThis

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
"globalThis" global property is global object	許可されていない	許可されていない
"globalThis" global property has correct property descriptor	許可されていない	許可されていない

Optional chaining operator (?.)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
optional property access	サポート対象	サポート対象外
optional bracket access	サポート対象	サポート対象外
optional method call	サポート対象	サポート対象外
optional function call	サポート対象	サポート対象外
spread parameters after optional chaining	サポート対象	サポート対象外

Promise.allSettled

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Promise.allSettled	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Nullish coalescing operator (??)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
nullish coalescing operator (??)	サポート対象	サポート対象外

ECMAScript 2019 (ES10) の機能

Symbol.prototype.description

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic	サポート対象	サポート対象外
empty description	サポート対象	サポート対象外
undefined description	サポート対象	サポート対象外

文字列のトリミング

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
String.prototype.trimLeft	サポート対象	サポート対象
String.prototype.trimRight	サポート対象	サポート対象
String.prototype.trimStart	サポート対象	サポート対象外
String.prototype.trimEnd	サポート対象	サポート対象外

Array.prototype.{flat, flatMap}

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Array.prototype.flat	サポート対象	サポート対象外
Array.prototype.flatMap	サポート対象	サポート対象外
flat and flatMap in Array.prototype[@@unscopables]	サポート対象	サポート対象外

Object.fromEntries

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Object.fromEntries	サポート対象	サポート対象外

オプションのキャッチバインディング

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic	許可されていない	許可されていない
await	許可されていない	許可されていない
yield	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Function.prototype.toString revision

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
functions created with the Function constructor	許可されていない	許可されていない
arrows	許可されていない	許可されていない
[native code]	許可されていない	許可されていない
class expression with implicit constructor	許可されていない	許可されていない
class expression with explicit constructor	許可されていない	許可されていない
unicode escape sequences in identifiers	許可されていない	許可されていない
methods and computed property names	許可されていない	許可されていない

JSON スーパーセット

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Line separator can appear in string literals	許可されていない	許可されていない
Paragraph separator can appear in string literals	許可されていない	許可されていない

Well-formed JSON.stringify

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Well-formed JSON.stringify	許可されていない	許可されていない

ECMAScript 2018 (ES9) の機能

オブジェクト REST/分散プロパティ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
object rest properties	サポート対象	サポート対象外
object spread properties	サポート対象	サポート対象外

Promise.prototype.finally

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic support	許可されていない	許可されていない
don't change resolution value	許可されていない	許可されていない
change rejection value	許可されていない	許可されていない

非同期反復子

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
async generators	許可されていない	許可されていない
for-await-of loops	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

s (dotAll) flag for regular expressions

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
s (dotAll) flag for regular expressions	サポート対象	サポート対象外

RegExp named capture groups

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
RegExp named capture groups	サポート対象	サポート対象外

RegExp Lookbehind Assertions

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
RegExp Lookbehind Assertions	サポート対象外	サポート対象外

RegExp Unicode Property Escapes

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
RegExp Unicode Property Escapes	サポート対象外	サポート対象外

テンプレートリテラルリビジョン

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
template literal revision	許可されていない	許可されていない

ECMAScript 2017 (ES8) の機能

オブジェクト静的メソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Object.value	サポート対象	サポート対象外
Object.entries	サポート対象	サポート対象外
Object.getOwnPropertyDescriptors	サポート対象	サポート対象外
Object.getOwnPropertyDescriptors doesn't provide undefined descriptors	サポート対象外	サポート対象外

文字列のパディング

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
String.prototype.padStart	サポート対象	サポート対象外
String.prototype.padEnd	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関数構文末尾のカンマ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
in parameter lists	サポート対象	サポート対象外
in argument lists	サポート対象	サポート対象外

非同期関数

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
return	許可されていない	許可されていない
throw	許可されていない	許可されていない
no line break between async and function	許可されていない	許可されていない
no "prototype" property	許可されていない	許可されていない
await	許可されていない	許可されていない
await, rejection	許可されていない	許可されていない
must await a value	許可されていない	許可されていない
can await non-Promise values	許可されていない	許可されていない
cannot await in parameters	許可されていない	許可されていない
async methods, object literals	許可されていない	許可されていない
async methods, classes	許可されていない	許可されていない
async arrow functions in methods, classes	許可されていない	許可されていない
async arrow functions	許可されていない	許可されていない
correct prototype chain	許可されていない	許可されていない
async function prototype, Symbol.toStringTag	許可されていない	許可されていない
async function constructor	許可されていない	許可されていない

共有メモリとアトミック

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
SharedArrayBuffer	許可されていない	許可されていない
SharedArrayBuffer[Symbol.species]	許可されていない	許可されていない
SharedArrayBuffer.prototype.byteLength	許可されていない	許可されていない
SharedArrayBuffer.prototype.slice	許可されていない	許可されていない
SharedArrayBuffer.prototype[Symbol.toStringTag]	許可されていない	許可されていない
Atomics.add	許可されていない	許可されていない
Atomics.and	許可されていない	許可されていない
Atomics.compareExchange	許可されていない	許可されていない
Atomics.exchange	許可されていない	許可されていない
Atomics.wait	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

共有メモリとアトミック (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Atomics.wake	許可されていない	許可されていない
Atomics.isLockFree	許可されていない	許可されていない
Atomics.load	許可されていない	許可されていない
Atomics.or	許可されていない	許可されていない
Atomics.store	許可されていない	許可されていない
Atomics.sub	許可されていない	許可されていない
Atomics.xor	許可されていない	許可されていない

Object.prototype の getter/setter メソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
__defineGetter__	許可されていない	許可されていない
__defineGetter__, symbols	許可されていない	許可されていない
__defineGetter__, ToObject(this)	許可されていない	許可されていない
__defineSetter__	許可されていない	許可されていない
__defineSetter__, symbols	許可されていない	許可されていない
__defineSetter__, ToObject(this)	許可されていない	許可されていない
__lookupGetter__	許可されていない	許可されていない
__lookupGetter__, prototype chain	許可されていない	許可されていない
__lookupGetter__, symbols	許可されていない	許可されていない
__lookupGetter__, ToObject(this)	許可されていない	許可されていない
__lookupGetter__, data properties can shadow accessors	許可されていない	許可されていない
__lookupSetter__	許可されていない	許可されていない
__lookupSetter__, prototype chain	許可されていない	許可されていない
__lookupSetter__, symbols	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Object.prototype の getter/setter メソッド (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
__lookupSetter__, ToObject(this)	許可されていない	許可されていない
__lookupSetter__, data properties can shadow accessors	許可されていない	許可されていない

プロキシ内部呼び出し、getter/setter メソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
__defineGetter__	許可されていない	許可されていない
__defineSetter__	許可されていない	許可されていない
__lookupGetter__	許可されていない	許可されていない
__lookupSetter__	許可されていない	許可されていない

ECMAScript 2016 (ES7) の機能

べき乗 (**) 演算子

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic support	サポート対象	サポート対象外
assignment	サポート対象	サポート対象外
early syntax error for unary negation without parentheses	許可されていない	許可されていない

Array.prototype.include

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Array.prototype.include	サポート対象	サポート対象外
Array.prototype.includes is generic	サポート対象外	サポート対象外
%TypedArray%.prototype.includes	許可されていない	許可されていない

ECMAScript 2015 (ES6) の機能

適切な末尾呼び出し (末尾呼び出しの最適化)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
direct recursion	許可されていない	許可されていない
mutual recursion	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルトの関数パラメーター

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	サポート対象	サポート対象外
explicit undefined defers to the default	サポート対象	サポート対象外
defaults can refer to previous parameters	サポート対象	サポート対象外
arguments object interaction	サポート対象	サポート対象外
temporal dead zone	許可されていない	許可されていない
separate scope	サポート対象	サポート対象外
new Function() support	許可されていない	許可されていない

Rest パラメーター

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	サポート対象	サポート対象外
function 'length' property	サポート対象	サポート対象外
arguments object interaction	サポート対象外	サポート対象外
can't be used in setters	許可されていない	許可されていない
new Function() support	許可されていない	許可されていない

反復可能なオブジェクトのスプレッド構文

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
with arrays, in function calls	サポート対象	サポート対象外
with arrays, in array literals	サポート対象	サポート対象外
with sparse arrays, in function calls	サポート対象	サポート対象外
with sparse arrays, in array literals	サポート対象	サポート対象外
with strings, in function calls	サポート対象	サポート対象外
with strings, in array literals	サポート対象	サポート対象外
with astral plane strings, in function calls	サポート対象	サポート対象外
with astral plane strings, in array literals	サポート対象	サポート対象外
with generator instances, in calls	許可されていない	許可されていない
with generator instances, in arrays	許可されていない	許可されていない
with generic iterables, in calls	サポート対象	サポート対象外
with generic iterables, in arrays	サポート対象	サポート対象外
with instances of iterables, in calls	サポート対象	サポート対象外
with instances of iterables, in arrays	サポート対象	サポート対象外
spreading non-iterables is a runtime error	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オブジェクトリテラル拡張

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
computed properties	サポート対象	サポート対象外
shorthand properties	サポート対象	サポート対象外
shorthand methods	サポート対象	サポート対象外
string-keyed shorthand methods	サポート対象	サポート対象外
computed shorthand methods	サポート対象	サポート対象外
computed accessors	サポート対象	サポート対象外

For-of ループ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
with arrays	サポート対象	サポート対象外
with sparse arrays	サポート対象	サポート対象外
with strings	サポート対象	サポート対象外
with astral plane strings	サポート対象	サポート対象外
with generator instances	許可されていない	許可されていない
with generic iterables	サポート対象	サポート対象外
with instances of generic iterables	サポート対象	サポート対象外
iterator closing, break	サポート対象	サポート対象外
iterator closing, throw	サポート対象	サポート対象外

Octal and binary literals

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
octal literals	サポート対象	サポート対象外
binary literals	サポート対象	サポート対象外
octal supported by Number()	サポート対象外	サポート対象外
binary supported by Number()	サポート対象外	サポート対象外

テンプレートリテラル

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	サポート対象	サポート対象外
toString conversion	サポート対象	サポート対象外
tagged template literals	サポート対象	サポート対象外
passed array is frozen	サポート対象	サポート対象外
line break normalization	許可されていない	許可されていない
TemplateStrings call site caching	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレートリテラル (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
TemplateStrings permanent caching	サポート対象	サポート対象外

正規表現の「y」および「u」フラグ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
"y" flag	サポート対象	サポート対象外
"y" flag, lastIndex	サポート対象	サポート対象外
"u" flag	サポート対象外	サポート対象外
"u" flag, non-BMP Unicode characters	サポート対象外	サポート対象外
"u" flag, Unicode code point escapes	サポート対象外	サポート対象外
"u" flag, case folding	サポート対象外	サポート対象外

デストラクチャリング、宣言

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
with arrays	サポート対象	サポート対象外
with sparse arrays	サポート対象	サポート対象外
with strings	サポート対象	サポート対象外
with astral plane strings	サポート対象	サポート対象外
with generator instances	許可されていない	許可されていない
with generic iterables	サポート対象	サポート対象外
with instances of generic iterables	サポート対象	サポート対象外
iterator closing	サポート対象	サポート対象外
trailing commas in iterable patterns	サポート対象	サポート対象外
with objects	サポート対象	サポート対象外
object destructuring with primitives	サポート対象	サポート対象外
trailing commas in object patterns	サポート対象	サポート対象外
throws on null and undefined	サポート対象	サポート対象外
computed properties	サポート対象	サポート対象外
multiples in a single var statement	サポート対象	サポート対象外
nested	サポート対象	サポート対象外
in for-in loop heads	サポート対象	サポート対象外
in for-of loop heads	サポート対象	サポート対象外
in catch heads	サポート対象	サポート対象外
rest	サポート対象	サポート対象外
defaults	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デストラクチャリング、宣言 (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
defaults, let temporal dead zone	許可されていない	許可されていない

Destructuring, assignment

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
with arrays	サポート対象	サポート対象外
with sparse arrays	サポート対象	サポート対象外
with strings	サポート対象	サポート対象外
with astral plane strings	サポート対象	サポート対象外
with generator instances	許可されていない	許可されていない
with generic iterables	サポート対象	サポート対象外
with instances of generic iterables	サポート対象	サポート対象外
iterator closing	サポート対象	サポート対象外
iterable destructuring expression	サポート対象	サポート対象外
chained iterable destructuring	サポート対象	サポート対象外
trailing commas in iterable patterns	サポート対象	サポート対象外
with objects	サポート対象	サポート対象外
object destructuring with primitives	サポート対象	サポート対象外
trailing commas in object patterns	サポート対象	サポート対象外
object destructuring expression	サポート対象	サポート対象外
parenthesized left-hand-side is a syntax error	許可されていない	許可されていない
chained object destructuring	サポート対象	サポート対象外
throws on null and undefined	サポート対象	サポート対象外
computed properties	サポート対象	サポート対象外
nested	サポート対象	サポート対象外
rest	サポート対象	サポート対象外
nested rest	サポート対象	サポート対象外
empty patterns	サポート対象	サポート対象外
defaults	サポート対象	サポート対象外

デストラクチャリング、パラメーター

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
with arrays	サポート対象	サポート対象外
with sparse arrays	サポート対象	サポート対象外
with strings	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デストラクチャリング、パラメーター (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
with astral plane strings	サポート対象	サポート対象外
with generator instances	許可されていない	許可されていない
with generic iterables	サポート対象	サポート対象外
with instances of generic iterables	サポート対象	サポート対象外
iterator closing	サポート対象	サポート対象外
trailing commas in iterable patterns	サポート対象	サポート対象外
with objects	サポート対象	サポート対象外
object destructuring with primitives	サポート対象	サポート対象外
trailing commas in object patterns	サポート対象	サポート対象外
throws on null and undefined	サポート対象	サポート対象外
computed properties	サポート対象	サポート対象外
nested	サポート対象	サポート対象外
'arguments' interaction	サポート対象	サポート対象外
new Function() support	許可されていない	許可されていない
in parameters, function 'length' property	サポート対象	サポート対象外
rest	サポート対象	サポート対象外
empty patterns	サポート対象	サポート対象外
defaults	サポート対象	サポート対象外
defaults, separate scope	サポート対象	サポート対象外
defaults, new Function() support	許可されていない	許可されていない
aliased defaults, arrow function	サポート対象	サポート対象外
shorthand defaults, arrow function	サポート対象	サポート対象外
duplicate identifier	許可されていない	許可されていない

Unicode code point escapes

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
in strings	サポート対象	サポート対象外
in identifiers	サポート対象外	サポート対象外
in property key definitions	サポート対象外	サポート対象外
in property key accesses	サポート対象外	サポート対象外

New.target

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
in constructors	サポート対象外	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

New.target (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
assignment is an early error	許可されていない	許可されていない

定数

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic support	サポート対象	サポート対象
is block-scoped	サポート対象	サポート対象外
scope shadow resolution	サポート対象	サポート対象外
cannot be in statements	許可されていない	許可されていない
redefining a const is an error	許可されていない	許可されていない
for loop statement scope	サポート対象	サポート対象外
for-in loop iteration scope	サポート対象	サポート対象外
for-of loop iteration scope	サポート対象	サポート対象外
temporal dead zone	サポート対象外	サポート対象外
basic support (strict mode)	サポート対象	サポート対象
is block-scoped (strict mode)	サポート対象	サポート対象外
scope shadow resolution (strict mode)	サポート対象	サポート対象外
cannot be in statements (strict mode)	許可されていない	許可されていない
redefining a const (strict mode)	許可されていない	許可されていない
for loop statement scope (strict mode)	サポート対象	サポート対象外
for-in loop iteration scope (strict mode)	サポート対象	サポート対象外
for-of loop iteration scope (strict mode)	サポート対象	サポート対象外
temporal dead zone (strict mode)	サポート対象外	サポート対象外

Let

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic support	サポート対象	サポート対象外
is block-scoped	サポート対象	サポート対象外
scope shadow resolution	サポート対象	サポート対象外
cannot be in statements	許可されていない	許可されていない
for loop statement scope	サポート対象	サポート対象外
temporal dead zone	サポート対象外	サポート対象外
for/for-in loop iteration scope	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Let (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
for-in loop binding shadowing parameter	許可されていない	許可されていない
basic support (strict mode)	サポート対象	サポート対象外
is block-scoped (strict mode)	サポート対象	サポート対象外
scope shadow resolution (strict mode)	サポート対象	サポート対象外
cannot be in statements (strict mode)	許可されていない	許可されていない
for loop statement scope (strict mode)	サポート対象	サポート対象外
temporal dead zone (strict mode)	サポート対象外	サポート対象外
for/for-in loop iteration scope (strict mode)	サポート対象	サポート対象外
for-in loop binding shadowing parameter (strict mode)	許可されていない	許可されていない

ブロックレベルの関数宣言

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
block-level function declaration	サポート対象	サポート対象外

アロー関数

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
0 parameters	サポート対象	サポート対象外
1 parameter, no brackets	サポート対象	サポート対象外
multiple parameters	サポート対象	サポート対象外
lexical "this" binding	サポート対象	サポート対象外
"this" unchanged by call or apply	サポート対象	サポート対象外
can't be bound, can be curried	サポート対象	サポート対象外
lexical "arguments" binding	サポート対象	サポート対象外
no line break between parameters and `=>`	許可されていない	許可されていない
correct precedence	許可されていない	許可されていない
no "prototype" property	サポート対象外	サポート対象外
lexical "super" binding in constructors	サポート対象	サポート対象外
lexical "super" binding in methods	サポート対象	サポート対象外
lexical "new.target" binding	サポート対象外	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラス

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
class statement	サポート対象	サポート対象外
is block-scoped	サポート対象	サポート対象外
class expression	サポート対象	サポート対象外
anonymous class	サポート対象	サポート対象外
constructor	サポート対象	サポート対象外
prototype methods	サポート対象	サポート対象外
string-keyed methods	サポート対象	サポート対象外
computed prototype methods	サポート対象	サポート対象外
optional semicolons	サポート対象	サポート対象外
static methods	サポート対象	サポート対象外
computed static methods	サポート対象	サポート対象外
accessor properties	サポート対象	サポート対象外
computed accessor properties	サポート対象	サポート対象外
static accessor properties	サポート対象	サポート対象外
computed static accessor properties	サポート対象	サポート対象外
class name is lexically scoped	サポート対象	サポート対象外
computed names, temporal dead zone	サポート対象外	サポート対象外
methods aren't enumerable	サポート対象	サポート対象外
implicit strict mode	サポート対象外	サポート対象外
constructor requires new	サポート対象	サポート対象外
拡張	サポート対象	サポート対象外
extends expressions	サポート対象	サポート対象外
extends null	サポート対象	サポート対象外
new.target	サポート対象	サポート対象外

Super

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
statement in constructors	サポート対象	サポート対象外
expression in constructors	サポート対象	サポート対象外
in methods, property access	サポート対象	サポート対象外
in methods, method calls	サポート対象	サポート対象外
method calls use correct "this" binding	サポート対象	サポート対象外
constructor calls use correct "new.target" binding	サポート対象	サポート対象外
is statically bound	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Super (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
super() invokes the correct constructor	サポート対象	サポート対象外

ジェネレータ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	許可されていない	許可されていない
generator function expressions	許可されていない	許可されていない
correct "this" binding	許可されていない	許可されていない
can't use "this" with new	許可されていない	許可されていない
sending	許可されていない	許可されていない
%GeneratorPrototype%	許可されていない	許可されていない
%GeneratorPrototype% prototype chain	許可されていない	許可されていない
%GeneratorPrototype%.constructor	許可されていない	許可されていない
%GeneratorPrototype%.throw	許可されていない	許可されていない
%GeneratorPrototype%.return	許可されていない	許可されていない
yield operator precedence	許可されていない	許可されていない
yield *, arrays	許可されていない	許可されていない
yield *, sparse arrays	許可されていない	許可されていない
yield *, strings	許可されていない	許可されていない
yield *, astral plane strings	許可されていない	許可されていない
yield *, generator instances	許可されていない	許可されていない
yield *, generic iterables	許可されていない	許可されていない
yield *, instances of iterables	許可されていない	許可されていない
yield * on non-iterables is a runtime error	許可されていない	許可されていない
yield *, iterator closing	許可されていない	許可されていない
yield *, iterator closing via throw()	許可されていない	許可されていない
shorthand generator methods	許可されていない	許可されていない
string-keyed shorthand generator methods	許可されていない	許可されていない
computed shorthand generators	許可されていない	許可されていない
shorthand generator methods, classes	許可されていない	許可されていない
computed shorthand generators, classes	許可されていない	許可されていない
shorthand generators can't be constructors	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

型付きアレイ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Int8Array	許可されていない	許可されていない
Uint8Array	許可されていない	許可されていない
Uint8ClampedArray	許可されていない	許可されていない
Int16Array	許可されていない	許可されていない
Uint16Array	許可されていない	許可されていない
Int32Array	許可されていない	許可されていない
Uint32Array	許可されていない	許可されていない
Float32Array	許可されていない	許可されていない
Float64Array	許可されていない	許可されていない
DataView (Int8)	許可されていない	許可されていない
DataView (Uint8)	許可されていない	許可されていない
DataView (Int16)	許可されていない	許可されていない
DataView (Uint16)	許可されていない	許可されていない
DataView (Int32)	許可されていない	許可されていない
DataView (Uint32)	許可されていない	許可されていない
DataView (Float32)	許可されていない	許可されていない
DataView (Float64)	許可されていない	許可されていない
ArrayBuffer[Symbol.species]	許可されていない	許可されていない
constructors require new	許可されていない	許可されていない
constructors accept generic iterables	許可されていない	許可されていない
correct prototype chains	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.from	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.of	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.subarray	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.join	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.indexOf	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.lastIndexOf	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.slice	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.every	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.filter	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.forEach	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.map	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.reduce	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.reduceRight	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

型付きアレイ (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
%TypedArray%.prototype.reverse	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.some	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.sort	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.copyWithin	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.find	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.findIndex	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.fill	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.keys	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.value	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype.entries	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%.prototype[Symbol.iterator]	許可されていない	許可されていない
%TypedArray%[Symbol.species]	許可されていない	許可されていない

マップ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	サポート対象	サポート対象外
constructor arguments	サポート対象	サポート対象外
constructor requires new	サポート対象	サポート対象外
constructor accepts null	サポート対象	サポート対象外
constructor invokes set	サポート対象	サポート対象外
iterator closing	サポート対象	サポート対象外
Map.prototype.set returns this	サポート対象	サポート対象外
-0 key converts to +0	サポート対象	サポート対象外
Map.prototype.size	サポート対象	サポート対象外
Map.prototype.delete	サポート対象	サポート対象外
Map.prototype.clear	サポート対象	サポート対象外
Map.prototype.forEach	サポート対象	サポート対象外
Map.prototype.keys	サポート対象	サポート対象外
Map.prototype.value	サポート対象	サポート対象外
Map.prototype.entries	サポート対象	サポート対象外
Map.prototype[Symbol.iterator]	サポート対象	サポート対象外
Map.prototype isn't an instance	サポート対象	サポート対象外
Map iterator prototype chain	サポート対象	サポート対象外
Map[Symbol.species]	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セット

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	サポート対象	サポート対象外
constructor arguments	サポート対象	サポート対象外
constructor requires new	サポート対象	サポート対象外
constructor accepts null	サポート対象	サポート対象外
constructor invokes add	サポート対象	サポート対象外
iterator closing	サポート対象	サポート対象外
Set.prototype.add returns this	サポート対象	サポート対象外
-0 key converts to +0	サポート対象	サポート対象外
Set.prototype.size	サポート対象	サポート対象外
Set.prototype.delete	サポート対象	サポート対象外
Set.prototype.clear	サポート対象	サポート対象外
Set.prototype.forEach	サポート対象	サポート対象外
Set.prototype.keys	サポート対象	サポート対象外
Set.prototype.values	サポート対象	サポート対象外
Set.prototype.entries	サポート対象	サポート対象外
Set.prototype[Symbol.iterator]	サポート対象	サポート対象外
Set.prototype isn't an instance	サポート対象	サポート対象外
Set iterator prototype chain	サポート対象	サポート対象外
Set[Symbol.species]	サポート対象	サポート対象外

WeakMap

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	許可されていない	許可されていない
constructor arguments	許可されていない	許可されていない
constructor requires new	許可されていない	許可されていない
constructor accepts null	許可されていない	許可されていない
constructor invokes set	許可されていない	許可されていない
frozen objects as keys	許可されていない	許可されていない
iterator closing	許可されていない	許可されていない
WeakMap.prototype.set returns this	許可されていない	許可されていない
WeakMap.prototype.delete	許可されていない	許可されていない
no WeakMap.prototype.clear method	許可されていない	許可されていない
.has, .get and .delete methods accept primitives	許可されていない	許可されていない
WeakMap.prototype isn't an instance	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

WeakSet

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	許可されていない	許可されていない
constructor arguments	許可されていない	許可されていない
constructor requires new	許可されていない	許可されていない
constructor accepts null	許可されていない	許可されていない
constructor invokes add	許可されていない	許可されていない
iterator closing	許可されていない	許可されていない
WeakSet.prototype.add returns this	許可されていない	許可されていない
WeakSet.prototype.delete	許可されていない	許可されていない
no WeakSet.prototype.clear method	許可されていない	許可されていない
.has and .delete methods accept primitives	許可されていない	許可されていない
WeakSet.prototype isn't an instance	許可されていない	許可されていない

プロキシ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
constructor requires new	許可されていない	許可されていない
no "prototype" property	許可されていない	許可されていない
"get" handler	許可されていない	許可されていない
"get" handler, instances of proxies	許可されていない	許可されていない
"get" handler invariants	許可されていない	許可されていない
"set" handler	許可されていない	許可されていない
"set" handler, instances of proxies	許可されていない	許可されていない
"set" handler invariants	許可されていない	許可されていない
"has" handler	許可されていない	許可されていない
"has" handler, instances of proxies	許可されていない	許可されていない
"has" handler invariants	許可されていない	許可されていない
"deleteProperty" handler	許可されていない	許可されていない
"deleteProperty" handler invariant	許可されていない	許可されていない
"getOwnPropertyDescriptor" handler	許可されていない	許可されていない
"getOwnPropertyDescriptor" handler invariants	許可されていない	許可されていない
"defineProperty" handler	許可されていない	許可されていない
"defineProperty" handler invariants	許可されていない	許可されていない
"getPrototypeOf" handler	許可されていない	許可されていない
"getPrototypeOf" handler invariant	許可されていない	許可されていない
"setPrototypeOf" handler	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロキシ (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
"setPrototypeOf" handler invariant	許可されていない	許可されていない
"isExtensible" handler	許可されていない	許可されていない
"isExtensible" handler invariant	許可されていない	許可されていない
"preventExtensions" handler	許可されていない	許可されていない
"preventExtensions" handler invariant	許可されていない	許可されていない
"ownKeys" handler	許可されていない	許可されていない
"ownKeys" handler invariant	許可されていない	許可されていない
"apply" handler	許可されていない	許可されていない
"apply" handler invariant	許可されていない	許可されていない
"construct" handler	許可されていない	許可されていない
"construct" handler invariants	許可されていない	許可されていない
Proxy.revocable	許可されていない	許可されていない
Array.isArray support	許可されていない	許可されていない
JSON.stringify support	許可されていない	許可されていない

リフレクション

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Reflect.get	許可されていない	許可されていない
Reflect.set	許可されていない	許可されていない
Reflect.has	許可されていない	許可されていない
Reflect.deleteProperty	許可されていない	許可されていない
Reflect.getOwnPropertyDescriptor	許可されていない	許可されていない
Reflect.defineProperty	許可されていない	許可されていない
Reflect.getPrototypeOf	許可されていない	許可されていない
Reflect.setPrototypeOf	許可されていない	許可されていない
Reflect.isExtensible	許可されていない	許可されていない
Reflect.preventExtensions	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リフレクション (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Reflect.ownKeys, string keys	許可されていない	許可されていない
Reflect.ownKeys, symbol keys	許可されていない	許可されていない
Reflect.apply	許可されていない	許可されていない
Reflect.construct	許可されていない	許可されていない
Reflect.construct sets new.target meta-property	許可されていない	許可されていない
Reflect.construct creates instances from third argument	許可されていない	許可されていない
Reflect.construct, Array subclassing	許可されていない	許可されていない
Reflect.construct, RegExp subclassing	許可されていない	許可されていない
Reflect.construct, Function subclassing	許可されていない	許可されていない
Reflect.construct, Promise subclassing	許可されていない	許可されていない

Promise

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	許可されていない	許可されていない
constructor requires new	許可されていない	許可されていない
Promise.prototype isn't an instance	許可されていない	許可されていない
Promise.all	許可されていない	許可されていない
Promise.all, generic iterables	許可されていない	許可されていない
Promise.race	許可されていない	許可されていない
Promise.race, generic iterables	許可されていない	許可されていない
Promise[Symbol.species]	許可されていない	許可されていない

記号

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	サポート対象	サポート対象外
typeof support	サポート対象	サポート対象外
symbol keys are hidden to pre-ES6 code	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

記号 (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Object.defineProperty support	サポート対象	サポート対象外
symbols inherit from Symbol.prototype	サポート対象	サポート対象外
cannot coerce to string or number	サポート対象外	サポート対象外
can convert with String()	サポート対象外	サポート対象外
new Symbol() throws	サポート対象	サポート対象外
Object(symbol)	サポート対象外	サポート対象外
JSON.stringify ignores symbol primitives	サポート対象	サポート対象外
JSON.stringify ignores symbol objects	サポート対象外	サポート対象外
global symbol registry	サポート対象	サポート対象外

既知の記号

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Symbol.hasInstance	許可されていない	許可されていない
Symbol.isConcatSpreadable	許可されていない	許可されていない
Symbol.iterator, existence	許可されていない	許可されていない
Symbol.iterator, arguments object	許可されていない	許可されていない
Symbol.species, existence	許可されていない	許可されていない
Symbol.species, Array.prototype.concat	許可されていない	許可されていない
Symbol.species, Array.prototype.filter	許可されていない	許可されていない
Symbol.species, Array.prototype.map	許可されていない	許可されていない
Symbol.species, Array.prototype.slice	許可されていない	許可されていない
Symbol.species, Array.prototype.splice	許可されていない	許可されていない
Symbol.species, RegExp.prototype[Symbol.split]	許可されていない	許可されていない
Symbol.species, Promise.prototype.then	許可されていない	許可されていない
Symbol.replace	許可されていない	許可されていない
Symbol.search	許可されていない	許可されていない
Symbol.split	許可されていない	許可されていない
Symbol.match	許可されていない	許可されていない
Symbol.match, RegExp constructor	許可されていない	許可されていない
Symbol.match, String.prototype.startsWith	許可されていない	許可されていない
Symbol.match, String.prototype.endsWith	許可されていない	許可されていない
Symbol.match, String.prototype.includes	許可されていない	許可されていない
Symbol.toPrimitive	許可されていない	許可されていない
Symbol.toStringTag	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

既知の記号 (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Symbol.toStringTag affects existing built-ins	許可されていない	許可されていない
Symbol.toStringTag, new built-ins	許可されていない	許可されていない
Symbol.toStringTag, misc. built-ins	許可されていない	許可されていない
Symbol.unscopables	許可されていない	許可されていない

オブジェクト静的メソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Object.assign	サポート対象	サポート対象外
Object.is	サポート対象	サポート対象外
Object.getOwnPropertySymbols	サポート対象	サポート対象外
Object.setPrototypeOf	サポート対象外	サポート対象外

関数の「name」プロパティ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
function statements	サポート対象	サポート対象
function expressions	サポート対象	サポート対象
new Function	サポート対象外	サポート対象外
bound functions	サポート対象外	サポート対象外
variables (function)	サポート対象	サポート対象外
object methods (function)	サポート対象	サポート対象外
accessor properties	サポート対象外	サポート対象外
shorthand methods	サポート対象	サポート対象外
shorthand methods (no lexical binding)	サポート対象	サポート対象外
symbol-keyed methods	サポート対象外	サポート対象外
class statements	サポート対象	サポート対象外
class expressions	サポート対象	サポート対象外
variables (class)	サポート対象	サポート対象外
object methods (class)	サポート対象外	サポート対象外
class prototype methods	サポート対象	サポート対象外
class static methods	サポート対象	サポート対象外
isn't writable, is configurable	サポート対象外	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

文字列静的メソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
String.raw	サポート対象	サポート対象外
String.fromCodePoint	サポート対象	サポート対象外

String.prototype methods

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
String.prototype.codePointAt	サポート対象	サポート対象
String.prototype.normalize	サポート対象	サポート対象
String.prototype.repeat	サポート対象	サポート対象
String.prototype.startsWith	サポート対象	サポート対象
String.prototype.startsWith throws on RegExp	サポート対象外	サポート対象外
String.prototype.endsWith	サポート対象	サポート対象
String.prototype.endsWith throws on RegExp	サポート対象外	サポート対象外
String.prototype.includes	サポート対象	サポート対象
String.prototype[Symbol.iterator]	サポート対象	サポート対象外
String iterator prototype chain	サポート対象	サポート対象外

RegExp.prototype properties

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
RegExp.prototype.flag	サポート対象	サポート対象外
RegExp.prototype[Symbol.match]	サポート対象外	サポート対象外
RegExp.prototype[Symbol.replace]	サポート対象	サポート対象外
RegExp.prototype[Symbol.split]	サポート対象	サポート対象外
RegExp.prototype[Symbol.search]	サポート対象外	サポート対象外
RegExp[Symbol.species]	サポート対象	サポート対象外

Array static methods

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Array.from, array-like objects	サポート対象	サポート対象外
Array.from, generator instances	許可されていない	許可されていない
Array.from, generic iterables	サポート対象	サポート対象外
Array.from, instances of generic iterables	サポート対象	サポート対象外
Array.from map function, array-like objects	サポート対象	サポート対象外
Array.from map function, generator instances	許可されていない	許可されていない
Array.from map function, generic iterables	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Array static methods (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Array.from map function, instances of iterables	サポート対象	サポート対象外
Array.from, iterator closing	サポート対象	サポート対象外
Array.of	サポート対象	サポート対象外
Array[Symbol.species]	サポート対象	サポート対象外

Array.prototype methods

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Array.prototype.copyWithin	サポート対象	サポート対象外
Array.prototype.find	サポート対象	サポート対象外
Array.prototype.findIndex	サポート対象	サポート対象外
Array.prototype.fill	サポート対象	サポート対象外
Array.prototype.keys	サポート対象	サポート対象外
Array.prototype.value	サポート対象	サポート対象外
Array.prototype.entries	サポート対象	サポート対象外
Array.prototype[Symbol.iterator]	サポート対象	サポート対象外
Array iterator prototype chain	サポート対象	サポート対象外
Array.prototype[Symbol.unscopables]	サポート対象	サポート対象外

数値プロパティ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Number.isFinite	サポート対象	サポート対象外
Number.isInteger	サポート対象	サポート対象外
Number.isSafeInteger	サポート対象	サポート対象外
Number.isNaN	サポート対象	サポート対象外
Number.parseFloat	許可されていない	許可されていない
Number.parseInt	許可されていない	許可されていない
Number.EPSILON	サポート対象	サポート対象外
Number.MIN_SAFE_INTEGER	サポート対象	サポート対象外
Number.MAX_SAFE_INTEGER	サポート対象	サポート対象外

計算メソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Math.clz32	サポート対象	サポート対象外
Math.imul	サポート対象	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

計算メソッド (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Math.sign	サポート対象	サポート対象外
Math.log10	サポート対象	サポート対象外
Math.log2	サポート対象	サポート対象外
Math.log1p	サポート対象	サポート対象外
Math.expm1	サポート対象	サポート対象外
Math.cosh	サポート対象	サポート対象外
Math.sinh	サポート対象	サポート対象外
Math.tanh	サポート対象	サポート対象外
Math.acosh	サポート対象	サポート対象外
Math.asinh	サポート対象	サポート対象外
Math.atanh	サポート対象	サポート対象外
Math.trunc	サポート対象	サポート対象外
Math.fround	サポート対象	サポート対象外
Math.cbrt	サポート対象	サポート対象外
Math.hypot	サポート対象	サポート対象外

Date.prototype[Symbol.toPrimitive]

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Date.prototype[Symbol.toPrimitive]	サポート対象	サポート対象外

アレイはサブクラス化可能

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
length property (accessing)	許可されていない	許可されていない
length property (setting)	許可されていない	許可されていない
correct prototype chain	許可されていない	許可されていない
Array.isArray support	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.concat	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.filter	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.map	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.slice	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.splic	許可されていない	許可されていない
Array.from	許可されていない	許可されていない
Array.of	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

正規表現はサブクラス化可能

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	許可されていない	許可されていない
correct prototype chain	許可されていない	許可されていない
RegExp.prototype.exec	許可されていない	許可されていない
RegExp.prototype.test	許可されていない	許可されていない

関数はサブクラス化可能

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
can be called	許可されていない	許可されていない
correct prototype chain	許可されていない	許可されていない
can be used with "new"	許可されていない	許可されていない
Function.prototype.call	許可されていない	許可されていない
Function.prototype.apply	許可されていない	許可されていない
Function.prototype.bind	許可されていない	許可されていない

Promise はサブクラス化可能

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	許可されていない	許可されていない
correct prototype chain	許可されていない	許可されていない
Promise.all	許可されていない	許可されていない
Promise.race	許可されていない	許可されていない

その他のサブクラス化可能

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Boolean is subclassable	許可されていない	許可されていない
Number is subclassable	許可されていない	許可されていない
String is subclassable	許可されていない	許可されていない
Error is subclassable	許可されていない	許可されていない
Map is subclassable	許可されていない	許可されていない
Set is subclassable	許可されていない	許可されていない

バインドされた関数のプロトタイプ

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functions	許可されていない	許可されていない
generator functions	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

バインドされた関数のプロトタイプ (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
arrow functions	許可されていない	許可されていない
classes	許可されていない	許可されていない
subclasses	許可されていない	許可されていない

プロキシ、内部「get」呼び出し

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
ToPrimitive	許可されていない	許可されていない
CreateListFromArrayLike	許可されていない	許可されていない
instanceof operator	許可されていない	許可されていない
HasBinding	許可されていない	許可されていない
CreateDynamicFunction	許可されていない	許可されていない
ClassDefinitionEvaluation	許可されていない	許可されていない
IteratorComplete, IteratorValue	許可されていない	許可されていない
ToPropertyDescriptor	許可されていない	許可されていない
Object.assign	許可されていない	許可されていない
Object.defineProperties	許可されていない	許可されていない
Function.prototype.bind	許可されていない	許可されていない
Error.prototype.toString	許可されていない	許可されていない
String.raw	許可されていない	許可されていない
RegExp constructor	許可されていない	許可されていない
RegExp.prototype.flag	許可されていない	許可されていない
RegExp.prototype.test	許可されていない	許可されていない
RegExp.prototype.toString	許可されていない	許可されていない
RegExp.prototype[Symbol.match]	許可されていない	許可されていない
RegExp.prototype[Symbol.replace]	許可されていない	許可されていない
RegExp.prototype[Symbol.search]	許可されていない	許可されていない
RegExp.prototype[Symbol.split]	許可されていない	許可されていない
Array.from	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.concat	許可されていない	許可されていない
Array.prototype iteration methods	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.pop	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.reverse	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.shift	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.splic	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロキシ、内部「get」呼び出し (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Array.prototype.toString	許可されていない	許可されていない
JSON.stringify	許可されていない	許可されていない
Promise resolve functions	許可されていない	許可されていない
String.prototype.match	許可されていない	許可されていない
String.prototype.replace	許可されていない	許可されていない
String.prototype.search	許可されていない	許可されていない
String.prototype.split	許可されていない	許可されていない
Date.prototype.toJSON	許可されていない	許可されていない

プロキシ、内部「set」呼び出し

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Object.assign	許可されていない	許可されていない
Array.from	許可されていない	許可されていない
Array.of	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.copyWithin	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.fill	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.pop	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.push	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.reverse	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.shift	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.splic	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.unshift	許可されていない	許可されていない

プロキシ、内部「defineProperty」呼び出し

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
[[Set]]	許可されていない	許可されていない
SetIntegrityLevel	許可されていない	許可されていない

プロキシ、内部「deleteProperty」呼び出し

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Array.prototype.copyWithin	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.pop	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.reverse	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.shift	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロキシ、内部「deleteProperty」呼び出し (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Array.prototype.splic	許可されていない	許可されていない
Array.prototype.unshift	許可されていない	許可されていない

プロキシ、内部「getOwnPropertyDescriptor」呼び出し

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
[[Set]]	許可されていない	許可されていない
Object.assign	許可されていない	許可されていない
Object.prototype.hasOwnProperty	許可されていない	許可されていない
Function.prototype.bind	許可されていない	許可されていない

プロキシ、内部「ownKeys」呼び出し

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
SetIntegrityLevel	許可されていない	許可されていない
TestIntegrityLevel	許可されていない	許可されていない
SerializeJSONObject	許可されていない	許可されていない

オブジェクトの静的メソッドはプリミティブを受け入れる

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Object.getPrototypeOf	許可されていない	許可されていない
Object.getOwnPropertyDescriptor	許可されていない	許可されていない
Object.getOwnPropertyNames	許可されていない	許可されていない
Object.seal	許可されていない	許可されていない
Object.freeze	許可されていない	許可されていない
Object.preventExtensions	許可されていない	許可されていない
Object.isSealed	許可されていない	許可されていない
Object.isFrozen	許可されていない	許可されていない
Object.isExtensible	許可されていない	許可されていない
Object.keys	許可されていない	許可されていない

独自のプロパティ順序

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Object.keys	許可されていない	許可されていない
Object.getOwnPropertyNames	許可されていない	許可されていない
Object.assign	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

独自のプロパティ順序 (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
JSON.stringify	許可されていない	許可されていない
JSON.parse	許可されていない	許可されていない
Reflect.ownKeys, string key order	許可されていない	許可されていない
Reflect.ownKeys, symbol key order	許可されていない	許可されていない

更新された識別子構文

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
var â¸¯;	許可されていない	許可されていない
var ð ‹€;	許可されていない	許可されていない
no escaped reserved words as identifiers	許可されていない	許可されていない

非 **strict** 関数セマンティクス

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
hoisted block-level function declaration	許可されていない	許可されていない
labeled function statements	許可されていない	許可されていない
function statements in if-statement clauses	許可されていない	許可されていない

__proto__ in object literals

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic support	許可されていない	許可されていない
multiple __proto__ is an error	許可されていない	許可されていない
not a computed property	許可されていない	許可されていない
not a shorthand property	許可されていない	許可されていない
not a shorthand method	許可されていない	許可されていない

Object.prototype.__proto__

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
get prototype	許可されていない	許可されていない
set prototype	許可されていない	許可されていない
absent from Object.create(null)	許可されていない	許可されていない
present in hasOwnProperty()	許可されていない	許可されていない
correct property descriptor	許可されていない	許可されていない
present in Object.getOwnPropertyNames()	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

String.prototype HTML メソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
existence	許可されていない	許可されていない
tags' names are lowercase	許可されていない	許可されていない
quotes in arguments are escaped	許可されていない	許可されていない

RegExp.prototype.compile

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
basic functionality	許可されていない	許可されていない
returns this	許可されていない	許可されていない

正規表現構文拡張

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
hyphens in character sets	許可されていない	許可されていない
invalid character escapes	許可されていない	許可されていない
invalid control-character escapes	許可されていない	許可されていない
invalid Unicode escapes	許可されていない	許可されていない
invalid hexadecimal escapes	許可されていない	許可されていない
incomplete patterns and quantifiers	許可されていない	許可されていない
octal escape sequences	許可されていない	許可されていない
invalid backreferences become octal escapes	許可されていない	許可されていない

ECMAScript 2009 (ES5) の機能

オブジェクト/アレイリテラル拡張

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Getter accessors	サポート対象	サポート対象
Setter accessors	サポート対象	サポート対象
Trailing commas in object literals	サポート対象	サポート対象
Trailing commas in array literals	サポート対象	サポート対象
Reserved words as property names	サポート対象	サポート対象

オブジェクト静的メソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Object.create	サポート対象	サポート対象
Object.defineProperty	サポート対象	サポート対象

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オブジェクト静的メソッド (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Object.defineProperties	サポート対象	サポート対象
Object.getPrototypeOf	サポート対象	サポート対象
Object.keys	サポート対象	サポート対象
Object.seal	サポート対象	サポート対象
Object.freeze	サポート対象	サポート対象
Object.preventExtensions	サポート対象	サポート対象
Object.isSealed	サポート対象	サポート対象
Object.isFrozen	サポート対象	サポート対象
Object.isExtensible	サポート対象	サポート対象
Object.getOwnPropertyDescriptor	サポート対象	サポート対象
Object.getOwnPropertyNames	サポート対象	サポート対象

アレイメソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Array.isArray	サポート対象	サポート対象
Array.prototype.indexOf	サポート対象	サポート対象
Array.prototype.lastIndexOf	サポート対象	サポート対象
Array.prototype.every	サポート対象	サポート対象
Array.prototype.some	サポート対象	サポート対象
Array.prototype.forEach	サポート対象	サポート対象
Array.prototype.map	サポート対象	サポート対象
Array.prototype.filter	サポート対象	サポート対象
Array.prototype.reduce	サポート対象	サポート対象
Array.prototype.reduceRight	サポート対象	サポート対象
Array.prototype.sort: compareFn must be function or undefined	サポート対象外	サポート対象外
Array.prototype.sort: compareFn may be explicit undefined	サポート対象	サポート対象

文字列のプロパティおよびメソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Property access on strings	サポート対象	サポート対象
String.prototype.split	サポート対象	サポート対象外
String.prototype.trim	サポート対象	サポート対象

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

日付のメソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Date.prototype.toISOString	サポート対象	サポート対象
Date.now	サポート対象	サポート対象
Date.prototype.toJSON	サポート対象外	サポート対象外

不変グローバル

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
未定義	サポート対象	サポート対象
NaN	サポート対象	サポート対象
Infinity	サポート対象	サポート対象

数値のメソッド

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Number.prototype.toExponential rounds properly	サポート対象	サポート対象
Number.prototype.toExponential throws on Â±Infinity fractionDigits	サポート対象	サポート対象
Number.prototype.toExponential does not throw on edge cases	サポート対象	サポート対象

Strict モード (Strict mode)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
reserved words	許可されていない	許可されていない
"this" is undefined in functions	許可されていない	許可されていない
"this" is not coerced to object in primitive methods	許可されていない	許可されていない
"this" is not coerced to object in primitive accessors	許可されていない	許可されていない
legacy octal is a SyntaxError	許可されていない	許可されていない
assignment to unresolvable identifiers is a ReferenceError	許可されていない	許可されていない
assignment to eval or arguments is a SyntaxError	許可されていない	許可されていない

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Strict モード (Strict mode) (続く)

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
assignment to non-writable properties is a TypeError	許可されていない	許可されていない
eval or arguments bindings is a SyntaxError	許可されていない	許可されていない
arguments.caller removed or is a TypeError	許可されていない	許可されていない
arguments.callee is a TypeError	許可されていない	許可されていない
(function(){}).caller and (function(){}).arguments is a TypeError	許可されていない	許可されていない
arguments is unmapped	許可されていない	許可されていない
eval() can't create bindings	許可されていない	許可されていない
deleting bindings is a SyntaxError	許可されていない	許可されていない
deleting non-configurable properties is a TypeError	許可されていない	許可されていない
"with" is a SyntaxError	許可されていない	許可されていない
repeated parameter names is a SyntaxError	許可されていない	許可されていない
function expressions with matching name and argument are valid	許可されていない	許可されていない

Function.prototype.bind

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
Function.prototype.bind	サポート対象	サポート対象

JSON

機能	ECMAScript 2021 (ES12)	ES5 標準
JSON	サポート対象	サポート対象

JavaScript API コンテキスト依存ヘルプ

構文エディターでは、コンテキスト依存の API 情報を表示できます。

JavaScript API コンテキスト依存ヘルプには、次の事柄を実行できる機能があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- カーソルの位置で有効なスクリプト要素を一覧表示します。ポップアップウィンドウに提案が表示されます。
- 選択したスクリプト要素をカーソルの位置に追加します。カーソルが部分的なエントリ内にあるかそれに隣接している場合は、選択したスクリプト要素でエントリを完了します。
- 選択した提案の API ドキュメントを表示します。
- 現在のスクリプト要素の想定されるパラメーターと形式を表示します。

カーソルがテキスト文字列に隣接している場合、このテキスト文字列で始まるスクリプト要素が検索されます。たとえば、カーソルが文字列 `GlideR` 内にあるかまたは隣接している間は、次のようなスクリプト要素が表示されます。

- *`GlideRecord`*
- *`GlideRecordSecure`*

コンテキスト依存の提案は、スクリプトタイプに基づきます。たとえば、ビジネスルールで作業している場合は、サーバー API からの提案と *`current`* や *`previous`* などのオブジェクトのみが表示されます。クライアントスクリプトの作業中は、クライアント API からの提案のみが表示されます。

クライアント側スクリプティング

フォームの読み込み時、フォームの送信後、フィールドの値の変更時など、クライアントベースのイベントが発生したときに、クライアント (Web ブラウザー) で JavaScript を実行します。

クライアント側の Glide API は、クライアントスクリプトで使用できるクラスとメソッドを提供します。

事前準備

スクリプティング環境の制限を理解します。たとえば、サービスポータル またはモバイル環境のフォームで実行されるクライアントスクリプトには、特定の API のみを含めることができます。詳細については、「モバイル クライアント GlideForm (g フォーム) のスクリプトと移行」を参照してください。

クライアント側のスクリプティングの設計と処理

クライアントスクリプトを適切に設計すれば、ユーザーのフォーム入力時間を短縮できます。

クライアント側の処理が適切に行われるようにするには、最初にフォームを読み込みます。フォームの読み込み前にレコードを更新すると、予期しない結果が発生し、クライアント側の処理がバイパスされる可能性があります。

フォームのフィールド値を制御するクライアントスクリプトを作成する場合は、別の方法を使用してリスト内でこれらのフィールド値を制御する必要があります。以下のようにすることができます。

- テーブルのリスト編集を無効にします。
- リスト編集に適したビジネスルールまたはアクセス制御を作成します。
- データポリシーを作成します。
- onCellEdit クライアントスクリプトを別に作成します。

リストの編集の制限

フォーム上のフィールドに対して UI ポリシーまたはクライアントスクリプトを作成する場合、別の方法を使用して、それらのフィールドのデータがリストで同様に制御されるようにする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

onCellEdit クライアントスクリプトを除き、UI ポリシーとクライアントスクリプトはフォームにのみ適用されます。クライアントスクリプトを使用する場合は、次の方法を使用してリストの編集を制限します。

- テーブルのリスト編集を無効にします。
- リスト編集に適したビジネスルールまたはアクセス制御を作成します。
- データポリシーを作成します。
- onCellEdit クライアントスクリプトを別に作成します。

サーバールックアップを最小限に抑制

クライアントデータをできるだけ使用することで、時間のかかるサーバールックアップが必要なくなります。

クライアントスクリプティングでは、クライアントで利用可能なデータまたはサーバーから取得したデータのいずれかを使用します。サーバーから情報を取得する主な方法は、g_scratchpad と非同期 GlideAjax ルックアップです。

これらの方法の主な違いは、g_scratchpad ではフォームがロードされたときに 1 回送信される (情報がサーバーからクライアントにプッシュされる) のに対し、GlideAjax はクライアントがサーバーに情報を要求すると動的にトリガーされることです。

注: サーバー情報を取得するためには GlideRecord および g_form.getReference() も利用できます。ただし、パフォーマンスに影響するため、これらの方法は推奨されなくなりました。多くの場合、必要なフィールドは 1 つだけですが、どちらの方法でも要求された GlideRecord 内のすべてのフィールドが取得されます。

Example: g_scratchpad を使用したサーバーデータの取得

g_scratchpad オブジェクトは、クライアントがフォーム上で利用できない情報を必要とする場合に、サーバーからクライアントに情報を渡します。

たとえば、フィールド u_retrieve にアクセスする必要があるクライアントスクリプトがあり、そのフィールドがフォーム上にない場合、クライアントスクリプトはデータを使用できません。この状況の一般的な解決策は、フォームにフィールドを配置してから、クライアントスクリプトまたは UI ポリシーを使用して常に非表示にすることです。このソリューションは素早く構成できますが、実行は遅くなります。

フォームがロードされる前にクライアントがサーバーから必要とする情報がわかっている場合は、表示ビジネスルールでこの情報を保持する g_scratchpad プロパティを作成できます。g_scratchpad は、フォームが要求されるとクライアントに送信され、クライアント側のすべてのスクリプティングメソッドで使用できるようになります。これは、サーバーからクライアントに情報を送信する非常に効率的な手段です。ただし、この方法でデータをロードできるのは、フォームがロードされている場合のみです。ビジネスルールを動的にトリガーすることはできません。このような場合は、非同期 GlideAjax 呼び出しを使用します。

たとえば、インシデントをオープンし、次の情報をクライアントに渡す必要があるとします。

- システムプロパティ css.base.color の値
- 現在のレコードに添付ファイルがあるかどうか
- 呼び出し側のマネージャーの名前

表示ビジネスルールは、次のスクリプトを使用してこの情報をクライアントに送信します。

```
g_scratchpad.css = gs.getProperty('css.base.color');
g_scratchpad.hasAttachments = current.hasAttachments();
g_scratchpad.managerName = current.caller_id.manager.getDisplayValue();
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントスクリプトを使用してスクラッチパッドデータにアクセスするには、次のようにします。

```
// Check if the form has attachments
if (g_scratchpad.hasAttachments)
    // do something interesting here
else
    alert('You need to attach a form signed by ' +
 g_scratchpad.managerName);
```

Example: 非同期 GlideAjax を使用したサーバーデータの取得

非同期 GlideAjax を使用すると、サーバーからの情報を動的に要求できます。

このスクリプトは、CI のサポートグループとインシデントのアサイン先グループを名前で比較します。

```
//Alert if the assignment groups name matches the support group
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading) {

    if (isLoading)
        return;

    var ga = new GlideAjax('ciCheck');

    ga.addParam('sysparm_name', 'getCiSupportGroup');
    ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
    ga.addParam('sysparm_ag', g_form.getValue('assignment_group'));
    ga.getXML(doAlert); // Always try to use asynchronous (getXML) calls
 rather than synchronous (getXMLWait)
}

// Callback function to process the response returned from the server
function doAlert(response) {

    var answer =
 response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");

    alert(answer);
}
```

このスクリプトは、付随するスクリプトインクルードに依存しています。

```
var ciCheck = Class.create();

ciCheck.prototype = Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor, {

    getCiSupportGroup: function() {

        var retVal = ''; // Return value
        var ciID   = this.getParameter('sysparm_ci');
        var agID   = this.getParameter('sysparm_ag');
        var ciRec  = new GlideRecord('cmdb_ci');

        // If we can read the record, check if the sys_ids match
        if (ciRec.get(ciID)) {
            if (ciRec.getValue('support_group') == agID)
                retVal = 'CI support group and assignment group match';
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
            else
                retVal = 'CI support group and assignment group do not
 match';

            // Can't read the CI, then they don't match
        } else {
            retVal = 'CI support group and assignment group do not
 match';
        }

        return retVal;
    }

});
```

参照フィールドに **setValue() displayValue** パラメーターを使用

参照フィールドで setValue() を使用する場合は、追加のサーバー呼び出しを回避するために displayValue パラメーターを含めます。

参照フィールドで *`setValue()`* を使用する場合は、必ず参照フィールドの表示値を 3 番目のパラメーターとして含めてください。displayValue なしで値を設定すると、インスタンスは同期呼び出しを実行して、指定したレコードの表示値を取得します。サーバーとの余分なやり取りが発生することで、パフォーマンスに影響する可能性があります。

この例は、setValue を呼び出す間違った方法を示しています。

```
var id = '5137153cc611227c000bbd1bd8cd2005';

g_form.setValue('assigned_to', id); // Client needs to go back to the
 server to
                                    // fetch the name that goes with this
 ID
```

代わりに、表示値をオプションのパラメーターとして *`setValue()`* に含めます。

```
var id = '5137153cc611227c000bbd1bd8cd2005';
var name = 'Fred Luddy';

g_form.setValue('assigned_to', id, name); // No server call required
```

クライアントスクリプトの代わりに **UI** ポリシーを使用する

可能な場合は、クライアントスクリプトの代わりに UI ポリシーを使用することを検討してください。

UI ポリシーには、クライアントスクリプトに比べて次のメリットがあります。

- UI ポリシーには、クライアント側の操作が実行される順序を完全に制御できる [順序] フィールドがあります。
- UI ポリシーでは、フィールドを必須、読み取り専用にしたり、表示させたりするためのスクリプティングは必要ありません。

注: UI ポリシーはクライアントスクリプトの後に適用されます。

クライアントスクリプトを使用した入力の検証

クライアントスクリプトは、ユーザーからの入力を検証するのに最適です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この検証により、ユーザーは情報を送信する前にデータの問題があるかどうかを確認できるため、ユーザーエクスペリエンスが向上します。

検証の例として、[影響度] フィールドの値が [優先度] フィールドの値とともに有効であることを確認します。この例では、[低] の影響度を [高] の優先度にすることはできません。

```
if (g_form.getValue('impact') == '3' && g_form.getValue('priority') ==
 '1')
   g_form.showFieldMsg('impact', getMessage('Low impact now allowed with
 High priority'), 'error');
```

クライアントスクリプトの順序の設定

[順序] フィールドを使用して、クライアントスクリプトの実行順序を制御します。2 つ以上のクライアントスクリプトが同時に実行されて競合することを避けるために、スクリプトを実行する順序を追加できます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
クライアントスクリプトに順序を追加すると、番号が小さいものから大きいものの順に処理シーケンスが作成されます。2 つのスクリプトが競合する場合は、番号の小さいクライアントスクリプトが最初に実行されます。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [クライアントスクリプト] に移動し、既存のクライアントスクリプトを開くか、[新規] をクリックします。
2. [順序] フィールドを含むように フォームレイアウトを構成 します。
3. 他のクライアントスクリプトとの関連で実行する順序に基づいて、[順序] フィールドに番号を追加します。
   最初に実行するスクリプトの数値は小さくしてください。

DOM 操作の回避

可能であれば、ドキュメントオブジェクトモデル (DOM) の操作は避けてください。ブラウザーが更新されたときに、保守性の問題が発生する可能性があります。

代わりに、GlideForm API を使用するか、別の方法での解決を検討してください。一般に、DOM 操作メソッドを使用する場合は、ID または CSS セレクターを使用して DOM 内の要素を参照する必要があります。すぐに利用可能な DOM 要素を参照する場合、DOM 内の要素 ID または配置が変更され、コードが機能しなくなったり、エラーが生成されたりするリスクがあります。事前に慎重に検討し、発生しているリスクを十分に理解してください。これらのオブジェクトを確認し、DOM 操作メソッドの使用をできるだけ減らします。

グローバルクライアントスクリプトを避ける

グローバルクライアントスクリプトは、選択したテーブルがグローバルである任意のクライアントスクリプトです。グローバルクライアントスクリプトにはテーブルの制限がないため、システム内のすべてのページでロードされ、プロセスでブラウザーのロード遅延が発生します。

この種のスクリプトをすべてのページにロードするメリットはありません。

別の方法として、すべての子/拡張テーブルから派生できるベーステーブル (タスク [task] や構成アイテム [cmdb_ci] など) にクライアントスクリプトを移動する、よりモジュール式でスケーラブルなアプローチを検討してください。これにより、スクリプトをめったに必要としないホームページやサービスカタログ など、UI のすべてのフォームでスクリプトをロードする必要がなくなります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関数でコードを囲む

関数内のクライアントスクリプトでコードを囲みます。

関数のないクライアントスクリプトは、変数スコープに関する問題の原因となります。コードが関数で囲まれていない場合、変数やその他のオブジェクトは使用可能で、他のすべてのクライアント側のスクリプトで共有されます。同じ変数名を使用している場合は、競合する可能性があります。これにより、トラブルシューティングが困難な予期しない結果が生じる可能性があります。

次の例を考えてみましょう。

```
var state = "6";

function onSubmit() {

   if(g_form.getValue('incident_state') == state) {
     alert("This incident is Resolved");
   }
}
```

state 変数は関数で囲まれていないため、すべてのクライアント側のスクリプトからアクセスできます。他のスクリプトでも、共通の変数名 *state* を使用できます。重複する名前は競合し、予期しない結果につながる可能性があります。これらの問題は、切り分けて解決することが困難です。この問題を回避するには、すべてのコードが関数で囲まれていることを確認します。

```
function onSubmit() {

   var state = "6";

   if(g_form.getValue('incident_state') == state) {
     alert("This incident is Resolved");
   }
}
```

このソリューションは、変数 *state* のスコープが onSubmit() 関数に制限されているため、はるかに安全です。したがって、*state* 変数は、他のクライアント側のスクリプトの *state* 変数と競合しません。

必要なスクリプトのみを実行する

時間のかかるスクリプトを不必要に実行しないようにするには、クライアントスクリプトが必要なタスクのみを実行するようにします。

次の例は、最初のコードサンプルの改善を示しています。各例は、パフォーマンスを向上させ、不要な呼び出しを回避するためのスクリプトの特定の拡張を示しています。

クライアントスクリプトには [条件] フィールドがないことに注意してください。これは、適切なフォームがロードされるたびに、onLoad() および onChange() スクリプト全体が実行されることを意味します。この例は、[構成アイテム] フィールドが変更されたときに実行されるように設定された非効率的な onChange() クライアントスクリプトです。

```
//Set Assignment Group to CI's support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading) {

    var ciSupportGroup = g_form.getReference('cmdb_ci').support_group;

    if (ciSupportGroup != '' && g_form.getValue('assignment_group') != '')
        g_form.setValue('assignment_group', ciRec.support_group.sys_id);
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この例では、getReference() または GlideRecord ルックアップを非同期 GlideAjax 呼び出しに置き換えることで、最初の例を改善しています。

```
//Set Assignment Group to support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading) {

    var ga = new GlideAjax('ciCheck');

    ga.addParam('sysparm_name', 'getSupportGroup');
    ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
    ga.getXML(setAssignmentGroup);
}

function setAssignmentGroup(response) {

    var answer =
 response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");

    g_form.setValue('assignment_group', answer);
}
```

isLoading フラグは、onChange スクリプトでブラウザーが不要なコードに時間を取られないようにする最も簡単な方法です。*isLoading* フラグは、フォームのロード中に実行する必要のないスクリプトの先頭で使用する必要があります。フィールドが最後に変更されたときにロジックが既に実行されているため、フォームのロード時にこのスクリプトを実行する必要はありません。スクリプトに *isLoading* チェックを追加すると、フォームをロードするたびに cmdb_ci ルックアップが実行されなくなります。

isTemplate フラグは、テンプレートがロード中であることを示します。

```
//Set Assignment Group to CI's support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading, isTemplate) {

    if (isLoading)
        return;

    var ga = new GlideAjax('ciCheck');

    ga.addParam('sysparm_name', 'getSupportGroup');
    ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
    ga.getXML(setAssignmentGroup);
}

function setAssignmentGroup(response) {

    var answer =
 response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");

    g_form.setValue('assignment_group', answer);
}
```

ロード中に onChange スクリプトを実行する必要がある場合は、次の規則を使用します。

```
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading, isTemplate) {

    if (isLoading) {}; // run during loading

    // rest of script here
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
}
```

newValue チェックは、関連するフィールドに有効な値がある場合にのみ続行するようにこのスクリプトに指示します。これにより、フィールド値が削除または空白になったときにスクリプトが実行されなくなります。これにより、残りのスクリプトが実行されたときに常に有効な値が使用可能になります。

```
//Set Assignment Group to CI's support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading, isTemplate) {

    if (isLoading)
        return;

    if (newValue) {
        var ga = new GlideAjax('ciCheck');

        ga.addParam('sysparm_name', 'getSupportGroup');
        ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
        ga.getXML(setAssignmentGroup);
    }
}

function setAssignmentGroup(response) {

   var answer =
 response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");

   g_form.setValue('assignment_group', answer);
}
```

フォームのロード後に変更される値にスクリプトが反応するようにするには、newValue != oldValue チェックを使用します。

注: この例では、ユーザーが値を変更してから元の値に戻すことはできません。

```
//Set Assignment Group to CI's support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading, isTemplate) {

    if (isLoading)
        return;

    if (newValue) {
        if (newValue != oldValue) {
            var ga = new GlideAjax('ciCheck');

            ga.addParam('sysparm_name', 'getSupportGroup');
            ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
            ga.getXML(setAssignmentGroup);
        }
    }
}

function setAssignmentGroup(response) {

   var answer =
 response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
   g_form.setValue('assignment_group', answer);
}
```

この例では、サーバー呼び出しを実行する前にクライアントが利用できるものをできるだけ多くチェックするようにスクリプトを再配置することで、GlideAjax 呼び出しを 1 レベル深く埋めています。スクリプトは、GlideAjax 呼び出しを実行する前にアサインをチェックします。これにより、**assignment_group** フィールドが既に設定されている場合、サーバールックアップが防止されます。

```
//Set Assignment Group to CI's support group if assignment group is empty
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading, isTemplate) {

    if (isLoading)
       return;

    if (newValue) {
        if (newValue != oldValue) {
            if (g_form.getValue('assignment_group') == '') {
                var ga = new GlideAjax('ciCheck');

                ga.addParam('sysparm_name', 'getSupportGroup');
                ga.addParam('sysparm_ci', g_form.getValue('cmdb_ci'));
                ga.getXML(setAssignmentGroup);
            }
        }
    }
}

function setAssignmentGroup(response) {

   var answer =
 response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");

   g_form.setValue('assignment_group', answer);
}
```

クライアントスクリプト

クライアントスクリプトを使用すると、フォームの読み込み時、フォームの送信後、フィールドの値の変更時など、クライアントベースのイベントが発生したときに、システムがクライアント (Web ブラウザー) で JavaScript を実行できます。

クライアントスクリプト、スクリプトタイプ、API、および推奨プラクティスの概要

クライアントスクリプトを使用して、ユーザーがフォームを使用しているときに、フォーム、フォームフィールド、およびフィールド値を設定します。クライアントスクリプトでは次を行うことができます。

- フィールドの非表示または表示を切り替える
- フィールドを読み取り専用または書き込み可能にする
- ユーザーのロールに基づいてフィールドをオプションまたは必須にする
- 他のフィールドの値に基づいて 1 つのフィールドの値を設定する
- ユーザーのロールに基づいて選択リストのオプションを変更する
- フィールドの値に基づいてメッセージを表示する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントスクリプトが実行される場所

onCellEdit クライアントスクリプトを除き、クライアントスクリプトはフォームおよび検索ページにのみ適用されます。フォームのフィールド値を制御するクライアントスクリプトを作成する場合は、別の方法を使用してリスト内のフィールド値を制御する必要があります。

- フィールド値を編集できるユーザーを制限するアクセス制御を作成します。
- コンテンツを検証するビジネスルールを作成します。
- コンテンツを検証するデータポリシーを作成します。
- *onCellEdit()* クライアントスクリプトを作成してコンテンツを検証します。
- テーブルのリスト編集を無効にします。

注: クライアントスクリプトは ServiceNow モバイル アプリケーションではサポートされていません。

クライアントスクリプトフォーム

フィールド	説明
名前	クライアントスクリプトの名前。
テーブル	クライアントスクリプトを適用するテーブル。
UI タイプ	クライアントスクリプトを適用するターゲットユーザーインターフェイス。
タイプ	*onLoad()*：システムが最初にフォームをレンダリングするとき、およびユーザーがデータを入力できるようになる前に実行されます。通常、*onLoad()* クライアントスクリプトは、現在のフォームをクライアントサイドで操作するためやデフォルトのレコード値を設定するために使用されます。 *onSubmit()*：フォームが送信されると実行されます。通常、*onSubmit()* クライアントスクリプトがフォーム上のデータを検証して、フォームが正しく送信されるようにします。*onSubmit()* クライアントスクリプトから false を返すことでフォームの送信を取り消すこともできます。 *onChange()*：フォーム上の特定のフィールド値が変更されたときに実行されます。*onChange()* クライアントスクリプトには、以下のパラメーターを指定する必要があります。 • *control*：値が変更された DHTML ウィジェット。 **注:** *control* にはモバイルおよび サービスポータルではアクセスできません。 • *oldValue*：レコードがロードされたときのウィジェットの値。 **注:** HTML フィールドタイプに対して古い値は返されません。 • *newValue*：変更後のウィジェットの値。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• *isLoading*：フォームのロードの一環として変更が行われるかどうかを示します。 • *isTemplate*：テンプレートのロードの一環として変更が行われるかどうかを示します。 *onCellEdit()*：リストエディターがセル値を変更したときに実行されます。*onCellEdit()* クライアントスクリプトには、以下のパラメーターを指定する必要があります。 • *sysIDs*：編集中の全アイテムの sys_id のアレイ。 • *table*：編集中のアイテムのテーブル。 • *oldValues*：編集中のセルの古い値。 • *newValue*：編集中のセルの新しい値。 • *callback*：コールバックによって、関連するその他のセル編集スクリプトの実行に進みます。*true* がパラメーターとして渡されると、他のスクリプトが実行されるか、他にスクリプトがない場合は変更がコミットされます。*false* がパラメーターとして渡されると、それ以上のスクリプトは実行されず、変更はコミットされません。
フィールド名	スクリプトが適用されるフィールドの名前。スクリプトがフィールド値の変更に応答する場合にのみ使用できます (onChange または onCellEdit スクリプトタイプ)。
アプリケーション	このクライアントスクリプトが存在するアプリケーション。
アクティブ	選択すると、クライアントスクリプトが有効になります。クライアントスクリプトを無効にするには、このフィールドの選択を解除します。
継承	クライアントスクリプトが拡張テーブルに適用されるかどうかを示します。
グローバル	true の場合、クライアントスクリプトはテーブルのすべてのビューで実行されます。
表示	[グローバル] が選択されていない場合にのみ表示されます。クライアントスクリプトが実行されるビュー。
説明	クライアントスクリプトの機能と目的を説明するコンテンツ。
メッセージ	*getMessage('[message]')* を使用したローカライズ済みメッセージとして、クライアントスクリプトに提供されるテキスト文字列 (各行に 1 つ)。詳細については、「クライアントスクリプトメッセージの翻訳」を参照してください。
スクリプト	クライアントスクリプトが含まれています。
スクリプトを隔離	新しいクライアントスクリプトは、DOM への直接アクセスを無効にして、Strict モードで実行されます。jQuery、prototype、および window オブジェクトへのアクセスも無効になります。スクリプト単位でこれを無効にするには、このフォームを構成して [スクリプトを隔離] チェックボックスをオンにします。すべての新しいグローバルスコープのクライアント側スクリプトに対してこの機能を無効にするには、システムプロパティ glide.script.block.client.globals を false に設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI スクリプト

UI スクリプトを使用すると、クライアント側の JavaScript を再利用可能な形式にパッケージ化できます。これは、スクリプトインクルードがサーバー側の JavaScript を格納する方法と似ています。アドミニストレーターは、UI スクリプトを作成し、それらをクライアントスクリプト、他のクライアント側のスクリプトオブジェクト、および HTML コードから実行できます。

UI スクリプトはモバイルではサポートされていません。

グローバル UI スクリプト

UI スクリプトを作成してグローバルとして指定すると、システム内の任意のフォームでスクリプトを使用できるようになります。スコープ対象のアプリケーションからグローバル UI スクリプトを作成することはできません。

UI スクリプトをグローバルとして指定すると、システム内の任意のフォームが使用できるようになります。たとえば、関数 *helloWorld()* を持ち、[グローバル] フィールドがオンになっている UI スクリプトを作成できます。

```
function helloWorld() {
  alert('Hi');
}
```

このグローバル UI スクリプトを作成した後、作成したクライアントスクリプトまたは UI ポリシーから *helloWorld()* 関数を呼び出すことができます。

UI スクリプトの作成

再利用可能なクライアント側の JavaScript コードを定義する UI スクリプトを作成します。

手順

UI スクリプトを作成するには、[システム **UI]** > **[UI** スクリプト] に移動し、レコードを作成または編集します (フィールドの説明についてはテーブルを参照)。

UI スクリプト

フィールド	説明
スクリプト名	UI スクリプトの名前。名前がシステム上で一意であることを確認してください。
API 名	スコープとスクリプト名を含む、UI スクリプトの API 名 (x_custom_app.HelloWorld など)。
アプリケーション	UI スクリプトを含むアプリケーション。
アクティブ	UI スクリプトがアクティブかどうかを示すインジケーター。アクティブな UI スクリプトのみを実行できます。
グローバル	スクリプトがシステム内のすべてのページでロードされるかどうかを示すインジケーター。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: パフォーマンスに影響を与える可能性があるため、グローバル UI スクリプトを作成するときは注意が必要です。スコープ対象のアプリケーションからグローバル UI スクリプトを作成することはできません。
説明	スクリプトの目的の概要。
スクリプト	他のスクリプトから呼び出されたときに実行するクライアント側のスクリプト。

UI スクリプトの実行

UI スクリプトを実行するときは、次のガイドラインに従ってください。

フォームからの UI スクリプトの実行

フォームで UI スクリプトを実行するには、フォーマッターを作成してフォームに追加します。関連する UI マクロで、`g:requires` タグを含め、*name=* パラメーターを UI スクリプト名の後に .jsdbx 拡張子を付けて指定します。フォームビューにフォーマッターを追加します。

このコードにより、UI スクリプトの定義と結果をブラウザーですぐに利用できるようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<j:jelly trim="false" xmlns:j="jelly:core" xmlns:g="glide"
 xmlns:j2="null" xmlns:g2="null">
    <g2:evaluate var="jvar_stamp">
        var now_GR = new GlideRecord('sys_ui_script');
        gr.orderByDesc('sys_updated_on');
        gr.query();
        gr.next();
        gr.getValue('sys_updated_on');
    </g2:evaluate>
    <g:requires name="<UI SCRIPT NAME>.jsdbx"
 params="cache=$[jvar_stamp]" />
</j:jelly>
```

HTML での UI スクリプトの呼び出し

HTML コードから UI スクリプトを実行するには、`<script>` タグを使用して、UI スクリプトの API 名として `src=` 引数を指定し、その後に .jsdbx 拡張子を付けます。たとえば、*CoolClock* という名前の UI スクリプトを次のコードに含めます。

```
<script language="javascript" src="CoolClock.jsdbx" />
```

クライアント側のコードからの UI スクリプトの呼び出し

g_ui_scripts グローバルオブジェクトを使用して、クライアント側のコード内から UI スクリプトにアクセスします。詳細については、「GlideUIScripts - クライアント」を参照してください。

注: [グローバル] フィールドが true に設定されている UI スクリプトは、このクラスではサポートされません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログクライアントスクリプト

クライアント側のスクリプトは、フォームに動的な効果と検証を追加できます。スクリプトはサービスカタログアイテムまたは変数セットに適用できるため、アドミニストレーターは他のフォームで利用可能なものと同じ機能を使用できます。

クライアント側のサイドスクリプトを使用して、次のことができます。

- 変数値を取得または設定します。
- 変数を非表示にするか表示します。
- 変数を必須にするかどうかを指定します。
- フォームの送信を検証します。
- カートに追加します。
- すぐに注文します。

カタログクライアントスクリプトの考慮事項

カタログクライアントスクリプトを作成するときは、次の考慮事項に注意してください。

- カタログクライアントスクリプトは、ユーザーがサービスカタログからアイテムを注文したときに実行されます。カタログクライアントスクリプトは、ユーザーがカタログアイテムを要求したときにカタログアイテムの変数または変数セットが表示されるときにも実行できます。
- カタログクライアントスクリプトを使用して変数にアクセスできるようにするには、変数名が必要です。名前のない変数は、利用可能な変数のリストに表示されません。
- [要求アイテム] フォームまたは [カタログタスク] フォームで標準のクライアントスクリプトを使用する場合は、変数と同じ名前のフィールドをメモしておきます。同じ名前のテーブルフィールドと変数の両方がフォームに存在する場合、スクリプトを使用してアクセスするとテーブルフィールドが照合されます。これが発生した場合は、変数に「`variables.variable name`」という名前を付けて、具体的に対処します。例：`g_form.setValue('variables.replacement', 'false');`
- レコードプロデューサーを使用して サービスカタログ から他のタイプのレコードに変数を渡す場合、これらの変数は、[変更要求] フォームの変更変数エディター UI フォーマッターなどの変数エディターを使用して、それらのレコードに表示されます。これらの変数は、標準のクライアントスクリプトメソッド (`setDisplay`、`setMandatory`、`setValue`、`getValue` など) を使用して操作できます。
- カタログクライアントスクリプトは、ウィザードに含まれるカタログアイテムに使用できます。
- `g_form.refreshSlushbucket(fieldName)` API を使用して、リストコレクター変数を更新できます。

カタログクライアントスクリプトの違い

カタログクライアントスクリプトは、標準のクライアントスクリプトとよく似ていますが、いくつかの重要な違いがあります。

- スクリプトの [インシデント] などのテーブルを選択する代わりに、カタログアイテムまたは変数セットを選択します。システムには多数のカタログアイテムがある場合があるため、標準の [クライアントスクリプト] フォームで使用される選択リストではなく、参照フィールドを使用してカタログアイテムまたは変数セットを選択する必要があります。
- *`onChange()`* カタログクライアントスクリプトを使用すると、フィールドではなく特定の変数にリンクされます。変数名選択リストには、選択したカタログアイテムまたは変数セットの名前付き変数が自動的に入力されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログクライアントスクリプトの作成

カタログクライアントスクリプトを作成するには、次の手順に従います。

手順

1. [すべて] > [サービスカタログ] > [カタログ管理] > [カタログクライアントスクリプト **(Catalog Client Scripts)]** に移動します。
   現在のカスタムカタログクライアントスクリプトのリストが表示されます。
2. [新規] をクリックします。
3. 必要に応じてフィールドに入力します (表を参照)。

フィールド	説明
名前	カタログクライアントスクリプトの一意の名前を入力します。
適用先	このクライアントスクリプトが適用されるアイテムタイプを選択します。 ◦ カタログアイテム：[カタログアイテム] フィールドを有効にします。 ◦ 変数セット：変数セットフィールドを有効にします。
アクティブ	クライアントスクリプトを有効にするチェックボックスをオンにします。スクリプトを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
UI タイプ	デスクトップ、モバイル、またはその両方に適用するかどうかを指定します。
スクリプト	サービスカタログアイテムで実行するべきクライアントスクリプトを入力します。
タイプ	**onLoad** や **onSubmit** などのスクリプトを実行するタイミングを選択します。
カタログアイテムまたは変数セット	リストからカタログアイテムまたは変数セットを選択します。使用可能なフィールド名とオプションは、[適用先] フィールドの選択によって異なります。
カタログアイテムビューに適用	サービスカタログの注文画面に表示されているカタログアイテムにカタログクライアントスクリプトを適用する場合、このチェックボックスをオンにします。要求者のビューで利用可能です。
要求アイテムに適用	アイテムが要求された後、[要求アイテム] フォームにカタログクライアントスクリプトを適用する場合、このチェックボックスをオンにします。履行者のビューで利用可能です。「VEditor」を参照してください。
カタログタスクに適用	アイテムの [カタログタスク] フォームの表示中にカタログクライアントスクリプトを適用する場合、このチェックボックスをオンにします。履行者のビューで利用可能です。「VEditor」を参照してください。
ターゲットレコードに適用	レコードプロデューサーを使用してタスク拡張テーブル用に作成されたレコードでカタログ UI ポリシーをサポートするには、このチェックボックスをオンにします。「デフォルトの変数エディター」を参照してください。

4. [送信] をクリックします。

カタログクライアントスクリプトの例

一般的なアクションを実行するクライアントスクリプトの例。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: 変数の値の取得

カタログ変数の値を取得するには、次の構文を使用します。変数には名前が必要であることに注意してください。「`variable_name`」を変数の名前に置き換えます。

```
g_form.getValue('variable_name');
```

Example: ユーザーが変数に入力できる文字数を制限する

これは、アイテムが注文されたときではなく、変数が表示されたときに実行されるスクリプトの例です。

```
function onLoad(){
  var sd = g_form.getControl('short_description');
  sd.maxLength=80;
}
```

モバイル クライアント GlideForm (g フォーム) のスクリプトと移行

モバイル用のクライアントスクリプトは、Web 用のスクリプトと同じですが、いくつかの例外があります。すべての新しいスクリプトは特定のガイドラインに準拠する必要があります。モバイルプラットフォームで影響を受けるアイテムは、クライアントスクリプト、UI ポリシー、ナビゲーターモジュール、および UI アクションです。

クライアントスクリプト

新しいスクリプトまたは既存のスクリプトをモバイルで有効にするには、次の要件に準拠する必要があります。

- *`g_form.getControl()`* の代わりに、新しいモバイルメソッドを使用する。
- 使用禁止メソッドは使用しない。
- サポート対象外のブラウザーオブジェクトは参照しない。
- 同期 JavaScript、*`GlideAjax`*、*`GlideRecord`* 呼び出しを使用しない。
- モバイルでは利用できないメソッドは呼び出さない。
- スクリプトをモバイル UI で実行できるようにする。

要件

新しいモバイルメソッドを使用する	HTML を直接操作するのではなく、フォームフィールドを変更するための新しいメソッドがいくつか用意されています。これらのメソッドにより、以前使用していた *`g_form.getControl()`* は置き換えられ、モバイルプラットフォームで使用禁止になります。既存のスクリプトでは、モバイルプラットフォームで無効になったメソッドの代わりに、新しいメソッドが使用されるようにします。これらの新しいメソッドの詳細については、「Mobile GlideForm() API」を参照してください。
使用禁止メソッドを使用しない	HTML 要素への直接アクセスが許可されていないため、モバイルプラットフォームで次のメソッドが使用禁止になりました。 • *`g_form.getControl()`* • *`g_form.getFormElement()`* • *`g_form.getElement()`*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要件 (続く)

	既存のスクリプトに互換性があることを確認するには、使用禁止メソッドへのすべての呼び出しをコードから削除します。新しいスクリプトの場合、スクリプトをモバイルで有効にするには、使用禁止メソッドを使用しないでください。 *g_form.getControl()* の場合、以前にこのメソッドに含まれていた機能のいくつかが個々のメソッドに抽出されています。*g_form.getControl()* の代わりに、開発者サイトに記載されている新しいメソッドを使用します。
サポート対象外のブラウザーオブジェクトは参照しない	モバイルスクリプトでは、次のブラウザーオブジェクトはサポートされていません。 • ウィンドウ • jQuery または Prototype ($、$j、または $$) • ドキュメント 新しいスクリプトがこれらのオブジェクトを使用していないことを確認し、既存のスクリプトからこれらのオブジェクトを削除します。代わりに、*GlideForm (g_form)* を使用します。同じタスクを実行するために、*setLabel()*、*addDecoration()*、および *hasField()* などのメソッドが提供されています。

同期 JavaScript 呼び出しを使用しない	モバイルプラットフォームでは、同期 JavaScript 呼び出しは許可されていません。*g_form.getReference()* メソッドでは、コールバックパラメーターを定義しておく必要があります。例：
	
	`g_form.getReference(fieldName, callback)`
	
	すべての *g_form.getReference()* 呼び出しにコールバックパラメーターが含まれるようにします。たとえば、次のスクリプトにはコールバックが含まれないため、モバイルプラットフォームとは互換性がありません。
	
	`var userName = g_form.getReference('assigned_to').user_name; g_form.setValue('u_assigned_user_name', userName);`
	
	次のスクリプトは、コールバックが含まれるように更新されたため、モバイルプラットフォームと互換性があります。
	
	`g_form.getReference('assigned_to', function(now_GR) { g_form.setValue('u_assigned_user_name', gr.user_name); });`

同期 Ajax 呼び出しを使用しない	モバイルプラットフォームは、同期 *GlideAjax* 呼び出しを許可していません。*GlideAjax* で *getXMLWait()* をどのように使用しても、モバイルプラットフォームでは機能しません。すべての *GlideAjax* 呼び出しが常に非同期になるようにします。*GlideAjax* 呼び出しと *getXMLWait()* の同期と非同期の詳細については、「AJAX」を参照してください。利用可能な *GlideAjax* メソッドの詳細については、「GlideAjax API」を参照してください。
同期 *GlideRecord* 呼び出しを使用しない	モバイルプラットフォームでは同期 GlideRecord 呼び出しは使用できません。既存の *GlideRecord* 呼び出しにコールバックが含まれるようにします。たとえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要件 (続く)	ば、次のスクリプトにはコールバックが含まれないため、モバイルプラットフォームとは互換性がありません。
	`var now_GR = new GlideRecord('incident');`
	`gr.addQuery('number', g_form.getValue('related_incident'));`
	`gr.query();`
	`gr.next();`
	`g_form.setValue('u_related_incident_description',`
	`gr.short_description);`
	次のスクリプトは、コールバックが含まれるように更新されたため、モバイルプラットフォームと互換性があります。
	`var now_GR = new GlideRecord('incident');`
	`gr.addQuery('number', g_form.getValue('related_incident'));`
	`gr.query(function(now_GR) {`
	`gr.next();`
	`g_form.setValue('u_related_incident_description',`
	`gr.short_description);`
	`});`

モバイルプラットフォームで利用できないメソッドは使用しないでください	モバイルプラットフォームによって課せられる制限と機能の低下により、次のメソッドは使用禁止されることはありませんが、モバイルプラットフォームでは利用できません。モバイルプラットフォームで実行されても、何も起こりません。 • *showRelatedList ()* • *hideRelatedList ()* • *showRelatedLists ()* • *hideRelatedLists()* • *flash()* • *getSections()* • *enableAttachments()* • *disableAttachments()* • *setReadonly()* (*setReadOnly()* は利用可能です) • *getParameter()*
モバイル用スクリプトを有効にする	モバイルプラットフォームでスクリプトを有効にする必要があります。

注: モバイルフォームでの要素のフォーカスはサポートされていません。

UI ポリシー

モバイルプラットフォーム、デスクトップ、またはその両方でスクリプトを実行するかどうかを決定するには、**[UI** タイプでスクリプトを実行] フィールドを使用します。既存のポリシーがモバイルプラットフォームまたはその両方に適用されるように既存のポリシーを更新します。新しいスクリプトの場合は、モバイルオプションまたはその両方が選択されていることも確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ナビゲーターモジュール

既存のコードの場合、モジュールをモバイルプラットフォームで使用するには、sys_ui_application または sys_ui_module のいずれかのテーブルに転送する必要があります。新しいコードを開発する場合は、すべてのモジュールが sys_ui_application または sys_ui_module テーブルで作成されるようにしてください。

UI アクション

UI アクションをモバイルプラットフォームで表示するには、sys_ui_ng_action テーブルに転送する必要があります。使用禁止メソッドを使用しない UI アクションスクリプトでは、スクリプト自体を変更する必要はありません。新しい UI アクションの場合は、sys_ui_ng_action テーブルで作成されるようにしてください。

AJAX

AJAX (非同期 JavaScript および XML) は、非同期 Web アプリケーションの作成に使用される、相互に関連するクライアントサイド開発手法の集まりです。

AJAX を使用すると、Web アプリケーションは、表示される Web ページのユーザーエクスペリエンスに影響を与えることなく、バックグラウンドでサーバーとの間で情報を送受信できます。

GlideAjax

GlideAjax クラスを使用すると、クライアントからサーバーサイドのコードを実行できます。*GlideAjax* 呼び出しはスクリプトインクルードにパラメーターを渡し、命名規則を使用してこれらのパラメーターを使用できるようにします。

注: この機能を使用するには、JavaScript のナレッジが必要です。

GlideAjax の使用：

- 使用するスクリプトインクルードの名前で *GlideAjax* を初期化します。
- スクリプトインクルードを作成するときは、名前フィールドをクラス名とまったく同じに設定する必要があります。
- スクリプトインクルードを作成するときは、[クライアント呼び出し可能] チェックボックスをオンにする必要があります。
- パラメーター *sysparm_name* を指定します。*GlideAjax* は *sysparm_name* を使用して、使用する関数を検索します。
- 追加のパラメーターを渡すことができます。すべてのパラメーターは「*sysparm_*」で始まる必要があります。事前定義されたパラメーター名は使用しないでください。
  - *sysparm_name*
  - *sysparm_function*
  - *sysparm_value*
  - *sysparm_type*
- 次に、*getXML()* または *getXMLWait()* 関数を使用してコードが実行されます。

詳細については、GlideAjax API を参照してください。

非同期 GlideAjax の例

非同期 *GlideAjax* スクリプトには、クライアント側のコードとサーバー側のコードの 2 つの部分があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Hello World：サーバーから値を返す

Example: クライアント側

このコードはクライアント (Web ブラウザー) で実行されます。クライアントスクリプト を通常通りに作成します。これにより、パラメーターがサーバーに送信され、サーバーが処理を行います。クライアントが結果を待たないように、コールバック関数を使用して結果を返し、*getXML()* 関数に渡します(この場合は「HelloWorldParse」と呼ばれます)。

getXMLWait() 関数には個別のコールバック関数は必要ありませんが、これによりクライアントがブロックされます。クライアント/サーバー間の通信に時間がかかる場合 (ネットワークが遅い場合など)、アプリケーションが応答せず、速度が低下しているように感じます。*getXMLWait()* の例は、次のセクションにあります。

```
var ga = new GlideAjax('HelloWorld');
ga.addParam('sysparm_name', 'helloWorld');
ga.addParam('sysparm_user_name', "Bob");
ga.getXML(HelloWorldParse);

function HelloWorldParse(response) {
  var answer =
 response.responseXML.documentElement.getAttribute("answer");
  alert(answer); }
```

Example: サーバー側

上記の関数のサーバー側のコード。ビジネスルールを作成するのではなく、[システム定義] > [スクリプトインクルード] に移動して新しいスクリプトを作成します。以下のコードを貼り付けます。

注: スクリプトインクルードの名前を「HelloWorld」に設定する必要があります。

- *sys_script_include* コードは、*AbstractAjaxProcessor* クラスを拡張し、クライアントが呼び出すことができる必要があります。
- 「_」で始まる関数名はプライベートと見なされ、クライアントから呼び出すことはできません。
- 「initialize」を含む *AbstractAjaxProcessor* のメソッドは上書きしないでください。上書きしたスーパークラスオブジェクトのメソッドを呼び出すことはできますが、複雑なため、総じて避けることをお勧めします。

```
var HelloWorld = Class.create();
HelloWorld.prototype = Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor, {
   helloWorld:function() { return "Hello " +
 this.getParameter('sysparm_user_name') + "!"; } ,
   _privateFunction: function() { // this function is not client callable
    }
 });
```

これにより、フォームを訪問すると「Hello Bob!」というアラートボックスが表示されます。

複数の値を返す

応答は XML ドキュメントであるため、単一の answer 値しか返せないわけではありません。複数の XML ノードと属性を返す、より複雑な例を次に示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: AJAX プロセッサースクリプトインクルード

```
/*
 * MyFavoritesAjax script include Description - sample AJAX processor
 returning multiple value pairs
 */
var MyFavoritesAjax = Class.create();
MyFavoritesAjax.prototype = Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor, {

  /*
  * method available to client scripts call using:
  * var gajax = new GlideAjax("MyFavoritesAjax");
  * gajax.addParam("sysparm_name","getFavorites");
  */
 getFavorites: function() { // build new response xml element for result
        var result = this.newItem("result");
   result.setAttribute("message","returning all favorites");

   //add some favorite nodes with name and value attributes
        this._addFavorite("color","blue");
        this._addFavorite("beer","lager");
        this._addFavorite("pet","dog");
      },
  // all items are returned to the client through the inherited methods
 of AbstractAjaxProcessor
  _addFavorite: function(name, value) {
         var favs = this.newItem("favorite");
    favs.setAttribute("name",name);
    favs.setAttribute("value",value); },

 type:"MyFavoritesAjax"

 });
```

Example: クライアントスクリプト

```
// new GlideAjax object referencing name of AJAX script include
var ga = new GlideAjax("MyFavoritesAjax");
// add name parameter to define which function we want to call
// method name in script include will be getFavorites
ga.addParam("sysparm_name","getFavorites");

// submit request to server, call ajaxResponse function with server
 response

ga.getXML(ajaxResponse);

function ajaxResponse(serverResponse) {
  // get result element and attributes
  var result = serverResponse.responseXML.getElementsByTagName("result");
  var message = result[0].getAttribute("message");

  //check for message attribute and alert user
  if(message) alert(message);

  //build output to display on client for testing
  var output = "";
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  // get favorite elements
  var favorites =
 serverResponse.responseXML.getElementsByTagName("favorite");
  for(var i = 0; i < favorites.length; i ++) {
    var name = favorites[i].getAttribute("name");
    var value = favorites[i].getAttribute("value");
    output += name + " = " + value + "\n "; }

  alert(output); }
```

Example: XML 応答

```
<xml sysparm_max= "15" sysparm_name="getFavorites"
 sysparm_processor="MyFavoritesAjax">
  <result message = "returning all favorites"></result>
  <favorite name = "color" value = "blue"></favorite>
  <favorite name = "beer" value = "lager"></favorite>
  <favorite name = "pet" value = "dog"></favorite>
</xml>
```

同期 GlideAjax の例

GlideAjax 応答がないとスクリプトを続行できない場合は、同期を使用します。これにより、応答を受信するまでセッションが停止します。

ユースケースで、*GlideAjax* 応答を受信するまでそれ以上の処理を実行できないようにする必要がある場合は、*getXMLWait()* を使用できます。ただし、これによりコードの速度が低下し、応答を受信するまでユーザーセッションがロックされるため、通常はコールバック関数とともに *getXML()* を使用することをお勧めします。

注: *AJAXEvaluateSynChronusly* は使用しないでください。

getXMLWait() メソッドはスコープ対象のアプリケーションでは使用できません。

このコードにより、クライアント側でアラートが生成され、「The Server Says Hello Bob!」と表示されます。

クライアントコード。

```
var ga = new GlideAjax('HelloWorld') ;
ga.addParam('sysparm_name','helloWorld');
ga.addParam('sysparm_user_name',"Bob");
ga.getXMLWait();
alert(ga.getAnswer());
```

サーバー側のスクリプトインクルードコード。

```
var HelloWorld = Class.create();
HelloWorld.prototype = Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor, {
helloWorld: function()
 { return "The Server Says Hello " +
 this.getParameter('sysparm_user_name') + "!"; } } );
```

AJAXClientHelper

Ajax クライアントから値を取得するためのヘルパー関数を Ajax クライアントに提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用する場所

Ajax クライアントから値を取得する必要がある場合は、このスクリプトインクルードを使用します。

メソッドの概要

メソッドの概要	説明
getDisplay()	選択リストから表示値を取得します。

メソッドの詳細

API メソッド	説明	入力パラメーター	出力リターン
getDisplay()	選択リストから表示値を取得します。	なし	表示値。

Example: cURL

```
// getDisplay
(function(table, sysId) {
    var ga = new GlideAjax('AjaxClientHelper');
    ga.addParam("sysparm_name", "getDisplay");
    ga.addParam('sysparm_table', 'incident');
    ga.addParam('sysparm_value', "0598b22b877313003c1c8467a7cb0b71");
    ga.getXMLWait();
    return ga.getAnswer();
}("incident", "0598b22b877313003c1c8467a7cb0b71")); // Returns
 'INC0010001'
```

有用なスクリプト

コアシステムに含まれていない便利な機能を提供するスクリプト。

ユーザーオブジェクトを取得する

ビジネスルールやその他のサーバースクリプトでは、*gs.getUser()* メソッドがユーザーオブジェクトを返します。ユーザーオブジェクトは、現在ログインしているユーザーの内部表現であり、ユーザーやさまざまなユーティリティ機能に関する情報を提供します。

このタスクについて

ユーザーオブジェクトで利用可能なスコープ対象メソッドのリストと説明については、「GlideUser」を参照してください。

手順

1. 現在のユーザーを取得します。

```
var myUserObject = gs.getUser()
```

2. *getUserByID* メソッドを使用し、ターゲットレコードの `user_name` フィールドまたは `sys_id` を使用して別のユーザーをフェッチします。
   例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var ourUser = gs.getUser();
gs.print(ourUser.getFirstName()); //print the first name of the user
 you are currently logged in as
newUser = ourUser.getUserByID(<user_sys_id>); //fetch a different user,
 using the sys_id of the target user record.
gs.print(newUser.getFirstName()); //first name of the user you fetched
 above
gs.print(newUser.isMemberOf(-'Capacity Mgmt'));
```

ビジネスルールからワークフロースクラッチパッドへのアクセス

カタログアイテムが要求されました。添付されたワークフローには、スクラッチパッドに値を入力するスクリプト実行アクティビティが含まれています。要求アイテムで実行されているビジネスルールから、スクラッチパッドの値を取得または設定します。

前提条件

必要なロール：admin。

名前：ビジネスルールからのワークフロースクラッチパッドへのアクセス。

タイプ：ビジネスルール。

テーブル：sc_req_item (要求アイテム)。

説明：カタログアイテムが要求されました。添付されたワークフローには、スクラッチパッドに値を入力するスクリプト実行アクティビティが含まれています。要求アイテムで実行されているビジネスルールから、スクラッチパッドの値を取得または設定します。

パラメーター：適用外。

スクリプト：

```
//the run script activity sets a value in the scratchpad
workflow.scratchpad.important_msg = "scratch me";

//get the workflow script include helper
var workflow = new Workflow();

//get the requested items workflow context
//this will get all contexts so you will need to get the proper one if
 you have multiple workflows for a record
var context = workflow.getContexts(current);
//make sure we have a valid context
if (context.next()) {
  //get a value from the scratchpad
  var msg = context.scratchpad.important_msg;
  //msg now equals "scratch me", that was set in the run script activity

  //add or modify a scratchpad value
  context.scratchpad.status = "completed";
  //we need to save the context record to save the scratchpad
  context.update();
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスカタログのチェックアウトへのフィールドの追加

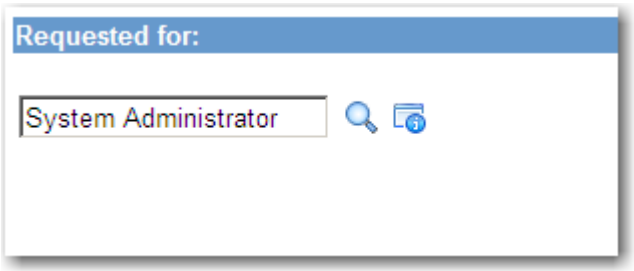
これは、カート以外のレイアウトマクロを使用して、[要求元：] フィールドの下のチェックアウトに [会社 **(Company)]** フィールドを追加する例です。つまり、*glide.sc.use_cart_layouts* は `false`です。

始める前に

必要なロール：Admin

このタスクについて

フィールドの要求元



このフィールドは、そのフィールドの値をサービスカタログ要求の [会社] フィールドに渡します。

この例は、以下を前提としています。

- この例は、2 ステップチェックアウトを使用するインスタンス用です。2 ステップチェックアウトが有効になっていない場合は、開始する前に有効にしてください。
- この例では、サービスカタログ要求フォームの [会社] フィールドに値を入力します。フィールドがフォームに表示されない場合は、開始する前にフォームを構成します。

手順

1. [システム **UI] > [UI** マクロ] に移動し、**[servicecatalog_cart_template]** を選択します。
2. 非表示の変数が宣言されている箇所を見つけて、次の行を追加します。

```
<input type="HIDDEN" name="cart_id" id="cart_id"
 value="$[sc_cart.sys_id]" />
```

3. 要求元コードを生成する次のコードを探します。

```
<tr class="header">
<td width = "30%">
  ${gs.getMessage('Requested for')}:
  </td>
  <td width="70%">
    <label for="requestor_location">${gs.getMessage('Deliver
 to')}:</label>
  </td>
</tr>
<tr><td>$[SP]</td>
</tr>
  <tr><td valign="top">
    <j2:if test="$[jvar_can_delta_rf == false]">
      $[sc_cart.requested_for.getDisplayValue()]
    </j2:if>
    <j2:if test="$[jvar_can_delta_rf != false]">
      <g2:catalog_requested_for />
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    </j2:if>
  </td>
  <td>
    <textarea id="requestor_location" style="width:100%"
 rows="4"       name="requestor_location" wrap="soft"
 onChange="catDeliveryAddress('$[sc_cart.sys_id]',
 'requestor_location');">
      $[sc_cart.delivery_address]
    </textarea>
  </td>
</tr>
<tr>
  <td>$[SP]</td>
</tr>
```

4. 後で次のコードを追加します。

```
<tr class="header">
  <td colspan="2">Company</td>
</tr>
<tr>
  <td>$[SP]</td>
</tr>
<tr>
  <td colspan="2">
    <g2:ui_reference name="core_company" table="core_company"
 onchange="setCartValue()"/>
  </td>
</tr>
<tr>
  <td>$[SP]</td>
</tr>
```

注: `ui_reference` マクロは参照フィールドを定義します。さまざまなフィールドタイプにいくつかのマクロがあります。これらのフィールドタイプの例は、[システム **UI] -> [UI** マクロ]で確認できます。これらのマクロは先頭が「 `ui_` 」で始まります。この例では、作成される参照フィールドの名前は **core_company** です。

5. [システム **UI] > [UI** ページ] に移動し、**[servicecatalog_checkout_one]** UI ページを選択します。

6. 次のスクリプトを [クライアントスクリプト] フィールドに追加します。

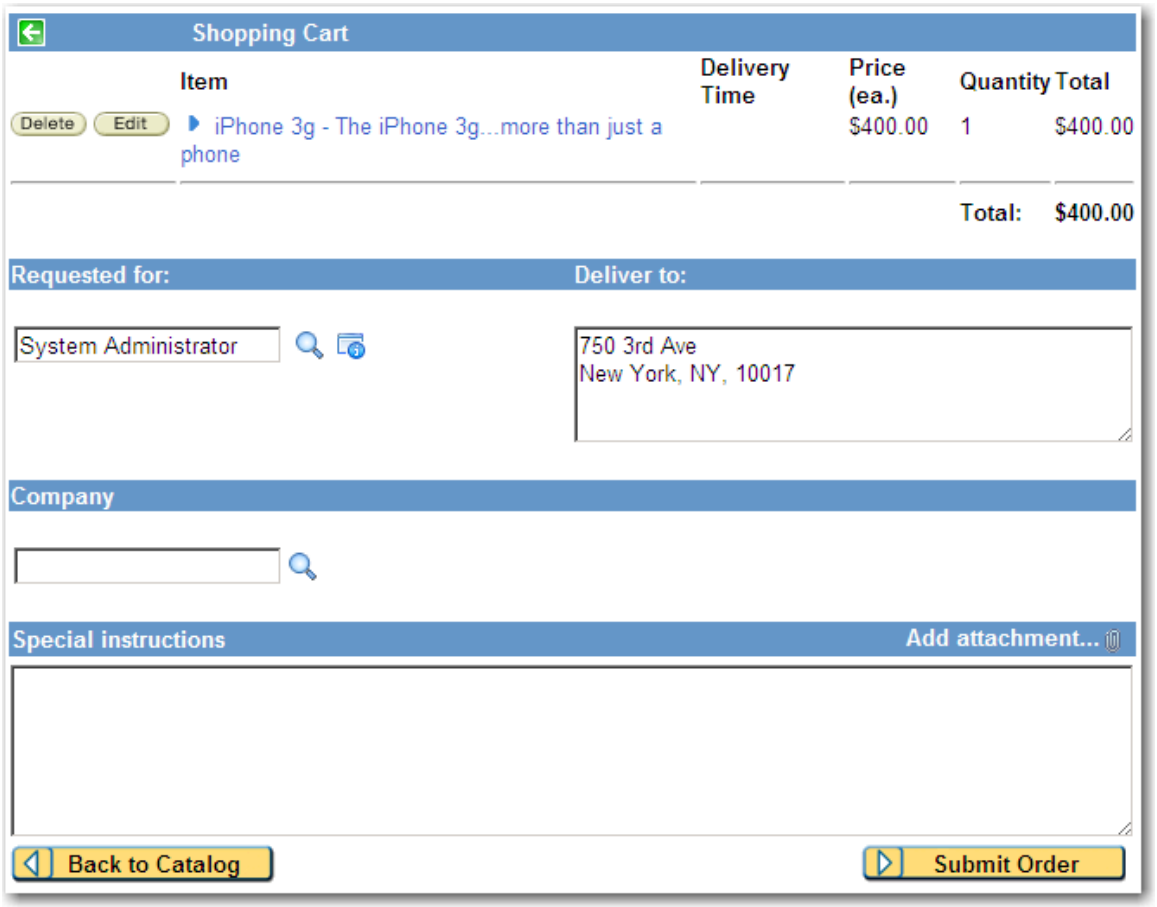
```
function setCartValue() {
  var newField = gel('core_company');
  var myCart = gel('cart_id');
  var cart_item = new GlideRecord('sc_cart_item');
  cart_item.addQuery('cart', myCart.value);
  cart_item.query();
  if(cart_item.next()) {
    cart_item.hints = "<hints><entry key='sysparm_processing_hint'
 value='setfield:request.company=" + newField.value + "'/></hints>";
    cart_item.update();
  }
}
```

この例では、参照フィールドは **core_company** と呼ばれ、要求に応じて入力されるフィールドは **company** です。異なるフィールドを使用する場合：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 次の行を探します。`var company = gel('core_company');`。次に、**core_company** をチェックアウトのフィールドの名前に置き換えます。
- 先頭が「`cart_item.hints`」で始まる行で、「`request.company`」を要求チケットに応じて入力されるフィールドの名前に置き換えます。ここで、「`request`」は生成される要求であり、「`company`」はフィールドの名前です。

タスクの結果
アイテムが注文されると、会社フィールドがカタログフォームに表示されます。



配送計画タスクに基づいたカタログアイテムのグループへのアサイン

デスクトップグループにアサインされたカタログタスクを持つ配送計画を使用する場合に、サービスカタログアイテムをデータベースグループにアサインします。

必須条件

必要なロール：admin

警告: ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

名前：配送計画タスクに基づいたカタログアイテムのグループへのアサイン。

タイプ：アサインルール。

説明：このアサインルールは、デスクトップグループにアサインされたカタログタスクを持つ配送計画を使用する場合に、サービスカタログアイテムをデータベースグループにアサインします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプト：

```
//Return catalog items that have no group but do have a delivery plan
 assigned var ri  = new GlideRecord ( "sc_cat_item" ) ;
ri.addQuery("group", "=", null);
ri.addQuery("delivery_plan", "!=", null);
ri.query();
while(ri.next()) {
    gs.log("Found an item");
    //Return tasks that point to the same delivery plan as the above item
    var dptask = new GlideRecord("sc_cat_item_delivery_task");
    dptask.addQuery("delivery_plan", "=", ri. delivery_plan);
    dptask.query();
    while(dptask.next()) {
        gs.log("Found a task");
        var gp = dptask.group.getDisplayValue();
        gs.log(gp);
        //If the task is assigned to desktop, assign the item's group to
 desktop
        if (dptask.group.getDisplayValue() == "Desktop") {
            ri.group.setDisplayValue("Desktop");
            gs.log("updating " + ri.getDisplayValue());
            ri.update();
            break; } } }
```

ステータス変更時のフォームの色の変更

ステータス変更時にフォームのフォームフィールドの色を変更します。スクリプトは、HTML DOM を介してアクセス可能なページ上のオブジェクトのプロパティを調整するために、簡単に変更できます。

⚠ **警告:** ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラム に投稿してください。

名前：ステータス変更時のフォームの色の変更

タイプ：クライアントスクリプト

テーブル：

説明：ステータス変更時にフォームのフォームフィールドの色を変更します。スクリプトは、HTML DOM を介してアクセス可能なページ上のオブジェクトのプロパティを調整するために、簡単に変更できます。

パラメーター：

スクリプト：

```
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading) {
  var elementID = gel("incident.priority");
    switch(newValue) {
      case "1": elementID.style.backgroundColor = "red"; break;
      case "2": elementID.style.backgroundColor = "tomato"; break;
      case "3": elementID.style.backgroundColor = "orange"; break;
      case "4": elementID.style.backgroundColor = "yellow"; break;
      case "5": elementID.style.backgroundColor = "green"; break;
      default: elementID.style.backgroundColor = "white"; break; } }
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ルーティングアクションの作成

このソリューションを使用すると、インシデントまたは要求アイテムのどちらであるかを知らなくても、サービスデスクでレコードを作成できます。その後、サービスデスクはレコードを適切なテーブルにルーティングできます。

このタスクについて

注: ここで説明する機能には、**admin** ロールが必要です。

UI ルーティングアクションの作成方法：

手順

1. `タスク`テーブルを拡張する新しいテーブルを作成します (「新規コール」など)。
2. 新しい新規コールレコードを作成するモジュールを作成します。
3. 新規コールテーブルに必要なフィールドを作成します。

   新規コールをインシデントまたは要求アイテムのどちらにルーティングするかを決定するために必要なフィールドのみが必要とされます。フォームに、インシデントまたは要求アイテムに渡すフィールドが含まれていることを確認します。この例では、フォームに次のものが作成されます。

   - 要求元 (参照)
   - 場所 (参照)
   - コールタイプ (インシデントと要求の 2 つの値を持つ選択肢)
   - 要求アイテム (`sc_cat_item` アイテムテーブルへの参照)
4. いくつかの UI ポリシーを追加して、いくつかのフィールドを必須に設定し、[コールタイプ] の選択に基づいて [要求アイテム] フィールドを非表示にします。
5. 不要なボタンや機能をフォームから削除します。
6. 新しい UI アクションボタンを作成します。
   このボタンにより、ユーザーはインシデントまたは要求にリダイレクトされます。また、インシデントレコードが作成され、インシデントと要求アイテムフォームに値がコピーされます。

```
var reqItem = current.u_item;
var requestedFor = current.u_requested_for;
var location = current.location;

if(current.u_incident_request == 'Incident'){
  //Create a new incident record and redirect to the new incident
  var rec = new GlideRecord('incident');
  rec.initialize();
  rec.caller_id = requestedFor;
  rec.location = location;
  rec.insert();
  action.setRedirectURL(rec);
}

if(current.u_incident_request == 'Request'){
  //Build the url and route the user to the request item
  var url = '';
  if(current.u_item.sys_class_name == 'sc_cat_item_guide'){
    url =
 'com.glideapp.servicecatalog_cat_item_guide_view.do?sysparm_initial=tr
ue&sysparm_guide=' +
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      reqItem + '&sysparm_user=' + requestedFor + '&sysparm_location='
 + location;
  }
  else{
    url = 'com.glideapp.servicecatalog_cat_item_view.do?sysparm_id=' +
 reqItem + '&sysparm_user=' +
      requestedFor + '&sysparm_location=' + location;
  }
  action.setRedirectURL(url);
}
```

7. 前の例の [ルーティング] ボタンは、URL の [要求元] と [場所] の値を [要求アイテム] フォームに渡します。
   次のクライアントスクリプトを使用して、これらの値をマッピングするアイテム、レコードプロデューサー、または注文ガイドに *requested_for* および *location* と呼ばれる変数があることを確認します。URL の長さには制限があるため、渡すことができる情報の量には制限があります。この方法を使用して長いテキストフィールドからの情報は送信しないでください。

```
function onLoad() {
  var url = document.location.toString();
  var userKey = 'sysparm_user=';
  var locKey = 'sysparm_location=';
  var userPosition = url.indexOf(userKey);
  var locPosition = url.indexOf(locKey)
  if (userPosition != -1) {
    var user = url.substr(userPosition+userKey.length, 32);
    g_form.setValue('requested_for',user);
  }
  if (locPosition != -1) {
    var loc = url.substr(locPosition+locKey.length, 32);
    g_form.setValue('location',loc);
  }
}
```

カスタムキューを使用してイベントを処理する

大量のイベントや処理に時間がかかるイベントを作成するアプリケーションには、カスタムキューを使用できます。このタスクでは、カスタムキューとその監視プロセスを作成し、スクリプトを使用してキューにイベントを送信する方法を示します。

始める前に

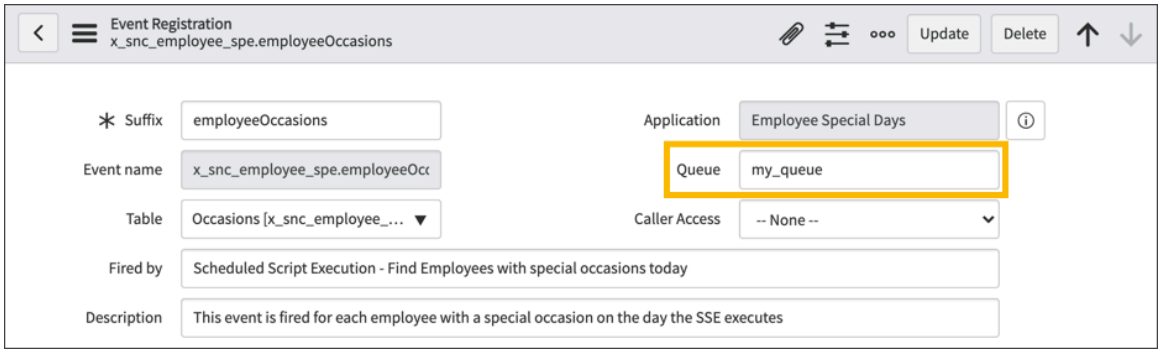
必要なロール：admin

注: この情報は、イベント処理を理解している上級ユーザーを対象としています。

手順

1. [システムポリシー] > [イベント] > [レジストリ]に移動します。
2. カスタムキューを作成するイベントを選択します。
   [イベント登録] フォームが表示されます。
3. イベント登録でイベントの [キュー] フィールドに入力します。
   小文字のみを使用し、アンダースコア (_) 以外の特殊文字は使用しないでください。

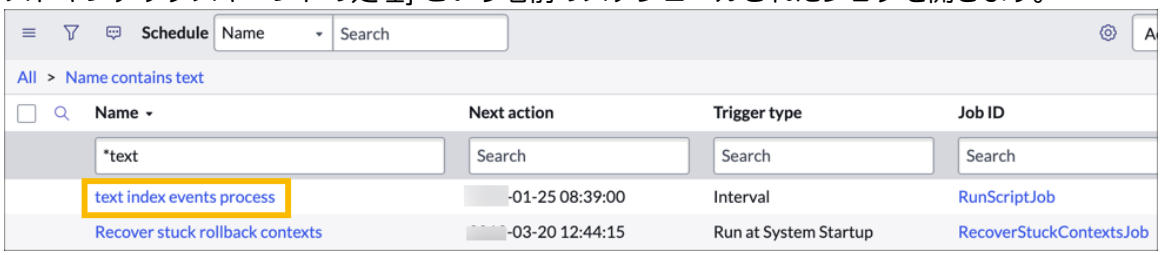
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [送信] をクリックします。
新しいイベントがイベント [sysevent] テーブルに一覧表示されます。

次の例では、employeeOccasion イベントが生成されると my_queue に追加されます。イベントはキューに留まります。この問題を解決するには、イベントのキューを監視するプロセスを作成します。

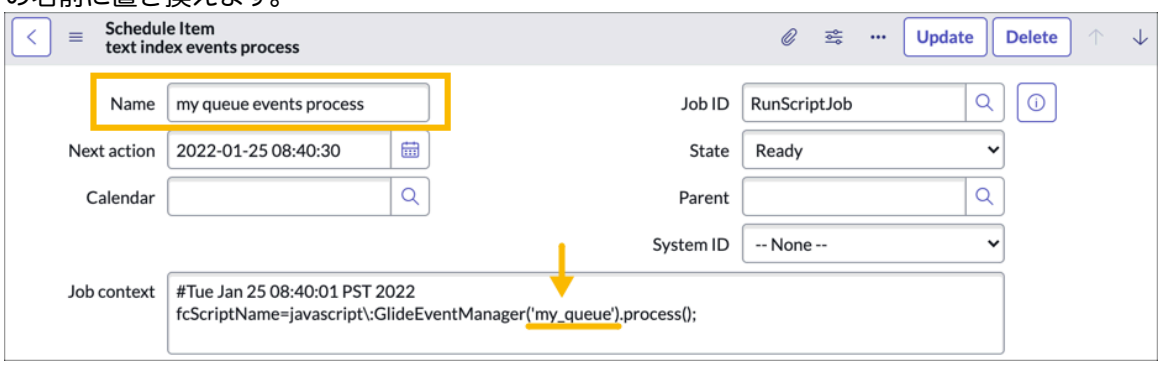
5. [システムスケジューラ] > [スケジュール済みジョブ] > [スケジュール済みジョブ]に移動し、[テキストインデックスイベントの処理] という名前のスケジュールされたジョブを開きます。



6. [他のアクション] メニューアイコン ( ) をクリックし、[挿入と維持] を選択して [テキストインデックスイベントの処理] のコピーを作成します。

> **重要:** かならずジョブをコピーし、[テキストインデックスイベントの処理] のスケジュール済みジョブを上書きしないようにしてください。

7. コピーしたスケジュールアイテムで、[名前] フィールドの値を変更します。
8. [ジョブコンテキスト] フィールドで、*GlideEventManager()* パラメーターの値を新しいキューの名前に置き換えます。



キュー監視プロセスは、サンプルの **my_queue** イベントキューでイベントを検索して処理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

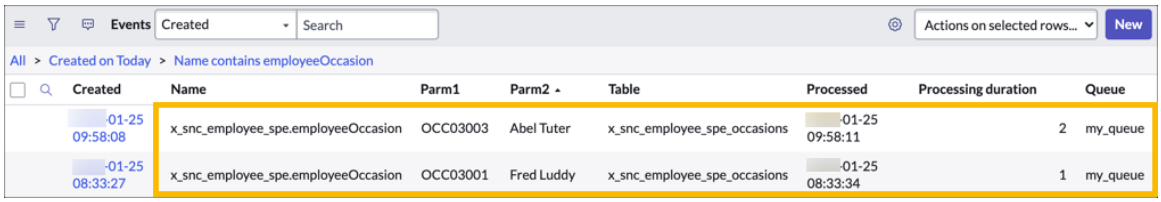
9. *gs.eventQueue()* メソッドの 5 番目のパラメーターを使用して、カスタムキューにイベントを送信します。

   次のコードは、my_queue カスタムキューにイベントを送信する方法を示しています。

```
gs.eventQueue('x_60157_employee_spe.employeeOccasion', todaysOccasions,
 todaysOccasions.number, todaysOccasions.u_employee.name, 'my_queue');
```

   注: イベントが [イベント登録] にあり、キュー名が *gs.eventQueue* に指定されていない場合でも、[イベント登録] からのキューがイベントに割り当てられます。たとえば、`gs.eventQueue('x_60157_employee_spe.employeeOccasion')` は引き続きイベントを `my_queue` に関連付けます。`gs.eventQueue()` 呼び出しでキュー名が指定されている場合は、キューが優先されます。

   [イベント] [sysevent] テーブルをチェックすることで、呼び出されたイベントが処理されたことを確認できます。



関連情報

GlideEventManager - process()

GlideSystem - eventQueue()

フィールドメッセージの表示

JavaScript *alert()* を使用する代わりに、見た目をすっきりさせるために、フォーム自体にエラーを表示できます。メソッド *showFieldMsg()* および *hideFieldMsg()* を使用して、フィールド自体のすぐ下にメッセージを表示できます。

showFieldMsg と *hideFieldMsg* は、*g_form* オブジェクトで使用できるメソッドです。

これらのメソッドは、レコード (インシデント、問題、および変更フォーム) のフォームビューを変更するために使用されます。これらのメソッドは他のクライアントスクリプトでも使用できますが、期待どおりに機能するかどうかを確認するためにテストする必要があります。

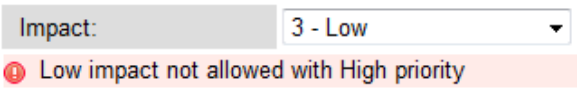
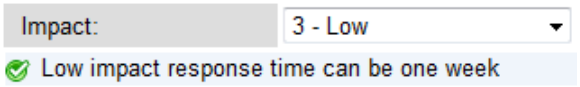
ロード時にフォームにフィールドメッセージが表示されると、フォームがスクロールしてフィールドメッセージが表示されます。フィールドメッセージが画面の外にあったためにユーザーが見落とすということがないようにします。

グローバルプロパティ *glide.ui.scroll_to_message_field* は、フォームフィールドが画面外にある場合の自動メッセージのスクロール (フォームからコントロールまたはフィールドまでスクロール) を制御します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メソッドの詳細

メソッドの詳細	パラメーター	例

showFieldMsg(input, message, type, [scrollform])	• 入力：フィールドまたはコントロールの名前
	• メッセージ：表示するメッセージ
	• タイプ：「情報」、「エラー」、または「警告」。指定しない場合のデフォルトは「情報」
	• スクロールフォーム：(オプション) フィールドメッセージが画面外にスクロールしないようにするには、*scrollForm* を false に設定します
		エラーメッセージ
		`g_form.showFieldMsg('impact','Low impact not allowed with High priority','error');`
		 
		情報メッセージ
		`g_form.showFieldMsg('impact','Low impact response time can be one week','info');`
		`//or this defaults to info type`
		`//`
		`g_form.showFieldMsg('impact','Low impact response time can be one week');`
		 

hideFieldMsg(input)	• 入力：フィールドまたはコントロールの名前
	• clearAll：(オプション) すべてのメッセージをクリアするかどうかを示すブールパラメーター。true の場合、フィールドのすべてのメッセージがクリアされます。false または空の場合、最初のメッセージのみが削除されます
		メッセージの削除
		`//this will clear the first message printed to the field`
		`g_form.hideFieldMsg('impact');`

従来のサポート

showErrorBox() と *hideErrorBox()* は引き続き使用できますが、これらはエラータイプの新しいメソッドを呼び出すだけです。新しいメソッドを使用する必要があります。

ログ出力

GSLog は、呼び出し元ごとに識別される sys_properties 値によって選択可能なログ出力のレベルを実装することで、スクリプトのログ記録とデバッグを簡素化するスクリプトインクルードです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ログレベル

ログは、debug、info、notice、warning、err、または crit のレベルを指定できます (BSD syslog.h 以降とフォロワー)。デフォルトのログ記録レベルは notice であるため、状況に応じてレベルを選択する必要があります。

使用する状況

イベントログ記録を実装するサーバー側スクリプトに使用します。

API リファレンスについては、「GSLog() 」を参照してください。

詳細については、「スクリプトのデバッグ」を参照してください。

GlideDateTime フィールド値の変更

この例では、サーバーサイドスクリプトを使用して *GlideDateTime* フィールド値を変更する方法を示します。

GlideDateTime フィールドまたはスクリプトオブジェクトを指定して、値を簡単に変更するさまざまな方法を示します。同じ概念が *GlideDate* オブジェクトにも適用されます。

注: 次のスクリプトは、グローバルアプリケーションのみを対象としています。

```
//You first need a GlideDateTime object
//this can be from instantiating a new object "var gdt = new
 GlideDateTime()"
//or getting the object from a GlideDateTime field
//getting the field value (for example: var gdt = current.start_date)
 only returns the string value, not the object
//to get the object use var gdt = current.start_date.getGlideObject();
//now gdt is a GlideDateTime object
var gdt = current.start_date.getGlideObject();

//All methods can use negative values to subtract intervals

//add 1 hour (60 mins * 60 secs)
gdt.addSeconds(3600);

//add 1 day
gdt.addDaysLocalTime(1);

//subtract 1 day
gdt.addDaysLocalTime(-1);

//add 3 weeks
gdt.addWeeksLocalTime(3);

//subtract 6 months
gdt.addMonthsLocalTime(-6);

//add 1 year, representing the date and time using the UTC timezone
 instead of the local user's timezone.
gdt.addYearsUTC(1);

//set the value of the GlideDateTime object to the current session
 timezone/format
GlideSession.get().setTimeZoneName('US/Eastern');
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
gdt.setDisplayValue('2018-2-28 00:00:00');
gs.info('In ' + GlideSession.get().getTimeZoneName() + ": " +
 gdt.getDisplayValue());
```

cookie を使用した C Sharp リダイレクトによるサンプル ASP.NET

このサンプル ASP.NET コードは、簡易認証ポータルを作成し、暗号化されていない HTTP ヘッダーを cookie として渡します。

注: ここで説明する機能には、**admin** ロールが必要です。

注: cookie はドメイン固有であり、異なるネットワークドメイン間で使用することはできません。cookie を読み取ることができる唯一のドメインは、それを設定するドメインです。どのようなドメイン名を設定するかは関係ありません。SSO ポータルを ServiceNow インスタンスと同じネットワークドメインに置くことを選択できない場合 (たとえば、オンプレミス展開の場合)、代わりに URL *GET* または *POST* パラメーターを使用して SSO トークンを渡します。

この例では、以下を前提としています。

- Web サーバーは ASP .NET と C# をサポートしている
- ターゲットServiceNowインスタンスは `https://<instance name>.service-now.com/`
- SiteMinder または別のシングルサインオンアプリケーションがユーザーを事前認証している
- ターゲット ServiceNow インスタンスは HTTP ヘッダー SM_USER を予期している

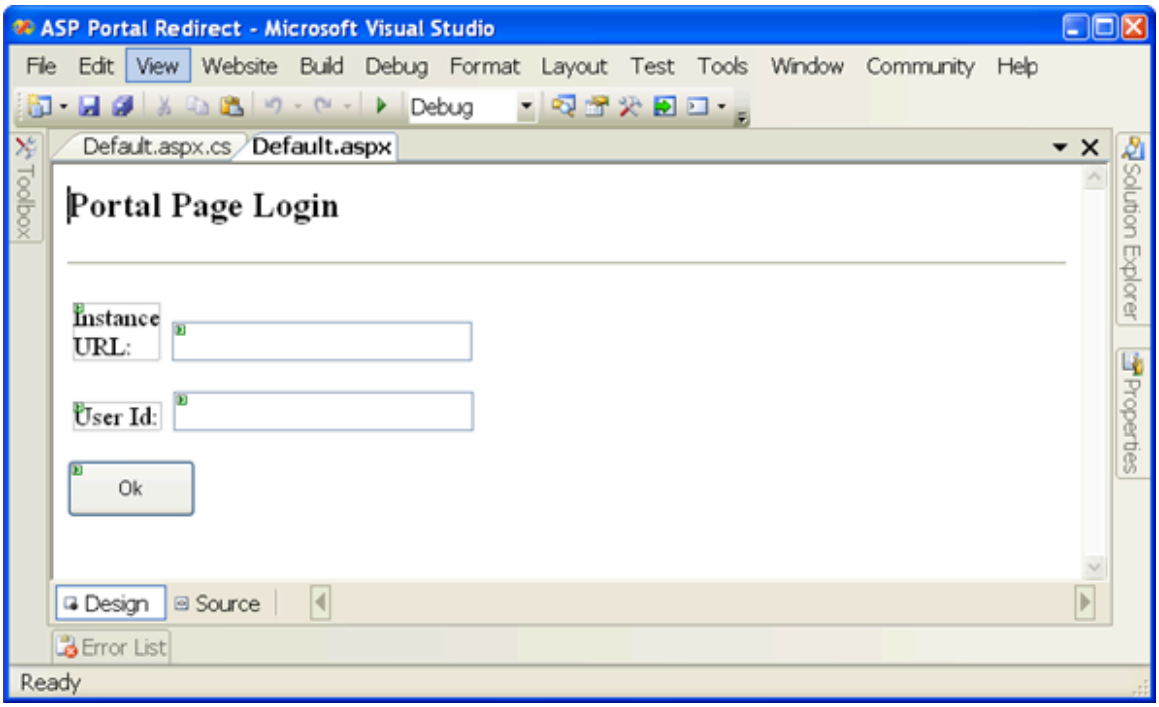
ユーザーを適切な ServiceNow インスタンスにリダイレクトするように ASP コードを変更します。

```
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" >
<head runat="server">
    <title>Portal Page Login</title>
<%--    <meta http-equiv="REFRESH" content="0;url=https://<instance
 name>.service-now.com/">--%>

</head>
<body>
    <form id="form1" runat="server">
    <h2><b> Portal Page Login </b></h2>
        <hr style="position: static" />
         <br />
         <asp:Label ID="Label2" runat="server" Font-Size="Larger"
 Height="21px" Style="position: static"
            Text="Instance URL:" Width="113px"></asp:Label>
        <asp:TextBox ID="urlBox" runat="server" Font-Size="Large"
 Style="position: static"></asp:TextBox><br />
        <br />
         <asp:Label ID="Label1" runat="server" Font-Size="Larger"
 Height="17px" Style="position: static;" Text="User Id:"
 Width="113px"></asp:Label>
        <asp:TextBox ID="userNameBox" runat="server" Font-Size="Large"
 Style="position: static;"></asp:TextBox>

        <br />
        <br />
        <asp:Button ID="Button1" runat="server" Height="39px"
 Style="position: static;" Text="Ok"
            Width="88px" OnClick="Button1_click" />
    </form>
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
</body>
</html>
</asp>
```

ASP ポータルリダイレクト



次の C# コードは、フォームの *OnClick* ボタンイベントを処理します。コード：

- cookie「SM_USER」を作成します
- ASP フォームで指定された URL へのリダイレクトを実行します。

C# コードを変更して、適切な cookie 名を作成します。

```
using System;
using System.Data;
using System.Configuration;
using System.Web;
using System.Web.Security;

public partial class _Default : System.Web.UI.Page
{
    protected void Page_Load(object sender, EventArgs e)
    {

    }
    protected void Button1_click(object sender, EventArgs e)
    {
        try
        {
            HttpCookie myCookie = new HttpCookie("SM_USER");
            myCookie.Value = userNameBox.Text;
            Response.Cookies.Add(myCookie);
            Response.Redirect(urlBox.Text);

        }catch {}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    }
}
```

有用な承認アサインスクリプト

これは、有用な承認およびアサインスクリプトの検索可能なバージョンです。

> **警告:** ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

使いやすいバージョンについては、「有用なスクリプトポータル」を参照してください。

ESS 要求のグループのアサイン

タイプ：アサインルール。

説明：このスクリプトは、すべての ESS 要求に対してグループを自動的にアサインします。

スクリプトの例：

```
if(current.opened_by.roles==""){
    current.assignment_group.setDisplayValue('Network');
    current.update();}
```

配送計画タスクに基づいたカタログアイテムのグループへのアサイン

タイプ：アサインルール。

説明：このアサインルールは、デスクトップグループにアサインされたカタログタスクを持つ配送計画を使用する場合に、サービスカタログアイテムをデータベースグループにアサインします。

```
//Return catalog items that have no group but do have a delivery plan
 assigned
var ri =new GlideRecord("sc_cat_item");
ri.addQuery("group","=",null);
ri.addQuery("delivery_plan","!=",null);
ri.query();
while(ri.next()){
    gs.log("Found an item");
    //Return tasks that point to the same delivery plan as the above item
    var dptask =new GlideRecord("sc_cat_item_delivery_task");
    dptask.addQuery("delivery_plan","=",ri.delivery_plan);
    dptask.query();while(dptask.next()){
        gs.log("Found a task");var gp = dptask.group.getDisplayValue();
        gs.log(gp);//If the task is assigned to desktop, assign the
 item's group to desktop
        if(dptask.group.getDisplayValue()=="Desktop"){
            ri.group.setDisplayValue("Desktop");
            gs.log("updating "+ ri.getDisplayValue());
            ri.update();break;}}}
```

1 つのタスクでアイテムをアサイン

タイプ：アサインルール。

説明：特定のグループに関連付けられた 1 つのタスクのみを持つカタログアイテムを自動的にアサインします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
//Get the catalog item for the current requested item
var scCatItem =new GlideRecord("sc_cat_item");
if(scCatItem.get('sys_id', current.cat_item)){
// If the catalog item already has an assignment group or if using
 workflow we don't need to make an assignment
  if(!scCatItem.delivery_plan.nil()&& scCatItem.group.nil()){
        var dpTask =new GlideRecord("sc_cat_item_delivery_task");
        dpTask.addQuery("delivery_plan","=",scCatItem.delivery_plan);
        dpTask.query();
        if(dpTask.getRowCount()==1&& dpTask.next()){
        // Check that there is only 1 record in the GlideRecord
            dpTask.group;}}}
```

作業負荷に基づく割り当て

タイプ：ビジネスルール。

説明：アクティブなインシデントの数が最も少ないアサイン先グループメンバーに基づいて、アサイン先を入力します。

パラメーター：

- order：>1000 (アサインルールの後に実行する場合)
- condition：current.assigned_to == '' && current.assignment_group != ''
- when：before, insert/update

```
var assignTo = getLowestUser();
gs.addInfoMessage("assigning to is "+ assignTo);
current.assigned_to= assignTo;

function getLowestUser(){
  var userList =new Array();
  var cg =new GlideRecord('sys_user_grmember');
  cg.addQuery('group', current.assignment_group);
  cg.query();
  while(cg.next()){
    var tech = cg.user.toString();
    var cnt = countTickets(tech);
    gs.addInfoMessage("Tech counts "+ cg.user.name+' '+ cnt +" "+ tech);
    userList.push({ sys_id: tech,name: cg.user.name, count: cnt });}

  for(var i=0; i < userList.length; i++){
    gs.addInfoMessage(userList[i].sys_id+" "+ userList[i].name+" "+
 userList[i].count);}
  userList.sort(function(a, b){
    gs.addInfoMessage("Sorting: "+ a.sys_id+"("+ a.count+");
    "+ b.sys_id+"("+ b.count+")");
    return a.count- b.count;});

  if(userList.length<=0)return"";
  return userList[0].sys_id;}

function countTickets(tech){
  var ct =new GlideRecord('incident');
  ct.addQuery('assigned_to',tech);
  ct.addQuery('active',true);
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  ct.query();
  return ct.getRowCount();}
```

カテゴリが変更されたときにアサインルールを実行

タイプ：クライアントスクリプト。

テーブル：インシデント。

説明：この例は、インシデント内のカテゴリフィールドの onChange クライアントスクリプトです。注意：このスクリプトは、同期 AJAX を使用していました (非同期動作は ajaxRequest 呼び出しの 3 番目のパラメーターで指定されます)。以下の実装では、非同期 AJAX を使用しています。同期バージョンを使用する場合の短所は、ネットワーク応答の問題によってブラウザーがハングアップする可能性があることです。

```
// Make an AJAX request to the server to get who this incident would be
// assigned to given the current values in the record. This runs the
 assignment
// rules thathave been defined in System Policy and returns the
 assigned_to and
// the assignment_group

function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading){
  if(isLoading){return;
  // No change, do not do anything
  }

   // Construct the URL to ask the server for the assignment
  var url
 ="xmlhttp.do?sysparm_processor=AJAXAssignment&sys_target=incident";
  var uv = gel('sys_uniqueValue');
  if(uv){
        url +="&sys_uniqueValue="+ uv.value;}
  // Make the AJAX request to the server and get the response
  var serial = g_form.serialize();
  // get all values currently assigned to the incident
  var response = ajaxRequest(url, serial,true, responseFunc);}

// This callback function handles the AJAX response.
function responseFunc(response){
  varitem= response.responseXML.getElementsByTagName("item")[0];
  // Process the item returned by the server
  if(item){
  // Get the assigned_to ID and its display value and put them on the
 form
    varname=item.getAttribute("name");
    var name_label =item.getAttribute("name_label");
    if(name_label &&name){
      g_form.setValue('assigned_to',name, name_label);}
    else{
      g_form.setValue('assigned_to','','');}
    // Get the assignment_group ID and its display value and put then on
 the form
    var group =item.getAttribute("group");
    var group_label =item.getAttribute("group_label");
    if(group_label && group){
      g_form.setValue('assignment_group', group, group_label);}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

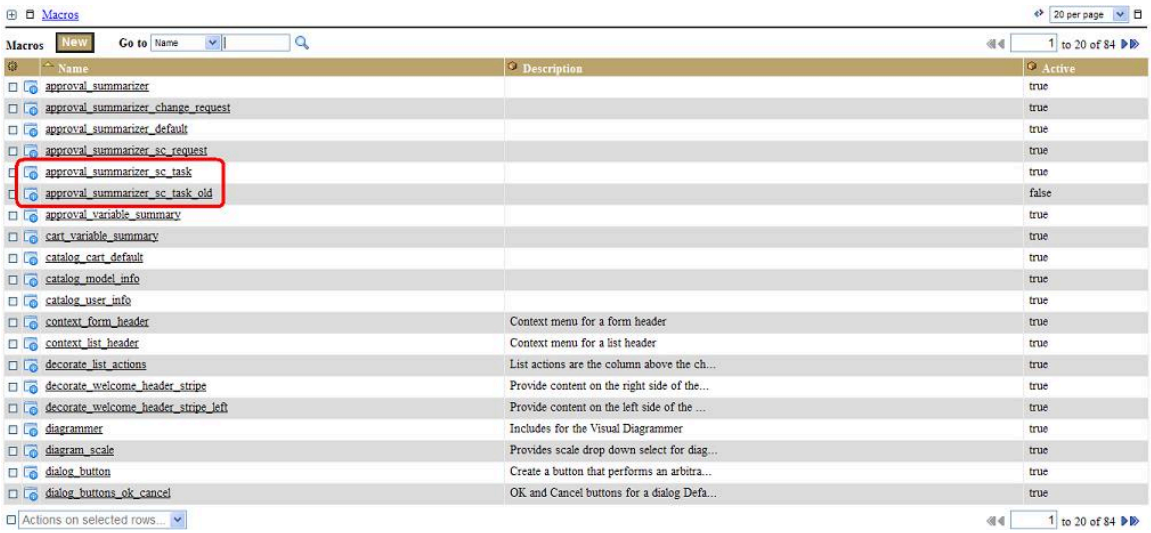
```
    else{
      g_form.setValue('assignment_group','','');}}}
```

カスタム承認 **UI** マクロ

タイプ：UI マクロ。

次のオプションは、新しい UI マクロを作成して、実行計画の [自分の承認] ビューから詳細を取得する方法を示しています。

- [システム **UI]** に移動して、**[UI** マクロ] をクリックします。
- 既存の「approval_summarizer_sc_task」という名前を「approval_summarizer_sc_task_old」などに変更して、無効にします。
- 同じ名前を使用して新しいマクロを作成します (「approval_summarizer_sc_task」)。名前は基本的に、マクロの実行内容と適用対象を示すものにする必要があります。ここでは、既存のものを置き換えるため、既存の名前を再利用することにしました。



次に、この記事の下部にある xml スクリプトを、新しい UI マクロの xml コードウィンドウにコピーします。これは、サービスカタログ実行計画内の承認タスクを使って品目の承認を行うときに、承認者に何らかの詳細を提供するのに最適な方法です。

さまざまな方法

従来の方法

これは、従来の方法を使って承認タスクを使用するときに [自分の承認] に表示されるビューです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認者が実際に何を承認しようとしているのか、あまり詳しく書かれていないことに注意してください。タスクの簡単な説明は確認できますが、アイテムの詳細はわかりません。

新しい方法

これは、OOB (Out-Of-Box：すぐに利用可能な) UI マクロの代わりに以下の xml スクリプトを使用した場合に表示されるビューです。

この方法を使用すると、要求の承認と同様に詳細を表示できます。注文したアイテムへのリンク、簡単な説明 (アイテムから変数を展開する機能を含む)、価格、数量、合計価格があります。この方法は、より詳細な情報を示すという点で、承認者の助けとなります。承認者は、実際に承認しているものを確認できるようになりました。

有用なフィールドスクリプト

フィールドカスタマイズスクリプトの一般的なユースケース。

> ⚠ **警告:** ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

詳細については、「サーバー API リファレンス」を参照してください。

フィールドの自動入力

次の例は、クライアントスクリプトを使用して、選択した [サブカテゴリ] に基づいて簡単な説明を自動入力する方法を示しています。

この場合、テーブルには [サブカテゴリ] = パスワード、[簡単な説明] = パスワードリセットのレコードがあります。ユーザーがインシデントフォームで [サブカテゴリ] に [パスワード] を選択した場合、クライアントスクリプトは一致するレコードを検索し、[簡単な説明] をパスワードリセットに設定します。

クライアントスクリプト設定：

- *Type* = onChange
- *Table name* = incident
- *Field name* = Subcategory

```
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading){
    if(isLoading){return;}
    var newrec = gel('sys_row');
    //Check if new record
    if (newrec.value == -1) {
        var lookup = new GlideRecord('u_short_desc_lookup');
        lookup.addQuery('u_subcategory', g_form.getValue('subcategory'));
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        lookup.query();
        var temp; //temp var - reusable
        if(lookup.next()){
            temp = lookup.u_short_description;
            if(null != temp) {
                //Set the form value from lookup if there is a lookup
 value
                g_form.setValue('short_description', temp);
            } else {
                g_form.setValue('short_description',"");
                }
          } else {
              //If a lookup record does not exist based on
 lookup.addQuery
              //Then set to UNDEFINED or NULL depending on type
              g_form.setValue('short_description',"");
              }
     }
}
```

説明の HTML タグを無効にする

このコードは、HTML タグを非実行バージョンに置き換えることで、[説明] および [簡単な説明] フィールド内の HTML タグを無効にします。

```
doit();

function doit(){
 var desc = current.description.toString();
 var shdesc = current.short_description.toString();
 if(desc.indexOf('script>')>-1|| shdesc.indexOf('script>')>-1){
   desc = desc.replace(/<script>/g,"(script)");
   current.description = desc.replace(/<\/script>/g,"(\/script)");
   shdesc = shdesc.replace(/<script>/g,"(script)");
   current.short_description =
 shdesc.replace(/<\/script>/g,"(\/script)");}
}
```

フィールドの先頭と末尾のスペースの削除

このスクリプトの例では、sys_user の *FirstName* および *LastName* フィールドの末尾と先頭のスペースをトリミングします。

```
doit();

function doit(){
  var now_GR =new GlideRecord('sys_user');
  gr.query();
  while(gr.next()){
    if((gr.first_name.toString().length!=
 gr.first_name.toString().trim().length)||(gr.last_name.toString().leng
th!= gr.last_name.toString().trim().length)){
     gr.first_name= gr.first_name.toString().trim();
     gr.last_name= gr.last_name.toString().trim();
     gr.autoSysFields(false);
     gr.update();}}
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールドラベルを点滅させる

次のクライアントスクリプトの例は、インシデントの番号フィールド用です。ラベルが 2 秒間点滅します。

```
g_form.flash("incident.number","#FFFACD",0);
```

flash メソッドの引数は次のとおりです。

- *tablename.fieldname*
- RGB カラーまたは受け入れ可能な CSS カラー (「blue」や「tomato」など)
- ラベルの点滅時間を決定する整数：
  - 1 秒間点滅の場合は 2
  - 2 秒間点滅の場合は 0
  - 3 秒間点滅の場合は -2
  - 4 秒間点滅の場合は -4

注: 指定した色でフィールドラベルを表示する場合は、この引数を指定しないでください。

フィールドラベルを太字にする

このクライアントスクリプトは、特定のフィールドのラベルを太字にします。この場合、フィールドは [インシデントテーブル] の [簡単な説明] です。

```
function onLoad(){
  var l = g_form.getLabel('incident.short_description');
  l.style.fontWeight = 'bold';}
```

フィールドを読み取り専用にする

この onLoad クライアントスクリプトにより、インシデント [incident] テーブルの次のフィールドは読み取り専用になります。

- インシデント状況
- 影響
- 緊急度
- 優先度
- 構成アイテム
- アサイン先

また、このスクリプトにより、読み取り専用の参照フィールド ([構成アイテム] および [アサイン先]) の虫眼鏡が削除されます。

```
function onLoad(){
var incidentState = g_form.getValue('incident_state');
if( incidentState == '6'|| incidentState == '7'){
   g_form.setReadonly('incident_state',true);
   g_form.setReadonly('impact',true);
   g_form.setReadonly('urgency',true);
   g_form.setReadonly('priority',true);
   g_form.setReadonly('cmdb_ci',true);
   g_form.setReadonly('assigned_to',true);}}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールドへの現在の日付/時刻の設定

クライアントスクリプトとスクリプトインクルードで日付と時刻の値を設定できます。

クライアントスクリプト

次の 2 行を使用して、日付/時刻フィールドに現在の日付と時刻を設定できます。このアプローチでは、値の適切な形式とタイムゾーンへの変換の問題を回避できます。

```
var ajax = new GlideAjax('MyDateTimeAjax');
  ajax.addParam('sysparm_name','nowDateTime');
  ajax.getXML(function(){
    g_form.setValue('put your field name here',
 ajax.getAnswer());});
```

クライアントでのサーバーサイドスクリプトの実行の詳細については、「GlideAjax」を参照してください。

システムスクリプトインクルード

```
// Be sure the "Client callable" checkbox is checked

var MyDateTimeAjax = Class.create();
MyDateTimeAjax.prototype =
 Object.extendsObject(AbstractAjaxProcessor,{
  nowDateTime:function(){
    return gs.nowDateTime();}});
```

フィールド名でのタイマーフィールドの切り替え

次のクライアントスクリプトは、特定のフィールド名に基づいてタイマーフィールドを切り替えます。

```
function toggleTimerByFieldName(fieldName){
 //Step 1: Find the timer object
 //timeObjectName: the timer objects name as it would normally be
 referenced
 //timeObjectHidden: the hidden input node in the field td
 //timeObjectParent: the parent td node containing the field and it's
 constituent nodes
 //timeObjectFields: anchor tag with onclick to stop timer

 var timeObjectName = fieldName;
 var timeObjectHidden = gel(timeObjectName);

 //Step 2: simulate click stop button
 var timeObjectParent;
 var timeObjectFields;

 //verify that we got the correct object
 if(timeObjectHidden.type=="hidden"){

    //Get Parent td node
    timeObjectParent = timeObjectHidden.parentNode;

    //Get input fields
    timeObjectFields = timeObjectParent.getElementsByTagName("input");

    //simulate click of stop button
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    var timerTestString ="paused";
    var timerImg;

    //loop through input objects looking for the pause timer object
    for(var elIt=0; elIt < timeObjectFields.length; elIt++){
      if(timeObjectFields[elIt].id.match(timerTestString)){
        if(timeObjectFields[elIt].value=="false"){
          timeObjectFields[elIt].value="true";
          timerImg = timeObjectParent.getElementsByTagName("img")[0];
          timerImg.src="images/timer_start.gifx";}
      elseif(timeObjectFields[elIt].value=="true"){
          timeObjectFields[elIt].value="false";
          timerImg = timeObjectParent.getElementsByTagName("img")[0];
          timerImg.src="images/timer_stop.gifx";}}}}}
```

GlideDateTime フィールド値の変更

次の例では、サーバーサイドスクリプトを使用して *GlideDateTime* フィールドにアクセスします。

次のサーバーサイドスクリプトの例は、*GlideDateTime* API を使用して値を変更する方法を示しています。同じ概念が *GlideDate* オブジェクトにも適用されます。

```
//You first need a GlideDateTime object
//this can be from instantiating a new object "var gdt = new
 GlideDateTime()"
//or getting the object from a GlideDateTime field
//getting the field value (for example: var gdt = current.start_date)
//only returns the string value, not the object
//to get the object use var gdt = current.start_date.getGlideObject();
//now gdt is a GlideDateTime object
var gdt = current.start_date.getGlideObject();

//All methods can use negative values to subtract intervals

//add 1 hour (60 mins * 60 secs)
gdt.addSecondsLocalTime(3600);

//add 1 day
gdt.addDaysLocalTime(1);

//subtract 1 day
gdt.addDaysLocalTime(-1);

//add 3 weeks
gdt.addWeeksLocalTime(3);

//subtract 6 months.
gdt.addMonthsLocalTime(-6);

//add 1 year, representing the date and time using the UTC timezone
 instead of the local user's timezone.
gdt.addYearsUTC(1);
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

有用なスケジュールスクリプト

ビジネスルールスクリプトは、ビジネスルールが実行するアクションを指定します。通常、スクリプトには、現在のレコードなどの、システム内のアイテムを参照するための事前定義されたグローバル変数が含まれています。グローバル変数はすべてのビジネスルールで使用できます。

⚠ **警告:** ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

スケジュールを指定して期間を計算

タイプ： ビジネスルールの更新/挿入前。

説明：ビジネス期間は、特定の「スケジュールの作成と使用」に基づいて、インシデントのオープンからクローズまでの期間を計算します。スケジュールが指定されていない場合、スクリプトはクエリによって返された最初のスケジュールだけを使用します。

スクリプトの例：

次の例では、インシデント状況が解決済みに移行するときの解決期間を設定します。

```
var gr_rec = new GlideRecord('incident');
gr_rec.get('ed92e8d173d023002728660c4cf6a7bc');
if (gr_rec.incident_state == 6) {
var dur = calcDurationSchedule(gr_rec.opened_at, gr_rec.sys_updated_on);
}

function calcDurationSchedule(start, end){
  // Get the user
  var usr = new GlideRecord('sys_user');
  usr.get(gs.getUserID());
  // Create schedule - pass in the sys_id of your standard work day
 schedule and pass in the users timezone
  var sched = new
 GlideSchedule('08fcd0830a0a0b2600079f56b1adb9ae',usr.time_zone);
  // Get duration based on schedule/timezone
  return(sched.duration(start.getGlideObject(), end.getGlideObject()));
}
```

今後の終了日を確認

タイプ：スケジュール設定済みスクリプト。

説明：このスクリプトは、今後 90 日、50 日、または 10 日以内 (契約期間フィールドでの指定に応じる) に終了する契約の終了日を夜間にチェックします。

スクリプトの例：

```
function contractNoticeDue(){
  var now_GR = new GlideRecord("contract");
  now_GR.addQuery("u_contract_status","Active");
  now_GR.query();
  while(now_GR.next()){
    if((now_GR.u_termination_date<=
 gs.daysAgo(-90))&&(now_GR.u_contract_duration=="Long")){
      now_GR.u_contract_status="In review";}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    elseif((now_GR.u_termination_date<=
 gs.daysAgo(-50))&&(now_GR.u_contract_duration=="Medium")){
      now_GR.u_contract_status="In review";}
    elseif((now_GR.u_termination_date <=
 gs.daysAgo(-10))&&(now_GR.u_contract_duration=="Short")){
      now_GR.u_contract_status="In review";}
    now_GR.update();
  }
}
```

ビジネスルールでスクリプトを使用して、次のような一般的なタスクを実行します。

- 2 つの日付フィールドを比較します。
- XML ペイロードを解析します。
- ビジネスルール内のデータベースアクションを中止します。

スクリプトでは、次のこともできます。

- ビジネスルールをトリガーする操作を指定します。
- スクラッチパッドと表示ビジネスルールを使用して、ユーザーがフォームをロードする直前にフォームの値を変更します。
- 条件ビルダーの場合と同様に OR 条件を使用します。

サーバーサイドスクリプトで使用可能なシステムのスクリプティング機能を利用することもできます。

ビジネスルールフォームのオプションを使用すると、スクリプトを記述せずに条件をビルドし、フィールド値を設定して、アラートメッセージを表示できます。

ビジネスルール内のデータベースアクションの中止

前のビジネスルールスクリプトの実行中に、current.setAbortAction(true) メソッドを使用して現在のデータベースアクションをキャンセルまたは中止できます。

たとえば、前のビジネスルールが挿入アクション中に実行され、スクリプトに current.setAbortAction(true) を呼び出す条件がある場合、current に保存される新しいレコードはデータベース内には作成されません。

オートフィル機能の追加

オートフィル機能の追加は、インシデントテンプレート、自動アサイン、クイックコール、コールスクリプト、または自動入力とも呼ばれます。

選択した [サブカテゴリ] に基づいて [簡単な説明] を自動入力するとします。まず、ルックアップテーブルを作成し、キーフィールド (この場合は [サブカテゴリ]) とオートフィルされるフィールド [簡単な説明] に値を入力します。テーブルに、[サブカテゴリ] = パスワード、[簡単な説明] = パスワードリセットのレコードがあるとします。ユーザーがインシデントフォームで [サブカテゴリ] にパスワードを選択した場合、クライアントスクリプトは一致するレコードを検索し、[簡単な説明] をパスワードリセットに設定します。クライアントスクリプト設定...[タイプ] = *onChange*、[テーブル名] = インシデント、[フィールド名] = サブカテゴリ。

```
function onChange(control, oldValue, newValue, isLoading) {
  if (isLoading) { return; }
  var newrec = gel('sys_row');
  //Check if new record
  if (newrec.value == -1) {
    var lookup = new GlideRecord('u_short_desc_lookup');
    lookup.addQuery('u_subcategory', g_form.getValue('subcategory'));
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    lookup.query();
    var temp; //temp var - reusable
    if (lookup.next()) {
      temp = lookup.u_short_description;
        if (null != temp) { //Set the form value from lookup if there is
a lookup value
          g_form.setValue('short_description', temp); }
        else {
          g_form.setValue('short_description', "" ); } }
  else {
    //If a lookup record does not exist based on lookup.addQuery
    //Then set to UNDEFINED or NULL depending on type
     g_form.setValue('short_description', ""); } }

}
```

多くのフィールドに値を入力したり、コールスクリプトの質問を [コメント] フィールドに入力して、コールセンターの担当者が技術者に提供する適切な情報を収集することもできます。類似の機能を実行するアサインルール、テンプレート、およびウィザードが既に組み込まれています。

スクリプト例：デフォルトのクエリ前のビジネスルール

データベースクエリの前に実行されるクエリビジネスルールを使用して、ユーザーが特定のレコードにアクセスできないようにすることができます。

警告: ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

インシデントレコードへのアクセスを制限するデフォルトのビジネスルールの以下の例を考慮してください。

デフォルトのビジネスルールでのインシデントレコードへのアクセスの制限

名前	テーブル	時期
インシデントクエリ	インシデント	クエリ前

スクリプト例

この例では、ユーザーが [問い合わせユーザー*(Caller)*] または [作成者] フィールドにリストされている itil ロールを持っている場合を除き、インシデントレコードにアクセスできません。そのため、セルフサービスユーザーがインシデントのリストを開くと、自分が送信したインシデントしか表示されません。

```
if(!gs.hasRole("itil")&& gs.isInteractive()){
  var u = gs.getUserID();
  var qc = current.addQuery("caller_id", u).addOrCondition("opened_by",
 u).addOrCondition("watch_list","CONTAINS", u);
  gs.print("query restricted to user: "+ u);}
```

注: ユーザーに表示されるレコードは、アクセス制御を使用して制限することもできます。

平日のスケジュールスクリプト

タイプ：ビジネスルール/クライアントスクリプト。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このスクリプトは平日のスクリプトをスケジュールします。「スクリプトをここに入力 (Your Script here)」と表示されている場所にスクリプトを挿入します。

```
var go ='false';
var now =new Date();

// Correct time zone, which is by default GMT -7
now.setHours(now.getHours()+8);
var day = now.getDay();

// No go on Saturday or Sunday
if(day !=0&& day !=6){

// (your script here)

}
```

現在の日付に基づく日付フィールドの設定

このスクリプトは、現在の曜日に応じて日付フィールドを設定します。この例では、日が月曜日から水曜日の場合、日付は次の月曜日に設定されます。それ以外の場合は、日付フィールドは次の月曜日に設定されます。

```
function setCabDate(){
var today =new Date();
var thisDay = today.getDay();
//returns 0 for Sunday, 1 for Monday, etc. thru 6 for Saturday.
var thisMon =new GlideDateTime();
thisMon.setDisplayValue(gs.beginningOfThisWeek());
var nextMon = thisMon.getNumericValue();
nextMon +=(1000*60*60*24*7);

if((thisDay <4)&&(thisDay >0))
  //if today is Mon thru Wed (thisDay = 1, 2, or 3), set cab to this
 coming Monday.

 current.u_req_cab_rev_date.setDateNumericValue(thisMon.getNumericValue(
));
elseif((thisDay >=4)||(thisDay ==0))
  //if today is Thurs thru Sun (thisDay = 4, 5, 6, or 0), set cab to next
 Monday.
  current.u_req_cab_rev_date.setDateNumericValue(nextMon);
}
```

すべての日付/時刻フィールドの入力を検証するために、検証スクリプト ([システム定義] > [検証スクリプト]) で次を使用できます。このスクリプトでは日付/時刻形式がハードコードされているため、インスタンスの日付/時刻形式と一致する必要があります。インスタンスの日付/時刻形式が変更された場合は、検証スクリプトを更新する必要があります。

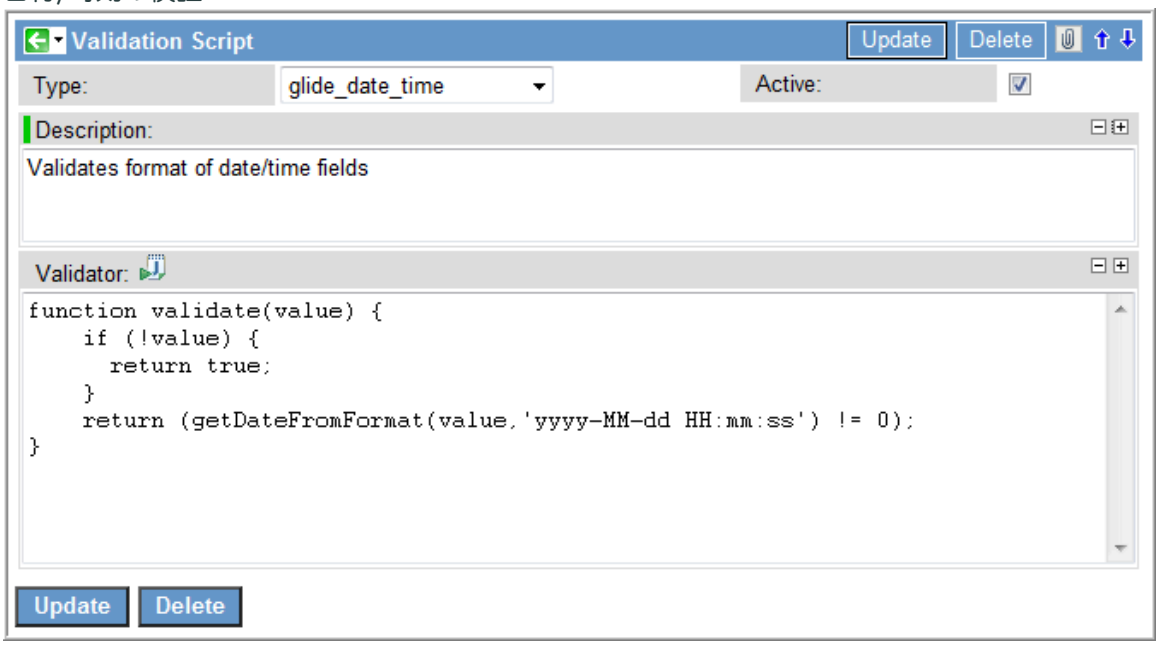
検証スクリプトのタイプを [日付/時刻] に設定します。このようにすると、この検証スクリプトでユーザーが日付/時刻フィールドに誤った形式を入力した場合に、エラーメッセージを受け取ります。

```
function validate(value){
// empty fields are still valid dates
if(!value)returntrue;
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
// We "should" have the global date format defined always defined. but
 there's always that edge case...
if(typeof g_user_date_time_format !=='undefined')return isDate(value,
 g_user_date_time_format);

// if we don't have that defined, we can always try guessing
return parseDate(value)!==null;}
```

日付/時刻の検証



UI アクションでのクライアントおよびサーバーコードの使用

スクリプトを使用して、サーバー側でレコードを更新する前に、クライアント側で UI アクションがクリックされたときに入力を検証できます。ユーザーは、必須フィールドを検証してレコードを更新するのにボタンを 2 回クリックする必要はありません。

スクリプトはクライアント側の検証のためにクライアント関数を呼び出し、合格すると UI アクションがタスクを完了します。`onclick` なしで実行されるコードのステートメントは 、クライアント関数が実行されなくなるまでサーバー側の関数が実行されないようにします。成功すると、サーバー側の関数が実行され、レコードが更新されます。

```
// Client-side onclick function
function resolveIncident() {
  // Set the 'Incident state' and 'State' values to 'Resolved', and
 display mandatory fields
  g_form.setValue('incident_state', 6);
  g_form.setValue('state', 6);
  g_form.setValue('resolved_by', g_user.userID);

  // Call the UI action and skip the 'onclick' function
  gsftSubmit(null, g_form.getFormElement(), 'resolve_incident'); //MUST
 call the 'Action name' set in this UI Action
}

// Code that runs without 'onclick'
// Ensure call to server-side function with no browser errors
if (typeof window == 'undefined')
  serverResolve();
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
// Server-side function
function serverResolve() {
  current.incident_state = IncidentState.RESOLVED;
  current.state = IncidentState.RESOLVED;
  current.resolved_by = gs.getUserID();
  current.update();
}
```

gsftSubmit(文字列 **control**, オブジェクト **form**, 文字列 **action_name**)

必須フィールドを確認し、*`onSubmit()`* クライアントスクリプトを実行した後、ユーザーが UI アクションをクリックした場合と同様にフォームを送信します。単一の UI アクションでクライアント側のコードとサーバー側のコードを呼び出すことができます。

パラメーター

名前	タイプ	説明
コントロール	文字列	ユーザーのクリックをシミュレートするフォームボタンの名前。それ以外の場合は `null` を使用します。
フォーム	オブジェクト	オプション。送信された入力を含むフォーム要素。この値を取得するには、*`g_form.getFormElement()`* メソッドを呼び出します。
action_name	文字列	アクション名。この値は、UI アクション [sys_ui_action] テーブルにリストされているレコードで提供されます。 たとえば、`'resolve_incident'` は、インシデント [incident] テーブルの [解決] ボタンのアクション名です。

関連情報

GlideForm - getFormElement()

スコープ対象 GlideSystem - **eventQueue**(文字列 name, オブジェクト instance, 文字列 parm1, 文字列 parm2, 文字列 queue)

GlideUser - クライアント

UI アクション

暗号化されていないシングルサインオンの **ASP** スクリプト例

このサンプル ASP.NET コードは、簡易認証ポータルを作成し、暗号化されていない HTTP ヘッダーを URL パラメーターとして渡します。

この例では、以下を前提としています。

- Web サーバーが ASP .NET をサポートしている
- ターゲットインスタンスが `https://<instance name>.service-now.com/` である
- SiteMinder または別のシングルサインオンアプリケーションがユーザーを事前認証している
- ターゲットインスタンスは HTTP ヘッダー SM_USER を予期している

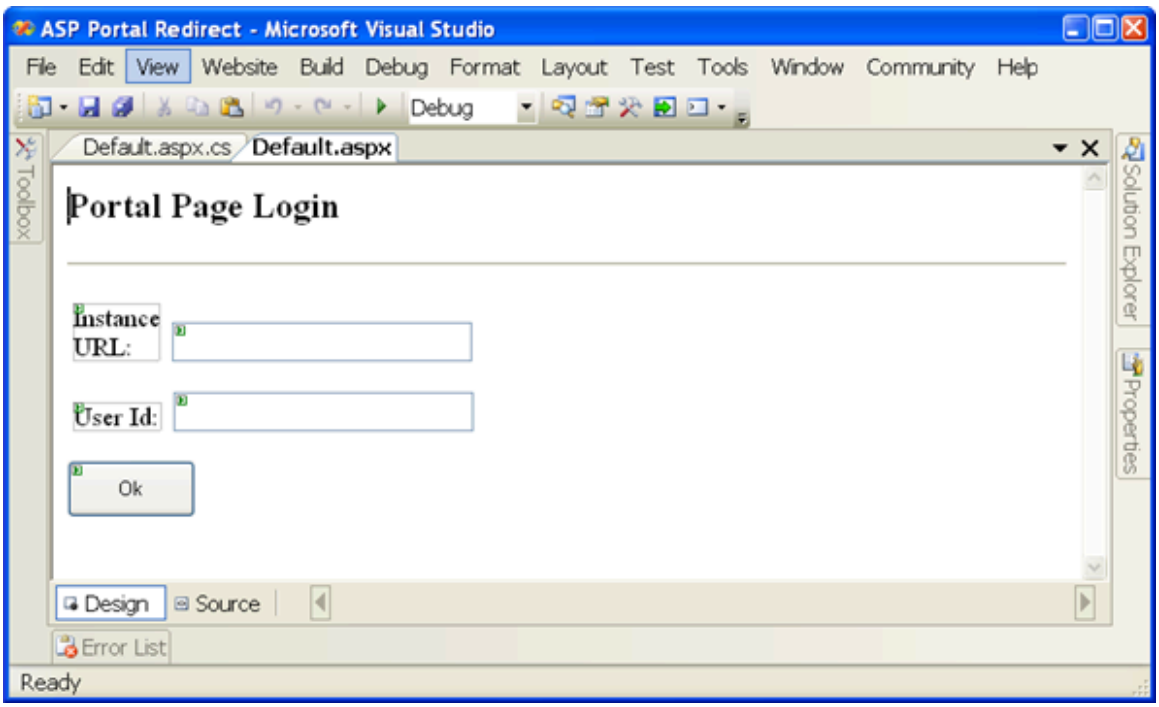
ASP コードを変更して、ユーザーを適切なインスタンスにリダイレクトし、適切な HTTP ヘッダーを作成するようにします。

```
<html xmlns = "http://www.w3.org/1999/xhtml" > <head  runat =
 "server" > <title >Portal Page Login </ title > <%--    <meta
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
http-equiv = "REFRESH" content = "0;url=https://<instance
name>.service-now.com/">--%>

    <script  runat = "server" >

       public void go_to(object sender, EventArgs e)
       {
           ////Send URL parameters
           String URL = urlBox.Text + "?SM_USER=" + userNameBox.Text;
           Response.Redirect(URL);
       }
    </ script >


 </ head > <body > <form id = "form1"  runat = "server" > <h2 >< b
> Portal Page Login  </ b >< / h2 > <hr style = "position: static" /
> <br / > <asp:Label ID = "Label2"  runat = "server"  Font- Size =
"Larger" Height = "21px" Style = "position: static"Text = "Instance
URL:" Width = "113px" >< / asp:Label> <asp:TextBox ID = "urlBox"
runat = "server"  Font- Size = "Large" Style = "position: static"
>< / asp:TextBox> <br / > <br / > <asp:Label ID = "Label1"  runat =
"server"  Font- Size = "Larger" Height = "17px" Style = "position:
static;"Text = "User Id:" Width = "113px" >< / asp:Label> <asp:TextBox
ID = "userNameBox"  runat = "server"  Font- Size = "Large" Style =
"position: static;" >< / asp:TextBox> <br / > <br / > <asp:Button ID =
"Button1"  runat = "server" Height = "39px" Style = "position: static;"
Text = "Ok"Width = "88px" OnClick = "go_to" / > </ form > </ body > </
html >
```

デザイナー



日付と時刻の検証

すべての日付/時刻フィールドの入力を検証するために、検証スクリプト ([システム定義] > [検証スクリプト]) で次を使用できます。

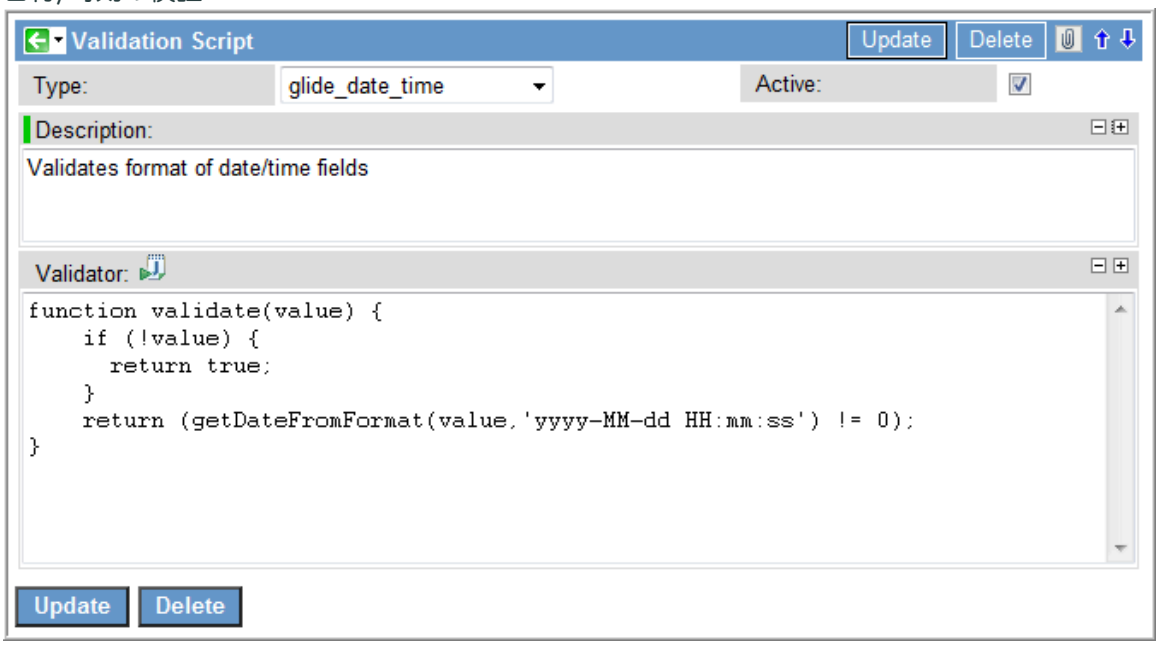
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このスクリプトでは日付/時刻形式がハードコードされているため、インスタンスの日付/時刻形式と一致する必要があります。インスタンスの日付/時刻形式が変更された場合は、検証スクリプトを更新する必要があります。

検証スクリプトのタイプを「glide_date_time」に設定します。このようにすると、この検証スクリプトでユーザーが日付/時刻フィールドに誤った形式を入力した場合に、エラーメッセージを受け取ることになります。

```
function validate (value ) { if ( !value ) { return true ; } return
 (getDateFromFormat (value , 'yyyy-MM-dd HH:mm:ss' ) != 0 ) ;

 }
```

日付/時刻の検証



期間の計算

タスクまたはプロセスの期限を指定する方法のユーザーへの提供が必要になることがよくあります。DurationCalculator スクリプトインクルードを使用すると、単純な期間または相対期間を使用して期日を計算できます。

通常、期日を設定するには、合計時間ではなく作業時間を計算する必要があります。期日を決定する際に考慮するのは、1 日のうちの作業が行われる部分のみです。たとえば、ある作業が 10 時間かかるものの、平日のスケジュールで制限されている場合などです。作業が月曜日の 10 am に開始される場合、以下で計算するように、火曜日の 12 pm が期限になります。

```
10am-5pm on Monday (6 hours) + 8am-12pm on Tuesday (4 hours)
```

DurationCalculator メソッドへの入力として使用できるスケジュールについては、「スケジュールの作成と使用」を参照してください。

このスクリプトは、DurationCalculator を使用して期日を計算する方法を示しています。

```
/**
 * Demonstrate the use of DurationCalculator to compute a due date.
 *
 * You must have a start date and a duration. Then you can compute a
 * due date using the constraints of a schedule.
 */
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */function executeSample(){

	// First we need a DurationCalculator object.var dc =new DurationCalculator();

	// ---------- No schedule examples ----------

	// Simple computation of a due date without using a schedule. Seconds// are added to the start date continuously to get to a due date.
	dc.setStartDateTime("5/1/2012");if(!dc.calcDuration(2*24*3600)){// 2 days
	 gs.log("*** Error calculating duration");return;}
	gs.log("calcDuration no schedule: "+ dc.getEndDateTime());// "2012-05-03 00:00:00" two days later

	// Start in the middle of the night (2:00 am) and compute a due date 1 hour in the future// Without a schedule this yields 3:00 am.
	dc.setStartDateTime("5/3/2012 02:00:00");if(!dc.calcDuration(3600)){
		gs.log("*** Error calculating duration");return;}
	gs.log("Middle of night + 1 hour (no schedule): "+ dc.getEndDateTime());// No scheduled start date, just add 1 hour


	// ---------- Add a schedule to the date calculator ----------
	addSchedule(dc);

	// Start in the middle of the night and compute a due date 1 hour in the future.// Since we start at 2:00 am the computation adds the 1 hour from the start// of the day, 8:00am to get to 9:00am
	dc.setStartDateTime("5/3/2012 02:00:00");if(!dc.calcDuration(3600)){//
		gs.log("*** Error calculating duration");return;}
	gs.log("Middle of night + 1 hour (with 8-5 schedule): "+ dc.getEndDateTime());// 9:00 am

	// Start in the afternoon and add hours beyond quiting time. Our schedule says the work day// ends at 5:00pm, if the duration extends beyond that, we roll over to the next work day.// In this example we are adding 4 hours to 3:00pm which gives us 10:00 am the next day.
	dc.setStartDateTime("5/3/2012 15:00:00");if(!dc.calcDuration(4*3600)){//
		gs.log("*** Error calculating duration");return;}
	gs.log("Afternoon + 4 hour (with 8-5 schedule): "+ dc.getEndDateTime());// 10:00 am.

	// This is a demo of adding 2 hours repeatedly and examine the result. This// is a good way to visualize the result of a due date calculation.
	dc.setStartDateTime("5/3/2012 15:00:00");// for(var i=2; i<24; i+=1){if(!dc.calcDuration(i*3600)){//
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
            gs.log("*** Error calculating duration");return;}
        gs.log("add "+ i +" hours gives due date: "+ dc.getEndDateTime());}

    // Setting the timezone causes the schedule to be interpreted in the specified
timezone.// Run the same code as above with different timezone. Note that the 8 to 5
workday is// offset by the two hours as specified in our timezone.
    dc.setTimeZone("GMT-2");
    dc.setStartDateTime("5/3/2012 15:00:00");for(var i=2; i<24;
i+=1){if(!dc.calcDuration(i*3600)){//
            gs.log("*** Error calculating duration");return;}
        gs.log("add "+ i +" hours gives due date (GMT-2): "+
dc.getEndDateTime());}}

/**
* Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
*
* @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
*/function addSchedule(durationCalculator){// Load the "8-5 weekdays excluding
holidays" schedule into our duration calculator.var scheduleName ="8-5 weekdays
excluding holidays";var grSched =new GlideRecord('cmn_schedule');
    grSched.addQuery('name', scheduleName);
    grSched.query();if(!grSched.next()){
        gs.log('*** Could not find schedule '"+ scheduleName +"");return;}
    durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue(),"GMT");}
```

単純な期間と相対期間

タスクを完了するために必要な作業量を「相対期間」で表すことができます。

相対期間では、開始時間との相対関係で予想できる期限となる日時が決定されます。相対期間の例としては、「翌営業日の 4 pm まで」や「2 営業日後の 10:30 am まで」などがあります。

相対期間を計算するには、「翌営業日」が何を意味するかを判断するために、カレンダーとタイムゾーンを考慮する必要があります。これは、有効な営業日とはいつであるかを定義しているのがカレンダーであり、タイムゾーンも結果に影響するためです。例として、「翌営業日の 4 pm まで」を考えてみます。

- 開始が月曜日の 12 pm の場合：翌営業日の 4 pm => 火曜日の 4 pm
- 開始が金曜日の 2 pm の場合：翌営業日の 4 pm => 次の月曜日の 4 pm

注: 多くの場合、「翌営業日」は開始日時によって定義されます。たとえば、「2 pm より前であれば翌営業日の 4 pm」は、現在の時刻が営業日の 2 pm を過ぎていると、実際にはその日から 2 営業日後が期日になることを意味します。

単純な期間の計算

このビジネスルールとスクリプトの例は、単純な期間を計算する方法を示しています。

```
var dur =new DurationCalculator();
dur.setSchedule(current.schedule);
dur.setStartDateTime("");

if(current.duration_type==""){
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
 dur.calcDuration(current.duration.getGlideObject().getNumericValue()/100
0);}else{
         dur.calcRelativeDuration(current.duration_type);}

    current.end_date_time= dur.getEndDateTime();
    current.work_seconds= dur.getSeconds();
```

このスクリプトは、DurationCalculator を使用して単純な期間を計算する方法を示しています。

```
/**
 * Sample script demonstrating use of DurationCalculator to compute
 simple durations
 *
 */

gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */
function executeSample(){

    // First we need a DurationCalculator object.
    var dc =new DurationCalculator();

    // Compute a simple duration without any schedule. The arguments
    // can also be of type GlideDateTime, such as fields from a
 GlideRecord.
    var dur = dc.calcScheduleDuration("5/1/2012","5/2/2012");
    gs.log("calcScheduleDuration no schedule: "+ dur);
    // 86400 seconds (24 hours)

    // The above sample is useful in limited cases. We almost always want
 to
    // use some schedule in a duration computation, let's load a
 schedule.
    addSchedule(dc);

    // Compute a duration using the schedule. The schedule
    // specifies a nine hour work day. The output of this is 32400
 seconds, or
    // a nine hour span.
    dur = dc.calcScheduleDuration("5/23/2012 12:00","5/24/2012 12:00");
    gs.log("calcScheduleDuration with schedule: "+ dur);
    // 32400 seconds (9 hours)

    // Compute a duration that spans a weekend and holiday. Even though
 this
    // spans three days, it only spans 9 work hours based on the
 schedule.
    dur = dc.calcScheduleDuration("5/25/2012 12:00","5/29/2012 12:00");
    gs.log("calcScheduleDuration with schedule spaning holiday: "+ dur);
    // 32400 seconds (9 hours)

    // Use the current date time in a calculation. The output of this is
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    // dependent on when you run it.
    var now =new Date();
    dur = dc.calcScheduleDuration("5/15/2012",new GlideDateTime());
    gs.log("calcScheduleDuration with schedule to now: "+ dur);
    // Different on every run.}

/**
 * Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
 *
 * @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
 */
function addSchedule(durationCalculator){
   //  Load the "8-5 weekdays excluding holidays" schedule into our
 duration calculator.
   var scheduleName ="8-5 weekdays excluding holidays";
   var grSched =new GlideRecord('cmn_schedule');
   grSched.addQuery('name', scheduleName);
   grSched.query();if(!grSched.next()){
        gs.log('*** Could not find schedule "'+ scheduleName +'"');
        return;}
    durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue());}
```

相対期間の計算

相対期間計算スクリプトの例。

このスクリプトは、「10 am を過ぎていれば翌日 4 pm」の相対期間を計算します。

```
// Next day at 4pm if before 10am
var days =1;
if(calculator.isAfter(calculator.startDateTime,"10:00:00"))
      days++;

calculator.calcRelativeDueDate(calculator.startDateTime,
 days,"16:00:00");
```

このスクリプトは、DurationCalculator を使用して相対期間を計算する方法を示しています。

```
/**
 * Sample use of relative duration calculation.
 *
 */

gs.include('DurationCalculator');
executeSample();

/**
 * Function to house the sample script.
 */
function executeSample(){

    // First we need a DurationCalculator object. We will also use
    // the out-of-box relative duration "2 bus days by 4pm"
    var dc =new DurationCalculator();
    var relDur ="3bf802c20a0a0b52008e2859cd8abcf2";
    // 2 bus days by 4pm if before 10am
    addSchedule(dc);
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    // Since our start date is before 10:00am our result is two days from
    // now at 4:00pm.
    dc.setStartDateTime("5/1/2012 09:00:00");
    if(!dc.calcRelativeDuration(relDur)){
        gs.log("*** calcRelativeDuration failed");
        return;}
    gs.log("Two days later 4:00pm: "+ dc.getEndDateTime());

    // Since our start date is after 10:00am our result is three days
 from
    // now at 4:00pm.
    dc.setStartDateTime("5/1/2012 11:00:00");
    if(!dc.calcRelativeDuration(relDur)){
        gs.log("*** calcRelativeDuration failed");
        return;}
    gs.log("Three days later 4:00pm: "+ dc.getEndDateTime());}

/**
 * Add a specific schedule to the DurationCalculator object.
 *
 * @param durationCalculator An instance of DurationCalculator
 */
function addSchedule(durationCalculator){
  //  Load the "8-5 weekdays excluding holidays" schedule into our
 duration calculator.
  var scheduleName ="8-5 weekdays excluding holidays";
  var grSched =new GlideRecord('cmn_schedule');
  grSched.addQuery('name', scheduleName);
  grSched.query();
  if(!grSched.next()){
        gs.log('*** Could not find schedule "'+ scheduleName +'"');
        return;}
  durationCalculator.setSchedule(grSched.getUniqueValue(),"GMT");}
```

相対期間の実装方法

cmn_relative_duration テーブルと *DurationCalculator* スクリプトインクルードを作成することで、相対期間を実装できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. cmn_relative_duration テーブルを作成します。
2. DurationCalculator スクリプトインクルードを作成します。
3. サンプルの相対期間エントリを作成します (たとえば、「4 pm までであれば翌営業日」)。
4. 相対期間をサポートするために必要なフィールドを SLA テーブルに追加します。
5. SLA の期間計算を変更します。
6. SLA の SLA パーセンテージタイマー計算を変更します (これは work_seconds を使用する必要があります)。
7. ワークフローにスケジュールフィールドを追加します： スケジュールとタイムゾーン (ワークフローテーブルのフィールドに基づいて選択)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. 期間サポートフィールドをワークフロータスクアクティビティに追加します。
9. タスクアクティビティの期間計算スクリプトを実装します。

相対期間テーブルと DurationCalculator メソッド

cmn_relative_duration テーブルは、期間または相対期間のどちらかでの期日の定義をサポートしています。

このテーブルは、[名前] と [スクリプト] の 2 つのフィールドで構成されています。[スクリプト] フィールドには、相対期間計算スクリプトが含まれています。このスクリプトには、期日の計算に使用される「calculator」変数が含まれています。

DurationCalculator スクリプトインクルードを使用して、期間の計算を実行できます。このスクリプトインクルードで使用できるメソッドは次のとおりです。

DurationCalculator スクリプトインクルードテーブル

メソッド	説明
setSchedule(String schedID, [String timezone])	期日の計算に使用するスケジュールとタイムゾーンを設定します。
setStartDateTime(GlideDateTime start)	期間計算のための開始時刻を設定します。[開始] が空の場合、現在の日付/時刻が使用されます。
calcDuration(int seconds)	終了日時を計算します。完了すると、this.endDateTime および this.seconds プロパティは、計算の結果を示すように設定されます。
calcRelativeDuration(String relativeDurationID)	指定された相対期間スクリプトを使用して期間を計算します。完了すると、this.endDateTime および this.seconds プロパティは、計算の結果を示すように設定されます。
getEndDateTime()	期間の終了日時を示す、calcDuration/calcRelativeDuration によって設定された this.endDateTime プロパティを取得します。
getSeconds()	期間中に実行される作業の合計秒数を示す、calcDuration/calcRelativeDuration によって設定された this.seconds プロパティを取得します。 **注:** これは、開始時間と終了時間の合計時間ではなく、合計作業時間であり、作業時間のパーセンテージを決定するために使用されます。
getTotalSeconds()	期間の開始時刻から終了時刻までの合計秒数を示す、calcDuration/calcRelativeDuration によって設定された this.totalSeconds プロパティを取得します。

相対期間スクリプトでは、次の関数が使用されます。

相対期間スクリプト関数

関数	説明
boolean isAfter(GlideDateTime dt, String time)	「time」は「dt」で指定された時刻より後になっているかどうか。dt が空白の場合、現在の日付/時刻が使用さ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

相対期間スクリプト関数 (続く)

関数	説明
	れます。時間は 24 時間形式の「hh:mm:ss」で表されます。
calcRelativeDueDate(GlideDateTime start, int days, String endTime)	「start」で始まり、スケジュールとタイムゾーンを使用して「days」を追加して、期日を計算します。作業の期日を特定できたら、その日の「endTime」に時間を設定します。完了すると、this.endDateTime および this.seconds プロパティは、計算の結果を示すように設定されます。「endTime」が空白の場合は、作業終了日の終了時間を使用します。

カスタム UI ページと UI マクロの作成

UI ページを使用して、アプリケーションのカスタムページと、カスタムコントロールまたはインターフェイスの UI マクロを作成します。

すべての UI ページは Jelly テンプレートです。Jelly は XML を実行可能コードに変換します。UI ページは、AngularJS アプリケーションでの index.html ファイルの使用方法と同様に使用できます。UI ページフォームの HTML フィールドの Jelly タグには、AngularJS ロジックが含まれています。

UI マクロ を作成するには、Jelly スクリプトの知識が必要です。例および提案されたアプローチについては、既存の UI マクロを確認してください。JavaScript テクノロジーを使用してカスタムインターフェイスをビルドする場合は、代替手段としてサービスポータルを検討してください。

UI ページ

UI ページは、フォーム、ダイアログ、リスト、その他の UI コンポーネントの作成と表示に使用できます。

ダッシュボードのウィジェットとして UI ページを使用します。UI ページを見つけるには、[システム **UI]** > **[UI** ページ] に移動します。

この機能を使用するには、HTML または Jelly のナレッジが必要です。UI ページを使用して簡単な AngularJS アプリケーションを作成することもできます。

UI ページフォームには、次のフィールドが含まれています。

UI ページ

フィールド	説明
名前	URL を介してページを呼び出すために使用される名前 (スペースを含めることはできません)。
アプリケーション	現在のアプリケーションスコープを表示します。
説明	UI ページの説明とその使用目的。
直接	直接 UI ページ [sys_ui_page] の場合は、このチェックボックスをオンにします。直接 UI ページには、一般的な HTML、CSS、およびスクリプトは含まれません。この設定では、ページで使用するカスタム CSS と JavaScript を追加する必要があります。
HTML	ページが表示されるときに何をレンダリングするかを定義する、ページのメインコンポーネント。静的 XHTML、Jelly として定義された動的に生成されたコンテンツを含めるか、またはスクリプトインクルードと UI マクロを呼び出すことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ページ (続く)

フィールド	説明
	注: *GlideRecord/GlideDBQuery* を *GlideRecordSecure* の代わりに使用すると、セキュリティ推奨メッセージが表示されます。
クライアントスクリプト	ボタンによって呼び出される機能など、ブラウザーで実行されるクライアント側の JavaScript を含みます。これは、ページがロードされた後にフィールドやその他のインタラクティブな DHTML 機能にフォーカスを設定するなど、必要なクライアント側の処理を実行することを目的としています。 UI ページのクライアントスクリプトは *<script/>* タグ内でブラウザーに展開されるため、HTML フィールド内で同様にコンテンツを定義できます。代わりに [クライアントスクリプト] フィールドを使用してこれらのスクリプトを簡潔に定義し、Jelly および HTML の管理性を維持することができます。
処理スクリプト	ページが送信されたときにサーバーで実行されるスクリプト。これは、ページに `<g:ui_form/>` または `<g:form/>` タグで定義されたフォームがある場合に便利です。 注: *GlideRecord/GlideDBQuery* を *GlideRecordSecure* の代わりに使用すると、セキュリティ推奨メッセージが表示されます。
obsolete-custom-processors	注: この機能は廃止されました。従来の既存のカスタムプロセッサーは引き続きサポートされますが、新しいカスタムプロセッサーの作成は廃止されました。代わりに、Scripted REST APIs を使用します。
フォームビューの関連リスト：	
アクセス制御	UI ページのアクセス制御を表示および設定します。詳細については、「UI ページでアクセス制御を使用する」を参照してください。
バージョン	UI ページのすべてのバージョンを表示します。バージョンを比較したり以前のバージョンに戻したりするには、このリストを使用します。

アクセス制御

UI ページは、次のパラメーターを指定して ACL を作成することで保護できます。

- タイプ：*ui_page*
- 操作：読み取り
- 名前：保護する UI ページの名前
- ロール：レコードへのアクセスが許可されているユーザーロール

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい UI ページを保存すると、アクセス制御のロールを割り当てるように求められま

す。

注: UI ページと同じ名前のエントリーがアクセス制御テーブルに作成されます。

ACL ルールの作成の詳細については、「ACL ルールを作成する」を参照してください。

高リスク UI ページ

次のいずれかの属性がある UI ページは、高リスクと見なされます。

- *GlideRecordSecure* の代わりに *GlideRecord* または *GlideDBQuery* を使用している

  注: これは *[HTML]* および [処理] スクリプトフィールドに適用され、クライアントスクリプトには適用されません。

- 対応する ACL が設定されていない
- パブリック UI ページであると示され、*sys_public* レコードに入力されている
- 高リスク UI ページを示すメッセージを表示している
- *glide.installation.developer* が **true** に設定されているインスタンスの場合。
- リソースが顧客インスタンスのカスタマイズされたコンテンツである場合

UI ページへのアクセス

各 UI ページには、アプリケーションスコープ、ページ名、および .do ファイル拡張子から計算された URL があります。

たとえば、glidewindow_example というページをデモシステムで表示するには、`https://<instance name>.service-now.com/glidewindow_example.do` に移動します。ページが example_app と呼ばれるカスタムアプリケーションの一部である場合は、代わりに `https://<instance name>.service-now.com/x_example_app_glidewindow_example.do` に移動します。

ページの HTML セクション内で jelly 変数としてアクセスできる追加のパラメーターを URL に追加することもできます。つまり、引数を `/my_test_page.do?sysparm_verbose=true` のように URL に追加すると、次のようにアクセスできる *verbose* と呼ばれる jelly 変数が作成されます。

```
<j2:if test="$[!empty(sysparm_verbose)]"> <span>show extra stuff </span>
 </j2:if >
```

これの一般的で実用的な例は、表示用のデータベースレコードの取得です。ユーザーのロールのリストをビルドするには、ユーザーの sys_id を使用してパラメーターを渡します。次の UI ページを呼び出して、そのユーザーのロールのリストを Jelly コードで次のように表示します。

`role_select.do?sysparm_user=5137153cc611227c000bbd1bd8cd2007`

```
<j:set var = "jvar_user_id" value = "${sysparm_user}" />
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
<g:evaluate> var userRoles = new GlideRecord('sys_user_has_role');
  userRoles.addQuery('user','${jvar_user_id}');
  userRoles.query();
</g:evaluate>

<select id='select_role'>
    <j:while test = "${userRoles.next()}">
        <option value = "${userRoles.sys_id}"> ${userRoles.role.name}
</option>
    </j:while>
</select>
```

ただし、予約済みの変数名 sys_id は注意すべき例外です。この変数には、URL の指定に関係なく、常に UI ページ自体の ID が含まれます。一般的な代替変数名は sysparm_id です。

URL パラメーターを使用してクライアントスクリプトを UI ページにロードしないでください。システムは、URL パラメーターによって渡されたスクリプトを評価しなくなりました。ご利用の実装がこの動作に依存している場合は、システムプロパティ [glide.security.disable_ui_pages_sysparm_client_script] を追加して **false** に設定すると、UI ページでスクリプトを渡す URL パラメーターの評価が一時的に許可されます。

UI ページでアクセス制御を使用する

UI ページレコードを作成または編集するときに、[UI ページ] フォームから直接アクセス制御を確認し、ロールベースのアクセス制御を追加します。

始める前に

既存の UI ページに追加されたアクセス制御は、関連リンクの下にある UI ページレコードを開くことでアクセスおよび編集できます。

必要なロール：security_admin および admin

手順

1. **security_admin** ロールに昇格させます。
   ロールの昇格の詳細については、「特権ロールへの昇格」を参照してください。
2. [すべて] > [システム **UI**] > **[UI** ページ] に移動します。
3. [新規] を選択します。
4. フォームに入力します。
   UI フィールドの詳細については、「UI ページ」を参照してください。
5. [送信] または [保存] を選択します。
   UI ページのロールベースのアクセス制御を作成するように求めるモーダルが表示されます。

6. ロールを選択します。
7. **[OK]** を選択してロールをアサインします。
   UI ページのリストに戻ります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

既存の UI ページのアクセス制御を追加、編集、または表示します。

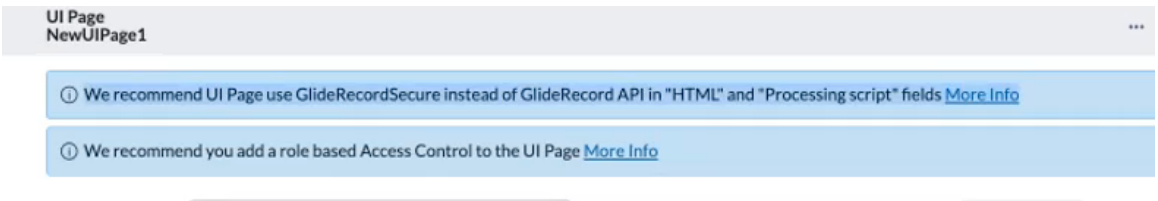
8. UI ページテーブルから UI ページを開きます。
9. 関連リストの [アクセス制御] を表示します。
10. [新規] を選択して新しいアクセス制御を作成するか、既存のエントリを選択して編集します。
    [アクセス制御] フォームがロードされます。UI ページの詳細が表示されます。
11. フォームに入力し、UI ページにロールを割り当てます。
    アクセス制御の詳細については、「ACL ルールの作成」を参照してください。
12. 新しいアクセス制御の場合は [送信] を、編集する場合は [更新] を選択します。

> **注:** UI ページごとに複数のアクセス制御を設定できます。

保護された UI ページ

アクセス制御と関連するセキュリティメッセージは、セキュリティを強化するためにリスクの高い UI ページに統合されています。

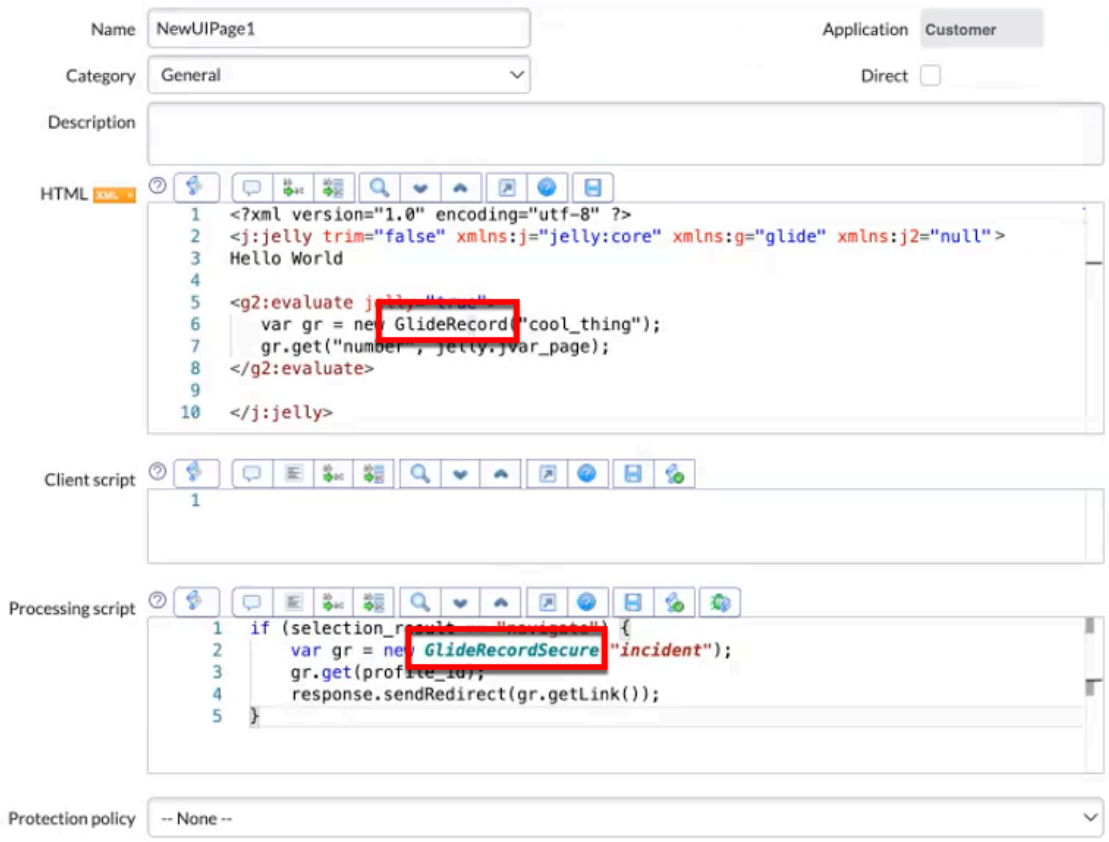
高リスク UI ページに情報メッセージが表示され、ロールベースのアクセス制御を UI ページに追加するように顧客に通知されます。



このメッセージは、次の条件で表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ACL (アクセス制御リスト) がない場合
- **[HTML]** セクションまたは [処理スクリプト] セクション



で *GlideRecordSecure* の代わりに *GlideRecord/GlideDBQuery* が使用されている場合

- *sys_public* で UI ページがパブリックとして設定されている場合

> **注:** パブリック UI ページまたは *GlideRecord* を使用する場合は、ACL 欠落の警告は表示されません。

高リスク UI ページの詳細については、「UI ページ」を参照してください。

セキュリティに関する推奨事項のメッセージが表示される条件

このメッセージは、次の条件で表示されます。

- *glide.installation.developer*=*true* であるすべての内部インスタンス eclipse/IJ
- 顧客のすべてのスコープ対象 UI ページのリソース
- *glide.script.ui_page.customer_scoped.security_msgs_enabled* プロパティが *true* に設定されている場合のカスタマイズされた UI ページ(デフォルト値は *true*)。

セキュリティに関する推奨事項のメッセージが表示されない条件

次の条件では、メッセージは表示されません。

- UI ページが公開されていない
- UI ページが [グローバル] スコープにある
- *glide.script.ui_page.customer_scoped.security_msgs_enabled* が *false* に設定されている

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: ロールベースの ACL 作成プロンプトを無効にするには、*glide.ui_page.enable_acl_create_ux* プロパティを **[false]** に設定します。プロパティはデフォルトで **[true]** に設定されています。

UI ページプロセススクリプト

UI ページにフォームが含まれている (*<g:form>* タグを使用している) 場合は、フォームを送信してプロセススクリプトを実行できます。

処理スクリプトは、フォーム上のフィールドに自然にアクセスできます。たとえば、フォームに *application_sys_id* フィールドが含まれている場合は、次のようにします。

```
<g:ui_form>
  <p>Click OK to run the processing script.</p>
  <g:dialog_buttons_ok_cancel ok="return true" />
  <input type="hidden" name="application_sys_id"
 value="499836460a0a0b1700003e7ad950b5da" />
</g:ui_form>
```

このフィールドには、*application_sys_id* を使用してアクセスできます。

```
var application = new GlideRecord('hr_application');
 application.get(application_sys_id);
 application.status = "Rejected";
 application.update();
 var urlOnStack = GlideSession.get().getStack().bottom();
 response.sendRedirect(urlOnStack);
```

重要: 上記のスクリプトは、グローバルアプリケーションでのみ使用できます。

ダイアログの UI ページを使用している場合は、上記のコードを使用してスタック上の最新の URL を参照し、その場所に応答を送信することもできます。これは、ダイアログの処理スクリプトで何らかの内容を更新し、ダイアログが表示された画面を再表示する場合に便利です。

UI マクロ

UI マクロは、アドミニストレーターがユーザーインターフェイスに追加できる個別のスクリプト化されたコンポーネントです。

通常、UI マクロは既存のフィールド タイプによって提供されない入力または情報を提供するコントロールです。デフォルトでは、以下のようなさまざまなユーザーインターフェイス要素の UI マクロが提供されます。

- すべてのフォーマッター
- サービスカタログカート
- フィールドの横にあるアクション アイコン
- フォームおよびリストのアクション アイコン
- コンテンツ管理システムのウィジェット
- オーケストレーションアクティビティデザイナー

アドミニストレーターは、独自の UI マクロを作成して、カスタムコントロールまたはインターフェイスを提供できます。UI マクロを作成するには、Jelly スクリプト の知識が必要です。例および提案されたアプローチについては、既存の UI マクロを確認してください。JavaScript テクノロジーを使用してカスタムインターフェイスをビルドする場合は、代替手段としてサービスポータルを検討してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 使用可能な UI マクロを表示するには、[すべて] > [システム **UI]** > **[UI** マクロ] に移動します。

UI マクロの基本

UI マクロを使用すると、使用可能なカタログ変数タイプを使用してビルドできないソリューションをビルドできます。

アクセス可能な UI マクロ

UI マクロ [ui_macros] テーブルでは、いくつかの UI マクロを使用できます。これらの UI マクロの名前は `ui_` で始まり、UI ページで使用する標準フォームフィールドタイプのサブセットの動作をエミュレートします。たとえば、ui_date_time UI マクロは、UI ページの glide_date_time フィールドのように機能し、入力可能な入力フィールドに日時セレクターを提供できます。

UI マクロは、<g:> Jelly タグを使用して UI ページに含めることができます。次の例には、UI マクロに 2 つのオプション属性を提供する ui_date_time UI マクロが含まれています。

```
<g:ui_date_time name="due_date" value="2023-11-24 08:30:00"
 onchange="checkDateValue()" />
```

<g:> Jelly タグの属性値は、jvar プリフィックス付き変数として UI マクロに提供されます。UI マクロは、その XML で jvar プリフィックス付き変数を使用できます。

jvar プリフィックス付き変数として使用される **Jelly** タグ属性

属性	**jvar** プリフィックス付き変数
name	jvar_name
value	jvar_value
onchange	jvar_onchange

注: これらの UI マクロは、対応するフォームフィールドタイプのすべての機能をサポートすることは意図されていません。多くの場合、マクロは特定の ServiceNow アプリケーションユースケースのみを対象としています。

`ui_` プリフィックスが付いた UI マクロには、UI ページの <g:> Jelly タグで指定できる (または指定する必要がある) サポート対象属性を指定する説明が含まれています。使用可能な UI マクロを表示するには、[すべて] > [システム **UI]** > **[UI** マクロ] に移動します。

/

カスタム UI マクロ

ui_example UI マクロは、3 つの jvar プリフィックス付き変数 (jvar_name、jvar_test_attribute、jvar_laptop_type) を使用します。これらの変数は、UI ページの <g:> Jelly タグで、name、test_attribute、および laptop_type 属性として UI マクロに提供できます。

ui_example UI マクロの作成

[すべて] > [システム **UI]** > **[UI** マクロ] に移動し、[新規] を選択します。

マクロに「`ui_example`」という名前を付け、次のスクリプトを **[XML]** フィールドに追加します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<j:jelly trim="true" xmlns:j="jelly:core" xmlns:g="glide">
    <div>name jvar: ${jvar_name}</div>
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    <div>test_attribute jvar: ${jvar_test_attribute}</div>
    <div>laptop_type jvar: ${jvar_laptop_type}</div>
</j:jelly>
```

UI ページでのマクロの使用

[すべて] > [システム **UI]** > **[UI** ページ] に移動し、[新規] を選択します。アドミンロールの選択を求められます。

UI ページに名前を付け、次のスクリプトを **[HTML]** フィールドに追加します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<j:jelly trim="false" xmlns:j="jelly:core" xmlns:g="glide"
 xmlns:j2="null" xmlns:g2="null">
    <div style="text-decoration:underline">Template include
 one:</div>
    <g:ui_example name="Fred Luddy" test_attribute="I am an
 attribute" laptop_type="ThinkPad" />
    <hr/>
    <div style="text-decoration:underline">Template include
 two:</div>
    <g:ui_example name="Pat Casey" test_attribute="I am a
 different attribute" laptop_type="Macbook Pro" />
</j:jelly>
```

出力の確認

UI ページで、[試行] をクリックして結果を表示できます。

注: マクロを作成しても UI ページに想定どおりに表示されない場合は、キャッシュをクリアすると解決することがあります。インスタンスのキャッシュをクリアするには、ブラウザで「`<server_url>/cache.do`」と入力します。

関連情報

- UI ページ
- Jelly のタグ
- <g:ui_form/>
- <g:ui_input_field />
- <g:ui_checkbox/>

UI マクロの呼び出し

アドミニストレーターは、ユーザーインターフェイスに関連付けられた特定のレコードタイプから UI マクロを呼び出すことができます。

レコードタイプ別の **UI** マクロの呼び出し

レコードタイプ	例
辞書属性	参照フィールドのアイコンを表示します。 `ref_contributions=ui_macro_name`
UI ページ	UI ページに何かを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコードタイプ別の **UI** マクロの呼び出し (続く)

レコードタイプ	例
	`<g:macro_invoke macro="ui_macro_name" />`

UI マクロ	別の UI マクロから UI マクロを呼び出します。
	`<?xml version= "1.0" encoding="utf-8" ?>`
	`<j:jelly trim= "false" xmlns:j="jelly:core" xmlns:g="glide"`
	`xmlns:j2="null" xmlns:g2="null">`
	`<g:ui_macro_name />`
	`<g:ui_macro_name_2 />`
	`</j:jelly>`

UI マクロフォーム

各 UI マクロレコードは、Jelly コードで記述された名前と XML ドキュメントで構成されます。

UI マクロフィールド

フィールド	説明
名前	一意でわかりやすいマクロの名前。
アクティブ	チェックボックスをオンにすると、要素が定義されたとおりにレンダリングされます。コードを削除せずに要素を無効にするには、チェックボックスをオフにします。たとえば、**email_reply** マクロはデフォルトでは非アクティブです。
説明	マクロとそれに渡されるパラメーターの目的を説明します。
XML	マクロを定義する Jelly スクリプト。

カスタム承認 UI マクロ

このセクションでは、カスタム承認 UI マクロの作成方法について説明します。

警告: ここに記載されているカスタマイズは、特定のインスタンスで使用するために開発されたものであり、Now Support ではサポートされていません。この方法は現状のまま提供され、実装の前に完全にテストする必要があります。このカスタマイズに関するすべての質問およびコメントは、コミュニティフォーラムに投稿してください。

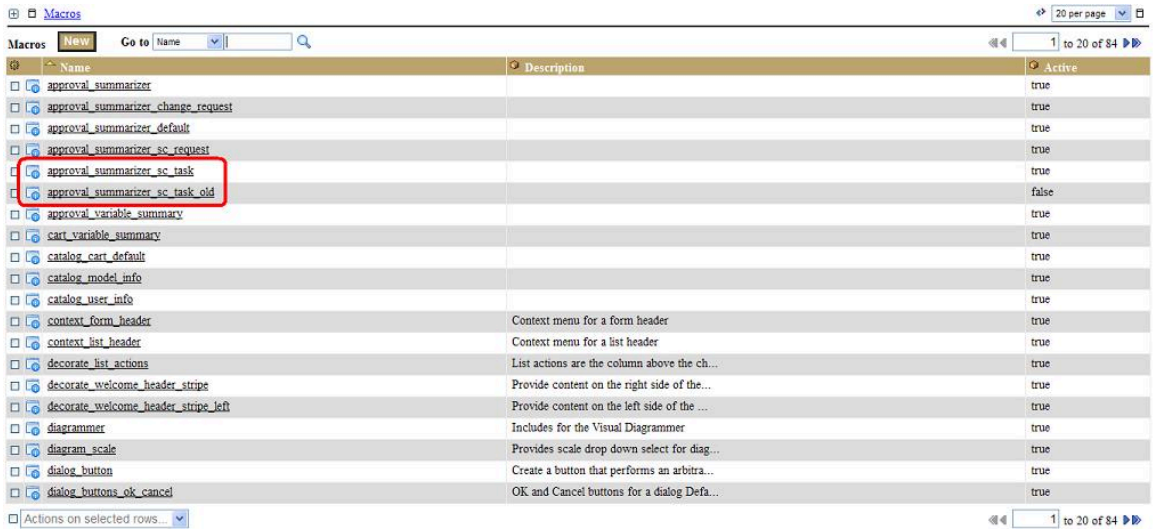
スクリプト名：カスタム承認 UI マクロ

タイプ：UI マクロ

説明：実行計画の [自分の承認] ビューから詳細を取得するオプションがあります。これは、新しい UI マクロを作成することで実行できます。[システム **UI**] に移動して、**[UI** マクロ] をクリックします。まず、既存の `approval_summarizer_sc_task` という名前を `approval_summarizer_sc_task_old` などに変更して、無効にする必要があります。次に、同じ名前 (`approval_summarizer_sc_task`) を使用して新しいマクロを作成する必要があります。名前は基本的に、マクロの実行内容と適用対象を示すものにする必要があります。ここでは、既存のものを置き換えるため、既存の名前を再利用することにしました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認マクロ



次に、この記事の下部にある xml スクリプトを、新しい UI マクロの xml コードウィンドウにコピーする必要があります。これは、サービスカタログ実行計画内の承認タスクを介してアイテムを承認する際に、承認者に何らかの詳細を提供するのに最適な方法です。

従来の方法

これは、従来の方法で承認タスクを使用するときに [自分の承認] に表示されるビューです。

自分の承認 (従来の方法)

承認者が実際に何を承認しようとしているのか、あまり詳しく書かれていないことに注意してください。タスクの簡単な説明は確認できますが、アイテムの詳細はわかりません。

新しい方法

これは、OOB (Out-Of-Box：すぐに利用可能な) UI マクロの代わりに以下の xml スクリプトを使用した場合に表示されるビューです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自分の承認

この方法を使用すると、要求の承認と同様に詳細を表示できます。注文したアイテムへのリンク、簡単な説明 (アイテムから変数を展開する機能を含む)、価格、数量、合計価格があります。これは、より詳細な情報を示すという点で、承認者の助けとなります。実際に承認しているものを確認できるようになりました。

スクリプト：

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
    <j:jelly trim="true" xmlns:j="jelly:core" xmlns:g="glide"
 xmlns:j2="null" xmlns:g2="null">
    <tr>
        <td class="label_left" width="100%">
            <label style="margin-left: 10px">
                ${gs.getMessage('Summary of Item being approved')}:
                <input style="visibility: hidden"
 NAME="make_spacing_ok"></input>
            </label>
        </td>
    </tr>
    <g:evaluate var="jvar_ni" expression="
        var sc_task = ${ref}.sysapproval;
        var sc_req_labels = new GlideRecord('sc_req_item');
        sc_req_labels.initialize();
        var sc_req_item = new GlideRecord('sc_req_item');
        sc_req_item.addQuery('request_item',
 sc_task.request_item.sys_id);
        sc_req_item.query();
    " />
    <tr>
        <td width="100%">
            <table width="100%">
                <tr>
                    <td class="label_left" width="150px">
                        <label style="margin-left: 10px">

 ${sc_task.request_item.request.opened_by.sys_meta.label}:
                        </label>
                    </td>
                    <td>

 ${sc_task.request_item.request.opened_by.getDisplayValue()}
                    </td>
                </tr>
                <tr>
                    <td class="label_left" width="150px">
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
                        <label style="margin-left: 10px">

${sc_task.request_item.request.requested_for.sys_meta.label}:
                        </label>
                    </td>
                    <td>

${sc_task.request_item.request.requested_for.getDisplayValue()}
                    </td>
                </tr>
                <tr>
                    <td class="label_left" width="150px">
                        <label style="margin-left:
10px">${gs.getMessage('Total')}:</label>
                    </td>
                    <td>
                        <g:currency_format
value="${sc_task.request_item.request.price}" />
                    </td>
                </tr>
            </table>
        </td>
    </tr>
    <j:set var="jvar_line_num" value="0" />
    <tr>
        <td width="100%">
            <table width="100%">
                <tr class="header">
                    <td colspan="2">
                        ${sc_req_labels.number.sys_meta.label}
                    </td>
                    <td>
                        ${sc_req_labels.description.sys_meta.label}
                    </td>
                    <td>
                        ${sc_req_labels.price.sys_meta.label}
                    </td>
                    <td>
                        ${sc_req_labels.quantity.sys_meta.label}
                    </td>
                    <td>
                        ${gs.getMessage('Total')}
                    </td>
                </tr>
                <j:set var="jvar_item_price"
value="${sc_task.request_item.price * sc_task.request_item.quantity}"/>
                <j:set var="jvar_overall_total"
value="${jvar_overall_total + jvar_item_price}"/>
                <j:set var="jvar_line_color" value="odd"/>
                <j:set var="jvar_line_num" value="${jvar_line_num + 1}"/>
                <j:if test="${jvar_line_num % 2 == 0}">
                    <j:set var="jvar_line_color" value="even"/>
                </j:if>
                <g:evaluate var="ni" expression="
                    var smart_description =
sc_task.request_item.cat_item.short_description;
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
                    if (smart_description == null || smart_description ==
'' || smart_description == 'undefined')
                        smart_description =
sc_task.request_item.cat_item.name;
                "/>
                <tr class="${jvar_line_color}">
                    <td valign="top">
                        <g2:evaluate var="jvar_pop_target"
expression="$[ref].getRecordClassName()" />
                        <a class="linked"
target="gsft_main"
href="sc_req_item.do?sys_id=${sc_task.request_item.sys_id}"
                      onmousemove="popListDiv(event, 'sc_req_item',
'${sc_task.request_item.sys_id}','${sysparm_view}')"
        onmouseout="lockPopup(event)">
                            <img src="images/icons/hover_icon.gifx"
class="clsshort"/>
                        </a>
                    </td>
                    <td valign="top">
                        <a class="linked"
target="gsft_main"
href="sc_req_item.do?sys_id=${sc_task.request_item.sys_id}">
                            ${sc_task.request_item.number}
                        </a>
                    </td>
                    <td valign="top" width="50%">
                        <g:call function="variable_summary_approval.xml"

question_name="${sc_task.request_item.sys_id}"
                            question_help_tag="${smart_description}"
                            sc_req_item="${sc_task.request_item.sys_id}"
                            help_class="${jvar_line_color}"/>
                    </td>
                    <td valign="top"> <g:currency_format
value="${sc_task.request_item.price}"/> </td>
                    <td valign="top">
${sc_task.request_item.quantity}</td>
                    <td valign="top"> <g:currency_format
value="${jvar_item_price}"/></td>
                </tr>
            </table>
        </td>
    </tr>
</j:jelly>
```

Jelly のタグ

Jelly を使用して XML を HTML に変換します。

Now Platform で Jelly を使用する方法については、次の紹介ビデオをご覧ください。

- Jelly スクリプティングの概要 - 第 1 回 (ビデオ)
- Jelly スクリプティングの概要 - 第 2 回 (ビデオ)
- Jelly スクリプティングの概要 - 第 3 回 (ビデオ)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Jelly のタグ

if

- 説明：`if` タグは、文字どおりの `if` タグです。これはプログラミング言語の `if` ステートメントに似ていますが、`elseif` タグも `else` タグもないことに注意してください。そういった構造を作成する場合は、 `choose/when/otherwise` 構文を使用してください。
- パラメーター：`test` - ブロックが実行されるかどうかを判断するために評価する条件。
- 例：

```
<g:evaluate var="jvar_now_GR" object="true">
   var now_GR = new GlideRecord("incident");
   now_GR.addQuery("active", true);
   now_GR.query();
   now_GR;
</g:evaluate>

<j:if test="${!jvar_now_GR.hasNext()}">
   We did not find any active incidents.
</j:if>
<j:if test="${jvar_now_GR.next()}">
   We found ${jvar_now_GR.getRowCount()} active incidents.
</j:if>
```

while

- 説明：`while` タグは while ループを実行します。
- パラメーター：`test` - ステートメントがループしているかどうかを判断するために評価する条件。これは、true または false に評価される `${}` または `$[]` で囲まれた式である必要があります。
- 例：

```
<g:evaluate var="jvar_now_GR" object="true">
   var now_GR = new GlideRecord("incident");
   now_GR.addQuery("active", true);
   now_GR.query();
   now_GR;
</g:evaluate>

<j:while test="${jvar_now_GR.next()}">
  <a
 href="incident.do?sys_id=${jvar_now_GR.getValue('sys_id')
}">${jvar_now_GR.getValue('number')}</a>
</j:while>
```

set

- 説明：`set` タグは変数を設定します。
- パラメーター：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- `var`：設定する変数。多くの場合、これらの変数には一貫性のために `jvar_` というプリフィックスが付けられます。
- `value`：`var` に設定する値。多くの場合、これは `${}` または `$[]` で囲まれた式です。
- `defaultValue`：値が null または空の場合、この値は `var` に格納されます。

- 例：

```
<j:set var="jvar_incident_number"
 value="${jvar_now_GR.getValue('number')}"/>
```

set_if

- 説明：`set` タグは test に基づいて変数を設定します。このタグは、他のプログラミング言語の `ternary` 演算子 (`var = <test> ? <if_true> : <if_false>`) に類似しています。
- パラメーター：
  - `var`：設定する変数。多くの場合、これらの変数には一貫性のために `jvar_` というプリフィックスが付けられます。
  - `test`：ステートメントが true 値を評価するか false 値を評価するかを決定するために評価する条件。これは、true または false に評価される `${}` または `$[]` で囲まれた式である必要があります。
  - `true`：`test` が `true` と評価された場合に変数に設定する値。このパラメーターはオプションであるため、フィールドが空白で、テストが true と評価された場合、変数は空白のままになります。
  - `false`：`test` が false と評価された場合に変数に設定する値。このパラメーターはオプションであるため、フィールドが空白で、test が false と評価された場合、変数は空白のままになります。

choose

- 説明：`choose` タグは、コードの choose ブロックを開始するのに使用します。これは、ほとんどのプログラミング言語の `if-elseif-else` 構文に似ています。`choose` タグでは、`when` タグと `otherwise` タグを使用して、他のコードブロックを指定できます。
- パラメーター名：なし
- 例：

```
<j:choose>
   <j:when test="${jvar_now_GR.getRowCount() ${AMP}lt; 1}">We
 found multiple records!</j:when>
   <j:when test="${jvar_now_GR.next()}">We found record
 ${jvar_now_GR.getValue('number')}</j:when>
   <j:otherwise>Sorry, we could not find the record you
 specified.</j:otherwise>
</j:choose>
```

when

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 説明：`when` タグは、条件を示すために choose ブロック内で使用されます。このタグは、条件を指定し、内部コンテンツを実行し、`if-elseif` 構造を終了するために最後にブレークを指定するという点で、`if` または `elseif` に似ています。
- パラメーター：`test` - ステートメントがループしているかどうかを判断するために評価する条件。これは、true または false に評価される `${}` または `$[]` で囲まれた式である必要があります。
- 例：

```
<j:choose>
   <j:when test="${jvar_now_GR.getRowCount() ${AMP}lt; 1}">We
 found multiple records!</j:when>
   <j:when test="${jvar_now_GR.next()}">We found record
 ${jvar_now_GR.getValue('number')}</j:when>
   <j:otherwise>Sorry, we could not find the record you
 specified.</j:otherwise>
</j:choose>
```

otherwise

- 説明：`otherwise` タグは、`choose`/`when`/`otherwise` ブロック内で使用され、`else` または `default` に似ています。
- パラメーター名：なし
- 例：

```
<j:choose>
   <j:when test="${jvar_now_GR.getRowCount() ${AMP}lt; 1}">We
 found multiple records!</j:when>
   <j:when test="${jvar_now_GR.next()}">We found record
 ${jvar_now_GR.getValue('number')}</j:when>
   <j:otherwise>Sorry, we could not find the record you
 specified.</j:otherwise>
</j:choose>
```

Glide タグ

evaluate

- 説明：`evaluate` タグは JavaScript コード (サーバー側) を評価し、将来のコードで変数を表示できるようにします。他のタグとは異なり、`evaluate` タグは、タグ内のコンテンツをサーバー側の JavaScript として評価します。

  コンテキストは、システムのスクリプトインクルードと同じです。その他のスクリプトインクルード、グローバルビジネスルール、*GlideRecord*、*GlideSystem*、および Jelly 変数 (パラメーター `jelly="true"` が設定されている場合は、先頭に jelly が付きます) を使用できます。

- パラメーター：
  - `var`：スクリプトの結果に設定される変数の名前。
  - オブジェクト：`true` に設定すると、式の結果はプリミティブ変数 (文字列または整数の変数値) ではなくオブジェクトとして扱われます。
  - `jelly`：`true` に設定すると、Jelly コンテキスト変数をスクリプトで参照できるようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 式：これは、`var` に入力する値に対して実行される式です。式は 2 つの場所のいずれかで使用できます。まず、`evaluate` タグ自体の属性にすることができます。それ以外の場合は、開始タグと終了タグの間のコンテンツが式になります。式の最後の行は、`var` に渡される実際の値です。

- 例：

```
<g:evaluate var="jvar_now_GR" object="true">
  var now_GR = new GlideRecord("incident");
  now_GR.addQuery("active", "true");
  now_GR.query();
  now_GR; // this is the variable put into the variable
 jvar_now_GR
</g:evaluate>
```

```
<g:evaluate var="jvar_now_GR" object="true" expression="
  var now_GR = new GlideRecord('incident');
  now_GR.addQuery('active', 'true');
  now_GR.query();
  now_GR; // this is the variable put into the variable
 jvar_now_GR" />
```

messages

- 説明：`messages` タグは翻訳に役立ちます。*`gs.getMessage()`* がページ上の任意の場所で呼び出された場合、翻訳が見つかる可能性のある場所は 2 か所あります。まず、ページで翻訳のローカルキャッシュをチェックします。次に、ページでサーバーに対して AJAX 呼び出しを行い、翻訳を検索します。`g:messages` の機能は、ページが特定のメッセージをキャッシュできるようにすることです。
- パラメーター名：なし
- 例：

```
<g:messages>
  Yes
  No
  Cancel
</g:messages>
```

breakpoint

- 説明：`breakpoint` タグが呼び出されると、現時点での Jelly 内のすべての変数のリストがそれぞれの値とともに出力されます。変数が指定されている場合は、要求された変数とその値が出力されます。出力はシステムログに格納されます。
- パラメーター：`var` - (オプション) 値をログに記録する変数。`var` が指定されていない場合、すべての変数がログにダンプされます。
- 例：

```
<g:breakpoint />
```

```
<g:breakpoint var="sysparm_view"/>
```

no_escape

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 説明：システムは、デフォルトで、セキュリティ対策としてエスケープされた出力を使用します。`no_escape` タグ内に配置された出力は、出力の前にエスケープされません。これらのタグを使用する場合は注意が必要です。ここにユーザー入力が表示されると、ページのセキュリティ脆弱性が生じる可能性があります。
- パラメーター名：なし
- 例 (フェーズ 1) – 含まれているすべての ${} 式の自動出力エスケープを無効にします。

```
<g:no_escape>
 ${jvar_raw_html_data}
</g:no_escape>
```

- 例 (フェーズ 2) – `NOESC` を使用して、指定された文字列のエスケープを無効にします。これは、式が文字列に評価される必要があることを意味します。

```
<g:no_escape>$[NOESC:jvar_expr]</g:no_escape>
```

フェーズ 1 とフェーズ 2 の評価の詳細については、このセクションの最初にリストされている Jelly の紹介ビデオを参照してください。

macro_invoke

- 説明：`macro_invoke` タグは、データベースで指定した UI マクロを呼び出します。タグ名で指定して UI マクロを呼び出すこともできます。たとえば、my_macro という名前の UI マクロがある場合、そのマクロを `<g:my_macro/>` タグで呼び出すことができます。詳細については、「UI マクロ」を参照してください。
- パラメーター：
  - マクロ：実行する UI マクロの名前。タグ名が「`g:macro_invoke`」の場合、マクロ属性はマクロの名前を指定します。タグ名にマクロの名前が含まれている場合は、マクロ属性を含める必要はありません。
  - その他の属性：指定した属性ごとに、その名前の変数が UI マクロのコンテキストで使用可能になり、プリフィックス「`jvar_`」が付きます。
- 例：

```
<!-- Will invoke the contents of the UI macro named
 "sample_macro", which will have the variable jvar_message
 available within it-->
<g:macro_invoke macro="sample_macro" message="This is a
 sample macro variable." />
```

```
<!-- Will invoke the contents of the UI macro named
 "sample_macro", which will have the variable jvar_message
 available within it-->
<g:sample_macro message="This is a sample macro variable." />
```

if_polaris

- 説明：`if_polaris` タグは、現在のページで ネクストエクスペリエンス が有効かどうかを確認します。子タグ `<g:then />` または `<g:else />` の少なくとも 1 つを含める必要があります。
- パラメーター名：なし
- 例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
<g:if_polaris>
    <g:then><g:inline template="polaris_nav"/></g:then>
    <g:else><g:inline template="classic_nav"/></g:else>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
    <g:then><a href="…">Click here to see what’s
 new!</a></g:then>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
    <g:else>Core UI only code here!</g:else>
</g:if_polaris>
```

次に

- 説明：`then` タグは、ネクストエクスペリエンス が有効になっている場合に、`if_polaris` ブロック内でページコンテンツを設定するために使用されます。
- パラメーター名：なし
- 例：

```
<g:if_polaris>
    <g:then><g:inline template="polaris_nav"/></g:then>
    <g:else><g:inline template="classic_nav"/></g:else>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
    <g:then><a href="…">Click here to see what’s
 new!</a></g:then>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
    <g:else>Core UI only code here!</g:else>
</g:if_polaris>
```

それ以外の場合

- 説明：`else` タグは、ネクストエクスペリエンス が有効になっていない場合に、`if_polaris` ブロック内でページコンテンツを設定するために使用されます。
- パラメーター名：なし
- 例：

```
<g:if_polaris>
    <g:then><g:inline template="polaris_nav"/></g:then>
    <g:else><g:inline template="classic_nav"/></g:else>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
    <g:then><a href="…">Click here to see what’s
 new!</a></g:then>
</g:if_polaris>

<g:if_polaris>
    <g:else>Core UI only code here!</g:else>
</g:if_polaris>
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Jelly エスケープタイプ

JavaScript と HTML で文字をエスケープする場合は、別の方法を使用します。JavaScript はバックスラッシュ文字を使用し、HTML はアンパサンド文字を使用します。

> **注:** この機能を使用するには、JavaScript、HTML、および Apache Jelly (XML を実行可能コードに変換するための Java および XML ベースのスクリプティングおよび処理エンジン) の知識が必要です。

Jelly から出力を生成するときに必要なエスケープには、次の 2 つのタイプがあります。

- JavaScript
- HTML

これらのそれぞれのエスケープは以下のタイプで構成されます。

Jelly エスケープタイプ

タイプ	送信元	宛先
JavaScript	' (一重引用符)	\'
	" (二重引用符)	\"
	CR (キャリッジリターン)	(可能性)
	NL (改行)	\n (「\」の後に「n」)
HTML	& (アンパサンド)	&
	< (次の値未満)	<
	> (次の値を超える)	>

getHTMLValue() 関数を使用して HTML をエスケープすることもできます。これにより、すべての改行が強制され、上記の文字がエスケープされます。次のように使用できます。

```
${test.getHTMLValue()}
```

Jelly 置換へのエスケープの追加

Jelly ファイルで文字エスケープを処理できます。XML エスケープの動作は、security_admin ロールを持つユーザーのみが変更できます。

このタスクについて

> **注:** この機能を使用するには、JavaScript、HTML、および Apache Jelly (XML を実行可能コードに変換するための Java および XML ベースのスクリプティングおよび処理エンジン) の知識が必要です。

手順

実行するエスケープを示すプリフィックスを ${式} または $[式] に追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
${JS:expression}
${HTML:expression}
```

プリフィックスは、式の結果を取得し、出力する前にエスケープするようにシステムに指示します。エスケープは、プリフィックスのカンマ区切りリストを指定することで組み合わせることができます。

```
${JS,HTML:expression}
```

Jelly 構文の拡張

Apache の Jelly 構文は、フォーム、リスト、UI ページ、および ServiceNow でレンダリングされるその他の多くのものをレンダリングするために使用されます。

Jelly を使用すると、ロジックを静的コンテンツ内に埋め込み、計算された値を静的コンテンツに挿入できます。

重要: この機能を使用するには、Apache Jelly (XML を実行可能コードに変換するための Java および XML ベースのスクリプティングおよび処理エンジン) の知識が必要です。

Apache のページ http://commons.apache.org/jelly/tags.html には、標準の Jelly タグの概要が記載されています。

名前空間

Jelly は、タグを呼び出すときに複数の名前空間を含めることがよくあります。

「j」名前空間は標準の Jelly ですが、「g」名前空間は ServiceNow スクリプトに固有です。たとえば、<g:evaluate> タグは ServiceNow によって提供され、JavaScript を使用して値を計算できるようにします。標準の Jelly タグ <j:test> は条件を評価するために使用されます。

フェーズ

通常、名前空間によって示されるフェーズには、<j> と <j2> および <g> と <g2> の 2 つがあります。

「2」のない名前空間は処理の最初のフェーズで発生し、UI ページで使用される場合を除いてキャッシュされます。「2」が付いているものはキャッシュされません。効率を向上させて正しい結果を得るために、フェーズ 1 とフェーズ 2 のどちらを使用するかを選択するときは注意が必要です。

名前空間に加えて、静的コンテンツに値を挿入するために使用される構文は、値を指定するフェーズによって異なります。ドル記号と中括弧で値を囲むことで、値がフェーズ 1 に挿入されます。たとえば、`${jvar_ref}` は、jelly プロセスのフェーズ 1 で値 `jvar_ref` を挿入します。ドル記号と角括弧で値を囲むことで、値がフェーズ 1 に挿入されます。たとえば、`${jvar_ref}` は、フェーズ 2 で値 `jvar_ref` を挿入します。引用符に囲まれた値は文字列として処理されます。たとえば、`'[jvar_ref]'` は、フェーズ 2 で値 `jvar_ref` を文字列として挿入します。

```
 <script>
if (confirm("$[gs.getMessage('home.delete.confirm') ]"))
   ...
</script>
```

```
<input type="hidden" id="${jvar_name}" name="${jvar_name}"
 value="${jvar_value}" class="${jvar_class}" />
```

If test

Jelly スクリプトでも if ステートメントを使用できます。

true かどうかのテストをするには、次のようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
<j:if test="${jvar_something}">...do something...</j:if>
<j:if test="${!jvar_something}">...do something...</j:if>
```

このステートメントが機能するのは、Jelly では jvar_something のような用語は以下の場合に if タグ内で「真」になるためです。

1. ブール値で true
2. 文字列で「true」、「yes」、「on」、または「1」

存在するかどうかのテストをするには、次のようにします。

```
<j:if test="${empty(jvar_something)}">...do something...</j:if>
```

このステートメントが機能するのは、JEXL の empty 関数は引数が次の場合に true を返すためです。

1. null
2. 空白文字列
3. 長さゼロのコレクション
4. キーのないマップ
5. 空白のアレイ

注: JEXL 式で javascript 変数と jvar 変数を混在させることはできません。これらは個別の式に分割する必要があります。

set_if

test が true か false かに応じて、変数を 2 つの異なる値のいずれかに設定します。

```
<g2:set_if var="jvar_style" test="$[gs.getPreference('table.compact') !=
 'false']"
   true="margin-top:0px; margin-bottom:0px;"
   false="margin-top:2px; margin-bottom:2px;" />
```

<g:insert>、<g:inline>、および <g:call>

このページでは、<g:insert>、<g:inline>、および <g:call> の 3 つのタグの比較説明を行います。

<g:insert>

<g:insert> タグは、Jelly ファイルを新しいコンテキストで Jelly に挿入します。これは、Jelly で以前に確立した変数にアクセスできないことを意味します。

```
<g:insert template="get_target_form_function.xml" />
```

<g:inline>

<g:inline> タグは、Jelly ファイルを同じコンテキストで Jelly に挿入します。これは、挿入された Jelly が以前に確立した変数にアクセスでき、それらの変数の値を変更できることを意味します。

```
<g:inline template="element_default.xml" />
```

<g:call>

より適切にカプセル化するには、<g:call> タグを使用します。関数は、渡された値にのみアクセスできます。Jelly コンテキストは、コール後もコール前と同じように見えます。つまり、ここでグロー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

バル変数を設定して後で読み込むことはできません。また、誤って「jvar_temp」というグローバル変数を設定して、他のユーザーが依存していた変数を上書きすることもできません。

値を渡す必要がある場合は、<g:call> 行にパラメーターの名前を含め、その後に等号と引用符で囲んだ値を続けることで、明示的に行うことができます。

```
<g:call function="collapsing_image.xml" id="${jvar_section_id}"
 image="$[jvar_cimg]"
   first_section_id="${jvar_first_section_id}"
 image_alt="${jvar_cimg_alt}"/>
```

値が渡され、デフォルトまたは必須のパラメーターが必要な場合は、関数で参照される Jelly に、パラメーターが必須かデフォルト値があるかを宣言する行を含める必要があります。

```
<g:function id="REQUIRED" image="REQUIRED" image_prefix=""
 image_alt="REQUIRED"/>
```

上記の例は、3 つのパラメーターが必須であり、1 つのパラメーターが空のデフォルト値を持つオプションであることを示しています。値を渡さない場合、またはデフォルト値や必須値が必要な場合は、<g:function> 行を含める必要はありません。ただし、一般的には <g:function> 行を含めます。

パラメーターの名前の先頭に「jvar_」プリフィックスを追加することで、値をテンプレートで参照できるようになります。

```
<img id="img.${jvar_id}" src="images/${jvar_image}"
 alt="${jvar_image_alt}"     onclick="toggleSectionDisplay('${jvar_id}',
 '${jvar_image_prefix}','${jvar_first_section_id}');"/>
```

<g:call> では、「arguments」パラメーターの名前付き変数のリストとしてパラメーターを暗黙的に渡すこともできます。

```
 <g:call function="item_link_default.xml"
 arguments="sysparm_view,ref_parent,jvar_target_text"/>
```

個別のタグ引数を介して関数に変数を渡す代わりに、単一の「arguments」引数で変数のリストを渡すことができます。*argument* パラメーターの名前 (カンマ区切り) で識別されるすべての変数は、まったく同じ名前で関数内に再導入されます (たとえば、関数テンプレート内では、変数 sysparm_view、ref_parent、および jvar_target_text を使用できます)。

関数テンプレートは、`return=` 属性を使用して呼び出し元テンプレートに値を返すことができます。関数内では、`jvar_answer` 変数で戻り値を設定します。

```
<g:call function="item_body_cell_calc_style.xml" arguments="jvar_type"
 return="jvar_style"/>
```

<g:evaluate>

<g:evaluate> タグは、Rhino JavaScript で記述された式を評価するために使用され、場合によっては変数を式の値に設定するために使用されます。

式の最後のステートメントは、変数に含まれる値です。

```
<g2:evaluate var="jvar_page" jelly="true">
     var page = "";
     var pageTitle = "";
     var pageGR = new GlideRecord("cmn_schedule_page");
     pageGR.addQuery("type", jelly.jvar_type");
     pageGR.query();
     if (pageGR.next()) {
        page = pageGR.getValue("sys_id");
        pageTitle = pageGR.getDisplayValue();
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
     }
     page;
</g2:evaluate>
```

```
<g2:evaluate var="not_important" expression="sc_req_item.popCurrent()"/>
```

object="true"

評価でオブジェクト (アレイなど) を返す場合は、引数 object="true" を使用します。

```
<g2:evaluate object="true" var="jvar_items"
 expression="SncRelationships.getCMDBViews()" />
```

jelly="true"

評価内の Jelly 変数にアクセスする場合は、評価に jelly="true" を含め、Jelly 変数の名前の前に「jelly.」を追加します。たとえば、GlideJellyContext にアクセスするには、次のようにします。

```
<g2:evaluate var="jvar_row_no" jelly="true">
   var gf = jelly.context.getGlideForm();
   var row = gf.getRowNumber();
   row;
</g2:evaluate>
```

jelly="true" パラメーターを使用して jvar にアクセスする別の例を示します。`jvar_h` の値は以前に設定されており、`evaluate` 内でアクセスできます。

```
$[NLBR:jvar_h.getHTMLValue('newvalue')]
<g2:evaluate var="jvar_fix_escaping" jelly="true">
    var auditValue = jelly.jvar_h.getHTMLValue('newvalue');
    gs.log("************ " + auditValue);
</g2:evaluate>
```

copyToPhase2="true"

フェーズ 1 での評価結果を取得してフェーズ 2 に伝播する必要がある場合は、copyToPhase2="true" を使用します。この使い方をする場合、エスケープに対する保護がいくつかあります。例：

```
<g:evaluate var="jvar_has_special_inc" copyToPhase2="true">
   var specialInc = gs.tableExists("special_incident");
   specialInc;
</g:evaluate>
$[jvar_has_special_inc]
```

何も評価する必要がない場合は、より直接的に行うことができます。この時、エスケープの問題に注意してください (この例では、jvar_rows 内の二重引用符で問題が発生します)。

```
<j2:set var="jvar_rows" value="${jvar_rows}"/>
```

<g:breakpoint/>

このタグを使用して、現在の Jelly 変数とその値をログに表示できます。

本番環境に移行する前に、このタグを必ず削除してください。

<g:ui_form/>

このタグは、UI ページのフォームを定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

たとえば、フォームに `application_sys_id` フィールドが含まれている場合、g:ui_form で処理スクリプトを使用するメリットがある可能性があります。

```
<g:ui_form>
    <p>Click OK to run the processing script.</p>
    <g:dialog_buttons_ok_cancel ok="return true" />
    <input type="hidden" name="application_sys_id"
 value="499836460a0a0b1700003e7ad950b5da"/>
 </g:ui_form>
```

詳細については、「UI マクロ」を参照してください。

<g:ui_input_field />

このタグを使用することで、ユーザーが情報を入力できるページに入力フィールドを作成する UI マクロへの参照を追加できます。`ui_input_field` は、ラベル、名前、値、サイズを UI マクロに渡します。

UI ページの例を次に示します。

```
<g:ui_input_field label="sys_id" name="sysid"
 value="9d385017c611228701d22104cc95c371" size="50"/>
```

詳細については、「UI マクロ」を参照してください。

<g:ui_checkbox/>

このタグを使用することで、ユーザーが編集可能なチェックマークをページに配置することができます。名前と値は UI マクロに渡されます。

UI ページのテーブルの例を次に示します。

```
<table>
    <tr>
      <td nowrap="true">
          <label>Time Card Active:</label>
      </td>
      <td>
          <g:ui_checkbox name="timecard_active"
 value="${sysparm_timecard_active}"/>
      </td>
   </tr>
</table>
```

詳細については、「UI マクロ」を参照してください。

<g:dialog_buttons_ok_cancel/>

このタグを使用することで、タグが true を返した場合に、指定された処理スクリプトを実行するボタンを UI ページに配置することができます。

UI ページにフォームが含まれている (<g:form> タグを使用している) 場合は、フォームを送信して処理スクリプトを実行できます。処理スクリプトは、フォーム上のフィールドに自然にアクセスできます。たとえば、フォームに application_sys_id フィールドが含まれている場合は、次のようにします。

```
<g:ui_form>
    <p>Click OK to run the processing script.</p>
    <g:dialog_buttons_ok_cancel ok="return true" />
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    <input type="hidden" name="application_sys_id"
 value="499836460a0a0b1700003e7ad950b5da"/>
 </g:ui_form>
```

<g:ui_reference/>

このタグは、処理スクリプトで参照できるページへの参照を追加します。

次の例では、タグ内の名前、ID、およびテーブルパラメーターで定義された参照を作成します。

```
<g:ui_reference name="QUERY:active=true^roles=itil" id="assigned_to"
 table="sys_user" />
```

次に、処理スクリプトで、次のように [名前] フィールドを参照します。

```
newTask.assigned_to =
 request.getParameter("QUERY:active=true^roles=itil");
```

参照修飾子を指定して、「name」属性を一意にすることができます。次の例では、タグ内の名前、ID、およびテーブルパラメーターで定義された参照を作成します。

注: 「columns」属性はオートコンプリーターにのみ適用されます。

```
<g:ui_reference name="parent_id" id="parent_id" table="pm_project"
 query="active=true" completer="AJAXTableCompleter"
columns="project_manager;short_description"/>
```

アンパサンド

Jelly は XML であるため、Jelly でアンパサンドを使用すると問題が発生する可能性があります。

Jelly でアンパサンドを挿入するには、`${AMP}` を使用します。実際にブラウザーで実行される UI ページや UI マクロなどの HTML 部分に表示される JavaScript を記述する場合は、このコードを [クライアントスクリプト] フィールドに入力することをお勧めします。そうすることで、エスケープの問題を回避できます。ただし、どうしても [HTML] フィールドに入力する必要がある場合は、次のようにする必要があります。

```
ta = ta[1].split('$[AMP]');
```

AND

`${AND}` を使用して、Jelly で JavaScript を挿入します。

例：

```
if (d ${AND} e)
   var color = d.value;
```

または、Jelly の test では「`&&`」を使用します。例：

```
<j:if test="${jvar_form_name == 'sys_form_template' && !RP.isDialog()}">
```

次の値未満

アンパサンドと同様に、Jelly は XML であるため、小なり記号 (「<」) でも問題が発生する可能性があります。これは、test が不要になるように変更するか、小なり記号の代わりに `${AMP}lt;` を使用することで解決できます。

```
<g2:evaluate var="jvar_text">
     var days = "";
     var selectedDays = '$[${ref}]';
     for (var i = 1; i ${AMP}lt;= 7; i++) {
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        if (selectedDays.indexOf(i.toString()) >= 0) {
           days += gs.getMessage("dow" + i);
           days += " ";
        }
     }
     days;
 </g2:evaluate>
```

多くの場合、エスケープの問題がない「次の値に等しくない」演算子を使用するだけで、「次の値未満」演算子をまとめて回避できます。例：

```
for (var i=0; i != ta.length; i++) {
}
```

whitespace

通常、空白は Jelly によって削除されます。保持するには、トリミングされないように指定する必要があります。

たとえば、次の例では、コロンの後にスペースが保持されます。

```
<j2:whitespace trim="false">${gs.getMessage('Did you mean')}:
 </j2:whitespace>
```

スペース

改行なしスペース ( ) をエンコードするには、 `$[SP]` を使用できます。

例：

```
<span id="gsft_domain" style="display: inline">
    ${gs.getMessage('Domain')}:$[SP]
    <span id="domainDD" class="drop_down_element" style="text-decoration:
 none; color: white">
        ${gs.getMessage("Loading...")}
   </span>
</span>
```

Jelly のトレース

ServiceNow には、Jelly の評価をトレースできる機能があります。

トレースがログに送信されます。多くのログが生成されるため、これはデバッグ中にのみオンにしてください。トレースをオンにするには、プロパティ glide.ui.template.trace を true に設定します。たとえば、次のスクリプトを実行してこれを行うことができます。

```
GlideProperties.set ( 'glide.ui.template.trace' , true ) ;
```

各ページの下部にある Web ブラウザーでログエントリを確認するには、[システム診断] > [デバッグログ] に移動します。

スクリプトのデバッグ

セッションログと Now Platform デバッグツール (ウォークスルースクリプトデバッガーや UI に表示されるエラーメッセージなど) を使用して、スクリプトをデバッグします。

サーバーサイドスクリプトのデバッグ

スクリプトデバッガーとセッションログを使用して、サーバーサイドのコードをデバッグします。詳細については、「スクリプトデバッガおよびセッションログ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セッションデバッグを使用して、クライアントサイドの変更の結果として実行されるサーバーサイドのスクリプトに関連するエラーメッセージを表示することもできます。詳細については、「セッションのデバッグ」を参照してください。

GSLog は、呼び出し元ごとに識別される sys_properties 値によって選択可能なログ出力のレベルを実装することで、スクリプトのログ記録とデバッグを簡素化するスクリプトインクルードです。 詳細については、「GSLog API」を参照してください。

クライアントサイドスクリプトのデバッグ

セッションデバッグを使用して、ユーザーインターフェイスにデバッグメッセージを表示します。詳細については、「セッションのデバッグ」を参照してください。セッションログを使用して、エージェントワークスペース などのスクリプトインクルードおよびカスタム UI のログ情報を表示します。

ブラウザーベースの開発者ツールを使用して、クライアントサイドのスクリプトをデバッグすることもできます。

アプリケーションとスコープのデバッグ

アプリケーションデバッグオプションを使用して、スクリプトのアプリケーションスコープがアプリケーション、テーブル、またはレコードにどのように影響するかを理解してください。スコープアクセスの問題をトラブルシューティングするには、クロススコープ権限を更新することが必要になる場合があります。「アプリケーションのデバッグ」を参照してください。

スクリプトデバッガおよびセッションログ

スクリプトデバッガ では、script_debugger ロールを持つユーザーがサーバーサイド JavaScript をデバッグすることができます。log_debugger ロールを持つユーザーは、セッションログ を使用して必要なログを表示およびダウンロードできます。

script_debugger ロールを持つユーザーは、スクリプトデバッガを使用して次のアクションを実行できます。

- 現在のセッションにのみ適用される専用のデバッグトランザクションがあります。
- ブレークポイントの設定および削除
- ブレークポイントでの現在のセッションの一時停止
- ランタイム中の式の評価
- コードの行ごとのステップ実行
- 関数へのステップイン、ステップアウトとメソッド呼び出し
- ローカル変数とグローバル変数の値の表示
- 関数クロージャからのプライベート変数の値の表示
- コールスタックの表示
- システムが処理しているトランザクションの表示
- スクリプトデバッガーをオフにして、一時停止したスクリプトの実行を再開

[セッションログ] タブを使用して、ビジネスルール、スクリプトインクルード、および GraphQL コンポーネントを持つ ServiceNow® エージェントワークスペース などのカスタム UI を取得します。log_debugger ロールを持つユーザーは、次のことができます。

- 別のタブへのセッションログの表示
- ログのダウンロード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- エージェントワークスペース のログの表示
- デバッグオプションを指定して、必要なログのみを表示またはダウンロード

デフォルトでは、100 件のトランザクションと 10,000 件のメッセージが [セッションログ] タブに表示されます。トランザクション数またはメッセージ数がデフォルト値を超えると、セッションログはクリアされ、次のトランザクションまたはメッセージが表示されます。このトランザクション数とメッセージ数は、それぞれ *glide.debugger.log.transaction.count* および *glide.debugger.log_messages_limit* のユーザー設定を使用して設定できます。*glide.debugger.log.transaction.count* および *glide.debugger.log_messages_limit* のユーザー設定の詳細については、「ユーザー設定」を参照してください。

注: *glide.debugger.log.ui* システムプロパティを使用して、セッションログをスクリプトデバッガ付きの別のタブとして有効にします。

- [ページ] オプションでは、フォームとリストの下、および [セッションログ] タブにログが表示されます。
- [セッション] オプションでは、[セッションログ] タブにのみログが表示されます。

glide.debugger.log.ui システムプロパティの詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

コンソールでステートメントを実行すると、実行されたステートメントはブラウザーのキャッシュに格納されます。上向き矢印キーを使用すれば前のステートメントを、下向き矢印キーを使用すれば次のステートメントを、ブラウザーのキャッシュから取得できます。ユーザー設定 *glide.debugger.console.cached_stmt_limit* は、ブラウザーセッションにキャッシュされるステートメントの数を定義します。デフォルトのステートメントキャッシュ値は 20 で、最大値は 100 です。ユーザー設定からのステートメントキャッシュ値を設定できます。

注: ブラウザーのキャッシュがクリアされた場合、または別のブラウザーや別のコンピューターからログインした場合は、キャッシュされたステートメントを使用できません。

スクリプトデバッガでは、続行のために応答を必要とする対話型トランザクション (ビジネスルール、スクリプトインクルード、スクリプトアクション、UI アクションなど) で実行されているサーバーサイドスクリプトを一時停止することができます。コンテキストでスクリプトを実行したときに GlideSystem メソッドの `isInteractive()` が **True** を返す場合、スクリプトデバッガでスクリプトを一時停止できます。

注: スクリプトインクルードなどの一部のスクリプトオブジェクトは、複数のコンテキストから呼び出すことができます。例：

- ビジネスルールがフォーム送信の際に、フォームデータの変更を待機してから続行するインタラクティブトランザクションであるスクリプトインクルードを実行する場合。
- スケジュール済みジョブが、他のスクリプトを同時に実行できる非インタラクティブなバックグラウンドトランザクションである同じスクリプトインクルードを実行する場合。

クライアントサイドスクリプトをデバッグするには、ブラウザーベースの開発者ツールを使用できます。

ユーザーセッションが有効である限り、デバッガートランザクションは開いたままです。ユーザーがログアウトするか、セッションがタイムアウトすると、システムはデバッガートランザクションをクローズします。

デバッグログを表示するには、「デバッグログの表示」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: スクリプトデバッガを有効にすると、コードは解釈済みモードで実行されます。スクリプトの一部が Strict モードで実行されるように設定されている場合、デバッガーは正しいオブジェクトを見つけることができず、失敗します。スクリプトデバッガは、Strict モード以外のスクリプトで実行する必要があります。

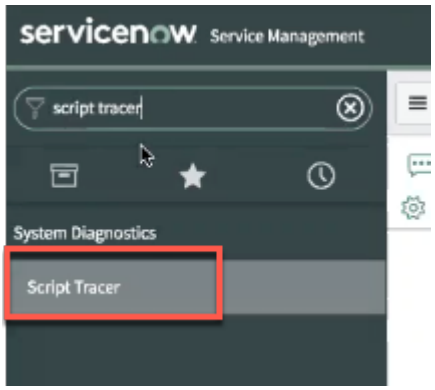
スクリプトトレーサーとデバッグスクリプト

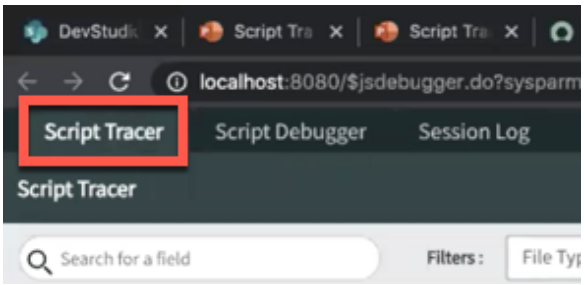
スクリプトトレーサーは、デバッグ検索をフィルタリングして、スクリプトの問題を絞り込む際に役立ちます。Glide レコードの中で、実行時に変更が加えられたスクリプトの行を特定することができます。広範囲に検索するのではなく、このような特定の行を見つけることで、時間を節約し、生産性を向上させることが可能です。

概要

スクリプトとビジネスルールをより効率的にデバッグできるように、スクリプトトレーサーを使用して検索を絞り込みます。スクリプトトレーサーは、左側のナビゲーションペインで検索して見つけることができます。

注: スクリプトトレーサーを使用するには、ロールが admin である必要があります。





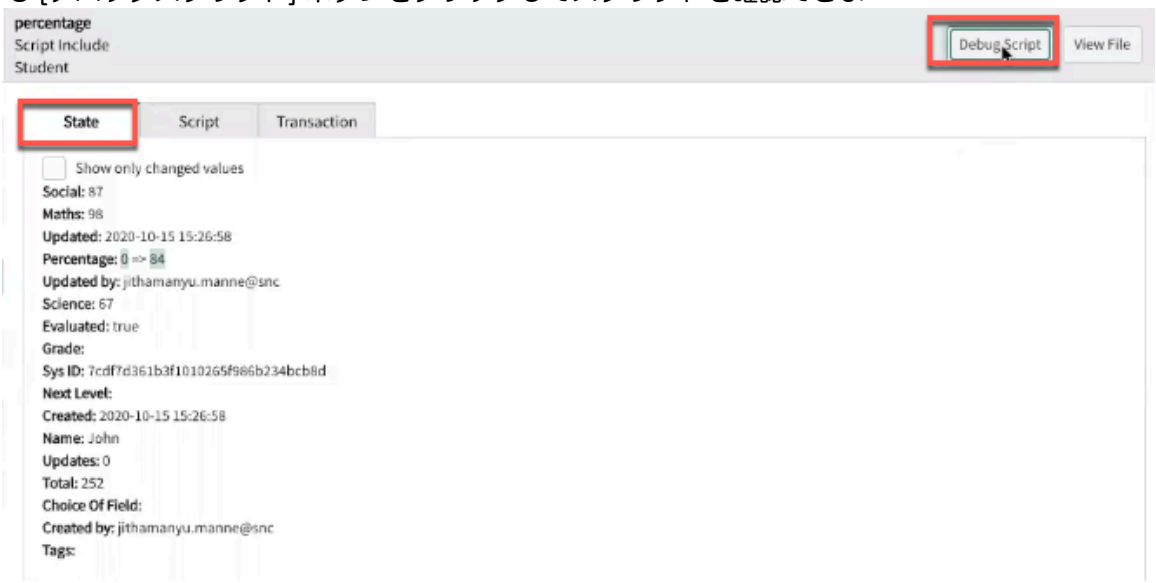
スクリプトトレーサーを有効にして UI トランザクションを実行すると、トレーサーによって実行中のすべてのスクリプトに対して検索が行われます。次のフィルターを使用できます。

- [ファイルタイプ]：特定のファイルタイプを検索します
- [テーブル]：特定のテーブルで、実行中のスクリプトを検索します

Script Tracer により、実行時のスクリプトの変更点が検索され、一覧で表示されます。ユーザーはこれを確認することができます。[トレーサーを開始] をクリックすると、Glide レコード内で変更点の検索が開始されます。い

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

つでも [デバッグスクリプト] ボタンをクリックしてスクリプトを確認できま



す。

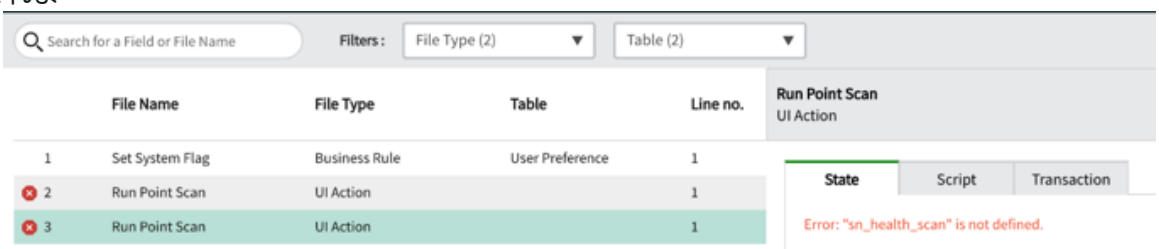
トレーサーから特定の情報を表示するには、以下のタブを使用します。

[状態] タブは、古いスクリプトと新しいスクリプトの差異を表示します。

- デフォルトでは、[変更された値のみを表示] チェックボックスがオンになっているため、変更されていないフィールドは表示されません。
- 変更されていないものも含めてすべてのフィールドを表示するには、このチェックボックスをオフにします。

注: ファイルがトレースステートメントに反映されない場合は、Glide レコードの変更がシステムによって認識されていないことを意味します。

エラーがある場合は、[状態] タブの上部に表示され、行番号とエラーメッセージが発生順に表示されま



す。

- [スクリプト]：実行時に Glide レコードで変更されたスクリプトの行を表示します。[スクリプトを表示] ボタンをクリックすると、スクリプトの全体行を表示できます。
- [トランザクション]：トレースのすべてのトランザクションレコードを表示します
- [デバッグスクリプト]：スクリプトをデバッグするためにデバッガーでスクリプトを開きます
- [ファイルを表示]： ServiceNow プラットフォームで編集のためにスクリプトを開きます
- [トレースをクリア]：終了したときにトレースをクリアします。

トレーサーの制限

生成されるリターンが多すぎないように、トレースに制限を設定することができます。デフォルトでは、最大 1,000 行のスクリプトがトレースされます。この数に達すると、トレースをクリアしてトレースを再開する必要があります。トレースの最大行数を変更するには、プロパティ *glide.debug.trace.trace_line_limit* を使用して制限を構成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

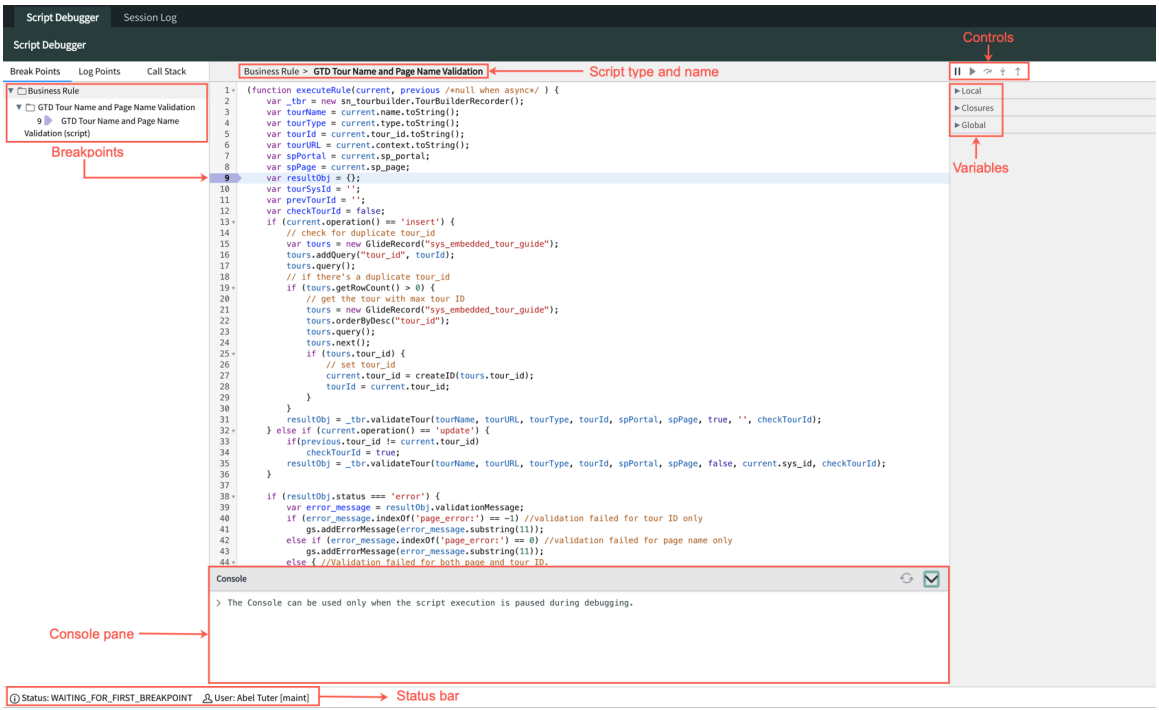
実行する各トレースは新規であるため、1 つのトレースの結果を読み終えてから、それをクリアして別のトレースを開始してください。

詳細については、「スクリプトのデバッグ」を参照してください。

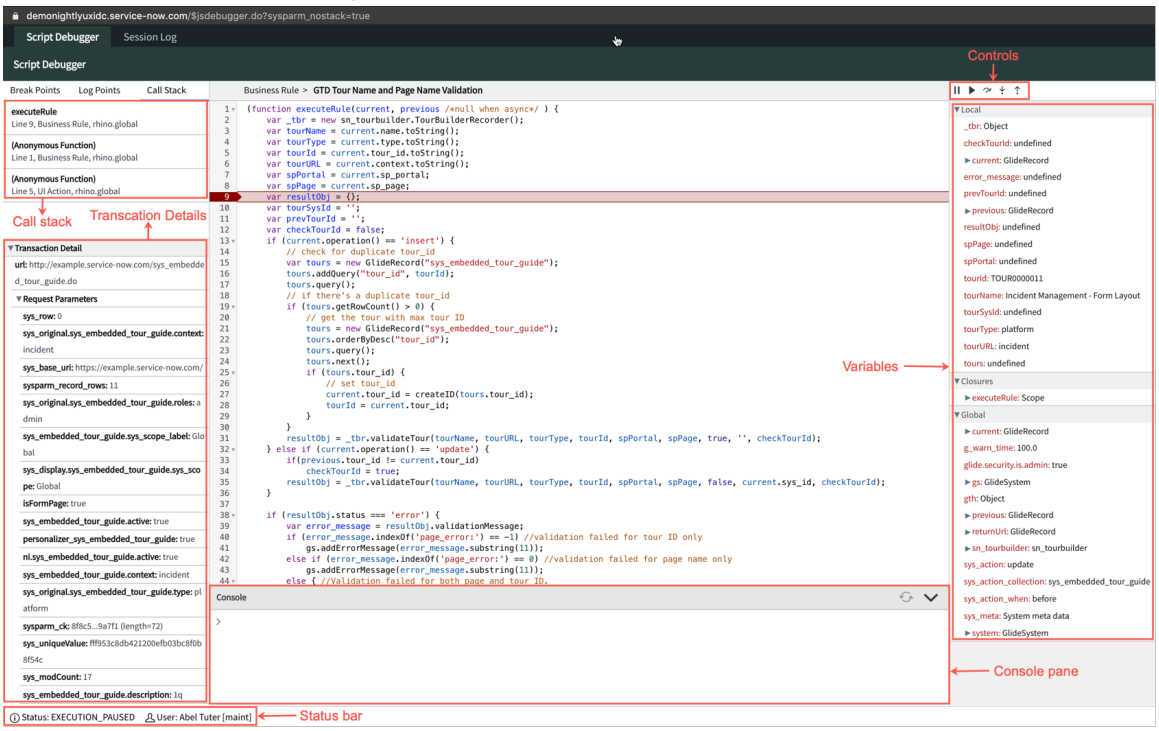
ユーザーインターフェイスの構成要素

スクリプトデバッガインターフェイスには、設定されたブレークポイント、現在実行中のスクリプト行のコールスタックと行番号、変数とトランザクションに関する詳細、およびコンソールのステータスが表示されます。

スクリプトデバッガーが一時停止していない



スクリプトデバッガーが一時停止している



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトデバッガーの構成要素

ユーザーインターフェイス要素	説明
ブレークポイント	スクリプトタイプ、スクリプト名、および行番号で設定されたブレークポイントのリストを表示します。ブレークポイントが追加されたり削除されたりすると、デバッガーによってこのリストが更新されます。
コールスタック	現在の行番号に先行する、または現在の行番号を呼び出したスクリプトコールのリストを表示します。この情報は、ブレークポイントでデバッガーが一時停止している場合にのみ表示されます。
トランザクションの詳細	現在のトランザクションに関する情報を表示します。この情報は、ブレークポイントでデバッガーが一時停止している場合にのみ表示されます。
ステータス	デバッガーがブレークポイントを待機しているのか、ブレークポイントで一時停止しているのか、それとも例外が発生したのかを表示します。
ユーザー	現在のデバッガーセッションを実行しているユーザーの名前を表示します。
コーディングペインヘッダー	コーディングペインにあるスクリプトのタイプと名前が表示されます。
ブレークポイントアイコン	現在のスクリプトを評価するときにデバッガーが一時停止する行番号を示します。
[デバッグの一時停止 (Pause debugging)]ボタン	現在のデバッグセッションを停止し、現在のユーザーのスクリプトデバッガを無効にします。スクリプトデバッガは、再開するまで現在のユーザーのブレークポイントで一時停止しません。
コンソール	実行時に式を評価するために使用されるコマンドラインインターフェイスを表示します。コンソールは、スクリプトの実行が一時停止されている場合にのみ使用できます。
[スクリプト実行を再開] ボタン	現在のブレークポイントから次のブレークポイントに進みます。他のブレークポイントがない場合、スクリプトは完了するまで実行されます。
[次の関数呼び出しをステップオーバー (Step over next function call)] ボタン	呼び出そうとしているメソッドを通り越し、メソッドを単一のステップとして実行します。
次の関数呼び出しにステップイン	メソッド呼び出し内の実行されたコードの最初の行に進みます。メソッドにステップインすると、コールスタック内の現在の位置が更新されます。ユーザーがメソッド呼び出しの読み取りアクセス権を持たない場合、このコントロールは代わりにステップオーバーのように動作します。

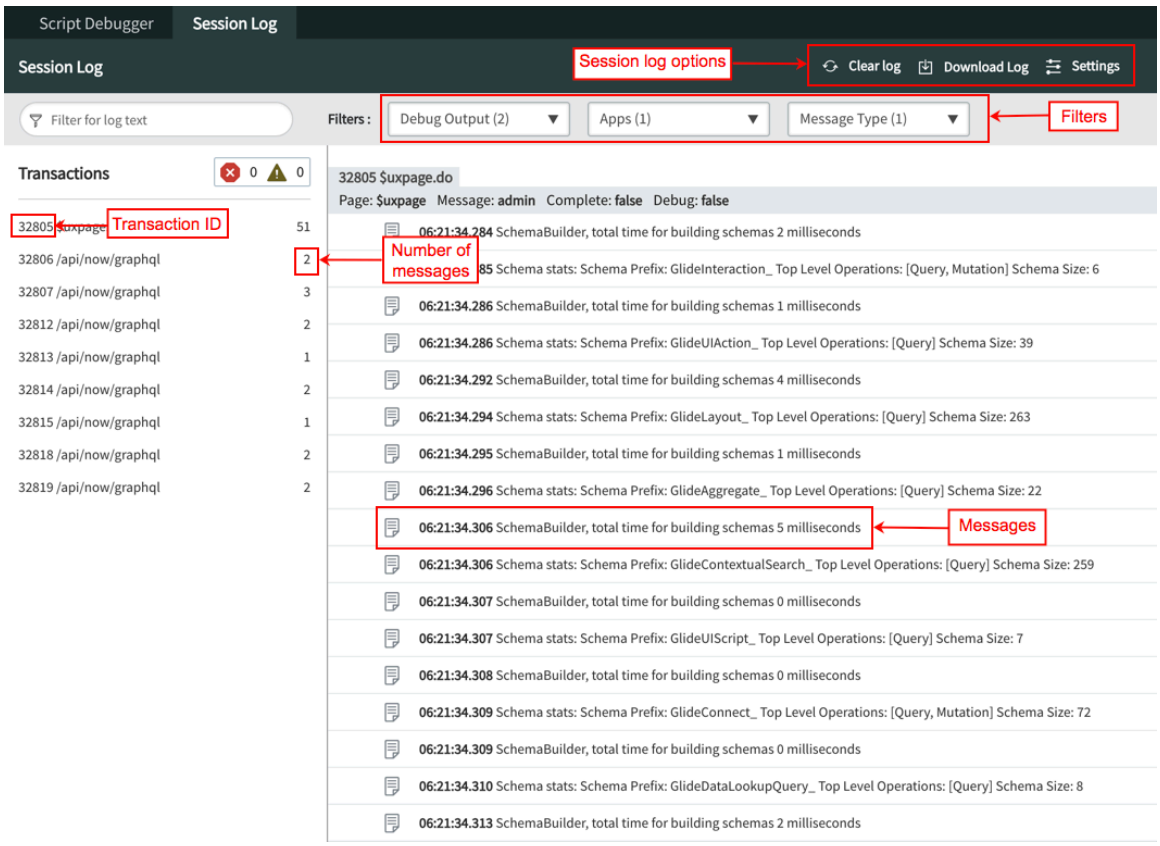
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトデバッガーの構成要素 (続く)

ユーザーインターフェイス要素	説明
現在の関数をステップアウト	現在のメソッド呼び出しを終了し、コールスタックから呼び出し元スクリプトに戻ります。ユーザーがメソッド呼び出し内にいない場合、このコントロールは代わりにステップオーバーのように動作します。
ローカル	ローカルスコープの JavaScript 変数名とその値のリストを表示します。この情報は、ブレークポイントでデバッガーが一時停止している場合にのみ表示されます。
クローズ	関数クロージャによって設定されたグローバルスコープの JavaScript 変数名と値のリストを表示します。この情報は、ブレークポイントでデバッガーが一時停止している場合にのみ表示されます。
グローバル	グローバルスコープの JavaScript 変数名とその値のリストを表示します。この情報は、ブレークポイントでデバッガーが一時停止している場合にのみ表示されます。

セッションログ

セッションログ



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セッションログ ユーザーインターフェイス要素

ユーザーインターフェイス要素	説明
トランザクション	トランザクション ID。現在のトランザクションに関する情報を表示します。
ログテキストのフィルター	特定のテキストを含むログをフィルタリングするテキストを入力するフィールド。
デバッグ出力	動的にロードされたデバッグ出力タイプに基づいてログをフィルタリングするオプション。例： セキュリティルール。
アプリケーション	動的にロードされたアプリに基づいてログをフィルタリングするオプション。例： サービスマネジメント統合。
メッセージタイプ	動的なログレベルに基づいてログをフィルタリングするオプション。たとえば、**Info** などです。
ログを消去	すべてのログをクリアします。
ログをダウンロード	ログを HTML ファイル形式でダウンロードします。
設定	セッションのデバッグオプション。デバッグオプションの詳細については、「セッションのデバッグ」を参照してください。

スクリプトデバッガーのステップスルーおよびコンソールコントロール

スクリプトデバッガ がスクリプトを一時停止した後、ステップスルーコントロールを使用してスクリプト行間を移動し、コールスタック内のスクリプト間を移動します。コンソールの展開、コンソールの折りたたみ、コンソールのクリア、式の再実行を行うには、コンソールコントロールを使用します。

ステップスルーコントロール

コントロール	アイコン	説明
デバッグを停止 SHIFT+F2	⏸	現在のデバッグセッションを停止し、現在のユーザーのスクリプトデバッガを無効にします。スクリプトデバッガが再開されるまで、現在のユーザーのブレークポイントでは一時停止しません。
デバッガーを起動 - F2	⏻	現在のユーザーのスクリプトデバッガを有効にします。スクリプトデバッガはブレークポイントで一時停止します。
スクリプト実行を再開 - F9	▶	現在のブレークポイントから次のブレークポイントに進みます。他のブレークポイントがない場合、スクリプトは完了するまで実行されます。
次の関数呼び出しをステップ	↷	現在の条件に基づいて次の評価済みスクリプト行に進みます。条件が満たされないために実行する必要がないコードのすべての行は、スクリプトデバッガでスキップされます。たとえば、`if` ステートメントの条件が true でない場合、デバッガーはその条件のコードブロックをスキップします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステップスルーコントロール (続く)

コントロール	アイコン	説明
オーバー - OPTION +F9		
次の関数呼び出しにステップイン - OPTION +F10		スクリプトデバッガがメソッド呼び出しで一時停止した際に、このコントロールにより、ユーザーはメソッド呼び出し内で実行されたコードの最初の行に進むことができます。メソッドにステップインすると、コールスタック内の現在の位置が更新されます。ユーザーがメソッド呼び出しの読み取りアクセス権を持たない場合、このコントロールは代わりにステップオーバーのように動作します。
現在の関数をステップアウト - OPTION +F11		スクリプトデバッガがメソッド呼び出し内で一時停止した際に、ユーザーはこのコントロールを使用して現在のメソッド呼び出しを終了し、コールスタックから呼び出しスクリプトに戻ることができます。ユーザーがメソッド呼び出し内にいない場合、このコントロールは代わりにステップオーバーのように動作します。

コンソールコントロール

コントロール	アイコン	説明
コンソールを開く		コンソールを展開します。
コンソールを閉じる		コンソールを折りたたみます。
式をクリア		コンソールのすべての式をクリアします。
式を再実行		既に実行されている式を再実行します。

関連情報

ブレークポイントの設定または削除

コンソールを使用したランタイムでの式の評価

コンソールを使用してランタイムにスクリプトをデバッグするときに、新しい変数と関数を定義、宣言、および検証します。コンソールを使用するには、スクリプトの実行を一時停止する必要があります。

始める前に

- コンソールの使用に関する制限 のレビュー
- 必要なロール：script_debugger、admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

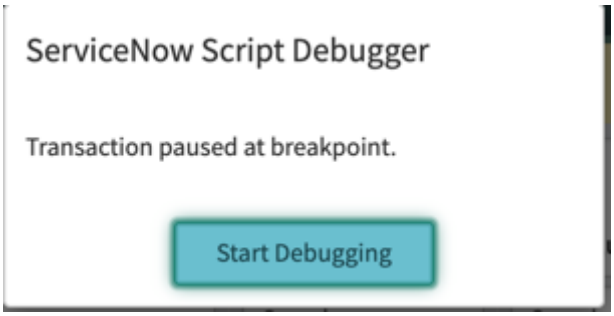
手順

1. 次のいずれかの方法でスクリプトデバッガを起動します。

アプリケーション	ナビゲーションパス
アプリケーションナビゲーター	[システム診断] > [スクリプトデバッガー] に移動します。
Studio	[ファイル] > [スクリプトデバッガーを起動] に移動します。
シンタックスエディター	[スクリプトデバッガー] アイコン をクリックします。

スクリプトデバッガーのモーダルが表示されます。

2. スクリプトをトリガーします。
たとえば、ビジネスルールの挿入スクリプトをトリガーするレコードを作成します。スクリプトデバッガは、ブレークポイントを含む最初の行でスクリプトを一時停止します。そうなると、ServiceNow スクリプトデバッガの確認ウィンドウが表示されます。

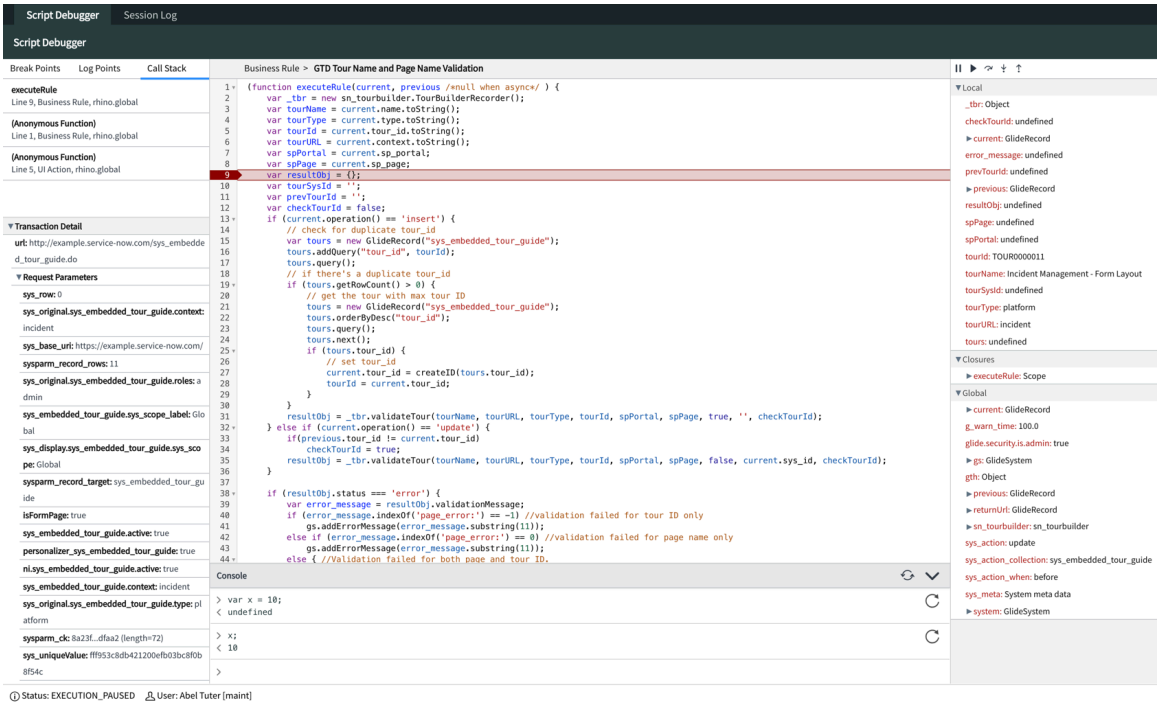


3. [デバッグを開始] をクリックします。
フォーカスが [スクリプトデバッガー] ウィンドウに移動し、最初のブレークポイントで一時停止したターゲットスクリプトが表示されます。

> **注:** スクリプトデバッガーのステータスが EXECUTION_PAUSED であることを確認します。コンソールは、スクリプトの実行がデバッグ中に一時停止された場合にのみ使用できます。

4. コンソールの展開 (^) をクリックして、コンソールペインを展開します。
式の評価を開始するには、コンソールに 1 つ以上の式を入力して Enter キーを押します。たとえば、「`var x = 10;`」と入力して Enter キーを押します。複数行の式を入力するには、各行の後に Shift+Enter を押し、最後の式の後に Enter キーを押します。コンソール内のすべての式をクリアするには、コンソールのクリアアイコン (⟳) をクリックします。コンソールのコントロールの詳細については、「スクリプトデバッガーのステップスルーおよびコンソールコントロール」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ステートメントが実行されると、ブラウザーのキャッシュに格納されます。上向き矢印キーを使用すれば前のステートメントを、下向き矢印キーを使用すれば次のステートメントを、ブラウザーのキャッシュから取得できます。ユーザー設定で、セッションでキャッシュされるステートメントの数を設定できます。ユーザー設定の詳細については、「スクリプトデバッガーとセッションログ」を参照してください。

タスクの結果

ステートメントが実行されると、ブラウザーのキャッシュに格納されます。上向き矢印キーを使用すれば前のステートメントを、下向き矢印キーを使用すれば次のステートメントを、ブラウザーのキャッシュから取得できます。ユーザー設定で、セッションでキャッシュされるステートメントの数を設定できます。ユーザー設定の詳細については、「スクリプトデバッガーとセッションログ」を参照してください。

関連情報

コンソールの使用に関する制限

コンソールの使用に関する制限

ランタイムにスクリプトをデバッグする際にコンソールを使用して式を評価する場合には、いくつかの制限に注意する必要があります。

- オブジェクトのプロパティと値はコンソールに表示されません。オブジェクトをコンソールに表示しようとすると、オブジェクトの文字列のみが表示されます。
- コンソールでは、info() や print() などの GlideSystem 印刷メソッドはサポートされていません。
- コンソールでは `this` キーワードは使用できません。
- コンソールでの式の評価中にスクリプトデバッガーのタイムアウトが発生します。
- 長いスクリプトの実行時に「`Awaiting response from server`」という応答があった場合、再開コントロールや停止コントロールを使用したデバッグの再開や停止ができなくなります。

スクリプトデバッガ の起動

開発者は、アプリケーションナビゲーター、スタジオ、またはシンタックスエディターから スクリプトデバッガ を起動できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：

- admin
- script_debugger

手順

開始点に基づいてパスを選択します。

開始点	ナビゲーションパス
アプリケーションナビゲーター	[システム診断] > [スクリプトデバッガー] に移動します。
スタジオ	[ファイル] > [スクリプトデバッガーを起動] に移動します。
シンタックスエディター	[スクリプトデバッガー] アイコンをクリックします。

新しいウィンドウで スクリプトデバッガ が開きます。

ブレークポイントの設定または削除

ブレークポイントまたは条件付きブレークポイントを設定して、特定の行でスクリプトを一時停止し、デバッグが完了したらブレークポイントを削除します。

始める前に
必要なロール：

- admin
- script_debugger

このタスクについて
ブレークポイントは、それを設定した開発者に属します。開発者が各自のブレークポイントを設定および削除する必要があります。

注: 特定の行にログポイントまたはブレークポイントのいずれかを設定できますが、両方を設定することはできません。

手順

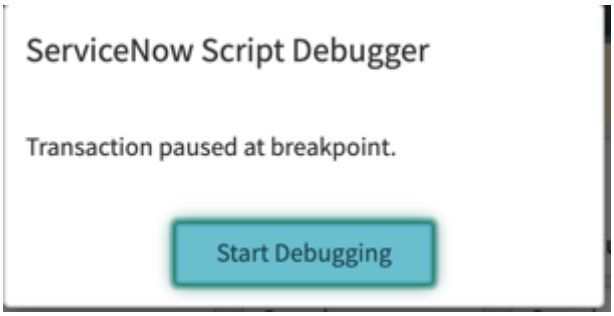
1. デバッグするサーバースクリプトに移動します。
   たとえば、[すべて] > [システム定義] > [ビジネスルール]に移動します。
2. シンタックスエディターで、スクリプト行の横にあるガターをクリックします。

アクション	説明
ブレークポイントを設定	空白行をクリックしてブレークポイントを設定します。
条件付きブレークポイントを設定	空白行を右クリックし、[条件付きブレークポイントを追加] をクリックして条件付きブレークポイントを設定します。
ブレークポイントを削除	ブレークポイントをクリックして削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
条件付きブレークポイントを削除	条件付きブレークポイントを右クリックし、[ブレークポイントを削除] を選択して削除します。

3. シンタックスエディターのツールバーから、[スクリプトデバッガーを開く] アイコンをクリックします。
   スクリプトデバッガ ウィンドウが開きます。
4. スクリプトをトリガーします。
   たとえば、ビジネスルールの挿入スクリプトをトリガーするレコードを作成します。
   スクリプトデバッガは、ブレークポイントを含む最初の行でスクリプトを一時停止します。確認ウィンドウが表示されます。



5. [デバッグを開始] をクリックします。
   スクリプトデバッガウィンドウにフォーカスが切り替わり、最初のブレークポイントで一時停止したターゲットスクリプトが表示されます。 コンソールペインが有効になります。
6. デバッグが完了したら、スクリプトからブレークポイントを削除します。

関連情報

スクリプトデバッガーのステップスルーおよびコンソールコントロール

ログポイントの設定または削除

ブレークポイントまたは条件付きログポイントを設定して、特定の行でコンソールにメッセージを記録し、デバッグが完了したらログポイントを削除します。

始める前に

- *glide.debug.log_point* システムプロパティを `[true]` に設定します。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。
- 必要なロールは admin または script_debugger です。

このタスクについて

ログポイントは、それを設定した開発者に属します。開発者が各自のログポイントを設定および削除する必要があります。

注: 特定の行にログポイントまたはブレークポイントのいずれかを設定できますが、両方を設定することはできません。

手順

1. デバッグするサーバースクリプトに移動します。
   たとえば、[すべて] > [システム定義] > [ビジネスルール]に移動します。
2. シンタックスエディターで、スクリプト行の横にあるガターをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
ログポイントを設定	空白の行を右クリックし、[ログポイントを追加] をクリックしてログポイントを設定します。
ログポイントを削除	ログポイントを右クリックし、[ログポイントを削除] を選択して削除します。
ログポイントを編集	ログポイントを右クリックし、[ログポイントを編集] を選択して削除します。

注: ログポイントに入力するスクリプトは、GSLog および GSInfo スクリプトインクルードのスクリプトと同じ形式にする必要があります。

3. シンタックスエディターツールバーから、[スクリプトデバッガーを開く] アイコン ( ) をクリックします。
4. [スクリプトデバッガ] ウィンドウで、スクリプトをトリガーします。
たとえば、ビジネスルールの挿入スクリプトをトリガーするレコードを作成します。

   注: [スクリプトデバッガ] ウィンドウでログポイントを追加することもできます。

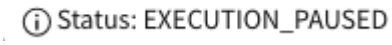
5. [スクリプトデバッガー] ウィンドウで、[セッションログ] をクリックしてログポイントを表示します。
6. デバッグが完了したら、スクリプトからログポイントを削除します。

スクリプトデバッガのステータス

スクリプトデバッガのステータスによって、利用可能なデバッグアクションと表示できる情報が決まります。

スクリプトデバッガでは、ユーザーインターフェイスの左下にステータスが表示されます。

サンプルのスクリプトデバッガステータス



可能な スクリプトデバッガ ステータス値

ステータス	発生するタイミング	説明	利用可能なアクション
WAITING_FOR_FIRST_BREAKPOINT	ユーザーが [スクリプトデバッガ] ウィンドウまたはタブを開いたとき。	スクリプトデバッガはスクリプトを一時停止してデバッグ情報を表示する準備ができています。	コールスタックの最初のブレークポイントでスクリプトを一時停止します。
EXECUTION_PAUSED	• スクリプトデバッガがブレークポイントで一時停止したとき。 • ユーザーが、評価されたコードの次の行にステップオー	スクリプトデバッガはコードの行で一時停止し、ユーザーはスクリプトをデバッグできます。コンソールが有効になります。	• スクリプトデバッガは次のブレークポイントに達するまで処理を再開します。 • スクリプトをステップスルーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

可能な スクリプトデバッガ ステータス値 (続く)

ステータス	発生するタイミング	説明	利用可能なアクション
	バー、ステップイン、またはステップアウトしたとき。		• コールスタックを表示します。 • トランザクション情報を表示します。 • 変数値を表示します。 • ランタイム中にコンソールで式を評価します。
WAITING_FOR_BREAKPOINT	• ユーザーが処理を再開し、スクリプトデバッガが次のブレークポイントに達するまで。 • ユーザーがスクリプトをステップスルーし、評価する次のコード行にスクリプトデバッガが到達するか、トランザクションが完了するまで。	スクリプトデバッガは、一時停止する次のコード行を検索しています。スクリプトデバッガは評価する次のブレークポイントまたはスクリプト行を見つけた後にステータスを変更するため、通常はこのステータスがユーザーに表示されることはありません。	• 次のブレークポイントでスクリプトを一時停止します。 • 評価が必要な次のスクリプト行でスクリプトを一時停止します。
OFF	• ユーザーがスクリプトデバッガを一時停止したとき。 • ユーザーがスクリプトデバッガウィンドウまたはタブを閉じたとき。 • 何らかの理由でユーザーセッションが終了されたとき。 • アドミニストレーターが、`[debugger_reset.do]` ページに移動して、すべてのスクリプトデバッガインスタンスをリセットしたとき。	スクリプトデバッガは非アクティブになっていて、スクリプトを一時停止したり、デバッグ情報を表示したりすることはありません。	• スクリプトデバッガを開始します。 • [スクリプトデバッガ] ウィンドウまたはタブを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ログエントリ

デバッグトランザクションの実行が終了するたびに、`DEBUGGED` プリフィックスが付いたログエントリが作成されます。例：

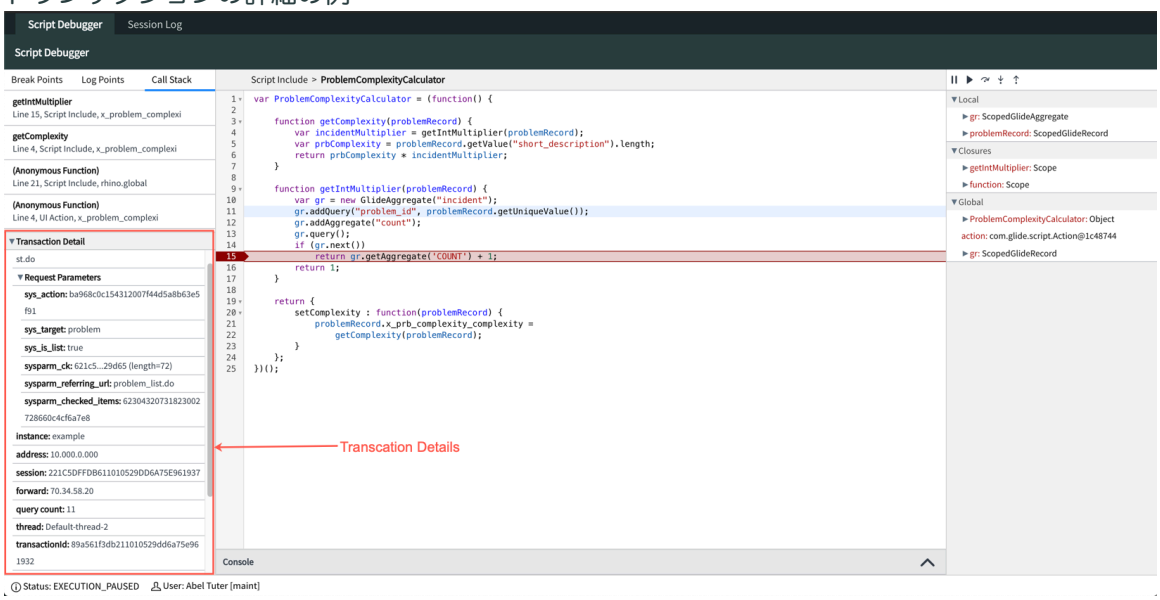
```
2016-08-15 15:57:32 (197) Default-thread-3
 900F510167112200C4098C7942415A75 *** End
#39, path: /my-app.do, user: admin, DEBUGGED total transaction time:
 0:00:11.010,
transaction processing time: 0:00:11.010, network: 0:00:00.000, chars:
 6,058, uncompressed
chars: 20,731, SQL time: 50 (count: 34), business rule: 0 (count: 0),
 phase 1
form length 56,464, largest chunk written: 10,428, request parms size:
 40, largest input read: 0
```

トランザクションの詳細

スクリプトデバッガには、現在一時停止されているユーザーセッションのトランザクションの詳細が表示されます。

トランザクションの詳細は、スクリプトデバッガの左下にある、[呼び出しスタック] の下部にあるサイズ変更可能な専用セクションで確認できます。

トランザクションの詳細の例



スクリプトデバッガは、スクリプトで一時停止した場合にのみ、トランザクションの詳細を表示します。開発者は、トランザクションの詳細を次の目的に使用できます。

- 現在一時停止されているトランザクションの URL の調査
- 現在一時停止されているトランザクションの要求パラメーターの調査
- 現在のトランザクションに関するネットワーク情報の調査
- デバッグトランザクションを開始したユーザーとセッション ID の調査

関連情報

使用可能なトランザクションの詳細

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用可能なトランザクションの詳細

スクリプトデバッガは、開発者がスクリプトをデバッグおよびトラブルシューティングするためのトランザクションの詳細の標準セットを提供します。

使用可能なトランザクションの詳細

トランザクション要素	説明
url	現在一時停止されているトランザクションの URL。
要求パラメーター	このトランザクションの要求パラメーターのリスト。各トランザクションには独自の要求パラメーターのリストがありますが、レコードトランザクションには通常、レコードの挿入、更新、または削除に使用されるフィールド値が含まれています。
instance	インスタンス名。
address	エンドユーザーのクライアントシステムの IP アドレス。
session	ユーザーセッション ID。
forward	ロードバランサーの IP アドレス。
query count	スクリプトデバッガが行ったデータベースクエリの数。
thread	スクリプトデバッガインスタンスを実行しているスレッドの名前。
transactionid	現在のトランザクションの Sys ID。
token	現在一時停止されているトランザクションのスクリプトデバッガトークン。システムはこのトークンを使用して、各種のスクリプトデバッガインスタンスを識別します。
name	現在一時停止されているトランザクションの名前。この名前を使用して、ログ内のトランザクションを識別できます。
processor	現在のトランザクションを処理しているプロセッサーの名前 (存在する場合)。
method	現在一時停止しているトランザクションが使用する HTTP 要求メソッド。
startTime	スクリプトデバッガインスタンスが開始された日時スタンプ。
page	トランザクションに関連付けられている現在のテーブルまたは UI ページ。
user	デバッグトランザクションをトリガーしたユーザー。
nodeid	スクリプトデバッガインスタンスを実行しているノードの Sys ID。

関連情報

トランザクションの詳細

スクリプトデバッガの複数開発者のサポート

スクリプトデバッガでは、複数の開発者が互いに影響を与えることなく、各自のトランザクションをデバッグすることができます。

スクリプトデバッガでは、各開発者は現在デバッグしているセッションに関連する次のようなアイテムの確認と操作のみを行うことができます。

- ブレークポイント
- コールスタック
- コンソール

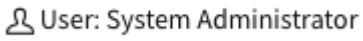
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- トランザクション
- ステータス

開発者がスクリプトデバッガを使用して別のデバッグセッションを表示したり、変更したりすることはできません。ただし、アドミニストレーターは、別のユーザーとしてスクリプトデバッガを開き、代理で操作しているユーザーが生成したトランザクションをデバッグすることができます。

デバッグセッションのユーザーは、スクリプトデバッガのユーザーインターフェイスの左下部に表示されます。

サンプルのスクリプトデバッガユーザー



スクリプトデバッガの同時使用

デフォルトでは、システムにより [(インスタンス上のセマフォの数)/4] 件の同時実行トランザクションのデバッグがサポートされています。アドミニストレーターは、*glide.debugger.config.max_node_concurrency* システムプロパティを設定することにより、システムがデバッグできる同時実行トランザクションの数を指定できます。システムは最大で [(インスタンス上のセマフォの数) - 2] 件の同時実行トランザクションをデバッグできます。

デバッグセッションの管理

デバッグセッションは、次の状態になるまで (EXECUTION_PAUSED または WAITING_FOR_BREAKPOINT ステータスで) アクティブにデバッグを続行できます。

- ユーザーがスクリプトデバッガを一時停止したとき。
- ユーザーがスクリプトデバッガを閉じたとき。
- ユーザーセッションが終了したとき。

アドミニストレーターは、`xmlstats.do` ページに移動して、現在実行中のデバッガーセッションを表示できます。

アドミニストレーターは、`debugger_reset.do` ページに移動して、現在実行中のすべてのデバッグセッションを停止できます。admin ロールを持つユーザーのみが、このページにアクセスできます。

関連情報

スクリプトデバッガの代理操作サポート

スクリプトデバッガの代理操作サポート

別のユーザーで代理操作を行っているときにスクリプトデバッガを使用できます。ただし、代理で操作しているユーザーが script_debugger ロールを持ち、ターゲットスクリプトの読み取りアクセス権を持っている場合に限ります。

別のユーザーとして操作している間に、次の操作を実行できます。

- 操作されたユーザーに属するブレークポイントの表示と変更
- 操作されたユーザーが読み取りアクセス権を持つスクリプトの表示と一時停止
- 代理操作しているユーザーに代わってコンソールで式を評価

スクリプトデバッガのステップスルーコントロールでも、代理操作をしているユーザーの読み取りアクセス権が使用されます。たとえば、代理操作しているユーザーに呼び出しスタック内の関数への読

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

み取りアクセス権がない場合、ステップインアクションは代わりにステップオーバーアクションになります。

操作されたデバッグセッションは、次の場合に終了します。

- ユーザーとしての操作を停止した場合
- ログアウトするか、またはユーザーセッションを終了した場合
- スクリプトデバッガを一時停止した場合
- スクリプトデバッガを閉じた場合

関連情報

スクリプトデバッガの複数開発者のサポート

スクリプトデバッガのスクリプト - バックグラウンドサポート

スクリプト - バックグラウンドモジュールは、スクリプトフィールドでの直接のブレークポイントの設定をサポートしていません。ただし、スクリプト - バックグラウンドモジュールによって呼び出される、またはトリガーされるスクリプトオブジェクトにブレークポイントを設定できます。

スクリプト - バックグラウンドモジュールで任意の JavaScript コードを実行している間、スクリプトデバッガは次の場合にのみスクリプトを一時停止できます。

- ブレークポイントを含むスクリプトインクルードを呼び出した場合。
- ブレークポイントを含むビジネスルールをトリガーした場合。
- ブレークポイントを含むスクリプトアクションをトリガーした場合。

ドメインセパレーションと スクリプトデバッガ

ドメインセパレーションは スクリプトデバッガ でサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

スクリプトデバッガにおけるドメインセパレーションの仕組み

スクリプトデバッガは完全なアプリケーションではなく、プラットフォームスイートの一機能です。つまり、ドメインセパレーションを含む他の機能と連携して機能します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

セッションのデバッグ

セッションデバッグを有効にして、ユーザーインターフェイスにデバッグメッセージを表示します。

[セッションのデバッグ] 機能を使用して、パフォーマンスの低下をトラブルシューティングします。

各ページロードの下部の豊富なログ記録は、すべての領域を有効にすることができます。また、各モジュールを 1 つずつ有効にして、このセッション中、特に前のトランザクションで起きたことについてより詳細な情報を得ることもできます。[システム診断] > [セッションのデバッグ] でセッションのデバッグオプションを選択します。有効にすると、セッションデバッグはユーザーセッション中または無効になるまでアクティブになります。デバッグログを表示するには、「デバッグログの表示」を参照してください。

システムには、次のセッションデバッグオプションがあります。

セッションデバッグオプション

デバッグオプション	説明
すべて有効化	利用可能なすべてのデバッグメッセージを表示します。
すべて無効化	すべてのデバッグメッセージの表示を停止します。
ビジネスルールのデバッグ	ビジネスルールのデバッグメッセージを表示します。複数のアプリケーションからのビジネスルールがテーブルまたはレコードに影響を与える場合、ビジネスルールがどのアプリケーションからのものであるかが表示されます。
アップグレードのデバッグ	前回のファミリ間またはパッチバージョンのアップグレードセッション中に処理されたレコードの詳細情報を表示します。「アップグレードのデバッグ」を参照してください。
デバッグビジネスルール (詳細)	ビジネスルールのデバッグメッセージと、ビジネスルールによって加えられた変更を表示します。複数のアプリケーションからのビジネスルールがテーブルまたはレコードに影響を与える場合、ビジネスルールがどのアプリケーションからのものであるかが表示されます。
デバッグログ	すべてのログエントリを表示します。
NLQ をデバッグ	自然言語クエリ (NLQ) クエリのデバッグメッセージを表示します。
デバッグ日時	要求されている形式と入力が一致しない場合に、日付/時刻のエラーを表示します。
SQL のデバッグ	SQL クエリのデバッグメッセージを表示します。
SQL のデバッグ (詳細)	SQL ステートメントのデバッグメッセージと、SQL ステートメントによって行われた変更を表示します。
セキュリティのデバッグ	アクセス制御のデバッグメッセージを表示します。複数のアプリケーションからのアクセス制御がテーブルまたはレコードに影響を与える場合、どのアプリケーションからのアクセス制御であるかが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セッションデバッグオプション (続く)

デバッグオプション	説明
エスカレーションのデバッグ	SLA および SLO のエスカレーションのデバッグメッセージを表示します。
AI 検索をデバッグ	AI 検索 のデバッグメッセージを表示します。
メトリクスの統計情報のデバッグ	パフォーマンスデータのアグリゲートビュー (遅いトランザクション、スクリプト、クエリ、イベント、ミューテックス) を表示します。これらの集計メトリクスは、ページのパフォーマンスに影響を与えるアイテムを識別するために、トランザクション別にソートされます。
テキスト検索のデバッグ	検索結果の関連性とインデックス作成のデバッグメッセージを表示します。
UI ポリシーのデバッグ	UI ポリシーのデバッグメッセージを表示します。
UI ポリシーデバッグの無効化	UI ポリシーのデバッグメッセージの表示を中止します。
UI マクロのデバッグ	DOM 内の UI マクロの開始と終了を HTML コメントとして表示します。コメントは、テーブル名と UI マクロ名で構成されます。
UI マクロのデバッグの無効化	DOM 内の UI マクロの開始と終了を HTML コメントとして表示することを停止します。
データポリシーのデバッグ	データポリシーのデバッグメッセージを表示します。
クォータのデバッグ	トランザクション割り当てのデバッグメッセージを表示します。
ホームページレンダラのデバッグ	ホームページのデバッグメッセージを表示します。
スコープのデバッグ	スクリプトオブジェクトの実行時にアプリケーションスコープを開始または終了するためのデバッグメッセージを表示します。

デバッグ用のログの表示

セッションデバッグログを表示して、スクリプトとアプリケーションの問題を診断します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

手順

1. [すべて] > [セッションのデバッグ] に移動し、[すべて有効化] を選択します。
2. [セッションのデバッグ] で、[デバッグログ] を選択します。
   デバッグログが表示されます。

アプリケーションのデバッグ

アプリケーション開発者は、設定レコードに関するデバッグメッセージを表示して、問題のトラブルシューティングに役立てることができます。デバッグスコープモジュールは、サーバーサイドスクリプトを実行するカスタムアプリケーション間のシステム切り替えに関する情報を提供します。

システムには、アプリケーションが設定レコードに与える影響をアプリケーション開発者が判断する際に役立つ、次のデバッグオプションがあります。

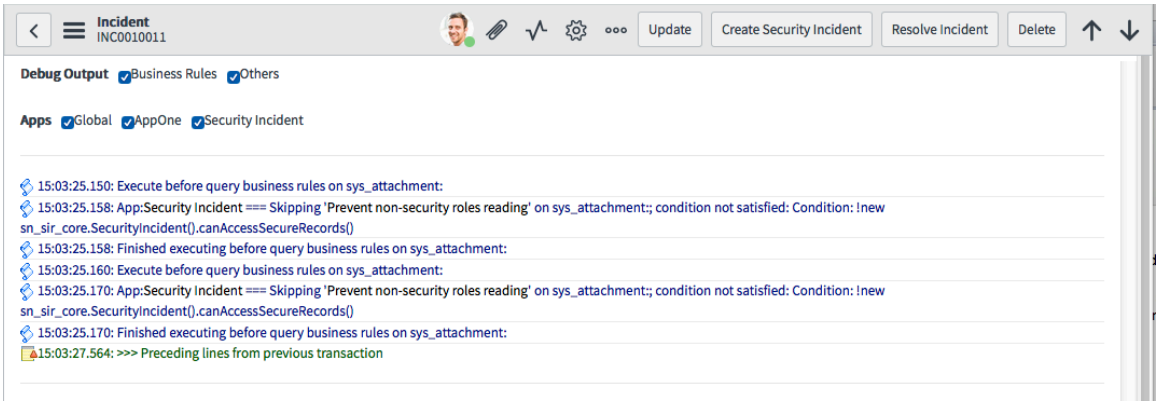
アプリケーションデバッグオプション

デバッグオプション	説明
ビジネスルールのデバッグ	このモジュールを使用して、どのアプリケーションのビジネスルールがテーブルに対して実行されているかを判断します。異なるアプリケーションスコープのビジネスルールが同じテーブルで実行されている場合にのみ、アプリケーション情報が表示されます。
デバッグビジネスルール (詳細)	このモジュールを使用して、テーブルに対するビジネスルールの実行の結果を判断します。異なるアプリケーションスコープのビジネスルールが同じテーブルで実行されている場合にのみ、アプリケーション情報が表示されます。
セキュリティのデバッグ	このモジュールを使用して、指定されたテーブルまたはレコードに適用されるアプリケーションのアクセス制御を決定します。
スコープのデバッグ	このモジュールを使用して、スクリプトが実行されるアプリケーションスコープコンテキストを決定します。あるスクリプトが別のスクリプトを呼び出すことがあるため、一連のスクリプトの実行中にアプリケーションスコープコンテキストが複数回変更される可能性があります。
セッションのデバッグを有効化	この関連リンクを使用して、特定のアプリケーションのログメッセージの生成を有効にします。GlideSystem ログ記録メソッドを使用するアプリケーションスクリプトは、指定された詳細レベルでログに出力を生成します。

複数のアプリケーションがデバッグ出力に寄与する場合、システムは [アプリ] と呼ばれる新しいセクションを追加して、セッションログに書き込むアプリケーションのリストを表示します。アプリケーション名の横にあるチェックボックスをクリックすると、アプリケーションの関連デバッグメッセージの表示/非表示が切り替わります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスルールのサンプルアプリケーションデバッグ出力

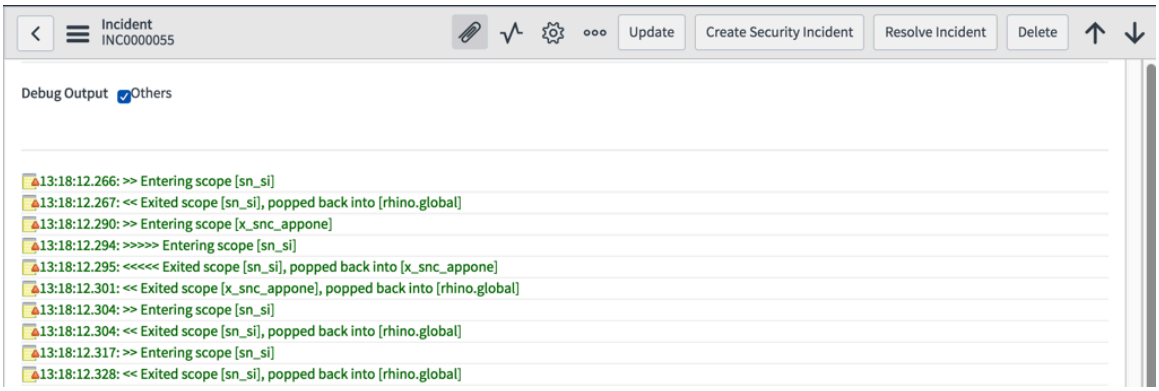


スコープのデバッグ

アプリケーション開発者は、デバッグスコープモジュールを使用して、サーバーサイドスクリプトを実行するカスタムアプリケーション間のシステム切り替えに関する情報を表示します。

有効にすると、システムがカスタムアプリケーションに切り替えてサーバーサイドスクリプトを実行するたびにメッセージが表示されます。

インシデントテーブルからのサンプルデバッグスコープ出力



システムがサーバーサイドスクリプトオブジェクトを実行するたびに、スクリプトのスコープコンテキストに入ります。スクリプトの実行が終了すると、スクリプトはスコープコンテキストを終了します。デバッグメッセージは、スクリプトスコープコンテキストの変更を追跡します。

デバッグメッセージは、システムがスクリプトオブジェクトのコンテキストに入るたびに大なり記号「>」を表示し、システムがスクリプトオブジェクトのコンテキストを終了するたびに小なり記号「<」を表示します。あるスクリプトが別のスクリプトを呼び出す場合は、各呼び出しのパスに、デバッグメッセージでさらに大なり記号が追加されます。たとえば、ビジネスルールがスクリプトインクルードを呼び出し、さらに別のスクリプトオブジェクトを呼び出す場合、パスには次のように 3 つの記号が含まれることになります。

```
> Entering scope [x_app_one]
>> Entering scope [x_app_two]
>>> Entering scope [x_app_three]
```

注: グローバルスコープ内のスクリプトオブジェクトの開始メッセージまたは終了メッセージは表示されません。

アプリケーション開発者は、このオプションとともに他のデバッグオプションを有効にして、デバッグビジネスルールなどのサーバーサイドスクリプトの選択可能なソースに関する情報を表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスルールのデバッグ

デバッグビジネスルールは、ServiceNow 製品で使用可能なリソースをで実施できます。

1. ツール

このプロセスの最初のステップは、問題の把握に役立つツールを特定することです。

デバッグツール

デバッグツール	説明
システム辞書	[システム定義] > [ディクショナリ] に移動します。辞書は、インスタンス内のすべてのテーブルのリストを提供し、情報を見つける際に非常に役立ちます。
システムログ	[システムログ] > [システムログ] に移動します。ログに情報を書き込むことができるビジネスルール内にアラートステートメントを配置できます。
デバッグビジネスルール (詳細)	[システム診断] > [セッションデバッグ] > [デバッグビジネスルール (詳細)] に移動します。このデバッグモジュールは、結果のビジネスルールを表示します。このモジュールを使用して、条件が満たされ、値が想定どおりに設定されているかどうかを確認します。
アラートメッセージ	ページ、フィールド、またはログファイルにメッセージを出力できるようにする、いくつかのシステム機能があります。「アラート、情報、およびエラーメッセージのスクリプティング」を参照してください。
ビジネスルールの例	ビジネスルールのエラーメッセージなど、他のユーザーが記述したスクリプトの中から目的のものが見つかることも、OR クエリをビルドすることで見つかることもあります。
GlideRecord 情報	これは、データベースに対して情報のクエリを実行するために使用される基本構文です。「スクリプトでのテーブルのクエリ」を参照してください。GlideRecord には集計サポートも含まれます。

2. 変数

次のステップでは、ビジネスルールの動作についてのインサイトを得ることができます。挿入を除くすべてのアクションでは、クエリを使用してレコードを取得する可能性が高くなります。

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.addQuery('active',true);
rec.query();
while (rec.next()) {
 gs.print(rec.number + ' exists');
 }
```

クエリが実際にレコードを返すかどうかを確認するには、*gs.addInfoMessage* を使用して画面の上部に情報を表示します。

```
var rec = new GlideRecord('incident');
rec.addQuery('active',true);
rec.query();
gs.addInfoMessage("This is rec.next: " + rec.next());
while (rec.next()) {
 gs.print(rec.number + ' exists');
 }
```

クエリがレコードを返さない場合は、次のように表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
This is rec.next: false
```

この手法を使用して、ビジネスルール内のすべての変数に想定される値が含まれていることを確認します。

ヒント: 必要に応じて、スクリプトを個々の部分に分割し、各部分が全体から切り離されても機能することを確認してから、一度に 1 ステップずつ元に戻します。

3. 情報の検索

最後のステップは、ルールが探している情報がどこで見つかるかを確認することです。

ServiceNow アプリケーションでは、テーブルが別のテーブルを拡張できます。これは、情報を検索するときに、探している情報を見つけるために、拡張テーブルの sys_id を親テーブルに照会する必要があることを意味します。

良い例は、タスクテーブルを拡張する sc_task テーブルです。次のスクリプトは、現在の sys_id の拡張テーブル (sc_task) を照会し、一致する sys_id を持つレコードの親テーブル (task) を照会して、[作業メモ] フィールドを出力します。

```
var kids = new GlideRecord('sc_task');
kids.query();

gs.addInfoMessage("This is requested item number: " + current.number);
gs.print("This is the requested item number: " + current.number);

while (kids.next()) {
 var parents = new GlideRecord('task');
 parents.addQuery('sys_id', '=', kids.sys_id);
 parents.query();

 while(parents.next()) {
  gs.addInfoMessage("This is task number: " + parents.number);
  gs.print("This is task number: " + parents.number);
  gs.addInfoMessage("These are the work notes: " + parents.work_notes);
  gs.print("These are the work notes: " + parents.work_notes);
  }

 }
```

分類のデバッグ

分類のデバッグを有効にするには、システムプロパティを追加する必要があります。

分類のデバッグ

結果のログエントリーには、分類子の基準に使用できるすべての名前と値とともに、実行されている各分類子の名前が一覧表示されます。分類に関するデバッグ情報を記録するには、次のシステムプロパティを追加します。

システムのプロパティ	説明
glide.discovery.debug.ci_identification	プロセス分類のデバッグ情報を有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムのプロパティ	説明
	• タイプ：true | false • デフォルト値: false • 場所：システムのプロパティ [sys_properties] テーブルに追加

フィールド監視

フィールド監視ツールは、選択したフォームフィールドで実行されるすべてのアクションを追跡して表示します。

注: フィールド監視は、Utah の ネクストエクスペリエンス ではサポートされていません。ネクストエクスペリエンス でサポートされている機能の詳細については、「Next Experience の有効化に関する考慮事項」を参照してください。

アドミニストレーターは、フィールド監視を使用して、ビジネスルールの発動やデータポリシーの適用などのイベントが発生したときに、フィールドで何が起こるか、フィールドの値がどのように変化するかを把握できます。アドミニストレーターは、非アドミンユーザーの代理操作を行い、それらのユーザーがインスタンスを変更した場合に発生する事柄をデバッグすることもできます。一度に監視できるフィールドは 1 つだけです。代理操作ロールを持つ非アドミンユーザーは、フィールド監視機能にアクセスできます。

フィールド監視の仕組み

フィールド監視ツールは、フィールドで次のいずれかのイベントが発生したときにアクティビティを記録します。

- デフォルト値がフィールドに設定された。
- ACL または辞書設定により、フィールドのユーザーアクセス権が変更された。
- データポリシーによって、値の設定が防がれた。
- フィールド値の参照修飾子クエリが実行された。
- UI ポリシーによって、フィールドが読み取り専用、表示、必須、または編集可能に変更された。
- 別のフィールド内の依存値によって、フィールドの選択肢が制限された。
- フィールドの値が、以下に基づいて設定または変更された。
  - アサインルール
  - ワークフローエンジンなどのエンジンからのアクション
  - ビジネスルール
  - ユーザーエントリー
  - クライアントスクリプト
  - UI アクション

注: フィールド監視はフォームフィールドでのみ機能します。リストフィールドでは使用できません。また、フィールド監視は、パスワードで保護されたフィールドまたは暗号化されたフィールドでは使用できません。フィールド監視は UI フレーム内でのみ使用できます。新しいタブなど、UI フレームの外部でレコードを開いた場合、フィールドを監視するオプションはコンテキストメニューに表示されません。

フィールド監視の使用

フィールド監視を使用して、フィールドレベルのデバッグ情報にアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

手順

1. フィールドレベルのデバッグ情報を表示するフォームに移動します。
2. フォーム上の任意のフィールドラベルを右クリックしてフィールド監視を有効にし、[監視 **- <field name>]** を選択します。

   フィールドラベルの横にデバッグアイコン ( ) が表示されます。この時点から、フィールド監視は選択したフィールドで実行されるすべてのアクションを記録します。たとえば、[優先度] フィールドを監視している場合、優先度が [中] から [低] に変更され、レコードが更新されると、フィールド監視はその変更に関する情報を表示します。
3. デバッグアイコンをクリックして、フィールド監視ログを表示します。
   画面の下部に新しいペインが開き、[フィールド監視] タブが表示されます。JavaScript ログ記録と JavaScript デバッガー用のタブも表示されます。
4. 必要に応じて [フィールド監視] タブをクリックします。
5. フィールドの監視を停止するには、フィールドを右クリックし、[監視を解除 **- <field name>]** を選択します。
   別のフィールドを監視するには、そのフィールドを右クリックして、[監視 **- <field name>]** を選択します。
6. [ログを消去] ボタン ( ) をクリックして、フィールド監視ログを消去します。
7. スプリッターバーを上下にドラッグして、フィールド監視ペインのサイズを変更します。
   スプリッターバーを画面の下部にドラッグすると、フィールド監視ペインが閉じます。デバッグアイコンを再度クリックして、ペインを再度開きます。

[フィールド監視] タブの詳細

フィールド監視には、フィールド情報と構成オプションが表示されます。

[フィールド監視] タブの左側には、監視対象フィールドに関する次の情報が表示されます。

- テーブル：フィールドが属するテーブル。
- 要素：フィールドラベル。
- タイプ：フィールドに格納されるデータのタイプ。
- 依存：現在のフィールドが依存するフィールド。
- 参照：フィールドの値の発生元のテーブル (該当する場合)。
- 参照修飾子：フィールドのデータを制限する可能性がある参照修飾子。
- 属性：そのフィールドのディクショナリーエントリーで指定されているフィールドの属性。

[フィールド監視] タブの右側で、選択したフィールドについて表示するアクティビティ情報のタイプを選択します。不要な情報タイプのチェックボックスはオフにしてください。

非表示のフィールドの監視

アドミニストレーターは、非表示のフィールドを監視する必要があります。

手順

1. 辞書を使用してフィールドの列名を決定します。
2. 特権を security_admin ロールに昇格させます。
3. [システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド] に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [スクリプトを実行 (サーバー上で実行される *JavaScript)]* で、次のコマンドを入力します。

```
gs.getSession ( ). setWatchField ( "hidden_field" ) ;
```

hidden_field を非表示フィールドの列名に置き換えます。

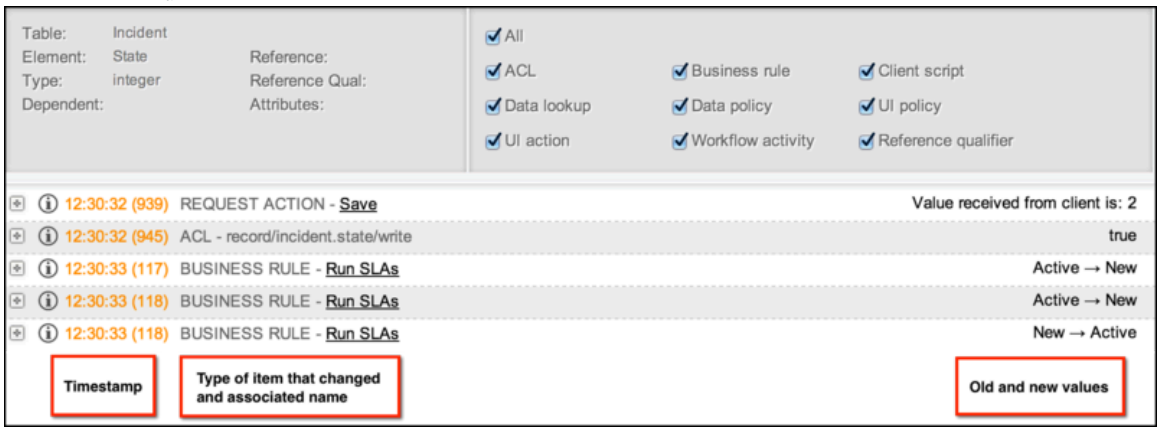
5. 欠落しているフィールドを含むフォームに移動します。

[フィールド監視] タブの出力には、非表示のフィールドに関する情報が含まれています。

監視対象フィールドの情報の表示

監視対象フィールドの情報が変更され、レコードが更新されると、[フィールド監視] タブの下部に関連情報が表示されます。

フィールド監視表示データ



フィールド監視情報には次のものが含まれます。

- タイムスタンプ：HH:MM:SS (ミリ秒) 形式を使用した、フィールドが変更された時刻。
  - オレンジ色のテキスト：ACL などのサーバーサイドの変更。
  - 青色のテキスト：クライアントスクリプトなどのクライアントサイドの変更。
- フィールドを変更したオブジェクトのタイプとその関連名：フィールドで変更されたアイテムのタイプ。たとえば、クライアントスクリプト、ビジネスルール、**ACL** などです。スクリプト、ビジネスルール、またはその他の構成タイプのフィールドの場合、フィールド監視はフィールドを変更したスクリプトまたはビジネスルールがあれば、その名前を表示します。名前をクリックすると、そのアイテムのレコードに直接移動します。
- 古い値と新しい値：フィールドの古い値と新しい値 (値が変更された場合) レコードの作成時にデフォルトで値がフォームに挿入された場合、フィールド監視はその値を記録しません。
- 追加情報：フィールドを変更したスクリプトエンジンまたはワークフローの名前などのコールトレース情報。選択を展開するには、プラスアイコンをクリックします。
  - オレンジ色のテキスト：サーバーサイドのアクティビティを示します。
  - 青色のテキスト：クライアントサイドのアクティビティを示します。

例：インシデントの優先度の監視

次の例は、[影響度] と [緊急度] の両方のフィールドが変更された場合に、インシデントフォームの [優先度] フィールドに起きる事柄を示しています。

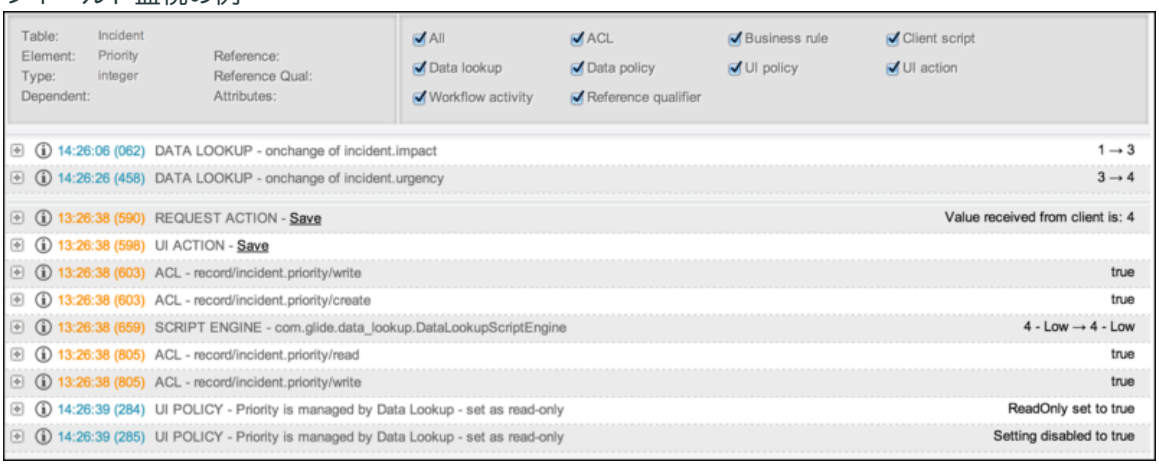
インシデントフォームには、優先度を変更する 2 つのクライアントサイドデータルックアップがあります。また、レコードが保存されると、サーバーサイド ACL とデータルックアップエンジンが起動します。最後に、クライアントサイドの UI ポリシーにより、[優先度] フィールドがデフォルト設定の読み取り専用に戻されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インシデントの優先度の監視

元の値
• 優先度：1 - 重大 • 影響：1 - 高 • 緊急度：1 - 高
最初の変更
1. ユーザーが [影響度] の値を **[3 -** 低] に変更します。 2. ServiceNow インシデントでデフォルトで使用される [優先度ルックアップ] データルックアップ定義に基づいて、優先度が自動的に **[3 -** 中] に変更されます。 **注:** この時点では、レコードは保存されていません。
2 番目の変更
1. ユーザーが [緊急度] の値を **[2 -** 中] に変更します。 2. 優先度は、同じ [優先度ルックアップ] データルックアップ定義に基づいて、自動的に **[4 -** 低] に変更されます。 3. ユーザーは、フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択してレコードを保存します。

フィールド監視の例



注: 1 から 3 へ、さらに 3 から 4 へと変化する値は、選択リスト内の数値を参照します。

デバッグログへの書き込み

クライアントサイドの JavaScript または UI ポリシーでデバッグログに書き込むには、グローバル関数 `jslog()` を呼び出します。

JavaScript で `jslog()` を使用する例：

```
function logData (r ) {
    lastLogDate  = r. responseXML. documentElement. getAttribute
 ( "last_log_entry" ) ; var items  = r. responseXML. getElementsByTagName
 ( "log" ) ;
    jslog ( "response=" + r. responseText ) ; }
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

また、 クライアントスクリプトが実行されると、クライアントスクリプトの名前とタイミング情報が表示されます。これは、どの スクリプトが実行中であるか、およびそれらがパフォーマンスに影響しているかどうかの判断に役立ちます。

UI ポリシーのデバッグ

glide.ui.ui_policy_debug プロパティを有効にすると、UI アクションの処理を監視できます。

以下は、incident_state がクローズされている場合にフィールドを読み取り専用に設定する、インシデントポリシーのログイベントの例です。

```
GlideFieldPolicy: Evaluating condition
GlideFieldPolicy:     incident_state (7) = 7 -> true
GlideFieldPolicy: --->>> TRUE
GlideFieldPolicy:    Setting opened_at disabled to true
GlideFieldPolicy:    Setting opened_by disabled to true
GlideFieldPolicy:    Setting closed_at disabled to true
GlideFieldPolicy:    Setting closed_by disabled to true
GlideFieldPolicy:    Setting company disabled to true
```

JavaScript ログへのアクセス

ブラウザーで実行される JavaScript (クライアントスクリプトなど) には、情報を JavaScript ログに送信するための jslog() への呼び出しを含めることができます。admin ロールを持つユーザーが、このログにアクセスできます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
JavaScript デバッグウィンドウにアクセスする手順は、使用している UI バージョンによって異なります。

> **注:** Utah の ネクストエクスペリエンス では JavaScript デバッグウィンドウはサポートされていません。ネクストエクスペリエンス でサポートされている機能の詳細については、「のアクティブ化に関する考慮事項 ネクストエクスペリエンス」を参照してください。

手順

1. 使用している UI のバージョンの適切な場所に移動して、JavaScript ログを開きます。

コア UI	**a.** バナーフレームの歯車アイコンをクリックします。 **b.** [開発者] セクションをクリックします。 **c.** **[JavaScript** ログとフィールド監視] スイッチをオンにします。
UI15	**a.** バナーフレームの歯車アイコンをクリックします。 **b.** **[JavaScript** ログとフィールド監視] をクリックします。
UI11	バナーフレームのデバッグアイコン ( ) をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

画面の下部で新しいペインが開きます。[JavaScript ログ] タブが表示されます。[フィールド監視] タブも表示される場合があります。

2. 必要に応じて、**[JavaScript** ログ] タブを選択します。
3. 必要に応じて、[クリア] アイコン ( ) をクリックして、ログの内容をクリアします。

JavaScript デバッグウィンドウ

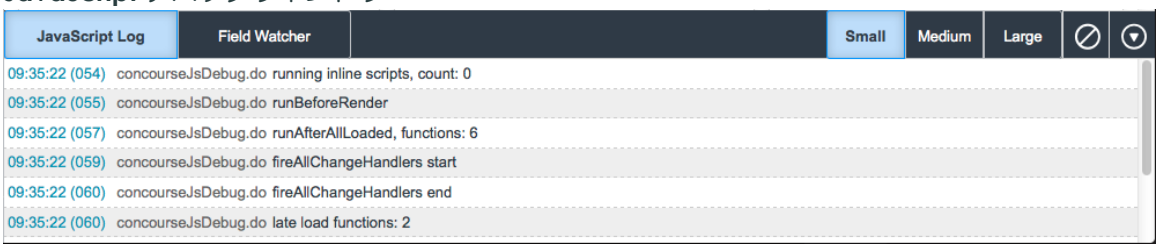
アドミニストレーターがデバッグをオンにすると、ユーザーインターフェイスの下部ペインに JavaScript デバッグウィンドウが表示されます。

> **注:** Utah の ネクストエクスペリエンス では JavaScript デバッグウィンドウはサポートされていません。ネクストエクスペリエンス でサポートされている機能の詳細については、「Next Experience の有効化に関する考慮事項」を参照してください。

これらのツールにアクセスするには、デバッグウィンドウを使用します。

- JavaScript ログ：ブラウザーで実行される JavaScript (クライアントスクリプトなど) には、情報を JavaScript ログに送信するための `jslog()` への呼び出しを含めることができます。
- フィールド監視：選択したフォームフィールドで実行されるすべてのアクションを追跡して表示するツールです。

JavaScript デバッグウィンドウ



JavaScript デバッグウィンドウの使用

JavaScript デバッグウィンドウでは、JavaScript ログとフィールド監視ツールにアクセスできます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

JavaScript デバッグウィンドウにアクセスする手順は、使用している UI バージョンによって異なります。

> **注:** Utah の ネクストエクスペリエンス では JavaScript デバッグウィンドウはサポートされていません。ネクストエクスペリエンス でサポートされている機能の詳細については、「のアクティブ化に関する考慮事項 ネクストエクスペリエンス」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. UI のバージョンに適した場所に移動して、JavaScript デバッグウィンドウを開きます。

コア UI	a. バナーフレームの歯車アイコンをクリックします。 b. [開発者] セクションをクリックします。 c. **[JavaScript** ログとフィールド監視] スイッチをオンにします。
UI15	a. バナーフレームの歯車アイコンをクリックします。 b. **[JavaScript** ログとフィールド監視] をクリックします。
UI11	バナーフレームのデバッグアイコン ( ) をクリックします。

画面の下部に JavaScript デバッグウィンドウが再度開きます。ウィンドウを閉じたときに最後にアクティブだったタブが、ウィンドウを開いたときにアクティブなタブになります。

2. タブをクリックして、いずれかのデバッグウィンドウ機能を使用します。
   - JavaScript ログ
   - フィールド監視

関連情報

デバッグログへの書き込み

フィールド監視

JS コードカバレッジのデバッグ

JS コードカバレッジのデバッグ アプリケーションを使用すると、アドミニストレーターとアプリケーション開発者は、ユーザーセッション中にトリガーされたスクリプトを記録し、システムが実行したコードの行を確認できます。

js_coverage_debugger ロールを持つユーザーは、ブレークポイントを設定したり画面上のデバッグメッセージを確認したりすることなく、スクリプトをデバッグできます。代わりに、スクリプト使用データは JavaScript コードカバレッジ [sys_js_code_coverage] テーブルに保存されます。各 JavaScript コードカバレッジレコードには、次のものが含まれます。

- スクリプトを呼び出したユーザーセッション。
- テーブル、sys_id、およびスクリプトフィールドで識別される、システムが呼び出したスクリプトレコード。
- タイプと名前で識別される、システムが呼び出したスクリプトレコード。
- スクリプトを呼び出したトランザクション。
- トランザクションの開始時間。
- システムが実行した行を示すためにハイライト表示されたスクリプトフィールドの内容。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプルコード範囲のハイライト表示

Script

```
var build = gs.getProperty("glide.buildname");
if (GlideStringUtil.notNil(build))
    build = build.substring(0,1).toLowerCase();

var collision = new GlideRecord("sys_embedded_help_content");
collision.addActiveQuery();
collision.addQuery("page", current.page);
collision.addQuery("modifier", current.modifier);
collision.addQuery("product", current.product);
if (current.isValidRecord() && GlideStringUtil.notNil(current.sys_id))
    collision.addQuery("sys_id", "!=", current.sys_id);

if (GlideStringUtil.notNil(current.qualifier))
    collision.addQuery("qualifier", current.qualifier);
else
    collision.addNullQuery("qualifier");

if (current.version == "all" && GlideStringUtil.notNil(build))
    collision.addQuery("version", build).addOrCondition("version", "all");
else
    collision.addQuery("version", current.version);

collision.query();
if (collision.next()) {
    if (collision.canWrite())
        gs.addErrorMessage(gs.getMessage("Embedded Help Composite Key Validation"));
```

JS コード範囲のハイライト表示

JS コードカバレッジアプリケーションは、システムが各行を実行したかスキップしたかを示すために、スクリプトフィールドをハイライト表示します。

サンプルコードのハイライト表示

Script

```
var build = gs.getProperty("glide.buildname");
if (GlideStringUtil.notNil(build))
    build = build.substring(0,1).toLowerCase();

var collision = new GlideRecord("sys_embedded_help_content");
collision.addActiveQuery();
collision.addQuery("page", current.page);
collision.addQuery("modifier", current.modifier);
collision.addQuery("product", current.product);
if (current.isValidRecord() && GlideStringUtil.notNil(current.sys_id))
    collision.addQuery("sys_id", "!=", current.sys_id);

if (GlideStringUtil.notNil(current.qualifier))
    collision.addQuery("qualifier", current.qualifier);
else
    collision.addNullQuery("qualifier");

if (current.version == "all" && GlideStringUtil.notNil(build))
    collision.addQuery("version", build).addOrCondition("version", "all");
else
    collision.addQuery("version", current.version);

collision.query();
if (collision.next()) {
    if (collision.canWrite())
        gs.addErrorMessage(gs.getMessage("Embedded Help Composite Key Validation"));
```

ハイライト表示の色は、システムがコード行をどのように評価したかを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードのハイライト表示の意味

ハイライト表示の色	意味
緑	これは、セッション中にシステムが実行した実行可能なコード行です。
赤	これは、何らかの理由でシステムがスキップした実行可能なコード行です。必要なスクリプト条件が満たされていないか、スクリプト関数が一度も呼び出されていないために、システムが実行可能なコード行をスキップした可能性があります。スクリプトデバッガ を使用して、システムが実行可能なコード行をスキップした理由を特定できます。
グレイ	これは、空白、コードコメント、または単独では実行できない複数の行にまたがる式の一部など、実行不可能なコード行です。

アドミニストレーターとアプリケーション開発者は、この情報を使用して、スクリプトデバッガ を使用してスクリプト条件が満たされていない理由を特定するなど、よりターゲットを絞ったデバッグアクティビティを行うことができます。

JS コードカバレッジのデバッグ のアクティブ化

admin ロールを持っている場合は、JS コードカバレッジのデバッグ プラグイン (com.glide.js.coverage) をアクティブ化できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。

3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

   注: ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません： <プラグイン名> のプラグインの有効化 (`Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>`)」

   インストールが完了するとメッセージが表示されます。

次のタスク
プラグインがインストールしたコンポーネントを表示するには、プラグインフォームを更新して [プラグインファイル] 関連リストを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JS コードカバレッジのデバッグ を使用したデバッグ

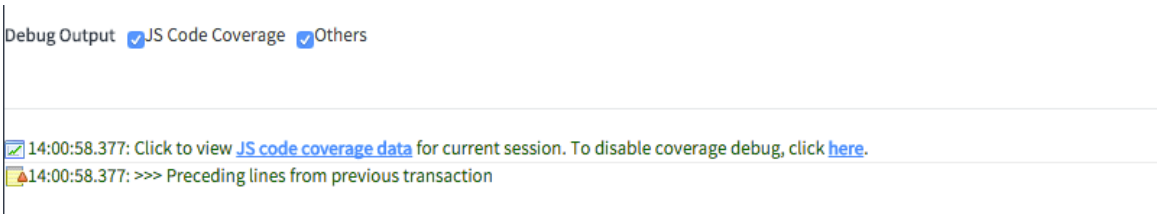
JS コードカバレッジのデバッグ を使用してユーザーセッションを記録し、システムが実行したスクリプトとコード行を確認します。

始める前に

必要なロール：admin または js_coverage_debugger

手順

1. [すべて] > **[JS** コードカバレッジのデバッグ] > [補償の有効化] に移動します。
   システムは、システムが実行するスクリプトとコード行をログに記録し、JS コードカバレッジ名前空間にセッションデバッグメッセージを表示します。



2. ロジックをテストするテーブルまたはページに移動します。

   Example
   たとえば、[インシデント] > [新規作成] に移動します。

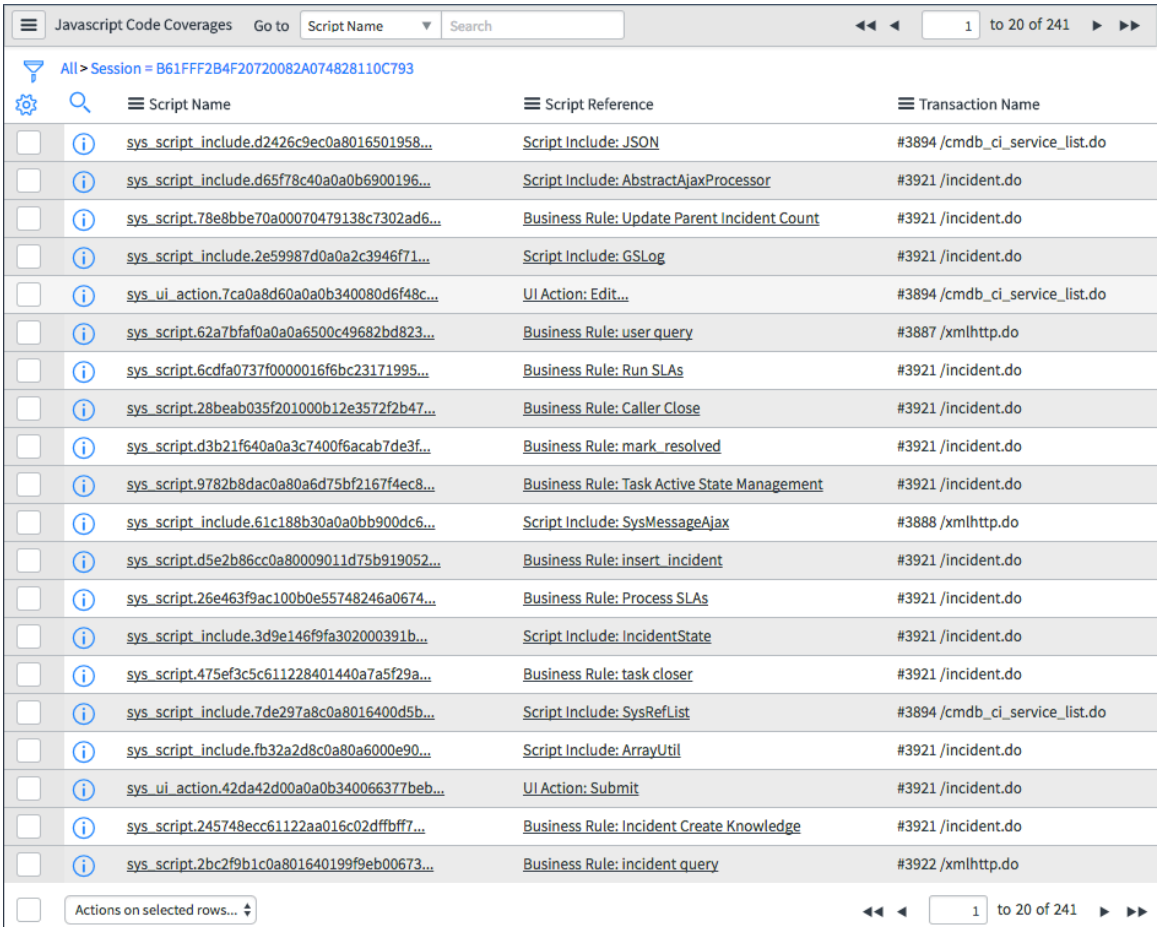
3. テストするスクリプトをトリガーします。

   Example
   たとえば、関連付けられた CI アイテムを使用してインシデントを作成し、複数のビジネスルールをテストします。

4. テストが完了したら、**[JS** コードカバレッジのデバッグ] > [補償の無効化] に移動します。
   ログスクリプトとコード行の実行が停止します。

5. **[JS** コードカバレッジのデバッグ] > [補償データ] に移動します。
   現在のユーザーセッションに関連付けられているカバレッジデータのリストが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



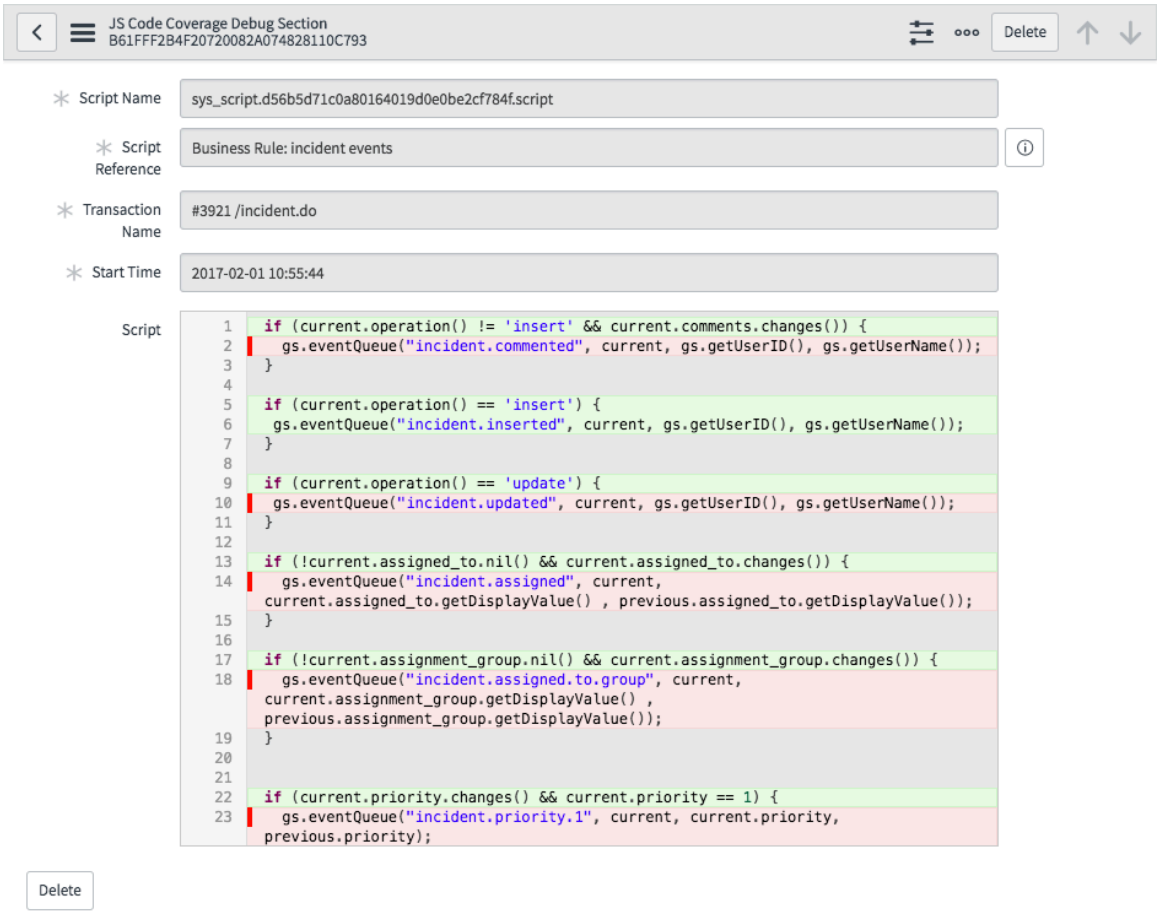
6. レビューするスクリプトまたはトランザクションを選択します。

JavaScript コードカバレッジのフィールド

フィールド	説明
スクリプト名	スクリプト実行をテーブル名、sys_id 値、およびスクリプトフィールドで表示します。
スクリプト参照	スクリプト実行をスクリプトのタイプと名前で表示します。
トランザクション名	スクリプトを呼び出したトランザクションをスレッド ID と URI で表示します。

Example
たとえば、「スクリプト参照ビジネスルール：インシデントイベント」を選択します。
JS コードカバレッジのデバッグレコードが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. [スクリプト] フィールドを確認して、システムが実行したコード行を特定します。

   Example
   たとえば、ビジネスルールによって incident.inserted イベントがイベントキューに追加されたとします。

タスクの結果
システムが実行したコード行を特定します。

次のタスク
コードカバレッジ情報を使用して、スクリプトデバッガ によってブレークポイントの設定や変数値の確認など、よりターゲットを絞ったデバッグアクティビティを実行します。

パッケージコール削除ツール

パッケージコール削除ツールには、スクリプトが含まれている可能性があるフィールドを識別し、ServiceNow Java クラスへのパッケージコールを含むスクリプトを検索し、それらのパッケージコールを排除するための提案されたスクリプト変更を調べるモジュールが用意されています。

> **注:** このツールはデフォルトでは有効になっておらず、admin ロールを持つユーザーのみが使用できます。

ServiceNow Java クラスへのパッケージコールは、将来のリリースでは利用できなくなります。パッケージコール削除ツールは、インスタンスで新しい API を使用するための準備に役立ちます。このツールには、次のスクリプトとページが含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- パッケージフィールドを探すスクリプトは、ServiceNow Java クラスへのパッケージコールのスクリプトをスキャンします。
- パッケージコールを探すスクリプトは、パッケージコールを削除するか、それらを GlideScriptable 名に置き換える変更を提案します。
- [パッケージコールアイテム] ページには、スクリプトに対する提案された変更が一覧表示され、作業することができます。

このツールでは、ServiceNow Java クラスへのパッケージコールに対する優先的でスクリプト可能な代替手段を生成しようとするときに、エラーが生成される場合があります。

注: パッケージコール削除ツールの実行による変更を移行する前に、更新セットを作成します。詳細については、「更新セットでスタートする」を参照してください。

パッケージコール削除ツールを有効にする

ツールにアクセスするには、Packages Call Removal Tool プラグインをアクティブにする必要があります。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. フィルター基準と検索バーを使用して Packages Call Removal Tool プラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。
3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

   注: ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません： <プラグイン名> のプラグインの有効化 (`Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>`)」

   インストールが完了するとメッセージが表示されます。

パッケージコールを探す

パッケージフィールドを探すスクリプトを実行してパッケージコールを検索するフィールドのリストを定義した後、パッケージコールを探すスクリプトを実行して、ServiceNow Java クラスへのパッケージコールを含むフィールドのリストを生成します。スクリプトは変更の提案も行います。

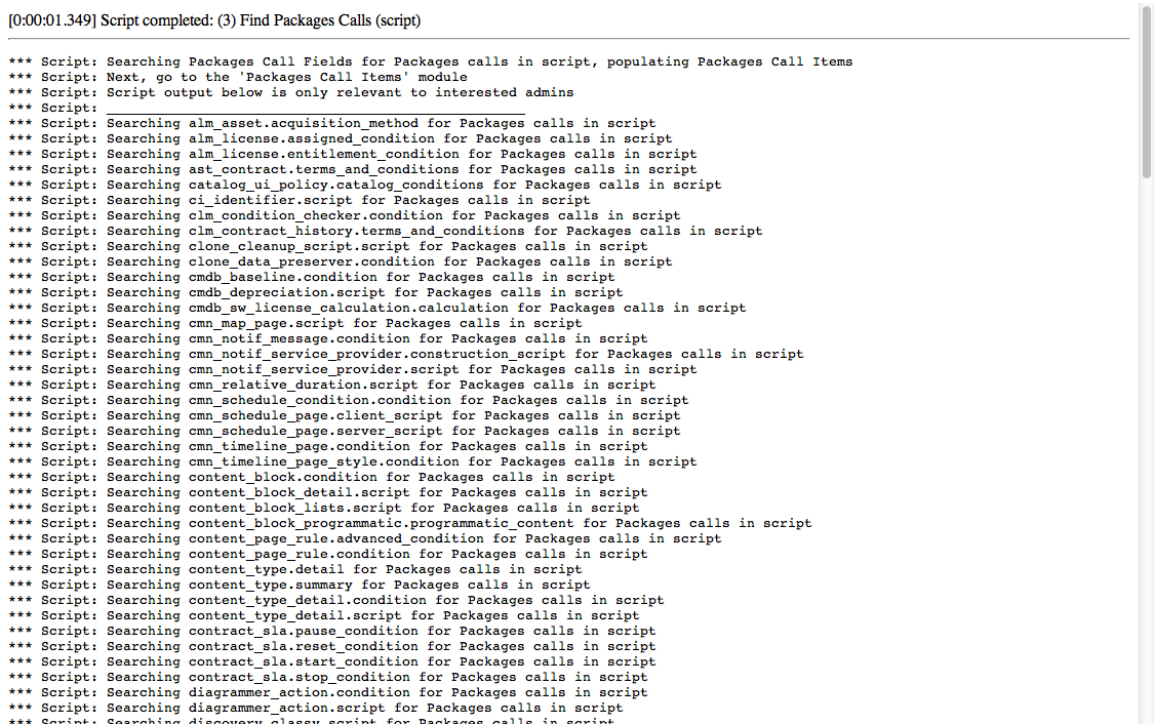
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. **[(3)** パッケージコールを探す (スクリプト)] をクリックして、パッケージコールに対するフィールドを検索するスクリプトを実行し、パッケージコールアイテムリストに提案された変更を入力します。

   Example

   パッケージコールを探す

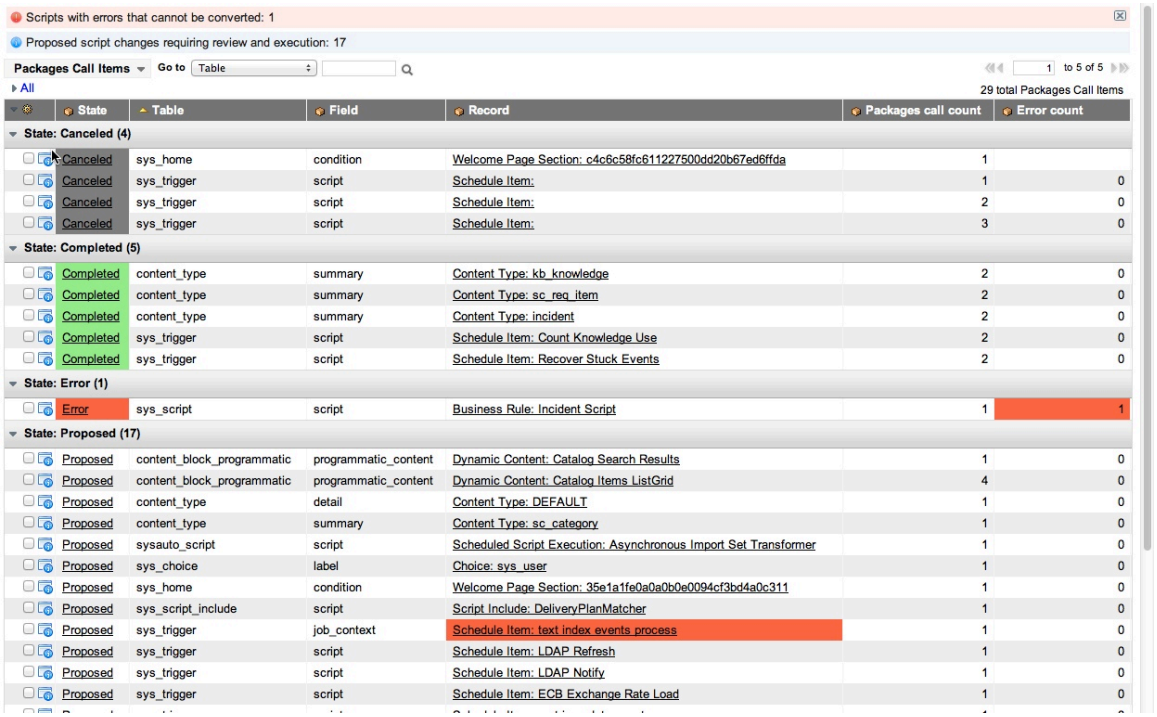
   

2. **[(4)** パッケージコールアイテム] をクリックすると、影響を受けるフィールドのリストが [パッケージコールアイテム] ページに表示されます。
   [パッケージコールアイテム] ページには、パッケージコールを含むアイテムが一覧表示され、各アイテムの現在のステータス、フィールドを含むテーブル、影響を受けるレコード、フィールドのスクリプトに含まれるパッケージコールの数、および提案されたスクリプトの生成時に発生したエラーの数が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example

パッケージコールアイテム



State	Table	Field	Record	Packages call count	Error count
State: Canceled (4)					
Canceled	sys_home	condition	Welcome Page Section: c4c6c58fc611227500dd20b67ed6ffda	1	
Canceled	sys_trigger	script	Schedule Item:	1	0
Canceled	sys_trigger	script	Schedule Item:	2	0
Canceled	sys_trigger	script	Schedule Item:	3	0
State: Completed (5)					
Completed	content_type	summary	Content Type: kb_knowledge	2	0
Completed	content_type	summary	Content Type: sc_req_item	2	0
Completed	content_type	summary	Content Type: incident	2	0
Completed	sys_trigger	script	Schedule Item: Count Knowledge Use	2	0
Completed	sys_trigger	script	Schedule Item: Recover Stuck Events	2	0
State: Error (1)					
Error	sys_script	script	Business Rule: Incident Script	1	1
State: Proposed (17)					
Proposed	content_block_programmatic	programmatic_content	Dynamic Content: Catalog Search Results	1	0
Proposed	content_block_programmatic	programmatic_content	Dynamic Content: Catalog Items ListGrid	4	0
Proposed	content_type	detail	Content Type: DEFAULT	1	0
Proposed	content_type	summary	Content Type: sc_category	1	0
Proposed	sysauto_script	script	Scheduled Script Execution: Asynchronous Import Set Transformer	1	0
Proposed	sys_choice	label	Choice: sys_user	1	0
Proposed	sys_home	condition	Welcome Page Section: 35e1a1fe0a0a0b0e0094cf3bd4a0c311	1	0
Proposed	sys_script_include	script	Script Include: DeliveryPlanMatcher	1	0
Proposed	sys_trigger	job_context	Schedule Item: text index events process	1	0
Proposed	sys_trigger	script	Schedule Item: LDAP Refresh	1	0
Proposed	sys_trigger	script	Schedule Item: LDAP Notify	1	0
Proposed	sys_trigger	script	Schedule Item: ECB Exchange Rate Load	1	0

3. [パッケージコールアイテム] ページで、リストされているアイテムのレコードをクリックしてフォームを開き、「パッケージコールの置き換え」の説明に従って変更します。

   リストの処理を行うと、アイテムの状況が更新され、アイテムが次のステータス別にグループ化されます。

   - 提案済み：フィールドに提案されたリビジョンが存在します。
   - エラー (赤)：提案されたスクリプトの生成時に 1 つ以上のエラーが発生しました。
   - 却下 (グレイ)：提案された変更は却下されました。
   - 完了 (緑)：ServiceNow Java クラスへのパッケージコールを削除するよう、フィールドが正常に変更されました。
   - キャンセル済み (グレイ)：提案された変更が生成された後に、元のスクリプトが変更されて変更が不要になったか、元のレコードが存在しなくなりました。

Glide オブジェクト名

パッケージコールを置き換える新しい Glide オブジェクトの名前は、パッケージコールで使用される Java パッケージ名から派生します。

このタスクについて

ツールは、検出された各パッケージコールを自動的に新しいスクリプト可能な名前に置き換えますが、パッケージコールを同等の新しいスクリプト可能オブジェクトに手動で置き換える方法を知っておくと便利な場合もあります。以下の手順を使用して、パッケージコール名から新しいスクリプトオブジェクト名を決定します。置換オブジェクトには、置き換えるオブジェクトと同じメソッドとプロパティが含まれます。

新しいオブジェクト名を決定するには：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. Java パッケージ名の 3 番目の用語に注意してください。
   この用語は、通常は glide ですが、snc または glideapp の場合もあります。
2. すべてのプリフィックス用語を削除し、最後の用語のみを残します。
   たとえば、`Packages.com.glide.monitor.AbstractBucketCollector` は AbstractBucketCollector になります。
3. 上記の最初のステップで言及した用語の最初の文字を大文字にし、ステップ 2 で定義した用語の前に追加します。
   たとえば、`Packages.com.glide.monitor.AbstractBucketCollector` は GlideAbstractBucketCollector に、`Packages.com.snc.cmdb.BaselineCMDB` は SncBaselineCMDB になります。
4. スクリプトバックグラウンドで、引用符なしで名前のみを指定して gs.print() コマンドを実行し、名前が有効であることを確認します。
   例：

   ```
   gs.print( SncBaselineCMDB );
   ```

   *** スクリプト：`[JavaClass com.snc.cmdb.BaselineCMDB]`

   このルールには例外があります。たとえば、「Packages.com.glide.Glide」に代わる「Glide」、「Packages.com.glide.junit.misc.TestExtension」に代わる「TestExtension」、「Packages.com.glide.ui.UINotification」に代わる「UINotification」などです。

Glide オブジェクト置換リスト

次の表は、Glide クラスとそれらが置き換えるパッケージコールを示しています。

注: このリストの公開は、これらのスクリプト可能オブジェクトが顧客、コンサルタント、およびパートナーによって使用されることを意味するものではありません。Glide プリフィックスの使用は、これらのスクリプト可能オブジェクトが GlideRecord などのオブジェクトと同じカテゴリにあるか、同じステータスであることを意味しません。「API リファレンス」でドキュメントが提供されている場合を除き、これらの文書化されていない API は一般的な使用を意図しておらず、ServiceNow, Inc., はそれらを文書化したり、それらに関する質問に回答したり、現在の形式で無期限に維持したりする確約を一切行いません。ServiceNow, Inc. は、今後これらのオブジェクトによって表される機能のサブセットを文書化された API に移行し、それ以外は削除する予定です。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト

GlideScriptable クラス	パッケージコール
Glide	Packages.com.glide.Glide
GlideAbstractBucketCollector	Packages.com.glide.monitor.AbstractBucketCollector
GlideAbstractDomainProvider	Packages.com.glide.db.domain.AbstractDomainProvider
GlideAbstractExecutionPlan	Packages.com.glide.execution_plan.AbstractExecutionPlan
GlideAbstractListener	Packages.com.glide.listener.AbstractListener
GlideAbstractRenderer	Packages.com.glide.ui.portal.AbstractRenderer
GlideAction	Packages.com.glide.script.Action
GlideActionManager	Packages.com.glide.ui.action.ActionManager
GlideAJAXScheduleItem	Packages.com.glide.schedules.AJAXScheduleItem

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideAJAXSchedulePage	Packages.com.glide.schedules.AJAXSchedulePage
GlideAlertActions	Packages.com.glide.alerts.AlertActions
GlideappAbstractChoiceListQuestion	Packages.com.glideapp.questionset.AbstractChoiceListQue
GlideappADSILoader	Packages.com.glideapp.ecc.ADSILoader
GlideappAJAXMapPage	Packages.com.glideapp.google_maps.AJAXMapPage
GlideappCalculationHelper	Packages.com.glideapp.servicecatalog.CalculationHelper
GlideappCart	Packages.com.glideapp.servicecatalog.Cart
GlideappCartItem	Packages.com.glideapp.servicecatalog.CartItem
GlideappCatalogCategoryBatcher	Packages.com.glideapp.servicecatalog.CatalogCategoryB
GlideappCatalogItem	Packages.com.glideapp.servicecatalog.CatalogItem
GlideappCategory	Packages.com.glideapp.servicecatalog.Category
GlideappCategoryPopper	Packages.com.glideapp.servicecatalog.CategoryPopper
GlideappCatItemPopper	Packages.com.glideapp.servicecatalog.CatItemPopper
GlideappChartParameters	Packages.com.glideapp.chart.ChartParameters
GlideappChatRoom	Packages.com.glideapp.live.db.ChatRoom
GlideappChatRoom$Error	Packages.com.glideapp.live.db.ChatRoom.Error
GlideappCheckBoxQuestion	Packages.com.glideapp.questionset.CheckBoxQuestion
GlideappCMDBHelper	Packages.com.glideapp.ecc.CMDBHelper
GlideappCMDBSoftwareHelper	Packages.com.glideapp.ecc.CMDBSoftwareHelper
GlideappContainerAwareQuestionSet	Packages.com.glideapp.questionset.ContainerAwareQuest
GlideappContextDiagramProcessor	Packages.com.glideapp.workflow.ui.ContextDiagramProce
GlideappDateQuestion	Packages.com.glideapp.questionset.DateQuestion
GlideappDateTimeQuestion	Packages.com.glideapp.questionset.DateTimeQuestion
GlideappDeliveryPlan	Packages.com.glideapp.servicecatalog.DeliveryPlan
GlideappECCInputMessage	Packages.com.glideapp.ecc.ECCInputMessage
GlideappECCOutputMessage	Packages.com.glideapp.ecc.ECCOutputMessage
Glideapp ECCQueueConnector	Packages.com.glideapp.ecc.ECCQueueConnector
GlideappECCQueueProcessor	Packages.com.glideapp.ecc.ECCQueueProcessor
GlideappECCResponseMessage	Packages.com.glideapp.ecc.ECCResponseMessage
GlideappExpandableText	Packages.com.glideapp.live_feed.HTMLTransformers.Expand
GlideappExpertPanelCatalogOrder	Packages.com.glideapp.servicecatalog.ExpertPanelCatalo
GlideappFixes	Packages.com.glideapp.servicecatalog.Fixes
GlideappHome	Packages.com.glideapp.home.Home
GlideappHomePage	Packages.com.glideapp.home.HomePage

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideappHomePageFactory	Packages.com.glideapp.home.HomePageFactory
GlideappIECC	Packages.com.glideapp.ecc.IECC
GlideappIOUpgrade	Packages.com.glideapp.servicecatalog.IOUpgrade
GlideappItemOptionsQuestionSet	Packages.com.glideapp.servicecatalog.ItemOptionsQuesti
GlideappJMSECCReceiver	Packages.com.glideapp.jms.JMSECCReceiver
GlideappJMSECCSender	Packages.com.glideapp.jms.JMSECCSender
GlideappKBIncludes	Packages.com.glideapp.knowledge.KBIncludes
GlideApplication	Packages.com.glide.sys.Application
GlideApplicationModule	Packages.com.glide.processors.ApplicationModule
GlideappListCollectorQuestion	Packages.com.glideapp.questionset.ListCollectorQuestion
GlideappLiveFeedEventHandler	Packages.com.glideapp.live_feed.LiveFeedEventHandler
GlideappLiveFeedJournalWriter	Packages.com.glideapp.live_feed.LiveFeedJournalWriter
GlideappLiveFeedUIAction	Packages.com.glideapp.live_feed.LiveFeedUIAction
GlideappLiveProfile	Packages.com.glideapp.live_common.LiveProfile
GlideappLiveUtils	Packages.com.glideapp.live.LiveUtils
GlideappLookupSelectQuestion	Packages.com.glideapp.questionset.LookupSelectQuestion
GlideappMessageTag	Packages.com.glideapp.live_feed.MessageTag
GlideappOrderGuide	Packages.com.glideapp.servicecatalog.OrderGuide
GlideappProcessQueue	Packages.com.glideapp.ecc.ccmdb.ProcessQueue
GlideappQuestion	Packages.com.glideapp.questionset.Question
GlideappQuestionChoice	Packages.com.glideapp.questionset.QuestionChoice
GlideappQueueHelper	Packages.com.glideapp.ecc.QueueHelper
GlideappQueueReader	Packages.com.glideapp.ecc.QueueReader
GlideappReferenceQuestion	Packages.com.glideapp.questionset.ReferenceQuestion
GlideappRequestItemWorkflow	Packages.com.glideapp.servicecatalog.RequestItemWorkfl
GlideappRequestNew	Packages.com.glideapp.servicecatalog.RequestNew
GlideappScriptHelper	Packages.com.glideapp.servicecatalog.ScriptHelper
GlideappSecurityMask	Packages.com.glideapp.servicecatalog.SecurityMask
GlideappSequencedQuestionSet	Packages.com.glideapp.questionset.SequencedQuestionSe
GlideappTaskApprovalHelper	Packages.com.glideapp.servicecatalog.TaskApprovalHelpe
GlideappTimeAgo	Packages.com.glideapp.live_feed.TimeAgo
GlideappUpdateVersion	Packages.com.glideapp.version.UpdateVersion
GlideappUpgradeQuestions	Packages.com.glideapp.survey.UpgradeQuestions
GlideappValveProcessor	Packages.com.glideapp.servicecatalog.valve.ValveProces

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideappVariable	Packages.com.glideapp.servicecatalog.variables.Variable
GlideappVariablePoolQuestionSet	Packages.com.glideapp.servicecatalog.variables.VariableP
GlideappWizardIntercept	Packages.com.glideapp.wizard.WizardIntercept
GlideappWMILoader	Packages.com.glideapp.ecc.WMILoader
GlideappWorkflow	Packages.com.glideapp.workflow.Workflow
GlideappWorkflowHelper	Packages.com.glideapp.workflow.WorkflowHelper
GlideappYesNoQuestion	Packages.com.glideapp.questionset.YesNoQuestion
GlideAQueryExplanation	Packages.com.glide.db.explain.AQueryExplanation
GlideArchiver	Packages.com.glide.db.auxiliary.Archiver
GlideArchiver	Packages.com.glide.db.auxiliary.ArchiveRecord
GlideArchiveRestore	Packages.com.glide.db.auxiliary.ArchiveRestore
GlideArchiveStatus	Packages.com.glide.db.auxiliary.ArchiveStatus
GlideArchiveTable	Packages.com.glide.db.auxiliary.ArchiveTable
GlideARecurrence	Packages.com.glide.schedule.recurrence.ARecurrence
GlideAttachmentIndexDocument	Packages.com.glide.lucene.attachments.AttachmentIndex
GlideAttachmentIndexTypes	Packages.com.glide.lucene.attachments.AttachmentIndex
GlideAttributes	Packages.com.glide.util.GlideAttributes
GlideAuditDelete	Packages.com.glide.audit.AuditDelete
GlideAuditor	Packages.com.glide.script.Auditor
GlideAutomationEncrypter	Packages.com.glide.util.AutomationEncrypter
GlideBaseTag	Packages.com.glide.ui.jelly.tags.BaseTag
GlideBootstrap	Packages.com.glide.db.impex.Bootstrap
GlideBoundedIntProperty	Packages.com.glide.util.BoundedIntProperty
GlideCacheManager	Packages.com.glide.sys.cache.CacheManager
GlideCalendar	Packages.com.glide.schedule.GlideCalendar
GlideCalendarWeekEntry	Packages.com.glide.calendar.GlideCalendarWeekEntry
GlideCanceledUITransaction	Packages.com.glide.ui.CanceledUITransaction
GlideCascadeFromDelete	Packages.com.glide.db.CascadeFromDelete
GlideCatalogCloneWorker	Packages.com.glide.catalog.cloner.CatalogCloneWorker
GlideChannel	Packages.com.glide.channel.Channel
GlideChannelManager	Packages.com.glide.channel.ChannelManager
GlideChannelMessage	Packages.com.glide.channel.ChannelMessage
GlideChartFieldColors	Packages.com.glide.ui.chart.dataset.ChartFieldColors
GlideChartGeneratorFactory	Packages.com.glide.ui.chart.ChartGeneratorFactory

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideChartUtil	Packages.com.glide.ui.chart.dataset.ChartUtil
GlideChartValue	Packages.com.glide.ui.chart.dataset.ChartValue
GlideChecksum	Packages.com.glide.util.Checksum
GlideChoice	Packages.com.glide.choice.Choice
GlideChoiceList	Packages.com.glide.choice.ChoiceList
GlideChoiceListGenerator	Packages.com.glide.choice.ChoiceListGenerator
GlideChoiceListSet	Packages.com.glide.choice.ChoiceListSet
GlideChoiceListUpdateSaver	Packages.com.glide.update.saver.ChoiceListUpdateSaver
GlideClientBrowserTimes	Packages.com.glide.client_transaction.ClientBrowserTimes
GlideClientNetworkTimes	Packages.com.glide.client_transaction.ClientNetworkTimes
GlideClusterMessage	Packages.com.glide.cluster.ClusterMessage
GlideClusterState	Packages.com.glide.cluster.ClusterState
GlideClusterSynchronizer	Packages.com.glide.cluster.ClusterSynchronizer
GlideCMSLinkHelper	Packages.com.glide.cms.CMSLinkHelper
GlideCMSPageLink	Packages.com.glide.cms.CMSPageLink
GlideCollectionEnumerator	Packages.com.glide.util.CollectionEnumerator
GlideCollectionQueryCalculator	Packages.com.glide.ui.CollectionQueryCalculator
GlideCollisionDetector	Packages.com.glide.update.collisions.CollisionDetector
GlideColumnAttributes	Packages.com.glide.db.impex.ColumnAttributes
GlideCompanyResolver	Packages.com.glide.misc.CompanyResolver
GlideCompiler	Packages.com.glide.script.Compiler
GlideCompositeElement	Packages.com.glide.db.CompositeElement
GlideConfiguration	Packages.com.glide.notification.Configuration
GlideContentConfig	Packages.com.glide.cms.ContentConfig
GlideContentPage	Packages.com.glide.cms.ContentPage
GlideContentSite	Packages.com.glide.cms.ContentSite
GlideContentType	Packages.com.glide.cms.ContentType
GlideContextMenu	Packages.com.glide.db_context_menu.ContextMenu
GlideContextMenuItem	Packages.com.glide.db_context_menu.ContextMenuItem
GlideContextualSecurityManager	Packages.com.glide.sys.security.ContextualSecurityManage
GlideController	Packages.com.glide.script.GlideController
GlideConverter	Packages.com.glide.currency.Converter
GlideCookieMan	Packages.com.glide.ui.CookieMan
GlideCounter	Packages.com.glide.util.Counter

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideCredentials	Packages.com.glide.communications.crypto.Credentials
GlideCryptoService	Packages.com.glide.security.CryptoService
GlideCSVExporter	Packages.com.glide.generators.CSVExporter
GlideCustomerScriptFixer	Packages.com.glide.script.api.CustomerScriptFixer
GlideDatabaseVerifier	Packages.com.glide.db.DatabaseVerifier
GlideDatabaseViewLink	Packages.com.glide.database_views.DatabaseViewLink
GlideDataSource	Packages.com.glide.db.impex.datasource.DataSource
GlideDate	Packages.com.glide.glideobject.GlideDate
GlideDateTime	Packages.com.glide.glideobject.GlideDateTime
GlideDateUtil	Packages.com.glide.util.DateUtil
GlideDBAction	Packages.com.glide.db.DBAction
GlideDBAggregateQuery	Packages.com.glide.db.DBAggregateQuery
GlideDBAggregateUtil	Packages.com.glide.db.DBAggregateUtil
GlideDBCategoryDebug	Packages.com.glide.secondary_db_pools.DBCategoryDebu
GlideDBChangeManager	Packages.com.glide.db.change.DBChangeManager
GlideDBCompositeAction	Packages.com.glide.db.DBCompositeAction
GlideDBConfiguration	Packages.com.glide.db.DBConfiguration
GlideDBConfigurationManager	Packages.com.glide.db.DBConfigurationManager
GlideDBConfigurationManagerEventHandler	Packages.com.glide.db.DBConfigurationManagerEventHan
GlideDBConfigurationParms	Packages.com.glide.db.DBConfigurationParms
GlideDBConfigurationV2Migrator	Packages.com.glide.db.DBConfigurationV2Migrator
GlideDBConnection	Packages.com.glide.db.pool.DBConnection
GlideDBConnectionPool	Packages.com.glide.db.pool.DBConnectionPool
GlideDBConnectionPooler	Packages.com.glide.db.pool.DBConnectionPooler
GlideDBDelete	Packages.com.glide.db.DBDelete
GlideDBI	Packages.com.glide.db.DBI
GlideDBImageProvider	Packages.com.glide.db_image.DBImageProvider
GlideDBIMySQL	Packages.com.glide.db.rdbms.mysql.DBIMySQL
GlideDBIndex	Packages.com.glide.db.DBIndex
GlideDBKeyStoreFactory	Packages.com.glide.certificates.DBKeyStoreFactory
GlideDBMacro	Packages.com.glide.ui.jelly.tags.form.DBMacro
GlideDBMicroStats	Packages.com.glide.db.DBMicroStats
GlideDBMultiTargetAction	Packages.com.glide.db.DBMultiTargetAction
GlideDBObjectManager	Packages.com.glide.db.DBObjectManager

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideDBObjectToken	Packages.com.glide.db.DBObjectToken
GlideDBPoolTest	Packages.com.glide.secondary_db_pools.DBPoolTest
GlideDBPropertiesConfig	Packages.com.glide.db.DBPropertiesConfig
GlideDBQuery	Packages.com.glide.db.DBQuery
GlideDBTypes	Packages.com.glide.db.DBTypes
GlideDBUpdate	Packages.com.glide.db.DBUpdate
GlideDBUtil	Packages.com.glide.db.DBUtil
GlideDBView	Packages.com.glide.db.DBView
GlideDebugEvaluator	Packages.com.glide.jsdebug.DebugEvaluator
GlideDefaultUpdateSaver	Packages.com.glide.update.saver.DefaultUpdateSaver
GlideDiagram	Packages.com.glide.diagrammer.Diagram
GlideDiagramAction	Packages.com.glide.diagrammer.DiagramAction
GlideDiagramEdge	Packages.com.glide.diagrammer.DiagramEdge
GlideDiagramElement	Packages.com.glide.diagrammer.DiagramElement
GlideDiagramNode	Packages.com.glide.diagrammer.DiagramNode
GlideDistUpgradeRunner	Packages.com.glide.dist.upgrade.runner.DistUpgradeRunne
GlideDocument	Packages.com.glide.util.GlideDocument
GlideDomain	Packages.com.glide.db.domain.Domain
GlideDomainDisplay	Packages.com.glide.db.domain.DomainDisplay
GlideDomainHierarchy	Packages.com.glide.db.domain.DomainHierarchy
GlideDomainNumberProvider	Packages.com.glide.db.domain.DomainNumberProvider
GlideDomainPathDisplay	Packages.com.glide.db.domain.DomainPathDisplay
GlideDomainPathProvider	Packages.com.glide.db.domain.DomainPathProvider
GlideDomainSpoolProvider	Packages.com.glide.db.domain.DomainSpoolProvider
GlideDomainSupport	Packages.com.glide.db.domain.DomainSupport
GlideDomainTree	Packages.com.glide.db.domain.DomainTree
GlideDomainUtil	Packages.com.glide.db.domain.DomainUtil
GlideDomainValidator	Packages.com.glide.db.domain.DomainValidator
GlideDuration	Packages.com.glide.glideobject.GlideDuration
GlideECBDownloader	Packages.com.glide.currency.ECBDownloader
GlideECCQueueTransformer	Packages.com.glide.db.impex.ECCQueueTransformer
GlideElement	Packages.com.glide.script.GlideElement
GlideElementDescriptor	Packages.com.glide.db.ElementDescriptor
GlideElementIterator	Packages.com.glide.util.ElementIterator

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideElementUserImage	Packages.com.glide.script.glide_elements.GlideElementUse
GlideElementXMLSerializer	Packages.com.glide.script.GlideElementXMLSerializer
GlideEmail	Packages.com.glide.notification.Email
GlideEmailAction	Packages.com.glide.notification.outbound.EmailAction
GlideEmailFormatter	Packages.com.glide.notification.outbound.EmailFormatter
GlideEmailInbound	Packages.com.glide.notification.inbound.EmailInbound
GlideEmailOutbound	Packages.com.glide.notification.outbound.EmailOutbound
GlideEmailReader	Packages.com.glide.notification.inbound.EmailReader
GlideEmailSender	Packages.com.glide.notification.outbound.EmailSender
GlideEmailWatermark	Packages.com.glide.notification.EmailWatermark
GlideEmitter	Packages.com.glide.ui.jelly.Emitter
GlideEncrypter	Packages.com.glide.util.Encrypter
GlideEncryptionContext	Packages.com.glide.sys.EncryptionContext
GlideEncryptionContextCipher	Packages.com.glide.sys.security.EncryptionContextCipher
GlideEncryptionWrapperDB	Packages.com.glide.sys.security.EncryptionWrapperDB
GlideEncryptionWrapperDBAdmin	Packages.com.glide.sys.security.EncryptionWrapperDBAdmi
GlideEncryptionWrapperNAE	Packages.com.glide.sys.security.EncryptionWrapperNAE
GlideEncryptionWrapperNAEAdmin	Packages.com.glide.sys.security.EncryptionWrapperNAEAdr
GlideEscalationManager	Packages.com.glide.escalation.EscalationManager
GlideEscalationTimerJobMarkII	Packages.com.glide.job.EscalationTimerJobMarkII
GlideEvaluator	Packages.com.glide.script.Evaluator
GlideEvent	Packages.com.glide.policy.Event
GlideEventManager	Packages.com.glide.policy.EventManager
GlideExcelExporter	Packages.com.glide.generators.ExcelExporter
GlideExcelLoader2	Packages.com.glide.db.impex.ExcelLoader2
GlideExecutionPlan	Packages.com.glide.execution_plan.ExecutionPlan
GlideExpressionWrapper	Packages.com.glide.ui.jelly.GlideExpressionWrapper
GlideExtensionPoint	Packages.com.glide.sys.ExtensionPoint
GlideFieldList	Packages.com.glide.processors.FieldList
GlideFile	Packages.com.glide.script.proxy.File
GlideFileUtil	Packages.com.glide.util.FileUtil
GlideFilter	Packages.com.glide.script.Filter
GlideFilterList	Packages.com.glide.script.FilterList
GlideFixCatalogPlans	Packages.com.glide.fixes.FixCatalogPlans

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideFixDeliveryPlans	Packages.com.glide.fixes.FixDeliveryPlans
GlideFixGroups	Packages.com.glide.fixes.FixGroups
GlideFixItemOptionsAgain	Packages.com.glide.fixes.FixItemOptionsAgain
GlideFixRules	Packages.com.glide.fixes.FixRules
GlideFixSpellCheck	Packages.com.glide.fixes.FixSpellCheck
GlideFixStuff	Packages.com.glide.fixes.FixStuff
GlideFixUsers	Packages.com.glide.fixes.FixUsers
GlideForm	Packages.com.glide.ui.GlideForm
GlideFormCommon	Packages.com.glide.ui.GlideFormCommon
GlideFormulator	Packages.com.glide.ui.GlideFormulator
GlideGauge	Packages.com.glide.report.Gauge
GlideGovernor	Packages.com.glide.sys.util.Governor
GlideGregorianCalendar	Packages.com.glide.util.GlideGregorianCalendar
GlideGroup	Packages.com.glide.sys.Group
GlideGroupByListTag	Packages.com.glide.ui.jelly.tags.form.GroupByListTag
GlideGuid	Packages.com.glide.util.Guid
GlideHierarchicalReference	Packages.com.glide.glideobject.HierarchicalReference
GlideHistorySet	Packages.com.glide.audit.HistorySet
GlideHistoryTag2	Packages.com.glide.ui.jelly.tags.mergedata.HistoryTag2
GlideHostUtil	Packages.com.glide.util.HostUtil
GlideHTTPClient	https://www.youtube.com/watch?feature=player_detailpag
GlideHTTPRequest	Packages.com.glide.communications.HTTPRequest
GlideHTTPResponse	Packages.com.glide.communications.HTTPResponse
GlideI18NStyle	Packages.com.glide.ui.I18NStyle
GlideICALUtil	Packages.com.glide.policy.ICALUtil
GlideIConstants	Packages.com.glide.util.IConstants
GlideIGlideRecord	Packages.com.glide.util.IGlideRecord
GlideImageLoader	Packages.com.glide.script.ImageLoader
GlideImpersonate	Packages.com.glide.sys.Impersonate
GlideImportLog	Packages.com.glide.db.impex.ImportLog
GlideImportMap	Packages.com.glide.db.impex.ImportMap
GlideImportMapField	Packages.com.glide.db.impex.ImportMapField
GlideImportSet	Packages.com.glide.system_import_set.ImportSet
GlideImportSetLoader	Packages.com.glide.system_import_set.ImportSetLoader

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideImportSetRun	Packages.com.glide.system_import_set.ImportSetRun
GlideImportSetTransformer	Packages.com.glide.system_import_set.ImportSetTransforme
GlideImportSetTransformerWorker	Packages.com.glide.system_import_set.ImportSetTransforme
GlideIndexDescriptor	Packages.com.glide.db.IndexDescriptor
GlideIndexUtils	Packages.com.glide.db.IndexUtils
GlideIntegerTime	Packages.com.glide.glideobject.IntegerTime
GlideInternalElementTypeChoiceList	Packages.com.glide.script.InternalElementTypeChoiceList
GlideInternalMonitor	Packages.com.glide.ui.monitor.InternalMonitor
GlideIOMonitor	Packages.com.glide.ui.monitor.IOMonitor
GlideIOStats	Packages.com.glide.db.IOStats
GlideIPAddressUtil	Packages.com.glide.util.IPAddressUtil
GlideIQueryCondition	Packages.com.glide.util.IQueryCondition
GlideIRow	Packages.com.glide.db.meta.IRow
GlideIRQuerySummary	Packages.com.glide.db.ir.IRQuerySummary
GlideIRQuerySummarySimple	Packages.com.glide.db.ir.IRQuerySummarySimple
GlideISecurityManager	Packages.com.glide.sys.security.ISecurityManager
GlideITableIterator	Packages.com.glide.db.access.ITableIterator
GlideJDBCLoader	Packages.com.glide.db.impex.JDBCLoader
GlideJDBCProbeTestWorker	Packages.com.glide.db.impex.JDBCProbeTestWorker
GlideJellyContext	Packages.com.glide.ui.jelly.GlideJellyContext
GlideJellyRunner	Packages.com.glide.ui.jelly.JellyRunner
GlideJID	Packages.com.glide.xmpp.JID
GlideJSTestUtil	Packages.com.glide.autotester.JSTestUtil
GlideJSUtil	Packages.com.glide.script.JSUtil
GlideLabelEventHandler	Packages.com.glide.labels.LabelEventHandler
GlideLabelGenerator	Packages.com.glide.db.LabelGenerator
GlideLabelUtil	Packages.com.glide.labels.LabelUtil
GlideLDAP	Packages.com.glide.sys.ldap.LDAP
GlideLDAPConfig	Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPConfig
GlideLDAPConfigurations	Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPConfigurations
GlideLDAPErrorAnalyzer	Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPErrorAnalyzer
GlideLDAPGroups	Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPGroups
GlideLDAPRefresh	Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPRefresh
GlideLDAPResult	Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPResult

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideLDAPTarget	Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPTarget
GlideLDAPTransformQueue	Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPTransformQueue
GlideLDAPUsers	Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPUsers
GlideLDAPUserUpdate	Packages.com.glide.sys.ldap.LDAPUserUpdate
GlideList	Packages.com.glide.glideobject.GlideList
GlideListGroupProperties	Packages.com.glide.list_v2.ListGroupProperties
GlideListLabel	Packages.com.glide.ui.ListLabel
GlideListM2MBacking	Packages.com.glide.glideobject.GlideListM2MBacking
GlideListProperties	Packages.com.glide.list_v2.ListProperties
GlideListSearchQuery	Packages.com.glide.ui.ListSearchQuery
GlideLoader	Packages.com.glide.db.impex.Loader
GlideLoadTestDirector	Packages.com.glide.load_test.LoadTestDirector
GlideLocale	Packages.com.glide.sys.GlideLocale
GlideLocaleLoader	Packages.com.glide.currency.LocaleLoader
GlideLock	Packages.com.glide.script.Lock
GlideLog	Packages.com.glide.util.Log
GlideLogCleanup	Packages.com.glide.util.LogCleanup
GlideLogFileReader	Packages.com.glide.log_file.LogFileReader
GlideLRUCache	Packages.com.glide.sys.cache.LRUCache
GlideLuceneTextIndexEvent	Packages.com.glide.lucene.TextIndexEvent
GlideMarkupWriter	Packages.com.glide.util.MarkupWriter
GlideMemoryActive	Packages.com.glide.ui.monitor.MemoryActive
GlideMemoryCache	Packages.com.glide.ui.monitor.MemoryCache
GlideMemoryRecord	Packages.com.glide.script.GlideMemoryRecord
GlideMemorySwap	Packages.com.glide.ui.monitor.MemorySwap
GlideMemoryTable	Packages.com.glide.util.MemoryTable
GlideMemoryTotal	Packages.com.glide.ui.monitor.MemoryTotal
GlideMetaData	Packages.com.glide.script.MetaData
GlideMIDServerInfoAccessor	Packages.com.glide.script.MIDServerInfoAccessor
GlideMobileExtensions	Packages.com.glide.ui.MobileExtensions
GlideModule	Packages.com.glide.sys.Module
GlideMultipleAction	Packages.com.glide.db.MultipleAction
GlideMultipleDelete	Packages.com.glide.db.MultipleDelete
GlideMultipleInsert	Packages.com.glide.db.MultipleInsert

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideMultipleUpdate	Packages.com.glide.db.MultipleUpdate
GlideMutex	Packages.com.glide.sys.lock.Mutex
GlideMySQLWatch	Packages.com.glide.sys.stats.MySQLWatch
GlideNumber	Packages.com.glide.script.glide_elements.GlideNumber
GlideNumberManager	Packages.com.glide.db.NumberManager
GlideObjectManager	Packages.com.glide.glideobject.GlideObjectManager
GlideObjectUtil	Packages.com.glide.util.ObjectUtil
GlideOrderingDefinitionCreator	Packages.com.glide.sorting.OrderingDefinitionCreator
GlideOrderingManager	Packages.com.glide.sorting.OrderingManager
GlideOutputWriter	Packages.com.glide.ui.io.GlideOutputWriter
GlideOutputWriterFactory	Packages.com.glide.ui.io.GlideOutputWriterFactory
GlideOverLoadedChoices	Packages.com.glide.script.OverLoadedChoices
GlidePartitionMonitor	Packages.com.glide.ui.monitor.PartitionMonitor
GlidePivotTableSummaryTableWriter	Packages.com.glide.ui.chart.dataset.PivotTableSummaryTa
GlidePlugin	Packages.com.glide.sys.Plugin
GlidePluginManager	Packages.com.glide.sys.PluginManager
GlidePluginManagerWorker	Packages.com.glide.sys.PluginManagerWorker
GlidePluginUtils	Packages.com.glide.sys.PluginUtils
GlidePOP3Reader	Packages.com.glide.notification.inbound.POP3Reader
GlidePOP3ReaderJob	Packages.com.glide.job.POP3ReaderJob
GlidePopup	Packages.com.glide.ui.Popup
GlidePriceGenerator	Packages.com.glide.currency.PriceGenerator
GlidePriceLoader	Packages.com.glide.currency.PriceLoader
GlideProcessor	Packages.com.glide.processors.Processor
GlideProcessRunner	Packages.com.glide.util.ProcessRunner
GlideProgressMonitor	Packages.com.glide.worker.ProgressMonitor
GlideProgressWorker	Packages.com.glide.worker.ProgressWorker
GlideProperties	Packages.com.glide.util.GlideProperties
GlidePropertiesDB	Packages.com.glide.util.GlidePropertiesDB
GlideProperty	Packages.com.glide.util.GlideProperty
GlidePublicPage	Packages.com.glide.ui.PublicPage
GlideQueryBreadcrumbs	Packages.com.glide.misc.QueryBreadcrumbs
GlideQueryCondition	Packages.com.glide.db.conditions.QueryCondition
GlideQueryFormatter	Packages.com.glide.ui.jelly.tags.form.QueryFormatter

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideQueryString	Packages.com.glide.db.QueryString
GlideQueryTerm	Packages.com.glide.db.QueryTerm
GlideRecord	Packages.com.glide.script.GlideRecord
GlideRecordCache	Packages.com.glide.sys.RecordCache
GlideRecordEnsurer	Packages.com.glide.misc.RecordEnsurer
GlideRecordFactory	Packages.com.glide.script.GlideRecordFactory
GlideRecordKeySetLoader	Packages.com.glide.script.GlideRecordKeySetLoader
GlideRecordLock	Packages.com.glide.script.RecordLock
GlideRecordPopupGenerator	Packages.com.glide.calendar.RecordPopupGenerator
GlideRecordRollback	Packages.com.glide.script.GlideRecordRollback
GlideRecordSet	Packages.com.glide.script.GlideRecordSet
GlideRecordSimpleSerializer	Packages.com.glide.script.GlideRecordSimpleSerializer
GlideRecordXMLSerializer	Packages.com.glide.script.GlideRecordXMLSerializer
GlideReferenceField	Packages.com.glide.script.ReferenceField
GlideRegexUtil	Packages.com.glide.util.RegexUtil
GlideRegisterEscalationEvents	Packages.com.glide.fixes.RegisterEscalationEvents
GlideRelatedListReconciler	Packages.com.glide.misc.RelatedListReconciler
GlideRelationship	Packages.com.glide.sys.Relationship
GlideRelationships	Packages.com.glide.db.Relationships
GlideRelationshipUtil	Packages.com.glide.sys.RelationshipUtil
GlideRemoteGlideRecord	Packages.com.glide.communications.RemoteGlideRecord
GlideRenderProperties	Packages.com.glide.ui.RenderProperties
GlideReplaceUpdateFiles	Packages.com.glide.util.ReplaceUpdateFiles
GlideReplicationEngine	Packages.com.glide.replicator.ReplicationEngine
GlideReport	Packages.com.glide.report.Report
GlideReportChoiceList	Packages.com.glide.script.ReportChoiceList
GlideReportViewManagement	Packages.com.glide.report.ReportViewManagement
GlideRequestMap	Packages.com.glide.util.RequestMap
GlideRevertToOutOfBox	Packages.com.glide.update.RevertToOutOfBox
GlideRhinoEnvironment	Packages.com.glide.script.GlideRhinoEnvironment
GlideRhinoHelper	Packages.com.glide.script.GlideRhinoHelper
GlideRhinoScope	Packages.com.glide.script.RhinoScope
GlideRhinoScopeHandler	Packages.com.glide.script.GlideRhinoScopeHandler
GlideRhinoTestCase	Packages.com.glide.autotester.RhinoTestCase

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideRRDBAlertProcessor	Packages.com.glide.rrdb.alerts.RRDBAlertProcessor
GlideRRDBDefinition	Packages.com.glide.rrdb.RRDBDefinition
GlideRunScriptJob	Packages.com.glide.job.RunScriptJob
GlideSchedule	• Packages.com.glide.schedules.Schedule • Packages.java.util.TimeZone
GlideScheduleDateTime	Packages.com.glide.glideobject.ScheduleDateTime
GlideScheduleDateTimeSpan	Packages.com.glide.schedules.ScheduleDateTimeSpan
GlideScheduleItem	Packages.com.glide.schedules.ScheduleItem
GlideScheduler	Packages.com.glide.schedule.GlideScheduler
GlideScheduleTimeMap	Packages.com.glide.schedules.ScheduleTimeMap
GlideScheduleTimeSpan	Packages.com.glide.schedules.ScheduleTimeSpan
GlideScriptChoiceList	Packages.com.glide.script.ChoiceList
GlideScriptedProgressWorker	Packages.com.glide.worker.ScriptedProgressWorker
GlideScriptEvaluator	Packages.com.glide.script.ScriptEvaluator
GlideScriptGlobals	Packages.com.glide.script.GlideScriptGlobals
GlideScriptListener	Packages.com.glide.listener.ScriptListener
GlideScriptProcessor	Packages.com.glide.processors.ScriptProcessor
GlideScriptRecordUtil	Packages.com.glide.script.GlideRecordUtil
GlideScriptSystemUtilDB	Packages.com.glide.script.GlideSystemUtilDB
GlideScriptViewManager	Packages.com.glide.ui.ViewManager
GlideScriptWriter	Packages.com.glide.script.ScriptWriter
GlideSearchQueryFormatter	Packages.com.glide.text_search.SearchQueryFormatter
GlideSecondaryDatabaseBehindnessChecker	Packages.com.glide.secondary_db_pools.SecondaryDatab
GlideSecondaryDatabaseConfiguration	Packages.com.glide.secondary_db_pools.SecondaryDatab
GlideSecurityManager	Packages.com.glide.sys.security.GlideSecurityManager
GlideSecurityQueryCalculator	Packages.com.glide.sys.security.SecurityQueryCalculator
GlideSecurityUtils	Packages.com.glide.util.SecurityUtils
GlideSelfCleaningMutex	Packages.com.glide.sys.lock.SelfCleaningMutex
GlideServiceAPIWrapper	Packages.com.glide.service_api.ServiceAPIWrapper
GlideServlet	Packages.com.glide.ui.GlideServlet
GlideServletRequest	Packages.com.glide.ui.GlideServletRequest
GlideServletResponse	Packages.com.glide.ui.GlideServletResponse
GlideServletStatus	Packages.com.glide.ui.ServletStatus

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideSession	Packages.com.glide.sys.GlideSession
GlideSessionDebug	Packages.com.glide.sys.SessionDebug
GlideSessions	Packages.com.glide.ui.Sessions
GlideSessionSandbox	Packages.com.glide.script.GlideSessionSandbox
GlideShellCommand	Packages.com.glide.util.ShellCommand
GlideSimmerDown	Packages.com.glide.db.change.command.SimmerDown
GlideSimmerUp	Packages.com.glide.db.change.command.SimmerUp
GlideSimpleDateFormatEx	• Packages.com.glide.util.SimpleDateFormatEx • Packages.com.glide.util.SimpleDateFormat 注: Packages.com.glide.util.SimpleDateFormatEx パック は、Packages.com.glide.util.SimpleDateFormat パッケー す。
GlideSimpleHTTPClient	Packages.com.glide.communications.SimpleHTTPClient
GlideSimpleScriptListener	Packages.com.glide.listener.SimpleScriptListener
GlideSMTPConnection	Packages.com.glide.notification.outbound.SMTPConnection
GlideSMTPSender	Packages.com.glide.notification.outbound.SMTPSender
GlideSMTPSenderJob	Packages.com.glide.job.SMTPSenderJob
GlideSOAPDocument	Packages.com.glide.communications.soap.SOAPDocumen
GlideSOAPRequest	Packages.com.glide.communications.soap.SOAPRequest
GlideSOAPResponse	Packages.com.glide.communications.soap.SOAPResponse
GlideSOAPSecurity	Packages.com.glide.processors.soap.SOAPSecurity
GlideSOAPSigner	Packages.com.glide.communications.soap.SOAPSigner
GlideSocket	Packages.com.glide.script.proxy.Socket
GlidesoftGlideAttributesImpl	Packages.com.glidesoft.util.xml.GlideAttributesImpl
GlidesoftXMLMemoryTable	Packages.com.glidesoft.util.xml.XMLMemoryTable
GlideSQLChildMonitor	Packages.com.glide.monitor.sql.SQLChildMonitor
GlideSQLDebug	Packages.com.glide.ui.diagnostics.SQLDebug
GlideSQLDeleteMonitor	Packages.com.glide.monitor.sql.SQLDeleteMonitor
GlideSQLInsertMonitor	Packages.com.glide.monitor.sql.SQLInsertMonitor
GlideSQLResponseMonitor	Packages.com.glide.monitor.sql.SQLResponseMonitor
GlideSQLSelectMonitor	Packages.com.glide.monitor.sql.SQLSelectMonitor
GlideSQLUpdateMonitor	Packages.com.glide.monitor.sql.SQLUpdateMonitor
GlideSSHClient	Packages.com.glide.communications.SSHClient
GlideStack	Packages.com.glide.sys.GlideStack

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideStatistician	Packages.com.glide.sys.stats.Statistician
GlideStatsInfo	Packages.com.glide.monitor.StatsInfo
GlideStatus	Packages.com.glide.util.GlideStatus
GlideStopWatch	Packages.com.glide.util.StopWatch
GlideStorageUtils	Packages.com.glide.db.meta.StorageUtils
GlideStringCache	Packages.com.glide.sys.cache.StringCache
GlideStringInputStream	Packages.com.glide.util.StringInputStream
GlideStringList	Packages.com.glide.collections.StringList
GlideStringUtil	Packages.com.glide.util.StringUtil
GlideSubQuery	Packages.com.glide.db.conditions.SubQuery
GlideSubstituteURL	Packages.com.glide.notification.substitution.SubstituteURL
GlideSummaryTableGroupReader	Packages.com.glide.ui.chart.dataset.SummaryTableGroupR
GlideSummaryTableOrderedReader	Packages.com.glide.ui.chart.dataset.SummaryTableOrdere
GlideSummaryTableReader	Packages.com.glide.ui.chart.dataset.SummaryTableReader
GlideSummaryTableWriter	Packages.com.glide.ui.chart.dataset.SummaryTableWriter
GlideSynchronizedLRUCache	Packages.com.glide.sys.cache.SynchronizedLRUCache
GlideSysAttachment	Packages.com.glide.ui.SysAttachment
GlideSysAttachmentInputStream	Packages.com.glide.ui.SysAttachmentInputStream
GlideSysBRThreadMonitor	Packages.com.glide.monitor.threads.SysBRThreadMonitor
GlideSysChoice	Packages.com.glide.script.SysChoice
GlideSysConcurrencyMonitor	Packages.com.glide.monitor.threads.SysConcurrencyMonito
GlideSysCPUThreadMonitor	Packages.com.glide.monitor.threads.SysCPUThreadMonitor
GlideSysDateUtil	Packages.com.glide.sys.util.SysDateUtil
GlideSysDBThreadMonitor	Packages.com.glide.monitor.threads.SysDBThreadMonitor
GlideSysField	Packages.com.glide.db.SysField
GlideSysFileUtil	Packages.com.glide.sys.util.SysFileUtil
GlideSysForm	Packages.com.glide.ui.SysForm
GlideSysForms	Packages.com.glide.ui.SysForms
GlideSysList	Packages.com.glide.ui.SysList
GlideSysListControl	Packages.com.glide.ui.SysListControl
GlideSysLog	Packages.com.glide.sys.SysLog
GlideSYSMany2Many	Packages.com.glide.db.SYSMany2Many
GlideSysMessage	Packages.com.glide.ui.SysMessage
GlideSysNetThreadMonitor	Packages.com.glide.monitor.threads.SysNetThreadMonitor

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideSysRelatedList	Packages.com.glide.ui.SysRelatedList
GlideSysSection	Packages.com.glide.ui.SysSection
GlideSysSemaphore	Packages.com.glide.sys.util.SysSemaphore
GlideSystem	Packages.com.glide.script.GlideSystem
GlideSystemDateUtil	Packages.com.glide.script.system.GlideSystemDateUtil
GlideSystemUtil	Packages.com.glide.util.SystemUtil
GlideSystemUtilDB	Packages.com.glide.script.system.GlideSystemUtilDB
GlideSystemUtilScript	Packages.com.glide.script.system.GlideSystemUtilScript
GlideSysThreadMonitor	Packages.com.glide.monitor.threads.SysThreadMonitor
GlideSysUserList	Packages.com.glide.ui.SysUserList
GlideTable	Packages.com.glide.db.meta.Table
GlideTableChoiceList	Packages.com.glide.script.TableChoiceList
GlideTableCleaner	Packages.com.glide.misc.TableCleaner
GlideTableCleanerJob	Packages.com.glide.job.TableCleanerJob
GlideTableCreator	Packages.com.glide.db.impex.TableCreator
GlideTableDescriptor	Packages.com.glide.db.TableDescriptor
GlideTableGroupMover	Packages.com.glide.db.auxiliary.TableGroupMover
GlideTableManager	Packages.com.glide.db.TableManager
GlideTableMover	Packages.com.glide.db.auxiliary.TableMover
GlideTableParentChange	Packages.com.glide.db.table.TableParentChange
GlideTableParentColumnChange	Packages.com.glide.db.table.TableParentColumnChange
GlideTaskToken	Packages.com.glide.execution_plan.TaskToken
GlideTemplate	Packages.com.glide.script.Template
GlideTestAgent	Packages.com.glide.autotester.GlideTestAgent
GlideTextIndexEvent	Packages.com.glide.ts.event.TextIndexEvent
GlideThreadAttributes	Packages.com.glide.ui.GlideThreadAttributes
GlideThreadUtil	Packages.com.glide.util.ThreadUtil
GlideTime	Packages.com.glide.glideobject.GlideTime
GlideTimelineFrameSeparator	Packages.com.glide.schedules.TimelineFrameSeparator
GlideTimelineItem	Packages.com.glide.schedules.TimelineItem
GlideTimelineSpan	Packages.com.glide.schedules.TimelineSpan
GlideTomcatHelper	Packages.com.glide.startup.TomcatHelper
GlideTransaction	Packages.com.glide.sys.Transaction
GlideTransactionManager	Packages.com.glide.sys.TransactionManager

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideTransferAuditDataHelper	Packages.com.glide.audit.TransferAuditDataHelper
GlideTransformer	Packages.com.glide.db.impex.transformer.Transformer
GlideTreePicker	Packages.com.glide.ui.TreePicker
GlideTSAnalysisViewer	Packages.com.glide.ts.cluster.TSAnalysisViewer
GlideTSAnalyticsProcessor	Packages.com.glide.ts.cluster.TSAnalyticsProcessor
GlideTSChainsHandler	Packages.com.glide.ts.trends.TSChainsHandler
GlideTSChainsLoader	Packages.com.glide.ts.trends.TSChainsLoader
GlideTSChainsPusher	Packages.com.glide.ts.trends.TSChainsPusher
GlideTSChainsSummarizer	Packages.com.glide.ts.trends.TSChainsSummarizer
GlideTSClusterDefinitions	Packages.com.glide.ts.cluster.TSClusterDefinitions
GlideTSDebug	Packages.com.glide.ts.util.TSDebug
GlideTSDidYouMean	Packages.com.glide.ts.util.TSDidYouMean
GlideTSGlobalKeywordSummarizer	Packages.com.glide.ts.trends.TSGlobalKeywordSummarizer
GlideTSIndexStatistician	Packages.com.glide.ts.stats.TSIndexStatistician
GlideTSIndexStopGenerator	Packages.com.glide.ts.stats.TSIndexStopGenerator
GlideTSIndexTables	Packages.com.glide.ts.indexer.TSIndexTables
GlideTSKeywordHandler	Packages.com.glide.ts.trends.TSKeywordHandler
GlideTSKeywordLoader	Packages.com.glide.ts.trends.TSKeywordLoader
GlideTSKeywordPusher	Packages.com.glide.ts.trends.TSKeywordPusher
GlideTSMoversViewer	Packages.com.glide.ts.cluster.TSMoversViewer
GlideTSSearchStatistician	Packages.com.glide.ts.stats.TSSearchStatistician
GlideTSSearchSummary	Packages.com.glide.ts.trends.TSSearchSummary
GlideTSTopSearches	Packages.com.glide.ts.util.TSTopSearches
GlideTSUtil	Packages.com.glide.ts.util.TSUtil
GlideTSVersion	Packages.com.glide.ts.TSVersion
GlideUIAction	Packages.com.glide.ui.action.UIAction
GlideUISession	Packages.com.glide.ui.Session
GlideUnloader	Packages.com.glide.db.impex.Unloader
GlideUpdateManager2	Packages.com.glide.update.UpdateManager2
GlideUpdateSet	Packages.com.glide.update.UpdateSet
GlideUpdateSetController	Packages.com.glide.system_update_set.UpdateSetControlle
GlideUpdateSetPreviewer	Packages.com.glide.update.UpdateSetPreviewer
GlideUpdateSetWorker	Packages.com.glide.update.UpdateSetWorker
GlideUpdateSyncher	Packages.com.glide.policy.UpdateSyncher

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
GlideUpdateTableChoiceList	Packages.com.glide.script.UpdateTableChoiceList
GlideUpgrade	Packages.com.glide.sys.Upgrade
GlideUpgradeArtifactManager	Packages.com.glide.misc.UpgradeArtifactManager
GlideUpgradeLog	Packages.com.glide.update.UpgradeLog
GlideUpgradeMonitor	Packages.com.glide.update.UpgradeMonitor
GlideURI	Packages.com.glide.ui.GlideURI
GlideURL	Packages.com.glide.util.GlideURL
GlideURLUTF8Encoder	Packages.com.glide.util.URLUTF8Encoder
GlideURLUtil	Packages.com.glide.util.URLUtil
GlideUser	Packages.com.glide.sys.User
GlideUserAuthenticator	Packages.com.glide.sys.UserAuthenticator
GlideUserGroup	Packages.com.glide.sys.UserGroup
GlideUtil	Packages.com.glide.util.GlideUtil
GlideViewRuleNavigator	Packages.com.glide.ui.ViewRuleNavigator
GlideWarDeleter	Packages.com.glide.misc.WarDeleter
GlideWarDownloader	Packages.com.glide.misc.WarDownloader
GlideWhiteListManager	Packages.com.glide.script.api.GlideWhiteListManager
GlideWikiModel	Packages.com.glide.wiki.GlideWikiModel
GlideWorkerThread	Packages.com.glide.worker.WorkerThread
GlideWorkerThreadManager	Packages.com.glide.sys.WorkerThreadManager
GlideWSClient	Packages.com.glide.util.WSClient
GlideWSDefinition	Packages.com.glide.wsdlreader.WSDefinition
GlideWSDLReader	Packages.com.glide.wsdlreader.GlideWSDLReader
GlideXMLChoiceListSerializer	Packages.com.glide.choice.XMLChoiceListSerializer
GlideXMLDocument	Packages.com.glide.util.XMLDocument
GlideXMLElementIterator	Packages.com.glide.util.XMLElementIterator
GlideXMLGlideRecordSerializer	Packages.com.glide.processors.xmlhttp.XMLGlideRecordSer
GlideXMLParameters	Packages.com.glide.util.XMLParameters
GlideXMLStats	Packages.com.glide.ui.XMLStats
GlideXMLSysMetaSerializer	Packages.com.glide.processors.xmlhttp.XMLSysMetaSerialize
GlideXMLUtil	Packages.com.glide.util.XMLUtil
GlideZipUtil	Packages.com.glide.util.ZipUtil
RhinoEnvironment	Packages.com.glide.script.RhinoEnvironment
RhinoHelper	Packages.com.glide.script.RhinoHelper

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
SecurelyAccess	Packages.com.glide.sys.util.SecurelyAccess
ServiceAPI	Packages.com.glide.service_api.ServiceAPI
SncAddress32Bit	Packages.com.snc.commons.networks.Address32Bit
SncAliasApplier	Packages.com.snc.field_normalization.AliasApplier
SncAppFiles	Packages.com.snc.apps.api.AppFiles
SncApplicationFileListener	Packages.com.snc.apps.db.ApplicationFileListener
SncAppsAccess	Packages.com.snc.apps.api.AppsAccess
SncAppsUI	Packages.com.snc.apps.api.AppsUI
SncASensor	Packages.com.snc.discovery.sensor.ASensor
SncAuthentication	Packages.com.snc.authentication.digest.Authentication
SncBaselineCMDB	Packages.com.snc.cmdb.BaselineCMDB
SncBulkCopy	Packages.com.snc.ha.clone.BulkCopy
SncClassifiedProcess	Packages.com.snc.discovery.sensor.ClassifiedProcess
SncClassify	Packages.com.snc.discovery.sensor.snmp.Classify
SncCloneController	Packages.com.snc.ha.clone.CloneController
SncCloneInstance	Packages.com.snc.ha.clone.instance.Instance
SncCloneLogger	Packages.com.snc.ha.clone.CloneLogger
SncCloneTask	Packages.com.snc.ha.clone.CloneTask
SncCloneUtils	Packages.com.snc.ha.clone.CloneUtils
SncConfiguration	Packages.com.snc.field_normalization.db.Configuration
SncConfigurations	Packages.com.snc.field_normalization.Configurations
SncConnectionTest	Packages.com.snc.ha.connectivity.ConnectionTest
SncDBChangeManagerFactoryHA	Packages.com.snc.db.clone.change.DBChangeManagerF
SncDeviceHistory	Packages.com.snc.discovery.logging.DeviceHistory
SncDiscoveryCancel	Packages.com.snc.discovery.DiscoveryCancel
SncDiscoveryClassification	Packages.com.snc.discovery.DiscoveryClassification
SncDiscoveryLog	Packages.com.snc.discovery.logging.DiscoveryLog
SncDiscoveryRanges	Packages.com.snc.commons.networks.DiscoveryRanges
SncDiscoveryRangesDB	Packages.com.snc.discovery.DiscoveryRangesDB
SncDiscoveryReconciler	Packages.com.snc.discovery.database.DiscoveryReconcile
SncDiscoverySNMPClassification	Packages.com.snc.discovery.sensor.snmp.DiscoverySNMPCl
SncDiscoveryUtils	Packages.com.snc.discovery.DiscoveryUtils
SncDropBackupTablesTask	Packages.com.snc.ha.clone.instance.DropBackupTablesTas
SncDropTablesTask	Packages.com.snc.ha.clone.DropTablesTask

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
SncEC2Properties	Packages.com.snc.ec2.EC2Properties
SncECMDBUtil	Packages.com.snc.cmdb.ECMDBUtil
SncElrondClient	Packages.com.snc.customer_logon.ElrondClient
SncExpert	Packages.com.snc.expert.Expert
SncExpertInstance	Packages.com.snc.expert.ExpertInstance
SncExpertPanel	Packages.com.snc.expert.ExpertPanel
SncExtantDataJob	Packages.com.snc.field_normalization.db.ExtantDataJob
SncExtantDataJobState	Packages.com.snc.field_normalization.ExtantDataJobState
SncFailoverController	Packages.com.snc.da.gateway.replication.FailoverControlle
SncFileTree	Packages.com.snc.apps.file.FileTree
SncGatewayCache	Packages.com.snc.da.gateway.GatewayCache
SncGatewayClone	Packages.com.snc.da.gateway.clone.GatewayClone
SncGatewayConnectivity	Packages.com.snc.da.gateway.GatewayConnectivity
SncGatewayPluginStartup	Packages.com.snc.da.gateway.replication.GatewayPluginS
SncGatewayTruncateHierarchy	Packages.com.snc.da.gateway.clone.GatewayTruncateHie
SncGlideGateways	Packages.com.snc.da.gateway.GlideGateways
SncHAClone	Packages.com.snc.ha.clone.HAClone
SncHAConnectionTest	Packages.com.snc.ha.connectivity.HAConnectionTest
SncHADatabaseCheck	Packages.com.snc.ha.tablecheck.HADatabaseCheck
SncHAPairingUtils	Packages.com.snc.ha.HAPairingUtils
SncHAReplicationController	Packages.com.snc.ha.HAReplicationController
SncHAReplicationQueueSnapshotBuilder	Packages.com.snc.ha.tablecheck.HAReplicationQueueSna
SncHATableCheck	Packages.com.snc.ha.tablecheck.HATableCheck
SncHATableCheckThread	Packages.com.snc.ha.tablecheck.HATableCheckThread
SncHATableQuickCheck	Packages.com.snc.ha.tablecheck.HATableQuickCheck
SncHATableRepair	Packages.com.snc.ha.tablecheck.HATableRepair
SncHAUtils	Packages.com.snc.ha.HAUtils
SncHostname	Packages.com.snc.discovery.utils.Hostname
SncInstanceClone	Packages.com.snc.ha.clone.instance.InstanceClone
SncInstanceConnectionTest	Packages.com.snc.ha.connectivity.InstanceConnectionTest
SncInstanceRollback	Packages.com.snc.ha.clone.instance.InstanceRollback
SncIPAddressV4	Packages.com.snc.commons.networks.IPAddressV4
SncIPAddressV6	Packages.com.snc.commons.networks.IPAddressV6
SncIPAuthenticator	Packages.com.snc.ipauthenticator.IPAuthenticator

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
SncIPIterator	Packages.com.snc.commons.networks.IPIterator
SncIPList	Packages.com.snc.commons.networks.IPList
SncIPMetaCollection	Packages.com.snc.commons.networks.IPMetaCollection
SncIPNetmaskV4	Packages.com.snc.commons.networks.IPNetmaskV4
SncIPNetworkV4	Packages.com.snc.commons.networks.IPNetworkV4
SncIPRangeV4	Packages.com.snc.commons.networks.IPRangeV4
SncJRobinGraphDef	Packages.com.snc.jrobin.JRobinGraphDef
SncLayer7Connections	Packages.com.snc.discovery.Layer7Connections
SncMACAddress	Packages.com.snc.commons.networks.MACAddress
SncMACAddressMfr	Packages.com.snc.commons.networks.MACAddressMfr
SncMakeAndModel	Packages.com.snc.cmdb.MakeAndModel
SncMIDConfigParameter	Packages.com.snc.commons.MIDConfigParameter
SncMIDServerRangesDB	Packages.com.snc.discovery.MIDServerRangesDB
SncNormalCoalescer	Packages.com.snc.field_normalization.NormalCoalescer
SncNormalizer	Packages.com.snc.field_normalization.Normalizer
SncNormalValueChanger	Packages.com.snc.field_normalization.NormalValueChange
SncNotifySNC	Packages.com.snc.system.NotifySNC
SncOnCallRotation	Packages.com.snc.on_call_rotation.OnCallRotation
SncPendingValueCollector	Packages.com.snc.field_normalization.PendingValueCollec
SncPreferences	Packages.com.snc.field_normalization.Preferences
SncPrintServerHelper	Packages.com.snc.discovery.database.PrintServerHelper
SncProbe	Packages.com.snc.discovery.Probe
SncProbeRunTime	Packages.com.snc.discovery.perfmon.ProbeRunTime
SncRBSensorProcessor	Packages.com.snc.discovery_automation.RBSensorProcesso
SncReadTest	Packages.com.snc.ha.ReadTest
SncReclassifyCI	Packages.com.snc.cmdb.ReclassifyCI
SncRelationships	Packages.com.snc.cmdb.Relationships
SncReplicationAdvisor	Packages.com.snc.db.replicate.ReplicationAdvisor
SncReplicationEngine	Packages.com.snc.db.replicate.ReplicationEngine
SncReplicationQueue	Packages.com.snc.db.replicate.ReplicationQueue
SncRequestCredentials	Packages.com.snc.customer_logon.RequestCredentials
SncRrdGlideBackendFactory	Packages.com.snc.jrobin.RrdGlideBackendFactory
SncRuleApplier	Packages.com.snc.field_normalization.RuleApplier
SncRuleToPending	Packages.com.snc.field_normalization.RuleToPending

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GlideScriptable オブジェクト置換リスト (続く)

GlideScriptable クラス	パッケージコール
SncSAMCounter	Packages.com.snc.software_asset_management.SAMCoun
SncScheduleDropBackupTablesTask	Packages.com.snc.ha.clone.instance.ScheduleDropBackup
SncScrapeIANAEnterpriseNumbers	Packages.com.snc.discovery.database.ScrapeIANAEnterpri
SncScrapeIEEENICCodes	Packages.com.snc.discovery.database.ScrapeIEEENICCode
SncSendNotificationTask	Packages.com.snc.ha.clone.instance.SendNotificationTask
SncSensorProcessor	Packages.com.snc.discovery.SensorProcessor
SncSerialNumber	Packages.com.snc.discovery.SerialNumber
SncSerialNumberList	Packages.com.snc.discovery.SerialNumberList
SncSessionMate	Packages.com.snc.discovery.SessionMate
SncSimmerControl	Packages.com.snc.ha.clone.instance.SimmerControl
SncTableEditor	Packages.com.snc.apps.api.TableEditor
SncTableRotation	Packages.com.snc.db.replicate.TableRotation
SncTableRotationExtension	Packages.com.snc.db.replicate.TableRotationExtension
SncTableRotationExtensions	Packages.com.snc.db.replicate.TableRotationExtensions
SncTableRotationWatcher	Packages.com.snc.db.replicate.TableRotationWatcher
SncTransformApplier	Packages.com.snc.field_normalization.TransformApplier
SncTreeBuilder	Packages.com.snc.apps.tree.TreeBuilder
SncTriggerSynchronizer	Packages.com.snc.automation.TriggerSynchronizer
SncValue	Packages.com.snc.field_normalization.db.Value
TestExtension	Packages.com.glide.junit.misc.TestExtension
UINotification	Packages.com.glide.ui.UINotification

パッケージコール削除ツールのエラータイプ

パッケージコール削除ツールによって生成される可能性のあるエラータイプを次に示します。

エラータイプ

エラーメッセージ	説明	ソリューション
クラス名を解析できませんでした	スクリプトの行にパッケージコールのような記述 (`Packages.com.glide` を含む行など) が含まれていますが、調べたところ、スクリプト可能オブジェクト名に対応するクラス名を解析するためのテキストが不十分です。	通常、このエラータイプは問題になりませんが、何らの理由でパーサーが解析できない有効なクラスをスクプトが参照している場合は、エラーとしてフラグが付られます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エラータイプ (続く)

エラーメッセージ	説明	ソリューション
クラスが存在しません	スクリプトの行に、存在しない Java クラスへの識別可能なパッケージコールがあります。これは、誤って入力されたか、Java クラスが存在しなくなったことが原因である可能性があります。いずれの場合も、スクリプトの行は現在何も実行しておらず、実行されると常にエラーが生成される可能性があります。	このエラータイプは通常、作成者が意図したことをが ては実行していたとしても、現在は実行していない リプトを示します。元のスクリプトを再確認し、無効 パッケージコールを削除する必要があります。
クラスがスクリプト可能クラスではありません	スクリプトの行に、現在スクリプト可能とマークされていない既存の ServiceNow Java クラスへの識別可能なパッケージコールがあります。現在、対応するスクリプト可能な名前がないため、コールを置き換えることはできません。	このスクリプトを変換するには、Java クラスを使用 ないようにスクリプトを書き換えるか、ServiceNow Inc., がクラスにスクリプト可能な名前を提供するま 待ちます。
クラスにスクリプト可能な名前がありません	スクリプトの行に、現在スクリプト可能な名前のない既存の ServiceNow Java クラスへの識別可能なパッケージコールがあります。	このエラーは「クラスがスクリプト可能クラスでは ありません」エラーよりも発生する可能性は低いです が、そのエラーと同様、このスクリプトを変換するに は、Java クラスを使用しないようにスクリプトを書 換えるか、ServiceNow, Inc., がクラスにスクリプト 能な名前を提供するまで待ちます。
アサインされる変数名がスクリプト可能な名前と競合しています	変数名がスクリプト可能な名前と同じです。たとえば、変数名 `GlideSession` が GlideSession Java クラスのスクリプト可能な名前と同じであるため、`var GlideSession = Packages.com.glide.sys.GlideSession.get();` でこのエラーが生成されます。	このスクリプトを変換するには、その変数名をスクリプト内のすべての出現箇所で変更する必要があります。この例では、該当行を `var gsession = Packages.com.glide.sys.GlideSession.get` に変更して、競合を解消できます。また、スクリプトで使用されている他のすべての場所でも、必ず変数名 変更します。
内部エラー - 置	ツールで、パッケージコールの置換を現在評価しているスクリプトテキストを見つけることができません。	このエラータイプが発生することはほとんどありません。発生した場合は、コードを調べてエラーを修正します。それでもエラーメッセージが表示される場合は、 クニカルサポートでインシデントを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エラータイプ (続く)

エラーメッセージ	説明	ソリューション
換する文字列が見つかりません		

サービスクリエーター

サービスクリエーターは、HR 部門が今後の教育のための授業料払い戻しを提供するといったサービスカタログを通じて部門がカスタムサービスを提供するのを可能にします。

発行された各サービスには、関連するレコードプロデューサのカタログアイテムがあります。アドミニストレーターとして指定されたユーザーとエディターは、これらのカタログアイテムを生成し設計します。エンドユーザーは、カタログアイテムを注文することによってサービスを要求できます。

すべてのサービスは、関連するアプリケーションとモジュールがある発行されているサービスカテゴリに属しています。ユーザーがサービスのカタログアイテムを注文すると、ServiceNowシステムは、そのサービスカテゴリのアプリケーション内に新しいタスクレコードを作成します。部門のサービス実行者として指定されたユーザーは、これらのサービス要求を満たすためのタスクを完了します。

サービスクリエーターのプロセス

サービスクリエータープロセスには、サービスカテゴリの要求と発行、エディターとサービス履行者の指定、サービスの作成と発行、サービス要求の提出と実行が含まれます。

サービスカテゴリを要求して発行する

ユーザー (通常は部門マネージャー) は、部門のサービスカテゴリを要求できます。このユーザーは、サービスカテゴリに関する名前、部署、マネージャーなどのサービスカテゴリに関する高度な情報を提供します。

カタログアドミニストレーターは、サービスカテゴリを発行する要求を承認し、ServiceNowカテゴリに関連付けられたサービス要求を管理するためのアプリケーションを作成し、アプリケーションのシステムコンポーネントを作成することができます。

エディターとサービス履行者を指定する

サービスカテゴリが発行されると、関連付けられたマネージャーはエディターとサービス履行者を指定します。エディターは、そのサービスカテゴリ内のサービスを作成および変更できます。サービス提供者は、サービス要求によって生成されたタスクを完了できます。

マネージャー、エディター、およびサービス履行者は、サービスカテゴリが属する部門のメンバーとします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスの作成と発行

マネージャーとエディターは、サービスカテゴリ内でサービスを作成します。サービスデザインインターフェイスは、サービスの作成および変更のための作業領域を提供します。

サービスが完了すると、マネージャーはサービスをサービスカタログに発行します。

サービス要求を提出し、履行する

エンドユーザーは、サービスカタログ要求を提出することで、発行されたサービスを要求できます。この要求によって、サービスカテゴリアプリケーション内に新しいタスクレコードが作成されます。サービス履行者は、サービス要求を満たすためのタスクを完了する。

関連情報

サービスクリエーター

サービスクリエーターをアクティブ化する

サービスクリエータープラグインがまだ有効になっていない場合、アドミニストレーターはアクティブにしてアプリケーションにアクセスする必要があります。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。
3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

   注: ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません： <プラグイン名> のプラグインの有効化 (`Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>`)」

   インストールが完了するとメッセージが表示されます。

サービスクリエーターと共にインストール

いくつかのタイプのコンポーネントがサービスクリエーターとともにインストールされています。

デモデータはサービスクリエーター とともに入手できます。デモデータは部門サービスのサービスカタログカテゴリを提供します。

新しいサービスカテゴリを作成すると、そのサービスカテゴリのコンポーネントも作成されます。

以下のコンポーネントがサービスクリエーターに追加されます：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル

サービスクリエーター

テーブル	説明
サービスカテゴリー [catalog_category_request]	すべてのサービスカテゴリを保存します。
サービスカテゴリ要求ユーザー [catalog_category_request_user]	サービスカテゴリの履行者を追跡します。これらのレコードを使用して、必要に応じてロールを付与または削除します。
サービス [sc_cat_item_producer_service]	すべてのサービスを保存します。
サービスカテゴリーア プリケーションメニュー [service_category_app_menu]	各サービスカテゴリのアプリケーションメニューを保存します。
サービスカテゴリーのユーザーロール [service_category_user_role]	サービスカテゴリのエディターであるためにロールを付与されたユーザーを追跡します。

UI アクション

UI アクション	説明
カテゴリとテーブルの作成	要求されたサービスカテゴリを承認し、そのカテゴリのシステムコンポーネントを作成します。
カテゴリの公開を要求	サービスクリエーターがカテゴリを発行するように要求します。
新規サービスを作成	このサービスカテゴリに新しいサービスを作成します。
テーブル定義を表示	サービスカテゴリーのタスクテーブル定義[sys_db_object]を開きます。
タスクリストを表示	このサービスカテゴリに関連付けられたタスクのリストを表示します。

UI ポリシー

UI ポリシー	説明
期限を隠す	要求ありの状態または期限日が空の場合、サービスカテゴリフォームの期限日フィールドを非表示にします。
空白の場合カテゴリを非表示にする	サービスカテゴリフォームでカテゴリフィールドが空白の場合は非表示にします。
発行済みの表示	状態が作成済みだが未発行または発行準備が整っている場合は、[サービスカテゴリー]フォームの[発行済み] フォームのチェックボックスを表示します。
テーブル名を非表示にする	テーブルが値を持つ場合、サービスカテゴリフォームでテーブルを表示し、テーブル名を非表示にします。
カテゴリ名を隠す	状態が要求ありまたは拒否されている場合、サービスカテゴリフォームに名前を表示しません。
テーブル名読み取り専用	サービスカテゴリフォームで状態が要求無しの場合部門とテーブルの名前を読取りのみにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ポリシー	説明
エディターを隠す	状態が要求有りまたは拒否の場合、サービスカテゴリフォームのエディターフィールドを非表示にします。

プロパティ

プロパティ	説明
glide.citizen_developer.category.auto_publish	新しいサービスカテゴリを作成すると、部門サービスカテゴリのサブカテゴリとしてサービスカタログに自動的に追加されます。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
glide.citizen_developer.set_category_roles	新しいサービスのカテゴリを設定できるロールのリスト (コンマ区切り形式) • タイプ：文字列 • デフォルト値：admin および catalog_admin • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
glide.service_creator.auto_add_to_category	新しいサービスは部門固有のカテゴリに加えて部門サービスカタログカテゴリに自動的に追加します。 • タイプ：true | false • デフォルト値：true • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル

スクリプトインクルード

スクリプトインクルード	説明
serviceCategoryIsUnpublished	サービスカテゴリが未発行の場合に true を返すグローバル関数です。
getMyCatalogCategories	現在のユーザーがマネージャーまたはエディターであるカテゴリのリストを返すグローバル関数です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントスクリプト

クライアントスクリプト	説明
重複カテゴリ名の確認	要求されたサービスカテゴリが既存のサービスカテゴリと同じ名前である場合に、サービスカテゴリ要求フォームに警告を表示します。
テーブル名を修正	サービスカテゴリ要求フォームで有効なテーブル名を保証します。
ドラフトサービスを非表示	必要に応じて、サービスカテゴリ要求フォームのドラフトサービス関連リストを非表示にします。
テーブル名を提案する	サービスカテゴリ要求フォームで新しいサービスカテゴリ要求に有効なテーブル名を提案します。
カテゴリ発行済み	サービスカテゴリ要求フォームで[発行済み]を選択すると、ヘルプメッセージを表示します。
履行者を非表示にする	必要に応じて、サービスカテゴリリクエストフォームで履行者関連リストを非表示にします。
エディター メッセージ	適切な場合、フィールドのヘルプメッセージを表示します。
その他のテーブルメッセージ	選択した部門の既存のサービスカテゴリテーブルに関する情報を提供します。
状態メッセージ	フィールドのヘルプメッセージを表示します。

ビジネスルール

ビジネスルール	説明
サービス問合せ	catalog_adminロールを持たないユーザが、マネージャーまたはエディターのサービスカテゴリー内でサービスレコードを見るのを制限します。
新規サービス	新しいsc_cat_item_producer_serviceレコードが作成されたときにメッセージを表示します。
テーブル名は必須	サービスカテゴリ要求が承認前に有効なテーブル名を持つことを保証します。
履行者のロールを削除する	あるカテゴリからサービスを削除したときに、サービス履行者から関連するロールを削除します。
カテゴリ要求問合せ	catalog_admin ロールを持たないユーザを、マネージャーやエディターのサービスカテゴリーレコードを表示することを制限します。
エディターのロール	サービスカテゴリエディターから関連するロールを追加および削除します。
すべてのユーザーロールを削除	適切な時にサービスカテゴリエディターから関連するロールを削除します。
カテゴリ発行済み	サービスカテゴリ要求フォームで[発行済み]チェックボックスがオンになっているときに、状態をカタログに発行済みに設定します。
空白の場合はサービス名を追加する	何も提供されていない場合は、サービス名を埋めます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスルール	説明
部門サービスカテゴリを追加	部門サービスサービスカタログカテゴリに新しいサービスを追加します。
デフォルトの遂行ユーザー	受託人が指定されていない場合、カテゴリマネージャーをサービスタスクの受託人とします。
抹消されたドラフトサービスの数	フィールドヘルプメッセージを生成します。
カタログカテゴリ要求認可済み	新しいサービスカテゴリを使用するために必要なコンポーネントを作成します。
マネージャーロール	カテゴリマネージャーに関連するロールを付与します。
新しいサービスの処方	新しいサービスの処方を入力して、アサイン先グループまたはユーザーを設定します。
getDepartmentUsers	部門のユーザーを返します。
項目問合せの草稿	catalog_adminロールを持たないユーザを、その者がマネージャーまたはエディターであるドラフトサービスレコードを表示することを制限します。
履行者ロールの付与	サービス実施者に関連するロールを付与します。
部門名称をスクラッチパッド	フィールドヘルプメッセージを生成します。
スクラッチパッド	フィールドヘルプメッセージを生成します。
部門の他のテーブル	フィールドヘルプメッセージを生成します。
単一カテゴリから単一カタログを設定する	新しいサービスの既定のカタログを作成します。

メール通知

サービスクリエーターの電子メール通知

名前	説明
発行されたサービスカテゴリ	カテゴリの要求が承認されたときにサービスカテゴリのマネージャーに通知します。
拒否されたサービスカテゴリ	カテゴリの要求が拒否されたときにサービスカテゴリのマネージャーに通知します。
サービスカテゴリ要求挿入済み	新しいカテゴリ要求が作成されたときにカタログアドミニストレーターに通知します。
サービスカテゴリ作成済み	カテゴリが作成されると、サービスカテゴリのマネージャーに通知します。
サービスカテゴリの発行が要求された	カテゴリの発行が要求されたときにカタログアドミニストレーターに通知します。
サービスカテゴリの要求	新しいカテゴリ要求が作成されたときに、サービスカテゴリのマネージャーに通知する。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいサービスカテゴリと共に作成されたコンポーネント

サービスクリエーターアプリケーションを使用して新しいサービスカテゴリを発行すると、ServiceNowシステムは、そのカテゴリのサービスのコンポーネントを作成します。

これらのコンポーネントは、サービスクリエーターアプリケーションとともにインストールされるコンポーネントとは区別されます。新しいサービスカテゴリごとに、次のコンポーネントが追加されます。

新しいサービスカテゴリで作成されたテーブル

名前	説明
<部門名>タスク[<サービスカテゴリーテーブル名>]	サービスカテゴリの要求タスクレコードを格納するテーブル。このテーブルはタスクテーブルを拡張します。このテーブルの名前は、サービスカテゴリが関連付けられている部門およびサービスカテゴリレコードのそのテーブル名フィールドによって定義します。ユーザーがこのテーブルのレコードにアクセスできるように、新しいアプリケーションメニューとモジュールが作成されます。このテーブルのレコードは、新しい番号[sys_numbers]レコードを使用して番号が付けられます。

新しいサービスカテゴリで作成されたユーザーロール

ロール	説明
<service category table name>_user	サービスカテゴリの要求レコードにアクセスするために必要なユーザーロールです。サービスカテゴリのテーブル名によりロールの名前が決まります。サービスカテゴリのマネージャー、エディター、またはサービス履行者として指定されたユーザーは、自動的にこのロールを受け取ります。このロールを持つユーザーだけがサービスカテゴリのタスクレコードを割り当てられます。ACLは、このロールを持つユーザーが関連するサービスタスクテーブルにアクセスできるように作成します。

新しいサービスカテゴリで作成された電子メール通知

名前	説明
グループにコメントされたタスク	ユーザーがコメントを追加したときにサービスタスクレコードが割り当てられたことをグループに通知します。
受託人に対してコメントされたタスク	ユーザーがコメントを追加したときに割り当てられるサービスタスクレコードをユーザーに通知します。
グループに対して閉じられたタスク	レコードが閉じられたときにサービスタスクレコードが割り当てられたことをグループに通知します。
受託人のために注意されたタスク	ユーザーが作業メモを追加したときに割り当てられたサービスタスクレコードをユーザーに通知します。
グループに割り当てられたタスク	レコードがそのグループに割り当てられたときに、サービスタスクレコードが割り当てられていることをグループに通知します。
受託人に割り当てられたタスク	レコードがそのユーザーに割り当てられたときに割り当てられるサービスタスクレコードをユーザーに通知します。
グループに対して注意されたタスク	ユーザーが作業メモを追加したときにサービスタスクレコードが割り当てられたことをグループに通知します。
受託人に閉じられたタスク	レコードが閉じられたときに割り当てられたサービスタスクレコードをユーザーに通知します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいサービスカテゴリで作成された電子メール通知 (続く)

名前	説明
ユーザー用に開かれたタスク	レコードが作成されたときにサービスタスクレコードを開いたことをユーザーに通知します。
ユーザーに対して閉じられたタスク	レコードが閉じられたときにサービスタスクレコードを開いたことをユーザーに通知します。
ユーザー宛てコメントされたタスク	ユーザーがコメントを追加したときにサービスタスクレコードを開いたことをユーザーに通知します。

新しいサービスカテゴリで作成されたフォーム

名前	説明
<部門名>タスク	サービスカテゴリの要求タスクレコードを表示するためのフォーム。デフォルトでは、このフォームはサービスに関する質問と要求ユーザーが提供する回答を表示するためのフォーマッタを含むレイアウトを用います。

サービスカタログカテゴリー

名前	説明
<サービスカテゴリー名>	サービスカテゴリ内で作成された新しいサービスのデフォルトのサービスカタログカテゴリです。

サービスクリエーターのロール

サービスクリエーターアプリケーションは、特定のロールを使用します。

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

ロール

ロール名 [名前]	Description (説明)
`[service_category_user]` `[service_category_table_name_user]`	サービスカテゴリの要求レコードにアクセスします。サービスカテゴリのテーブル名により、ロールの名前が決まります。サービスカテゴリのマネージャー、エディター、またはサービス履行者として指定されたユーザーは、自動的にこのロールを受け取ります。
カタログアドミニストレーター `[catalog_admin]`	サービスカテゴリとサービスを作成、編集、発行し、テンプレート通知などの通知を作成および編集します。カタログアドミニストレーターは、主にサービスカテゴリ要求の承認を担当します。
カタログマネージャー `[catalog_manager]`	サービスを作成、編集、発行し、エディターとサービス履行者を指定します。サービスカテゴリのアドミニストレーターとして指定されたユーザーは、このロールを自動的に受け取ります。
カタログ エディター `[catalog_editor]`	サービスを作成および編集します。サービスカテゴリのエディターとして指定されたユーザーは、このロールを自動的に受け取ります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスを管理する

部門アドミニストレーターは、サービスクリエーターを使用して、新しいサービスカテゴリを要求し、そのカテゴリのエディターとサービス提供者を指定し、サービスを作成し発行できます。

このタスクについて

エディターはサービスを作成して変更します。サービス履行者は、サービス要求から生成されたタスクを完了します。

サービスカテゴリの要求には、通常、要求を行う部門マネージャーであるサービスカテゴリマネージャーを割り当てる必要があります。要求が提出された後、カタログアドミニストレーターはサービスカテゴリの発行要求を承認します。カテゴリが発行されると、サービスカテゴリマネージャーはサービスカテゴリエディターおよびサービス履行者を割り当て、サービスカタログで提供するサービスを作成できます。

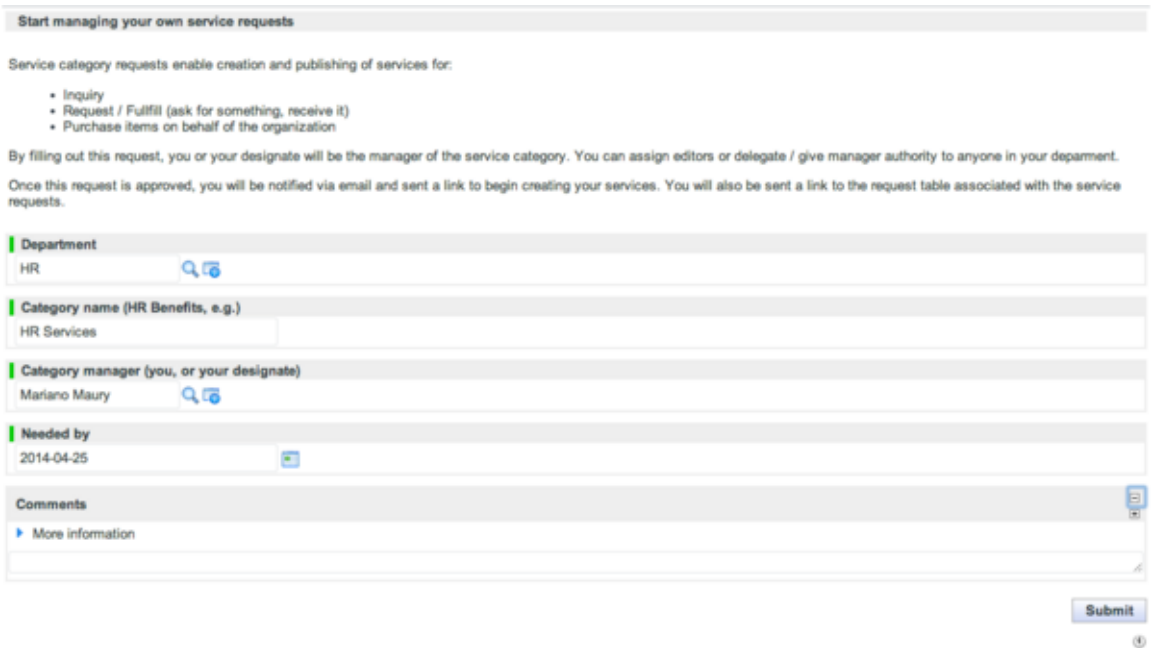
新しいサービスカテゴリを要求するには：

手順

1. [すべて] > [セルフサービス] > [サービスカタログ] に移動します。
2. 部門サービスカテゴリをを選択します。

   部門サービスカテゴリはサービスクリエーターが利用できるデモデータの一部です。このカテゴリが存在しない場合、カタログアドミニストレーターはサービスカテゴリリクエストカタログアイテムを既存のカテゴリに追加します。

3. サービスカテゴリリクエスト項目を選択します。
4. 必要に応じてデフォルト値を変更します(テーブルを参照ください)。
5. [送信] をクリックします。



サービスの管理

フィールド	説明
部門	このカテゴリ要求する部門。デフォルトでは、この値は現ユーザーの部門です。この値を変更すると、種別名そしてカテゴリマネージャーの値も変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
カテゴリ名	新しいサービスカテゴリの名前。デフォルトでは、ServiceNowは部門値に基づいた名前を用います。
カテゴリマネージャー	新しいサービスカテゴリに指定されたマネージャー。デフォルトでは、ServiceNowは選択した部門のマネージャーを使用します。
要求者：	新しいサービスカテゴリが利用可能になる日付。
コメント	サービスカテゴリを説明する追加のコメント。この情報は、サービスカテゴリフォームのレコード入力として表示されます。

設計サービス

サービスクリエーターは、サービスを設計するためのインターフェイスを含みます。

このインターフェイスを使用すると、サービスカテゴリマネージャーとエディターは、サービスの作成と発行、およびサービスの詳細の編集を行えます。

すべてのサービスは、サービスカテゴリに属している必要があります。部門またはグループに既存のサービスカテゴリがない場合は、そのカテゴリのサービスを設計する前に新しいサービスカテゴリを作成する必要があります。

通知テンプレートを追加

テンプレート通知を追加します。

手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [通知テンプレート] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 提出時フィールドで、イベントが起動を選択します。
4. イベント名フィールドで、 **ccr**テンプレート を選択します。
5. その他の通知の詳細を入力します。
6. [送信] をクリックします。

   新しいテンプレート通知によって、その時点以降に発行されたすべてのサービスカテゴリの通知が作成される。

通知設定

すべてのサービスカテゴリは、サービス要求を満たすタスクが割り当てられたときの通知など、一連の関連する通知から始まります。

サービスクリエーター > テンプレート通知モジュールで定義された通知は、ユーザーが新しいサービスカテゴリを作成するときにコピーされます。

テンプレート通知は、新しいサービスカテゴリが承認または拒否されたときの通知など、サービスクリエーター アプリケーション自体の通知とは区別されます。サービスクリエーター アプリケーションの通知は、[サービスクリエーター] > [通知] で定義されます。

システムアドミニストレーターは、テンプレート通知を追加および削除できます。

カテゴリとテーブルの作成

要求が提出された後、カタログアドミニストレーターは要求を承認または拒否できます。

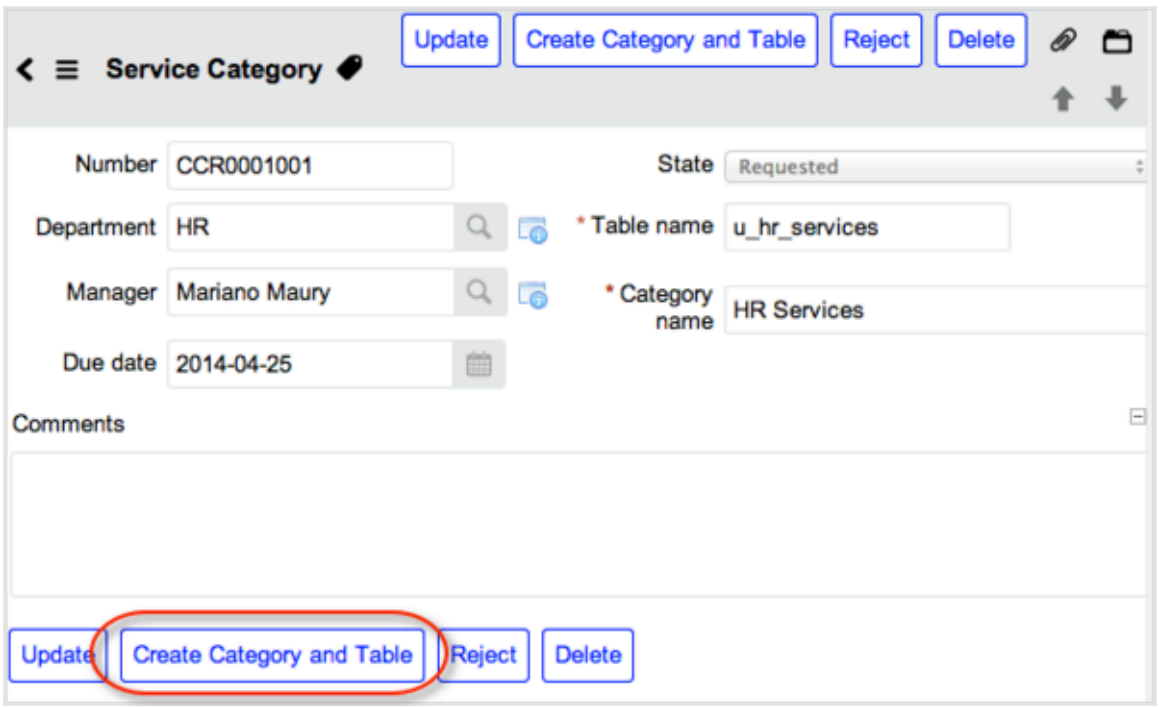
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
要求を承認すると、サービスカテゴリ用の新しいテーブルが作成され、カテゴリ名をアプリケーションラベルとして用い、アプリケーションナビゲーターにアプリケーションが追加され、そしてサービスカテゴリの 状態をカタログに発行と設定します。

手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [カテゴリ要求] に移動します。
2. *State* の値が *Requested* のレコードを開きます。
3. 要求されたサービスカテゴリを確認します。ServiceNow は *Department* に基づいて提案された *Table name* を提供します。
   指定したカテゴリ名またはテーブル名を持つサービスカテゴリが存在する場合は、そのフィールドの下にメッセージが表示されます。これらのフィールドには一意の値を使用します。
4. カテゴリとテーブルを作成するをクリックして要求を承認するまたは拒否します。

   インスタンスに対して通知が有効になっている場合、サービスカテゴリ *Manager* に対して承認または却下が通知されます。



   サービスカテゴリを発行した後、新しいテーブルにアクセスするには、アプリケーションナビゲーターで新しいアプリケーションに移動するか、サービスカテゴリフォームの [タスクリストを表示] 関連リンクをクリックします。

関連情報

サービスを管理する

テンプレート通知を削除する

テンプレート通知を削除すると、新しいサービスカテゴリで通知が使えなくなりますが、すでに作成されたサービスカテゴリの通知は削除されません。

手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [通知テンプレート] に移動します。
2. 通知レコードを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [削除] をクリックします。
4. **OK**をクリックして確認する。

エディターを指定

エディターは、サービスカテゴリ内のサービスを作成および変更できます。

このタスクについて

エディターは自動的にcatalog_editorロールを受け取ります。

サービスカテゴリマネージャーは、発行されたサービスカテゴリのエディターを指定できます。

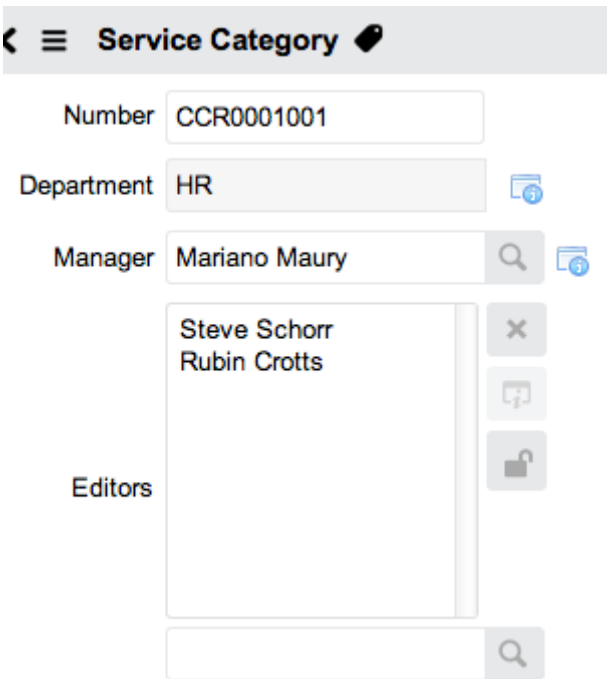
手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [自分のサービスカテゴリ] に移動します。
2. *State* の値が *Published to Catalog* のレコードを選択します。
3. *Editors* フィールドの横にあるロックアイコンをクリックします。
4. 参照ルックアップアイコンを使用してエディターとして指定するユーザーを選択します。

   適切な部門のユーザーのみが選択できます。

5. すべてのエディターを追加すると、更新をクリックします。

   エディターはカタログ エディターのロールを受け取ります。



サービス履行者を指定する

サービス履行者は、サービスカテゴリに対して提出されたサービスリクエストを完了できます。

このタスクについて

サービス提供者は、割り当てられたサービスカテゴリのアプリケーションにアクセスできますが、サービスクリエーターアプリケーションにはアクセスできません。

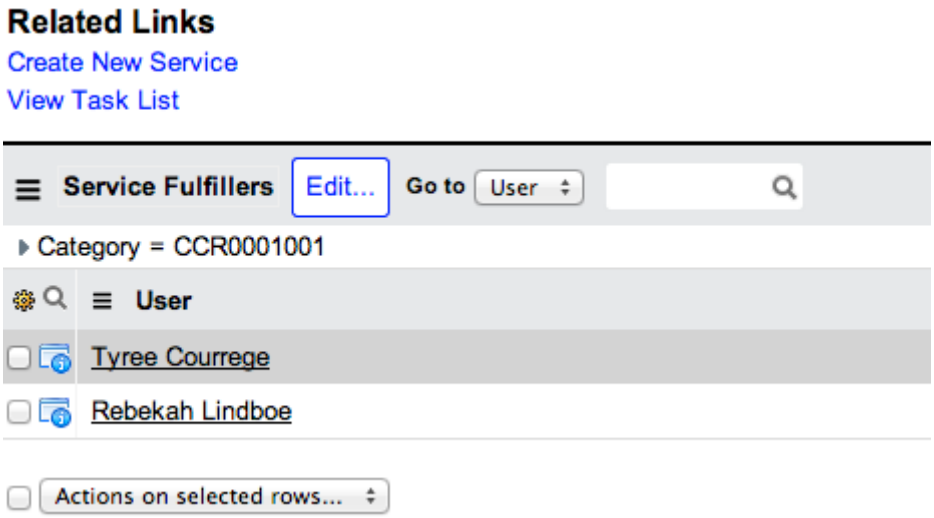
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスカテゴリフォームのサービスの遂行関連リストは、そのサービスカテゴリの履行者として割り当てられたすべてのユーザーが表示されます。サービスカテゴリマネージャーは、サービスカテゴリのサービス履行者を指定できます。

手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [自分のサービスカテゴリ] に移動します。
2. *State* が *Published to Catalog* のサービスカテゴリを選択します。
3. *Service Fulfillers* 関連リストで、[編集] をクリックします。
4. スラッシュバケットを使用して、適切なサービス履行者を追加します。

   適切な部門のユーザーのみが選択できます。
5. [保存] をクリックします。



サービス要求を履行する

エンドユーザーは、サービスカタログを通じて発行されたサービスを要求できます。

このタスクについて

ユーザーがサービスを要求すると、ServiceNowシステムは、そのサービスカテゴリの新しいタスクを作成します。サービス履行者は、要求を遂行するためにこれらのタスクを完了します。

新しい要求タスクは、*Fulfillment Group* または *Fulfillment User* サービス設定で指定されたグループまたはユーザーに自動的にアサインされます。遂行グループまたはユーザーが設定されていない場合、新しいレコードがサービスカテゴリマネージャーに割り当てられます。

特定のサービスに関する質問と要求元ユーザーが入力した回答は、実行タスクレコードの *Variables* セクションに表示されます。

手順

1. [すべて] > **[<自分のサービスアプリケーション>]** > [自分にアサイン済み] に移動します。
2. レコードを選択します。
3. 提示された情報を確認します。
4. 部門の方針と手順に従ってタスクを完了します。
5. サービス要求レコードの *State* を *Closed Complete* に設定します。
6. [更新] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスを発行する

サービスは、サービスカタログに表示されるように発行する必要があります。最初に作成されると、サービスカテゴリのドラフトサービス関連リストに新しいサービスが表示されます。発行されたサービスは、サービスカテゴリのサービス関連リストに表示されます。サービスカテゴリのマネージャーは、サービスのドラフトを発行できます。

手順

1. [すべて] > [サービスクリエーター] > [自分のサービスカテゴリ] に移動します。
2. ステータスが *Published to Catalog* のサービスカテゴリを選択します。
3. サービスカテゴリフォームで、ドラフトサービス関連リストにあるサービスを右クリックします。
4. [公開] を選択します。

ServiceNow Studio

ServiceNow スタジオ は、アプリケーション開発者がカスタムアプリケーションを一元化された場所で開発できるようにするための、統合開発環境 (IDE) に似たインターフェイスを提供します。タブ付き環境でアプリケーションファイルを簡単に作成、レビュー、更新することができます。

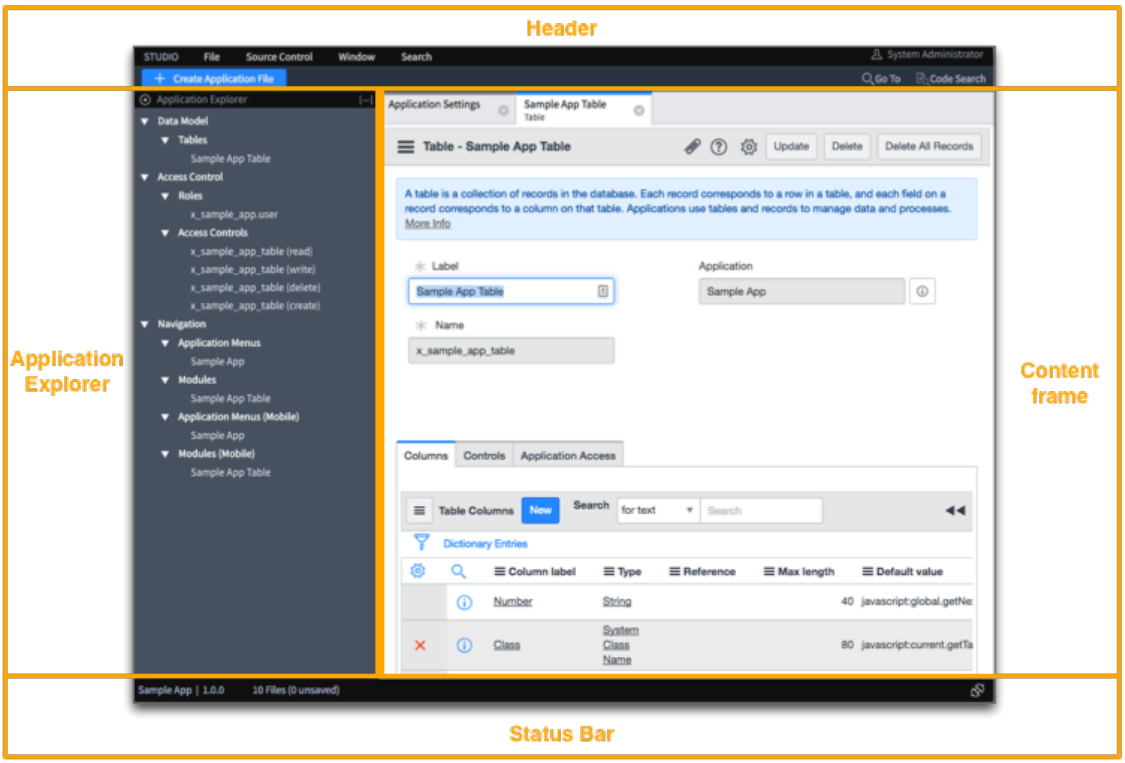
カスタムアプリケーションを編集すると、スタジオ が開きます。

機能

- アプリケーションとアプリケーションアーティファクトを作成します。
- コード検索を実行します。
- ソースコントロールと連携する
- 他の組織に属するアプリケーションを保存するために、会社用のカスタマイズを作成します。
- 仮想エージェントデザイナー を使用して、仮想エージェントとユーザー間の会話の詳細計画であるトピックを作成および管理します。ユーザーが一般的な作業の問題を解決するのに役立つトピックを設計したり、セルフサービスのタスクを通してサポートしたりできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ



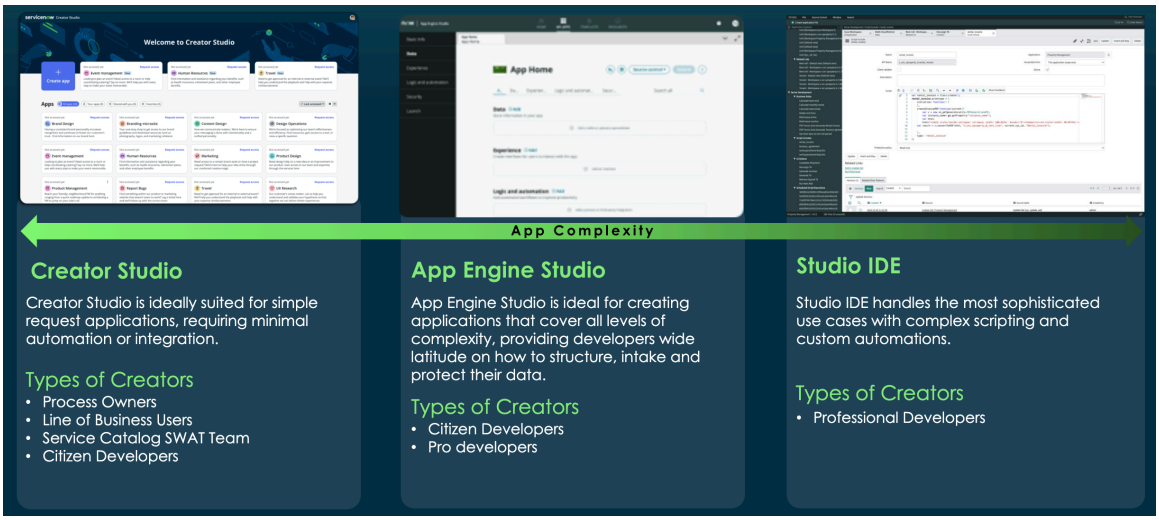
スタジオによって、アプリケーション開発者は次のことができます。

- アプリケーションエクスプローラでアプリケーションにどのファイルが含まれているかを正確に確認する。
- アプリケーションファイルの作成インターフェイスだけを用いてアプリケーションに新しいファイルを追加する。
- 行くダイアログで使い慣れた検索名またはタイプ別の動作を使用してファイルにナビゲートする。
- コード検索ツールを用いてアプリケーションの内部と外部の両方のコードを捜す。
- タブ付きインターフェイスを使用して複数のファイルを一度に操作する。
- 複数のスタジオウィンドウを使用して複数のアプリケーションを一度に操作する。
- 会社のインスタンスまたは ServiceNow Store にアプリケーションを公開します。
- 現在のアプリケーションに関する情報を [ステータスバー] に表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリの作成に使用すべきビルダー

ビルダーの種類



コードなしで簡単にアプリをビルドしたい場合

クリエータースタジオ は、コードを書かずに要求を履行するアプリケーションの作成を支援することに特化しています。たとえば、フォームに入力して事務用品を要求するアプリケーションで、誰かが要求を承認または拒否するなどです。詳細については、「クリエータースタジオ：コードを記述せずにアプリケーションを作成する」を参照してください。

より一般的なアプリが必要だけれどローコードオプションが必要な場合

App Engine Studio を使用すると、プログラミングのプロでなくても、クリエータースタジオ よりも幅広いアプリをビルドできます。詳細については、「App Engine Studio を使用したアプリのビルド」を参照してください。

一元化されたユーザーインターフェイスでより詳細に制御したい開発者の場合

ServiceNow スタジオ はアプリケーション開発者が一元化された場所でカスタムアプリケーションで作業するためのインターフェイスで、ある程度のコーディングスキルが必要です。詳細については、「ServiceNow Studio」を参照してください。

業界標準の開発ツールやプロセスを使用したい開発者の場合

ServiceNow IDE と ServiceNow SDK は、ServiceNow Fluent を使用したソースコードでのアプリケーション開発、JavaScript モジュールの作成、およびサードパーティライブラリの使用をサポートしています。ServiceNow Fluent は、コードでアプリケーションメタデータを作成するためのドメイン固有のプログラミング言語です。

ServiceNow IDE は、Now Platform 上の Visual Studio Code for the Web の実装です。ServiceNow SDK は Visual Studio Code Desktop をローカルで使用します。詳細については、「ソースコードでアプリケーションをビルドする」を参照してください。

スタジオ UI の操作

スタジオ UI の構成要素

UI 要素	説明
ヘッダー	メニューとコントロールを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ UI の構成要素 (続く)

UI 要素	説明
ファイルメニュー	アプリケーション固有のオプションのリストを含みます。 • ファイルを作成 • ソースコントロールからインポート • アプリケーションを作成 • 発行 • 設定 • スイッチ • 開発者管理 • スクリプトデバッガーを起動
ソースコントロールメニュー	ソースコントロールオプションのリストを含みます。 • ソースコントロールにリンク • リポジトリ構成を編集 • リモート変更を適用 • 変更を収容 • ローカルな変更を隠す • 分岐を切り替え • 分岐を作成 • タグを作成 • しまいこみを管理 • 履歴を表示
ウィンドウメニュー	タブ管理オプションのリストを含みます。 • 現在のタブを閉じる • すべてのタブを閉じる • 他のタブを閉じる • 未変更のタブを閉じる
検索メニュー	検索オプションのリストを含みます。 • 移動 • コード検索
ユーザー名	ヘッダーには現在のユーザー名が表示されます。
アプリケーションファイルを作成	開発者はアプリケーションファイルをアプリケーションに追加できます。
移動	アプリケーションファイルを名前またはタイプで検索します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ UI の構成要素 (続く)

UI 要素	説明
コード検索	アプリケーションファイル内でテキスト文字列を検索します。検索オプションは次のとおりです。 • 検索を特定のテーブルに制限 • 全てのアプリケーションを含める
アプリケーションエクスプローラー	アプリケーションファイルのリストをタイプ別に表示します。アプリケーションエクスプローラのサイズを変更すると、アプリケーションファイルの詳細を表示したり、コンテンツフレームのスペースを増やしたりできます。
すべて折りたたむ	アプリケーションエクスプローラ内のすべてのノードを折りたたみます。
すべて展開	アプリケーションエクスプローラ内のすべてのノードを展開します。
データモデル > テーブル	アプリケーション表のリスト テーブル名をクリックすると、コンテンツフレームで表示および編集ができます。
アクセス制御	次のようなアプリケーションアクセス要素のリスト • ロール • アクセスコントロール レコード名をクリックすると、コンテンツフレームで表示および編集ができます。
ナビゲーション	次のようなアプリケーションのナビゲーション要素のリスト： • アプリケーションメニュー • モジュール • アプリケーションメニュー **(Mobile)** • モジュール **(Mobile)** レコード名をクリックすると、コンテンツフレームで表示および編集ができます。
コンテンツフレーム	各レコードの詳細フォームを独自のタブに表示します。
スタジオ にようこそ	キーボードショートカットのリスト。
タブ	各タブには、レコード名とファイルタイプで特定される特定のアプリケーションファイルレコードが含まれています。 タブをクリックすると、レコードの表示および編集ができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ UI の構成要素 (続く)

UI 要素	説明
	青い丸のアイコンのタブは、そのレコードに未保存の変更があることを示します。
ステータスバー	アプリケーションとソースコントロールのデータ連携についての情報を表示
アプリケーション名	ステータスバーは 現在のアプリケーション の名前を表示します。
アプリケーションのバージョン	ステータスバーは現在のアプリケーションのバージョンを表示します。
総ファイル数	ステータスバーは、アプリケーションファイルの総数を表示します。
未保存のファイル	ステータスバーは、保存されていない変更のあるアプリケーションファイルの現在数を表示します。
ソースコントロールのデータ連携ステータス	ステータスバーは、ソースコントロールの統合の現状を示すアイコンを表示する。

関連情報

コンテキスト開発環境

ServiceNow Studio へのアクセス

アプリケーション開発者は、ServiceNow スタジオ にアクセスしてアプリケーションを作成、インポート、または開きます。

始める前に

必要なロール：admin

手順

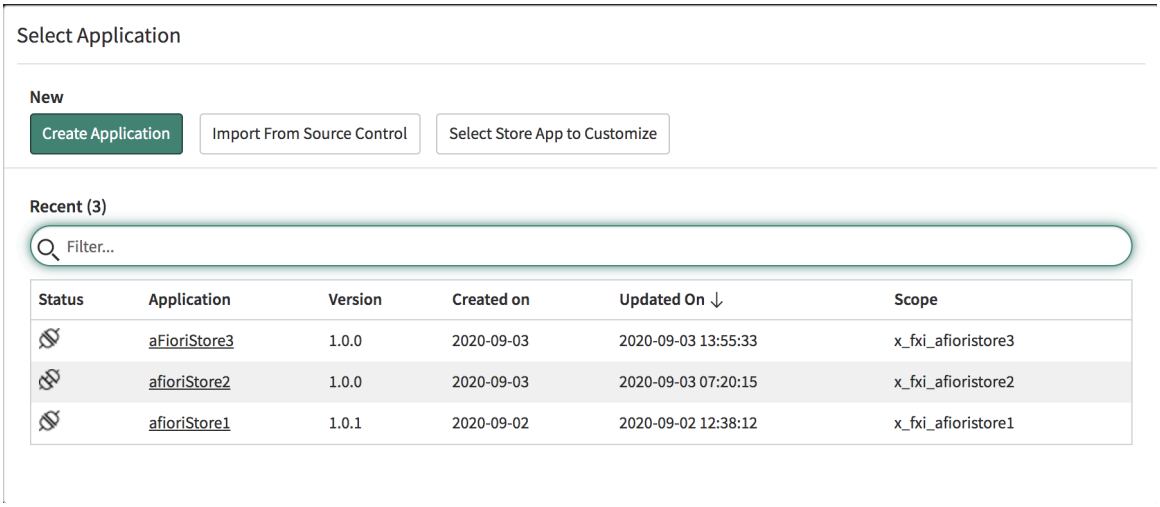
1. あなたのロールで利用可能なパスを選択します。

スタジオへのパス

ユーザーロール	スタジオを開くためのアクション
admin	[すべて] > [システムアプリケーション] > **[Studio]** に移動します。

スタジオ が新しいブラウザータブで開き、[アプリケーションを選択] モーダルダイアログが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

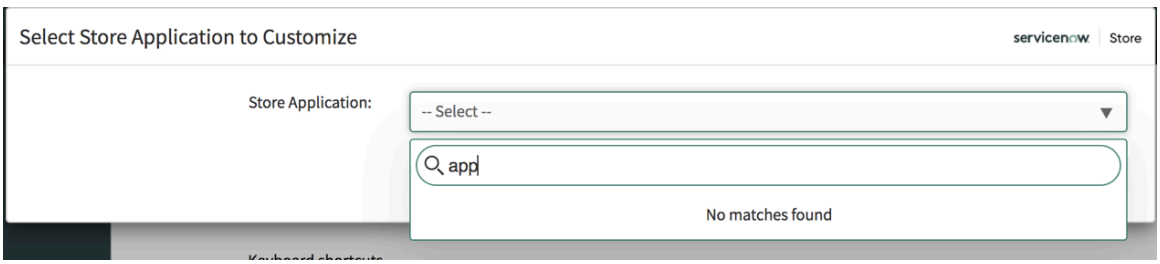


2. アプリケーションを作成するには、アプリケーションの作成をクリックします。
アプリケーション作成オプションのリストが表示されます。
3. 既存のアプリケーションをソースコントロールからインポートするには、ソースコントロールリストからインポートをクリックします。
スタジオ で [ソースコントロールからインポート] ページが開きます。
4. 既存のアプリケーションを表示するには、アプリケーションリストからそのアプリケーション名をクリックします。

   このリストには、カスタマイズされたプラグインを介してインストールされたストアアプリケーションやスコープ対象アプリケーションも含まれます。

   注: プラグインを介してインストールされたスコープ対象アプリケーションのいくつかのシナリオでは、ストアアプリケーション (sys_store_app) テーブルの [名前] フィールドがプラグイン名と一致しません。正しいアプリケーションを選択していることを確認するには、[ストアアプリケーションを選択] リストピッカーで、sys_store_app に示された [名前] を検索します。たとえば、プラグイン **Agile - Scaled Agile Framework - Essential SAFe** は、「SAFe」という名前の sys_store_app レコードを作成します。したがって、「SAFe」という単語を [ストアアプリケーションを選択] リストピッカーで検索します。

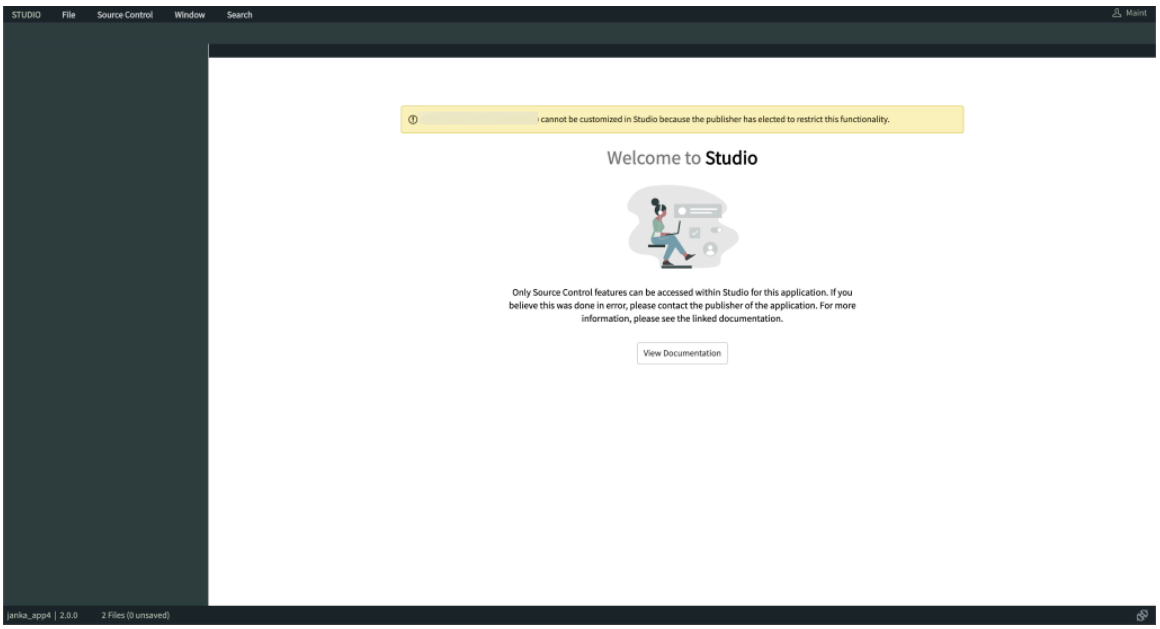
5. インストールされたストアアプリケーションを開いて、会社のアプリケーションカスタマイズを作成するには、[ストアアプリケーションを選択] をクリックし、リストピッカー表示からストアアプリケーションを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ 選択したアプリケーションが開く。

注: [リンク済み] アイコン は、アプリケーションにコミットされていないローカル変更が含まれていることを示します。開発中の会社のアプリケーションでは、このプロパティは無視されます。ストアアプリケーションの **[Studio** でアプリケーションの編集が可能] プロパティによって、Studio でアプリケーションを編集できるかどうかが決まります。[false] に設定すると、Studio でアプリケーションを編集できないという警告が表示されます。ただし、Studio でアプリケーションを開いて、ソースコントロール機能を使用したり、そのカスタマイズをアプリケーションリポジトリに公開したりできます。新しいアプリケーションの場合、デフォルトは [true] です。アプリケーションの所有者は、新しいバージョンをリリースする前にプロパティ値を変更できます。



ServiceNow スタジオ キーボードショートカット

ServiceNowスタジオアプリケーションファイルを管理および編集するためのさまざまなキーボードショートカットが使えます。

スタジオ キーボード ショートカット

キーボードの組合せ	説明
Windows： Ctrl + Shift + O Mac： Command + Shift+ O	移動。アプリケーションで任意のファイルを開きます。
Windows： Ctrl + Shift + C Mac： Command + Shift + C	新規作成。アプリケーションファイルを作成します。
Windows： Ctrl + Shift + F	コード検索。任意のファイルまたは値を検索します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ キーボード ショートカット (続く)

キーボードの組合せ	説明
Mac： Command + Shift + F	
Windows： Ctrl + Shift + X Mac： Command + Shift + X	タブを閉じる。現在のタブを閉じます。保存されていない変更がタブにある場合、システムは保存するよう求めます。

関連情報

ServiceNow Studio

アプリケーションファイルをアプリケーションに追加する

スタジオ アプリケーション開発者は新しいアプリケーションファイルをタイプ別に追加できます。

始める前に

必要なロール：admin
この手順では、スコープ対象のアプリケーションを作成する必要があります。

このタスクについて

アプリケーションファイルを追加して、カスタムアプリケーションの機能を更新できます。

手順

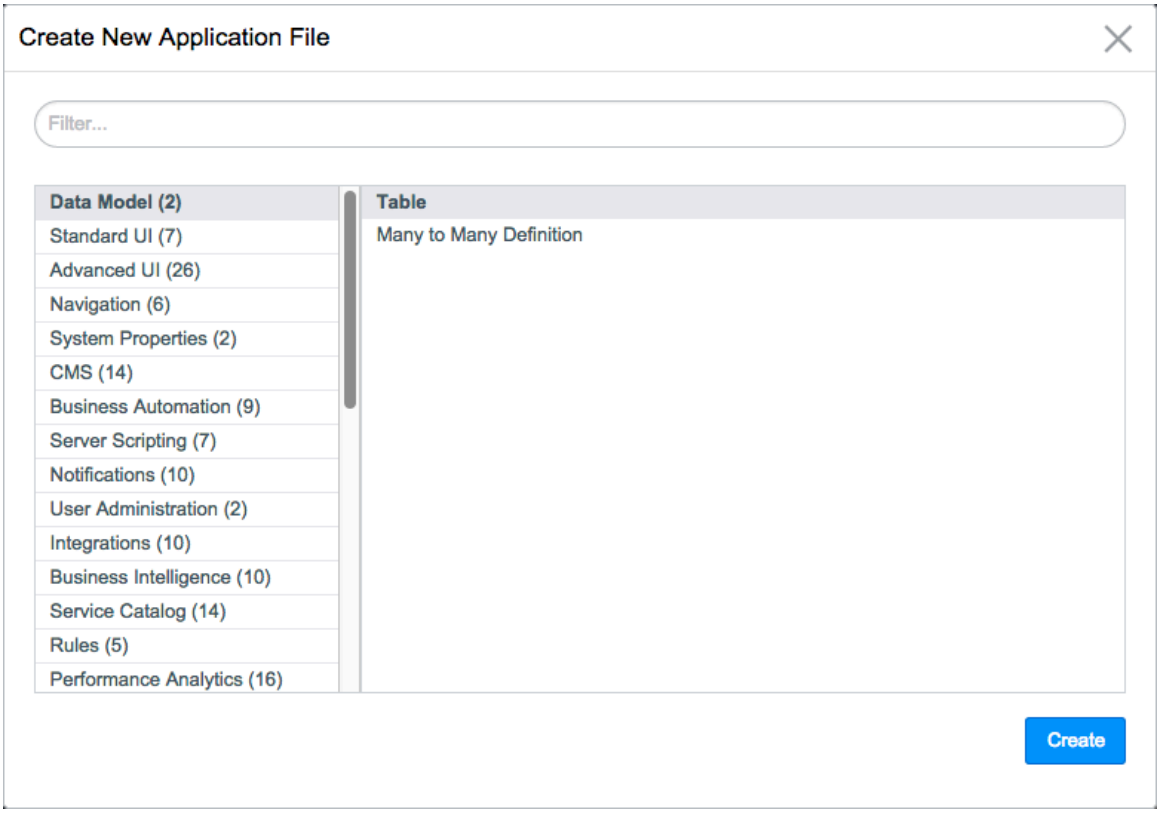
1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。
2. 開発タブから変更したいアプリケーションの横にある編集ボタンをクリックします。
   システムはアプリケーションをスタジオに開きます。
3. コンテンツフレームから、アプリケーションファイルの作成をクリックします。
   スタジオキーボード ショートカットを使うこともできます。

スタジオ キーボード ショートカット

キーボードの組合せ	説明
Windows： Ctrl + Shift + C Mac： Command + Shift + C	新規作成。アプリケーションファイルを作成します。

スタジオ 新規アプリケーションファイルの作成ポップアップ ウィンドウを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: すべてのアプリケーションファイルタイプが Studio に表示されるわけではありません。ダッシュボードなど一部のタイプのアプリケーションファイルは、それが sys_metadata テーブルを拡張する場合でも、Studio の外部で作成する必要があります。

4. 作成したいアプリケーションファイルの種類を探します。

オプション	説明
アプリケーションファイル名で検索	フィルタ入力フィールドに、アプリケーションファイルの名前を入力します。
カテゴリから探す	左ペインで、カテゴリ名を選択します。

5. 結果ペインから、作成したいアプリケーションファイルタイプを選択します。
6. [作成] をクリックします。
システムは新しいスタジオタブにアプリケーションファイルタイプの空白のフォームを表示します。

次のタスク
選択した特定のアプリケーションファイルタイプに必要なフィールドを入力します。

関連情報

アプリケーションファイル

ServiceNow スタジオ からのアプリケーションの公開 (ソースコントロールにリンクされている場合)

ソースコントロールにリンクされている場合、ServiceNow スタジオ からカスタムアプリケーションを公開できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
ソースコントロールにリンクされている ServiceNow Studio からアプリケーションを公開すると、sys_app または sys_store_app の [公開] 関連リンクを介して公開する場合とは異なる結果になります。

手順

1. [公開] を選択すると、アプリケーションの sys_app レコードまたは sys_app_customization レコードが新しいバージョンで更新されます。
2. 追跡されていない変更やコミットされていない変更を含む、アプリケーションの現在のステータスがソースコントロールにコミットされます。
   [glide.sourcecontrol.default_commit_mode] プロパティの値は無視されます。
   これは、アプリケーションが公開されるときに、追跡されない変更やコミットされない変更もすべて公開されるために発生します。したがって、Git リポジトリ内のアプリケーションのステータスは、公開されているものと一致します。**[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティの詳細については、「変更を収容」のトピックを参照してください。
3. 新しいバージョンのソースコントロールタグが作成され、アプリケーションが公開されます。
   必要に応じて、sys_app レコードが新しいストア相関 ID で更新されます。

   注: アプリケーションがソースコントロールにリンクされ、スタジオの外部で新しいバージョンを公開すると、ソースコントロールのコミットとタグが作成されません。

アプリケーションファイルを名前またはタイプで検索する

アプリケーション開発者はスタジオを用いてアプリケーションファイルを検索できます。

始める前に
必要なロール：admin
この手順では、スコープ対象のアプリケーションを作成する必要があります。

このタスクについて
アプリケーションファイルを検索して、カスタムアプリケーションの機能を追加、削除、または更新できます。

手順

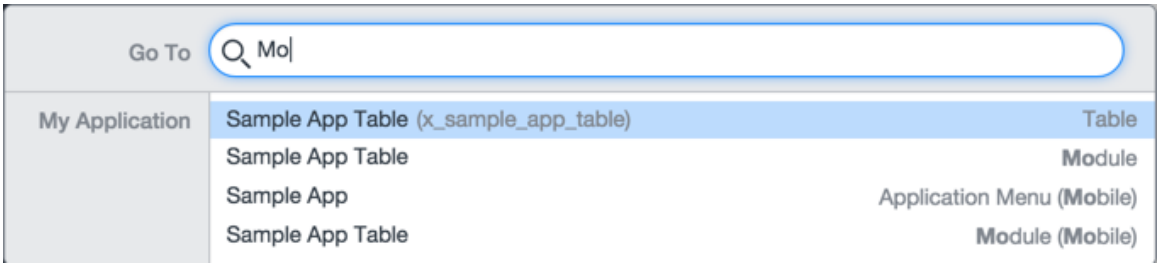
1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [アプリケーション] に移動します。
2. 開発タブから変更したいアプリケーションの横にある編集ボタンをクリックします。
   システムはアプリケーションをスタジオに開きます。
3. ヘッダーから 移動をクリックします。
   スタジオキーボード ショートカットを使うこともできます。

   スタジオ キーボード ショートカット

キーボードの組合せ	説明
Windows： Ctrl + Shift + O Mac： Command + Shift+ O	移動。アプリケーションで任意のファイルを開きます。

   スタジオ ウィンドウが開きます。
4. 検索文字列を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



スタジオ 入力すると一致するアプリケーションファイルのリストが表示されます。

5. 検索結果のリストから、レコード名をクリックします。
スタジオ はコンテンツフレーム内の新しいタブにアプリケーションファイルレコードを開きます。

アプリケーションファイル内で検索する

スタジオ アプリケーション開発者は、アプリケーションファイル内で一致するレコード値を検索できます。

始める前に

必要なロール：admin
この手順では、スコープ対象のアプリケーションを作成する必要があります。

このタスクについて

アプリケーションファイル内で検索して、アプリケーションファイルの値を追加、削除、または更新できます。

手順

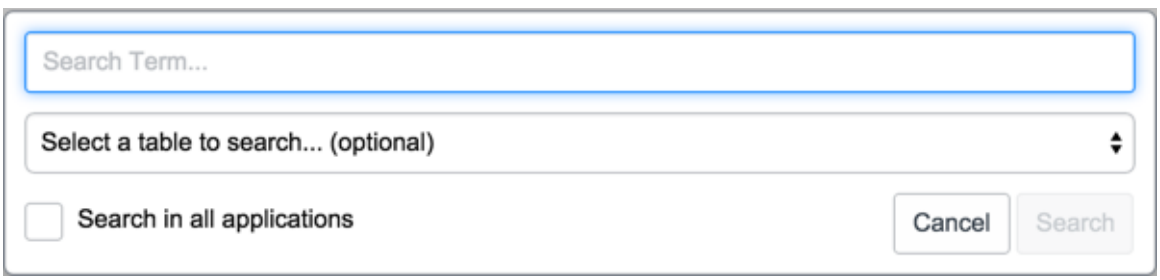
1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [アプリケーション] に移動します。
2. 開発タブから変更したいアプリケーションの横にある編集ボタンをクリックします。
システムはアプリケーションをスタジオに開きます。
3. ヘッダーから、コード検索をクリックします。
スタジオキーボード ショートカットを使うこともできます。

スタジオ キーボード ショートカット

キーボードの組合せ	説明
Windows： Ctrl + Shift + F Mac： Command + Shift + F	コード検索。任意のファイルまたは値を検索します。

スタジオ 検索ポップアップ ウィンドウが開きます。

4. 検索語に検索文字列を入力します。



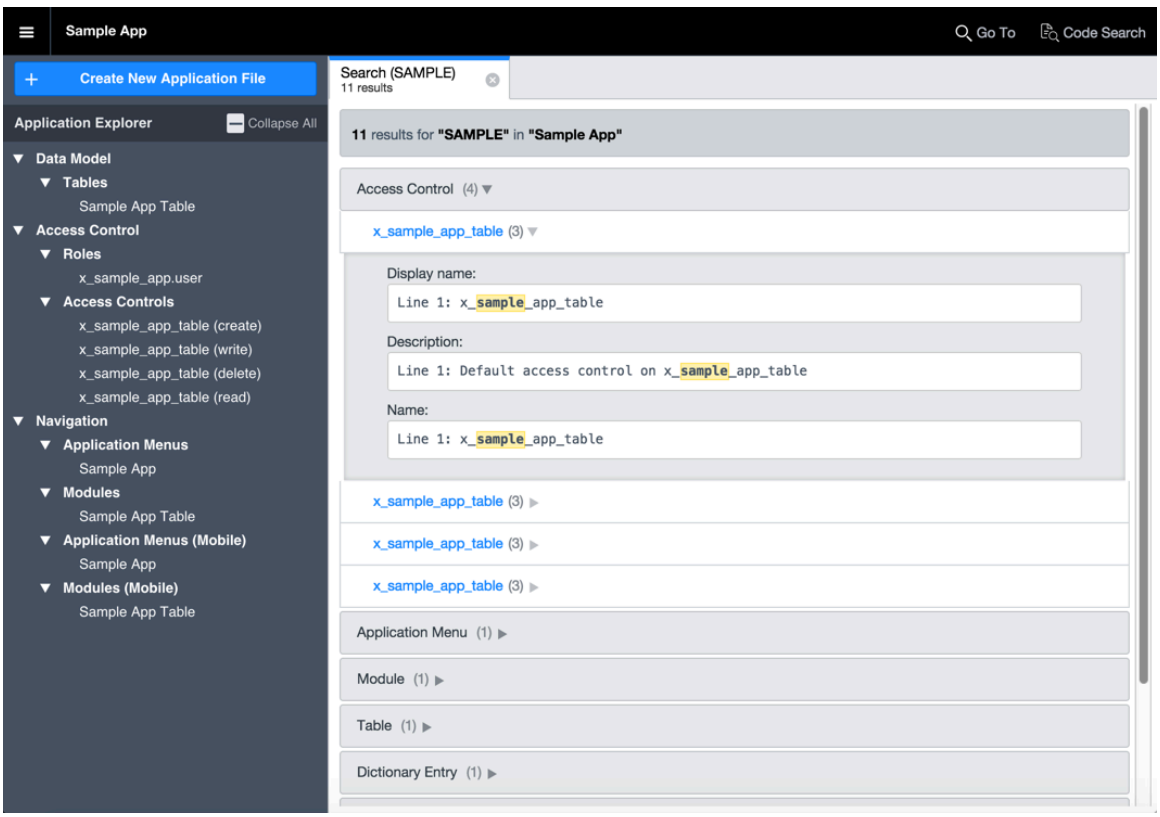
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. オプション: 追加の検索条件を選択します。

オプション	説明
検索するテーブルを選択	選択したファイル タイプ内でのみ一致するものを検索します。
すべてのアプリケーションで検索	現アプリケーション内だけでなく、インスタンス全体で一致を検索します。

注: すべてのアプリケーションの検索には長い時間がかかります。

6. [検索] をクリックします。
スタジオは選択したアプリケーションファイルの大文字と小文字を区別しない検索を行います。検索が実行されている間、スタジオは検索進行状況インジケータを表示します。キャンセルアイコンをクリックすると、検索を停止できます。検索が完了すると、システムはコンテンツフレームに新しいタブを開き、アプリケーションファイルタイプ別に検索結果を表示します。各アプリケーションファイルタイプは、一致する検索結果の数を表示します。



7. 検索結果タブから、アプリケーションファイルタイプを展開し、レコード名をクリックします。
スタジオ はコンテンツフレーム内の新しいタブにアプリケーションファイルレコードを開きます。

カスタムアプリケーションレコードを更新する

新しい機能を追加したり、アプリケーションの機能を変更したりするために、カスタムアプリケーションレコードを更新できます。

始める前に

必要なロール：フルアクセスを許可するアドミニストレーターまたは委任された開発者ロール

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
ローカルインスタンスで開発中のアプリケーションの更新のみできます。会社のアプリケーションリポジトリまたはServiceNow Storeからダウンロードしたアプリケーションは編集できません。

手順

1. [すべて **(All)**] > [システムアプリケーション] > [アプリケーション] > [スタジオ]に移動します。
2. 更新したいアプリケーション名またはそのアプリケーションの編集ボタンをクリックします。
   システムは、スタジオにあるアプリケーションおよびアプリケーションファイルを表示します。
3. ファイル > 設定をクリックします。
   スタジオは現アプリケーションのカスタムアプリケーションレコードを含むタブを開きます。
4. 必要に応じてフィールドに入力します。

カスタムアプリケーションフォーム

フィールド	説明
名前	[必須]アプリケーションのラベルを入力します。名前を変更しても、アプリケーション名から派生した範囲、メニュー、またはユーザーロールのような他のどのフィールド値も変更されません。
バージョン	アプリケーションのバージョン情報を入力します。ServiceNowアプリケーションリポジトリとストアのどちらも、この値を使用して、ユーザーがアプリケーションの更新を使用できるかどうかを判別します。 注: アプリケーションをServiceNow Storeで発行するには、バージョンはアプリケーション認定基準に準拠している必要があります。
アプリケーションスコーピング	
スコープ	[読み取り専用]作成プロセス中に設定された一意のアプリケーションスコープを表示します。この値は、削除して新しい値でアプリケーションを再作成することによってのみ変更できます。提供される保護の詳細については、アプリケーションスコープ を参照してください。
アプリケーション管理	ユーザーがアプリケーション固有のロールを取得する方法を制限することにより、機密アプリケーションデータを保護するかどうかを選択します。「アプリケーション管理」を参照してください。
デザインとランタイム	
JavaScriptモード	アプリケーションがサポートするJavaScript標準を選択します。**ECMAScript 2021 (ES12)** を選択して ECMAScript 12th エディションの機能をサポートするか、**ES5 Standards Mode** を選択して ECMAScript 5th エディションの機能をサポートします。互換モードを選択すると初期の ECMAScript エディションをサポートします。
実行環境アクセス追跡	アプリケーションが他のアプリケーションのリソースへのスクリプトアクセス要求をどのように処理するかを選択します。無しを選択するとログインなしで全てのクロススコープリソースにアクセスする権限を与えます。 を選択すると、クロススコープ リソースに対するすべてのアクセス要求をログに記録して許可します。 を選択すると、クロススコープ リソースに対するアクセス要求をログに記録しますが、アドミニストレーターが各要求を許可する必要があります。
テーブル選択を制限	そのオプションをクリアすると、アプリケーションが他のアプリケーションスコープからテーブルを見ることを許します。そのオプションを選択すると設計の選択を同じアプリケーション内のテーブルのみに限定します。
サブスクリプション管理	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ライセンス可能	そのアプリケーションがそのサブスクリプション管理アプリケーションによって追跡されるかどうかを指定します。
サブスクリプション要件	独自の用途のためにカスタムアプリケーションをビルドするServiceNow顧客には適用しません。ServiceNow Storeの転売可能なアプリケーションの使用を販売および監視しているパートナーのみが使用します。 そのアプリケーションは個別のサブスクリプションが必要(必須)かまたは監視だけとするかを指定します。
サブスクリプションモデル	独自の用途のためにカスタムアプリケーションをビルドするServiceNow顧客には適用しません。ServiceNow Storeの転売可能なアプリケーションの使用を販売および監視しているパートナーのみが使用します。 どのようにサブスクリプション管理アプリケーション追跡を使用するかを指定します。「サブスクリプション管理 のサブスクリプションのタイプ」を参照してください。
プライマリメニュー	
メニュー	モジュールを表示したいアプリケーションメニューを選択します。メニューとモジュールの詳細については、「アプリケーションメニューの作成」を参照してください。
エンドユーザーによるアクセス	
ユーザーロール	アプリケーションメニューにアクセスするために必要なユーザーロールを選択します。ユーザーロールの詳細については、「ロールを作成する ロールを作成する」を参照してください。
簡単な説明	アプリケーションの目的や使用方法の説明を入力します。
ロゴ	システムがアプリケーションリストとServiceNow Storeに表示するイメージを選択します。
アプリケーションファイル	このアプリケーションに関連付けられた設定レコードをプラットフォーム機能テーブルで表示します。
依存関係	このアプリケーションが依存するテーブルまたはアプリケーションを表示または追加します。テーブルを拡張するときや、別のアプリケーションがこのアプリケーションのアプリケーションファイルを作成するときに、システムは自動的にこのリストにレコードを追加します。スクリプトに基づく依存関係を追加します。「カスタムアプリケーションの依存関係」を参照してください。
クロススコープ権限	クロススコープ権限レコードを表示または作成して、システムが実行できるスクリプト操作とターゲットを特定します。「クロススコープ特権レコード」を参照してください。
デザインアクセス	このアプリケーションのテーブルまたはレコードへの設計アクセス権を持つ他のアプリケーションを表示または指定します。「アプリケーション設計時アクセス レコード」を参照してください。

5. [更新] をクリックします。

アプリケーション間の切り替え

アプリケーション開発者は、スタジオ環境を離れることなくアプリケーション間のスイッチができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
この手順を開始する前に、独自のアプリケーションスコープを持つ少なくとも 1 つのカスタムアプリケーションを作成する必要があります。
必要なロール：admin

このタスクについて
状況依存開発環境は、アプリケーションファイルが別のアプリケーションに属している場合、いくつかの変更を制限します。アプリケーションファイルを所有するアプリケーションに切り替えると、適切なアプリケーションを確実に変更できます。

手順
1. [すべて] > [アプリオプションメニュー **(App Options Menu)]** > [アプリケーションの切り替え **(Switch Applications)]** に移動します。
   システムはアプリケーションのリストを表示します。
2. 切り替え先のアプリケーションをクリックします。
   システムがスタジオをリロードすると選択したアプリケーションを表示する。

グローバルなアプリケーションファイルの管理
ServiceNow スタジオ でグローバルなスコープ対象のアプリケーションを作成すると、既存のグローバルスコープのファイルをそれに追加したり、それからファイルを削除したり、グローバルアプリケーション間でアプリケーションファイルを移動したりできます。

ファイルをグローバルスコープからグローバルアプリケーションへ追加する
既存のグローバルスコープファイルを選択されているグローバルアプリケーションに追加します。更新セット名、テーブル、またはファイル名によって、グローバルにスコープ対象となっている別のアプリケーション内のファイルを検索できます。

始める前に
Global App File Management プラグインをアクティブ化する必要があります。
必要なロール：admin

このタスクについて
アプリケーションピッカーでアプリケーションを選択すると、アプリケーションファイルが自動的に割り当てられます。アプリケーションファイルをスコープ対象のアプリケーションとの間で移動することはできません。「アプリケーションスコープ」を参照してください。

手順
1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [アプリケーション] > [開発中] に移動します。
2. アプリケーション名の右側で、**[Studio** で編集] をクリックします。
3. スタジオ で、[ファイル] をクリックしてから、[既存のファイルを追加] を選択します。
4. 現在グローバルなスコープ対象のアプリケーションに追加できる既存のグローバルなスコープ対象のアプリケーションを見つけるには、次のいずれかのオプションを使用します。

オプション	説明
更新セットで検索	更新セットに関連付けられたアプリケーションファイルの検索とフィルタリング。
テーブルで検索	特定のテーブルに関連付けられたアプリケーションファイルの検索とフィルタリング。たとえば、を選択すると、検索はそのテーブルに関連付けられたアプリケーションファイルを返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
名前で検索	指定された更新名(sys_update_name)または実際のファイル名(sys_name)を含むアプリケーションファイルのためのカスタム名の検索を実行します。

注: 一度に 250 ファイルまで表示できます。もっとファイルを見るには、より具体的な検索基準で別の検索を行います。

5. [持続する] をクリックすると選択した更新セット、テーブル、または名前に関連付けられたアプリケーションファイルをリストします。
必要に応じて結果をフィルタリングできます。
システムはフィルタリングされた結果を表示しますが、既に現在のグローバルアプリケーションに関連付けられているファイルはすべて省略します。システムはファイルの種類、アプリケーション、いつファイルが最後に更新されたか、それがカスタマイズされたファイルかどうかを表示します。
6. 追加するファイルを選択して [追加]をクリックします。
[変更を確認] ダイアログが表示され、移動中のファイルはカスタマイズ可能なファイルと見なされ、アップグレード中にスキップリストに表示される場合があることが示されます。
7. [続行] をクリックして選択したファイルを追加します。

注: グローバルスコープ対象のアプリケーションにグローバルスコープ対象のファイルを追加する機能により、辞書コレクションのエントリをカスタムグローバルスコープに移動することもできます。このアクションによって **sys_db_object** テーブルとコレクションが同じスコープ内になくなるため、予期しないクロススコープエラーが発生する可能性があります。このアクションは、CRUD 操作 (sys_db_object アプリケーションアクセスと既存のクロススコープ特権に基づいて許可される) が明確な理由なしでは許可されないことを意味します。

タスクの結果
システムは選択したファイルをグローバルスコープから選択したアプリケーションに移動し、それらをカスタマイズ可能ファイルとしてフラグを設定します。たとえば、sys_ui_policy ファイルを選択すると、関連付けられた sys_ui_policy_actions ファイルも選択したアプリケーションに追加され、カスタマイズ可能としてフラグが設定されます。追加プロセスでエラーが発生したときにエラーメッセージが表示されるか、またはファイルがグローバルなスコープ対象のアプリケーションに正常に追加されたときに確認メッセージが表示されます。

グローバルアプリケーションからのファイルを削除する

選択したグローバルアプリケーションから選択したファイルを削除し、そのファイルを所有していた以前のグローバルアプリケーションに戻します。前の所有者がいない場合、ファイルはグローバルスコープに戻されます。削除されるファイルは、依然としてカスタマイズされたファイルと見なされます。

始める前に
このオプションは、Global Application File Management プラグインがアクティブな場合にのみ使用できます。
必要とされるロール：admin または完全なアクセスを許可された delegated_developer ロール。

手順
1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] > [開発中] に移動します。
2. アプリケーション名の右側の **[Studio** で編集] をクリックします。
3. スタジオ で、[ファイル] > [複数ファイルを削除] を選択します。
このグローバルアプリケーションのファイルのリストが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. このアプリケーションから削除するファイルを選択します。
5. [削除] をクリックします。

グローバルアプリケーション間でアプリケーションファイルを移動する

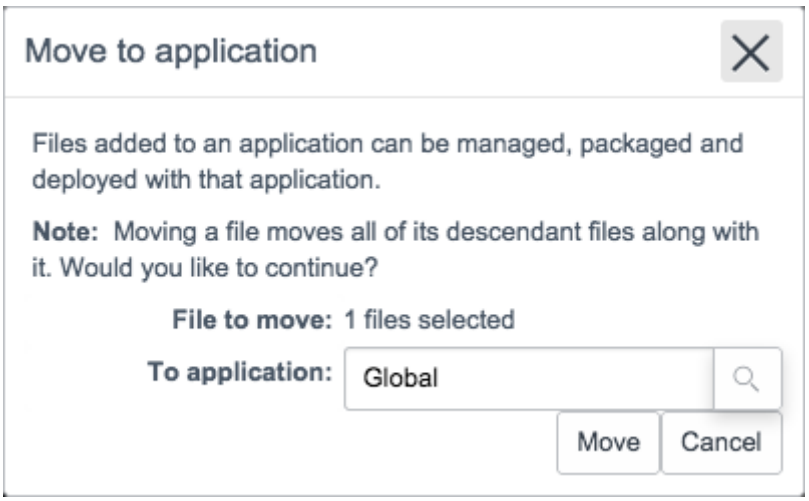
選択したアプリケーションファイルとそれらの子孫ファイルを、選択したグローバルアプリケーションに移動します。グローバルアプリケーションを選択すると、選択したアプリケーションファイルが自動的にそれに割り当てられます。アプリケーションファイルをスコープ対象のアプリケーションとの間で移動することはできません。

始める前に
必要とされるロール：admin または完全なアクセスを許可された delegated_developer ロール。

このオプションは、Global App File Management プラグインがアクティブな場合にのみ使用できます。

手順

1. リストまたはフォームビューでアプリケーションファイルに移動します。
   たとえば、[すべて] > [システム **UI]** > **[UI** ポリシー **(UI Policies)]** に移動して、移動する UI ポリシーファイルを選択します。
2. 移動する各ファイルの横にあるチェックボックスをオンにしてから、[選択した行のアクション] 選択リストにある [アプリケーションに移動] を選択します。
3. グローバルアプリケーションを選択します。



4. 移動 をクリックします。
   選択したアプリケーションファイルとその子孫ファイルが、選択したグローバルアプリケーションに移動されます。

グローバル更新セットからグローバルアプリケーションへの複数のファイルの追加

1 つ以上のグローバル更新セットから新規または既存のグローバルアプリケーションに、一度に複数のグローバルスコープ対象のアプリケーションファイルを追加します。

始める前に
必要なロール：admin

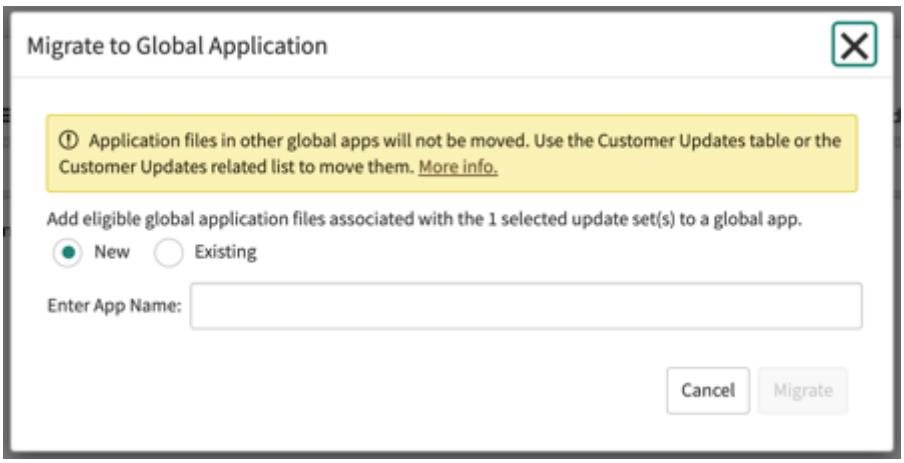
Global App File Management プラグインをアクティブ化する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
この機能は、更新セットを介してグローバルスコープ対象のファイルのカスタマイズを管理する顧客向けです。これらのファイルは、新規または既存のグローバルアプリケーションに一括で移行できます。これでグローバルアプリケーションは、アプリケーションのみをサポートする ServiceNow CICD ツールを活用できます。複数の更新セットを選択して、グローバルスコープ対象のアプリケーションファイルを新規または既存のグローバルアプリケーションに移動します。これらの更新セット内の顧客アップデートに関連付けられたすべての対象アプリケーションファイルが移動されます。この操作では、インスタンスにロードされているアプリケーションファイルのみが移動されます。同じファイルに対する別の顧客アップデートのペイロードは無視されます。

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [ローカル更新セット] に移動します。
2. 移動する各更新セットの横にあるチェックボックスをオンにしてから、[選択した行のアクション] リストの [グローバルアプリケーションに移行] を選択します。
3. 新しいグローバルアプリケーションの名前を入力するか、既存のグローバルアプリケーションを選択します。



4. [移行]を選択します。

> **注:** 移行する更新セットを選択しても、他のグローバルアプリケーションの一部であるアプリケーションファイルは移動されません。グローバルスコープ内のファイルのみが移動されます。他のグローバルアプリケーションの一部であるファイルを追加するには、「顧客アップデートからグローバルアプリケーションへの複数のファイルの追加」を参照してください。

Trouble?

更新に関連付けられたアプリケーションファイルが移動されない場合は、次の理由が考えられます。

- アプリケーションファイルがグローバルではない。
- アプリケーションファイルが別のグローバルアプリケーションの一部である。
- アプリケーションファイルが削除されている。
- アプリケーションファイルには別のグローバルアプリケーションに移動する資格がない。たとえば、`sys_app` ファイルです。
- アプリケーションファイルが読み取り専用である。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

顧客アップデートからグローバルアプリケーションへの複数のファイルの追加

1 つ以上の顧客アップデートから新規または既存のグローバルアプリケーションに、一度に複数のグローバルスコープ対象のアプリケーションファイルを追加します。

始める前に

必要なロール：admin

Global App File Management プラグインをアクティブ化する必要があります。

他のグローバルアプリケーションの一部であるグローバルファイルを追加するには、`glide.source_control.customize_files_in_other_global_apps` を [true] にする必要があります。

このタスクについて

この機能は、更新セットを介してグローバルスコープ対象のファイルのカスタマイズを管理する顧客向けです。これらのファイルは、新規または既存のグローバルアプリケーションに一括で移行できます。これでグローバルアプリケーションは、アプリケーションのみをサポートする ServiceNow CICD ツールを活用できます。複数の顧客アップデートを選択して、グローバルスコープ対象のアプリケーションファイルを新規または既存のグローバルアプリケーションに追加します。顧客アップデートに関連付けられたすべての対象アプリケーションファイルが移動されます。この操作では、インスタンスにロードされているアプリケーションファイルのみが移動されます。同じファイルに対する別の顧客アップデートのペイロードは無視されます。

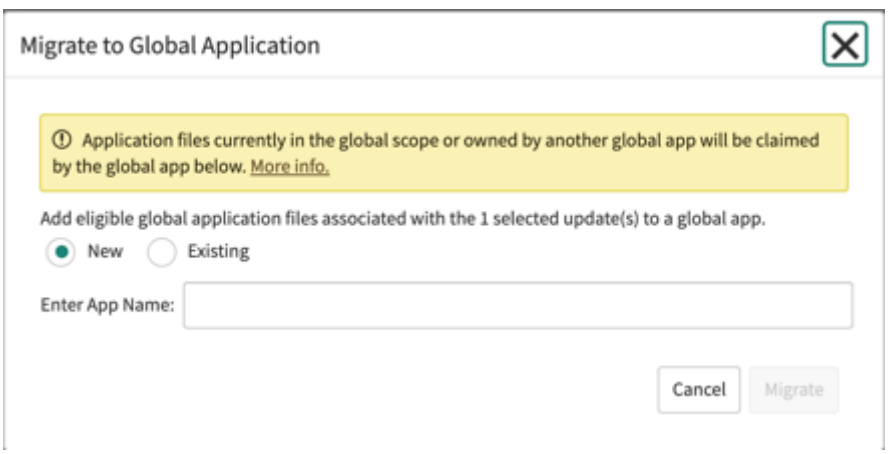
手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [ローカル更新セット] に移動し、フォームビューで更新セットを開いて、その [顧客アップデート] 関連リストに移動します。
   または

   [システムメンテナンス] > [顧客アップデート **[sys_update_xml]]** テーブルに移動し、複数の更新セットから更新を追加します。
2. 移動する各更新の横にあるチェックボックスをオンにしてから、[選択した行のアクション] リストの [グローバルアプリケーションに移行] を選択します。
3. [移行]を選択します。

   注: グローバル更新セットからグローバルアプリケーションへの複数のファイルの追加方法の詳細は、「グローバル更新セットからグローバルアプリケーションへの複数のファイルの追加」を参照してください。

4. 新しいグローバルアプリケーションの名前を入力するか、既存のグローバルアプリケーションを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Trouble?

更新に関連付けられたアプリケーションファイルが移動されない場合は、次の理由が考えられます。

- アプリケーションファイルがグローバルではない。
- アプリケーションファイルが別のグローバルアプリケーションの一部である。
- アプリケーションファイルが削除されている。
- アプリケーションファイルには別のグローバルアプリケーションに移動する資格がない。たとえば、`sys_app` ファイルです。
- アプリケーションファイルが読み取り専用である。
- アプリケーションファイルは、移行先のグローバルアプリケーションに既に関連付けられています。

要求またはスキップされたグローバルファイルのレビュー

1 つ以上のファイルが別のアプリケーションによってスキップまたは要求された場合は、ファイルをレビューします。

グローバルアプリケーションの開発中に、スキップまたは要求されたファイルに関する警告が、さまざまな進捗状況画面に表示される場合があります。スキップまたは要求されたファイルは、あるアプリケーションのファイルが他のアプリケーションによって要求されたときに発生する可能性があります。

これらの警告は、アプリケーションリポジトリまたは Git リポジトリからアプリケーションをインストールするとき、または自分のアプリケーションを公開するときに、表示されます。アプリケーションファイルが別のアプリケーションによってスキップまたは要求されていることを確認した場合は、その別のアプリケーションを所有するチームに連絡して、両方のチームにとって最善の措置を決定してください。

どのようなオプションがあるか

本番環境にロードできるのは 1 つのバージョンのみです。オプションは次のとおりです。

- 1 つのファイルのみが本番環境にロードされるように、どちらのアプリケーションからファイルを削除するか他のチームと決定します。
- 結合ツールを使用します。本番環境で両方のアプリのファイルを変更する必要がある場合は、結合ツールを使用して、両者を効果的に機能させる新しい共通アプリケーションにファイルをプルします。

詳細は、トピック「競合の解決」を参照してください。

下書きレコードの自動リカバリ

スタジオ 保存されていない変更がある既存の任意のレコードについてもバージョンを保持できます。ユーザーは、ネットワーク待ち時間、セッションタイムアウト、またはサービスの中断のために、ユーザー セッションが予期せず終了した場合にも、未保存の変更を復元できます。

自動リカバリは次のものに適用されます。

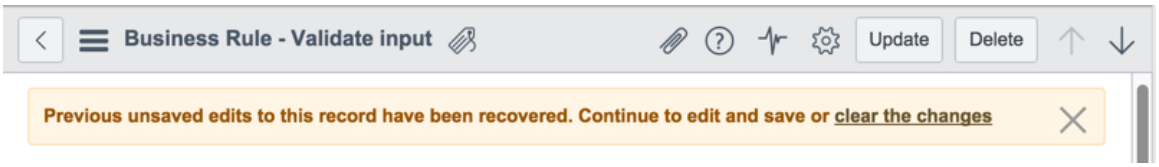
- スタジオ で開いたレコード。すべての下書きレコードが保存されるわけではありません。
- デスクトップ(非モバイル)ブラウザで行われた変更。モバイルブラウザの下書きレコードは保存されません。
- 既存のレコードに対する変更。新しいレコードへの変更の下書きは保存されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- レコードへの最新の更新である未保存の変更を含むレコード。別のユーザーが同じレコードを更新した場合、システムは下書きの変更を破棄します。
- アプリケーションファイル [sys_metadata] テーブルを拡張するテーブルのレコード。

ユーザーがセッションを再確立した後、スタジオ はリカバリされた変更を含む各レコードのメッセージを表示します。

自動リカバリメッセージ



リカバリしたレコードごとに、ユーザーは次をできます。

- レコードの編集と保存を続ける。
- リカバリキャッシュから変更をクリアする。

ユーザーが次の操作を行うと、システムはリカバリキャッシュからの変更を自動的に消去します。

- レコードを保存します。システムは、保存されたレコードをリカバリキャッシュから削除する。
- 変更を保存せずにレコードから離脱することを確認する。放棄されたレコードは、リカバリキャッシュから削除する。
- リカバリキャッシュの5MBの変更の上限に到達。システムは最も古い更新日時スタンプのレコードを削除する。

デフォルトでは、スタジオからの作業中にすべてのアプリケーション ファイル [sys_metadata]テーブルに対して自動リカバリが有効になっています。

アドミニストレーターは、自動リカバリのプロパティを次のように構成できます。

- 自動リカバリを無効または再度有効にする。
- 自動リカバリから除外するフィールドのタイプを指定する。

ユーザーは、ユーザーの設定として自動リカバリを有効または無効にすることができます。

関連情報

ユーザー設定

自動リカバリプロパティ

アドミニストレーターは、自動リカバリ > からプロパティに移動して、スタジオがどのようにドラフトレコードのリカバリを処理するかを設定できます。

自動リカバリプロパティ

プロパティ	説明
自動リカバリを有効化 *glide.ui.auto.recovery*	デフォルトでは、スタジオからの作業中にすべてのアプリケーション ファイル [sys_metadata]テーブルに対して自動リカバリが有効になっています。レコードの自動リカバリを無効にするようにこのプロパティを設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動リカバリプロパティ (続く)

プロパティ	説明
自動リカバリはカンマ区切りリストテーブルをサポートしない *glide.ui.auto.recovery.unsupported.tables*	デフォルトでは、スタジオからの作業中にすべてのアプリケーション ファイル [sys_metadata]テーブルに対して自動リカバリが有効になっています。特定のテーブルを自動リカバリから除外するには、このプロパティを設定します。
自動リカバリはカンマ区切りリストフィールドタイプをサポートしない *glide.ui.auto.recovery.unsupported.field.types*	デフォルトでは、自動リカバリはすべてのフィールドタイプをサポートします。特定のフィールドタイプを自動リカバリから除外するには、このプロパティを設定する。
カンマ区切りリストのフィールドタイプは自動リカバリから除外しない *glide.ui.auto.recovery.exclude.field.types*	デフォルトでは、すべてのフィールドタイプに対して自動リカバリが有効になっています。特定のフィールドタイプを自動リカバリから除外するには、このプロパティを設定する。

自動リカバリディクショナリーの属性

アドミニストレーターは、スタジオディクショナリー属性を持つドラフトレコードのリカバリをどう扱うかを設定できます。

自動リカバリプロパティ

辞書属性	説明
自動リカバリを除外 *exclude_auto_recovery*	このテーブルのドラフトレコードの自動リカバリを無効にします。

関連情報

ディクショナリー属性

ソースコントロールの統合

アプリケーション開発者が Git ソースコントロールリポジトリと統合できるようにします。非本番インスタンスから、アプリケーションの複数のバージョンを保存および管理します。

アプリケーションをソースコントロールにリンクすると、非本番インスタンスですべてのアプリケーション開発者が次の操作を実行できます。

- Git リポジトリからアプリケーションをインポートします。
- Git リポジトリからリモート変更をプルして適用します。
- インスタンスのすべてのローカル変更を Git リポジトリにコミットします。
- 指定されたバージョンのアプリケーションに永続的にリンクするタグを作成します。
- 分岐を作成して、アプリケーションの複数のバージョンを同時に管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合の要件

アプリケーションをソースコントロールにリンクするには

- ユーザーにはアドミンロールが必要です。
- 非本番インスタンスには、Git リポジトリへのネットワークアクセスが必要です。
- 各アプリケーションは、それ自体の Git リポジトリ内に存在する必要があります。
- リポジトリユーザーの認証情報は、読み取りおよび書き込みアクセス権を付与する必要があります。

注: インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、リポジトリごとに 1 組の認証情報を共有します。

ServiceNow スタジオ で利用可能なオプション

アプリケーションをソースコントロールにリンクした後に、アプリケーション開発者は、ServiceNow スタジオ をリポジトリ管理に使用できます。開発者は スタジオ から次のことができます

- アプリケーションリポジトリの認証情報を編集します。
- インスタンスのすべてのローカル変更をコミットします。
- リポジトリからのリモート変更を適用します。
- 分岐を作成します。
- 分岐を切り替えます。
- リモートリポジトリからアプリケーションをインポートします。

ソースコントロールを使用して本番インスタンスでアプリケーションを管理することはお勧めしません。本番環境に展開すると、予期しない結果が生じる可能性があります。「本番展開のヒント」を参照してください。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または ServiceNow Store を使用して、本番インスタンスでアプリケーションを管理できます。本番インスタンスでのアプリケーション管理の詳細については、「アプリケーションの共有」を参照してください。

Git リポジトリから利用可能なオプション

ServiceNow プラットフォームには、インスタンス外のリンクされたアプリケーションファイルを変更するための限定的なサポートがあります。開発者は Git から次の操作を実行できます。

- アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動します。
- ServiceNow スタジオ の外部でアプリケーションファイルを編集します。

リポジトリのルートレベルで、`sn_source_control.properties` と呼ばれるプロパティテキストファイルが生成されます。アプリケーションファイルを別の Git ディレクトリ構造に移動するために、アプリケーション開発者は *`path`* パラメーターを設定して、アプリケーションファイルを含むサブフォルダーパスを指定できます。たとえば、アプリケーションを `src/app` サブフォルダーに移動した場合は、*`path`* を `path=src/app` に設定します。

システムは、スタジオ の外部でアプリケーションファイルが変更されたかどうかを判断するために、Git リポジトリに `checksum.txt` ファイルを生成します。ファイルのチェックサム値が現在のチェックサム値と一致する場合、統合は検証とサニタイズのプロセスをスキップします。チェックサム値が一致しない場合、統合はソースコントロール操作の一部としてアプリケーションファイルを検証してサニタイズします。サニタイズプロセス：

- 実行されたサニタイズアクションごとに、アップグレードログエントリを作成します。
- サポートされていないフォルダーとファイルをリポジトリから削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、すべてのソースコントロール操作を中止します。たとえば、データベースディクショナリレコードが XML スキーマの検証に失敗した場合、システムはすべての操作を中止します。
- 非システムアプリケーションファイルが XML スキーマの検証に失敗した場合、現在のソースコントロール操作をスキップします。

ソースコントロール統合は、`sn_source_control.properties` ファイルにリストされているアプリケーションパス内のコンテンツのみをサニタイズします。アプリケーションパス外のリポジトリコンテンツは無視されます。

MID サーバーのサポート

既存の MID サーバーを使用して、ソースコントロールリポジトリに接続します。MID サーバーを介してアプリケーションとリンクまたはインポートすると、ファイアウォールの背後にあるリポジトリにアクセスできます。

ソースコントロール統合のための MID サーバーの構成

ソースコントロール統合のために MID サーバーを構成すると、ServiceNow インスタンスと外部のアプリケーション、データソース、サービスの間の通信やデータの移動が可能になります。

- `glide.attachment.extensions` プロパティに「bundle」拡張を追加します。
- MID サーバーがプロキシを経由してリモートの Git リポジトリにアクセスする必要がある場合は、次の手順を実行します。
  - `agent\conf\wrapper-override.conf` ファイルに次の行を追加します。
  - `wrapper.java.additionial.3=-Dhttps.proxyHost=<proxyHost>`
  - `wrapper.java.additionial.4=-Dhttps.proxyPort=<proxyPort>`
  - MID を再起動します。
  - 「MID セキュリティポリシー」に新しいエントリを追加します。
  - 名前：<プロキシホスト名>
  - [アクティブ (Active)] のみをオンにします。

ソースコントロールのコミットのノイズ除去

ソースコントロールのメタデータレコードについて、ノイズを含む更新フィールドの XML ファイルにアンロードすることをスキップします。

本番展開のヒント

ServiceNow® プラットフォームでアプリケーションのカスタマイズを開発する場合は、アプリケーションリポジトリを介してそれを本番インスタンスに展開します。このトピックでは、アプリケーションリポジトリからのアプリケーションのインストールと、ソースコントロールを使用した Git リポジトリからのインストールのトレードオフについて検討し、注意事項を示します。

概要

技術的には、ソースコントロールを使用して、Git リポジトリから本番インスタンスにアプリケーションを「展開」できます。これにより、意図しない結果が生じる可能性があります。

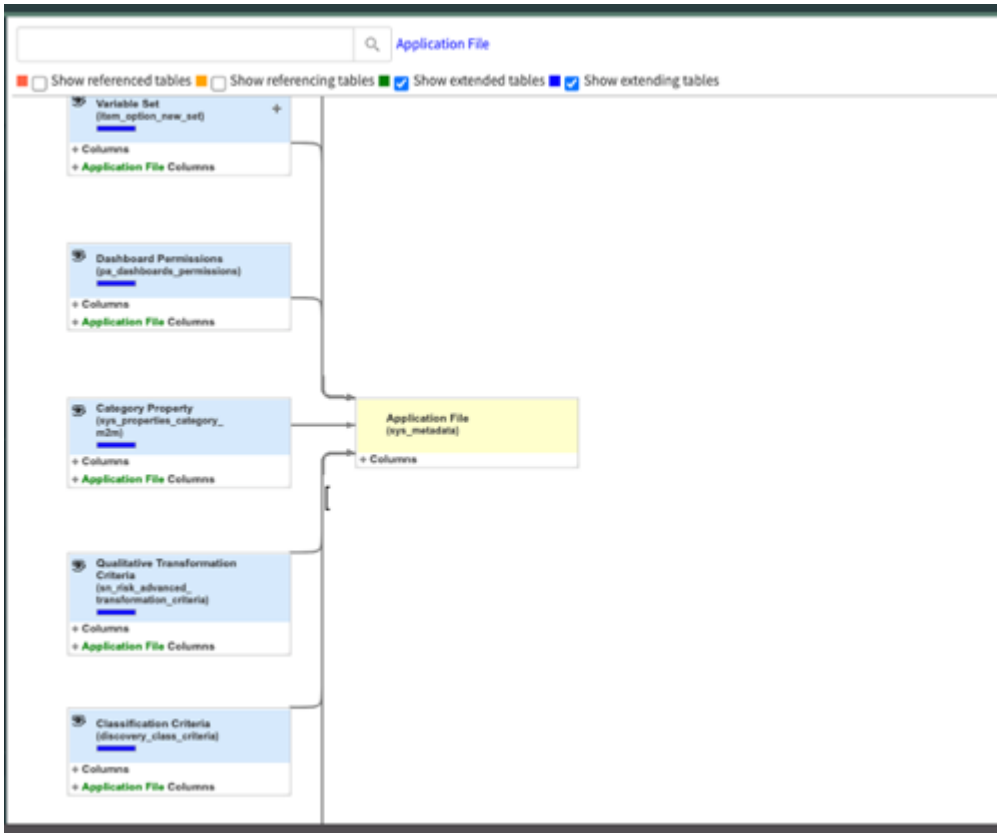
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

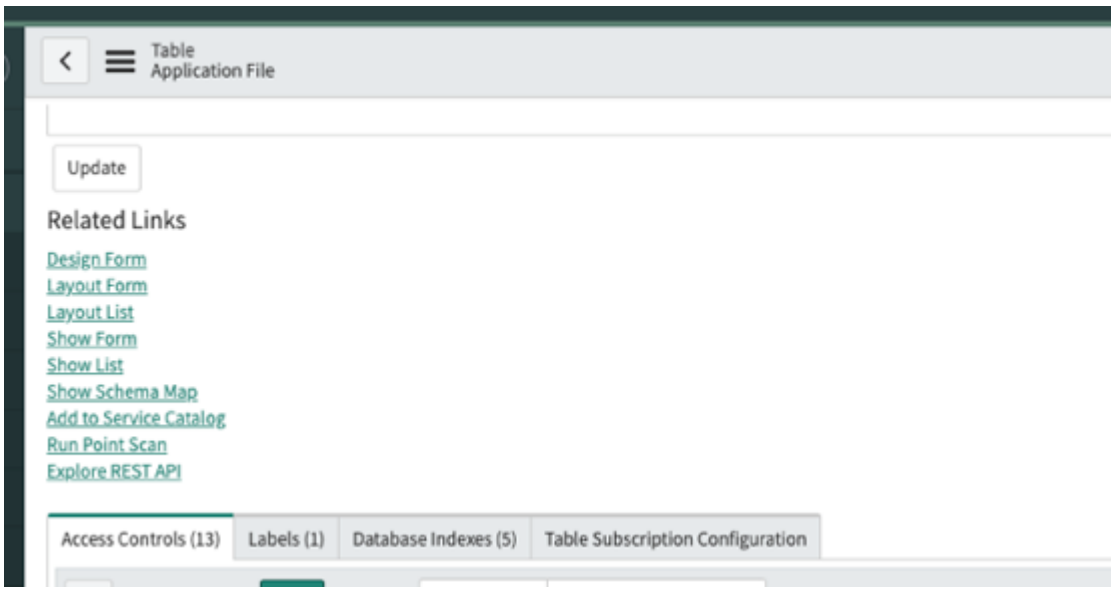
用語集

用語	定義
メタデータまたはアプリケーションファイル	sys_metadata レコードは ServiceNow 内の構成を定義し、アプリケーションにパッケージ化されています。これらのレコードは、インスタンスの動作を変更しますが、インシデントや CMDB レコードなどのデータは含まれません。(以下の注意を参照)
スコープ対象のアプリケーション	ServiceNow アプリケーションで、制限によってスコープ境界内の更新と操作のみを許可します。このメカニズムは、ほとんどの新規開発に使用されます。
グローバルアプリケーション	グローバルアプリケーションは、従来のグローバルスコープで開発されます。多くの場合、このスコープでの作業は、IT Service Management (ITSM) などの既存の ServiceNow アプリケーションのカスタマイズです。
アプリケーションリポジトリ	アプリケーションは通常、本番インスタンスでの展開のためにここで公開されます。アプリケーションリポジトリには個別のエンタイトルメントルールがありますが、ServiceNow Store と同様に動作します。
ServiceNow ストア	サードパーティ (ベンダー) アプリケーションおよび ServiceNow の公開済みアプリケーションのリポジトリです。ほとんどの顧客は Store に公開しませんが、そこからアプリケーションをインストールすることがよくあります。
更新セット	連続する各インスタンスでの展開用にカスタマイズをパッケージ化する標準的な方法です。挿入、更新、および削除の増分コレクションが含まれます。
デルタロード	以前のアンインストール/再インストールの方法ではなく、ソースコントロールからのみ変更されるため、ロードの最も効率的な方法です。
スキーマ	テーブルとテーブルの列の定義です。
ロールバック	アドミニストレーターは、選択したアプリケーションの最後のインストールをロールバックできます。ロールバックすると、初期インストールからすべてのコード、テーブル、ファイルの更新が削除されます。

注: **sys_metadata** テーブルは、テーブル継承モデルを使用する ServiceNow プラットフォーム内のすべてのアプリケーションファイルの親テーブルです。メタデータのサマリ情報を表示するには、テーブル (sys_db_object レコード) の拡張テーブル (super_class) フィールドで示される方法で直接的または間接的に拡張される親テーブルやテーブルにアクセスします。**sys_metadata** テーブルのテーブル (sys_db_object) フォームにアクセスして、フォームの下部にある [スキーママップを表示] 関連リンクを選択することで、スキーマ全体を表示することもできます。スキーマが大きいため、レンダリングに時間がかかります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。





インストールの場所

ソースコントロールをインストールすると、進行中のカスタムアプリケーションの開発が容易になります。したがって、そのアプリケーションは、ストアアプリケーション [sys_store_app] テーブルの「インストール済み」アプリケーションとしてではなく、カスタムアプリケーション [sys_app] テーブルの「開発中」アプリケーションとして管理されます。どちらのテーブルも sys_scope の拡張であるため、どちらもスコープと同じ保護と制限を提供します。したがって、ソースコントロールの展開済みアプリケーションのインストールを検索するときは、システムアプリケーション [sys_app] テーブルと [アプリケーションマネージャー] ページの [開発中] セクションを参照してください。

ServiceNow ストアまたはアプリケーションリポジトリからアプリケーションを展開するときに、インスタンスに同じアプリケーションの sys_app レコードを含めることはできません。2 つの展開モデルは相互に排他的です。どの時点でも展開モデルが変更された場合は、まず sys_app レコードを

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

sys_store_app レコードに変換する必要があります。この操作の実行については、ServiceNow サポートにお問い合わせください。

デルタロード

ServiceNow Paris リリースより前は、ソースコントロールからのアプリケーションインストールがトリガーされると、「リモート変更の適用」機能を含むアプリケーション全体が常に削除されて再インストールされていました。デルタロード では変更のみが更新されるため、プロセスが大幅に簡素化されます。

デルタロードのプロセスは、ソースコントロールからの変更を増分としてロードします。リモート変更を適用する場合、既存のテーブルや列は、リポジトリから削除されない限り削除されません。これにより、存在し続けているテーブルとフィールドのデータが保持されます。

注: **glide.source_control.allow_delta_loading_in_scopedapp** プロパティを使用すると、Paris でデルタロードを無効にできます。ただし、これにより、アプリケーションを削除して再インストールする、より破壊的な動作に戻ります。Paris のグローバルアプリケーションでは、常にデルタロードが使用されます。

次の表に、デルタロードを使用するインスタンスで予想されるさまざまな結果を示します。

アプリケーションタイプ	インストールソース	パッケージにスキーマが存在するか	スキーマにデータが含まれるか	他のアプリからの要求 (グローバル)	データとスキーマの予想される結果
スコープ対象	アプリケーションリポジトリまたはストア	あり	はい/いいえ	適用外	保持
スコープ対象	アプリケーションリポジトリまたはストア	なし	はい/いいえ	適用外	保持
スコープ対象	ソースコントロール	あり	はい/いいえ	適用外	保持
スコープ対象	ソースコントロール	なし	はい/いいえ	適用外	削除
グローバル	ソースコントロール、アプリケーションリポジトリ、またはストア	あり	はい/いいえ	はい/いいえ	保持
		なし	はい	なし	保持 (1)
		なし	いいえ	あり	保持 (2)
	ソースコントロール	なし	いいえ	なし	削除 (3)
	アプリケーションリポジトリ	なし	いいえ	なし	保持

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- データベーススキーマとデータは保持されますが、デフォルトのグローバルアプリケーションに移動されます。
- データベーススキーマとデータは保持されますが、以前にこれらのファイルに対する要求を保持していたグローバルアプリケーションがインストールされている場合、そこに移動されます。それ以外の場合は、デフォルトのグローバルアプリケーションに移動されます。
- **u_ prefix** 付きのカスタム列にのみ適用されます。ServiceNow プラットフォームで作成された列は削除されません。

スコープ対象のアプリケーションのソースコントロールで分岐を切り替える場合は、本番環境で十分に注意してください。現在の分岐で見つかるスキーマ要素がターゲットの分岐にない場合、関連するスキーマは削除され、含まれているデータはすべて破棄されます(データが存在する場合、グローバルアプリケーションはスキーマを削除しません)。

更新セットの場合と同様に、デルタロードでは増分変更のサブセットのみを適用する必要があります。更新セットとは異なり、アプリケーションパッケージは完全なアプリケーションを表します。新しいパッケージに存在しないファイルは削除されます。これにより、機能が変更され、データが削除される可能性があります。アプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store からアップグレードされた更新セットとアプリケーションには、ファイルやスキーマを削除するための明示的な削除ペイロードが必要です。

アプリケーションファイルが何らかの方法で動的に生成されている場合、アプリケーションに対する次のインストール/リモート変更の適用操作で、これらのレコードは削除されます。それらは、受信したアプリケーションパッケージには存在しないと見なされます。ローカルの変更をスタッシュすると、スタッシュコミットによってアプリケーションファイルを復旧できる場合がありますが、変更の結果としてデータが失われた場合、そのデータは復旧されません。

注: sys_update_xml レコードを削除または抑制すると、動的生成ファイルはデルタロードによって削除されなくなります。ただし、このアクションは他の重大な結果や望ましくない結果をもたらす可能性があります。

リポジトリを直接編集する (特にファイルを削除する) と、データの損失やカスケード削除などの重大な影響が生じる可能性があります。このアクションは注意して実行してください。

作成者の選択的更新と顧客アップデート

アプリケーションリポジトリまたは ServiceNow® ストアからアプリケーションをインストールする場合、一連のプロパティを設定して、削除と選択処理の動作を定義できます。このような選択は「作成者の選択的」機能と呼ばれます。

概要

これらのプロパティの詳細については、「アプリケーションのインストール中に発生するスキップされたレコード」トピックを参照してください。これらのプロパティを使用すると、独自のアプリケーションを使用しているか、サードパーティのアプリケーションを使用しているかに応じて、削除や選択の更新をオプトインまたはオプトアウトできます。

ただし、ソースコントロールからインストールする場合、グローバルアプリケーションファイルが別のグローバルアプリケーションによって要求されている場合を除き、これらのレコードはスキップされません。author_elective_update フォルダー全体の処理を無効にする **com.glide.apps.include_my_deletes** および **com.glide.apps.include_global_deletes** を除き、これらのプロパティはソースインストール済みアプリには有効ではありません。

注: ソースコントロールのデルタロードで検出された「不在」ファイルは、author_elective_update フォルダー内に格納されている削除ペイロードとは大きく異なります。author_elective_update プロパティでは、ソースコントロールでデルタロードした場合に、ファイルが削除されることがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

同様に、更新セットは、受信した変更がプレビューの決定を強制しても、インスタンスで行ったカスタマイズを保護します。更新セットをコミットする前に、プレビューを実行して衝突を検出する必要があります。変更をコミットする前に、すべてのプレビューの問題に対処する必要があります。ソースコントロールではローカルの変更をスタッシュするように指示されることがありますが、インストールすると、(ローカルで変更が行われた場合でも) ソースに存在するものがロードされます。

インストールのターゲットに基づいてプロパティのバージョンが異なる必要がある場合、ソースに存在するものをロードするのは困難です。たとえば、統合 URL を含むプロパティがインスタンスの本番ロールに基づいて異なる場合、解決は困難です。**is_private** フラグはソースコントロールインストールで有効であり、プロパティが設定されている場合は上書きしないため、この問題を軽減できます。

ロールバック、切り戻し、アンインストール

アプリケーションリポジトリからのアプリケーションインストールは、ロールバック用に記録されます。つまり、アドミニストレーターは、選択したアプリケーションの前回のインストールをロールバックできます。アプリケーションをロールバックすると、初期インストールからすべてのコード、テーブル、およびファイルの更新が削除されます。

ソースコントロールのインストールはロールバック用に記録されません。つまり、アプリケーションリポジトリ、ストアのインストール、またはファミリ内のアップグレードを元に戻すロールバック機能は、ソースコントロールのインストールでは使用できません。また、ServiceNow® Store アプリケーションと同じ意味で (つまり、テーブルと列を保持するオプションを使用して) アンインストールすることもできません。それらは、**sys_app** レコードを削除することで削除できます。ただし、スコープ対象のアプリケーションでは、これにより基礎となるスキーマとそのデータが破棄されます。

グローバルアプリケーションは、すべてのアプリケーションファイルを別のグローバルアプリケーションに移動するまで削除できません。アプリケーションの **sys_app** レコードを削除すると、削除ペイロードを含む **sys_update_xml** レコードも作成されます。同じアプリケーションがアプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store を介してインストールされている場合、これらのペイロードはスキップを生成する可能性があります。

これらのスキップを回避するには、アプリケーションリポジトリからアプリケーションをインストールする前に、**sys_update_xml** レコードを手動で削除する必要があります。また、ソースコントロールからのインストールでは、Update Sets に含まれる、新しい変更のサブセットを削除する [切り戻し] オプションはありません。つまり、このモデルで復旧できるのは、現在のバージョンのアプリケーションの上に修正された (新旧の) バージョンをインストールする場合に限定されます。このアクションでは、メタデータまたは構成のみが復元されます。インストール失敗の結果として失われたデータは、データベースの復元から復旧する必要があります。

アップグレード履歴

アップグレード履歴レコードと履歴行の処分は、インストールレコードを提供するソースコントロールインストールの一部として生成されます。

ソースコントロールのインストールはよりアグレッシブであり、プロパティにグローバル要求または **is_private** 保護がない限り、通常はスキップされません。グローバルアプリケーションは、データを含む列、または ServiceNow ベースでインストールされた列も削除されないように保護します。

開発に関する考慮事項

コードを開発するときは、パフォーマンスを最も効率化するために、次の提案のいくつかを検討してください。

本番インスタンスは Git リポジトリに公開すべきではありません

本番環境の完全性を保護するため、本番環境から変更をプッシュして Git リポジトリに公開しないでください。技術的には ServiceNow® スタジオ でアプリケーションの変更を開いてコミットできる場合でも同様です。[Studio でアプリケーションの編集が可能] オプションは、本番環境では **sys_app** レコードで無効にできます。ただし、更新をト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リガーする次のソースコード操作 (つまり、リモート変更を適用するか分岐を切り替えるとき) でリセットされます。

Git リポジトリからアプリケーションをインストールするときには依存関係がインストールされません

ソースがコントロールするアプリケーションは、自分のアプリケーションの依存関係としてリストされている場合でも、自動的にインストールまたはアップグレードされません。代わりに、顧客が自分でソースがコントロールするアプリケーションをインストールまたはアップグレードする必要があります。顧客は、正しい順序でアプリケーションをインストールおよびアップグレードする責任も負います。

本番環境ではソースコントロール権限を厳格に管理します。

ソースコード操作は、通常、そのインスタンスの開発権限を持つユーザーが利用できます。本番環境では開発を続ける必要がないため、データの損失やその他の重大な結果を避けるために、アドミン権限と委託開発権限を厳密に管理してください。

利用可能なソースコントロール操作

ソースコントロールの統合は、主に、スタジオからの操作をサポートしますが、GIT リポジトリから直接の操作をサポートすることもできます。

利用可能なソースコントロール操作

操作	説明	入手先
ソースコントロールからインポート	アプリケーションをリポジトリからローカルインスタンスにインポートします。	スタジオ
ソースコントロールにリンク	開発者はGITリポジトリからアプリケーションの変更を管理できます。	スタジオ
リポジトリ構成を編集	GIT リポジトリのユーザー認証情報を更新します。	スタジオ
リモート変更を適用	リポジトリのバージョンと一致するようにアプリケーションのローカルバージョンを更新します。	スタジオ
変更を収容	ローカルバージョンと一致するように、アプリケーションのリポジトリバージョンを更新します。	スタジオ
ローカルな変更を隠す	後で作業するためにローカルの変更を削除して保存します。	スタジオ
分岐を切り替え	アプリケーションのローカルバージョンを更新して、リポジトリ分岐バージョンと一致させます。	スタジオ
分岐を作成	リポジトリに分岐を作成して、異なるバージョンのアプリケーションを保存します。	• スタジオ • GITリポジトリ
タグを作成	特定のアプリケーションバージョンにリンクするようタグをリポジトリに作成します。	• スタジオ • GITリポジトリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用可能なソースコントロール操作 (続く)

操作	説明	入手先
しまいこみを管理	開発者がしまい込んだ変更を適用または削除できるようにします。	スタジオ
リポジトリを作成する	アプリケーションの変更を保存するリポジトリを作成します。	GITリポジトリ
認証情報の作成	リポジトリへの認証情報を作成します。	GITリポジトリ
リポジトリへのアクセスを許可する	特定の認証情報セットに関連付けられたリポジトリへの読み書きアクセスを提供します。	GITリポジトリ
ソースコントロールリポジトリの同期	アドミニストレーターがソースコントロールリポジトリからリモート変更を適用し、インスタンスと再同期できるようにします。 **注:** この操作は、リポジトリに対してデルタロードが使用されている場合にのみ使用できます。「デルタロード」を参照してください。	リポジトリ構成フォーム

アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールからインポート

ソースコントロールリポジトリからアプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズをインポートして、このインスタンスで開発を続行します。

始める前に

- 必要なロール：admin または source_control
  - アクセストークンの権限を制限して、Git リポジトリへの読み取りおよび書き込みアクセスを許可します。
  - リポジトリユーザーの認証情報は、読み取りおよび書き込みアクセス権を付与する必要があります。

  詳細については、「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク」を参照してください。
- 非本番インスタンスに Git リポジトリへのネットワークアクセスがあることを検証します。
- リポジトリに有効なアプリケーションが含まれていることを確認する。
- ユーザーが Git リポジトリへのコミットで使用するそれぞれのユーザーテーブル (ServiceNow sys_user) レコードに、メールアドレスを追加していることを確認します。
- アプリケーションのカスタマイズの詳細については、「アプリケーションカスタマイズの管理 (Managing application-customizations)」を参照してください。

このタスクについて

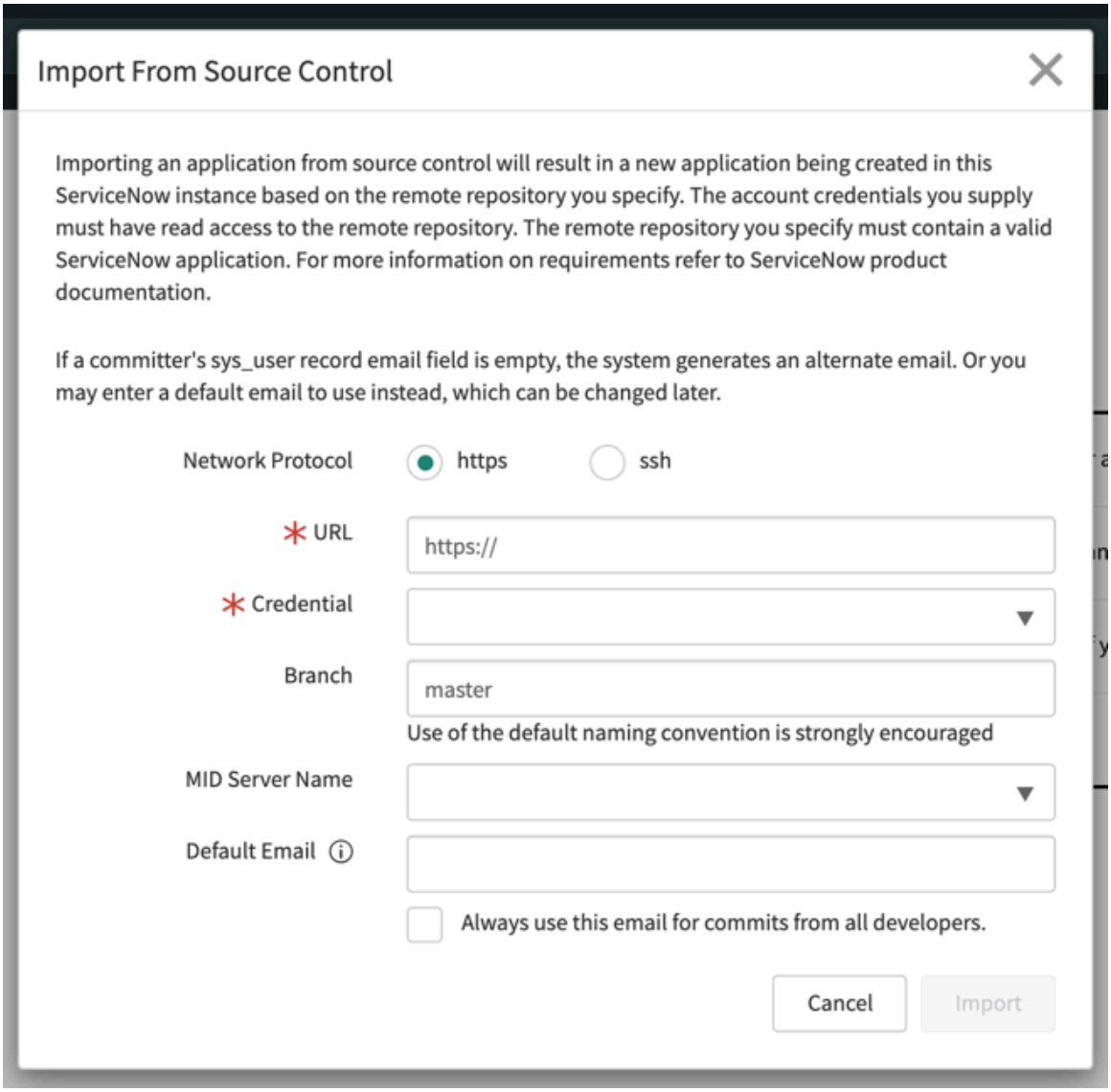
ソースコントロール統合では、制作インスタンス上のアプリケーションのインポートはサポートされていません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または ServiceNow Store から制作インスタンス上にアプリケーションをインストールします。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > **[Studio]** に移動します。
   スタジオページに歓迎画面が表示されます。
2. オープンスタジオ > 行くをクリックします。
   システムがスタジオとアプリケーションの切り替えウィンドウを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. ソースコントロールからインポートをクリックします。
スタジオ ソースコントロールフィールドからインポートを表示します。



4. 次のフィールド値を入力します。

ソースコントロールフィールドからのインポート

フィールド	説明
ネットワークプロトコル	セキュリティ保護されたチャネルデータ交換を可能にする https または ssh 認証情報タイプ。
URL	アプリケーションファイルが存在する Git リポジトリの URL。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: Git サーバーが提供する SSH の Git リポジトリ URL が機能しない場合は、Git サーバーのオーナーまたはプロバイダーに正しい URL を確認してください。Git リポジトリ URL が機能するために、追加仕様 (スキームプロトコルプリフィックス、ポート番号など) が必要な場合があります。
認証情報	Git リポジトリの認証情報を選択します(「認証情報の開始」を参照)。 注: ssh ネットワークプロトコルを選択した場合は、[SSH プライベートキー] タイプの有効な認証情報を入力します。https プロトコルを選択した場合は、基本認証情報タイプの有効な認証情報を入力します。
分岐	アプリケーション内で機能するリポジトリ分岐。 注: デフォルトの分岐には、インスタンスの名前が付けられます。名前を選択しない場合、分岐はデフォルトで [マスター] になります。
MID サーバー名	既存の MID サーバーを選択して、企業ファイアウォールの背後に格納されている Git リポジトリにリンクします。 注: ディスカバリー アクティビティとの競合を防ぐために、個別の MID サーバーを使用します。
デフォルトのメール	コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。ただし、コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力して、後で変更することもできます。すべてのケースでそのデフォルトのメールアドレスを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。

注: インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、Git リポジトリをアプリケーションにリンクするための認証情報を共有します。

5. [インポート] をクリックします。
`checksum.txt` ファイル内のチェックサムが、現在のチェックサムと比較されます。チェックサム値が一致すると、統合は検証をスキップしてアプリケーションをインポートします。チェックサム値が一致しない場合、統合は最初にアプリケーションファイルを検証してサニタイズしてから、それらをインポートします。
6. アプリケーションの選択をクリックします。
スタジオ アプリケーションをウィンドウに新しい選択肢として表示します。

次のタスク

- インポート中にアプリケーションファイルに適用されたサニタイズのアップグレードログを確認します。
- インポートしたアプリケーションを選択して編集する。

関連情報

MID サーバー

認証情報の開始

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズをソースコントロールにリンクすると、アプリケーション開発者は Git リポジトリから変更を管理できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- 詳細については、「アプリケーションカスタマイズの管理 (Managing application-customizations)」を参照してください。
- アプリケーションの専用 Git リポジトリを作成します。セキュリティを強化するには、Git リポジトリに対するマルチファクター認証を有効にします。
- パスワードと複数要素認証パスキーの代わりにソースコントロール統合で使用できるアクセストークンを生成する。個人アクセストークンを GitHub または GitLab で検索する。
- アクセストークンの権限を制限して、Git リポジトリへの読み取りおよび書き込みアクセス権を付与します。
- 非本番インスタンスに Git リポジトリへのネットワークアクセスがあることを検証します。
- ユーザーが Git リポジトリへのコミットで使用するそれぞれのユーザーテーブル (ServiceNow sys_user) レコードに、メールアドレスを追加していることを確認します。
- 詳細を見る： 完了した更新セット履歴のソースコントロールへの移行

このタスクについて

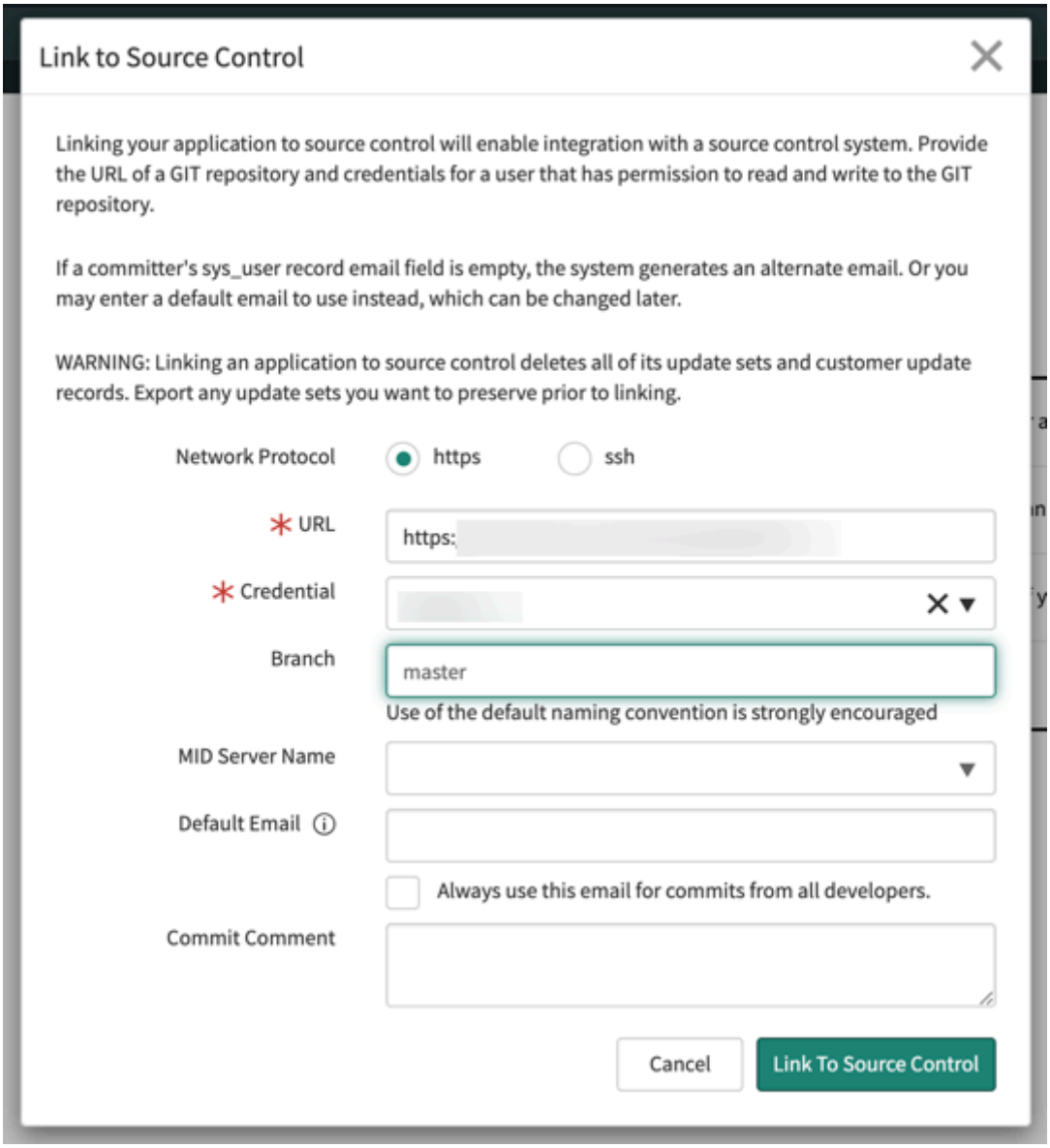
ソースコントロール統合は、本番インスタンス上のアプリケーションまたはカスタマイズへのリンクをサポートしません。代わりに、アプリケーションリポジトリ、更新セット、または ServiceNow Store から本番インスタンス上にアプリケーションをインストールします。

手順

1. ソースコントロールにリンクしたいアプリケーションをスタジオに開きます。
2. ソースコントロール > からソースコントロールへのリンクに行きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタジオ ソースコントロールダイアログボックスへのリンクを表示しま



す。

3. Git リポジトリの接続の詳細を入力します。

ソースコントロール接続の詳細

フィールド	説明
ネットワークプロトコル	セキュリティ保護されたチャネルデータ交換を可能にする HTTPS または SSH 認証情報タイプ。
URL	アプリケーションファイルを保存する Git リポジトリの URL。SSH プロトコルの場合は、コマンドを使用して秘密キー `ssh-keygen -t rsa -m PEM -b 4096 -C "email@address"` を生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: Git サーバーが提供する SSH の Git リポジトリ URL が機能しない場合は、Git サーバーのオーナーまたはプロバイダーに正しい URL を確認してください。Git リポジトリ URL が機能するために、追加仕様 (スキームプロトコルプリフィックス、ポート番号など) が必要な場合があります。
認証情報	選択したプロトコルで使用する認証情報。認証情報の作成の詳細については、「認証情報の開始」を参照してください。 注: SSH ネットワークプロトコルを選択した場合は、SSH 秘密キータイプの有効な認証情報を入力します。https プロトコルを選択した場合は、基本認証情報タイプの有効な認証情報を入力します。
分岐	アプリケーション内で機能するリポジトリ分岐。
MID サーバー名	リンクが経由する既存の MID サーバーの名前。 注: ディスカバリー アクティビティとの競合を防ぐために、個別の MID サーバーを使用します。 MID サーバーのユーザーが sys_attachment テーブルにファイルを作成でき、そのテーブルが「バンドル」タイプのファイルを受け入れることができることを確認してください。 MID サーバーを介してアプリケーションとリンクまたはインポートすると、ファイアウォールの背後にあるリポジトリにアクセスできます。詳細については、「ソースコントロールでの MID サーバーの使用」および「MID サーバー」のトピックを参照してください。
デフォルトのメール	コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。ただし、コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力して、後で変更することもできます。すべてのケースでそのデフォルトのメールアドレスを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。
コミットのコメント	リポジトリまたはアプリケーションの付随的説明

注: インスタンス上のすべてのアプリケーション開発者は、1 組のリポジトリ認証情報を共有します。

4. [送信] をクリックします。
システムは接続とユーザーの認証情報を検証し、成功メッセージを表示します。

インスタンスのすべてのアプリケーション開発者は、リンクされた Git リポジトリを使用して変更を管理できます。

関連情報

認証情報の開始

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースコントロールでの MID サーバーの使用

ServiceNow® MID サーバーは、ServiceNow インスタンスと外部のアプリケーション、データソース、サービスの間のデータの通信や移動を支援します。

バンドルファイルの MID サーバーでの機能

.bundle ファイルは、MID サーバーでのソースコントロール機能に役立ちます。バンドルファイルは、Git がローカルリポジトリを 1 つのファイルにパッケージ化する方法です。これにより、リポジトリの共有または移動がより簡単に、合理化されます。その後ファイルは MID サーバーに送信され、リモートリポジトリに渡されます。

`outgoing.bundle` (コミット操作) と `incoming.bundle` (リモート変更の適用) は、MID サーバーに送信されるすべての要求について、MID サーバー添付ファイルテーブル [ecc_agent_attachment] に添付されます。`outgoing.bundle` は インスタンスで作成され、`incoming.bundle` は MID サーバーで作成されます。

操作が正常に完了すると、バンドルファイルはリポジトリ構成テーブル [sys_repo_config] に添付される `golden.bundle` に「昇格」されます。これは、まだソースコントロール操作を実行していないノードでリポジトリを初期化するために使用されます。

自動クローズツール [sys_auto_flush] は、30 日以上経過したすべての `ecc_agent_attachment` レコードを削除する「テーブルクリーナー」です。このアクションにより、対応する添付ファイルも削除されます。

バンドルファイルは MID サーバーに保持されて、MID サーバーの Import ディレクトリに保存されます。

MID サーバーでは、バンドルファイルは Import フォルダーに保存されます。このフォルダーは、ユーザーが構成できるシステムプロパティ (user.dir) によって定義されたユーザーディレクトリの下にあります。バンドルファイルは、いつでも操作の最後のシステムフラッシュの一部として削除されます。

MID サーバーの操作

注: エクスポート後にアプリ全体がバンドルされ、アプリのサイズに依存するため、MID サーバーを使用しているときは、大規模なアプリケーションではソースコントロール操作に時間がかかる場合があります。

- ディスカバリーとの競合を回避し、システム添付ファイル [sys_attachment] テーブルのファイルを作成します (MID サーバー)
- システムのプロパティの制限について学習します (添付ファイルのシステムプロパティの構成)

完了した更新セット履歴のソースコントロールへの移行

ソースコントロールにリンクすると、この機能により、アプリケーション開発者は完了した更新セット内の情報をソースコントロール履歴に移行することもできます。

移行前

更新セットを移行してみる前に、次の基準を満たしていることを確認してください。

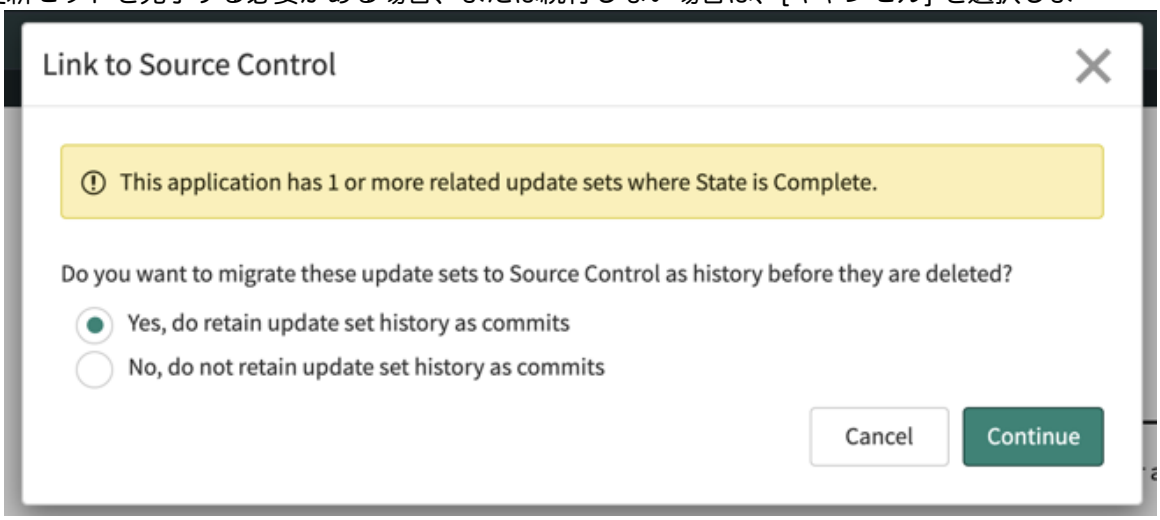
- 必要なロール：admin
- 「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク」トピックを読みます。
- ソースコントロール履歴としてエクスポートする、アプリケーションの更新セットを完了します。
- 保持する必要がある場合は、完了した更新セットをエクスポートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションをソースコントロールにリンクすると、更新セットと顧客更新レコードが削除されます。ソースコントロールにリンクした後、アプリケーションに完了した更新セットがある場合は、下のダイアログボックスで選択を求められます。

- [はい、更新セット履歴をコミットとして保持します] を選択した場合、更新セット履歴はソースコントロールのコミットとして保持されます。
- [いいえ、更新セット履歴をコミットとして保持しません] を選択すると、コミットとして保持されません。

選択したオプションに関係なく、[続行] を選択すると、[ソースコントロールにリンク] 操作が開始され、完了したすべての更新セットとすべての顧客更新レコードが削除されます。追加の更新セットを完了する必要がある場合、または続行しない場合は、[キャンセル] を選択します。



ソースコントロールにリンクしている、アプリケーションの更新を含む完了した更新セットごとに、更新セットの sys_update_xml レコードに基づいてコミットが自動的に生成されます。コミットは **sys_recorded_at** タイムスタンプ順に並べられます。グローバルアプリケーションの場合：アプリケーションに属し、完了したグローバル更新セットの一部である **sys_update_xml** レコードは、履歴コミットとしてキャプチャされます。

[ソースコントロールにリンク] 操作が完了すると、最新のコミットがアプリケーション全体の状態になります。Git リポジトリでコミットの履歴を表示するか、 [ソースコントロール] メニューオプションをクリックして [履歴を表示] を選択します。更新は複数のコミットに分離されます。

- 異なる更新セット間でファイルの更新が順序通りでない場合。
- 更新セットに 1 つのファイルの複数の更新レコードが含まれている場合。

1 つの更新セットに対するコミットは、複数のコミット ([過去のコミット 1]、[過去のコミット 2]...) に分割されて各更新を表します。これにより、各ファイルの更新の履歴が順序付けされます。

⚠ **警告:** [過去のコミット] のプリフィックスが付いたコミットは、その履歴を表示するためだけに生成されます。これらのコミットがアプリケーションの安定したスナップショットを表すとは限らないため、開発プロセスではこれらをチェックアウトしないでください。

最初のコミットまで、**author_elective_update** フォルダーは作成されません。つまり、最初のコミットでは、**sys_choice** ファイルなどのファイルの名前が変更され、update フォルダーから **author_elective_update** フォルダーに移動されている可能性があります。履歴コミットで更新セットから削除されたファイルは削除され、実際のコミットの場合とは異なり、**author_elective_update** フォルダーに移動されません。最初のコミット中に、完了した更新セットの一部として削除された DELETE sys_update_xml レコードに対しても削除ペイロードが作成されます。

コミットメッセージの例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
[Historical Commit 1] <Name of update set that this commit belongs to>
Description: <Description of update set that this commit belongs to>
Update Set was completed on / installed on <date>
Update Set was completed by <sys_user user_name > <sys_user email>
{
```

sys_update_set レコードから追加される値 (下の「カスタマイズ」セクションを参照)

```
}
{
```

バッチ更新セットの情報 (下の「バッチ更新セット」セクションを参照)

バッチ更新セット

更新セットがバッチ更新セットの一部である場合、その情報は次の形式でコミットメッセージに追加されます (最大番号がバッチベース)。

```
{
"1": {
"parent": "<name of parent update set>",
"description": "<description of parent update set>"
},
"2": {
"parent": " <name of parent 1’s parent update set> ",
"description": " <description of parent 1’s parent update set> "
}
}
```

カスタマイズ

コミットメッセージに含めるフィールドを追加するには、**glide.source_control.historical_commit_fields** プロパティを追加します。値は、ユーザーが sys_update_set XML フィールドから含めるフィールドの、カンマ区切りリストです。スペース、無効なフィールド名、またはスペルミスのあるフィールド名は無視されます。コミット担当者が更新セット履歴を保持することを選択した場合、このプロパティは、インスタンスからソースコントロールにリンクされているすべてのアプリケーションで使用されます。

注: フィールドの値が別のテーブルまたは sys_id を参照する場合、フィールドの値のみが追加されます。たとえば、ユーザーの名前の代わりにそのユーザーの sys_id が追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

XML の例

プロパティの値

コミットメッセージの結果

Git リポジトリ構成の編集

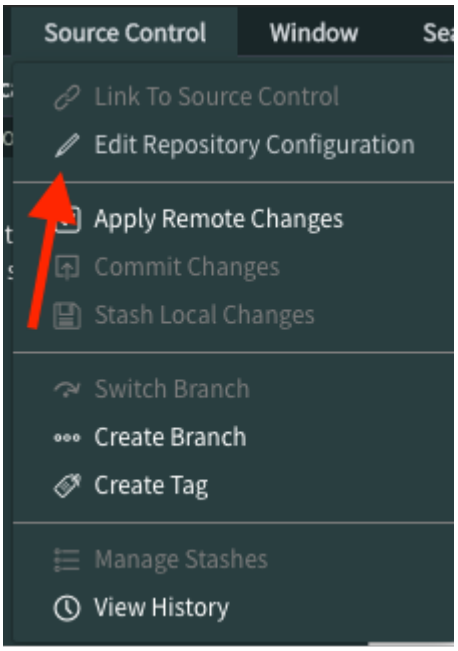
Git リポジトリを編集して、ネットワークプロトコルの選択、認証情報、またはその他のフィールドエントリを変更できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

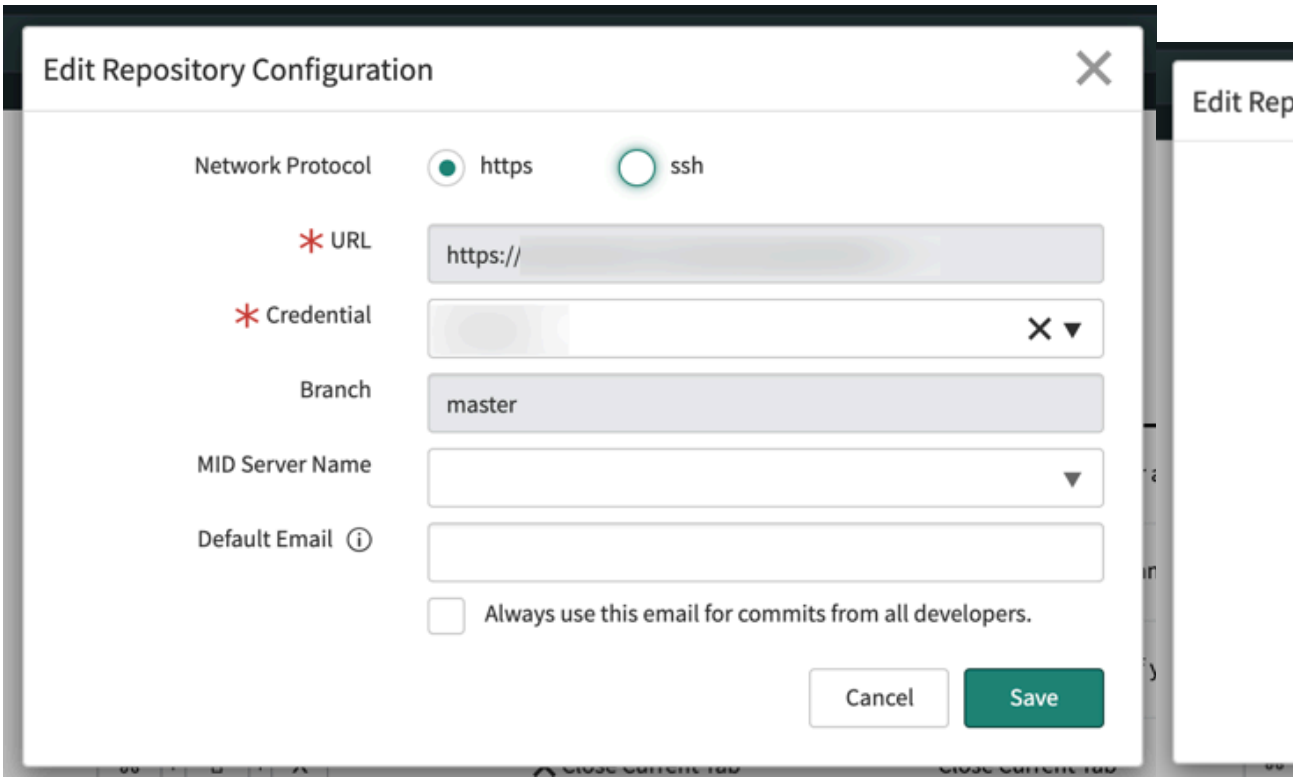
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. スタジオ で、[リポジトリ構成を編集] を選択します。



2. **[https]** または **[ssh]** ネットワークプロトコルを選択して、リポジトリの URL アドレスを入力します。



3. 必要に応じて、認証情報または MID サーバー名を変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** MID サーバー名がない場合は、ドロップダウンリストから新しい名前を選択できます。新しい MID サーバーを選択する場合は、[ソースコントロール] メニューでリモートの変更を適用してからその後のソースコントロール操作を行って、エラーを回避します。

デフォルトのメールフィールドでは、コミット担当者のメールアドレスは、sys_user レコードによって定義されます (利用可能な場合)。ただし、コミット担当者の sys_user レコードメールフィールドが空の場合、システムは代替メール (username@instancename.service-now.com) を生成します。デフォルトのメールアドレスを入力して、後で変更することもできます。すべてのケースでそのデフォルトのメールアドレスを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。

4. [保存] をクリックします。

リモートの変更を適用

アプリケーション開発者は、リンクされたGITリポジトリから変更を引出して、ローカルインスタンスにリモート変更を適用できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

手順

[すべて] > [ソースコントロール] > [リモート変更を適用] に移動します。
次の操作が行われます：

- システムは、リモートリポジトリから最新の変更を取ってくる。
- システムは、リモート変更をインスタンスに適用する。
- システムは解決を必要とする変更の競合を特定する。

競合が発生した場合、システムは競合を解決するためのウインドウを表示します。

システムプロパティのデフォルトでデルタロードがアクティブ化されているため、データは削除されません。データを自動的に削除する場合は、この機能を無効にします。

> **注:** ソースコントロールでの [リモート変更を適用] やその他の操作の後に、次のエラーメッセージが表示される場合があり ます：`Skipped loading file *.xml, cannot parse the xml document, found git merge conflicts tokens` (*.xml ファイルのロードをスキップしました。xml ドキュメントを解析できません。Git の結合競合トークンが見つかりました)。アプリケーションのファイルに、Git リポジトリが結合競合トークンとして解釈する値が含まれていないことを確認してください。これらは実際の競合ではありませんが、いずれにしても削除する必要があります。そのような値の例：
>
> `>>>>>>>`
>
> `=======`
>
> `<<<<<<<`

次のタスク
変更の競合を解決します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変更を収容

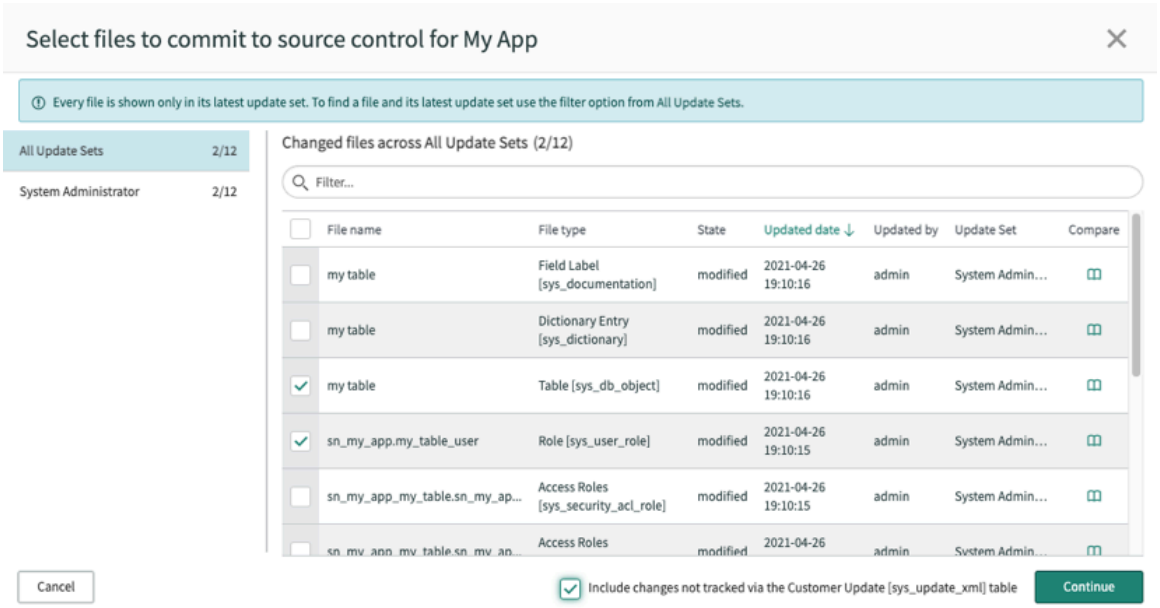
アプリケーション開発者は、インスタンスの変更をリンクされた Git リポジトリにコミットできます。変更をいくつか選択してコミットすることも、インスタンスに対するすべての変更を一度にコミットすることもできます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

手順

1. [すべて] > [ソースコントロール] > [変更を収容] に移動します。
   [ソースコントロールにコミットするファイルを選択] ウィンドウが表示されます。すべての更新セットからのファイル変更が表示されます。デフォルトでは、現在の更新セットからのファイル変更が表示されます。



2. コミットするファイル変更を選択します。
3. 追跡されていない変更を含めるには、[顧客アップデート **[sys_update_xml]** テーブルを介して追跡されない変更を含める] チェックボックスをオンにします。
   - このチェックボックスのデフォルトは、**[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティを介して設定されます。
     - プロパティは、**[include_untracked]** または **[exclude_untracked]** に設定できます。
     - **[include_untracked]** モードは、sys_update_xml レコードを生成しないアプリケーションに対する更新とともに、ユーザーが選択した更新をコミットします。
     - **[exclude_untracked]** モードでは、[ソースコントロールにコミットするファイルを選択] ダイアログでユーザーが選択した更新のみがコミットされます。
   - プロパティのベースシステム設定は **[exclude_untracked]** です。
   - ServiceNow Rome より前のリリースでは、**include_untracked** モードのみが使用されます。

   チェックボックスを非表示にして **[glide.sourcecontrol.default_commit_mode]** プロパティの値を使用するには、**[sn_devstudio.vcs.allow_commit_mode_selection]** プロパティを作成して [false] に設定します。このチェックボックスをオンにすると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

次の場合、コミットは常に **[include_untracked]** モードで発生します。

- 初めてソースコントロールにリンクするとき (詳細については、「アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク」を参照してください)。
- ServiceNow Studio からソースコントロールにリンクされたアプリケーションを公開するとき (詳細については、「ServiceNow スタジオ からのアプリケーションの公開 (ソースコントロールにリンクされている場合)」を参照してください)。
- 選択的コミットモードが無効のとき。

4. [続行] をクリックします。
5. [コメントをコミット] に、変更のコメントを入力します。
6. [コミットファイル] をクリックします。
   次の操作が行われます：
   - システムは全てのローカルな変更を識別します。
   - システムは、リモートリポジトリにすべてのローカル変更を収容します。

   注: 顧客更新レコードがなく、追跡もされていない既知のファイルのリストについては、「顧客アップデートテーブル」を参照してください。

ローカル変更をスタッシュ

アプリケーション開発者は、変更をローカルで削除して保存し、後で適用できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする
- 1つまたは複数のアプリケーションファイルを変更する。

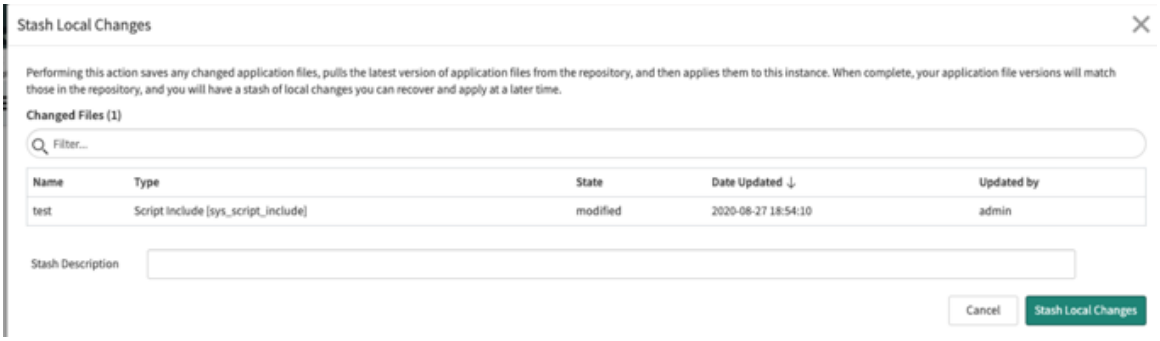
このタスクについて

変更をしまい込むと、現アプリケーションからその変更が除去され、後ほど開発者が適用または削除するために保存します。

手順

1. スタジオ から、ソースコントロール > ローカル変更をしまい込むに行きます。
   システムがローカルで変更されたファイルのリストを表示します。
2. 説明を入力します。
3. ローカル変更をしまい込むをクリックします。
   システムは現在の変更を保存し、成功メッセージを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: San Diego 以降のリリースでは、スタッシュ中の更新のたびにユーザー情報が保持されます。スタッシュが適用されると、各更新はそれぞれのユーザーの進行中のローカル更新セットに復元されます。

次のタスク

- ダイアログを閉じる
- スタッシュを管理

詳細については、「認証情報の開始」を参照してください。

分岐を切り替え

アプリケーション開発者は別のリポジトリブランチに切り替えて、別のバージョンのアプリケーションで作業できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- 1つ以上の利用可能なブランチを持つGITリポジトリ

手順

1. [すべて] > [ソースコントロール] > [分岐を切り替え] に移動します。
   [分岐を切り替え] ウィンドウが表示されます。
2. オプション: インスタンスにローカルで変更があった場合は、それらを保存または破棄できます。

オプション	説明
ローカル変更を保存	代替分岐に切り替える前にローカルの変更を保存します。後で保存された変更を合併または破棄できます。
ローカル変更を破棄	代替分岐に切り替える前に、すべてのローカル変更を完全に削除します。

注: ローカルな変更を破棄するときは注意します。すべてのアプリケーション開発者はリポジトリの認証情報を共有するため、1 組のユーザー変更だけを破棄する方法はありません。後で破棄した変更を回復することはできません。

3. 切り替え先の分岐を選択します。
4. ブランチ切り替えをクリックします。
   スタジオ ではリポジトリからの分岐バージョンと一致するようにローカルアプリケーションが更新されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ブランチを作成

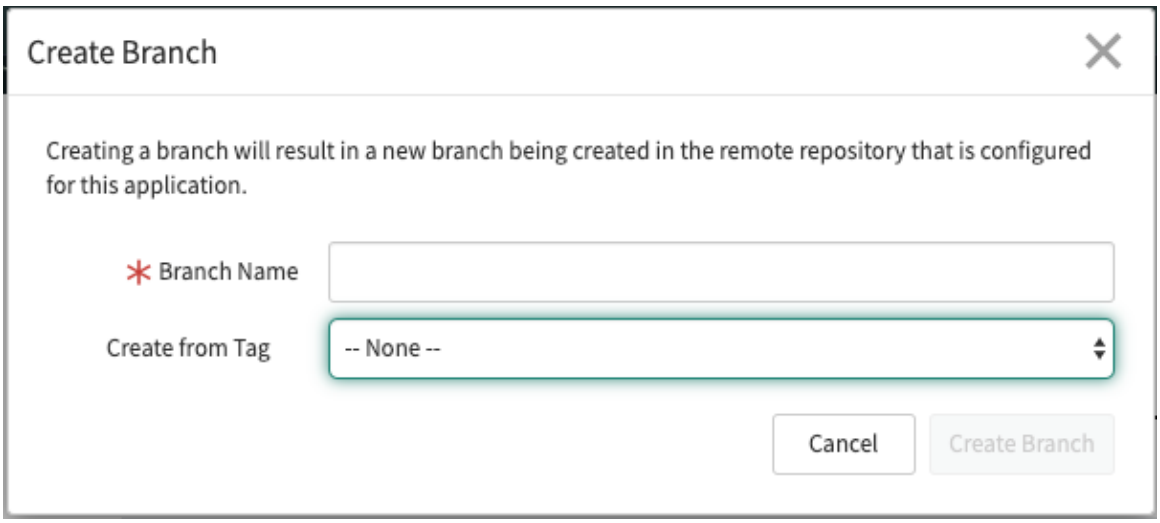
アプリケーション開発者は、既存のアプリケーションの新しいバージョンで作業するブランチを作成できます。

始める前に

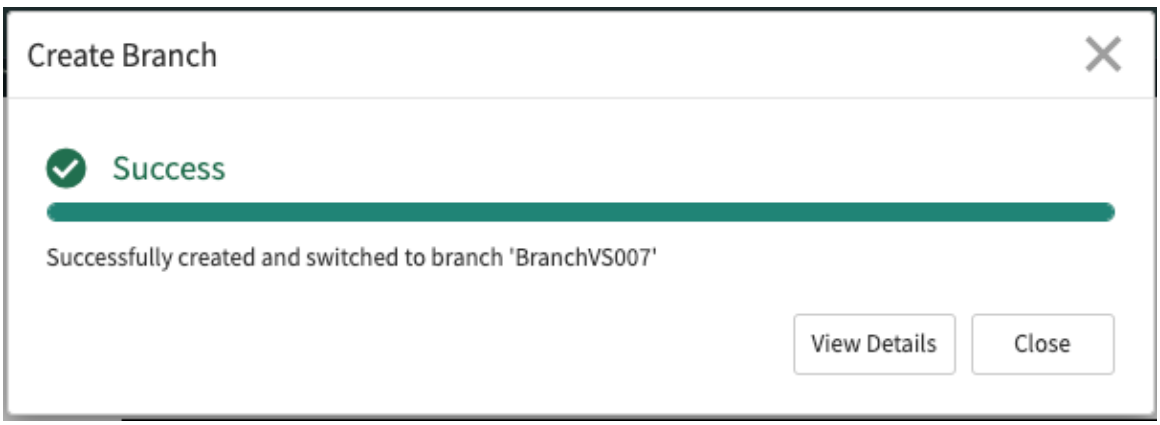
- 必要なロール：admin または sn_group_creator.app_creator
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

手順

1. [すべて] > [ソースコントロール] > [分岐を作成] に移動します。
   スタジオ で分岐作成ウィンドウが開きます。



2. [分岐名] を入力します。
3. オプション: タグから分岐を作成するには、[タグから作成] ドロップダウンリストをクリックして、既存のタグを選択します。
4. [分岐を作成] をクリックします。
   スタジオ で分岐が作成されます。



5. [クローズ] をクリックします。

次のタスク

新しい分岐への変更をコミットします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルト分岐の設定

新しい変更またはメインの開発リポジトリとしてメイン以外の分岐を使用する場合は、デフォルト分岐を設定します。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク

手順

1. 「 システムプロパティを追加する 」の手順に従います。
2. **[glide.source_control.default_branch_name]** プロパティを追加し、(プル要求、コードコミットなどの) 作業をする Git ソースコントロールリポジトリのデフォルト分岐の名前を指定します。

タスクの結果

アプリケーション開発者の作業は、特に指定されていない限り、デフォルトの分岐から管理され、そこに保存されます。変更されない限り、この値のデフォルトは「sn_instances/<instance_name>」に設定されます。

スタッシュを管理

アプリケーション開発者は、スタジオからしまい込んだ変更を適用または削除できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする。
- １つまたは複数のアプリケーションファイルの変更をしまい込む。

手順

1. スタジオから、ソースコントロール > しまい込みを管理に行きます。
   システムはローカルにしまい込まれた変更のリストを表示します。
2. 管理したいしまい込みの横にある操作をクリックします。

オプション	説明
適用	アプリケーションにしまい込まれた変更を収容し、競合をチェックします。
削除	しまい込まれた変更を削除する。
表示	スタッシュされた変更のリストを表示します。

競合の解決

アプリケーション開発者は、リモートまたはしまい込まれた変更を適用するときに使用するアプリケーションファイルのバージョンを選択できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- アプリケーションをソースコントロールにリンクする
- しまい込んだ変更の適用

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
競合は、同じアプリケーションファイルの複数の変更バージョンがある場合に発生します。1つはリモートまたはしまい込みバージョンの変更セットで、もう1つはローカルバージョンの変更セットです。 スタジオ開発者は、リモートまたはしまい込みの変更を適用する前に競合を解決する必要があります。

手順

1. スタジオからリモートまたはしまい込み変更を適用します。
   システムが競合を識別すると、[競合の解決] ダイアログを表示します。
2. 競合を解決する方法を選択します。

オプション	説明
アクションを選択	すべてのしまい込み変更を適用または破棄します。ステップ3 に行きます。
変更を手動で合併	適用する変更を個別に選択します。ステップ 6 に行きます。

3. 全てのしまい込まれた変更を適用または破棄したい場合には、アクションを選択します。

オプション	説明
しまい込んだ変更を取得	しまい込んだ変更からアプリケーションファイルのバージョンを適用します。
しまい込んだ変更を破棄	リポジトリから最新引出したものからアプリケーションファイルのバージョンを適用します。

4. しまい込んだ変更を適用をクリックします。
   選択した変更が適用されます。
5. ダイアログを閉じるをクリックします。
6. 競合する変更を合併する場合は、手動で適用するをクリックします。
   バージョン差異のリストをフィールド毎に表示します。
7. 合併されたアプリケーションファイルに含めたいフィールドの値を選択します。
8. 結合を保存をクリックします。
   選択した変更が適用されます。

収容の履歴を表示

アプリケーション開発者は、ソースコントロールリポジトリにリンクされているアプリケーションの収容履歴を表示できます。

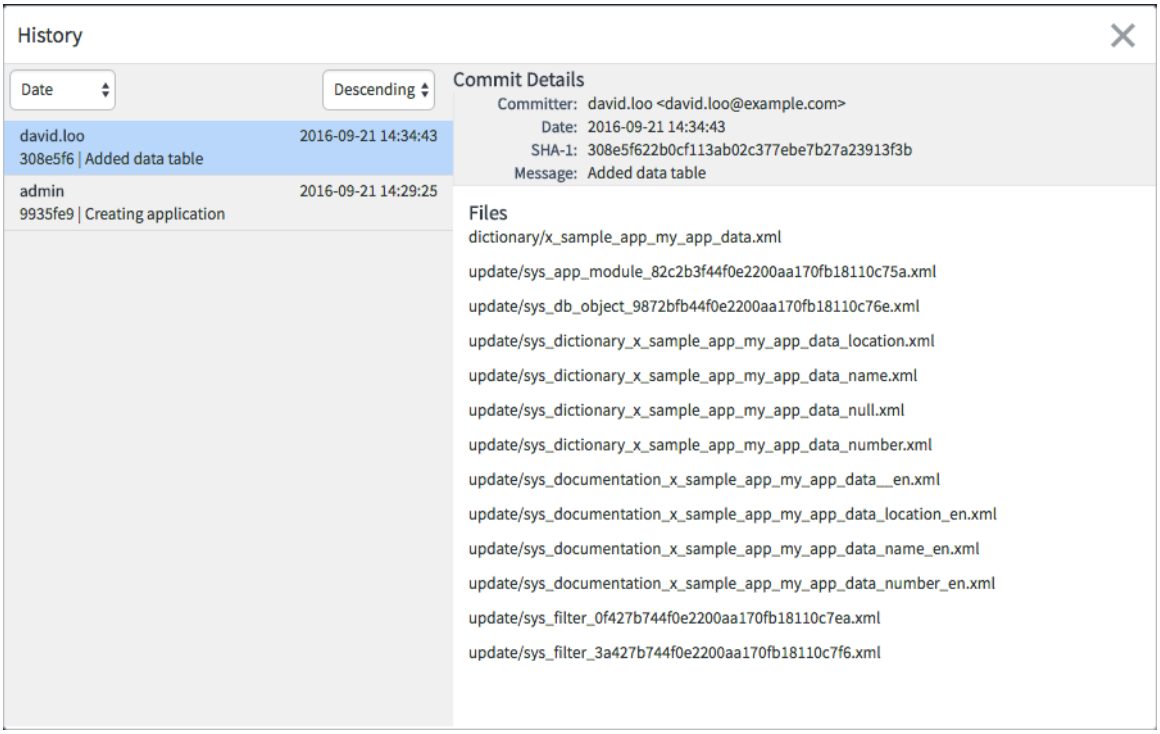
始める前に

- 必要なロール：admin
- GITリポジトリへの既存のリンク

手順

1. [すべて] > [ソースコントロール] > [履歴を表示] に移動します。
   履歴ウィンドウを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



2. ソートの注文タイプの収容を選択します。

オプション	説明
日付	収容日付でソートします。
コミット担当者	ユーザー名でソートします。

3. ソート順の方向を選択します。

オプション	説明
降順	最も新しい日付から最も古い日付までにソートします。ユーザー名を逆アルファベット順でZからAに並べ替えます。
昇順	最も古い日付から最新の日付までにソートします。アルファベット順でAからZにユーザー名をソートします。

システムは、選択したソート順で収容をソートします。

4. 収容を選択します。
選択した収容の収容の詳細が表示されます。
5. 収容の詳細を確認します。

収容の詳細

フィールド	説明
コミット担当者	変更を収容したユーザー
日付	収容の日時スタンプ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
SHA-1	リポジトリ内のこの収容を識別する確実なハッシュ値
メッセージ	この収容に関連する収容メッセージ
ファイル	この収容で変更されたアプリケーションファイルのリスト

6. 履歴ウィンドウを閉じます。

Git リポジトリのアプリケーションファイルの移動

ソースコントロールにリンクされたアプリケーションファイルをリポジトリの任意のフォルダーに移動します。アプリケーション開発者は、サポートするアプリケーションと同じリポジトリに自動テストなどのサポートコンテンツを保存できます。

始める前に

- アプリケーションまたはアプリケーションのカスタマイズ内容をソースコントロールにリンク
- 必要なロール：書き込みアクセス権を持つソースコントロール認証情報

このタスクについて

アプリケーションをソースコントロールにリンクすると、リポジトリのルートレベルで、`sn_source_control.properties` と呼ばれるプロパティテキストファイルが生成されます。そのプロパティファイルは、アプリケーションファイルを含むフォルダーを指定します。統合は `checksum.txt` ファイルを生成することで、これらのアプリケーションファイルに対する変更を追跡します。チェックサムが一致する場合、統合は検証とサニタイズのプロセスをスキップします。チェックサムが一致しない場合、統合はソースコントロール操作の一部としてアプリケーションファイルを検証してサニタイズします。統合は、アプリケーションパス外のすべてのリポジトリコンテンツを無視します。

> **注:** システムのプロパティ **[glide.source_control.checksum_required]** を設定すると、オプションのチェックサムの検証とサニタイズが有効になり、**[glide.source_control.checksum_quick_install]** を設定すると、チェックサムが一致したときにサニタイズのステップをバイパスできます。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

手順

1. アプリケーションにリンクされたソースコントロールリポジトリにログインします。
2. アプリケーションファイルの移動先フォルダーを作成します。

   Example
   たとえば、`src/app` フォルダーを作成します。
3. アプリケーションファイルを含むフォルダーを移動先フォルダーに移動します。

   Example
   たとえば、`demo_my_app` フォルダーを `src/app` に移動します。
4. リポジトリのルートレベルに移動します。
5. テキストエディターで `sn_source_control.properties` テキストファイルを開きます。
6. `path=` プロパティには、アプリケーションファイルを移動したフォルダーパスを入力します。

   Example
   たとえば、「`path=src/app`」と入力します。
7. プロパティファイルを保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

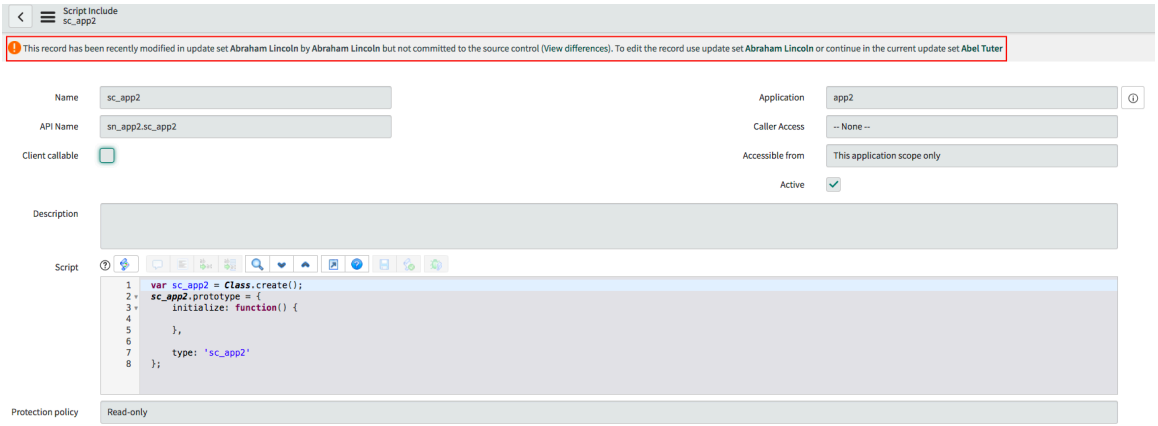
次のタスク
インスタンスにログインし、スタジオ からソースコントロール操作を実行します。

衝突回避

コミットプロセス中にシームレスなエクスペリエンスを確保するために、異なる更新セット間でアプリケーションファイルを変更しないでください。

ログインしているユーザーが、対応するアプリケーションの現在の更新セットとは異なる更新セットで変更されたアプリケーションファイルを開くと、次のように動作します。

- アプリケーションファイルで衝突が検出され、警告メッセージが表示されます。
- ログインユーザーは更新セットを選択するよう指示されます。
- 読み取り専用の保護ポリシーがそのアプリケーションファイルに適用されます。



ユーザーは、必要な更新セットを選択した後にのみ、アプリケーションファイルを変更できます。

注: この機能は、Git にリンクされているアプリケーションにのみ適用されます。

システムプロパティ [sys_properties] テーブルの *glide.ui.vcs.collision_avoidance* プロパティを使用して、衝突回避機能を有効または無効にします。この機能はデフォルトで有効になっています。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

この機能が有効になっている場合、ユーザーはアプリケーションのデフォルトの更新セットでは作業できません。ユーザーにデフォルトの更新セットがアサインされている場合、衝突回避機能が有効になった後に初めてアプリケーションにログインしたときに、一意の更新セットが作成されます。この新しい更新セットは、現在のアプリケーションのユーザーに固有です。

ログインしているユーザーに固有の更新セットの名前は、システムプロパティ [sys_properties] テーブルの *glide.ui.vcs.updateset_identifier* プロパティに指定された値に基づくユーザー ID またはユーザー名です。詳細については、「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。デフォルトでは、更新セット名はログインしているユーザーのユーザー名に設定されます。ただし、ユーザーは更新セットの名前を変更できます。

デルタロード

「デルタロード」は、Git リポジトリからアプリケーションをロードするための最適な方法です。

分岐を切り替えてリモート変更を適用すると、変更された更新のみがデルタロード機能によってロードされます。アプリケーションの完全なアンインストールと再インストールを実行する必要はなく、変更された更新のみが実行されます。これにより、開発者のプロセスが迅速化され、容易になり、開発中にすべての分岐を使用する必要がなくなります。テーブルに格納されているデータはこれらの操作中に保持されるため、再インストールまたは分岐変更の操作後にアプリケーションにデモデータをロードし直す必要はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デルタロードのメリット

時間削減

通常、アプリケーションのアンインストールまたは再インストールの最も時間がかかる部分は、テーブルの削除と作成です。デルタロードでは、それが発生しません。アプリケーションのサイズによっては、テーブルを削除または作成する必要がないため、操作の実行時間が大幅に短縮されます。

テストデータとデモデータの保持

テストデータとデモデータを含むテーブルは削除されないため、データは失われません。毎回デモデータを再インポートする必要がなければ、開発者は時間を節約できます。

クロススコープ依存参照の保持

クロススコープで参照を共有するアイテムは、変更を適用しても失われなくなりました。これは、スコープ B のアイテムがスコープ A の親アイテムに関連付けられるときに発生していました。スコープ A にリモート変更を適用すると、親アイテムが削除されて再インストールされ、両アイテム間の参照が壊れ、その関係は復元されません。デルタロードによってアンインストールが防止されるため、参照は失われません。

推奨されるプラクティス

ServiceNow Paris リリース以降のすべてのインスタンスでは、デルタロードがデフォルトで有効になっています。この機能は、アプリケーション開発に役立つように設計されており、継続的なサポートとアップグレードが提供されます。

ソースコントロールのコミットのノイズ除去

ソースコントロールの開発者は、システムによって自動更新されるフィールドからノイズを受けることなく、Git 分岐を結合できます。

概要

スタジオ では、ソースコントロール機能はアプリケーションファイルが Git リポジトリにエクスポートされるときに XML ペイロードとしてパッケージ化します。ユーザーがアプリケーション開発ワークフローの一部として Git リポジトリで Git 分岐を結合する場合、そのユーザーは XML ファイル内の競合を解決する必要があります。これらの競合は通常、sys_updated_by などのシステム生成フィールドにあり、ユーザー生成ではない変更を表します。このプロセスではより多くのノイズが発生する可能性があるため、ユーザーはこれらのフィールドの競合を解決するときに注意する必要があります。

セーバー免除属性

ソースコントロールに XML ペイロードのノイズを除去する機能が追加され、Git 分岐が結合されたときにユーザーが競合を解決できるようになりました。

デフォルトでは、システムによって値が自動生成されるテーブル内の特定のフィールドに対して saver_exempt 属性が設定されます。saver_exempt 属性の詳細については、「辞書の属性」を参照してください。

次のテーブルには、saver_exempt の値が含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セーバー免除属性テーブル

フィールド	システムテーブル	**saver_exempt** の値	予想される結果
• sys_updated_on • sys_updated_by • sys_mod_count	• sys_metadata • sys_choice • sys_package • sys_app_customization • sys_claim • sys_package_dependency_m2m	exempt_vcs_only	Git コミット用にアプリケーションをパッケージ化している間、フィールドはテーブルのレコードの対応する XML 表現に書き込まれません。
Sys_id	• sys_dictionary • sys_documentation • sys_choice	exempt_vcs_only	Git コミット用にアプリケーションをパッケージ化している間、sys_id フィールドは 3 つのテーブルのレコードの XML 表現に書き込まれません。
loader_exempt = true のフィールド		exempt_always	loader_exempt が **[True]** に設定されているフィールドは、インスタンスにロードされません。Git コミット用にアプリケーションをパッケージ化している間、これらはテーブルのレコードの XML 表現に書き込まれません。

トラッキングプロパティの無効化

アドミニストレーターは `glide.source_control.disable_tracking_of_update_fields` を無効にして、ユーザーが生成した値がフィールドに表示されないようにすることができます。

注: 次のフィールドは、ソースコントロールのコミット中に XML に書き込まれず、インスタンスの値が Git コミットからロードされます。アドミニストレーターがこれらのフィールドを XML に書き込み、システム生成の値をこれらのフィールドで使用するように設定する場合、アドミニストレーターはプロパティ `glide.source_control.disable_tracking_of_update_fields` を **[False]** に設定できます。

次のフィールドは、アドミニストレーターに表示されるシステム生成値です。

- sys_updated_by = コミットユーザー
- sys_updated_on = コミット時間
- sys_mod_count = ゼロ

テーブルの **sys_id** フィールド

テーブルの sys_id フィールドは、対応する「dictionary/<tablename>.xml」に保存され、テーブルの作成時を除いてインスタンスへのインストール中に再生成されないようにします。結果として、

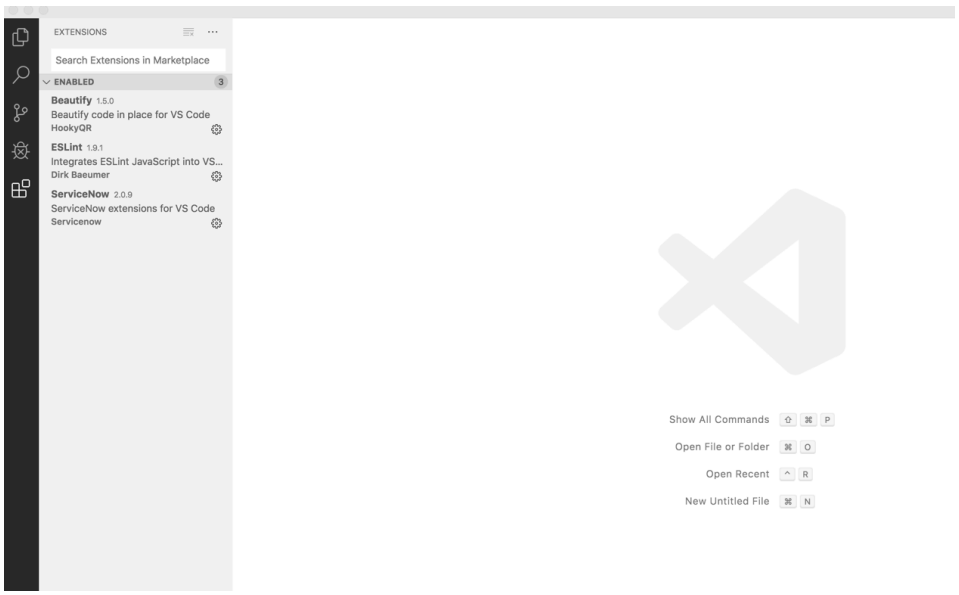
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルの sys_id を参照する、またはこのテーブルの sys_db_object レコードを表すすべての XML ファイルから、ノイズが低減されます。

Visual Studio Code 向けの ServiceNow 拡張

VS Code 向け ServiceNow 拡張を活用して、Visual Studio Code で ServiceNow アプリケーションを編集します。

VS Code エディターの ServiceNow 拡張を使用すると、ServiceNow インスタンス内のアプリケーションを編集できます。



Visual Studio Code を使用する利点

アプリケーションをオフラインで編集する

Visual Studio Code を使用して、アプリケーションのローカルコピーをダウンロードして編集します。アプリケーションをオフラインで編集し、インスタンスが利用可能になったときに再度同期できます。

Visual Studio Code JavaScript 機能を使用すると、開発時間が短縮され、コードの品質が向上します。

Visual Studio Code IntelliSens には、コード補完、コード提案、クイック情報などの編集機能が含まれています。これらのツールを使用すると、コーディングタスクを迅速に完了し、エラーを減らすことができます。アプリケーションで IntelliSens を使用する方法の詳細については、「VS Code の IntelliSens」を参照してください。拡張は、ESLint を使用したリンティングもサポートしています。ServiceNow インスタンスで使用されているものと同じ標準 ESLint ルールを使用できます。

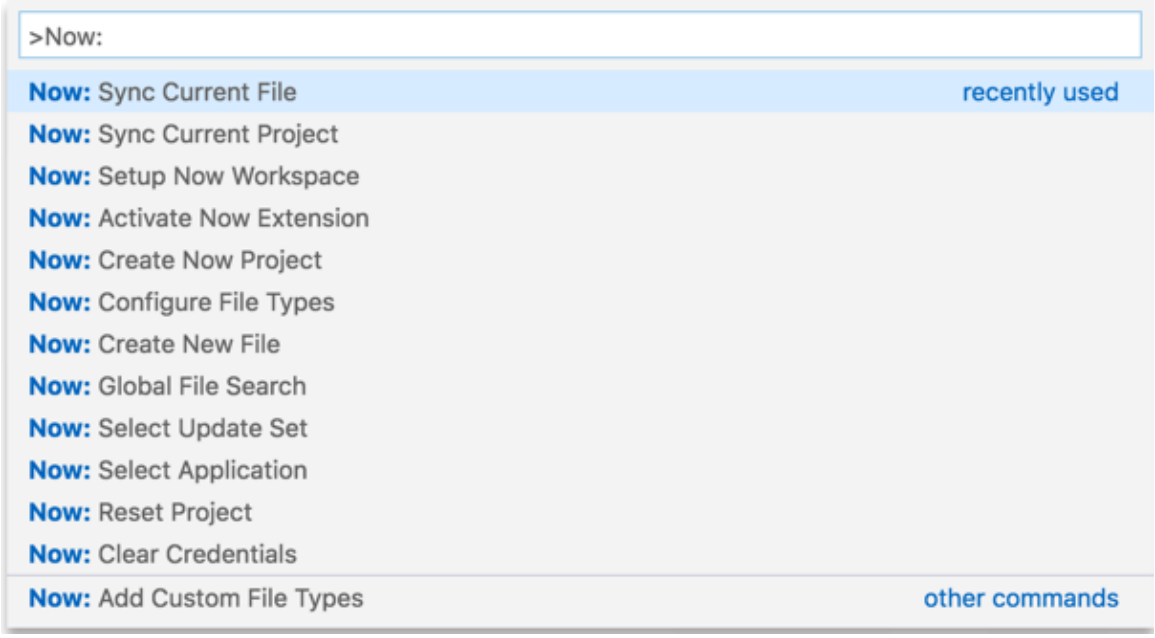
VS Code 向け ServiceNow 拡張の機能

VS Code 拡張の ServiceNow 拡張には、Now Platform で開発するためのツールが含まれています。

この拡張により、Visual Studio Code (VS Code) の実装にいくつかの機能が追加されます。これらの機能にはコマンドパレットからアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Visual Studio Code コマンドパレット



VS Code 向け **ServiceNow** 拡張で利用可能な機能

機能	説明
Now Workspace のセットアップ	ServiceNow アプリケーションを操作するプロジェクトフォルダーを作成します。このワークスペースの作成方法の詳細については、「VS Code でのワークスペースの設定」を参照してください。
Now 拡張のアクティブ化	ServiceNow 拡張をアクティブ化します。「VS Code 向け ServiceNow 拡張のアクティブ化」を参照してください。
Now プロジェクトの作成	既存の ServiceNow アプリケーションを Visual Studio Code プロジェクトにインポートします。「VS Code でのプロジェクトの作成」を参照してください。
現在のプロジェクトの同期	開発中に、VS Code とインスタンス間ですべてのファイルを同期します。「Visual Studio Code ワークスペースと ServiceNow インスタンス間での現在のプロジェクトの同期」を参照してください。
現在のファイルの同期	作業している現在のファイルを同期します。「Visual Studio Code ワークスペースと ServiceNow インスタンス間での現在のファイルの同期」を参照してください。
認証情報のクリア	[設定] ページで入力された認証情報を削除します。「Visual Studio Code でのインスタンス認証情報のクリア」を参照してください。
プロジェクトのリセット	プロジェクトを元のステータスに設定します。「Visual Studio Code でのプロジェクトのリセット」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

VS Code 向け **ServiceNow** 拡張で利用可能な機能 (続く)

機能	説明
ファイルタイプの設定	メタデータで選択されたオプションを変更します。メタデータは、VS Code と同期するアプリケーションの要素を決定します。「アプリケーションの Visual Studio Code へのインポート」を参照してください。
カスタムファイルタイプの追加	カスタムファイルタイプウィザードを使用して、プロジェクトにファイルタイプを追加します。「Visual Studio Code でのカスタムファイルタイプの追加」を参照してください。
アプリケーションの選択	VS Code でワークスペース内のアプリケーションを切り替えます。「アプリケーションの Visual Studio Code へのインポート」を参照してください。
更新セットの選択	更新セットを選択します。インスタンスに同期された変更は、選択した更新セットに適用されます。更新セットの詳細については、「アプリケーションの Visual Studio Code へのインポート」を参照してください。
新しいファイルの作成	アプリケーションでレコードを作成します。詳細については、「VS Code でのファイルの作成」を参照してください。
グローバルファイル検索	インスタンス内のファイルを検索します。「VS Code でのインスタンス上のファイルの検索」を参照してください。
バックグラウンドスクリプトの実行	インスタンスでバックグラウンドスクリプトを実行します。「VS Code を使用したバックグラウンドスクリプトの実行」を参照してください。
IntelliSence	Glide API で利用可能な IntelliSens コード補完サポート。「VS Code の IntelliSens」を参照してください。

VS Code 向け **ServiceNow** 拡張のインストール

ServiceNow 拡張をダウンロードしてインストールし、VS Code でアプリケーションの編集を開始します。

始める前に

必要なロール：なし

Visual Studio Code の ServiceNow 拡張をインストールするには、VS Code バージョン 1.38.0 以降がインストールされている必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. VS Code を開き、[拡張] タブアイコン ( ) をクリックして [拡張] タブに移動するか、Windows では Control+Shift+X を、MacOS では Command+Shift+X を押します。
2. Visual Studio Code マーケットプレイスで、**[Visual Studio Code** 拡張機能を検索 **(Search Visual Studio Code Extensions)]** 検索ボックスに「`ServiceNow`」または「`ServiceNow Extensions`」と入力します。
3. 検索結果で **[VS Code** 向け **ServiceNow** 拡張 **(ServiceNow Extensions for VS Code)]** を選択し、[インストール] をクリックしてインストールを続行します。
4. インストールプロセスが完了したら、Visual Studio Code を再起動します。
5. Visual Studio Code で[ビュー] > [コマンドパレット] に移動します。キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開くこともできます。
6. リストから [開発者：ウィンドウのリロード **(Developer: Reload Window)]** を選択します。

次のタスク
VS Code をリロードしたら、ServiceNow 拡張をアクティブ化します。

VS Code 向け **ServiceNow** 拡張のアクティブ化

VS Code 向け ServiceNow 拡張をアクティブ化して、ServiceNow インスタンス内でアプリケーションを編集できるようにします。

始める前に
VS Code 向け ServiceNow 拡張をインストールし、拡張をアクティブ化して、VS Code でアプリケーションの編集を開始します。

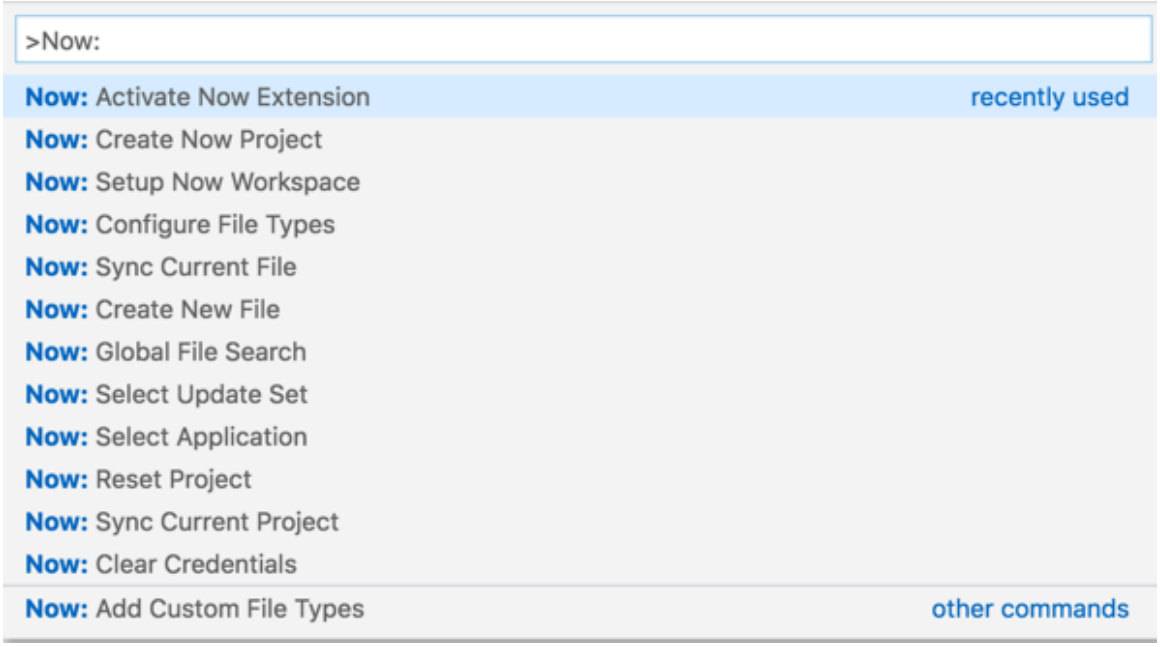
このタスクについて
拡張のインストール後にその機能にアクセスするには、まず拡張をアクティブ化する必要があります。

手順

1. [すべて] > [ビュー] > [コマンドパレット] に移動して、コマンドパレットを開きます。キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開くこともできます。
2. リストから [Now：**Now** 拡張のアクティブ化 **(Now: Activate Now Extension)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now 拡張のアクティブ化



[ワークスペースのセットアップ] リンクが VS Code IDE の下部に表示されます。拡張をアクティブ化した後、VS Code でワークスペースを設定して ServiceNow アプリケーションの編集を開始します。

VS Code でのワークスペースの設定

VS Code 向け ServiceNow 拡張を使用して、ServiceNow アプリケーションのワークスペースとして使用するプロジェクト作業フォルダーを作成します。

始める前に

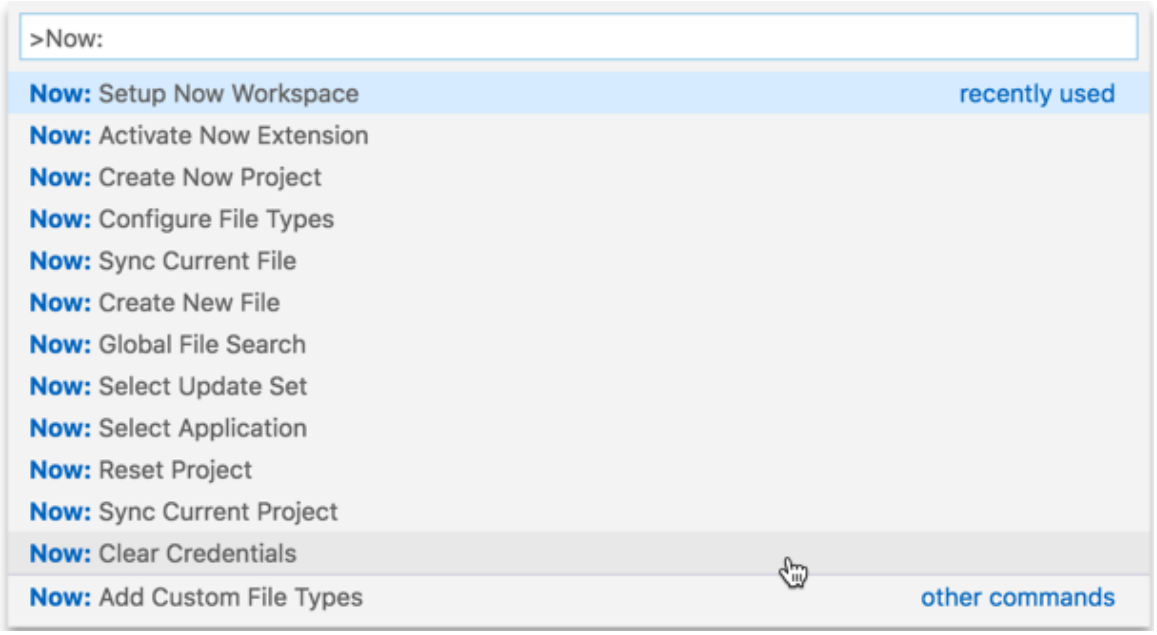
ワークスペースをアクティブ化して、VS Code 向け ServiceNow 拡張の機能にアクセスします。必要なロール：admin

手順

1. VS Code IDE の下部にあるステータスバーの [ワークスペースのセットアップ] をクリックします。
   キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：**Now Workspace** のセットアップ] を選択することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Workspace のセットアップコマンド



2. 次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	説明
新しいフォルダーからワークスペースを設定するには	a. [新しいフォルダー] をクリックします。 b. [新しいフォルダー名 **(Name of new Folder)]** ウィンドウにフォルダーの名前を入力します。 c. [作成] をクリックします。
既存のフォルダーからワークスペースを設定するには	a. システム上のフォルダーを選択します。 b. [プロジェクトフォルダーの選択 **(Select project folder)]** をクリックします。

選択したフォルダーからワークスペースが作成されます。

次のタスク

ワークスペースでプロジェクトを作成します。ワークスペース内に異なるプロジェクトタイプの複数のプロジェクトを作成できます。

VS Code でのプロジェクトの作成

ServiceNow アプリケーションは、VS Code IDE のプロジェクト内に含まれています。 VS Code 向け ServiceNow 拡張を使用して、ServiceNow インスタンスからアプリケーションをインポートします。

始める前に

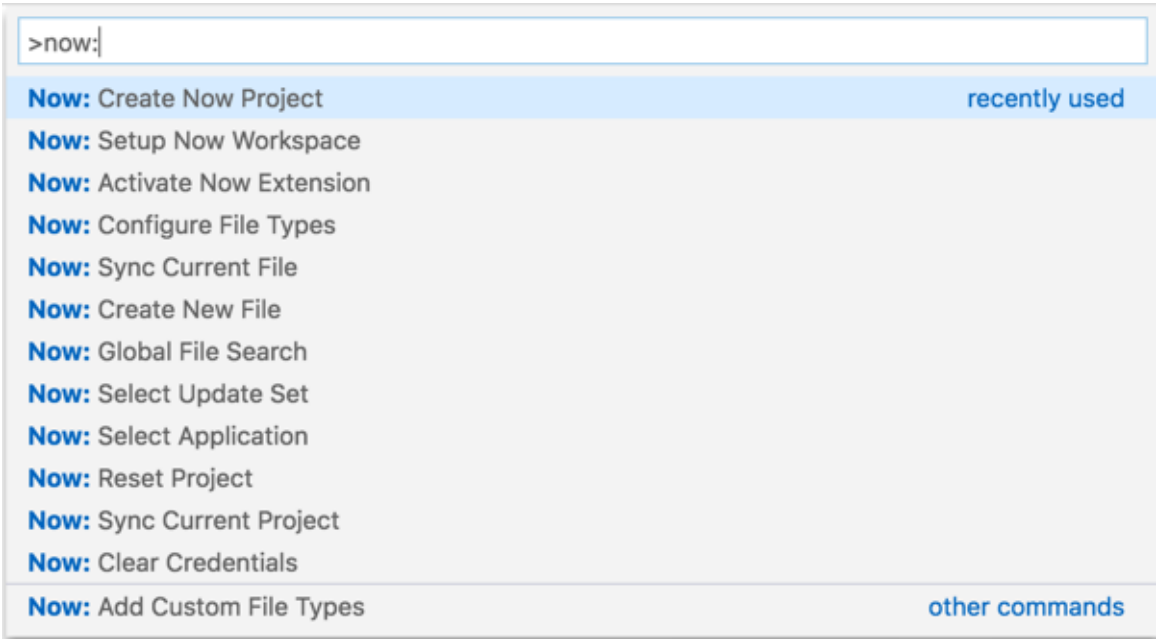
ワークスペースをセットアップしてプロジェクトを作成し、ServiceNow アプリケーションの編集を開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. VS Code IDE の下部にあるステータスバーの [プロジェクト作成] をクリックします。

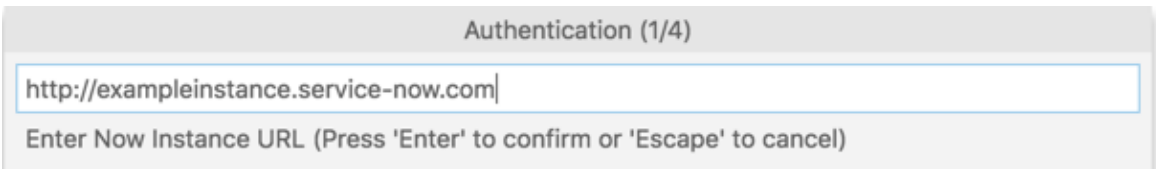
プロジェクト作成



キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：**Now** プロジェクトの作成 **(Now: Create Now Project)]** を選択することもできます。

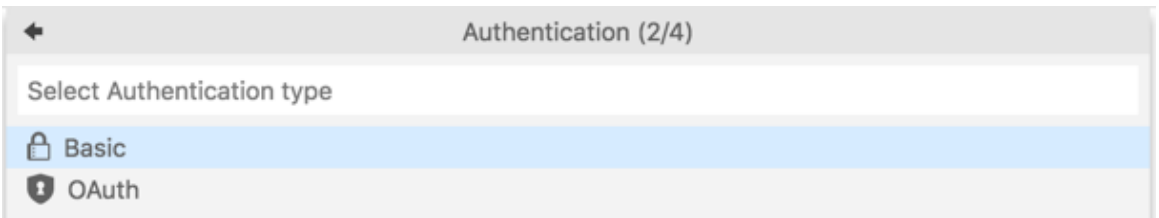
[プロジェクト作成] ウィザードが開きます。

2. ServiceNow インスタンスの URL を入力し、Enter を押して確定します。
インスタンスの完全な URL を含めます (例：`https://example.service-now.com`)



3. プロンプトが表示されたら、[認証タイプ] を選択します。

認証タイプ



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ 基本的なアプリケーションを作成するには、[基本] を選択し、プロンプトが表示されたら次のフィールドに入力します。

基本的なアプリケーション

フィールド	説明
ユーザー名	ServiceNow インスタンス URL のユーザー名を入力します。
パスワード	ServiceNow インスタンス URL のパスワードを入力します。

注: 認証に使用するユーザーアカウントに admin ロールを含めることはできません。

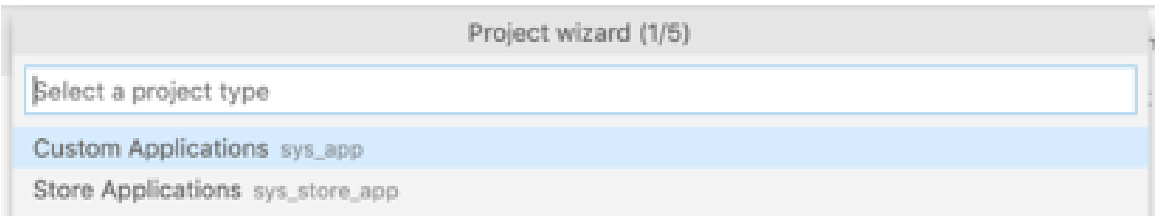
プロジェクトタイプ

◦ OAuth アプリケーションを作成するには、**OAuth** アプリケーションを選択し、プロンプトが表示されたら、次のフィールドに入力します。

OAuth アプリケーション

ユーザー名	ServiceNow インスタンス URL のユーザー名を入力します。
パスワード	ServiceNow インスタンス URL のパスワードを入力します。
クライアント **ID**	クライアント ID は、ServiceNow OAuth サーバーによって自動的に生成されます。
クライアントシークレット	OAuth アプリケーションの TClient シークレット。

4. プロンプトが表示されたら、プロジェクトタイプを選択します。



注: [パッケージ] および [プラグイン] プロジェクトタイプを有効にするには、 [設定] からそれらを有効にします。[環境設定] > [設定] > [拡張] > **[Now]** > [プロジェクトの設定 **(Project Settings)]** に移動して、それらを有効にします。

5. [既存をインポート **(Import Existing)]** を選択します。

アプリケーションの **Visual Studio Code** へのインポート

プロジェクトを作成したら、インスタンスからプロジェクトにアプリケーションをインポートして編集を開始します。

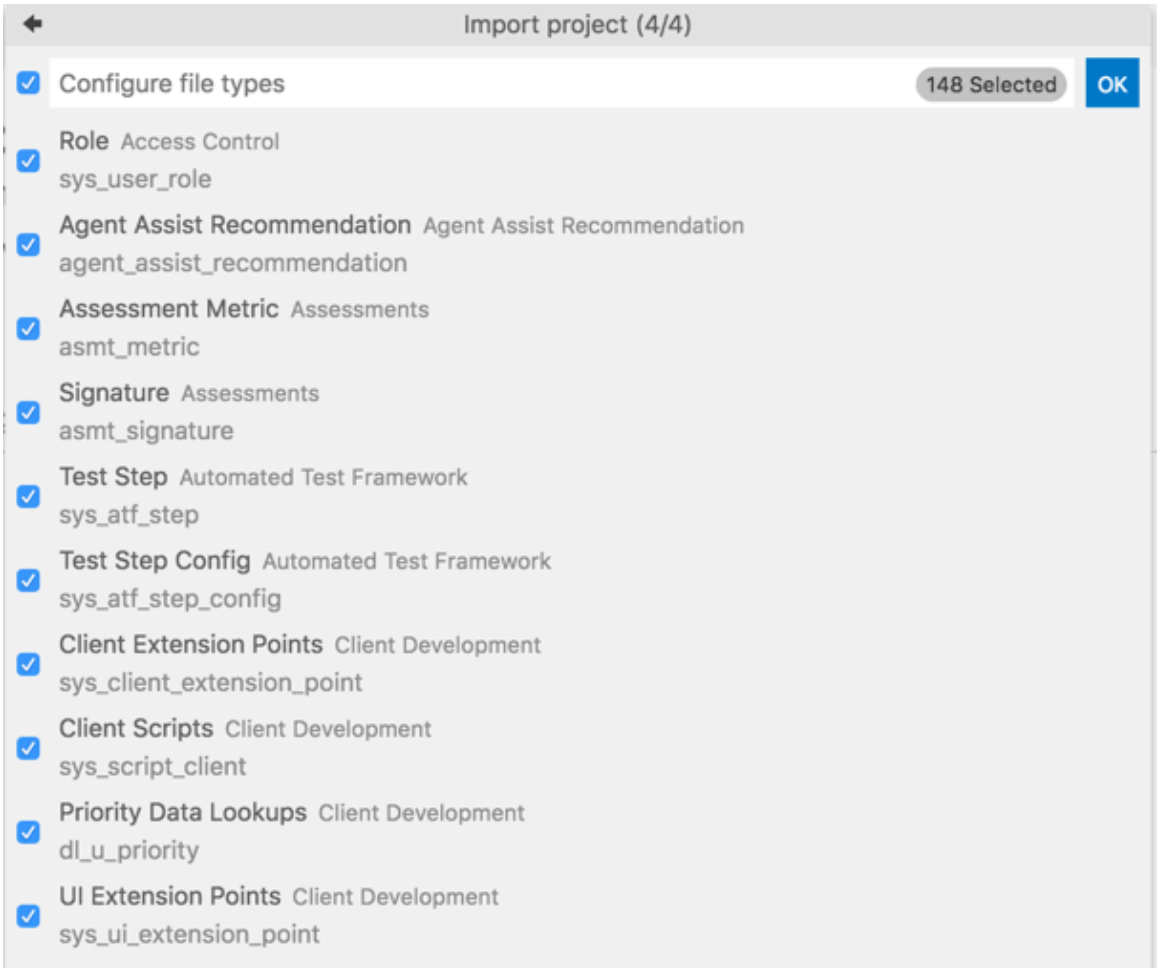
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. Visual Studio Code に、選択したアプリケーションタイプのインスタンスで利用可能なアプリケーションのリストが表示されます。

   インポートするカスタムアプリケーションに 開発者管理設定が適用されると、アプリケーションのリストが表示されます。設定をオフのままにすると、アプリケーションはドロップダウンに表示されません。

2. アプリケーションを選択します。
3. [ファイルタイプの設定] プロンプトで、**[OK]** をクリックしてすべてのファイルタイプを選択します。



デフォルトでは、Visual Studio Code はアプリケーションのすべてのファイルタイプをインポートします。コマンドパレットから [Now：ファイルタイプの設定] を選択し、リストからファイルタイプを選択することで、アプリケーションの編集中にファイルタイプの選択を変更できます。ServiceNow アプリケーションがワークスペースにインポートされます。

> **注:** アプリケーションがインスタンスに存在する場合でも、そのプロジェクトを Visual Studio Code に作成する必要があります。

ワークスペース内でアプリケーションを切り替えるには、VS Code IDE の下部にあるステータスバーでアプリケーションの名前 (この場合は EmployeeApp) をクリックするか、コマンドパレットから [Now：アプリケーションの選択] を選択してリストからアプリケーション名を選択します。同様に、更新セットを変更するには、VS Code IDE の下部にあるステータスバーで現在の更新セットアイコン (この場合は [EmployeeApp]) をクリックするか、コマンドパレットから [Now：更新セットの選択] を選択して、更新セットの名前を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Visual Studio Code と ServiceNow インスタンス間の同期

Visual Studio Code と ServiceNow インスタンス間でアプリケーションを同期できます。

同期

Visual Studio Code でアプリケーションに加えられた変更は、インスタンスと同期するまでローカルファイルシステムにのみ保存されます。

同期には、次の変更内容が含まれます。

- インスタンスまたはローカルファイルシステムのファイルの変更
- インスタンスまたはローカルファイルシステムでのファイルの作成
- インスタンスまたはローカルファイルシステムでのファイルの削除

現在選択されているレコードまたは現在のアプリケーションのすべてのレコードを同期できます。

Visual Studio Code ワークスペースと ServiceNow インスタンス間での現在のファイルの同期

Visual Studio Code ワークスペース内の現在のファイルとインスタンスの間で競合するファイルを特定し、変更を結合または上書きします。

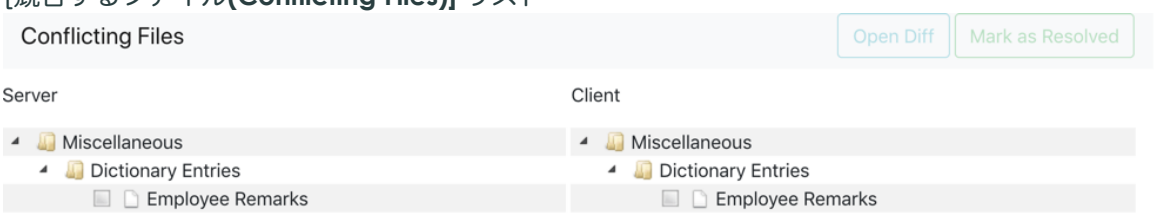
始める前に

必要なロール：admin

手順

1. Visual Studio Code IDE の右上隅にあるメニューから [同期] アイコン ( ) をクリックします。キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：現在のファイルを同期] を選択することもできます。
   - サーバーまたはクライアントのいずれかで変更が生じた場合、拡張はエラーを表示することなくファイルを正常に同期します。
   - ローカルバージョンとサーバーバージョンの間に相違がない場合は、「変更が検出されませんでした」というメッセージがページの下部に表示されます。
   - クライアントとサーバーの両方で同じファイルが変更された場合、[競合するファイル **(Conflicting Files)]** ダイアログボックスに競合が表示されます。
2. [競合するファイル **(Conflicting Files)]** ダイアログボックスに競合リストが表示された場合は、競合を確認します。
   - [差分] ウィンドウを使用して [サーバー] と [クライアント] のバージョンを比較し、変更を評価します。
   - [サーバー] または [クライアント] の変更を上書きします。

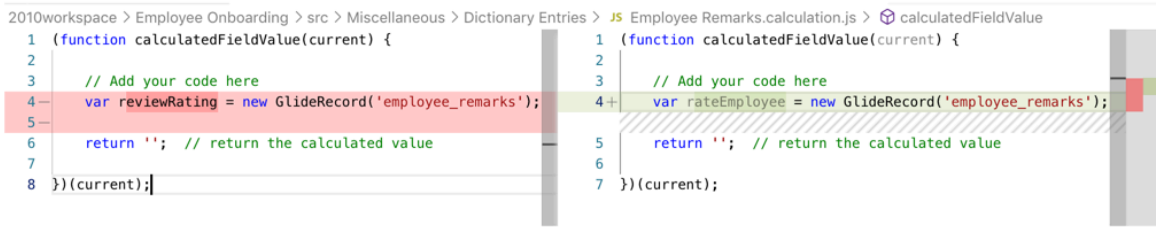
[競合するファイル**(Conflicting Files)]** リスト



3. [競合するファイル **(Conflicting Files)]** リストで違いを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

競合する変更の表示

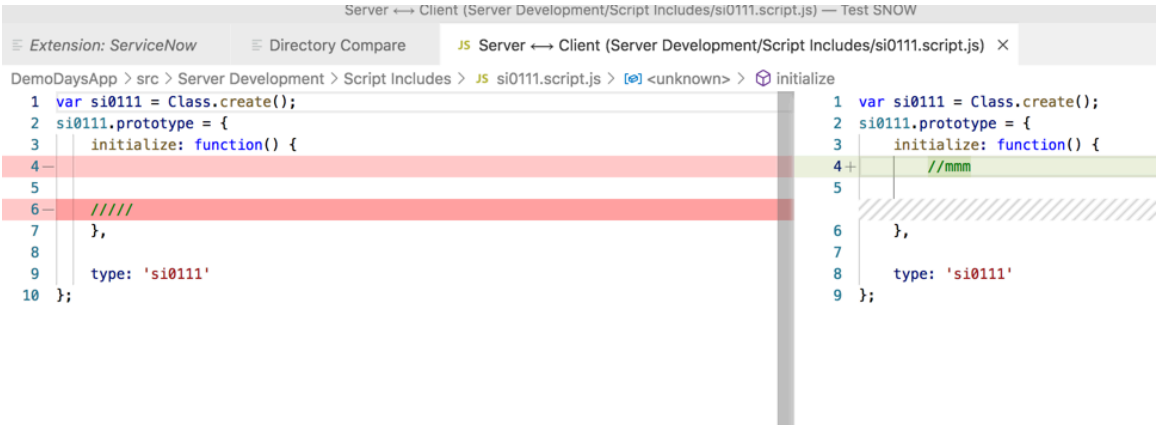


ダイアログボックスには、次のオプションが表示されます。

- 差分を開く (Open Diff)：2 つのバージョンの相違を確認し、必要な変更を行います。
- 解決済みをマーク (Mark Resolved)：相違を解決し、バージョンを同期します。
- サーバーを上書き (Overwrite Server)：サーバーのバージョンをクライアントのバージョンで上書きする場合に選択します。
- ローカルを上書き (Override Local)：ローカルバージョンをサーバーバージョンで上書きするには、[ローカルを上書き **(Override Local)**] を選択します。

4. [差分を開く **(Open Diff)**] をクリックします。
相違が強調表示された 2 つのバージョンのファイルが表示されます。

クライアントとサーバーの相違



5. クライアントバージョンからサーバーバージョンに変更を加え、ファイルを保存します。
6. [競合するファイル **(Conflicting Files)**] の下の [解決済みとしてマーク] をクリックします。
変更は、次の同期時に正常に同期されます。変更が正常に結合されると、「同期が正常に完了しました **(Sync completed successfully)**」というメッセージがページの下部に表示されます。

Visual Studio Code ワークスペースと **ServiceNow** インスタンス間での現在のプロジェクトの同期

Visual Studio Code ワークスペース (クライアント/ローカル) とインスタンス (サーバー) の間で双方向にファイルを同期します。

始める前に

プロジェクトを作成し、アプリケーションの編集を開始します。

このタスクについて

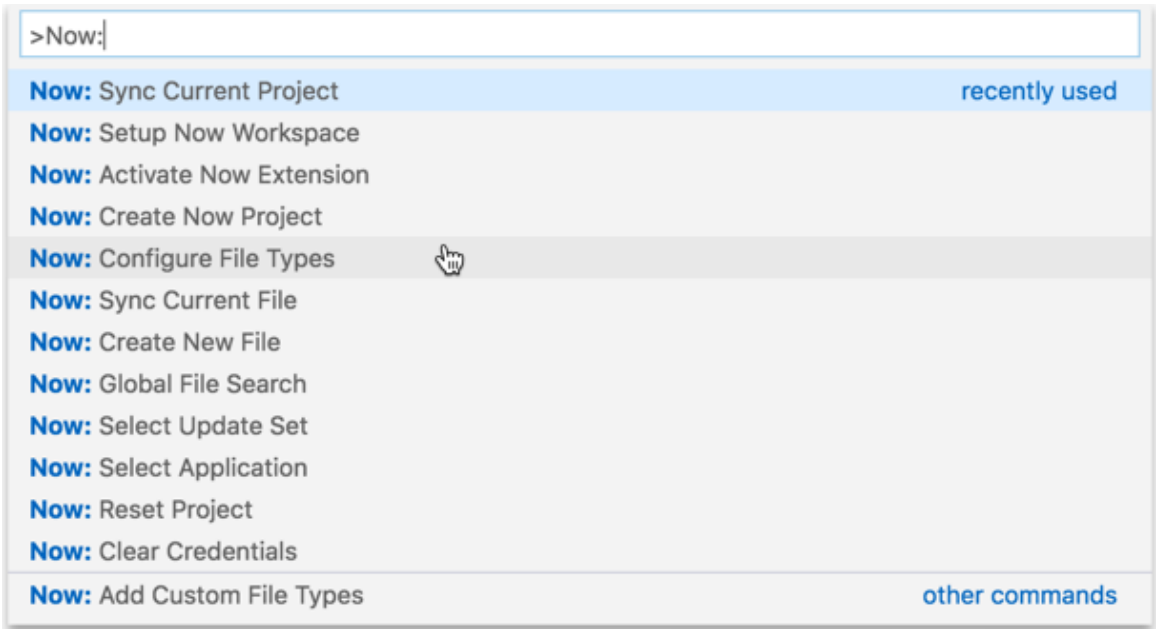
Visual Studio Code ワークスペース内のアプリケーションファイルに加えられた変更は、最初はローカルファイルシステムに保存されます。[同期] コマンドを実行すると、アプリケーションファイルに加えられたローカルの変更がサーバーに送信され、永続化されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. Visual Studio Code IDE の下部にあるステータスバーで [同期] をクリックします。
   キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：現在のプロジェクトを同期] を選択することもできます。

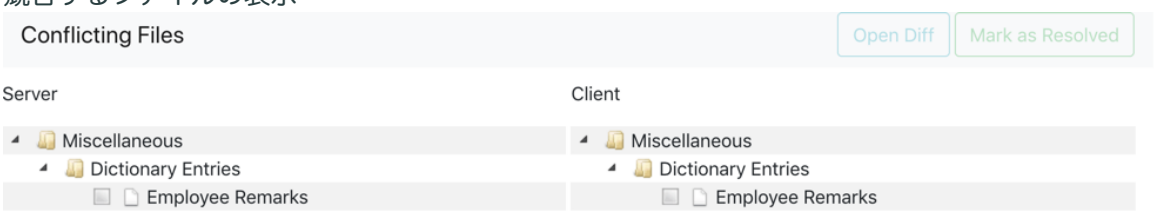
   現在のプロジェクトを同期

   - サーバーまたはクライアントのいずれかで変更が生じた場合、拡張はエラーを表示することなくファイルを正常に同期します。
   - ローカルバージョンとサーバーバージョンの間に相違がない場合は、「変更が検出されませんでした」というメッセージがページの下部に表示されます。
   - クライアントとサーバーの両方で同じファイルが変更された場合、システムは競合を示します。

2. 競合リストが表示された場合は、競合するファイルを右クリックしてコンテキストメニューを開き、コンテキストメニューから選択します。
   または、ファイルを選択し、ページの上部にある [差分を開く **(Open Diff)**] メニューをクリックします。

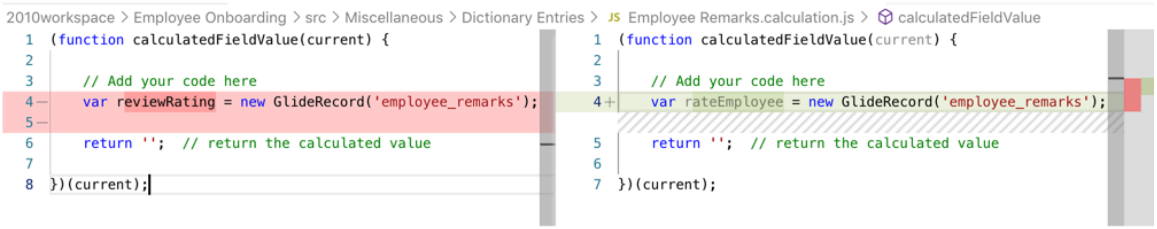
   競合するファイルの表示

   - サーバーバージョンをクライアントバージョンで上書きする場合は、[サーバーを上書き **(Override Server)**] を選択します。
   - クライアントバージョンをサーバーバージョンで上書きする場合は、[ローカルを上書き **(Override Local)**] を選択します。
   - 競合を示すフラグを削除するには、[解決済みとしてマーク] を選択します。サーバーバージョンは次の同期で上書きされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントバージョンとサーバーバージョンの相違



3. 必要な変更をクライアントファイルに保持して保存します。
4. すべてのファイルの競合を解決したら、[競合するファイル **(Conflicting Files)**] の下にある [解決済みとしてマーク] をクリックします。
   変更は次の同期時に同期されます。変更が正常に結合されると、「同期が正常に完了しました **(Sync completed successfully)**」というメッセージがページの下部に表示されます。

> **注:** 同期プロセスの開始時に、ファイルに構文エラーがないか確認されます。見つかったエラーは、画面の下部にある [問題] タブに表示されます。

次のタスク

すべての変更は、ステータスバーの更新セットにタグ付けされます。プロジェクトがロードまたは選択されると、デフォルトの更新セットがステータスバーに表示されます。更新セットピッカーをクリックして、現在の更新セットを選択します (IDE またはプロジェクトがクローズされるまで有効)。更新セットを明示的に選択しない場合、すべての書き込みはデフォルトの更新セットに対して行われます。

Visual Studio Code でのインスタンス認証情報のクリア

現在のプロジェクトの保存された認証情報をシステムからクリアします。プロジェクトのユーザー認証情報 (インスタンス URL、ユーザー名、パスワード) は、ユーザーが毎回ログインする必要がないように、オペレーティングシステムの認証情報ボールトに保存されます。

このタスクについて

現在のインスタンスから認証情報をクリアすると、次に VS Code を開いたときに Visual Studio Code 拡張向け ServiceNow 拡張によって認証が要求されます。現在のセッションで作業を続行できます。

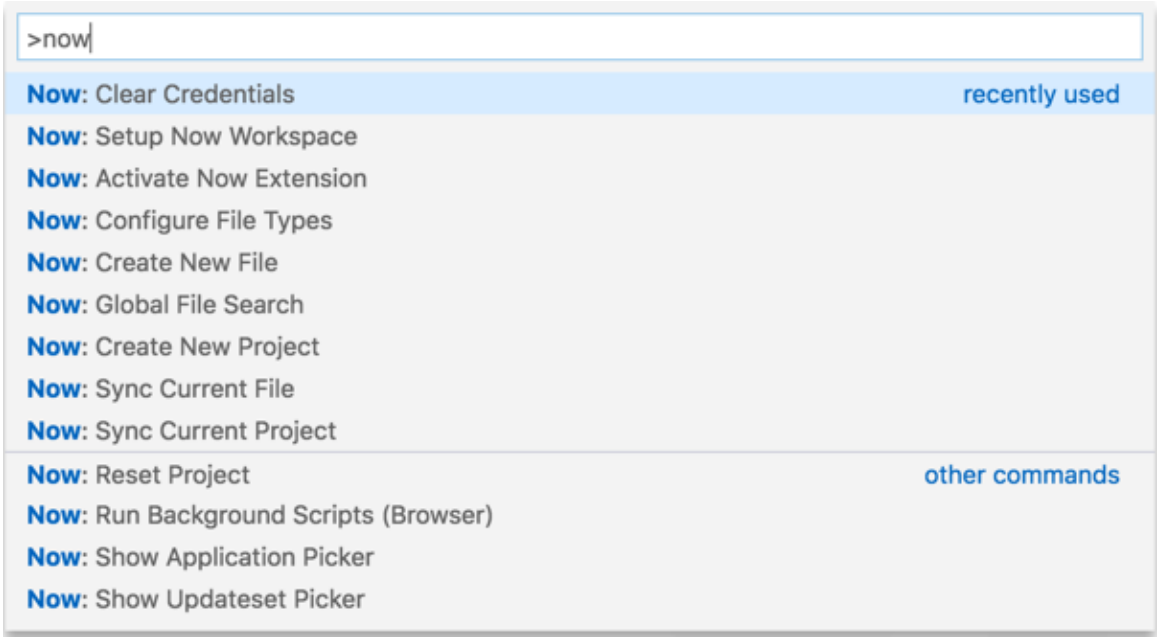
> **注:** パスワードは Visual Studio Code 設定に保存されません。

手順

1. [すべて] > [ビュー] > [コマンドパレット] に移動します。
   キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開くこともできます。
2. コマンドパレットから [Now：認証情報のクリア **(Now: Clear Credentials)**] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[Now：認証情報のクリア **(Now: Clear Credentials)]** コマンド

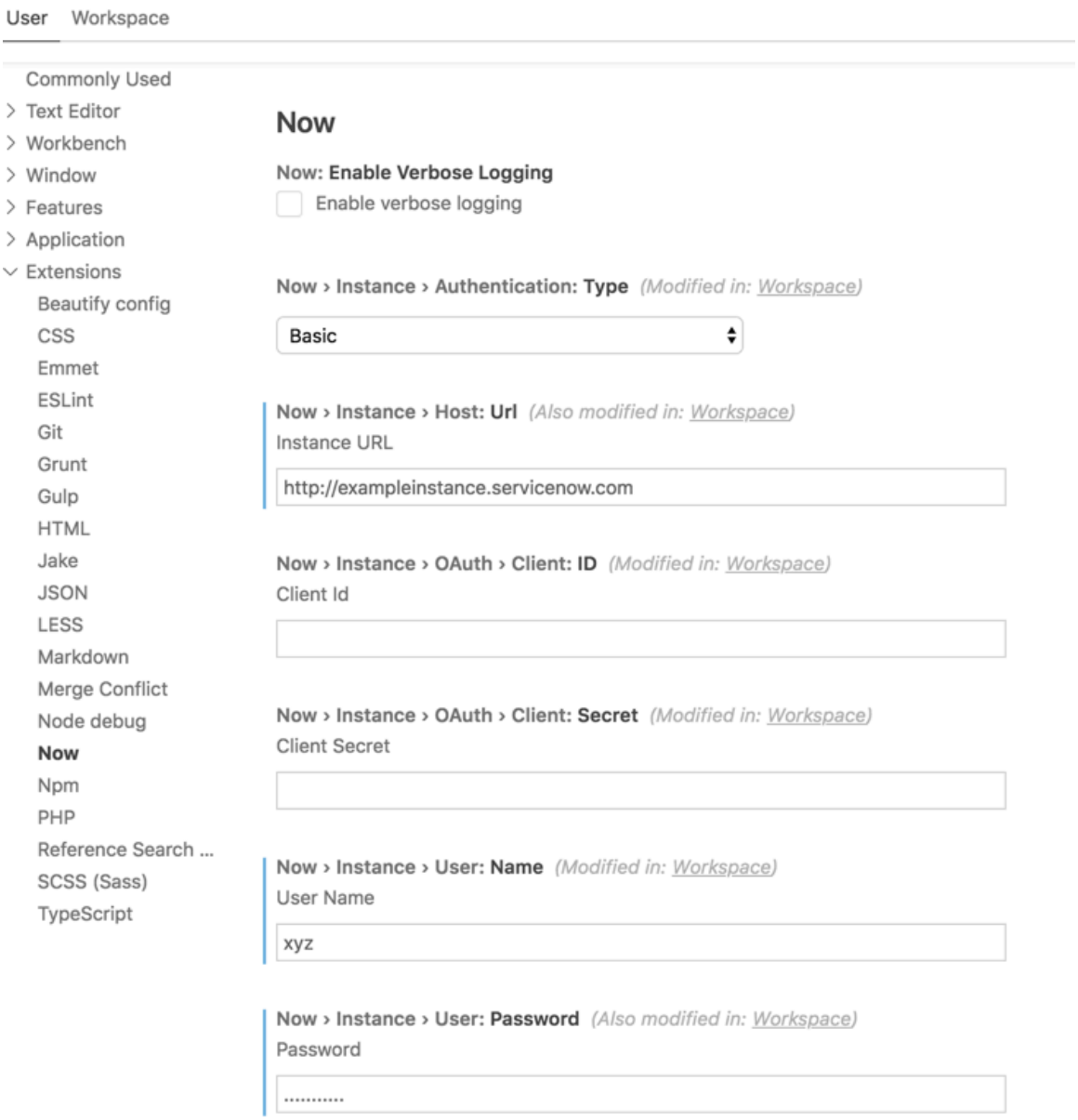


現在のプロジェクトの認証情報がクリアされます。

3. オプション: [コード] > [環境設定] > [設定] > [ワークスペース] > [拡張] > **[ServiceNow]** に移動し、認証情報とインスタンス URL が削除されているかどうかを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

認証情報のクリア



注: 認証情報を再入力するには、[コード] [環境設定] [設定] [ワークスペース] [拡張] **[Now]** に移動します。[ユーザー名] と [パスワード] のフィールドに認証情報を入力します。

Visual Studio Code でのプロジェクトのリセット

重大な同期の問題が発生した場合は、すべてのローカルの変更を破棄して、プロジェクトをサーバー上のステータスにリセットします。

このタスクについて

プロジェクトをサーバーステータスにリセットすると、同期されていない変更はすべて失われます。

手順

1. [すべて] > [ビュー] > [コマンドパレット] に移動します。
   キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開くこともできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. ドロップダウンリストから [Now：プロジェクトのリセット] を選択します。
3. ダイアログボックスで [はい] をクリックします。

タスクの結果
プロジェクトは元のステータスにリセットされます。

注: このオプションは、プロジェクトが破損している場合や同期の問題に直面している場合など、問題が発生した場合にのみ使用してください。

関連情報

VS Code でのプロジェクトの作成

Visual Studio Code でのカスタムファイルタイプの追加

指定されたデフォルトタイプ以外のファイルタイプで作業する場合は、ファイルタイプをインスタンスに追加し、Visual Studio Code 向け ServiceNow 拡張で編集できます。

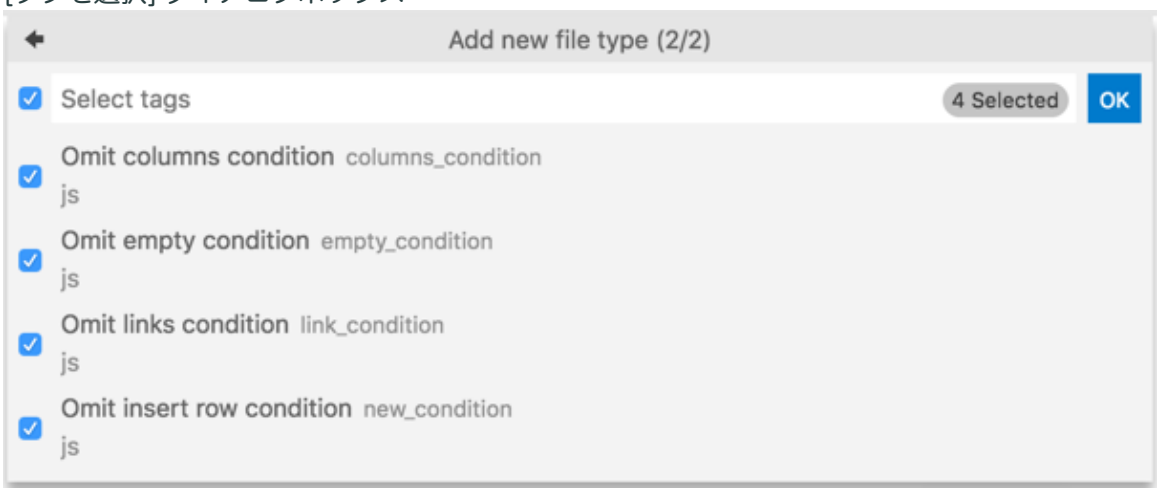
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスに新しいファイルタイプを作成し、アプリケーションファイルからそれを継承します。
2. *Script* および *String* タイプのカスタム列を追加し、データを入力します。
3. Visual Studio Code で[ビュー] > [コマンドパレット] に移動します。
   キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開くこともできます。
4. コマンドパレットから [Now：カスタムファイルタイプの追加 **(Now: Add Custom File Types)**] を選択します。
   このコマンドは、現在のアプリケーションのすべての既存のテーブルをフェッチし、[新しいファイルタイプを追加 **(Add new file type)**] ウィザードを開きます。
5. リストから ServiceNow インスタンスで作成したファイルタイプを選択します。
6. [タグを選択] プロンプトで、インスタンスで作成したタグを選択します。

   デフォルトでは、すべてのタグが選択されています。選択を解除するには、タグのチェックボックスをクリックします。

[タグを選択] ダイアログボックス



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいファイルタイプが app.config.json ファイルに正常に追加されます。プロジェクトの下にある app.config.json ファイルに目的のファイルタイプを手動で追加することもできます。次の例を参照してください。

7. コマンドパレットから [Now：ファイルタイプの設定 **(Now: Configure File Types)]** コマンドを使用して、この新しいファイルタイプを現在のプロジェクトに取り入れます。
8. ファイルタイプのリストから作成したファイルタイプを選択し、**[OK]** をクリックします。
選択したファイルタイプは、Visual Studio Code 拡張向け ServiceNow 拡張でいつでも編集できます。

Example:
app.config.json の例を以下に示します

```
"CustomFileTypes": {
        "sc_ic_aprvl_type_defn": {
            "superCoverName": "Miscellaneous",
            "coverName": "Approval Type Definition",
            "tags": {
                "approver_script": "js",
                "approver_html”: "html",
            }
        }
    }
}
```

- superCoverName は、スーパー親ディレクトリの名前です (常に [その他] を指している必要があります)。
- coverName はテーブルの記述名です。
- sc_ic_aprvl_type_defn はテーブル識別子です。
- タグはテーブル内のスクリプト可能な列のセットを表します
- approver_script はテーブル列 / xml タグの名前です
- js はファイルの拡張子です (js | html | css | json)

VS Code でのファイルの作成

ServiceNow 拡張を使用して、プロジェクトとともにアプリケーションの新しいファイルを作成します。

始める前に

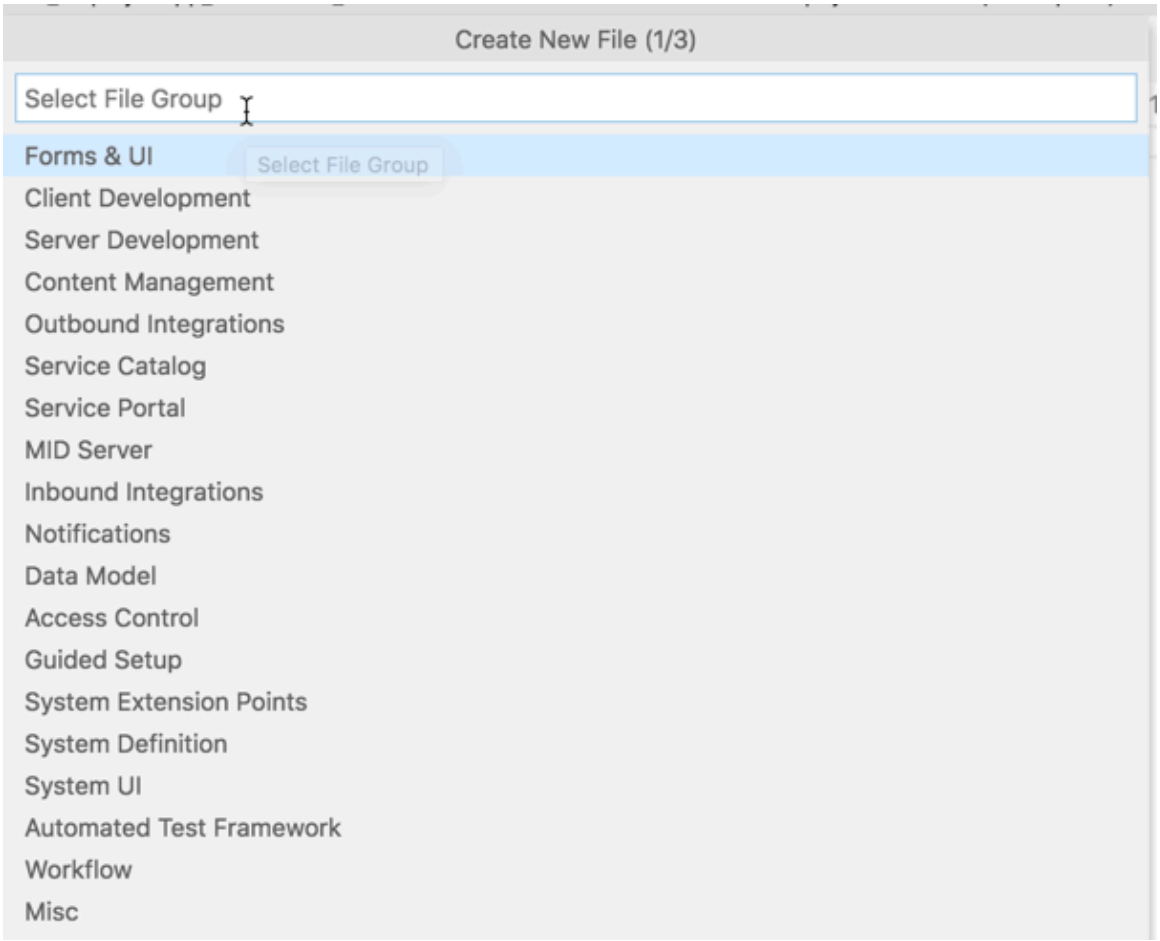
VS Code プロジェクトにアプリケーションをインポートして、プロジェクト内にファイルを作成します。

手順

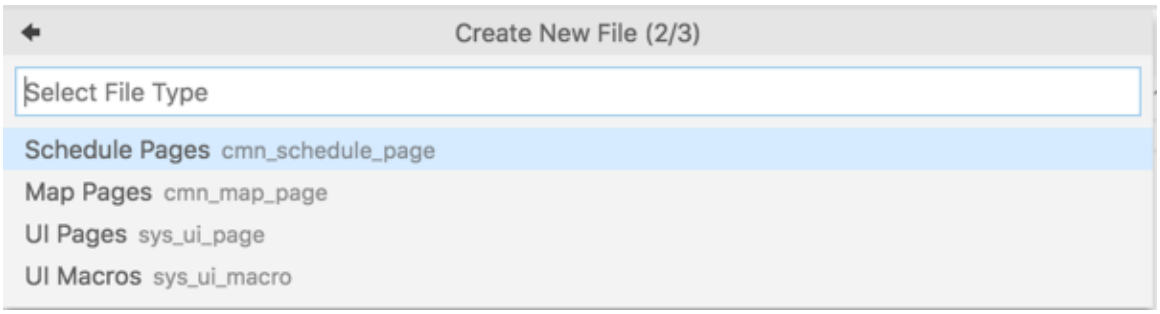
1. アプリケーションを含む VS Code プロジェクトを開きます。
2. VSCode IDE の下部にあるステータスバーで [ファイルを作成] (

) をクリックします。
キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：新しいファイルの作成 **(Now: Create New File)]** を選択することもできます。
3. [ファイルグループを選択 (Select File Group)] リストからファイルグループを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. 画面上部のコマンドパレットの [ファイルタイプを選択] リストからファイルタイプを選択します。



5. [新しいファイルを作成 (Create New File)] ダイアログボックスにファイルの名前を入力します。拡張によって、ローカルファイルシステム上のアプリケーションにファイルが作成されます。ワークスペースを同期すると、新しいファイルがインスタンスに追加されます。

VS Code でのインスタンス上のファイルの検索

VS Code 拡張向け ServiceNow 拡張を使用して、インスタンス上のスクリプトファイルを検索してダウンロードします。

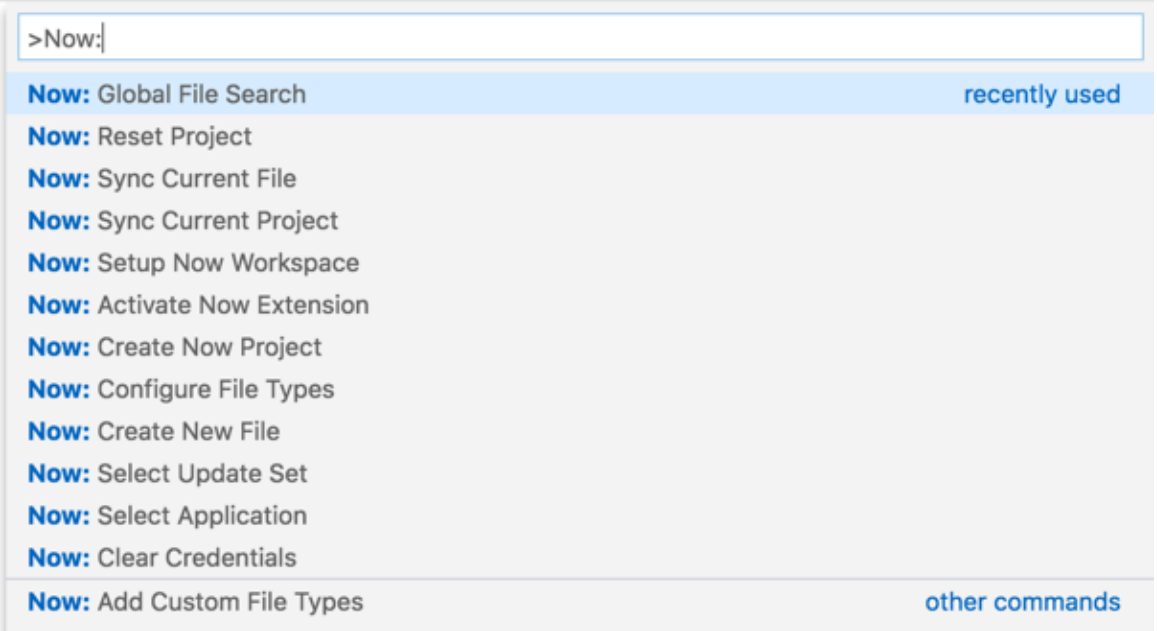
始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. アプリケーションを含む VS Code でプロジェクトを開きます。
2. VSCode IDE の下部にあるステータスバーで [ファイル検索 **(File Search)]** をクリックします。キーボードショートカット (Windows では Control+Shift+P、MacOS では Command+Shift+P) を使用してコマンドパレットを開き、リストから [Now：グローバル検索] を選択することもできます。

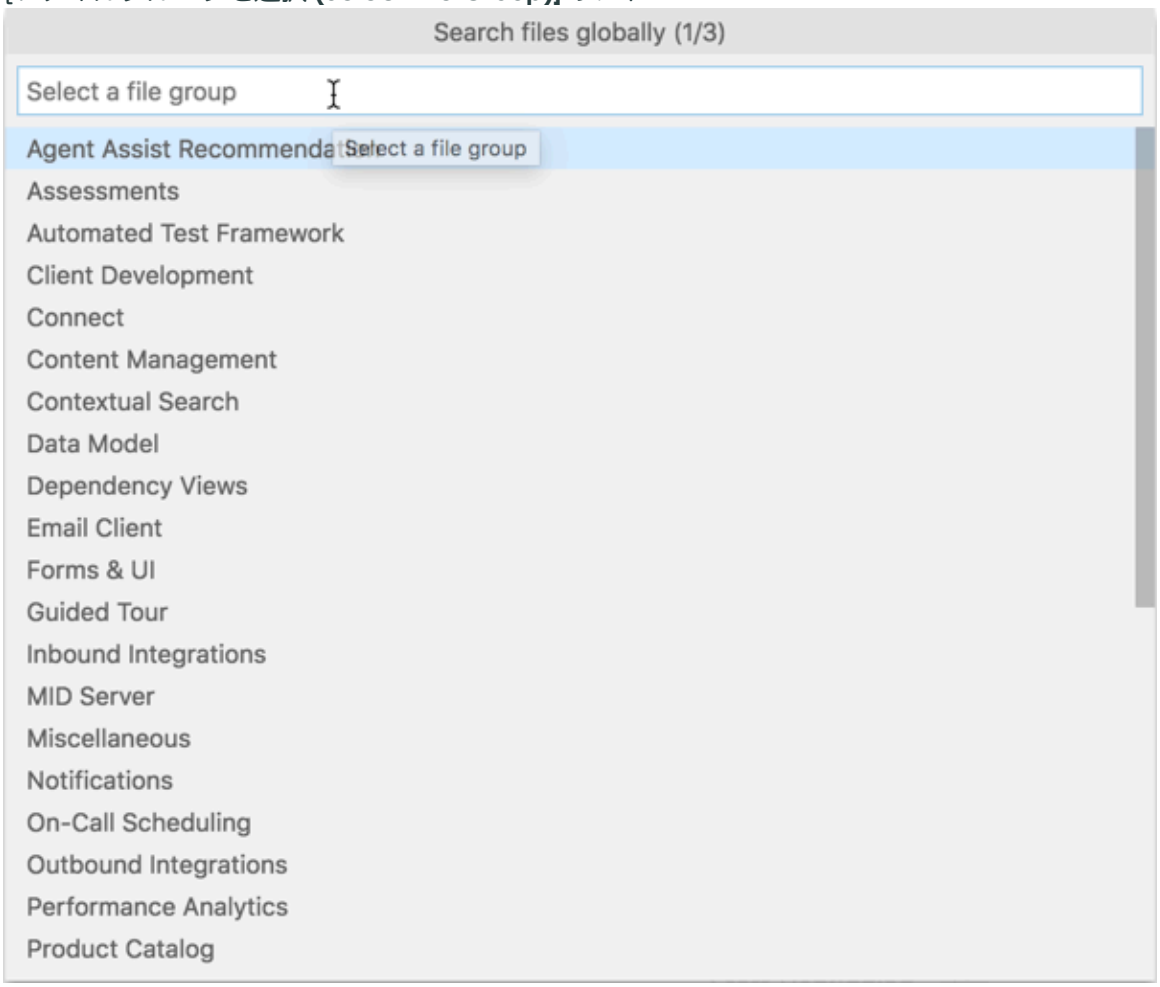
グローバルファイル検索コマンド



3. 画面上部のコマンドパレットの [ファイルグループを選択 **(Select File Group)]** リストからファイルグループを選択します。

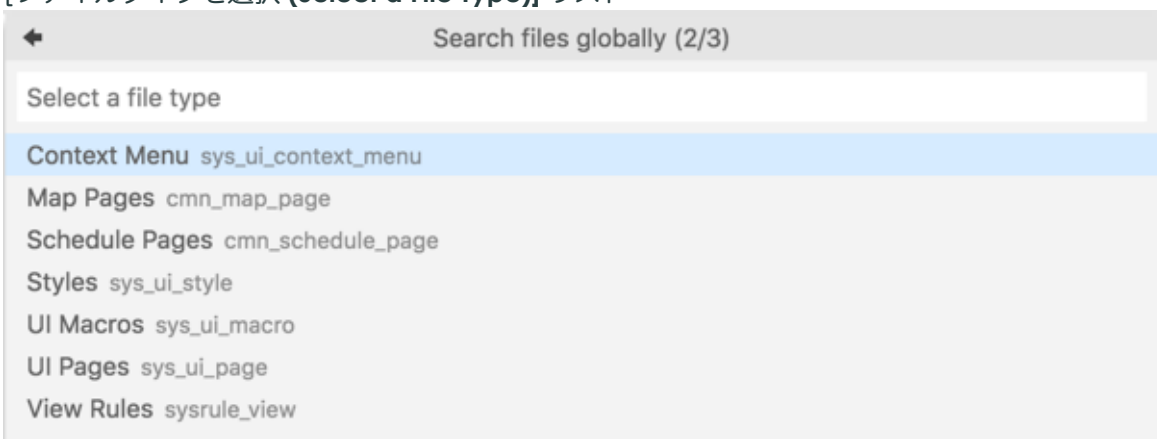
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ファイルグループを選択 **(Select File Group)]** リスト



4. 画面上部のコマンドパレットの [ファイルタイプを選択 (Select a File Type)] リストからファイルタイプを選択します。

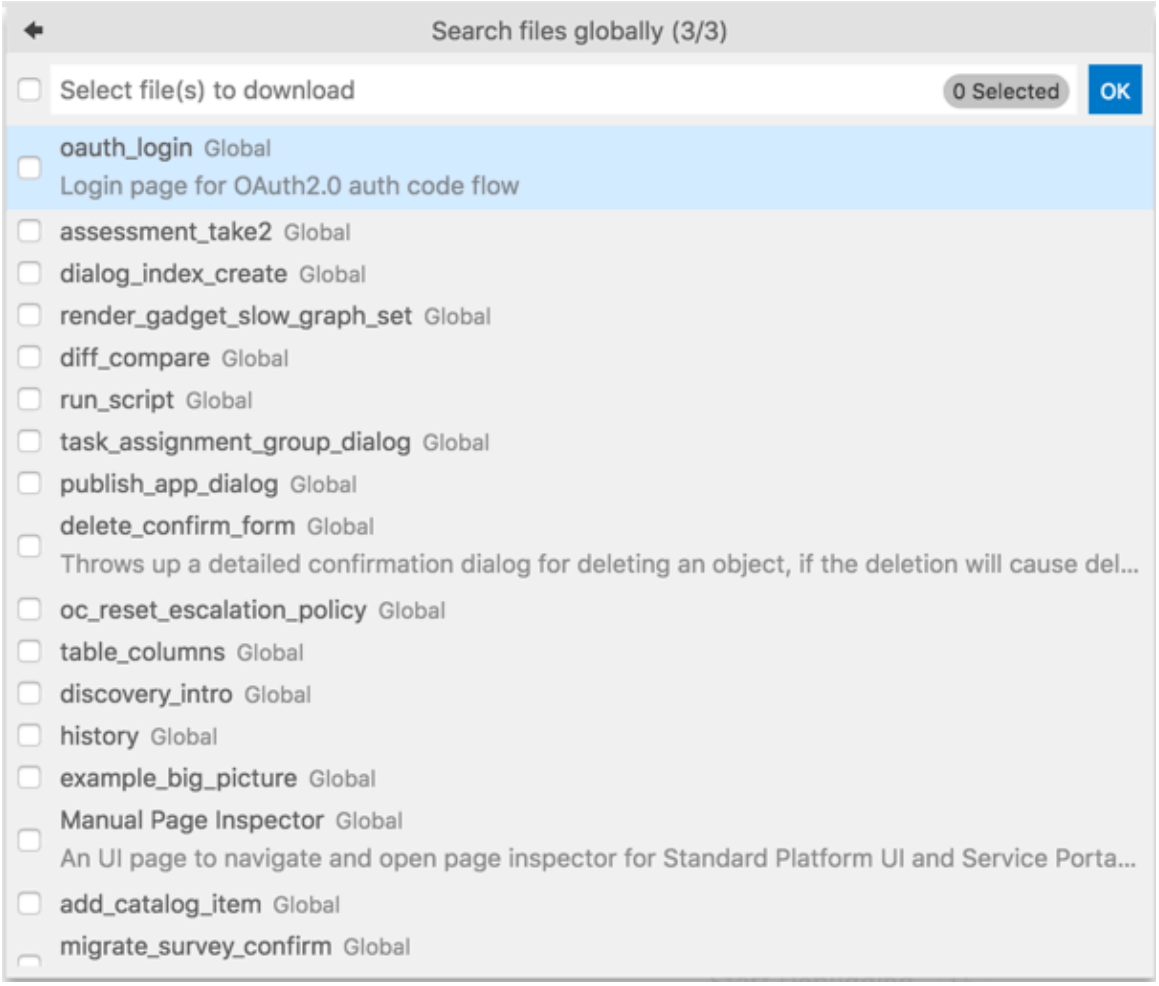
[ファイルタイプを選択 **(Select a File Type)]** リスト



5. [ダウンロードするファイルを選択 **(Select files to download)]** リストからファイルを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ダウンロードするファイルを選択 **(Select files to download)**] リスト



一度に複数のファイルを選択してダウンロードできます。

選択したファイルがアプリケーションのスクラッチフォルダーにダウンロードされます。選択したファイルを編集できます。

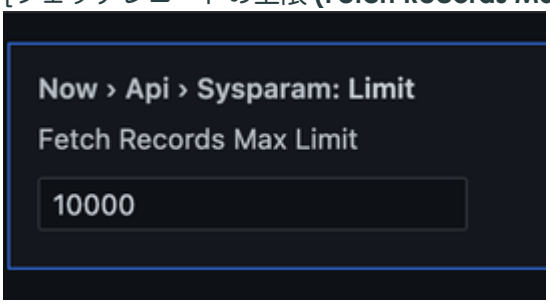
6. 検索結果 10,000 件以上を表示します。

   a. Windows では Control+、MacOS では Command+ を選択して設定を開きます。

   b. 検索バーに「`now`」と入力します。

   c. [フェッチレコードの上限 (Fetch Records Max Limit)] 設定に表示するレコードの数を入力します。

[フェッチレコードの上限 **(Fetch Records Max Limit)**] 設定



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

VS Code でのファイルの作成

VS Code を使用したバックグラウンドスクリプトの実行

VS Code 向け ServiceNow 拡張を使用して、VS Code で ServiceNow インスタンスからスクリプトを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

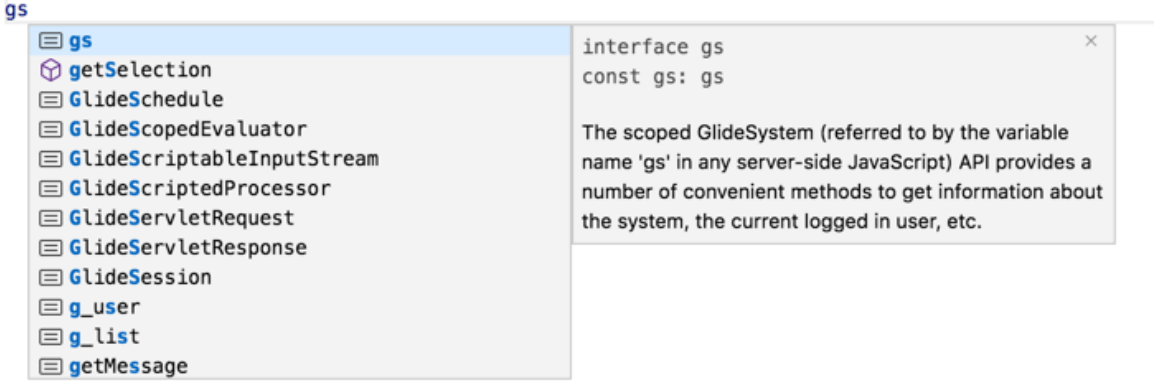
1. VS Code IDE でスクリプトを記述しているときに、テキストファイル内のスクリプトを選択し、スクリプトを右クリックします。
2. コンテキストメニューから、[バックグラウンドスクリプトの実行- 現在 **(Run Background Script-Current)]** または [バックグラウンドスクリプトの実行- グローバル **(Run Background Script-Global)]** を選択します。
   VS Code でバックグラウンドスクリプトランナータブが開き、サーバー内でスクリプトが実行される場所が表示されます。

VS Code の IntelliSens

VS Code 拡張向け ServiceNow 拡張の IntelliSens コード編集機能は、コードをより迅速かつ効率的に記述するためのオートコンプリートオプションを備えたインテリジェントコード補完を提供します。

VS Code でスクリプティングを開始すると、IntelliSense 機能がコードコンテキストに適したオートコンプリートオプションをリストの上部に表示します。

GlideSystem 向け IntelliSens



利用可能なオートコンプリートオプションは次のとおりです。

- クライアントおよびサーバースクリプトのメソッドとプロパティのオートコンプリート。
- 標準 JS API のメソッドとプロパティのオートコンプリート。
- Jelly タグと属性のオートコンプリート。
- 一般的に使用される標準でのコード補完。

拡張は、一般的に使用されるコードパターンのスニペット (テンプレート) をサポートし、ユーザーがインスタンスのシンタックスエディターのマクロテーブルで定義したスニペットをロードします。他の提案とともに ^Space を入力すると、IntelliSens にスニペットが表示されます。または、VS Code のコマンドパレットから [スニペットの挿入] コマンドを使用してスニペットを挿入することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

VS Code 向け ServiceNow 拡張のテレメトリ

VS Code 向け ServiceNow 拡張は、Now テレメトリを使用して実行されるコマンドなど、さまざまな使用パターンに関する情報を収集します。

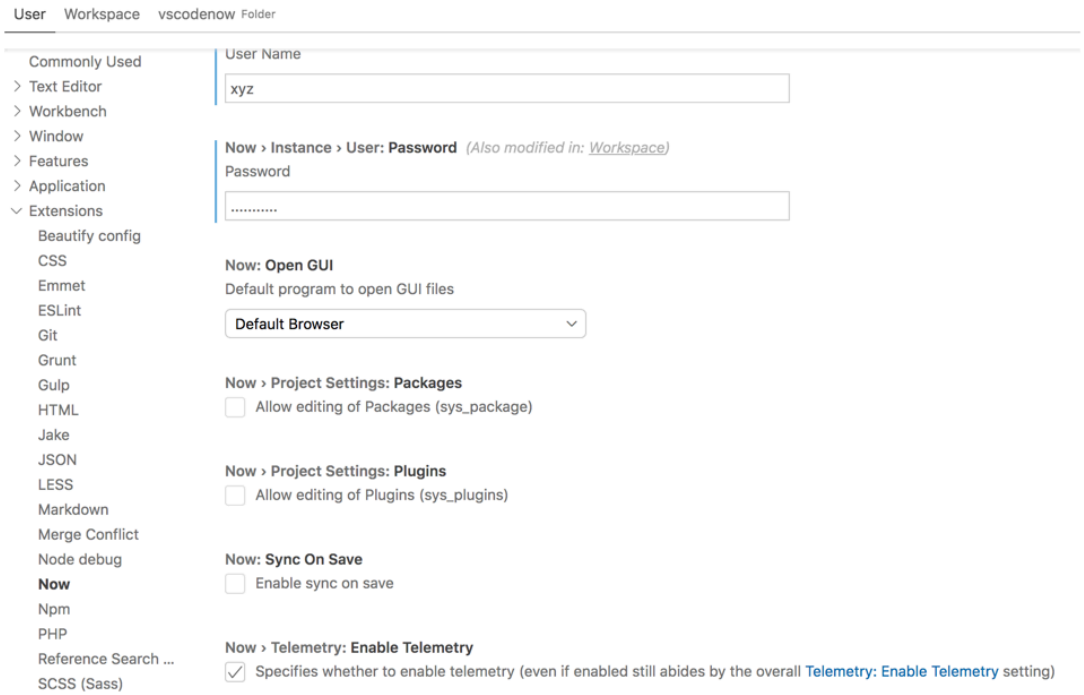
Now テレメトリは以下で役立ちます

- 問題のデバッグ
- 最もよく使用される関数や機能の分析
- ユーザーアクションのキャプチャ
- 拡張の改善

注: テレメトリは、使用状況に関連する匿名情報を収集し、ユーザーの名前やメール ID などの個人情報はキャプチャしません。データは ServiceNow のみがアクセス可能で、誰とも共有されません。

ServiceNow 拡張では、デフォルトでテレメトリが有効になっています。使用状況データの送信を希望しない場合は、`now.telemetry.enableTelemetry` ユーザー設定を false に設定できます。または、 [ファイル] (Windows) または [コード] (Mac) を選択し、[環境設定] > [設定] > [拡張] > **[Now]** に移動し、**[Now** テレメトリ] チェックボックスをオフにしてこの機能を無効にします。

テレメトリの設定



注: 使用状況データは、設定を無効にするまで送信されます。拡張は、グローバルテレメトリ設定 `telemetry.enableTelemetry` に従います。false に設定すると、Now テレメトリは無効になります。

専門能力開発の探索

ServiceNow は、デジタルトランスフォーメーションを強化するビジネスアプリケーションを迅速にビルドするための単一のモバイルおよび Web アプリケーション開発プラットフォームを提供します。Now Platform を使用して、企業全体でデジタルワークフローアプリを自動化、拡張、ビルドする方法について説明します。

このコンテンツでは、開発者が Now Platform でアプリケーションを簡単にビルドできるように、アプリケーション開発ステージについて説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アプリケーション開発の計画：アプリケーションをビルドする前によく検討してください。
- アプリケーションのビルド：アプリケーションとそのコンポーネントを作成して構成します。
- アプリの機能の検証：機能テストを実行し、テストケースを記述します。
- アプリの展開：アプリケーションを本番環境に移行します。

アプリケーション開発の計画

計画プロセスは、アプリケーションをビルドする上で最も重要なステップです。ビルドする前に設計と構成をよく検討することで、アプリケーションにとっての短期的なメリットと長期的なメリットの両方を得ることができます。

Now Platform に適合

すべてのアプリケーションのアイデアが Now Platform に適合しているわけではありません。計画段階では、アプリケーションが Now Platform に適合しているかどうかを検討します。アプリケーションを計画するときは、適合する特性を念頭に置いてください。

適合性が高い場合	適合性が低い場合
• 簡易フォーム • タスク管理 • 要求管理 • スプレッドシート駆動のプロセス • 繰り返し可能なプロセス • サードパーティ統合 • 複数のシステムのオーケストレーション • 複数のシステムの機能からの単一のエクスペリエンス • 同じアプリとデータへの Web およびモバイルアクセス	• 非構造化データ • 繰り返し不可能なプロセス • グラフィック処理が必要なコンテンツ • ストリーミングオーディオまたはビデオ • 高度にカスタマイズされたユーザーインターフェイス

ビルド前の計画

基本的に、アプリケーションはユーザーのタスクをサポートするデジタルプログラムです。アプリケーションのビルド時に実行する一部のアクションは、取り消すことができません。そういったアクションを意識して事前に計画してください。

アプリケーションスコープ

アプリケーションを作成するときに最初に行う主要な決定の 1 つは、アプリケーションをプライベートスコープまたはグローバルスコープのどちらにするかということです。

デフォルトでは、アプリケーションは専用のプライベートアプリケーションスコープで作成されます。プライベートアプリケーションスコープ内のアプリケーションは、アプリケーションアーティファクトへのアクセスを制限するため、同じスコープ内のアプリケーションアーティファクトのみが、アプリケーションデータを作成、変更、削除、または実行するためのフルアクセス権を持ちます。スコープ対象のアプリケーションは、ソースコントロール統合と委託開発を使用できます。グローバルスコープ対象のアプリケーションは、委託開発を使用できません。

次の場合を除き、スコープ内のカスタムビジネスアプリケーションを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アプリケーションがグローバルデータを削除する必要がある。
- アプリケーションが機能するために、複数のデフォルトテーブルのアプリケーションアクセス設定を変更する必要がある。
- アプリケーションが、グローバルスコープでのみ利用可能な API にアクセスする必要がある。グローバルスコープパススルースクリプトインクルードを作成するだけでは、この要件を満たすことはできません。

注: グローバルスコープパススルーは、プライベートスコープからアクセス可能なグローバルスコープで作成されるスクリプトインクルードです。パススルーは、プライベートアプリケーションスコープからデフォルトではアクセスできないグローバル API へのアクセスを提供します。

詳細については、「アプリケーションスコープ」および「Now Platform のアプリケーションスコープの理解 (Understanding Application Scope on the Now Platform) (ホワイトペーパー)」を参照してください。

インスタンスの選択

概念実証 (PoC) アプリケーションビルドは、通常の開発インスタンスとは別のインスタンスでビルドできます。このインスタンスは、開発者サイトのサンドボックスインスタンスまたは個人開発者インスタンス (PDI) にすることができます。PDI の命名形式は **dev12345.service-now.com** です。

スコープの名前空間が異なるインスタンスを使用する場合は、組織の開発インスタンスで PoC アプリケーションを再ビルドします。アプリケーションを組織の開発インスタンスにインポートしないでください。アプリケーションのスコープ対象の名前空間は、会社の開発インスタンスのスコープ対象の名前空間と一致しません。

組織が使用する予定のアプリケーション (本番アプリなど) は、組織のテストおよび展開プロセスに従うことができるように、組織の開発者インスタンスで作成する必要があります。

命名の決定

アプリケーション名は重要です。ServiceNow は、アプリケーションの名前に基づいてスコープを提案します。インスタンス内のアプリケーションリソースを一意に識別するために、アプリケーションファイル名がスコープに追加されます。スコープの形式は x_[company code]_[application_name] で、最大 18 文字です。たとえば、**Legal Request** というアプリケーション名の提案スコープは **x_acme_legal_reque** です。

アプリケーション内のすべてのアプリケーションファイルはスコープを継承するため、値を慎重に検討してください。アプリケーション名はいつでも変更できます。

アプリ開発の管理

Now Platform でのアプリ開発を管理します。

ソースコントロール

アプリケーションのシンプルで将来を想定したコラボレーションを実現するには、ソースコントロール統合を使用します。ソースコントロールを使用すると、組織は最新のアプリケーション開発とチーム管理のパラダイムに従いながら、業界標準のツールセットを採用できます。詳細については、ソースコントロール統合に関するドキュメントを参照してください。

GitLab や GitHub などのソースコントロールプラットフォームは、ServiceNow アプリケーションの開発と管理において、現在および将来のベストプラクティスのトレンドに組織を適合させます。ただし、組織によっては、最新のソースコントロール統合を採用する準備ができていない場合があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 分岐の結合は現在サポートされていません。
- ファイアウォールの背後にある企業 Git リポジトリは、追加のファイアウォール構成なしで直接統合することはできません。

委託開発

委託開発により、admin ロールを持たない指定されたユーザーが、Now Platform でアプリケーションを開発または展開できるようになります。アプリケーション固有の admin ロールまたはシステムレベルの admin ロールを持つユーザーは、アプリケーションレベルで指定された開発者にアプリケーション開発を委任することができます。委任開発者ロール は、admin ロールよりも権限が少なくなりますが、アプリケーションの開発は許可されています。

注: 委託開発は、プライベートスコープ対象のアプリケーションでのみ使用できます。

アプリケーションのビルドの詳細については、「最初のアプリケーションのビルド 」を参照してください。

アプリケーションのビルド

アプリケーションを構成するデータ、設計要素、およびロジックをビルドおよび定義します。

データモデルの定義およびビルド

計画が完了したら、データモデルを定義してビルドします。フィールドを含む 1 つ以上のテーブルを作成し、デモデータを含むテーブルをロードして、データへのアクセス制御を確認します。

アプリケーションを作成

アプリケーションレコードを作成するか開きます。

- 作成：アプリケーションを直接作成する場合は、ガイド付きアプリクリエーター を使用してアプリケーションを作成します。Guided App Creater を使用すると、スプレッドシート、ロール、およびセキュリティルールからテーブルを作成できます。設計オプションも利用できます。
- オープン：開発者に admin ロールがない場合、ServiceNow システムアドミニストレーターはアプリケーションを作成し、開発者に委託開発ロールを付与する必要があります。その後、開発者は Studio を使用してアプリケーションを編集用に開きます。

注: アプリケーションスコープとテーブル名は、これらのオブジェクトの内部名と呼ばれることがあり、作成後に変更することはできません。ただし、アプリケーション名とテーブルラベルは変更できます。アプリケーションユーザーには、URL の内部名のみが表示されます。可能であれば、内部名は常にユーザーに表示されるものと一致している必要があります。

データモデルのビルド

アプリケーションのデータモデルをサポートするテーブルとテーブル上のフィールドを作成します。

ServiceNow は、新しいテーブルごとに 5 つのフィールドを自動的に追加します。新しいフィールドには、テーブルに関する自動入力された情報が含まれます。

すべてのテーブルに追加されるフィールド

フィールド名	データベース名	説明
作成者	sys_created_by	このレコードを作成したユーザー
作成済み	sys_created_on	レコードが作成された日時。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのテーブルに追加されるフィールド (続く)

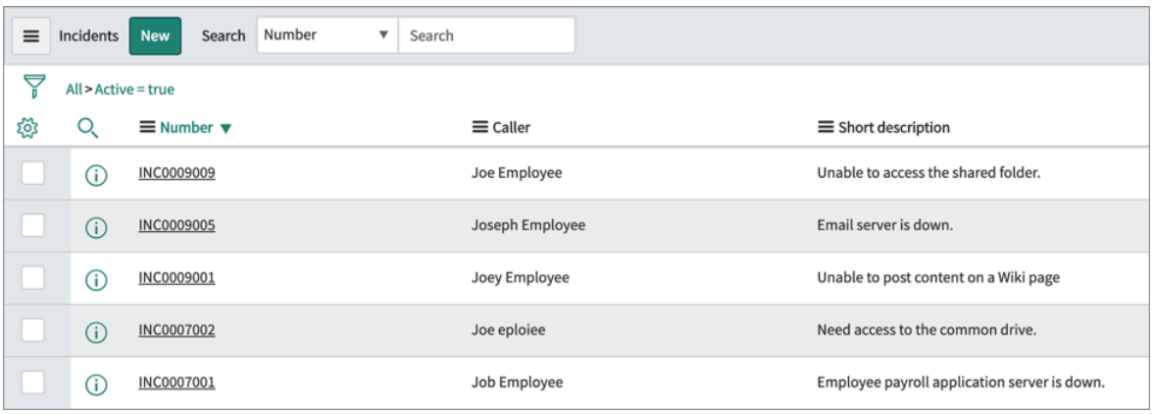
フィールド名	データベース名	説明
更新者	sys_updated_by	レコードを最後に更新したユーザー。
Sys ID	sys_id	レコードの一意の識別子。インスタンス全体で一意です。
更新	sys_mod_count	レコード作成以降のレコードの更新回数をカウントする数値フィールド。

新しいテーブルは、既存のテーブルを拡張して、拡張されるテーブルからフィールドと機能を継承できます。拡張されるテーブルのコンポーネントを追加および変更します。最も一般的に拡張される ServiceNow テーブルは、タスクテーブルです。詳細については、「When to create a new table vs. when to extend (新しいテーブルを作成するタイミングと拡張するタイミング)」および「Now Platform® テーブルの探索」を参照してください。

アプリケーションに必要なデータモデルをサポートするフィールドをテーブルに追加します。ServiceNow には、検証が組み込まれたさまざまなフィールドタイプがあります。フィールドのデータに最適なフィールドタイプを選択します。

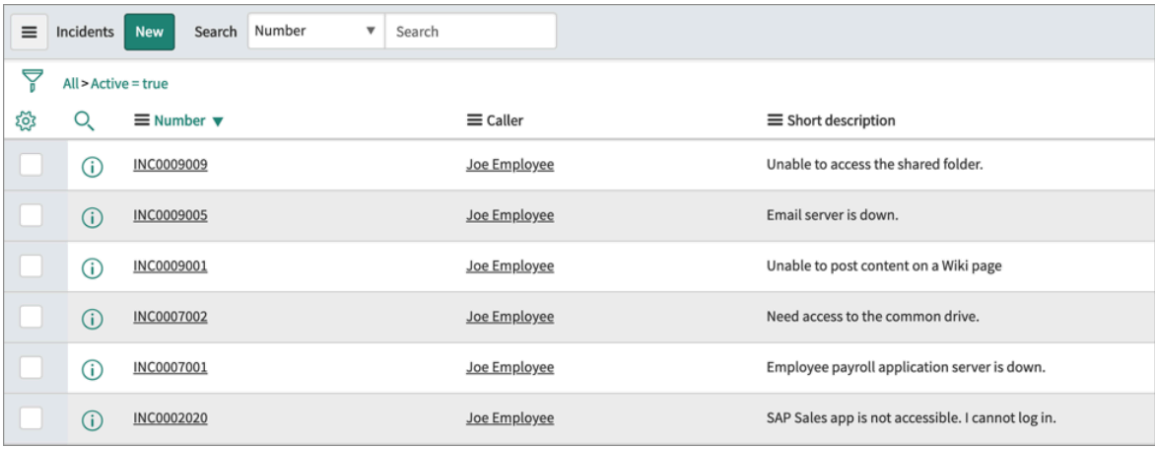
注: 文字列 (プレーンテキスト) フィールドは、設定が最も簡単です。ただし、ユーザーは何でも入力できるため、文字列フィールドでは、使用が困難な不適切な一貫性のないデータが生成される可能性があります。

この例では、文字列フィールドタイプがユーザーの名前に使用されています。[Caller] フィールドはインシデントレコードごとに異なりますが、問い合わせユーザーは同じ人物である可能性があります。テーブルのユーザー名に文字列フィールドタイプを使用しないでください。



文字列フィールドの代わりにユーザーテーブルを参照する参照フィールドタイプを使用します。ユーザーは、[Caller] フィールドで一貫性のあるレコードを 1 つ選択する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



参照フィールドは、ServiceNow の別のテーブルの日付を正規化することで、データの一貫性を確保します。ServiceNow には、2000 を超える参照可能なベースラインテーブルがあります。付録 には、アプリをビルドするためによく使用されるテーブルがいくつかリストされています。

参照フィールドはデータを正規化できますが、他のフィールドは特定のタイプのデータに使用できます。ServiceNow ドキュメントサイトには、すべてのフィールドタイプ のリストがあります。一般的なフィールドタイプの一部を次に示します。

フィールドタイプ	説明
整数	数値を格納し、計算で使用できます。
通貨	通貨値を保持し、ログインしているユーザーの通貨で値を表示します。
電話番号	E164 準拠の電話番号に対する検証と書式設定を含めます。
参照	別のテーブルのレコードを表示し、データの正規化に役立ちます。
選択肢	事前定義された選択肢のリストを含む選択ボックスを表示します。選択リストに含めるアイテムは 10 未満にする必要があります。
日付	日付ピッカーで選択された日付値を保存します。特定の時刻が必要ない場合は、[日付] を使用します。
日付/時刻	日付と時刻ピッカーで選択された日付と時刻の値を保存します。特定の時刻を比較する場合、または正確な時刻が重要な場合は、日付/時刻を使用します。
文字列	自由形式テキストを保持します。フィールドに格納されている値と一致するフィールドタイプが他にない場合は、文字列を使用します。

注: フィールドの作成後にフィールドタイプを変更しないでください。

選択リストまたは参照フィールド

選択リストと参照フィールドはどちらも、ユーザーがリストから値を選択する方法を提供します。選択リストは、名前と値のペアです。ユーザーが名前から選択すると、選択した選択肢の値がフィール

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドに保存されます。スクリプトはこの値を使用します。選択肢の名前/値のペアを追加および削除して、オプションのリストを管理します。

参照フィールドはテーブルを指します。テーブルの選択肢を管理します。参照フィールドに格納される値は、参照されるレコードの sys_id です。

選択リストは参照テーブルを必要とせず、参照フィールドよりも設定が簡単です。フィールドのオプションが 10 個以下で、オプションが変更されない場合は、選択リストを使用します。次の場合は、参照フィールドとテーブルの使用を検討してください。

- このフィールドに 10 を超える選択肢が必要。
- 選択肢が定期的に変更される。
- アドミン以外のユーザーが選択肢を管理する必要がある。
- フィールドの値は、意思決定ロジックに影響する。たとえば、フローデザイナーの意思決定テーブルなどです。
- データには、さまざまなフィールド間に複数レベルの依存関係があり、複雑で扱いにくい選択肢フィールドの組み合わせにつながる可能性がある。
- 選択肢に、複数の名前/値のペアが必要。たとえば、ユーザーレコードを参照すると、参照元のテーブルにメールや部門などの他のユーザーの詳細へのアクセス権が付与されます。
- フィールドに必要なデータを含むテーブルが既に存在する。

参照フィールドを使用する場合は、テーブルを作成する前に、参照するインスタンスで利用可能なテーブルを確認してください。新しいテーブルを作成する場合は、「カスタムテーブルガイド」のセクション 2 で除外テーブルのリストを確認してください。必要に応じて、これらのいずれかから新しいテーブルを拡張します。

> **注:** 拡張されるテーブルに新しいフィールドを作成する前に、ベーステーブルから継承された同様の目的を持つ既存のフィールドを確認します。フィールドが見つかった場合は、拡張されるテーブルのラベルを上書きします。

安全なデータ

データセキュリティは、アプリケーションを作成する上で最も重要でありながら見落とされがちな要素の 1 つです。ServiceNow は、テーブルの作成プロセス中に、新規のロールまたは選択されたロールのアクセス制御を自動的に構成します。ロールを持つユーザーのみが、テーブルにアクセスして読み取り、作成、書き込み、削除を行うことができます。

Now Platform では、アクセス制御ルールを使用して、テーブルレベルおよび列レベルのセキュリティを構成します。アプリケーションへのアクセスを適切に構成するために、開発者は、アクセス制御の仕組みとアクセス制御が評価される順序を理解する必要があります。複数のアクセス制御を適用し、それらを組み合わせてアクセス制御リスト (ACL) が構成されます。

自分のペースで進められるトレーニング：Securing Applications (アプリケーションの保護)

ドキュメント：アクセス制御リストのルール

セキュリティを考慮するタイミング：

- 適切なアクセス制御とロールを使用して、テーブル、UI ページ、プロパティページ、およびその他のコンテンツを保護します。
- アクセス制御スクリプトでの GlideRecord クエリの使用を制限します。GlideRecord クエリはパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

Orlando Platform Subscription モデル以降、ユーザーがテーブルにアクセスするかどうかに関係なく、ユーザーがアクセスできるテーブルの数によって顧客に課金されます。テーブルへのアクセスを

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

制限するように ACL を構成し、テーブルへのアクセスを必要とするユーザーのみがテーブルにアクセスできるようにします。

> **注:** 自動入力されるフィールドを読み取り専用にすることを検討してください。システムによってデータが入力されている場合、ユーザーは入力できません。

または、クエリ前ビジネスルールを使用して、Now Platform 上のデータを保護します。クエリ前ビジネスルールは、データベースクエリの前に実行され、レコードへの読み取りアクセスの制御に制限されます。必要な場合にのみ、クエリ前ビジネスルールを使用します。アクセス制御またはクエリ前ビジネスルールの使用を決定する際の考慮事項：

- GlideRecord クエリは、テーブルの読み取りアクセス制御をバイパスし、テーブルのクエリ前ビジネスルールによって制限されます。
- アクセス制御によってリスト内のレコードへの読み取りアクセスが制限されている場合、ServiceNow では、レコードのアクセスが制限されていることを示すメッセージが表示されます。クエリ前ビジネスルールでは、リストの合計レコード数は、ユーザーに表示されるレコードの数と一致します。一部のレコードがリストで非表示になったとき、ユーザーはそのことを示す通知を受け取りません。

参照用に、ユーザー [sys_user] テーブルのユーザークエリビジネスルールを確認してください。

> **注:** クエリ前ビジネスルールは ACL の代わりにはなりません。クエリ前ビジネスルールを使用してユーザーのテーブルへのアクセスを拒否しても、サブスクリプションモデルに対してテーブルがカウントされます。プラットフォームサブスクリプションモデルのユーザーに対してテーブルがカウントされないようにするには、アクセス制御を使用します。

暗号化

Now Platform は、アプリケーション層、データベース層、およびハードウェア層でさまざまな暗号化ソリューションも提供します。詳細については、データ暗号化に関するホワイトペーパー を参照してください。

> **注:** インターフェイスまたはビジネスロジックを構成する前に、セキュリティを設定します。セキュリティはインターフェイスやビジネスロジックで利用可能なデータに影響するため、アプリケーションビルドプロセスを終了するまで待つと、やり直しや問題が発生する可能性があります。

データの管理

データモデル (テーブルとフィールド) を作成し、セキュリティを設定したら、アプリケーションのテーブルにデータを追加します。

インポートセット

外部プラットフォームから ServiceNow のテーブルに入力するには、インポートセットと変換マップを使用します。外部ソースから定期的にデータを取得するには、スケジュール済みインポートを使用します。

自分のペースで進められるトレーニング：Importing Data into ServiceNow (ServiceNow へのデータのインポート)

インポートセットパフォーマンスのガイドライン：

- インポートを高速化するために、大量のデータを小さなセットに分割します。100,000 行をベースラインと見なし、それより大きい行は 100,000 行に分割します。たとえば、100,000 レコードを 10 セットインポートする方が、1,000,000 レコードを 1 セットインポートするよりも早く終了します。また、多数のレコードで同時インポート を使用することも検討してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 大きなデータセットを同時にインポートすると、インスタンスに負荷がかかる可能性があります。インポートが重複しないように、大規模なインポートを交互に実行します。
- 可能な場合は、変換マップテーブルの [ビジネスルールを実行] チェックボックスをオフにして、インポート中にビジネスルールやその他のロジックが実行されないようにします。ビジネスルールのように各レコードで計算などのビジネスロジックをインポートの最後に実行するのではなく、onComplete 変換スクリプトを使用することを検討してください。
- インポートにデフォルトの機能を使用します。可能な限り、カスタムスクリプトを記述しないでください。たとえば、カスタム結合スクリプトを記述するのではなく、結合機能を使用します。
- インポートセットでは GlideRecord クエリを使用しないでください。
- 結合するように構成されたすべてのフィールドにインデックスが付けられていることを確認します。
- 履歴データをインポートする必要があるシステムを置き換える場合は、アプリケーションに必要な履歴データのみをインポートします。履歴データをデータレイクに保存することを検討してください。

受信統合

インポートセットに加えて、ServiceNow には外部プラットフォームからデータを受け入れるための API が含まれています。

別のシステムからアプリケーションテーブルにデータを直接プッシュするには、REST Table API または SOAP API を使用してアプリケーションテーブルに直接書き込むのではなく、Web サービスインポートセットを使用します。

添付ファイルの送信やカタログアイテムの注文など、テーブルへのデータの書き込みよりも複雑なデータトランザクションを処理するには、利用可能な API を確認して、必要なロジックをサポートする API が存在するかどうかを確認します。

Scripted REST API または Scripted SOAP Web Service を使用して、それぞれ REST または SOAP エンドポイントをビルドします。Scripted REST API および Scripted SOAP Web Service エンドポイントは、エンドポイントが外部システムによって消費されるときに ServiceNow サーバーサイドコードを実行できます。

自分のペースで進めることができるトレーニング：REST Integrations (REST 統合)

設計要素の作成

アプリケーションのデータモデルが作成され、保護され、データが入力されたら、そのデータにアクセスするための設計要素を作成します。

プライマリインターフェイス

ユーザーがデータモデルを操作する主な方法は、フォームとリスト、またはモバイルを使用することです。

フォームとリスト

ServiceNow のデータにアクセスする標準的な方法は、デフォルトのフォームとリストを使用することです。フォームにはデータテーブルの 1 つのレコードの情報が表示され、リストにはテーブルの一連のレコードが表示されます。フォームとリストを構成する場合：

1. フォームのフィールド数は最小限に抑えます。フォームのフィールドが多いほど、フォームのロードに時間がかかり、ユーザーエクスペリエンスが低下します。フォームビューを使用して、さまざまな状況に合わせてさまざまなフィールドのセットを作成します。
2. フォームセクションを使用して、フィールドを論理的にグループ化し、ユーザーがスクロールする必要がないようにします。フォームの上部セクションには常に必要なフィールドまたは使用される

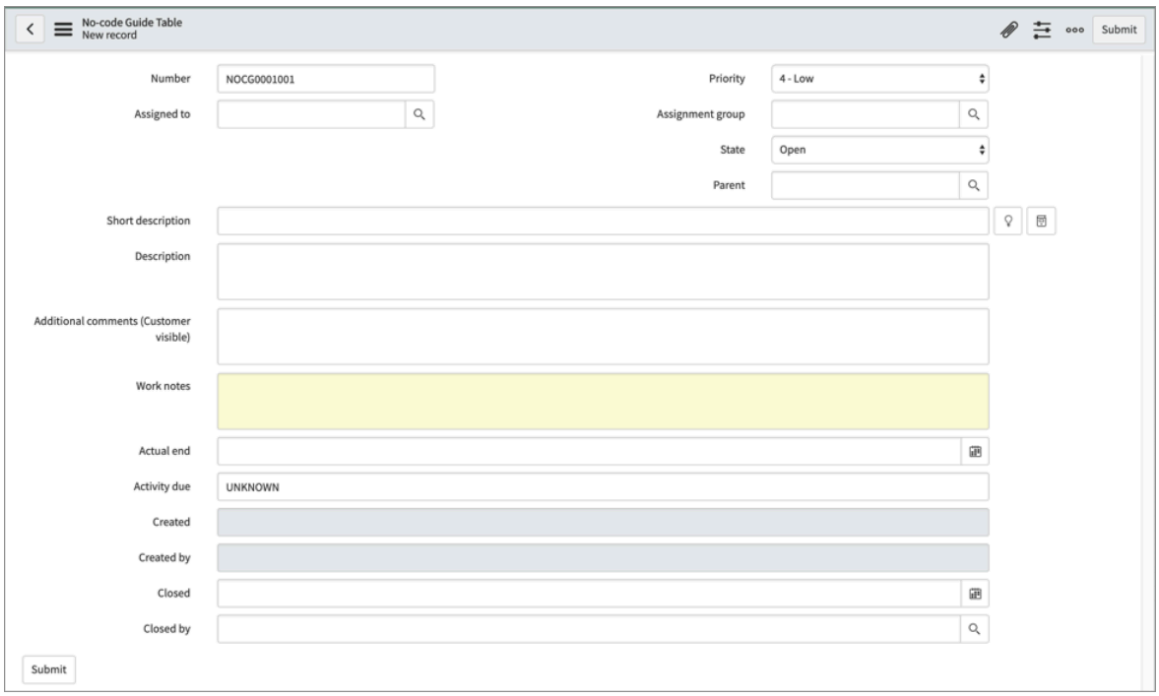
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールドを含め、他のフォームセクションには使用頻度の低いフィールドを含めるようにします。

3. フィールドが正しい順序で表示されていることを確認します。たとえば、開始日フィールドは常に終了日フィールドの直前にする必要があります。
4. デフォルトのリストでは 7 つ以下の列を使用します。ユーザーは、リストをカスタマイズ してさらに列を追加できます。
5. 参照フィールドはハイパーリンク付きテキストとして表示されるため、リストビューの最初のアイテムとして使用しないでください。参照フィールドをクリックすると、ユーザーはリストレコードではなく参照レコードにリダイレクトされるため、ユーザーエクスペリエンスが低下します。

この例は、適切に設計されていないフォームを示しています。

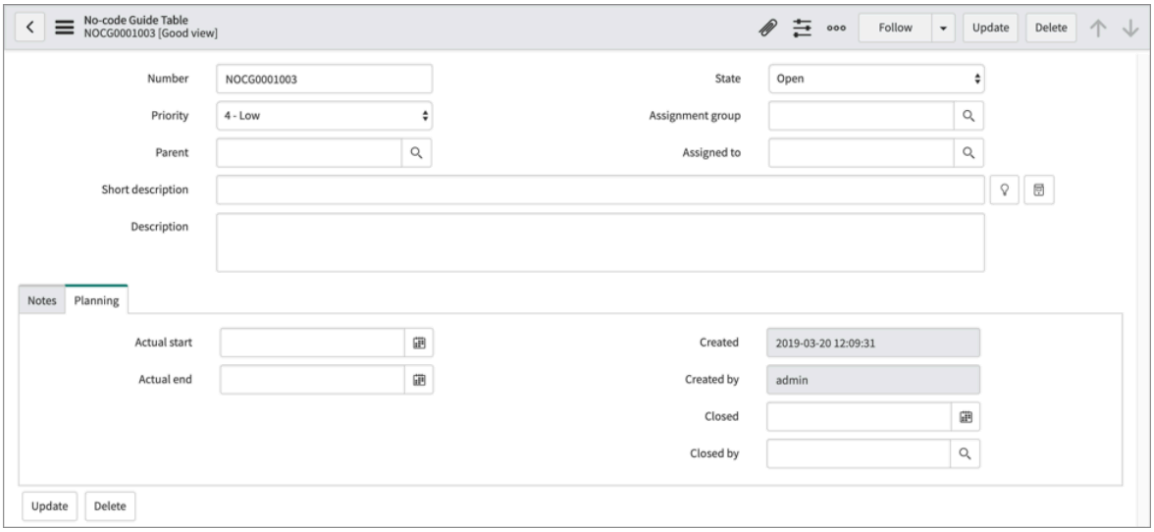
- フォームにセクションがありません。ユーザーがすべてのフィールドを表示するには、フォーム全体をスクロールする必要があります。
- 類似のフィールドがグループ化されていません。たとえば、[アサイン先グループ] と [アサイン先] がフォームの異なる側にあります。



この例は、適切に設計されているフォームを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- フィールドは論理的にグループ化されます。
- フォームは、表示とデータ入力を容易にするためにセクションに分割されています。



モバイル

ユーザーがモバイルデバイスでアプリケーションを操作し、位置情報管理やアプリケーションデータへのオフラインアクセスなどの iOS または Android のネイティブ機能を必要とする場合は、ServiceNow Agent アプリを使用します。Studio を使用して、アプリケーションのモバイルアプリケーションを作成します。

モバイルアプリケーションでアプレットを作成します。アプレットは、アプリケーション内のタイルです。マップやリストなどのメイン画面と、アクティビティストリームや関連リストなどのさまざまな詳細画面を含めます。アプレットには、重点を置くエクスペリエンスが必要です。

> **注:** 個々のアプレットは、ロール別に保護することも、オフラインモードで使用できるようにすることもできます。

自分のペースで進められるトレーニング：Mobile Applications (モバイルアプリケーション)

その他のリソース：Mobile Resources (モバイルリソース)

セルフサービス

アプリケーションには、エンドユーザーがデータモデルにアクセスできるようにする方法が必要な場合があるため、セルフサービスオプションを利用できます。

サービスポータル

アプリケーションに要求者ユーザーまたはセルフサービスユーザーがいる場合は、サービスポータルを使用して使いやすい Web エクスペリエンスを提供します。

セルフサービスユーザーがサービスポータルからアプリケーションレコードを簡単に作成できるようにするには、レコードプロデューサーを作成します。レコードプロデューサーは、通常のフォームよりも優れたエンドユーザーエクスペリエンスを提供できます。サービスポータルを介してレコードプロデューサーにアクセスできるようにするための適切なカタログと分類については、ServiceNow アドミニストレーターにお問い合わせください。

または、次の条件に当てはまる場合は、アプリのサービスポータルを作成します。

アプリケーションが、組織の現在のサービスポータルとは異なるブランディング、ナビゲーション、またはユーザーエクスペリエンスを必要としている。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OR

組織に既存のサービスポータルがない。

AND

アプリケーションは、デフォルトのポータルが提供するよりも多くの機能を必要としている。

AND

アプリケーションに、デフォルトのフォームやリストが提供できるものよりも多くのカスタマイズされたユーザーエクスペリエンスが必要。

OR

アプリケーションでは、デフォルトのインターフェイスが提供するよりも、ブランディングとテーマをより詳細に制御する必要がある。

ヒント: アプリケーションで既存のサービスポータルページを再利用しないでください。新しいページを作成し、ページ内のコンポーネント (ウィジェットやヘッダーなど) を再利用します。

ウィジェット

ウィジェットは、ポータルのコンテンツを定義するものです。サービスポータルで提供されるベースシステムウィジェットを使用することも、開発者がビジネスニーズに合わせてカスタムウィジェットをビルドすることもできます。

アプリケーションのカスタムサービスポータルウィジェットを作成する際の考慮事項：

- ウィジェットを新規に作成するのではなく、既存のウィジェットから開始します。既存のウィジェットを誤って変更しないように保護するために、すべてのベースラインウィジェットは読み取り専用になっています。
- ウィジェットを開発するときは、プレビューペインを使用してウィジェットの動作を簡単にテストします。ウィジェットを本番環境にリリースする前に、必ずポータルページでウィジェットをテストしてください。
- ブラウザーベースのアプリケーションをデバッグするときは、サードパーティのデバッグツールを使用します。たとえば、Angular JS の ng-inspector Chrome 拡張機能 を使用します。
- $rootScope.$broadcast() の使用は避けてください。代わりに、$rootScope.$emit() を使用してイベントをルートスコープに公開します。
- ウィジェットのオプションを使用して、ウィジェットをより簡単に再利用できるようにします。ウィジェットオプションスキーマは、ユーザーが構成可能なフィールドを定義します。
- オプションスキーマでサポートされていない他のフィールドタイプを使用するには、カスタムウィジェットオプションスキーマを格納する拡張テーブルを作成します。
- Angular プロバイダーは、複数のウィジェットに挿入できる再利用可能なコンポーネントです。ウィジェットのすばやいロードとポータルの高いパフォーマンスを確保するため、永続データと追加ロジックを使用してクライアントコントローラーをオーバーロードする代わりに Angular プロバイダーを作成します。Angular プロバイダーを使用すると、サービスポータルを使用する全期間データを維持し、複数のウィジェット間でコンポーネントとデータオブジェクトを再利用することができます。

詳細については、サービスポータルのトレーニング を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

仮想エージェント

ServiceNow の会話型ボットプラットフォームである仮想エージェントについて考えてみましょう。ServiceNow 仮想エージェント (VA) を使用して、ボットの会話を設計してビルドし、ユーザーが迅速に情報を入手し、意思決定を行い、一般的な作業を実行できるようにします。

VA の会話トピックをビルドする際の考慮事項：

- ポータルに VA を追加する場合は、広範なトピックではなく特定のユースケースに焦点を当てたトピックを作成します。
- トピックを大声で読み上げて、トピックがロボットのようになりすぎたり冗長すぎたりしないようにします。
- 対話全体を一度に設計しようとしないでください。代わりに、ボットをビルドするときに反復アプローチを採用し、会話を頻繁にテストします。

詳細については、「仮想エージェント」を参照してください。

Notifications

データモデルが定義され、ユーザーがアプリケーションとやり取りできるようになったら、アプリケーションがユーザーと通信する方法を決定します。通知を構成して、重要なアプリケーション関連イベントをユーザーに警告し、ナレッジベースでアプリケーション情報を共有し、ユーザーが母国語でアプリケーションを操作できるようにするための翻訳を追加します。

Now Platform は、メール、SMS テキストメッセージ、またはプッシュ通知によってユーザーに通知することができます。

トリガー：イベント駆動型通知とテーブルの更新

テーブルの更新またはイベントに基づいてトリガーするように通知を構成します。トリガー要件を通知条件に簡単に実装できない場合、または通知がワークフローからトリガーされる場合は、イベントベースのトリガーを使用します。特定のイベントを作成すると、通知のデバッグが容易になります。

単純な通知のユースケースでは、ワークフロー内の通知アクティビティまたはフローデザイナーの [メール送信] アクションを使用します。複雑な通知や重要な通知の場合は、ワークフローまたはフローデザイナーフローからイベントをトリガーし、そのイベントを起動するように通知を設定します。

通知コンテンツ

ServiceNow 通知は、メールテンプレート、メールスクリプト、および通知変数を使用した静的コンテンツと動的コンテンツをサポートしています。

通知変数は、ベースレコードのフィールド値など、通知の本文に動的な情報を追加します。変数はドット連結もサポートしているため、関連レコードのフィールド値をスクリプティングなしでコンテンツに含めることができます。

たとえば、URI_REF 変数を使用して、メールの発信元レコードをポイントします。

メールスクリプトまたはベースレコードからのドット連結を使用して、そのレコードで利用できない動的コンテンツを含めます。メールスクリプト API を使用して、受信者や送信者のアドレスなどの通知の詳細を設定します。

> **注:** <mail_script> タグを使用して通知本文に入力されたスクリプトは、常に正しく機能するとは限りません。常に [システム通知] > [メール] > [通知メールスクリプト] でメールスクリプトを作成し、${mail_script:script_name} を使用して通知本文に含めます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複数の通知で使用されるコンテンツのメールテンプレートを作成します。メールテンプレートにコンテンツを追加すると、アドミニストレーターはメール通知の件名およびメッセージ本文で再利用可能なコンテンツを作成できます。

受信者の構成

ServiceNow のメールは、ユーザー、グループ、または個々のメールアドレスに送信できます。グループに送信する場合は、グループメールに加えてグループのすべてのメンバーに通知が送信されるように、グループレコードの [含めるメンバー] フィールドをオンにします。

サブスクリプションベースの通知：受信者が受信するメールを選択できるようにするには、通知の [登録可能] オプションを選択します。

サブスクリプションベースの通知では、受信者が個々の設定に関係なく通知を受信できるように、[必須] オプションを true に設定できます。必要に応じて、送信メールに登録解除リンクを設定して、ユーザーが通知から自分自身を削除できるようにします。

ServiceNow では、メールのウォーターマークを使用して、通知に対するユーザーの応答を正しく処理します。メール通知には、通知で [ウォーターマークを省略] オプションが選択されていない限り、自動的にウォーターマークが含まれます。受信者からのメール応答が想定されていない場合にのみ、ウォーターマークを省略します。

「送信メールのトラブルシューティング」ナレッジベース記事には、最も一般的な通知の問題のトラブルシューティング手順が記載されています。記事を参照するには、HI ポータル (https://hi.service-now.com) にログインしてください。

翻訳

いずれかのインターナショナリゼーションプラグインを使用すると、インスタンス内のほとんどのフィールドが自動的に翻訳されます。ただし、カスタマイズは自動的に翻訳されないため、手動で翻訳する必要があります。この場合、個々の翻訳されていない文字列を探して翻訳し、それらの翻訳を手動で挿入するのが最も効果的です。

新しい言語を実装するには、新しい言語のプラグインを有効にします。次に、いずれかの翻訳テーブルから既存の値をエクスポートします。

たとえば、すべての **sys_choice** レコードをエクスポートします。提供されたファイルの [ラベル] フィールドの翻訳を提供するために、翻訳者にエクスポートを提供します。[値] フィールドは変更しないでください。[言語] の値を新しい言語に更新します。次に、翻訳された値を **sys_choice** テーブルに再びアップロードします。

> **注:** 値を挿入するには、必要なすべてのフィールド (テーブル、要素、言語、ラベル、値、シーケンス) を設定していることを確認してください。必要に応じて、依存値とヒントを設定します。このロジックは、すべての翻訳テーブルで同じです。

詳細については、「言語のインターナショナリゼーションのサポート」を参照してください。

レポートとダッシュボード

ほとんどのアプリケーションには、ある程度のレポート要件があります。レポートは、変更を促進するためにアクション可能である必要があります。

レポートをビルドするときは、次のガイドラインに従ってください。

- 大きなテーブルに関するレポートは、ServiceNow インスタンスのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。テーブルのすべてのレコードを表示するのではなく、日付範囲またはその他の制限基準でフィルタリングしてください。
- 多くの値が含まれる可能性があるフィールドでレコードをグループ化すると、パフォーマンスを低下させる可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- レポートの実行中に [長時間実行トランザクションタイマー (Long running transaction timer)] メッセージが表示される場合は、データフィルターをさらに追加してレポートの実行時間を短縮することを検討してください。
- 定期的に必要なレポートをメールで送信するようにスケジュール します。

ダッシュボードを使用して、1 つのページに複数のレポートを表示します。ダッシュボード上のレポートの数には注意してください。ダッシュボードのレポートが多すぎたり、複数のユーザーがダッシュボードを使用したりすると、インスタンスのパフォーマンスが低下する可能性があります。

詳細については、「分析およびレポート 」を参照してください。

フォームとビジネスロジックのビルド

アプリケーション設計の次のステップは、ロジックのビルドです。ロジックには、フォームロジック (フォームで表示/使用できるものとできないもの) とビジネスロジック (データが入力されたときの処理方法を制御するルール) が含まれます。

スクリプティングと変更

コードを記述する前に、アップグレードと ServiceNow の新機能の採用への影響に注意してください。ベースラインのアーティファクトとプロセスを変更する場合は、特に注意する必要があります。

スクリプトを作成する前に、次の点を考慮してください。

- 要件を評価します。ロジックはアプリの機能にとって重要ですか？
- コードなしで要件を満たすように ServiceNow を構成できるかどうかを判断します。
- フローデザイナー、仮想エージェント、UI ポリシーなどのオプションを活用して、コードを記述せずにプラットフォーム機能を活用します。
- ロジックに対するローコードおよびノーコードアプローチにより、デバッグとアップグレードが簡単になります。

スクリプティングが適切な場合の例：

- フローデザイナーアクションのビルド
- Scripted REST API の作成
- スクリプトインクルードでのスコープ対象アプリケーションのロジックの作成
- サービスポータルのウィジェットのカスタマイズと作成

スクリプト化されたソリューションを使用する前に、ビジネス要件を評価し、ノーコードルートを検討してください。

ServiceNow の機能拡張に注意してください。たとえば、orlando リリースでは、仮想エージェントの会話に London よりも多くのノーコードオプションがあります。リリースノートやその他の公開資料を読んでください。認定を取得し、認定を最新の状態に維持してください。

カスタマイズするタイミングをよりよく理解するには、Customer Success Center の「Innovate at Scale Success Playbook (大規模な革新を成功させるためのプレイブック) 」を確認してください。

デフォルト動作の変更

以前は、アーティファクトをコピーして更新し、元のアーティファクトを非アクティブ化するという戦略が使用されていました。コピー/非アクティブ化のアプローチは、次の問題により推奨されなくなりました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 開発者は、調査しないと、非アクティブ化されたアーティファクトがアップグレードされたかどうかを判断できません。
- オリジナルとコピーという 2 つのファイルをメンテナンスする必要があります。カスタマイズした部分はメンテナンス量が 2 倍になります。
- 新しいリリースが出るたびにカスタマイズしたレコードが古くなり、
  - 新リリースに含まれる機能強化を活用できなくなります。
  - 新リリースがオリジナルレコードの更新に依存することもあります。
  - オリジナルレコードの無効化を埋め合わせるために、開発者はさらに多くの変更を余儀なくされる場合があります。

[アクティブ] フラグのみが変更されたスクリプトは更新されますが、スキップされたリストにはスクリプトは表示されません。コピーと非アクティブ化の戦略では、開発者はカスタマイズの可視化が低く、ベースラインバージョンを簡単に評価したり元に戻したりすることはできません。

元のアーティファクトをコピーして非アクティブ化するのではなく、アーティファクトを直接編集します。ServiceNow Upgrade Engine は、最新バージョンをバージョン履歴に追加し、アーティファクトがスキップされたことを報告します。開発者は、アップグレードで新しいバージョンが利用可能であることを確認できます。

フォームロジック

ユーザーがフォームにアクセスしたときに表示される内容を制御することで、生産性と応答性を向上させることができます。たとえば、ユーザーは自分にとって有用なフィールドのみを表示する必要があります。ユーザーは、フォームの構成に基づいて特定のフィールドのみを表示する必要がある場合があります。フォームロジックを適用して、フォーム上の表示可能、読み取り専用、および必須の内容を制御します。

次の質問は、情報へのユーザーアクセスを制御するタイミングを適切に判断するのに役立ちます。これは提案ですか？それとも強制ですか？提案はフォームの入力を容易にしますが、強制はフォームに入力するためにユーザーに何らかの操作を強制します。

UI ポリシー は、フィールドの表示/非表示や別のフィールドの値に基づくフィールドメッセージの追加などの条件付き提案に役立ちますが、データポリシー とビジネスルールは、フィールドを必須にするなどの条件付きの強制に適しています。

最高のユーザーエクスペリエンスは、提案と強制の両方を一緒に利用することです。

詳細については、クライアントサイドスクリプトモジュールの UI ポリシー の記事を参照してください。

クライアントサイドのロジックをスクリプティングする前に、クライアントサイドのアクティビティを処理する UI ポリシーとデータポリシーを作成します。クライアントスクリプトを使用して、ユーザーがフォームに入力しているときにユーザー入力を検証し、フィードバックを提供します。

クライアントスクリプティングの一般的なプラクティスは次のとおりです。

- クライアントサイドの GlideRecord または複数の getReference() 呼び出しに対して非同期 GlideAjax を使用して、パフォーマンスを最適化します。
- onChange クライアントスクリプトで isLoading チェックを維持します。
- newValue チェックを維持し、newValue != oldValue チェックを追加します。
- GlideAjax でサーバー呼び出しを行う前に、可能な限りすべてのクライアントサイドスクリプトを使用します。サーバーの往復はパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

クライアントスクリプティングの回避すべきプラクティスは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- グローバルクライアントスクリプトまたはグローバル UI スクリプト：グローバルスクリプトはページがロードされるたびに実行され、ブラウザーのロード遅延が発生します。
- DOM 操作：デフォルトの UI 要素に対してドキュメントオブジェクトモデル操作を使用すると、アップグレードのリスクと保守性の問題が発生します。例外は、UI ページやサービスポータルウィジェットなど、同じスコープ対象のアプリケーションで作成されたページの DOM に対して DOM 操作を使用する場合です。

ビジネスルールおよびスクリプトインクルード

ビジネスルールは、インスタンスレコードの CRUD (作成、読み取り、更新、削除) 操作中に実行できるサーバーサイドのアクションです。

ビジネスルールを使用する際の推奨プラクティスは次のとおりです。

- ビジネスルールは小規模で具体的にします。
- ベースシステムのビジネスルールは変更しないでください。
- グローバルビジネスルールの代わりにスクリプトインクルードを使用します。
- スクリプティングは必要な場合にのみ使用します。
- 再利用可能なスクリプトロジックをスクリプトインクルードに保存します。
- クエリを使用して、ビジネスルール内で処理されるレコードを制限します。
- クライアントスクリプトを実行する際の効率を向上させるために、クライアント呼び出し可能ビジネスルールを使用しないでください。
- ビジネスルールをいつ実行するかを制御するには、常にビジネスルールで条件を使用します。条件付きでビジネスルールを実行することもデバッグに役立ちます。ビジネスルールが条件なしで実行されることはほとんどありません。

ビジネスルールは、データベース操作の前または後に実行するように構成できます。また、非同期で実行するように構成することも、フォームの表示前やクエリの実行前にも実行することもできます。

値	実行	使用するタイミング	例
前	データベース操作の前に同期的に実行	保存操作の一環として、現在のオブジェクトの値を設定または更新します。実行を検証し、必要に応じて中止します。	開発者は、そのレコードの別の入力に基づいて現在のレコードのステータスを設定したいと考えています。
後	データベース操作の後に同期的に実行	データベースの更新後にイベントと通知をトリガーして、前のオブジェクトにアクセスしたり、何かを順番に発生させたりします。更新されているベーステーブル以外の関連レコードを更新して、前のオブジェクトにアクセスしたり、何かを順番に発生させたりします。	開発者は、現在のレコードから子レコードに値をカスケードしたいと考えています。
非同期	データベース操作が完了した後、別のプロセスとして非同期で実行される	ルールによってトリガーされるプロセスの実行には、時間がかかる場合があります。操作をトリガーしたユーザーがすぐに出力を必要としない場合。レコードの以前の値または特定の順序のアクションにアクセスする必要がない場合に、イベント、通知、または関連レコードの更新をトリガーします。	開発者は、時間がかかる可能性がある外部プロセスをトリガーしたり、多数のレコードを更新したりする必要があります。
表示	対応するフォームが表示される	サーバーサイドのオブジェクトをクライアントサイドのスクリプトで使用できるようにするために使用されます。	開発者は、現在のレコードに関連付けられたユーザーに関する情報を g_scratchpad

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

値	実行	使用するタイミング	例
	たびに実行される		オブジェクトに書き込み、クライアントサイドスクリプトで使用したいと考えています。

注: current.update() は、ビジネスルールでは使用しないでください。current.update() を使用すると、追加のデータベース操作がトリガーされ、通知の重複や再帰ループなどが発生する可能性があります。

スクリプトインクルードを使用して、サーバースクリプトで使用できるように JavaScript の関数およびクラスを格納します。各スクリプトインクルードは、任意のサーバーサイドスクリプトで再利用できるオブジェクトクラスまたは関数を定義します。

スクリプトインクルードの他の場所で使用する必要があるコードを保存します。ビジネスルール、UI アクション、ワークフロースクリプト、スクリプト済み REST APIなどからスクリプトインクルードを呼び出します。UI アクションからビジネスルールを呼び出すか、スクリプト済み REST APIから UI アクションを呼び出す代わりに、スクリプトインクルードにコードを配置し、両方の場所からスクリプトインクルードを呼び出します。

関数をスクリプトインクルードに保持すると、関数を他のスクリプト領域に展開する前に関数をテストできるため、全体的な開発とテストの時間を短縮できます。

詳細については、「ビジネスルール」を参照してください。

フローデザイナー

フローデザイナーは、統合的な設計環境で豊富なプロセス自動化機能を実現する Now Platform の機能です。フローデザイナーを使用すると、プロセス所有者が自然言語を使用して、コードを書かずに承認、タスク、通知、レコード操作を自動化できます。

フローデザイナーと IntegrationHub

新しいプロセスフロー要件がある場合、ServiceNow では、ほとんどすべての状況で従来のワークフローではなくフローデザイナーを使用することをお勧めします。

フローデザイナーとビジネスルール

次の場合を除き、ビジネスルールの代わりにフローデザイナーを使用する必要があります。

- ビジネスロジックを他のビジネスルールとともに特定の順序で実行する必要がある。たとえば、新しいビジネスロジックは、あるビジネスルールの後、別のビジネスルールの前に実行する必要があります。
- ロジックを同じスレッドでデータベースへの書き込みの直前または直後に実行する必要がある。
- ロジックがスクリプトインクルードのみを呼び出す。

フローを設計するときは、次の設計の原則に従ってください。

- 単一の目的：各フローには単一の目標が必要です。
- 再利用性：再利用可能なサブフローを念頭に置いて設計します (承認が良い例です)。
- 明確性：フローの言語とレイアウトは、各アクションの目的を明確にする必要があります。

ビジネスフローのホワイトボード設計から開始します。次に、プロセスに合わせてアクションごとにフローをビルドします。単一のプロセスが設計原則に従うためには、複数のフローが必要になる場合があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーを使用する場合は、次のプラクティスを使用します。

- SysID ではなくレコードを使用します。インラインドキュメントでガイド付きエクスペリエンスを提供します。
- テンプレートオブジェクトを使用して静的入力と動的入力の両方を操作する方法について説明します。
- 絶対に必要な場合を除き、データの BLOB を渡すことは避けてください。
- フローが使用するフローにのみ情報を渡します。

フローデザイナーアクションを使用する場合は、次のプラクティスを使用します。

- 該当する場合は、常にアプリケーションのスポークのスコープの下でアクションを作成します。
- 将来、他のアプリやスコープ間でアクションを再利用できるようにするには、アクションですべてのスコープからアクセス可能にアクセス権を設定します。
- ユーザーによるアクションの不要な編集を防ぐには、[保護] を読み取り専用に設定します。
- 入力に特定のタイプがあることを確認してください。
- 必要に応じて [必須] が選択されていることを確認します。
- 選択肢の入力タイプを使用する場合は、デフォルト値を使用します。

IntegrationHub アクションを使用する場合は、次のプラクティスを使用します。

- 統合システムごとに 1 つのスポークを作成します。スポークには単一システムのアクションのみを配置します。
- スポークのスコープ対象アプリを作成するときは、意味がわかるバージョン命名規則を使用します。
- インライン接続の代わりに、接続エイリアスを使用します。ベース URL は自動的に抽出されます。
- エイリアスの接続属性を使用して、REST ステップでバージョンを渡し、リソースパスでのバージョニングの柔軟性を向上させます。
- 別のステップを作成してデータを保存する代わりに、[添付ファイルとして保存] を使用して応答のコンテンツを保存します。
- エイリアスが動的である場合は、エイリアスを入力の 1 つにし、データピルを使用してエイリアスを指定します。

エラー処理には、フローデザイナーと IntegrationHub で次のプラクティスを使用します。

- エラーを処理するスクリプトインクルードを作成します。
- 短くてわかりやすいエラーメッセージを記述します。
- API が返す可能性のあるエラーメッセージをすべて組み込みます。
- 使用する前に、統合ステップの出力が検証されていることを確認します。
- 早期失敗：入力が利用できない場合は、統合を呼び出さないでください。

自分のペースで進めることができるトレーニング： フローデザイナー

自分のペースで進めることができるトレーニング： IntegrationHub

アプリの機能の検証

アプリケーションをビルドしたら、期待どおりに機能することを検証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

単体テスト

単体/ストーリーテストでは、ストーリーをクローズする前に、ストーリーで指定された要件が検証されていることを確認します。ストーリー/単体は、システムまたはアプリケーションのテスト可能な最小部分であり、構成して実行することができる部分です。

ストーリーの構成が完了したら、開発者はその特定のストーリーのコンテキストだけでなく、現在のストーリーとコンポーネントを共有する他の関連ストーリーでも機能を単体テストする必要があります。

ストーリーをクローズする前に、開発者はストーリーをプロセスオーナーまたは指定されたステークホルダーにアサインして、ストーリーの構成が期待される結果を満たしていることを検証することをお勧めします。

ServiceNow の自動テストフレームワーク (ATF) は、主にアプリケーションの機能テストを自動化することを目的としていますが、スクリプトインクルードとビジネスルールを含む構成の単体テストを自動化するために使用できることはあまりありません。

システムテスト

システムテストは、開発が完了したときに完全なシステムで実行されます。コンポーネントの全体的なインタラクションと、スコープ内の他のアプリケーションとの統合をテストします。システムテストは QA/テストチームによって実行されますが、開発者は QA チームおよびプロセスオーナーと協力して、テストケースがすべてをカバーしていることを確認する必要があります。開発者は、システムテスト中に見つかった問題の修正に対して責任を負います。

自動テストフレームワーク (ATF)

自動テストフレームワーク (ATF) を活用して ServiceNow アプリケーションの機能システムテストを自動化し、テストの時間とコストを削減して、UI に依存しない再現可能なテストにする必要があります。テストケースを作成するときは、次のガイドラインに従ってください。

テストを作成するとき：

- パラメーター化されたテスト を使用して、テストケースの重複を回避します。
- テストの命名基準に従います。
  - `<アプリのイニシャル>：<テストされている機能>`
  - CSM：ケースの解決
- 説明に各テストのユースケースを記述します。例：ユースケースをテストするサンプル。
- 開発インスタンスでテストを開発し、テストインスタンスでテストを昇格/実行します。
- クローンするとテストはワイプされます。テストを保持するには、次のいずれかのオプションを使用します。
  - スコープ対象のアプリにテストをバンドルし、アプリを GIT にアップロードします。
  - クローンの前にテストを保存します。
  - テストを本番インスタンスに昇格させますが、本番環境ではテストを実行しないでください。
- 自己完結型のテストを作成します。
- テストステップが欠落している新しいサーバーサイドテストステップまたは REST テストステップを作成します。例：メール本文の検証。
- スクリーンショットが重要でない場合は、可能な限りサーバーサイドテストステップを使用します。
- 代理操作ステップから開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ブラウザースロットリングに注意してください。
- テストログとテストトランザクションを使用して、テストエラーのトラブルシューティングを行います。

テストスイートを作成するとき：

- テストスイートの命名基準に従います。例：ITSM INT：ユースケース。
- スイートについて説明します。
  - テストスイートの説明：「これは、プラグイン/アプリケーションをテストするためのサンプルテストスイートです」。
  - 説明に使用可能な追加情報を入力します。
- テストスイートを機能領域別に整理します。

ユーザー受け入れテスト

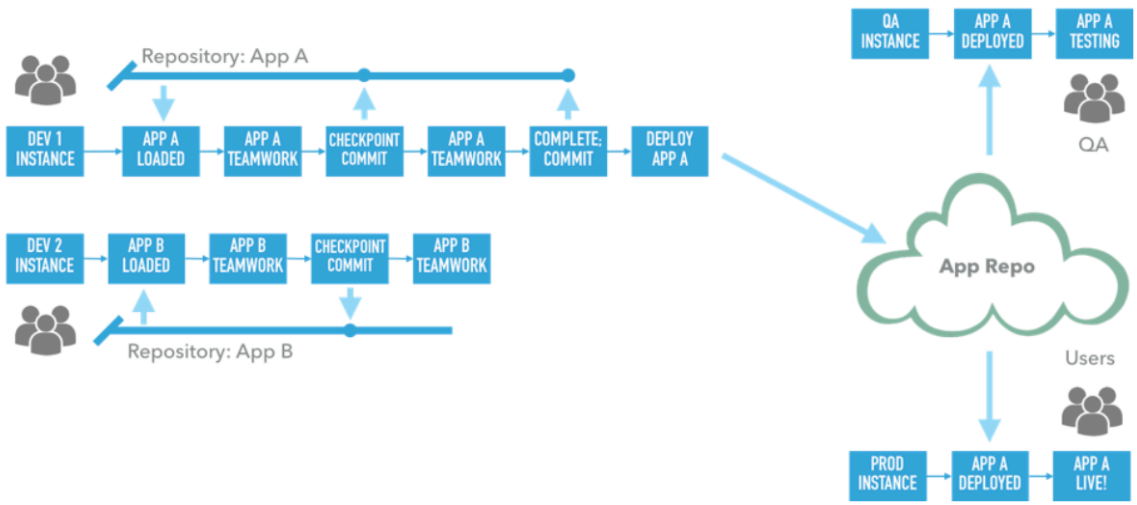
ユーザー受け入れテスト (UAT) は、アプリケーションのビジネス要件へのコンプライアンスを評価し、アプリケーションが提供可能かどうかを評価するために実施されるテストです。ユーザー、顧客、またはその他の権限を持つステークホルダーが受け入れテストを実行します。開発者は、システムテスト中に見つかった問題の修正に対して責任を負います。

アプリの展開

アプリケーションをビルドして検証したら、アプリケーションを本番環境に移行する必要があります。アプリケーションは、アプリケーションリポジトリを介して、または Update Sets を使用して移動できます。本番環境に移行する前に、アプリケーションをテスト環境に展開する必要があります。

アプリケーションリポジトリ (App Repo)

アプリケーションをアプリリポジトリに公開すると、組織のすべての ServiceNow インスタンスでこのバージョンのアプリケーションを使用できるようになります。アプリリポジトリを使用して、アプリケーションを QA/テストインスタンス (テスト用) に展開し、最終的に本番 (Prod) インスタンスに展開します。

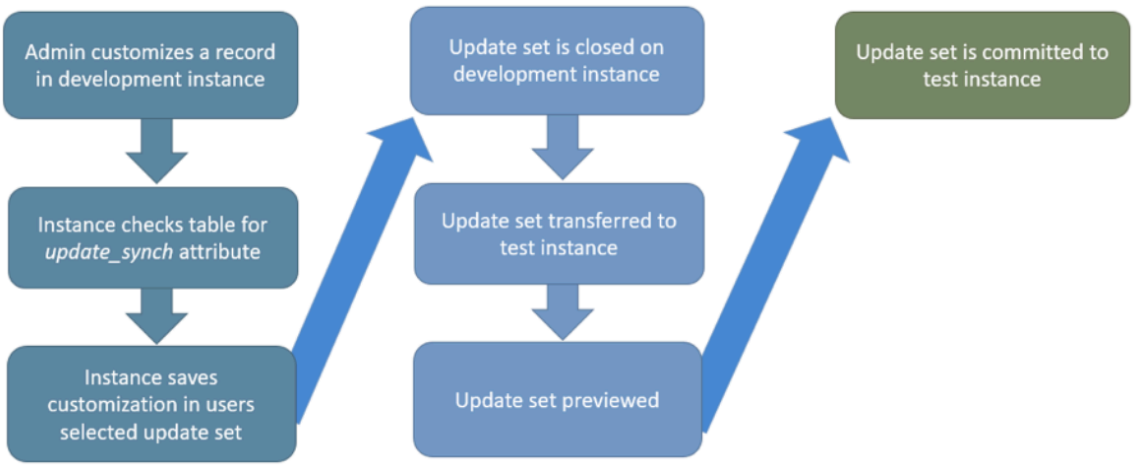


詳細については、「アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開 アプリケーションのインストール 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セット

アプリケーションリポジトリを使用してアプリケーションを展開できない場合は、代わりに更新セットを使用します。この図は、開発インスタンスからテストインスタンスにカスタマイズを展開するための更新セットのベストプラクティスライフサイクルを示しています。



品質の高い開発およびリリースプロセスを実現するためのプラクティス：

- カスタマイズは常にスタックの一番下から上に移動します。
  - ダウンスタックインスタンスがアップスタックインスタンスと一致するようにします。
  - スタックの途中で導入されたカスタマイズは、将来のダウンスタックからのプッシュで上書きされる可能性があります。
  - 一般的なシナリオは次のとおりです。
    - テストまたは本番環境での修正の必要性 – 常に開発から上にプッシュ
    - 選択リストなどの一般的な本番アドミンのカスタマイズ – 常に開発から上に更新をプッシュ
- 転送する前に、更新セットに含まれる更新を必ず確認してください。
  - 他の開発作業に関連する更新とテストに関連する更新を探します。
  - システムプロパティと統合エンドポイントの変更を監視します。例：すべてのメールをテストメールアカウントに送信する sys_properties の変更をプッシュする
  - 更新を削除するのではなく、「スクラップ」更新セットに更新を移動します。
- プッシュ後は必ずテストを行い、必要なすべてのカスタマイズがキャプチャされ、期待どおりに適用されていることを確認します。
- 複数の並行リリースがある状況では、開発チーム間のコミュニケーションと調整を確実に行います。
- カスタマイズを誤ってキャプチャして他のチームメンバーが移行する可能性があるため、開発インスタンスでの実験は避けてください。
- デフォルトの更新セットで開発をキャプチャしないでください。

更新セットの [説明] フィールドにすべてのユーザーストーリー番号と簡単な説明を一覧表示します。更新セットを展開するために必要なすべての手動の手順を含めます。

更新セットにキャプチャされない展開に必要な手動の手順の一般的な例をいくつか示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- プラグインのアクティブ化。
- 更新セットで追跡されないテーブルの転送 (通常は先頭が「x_」または「u_」)。
- テーブルのデータベースインデックスの作成。インデックスの作成は更新セットを介して追跡されず、手動で行う必要があります。

更新セットの管理

ストーリーまたは欠陥に取り組むときは、正しい更新セットが選択されていることを確認し、更新セットのレコードを毎日確認してください。

更新セット間で sys_update_xml レコードを手動で移動しないでください。唯一の例外は、レコードをデフォルトの更新セットに移動することです。

更新セットは構成情報を取得しますが、タスクまたはプロセスのデータは取得しません。たとえば、更新セットは、サービスカタログアイテムの定義と、変数や変数の選択などの関連する構成データを追跡します。ただし、テストで行われた注文 (要求、アイテム、カタログタスク) は、更新セットによって追跡されません。

更新セットの推奨事項と禁止事項に注意してください。

- 現在の更新セットから特定の sys_update_xml レコードを削除するには、レコードをデフォルトの更新セットに移動し、レコードをデフォルトの更新セットに移動する理由をレコードの **sys_update_set.comments** フィールドに入力します。
- 1 つの更新セットから別の更新セットにカスタマイズレコードを移動しないでください。
- 更新セットが新しい更新セットに正常に結合されている場合を除いて、更新セットを削除しないでください。
- あるインスタンスから別のインスタンスにデータを移動するには、常にデータ抽出またはインポートセットを使用します (更新セットは使用しません)。

更新セットのバッチ

更新セットのバッチにより、更新セットを一括でプレビューおよびコミットできます。

複数の更新セットがあると、問題が発生する場合があります。たとえば、更新セットを正しくない順序でコミットしたり、1 つまたは複数の更新セットを誤って除外してしまったりする可能性があります。完了した更新セットをバッチにグループ化することで、これらの問題を回避できます。

更新セットのバッチを階層に編成します。1 つの更新セットは、複数の子更新セットの親として機能することができます。与えられたセットは子と親の両方になれるので、複数レベルの階層を可能にします。階層の最上位にある 1 つの更新セットは、更新セットのベースとして機能します。

基本更新セットをプレビューまたはコミットすると、バッチ全体がプレビューまたはコミットされます。システムは処理の順序を決定し、変更が記録された日付とその逐次祖先に基づいて競合をチェックします。これら祖先は、更新セットの変更が行われた特定のインスタンスです。

更新セットのバッチ処理は、リリースに適用され、これにより、リリースの空の親更新セットが作成され、実際の更新セットが子としてリリースに含まれます。

更新セットのバッチ処理を使用する利点は次のとおりです。

- 個々の更新セットは、直前にリリースから削除できます。
- バッチ処理は、更新を削除できることを除いて、結合に似ています。
- バッチ更新セットは簡単に展開できます。親更新セットのみを処理する必要があります。

詳細については、「システムアップデートセット」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次に行うこと

アプリが展開されたので、アプリを改善および拡張する方法について考えます。次に行う処理を決定するためのいくつかの提案を以下に示します。

- アプリケーションを日常的に使用しているユーザーは、フィードバックの最良の提供元になります。希望する新機能や変更点について、ユーザーと話し合ってください。
- 追加の関連プロセスフローをフローデザイナーで自動化できるかどうかを判断します。
- 新しい IntegrationHub スポークを新しい統合に利用できるかどうかを判断します。

ビルダーライブラリ

Now Platform は、組織のアプリケーションを迅速に開発できるようにする一連の強力なビルダーツールを提供します。

次のビルダーツールを使用すると、Now Platform でアプリケーションを開発するときに、ユーザーエクスペリエンス、インターフェイスコンポーネント、データモデルなどを迅速に設計およびビルドできます。

ビルダーツール

ツール	説明	ユースケース
ディシジョンテーブルの探索	アプリケーション意思決定ロジックの構成 意思決定テーブルを使用すると、複数の要因に依存する複雑な意思決定を解決できます。ディシジョンビルダー を使用すると、意思決定ルールを作成して管理することで、意思決定ロジックをコードから切り離すことができます。	2 つの入力 (注文されたユニット数、および現金で支払われたかどうか) を指定して、製品の顧客割引率を決定します。
フローテンプレートビルダー	特定のアプリワークフローの標準テンプレートを構成する フローテンプレートは、一般的なユースケースのフローを作成するためにフロー作成者をガイドします。このビルダーを使用して、フロー、アクション、およびフローテンプレート変数を定義します。	IT アプリケーション内のすべての要求承認のベースとして使用するフローテンプレートを作成します。
パフォーマンスアナリティクスとの統合	パフォーマンスアナリティクスとの統合によるプロセス最適化 プロセス最適化を パフォーマンスアナリティクス とともに使用して、インジケーターからデータ抽出を実行し、KPI に関連するプロセス (解決時間など) を分析します。	プロセスの実行またはカスタマージャーニーを可視化し、定着、アクティビティの移行、パフォーマンス、およびユーザーエクスペリエンスに関するインサイトを示したり、ボトルネックを特定して重要業績評価指標への影響を確認したりすることで、根本原因の問題を解決できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビルダーツール (続く)

ツール	説明	ユースケース
モバイルアプリビルダー	モバイルアプリの構成 モバイルアプリビルダーは、ServiceNow モバイルアプリ内でワークフローを構成する画面とレコードをビルドして管理する構成ツールです。モバイルアプリビルダー の整理されたレイアウトとナビゲーションの各オプションにより、ServiceNow モバイルアプリケーションをより直感的にすばやく作成できます。	すばやくアクセスして参照できるようにレコードを階層レイアウトで整理し、階層ツリーナビゲーションをサポートし、ユーザーがモバイルアプリ構成全体でレコードが互いにどのように関連しているかを視覚化できるようにすることで、モバイル構成を簡素化します。
モバイルカードビルダー	モバイルインターフェイスの情報を表示するカードテンプレートの構成と管理 モバイルカードビルダーを使用して、iOS および Android 用の ServiceNow モバイルアプリケーションで使用するカードテンプレートを作成または変更します。ServiceNow モバイルインターフェイスは、カードを使用してインスタンスのレコードに関する情報を表示します。	ランチャー画面のレコードセクション、カレンダー画面、フォーム画面、Genius 検索結果、リスト画面、マップ画面のカードを作成します。
NLU ワークベンチ	ユーザーが表現したインテントを解釈するように 自然言語理解 **(NLU)** モデルを構成する ServiceNow® 自然言語理解 (NLU) は、人間が表現したインテントをシステムが学習して応答できるようにするために使用できる NLU ワークベンチと NLU 推定サービスを提供します。システムに自然言語の例を入力することで、単語の意味とコンテキストを理解し、ユーザーまたはシステムのアクションを推測できるようにします。NLU ワークベンチでは、NLU モデルを作成、管理、およびテストします。NLU モデルを使用して、インスタンスに ServiceNow®自然言語理解 (NLU) を適用します。NLU ワークベンチを使用して、NLU モデルを作成、管理、テスト、および公開します。	NLU モデルを使用するように仮想エージェントデザイナーの会話フローを構成して、エージェントチャットボットが会話内でユーザーが述べていることをよりよく理解できるようにします。
ワークスペースのプラットフォームアナリティクス	スナップショットを通じてデータの履歴傾向をキャプチャするパフォーマンスアナリティクスを構成する	ユーザーが自然言語で質問し、関連するアナリティクスをビジュアル化して表示したり、ユーザーが所有している、またはユーザーと共有している Next Experience ダッシュボードを表

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビルダーツール (続く)

ツール	説明	ユースケース
	データのビジュアル化と分析機能をワークスペースエクスペリエンスに統合します。動作プロセスの変更に関する通知に登録します。KPI を確認し、プラットフォームアナリティクスに関する回答とインサイトを得ます。	示したり、ワークスペースランタイムからダッシュボードやデータのビジュアル化を作成したり、KPI を適用したり、データをスライスしたり、集計や統計ツールを適用したりします。
レポート	インスタンスデータの現在のステータスを示すレポートをビルドして配布する ServiceNow® レポート を使用すると、インスタンスデータの現在のステータスを示すレポートを作成して配布できます。デフォルトでは、レポート機能はシステム テーブル以外のすべてのテーブルで利用できます。	組織のオープンインシデントの数を表示し、現在の時点での各インシデントの優先度も表示します。この情報を表示するために、棒グラフ、円グラフ、時系列、多次元、スコア、統計などのさまざまなタイプのレポートを構成できます。
Service Portal Designer	ユーザーのセルフサービスポータルを作成 サービスポータル を使用すると、ユーザーにモバイル対応のセルフサービスエクスペリエンスをビルドできます。Now Platform の一部と連携するため、ユーザーは サービスポータル を使用して特定の Now Platform 機能にアクセスできます。このツールは、サービスポータルページを作成して、コンテンツを整理し、レスポンシブなモバイル最適化を確実にし、顧客にとって意味のあるポータルユーザーエクスペリエンスを設計するために使用されます。ページにはコンテナと行が格納され、コンテナと行にウィジェットが格納されます。ページのレイアウトやその中のウィジェットを操作することで、希望するユーザー エクスペリエンスを作成できます。ウィジェットは、ポータルのコンテンツを定義するものです。サービスポータル で提供されるベース システム ウィジェットを使用するか、ウィジェットのクローンを作成して変更するか、または独自のニーズに合うカスタム ウィジェットを開発することができます。	会社の従業員が IT 部門に連絡して新しいメールや新しい従業員のコンピュータセットアップなどのサービスを要求できるように、モバイル対応のエクスペリエンスを構成します。
テーブルビルダー	アプリケーションテーブルとテーブル関連フォームを作成し、表示ロジックを構成する	顧客向けの食品配送アプリケーションでオンラインの食品注文フォームを作成します。フォームは、注文された料理と関連する配送オプションをキャプチャします。フォームは、この目的

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビルダーツール (続く)

ツール	説明	ユースケース
	テーブルビルダー を使用すると、単一のユーザーインターフェイスからテーブルとフォームを視覚的に作成、設計、管理できます。	のために構成された指定のアプリケーションデータテーブルに入力された情報を保存およびキャプチャします。
テーマビルダーのテーマ	テーマとブランディングのカスタマイズ テーマビルダー を使用すると、ユーザーのビジュアルエクスペリエンスをカスタマイズできるため、外観を更新してブランドの独自色を出すことができます。Next Experience は、UI ビルダー で使用されるテーマ設定モデルを拡張します。	会社のブランド用のダークテーマを構成します。これはプライマリ色とセカンダリ色を使用し、区切り線などの画面要素に使用する色を指定し、新しいブランドロゴを含みます。
UI ビルダー	アプリケーションのユーザーインターフェイスを設計する UI ビルダー は Web ユーザーインターフェイスビルダーです。UI ビルダー を使用して、ネクストエクスペリエンスのコンポーネント とカスタム Web コンポーネントを使用するワークスペースまたはカスタム Web エクスペリエンス (App Engine Studio によって生成) のページをビルドします。	新しい標準レコードページのバリアントを作成して特定のインシデントレコードを表示したり、標準レコードページを編集してユーザーの問題のリストを表示したり、設計している Next Experience アプリのランディングページをビルドしたりします。
仮想エージェントデザイナー	仮想エージェントの会話の詳細計画を設計する 仮想エージェントデザイナーは、仮想エージェント とユーザー間の会話の詳細計画であるトピックを作成および管理するためのダイアグラムツールです。ユーザーが一般的な作業の問題を解決するのに役立つトピックを設計したり、セルフサービスのタスクを通してサポートしたりできます。	エンドユーザーが送信したインシデントのステータスを確認し、インシデントにコメントを残すことができるように、会話フローを作成して構成します。
Workspace Builder	アプリケーションのカスタムワークスペースを作成する ワークスペースビルダー は、App Engine Studio (AES) 内から迅速かつ効率的にカスタムワークスペースを作成できる、簡素化されたノーコード環境です。	組織内の IT サービスの要求と実行を処理するサービスデスクワークスペースを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタムコンポーネントビルダー

ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク と UI コンポーネントエクステンション を使用してカスタムコンポーネントを開発します。

コンポーネントは、カスタムユーザーインターフェイスの作成に使用する再利用可能な構成要素です。ネクストエクスペリエンスデザインシステム には、カスタム UI にドラッグできる一連のカスタマイズ可能なコンポーネントが付属しています。ネクストエクスペリエンスデザインシステム ライブラリで必要なコンポーネントが見つからない場合は、独自のコンポーネントを開発します。

ネクストエクスペリエンスデザインシステム ライブラリを表示するには、ServiceNow® 開発者サイト にアクセスします。

カスタムコンポーネントを作成するメリット

カスタムコンポーネントを開発すると、次のことができます。

- エージェント、お客様、会社のニーズに応じて UI をカスタマイズします。
- 重要なデータや情報にすばやくアクセスすることで、従業員の効率を高め、コンテキストの切り替えを減らすことができます。
- API を使用して会社独自のオムニチャネル環境に対応し、データを統合します。

たとえば、SLA に関連付けられたケースを表示したり、特定のキュー内のアクティブなチャットを追跡したりするコンポーネントを作成できます。ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク と UI コンポーネントエクステンション を使用して必要なコンポーネントを開発し、[HTTP 効果 API (Http Effect API)] を使用して自分のプラットフォームからデータにアクセスできます。カスタムスキーマを作成することで、GraphQL を使用してプラットフォームデータをクエリすることもできます。詳細については、「スクリプト化された GraphQL」を参照してください。

使用前の注意事項

コンポーネントの設計とビルドを開始する前に、次のことを確認してください。

- Web コンポーネントの概念、開発、設計に関する一般的な知識。
- コンポーネントの動作を定義するための JavaScript の知識。
- ノードパッケージマネージャー (npm) のナレッジ。
- 最新バージョンの Node.js がローカルマシンにインストールされている。詳細については、「Node.js」を参照してください。
- ServiceNow CLI がマシンにインストールされている。

ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク

ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク は、アプリを拡張し、アプリケーション全体で再利用可能な Web コンポーネントをビルドできるようにする JavaScript フレームワークです。ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク を使用すると、次のことができます。

- アプリケーション全体の複数の場所で使用する単一のコンポーネントを作成します。
- 他のコードとの競合を防ぐために、コンポーネントのスコープをカプセル化します。
- プロパティ、スロット、アクションをコンポーネントに追加し、ユーザーが ワークスペース でコンポーネントを使用するたびにカスタマイズできるようにします。

詳細については、「ServiceNow® 開発者サイト」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI コンポーネントエクステンション および開発フロー

UI コンポーネントエクステンション は ServiceNow CLI の拡張であり、ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク を使用してカスタムコンポーネントを開発できます。UI コンポーネントエクステンション を使用すると、次のことができます。

- コンポーネントまたはプロジェクトのスキャフォールディングの開発に必要なファイルのセットを作成します。
- ローカル開発サーバーを起動してコンポーネントをテストします。
- コンポーネントプロジェクトをビルドし、ServiceNow インスタンスに展開します。

アプリケーションスコープ

ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク コンポーネントを展開すると、インスタンスのスコープ対象のアプリケーションに展開されます。名前空間識別子として使用するコンポーネントのアプリケーションスコープを指定できます。 インスタンスでのアプリケーション開発には、名前空間識別子のガイドラインを使用します。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

アプリケーションスコープを予約するときは、次の要件に従います。

- 最大：18 文字。
- ケース：スネークケース。
- 形式：`x_customerprefix_componentname`、ここでは：
  - `customerprefix` は、インスタンスの *`glide.appcreator.company.code`* システムのプロパティの値です。
  - `componentname` は、プロジェクトの作成時にコンポーネントの `name` パラメーターで指定された値です。

コンポーネントプロジェクトの作成時にアプリケーションスコープを指定しない場合、Now CLI によって作成されます。

または、`now-ui.json` ファイルで `scopeName` パラメーターに値を追加することもできます。詳細については、「コンポーネントのアプリケーションスコープの変更」を参照してください。

参照ガイド

Now CLI のリファレンスガイドを表示するには、開発者サイト にアクセスしてください。

環境の設定

Node.js JavaScript ランタイム環境、ノードパッケージマネージャー (npm)、および UI コンポーネントエクステンション をインストールして、ローカル環境を準備します。これらのツールを使用すると、コンポーネントをローカルで開発およびビルドし、インスタンスに展開できます。

始める前に

UI コンポーネントエクステンション はこれらのオペレーティングシステムのみをサポートしています。

- Windows 10
- MacOS Yosemite 以降
- Linux CentOS v7.5

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：なし

手順

1. Node.js バージョン 12.16.1 以降をインストールします。
   npm は Node.js パッケージの一部として自動的にインストールされます。Node.js は、JavaScript をローカルで実行できるようにする JavaScript ランタイム環境です。npm は Node.js のデフォルトの JavaScript パッケージマネージャーです。詳細については、「Node.js」および「npmjs.com」を参照してください。
2. UI コンポーネントエクステンション を ServiceNow CLI に追加します。

   a. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

   ```
   $ snc extension add --name ui-component
   ```

3. `--help` 引数を指定して拡張コマンドを実行し、インストールを確認します。

   ```
   $ snc ui-component --help
   ```

   CLI に使用可能なコマンドのリストが表示されます。「ServiceNow CLI のヘルプ」を参照してください。

次のタスク
プロジェクトの設定。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

ServiceNow CLI

プロジェクトの設定

コンポーネントプロジェクトと、コンポーネントの開発に必要なファイルのセットを作成します。インスタンスに接続してコンポーネントのアプリケーションスコープを作成するか、後で検証するためにスコープを予約することができます。

始める前に
環境の設定。

手順

1. プロジェクトのフォルダーを作成し、システムのコマンドラインツールでそのフォルダーを指定します。
2. コンポーネントプロジェクトと、コンポーネントのビルドに必要なすべてのファイルを作成します。

   a. 作成したフォルダーから、このコマンドを実行します。

   ```
   $ snc ui-component project [--name name --description description
    --scope scope --offline]
   ```

   これらの引数に値を渡します。

名前	説明
name	必須です。プロジェクト名。有効な一意の npm パッケージ名である必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明
説明	npm レジストリとインスタンスのプラグインリストで使用できるプロジェクトの説明。
scope	このプロジェクトとそのコンポーネントにアサインする提案されたアプリケーションスコープ。指定されている場合、インスタンスは名前を検証します。 インスタンスでのアプリケーション開発には、名前空間識別子のガイドラインを使用します。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。 最大：18 文字。 ケース：スネークケース。 デフォルト：`x_customerprefix_componentname`、ここで： ▪ `customerprefix` は、インスタンスの *`glide.appcreator.company.code`* システムのプロパティの値です。 ▪ `componentname` は、プロジェクトの作成時にコンポーネントの `name` パラメーターで指定された値です。 または、`now-ui.json` ファイルで `scopeName` パラメーターに値を追加することもできます。詳細については、「コンポーネントのアプリケーションスコープの変更」を参照してください。
offline	true の場合、インスタンスから切断されている間にコンポーネントを作成してスキャフォールディングします。指定されたスコープ名の検証をスキップします。 デフォルト値：`false`。

Example

```
$ snc ui-component project --name @myorg/movie-quotes --description 'A
 web component that prints movie quotes.'
```

Example

```
$ snc ui-component project --name @myorg/hello-world --scope
 x_myorg_helloworld --offline
```

3. 次のコマンドを実行して、npm の依存関係をインストールします。

```
npm install
```

次のタスク
コンポーネントの開発。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

UI コンポーネントエクステンション でのプロキシサーバーの使用

Now CLI でプロキシサーバーを使用して、コンポーネントの個別のデータソースを定義します。プロキシサーバーを使用すると、インスタンスは Now CLI 要求をプロキシサーバーに転送します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
環境の設定。

手順
1. コンポーネントディレクトリで、 `now- CLI.json` ファイルを開きます。
2. [プロキシ] オブジェクトを更新します。

```
{
 development: {
  proxy: {
   headers: {
    Authorization: "Basic <username:password>"
   },
   origin: "http://myinstance.servicenow.com",
   port: 3000,
   proxies: []
  }
 }
}
```

次のパラメーターをプロキシ情報で更新します。

パラメーター	説明
development.proxy.headers	プロキシ化された要求に追加するヘッダー。
development.proxy.headers.Authorization	プロキシ化された要求に追加する認証ヘッダー。ここに Base 64 でエンコードされた username:password を入力します。
development.proxy.origin	(インスタンスのホストアドレス) を使用してプロキシを開くホスト。
development.proxy.port	プロキシが実行されるポート。
development.proxy.proxies	プロキシサーバーに渡す URL の glob パターン。

3. ファイルを保存します。

次のタスク
コンポーネントの開発。

関連情報
カスタムコンポーネントビルダー

コンポーネントの開発
コンポーネントコードを追加し、ローカルの開発サーバーを使用してテストします。

始める前に
- 環境の設定
- プロジェクトの設定

このタスクについて
カウンターコンポーネントの開発のチュートリアルについては、開発者サイト にアクセスしてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. プロジェクトディレクトリで、`src/<component-name>/index.js` に移動します。
   これはコンポーネントのプライマリコードファイルです。
2. コンポーネントコードを追加します。

   Example

   この例は、Hello World コンポーネントのサンプルを示しています。

```
import {createCustomElement} from '@servicenow/ui-core';
import snabbdom from '@servicenow/ui-renderer-snabbdom';
import styles from './styles.scss';

const view = (state, {updateState}) => {
 return (
  <div>Hello World!</div>
 );
};

createCustomElement('hello-world', {
 renderer: {type: snabbdom},
 view,
 styles
});
```

   仮想エージェント のコンポーネントを開発するには、仮想エージェント クライアントインターフェイスとやり取りするための特定のプロパティとアクションを追加します。必要なプロパティは、作成するコンポーネントのタイプによって異なります。 詳細については、「仮想エージェント のコンポーネントの開発」を参照してください。
3. オプション: 内部コンポーネントを追加します。
   内部コンポーネントは、別のコンポーネントに含まれるコンポーネントです。たとえば、カードコンポーネントに個別のボタンコンポーネントが含まれている場合があります。ボタンコンポーネントは、カードコンポーネントプロジェクトでインポート、インストール、および定義する必要がある内部コンポーネントになります。

   a. システムのコマンドラインツールを使用してインストールコマンドを実行し、内部コンポーネントパッケージをインストールします。

```
npm install @servicenow/<now-inner-button>
```

   b. `index.js` ファイルの先頭にインポートステートメントを追加します。

```
import '@servicenow/<now-inner-button>';
```

   c. `index.js` ファイルで内部コンポーネントを使用します。

```
<now-inner-button label="Click Me" />
```

   d. `now-ui.json` 構成ファイルの `components.[component-name].innerComponents` アレイに内部コンポーネントをリストします。

   Example

```
{
  "components": {
    "now-chart-timeseries": {
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      "innerComponents": [
        "now-inner-button"
      ],
```

4. 開発サーバーコマンドを実行して、テストブラウザーでコンポーネントを表示します。

```
$ snc ui-component develop [--entry entry --open --port port --host
 host]
```

これらの引数に値を渡します。

名前	説明
エントリー	コンポーネントプロジェクト内のテストモジュールへのパス。 デフォルト： `example/index.js`。
open	デフォルトのブラウザーを開き、テストページに移動します。 デフォルト値：false。
port	開発サーバーが実行されているポート。 デフォルト：8081。
host	ローカル開発サーバーを他のユーザーが外部からアクセスできるようにする場合に使用するホストアドレス。通常は `0.0.0.0` に設定します

Example

```
$ snc ui-component develop --entry example/hello.js --open --port 3000
```

次のタスク
インスタンスへのコンポーネントの展開。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

仮想エージェント のコンポーネントの開発

仮想エージェント クライアントインターフェイスで入力を収集したり、情報を表示したりするカスタム 仮想エージェントコンポーネントを作成します。

仮想エージェント コンポーネントのタイプ

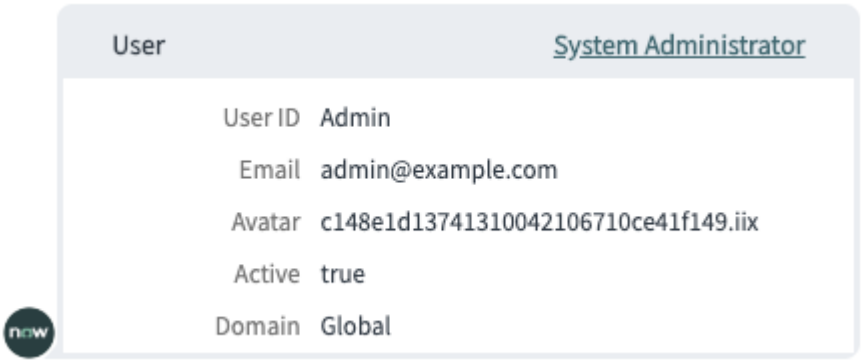
仮想エージェント のコンポーネントを開発するには、仮想エージェント クライアントインターフェイスとやり取りするための特定のプロパティとアクションを追加します。必要なプロパティは、作成するコンポーネントのタイプによって異なります。

応答コンポーネント

応答コンポーネントは、ユーザーに情報を提供するだけで、入力を収集したり、ユーザーインタラクションを処理したりすることはありません。たとえば、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー入力を必要とせず、一度だけ会話に含まれるカードコントロールなどで



す。

応答コンポーネントにプロパティを追加して、仮想エージェント サーバーから送信されるデータを処理します。

出力コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
controlData	トピックの実行時に 仮想エージェント サーバーがコンポーネントに送信する初期データ。 データタイプ：JSON オブジェクト

入力コンポーネント

入力コンポーネントは、情報を表示したり、ユーザー入力を収集したりします。これには、サーバーから送信されるデータを処理するための出力コンポーネントと同じプロパティが含まれていますが、より多くのステータスがあり、ユーザーのインタラクションが必要です。

入力コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
controlData	トピックの実行時に 仮想エージェント サーバーがコンポーネントに送信する初期データ。 データタイプ：JSON オブジェクト
responseValue	ユーザーの応答からコンポーネントに送信されるデータ。クライアントから直接、または更新がある場合はサーバーから送信されます。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。 データタイプ：JSON オブジェクト
forceCloseControl	コンポーネントが入力を受け入れることができるかどうかを示すフラグ。true の場合、コントロールは閉じられ、ユーザーは操作できません。クライアントの変更を監視して、この値を更新します。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。 データタイプ：ブール

このアクションを使用して、ユーザーのインタラクションからデータを発行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力コンポーネントのアクション

アクション	説明
VA_CONTROL#VALUE_SET	サーバーに送信するクライアントからの応答データ。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。 データタイプ：JSON オブジェクト

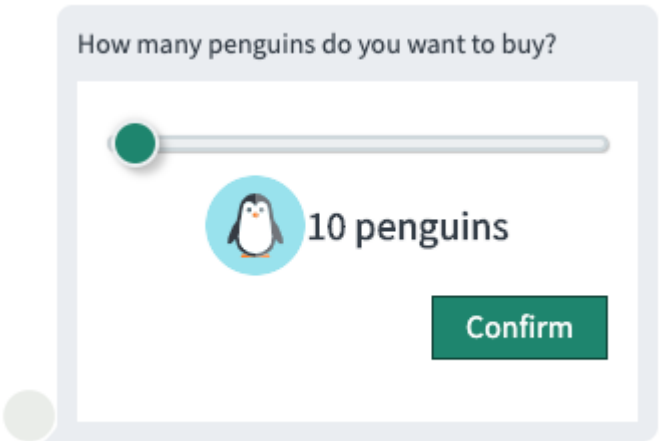
入力コンポーネントのステータス

入力コンポーネントはデータを受け入れるため、複数のステータスを処理する必要があります。状況フローは一般に次のとおりです。

1. 仮想エージェント は入力待ちステータスのカスタムコンポーネントを表示します。
2. ユーザーはコンポーネントとやり取りして入力します。
3. コンポーネントは、 `responseValue` プロパティを閉じてサーバーに送信します。
4. サーバーはサーバー側のロジックを実行し、ユーザーの入力とともにコンポーネントをクライアントに送り返します。

入力待ち

ユーザーのインタラクションを待機しているコンポーネントの初期ステータス。`controlData` プロパティは設定されていますが、`forceControlClosed` プロパティが false です。この例は、入力待ちステータスのスライダーコンポーネントを示しています。



この例では、ユーザーが `responseValue` を指定せず、コントロールがクローズされていない場合、スライダーと入力ボタンが表示されます。

```
const {controlClosed, sliderVal, sliderMin, sliderMax} = state;
return (<div class={{"slider-chat": true}}>
    {responseValue ? null :  <Fragment>
    <div class={{"slider-label": true}}>{label}</div>
    {controlClosed ? null : <Fragment>
        <div class={{"slider-container": true}}>
                    <input on-change={onSliderChange}
 type="range" min={sliderMin} max={sliderMax} value={sliderVal}
 class={{"slider": true}} />
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
            <div class={{"slider-value": true}}>
                    {unitIcon &&
                     <div class={{"unit-icon": true}}><img
 src={unitIcon} /></div>
                     }
                     {sliderVal} {unitName}
                </div>
        <div class={{"button-container":true}}>
            <now-button variant="primary" label={buttonText ||
 'Confirm'} />
         </div></div></Fragment>}
```

入力の処理

前の例では、スライダーは `now-button` コンポーネントを使用しています。このボタンをユーザーがクリックすると、入力が確定され、サーバーに送信されます。ユーザーがボタンをクリックすると、`responseValue` ペイロードを使用して `VA_CONTROL#VALUE_SENT` アクションが開始されます。

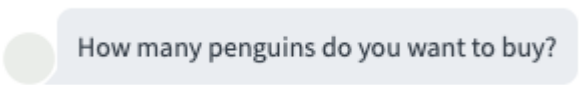
```
'NOW_BUTTON#CLICKED': (data) => {
    const {updateState, dispatch, state: {sliderVal}} = data;
    updateState({controlClosed: true});
    dispatch('VA_CONTROL#VALUE_SENT', {
        value: {
            sliderVal
        }
    });
}
```

クローズ済み

クローズされたコンポーネントは、ユーザー入力を受け入れることができなくなります。通常、コンポーネントは次の理由でクローズされます。

- ユーザーがコンポーネントに応答した。コンポーネントがクローズし、会話が続行される。
- ユーザーがチャットを終了した。サーバーが応答を待機していない。

たとえば、スライダーコンポーネントは、クローズ済みステータスのときにのみ元のプロンプトを表示します。



応答の送信

ユーザーが応答すると、`responseValue` プロパティの値を使用して、コントロールが会話のユーザー側に再度表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

たとえば、スライダーコントロールはこのスニペットを使用して応答を表示します。

```
{responseValue && <div className="response-container
 slider-value">
   {unitIcon &&
   <div className="unit-icon"><img src={unitIcon} /></div>
   }
   {returnVal} {unitName}
</div>}
```

仮想エージェントデザイナー へのコンポーネントの追加

コンポーネントを開発してインスタンスに展開した後、カスタムコントロールと定義を使用して 仮想エージェントデザイナー に追加します。詳細については、「仮想エージェントのカスタムコントロール」を参照してください。

仮想エージェント と通信するためのプロパティの追加

仮想エージェント のコンポーネントを開発するには、仮想エージェント クライアントインターフェイスとやり取りするための特定のプロパティとアクションを追加します。必要なプロパティは、作成するコンポーネントのタイプによって異なります。

始める前に

- 環境の設定
- プロジェクトの設定
- コンポーネントの開発

手順

1. コンポーネントコードで、仮想エージェント プロパティを追加して 仮想エージェント クライアントインターフェイスとやり取りします。

仮想エージェント コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
controlData	トピックの実行時に 仮想エージェント サーバーがコンポーネントに送信する初期データ。 データタイプ：JSON オブジェクト
responseValue	ユーザーの応答からコンポーネントに送信されるデータ。クライアントから直接、または更新がある場合はサーバーから送信されます。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ	説明
	データタイプ：JSON オブジェクト
forceCloseControl	コンポーネントが入力を受け入れることができるかどうかを示すフラグ。true の場合、コントロールは閉じられ、ユーザーは操作できません。クライアントの変更を監視して、この値を更新します。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。 データタイプ：ブール

2. 入力コンポーネントを作成する場合は、`VA_CONTROL#VALUE_SENT` アクションを使用してユーザー値をサーバーに送信します。

仮想エージェント コンポーネントのアクション

アクション	説明
VA_CONTROL#VALUE_SENT	サーバーに送信するクライアントからの応答データ。ユーザー入力が必要なコンポーネントでのみ使用します。 データタイプ：JSON オブジェクト

次のタスク
「仮想エージェント のコンポーネントのテスト」および「インスタンスへのコンポーネントの展開」。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

仮想エージェント のコンポーネントのテスト

仮想エージェント カスタムコンポーネントをインスタンスに展開する前にテストします。

始める前に

- 環境の設定
- プロジェクトの設定
- コンポーネントの開発
- 仮想エージェント と通信するためのプロパティの追加

必要なロール：virtual_agent_admin または admin

このタスクについて

仮想エージェント コンポーネントを 仮想エージェント クライアントチャット内でテストし、コンポーネントがユーザー入力に正しく応答することを確認する必要があります。コンポーネントプロジェクトのプロパティを設定して、モック 仮想エージェントテストクライアントツールでコンポーネントをテストできます。

手順

1. テストクライアントツールの依存関係をコンポーネントプロジェクトに追加します。
   a. コンポーネントプロジェクトで `<component-name>/package.json` ファイルを開きます。
   b. `"@servicenow/sdk-ci": "1.0.8"` と `"@servicenow/library-translate": "^18.0.0"` を `devDependencies` オブジェクトに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example
正しい依存関係を含む `package.json` ファイルの例を次に示します。

```
"dependencies": {
    "@servicenow/ui-renderer-snabbdom": "xanadu",
    "@servicenow/library-translate": "^18.0.0",
    "@servicenow/now-button": "xanadu",
    "@servicenow/now-dropdown": "xanadu",
    "@servicenow/sass-generic": "xanadu",
    "@servicenow/cli-archetype": "xanadu",
    "@servicenow/sdk-ci": "1.0.8"
}
```

2. テストでコンポーネントの初期ステータスとして使用するサンプルプロパティを追加します。
   a. `<component-name>/example/sampleProps.json` ファイルに、テスト内で表示する初期プロパティを追加します。

Example
以下は、スライダーコンポーネントに初期プロパティが設定された `sampleProps.json` ファイルの例です。

```
{
 "label": "How many penguins do you want to buy?",
 "defaultValue": 10,
 "sliderMin": 20,
 "sliderMax": 80,
 "unitName": "penguins",
 "unitIcon": "https://image.flaticon.com/icons/svg/141/141836.svg"
}
```

3. `example.js` ファイルを更新し、作成したサンプルプロパティを使用して、テストクライアントツールでコンポーネントを開きます。

   a. コンポーネントプロジェクトで `<component-name>/example/element.js` ファイルを開きます。

   b. `@servicenow/sdk-ci` と作成したサンプルプロパティファイルをインポートするステートメントを追加します。

   c. `<component-name>` を、サンプルプロパティの初期データを使用してテストツールを作成するためのコンポーネント名で置き換えて、次のステートメントを追加します。

```
const el = document.createElement('tool-ci-custom-control-tester');
el.componentTagName="<component-name>";
el.initialExampleData=sampleProps;
document.body.appendChild(el);
```

Example
以下は、テストクライアントツールを使用してコンポーネントを開く `example.js` ファイルの例です。

```
import '../src/now-chat-control-slider';

import '@servicenow/sdk-ci';
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
import sampleProps from './sampleProps.json';

const el = document.createElement('tool-ci-custom-control-tester');
el.componentTagName="<component-name>";
el.initialExampleData=sampleProps;
document.body.appendChild(el);
```

4. 開発サーバーコマンドを実行して、テストブラウザーでコンポーネントを表示します。

```
$ snc ui-component develop [--entry entry --open --port port --host
 host]
```

これらのパラメーターに値を渡します。

名前	説明
エントリー	コンポーネントプロジェクト内のテストモジュールへのパス。 デフォルト： `example/index.js`。
open	デフォルトのブラウザーを開き、テストページに移動します。 デフォルト値：false。
port	開発サーバーが実行されているポート。 デフォルト：8081。
host	ローカル開発サーバーを他のユーザーが外部からアクセスできるようにする場合に使用するホストアドレス。通常は `0.0.0.0` に設定します

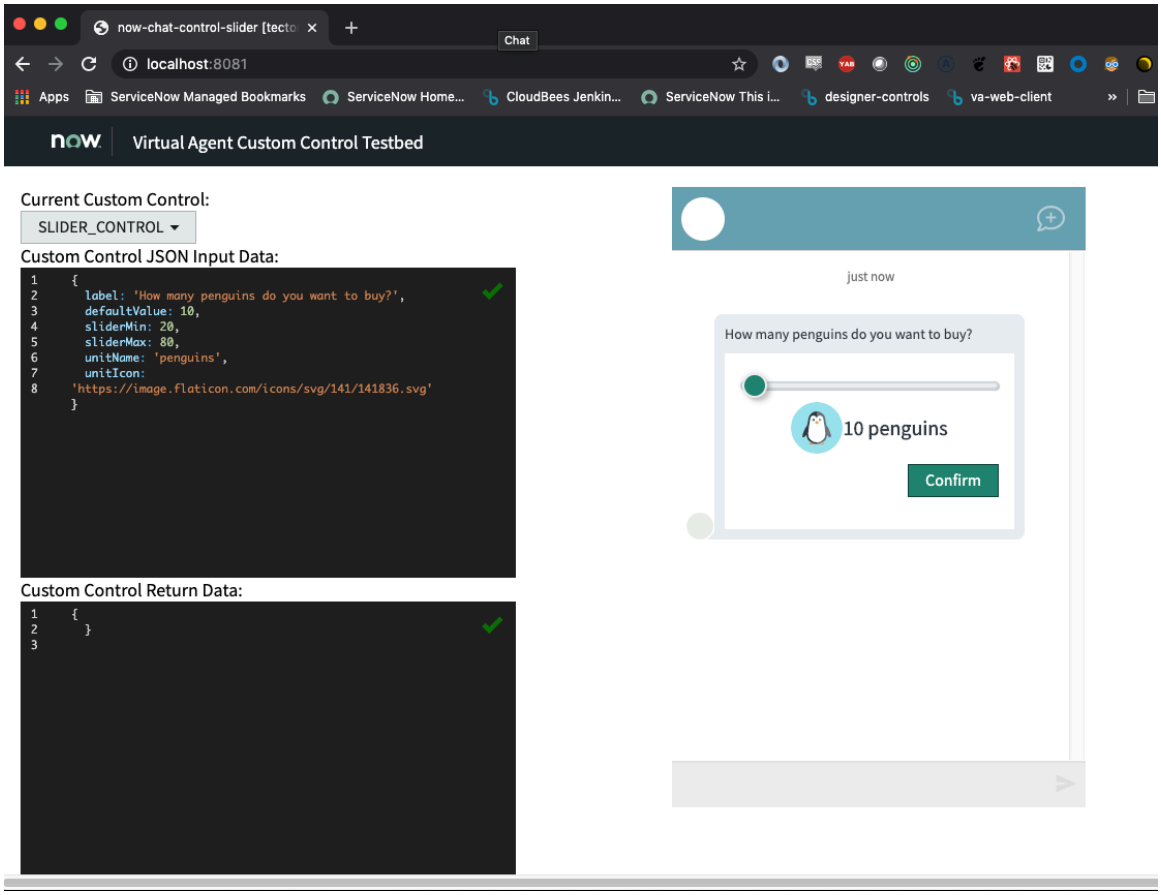
Example

```
$ snc ui-component develop --entry example/hello.js --open --port 3000
```

コンポーネントがテストクライアントツールで開きます。[カスタムコントロールの **JSON** 入力データ **(Custom Control JSON Input Data)]** フィールドで指定された初期データを、[カスタムコ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ントロールの戻りデータ **(Custom Control Return Data)]** フィールドでコンポーネントの出力を確認できます。



次のタスク
コンポーネントが予想どおりに機能している場合は、インスタンスに展開します。「インスタンスへのコンポーネントの展開」を参照してください。

コンポーネントを開発してインスタンスに展開した後、カスタムコントロールと定義を使用して 仮想エージェントデザイナー に追加します。詳細については、「仮想エージェントのカスタムコントロール」を参照してください。

関連情報

- カスタムコンポーネントビルダー

エージェントワークスペース へのコンポーネントの追加

カスタムコンポーネントを使用して、会社のエージェントの特定のニーズを満たすカスタム ワークスペース インターフェイスを作成します。

複数のチャネルを介した顧客とのコミュニケーションには時間がかかります。これらのオムニチャネルインタラクションを効率的に行うには、複数のツール間でのコンテキストの切り替えを減らすために、エージェントが顧客情報を一元的に表示できる必要があります。ワークスペース のカスタムコンポーネントを開発することで、チームは、 1 つのインターフェイスで複数のチャネルとのコミュニケーションを行うことができます。

ワークスペース へのコンポーネントの追加

コンポーネントをインスタンスに展開したら、次の方法で ワークスペース に追加できます。

- ワークスペース モーダルにコンポーネントを追加する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI アクションを使用してモーダルでカスタムコンポーネントを起動するため、エージェントはタスクを遂行するために別の画面に移動する必要がありません。詳細については、「モーダルでのコンポーネントの表示」を参照してください。

UI ビルダーを使用して ワークスペース ランディングページにコンポーネントを追加する

UI ビルダー を使用して、エージェントのカスタムランディングページを作成します。UI ビルダー は、ワークスペースコンポーネントを視覚的に配置できるドラッグアンドドロップツールです。詳細については、「ワークスペースのカスタムランディングページの作成」を参照してください。

UI ビルダーで展開されたコンポーネントを使用するには、`now-ui.json` ファイルのプロパティを設定します。「UI ビルダー へのコンポーネントの追加」を参照してください。

ワークスペース レコードビューにコンポーネントを追加する

ワークスペース レコードビューのコンポーネント領域にカスタムコンポーネントまたは標準コンポーネントを追加できます。詳細については、「ワークスペースのレコードビューの設定」を参照してください。

UI ビルダー へのコンポーネントの追加

構成ファイルのプロパティを設定して、コンポーネントをインスタンスの UI ビルダー に追加します。

始める前に

- 環境の設定
- プロジェクトの設定
- コンポーネントの開発

手順

1. プロジェクトディレクトリで、`now-ui.json` を開きます。
2. `components.[component-name].uiBuilder` オブジェクトをファイルに追加します。このオブジェクトは、コンポーネントを UI ビルダーに追加します。

   このオブジェクトには、次のキーと値のペアが含まれています。

キー	データタイプ	説明
components.[component-name].uiBuilder	オブジェクト	コンポーネントを UI ビルダーに追加するオブジェクト。
components.[component-name].uiBuilder.label	文字列	必須です。UI ビルダーのコンポーネントの表示名。
components.[component-name].uiBuilder.icon	文字列	必須です。UI ビルダーに表示されるアイコンの名前。
components.[component-name].uiBuilder.description	文字列	必須です。コンポーネントの機能の簡単な説明。

Example

```
{
  "components": {
    "card": {
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    "uiBuilder": {
      "label" : "Card",
      "icon" : "chat-fill",
      "description" : "A visual card format for a record.",
      "associatedTypes": ["global.core"]
    },
```

3. コンポーネントにプロパティが含まれている場合は、`components.[component-name].properties` アレイをファイルに追加します。
これにより、UI ビルダー のコンポーネントの構成オプションとしてプロパティが追加されます。

   このオブジェクトには、次のキーと値のペアが含まれています。

キー	データタイプ	説明
components.[component-name].properties	アレイ <Object>	コンポーネントのすべてのプロパティとそれらのプロパティに関するすべての関連情報を含むオブジェクトのアレイ。
components.[component-name].properties[].name	文字列	コンポーネントのコード内のプロパティの名前。
components.[component-name].properties[].label	文字列	UI ビルダー に表示するプロパティの表示名 (該当する場合)。
components.[component-name].properties[].description	文字列	プロパティの機能または使用方法の簡単な説明。
components.[component-name].properties[].readOnly	ブーリアン	true の場合、ユーザーは UI ビルダーでプロパティを設定できません。 デフォルト値：false。
components.[component-name].properties[].required	ブーリアン	true の場合、ユーザーはプロパティを設定する必要があります。 デフォルト値：false。
components.[component-name].properties[].defaultValue	文字列	ユーザーが指定しない場合のデフォルト値。
components.[component-name].properties[].associatedTypes	アレイ	UI ビルダーツールボックス内でコンポーネントが表示される場所を説明します。値は `"global.core"` である必要があります。
components.[component-name].properties[].typeMetadata	オブジェクト	参照プロパティや選択リストなど、一部のデータタイプに必要な追加の構成データ。

Example

```
{
  "components": {
    "properties": [
      {
   "name": "backgroundColor",
   "label": "Background Color",
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
   "description": "Background Color",
   "readOnly": false,
   "required": false,
   "defaultValue": "lightgray"
      },
      {
         "name": "cardType",
   "label": "Type of card",
   "description": "Type of card",
   "readOnly": false,
   "required": false,
   "defaultValue": ""
      }
   ]
```

4. ファイルを保存します。

次のタスク
インスタンスへのコンポーネントの展開。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

インスタンスへのコンポーネントの展開

アプリケーションプラグインとしてインスタンスに表示するコンポーネントを展開します。

始める前に

- 環境の設定
- プロジェクトの設定
- コンポーネントの開発

手順

コンポーネントをインスタンスに展開します。

a. システムのコマンドラインツールを開き、このコマンドを実行します。

```
$ snc ui-component deploy [--open --force]
```

これらの引数に値を渡します。

名前	説明
open	true の場合、デフォルトのブラウザーが開き、インスタンスの UI ビルダーに移動します。 デフォルト値：false
force	コンポーネントの変更を展開し、既存のコンポーネントレコードを上書きします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明
	デフォルト値：false。

Example

```
$ snc ui-component deploy --open
```

次のタスク

インスタンスに移動し、エージェントワークスペース または 仮想エージェント のモーダルまたはランディングページにコンポーネントを追加します。エージェントワークスペース については、「モーダルでの Now コンポーネントのレンダリング」または「ワークスペースのカスタムランディングページの作成」を参照してください。仮想エージェント については、「仮想エージェントのカスタムコントロール」を参照してください。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

コンポーネントのアプリケーションスコープの変更

コンポーネントをインスタンスに展開するときにスコープの問題が発生した場合は、コンポーネントのアプリケーションスコープを変更します。たとえば、オフラインモードでコンポーネントを作成しているときに、すでに使用されているか、無効なアプリケーションスコープを設定してしまう可能性があります。

始める前に

- 環境の設定
- プロジェクトの設定
- 必要なロール：なし

このタスクについて

手順

1. プロジェクトディレクトリで、`now-ui.json` を開きます。
2. `scopeName` キーを目的のスコープ名で更新します。

   インスタンスでのアプリケーション開発には、名前空間識別子のガイドラインを使用します。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

   アプリケーションスコープを予約するときは、次の要件に従います。

   - 最大：18 文字。
   - ケース：スネークケース。

   Example

   ```
   "scopeName": "x_customerprefix_componentname"
   ```

3. コンポーネントを展開します。
   「インスタンスへのコンポーネントの展開」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

カスタムコンポーネントビルダー

ディシジョンテーブル

ディシジョンテーブルを使用すると、意思決定ルールを作成して維持することで、意思決定ロジックをコードから切り離すことができます。

重要: 代わりに、ワークフロースタジオでディシジョンテーブルを作成してみてください。ワークフロースタジオ はワークフローの作成、構成、および監視を単一のページエクスペリエンスに統合します。詳細については、「 ワークフロースタジオ に意思決定テーブルを作成 」を参照してください。

ディシジョンテーブルを使用して、複数の要因に依存している結果に達することができます。これらのテーブルでは、各要因が意思決定入力です。たとえば、自動車保険の補償に関する意思決定を行う場合は、入力には、被保険者の住所、年齢、事故歴、自動車メーカー、車種、製造年などが含まれます。このロジックは時間を節約でき、スクリプトを使用するよりも体系化され、読みやすい形式を提示できます。ディシジョンテーブルは、意思決定を作成、表示、および変更できる単一ポイントを提供します。

スクリプトで ディシジョンテーブル とやり取りするには、 DecisionTableAPI - スコープ付き、グローバル を使用します。

意思決定のコンポーネント

ディシジョンテーブル [sys_decision] レコード

ディシジョンテーブルレコードは、単一の意思決定を表します。このレコードでは、回答に使用するテーブルを指定します。このレコードには、意思決定入力と意思決定を作成できる関連リストも含まれています。

意思決定入力 [sys_decision_input] レコード

意思決定入力レコードは、意思決定の回答を取得するために使用される入力を表します。これらの入力には、文字列、参照、true/false 入力、日付を含むさまざまなタイプがあります。各意思決定入力には指定された入力タイプがあり、デフォルト値を割り当てることができます。

意思決定 [sys_decision_question] レコード

各意思決定レコードは、入力に基づいた意思決定を表します。意思決定レコードフォームで条件ビルダーを使用して、この意思決定の入力に基づいた条件を作成します。次に、この意思決定の回答レコードを選択できます。回答レコードは、ディシジョンテーブルのレコードで定義したテーブルの任意のレコードにすることができます。複数の意思決定に対して同じ回答レコードを選択できます。

回答レコード

回答レコードは、さまざまな意思決定入力値を使用して到達した回答を表します。回答レコードには任意のテーブルのレコードを使用できますが、そのテーブルはディシジョンテーブルレコードを作成するときに選択する必要があります。たとえば、sys_choice テーブルを使用して、既存の選択肢レコードを使用できます。保険の補償についての例では、各レコードに保険の補償レベルの詳細が含まれるテーブルを作成できます。

クラシック環境の意思決定テーブル

クラシック環境では、意思決定回答レコードに使用するテーブルを作成できます。その後、ディシジョンテーブルの各意思決定に回答レコードを関連付けます。入力に基づいてその意思決定に到達すると、この回答レコードが返されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: ワークフロースタジオ ディシジョンテーブルは、ディシジョンテーブルを作成するための新しい直感的なインターフェイスを提供します。詳細については、「ワークフロースタジオ」を参照してください。

ディシジョンテーブルを作成して複雑な意思決定を解決する

意ディシジョンテーブルを作成して、複数の要因に依存している複雑な意思決定を解決できます。

始める前に

必要なロール：decision_table_admin

手順

1. 意思決定回答レコードに使用するテーブルを作成または選択します。
   後の手順で、ディシジョンテーブルの各意思決定に回答レコードを関連付けます。入力に基づいてその意思決定に到達すると、この回答レコードが返されます。テーブルの作成については、「テーブルの作成」を参照してください。
2. 意思決定レコードに使用するテーブルの 1 つのフィールドが表示値として設定されていることを確認します。

   意思決定回答を フローデザイナー で表示する場合は、このフィールドがラベルとして使用されます。

   既存のテーブルを使用することも、意思決定レコードに使用する新しいテーブルを作成することもできます。
3. 意思決定の各回答に対するレコードをこのテーブルで作成します。
   既存のテーブルを変更した場合は、追加した新しいフィールドを表示するために、フォームのカスタマイズが必要になることがあります。
4. ディシジョンテーブルレコードを作成します。

   a. [システム定義] > [意思決定テーブル]の順に移動し、[新規] をクリックします。

   b. フォームのフィールドに入力します。

   ディシジョンテーブルフォーム

フィールド	説明
名前	この意思決定を説明するラベル。
アプリケーション	この意思決定のアプリケーションスコープ。このフィールドのデフォルトは、現在のスコープです。
回答のテーブル	この意思決定で回答レコードに使用するテーブル。前の手順で作成したテーブルを選択します。
アクセス可能	この意思決定の可用性を現在のスコープに制限するオプション。[すべてのアプリケーションスコープ] または [このアプリケーションスコープのみ] を選択します。

   c. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
   [意思決定の入力] および [意思決定] 関連リストでフォームを更新します。
5. 意思決定入力レコードを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [意思決定の入力] 関連リストで [新規] をクリックします。

b. フォームのフィールドに入力します。

意思決定入力フォーム

フィールド	説明
名前	この意思決定入力に関連付けられている意思決定の名前。このフィールドは、自動的に入力されます。
アプリケーション	この意思決定入力のアプリケーションスコープ。このフィールドのデフォルトは、現在のスコープです。
タイプ	この入力に使用されるデータのタイプ。フローでこの意思決定を使用する場合は、このタイプと一致するデータピルのみ使用できます。
有効	この入力を有効にするためのチェックボックス。デフォルトでは、このフィールドが選択されます。
ラベル	この入力を説明するラベル。
読み取り専用	この意思決定入力を読み取り専用にするチェックボックス。
列名	この入力の列名。[ラベル] フィールドの値を指定した場合、このフィールドは自動入力されます。
必須	この意思決定入力を必須にするチェックボックス。
表示	この意思決定入力が参照フィールドの表示値であることを示すチェックボックスです。
選択肢	ユーザーに推奨値のリストを表示する方法を選択します。 ▪ [-- なし --] のないリストメニュー ▪ [-- なし --] のあるリストメニュー ▪ 提案フィールドタイプ 選択肢を使用する場合に、フォームの下部にある [選択肢] 関連リストの選択肢を定義します。
デフォルト値	この入力のデフォルト値。

c. [送信] を選択します。
変更が保存され、ディシジョンテーブルレコードが再度開きます。

6. 意思決定レコードを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [意思決定] 関連リストで [新規] をクリックします。

b. フォームのフィールドに入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	このディシジョンテーブルを説明するラベル。
アプリケーション	この意思決定のアプリケーションスコープ。このフィールドのデフォルトは、現在のスコープです。
順番	フローで意思決定を評価する順番。[一致する最初の意思決定] オプションを使用し、最初の一致が見つかった後に終了するフローでは、順番が重要になることがあります。
回答	この意思決定の条件が満たされたときに使用される回答。
デフォルトの回答	この意思決定をディシジョンテーブルのデフォルトとして有効にするチェックボックス。
条件	この意思決定に到達する必要のある条件。条件で利用可能なフィールドは、このディシジョンテーブルに関連付けられている意思決定入力です。

c. [送信] を選択します。
変更が保存され、ディシジョンテーブルレコードが再度開きます。

次のタスク
フローデザイナー では、独自の意思決定を [意志決定] フローロジックに追加できます。意思決定フローロジックの詳細については、「Make a decision フローロジック」を参照してください。

テーブルビルダー

テーブルビルダー を使用すると、単一のユーザーインターフェイスからテーブルとフォームを視覚的に作成、設計、管理できます。

テーブルビルダー概要

お知らせ

App Engine のテーブルビルダー アプリケーションは、スタンドアロンの テーブルビルダー アプリケーションと結合されています。スキーマビュー、スプレッドシートビュー、フロー、PDF エクストラクターなど、以前は App Engine のテーブルビルダー アプリケーションでしか利用できなかった一部の機能が、テーブルビルダー で利用できるようになりました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開始するには

探索	使用	参照
テーブルビルダー の概念と機能について学びます。	テーブルビルダー を使用して、テーブル、フォーム、および関連するポリシーとルールを管理します。	フィールドプロパティやポリシーとルールのプロパティなどの テーブルビルダー コンポーネントに関する詳細を取得します。

テーブルビルダー のヘルプ

- ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください。

  会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください
- テーブルビルダー コミュニティフォーラムで質問または回答する
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

テーブルビルダー の詳細

単一のユーザーインターフェイスを使用してテーブル、フォーム、フローを視覚的に設計できるようにする テーブルビルダー 機能について説明します。

テーブルビルダー に関する詳細	その他の **ServiceNow** リソース
テーブルビルダー を使用して、レイアウト、フィールド、フィールド構成、UI ポリシーなどのフォーム要素を設定できます。	Table Builder の概要
	Table Builder ：カスタム注文フォームの作成

主な機能

テーブルビルダー には、次の主要な機能が含まれています。

- 特定のアプリケーションまたはグローバルにフィールドを追加したり、既存のフィールドプロパティを変更したりして、テーブルを編集します。
- シンプルなドラッグアンドドロップのエディターインターフェイスを使用して、フォームビューを視覚的にカスタマイズします。必要に応じて、選択したテーブルからセクション、フィールド、注釈を追加および配置できます。
- 1 つのインターフェイスからフォームの UI ポリシーを設定するか、次のその他の関連するポリシーやルールを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アクセス制御ルール
- クライアントスクリプト
- ビジネスルール
- ワークスペースビュールール

- 編集プロセス全体でフォームをプレビューすることで、変更が環境内で正常に機能することを確認できます。
- App Engine Studio と統合して、フォームの設計とデータの管理における統一されたエクスペリエンスを促進します。

Table Builder の機能とApp Engine のテーブルビルダーの機能

次の表は、テーブルビルダー と App Engine のテーブルビルダー で利用可能な機能を比較したものです。

注: App Engine のテーブルビルダー は、「専用ローコード機能」がライセンスされている場合にのみインストールできます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

Table Builder の機能とApp Engine のテーブルビルダー

-	テーブルビルダー	App Engine のテーブルビルダー
[データ] タブ	包含済み	包含済み
[フォーム] タブ	包含済み	包含済み
[ポリシーとルール] タブ	包含済み	包含済み
計算式ビルダー	包含済み	包含済み
[フロー] タブ	含まれていない	包含済み
PDF エクストラクター	含まれていない	包含済み
スキーマビュー	含まれていない	包含済み
スプレッドシートビュー	含まれていない	包含済み

テーブルビルダー へのアクセス

テーブルビルダー にはいくつかの方法でアクセスできます。

App Engine Studio から テーブルビルダー を起動

テーブルビルダー は現在 App Engine Studio 内からアクセスできます。

アプリケーションデータの編集手順については、「App Engine Studio でのデータの編集」を参照してください。

1. App Engine Studio でアプリケーションを開きます。

   注: テーブルビルダー にアクセスするには、事前にアプリケーションにデータテーブルが存在している必要があります。

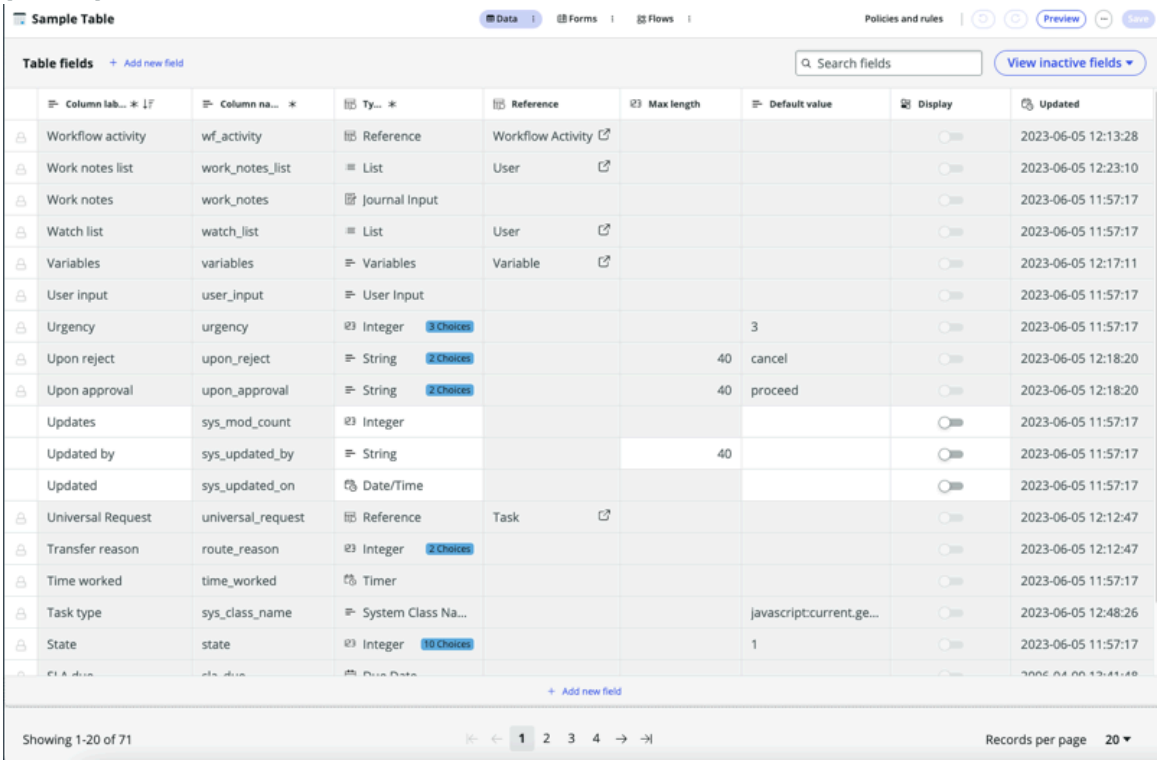
2. アプリケーションホームで、テーブルの横にあるメニューアイコン (••• アイコン) を選択し、[編集] を選択します。

   次の例のように、[データ] タブが選択された状態で テーブルビルダー が開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 選択したデータテーブルのフォームビューを編集するには、[フォーム] タブに移動します。

[データ] タブ



UI ビルダー から テーブルビルダー を起動

選択したフォームオブジェクトの [構成] パネルの下部にある [フォームビューの編集 **(Edit form view)]** をクリックして、UI ビルダー 内から テーブルビルダー にアクセスできます。

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー] に移動し、ページ上のフォームコンポーネントを選択します。

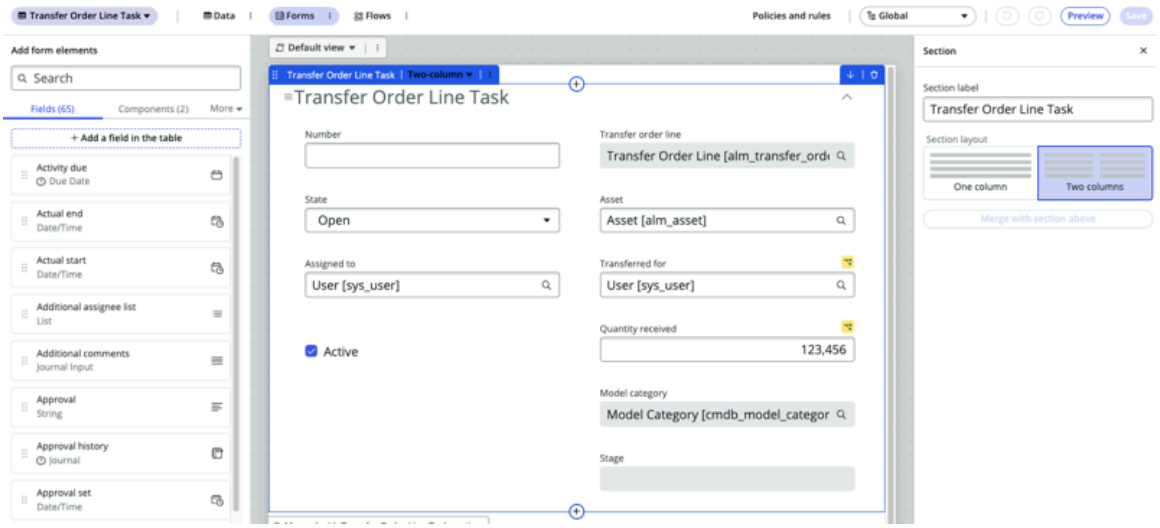
   コンポーネントの追加方法の詳細については、「UI ビルダーでのコンポーネントの操作」を参照してください。

2. [構成] ペインの下部にある [フォームビューの編集 **(Edit form view)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[フォーム] タブが選択された状態で テーブルビルダー が開き、選択したテーブルのフォームビューをカスタマイズできます。テーブルデータを編集するには、次の例のように [データ] タブに移動します。

[フォーム] タブ



テーブルビルダー の権限

テーブルビルダー を使用するには、アドミンであるか、 Now Platform で次のロール権限を持っているか、または関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限を持っている必要があります。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

テーブルビルダー の権限

権限	アクセス
フォームをカスタマイズ (personalize_form)	• [フォーム] タブにアクセスするために必要です。 • フォームのフィールドをカスタマイズするために必要です。 • 辞書へのアクセスを許可しません。 • ポリシーとルールへのアクセスを許可しません。 • テーブルへのアクセスを許可しません。
辞書のカスタマイズ (personalize_dictionary)	• [データ] タブにアクセスするために必要です。 • フィールド構成にアクセスするために必要です。 • 辞書フィールドを変更するために必要です。 • ポリシーとルールへのアクセスを許可しません。
ルールのカスタマイズ	[ポリシーとルール **(Policies and Rules)]** タブへのアクセスを有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルビルダー の権限 (続く)

権限	アクセス
(personalize_rules)	
選択肢のカスタマイズ (personalize_choices)	ユーザーがフィールドの選択肢を設定できるようにします。
フローデザイナー (flow_designer)	[フロー] タブにアクセスするために必要です。 ユーザーがフローを設定できるようにします。テーブルビルダーフローを操作するには、personalize_form および personalize_dictionary 権限 (または関連する委任開発者権限) も必要です。

フォームビルダー へのアクセス

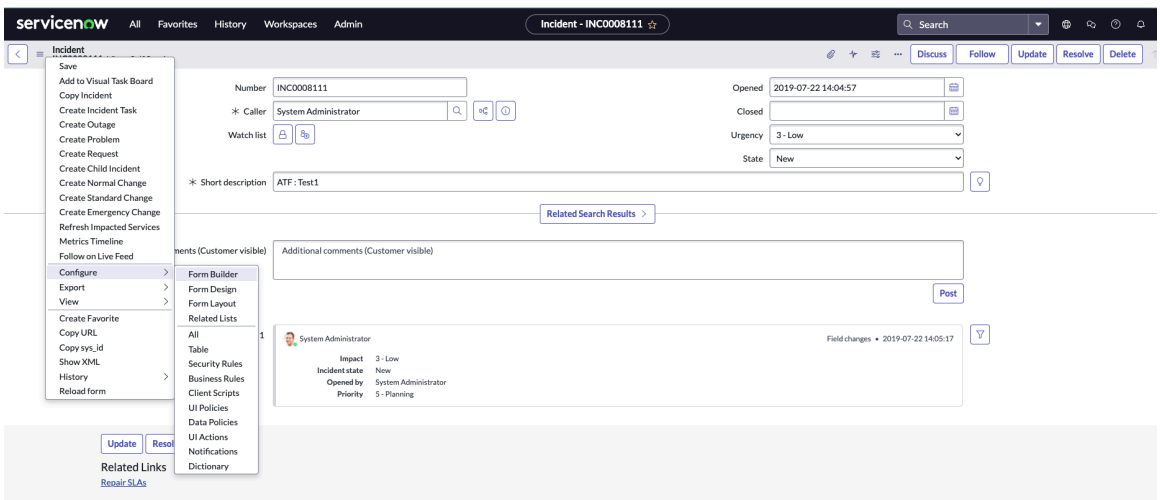
フォームビルダー は、テーブルビルダー の [フォーム] タブから最も頻繁にアクセスされるアプリケーションです。フォームビルダー には、Now Platform® および任意のテーブルの [関連リンク] セクションからもアクセスできます。

テーブルビルダー から フォームビルダー へのアクセス

テーブルビルダー の [フォーム] タブで、フォームビルダー にアクセスします。詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。

Now Platform から フォームビルダー へのアクセス

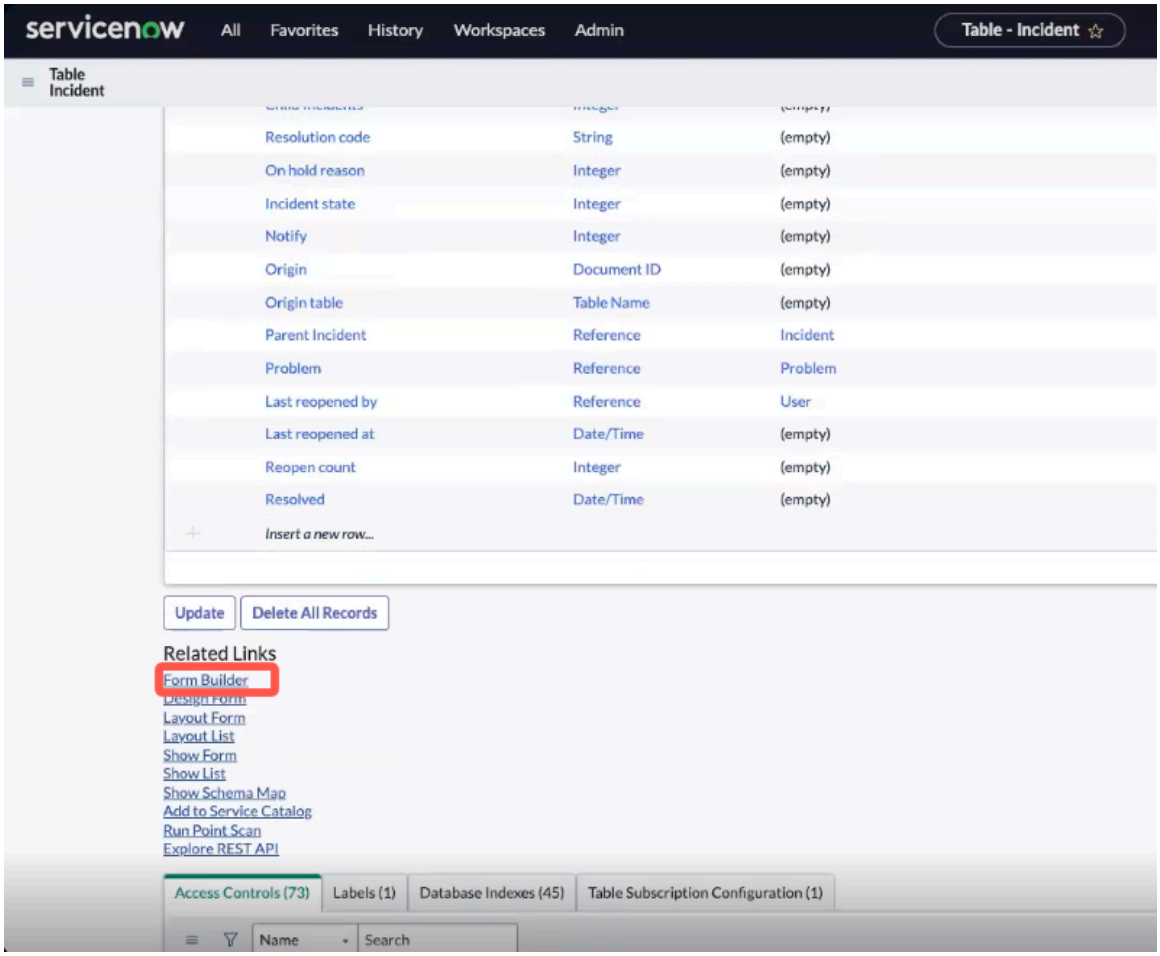
フォームビルダー を使用して Now Platform レコードまたはフォームをカスタマイズします。フォームコンテキストメニューで、[構成] を選択し、[フォームビルダー] を選択します。



[関連リンク] から フォームビルダー へのアクセス

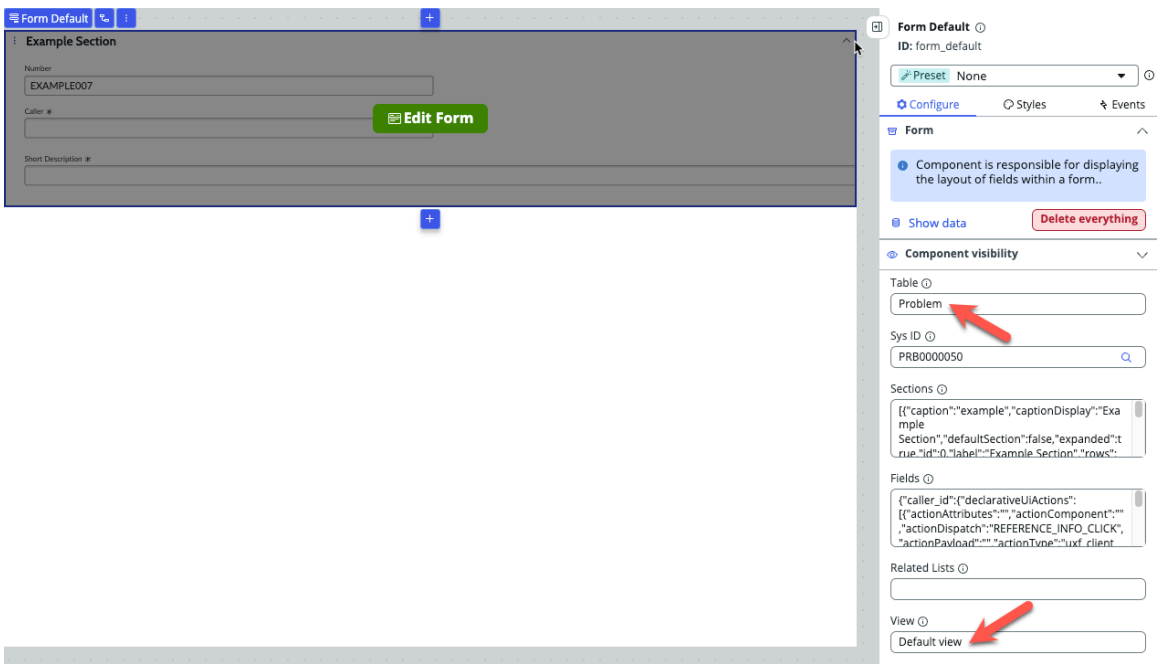
フォームビルダー には、任意のテーブルの [関連リンク] セクションからもアクセスできます。フォームビルダー を開いて、そのテーブルのレコードの入力に使用するフォームを編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



UI ビルダー から フォームビルダー へのアクセス

UI ビルダー ステージから フォームビルダー に直接アクセスできます。[テーブル] 値と [ビュー] 値が設定されているフォームコンポーネントにカーソルを移動し、[フォームを編集] ボタンを選択します。変更は、フォームビルダー を閉じるとフォームに表示されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション

この上位レベルのワークフローを確認することで、テーブルビルダー の使用を開始してデータテーブル、フォーム、またはフローを管理できます。

テーブルビルダー を使用するときに実行する上位レベルのアクションについて説明します。

基本的なワークフロー

次の表は、テーブルビルダー で作業するときに実行する基本的なアクションの概要を示しています。

基本的なワークフロー

アクション	説明
作業するテーブルまたはフォームの選択	作業するデータテーブルまたはフォームを選択するには、「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動し、作業するテーブルまたはフォームを選択します。 **注:** App Engine Studio で テーブルビルダー を使用している場合、アプリでテーブルをクリックすると、ここで選択したテーブルが選択されます。ただし、テーブルビルダー が UI ビルダー から起動されている場合は、現在選択されているテーブルの名前が表示されているドロップダウンリストから、作業する新しいテーブルを選択できます。
ドメインとアプリケーションスコープの選択	テーブルビルダー ナビゲーションから、作業するドメインとアプリケーションスコープを選択します。 **注:** App Engine Studio で テーブルビルダー を使用している間、選択されているアプリケーションスコープは作業中のアプリになります。ただし、テーブルビルダー が UI ビルダー から起動されている場合は、画面の右上にあるドロップダウンリストから、作業するアプリケーションスコープを選択できます (グローバルなど)。 「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」および「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。
テーブルプロパティの変更	テーブルプロパティを直接編集するには、[データ] タブを選択します。 詳細については、「テーブルビルダー 内のデータ」を参照してください。
フォームビューのカスタマイズ	[フォーム] タブを選択し、新しいビューを作成してカスタマイズしたり、選択したビューのフォーム要素を構成したりします。 詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。
ポリシーとルールの設定	[ポリシーとルール] タブを選択して、フォームビューでのデータの表示方法を設定および制御します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

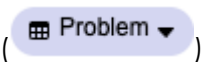
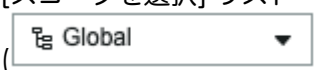
基本的なワークフロー (続く)

アクション	説明
	詳細については、「テーブルビルダー でのポリシーとルール」を参照してください。
フォームのプレビューと変更の管理	プロセスのどの時点でも、[プレビュー] を選択して加えた変更をプレビューできます。詳細については、「フォームのプレビュー」を参照してください。 プロセスの任意の時点で [保存] をクリックして、フォームビューの変更を保存します。フォームビューの準備が整い、 Now Platform の他のアプリケーションからアクセスできます。 **注:** 加えた変更を元に戻す ( ) か、再適用する ( ) には、画面の上部にある [元に戻す] または [やり直し] アイコンを選択します。

ナビゲーション要素

次の表では、テーブルビルダー に示されている基本的なナビゲーション要素を示して説明します。

基本的なナビゲーション要素

ナビゲーション要素	説明
テーブル選択リスト ()	選択したテーブルのポリシーとルール、テーブルプロパティ、フィールド、またはフォームビューをカスタマイズするオプションを選択します。
[ドメインを選択] リスト ( )	選択したドメイン (たとえば、グローバルドメイン) 内のポリシーとルール、テーブルプロパティ、フィールド、またはフォームビューをカスタマイズするオプションを選択します。
[スコープを選択] リスト ()	選択したアプリケーションスコープ (たとえば、グローバルアプリケーションスコープ) 内のポリシーとルール、テーブルプロパティ、フィールド、またはフォームビューをカスタマイズするオプションを選択します。
元に戻す ( ) やり直し ( )	以前の編集ステータスに戻すには、ナビゲーションバーの [元に戻す] (アイコン) または [やり直し] ( ) を選択します。
[詳細テーブルプロパティ (Advanced table properties)] メニュー ( )	オプションを選択します。 • 詳細ビュー：選択したテーブルの詳細プロパティを管理します。詳細については、「テーブルアドミニストレーション」を参照してください。 • フォームデザイナー：選択したテーブルをフォームデザイナーで起動します。詳細につ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

基本的なナビゲーション要素 (続く)

ナビゲーション要素	説明
	いては、「フォームデザイナーの使用」を参照してください。 • テーブルを削除：選択したテーブルを削除します。 注: このオプションは [データ] タブにのみ表示されます。
プレビュー (Preview)	[プレビュー] を選択して、選択したフォームが Now Platform でどのように表示されるかを確認します。プレビューの詳細については、「フォームのプレビュー」を参照してください。
保存 (Save)	[保存] を選択して、選択内容への変更をコミットします。
検索フィールドとフィルターオプション ( )	検索ボックスを使用してフィールド列のリストをキーワードでフィルタリングするか、[フィルターオプション] リストを使用して非アクティブなフィールドを表示したり、拡張フィールドをリストから非表示にしたりします (テーブルが既存のテーブルから拡張されている場合)。
PDF エクストラクター ( )	選択したデータテーブルに PDF が関連付けられている場合は、この要素を選択して PDF エクストラクターツールを起動し、PDF を表示します。「PDF を使用してデータテーブルを作成する」を参照してください。

ドメインセパレーションと テーブルビルダー

ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：標準*

サポートレベルは標準ですが、いくつかの例外または特別な条件があります。

- ベーシックレベルを含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダー (SP) によって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスオーナーは、MVP (minimum viable product) ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。この構成は、特定のアプリケーションで前提とされているように、テナントごとに行います。

サンプルユースケース：アドミニストレーターは、レコードを他のテナントに対してはクローズしないが、1 つのテナントに対してクローズする場合、コメントを必須にすることができる必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

概要

開発者は テーブルビルダー を使用して、アプリケーション内のテーブルの各フォームビューのレイアウトとロジックを設定できます。UI ビルダー から起動すると、テーブルビルダー はドメインセパレーション、つまり ServiceNow インスタンス全体のマルチテナントアーキテクチャをサポートします。

注: テーブルビルダー が UI ビルダー から起動された場合は、ドメインセパレーションがサポートされます。App Engine Studio から テーブルビルダー を起動する場合、ドメインセパレーションはサポートされません。

テーブルビルダー を使用すると、ドメインセパレーションされた環境内の開発者は、同じブラウザーウィンドウ内でフォームを作成できます。テーブルビルダー のドメインセパレーションはアプリケーションスコープと同様に機能するため、アドミニストレーターがマルチテナント環境で作成または編集するのに役立ちます。

標準化は、ドメインセパレーションがインストールされている安定した正常な拡張性の高い ServiceNow インスタンスを維持するための重要な仕組みです。標準化により、ほとんどのインスタンスを共通の構成によって動作させることができます。インスタンスに数百または数千のドメインがある場合、それらを正常に管理するには厳格なガバナンスが必要です。ドメイン固有の構成は、インスタンス所有者が必要と判断した場合にのみ行う必要があります。ほとんどのインスタンスは、インスタンス全体でより統一されたエクスペリエンスを提供するために、共通のインスタンス構成に従う必要があります。また、インスタンス所有者は、リリースアップグレードの一部として含まれる新しい ServiceNow 機能の導入を遅らせるコードの無秩序な増加を最小限に抑えることができます。

テーブルビルダー におけるドメインセパレーションの仕組み

テーブルビルダー を使用すると、開発者は、セッションドメインを切り替えて、フォームレイアウト、セクションレイアウト、フォームロジックに対するドメイン上書きを作成できます。システム辞書レコードの変更 (フィールドラベルのフィールドメタデータなど) にはドメイン上書きは必要ありません。フォームレイアウトの変更では、変更が下位のドメインで実行される場合は、フォームレコードとセクションの両方に対するドメイン上書きが必要です。ドメイン上書きを作成する場合、上書きを保存する前にセクションラベルを編集することはできません。

注: UI ポリシーは、下位のドメインでも上書きできます。上書きインジケーターが UI ポリシーに表示されます。

グローバルドメインでは、開発者はドメインスコープを拡張して、異なるドメインからすべてのフォームビューを表示できます。開発者は、アイコンで示される上書きとともにすべてのフォームビューとビューを表示できます。

注: 単一のセクションフォームレコードには *sys_ui_forms* レコードが添付されていません。代わりに、これらのレコードには、2 番目のセクションが作成されるまで *sys_ui_section* レコードのみが添付されます。単一のセクションフォームに既存のドメイン上書きがあり、開発者が別のセクションをフォームに追加すると、既存のドメイン上書きは破棄されます。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用

テーブルビルダー のアプリケーションスコープリストからアプリケーションを選択すると、Now Platform で選択したアプリケーションのユーザーのフォームビューをカスタマイズできます。

アプリケーションスコープは、アプリケーションファイルやデータに対するアクセスを識別して制限することによって、アプリケーションを保護します。アドミニストレーターは、アプリケーションのどの部分を他のアプリケーションからアクセスできるかを指定できます。これは、データとアプリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ケーションファイルを保護するために役立ちます。テーブルビルダー では、テーブルまたはフォームを操作するときに、アドミニストレーターと開発者がアプリケーションスコープを設定できます。

テーブルビルダー のスコープを変更すると Now Platform® のスコープも変更され、Now Platform® のスコープを変更すると テーブルビルダー のスコープが変更されます。

フォームを作成するときは、作業するスコープに注意する必要があります。テーブル、フォーム、またはポリシーの正しいアプリケーションスコープを選択します。 [スコープを選択] リストは [ドメインを選択] リストの近くにあります。スコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で存在しているスコープです。ユーザーがページ内で別のスコープに変更すると、フォームが作成されたものとは異なるアプリケーションスコープ内にいることが通知されます。

テーブルビルダー の使用

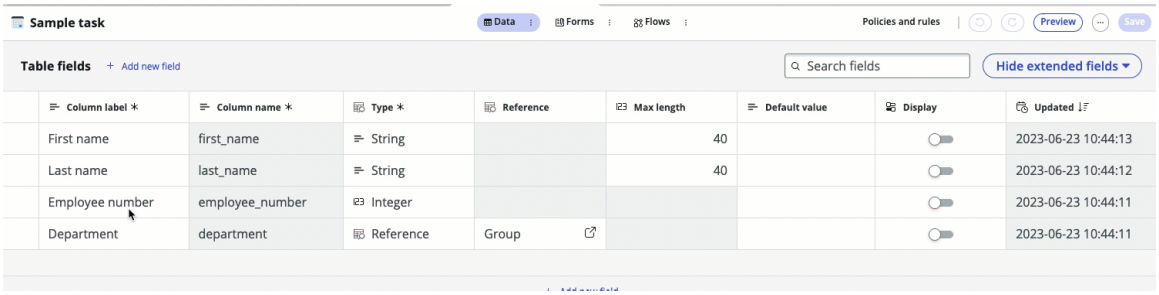
テーブルビルダー を使用すると、既存の Now Platform ツール間を移動せずに、単一のインターフェイスからユーザーのテーブル、フォーム、およびフォーム要素を設計およびカスタマイズできます。

テーブルビルダー 内のデータ

テーブルビルダー を使用すると、テーブルプロパティを変更し、選択したデータテーブルで使用可能なフィールドを管理できます。

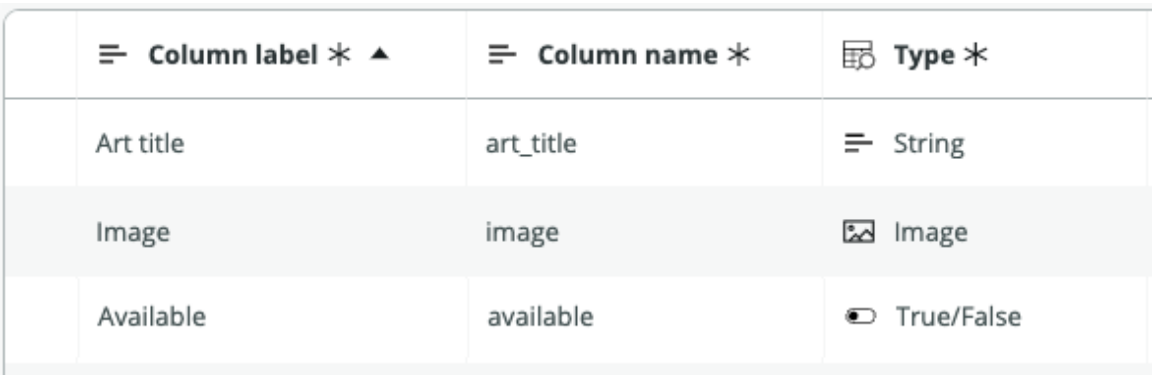
テーブルビルダー はデータテーブルを編集するためのツールです。テーブルの列を編集して、[データ] タブでテーブルを編集します。

テーブルビルダー



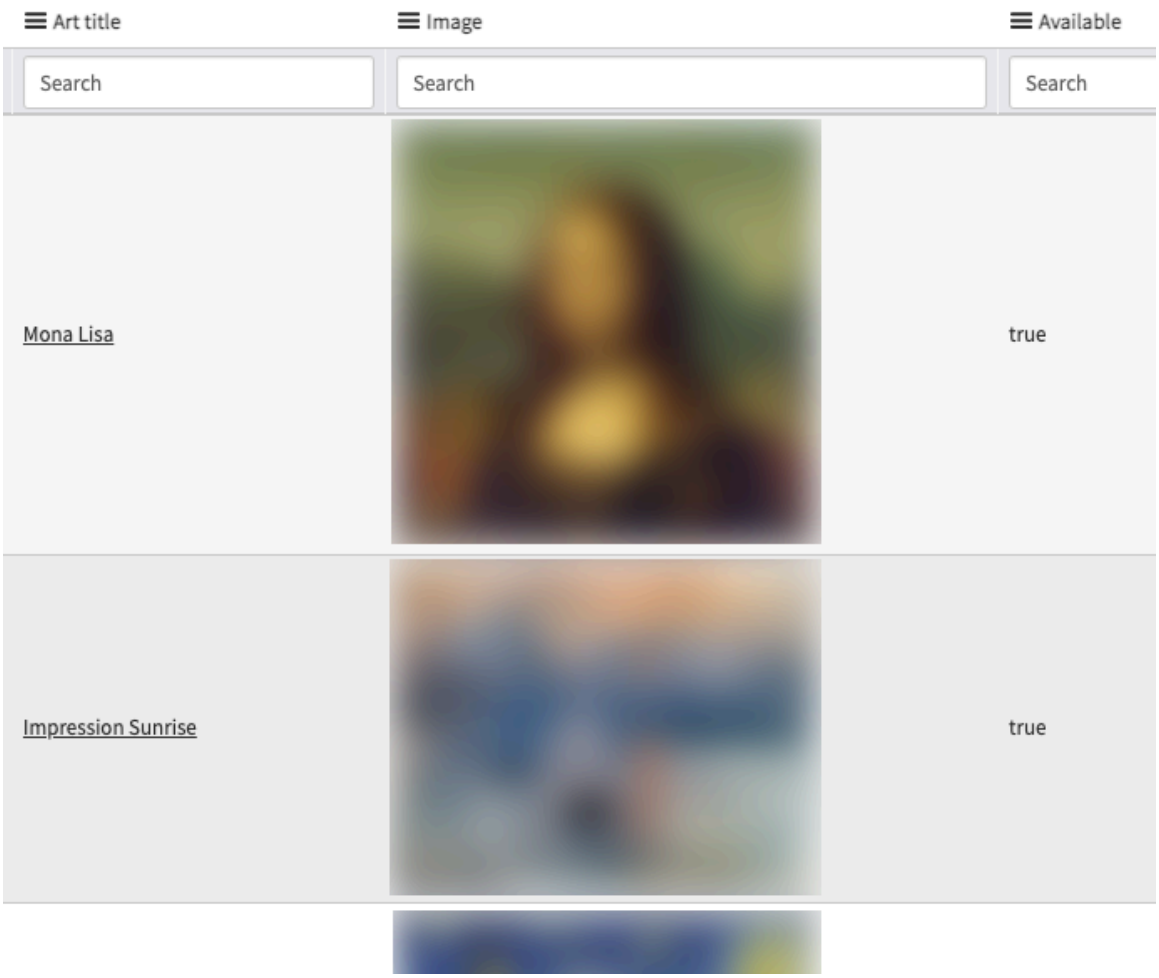
テーブルビルダー では、テーブルの各列が行として表されます。たとえば、「Art title」、「Image」、および「Available」は実際のテーブルでは列のヘッダーとして表示されます。しかし、テーブルビルダー で列を編集するときには、行として表示されます。

例： テーブルビルダー での列



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例：**2** つのレコードが表示された実際のデータテーブル



デフォルトの [フィールド] ビューで編集する特定のテーブル列を簡単に見つけるには、右上の検索ボックスに列名を入力します。入力すると、入力したキーワードに一致するように、以下の列のリストがフィルタリングされます。

注: [フィルターオプション] リストを使用して非アクティブ化されているフィールドを表示したり、拡張フィールドをリストから非表示にしたりします (テーブルが既存のテーブルから拡張されている場合)。

テーブルの列の検索

テーブルビルダー でテーブル列を編集するときは、各行がフォーム上のフィールドであると考えてください。たとえば、列ラベルを変更する場合は、ユーザーがフォームフィールドに入力することが予想されるデータを説明するラベルを使用します。この種類のフォームエントリーをサポートするように列タイプを変更します。

フィールドビューでテーブルのプロパティとテーブル構造を変更します。このビューでは、次のアクションを実行できます。

- テーブルに新しい列を追加する。「テーブルビルダー でのテーブル列の追加」を参照してください。
- テーブルの列を削除する。「テーブルビルダー でのテーブル列の削除」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テーブルのプロパティを編集する。「テーブルビルダー でのテーブルプロパティの編集」を参照してください。
- 列ラベルを変更する。「テーブルビルダー での列ラベルの変更」を参照してください。
- 列名を変更する。「テーブルビルダー でのテーブル列名の変更」を参照してください。
- 列タイプを変更する。「テーブルビルダー での列タイプの変更」を参照してください。
- テーブルにデフォルト値を追加する。「テーブルビルダー でのデフォルト値のテーブル列への追加」を参照してください。
- テーブルの表示名として列を選択する。「テーブルビルダー でのテーブル表示値としての列の選択」を参照してください。
- テーブルを削除する。「テーブルビルダー でのテーブルの削除」を参照してください。

スプレッドシートビュー内で、テーブル構造とスプレッドシート形式のデータレコードを操作します。ここでは、次のアクションを実行できます。

> **注:** この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

- 新しいデータレコードを追加する。「新しいデータレコードの追加」を参照してください。
- 個々のデータレコードを編集する。「個々のデータレコードの編集」を参照してください。
- データレコードをソートする。「データレコードのソート」を参照してください。
- データレコードをフィルタリングする。「データレコードのフィルタリング」を参照してください。
- 列フィールドのプロパティを編集する。「列フィールドのプロパティの編集」を参照してください。
- 新しい列を追加する。「新しい列の追加」を参照してください。
- 既存の列を複製する。「既存の列の複製」を参照してください。
- 列を並べ替える。「列の並べ替え」を参照してください。
- 列の可視化を設定する。「列の可視化の設定」を参照してください。
- 複数列を固定する。「複数列の固定」を参照してください。
- テーブルの列を削除する。「列の削除」を参照してください。

スキーマビューを使用して、テーブルのテーブル関係を表示することもできます。「テーブルビルダー のスキーマビュー」を参照してください。

> **注:** この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。

テーブルビルダー のスプレッドシートビュー

テーブルビルダー の [スプレッドシート] ビューを使用して、アプリケーションデータレコードとデータ構造をスプレッドシート形式で操作します。

概要

テーブルビルダー のスプレッドシートビューを使用すると、使い慣れたスプレッドシート形式でアプリケーションテーブルとそれに伴うデータを確認できます。単一の画面から、列の追加、列の削

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

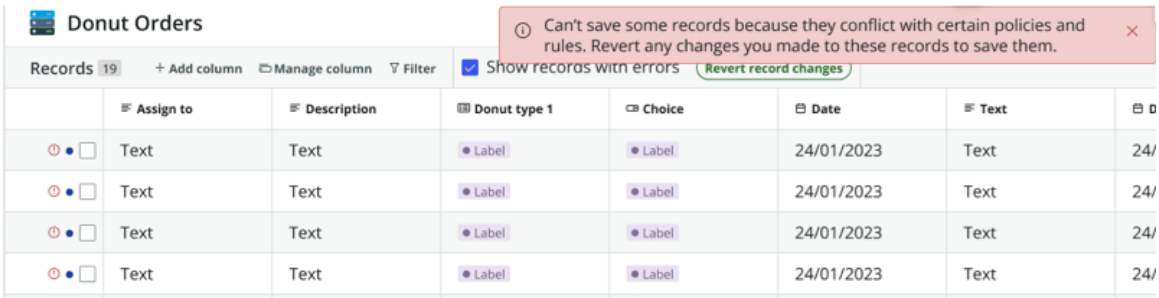
除、列プロパティの変更、およびそれらの列内の個々のデータレコードの確認と更新を行うことができます。

スプレッドシートビューでのデータレコードの保存

データレコードを保存しようとすると、エラーが発生することがあります (適用可能なポリシーまたはビジネスルールとデータが競合する場合など)。これが発生すると、エラーが発生したデータレコードのフィルター済みリストとともに警告ポップアップが表示されます。

各レコードのデータを個別に修正するか、[レコードの変更を元に戻す] を選択して、エラーが発生したレコードに加えた変更を元に戻します。

スプレッドシートビューのエラー



テーブルビルダー の [スプレッドシート] ビューを使用して、選択したテーブルのテーブルフィールド構造とインポートされたデータレコードを編集するには、次の手順を使用します。

新しいデータレコードの追加

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内に新しいデータレコードを追加します。

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

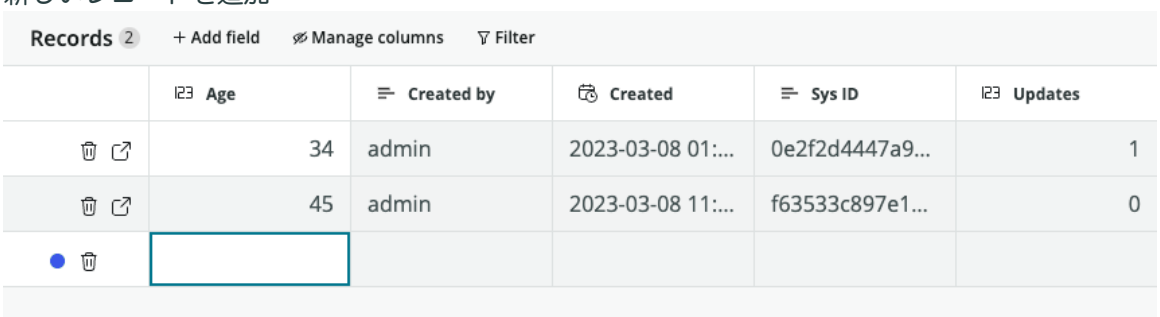
手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

2. [新規レコードを追加] アイコン ( ) を選択します。

新しいレコードを追加



3. データレコードに変更を加えます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [保存] を選択します。
   エラーのトラブルシューティングの詳細については、「スプレッドシートビューでのデータレコードの保存」を参照してください。

個々のデータレコードの編集

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内で個々のデータレコードを編集します。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

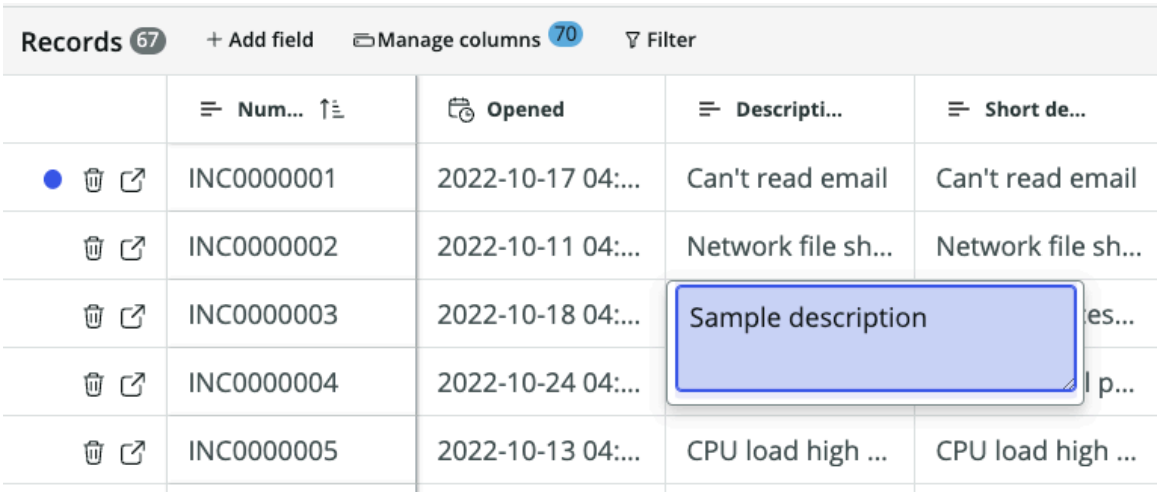
手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

2. 編集可能なデータレコードフィールドをクリックして、編集するデータを起動します。

   フィールドを編集



3. データに変更を加えます。
4. [保存] を選択します。
   エラーのトラブルシューティングの詳細については、「スプレッドシートビューでのデータレコードの保存」を参照してください。

データレコードのソート

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内の特定のフィールド列でデータレコードをソートします。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

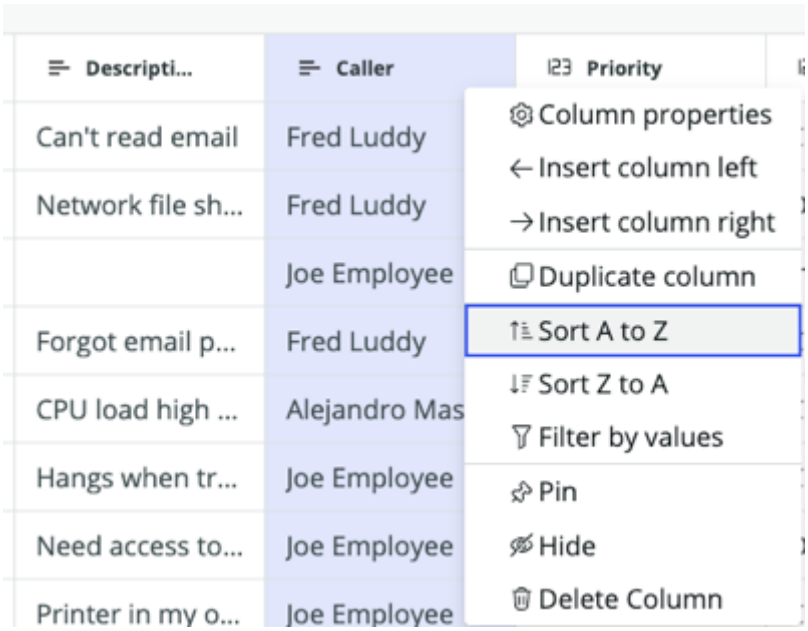
手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

2. レコードリストをソートする基準となるデータを含む列ヘッダーにカーソルを合わせ、[他のアクション] アイコン ( ) を選択して、アクションの列固有のリストを起動します (レコードを承認日で昇順にソートするなど)。
3. 次のオプションから選択して、列のデータを昇順または降順のどちらでソートするかを選択します。
   - 昇順でソートまたは古い順にソート (昇順)
   - 降順でソートまたは新しい順にソート (降順)

   承認日でのソート



   選択した順序でレコードリストが表示されます。

一致するデータレコードを表示

テーブルビルダー スプレッドシートビュー内の選択したフィールドに一致するデータを含むデータレコードのフィルター済みリストを表示します。

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

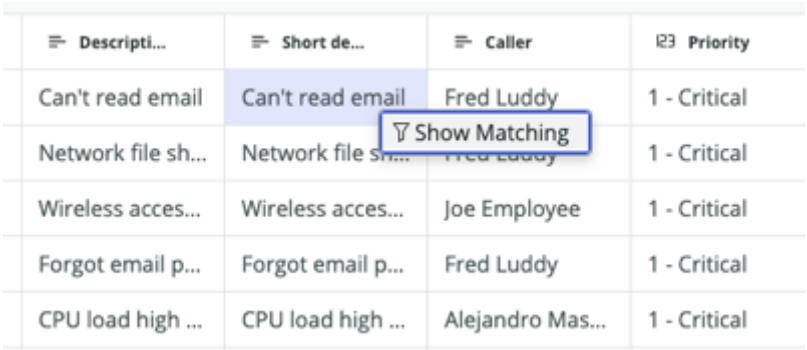
1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. セル内のデータレコードを選択したままにすると (または右クリックすると)、一致するデータを含むレコードのフィルター済みリストが作成されます (たとえば、[簡単な説明] が「Can't read email」であるすべてのレコードを表示します)。

一致するデータレコードを表示



グリッドの上部にある [フィルター] ボタンをクリックすると、一致するデータを含むレコードのフィルター済みリストが表示され、新しいフィルタークエリが追加されてアクセスできます。

> **注:** 追加したフィルタリングを削除するには、[フィルター] ボタンを選択し、リストから新しいフィルター条件を削除します。「データレコードのフィルタリング」を参照してください。

データレコードのフィルタリング

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内で条件付きクエリを設定して、リストに表示するデータレコードのみを表示します。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。

> **注:** デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

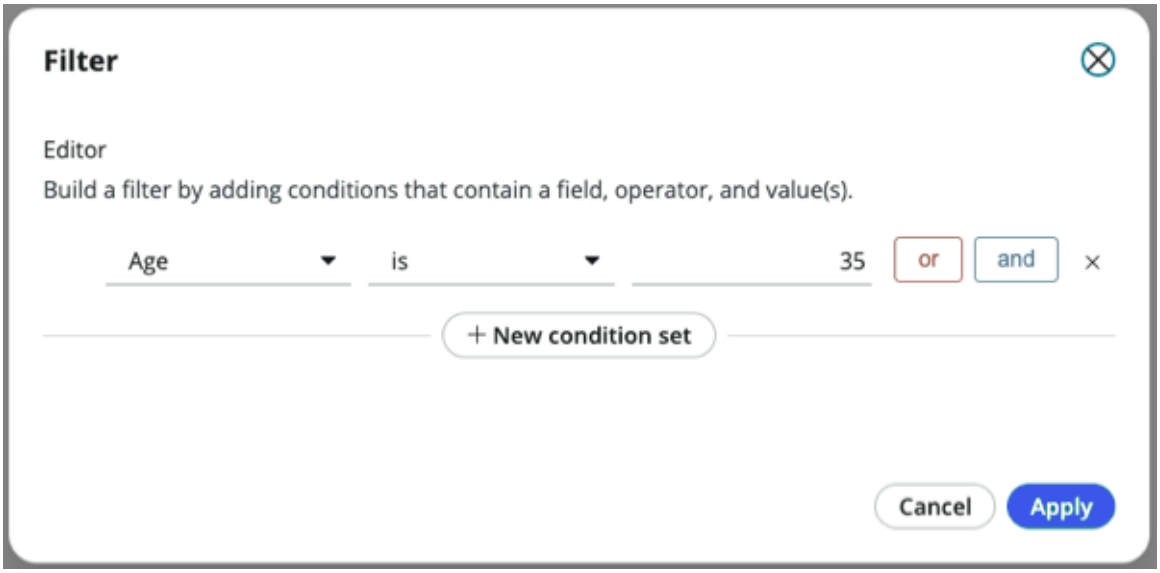
2. スプレッドシートの上にある [フィルター] を選択して、フィルタークエリを起動します。
特定の列の [他のアクション] メニュー ( ) から [値でフィルタリング **(Filter by value)**] を選択して、クエリのその列のデータを事前に選択することもできます。

> **注:** [フィルター] ボタンの右側に数字が表示されている場合は、ビューに既存のフィルターが設定されていることを意味します。

[フィルター] ウィンドウが (既に設定されているフィルター基準とともに) 表示されます。この場合、既存のフィルターは、[経過時間] が 35 のレコードを表示するように設定されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データのフィルター



3. フィルタリングクエリを入力して、表示するデータレコードを指定します。
   - [新しい条件セット] ボタンを選択して、OR ステートメントで接続された新しいフィルター条件を入力します。
   - [または] ボタンまたは [および] ボタンを選択して、既存のフィルターセットを目的のブール値で拡張します。
   - フィルター条件の行を削除するには、[削除] アイコンを選択します。
4. [適用] を選択して、フィルター条件をビューに適用します。
   選択した条件でフィルタリングされたレコードリストが表示されます。

列フィールドのプロパティの編集

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビューで、フィールドのラベル、タイプ、属性、デフォルト値などのフィールドプロパティを編集します。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

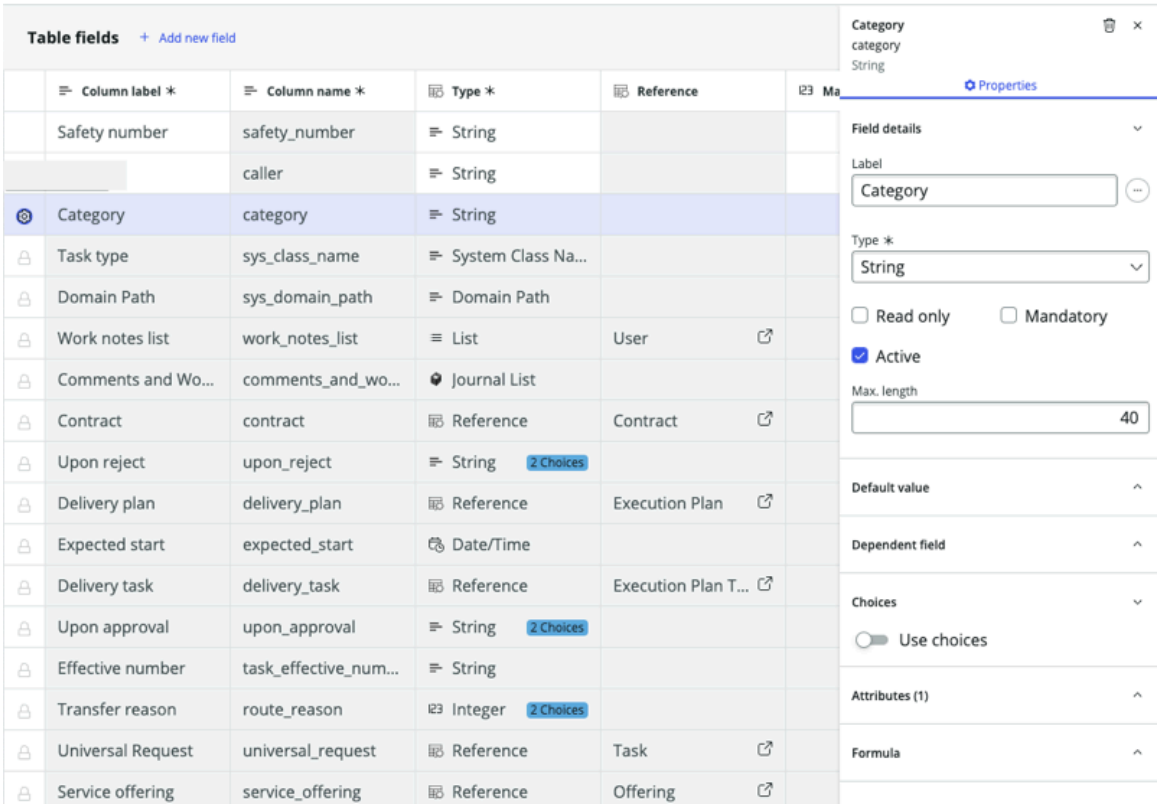
1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

2. 目的の列ヘッダーにカーソルを合わせ、[他のアクション] アイコン ( ) を選択して、アクションの列固有のリストを起動します。
3. [列プロパティ] を選択します。
   選択したフィールド列の [プロパティ] ペインが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プロパティ] ペイン



4. 列の目的のフィールドプロパティを編集します。
   フィールドプロパティの詳細については、「テーブルビルダー のフィールド構成」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

新しい列の追加

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内の選択したテーブルに新しいフィールド列を追加します。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

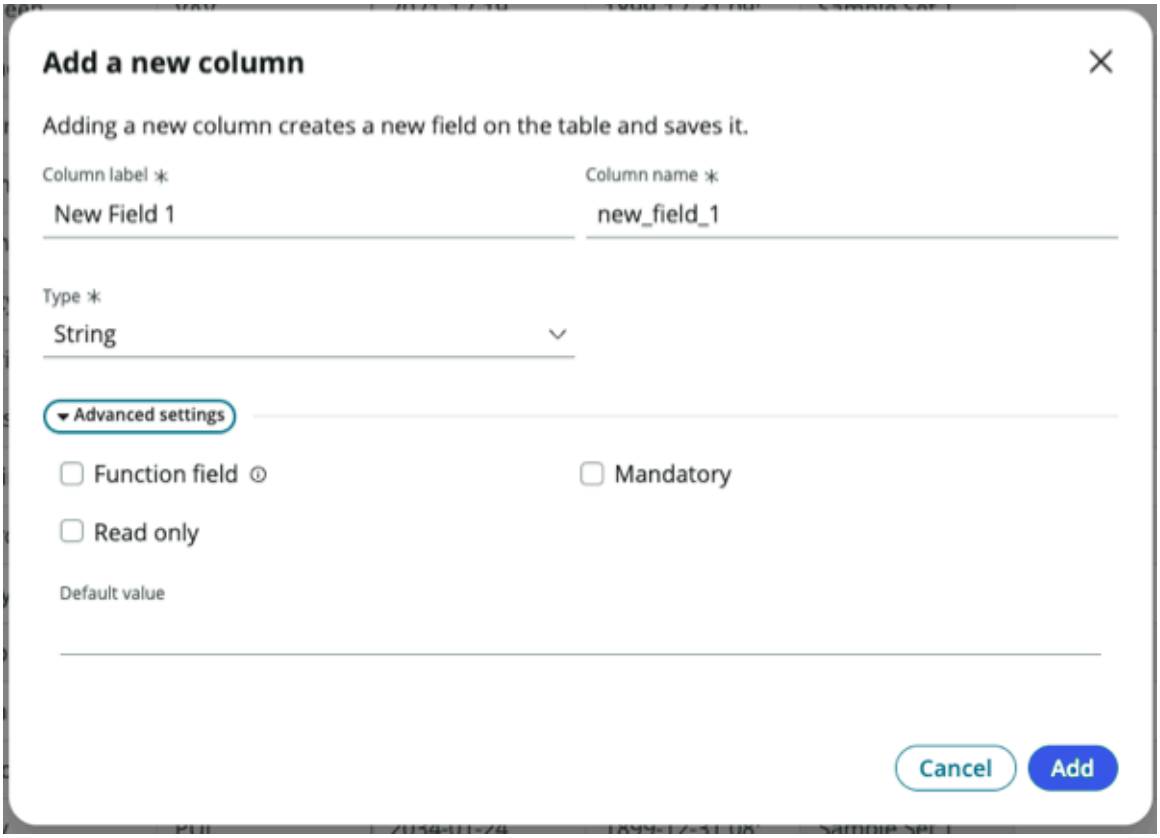
2. [+ フィールドを追加] ボタンを選択します。

   注: [他のアクション] アイコン ( ) を選択して、列固有のアクションのリストを起動し、[列を左に挿入] または [列を右に挿入] を選択して、テーブル内の特定の場所に新しい列を挿入することもできます。

   [新しい列を追加] ウィンドウが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい列を追加



3. 新しいフィールド列に次の情報を入力します。

フィールド	説明
列ラベル	列の一意のラベル。
列名	列のデータベース名。
タイプ	列に含まれる情報のタイプ。たとえば、列にプレーンテキストを含める場合は、[文字列] を選択します。 選択したタイプによっては、他のフィールドに入力してテーブル列をさらに定義します。たとえば、[文字列] を選択した場合は、文字列入力の文字数制限を定義します。または、[選択肢] を選択した場合は、ユーザーが選択できる選択肢を定義します。 「フィールドタイプ」を参照してください。

4. オプション: [詳細設定] を選択して展開し、新しいフィールド列の追加プロパティを入力します。

フィールド	説明
機能フィールド	(Optional) 関数フィールドは、他のフィールドと定数の単純な計算に基づいて値を生成しま

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	す。[関数の定義] フィールドが表示され、関数を定義できます。
必須	(Optional) ユーザーがフォームへの変更を保存する前にフィールドへのデータ入力を要求するために選択できるオプション。
読み取り専用	(Optional) フォームユーザーがフィールドを編集できないようにするために選択できるオプション。
デフォルト値	(Optional) フィールドのデフォルト値を表す文字列または数値。これは、作成されると列のすべての行に自動入力されます。

5. テーブルに新しいフィールド列を追加するには、[追加] を選択します。

既存の列の複製

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビューに表示されるテーブル内の既存のフィールド列を複製します。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

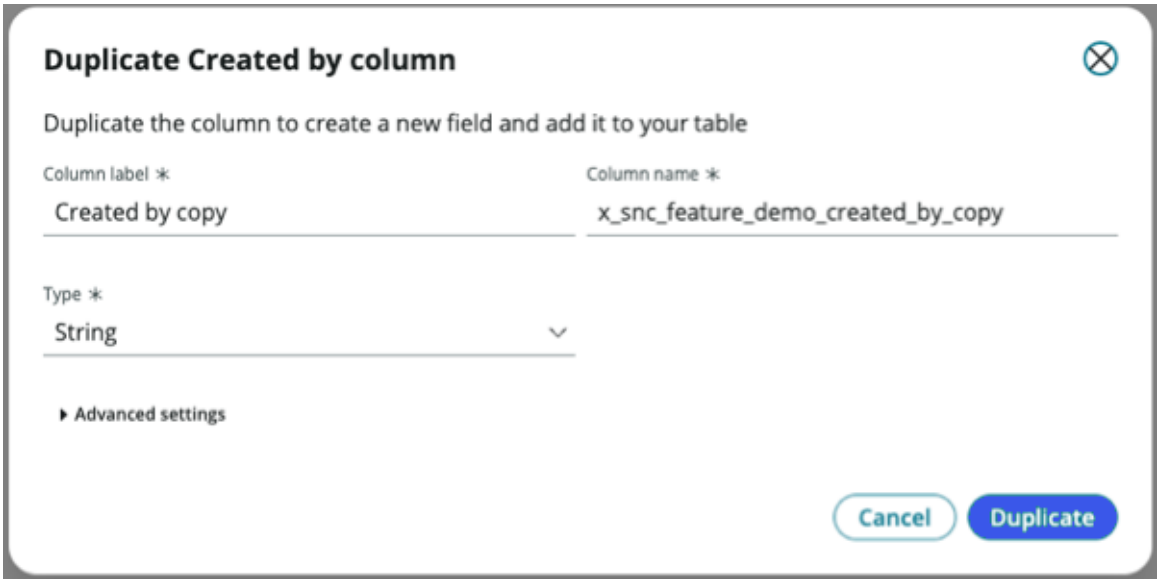
1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

2. 複製する列のヘッダーにカーソルを合わせ、[他のアクション] アイコン ( ) を選択して、アクションの列固有のリストを起動します。
3. メニューから [重複した列] を選択します。
   テキスト「copy」が既存の列ラベルに自動的に追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重複した列



4. [列ラベル] を、複製されたフィールド列の目的の表示名に編集します。
5. 必要に応じてフィールド列の [タイプ] を編集します。

   「フィールドタイプ」を参照してください。

6. [複製] を選択します。
   ビューに新しい列が表示されます。

列の並べ替え

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内で列が表示される順序を変更します。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

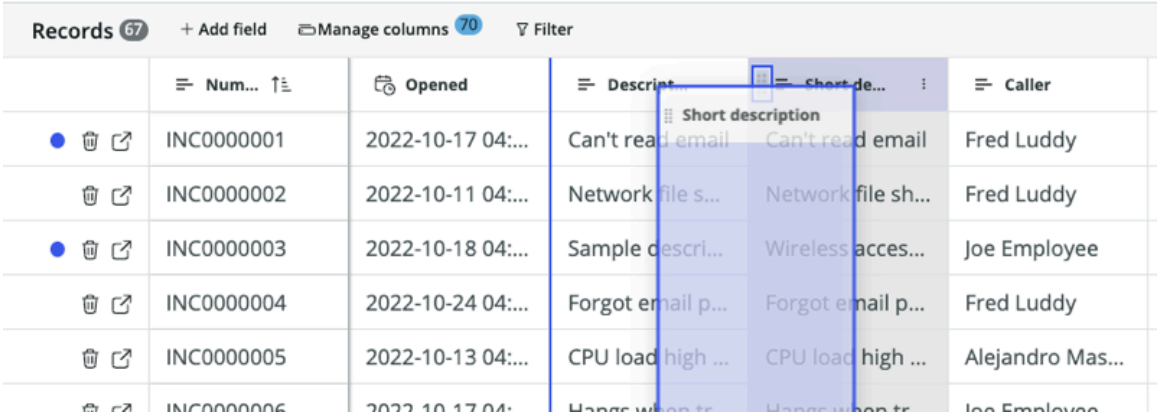
1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー () から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

2. 列の [列ハンドル **(Column handle)**] アイコン () をクリックして選択し、その列をテーブル内の目的の場所にドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

列のドラッグアンドドロップ



注: テーブルに多数のテーブル列が含まれている場合は、[列を管理 **(Manage columns)**] メニューを選択して列名のコンパクトなリストを表示し、このリスト内で視覚的にドラッグアンドドロップしてテーブルの列を並べ替えます。

列の可視化の設定

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内の特定のフィールド列を非表示にするか表示するかを選択します。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

2. 次のいずれかのオプションを選択します。

アクション	ステップ
列を非表示にする	[列を管理] ボタンの使用： **a.** [列を管理] ボタンを選択して、利用可能な列のリストを表示するウィンドウを起動します。 **b.** 非表示にする列の選択を解除します。選択した列のみがビューに表示されます。 列のコンテキストメニューの使用： **a.** 非表示にする列ヘッダーにカーソルを合わせ、[他のアクション] アイコン ( ) を選択します。 **b.** メニューから [非表示] を選択して、列をビューから非表示にします。
列を再表示する	[列を管理] メニューの使用：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	ステップ
	a. [列を管理] ボタンを選択して、利用可能な列のリストを表示するウィンドウを起動します。 b. 再表示する列の左側にあるチェックボックスをオンにします。選択した列のみがビューに表示されます。

注: [列を管理] ボタンの右側に、ビューでアクティブになっている列の数を示す数字が表示されます。

複数列の固定

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内で多数のフィールド列があるテーブルで右にスクロールしたときに常に左側に表示されるように特定の列を固定します。固定された列は、グローバルではなく個々のユーザーに対して保存されます。ユーザーが次回ログインしたときに、固定した列が表示されます。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

2. フィールド列を固定または固定解除するには、次のいずれかのオプションを選択します。

アクション	ステップ
単数列の固定	a. 固定する列ヘッダーにカーソルを合わせ、[他のアクション] アイコン ( ) を選択します。 b. メニューから [固定] を選択して、ビューの左側に列を固定します。
列の固定解除	a. 固定解除する列ヘッダーにカーソルを合わせ、[他のアクション] アイコン ( ) を選択します。 注: 固定された列には、リスト内の列の左側にチェックマークが表示されます。 b. [固定] をオフに切り替えて、固定された列の固定を解除します。

注: [列を管理] ボタンをクリックして、ビューに固定されている列を表示することもできます。固定された列には、リストされた列の右側に [固定] アイコンが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

列の削除

テーブルビルダー [スプレッドシート] ビュー内の選択したテーブルのフィールド列を削除します。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [スプレッドシート] ビューにアクセスすることもできます。

2. 削除する列ヘッダーにカーソルを合わせ、[他のアクション] アイコン ( ) を選択して、アクションの列固有のリストを起動します (レコードを承認日で昇順にソートするなど)。
3. [列を削除] を選択します。
   確認ウィンドウが表示されます。
4. テーブルからフィールド列を削除するには、[削除] を選択します。

   注: 削除する列に保存されているデータレコードがある場合、このフィールドに保存されているレコードを削除するまで、列を削除することはできません。

テーブルビルダー のフィールドビュー

テーブルビルダー の [データ] タブにあるデフォルトの [フィールド] ビューを使用して、テーブルプロパティを変更し、テーブルフィールドを管理します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

テーブルビルダー で [フィールド] ビューを使用してテーブルを編集するには、次の手順を使用します。

テーブルビルダー でのテーブル列の追加

テーブル列を追加して、テーブルレコードにより多くの情報を保存します。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

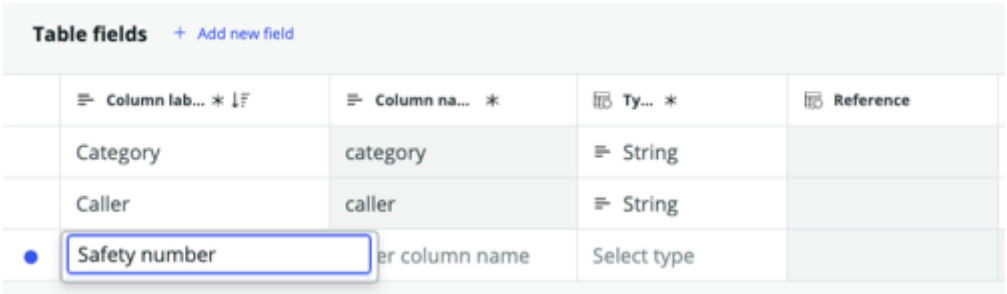
手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. **[+** 新しいフィールドを追加] を選択します。
3. 結果の空白行で、新しいデータテーブル列の目的のプロパティを入力します。

テーブルへの新しいフィールドの追加



フィールド	説明
列ラベル	列の一意のラベル。
列名	列のデータベース名。
タイプ	列に含まれる情報のタイプ。たとえば、列にプレーンテキストを含める場合は、[文字列] を選択します。 選択したタイプによっては、他のフィールドに入力してテーブル列をさらに定義します。たとえば、[文字列] を選択した場合は、文字列入力の文字数制限を定義します。または、[選択肢] を選択した場合は、ユーザーが選択できる選択肢を定義します。 「フィールドタイプ」を参照してください。
参照	列に関連付けられているテーブル。このフィールドは、列タイプが [参照] の場合にのみ適用されます。
最大長	ユーザーがフィールドに入力できる最大文字数。
デフォルト値	新しいレコードが作成された後にフィールドに自動的に入力される値。
表示	その列をテーブルの表示値として設定するオプション。 参照フィールドには、参照先のテーブルの表示値が表示されます。たとえば、タスクテーブルの [オープン者 **(Opened by)]** 列はユーザーテーブルを参照します。ユーザーテーブルの表示値はユーザー名であるため、[オープン者 **(Opened by)]** フィールドには「**Beth**

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	Anglin」や「**Joe Employee**」のように表示されます。表示値を選択するときは、個々のレコードの適切なタイトルとして機能するテーブル列を選択します。 テーブルの表示値として機能できるのは 1 つの列のみです。

4. [保存] を選択します。

タスクの結果
テーブルをプレビューすると、テーブルに追加された新しい列を表示できます。テーブルのプレビューの詳細については、「テーブルビルダー でのデータのプレビュー」を参照してください。

テーブルビルダー でのテーブル列の削除

テーブルビルダー を使用して、テーブルから列を削除します。

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順
1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. 削除するテーブルフィールド行の横にある左端の列にカーソルを合わせ、サイドパネルを開くアイコン ( ) を選択します。
3. サイドパネルの右上隅にあるゴミ箱アイコン ( ) を選択して、フィールドを削除します。

   注: テーブルには、削除できないいくつかのデフォルト列が含まれています ([作成日時] や [更新日時] など)。また、別のテーブルから拡張された列や、データレコードがすでに存在する列は削除できません。列を削除するには、まず既存のデータを削除する必要があります。

4. 確認ダイアログで、[削除] を選択します。

タスクの結果
テーブルをプレビューすると、テーブル列がそのテーブルでもう使用されていないことがわかります。テーブルのプレビューの詳細については、「テーブルビルダー でのデータのプレビュー」を参照してください。

テーブルビルダー での列ラベルの変更

保存されているデータをユーザーが一意に特定できるラベルを変更します。

始める前に
必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

列ラベルは、ユーザーがアプリケーションデータを読み取ったり更新したりするときに、ユーザーに表示されるテキストです。たとえば、要求者が入力するフォームを作成すると、各列ラベルがフォームフィールドラベルとして表示されます。

ユーザーに入力してほしい特定の情報を説明する列ラベルを使用します。たとえば、ユーザーにコメントを追加するように求めるには、「テキスト」ではなく「コメント」という列ラベルを使用します。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. 対応する行のテキストを更新して、[列ラベル] 列の列ラベルを変更します。

   たとえば、「オフィスの場所」列のラベルを変更するには、「オフィスの場所」と表示されているセルを選択し、別のラベルを入力します。

   別のセルを選択すると、列ラベルは自動的に更新されます。

3. [保存] を選択します。

テーブルビルダー でのテーブル列名の変更

列のデータベース名を変更します。レビュー担当者が、テスト中にデータベース内の列名が原因で問題が生じていることを発見した場合は、列名を手動で変更できます。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて

注: すでに情報が保存されている既存のフィールドの列名を変更することはできません。

列名は、アドミニストレーターがデータベース内の列データを追跡するために使用するテキストです。列ラベルを入力すると、列名が自動的に作成されます。テーブルビルダー で、列ラベルを変更すると、列名も自動的に変更されます。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. 対応する行のテキストを更新して、[列名] 列の列名を変更します。

   たとえば、「オフィスの場所」列の名前を変更するには、u_office_location と表示されているセルを選択して、別の名前を入力します。

   別のセルを選択すると、列名が自動的に更新されます。

3. [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルビルダー での列タイプの変更

テーブル列に行に関する情報を保存するフィールドのタイプを変更します。たとえば、テーブルが日付をトラッキングしている場合は、[日付] 列タイプを選択します。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. セルを選択し、[タイプ] 列からテキストをクリアします。
3. リストから列タイプを選択します。

   新しいテキストを入力してリストを検索できます。たとえば、すべての文字列タイプを検索するには、「文字列」と入力します。

4. 必要に応じて、より多くの情報を使用して列タイプを定義します。

   たとえば、[選択肢] を選択した場合は、ユーザーが選択できる選択肢のリストを定義します。

   別のセルを選択すると、列タイプが自動的に更新されます。

5. [保存] を選択します。

テーブルビルダー でのフィールドプロパティの編集

テーブルビルダー で、フィールドのラベル、タイプ、デフォルト値などのフィールドプロパティを編集します。

始める前に

テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. テーブル内の変更するフィールドを選択します。

   基本的なフィールドプロパティの詳細については、「 フィールドの構成」を参照してください。

3. 編集するフィールドの横にある左端の列にカーソルを合わせ、サイドパネルを開くアイコン ( ) を選択します。
4. フィールドプロパティを変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールドの UI ポリシーの変更方法については、「テーブルビルダー での UI ポリシーの変更」を参照してください。

> **注:** [データ] タブと [フォーム] タブを切り替えても、右側の [構成] タブは開いたままになります。

5. [保存] を選択します。

テーブルビルダー でのデフォルト値のテーブル列への追加

ユーザーがレコードを作成した後、テーブル列に自動的に入力されるデフォルト値を定義します。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   > **注:** デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

2. 対応する行の内容を更新して [デフォルト値] 列に列のデフォルト値を追加します。

   デフォルト値を定義するには、セルを選択してから値を入力します。入力する値は列タイプによって異なります。たとえば、列に選択肢が必要な場合は、[タイプ] 列で定義した選択肢のいずれかを選択します。

   別のセルを選択すると、列名が自動的に更新されます。

3. [保存] を選択します。

テーブルビルダー でのテーブル表示値としての列の選択

他のテーブルの参照フィールドに表示される列の値を選択します。たとえば、タスクテーブルの [開始者] 列は、ユーザーテーブルの特定の列を参照して、ユーザー名を表示できます。

始める前に

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて

参照フィールドには、参照先のテーブルの表示値が表示されます。たとえば、タスクテーブルの [オープン者 (Opened by)] 列はユーザーテーブルを参照します。ユーザーテーブルの表示値はユーザー名であるため、[オープン者 **(Opened by)]** フィールドには「Beth Anglin」や「Joe Employee」のように表示されます。表示値を選択するときは、個々のレコードの適切なタイトルとして機能するテーブル列を選択します。

テーブルの表示値として機能できるのは 1 つの列のみです。

手順

1. [データ] タブに移動します。

   > **注:** デフォルトでは、[フィールド] ビューが表示されます。[他のアクション] メニュー ( ) から [フィールド] ビューにアクセスすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. [表示] 列のすべての選択がクリアされていることを確認します。
   選択をクリアするには、次の例に示すようにスイッチをオフに切り替えます。

   オフへの切り替え

3. [表示] 列から、テーブル表示値として機能する行を 1 つ選択します。
   行を選択するには、次の例に示すようにスイッチをオンに切り替えます。

   オンへの切り替え

4. [保存] を選択します。

テーブルビルダー のスキーマビュー

テーブルビルダー の [スキーマ] ビューを使用して、アプリケーションデータのデータ関係を探索します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール： personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

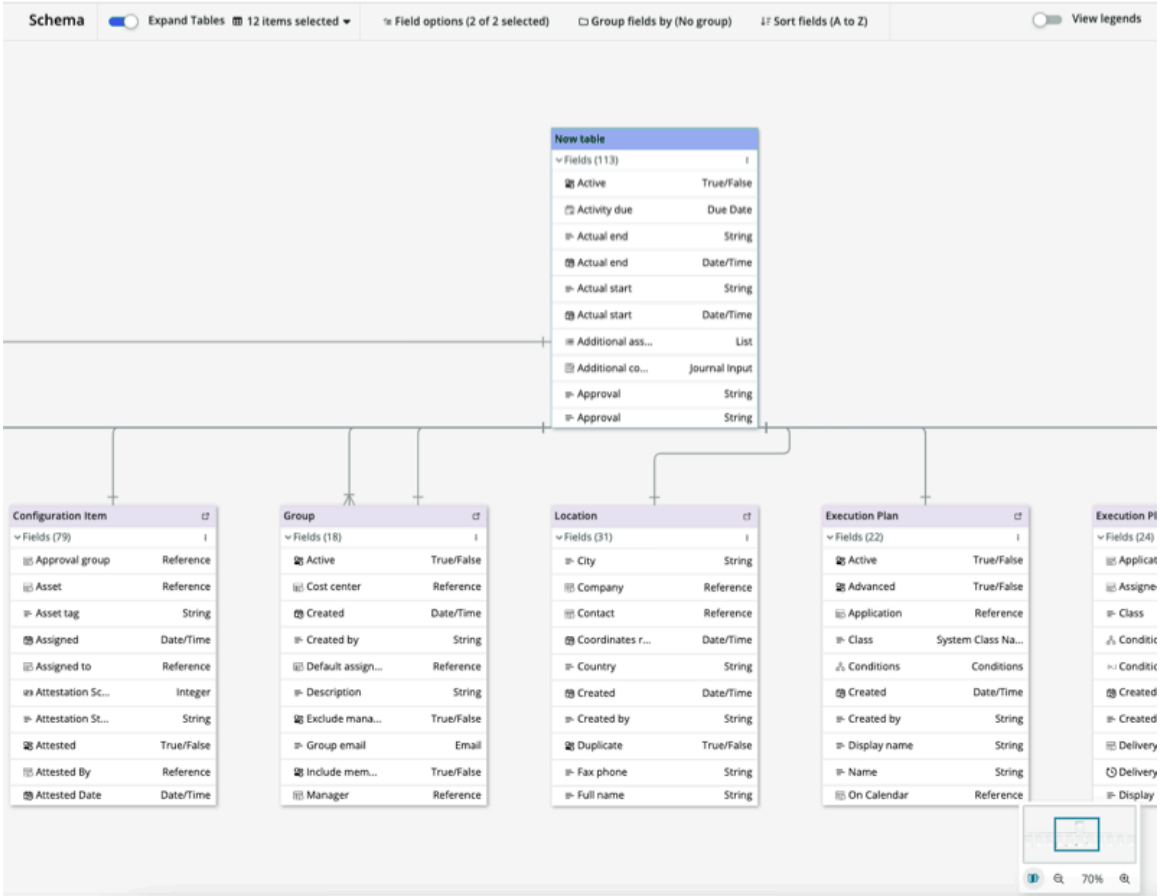
1. [データ] タブに移動します。

   注: デフォルトでは、スプレッドシートビューが表示されます。

2. オプション: [他のアクション] メニュー ( ) から [スキーマ] を選択して、[スキーマ] ビューにアクセスできます。
   テーブルと他のテーブルとの関係が画面に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スキーマビュー



3. マウスでキャンバスをドラッグして、スキーマ図内を移動します。
4. この読み取り専用画面では次の他のアクションを実行できます。

オプション	説明
ナビゲーションの概要コントロール	右下隅にある [概要トグル] アイコン (アイコン) を選択して、ナビゲーションの概要コントロールのオンとオフを切り替えます。このナビゲーションコントロールでは、次のアクションを実行できます。 ◦ スキーマ図がズームインされている場合は、ビューを表示する四角形をクリックしてドラッグし、図の確認したい部分に焦点を当てることができます。 ◦ [ズームイン] アイコン ( ) を選択してズームインします。 ◦ [ズームアウト] アイコン ( ) を選択してズームアウトします。
テーブルフィールドの表示/非表示	[テーブルを展開 **(Expand tables)**] トグルはデフォルトでオンになっており、表示されているスキーマテーブル内のすべてのフィールドが表示されます。表示されているスキーマテーブル内のフィールドを非表示にするには、[テーブル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	を展開 **(Expand tables)]** を選択してオフに切り替えます。
テーブルの表示/非表示	[選択済みアイテム **(Items selected)]** メニューを使用して、スキーマ図に表示されるアプリケーションテーブルと非アプリケーションテーブルのリストを表示します。テーブル名を選択して選択チェックマークを削除すると、テーブルが図に表示されなくなります。テーブルを表示するには、テーブル名をもう一度選択してチェックマークをオンに戻します。
フィールドオプションの設定	[フィールドオプション **(Field options)]** メニューを使用して、スキーマ図でのフィールドの表示方法を制御します。 ◦ スキーマテーブル内の拡張フィールドを表示するには、[拡張フィールド] を選択します。 ◦ スキーマテーブルに表示される各フィールドのフィールドタイプを表示するには、[フィールドタイプ] を選択します。
グループフィールド	表示されているテーブル内のフィールドをグループ化するには、[フィールドのグループ化 **(Group fields by)]** メニューを使用します (タイプ別にフィールドをグループ化するなど)。次のグループ化オプションから選択します。 ◦ グループなし ◦ 拡張済み ◦ 参照 ◦ タイプ
ソートフィールド	表示されているテーブル内のフィールドをソートするには、[フィールドのソート **(Sort fields)]** メニューを使用します。次のソートオプションから選択します。 ◦ アルファベット順 (A ~ Z) ◦ アルファベット順 (Z ~ A)
凡例を表示	[凡例を表示 **(View legends)]** を選択して、表示されたスキーマ図を解釈するための情報を表示します。
テーブル固有のオプション	テーブルの [他のオプション] アイコン (⋮) を選択して、上記のトップレベルのオプションと同様に、選択したテーブルのフィールドの表示、グループ化、またはソートの方法を制御します。
テーブルビルダー で表示	[ビューテーブル] アイコン (⧉) を選択して、選択したテーブルを テーブルビルダー で表示します。

テーブルビルダー でのデータのプレビュー

テーブル列を編集した後のテーブルの外観を確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：なし

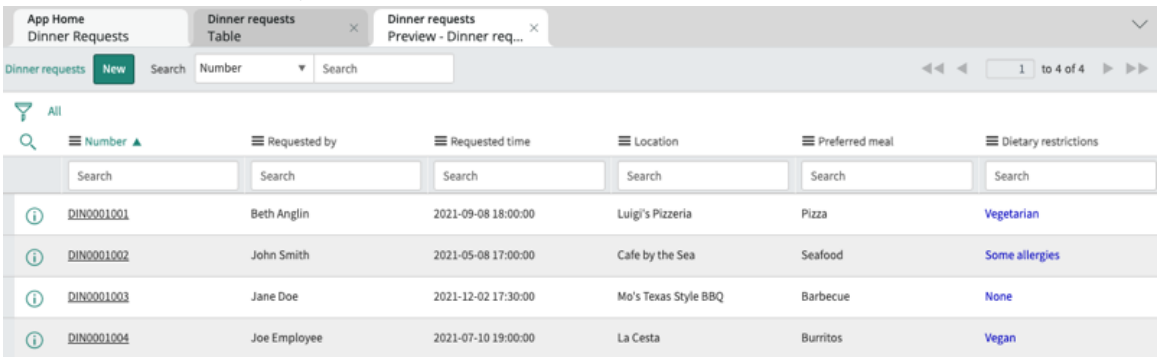
このタスクについて
テーブルビルダー 内の各行はテーブルの列を表します。テーブルをプレビューすると、列が適切な場所でどのように表示されるかを確認できます。テーブルでのレコード作成のエクスペリエンスをテストすることもできます。

注: 編集しているテーブルには、1 つ以上の関連付けられているロールが必要です。そうでない場合は、プレビューが無効となります。

手順

1. [データ] タブで、[プレビュー] を選択します。
2. 新しいタブで、次の例のようにテーブルのプレビューを確認します。

テーブルのプレビューの例



次のタスク
テーブルが予想どおりに機能しない場合は、テーブルビルダー で編集を続行します。その後、テーブルを再度プレビューします。

テーブルビルダー でのテーブルの削除

アプリケーションからテーブルを削除して、それ以降アプリダッシュボードに表示されないようにします。

始める前に

注: 既存の子テーブルをすべて削除するまで、親テーブルを削除することはできません。

必要なロール：ユーザーには **sys_db_object** に対する canDelete アクセス権、または AES ユーザーロールと委任開発者権限が必要です。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [データ] タブに移動します。
2. [メニュー] アイコン (•••) を選択し、[テーブルを削除] を選択します。
3. ダイアログボックスに、「削除」と入力してから、[削除] を選択します。
4. [保存] を選択します。

タスクの結果
このテーブルは、アプリダッシュボードで使用できなくなります。

テーブルビルダー でのテーブルプロパティの編集

テーブルビルダー を使用してテーブルを拡張可能にしたり、レコード数を追加したりできるように、テーブルラベルなどのテーブルプロパティやその他の設定を変更します。

始める前に
必要なロール：なし

> **注:** ユーザーには *sys_db_object* への canWrite アクセス権、または AES ユーザーロールと委任開発者権限が必要です。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
テーブルプロパティを編集すると、テーブルのラベルを変更したり、テーブルを拡張可能にしたり、レコード番号を追加したりすることができます。アプリケーションのアクセス設定を設定することもできます。

テーブルを拡張可能にすると、新しいテーブルを有効にして自分のテーブルから列を共有できます。たとえば、テーブルに「オフィスの場所」列を作成した場合、新しいテーブルでも「オフィスの場所」列を使用できます。テーブル拡張の詳細については、「テーブル拡張とクラス」を参照してください。

レコード番号を追加すると、新しいテーブルエントリごとにトラッキング番号が自動的に作成されます。たとえば、出張要求テーブルへの新しいエントリは、TRV1234567 のようなレコード番号を取得します。この番号を使用すると、テーブルレコードをより簡単に検索できます。

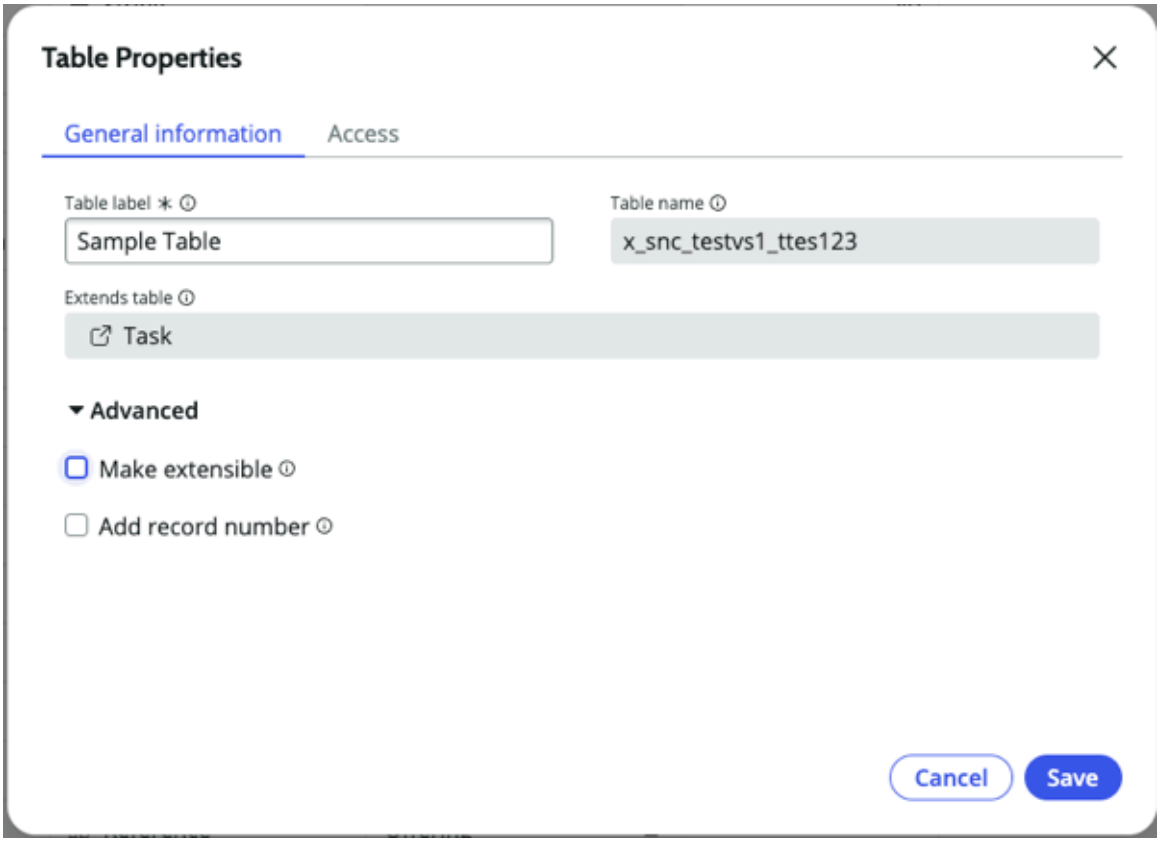
アプリケーションのアクセス設定によって、あるアプリケーションのスクリプトオブジェクトが別のアプリケーションのテーブルにアクセスできるかどうかが決まります。これらのスクリプトオブジェクトに、テーブルのレコードを読み取り、 作成、 更新、または削除するためのアクセス権を付与できます。または、他のアプリケーションからのテーブルへのアクセスを無効にすることもできます。アプリケーションのアクセス制御の詳細については、「テーブルの設計時と実行時の設定」を参照してください。

手順

1. [データ] タブに移動します。
2. [プロパティ] を選択します。
3. 次の例のように、表示されたダイアログボックスで、テーブルプロパティを更新します。
   これらのプロパティの詳細については、「テーブルのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルプロパティの編集



4. ダイアログボックスを閉じるには、[保存] を選択します。
5. [保存] を選択します。

テーブルビルダー のフォーム

テーブルビルダー の [フォーム] タブでは、フォームエディターを使用して、ユーザーのさまざまなフォームビューを視覚的に作成、設定、カスタマイズできます。定義したビューには、ユーザーがそのフォームまたはリストを開いたときに表示される要素が含まれます。

概要

フォームビューは、ユーザーがフォームまたはリストを開いたときにユーザーに表示される要素を定義します。各フォームにはデフォルトビューがありますが、ユーザーのグループごとに複数の異なるフォームビューを作成する必要が生じることもあります。

テーブルビルダー では、データを入力したりフォームを表示したりするさまざまなユーザー向けに、フォームの複数のビューをカスタマイズできます。どのユーザーのデフォルトのフォームビューもカスタマイズできます。

フォームまたはリストを構成するときは、次の主要な領域を探索します。

- フォームビューの選択
- すべてのフォームビューリスト
- フォームレイアウト
- フォームのフィールド
- フォーム注釈

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- フォーマッター
- 埋め込みリスト

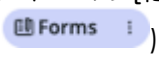
基本的なフォームのナビゲーション

[フォーム] タブは、次の 4 つの主要な領域で構成されています。

- 上部ナビゲーションメニュー
- [フォーム要素を追加] パネル
- フォームエディター
- 構成パネル

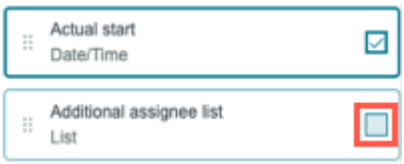
次の表は、テーブルビルダー の [フォーム] タブ内のその他の基本的なナビゲーション要素の一部のリストを示しています。

[フォーム] タブのナビゲーション要素

ナビゲーション要素	説明
フォームの [他のアクション] リスト ()	[フォーム] タブの [他のアクション] リスト (垂直の省略記号) を使用すると、次のアクションをすばやく実行できます。 • 新しいフォームビューを追加 • 選択したフォームビューを複製 • 関連リストを構成 • UI アクションを構成 • [すべてのフォームビュー] を選択して、すべてのフォームビューのフィルター可能でソート可能なリストに移動します。「すべてのフォームビューリスト」を参照してください。 エディターで加えられたフォームへの変更は、選択したビューにコミットされます。
フォームビューリスト ( )	このリストからフォームビューを選択するか、[他のアクション] メニュー (垂直の省略記号) を使用してビューを追加します。エディターで加えられたフォームへの変更は、選択したビューにコミットされます。
PDF エクストラクター ()	選択したデータテーブルに PDF が関連付けられている場合は、この要素を選択して PDF エクストラクターツールを起動し、PDF を表示します。「PDF を使用してデータテーブルを作成する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[フォーム] タブのナビゲーション要素 (続く)

ナビゲーション要素	説明
	注: この機能は、ライセンスによって「専用ローコード機能」が付与され、App Engine のテーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用できます。詳細については、ソリューションコンサルタントにお問い合わせください。
フォーム要素検索バー ( )	フォーム要素のリストをフィルタリングするには、ここにキーワードを入力します。
複数選択チェックボックス ()	[フォーム要素を追加] パネルでフォーム要素をポイントしたときに、複数のフィールドを一度に選択してフォームエディターにドラッグしたい場合は、このオプションを選択できます。
[フォーム要素を追加] アイコン ( )	フォーム要素やセクションをポイントするときにこのアイコンを選択すると、既存の要素の上または下に新しいセクションや要素を追加できます。
[要素移動] アイコン ( )	フォーム要素をポイントすると、このアイコンが左端に表示されます。このアイコンを選択し、要素をドラッグして目的の場所に移動します。
[フォーム要素の削除 (Delete form element)] アイコン ( )	エディターでフォーム要素をポイントするときにこのアイコンを選択すると、フォームビューからそのフォーム要素を削除できます。
[セクションを移動 (Move section)] 矢印アイコン ( )	フォームセクションを選択すると、上向き矢印または下向き矢印を選択して、フォームビュー上で上下に移動できます。
[セクションを削除] アイコン ( )	フォームセクションを選択するときにこのアイコンを選択すると、フォームビューからセクションを削除できます。
[パネルを開く (Open panel)] アイコン ( ) [パネルを閉じる] アイコン ( )	[パネルを開く (Open panel)] アイコンを選択すると、パネルが右側に展開されます。[パネルを閉じる] アイコンを選択すると、パネルが折りたたまれます。

フォームビューの選択

フォームエディターのフォームビューリストから、作業するフォームビューを選択します。

注: [フォーム] タブの [他のアクション] メニューからフォームビューを選択することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「テーブルビルダー でのフォームビューの選択」を参照してください。

すべてのフォームビューリスト

[フォーム] タブの右側にある [他のアクション] メニューから [すべてのフォームビュー] を選択して、フォームビューカードのフィルタリング可能なリスト (垂直の省略記号) を参照します。このページでは、移動するフォームビューが多数ある場合に、複雑なフィルタリングとソートを作成できます。

目的のフォームビューのリストが大きい場合は、次のオプションがあります。

すべてのフォームビューリスト

オプション	ステップ
検索	[検索] ボックスにキーワードを入力します。入力すると、カードのリストがフィルタリングされます。
フォームビューをソート	ソートリストからオプションを選択して、フォームビューカードをソートします。 • フォーム名 (昇順) • フォーム名 (降順) • 更新者 (昇順) • 更新者 (降順) • 更新日時 (最近から最後)：デフォルトのオプション • 更新済み (最後から最近)
フィルター基準を設定してフォームをフィルターする	**1.** [フィルター] アイコン ( ) を選択します。 **2.** AND/OR ロジックを含むフィルター条件基準を追加します。 **3.** 条件を追加するには、**[+** 新しい条件セット] を選択します。 **4.** [適用] を選択します。

フォームレイアウト (セクション)

ビューは、表示するデータ要素をグループ化するセクションで構成されています。

複数のセクションを追加し、各セクションのレイアウトを 1 列または 2 列に変更できます。セクションでは、フォームビューに表示するデータ要素をグループ化できます。これらの要素には、フォームフィールド、注釈、フォーマッター、埋め込みリストが含まれます。

「テーブルビルダー でのフォームレイアウトのカスタマイズ」を参照してください。

フォームのフィールド

テーブルビルダー でテーブルを選択すると、利用可能なフィールドがフォーム要素パネルに表示されます。テーブルのフィールドを作成したり、フィールドとそのプロパティを設定したりすることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらのフィールドをフォームエディターにドラッグすると、選択したフォームビューにこれらのフィールドを視覚的に配置できます。

「テーブルビルダー でのフォームレイアウトへのフィールドの追加」を参照してください。

「テーブルビルダー フォームエディターでのフィールドプロパティの変更」を参照してください。

フォーム注釈

フォーム注釈は、テキストの行や段落など、フォームに関する追加情報です。

たとえば、フォームの特定のセクションに説明テキストを追加する必要が生じる場合があります。テーブルビルダー を使用すると、情報の入力方法に関する説明を画面上に表示するビューに、フォーム注釈を追加できます。

「テーブルビルダー でのフォーム注釈の作成」を参照してください。

フォーマッター

フォーマッターは、選択したテーブルレコード内のフィールドではなく、情報を表示するために使用されるフォーム要素です。たとえば、ユーザーが表示されたフォームにコメントを追加できる [コメント] フィールドを表示したい場合があります。

テーブルビルダー を使用すると、表示されているフォーマッターをフォームエディターに視覚的にドラッグして配置できます。

「テーブルビルダー でのフォーマッターの追加」を参照してください。

埋め込みリスト

埋め込みリストを使用して、選択した関連リストのデータをフォームに表示できます。関連リストは、現在のレコードと関係のあるテーブル内のレコードを表示します。たとえば、[問題] テーブルを参照するフォームビューで、選択した問題によって影響を受ける場所のリストを表示したい場合があります。

テーブルビルダー を使用すると、フォーム要素パネルの [埋め込みリスト] タブから、フォームエディターにリストを視覚的にドラッグして配置できます。

埋め込みリストをフォームに追加すると、ユーザーはフォームから移動せずに、関連リストを表示または編集できます。リスト内のデータの変更は、ユーザーがフォームを保存するときに保存されます。

「テーブルビルダー での埋め込みリストの追加」を参照してください。

テーブルビルダー でのフォームビューの選択

テーブルビルダー でフォームユーザーの既存のビューを選択するか、ビューを複製するか、まったく新しいビューを作成します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

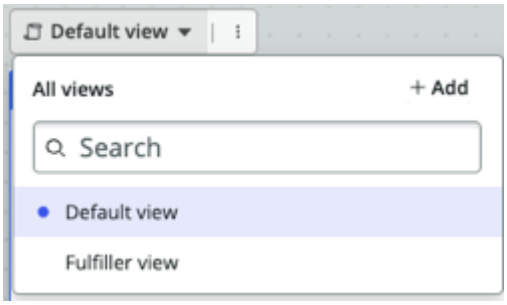
注: フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

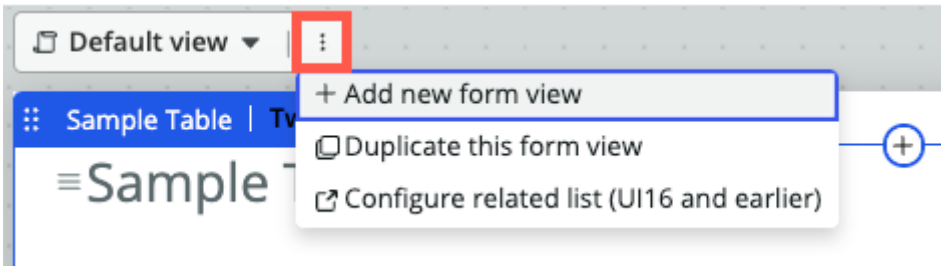
1. テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。
   [デフォルトビュー] が選択されています。

   ビューリスト

2. ビューリストを使用して選択したデフォルトのビューを変更するか、別のビューを選択できます。ビューを追加するか、[他のアクション] メニューから他のフォームビューアクションを選択することもできます。

   [他のアクション] メニュー

   - ビューリストから [新しいフォームビューを追加] をクリックするか、[他のアクション] (⋮) メニューからオプションを選択して、カスタマイズする新しいビューを追加します。
   - 既存のビューを複製してカスタマイズするには、ビューを選択し、[他のアクション] (⋮) メニューから [このフォームビューを複製] を選択します。
   - [他のアクション] (⋮) メニューからこのオプションを選択して、選択したフォームビューの関連リストを設定します。

   注: [フォーム] タブの右側にある [他のアクション] リストからビューを選択するか、[すべてのフォームビュー] リストに移動して、フォームビューの大きなリストをフィルタリングしてソートすることもできます。「すべてのフォームビューリスト」を参照してください。

3. ビューを選択すると、次の方法でフォームビューを変更できます。
   - フォームにフィールドを追加します。「テーブルビルダー でのフォームレイアウトへのフィールドの追加」を参照してください。
   - フォーム (セクション) のレイアウトをカスタマイズします。詳細については、「テーブルビルダー でのフォームレイアウトのカスタマイズ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- フォームにデータを表示するフィールド以外の要素を追加します。詳細については、「テーブルビルダー でのフォーマッターの追加」を参照してください。
- 説明テキストまたはその他のテキストをフォームに追加します。詳細については、「テーブルビルダー でのフォーム注釈の作成」を参照してください。
- フォームに関連リストを追加します。詳細については、「テーブルビルダー での埋め込みリストの追加」を参照してください。

注: フォームに表示される要素をカスタマイズするには、「テーブルビルダー のフォーム 」を参照してください。

テーブルビルダー でのフォームレイアウトのカスタマイズ

テーブルビルダー でフォームビューをカスタマイズして、ユーザーに表示されるフォームの外観を視覚的に設計します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

注: フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。
2. 作業するビューを選択します。
   フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。
3. 次のアクションを実行して、フォームエディターに表示されるフォームレイアウトをカスタマイズします。

オプション	アクション
フォームセクションの追加 (Add form sections)	a. フォームに追加できるレイアウトコンポーネントのリストを表示するには、[フォーム要素を追加] パネルで [コンポーネント] を選択します。 b. [セクション] を選択し、フォーム上の既存のセクションの上または下の目的の場所にそのセクションをドラッグします。 c. セクションのタイトルを入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	注: 既存のセクションの上部にある **[+]** アイコンをポイントして [+セクションを追加] を選択するか、セクションヘッダーのメニューを使用して、フォームエディター内から新しいセクションを追加することもできます。
セクションレイアウト (列) の設定	セクションのレイアウトを変更します。セクションは 1 列で構成することも、2 列に分割することもできます。 **a.** フォームエディターでセクションを選択します。 **b.** 次のいずれかの方法で列のレイアウトを変更します。 ▪ [セクション] パネルから、**[1** 列] または **[2** 列] を選択します。 ▪ セクションヘッダーメニューから、**[1** 列] または **[2** 列] を選択します。
上のセクションとのセクションの結合	2 つのセクションを結合します。セクションの結合とは、2 つのセクションを組み合わせて 1 つのセクションタイトルにまとめることです。結合は、2 つの異なる列レイアウトを持つ 1 つのセクションが必要な場合に役立ちます。 **a.** フォームエディターでセクションを選択します。 **b.** 次のいずれかの方法で、選択したセクションを上のセクションと結合します。 ▪ セクションヘッダーで、[他のアクション] (⋮) メニューを選択し、[上のセクションと結合] を選択します。 ▪ セクションパネルから、[上のセクションと結合] を選択します。
セクションのデタッチ	セクションをデタッチします。以前に結合した 2 つのセクションを別々の要素に再度分割できます。 **a.** フォームエディターで、以前に結合したセクションを選択します。 **b.** 次のいずれかの方法で、選択したセクションをデタッチします。 ▪ セクションヘッダーで、[他のアクション] (⋮) メニューを選択し、[上のセクションからデタッチ] を選択します。 ▪ セクションパネルで、[上のセクションからデタッチ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
フォームからのセクションの削除	**a.** フォームエディターでセクションを選択します。 **b.** 次のいずれかの方法で、選択したセクションをフォームビューから削除します。 ▪ セクションヘッダーの右上にある [ゴミ箱] アイコンを選択します。 ▪ セクションをフォームビューから削除するには、セクションヘッダーで [他のアクション] (⋮) メニューをクリックし、[セクションを削除] を選択します。

4. フォーム内のセクションを再配置するには、セクションヘッダーでセクションを選択してフォーム上の目的の場所にドラッグするか、上下の矢印アイコンを使用します。
5. [保存] を選択します。

テーブルビルダー でのフォームレイアウトへのフィールドの追加

テーブルビルダー を使用して、フォームレイアウト内でフィールドを視覚的に追加および配置して、要件に合うフォームを作成します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

> **注:** フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて

手順

1. テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。
2. 作業するビューを選択します。
   フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。
3. 選択したテーブルの既存のフィールドのリストを表示するには、[フォーム要素を追加] パネルで [フィールド] を選択します。

   > **注:** フォームエディターの既存の要素の上にある [追加] (⊕) アイコンを選択して、[フォーム要素を追加] パネルを起動することもできます。

4. 次のいずれかのアクションを実行して、選択したフォームビューに表示されるフィールドをカスタマイズします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 特定のフィールドタイプは コア UI でのみサポートされています。フィールドには、サポートされていないタイプを示すための感嘆符アイコン (!) フラグが表示されます。

オプション	アクション
フォームへの既存フィールドの追加	**a.** フィールドを選択するには、リスト内のフィールドをクリックします。 注: 複数のフィールドを選択するには、フィールドの右側に表示されるオプションを選択します。 **b.** フォームエディターで、選択した 1 つ以上のフィールドを目的の場所にドラッグし、必要に応じてそれらを移動します。
フォームへの新しいフィールドの追加	**a. [+** テーブルにフィールドを追加 **(+ Add a field in the table)]** を選択します。 **b.** [列ラベル] フィールドにラベルを入力します。 **c.** [列名] フィールドに、フィールドの内部名を入力します。 **d.** [タイプ] リストからフィールドのタイプを選択します。 作成しているフィールドの追加のプロパティを設定するには、[詳細設定] をクリックします。フィールドタイプと詳細設定の詳細については、「テーブルビルダー のフィールド構成」を参照してください。 **e.** 新しいフィールドをテーブルに追加するには、[追加] をクリックします。 確認ダイアログが表示されます。[完了] をクリックして閉じるか、[もう **1** つ追加 **(Add another one)]** をクリックしてテーブルにさらにフィールドを追加します。 新しいフィールドが [フィールド] リストの上部に表示され、フォームエディターにドラッグできます。
フォームからのフィールドの削除	**a.** フォームエディターで、フィールドをクリックして選択します。 **b.** 選択したフィールドをフォームビューから削除するには、フィールドの右側にある [x] アイコンをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	注: フィールドを削除できない場合は、テーブルが別のスコープに属している可能性があります。

5. **[Save** (保存)] を選択します。

テーブルビルダー フォームエディターでのフィールドプロパティの変更

テーブルビルダー の [フォーム] タブ内からフォームビューでユーザーに表示するフィールドの基本的なフィールドプロパティを変更します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

注: フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

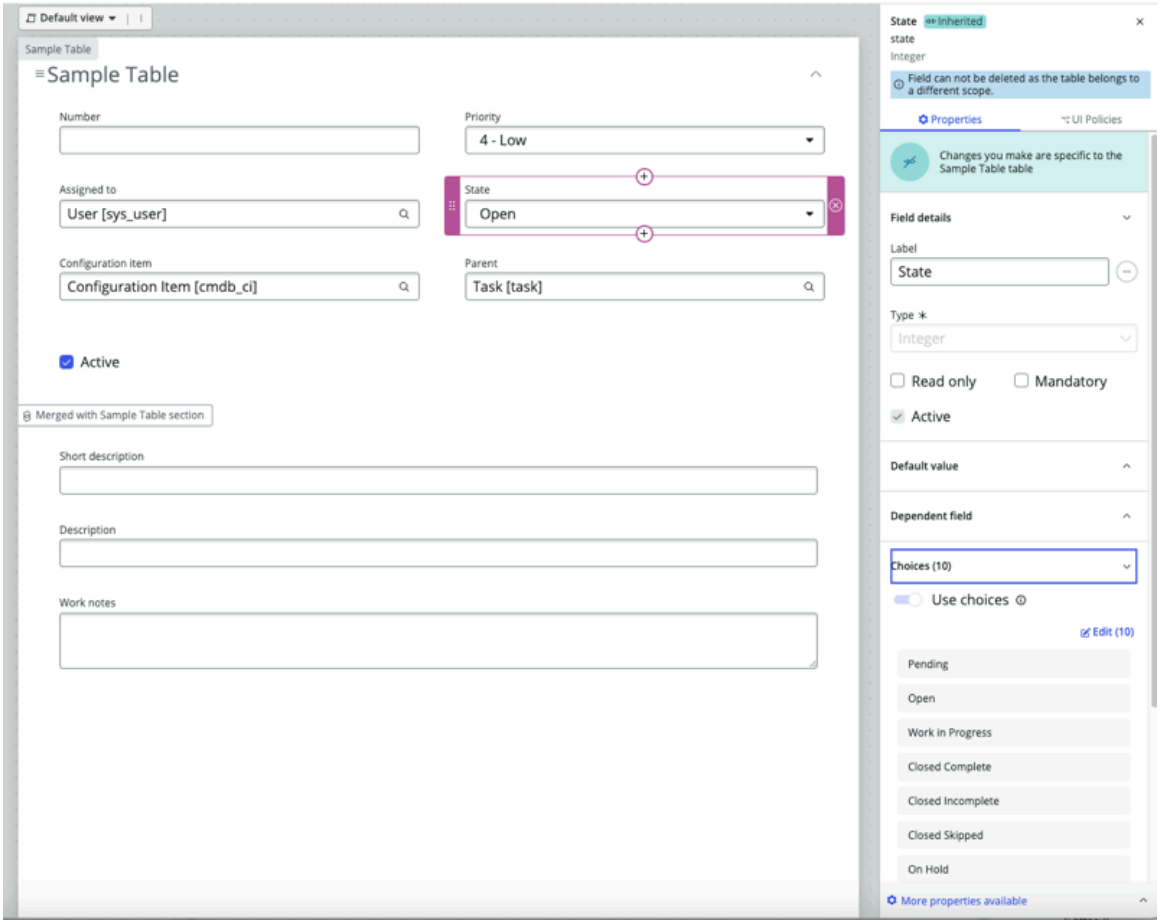
必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [フォーム] タブで、作業するビューを選択します。
   フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。
2. フォームエディターで、フィールドを選択してハイライト表示します。
   次の例では、右側のパネルに [プロパティ] タブが表示されています。このタブには、選択したフィールドの基本プロパティが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プロパティ] タブ



3. 必要に応じて、選択したフィールドの基本的なフィールドプロパティを編集します。
   表示されるセクションは、フィールドタイプによって異なります。これらのフィールドの説明については、「テーブルビルダー のフィールド構成」を参照してください。

   注: [プロパティ] タブの下で、[使用可能な他のプロパティ] を選択して、選択したフィールドの完全な辞書エントリーを起動します。

4. 選択したフィールドに設定されている UI ポリシーを表示してそのフィールドを編集するには、**[UI ポリシー]** タブを選択します。
   ポリシーとプロパティの詳細については、「テーブルビルダー でのポリシーとルールのプロパティ」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

テーブルビルダー でのフォーム注釈の作成

テーブルビルダー で、フォーム注釈を使用して、フォームに説明テキストやその他の設計要素を追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

注: フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

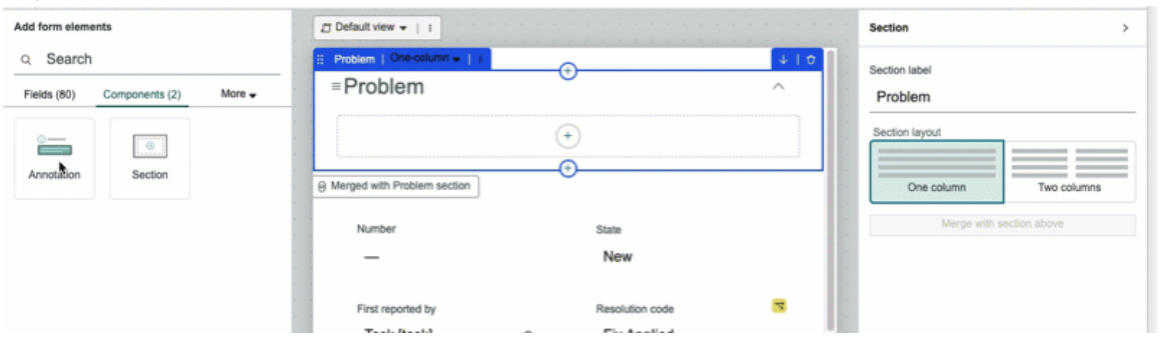
手順

1. テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。
2. 作業するビューを選択します。
   フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。
3. フォームビューに追加できる使用可能なコンポーネントのリストを表示するには、[フォーム要素を追加] パネルで [コンポーネント] を選択します。

   注: また、フォームエディターで既存の要素の上にある [追加] (+) アイコンをクリックして、[フォーム要素を追加] パネルを起動することもできます。

4. 次の例のように、[注釈] 要素を選択し、フォームエディター内の注釈テキストを配置する場所にそれをドラッグします。

   注釈の追加



5. [注釈タイプ] を選択します。

注釈タイプ	説明
Info Box Blue	入力したテキストを囲む青色のボックス。
Info Box Red	入力したテキストを囲む赤色のボックス。
Line Separator	セクション内の行セパレーター。
テキスト	プレーンテキストとして入力されるテキスト。
セクションの詳細	セクションの詳細として入力されるテキスト。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注釈タイプ	説明
セクションプレーンテキスト (Section Plain Text)	セクションにプレーンテキストとして入力されるテキスト。
Section Separator	セクション間の行セパレーター。
テキスト	テキストとして入力されるテキスト。

6. [注釈テキスト] のオプションを選択します。

[注釈テキスト] オプション	説明
プレーンテキスト	入力されたテキストは、フォームにプレーンテキストとして表示されます。
リッチテキスト	リッチテキスト。下のテキストボックスをポイントすると、[リッチテキストを編集] アイコンが表示されます。このアイコンを選択すると、次のようなフォームに表示するテキストの基本プロパティを調整できるリッチテキストエディターウィンドウが起動します。 ◦ フォントサイズ ◦ フォントの色または背景色 ◦ 太字、イタリック、下線 ◦ インデント ◦ リストタイプ (箇条書きまたは順序付けされたリスト) ◦ ハイパーリンクの追加またはハイパーリンクの削除 フォームに表示する HTML コードを表示するには、**[HTML** を表示] をクリックし、[適用] をクリックします。

7. [注釈] パネルに表示するフィールドに、任意の注釈テキストを入力します。
8. [保存] を選択します。

テーブルビルダー でのフォーマッターの追加

テーブルビルダー にフォーマッターを追加することで、フィールド以外の情報を表示するフォーム要素を追加できます。たとえば、ユーザーが表示されたフォームにコメントを追加できる [コメント] フィールドを表示したい場合があります。

始める前に

注: フォーマッターは コア UI 以前でのみサポートされています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

注: フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。
2. 作業するビューを選択します。
   フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。
3. フォームビューに追加できる利用可能なコンポーネントのリストを表示するには、[フォーム要素を追加] パネルで [フォーマッター] を選択します。

   注: また、フォームエディターで既存の要素の上にある [追加] ( ) アイコンをクリックして、[フォーム要素を追加] パネルを起動することもできます。

4. フォーマッターを選択し、フォームエディター内の配置場所にドラッグします。

   注: フォーム内のフォーマッターは コア UI 以前のインターフェイスでのみサポートされています。

   フォーマッターをフォームに追加する方法については、「フォーマッター 」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

テーブルビルダー での埋め込みリストの追加

テーブルビルダー を使用して埋め込みリストを追加して、フォーム上の選択した関連リストのデータを表示します。関連リストは、現在のレコードと関係のあるテーブル内のレコードを表示します。たとえば、[問題] テーブルを参照するフォームビューで、選択した問題によって影響を受ける場所のリストを表示したい場合があります。

始める前に

注: 埋め込みリストは、コア UI 以前でのみサポートされています。

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

注: フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. テーブルビルダー で [フォーム] タブに移動します。
2. 作業するビューを選択します。
   フォームのビューを選択する方法の詳細については、「テーブルビルダー でのフォームビューの選択 」を参照してください。
3. フォームビューに追加できる埋め込みリストのリストを表示するには、[フォーム要素を追加] パネルで、[埋め込みリスト] を選択します。

   注: また、フォームエディターで既存の要素の上にある [追加] ( ) アイコンをクリックして、[フォーム要素を追加] パネルを起動することもできます。

4. 埋め込みリストを選択してから、それをフォームエディター内の配置場所にドラッグします。

   注: フォーム内の埋め込みリストは、コア UI 以前のインターフェイスでのみサポートされています。

   埋め込みリストをフォームに追加する方法については、「フォーム内へのリストの埋め込み 」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

フォームのプレビュー

テーブルビルダー でフォームをプレビューして保存します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

注: フォームのカスタマイズ方法を理解するには、「テーブルビルダー のワークフローとナビゲーション」を確認してください。

必要なロール： personalize_form または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

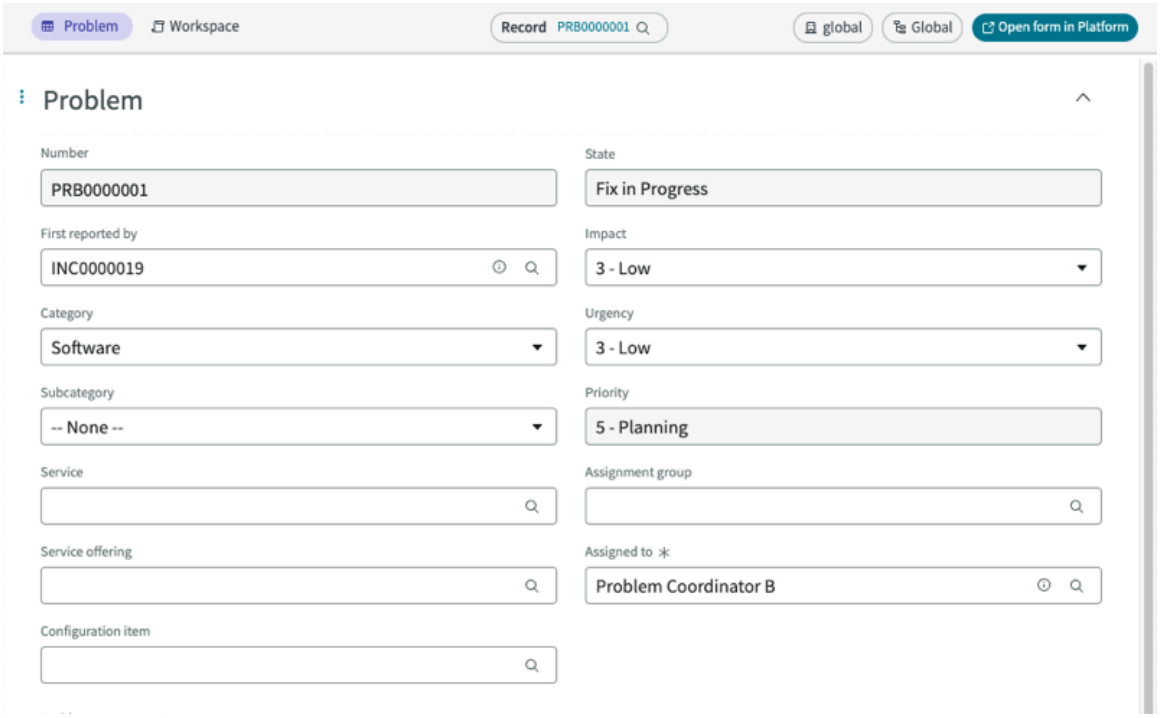
1. テーブルビルダー にアクセスします。
   - フォームの表示については、「UI ビルダー から テーブルビルダー を起動」を参照してください。
2. [フォーム] タブを選択します。
3. フォームビューを選択します。
4. 必要に応じてフォームビューをカスタマイズします。
5. [保存] を選択して変更を保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 変更を保存すると、[元に戻す] 機能を使用して元に戻すことはできません。[元に戻す] アイコン ( ) はグレー表示されます。

6. [プレビュー] を選択して、保存した変更を確認します。
[プレビュー] ウィンドウにフォームのレコードが表示されます。例では、ワークスペースフォームビューが表示されています。

ワークスペースフォームビューのプレビュー



7. 変更を確認するときに、次のいずれかのアクションを実行すると、フォームがユーザーにどのように表示されるかを理解しやすくなります。
   - フォームのプレビュー時に、[新規レコード] アイコン ( ) をクリックして、フォームに入力する新しいレコードを検索できます。これにより、レコードが存在しない場合は新しいレコードを追加できるため、フォームの外観を実際に確認できます。
   - フォームのプレビュー時に、[プラットフォームでフォームを開く] アイコン (Open form in Platform) をクリックすると、Now Platform でフォームを開くことができます。
8. 確認が完了したら、ブラウザーウィンドウを閉じます。

テーブルビルダー でのポリシーとルール

ポリシーとルールは、ロールとエントリに基づくユーザーへの情報の表示方法と、テーブルビルダーでビルドされたテーブルとフォームにアクセスできるユーザーを定義します。

ポリシーとルールを操作するためのセクション

テーブルビルダー の [ポリシーとルール] タブにはいくつかのセクションがありますが、テーブルビルダー 内の UI ポリシーのみを編集できます。他のセクションは読み取り専用で、Now Platform の他の部分でコンテンツを管理するためのリンクが含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

管理 UI のポリシーおよびルールセクション

セクション	説明	テーブルビルダー 内で編集可能
UI ポリシー	フォーム上の情報の動作を動的に変更し、タスクのカスタムプロセスフローを制御します。	はい。
アクセス制御ルール	適合するロール、条件、スクリプト基準に基づいて、指定されたリソースへのアクセスを制御します。	なし。
クライアントスクリプト	定義された基準に基づいてフォームフィールドの表示方法を制御するスクリプトを作成します。	なし。
ビジネスルール	ビジネスルールを作成して、特定の条件が満たされたときにフォームフィールドの値を自動的に変更するなどのタスクを実現します。	なし。
ワークスペースビュールール	ユーザーが基準に基づいてワークスペースを表示する方法を制御するルールを定義します。	なし。

テーブルビルダー の外部でルールまたはポリシースクリプトを管理するには、エントリの を選択します。または、[ポリシーとルール] タブの各セクションの [完全なリスト] リンクを選択することで、テーブルビルダー の外部でルールとスクリプトの完全なリストを表示できます。

- 完全な **ACL** リスト
- 完全なクライアントスクリプトリスト
- 完全なビジネスルールリスト
- 完全なワークスペースビュールールリスト

テーブルとフォームの UI ポリシー

UI ポリシーを設定し、ロールとユーザー入力に基づいてフォームのビジュアル化を調整します。

たとえば、UI ポリシーを使用して、ユーザーのロールに応じてフォームのフィールドを読み取り専用または必須にしたり、特定のフィールドを非表示にしたりできます。基本的な UI ポリシーではスクリプティングは不要です。より高度なアクションの場合は、[スクリプトを実行] オプションを使用します。

クライアントスクリプトを使用してこれらすべてのアクションを実行することもできますが、ロード時間を短縮するために、可能であれば UI ポリシーを使用してください。

テーブルビルダー での UI ポリシーの作成

テーブルビルダー で UI ポリシーを設定し、ロールとユーザー入力に基づいてフォームの表示方法を調整します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_rules または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
自分が所有するアプリケーションについてのみ UI ポリシーを作成および編集できます。アプリケーションスコープの詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。

手順

1. テーブルビルダー 画面で、作業するテーブルを選択します。
2. [ポリシーとルール] タブを選択します。
   または、フィールドを選択すると表示される右ペインの テーブルビルダー の [フォーム] タブで、フィールドの UI ポリシーを直接追加することもできます。
3. [UI ポリシー] セクションを選択して、UI ポリシーのリストを表示します。
4. [新規ポリシーを追加] リンクを選択して、ポリシーの詳細を表示します。
   - リンクが非アクティブな場合は、[フォーム] タブで作業しているスコープを変更する必要があります。
   - フィールドにポリシーがあり、ビューに表示される場合は、次の例のようにフィールドの上隅にアクティブなアイコンが表示されます。

5. フォームの [ポリシーの詳細] セクションのフィールドに入力します。
   フィールド定義の詳細については、「テーブルビルダー でのポリシーとルールのプロパティ」を参照してください。
6. [これらの条件が満たされている場合] セクションで、満たされた場合に条件ビルダーを使用して UI ポリシーが適用される条件を指定します。
   複数の条件セットを追加するには、[新しい条件セット] を選択します。
7. [以下を実行 (Do the following)] セクションで、条件が満たされたときに実行する必要があるフィールドアクションを作成します。
8. ポリシーの追加を終了するには、**[UI** ポリシーの追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果

UI ポリシーを追加した後、スクリプトとその関連リストアクションを設定できます。クライアントスクリプトと UI ポリシーの詳細については、「UI ポリシーのクライアントスクリプト」を参照してください。

テーブルビルダー での **UI** ポリシーの変更

UI ポリシーを編集して、テーブルビルダー でのロールとユーザー入力に基づくフォームの表示方法を変更します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_rules または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて

自分が所有するアプリケーションについてのみ UI ポリシーを作成および編集できます。アプリケーションスコープの詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。

手順

1. [UI ポリシー] セクションの [ポリシーおよびルール] タブで、編集するポリシーを選択します。
   フィールドを選択すると表示される右側のペインの **[UI** ポリシー] タブでフォーム内のフィールドの UI ポリシーを選択し、直接編集することもできます。
2. 必要に応じて UI ポリシーのフィールドと属性を変更します。
   フィールド定義の詳細については、「テーブルビルダー でのポリシーとルールのプロパティ」を参照してください。
3. **[UI** ポリシーの更新] をクリックします。

テーブルビルダー のフロー

テーブルビルダー 内に統合されている フローデザイナー 機能を使用して、テーブルのレコードベースのフローを管理できます。これらのフローは、[フロー] タブを使用して管理できます。

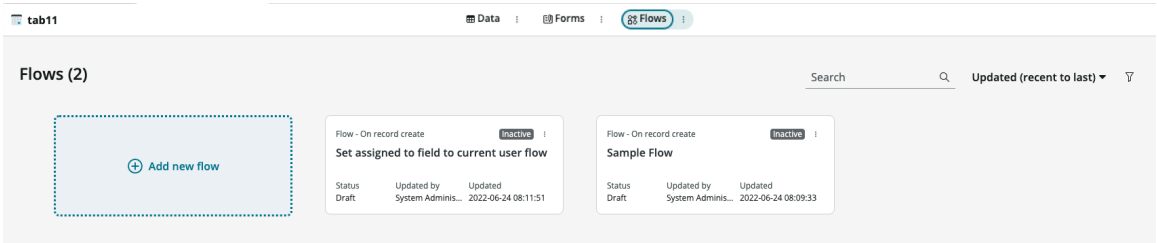
フローデザイナー は、プロセスオーナーが作業を自動化できる Now Platform® 機能です。複数ステップのフローを再利用可能なコンポーネントからコーディングなしにビルドできます。

テーブルビルダー 内の [フロー] タブでは、選択したデータテーブルのレコードベースのフロー (テーブルレコードの作成/更新のいずれかまたは両方が実行されたときにトリガーされるアクション) を表示して操作できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[フロー] タブ

次の図は、テーブルビルダー のフローカードを示しています。



レコードベースのフローの検索

テーブルビルダー の [フロー] タブを使用して、選択したテーブルレコードの更新、作成、またはその両方が実行されたときにトリガーされるフローのリストを検索およびフィルタリングします。

始める前に

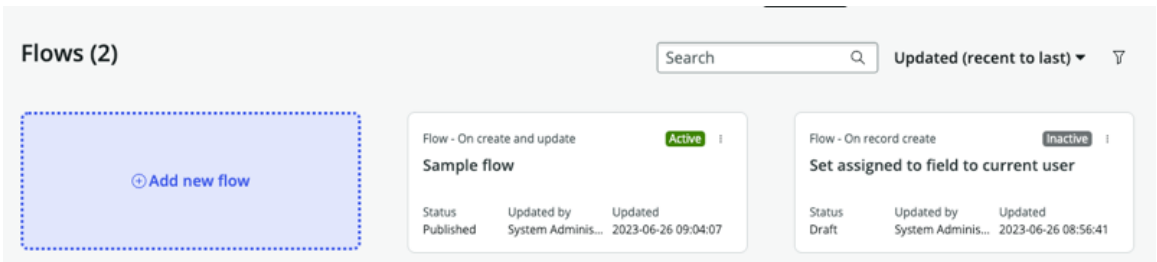
- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_forms、personalize_dictionary、および flow_designer 権限 (または、関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限)。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. 「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動します。
2. [フロー] タブを選択します。
   選択したテーブルによってトリガーされたフローがフローカードとしてリストされます。

フローカードリスト



3. 必要に応じてフローカードのリストをフィルターまたは検索して、目的のフローを見つけます。

目的のフローカードの検索

オプション	ステップ
検索テキスト	[検索] ボックスにキーワードを入力します。入力すると、カードのリストがフィルタリングされます。
フローのソート	リストのソートからオプションを選択して、フローカードをソートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	ステップ
	a. フロー名 (昇順) **b.** フロー名 (降順) **c.** 更新者 (昇順) **d.** 更新者 (降順) **e.** 更新日時 (最近から最後)：デフォルトのオプション **f.** 更新済み (最後から最近)
フィルター基準を設定してフローをフィルターする	**a.** フィルターアイコン (▽) を選択します。 **b.** AND/OR ロジックを含むフィルター条件基準を追加します。 **c.** 条件を追加するには、**[+** 新しい条件セット] を選択します。 **d.** [適用] を選択します。

次のタスク

- フローカードを選択し、フローデザイナー を使用して新しいフローを編集します。「レコードベースのフローの変更」を参照してください。
- 既存のフローから新しいレコードベースのフローを作成します。「レコードベースのフローのコピー」を参照してください。
- フローを削除します。「レコードベースのフローの削除」を参照してください。

レコードベースのフローの追加

テーブルビルダー の [フロー] タブを使用して、テーブルレコードの更新、作成、またはその両方が実行されたときにトリガーされるフローを追加します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_forms、personalize_dictionary、および flow_designer 権限 (または、関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限)。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. 「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動します。
2. [フロー] タブを選択します。
3. [新しいフローを追加] ボタンを選択します。
4. [新しいフロー] フォームで、新しいフローの次のフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しいフロー] フォーム

フィールド	説明
名前	フローを一意に識別する名前です。この名前からフローの内部名が計算されます。
説明	フローの説明です。

5. オプション: フローの詳細オプションを入力するには、 [新しいフロー] フォームで [詳細オプションを表示します] を選択します。

詳細オプション

フィールド	説明
保護	フローが読み取り専用の場合に選択できるオプション。自分が所有するアプリケーションスコープでフローを作成する場合にのみ、値を選択できます。
実行方法	(Optional) そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定するオプションです。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、セッションオプションを開始したユーザーを選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合に、このオプションを使用します。フローのオプションとして実行を設定しても、子サブフローには適用されません。 個人用の OAuth トークンを使用して実行できるフローを作成するには、セッションを開始するユーザーのオプションを選択します。フローを実行しているユーザーが個人用の OAuth トークンを持っていれば、そのトークンでフローが実行されます。個人用の OAuth トークンの作成の詳細については、「 OAuth 2.0 認証情報 」を参照してください。 セッションを開始したユーザーとしてフローを実行すると、ユーザーのアクセス制御リスト (ACL) 制限によりフローアクションが制限されます。フローをトリガーするユーザーによるフローアクションの実行が、セキュリティ制限によって妨げられることがないようにしてください。また、開始ユーザーによって実行されるフローは、日時形式などのユーザー固有の設定にも従います。 **注:** 受信メールフローはこの設定を無視し、常にセッションを開始するユーザーとして実行されます。受信メールフローのアクセス制御をテストするには、典型的な受信メールユーザーを代理操作してフローを手動でトリガーします。
ロールを使用して実行	フローを実行するロールです。[実行方法] が [セッションを開始するユーザー] に設定されている際にのみ、このオプションを利用できます。

6. [続行] を選択します。
7. フローをトリガーするイベントを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
レコードが作成されたとき	選択したテーブル内でレコードが作成されたときにトリガーされるフローを作成します。
レコードが更新されたとき	選択したテーブル内のレコードが更新されたときにトリガーされるフローを作成します。
レコードが作成または更新されたとき	選択したテーブル内でレコードが作成または更新されたときにトリガーされるフローを作成します。

作成したフローがフロー図作成ビューに表示されます。「フロー図作成ビュー」を参照してください。

8. [ノードを追加] を選択し、次のいずれかのオプションを選択してフローを変更します。

オプション	説明
アクション	目的のアクションを選択します。ワークフロースタジオ には、フローとサブフローで使用可能な ワークフロースタジオ アクション が含まれています。または、action_designer ロールを持つユーザーは、フローに追加するアクションを作成できます。 統合ハブ プラグインと スポーク プラグインは、追加のアクションをインストールします。 [その他のアクション] メニューからドラフトアクションを追加するには、[ドラフトアクションを表示] を **true** に設定します。 ServiceNow Store で利用可能なスポークを表示するには、 [その他のアクション] メニューから [ストアスポークを表示] を **true** に設定します。 注: [スポークが未インストール] の下に、ServiceNow のバージョンとの互換性や ワークフロースタジオ のアプリケーションの依存関係に基づいて ServiceNow Store で利用可能なスポークが表示されます。
フローロジック	条件付き操作または繰り返し操作を指定するオプションを選択します。
サブフロー	公開されたサブフローを選択し、入力値を定義します。フローアクションとしてサブフローを追加することに加えて、[その他のアクション] メニューから [トリガーフローを表示] オプションを有効にして、有効になったフローを選択し、必要な入力を定義することができます。トリガーされたフローを実行すると、そのトリガー条件は無視され、すべてのアクションが実行されます。

注: または、ビューセレクターから フローデザイナー デフォルトビューを切り替えて、フローデザイナー のそのビューで [アクション、フローロジック、またはサブフローを追加] を選択することもできます。詳細については、「フロー図作成ビュー」を参照してください。

9. フローデザイナー でフローの変更を続行します。

注: アプリケーションのフローの操作方法の詳細については、「フローを作成する」を参照してください。

10. [保存] を選択します。
フローデザイナー によって、フロー、トリガー、およびアクションのドラフトが保存されます。

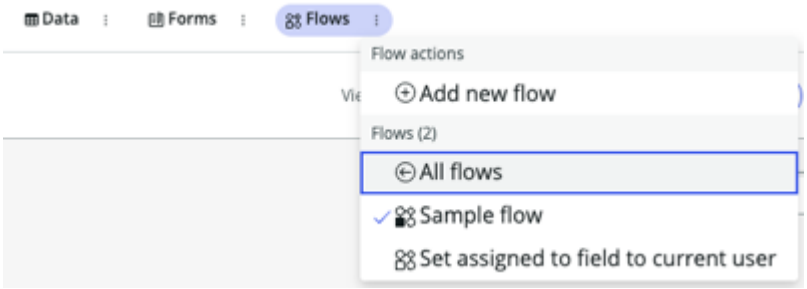
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
フローをアクティブ化する準備ができるまで、フローをテストします。フローのテストおよび編集の詳細については、「フローをアクティブ化する」を参照してください。

> **注:** アプリケーションは、アクティブ化されたフローのみをトリガーできます。アプリケーションのフローを設計、テスト、アクティブ化する方法の詳細については、「フロー - ワークフロースタジオ」を参照してください。

フローの編集後に選択したテーブルに関連するフローの包括的なリストに戻るには、次の例のように、[フロー] タブの右側にある [他のアクション] (⋮) メニューを選択し、[すべてのフロー] を選択します。

すべてのフロー



レコードベースのフローの変更
テーブルビルダー の [フロー] タブを使用して、選択するテーブルレコードの更新、作成、またはその両方が実行されたときにトリガーされるフローを編集します。

始める前に
- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_forms、personalize_dictionary、および flow_designer 権限 (または、関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限)。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

このタスクについて
テーブルビルダー の [フロー] タブには、テーブルへのレコードの変更によってトリガーされるフローのリストが表示され、ワークフローをトリガーするレコードテーブルからフローを管理できます。

手順
1. 「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動します。
2. [フロー] タブを選択します。
   テーブルによってトリガーされる利用可能なフローはフローカードとしてリストされます。
3. 必要に応じてフローカードのリストをフィルターまたは検索して、目的のフローを見つけます。
   「レコードベースのフローの検索」を参照してください。
4. フローカードを選択して、編集するフローを開きます。
5. フローデザイナー を使用してレコードベースのフローを編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションのフローの操作方法の詳細については、「フローを作成する」を参照してください。

注: テーブルに関連するフローカードのリストに戻るには、[フロー] タブの右側にある [他のアクション] (⋮) メニューを選択し、[すべてのフロー] を選択します。

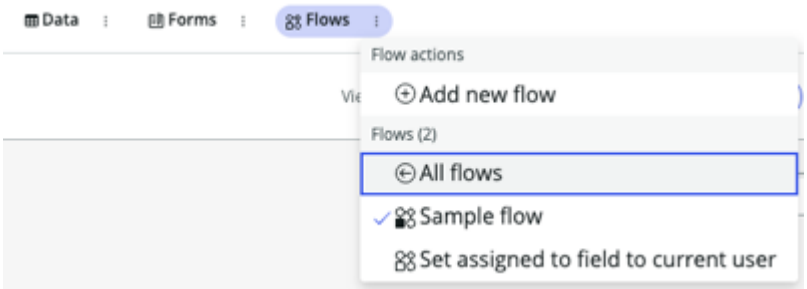
6. [保存] を選択します。

次のタスク
フローをアクティブ化する準備ができるまで、フローをテストします。フローのテストおよび編集の詳細については、「フローをアクティブ化する」を参照してください。

注: アプリケーションは、アクティブ化されたフローのみをトリガーできます。アプリケーションのフローを設計、テスト、アクティブ化する方法の詳細については、「フロー - ワークフロースタジオ」を参照してください。

フローの編集後に選択したテーブルに関連するフローのリストに戻るには、次の例のように、[フロー] タブの右側にある [他のアクション] (⋮) メニューを選択し、[すべてのフロー] を選択します。

すべてのフロー



レコードベースのフローの削除

テーブルビルダー の [フロー] タブを使用して、レコードベースのフローを削除します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_forms、personalize_dictionary、および flow_designer 権限 (または、関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限)。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. 「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動します。
2. [フロー] タブを選択します。
   テーブルによってトリガーされる利用可能なフローはフローカードとしてリストされます。
3. 必要に応じてフローカードのリストをフィルターまたは検索して、目的のフローを見つけます。
   「レコードベースのフローの検索」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 削除するフローの右上隅にある [他のアクション] (⋮) メニューを選択し、オプションのリストから [削除] を選択します。
5. 削除の確認ウィンドウで、「DELETE」と入力し、[削除] を選択します。
6. [保存] を選択します。

レコードベースのフローのコピー

テーブルビルダー の [フロー] タブを使用して、既存のフローから新しいレコードベースのフローを作成します。

始める前に

- テーブルビルダー を起動します。詳細については、「テーブルビルダー へのアクセス」を参照してください。
- (オプション) 作業するドメインを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「ドメインセパレーションと テーブルビルダー」を参照してください。
- (オプション) 作業するアプリケーションスコープを選択します (グローバルでない場合)。詳細については、「テーブルビルダー でのアプリケーションスコープの使用」を参照してください。

必要なロール：personalize_forms、personalize_dictionary、および flow_designer 権限 (または、関連する AES ユーザーロールと委任開発者権限)。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. 「テーブルビルダー へのアクセス」の説明に従って テーブルビルダー を起動します。
2. [フロー] タブを選択します。
   テーブルによってトリガーされる利用可能なフローはフローカードとしてリストされます。
3. 必要に応じてフローカードのリストをフィルターまたは検索して、目的のフローを見つけます。
   「レコードベースのフローの検索」を参照してください。
4. 削除するフローの右上隅にある [他のアクション] (⋮) メニューを選択し、オプションのリストから [コピー] を選択します。
5. [このフローのコピーを作成] ウィンドウが表示されたら、既存のフローから作成する新しいフローの名前を入力し、[コピー] を選択します。
6. フローデザイナー を使用して新しいフローを編集します。
   アプリケーションのフローの操作方法の詳細については、「フローを作成する」を参照してください。
7. [保存] を選択します。

> **注:** フローの編集後にフローのリストに戻るには、[フロー] タブの右側にある [他のアクション] (⋮) メニューを選択し、[すべてのフロー] を選択します。

テーブルビルダー 参照

参照トピックには、テーブルビルダー を使用して設定できるフォームとテーブルの要素に関する追加情報が記載されています。

テーブルビルダー のテーブルのプロパティ

テーブルビルダー を使用すると、さまざまなテーブルおよびテーブル列のプロパティを変更できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル列のプロパティ

次の表は、データテーブルの列で変更できるプロパティの説明を示しています。

テーブル列のプロパティ

フィールド	説明
列ラベル	列の一意のラベル。
列名	列のデータベース名。
タイプ	列に含まれる情報のタイプ。たとえば、列にプレーンテキストを含める場合は、[文字列] を選択します。 選択したタイプによっては、他のフィールドに入力してテーブル列をさらに定義します。たとえば、[文字列] を選択した場合は、文字列入力の文字数制限を定義します。または、[選択肢] を選択した場合は、ユーザーが選択できる選択肢を定義します。 「フィールドタイプ」を参照してください。
参照	列に関連付けられているテーブル。このフィールドは、列タイプが [参照] の場合にのみ適用されます。
最大長	ユーザーがフィールドに入力できる最大文字数。
デフォルト値	新しいレコードが作成された後にフィールドに自動的に入力される値。
表示	その列をテーブルの表示値として設定するオプション。 参照フィールドには、参照先のテーブルの表示値が表示されます。たとえば、タスクテーブルの [オープン者 **(Opened by)**] 列はユーザーテーブルを参照します。ユーザーテーブルの表示値はユーザー名であるため、[オープン者 **(Opened by)**] フィールドには「**Beth Anglin**」や「**Joe Employee**」のように表示されます。表示値を選択するときは、個々のレコードの適切なタイトルとして機能するテーブル列を選択します。 テーブルの表示値として機能できるのは 1 つの列のみです。

テーブルのプロパティ

次の表は、選択したデータテーブルの列で変更できるプロパティの説明を示しています。

テーブルのプロパティ

オプション	手順
テーブルラベルの変更	[一般情報] タブで、[テーブルラベル] フィールドを更新します。
テーブルの拡張性を高める	1. [一般情報] タブで、 [詳細] を選択します。 2. [拡張性を高める] チェックボックスをオンにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルのプロパティ (続く)

オプション	手順
レコード番号を追加	1. [一般情報] タブで、 [詳細] を選択します。 2. [レコード番号を追加] チェックボックスをオンにします。 3. [プリフィックス]、[開始番号]、および [桁数] フィールドを更新して、レコード番号を定義します。
アクセス可能	1. [アクセス] タブを開きます。 2. [アクセス可能] フィールドで、[すべてのアプリケーションスコープ] または [このアプリケーションスコープのみ] を選択します。
アプリケーションのアクセス制御	1. [アクセス] タブを開きます。 2. [アプリケーションのアクセス制御] フィールドで、[読み取り]、[作成]、[更新]、または [削除] 選択ボックスを選択して、テーブルに必要なアクセスレベルを指定します。

テーブルビルダー のフィールド構成

テーブルビルダー 内の任意のフィールドの基本的なフィールドプロパティを設定できます。

フィールドの詳細

[フィールドの詳細] セクションでは、フォームエディターで選択したフィールドの基本的なフィールド要素を設定できます。

フィールドタイプの説明と、使用できるフィールドタイプの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。

基本的なフィールドプロパティを理解し、テーブルのフィールドを追加およびカスタマイズする方法を学習するには、「テーブルのフィールドを追加およびカスタマイズする」を参照してください。

次の表は、[フィールドの詳細] セクションのフィールドの説明を示しています。

フィールドの詳細

フィールド	説明
ラベル	フォームユーザーに表示されるフィールドの名前。
有効	フィールドをアクティブにしてフォームユーザーが表示できるようにするオプション。 [アクティブ] を選択解除すると、フィールドが非アクティブ化されます。[アクティブ] が選択

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールドの詳細 (続く)

フィールド	説明
	されていない場合、フィールドはフォームエディターに表示されません。 フィールドを再度アクティブ化するには、[データ] タブのフィールド列の左側にカーソルを合わせ、サイドパネルを開くアイコン [⚙] を選択します。[アクティブ] を選択して変更を保存します。
読み込み専用	フォームユーザーがフィールドを編集できないようにするために選択できるオプション。
必須	ユーザーがフォームへの変更を保存する前にフィールドへのデータ入力を要求するために選択できるオプション。
[ラベルの詳細を構成] メニュー (...)	フィールドラベルのプロパティ： • ユーザーがフィールドをポイントすると表示される [ツールヒント] プロパティ。 • フィールドの複数のインスタンスが存在する場合に、ユーザーがラベルの複数形を入力する必要があることを示す [複数形] プロパティ • フィールドラベルが他の場所にリンクする場合、ユーザーがここに URL を入力する必要があることを示す **[URL]** プロパティ。

デフォルト値

デフォルト値は、新しいレコードの空のフォームのフィールドに自動的に入力されます。または、後からユーザーが新しいレコードを送信するときにフィールドに入力されます (フィールドが空の場合)。デフォルト値は定数として指定するか、スクリプトを使用して生成できます。

フィールドのデフォルト値を定義する方法については、「デフォルトのフィールド値を指定する」を参照してください。

以下の表は、[デフォルト値] セクションのフィールドの説明を示しています。

デフォルト値

フィールド	説明
ダイナミックデフォルトを使用	フィールドに表示されるデフォルト値を設定できる [ダイナミックデフォルト値] フィールドを表示するプロパティ。
デフォルト値	フィールドのデフォルト値を表す文字列または数値。
ダイナミックデフォルト値	検索フィールドに入力できるキーワード。その後、ユーザーは、フィールドの目的のデフォルト値を含むフィールドを選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関数の定義

関数フィールドは、他のフィールドと定数の単純な計算に基づいて値を生成します。

このセクションは、フィールドを作成しているときに [詳細プロパティ] セクションで [関数フィールド] を選択するとエディターに表示されます。

関数フィールドの定義については、「関数フィールド」を参照してください。

次の表は、[関数の定義] セクションのフィールドの説明を示しています。

関数の定義

フィールド	説明
関数の定義	フィールドの目的の値を生成する関数式。

参照

参照修飾子は、参照フィールドで使用可能なレコードを制限します。

参照フィールドの定義については、「参照フィールドタイプ」を参照してください。

次の表は、[参照] セクションのフィールドの説明を示しています。

参照フィールド

フィールド	説明
参照	選択したフィールドが参照するデータテーブル。
参照修飾子を使用	修飾子オプション： • ユーザーがシンプルな条件式をビルドできるようにする [簡易] オプション。ユーザーは、[参照修飾子] フィールドの下にある [条件を編集] ボタンを選択できます。 • ユーザーが [参照修飾子] フィールドを使用して詳細な条件式をビルドできるようにする [詳細] オプション。詳細参照修飾子を使用すると、[参照修飾子] フィールドで、インライン暗号化クエリ文字列または JavaScript (実際のコード、または既存のスクリプトインクルードまたはビジネスルールの名前) フィルターを定義できます。 • ユーザーが [参照修飾子] フィールドを使用して選択した参照フィールドの条件式をビルドできるようにする [動的] オプション。動的参照修飾子を使用すると、ユーザーは動的フィルターを使用して、参照フィールドに対してクエリを実行し、返されたデータセットをフィルタリングできます。
参照修飾子	[参照修飾子を使用] フィールドでのユーザーの選択に基づく参照修飾子。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

参照フィールド (続く)

フィールド	説明
条件を編集	ユーザーが [参照修飾子] フィールドにシンプルな条件式を入力できるポップアップウィンドウを起動するためのハイパーリンク。

依存フィールド

選択肢または参照フィールドは、同じテーブルの別のフィールドに依存して宣言することができます。依存フィールドは、依存フィールドの値に基づいて使用可能な値を制限します。

依存フィールドを使用すると、選択肢がオンになります。フィールドで使用可能な選択肢は、ユーザーが依存フィールドに選択する値によって異なります。

フィールドの依存関係の定義については、「フィールドに依存する」を参照してください。

次の表は、[依存フィールド] セクションのフィールドの説明を示しています。

依存フィールド

フィールド	説明
依存フィールドを使用	選択したフィールドでアクティブ化できるフィールドの依存関係。
依存フィールドを選択	フォーム上の別のフィールドを選択するリスト。これを使用して、設定するフォームフィールドでユーザーに表示する選択肢を制御できます。

選択肢

選択リストは、ユーザーが事前定義された選択肢のセットから選択できるフィールドのタイプです。利用可能な選択肢を定義し、任意のリストの動作と外観をカスタマイズできます。選択リストの構成については、「選択リストフィールドタイプ」を参照してください。

[構成] パネルの [選択肢] セクションで [選択肢を使用] を選択し、[編集] または [+追加] アイコンを選択して、選択したフィールドで利用可能な選択肢をカスタマイズします。

次の表は、[選択肢] セクションのフィールドの説明を示しています。

選択肢のプロパティ

フィールド	説明
ラベル	リスト内の選択肢についてユーザーに表示されるテキスト。
値	選択肢フィールドの値。
依存値	選択した [依存] フィールドで入力した選択肢にマッピングする値。
ドメイン	選択肢が存在するドメイン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択肢のプロパティ (続く)

フィールド	説明
有効	選択肢を選択対象として表示するオプション。非アクティブな選択肢はユーザーに表示されません。
オプション	[別のフィールドの選択肢を使用] を選択して、このフィールドに表示される選択肢を別の選択したフィールドの選択肢から複製できるようにするオプション。
選択肢を次のように表示	フォームのユーザーに対する選択肢のリストの表示方法を制御するオプション。 • [ドロップダウン] オプション。フィールドのデフォルト値を設定する必要があります。 注: デフォルトが設定されていない場合、[なし] が自動的にデフォルト値になり、ユーザーの選択リストに表示されます。 • [「-- なし --」選択のあるドロップダウン] オプション。[なし] がデフォルト値になります。 • [提案 (コア UI のみ)] オプション。選択肢は提案として表示されます。
フィルター	選択リストをフィルタリングするオプション。すべての選択肢 (非アクティブな選択肢を含む) を表示するには、[非アクティブな選択肢を表示] を選択します。

属性

辞書属性は、辞書レコードが記述するテーブルまたは要素の動作を変更します。辞書属性を追加または変更できます。辞書属性については、「辞書属性」を参照してください。

[構成] パネルの [属性] セクションで、[編集] または [+追加] を選択して、選択したフィールドの利用可能な属性をカスタマイズできます。

次の表は、[属性] セクションのフィールドの説明を示しています。

属性プロパティ

フィールド	説明
属性	利用可能な属性のオプションリスト。利用可能な属性のリストからオプションを選択します。 使用可能な属性のリストを確認するには、「辞書属性」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

属性プロパティ (続く)

フィールド	説明
値	辞書レコードによって記述されたフィールドの動作を変更するために設定できる属性値。

計算式

式を使用すると、スクリプトを記述せずに列の値を計算できます。事前定義された式のいずれかを使用するか、2 つ以上の式を組み合わせて列の値を計算できます。事前定義された計算式と例については、「計算式」を参照してください。

[式] セクションで、[編集] または **[+** 追加] を選択して式を編集または追加します。

式のプロパティ

フィールド	説明
式エディター	式を入力および編集できるインターフェイスのようなテキストエディター。

テーブルビルダー の列値の式

事前定義された関数を使用して、スクリプトを記述せずに列の値を計算する式を作成します。事前定義された関数を使用するか、事前定義された既存の関数を使用してネストされた計算式を作成し、列の値タイプを計算します。

サポートされている演算子

次の比較演算子は、数値タイプの値の場合のみサポートされています。

- = (次の値に等しい)
- <> (次の値と等しくない)
- > (次の値を超える)
- < (次の値未満)
- >= (次の値以上)
- <= (次の値以下)

単純な数式関数

単純な数式関数を使用して、数値列に対して基本的な数学計算を実行します。

平均

引数の平均値を返します。

構文	入力	出力
AVERAGE(argument 1, argument 2, ... argument n)	数値、関数呼び出し、または変数	数値

例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 関数：AVERAGE(1,2,3)

  結果は 2 です。

- 式：AVERAGE(LENGTH(first_name), LENGTH(last_name))

  結果は、first_name 列と last_name 列の文字数の平均値です。

DIVIDE

関数が最後の引数に達するまで、最初の引数を次の引数で連続的に除算した後、最終的な商値を返します。

構文	入力	出力
DIVIDE(argument 1, argument 2 ... argument n)	数値、関数呼び出し、または変数	数値

例：

- 関数：DIVIDE(10,20, 0.25, 10)

  結果は 0.2 です。

- 式：DIVIDE(LENGTH(full_name),2)

  結果は、full_name 列の文字数を 2 で割ったものです。

INDEXMATCH

指定された引数のセットから最初の非 null 値を取得します。

構文	入力	出力
INDEXMATCH(argument 1, argument 2 , ... argument n)	文字列、数値、関数呼び出し、または変数。	数値

例：

関数：INDEXMATCH("","" "",2,"string")

結果は 2 です。

MAX

指定された引数の最大値を返します。

構文	入力	出力
MAX(argument 1, argument 2, ... argument n)	数値、関数呼び出し、または変数	数値

例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 関数：MAX(1, -5, 20, 6)

  結果は 20 です。

- 式：MAX(LENGTH(first_name), LENGTH(last_name))

  結果は、first_name 列または last_name 列のいずれか大きい方の文字数になります。

最小

指定された引数の最小値を返します。

構文	入力	出力
MIN(argument 1, argument 2, ... argument n)	数値、関数呼び出し、または変数	数値

例：

- 関数：MIN(1, -5, 20, 6)

  結果は -5 です。

- 式：MIN(LENGTH(first_name), LENGTH(last_name))

  結果は、first_name 列または last_name 列のいずれか小さい方の文字数です。

MULTIPLY

引数の乗算値の合計を返します。

構文	入力	出力
MULTIPLY (argument 1, argument 2, ... argument n)	数値、関数呼び出し、または変数	数値

例：

- 関数：MULTIPLY(12, 4)

  結果は 48 です。

- 式：MULTIPLY(order, 2)

  結果は、order 列の値を 2 倍したものです。

権限

基底値を指数値でべき乗した結果を返します。

構文	入力	出力
POWER(argument 1, argument 2)	引数 1 が基底値で、引数 2 が指数です。	番号

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

構文	入力	出力
	• 基底値：数値または変数 • 指数：数値または変数	

例：

- 関数：POWER(3,2)

  結果は 9 です。

- 式： POWER(LENGTH(full_name),2)

  結果は、full_name 列の文字数の 2 乗です。

SUBTRACT

関数が最後の引数に達するまで、前の引数から次の使用可能な引数を連続的に減算した結果の値を返します。

構文	入力	出力
SUBTRACT(argument 1, argument 2 ... argument n)	数値、関数呼び出し、または変数	数値

例：

- 関数: SUBTRACT(1.15, 0.02, 0.45, -0.85)

  結果は 1.53 です。

- 式: SUBTRACT(LENGTH(full_name), LENGTH(first_name))

  結果は、full_name 列の文字数から first_name 列の文字数を引いたものです。

合計

すべての引数の合計を返します。

構文	入力	出力
SUM(argument 1,argument 2, ... argument n)	数値、関数呼び出し、または変数	数値

例：

- 関数：SUM(0.03, -0.02, 1)

  結果は 1.01 です。

- 式：SUM(LENGTH(first_name), LENGTH(last_name))

  結果は、first_name 列の合計文字数と last_name 列の合計文字数を加算したものです。

COUNTIF

指定された引数セット内の指定された基準に一致する引数の数を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

構文	入力	出力
COUNTIF(argument 1, argument 2, argument n-1, criteria)	• argument 1 … argument n：文字列、数値、関数呼び出し、または変数。 • criteria：指定された引数のセットを評価する基準。文字列、数値、関数呼び出し、または変数。	数値

例：

関数：COUNTIF(2,3,2,"string",2)

結果は 2 です。

MODE

指定された引数のセットで最も頻繁に繰り返される値を返します。

構文	入力	出力
MODE(argument 1,argument 2, ... argument n)	数値、関数呼び出し、または変数	数値

例：

関数：MODE(1, 2, 2, 3, 3, 3)

結果は 3 です。

文字列関数

文字列関数を使用して、文字列列値の再フォーマットまたは計算を実行します。

CONCATENATE

1 つ以上の入力文字列を単一の文字列に結合します。

構文	入力	出力
CONCATENATE(string 1, string 2, … string n)	文字列、関数呼び出し、または変数	文字列

例：

- 関数: CONCATENATE(first_name, ".", last_name, "@", LOWERCASE(example), ".com")

  結果は連結された値 <first_name_value>.<last_name_value>@example.com です。この例では、<first_name_value> と <last_name_value> はプレースホルダーです。

- 関数：CONCATENATE (first_name, " ", last_name)

  結果は、first_name 列の値と last_name 列の値が空白で区切られた連結された文字列です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISBLANK

文字列内の空白または空の値を検索し、存在する場合は true を返します。

構文	入力	出力
ISBLANK(argument)	文字列または値	true または false

例：

- 関数：ISBLANK(“example_string”)

  結果は false です。

- 関数：ISBLANK (full_name)

  結果は、full_name 列に空のスペースがある場合にのみ true になります。それ以外の場合、結果は false になります。

LENGTH

入力文字列内の合計文字数を返します。

構文	入力	出力
LENGTH(argument)	文字列値、関数コール、または変数	数値

例：

- 関数：LENGTH("example_string")

  結果は 14 です。

- 関数：LENGTH(full_name)

  結果は、full_name 列の値の合計文字数です。

LOWERCASE

入力文字列をすべて小文字に変換します。

構文	入力	出力
LOWERCASE(argument)	文字列、関数呼び出し、または変数	小文字の文字列

例：

- 関数：LOWERCASE(“ExamPle inpuT stRing”)

  結果は、example input string です。

- 関数：LOWERCASE (sys_created_by)

  結果は sys_created_by 列の値の小文字の文字列です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

REPLACE

ソース文字列の文字をターゲット文字列の文字で置き換えます。

構文	入力	出力
REPLACE(source_string, target_string, replacement_string)	• source_string：文字列、関数呼び出し、または変数 • target_string：文字列、関数呼び出し、または変数 • replacement_string：文字列、関数呼び出し、または変数	文字列

例：

- 関数：REPLACE(“Pepperoni Pizza”, “Pepperoni”, “Cheese”)

  結果の文字列は、Cheese Pizza です。

- 関数：REPLACE("abe.tuter@example.com", "example", company_name)

  結果の文字列は、abe.tuter@<company_name>.com です。この例では、<company_name> はプレースホルダーです。

TITLECASE

入力文字列の最初の文字をすべて大文字に変換します。

構文	入力	出力
TITLECASE(argument)	文字列、関数呼び出し、または変数	タイトルケースの文字列

例：

- 関数：TITLECASE("example string")

  結果は、Example String です。

- 関数：TITLECASE (full_name)

  結果は、最初の文字がすべて大文字になった full_name 列の値です。

UPPERCASE

入力文字列をすべて大文字に変換します。

構文	入力	出力
UPPERCASE(argument)	文字列値、関数コール、または変数	大文字の文字列

例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 関数：UPPERCASE("eXamPle sTring")

  結果は、EXAMPLE STRING です。

- 関数：UPPERCASE(state)

  結果は、大文字の state 列の値です。

FIND

文字列内で最初に見つかった部分文字列を検索し、最初に見つかった位置を返します。

注: この関数は大文字と小文字を区別します。

構文	入力	出力
FIND(search_string, source_string, from_index)	• search_string：文字列、関数呼び出し、または変数。 • source_string：メイン文字列、関数呼び出し、または変数。 • from_index：検索を開始するメイン文字列内のインデックス位置。数値、関数呼び出し、または変数。	数値 (整数)。サブ文字列がメイン文字列に存在しない場合は、-1 が返されます。

例：

関数：FIND("morning", "Good morning")

結果は 5 です。

SEARCH

文字列内で部分文字列を検索し、部分文字列が最初に出現した位置を返します。

注: この関数は大文字と小文字を区別しません。

構文	入力	出力
SEARCH(search_string, source_string, from_index)	• search_string：文字列、関数呼び出し、または変数。 • source_string：メイン文字列、関数呼び出し、または変数。 • from_index：検索を開始するメイン文字列内のインデックス位置。数値、関数呼び出し、または変数。	数値 (整数)。サブ文字列がメイン文字列に存在しない場合は、-1 が返されます。

例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- SEARCH("Morning", "Good morning")

  結果は 5 です。

- SEARCH("World","Hello world!")

  結果は -1 です。

SUBSTRING

指定されたインデックス位置にある文字列から指定された長さのサブ文字列を取得します。

構文	入力	出力
SUBSTRING(source_string, start_index, length)	• source_string：文字列、関数呼び出し、または変数。 • start_index：サブ文字列が抽出される文字列内の位置。数値、関数呼び出し、または変数。 • length：抽出する必要があるサブ文字列の長さ。	文字列

例：

SUBSTRING("Hello, Good Morning", 7, 4)

結果のサブ文字列は「Good」です。

日付と時刻の関数

日付と時刻の関数を使用して、日付と時刻の列の値を計算します。

NOW

インスタンスの現在の日付と時刻を ISO 形式 (YYYY-MM-DD hh:mm:ss) で返します。

構文	入力	出力
NOW()	この関数に引数は必要ありません	現在の日付と時刻の ISO 形式

例：

関数：NOW()

結果は ISO 形式の現在の日付と時刻です。

TODAY

現在の日付を、UTC タイムゾーンの ISO 形式で、その日の始まりまでの時間オフセットと共に返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

構文	入力	出力
TODAY()	この関数に引数は必要ありません	ISO 形式でのその日の始まりまでの時間オフセットを含む現在の日付。

例：

関数：TODAY()

結果は、ISO 形式の現在の日付とその日の開始時刻です。

TIMEDIFF

2 つの日付の期間差を評価します。

構文	入力	出力
TIMEDIFF(argument1, argument2)	文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD hh:mm:ss)	期間

例：

- 関数：TIMEDIFF("2021-05-02 9:10:12", "2021-04-07 6:2:23")

  結果は、25 03:07:49 です。

- 式：TIMEDIFF(sys_created_on, NOW())

  結果は、sys_created_on 日付とシステムの現在の日付との期間差です。

DATEDIF

2 つの日付の差を日数、月数、または年数で評価します。

構文	入力	出力
DATEDIF(start_date, end_date, date_difference_unit)	• start_date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 • end_date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 • date_difference_unit：文字列で、小文字または大文字の「Y」、「M」、または「D」のいずれかです。デフォルトは「D」です。	指定された日付の差異単位に基づく数値の期間値。

例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関数：DATEDIF("2021-05-02 9:10:12", "2021-05-05 6:2:23 ","d")

結果は 3 です。

DATE

指定された個々の年、月、日の値から日付を作成します。作成日は世界標準時 (UTC) タイムゾーンです。

構文	入力	出力
DATE(year,month,day)	• year：数値、変数、または関数。 • month：数値、変数、または関数。 • day：数値、変数、または関数。	ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD hh:mm:ss)

例：

関数：DATE(2021,5,2)

結果は 2021-05-02 00:00:00 です。

DAY

指定された日付から数字の日コンポーネントを取得します。

構文	入力	出力
DAY(date)	文字列、変数、または関数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。	数値 (整数)。値の範囲は 1 ～ 31 です。

例：

- 関数：DAY("2021-05-029:10:12")

  結果は 2 です。

- 関数：DAY(NOW())

  結果は、現在の日付と時刻の日コンポーネントになります。

MONTH

指定された日付から数値の月コンポーネントを取得します。

構文	入力	出力
MONTH(date)	date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-	数値 (整数)。値の範囲は 1 (1 月) から 12 (12 月) です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

構文	入力	出力
	MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。	

例：

- 関数：MONTH("2021-05-02 9:10:12")

  結果は 5 です。

- 関数：DAY(NOW())

  結果は、現在の日付と時刻の月コンポーネントになります。

YEAR

指定された日付から年コンポーネントを取得します。

構文	入力	出力
YEAR(date)	文字列、変数、または関数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。	数値 (整数)

例：

- 関数：YEAR("2021-05-02 9:10:12")

  結果は 2021 です。

- 関数：YEAR(NOW())

  結果は、現在の日付と時刻の年コンポーネントになります。

WEEKDAY

指定された日付の曜日を数値で返します。日の範囲は 1 (日曜日) から 7 (土曜日) です。

構文	入力	出力
WEEKDAY(date)	date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。	数値 (整数)

例：

関数：WEEKDAY("2021-05-02 9:10:12")

結果は 1 です。

TEXT

特定の日付コンポーネントを文字列形式で取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

構文	入力	出力
TEXT(date, format_text)	• date：文字列、変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 • format_text：抽出される文字列または変数としての日付コンポーネント。	文字列

例：

TEXT("2022-08-17 9:10:12","yyyy-MM")

結果は 2022-08 です。

DATEVALUE

テキスト形式の日付を ISO 形式の日付に変換します。

構文	入力	出力
DATEVALUE(date_text)	date_text：テキストとして保存される日付は、YYYY-MM-DD 形式である必要があります。	文字列としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。

例：

関数：DATEVALUE("2021-05-02")

結果は 2021-05-02 00:00:00 です。

WORKDAY

指定された n 日間の前後の指定された休日および週末を除外することによって、指定された入力日の最も近い作業日を返します。

構文	入力	出力
WORKDAY(start_date, days, holiday 1,holiday 2, ..., holiday n)	• start_date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 • days：数値、文字列、または関数としての日数。 • holiday 1...holiday n (オプション)：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。	文字列としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例：

関数：WORKDAY("2022-08-17 9:10:12",2)

結果は 2022-08-19 00:00:00 です。

NETWORKDAYS

週末と指定された休日の日付を除外して、2 つの日付間の作業日数を計算します。作業日数には開始日と終了日が含まれます。

構文	入力	出力
NETWORKDAYS(start_date,end_date,holiday 1,holiday 2, ... holiday n)	• start_date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 • end_date：文字列または変数としての ISO 形式の日付 (YYYY-MM-DD または YYYY-MM-DD hh:mm:ss)。 • holiday 1、holiday 2、... holiday n (オプション)：営業日の計算時に除外する必要がある休日のリスト。	数値 (整数)

例：

関数：NETWORKDAYS("2022-08-17 20:10:12","2022-08-19 9: 10:12")

結果は 3 です。

論理関数

論理関数を使用して、列の値に対して論理操作を実行します。

AND

引数に対して論理 AND 演算を実行します。

構文	入力	出力
AND(argument 1, argument 2)	文字列、関数呼び出し、または変数	true または false

例：

- 関数：AND(2>3, 4<5)

  結果は false です。

- 式：AND(LENGTH(sys_created_by)>25, LENGTH(sys_updated_by)>25)

  sys_created_by 列と sys_updated_by 列の両方の文字数が 25 より大きい場合にのみ、結果は true になります。それ以外の場合、結果は false になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IF

条件式のブール出力に基づいて、指定されたステートメントを実行します。

構文	入力	出力
IF(<conditional_expression>, <do_this_when_true>, <do this_when_false>)	• conditional_expression：論理条件式、関数呼び出し、または変数 注: 条件式では、文字列の論理比較はサポートされていません。 • do_this_when_true：条件が true と評価された場合に返される文字列、数値、関数呼び出し、または変数 • do_this_when_false：条件が false と評価された場合に返される文字列 、数値、関数呼び出し、または変数	条件式のブール出力に基づく文字列、数値、関数呼び出し、または変数。

例：

- 関数：IF(number_of_incidents >= 5, "High", "Medium")

  インシデントの数が 5 より大きい場合、文字列「High」が返されます。それ以外の場合は、文字列「Medium」が返されます。

- 関数：IF(LENGTH(full_name) > 100, "Number of characters exceed the limit", "Number of characters within the limit")

  full_name 列の文字数が 100 を超える場合、文字列「Number of characters exceed the limit」が返されます。それ以外の場合は、文字列「Number of characters within the limit」が返されます。

OR

引数に対して論理 OR 演算を実行します。

構文	入力	出力
OR(argument 1, argument 2)	条件式、関数呼び出し、または変数	true または false

例：

- 関数：OR(2>3,4<5)

  結果は true です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 式：OR(LENGTH(first_name)>25, LENGTH(last_name)<25)

  first_name 列の文字数が 25 を超えるか、last_name 列の文字数が 25 未満の場合に、結果は true になります。それ以外の場合、結果は false になります。

IFERROR

expression 1 を評価し、expression 1 にエラーがない場合は expression 1 の値を返します。expression 1 の評価中にエラーが発生した場合、expression 2 が評価され、expression 2 の値が返されます。

構文	入力	出力
IFERROR(expression 1, expression 2)	• expression 1：演算、論理式、関数呼び出し、文字列、数値、または変数。 • expression 2：演算、論理式、関数呼び出し、文字列、数値、または変数。	expression 1 にエラーがない場合は expression 1 の結果。それ以外の場合は expression 2 の結果です。

例：

関数：IFERROR(MULTIPLY(snr_factor, signal)、MULTIPLY(default_factor, signal))

snr_factor 値が有効な数値の場合、snr_factor と信号の乗算値が返されます。snr_factor 値が有効な数値でない場合、default_factor 値と信号の乗算値が返されます。

テーブルビルダー で列に式を追加する

テーブルビルダー で、事前定義された関数を使用するか式を作成して、スクリプトを記述せずに列の値を計算します。複数の関数を使用して、要件に応じて式を作成できます。

始める前に

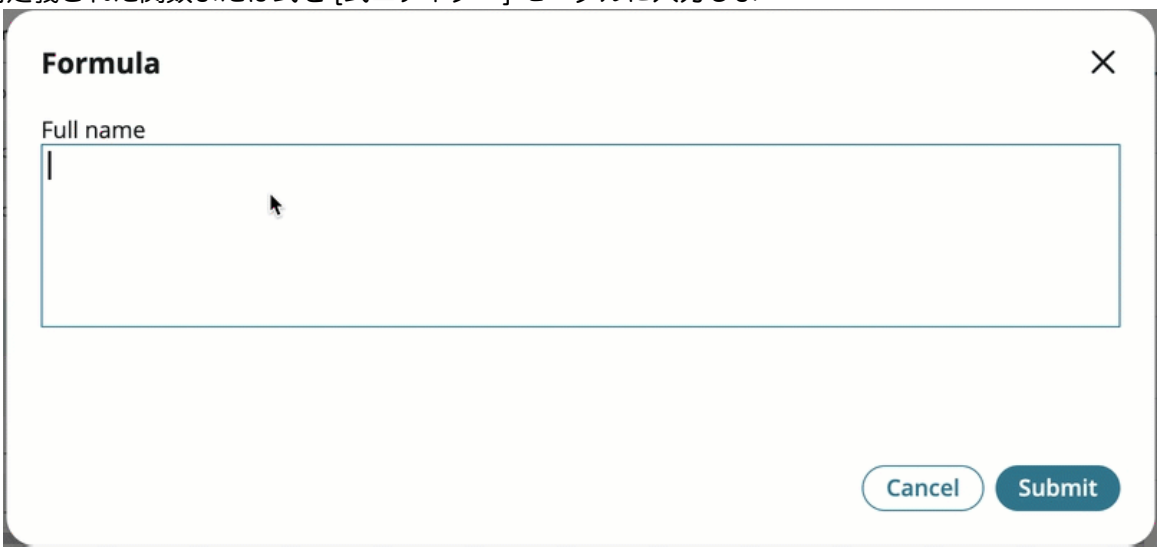
- テーブルのスコープはアプリケーションのスコープ内にある必要があります。それ以外の場合、アプリのスコープ外のテーブルの列に式を追加することはできません。
- 必要なロール：personalize_dictionary または AES ユーザーロールと委任開発者権限。詳細については、「AES を使用する開発者の委任」を参照してください。

手順

1. [データ] または [フォーム] タブで、列の [開く] サイドパネルアイコン ( ) をクリックします。
2. [式] セクションの [構成] タブで、**[+** 追加] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 事前定義された関数または式を [式エディター] モーダルに入力しま



す。

たとえば、[名] 列の値と [姓] 列の値を連結して [フルネーム] 列の値を入力するには、`CONCATENATE(first_name,last_name)` と入力します。利用可能な事前定義された関数と式の例の詳細については、「テーブルビルダー の列値の式」を参照してください。

構文のガイダンスと例については、入力開始時に表示される自動提案の機能をクリックしてください。

> **注:** サポートされていない列、関数フィールドである列、すでに計算値タイプとしてスクリプトが含まれている列には式を追加できません。

4. [送信] をクリックします。

タスクの結果

式が検証され、エラーがない場合は列に追加されます。

テーブルビルダー でのポリシーとルールのプロパティ

テーブルビルダー で、作業しているフィールドの基本的なフィールドポリシーとルールを設定できます。

UI ポリシー

[UI ポリシー] セクションを使用すると、ロールとユーザー入力に基づいて、フォームの表示方法を設定できます。

基本的なフィールドプロパティを理解するには、「 テーブルビルダー での UI ポリシーの作成」を参照してください。

次の表は、UI ポリシーを追加または編集するときの [ポリシーの詳細] セクションのフィールドの説明を示しています。

ポリシーの詳細

フィールド	説明
簡単な説明	UI ポリシーの簡単な要約。
テーブル	ポリシーが適用されるデータテーブル。
ドメイン	選択肢が存在するドメイン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーの詳細 (続く)

フィールド	説明
順番	処理のシーケンス (最小値から最大値まで)。2 つのポリシーが競合する場合は、数値の大きい UI ポリシーが実行されます。 継承された UI ポリシーについては、拡張 (子) テーブルの UI ポリシーが最初に実行されます。次に、ベーステーブルの UI ポリシーが実行されます。どちらも、指定された値が最も小さいものから最も大きいものの順序で実行されます。
アクティブ	UI ポリシーのステータス。アクティブ化されている UI ポリシーのみが適用されます。
すべてのビューに適用/ビューに適用 [詳細設定]	UI ポリシーをすべてのフォームビューまたは特定のビューのどちらに適用するかを指定するオプション。フォームビューの詳細については、「ビュー管理」を参照してください。
ロード時 [詳細設定]	フォームの変更時に UI ポリシーの動作を OnLoad で実行するように指定するためのオプション。 UI ポリシーの [ロード時] チェックボックスをオンまたはオフにして、フォームがロードされ、条件が満たされるたびにそれを実行するかどうかを制御できます。次の例では、アドミニストレーターは、ユーザーが顧客に説明を提供しない限り、インシデントが [ユーザー情報待ち] ステータスにならないようにします。アドミニストレーターは、次の設定で UI ポリシーを作成します。 • [これらの条件が満たされている場合] セクションで、条件 [ステータス][は次の値に等しい][ユーザー情報待ち] を追加し、[ロード時] チェックボックスをオフにします。ステータスが [ユーザー情報待ち] に変更された場合にのみ UI ポリシーが適用されます。 • **[UI** ポリシーアクション] リストで、条件が満たされたときに [追加コメント] フィールドを必須にするレコードを作成します。
False の場合は取り消し [詳細設定]	ポリシーの条件が false と評価された場合に UI ポリシーアクションを取り消す必要があることを指定するためのオプション。条件が true の場合はアクションが実行され、false に変更されるとアクションが取り消されます (元に戻されます)。
継承 [詳細設定]	拡張テーブルがこの UI ポリシーを継承するかどうかを指定するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーの詳細 (続く)

フィールド	説明
	子テーブルに親テーブルから継承された UI ポリシーがある場合、UI ポリシーの順序に関係なく、子テーブルの UI ポリシーが常に最初に実行されます。次に例を示します。 • 子テーブルには、条件が満たされたときに [緊急度] フィールドを表示する、[順序] 値 **500** の UI ポリシーがあります。 • その親テーブルには、[緊急度] フィールドを非表示にする同じ条件の UI ポリシーがあります。親テーブルの UI ポリシーの [順序] 値は **100**です。 • 親テーブルの [順序] フィールドの値の方が小さい値ですが、最初に子 UI ポリシーが実行され、次に親 UI ポリシーが実行されます。条件が満たされると、[緊急度] フィールドは非表示になります。

次の表は、UI ポリシーを追加または編集するときの [これらの条件が満たされている場合] セクションのフィールドの説明を示しています。

これらの条件が満たされている場合

フィールド	説明
条件セット	条件を満たすと UI ポリシーが適用されることになる条件。条件は、条件ビルダーでロジックステートメントを使用してビルドします。スクリプトを使用して条件を設定するには、代わりにクライアントスクリプトを使用します。 ユーザーが手動でフォームのフィールドを変更した場合のみ、条件が再度確認されます。UI アクション、コンテキストメニューアクション、リストエディターによる変更は、評価されません。

次の表は、UI ポリシーを追加または編集するときの [次を実行 (Do the following)] セクションのフィールドの説明を示しています。

必要な操作

フィールド	説明
フィールド名	条件を満たしている場合に UI ポリシーがアクションを実行する対象となる、選択したテーブルのフィールド。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要な操作 (続く)

フィールド	説明
	注: 指定したフィールドがフォーム上にない場合、UI ポリシーは同じ名前の変数に対してアクションを実行します。
必須	UI ポリシーがフィールドの必須ステータスに与える影響を指定するためのリスト。選択肢は次のとおりです。 • 放置する • **True** • **False**
表示	UI ポリシーがフィールドの表示ステータス (つまり表示されるかどうか) に与える影響を指定するためのリスト。選択肢は次のとおりです。 • 放置する • **True** • **False**
読み取り専用	UI ポリシーがフィールドの読み取り専用状態に与える影響を指定するためのリスト。選択肢は次のとおりです。 • 放置する • **True** • **False**
フィールド値をクリア	条件が満たされた場合に指定されたフィールドをクリアするオプション。

アクセス制御ルール

[アクセス制御ルール] セクションを使用すると、適合するロール、条件、スクリプト基準に基づく、指定されたリソースへのアクセスを設定できます。

次の表は、[アクセス制御ルール] セクションのフィールドの説明を示しています。

フィールド	説明
名前	フォームまたはデータにアクセスする権限を持つ各ユーザーを指定します。 • 名前を小文字の firstname.lastname として、ピリオドで区切って入力します (例：`john.smith`)。各名前には、*`hi.servicenow.com`* で対応するユーザーレコードが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• 複数のユーザーがフォームまたはデータにアクセスする権限を持っている場合は、複数の名前をカンマで区切って入力します。 • すべてのユーザーがフォームまたはデータにアクセスできるようにするには、名前としてアスタリスク (*) を入力します。
説明	アクセス制御ルールによって制限または有効化される内容の概要。
タイプ	アクセスが制御されるオブジェクトのタイプ。次が含まれます。 • クライアント呼び出し可能スクリプトインクルード • プロセッサ • レコード • UI ページ • UX ルート オブジェクトタイプの詳細については、「オブジェクトの ACL 一致要件」を参照してください。
運用	指定されたオブジェクトに対してシステムが実行できるアクションのタイプ (削除や実行など)。レコードなどの一部のオブジェクトは複数の操作をサポートしますが、REST_Endpoint などの他のオブジェクトは 1 つの操作のみをサポートします。アクションタイプの詳細については、「ACL ルールのタイプ」を参照してください。
アクティブ	ルールのアクティブ状況： true ルールがアクティブで利用可能になります。 false ルールは非アクティブで利用できません。
条件	ルールに適用される条件。
ロール	ルールが適用されるロール。
アドミン優先	アクセスレベルでアドミン優先のルールの評価を強制するオプション。アドミン優先の詳細については、「アクセスレベルでアドミン優先を評価する」を参照してください。
詳細	スクリプトをルールに関連付けるオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントスクリプト

[クライアントスクリプトルール] セクションを使用すると、定義済みの基準に基づいてフォームフィールドの表示方法を制御するスクリプトを作成できます。

クライアントスクリプトフィールドの値の全リストについては、「クライアントスクリプトフォーム」を参照してください。

次の表は、[クライアントスクリプトルール] セクションのフィールドの説明を示しています。

フィールド	説明
名前	スクリプトの名前。
説明	スクリプトの機能と目的の概要。
テーブル	スクリプトが利用可能なテーブルまたはフォーム。
有効	スクリプトのアクティブ状況： true スクリプトがアクティブで、利用可能になります。 false ルールは非アクティブで利用できません。
UI タイプ	スクリプトが利用可能なアプリケーションのタイプ (デスクトップやモバイルなど)。
タイプ	次を含むテーブルまたはフォームでスクリプトが実行される場合： • onCellEdit • onChange • onLoad • onSubmit
フィールド名	スクリプトが実行されるフィールド。
表示	クライアントスクリプトが実行されるビュー (グローバルスクリプトには適用されません)。
継承	クライアントスクリプトが拡張テーブルに適用されるかどうかを示します。

ビジネスルール

[ビジネスルール] セクションを使用すると、特定の条件が満たされたときにフォームフィールドの値を自動的に変更するなどのタスクを遂行するためのビジネスルールを作成できます。

ビジネスルールの値の全リストについては、「ビジネスルールの作成」を参照してください。

次の表は、[ビジネスルール] ルールセクションのフィールドの説明を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	ビジネスルールの名前。
テーブル	ビジネスルールが実行されるテーブルまたはフォーム。
有効	ビジネスルールのアクティブ状況： true ビジネスルールがアクティブで利用可能になります。 false ビジネスルールは非アクティブで利用できません。
時期	ビジネスルールの実行タイミング：データベース操作の完了に関連して、[表示]、[次の前]、[非同期]、または [次の後] から選択します。
フィルター条件	選択したテーブルのフィールド値に基づいてビジネスルールを実行する必要があるタイミングを決定するために、条件ビルダーを使用して作成された条件。
ロールの条件	テーブルまたはフォーム内のレコードを変更するユーザーが実行するビジネスルールに対して保持している必要があるロール。
アクション	指定されたフィールドでビジネスルールによって実行されるアクション (挿入、更新、削除など)。
フィールド値の設定	アクションが実行されるテーブルまたはフォームフィールド。
メッセージの追加	このビジネスルールの実行時にメッセージを表示するかどうか： true ビジネスルールの実行時にメッセージが表示されます。 false ビジネスルールの実行時にメッセージは表示されません。
アクションの中止	ビジネスルールが現在のデータベーストランザクションを中止するかどうか： true ビジネスルールは、実行時に現在のデータベーストランザクションを中止します。 false ビジネスルールは、実行時に現在のデータベーストランザクションを中止しません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	たとえば、挿入前のビジネスルールで、条件が満たされている場合は、レコードをデータベースに挿入しません。
順番	このビジネスルールを実行する順序を示します。特定のアクティビティに複数のルールがある場合、ルールは指定された順序 (昇順) で実行されます。

ワークスペースビュールール

[ワークスペースビュー] セクションを使用すると、基準に基づいてユーザーがワークスペースを表示する方法を制御するルールを定義できます。

次の表は、[ワークスペースビュールール] セクションのフィールドの説明を示しています。

フィールド	説明
名前	ワークスペースビュールールの名前。
テーブル	ワークスペースビュールールが利用可能なテーブルまたはフォーム。
表示	フォームの表示に使用されるビュー。このフィールドが空のままであるか、無効な値が含まれている場合は、デフォルトのビューが使用されます。
ロール	ルールが適用されるロール。
条件	ルールに適用される条件。
セクションのナビゲーションを非表示	セクションナビゲーションを有効または無効にするオプション。
セクションの折りたたみを無効にする	セクションの折りたたみを有効または無効にするオプション。
デフォルトタブの順序	デフォルトでフォームタブが表示される順序。

UI ビルダー

UI ビルダー は Web ユーザーインターフェイスビルダーです。UI ビルダー を使用して、App Engine Studio の生成されたワークスペース、または ネクストエクスペリエンスのコンポーネントとカスタム Web コンポーネントを使用するカスタム Web エクスペリエンスのためのページをビルドします。

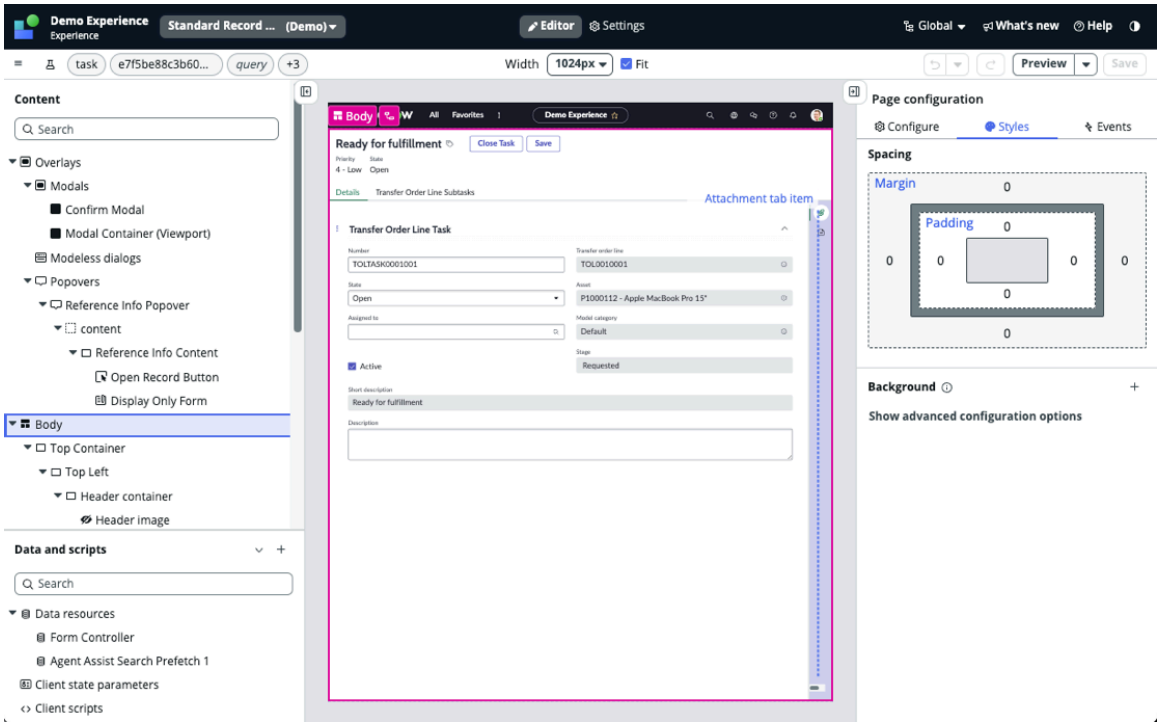
UI ビルダー の概要

ワークスペースエクスペリエンス用のページを作成またはカスタマイズします。ページは、ワークスペースのユーザーインターフェイスを構成するコンポーネントのコレクションです。

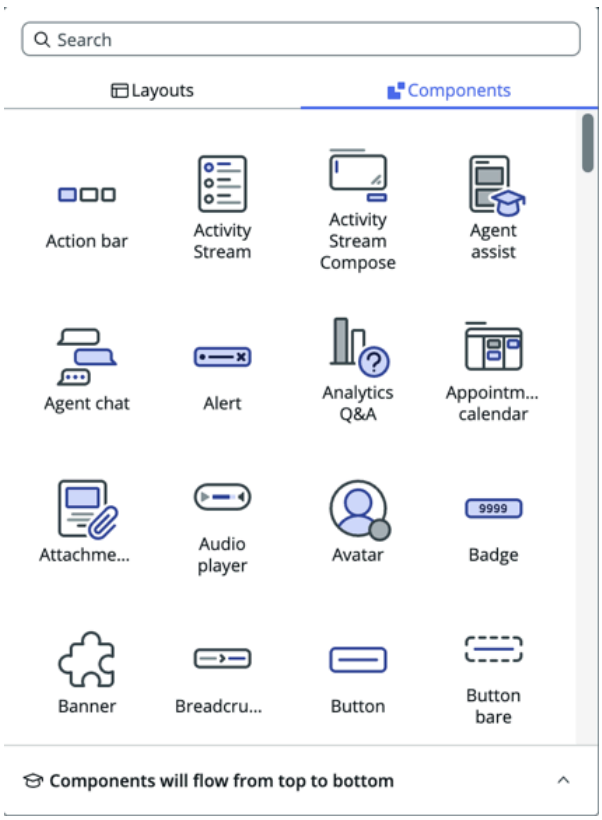
さまざまな対象者のエクスペリエンスをターゲットとするページのバリアントを作成します。たとえば、エージェント用のホームページとマネージャ用のバリアントを同じ URL で作成できます。

注: UI ビルダー でタスクを完了するには、ui_builder_admin ロールが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

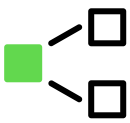


コンポーネントの UI ビルダー ライブラリを使用してページをビルドします。必要に応じて構成し、組織のデータをコンポーネントに接続します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー を開始するには

探索	学習
 UI ビルダー の概念と機能について探索します。	 UI ビルダー の基本的な使い方を学びます。
操作	**詳細**
 UI ビルダー のエクスペリエンスとページの構成について詳しく説明します。	 データを追加してページを動的にする方法を学びます。

注: UI ビルダー には、従業員センター など、ServiceNow ベースシステムのサービスポータルをビルドまたは構成する機能はまだありません。サービスポータルについては、引き続きサービスポータルデザイナー を使用してください。

UI ビルダー のトラブルシューティングとヘルプ

- ユーザーアカウントのロック解除または追加、復元または zBoot の実行などについては、会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください。

  会社のカスタマーアドミンにお問い合わせください

- UI ビルダー のコミュニティで質問や回答をする
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 独自のアプリを作成する方法の詳細については、開発者サイトを参照してください。
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

UI ビルダー の探索

UI ビルダー のファセットを調べて、ページをすばやく作成できるようにします。

UI ビルダー に関する詳細	その他の ServiceNow リソース
UI ビルダー は Web ユーザーインターフェイスビルダーです。UI ビルダー を使用して、CSM 構成可能ワークスペース、App Engine Studio の生成されたワークスペースとポータル、またはネクストエクスペリエンスのコンポーネント とカスタム Web コンポーネントを使用するカス	ServiceNow 開発プログラム YouTube チャンネル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー に関する詳細	その他の ServiceNow リソース
タム Web エクスペリエンスのためのページをビルドします。	コミュニティ YouTube チャンネル ServiceNow コミュニティサイト Developer Advocate ブログ ServiceNow Developer サイト コンポーネントのドキュメント

「UI ビルダークイックスタート」を参照して、UI ビルダー の基本を理解してください。UI ビルダー の理解を深めたい場合は、チュートリアルを実行して最初のページを作成する方法を学習してください。

UI ビルダー の対象者、アプリケーションスコープやドメインセパレーションなどのセキュリティとロールの設定、およびエクスペリエンス設定に関連する情報をお調べください。

UI ビルダー を CSM ワークスペースとポータルエクスペリエンスで使用する方法を確認してください。

UI ビルダークイックスタート

このクイックスタートでは、UI ビルダー で最初のページを作成する手順を説明します。最初のページを作成することは、ワークスペースまたはカスタムポータルエクスペリエンスのユーザーインターフェイスページをビルドする方法を理解するための、最初のステップとなります。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

この UI ビルダー クイックスタートでは、UI ビルダー で最初のページをビルドするために次のタスクを実行します。

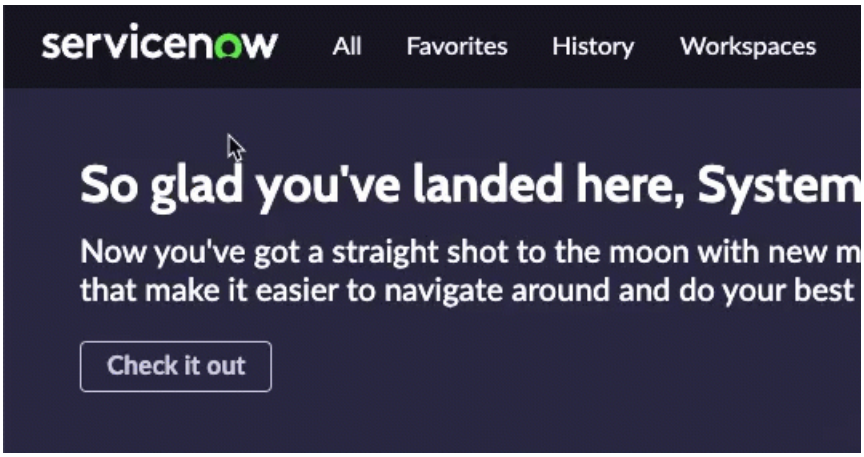
- UI ビルダー を起動します。
- ワークスペースまたはカスタムポータルエクスペリエンスのページを作成します。ページの作成の詳細については、「UI ビルダー でのページの作成」を参照してください。
- コンポーネントを追加してページをビルドします。コンポーネントの詳細ついては、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。
- ページを保存します。
- ページをプレビューして、ブラウザーでどのように表示されるかを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

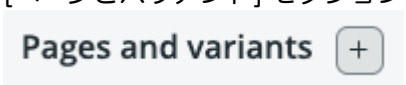
1. [すべて][> **Now Experience** フレームワーク][> **UI** ビルダー]に移動します。

UI ビルダー の起動

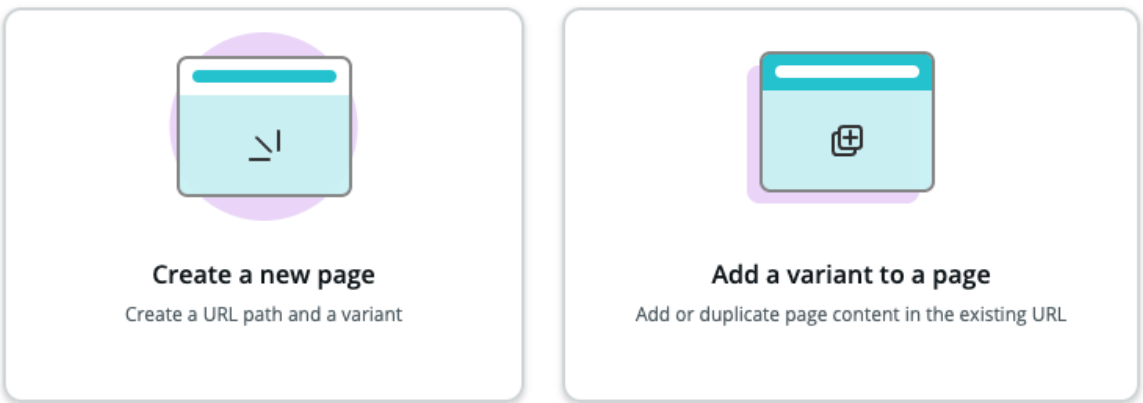


2. UI ビルダー ホームページから、作業するエクスペリエンスを選択します。
作業対象のエクスペリエンスが一覧表示されない場合は、アドミニストレーターに連絡してエクスペリエンスへのアクセス権を取得するか、エクスペリエンスを作成します。詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成します。

a. [ページとバリアント] セクションで **[+]** アイコンを選択します。

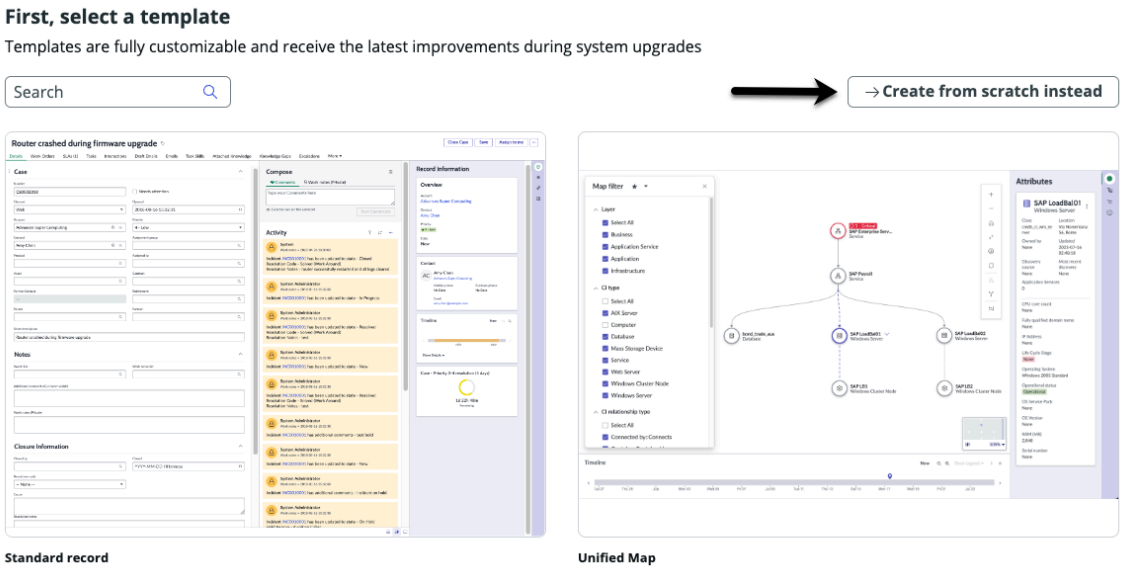


b. [新規ページの作成] を選択します。



c. [代わりに最初から作成します] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

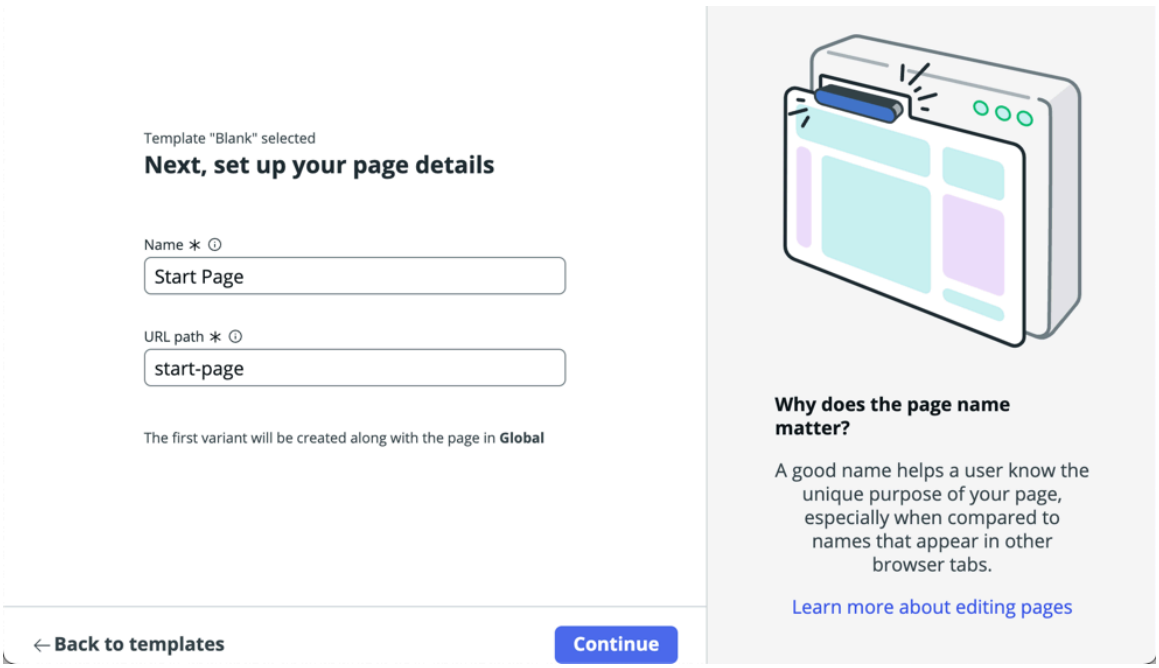


ページテンプレートを使用してページを作成することもできます。詳細については、「テンプレートからのページの作成」を参照してください。

d. [名前] フィールドに、ページの一意の名前として [開始ページ] を入力します。

e. **[URL** パス] フィールドにページのパスを指定します。UI ビルダー は、最後のステップで指定した名前に基づいてデフォルトのパスを生成します。

デフォルトのパスは、ページ名に基づいて追加されます。独自のパスを作成することもできます。パスは必須で、一意になっている必要があります。パスには数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、語の間はスラッシュまたはハイフンで区切られます。**[URL** プレビュー] にはページのパスが表示されます。



注: アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で現在存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. [続行] を選択します。

g. オプション: **[+** 追加] を選択して、パラメーターをページ URL に追加します。
詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

h. [よさそうです]を選択します。

i. ページバリアントの名前として「`Manager Start Page`」と入力します。

j. オプション: このページの対象者を 1 人以上追加します。
必要な対象者がリストにない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] リンクを選択して作成できます。

k. オプション: ページまたはタブを表示するタイミングの条件を追加します。

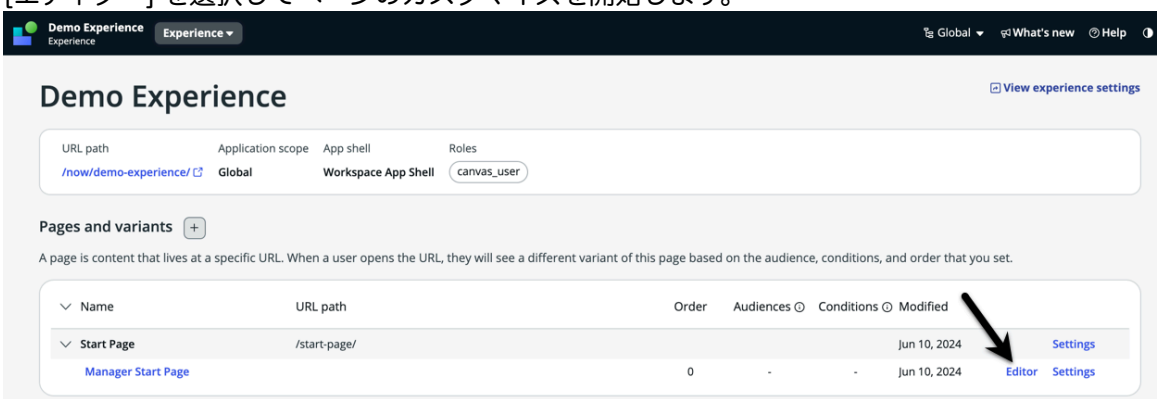
l. [続行] を選択します。

m. 次の画面で、[レスポンシブをビルド **(Build responsive)]** を選択します。

n. [作成] を選択して空白のページを作成します。

おめでとうございます! 最初のページが作成されました。このページにはコンテンツがありません。ページにコンポーネントを追加して機能をビルドします。コンポーネントはページの構成要素です。UI ビルダー には、ページに追加できる多くのコンポーネントが用意されています。コンポーネントは、ヘッダーのようにシンプルにすることも、 リストのように複雑にすることもできます。

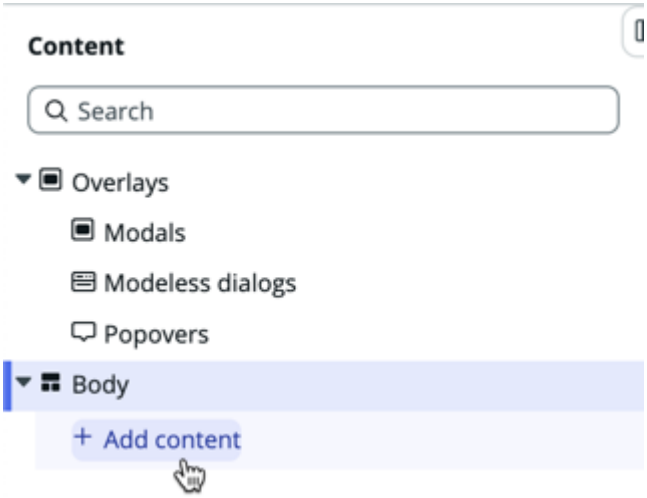
4. [エディター] を選択してページのカスタマイズを開始します。



5. ページにコンテナコンポーネントを追加します。
コンテナはコンポーネントを保持するためのものです。コンテナは、情報、画像、または機能 (コンポーネント) を追加するページの領域と考えてください。ページには必要な数のコンテナを、コンテナ内には必要な数のコンテナを、さらにコンテナ内には必要な数のコンポーネントを配置することができます。

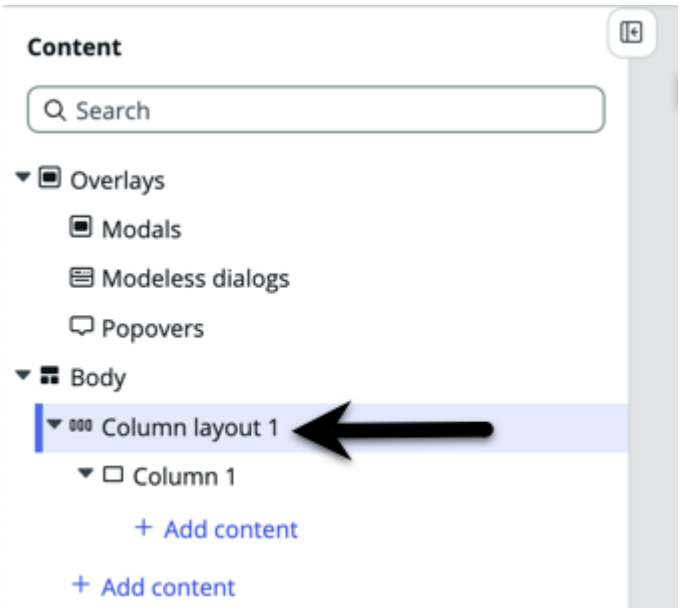
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. コンテンツツリーで **[+ コンテンツを追加]** を選択します。



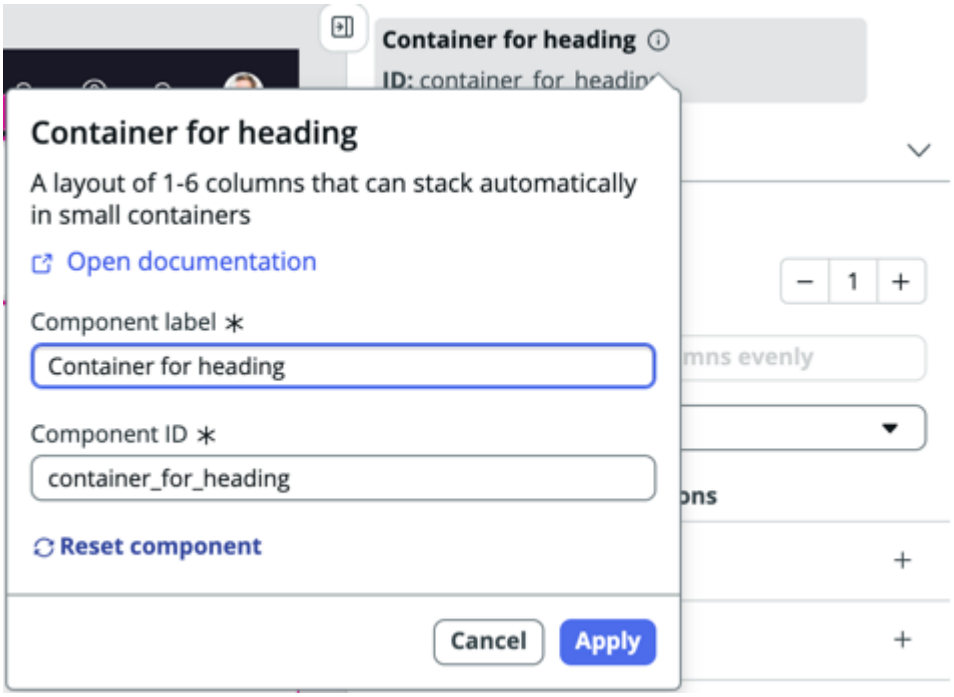
b. ツールボックスで [単一列] レイアウトを選択します。

c. コンテンツツリーで [列レイアウト **1 (Column layout 1)]** を選択して、コンテナをハイライト表示します。



d. 構成パネルでコンポーネント名を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

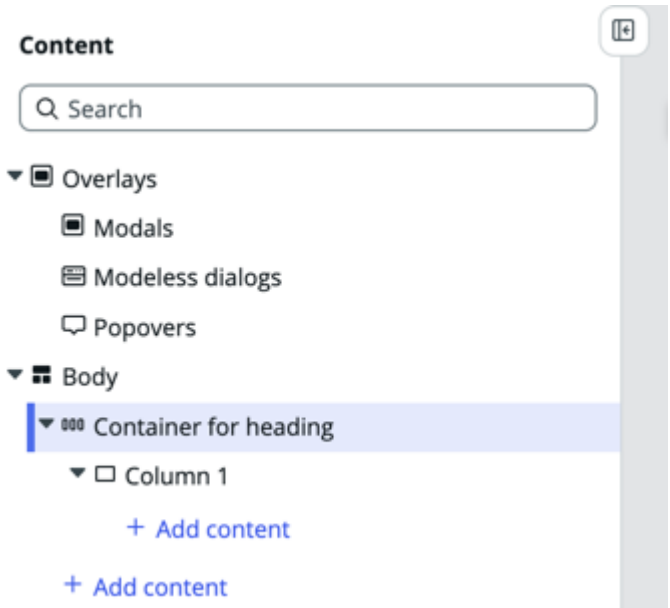


e. [コンポーネントラベル] フィールドに、「`見出し用のコンテナ`」と入力します。

f. [コンポーネント ID] フィールドに、「`container_for_heading`」と入力します。

g. [適用] を選択します。

コンテンツツリーで列レイアウト名が [見出し用のコンテナ **(Container for heading)]** に変更されていることを確認します。コンテンツツリーは重要な概念です。コンテンツツリーは、ページの構造化されたレイアウトを表示する簡単な方法です。コンテンツツリーは、ページ上に複数のコンポーネントがある場合に特に重要です。コンテンツツリーでコンポーネントを選択してページ上のコンポーネントをハイライト表示すると、ページを簡単にビルドできます。コンポーネントのテキスト検索を実行できます。



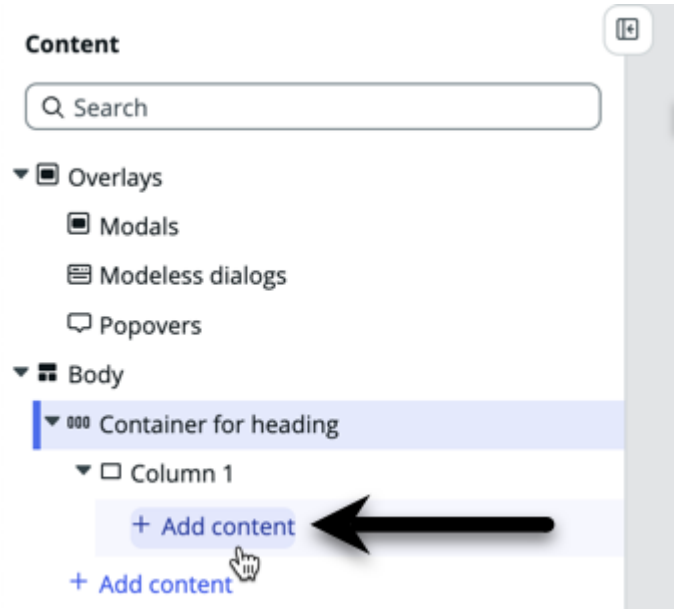
コンポーネント ID の詳細ついては、「コンポーネント ID」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

最初の列レイアウトがページに正常に追加されました。

6. 見出しコンポーネントを列レイアウトに追加します。
コンポーネントはさまざまな方法でページに追加できます。コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

   a. ステップ 5 で作成した列レイアウトの下にあるコンテンツツリーで **[+** コンテンツを追加] を選択します。



   b. 検索に「見出し」と入力し、見出しコンポーネントを選択します。

   c. コンテンツツリーで新しい見出しコンポーネントを選択して、ハイライト表示します。

   d. 構成パネルで [なし] を選択します。

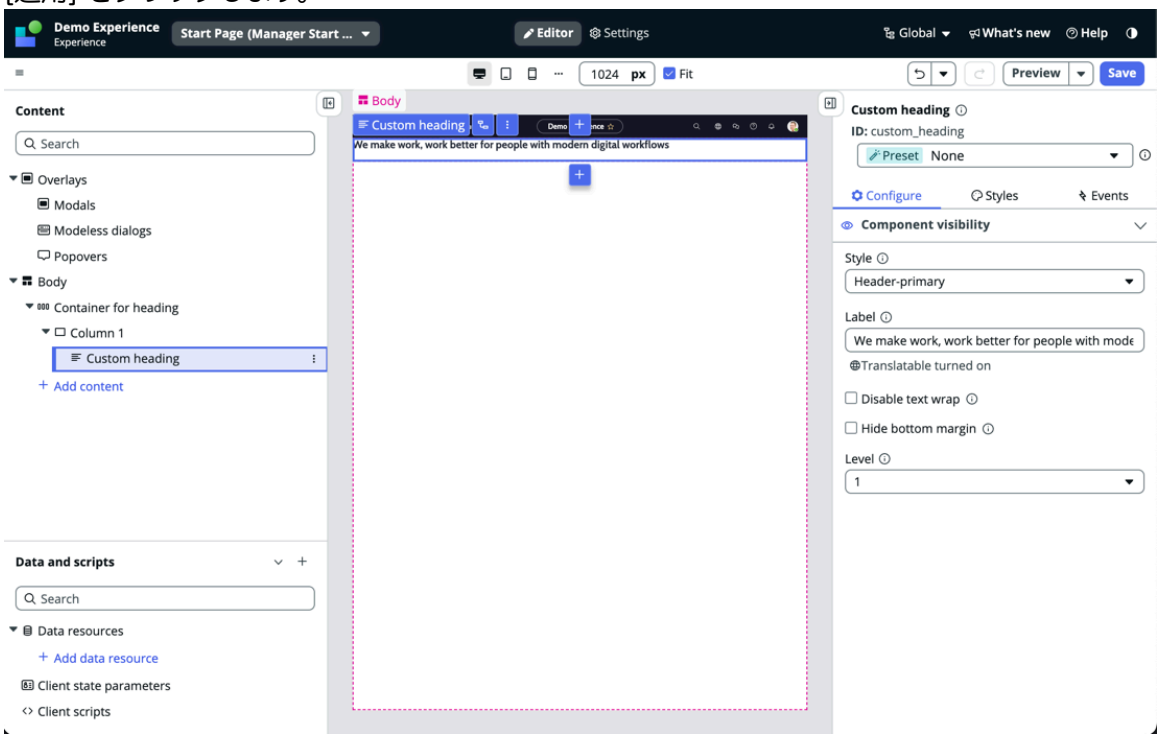
   e. 構成パネルでコンポーネント名を選択します。

   f. [コンポーネントラベル] フィールドに、見出しコンポーネントの一意のラベルとして「カスタム見出し」と入力します。

   g. [コンポーネント **ID]** フィールドに、見出しコンポーネントの一意のラベルとして「`custom_heading`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

h. [適用] をクリックします。



7. 見出しコンポーネントをカスタマイズします。

   a. コンテンツツリーで見出しコンポーネントを選択します。

   b. 構成パネルで [構成] タブを選択します。

   c. [ラベル] フィールドに、「新しいヘッダー」などのヘッダーのテキストを入力します。

   d. [スタイル] はヘッダーテキストのサイズを変更します。
   たとえば、[ヘッダー (セカンダリ)] を選択すると、テキストが小さくなります。ヘッダーが 2 つあり、セカンダリのヘッダーをプライマリのヘッダーよりも小さくする場合は、異なるサイズのヘッダーが役に立ちます。コンポーネントの構成の詳細については、「UI ビルダーのコンポーネントの構成」を参照してください。

   e. [レベル] は **1** のままにします。

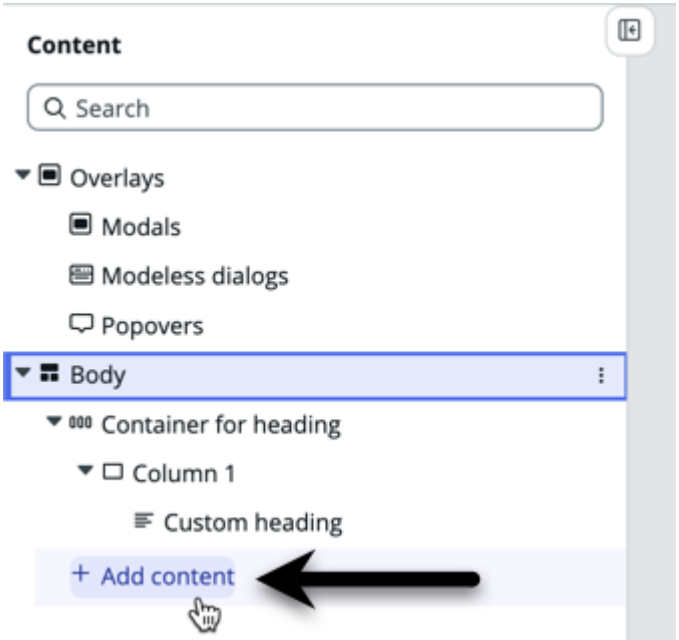
   f. [保存] を選択します。

   ページに見出しコンポーネントが追加されカスタマイズされました。

8. ページに 2 番目の列レイアウトを追加します。

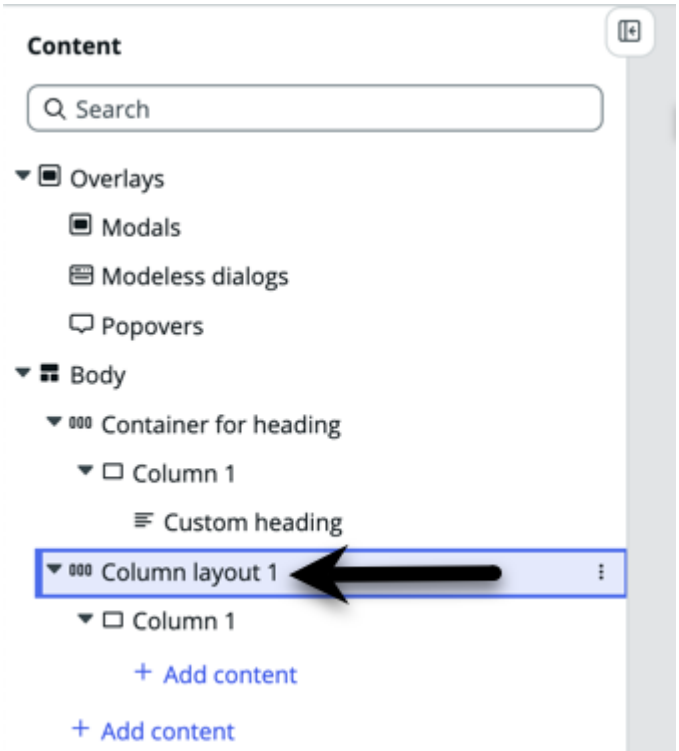
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 前と同様に、コンテンツツリーで **[+ コンテンツを追加]** を選択します。



b. ツールボックスで [単一列] レイアウトを選択します。

c. コンテンツツリーで [列レイアウト **1 (Column layout 1)]** を選択して、コンテナをハイライト表示します。



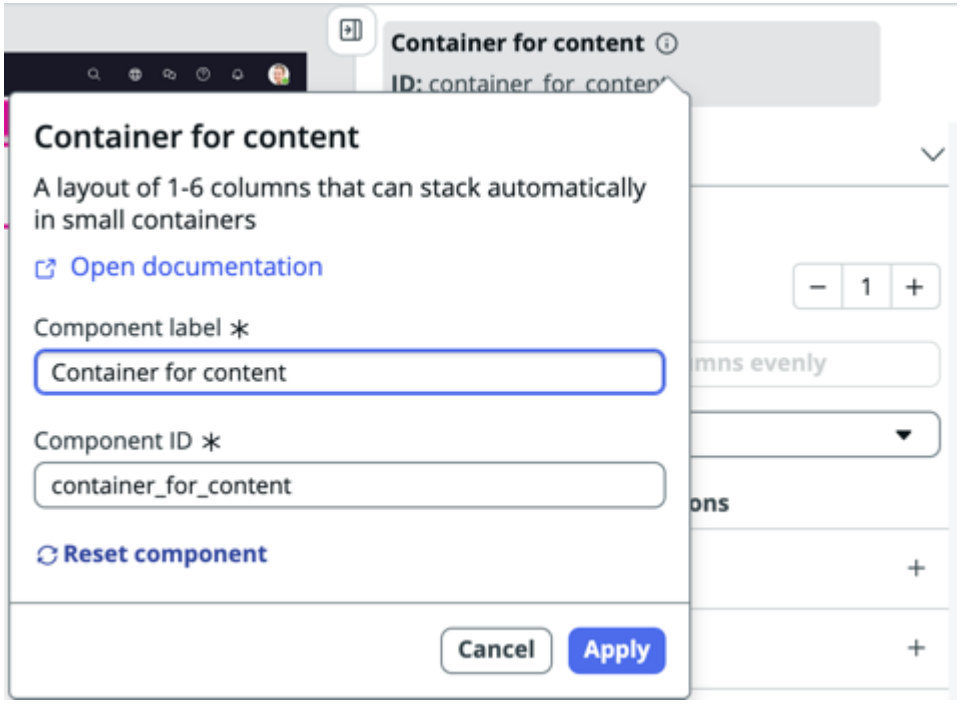
d. 構成パネルでコンポーネント名を選択します。

e. [コンポーネントラベル] フィールドに、「`コンテンツ用のコンテナ`」と入力します。

f. [コンポーネント **ID]** フィールドに、「`container_for_content`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

g. [適用] を選択します。



h. [保存] を選択します。

2 つ目のコンテナコンポーネントがページに正常に追加されました。

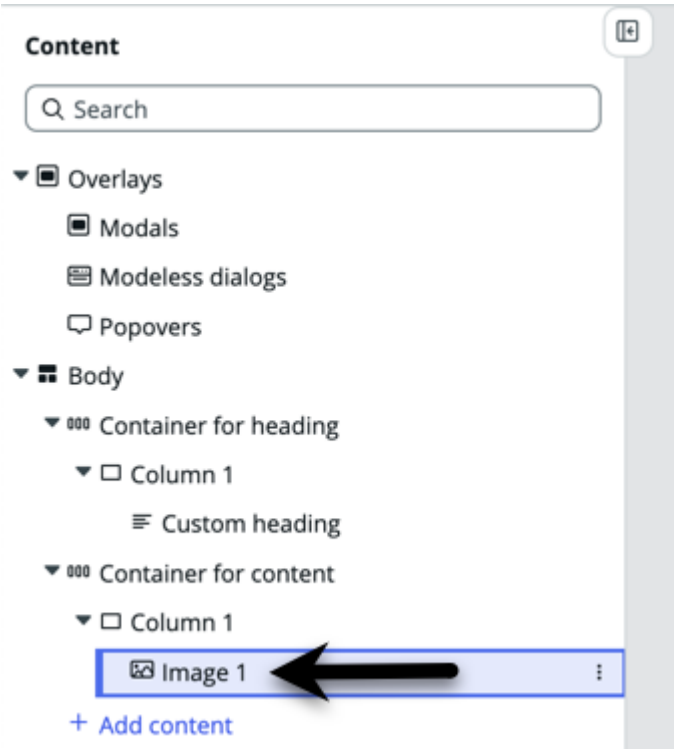
9. ページに画像コンポーネントを追加します。
画像は、ページに視覚要素を追加するのに適した方法です。このクイックスタートでは、UI ビルダー に付属のストック写真を追加します。ただし、利用可能な画像は追加できます。

a. ステップ 8 で作成したコンテナの下にあるコンテンツツリーで **[+** コンテンツを追加] を選択します。

b. 検索に「画像」と入力し、画像コンポーネントを選択します。
デフォルト画像が画像コンポーネントにロードされます。URL を画像に追加することで、独自の画像を追加できます。インターネットでホストされている画像または Now Platform® の画像を使用できます。外部サイトでホストされている画像を使用する場合は、セキュリティのために `https` プロトコルを使用する必要があります。

c. [コンテンツ] ツリーで [画像 **1]** コンポーネントを選択して、画像を強調表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



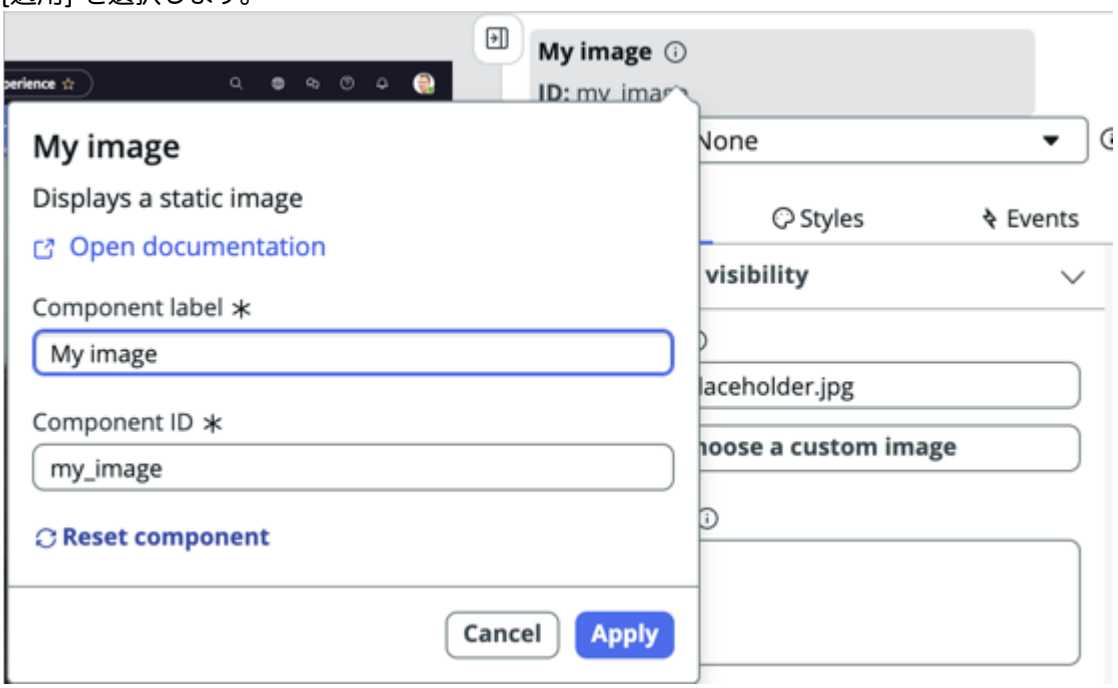
d. 構成パネルで [なし] を選択します。

e. 構成パネルでコンポーネント名を選択します。

f. [コンポーネントラベル] フィールドに「`My` 画像」と入力します。

g. [コンポーネント **ID**] フィールドに「`my_image`」と入力します。

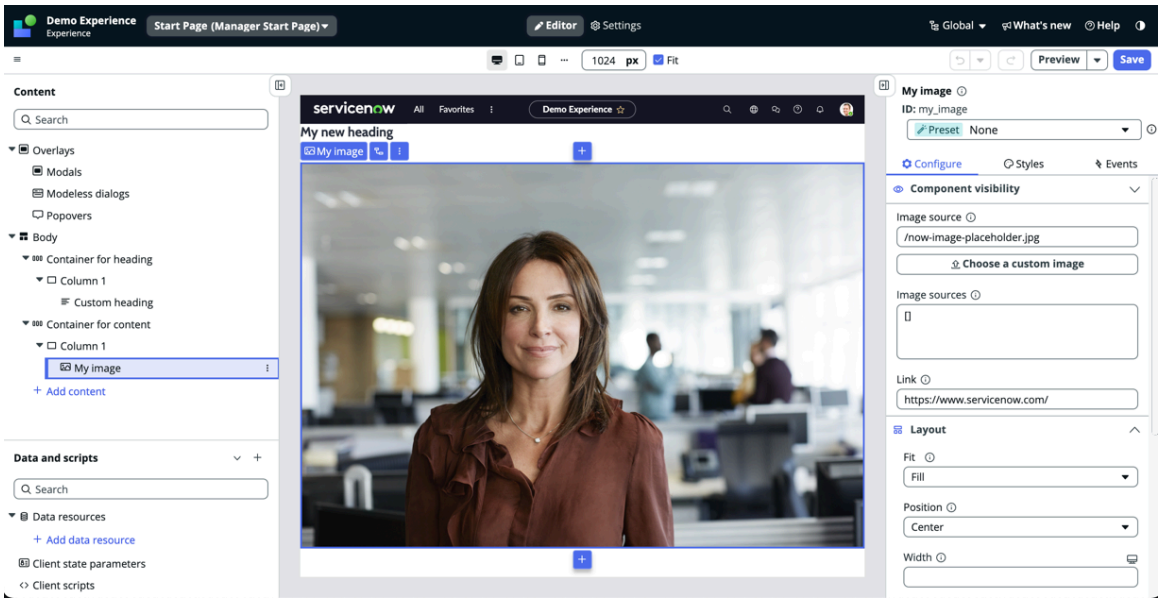
h. [適用] を選択します。



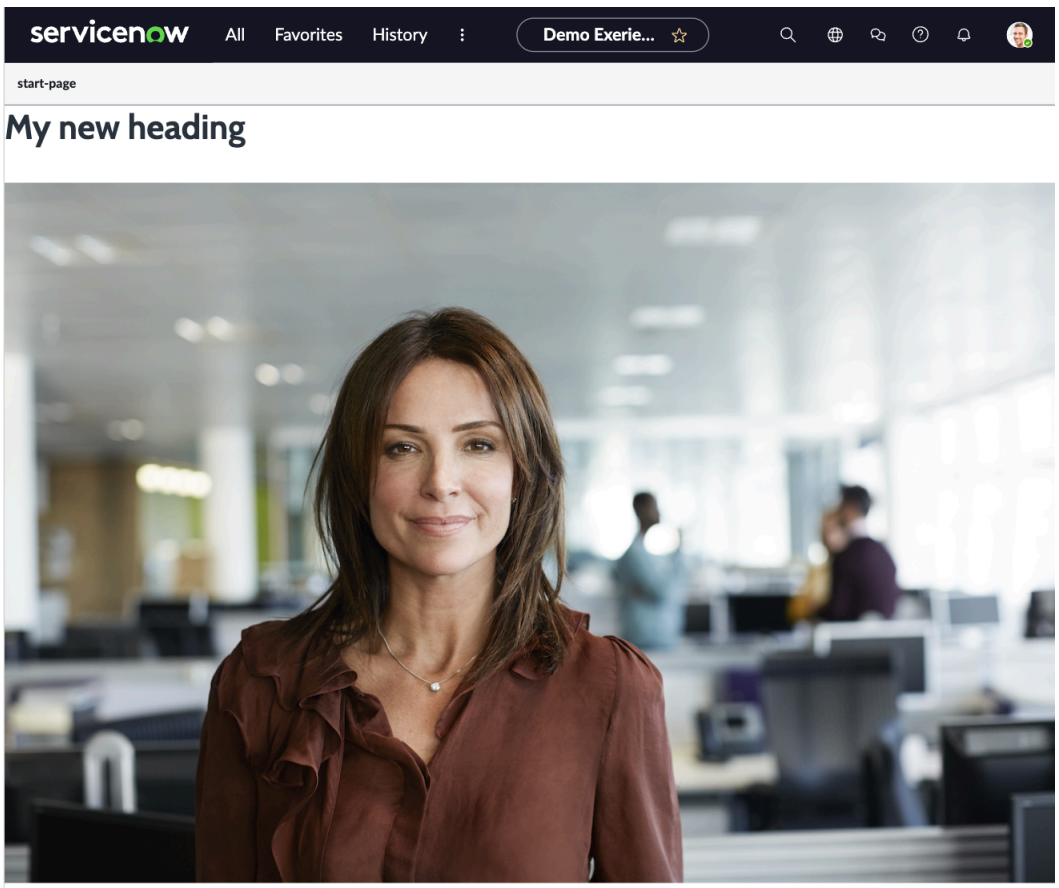
i. [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ページに画像コンポーネントを追加しました。



10. UI ビルダー ヘッダーで [プレビュー] を選択してページをプレビューします。
おめでとうございます!UI ビルダー クイックスタートを完了しました。ページでは、ワークスペースまたはポータルエクスペリエンスでの表示を示すプレビューが生成されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果

1. UI ビルダー に最初のページを作成しました。
2. ページに最初のコンテナコンポーネントを追加しました。コンテナのラベルを変更しました。
3. 見出しコンポーネントをタイトルとしてコンテナに追加しました。ヘッダーのテキストを変更しました。ラベルも変更しました。
4. ページに 2 つ目のコンテナコンポーネントを追加しました。コンテナのラベルを変更しました。
5. 画像 コンポーネントを追加しました。画像コンポーネントのラベルを変更しました。
6. 新しいページを保存しました。
7. ブラウザでページをプレビューしました。

UI ビルダー クイックスタートを正常に完了しました。

UI ビルダー のチュートリアル

UI ビルダー の基本を使用して、「My チュートリアル」と呼ばれるページを作成する方法を学びます。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

この UI ビルダー チュートリアルでは、UI ビルダー でページをビルドするために次のタスクを実行します。

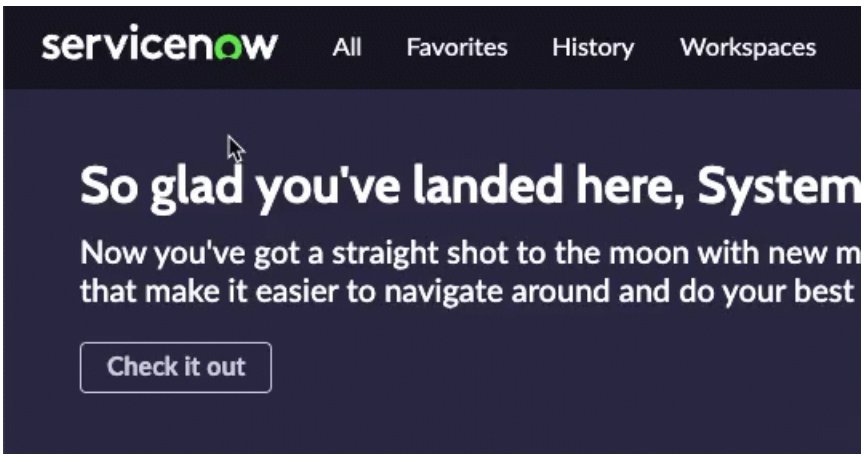
- UI ビルダー を起動します。
- ワークスペースまたはカスタムポータルエクスペリエンスのページを作成します。ページの作成の詳細については、「UI ビルダー でのページの作成」を参照してください。
- ページのレイアウトを 2 列に変更します。詳細については、「UI ビルダーページでコンポーネントを整理する」を参照してください。
- 2 つのコンテナコンポーネントを追加してページをビルドします。
- コンテンツツリーでコンテナコンポーネントの名前を変更します。
- 最初のコンテナにヘッダーコンポーネントとボタンコンポーネントを追加します。データビジュアル化コンポーネントを 2 番目のコンテナに追加します。コンポーネントの詳細ついては、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。
- コンポーネントは次のように構成できます。
  - ボタンを ServiceNow® Web サイトにリンクします。
  - データビジュアル化コンポーネントをデータソースに接続して、タスクデータを表示します。データリソースの詳細については、「UI ビルダーページでデータを動的に公開する (高度な機能)」を参照してください。
- ページは頻繁に保存してください。
- ページをプレビューして、ブラウザーでどのように表示されるかを確認します。

手順

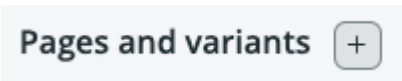
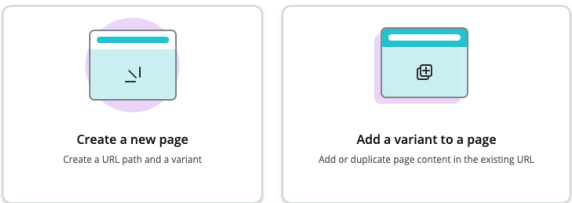
1. [すべて]**[** > **Now Experience** フレームワーク]**[** > **UI** ビルダー]に移動します。
   フィルターナビゲーターに直接「`UI ビルダー`」と入力することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー の起動

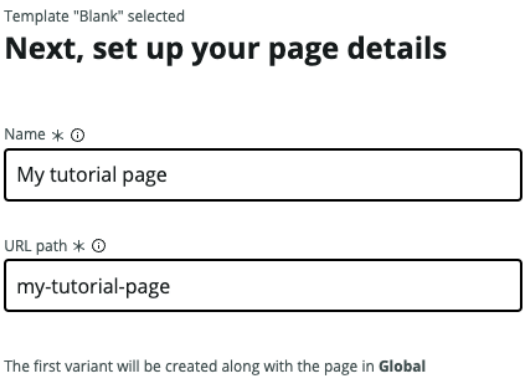


2. UI ビルダー ホームページから、作業するエクスペリエンスを選択します。
   作業対象のエクスペリエンスが一覧表示されない場合は、アドミニストレーターに連絡してエクスペリエンスへのアクセス権を取得するか、エクスペリエンスを作成します。詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成します。

実行するタスク	必要な操作
ページの作成	**a.** [ページとバリアント] セクションで **[+]** アイコンを選択します。  **b.** [新規ページの作成] を選択します。  **c.** [代わりに最初から作成します] を選択します。 **d.** 新しいページの名前を入力します。名前は任意のもので構いません。この例では、「`My tutorial page`」と入力します。 **e.** [パス] フィールドに、ページ名に基づいてパスが自動的に入力されます。この例では、パスは「`my-tutorial-page`」です。パスはページの URL です。このパスは任意に変更できますが、一意になっている必要があります。パスは小文字で、かつスペースを含めないようにする必要があります。**[URL** プレビュー] には、ページのパスが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行するタスク	必要な操作



f. [続行] を選択します。

g. (オプション) ページの URL にパラメーターを追加します。

h. [よさそうです]を選択します。

i. 新しいページバリアントの名前を入力します。名前は任意のもので構いません。この例では、「`My first page variant`」と入力できます。

j. [対象者の追加] を選択して、ページバリアントの対象者を追加します。この例では、[アドミン] を選択します。

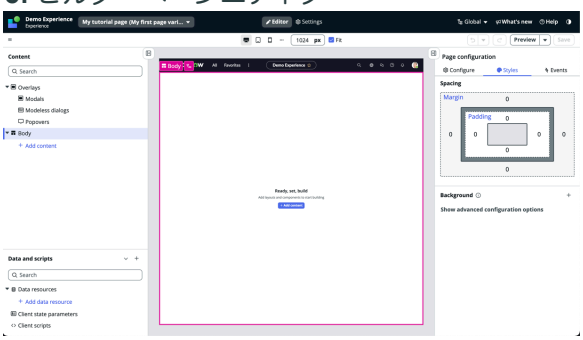
k. [続行] を選択します。

l. 次の画面で、[レスポンシブをビルド **(Build responsive)]** を選択します。

m. [作成] を選択します。

n. ページを作成すると、ページエディター画面が表示されます。**URL** 設定やバリアント設定などの詳細設定を変更できます。このチュートリアルでは、これらの詳細オプションをスキップできます。詳細設定の変更の詳細については、「UI ビルダーページの作成：詳細設定」を参照してください。

UI ビルダーページエディター

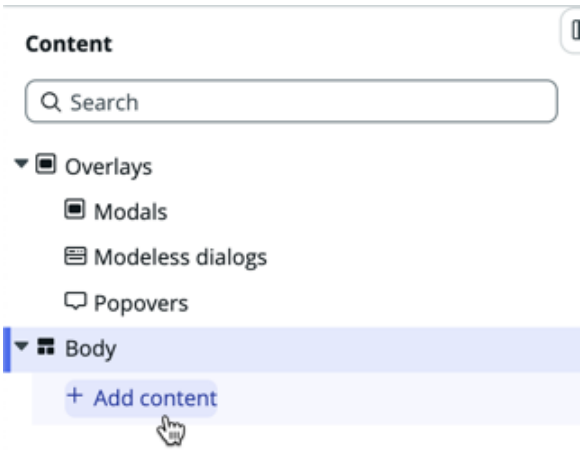
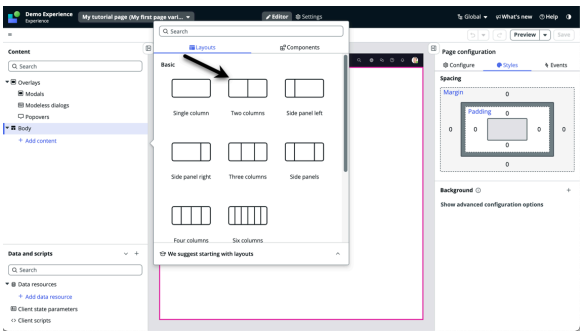
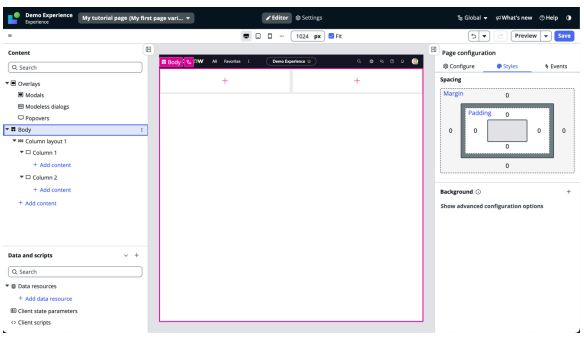


お疲れさまでした。チュートリアルページが作成されました。このページにはコンテンツがありません。ページにコンポーネントを追加して機能をビルドします。コンポーネントはページの構成要素です。UI ビルダー には、ページに追加できる多くのコンポーネントが用意されています。コンポーネントは、ヘッダーのようにシンプルにすることも、 リストのように複雑にすることもできます。

4. ページのレイアウトを 2 列レイアウトに変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

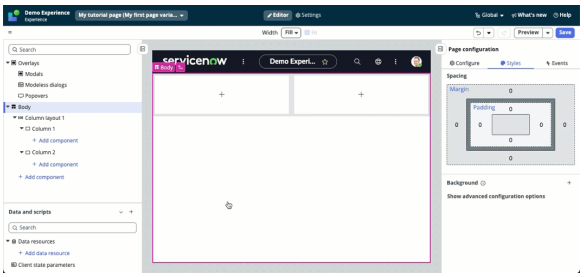
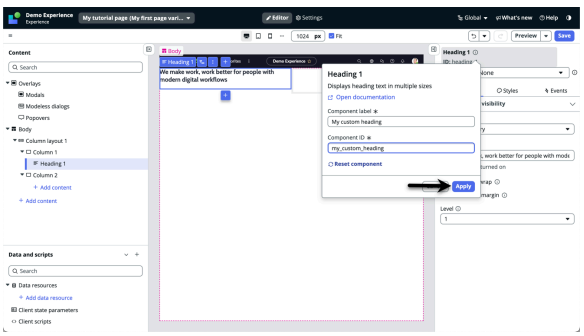
レイアウトの詳細については、「UI ビルダーページでコンポーネントを整理する」を参照してください。

実行するタスク	必要な操作
ページのレイアウトを 2 列に変更	**a.** [コンテンツ] ツリーの [本文] レベルを選択して、ページをハイライト表示します。 **b.** コンテンツツリーで **[+** コンテンツを追加] を選択します。  **c. 2** 列レイアウトを選択します。  **d.** 2 列レイアウトが表示されます。 

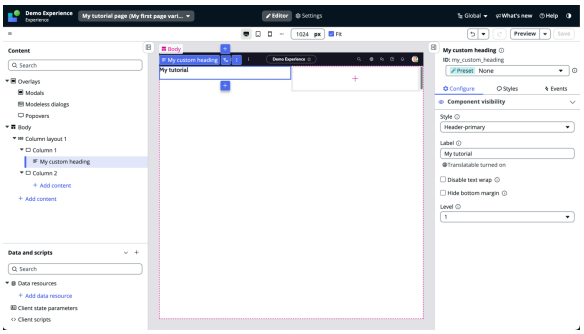
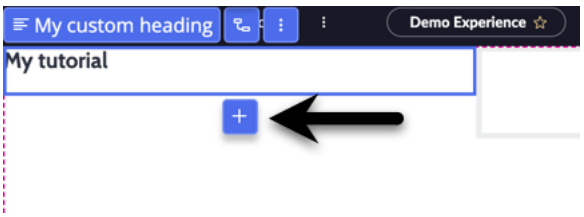
5. ヘッダーコンポーネントと、ボタンコンポーネントを、左の列に追加します。

実行するタスク	必要な操作
左列のコンテナへのヘッダーコンポーネントの追加	コンポーネントはさまざまな方法でページに追加できます。コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、表 1 を参照してください。

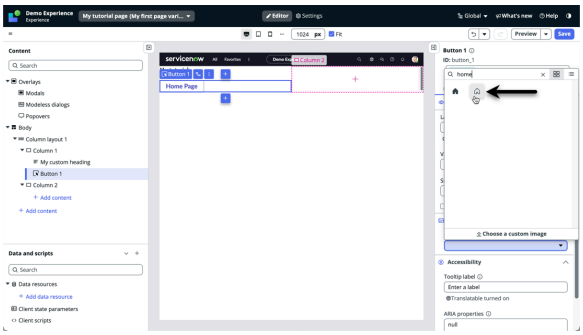
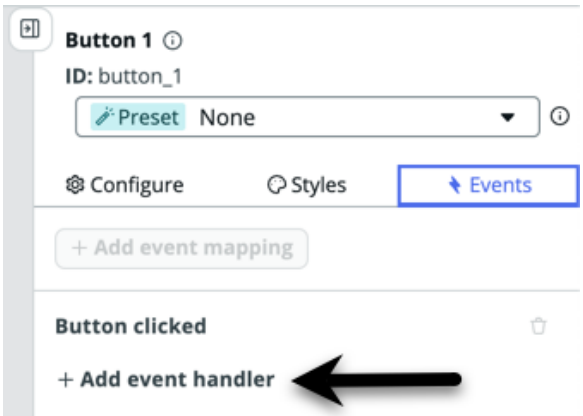
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行するタスク	必要な操作
	a. 左の列の中央にある **[+]** ボタンを選択します。 **b.** 検索フィールドに「`Heading`」と入力します。 **c.** ヘッダーコンポーネントを選択してコンテナに追加します。ヘッダーコンポーネントは、ページにテキストまたはタイトルを追加する方法です。 **d.** 構成パネルのプリセットのリストで [なし] を選択します。  **e.** 構成パネルでコンポーネント名を選択すると、[コンポーネントラベル] と [コンポーネント **ID**] が表示されます。一意である限り、任意のものに変更できます。  **f.** [適用] を選択します。 **g.** ヘッダーコンポーネントを構成します。コンポーネント作成者は、コンポーネントの設定に必要となる適切なプロパティを公開するようにコンポーネントを構成します。 ▪ スタイルを [ヘッダー (プライマリ)] に設定します。スタイルは、フォント、太さ、色などのヘッダーテキストのクラスを変更します。たとえば、[ヘッダー (セカンダリ)] を選択すると、テキストが小さくなります。ヘッダーが 2 つあり、セカンダリのヘッダーをプライマリのヘッダーよりも小さくする場合は、異なるサイズのヘッダーが役に立ちます。 ▪ [ラベル] フィールドで、ヘッダーテキストとして「**My Tutorial**」と入力します。

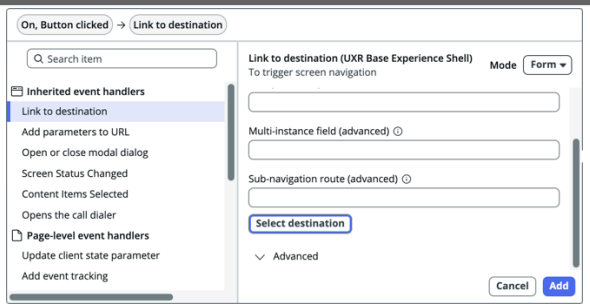
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行するタスク	必要な操作
	▪ [レベル] は **1** のままにします。 
ボタンコンポーネントを左列のコンテナに追加して構成する	ボタンコンポーネントをページに追加します。テキストと外観を変更してボタンを構成します。次に、ボタンのイベントハンドラーを追加して、ボタンをクリックしたときの動作を変更します。イベントハンドラーは、ServiceNow® ホームページにリンクするボタンにアクションを追加します。ボタンをクリックすると、ServiceNow® ホームページがブラウザーの新しいタブで開きます。コンポーネントの構成の詳細については、「コンポーネント」を参照してください。 **a.** 前のセクションで追加した見出しコンポーネントの下にある **[+]** を選択します。  **b.** 検索フィールドに「`Button`」と入力します。 **c.** リストでボタンコンポーネントを選択します。 コンポーネントのページへの追加の詳細については、表 1 を参照してください。 **d.** 構成パネルでコンポーネント名を選択すると、[コンポーネントラベル] と [コンポーネント **ID**] が表示されます。一意である限り、任意のものに変更できます。 **e.** ボタンコンポーネントを次のように構成します。 ▪ [ラベル] フィールドに「`Home Page`」と入力してボタンの名前を変更します。 ▪ [サイズ] を [大] に変更します。 ▪ [アイコン] 検索フィールドに「`home`」と入力します。

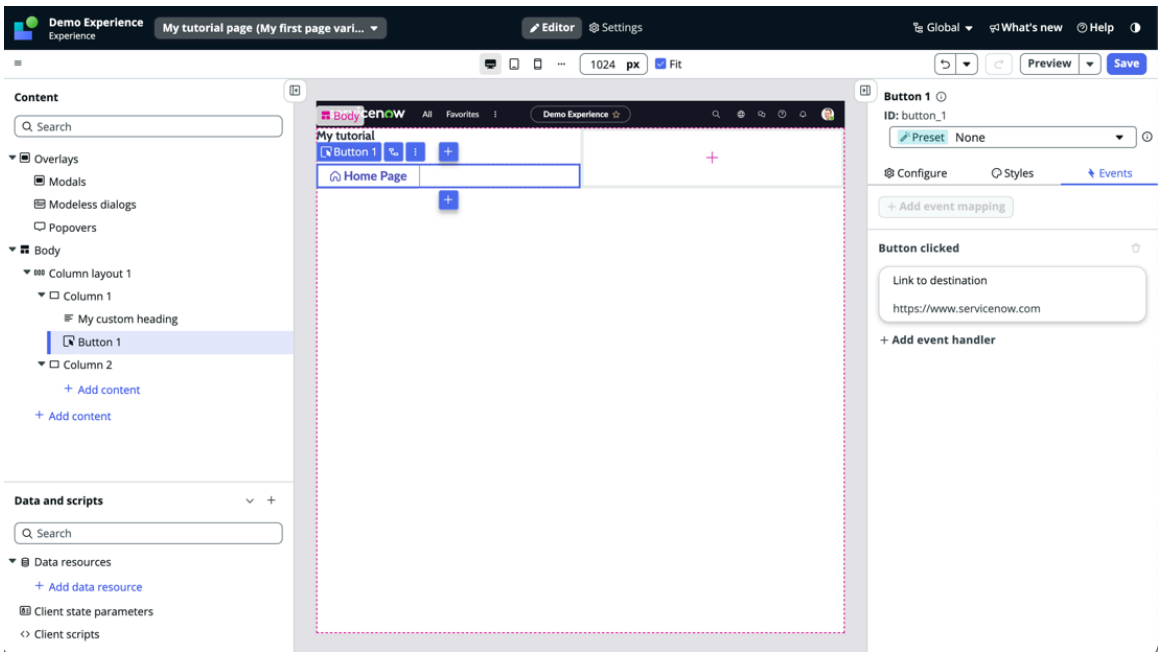
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行するタスク	必要な操作
	▪ [ホームアウトライン **(Home Outline)**] を選択します。  **f.** イベントハンドラーを追加して、ボタンに適用するアクションを構成します。 ▪ 構成パネルで [イベント] タブを選択します。 ▪ [クリックしたボタン] で、 **[+** 新しいイベントハンドラーを追加] を選択します。  ▪ [継承されたイベントハンドラー] で、 [宛先へのリンク] を選択します。 ▪ [宛先を選択] をクリックします。 ▪ [宛先を選択] 画面で、[外部 **URL]** を選択します。 ▪ URL を入力します。このチュートリアルでは、「`https://www.servicenow.com`」と入力します。**[OK]** を選択します。 ▪ [追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行するタスク	必要な操作
	 イベントハンドラーの詳細については、「UI ビルダーページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。 **g.** [保存] を選択します。作業時にはページを頻繁に保存することをお勧めします。 **h.** [プレビュー] を選択します。 **i.** それまでのステップで作成したボタンをテストします。

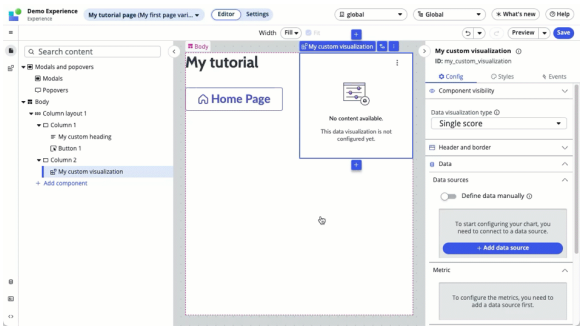
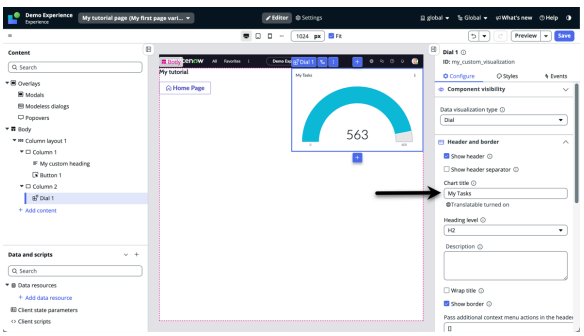
ページのヘッダーとボタンコンポーネントを追加して構成しました。



6. データビジュアル化コンポーネントをそのコンテナに追加します。
データビジュアル化コンポーネントには、視覚的に表示するデータが含まれています。データビジュアル化コンポーネントのパラメーターを構成します。次に、それにデータリソースを追加します。

実行するタスク	必要な操作
ビジュアル化コンポーネントを右列のコンテナに追加して構成する	コンポーネントはさまざまな方法でページに追加できます。コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、表 1 を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行するタスク	必要な操作
	a. 右の列の中央にある **[+]** ボタンを選択します。 **b.** [検索] フィールドに「データビジュアル化」と入力し、データビジュアル化コンポーネントが表示されたら、そのコンポーネントを選択してページに追加します。 **c.** 構成パネルでコンポーネント名を選択すると、[コンポーネントラベル] と [コンポーネント **ID**] が表示されます。一意である限り、任意のものに変更できます。 **d.** データ可視化コンポーネントにデータリソースを追加して、顧客アカウントデータを取り込みます。 ▪ データ可視化コンポーネントを選択し、[構成] タブを選択します。 ▪ [データソースを追加] を選択します。 ▪ 検索フィールドに「タスク [task]」と入力し、 UI ビルダー インスタンスで使用可能なタスクを探します。 ▪ [このソースを追加] を選択します。  **e.** [データ表示方法タイプ] ドロップダウンを選択し、[ダイヤル] を選択します。 データに最適なさまざまな可視化タイプを選択できます。 **f.** 構成パネルで [ヘッダーと境界 **(Header and border)**] を選択します。 **g.** [チャートタイトル] フィールドに「My Tasks」と入力します。 

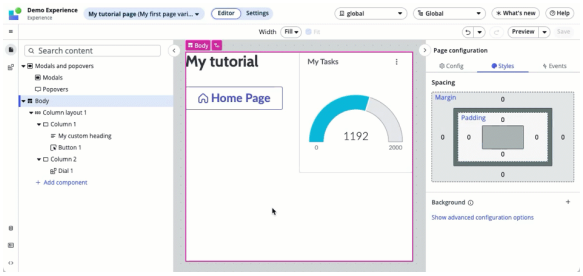
データビジュアル化コンポーネントを右側の列に追加して構成しました。顧客アカウントデータを取り込むデータリソースも追加しました。

7. 新しいページを最後に 1 回保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行するタスク	必要な操作
ページの保存	a. UI ビルダー の右端にある [保存] を選択します。 b. ページを保存したので、エクスペリエンスでいつでもアクセスできます。

8. ページをプレビューして、ブラウザーでどのように表示されるかを確認します。

実行するタスク	必要な操作
ページのプレビュー	a. UI ビルダー のヘッダーで、[プレビュー] を選択します。 b. ページの左の列のヘッダーを確認します。 c. [ホームページ] ボタンを選択します。ServiceNow® ホームページが別のブラウザーのタブで開きます。ブラウザータブを閉じて、プレビューページに戻ります。 d. ページの右の列にある顧客アカウントデータのビジュアル化を確認します。 チュートリアルページのプレビュー 

おめでとうございます!UI ビルダー チュートリアルを完了しました。

タスクの結果

1. UI ビルダー にページを作成しました。
2. ページのレイアウトを 2 列に変更します。
3. 左側の列にヘッダーコンポーネントがタイトルとして追加されました。
   - ヘッダーのテキストを変更しました。
   - ヘッダーのラベルを変更しました。
4. ヘッダーコンポーネントの下にボタンコンポーネントを追加しました。
   - ボタンが構成されました。
   - ボタンのイベントハンドラーを追加しました。
   - Web ページへのリンクを設定するイベントハンドラーを追加しました。ボタンをクリックすると、Web ページが開きます。
5. 右側の列のラベルを変更しました。
6. データビジュアル化コンポーネントを追加しました。
   - データビジュアル化コンポーネントを構成しました。
   - タスクデータを取り込むデータリソースを追加しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. 新しいページを保存しました。
8. ページをプレビューします。

UI ビルダー および構成可能なワークスペース

UI ビルダー を使用して、構成可能なワークスペースエクスペリエンスのページを作成します。

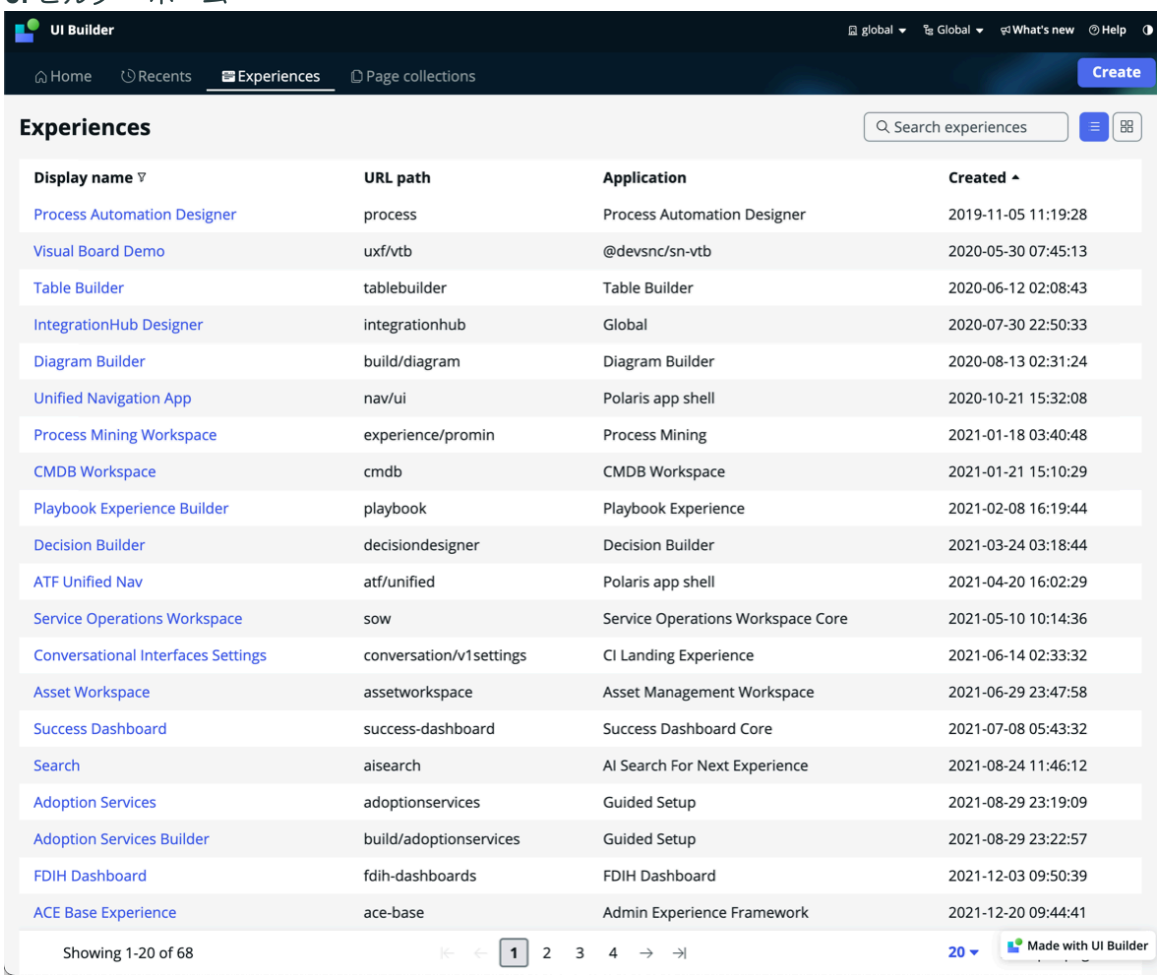
ワークスペースは、タスクとワークフローの集約的な作業領域です。この領域により、ユーザーはジョブ全体を効率的に完了できます。このワークスペースには複数のツールがあり、ユーザーはこれらのツールにより、迅速かつ簡単に顧客を支援し、質問や問題を解決することができます。複数のケースを管理するマルチタブインターフェイスや、現在のタスクに関して迅速に情報を伝えるコンテキスト表示など、ワークスペースには、ユーザーの効率を高める機能も含まれています。

UI ビルダー を使用してワークスペースエクスペリエンスのページを作成できます。UI ビルダー は、ワークスペースページのビルドに使用できるベースシステムコンポーネントを提供します。

UI ビルダー でワークスペースエクスペリエンスのページを作成するには、[すべて] > **[Now Experience フレームワーク]** > **[UI ビルダー]** に移動して、UI ビルダー を開きます。

UI ビルダー ホームの [エクスペリエンス] タブに利用可能なエクスペリエンスが表示されます。ワークスペースエクスペリエンスで作業している場合は、ここにエクスペリエンスが一覧表示されます。

UI ビルダー ホーム



UI ビルダー のエクスペリエンスの設定

独自のワークスペースとカスタムポータルエクスペリエンスをビルドするための UI ビルダー のエクスペリエンスの設定について説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

作業しているワークスペースまたはポータルエクスペリエンスの設定を変更すると、ユーザーがエクスペリエンスとやり取りする方法、エクスペリエンスの外観、およびユーザーがエクスペリエンス間を移動する方法に影響が及ぶことがあります。

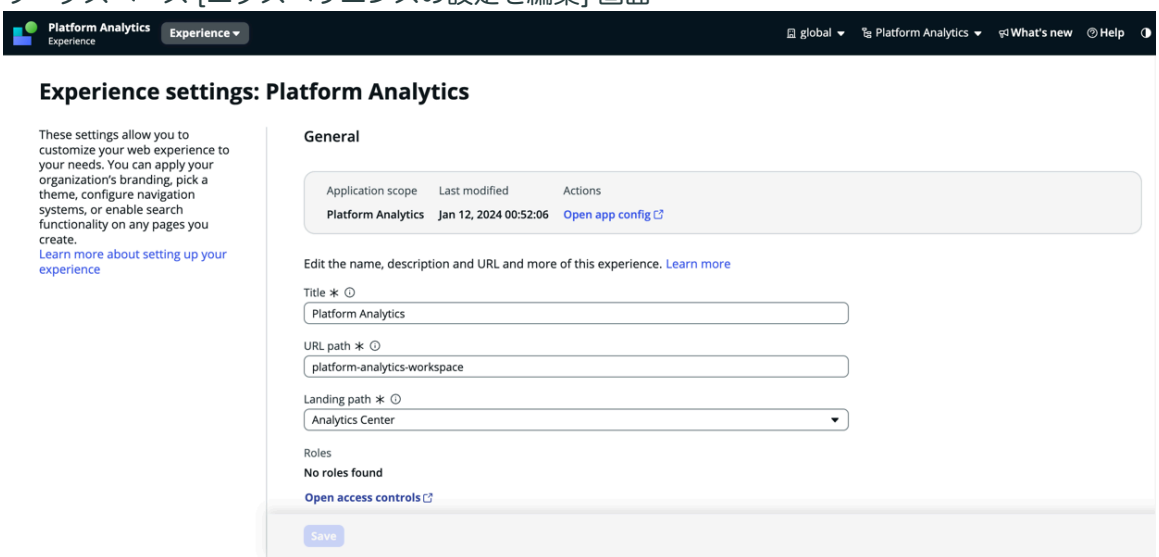
エクスペリエンス設定を編集するには、適切なアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー (Global) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

ワークスペースエクスペリエンスの設定

ワークスペースエクスペリエンスの次の設定を変更できます。

- エクスペリエンスの一般的な設定を変更または追加します。たとえば、ワークスペースまたはポータルのタイトル、説明、およびパスを変更できます。
- エクスペリエンス内のすべてのページまたはエクスペリエンス内の 1 つのページに組織のブランディングを適用します。
- サイドナビゲーション設定を構成して、エクスペリエンスのサイドナビゲーションにページを追加します。
- エクスペリエンスの通知をオンまたはオフにします。
- エクスペリエンスのグローバル検索設定を変更できます。たとえば、エクスペリエンスで検索バーを表示または非表示にすることや、検索結果の取得元を決定する検索ソースを変更することなどを選択できます。

ワークスペース [エクスペリエンスの設定を編集] 画面



ワークスペースエクスペリエンスの設定の詳細については、「UI ビルダー ワークスペースエクスペリエンスを構成する」を参照してください。

ポータルエクスペリエンスの設定

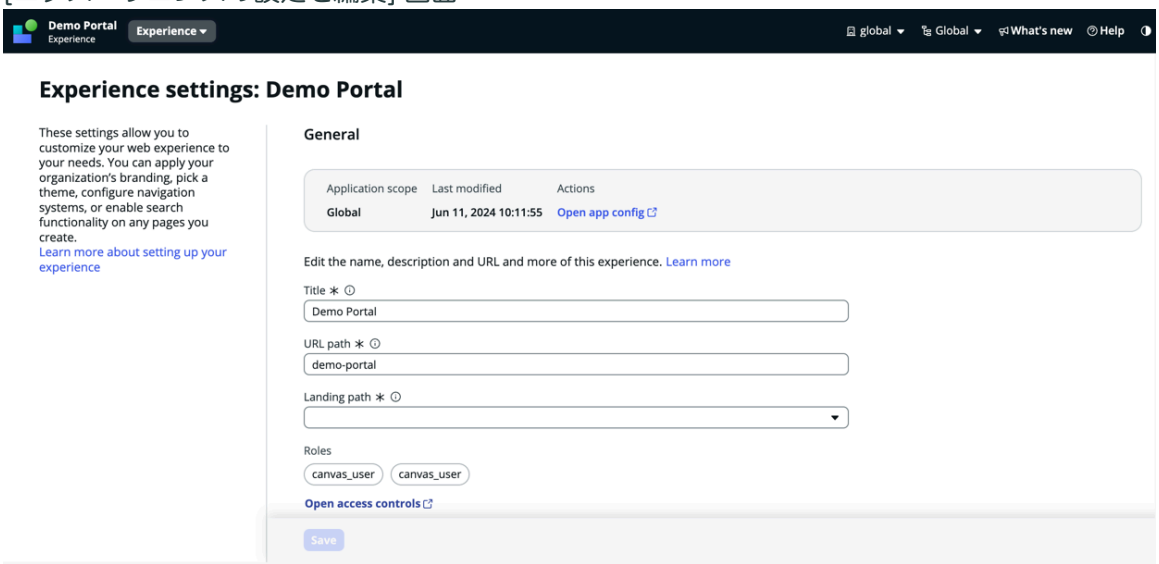
ポータルエクスペリエンスの次の設定を変更できます。

- エクスペリエンスの一般的な設定を変更または追加します。たとえば、ワークスペースまたはポータルのタイトル、説明、およびパスを変更できます。
- エクスペリエンス内のすべてのページまたはエクスペリエンス内の 1 つのページに組織のブランディングを適用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ポータルエクスペリエンスのアプリシェルでナビゲーションとメニューの設定を行います。アプリシェルはポータルコンテンツのラッパーであり、Google Chrome Web ページに似ています。
- グローバル検索機能をポータルエクスペリエンスのユーザーに表示するかどうかを制御します。たとえば、公開ページまたはプライベートページのグローバル検索を有効または無効にすることができます。

[エクスペリエンスの設定を編集] 画面



ポータルエクスペリエンスの設定の詳細については、「UI ビルダー ポータルエクスペリエンスを構成する」を参照してください。

UI ビルダーの用語集

UI ビルダー (UIB) で使用される用語と概念について説明します。

アクション

UI ビルダーのアクションは、具体的にはページまたはページコンポーネント内のアクティビティです。イベントとイベントハンドラーは、アクションを追加するために使用されます。たとえば、ボタンコンポーネントをページに追加してから、Web ページを開くなどのボタンのアクションを適用するイベントハンドラーを追加します。

アプリシェル

アプリシェルは、Web エクスペリエンスの静的要素 (ヘッダー、フッター、メニューナビゲーションなど) であり、エンドユーザーがすべてのエクスペリエンスを操作するときに常に表示されます。アプリシェルは、主にワークスペースとポータルエクスペリエンスで使用およびサポートされています。

バインディング

「データバインディング」を参照してください。

クライアントスクリプト

ページ上のコンポーネントおよびクライアントステータスパラメーターとやり取りするクライアント側 JavaScript。クライアントスクリプトは、UI ビルダーのイベントハンドラーとしてイベントにマッピングされます。

クライアントステータスパラメーター

そのページのデータ (クライアントステータス) のみを格納するためにページに対して定義されたページ変数。たとえば、3 つのクライアントステータスパラメーターを作成して、レコード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

の作成に必要な入力を保存し、リストを更新するタイミングを指定します。クライアントスクリプトとイベントを使用してページ変数が更新されるようにし、ページを動的にすることができます。

コンポーネント (UI ビルダー)

コンポーネントの UI ビルダーライブラリを使用してページをビルドします。コンポーネントには、エンドユーザーが表示して操作できるインターフェイスがあります。コンポーネントは、イベントとプロパティを介して相互に通信できます。一般的に使用されるコンポーネントには、見出し、画像、リスト、フォーム、ボタンなどがあります。

コンポーネント ID

スクリプトを追加するとき、またはコンポーネントにデータをバインドするときに、コンポーネントを参照するために使用されます。コンポーネントをページに追加すると、コンポーネントラベルに基づいたコンポーネント ID が自動的に作成されますが、コンポーネント ID は編集できます。

コンポーネントのプリセット

事前定義された構成値とイベントマッピングをコンポーネントに適用するために使用します。プリセットは、事前にビルド済みの構成をコンポーネントプロパティとイベントハンドラーに適用します。プリセットは、特定のコンポーネントでのみ使用できます。

コンポーネントプロパティ

[構成] パネルで利用でき、コンポーネントの構成に使用されます。各コンポーネントには一意のプロパティがあります。コンポーネントのプロパティは、[構成] パネルの [構成]、[スタイル]、および [イベント] の各タブ内で指定されます。一部のコンポーネントには、利用可能なプリセットがあります。コンポーネントのプロパティを自動的に設定するには、コンポーネントプリセットを使用します。

コントローラー

データとイベントロジックを含み、コンポーネントのプリセットを有効にするデータリソースのタイプ。ページテンプレートを使用すると、コントローラーが自動的に追加されます。コントローラーには次の 2 つのタイプがあります。

- データコントローラーにはデータリソースが含まれ、手動でページに追加できます。
- UI コントローラーは、ページテンプレートを使用するときにページに追加され、手動で追加することはできません。現在、コントローラーの作成はサポートされていません。

データバインディング

情報を表示する UI 要素にデータを関連付けるプロセス。

データリソース

ページのコンポーネントに対してどのデータをフェッチするかを定義する、動的で再利用可能な方法。

Entity View Action Mapper

EVAM とも呼ばれます。カードとリストにデータを表示するための形式を標準化します。

イベント (UI ビルダー)

ユーザーが実行するアクション (ボタンの選択など) またはページで発生するアクション。ほとんどの UI ビルダーコンポーネント、ページ、およびデータリソースには、デフォルトの関連イベントがあります。イベントでイベントハンドラーを使用して、ページにアクションを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントハンドラー

イベントの発生時に実行されるアクション。

イベントマッピング

イベントが発生したときに実行するイベントハンドラーを識別するプロセス。

Macroponent

UI ビルダーページを制御するコアデータ構造。フィールドには、ページをビルドする JSON が含まれます。

モーダル

別のコンテンツウィンドウをオーバーレイし、ユーザーエクスペリエンスを制御するユーザーエクスペリエンスウィンドウ。

Now コードエディター

CSS、HTML、JavaScript、XML、および JSON をサポートするリッチテキストエディター。Now コードエディターを使用して、Next Experience UI ビルダーコンポーネントの UI 構成、データリソース構成、スタイル、イベント、クライアントサイドスクリプト、サーバーサイドスクリプトを変更します。

ページ

列レイアウト、列、およびコンポーネントのコレクション。ワークスペースまたはポータルエクスペリエンス用に複数の UI ビルダーページを作成またはカスタマイズします。

ページコレクション

タブまたはモーダル内のエクスペリエンスで再利用できるページのグループ。

ポップオーバー

ユーザーがページの残りの部分を引き続き使用できるようにするページオーバーレイ。ポップオーバーは、テキスト、コンポーネント、画像、フィールド、およびメニューアイテムを含む UI ビルダーページと同様に構成できます。

リピーター

UI ビルダーで、リピーターは複数のコンポーネントで提供したデータを繰り返す基本ループとして機能するコンポーネントです。リピーターは、アレイ、またはオブジェクトのアレイを使用します。リピーターは、データアレイプロパティに値をバインドします。たとえば、[{"task": "A"},{"task": "B"}] は、その中のコンテンツを 2 回繰り返します。

UI ビルダー **(UIB)**

WYSIWYG Web ユーザーインターフェイスビルダー。UI ビルダーにより、開発者は Now Experience UI フレームワークコンポーネントを使用して、エージェントワークスペースおよびポータルの新しいページをビルド、または既存のページをカスタマイズできます。

バリアント

ロールまたは条件によってアクセスが制御される UI ビルダーページのバージョン。さまざまな対象者のエクスペリエンスをターゲットとするページのバリアントを作成します。たとえば、エージェント用のホームページとマネージャー用のバリアントを同じ URL で作成します。または、さまざまな条件でユーザーに表示されるページバリアントを作成します。

UI ビルダー の学習

UI ビルダー 内を移動し、いくつかの一般的なユースケースを例で確認する方法を学びます。

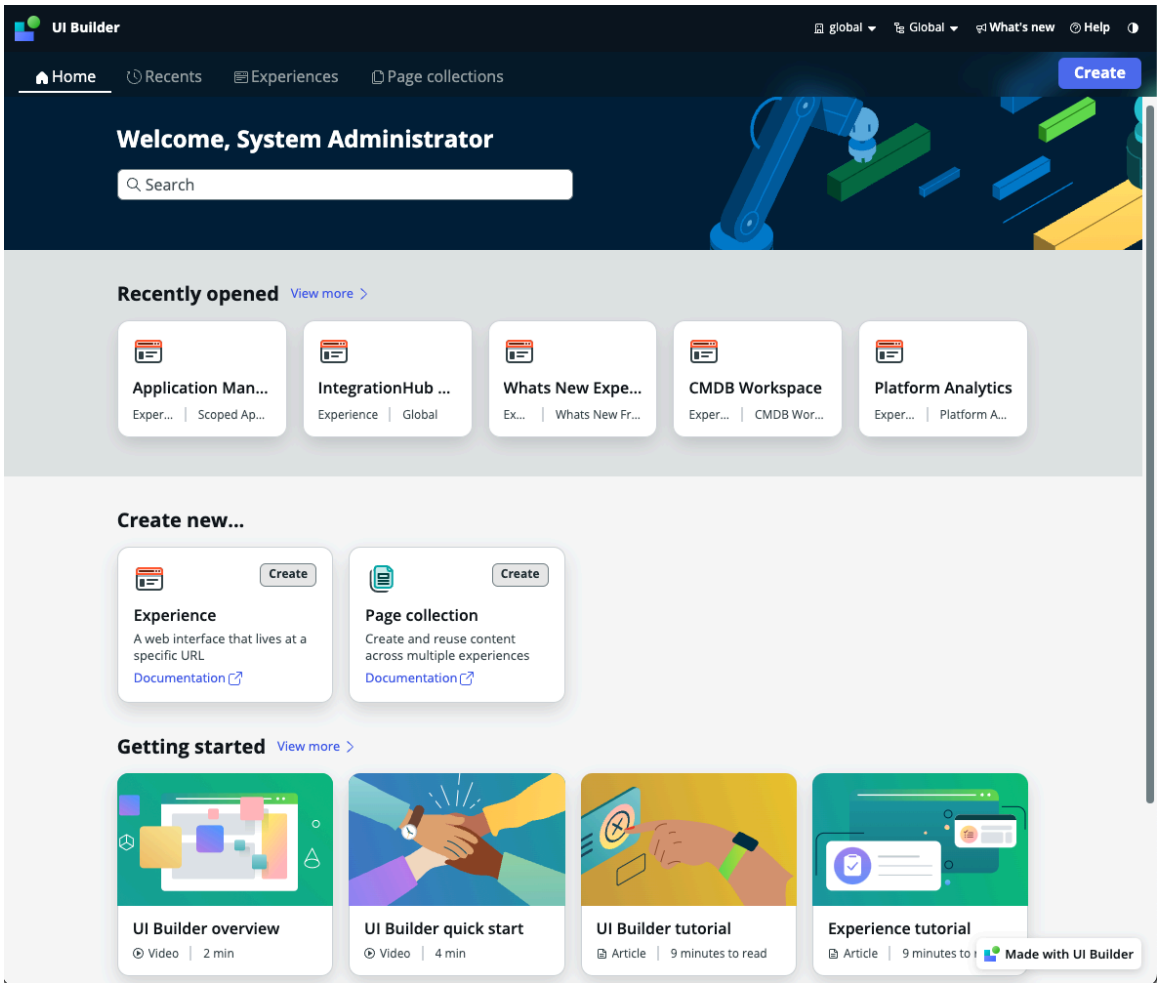
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー アプリケーションの中で移動する

UI ビルダー の中で移動する方法を学びます。

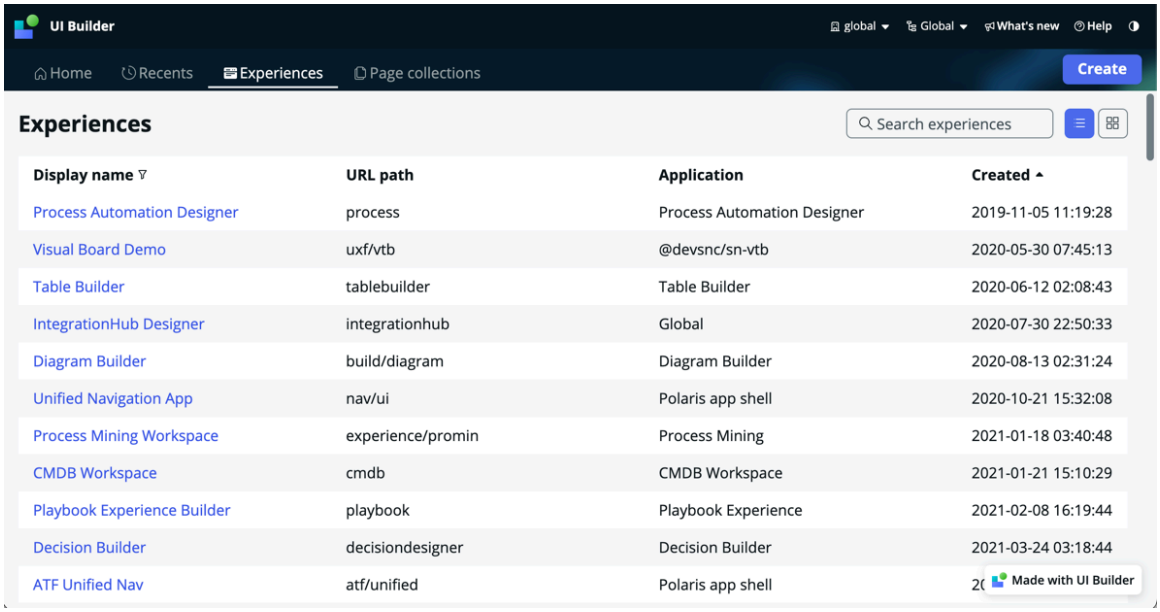
UI ビルダー ホーム

UI ビルダー ホームページは、最近開いたエクスペリエンスへの簡単なアクセス、およびエクスペリエンスやページコレクションを作成するオプションを提供し、UI ビルダー の使用を開始するためのヘルプを提供します。検索バーを使用して、エクスペリエンスを名前ですばやく見つけることもできます。

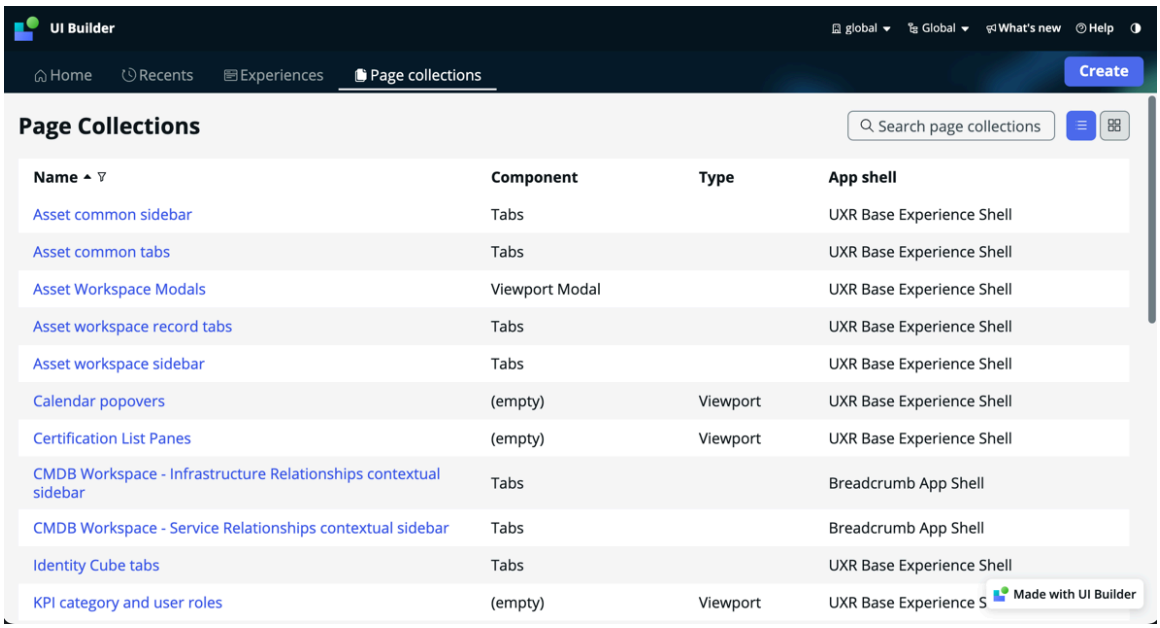


トップバーの [エクスペリエンス] タブを選択して、上部のエクスペリエンスのリストにアクセスできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

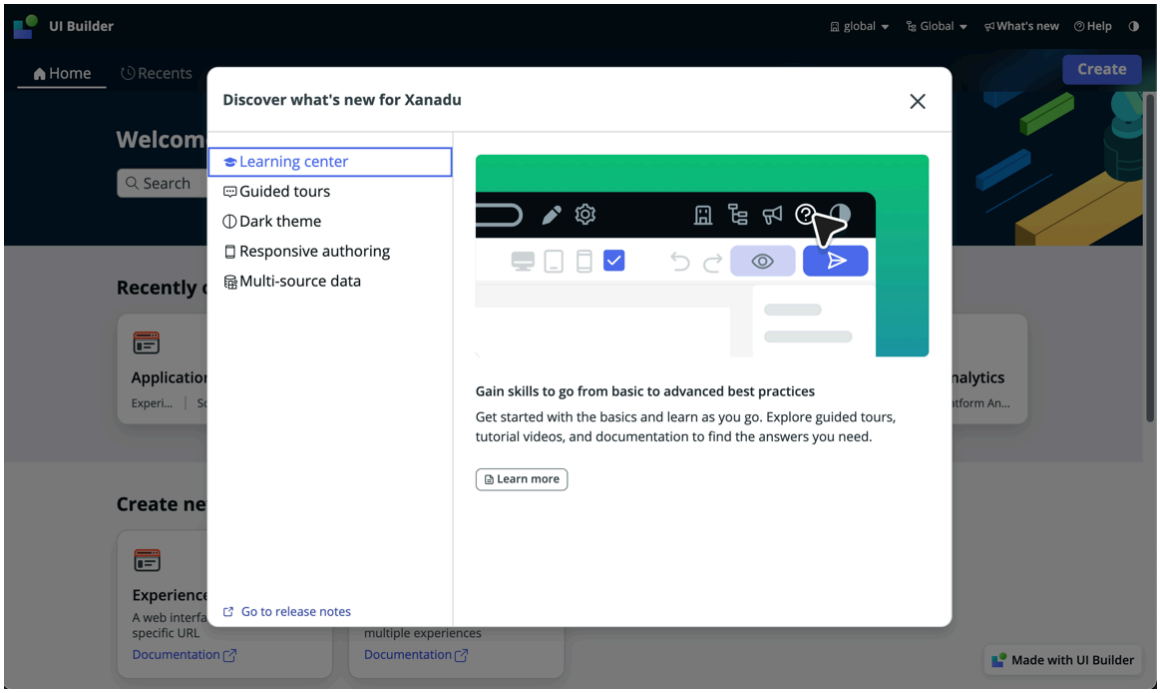


トップバーの [ページコレクション] タブを選択して、上部のページコレクションのリストにアクセスできます。



ヘッダーの [最新情報] リンクを選択して、UI ビルダー に対する最新の変更を表示します。

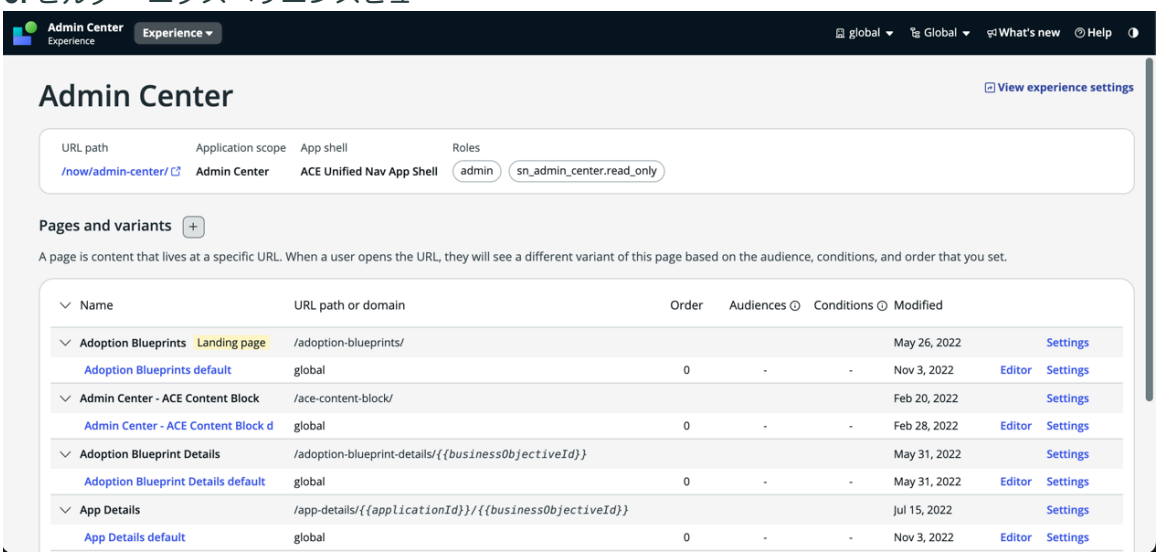
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



UI ビルダー エクスペリエンスビュー

UI ビルダー エクスペリエンスビューは、エクスペリエンスの構造と詳細を表示して理解するための中心的な場所です。[ページとバリアント] リストを使用して、編集するページを選択します。

UI ビルダー エクスペリエンスビュー

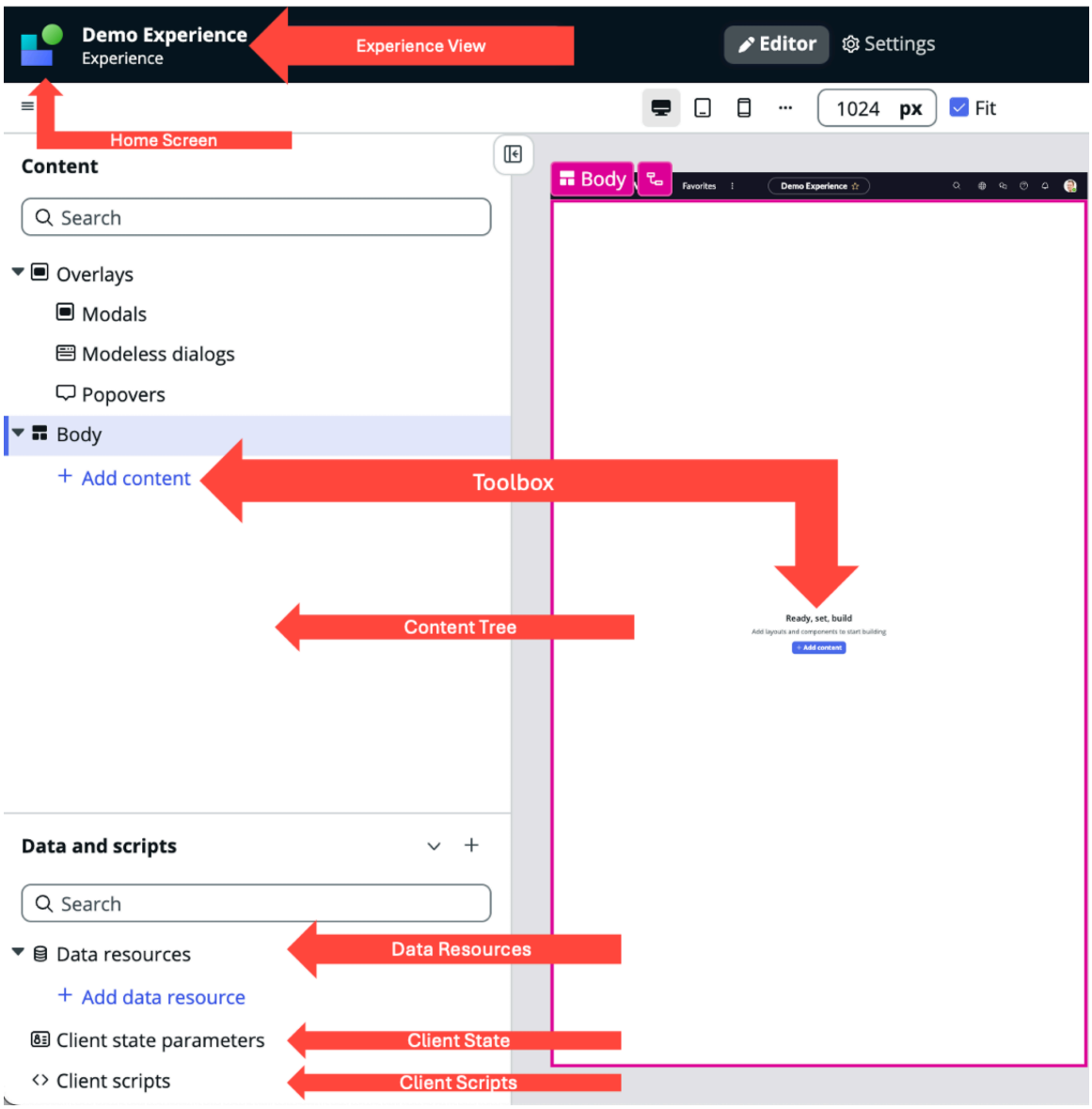


UI ビルダー の構造

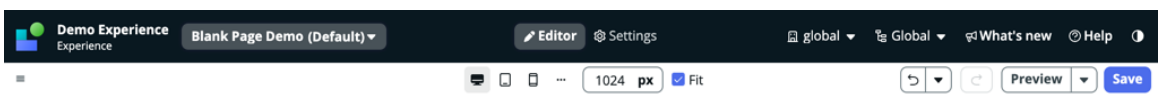
UI ビルダーは次の領域に分かれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- UI ビルダー の以下の項目にアクセスするには、左側の垂直バーを使用します。

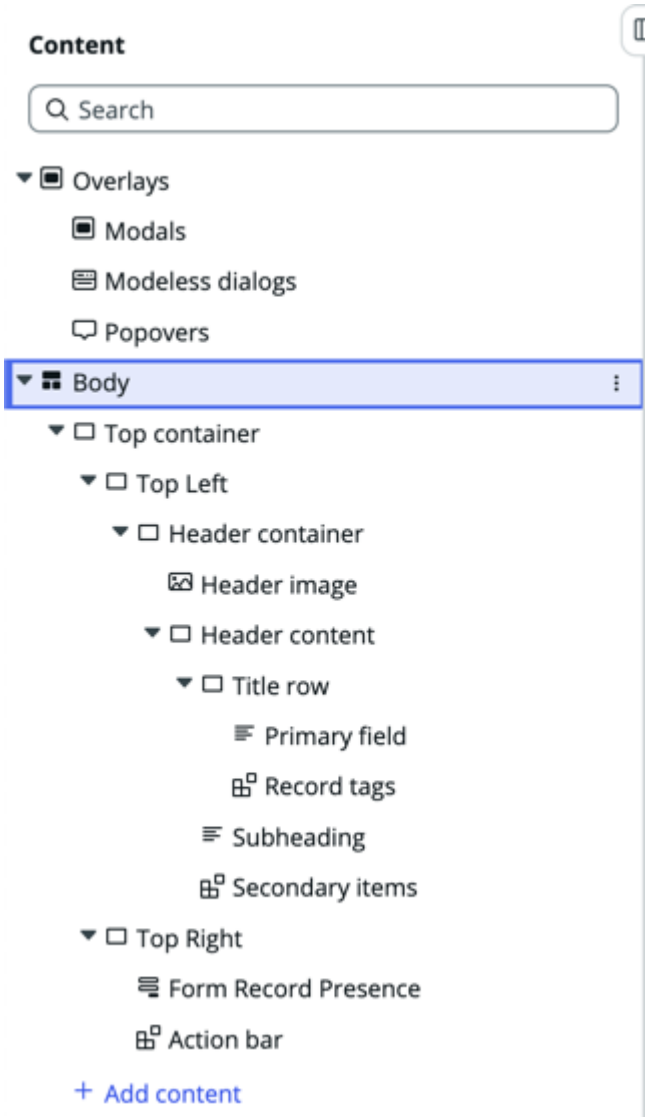


- トップバーを使用して、エクスペリエンスのページにアクセスし、ヘルプを表示します。可用性、順序、対象者などのページ設定を変更します。編集中のページの URL パスをプレビューして開き、ページがユーザーにどのように表示されるかを確認します。ドメインを選択してアプリケーションスコープを設定することもできます。最後に、[保存] ボタンを頻繁にクリックしてページを保存します。

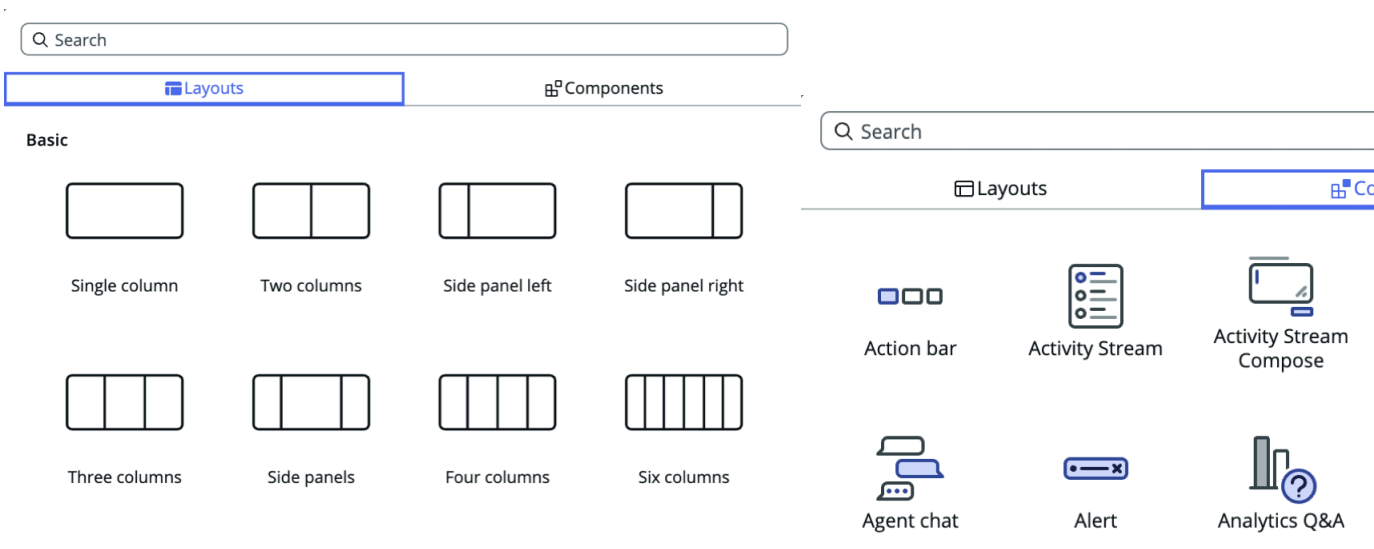


- コンテンツツリーを使用して、ページ上の列レイアウト、列、コンポーネントを表示および編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

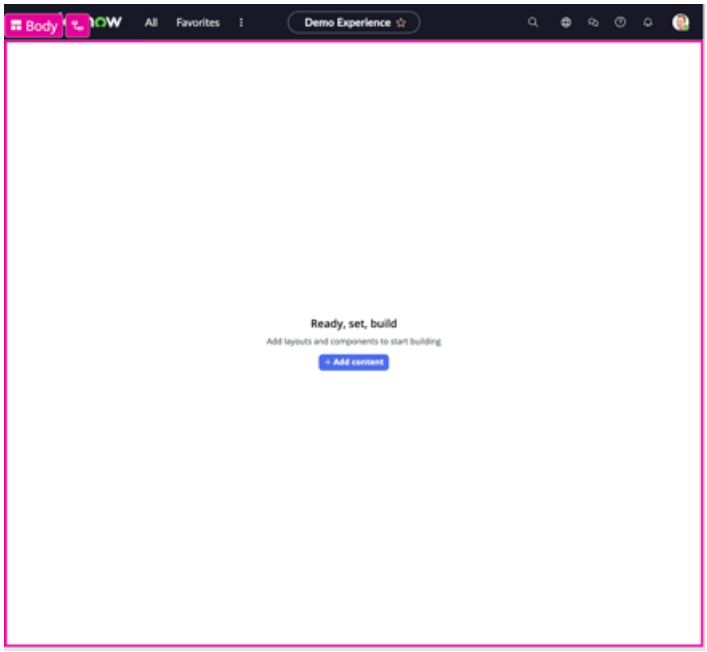


- UI ビルダー ツールボックスを使用して、列レイアウトとコンポーネントをページに追加します。

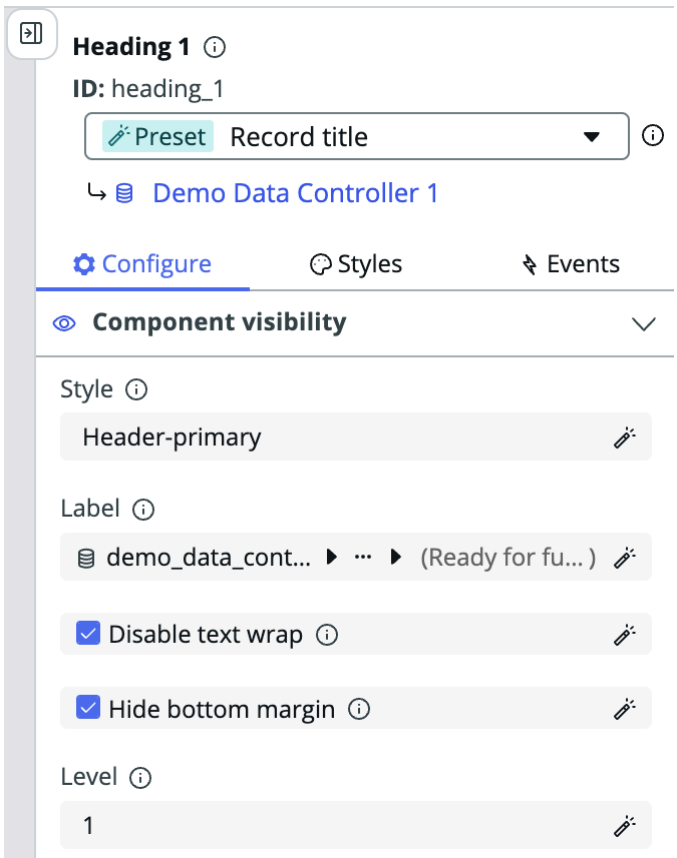


- UI ビルダー ステージング領域で作業して、ページをビルドおよび変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

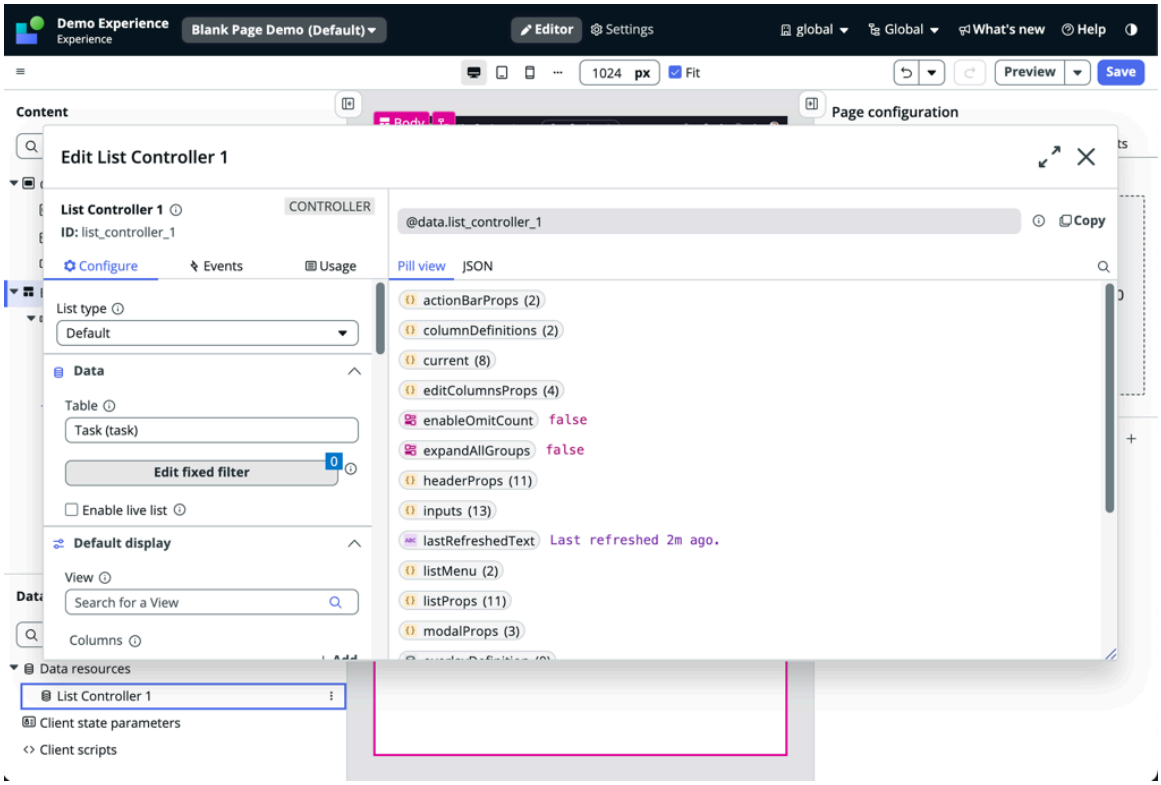


- 構成パネルに移動して、列レイアウト、列、コンポーネント、スタイリング、およびイベントを変更します。

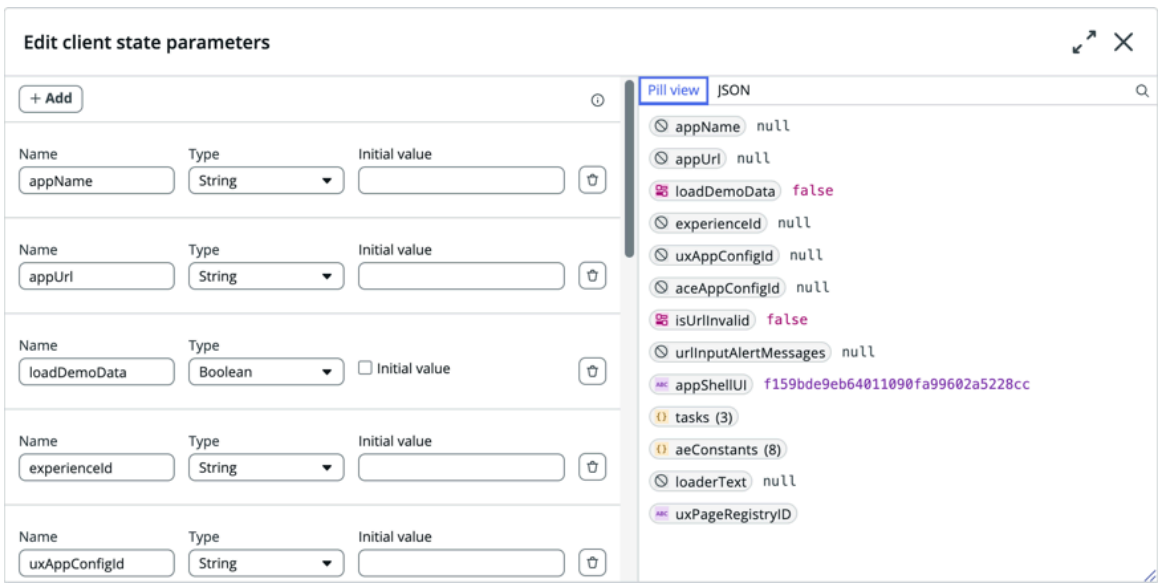


- データリソース：データリソースを使用してデータをコンポーネントにバインドし、ページ上のテーブル、レコード、またはその他の要素からデータを動的に公開します。データリソースを使用すると、コンポーネントを再利用できます。詳細については、「コンポーネントへのデータ接続」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

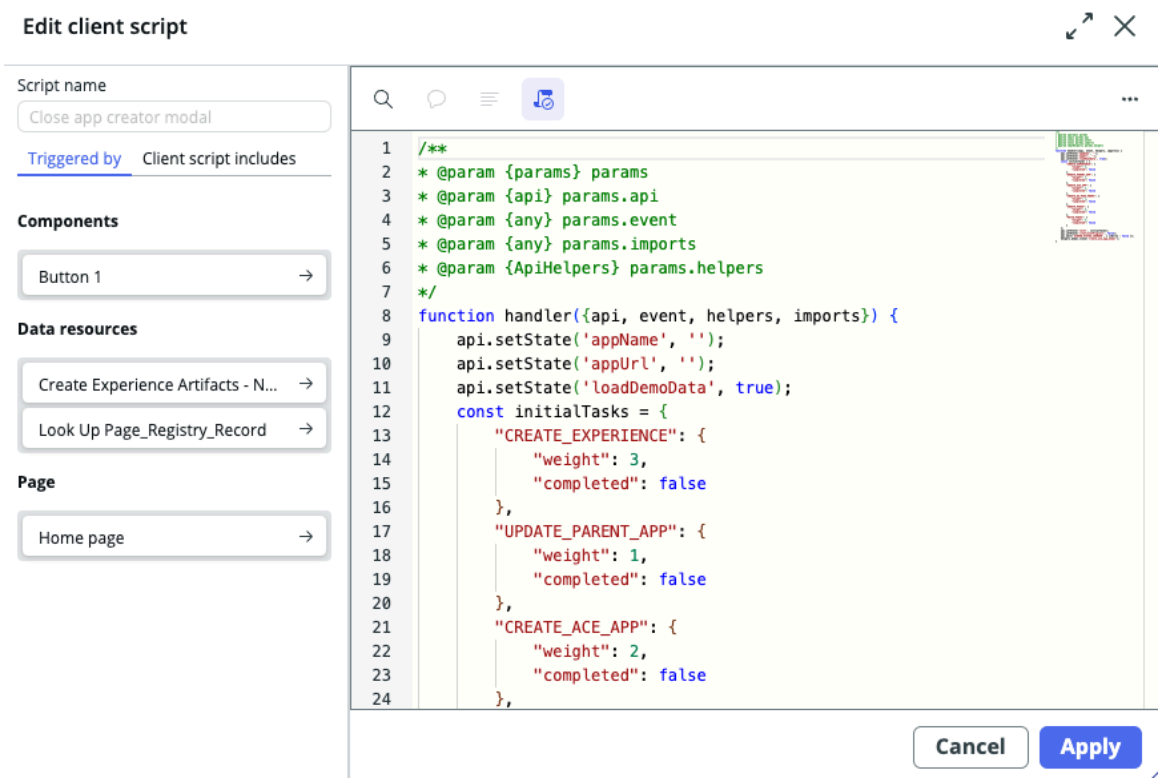


- クライアントステータス：ページのクライアントステータスのパラメーターを設定します。クライアントステータスパラメーターは、名前、タイプ、および初期値で構成されます。クライアントステータスパラメーターのプレビューを表示できます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- クライアントスクリプト: スクリプティングにより、イベント処理などのページの側面が自動化されます。

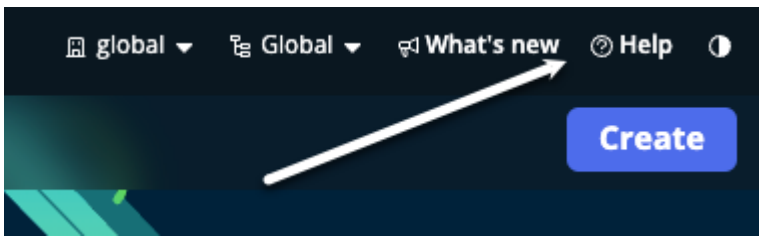


UI ビルダーラーニングセンター

UI ビルダー ラーニングセンターで、開始と知識の構築に役立つ記事、ビデオ、コース、ガイド付きツアーを確認できます。ラーニングセンターは、UI ビルダー の基本的な機能や基本的なガイドラインを学ぶことができるワンストップショップです。

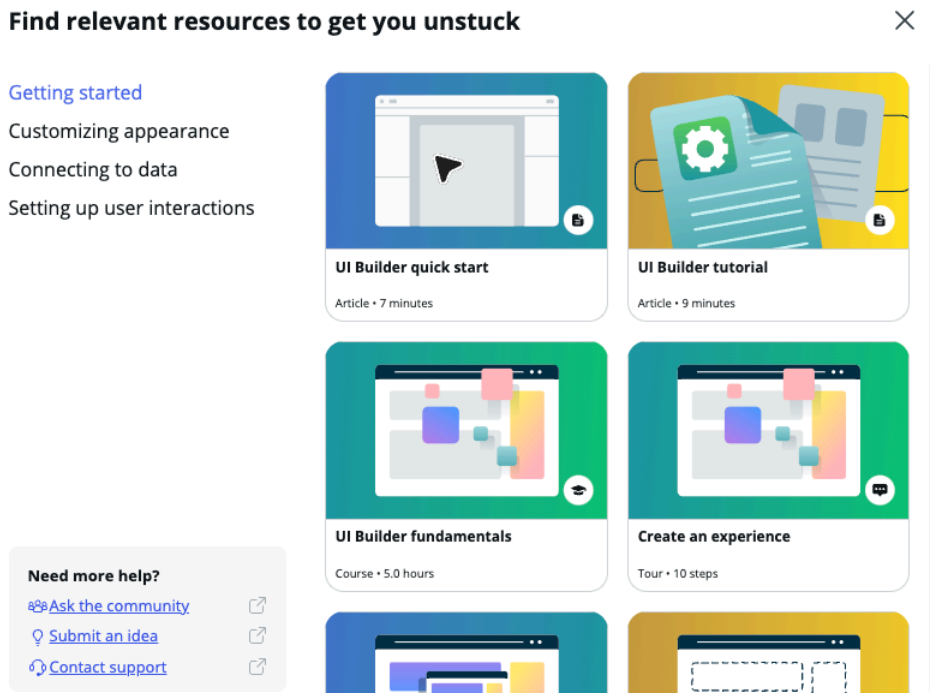
ラーニングセンターを開く

[Now Experience フレームワーク] > [UI ビルダー] に移動し、[ヘルプ] を選択します。

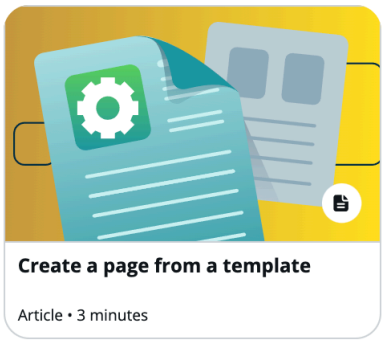


ラーニングセンターがオーバーレイで開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



利用可能な情報がタイルに一覧表示されます。各タイルには、タイトル、情報タイプ、完了までの時間が含まれます。たとえば、読むのに 3 分かかる製品ドキュメント記事にリンクするタイルなどです。



タイルを選択してリソースを開きます。リソースは次の場所にあります。

- 記事：https://docs.servicenow.com
- ビデオ：ServiceNow が作成し、一般公開されているオンラインビデオプラットフォームで入手可能
- コース：https://nowlearning.servicenow.com
- ツアー：ServiceNow インスタンスに埋め込まれています

UI ビルダーのガイド付きツアー

UI ビルダー ガイド付きツアーについて、それらを使用して知識を構築し、UI ビルダー を使用する練習方法を含めて説明します。

ガイド付きツアーとは

ガイド付きツアーは、デフォルトの ServiceNow プラットフォームに含まれています。使用可能なガイド付きツアーがあり、ガイド付きツアーアプリケーションを使用して、独自のインスタンスでカスタムツアーを自分で作成できます。

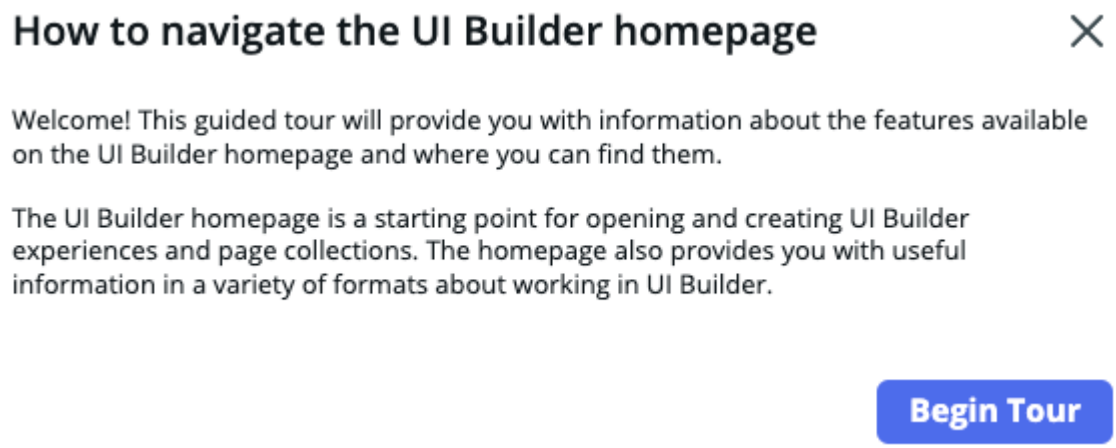
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ツアーには、ユーザーのトレーニングと教育に役立つインタラクティブな手順が含まれています。ツアーによっては、ホームページの概要など、ユーザーインターフェイスのさまざまな機能が表示されます。他のツアーは、エクスペリエンスの作成やエクスペリエンスページのプレビューなどのタスクの完了に役立ちます。ガイド付きツアーの内容と作成方法の詳細については、「ガイド付きツアーの詳細」を参照してください。

UI ビルダー ガイド付きツアーのアクセス方法と使用方法

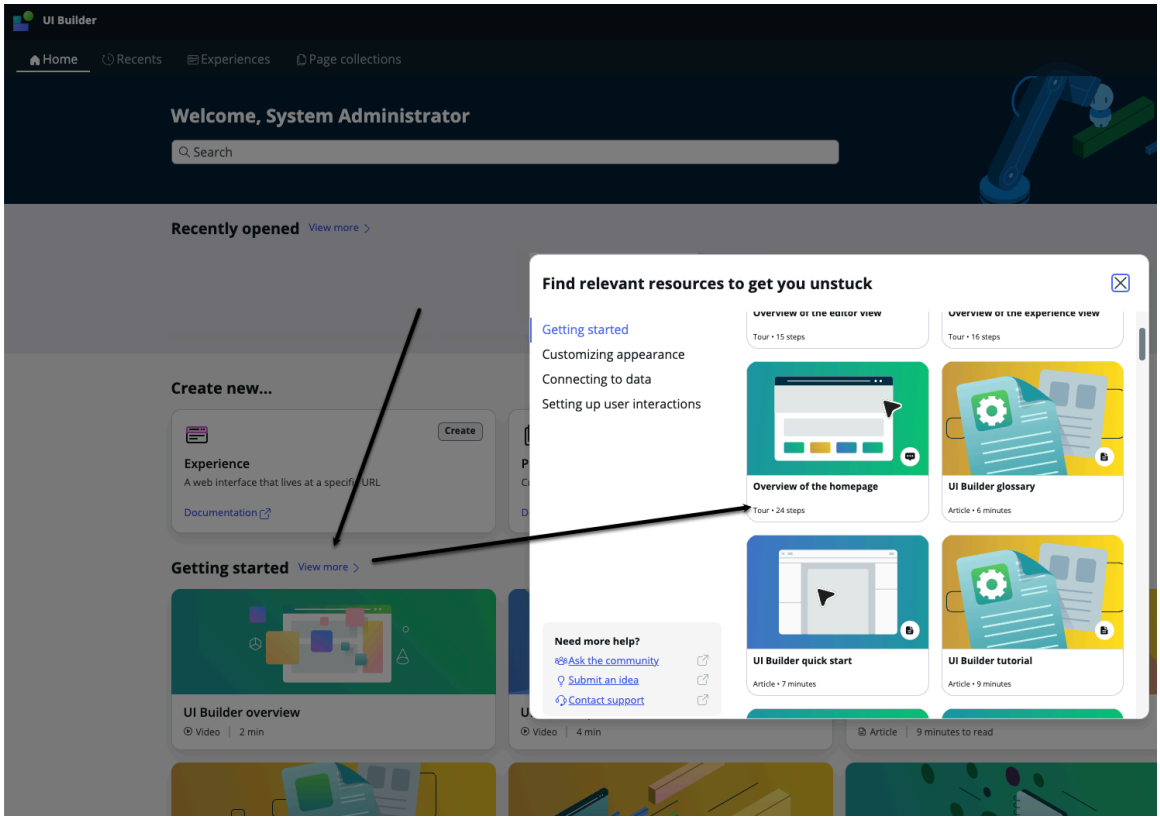
UI ビルダー に関するガイド付きツアーが自動的に開始される場合があります。また、UI ビルダー ホームページまたは UI ビルダー ヘルプパネルの [はじめに] セクションから手動で開始することもできます。

ガイド付きツアーが自動的に開始されると、概要が表示されます。[ツアーを開始] を選択します。

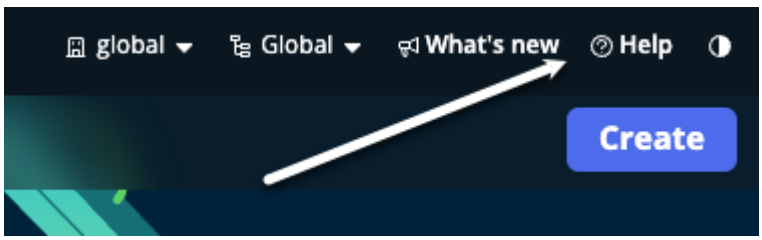


ホームページから手動でツアーを開始するには、[Now Experience フレームワーク] > [UI ビルダー] に移動し、[はじめに] セクションでツアーを選択します。デフォルトでこのセクションにガイド付きツアーが表示されない場合は、[さらに表示] を選択し、[行き詰まりを解消するための関連リソースを見つける **(Find relevant resources to get you unstuck)]** ポップアップでツアーを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

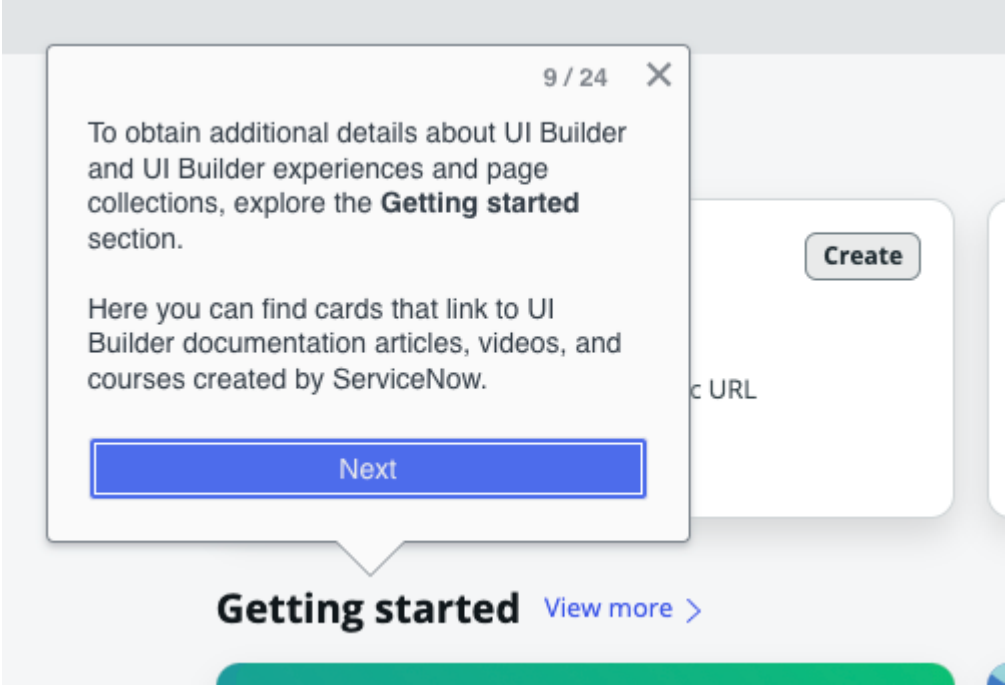


または、[ヘルプ] を選択し、[行き詰まりを解消するための関連リソースを見つける **(Find relevant resources to get you unstuck)]** ポップアップでツアーを選択します。



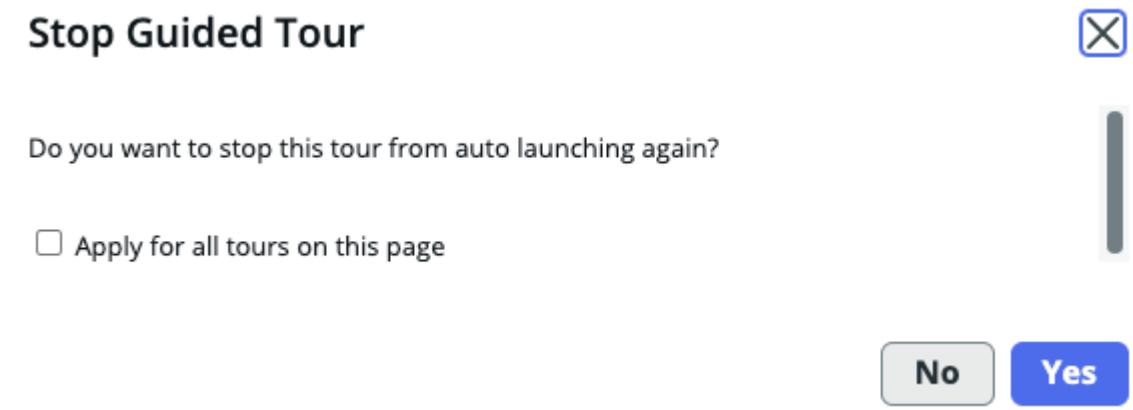
ツアーが自動または手動で開始されると、一連の手順に従って導かれます。各ステップのテキストを読み、必要なアクションを実行するか、[次へ] を選択してツアーを続行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ツアーを停止するには、**[X]** を選択します。

ツアーの自動起動を停止するには、[はい] または [いいえ] を再度選択します。同じページで開始するすべてのツアーに決定を適用することもできます。



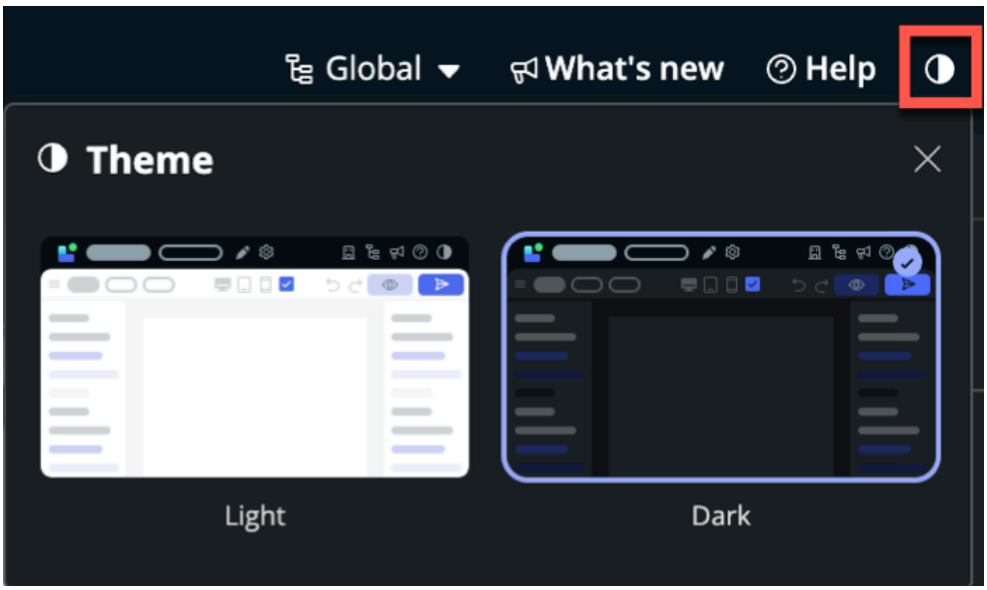
UI ビルダー のダークテーマ

UI ビルダー でダークテーマに切り替える方法を説明します。

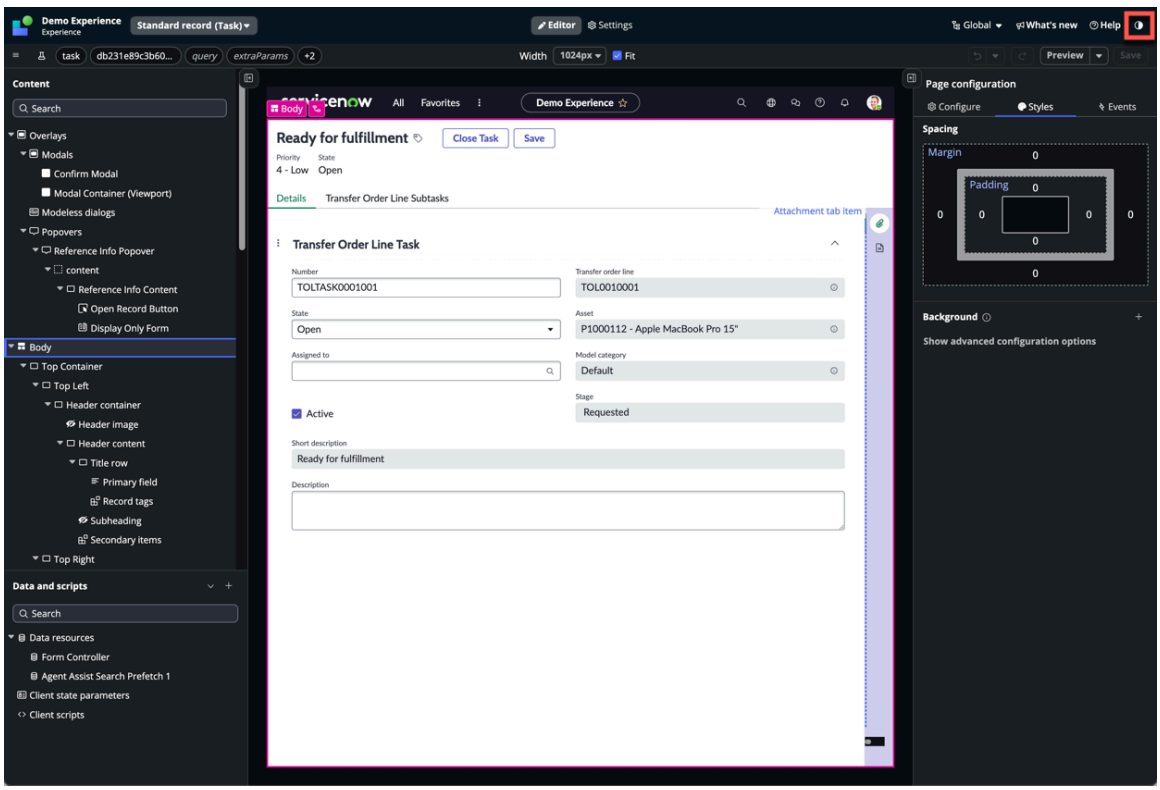
UI ビルダー にはダークテーマオプションが含まれており、デフォルトのライトテーマに代わる目に優しい代替手段を提供します。ダークテーマを有効にするには、バナーの [テーマを選択] アイコン ( ) を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー テーマオプション



ダークテーマは、UI ビルダー のインターフェイスに即座に適用されます。



注: UI ビルダー ステージは、プラットフォームのテーマ設定で設定されたテーマを使用します。たとえば、インターフェイスの残りの部分がダークでも、ステージが白いままになる場合があります。UI16 ページをステージ上でダークテーマでレンダリングできるようにするには、[ユーザー設定] の [テーマ] メニューで [ダーク] オプションを選択します。[テーマ] メニューへの移動の詳細については、「テーマメニューを開く」を参照してください。

UI ビルダー を例で学ぶ

一般的なユースケースを調べることは、UI ビルダー の使い方を学ぶ良い方法です。このセクションの各タスクを記載されている順序で実行することを検討してください。

ここでは、次のユースケースについて説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デモエクスペリエンスを作成して UI ビルダー を調べる

UI ビルダー のエクスペリエンスは、ユーザーがアプリケーションを操作するための Web ページのコレクションです。このエクスペリエンスには、ルート、ページのバリアント、各バリアントに必要な対象者と条件、およびエクスペリエンスの設定が含まれます。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

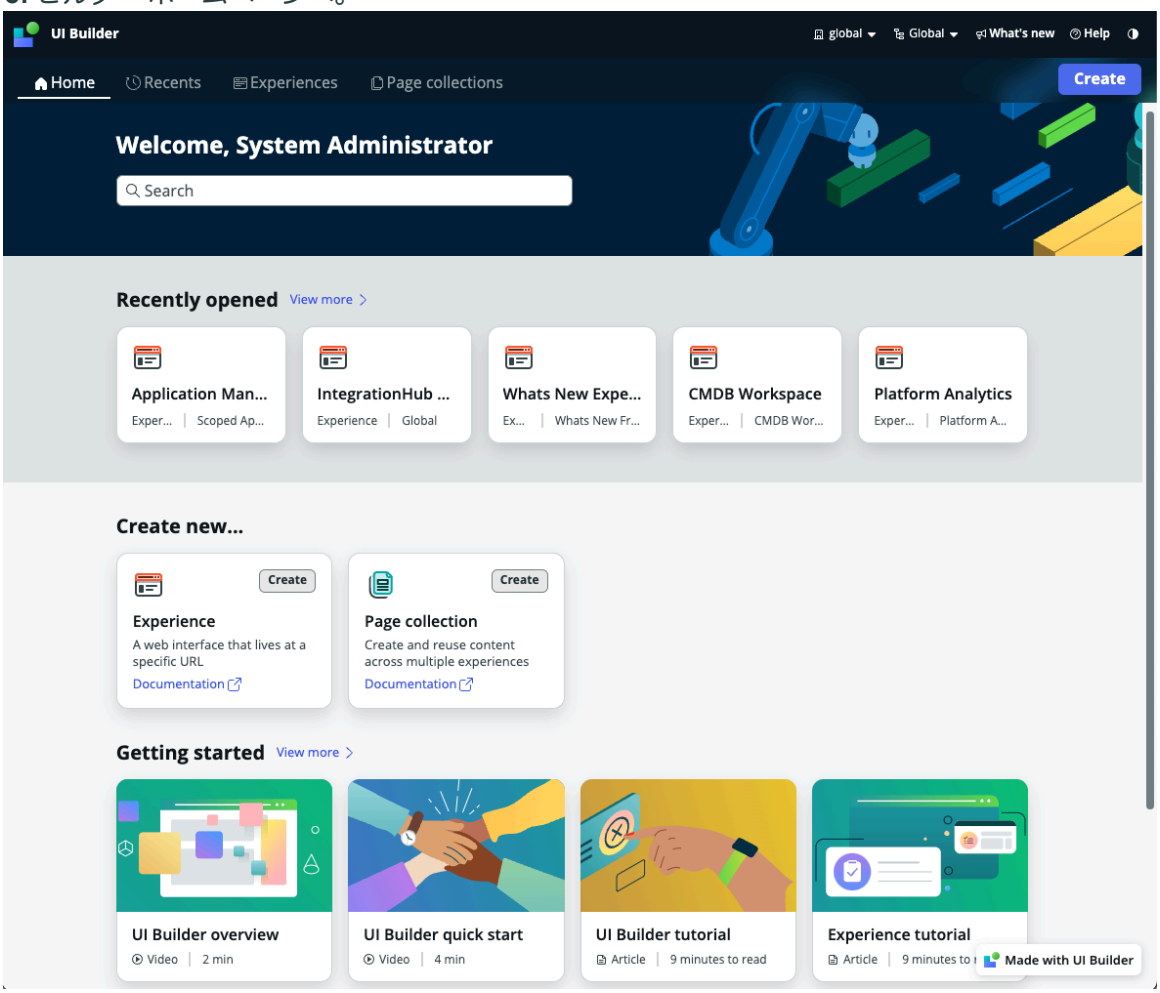
UI ビルダー エクスペリエンスビューは、エクスペリエンスの構造と詳細を表示して理解するための中心的な場所です。エクスペリエンスビューを使用して、エクスペリエンスの構造と階層を確認します。UI ビルダー エクスペリエンスビューにアクセスするには、ここで説明されているように、UI ビルダー ホーム画面から既存のエクスペリエンスを選択するか、デモエクスペリエンスを作成します。

> **注:** UI ビルダー には、従業員センターなどの ServiceNow ベースシステムのサービスポータルをビルドまたは構成する機能はまだありません。サービスポータルについては、引き続きサービスポータルデザイナー を使用してください。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。

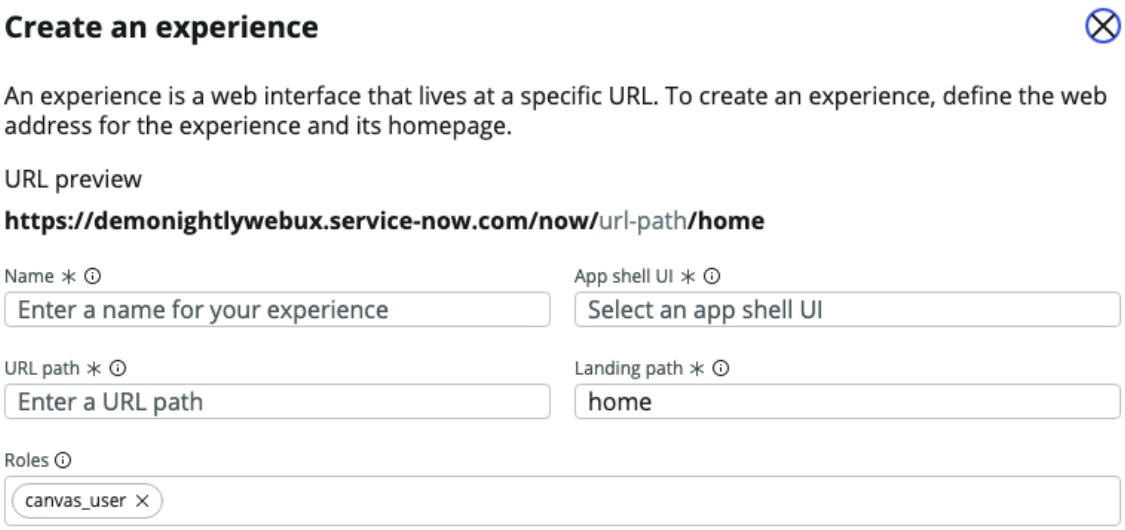
UI ビルダー ホームページへ。



2. UI ビルダー のホームページから [作成] を選択します。
3. [エクスペリエンス] を選択します

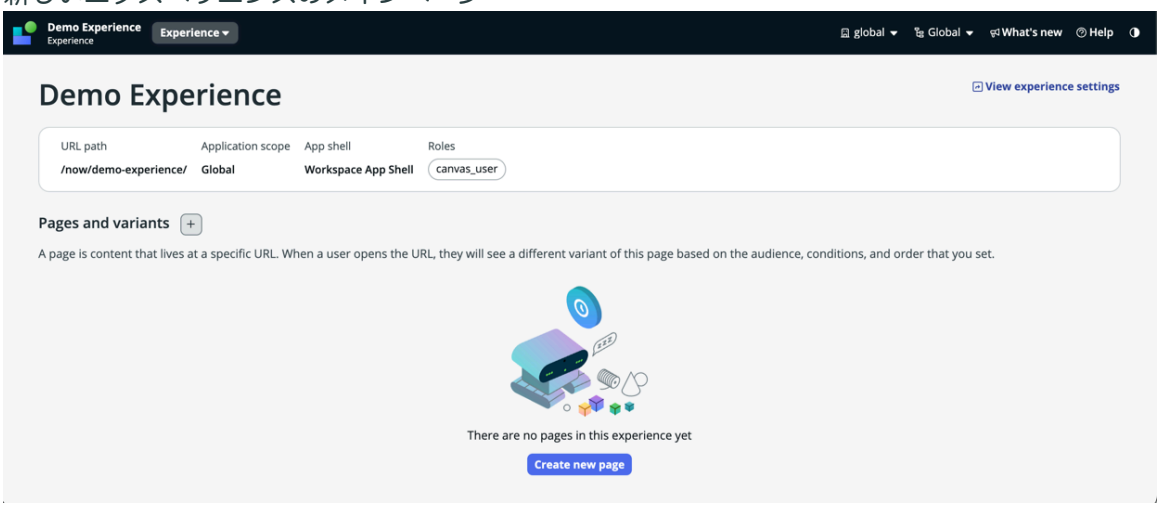
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[エクスペリエンスを作成] ダイアログボックス



4. [名前] を入力します (例：デモエクスペリエンス **(Demo Experience)**)。
5. [アプリシェル **UI]** を選択します (例：ワークスペースアプリシェル)。
6. [作成] を選択します。
7. [エクスペリエンスを開く] を選択して、エクスペリエンスのメインページを表示します。

新しいエクスペリエンスのメインページ



注: 画面には、新しいエクスペリエンスの名前に加え、URL、アプリケーションスコープ、アドミンパネル、およびエクスペリエンスを表示できるユーザーのロールが含まれています。エクスペリエンス用に作成したページまたはバリアントは、[ページとバリアント] セクションに表示されます。

次のタスク

このエクスペリエンスの空白ページを作成する方法については、「次のトピック **(Next topic)**」リンクを選択してください。

空白ページの作成

デモエクスペリエンスを作成した後、エクスペリエンスでユーザーに提供するものを定義するのにビルドできる、空白のページを作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

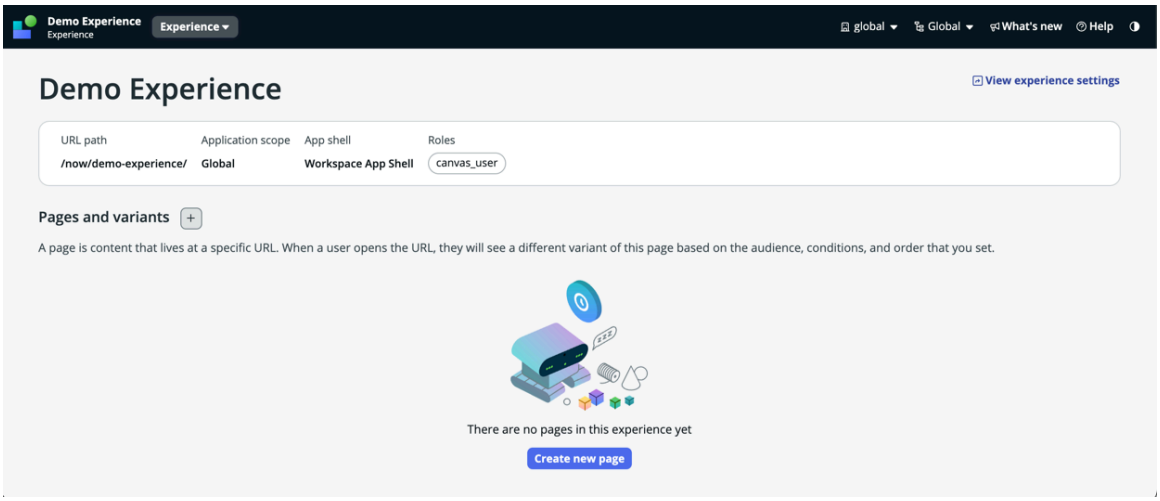
このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。 このビデオでは、UI ビルダーエクスペリエンスで空白のページを作成する方法を説明します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

手順

1. 前の手順で作成したエクスペリエンスをまだ確認していない場合は、[すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動し、作成したエクスペリエンスを選択します。

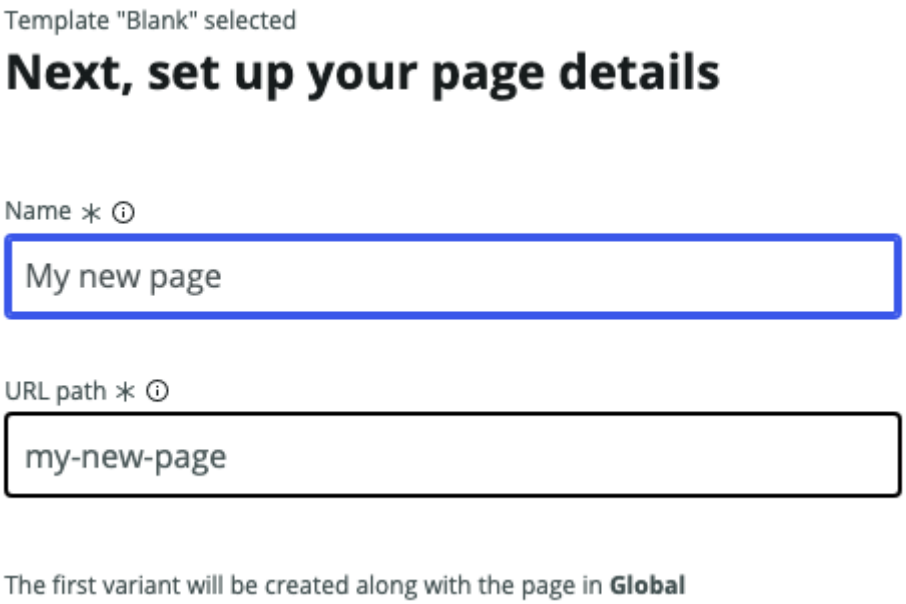
新しいエクスペリエンスのメインページ



2. エクスペリエンスのメインページから、[新規ページの作成] を選択するか、[ページとバリアント] の横にあるプラス (**+**) 記号を選択します。
3. [最初にテンプレートを選択してください] 画面で、[代わりに最初から作成します] を選択します。

   使用できるテンプレートもありますが、ページを最初から作成します。

ページの詳細



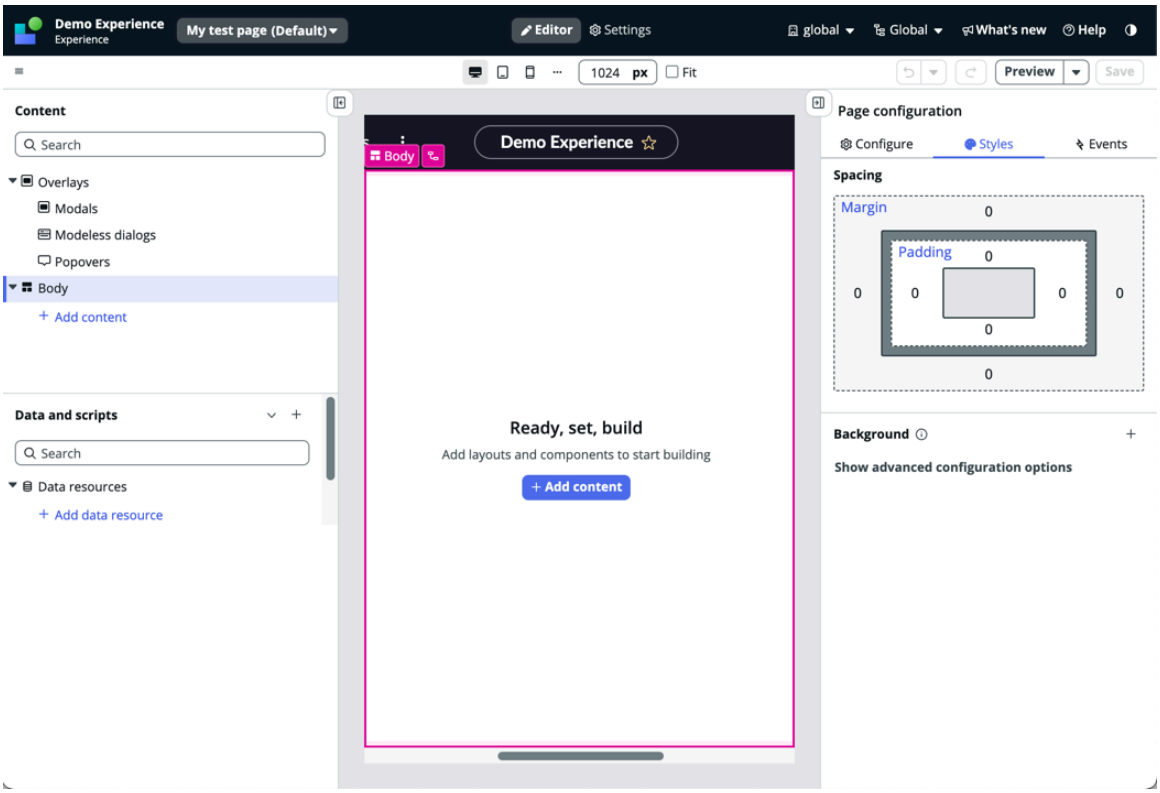
4. [名前] フィールドに「**My test page**」と入力し、[続行] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: **[URL** パス] には、ユーザーがページにアクセスするのに使用できる URL が表示されます。

5. 次の画面で [問題なし] を選択します。
6. [バリアントについて教えてください] 画面では、何も変更しないでください。
7. [続行] を選択します。
8. [レスポンシブをビルド **(Build responsive)]** オプション (デフォルト) を選択して、さまざまな画面幅でのページの表示方法をより詳細に制御します。
9. [作成] を選択します。
ビジュアルエディターが開きます。ここで、新しいページの編集を開始できます。

UI ビルダー ビジュアルエディター



次のタスク
モーダルを開くボタンの作成方法については、「次のトピック **(Next topic)**」リンクを選択してください。

テンプレートを使用したレコードページの作成

デモエクスペリエンスを作成したら、テンプレートからレコードページを作成できます。レコードページには、テーブルのデータが表示されます。

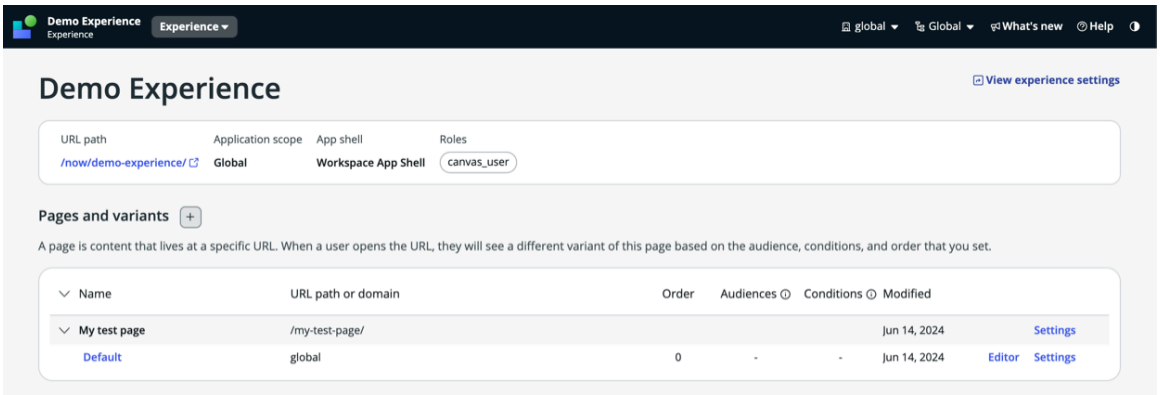
始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

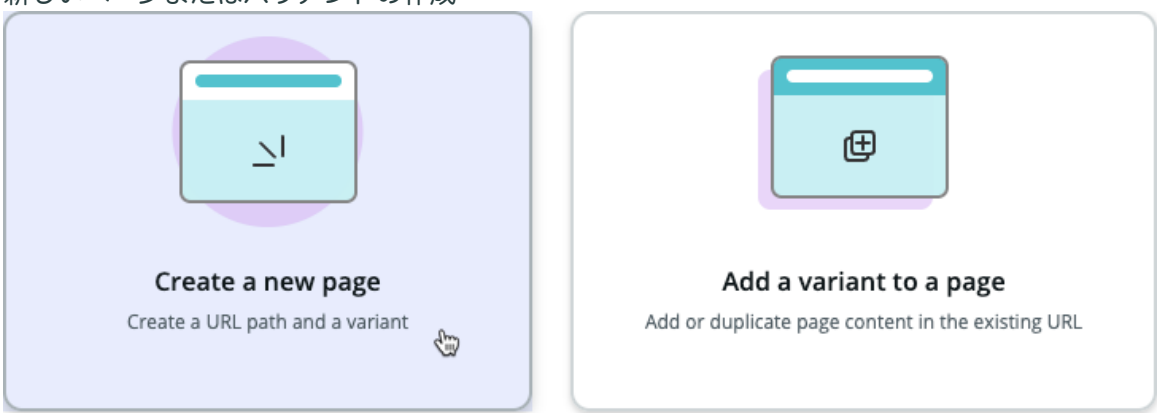
1. デモエクスペリエンスのメインページを開きます。

デモエクスペリエンス



2. エクスペリエンスのメインページから、[ページとバリアント] の横にあるプラス (+) 記号を選択します。

新しいページまたはバリアントの作成

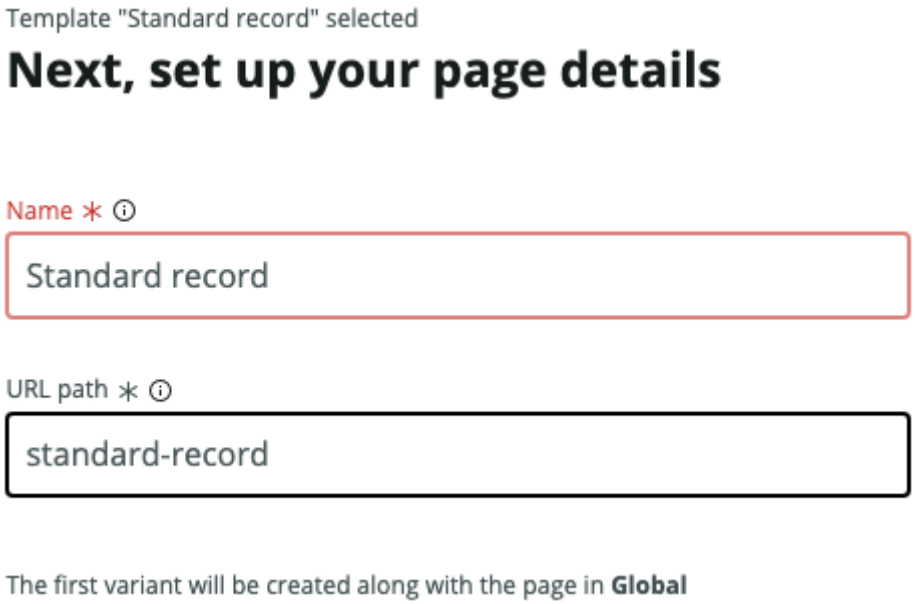


3. 別の URL に存在するページを作成するには、[新規ページの作成] を選択します。
4. [最初にテンプレートを選択してください] 画面で、[標準レコード] テンプレートを見つけて、[テンプレートを使用] を選択します。

> **注:** 必要に応じて、[詳細] を選択することで、テンプレートについて選択前に確認することができます。

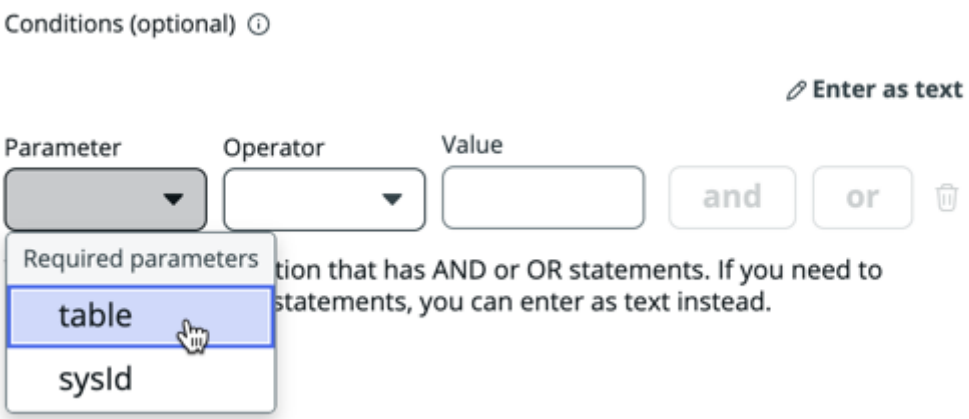
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ページの詳細



5. [ページの詳細] 画面の [名前] フィールドに `Task record page` と入力し、[続行] を選択します。
6. 次の画面で [問題なし] を選択します。
7. [バリアントについて教えてください] 画面で、ページを表示するタイミングを決定する条件を入力します。
   a. [パラメーター] フィールドで、[テーブル] を選択します。
   b. [演算子] フィールドで、**[is]** を選択します。
   c. [値] フィールドに `task` と入力します。

条件フィールド

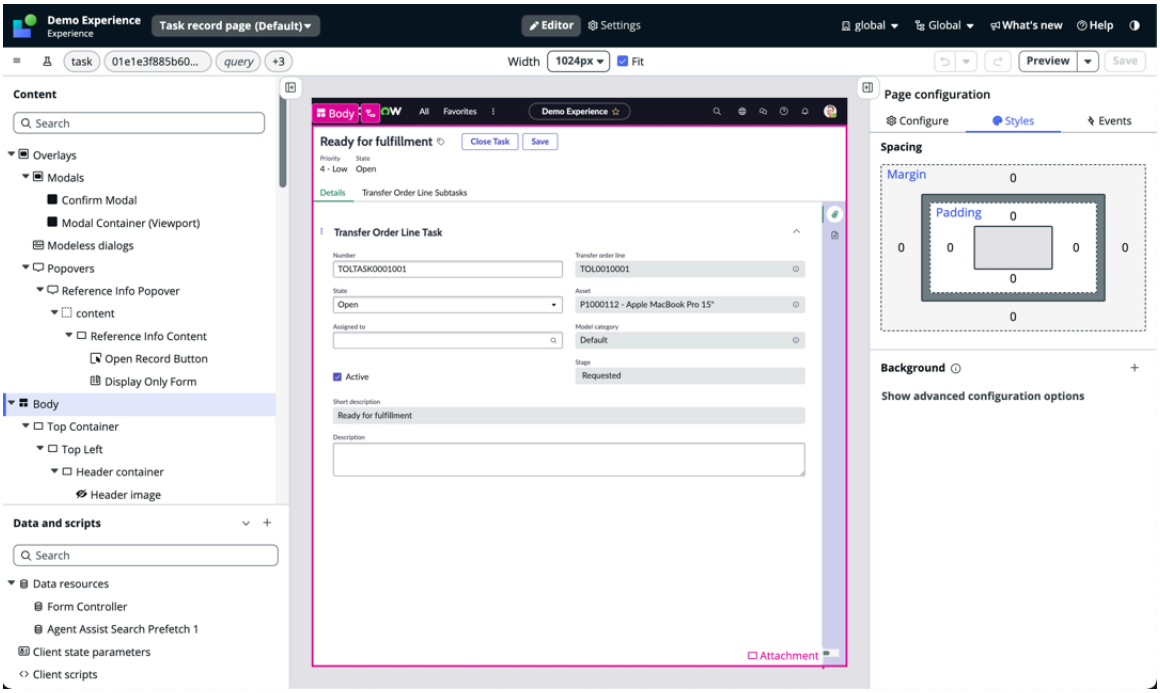


このページは、タスクテーブルからレコードにアクセスするユーザーに表示されます。

8. [作成] を選択します。
ビジュアルエディターが開きます。ここで、新しいページの編集を開始できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

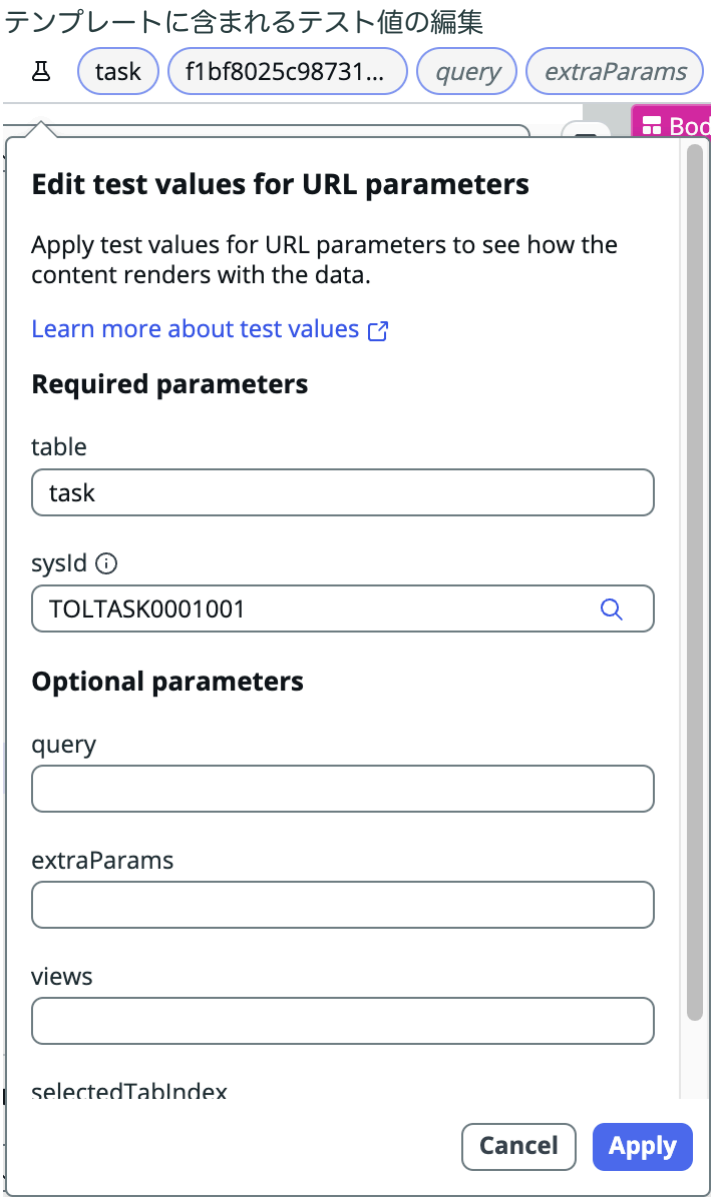
標準レコードテンプレートから作成された新しいページ



注: 新しいページには、多くのレイアウト、事前設定されたコンポーネント、データ、およびモーダルが含まれています。さらに、独自の特定のユースケースに合わせて変更できるテスト値も含まれています。テンプレートを使用すると、新しいページを作成するときに時間を大幅に節約できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. [ページのコンテンツ] ペインの上にある領域を選択すると、テンプレートに含まれるテスト値に関する情報を表示できます。



次のタスク
UI ビルダー でページを表示できる対象者を定義する方法については、「次のトピック **(Next topic)**」リンクを選択してください。

モーダルを開くボタンの作成

デモエクスペリエンスを作成して空白ページを追加したら、必要に応じてページバリアントを編集できます。このデモでは、ボタンとモーダルを作成し、モーダルを開くボタンを構成できます。

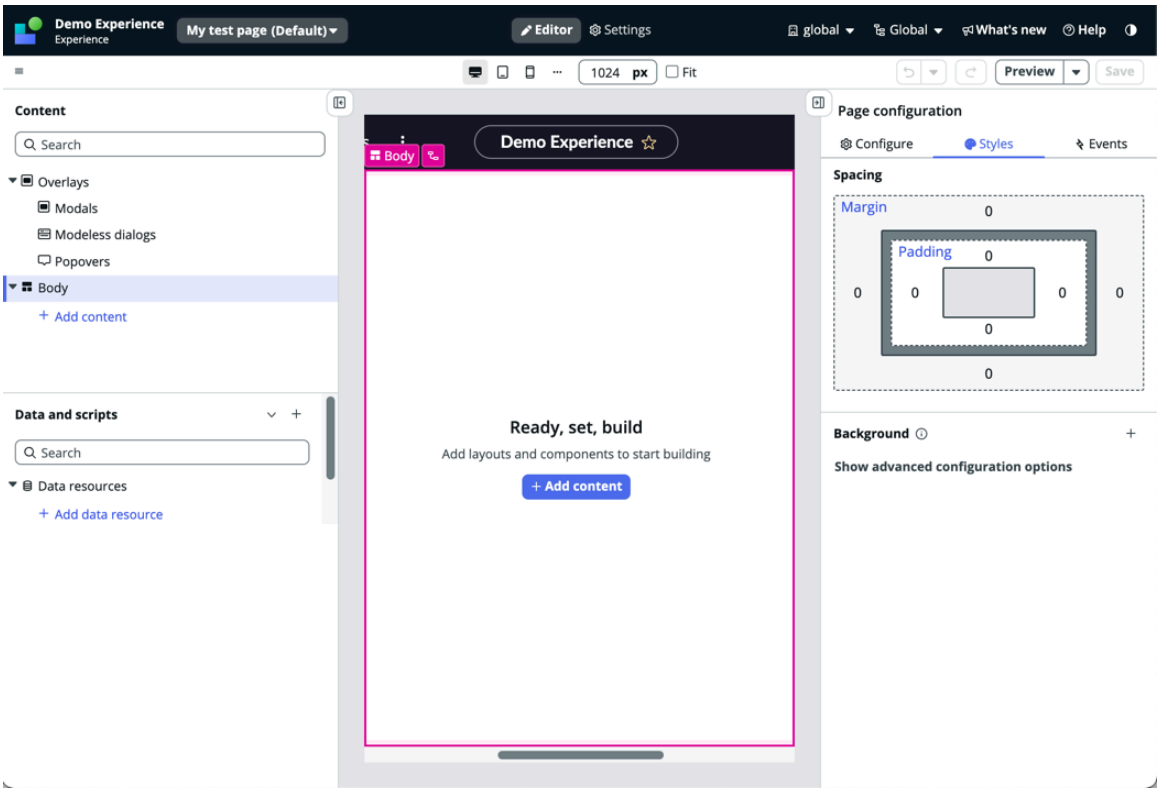
始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. デモエクスペリエンスの UI ビルダーページを開きます。

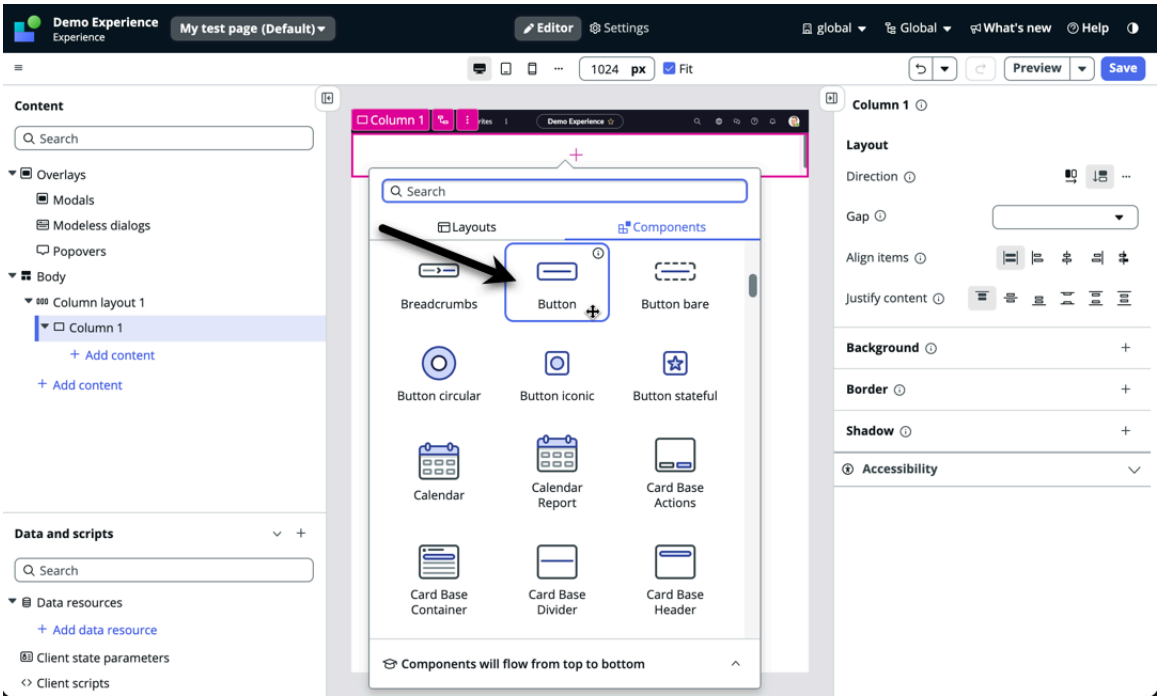
UI ビルダー ビジュアルエディター



2. ステージ上の **[+** コンテンツを追加] ボタンをクリックしてツールボックスを開きます。
3. **[1** 列] のレイアウトを選択します。
4. 次に、列の **[+]** アイコンをクリックしてツールボックスを開きます。
5. ボタンコンポーネントを選択してステージに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

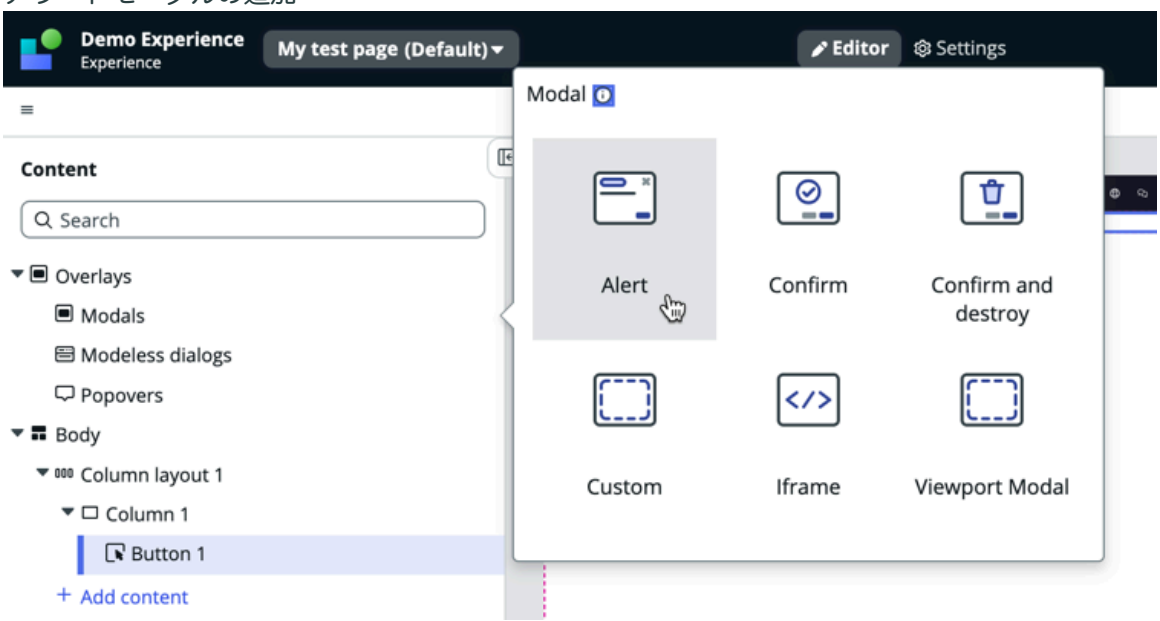
ボタンの追加



注: コンポーネントを選択すると、[ページ構成] ペインには、互換性のあるページでコンポーネントを自動的に構成するために使用できるプリセットがいくつか表示されます。ただし、この演習では、コンポーネントを手動で構成します。プリセットの詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

6. [ページ構成] ペインで、[コンポーネントを手動構成します] を選択します。
7. [ページのコンテンツ] ペインで [ボタン **1**] を選択し、[構成] ペインでボタンラベルを [モーダルを開く] に変更します。
8. [保存] を選択します。
9. [ページのコンテンツ] ペインで、[モーダル] の横にある [プラス] アイコンをクリックし、[アラート] モーダルを選択します。

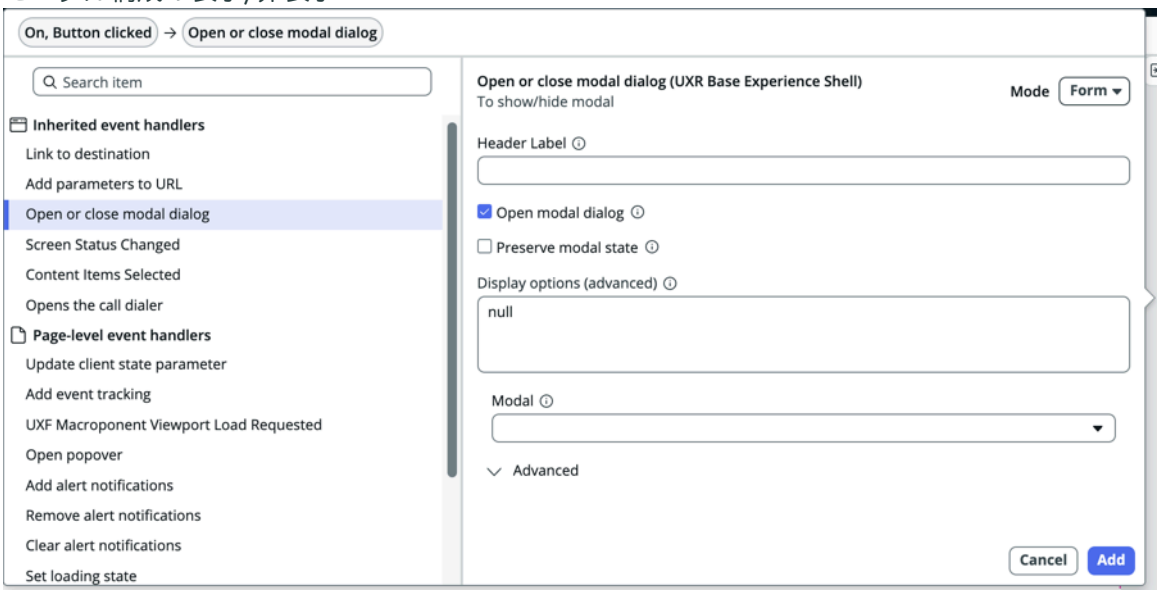
アラートモーダルの追加



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. [保存] を選択します。
11. [ページのコンテンツ] ペインで [ボタン **1]** を選択し、[構成] ペインで [イベント] タブを選択します。
12. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択し、[継承されたイベントハンドラー **(Inherited event handlers)]** で [モーダルダイアログを開くまたは閉じる] を選択します。

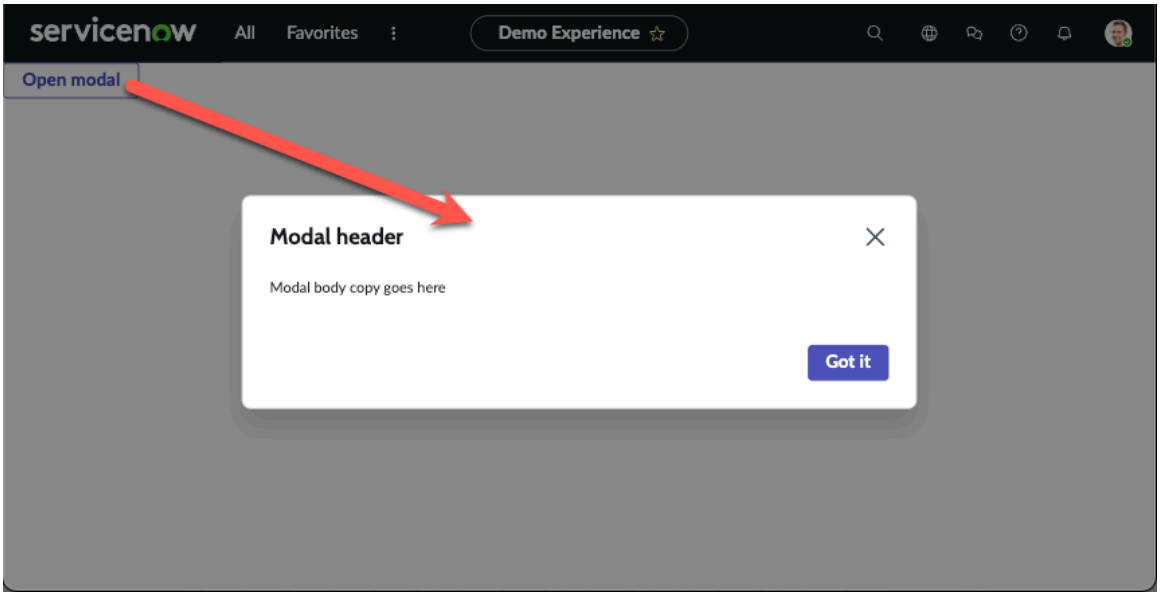
モーダル構成の表示/非表示



13. [モーダルダイアログを開く] をアクティブにし、[モーダル **]** フィールドで [アラート **1]** を選択し、[追加] を選択します。
14. [保存] を選択します。
15. [プレビュー] を選択します。
16. プレビューが開いたら、[モーダルを開く] を選択します。
定義したモーダルが開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボタンでモーダルを開く



17. モーダルで [了解] を選択し、ブラウザーの戻るボタンを選択してエクスペリエンスのメイン画面に戻ります。

次のタスク

テンプレートを使用してページを作成する方法については、「次のトピック **(Next topic)**」リンクを選択してください。

バリアントの対象者の定義

対象者は、組織内のユーザーのグループを表します。1 人以上の事前定義された対象者を追加することで、このページバリアントにアクセスできるユーザーを定義できます。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

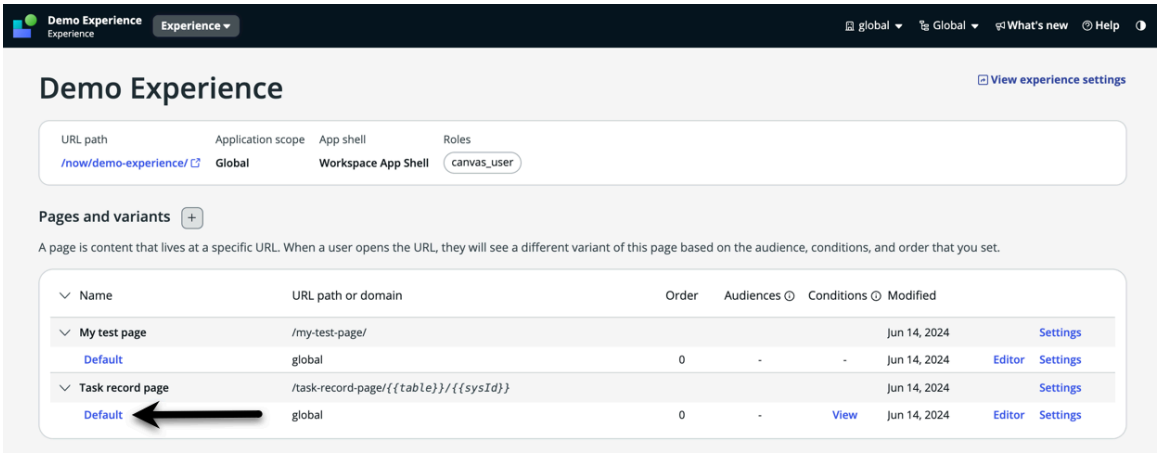
前の手順では、タスクテーブルからレコードにアクセスするすべてのユーザーが表示できるページバリアントを作成しました。この手順では、バリアントを複製し、アドミンロールを持つ対象者のみがアクセスできるように構成します。

手順

1. デモエクスペリエンスのメインページを開きます。
2. 作成したエクスペリエンスを選択し、[デフォルト] を選択します。

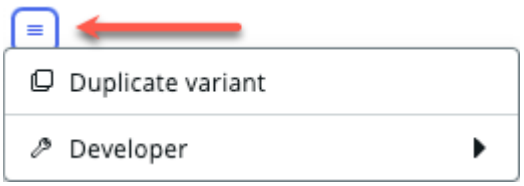
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デモエクスペリエンス



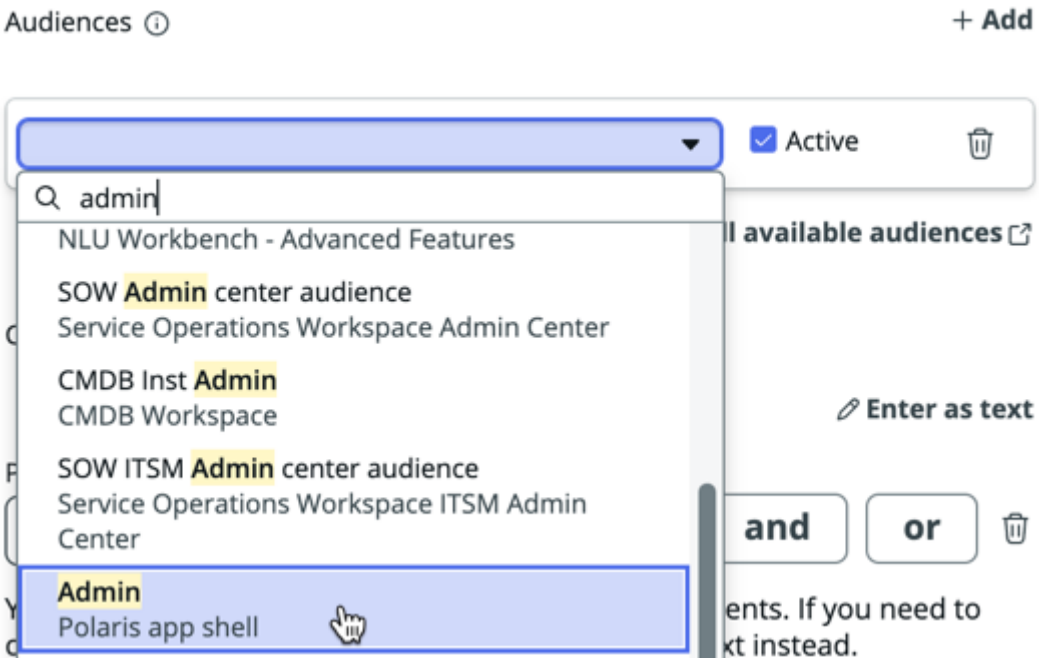
3. [メニューを開く] アイコンを選択します。

メニューを開く



4. [バリアントの複製] を選択します。
5. [バリアントについて教えてください] 画面で、[名前] フィールドに「アドミンのみ」と入力します。
6. [対象者] の横にある **[** **+** 追加] を選択し、[アドミン] 対象者を選択します。

アドミン対象者の選択



7. [作成] を選択します。
バリアントが複製され、アドミンロールを持つユーザーのみがこのページを表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
「次のトピック **(Next topic)**」リンクを選択して、バリアントに条件を適用して、定義された条件が満たされた場合にのみバリアントが表示されるようにする方法について学習します。

バリアントの条件の定義

条件を定義して、ページのバリアントを表示するタイミングを決定できます。条件は、順序を設定し、ページのバリアントを表示するために満たす必要のある基準の宣言に基づいています。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。 このビデオでは、UI ビルダーエクスペリエンスでページバリアントの条件を定義する方法を説明します。

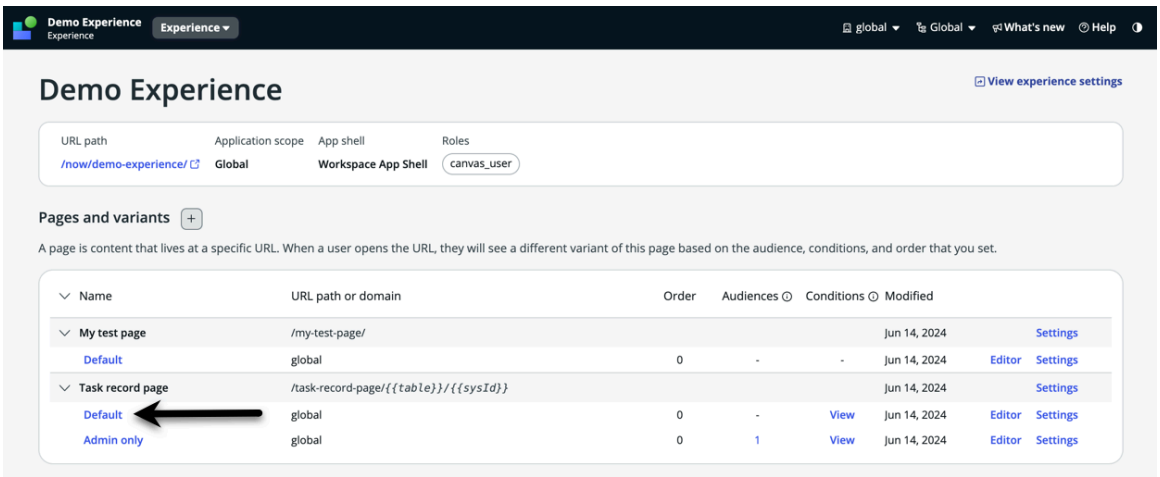
始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
すべてが同じ条件を持つ複数のページバリアントがある場合、バリアントはこの順序設定に従います。

手順

1. デモエクスペリエンスのメインページを開きます。
2. 作成したエクスペリエンスを選択し、[デフォルト] を選択します。

デモエクスペリエンス



3. [すべてのユーザーレコードページ **(All users record page)**] の [デフォルト] バリアントで、メニューアイコン (⋮) を選択し、[バリアントの複製] を選択します。
4. [バリアントについて教えてください] 画面で、[名前] フィールドに「インシデントレコードページ **(Incident record page)**」と入力します。
5. このタスクの目的は、インシデントテーブルでレコードを開いているユーザーにこのページを制限することなので、条件に次のように入力します。

   a. [パラメーター] フィールドで、[テーブル] を選択します。

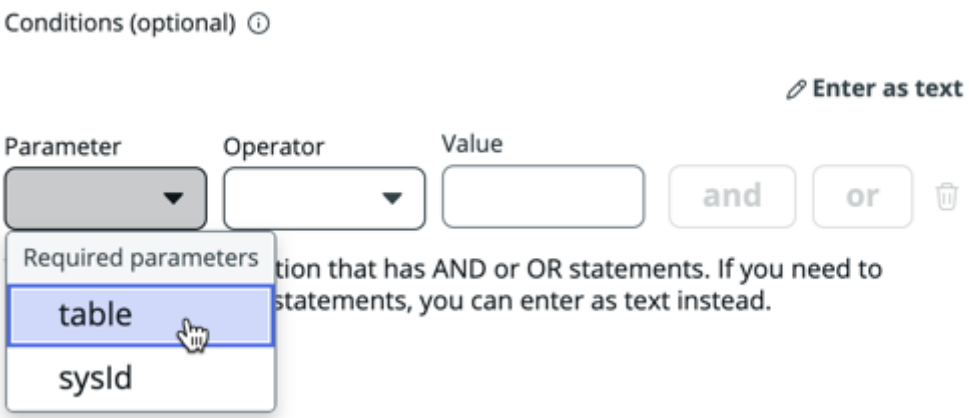
   b. [演算子] フィールドで、**[is]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [値] フィールドで、テキストを `incident` に置き換えます。

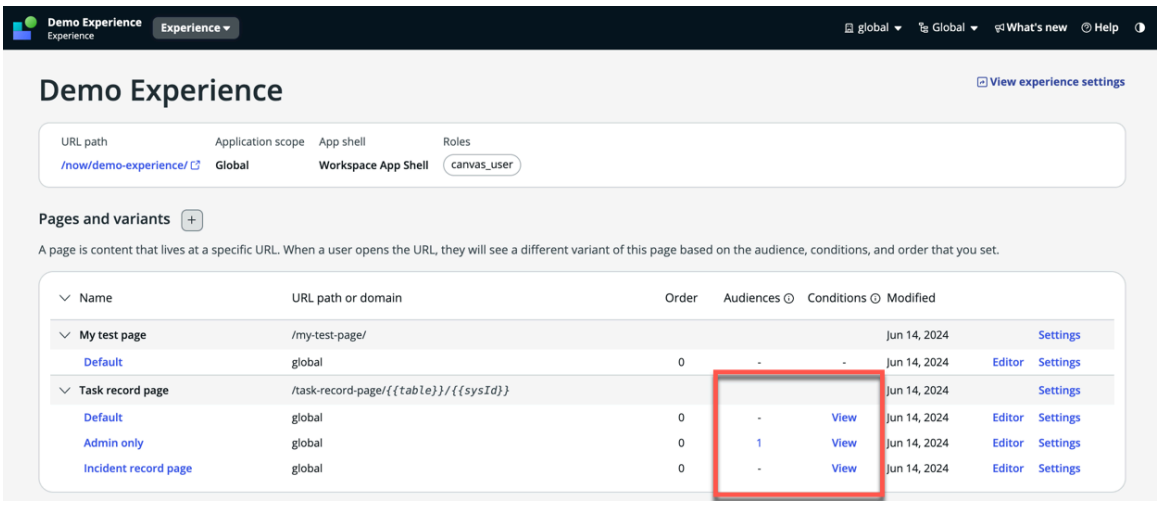
このシリーズの前半でこのページを作成したときに、この条件をタスク テーブルに設定しました。これで、インシデントテーブルからレコードにアクセスするユーザーにのみ表示されるようにページを構成しました。

条件フィールド



6. [作成] を選択します。

インシデントレコードページ



注: このエクスペリエンスでは、ページとバリアントの構造を表示できます。[条件] 列には、各ページの [表示] リンクが表示されます。[ビュー] を選択すると、そのバリアントの条件 (table=incident) を表示できます。[アドミンのみ] バリアントの [対象者] 列には [1] と表示されます。**[1]** を選択すると、そのバリアントを表示するために必要なロールを確認できます。

フォームコンポーネント内のフォームのカスタマイズ

UI ビルダー で フォームビルダー にアクセスし、フォームコンポーネントをカスタマイズします。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

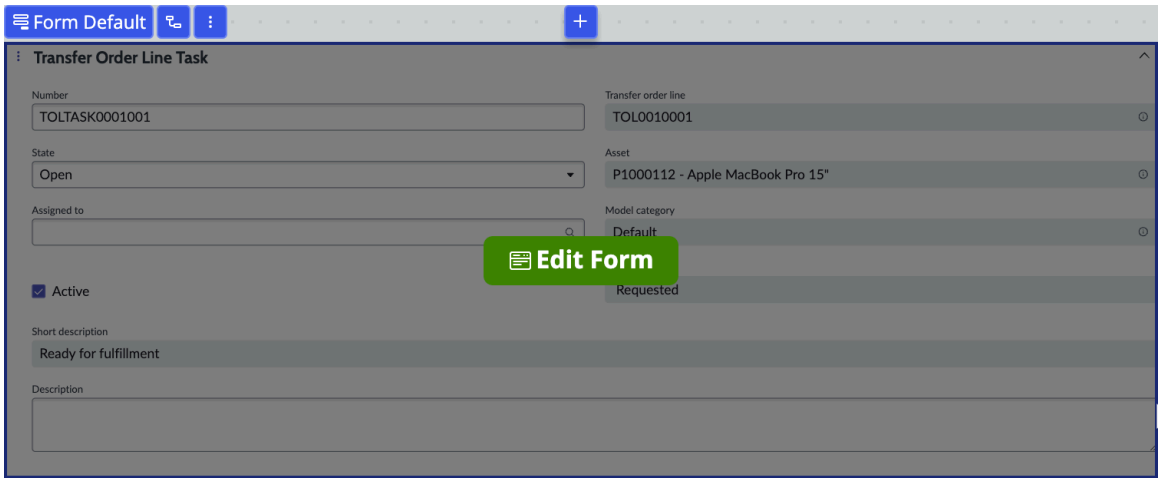
UI ビルダー を離れることなくフォームコンポーネントを編集できます。UI ビルダー ステージ上のフォームコンポーネント内から フォームビルダー にアクセスします。フォームを保存した後も

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

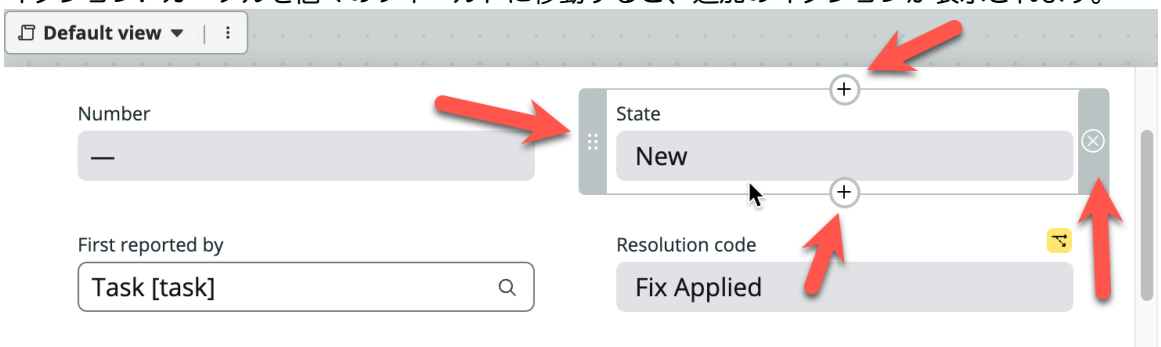
編集内容は保持され、フォームを表示したすべてのユーザーに変更後のバージョンが表示されます。フォームビルダー で加えられた変更はステージに反映されます。

手順

1. フォームコンポーネントをページに追加します。
   a. コンテンツツリーで **[+** コンテンツを追加] を選択します。
   b. [フォーム] を選択します。
2. ステージで、フォームコンポーネントにカーソルを移動して [フォームを編集] ボタンを表示します。



3. [フォームを編集] ボタンを選択します。
   フォームビルダー が全画面モーダルで開きます。
4. オプション: カーソルを個々のフィールドに移動すると、追加のオプションが表示されます。



5. オプション: カーソルを **[+]** ボタンに移動して **[+** 追加] ボタンを表示し、**[+** 追加] を選択してフィールドを挿入します。
   [フィールド] 列から追加のフィールドをフォームにドラッグすることもできます。

   Example
   たとえば、[構成アイテム] フィールドの下に [期日] フィールドを追加し、[保存] および [プレビュー] を選択してフォームを保存およびプレビューできます。
6. オプション: フィールドのエッジをフォーム内の別の場所にドラッグして、[保存] を選択し、フィールドを移動します。

   Example
   たとえば、[ステータス] フィールドを選択し、[重複] フィールドの下に配置して、[保存] を選択します。
7. オプション: フィールドの **[X]** ボタンを選択して、フィールドを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [保存] を選択します。
9. フォームビルダー を閉じると、編集内容がステージに表示されます。

次のタスク

追加機能を構成することで、カスタムフォームの機能を拡張できます。詳細については、「テーブルビルダー のフォーム」を参照してください。

他の ServiceNow リソースを使用して UI ビルダー を学習する

製品外のリソースを使用する UI ビルダー の詳細をご覧ください。

UI ビルダー に関する詳細	その他の ServiceNow リソース
UI ビルダー は Web ユーザーインターフェイスビルダーです。UI ビルダー を使用して、CSM 構成可能ワークスペース、App Engine Studio の生成されたワークスペースとポータル、またはネクストエクスペリエンスのコンポーネント とカスタム Web コンポーネントを使用するカスタム Web エクスペリエンスのためのページをビルドします。	ServiceNow 開発プログラム YouTube チャンネル コミュニティ YouTube チャンネル ServiceNow コミュニティサイト Developer Advocate ブログ ServiceNow Developer サイト コンポーネントのドキュメント

対象者について学習する

正しい対象者を UI ビルダー ページに適用する方法を学びます。

対象者

UI ビルダー の対象者について理解することは、ページ作成において重要な部分です。「対象者」は、ページを表示できるユーザーを定義します。エージェントやマネージャーなどの対象者やロールに合わせた、ターゲットを絞ったエクスペリエンスのページを作成します。たとえば、エージェントが従業員の問題を解決するためのページを作成できます。このページは、エージェントロールを持つユーザーのみが表示できるようにする必要があります。

対象者は通常、ロールとドメインに基づいた許可/拒否リストで構成されます。また、以下をターゲットにすることもできます。

- ロール
- グループ
- ユーザー
- 会社

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

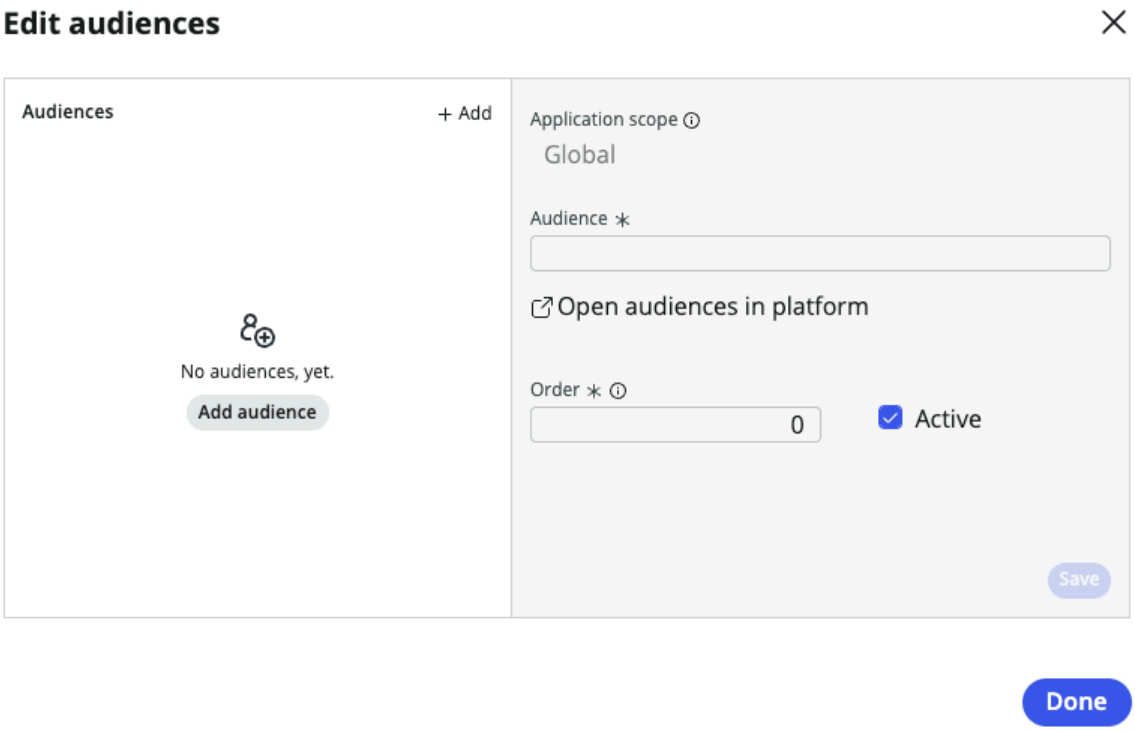
- 部門
- ロケーション
- スクリプト

対象者を、1 つ以上の基準に基づいて特定のロールに適合するように設定できます。たとえば、Europe で、マネージャーではない ITSM ユーザーの対象者を作成できます。

ロール、部門、グループ、場所、または会社に基づいてユーザーのアクセス権を設定するには、*glide.ux.user_criteria_enabled* プロパティを **true** に設定する必要があります。詳細については、「ユーザー基準プロパティの有効化」を参照してください。

ページまたはページのバリアントを作成するときに、UI ビルダー に対象者を設定します。対象者レコードの優先度を設定することもできます。数値が小さいほど、優先度は高くなります。このページをアクティブにするには、[アクティブ] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

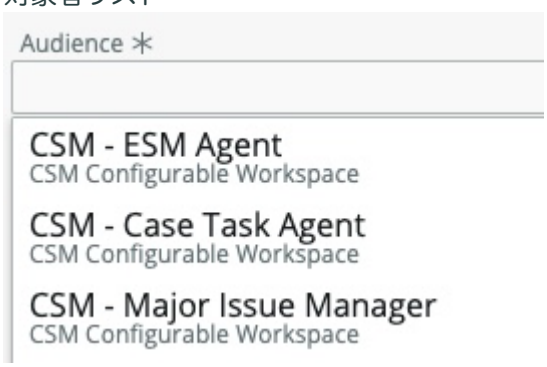
[対象者を追加] モーダル



必要な対象者が表示されない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] をクリックして、Now Platform® で対象者を定義します。

- [対象者] フィールドのリストから対象者を選択します。

対象者リスト



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [プラットフォームで対象者を開く] を選択して、Now Platform® で対象者レコードを編集または作成します。
- 複数の対象者がある場合は、各対象者レコードの順番を定義します。順番は、各対象者レコードの重要性を定義します。たとえば、CSM マネージャーは CSM コンシューマーエージェントよりも高い優先度を持つことができます。ある対象者の優先度を高くするには、低い数値を入力します。
- このページをアクティブにするには、[アクティブ] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

セキュリティとロールについて学習する

UI ビルダー インスタンスのセキュリティとロールを設定します。

UI ビルダー のセキュリティとロールは、アプリケーションスコープ、ドメインセパレーション、および保護ポリシーの設定によって制御されます。

ロール

ロールは、UI ビルダー の機能へのアクセス権を制御します。admin ロールは、すべての機能へのアクセスを提供します。ロールにアクセス権を与えると、そのロールにアサインされたすべてのグループまたはユーザーがアクセスを許可されます。ロールに他のロールを含めることができます。他のロールを含むロールでは、他のロールに許可されているすべてのアクセスが許可されます。詳細については、「ロールの管理」を参照してください。

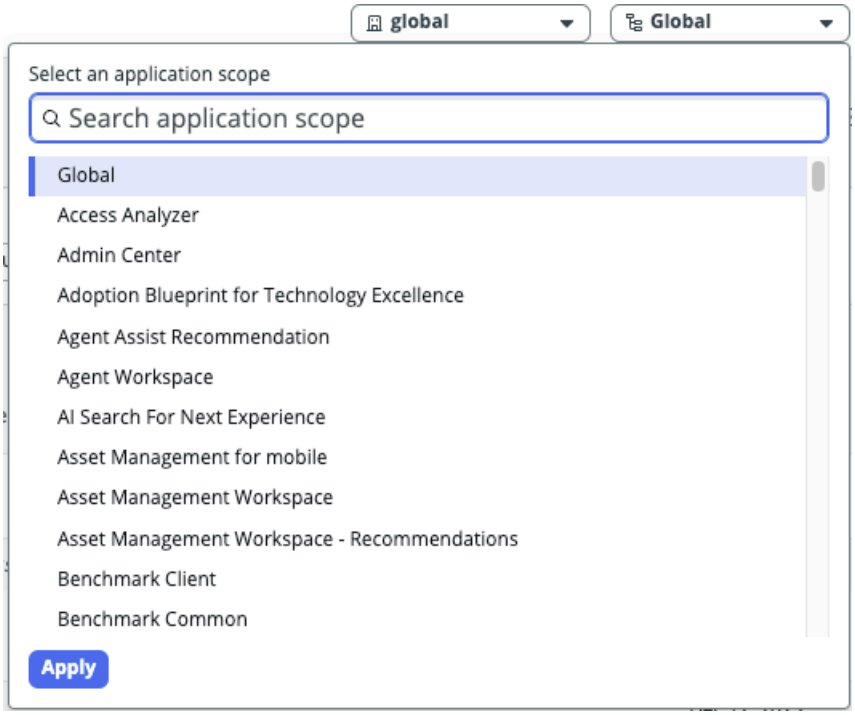
アプリケーションスコープ

アプリケーションスコーピングは、アプリケーションファイルとデータへのアクセスを識別して制限することによってアプリケーションを保護します。アドミニストレーターは、アプリケーションのどの部分を他のアプリケーションからアクセスできるかを指定できます。これは、データとアプリケーションファイルを保護するために役立ちます。UI ビルダー では、システムアドミニストレーターと開発者がページの作成時にアプリケーションスコープを設定します。ページの作成後にアプリケーションスコープを変更することはできないため、スコープは慎重に選択してください。

UI ビルダー のスコープを変更すると、Now Platform® のスコープも変更されます。その逆も同様です。

ページを作成する場合、アドミニストレーターと開発者は、ワークスペースまたはポータルエクスペリエンスの現在のスコープを認識することが重要です。エクスペリエンスの正しいアプリケーションスコープを選択します。スコープピッカーは [URL] フィールドの右側にあります。スコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で現在存在しているスコープです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ページ内で別のスコープに変更すると、ページが作成されたスコープとは異なるアプリケーションスコープ内にいることが通知されます。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

UI ビルダーの委任開発者

アプリケーション固有の admin ロールまたはシステムレベルの admin ロールがある場合は、UI ビルダー アプリケーションレベルで指定された開発者に ServiceNow® スタジオ でのアプリケーション開発を委任することができます。

保護ポリシー

保護ポリシーは、アプリケーションファイルまたはその関連レコードが変更されたりコピーされたりしないようにします。保護ポリシーは、通常、アプリケーションの作成者がアプリケーションを使用する会社と異なる場合に使用されます。UI ビルダー は、保護されたレコードを変更しようとすると通知を出します。詳細については、「アプリケーションファイル保護ポリシー」を参照してください。

ドメインセパレーションについて学習する

UI ビルダー ではドメインセパレーションがサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：標準

- ベーシックレベルサポートを含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダー (SP) によって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスのオーナーは、特定のアプリケーションに期待される通りに、テナントごとに MVP ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプルユースケース：アドミンは、レコードを他のテナントに対してはクローズしないが、1 つのテナントに対してクローズする場合、コメントを必須にすることができる必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

概要

UI ビルダー は Web ユーザーインターフェイスビルダーです。UI ビルダー を使用すると、開発者は ネクストエクスペリエンスのコンポーネント とカスタム Web コンポーネントを使用して、Web ベースのワークスペースエクスペリエンス向けに新しいページをビルドしたり、既存のページをカスタマイズしたりできます。さらに、UI ビルダー はドメインセパレーション、つまり ServiceNow® インスタンス全体のマルチテナントアーキテクチャをサポートします。

開発者またはダッシュボードビルダーが、ドメインセパレーションされた環境内で、同じブラウザーウィンドウで UI アプリケーション画面またはダッシュボードを安全に作成できるようにします。UI ビルダー のドメインセパレーションはアプリケーションスコープと同様に機能するため、アドミニストレーターがマルチテナント環境で安全に作成または編集できるようになります。

標準化は、ドメインセパレーションがインストールされている安定した健全な拡張性の高い ServiceNow® インスタンスを維持するための重要な仕組みであると理解することが大切です。主要な原則は標準化です。標準化とは、ほとんどのインスタンスを動作させることができる共通の構成のことです。インスタンスに数百または数千のドメインがある場合、それらを正常に管理するには厳格なガバナンスが必要です。ドメイン固有の構成は、インスタンス所有者が必要と判断した場合にのみ使用する必要があります。一般に、ほとんどのインスタンスは、一般的なインスタンス構成に従う必要があります。これにより、インスタンス全体でより統一されているエクスペリエンスが提供されます。また、インスタンス所有者は、リリースアップグレードの一部として含まれる新しい ServiceNow® 機能の導入を遅らせる、コードの無秩序な増加を最小限に抑えることができます。

UI ビルダー におけるドメインセパレーションの仕組み

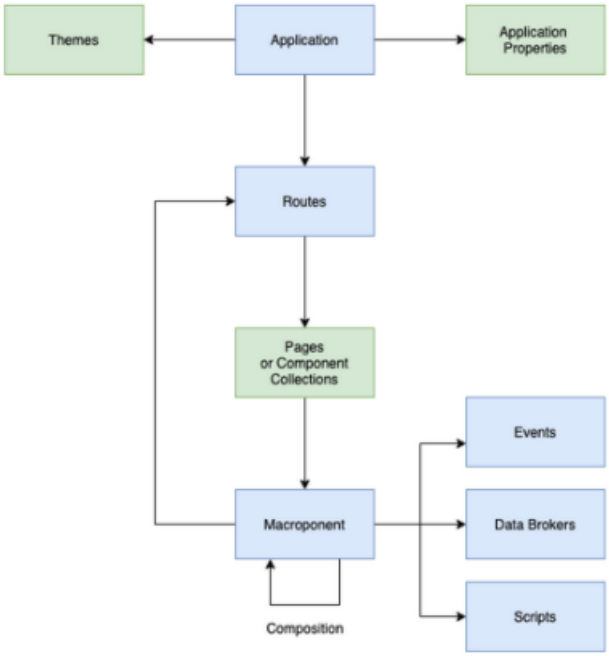
UI ビルダー のドメインセパレーションはアプリケーションスコープと同様に機能するため、アドミニストレーターがマルチテナント環境で安全に作成または編集できるようになります。

UI ビルダー は、Web ベースのワークスペース、ダッシュボード、またはポータルを作成するために使用する連動コンポーネントのフレームワークで構成されています。アプリケーションはドメインセパレーションをサポートしていますが、すべてのコンポーネントまたはテーブルがドメインセパレーションされていることを意味するわけではありません。このことをインスタンスオーナーは理解しておくことが重要です。

現在のドメインがバリアントまたはダッシュボードのドメインと一致しない場合、レコードは読み取り専用になります。ユーザーがドメインにアクセスできる場合は、ドメインをレコードのドメインに切り替えることを選択できます。または、ユーザーがレコードを編集することもできます。レコードを編集すると、ユーザーセッションが一時的にそのレコードのドメインに入ります。その後は、誤って上書きを作成してしまうことを心配せずに編集できます。

次の図は、UI ビルダー でドメインセパレーションされている部分 (緑色) とされていない部分 (青色) を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ビューポート、宣言アクション、および画面適用性は図には示されていませんが、それらはプロセスとしてサポートされているドメインです。

ドメインセパレーションアーキテクチャを検討する場合、データとプロセス/UI の分離が重要です。UI ビルダー は、データとプロセス/UI の分離、および Web ベースのワークスペース、ダッシュボード、またはポータルエクスペリエンスに表示されるデータ (レコード) を完全にサポートしています。

たとえば、Acme のドメインに属する変更要求は、UI ビルダー を使用してビルドされたエクスペリエンスで Acme のドメインにアクセスできるユーザーに対してのみ表示されます。逆に、アプリケーションがデータ分離をサポートしていない場合、そのレコードはワークスペースまたはポータルエクスペリエンスによってドメインセパレーションされません。

UI ビルダー の基盤フレームワークを形成するプロセス/UI 分離テーブルはプロセス分離されており、それらのテーブルには sys_override 列が存在します。たとえば、ページがグローバルで作成された場合、サブドメインで作成および保存されたロジックへの変更内容は上書きになります。

ドメインセパレーションされていないアイテムの場合、ロジックの変更はそのコンテンツを参照するページまたはダッシュボードにグローバルに影響します。これらの要素を操作する場合は、ドメインセパレーションを理解することが重要です。

[ドメイン選択] メニュー、メッセージ、および上書きの管理

UI ビルダー (ダッシュボードビルダーを含む) を使用してワークスペース、ダッシュボード、またはポータルエクスペリエンスを設計する場合、システムアドミニストレーターまたは ui_builder_admin は UI ビルダー の [ドメイン選択] メニューにアクセスできます。システムアドミニストレーターまたは ui_builder_admin は、バリアントまたはダッシュボードページを作成、編集、または上書きする前に、適切なドメインに切り替える必要があります。

デフォルトでは、ui_builder_admin ロールにはドメイン選択メニューへのアクセス権がありません。ドメイン選択メニューは、ITIL などのアクセス権を付与するロールと組み合わせる必要があります。そうしない場合は、システムプロパティを介して追加できます。詳細については、「コア UI のドメイン選択メニューを有効にする」を参照してください。

さらに、ドメイン選択メニューには、システムアドミニストレーターまたは ui_builder_admin がグローバルであるときに表示される [ドメインスコープの展開/折りたたみ] も表示されます。[展開] を選択すると、上書きされた、またはサブドメインにスタンドアロンとして存在するバリアントまたは

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダッシュボードが表示されます。グローバルで作成されたバリアントまたはダッシュボードのみを表示するには、[折りたたみ] を選択します。

最後に、ドメイン階層はドメイン選択メニューから利用できます。ドメイン階層が深い場合、ユーザーはドメイン階層の分岐を折りたたんでドメインを物理的に選択する必要があります。これらの環境では、検索を実行してドメインを見つけます。

UI ビルダー には、アプリケーションスコープの処理方法と同様に、バリアントまたはダッシュボードを編集および上書きするためのガバナンスコントロールがあります。アプリケーションスコープとドメインスコープの両方が UI ビルダーで同時に処理されます。

たとえば、バリアントがグローバルで作成されても、システムアドミニストレーターの現在のドメインが Acme に設定されている場合、そのバリアントは読み取り専用です。その画面が編集不可のプライベートスコープでない限り、システムアドミニストレーターまたは ui_builder_admin には 2 つのオプションがあります。グローバルへのアクセス権があれば、グローバルドメインで一時的にトランザクションを行うことができます。そうでない場合は、上書きを作成できます。

ドメインセパレーションを編集して、バリアントまたはダッシュボードとそのコンテンツをすばやく変更できます。ドメインを編集すると、バリアントまたはダッシュボードと同じドメインスコープで一時的にトランザクションを行うことができます。同じスコープにすると、バリアントに関連付けられた特定の設定 (名前、順序、イベントマッピング、ページ定義構成など) を変更するときに、誤って上書きすることを防ぐことができます。編集モードでは、ページ管理ですべての設定を使用できるわけではありません。すべての機能を使用するには、レコードを編集する前に正しいドメインに切り替えます。

[上書きを作成] を使用すると、システムアドミニストレーターまたは ui_builder_admin は、既存のバリアントまたはダッシュボードの上書きを作成できます。バリアントまたはダッシュボードの上書きを作成して、ページ定義コンテンツの広範なコピーを実行します。ただしユーザーが現在選択しているドメインの画面条件と対象者は除きます。sys_override 列が適切に更新されます。

ビューポートはそれ自体がバリアントであり、ドメインセパレーションされており、通常はページ定義コンテンツ内にネストされています。一部のビューポートはコピーされない場合があります。たとえば、グローバルビューポートのドメインで上書きとして作成されたビューポート (タブセットとして表示) は、上書きの作成プロセス中にページ定義コンテンツに組み込まれません。

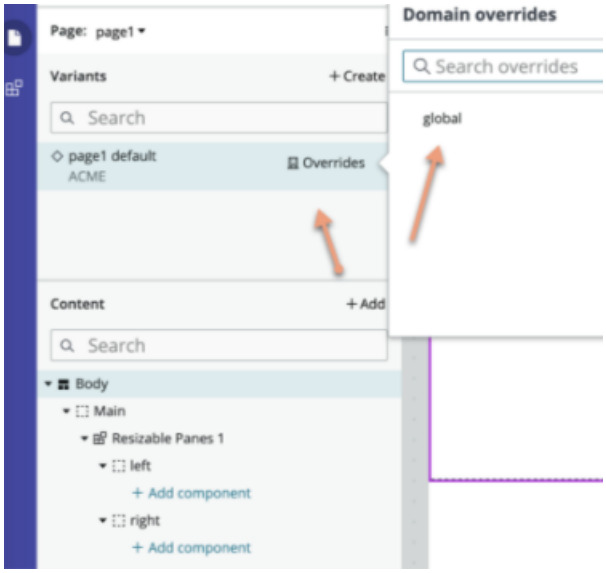
画面条件と対象者はドメインに固有である可能性があるため、このコンテンツは上書きの作成プロセス中に引き継がれません。画面で、システムアドミニストレーターまたは ui_builder_admin に画面条件と対象者の作成が要求されます。

アイテムがサブドメインに存在する場合、または同じサブドメインにそのバリアントまたはダッシュボードの上書きが存在する場合、ユーザーはグローバルではバリアントまたはダッシュボードの上書きを作成できません。

上書きと条件と対象者を設定した後に、必要に応じてそのコンテンツと構成を設定できます。ドメインセパレーションの標準として、上書きは元のバリアントまたはダッシュボードに加えられた変更の影響を受けなくなります。ユーザーの現在のドメインセッションが、この上書きが作成された影響を受けるドメインまたはサブドメイン内にある場合、ワークスペース、ダッシュボード、またはポータルエクスペリエンスにこれらの上書きされた構成が表示されます。対象者によって、ユーザーに表示される内容と表示されない内容が決まります。

さらに、ユーザーはドメイン階層にアクセスして、上位のドメインからの既存の上書きを表示できます。たとえば、 グローバル <- トップ <- Acme <- 現在のドメインといった階層となります。上書きが存在しない場合は、デフォルトのバリアントまたはダッシュボードが表示されます。例外は、デフォルトのバリアントまたはダッシュボードが子ドメインまたはピアドメインにある場合です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



グローバルの状態で [ドメインスコープを展開] を選択すると、前述のようにサブドメイン内のすべてのバリアントと上書きが表示されます。

システムアドミニストレーターと ui_builder_admin は、ServiceNow® プラットフォームで作成されたものを確認できます。

ビューポートとドメインセパレーション

ビューポートは、ページ定義コンテンツでネストできるバリアントです。グローバルで共通の構成として作成することも、サブドメインごとに上書きすることもできます。

宣言アクションとドメインセパレーション

宣言アクションは、ドメインごとに上書きすることもできます。システムアドミニストレーターまたは ui_builder_admin は、ドメイン固有の宣言アクションの上書きを作成する前に、適切なドメインを選択する必要があります。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

UI ビルダー での作業

UI ビルダー でワークスペースまたはカスタムポータルエクスペリエンスのページを作成するときに実行できるすべてのことを、十分に把握しておきましょう。

UI ビルダー リソースの使用

以下の情報は UI ビルダー を使用する際に役立ちます。

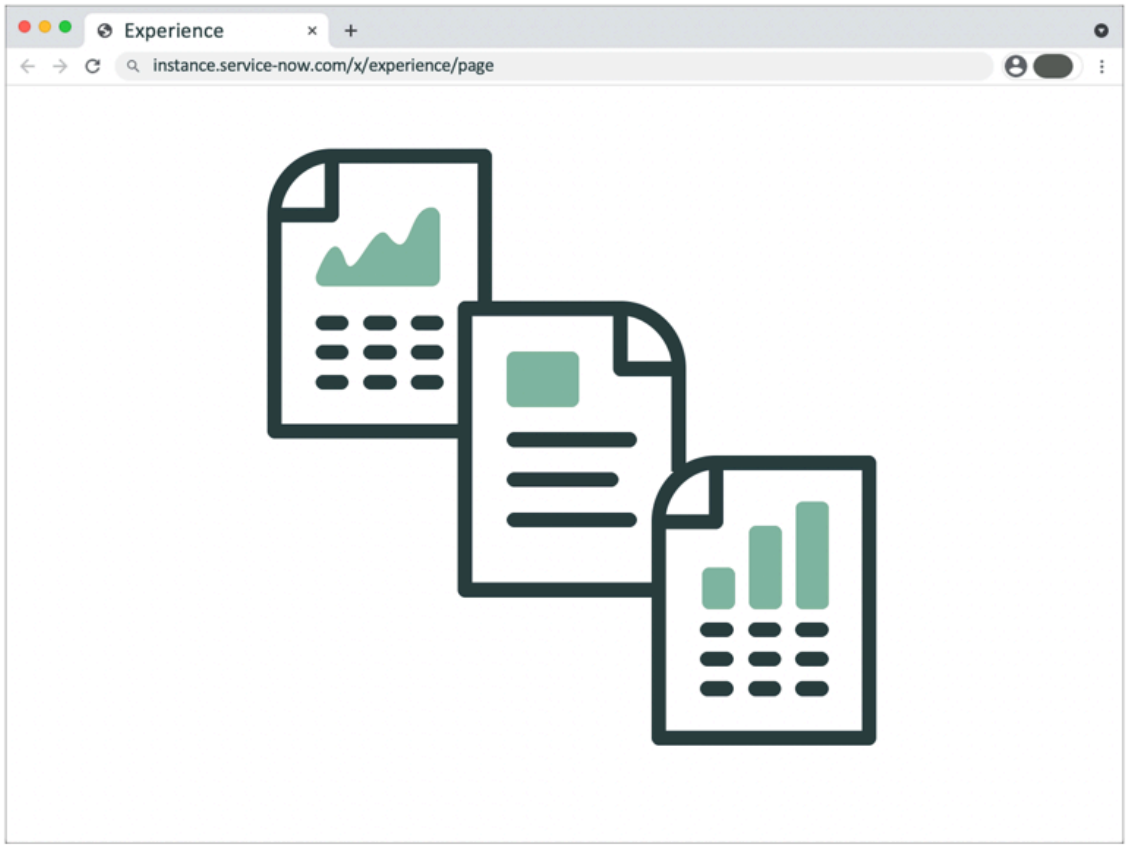
UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する

UI ビルダー でのエクスペリエンスについて説明します。エクスペリエンスの内容を理解します。

UI ビルダーエクスペリエンスとは何か

UI ビルダー のエクスペリエンスは、ユーザーがアプリケーションを操作するための Web ページのコレクションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



多くの Web サイトでは、すべてのページで同じ基本構造が使用されています。たとえば、すべてのページに同じヘッダー、同じフッター、および同じメニューが含まれています。これらの共通ページ要素はシェルと呼ばれます。エクスペリエンスには、エクスペリエンス内の各ページのシェルまたはラッパーを設定できます。シェルは、ユーザーがページ間を移動するときに一貫した外観と使用感を提供します。シェルを使用することをお勧めしますが、必須ではありません。詳細については、「アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義」を参照してください。

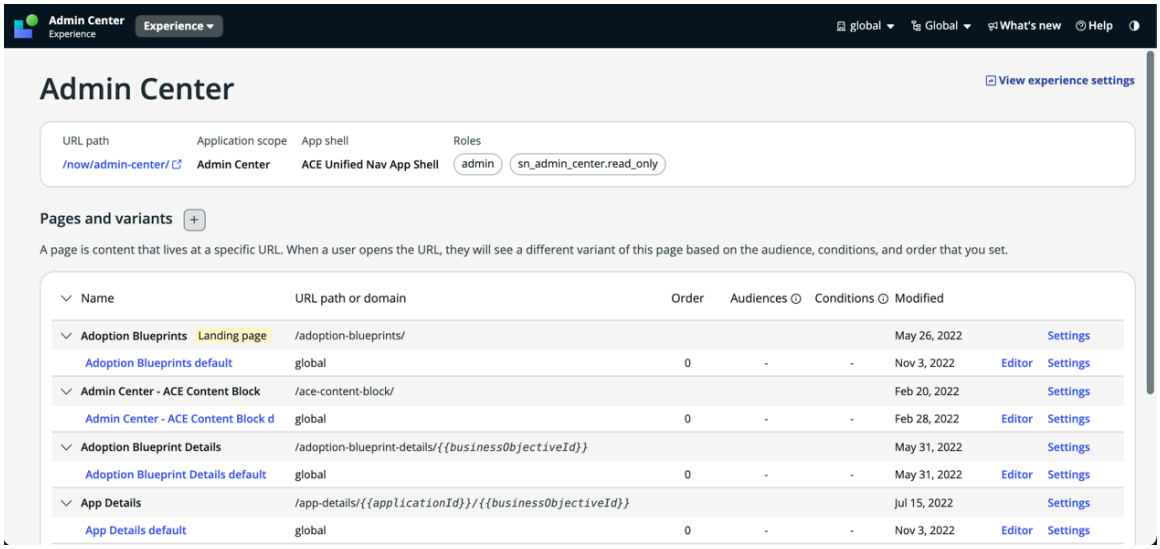
UI ビルダーのエクスペリエンスビュー

UI ビルダー エクスペリエンスビューは、エクスペリエンスの構造と詳細を表示して理解するための中心的な場所です。これには、ルート、ページのバリアント、各バリアントに必要な対象者と条件、およびエクスペリエンスの設定が含まれます。エクスペリエンスビューを使用して、エクスペリエンスの構造と階層を確認します。

- エクスペリエンスの URL、アプリケーションスコープ、アプリシェル、およびロールを表示します。
- エクスペリエンスの設定を編集します。
- バリアントをすばやく表示して比較します。
- ページとページのバリアントを作成します。
- ページコレクションのリストを表示します。
- ページとページバリアントの設定を編集します。
- ページのバリアントを複製します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー エクスペリエンスビュー



UI ビルダー ワークスペースエクスペリエンスを構成する

UI ビルダー ワークスペースエクスペリエンスの設定は、会社の目標に合わせて変更できます。

エクスペリエンスの設定を変更すると、ユーザーがワークスペースエクスペリエンスとやり取りする方法、ワークスペースの外観、およびユーザーがワークスペース内を移動する方法に影響が及ぶことがあります。

エクスペリエンス設定を編集するには、適切なアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー (

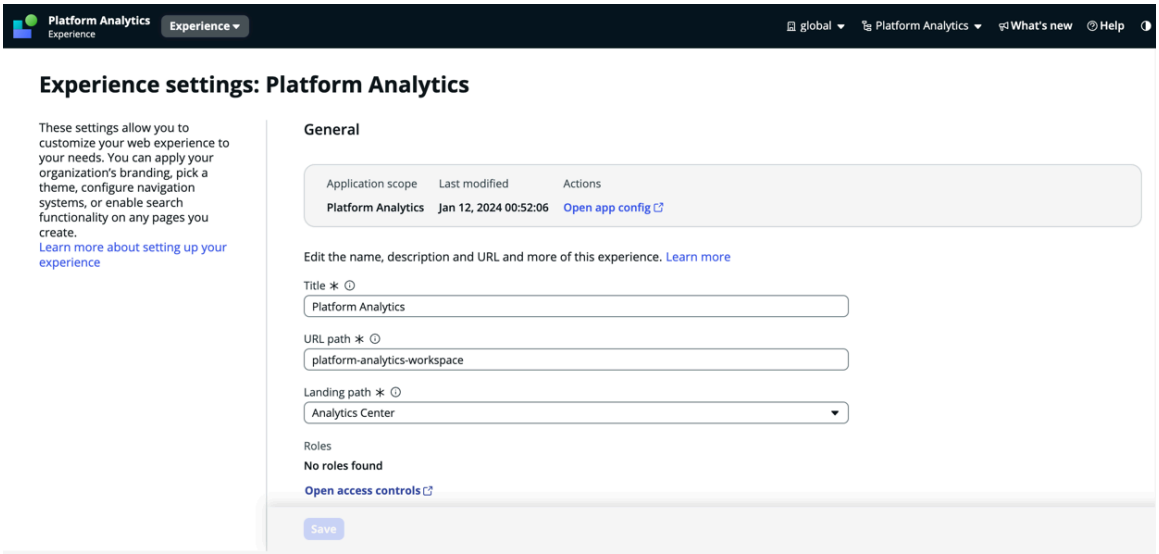
) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

ワークスペースエクスペリエンスの次の設定を変更する方法を説明します。

- ワークスペースエクスペリエンスのワークスペースの一般的な設定を変更または追加します。たとえば、ワークスペースのタイトル、説明、およびパスを変更できます。
- エクスペリエンスに現在アサインされているテーマを確認するために、ワークスペースエクスペリエンスのブランドとテーマの設定の表示。テーマによって、エクスペリエンスのルックアンドフィールが設定されます。
- ワークスペースサイドナビゲーションの設定を変更して、ワークスペースエクスペリエンスのサイドナビゲーションにページを追加します。
- ワークスペースユーティリティの設定を変更して、ワークスペースエクスペリエンスの通知をオンまたはオフにします。ワークスペースエクスペリエンスのグローバル検索設定を変更できます。たとえば、ワークスペースエクスペリエンスで検索バーを表示または非表示にすることや、検索結果の取得元を決定する検索ソースを変更することなどを選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースのエクスペリエンスの設定



ワークスペースエクスペリエンスの一般的な設定の変更

UI ビルダー のワークスペースエクスペリエンスの一般的な設定を、組織のニーズに合わせて変更します。たとえば、ワークスペースエクスペリエンスのタイトル、説明、およびパスを変更できます。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。 このビデオでは、UI ビルダーワークスペースエクスペリエンスの全般設定を変更する方法を説明します。

始める前に

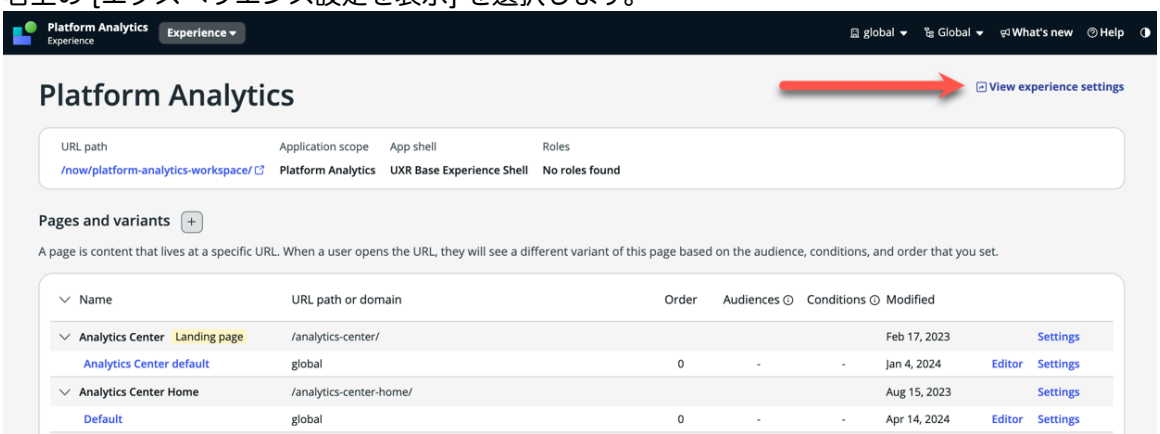
エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー (

) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

必要なロール：ui_builder_admin

手順

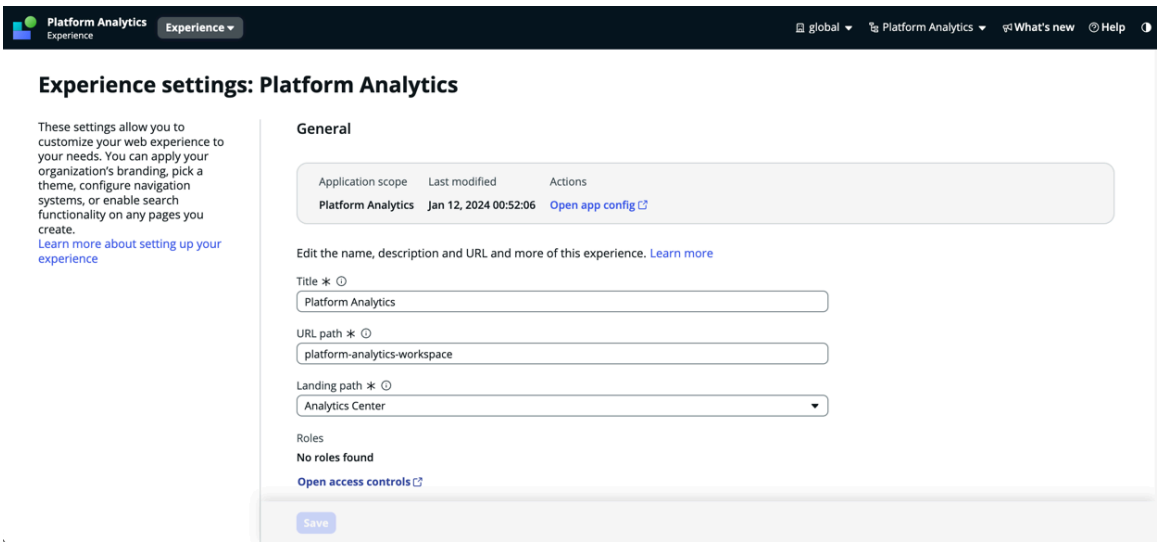
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 右上の [エクスペリエンス設定を表示] を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. ワークスペースエクスペリエンスのタイトル、説明、パスを変更します。
   - タイトルによって、ワークスペースの名前を全員に知らせることができます。ワークスペースの名前を選択するときは注意してください。
   - 説明により、ユーザーはワークスペースの詳細を知ることができます。
   - パスは一意になっている必要があります。パスには、数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、単語はスラッシュまたはハイフンで区切ることができます。

UI ビルダーのエクスペリエンス設定



5. オプション: Now Platform でワークスペースレコードを編集するには、[詳細設定] を選択します。

   a. 終了したら、プラットフォームのレコードを更新します。
   UI ビルダー のワークスペースエクスペリエンスの設定に戻ると、全般設定に加えた変更が表示されます。

6. [保存] をクリックします。

ワークスペースエクスペリエンスのブランドとテーマの設定の表示

UI ビルダーでワークスペースエクスペリエンスのテーマ設定を表示します。テーマは、エクスペリエンスの表示スタイルを設定するものであり、すべてのページで一貫したルックアンドフィールを提供します。

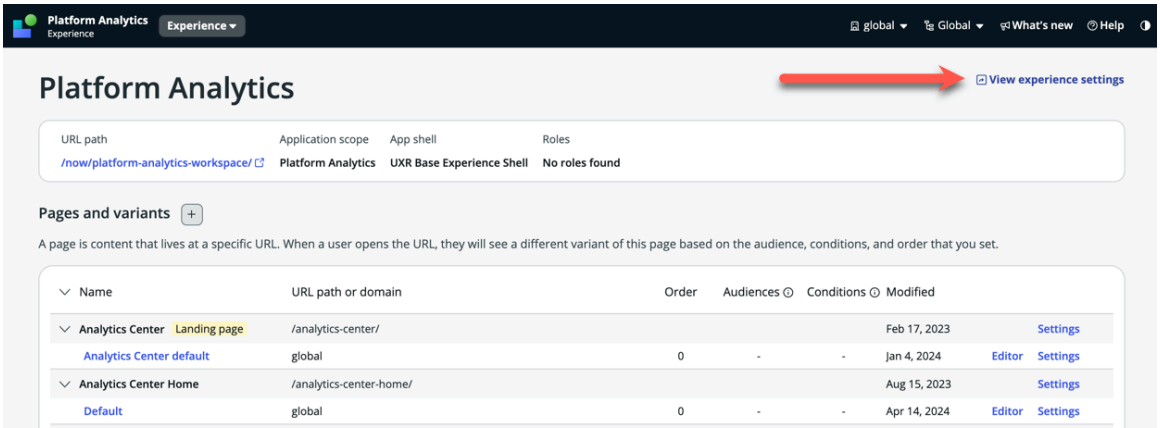
始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 右上の [エクスペリエンス設定を表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [ブランディングとテーマ] セクションまでスクロールし、[テーマ] にリストされている内容を確認します。
   デフォルトでは、[Polaris] テーマが UI ビルダーエクスペリエンスに適用されます。

次のタスク
テーマをカスタマイズする場合は、次の 2 つのオプションがあります。

- テーマビルダーでは、使いやすいビジュアルインターフェイスを使用して Next Experience テーマを作成、編集、管理、適用できます。詳細については、「テーマビルダー での ネクストエクスペリエンス の構成」を参照してください。
- スタイルレコードと JSON コードの作業に慣れているアドミンユーザーの場合は、カスタムテーマを作成してデフォルトの [Polaris] スタイルをオーバーライドできます。このオプションでは、テーマ内の書体、色、画像 (バナーやロゴを含む) を最大限に制御できます。詳細については、「ネクストエクスペリエンス テーマと設定の構成」を参照してください。

UI ビルダー ワークスペースエクスペリエンスのナビゲーションとメニューの設定の変更

UI ビルダーワークスペースエクスペリエンスのサイドナビゲーションのためのページを選択します。ワークスペースエクスペリエンスのどのページからでも、選択したページに移動できます。

始める前に
このタスクには次の前提条件があります。

- UI ビルダー に既存のワークスペースエクスペリエンスがあります。詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
- このワークスペースエクスペリエンスは、ワークスペースアプリシェルで作成されました。
- このワークスペースエクスペリエンスには、少なくとも 2 つのページが含まれています。
- あるページから、指定した他のページにユーザーが移動できるようにします。

必要なロール：ui_builder_admin

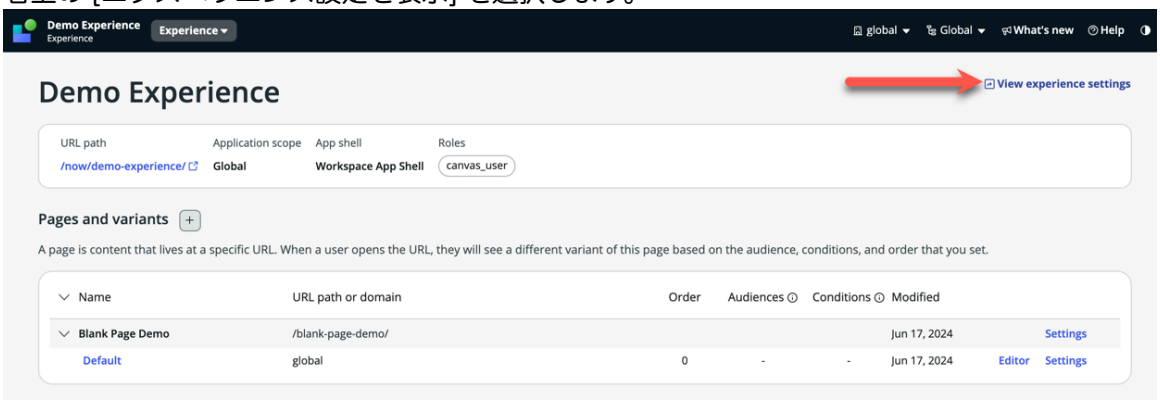
このタスクについて
サイドナビゲーションには最大 7 ページを追加できます。

エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー (Global) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

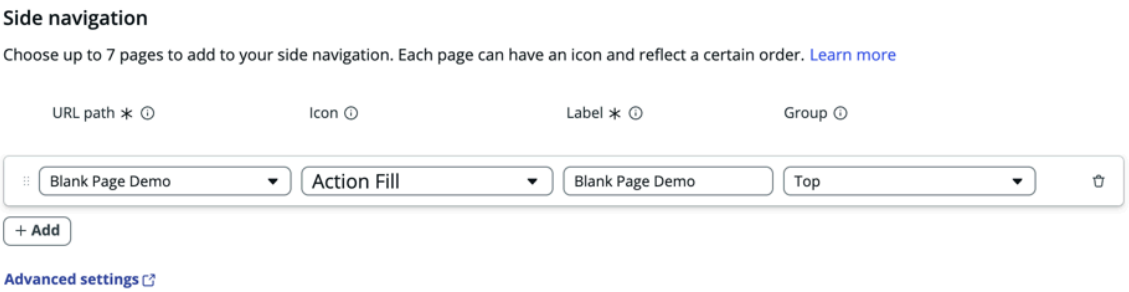
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. UI ビルダー でワークスペースエクスペリエンスを開きます。
3. 右上の [エクスペリエンス設定を表示] を選択します。



4. [サイドナビゲーション] まで下にスクロールします。
5. **[+** 追加] を選択します。



6. 次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
URL パス (必須)	移動先のページを選択します。 **ヒント:** 通常、ランディングページは、リンクする最初のページです。
アイコン	リンクのアイコンを選択します。 デフォルト：アイコンなし
ラベル (必須)	リンクのツールヒントに表示されるページの名前を入力します。
グループ	サイドナビゲーションパネルの上部または下部のグループにリンクを配置します。 デフォルト：トップ (Top)

7. 必要に応じてページを追加します。
8. [保存] を選択します。
9. UI ビルダー ヘッダーでエクスペリエンス名 ([デモエクスペリエンス] など) を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. **[URL** パス] リンクを選択して新しいタブでエクスペリエンスを開き、左側にサイドナビゲーションが表示されていることを確認します。

    ヒント: サイドナビゲーションが期待どおりに機能しない場合は、サイドナビゲーションの基礎となる UX ページプロパティ [sys_ux_page_property] レコードの確認を検討してください。ステップ 3 ～ 4 の説明に従って、サイドナビゲーションエクスペリエンスの設定を再度開きます。[詳細サイドナビゲーション設定] を選択してレコードを開きます。フィールドの値が正しいことを確認します (例：Type=`json`)。

ワークスペースユーティリティ設定での通知の設定

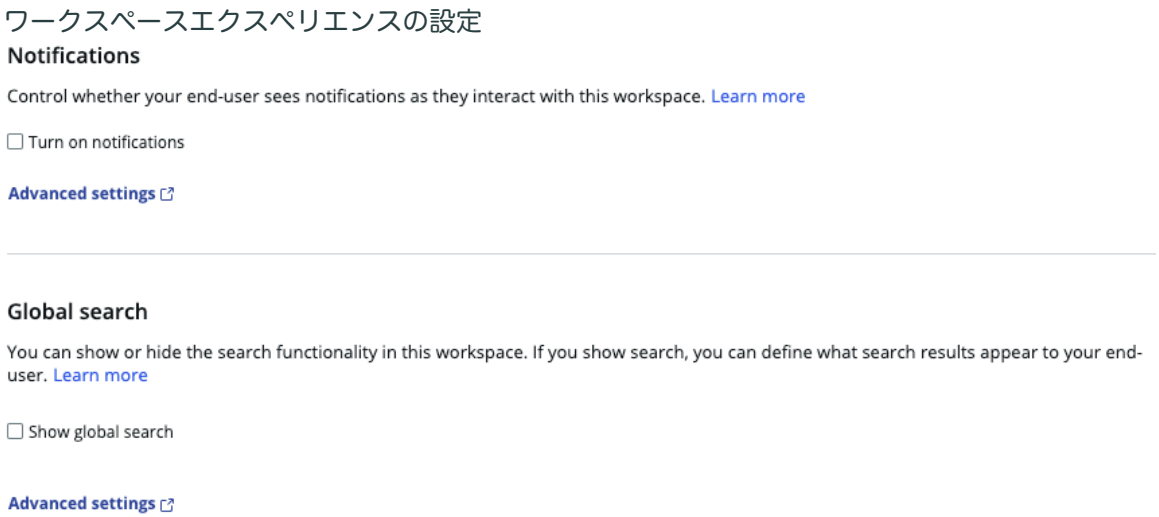
ワークスペースエクスペリエンスで通知と検索の詳細設定を行うと、ユーザーへの通知と検索オプションの表示方法を制御できます。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

ワークスペースエクスペリエンスで詳細な通知と検索を設定します。通知をオンまたはオフにして、ワークスペースエクスペリエンスでの通知の表示方法を制御できます。



検索機能をワークスペースエクスペリエンスのユーザーに表示するかどうかを制御できます。検索オプションの表示を選択する場合は、検索のソースを選択して返される検索結果を定義できます。

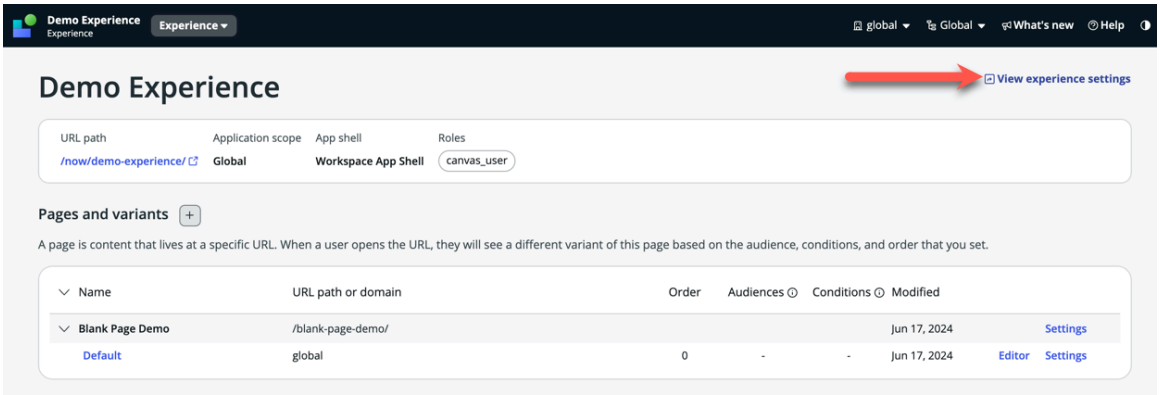
エクスペリエンス設定を編集するには、適切なアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー (

) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

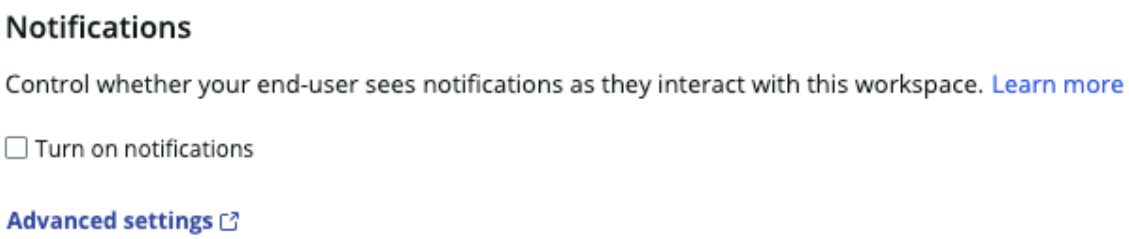
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ワークスペースエクスペリエンスでページを開くか、またはページを作成します。
4. 右上の [エクスペリエンス設定を表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [通知] まで下にスクロールします。



6. [通知をオンにする] オプションを選択します。
7. [保存] をクリックします。
8. オプション: [詳細設定] をクリックして Now Platform® に移動し、レコードの JSON 値を編集します。

> **注:** ページにレコードコンポーネントがある場合は、通知が選択されたときにワークスペースエクスペリエンスのレコードを開くことができます。ServiceNow 開発者サイトの「レコード UIB の設定」の手順に従って、featureRoutes ページプロパティを定義します。

ワークスペースエクスペリエンスでのグローバル検索の表示

ワークスペースで検索機能を表示または非表示にします。

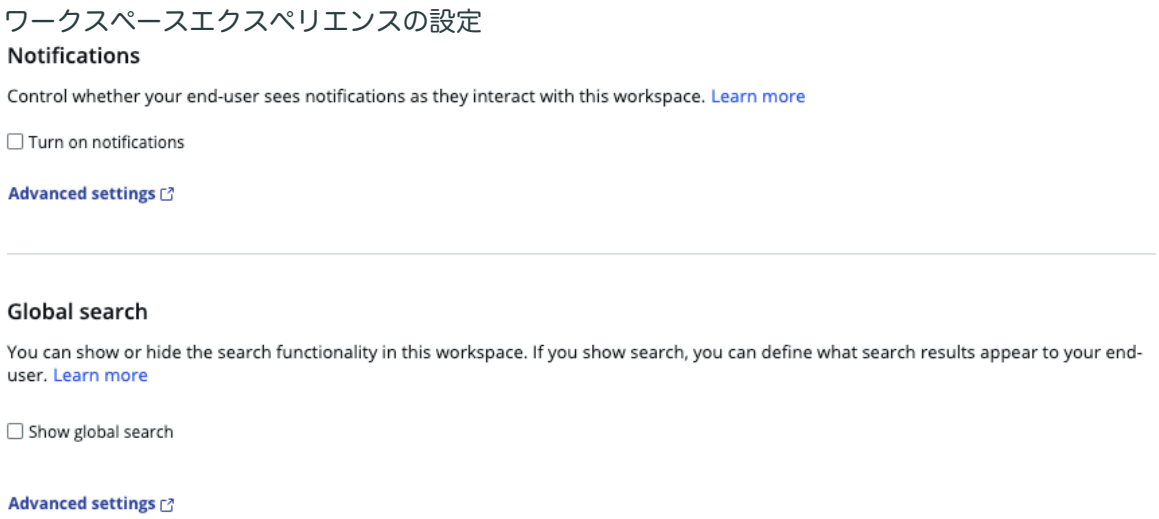
始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

検索機能をワークスペースエクスペリエンスのユーザーに表示するかどうかを制御できます。検索オプションの表示を選択する場合は、検索のソースを選択して返される検索結果を定義できます。

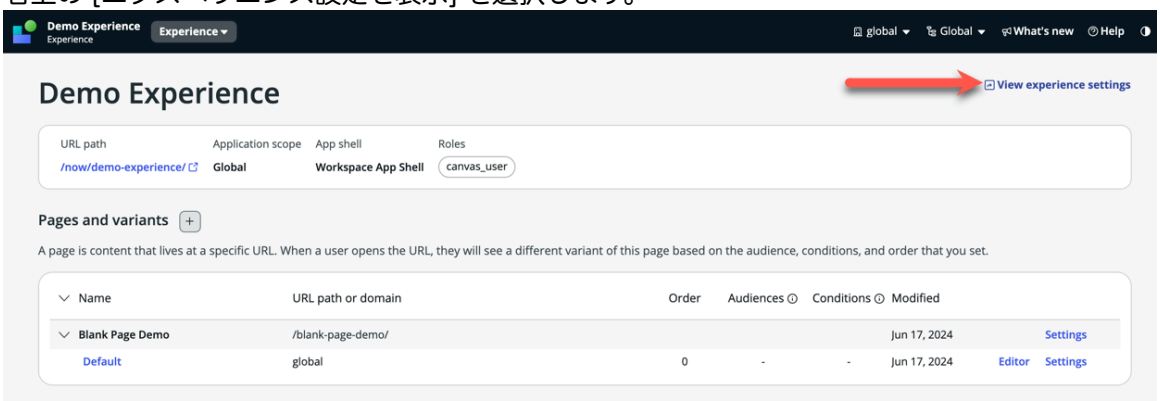
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



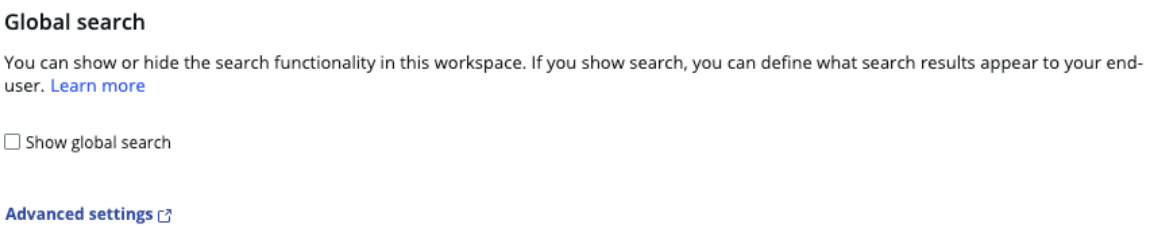
エクスペリエンス設定を編集するには、適切なアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー (Global) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ワークスペースエクスペリエンスでページを開くか、またはページを作成します。
4. 右上の [エクスペリエンス設定を表示] を選択します。



5. [グローバル検索] まで下にスクロールします。



6. [グローバル検索を表示] オプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [保存] をクリックします。
8. オプション: [詳細設定] をクリックして Now Platform® に移動し、レコードの JSON 値を編集します。

UI ビルダー ポータルエクスペリエンスを構成する

UI ビルダー カスタムポータルエクスペリエンス設定を変更すると、ユーザーがポータルエクスペリエンスを操作する方法に影響が及ぶ可能性があります。

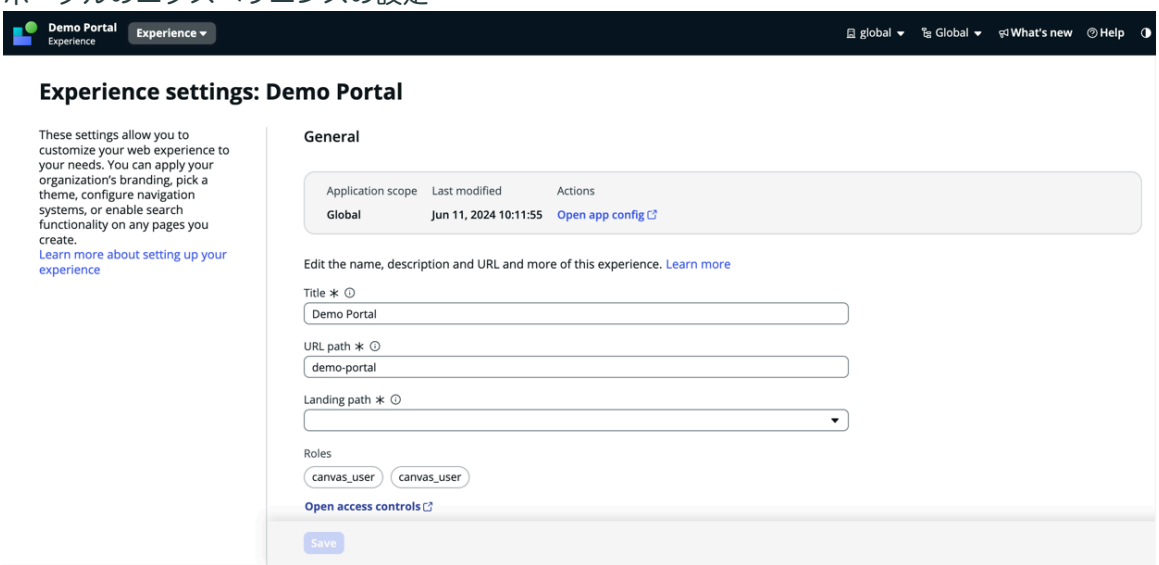
作業しているカスタムポータルエクスペリエンスの設定を変更するには、エクスペリエンスの設定を使用します。これらの設定は、ユーザーがポータルエクスペリエンスとやり取りする方法、ポータルの外観、およびユーザーがポータル内を移動する方法に影響を与えます。

エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーで、アプリケーションピッカー (Global) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

次に示すポータルエクスペリエンス設定を変更する方法について説明します。

- ポータルエクスペリエンスのポータルの一般的な設定を変更または追加します。ポータルのタイトル、説明、およびパスを変更できます。
- エクスペリエンスに現在アサインされているテーマを確認するために、ポータルエクスペリエンスのブランドとテーマの設定の表示。テーマによって、エクスペリエンスのルックアンドフィールが設定されます。
- ポータルナビゲーションとメニューの設定を使用して、ポータルエクスペリエンスのアプリシェルでナビゲーションとメニューの設定を行います。アプリシェルはポータルコンテンツのラッパーです。たとえば、アプリシェルでは、会社のロゴ、ユーザー設定、検索アイコン、構成アイコン、ユーザーメニューなどを表示できます。アプリシェルの詳細については、「アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義」を参照してください。
- ポータル検索設定を変更して、ポータルエクスペリエンスの公開ページまたはプライベートページでグローバル検索機能を表示または非表示にします。

ポータルのエクスペリエンスの設定



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポータルエクスペリエンスの一般的な設定の変更

UI ビルダー でのカスタムポータルエクスペリエンスの一般的な設定の変更たとえば、ポータルエクスペリエンスのタイトル、説明、およびパスを変更できます。

始める前に

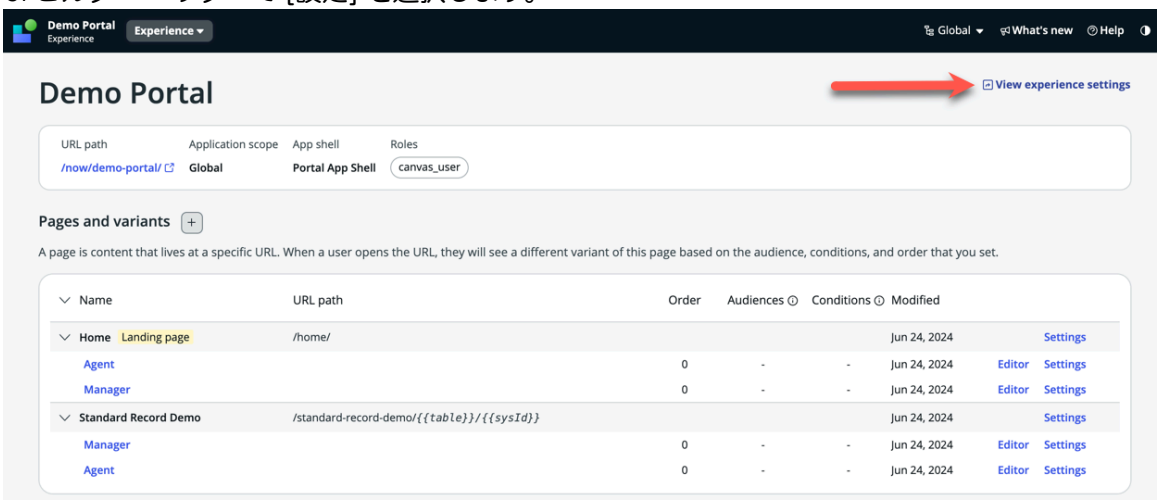
エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーに移動し、アプリケーションピッカー (

) を選択して、必要なアプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

必要なロール：ui_builder_admin

手順

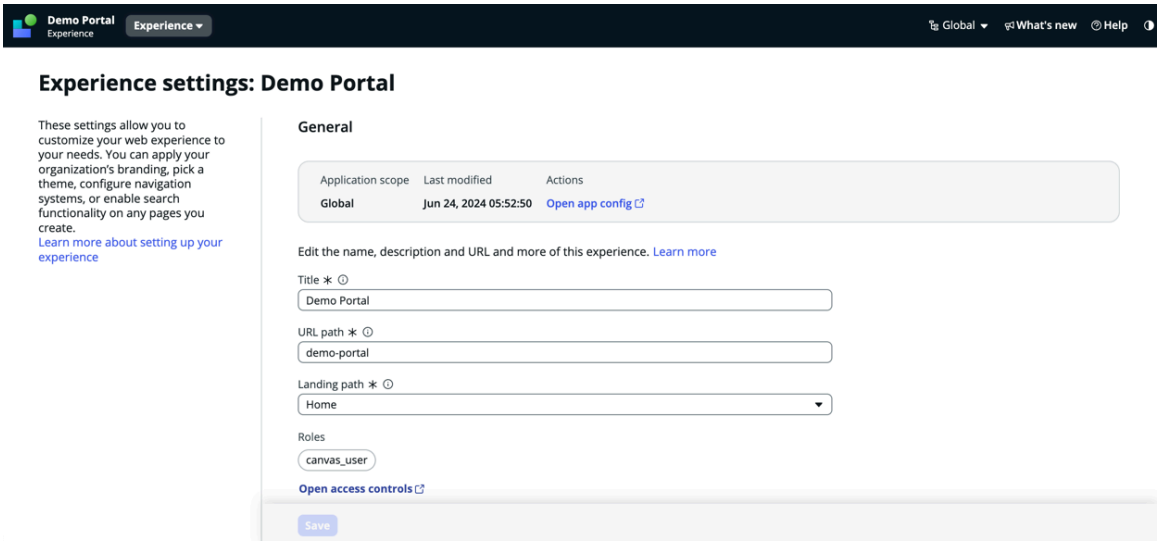
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するポータルエクスペリエンスを開くか、または [作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。



4. ポータルエクスペリエンスのタイトル、説明、パスを変更します。
   - タイトルによって、ワークスペースの名前を全員に知らせることができます。ワークスペースの名前を選択するときは注意してください。
   - 説明により、ユーザーはワークスペースの詳細を知ることができます。
   - パスは一意になっている必要があります。パスには、数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、単語はスラッシュまたはハイフンで区切ることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダーのエクスペリエンス設定



5. オプション: Now Platform でワークスペースレコードを編集するには、[詳細設定] を選択します。

   a. 終了したら、プラットフォームのレコードを更新します。
   UI ビルダー のワークスペースエクスペリエンスの設定に戻ると、全般設定に加えた変更が表示されます。

6. [保存] をクリックします。

タスクの結果

UI ビルダー のポータルエクスペリエンスの設定に戻ると、全般設定に加えた変更が表示されます。

ポータルエクスペリエンスのブランドとテーマの設定の表示

UI ビルダーでポータルエクスペリエンスのテーマ設定を表示します。テーマは、エクスペリエンスの表示スタイルを設定するものであり、すべてのページで一貫したルックアンドフィールを提供します。

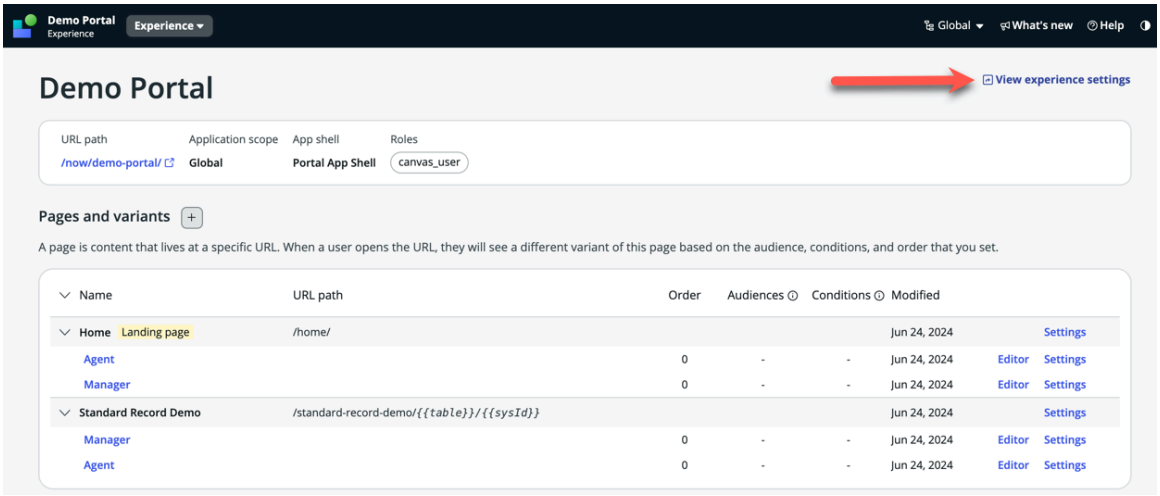
始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するポータルエクスペリエンスを開くか、または [作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [ブランディングとテーマ] セクションまでスクロールし、[テーマ] にリストされている内容を確認します。
   デフォルトでは、[Polaris] テーマが UI ビルダーエクスペリエンスに適用されます。

次のタスク

- テーマビルダーでは、使いやすいビジュアルインターフェイスを使用して Next Experience テーマを作成、編集、管理、適用できます。詳細については、「テーマビルダー での ネクストエクスペリエンス の構成」を参照してください。
- スタイルレコードと JSON コードの作業に慣れているアドミンユーザーの場合は、カスタムテーマを作成してデフォルトの [Polaris] スタイルをオーバーライドできます。このオプションでは、テーマ内の書体、色、画像 (バナーやロゴを含む) を最大限に制御できます。詳細については、「ネクストエクスペリエンス テーマと設定の構成」を参照してください。

ポータルエクスペリエンスのナビゲーションとメニューの設定の変更

UI ビルダー のカスタムポータルエクスペリエンスのヘッダー、フッター、およびメニューの設定を、組織のニーズに合わせて変更します。

始める前に

このタスクには次の前提条件があります。

- UI ビルダー に既存のポータルエクスペリエンスがあります。詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
- このワークスペースエクスペリエンスには少なくとも 2 つのページが含まれています。
- あるページから、指定した他のページにユーザーが移動できるようにします。

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

ポータルエクスペリエンスのアプリシェルで、ナビゲーションとメニューの設定を行います。アプリシェルはポータルコンテンツのラッパーです。たとえば、アプリシェルでは、会社のロゴ、ユーザー設定、検索アイコン、構成アイコン、ユーザーメニューなどを表示できます。このアプリシェルは Now Platformで構成できます。アプリシェルの詳細については、「アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義」を参照してください。

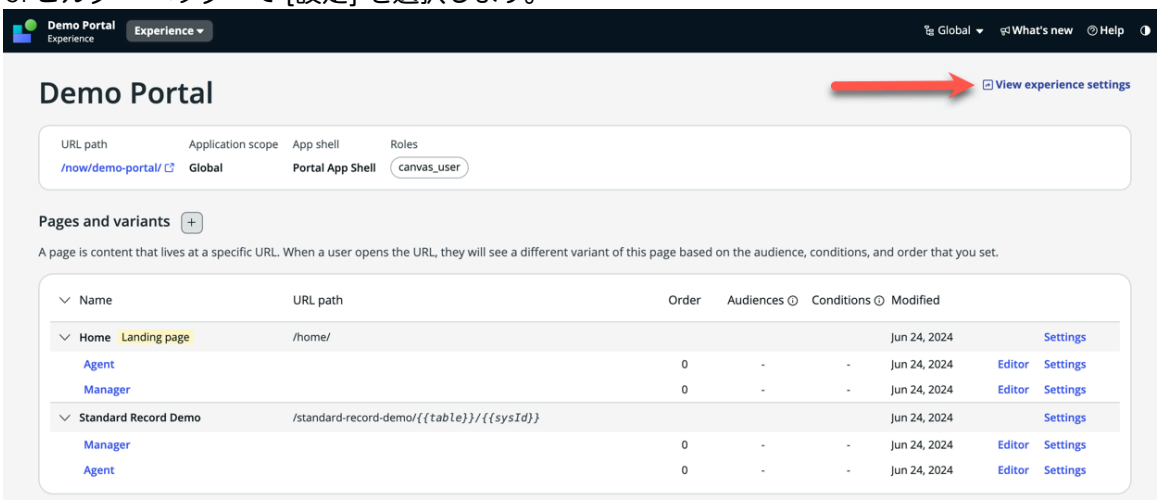
エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーで、アプリケーションピッカー (Global) を選択して、アプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

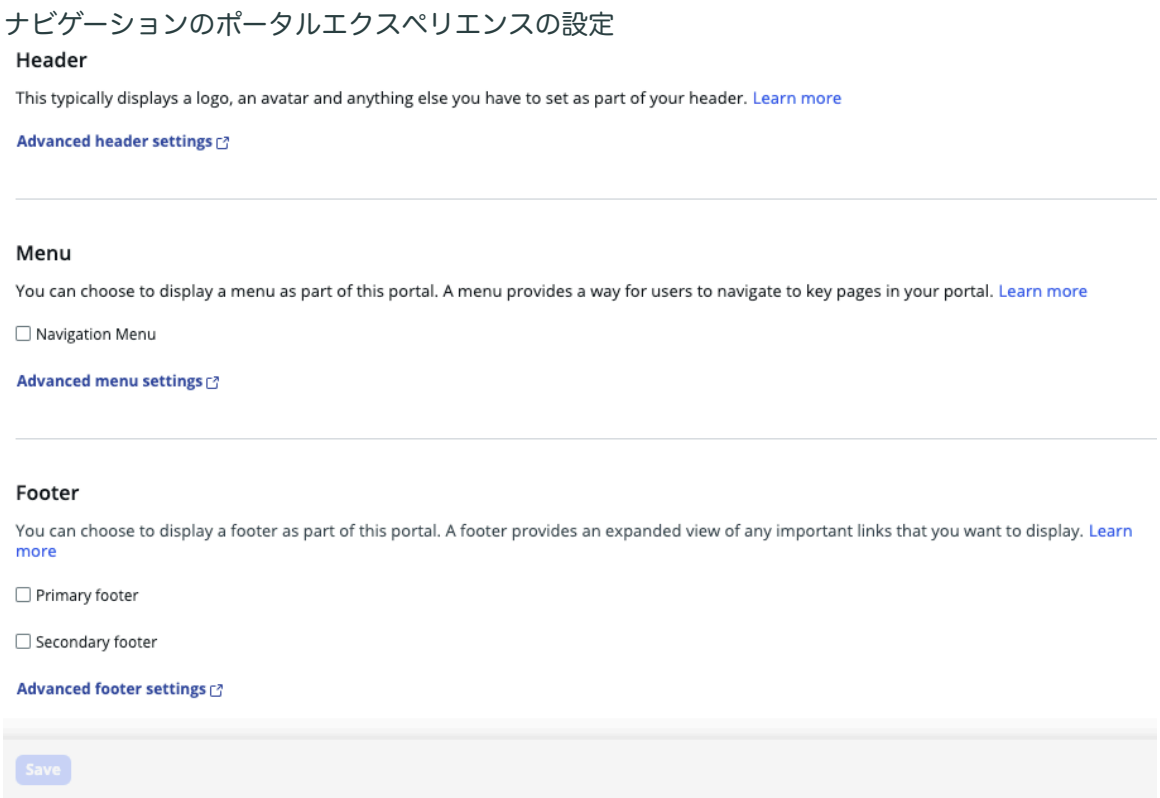
注: JSON の例を含む UX ページのプロパティの詳細については、「https://www.servicenow.com/community/next-experience-articles/workspace-app-shell-ux-page-properties/ta-p/2331956」を参照してください 。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するポータルエクスペリエンスを開くか、または [作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。



4. 作業中のポータルエクスペリエンスのアプリシェルのヘッダー、フッター、およびナビゲーションメニューの設定を変更するには、詳細設定のリンクを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	手順
ヘッダーの変更	Now Platform® に移動するには、[詳細ヘッダー設定] をクリックします。 ここでは、ポータルエクスペリエンスのヘッダーに表示する情報を変更できます。会社のロゴ、ユーザー設定、検索アイコン、構成アイコンなどを変更できます。
メニューの表示	**a.** ポータルエクスペリエンスにメニューを追加するには、 [ナビゲーションメニュー] を選択します。 **b.** ナビゲーションメニューを削除するには、[ナビゲーションメニュー] を選択解除します。 **c.** Now Platform に移動するには、[詳細ナビゲーションメニュー設定] を選択します。ここでは、ナビゲーションメニューに表示されるメニューとメニューアイテムを変更できます。詳細については、「アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義」を参照してください。
フッターの表示	**a.** ポータルエクスペリエンスにプライマリフッターを追加するには、[プライマリフッター] を選択します。フッターには、フッターのロゴ、コンテンツ、およびポータルのその他の重要なリンクを表示できます。 **b.** Now Platform に移動するには、[詳細ナビゲーションメニュー設定] をクリックします。 **c.** 2 つ目のフッターをポータルエクスペリエンスに追加するには、[セカンダリフッター] を選択します。セカンダリフッターには、追加のテキストリンク、ソーシャルメディア要素、および著作権情報が含まれています。

5. [保存] をクリックします。

ポータルエクスペリエンスの検索設定の表示または非表示

UI ビルダー でカスタムポータルエクスペリエンスの公開ページまたはプライベートページでグローバル検索機能を表示または非表示にして、ユーザーがポータルを検索できるようにします。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

グローバル検索機能をポータルエクスペリエンスのユーザーに表示するかどうかを制御できます。公開ページまたはプライベートページのグローバル検索を有効または無効にすることができます。

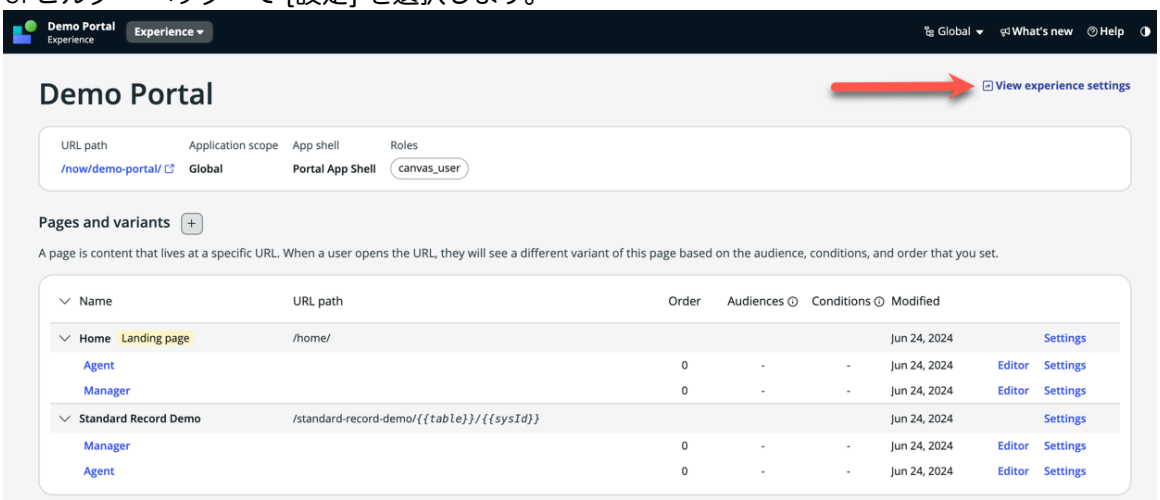
エクスペリエンスの設定を編集するには、正しいアプリケーションスコープ内にいる必要があります。別のスコープにいる場合、エクスペリエンス設定は読み取り専用です。アプリケーションスコープを変更するには、メインヘッダーで、アプリケーションピッカー (

) を選択して、アプリケーションスコープを選択します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

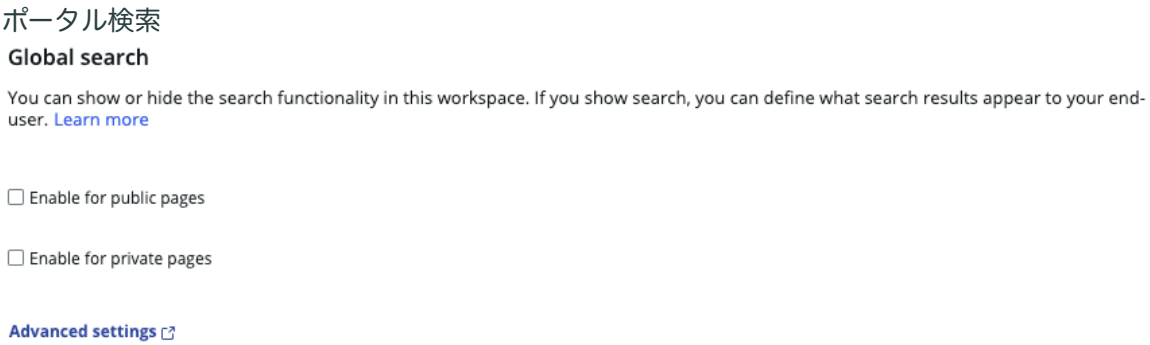
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するポータルエクスペリエンスを開くか、または [作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。



4. [グローバル検索] まで下にスクロールします。
5. [公開ページで有効にする] または [プライベートページで有効にする] を選択して、公開ページまたはプライベートページでグローバル検索を表示または非表示にします。



6. オプション: [詳細設定] をクリックして Now Platform に移動し、Now Platform® のアプリケーションレコードを変更します。
   ページの検索を有効または無効にするには、個別の [ユーザーエクスペリエンスページ] プロパティを作成する必要があります。[ユーザーエクスペリエンスページ] プロパティは、グローバル検索設定を上書きします。
7. [保存] をクリックします。

アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義

アプリシェルとは何か、どのアプリシェルが UI ビルダー で使用できるか、また特定のアプリシェルをどのような理由から選択するかを考慮します。

アプリシェル

アプリシェルは、エクスペリエンスページのコンテンツのラッパーです。アプリシェルには、Web ページと同様の機能が含まれています。たとえば、アプリシェルは、会社のロゴ、ユーザー設定、検

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

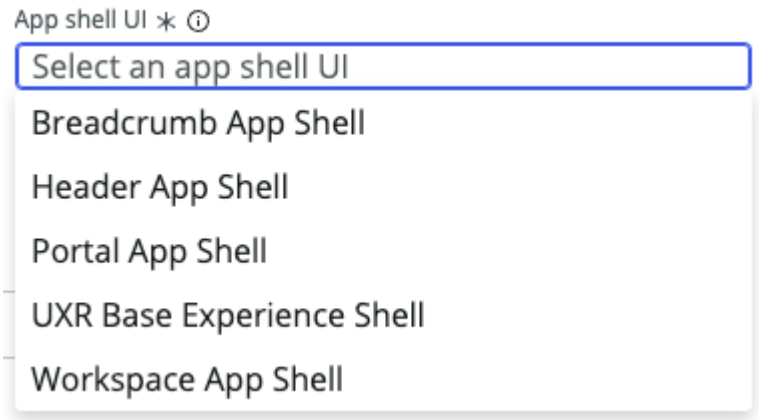
索アイコン、構成アイコン、ユーザーメニューなどを、エクスペリエンスのヘッダーまたはフッターに表示できます。

UI ビルダー にはアプリシェルが必要です。

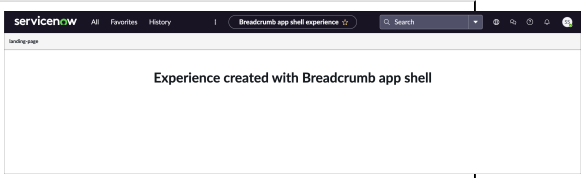
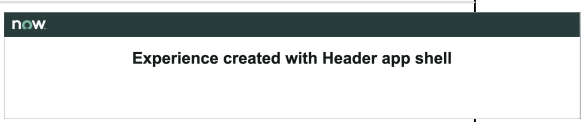
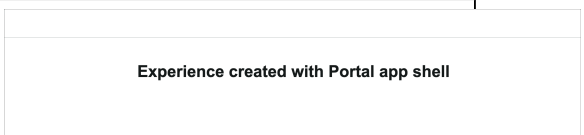
アプリシェルは、エクスペリエンスにワークスペースまたはポータルデザインがあるかどうかを定義します。ワークスペースは、ユーザーからの要求を処理するために複数のツールを 1 ページに配置したグラフィカルユーザーインターフェイスです。ポータルは、ユーザーがアイテムの注文やチケットの追跡などの要求を追加できるページです。

ServiceNow® プラットフォームでエクスペリエンスを作成するときに、エクスペリエンスに適用するアプリシェルを選択します。エクスペリエンスの作成方法の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

エクスペリエンスを作成するときに、さまざまなアプリシェルから選択できます。

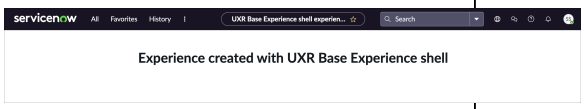
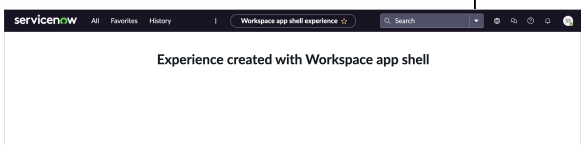


アプリシェルの説明

アプリシェル	説明	例
ブレッドクラムアプリシェル	ブレッドクラムアプリシェルには、ヘッダー、ブレッドクラムスタイルのナビゲーション、およびワークスペースエクスペリエンスのプライマリナビゲーションバーが含まれています。ブレッドクラムアプリシェルは、マルチタスクを必要としない集中的なワークフローとウィザードフローに使用します。	
ヘッダーアプリシェル	ヘッダーアプリシェルには、ワークスペースエクスペリエンスのヘッダーとユーザーメニューが含まれています。ヘッダーに最小限のナビゲーションといくつかのアクション可能なアイテムを必要とするエクスペリエンスには、ヘッダーアプリシェルを使用します。	
ポータルアプリシェル	ポータルアプリシェルには、ポータルエクスペリエンスのヘッダーとフッターが含まれています。ポータルアプリシェルレコードは、ポータルエクスペリエンス用にメニュー、ユーティリ	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリシェルの説明 (続く)

アプリシェル	説明	例
	ティ、ロゴ、およびログインを構成する方法の参照実装です。	
UXR Base Experience アプリシェル	UXR Base Experience シェルは、Next Experience バナーを使用してエクスペリエンスを作成します。UXR Base Experience シェルは、エクスペリエンスの構成、コンテキストバインディング、ルーティング、画面のロード、キャッシュなど、親アプリ内で構成されたエクスペリエンスの基本機能のサポートを提供します。UXR Base Experience シェルには、ビジュアルコンポーネントやエクスペリエンス固有のコンポーネントはありません。UXR Base Experience シェルは、シェルがカスタマイズされていないエクスペリエンスにも使用できます。たとえば、ID センターは UXR Base Experience シェルをアプリシェルとして直接使用します。	
ワークスペースアプリシェル	ワークスペースアプリシェルには、ワークスペースエクスペリエンスのヘッダーとフッターが含まれています。ワークスペースアプリシェルを使用して、ユーザーが問題を検索、調査、解決するために必要なツールを提供します。このアプリシェルで作成されたエクスペリエンスの表示スタイルを管理するには、「テーマビルダーでの ネクストエクスペリエンス の構成」を参照してください。	

UI ビルダー ページとページのバリアントを管理

UI ビルダー のページについて説明します。列レイアウトやコンポーネントなどの UI ビルダー ページの構成ブロックを理解します。

UI ビルダー クイックスタート

UI ビルダー でページをワークスペースまたはカスタムポータルエクスペリエンスの一部として作成します。UI ビルダー の ページは、レイアウトとコンポーネントで構成されます。列レイアウトとコンポーネントを使用してページをビルドし、ユーザーにエクスペリエンスをガイドします。たとえば、従業員の出張要求を管理するページをビルドできます。ページには、送信および承認されたすべての出張要求のリストを含む列レイアウトとコンポーネントを含めることができます。ユーザーが出張要求を追加および送信できるようにするボタンを追加できます。ページはさまざまな方法でビルドできます。

注: 1 人の開発者が 一度に 1 つのバリアントで作業する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダーの列レイアウトとコンポーネント

列レイアウトとコンポーネントは UI ビルダー ページの構成要素です。列レイアウトとコンポーネントをページに追加して、ワークスペースまたはポータルエクスペリエンスをビルドまたはカスタマイズします。たとえば、列レイアウトを追加し、列内にユーザーが要求を送信できるボタンコンポーネントを配置します。

ステージまたはコンテンツツリーから、列レイアウト、列、およびコンポーネントを追加したり、それらの間を移動したりすることができます。

列レイアウトには、1 つ以上の列を含めることができます。列にはコンポーネントを含めることができます。列レイアウト、列、コンポーネントの表示スタイルを変更して、独自のエクスペリエンスを作成します。

ページレイアウト要素のタイプ

タイプ	説明
列レイアウト	1 ～ 6 列の柔軟性に優れたコンテナ。列レイアウトを追加して、ページの構造とフレームワークを提供します。
列	列にコンポーネントを入力します。
コンポーネント	ボタン、リスト、フォームなどのページの基本要素。
モーダル	モーダルを使用して、ページの上部にレンダリングされ、アクションを必要とする UI ビルダーのページタイプを作成します。
ポップオーバー	ポップオーバーは、イベントによってトリガーされたときに UI ビルダー ページの上に表示されるコンテナの一種です。ポップオーバーコンポーネントを使用して、ページに関連する追加情報またはアクションを表示します。

詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

UI ビルダーページの作成

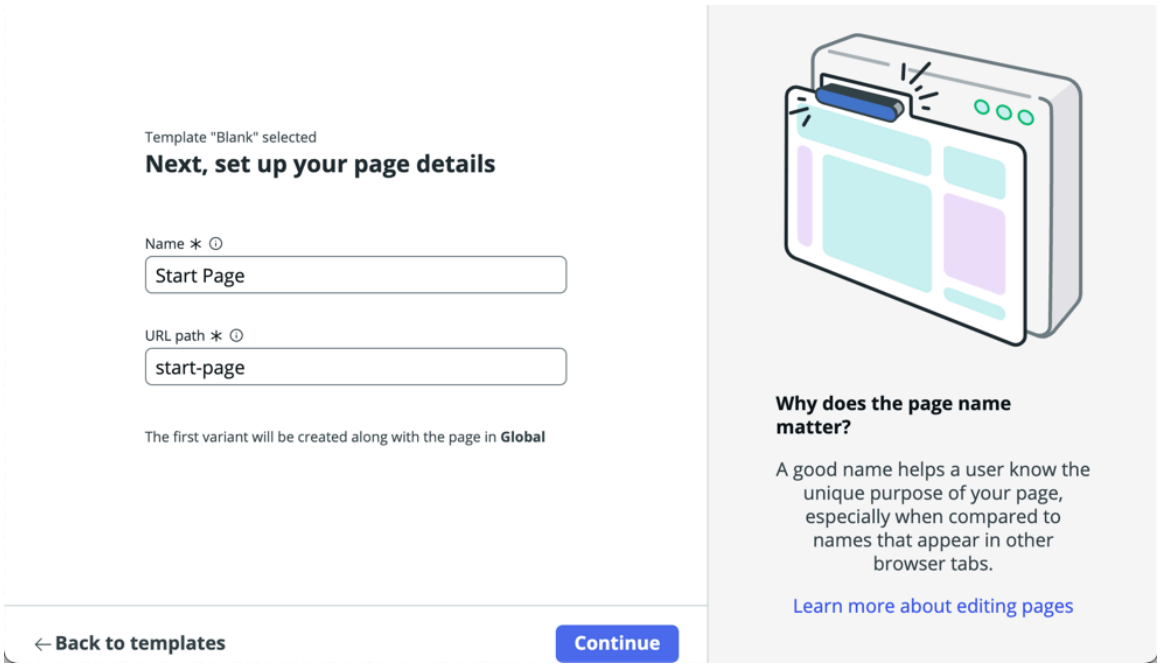
UI ビルダー ページを作成して、ページエクスペリエンスを最初から、またはページテンプレートを使用してビルドします。一度に 1 つのページコンポーネントを構築します。事前定義されたページテンプレートのいずれかを使用する場合は、基本構造から開始し、ニーズに合わせてカスタマイズできます。

UI ビルダー ページに名前を付けます。パスを設定します (またはページ名に基づいて自動的に追加されるデフォルトのパスを維持します)。デフォルトのパスは、ページ名に基づいて追加されます。独自のパスを作成することもできますが、パスは一意である必要があります。**[URL** プレビュー] にはページのパスが表示されます。

アプリケーションスコーピングは、アプリケーションファイルとデータへのアクセスを識別して制限することによってアプリケーションを保護します。アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で現在存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー ページテンプレートを使用して、事前定義されたページテンプレートに基づいてページを作成し、そのページをニーズに合わせてカスタマイズします。ページテンプレートは参照またはコピーできます。詳細については、「テンプレートからのページの作成」を参照してください。



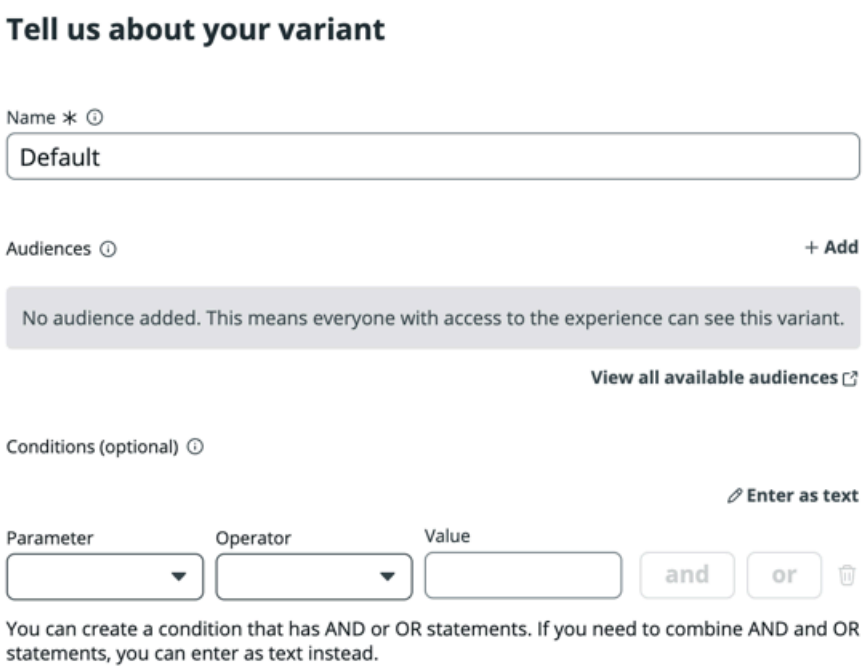
UI ビルダーページの作成：詳細設定

UI ビルダー ページに必須パラメーターを追加します。必須パラメーターは、sys_id、テーブル、クエリなどのページに必要なデータです。必須パラメーターは、必須パラメーターの値にバインドできるため、コンポーネントに役立ちます。たとえば、[URL] フィールドにテーブルパラメーターを追加し、そのテーブルにデータをバインドできます。テーブルが参照されると、テーブルデータがページ上のコンポーネントに公開されます。必須パラメーターは、ページに追加すると URL に表示されます。次の例では、table という必須パラメーターが追加されています。URL に追加されていることに注意してください。

UI ビルダー ページにオプションのパラメーターを追加します。オプションのパラメーターは、ページの URL に追加できるオプションのデータです。必須パラメーターとは異なり、オプションのパラメーターは常に名前と値のペアで、指定された順序に関係なく機能します。

UI ビルダー ページバリアントの対象者と条件を設定します。ページを作成すると、UI ビルダー によってページのバリアントもデフォルトで作成されます。ページバリアントとは、ユーザー基準を使用してさまざまな対象者のエクスペリエンスをターゲットにできる、同じパスのページのバリエーションのことです。たとえば、マネージャー用のページと、そのマネージャーの直属の部下用のページのバリアントなどです。バリアントの作成の詳細については、「ページバリアントの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

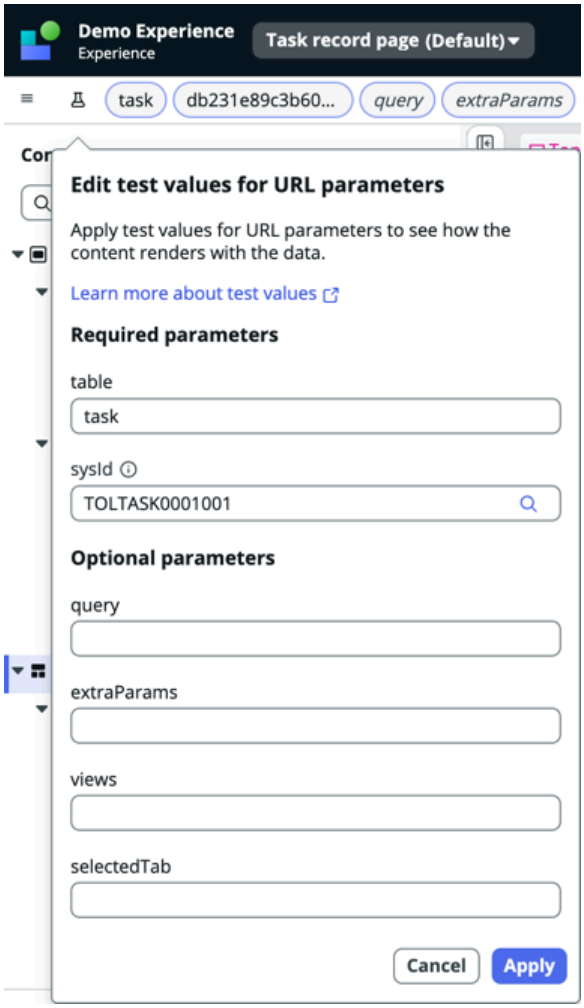


対象者の詳細については、「対象者について学習する」を参照してください。

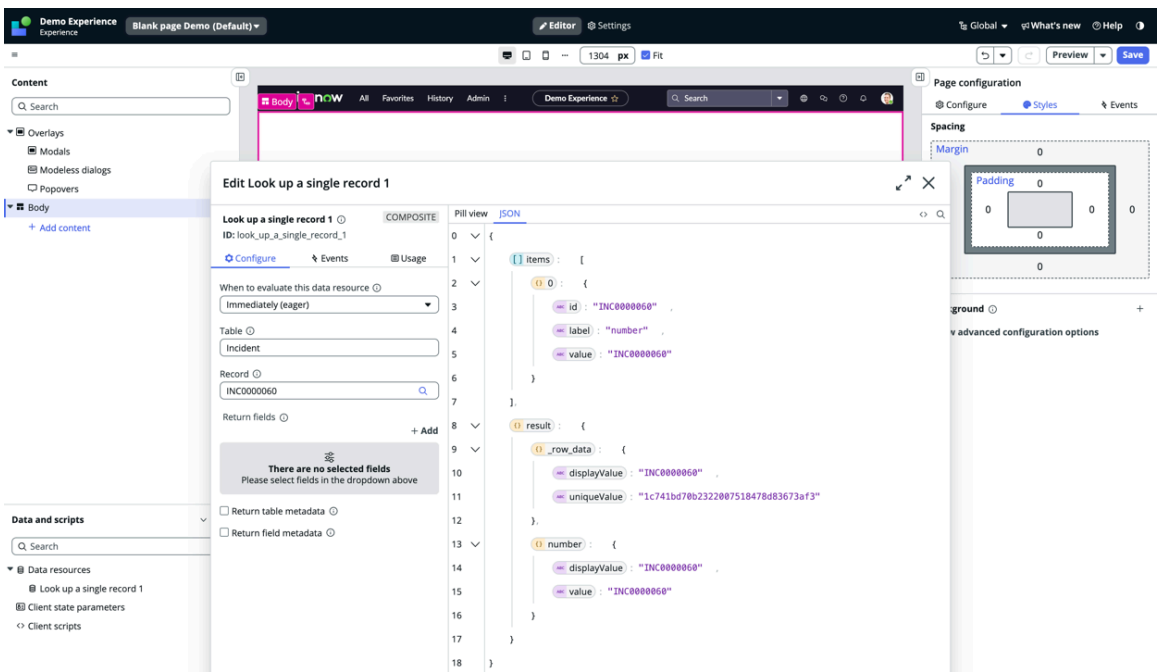
UI ビルダーのテスト値

テスト目的でテストデータを UI ビルダー ページに取り込む方法として、ページにテスト値を追加します。たとえば、必須パラメーターとしてテーブルを追加する場合は、インシデントのテスト値を追加し、それにデータリソースをバインドして、そのテーブルのインシデントに関するテストデータを取り込むことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



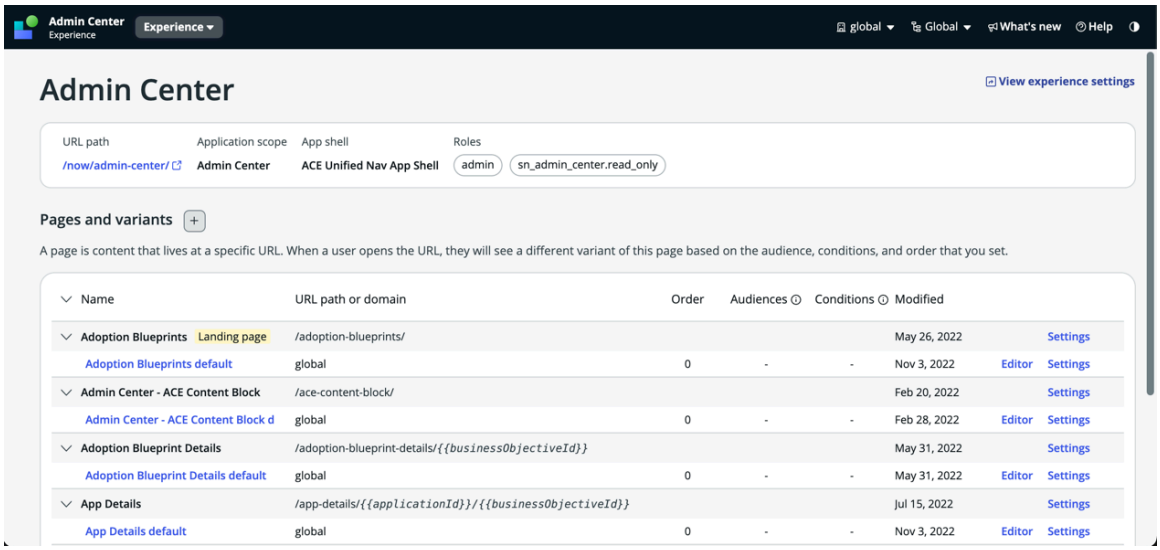
テスト値を取得してデータを表示するには、データリソースを追加してから、レコードを URL のテスト値にバインドするようにデータリソースを構成します。たとえば、`incident` をテスト値として追加できます。次に、**Look up a single record** という名前のデータリソースを追加します。[テーブル] フィールドで、次の画像に示すように、インシデントテスト値を `context.props.table` テーブルに動的にバインドします。



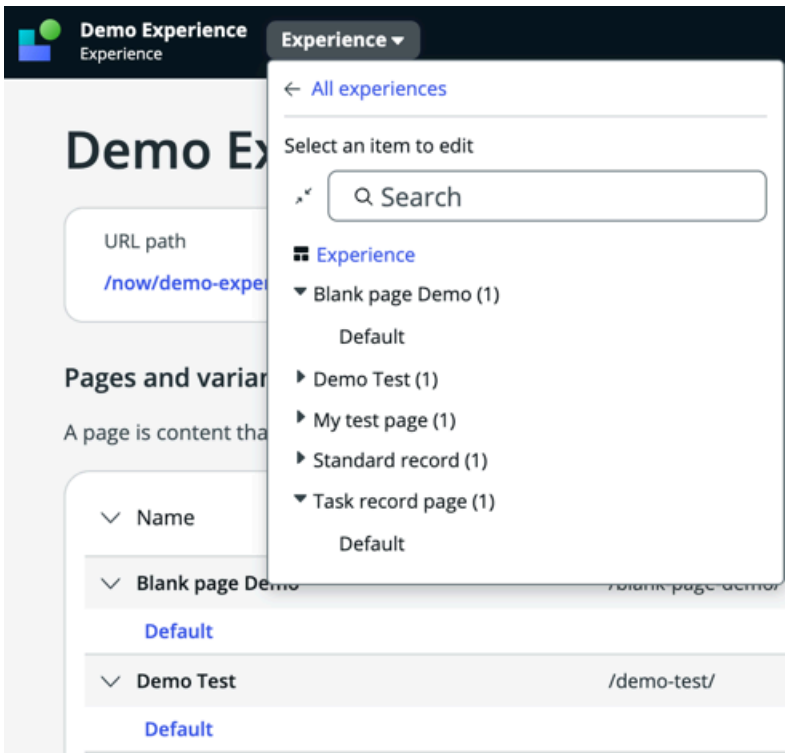
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

既存の UI ビルダーページの表示

ロール設定に基づいて、エクスペリエンスの任意の UI ビルダー ページで作業できます。エクスペリエンスのエクスペリエンスビューで、作業するページの名前をクリックします。



ページエディターで、ヘッダーのドロップダウンを選択して、異なるページバリアント を開きます。



UI ビルダーページバリアントの作成

バリアントでは、ユーザー基準を使用して、さまざまな対象者をさまざまなコンテンツのターゲットにすることができます。たとえば、エージェント用のホームページと、同じ URL パスに存在するマネージャー向けのページのバリアントを作成できます。

UI ビルダー ページバリアントごとに対象者を設定します。ページバリアントを使用するユーザーは、対象者で決まります。たとえば、出張要求ページを作成する場合は、マネージャーが従業員の出張要求を管理できる、ページのバリアントを作成します。マネージャーロールを持つすべてのユー

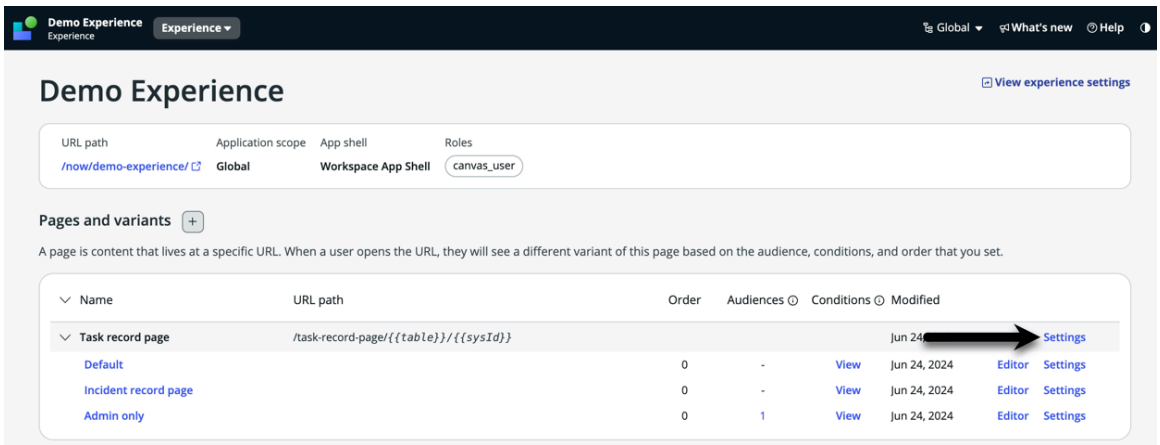
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ザーのために、マネージャーページの対象者を設定します。従業員はそのバリアントを表示できません。対象者の詳細については、「対象者について学習する」を参照してください。

詳細については、「ページバリアントの作成」を参照してください。

UI ビルダーのページ設定を編集

UI ビルダー エクスペリエンスビューで [設定] を選択すると、いつでも UI ビルダー ページの設定を変更できます。ページを作成した後で、ページの名前、パス、およびパラメーターを変更できます。



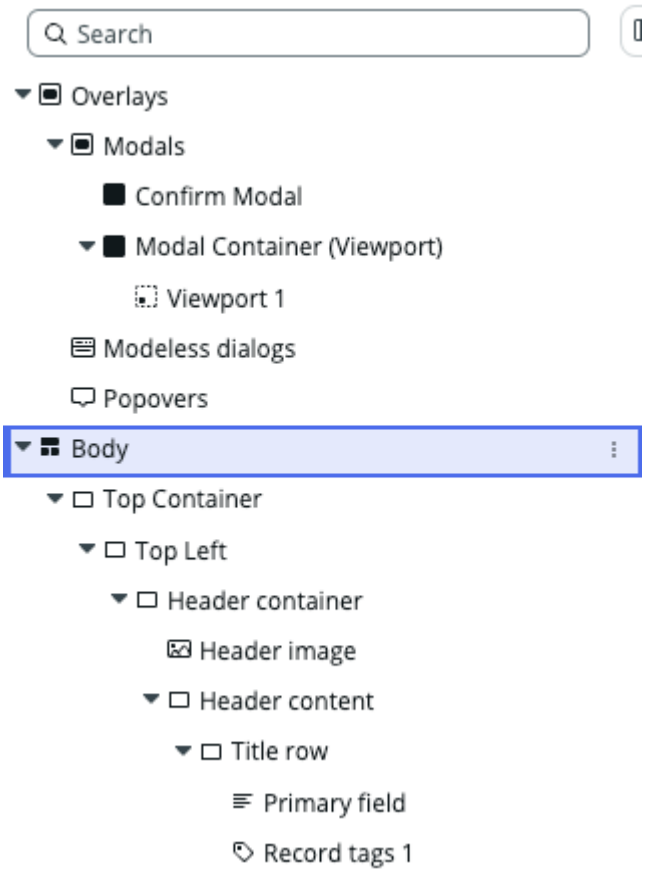
詳細については、「ページの編集」を参照してください。

UI ビルダーコンテンツツリー

ページ管理パネルのコンテンツツリーは重要です。これは、UI ビルダー ページ上のすべての列レイアウト、列、コンポーネントを表示するだけでなく、コンポーネントを簡単に見つけて操作できるようになります。コンテンツツリーは、ページ上に複数のコンポーネントがある場合に特に重要です。コンテンツツリーでコンポーネントを選択してページ上のコンポーネントをハイライト表示すると、ページを簡単にビルドできます。

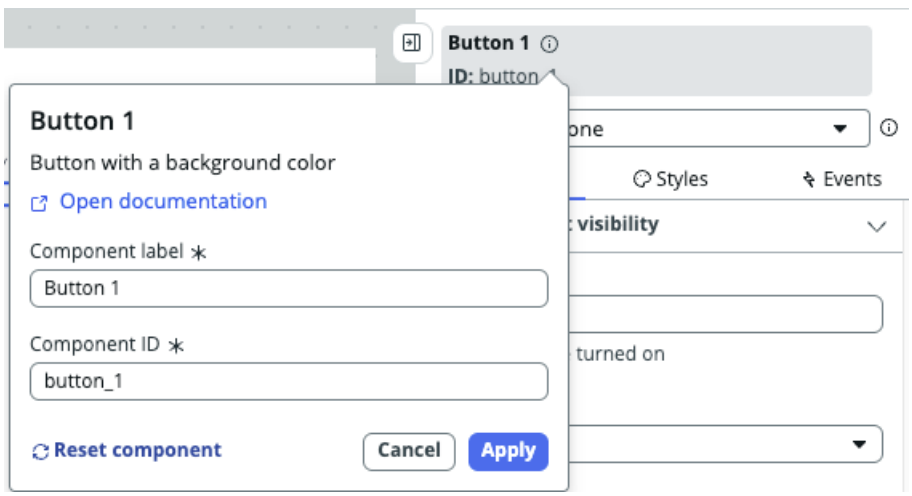
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンポーネントがあるコンテンツツリー



コンテンツツリーでコンポーネントをクリックすると、ステージ上のコンポーネントがハイライト表示され、スタイリング、イベント、データなどを追加できます。 コンテンツツリーにアイテムをドラッグして、ページを再編成できます。

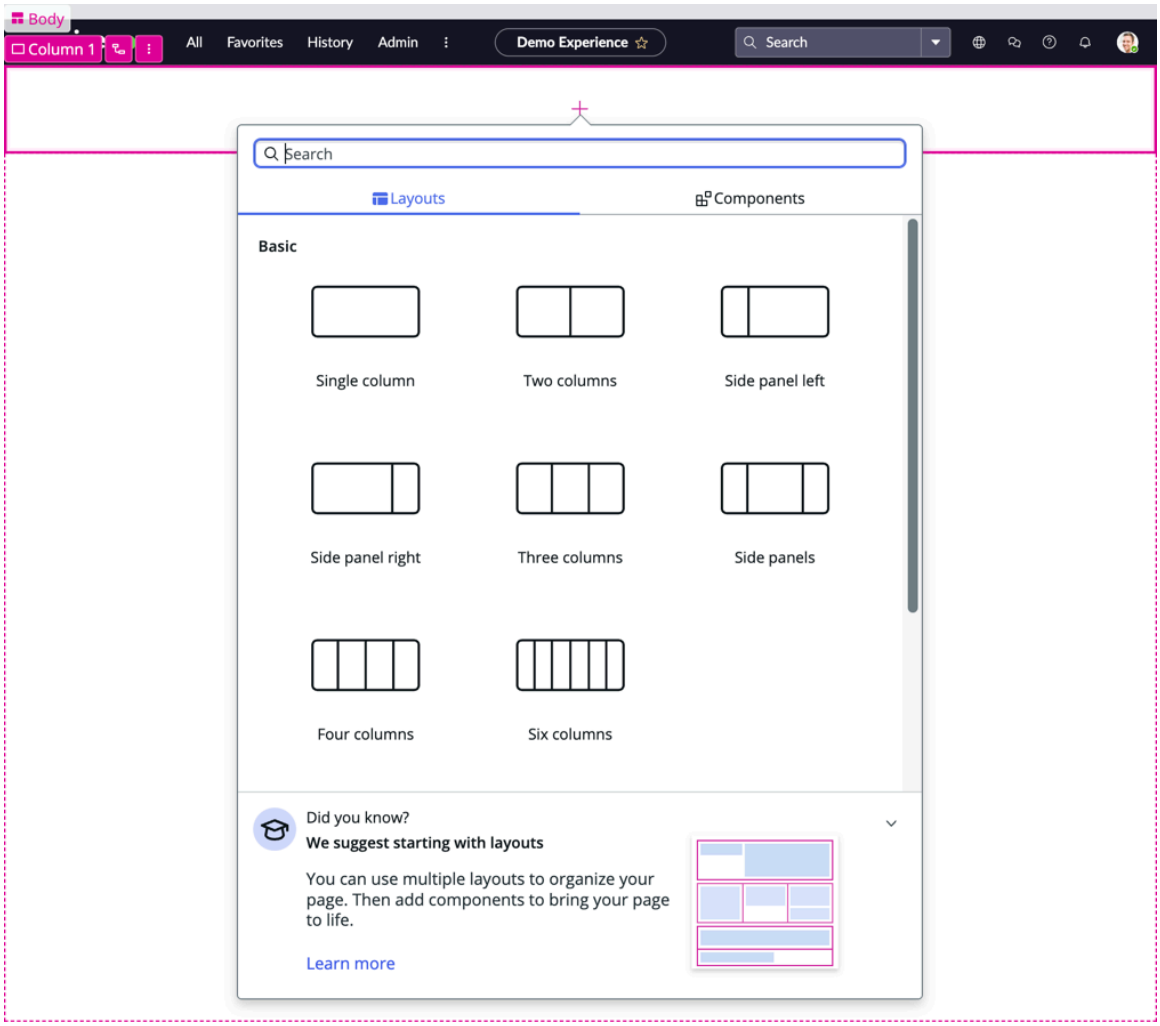
コンポーネントをページに追加するときは、コンポーネントラベルを追加することが重要です。コンポーネントラベルは、コンテンツツリー内の各コンポーネントにラベルと ID を適用するために使用されます。適切にラベルを付けると、コンテンツツリーのコンポーネントの識別がはるかに簡単になります。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダーツールボックス

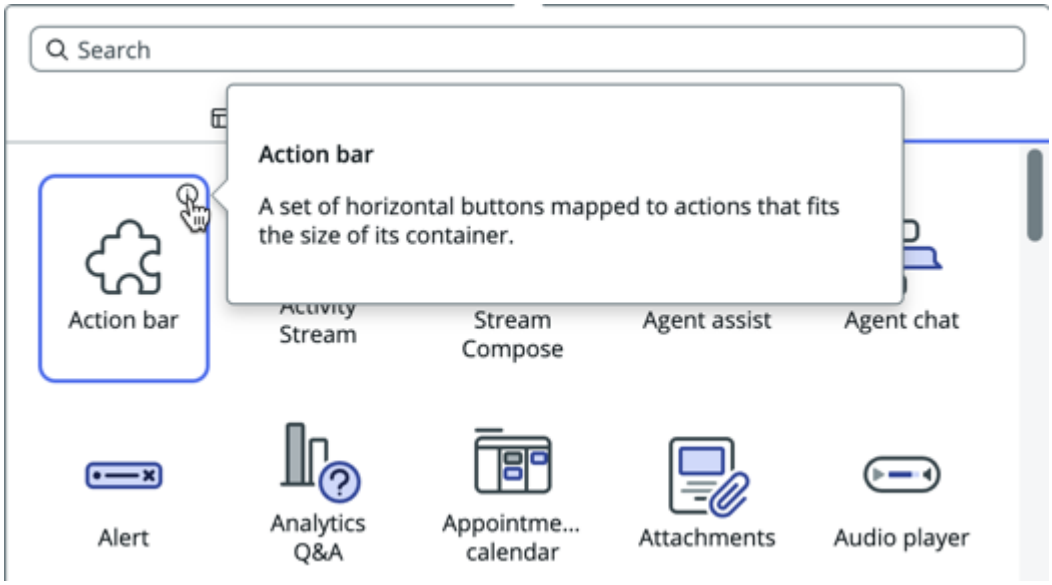
UI ビルダー ツールボックスを使用して、レイアウトとコンポーネントをページに追加します。UI ビルダー ツールボックスにアクセスするには、**[+** コンテンツを追加] またはステージの **[+]** アイコンを選択します。



ツールボックスを検索して、UI ビルダー ページに追加するレイアウトとコンポーネントを見つけます。

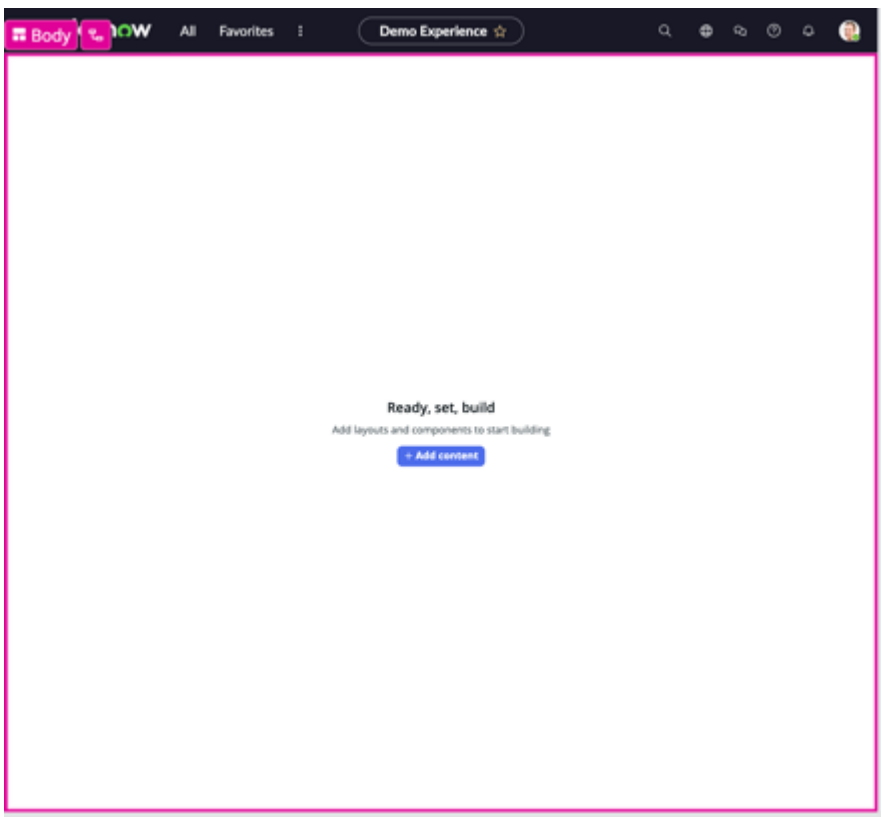
情報アイコンⓘを選択してツールヒントを表示し、レイアウトまたはコンポーネントの簡単な説明を表示します。コンポーネントがプリセットを使用できる場合、または複数のコンポーネントにバンドルされている場合は、[コンポーネント] タブに異なる色が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



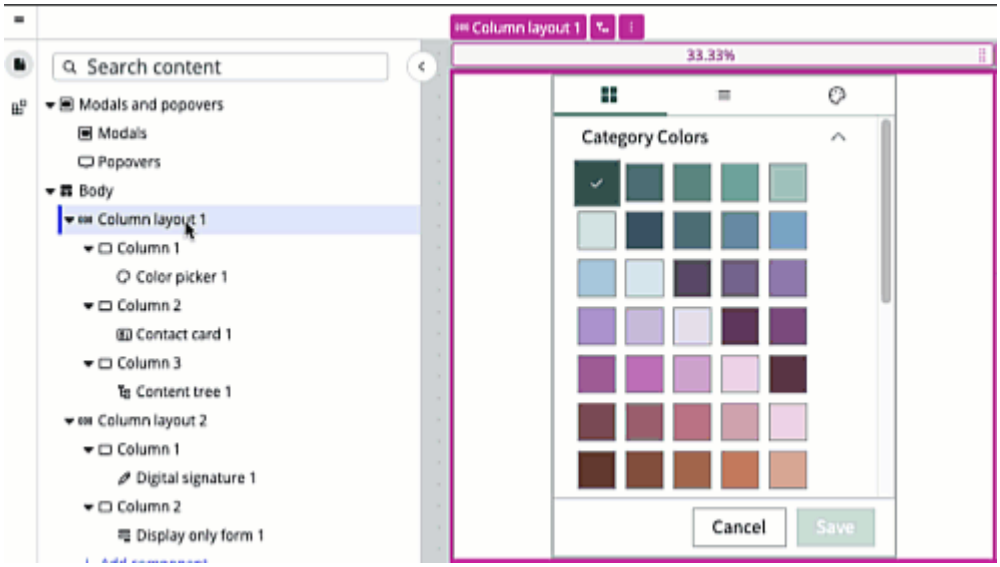
UI ビルダー ステージ

ステージは、UI ビルダー エディターの最大の領域であり、ページのビルドに使用されます。列レイアウトとコンポーネントをここに追加するには、[+] ボタンをクリックするか、[コンポーネント] ペインからページにドラッグします。

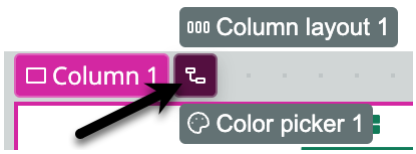


ステージでは、本文、列レイアウト、および列の輪郭がマゼンタで表示されます。コンポーネントは青色で囲まれています。

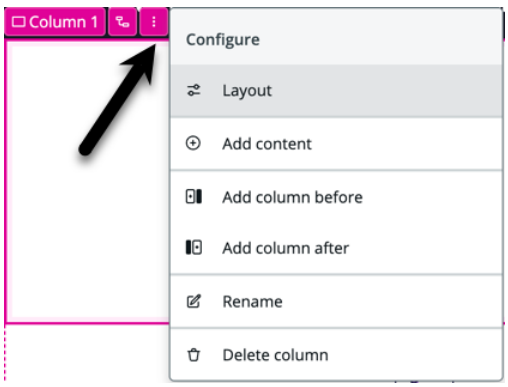
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ツリーアイテムアイコンを使用して、コンテンツの別のレイヤーに移動します。たとえば、列が選択されている場合は、親の列レイアウトまたは列内のコンポーネントに簡単に移動できます。



列レイアウトまたはコンポーネントの複製、削除などのオプションのメニューアイコンを選択します。

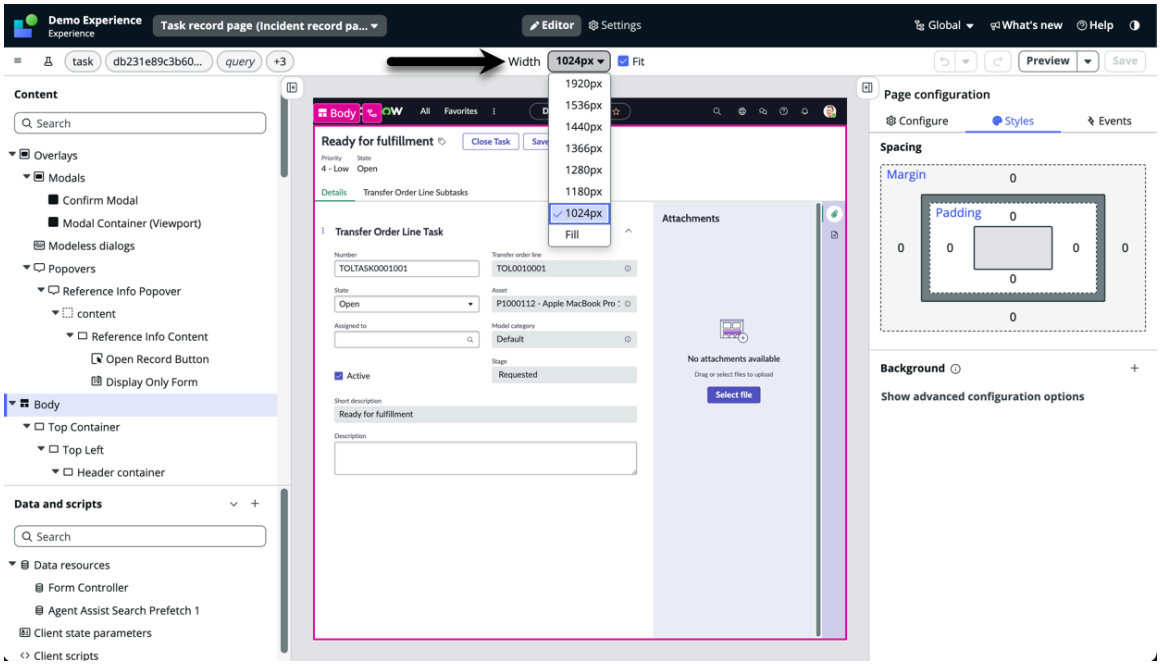


ステージで行われた変更は、右側の [スタイル] パネルに反映されます。[スタイル] パネルで変更を加えると、ステージ上の要素がすぐに更新されます。

UI ビルダーのステージのサイズを変更する

UI ビルダー エディターで [幅] ドロップダウンを選択して、ステージのサイズを調整します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

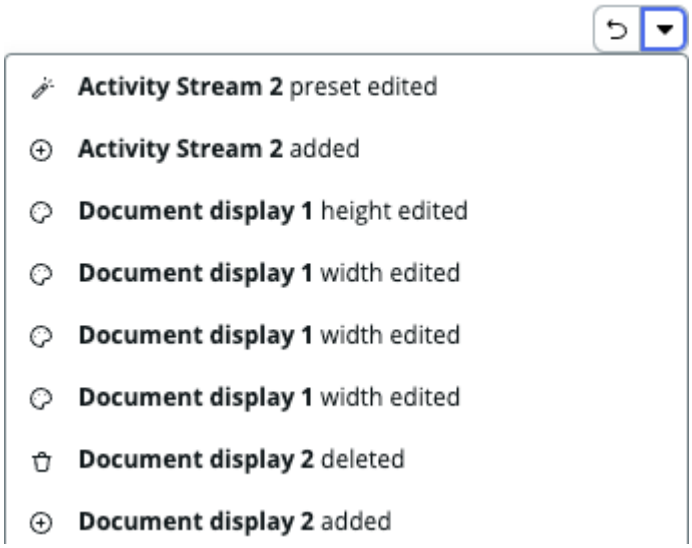


UI ビルダー で元に戻してやり直す

UI ビルダー ページに加えた変更を元に戻し、やり直します。ページレイアウト、コンポーネント、スタイル、またはレイアウトに対して行ったアクションを元に戻します。

元に戻す機能とやり直し機能は、ヘッダーツールバーにあります。[元に戻す] ( ) または [やり直し] ( ) ボタンを選択して、アクションを元に戻すことができます。[元に戻す] ドロップダウンをクリックして、複数のステップを戻ることもできます。データシェルフで行われた変更を元に戻したり、やり直したりすることはできません。

[元に戻す] ドロップダウンを選択すると、前の 20 のアクションを元に戻すことができます。

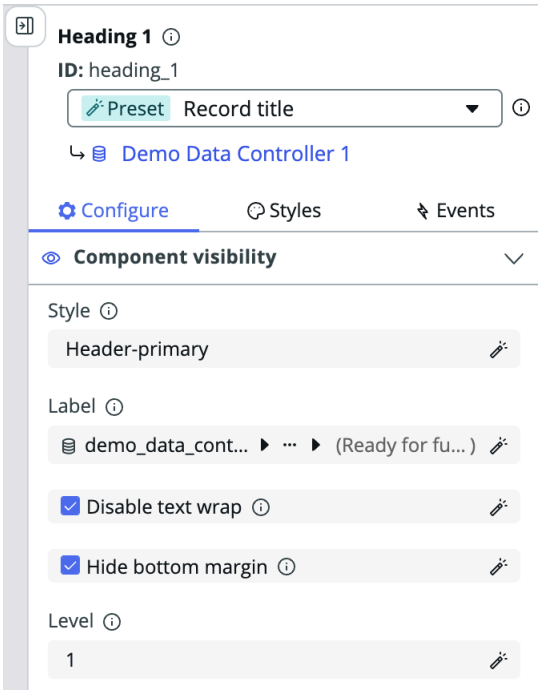


UI ビルダー構成パネル

構成パネルを使用して、配置、スタイリング、イベントハンドラーの設定などの、コンポーネントの操作を行います。

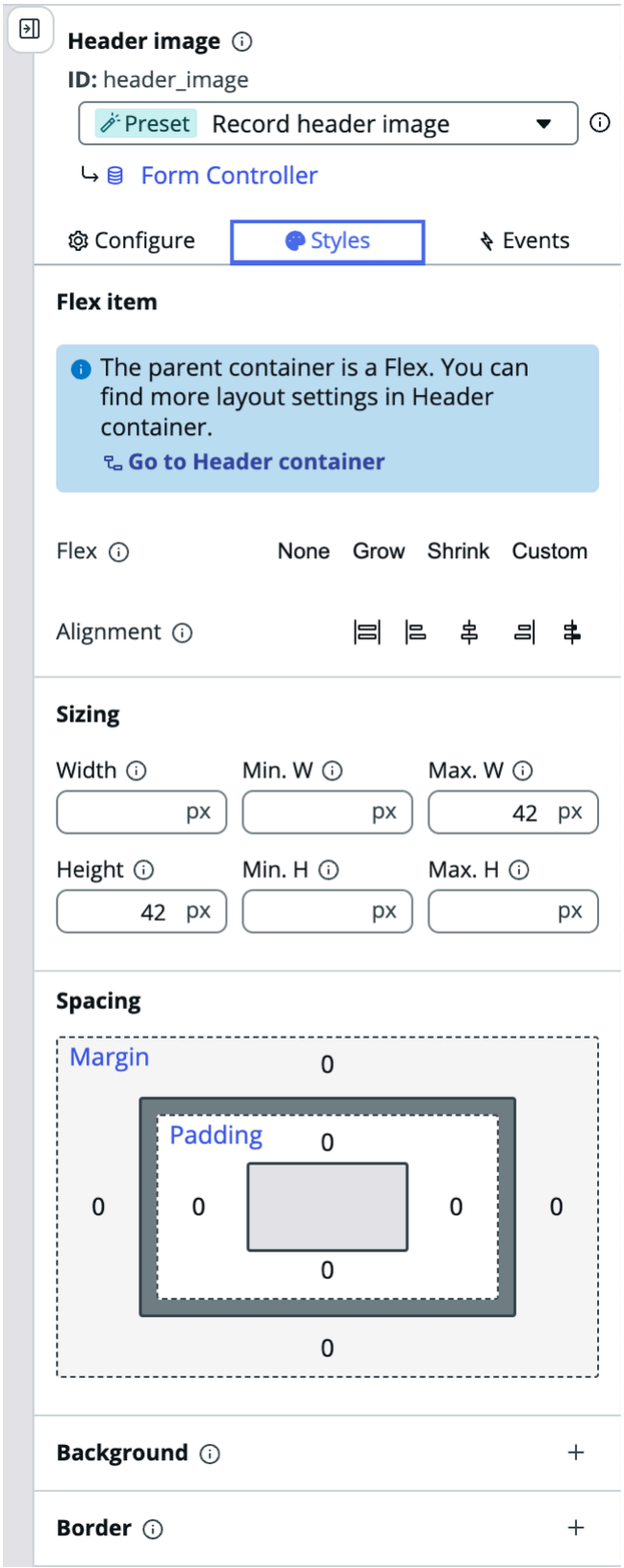
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [構成] タブを選択してコンポーネントを構成します。各コンポーネントには、コンポーネントの必要な部分を制御できるさまざまな構成オプションがあります。たとえば、ボタンコンポーネントはシンプルで、外観、ラベル、および一部のプロパティのみを構成できます。リストコンポーネントはより複雑で、多数の編集可能なリストパラメーターが含まれています。



- 構成パネルの [スタイル] タブを選択して、コンポーネントにスタイリングを追加します。標準ベースのカスケードスタイルシート (CSS) を使用して、コンポーネントの表示スタイルを変更できます。たとえば、背景色、境界線、またはその他の CSS スタイルを追加または変更します。

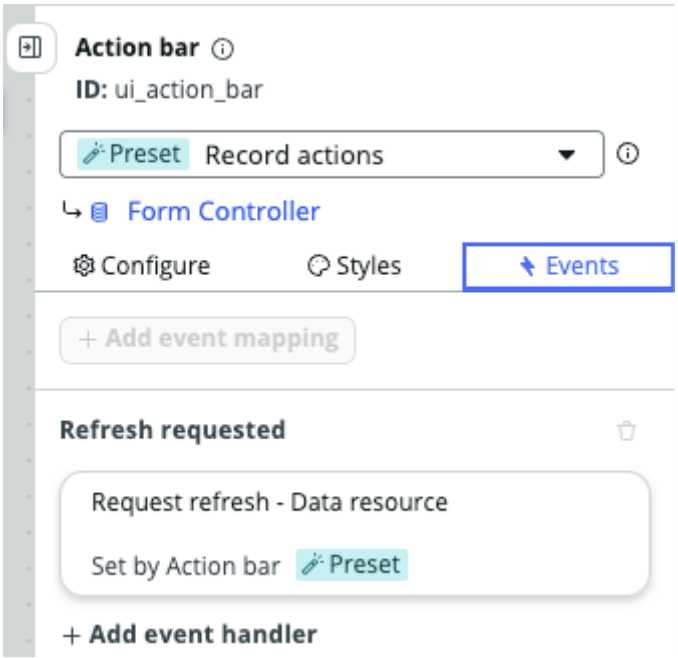
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



詳細については、「コンポーネントのデフォルトの外観を変更する」を参照してください。

- [イベント] タブを選択して、イベントを構成し、コンポーネント、ページ、データリソース、および宣言アクションにアクションを追加します。コンポーネントを UI ビルダー ページに追加したときには、アクションを実行するようには構成されません。たとえば、ボタンコンポーネントは静的であり、レコードの削除など、イベントアクションをバインドするまでは何も実行されません。

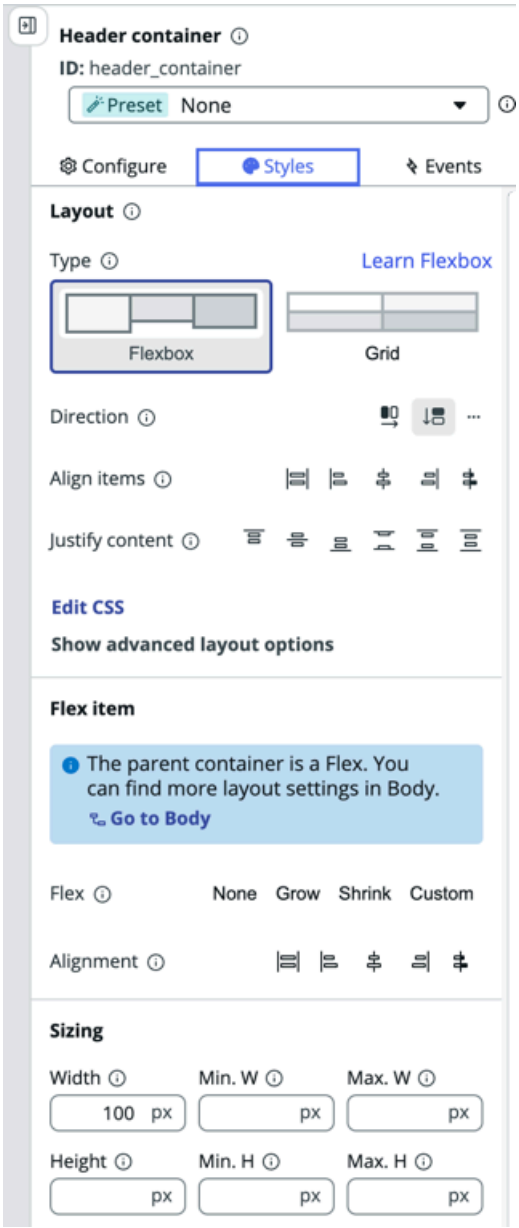
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



詳細については、「UI ビルダーページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。

- 列レイアウトは、コンポーネントがページ上でどのように配置されるかを制御します。列レイアウトを UI ビルダー ページに追加すると、レイアウトデザインを構成できます。レイアウトの列にコンポーネントを追加すると、より高度な方法で要素を構成できます。たとえば、コンテンツの両端揃え、アイテムの配置、さらに列レイアウト、列、およびコンポーネントの高さ、幅、マージン、背景、境界線、およびパディングの設定を行うことができます。CSS グリッドは最も強力なレイアウトシステムです。CSS グリッドは 2 次元グリッド上にビルドされているので、ページの作成方法を自由に選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



詳細については、「UI ビルダーページでコンポーネントを整理する」を参照してください。

UI ビルダー ページを開いてプレビューする

UI ビルダー ページをプレビューして、ページが Web ページとしてどのように表示されるかを確認します。

Preview ボタンを選択し、モーダル、ビューポート、コンポーネント、データリソース、動的データなどの現在作業しているバリアントをテストします。ページバリアントをプレビューすると、エクスペリエンスのビルド中にその外観と機能を確認するのに役立ちます。

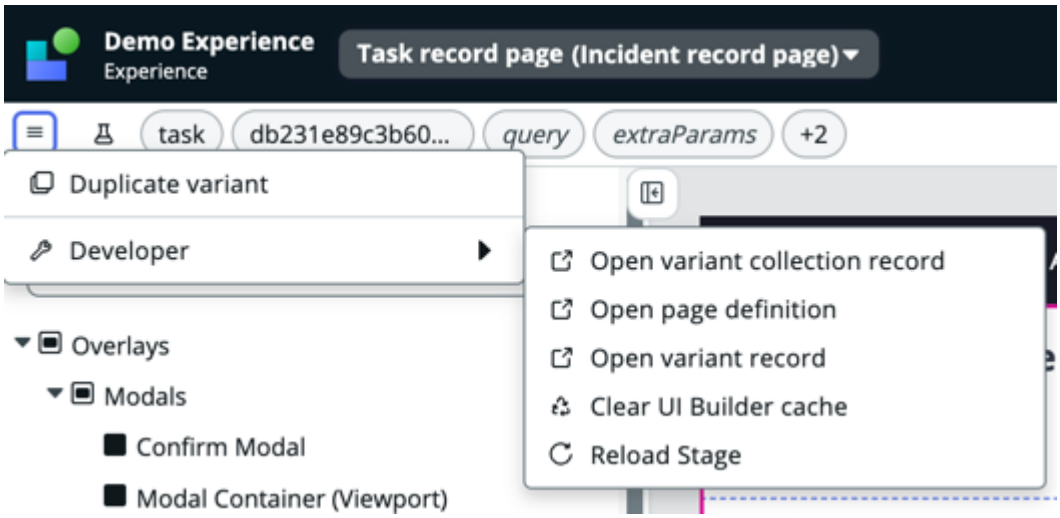
ページをプレビューするもう 1 つの方法は、サーバーから URL パスを要求することです。ユーザーがページを開いたときにバリアントが表示される場合は、この方法を使用してテストします。[プレビュー] の横にあるドロップダウン矢印を選択し、**[URL パスを開く]** Preview Open URL path を選択します。または [プレビュー] > **[URL パスを開く]** Open URL path を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「UI ビルダー エクスペリエンスを表示およびテストする方法を学ぶ」を参照してください。

UI ビルダーの開発者による編集

メニューから、プラットフォームの開発者として UI ビルダー ページを編集します。このオプションを使用すると、ページのプラットフォームレベルの詳細を変更し、UI ビルダー から出ることができます。開発者としての適切なロールが必要です。



UI ビルダー でのページの作成

ポータル、ワークスペース、またはカスタムアプリケーションのページを UI ビルダー で作成して、ユーザーの Web エクスペリエンスをビルドします。

始める前に

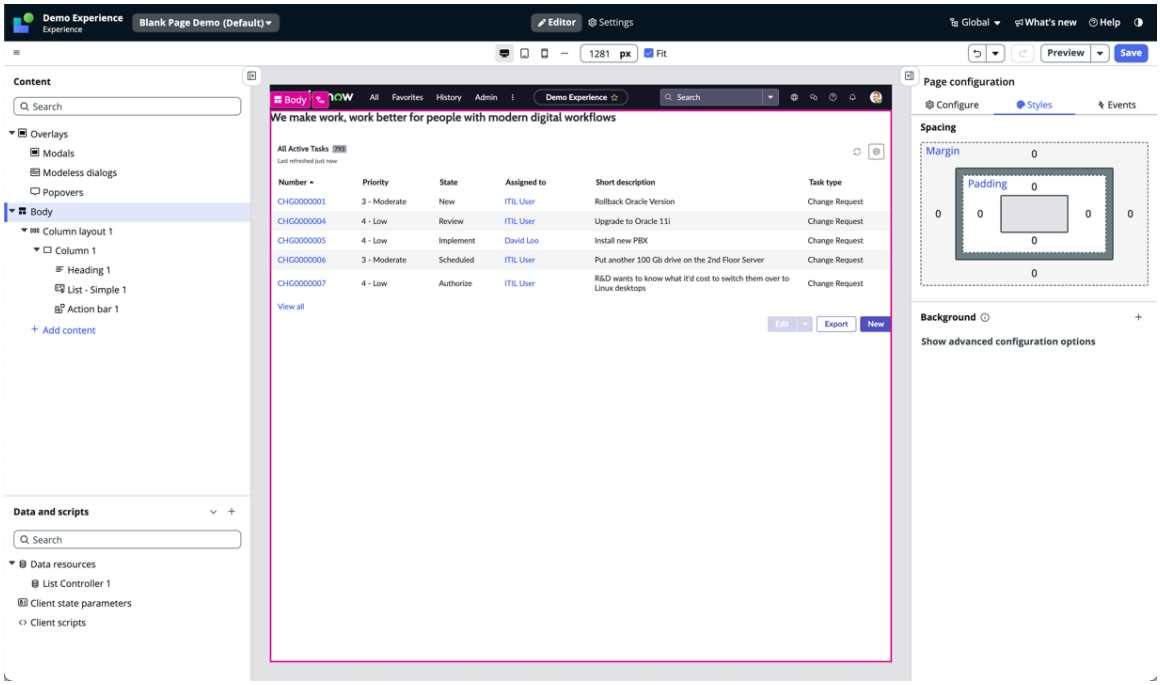
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

ページには、ワークスペース、ポータル、またはカスタムアプリケーションユーザーインターフェイス (UI) を構成するコンポーネントのコレクションがあります。

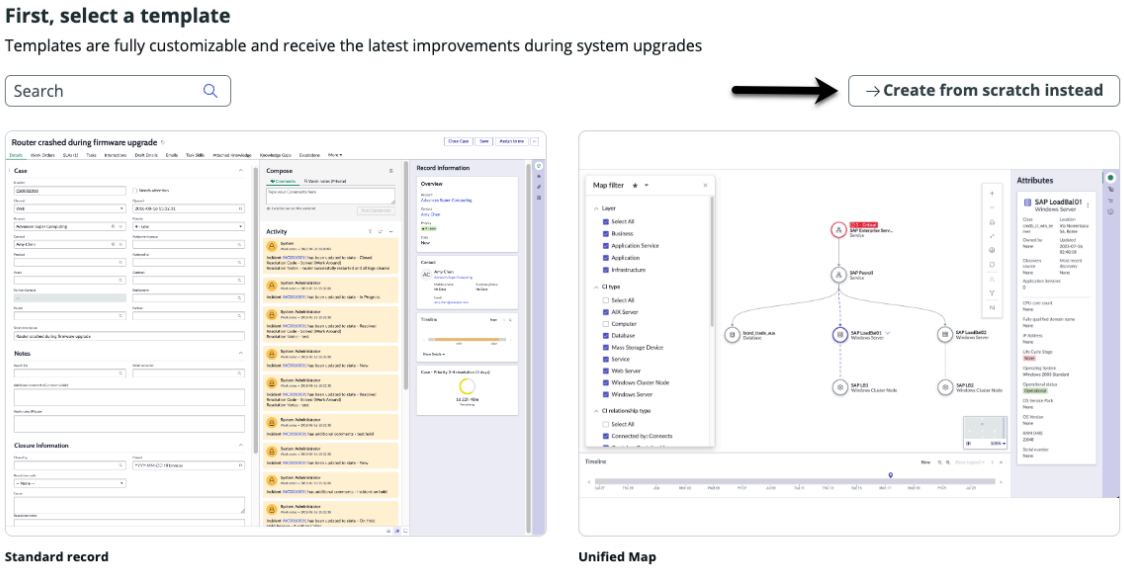
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー



手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 画面中央にある [新規ページの作成] を選択します。
4. [代わりに最初から作成します] を選択します。



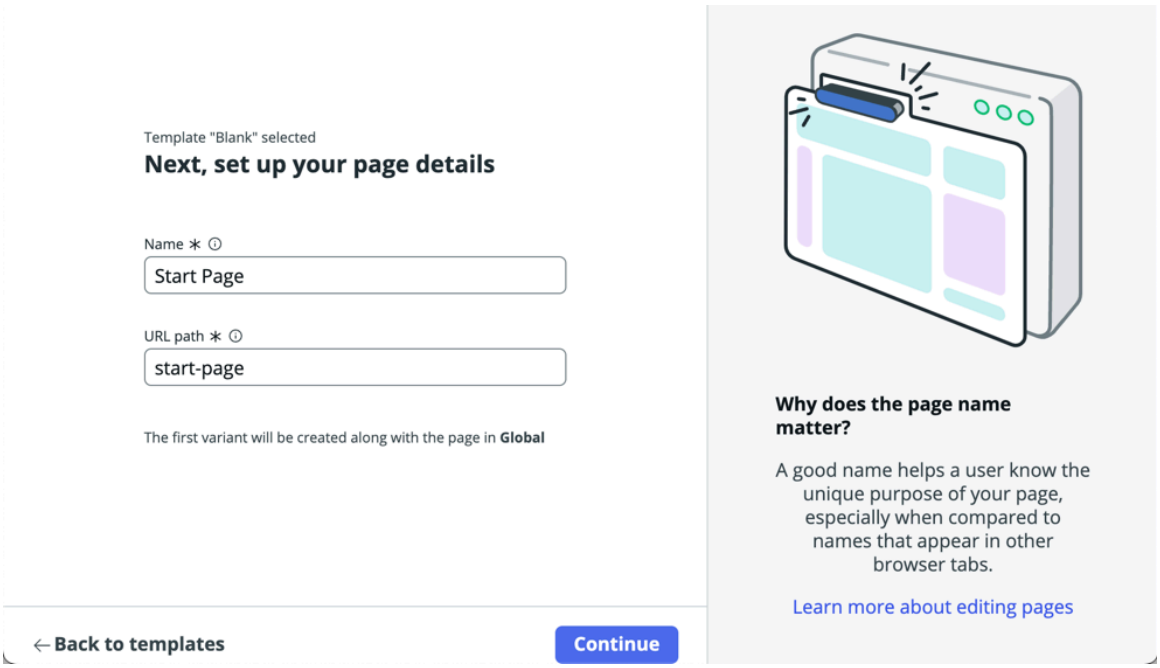
ページテンプレートを使用してページを作成することもできます。詳細については、「テンプレートからのページの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** Xanadu Store Release 1 では、新しい UI ビルダー ページを最初から作成するときに、レスポンシブオーサリングを使用できます。レスポンシブオーサリングは、既存のページまたはテンプレートで作成されたページでは使用できませんが、これらのタイプのページでは、既存のデフォルトのリフローモデルが引き続き使用されます。詳しくは、「Responsive authoring (レスポンシブオーサリング)」を参照してください。

5. [名前] フィールドにページの一意の名前を入力します。
6. **[URL** パス] フィールドにページのパスを指定します。UI ビルダー は、前のステップで指定した名前に基づいてデフォルトのパスを生成します。

   デフォルトのパスは、ページ名に基づいて追加されます。独自のパスを作成することもできます。パスは必須で、一意になっている必要があります。パスには数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、語の間はスラッシュまたはハイフンで区切られます。**[URL** プレビュー] にはページのパスが表示されます。



> **注:** アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で現在存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

7. [続行] を選択します。
8. ページの URL に必須パラメーターを追加します。

   a. **[+** 追加] をクリックします。

   b. ページの必須パラメーターを入力します。
   必須パラメーターは、sys_id、テーブル、クエリなどのページに必要なデータです。必須パラメーターは、必須パラメーターの値にバインドできるため、コンポーネントに役立ちます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

9. オプション: ページの URL にオプションのパラメーターを追加します。

   a. **[+** 追加] をクリックします。

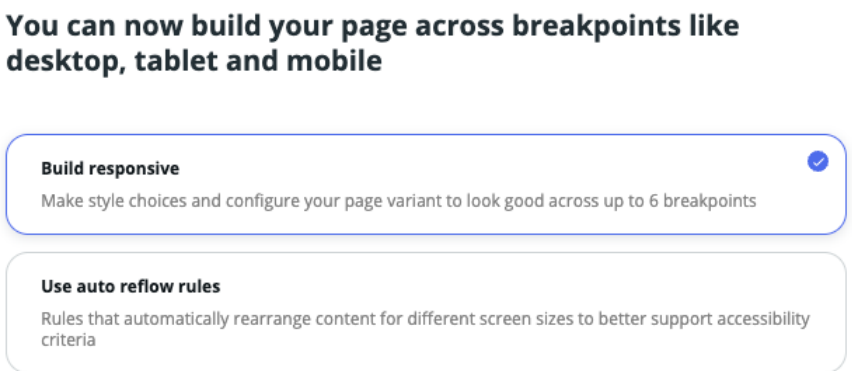
   b. ページのオプションのパラメーターを入力します。
   必須パラメーターとは異なり、オプションのパラメーターは、常に、指定された順序に関係なく機能する名前と値のペアです。

詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

10. [よさそうです]を選択します。
11. ページバリアントの名前を入力します。
フォームには自動的に [デフォルト] が含まれますが、ページバリアント名を編集できます。
12. オプション: このページの対象者を 1 人以上追加します。
必要な対象者がリストにない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] リンクを選択して作成できます。
13. オプション: 用意されているドロップダウンメニューを使用するか、エンコードされたクエリ文字列を記述して、ページを表示するタイミングに関する条件を宣言します。

    (Optional) エンコードされたクエリの記述の詳細については、「エンコードされたクエリ文字列」を参照してください。

14. [続行] を選択します。
15. [レスポンシブをビルド **(Build responsive)]** オプション (デフォルト) を選択して、さまざまな画面フォームファクターでのページの表示方法をより詳細に制御するか、[自動リフロールールを使用 **(Use auto reflow rules)]** を選択して自動調整します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳しくは、「Responsive authoring (レスポンシブオーサリング)」を参照してください。

16. [作成] を選択して空白のページを作成します。
ページがエディタービューで開くので、レイアウトやコンポーネントなどのコンテンツの追加を開始できます。詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

テンプレートからのページの作成

テンプレートを使用して、事前定義されたページテンプレートに基づいてページを作成します。ページテンプレートは、ページをより迅速に作成し、エクスペリエンス内でページの一貫性を維持するのに役立ちます。ページテンプレートには、コンポーネント、データリソース、およびレイアウトが含まれる場合があります。

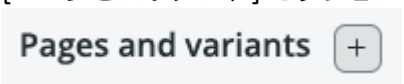
このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。 このビデオでは、UI ビルダーエクスペリエンス内でテンプレートからページを作成する方法を説明します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

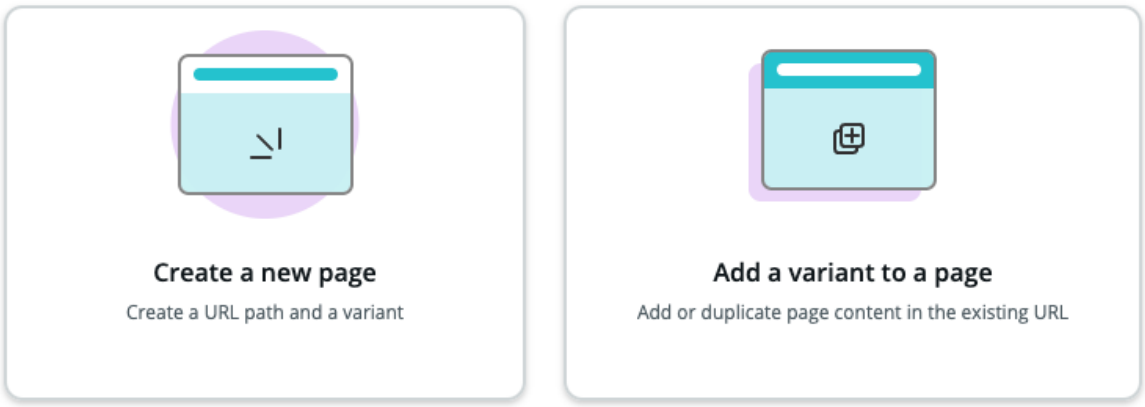
このタスクについて
エクスペリエンスでページを作成するときに、ページテンプレートを選択します。テンプレートからページを作成した後に、必要に応じてページをカスタマイズできます。ページテンプレートには、コンポーネントプリセットで使用できるコントローラーが含まれています。詳細については、「コントローラーを使用した UI ビルダー ページへのデータのバインド (高度な機能)」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. [ページとバリアント] セクションで **[+]** アイコンを選択します。

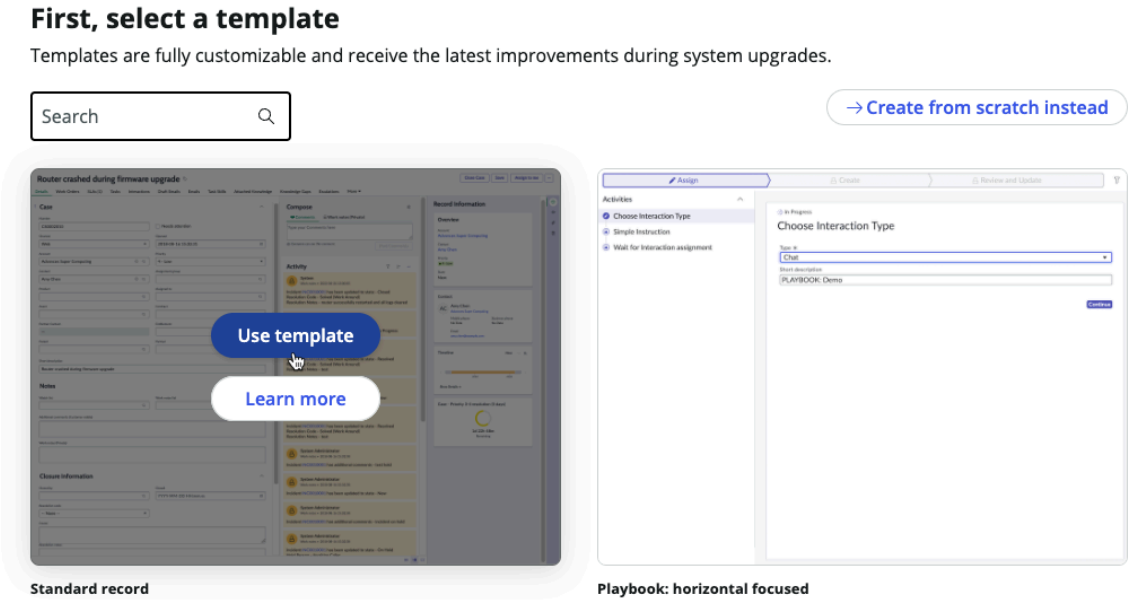


4. [新規ページの作成] を選択します。



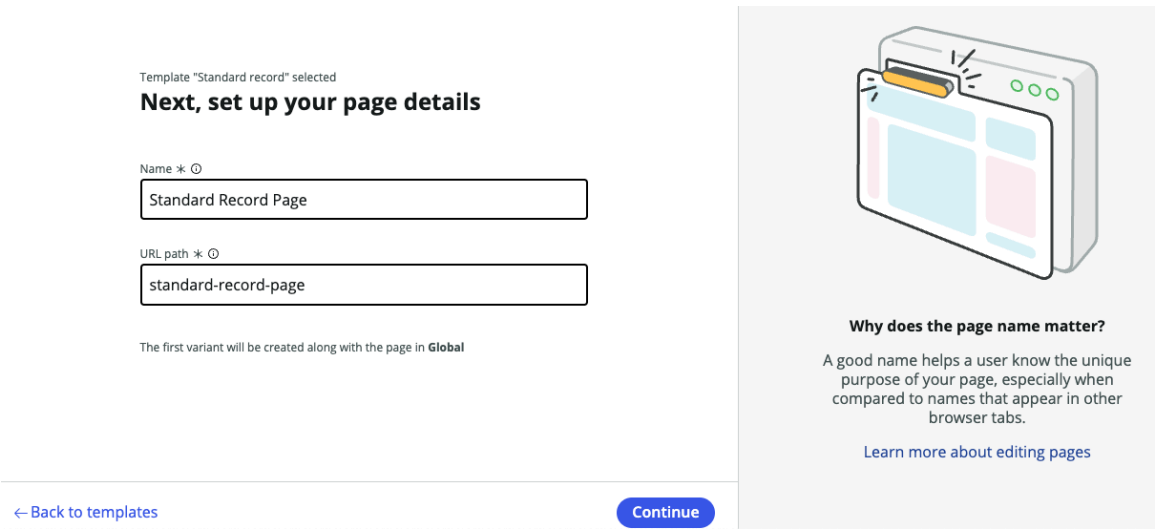
5. 使用するテンプレートを指定する際は、[テンプレートを使用] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. [名前] フィールドにページの一意の名前を入力します。
7. [パス] フィールドにページのパスを指定します。UI ビルダー は、前のステップで指定した名前に基づいてデフォルトのパスを生成します。

   デフォルトのパスは、ページ名に基づいて追加されます。独自のパスを作成することもできます。パスは必須で、一意になっている必要があります。パスには数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、語の間はスラッシュまたはハイフンで区切られます。**[URL** プレビュー] にはページのパスが表示されます。



> **注:** アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

8. [続行] を選択します。
9. テンプレートに記載されているページのパラメーターを確認します。
   必須およびオプションのページパラメーターの詳細については、ServiceNow 開発者 Web サイトの「ページパラメーターの追加」を参照してください。
10. [よさそうです]を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

11. ページバリアントの名前を入力します。
最初に作成するバリアントには、デフォルトで [デフォルト] という名前が付けられます。
12. このページの対象者を 1 人以上追加します。
必要な対象者がリストにない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] リンクを選択して作成できます。
13. オプション: 用意されているドロップダウンメニューを使用するか、エンコードされたクエリ文字列を記述して、ページを表示するタイミング (このバリアント) に関する条件を宣言します。

    (Optional) エンコードされたクエリの記述の詳細については、「エンコードされたクエリ文字列」を参照してください。

14. [作成] を選択して、テンプレートからページを作成します。
作成したページは、エクスペリエンスの [ページとバリアント] セクションに表示されます。[エディター] を選択して、ページへのコンポーネントの追加を開始します。詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

従来のテンプレートからのページの作成

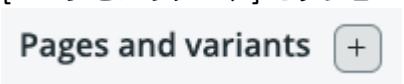
従来のページテンプレートを使用して、ワークスペースまたはポータルのページに対して、ページ定義 (レコード、リストページなど) を再利用します。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。 このビデオでは、UI ビルダーエクスペリエンスで従来のテンプレートからページを作成する方法を説明します。

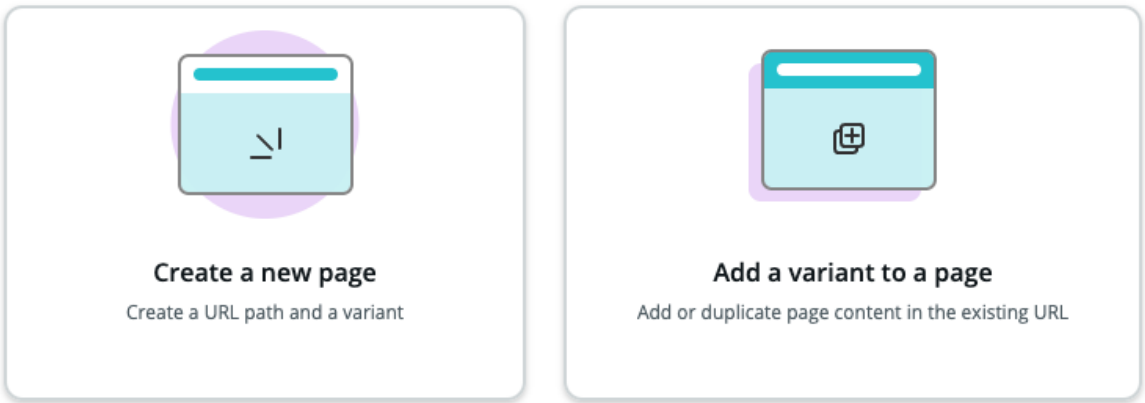
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. [ページとバリアント] セクションで **[+]** アイコンを選択します。

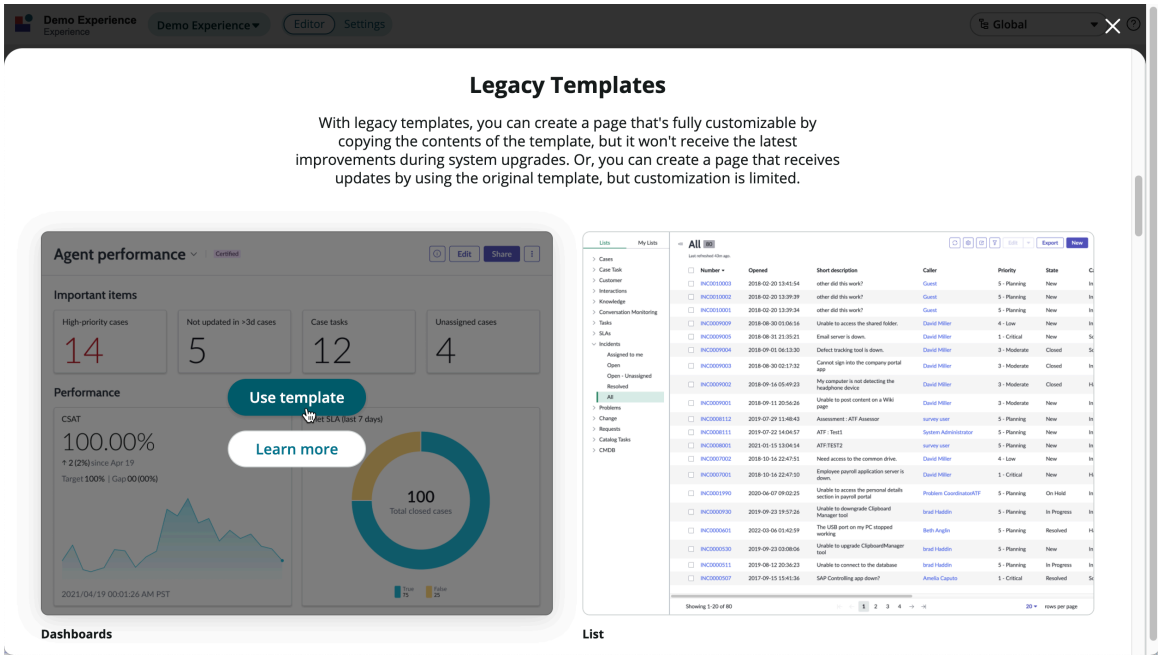


4. [新規ページの作成] を選択します。



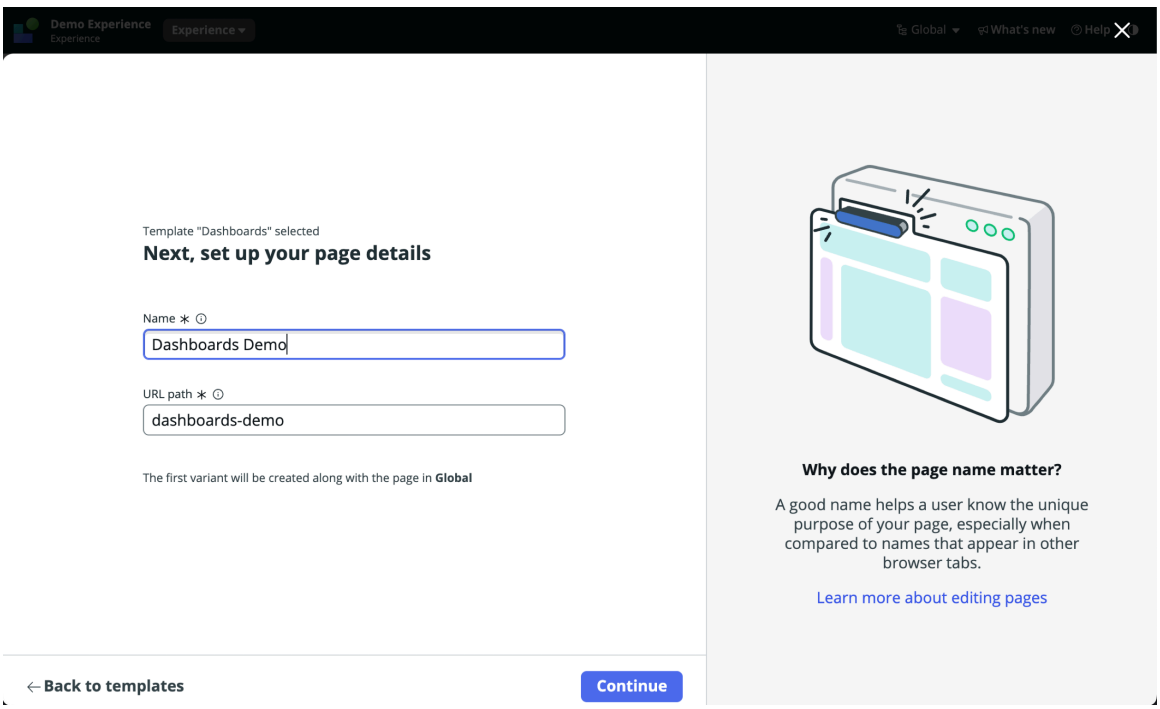
5. 使用するテンプレートを選択する際は、[テンプレートを使用] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. [名前] フィールドにページの一意の名前を入力します。
7. [パス] フィールドにページのパスを指定します。UI ビルダー は、前のステップで指定した名前に基づいてデフォルトのパスを生成します。

   デフォルトのパスは、ページ名に基づいて追加されます。独自のパスを作成することもできます。パスは必須で、一意になっている必要があります。パスには数字 (0 ～ 9)、文字 (A ～ Z、a ～ z)、およびいくつかの特殊文字 (「-」、「.」、「_」、「~」) を含めることができ、語の間はスラッシュまたはハイフンで区切られます。**[URL** プレビュー] にはページのパスが表示されます。



> **注:** アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

8. 使用する基本のページテンプレートを選択します。

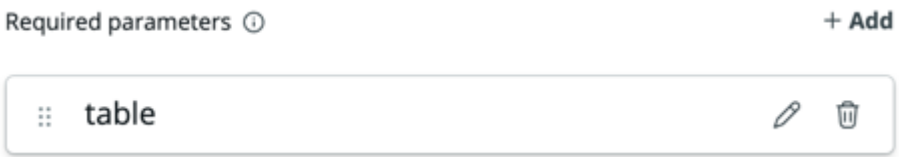
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレートとそのデータを参照する場合は、[元のページを使用 (カスタマイズ制限あり)] を選択します。[ページのコンテンツをコピー (完全カスタマイズ済み)] を選択して、ページテンプレートのコンテンツをコピーします。ページテンプレートを参照すると、新しいリリースにアップグレードしたときにページが自動的に更新されます。ページテンプレートをコピーすると、アップグレード後にページが更新されません。

9. [続行] を選択します。
10. オプション: ページの URL に必須パラメーターを追加します。

    a. **[+** 追加] をクリックします。

    b. ページの必須パラメーターを入力します。
    必須パラメーターは、sys_id、テーブル、クエリなどのページに必要なデータです。必須パラメーターは、必須パラメーターの値にバインドできるため、コンポーネントに役立ちます。



    必須およびオプションのページパラメーターの詳細については、ServiceNow 開発者 Web サイトの「ページパラメーターの追加」を参照してください。

11. オプション: ページの URL に追加したいオプションのデータを追加します。

    a. **[+** 追加] をクリックします。

    b. ページのオプションのパラメーターを入力します。
    必須パラメーターとは異なり、オプションのパラメーターは、常に、指定された順序に関係なく機能する名前と値のペアです。

    詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

12. [よさそうです]を選択します。
13. ページバリアントの名前を入力します。
フォームのページ名に、[デフォルト] が自動的に追加されます。
14. このページの対象者を 1 人以上追加します。
必要な対象者がリストにない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] リンクを選択して作成できます。
15. オプション: 用意されているドロップダウンメニューを使用するか、エンコードされたクエリ文字列を記述して、ページを表示するタイミングに関する条件を宣言します。

    (Optional) エンコードされたクエリの記述の詳細については、「エンコードされたクエリ文字列」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

16. [作成] を選択して空白のページを作成します。
作成したページは、エクスペリエンスの [ページとバリアント] セクションに表示されます。[エディター] を選択して、ページへのコンポーネントの追加を開始します。詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

ページの編集

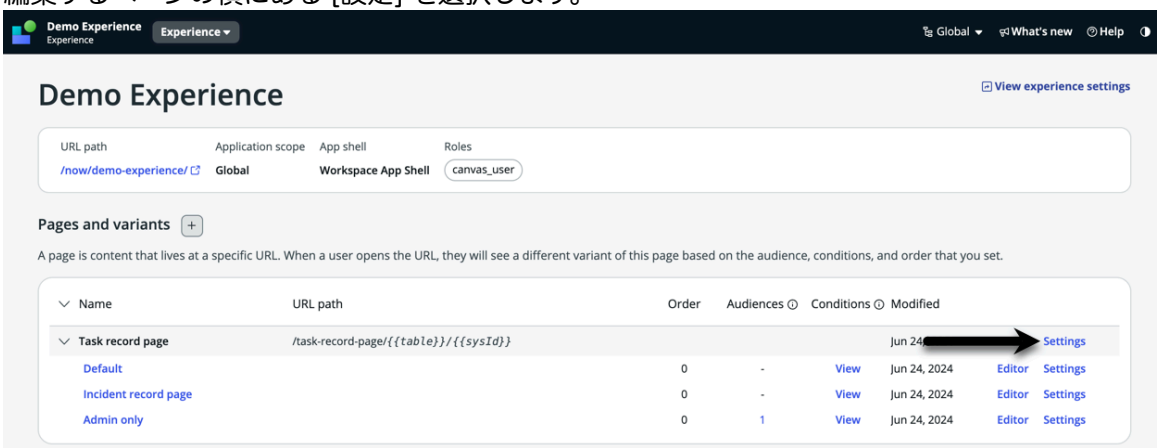
ページを編集して、ページ名、パス、およびパラメーターを変更します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

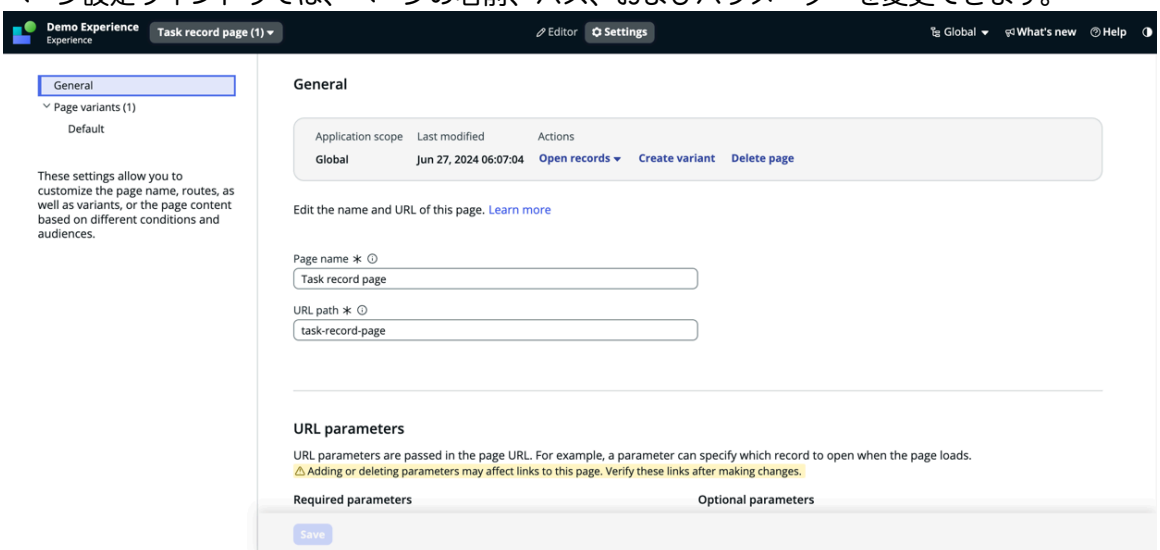
このタスクについて
ページ設定を編集して、ページの名前とパスを変更します。これは、ページの作成後に名前またはパスを変更する必要がある場合に役立ちます。ページが別のアプリケーションスコープにある場合は、元のスコープで編集できます。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 編集するページを含むエクスペリエンスを開きます。
3. 編集するページの横にある [設定] を選択します。



4. ページ設定ウィンドウでは、ページの名前、パス、およびパラメーターを変更できます。

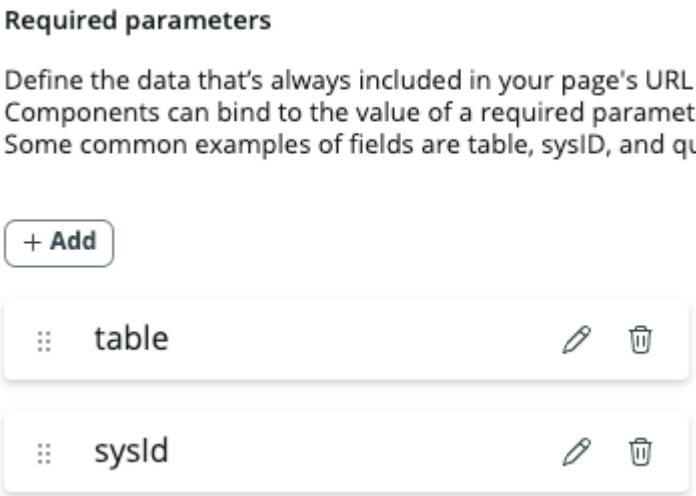


5. オプション: ページの URL に必須パラメーターを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. **[+** 追加] をクリックします。

b. ページの必須パラメーターを入力します。
必須パラメーターは、sys_id、テーブル、クエリなどのページに必要なデータです。必須パラメーターは、必須パラメーターの値にバインドできるため、コンポーネントに役立ちます。



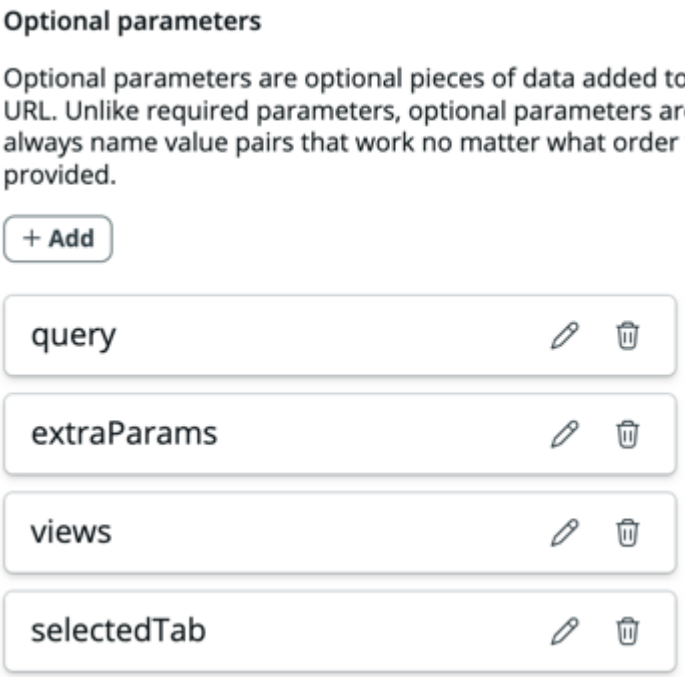
(Optional)
詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

6. オプション: ページの URL に追加したいオプションのデータを追加します。

a. **[+** 追加] をクリックします。

b. ページのオプションのパラメーターを入力します。
必須パラメーターとは異なり、オプションのパラメーターは、常に、指定された順序に関係なく機能する名前と値のペアです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



(Optional)

詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

7. [保存] をクリックします。

UI ビルダー ページの対象者を追加

ページまたはページバリアントに 1 つ以上の対象者を追加します。

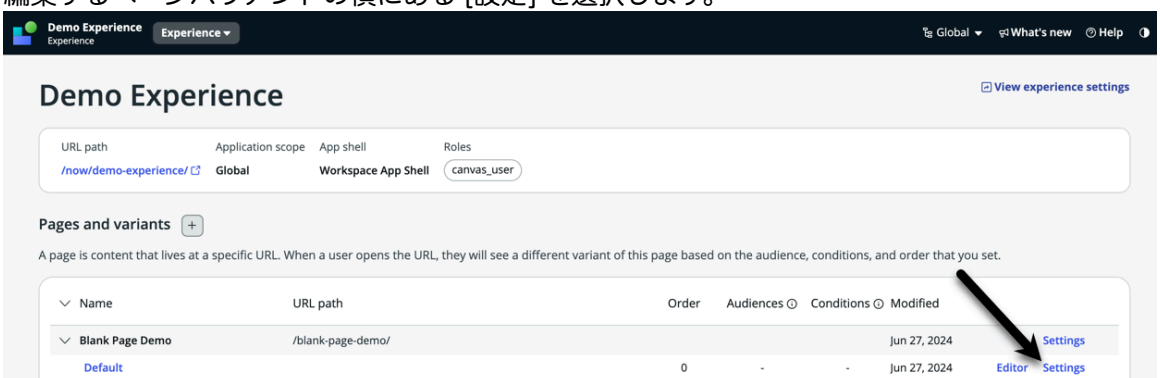
始める前に

必要なロール：admin

ロール、部門、グループ、場所、または会社に基づいてユーザーのアクセス権を設定するには、*glide.ux.user_criteria_enabled* プロパティを **true** に設定する必要があります。詳細については、「ユーザー基準プロパティの有効化」を参照してください。

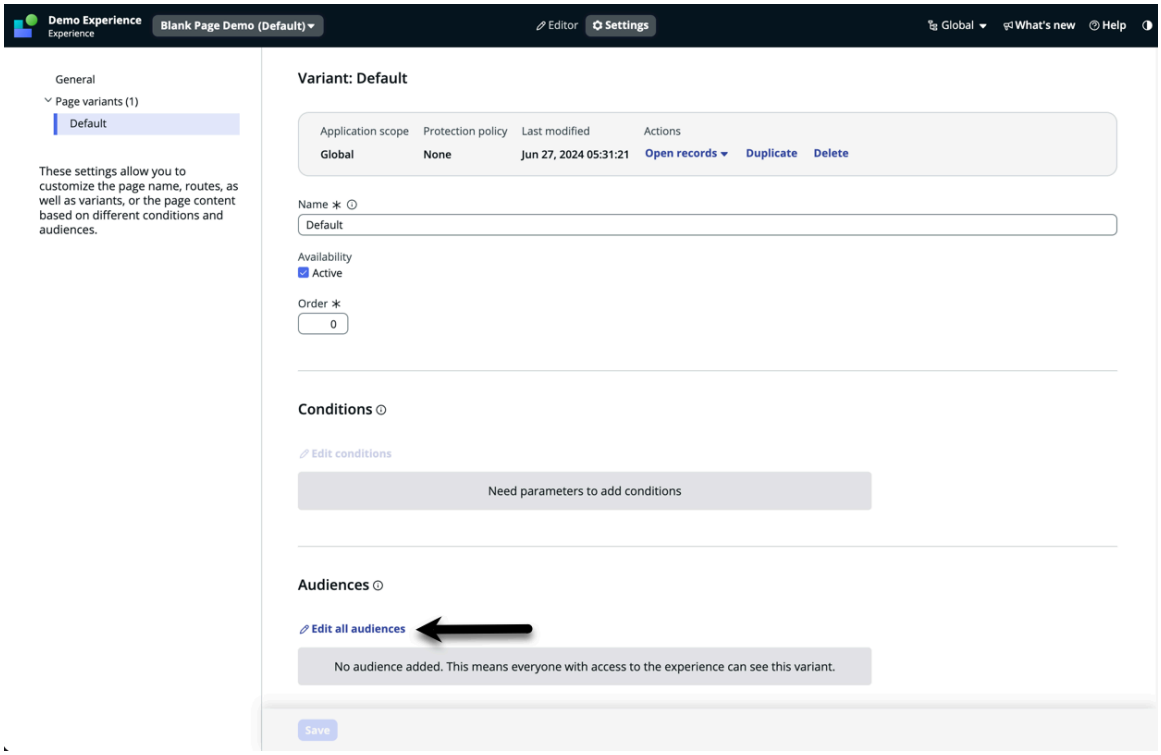
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 編集するページを含むエクスペリエンスを開きます。
3. 編集するページバリアントの横にある [設定] を選択します。

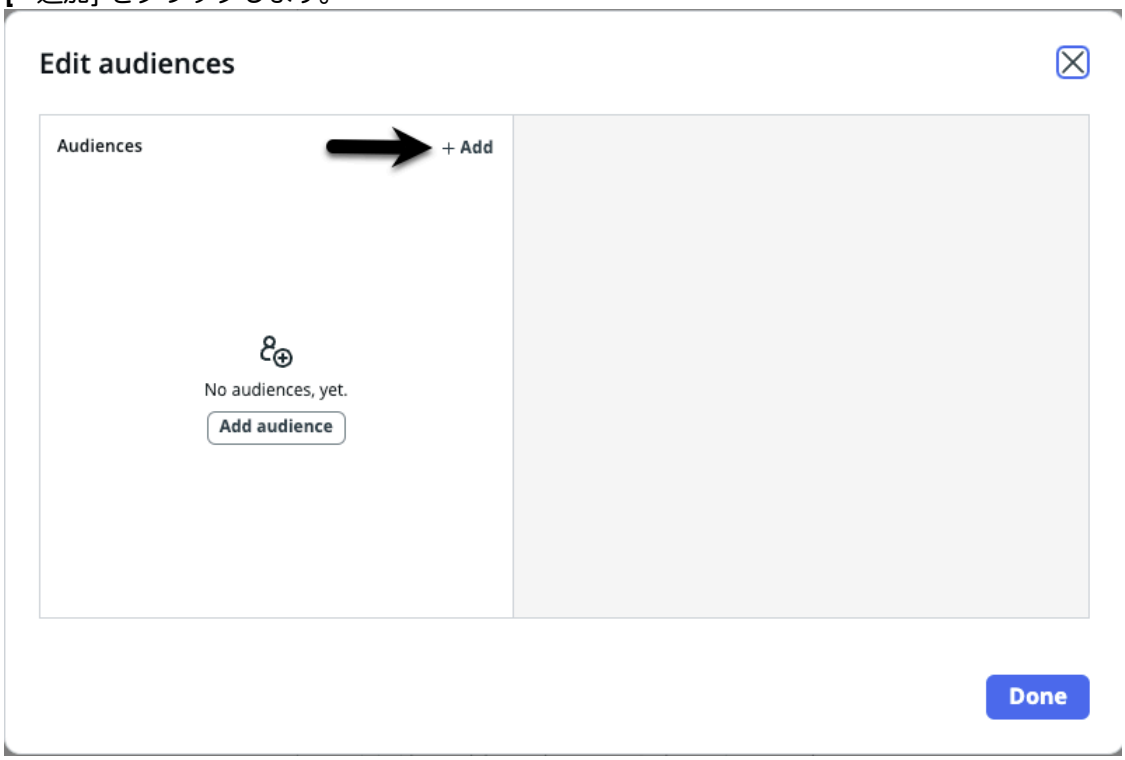


4. ページバリアント設定ウィンドウで、[すべての対象者を編集] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

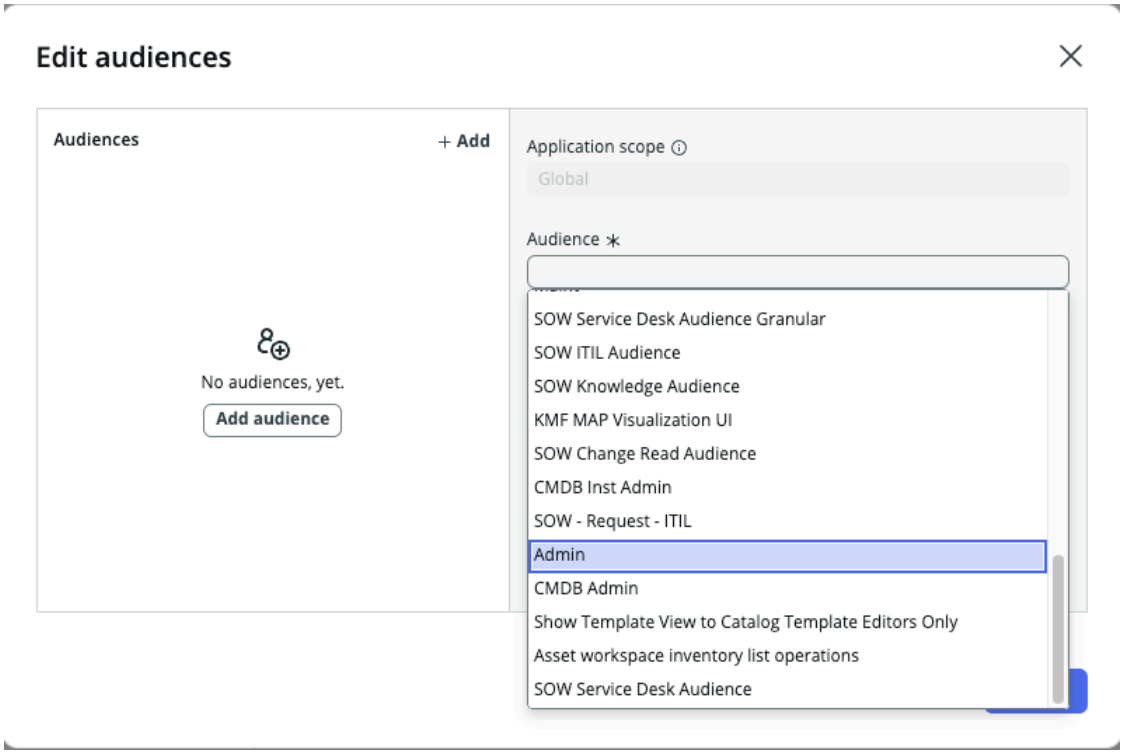


5. **[+** 追加] をクリックします。



6. [対象者] フィールドで対象者を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



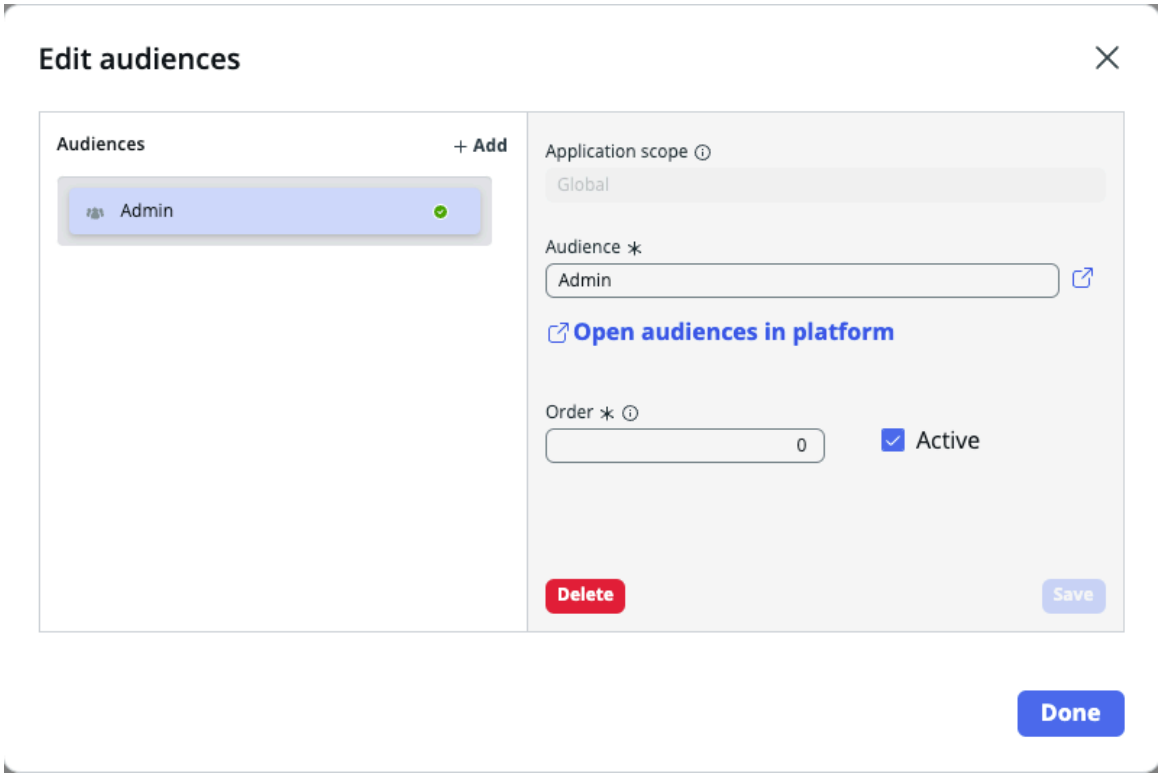
注: 必要な対象者がリストにない場合は、[プラットフォームで対象者を開く] リンクを選択して作成できます。

7. 対象者の順番を設定します。

注: ある対象者の優先度を高くするには、低い数値を入力します。ユーザーが複数の対象者の 1 人である場合、優先度が最も高い対象者が採用されます。

8. 対象者がページを表示できるようにする場合は、[有効] をオンにします。
9. [保存] を選択します。
対象者が [対象者] リストに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



10. **[Done** (完了)] を選択します。

ユーザー基準プロパティの有効化

UI ビルダー でロール、部門、グループ、場所、または会社に基づいてユーザーのアクセス権を設定するには、ユーザー基準プロパティを有効にします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[sys_properties.list]** に移動します。
2. *glide.ux.user_criteria_enabled* プロパティを選択します。
3. [値] フィールドで **true** を指定します。
4. [更新] をクリックします。

次のタスク

UI ビルダー でページに対象者を追加します。詳細については、「UI ビルダー ページの対象者を追加」を参照してください。

ページ内の値をテスト

テストデータをページに取り込む方法として、テスト値を URL に追加します。

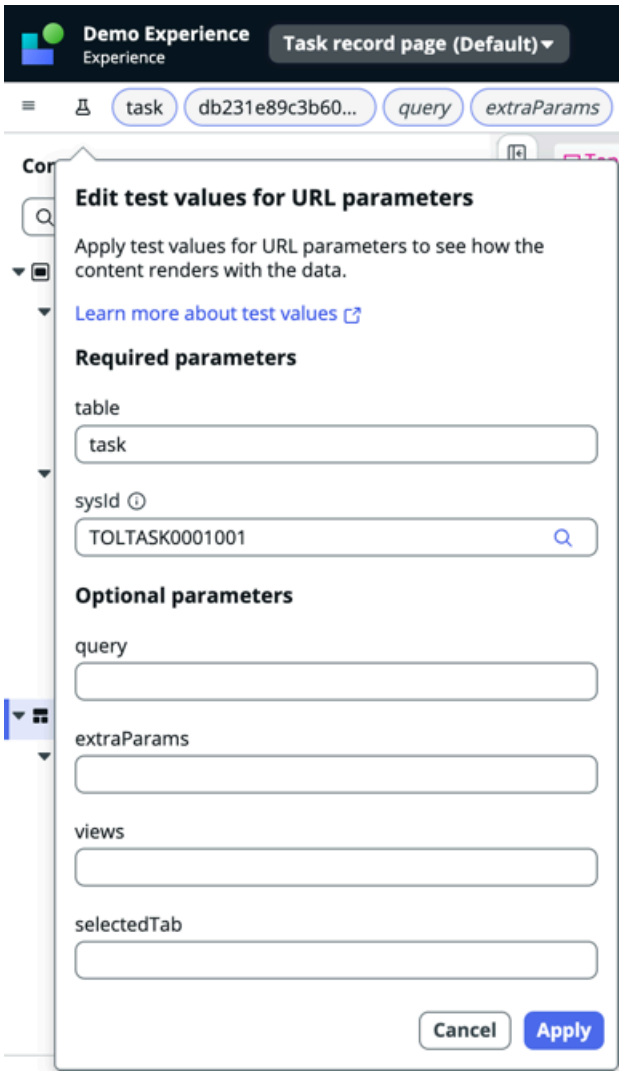
実際のデータでページをテストする方法として、テスト値を使用して必須およびオプションの URL パラメーターの値を指定します。

テスト値は、ページが URL から必須またはオプションのパラメーターを取得するときの動作をシミュレートするために使用できるため、重要です。UI ビルダー URL は、ページをプレビューするときの URL と同じではありません。したがって、UI ビルダー には、プレビュー URL のさまざまな状況で、ページに何が起きるかをシミュレートする方法が必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

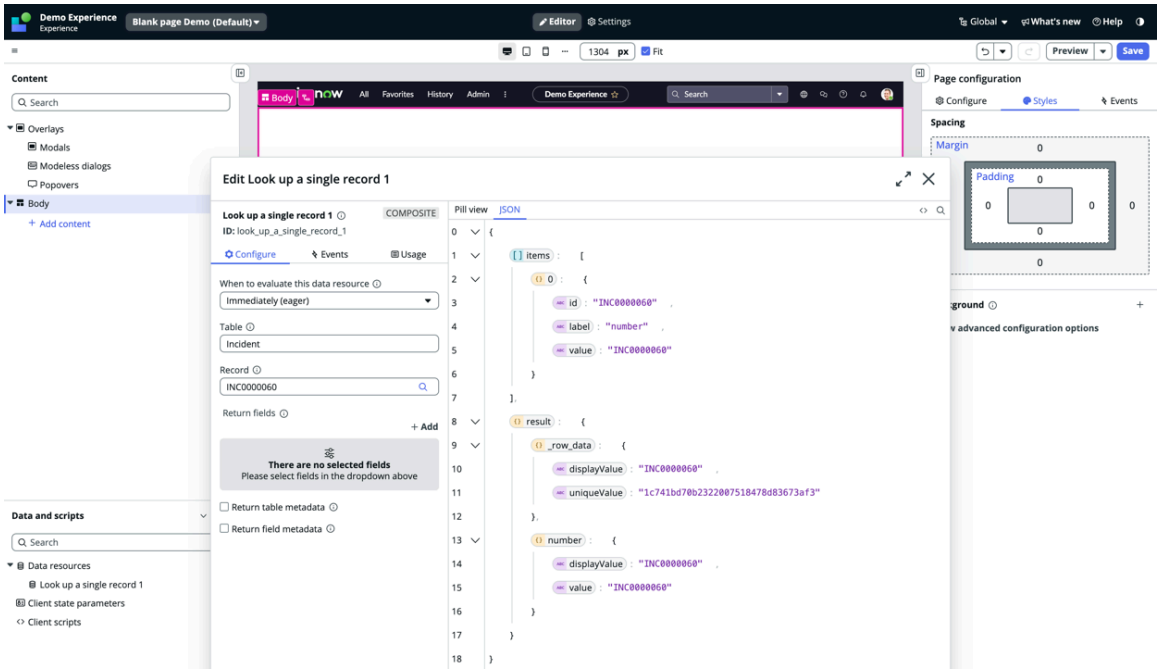
たとえば、単一レコードのフォームを表示するレコードページをビルドしているとします。レコードページをロードするには、適切なレコードを取得して表示できるように、ページの URL に <table> および <sysId> が必要です。この UI ビルダー では、ページをプレビューしたときにページがどのように表示されるかを確認できるように、table と sys_id のテスト値を指定する必要があります。

テスト値を取得してデータを表示するには、データリソースを追加してから、レコードを URL のテスト値にバインドするようにデータリソースを構成します。たとえば、`incident` をテスト値として追加できます。



次に、**Look Up Record** という名前のデータリソースを追加します。[テーブル] フィールドで、次の画像に示すように、インシデントテスト値を `context.props.table` テーブルに動的にバインドします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



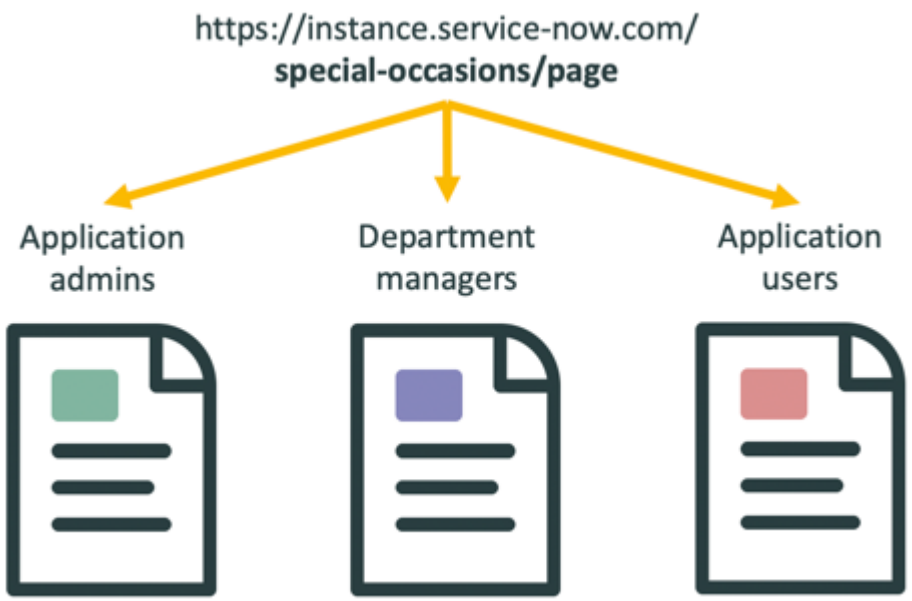
ページバリアントの作成

UI ビルダー のページバリアントとは、ユーザー基準を使用してさまざまな対象者をターゲットにできる、同じパスにあるページのバリエーションのことです。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。 このビデオでは、ページバリアントの作成方法を説明します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
UI ビルダー でページのバリアントを作成する方法を学習します。ページのバリアントは、さまざまな対象者をターゲットとしたコンテンツを含むページに基づいています。たとえば、エージェント用のホームページと、それらのエージェントのマネージャー用のページのバリアントを作成できます。このバリアントは同じ URL に存在します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

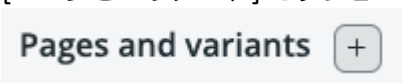
- アプリケーションアドミニストレーターに属するユーザーがページ URL にアクセスすると、アプリケーションメトリクスや使用状況の詳細など、アプリケーションアドミニストレーター固有の詳細を含むバージョンのページが表示されます。Special Occasions アプリケーションの場合、このページには、誕生日や仕事の記念日があるユーザーとそうでないユーザーの人数が表示されます。このページには、特別な機会に報告された問題の数も表示されます。

- 部門マネージャー対象者に属するユーザーがページ URL にアクセスすると、アプリケーションの部門関連情報 (誕生日や仕事の記念日が近づいている部門のユーザーや、それらのユーザーが特別な機会を共有しても問題ないかどうかなど) が表示されます。

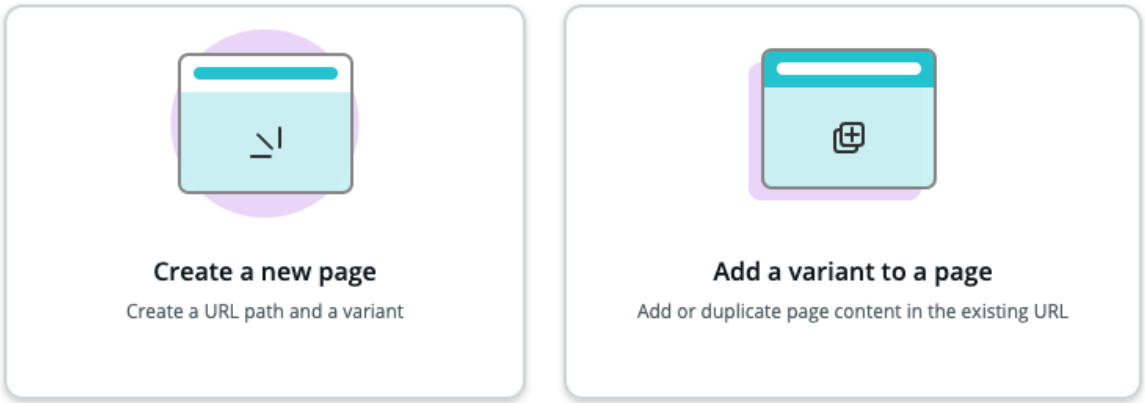
- アプリケーションユーザー対象者に属するユーザーがページ URL にアクセスすると、自分に特別な機会のあるユーザー専用バージョンのページが表示され、自分の特別な機会を他のユーザーに表示するかどうかを構成できます。

手順

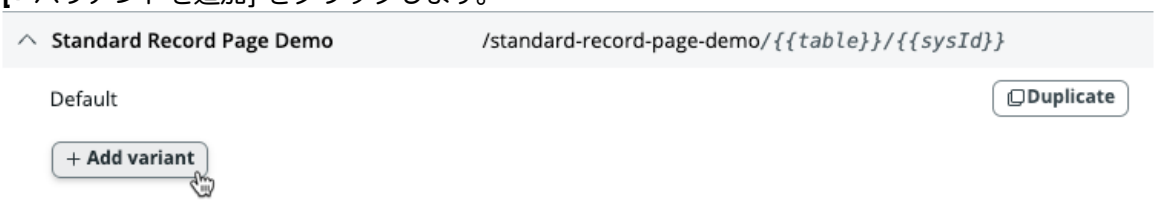
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー] に移動します。
2. バリアントを作成するページのエクスペリエンスを開きます。
3. [ページとバリアント] セクションで **[+]** アイコンを選択します。



4. [バリアントをページに追加] を選択します。



5. **[+** バリアントを追加] をクリックします。



6. [代わりにゼロからビルドする] をクリックするか、使用するテンプレートをポイントして [テンプレートを使用] を選択します。
7. バリアントページの名前を入力します。

   名前は、ページ名と同じ名前にも、任意の名前にもすることができます。

   注: アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが Now Platform® 内で存在しているスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [対象者を追加] を選択して、バリアントページの対象者を 1 つ以上指定します。
   対象者は、それによってページバリアントを特定のロールやグループに割り当てることができるため、重要です。必要な対象者がリストにない場合は、 [利用可能なすべての対象者を表示]を選択し、[新規] を選択して対象者を作成します。
9. 用意されているドロップダウンメニューを使用するか、エンコードされたクエリ文字列を記述して、ページを表示するタイミングに関する条件を宣言します。

   条件の宣言の詳細については、「ページバリアントの条件の制御」を参照してください。エンコードされたクエリの記述の詳細については、「エンコードされたクエリ文字列」を参照してください。
10. ページを最初から作成する場合は、[続行] を選択し、[レスポンシブをビルド **(Build responsive)]** オプション (デフォルト) を選択します。
11. [作成] をクリックしてページバリアントを作成します。

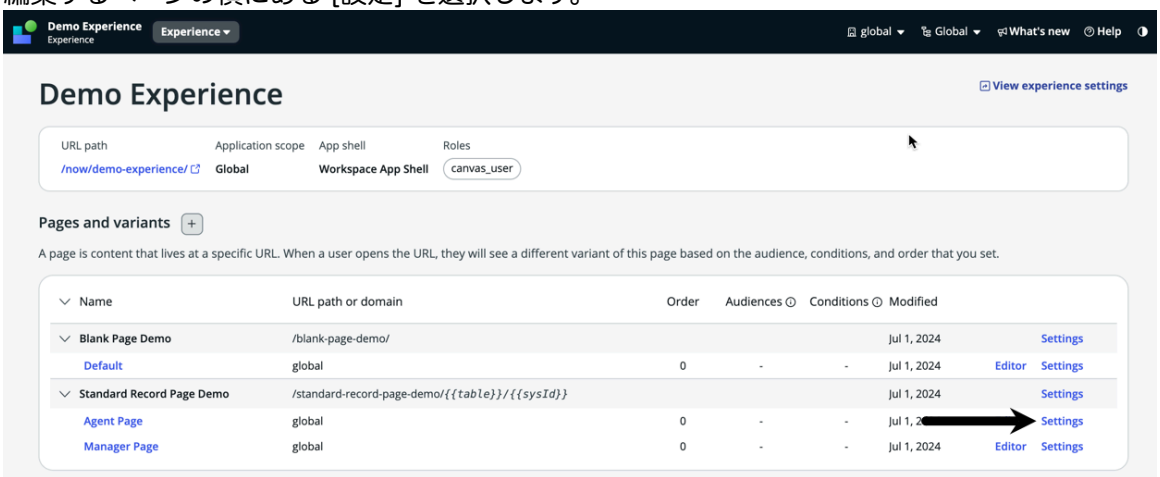
ページバリアントの設定を編集

ページバリアント設定を編集して、ページバリアントをユーザーに表示するタイミングを決定する条件を追加します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
ページバリアント設定をカスタマイズして、ページバリアントを表示するユーザーを設定します。対象者を追加および削除したり、条件を編集してページのバリアントを表示するタイミングを決定したりすることができます。条件が評価できるのは、リストされたパラメーターのみです。条件は、順序の設定、およびページのバリアントを表示するために満たす必要がある基準を設定するクエリ文字列の追加に基づいたものになります。すべてが同じ条件を持つ複数のページバリアントがある場合、バリアントはこの順序設定に従います。次のタスクは、バリアントの条件と順序を設定する方法を示しています。

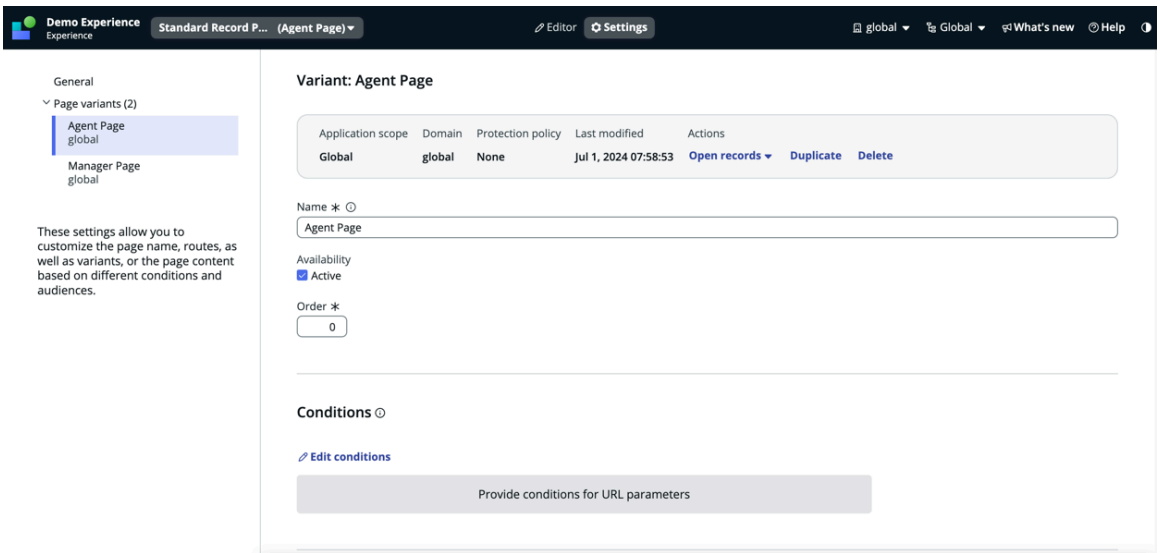
手順
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 編集するページバリアントを含むエクスペリエンスを開きます。
3. 編集するページの横にある [設定] を選択します。



4. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	ページのバリアントの名前を入力します。
可用性	選択した対象者がページのバリアントを表示できるようにするには、[有効] を選択します。
順番	[順番] フィールドに条件の順番を追加します。特定の条件の優先度を他よりも高くしたい場合があります。数値が小さいほど、優先度は高くなります。
条件	ページを表示するタイミングに関するルールを設定します。詳細については、「ページバリアントの条件の制御」を参照してください。
対象者	ページバリアントの対象者を追加または削除します。詳細については、「対象者について学習する」を参照してください。



5. [保存] をクリックします。

ページバリアントの条件の制御

ページバリアントが表示されるタイミングを決定する条件を設定し、基準を管理します。UI ビルダーのページバリアントを使用して、さまざまなバージョンのページを作成し、特定の対象者向けにコンテンツをカスタマイズできます。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

すべてが同じ条件を持つ複数のページバリアントがある場合、バリアントはこの順序設定に従います。

手順

1. ページバリアントを作成します。
   詳細については、「ページバリアントの作成」を参照してください。
2. 新しいバリアントの条件を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この例では、タスクテーブルからレコードを開いたときに表示されるページバリアントを構成します。

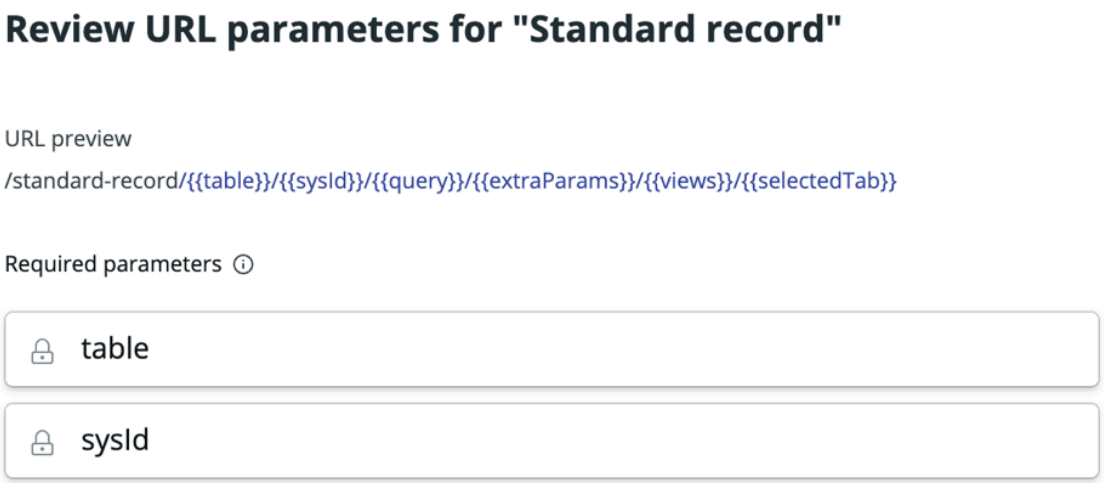
a. [最初にテンプレートを選択してください] 画面で、[標準レコード] テンプレートを見つけて、[テンプレートを使用] を選択します。

> **注:** 条件は、追加されたパラメーターのみを評価できます。この例では、[標準レコード] テンプレートに *table* パラメーターと *sys_id* パラメーターが含まれています。

b. ページの名前を入力し、[続行] を選択します。

c. URL パラメーターを確認し、[問題なし] を選択します。

table と *sysId* が必須パラメーターとして追加され、URL プレビューに表示されます。



d. [バリアントについて教えてください] 画面で、バリアントの名前を入力します。

e. [フォーム] セクションで、フィールドに入力します。

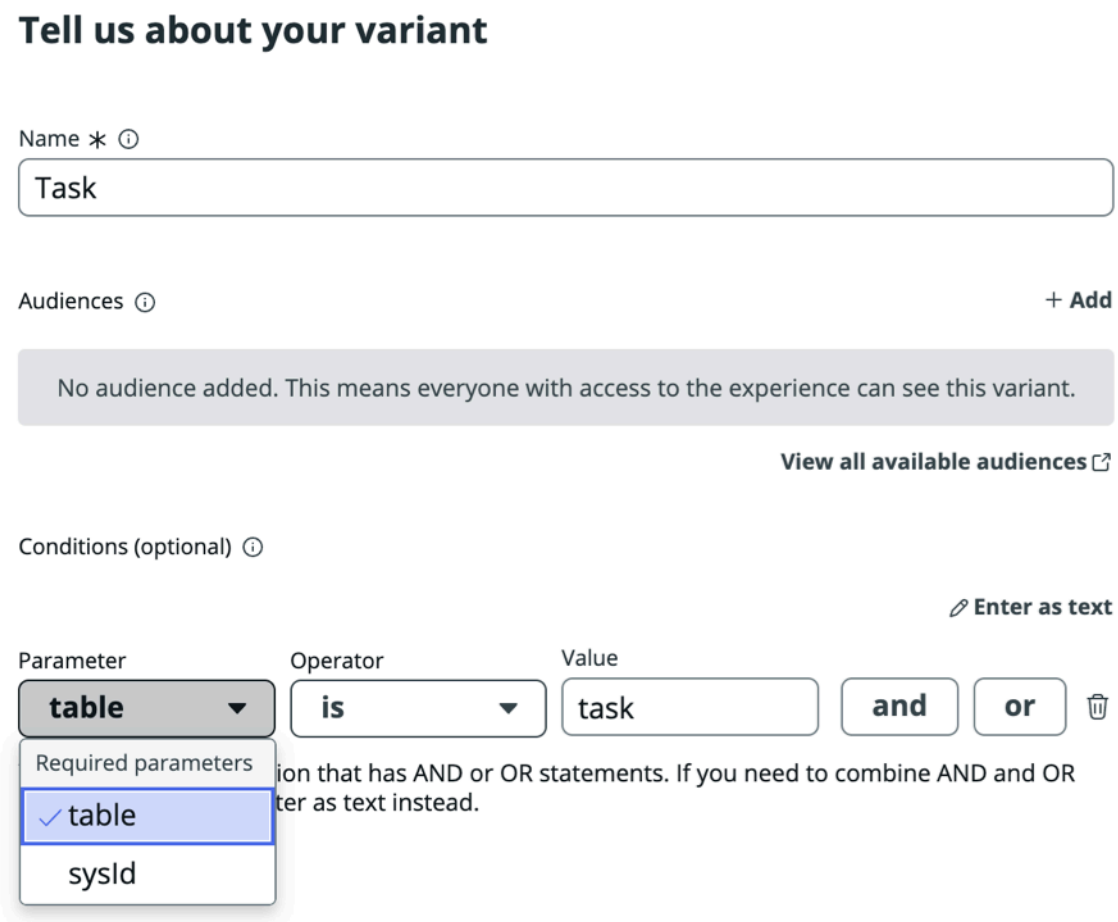
バリアントの条件フォームセクション

フィールド	説明	例
パラメーター	確認するアスペクトまたは属性。	*table*、*sys_id* **注:** 条件は追加されたパラメーターのみを評価できます。ただし、サブページ用に記述された条件は、親ページコントローラーから追加の出力を継承し、より広い範囲のパラメーターオプションを提供します。
演算子	パラメーターと値を比較するルール。比較がどのように行われるかを示します。	**is、is not、starts with**

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明	例
値	パラメーターと比較する数値、テキスト、またはオプション入力。	`"Incident"`、`"12345"`、`"Active"`、`"Change Request"`

注: *`table`* パラメーターと *`sysId`* パラメーターは、[標準レコード] テンプレートの一部として必須のパラメーターのため、[パラメーター] フィールドで使用できるオプションです。



f. [作成] を選択します。

3. バリアントに対して作成された条件を確認します。
   a. [エクスペリエンス] ビューで、条件を表示するバリアントを見つけます。
   b. [表示] ボタンを選択して、そのバリアントに設定された条件を表示します。
4. バリアントの既存の条件を編集します。
   a. [エクスペリエンス] ビューから、条件を編集するバリアントを見つけます。
   b. [設定] を選択します。
   c. [条件] で [条件を編集] を選択します。

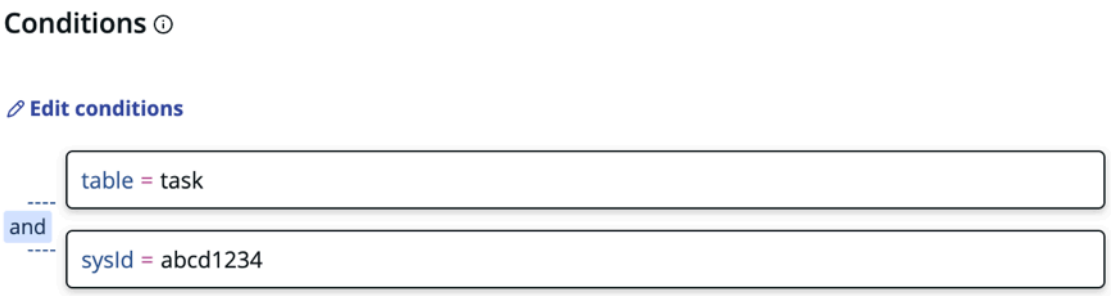
   以前設定した条件が表示されます。これらのフィールドを更新できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. 別の条件を追加し、基準を指定するには、[バリアント条件を編集 **(Edit variant conditions)]** 画面で、条件の横にある **[and]** ボタン (and) または **[or]** ボタン (or) を選択します。

たとえば、次の **[AND]** 条件 (**[sysId] [is]** `[abcd1234]`) を追加することで、sys_id abcd1234 のタスクテーブルからレコードにアクセスしたときに表示されるページバリアントを構成します。

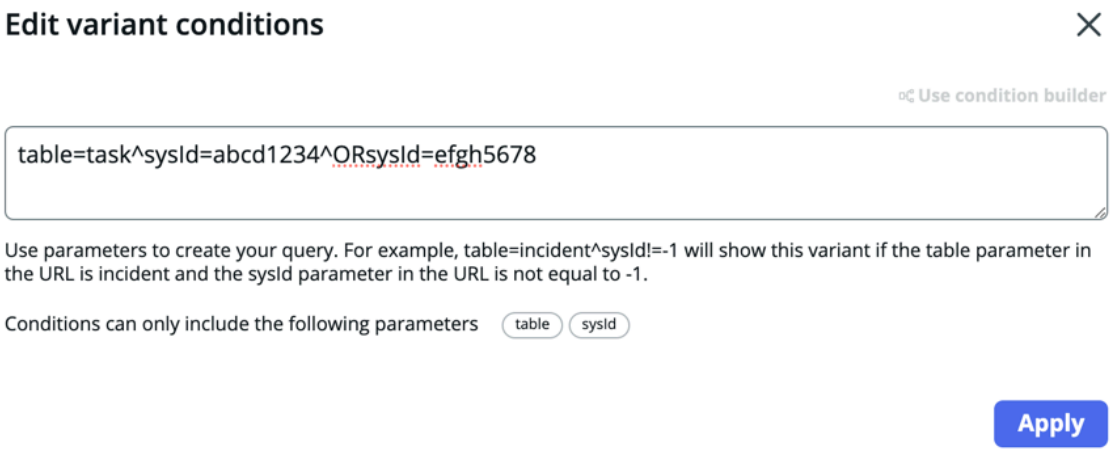
> **注:** **[AND]** 条件または **[OR]** 条件を追加できます。両方のタイプを混在させるには、エンコードされたクエリを記述する必要があります。



e. オプション: [テキストとして入力 **(Enter as text)]** を選択して、基準を指定するエンコードされたクエリを記述します。

(Optional) [バリアント条件を編集 **(Edit variant conditions)]** 画面には、エンコードされたクエリフィールドが表示され、以前設定した条件がエンコードされたクエリフォーム (`table=task^sysId=abcd1234`) で表示されます。

たとえば、次の「OR」条件 (`^ORsysId=efgh5678`) を追加することで、abcd1234 または efgh5678 のいずれかの sys_id を持つタスクテーブルからレコードにアクセスしたときに表示されるページバリアントを設定します。エンコードされたクエリの記述の詳細については、「エンコードされたクエリ文字列」を参照してください。



レスポンシブオーサリング

レスポンシブオーサリングを使用して、デスクトップ、タブレット、モバイルなどのさまざまなフォームファクター (サイズ) に合わせてスムーズに調整される UI ビルダー ページを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー のレスポンシブオーサリング

レスポンシブオーサリングを使用すると、どのフォームファクターでも外観と機能に優れたページを作成でき、ユーザーがコンテンツを簡単に操作できるようになります。たとえば、ラップトップで表示するときには 3 列のページを、小さな画面では 1 列に調整できます。

UI ビルダー は現在、次の 3 つのデフォルトフォームファクターを提供しています。

- デスクトップ (1281 ピクセルから無限大)
- タブレット (1280 ピクセル以下)
- モバイル (500 ピクセルからゼロ)

これらのフォームファクターに加えて、最大 3 つの追加カスタムブレークポイント (幅) を作成できます。詳細については、「レスポンシブオーサリングのブレークポイントの作成」を参照してください。

さまざまなフォームファクターで使用できるように、ページを編集するさまざまなテクニックがあります。次のいずれかのオプションを使用します。

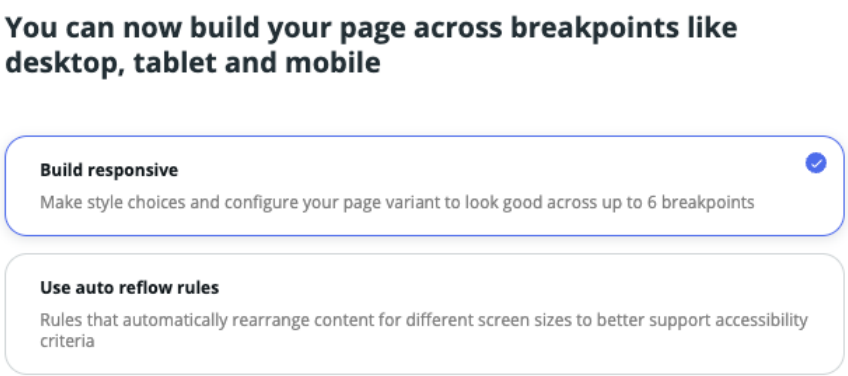
- コンポーネントを表示または非表示にする
- コンポーネント構成を変更する
- スタイルの編集
- レイアウトを再配置する

レスポンシブオーサリングとリフロー

Xanadu Store Release 1 では、UI ビルダー ページを最初から作成する場合にのみレスポンシブオーサリングを使用できます。レスポンシブオーサリングは、既存のページまたはテンプレートを使用して作成されたページでは使用できません。これらのタイプのページでは、既存のデフォルトのリフローモデルが引き続き使用され、さまざまな画面幅に合わせてページが調整されます。

リフローは、ユーザーがブラウザーのズームを 400% に拡大したときに、コンテンツや機能を失うことなく、ページレイアウトを縦長のスタックビューに自動的に変換します。この調整は、弱視のユーザーや、モニターのサイズ、デバイスの種類、照明が十分ではないなどの理由でブラウザ上の Web コンテンツが見づらいユーザーにとって便利です。

テンプレートを使用して作成された、または最初から作成されたすべての既存のページは、自動的にリフローを使用します。これで、UI ビルダー でページを最初から作成すると、追加の手順に、レスポンシブオーサリングがデフォルトで選択されていることが表示されます。[自動リフロールールを使用 **(Use auto reflow rules)]** を選択すると、代わりにリフローを使用できますが、レスポンシブオーサリングオプションを使用すると、ページの動作やさまざまなフォームファクターの外観をより詳細に制御できます。UI ビルダー におけるページの作成の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リフローの詳細については、「構成可能ワークスペースのリフロー」を参照してください。

リフローをサポートする UI ビルダー コンポーネントのリストについては、『Next Experience コンポーネントリリースノート』の「リフローのサポート」セクションを参照してください。

変更の適用とカスケード

フォームファクターに加えられたすべての変更は、より小さいすべてのフォームファクターに自動的に適用されます。たとえば、タブレットに加えられた変更は、タブレットとモバイルの両方に適用されます。ただし、その後にモバイルフォームファクターに変更を加えると、タブレットフォームファクターからのカスケード設定が上書きされます。このカスケード機能により、より小さいフォームファクターごとに特定の変更を加えることができるため、ページの外観と機能を適切に保つことができます。

注: 変更は大きなサイズにカスケードされません。たとえば、タブレットに加えられた変更はデスクトップには適用されません。

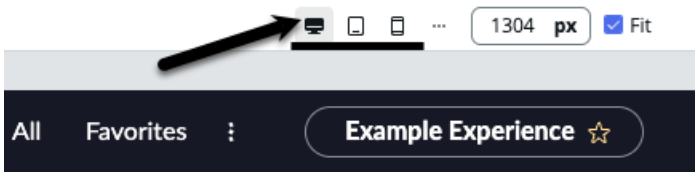
レスポンシブオーサリングとコントローラー

コントローラーをページに追加する場合、コントローラーのプロパティはグローバルであり、フォームファクターごとに設定することはできません。コントローラーの詳細については、「コントローラーを使用した UI ビルダー ページへのデータのバインド (高度な機能)」を参照してください。

ページ作成時のレスポンシブオーサリングの使用

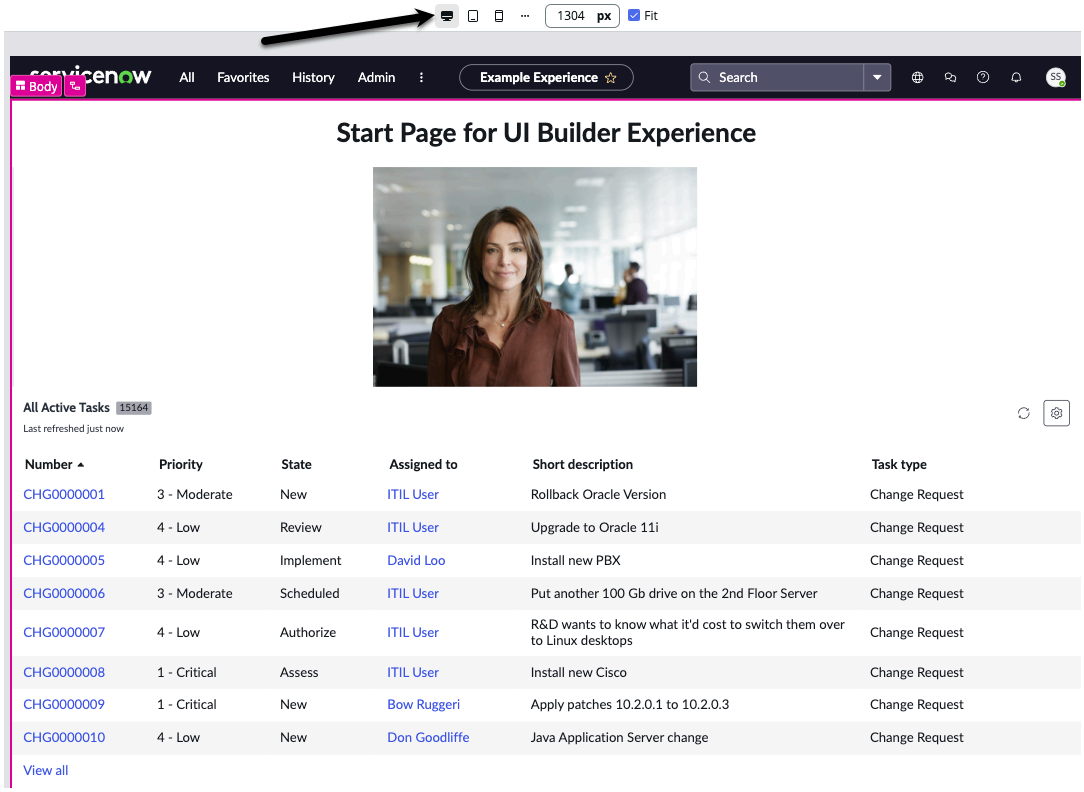
ページをビルドする際、さまざまなフォームファクターのルックアンドフィールを制御するため、カスタマイズされたデザインを作成します。

デフォルトでは、ステージで、デスクトップ用のページ (1281 ピクセルから無限大) をビルドします。別のアイコンを選択して、タブレットやモバイルなどの別のフォームファクターで、いつでもステージ上のページを表示できます。必要に応じて、新しいフォームファクターで適切に表示されるようにページを編集します。

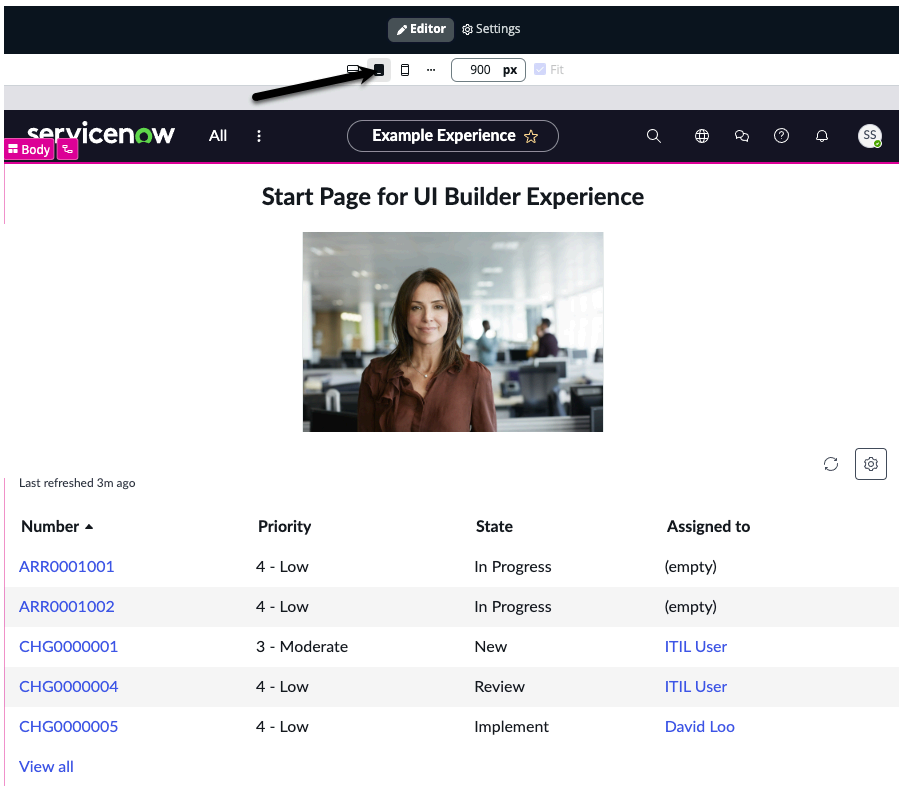


デスクトップフォームファクターでのサンプルページの外観を次に示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

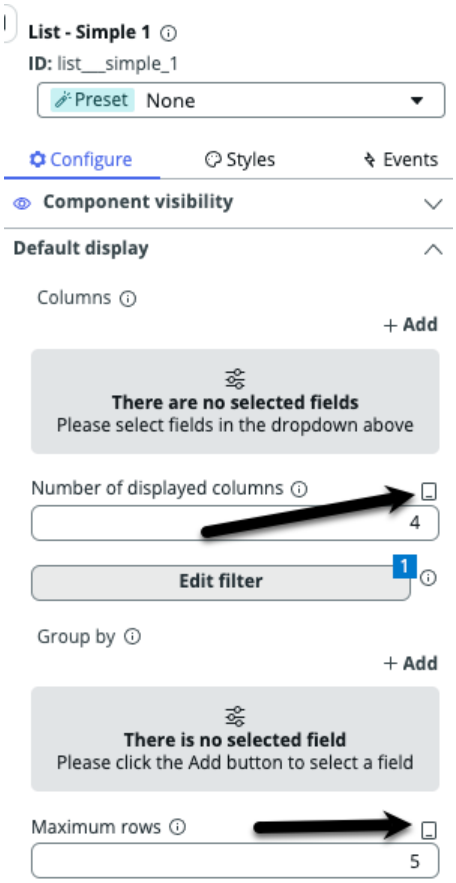


これは、タブレットのフォームファクター用にカスタマイズされた同じページです。

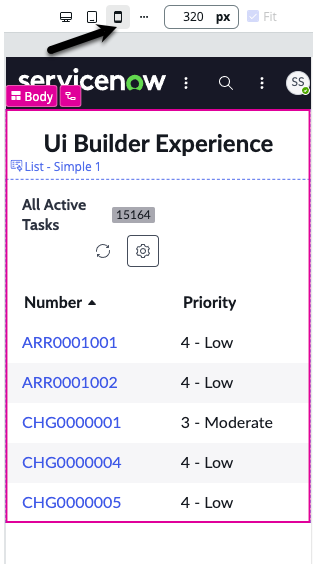


タブレットでは、見出しと画像のコンポーネントサイズが縮小されています。簡易リストコンポーネントの構成は、6 列ではなく 4 列表示に編集され、行の最大数は 5 に設定されています。フォームファクターのコンポーネントを編集すると、変更されたフィールドには、そのフォームファクター (この場合はタブレット) のカスケードアイコンが表示されます。このアイコンにより、特定のページのフォームファクター間の違いを簡単に判断できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

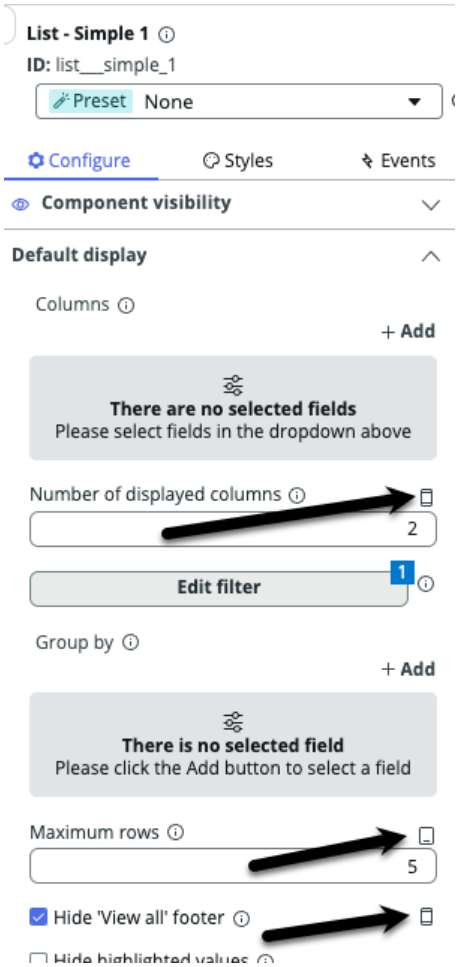


これは、モバイルフォームファクター用にカスタマイズされた同じページです。

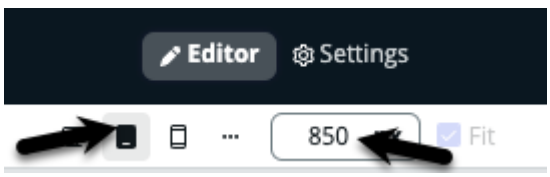


見出しの単語数が減り、画像コンポーネントが非表示になっています。簡易リストコンポーネント構成は、4 列ではなく 2 列表示に編集され、[すべて表示] フッターオプションを非表示にするオプションが選択されています。モバイル専用にカスタマイズされた 2 つのフィールドの横には、[モバイルカスケード (mobile cascading)] アイコンがあります。[最大行数] フィールドはタブレットの設定を継承しており、モバイル用にカスタマイズされていないため、[タブレットカスケード (tablet cascading)] アイコンが保持されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



エディタービューのデフォルトのフォームファクターに加えて、[ピクセル] フィールドにはいつでも手動で数値を入力できます。ステージは、範囲に基づいて最も近いフォームファクターに調整されます。例えば、850 ピクセルと入力すると、タブレットの範囲が 1280 ～ 501 ピクセルとして定義されているため、ステージはタブレットのフォームファクターに合わせて調整されます。



注: フォームファクターとピクセル幅を入力する機能は、ページのプレビュー時にも使用できます。詳細については、「UI ビルダー エクスペリエンスを表示およびテストする方法を学ぶ」を参照してください。

レスポンシブオーサリングにおけるコンポーネントヴィジビリティの調整

さまざまなフォームファクターのレスポンシブオーサリングを使用してページを作成する際、モバイルサイズで画像を非表示にする手順を実行して、コンポーネントを表示または非表示にする方法を説明します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

ページの使いやすさを向上させる方法は、ブレークポイント間でコンポーネントを非表示にしたり、別のコンポーネントを表示したりすることです。コンポーネントヴィジビリティを使用する方法は無数にありますが、いくつか例を挙げます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- デスクトップとタブレットのサイズでは、ページの上部に水平方向に複数のボタンコンポーネントを使用しますが、モバイルサイズでは、ボタンを非表示にしてドロップダウンコンポーネントを表示します。
- モバイルサイズでは小さいボタンサイズを使用しますが、ユーザーが親指で押すのに十分な大きさのボタンであることを確認します。モバイル用のボタンの配置を変更することも検討します。
- デスクトップとタブレットのページでは画像を使用しますが、モバイルでは画像、特に大きな画像は非表示にします。

この手順では、デスクトップとタブレットのフォームファクターでは上部にボタンを表示しますが、モバイルではボタンを非表示にしてドロップダウンコンポーネントを使用します。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または [作成] **>** [エクスペリエンス] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. レスポンシブオーサリングでページを最初から作成します。
   ページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. 上部にある [デスクトップフォームファクター (desktop form factor)] アイコンが選択されていることを確認します。

5. コンテンツツリーの [本文] の下にある **[+** コンテンツを追加] を選択して、列レイアウトを追加します。
6. [レイアウト] タブで、[単一列] を選択します。
7. 最初のボタンコンポーネントを追加します。

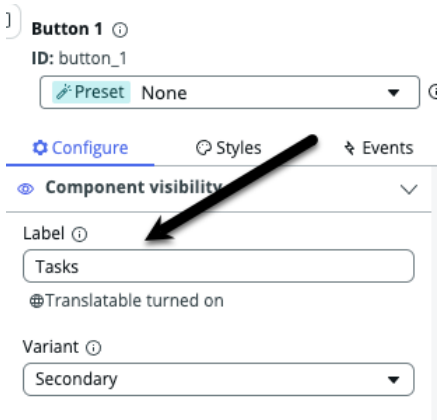
   a. ステージの新しい列の中央にある **[+]** アイコンを選択します。

   b. [コンポーネント] タブで、[ボタン] コンポーネントを見つけて選択します。

   c. 構成パネルで、[なし **-** コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

   d. 構成パネルの [構成] タブで、`Tasks` と入力して、[ラベル] フィールドのデフォルトテキストを置き換えます。

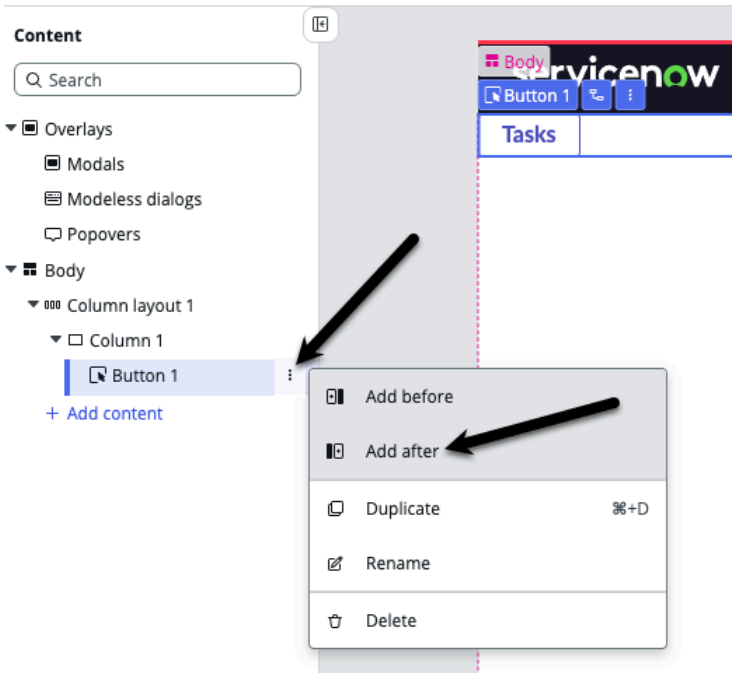
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



e. [保存] を選択します。

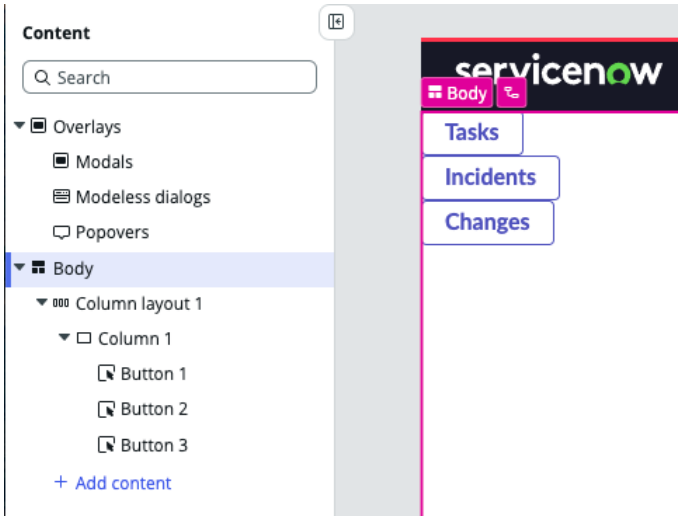
8. 手順 7 を 2 回繰り返してさらに 2 つのボタンを追加し、7d で、ボタンに `Incidents` と `Changes` という名前を付けます。

   注: ボタンを追加するには、コンテンツツリーの [ボタン 1] をポイントして [メニュー] アイコンを選択し、[後に追加] を選択します。



9. コンテンツツリーとページが正確であることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



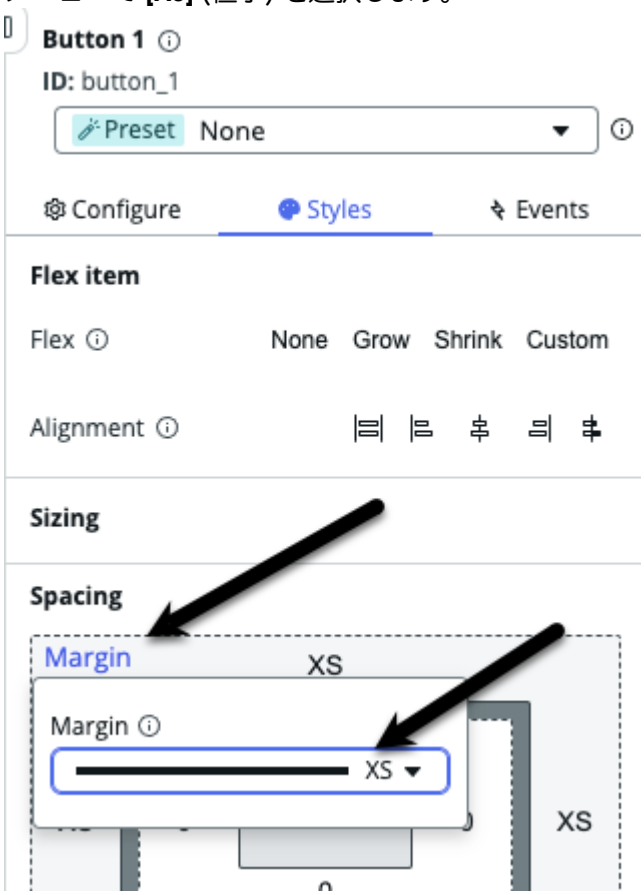
10. 各ボタンの周囲にスペースを追加します。

    a. コンテンツツリーで、[ボタン **1]** を選択します。

    b. [構成] パネルで、[スタイル] タブを選択します。

    c. [間隔] で [余白] を選択します。

    d. メニューで **[XS]** (極小) を選択します。



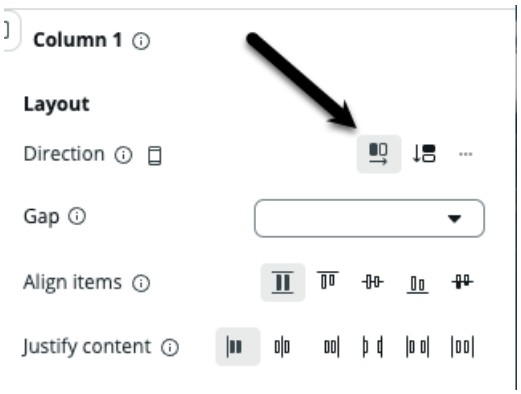
    e. [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

11. 手順 10 を繰り返し、他の 2 つのボタンの周囲にスペースを追加します。
12. ボタンを縦方向から横方向に変更します。

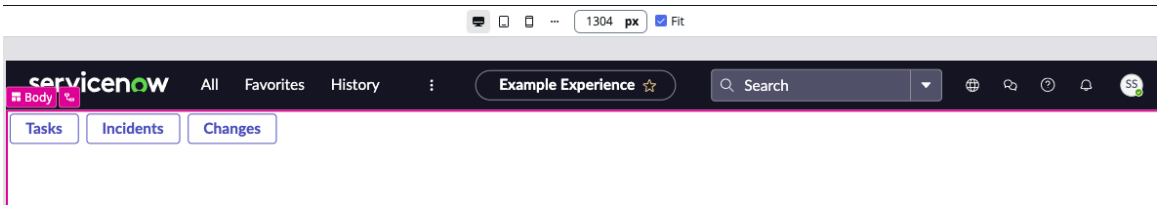
    a. コンテンツツリーで [列 **1**] を選択します。

    b. 構成パネルの [方向] で、[行] アイコンを選択します。



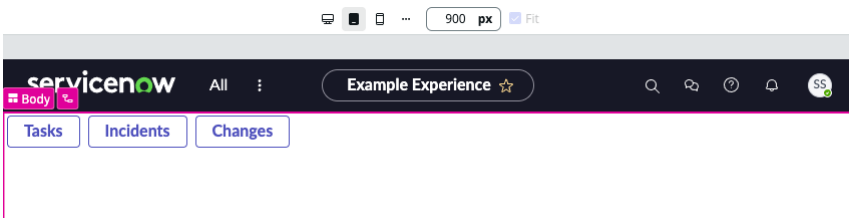
    c. [保存] を選択します。

    ページがデスクトップの幅に合わせて適切に表示されます。



13. [タブレットフォームファクター (tablet form factor)] アイコンを選択します。

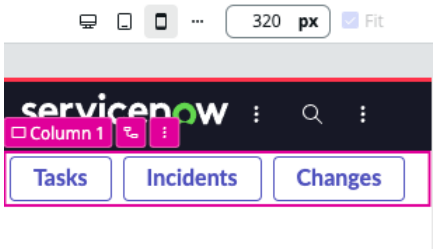
    ボタンの間隔や位置も、タブレットの幅に合わせて適切に表示されます。



14. [モバイルレスポンシブオーサリング (mobile responsive authoring)] アイコンを選択します。

    ボタンは、小さいサイズで水平方向のスペースのほとんどすべてを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



15. ドロップダウンコンポーネントを追加します。

    a. ステージの上部にある [デスクトップフォームファクター (desktop form factor)] を選択します。

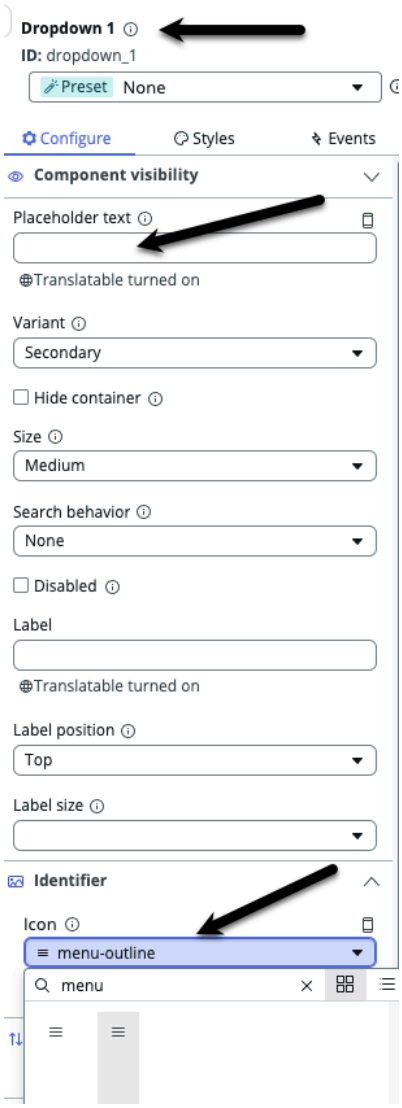
    b. コンテンツツリーの [ボタン **3]** をポイントして [メニュー] アイコンを選択し、[後に追加] を選択します。

    c. [コンポーネント] タブで、[ドロップダウン] コンポーネントを見つけて選択します。

    d. 構成パネルで、[なし - コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

    e. 構成パネルの [構成] タブで、[プレースホルダーテキスト] のデフォルトのテキストを削除し、[アイコン] の [メニューアウトライン **(menu-outline)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

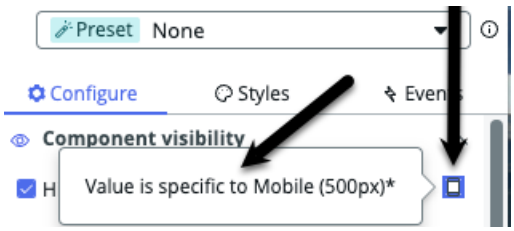


f. [保存] を選択します。

16. デスクトップとタブレットのフォームファクターで、ドロップダウンコンポーネントを非表示にします。
    a. コンテンツツリーで、[ドロップダウン **1]** を選択します。
    b. 構成パネルの [構成] タブで、[コンポーネントヴィジビリティ] を選択してオプションを表示します。
    c. [コンポーネントを非表示] を選択します。
    d. [保存] を選択します。
17. モバイルフォームファクターで、ボタンコンポーネントを非表示にします。
    a. ステージの上部にある [モバイルフォームファクター (mobile form factor)] アイコンを選択します。
    b. コンテンツツリーで、[ボタン **1]** を選択します。
    c. 構成パネルの [構成] タブで、[コンポーネントを非表示] を選択します。
    d. [ボタン **2]** と[ボタン **3]** について、手順 b ～ c を繰り返します。
    e. [保存] を選択します。

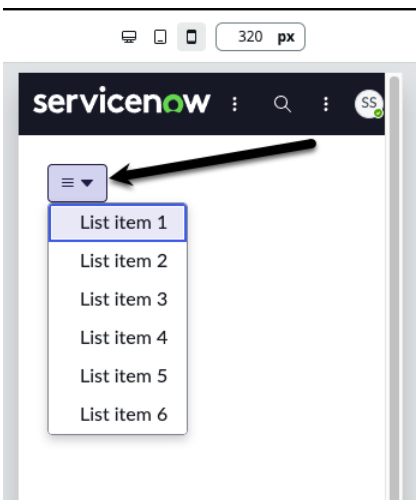
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2 つの場所は、ボタンコンポーネントがモバイルサイズで非表示になっていることを示しています。まず、構成パネルの [コンポーネントを非表示] オプションの横にある [モバイル] アイコンを選択します。値 (選択されたコンポーネントを非表示) がモバイルサイズ用であることを確認するメッセージが表示されます。



次に、コンテンツツリーで、3 つのボタンコンポーネントが [非表示] アイコンとともに表示されます。

18. モバイルフォームファクターで、ドロップダウンコンポーネントを表示します。
    a. コンテンツツリーで、[ドロップダウン **1]** を選択します。
    b. 構成パネルの [構成] タブで、[コンポーネントを非表示] を選択してフィールドをクリアします。
    c. [保存] を選択します。
19. [プレビュー] を選択します。
    モバイルフォームファクターが [メニュー] アイコンとともに表示されます。矢印を選択すると、デフォルトのオプション (リストアイテム 1、リストアイテム 2 など) が表示されます。タブレットとデスクトップのフォームファクターで使用可能な水平ボタンのように、[タスク]、[インシデント]、および [変更] を表示するよう、ドロップダウンコンポーネントを構成します。



20. 上部にある [デスクトップフォームファクター (desktop form factor)] アイコンと [タブレットフォームファクター (tablet form factor)] アイコンを選択します。
    デスクトップフォームファクターとタブレットフォームファクターには水平ボタンのみが表示され、[メニュー] アイコンは表示されません。
21. **[X]** を選択してプレビューオーバーレイを閉じます。

レスポンシブオーサリングのコンポーネントの構成

さまざまなフォームファクターのレスポンシブオーサリングを使用してページを作成する際、一部のコンポーネント構成オプションを調整して、小さいサイズでページの外観と動作を改善する方法を説明します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

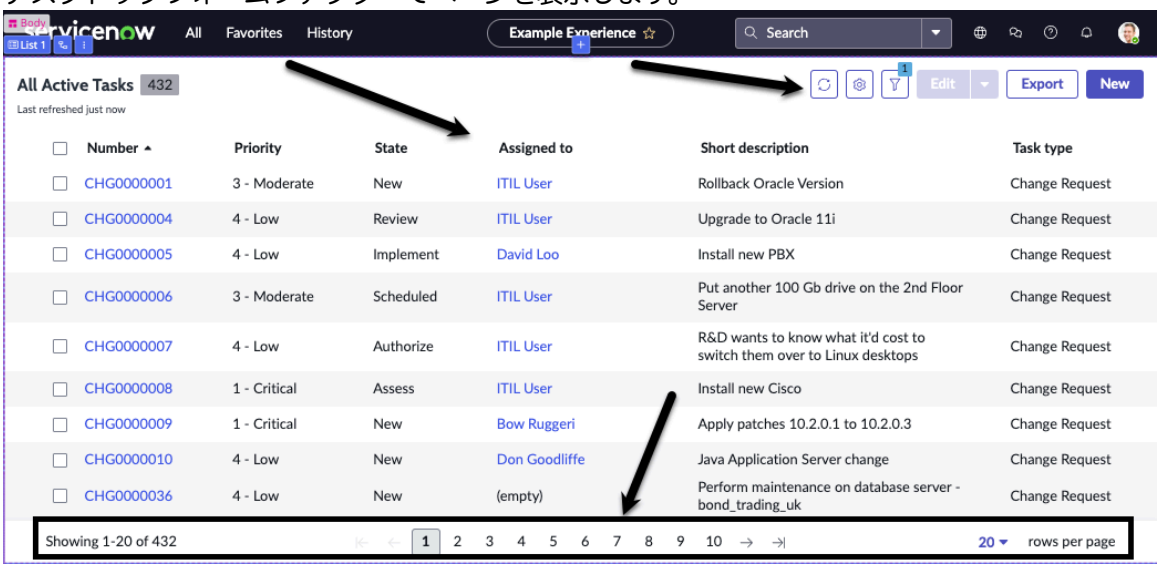
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
ページの使いやすさを向上させる方法は、ブレークポイント間で異なる構成を使用してコンポーネントの外観をカスタマイズすることです。コンポーネント構成の使用方法は無数にあります。この手順では、より小さなフォームファクターに最適になるよう、リストコンポーネントの構成オプションを編集します。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または [作成] **>** [エクスペリエンス] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. レスポンシブオーサリングでページを最初から作成します。
   ページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. 上部にある [デスクトップフォームファクター (desktop form factor)] アイコンが選択されていることを確認します。

5. ステージで、**[+** コンテンツを追加] を選択します。
6. [レイアウト] タブで、[単一列] を選択します。
7. 新しい列の中央にある **[+]** アイコンを選択して、リストコンポーネントを追加します。
8. [コンポーネント] タブで、[リスト] コンポーネントを見つけて選択します。
9. 構成パネルで、[なし **-** コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。
10. デスクトップフォームファクターでページを表示します。



上部のアイコン、列数、下部のページネーション情報など、表示される要素を確認します。

11. [モバイルフォームファクター (mobile form factor)] アイコンを選択します。

モバイルフォームファクターでは、リストコンポーネントが密集していて、垂直スクロールバーと水平スクロールバーの両方が含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

簡単な構成変更を行って、モバイルフォームファクターでの使いやすさと外観を改善します。

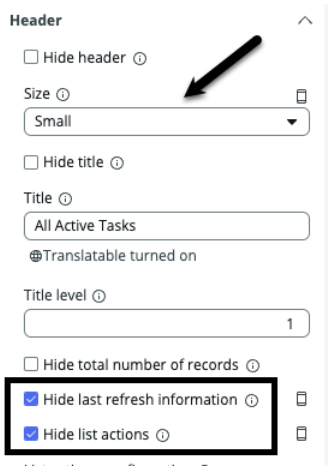
12. コンテンツツリーで [リスト **1**] を選択します。
13. 構成パネルの [構成] タブで、[表示される列の数] フィールドを見つけて `1` と入力します。
    [数字] 列のみが表示されます。水平スクロールバーが削除されました。
14. 構成パネルの [構成] タブで、下にスクロールして [ヘッダー] セクションに次の変更を加えます。

    a. [サイズ] を [小] に変更します。

    b. [前回の更新情報を非表示] オプションを選択します。

    c. [リストアクションを非表示] オプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



変更を加えると、ステージが自動的に更新されます。ヘッダーのサイズが小さくなり、更新時間が削除され、[リストアクション] アイコンが削除されました。

d. [保存] を選択します。

15. ステージで、モバイルビューの一番下までスクロールします。

16. 構成パネルの [構成] タブで、下にスクロールして [ページネーション] セクションで次の変更を行います (必要に応じて、[ページネーション] を選択してフィールドを展開します)。

a. [範囲を非表示] オプションを選択します。

b. [行数を非表示] オプションを選択します。

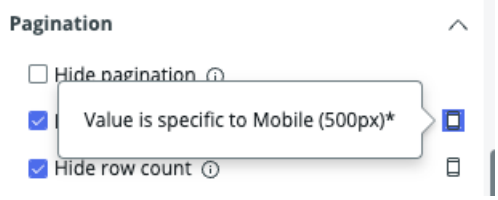
c. [ページセレクターごとの行を非表示] を選択します。

d. [保存] を選択します。
範囲、行数、およびページセレクターごとの行が削除されました。(行数はモバイル画面の上部に引き続き表示されます)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

構成パネルでは、編集したオプションとフィールドが [モバイルカスケード (mobile cascade)] アイコンとともにマークされます。

17. オプションまたはフィールドの横にある [モバイルカスケード (mobile cascade)] アイコンを選択して、値がモバイルフォームファクター用であることを確認します。



18. 上部にある [タブレットフォームファクター (tablet form factor)] アイコンと [デスクトップフォームファクター (desktop form factor)] アイコンを選択して、大きいフォームファクターに変更が加えられていないことを確認します。

レスポンシブオーサリングのスタイルの調整

さまざまなフォームファクターのレスポンシブオーサリングを使用してページを作成する際、スタイルオプションを変更して、小さいサイズでページの使いやすさを向上させる方法を説明します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

ページの使いやすさを向上させる方法は、ブレークポイント間で異なるスタイルを使用してコンポーネントをカスタマイズすることです。スタイルの編集には多数のオプションがあります。この手順では、定型テキストコンポーネントの周囲の余白を編集し、テキストサイズを小さくして、小さいフォームファクターで使用するスペースを減らします。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または [作成] **>** [エクスペリエンス] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. レスポンシブオーサリングでページを最初から作成します。
   ページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. 上部にある [デスクトップレスポンシブオーサリング (desktop responsive authoring)] アイコンが選択されていることを確認します。

5. ステージで、**[+** コンテンツを追加] を選択します。
6. [レイアウト] タブで、[単一列] を選択します。
7. 定型テキストコンポーネントを追加します。

   a. ステージの列の中央にある **[+]** アイコンを選択します。

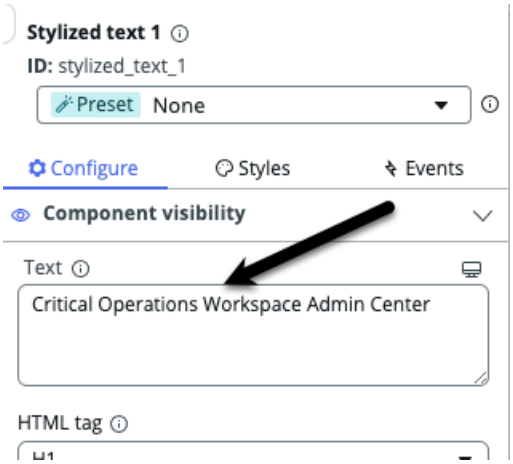
   b. [コンポーネント] タブで、[定型テキスト] コンポーネントを見つけて選択します。

   c. 構成パネルで、[なし **-** コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. 構成パネルの [構成] タブで、[テキスト] フィールドをダブルクリック (またはキーボードのショートカットを使用) して、デフォルトのテキストを選択します。

e. `Critical Operations Workspace Admin Center` と入力して、デフォルトのテキストを置き換えます。



f. [保存] を選択します。

8. 定型テキストコンポーネントの周囲にスペースを追加し、中央に配置します。

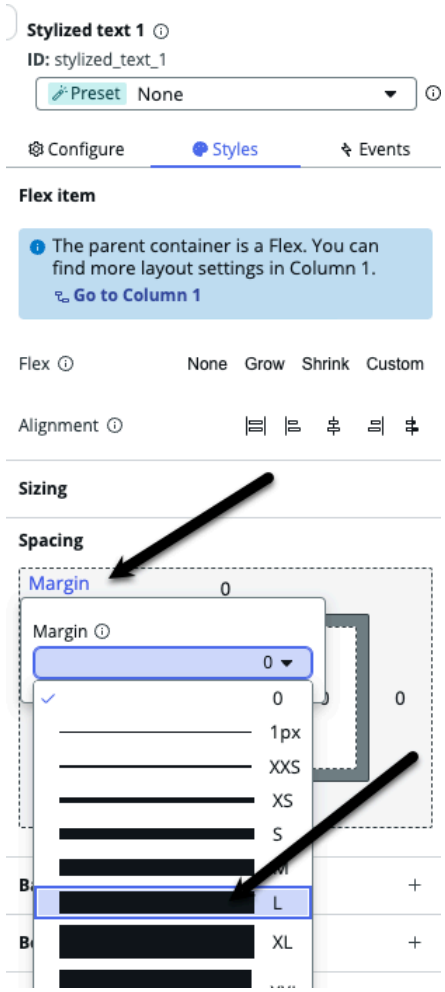
a. コンテンツツリーで、[定型テキスト 1] を選択します。

b. [構成] パネルで、[スタイル] タブを選択します。

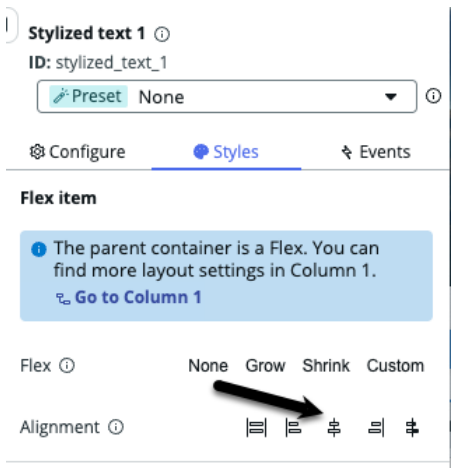
c. [間隔] で [余白] を選択します。

d. リストで [大] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



e. [配置 **(Alignment)]** で [中央 (center)] アイコンを選択します。



f. [保存] を選択します。

ステージが自動的に更新され、定型テキストコンポーネントの周囲に余白が表示され、中央に配置されます。

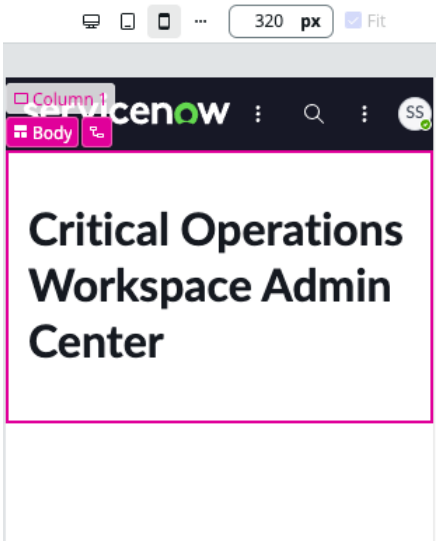
9. [タブレットフォームファクター (tablet form factor)] アイコンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

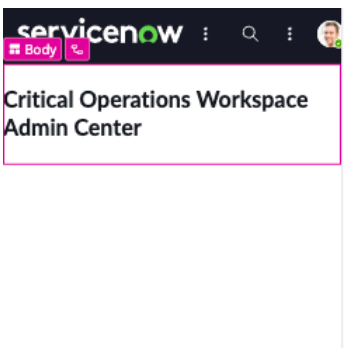
定型テキストコンポーネントの間隔と見出しのサイズは、タブレットサイズに合わせて適切に表示されます。

10. [モバイルフォームファクター (mobile form factor)] アイコンを選択します。

定型テキストコンポーネントは、小さいサイズで垂直方向のスペースを多く使用します。



11. 余分な余白スペースを削除し、モバイルフォームファクター専用のヘッダーを小さくします。
    a. コンテンツツリーで、[定型テキスト **1]** を選択します。
    b. [構成] パネルで、[スタイル] タブを選択します。
    c. [間隔] で [余白] を選択します。
    d. リストで **[0]** を選択します。
    e. [構成] タブを選択します。
    f. **[HTML]** タブで **[H3]** を選択します。
    g. [保存] を選択します。
    ステージが自動的に更新され、定型テキストコンポーネントの使用スペースが小さくなったことが表示されます。



12. 上部にある [タブレットフォームファクター (tablet form factor)] アイコンと [デスクトップフォームファクター (desktop form factor)] アイコンを選択して、大きいフォームファクターに変更が加えられていないことを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レスポンシブオーサリングのレイアウトの調整

さまざまなフォームファクターのレスポンシブオーサリングを使用してページを作成する際は、レイアウトを調整して、小さいサイズでページのルックアンドフィールを向上させる方法を説明します。

始める前に

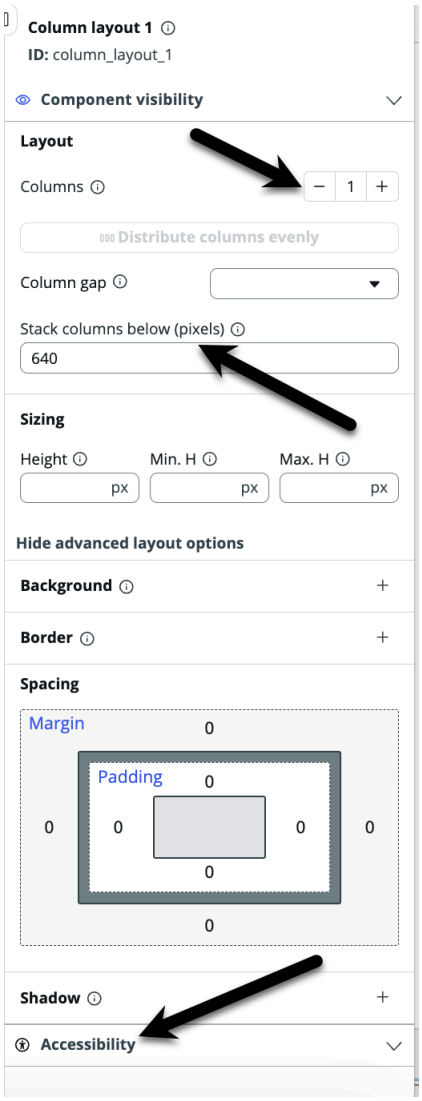
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

ページの使いやすさを向上させる方法は、ブレークポイント間でレイアウトを調整してコンポーネントを調整することです。レイアウトを調整するためのオプションは多数あります。この手順では、モバイルフォームファクターのタブコンポーネントのレイアウトを調整します。

プロパティペインのほとんどの列レイアウトオプションは、さまざまなフォームファクターに合わせて編集できます。ただし、次のオプションには、フォームファクター間でグローバルな値があります。

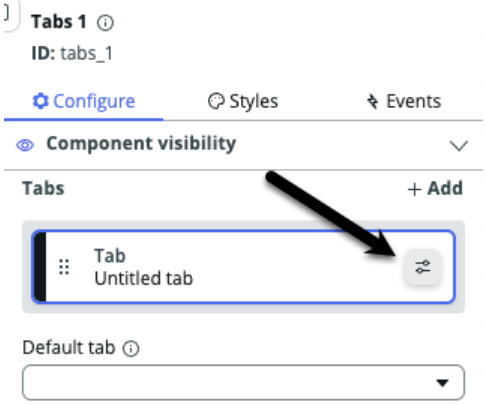
- 列数
- [下に列をスタック (ピクセル)] オプション
- [アクセシビリティ] のすべてのオプション



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー] に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または [作成] **>** [エクスペリエンス] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. レスポンシブオーサリングでページを最初から作成します。
   ページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. 上部にある [デスクトップフォームファクター (desktop form factor)] アイコンが選択されていることを確認します。
5. ステージで、**[+** コンテンツを追加] を選択します。
6. [レイアウト] タブで、[単一列] を選択します。
7. タブコンポーネントを追加します。
   a. ステージの列の中央にある **[+]** アイコンを選択します。
   b. [コンポーネント] タブで、[タブ] コンポーネントを見つけて選択します。
   c. [保存] を選択します。
8. 構成パネルの [構成] タブで、[編集] アイコンを選択して、最初のタブの名前を編集します。

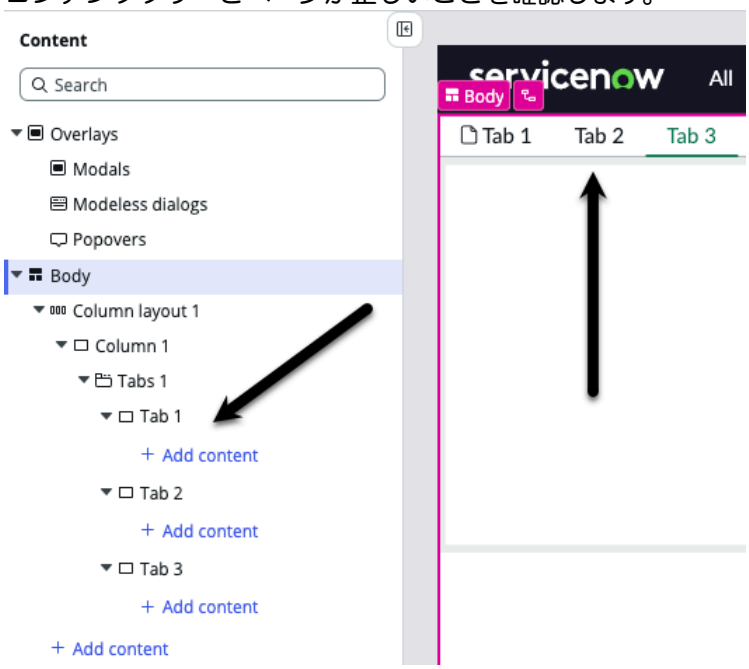


9. [タブラベル] に `Tab 1` と入力します。
10. [タブ **ID]** に `tab_1` と入力します。
11. [保存] を選択します。
12. 2 つ目のタブを追加します。
    a. [構成] タブで、[タブ] の横にある **[+** 追加] を選択します。
    b. [空のコンテナから開始] を選択して [次へ] をクリックします。
    c. [タブラベル] に `Tab 2` と入力します。
    d. [タブ **ID]** に **[tab_2]** が自動的に入力されていることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. [作成] を選択します。

13. 手順 12 を繰り返して 3 番目のタブを追加し、12c でタブに `Tab 3` という名前を付けます。
14. コンテンツツリーとページが正しいことを確認します。



15. [タブレットフォームファクター (tablet form factor)] アイコンを選択します。

タブの間隔と位置は、タブレットの幅に合わせて適切に表示されます。

16. [モバイルフォームファクター (mobile form factor)] アイコンを選択します。

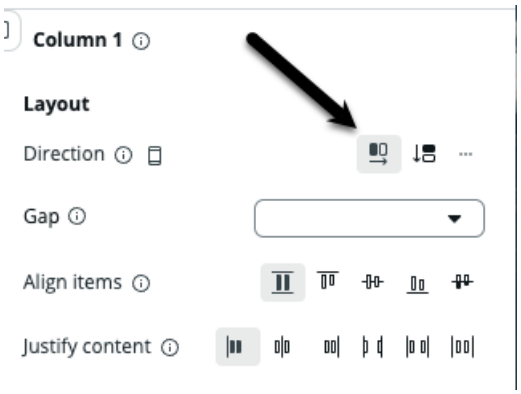
小さいサイズでは、タブがより多くのスペースを取ります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

17. モバイルサイズに合わせてタブのレイアウトを変更します。

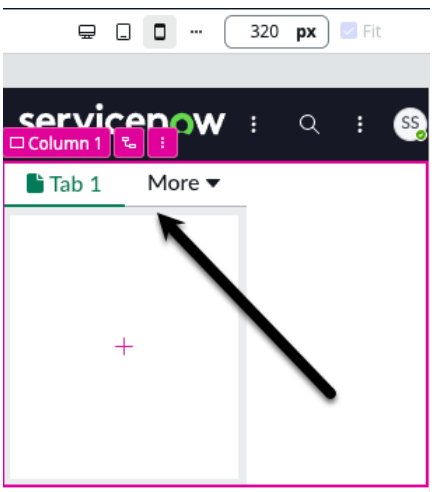
    a. コンテンツツリーで [列レイアウト **1]** の下の [列 **1]** を選択します。

    b. 構成パネルの [方向] で、[行] アイコンを選択します。



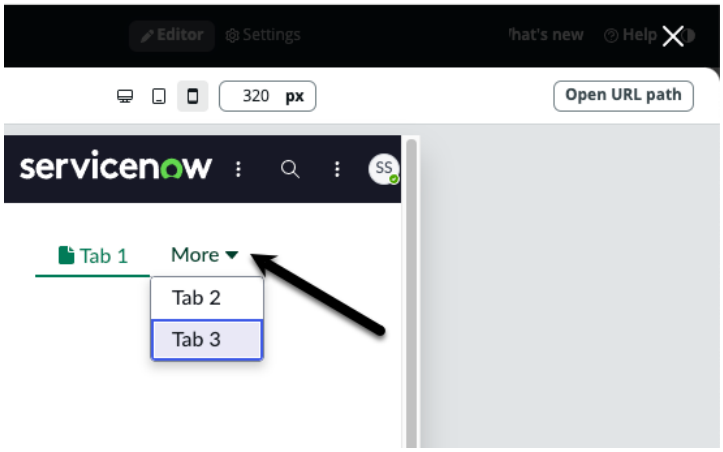
    c. [保存] を選択します。

    ステージが自動的に更新され、タブ 1 が表示され、新しいドロップダウンメニューが表示されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

18. [プレビュー] を選択します。
19. [**More**] を選択します。
    他の 2 つのタブを使用できます。



20. [デスクトップフォームファクター (desktop form factor)] アイコンと [タブレットフォームファクター (tablet form factor)] アイコンを選択して、[その他] ドロップダウンが表示されないことを確認します。
21. **[X]** を選択して [プレビュー] オーバーレイを閉じます。

レスポンシブオーサリングのブレークポイントの作成

レスポンシブオーサリングのカスタムブレークポイントを作成して、さまざまなフォームファクターにおけるページのルックアンドフィールを制御する方法について説明します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

UI ビルダー は現在、次の 3 つのデフォルトフォームファクターを提供しています。

- デスクトップ (1281 ピクセル以上)
- タブレット (1280 ピクセル以下)
- モバイル (500 ピクセル以下)

最大 3 つのブレークポイントを追加します。たとえば、モバイルデバイスのデフォルトのフォームファクターは 500 ピクセル以下ですが、360 ピクセルのブレークポイントが必要な場合があります。

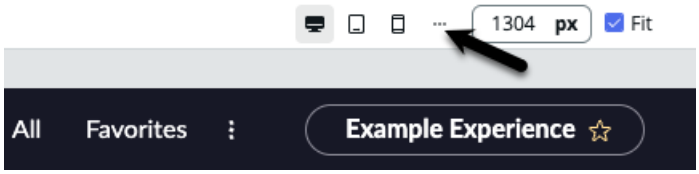
> **注:** カスタムブレークポイントは範囲を表します。800 ピクセルでブレークポイントを作成すると、すべての変更は、幅が新しいサイズ以下のデバイスに適用されます。たとえば、幅が 750 ピクセルの画面で開いたページは、750 ピクセルの別のカスタムブレークポイントがない限り、800 ピクセルの設定 (プロパティとスタイル) を使用します。

手順

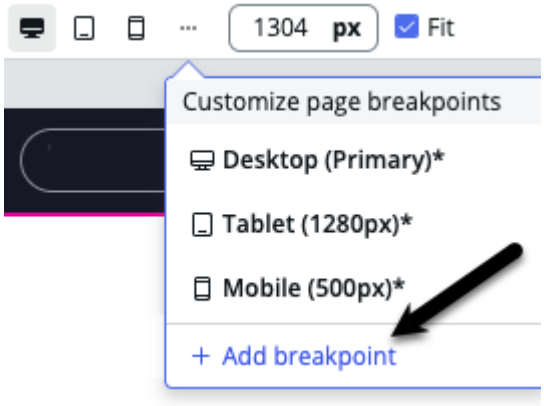
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または [作成] **>** [エクスペリエンス] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

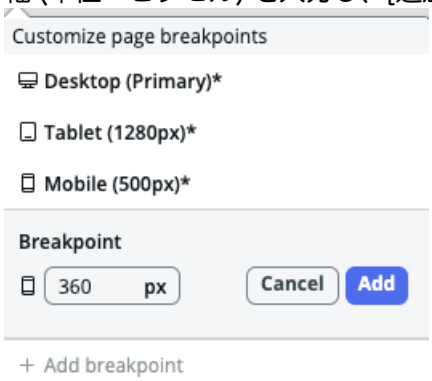
3. レスポンシブオーサリングで最初から作成した既存のページを開くか、レスポンシブオーサリングで最初からページを作成します。
   ページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. 3 つの [フォームファクター] アイコンの横にある [メニュー] アイコンを選択します。



5. **[+** ブレークポイントを追加] を選択します。



6. 幅 (単位：ピクセル) を入力し、[追加] を選択します。

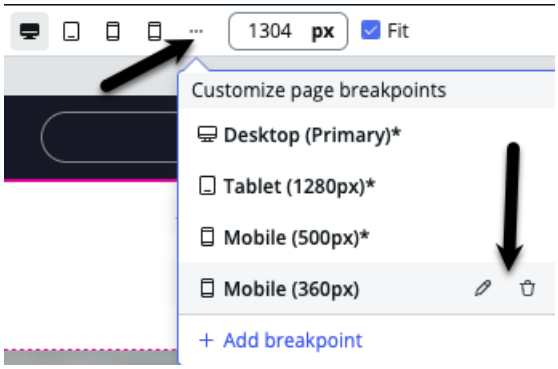


新しいブレークポイントが保存され、[フォームファクター (form factor)] アイコンとして表示されます。

ページをビルドする際、いずれかの [フォームファクター (form factor)] アイコンを選択して、そのサイズでページを表示および編集します。

7. カスタムブレークポイントを編集または削除するには、[メニュー] アイコンを選択し、ブレークポイント名をポイントして、[編集] または [削除] アイコンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: デフォルトのフォームファクター (デスクトップ、タブレット、モバイル) は編集または削除できません。

UI ビルダー エクスペリエンスを表示およびテストする方法を学ぶ

UI ビルダー でエクスペリエンスをプレビューし、エクスペリエンスのビルド時にどのように表示されるか、どのように機能するかを確認します。プレビューは、エクスペリエンスが期待どおりに機能すること、データリソースが利用可能なこと、レイアウトが正しく設定されていることを確認するのに役立ちます。

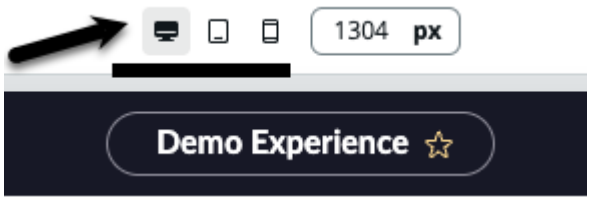
ページをテストする

開発者はページをテストしたり、エンドユーザーに表示される内容を確認したりできます。プレビューでは、最初に保存する必要はありません。

注: 非アクティブなバリアントとページコレクション (サブページ) のプレビューは現在サポートされていません。

ページのさまざまな側面をテストできます。

- [プレビュー] ボタンを選択してオーバーレイを開き、モーダル、ビューポート、動的データなどの現在作業しているバリアントをテストします。
- テスト値を変更し、[適用]を選択して、さまざまなデータでテストします。詳細については、「ページ内の値をテスト」を参照してください。
- [フォームファクター (form factor)] アイコンを選択して、さまざまな画面幅でバリアントがどのように見えるかを確認します。たとえば、バリアントをタブレットサイズまたはモバイルサイズで表示します。さまざまなフォームファクターのページ作成の詳細については、「レスポンシブオーサリング」を参照してください。



注: プレビュー時にテスト値またはフォームファクターを編集すると、エディターでページバリアントを表示するときに、新しいテスト値またはフォームファクターが保持されます。たとえば、プレビュー中にフォームファクターをモバイルに変更した場合、ページバリアントはモバイルフォームファクターのエディターに表示されます。[フォームファクター (form factor)] アイコンを選択して、いつでも別のサイズに変更できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストが完了したら、右上の **[X]** を選択してオーバーレイを閉じます。

エンドユーザーとしてページをテストする

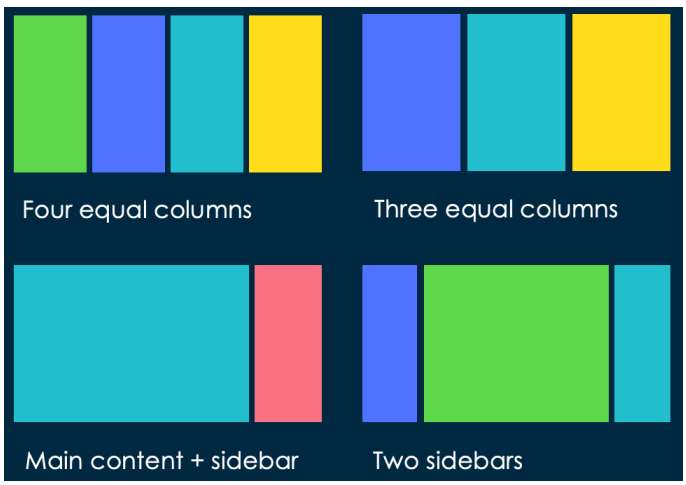
URL パスを開いて、どのバリアントがユーザーに表示されるかをテストします。[プレビュー] ボタンの横にある矢印を選択し、ドロップダウンリストで **[URL** パスを開く] を選択します。UI ビルダー によって対象者、条件、条件順序がチェックされ、新しいブラウザタブで適切なバリアントが開きます。テストが完了したら、タブを閉じます。

UI ビルダーページでコンポーネントを整理する

列レイアウトでは、UI ビルダー ページでコンポーネントを整理します。列レイアウトの使用方法については、「UI ビルダー」を参照してください。

列レイアウトを使用して、エクスペリエンスで役に立つ視覚的に魅力あるページを作成することができます。列レイアウトはコンポーネントを保持できる柔軟性に優れたコンテナの一種です。列レイアウトでは同じ幅または異なる幅の列を使用できます。列レイアウト全体を構成し、レイアウト内の個々の列も構成できます。たとえば、列レイアウトとレイアウト内の個々の列に異なる境界線の幅と色を設定します。列レイアウトでは、空白を作成するために UI ビルダー ページに空の列を含めることができます。1 つのページで複数列のレイアウトを使用します。たとえば、2 列のレイアウトにはヘッダーと画像を含めることができ、その下の 3 列のレイアウトにはリストやフォームなどのコンポーネントを含めることができます。

ビルドを開始する前に、ページのレイアウトについて検討します。何を達成する必要があるのか、ページレイアウトをどの程度複雑にする必要があるのかについて分析してください。これらの質問により、使用する列レイアウトまたはレイアウトのタイプが決まります。



UI ビルダー の列レイアウトでは、Flexbox、CSS グリッド、絶対位置などの標準ベースのカスケードスタイルシート (CSS) ルールと Web レイアウト技術を使用します。CSS でできることはすべて、ここで実行できます。CSS の詳細については、Mozilla のホームページを参照してください。

> **注:** 以前のリリース (Utah または Tokyo) で作成された既存の UI ビルダー ページがある場合は、Vancouver または Washington DC にアップグレードして、ページに列レイアウトを追加できます。

列レイアウト

列レイアウトは、UI ビルダー ページを設計および整理するために使用されます。

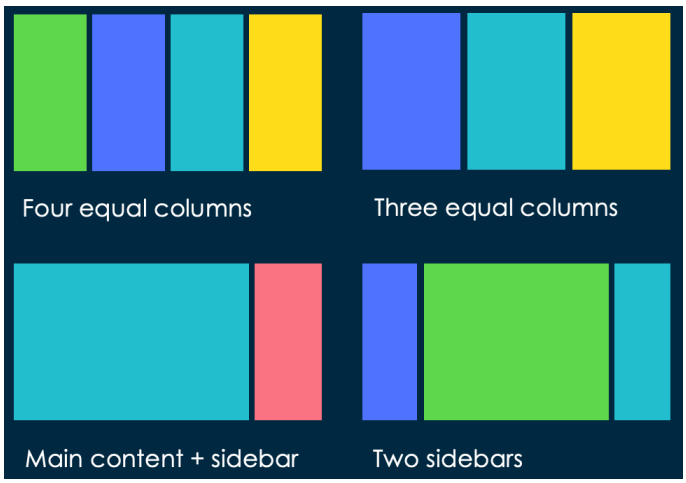
このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。 このビデオでは、UI ビルダーページに列レイアウトを追加する方法を示します。

列レイアウトを使用して、エクスペリエンスで役に立つ視覚的に魅力あるページを作成することができます。列レイアウトはコンポーネントを保持できる柔軟性に優れたコンテナの一種です。列レイア

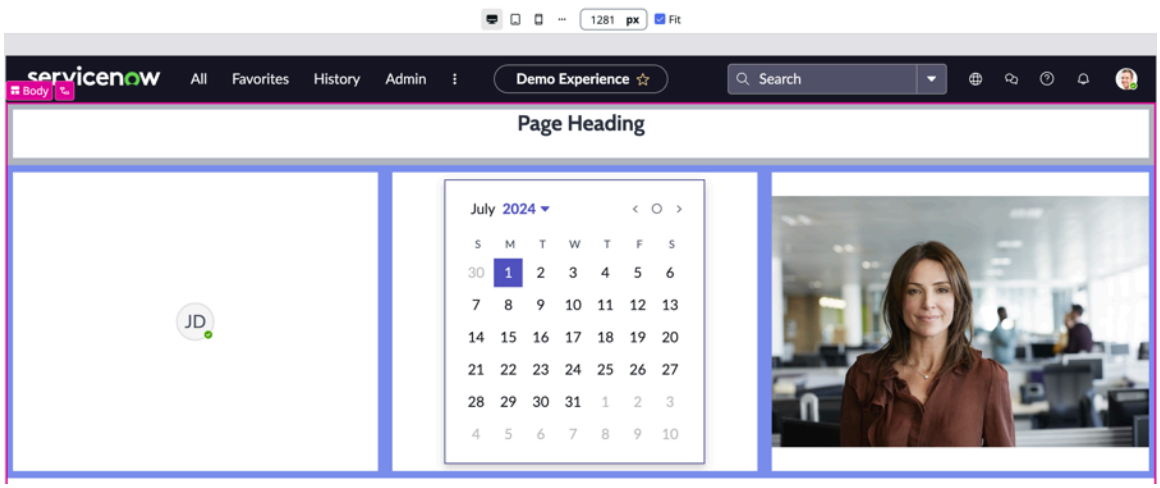
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ウトは事前設定されたシンプルなレイアウトであり、効率的で魅力的なページをすばやく設計できます。コンポーネントを追加する前に、列レイアウトを使用してページの構造を定義して設定すると便利です。

列レイアウトでは同じ幅または異なる幅の列を使用できます。



列レイアウト全体を構成し、レイアウト内の個々の列も構成できます。たとえば、列レイアウトとレイアウト内の個々の列に異なる境界線の幅と色を設定します。



注: 現在、列レイアウトで条件に基づく列の非表示/表示はサポートされていません。

列レイアウトの追加

UI ビルダー で列レイアウトを追加し、エクスペリエンスページで構造をビルドし、コンポーネントを整理します。

始める前に

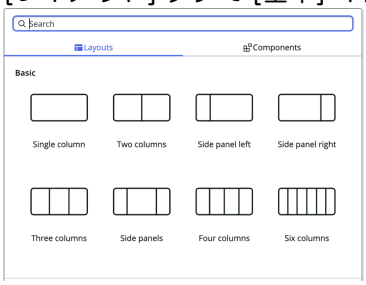
必要なロール：ui_builder_admin

手順

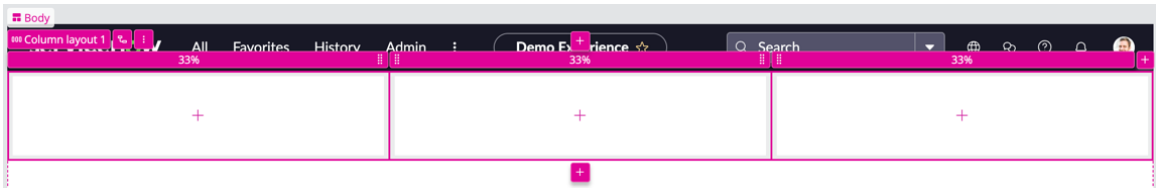
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

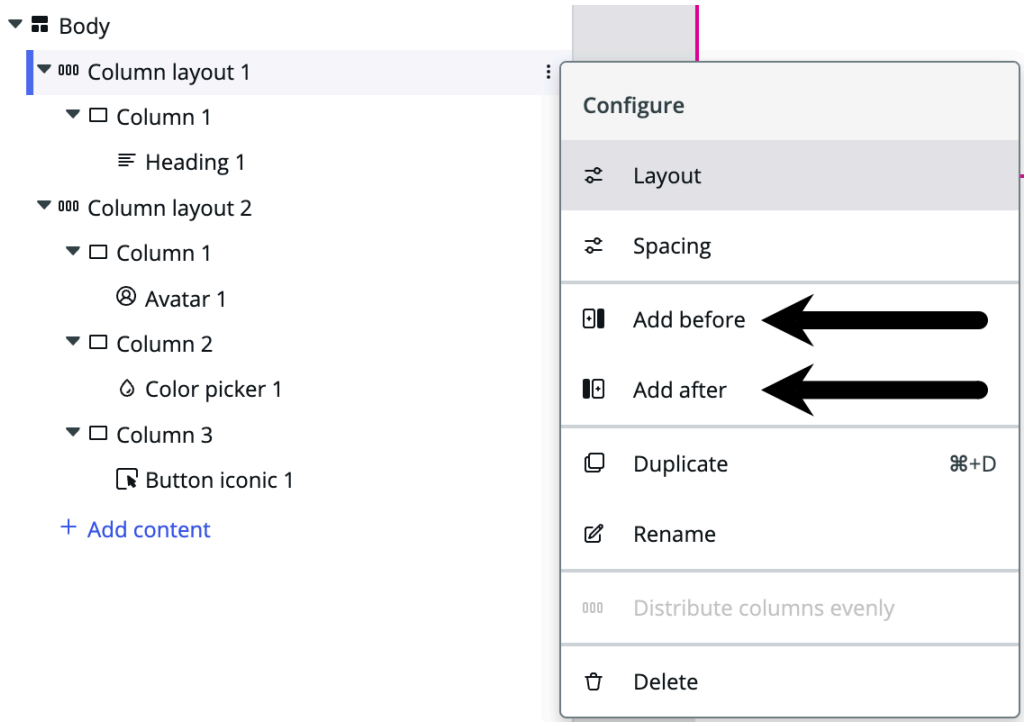
4. コンテンツツリーで **[+ コンテンツを追加]** を選択します。
5. [レイアウト] タブで [基本] オプションのいずれかを選択します。



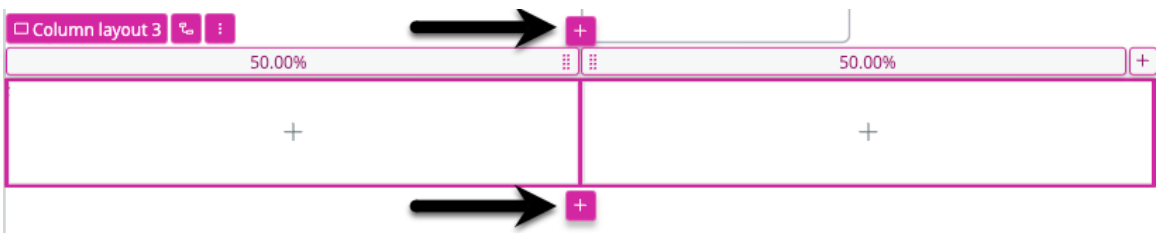
列レイアウトはステージに表示されるため、コンポーネントを列に追加できます。詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。



6. 上または下に列レイアウトを追加します。
   - コンテンツツリーで、列レイアウト名を選択したままにするか (または右クリック)、列レイアウトのメニューアイコンを選択します。次に、リストから [前に追加] または [後に追加] を選択し、レイアウトを選択します。



   - ステージで列レイアウトを選択し、上部または下部のプラス記号を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

列レイアウトの構成

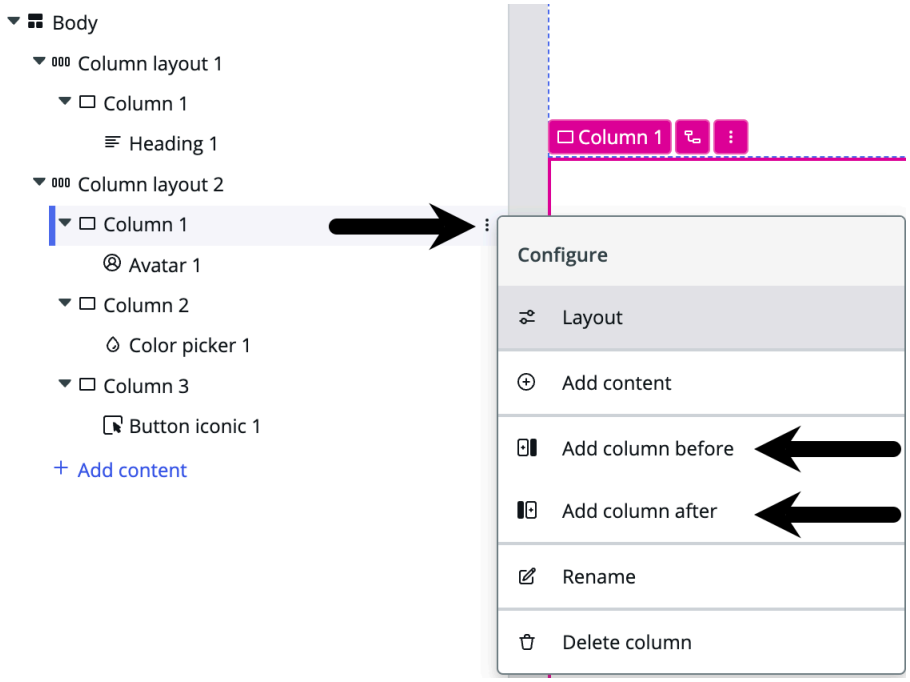
UI ビルダー で列レイアウトを構成して、エクスペリエンスページに必要な適切な数の列と外観を追加します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

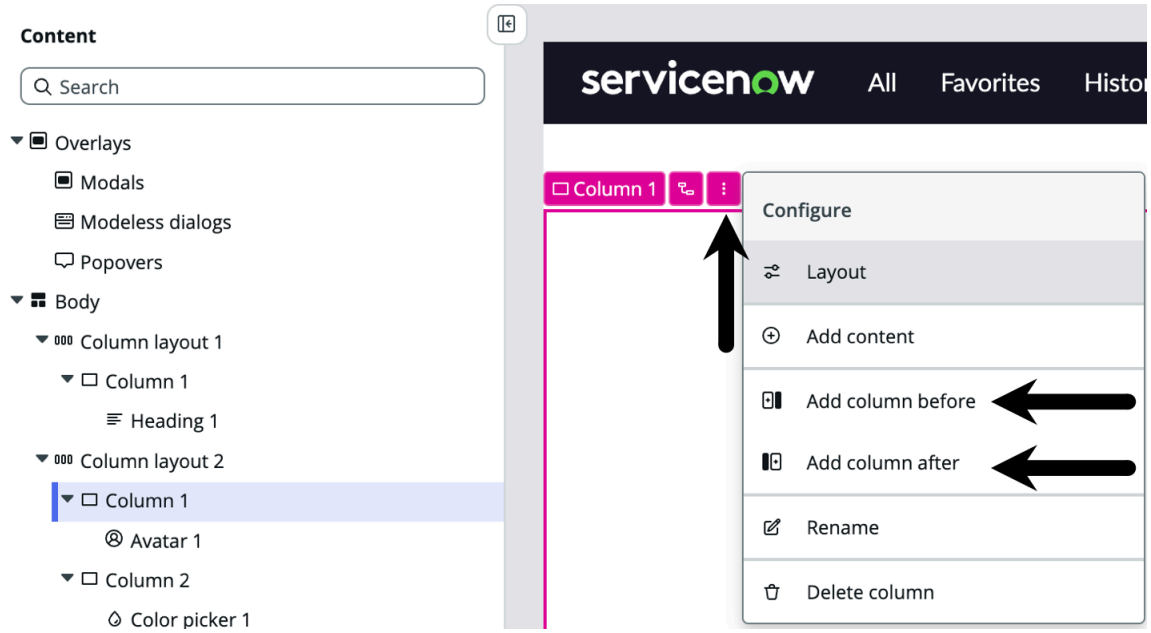
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。
4. ページに列レイアウトがまだ含まれていない場合は、列レイアウトの追加。
5. コンテンツツリー、ステージ、または構成パネルを使用して列を追加します (最大 6 つ)。
   - コンテンツツリーで、列名を選択したままにするか (または右クリック)、列のメニューアイコンを選択して、リストから [事前に列を追加 **(Add column before)]** または [事後に列を追加 **(Add column after)]** を選択します。

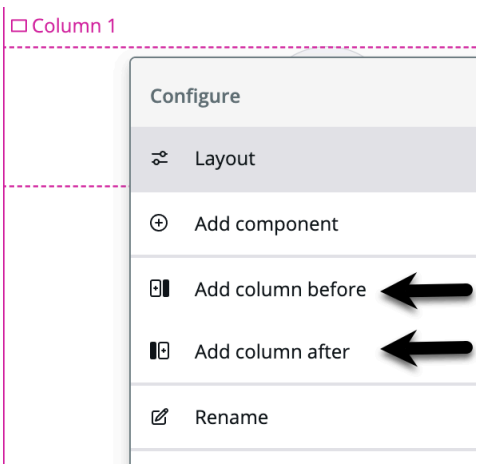


   - ステージで、単一列を選択し、列名の横にあるメニューアイコンを選択して、リストから [事前に列を追加 **(Add column before)]** または [事後に列を追加 **(Add column after)]** を選択します。

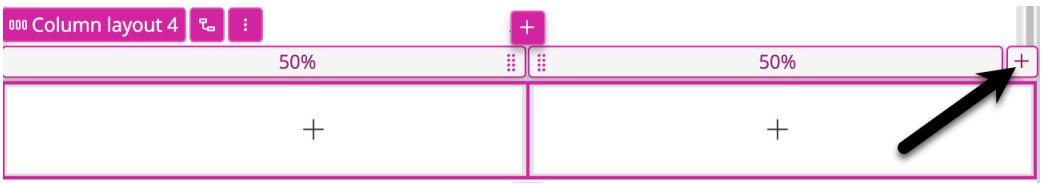
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



- ステージで、列を選択したままにして (または右クリックして)、リストから [事前に列を追加 **(Add column before)**] または [事後に列を追加 **(Add column after)**] を選択します。

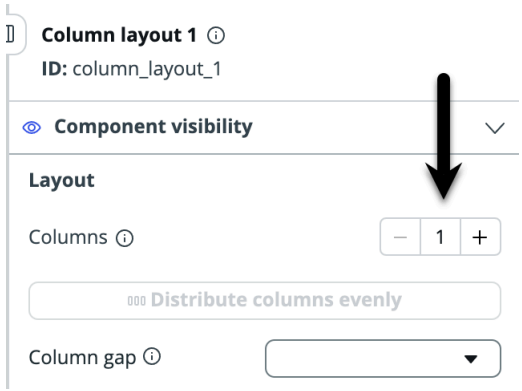


- コンテンツツリーで列レイアウトを選択し、ステージで [+] プラスアイコンを選択して、列レイアウトの右側に列を追加します。



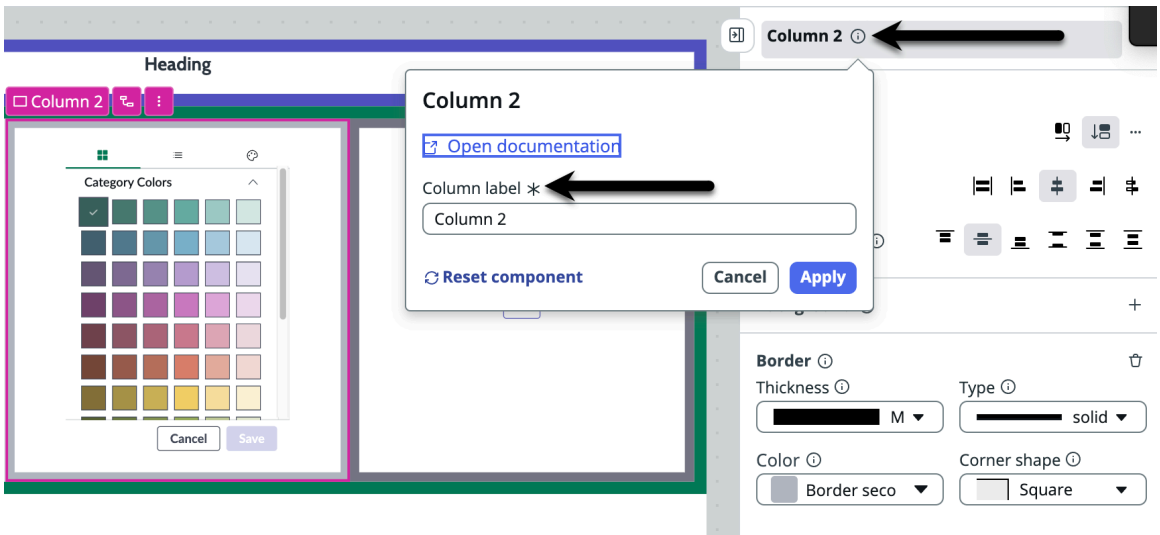
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コンテンツツリーで列レイアウトを選択し、構成パネルで [列] の横にある [+] プラスアイコンを使用して、列レイアウトの右側に列を追加します。



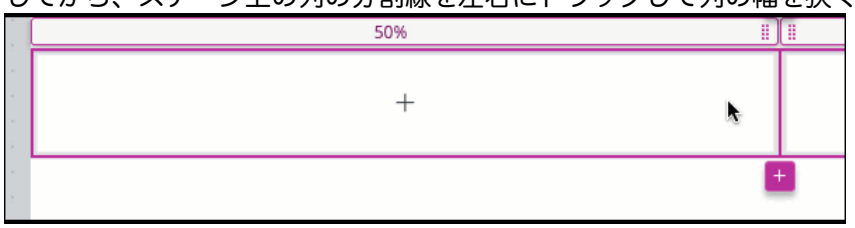
注: 列は相互にネストできますが、多くの場合、ページではこのレベルの複雑さは必要ありません。

6. コンテンツツリー、ステージ、または構成パネルから列ラベルを編集して、列の名前を変更します。
   - コンテンツツリーで、列名を選択したままにするか (または右クリック)、列のメニューアイコンを選択して、[名前の変更] を選択します。
   - ステージで、列名の横にあるメニューアイコンを選択し、[名前の変更] を選択します。
   - 構成パネルで、列名の横にある情報アイコンを選択します。



列の名前を変更すると、ステージとコンテンツツリーの異なる列を区別するのに役立ちます。多数の列レイアウトと列を含む複雑なページがある場合は、列の名前を変更すると便利です。

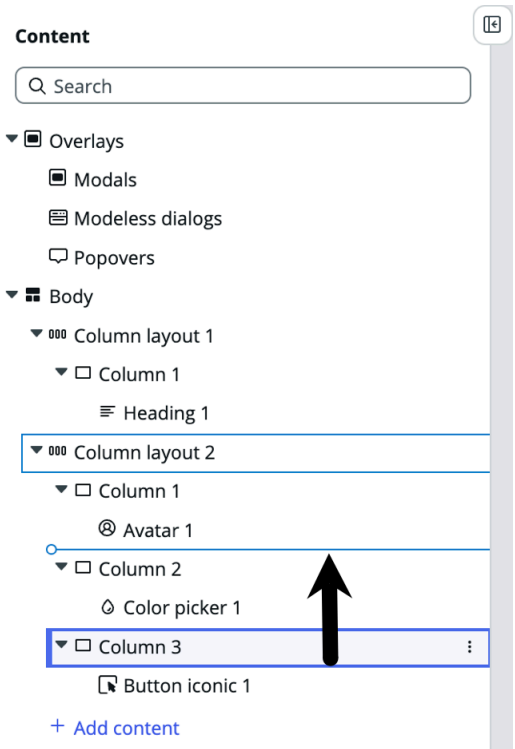
7. レイアウト内の列の幅を変更するには、(コンテンツツリーまたはステージで) 列レイアウトを選択してから、ステージ上の列の分割線を左右にドラッグして列の幅を狭くしたり広くしたりします。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

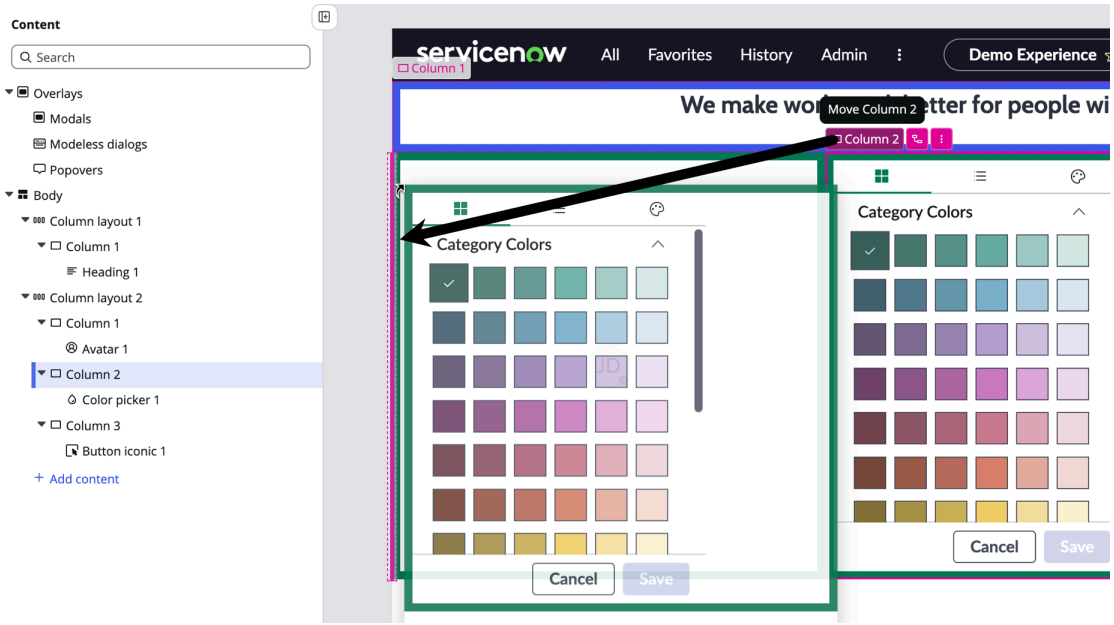
列の分割線をドラッグすると、列の上部の幅のパーセンテージが自動的に変化します。パーセンテージの合計は 100% になります。列のサイズを変更するときは、列内のコンポーネントに必要なスペースに注意してください。たとえば、リストおよびフォームコンポーネントは通常、幅の狭い列では適切に表示されません。

8. コンテンツツリー、ステージ、または構成パネルを使用して、レイアウト内の列を水平方向に均等に配分します。
   - コンテンツツリーで、列レイアウト名を選択したままにするか (または右クリック)、列レイアウトのメニューアイコンを選択して、リストから [列を均等に配分 **(Distribute columns evenly)]** を選択します。
   - ステージで、列レイアウト名の横にあるメニューアイコンを選択して、リストから [列を均等に配分 **(Distribute columns evenly)]** を選択します。
   - (コンテンツツリーまたはステージで) 列レイアウトを選択し、構成パネルで [列を均等に配分 **(Distribute columns evenly)]** を選択します。
9. コンテンツツリーまたはステージを使用して、列レイアウト内の列 (その内容を含む) を並べ替えます。
   - コンテンツツリーで、列を選択し、別の位置にドラッグします (青い横線は、列をドロップできる場所を示します)。



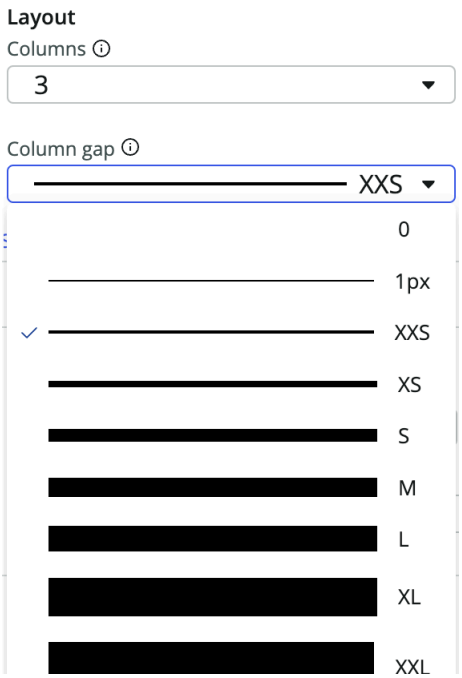
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ステージで列ヘッダーを選択し、列を別の位置にドラッグして、マゼンタの縦線で定義されたドロップゾーンに列をドロップします。



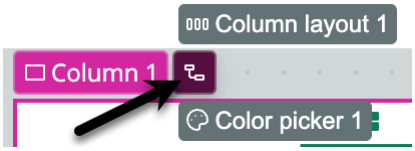
列をコンテンツツリーで並べ替えるとステージが更新され、ステージで並べ替えるとコンテンツツリーが更新されます。

10. コンテンツツリー、ステージ、または構成パネルの列間のスペースを指定します。
    - コンテンツツリーで、列レイアウト名を選択したままにするか (または右クリック)、列レイアウトのメニューアイコンを選択して、リストから [レイアウト] を選択し、[列ギャップ] でサイズオプションを選択します。
    - ステージで、列レイアウト名の横にあるメニューアイコンを選択して、リストから [レイアウト] を選択し、[列ギャップ] でサイズオプションを選択します。
    - 列レイアウトを (コンテンツツリーまたはステージで) 選択し、構成パネルの [列ギャップ] でサイズオプションを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

11. ツリーアイコンを選択して、コンテンツの別のレイヤーに移動します。たとえば、列から親の列レイアウトや子コンポーネント移動します。



12. コンテンツツリーまたはステージから列を削除します。
    - コンテンツツリーで、列名を選択したままにするか (または右クリック)、列のメニューアイコンを選択して、リストから [列を削除] を選択します。
    - ステージで、単一列を選択し、列名の横にあるメニューアイコンを選択して、リストから [列を削除] を選択します。
    - コンテンツツリーで列レイアウトを選択し、構成パネルで [列] の横にある [-] マイナスアイコンを使用して、列レイアウトの右側から列を削除します。

    列間隔の編集については、「列のコンポーネント間のギャップを設定する」を参照してください。

列のコンポーネント間のギャップを設定する

UI ビルダー で、列に複数のコンポーネントが含まれている場合、コンポーネント間のギャップを設定します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

手順

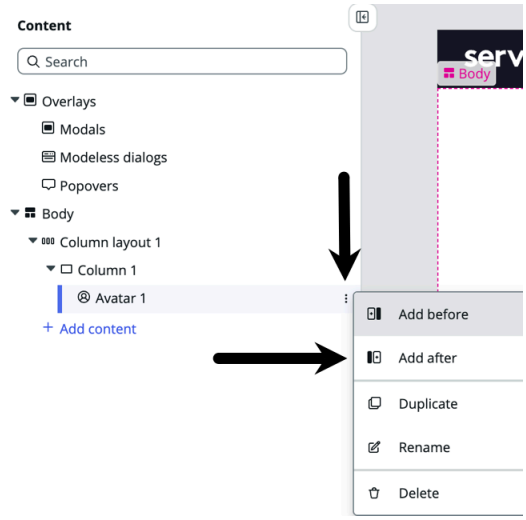
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。
4. ページに列レイアウトがまだ含まれていない場合は、列レイアウトの追加。
5. 1 つの列内に 2 つのコンポーネントを追加します

   a. コンテンツツリーで列を特定し、列名の下にある **[+** コンテンツを追加] を選択します。

   b. ツールボックスウィンドウで、コンポーネント (アバター など) を選択します。

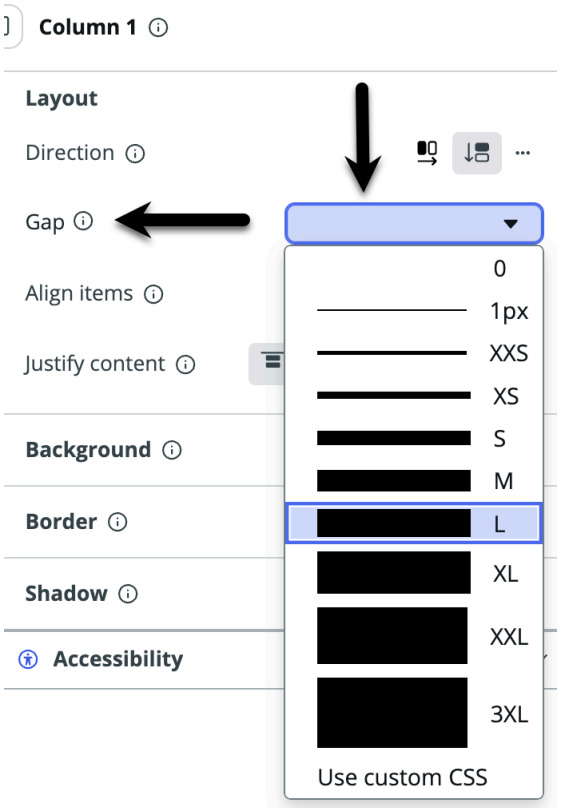
   c. コンテンツツリーで、追加したコンポーネントの名前の上にマウスを移動し、[メニューを開く] (縦に並んだ 3 つのドット) アイコンを選択して、[後に追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



d. ツールボックスウィンドウで、別のコンポーネント (ボタン など) を選択します。

6. [保存] を選択します。
7. コンテンツツリーで、2 つのコンポーネントを追加した列を選択します。
8. 構成パネルの [ギャップ] で、サイズのオプションを選択します。



9. 正確なギャップサイズをピクセル単位で指定するには、[ギャップ] フィールドの上にマウスを移動し、[カスタム値を使用] (鉛筆) アイコンを選択して、数値 (`300px` など) を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. 列のコンポーネントの配置を積み重ねるか横に並べるかを変更するには、[方向] で [行] または [列] アイコンを選択します。

列のコンポーネントの順序と配置を逆にするには、[方向] の [詳細] (横 3 つのドット) アイコンを選択し、[逆にする **(Reverse)]** オプションを選択します。

詳細な列レイアウトオプションの設定

スタック幅と列レイアウト高さを含む、詳細な列レイアウトオプションを UI ビルダーで設定します。

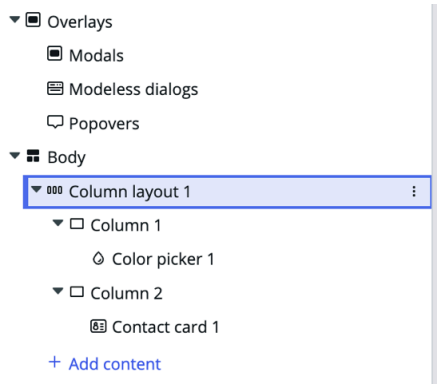
始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

手順

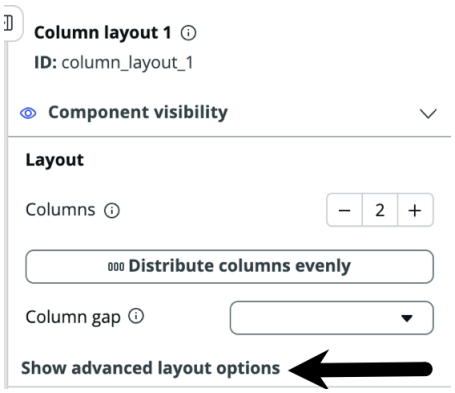
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。
4. ページに列レイアウトがまだ含まれていない場合は、列レイアウトの追加。
5. コンテンツツリーで 2 つ以上の列を含む列レイアウトを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. スタック幅を設定するには、構成パネル > [レイアウト] に移動し、[詳細レイアウトオプションを表示] を選択します。

   注: スタック幅を設定すると、幅の狭いブラウザーウィンドウ、タブレット、またはモバイルデバイスでの列レイアウトを含むページの外観を制御できます。

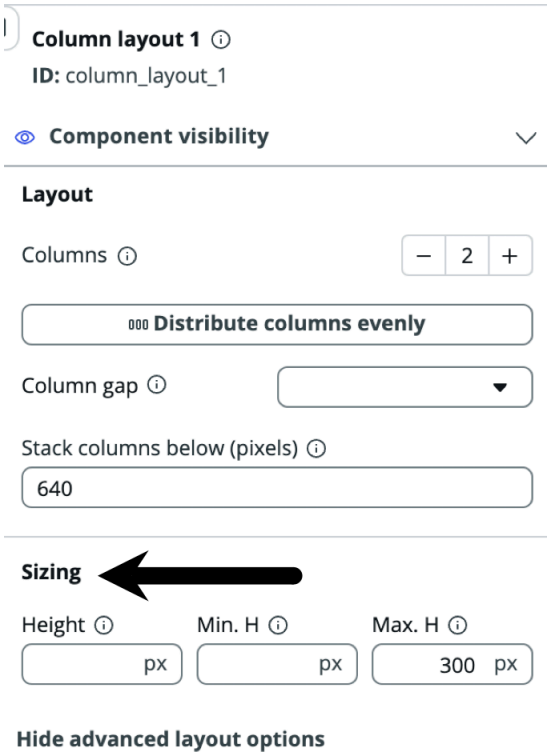


7. [下に列をスタック] に幅を入力します。
8. [保存] を選択します。
9. 更新されたスタック幅をテストするには、[プレビュー] の横にある矢印を選択し、**[URL** パスを開く] を選択します。
10. 指定したスタック幅よりもブラウザウィンドウの幅を小さくして、右側の列が最初の列より下に移動することを確認します。
11. URL パスで開いたブラウザタブを閉じます。
12. 列レイアウトの高さを制御するには、コンテンツツリーで 2 つ以上の列を含む列レイアウトを選択し、[構成パネル] > [レイアウト] に移動して、[詳細レイアウトオプションを表示] を選択します。

    注: 高さの設定は、リストコンポーネントなどの高さを設定できるコンポーネントが列レイアウトに含まれている場合に便利です。

13. [サイジング] で、1 つ以上のオプション ([高さ]、[最小高]、[最大高]) に数値を入力し、サイズ単位 (**px**、**%**、**em** など) を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



14. [保存] を選択します。
15. 更新されたサイジングをテストするには、[プレビュー] の横にある矢印を選択し、**[URL** パスを開く] を選択します。
16. ブラウザウィンドウの高さを縮小および拡大して、指定した値をテストします。
17. URL パスで開いたブラウザタブを閉じます。

UI ビルダー のレイアウトのアップグレード

Quebec および Rome で作成されたレイアウトを新しいレイアウトシステムにアップグレードします。

UI ビルダー レイアウトシステムは San Diego リリースで拡張および更新されました。この新しいレイアウトシステムは、簡素化されたコンテンツツリー、およびレイアウト構成とコンポーネントのスタイリングのための新しいスタイリングパネルを備えています。新しく作成されるすべてのページバリアントは、新しいレイアウトシステムを使用します。既存のページとカスタムページを新しいレイアウトシステムにアップグレードすることを選択できます。

新しいレイアウトシステムには以下が含まれます。

- 簡素化されたコンテンツツリー
- レイアウト構成とコンポーネントのスタイリング用の改善されたスタイリングパネル
- CSS Flexbox および グリッド レイアウトを構成するためのローコード UI
- コンポーネントのスタイリング用の拡張 UI
- スロットを必要としない更新されたレイアウト

レイアウトのアップグレード後の確認事項

バリアントとページは個別にアップグレードされます。

ページ/バリアントは、レイアウトと、データリソース、イベントバインディング、および構成があるレイアウト内でコンテナにラップされたコンポーネントおよびサブコンポーネントで構成されま

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

す。新しいレイアウトシステムにアップグレードすると、ページのレイアウトのみがアップグレードされるため、データ、コンポーネント、またはコンポーネントのスタイリングに影響はありません。

古いレイアウトシステムのすべてのスロットは、アップグレードプロセス中に新しいレイアウトに移行されます。アップグレードプロセスにより、ページ上でのコンポーネントコンテナの構造が変更されます。

コンポーネントのスタイリングは影響を受けませんが、コンポーネントの配置方法が 1 対 1 のスタイルで移行されない場合があります。複雑なページでは、スタイルがスロットからコンテナにマージされるため、アップグレードプロセスによって視覚的な不整合が発生する可能性があります。一部の問題は手動で解決する必要があります。

新しいレイアウトシステムへのアップグレード

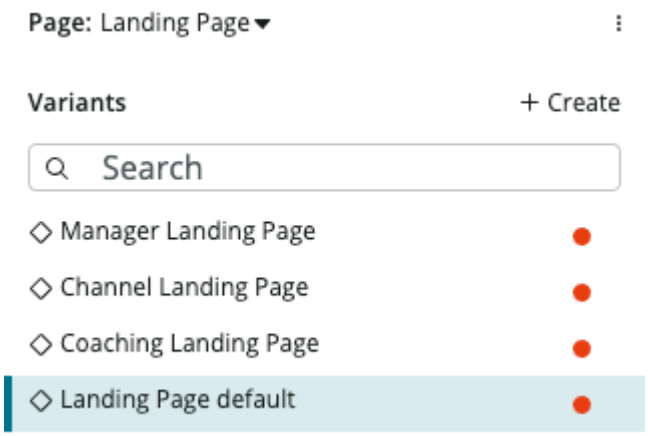
UI ビルダー ページを新しいレイアウトシステムにアップグレードします。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. アップグレードするページでエクスペリエンスを開きます。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. アップグレードするページを選択します。

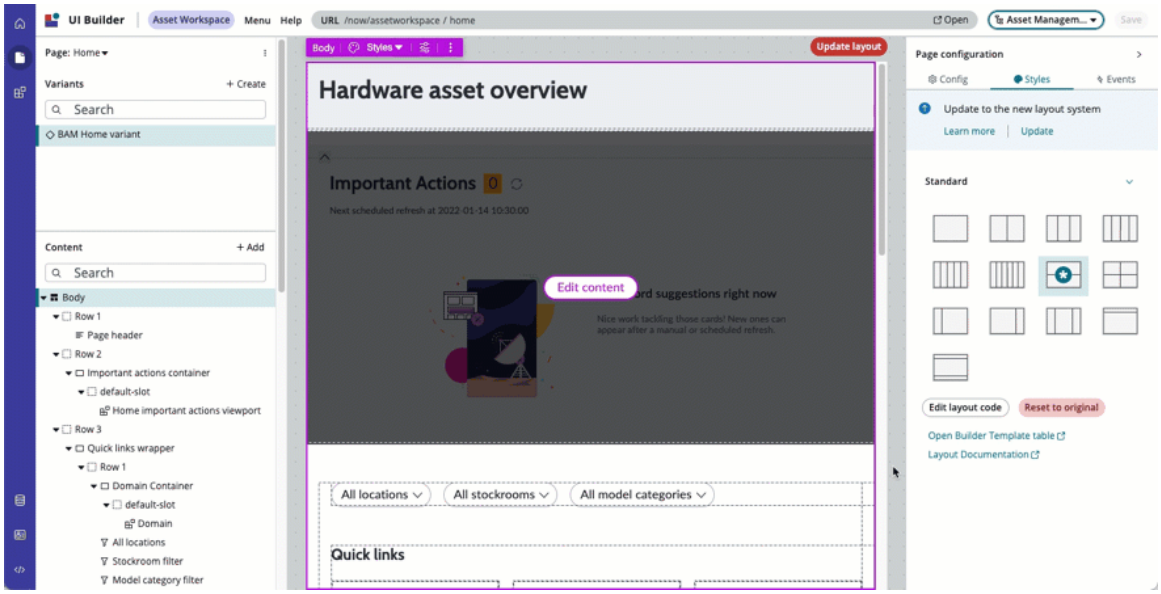


   新しいレイアウトシステムにアップグレードできるページバリアントは、赤い点でタグ付けされます。

   > **注:** Quebec より前の行/列レイアウトシステムを使用して作成された従来のページはアップグレードできません。新しいレイアウトシステムで再ビルドする必要があります。

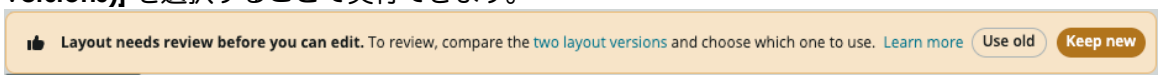
4. [レイアウトの更新] ボタンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



UI ビルダー がページレイアウトの新しいレイアウトシステムへの更新を開始します。プロセスが完了すると、通知が表示されます。

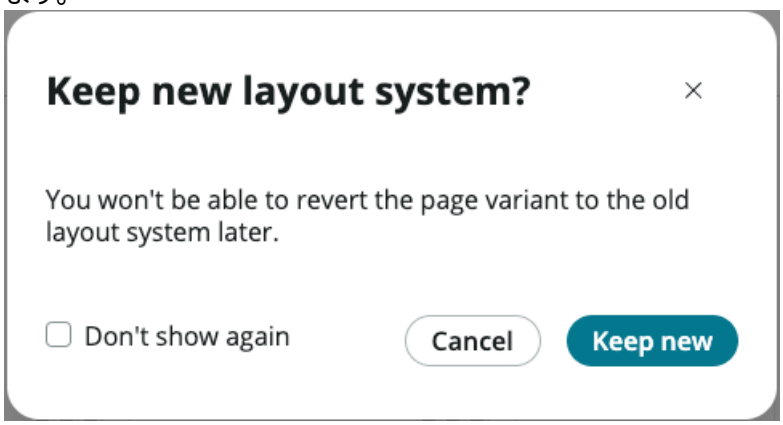
5. 古いレイアウトとアップグレードされたレイアウトの比較は、[レイアウトを編集するには、レビューが必要です] 通知で **[2 つのレイアウトバージョンを比較 (compare the two layout versions)]** を選択することで実行できます。



2 つのブラウザータブが開かれ、1 つには現在のレイアウトが表示され、もう 1 つにはアップグレードされたレイアウトが表示されます。

6. [新規を保持] を選択して新しいレイアウトシステムにページを更新するか、[古いものを使用] を選択してページレイアウトを元の状態のままにします。
選択を確認することを求めるモーダルが表示されます。

7. [新規を保持] を選択して新しいレイアウトシステムへのアップグレードを完了するか、[古いものを使用] を選択してアップグレードプロセスを取り消してページを古いレイアウトシステムに戻します。



8. 変更が適用された状態でページが再ロードされます。

9. [プレビュー] ボタン (

) を選択し、ページを表示してテストします。

UI ビルダー での Flexbox レイアウトの使用

UI ビルダー で Flexbox レイアウトを作成し、カスケードスタイルシート (CSS) でカスタマイズすることで、パフォーマンスを向上させることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

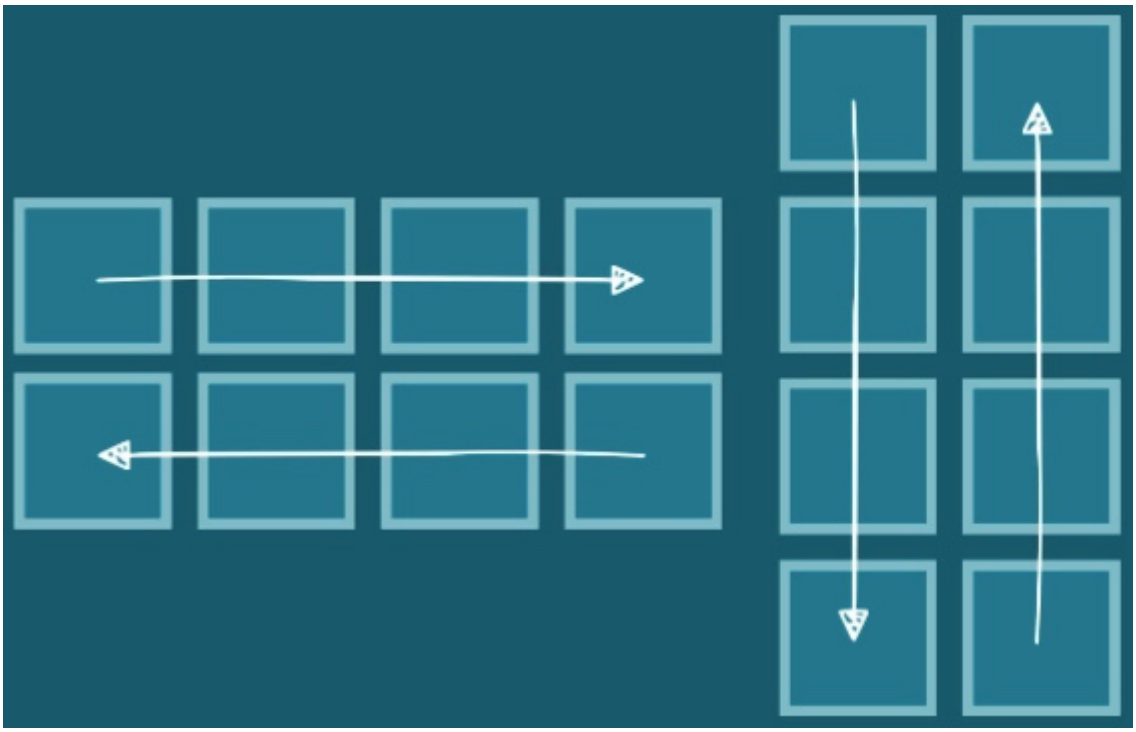
UI ビルダーで Flexbox レイアウトを使用してカスタムページを簡単にビルドできます。ページのレイアウトをカスタマイズすると、Flexbox を最大限に活用してページ全体を設計できます。詳細については、「UI ビルダーページでコンポーネントを整理する」を参照してください。

Flexbox は、CSS の 1 次元レイアウトシステムです。Flexbox は本質的に柔軟であるため、コンテンツのサイズがわからない場合に便利です。複雑なページをビルドする予定の場合は、構成パネルの [スタイル] タブまたは CSS を使用してページのレイアウトをカスタマイズできます。Flexbox の詳細については、Mozilla のホームページを参照してください。

レイアウト内のコンテンツの向きは、次の方法で変更できます。

- 行：行は、ブラウザーのデフォルト言語の向きに応じて、「左から右」または「右から左」に編成されます。英語のブラウザーの場合は「左から右」です。
- 行を逆にする：行は、ブラウザーのデフォルト言語の逆向きに、「右から左」または「左から右」に編成されます。
- 列：「上から下」または「下から上」
- 列を逆にする：「下から上」

Flexbox の行と列の向き



- コンテンツの両端揃え：主軸に沿って配置を定義します。選択肢は次のとおりです。
  - フレックス開始：アイテムは、左揃えのコンテンツのように、フレックスの向きで先頭位置に置かれます。これは、デフォルトの設定です。
  - フレックス終了：アイテムは、右揃えのコンテンツのように、フレックスの向きで末尾位置に置かれます。
  - 間にスペースを配置：アイテムは均等に配置されます。
  - 外側にスペースを配置：アイテムは周囲に均等な間隔を置いて均等に配置されます。
  - 均等にスペースを配置：アイテム間の間隔は均等になります。
- アイテムの整列：交差軸に沿ってフレックスコンテンツを表示する方法を定義します。選択肢は次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ストレッチ (Stretch)：コンテンツを引き延ばしてコンテナ全体に収まるようにします。これは、デフォルトの設定です
- フレックス開始：交差軸の先頭位置にコンテンツを配置します。
- フレックス終了：交差軸の末尾位置にコンテンツを配置します。
- 中央：コンテンツを交差軸の中央に配置します。
- ベースシステム：コンテンツをベースライン配置と同じように配置します。

- 高さ：高さを自動または手動で設定します。
- 幅：Flexbox のアイテムの高さを自動または手動で設定します。
- マージン：Flexbox のアイテム間の最小距離を設定します。
- パディング (Padding)：Flexbox のアイテムの各側のパディングを設定します。

新しいレイアウトシステムでの **Flexbox** レイアウトの作成

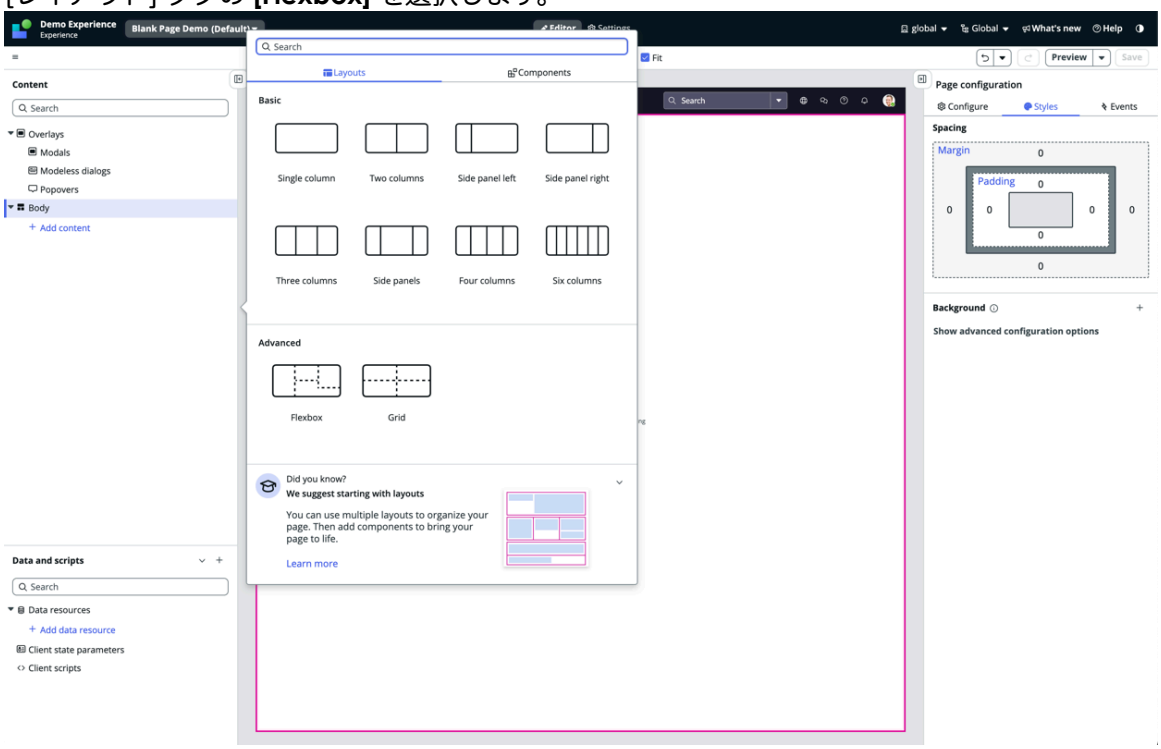
UI ビルダー で Flexbox レイアウトを作成し、ローコード環境で強力なページをビルドします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

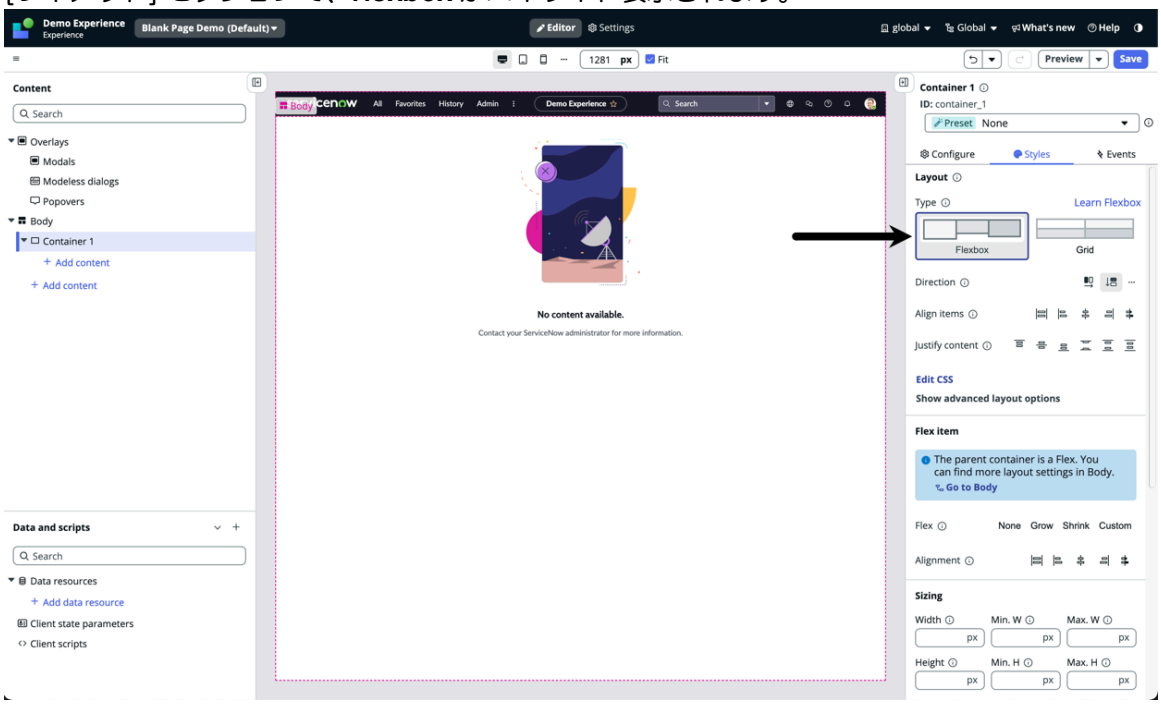
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー でのページの作成。
4. UI ビルダー ステージで **[+** コンテンツを追加] ボタンを選択します。
5. [レイアウト] タブの **[Flexbox]** を選択します。



6. 構成パネルで [スタイル] タブを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [レイアウト] セクションで、**Flexbox** がハイライト表示されます。



8. [スタイル] タブの [レイアウト] セクションで、以下を変更できます。

   方向

   コンポーネントを水平に重ねるか、垂直に重ねるかを定義します。

   アイテムの整列

   コンテナ内のコンポーネントをグループとして整列する方法を定義します。

   コンテンツの両端揃え

   コンテナ内のコンポーネントをパックする方法または間隔を空ける方法を定義します。

   > **注:** [詳細レイアウトオプションを表示 **(Show advanced layout options)]** を選択し、次の 2 つのオプションを表示します。

   ギャップ

   行と列の間のギャップのサイズを設定します。

   子要素を複数の行に折り返す

   コンポーネントを強制的に 1 行に表示するか、オーバーフローさせて複数行に表示するかを設定します。

   Flexbox のレイアウト構成については、Mozilla のホームページを参照してください。

9. オプション: CSS コードを編集するには、[スタイル] タブの下部にある [詳細設定オプションを表示 **(Show advanced configuration options)]** を選択した後で **[CSS** の表示と編集] オプションを選択します。
10. [保存] を選択します。
    ページが更新され、レイアウトに加えられた変更が表示されます。
11. コンポーネントをページに追加します。
    詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
12. Preview を選択し、ページを表示してテストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

古いレイアウトシステムでの **Flexbox** レイアウトの作成

UI ビルダー で Flexbox レイアウトを作成し、カスケードスタイルシート (CSS) でカスタマイズすることで、パフォーマンスを向上させることができます。

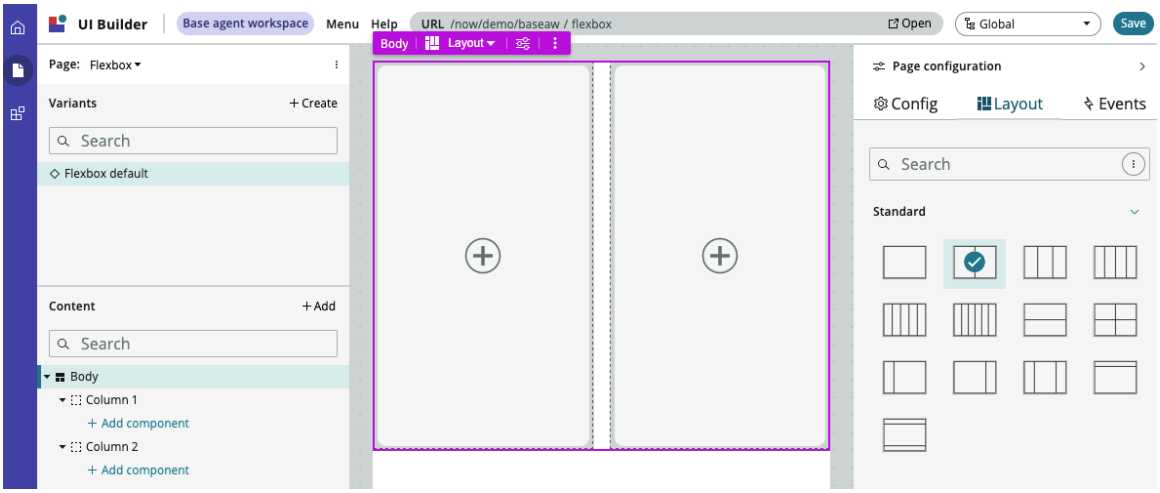
始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
次の手順では、Flexbox を使用して CSS コードを変更し、ページのレイアウトをカスタマイズする方法を学習します。

手順

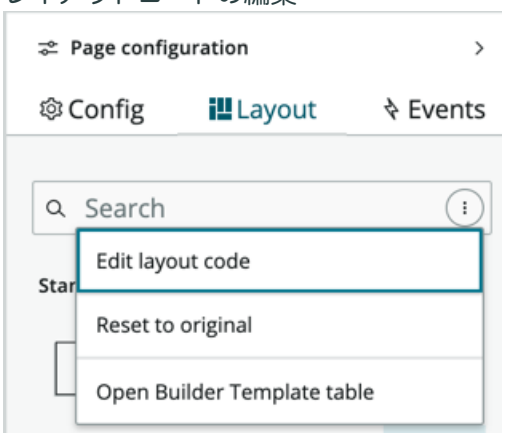
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。
4. [レイアウト] タブをクリックし、2 列のレイアウトを選択します。

標準の **2** 列レイアウト



5. [レイアウトコードを編集] をクリックします。

レイアウトコードの編集



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. コードエディターを展開して、CSS コードを簡単に確認できるようにします。

コードエディターの展開

7. 既存のスロットの CSS コードをコピーして、レイアウトに別のスロットを追加します。

コードをコピーする方が、レイアウトに入力するよりも簡単です。

スロットの **CSS** コードをコピーする

8. コピーしたコードの下にカンマを配置し、次の CSS コードを貼り付けます。
   a. *"slotName"* プロパティを `"Column 3",` に変更します。
   b. *"flex"* プロパティを `"2"` に変更します。
   c. `"margin-left": "1rem"` を追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

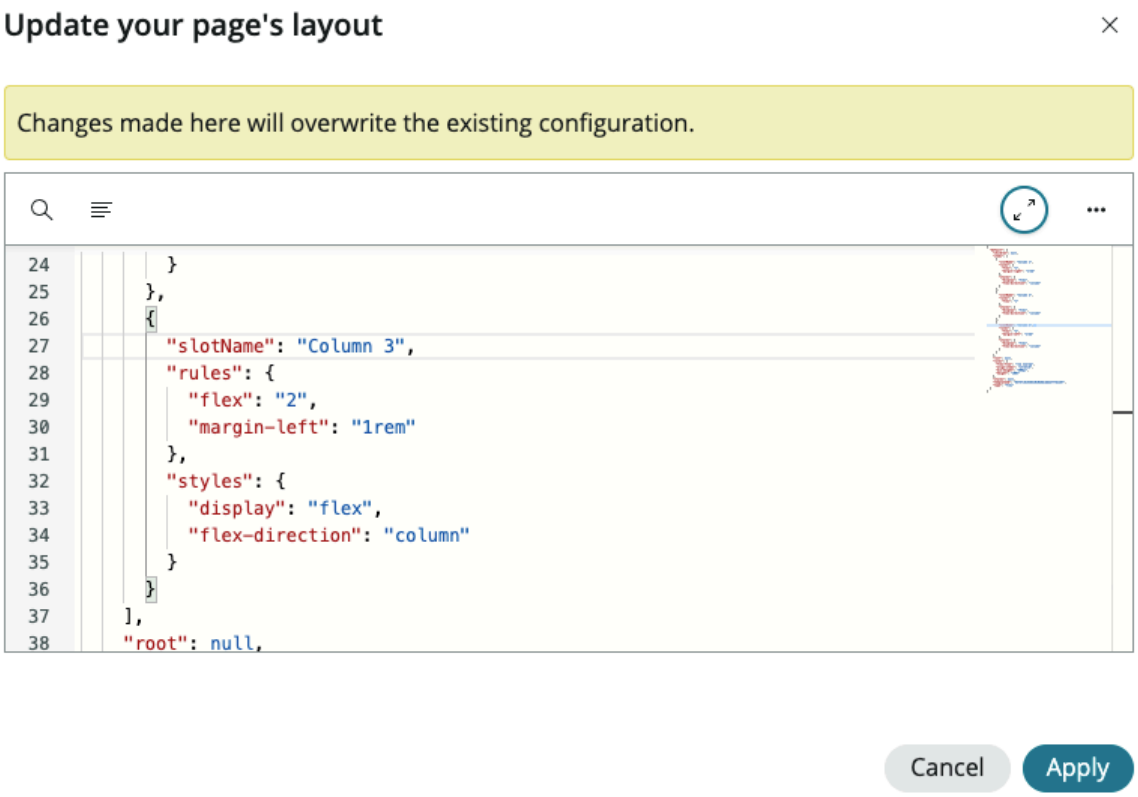
CSS コードを貼り付ける

```
        "flex": "1"
      },
      "styles": {
        "display": "flex",
        "flex-direction": "column"
      }
    },
    {
      "slotName": "Column 3",
      "rules": {
        "flex": "2",
        "margin-left": "1rem"
      },
      "styles": {
        "display": "flex",
        "flex-direction": "column"
      }
    }
  ],
  "root": null,
  "rules": {
    "flex-flow": "row nowrap",
    "align-items": "stretch",
    "min-height": "400px",
    "height": "100%"
```

*"flex"*プロパティを変更すると、列のサイズが大きくなります。*"margin-left"*を使用すると、前の列との間にスペースが追加されます。

9. 展開されたビューを折りたたんで、[適用] をクリックします。

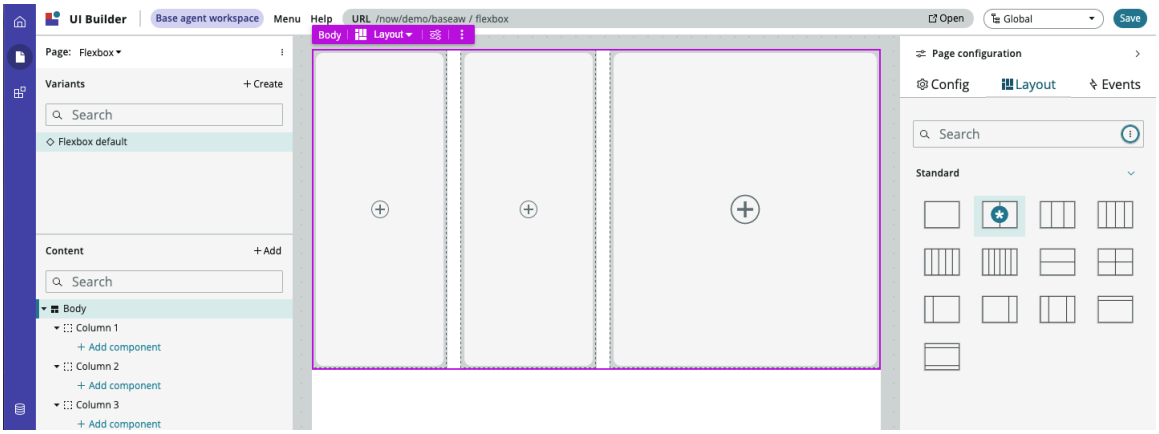
レイアウト変更の適用



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

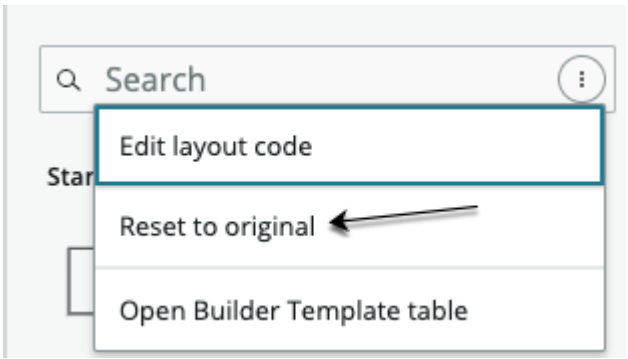
タスクの結果
作成した新しい Flexbox レイアウトには、元の 2 列のレイアウトに追加した新しいスロットが表示されます。

新しいカスタムレイアウト



[元の状態にリセット] をクリックすると、レイアウトの変更が元の状態にリセットされます。

レイアウトのリセット



関連情報

古いレイアウトシステムでの CSS グリッドレイアウトの作成

CSS グリッドレイアウトを使用したページのビルド

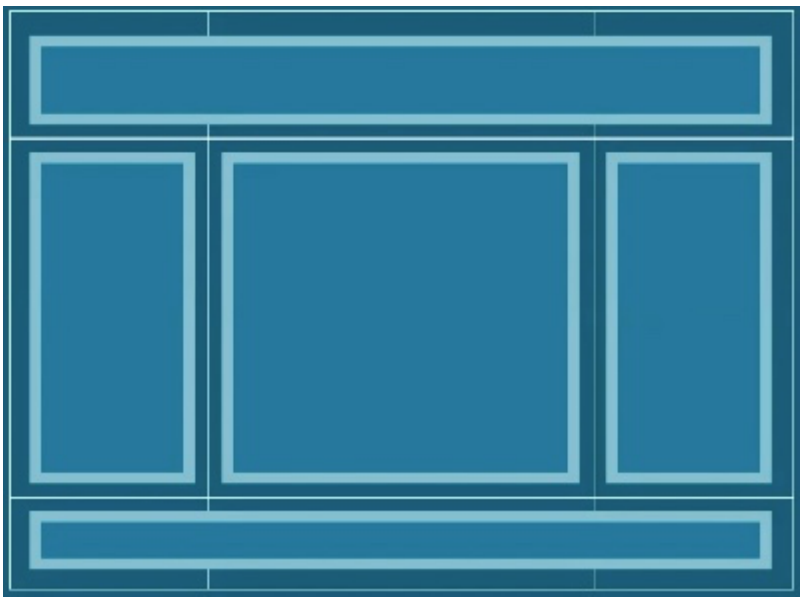
UI ビルダー で CSS グリッドレイアウトを作成し、カスケードスタイルシート (CSS) でカスタマイズして、パフォーマンスを向上させることができます。

CSS グリッドは CSS の最も強力なレイアウトシステムです。CSS グリッドは、2 次元グリッド上にビルドされます。CSS グリッドを使用して、ページの作成方法を制御できます。UI ビルダー を使用し、ローコードレイアウト構成プロパティを使用して CSS グリッドレイアウトを実装します。高度なレイアウトでは、CSS コードを表示および編集してレイアウトをカスタマイズできます。CSS グリッドの詳細については、Mozilla のホームページを参照してください。

たとえば、3 列 3 行のグリッドで 9 つのセルを作成できます。これらのセル内にコンポーネントを配置することも、コンポーネントを複数のセルにまたがらせることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSS グリッドレイアウト



ページのレイアウトをカスタマイズすると、CSS グリッドを最大限に活用してページ全体を設計できます。詳細については、「UI ビルダーページでコンポーネントを整理する」を参照してください。

UI ビルダー インスタンス内の CSS レイアウトの詳細については、[sys_uib_template] テーブルで検索できます。

新しいレイアウトシステムでの CSS グリッドレイアウトの作成

UI ビルダー で CSS グリッドレイアウトを作成し、ローコード環境で強力なページをビルドします。

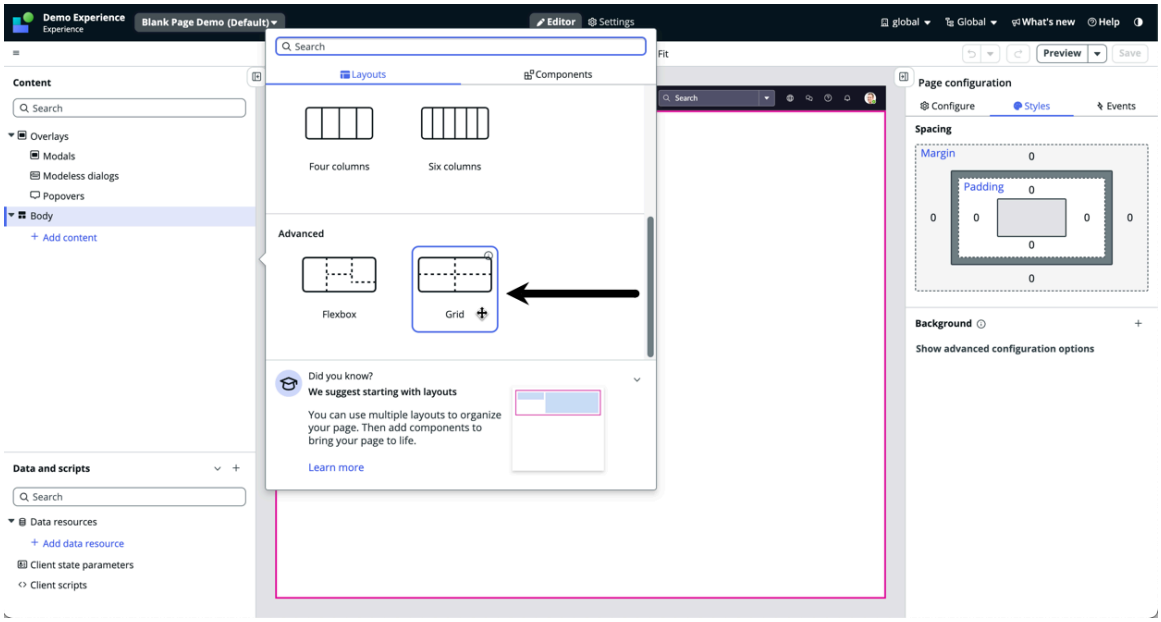
始める前に

必要なロール：admin

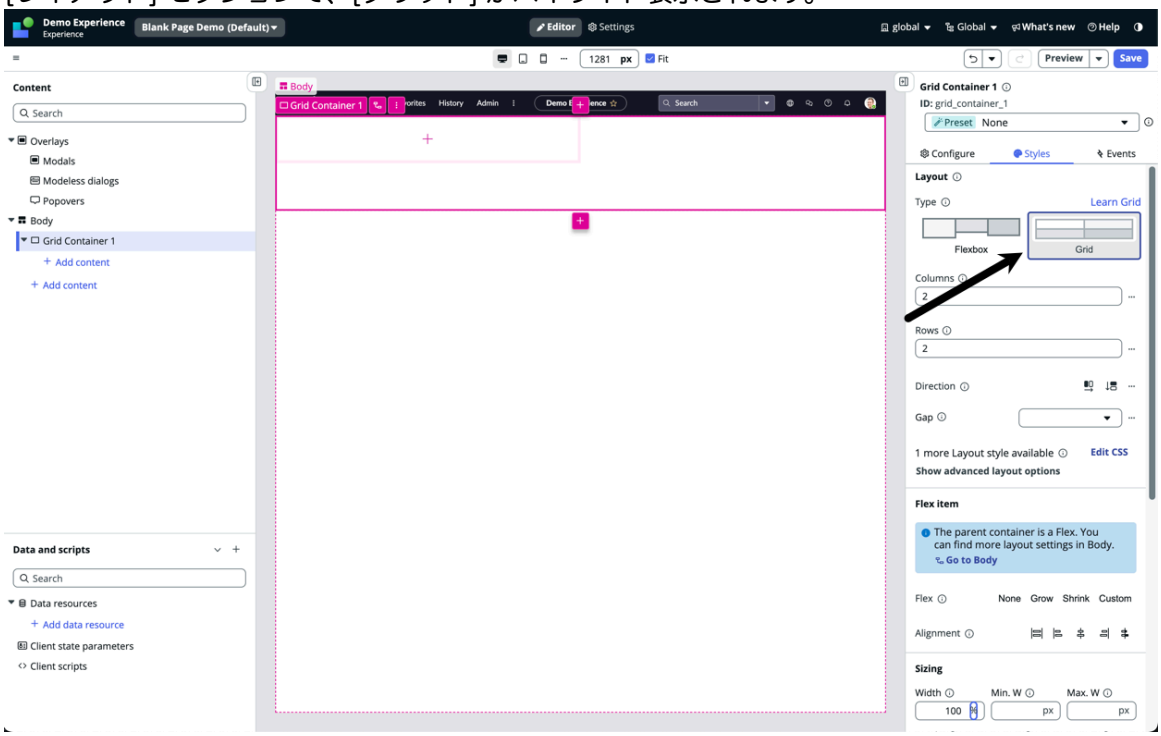
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー でのページの作成。
4. UI ビルダー ステージで **[+** コンテンツを追加] ボタンを選択します。
5. [レイアウト] タブの [グリッド] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. 構成パネルで [スタイル] タブを選択します。
7. [レイアウト] セクションで、[グリッド] がハイライト表示されます。



8. [スタイル] タブの [レイアウト] セクションで、以下を変更できます。

   列

   グリッド列の数、順序、および幅を定義します。

   行

   グリッド行の数、順序、および幅を定義します。

   方向

   新しく追加されたコンポーネントを水平方向と垂直方向のどちらに積み重ねるかを設定します。

   ギャップ

   行と列の間のギャップのサイズを設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> 注: [詳細レイアウトオプションを表示 **(Show advanced layout options)**] を選択し、次の 4 つのオプションを表示します。

アイテムの整列
: コンテナ内のコンポーネントをグループとして整列する方法を定義します。

アイテムの両端揃え
: グリッドコンテナのインライン軸に沿って、ブラウザーがコンテンツアイテムの間および周囲にスペースを配置する方法を定義します。

コンテンツの整列
: グリッドのブロック軸に沿って、コンテンツアイテムの間および周囲のスペースの配置を設定します。

コンテンツの両端揃え
: コンテナ内のコンポーネントをパックする方法または間隔を空ける方法を定義します。

CSS グリッドのレイアウト構成については、Mozilla のホームページを参照してください。

9. オプション: CSS コードを編集するには、[スタイル] タブの下部にある [詳細設定オプションを表示 **(Show advanced configuration options)**] を選択した後で **[CSS** の表示と編集] オプションを選択します。
10. [保存] を選択します。
ページが更新され、レイアウトに加えられた変更が表示されます。
11. コンポーネントをページに追加します。
詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
12. Preview を選択し、ページを表示してテストします。

古いレイアウトシステムでの **CSS** グリッドレイアウトの作成

UI ビルダー で CSS グリッドレイアウトを作成し、カスケードスタイルシート (CSS) でカスタマイズして、パフォーマンスを向上させることができます。

始める前に
必要なロール：admin

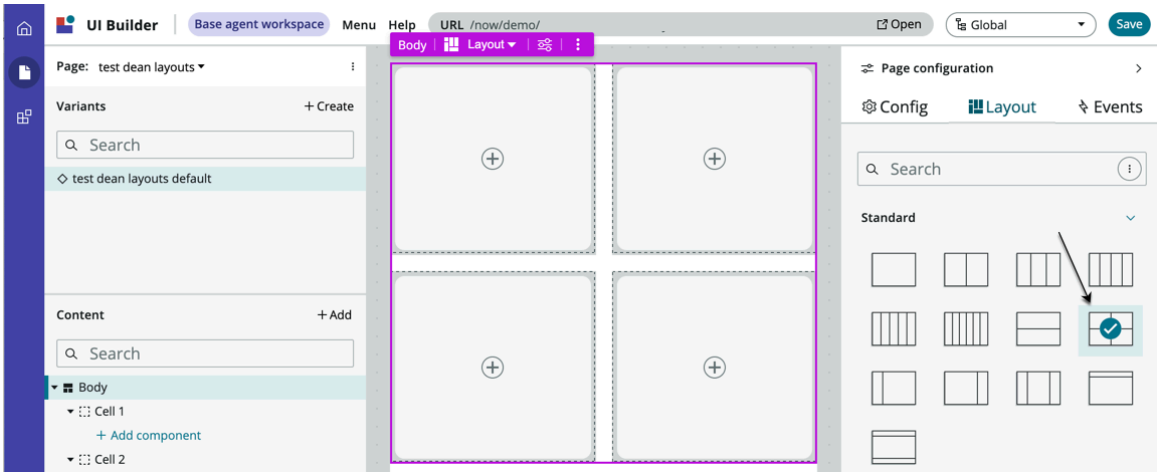
このタスクについて
次の手順では、CSS グリッドを使用して CSS を変更し、ページのレイアウトをカスタマイズする方法を学習します。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。
4. [レイアウト] タブをクリックし、2 行 2 列のレイアウトを選択します。

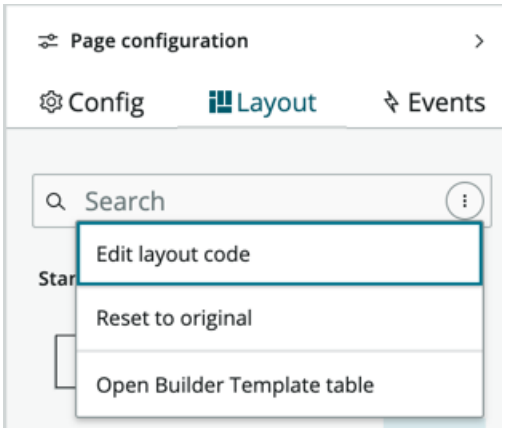
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

標準の 2 行 2 列のレイアウト



5. [レイアウトコードを編集] をクリックします。

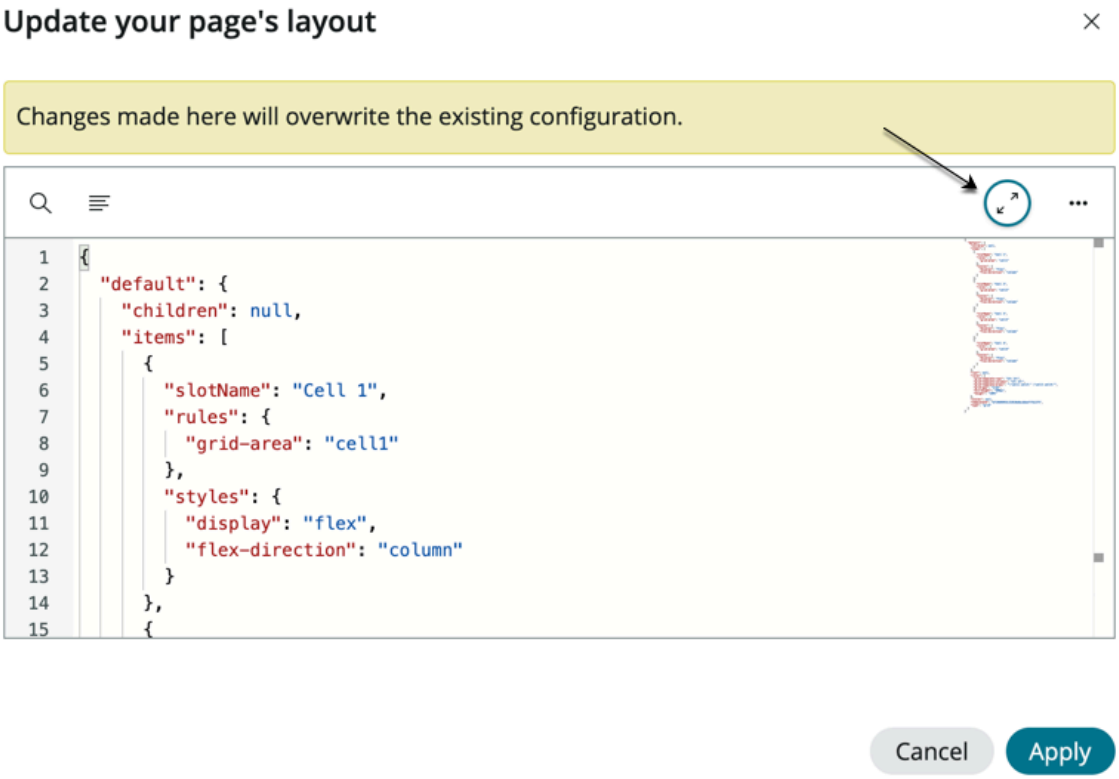
レイアウトコードの編集



6. コードエディターを展開して、CSS コードを簡単に確認できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードエディターの展開



7. 既存のスロットの CSS コードをコピーして、レイアウトに別のスロットを追加します。

   CSS コードをコピーする方が、レイアウトに入力するよりも簡単です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スロットの CSS コードをコピーする

```
        }
      },
      {
        "slotName": "Cell 3",
        "rules": {
          "grid-area": "cell3"
        },
        "styles": {
          "display": "flex",
          "flex-direction": "column"
        }
      },
      {
        "slotName": "Cell 4",
        "rules": {
          "grid-area": "cell4"
        },
        "styles": {
          "display": "flex",
          "flex-direction": "column"
        }
      }
    ],
    "root": null,
    "rules": {
      "grid-template-rows": "1fr 1fr",
      "grid-template-columns": "1fr 1fr",
      "grid-template-areas": "\"cell1 cell2\" \"cell3 cell4\"",
      "grid-gap": "1rem",
      "min-height": "400px",
      "height": "100%"
    },
    "styles": null,
    "templateId": "b719698953c31010e6bcddeeff7b1275",
    "type": "grid"
  }
}
```

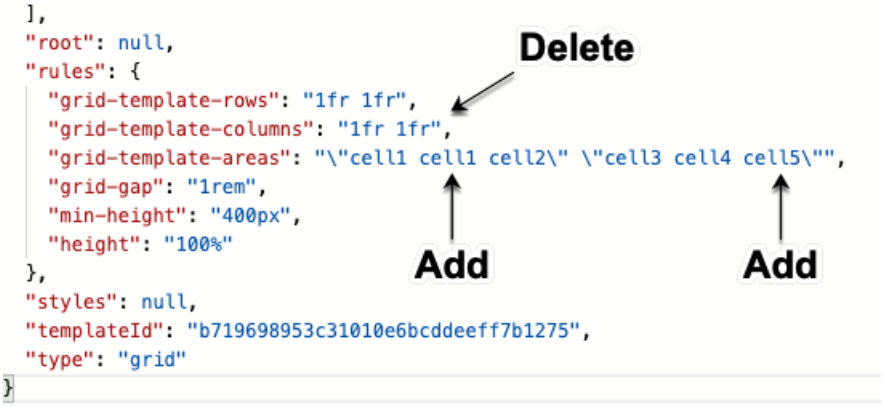
8. コピーしたコードの下に CSS コードを貼り付け、*slotName* と *grid-area* を一意の値に変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSS コードを貼り付ける

9. 新しい列とテンプレート領域を含むように、次のようにレイアウトルールを変更します。
   a. `"Grid-template-columns": "1fr 1fr",` 行を削除します。
   b. 2 番目の `cell1` を `cell1` の後に追加し、`cell5` を `cell4` の後に追加します。

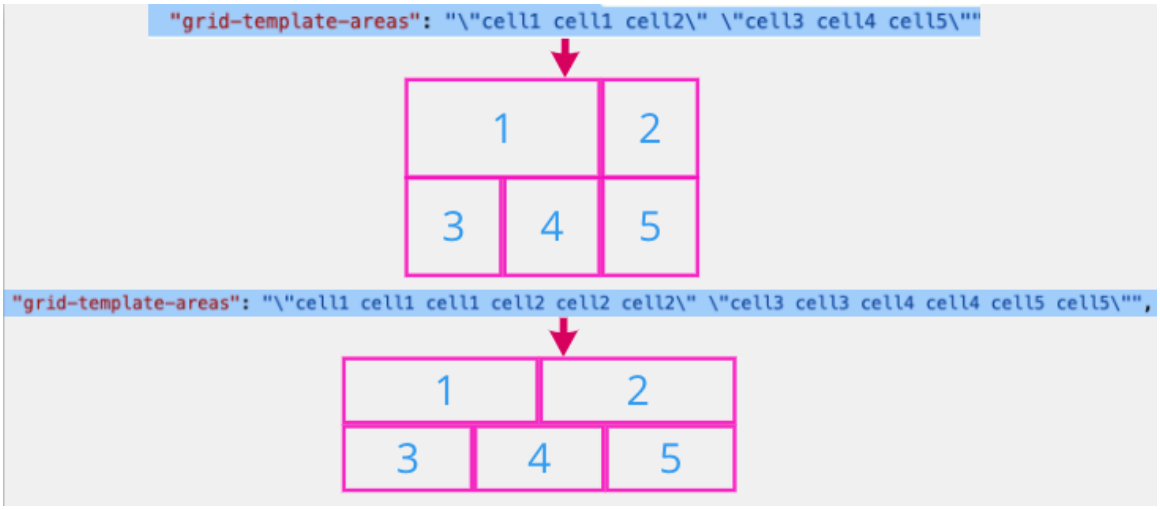
レイアウトルールの変更



多くのさまざまな構成を設定できます。この例には、2 つの異なるグリッドテンプレート領域から作成された 2 つのグリッドがあります。変更される *"grid-template-areas"* プロパティは、同じ名前の CSS プロパティを設定しています。詳細については、「MDN grid-templates-areas」を参照してください。

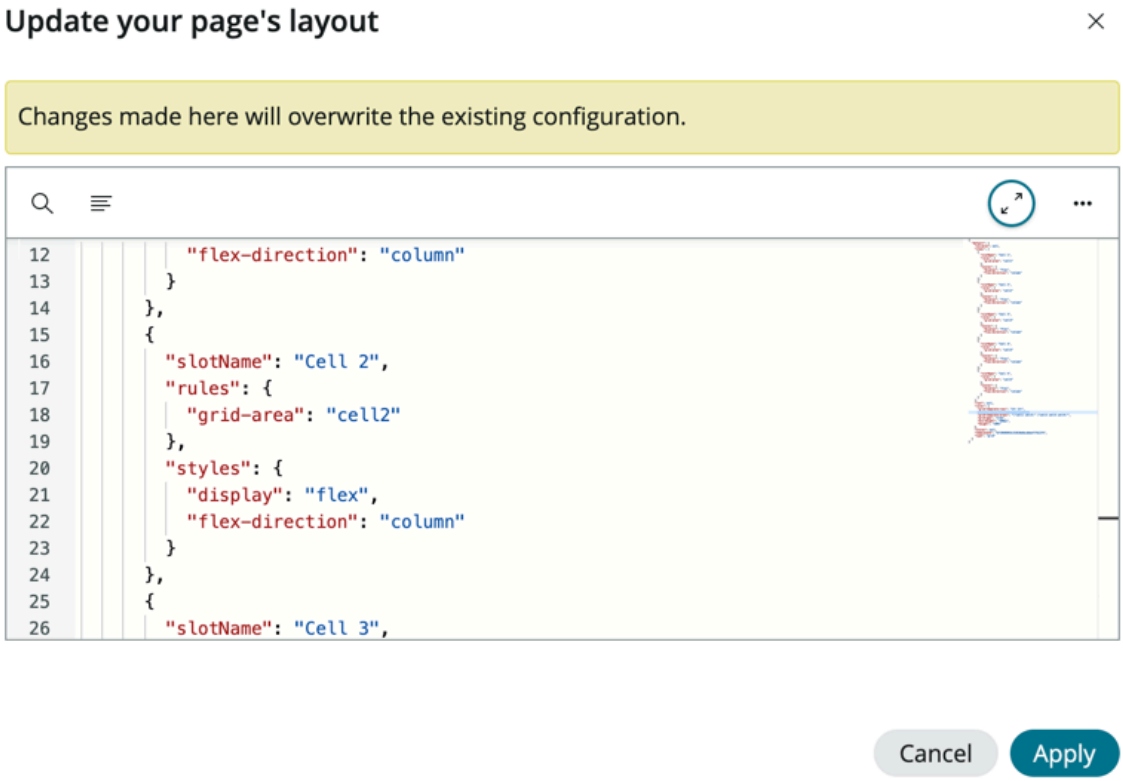
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

グリッドテンプレート領域



10. 展開されたビューを折りたたんで、[適用] をクリックします。

レイアウト変更の適用

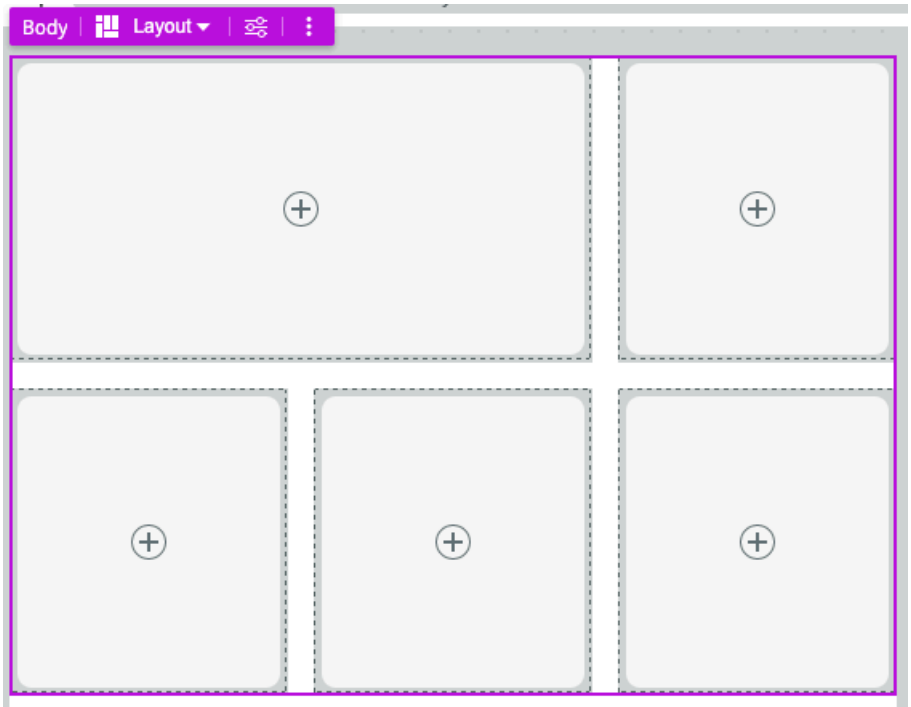


タスクの結果

新しい CSS グリッドレイアウトは、新しいスロットが元の 2 行 2 列レイアウトに追加されたことを示します。

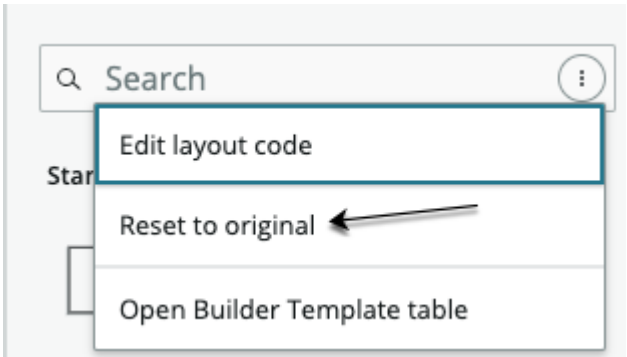
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいカスタムレイアウト



[元の状態にリセット] をクリックすると、いつでもレイアウトの変更を元の状態にリセットできます。

レイアウトのリセット



関連情報

古いレイアウトシステムでの Flexbox レイアウトの作成

Quebec または **Rome**で作成されたページのレイアウトの変更

レイアウトデザインを追加および変更して、ページの外観を変更します。Flexbox や CSS グリッドなどのカスケードスタイルシート (CSS) Web レイアウトテクノロジーを使用して、コンポーネントをページに表示する方法を選択します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

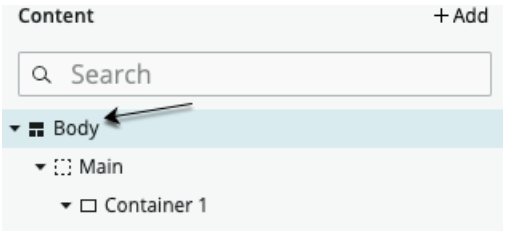
このタスクについて

レイアウトは、ページで利用可能なコンテナとコンポーネントとそれらの配置を制御します。レイアウトには CSS ルールが適用されます。レイアウトは次のように変更できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
4. [レイアウト] タブを選択します。
5. ページのタイプに応じて、次のいずれかを実行し、更新するコンテナを選択します。

ページのタイプ	説明
既存のページ	レイアウトを変更するページ上のコンテナを選択します。 注: または、メインページ領域の左側にあるコンテンツツリーでコンテナを選択することもできます。ページ構造が構造化ツリー内にあると、変更するコンテナをより簡単に見つけることができます。コンテンツツリーに多くのコンポーネントとコンテナがある場合は、検索バーを使用して特定のコンテナを検索します。
新規ページ	メインページ領域の左側にあるコンテンツツリーで、ページの [本文] を選択します。 [本文] はページのルート要素です。 

新しいページを開始する場合は、レイアウトをページレベルで選択し、その後にコンテナレベルで選択することができます。既存のページの所有者でない場合は、ページレベルでレイアウトを変更することによる影響に注意してください。

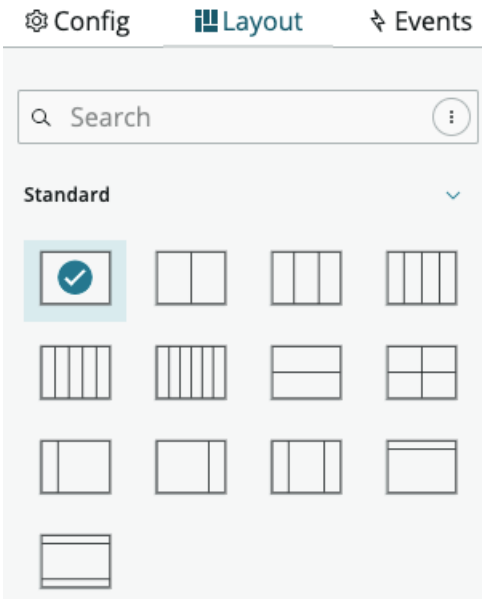
6. コンテナのレイアウトを変更します。

   a. [ページ構成] ペインで、[レイアウト] タブを選択して、使用するレイアウトを選択します。

      既存のページの現在のレイアウトを新しいレイアウトに変更できます。たとえば、3 列のレイアウトで、4 列のレイアウトをクリックしてレイアウトを変更できます。

      コンテナのレイアウトを設定することもできます。次の画像は、UI ビルダーのレイアウトオプションを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

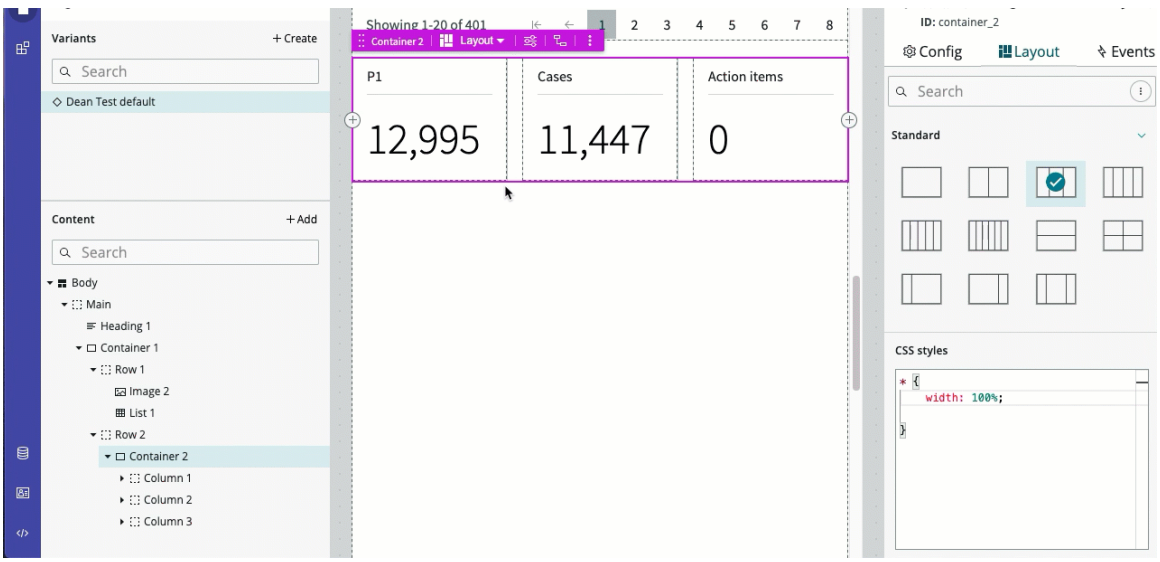


b. ページを作成する場合は、レイアウトの新しい領域にコンポーネントを追加します。

c. [保存] をクリックします。

d. [プレビュー] ボタンを選択してページをテストします。

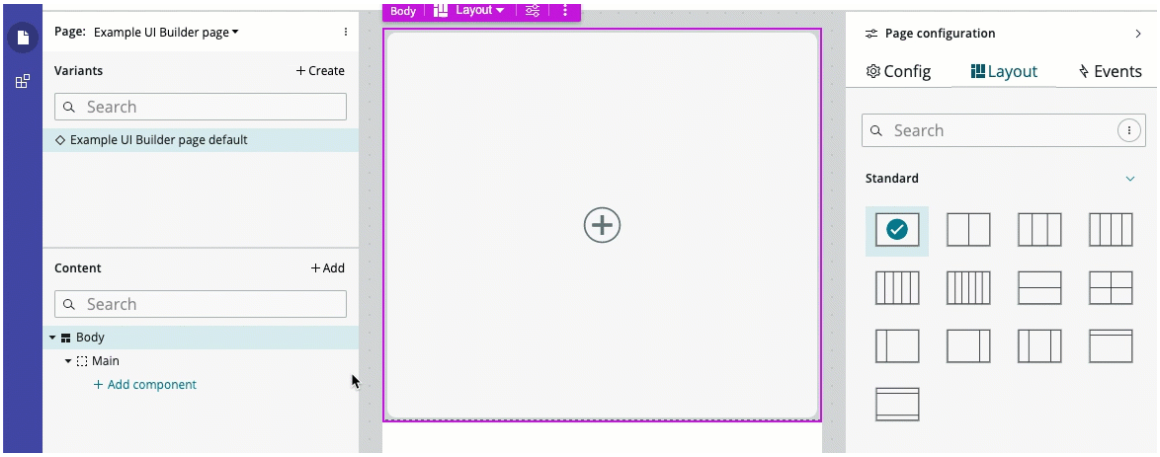
Example
次のビデオでは、既存のページを変更するために、コンテナのレイアウトを 3 列から 4 列に変更し、4 列目に新しいコンポーネントを追加する方法を示します。



次のビデオでは、新しいページのレイアウトを設定するために、ページに必要なレイアウトを設定する方法を示します。たとえば、ページに 2 つのスロットまたは列を設定できます。次に、各スロットにコンテナを追加し、各コンテナのレイアウトを変更できます。ページにコンテナを追加した後、コンテナレベルでレイアウトを設定することもできます。

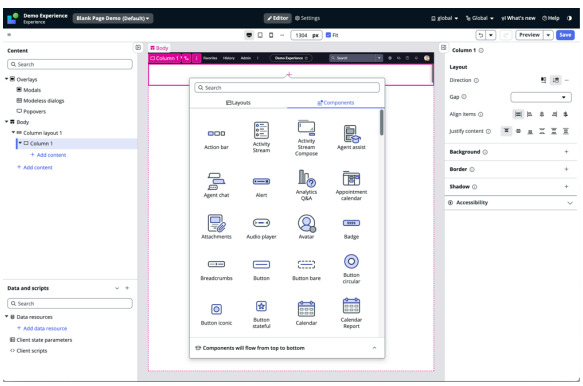
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ページのレイアウトの変更

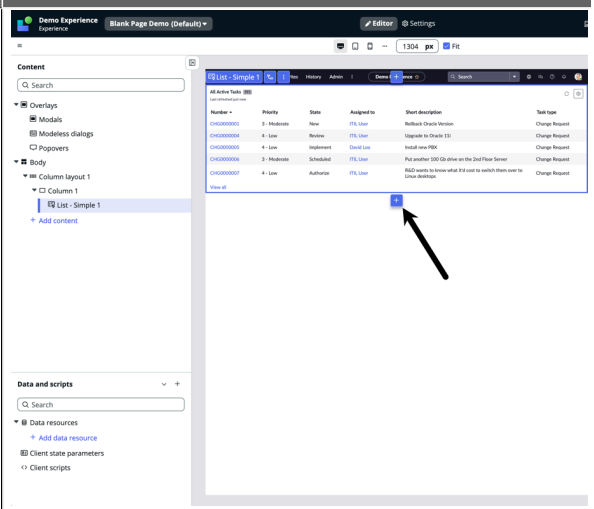
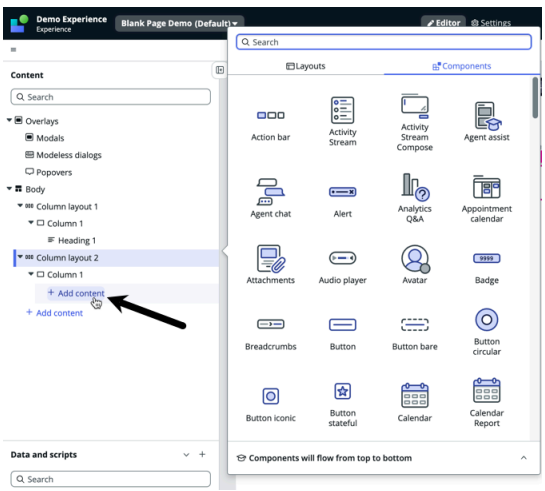
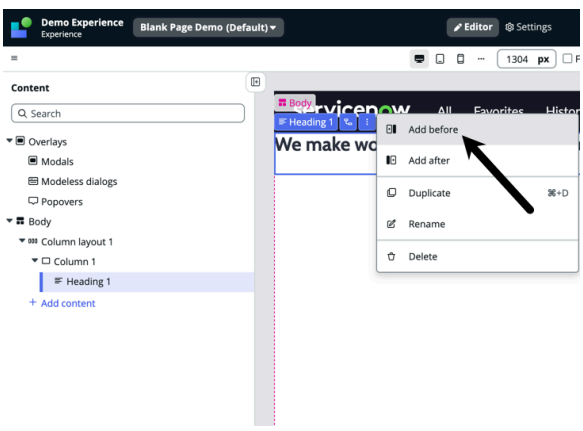


7. スロットにコンポーネントを追加します。
   コンテナコンポーネントを使用してページをビルドします。詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

   コンポーネントは以下のいずれかの方法でページに追加できます。

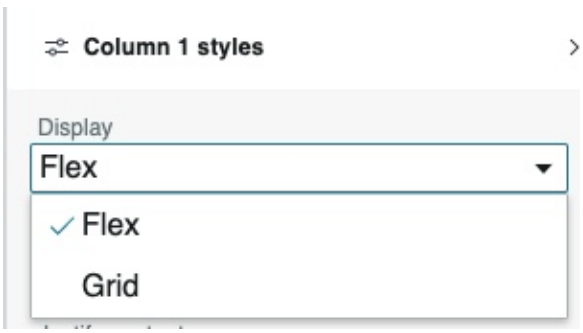
コンポーネントの追加元	必要な操作
ページから直接 (オプション 1)	コンテンツの追加 (プラス) アイコンを選択し、[コンポーネント] タブを選択して、コンポーネントを選択します。 
ページから直接 (オプション 2)	列レイアウトまたはコンポーネントで、[前に追加] (プラス) または [後に追加] (プラス) アイコンを選択し、コンポーネントを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

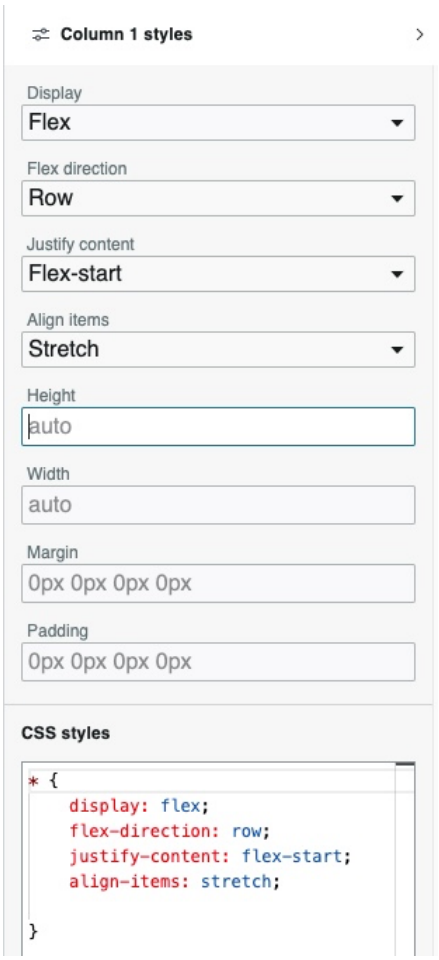
コンポーネントの追加元	必要な操作
	
コンテンツツリーから	コンテンツツリーで、**[+ コンテンツを追加]** を選択して、コンポーネントを選択します。 
ページ上部のフローティングメニューから	列レイアウトまたはコンポーネントで、メニューアイコンを選択し、[前に追加] または [後に追加] を選択し、コンポーネントを選択します。 

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. 次のいずれかの方法でレイアウトのスタイリングオプションを変更します。

オプション	説明
レイアウトスタイリングの変更	a. レイアウトを変更するコンテナをクリックします。 コンテンツツリーでコンテナをクリックすることも、ページでコンテナをクリックすることもできます。 b. ページの上にあるフローティングメニューから、[レイアウト] をクリックします。 c. コンテンツをフレックスまたはグリッドのいずれで表示するかを選択します。フレックスまたはグリッドオプションの詳細については、「UI ビルダー での Flexbox レイアウトの使用」または「CSS グリッドレイアウトを使用したページのビルド」を参照してください。
フレックスの選択	a. 表示リストから、[フレックス] を選択します。  b. ページでのコンテナコンテンツの表示方法に基づいて、次のオプションを選択します。[CSS スタイル] ボックスにオプションを入力することもできます。 ▪ フレックス方向：[行]、[行を逆にする]、[列]、または [列を逆にする] から選択します。 ▪ コンテンツの両端揃え：次のいずれかを選択します。 ▪ フレックス開始：アイテムは、左揃えのコンテンツのように、フレックスの向きで先頭位置に置かれます。これは、デフォルトの設定です。 ▪ フレックス終了：アイテムは、右揃えのコンテンツのように、フレックスの向きで末尾位置に置かれます。 ▪ 間にスペースを配置：アイテムは均等に配置されます。 ▪ 外側にスペースを配置：アイテムは周囲に均等な間隔を置いて均等に配置されます。 ▪ 均等にスペースを配置：アイテム間の間隔は均等になります。 ▪ アイテムの整列：交差軸に沿ってフレックスコンテンツを表示する方法を定義します。選択肢は次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	▪ ストレッチ **(Stretch)**：コンテンツを引き延ばしてコンテナ全体に収まるようにします。これは、デフォルトの設定です。 ▪ フレックス開始：交差軸の先頭位置にコンテンツを配置します。 ▪ フレックス終了：交差軸の末尾位置にコンテンツを配置します。 ▪ 中央：コンテンツを交差軸の中央に配置します。 ▪ ベースライン：コンテンツをベースライン配置と同じように配置します。 ▪ 高さ：高さを自動または手動で設定します。 ▪ 幅：Flexbox のアイテムの高さを自動または手動で設定します。 ▪ マージン：Flexbox のアイテム間の最小距離を設定します。 ▪ パディング (Padding)：Flexbox のアイテムの各側のパディングを設定します。 

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

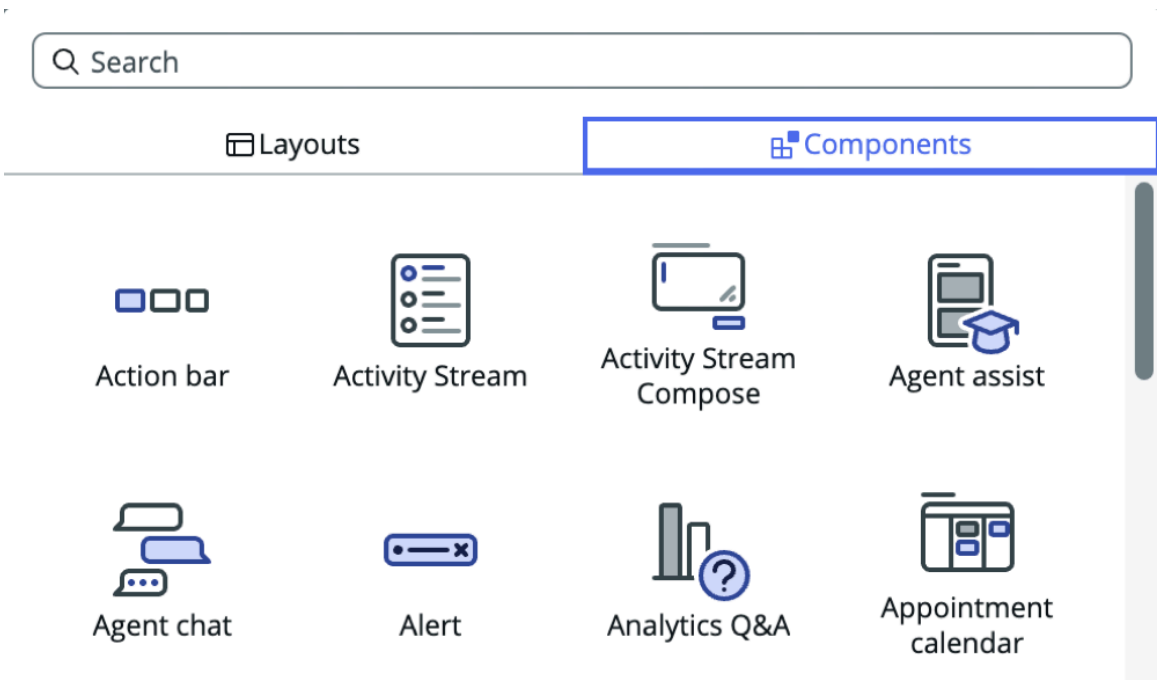
オプション	説明
グリッドの選択	**a.** 表示リストから、[グリッド] を選択します。 **b.** 次の情報を入力します。 ▪ 高さ：高さを自動または手動で設定します。 ▪ 幅：グリッドのアイテムの高さを自動または手動で設定します。 ▪ マージン：グリッドのアイテム間の最小距離を設定します。 ▪ パディング：グリッドのアイテムの各側のパディングを設定します。

コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ

UI ビルダー のコンポーネントについて説明します。また、UI ビルダー 内でコンポーネントがどのように機能するかを確認します。

コンポーネントは、UI ビルダー ページの基本要素です。コンポーネントは、ボタンやラベルなどのコア要素から、リストやフォームなどのより複雑なエクスペリエンスコンポーネントまで多岐にわたります。

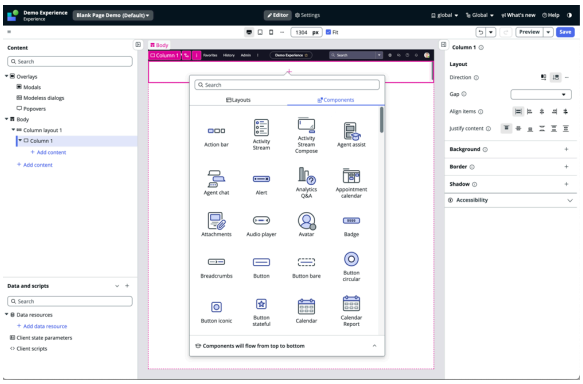
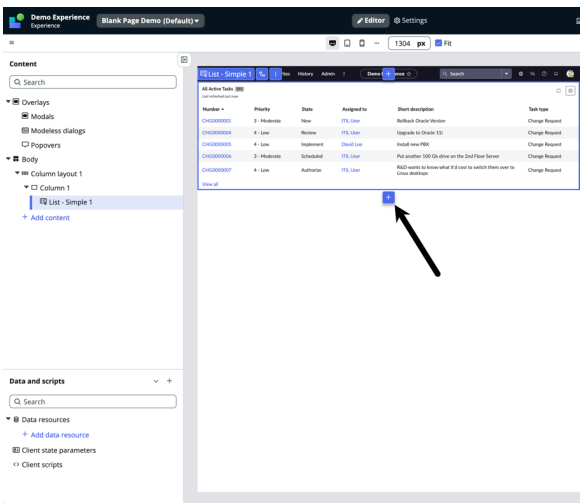
これらのコンポーネントを UI ビルダー ページに追加して、ワークスペースまたはポータルエクスペリエンスをビルドまたはカスタマイズできます。たとえば、アクティビティストリームコンポーネントをページに追加して、ユーザーが出張要求アクティビティを表示できるようにします。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

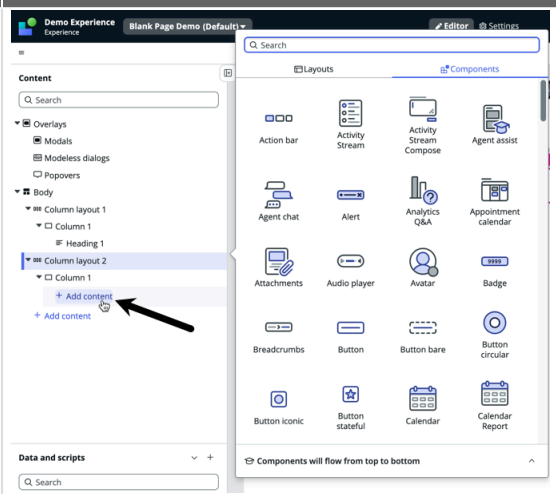
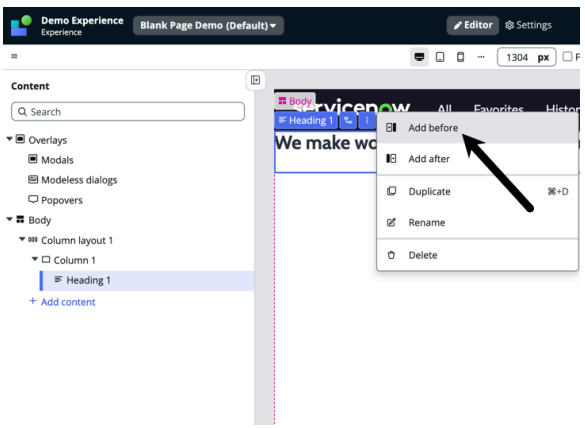
コンポーネントは以下の方法で UI ビルダー ページに追加できます。

コンポーネントをページに追加する方法

ロケーション	例
UI ビルダー のページから直接 (オプション 1)	コンテンツの追加 (プラス) アイコンを選択し、[コンポーネント] タブを選択して、コンポーネントを選択します。 
UI ビルダー のページから直接 (オプション 2)	列レイアウトまたはコンポーネントで、[前に追加] (プラス) または [後に追加] (プラス) アイコンを選択し、コンポーネントを選択します。 
UI ビルダー のコンテンツツリーから	コンテンツツリーで、**[+ コンテンツを追加]** を選択して、コンポーネントを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

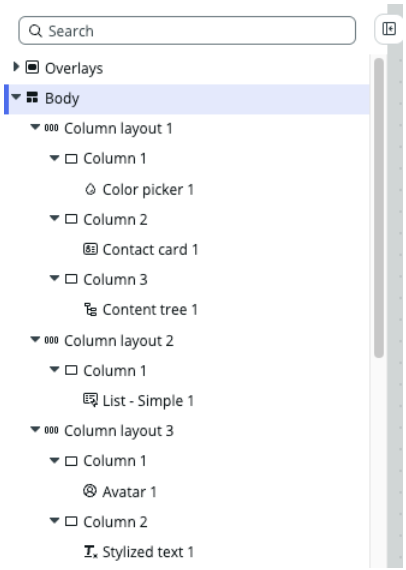
コンポーネントをページに追加する方法 (続く)

ロケーション	例
	
UI ビルダー のページの上にあるフローティングメニューから	列レイアウトまたはコンポーネントで、メニューアイコンを選択し、[前に追加] または [後に追加] を選択し、コンポーネントを選択します。 

UI ビルダーの列レイアウト

最初に、UI ビルダーページに列レイアウトと列を追加します。次に、列レイアウトの列にコンポーネントを追加して、ページをビルドおよびカスタマイズします。列レイアウトは、リストや見出しなどのコンポーネントを追加する画面の定義された部分と考えてください。UI ビルダー ページには、必要な数の列レイアウトを使用できます。任意の列レイアウトで最大 6 つの列を使用できます。1 つの列に複数のコンポーネントを追加できます。コンテンツツリーでページの構造を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



詳細については、「列レイアウト」を参照してください。

UI ビルダーのコンポーネントの構成

構成パネルでコンポーネントを構成する方法は 3 とおりあります。

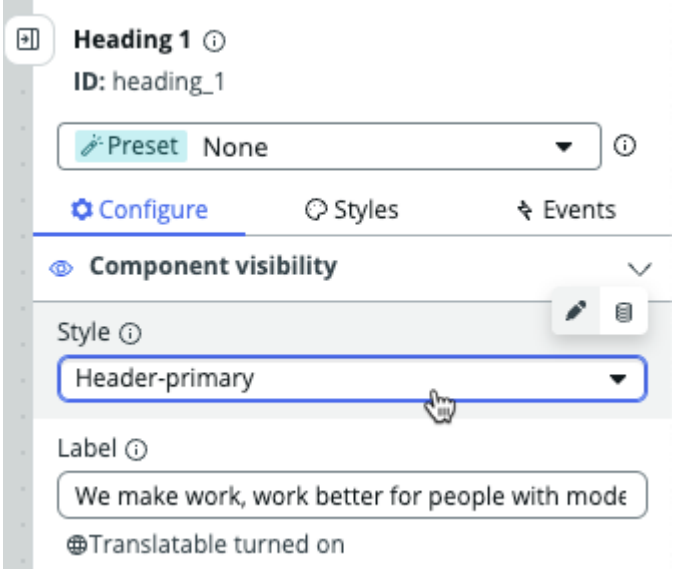
- コンポーネントのプロパティを構成します。
- CSS スタイルの上書きを追加します。
- コンポーネントのイベントハンドラーを設定します。

[設定] タブ

コンポーネントのプロパティは、各コンポーネントによって異なります。ボタン、見出し、ラベルなどのシンプルな要素の場合と同様に、コンポーネントの構成は簡単です。リストやフォームなどのコンポーネントには、多くの構成が必要です。アイコンコンポーネントおよび画像コンポーネントの場合は、さまざまなオプションから選択するか、カスタムのアイコンまたは画像を使用します。UI ビルダー のローコード JSON エディターを使用して、コンポーネントのプロパティを変更できます。コンポーネントの構成の詳細については、「ネクストエクスペリエンスのコンポーネント」を参照してください。

コンポーネント構成タブの各プロパティについて、次のオプションから選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



- 静的：リストのデータを使用するか、独自のデータを入力します。データは外部データソースに接続されません。
- 動的データバインディング：コンポーネントプロパティをデータリソース、ページプロパティ、またはクライアントステータスにバインドする方法です。
- スクリプト：プロパティ値を入力する JavaScript コードを入力します。

[スタイル] タブ

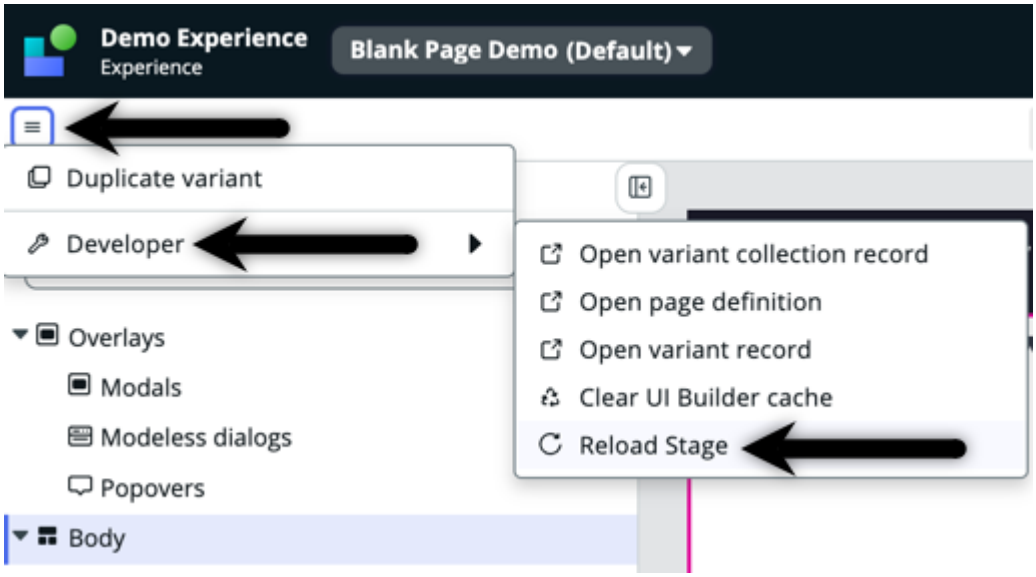
個々のコンポーネントのカスケードスタイルシート (CSS) スタイルを変更できます。色の境界線、フォントサイズなどを変更します。

[イベント] タブ

ページレベルおよびバリアントレベルのイベントマッピングを構成します。ディスパッチされたイベントと処理済みイベントもバリアントに追加します。より複雑なエクスペリエンスコンポーネントは、データリソースによって提供される動的データに大きく依存します。動的データからコンポーネントへのバインディングは重要な機能です。ページ上のテーブル、レコード、またはその他の要素からデータを動的に公開します。データを公開することで、コンポーネントの再利用が可能になります。また、構成フィールドをポイントすると、各フィールドのアイコンデータまたはスクリプトオプションが表示されます。

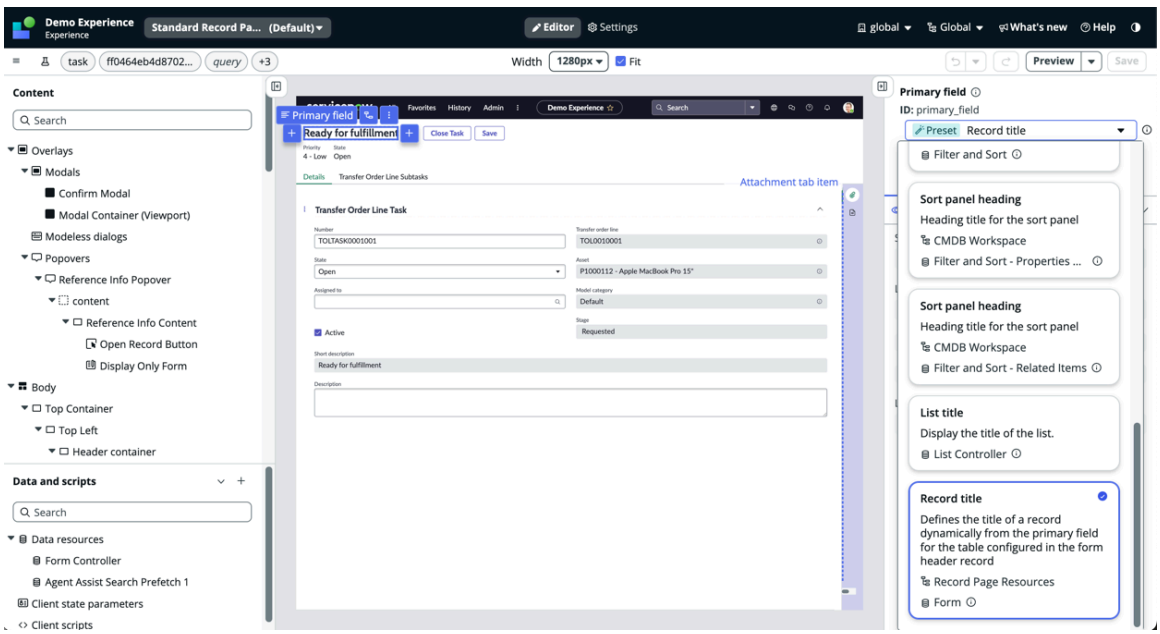
ページにコンポーネントを追加して構成すると、ステージに作業内容が表示されます。変更を加えても更新がステージにロードされない場合は、[メニューを開く] アイコンを選択し、[開発者] > [ステージをリロード **(Reload Stage)**]を選択します。ステージをリロードすると変更内容が表示されますが、保存はされません。作業内容を保存するには、右上の [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



UI ビルダーでのコンポーネントプリセット

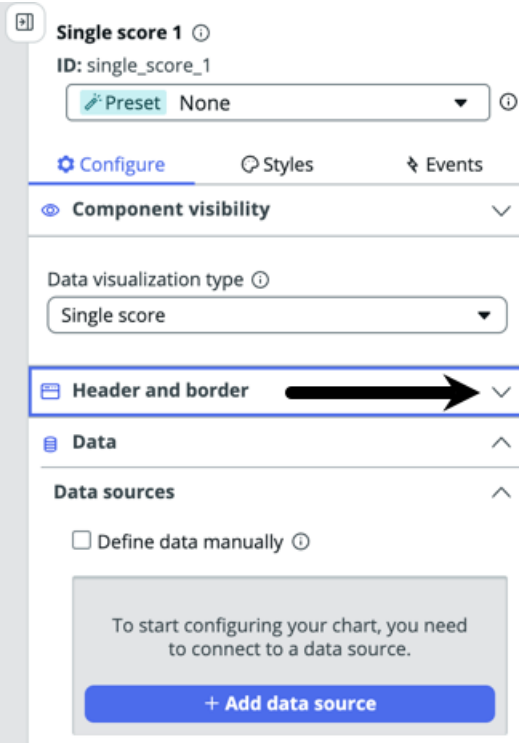
コンポーネントプリセットを使用して、互換性のあるページでコンポーネントを自動的に構成します。UI ビルダー ページテンプレートには、プリセットがコンポーネント構成値を定義する際に使用するコントローラーが含まれています。詳細については、「プリセットを使用してコンポーネントを自動的に構成する」を参照してください。



コンポーネントプロパティのセクション

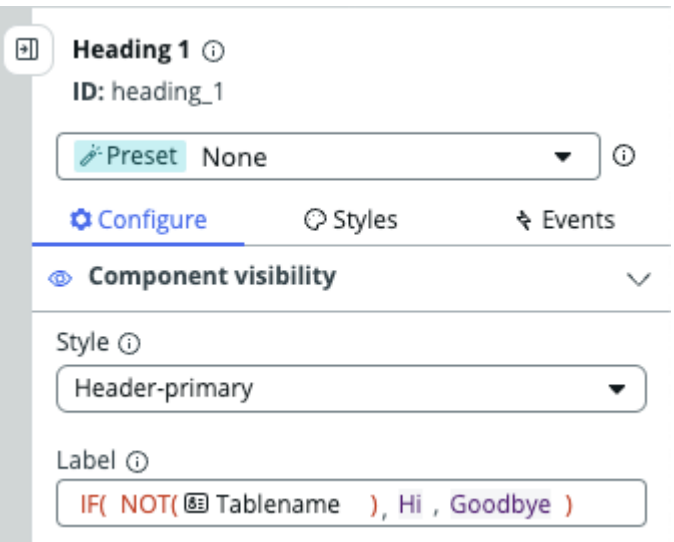
コンポーネントプロパティは、類似したプロパティのセクションにグループ化されています。セクションを開閉するには、プロパティの見出しの右側にある矢印を選択します。UI ビルダーアドミニストレーターは、UI ポリシーに基づいて表示または非表示にするコンポーネント構成プロパティを選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



コンポーネント式エディター

構成パネルの UI ビルダー コンポーネント式エディターを使用して、式をバインドまたは変更します。テキスト、データバインディング、または式を入力できます。式は、3 つの入力タイプの任意の組み合わせで構成できます。コンポーネント式エディターは、論理、算術、比較、否定、および関数型の変換タイプをサポートしています。



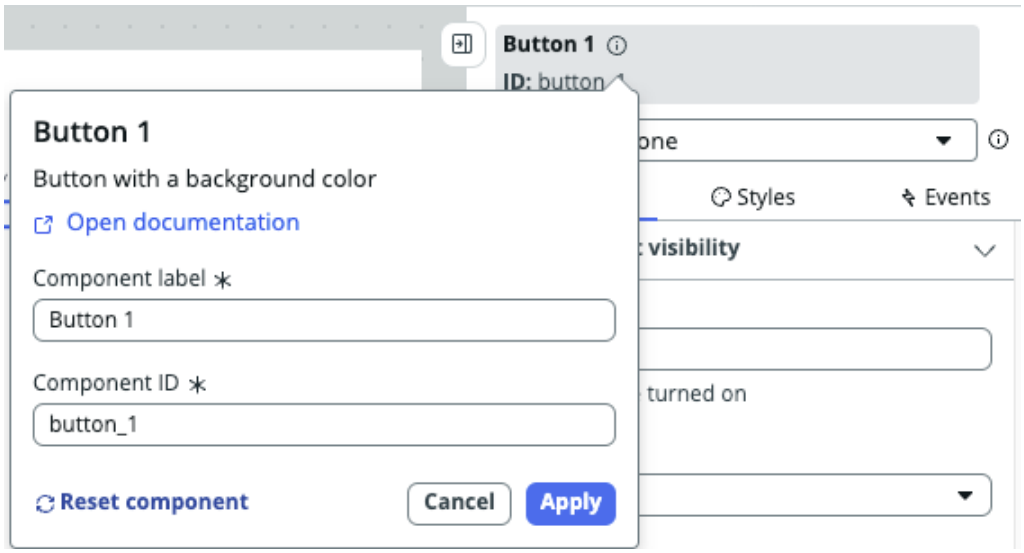
コンポーネント式エディターに追加される各関数はオートコンプリートされます。コンポーネント式エディターには、関数の各入力にラベルが表示されるため、各関数に必要なパラメーターがわかります。コンポーネント式エディターでサポートされている関数の詳細については、「UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされている関数」を参照してください。

コンポーネント ID

スクリプトを追加するか、コンポーネントを参照する方法としてコンポーネントにデータをバインドする場合は、コンポーネント ID を使用します。コンポーネントをページに追加すると、コンポーネ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ントラベルに基づいたコンポーネント ID が自動的に作成されます。コンポーネント ID は、一意である限り、任意のものに変更できます。構成パネルでコンポーネントの名前を選択して、コンポーネント ID を表示します。

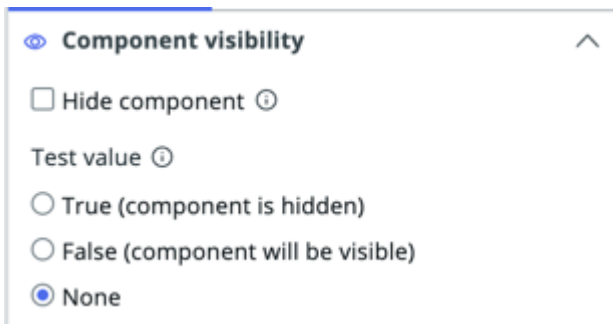


コンポーネント可視化

構成パネルで目のアイコンを選択して、コンポーネントのヴィジビリティを設定します。コンポーネントの可視化は、コンポーネントを表示しているユーザーではなく、コンポーネント自体のプロパティに基づきます。条件に基づいてコンポーネントを表示または非表示にすることができます。たとえば、壊れたリンクがある場合にその画像を非表示にします。

動的なデータバインディングに基づいて、またはスクリプト化されたプロパティ値を編集して、可視化を設定できます。

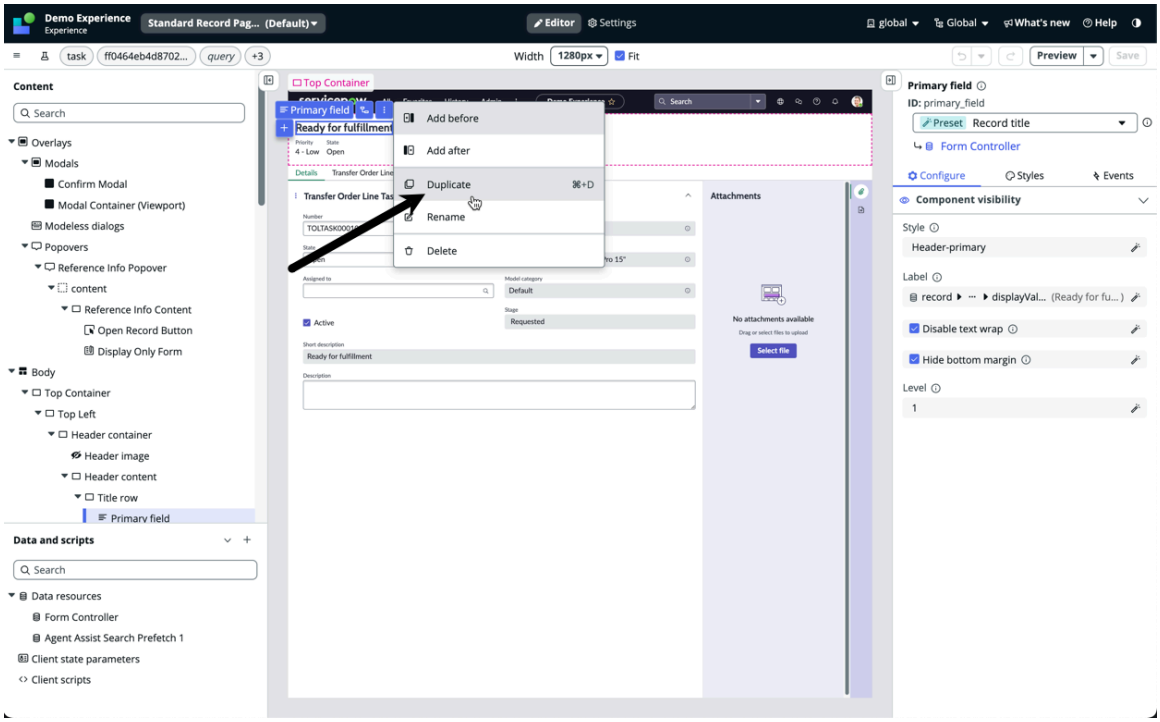
[テスト値] を設定して、可視化が true、false、または none に設定されるとどうなるかをテストします。



コンポーネントの複製

名前と ID を除いて、UI ビルダー ページに構成されたコンポーネントの正確なコピーを作成します。複製されたコンポーネントは、すべてのプロパティ、バインディング、およびイベントをコピーします。詳細については、「コンポーネントの複製」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



プリセットを使用してコンポーネントを自動的に構成する

コンポーネントプリセットを使用して、互換性のあるページでコンポーネントを自動的に構成します。

コンポーネントプリセットを使用して、事前定義された構成値とイベントマッピングをコンポーネントに適用します。UI ビルダー ページテンプレートには、プリセットがコンポーネント構成値を定義するために使用するコントローラーが含まれています。

プリセットは、事前にビルド済みの構成をコンポーネントプロパティとイベントハンドラーに適用します。これらは、特定のコンポーネントでのみ使用できます。これらは、通常はレコードページに含まれているフィールドを使用してフォームコンポーネントを構成するなど、コンポーネントの一般的なユースケースに基づいています。

プリセットを適用すると、コンポーネントがすぐに動作するように自動的に構成され、ページ作成者のページ作成とメンテナンスが簡素化されます。

プリセットは、ページ作成者に次のようなメリットがあります。

- コンポーネントの複合データとイベントバインディングの処理
- ページの外部で定義されることによる所有コストとメンテナンスの削減

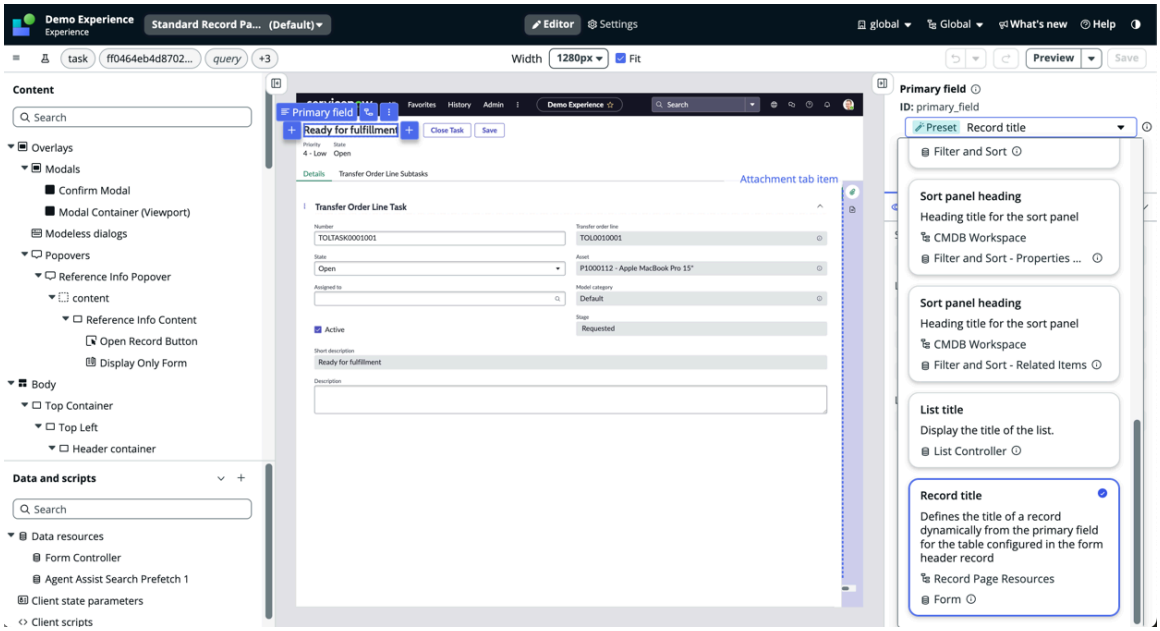
[構成] ペインで、選択したコンポーネントにプリセットを適用するか、代わりに手動で構成するかを選択できます。デフォルトのプリセットは、テンプレートからページが作成された場合、またはプリセットに必要なコントローラーが既にページに追加されている場合に、コンポーネントに自動的に適用されます。プリセットが適用されると、プリセットによって構成されたプロパティまたはイベントが読み取り専用として表示されます。

プリセットによって構成された値は上書きできますが、そうするとコンポーネントの構成とメンテナンスの所有権を引き受けることになります。

サブページはコントローラーを継承しないため、Xanadu のプリセットを使用できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンポーネントに適用されるプリセット



データとイベントのバインディング

プリセットには、次へのバインディングを含めることができます。

- コントローラー出力プロパティ (@data)
- イベントペイロード (@payload)
- セッションコンテキスト (@context.session)
- 複雑な式 (クライアント変換)

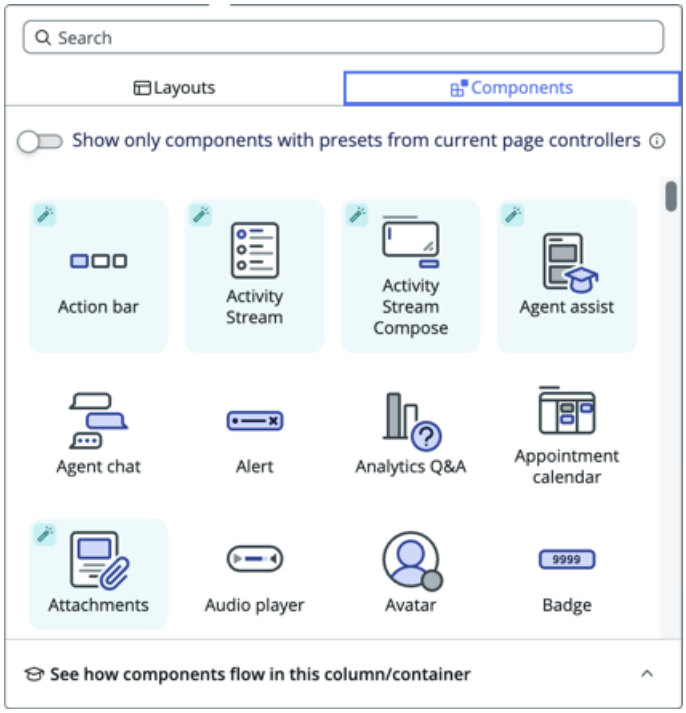
プリセットには、コントローラーの処理済みイベントへのイベントマッピングを含めることもできます。詳細については、「UI ビルダーページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。

コントローラー

プリセットは、コントローラーを使用してコンポーネントをデータおよびイベントマッピングに接続します。プリセットに必要なコントローラーがまだページにない場合、プリセットは、コントローラーの必要なプロパティを構成してコントローラーを追加することを求めます。コントローラーがページに追加されると、コントローラーに関連付けられたプリセットを持つコンポーネントが、コンポーネントリストでハイライト表示されます。詳細については、「コントローラーを使用した UI ビルダー ページへのデータのバインド (高度な機能)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プリセットを持つコンポーネント



コンポーネントプリセットの選択

コンポーネントをページに追加するときに、コンポーネントプリセットを選択します。

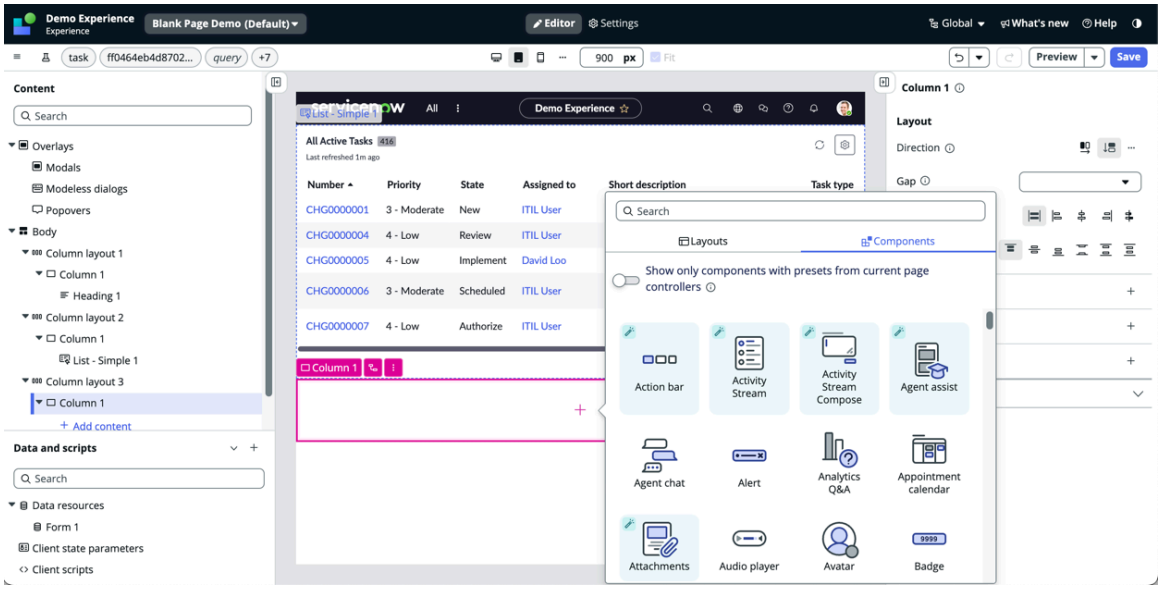
始める前に
必要なロール：admin

手順

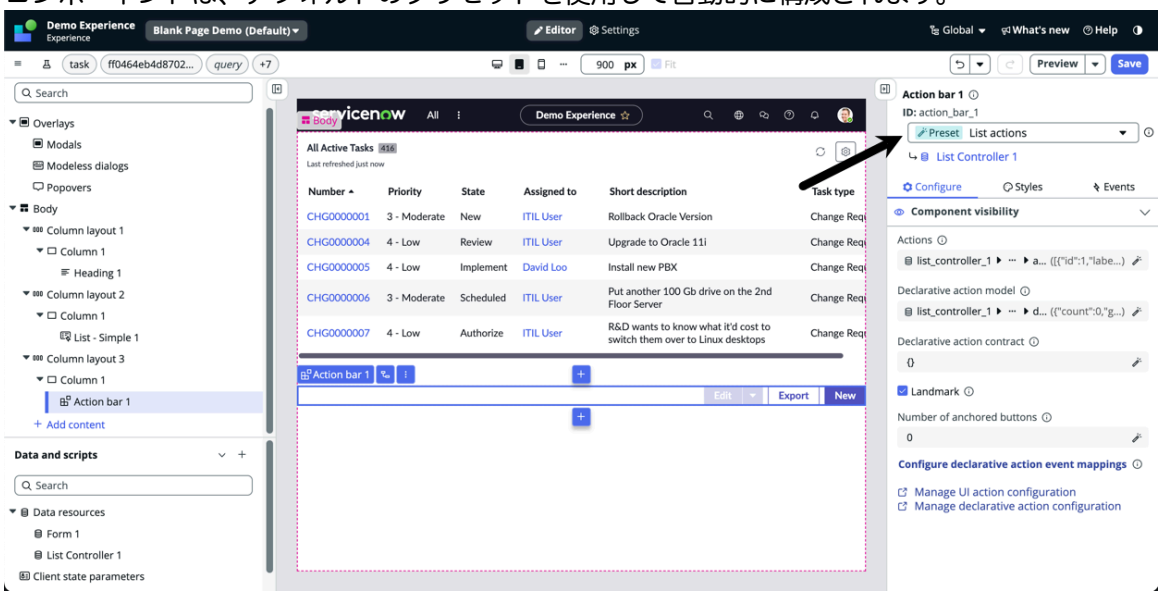
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダーでページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでページを作成する」を参照してください。
4. ツールボックスを開きます。
5. 緑色でハイライト表示されたコンポーネントをページに追加します。

   緑色でハイライト表示されたコンポーネントには、利用可能なプリセットがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



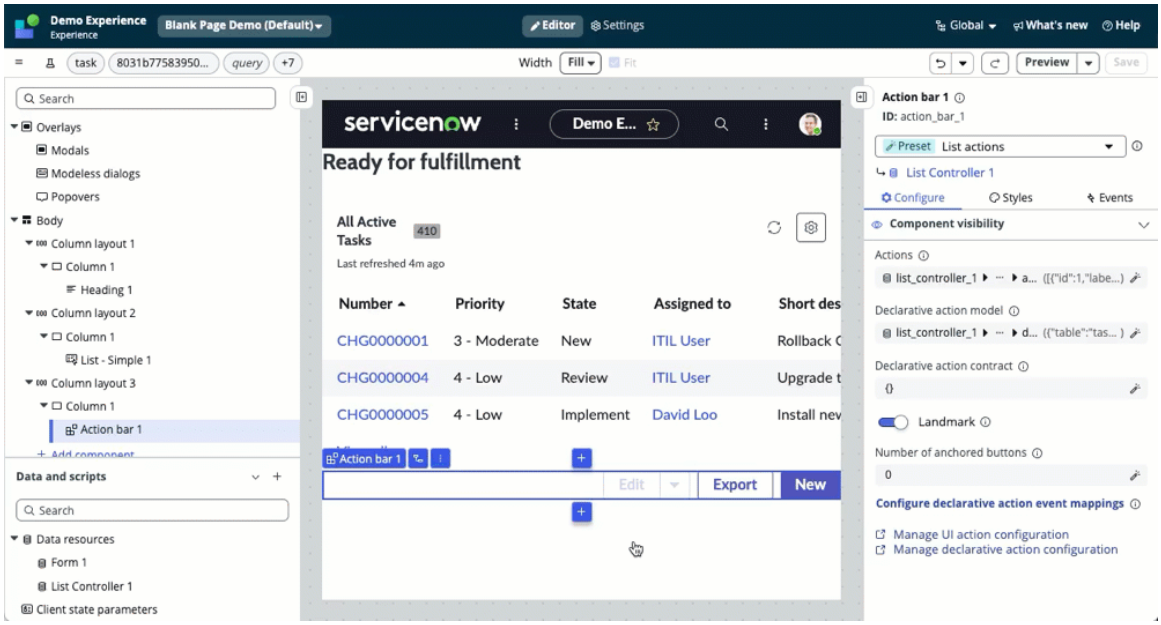
6. コンポーネントは、デフォルトのプリセットを使用して自動的に構成されます。



7. オプション: 構成パネルのリストから別のプリセットを選択します。
   [削除] を選択すると、プリセットを使用しないようにコンポーネントを構成できます。

   a. 既存のプリセットを置き換えるには、[続行] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. [保存] をクリックします。

コンポーネントプリセットの上書き

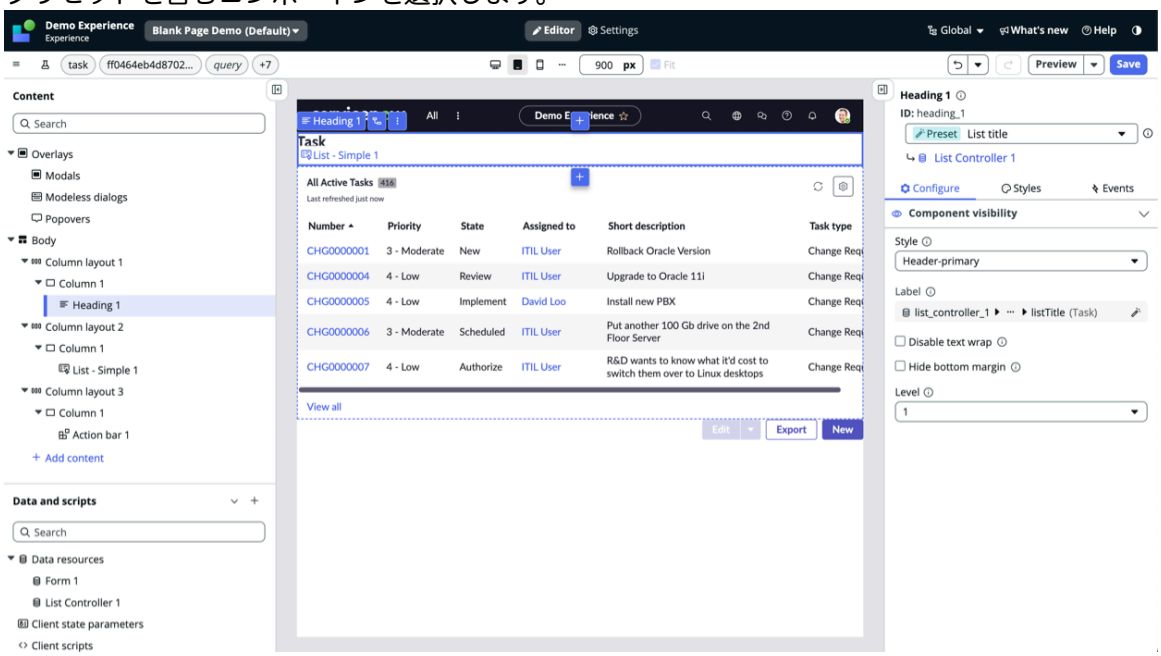
コンポーネントプリセットを上書きして、独自のカスタム値を入力します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

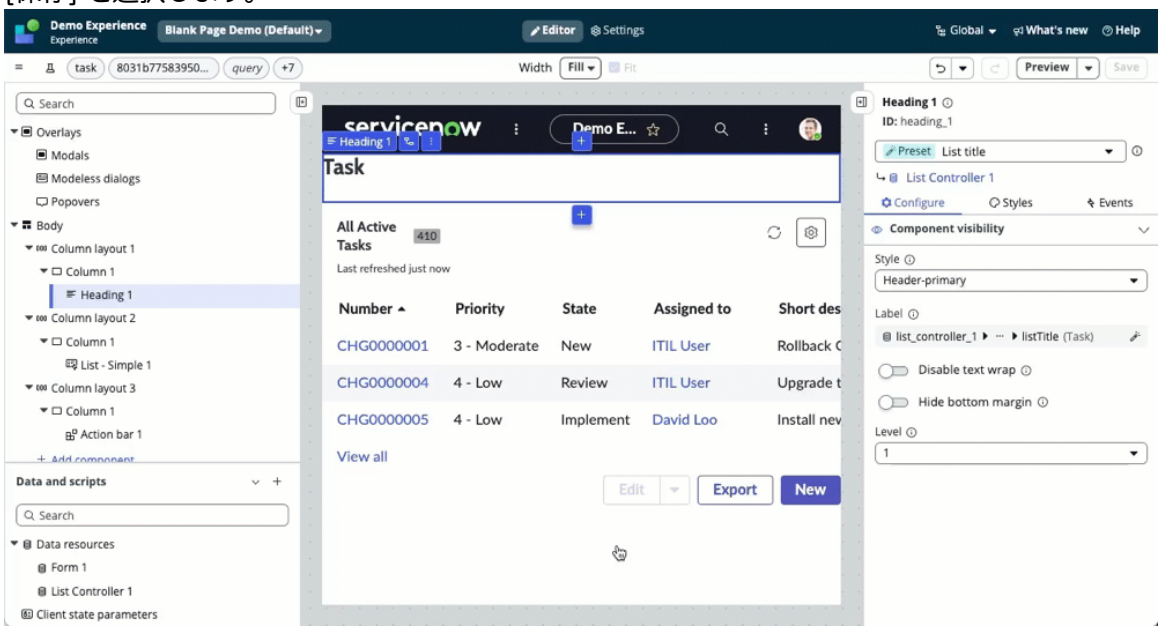
1. プリセットを含むコンポーネンを選択します。



2. 構成パネルで上書きするデータ値を見つけます。
3. データフィールドでロックアイコンをクリックします。
4. プリセット値を上書きするデータ値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [保存] を選択します。



タスクの結果
構成パネルのフィールドにカスタム値が表示されます。

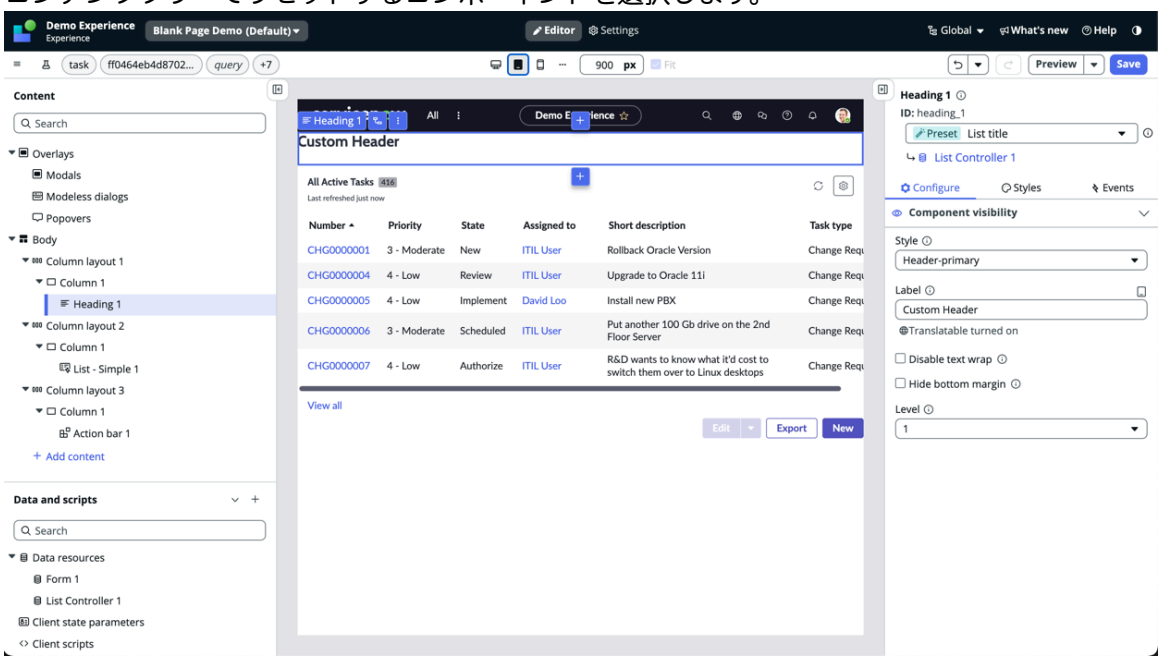
コンポーネントのリセット

コンポーネントプリセットをデフォルト値にリセットします。

始める前に
必要なロール：admin

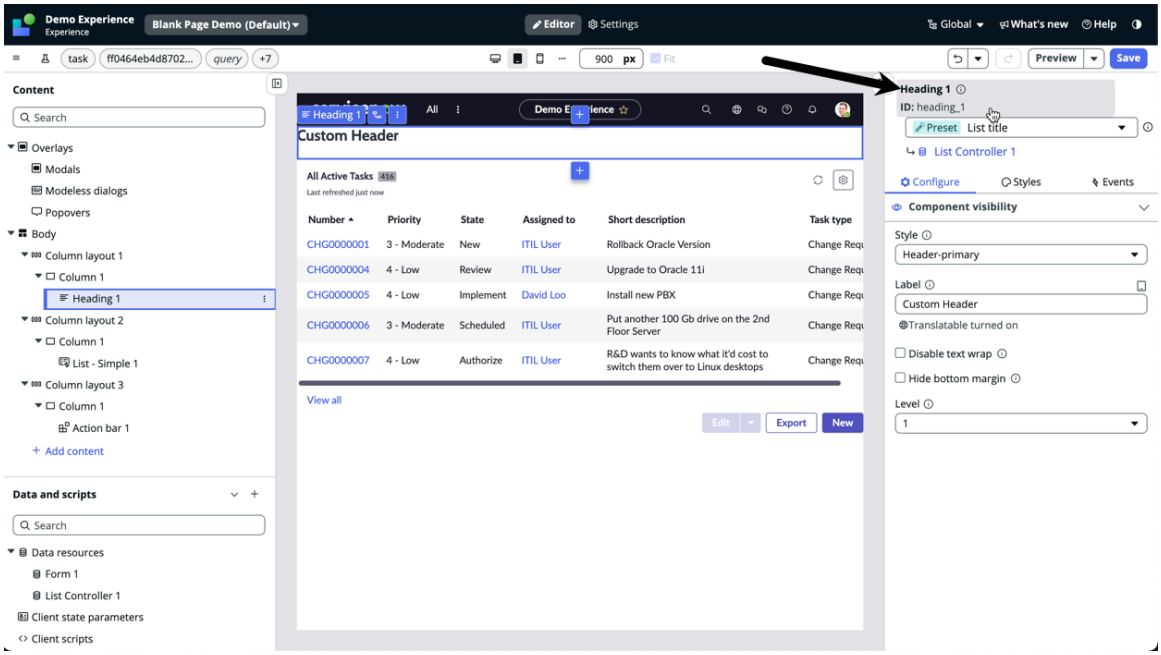
手順

1. コンテンツツリーでリセットするコンポーネントを選択します。

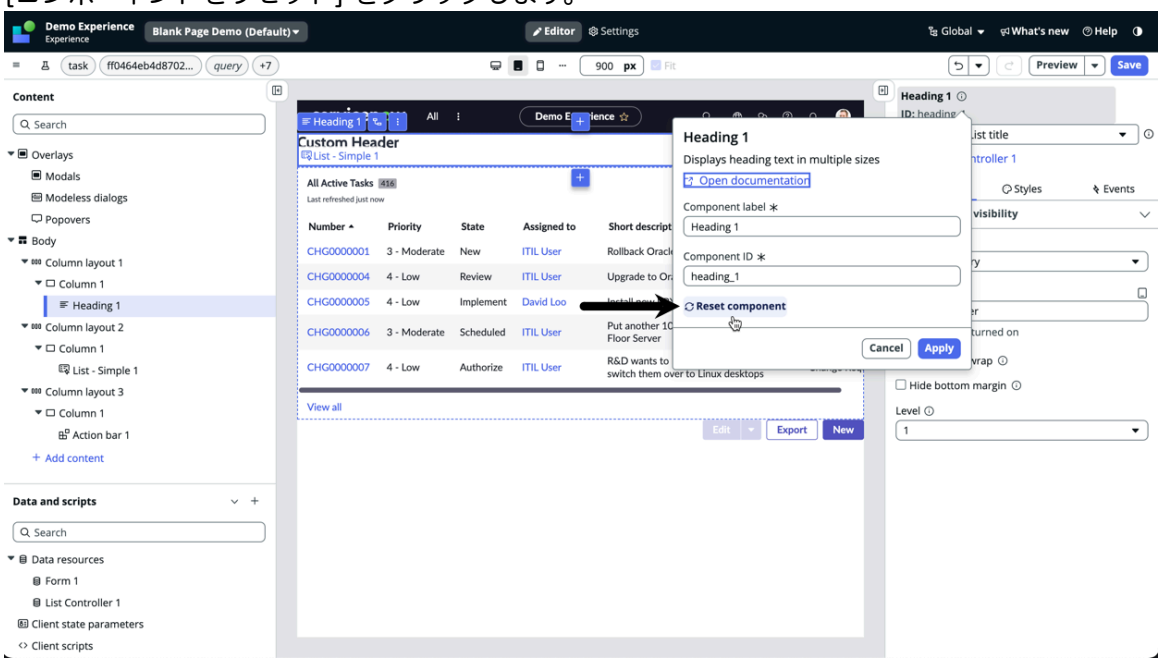


2. 構成パネルでコンポーネント名を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. [コンポーネントをリセット] をクリックします。



4. [リセット] をクリックします。

タスクの結果
コンポーネントプリセットをデフォルト値にリセットします。

コンポーネントのデフォルトの外観を変更する

コンポーネントとラッパーのスタイルを設定して、デフォルトの外観を変更します。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。 このビデオでは、UI ビルダーページ上のコンポーネントのデフォルトの外観を変更する方法を説明します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

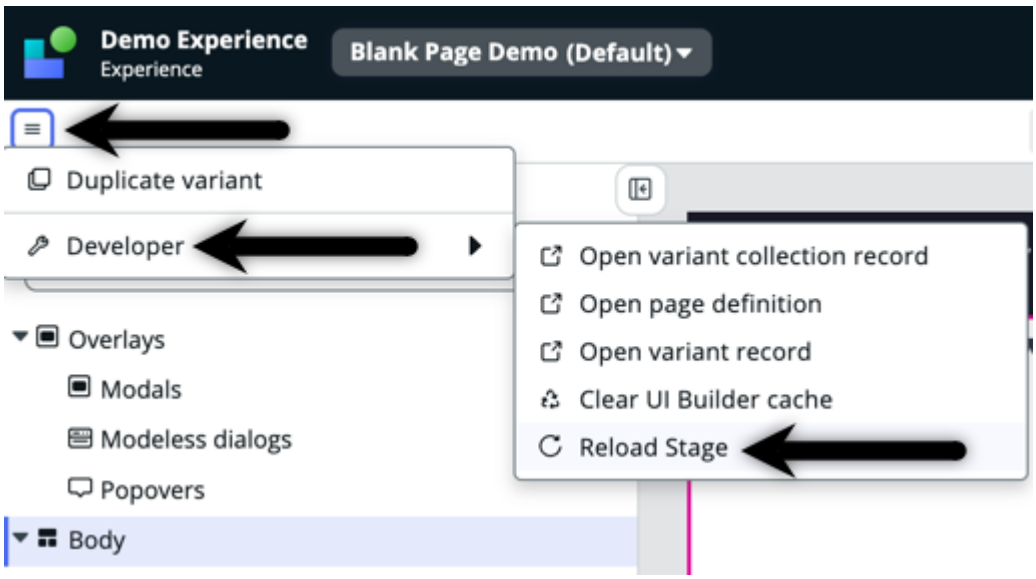
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
このタスクでは、コンポーネントとコンポーネントを含むラッパー (本文、列レイアウト、列など) にスタイルを追加する方法について説明します。コンテンツツリーでコンポーネントを選択してコンポーネントのスタイリングをカスタマイズするか、コンポーネントをラッパー内に配置して複数のコンポーネントにスタイルを適用します。

エクスペリエンス全体にスタイリングを追加する方法の詳細については、「UI ビルダーエクスペリエンスの表示スタイルの管理」を参照してください。

このタスクは、Xanadu で導入された新しいレイアウトシステムに適用されます。ページで古いレイアウトシステムを使用している場合は、詳細について「古いレイアウトシステムを使用したコンポーネントへのスタイリングの追加」を参照してください。

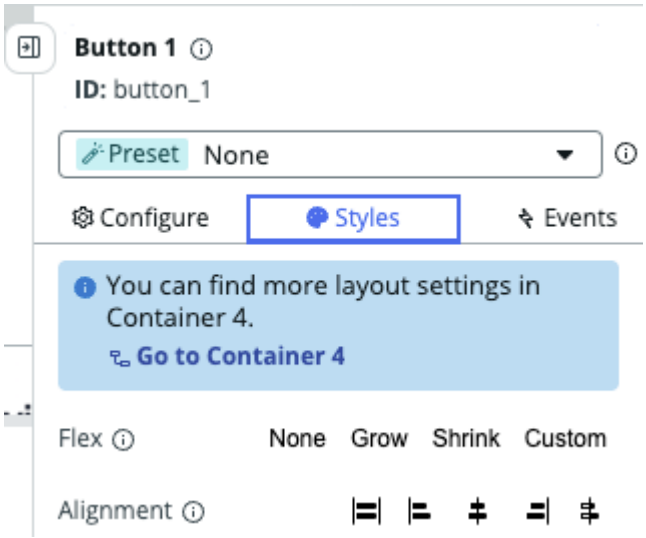
注: ページにコンポーネントを追加して構成すると、ステージに作業内容が表示されます。変更を加えても更新がステージにロードされない場合は、[メニューを開く] アイコンを選択し、[開発者] > [ステージをリロード **(Reload Stage)]**を選択します。ステージをリロードすると変更内容が表示されますが、保存はされません。作業内容を保存するには、右上の [保存] を選択します。



手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダーでページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでページを作成する」を参照してください。
4. コンテンツパネルで、スタイリングを追加するコンポーネントまたはラッパー (本文、列レイアウト、列など) を選択します。
5. 本文またはコンポーネントの場合は、構成パネルで [スタイル] タブを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. [スタイル] タブの視覚的表現を使用して、ページの外観に最適なものを決定します。

   アクセシビリティ (列レイアウトと列)

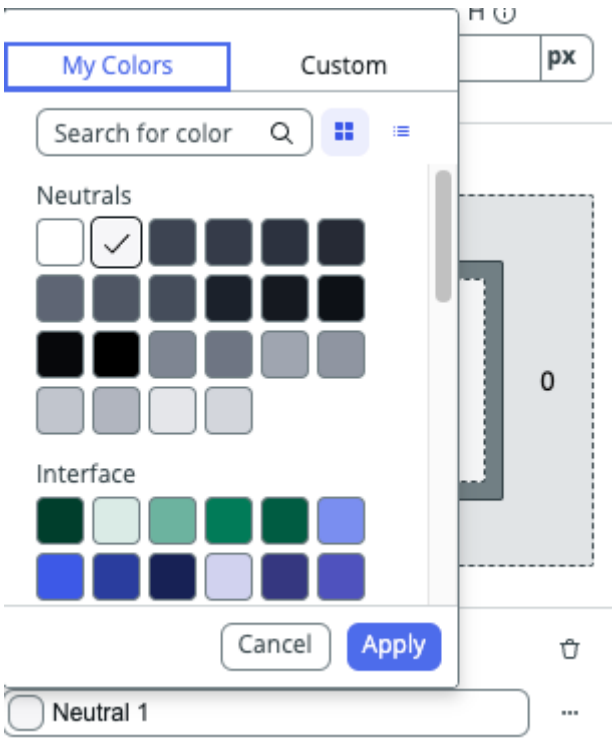
   ARIA リージョン名、ARIA リージョン見出しレベル、ARIA ロール、ARIA 見出しの包含などのアクセシビリティ設定を指定します。詳細については、developer.servicenow.com の ARIA ドキュメントを参照してください。

   配置 (列とコンポーネント)

   列の場合、列内のコンポーネントをグループとして整列する方法を定義します。コンポーネントの場合、列や列レイアウトなど、親レイアウト要素内でのコンポーネントの配置方法を定義します。

   背景 (本文、列レイアウト、列、およびコンポーネント)

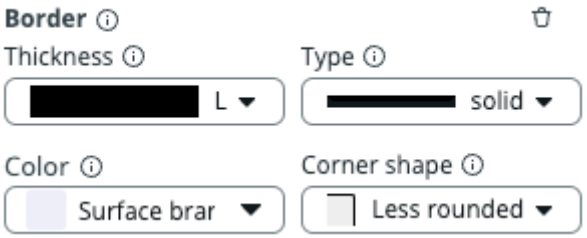
   レイアウト要素の背景色を設定します。カラーピッカーの [マイカラー] タブから色を選択します。ここには、使用可能な色がグリッドまたはリストで表示されます。または、[カスタム] タブを使用して、HEX、RGB、または HSL で任意の色を指定します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

境界線 (列レイアウト、列、およびコンポーネント)

コンテンツの周囲に境界線を追加します。この境界線は、余白のすぐ内側とパディングのすぐ外側に配置されます。境界線の太さ、タイプ、色、およびコーナー形状を指定します。コンポーネントの場合、境界線にカスタム CSS を使用するオプションがあります。



レイアウト (本文、列レイアウト、および列)

本文と列の場合は、方向、配置、およびコンテンツの両端揃えを指定します。列レイアウトの場合は、列数と列ギャップ (列間のスペース) を指定します。

シャドー (列レイアウト、列、およびコンポーネント)

コンテンツの周囲にシャドー効果を追加します。カスタム CSS を使用するオプションがあります。

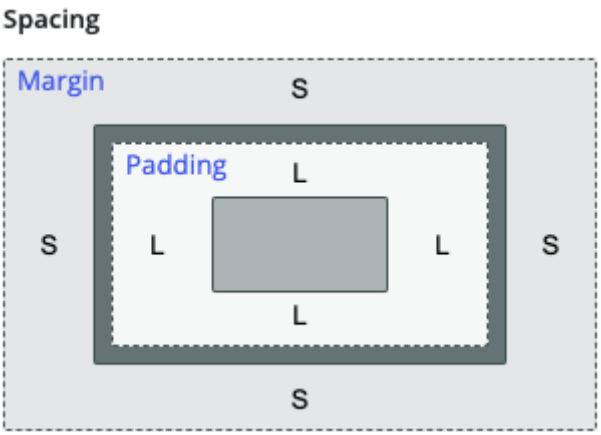
サイジング (コンポーネント)

該当するコンポーネントについて、コンポーネントのデフォルト、最小、最大の高さと幅を設定します (px、%、em、rem、またはカスタム値)。この値は、ユーザーがブラウザーウィンドウのサイズを変更した際に適用されます。

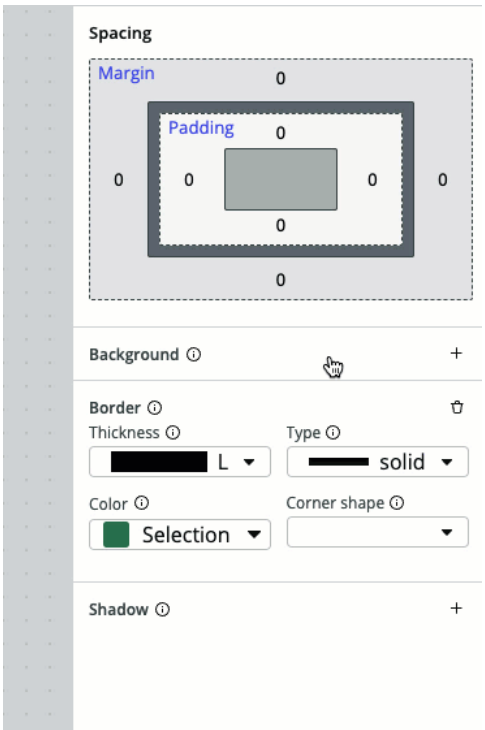
スペース (本文、列レイアウト、およびコンポーネント)

マージンは、本文、列レイアウト、またはコンポーネントのすぐ内側のスペースのサイズを設定します。パディングは、本文、列レイアウト、またはコンポーネントのすぐ外側のスペースのサイズを設定します。4 つのサイドのすべてに同じサイズを設定するには、[マージン] または [パディング] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



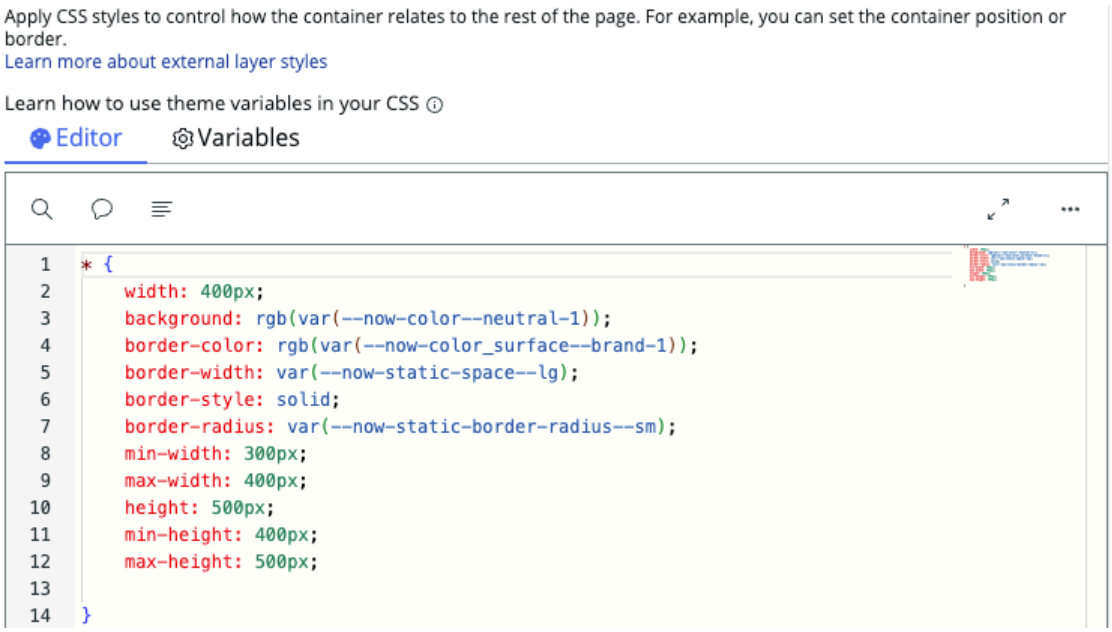
現在の設定を選択してからオプションを選択することで、各マージンまたはパディングのサイドのサイズを設定できます。



7. オプション: 本文およびコンポーネントの場合、CSS コードを編集するには、[スタイル] タブの下部にある **[CSS の表示と編集]** リンクを選択します。
   [スタイル] タブに **CSS** スタイルコードエディターが表示されます。最も一般的に使用される CSS プロパティは次のとおりです。
   - `background-color`
   - `background-image`
   - `border-style`
   - `border-width`
   - `border-color`
   - `border-radius`
   - `box-shadow`
   - `height`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- `min-height`
- `max-height`
- `margin`
- `overflow`
- `padding`
- `width`
- `min-width`
- `max-width`
- `z-index`



重要: 一部のコンポーネントには、UI ビルダー の CSS で上書きできないビルトインのスタイリング構成が含まれています。これらのスタイル設定をオーバーライドする方法については、「UI ビルダーエクスペリエンスの表示スタイルの管理」を参照してください。

8. メインヘッダーで、[保存] を選択して変更を保存します。

古いレイアウトシステムを使用したコンポーネントへのスタイリングの追加

コンポーネントの CSS スタイルを設定して、デフォルトの外観を変更します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

このタスクでは、コンポーネントを含むラッパーにスタイルを追加する方法について説明します。通常は、コンポーネントにスタイルを直接適用するのではなく、この方法をお勧めします。スタイルを定義するコンポーネントがコンテナコンポーネント内に配置され、コンポーネントがラッパーに配置されていることを確認します。コンポーネントのラッパーはコンテンツ階層内のコンポーネントより 1 レベル高く、デフォルトでは「メイン」というラベルが付けられています。

ページ全体にスタイリングを追加するには、ページのラッパーで標準ベースの CSS を使用できます。エクスペリエンス全体にスタイリングを追加する方法の詳細については、「UI ビルダーエクスペリエンスの表示スタイルの管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダーでページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでページを作成する」を参照してください。

   注: コンポーネントにスタイルを追加する前に、コンポーネントをコンテナに配置する必要があります。

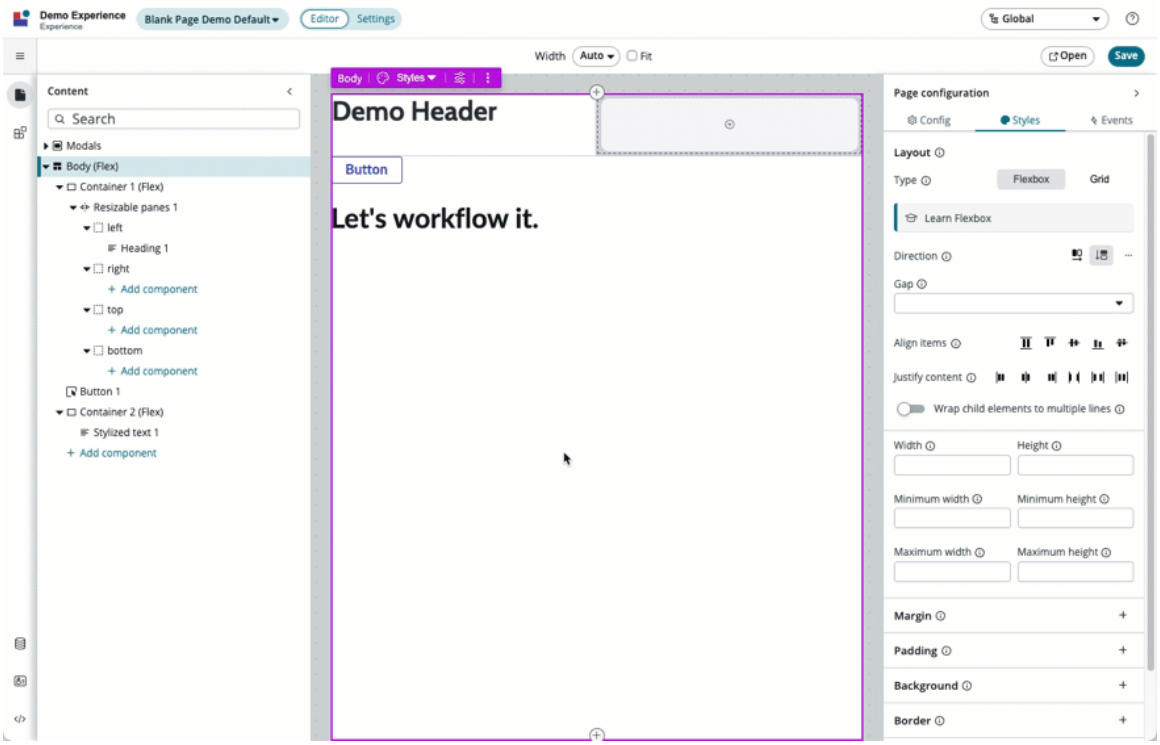
4. スタイルを追加するコンポーネントを保持するコンテナを選択します。
   通常、コンテナはコンテンツツリー内のコンポーネントよりも 1 つ上のレベルにあります。
   構成パネルに [スタイル] タブが表示されます。
5. [CSS スタイル] ウィンドウで、標準ベースの CSS プロパティと値を入力します。
   次の CSS プロパティは、コンテナ内のコンポーネントにスタイルを適用するために最も一般的に使用されます。
   - `background-color`
   - `background-image`
   - `border-style`
   - `border-width`
   - `border-color`
   - `border-radius`
   - `box-shadow`
   - `height`
   - `min-height`
   - `max-height`
   - `margin`
   - `overflow`
   - `padding`
   - `width`
   - `min-width`
   - `max-width`
   - `z-index`

重要: 一部のコンポーネントには、UI ビルダー の CSS で上書きできないビルトインのスタイリング構成が含まれています。これらのスタイル設定をオーバーライドする方法については、「UI ビルダーエクスペリエンスの表示スタイルの管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. メインヘッダーで、[保存] を選択して変更を保存します。

[スタイル構成] パネルでコンポーネントにスタイルを追加する



コンポーネントの複製

ページで再利用する構成済みコンポーネントを複製します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin または admin

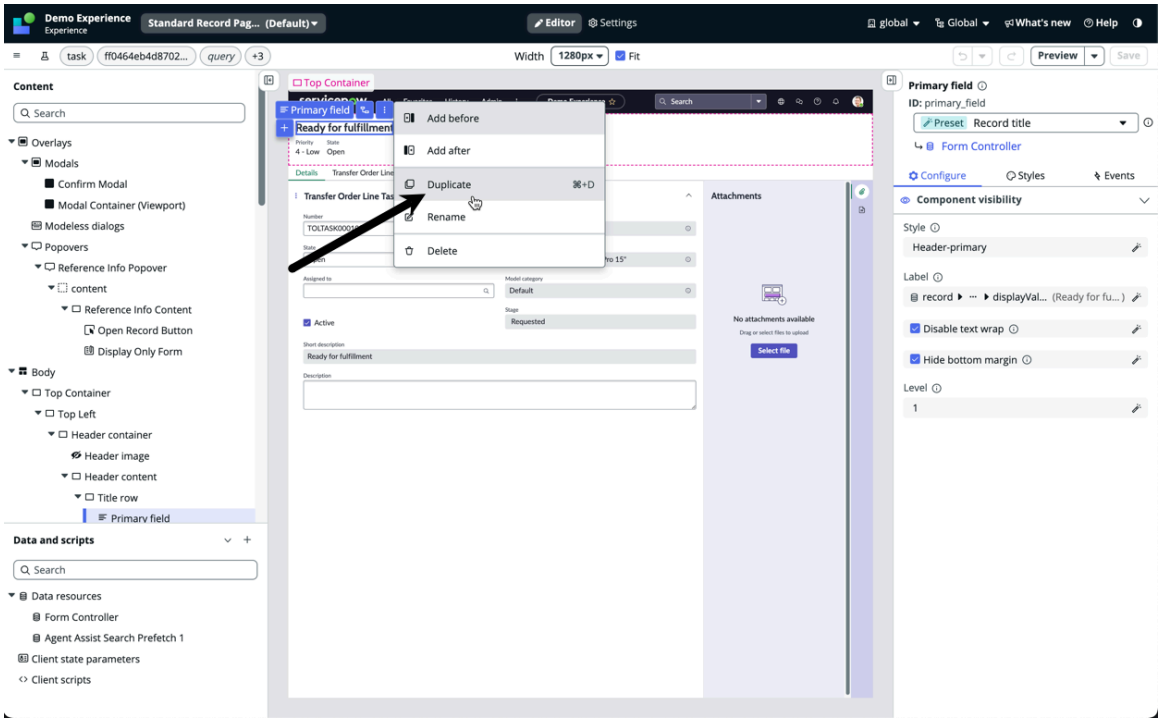
このタスクについて

名前と ID を除いて、ページに構成されたコンポーネントの正確なコピーを作成します。複製されたコンポーネントは、すべてのプロパティ、バインディング、およびイベントをコピーします。複製されたコンポーネントは、コピーされたコンポーネントの直後に表示されます。タブコンポーネントが複製されると、すべてのタブとその子がコピーされ、その名前と ID が一意になります。

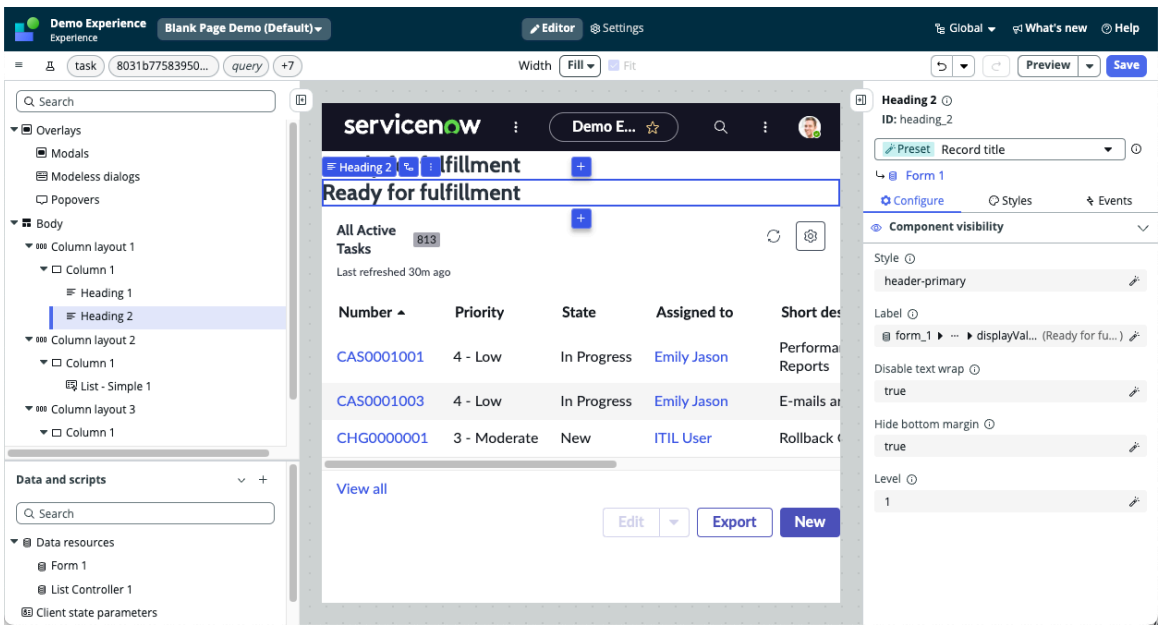
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 複製するコンポーネントを含むページバリアントを開きます。
4. 複製するコンポーネントを選択します。
5. コンポーネントを右クリックします。
6. [複製] を選択します。
   キーボードショートカットの **cmd + D** (Mac) または **ctrl + D** (Windows) を使用することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



複製されたコンポーネントは、コンテンツツリーでコピーされたコンポーネントの下に表示されます。



7. [保存] を選択します。

ページコレクション

ページコレクションは、複数のエクスペリエンスで使用できるページのグループです。

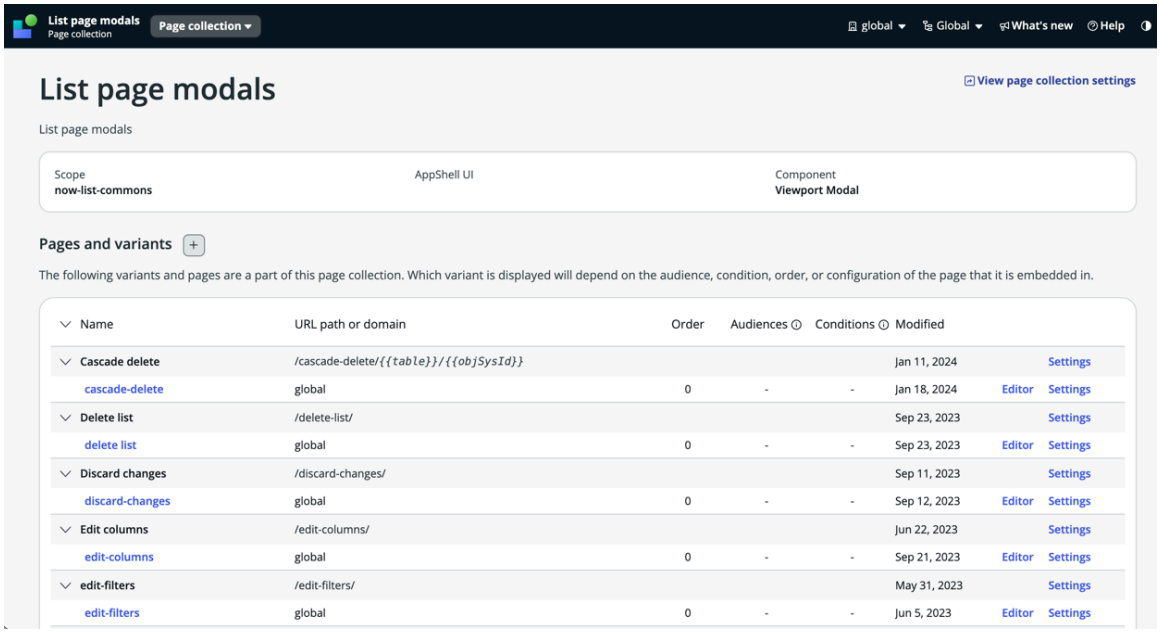
ページコレクションとは

ページコレクション (sys_ux_extension_point) は、複数のエクスペリエンスで再利用されることを意図したページのグループです。これらのページセットは、モーダルビューポートまたはタブコンポーネントで使用できます。これらのページはサンドボックス化されており、それらを呼び出しているページから URL パラメーターやデータリソースなどにアクセスすることはできません。アクセス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

できるのは、ページコレクションレコードで指定され、実行時に呼び出し元ページによって渡されるコントローラーレコードだけです。

ページコレクションは、それが含まれるページ内にサンドボックス化されるため、親ページを変更するための直接アクセスはありません。ただし、seismic のしくみにより、ページコレクションページは、呼び出し元ページがアクションを実行するためにリッスンできるイベントをディスパッチできます。これは、呼び出し元ページを変更する唯一の方法です。



ページコレクションを使用すべき理由

ページコレクションを使用すると、エクスペリエンス全体でカスタムページを再利用できます。これにより、複数のエクスペリエンスのページを複製し、さまざまなユーザーグループに情報を渡す必要がある場合に時間を節約できます。

ページコレクションを使用して、ビューポートモーダルを使用して既存のトピック内に追加情報を提供することもできます。ビューポートモーダルを使用すると、対象者は親ページを離れることなく、エクスペリエンス外のページを表示して、変更を加えることができます。

エクスペリエンス間で共有できるタブのコレクションを作成します。各タブは、ページコレクション内の個別のページです。

ページコレクションを使用できる場所

UI ビルダー ホーム画面からページコレクションにアクセスできます。ページコレクションのリストには、各ページコレクションのコンポーネントとタイプの詳細が表示されます。

ページコレクションは、UI ビルダー ホーム画面から、またはページコレクションを使用するコンポーネントから作成できます。

ページコレクションは、次のコンポーネントで使用できます。

- ビューポート
- ビューポートモーダル
- タブ

留意点

ページコレクションの作成画面では、コンポーネントとコントローラーを選択する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

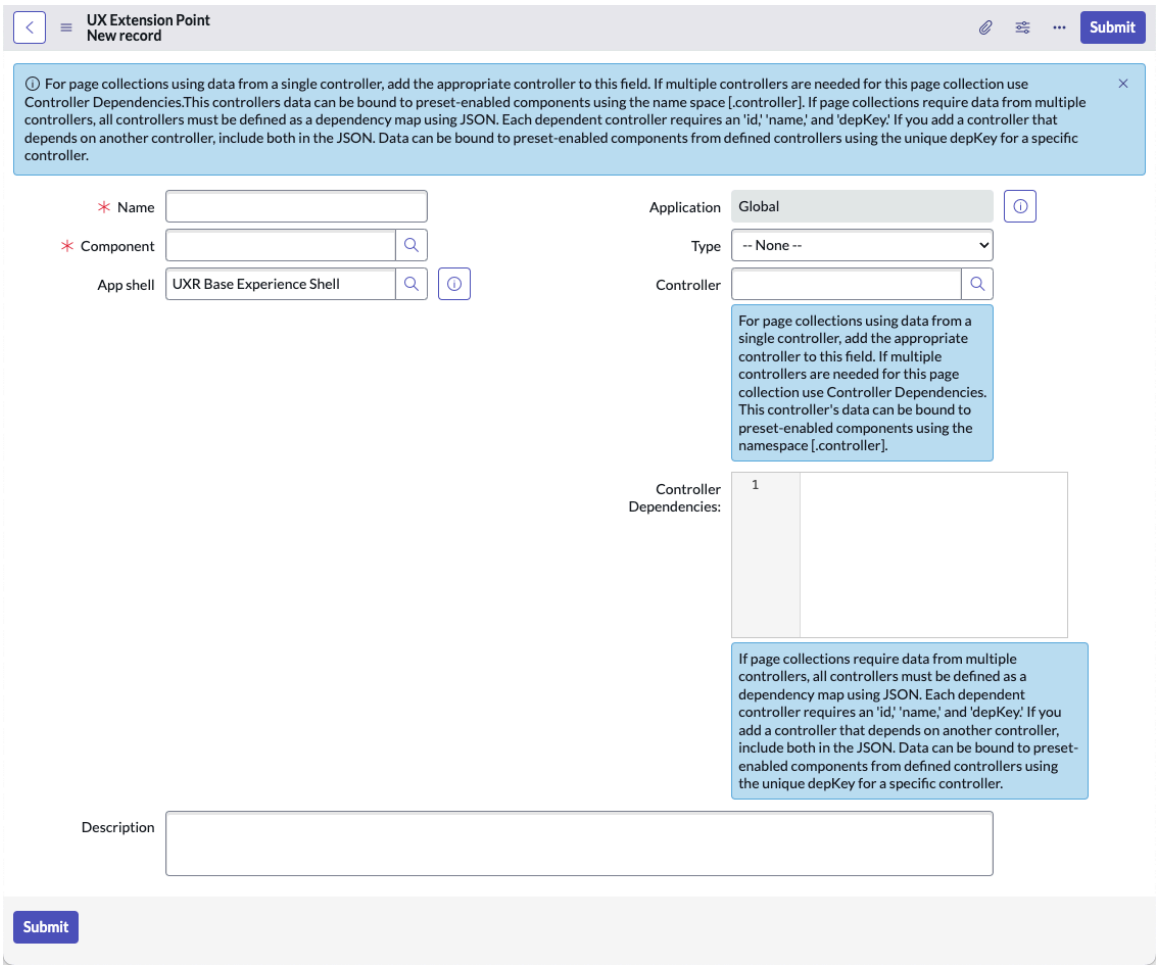
ページコレクションに情報を渡すには、データリソースを選択する必要があります。親ページからデータをバインドする必要があります。

ビューポートに表示するページコレクション内のページにルーティングする必要があります。

ページコレクションを作成するためのリンクを追加します。

プラットフォーム上のページコレクション

ServiceNow プラットフォーム内でページコレクションを作成します。現時点では、ページコレクションの作成時に使用できるのはタブとビューポートコンポーネントのみです。コントローラーを選択するか、JSON を使用してコントローラーの依存関係を渡すことができます。



複数の UI ページにわたるページコレクションの作成

エクスペリエンス全体で使用できるタブ付きコンテンツに対応するページコレクションを作成します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

ページコレクションを使用して、 UI ビルダーのタブコンポーネントでエクスペリエンスにタブ付きコンテンツを作成します。

ページコレクション内のページは、親ページの URL パラメーターまたはデータリソースにアクセスできません。ページコレクション内のページに条件を設定して、特定の対象者に表示するページを定義できます。ページコレクション内ではページテンプレートはサポートされません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [作成] > [ページコレクション]をクリックします。
2. フォームのフィールドに入力します。

[ページコレクションを作成] フォーム

フィールド	説明
名前	ページコレクションを内部で追跡するための名前。
コントローラー	ページコレクションのデータを定義するコントローラー。
アプリシェル UI	ページコレクションで使用するアプリシェル UI のタイプ。アプリシェルはページコンテンツのラッパーであり、Web ページの機能に似ています。アプリシェルでは、会社のロゴ、ユーザー設定、検索アイコンなどを表示できます。詳細については、「アプリシェルを使用した UI エクスペリエンスの定義」を参照してください。
説明	ページコレクションを見つける際に役立つ簡単な説明。ページをビルドしているユーザーが、ページコレクションに含まれるコンテンツを理解する際に役立つ説明を記述します。
アプリケーションスコープ	アプリケーションスコープは、ページコレクションがどのアプリケーションに含まれるかを定義します。別のアプリケーションスコープでページコレクションを作成するには、プラットフォームでアプリケーションスコープを変更してから、UI ビルダー でページコレクションを作成します。

3. [作成] をクリックします。
4. [ページコレクションを編集] をクリックします。
   ページコレクションを編集する画面に新しいタブが開きます。
5. [編集を開始します] をクリックします。
6. [ページを作成] をクリックします。
7. [名前] フィールドにページの一意の名前を入力します。
8. [パス] フィールドにページのパスを指定します。UI ビルダー は、前のステップで指定した名前に基づいてデフォルトのパスを生成します。

   注: アプリケーションスコープのデフォルトは、ユーザーが属するスコープです。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

9. [作成] をクリックします。
10. オプション: 必須パラメーターやオプションのパラメーターなどの詳細設定や、バリアントの設定を行います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [必須パラメーターを追加] を選択して、任意の必須パラメーターをページ URL に追加します。

必須パラメーターは、sys_id、テーブル、クエリなどのページに必要なデータです。必須パラメーターは、必須パラメーターの値にバインドできるため、コンポーネントに役立ちます。

詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

b. [オプションのパラメーターを追加] を選択して、ページの URL に追加したい任意のオプションのデータを追加します。

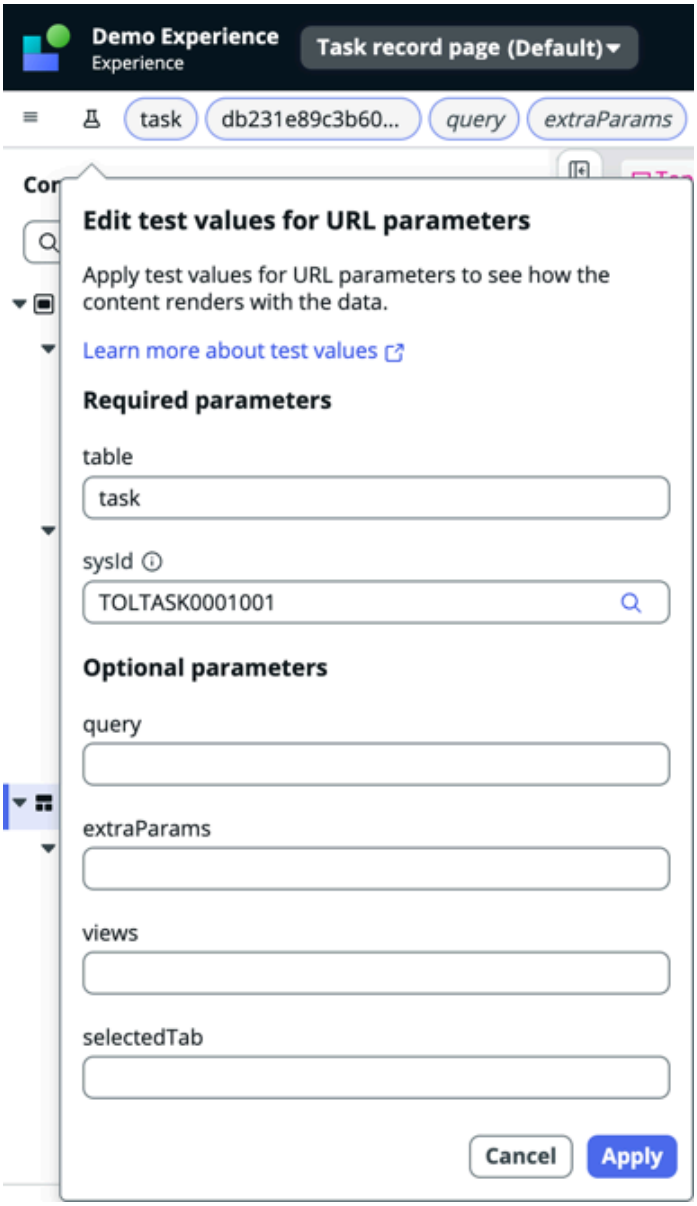
必須パラメーターとは異なり、オプションのパラメーターは、常に、指定された順序に関係なく機能する名前と値のペアです。

詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。

c. URL の必須またはオプションのパラメーターをクリックし、[テスト値] フィールドで値 (「`incident`」など) を入力します。

ページにテスト値を追加して、テスト方法としてページにデータを入力します。たとえば、必須パラメーターとしてテーブルを追加する場合は、インシデントのテスト値を追加し、そのテーブルのインシデントに関するテストデータを取り込むことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

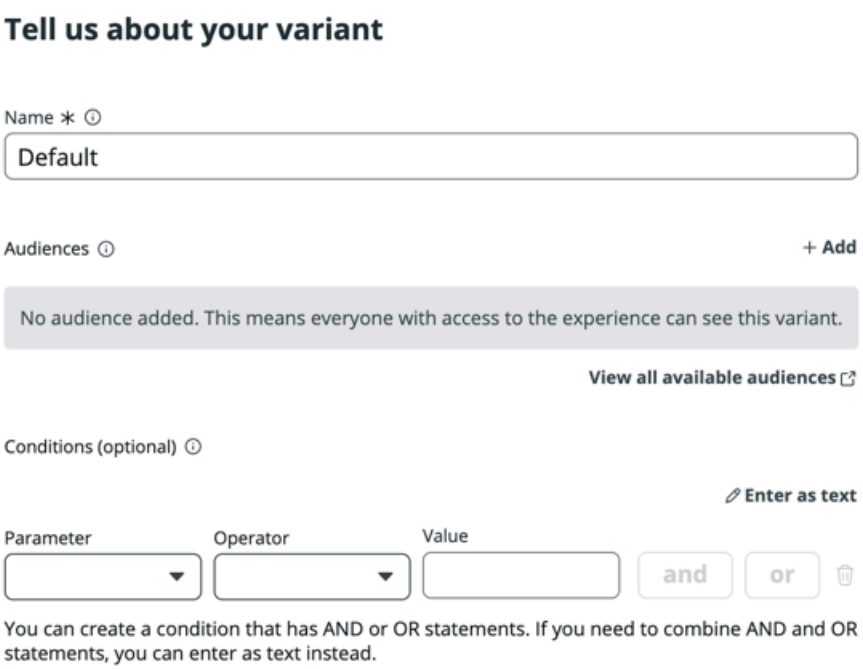


テスト値の詳細については、「ページ内の値をテスト」を参照してください。

d. [バリアント] タブを選択して、ページの対象者と条件を設定します。

(Optional) ページを作成すると、UI ビルダー によってページのバリアントもデフォルトで作成されます。ページバリアントとは、ユーザー基準を使用してさまざまな対象者のエクスペリエンスをターゲットにできる、同じパスのページのバリエーションのことです。たとえば、マネージャー用のページと、そのマネージャーの直属の部下用のページのバリアントなどです。バリアントの作成の詳細については、「ページバリアントの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



対象者の詳細については、「対象者について学習する」を参照してください。

e. [完了] をクリックします。

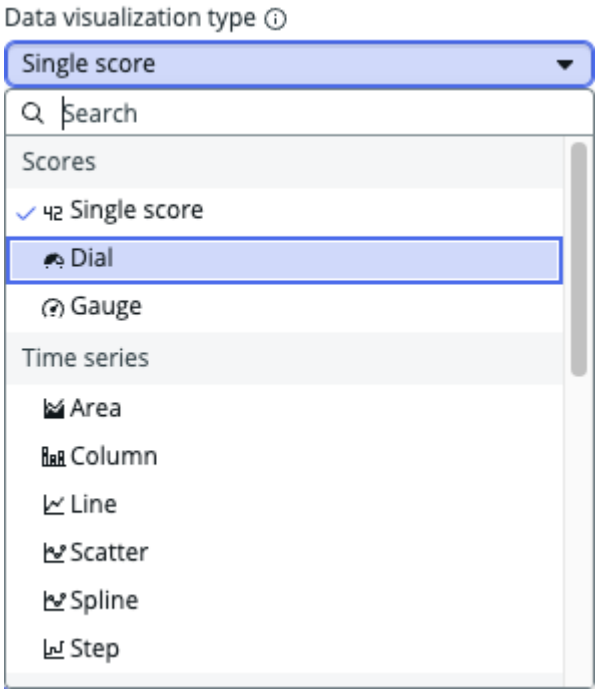
11. [完了] をクリックします。
12. 「コンポーネントの追加と構成」の手順をページで行います。
13. [保存] をクリックします。
14. オプション: ページコレクションにページをさらに追加します。
    a. [メニュー] をクリックします。
    b. [ページを作成] を選択します。
    c. 6 から 13 のステップを繰り返します。
15. ページコレクションウィンドウを閉じます。

UI ビルダー でのデータ表示方法の変更

ドロップダウンリストを使用してデータ表示方法をリアルタイムで変更し、エクスペリエンスでデータをプレビューします。

構成パネルのドロップダウンを使用してデータ表示方法タイプを変更し、さまざまなデータ表示方法タイプをプレビューできます。それぞれのデータ表示方法は、エクスペリエンスを使用するユーザーごとに異なるデータを表示するように構成できます。[データ表示方法タイプ] にあるドロップダウンを選択して、さまざまなタイプのデータ表示方法をプレビューします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



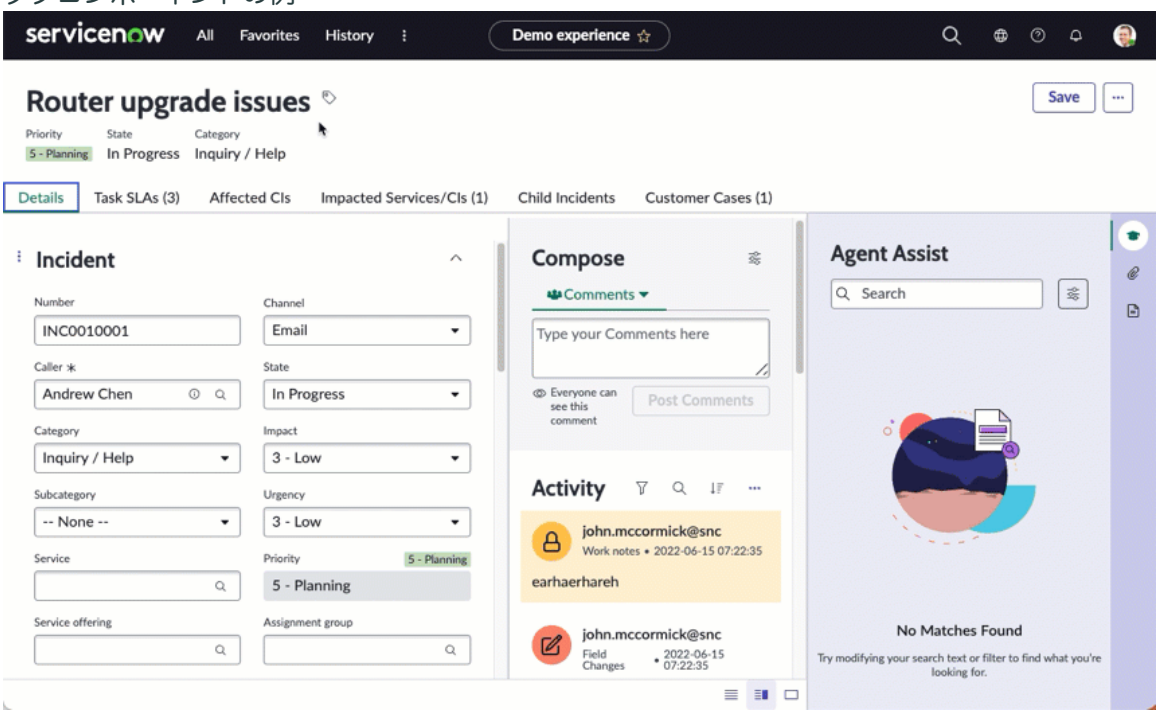
選択したデータ表示方法のプレビューがページに表示されます。データビジュアル化コンポーネントをエクスペリエンスに追加する方法については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

UI ビルダーページにタブ付きコンテンツを追加

タブコンポーネントを使用して、UI ビルダー のページにタブ付きコンテンツを追加します。

ページに [タブ] コンポーネントを追加して、UI ビルダー ページに追加のナビゲーションを作成します。タブコンポーネントを使用して、ページ上のタブ内でコンポーネントをネストします。タブは、コンテンツの上部の水平タブとして、またはコンテンツの左側か右側の垂直タブとして構成できます。

タブコンポーネントの例



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タブは構成パネルで整理して、UI ビルダー ページでの表示順序を並べ替えることができます。カスタムラベルとアイコンをタブに追加して、タブ間を移動するための一意の視覚的識別子を提供します。これらの変更は、[タブ] コンポーネントの編集時にリアルタイムで表示できます。

次のいずれかのタイプのタブを UI ビルダー ページに追加できます。

- 空のコンテナタブ
- リピータータブ
- 関連リストタブ
- ページコレクションタブ

タブコンポーネントは、静的なタブ、リピーターのタブ、関連リストのタブ、およびページコレクションのタブの任意の組み合わせをサポートします。さらに、ビューポートタブモードを使用して一連のビューポートを追加することもできます。

空のコンテナタブの追加

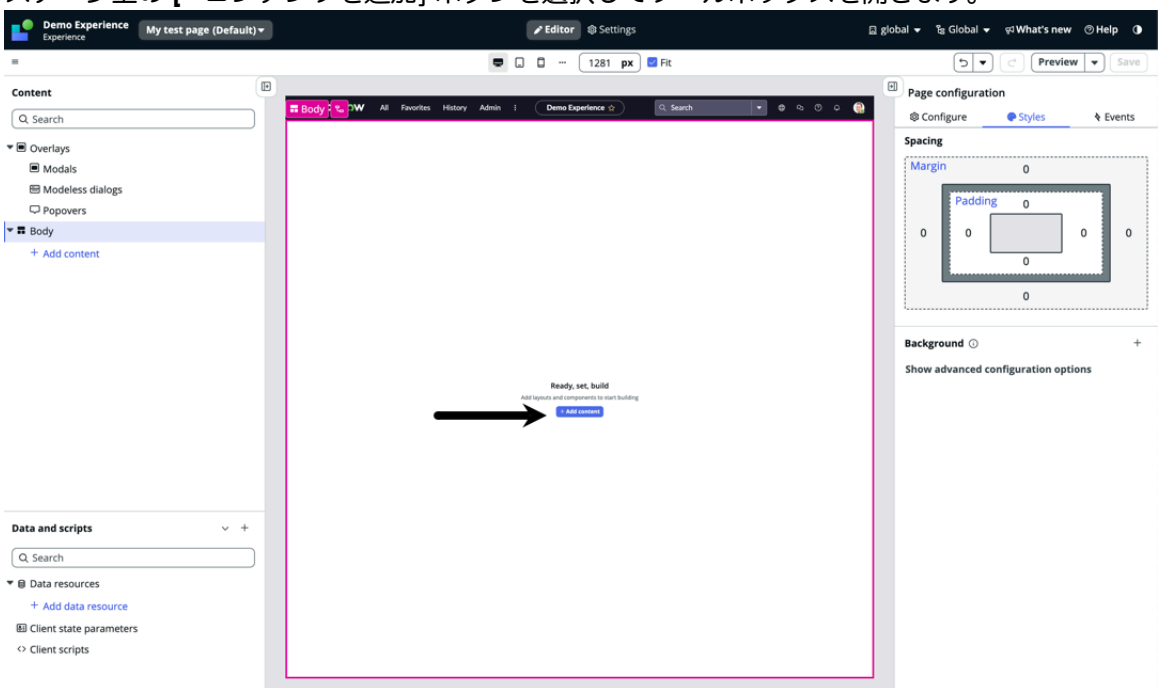
空のコンテナタブを使用して、ページ上に静的なタブのセットを手動で作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

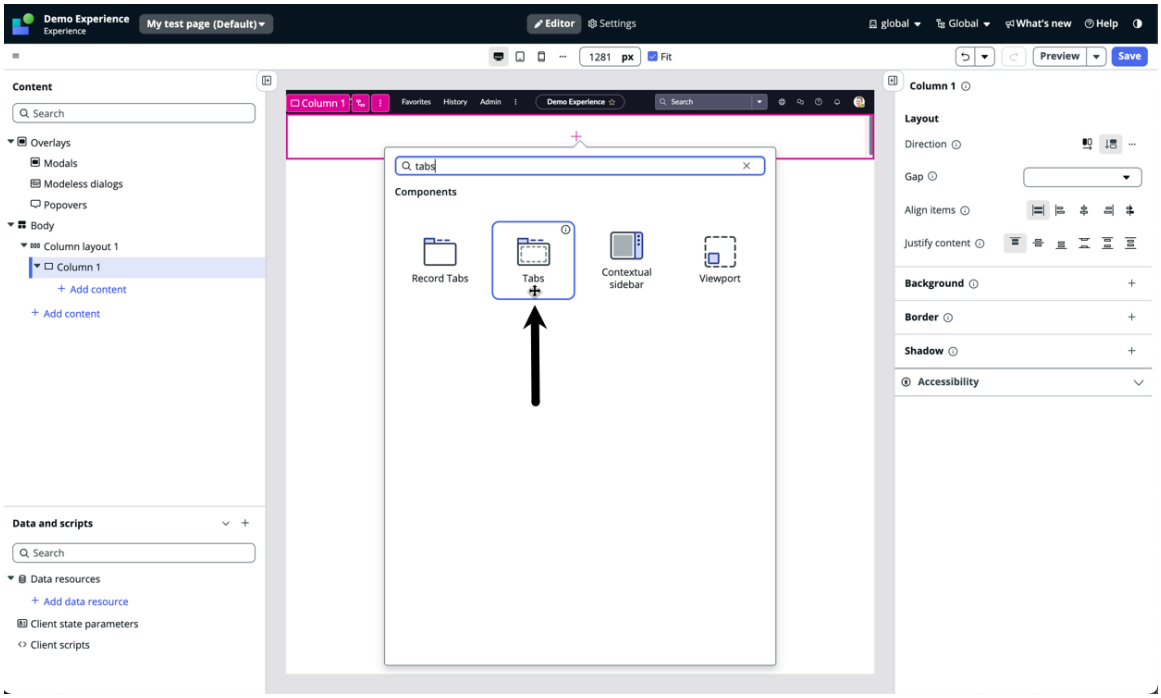
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. ステージ上の **[+** コンテンツを追加] ボタンを選択してツールボックスを開きます。



5. **1** 列のレイアウトを選択します。

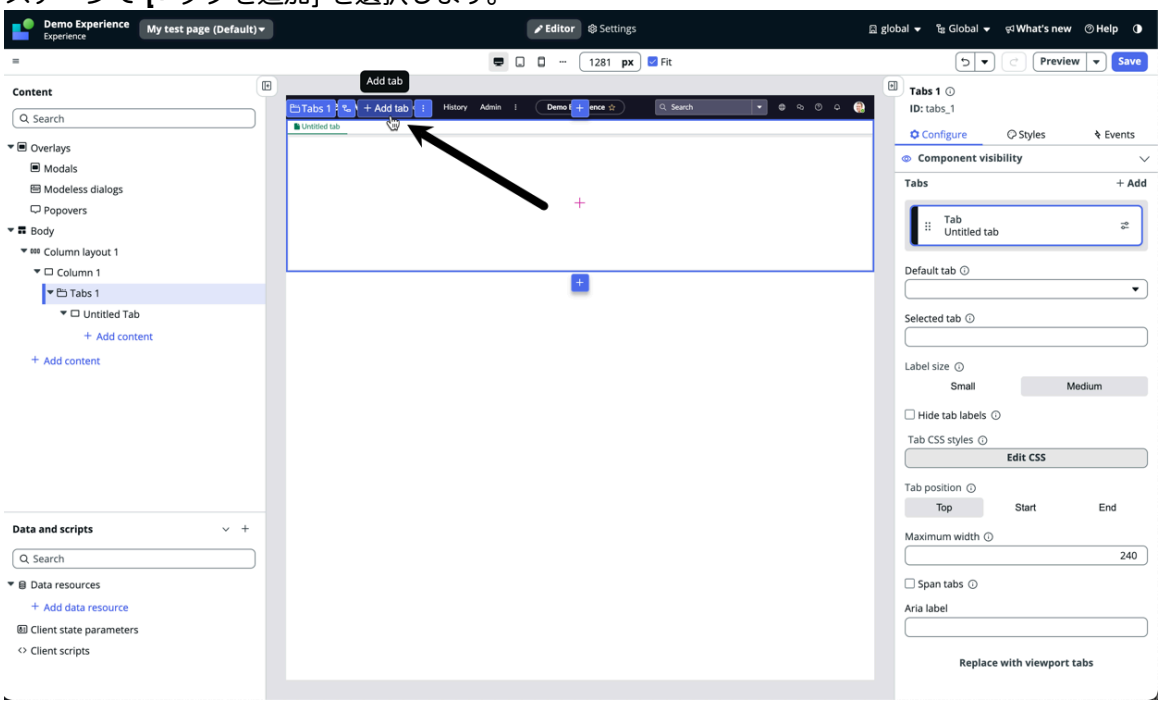
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 次に、列の **[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
7. タブコンポーネントをページに追加します。



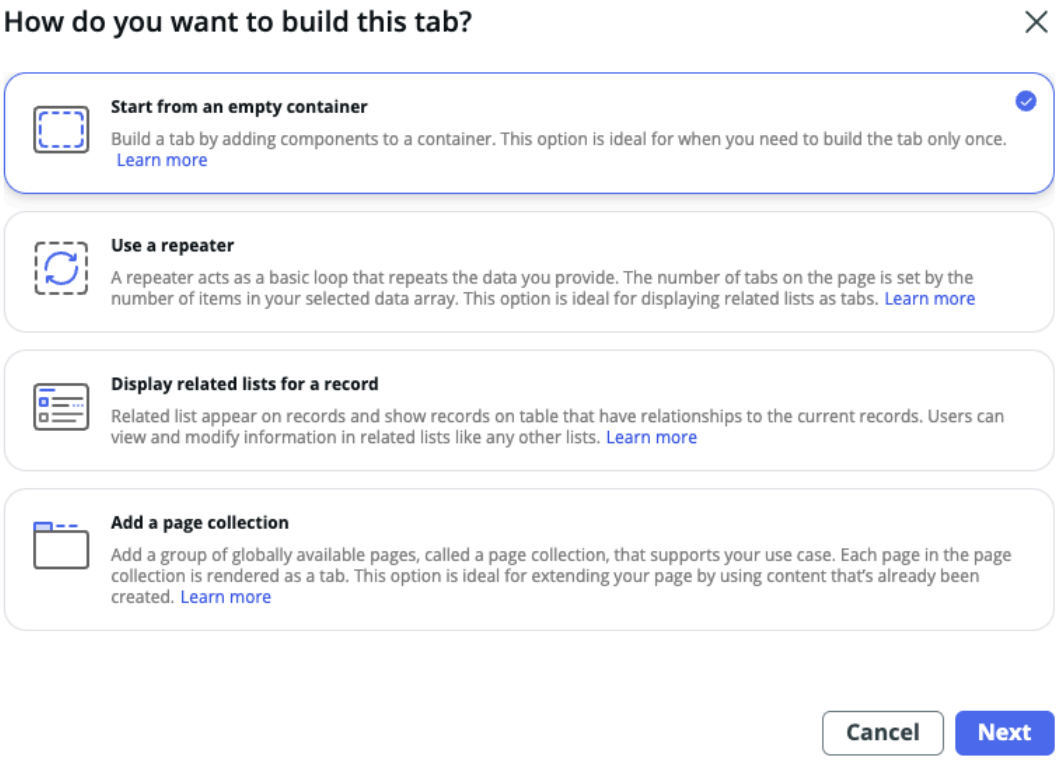
コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

8. ステージで **[+** タブを追加] を選択します。



9. [空のコンテナから開始] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



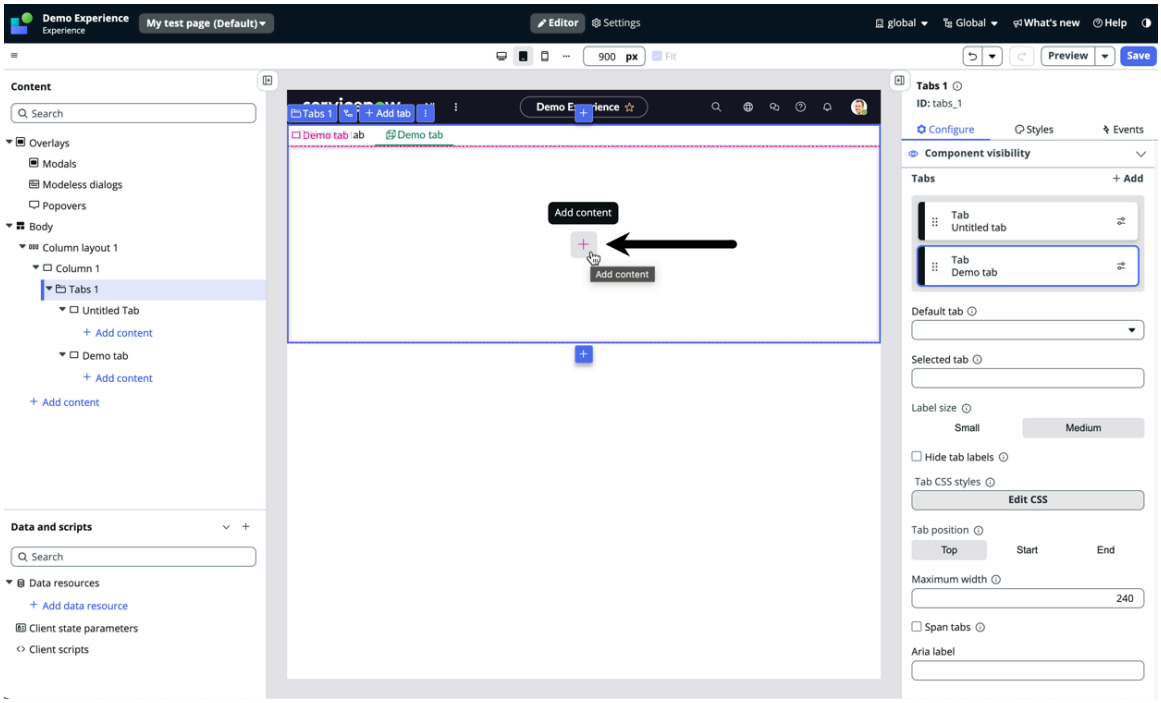
10. [次へ] を選択します。
11. フォームのフィールドに入力します。

タブの設定フォーム

フィールド	説明
タブラベル	ページに表示するタブのラベル。
アイコン	タブラベルの横に表示されるアイコン。アイコンは必須ではありません。
タブを非表示	タブを表示するか非表示にするか。

12. [作成] を選択します。
    新しいタブがタブコンポーネントに表示されます。
13. 新しいタブを選択します。
14. **[+]** アイコンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



15. タブに追加するコンポーネントを選択します。
    コンポーネントは、コンテンツツリーでネストされているタブの下に表示されます。詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

タスクの結果

ページには、作成した 2 つのタブが表示されます。各タブを選択して、さらに構成したり、スタイリングを追加したり、イベントハンドラーを追加したりします。スタイリングの詳細については、「コンポーネントのデフォルトの外観を変更する」を参照してください。イベントハンドラーの追加の詳細については、「UI ビルダーページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。

リピータータブの追加

タブコンポーネントを使用して、タブをデータアレイにリンクして、一連のリピータータブを作成します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

リピータータブを使用して、指定したデータアレイに基づいて複数のタブを作成できます。オブジェクトのキーとして、アイコン、ラベル、カウント、およびフィールドを渡すことができます。ラベルキーを使用して、タブに名前を追加します。フィールドキーを使用して、情報をリピータータブに渡します。データブローカー、クライアントステータス、またはクライアントスクリプトをデータアレイプロバイダーにバインドして、正しいスキーマを持つオブジェクトのアレイを返すことができます。

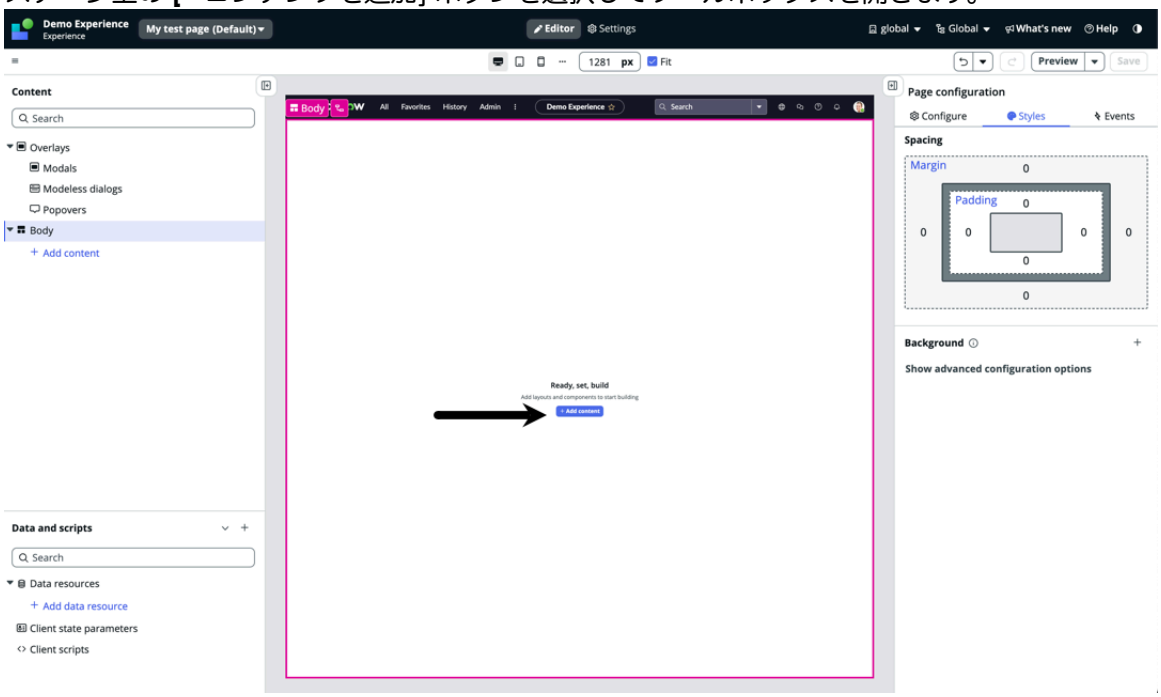
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。

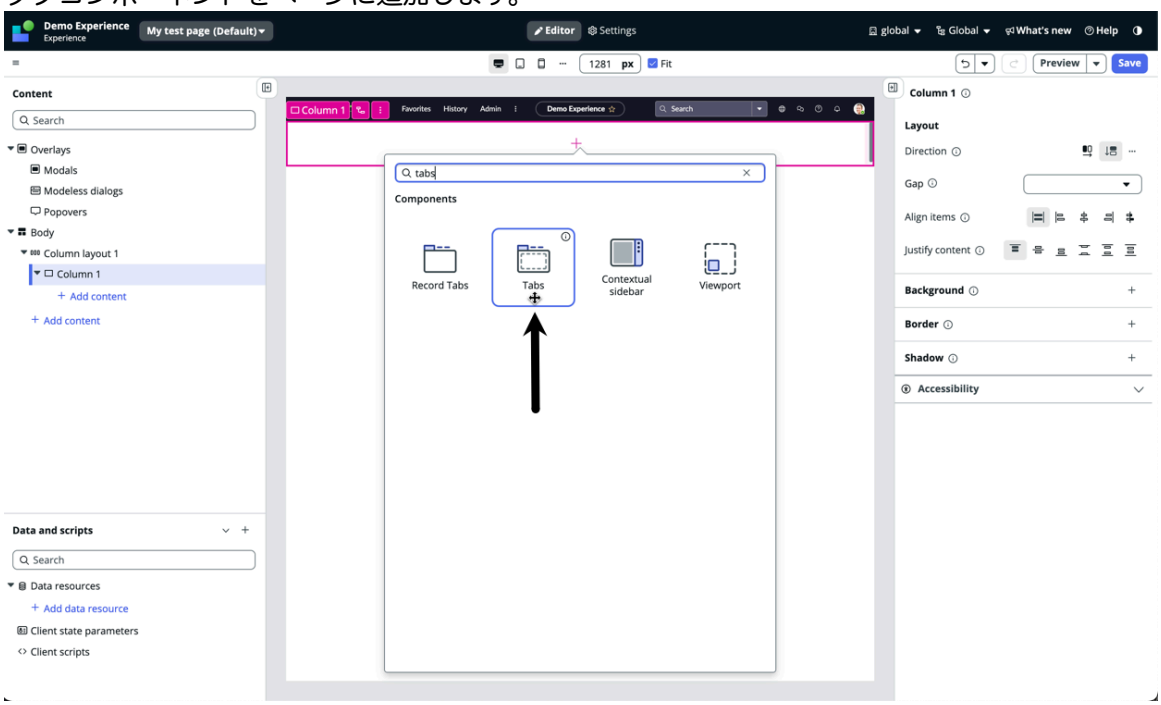
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。

4. ステージ上の **[+** コンテンツを追加] ボタンを選択してツールボックスを開きます。



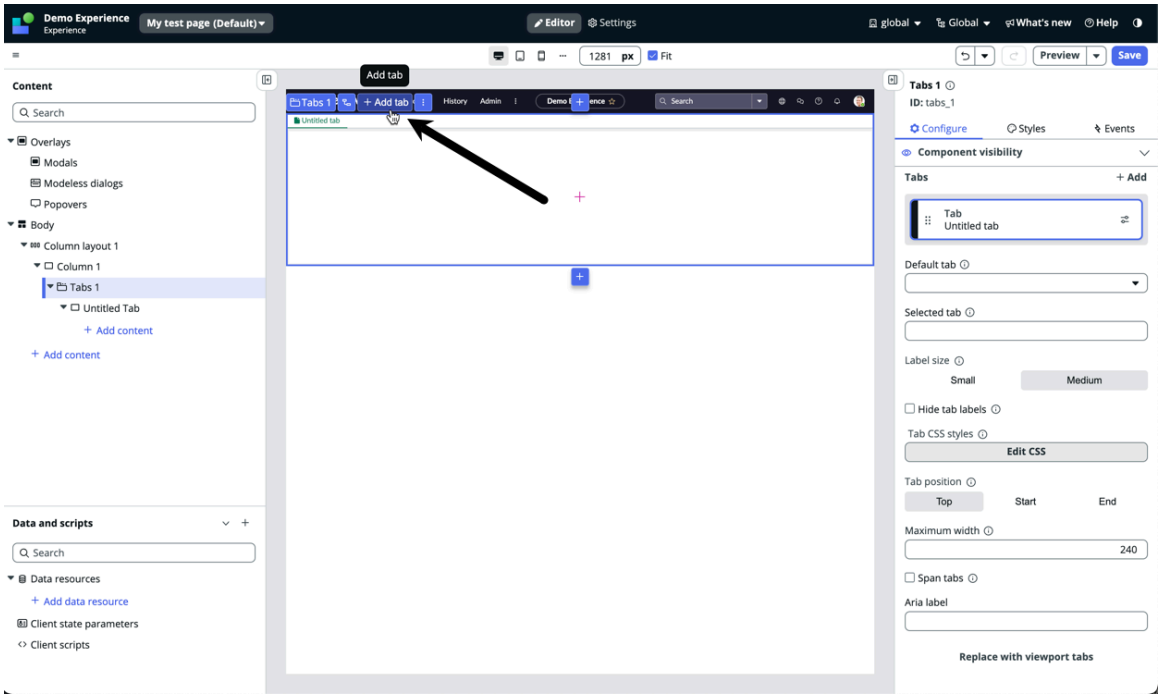
5. **1** 列のレイアウトを選択します。
6. 次に、列の **[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
7. タブコンポーネントをページに追加します。



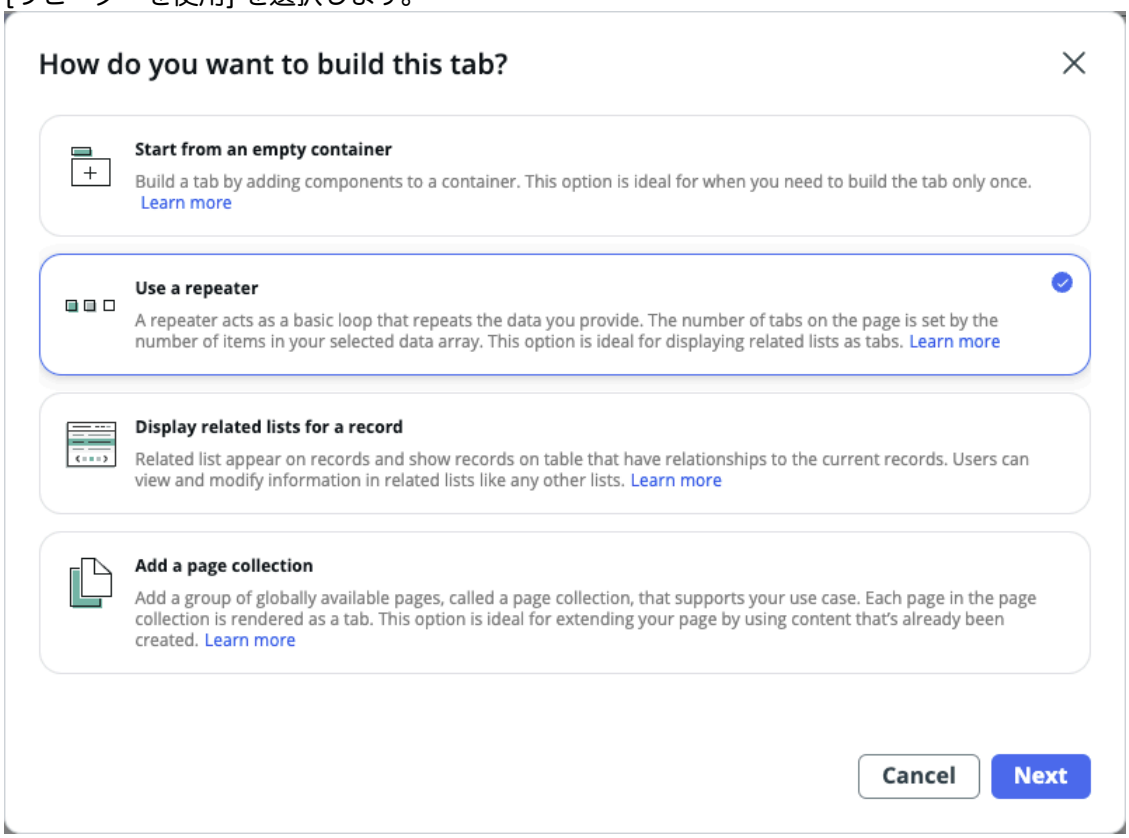
コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

8. ステージで **[+** タブを追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

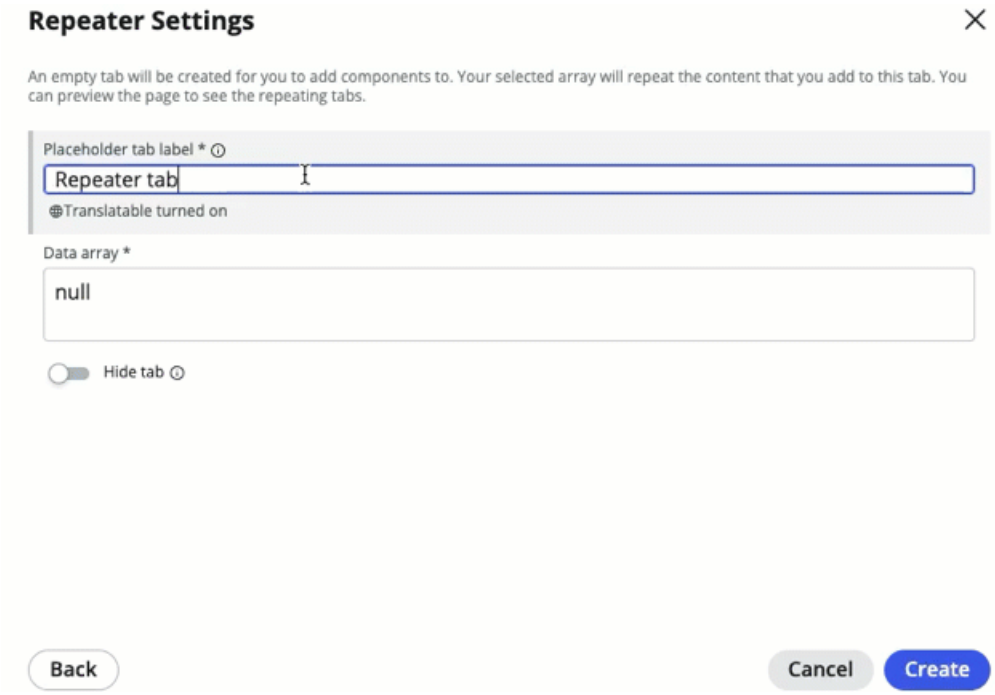


9. [リピーターを使用] を選択します。



10. [次へ] を選択します。
11. [プレースホルダータブラベル] フィールドにリピータータブのラベルを入力します。
このラベルは最初のリピータータブにアサインされ、ページプレビューに表示される唯一のタブです。
12. [データ配列] フィールドで [編集] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

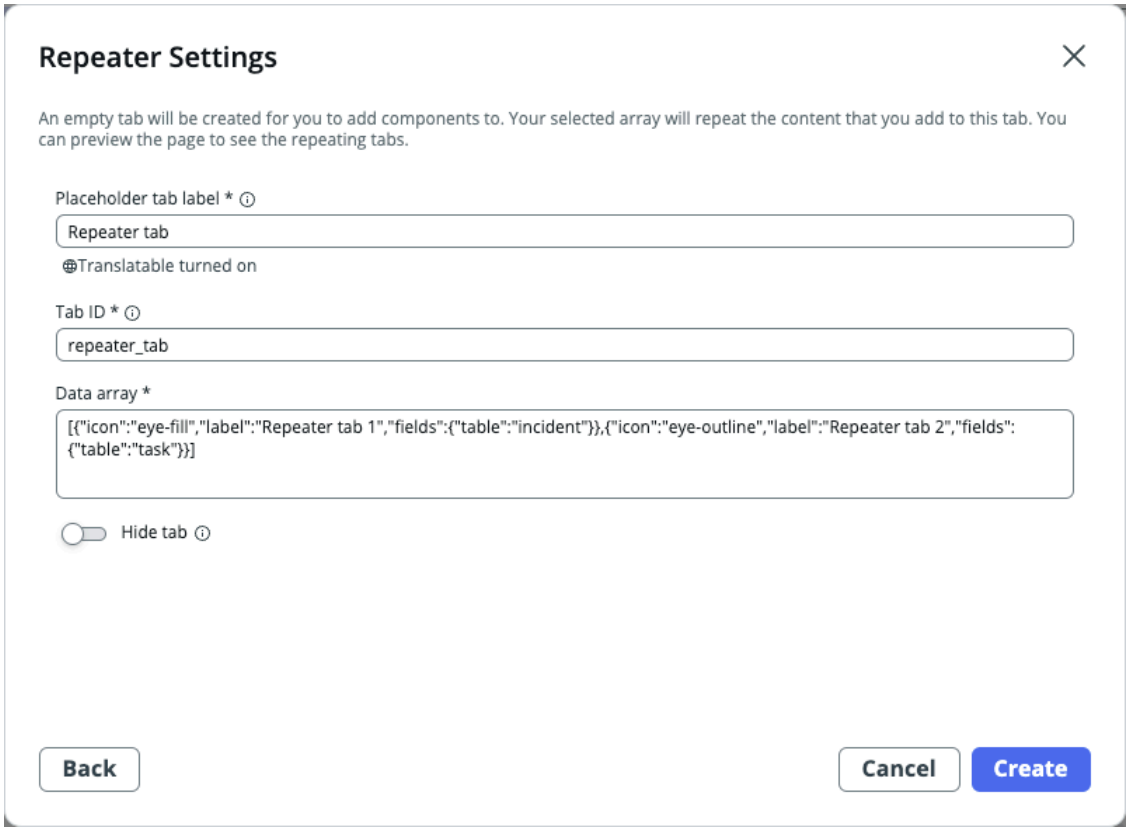


13. JSON エディターでデータアレイを構成します。

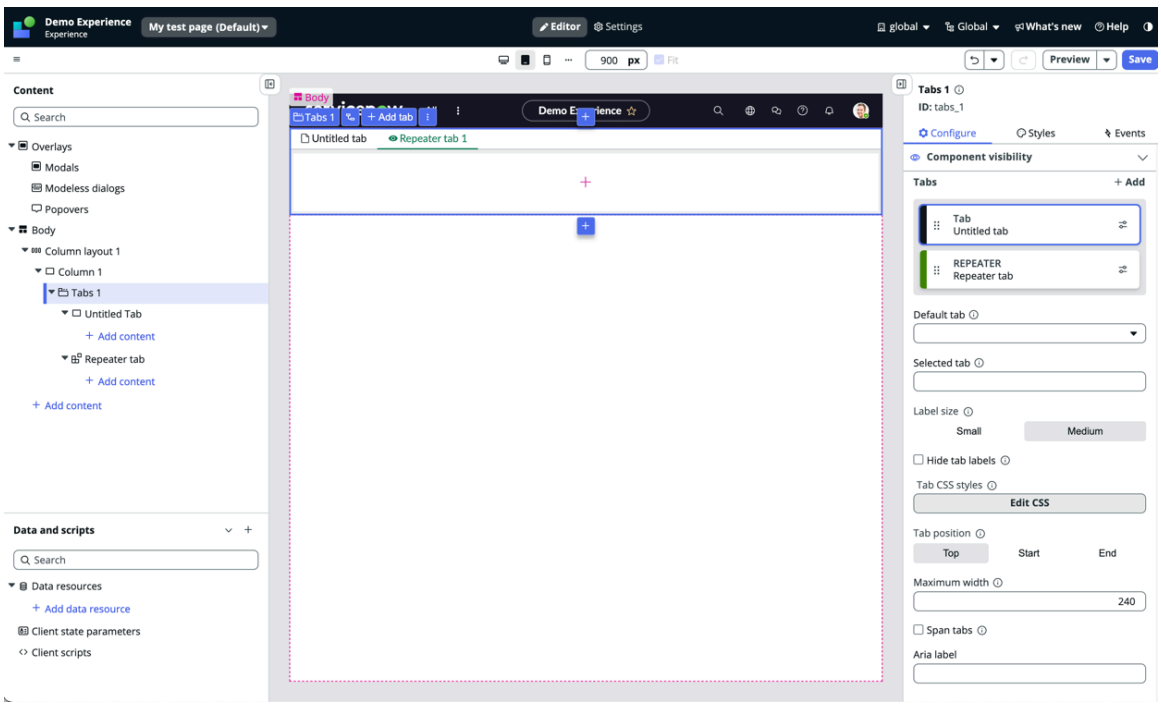
キー	データタイプ	説明
アイコン	文字列	UI ビルダー に表示されるアイコンの名前。
ラベル	文字列	必須。UI ビルダー でのタブの表示名。
カウント	番号	タブラベルに指定する値。ラベルに表示されるデータブローカーまたはクライアントスクリプトに動的にバインドします。
フィールド	オブジェクト	情報を格納し、タブ内のコンポーネントに渡すために使用できるオブジェクト。

14. [適用] を選択します。
データアレイフィールドには、データアレイの構成が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



15. [作成] を選択します。
新しいリピータータブが、ページとコンテンツツリーに表示されます。



16. [保存] を選択します。
17. コンポーネントを [リピーター] タブに追加します。
18.

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連リストタブの追加

関連リストにリンクすることで、ページ上に一連のタブを作成します。

始める前に

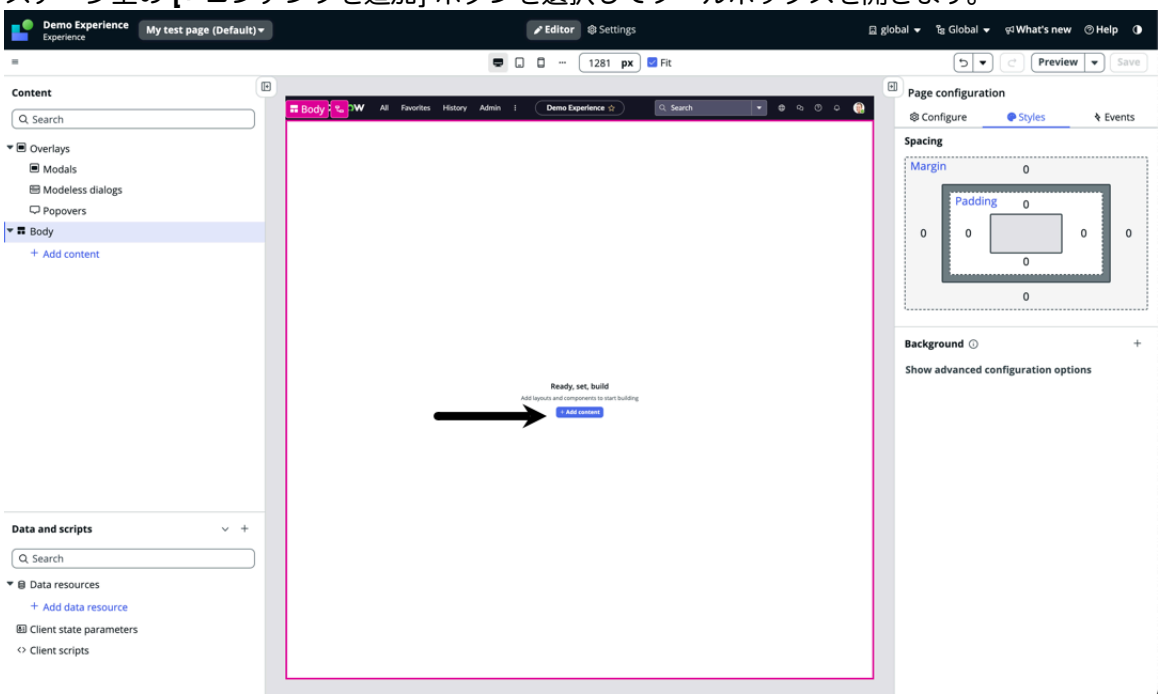
必要なロール：admin

このタスクについて

関連リストタブは、ページに表示されているレコードに基づいて自動的に入力されます。たとえば、デフォルトでは、ユーザーテーブルの関連リストは、[ロール]、[グループ]、[代理人]、および [ヴィジビリティドメイン] です。ページにユーザーレコードが表示されている場合、関連リストタブを作成すると、これらの 4 つの関連リストがすべてページに追加されます。ページをプレビューすると、追加された関連リストを確認できます。関連リストタブを作成するには、レコードコントローラーが必要です。コントローラーをページに追加する方法の詳細については、「コントローラーを使用した UI ビルダー ページへのデータのバインド (高度な機能)」を参照してください。

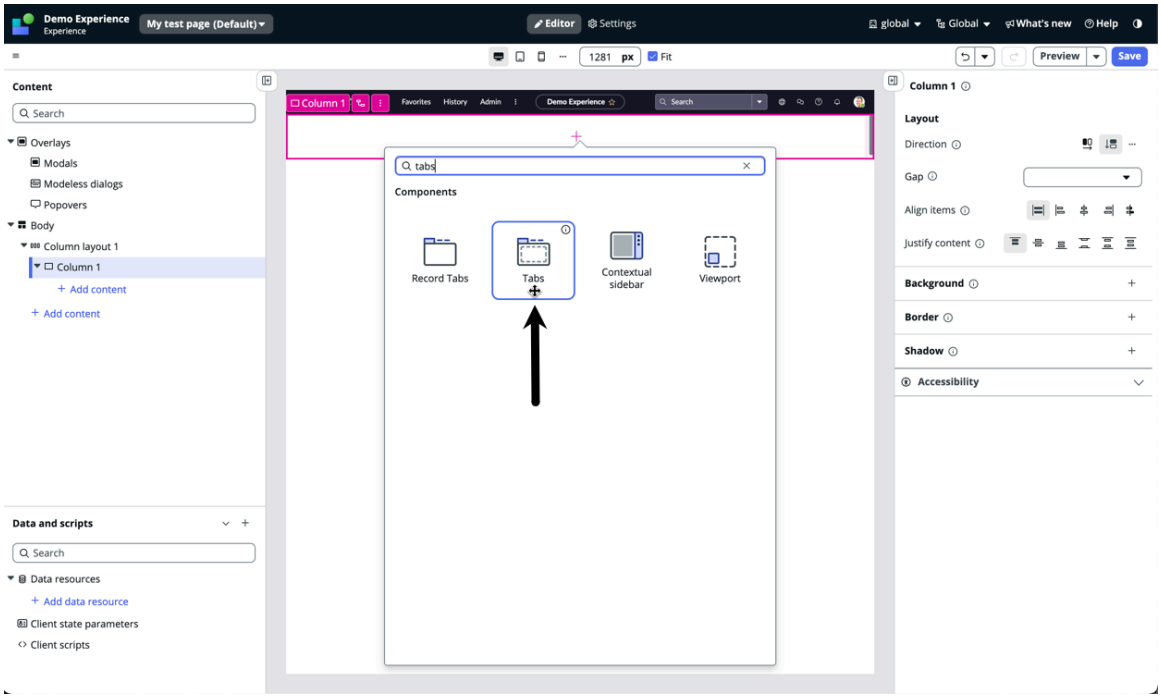
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. ステージ上の **[+** コンテンツを追加] ボタンを選択してツールボックスを開きます。



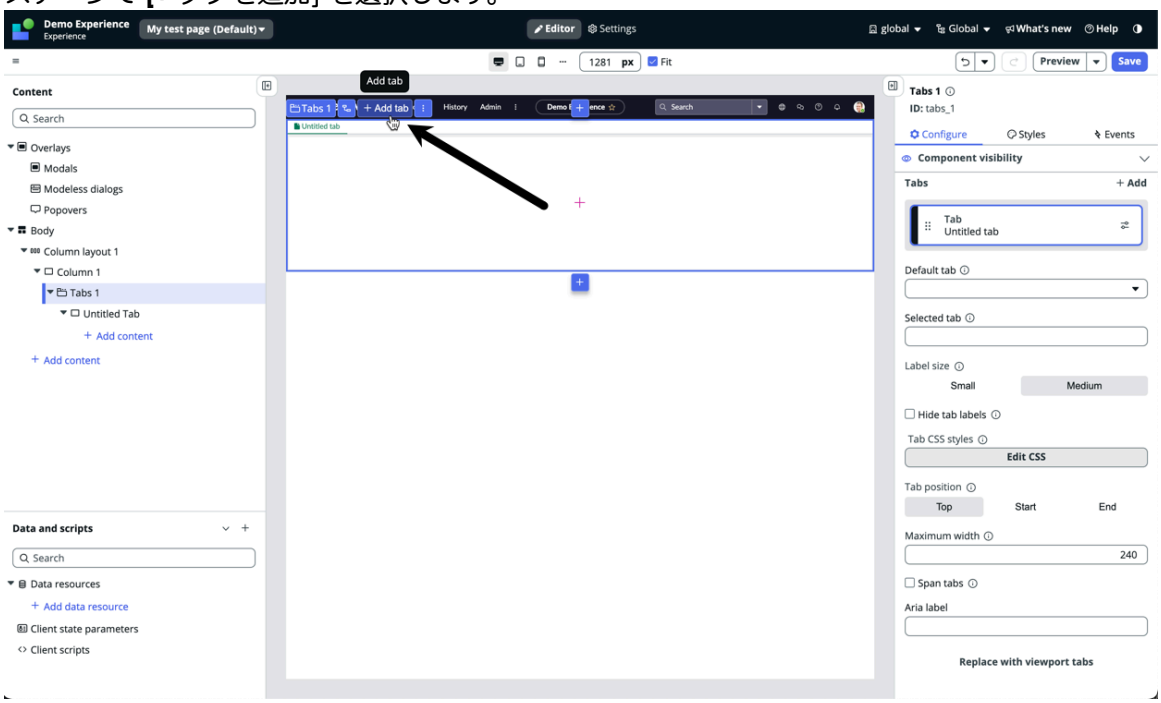
5. **[1** 列] のレイアウトを選択します。
6. 次に、列の **[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
7. タブコンポーネントをページに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



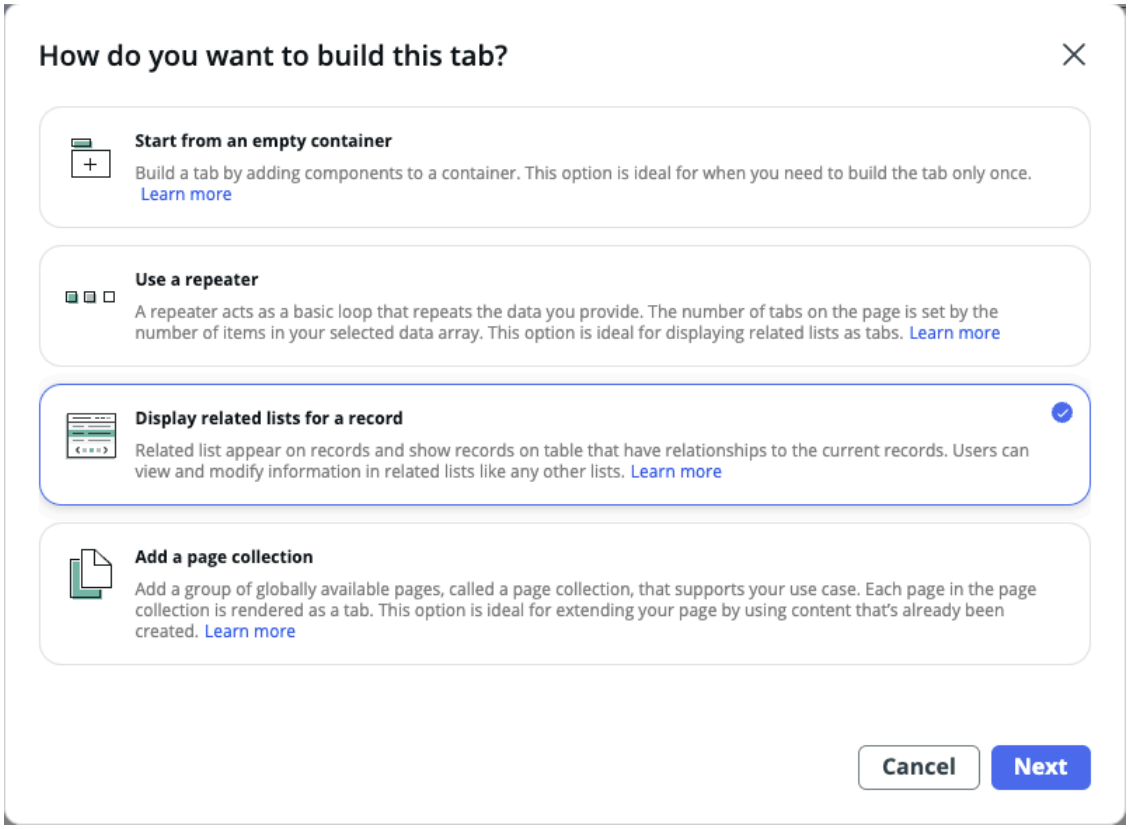
コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

8. ステージで **[+** タブを追加] を選択します。



9. [レコードの関連リストを表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



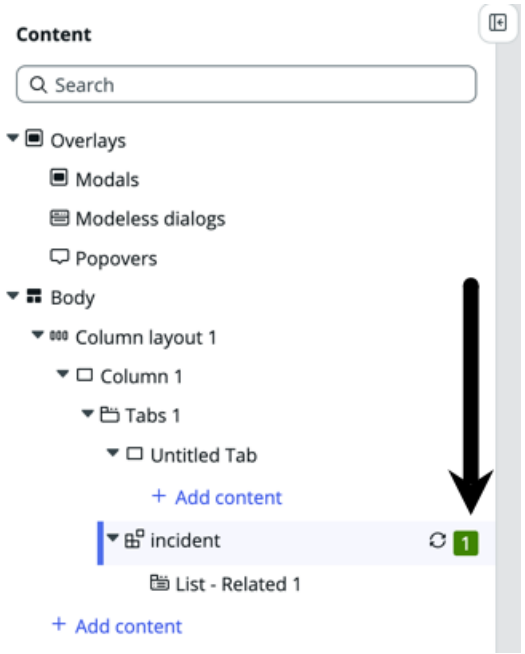
10. [次へ] を選択します。
11. フォームのフィールドに入力します。

タブの設定フォーム

フィールド	説明
プレースホルダータブラベル	ページのプレビュータブに表示されるプレースホルダーラベル。
タブを非表示	タブを表示するか非表示にするかを指定します。
レコードコントローラー	関連リストがあるレコードコントローラー。

12. [作成] を選択します。
新しい関連リストタブが、構成パネルの [タブ] セクションに表示されます。1 つのプレースホルダータブのみがページプレビューに表示されます。コンテンツツリーの関連リストタブの横にある緑色のアイコンは、ページに表示されるタブの数を示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



13. [保存] を選択します。
14. [プレビュー] ボタンを選択してページをテストします。 Preview

ページコレクションタブの追加

[ページコレクション] タブを使用して、UI ビルダー の複数のページで同じタブを再作成します。

始める前に

必要なロール：admin

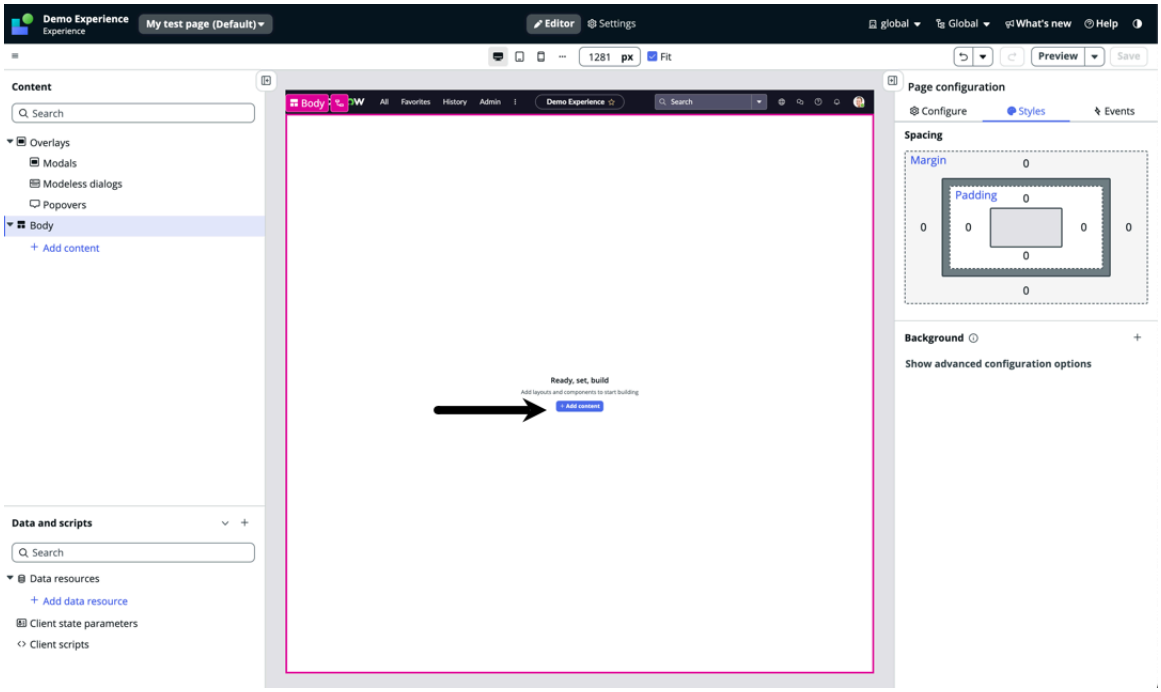
このタスクについて

ページコレクションは、ビルド済みの、グローバルに利用可能なページのグループです。ページコレクションタブを使用して、ページコレクション内の各ページをタブとして表示します。既存のページコレクションを選択することも、独自のページコレクションを作成することもできます。ページコレクションを追加するには、コントローラーが必要です。ページコレクションの詳細については、「ページコレクション」を参照してください。

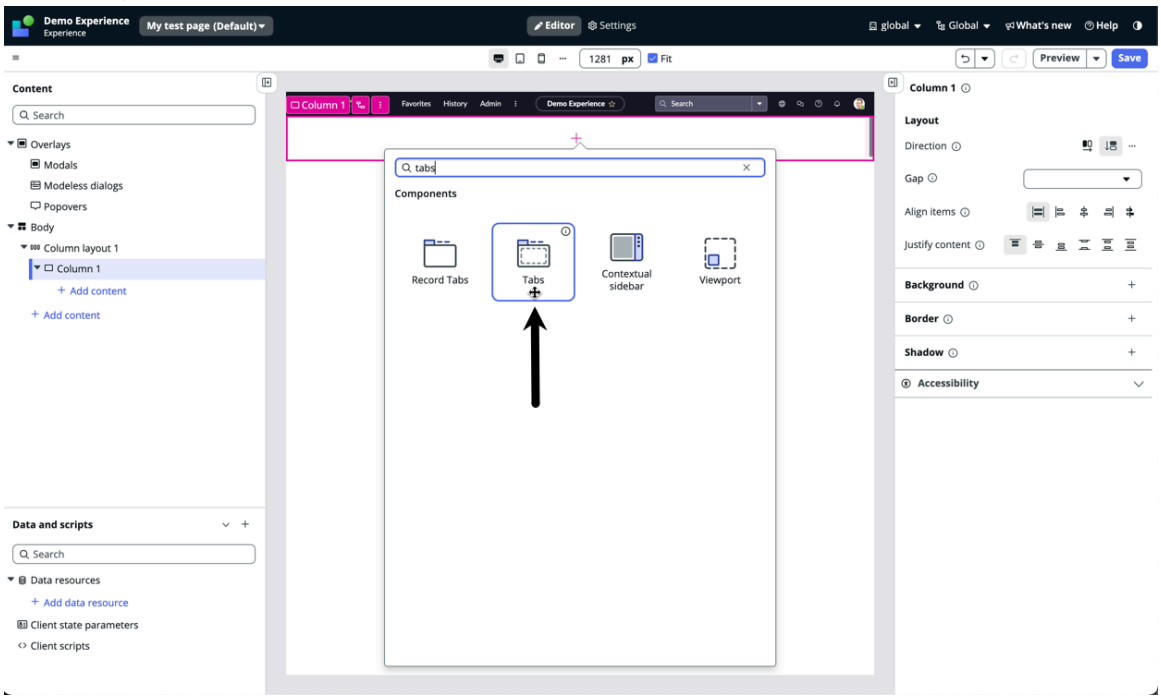
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. ステージ上の **[+** コンテンツを追加] ボタンを選択してツールボックスを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



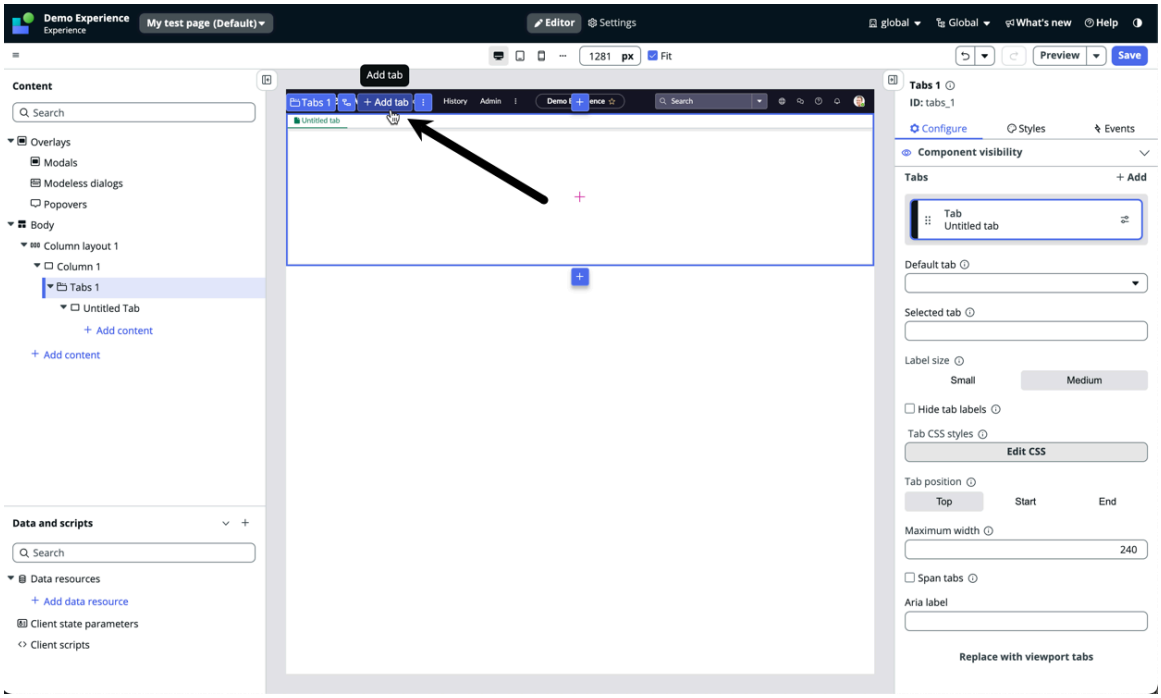
5. 1 列のレイアウトを選択します。
6. 次に、列の **[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
7. タブコンポーネントをページに追加します。



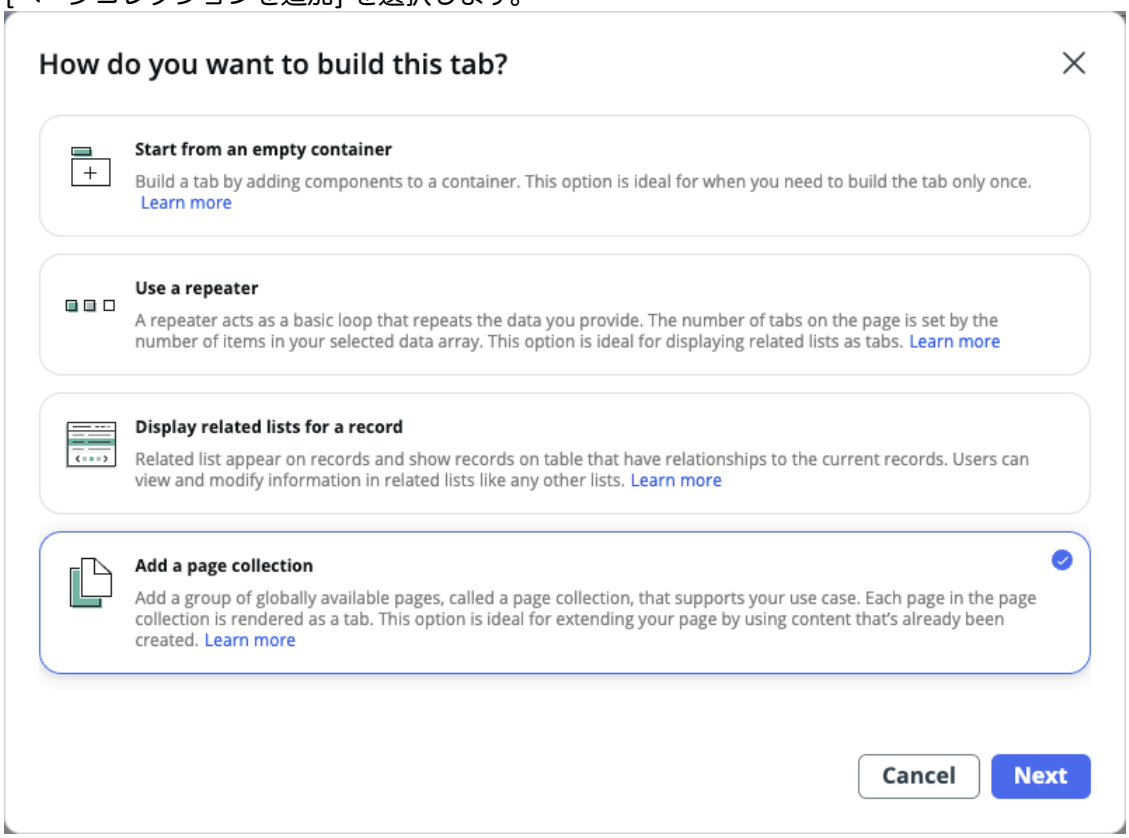
コンポーネントをページに追加する方法の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

8. ステージで **[+** タブを追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

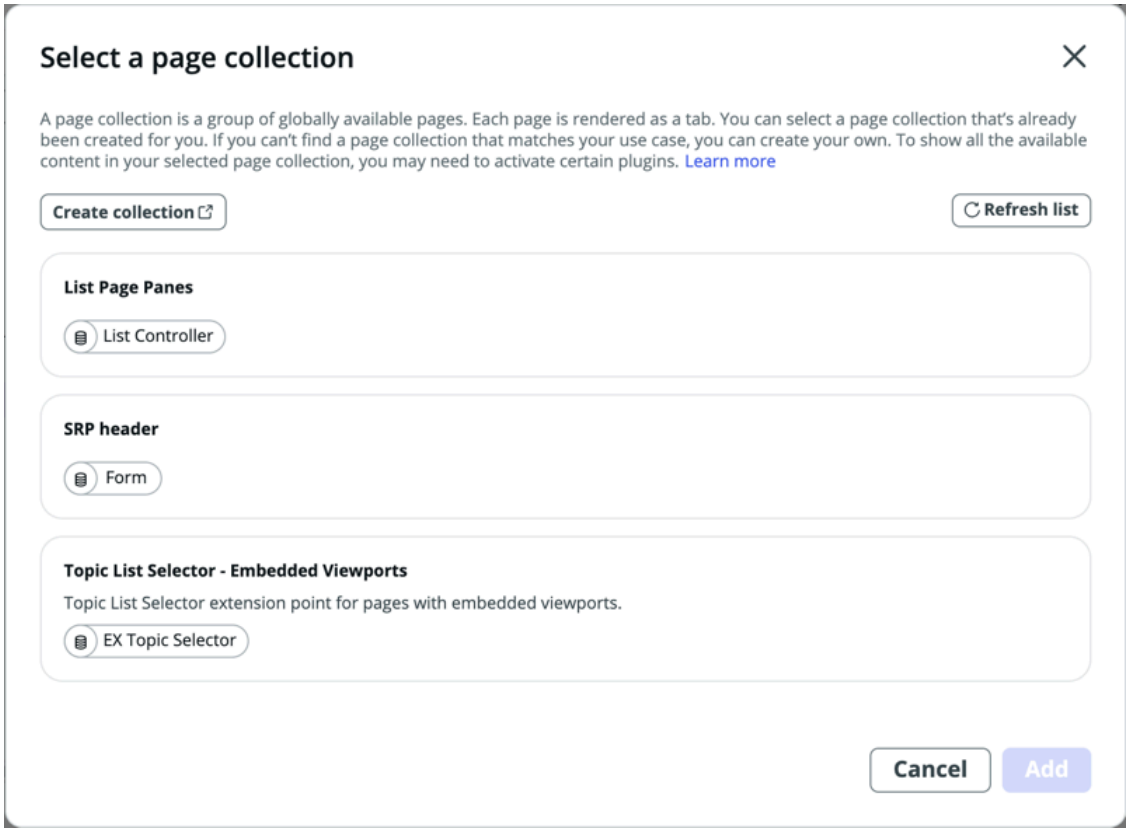


9. [ページコレクションを追加] を選択します。

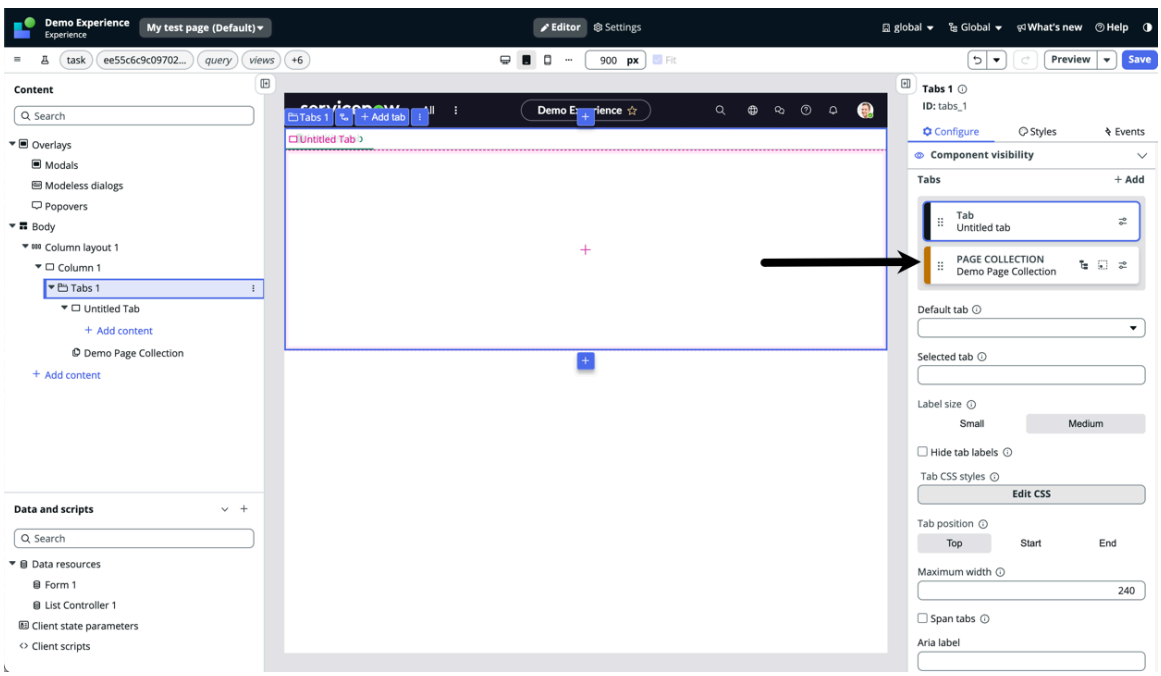


10. [次へ] を選択します。
11. リストからページコレクションを選択するか、**[+** コレクションを作成] を選択してコレクションを作成します。
独自のページコレクションを作成するには、「複数の UI ページにわたるページコレクションの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



12. [追加] を選択します。
新しいページコレクションが構成パネルの [タブ] セクションに表示されます。1 つのプレースホルダータブのみがページプレビューに表示されます。



13. [保存] を選択します。

14. Preview を選択し、ページを表示してテストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンテキストサイドバーを追加する

UI ビルダー でページにコンテキストサイドバーを追加して、垂直タブ構造を使用して関連コンテンツを表示します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

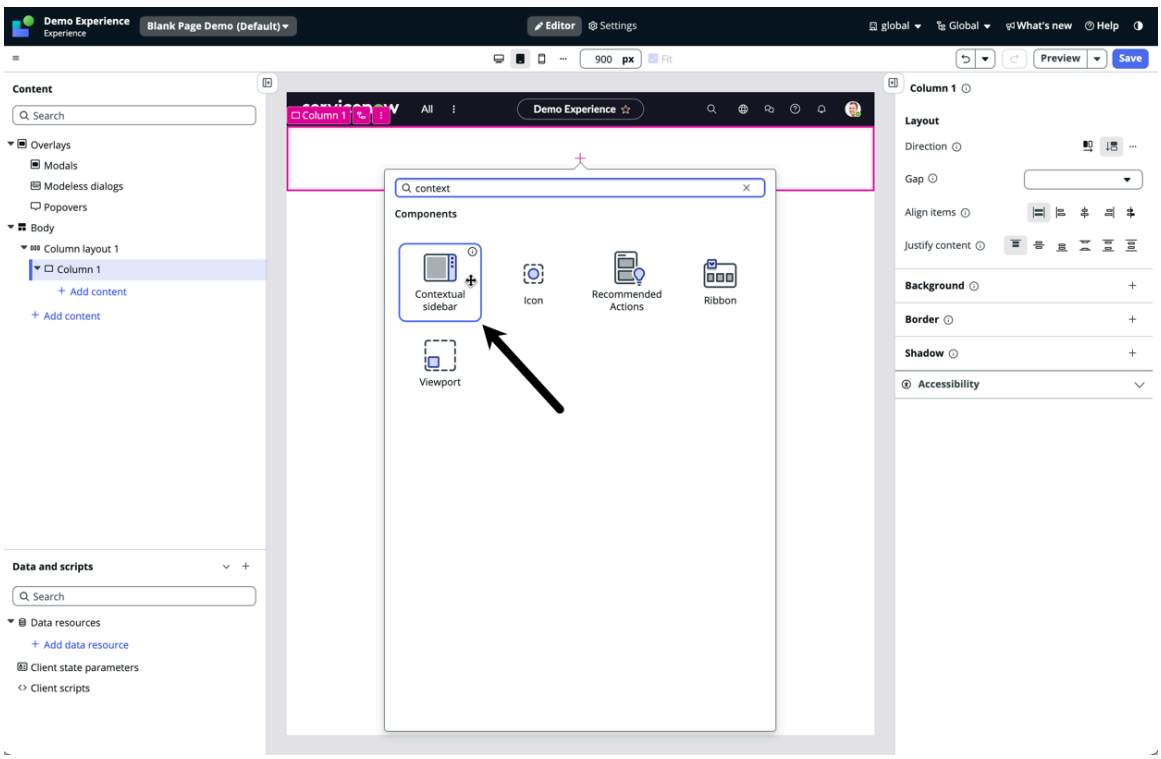
このタスクについて

コンテキストサイドバーは、タブコンポーネントを構成するのと同じ方法で構成できます。コンテキストサイドバーの各垂直タブには、カスタムコンテンツが表示されます。各タブにコンポーネントを配置して、ページから直接すばやくアクセスできます。

たとえば、ドキュメント作成ページのあるタブに添付ファイルコンポーネントがあり、作業中のドキュメントに関連するファイルを添付できます。別のタブには、ネストされたコメントコンポーネントがあり、ドキュメントに関連するコメントを追加および表示できます。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。ページバリアントの作成については、「ページバリアントの作成」を参照してください。
4. ステージで、**[+** コンテンツを追加] ボタンを選択してツールボックスを開きます。
5. **[1** 列] のレイアウトタイルを選択します。
6. 列で、**[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
7. [コンテキストサイドバー] コンポーネントを選択してページに追加します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステージにコンテキストサイドバーが表示され、構成パネルに [タブ] セクションが表示されます。

8. [タブ] セクションの構成パネルで、[設定] アイコン ( ) を選択してタブを構成します。

   a. フォームのフィールドに入力します。

   タブの設定フォーム

フィールド	説明
タブラベル	ページのタブに表示されるラベル。
アイコン	タブラベルの横に表示されるアイコン。 注: アイコンは必須ではありません。
タブを非表示	タブを非表示または表示するオプション。

   b. [保存] を選択します。

9. コンテキストサイドバーのステージで、**[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
10. タブに追加するコンポーネントを選択します。
    コンポーネントはコンテンツツリーのタブの下に表示されます。詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
11. オプション: 別のタブを追加するには、 [タブ] セクションで **[+** 追加] を選択します。

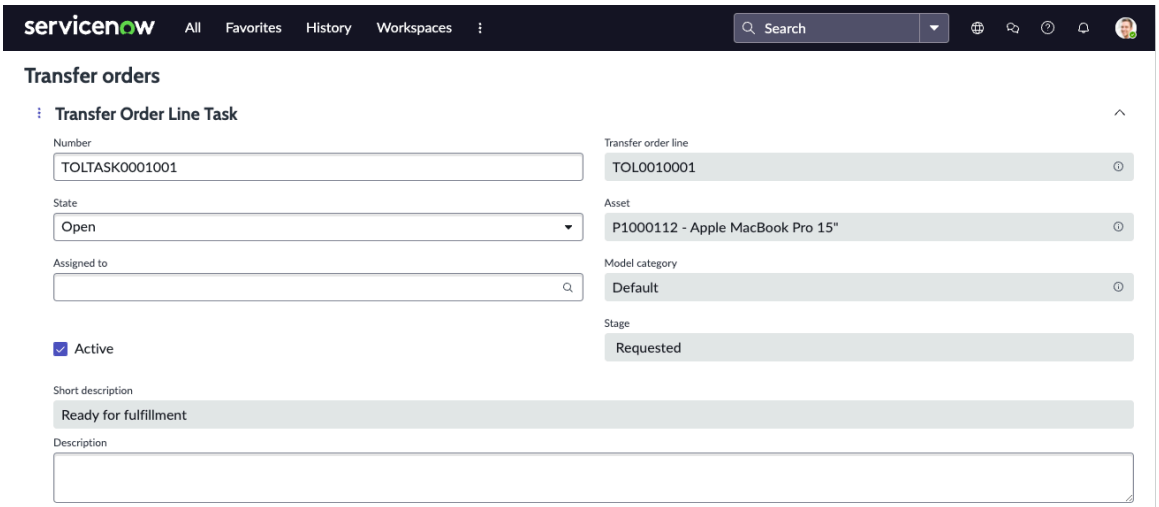
次のタスク
コンテキストサイドバーとそのプロパティの構成の詳細については、ServiceNow 開発者サイトの「タブ UIB のセットアップ 」を参照してください。

UI ビルダーページにフォームを追加する

フォームコンポーネントを使用して、1 つ以上のフォームを UI ビルダー ページに追加します。

フォームを含めて、UI ビルダー ページに機能を追加します。フォームのフィールドとそのプロパティ (必須にするなど) を定義します。次に、フォームの入力および送信時にデータを収集します。

フォームコンポーネントの例



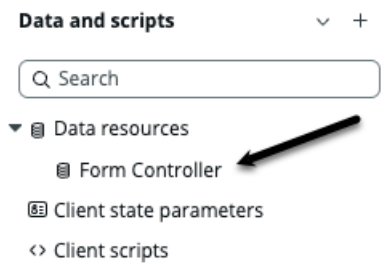
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1 つのページに複数のフォームを追加できます。ネストされたフォームを持つコンポーネントが既に含まれているページにフォームを追加することもできます。サンプルユースケースは次のとおりです。

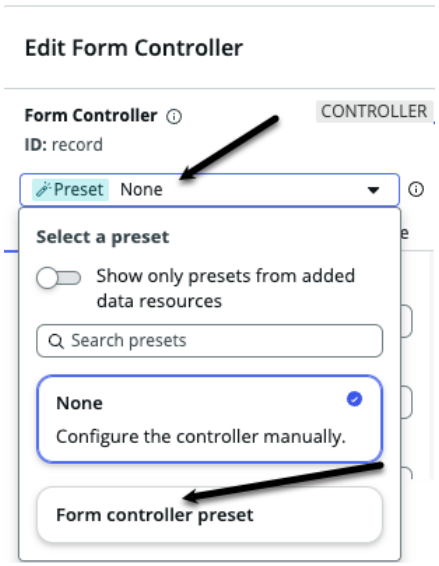
- 独自のフォームコントローラーインスタンスを使用して、フォームを含むインラインタブを追加することで、レコードページを拡張します。
- レコードページにフォームを含むモーダルを追加します。

Xanadu ServiceNow より前のリリースで作成されたフォームを含む既存のページの場合、別のフォームをページに追加する前に、元のフォームにプリセットを適用する必要があります。プリセットの適用は、ページに複数のフォームを追加するための前提条件で、複数のフォームをページ上で期待どおりに機能させることができます。フォームコントローラープリセットは、すべてのフォームコントローラーに適用する必要があります。

1. 既存のフォームを含むページを開きます。
2. データドロワーで、[データリソース] リストを展開し、元のフォームコントローラーを選択します。



3. [プリセット] フィールドを選択します。
4. [フォームコントローラープリセット] を選択します。



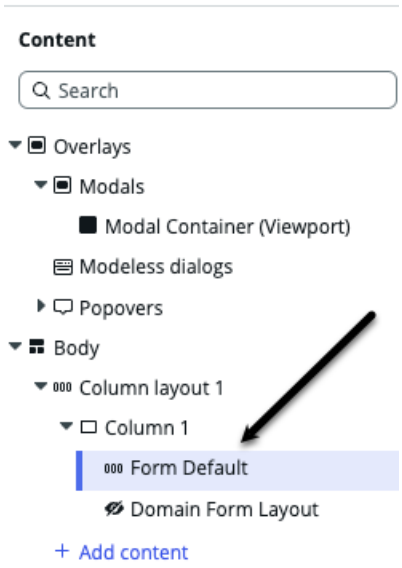
5. [適用] を選択します。
6. **[X]** を選択して [フォームコントローラーを編集 **(Edit Form Controller)]** ポップアップを閉じます。

フォームコントローラーの 1 つだけで、[アプリシェルにマッピングされているか] プロパティが true に設定されている必要があります。このプロパティは、ページ上のプライマリフォームを指定するために使用されます。プライマリフォームは、グローバルイベントの処理を担当します。複

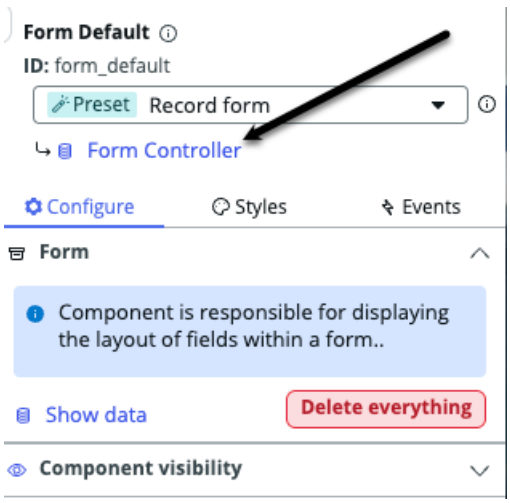
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

数のフォームコントローラーでプロパティを true に設定したり、プロパティが true に設定されたフォームコントローラーを 0 にしたりしないでください。

7. 1 つ以上のフォームを含むページを開きます。
8. コンテンツツリーでフォームを選択します。

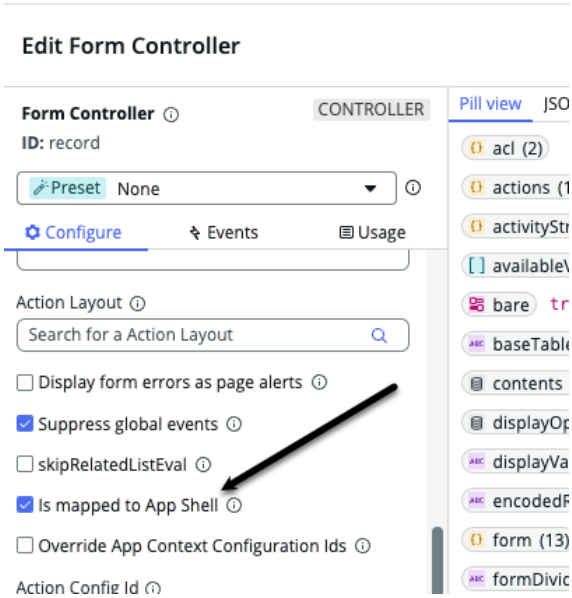


9. 構成パネルの [構成] タブで、[フォームコントローラー] を選択します。



10. [フォームコントローラーを編集 **(Edit Form Controller)]** ポップアップで、[フォームコントローラー] リストを下にスクロールして、[アプリシェルにマッピングされているか] オプションを見つけます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



11. ページ上の各フォームコンポーネントのオプションをオンまたはオフにして、フォームコントローラーが 1 つだけアプリシェルにマッピングされていることを確認します。

フォームイベント処理の詳細

競合イベント処理の知識を持つ経験豊富な開発者には、次の詳細が役立つ場合があります。

[アプリシェルにマッピングされているか] が true に設定されている場合、フォームは次のイベントを自動的に処理します。

画面ステータスが変更されました

- 説明：フォームがダーティであることを示すアクション。
- 出力：`CTRL_RECORD#SCREEN_STATUS_CHANGED`

要求された構成メニューを更新

- 説明：アバターメニューのレコード構成メニューアイテムを設定するアクション。
- 出力：`CTRL_RECORD#UPDATE_CONFIGURATION_MENU_REQUEST`

電話が要求された

- 説明：CTI プラグインが有効な場合に電話をかけるアクション。
- 出力：`CTRL_RECORD#PHONE_REQUESTED`

フォームのロードステータスが変更された

- 説明：フォームがデータをロードしているときにロード中の回転を表示するアクション。
- 出力：`CTRL_RECORD#FORM_LOADING_STATE_CHANGED`

フォームコンポーネントとそのプロパティの詳細については、ServiceNow 開発者サイトの「フォームの概要」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー でのモーダルの作成

UI ビルダー のモーダルをコンポーネントとともに使用して、ユーザーにアラートまたはアクションの呼び出しを提供します。UI ビルダー には時間と労力を節約するモーダルが付属しています。

モーダルとは

モーダルはダイアログとも呼ばれ、別のコンテンツウィンドウをオーバーレイするウィンドウです。モーダルはユーザーエクスペリエンスを制御します。モーダルが閉じられるまで、ユーザーはオーバーレイされたウィンドウを操作できません。モーダルには、次のようなさまざまなタイプのコンテンツを含めることができます。

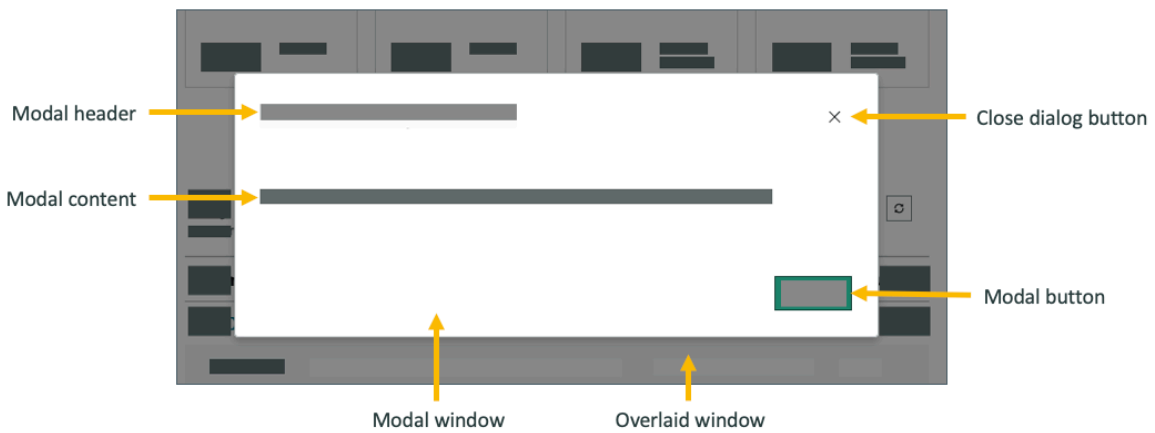
- 静的テキスト
- 動的テキスト
- Forms
- イメージ
- ボタン

UI ビルダー には、事前構成されたモーダルが用意されています。 コンポーネントにモーダルを追加できます。次に、モーダルのコンテンツと、それを画面に表示する方法を構成します。モーダルにイベントハンドラーを追加して、ユーザーが選択したときにアクションを実行します。このアクションでは、ユーザーにアラートを出したり、アクションの確認を求めたりすることができます。モーダルは、起きている事柄をユーザーに通知する手段です。たとえば、モーダルによって、ユーザーがメインページで実行しているアクションを続行する前に、選択内容を確認するようにユーザーに求めることができます。

モーダルの構造

UI ビルダー のモーダルには次の要素があります。

- モーダルヘッダー
- モーダルコンテンツ
- [ダイアログを閉じる] ボタン (モーダルで実行されるアクションはなし)
- 少なくとも 1 つのモーダルボタン (アクションはモーダルで実行可能)



モーダルのタイプ

次の表に示すように、さまざまなタイプのモーダルを UI ビルダーで使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モーダルのタイプ	説明
アラート	アラートモーダルは、コンポーネントアクションに関連する情報を提供します。たとえば、ユーザーが削除ボタンを押したときに、削除アクションは元に戻すことができないことを知らせるアラートポップアップが表示されます。
確認	確認モーダルは、ユーザーにコンポーネントアクションを確認することを求めます。たとえば、ユーザーが削除ボタンを押すと、ユーザーはデータの削除を確認することになります。[はい] や [キャンセル] など、プライマリ/セカンダリボタンのラベルフィールドから確認オプションを選択できます。
確認して破棄	[確認して破棄] モーダルはよりディレクティブであり、通常はコンテンツの削除または消去に関連しています。ユーザーにアクションの重大度を知らせ、アクションを続行するかどうかを尋ねます。
カスタム	カスタムモーダルは、標準のモーダルを使用して処理されないシナリオに対処します。カスタムモーダルは、モーダルのコンテナコンポーネントと考えることができます。カスタムレイアウト、コンポーネント、イベント、およびデータリソースを、ページの場合と同じように追加できます。カスタムモーダルでは、レイアウトを使用して、モーダルに必要とされる情報を十分に設計できます。レイアウトでは、モーダル画面内の情報を配置することもできます。カスケードスタイルシート (CSS) スタイリングを使用して、モーダルの外観を変更できます。
iframe	iframe を使用して、URL とデータからの既存の iframe コンテンツをモーダルに取り込みます。
モーダルビューポート	クライアントスクリプトを使用して、イベントバインディングを介してビューポートモーダルにコンテンツを動的に渡します。

イベントハンドラーとモーダル

イベントをモーダルに公開して、アクションへのコールイベントを処理します。たとえば、プライマリアクション、セカンダリアクションなどです。データを構成するには、イベントハンドラーを追加し、データリソースを呼び出します。これは、モーダルを持つコンポーネントに新しいイベントハンドラーを追加するのと同じくらい簡単です。モーダル自体にイベントハンドラーを追加することもできます。コンポーネントまたはモーダルに関連付けるイベントを選択して追加します。詳細な手順については、「コンポーネントへのモーダルの追加」を参照してください。

コンポーネントへのモーダルの追加

UI ビルダー でモーダルを追加する方法を学習します。モーダルは、コンポーネントをクリックすると表示されるウィンドウです。たとえば、削除ボタンコンポーネントがクリックされるとモーダルが表示され、レコードの削除を確認するように求められます。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

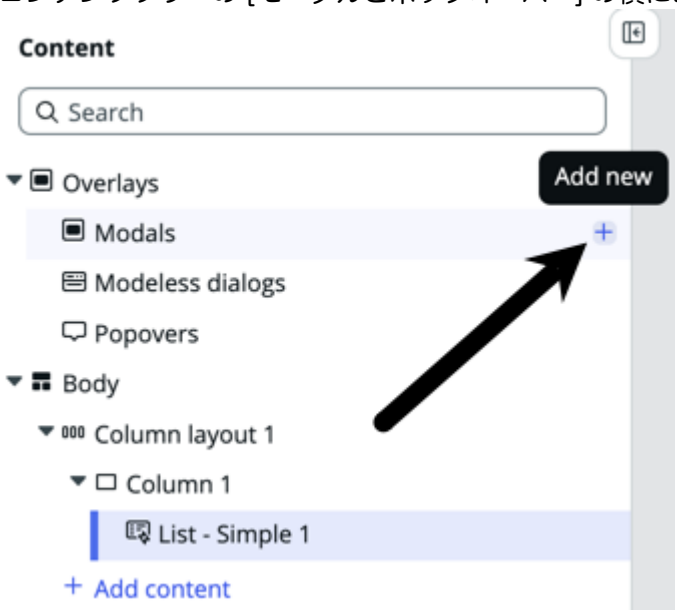
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
モーダルは、ボタンのクリックなどによってイベントハンドラーがトリガーされると表示される画面です。次の手順は、確認モーダルと関連するイベントハンドラーをボタンコンポーネントに追加する方法の例を示しています。

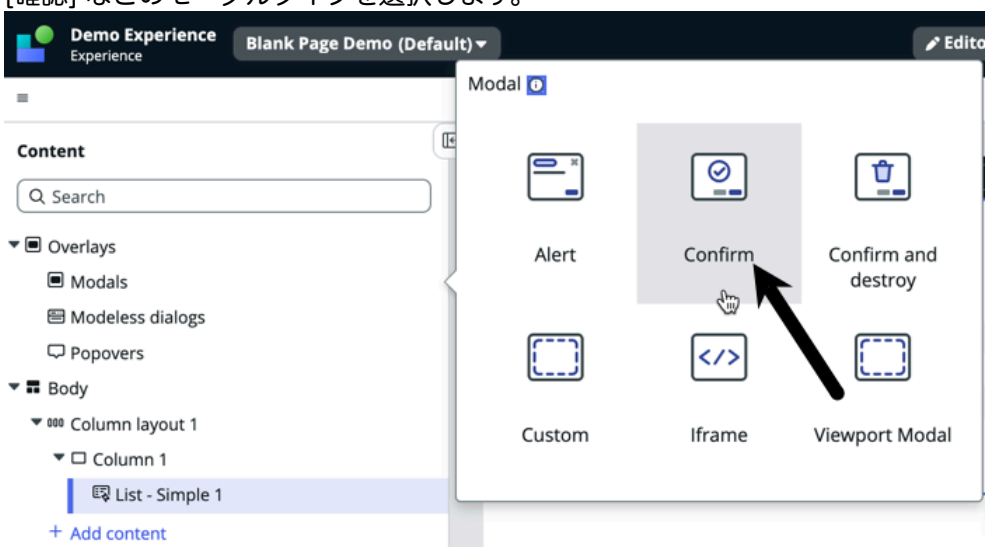
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー] に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くか作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. ページにモーダルを追加します。

   a. コンテンツツリーの [モーダルとポップオーバー] の横にある **[+]** アイコンを選択します。



   b. [確認] などのモーダルタイプを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モーダルのタイプ	説明
アラート	アラートモーダルは、コンポーネントアクションに関連する情報を提供します。たとえば、ユーザーが削除ボタンを押したときに、削除アクションは元に戻すことができないことを知らせるアラートポップアップが表示されます。
確認	確認モーダルは、ユーザーにコンポーネントアクションを確認することを求めます。たとえば、ユーザーが削除ボタンを押すと、ユーザーはデータの削除を確認することになります。[はい] や [キャンセル] など、プライマリ/セカンダリボタンのラベルフィールドから確認オプションを選択できます。
確認して破棄	[確認して破棄] モーダルはよりディレクティブであり、通常はコンテンツの削除または消去に関連しています。ユーザーにアクションの重大度を知らせ、アクションを続行するかどうかを尋ねます。
カスタム	カスタムモーダルでは、レイアウトを使用して、モーダルに必要とされる情報を十分に設計できます。レイアウトでは、モーダル画面内の情報を配置することもできます。カスケードスタイルシート (CSS) スタイリングを使用して、背景色などのモーダルの外観を変更できます。
iframe	iframe を使用して、URL とデータから既存の iframe コンテンツを使用してコンテンツをモーダルに取り込みます。
モーダルビューポート	クライアントスクリプトを使用して、イベントバインディングを介してビューポートモーダルにコンテンツを動的に渡します。コンポーネントへのイベントのバインドの詳細については、「コンポーネントへのイベントのバインド」を参照してください。

c. 次の表に示すようにモーダルを構成します。

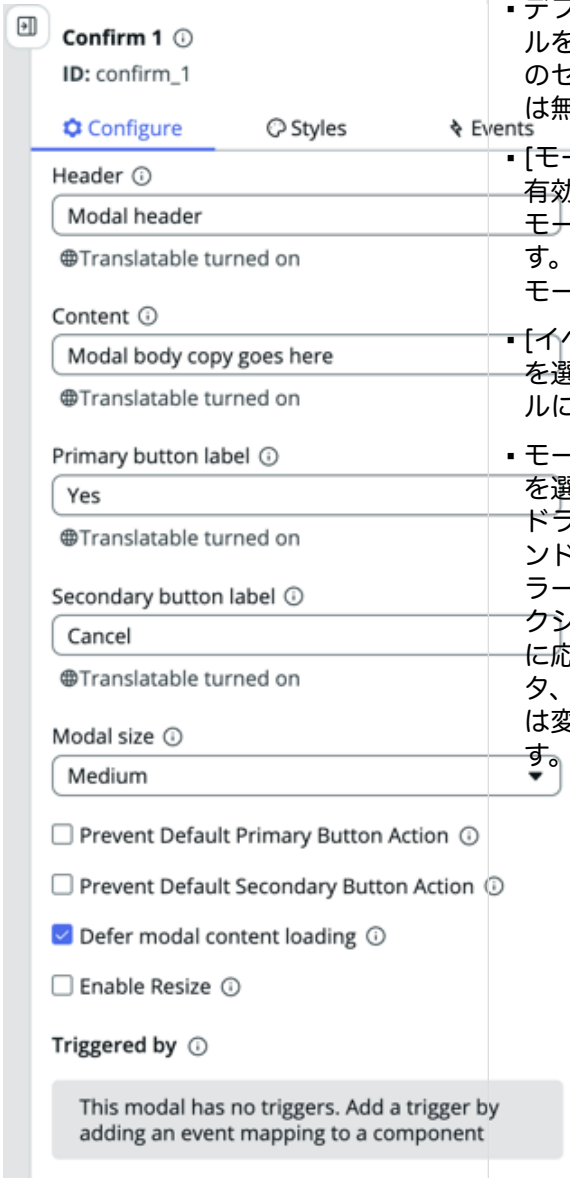
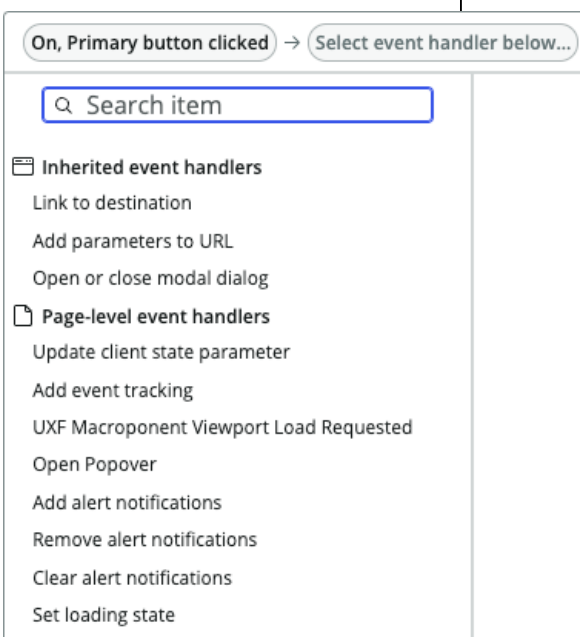
モーダルに必要なものに応じて、各モーダルを異なる方法で構成します。モーダルに入力する情報、モーダルのサイズ、およびその外観を変更します。モーダルのオープンやクローズなど、モーダルのアクションを実行するイベントハンドラーをモーダルに追加できます。

モーダル	設定
アラート	▪ モーダルのタイトルであるヘッダーを追加します。 ▪ モーダルに表示するコンテンツを記述します。このコンテンツは、何のアラートかをユーザーに伝えます。

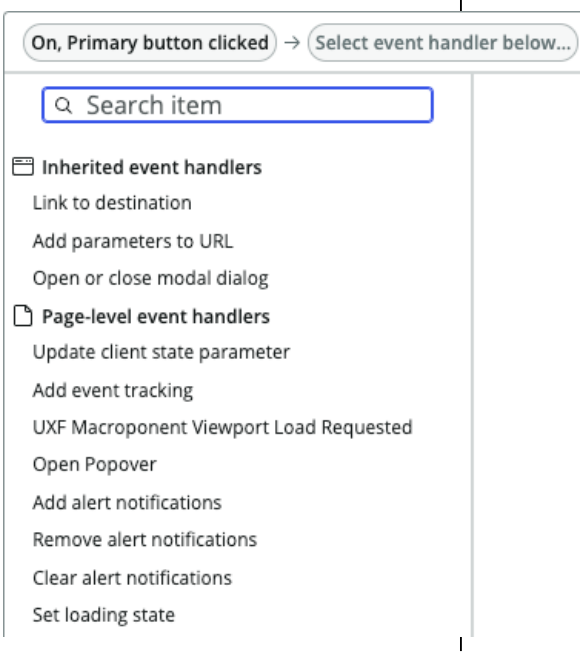
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モーダル	設定
	• ボタンラベルのテキストを追加します。**[OK]**、[はい] など、任意のテキストを指定できます。 • 画面上のモーダルのサイズを選択します。[小] 、[中]、[大]、または [全画面] から選択します。 • デフォルトのアクションに基づいてモーダルを閉じるかどうかに応じて、[デフォルトのボタンアクションを防止] を有効または無効にします。 • [モーダルコンテンツのロードを保留] を有効または無効にします。無効にすると、モーダルはページとともにロードされます。有効にすると、ページのロード時にモーダルはロードされません。 • [イベント] > [イベントマッピングを追加] を選択して、イベントハンドラーをモーダルに追加します。 • モーダルに適用するイベントハンドラーを選択し、[追加] を選択してページに追加します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのアクションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、または変換のユーザーセッションを更新できます。
確認	• モーダルのタイトルであるヘッダーを追加します。 • モーダルに表示するコンテンツを記述します。このコンテンツは、何のアラートかをユーザーに伝えます。 • プライマリボタンのテキストを追加します。プライマリボタンは、[はい]、[追加] などのユーザーのメインアクションボタンです。 • セカンダリボタンのテキストを追加します。通常、[キャンセル] や [いいえ] などのセカンダリボタンは選択できません。 • 画面上のモーダルのサイズを選択します。[小] 、[中]、[大]、または [全画面] から選択します。 • デフォルトのアクションに基づいてモーダルを閉じるかどうかに応じて、[デフォルトのプライマリボタンアクションを防止] を有効または無効にします。

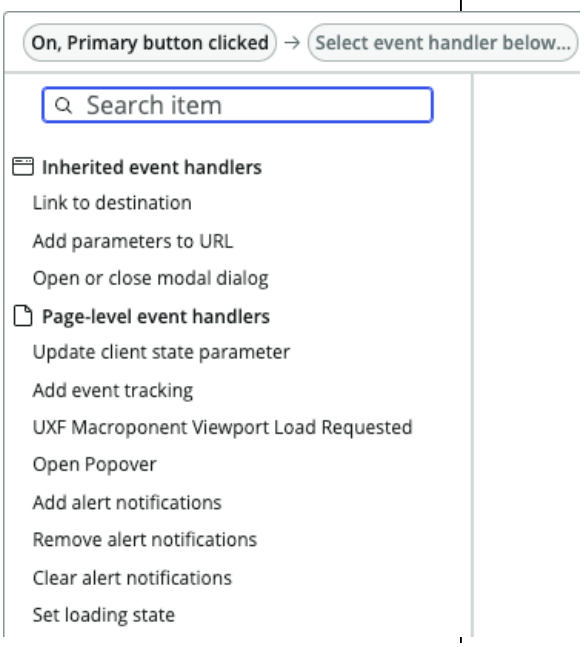
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モーダル	設定
	• デフォルトのアクションに基づいてモーダルを閉じるかどうかに応じて、[デフォルトのセカンダリアクションを防止] を有効または無効にします。 • [モーダルコンテンツのロードを保留] を有効または無効にします。無効にすると、モーダルはページとともにロードされます。有効にすると、ページのロード時にモーダルはロードされません。 • [イベント] > [イベントマッピングを追加] を選択して、イベントハンドラーをモーダルに追加します。 • モーダルに適用するイベントハンドラーを選択します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのアクションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、または変換のユーザーセッションを更新できます。 
確認または破棄	• モーダルのタイトルであるヘッダーを追加します。 • モーダルに表示するコンテンツを記述します。このコンテンツは、何のアラートかをユーザーに伝えます。 • プライマリボタンのテキストを追加します。プライマリは、[削除] や [消去] などのユーザーのメインアクションボタンです。

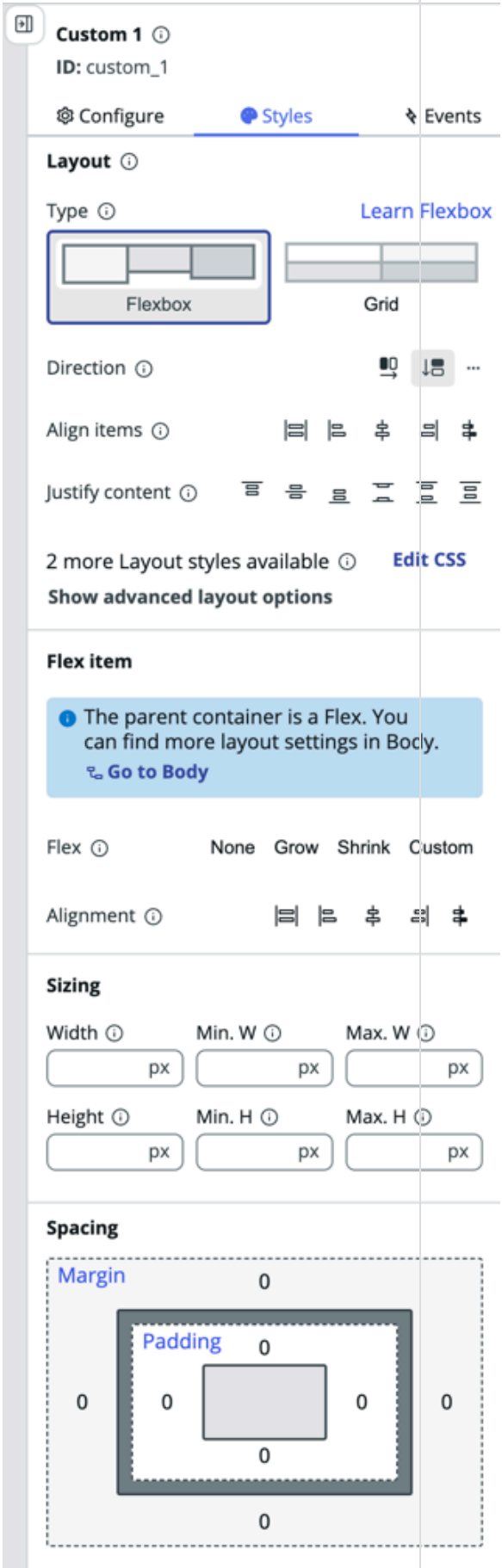
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モーダル	設定
	• セカンダリボタンのテキストを追加します。通常、[キャンセル] や [いいえ] などのセカンダリボタンは選択できません。 • 画面上のモーダルのサイズを選択します。[小] 、[中]、[大]、または [全画面] から選択します。 • デフォルトのアクションに基づいてモーダルを閉じるかどうかに応じて、[デフォルトのプライマリボタンアクションを防止] を有効または無効にします。 • デフォルトのアクションに基づいてモーダルを閉じるかどうかに応じて、[デフォルトのセカンダリアクションを防止] を有効または無効にします。 • [モーダルコンテンツのロードを保留] を有効または無効にします。無効にすると、モーダルはページとともにロードされます。有効にすると、ページのロード時にモーダルはロードされません。 • [イベント] > [イベントマッピングを追加] を選択して、イベントハンドラーをモーダルに追加します。 • モーダルに適用するイベントハンドラーを選択します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのアクションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、または変換のユーザーセッションを更新できます。 

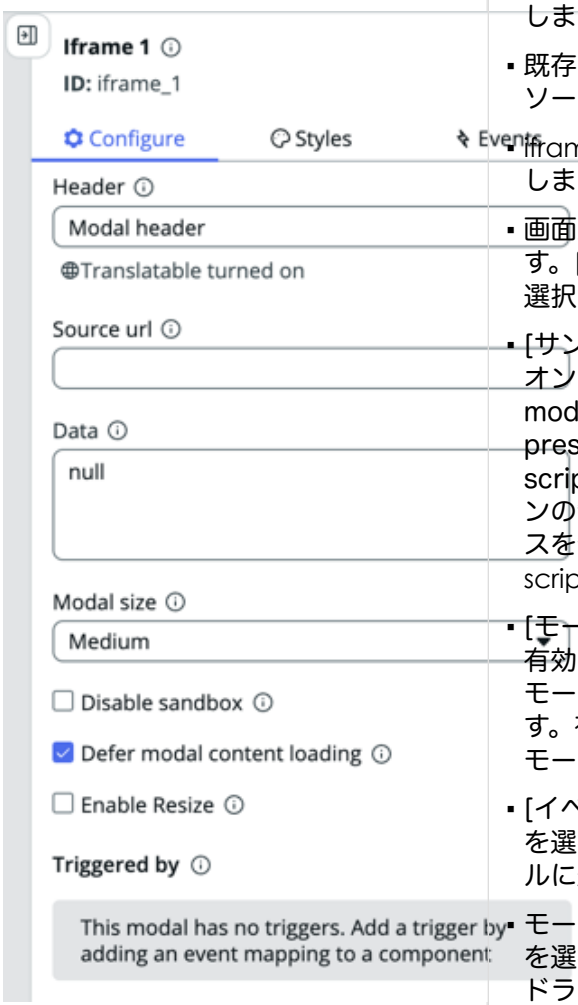
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モーダル	設定
カスタム	▪ モーダルのレイアウトを選択します。フレックスボックスまたは CSS グリッドレイアウトを使用できます。これらのレイアウトでは、必要に応じてモーダルにコンテンツを追加できます。 ▪ スタイリングオプションを使用して、モーダルの外観を変更します。背景色やパディングなどの標準的な CSS スタイリングをモーダルに適用できます。スタイリングの詳細については、「コンポーネントのデフォルトの外観を変更する」を参照してください。 ▪ カスタムモーダル内のコンテナにコンポーネントを追加します。 ▪ [イベント] > [イベントマッピングを追加] を選択して、イベントハンドラーをモーダルに追加します。 ▪ モーダルに適用するイベントハンドラーを選択します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのアクションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、または変換のユーザーセッションを更新できます。 

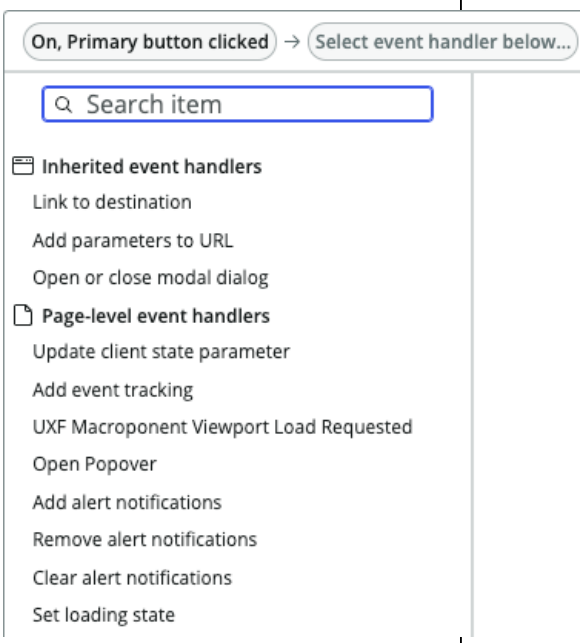
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モーダル	設定
	

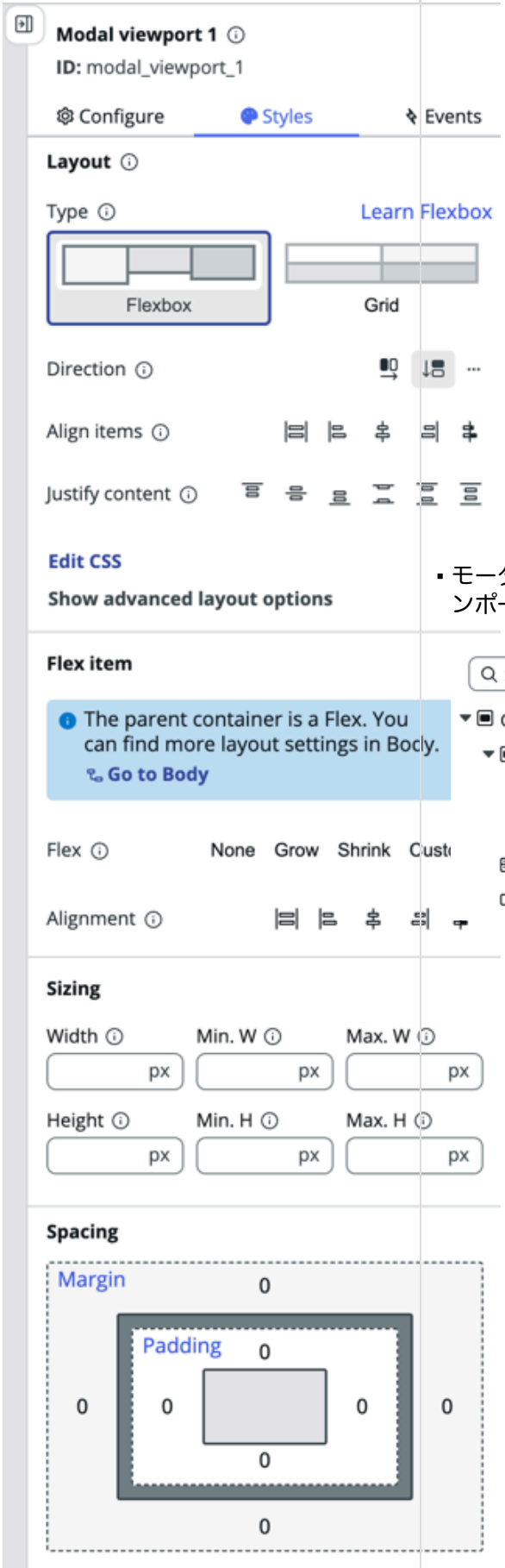
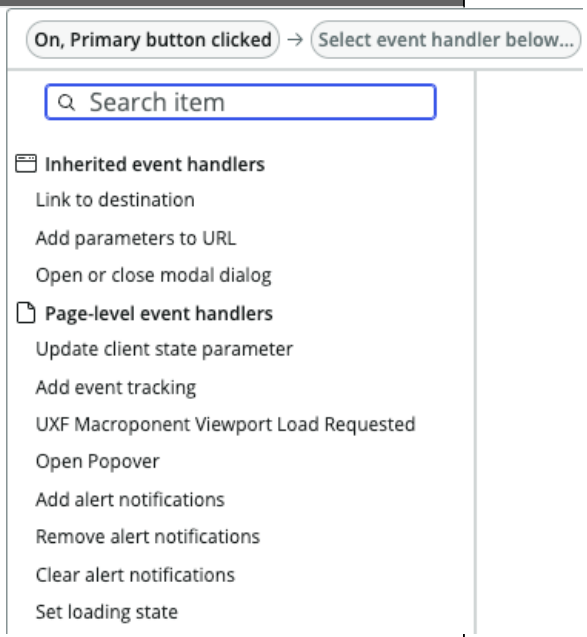
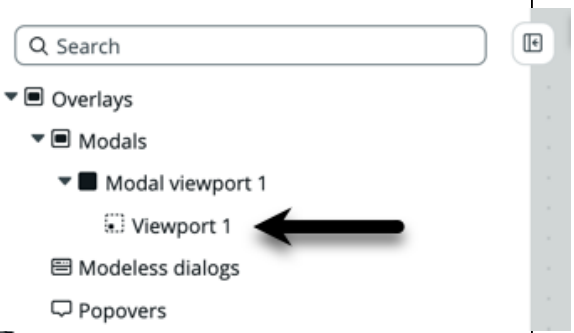
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モーダル	設定
iframe  	• モーダルのタイトルであるヘッダーを追加します。 • 既存の iframe コンテンツをポイントするソース URL を追加します。 • iframe のパラメーターと初期データを設定します。 • 画面上のモーダルのサイズを選択します。[小] 、[中]、[大]、または [全画面] から選択します。 • [サンドボックスを無効にします] をオンにすると、allow-forms、allow-modals、allow-popups、allow-presentation、allow-same-origin、allow-scripts、allow-downloads の各オプションの制限が解除されます。[サンドボックスを無効にします] をオフにして、allow-scripts オプションのみを解除します。 • [モーダルコンテンツのロードを保留] を有効または無効にします。無効にすると、モーダルはページとともにロードされます。有効にすると、ページのロード時にモーダルはロードされません。 • [イベント] > [イベントマッピングを追加] を選択して、イベントハンドラーをモーダルに追加します。 • モーダルに適用するイベントハンドラーを選択します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのアクションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、また

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モーダル	設定
	は変換のユーザーセッションを更新できます。 
モーダルビューポート	▪ 画面上のモーダルのサイズを選択します。[小] 、[中]、[大]、または [全画面] から選択します。 ▪ [パディングを非表示] を有効または無効にします。 ▪ [閉じるボタンを非表示] を有効または無効にします。有効にすると、[閉じる] ボタンはモーダルに表示されません。 ▪ [モーダルコンテンツのロードを保留] を有効または無効にします。無効にすると、モーダルはページとともにロードされます。有効にすると、ページのロード時にモーダルはロードされません。 ▪ [イベント] > [イベントマッピングを追加] を選択して、イベントハンドラーをモーダルに追加します。 ▪ モーダルに適用するイベントハンドラーを選択します。継承されたイベントハンドラーまたはページレベルのイベントハンドラーから選択します。イベントハンドラーは、モーダルを開く/閉じるなどのアクションを実行します。モーダルのタイプに応じて、App Shell データソースのデータ、GraphQL のユーザーセッション、または変換のユーザーセッションを更新できます。

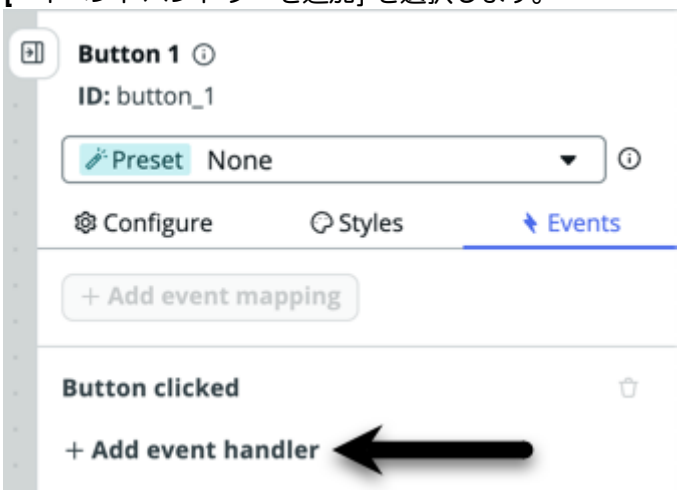
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モーダル	設定
	 ・モーダルビューポート内のビューポートコンポーネントを選択します。 

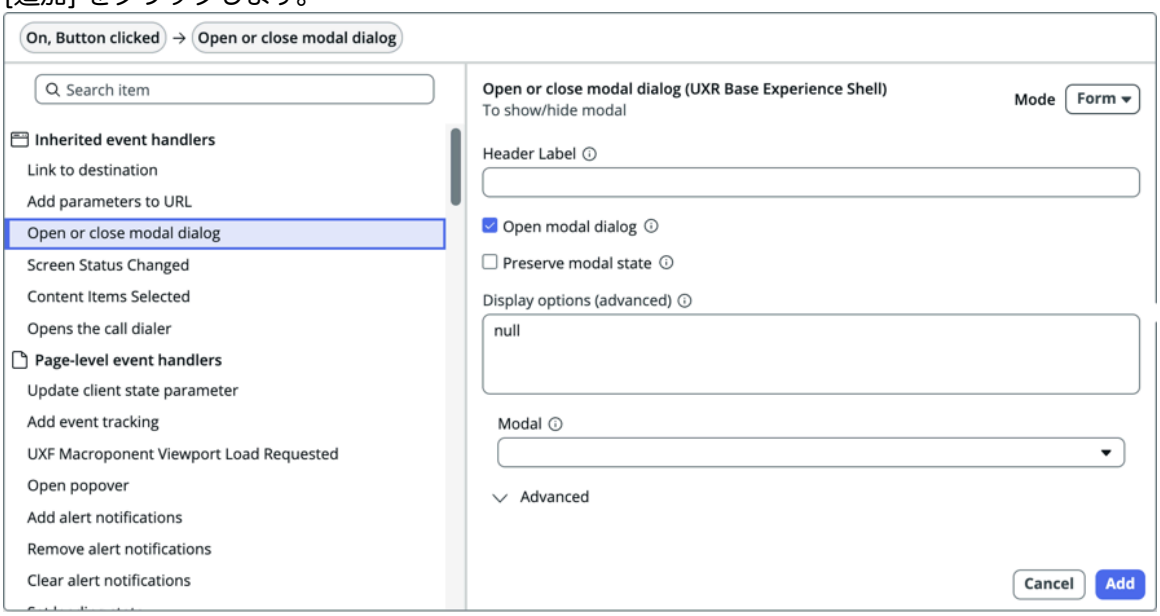
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モーダル	設定
	▪ [構成] タブで **[+** 追加] を選択して、ページコレクションをビューポートに追加します。 ▪ リストからページコレクションを選択し、[追加] をクリックします。

5. コンポーネントをページに追加して、追加したばかりのモーダル (ボタンコンポーネントなど) をトリガーします。
   詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
6. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。
7. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。



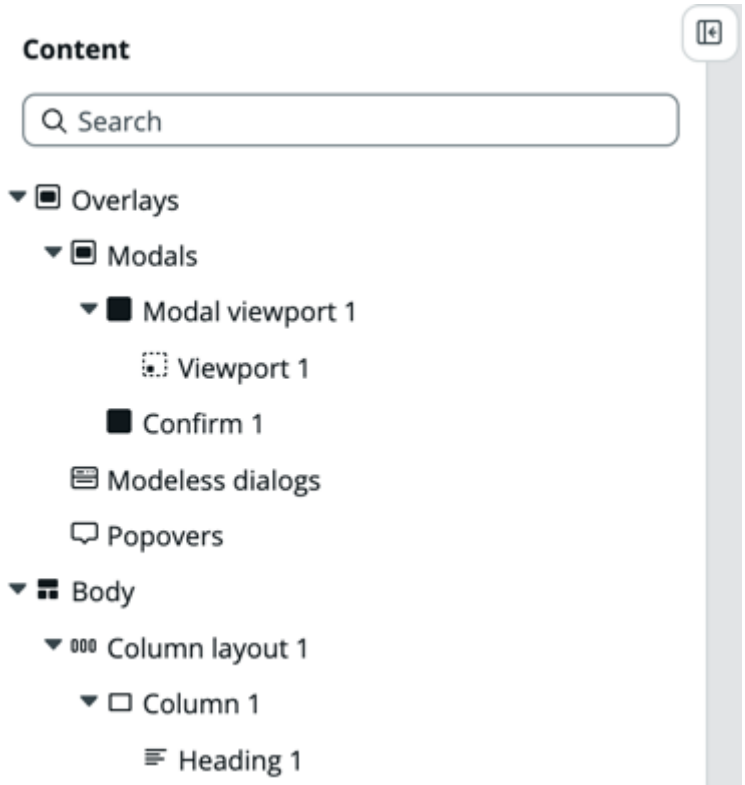
8. [モーダルダイアログを開くまたは閉じる] を選択します。
9. [モーダル] ドロップダウンを使用して、前のステップで作成したモーダルを選択します。
10. [追加] をクリックします。



11. モーダルの構成が完了したら、閉じます。

    コンテンツツリーで、作成したモーダルがページ構造の本文の上にあることに注意してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



12. [保存] をクリックします。

ビューポートコンポーネントによる **UI** エクスペリエンスの拡張

ビューポートは、UI ビルダー の親ページを所有しなくてもエクスペリエンスを拡張できるようにする特殊なコンポーネントです。ビューポートは 3 とおりの方法で操作できます。ビューポートコンポーネントまたはビューポート対応タブをページに追加することも、ビューポートをコンテキストサイドバーコンポーネントに追加することもできます。

ページ自体のコンテンツを所有していない場合でも、ビューポートコンポーネントをページに追加することで、別のコンテンツを作成できます。サブページを作成し、対象者を指定するか、さまざまなデータ、ルート、画面でコンテンツをカスタマイズします。ビューポートコンポーネントの詳細ついては、「ビューポートコンポーネントをページに追加する」を参照してください。

サードパーティのカスタムデータを表示し、対象者をアサインし、バリアントを作成する方法として、タブコンポーネントをビューポート対応のタブに置き換えることができます。ビューポート対応のタブの詳細については、「ビューポート対応のタブでのタブの置き換え」を参照してください。

UI ビルダー の [コンテンツの編集]モードを使用して、ビューポートまたはタブセットをページまたはコンテキストサイドバーコンポーネントに追加します。コンテキストサイドバーコンポーネントのタブの編集は、[構成] パネルを使用するページの場合と同じように行うことができます。主な違いは、タブの [コンテンツの編集] モードでは、ページ管理領域が [タブ管理 **(Tab management)]** に変わることです。

メニューアイコン ⋮ を選択してタブ設定を編集するか、必須またはオプションのパラメーターを変更します。

ビューポートモーダルをエクスペリエンスに追加して、親ページ/エクスペリエンスのモーダル内にサブページまたは他のエクスペリエンスを埋め込みます。ビューポートモーダルをエクスペリエンスに追加する方法の詳細については、「エクスペリエンスにビューポートモーダルを追加する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビューポートコンポーネントをページに追加する

ビューポートコンポーネントをページに追加し、ページ上に個別のコンテンツを作成するためのサブページを作成します。

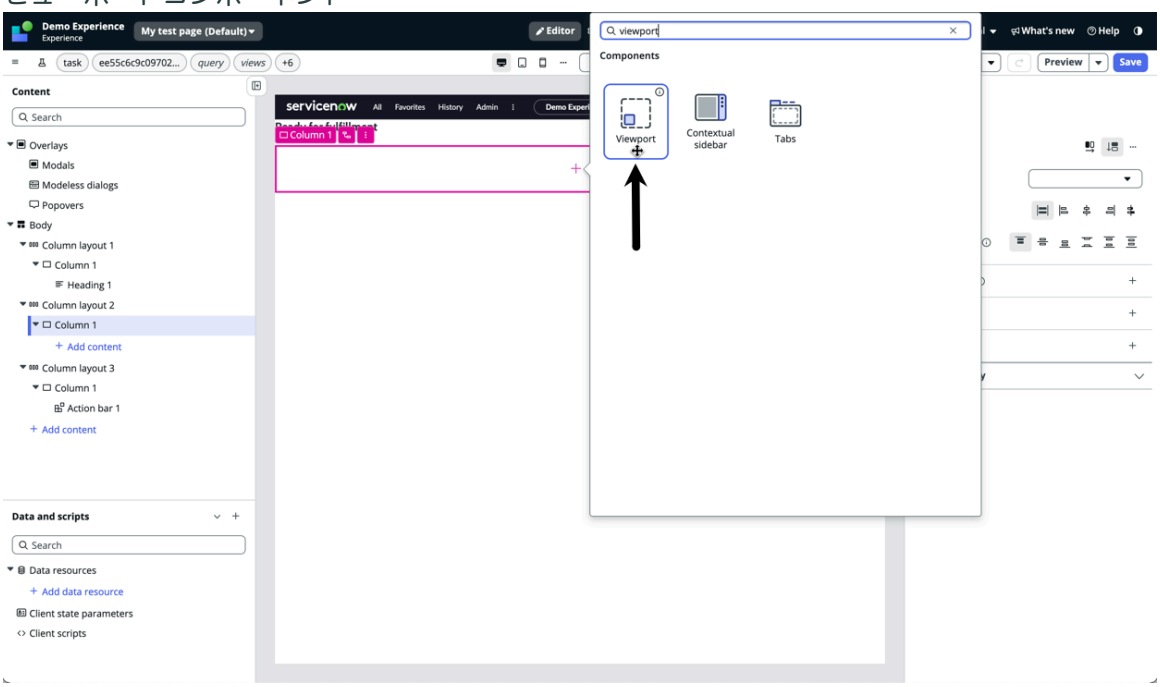
始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

手順

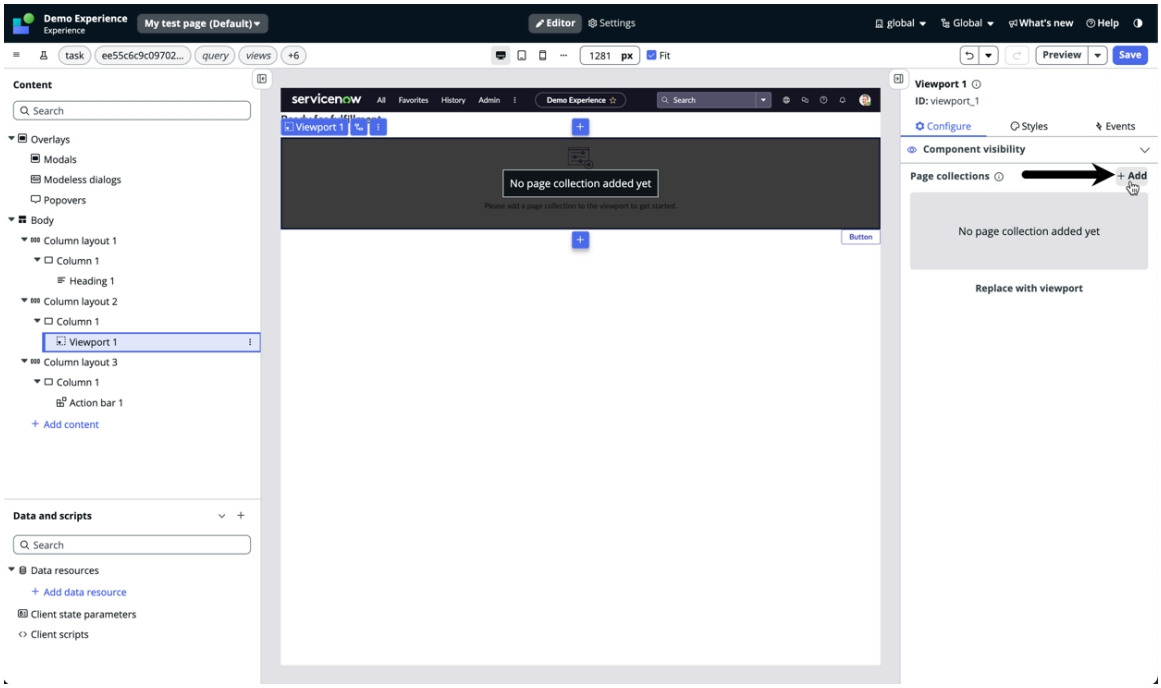
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ビューポートを追加するページバリアントのエディターを開きます。
   エクスペリエンスのページを作成していない場合は、「UI ビルダー でのページの作成」の手順に従ってください。
4. コンテンツツリーで **[+** コンテンツを追加] を選択します。
5. **[1** 列] のレイアウトを選択します。
6. 次に、列の **[+]** アイコンを選択してツールボックスを開きます。
7. 検索ボックスに「ビューポート」と入力します。
8. [ビューポート] を選択します。

ビューポートコンポーネント

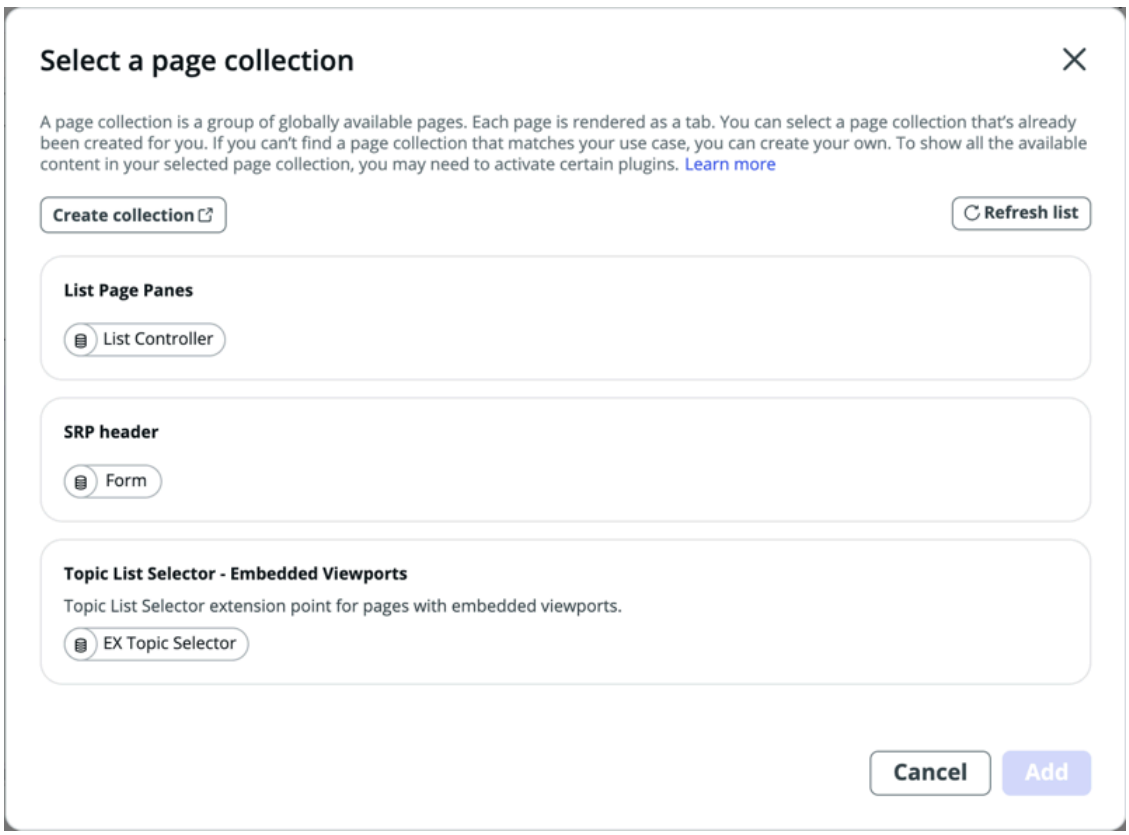


9. コンテンツツリーでビューポートコンポーネントを選択します。
10. 構成パネルで **[+** 追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



11. リストからページコレクションを選択するか、**[+ コレクションを作成]** を選択してコレクションを作成します。
独自のページコレクションを作成する方法の詳細については、「複数の UI ページにわたるページコレクションの作成」を参照してください。

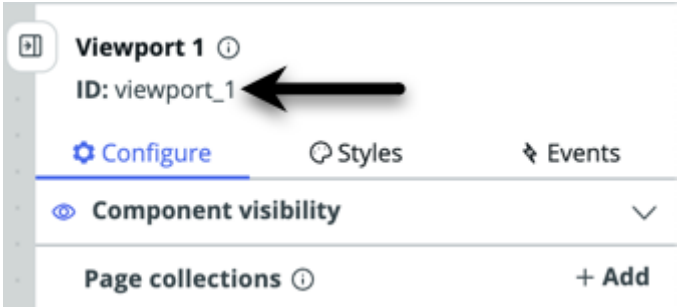


12. [追加] を選択します。
ページコレクションは、構成パネルの [ページコレクション] セクションに表示されます。ステージング領域には、ページ コレクションの 1 ページのみが表示されます。
13. [保存] を選択します。

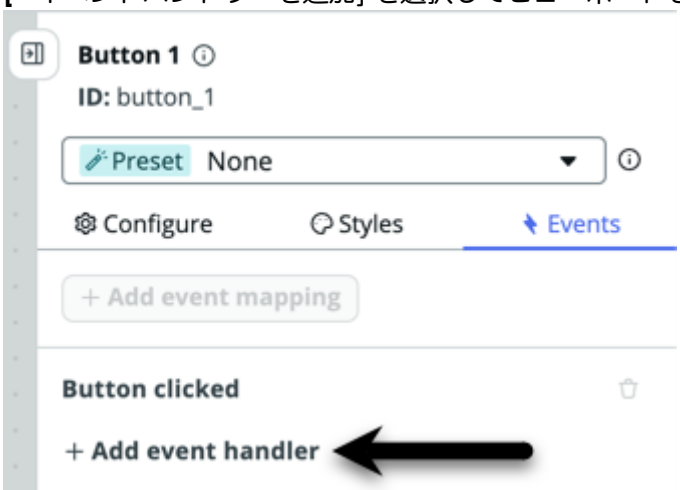
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

14. ビューポート ID とルートを特定します。

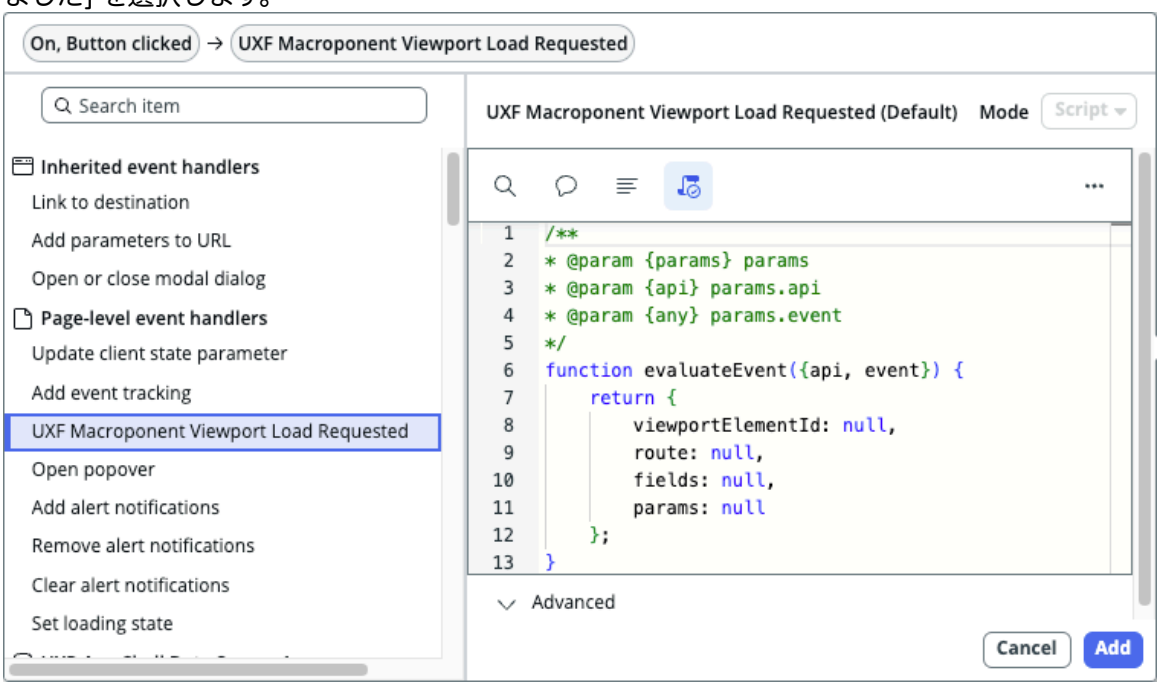
    次の図に示すように、[構成] パネルに ID とルートが表示されます。



15. コンポーネントをページに追加して、追加したばかりのビューポート (ボタンコンポーネントなど) を開きます。
    詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
16. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。
17. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択してビューポートを表示します。

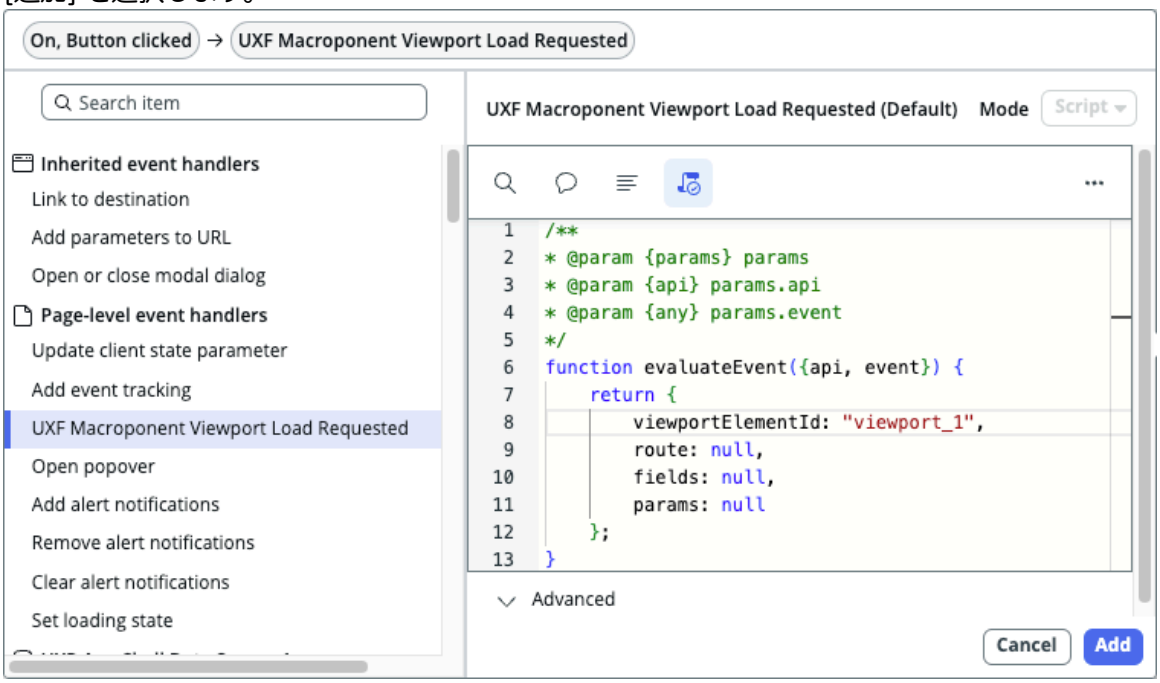


18. [ページレベルのイベントハンドラー] から、**[UXF Macroponent** ビューポートロードが要求されました] を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

19. **[viewportElementID]** 要素で、`null` 値を前の手順で見つけたビューポート ID に置き換えます。
この例では、「`viewport_1`」です。
20. [追加] を選択します。



21. [保存] を選択します。
22. Preview を選択し、ページを表示してテストします。

エクスペリエンスにビューポートモーダルを追加する

エクスペリエンスのモーダル内にビューポートを追加します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

ビューポートモーダルを使用して、親ページまたはエクスペリエンスのモーダル内にサブページまたは他のエクスペリエンスを埋め込みます。ビューポートモーダルは、イベントまたはスクリプトを介して開くことができます。ビューポートモーダルは、ビューポートモーダルごとに 1 つのサブルートに制限されています。追加のルート用に追加のビューポートモーダルを作成できます。

注: 従来のビューポートモーダルはアップグレードできないため、新しい機能を利用するには再作成する必要があります。

手順

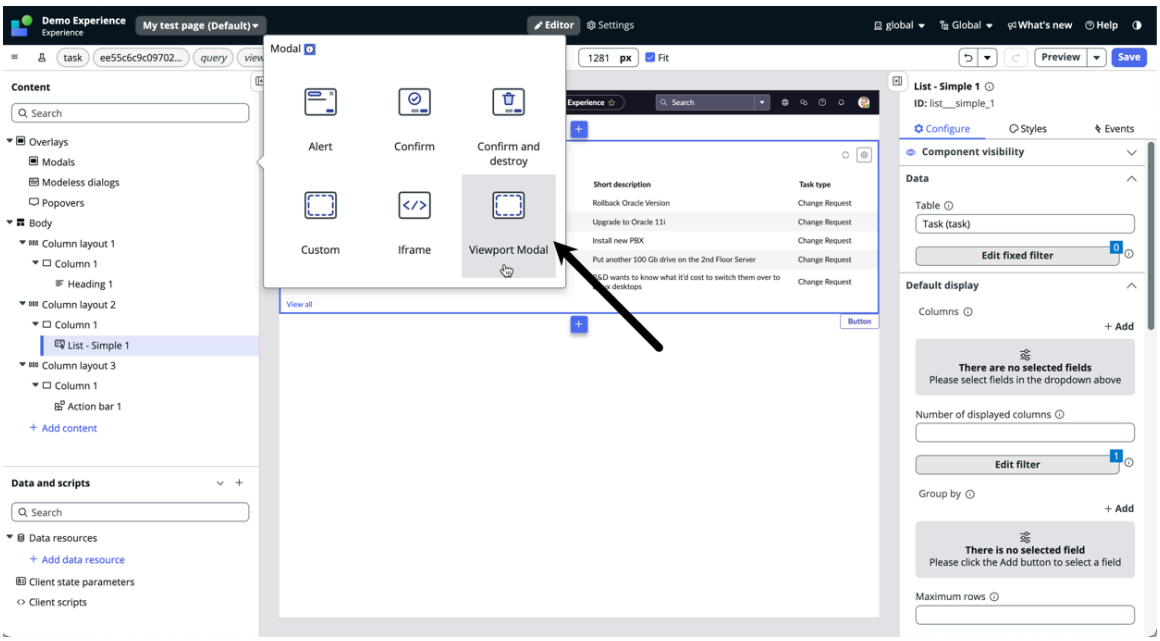
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
既存のページを開く場合は、元のページと同じスコープ内にあることを確認してください。そうでない場合は、ページの編集を開始する前にスコープを変更します。アプリケーションスコーピングは、アプリケーションファイルとデータへのアクセスを識別して制限することによってアプリケーションを保護します。アドミニストレーターは、アプリケーションのどの部分を他のアプリケー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ションからアクセスできるようにするのかを指定するスコープを設定できます。アプリケーションスコープは、データとアプリケーションファイルを保護します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。

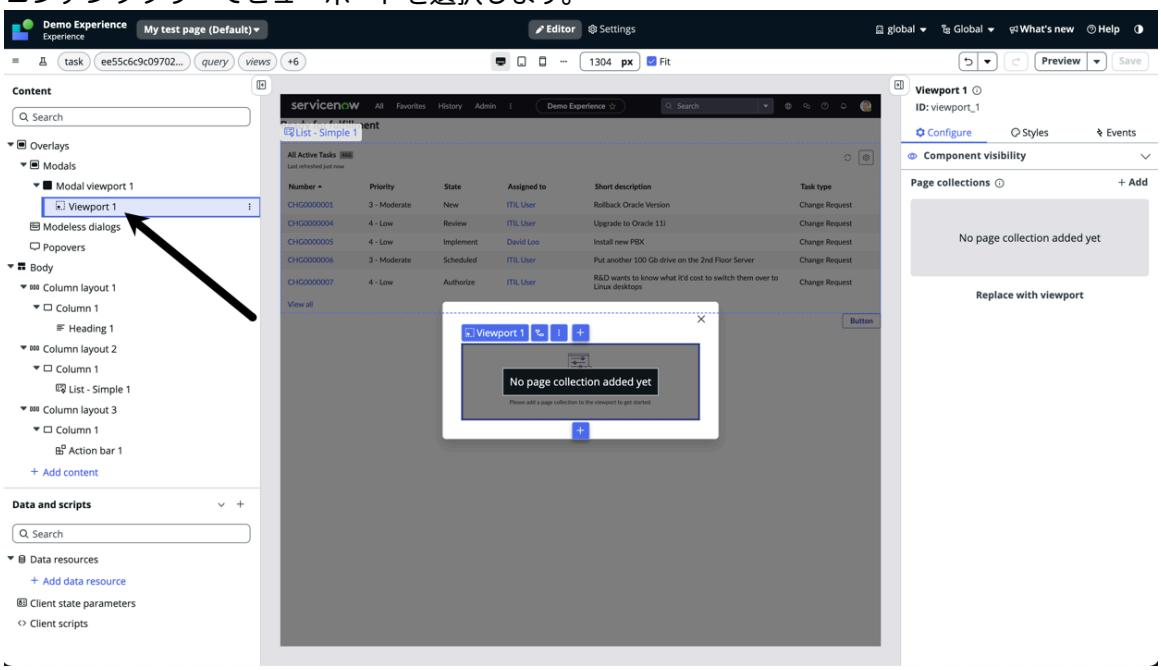
4. コンテンツツリーで **[+** コンテンツを追加] を選択します。
5. **[1** 列] のレイアウトを選択します。
6. コンテンツツリーの [モーダル] の横にある **[+]** を選択します。
7. リストで [ビューポートモーダル] を選択します。

ビューポートモーダル



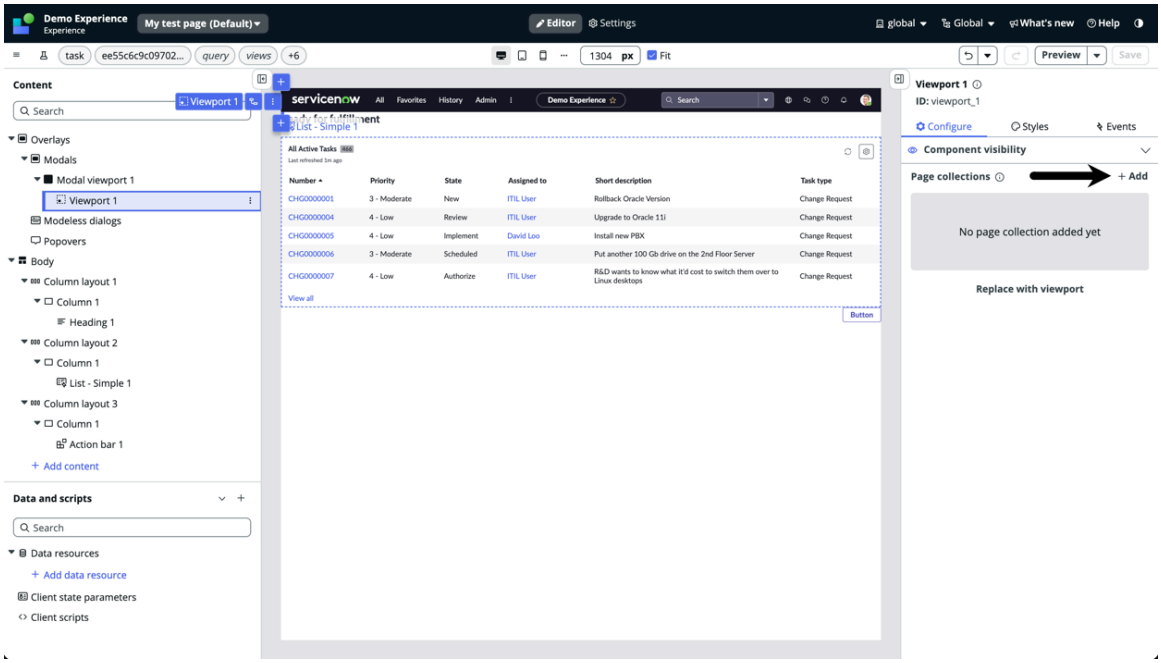
ビューポートモーダルがページの上に表示されます。

8. [保存] をクリックします。
9. コンテンツツリーでビューポートを選択します。

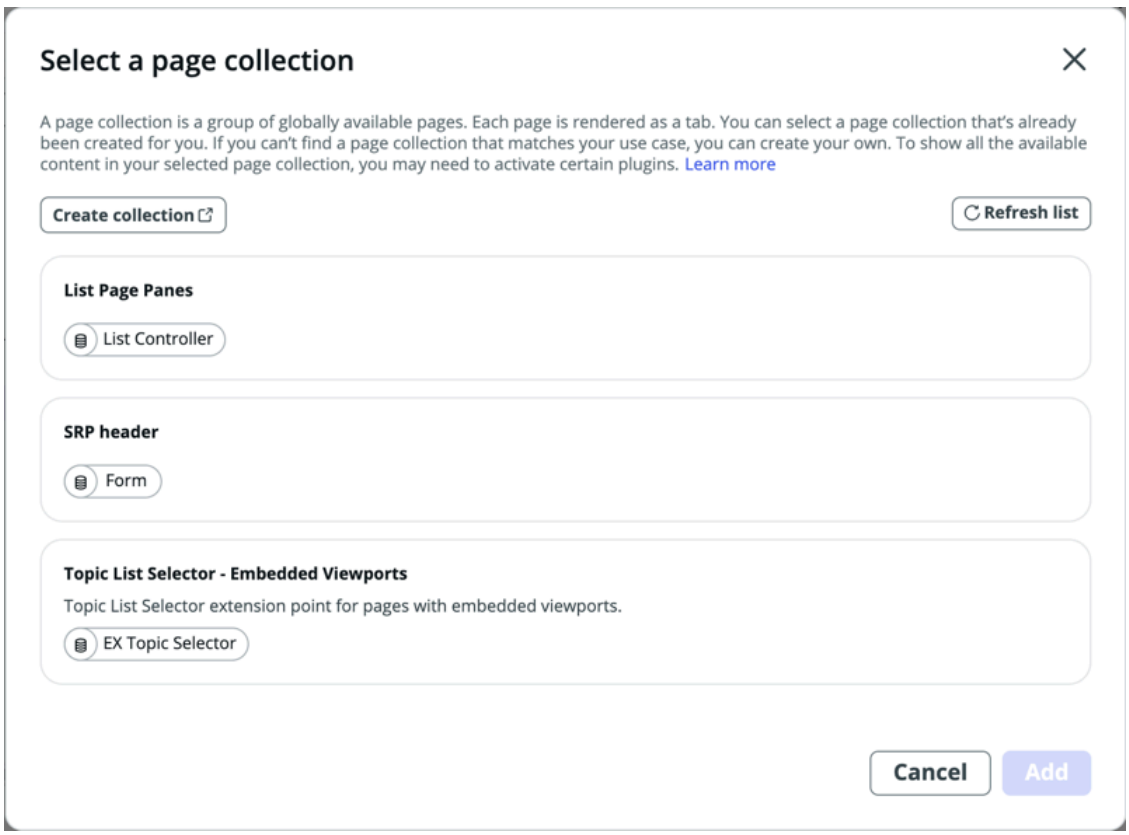


10. [構成] タブの [ページコレクション] の横にある **[+** 追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



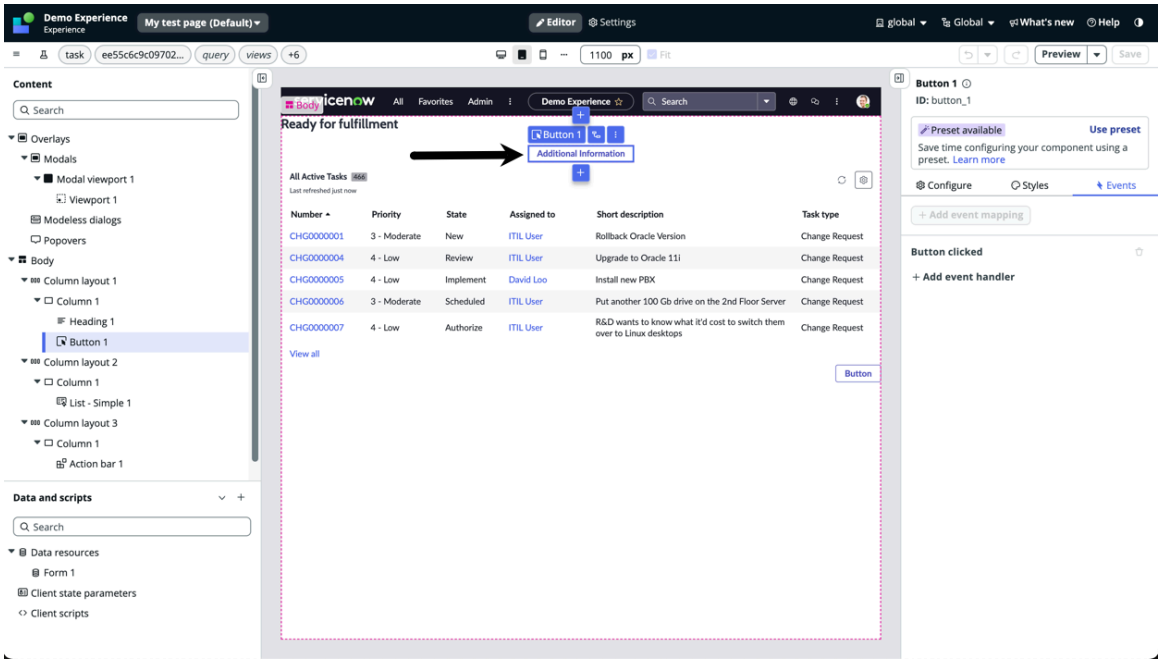
11. ページコレクションを選択するか、新しいページコレクションを作成します。
詳細については、「複数の UI ページにわたるページコレクションの作成」を参照してください。



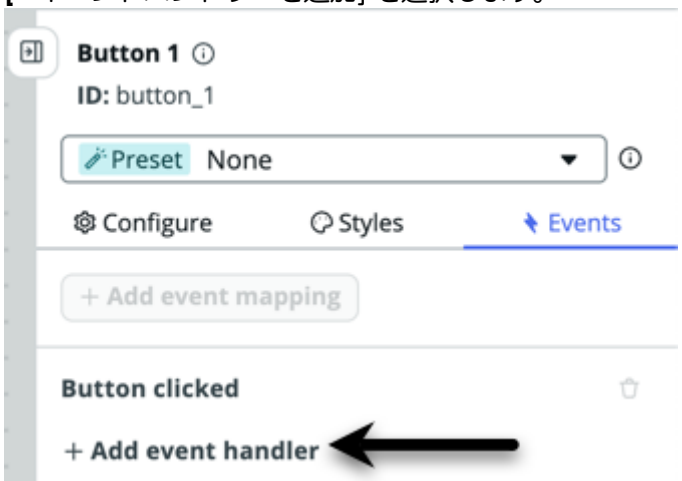
12. [追加] をクリックします。
13. [保存] をクリックします。
14. ビューポートモーダルを開くコンポーネントを追加します。

    次の例では、ボタンを使用してビューポートモーダルを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

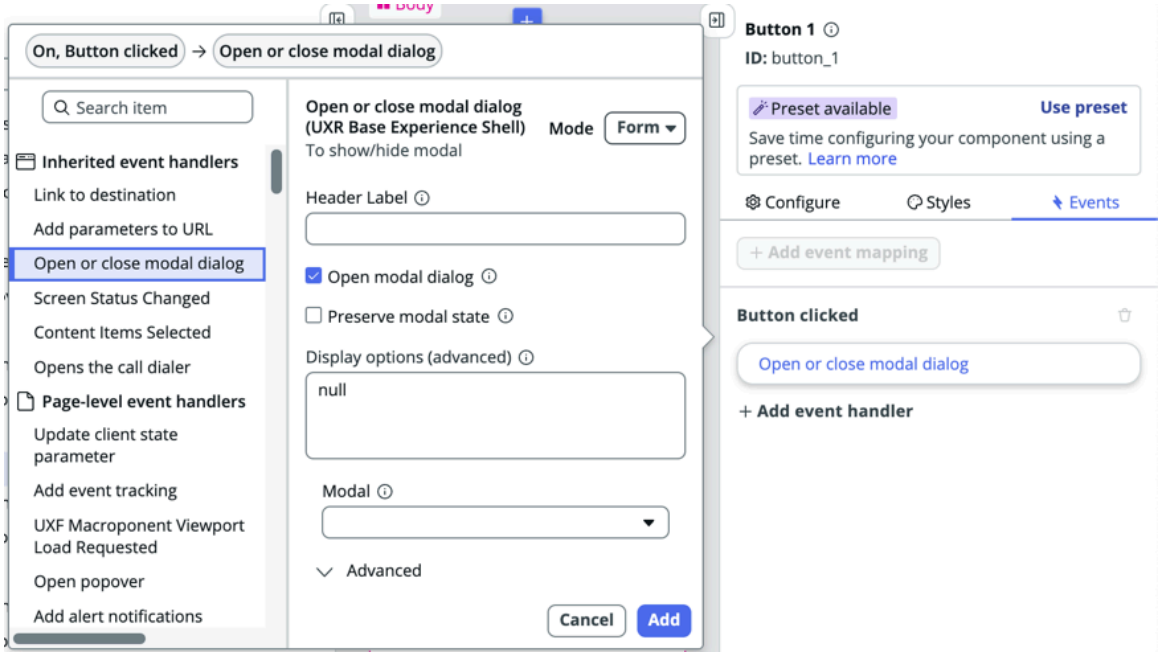


15. [イベント] タブを選択します。
16. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。



17. [モーダルダイアログを開くまたは閉じる] を選択します。
18. [モーダルダイアログを開く] を有効にします。
19. [モーダル] ドロップダウンで作成したビューポートモーダルを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[ビューポート **ID**] は自動入力されます。

20. [追加] を選択します。
21. [保存] を選択します。
22. Preview を選択し、ページを表示してテストします。

ビューポート対応のタブでのタブの置き換え

ページ上のタブをビューポート対応のタブに変換します。ビューポート対応のタブを使用して、サードパーティのカスタムデータを表示し、対象者をアサインして、バリアントを作成できます。

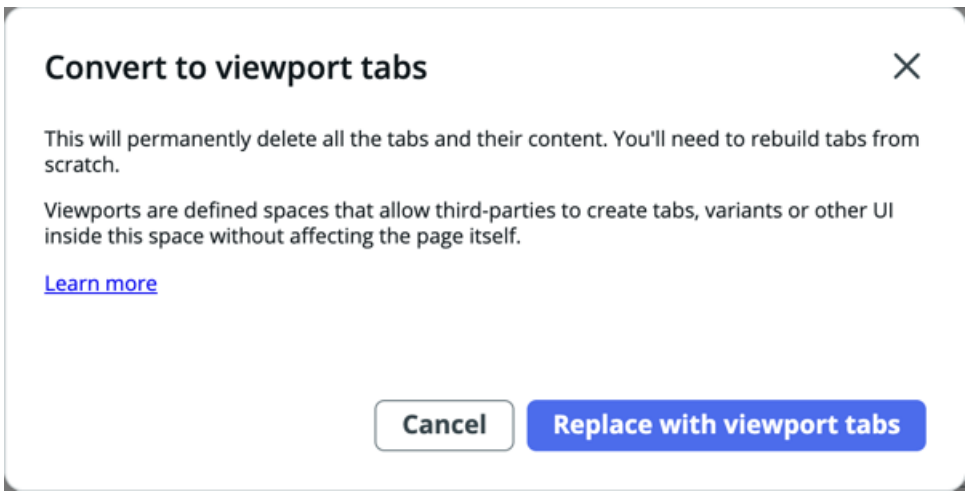
始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

タブをビューポート対応のタブに置き換えます。

> **注:** タブをビューポート対応のタブに置き換えるのは、永続的な一方向のプロセスです。既存のタブのコンテンツはすべて失われるため、ビューポートのタブのコンテンツを再作成する必要があります。

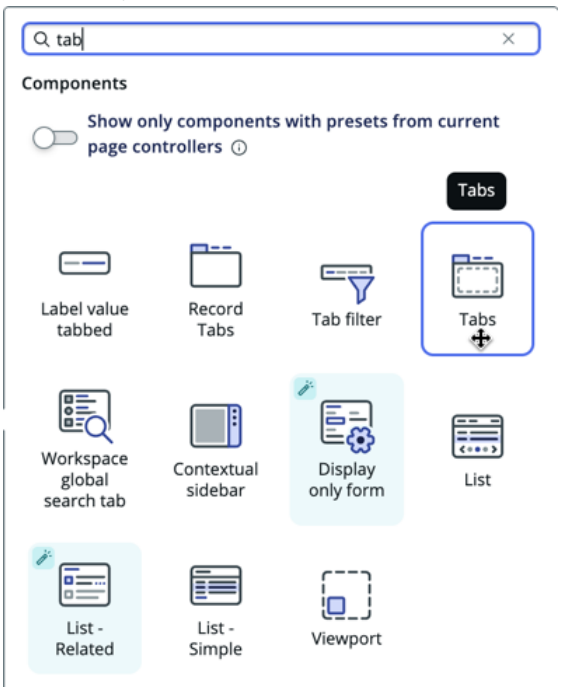


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 既存のタブがあるページを開くか、またはページを作成してタブコンポーネントを追加します。

   タブコンポーネント

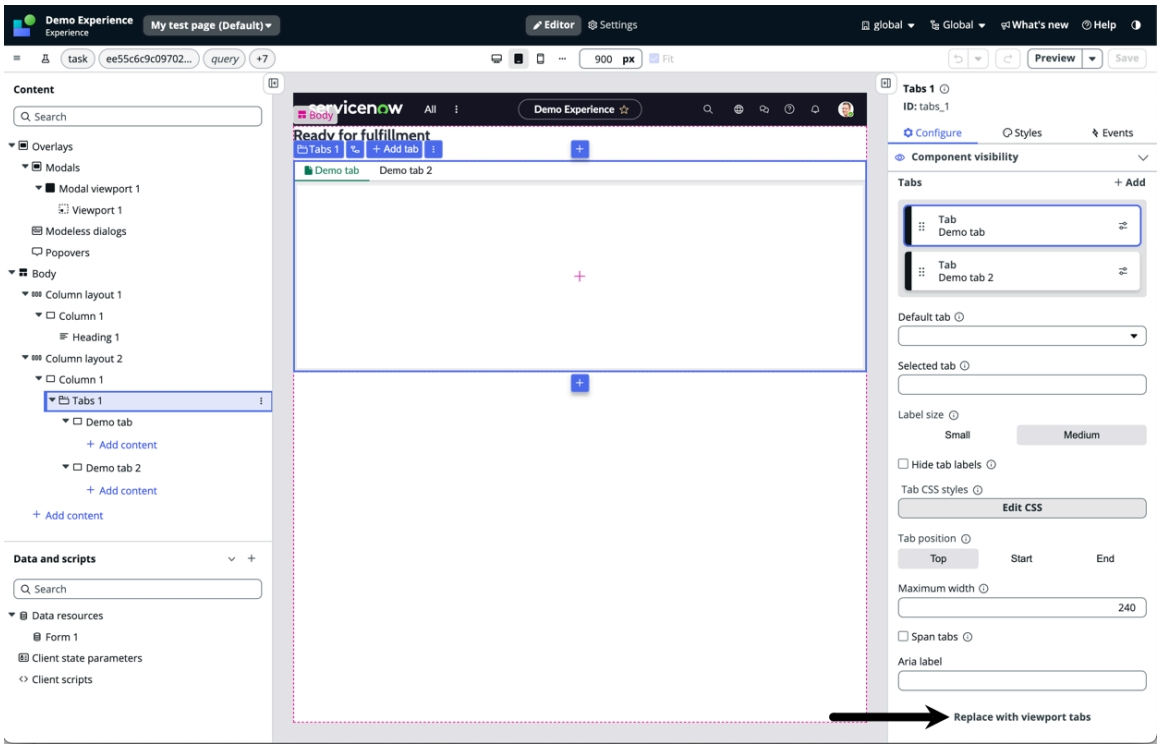
   

   タブコンポーネントのページへの追加方法の詳細については、「UI ビルダーページにタブ付きコンテンツを追加」を参照してください。

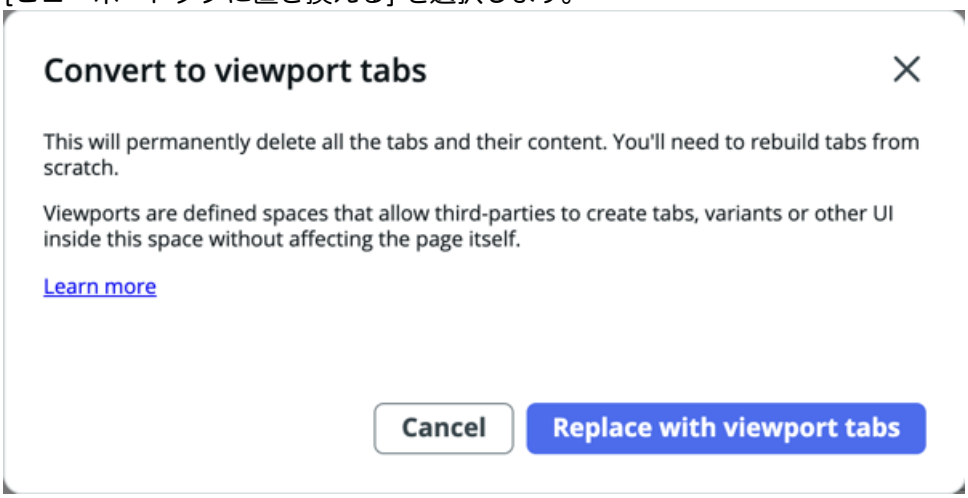
4. コンテンツツリーで、ビューポートのタブに置き換えるタブコンポーネントを選択します。
5. 構成パネルで [ビューポートタブに置き換える] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: タブをビューポート対応のタブに置き換えるのは、永続的な一方向のプロセスです。既存のタブのコンテンツはすべて失われるため、ビューポートのタブのコンテンツを再作成する必要があります。



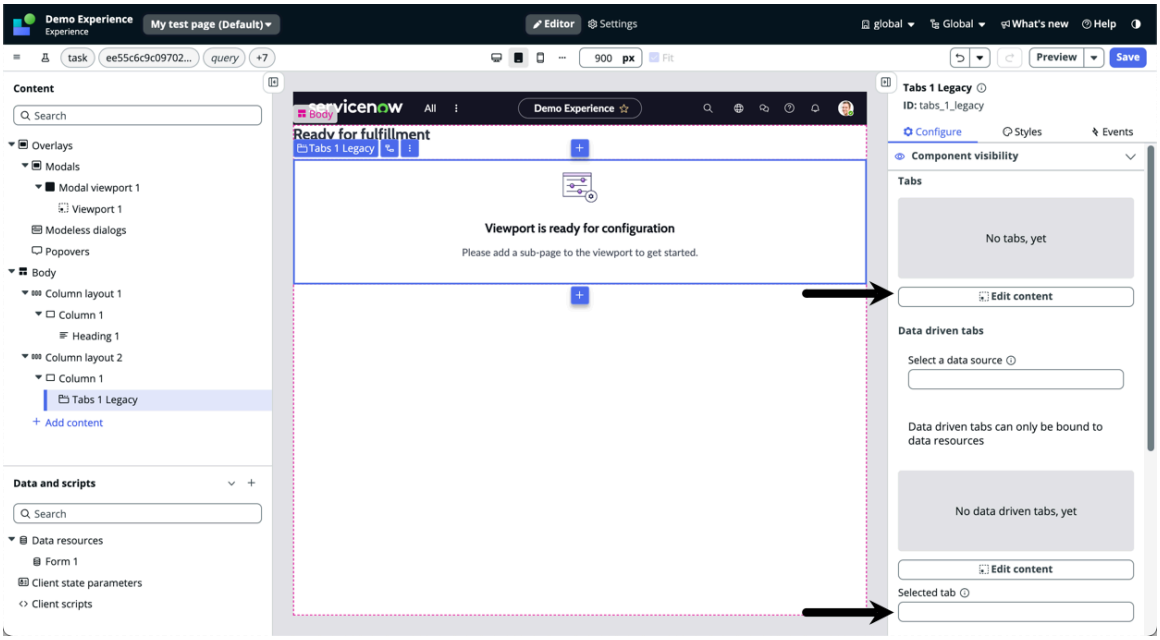
6. [ビューポートタブに置き換える] を選択します。



7. [コンテンツを編集] をクリックして、ビューポートが有効なタブを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンテンツの編集

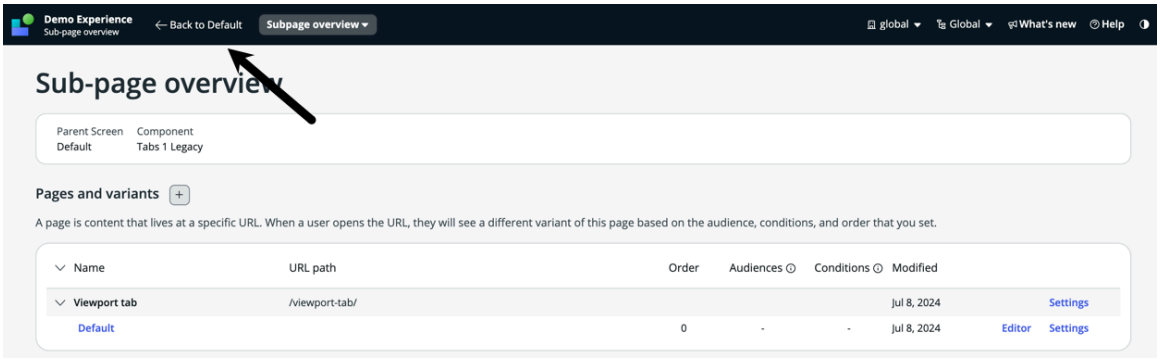


ビューポートコンポーネントの詳細ついては、「ビューポートコンポーネントをページに追加する」を参照してください。

8. [保存して続行] を選択します。
   サブページの概要ページが表示されます。
9. [新規ページの作成] を選択します。
10. [名前] フィールドに、ビューポート対応のタブの名前を入力します。
11. デフォルトのパスをそのまま使用するか、必要に応じて変更します。
12. [続行] を選択します。
13. [名前] フィールドに、ページバリアントの名前を入力するか、デフォルトのままにします。
14. このページの対象者を 1 人以上追加します。
    必要な対象者がリストにない場合は、[利用可能なすべての対象者を表示 **(View all available audiences)]** を選択して作成できます。
15. オプション: 用意されたドロップダウンメニューを使用するか、エンコードされたクエリ文字列を記述して、ページまたはタブを表示するタイミングに関する条件を宣言します。

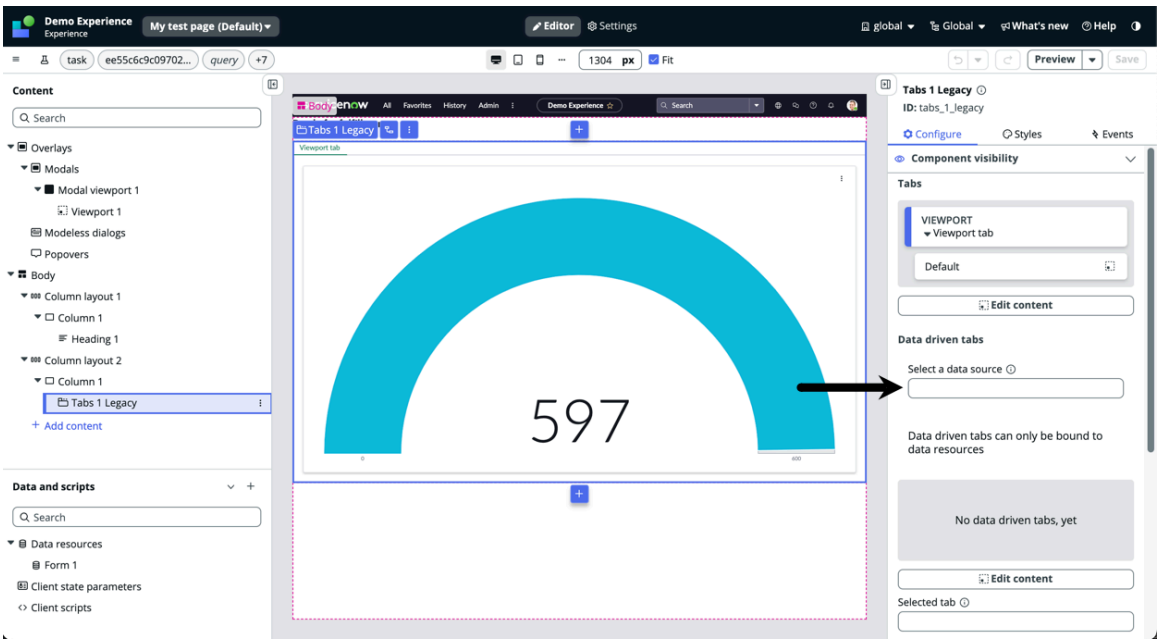
    (Optional) エンコードされたクエリの記述の詳細については、「エンコードされたクエリ文字列」を参照してください。
16. [エディターで開く] を選択します。
17. ページの場合と同様に、タブにコンポーネントを追加します。
18. 任意のコンポーネントにイベントハンドラーを追加して、ページコンテンツのロードなどのアクションを実行できるようにします。
    イベントハンドラーの詳細については、「UI ビルダーページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。
19. 元のページに戻るには、[←(ページの名前) に戻る] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

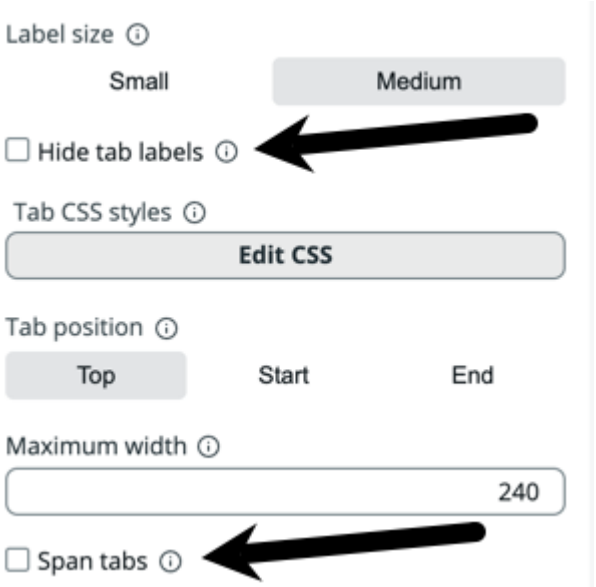


20. [データ駆動型タブ] でデータソースを選択し、データリソースを使用してビューポート対応のタブにデータをバインドして、テーブルとレコードからデータを動的に公開します。

次に、これらのデータプロパティをタブのコンポーネントにバインドします。データリソースの使用の詳細については、「UI ビルダーページでデータを動的に公開する (高度な機能)」を参照してください。



21. ビューポートが有効になっているタブのラベルをページ上で表示する場所を選択し、タブのラベルを非表示にしてアイコンのみを表示するかどうかを決定します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー でのポップオーバーの作成

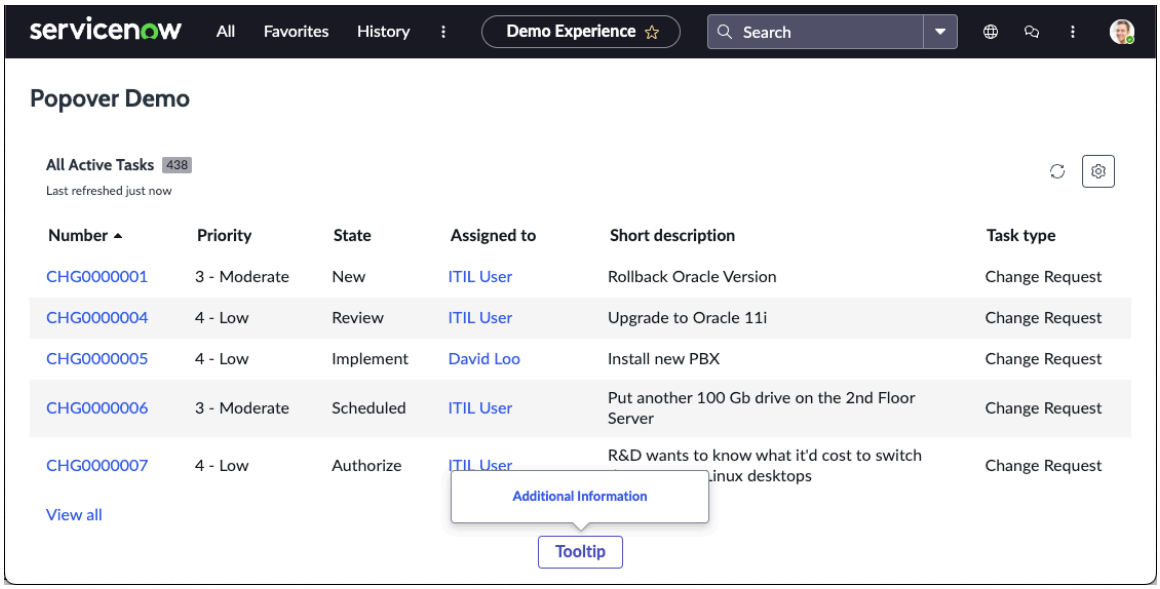
UI ビルダーページでポップオーバーを使用して、コンテキスト情報または機能をオーバーレイして、ユーザーがタスクを完了できるようにします。

ポップオーバーは、UI ビルダー ページの上に表示される小さなウィンドウまたはダイアログボックスであり、処理中のコンテンツまたはタスクに関連する追加情報、オプション、またはアクションが含まれています。ページにモーダルを追加するのと同じ方法で、コンポーネントをポップオーバーに追加します。

追加情報がユーザーに役立つと思われる UI ビルダー ページ上の任意の場所にポップオーバーを配置できます。ポップオーバーは、小さな情報や関連コンテンツへのリンクを提供することを目的としており、ポップオーバーはユーザーが操作しているときにのみ表示されるため、ポップオーバー内の情報や機能の量を制限する必要があります。

ボタンを選択したり、ページの一部をポイントしたりしたときにポップオーバーの表示をトリガーするなど、イベントマッピングを使用してポップオーバーを表示または非表示にすることができます。詳細については、「マップイベントの定義」を参照してください。

情報ポップオーバー



UI ビルダー ページにポップオーバーを追加する

ポップオーバーを追加する方法については、「UI ビルダー」を参照してください。ポップオーバーは、コンポーネントをクリックしたときにページの上に表示されるコンテナです。たとえば、リスト内の人の名前を選択すると、連絡先情報がポップオーバーに表示される場合があります。

始める前に

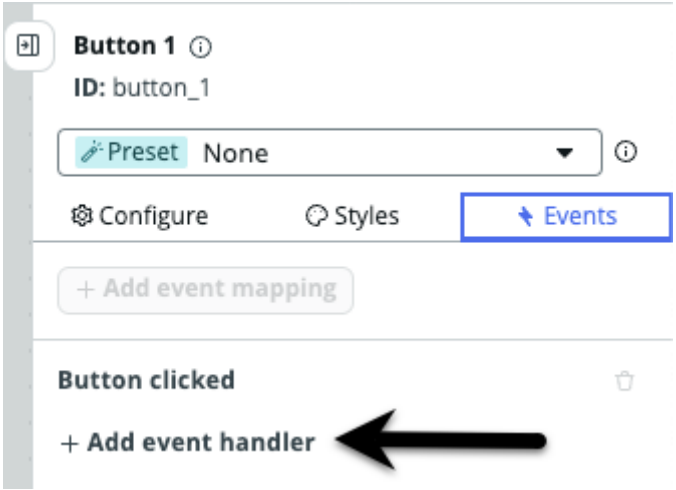
必要なロール：admin

手順

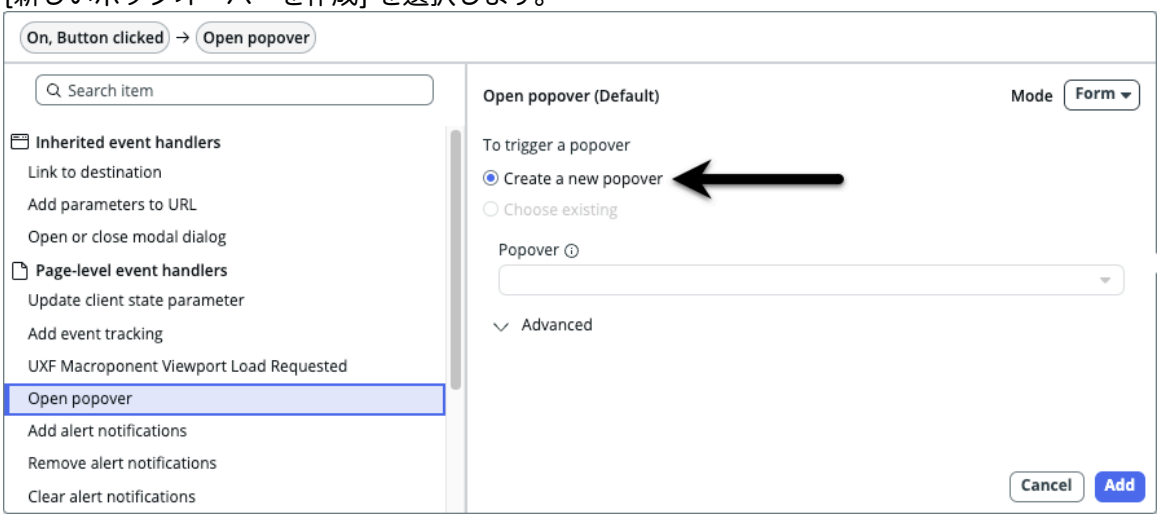
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー] に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページバリアントを開くか作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. ポップオーバーをトリガーしたいコンポーネント (ボタンコンポーネントなど) をページに追加します。
   詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。
6. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。

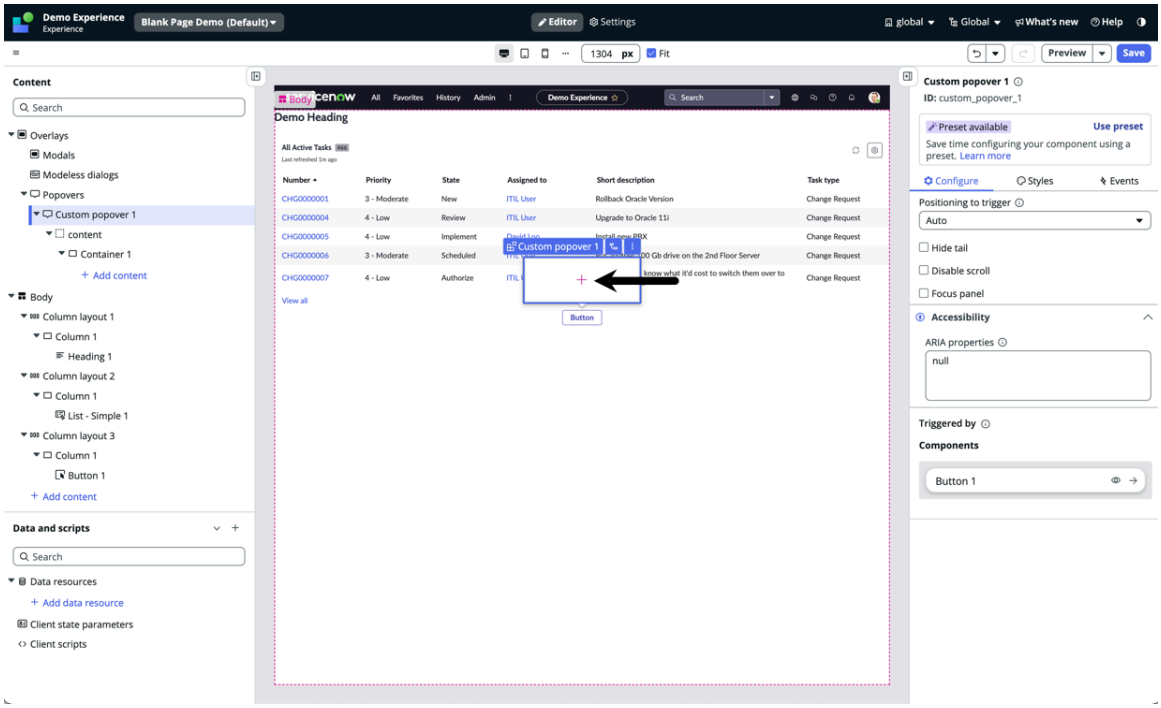


7. [ポップオーバーを開く] を選択します。
8. [新しいポップオーバーを作成] を選択します。



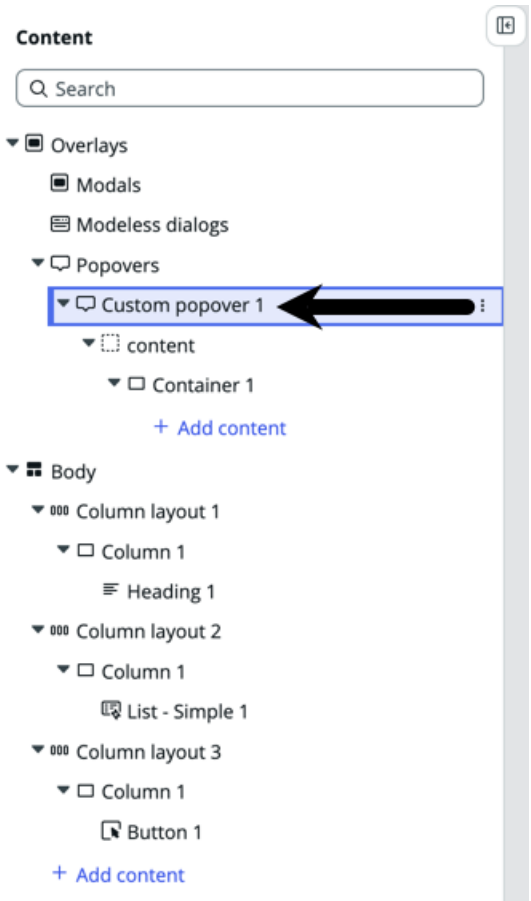
9. [追加] を選択します。
   ポップオーバーがステージの上に表示されます。
10. **[+]** アイコンを選択して、コンポーネントをポップオーバーに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



11. ポップオーバーの構成が完了したら、閉じます。

    コンテンツツリーで、作成したポップオーバーがページ構造の本文の上にあることに注意してください。



12. [保存] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

13. UI ビルダー のヘッダーで、[プレビュー] を選択します。
14. ボタンをクリックしてポップオーバーをテストします。

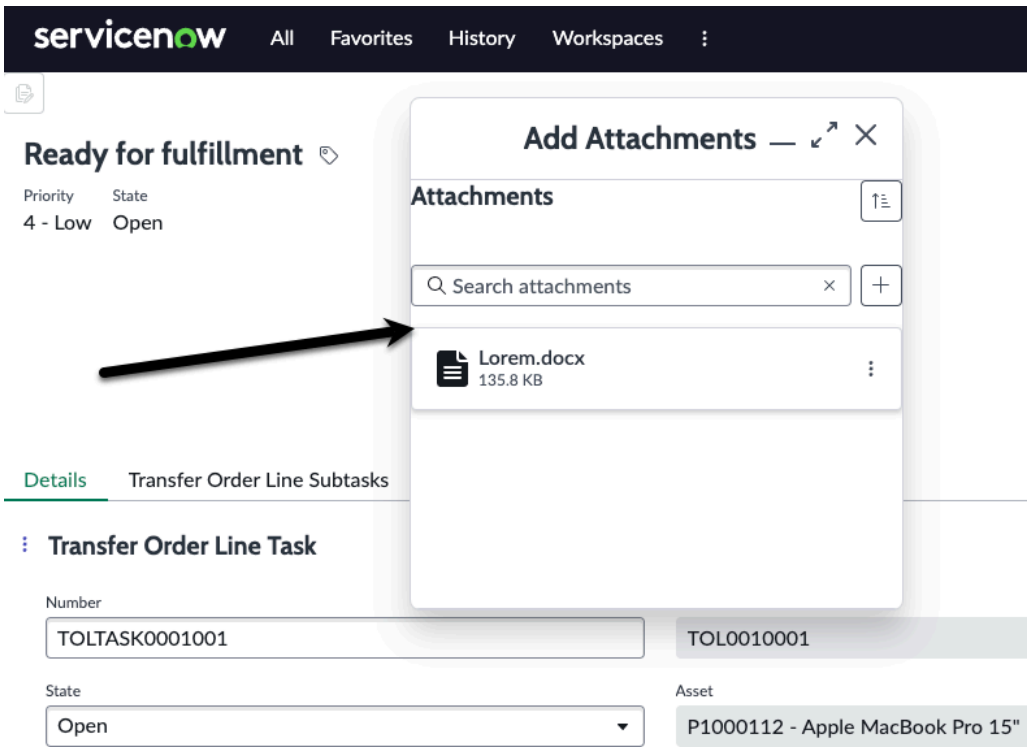
UI ビルダー でのモードレスダイアログの作成

UI ビルダーページでモードレスダイアログを使用して、ウィンドウコンテンツとその下のページコンテンツの両方を操作できるフローティングウィンドウを追加します。

モードレスダイアログコンポーネントは、UI ビルダー ページ上に表示されるコンポーネントとコンテンツを含むフローティングウィンドウです。モードレスダイアログでは、その下のページを表示してやり取りしながらアクションを実行できます。1 つのページに複数のモードレスダイアログウィンドウを追加できます。モードレスダイアログは、サイズを変更したり、ページ上の新しい位置に移動したり、最小化したりできます。

モードレスダイアログはモーダルとは異なります。モーダルはポップアップ表示されますが、モーダルが閉じられるまでページとのインタラクションがブロックされます。モードレスダイアログは、外側をクリックすると閉じるポップオーバーとも異なります。

一般的なモードレスダイアログのユースケースとしては、モードレスダイアログでのレコードの作成、メールの作成、チャットの使用、作業メモやコメントの追加、ヘルプ情報の読み取り、添付ファイルの追加/表示などがあります。

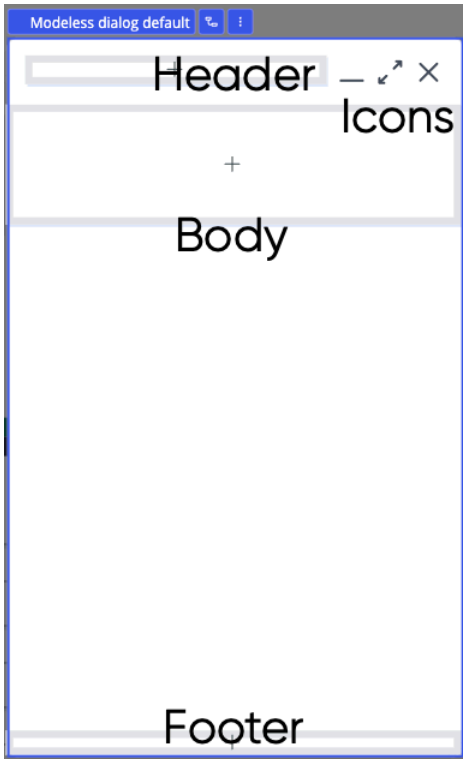


モードレスダイアログの構造

モードレスダイアログは、次の 3 つの部分で構成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- モードレスダイアログをページに追加すると、ヘッダーには事前設定された最小化アイコン、展開アイコン、「閉じる」アイコンが含まれます。必要に応じて、他のアクションを構成できます。たとえば、新しいタブでモードレスダイアログを開くためのボタンのアクションを構成します。
- メールコンポーザー、添付ファイル、エージェントチャットなど、UI ビルダーツールボックスの任意のコンポーネントを本文に追加します。コンポーネントをページに追加する場合と同様に、レイアウトを適用してコンポーネントを構成できます。
- 必要に応じて、モードレスダイアログの下部にあるフッターに追加のボタンまたはコンテンツを提供します。



モードレスダイアログを **UI** ビルダー ページに追加する

UI ビルダー でモードレスダイアログを追加する方法について説明します。モードレスダイアログは、ページの上のコンテンツを含むフローティングウィンドウです。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

次の手順では、[添付ファイル] コンポーネントを含むモードレスダイアログを開くボタンを構成するプロセスについて説明します。

> **注:** ここで説明する手順は、モードレスダイアログの使用方法の一例にすぎません。無限の可能性があります。ビジネスニーズに合わせてモードレスダイアログを追加および構成してください。

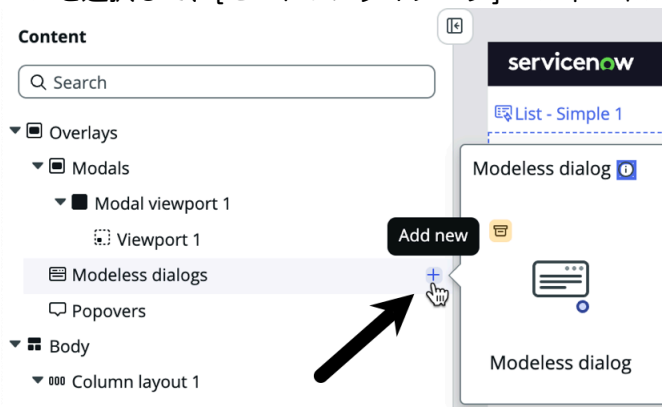
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページバリアントを開くか作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

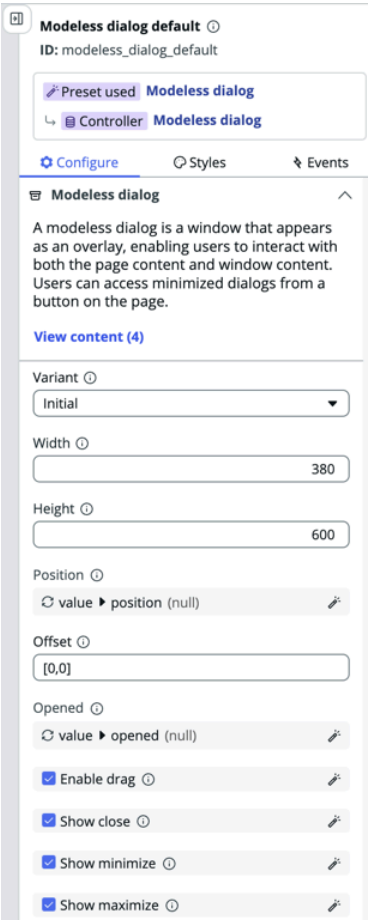
UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。

4. コンテンツツリーで、マウスを [モードレスダイアログ **(Modeless dialogs)]** に移動し、[+] アイコンを選択して、[モードレスダイアログ] コンポーネントを選択します。



5. モードレスダイアログがステージに自動的に表示されない場合は、コンテンツツリーで [モードレスダイアログのデフォルト **(Modeless dialog default)]** という名前の新しいモードレスダイアログを選択します。

6. 構成パネルの [構成] タブで、モードレスダイアログで自動的に追加されたプリセット (幅、高さ、位置、ドラッグの有効化設定など) を表示します。

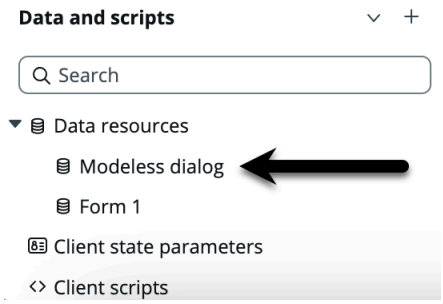


これらのプリセットプロパティはすべて、必要に応じて編集できます。

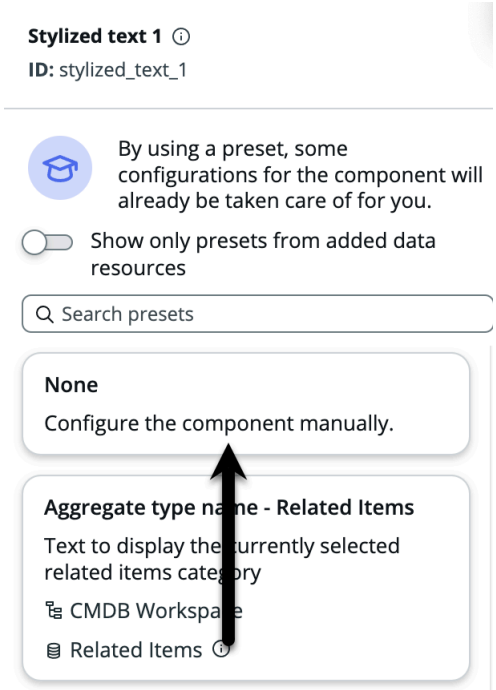
> **注:** モードレスダイアログの詳細プロパティの詳細については、ServiceNow Developer サイト を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. データリソースドロワーに、[モードレスダイアログ] コントローラーが自動的に追加されました。

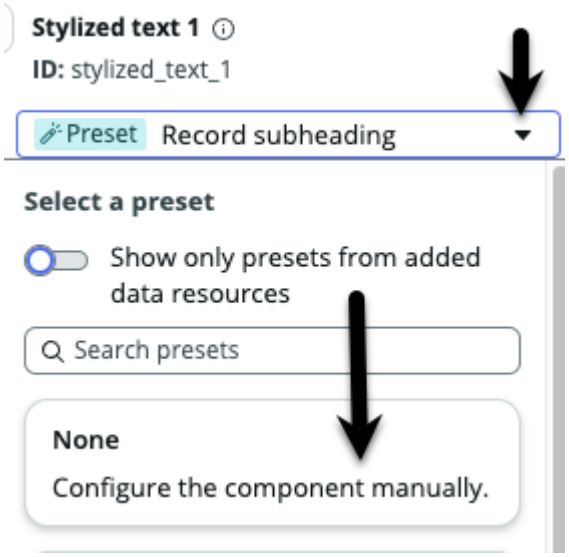


8. コンテンツツリーで、[モードレスダイアログのデフォルト **(Modeless dialog default)]** > [アクション] で **[+** コンテンツを追加] を選択して、モードレスダイアログヘッダーにコンテンツを追加します。
9. [定型テキスト] コンポーネントを検索して選択します。
10. [定型テキスト] 構成パネルで、[なし] を選択してコンポーネントを手動構成します。

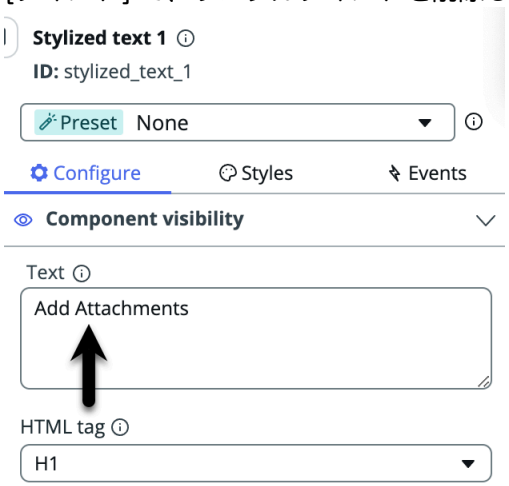


[レコードのサブ見出し] プリセットが自動的に追加された場合は、ドロップダウン矢印を選択し、[なし] を選択し、[構成] タブで [削除] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

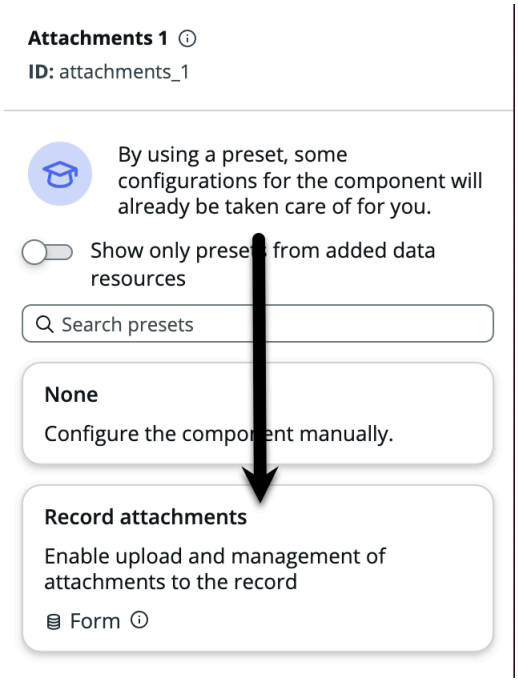


11. [構成] タブがまだ開いていない場合は、[構成] を選択して開きます。
12. [テキスト] で、サンプルテキストを削除し、「`Add Attachments`」と入力します。



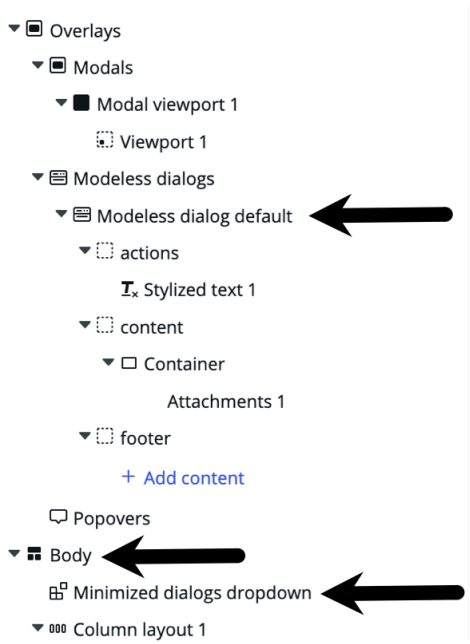
13. UI ビルダーヘッダーで、[保存] を選択します。
14. コンテンツツリーで、[モードレスダイアログのデフォルト **(Modeless dialog default)]** > [コンテンツ] > [コンテナ] で **[+** コンテンツを追加] を選択して、モードレスダイアログ本文にコンテンツを追加します。
15. [添付ファイル] コンポーネントを選択します。
16. [添付ファイル] 構成パネルで、[レコードの添付ファイル] と [適用] がまだ選択されていない場合は選択し、プリセットを使用してコンポーネントを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[添付ファイル] コンポーネントの構成の詳細については、ServiceNow Developer サイト を参照してください。

17. モードレスダイアログフッターにコンテンツを追加できますが、この例ではフッターを空のままにします。
18. **[Save** (保存)] を選択します。
コンテンツツリーで、モードレスダイアログとそのすべてのコンポーネントが、ページ構造の [本文] の上に表示されていることに注意してください。また、[最小化されたダイアログのドロップダウン **(Minimized dialogs dropdown)]** コンポーネントがページに自動的に追加され (コンテンツツリーの [本文] の下にも一覧表示されます)、モードレスダイアログヘッダーの最小化アイコン機能が提供されます。



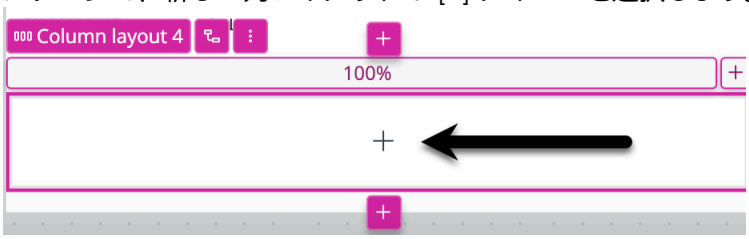
19. コンテンツツリーで [本文] を選択します。
20. ボタンコンポーネントを追加し、モードレスダイアログを開くように構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

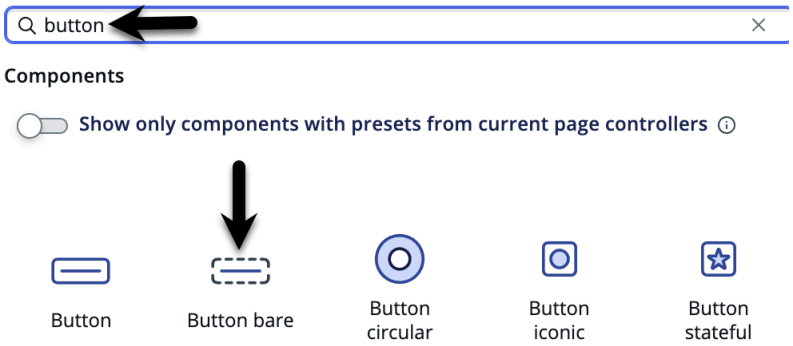
a. コンテンツツリーで、[本文] の横にある [メニュー] アイコンを選択し、[コンテンツを追加] を選択します。

b. [レイアウト] タブで、[単一列] を選択します。
単一列を含む新しい列レイアウトがページの下部に追加されます。

c. ステージで、新しい列レイアウトの [+] アイコンを選択します。



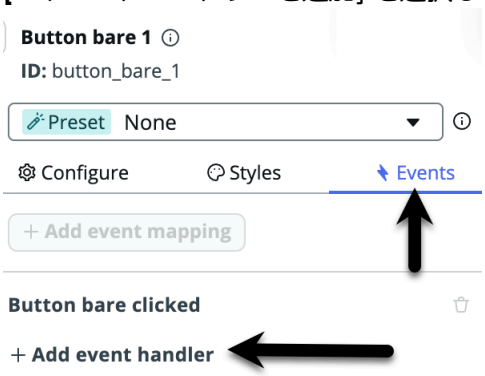
d. [ベアボタン] コンポーネントを検索して選択します。



e. 構成パネルの [構成] タブで、[なし] を選択して、コンポーネントを手動構成します。

f. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。

g. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。



h. 左側のリストで、[モードレスダイアログを開く] を選択します (リスト内を下にスクロールすることが必要な場合があります)。

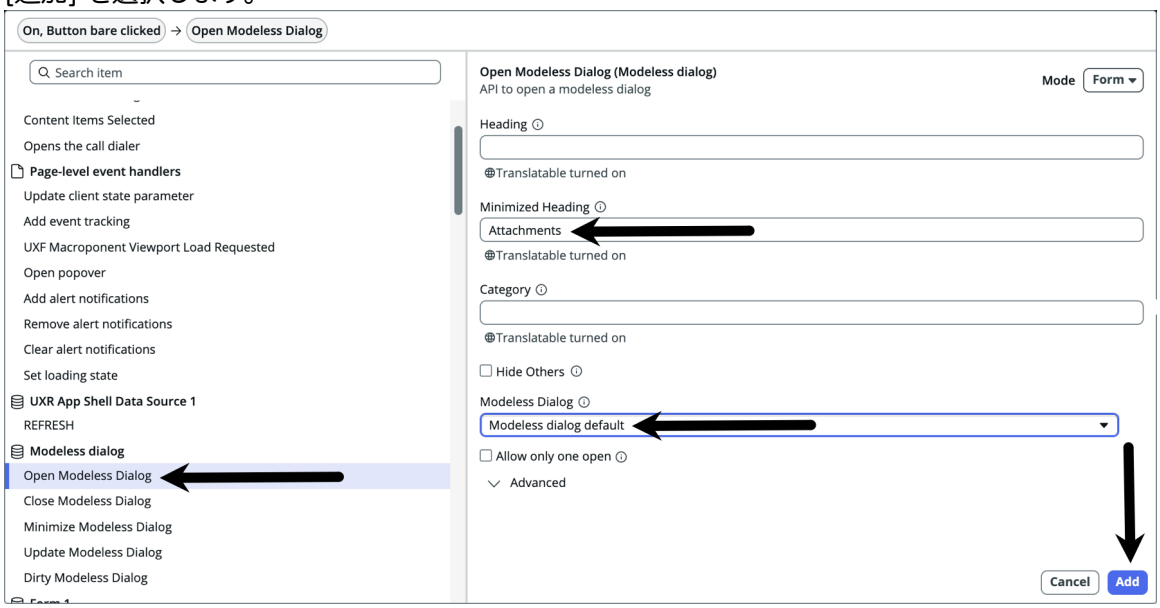
i. [最小化された見出し] に「`Attachments`」と入力します。

j. [モードレスダイアログ] で [モードレスダイアログのデフォルト **(Modeless dialog default)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

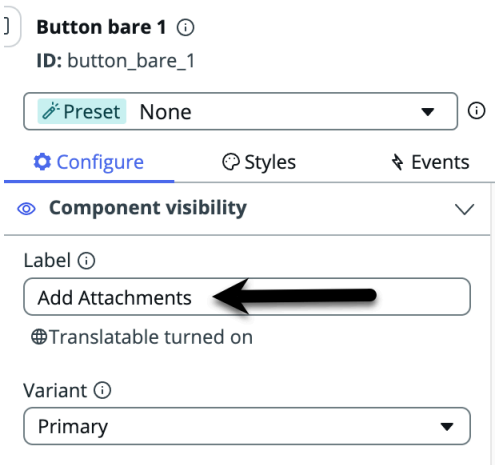
ここには見出しやカテゴリなど、構成できる他のオプションもあります。

k. [追加] を選択します。



l. [構成] タブを選択します。

m. [ラベル] に「`Add Attachments`」と入力します。



21. **[Save** (保存)] を選択します。

22. UI ビルダー ヘッダーの [プレビュー] の横にあるドロップダウン矢印を選択し、リストで **[URL** パスを開く] を選択します。

23. [添付ファイルの追加] ボタンを選択して、モードレスダイアログをテストします。
モードレスダイアログがメインページの上に開き、上部に見出し、下に [添付ファイル] コンポーネントが表示されます。

24. 最小化機能をテストするには、モードレスダイアログの最小化アイコンを選択します。

モードレスダイアログが最小化され、[最小化されたダイアログのドロップダウン (Minimized dialogs dropdown)] からアクセスできるようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

25. 最小化されたダイアログのアイコンを選択し、[添付ファイル] を選択して、モードレスダイアログウィンドウを再度開きます。

モードレスダイアログイベントを UI ビルダーページに追加する

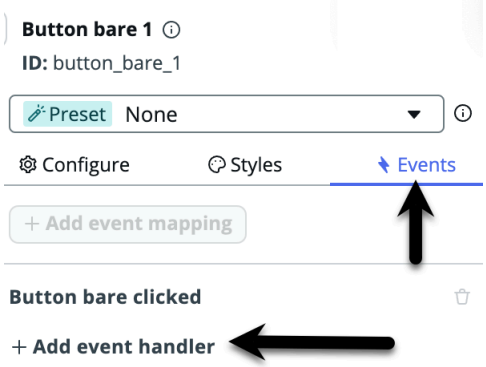
開く、閉じる、最小化するなどのモードレスダイアログイベントを UI ビルダーで追加および構成する方法を学びます。モードレスダイアログは、ページの上のコンテンツを含むフローティングウィンドウです。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

手順

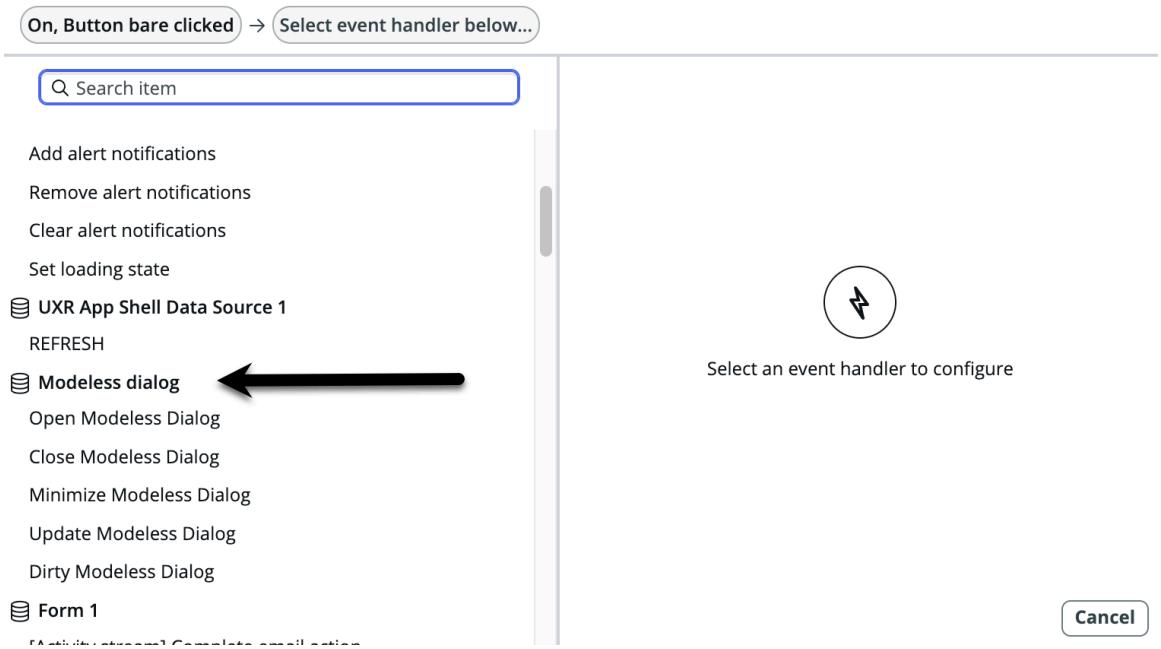
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページバリアントを開くか作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダー でのページの作成」を参照してください。
4. モードレスダイアログをページに追加します。
   モードレスダイアログの作成方法の詳細については、「モードレスダイアログを UI ビルダー ページに追加する」を参照してください。
5. モードレスダイアログでアクションを実行するための、ボタンなどのコンポーネントをページに追加します。
   モードレスダイアログとやりとりするボタンの作成方法の詳細については、「モードレスダイアログを UI ビルダー ページに追加する」を参照してください。
6. コンテンツツリーまたはステージでボタンコンポーネントを選択します。
7. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。
8. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。



9. [イベントハンドラープレビュー] ウィンドウから、ボタンにアサインするアクションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用可能なモードレスダイアログイベントハンドラーが 5 つあります。



注: スクリプトエディターで作業する場合は、いずれのイベントハンドラーでも、[モード] ドロップダウンで [スクリプト] を選択します。

モードレスダイアログイベントハンドラーを追加するには	必要な操作
モードレスダイアログを開く	モードレスダイアログを開きます。たとえば、[メールを作成する] というラベルの付いたボタンを追加し、[メールコンポーザー (ミニ)] コンポーネントを含むモードレスダイアログを開くようにボタンを構成します。 ◦ [見出し]：モードレスダイアログの見出しを入力します。 ◦ [最小化された見出し]：ユーザーがページ上の最小化されたダイアログドロップダウンアイコンを選択したときに表示される見出しを入力します。 ◦ [カテゴリ]：モードレスダイアログをグループ化するカテゴリ名を入力します。 ◦ [モードレスダイアログ]：開くモードレスダイアログを選択します。 ◦ [単一インスタンス]：ユーザーがモードレスダイアログのインスタンスを 1 つだけ開けるようにするには、このオプションを選択します。ユーザーがモードレスダイアログのインスタンスを複数開けるようにするには、このオプションを選択解除のままにします。たとえば、ボタンで [メールコンポーザー (ミニ)] コンポーネントを含むモードレスダイアログが開くようにするとき、[単一インスタンス] オプションを選択しない場合、ユーザーは複

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モードレスダイアログイベントハンドラーを追加するには	必要な操作
	数のモードレスダイアログウィンドウを開いてメールメッセージを作成できます。 ◦ [モードレスダイアログインスタンス **ID**]：[単一インスタンス] オプションを選択した場合、クリック時に開くモードレスダイアログインスタンス ID を指定します。フィールド上にマウスを移動し、[データをバインド] アイコンを選択します。[データタイプ] で [モードレスダイアログ] を選択します。[instanceID] ピルを上部のセクションにドラッグし、[適用] を選択します。 ◦ [トリガーのタイミング] ([詳細オプション])：コンポーネント (この例ではボタン) が常にモードレスダイアログを開くようにするには、[常時] を選択します。イベントハンドラー条件を追加するには、[条件付きで] を選択します。イベントハンドラー条件の詳細については、「UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされている関数」を参照してください。
モードレスダイアログを閉じる	モードレスダイアログを閉じます。モードレスダイアログウィンドウの外側からモードレスダイアログを閉じるようにボタンなどのコンポーネントを構成する場合は、このオプションを使用します。 ◦ [モードレスダイアログインスタンス **ID**]：クリック時に閉じるモードレスダイアログインスタンス ID を指定します。 ◦ [トリガーのタイミング] ([詳細オプション])：コンポーネント (この例ではボタン) が常にモードレスダイアログを閉じるようにするには、[常時] を選択します。イベントハンドラー条件を追加するには、[条件付きで] を選択します。イベントハンドラー条件の詳細については、「UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされている関数」を参照してください。
モードレスダイアログを最小化	モードレスダイアログを最小化します。モードレスダイアログウィンドウの外側からモードレスダイアログを最小化するようにボタンなどのコンポーネントを構成する場合は、このオプションを使用します。 ◦ [モードレスダイアログインスタンス **ID**]：クリック時に最小化するモードレスダイアログインスタンス ID を指定します。 ◦ [トリガーのタイミング] ([詳細オプション])：コンポーネント (この例ではボタン) が常にモードレスダイアログを最小化するようにするには、[常時] を選択します。イベントハンドラー条件を追加するには、[条件付き

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

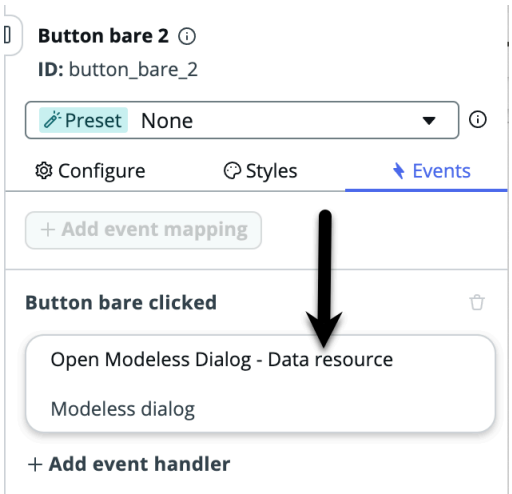
モードレスダイアログイベントハンドラーを追加するには	必要な操作
	で] を選択します。イベントハンドラー条件の詳細については、「UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされている関数」を参照してください。
モードレスダイアログを更新	モードレスダイアログ上の指定されたフィールドを更新します。たとえば、[見出しの更新] というラベルの付いたボタンをモードレスダイアログのフッターに追加し、モードレスダイアログ内のコンポーネントの見出しを更新するようにボタンを構成します。 ◦ [見出し]：ボタンが選択されたときに追加されるモードレスダイアログの新しい見出しテキストを入力します。 ◦ [最小化された見出し]：ボタンが選択されたときに追加される、新しい最小化された見出しのテキストを入力します。 ◦ [カテゴリ]：ボタンが選択されたときに追加される、新しいカテゴリの名前を入力します。 ◦ [モードレスダイアログ]：更新するモードレスダイアログを選択します。 ◦ [モードレスダイアログインスタンス **ID**]：クリック時に更新するモードレスダイアログインスタンス ID を指定します。 ◦ [ダーティ]：モードレスダイアログをダーティとしてマークするには、このオプションを選択します。 ◦ [トリガーのタイミング] ([詳細オプション])：コンポーネント (この例ではボタン) が常にモードレスダイアログを更新するようにするには、[常時] を選択します。イベントハンドラー条件を追加するには、[条件付きで] を選択します。イベントハンドラー条件の詳細については、「UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされている関数」を参照してください。
ダーティモードレスダイアログ	モードレスダイアログをダーティとしてマークします。 ◦ [モードレスダイアログインスタンス **ID**] で、ダーティとしてマークされるモードレスダイアログインスタンス ID を指定します。 ◦ [トリガーのタイミング] ([詳細オプション])：コンポーネント (この例ではボタン) が常にダーティとしてマークされるようにするには、[常時] を選択します。イベントハンドラー条件を追加するには、[条件付きで] を選択します。イベントハンドラー条件の詳細に

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モードレスダイアログイベントハンドラーを追加するには	必要な操作
	ついては、「UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされている関数」を参照してください。

10. [追加] を選択します。

タスクの結果
構成されたイベントハンドラーは、コンポーネントの構成パネルの [イベント] タブに表示されます。



UI ビルダー でカウンターを作成する

定型テキストコンポーネントと 2 つのボタンをエクスペリエンスページに追加して、シンプルなカウンターを作成します。クライアントステータスパラメーターを使用して機能を実装し、ボタンが選択されたときにカウントが増減するようにします。

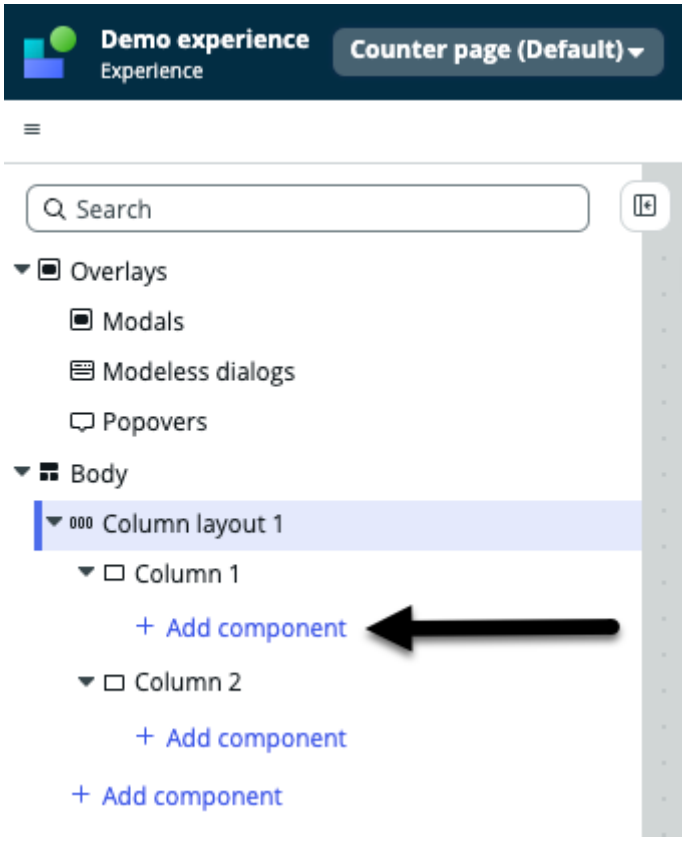
始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

定型テキストコンポーネントと 2 つのボタンのアイコンコンポーネントを追加して、シンプルなカウンターアプリケーションを作成する方法を示す 3 分間のビデオ。

手順

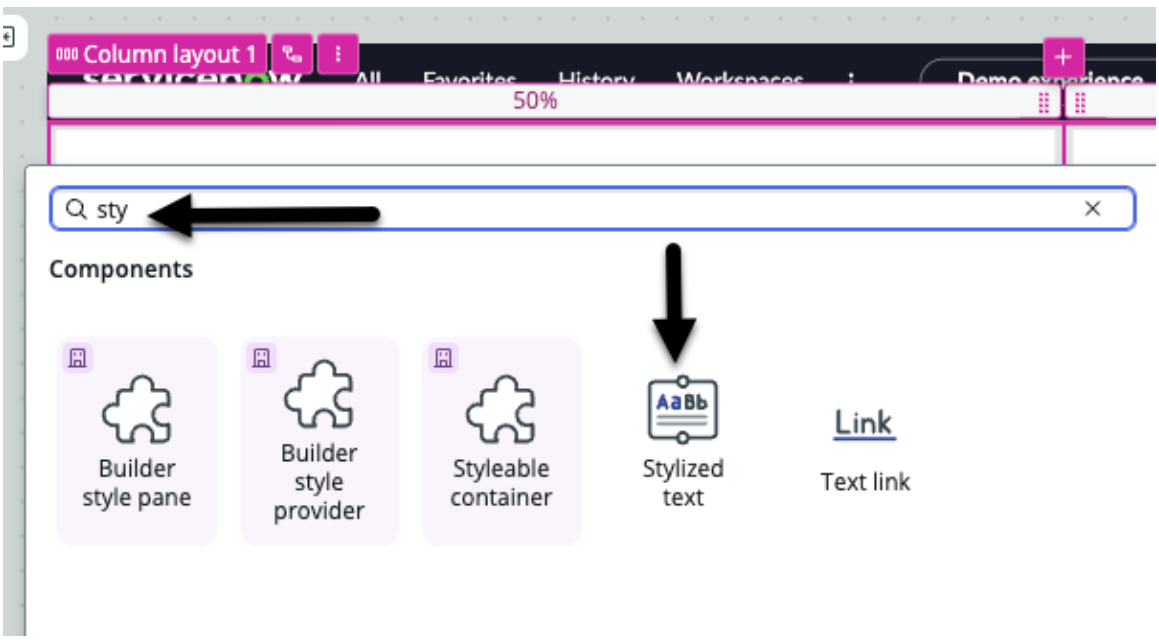
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または [作成] **>** [エクスペリエンス] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 「UI ビルダー でのページの作成」の手順を実行するか、またはページを開きます。
4. [本文] の下のコンテンツツリーで **[+** コンテンツを追加] を選択して、列レイアウトを追加します。
5. [レイアウト] タブで、**[2** 列] を選択します。
6. コンテンツツリーの [列 **1]** の下の **[+** コンテンツを追加] を選択して、最初のコンポーネントを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



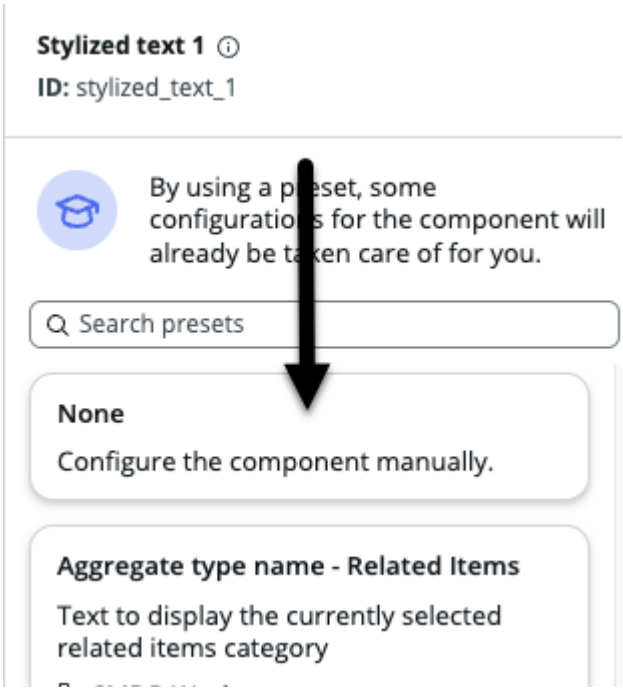
a. [検索] に `sty` と入力します。

b. [定型テキスト] コンポーネントを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

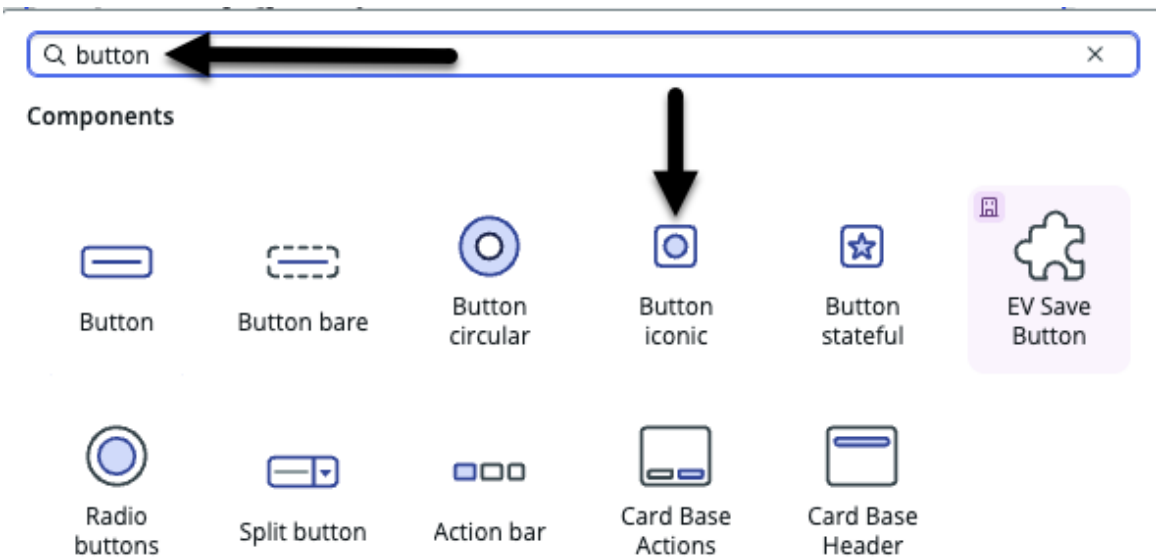
c. 構成パネルで、[なし - コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。



7. [列 **2]** のコンテンツツリーで **[+** コンテンツを追加] を選択して、2 番目のコンポーネントを追加します。

a. [検索] に `button` と入力します。

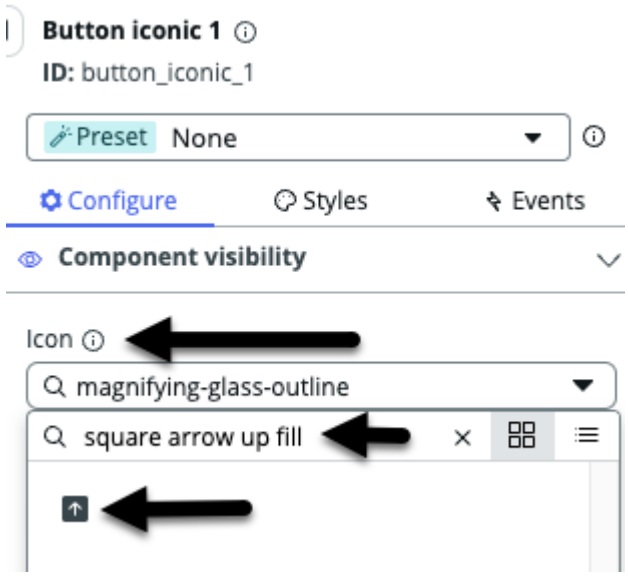
b. [象徴的なボタン] を選択します。



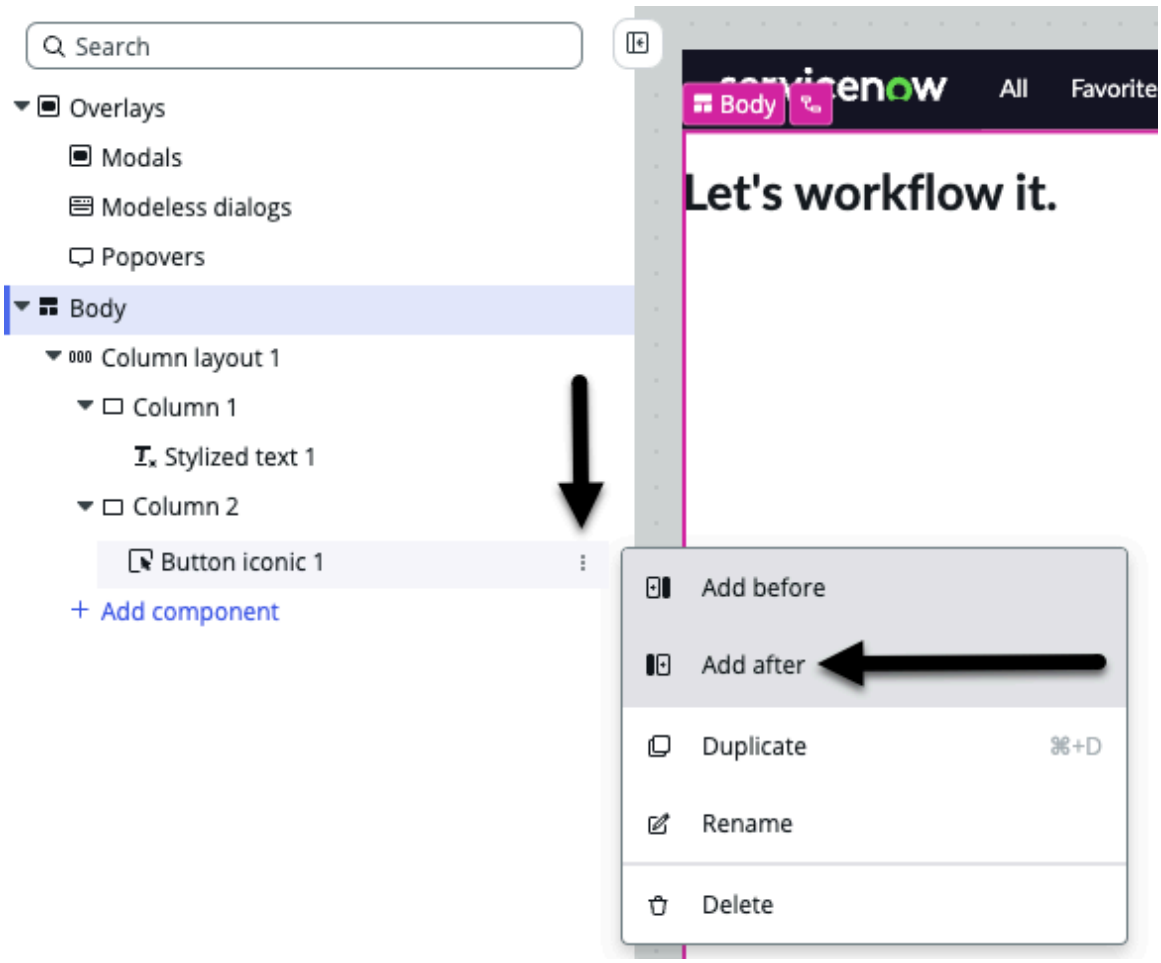
c. 構成パネルで、[なし - コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [アイコン] で、[四角い塗りつぶしの上向き矢印 **(Square Arrow Up Fill)]** を選択します。



8. コンテンツツリーで [象徴的なボタン **1]** をポイントし、[メニュー] アイコンを選択し、[後に追加] を選択して、3 番目のコンポーネントを追加します。



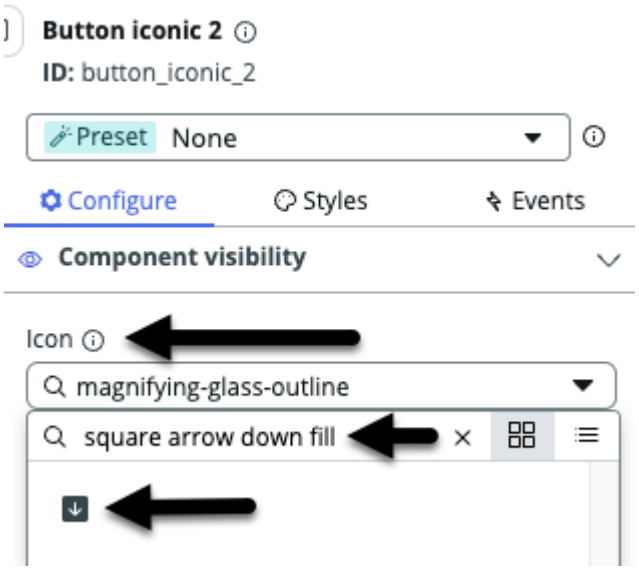
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 前の手順で行ったように、[検索] に `button` と入力します。

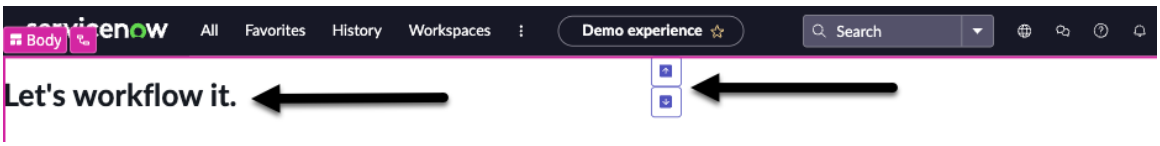
b. 前の手順で行ったように、[象徴的なボタン] を選択します。

c. 前の手順と同じように、構成パネルで、[なし - コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

d. [アイコン] で、今度は [四角い塗りつぶしの下向き矢印 **(Square Arrow Down Fill)]** という名前の別のアイコンを選択します。



9. [保存] を選択します。
定型テキストコンポーネントと 2 つの象徴的なボタンコンポーネントが保存され、ステージに表示されます。



10. クライアントステータスパラメーターを追加するには、[データおよびスクリプト **(Data and scripts)]** に移動し、[クライアントステータスパラメーター] をポイントし、[新しく追加 **(+)]** アイコンを選択します。

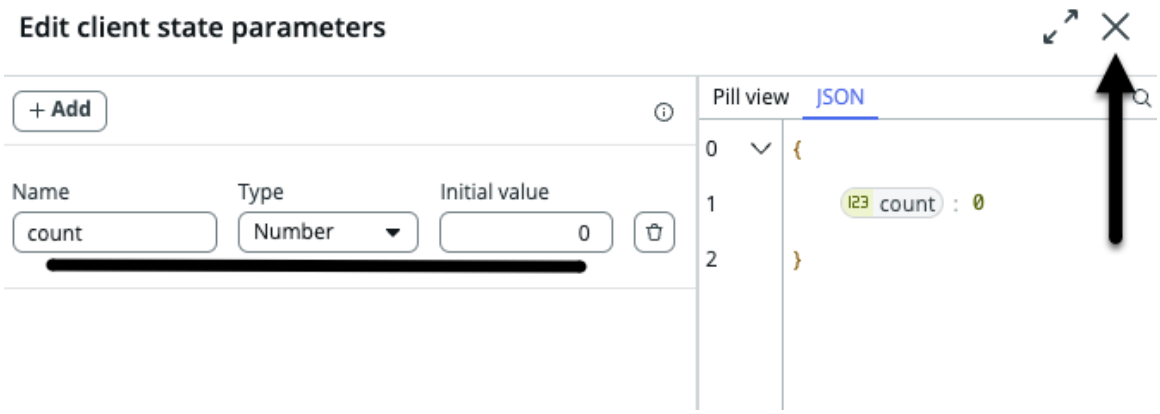
a. `count` と入力して [名前] を変更します。

b. [タイプ] を [数値] に変更します。

c. 数値 `0` を入力して [初期値] を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

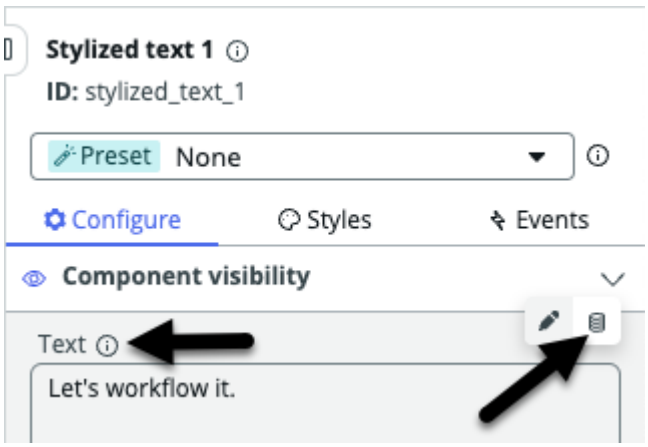
d. **[X]** アイコンを選択してウィンドウを閉じます。



11. 定型テキストコンポーネントをクライアントステータスパラメーターにバインドします。

a. ステージ上の定型テキストコンポーネントを選択します。

b. 構成パネルで、[テキスト] フィールドをポイントし、[データのバインドまたはスクリプトの使用 **(Bind data or use scripts)]** アイコンを選択します。



c. [データタイプ] タブで [クライアントステータス] を選択します。

d. [カウント] ピルをダブルクリックします。

e. [適用] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[テキスト] フィールドが [カウント] に変わります。

12. 次に、ボタンを構成して数を増減させます。

    a. ステージの一番上のボタンを選択します。

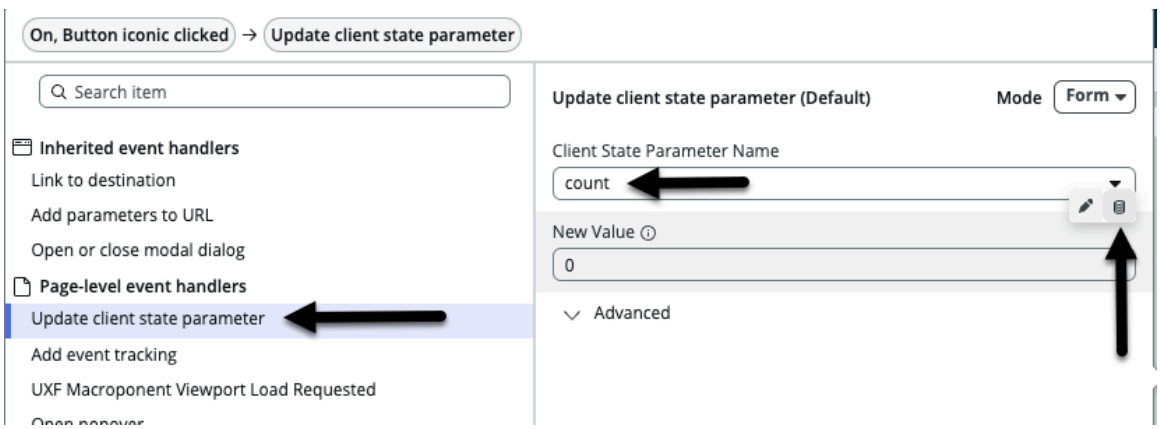
    b. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。

    c. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。

    d. [ページレベルのイベントハンドラー] で、[クライアントステータスパラメーターを更新] を選択します。

    e. [クライアントステータスパラメーター名] で [カウント] を選択します。

    f. [新しい値] フィールドをポイントし、[データのバインドまたはスクリプトの使用 **(Bind data or use scripts)]** アイコンを選択します。



    g. [データタイプ] タブで [クライアントステータス] を選択します。

    h. [カウント] ピルをダブルクリックします。

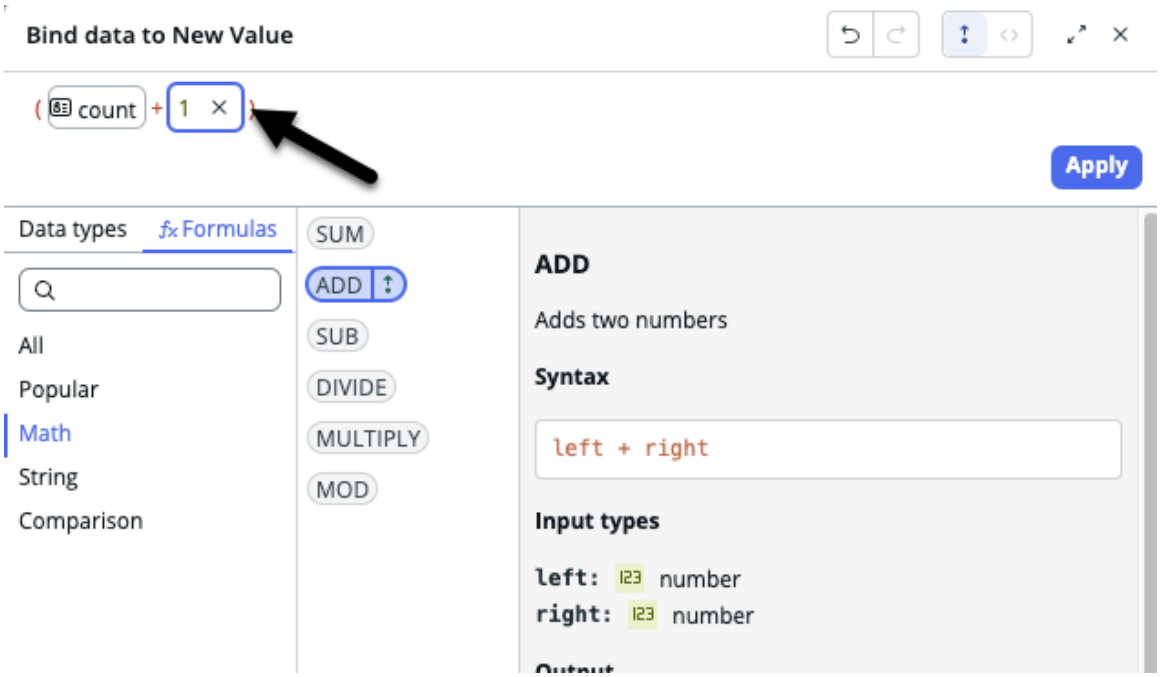
    i. [計算式] タブを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

j. リストで [計算] を選択します。

k. **[ADD]** ピルをダブルクリックします。

l. 上部の右側のピルで、テキストを削除し、`1` と入力します。



m. [適用] を選択します。

n. [追加] を選択します。

13. ここで、最初のボタンで使用したのと同じプロセスに従って 2 番目のボタンを構成しますが、ADD ピルではなく SUB ピルを選択します。

a. ステージの一番下のボタンを選択します。

b. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。

c. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。

d. [ページレベルのイベントハンドラー] で、[クライアントステータスパラメーターを更新] を選択します。

e. [クライアントステータスパラメーター名] で [カウント] を選択します。

f. [新しい値] フィールドをポイントし、[データのバインドまたはスクリプトの使用 **(Bind data or use scripts)]** アイコンを選択します。

g. [データタイプ] タブで [クライアントステータス] を選択します。

h. [カウント] ピルをダブルクリックします。

i. [計算式] タブを選択します。

j. リストで [計算] を選択します。

k. **[SUB]** ピルをダブルクリックします。

l. 上部の右側のピルで、テキストを削除し、`1` と入力します。

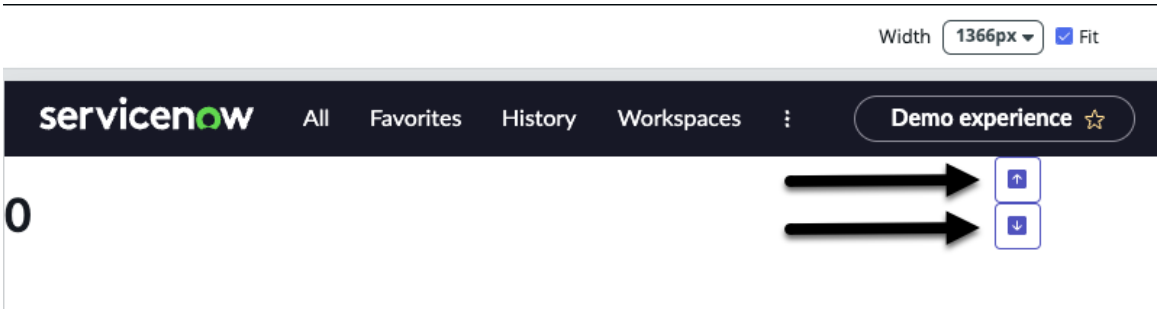
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

m. [適用] を選択します。

n. [追加] を選択します。

14. [プレビュー] を選択してカウンターをテストします。

15. [上向き矢印] ボタンを選択するとカウントが増え、[下向き矢印] ボタンを選択するとカウントが減少します。



タスクの結果
カウントを 1 つ増やすボタンコンポーネントと、カウントを 1 つ減らす別のボタンコンポーネントを追加しました。カウントの増減を表示する、定型テキストコンポーネントを追加しました。

ボタンコンポーネントに関する詳細な技術情報については、「ボタンの概要と API」を参照してください。

定型テキストコンポーネントに関する詳細な技術情報については、「定型テキストの概要」を参照してください。

UI ビルダーエクスペリエンスの表示スタイルの管理

テーマを使用すると、UI ビルダーエクスペリエンスの視覚的なスタイルを変更し、ブランドのルックアンドフィールを表現できます。

テーマの開始

デフォルトでは、[Polaris] テーマが UI ビルダーエクスペリエンスに適用されます。詳細については、「でのテーマの探索 ネクストエクスペリエンス」を参照してください。

テーマビルダーで新しいテーマを作成する

テーマビルダーでは、使いやすいビジュアルインターフェイスを使用して Next Experience テーマを作成、編集、管理、適用できます。詳細については、「 テーマビルダー での ネクストエクスペリエンス の構成」を参照してください。

カスタムテーマの作成

スタイルレコードと JSON コードの作業に慣れているアドミンユーザーの場合は、カスタムテーマを作成してデフォルトの [Polaris] スタイルをオーバーライドできます。このオプションでは、テーマ内の書体、色、画像 (バナーやロゴを含む) を最大限に制御できます。詳細については、「 ネクストエクスペリエンス テーマと設定の構成」を参照してください。

ダークテーマの操作

ダークテーマに興味がある場合は、「ダークテーマの操作」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

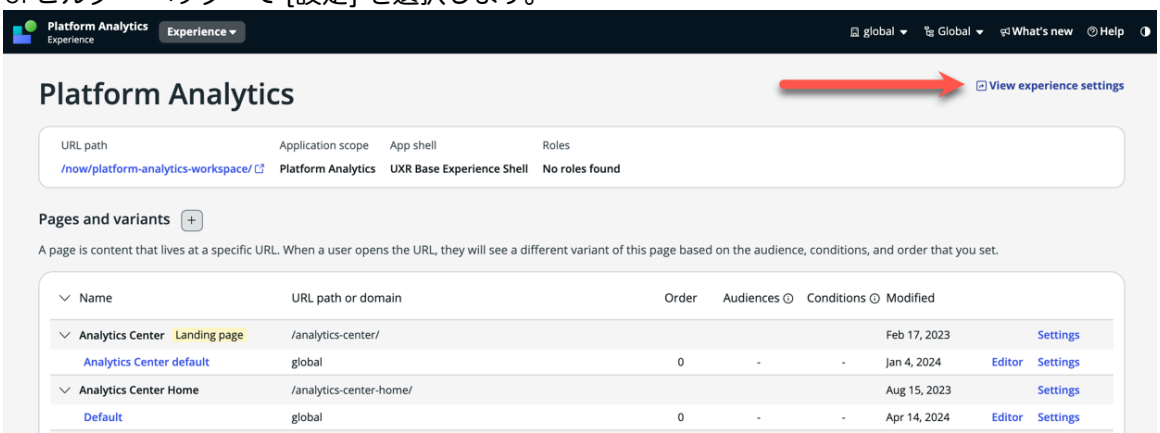
エクスペリエンステーマを表示する

エクスペリエンスに適用されたテーマを表示します。テーマは、エクスペリエンスの表示スタイルを設定するものであり、すべてのページで一貫したルックアンドフィールを提供します。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. UI ビルダー ヘッダーで [設定] を選択します。



4. [ブランディングとテーマ] セクションまでスクロールし、[テーマ] にリストされている内容を確認します。
   デフォルトでは、[Polaris] テーマが UI ビルダーエクスペリエンスに適用されます。

次のタスク
テーマをカスタマイズする場合は、次の 2 つのオプションがあります。

- テーマビルダーでは、使いやすいビジュアルインターフェイスを使用して Next Experience テーマを作成、編集、管理、適用できます。詳細については、「テーマビルダー での ネクストエクスペリエンス の構成」を参照してください。
- スタイルレコードと JSON コードの作業に慣れているアドミンユーザーの場合は、カスタムテーマを作成してデフォルトの [Polaris] スタイルをオーバーライドできます。このオプションでは、テーマ内の書体、色、画像 (バナーやロゴを含む) を最大限に制御できます。詳細については、「ネクストエクスペリエンス テーマと設定の構成」を参照してください。

高度な **UI** ビルダー

UI ビルダー は、さまざまなスキルレベルを持つアプリケーション開発者に使用できます。このセクションの手順は、高度な経験を持つ開発者 (プロコーダーとも呼ばれます) が実行することをお勧めします。

コンポーネントとリピーターの設定 (高度な機能)

UI ビルダー でページをビルドするときに、コンポーネントを追加および設定できます。リピーターを使用すると、データリソースからコンポーネントまたは結果のある複数のコンポーネントを繰り返すこともできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンポーネントの追加と構成

UI ビルダー でページにコンポーネントを追加する方法を学習します。ページはコンポーネントを追加することでビルドされます。

始める前に

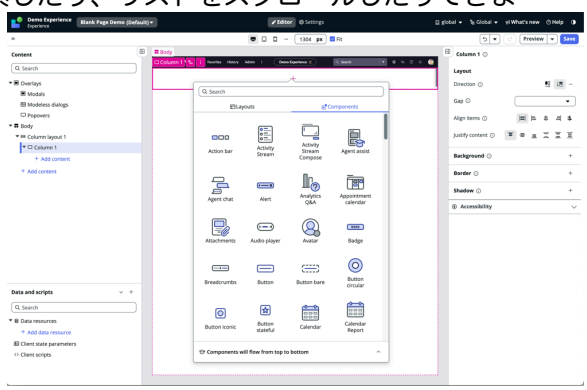
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

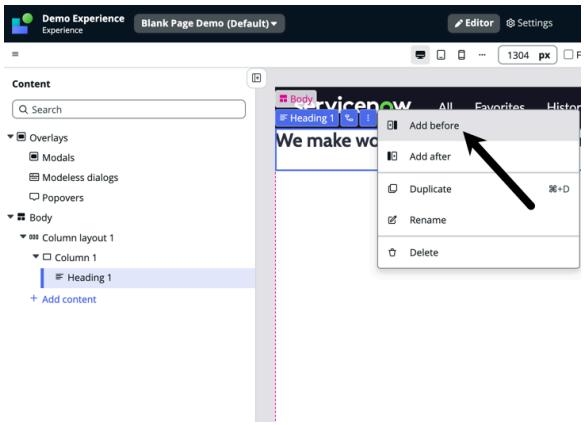
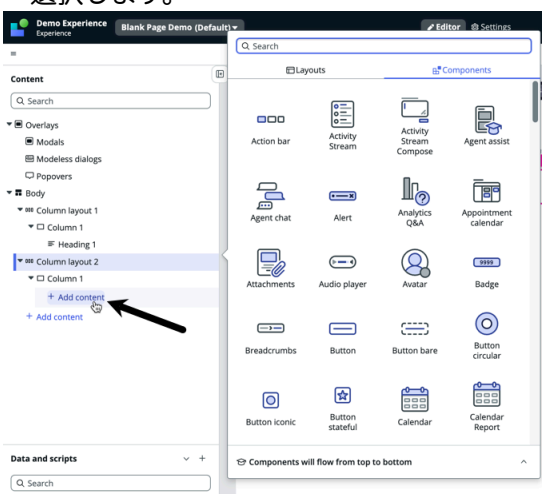
コンポーネントは、UI ビルダー でカスタムページを作成するために使用される構成要素です。 コンポーネントをページに追加する方法を学習します。ページにコンポーネントを追加した後、コンポーネントを構成する必要があります。コンポーネントの構成の詳細については、ServiceNow 開発者サイトで「コンポーネントドキュメント」を参照してください。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   既存のページを開く場合は、元のページと同じスコープ内にあることを確認してください。そうでない場合は、ページの編集を開始する前にスコープを変更します。アプリケーションスコーピングは、アプリケーションファイルとデータへのアクセスを識別して制限することによってアプリケーションを保護します。アドミニストレーターは、アプリケーションのどの部分を他のアプリケーションからアクセスできるようにするのかを指定するスコープを設定できます。アプリケーションスコープは、データとアプリケーションファイルを保護します。アプリケーションスコープの詳細については、「セキュリティとロールについて学習する」を参照してください。
4. 既存のコンテナを選択するか、列レイアウトを作成します。
   詳細については、「UI ビルダーページでコンポーネントを整理する」を参照してください。
5. コンポーネントをページに追加します。
   UI ビルダー には、選択可能なコンポーネントのライブラリが付属しています。コンポーネントはページの構成要素として追加します。たとえば、見出しやデータ表示方法などを追加できます。次の表は、コンポーネントをページに追加するさまざまな方法を示しています。

コンポーネントの追加元	必要な操作
ページから直接	ページで **[+]** を選択し、ツールボックスからコンポーネントを選択します。コンポーネントを検索したり、リストをスクロールしたりできます。 
ページ上のフローティングメニュー	コンポーネントの上にあるフローティングメニューを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンポーネントの追加元	必要な操作
	◦ [前に追加] または [後ろに追加] を選択します。 ◦ ツールボックスからコンポーネントを選択します。 
コンテンツツリー	次の 2 とおりの方法でコンテンツツリーからコンポーネントを追加できます。 ◦ コンテンツツリーのコンテナの下にある **[+ コンテンツを追加]** を選択します。次に、ツールボックスからコンポーネントを選択します。 ◦ コンテンツツリーのコンテナ上にマウスデバイスを移動し、メニューアイコンを選択して、[コンポーネントを追加] を選択します。次に、ツールボックスからコンポーネントを選択します。 

6. 追加したコンポーネントのプロパティを構成します。
   コンポーネントを構成することは、ニーズに合わせてそれらをカスタマイズすることを意味します。コンポーネントの構成の詳細については、「ネクストエクスペリエンスコンポーネント」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 構成するコンポーネントを選択します。

b. UI ビルダー の構成パネルから [構成] タブを選択します。

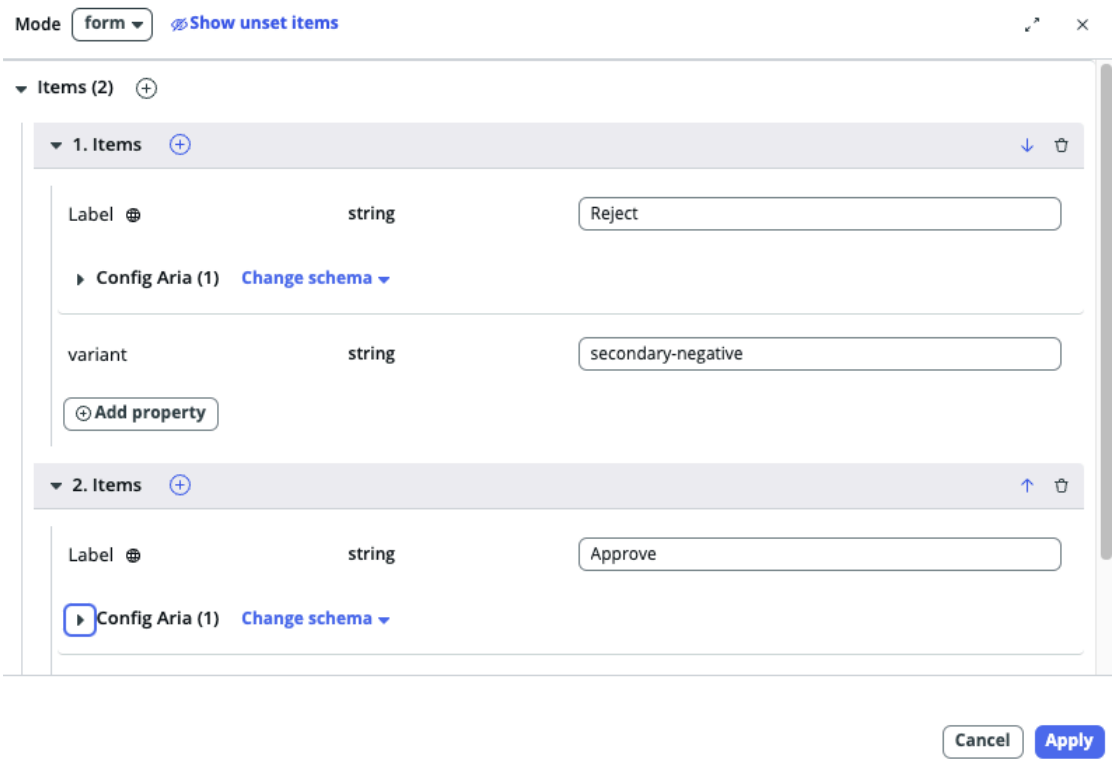
c. コンポーネントのコンポーネントプロパティをカスタマイズします。
たとえば、ボタンコンポーネントの名前を追加できます。データビジュアル化などの一部のコンポーネントでは、プロパティを構成する前にデータソースが必要です。各コンポーネントには、各コンポーネントの要件とオプションに基づくさまざまな構成プロパティがあります。たとえば、ボタンコンポーネントの構成はシンプルですが、リストコンポーネントにはより多くの構成が必要です。

d. 構成可能な JSON プロパティがあるコンポーネントの場合は、UI ビルダー のローコード JSON エディターを使用すれば、JSON コードを編集せずにコンポーネントのプロパティを編集できます。

JSON エディターの UI には、ダミーデータや定義済みの値で定義されていないプロパティも含め、使用可能なすべてのプロパティが表示されます。JSON エディター内でプロパティを更新するか、または独自のカスタムプロパティを追加できます。コンポーネントの構成の詳細については、「Now コードエディターでコードを編集する (高度な機能)」を参照してください。

> **注:** ローコード JSON エディターは、スキーマを持ちかつ JSON 入力がそのスキーマと一致するプロパティでのみ使用できます。

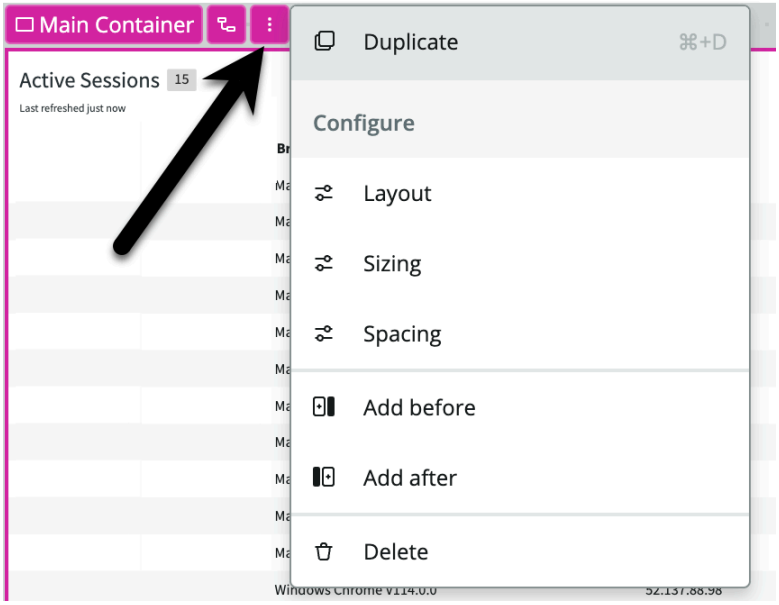
ローコード JSON エディターは、単純なオブジェクト、単純なアレイプロパティ、複雑なアレイ、オブジェクトのアレイをサポートし、複雑なオブジェクトも部分的にサポートします。複雑なアレイでは、アレイアイテムの位置を追加、削除、または移動できます。[未設定のアイテムを非表示] を選択して、値が空または null のオブジェクトを非表示にして、編集エクスペリエンスを簡素化することもできます。



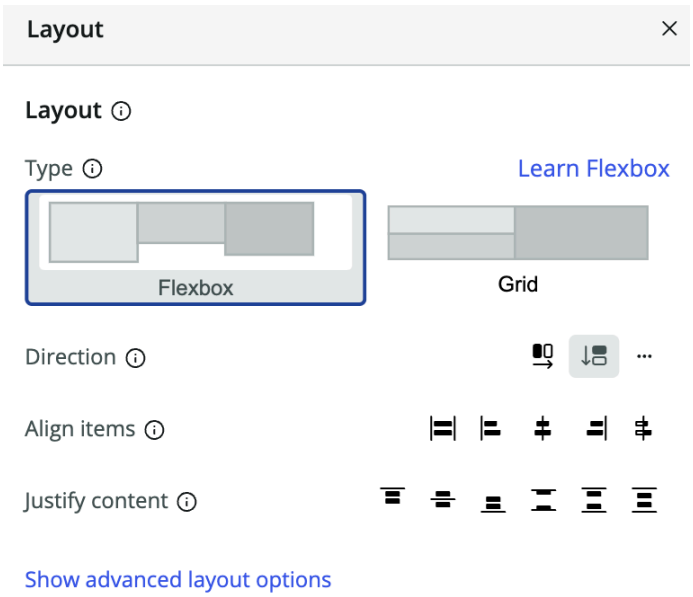
e. コンテナコンポーネントを操作するときは、フローティングパネルを使用して一部のスタイルを編集できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メニューアイコンを選択してメニューを表示します。



[レイアウト]、[サイジング]、または [スペース] オプションを選択して、最も一般的なオプションが表示されたフローティングパネルを開きます。必要に応じて、フローティングパネルを別の場所にドラッグします。一度に開くことができるフローティングパネルは 1 つだけです。



コンポーネントの構成の詳細については、「ネクストエクスペリエンスコンポーネント」を参照してください。

7. オプション: [イベント] タブを選択して、コンポーネントにイベントハンドラーを追加します。イベントハンドラーを追加して、ページ上のコンポーネントにアクションを追加します。たとえば、ボタンコンポーネントは静的であり、レコードの保存など、イベントアクションをバインドするまでは何も実行されません。見出しコンポーネントなど、一部のコンポーネントにはイベントアクションが適用されません。ただし、多くのコンポーネントでは、実際にアクションを実行するためにイベントをコンポーネントにマッピングする必要があります。コンポーネントにイベントハンドラーを追加する方法の詳細については、「コンポーネントへのイベントのバインド」を参照してください。
8. オプション: [スタイル] タブで CSS スタイリングを追加することで、コンポーネントのスタイルを上書きできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「コンポーネントのデフォルトの外観を変更する」を参照してください。

> **注:** スタイルの変更は、一度に 1 つのコンポーネントにのみ影響します。エクスペリエンス内のすべてのコンポーネントの表示スタイルを変更するには、エクスペリエンスにテーマを適用する必要があります。詳細については、「UI ビルダーエクスペリエンスの表示スタイルの管理」を参照してください。

9. オプション: ページにコンテナを追加して、コンポーネントを整理して表示できます。
たとえば、1 つのコンテナに見出しコンポーネントを追加します。その下の別のコンテナには、リストコンポーネント、ボタンコンポーネントなどを含めることができます。
   a. コンテナの上部にある **[+]** を選択して既存のコンポーネントの前にコンテナコンポーネントを追加し、コンポーネントの下部にある **[+]** を選択してコンテナコンポーネントをその後に挿入します。
   b. コンテナコンポーネントを [コンポーネント] リストからページ上の既存のコンテナにドラッグします。コンテナの一番上の行にカーソルを合わせて新しいコンテナを既存のコンテナの前に挿入するか、既存のコンテナの一番下の行にカーソルを合わせて後ろに追加します。
10. オプション: ページのコンポーネントの上部または下部にある **[+]** を選択して、ページにコンポーネントを追加します (**[+]** が **[+ 追加]** に変化します)。

   a. コンポーネントの上部にある **[+]** を選択して既存のコンポーネントの前にコンポーネントを追加するか、コンポーネントの下部にある **[+]** を選択してコンポーネントをその後に挿入します。
   b. コンポーネントをコンポーネントリストからドラッグして、既存のコンポーネントの前または後に挿入します。
11. オプション: ボタンなどのコンポーネントを選択したときにモーダルを表示するには、最初にコンポーネントにモーダルを追加する必要があります。
モーダルは、コンポーネントを選択すると表示される確認ポップアップです。たとえば、レコードを削除するボタンコンポーネントを追加する場合に、レコードを削除してよいかユーザーに確認を求めるモーダルを追加します。詳細については、「UI ビルダー でのモーダルの作成」を参照してください。
12. 作業時には頻繁にページの [保存] を選択します。
13. [プレビュー] ボタンを選択し、ページを表示してテストします。

次のタスク

ページにコンポーネントを追加して構成しました。詳細については、「UI ビルダーページでデータを動的に公開する (高度な機能)」を参照してください。UI ビルダー 内のデータリソースは、コンポーネントにコンテンツを表示するためにページがフェッチするデータです。コンポーネントは、さまざまなエクスペリエンス間でデータと構成を再利用し、コンポーネントをページ上で動的なものにする方法としてデータリソースを使用します。

UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされている関数

UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされているさまざまな関数について学習します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の表は、 UI ビルダー コンポーネント式エディターで使用できる関数を一覧表示しています。コンポーネント式エディターの詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。

条件ビルダーで利用可能な演算子

演算子ラベル	条件の例	同等のクエリ演算子	サンプルクエリ	出力例
空であるものすべて (All empty)	[Short description] [ALL_EMPTY]	ALL_EMPTY	short_descriptionALL_EMPTY	**[Short description]** フィールドに値がないすべてのレコード。
次の値に等しいすべて (All equal)	[Short description] [ALL_EQ] [Network storage unavailable]	ALL_EQ	short_description=Network storage unavailable	**[Short description]** フィールドの値が「Network storage is unavailable」と等しいすべてのレコード。
次の値より大きいすべて (All greater than)	[Impact] [ALL_GT] [2 - Medium]	>	impact>2	**[Impact]** フィールドの値が **[3 - Low]** であるすべてのレコード
次の値以上のすべて (All greater than or equal)	[Impact] [ALL_GTE] [2 - Medium]	>=	impact>=2	**[Impact]** フィールドの値が **[2 - Medium]** または **[3 - Low]** であるすべてのレコード
次の値未満のすべて (All less than)	[Reassignment count] [ALL_LT] [2]	<	reassignment_count<2	**[Reassignment count]** フィールドの値が **2** 未満のすべてのレコード。
次の値以下のすべて (All less than or equal)	[Reassignment count] [ALL_LTE] [2]	<=	reassignment_count<=2	**[Reassignment count]** フィールドの値が次のいずれかであるすべてのレコード。 • 2 未満の数 • 2
次の値と等しくないすべて (All not equal to)	[Impact] [ALL_NEQ] [1 - High]	!=	impact!=1	**[Impact]** フィールドの値が **[1 - High]** 以外のすべてのレコード。
空でないものすべて (All not empty)	[Impact] [ALL_NOTEMPTY]	ALL_NOTEMPTY	impactALL_NOTEMPTY	**[Impact]** フィールドに何らかの値があるすべてのレコード。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件ビルダーで利用可能な演算子 (続く)

演算子ラベル	条件の例	同等のクエリ演算子	サンプルクエリ	出力例
次のいずれでもないすべて (All not one of)	[Impact] [ALL_NOTONEOF] [1 - High, 2 - Medium]	ALL_NOTONEOF	impactALL_NOTONEOF1,2	**[Impact]** フィールドに次の値以外の値が入力されているすべてのレコード。 • **1 - High** • **2 - Medium**
次のいずれかであるすべて (All one of)	[Impact] [ALL_ONEOF] [1 - High, 2 - Medium]	ALL_ONEOF	impactALL_ONEOF1,2	**[Impact]** フィールドに次のいずれかの値が入力されているすべてのレコード。 • **1 - High** • **2 - Medium**
空であるもののいずれか (Any empty)	[Short description] [ANY_EMPTY]	ANY_EMPTY	short_descriptionANY_EMPTY	**[Short description]** フィールドに値がないいずれかのレコード。
次の値に等しいいずれか (Any equal)	[Short description] [ANY_EQ] [Network storage unavailable]	ANY_EQ	short_description=network storage unavailable	**[Short description]** フィールドの値が「Network storage is unavailable」と等しいいずれかのレコード。
次の値より大きいいずれか (Any greater than)	[Impact] [ANY_GT] [2 - Medium]	ANY_GT	impactANY_GT2	**[Impact]** フィールドの値が **[3 - Low]** であるいずれかのレコード。
次の値以上のいずれか (Any greater than or equal)	[Impact] [ANY_GTE] [2 - Medium]	ANY_GTE	impactANY_GTE2	**[Impact]** フィールドの値が **[2 - Medium]** または **[3 - Low]** であるいずれかのレコード。
次の値未満であるいずれか (Any less than)	[Reassignment count] [ANY_LT] [2]	ANY_LT	reassignment_countANY_LT2	**[Reassignment count]** フィールドの値が **2** 未満のいずれかのレコード。
次の値以下であるいずれか	[Reassignment count] [ANY_LTE] [2]	ANY_LTE	reassignment_countANY_LTE2	**[Reassignment count]** フィールドの値が次のいずれ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件ビルダーで利用可能な演算子 (続く)

演算子ラベル	条件の例	同等のクエリ演算子	サンプルクエリ	出力例
(Any less than or equal)				かであるいずれかのレコード。 • 2 未満の数 • 2
次の値に等しくないいずれか (Any not equal)	[Impact] [ANY_NEQ][1 - High]	ANY_NEQ	impactANY_NEQ1	**[Impact]** フィールドの値が **[1 - High]** 以外のいずれかのレコード。
空でないもののいずれか (Any not empty)	[Impact] [ANY_NOTEMPTY]	ANY_NOTEMPTY	impactANY_NOTEMPTY	**[Impact]** フィールドに何らかの値があるいずれかのレコード。
次のいずれでもないいずれか (Any not one of)	[Impact] [ANY_NOTONEOF] [1 - High, 2 - Medium]	ANY_NOTONEOF	impactANY_NOTONEOF1^2	**[Impact]** フィールドに次の値以外の値が入力されているいずれかのレコード。 • **1 - High** • **2 - Medium**
次のいずれか (Any one of)	[Impact] [ANY_ONEOF] [1 - High, 2 - Medium]	ANY_ONEOF	impactANY_ONEOF1^2	**[Impact]** フィールドに次のいずれかの値が入力されているいずれかのレコード。 • **1 - High** • **2 - Medium**
CONCAT	CONCAT(value)	CONCAT	CONCAT("Welcome ",@context.session.user.name)	指定されたすべての文字列を 1 つに結合した新しい文字列を作成します
EMPTY	EMPTY(value)	EMPTY	EMPTY(@context.session.user.roles)	値が null または未定義の場合は true を返します
IF	IF(if, then, else)	IF	IF(@context.props.bare=true,"bare page","not bare page")	条件が true の場合、値 then を返します。条件が false の場合、値 else を返します。
LEN	LEN(list)	LEN	LEN([1,2,3])	アレイ内のアイテムの数を返します
Pick	PICK(array, field)	Pick	PICK(@context.session.user.preferences,"name")	アレイ内の各アイテムのフィールド

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件ビルダーで利用可能な演算子 (続く)

演算子ラベル	条件の例	同等のクエリ演算子	サンプルクエリ	出力例
				から各アイテムが選択された新しいアレイを作成します。フィールドが存在しない場合、新しいアレイのアイテムは空になります
Range	RANGE(from, to)	範囲	RANGE(1,10)	from から to までの、段階的に増分される数値のアレイを作成します
合計	SUM(array)	合計	SUM([1,2,3])	0 から開始し、アレイ内の各アイテムの数値を加算して、結果の合計を返します
Translate	TRANSLATE(text)	翻訳	TRANSLATE("Welcome back")	2 番目の引数で指定された文字が 3 番目の引数で指定された文字に変換された後、最初の引数の文字列を返します。
空の場合 (Where empty)	[Short description] [WHERE_EMPTY]	WHERE_EMPTY	short_descriptionWHERE_EMPTY	**[Short description]** フィールドに値がないレコードを抽出します。
等しい場合 (Where equal)	[Short description] [WHERE_EQ] [Network storage unavailable]	WHERE_EQ	short_descriptionWHERE_EQ^Network storage unavailable	**[簡単な説明]** フィールドが「Network storage is unavailable」と等しいすべてのレコードを抽出します。
次の値より大きい (Where greater than)	[Impact] [WHERE_GT] [2 - Medium]	WHERE_GT	impactWHERE_GT2	**[Impact]** フィールドの値が **[3 - Low]** であるレコードを抽出します。
次の値以上である (Where greater than or equal)	[Impact] [WHERE_GTE] [2 - Medium]	WHERE_GTE	impactWHERE_GTE2	**[Impact]** フィールドの値が **[2 - Medium]** または **[2 - Low]** であるレコードを抽出します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件ビルダーで利用可能な演算子 (続く)

演算子ラベル	条件の例	同等のクエリ演算子	サンプルクエリ	出力例
次の値未満である (Where less than)	[Reassignment count] [WHERE_LT][2]	WHERE_LT	reassignment_count_WHERE_LT2	**[Reassignment count]** フィールドの値が **2** 未満のレコードを抽出します。
次の値以下である (Where less than or equal)	[Reassignment count] [WHERE_LTE][2]	WHERE_LTE	reassignment_count_WHERE_LTE2	**[Reassignment count]** フィールドの値が次のいずれかであるレコードを抽出します。 • 2 未満の数 • 2
等しくない (Where not equal)	[Impact] [WHERE_NEQ][1 - High]	WHERE_NEQ	impactWHERE_NEQ1	**[Impact]** フィールドの値が **[1 - High]** 以外のレコードを抽出します。
空でない (Where not empty)	[Impact] [WHERE_NOTEMPTY]	WHERE_NOTEMPTY	impactWHERE_NOTEMPTY	**[Impact]** フィールドに何らかの値を持つレコードを抽出します。
次のいずれでもない (Where not one of)	[Impact] [WHERE_NOTONEOF] [1 - High, 2 - Medium]	WHERE_NOTONEOF	impactWHERE_NOTONEOF1,2	**[Impact]** フィールドに次の値以外の値が入力されているレコードを抽出します。 • **1 - High** • **2 - Medium**
次のいずれかである (Where one of)	[Impact] [WHERE_ONEOF] [1 - High, 2 - Medium]	WHERE_ONEOF	impactWHERE_ONEOF1,2	**[Impact]** フィールドに次のいずれかの値が入力されているレコードを抽出します。 • **1 - High** • **2 - Medium**

コンポーネントへのリピーターの追加

UI ビルダーでリピーターを使用すると、データリソースからコンポーネントまたは結果のある 1 つ以上のコンポーネントを繰り返すことができます。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
リピーターコンポーネントは、UI ビルダー内で複数のコンポーネントに提供するデータを繰り返す基本ループとして機能します。リピーターは、アレイ、またはオブジェクトのアレイを使用します。たとえば、アレイ `[{"task": "A"},{"task": "B"}]` は、その中のコンテンツを 2 回繰り返します。リピーターを使用すると、データアレイプロパティに値をバインドできます。`@item.value.{property_name}` は、リピーター内のコンポーネントに値をバインドします。「task」をバインドする場合、`@item.value.task` としてバインドすることができ、リピーターに正しい値が表示されます。

リピーター内のコンポーネントは、コンポーネント出力が動的かどうかに関係なく、データソース内のアイテム数を繰り返します。たとえば、3 つのデータ要素を持つリピーター内にヘッダーコンポーネントを配置しても、[ラベル] フィールドは変更しないとします。次に、同じ出力ラベルを持つヘッダーの 3 つのインスタンスが表示されます。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. リピーターを追加するページのエディターを開きます。
   エクスペリエンスのページを作成していない場合は、ページの作成方法の詳細について、「UI ビルダー でのページの作成」を参照してください。
4. データリソースをページに接続します。

   たとえば、[複数のレコードを検索] データリソースをページに追加します。データリソースの接続の詳細については、「ページへのデータリソースの追加と構成」を参照してください。

   a. データリソースドロワーで、**[+** データリソースを追加 **(Add data resource)]** を選択します。

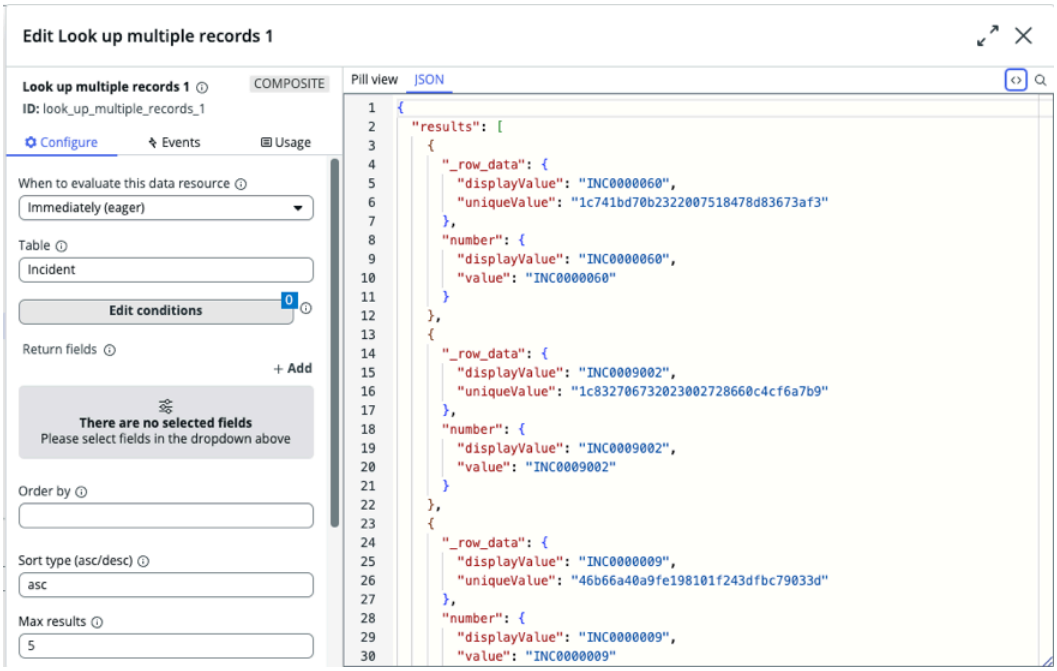
   b. モーダルで、[複数のレコードを検索] データリソースを検索し、[追加] を選択します。

   c. [テーブル] フィールドに、`インシデント` と入力します。

   d. [結果の最大数] フィールドに「`5`」と入力します。

   [複数のレコードを検索] データリソースが構成されます。

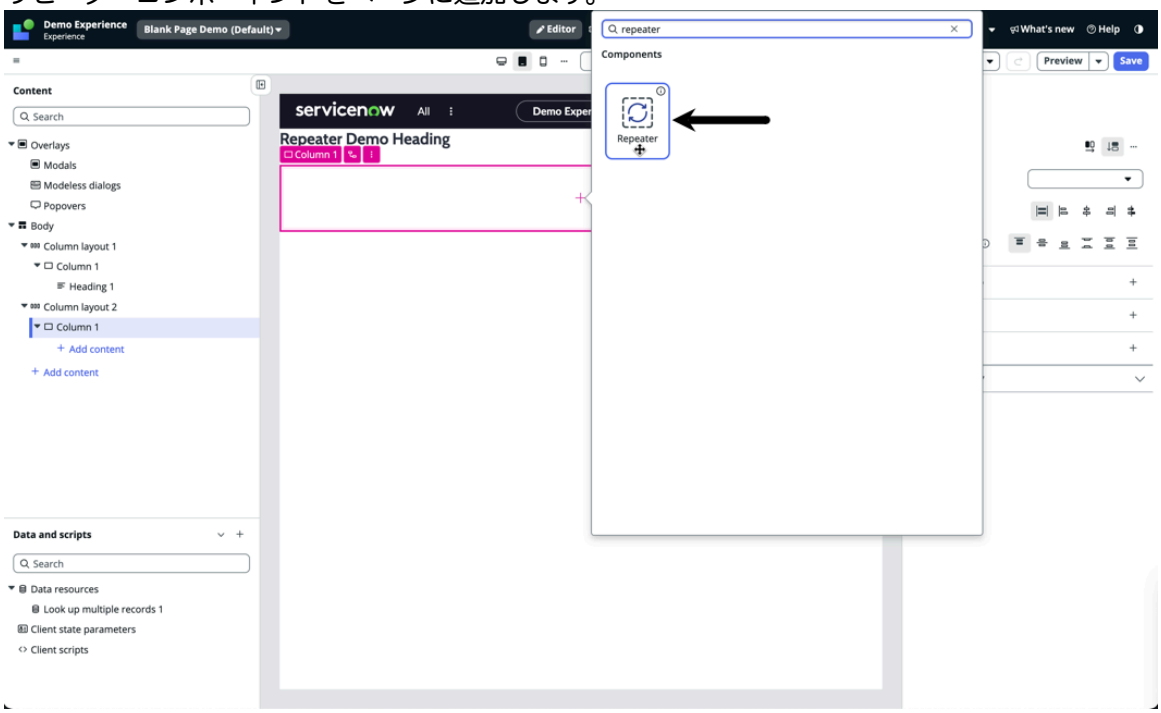
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



e. モーダルを閉じます。

5. 既存のコンテナを選択するか、列レイアウトを作成します。
詳細については、「UI ビルダーページでコンポーネントを整理する」を参照してください。

6. リピーターコンポーネントをページに追加します。



コンポーネントの追加の詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

7. [構成] タブで、[なし - コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

8. [構成] タブで、繰り返されるコンポーネントのデータを定義するアレイを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [データアレイ] をポイントし、[データをバインド] アイコン ( ) を選択します。

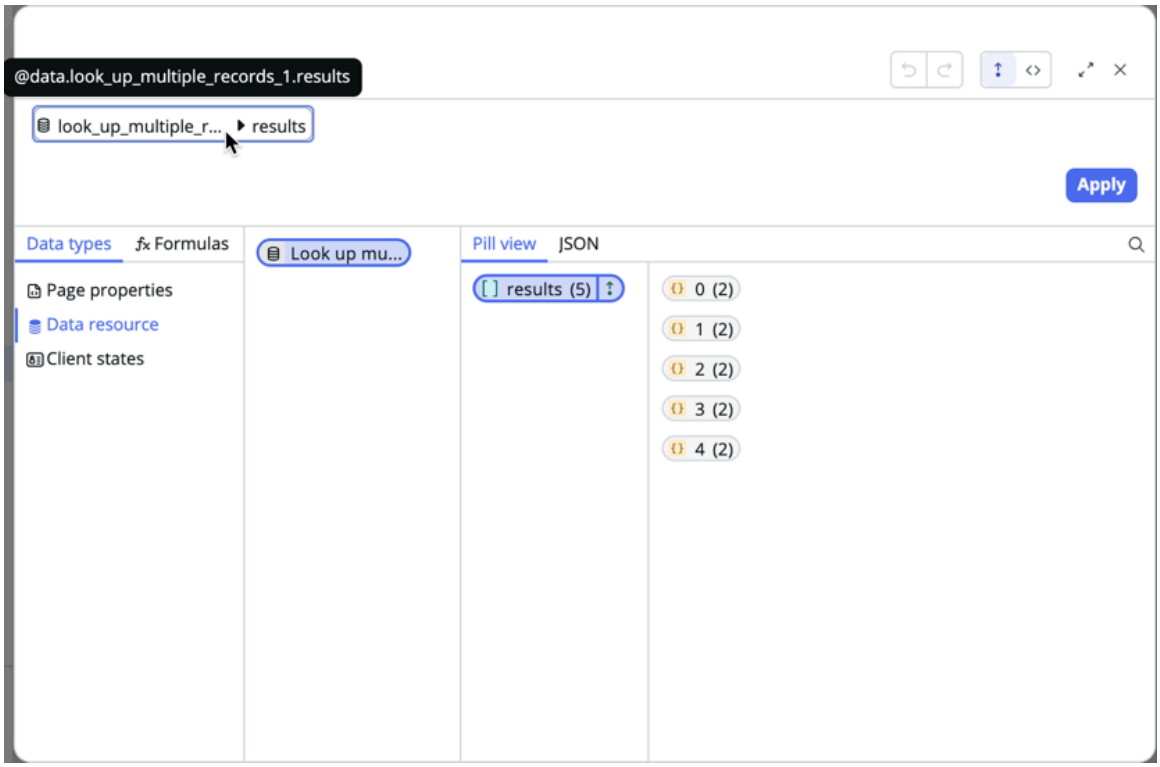
b. [データタイプ] で、[データリソース] を選択します。

c. 次の列で、[複数のレコードを検索 **1]** ピルを選択します。

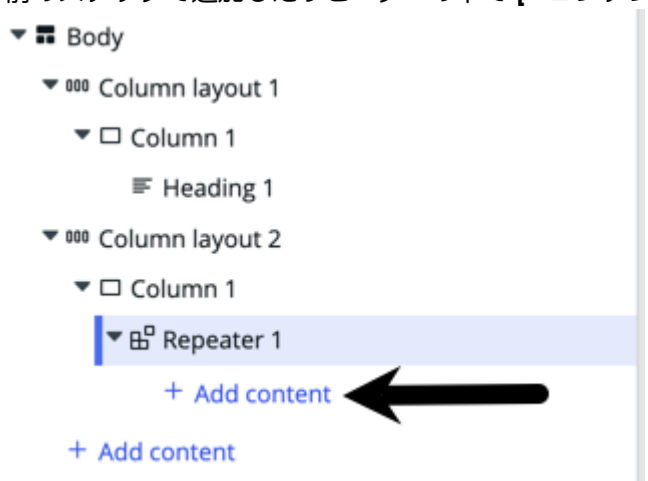
d. [ピルビュー **(Pill view)]** で、[結果] をダブルクリックまたはドラッグして、**[@data.look_up_multiple_records_1.results]** 出力を追加します。

e. [適用] を選択します。

データリソースの結果は、リピーターコンポーネントにバインドされます。リピーター内では、1 つのコンポーネントが各結果を表します。



9. 前のステップで追加したリピーターの下で **[+** コンテンツを追加] を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. [見出し] コンポーネントを追加します。
11. [構成] タブで、[なし - コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。
12. リピーターでネストしたコンポーネントを構成します。

    たとえば、**[displayValue]** をコンポーネントにバインドします。詳細については、「コンポーネントへのデータ接続」を参照してください。

    a. カーソルを [ラベル] に移動し、[データをバインド] アイコン ( ) を選択します。

    b. [データタイプ] で [リピーター] を選択します。

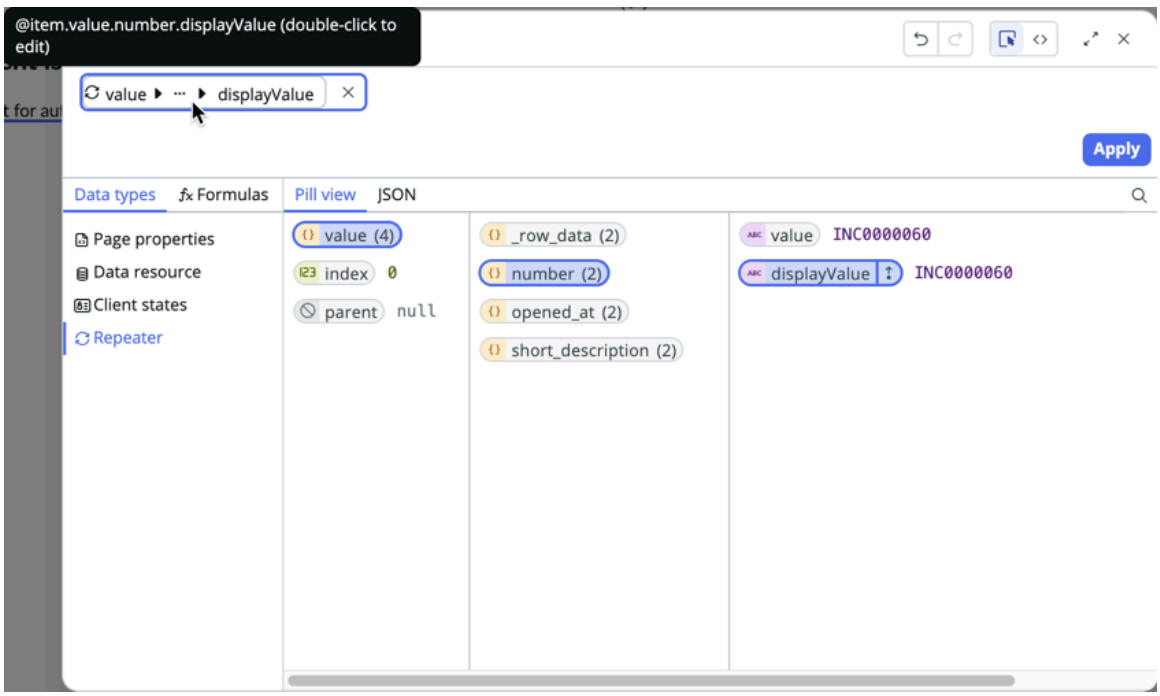
    c. [ピルビュー **(Pill view)]** で、[値] ピルを選択します。

    d. 次の列で、[番号] ピルを選択します。

    e. 次の列で、**[displayValue]** をダブルクリックまたはドラッグして、**@item.value.number.displayValue** 出力を追加します。

    f. [適用] を選択します。

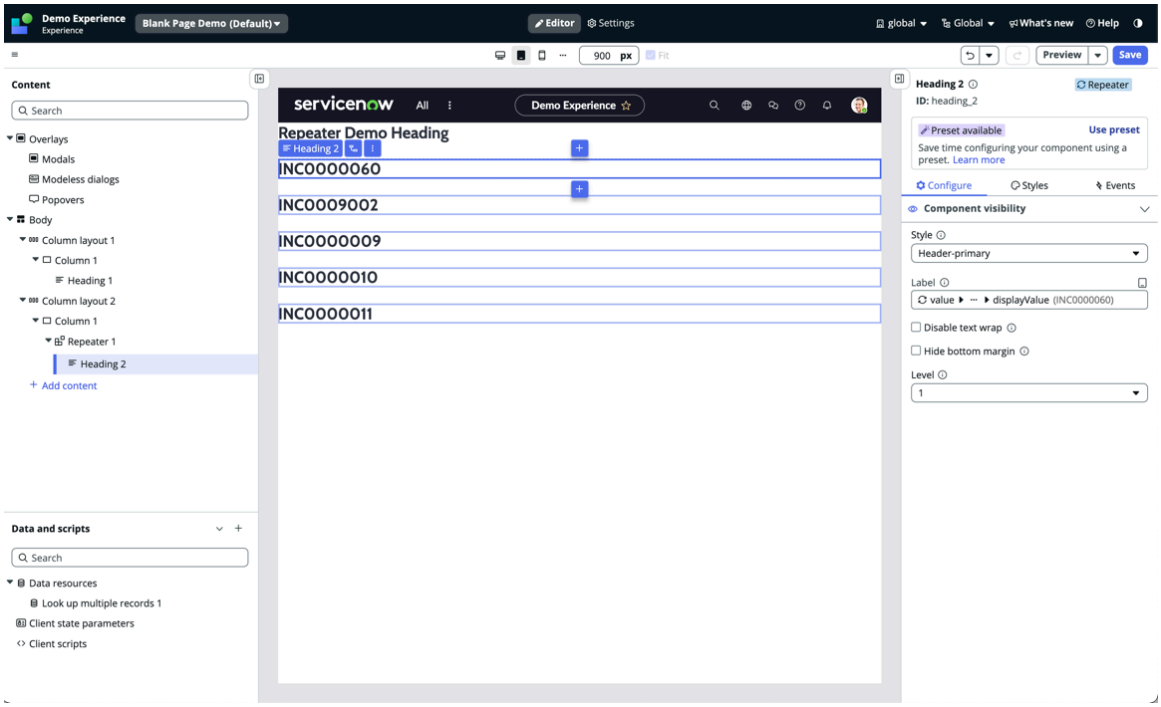
    [displayValue] は見出しコンポーネントにバインドされます。



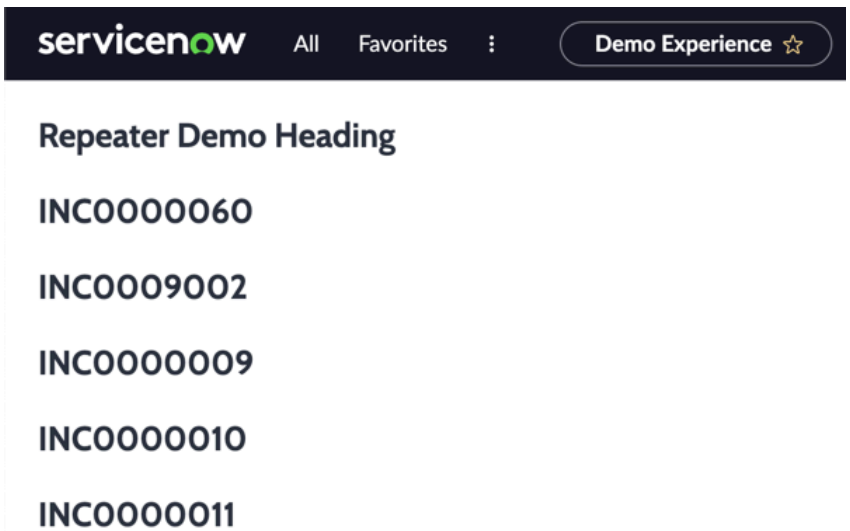
13. [保存] を選択します。

    データリソースにバインドしたコンポーネントがステージに表示され、インシデントテーブルから返される結果ごとに 1 回ずつ、合計 5 回繰り返されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



14. [プレビュー] ボタンを選択し、ページを表示してテストします。
タブが開き、繰り返されるデータがあるページプレビューが表示されます。



UI ビルダーページでデータを動的に公開する (高度な機能)

ServiceNow テーブル間でデータを同期し、UI ビルダー を使用してビルドしたページとデータを同期します。ページには同期されたデータがリアルタイムで表示され、ユーザーが情報を入力するとデータ/テーブルが更新されます。

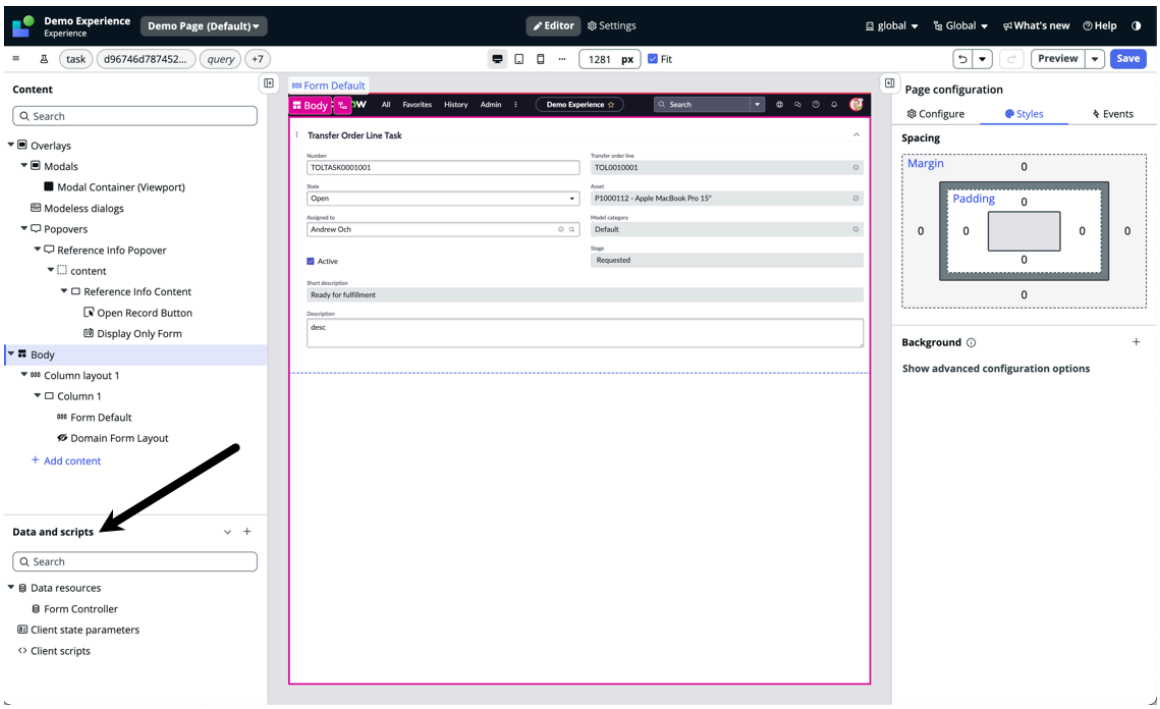
UI ビルダーのデータリソースの説明

UI ビルダーは、データリソースを使用して ServiceNow テーブル/データを同期します。データリソースは、UI ビルダーがコンポーネントに情報を表示するために使用するデータをフェッチします。UI ビルダー コンポーネントはデータリソースを使用して、さまざまなエクスペリエンス間でデータを同期します。データリソースにより、コンポーネントのデータが動的なものになります。つまり、すべてのページのデータを再作成する必要がなくなります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データリソースはデータリソースドロワーにあります。データリソースドロワーでは、ページのデータリソースを追加および構成できます。データリソースを構成した後、ページ上のコンポーネントと ServiceNow テーブル/データの間でデータを同期できます。

データリソースドロワー



データリソースドロワーには、次の 3 つのセクションがあります。

- データリソース：エクスペリエンスの一部であるデータリソース
- 構成/イベント：エクスペリエンス用に構成されたデータリソースとイベント
- プレビュー：データリソースによって返される情報の JSON

コンポーネント、その他のデータリソース、クライアントスクリプト、クライアントステータス、およびイベントの構成プロパティをこれらのデータリソースにバインドできます。

データリソースのフィルターの条件を設定します。詳細については、「コンポーネントへのデータ接続」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダーのデータリソースの仕組み

データリソースは、Glide、GraphQL、および REST API からデータをフェッチし、UI ビルダー ページ上のコンポーネントで使用するために変換します。

コンポーネントは、継承されたデータリソースインスタンスとローカルデータリソースインスタンスの両方を使用します。継承されたデータリソースは自動的に UI ビルダー ページにロードされ、ローカルデータリソースインスタンスを追加して構成できます。データリソースは指定された入力値に基づいて評価されます。これで正しいデータが取得されます。継承されたデータリソースとローカルデータリソースの詳細については、「UI ビルダーの継承されたデータリソースとローカルデータリソースの比較」を参照してください。

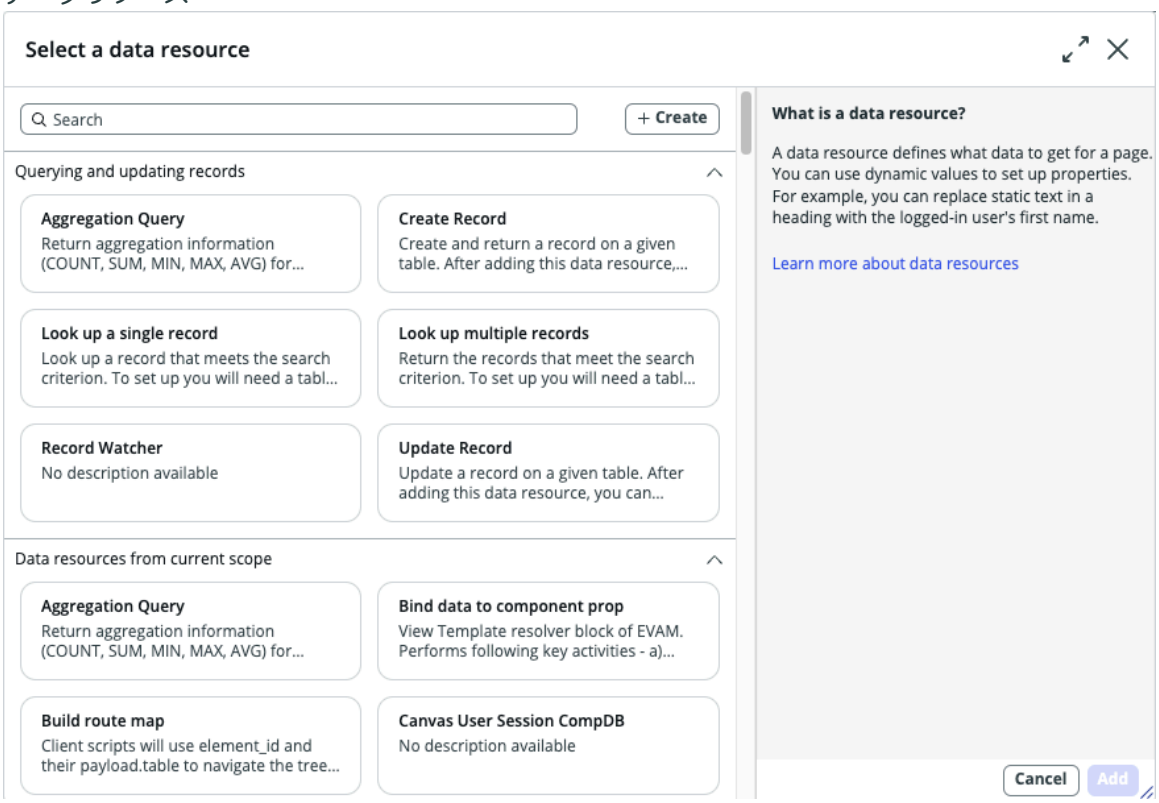
UI ビルダーのローカルデータリソース

サーバーデータ、操作、変換、または gForm API のようなクライアントデータなどのローカルデータリソースを選択して、データを UI ビルダーページに取り込むことができます。

注: UI ビルダー のページごとに 1 つの GlideForm のみがサポートされます。GlideForm の詳細については、ServiceNow Developer サイト を参照してください。

データリソースは、アプリケーション別にデータリソースドロワーに整理されます。さらに、サーバーデータや変換などのデータリソースタイプ別に分類されます。たとえば、グローバルアプリケーションにはいくつものデータリソースがありますが、カスタマーサービス管理 (CSM) ワークスペースアプリケーションには少数のデータリソースしかありません。

データリソース



使用しているアプリケーションに応じて、さまざまなデータリソースが表示されます。グローバルアプリケーションを選択した場合、CSM 構成可能ワークスペースアプリケーションを選択した場合とは異なるデータリソースが [サーバーデータ] に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダーのデータバインディングの使用

データバインディングを使用すると、ページとコンポーネントをデータリソースに同期することで、動的ページを作成できます。データをコンポーネントにバインドしてバックエンドからデータを取得し、フィールドパラメーターを使用して URL からプロパティを取得できます。URL パラメーターを変更すると、パラメーターに応じて異なるデータを表示する動的ページを作成できます。

次の方法でデータをコンポーネントにバインドできます。

コンテキストのバインディング

URL パラメーターを使用して、URL の一部をページのプロパティに接続します。たとえば、`@context.props.table` などの @context 構文を使用して、URL からコンポーネントにテーブル名をリンクできます。

`table` という名前の必須フィールドを持つ UI ビルダー ページがあるとします。ページの URL は、/demo/page/<table-name> のようになります。<table-name> は `incident` などとなります。データは、親データリソースから取得することも、ページ固有のローカルプロパティにすることもできます。

コンポーネントプロパティ、他のデータリソースプロパティ、またはイベント詳細をページプロパティにリンクするには、`@context.props.table` バインディングを使用します。コンテキストバインディングを使用している場合は、URL にテスト値を指定するか、ページの構成でそのプロパティの固定値を設定します。

データリソースのバインディング

クライアントステータス、GraphQL、REST API など、インスタンスのバックエンドからデータをフェッチするデータリソースを使用します。これらのデータソースには、UI ビルダー ページ上の要素にリンクできるプロパティがあります。

たとえば、[ルックアップレコード] データリソースを使用している場合は、ボタンコンポーネントで利用できます。`@data.lookup_record_1.result.number.displayValue` のような「ラベル」プロパティでデータ式を使用できます。

コンポーネントのバインディング

コンポーネントのバインディングを使用して、あるコンポーネントを別のコンポーネントに接続します。UI ビルダー ページにリストメニューコンポーネントがあるとします。リストメニューは、現在選択されているリストを同じページ上の他のコンポーネントに表示します。他のコンポーネントは、`@elements.list_menu_1.selectedListId` などの式を使用してデータにリンクすることで、データにアクセスできます。

クライアントステータスパラメーターのバインディング

クライアントステータスパラメーターのバインディングを使用して、クライアントサイドアプリケーションと UI ビルダー コンポーネントの間でデータを接続して同期します。パラメーターバインディングを使用すると、クライアントステータスはコンポーネント内のデータを自動的に更新できます (その逆も同様です)。`@state` 構文を使用して、ステータスプロパティをクライアントステータスパラメーターにバインドします。

UI ビルダー で利用可能なデータソースのタイプ

次の表に示すデータリソースタイプを使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データリソースタイプ

データリソースタイプ	説明
コントローラー	データとイベントロジックをカプセル化し、コンポーネントのプリセットを有効にします。
GraphQL	実行される GraphQL クエリとミューテーション。
変換	入力データを別の形式に変換するスクリプト。
クライアントステータス	クライアント情報、ドメイン固有のステータスまたはロジック、ユーザー設定などを含むクライアントサイドのデータリソース。
総合	複数のデータリソースを含む単一の再利用可能なデータリソース。
REST	REST API 要求を介して作成されたデータリソース。

UI ビルダーの継承されたデータリソースとローカルデータリソースの比較

継承されたデータリソースは、アプリケーションなどの UI ビルダー ページの周辺部分の情報を共有します。ページが大きなフレーム内にあり、そのフレームまたはその周りの他の部分から何らかの情報を取得することを想像してください。この情報は、パズルのピースをつなぎ合わせるように、ページのプロパティに接続することで使用できます。フレームからこの情報を取得する場合に、自分で再度取得する必要はありません。

ローカルデータリソースは、自分で UI ビルダー ページに追加するアイテムです。出張要求のページを作成しているとします。従業員データをリストコンポーネントに同期すると、従業員は自分の情報にリンクされた出張を要求できるようになります。

これらのデータリソースを使用するには、アプリから取り込むか、ServiceNow プラットフォームで作成します。その後、UI ビルダー で、これらのリソースをコンポーネントで使用できるようにします。次に、データをコンポーネントに関連付けて、操作できるようにします。たとえば、一連のレコードを UI ビルダーで公開して、コンポーネントにリンクできます。そこから、新しいレコードの保存などのデータ処理を行うようにコンポーネントを構成します。

ページでデータを同期したら、ページ内でデータを必要とする部分 (コンポーネントなど) に接続します。これは、適切なパズルのピースが適切な場所に収まることを確認するようなものです。これで、ページのその部分に対し、データをどう処理するかを指定できます。たとえば、データを使用して従業員の新しい出張計画を追加できます。

UI ビルダーデータリソースのプロパティ

UI ビルダー にデータリソースを追加するのは、情報の取得先を把握しているツールを追加するようなものです。データリソースプロパティは、データを UI ビルダー ページに取り込む方法をデータリソースに伝える指示です。これらのプロパティは、取得するデータ、その編成方法、従うべき条件を

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データリソースに指示します。たとえば、これらのプロパティを使用して、検索するテーブル、データのソート方法などを指定できます。これらのプロパティは、データリソースを正しく動作させ、必要なデータを提供するものです。

UI ビルダーデータリソースのスクリプト

データリソーススクリプトは、特定のデータを返すために UI ビルダー に与える特別な指示です。たとえば製品のリストを処理している場合、スクリプトを使用してデータリソースに対し、在庫のある製品のみを表示したり、製品を特定の順序で並べ替えたりすることを指示できます。データリソーススクリプトを使用すると、ルールやアクションの追加など、UI ビルダー で情報をどのように処理するかをカスタマイズできます。

ページへのデータリソースの追加と構成

データリソースを追加して、UI ビルダー のページ上のテーブル、レコード、またはその他の要素からデータを動的に公開します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

データリソースを含むアプリケーションを選択します。グローバルアプリケーションには、最も一般的なデータリソースが含まれています。データリソースは、サーバーデータ、操作、および変換に関連しています。ルックアップレコード、テーブルルートマップ、GlideRecord クエリなどのデータリソースを追加できます。

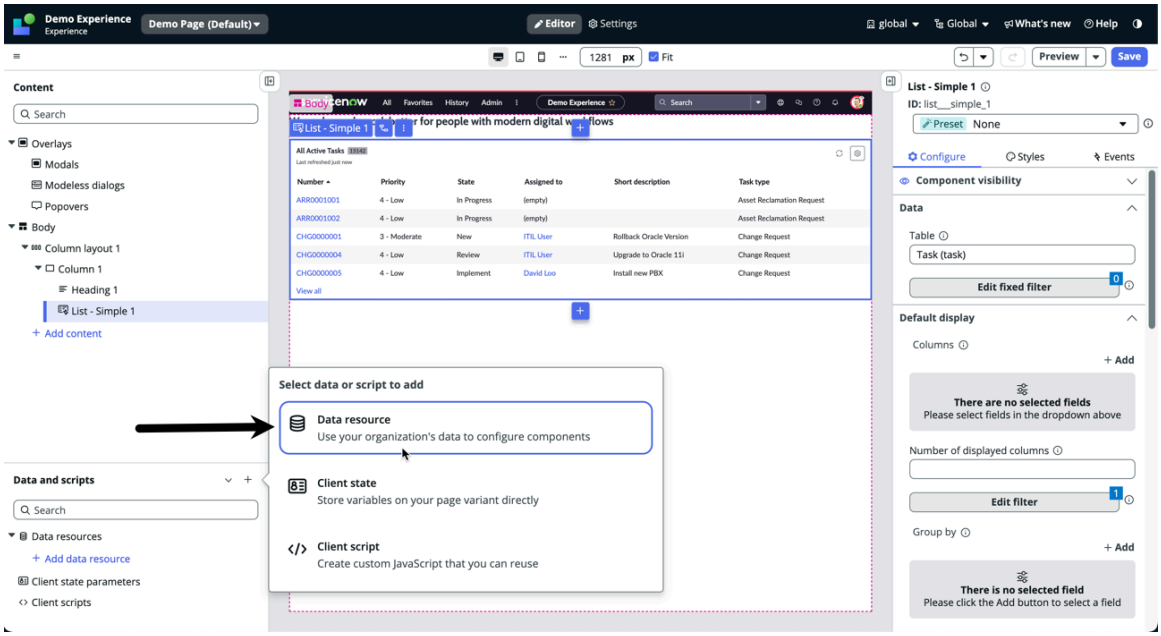
このタスクについて

UI ビルダー のデータリソースセクションでは、ページのローカルデータリソースインスタンスを追加および構成できます。ローカルデータリソースインスタンスは、データをコンポーネントに動的に公開します。継承されたデータリソースがある場合、[継承されたデータリソース (inherited data resource)] ペインに一覧表示されますが、読み取り専用です。UI ビルダー では、継承されたデータを構成しません。セキュリティ権限で制限されていない限り、任意のアプリケーションのデータリソースを任意のページに追加できます。ページに同じデータリソースの異なる構成が必要な場合に、同じデータリソースの複数のローカルインスタンスを追加できます。

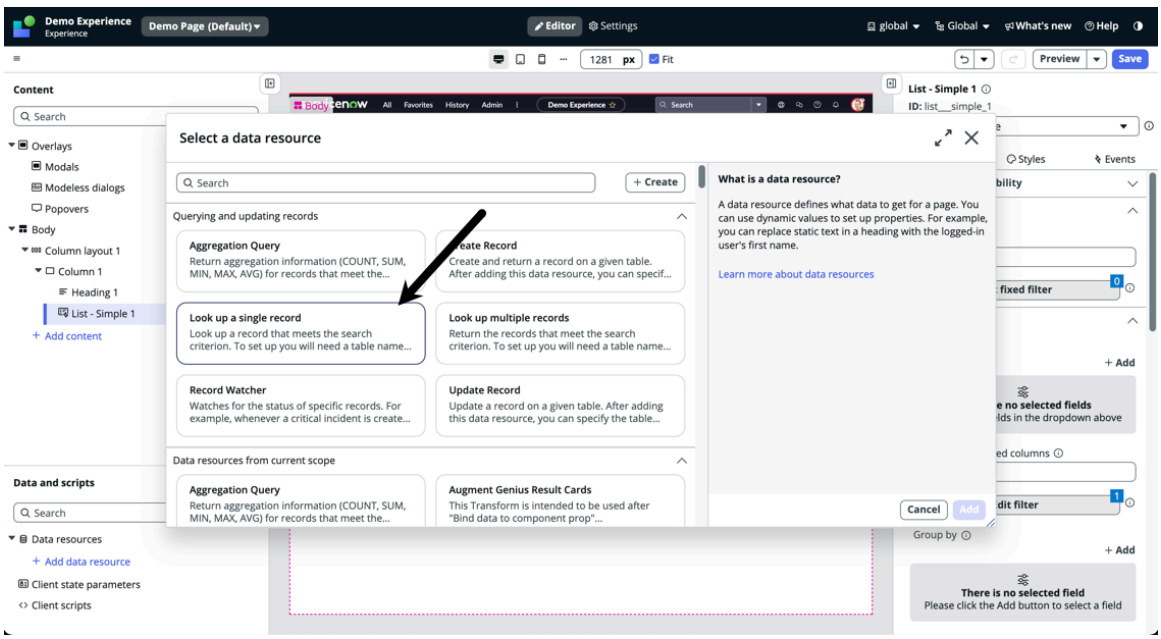
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
4. コンポーネントをページに追加します。
   コンポーネントにデータリソースをバインドするには、ページにコンポーネントが必要です。
5. データリソースドロワーで **[+]** アイコンを選択します。
6. [データリソース] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

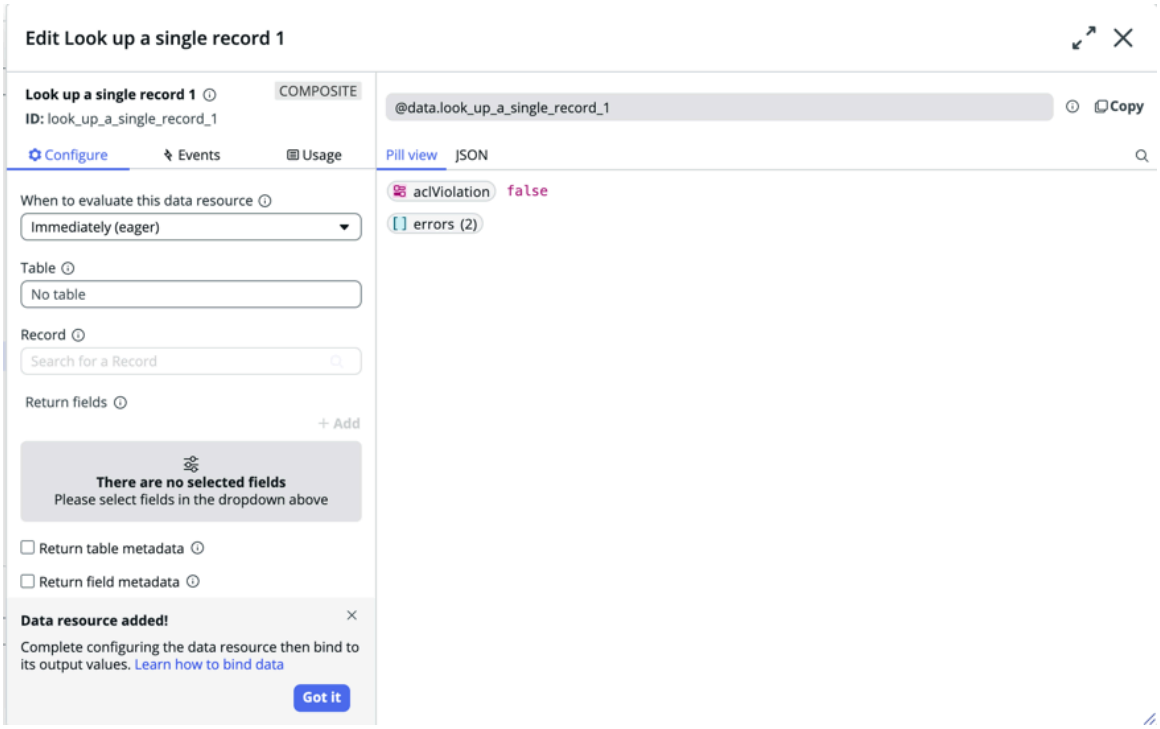


7. ページに追加するデータリソースを選択します。
たとえば、[単一のレコードを検索] を選択できます。

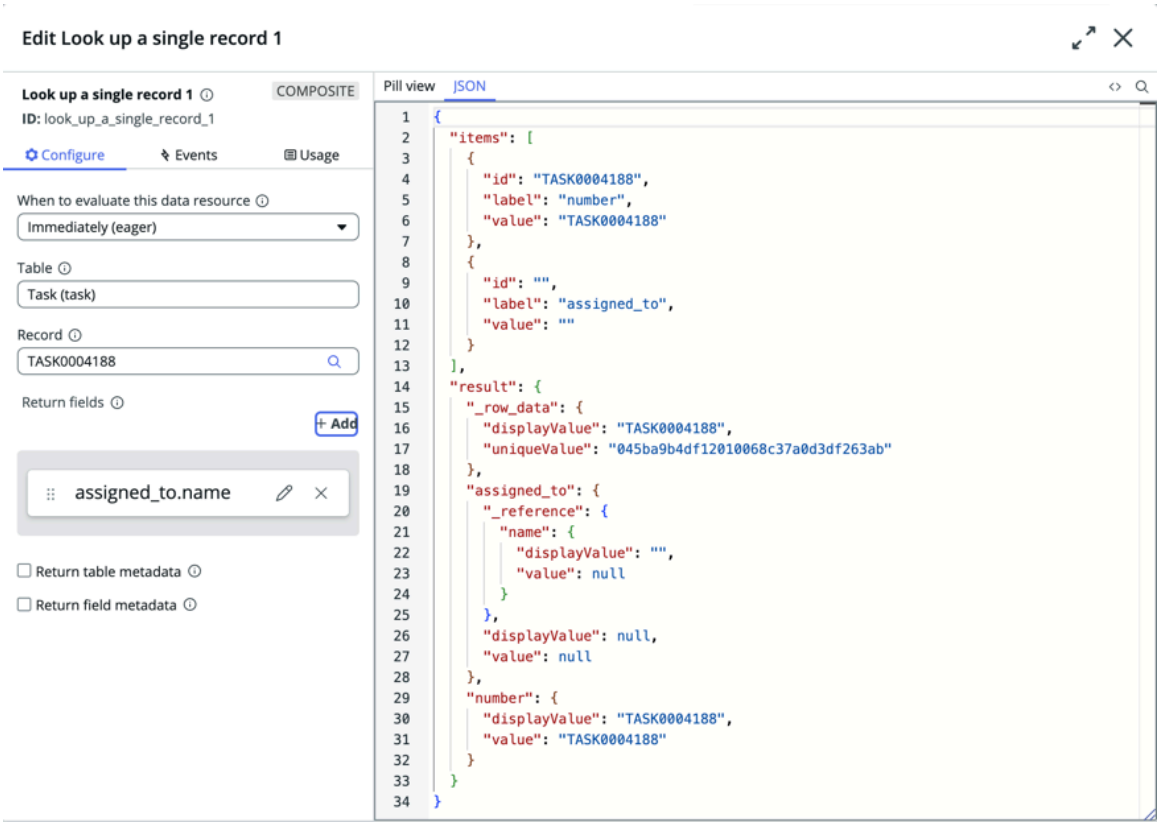


8. [追加] を選択して、データリソースをページに追加します。
データリソース構成モーダルが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

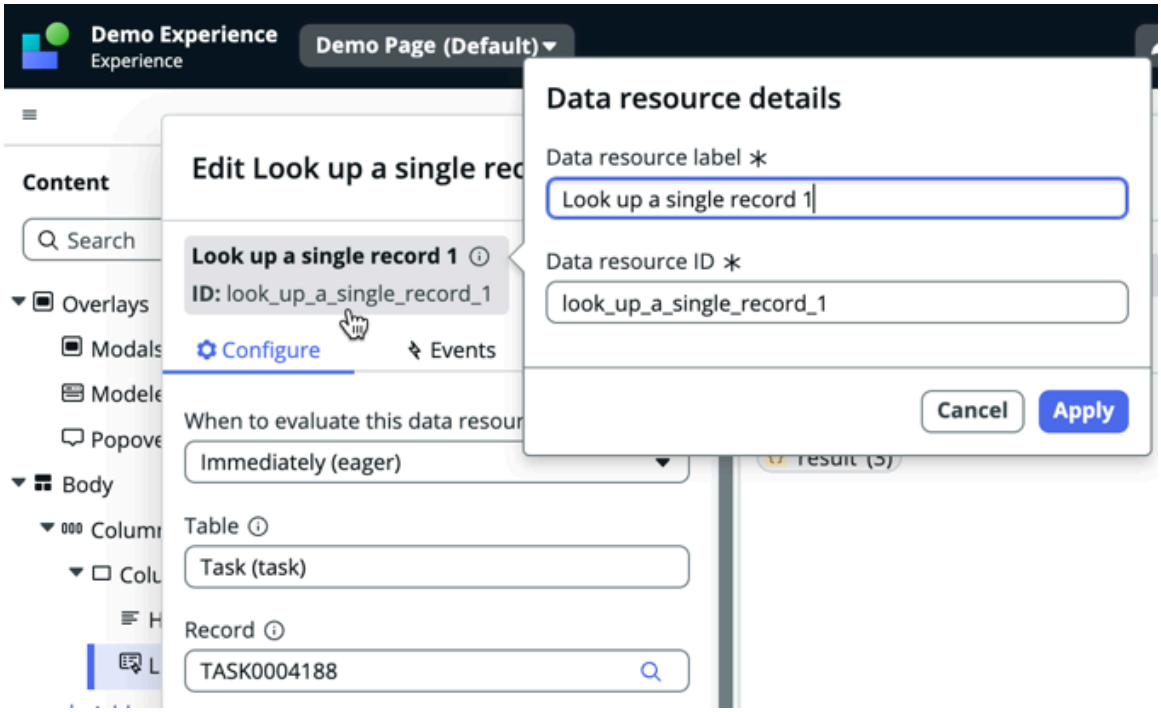


9. [構成] タブでデータリソースの必須情報を入力して、必要なデータを公開します。
構成フィールドは、選択されているデータリソースインスタンスに応じて異なるものになります。
データリソースをページに追加すると、[構成] パネルとプレビューウィンドウにエラーが表示される場合があります。UI ビルダー は、ページに追加されたデータリソースを評価しようとします。
必須のデータリソースフィールドが入力されるまでエラーが残ります。



10. デフォルトのラベルを選択して、カスタムラベルと ID 値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



データリソースがデータおよびスクリプトドロワーに表示されます。

11. UI ビルダー ヘッダーで、 [保存] を選択します。

次のタスク

データリソースがページに接続されたので、データをコンポーネントにバインドしたり、イベントをデータリソースにバインドしたりできます。詳細については、「コンポーネントへのデータ接続」と「データリソースへのイベントのバインド」を参照してください。

コントローラーを使用した UI ビルダー ページへのデータのバインド (高度な機能)

コントローラーは、データとイベントロジックのリンクを単純化して、UI ビルダーでコンポーネントのプリセットを有効にします。

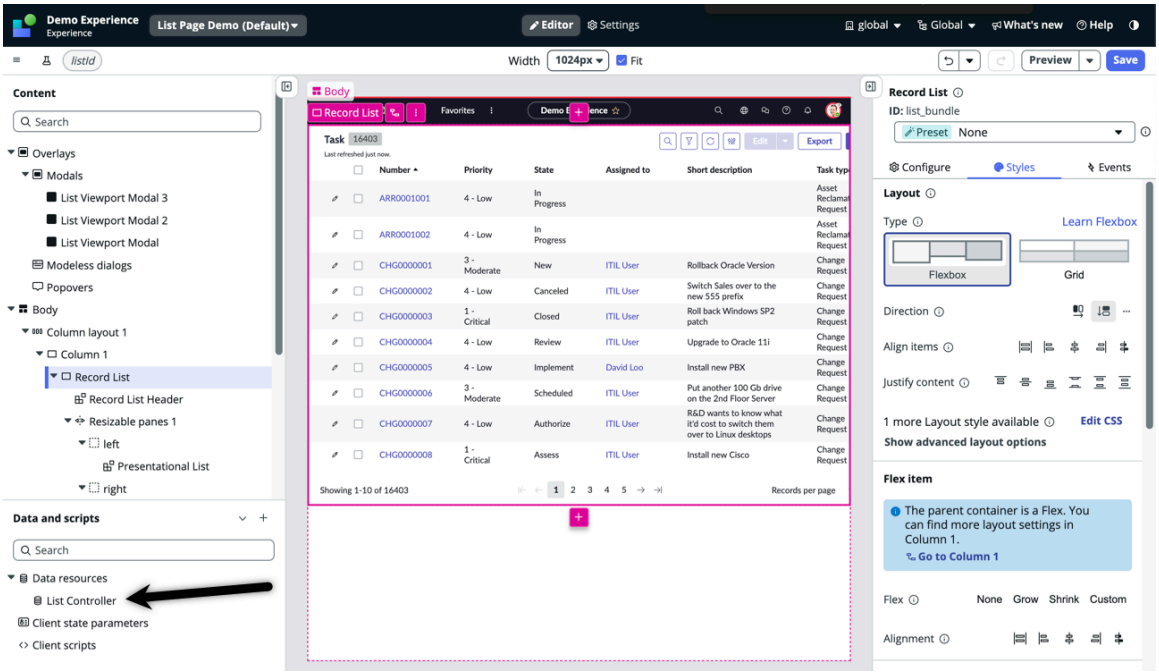
コントローラーにより、ページ作成者は UI ビルダー の自分のページに、データとスクリプトを簡単に接続できます。コントローラーは、コンポーネントプリセットがデータをコンポーネントにバインドするために使用する一種のデータリソースです。コントローラーは、コンポーネントのプリセットを有効にするデータとイベントロジックが含まれている点で、他のデータリソースとは異なります。コントローラーはサーバーからコンポーネントにデータを取り込み、コンポーネントとのやり取りに基づいて、更新されたデータをサーバーに戻します。コンポーネントのプリセットの詳細については、「プリセットを使用してコンポーネントを自動的に構成する」を参照してください。

注: Xanadu では、コントローラーの作成はサポートされていません。

コントローラーは、UI ビルダー ページテンプレートを使用するとデフォルトで追加されます。データリソースドロワー内で、コントローラーがない UI ビルダー ページにコントローラーを追加できます。または、コンポーネントをページに追加した後にコンポーネントプリセットを選択するという方法もあります。データリソースドロワーを開くと、ページに構成されているコントローラーを表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データリソースドロワーのコントローラー



UI ビルダーのデータコントローラーのタイプ

データコントローラー

データコントローラーは、UI ビルダー ページに表示する情報を決定します。データコントローラーは、データリソースを使用してリアルタイムで情報を同期し、ユーザーが情報を入力するとデータ/テーブルを更新します。データコントローラーをページに手動で追加できます。

UI コントローラー

UI コントローラーは、UI ビルダー ページテンプレートを使用するときにページに追加され、手動で追加することはできません。

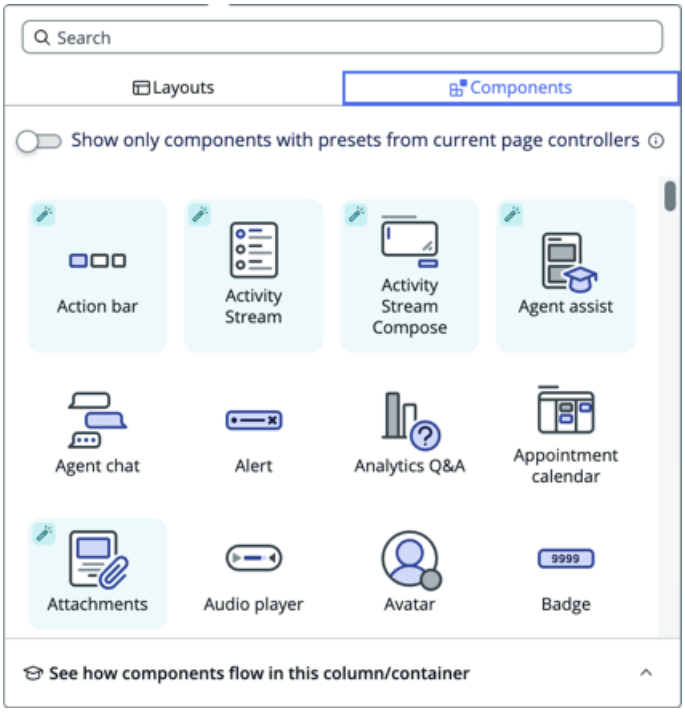
UI ビルダーのプリセットのあるコントローラーの使用

1 つの UI ビルダー ページに複数のコントローラーを追加できますが、同じコントローラーを 2 回使用することはできません。コントローラーを必要とするコンポーネントプリセットを使用しようとすると、UI ビルダー にはコントローラーの追加を求めるプロンプトが表示されます。

すべてのコンポーネントがコントローラーで動作するわけではありませんが、コンポーネントライブラリでどのコンポーネントが動作するかを簡単に確認できます。UI ビルダー ページにコントローラーが構成されている場合は、コンポーネントライブラリを開いて、どのコンポーネントにプリセットがあるかを確認できます。プリセットが利用可能なコンポーネントは、コンポーネントライブラリでハイライト表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プリセットを持つコンポーネント



コントローラーの追加

コンポーネントのプリセットを使用するには、データコントローラーをページに追加します。

始める前に

必要なロール：admin

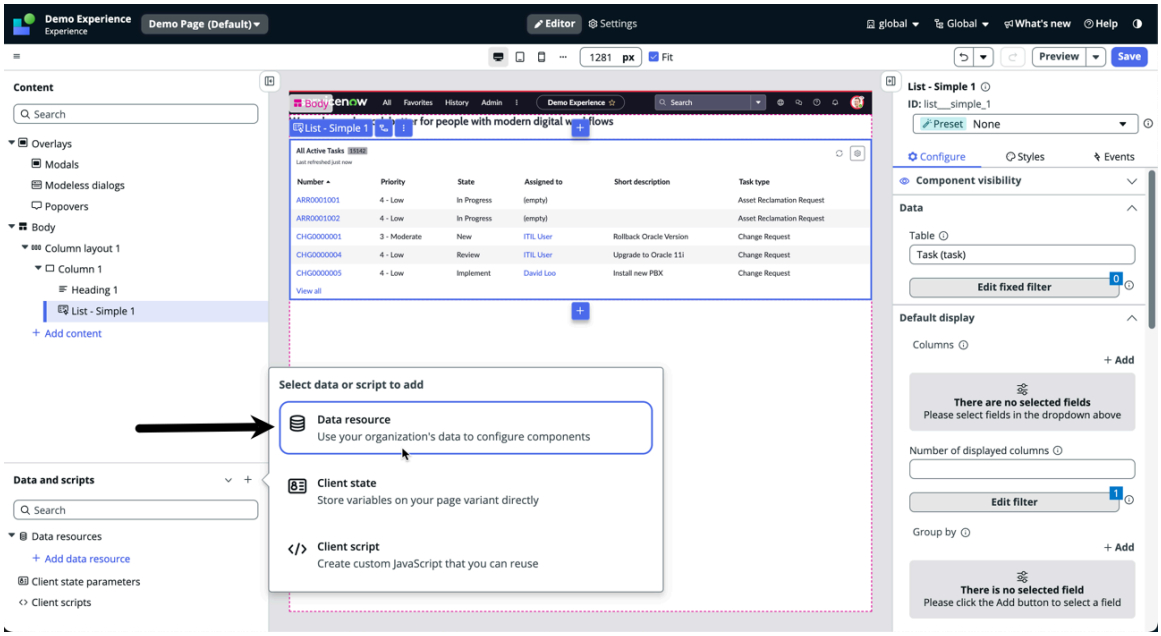
このタスクについて

レコードコントローラーは、Xanadu のページに追加できる唯一のコントローラーです。

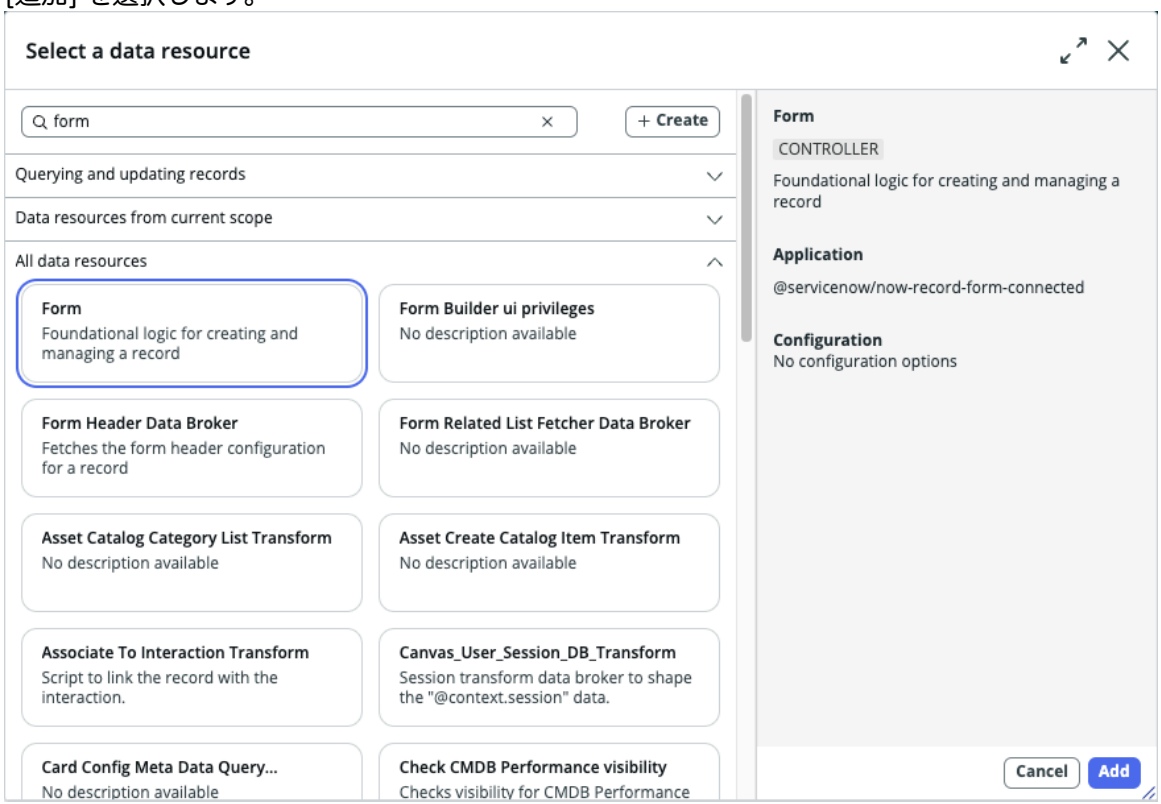
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページまたはページバリアントを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. データリソースドロワーで **[+]** アイコンを選択します。
5. [データリソース] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

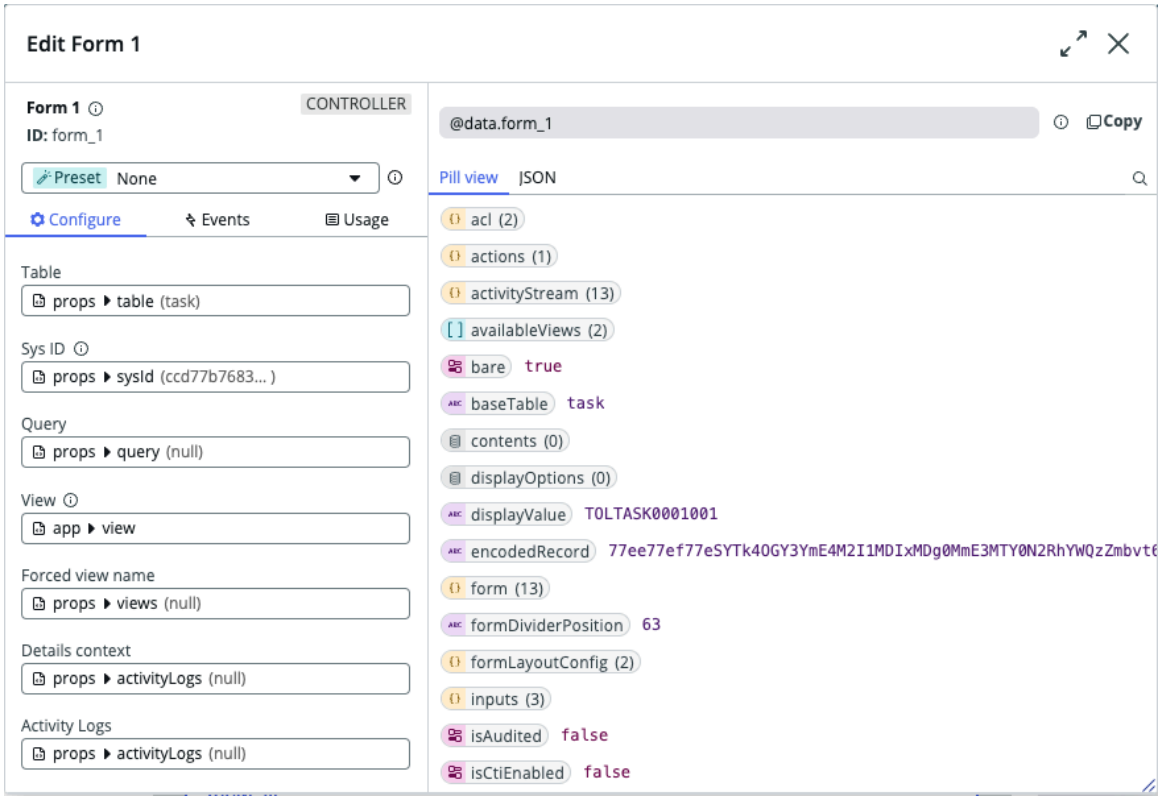


6. 検索フィールドに「`form`」と入力します。
7. ページに追加するコントローラーを選択します。
8. [追加] を選択します。

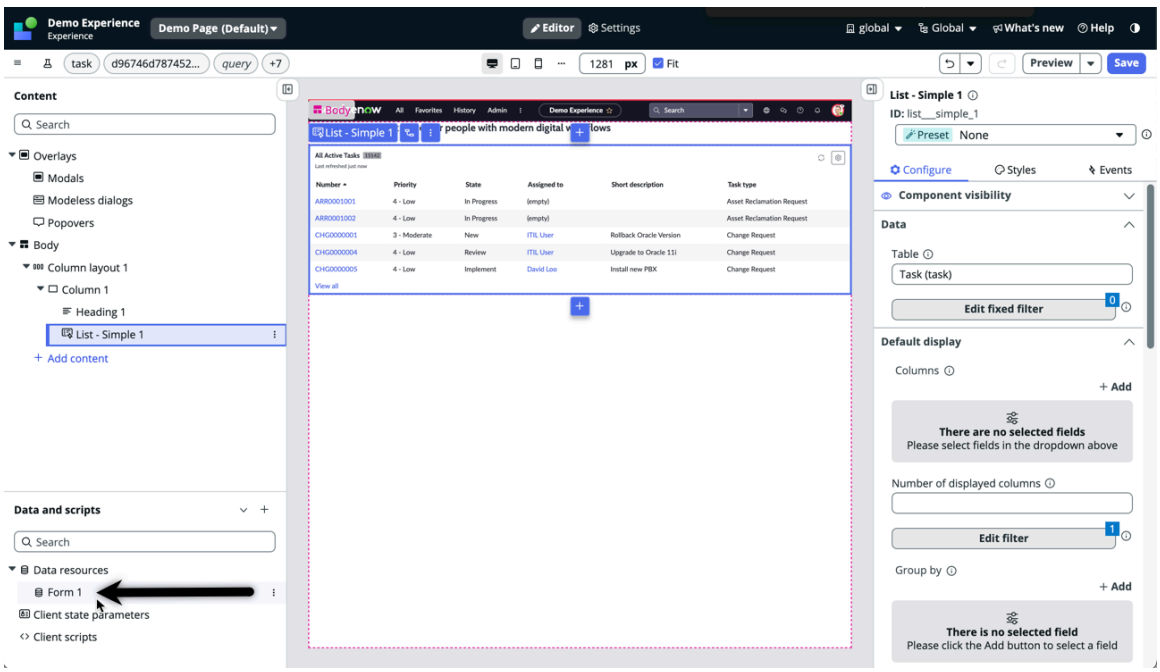


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. フィールドに入力して、コントローラーを構成します。



タスクの結果
フォームコントローラーが [データリソース] セクションに表示されます。



コントローラーの編集

テーブルからデータをプルするようにコントローラーを構成します。

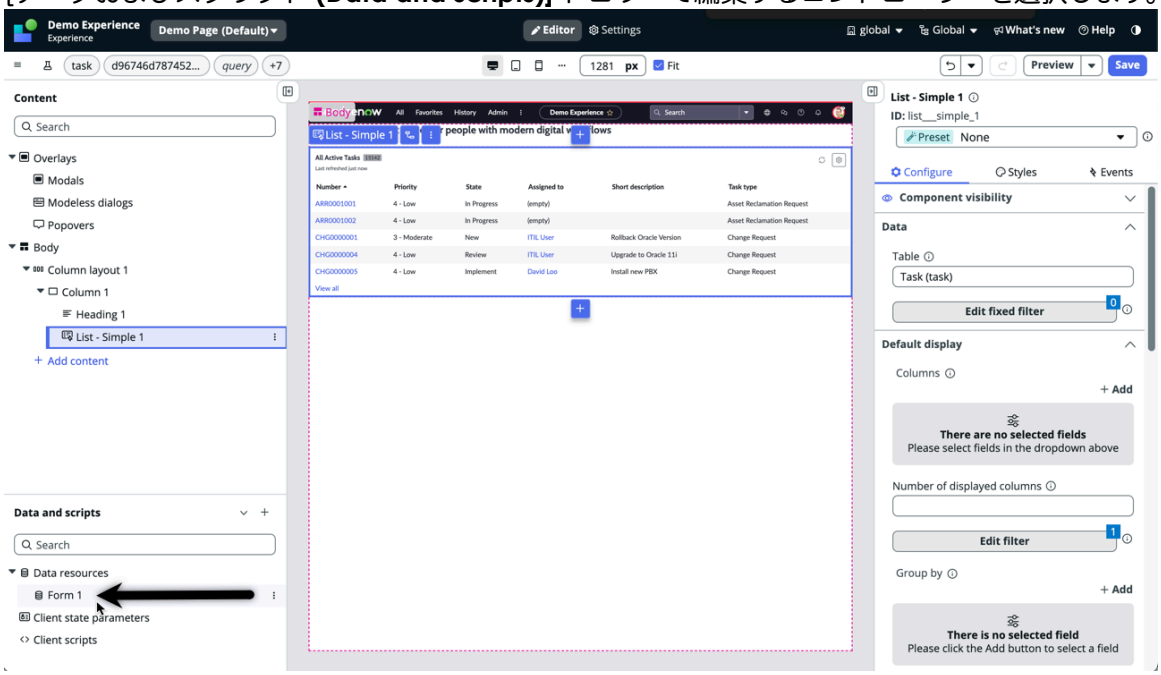
始める前に

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. [データおよびスクリプト **(Data and scripts)]** ドロワーで編集するコントローラーを選択します。



5. フォームのフィールドに入力します。

フォームコントローラーフォーム

フィールド	説明
タイプ	コントローラーは、すべてのコントローラーのタイプとして事前定義されています。
テーブル	コントローラーがデータをプルするテーブルを追加します。
Sys ID	レコードに対する一意の識別子を入力します。値を指定するか、または -1 を使用して新しい値を生成します。

6. コントローラーの編集モーダルを閉じます。
7. [保存] を選択します。

コントローラーの削除

UI ビルダー で不要になったコントローラーを削除します。

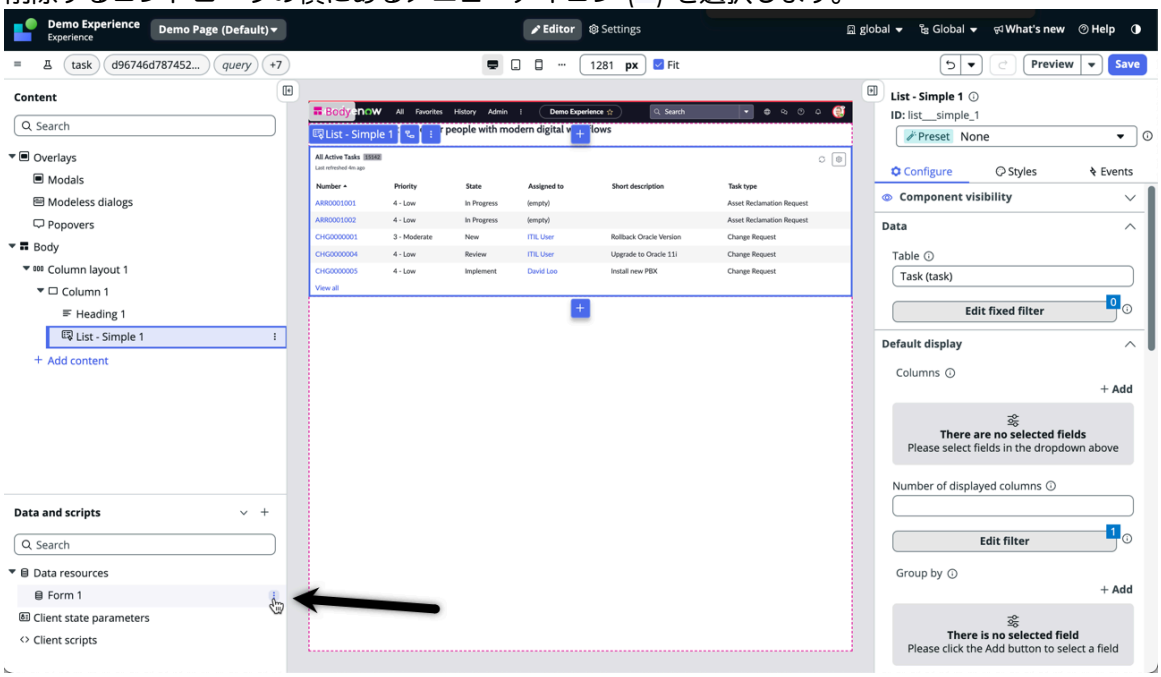
始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

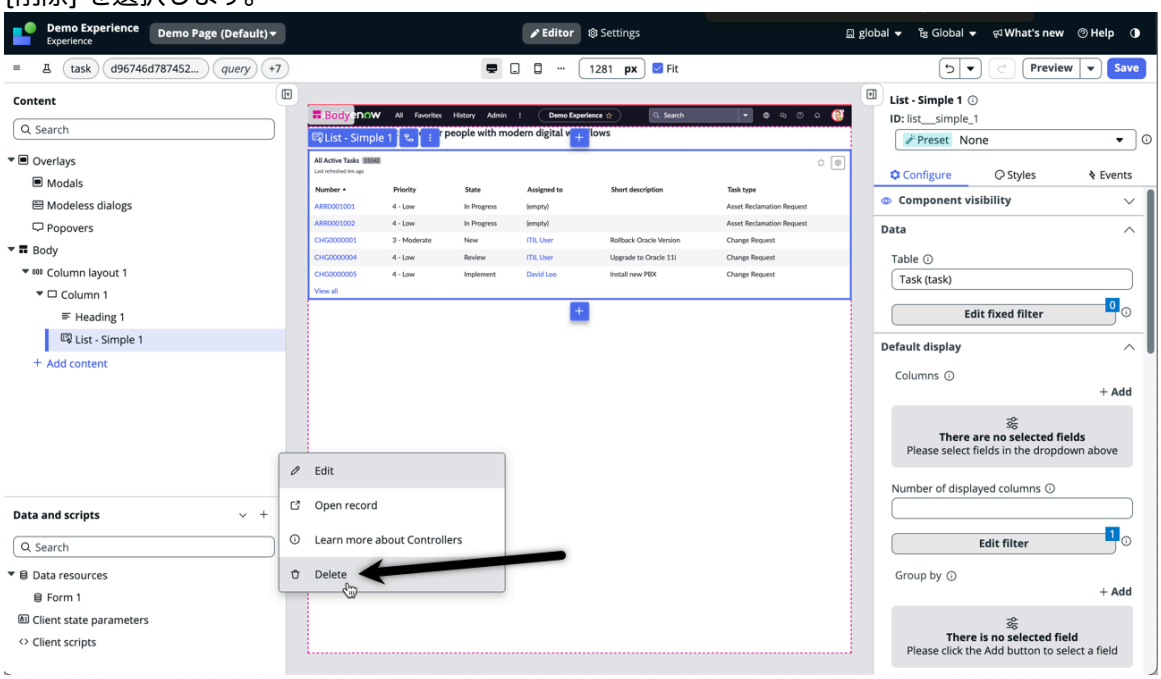
このタスクについて
ページテンプレートで作成されたページからは、コントローラーを削除できません。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. 削除するコントローラーのページを開きます。
4. 削除するコントローラの横にあるメニューアイコン (⋮) を選択します。



5. [削除] を選択します。



コントローラーがローカルデータリソースインスタンスから削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントローラー API でのプロパティとイベントの表示

コントローラーのパブリック API は、コントローラーがプリセットに提供する出力データを定義します。これには、プリセットが選択されたときにコンポーネントによって使用されるプロパティ値と処理済みイベントが含まれます。プロパティとイベントの情報は UI ビルダーで表示できます。

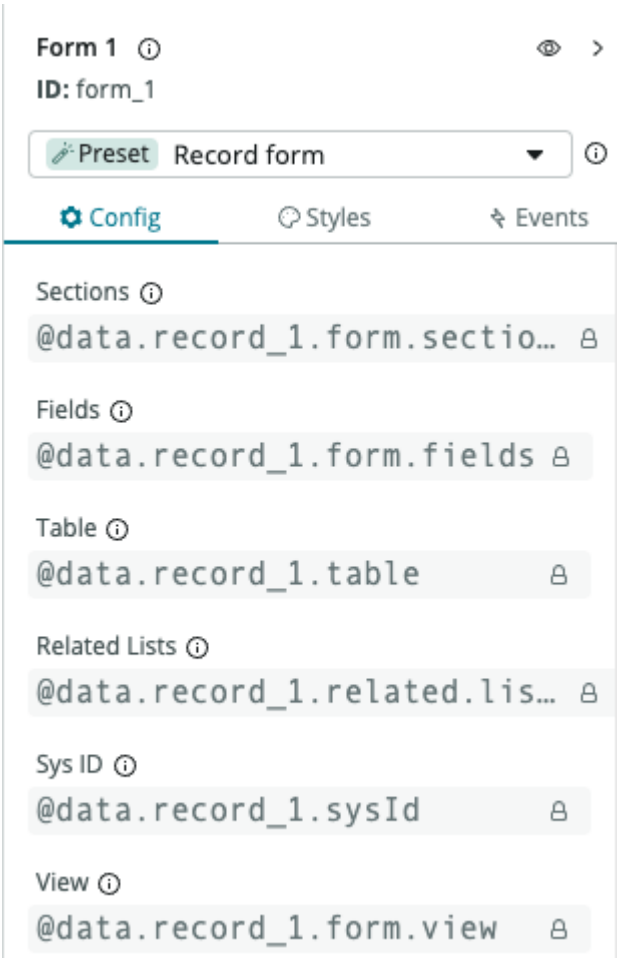
プリセットのコンポーネントプロパティ値は、静的な値またはコントローラー出力データのパスにすることができます。UI ビルダーのデータリソースインスペクターを使用して、プリセットで使用されるコントローラーデータ構造からの値を表示できます。プリセット内のイベントによって伝達されるペイロードを表示するには、そのイベントのイベントハンドラーピッカーを確認することができます。

コントローラー API でのプロパティの表示

事前設定されたプロパティは UIB データインスペクターで表示できます。使用可能な値を把握しておくと、コンポーネントが設計内でどのように動作するかを理解し、上書きできるプリセットプロパティを特定する際に役立ちます。

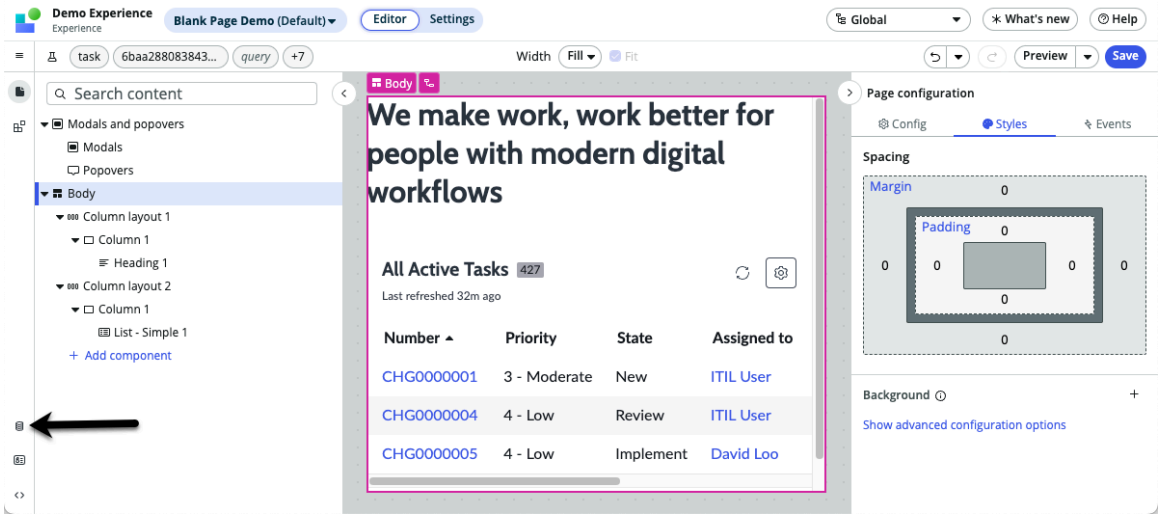
この手順は、プリセットがあるコンポーネントをページに配置し、コントローラーが構成済みであることを前提としています。手順については、「コントローラーの追加」を参照してください。

[構成] タブには、事前設定されたプロパティ値がコントローラー出力へのパスとして表示されます。基本のデータパスは `@data.<controller_name>` と表されます。パスの残りの部分は、コントローラーデータ階層内のカテゴリの内容を使用してビルドされます。このパスを使用して、コントローラーが構成されているレコードの現在の値を表示できます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. コンポーネントのデータリソースを表示するには、左下のサイドバーでデータアイコンを選択します。



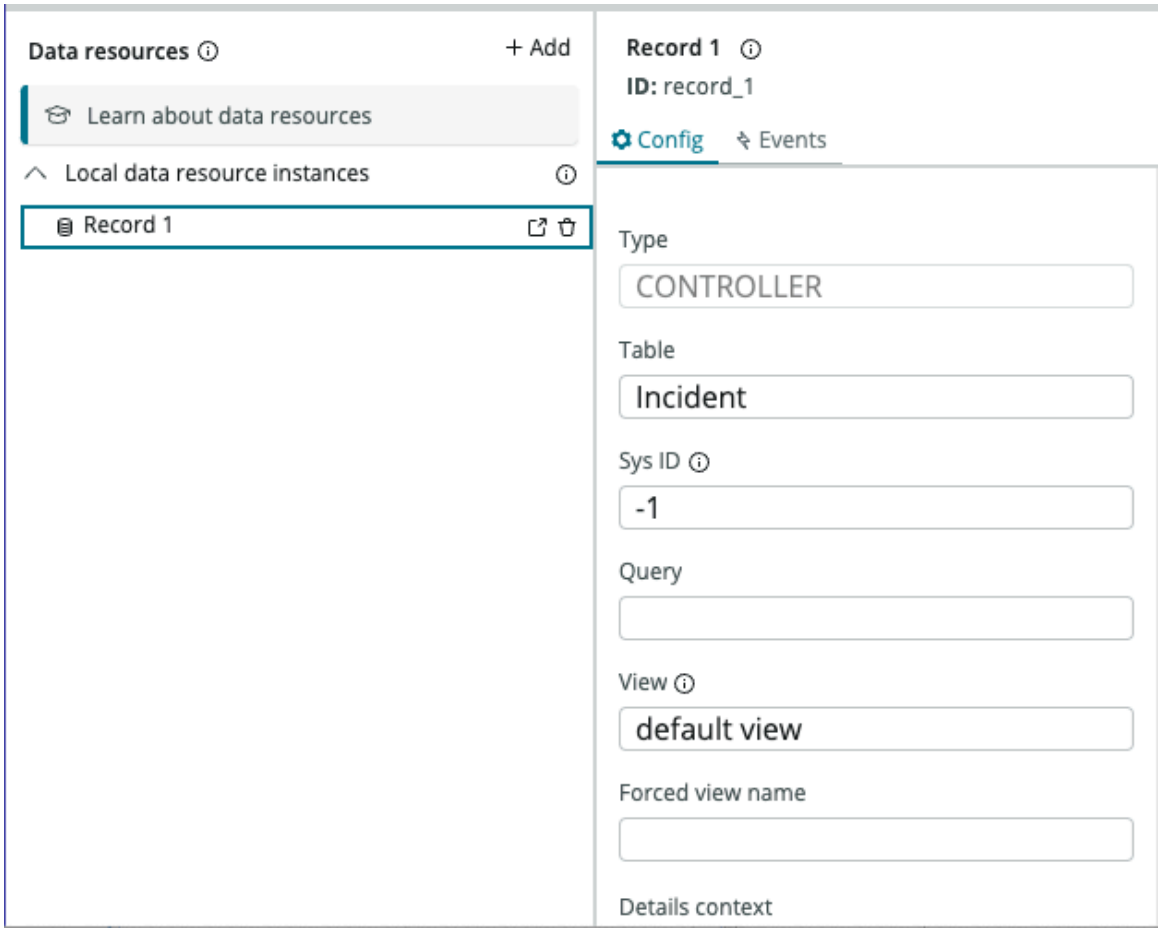
3 列の UIB データインスペクターが表示されます。

2. データリソースがリストされている最初の列で、出力を表示するコントローラーを選択します。

選択したコントローラーの構成データが 2 列目の [構成] タブに表示されます。これらは、ページに配置したプリセットを使用して最初のコンポーネントのコントローラーを構成したときに入力した入力プロパティです。必要に応じて、これらの接続値を編集できます。

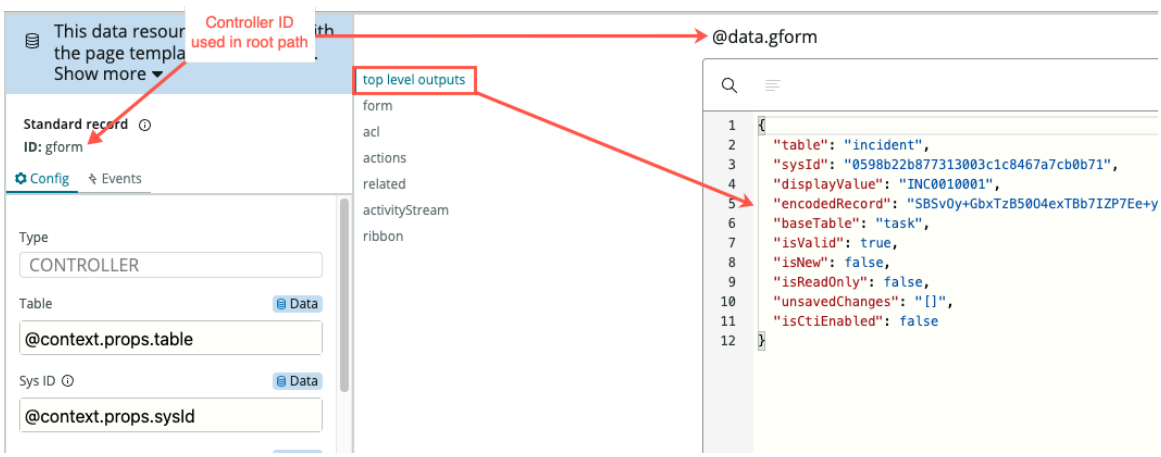
> **注:** **[Sys ID]** フィールドの値として **-1** を設定すると、新しいレコードのコントローラーが構成されます。次にコントローラーは、完全な GUID を生成します。これは、レコードを保存する前に、レコードに対するデータを格納するために使用できます。これにより、添付ファイルの保存など、新しく作成されたレコードでアクションを実行できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. 3 列目で [トップレベルの出力 **(top level outputs)]** を選択します。

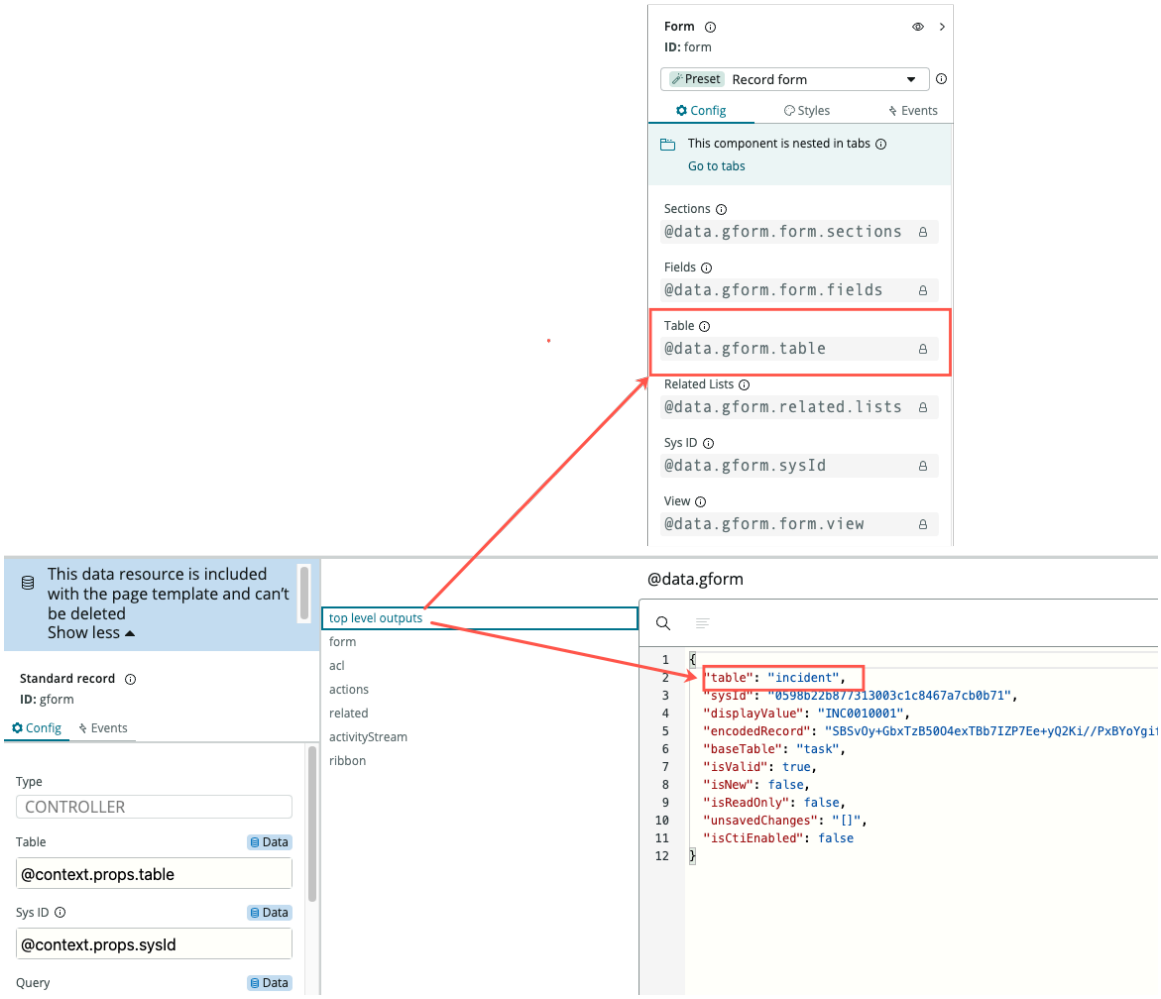
これは、コントローラーデータ階層の親レベルであり、プリフィックス `@data.`、それに続くコントローラー ID で示されます。この組み合わせにより、データへのルートパスが形成されます。トップレベルの出力に含まれるデータは、隣接するコードフィールドに表示されます。これらは、プリセットとスクリプトで使用できます。そのレベルの他のプロパティは、すべてのレコードに適用される共通プロパティです。



プリセットがコンポーネントプロパティをコントローラー出力にマップすると、値の代わりに出力へのパスが表示されます。パスは **@data.<**コントローラー ID**>.<**トップレベルから出力プロパティへのパス**>** として示されます。これを値として、または式の一部として使用できます。

この例では、プリセットのマッピングによって `@data.gform.table` へのパスが得られます。

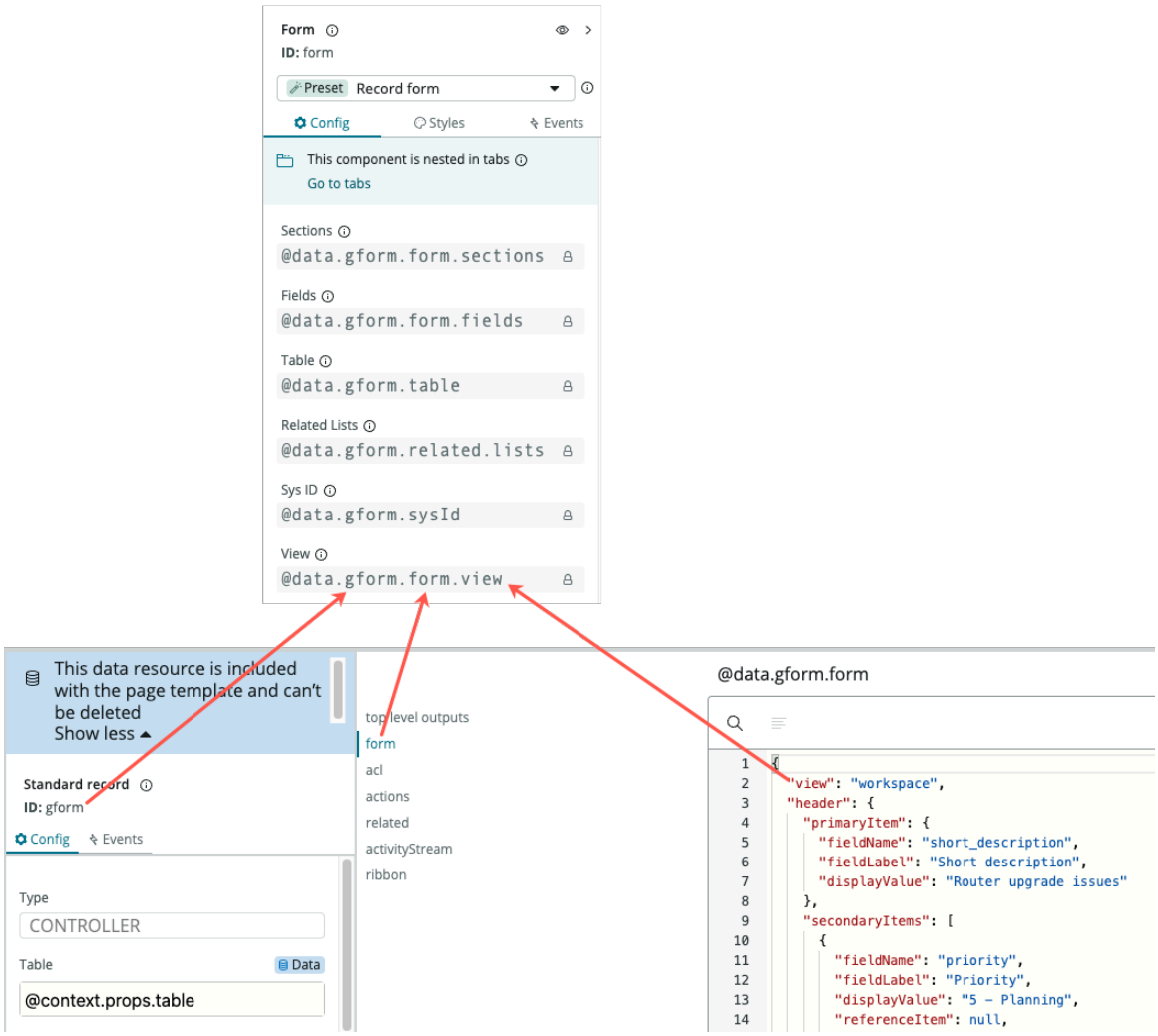
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. トップレベルの下のデータを表示するには、プリセットプロパティ値のパスで示される子カテゴリを選択します。

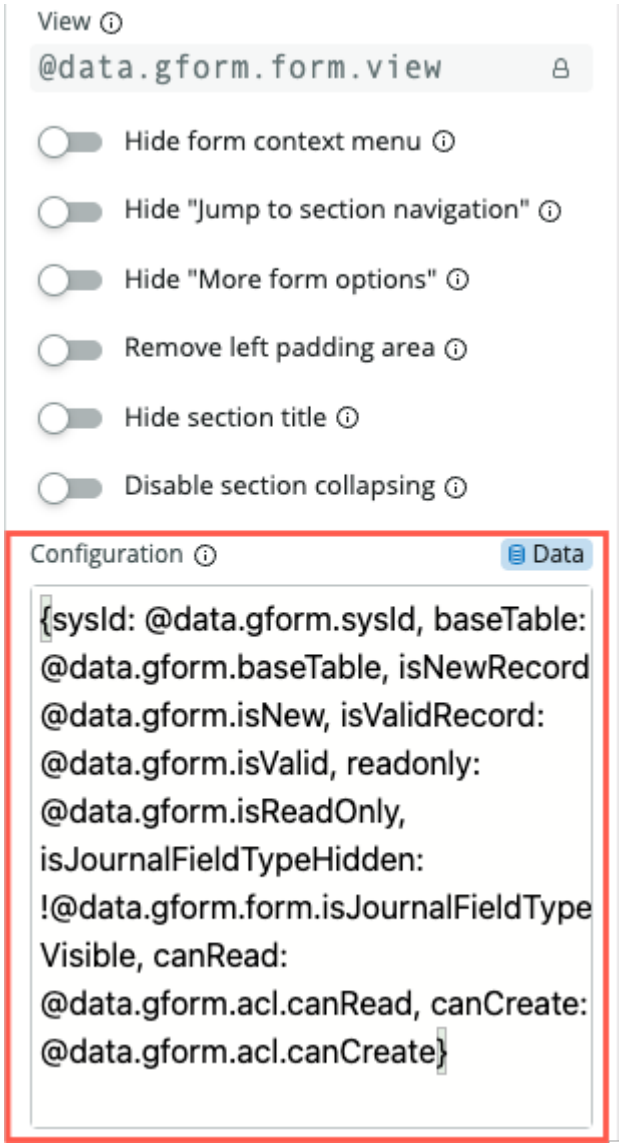
   子カテゴリの名前は `@data.<controller ID>.<category>` としてパスに表示されます。そのカテゴリのデータが当該パスに追加されます。コードフィールドの上にあるルートパスは、使用されている子カテゴリを示します。この例では、`form` カテゴリの **view** プロパティへのパスは `@data.gform.form.view` として表されます。そのプリセット値は、**workspace** ビューにフォームを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



この例では、複数のコントローラー出力プロパティを式で使用してオブジェクトをビルドしています。

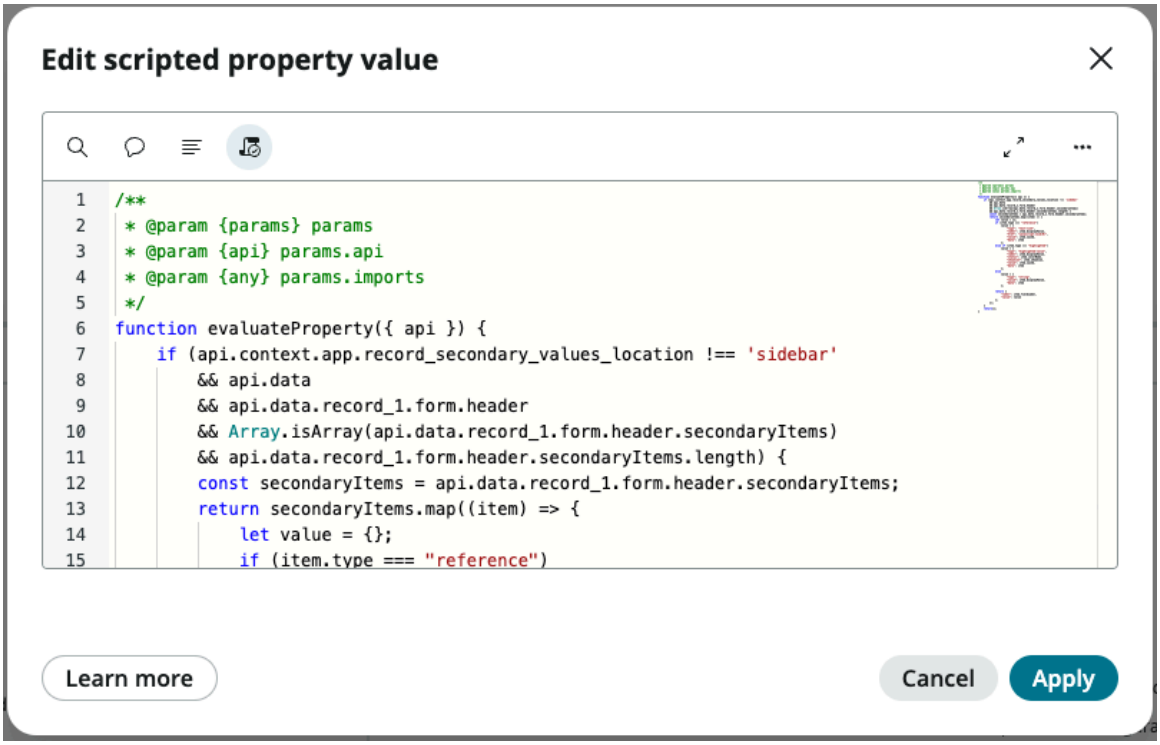
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. スクリプト化されたプロパティ値を表示するには、プロパティの横にあるロックアイコンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これにより、プロパティが編集モードになり、スクリプトを編集するためのモーダルが開きます。



コントローラー API でのイベントの表示

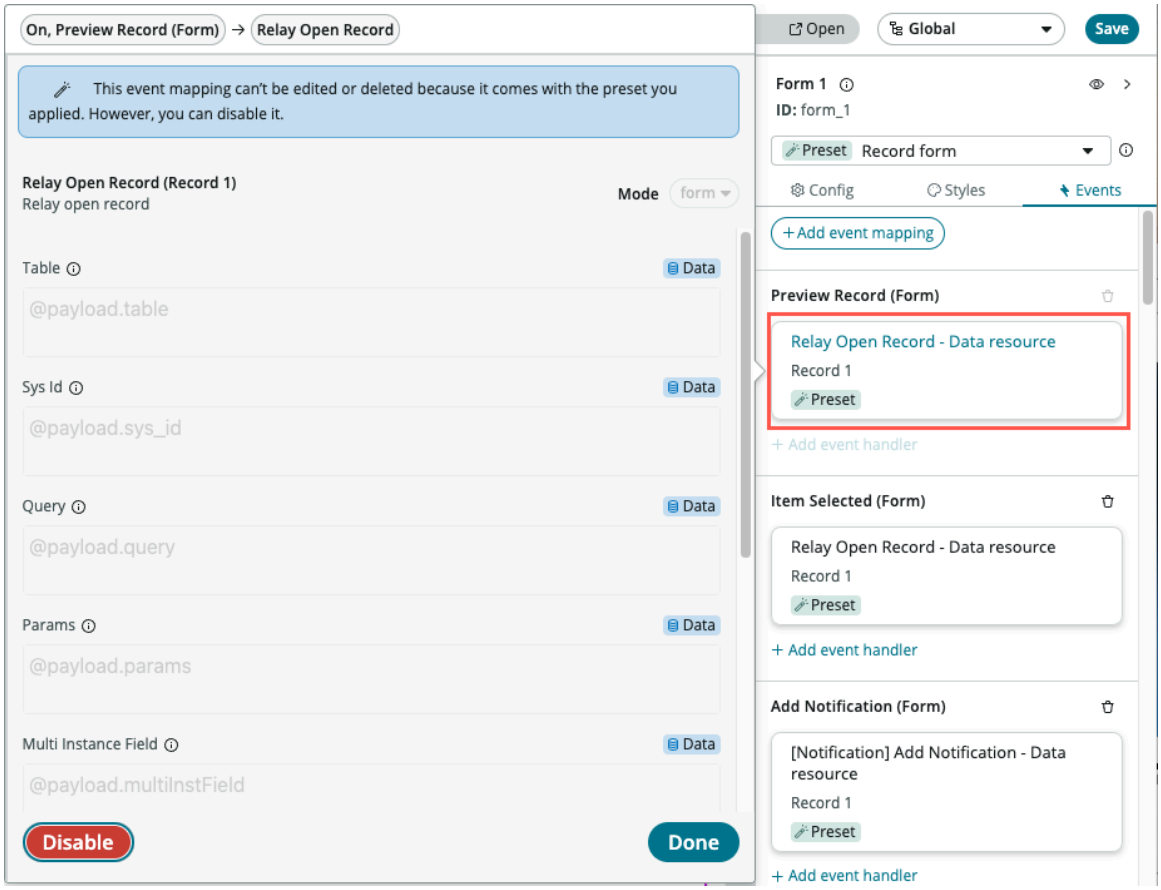
プリセットとそのペイロードによってコンポーネントにマッピングされた処理済みイベントは、UI ビルダー構成パネルの [イベント] タブで表示できます。イベントのデータマッピングがユースケースに適していない場合は、さらにデータハンドラーを追加できます。

注: プリセットで提供されているデータハンドラーマッピングは編集できません。

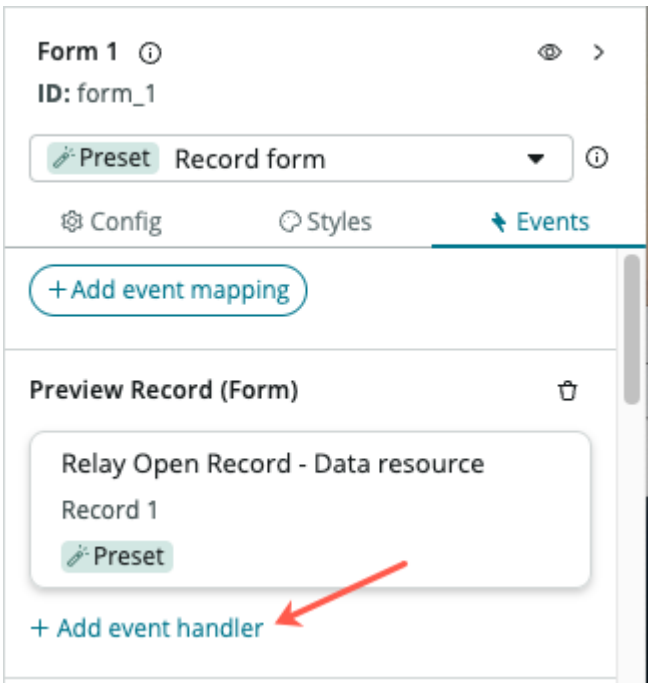
1. UI ビルダーで [イベント] タブを選択します。
2. プリセットイベントのマッピングを表示するには、イベントタイルを選択します。

   プリセットイベントのペイロードプロパティを示すモーダルが表示されます。このモーダルでイベントを無効にすることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. イベントにイベントハンドラーを追加するには、イベントタイルの下にある **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。

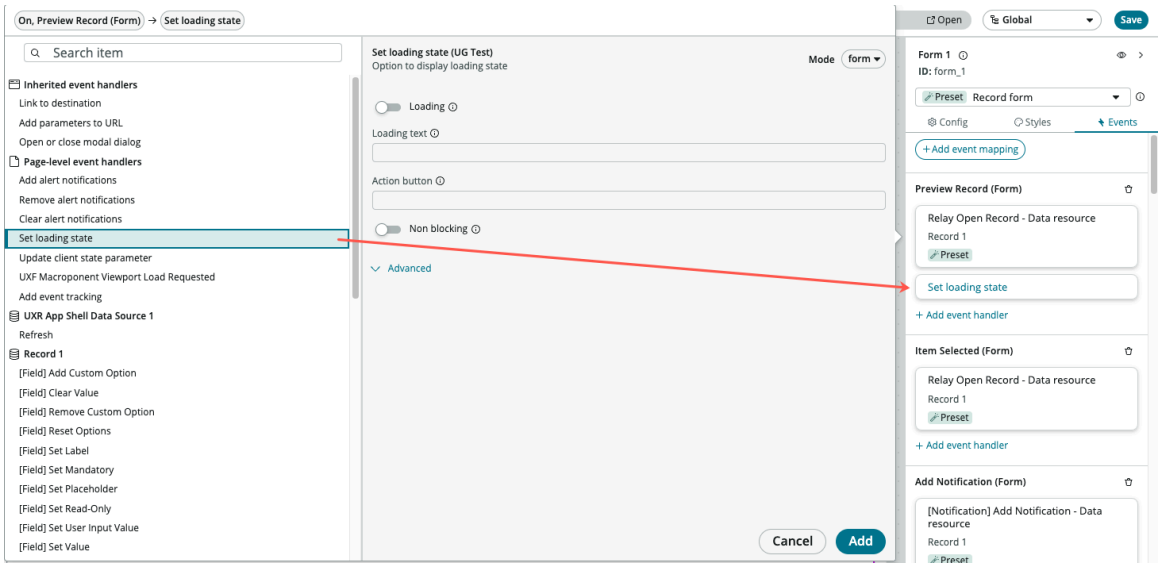


利用可能な処理済みイベントのリストを示すモーダルが表示されます。リストから、リストされているいずれかのコントローラーのイベントハンドラーを含む任意のアクションを選択できます。

4. リストからイベントハンドラーを選択し、[追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

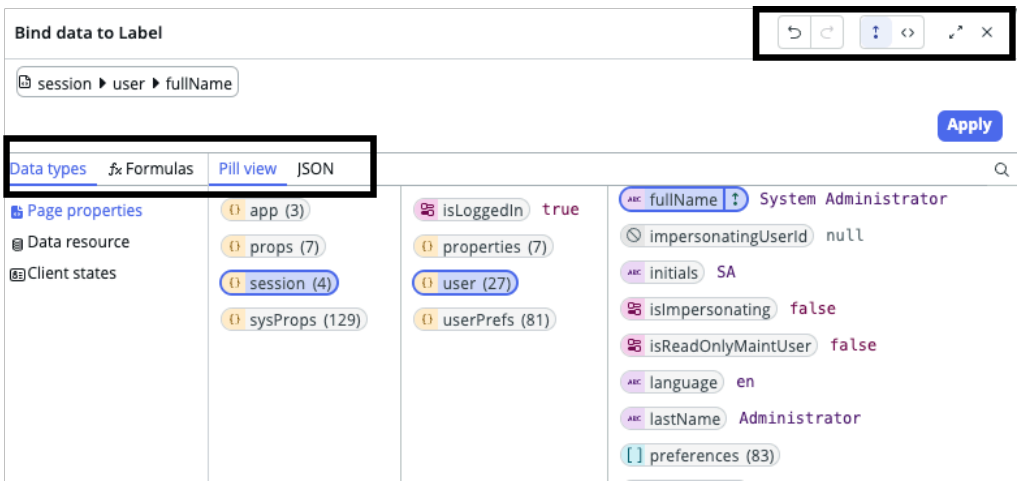
新しいハンドラーがイベントタイルの下に一覧表示されます。



データコンポーネントを接続する

データバインディングモーダルを使用して、ローカルデータリソースによって公開されたデータを UI ビルダー ページ上のコンポーネントに関連付けます。

データバインディングモーダル



データバインディングモーダルオプション

オプション	説明
元に戻す	前の変更を元に戻します。
やり直し	元に戻された変更をやり直します。
ドラッグアンドドロップによるデータのバインド	ピルビューを表示します。
スクリプトを使用	JSON ビューを表示します。
全画面表示の切り替え	データバインディングモーダルを全画面サイズに展開します。もう一度選択すると、データバ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

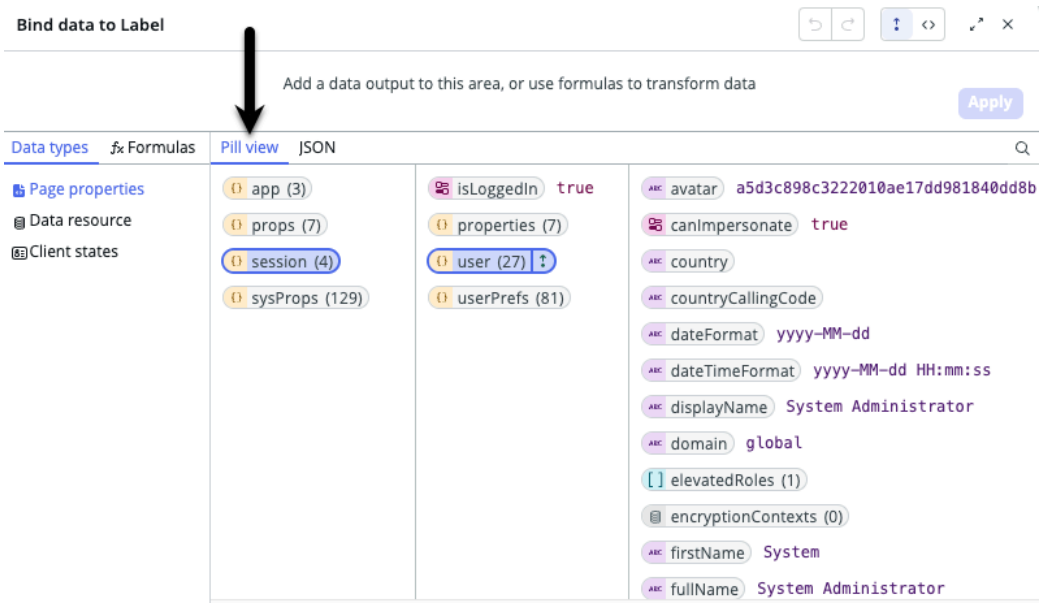
データバインディングモーダルオプション (続く)

オプション	説明
	インディングモーダルが小さいサイズに縮小されます。
閉じる	データバインディングモーダルを閉じます。保存していない変更がある場合は、保存するオプションが表示されます。
データタイプ	ページプロパティ、データリソース、およびクライアントステータスをリストします。
計算式	使用できる計算式をリストします。検索フィールドを使用できます。
ピルビュー	[データタイプ] を選択すると、ピルビューでプロパティ値または表示値を指定できます。特定の値に到達するには、複数のピルを選択する必要がある場合があります。
JSON	[データタイプ] を選択すると、JSON オプションにより、生の JSON コードを編集できます。

データのバインドには、ドラッグアンドドロップと JSON の編集の 2 つの方法があります。

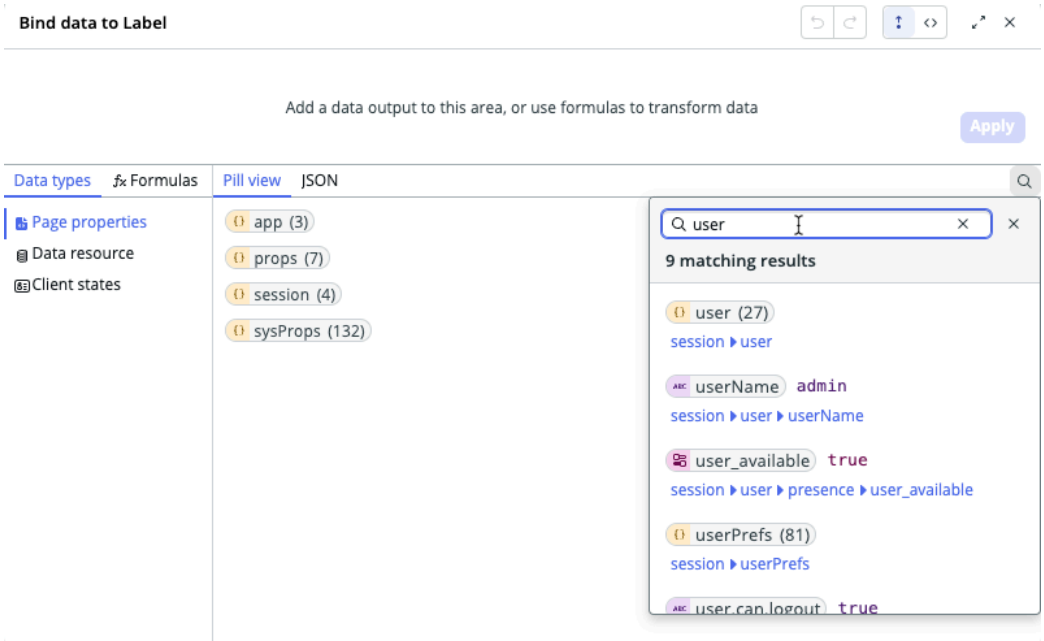
ドラッグアンドドロップによるデータのバインド

視覚的な処理を使用する場合は、この方法を使用します。



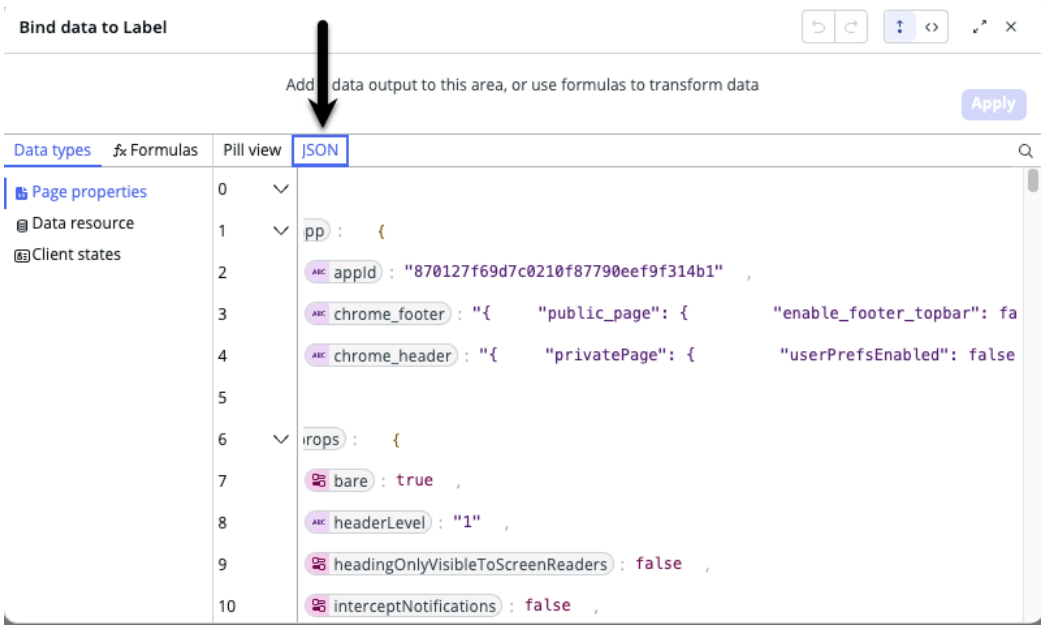
検索バーを使用して、コンポーネントにバインドするデータを見つけます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



JSON の編集によるデータのバインド

JSON コードの操作と編集に慣れている場合は、この方法を使用します。



コンポーネントへのデータ接続

ローカルデータリソースによって公開されたデータを、UI ビルダーページ上のコンポーネントにバインドします。

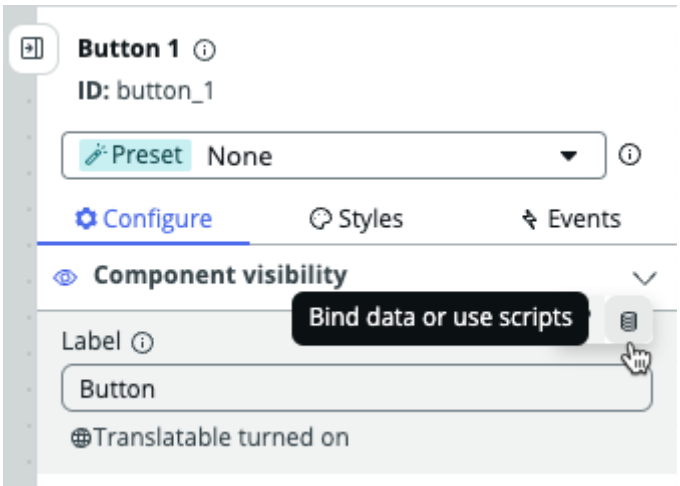
始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
データバインディングとは、情報を表示する UI 要素にデータを関連付けるプロセスのことです。データをコンポーネントにバインドする前に、データリソースを UI ビルダーページに追加する必要があります。詳細については、「ページへのデータリソースの追加と構成」を参照してください。

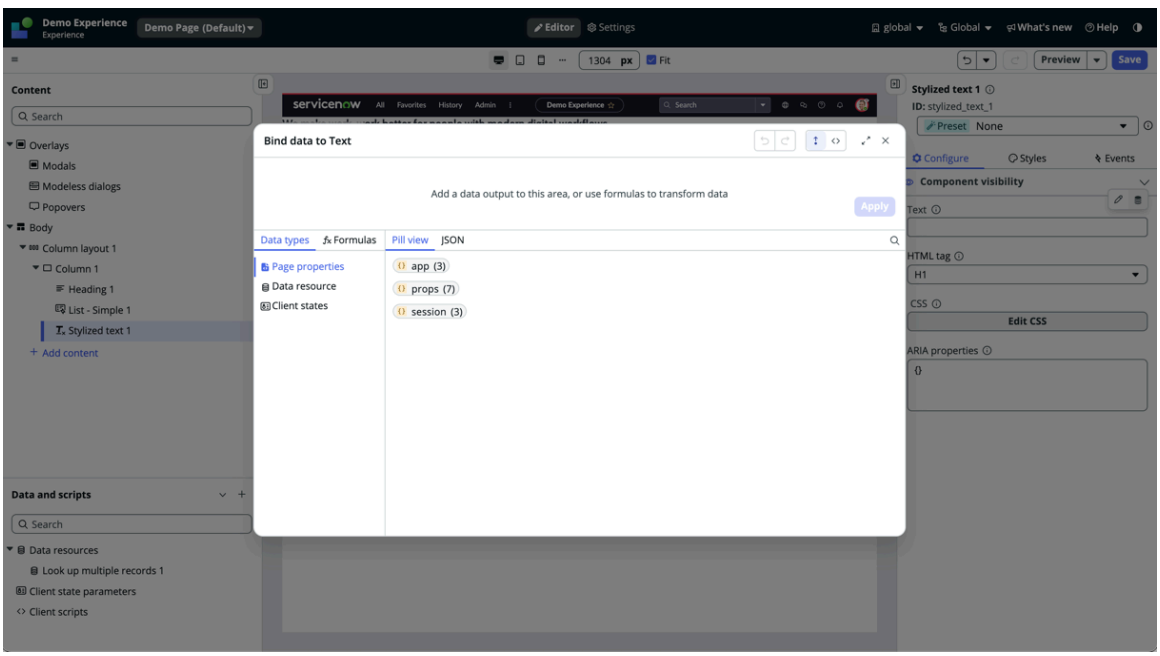
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
4. データリソースをページに追加します。
   詳細については、「ページへのデータリソースの追加と構成」を参照してください。
5. コンポーネントをページに追加します。
   コンポーネントにデータリソースをバインドするには、ページにコンポーネントが必要です。詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。
6. UI ビルダー の構成パネルから [構成] タブを選択します。
7. データをバインドするフィールドをポイントし、[動的なデータバインディング] アイコン ( ) を選択します。

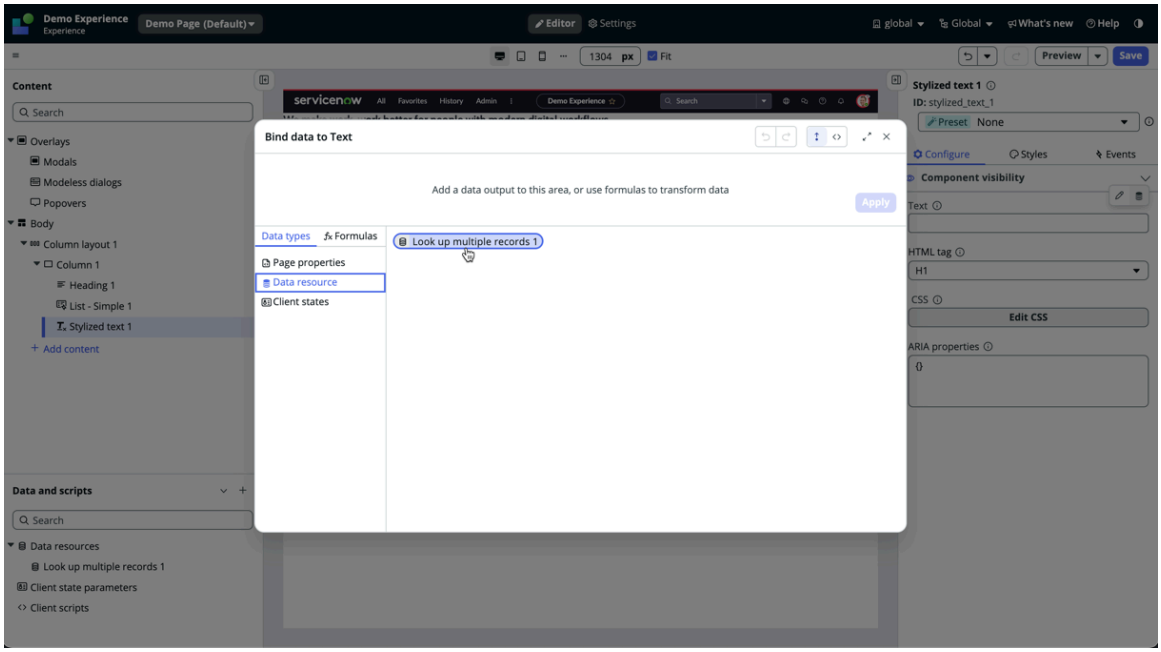


データバインディングモーダルが表示されます。



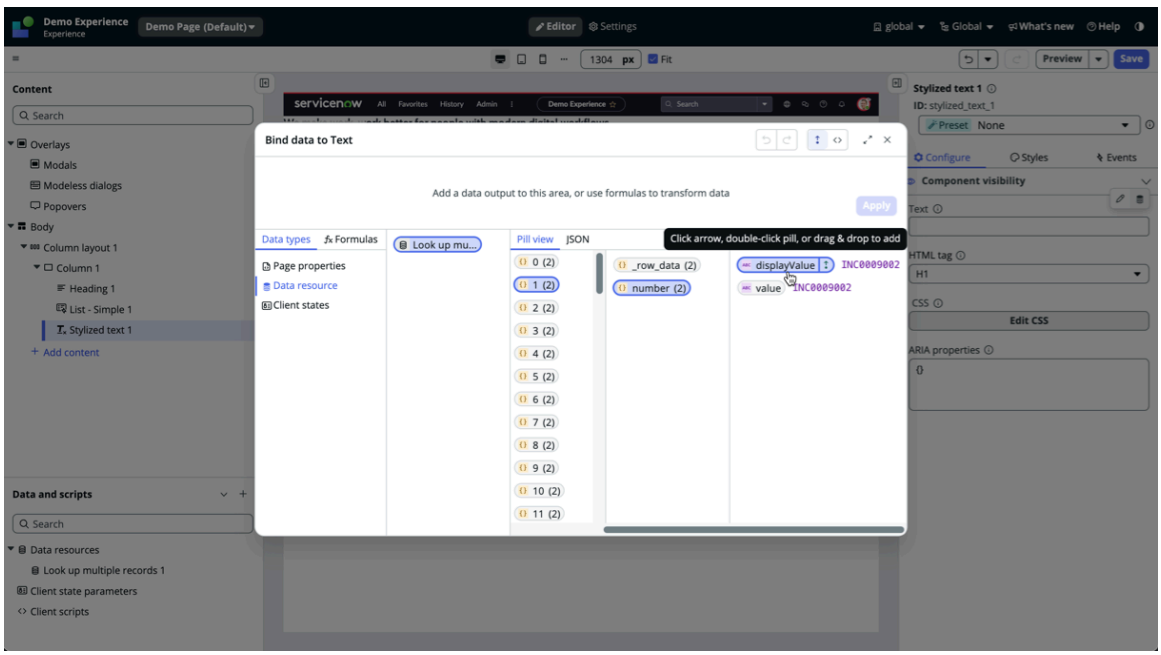
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [データタイプ] タブで [データリソース] を選択します。
9. コンポーネントにバインドするデータリソースを選択します。



10. コンポーネントにバインドするデータを選択し、上のフィールドにドラッグします。

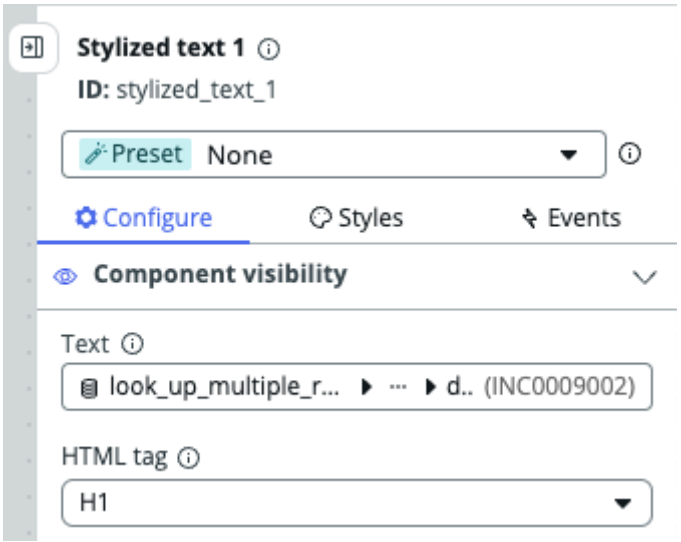
    特定のプロパティ値または表示値に到達するために、数個のピルの選択が必要になる場合があります。



11. [適用] を選択します。

    コンポーネントには、選択したプロパティ値または表示値が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



12. UI ビルダー ヘッダーで、[保存] を選択します。

数式を使用してデータをコンポーネントに接続する

ローカルデータリソースによって公開されたデータを、UI ビルダー ページ上の数式を使用してコンポーネントにバインドします。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

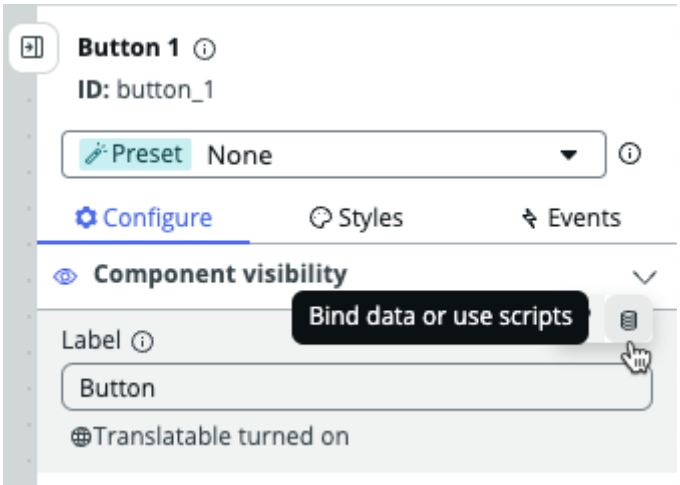
このタスクについて

データバインディングとは、情報を表示する UI 要素にデータを関連付けるプロセスのことです。データをコンポーネントにバインドする前に、データリソースを UI ビルダーページに追加する必要があります。詳細については、「ページへのデータリソースの追加と構成」を参照してください。

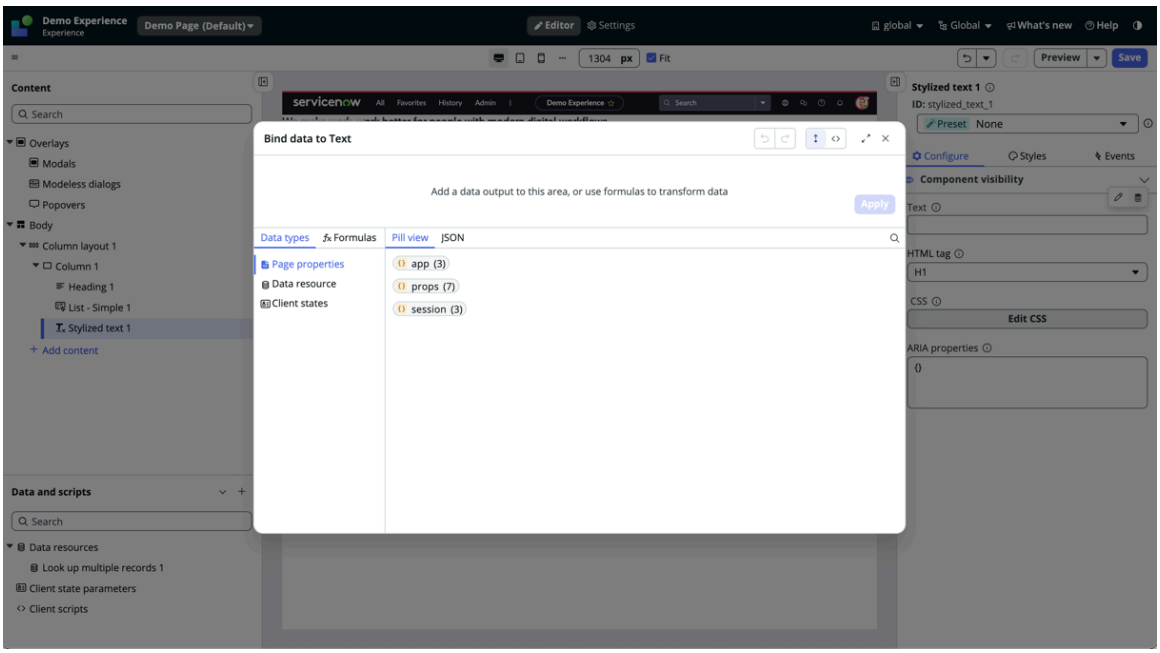
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
4. データリソースをページに追加します。
   詳細については、「ページへのデータリソースの追加と構成」を参照してください。
5. コンポーネントをページに追加します。
   コンポーネントにデータリソースをバインドするには、ページにコンポーネントが必要です。詳細については、「コンポーネントを使用した UI ビルダー ページのカスタマイズ」を参照してください。
6. UI ビルダー の構成パネルから [構成] タブを選択します。
7. データをバインドするフィールドをポイントし、[動的なデータバインディング] アイコン ( ) を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

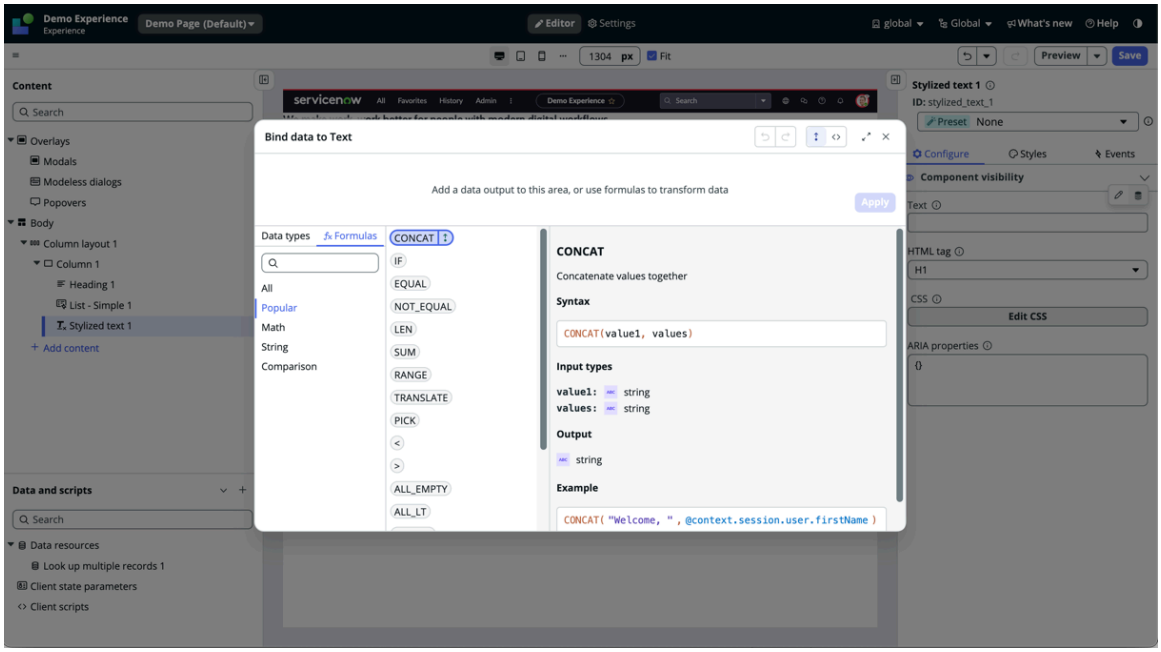


データバインディングモーダルが表示されます。



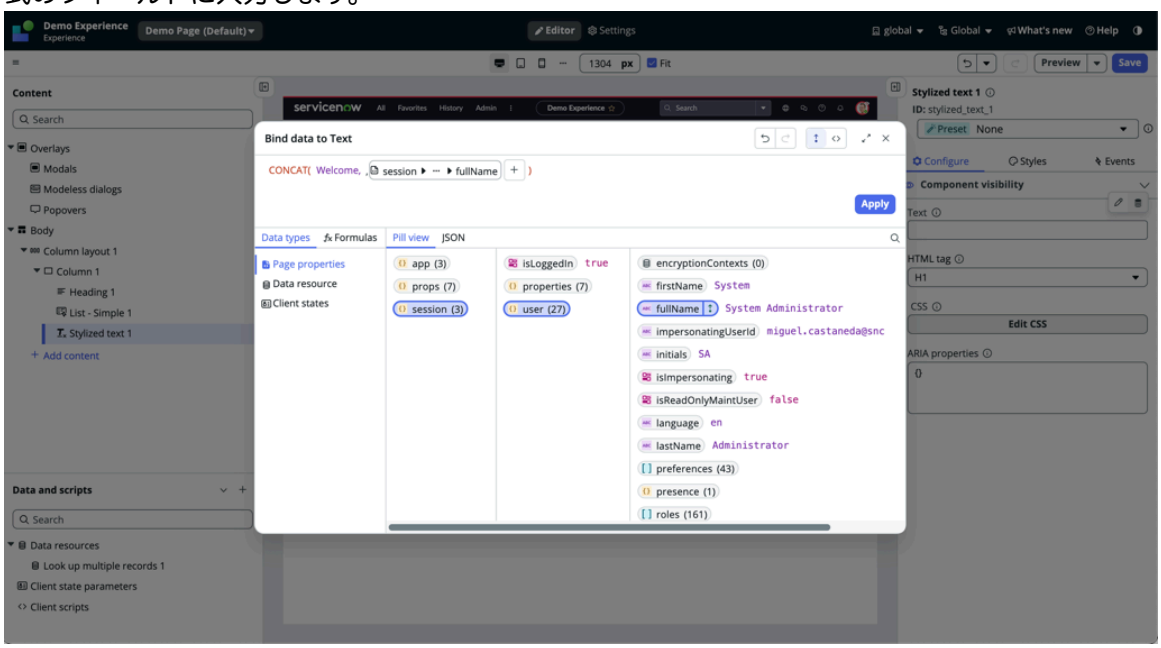
8. [計算式] タブを選択します。
9. コンポーネントにバインドする数式を選択して、上のフィールドにドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



数式の詳細については、「UI ビルダー コンポーネント式エディターでサポートされている関数」を参照してください。

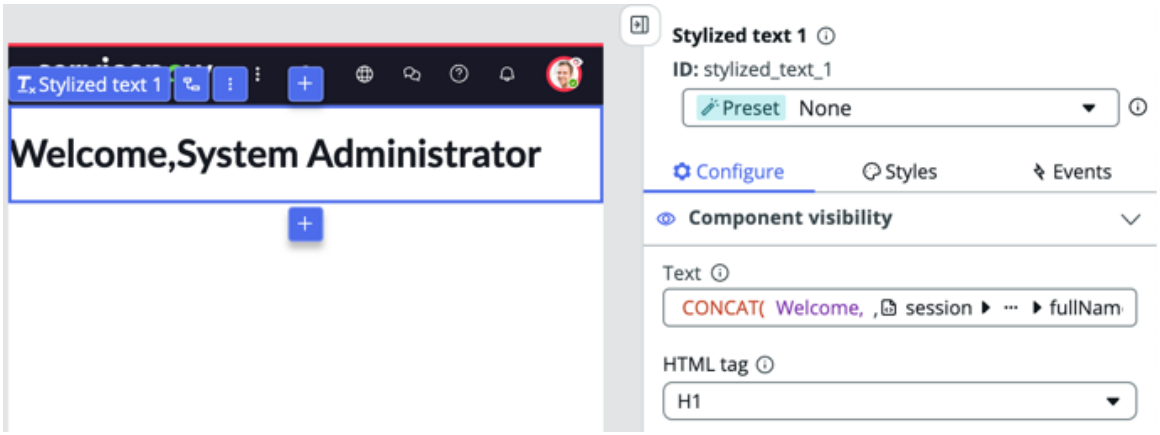
10. 式のフィールドに入力します。



11. [適用] を選択します。

コンポーネントには、選択したプロパティ値または表示値が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



12. UI ビルダー ヘッダーで、[保存] を選択します。

クライアントステータスパラメーターを作成してコンポーネントにバインドする (高度な機能)

UI ビルダー でクライアントステータスパラメーター値を作成して、コンポーネントにバインドします。コンポーネントにカスタム値を追加することで、これらのコンポーネントをスクリプトによって自動的に更新できます。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

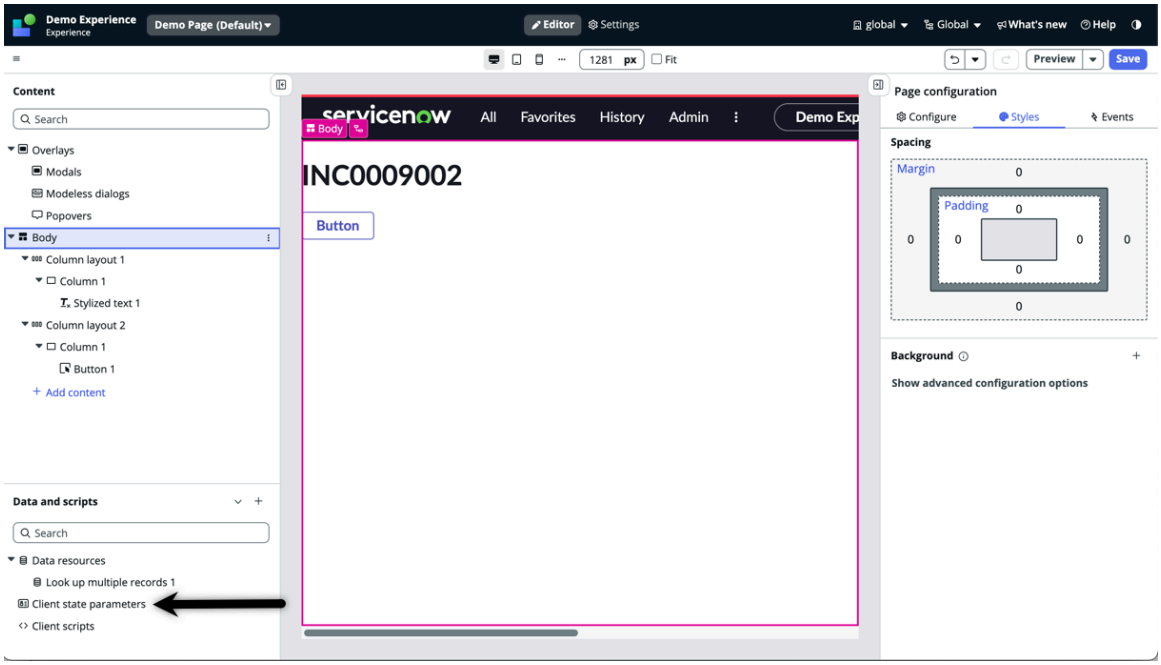
このタスクについて
2 つのコンポーネントをページに追加し、クライアントステータスパラメーターとスクリプトを使用して接続することができます。まず、クライアントステータスパラメーターを作成し、次にクライアントステータスパラメーターをラベルなどのコンポーネントの 1 つにバインドします。次に、クライアントスクリプトを作成し、それをイベントハンドラーを使用してボタンなどの 2 番目のコンポーネントにバインドします。イベントハンドラーを作成するときは、それにクライアントステータスパラメーターの値をバインドして、2 つのコンポーネントを接続します。1 つのコンポーネントをクリックすると、他のコンポーネントのステータスが変更されます。クライアントステータスは、スクリプトによって自動的に更新されるカスタム値をコンポーネントに追加できるので便利です。クライアントステータスは、ページに固有の情報を格納するバケットと考えてください。

たとえば、ボタンとラベルコンポーネントをページに追加できます。ボタンは、テキストの色を変更するなど、ラベルの値を変更します。

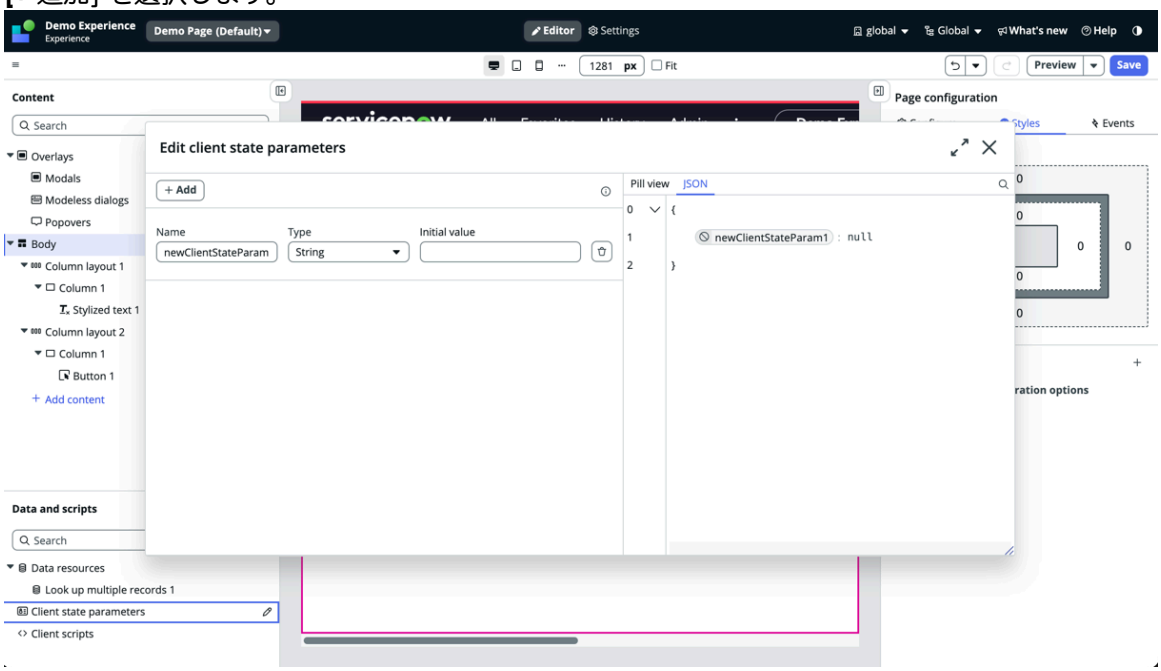
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
   詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。
4. 2 つのコンポーネントをページに追加します。
   詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. 関連付けられている値があるクライアントステータスパラメーターを定義するには、左下のパネルで [クライアントステータスパラメーター] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



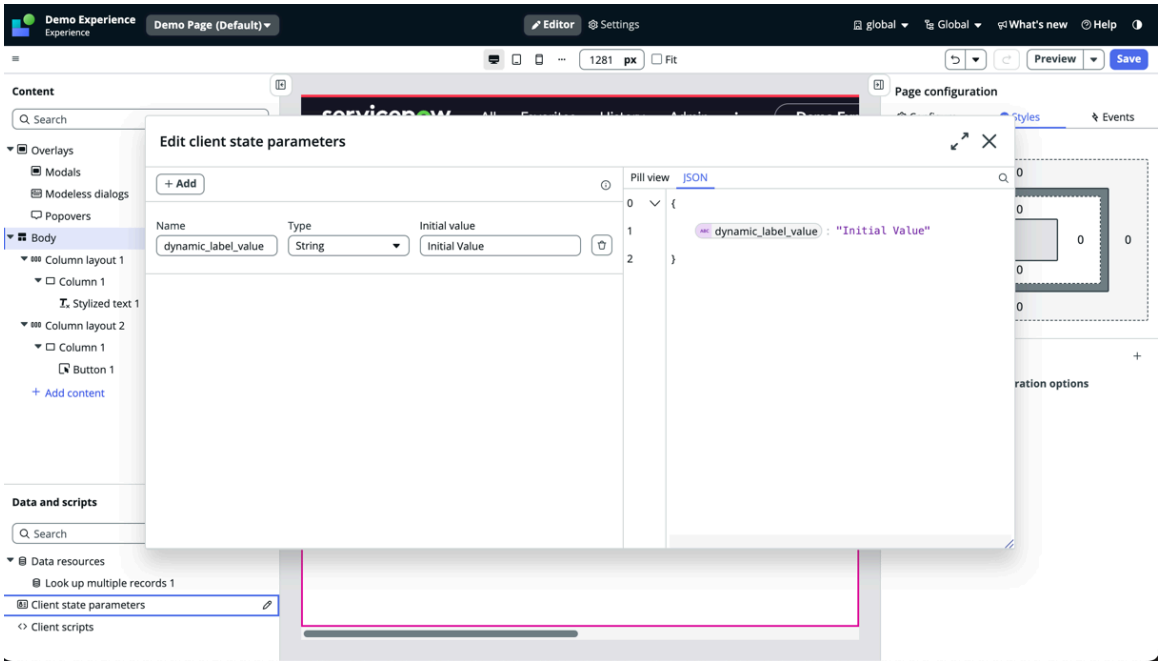
6. **[+ 追加]** を選択します。



7. クライアントステータスの名前、タイプ、および初期値を入力します。

   クライアントステータスは、文字列、数値、ブール、および JSON をサポートします。たとえば、名前を「`dynamic_label_value`」、タイプを「`String`」、初期値を「`Initial Value`」として入力できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

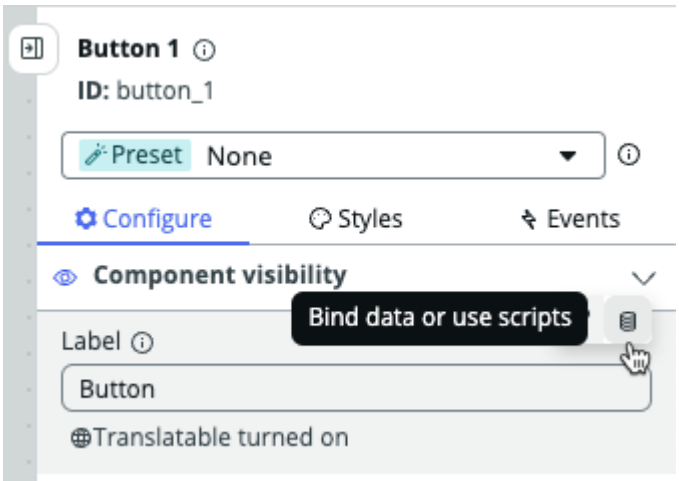


8. クライアントステータスパラメーターの値をコンポーネントにバインドします。

   a. クライアントステータスパラメーターのバインド先にするコンポーネントを選択します。

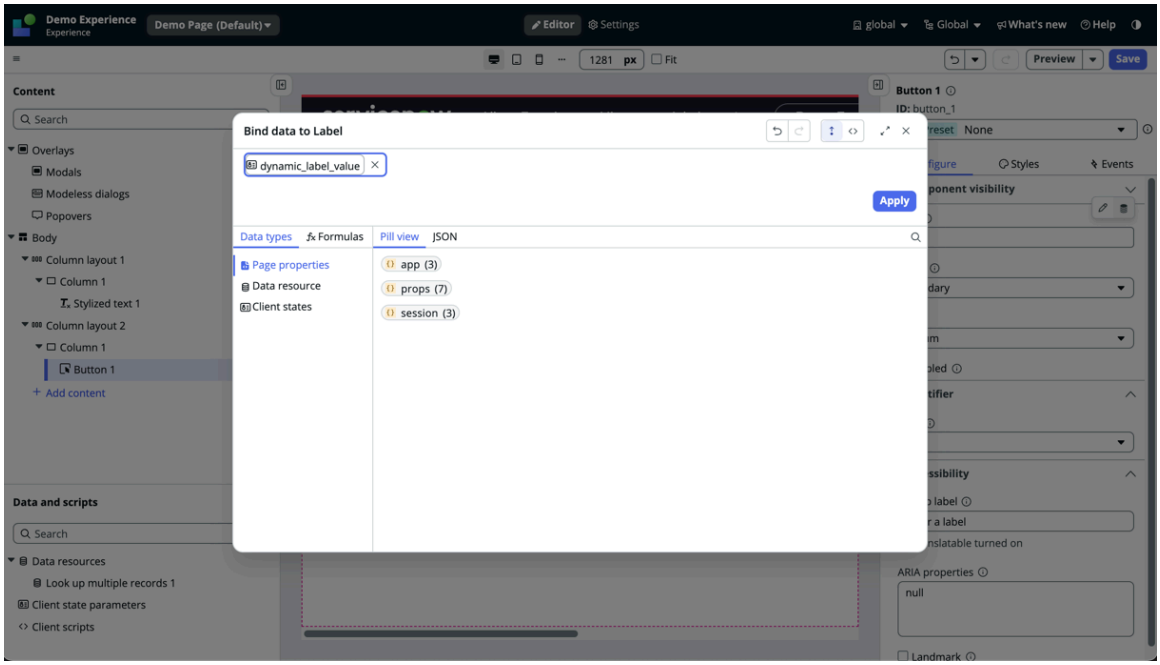
   b. 構成パネルを開き、[構成] タブを選択します。

   c. データをバインドするフィールドをポイントし、[動的なデータバインディング] アイコン ( ) を選択します。



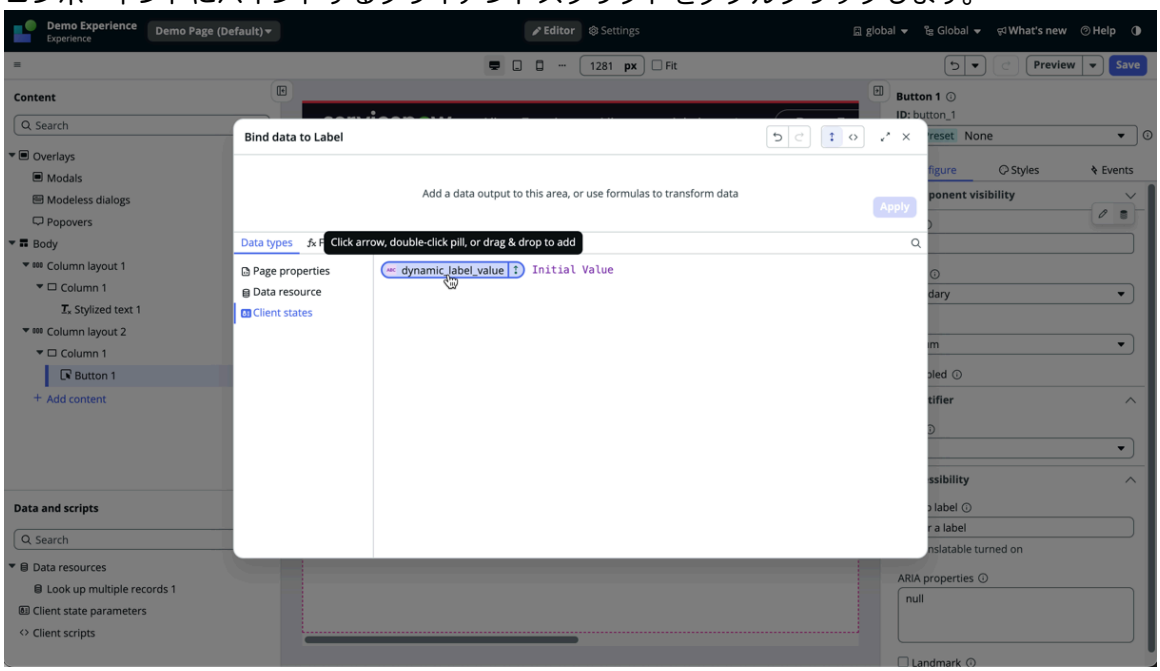
   データバインディングモーダルが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



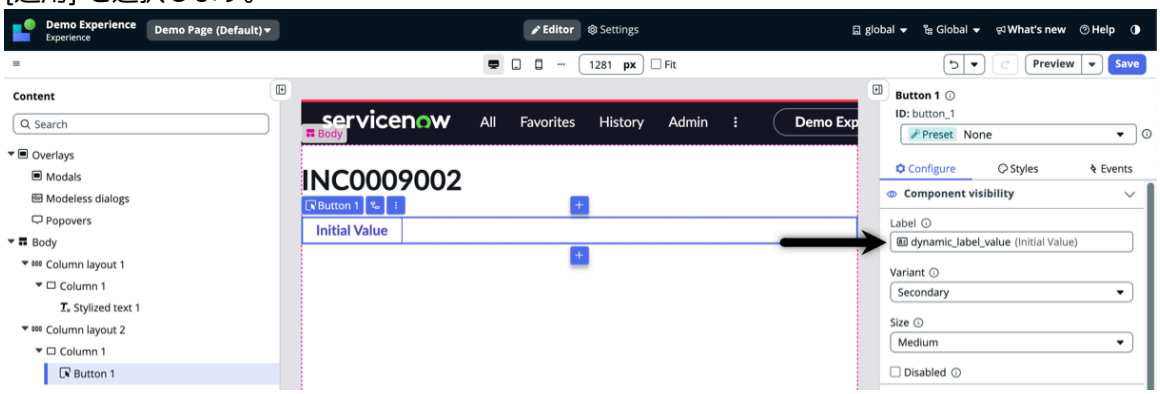
d. [データタイプ] タブで [クライアントステータス] を選択します。

e. コンポーネントにバインドするクライアントスクリプトをダブルクリックします。



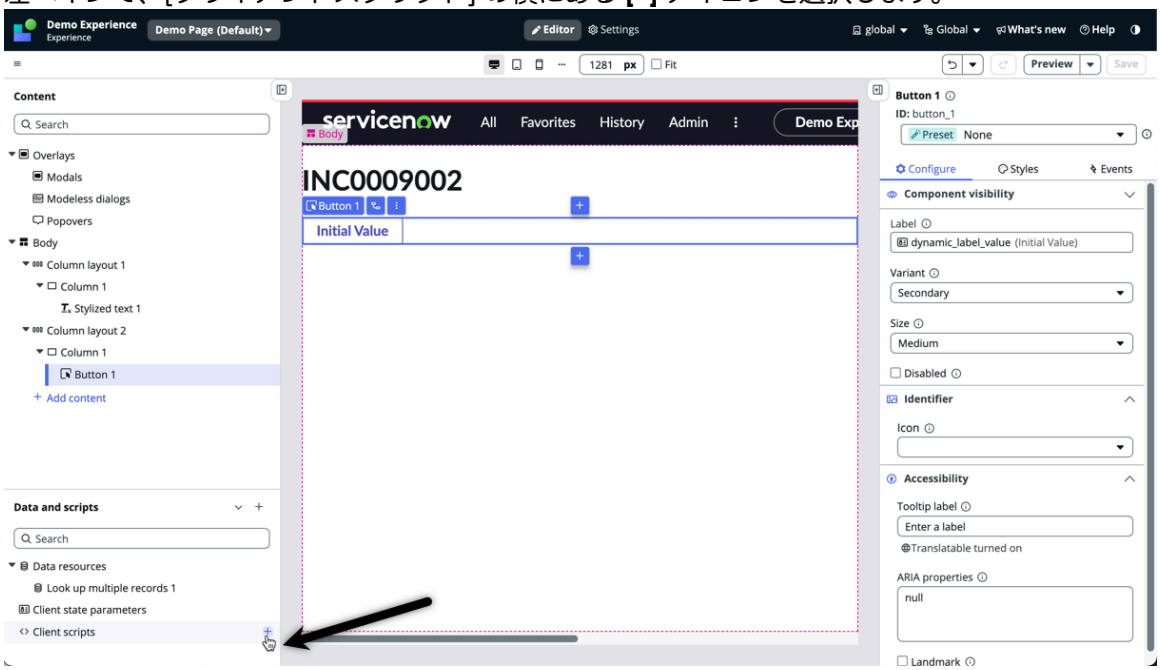
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. [適用] を選択します。



9. [保存] を選択します。
10. クライアント状況値を 1 つのコンポーネントにバインドし、2 番目のコンポーネントを最初のコンポーネントに接続するスクリプトを作成します。

a. 左ペインで、[クライアントスクリプト] の横にある **[+]** アイコンを選択します。

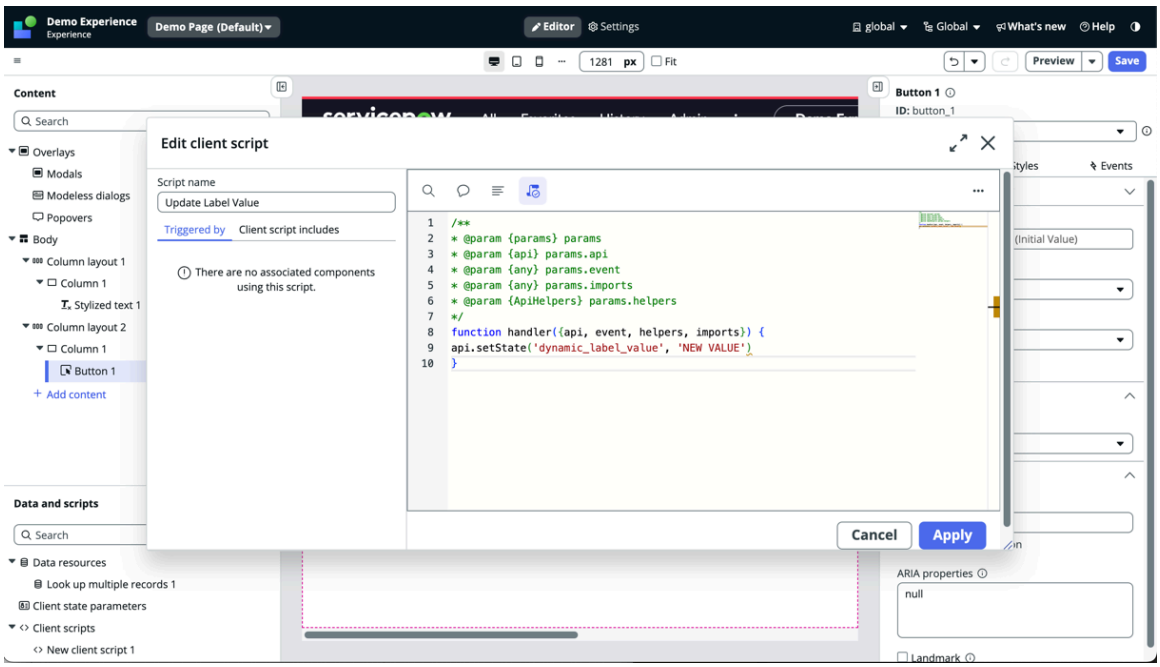


b. タスクを説明するスクリプト名を入力します。
たとえば、スクリプトで実行する内容を示す「`Update Label Value`」と入力します。

c. Now コードエディターで、スクリプトを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

呼び出す API と、ステータスや値などの API のパラメーターを選択するとします。たとえば、`api.setState` を呼び出して、最初のパラメーターとして `dynamic_label_value` を、2 番目のパラメーターとして `NEW VALUE` を含めることができます。



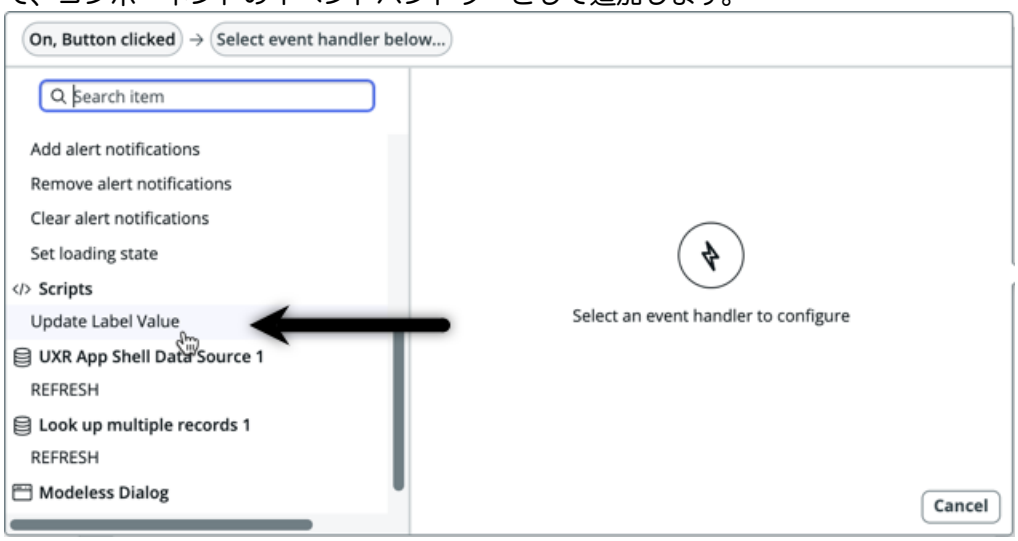
11. 作成した新しいクライアントスクリプトを呼び出すイベントハンドラーを、2 番目のコンポーネントに追加します。

    a. スクリプトのバインド先にする、ページ上のコンポーネントを選択します。

    b. [イベント] タブを選択します。

    c. **[+** 新しいイベントハンドラーを追加] を選択します。

    d. イベントハンドラーの [スクリプト] セクションで、作成したスクリプトを選択し、**[+]** を選択して、コンポーネントのイベントハンドラーとして追加します。



12. [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

13. ページをプレビューし、コンポーネントが接続されていることをテストするには、[プレビュー] を選択します。
1 つのコンポーネントを選択すると、2 番目のコンポーネントのステータスが変更されるはずです。たとえば、[ボタン] コンポーネントを選択すると、[ラベル値] コンポーネントのテキストが「初期値」から「新規の値」に変化します。

タスクの結果
この手順で実行した事柄：

- ページに 2 つのコンポーネントを追加しました。
- 初期値を持つクライアントステータスパラメーターを定義しました。
- クライアントステータスパラメーターを最初のコンポーネントにバインドしました。
- クライアントステータスパラメーターによって定義された値を更新するクライアントスクリプトを作成しました。
- 2 番目のコンポーネントに、作成した新しいクライアントスクリプトを呼び出すイベントハンドラーを作成しました。
- 2 番目のコンポーネントを選択し、最初のコンポーネントのステータスが変更されるようにしました。

クライアントスクリプトを定義してコンポーネントにバインドする

UI ビルダー のクライアントスクリプトを追加および編集して、イベントを通じてクライアントステータスを更新できるようにします。イベントハンドラーを使用して、これらのスクリプトを任意のコンポーネントにバインドできます。

始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
Now コードエディターを使用して、UI ビルダー で JavaScript クライアントスクリプトを作成できます。次に、クライアントスクリプトをイベントハンドラーとして追加して、クライアントのステータスを更新したり、ページの処理済みイベントを発行したり、データリソース操作を実行したりできます。たとえば、日付またはカウンターをインクリメントするスクリプトを作成し、そのスクリプトをボタンのクリックなどのコンポーネントイベントにバインドできます。Now コードエディターの詳細については、「Now コードエディターでコードを編集する (高度な機能)」を参照してください。

これらのスクリプトを使用して、次のアクションを実行できます。

- 利用可能なデータを取得し、データを操作して、クライアントステータスに格納します。
- データリソースの結果にアクセスします。
- データリソース操作を実行します。
- イベントをディスパッチします。

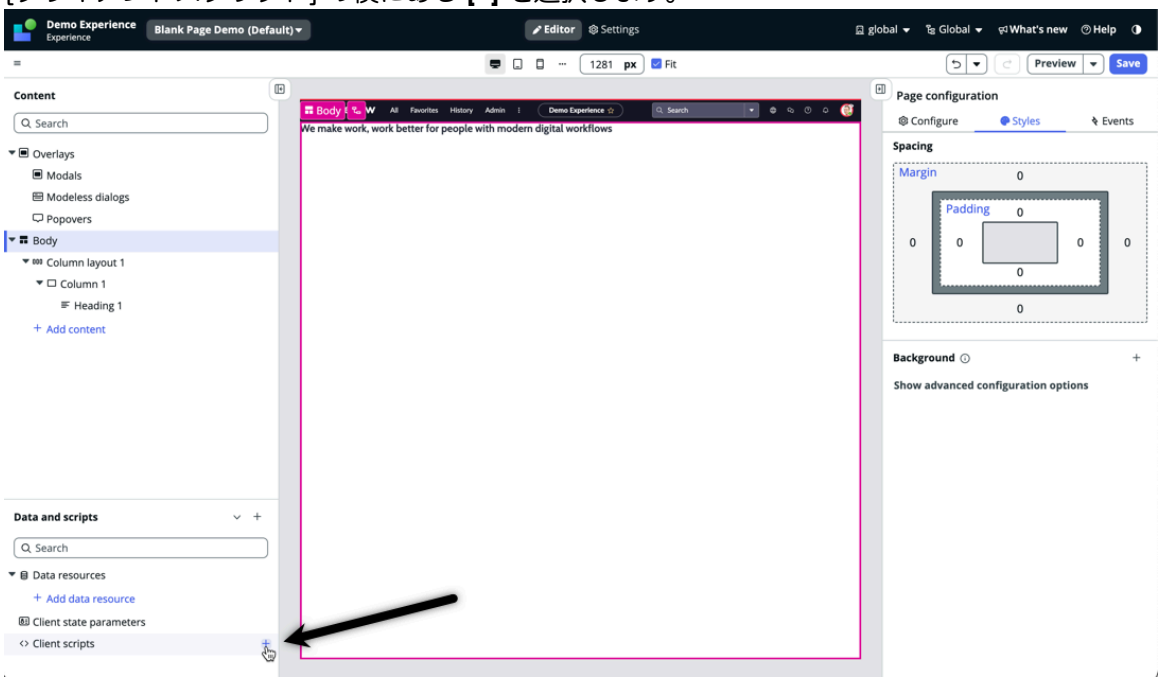
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー] に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。

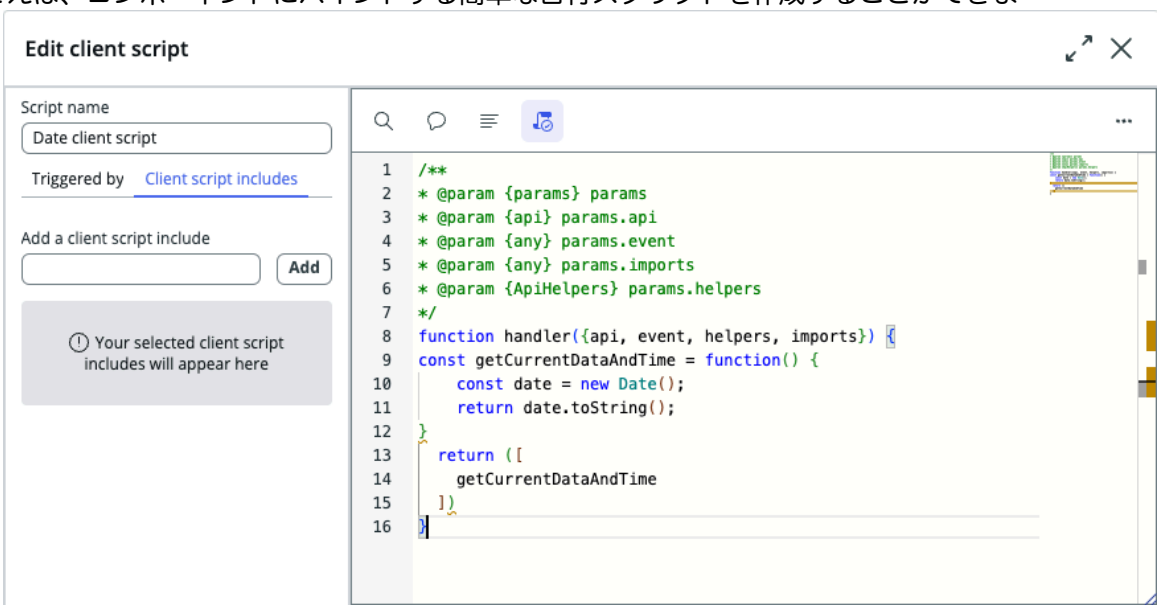
4. オプション: ページにコンポーネントがない場合は、ページにコンポーネントを追加します。
   たとえば、見出しコンポーネントを追加できます。詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. [クライアントスクリプト] の横にある **[+]** を選択します。



6. スクリプトに名前を付けます。

   説明的な名前を付けると、スクリプトの実行内容を把握しやすくなります。また、後でイベントハンドラーに追加するときにスクリプトを見つけやすくなります。次の例は、単純な日付クライアントスクリプトを示しています。

7. アクションを実行するスクリプトを作成します。
   たとえば、コンポーネントにバインドする簡単な日付スクリプトを作成することができます。

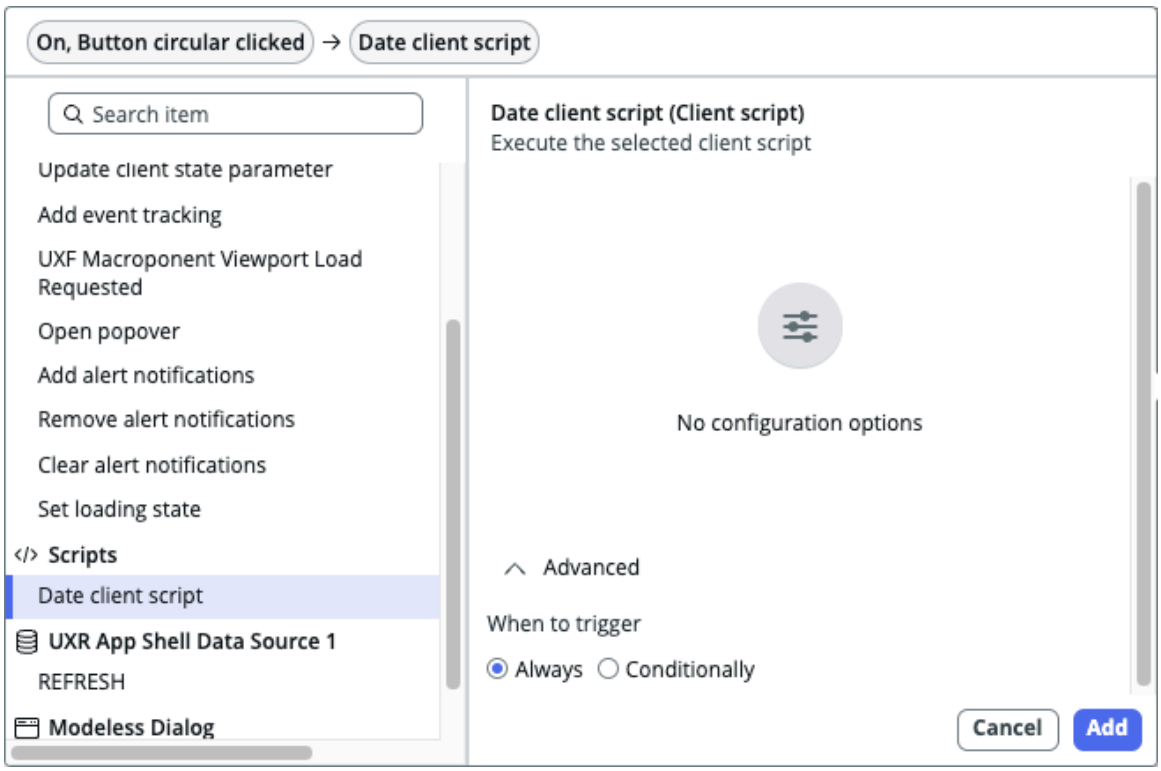


8. オプション: [スクリプトインクルード] または [関連コンポーネント] を追加します。これは、クライアントスクリプト関数の `imports` パラメーターに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. スクリプトをバインドするページ上のコンポーネントを選択し、[イベント] を選択します。
10. **[+** 新しいイベントハンドラーを追加] を選択し、[スクリプト] で作成したスクリプトを選択し、[追加] を選択します。

    次の例は、日付クライアントスクリプトを示しています。



11. [保存] を選択します。
12. スクリプト化されたコンポーネントをプレビューするには、Preview を選択します。

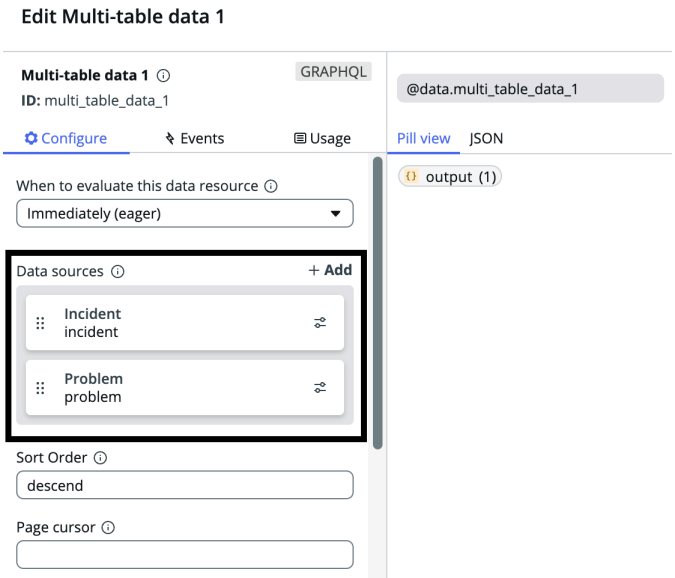
マルチテーブルデータ構成

コンポーネントを使用して複数のテーブルのデータを表示し、レイアウトとスタイルを制御します。

データリソースは、UI ビルダーがコンポーネントに情報を表示するために使用するデータをフェッチします。ほとんどの場合、コンポーネントは 1 つのテーブルに含まれるデータにマッピングされます。ただし、1 つのコンポーネントを複数のテーブルの情報にマッピングする必要があるユースケースは多数あります。例を以下に示します。

- カードコンポーネントをリピーターに配置し、マルチテーブルデータ構成を使用して、さまざまなソースからデータをプルしてカードに表示します。
- さまざまな場所からプルされたタスクのリストを表示するポータルページを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: 1 つのページに複数のマルチテーブルデータリソースを構成して、さまざまなデータセットを表示できます。

複数テーブルデータ構成と Entity View Action Mapper

Entity View Action Mapper (EVAM) を使用して、さまざまなデータソースを使用してカードとリストを構成することもできます。EVAM は、JSON を理解し、操作に慣れているユーザー向けのオプションです。マルチテーブルデータ構成オプションを使用すると、データの表示をより詳細に制御し、データの構成を容易にし、 UI ビルダー に留まることができます。希望するオプションを使用します。EVAM の詳細については、「UI ビルダー の Entity View Action Mapper の操作」を参照してください。

複数のソースからデータをフェッチする

1 つのコンポーネントで使用するさまざまなソースからデータをフェッチする方法について説明します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

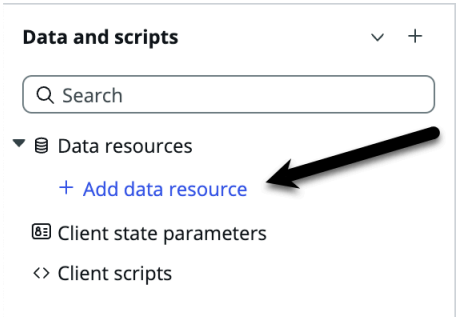
カードベースコンテナコンポーネントをリピーターに配置し、複数テーブルデータ構成を使用して、過去 2 年間に作成されたすべてのアクティブなインシデントと問題を表示します。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、または [作成] **>** [エクスペリエンス] を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを最初から作成します。
   ページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. 複数テーブルのデータリソースを追加します。

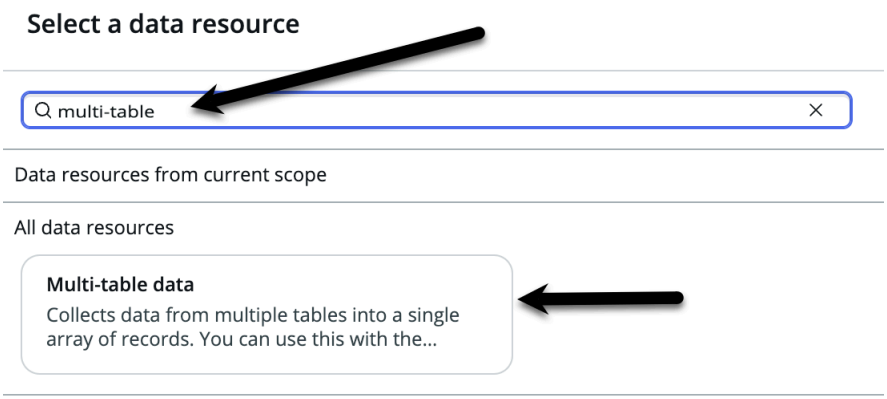
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. データシェルフで、**[+ データリソースを追加 (Add data resource)]** を選択します。



b. [検索] に `multi-table` と入力します。

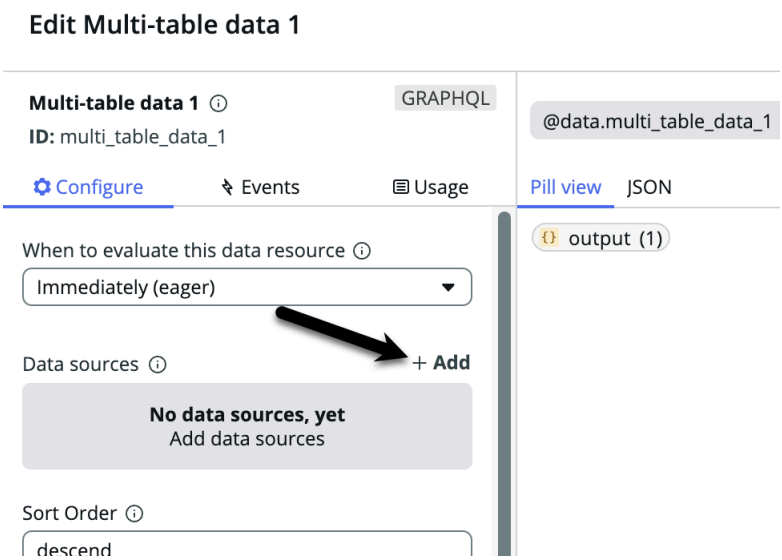
c. [複数テーブルデータ] を選択します。



d. [追加] を選択します。

5. 最初のデータソースを構成します。

a. [データソース] で、**[+ 追加]** を選択します。



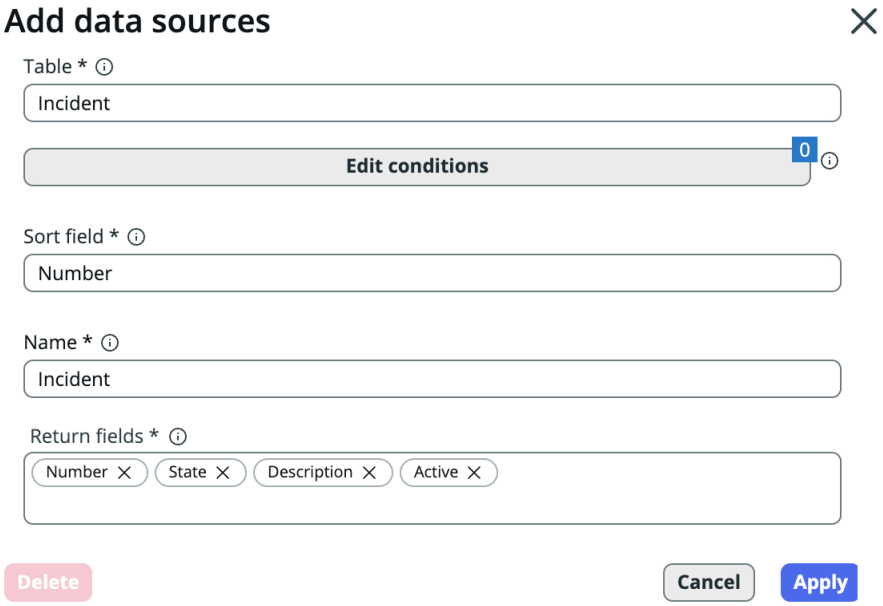
b. [テーブル] に `incident` と入力し、[インシデント] テーブルを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [ソートフィールド] に `number` と入力し、[番号] を選択します。

d. [名前] に `incident` と入力します。

e. [リターンフィールド] で、[番号]、[ステータス]、[説明]、および [アクティブ] を追加します。

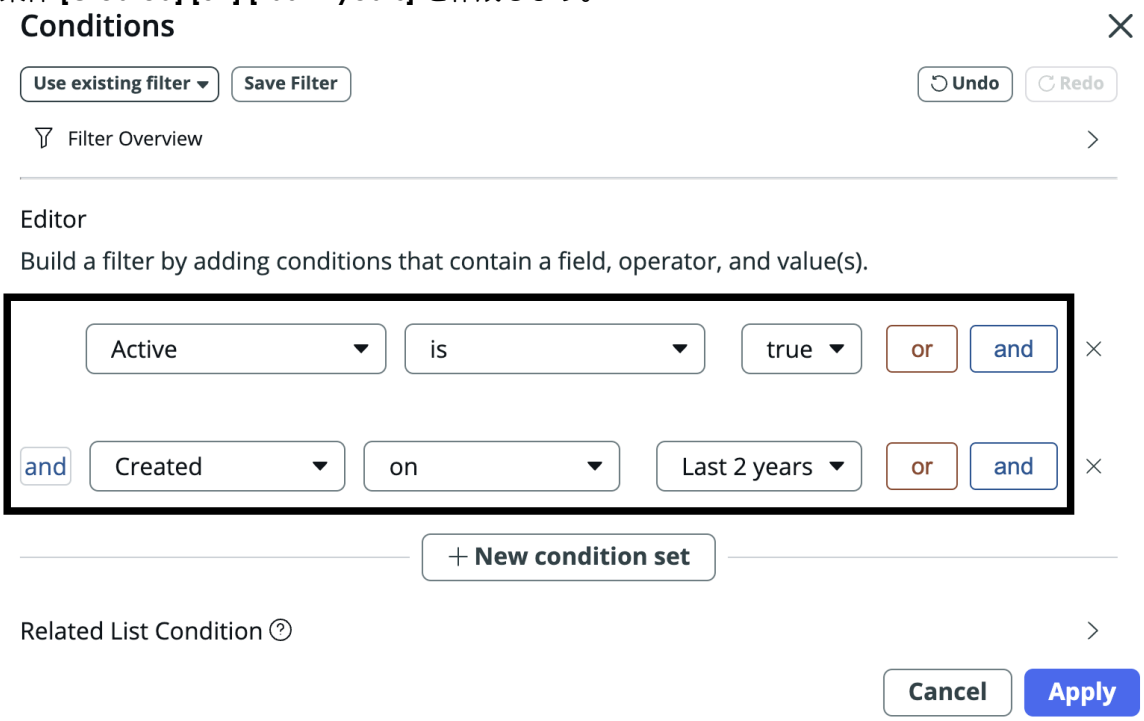


f. [条件を編集 **(Edit conditions)**] を選択します。

g. 条件 **[Active] [is] [true]** を作成します。

h. **[and]** を選択します。

i. 条件 **[Created] [on] [Last 2 years]** を作成します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

j. [適用] を選択します。

k. [適用] を選択します。

6. 2 番目のデータソースを構成します。

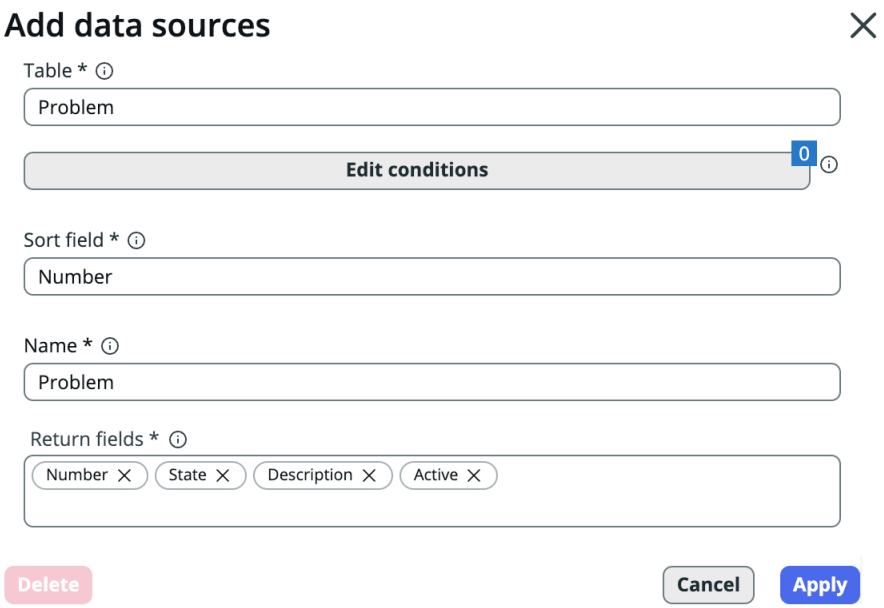
a. [データソース] で、**[+** 追加] を選択します。

b. [テーブル] に `problem` と入力し、[問題] テーブルを選択します。

c. [ソートフィールド] に `number` と入力し、[番号] を選択します。

d. [名前] に `Problem` と入力します。

e. [リターンフィールド] で、[番号]、[ステータス]、[説明]、および [アクティブ] を追加します。複数テーブルのデータリソースを作成する場合、各データソースには同じリターンフィールドを同じ順序で指定する必要があります。これにより、ページに表示されるデータの一貫性と正確性を確保できます。



f. [条件を編集 **(Edit conditions)]** を選択します。

g. 条件 **[Active] [is] [true]** を作成します。

h. **[and]** を選択します。

i. 条件 **[Created] [on] [Last 2 years]** を作成します。

j. [適用] を選択します。

k. [適用] を選択します。

l. **[X]** を選択して [複数テーブルデータを編集 **(Edit Multi-table data)]** ポップアップを閉じます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [保存] を選択します。
8. 見出しコンポーネントを追加します。

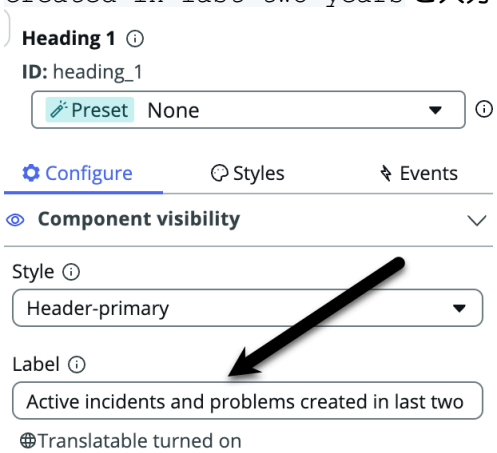
   a. コンテンツツリーで [本文] の下にある **[+** コンテンツを追加] を選択します。

   b. [検索] に `heading` と入力します。

   c. [見出し] コンポーネントを選択します。

   d. 構成パネルの [構成] タブで、[なし - コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

   e. [ラベル] で、デフォルトのテキストを削除し、`Active incidents and problems created in last two years` と入力します。

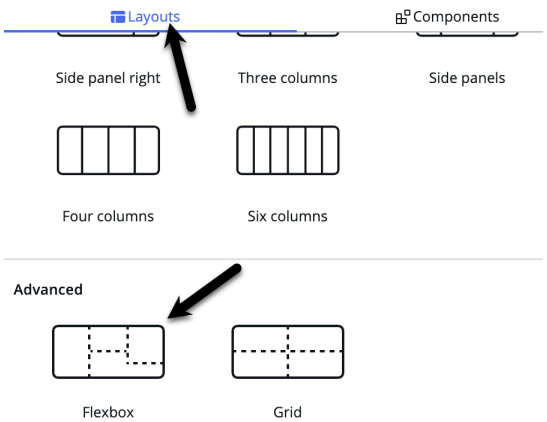


   f. [保存] を選択します。

9. コンテナを追加します。

   a. コンテンツツリーで [見出し **1]** の下にある **[+** コンテンツを追加] を選択します。

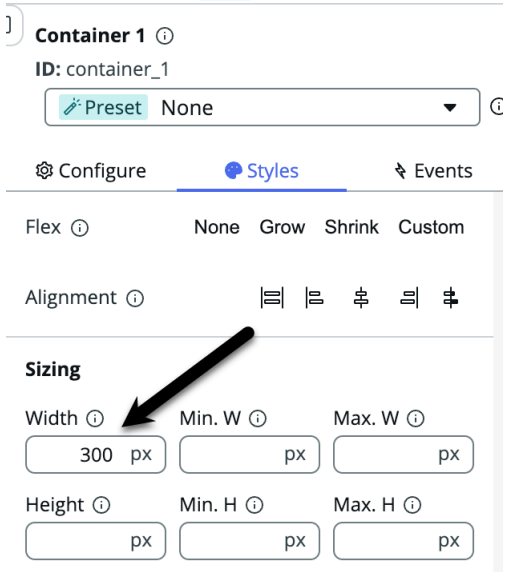
   b. [レイアウト] タブの [詳細] セクションで、**[Flexbox]** を選択します。



   c. 構成パネルの [構成] タブで、[なし - コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [サイジング] に `300` と入力して [幅] を設定します。



e. [保存] を選択します。

10. リピーターコンポーネントを追加します。

a. コンテンツツリーで、[コンテナ **1**] の下の **[+** コンテンツを追加] を選択します。

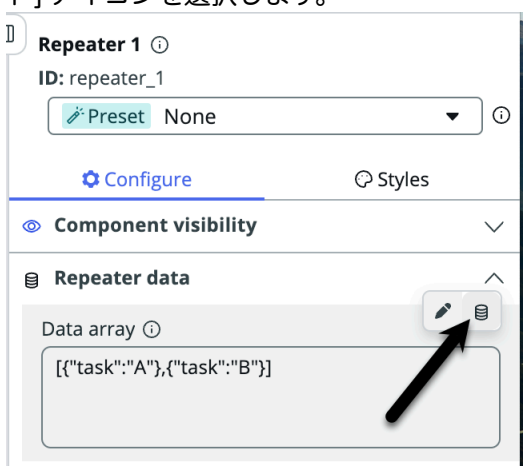
b. [検索] に `repeater` と入力します。

c. [リピーター] コンポーネントを選択します。

d. 構成パネルの [構成] タブで、[なし **-** コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

e. [保存] を選択します。

f. 構成パネルの [構成] タブで、[データアレイ] フィールドにカーソルを合わせ、[データをバインド] アイコンを選択します。



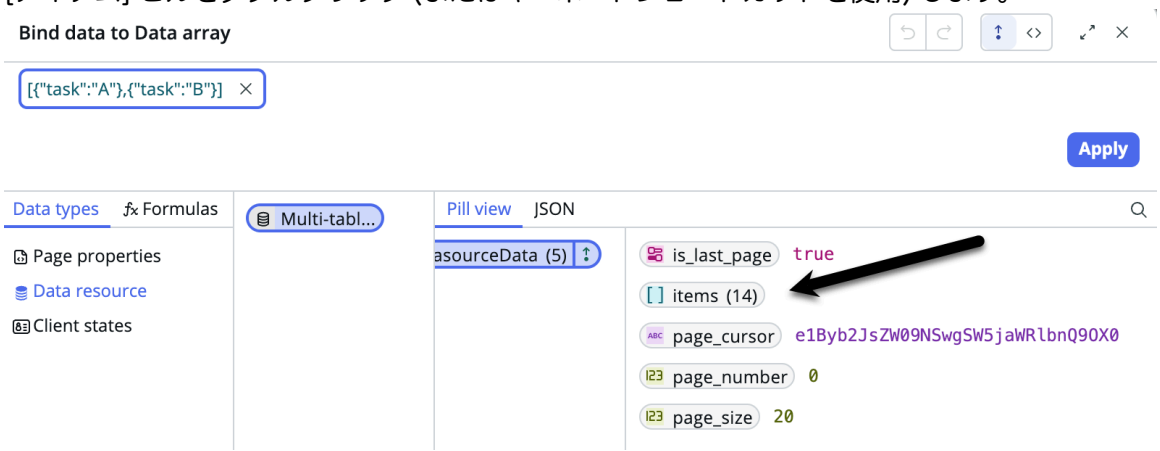
g. [データタイプ] で、[データリソース] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

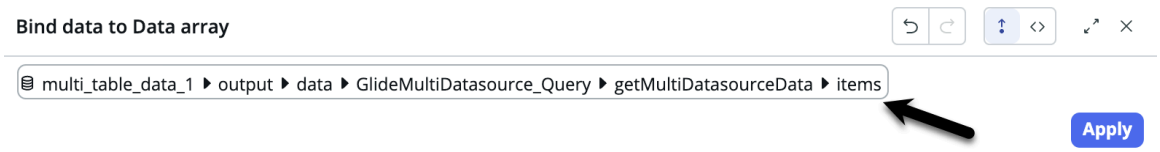
h. [複数テーブルデータ **1]** を選択します。

i. [出力] > [データ] > **[GlideMultiDatasource_Query]** > **[getMultiDatasourceData]** を選択します。

j. [アイテム] ピルをダブルクリック (またはキーボードショートカットを使用) します。



上部セクションが正確であることを確認してください。



k. [適用] を選択します。

l. [保存] を選択します。

11. リピーター内にカードベースコンテナコンポーネントを追加します。

a. コンテンツツリーで、[リピーター **1]** の下の **[+** コンテンツを追加] を選択します。

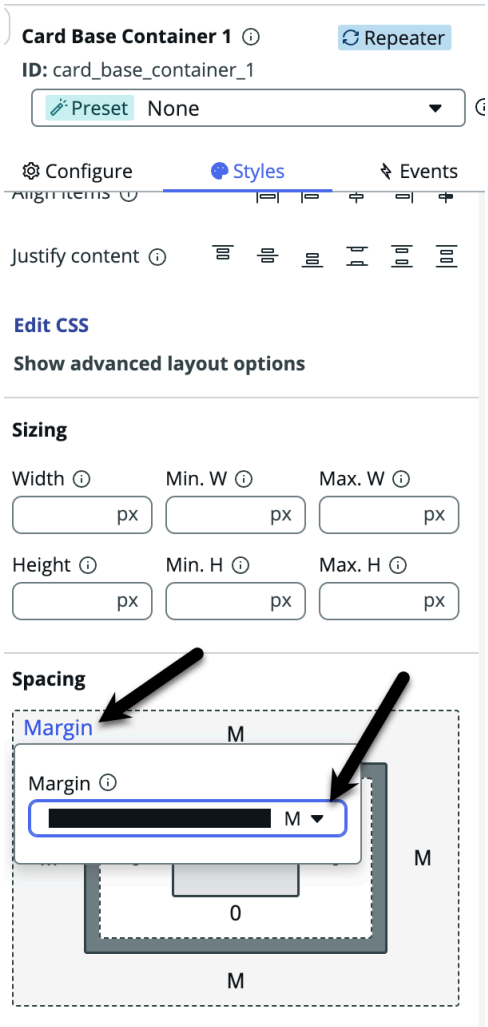
b. [カードベースコンテナ] コンポーネントを見つけて選択します。

c. 構成パネルの [構成] タブで、[なし - コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

d. [スタイル] タブを選択します。

e. カードの周囲に少しスペースを追加するには、[間隔] に移動し、[余白] を選択してから、**[M]** (中) を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



f. [保存] を選択します。

12. カードベースコンテナ内に見出しコンポーネントを追加します。

a. コンテンツツリーで、[カードベースコンテナ **1**] の下の **[+** コンテンツを追加] を選択します。

b. [見出し] コンポーネントを見つけて選択します。

c. 構成パネルの [構成] タブで、[なし **-** コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

d. 構成パネルの [構成] タブで、[ラベル] のデフォルトのテキストを削除します。

e. [ラベル] フィールドをポイントし、[データをバインド] アイコンを選択します。

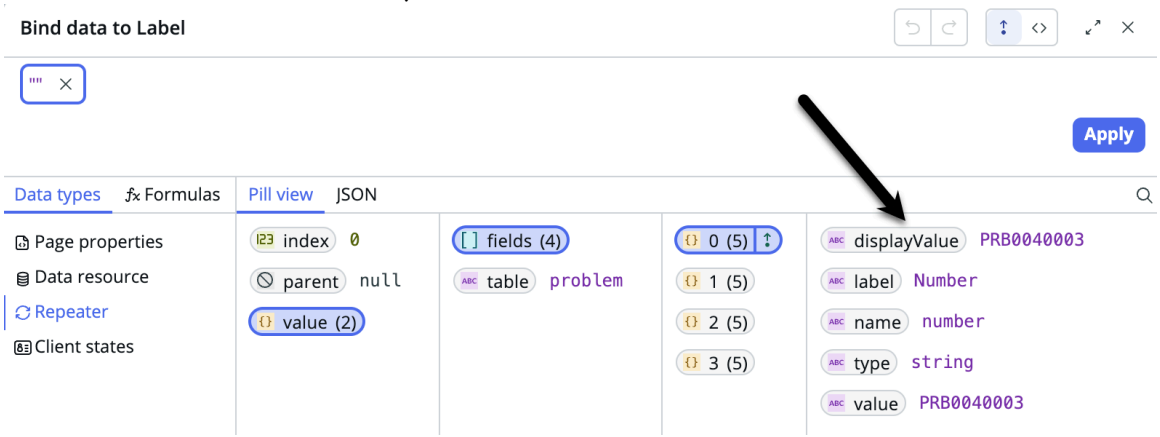
f. [データタイプ] で [リピーター] を選択します。

g. [値] > [フィールド] を選択します。

h. 一番上のピルを選択し、最後の列でインシデントまたは問題番号の **[displayValue]** を確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

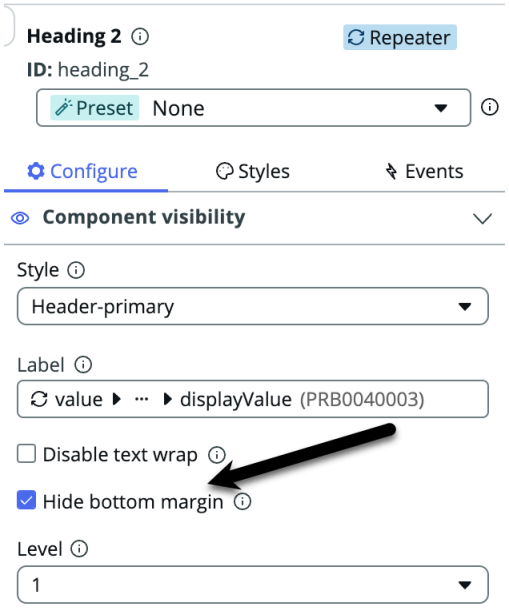
i. インシデントまたは問題番号が表示されている **[displayValue]** ピルをダブルクリック (またはキーボードショートカットを使用) します。



上部セクションが正確であることを確認してください。

j. [適用] を選択します。

k. [構成] タブで、[下のマージンを非表示] オプションを選択します。

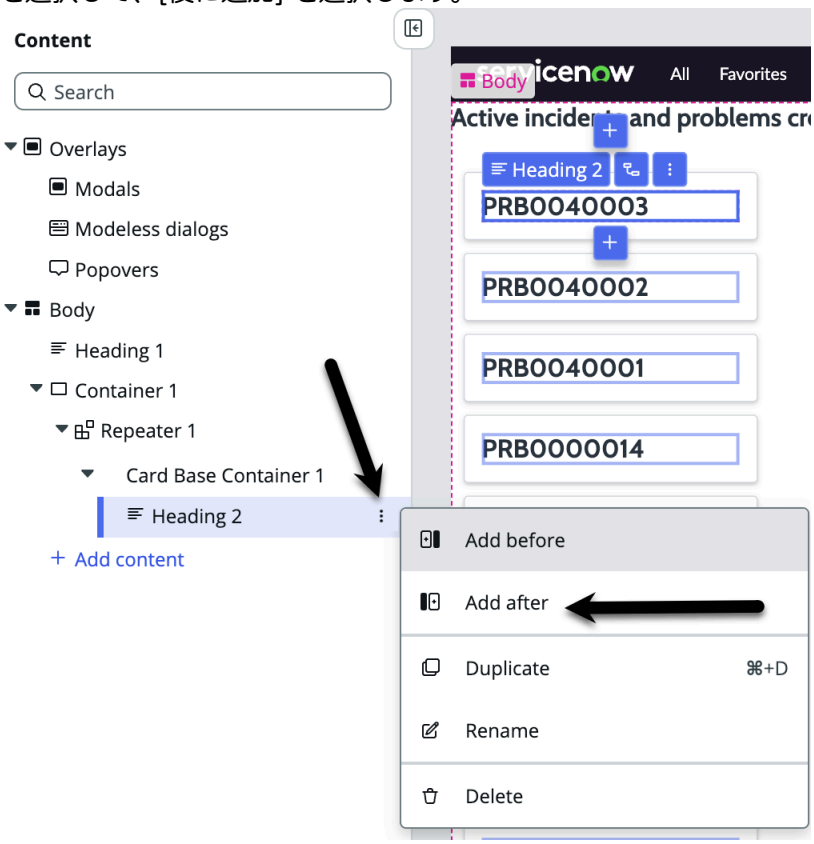


l. [保存] を選択します。

13. インシデントまたは問題の説明を表示する最初の定型テキストコンポーネントを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. コンテンツツリーで、[見出し **2]** をポイントし、メニュー (縦に並んだ 3 つのドット) アイコンを選択して、[後に追加] を選択します。



b. [定型テキスト] コンポーネントを見つけて選択します。

c. 構成パネルの [構成] タブで、[なし - コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

d. 構成パネルの [構成] タブで、[テキスト] のデフォルトのテキストを削除します。

e. [テキスト] フィールドをポイントし、[データをバインド] アイコンを選択します。

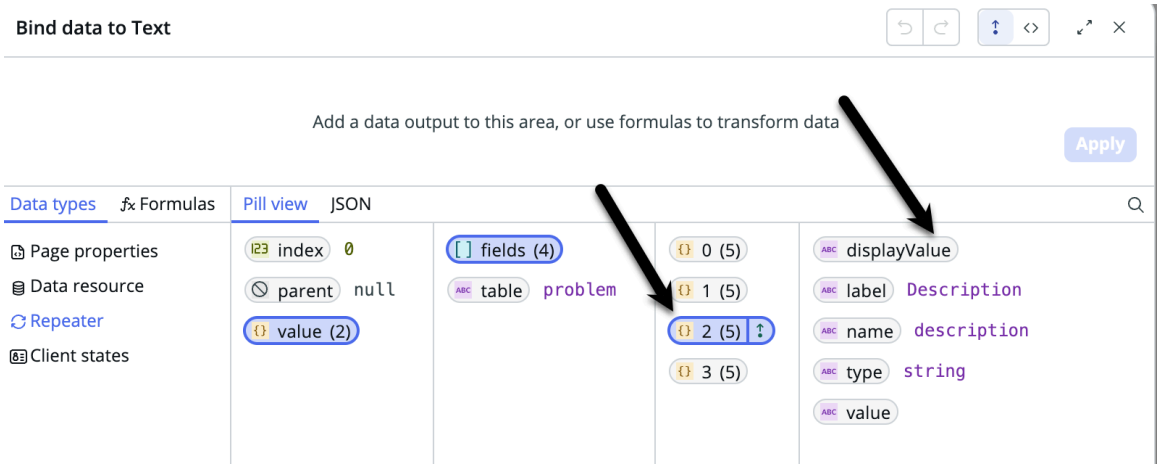
f. [データタイプ] で [リピーター] を選択します。

g. [値] > [フィールド] を選択します。

h. リストの 3 番目のピルを選択し、最後の列で **[displayValue]** に情報が含まれていないことを確認します。

i. 値のない **[displayValue]** ピルをダブルクリック (またはキーボードショートカットを使用) します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



上部セクションが正確であることを確認してください。

j. [適用] を選択します。

k. テキストサイズを小さくするには、[構成]タブに移動し、**[HTML タグ]**を [パラグラフ] に変更します。

l. [保存] を選択します。

14. インシデントまたは問題のステータスを表示する 2 番目の定型テキストコンポーネントを追加します。

a. コンテンツツリーで、[定型テキスト **1]** をポイントし、メニュー (縦 3 つのドット) アイコンを選択して、[後に追加] を選択します。

b. [定型テキスト] コンポーネントを見つけて選択します。

c. 構成パネルの [構成] タブで、[なし - コンポーネントを手動構成します **(None - Configure the component manually)]** を選択します。

d. 構成パネルの [構成] タブで、[テキスト] のデフォルトのテキストを削除します。

e. [テキスト] フィールドをポイントし、[データをバインド] アイコンを選択します。

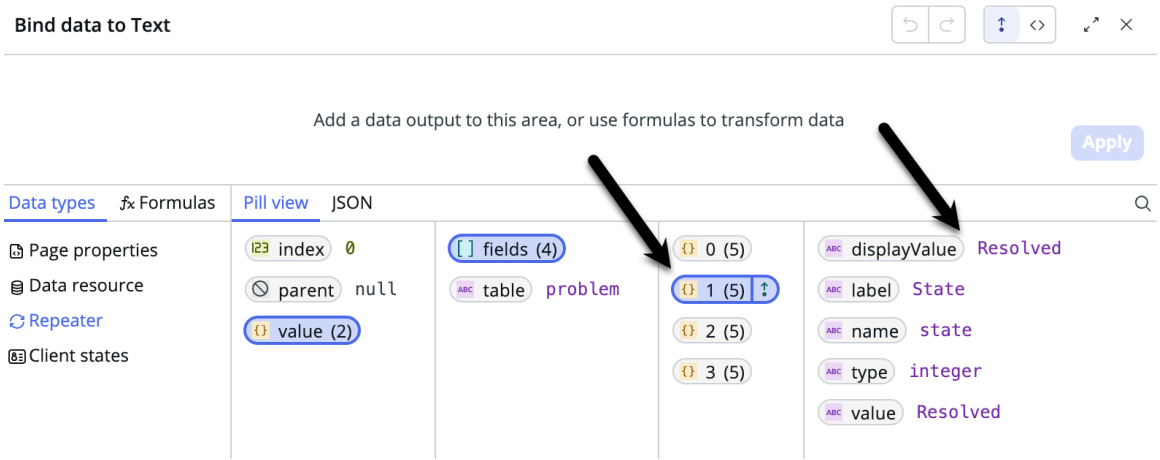
f. [データタイプ] で [リピーター] を選択します。

g. [値] > [フィールド] を選択します。

h. リストの 2 番目のピルを選択し、最後の列で、**[displayValue]** に [解決済み] や [対応中] などのステータスが含まれていることを確認します。

i. ステータス値のある **[displayValue]** ピルをダブルクリック (またはキーボードショートカットを使用) します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



上部セクションが正確であることを確認してください。

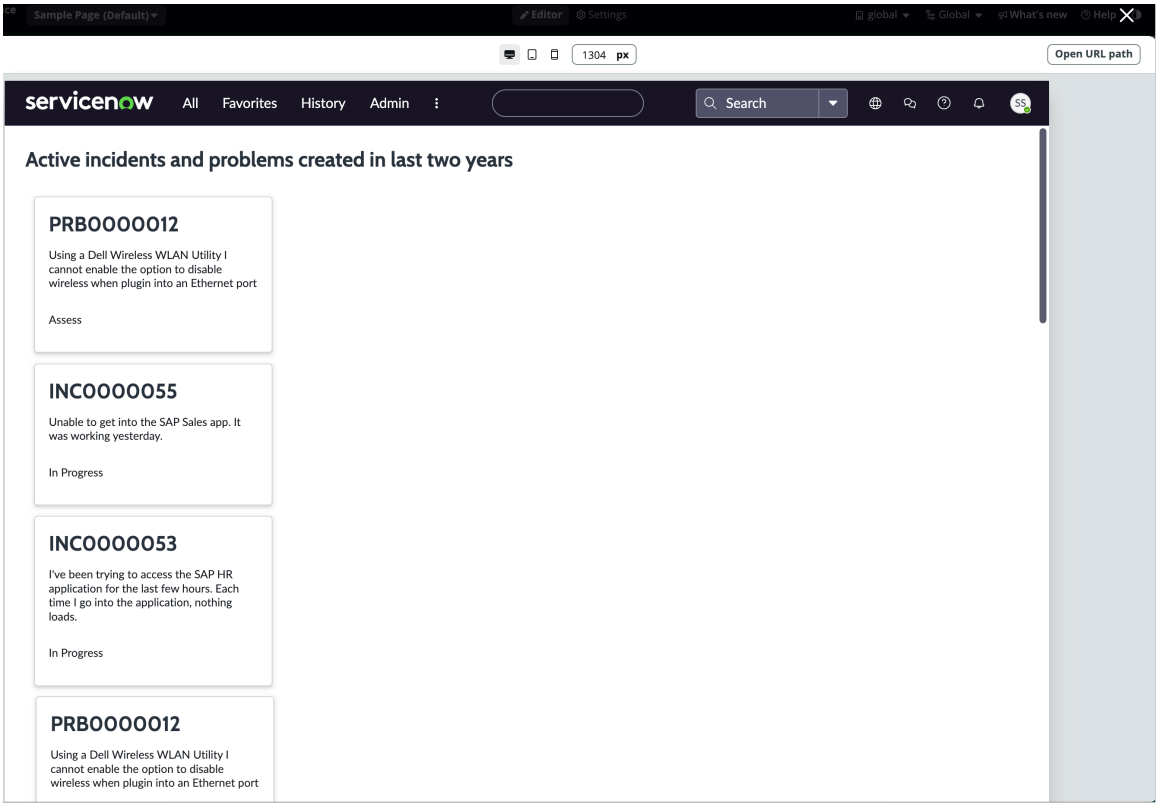
j. [適用] を選択します。

k. テキストサイズを小さくするには、[構成]タブに移動し、**[HTML** タグ]を [パラグラフ] に変更します。

l. [保存] を選択します。

15. [プレビュー] を選択します。
ページ見出しが上部に表示されます。各カードには、インシデントまたは問題番号が記載された見出しが含まれます。カードには、インシデントまたは問題の説明 (ある場合) とステータスも表示されます。インシデントテーブルと問題テーブルの 2 つのソースからデータが正常にプルされています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



16. **[X]** を選択してプレビューオーバーレイを閉じます。

UI ビルダー の **Entity View Action Mapper** の操作

UI ビルダー では、Entity View Action Mapper (EVAM) アプリケーションを使用して、コンポーネント内のデータソースをカードとリストに表示する方法を標準化できます。

EVAM の概要

Entity View Action Mapper (EVAM) は、さまざまなデータソースをカードとリストに表示する方法を標準化するアプリケーションです。UI ビルダー は EVAM データソースを使用して、コンポーネント内の情報をカードグリッドビューまたは情報のリストとして表示します。コンポーネントにトグルを追加して、カードグリッドビューとリストビューを切り替えられるようにできます。

EVAM は、次のコンポーネントで構成されています。

- エンティティ (データソース)。コミュニティの投稿やユーザーなど、表示する関連データ。
- ビュー。カードでのデータおよびアクションの表示方法。
- Actions (アクション)。カードに対して実行するアクション。たとえば、システムに対してユーザーを有効化できます。
- マップ。カードに表示される汎用フィールドにデータソースをマップするプロセス。カードビューからトリガーされるアクションを関連付けることもできます。

EVAM とマルチテーブルデータ構成

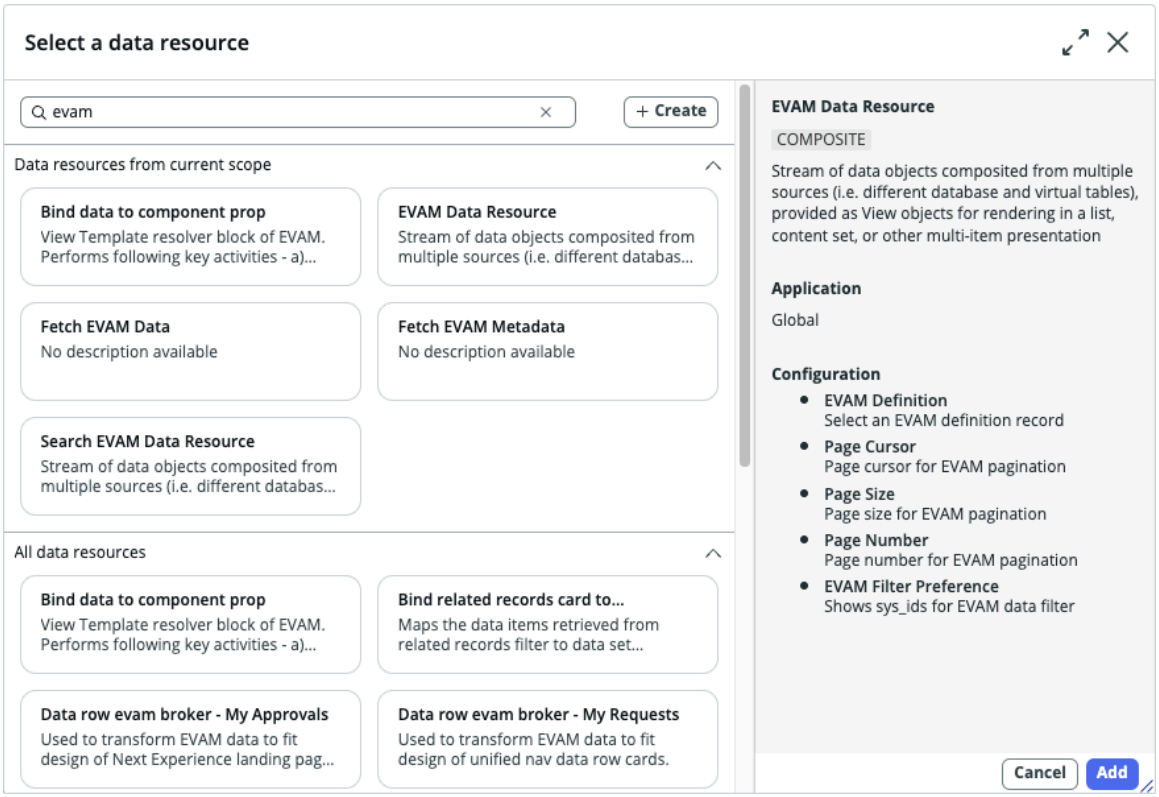
EVAM は、JSON を理解し、操作に慣れているユーザー向けのオプションです。マルチテーブルデータ構成オプションは代替方法であり、データの表示をより詳細に制御し、データの構成を容易にし、UI ビルダー に留まることができます。希望するオプションを使用します。詳細については、「マルチテーブルデータ構成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

EVAM データソース

UI ビルダー に EVAM データソースを追加し、コンポーネントにバインドします。

EVAM データリソース

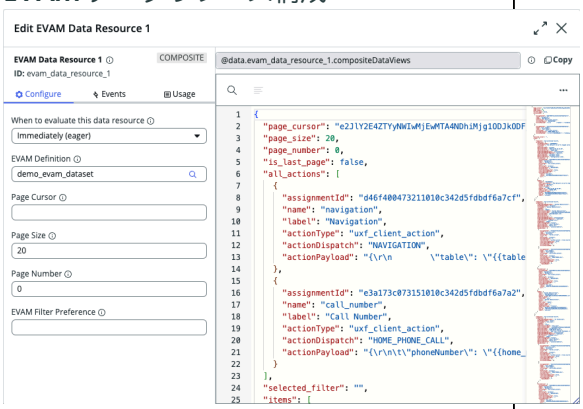


EVAM データソース

EVAM データソース	説明
EVAM データリソース	データソースに関する EVAM 定義とその他の情報を追加します。 • タイプ：複合。 • 評価するタイミング：[このデータリソースを評価するタイミング] で、[即時] を選択してページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するか、[呼び出された場合のみ] を選択してイベントハンドラーで EVAM データリソースを評価します。 • EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを追加します。 • ページカーソル：[ページカーソル] フィールドで、EVAM 定義のページカーソルを追加します。 • ページサイズ：[ページサイズ] フィールドで、EVAM ページネーションのサイズを追加します。

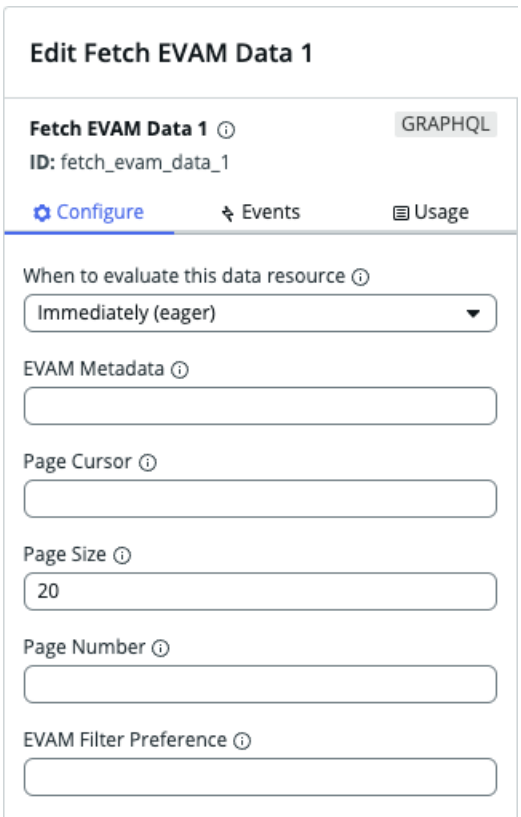
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

EVAM データソース (続く)

EVAM データソース	説明
	• ページ番号：[ページ番号] フィールドで、EVAM ページネーションのページ番号を追加します。 • EVAM フィルター設定：**[EVAM** フィルター設定] フィールドで、EVAM データフィルターの sys_id を入力します。 データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。 [構成] ペインの横にある **[Now** コードエディター] セクションで、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。 **EVAM** データリソース構成 
EVAM データをフェッチ	EVAM 定義とデータソースに関するその他の情報を追加するには、[構成] を選択します。 • タイプ：GRAPHQL • 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。 • EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを入力します。 • ページカーソル：[ページカーソル] フィールドで、EVAM 定義のページカーソルを入力します。 • ページサイズ：[ページサイズ] フィールドで、EVAM ページネーションのサイズを入力します。

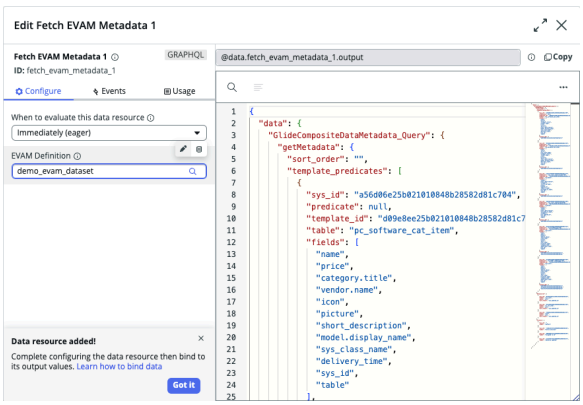
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

EVAM データソース (続く)

EVAM データソース	説明
	• ページ番号：[ページ番号] フィールドで、EVAM ページネーションのページ番号を入力します。 • EVAM フィルター設定：**[EVAM** フィルター設定] フィールドで、EVAM データフィルターの sys_id を入力します。 データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。 [構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。 
EVAM メタデータをフェッチ	EVAM データリソースを評価して EVAM 定義を追加するタイミングを選択するには、[構成] を選択します。 • タイプ：GRAPHQL • 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評

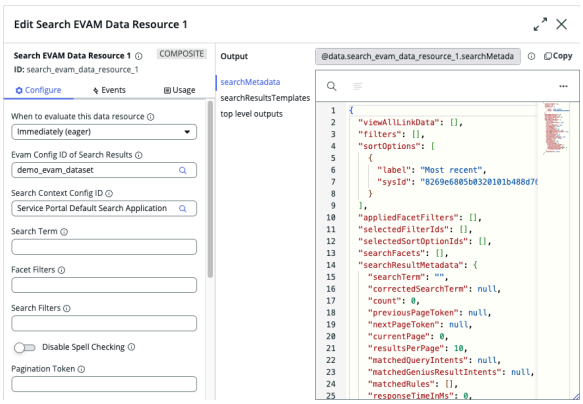
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

EVAM データソース (続く)

EVAM データソース	説明
	価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。 • EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを入力します。 データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。 [構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。 
EVAM データリソースを検索	EVAM 定義とデータソースに関するその他の情報を追加するには、[構成] を選択します。 • タイプ：複合。 • 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。 • EVAM 構成 ID：**[EVAM** 構成 **ID (EVAM Config ID)]** フィールドに、データレコードに関連付けられている **EVAM** 構成 **ID** を追加します。 • 検索コンテキスト構成 ID：[検索コンテキスト構成 **ID]** フィールドに、検索する検索コンテキスト構成 **ID** を追加します。 • 検索用語：[検索用語] フィールドに、検索する検索用語を追加します。 • ファセットフィルター：[ファセットフィルター] フィールドに、検索の定義に役立つファセットフィルターを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

EVAM データソース (続く)

EVAM データソース	説明
	• 検索フィルター：[検索フィルター] フィールドに、検索の定義に役立つ検索フィルターを追加します。 • スペルチェックを無効にする：[スペルチェックを無効にする] フィールドで、検索時にスペルチェックをオンにするかオフにするかを選択します。 • ページネーショントークン：[ページネーショントークン] フィールドに、必要に応じてページネーショントークンを入力します。 データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。 [構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。 

ページへの **Entity View Action Mapper** のデータリソースの追加

UI ビルダー で Entity View Action Mapper (EVAM) データリソースをページに追加して、コンポーネント内のデータソースをカードとリストに表示する方法を標準化できます。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

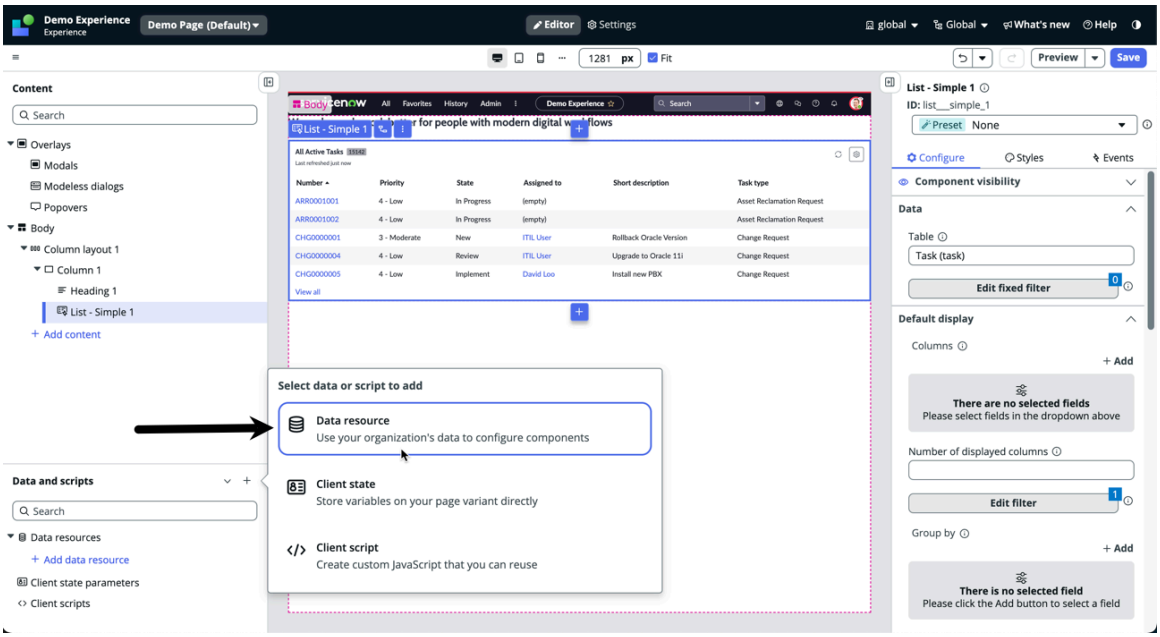
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー] に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   エクスペリエンスの作成の詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   詳細については、「UI ビルダー ページとページのバリアントを管理」を参照してください。
4. オプション: ページにコンポーネントがない場合は、ページにデータセットコンポーネントを追加します。

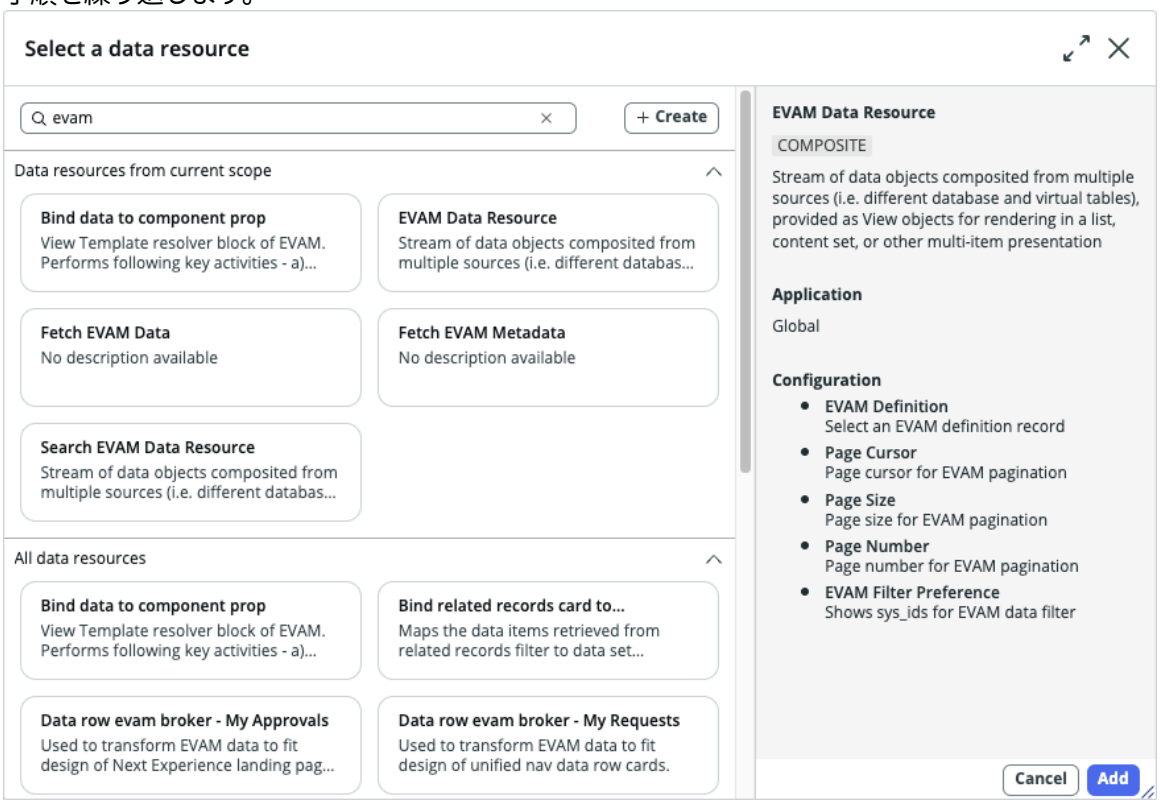
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

5. [データおよびスクリプト **(Data and scripts)]** パネルで、**[+]** アイコンを選択し、[データリソース] を選択します。



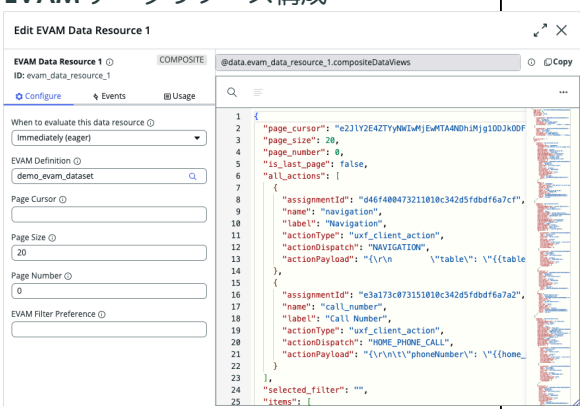
6. 検索フィールドに「`evam`」と入力します。
7. 追加する EVAM データリソースを選択し、ページのすべての EVAM データリソースに対してこの手順を繰り返します。



8. 各 EVAM データリソースを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

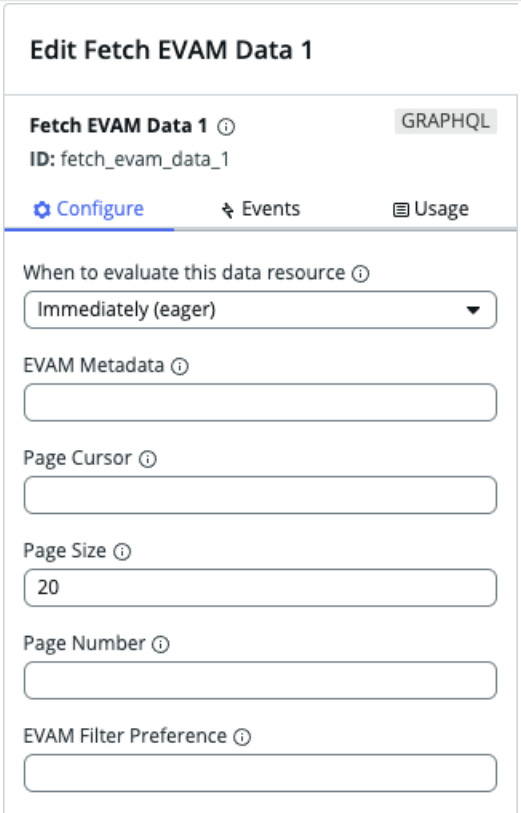
EVAM データソース

EVAM データソース	説明
EVAM データリソース	データソースに関する EVAM 定義とその他の情報を追加します。 ◦ タイプ：複合。 ◦ 評価するタイミング：[このデータリソースを評価するタイミング] リストで、[即時] を選択してページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するか、[呼び出された場合のみ] を選択してイベントハンドラーで EVAM データリソースを評価します。 ◦ EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを追加します。 ◦ ページカーソル：[ページカーソル] フィールドで、EVAM 定義のページカーソルを追加します。 ◦ ページサイズ：[ページサイズ] フィールドで、EVAM ページネーションのサイズを追加します。 ◦ ページ番号：[ページ番号] フィールドで、EVAM ページネーションのページ番号を追加します。 ◦ EVAM フィルター設定：**[EVAM** フィルター設定] フィールドで、EVAM データフィルターの sys_id を追加します。 データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。 [構成] ペインの横にある [Now コードエディター] セクションで、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。 **EVAM** データリソース構成 

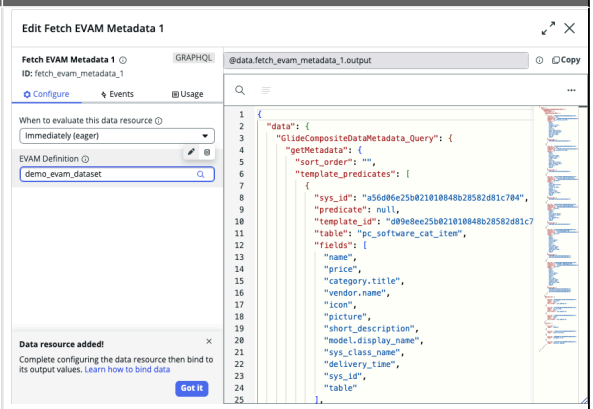
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

EVAM データソース	説明
EVAM データをフェッチ	EVAM 定義とデータソースに関するその他の情報を追加するには、[構成] を選択します。 ◦ タイプ：GRAPHQL ◦ 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。 ◦ EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを追加します。 ◦ ページカーソル：[ページカーソル] フィールドで、EVAM 定義のページカーソルを追加します。 ◦ ページサイズ：[ページサイズ] フィールドで、EVAM ページネーションのサイズを追加します。 ◦ ページ番号：[ページ番号] フィールドで、EVAM ページネーションのページ番号を追加します。 ◦ EVAM フィルター設定：**[EVAM** フィルター設定] フィールドで、EVAM データフィルターの sys_id を追加します。 データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。 [構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。

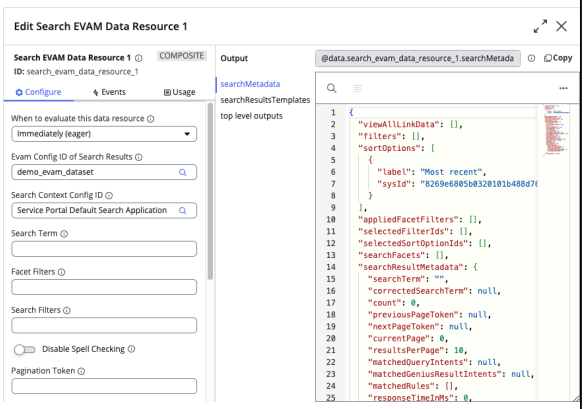
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

EVAM データソース	説明
	
EVAM メタデータをフェッチ	EVAM データリソースを評価して EVAM 定義を追加するタイミングを選択するには、[構成] を選択します。 ◦ タイプ：GRAPHQL ◦ 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。 ◦ EVAM 定義：**[EVAM** 定義] フィールドで、データリソースに関連付けられている EVAM 定義レコードを追加します。 データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。 [構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

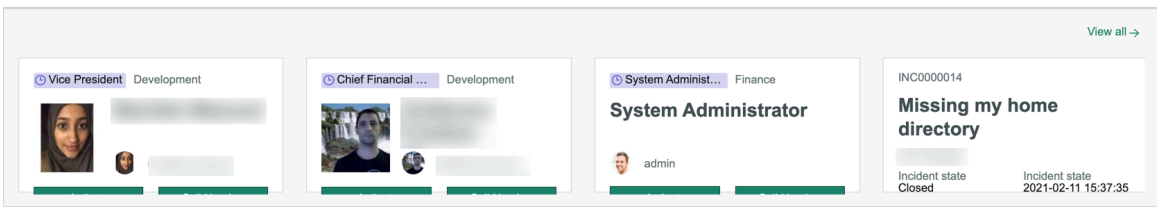
EVAM データソース	説明
	
EVAM データリソースを検索	EVAM 定義とデータソースに関するその他の情報を追加するには、[構成] を選択します。 ◦ タイプ：複合。 ◦ 評価するタイミング：ページのロード時に EVAM データリソースインスタンスを評価するには、[即時] を選択します。イベントハンドラーを使用して EVAM データリソースを評価するには、[呼び出された場合のみ] を選択します。 ◦ EVAM 構成 ID：**[EVAM 構成 ID (EVAM Config ID)]** フィールドに、データレコードに関連付けられている **EVAM 構成 ID** を追加します。 ◦ 検索コンテキスト構成 ID：[検索コンテキスト構成 **ID]** フィールドに、検索する検索コンテキスト構成 ID を追加します。 ◦ 検索用語：[検索用語] フィールドに、検索する検索用語を追加します。 ◦ ファセットフィルター：[ファセットフィルター] フィールドに、検索の定義に役立つファセットフィルターを追加します。 ◦ 検索フィルター：[検索フィルター] フィールドに、検索の定義に役立つ検索フィルターを追加します。 ◦ スペルチェックを無効にする：[スペルチェックを無効にする] フィールドで、検索時にスペルチェックをオンにするかオフにするかを選択します。 ◦ ページネーショントークン：[ページネーショントークン] フィールドに、必要に応じてページネーショントークンを追加します。 データフェッチが開始、成功、または失敗した場合のイベントハンドラーを追加するには、[イベント] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

EVAM データソース	説明
	[構成] ペインの右にある **[Now** コードエディター] で、EVAM 定義スクリプトをプレビューします。 

9. データセットコンポーネントを次のように構成します。
   - EVAM データリソースをコンポーネントにバインドします。
   - [グリッド/リストトグルを表示] をオンにすると、ページ上の EVAM 情報をグリッドビューで表示するかリストビューで表示するかを選択できます。
   - ページ上のカードのその他の構成設定を行います。
10. **[Save** (保存)] を選択します。
11. [プレビュー] ボタンを選択し、ページを表示してテストします。

EVAM の完了ステータス



UI ビルダーページでのアクションの管理 (高度な機能)

UI ビルダー のコンポーネント、ページ、データリソース、および宣言アクションにアクションを追加できるように、イベントを操作する方法について学習します。

UI ビルダー でのアクション

UI アクションは、イベントがトリガーされたときに実行される処理を UI ビルダー に通知します。イベントは、ユーザーが実行するアクション、またはページで発生する事象です。UI アクションを使用して、ユーザーがタスクを完了するのに役立つ、インタラクティブで分かりやすいインターフェイスを作成します。各コンポーネントには、独自のイベントが関連付けられています。イベントには次のものが含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ユーザーがデータ可視化をクリックする
- ページがデータを正常にフェッチする
- ユーザーがラジオボタンを選択する
- ページがロードされる

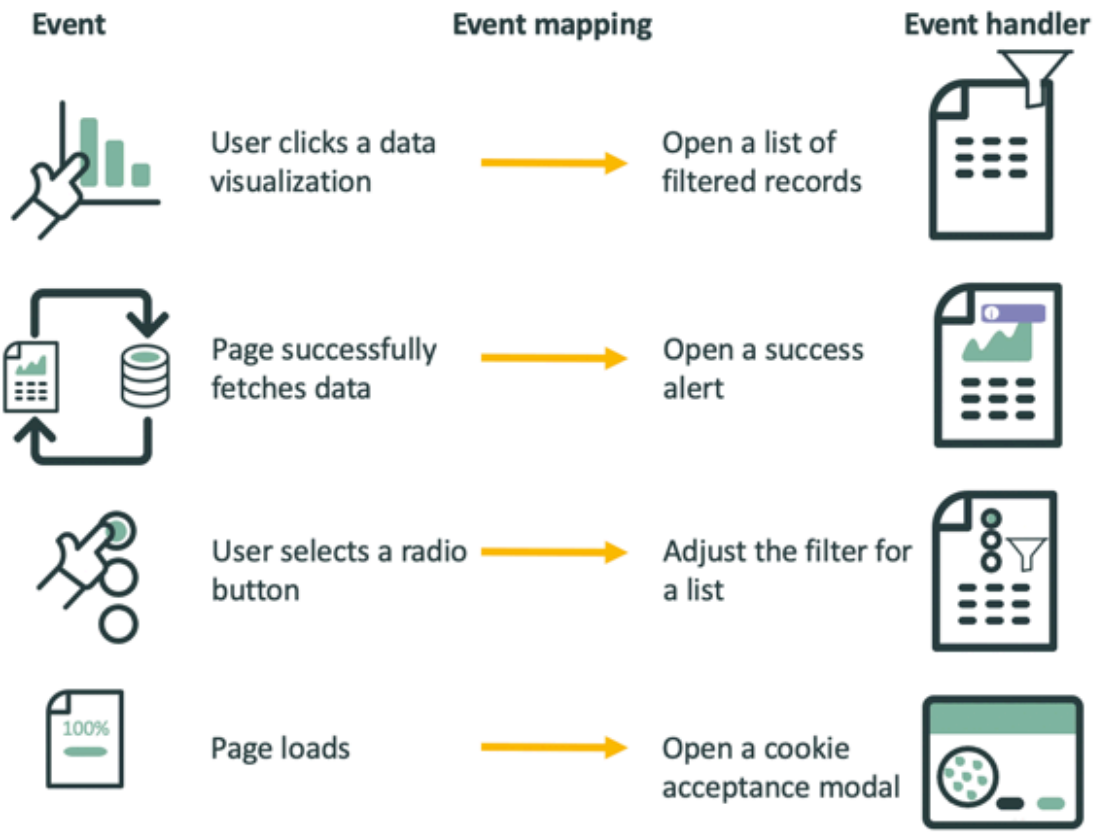
UI ビルダー のイベント

イベントを使用して、コンポーネント、ページ、およびデータリソースにアクションを追加します。

- コンポーネントイベントは、コンポーネントに対してセットアップするアクションです。そのコンポーネントアクションを構成するイベントハンドラーを設定します。たとえば、ボタンコンポーネントを UI ビルダー ページに追加できます。次に、Web ページへの移動など、そのボタンのアクションを適用するイベントハンドラーを追加できます。
- ページイベントは、ページ全体に対してアクションを実行します。次のページイベントを構成できます。
  - ページイベントマッピング。ページのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。
  - バリアントイベントマッピング。ページバリアントのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。
  - ディスパッチされるイベント。ページにディスパッチされるイベントを作成し、親イベントハンドラーの後にイベントをモデル化するリレーイベントマッピングを作成します。ターゲットの親イベントハンドラーを選択して、その後のペイロードフィールドをモデル化します。
  - 処理済みイベント。処理済みイベントとは、他のユーザーが公開して使用できるイベントのことです。処理済みイベントを作成すると、*Page event mappings* で他のユーザーも使用できるようになります。手動で作成するペイロードフィールドを設定したり、モーダルダイアログのオープンやクローズなどの、処理済みイベントのテンプレートを選択したりすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- データリソースイベントは、データリソースをマッピングして、データがフェッチされるタイミングについての情報を通知します。
- ページまたはコンポーネントのイベントは、イベントが 1 つ以上のイベントハンドラーにマッピングされるまで何も実行しません。



UI ビルダーのイベントマッピング

アクションをボタンのクリックやフィールドの入力などのイベントにマッピングします。イベントマッピングとは、イベントのペイロードまたはコンテキスト値を、そのイベントを操作するオブジェクトまたはハンドラーにマッピングするプロセスのことです。

イベントマッピングの詳細については、「マップイベントの定義」を参照してください。

UI ビルダーのイベントハンドラー

イベントハンドラーは、イベントの発生時に実行されるアクションです。イベントハンドラーをイベントにマッピングすることで、イベントの発生時に実行されるアクションを指定します。イベントハンドラーを使用して、UI ビルダー ページまたはページ上のコンポーネントのアクションを構成します。例：

- データの可視化をクリックすると、その可視化で表されるレコードのリストが開きます
- リストのデータを正常にフェッチすると、データフェッチが成功したことを示すアラートが開きます
- ラジオボタンを選択すると、ページ上のリストのフィルターが調整されます
- ページをロードすると、続行する前に Cookie の受け入れを確認するモーダルが開きます

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダー ページまたはコンポーネントにイベントハンドラーを追加する際に、さまざまなタイプのイベントハンドラーを選択できます。たとえば、ボタンコンポーネントには次のタイプのイベントハンドラーを含めることができます。

- 継承されたイベントハンドラー。継承されたイベントハンドラーは、作業しているページから公開されます。親 UI ビルダー ページにいる場合は、継承されたイベントハンドラーをアプリシェルから公開することができます。次の表に、使用できるさまざまなタイプの継承されたイベントハンドラーと、それらを使用してできることを一覧表示します。

継承されたイベントハンドラー

イベントハンドラー	説明
ブレッドクラムの URL が変更されました	
宛先にリンク	宛先に移動します。 ◦アプリルート：ホーム画面など、アプリ内の別のページへのリンク。 ◦外部 URL：Web サイトまたは任意の外部 URL へのリンク。 サンプルスクリプト `return { route: null, /* Page route, e.g. 'record' */ fields: null, /* Required params, e.g. {"table":"incident","sysId":"X"} */ params: null, /* Optional params, e.g. {"selectedIndex" : 1} */ ☑#redirect: null, /* ??? True/false? */ ☑#passiveNavigation: null, /* Load in background, e.g. 'false' */ title: null, multiInstField: null, ☑#targetRoute: null, /* ??? */ ☑#external: null /* ??? True/false? */ };`
URL にパラメーターを追加	パラメーターを URL にさらに追加します。 サンプルスクリプト `{ “selectedTabIndex” : 0 }`
モーダルダイアログを開くまたは閉じる	モーダルを作成したら、*Open or close modal dialog* を使用してモーダルをトリガーします。

- ページレベルのイベントハンドラー。このタイプのイベントハンドラーはすべてのページに共通であり、このハンドラータイプは、ページレベルのアラート通知を追加またはクリアする場合に使用

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

します。次の表に、使用できるさまざまなタイプのページレベルのイベントハンドラーと、それらを使用してできることを一覧表示します。

ページレベルのイベントハンドラー

イベントハンドラー	説明
アラート通知を追加	アラート通知を送信するコードスニペットを追加します。例： `return { items: [{"type" : "info", "message" : "Info message", "id" : "optionalID"}] /* Types: info, warning, error */ };`
アラート通知の削除	破棄するアラート通知の ID を呼び出すコードを追加します。たとえば、ボタンをクリックしてページロードアラート通知を削除します。
アラート通知のクリア	破棄するすべてのアラート通知の ID を呼び出すコードを追加します。たとえば、ボタンをクリックしてすべてのアラート通知を削除します。
ロード中ステータスを設定	ロードのオン/オフを切り替えます。たとえば、ロードのオン/オフを切り替えて、ボタンをクリックしたときにページをロードする/しないようにできます。
クライアントステータスパラメーターを更新	クライアントステータスパラメーターを宣言的に設定します。値を指定して設定したクライアントステータスパラメーターがあるとします。*`Update client state parameter`*イベントハンドラーを構成して、クライアントステータスパラメーターを新しい値で更新できます。たとえば、「**Greeting**」と呼ばれるクライアントステータスパラメーターがあり、初期値として「`Hello`」が設定されているとします。*`Update client state parameter`* イベントハンドラーを追加して「**Greeting**」クライアントステータスパラメーターを選択し、「`Goodbye`」などの新しい値を入力できます。ボタンをクリックすると、ページ上の「**Hello**」が「**Goodbye**」に置き換えられます。
UXF macroponent ビューポートロードを要求	ボタンコンポーネントなどのコンポーネントに追加して、ビューポートを開きます。詳細については、「ビューポートコンポーネントをページに追加する」を参照してください。

- データリソースハンドラー。このタイプのイベントハンドラーは、サーバーへのデータのフェッチまたは書き込みをトリガーします。

  ボタンをクリックして、UI ビルダー ページ上のアプリシェルデータソースデータを更新できます。たとえば、データリソースハンドラーを使用して、次のアクションを実行できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- インシデントレコードの説明にデータをバインドします。
- インシデントの説明の値を変更します。
- ボタンコンポーネントをページに追加します。
- ボタンに「インシデントをリフレッシュ」というラベルを付けます。
- ボタンの *Look Up Record* イベントハンドラーを追加します。
- ページを保存します。
- インシデントレコードの説明が変更された場合は、[リフレッシュ] をクリックしてページの説明を更新します。

- クライアントスクリプト。コンポーネントでイベントがトリガーされたときに実行されるスクリプト。これらのスクリプトは、UI ビルダー の [クライアントスクリプト] セクションで作成します。詳細については、「クライアントスクリプトを定義してコンポーネントにバインドする」を参照してください。

UI ビルダーのコンポーネントへのイベントのバインディング

イベントハンドラーをコンポーネントのイベントにバインドします。コンポーネントを UI ビルダー ページに追加したときには、コンポーネントがページでアクションを実行するようには構成されません。たとえば、ボタンコンポーネントは静的であり、レコードの削除など、イベントアクションをバインドするまでは何も実行されません。一部のコンポーネントには、イベントハンドラーをアサインできる複数のイベントがあります。たとえば、リストコンポーネントでは、ナビゲーションハンドラーを *Row clicked* イベントに割り当てることができます。*Data fetch failed* イベントにオープンモーダルをアサインすることもできます。詳細については、「コンポーネントへのイベントのバインド」を参照してください。

UI ビルダーページへのイベントのバインド

ページレベルのイベントをバインドして、ページでイベントハンドラーを実行します。たとえばページレベルのイベントは、ページ通知、ページロード、またはページのプロパティの変更時に使用します。ページレベルのイベントへのイベントハンドラーのアサインは、コンポーネントからのイベントへのハンドラーのアサインに似ています。

イベントマッピングは、次の方法でバインドできます。

- ページイベントマッピング。ページのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。
- バリアントイベントマッピング。ページバリアントのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。
- ディスパッチされるイベント。ページにディスパッチされるイベントを作成し、親イベントハンドラーの後にイベントをモデル化するリレーイベントマッピングを作成します。ターゲットの親イベントハンドラーを選択して、その後のペイロードフィールドをモデル化します。
- 処理済みイベント。他のユーザーが公開して使用できるイベントである処理済みイベントを追加します。

詳細については、「ページへのイベントのバインド」を参照してください。

UI ビルダーのデータリソースへのイベントのバインディング

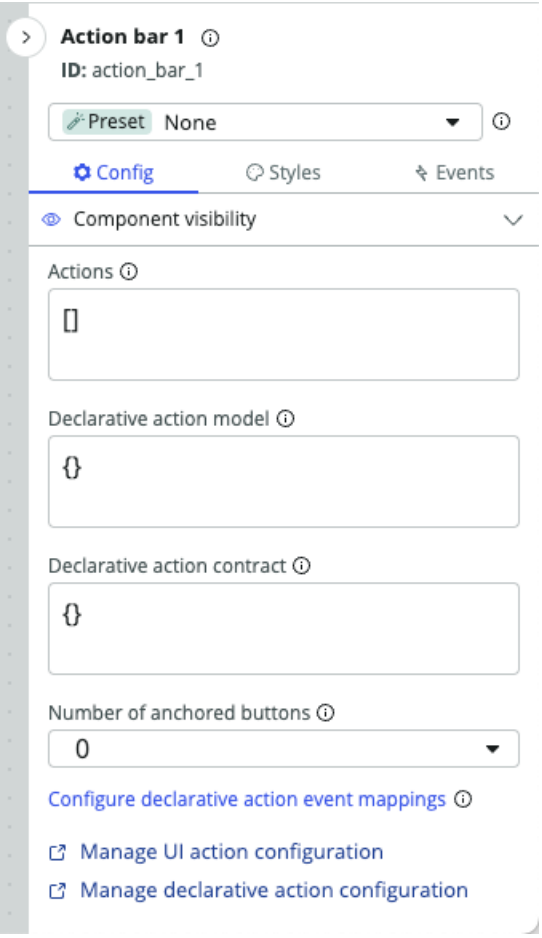
UI ビルダー ページ上の個々のデータリソースにイベントハンドラーをバインドします。たとえば、データリソースが新しいデータを正常にフェッチすると、ナビゲーションなどのイベントハンドラーが実行され、ユーザーはフロー内の次のステップに移動します。データリソースがテーブルにレコードを正常に追加すると、モーダル表示イベントハンドラーを使用する成功モーダルが表示されます。詳細については、「データリソースへのイベントのバインド」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI ビルダーの宣言アクションへのイベントのバインディング

データ要素をバインドして、イベントアクションを Now Platform® の [アクション & コンポーネント] の宣言アクション定義に追加します。たとえば、データ要素をバインドして、テーブルでの作業を実行するイベントアクションを追加できます。

宣言アクションがある UI ビルダー ページにコンポーネントを追加する場合は、それを処理済みイベントにバインドする必要があります。処理済みイベントは、ユーザーがコンポーネントを選択したときに実行されるアクションを作成します。[宣言アクションイベントマッピングの設定] を選択し、新しいイベントハンドラーを追加して、ページでの宣言アクションの動作を定義します。



詳細については、「宣言アクションへのイベントのバインド」を参照してください。

マップイベントの定義

UI ビルダー のイベントマッピングとは、イベントのペイロードまたはコンテキスト値を、そのイベントを操作するオブジェクトまたはハンドラーにマッピングするプロセスのことです。4 つのイベントタイプは、コンポーネント、ページ、データリソース、および宣言アクションです。

イベントマッピングは UI ビルダー の重要なプロセスです。コンポーネントを使用してページをビルドする場合は、ユーザー向けのアクションを実行するためのコンポーネントが必要です。たとえば、ボタンコンポーネントをページに追加する場合は、ボタンクリックイベントをイベントハンドラーにマッピングする必要があります。このイベントハンドラーは、ユーザーが選択したときにボタンクリックアクションを実行します。たとえば、フォームなどのデータリソースを追加した際に、フォームが正常にロードされたときにイベントハンドラーでユーザーに通知するなどです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタイプ

利用可能なイベントタイプは、コンポーネントに基づいています。たとえば、宣言アクションイベントは、アクションバーやリストコンポーネントなどの特定のコンポーネントで使用できます。

ページで実行するアクションに基づいて、イベントのタイプを選択します。たとえば、Web ページをロードするボタンなど、アクションをコンポーネントにバインドする場合は、コンポーネントイベントを使用します。ページにアラート通知を追加するなど、ページ全体にイベントを適用する場合は、ページイベントを使用します。次の表では、UI ビルダー で利用可能な各イベントタイプについて説明し、イベントの使用方法の例を示します。

イベントタイプと説明

イベントタイプ	説明
コンポーネントイベント	コンポーネントをセットアップするアクション。そのコンポーネントアクションを構成するイベントハンドラーを設定します。たとえば、Web ページへの移動など、ボタンのアクションを適用するためのイベントハンドラーを追加します。コンポーネントへのイベントのバインドの詳細については、「コンポーネントへのイベントのバインド」を参照してください。
ページイベント	ページ全体に対してアクションを実行するページイベント。次のページイベントを構成できます。 • ページイベントマッピング。 ◦ これらのイベントマッピングは、[sys_ux_macroponent] テーブルにあるページ定義レコードに保存されます。 ◦ これらのイベントマッピングのソースイベントは、ページ準備完了とページプロパティです。これらはページに対して定義されます。 ◦ これらのイベントマッピングに使用可能なハンドラーは次のとおりです。 ▪ ユーザーセッションイベント ▪ ページレベルイベント ▪ UXR アプリシェルデータソース ▪ ページで定義されているクライアントスクリプト ▪ ローカルおよび継承されたデータリソースからの操作 • バリアントイベントマッピング。 ◦ これらのイベントマッピングは、[sys_ux_screen] テーブルにあるバリアントレコードに保存されます。 ◦ これらのイベントマッピングのソースイベントは、ページに対して定義されたディスパッチイベントです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタイプと説明 (続く)

イベントタイプ	説明
	◦ これらのイベントマッピングに使用できるハンドラーは、キャンバスレベルのイベント、UXR アプリシェルデータソース、および継承されたデータリソースからの操作です。 ◦ バリアントイベントマッピングは、ページ上のコンポーネントからディスパッチされるイベントをユーザーセッションイベントハンドラーにリレーできるように、リレーとして使用されます。 ◦ コンポーネントのディスパッチされたイベントをユーザーセッションハンドラーにマッピングすると、ページの保存時にマッピングが自動的に作成されます。たとえば、[クリックしたボタン] イベントをキャンバスレベルの [宛先にリンク] イベントにマッピングすると、そのイベントによって、ページの保存時に、ディスパッチされたリレーイベントとバリアントイベントのマッピングが作成されます。 • ディスパッチされるイベント。 ◦ これらのイベントは [sys_ux_event] テーブルに保存されます。ページ定義レコードには、[sys_ux_event] レコードへの参照が含まれています。 ◦ これらのイベントは、バリアントイベントマッピングのソースイベントとして機能します。 ◦ **[+** 追加] を選択して、ページの新しいディスパッチイベントを作成できます。新しい `sys_ux_event` のイベント名とペイロードフィールドを自動入力するようにイベントラベルを構成します。 ◦ これらのイベントは、リレーイベントマッピングを作成するために使用されます。[ターゲットの親イベントハンドラー] を選択して、選択したイベント後のペイロードフィールドをモデル化します。ディスパッチされたイベントのペイロードフィールドを手動で作成することもできます。 • 処理済みイベント。

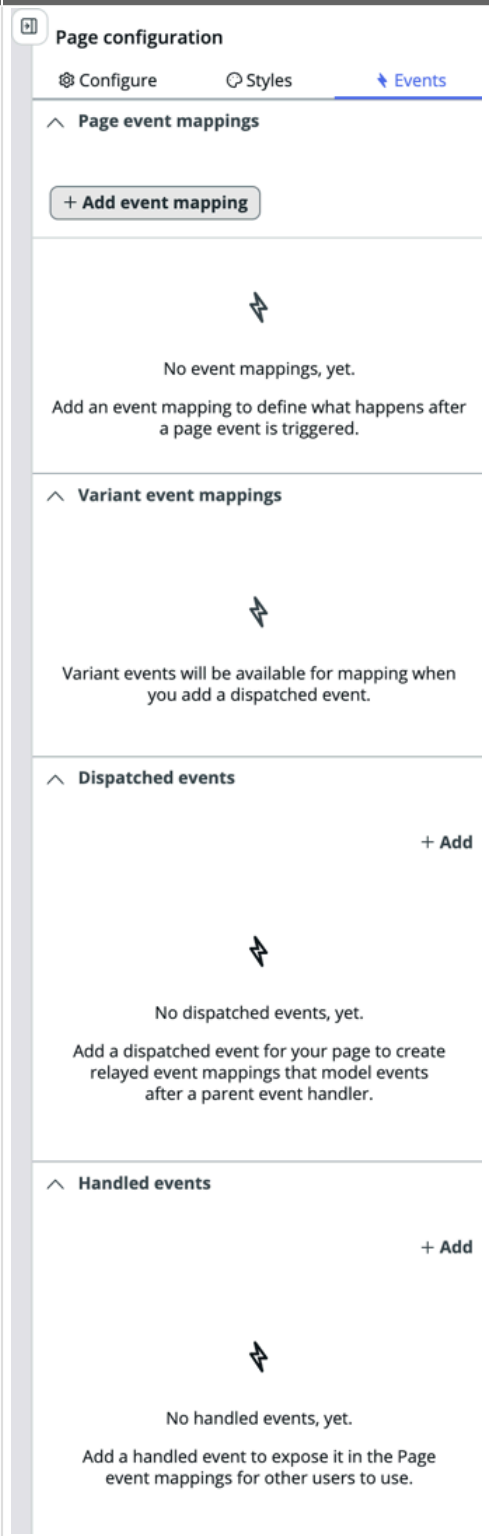
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタイプと説明 (続く)

イベントタイプ	説明
	◦ これらのイベントは [sys_ux_event] テーブルに保存されます。ページ定義レコードには、[sys_ux_event] レコードへの参照が含まれています。 ◦ これらのイベントは、ページイベントマッピングのソースイベントとして機能します。 ◦ **[+** 追加] を選択して、ページの新しいディスパッチイベントを作成できます。処理されるイベントが、親イベントハンドラーを基にモデル化されることはありません。処理済みイベントのペイロードフィールドは手動で作成されます。既存のハンドラーのペイロードフィールドをテンプレートとして使用するには、テンプレートを選択し、必要に応じてフィールドを編集します。

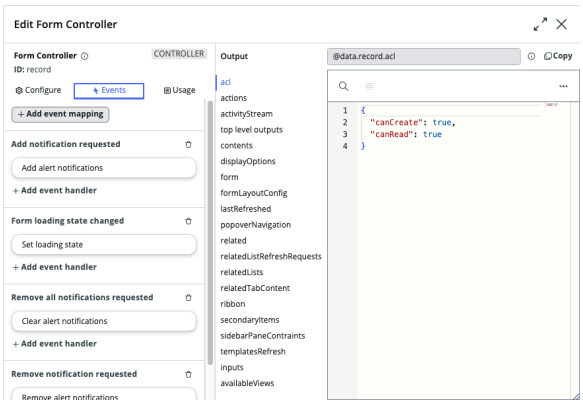
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタイプと説明 (続く)

イベントタイプ	説明
	 ページへのイベントのバインディングの詳細については、「ページへのイベントのバインド」を参照してください。
データリソースイベント	データがフェッチされたときに通知を出すデータリソースにマッピングされるイベント。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタイプと説明 (続く)

イベントタイプ	説明
	• データフェッチが開始されました。データリソースイベントがトリガーされると、イベントハンドラーがデータフェッチプロセスを実行します。 • データのフェッチに成功しました。データリソースイベントがトリガーされると、イベントハンドラーはデータフェッチが正常に完了した場合のユーザーへの通知プロセスを実行します。 • データのフェッチに失敗しました。データリソースイベントがトリガーされると、イベントハンドラーはデータフェッチが失敗した場合のユーザーへの通知プロセスを実行します。  データリソースへのイベントのバインディングの詳細については、「データリソースへのイベントのバインド」を参照してください。
宣言アクションイベント	データ要素を UI ビルダー 内でバインドして、イベントアクションを宣言アクションに追加します。 Now Platform® 宣言アクションアサインテーブルで、宣言アクションイベントマッピングを構成します。たとえば、[フィルターナビゲーター] > **[sys_declarative_action_assignment.list]** に移動し、既存の宣言アクションを検索して開きます。 UI ビルダー で、イベントを宣言アクションにバインドします。宣言アクションイベントの使用方法の詳細については、「宣言アクションへのイベントのバインド」を参照してください。

イベントハンドラーの構成

UI ビルダー 内のページ、コンポーネント、データリソース、または宣言アクションにイベントハンドラーを追加して、ユーザーがアクションをトリガーできるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

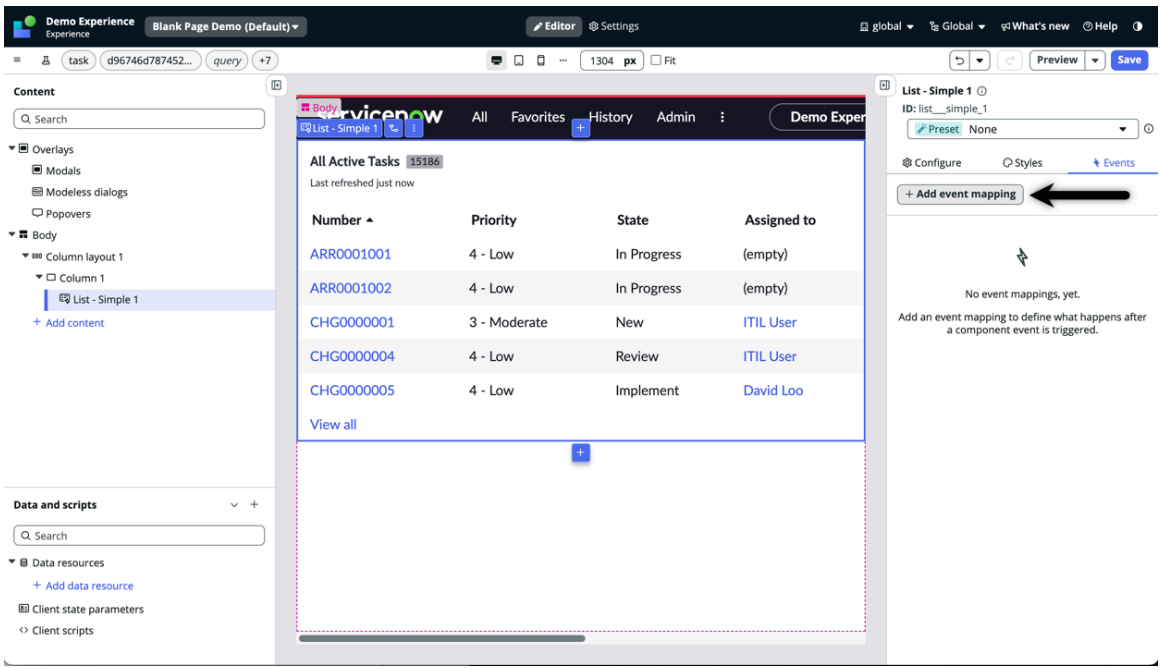
始める前に
必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
イベントハンドラーを使用すると、ページ上にアクション、コンポーネント、データリソース、または宣言アクションを構成できます。たとえば、イベントをページにマップして、ページが正常にロードされたときにアラート通知を追加したり、ボタンコンポーネントのイベントハンドラーを追加して、ユーザーがクリックしたときにアクションを実行したりできます。イベントハンドラーは、レコードを削除してよいかをユーザーに確認する、ページ上のモーダルにもなります。詳細については、「UI ビルダーページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。

手順

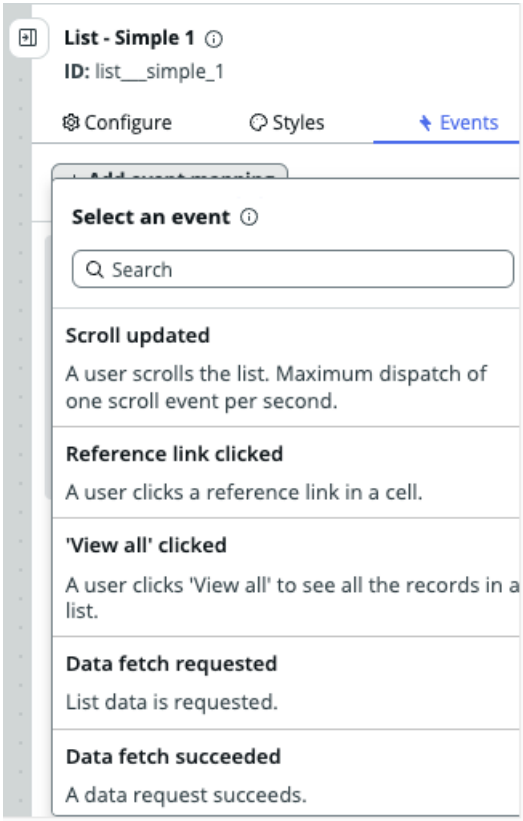
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. ボタンなどのコンポーネントをページに追加します。
   コンポーネントのページへの追加に関する詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. コンポーネントのイベントにイベントハンドラーを追加するには、[構成] パネルに移動して、[イベント] を選択します。
   イベントハンドラーを使用すると、イベントをコンポーネントに割り当てることができます。たとえば、ページにボタンコンポーネントを追加する場合、そのクリック時にアクションが実行されるようにする必要があります。
6. イベントをコンポーネントにアサインするプロセスを開始するには、**[+** イベントマッピングを追加] を選択します。

   ボタンコンポーネントなどの一部のコンポーネントには、イベントマッピングが 1 つしかありません。他のコンポーネントは多くのイベントを持つことができます。

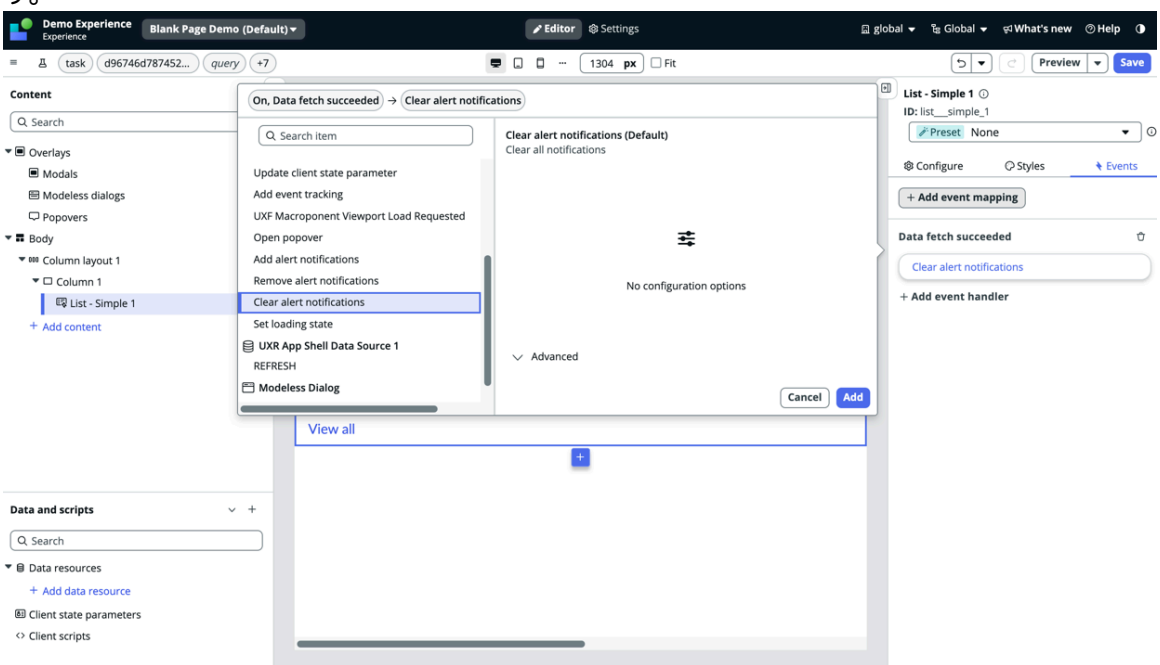


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. 構成するイベントマッピングをリストから選択します。



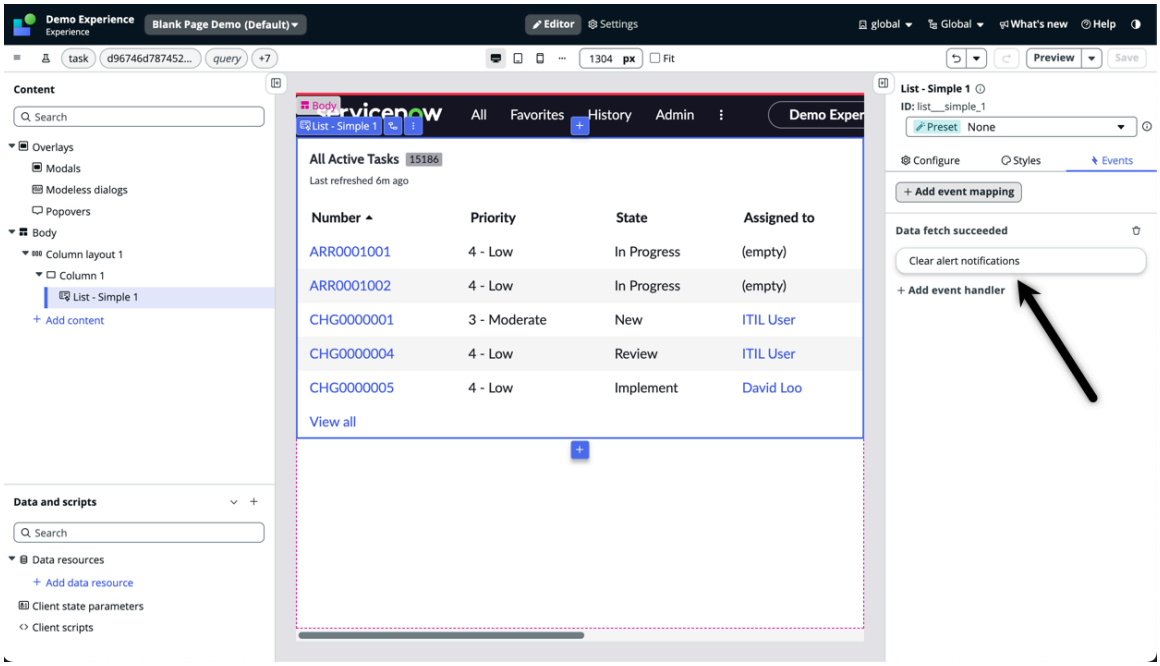
8. [イベントハンドラープレビュー] 画面から、コンポーネントにアサインするアクションを選択します。



9. [追加] を選択します。
10. **[Save** (保存)] を選択します。

タスクの結果
構成されたイベントハンドラーは、構成パネルの [イベント] タブに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



イベントをバインドしてアクションを追加

イベントを作成したら、コンポーネント、ページ、データリソース、および宣言アクションにイベントをバインドできます。

コンポーネントへのイベントのバインド

UI ビルダー 内のデータ要素をバインドして、イベントアクションをコンポーネントに追加できるようにします。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

各コンポーネントには、バインド先となる特定のイベントがあります。たとえば、ボタンコンポーネントにはボタンクリックイベントしかありませんが、複数のイベントを関連付けることができるコンポーネントもあります。

一部のコンポーネントには、適用されるイベントアクションがありません。見出しコンポーネントはその一例です。多くのコンポーネントでは、データをロードするなどのアクションを実行させるために、イベントをコンポーネントにマッピングする必要があります。

ページのコンポーネント、ページ、およびデータリソースにアクションを追加するために、イベントハンドラーを追加できます。ページに追加するボタンコンポーネントは静的です。イベントアクションをボタンにバインドすると、ボタンを Web ページにリンクできます。

手順

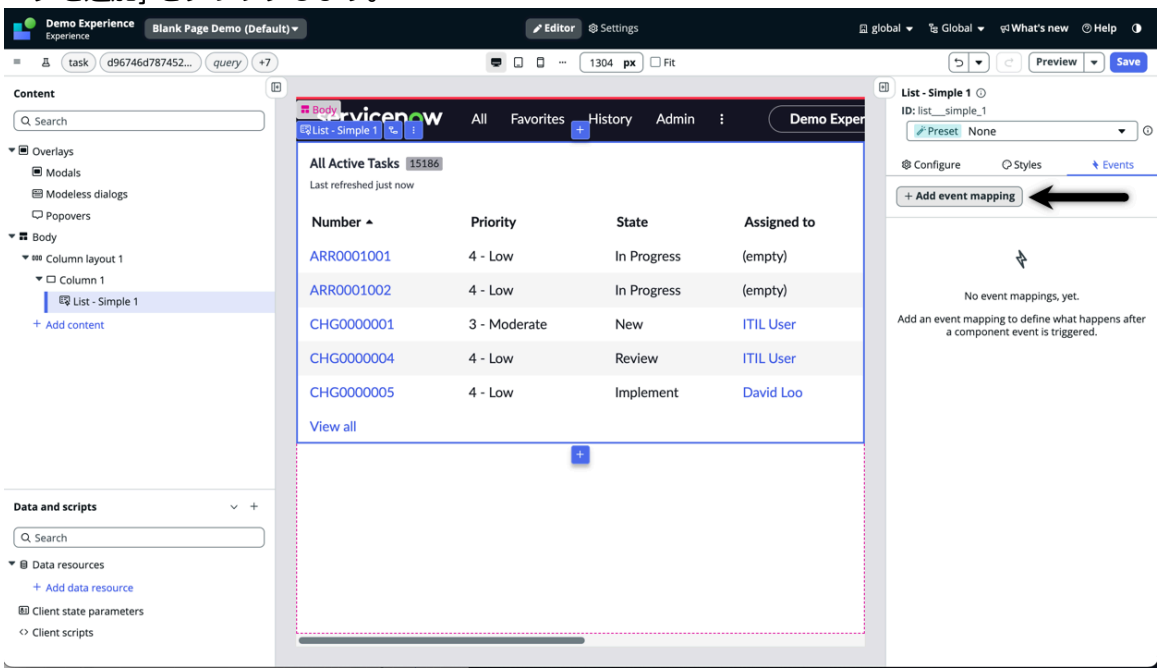
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. ボタンなど、ページにバインドできるイベントを持つコンポーネントをページに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

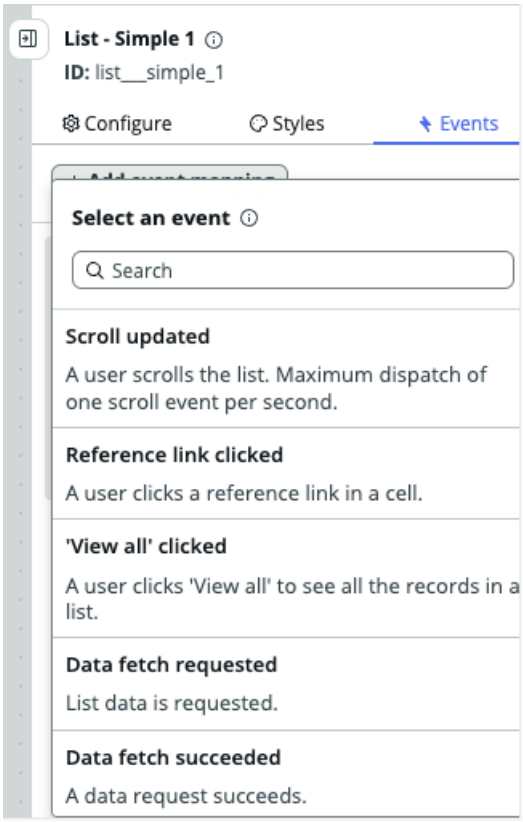
コンポーネントのページへの追加に関する詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。

5. コンポーネントにイベントハンドラーを追加するには、[イベント] タブを選択します。
コンポーネントにイベントハンドラーを追加する方法の詳細については、「UI ビルダーページでのアクションの管理 (高度な機能)」を参照してください。

   a. イベントハンドラーをコンポーネントに設定するプロセスを開始するには、**[+** イベントマッピングを追加] をクリックします。

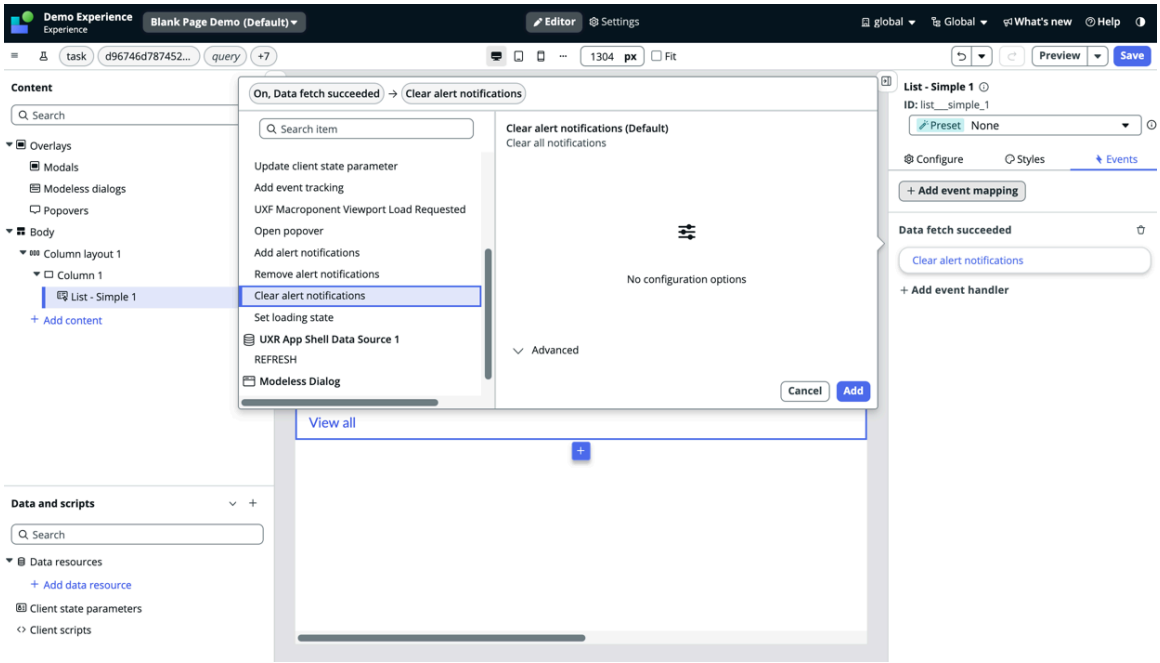


   b. 構成するイベントマッピングをリストから選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

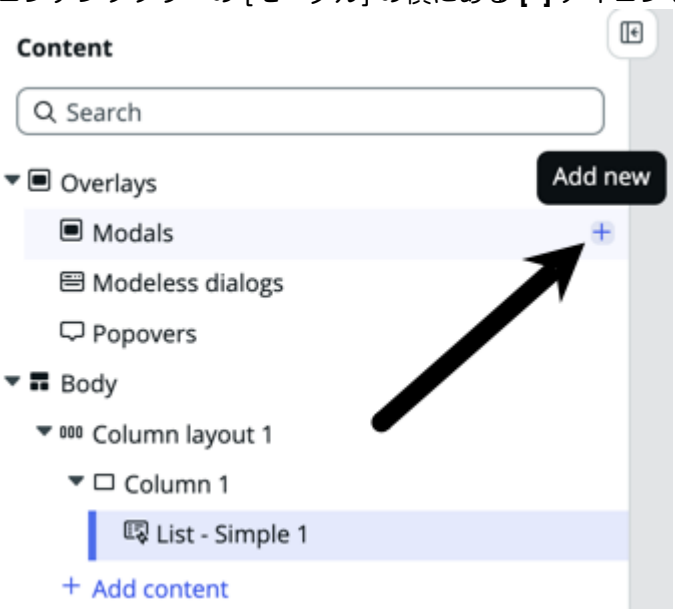
c. [イベントハンドラープレビュー] セクションで、コンポーネントにバインドするイベントハンドラーを選択します。



d. イベントハンドラーを構成し、完了したら [追加] をクリックします。
各イベントハンドラーは、イベントのアクションに応じて異なる方法で構成します。たとえば、ボタンコンポーネントにイベントハンドラーを追加する場合は、そのボタンアクションが実行する内容を選択できます。

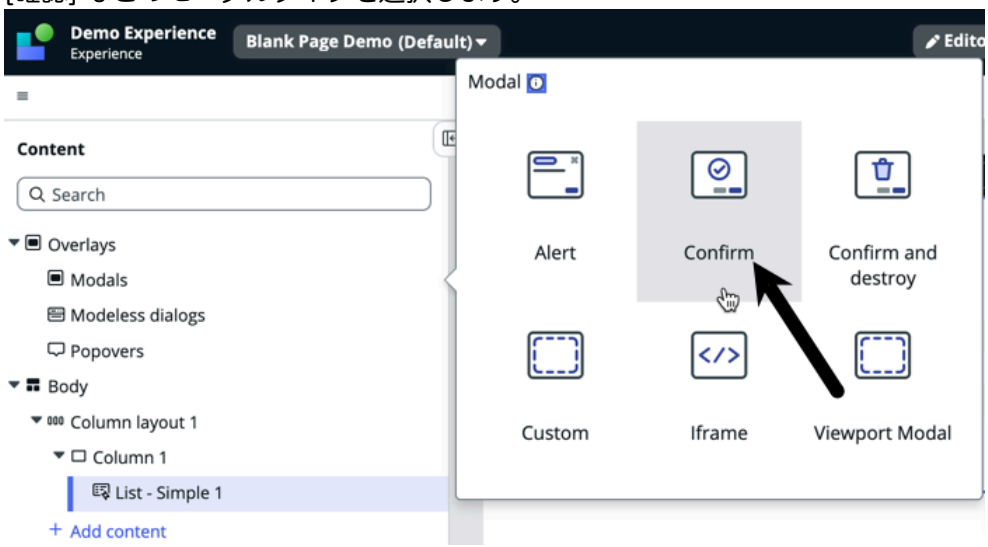
6. オプション: イベントのモーダルをポップアップ表示する場合は、イベントをコンポーネントにバインドする前にモーダルをページに追加します。
モーダルは、コンポーネントをクリックすると表示される確認ポップアップです。たとえば、レコードを削除するボタンコンポーネントを追加する場合は、レコードを削除してよいかユーザーに確認を求めるモーダルを追加します。詳細については、「コンポーネントへのモーダルの追加」を参照してください。

a. コンテンツツリーの [モーダル] の横にある **[+]** アイコンを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. [確認] などのモーダルタイプを選択します。



c. モーダルを構成します。
モーダルのテキスト、モーダルのボタンの名前、およびモーダル画面のサイズを変更できます。モーダルのアクションも設定できます。モーダルの構成が完了したら、閉じます。コンテンツツリーでは、作成したモーダルがページ構造の本文の上にあることに注意してください。

7. イベントをボタンコンポーネントにバインドします。
イベントをボタンにバインドしてアクションをトリガーします。コンテンツツリーまたはページでハイライト表示するボタンコンポーネントを再度選択します。

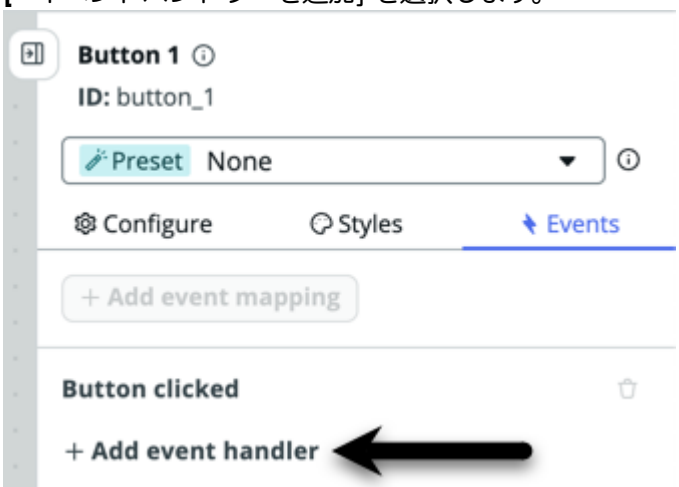
a. コンテンツツリーで **[+** コンテンツを追加] を選択します。

b. ツールボックスで [ボタン] コンポーネントを選択します。

c. プリセットの選択を求められたら、[なし] を選択します。

d. [構成] ペインで、[イベント] をクリックします。

e. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。

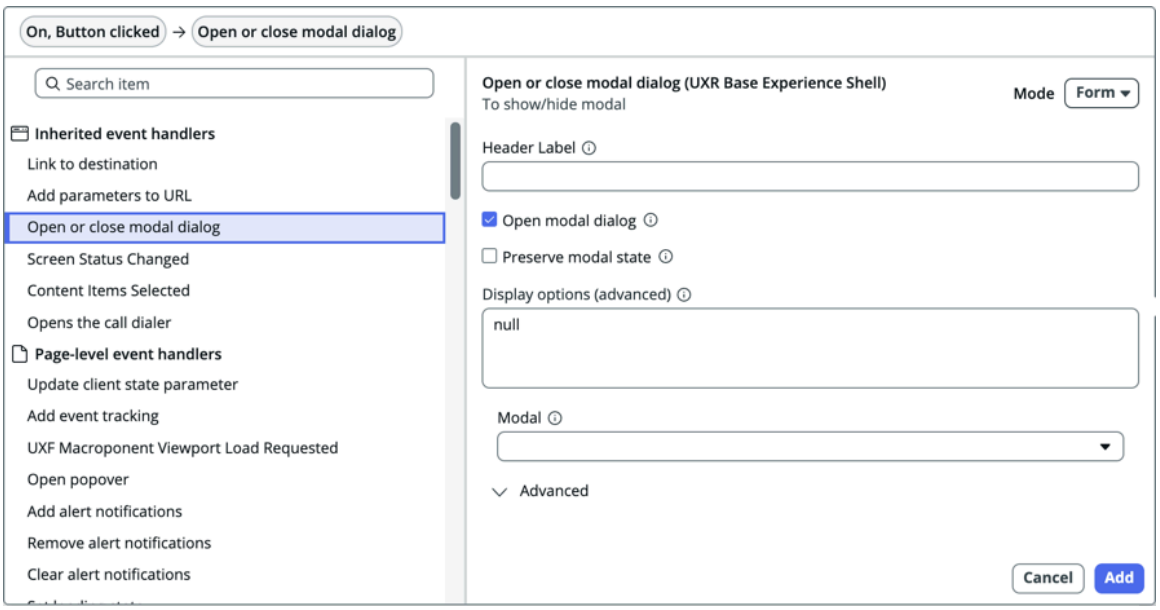


ボタンコンポーネントには、ボタンクリックイベントのみが関連付けられています。複数のイベントを持つことができるコンポーネントもあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. コンポーネントにアサインするアクションを選択します。

たとえば、ボタンコンポーネントのイベントハンドラーを追加するには、別の宛先にリンクしてアラート通知を追加することができます。この例では、[モーダルダイアログを開くまたは閉じる] を選択して、前に作成したモーダルを開くようにボタンを設定できます。このボタンのシナリオでは、前に作成した [確認して破棄] モーダルダイアログイベントハンドラーを選択します。



g. [モーダルダイアログを開く] チェックボックスをオンにして、ユーザーがボタンコンポーネントをクリックしたときにモーダルが開くようにします。

h. モーダルイベントハンドラーをコンポーネントに追加するには、[追加] をクリックします。

8. [保存] をクリックします。
9. [プレビュー] を選択してモーダルをテストします。
10. 作成したモーダルをトリガーするには、ページ上のボタンをクリックします。

ページへのイベントのバインド

ページイベントマッピングを使用して UI ビルダー 内でデータ要素をバインドし、イベントアクションをページに追加できるようにします。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

次のタイプのイベントを使用して、イベントをページにバインドできます。

- ページイベントマッピング。ページのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。
- バリアントイベントマッピング。ページバリアントのアラート通知を追加、削除、またはクリアします。
- ディスパッチされるイベント。ページにディスパッチされるイベントを作成し、親イベントハンドラーの後にイベントをモデル化するリレーイベントマッピングを作成します。ターゲットの親イベントハンドラーを選択して、その後のペイロードフィールドをモデル化します。

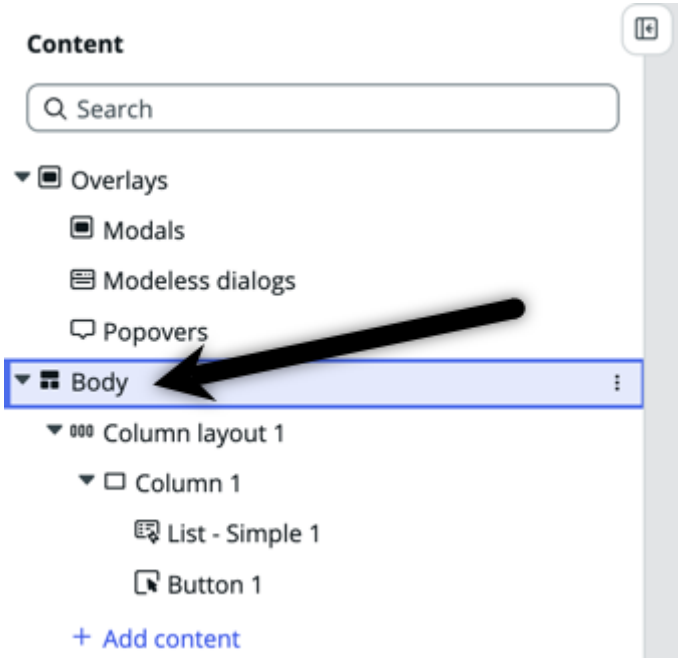
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 処理済みイベント。処理済みイベントとは、他のユーザーが公開して使用できるイベントのことです。処理済みイベントを作成すると、*Page event mappings* で他のユーザーも使用できるようになります。手動で作成するペイロードフィールドを設定したり、モーダルダイアログのオープンやクローズなどの、処理済みイベントのテンプレートを選択したりすることもできます。

手順

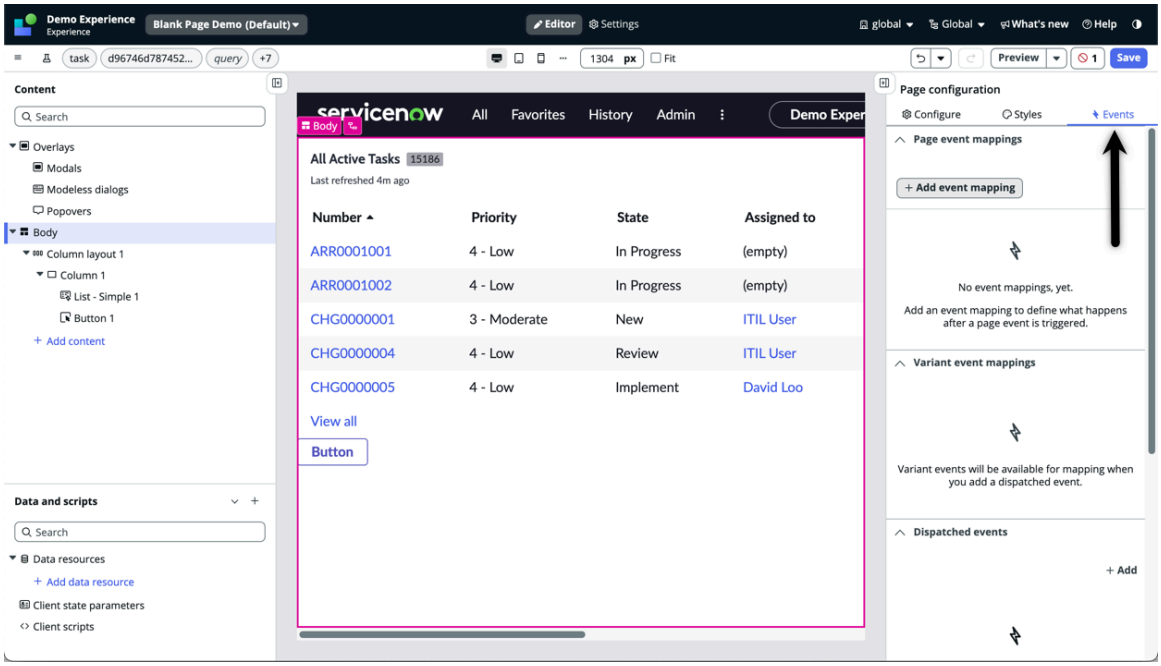
1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. コンテンツツリーでページ本文をハイライト表示します。

   本文はコンテンツツリーの最上位の行です。ページ全体をハイライト表示すると、ページレベルのイベントを追加できます。



5. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。

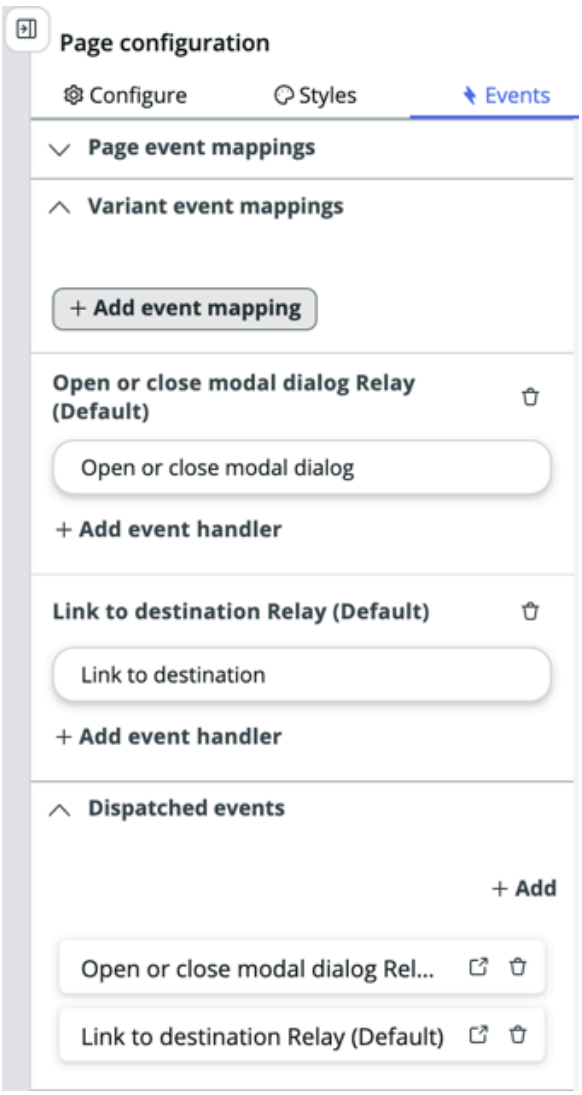
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. 次のいずれかの方法でイベントハンドラーを追加します。

追加するイベントハンドラー	操作
ページイベントマッピング	*Page ready* ソースイベント： a. [イベントハンドラーを追加] を選択します。 b. ページからアラート通知を追加、削除、またはクリアするには、*Page-level event handlers* からイベントハンドラーを選択します。ページのアラート通知は、追加、削除、またはクリアできます。 c. イベントハンドラーをページに追加するには、[追加] を選択します。 *Page property changed* ソースイベント： a. [新しいイベントハンドラーを追加] を選択します。 b. *Page-level event handlers* からイベントハンドラーを選択します。ページのアラート通知は、追加、削除、またはクリアできます。[ロード中ステータスを設定] を選択して、ページがロード中であることをユーザーが確認できるように、ページに「ロード中」と表示することもできます。[クライアントステータスパラメーターを更新] を選択して、クライアントステータス名を変更することもできます。 c. イベントハンドラーをページに追加するには、[追加] をクリックします。
バリアントイベントマッピング	バリアントイベントマッピング バリアントイベントマッピングを実行するには、バリアントページが必要です。利用可能なバリアントイベントマッピングは、バリアントページによって異なります。バリアントページ

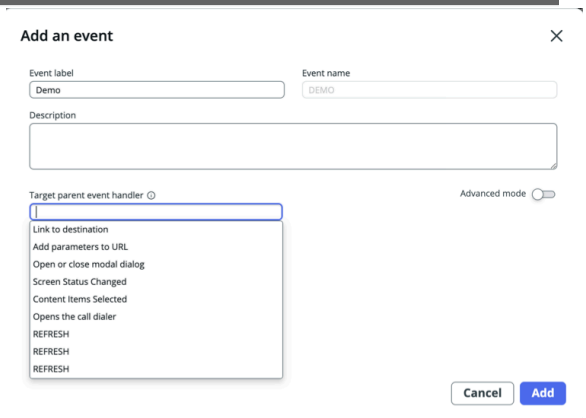
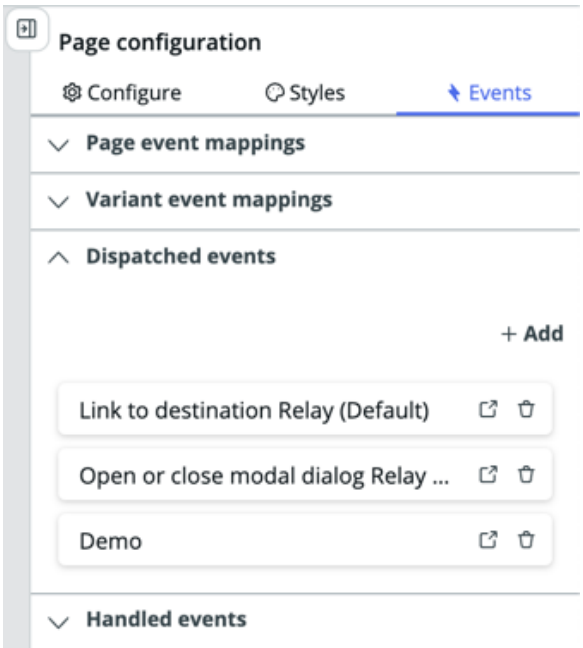
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

追加するイベントハンドラー	操作
	にリストがある場合は、[行がクリックされました]、[ナビゲーションアイテム] などのイベントハンドラーを追加します。バリアントにビューポートがある場合は、さまざまなイベントハンドラーを設定できます。 **a.** [イベントマッピングを追加] を選択します。たとえば、[行がクリックされました] に新しいイベントハンドラーを追加できます。 **b.** 利用可能な継承されたイベントハンドラーまたはローカルイベントハンドラー (UXR アプリシェルデータソースなど) のリストからイベントハンドラーを選択します。 **c.** イベントハンドラーをバリアントに追加するには、[追加] を選択します。 

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

追加するイベントハンドラー	操作
	◦ これらのイベントマッピングは、`sys_ux_screen` テーブルにあるバリアントレコードにあります。 ◦ これらのイベントマッピングのソースイベントは、ページに対して定義されたディスパッチイベントです。 ◦ これらのイベントマッピングに使用できるハンドラーは、キャンバスレベルのイベント、UXR アプリシェルデータソース、および継承されたデータリソースからの操作です。 ◦ これらのイベントマッピングは、ページ上のコンポーネントからディスパッチされるイベントがユーザーセッションハンドラーにリレーされるように、リレーとして使用されます。 ◦ これらのマッピングは、コンポーネントのディスパッチされたイベントを別のイベントにマッピングすると、ページの保存時に自動的に作成されます。たとえば、*`Button clicked`* イベントを *`Link to destination`* イベントにマッピングすると、そのイベントによって、ページの保存後に、ディスパッチされたリレーイベントとバリアントイベントのマッピングが作成されます。
ディスパッチされるイベント	**a.** [ディスパッチされるイベント] を選択します。 **b.** + Add を選択します。 **c.** [イベントを追加] 画面で、次のアクションを実行します。 ▪ イベントのラベルを入力します。 ▪ ターゲットの親イベントハンドラーを選択します。 **d.** イベントハンドラーをディスパッチされるイベントに追加するには、[追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

追加するイベントハンドラー	操作
	 **e.** 作成した新しいイベントハンドラーが [ディスパッチされるイベント] に表示されます。次の例は、*Link to destination* イベントハンドラーを追加する方法を示しています。  ◦ これらのイベントは [sys_ux_event] テーブル内にあります。ページ定義レコードには、[sys_ux_event] レコードへの参照が含まれています。 ◦ これらのイベントは、バリアントイベントマッピングのソースイベントとして機能します。 ◦ ページのディスパッチされるイベントを新規作成するには、+ Add を選択します。新しい `sys_ux_event` のイベント名とペイロード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

追加するイベントハンドラー	操作
	フィールドを自動入力するようにイベントラベルを構成します。 ◦ これらのイベントは、リレーイベントマッピングを作成するためによく使用されます。*Target parent event handler*を選択して、選択したイベント後のペイロードフィールドをモデル化します。ディスパッチされたイベントのペイロードフィールドを手動で作成することもできます。
処理されるイベント	◦ これらのイベントは [sys_ux_event] テーブルに保存されます。ページ定義レコードには、[sys_ux_event] レコードへの参照が含まれています。 ◦ これらのイベントは、ページイベントマッピングのソースイベントとして機能します。 ◦ ページのディスパッチされるイベントを新規作成するには、 + Add を選択します。これらのイベントは、親イベントハンドラーを基にモデル化されることはありません。処理済みイベントのペイロードフィールドは手動で作成されます。既存のハンドラーのペイロードフィールドをテンプレートとして使用するには、テンプレートを選択し、必要に応じてフィールドを編集します。

7. **[Save** (保存)] を選択します。
8. ページをプレビューして、設定したデータリソースイベントをテストするには、Preview を選択します。

データリソースへのイベントのバインド

ページ上の個々のデータリソースに UI ビルダー 内のイベントハンドラーをアサインします。データリソースが新しいデータを正常にフェッチすると、イベントハンドラーが実行され、ユーザーはフロー内の次のステップに移動します。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

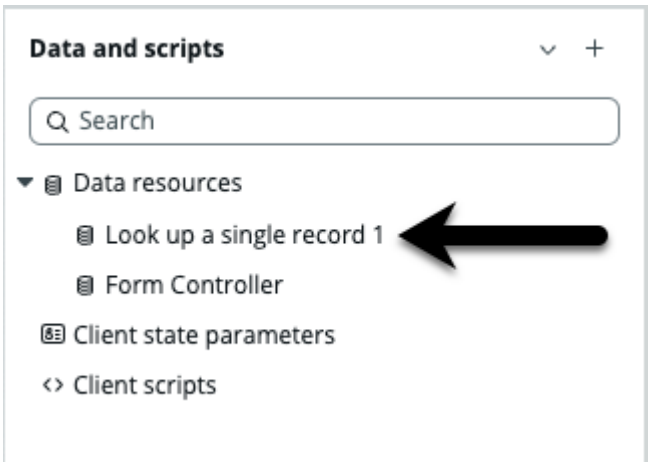
このタスクについて

イベントをデータリソースにバインドして、ページでデータ関連アクションを実行します。たとえば、初期時にデータがページにロードされない場合に、再ロードするためのボタンを追加できます。データリソースイベントを設定して、ページのバックグラウンドでデータを再ロードすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを作成するか、開きます。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. オプション: ページにコンポーネントがない場合は、ページに追加します。
   詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. データリソースをページに追加します。
   詳細については、「ページへのデータリソースの追加と構成」を参照してください。
6. データリソースインスタンスを選択します。



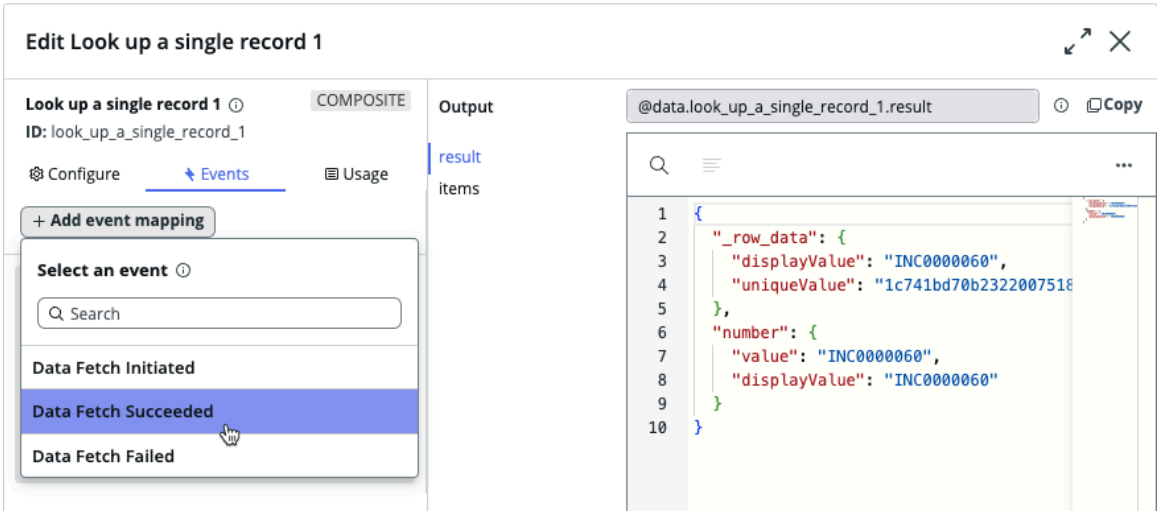
7. データリソースにイベントハンドラーを追加するには、データリソースの構成パネルで [イベント] タブを選択します。

   データリソースにイベントハンドラーを追加して、[操作が開始されました (Operation Initiated)]、[操作が正常に完了しました (Operation Succeeded)]、および [操作に失敗しました] のアクションを処理できます。

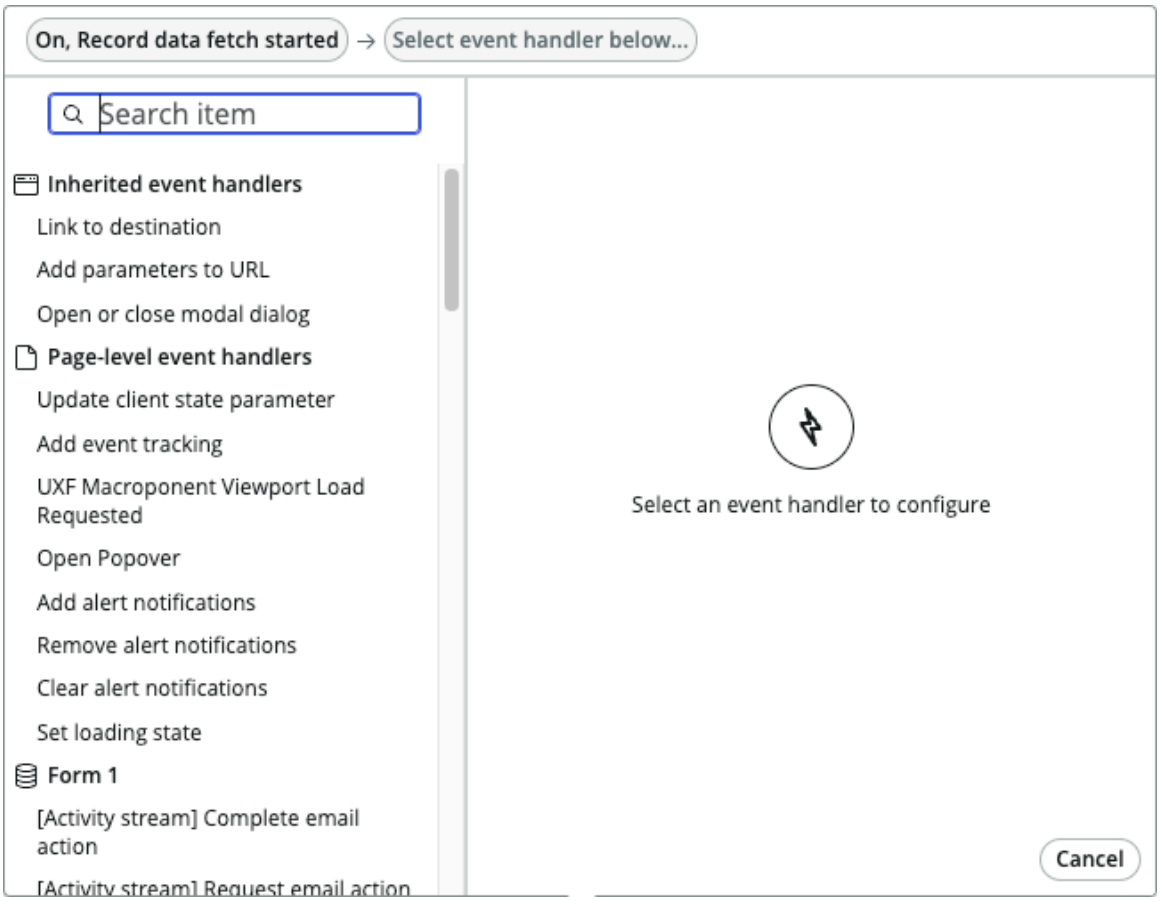
8. **[+** イベントマッピングを追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. リストからイベントを選択します。



10. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。
11. リストからイベントハンドラーを選択します。



12. イベントハンドラーに必要な情報を入力します。
構成は、選択されているイベントハンドラーによって異なります。
13. [追加] を選択します。
14. **[Save** (保存)] を選択します。
15. ページをプレビューして、設定したデータリソースイベントをテストするには、UI ビルダー ヘッダーの Preview を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントの別のページへのリンク

UI ビルダー 内の宛先イベントハンドラーへのリンクを追加して、イベントアクションで別のページを開くことができるようにします。イベントハンドラーを、目的のページへのアプリルートをたどるように構成することもできます。

始める前に
クリックしたときに別のページを開くコンポーネントがあるワークスペースページが必要です。ダッシュボードの概要は、このようなコンポーネントの一例です。[宛先へのリンク] などのコンポーネントは、宛先イベントハンドルへのリンクをサポートしていません。コンポーネントリンクプロパティは、宛先イベントハンドラーへのリンクよりも優先されます。

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて
別のページを開くイベントアクションを構成するには、開くページ、そのページの必須パラメーターとオプションのパラメーター、および必要なパラメーターを宛先ページに渡すためにイベントハンドラーに設定するペイロード値を把握する必要があります。

ヒント: リンク元のコンポーネントとリンク先の宛先ページの両方の例を、Base Agent Workspace エクスペリエンスで見つけることができます。この ネクストエクスペリエンスはベースシステムで提供されます。ページテンプレートからページを作成する場合は、テンプレートのコンテンツのコピーのみを実行してください。それに対する参照は実行しないでください。ページテンプレートのコピーと参照の違いの詳細については、「テンプレートからのページの作成」を参照してください。

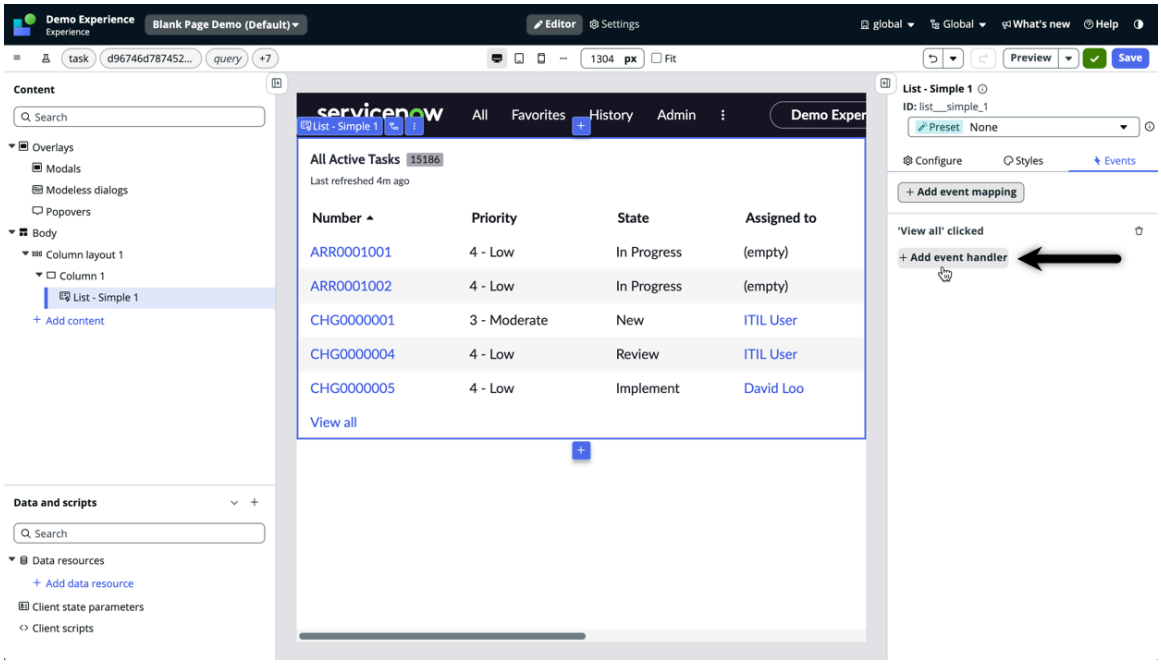
手順

1. UI ビルダー でエクスペリエンスを開きます。
2. オプション: 宛先ページがエクスペリエンスに存在しない場合は、作成します。
   ページの作成については、「UI ビルダー でのページの作成」を参照してください。ページを宛先として使用できるように、必ず必須パラメーターとオプションのパラメーターを設定します。ページ内の特定のコンポーネントが宛先である場合は、そのコンポーネントを含める必要があります。また、`@context.props.<parameter-name>` 値が指定されたページパラメーターを使用するように、コンポーネントのプロパティを構成する必要があります。

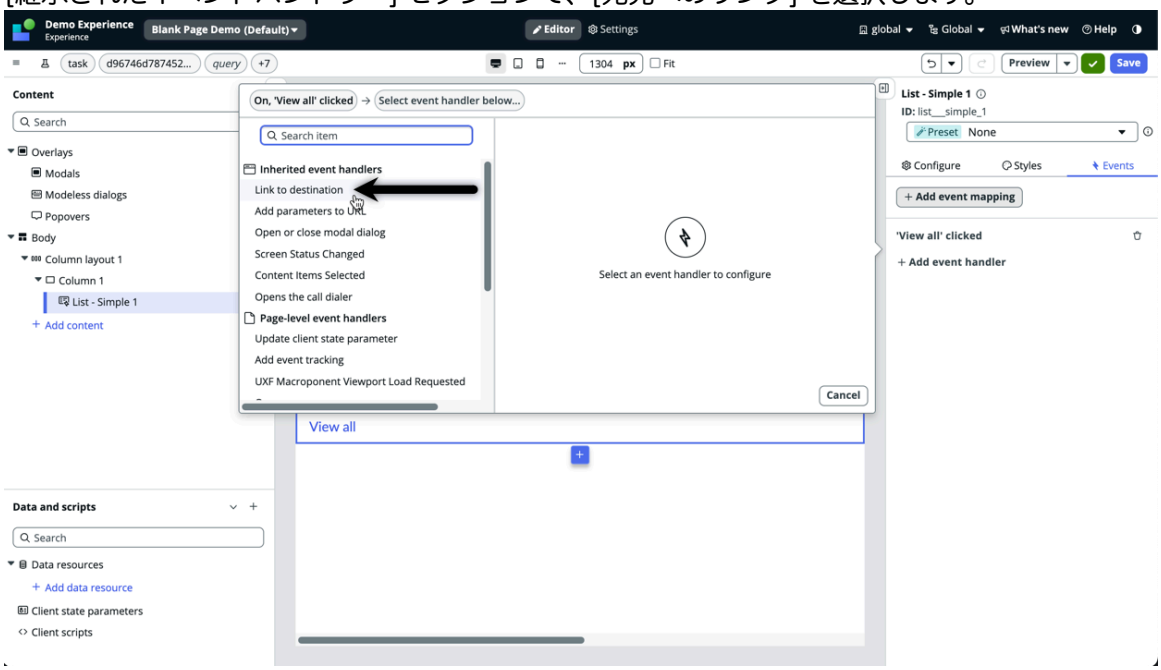
   ページテンプレートからページを作成することも検討できます。Base Agent Workspace エクスペリエンスには、他のコンポーネントの宛先として事前に構成されている複数のページテンプレートがあります。テンプレートから宛先ページを作成する場合、コンポーネントは事前に正しいプロパティで構成されています。必要なステータスパラメーターまたはクライアントスクリプトもコピーされます。ページパラメーターを追加する必要があります。これらのパラメーターは、ページテンプレートを含むエクスペリエンスのエージェントアプリ構成 [sys_ux_app_config] レコードにある、UX アプリルート関連リストからコピーできます。

   作成するページをエクスペリエンス内の宛先として確実に機能させるには、エクスペリエンスにページテンプレートを使用したエクスペリエンスと同じアプリシェル UI が必要です。
3. 宛先ページにリンクするページに切り替えます。
4. 関連するコンポーネントに移動して選択します。
5. [イベント] タブを選択します。
6. **[+** イベントマッピングを追加] を選択します。
7. 使用するイベントを選択します。
8. **[+** イベントハンドラーを追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

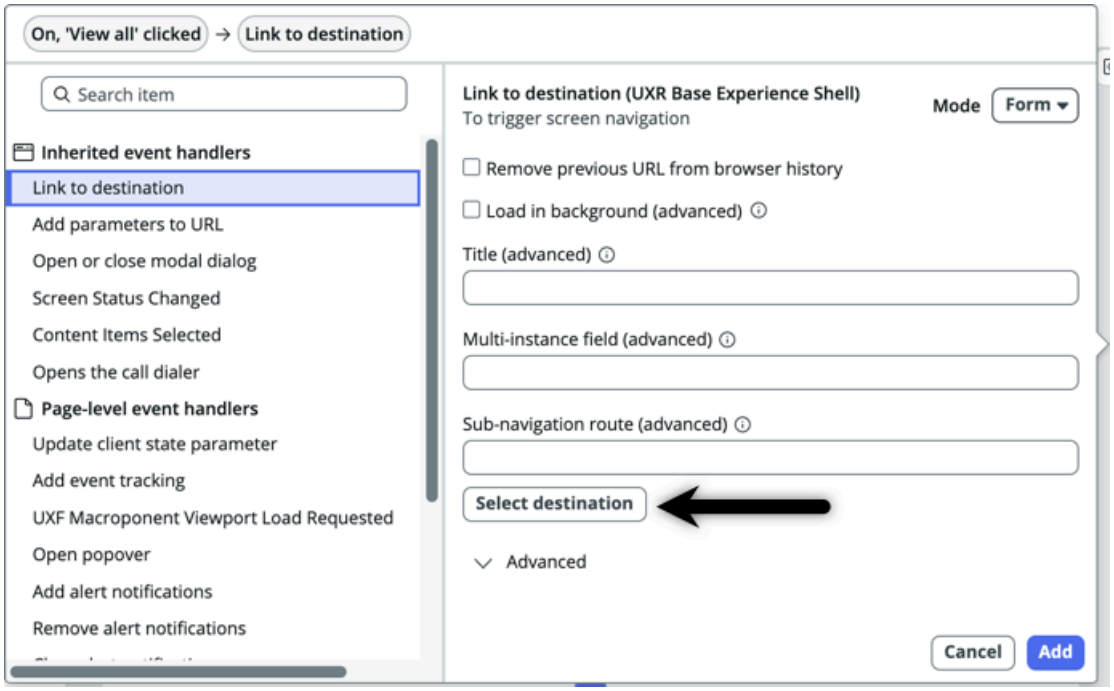


9. [継承されたイベントハンドラー] セクションで、[宛先へのリンク] を選択します。



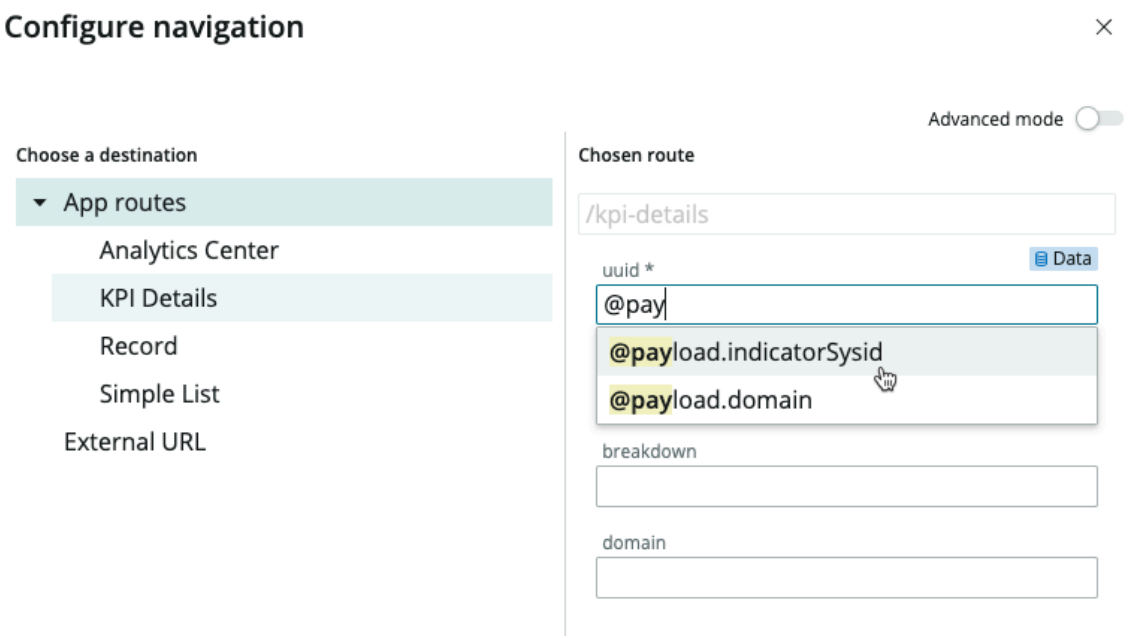
10. [宛先を選択] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



11. [ページ] を展開し、リンクするエクスペリエンスのページを選択します。
ルートの先にある宛先ページの各パラメーターのフィールドが表示されます。必須パラメーターにはアスタリスク (*) が付いています。

12. 必須パラメーターフィールドと該当するパラメーターフィールドのそれぞれに、適切な `@payload.*` 値を入力します。
コンポーネントの開発者がイベントにデフォルトのペイロード値を含めた場合、その値はオートコンプリート機能を介して選択できます。次の例に示すように、ペイロード値がパラメーター名と一致しない場合があります。



注: アプリルートを指定する代わりに、外部 URL にリンクするオプションがあります。

デフォルト値が提供されていない場合、または一部のフィールドで指定すべき正しい値がわからない場合は、ServiceNow® 開発者サイト のコンポーネントの構成と API のドキュメントを参照

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

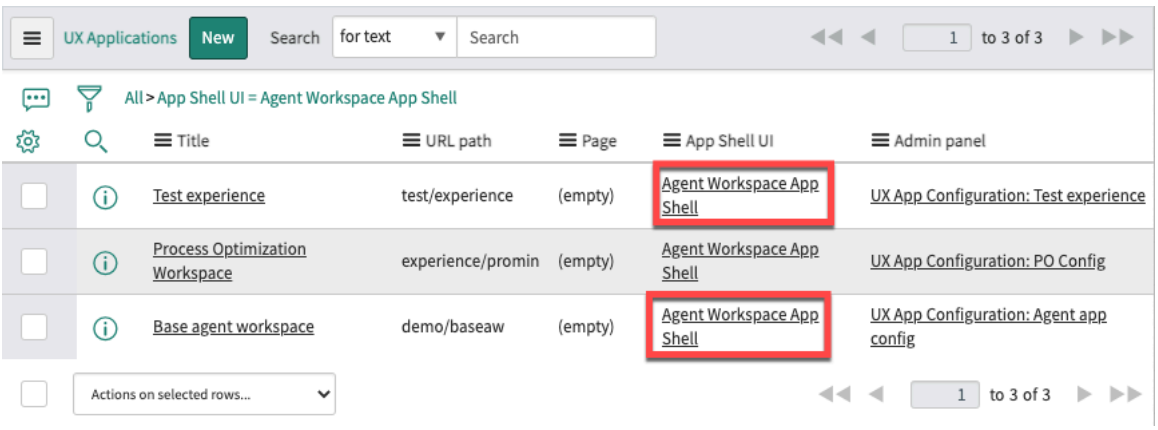
してください。それでも必要な `@payload.*` 値が見つからない場合は、カスタマーサービス & サポート にお問い合わせください。

> ヒント: Base Agent Workspace ページテンプレートからページを作成してリンクコンポーネントを作成する場合、コンポーネントには [宛先にリンク] リレーイベントハンドラーが含まれます。これらのイベントハンドラーは機能しません。ただし、パラメーターに適用可能な `@payload.*` 値が含まれています。

Example: 分析 Q&A コンポーネントのイベントハンドラーの構成

新しい ネクストエクスペリエンス を取得し、分析 Q&A コンポーネントがあるページを追加するとします。最初に、Base Agent Workspace エクスペリエンスで提供されるアナリティクスセンターページテンプレートからページを作成します。次に、分析 Q&A の 3 つのイベントの最初のターゲットページを作成し、そのイベントのイベントハンドラーを構成します。

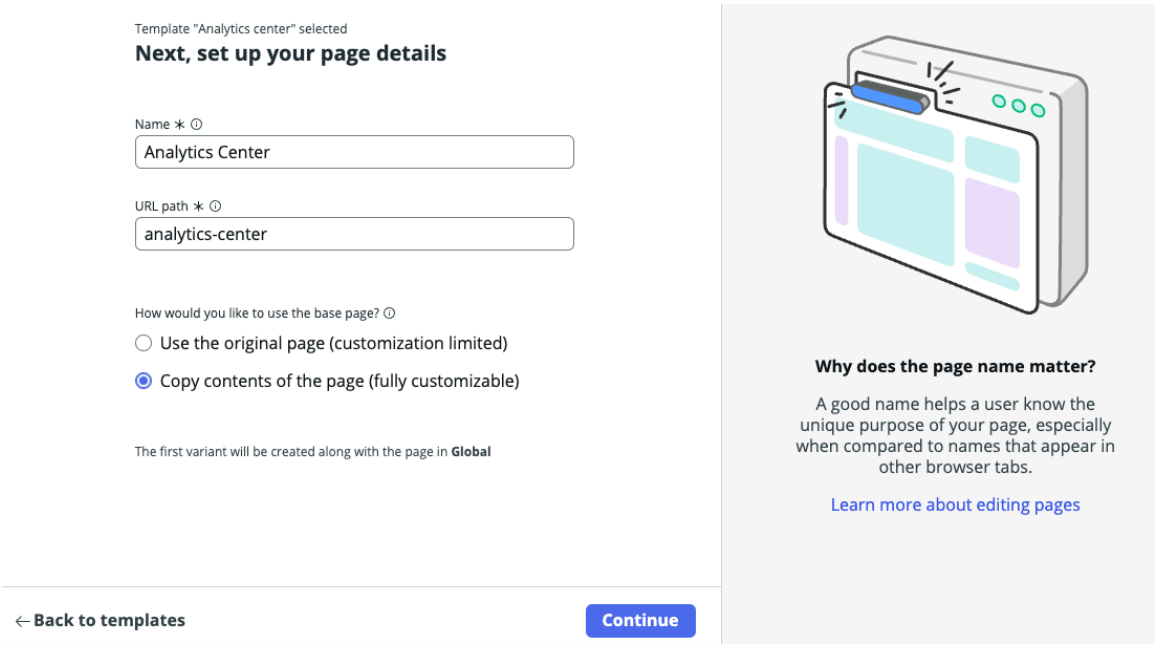
[Now Experiences フレームワーク] > [エクスペリエンス]に移動すると、Test experience UX アプリケーションが表示されます。Base Agent Workspace と同じ Agent Workspace アプリシェル UI を使用するため、Base Agent Workspace からページテンプレートを使用できます。



次に、[テストワークスペース (Test Workspace)] 管理パネルを選択し、UX アプリルートまたはページがない UX アプリ構成レコードを見つけて、[開く] をクリックします。

例に示すように、UI ビルダー で、Base Agent Workspace の [アナリティクスセンター] ページテンプレートに基づいて、「アナリティクスセンター」という名前のページを作成しました。次に、ページテンプレートのコンテンツのみをコピーするオプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

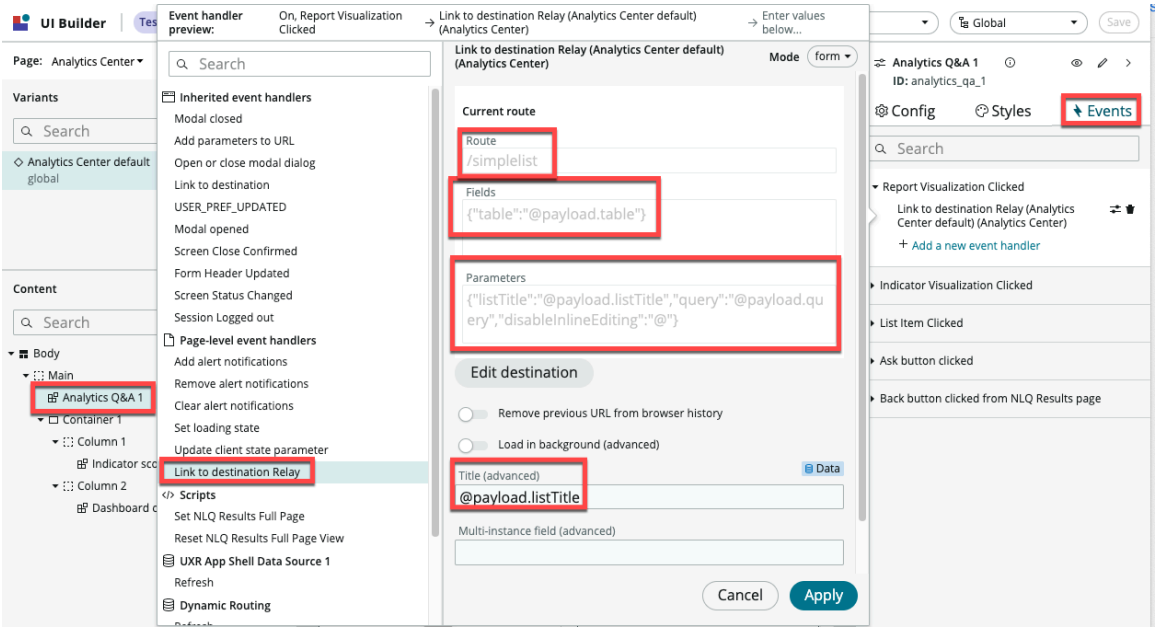


[分析 Q&A 1] コンポーネントを選択し、[イベント] タブを開きます。ここから、[[レポート可視化] がクリックされました] イベントの [[宛先にリンク] のリレー] イベントハンドラーを開くことができます。分析 Q&A の質問がレポートを返す場合、レポート内の値をクリックしてこのイベントをトリガーできます。値をクリックすると、この値に寄与するレコードリストも表示されます。[ルート] フィールドに、宛先が [簡易リスト] ページテンプレートに基づくページになることが表示されます。`@payload.*` 値が対応する、[タイトル] フィールドに `@payload.listTitle` を入力できるページのパラメーターも表示されます。

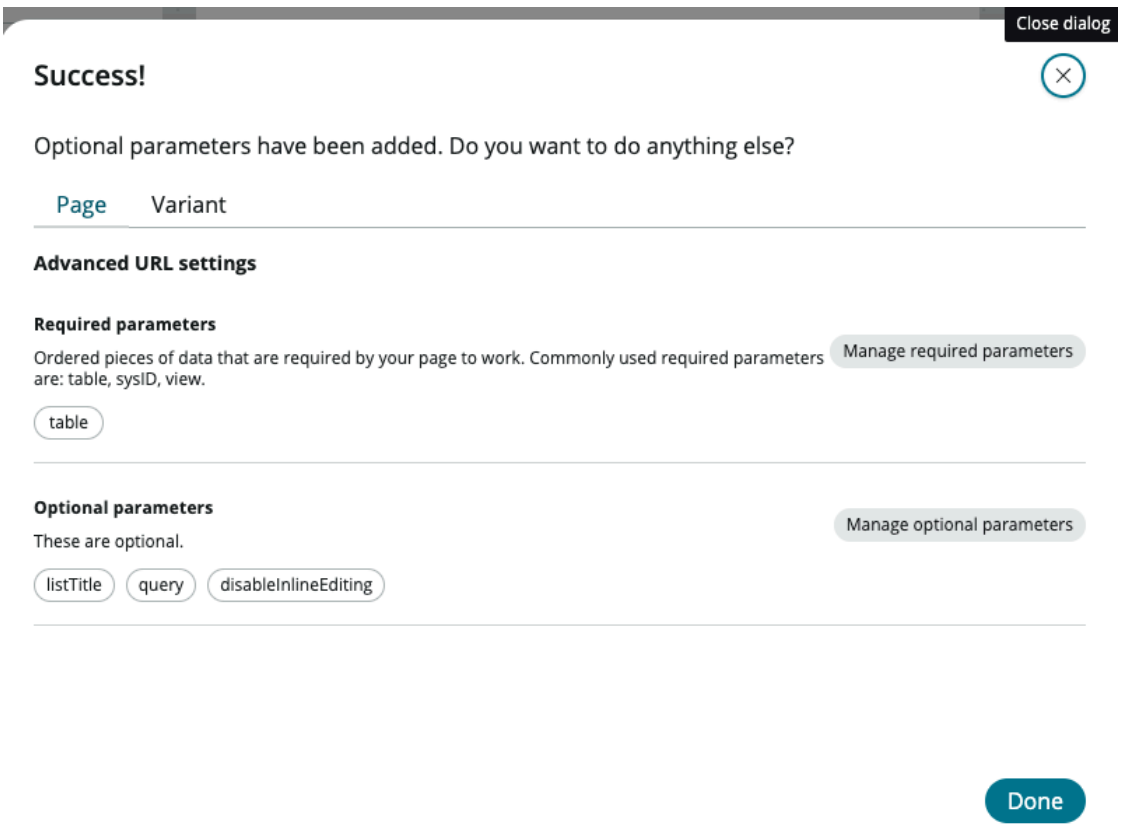
提案された [簡易リスト] 宛先ページのパラメーターと、対応するペイロード

パラメーター	@payload.* 値
table (必須)	@payload.table
listTitle	@payload.listTitle
query	@payload.query
disableInlineEditing	なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

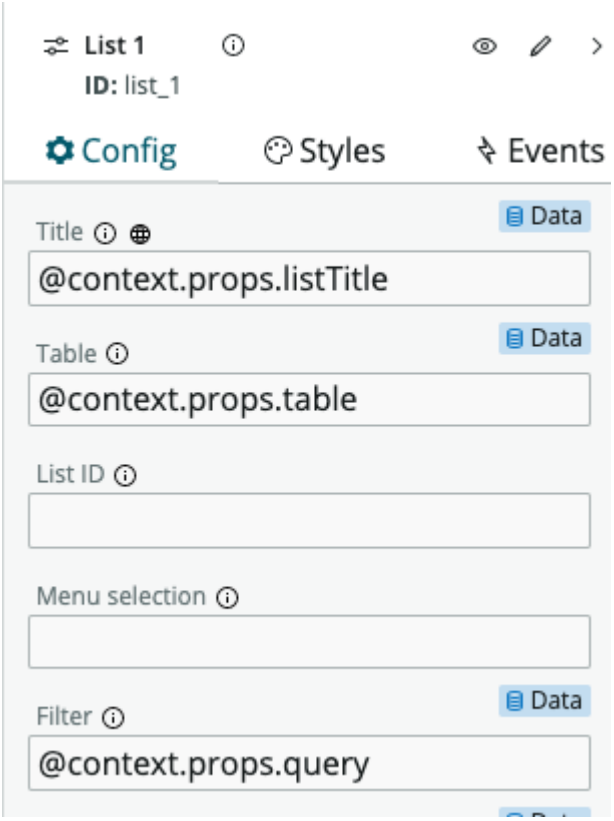


次に、[メニュー] > [ページを作成] に移動し、簡易リストテンプレートに基づいてページを作成します。たとえば、ページの名前を「レコードリスト」とします。次に、「アナリティクスセンター」ページを作成したときと同様のプロセスに従います。今度は、プロセスの最後のステップで、必須パラメーターとして `table` を追加し、オプションのパラメーターとして `listTitle`、`query`、`disableInlineEditing` を追加します。

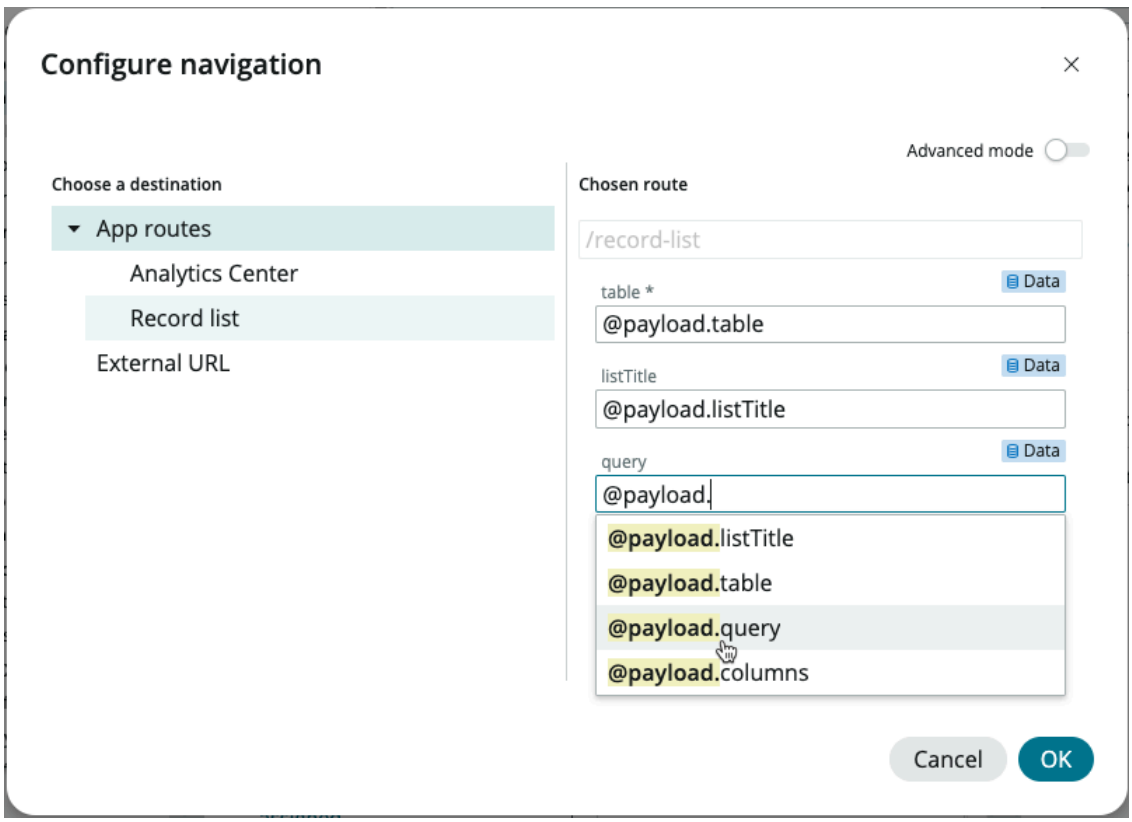


このページには既にリストコンポーネントが含まれているため、このコンポーネントの [構成] タブを開くと、パラメーターが `@context.props.*` 値に既に渡されていることがわかります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ここで「アナリティクスセンター」ページに戻ります。[[レポート可視化] がクリックされました] イベントで、新しいイベントハンドラーを追加します。次に、作成したレコードリストページを選択し、[[宛先にリンク] のリレー] イベントハンドラーから取得した情報に従って、**table**、**listTitle**、および **query** フィールドに `@payload.*` 値を追加します。これらのフィールドに入力する際に、予測入力が役立ちます。

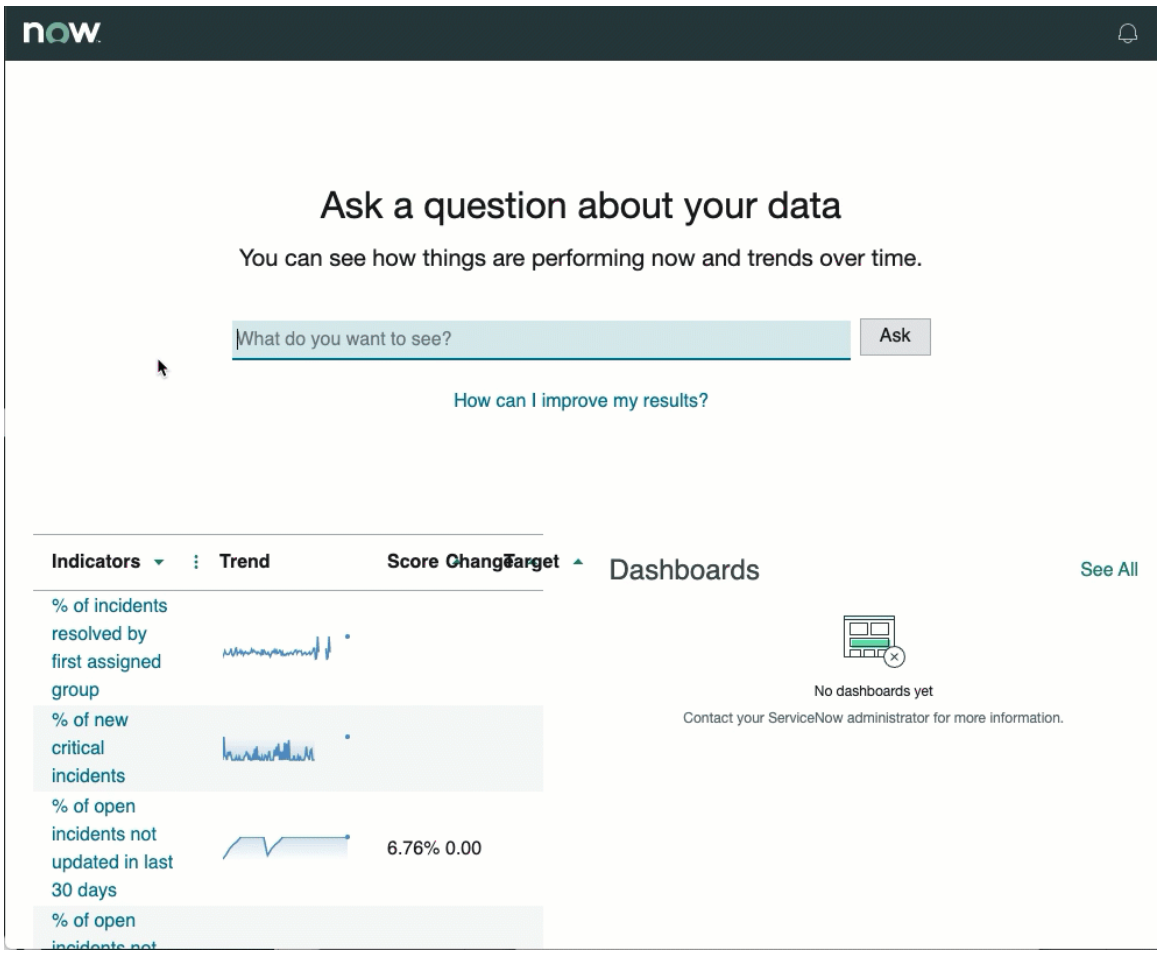


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[OK] をクリックし、[タイトル] として `@payload.listTitle` を追加すると、イベントハンドラーが完了します。これで、このイベントの [[宛先にリンク] のリレー] イベントハンドラーを削除できます。

次の例は、「アナリティクスセンター」ページを示しています。このページでは、[優先度別のインシデント] のクエリを入力し、結果のレポートを取得できます。また、列をクリックすると、[[レポート可視化] がクリックされました] イベントがトリガーされます。イベントハンドラーを使用すると、レポート内のインシデントの簡単なリストを表示できます。

構成された [レポートの視覚化がクリックされました **(Report Visualization Clicked)**] イベントのトリガー



宣言アクションへのイベントのバインド

データ要素を UI ビルダー 内でバインドして、イベントアクションを宣言アクションに追加することができます。

始める前に

必要なロール：ui_builder_admin

このタスクについて

処理済みイベントをコンポーネントにバインドして、ユーザーがコンポーネントを選択したときにアクションが実行されるようにします。

手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。

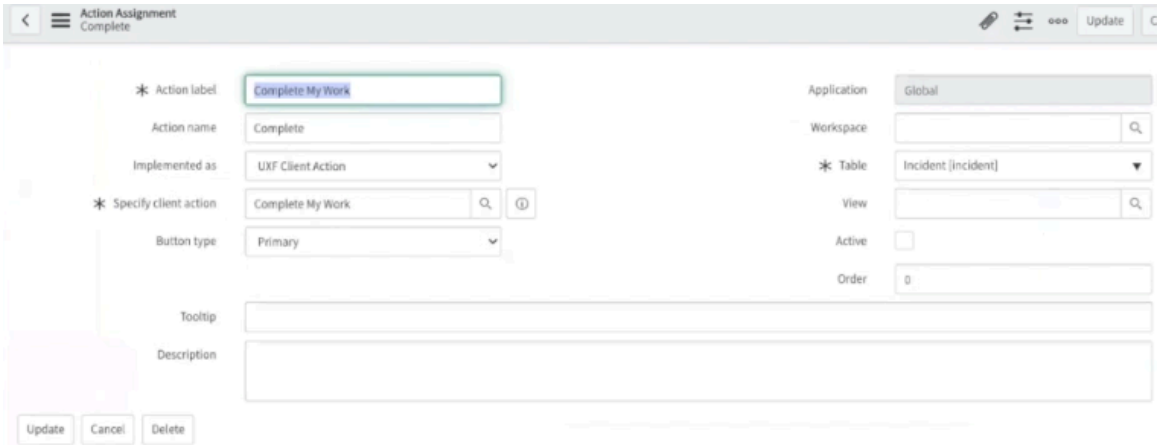
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. コンポーネントを、アクションバーや関連リストなどの宣言アクションを持つことができるページに追加します。
   詳細については、「コンポーネントの追加と構成」を参照してください。
5. Now Platform® でテーブルで宣言アクション定義を作成するには、[ワークスペースエクスペリエンス] > [アクション & コンポーネント] > [アクション一覧] に移動します。

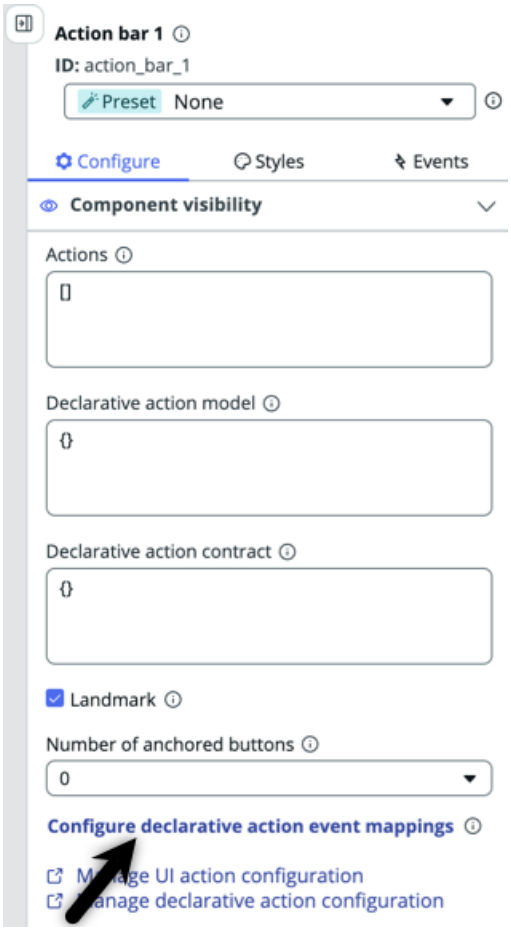
   宣言アクションを利用可能にするテーブルを選択します。たとえば、インシデントテーブルに [自分の作業を実行 (Complete my work)] アクションを作成したり、既存の宣言アクション定義レコードを使用したりできます。

   プラットフォーム宣言アクション定義レコード



6. [アクティブ] チェックボックスをオンにして、レコードを保存または更新します。
7. UI ビルダー に戻ります。
8. 宣言アクションの処理済みイベントを呼び出すには、[構成] パネルに移動し、[宣言アクションイベントマッピングの設定] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



9. 以前に作成した宣言アクションを選択します。
   ステップ 5 の例を続行する場合、宣言アクションは [自分の作業を実行 **(Complete my work)]** のようになります。
10. ページでの宣言アクションの実行内容を定義するには、**[+** イベントハンドラーを追加] をクリックします。

    a. イベントハンドラーに名前を付けます。
       名前は、イベントハンドラーで実行するアクションを説明するものとしてください。

    b. オプション: イベントハンドラーの説明を入力します。

    c. 呼び出す処理済みイベントを選択します。

    d. オプション: イベントハンドラーのペイロード値を追加します。

    e. [保存] を選択します。

11. [完了] を選択します。
12. [保存] を選択し、 Preview を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

13. [自分の作業を実行 **(Complete my work)]** をクリックして、ページで宣言アクションをテストし、それが機能するかどうかを確認します。

コンポーネントプリセットイベントマッピングの無効化

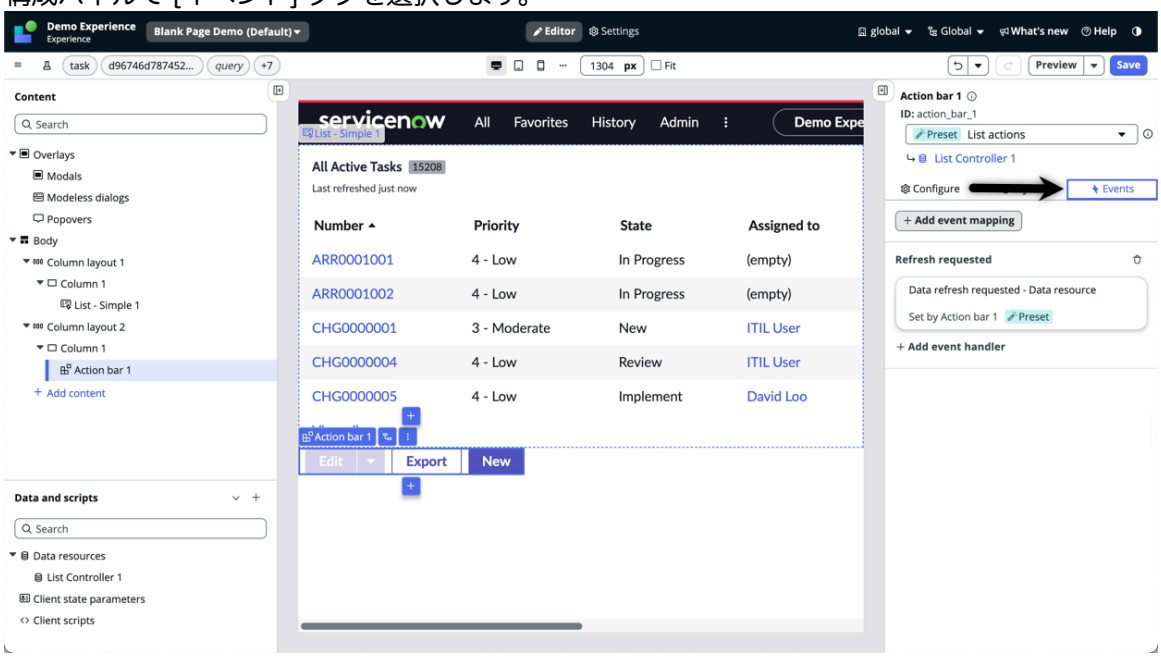
コンポーネントプリセットによって自動的に作成されるイベントマッピングを無効にすることができます。

始める前に

必要なロール：admin

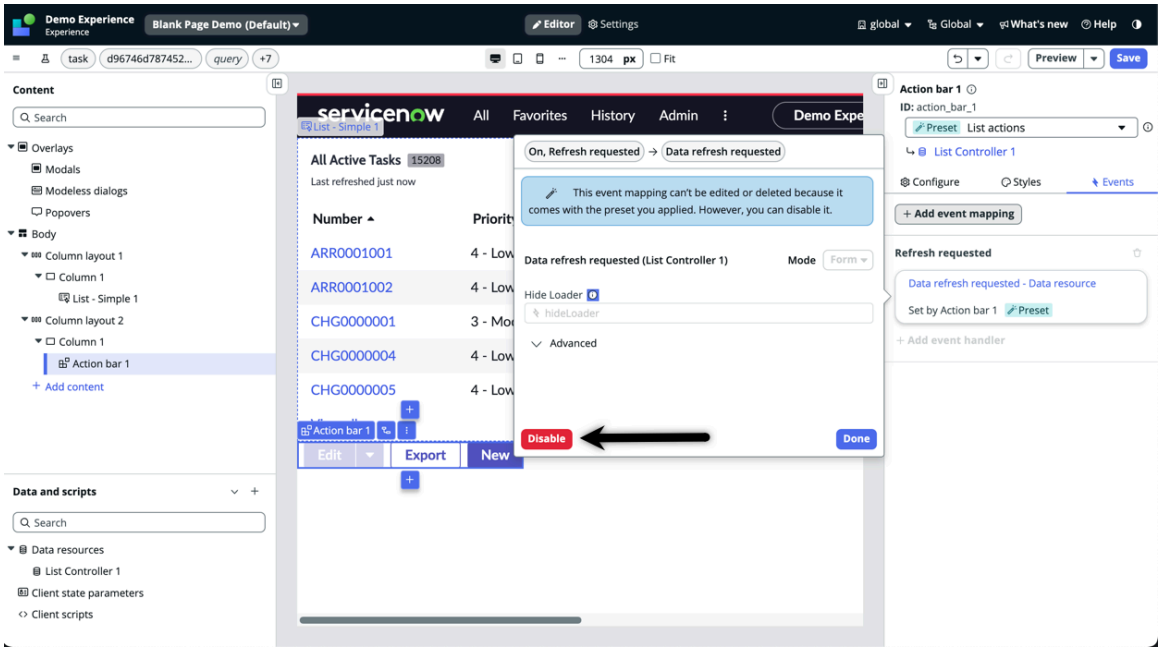
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。
   詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。
3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. コンポーネントプリセットが構成されているコンポーネントを選択します。
5. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。



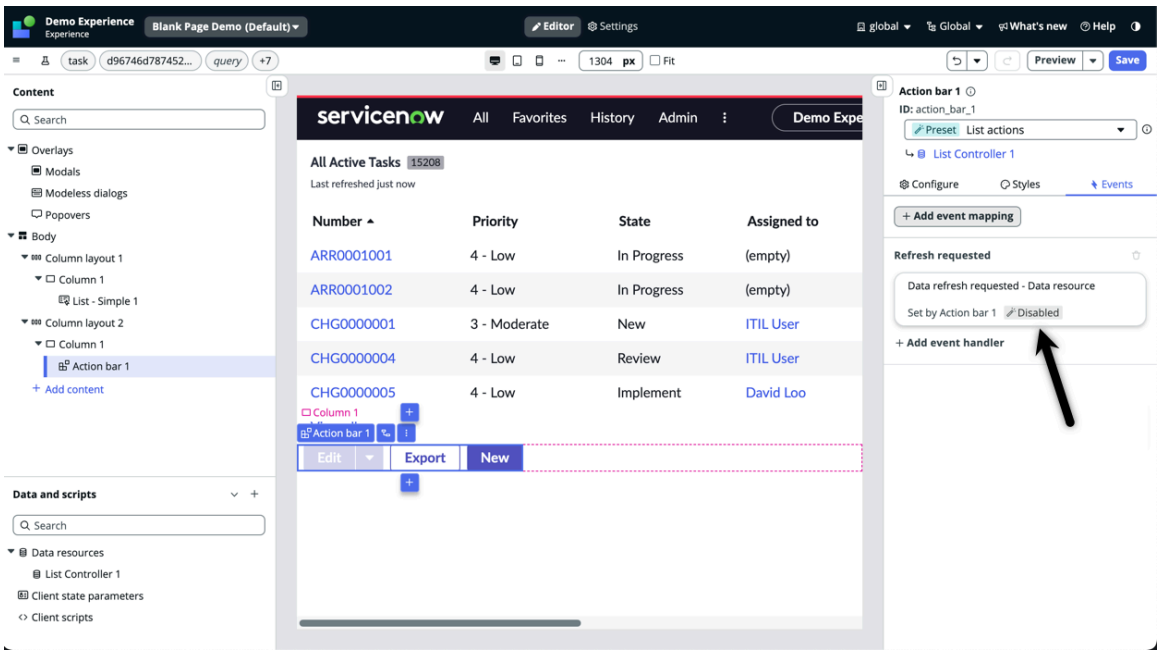
6. 無効にするイベントを選択します。
7. [無効化] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. **[Done** (完了)] を選択します。

タスクの結果
コンポーネントプリセットイベントは、構成パネルの [イベント] タブで [無効] と表示されます。



イベントハンドラーの削除

UI ビルダー で不要になったイベントハンドラーを削除します。

始める前に
必要なロール：admin

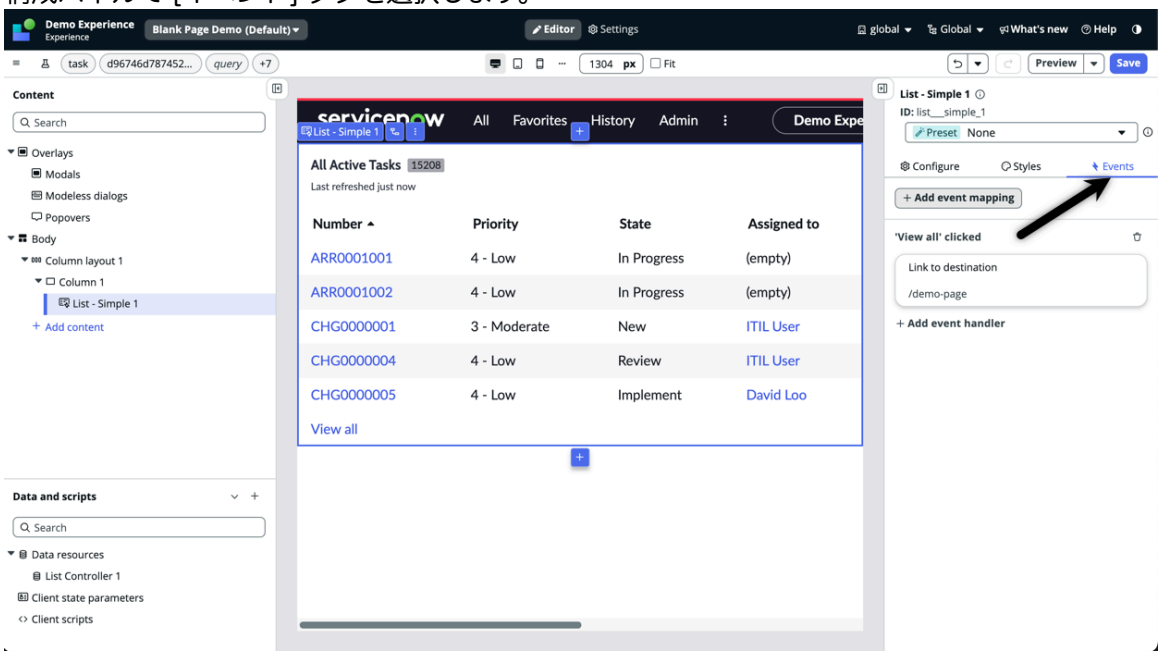
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。

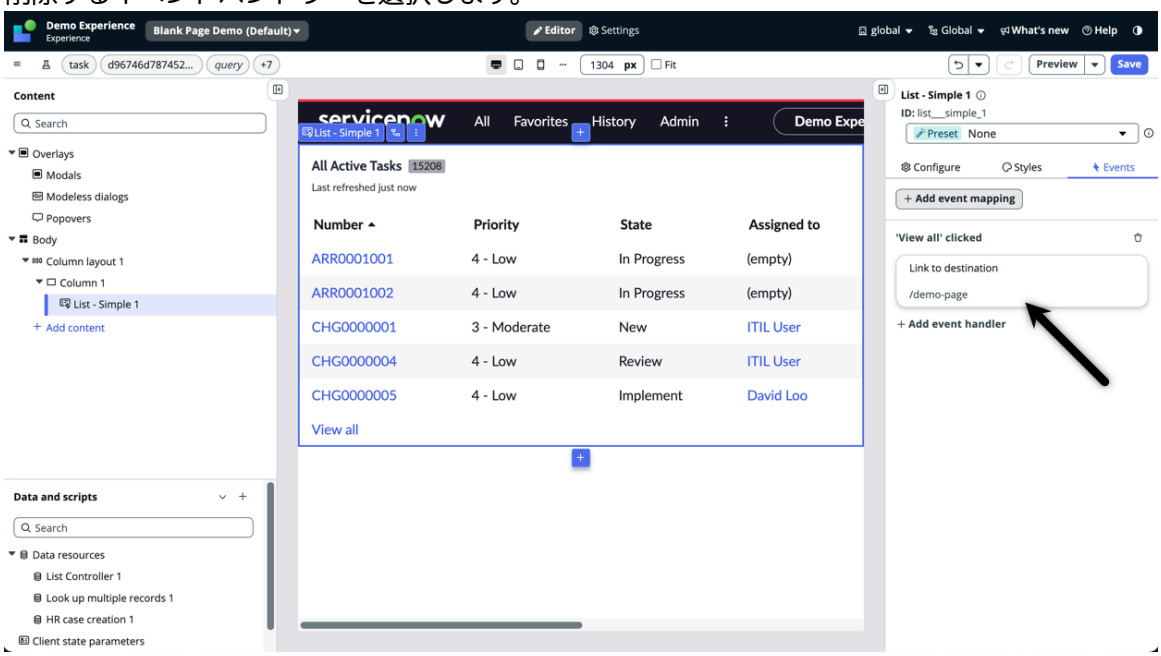
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. プリセットが構成されたコンポーネントを選択します。
5. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。

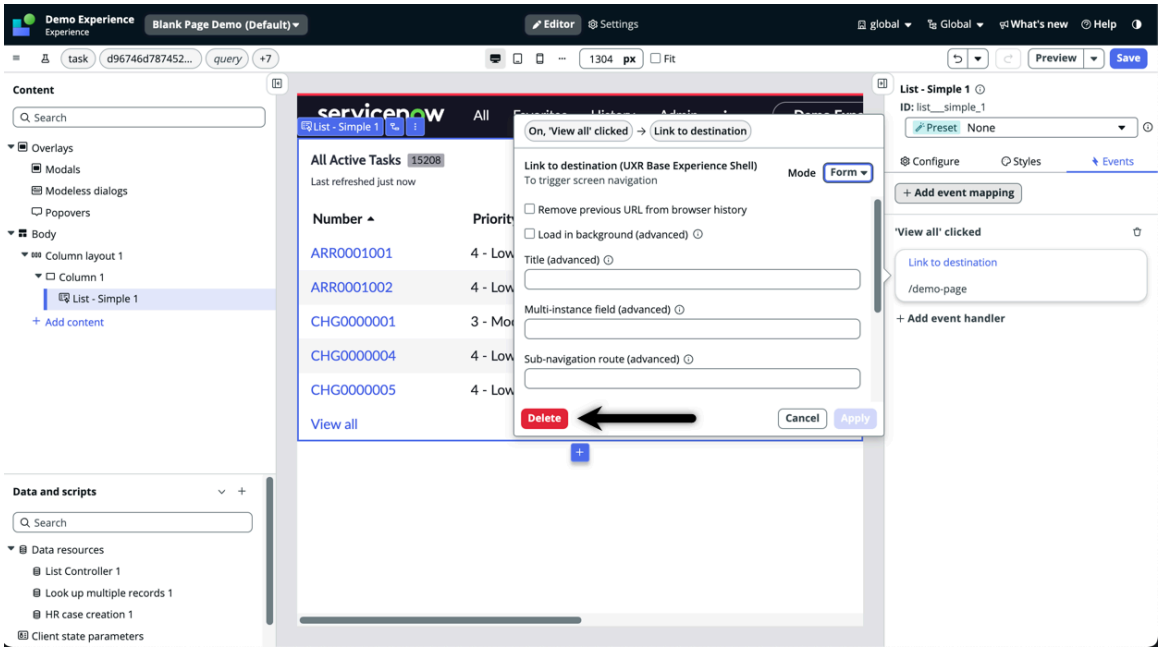


6. 削除するイベントハンドラーを選択します。



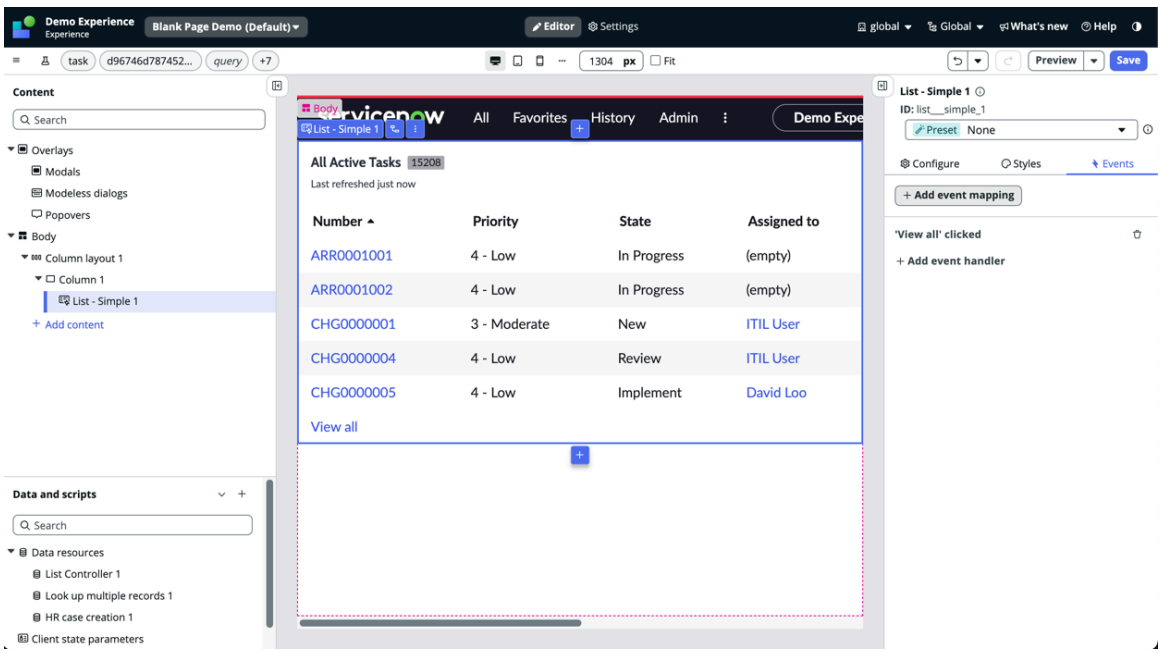
7. [削除] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. 確認モーダルで、[削除] を選択します。
9. イベントハンドラーが、関連するイベントマッピングから削除されます。

   イベントマッピングを削除する場合は、「イベントマッピングの削除」を参照してください。



イベントマッピングの削除

UI ビルダー で不要になったイベントマッピングを削除します。

始める前に

必要なロール：admin

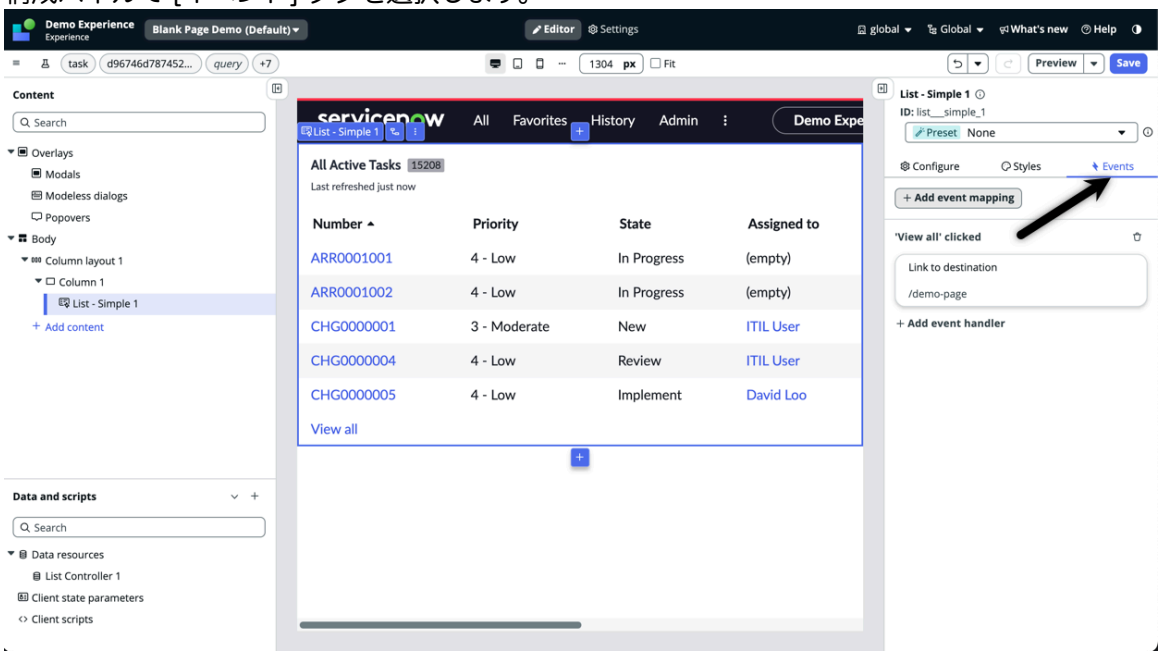
手順

1. [すべて] > **[Now Experience** フレームワーク] > **[UI** ビルダー]に移動します。
2. 作業するエクスペリエンスを開くか、[作成] > [エクスペリエンス]を選択してエクスペリエンスを作成します。

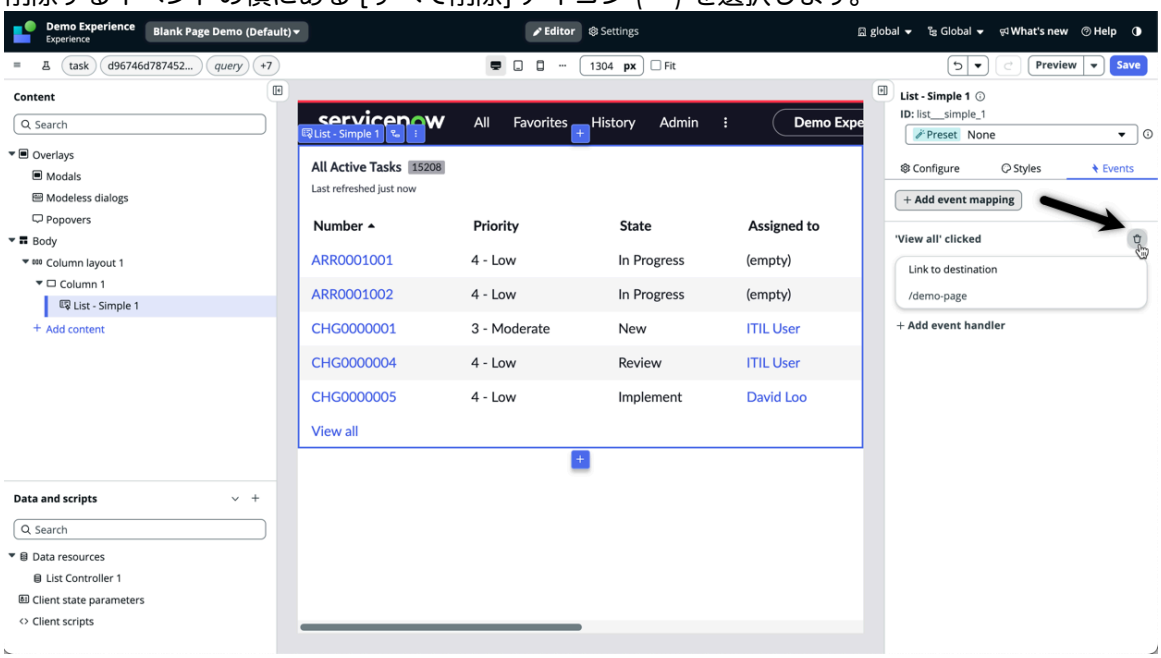
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「UI ビルダー でユーザーがアプリケーションをどのように操作するかを構成する」を参照してください。

3. ページを開くかまたは作成します。
   UI ビルダー でページを作成する方法の詳細については、「UI ビルダーでのページの作成」を参照してください。
4. プリセットが構成されたコンポーネントを選択します。
5. 構成パネルで [イベント] タブを選択します。

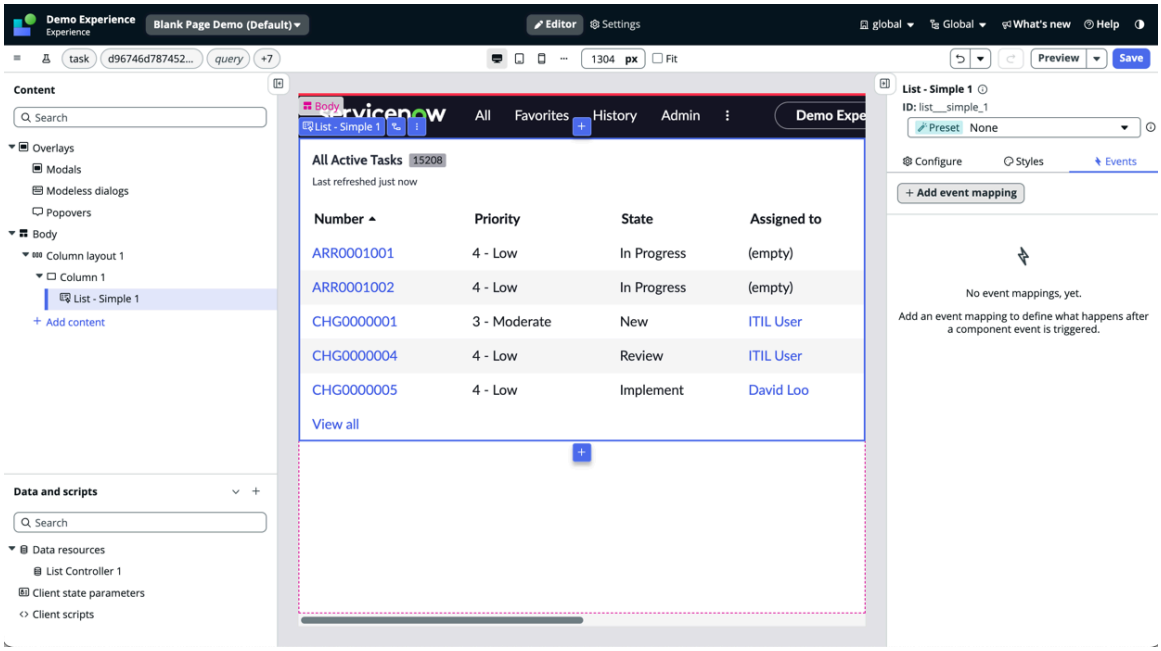


6. 削除するイベントの横にある [すべて削除] アイコン ( ) を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. イベントマッピングが、関連するコンポーネントから削除されます。



Now コードエディターでコードを編集する (高度な機能)

Now コードエディターは、カスケードスタイルシート (CSS)、ハイパーテキストマークアップ言語 (HTML)、JavaScript、拡張マークアップ言語 (XML)、および JavaScript Object Notation (JSON) をサポートするリッチテキストエディターです。Now コードエディターを使用して、ネクストエクスペリエンス UI ビルダーコンポーネントの UI 構成、データリソース構成、スタイル、イベント、クライアントサイドおよびサーバーサイドのスクリプトを変更します。

Now コードエディターは次の機能をサポートしています。

- 基本編集
- デバッグ
- コマンドパレット
- コードの書式設定
- 構文のチェックとハイライト表示
- 自動提案
- 共通コードのスクリプトマクロ

基本編集

アクション	説明
コードの書式設定	スクリプトに適切なインデントを適用します。 キーボードショートカット： • Windows：Shift+Alt+F • Mac：Shift+Option+F
構文のハイライト表示	コードの構文をハイライト表示します。
構文のチェック	書式設定エラーをチェックし、構文エラーをハイライト表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
	• Windows：Shift+Alt+C • Mac：Shit+Option+C
提案を表示	挿入ポイントに次のような有効な要素のリストを表示します。 • クラス名 • 関数名 • オブジェクト名 • 変数名 エントリーを選択してクリックし、スクリプトに追加します。 キーボードショートカット： • Windows：Control+Space • Mac：Control+Space また [設定] メニューから、[構文のハイライト表示] を有効または無効にすることもできます。
コメントの切り替え	2 つの連続するスラッシュ // を使用して、1 行以上のコードをコメント化します。 キーボードショートカット： • Windows：Control+/ • Mac：Command+/
ミニマップを表示	コードスニペットのミニマップを表示します。 ミニマップオプションは [設定] メニューで表示と非表示を切り替えることができます。
ワードラップを有効にする	エディター領域でワードラップ機能を有効にします。 [ワードラップを有効にする] オプションは [設定] メニューで切り替えることができます。
コマンドパレットを表示	一般的な操作に使用できるコマンドのリストを表示します。同じインタラクティブウィンドウを使用して、エディターコマンドの実行、テキストの検索と置換、コードブロックの折りたたみと展開、コメントの切り替えなど、多くのタスクを実行できます。 キーボードショートカット • Windows：F1 • Mac：F1
エディターを展開 またはエディターを折りたたむ	エディターの展開と折りたたみを切り替えます。 キーボードショートカット

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
	• Windows：Control+M • Mac：Control+M

デバッグ

スクリプトデバッガーを起動するには、ツールバーの [スクリプトデバッガー] アイコン をクリックします。

注: デバッグが有効になっていて、言語が JavaScript である場合にのみ、ブレークポイント、条件付きブレークポイント、またはログポイントを追加できます。

タスク	操作
ブレークポイントを追加	ルーラー領域の行番号の横を右クリックし、[ブレークポイントを追加] を選択します。
条件付きブレークポイントを追加	1. ルーラー領域の行番号の横を右クリックし、[条件付きブレークポイントを追加] を選択します。 2. エディターにブレーク条件を入力します。
ログポイントを追加	ルーラー領域の行番号の横を右クリックし、[ログポイントを追加] を選択します。
差分モードでテキストを比較	並列表示ビューアイコン とインラインビューアイコン を使用して、ビューを切り替えます。

コードエディターマクロ

for

- 説明：サンプルのアレイを使用して標準の for ループを挿入します。
- 出力：

```
for (var i=0; i< myArray.length; i++) {
 //myArray[i];

}
```

method

- 説明：空の JavaScript 関数テンプレートを挿入します。
- 出力：

```
/*_____________________________________________________________________
_______
   * Description:
   * Parameters:
   * Returns:
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
 ____________________________________________________________________
____*/
   : function() {

   },
```

info

- 説明： *GlideSystem* 情報メッセージを挿入します。
- 出力：

```
gs.addInfoMessage(gs.getMessage(""));
```

doc

- 説明：関数またはパラメーターを説明するためのコメントブロックを挿入します。
- 出力：

```
/**

* Description:

* Parameters:

* Returns:
*/
```

vargror

- 説明：OR 条件で 2 つの値の *GlideRecord* クエリを挿入します。
- 出力：

```
var gr = new GlideRecord('');

var qc = gr.addQuery('field', 'value1');

qc.addOrCondition('field', 'value2');
gr.query();

while (gr.next()) {


}
```

vargr

- 説明：単一の値に対する標準の *GlideRecord* クエリを挿入します。
- 出力：

```
var gr = new GlideRecord("");
gr.addQuery("name", "value");
gr.query();
if (gr.next()) {

}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションのテストとデバッグ

アプリケーションがビジネス要件を満たしていることを確認します。テストでは、レコード操作 (作成、読み取り、更新、削除など)、ユーザーインターフェイス要素 (ビューや UI ポリシーなど)、ランタイム操作 (ビジネスルールなど)、およびイベントスクリプトアクションを対象とする必要があります。

コア **UI** のテストとデバッグ

自動テストフレームワーク (ATF)

自動テストを作成して実行し、変更後にインスタンスが機能することを確認します。失敗したテストの結果を確認して、失敗の原因となった変更と、レビューする必要がある変更を特定します。

スクリプトのデバッグ

セッションログと Now Platform デバッグツール (ウォークスルースクリプトデバッガーや UI に表示されるエラーメッセージなど) を使用して、スクリプトをデバッグします。

スクリプトデバッガおよびセッションログ

スクリプトデバッガ を使用して、script_debugger ロールを持つユーザーはサーバー側の JavaScript をデバッグできます。また、セッションログ を使用して、必要なログを表示およびダウンロードできます。

スクリプトトレーサーとデバッグスクリプト

スクリプトトレーサーを使用して、デバッグ検索をフィルタリングし、スクリプトの問題をすばやく絞り込みます。広範囲に検索するのではなく、スクリプトの特定の行を見つけることで、時間を節約し、生産性を向上させることが可能です。

関連 **ServiceNow** アプリケーションと機能

テスト管理 2.0

ServiceNow® のテスト管理 2.0 アプリケーションは、テストプロセスの管理を簡素化することで、エラーを少なく抑えながら効率よくソフトウェア製品を提供できるようにします。テストの複数のバージョンを作成して、Agile Development 2.0 と統合することができます。

ユーザーの代理操作を行う

アドミニストレーターは、テスト目的で他の認証されたユーザーの代理操作を行い、代理操作ログを表示します。別のユーザーの代理操作を行う場合、アドミニストレーターは、そのユーザーがシステム内でアクセスできるメニューやモジュールなどとまったく同じものにアクセスできます。

ATF を使用したアプリのテスト

自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) では、変更を行った後にインスタンスが動作することを確認するための自動テストを作成して実行することができます。たとえば、アップグレード後、アプリケーション開発中、または更新セットを使用してインスタンス構成を展開する場合です。失敗したテストの結果を確認して、失敗の原因となった変更と、レビューする必要がある変更を特定します。

注: デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは無効になっており、本番システムで誤って実行されないようになっています。データの破損や機能停止を避けるため、テストは、開発、テスト、およびその他の非本番インスタンスでのみ実行してください。詳細については、ATF の概要に関するこちらの動画 をご覧ください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開発者トレーニングについては、ServiceNow 開発者サイト の「 の使用自動テストフレームワーク (ATF) 」を参照してください。

利点

自動テストフレームワーク (ATF) は、変更マネージャーおよび開発者にこれらのメリットを提供します。

- 手動テストを自動テストに置き換えることで、アップグレードと開発時間を短縮します。
- テストを一度設計し、さまざまなコンテキストおよびさまざまなテストデータセットでそれらを再利用します。
- テストデータと各テスト実行後に行われた変更をロールバックすることで、テストインスタンスをクリーンに保ちます。
- テストスイートを作成して、テストをひとまとまりの数量に整理し、実行します。
- テストスイートの実行をスケジュールします。
- 技術者以外のテストデザイナーが標準 Now Platform 機能のテストを作成できるようにします。
- クイックスタートテストとテストスイートをコピーして、テスト設計時間を短縮します。
- テスト範囲を拡大するためのカスタムテストステップを作成します。

自動テストフレームワーク **(ATF)** レコードとコンポーネント

自動テストフレームワーク (ATF) は、これらのレコードとコンポーネントで構成されています。

テスト

テストは、機能の何らかの機能性を検証する自動化された関連テストステップの論理的なグループです。各テストはテスト [sys_atf_test] テーブルのレコードです。テストデザイナーは通常、1 つの機能または関連機能のグループを検証するためのテストを作成します。たとえば、CSM：製品ケースの作成テストは、製品ケースレコードの作成を検証します。各テストには、テストステップとテスト結果の関連リストがあります。

テストスイート

テストスイートは、特定の順序で実行されるテストの集まりです。テストデザイナーは通常、アプリケーションまたは関連機能のグループをテストするためのテストスイートを作成します。たとえば、CSM：ケース管理テストスイートは、カスタマーサービス管理 (CSM) アプリケーションの機能を検証します。テスト設計者は、テストスイートの実行および必要なクライアントテストランナーの起動をスケジュールできます。

クイックスタートテスト

クイックスタートテストとは、アプリケーションのデモデータと共にインストールされるテストやテストスイートのことです。クイックスタートテストをテンプレートとして使用して、独自のテストとテストスイートをビルドします。詳細については、クイックスタートテストの概要に関するこちらの動画 を参照してください。

テストステップ

テストステップは、ステップを実行するために必要な実行時テストデータとステップ構成を組み合わせます。テストステップは常に、テストで実行される順序を指定します。テストステップには、ステップ結果の独自の関連リストがあります。各テストステップは、テストアクション、ステップ構成、および実行順序を指定するテストステップ [sys_atf_step] テーブル内のレコードです。テスト設計者は、機能を検証するテストにテストステップを追加します。たとえば、CSM：製品ケースの作

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

成テストの最初のテストステップは、ケース管理の権限が与えられているデモユーザー John Jason に偽装することです。

ステップ構成

ステップ構成は、自動テストフレームワーク (ATF) が実行できる特定のテストアクションです。ステップ構成にはランタイムテストデータは含まれず、テスト設計者がそれらをテストステップの一部として追加するときにのみ実行できます。各ステップ構成は、ステップ構成の実行に使用される入力変数と他のステップ構成で使用可能な出力変数を指定するテストステップ設定 [sys_atf_step_config] テーブル内のレコードです。たとえば、偽装ステップ構成では、テストは別のユーザーに偽装できます。

自動テストフレームワーク (ATF) は、ほとんどのユースケースについてのステップ構成のデフォルトリストを提供し、テスト設計者が独自のカスタムステップ構成を作成できるようにします。

ステップ変数

ステップ変数は、ステップ固有の入力と出力の値を保存します。たとえば、新しいフォームを開くステップ構成には、テーブルおよびフォームのビュー名を指定するための変数があります。ステップ変数を使用して、特定のテストステップターゲットを指定したり、他のテストステップに情報を渡したりします。

テスト結果

テスト結果は、テストまたはテストスイートの実行の出力を保存します。各テスト結果は、テスト実行の期間、テストのステータス、および利用可能な場合はスクリーンショットを指定するテスト結果 [sys_atf_test_result] テーブル内のレコードです。テスト結果を使用して不合格のテストまたは実行されていないテストを識別し、テストログを使用してテスト結果に関する詳細を確認します。デフォルトでは、テスト結果を無期限に保持するオプションを有効にしない限り、システムは作成後 30 日でテストおよびテストスイートの結果を削除します。

ステップ結果

ステップ結果は、テストステップの実行の出力を保存します。各ステップ結果は、テストステップのステータス、出力の要約、および、テストステップによって生成された出力の完全なログを指定する、ステップ結果 [sys_atf_test_result_step] テーブル内のレコードです。ステップ結果を使用して、レビューが必要な障害と機能を識別します。

アサーションタイプ

[アサーションタイプ] フィールドは、テストに合格するために満たす必要がある条件を指定します。テスト設計者はアサーションを使用して、操作の結果が期待されるものか期待しないものかを指定できます。たとえば、レコードを更新できないことをテストしたいとします。この場合は、レコード挿入テストステップを追加し、[アサーションタイプ] フィールドを [レコードが挿入されませんでした] に設定します。レコードの挿入が失敗したときにテストに合格します。

[アサーションタイプ] フィールドがあるステップを含むいくつかのテストステップカテゴリには以下が含まれます。

- サーバーカテゴリ：どの CRUD 操作によってテストに合格または不合格になるかをアサートします。
- カスタム UI カテゴリ：どのコンポーネント状態によってテストに合格または不合格になるか、および可視テキストによってテストに合格または不合格になるかどうかをアサートします。
- サービスポータル のフォームカテゴリ：検証エラーのためにブラウザーでフォームがキャンセルされたのか、それともフォームがサーバーに正常に送信されたためテストに合格したのかをアサートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントテストランナー

クライアントテストランナーは、Now Platform ユーザーインターフェイス内のクライアント側のテストステップを実行するブラウザータブです。クライアントテストランナーが機能するにはブラウザータブが必要です。テストを実行するときにクライアントテストランナーが利用できない場合、システムはユーザーがクライアントテストランナーを 1 つ開くように求めます。テスターは、手動でクライアントテストランナーを起動するか、または既存のクライアントテストランナーを選択することができます。テスト設計者は、テストスイートの実行をスケジュールするときにクライアントテストランナーの開始をスケジュールできます。

ユーザーロール

自動テストフレームワーク (ATF) 権限を定義するロールを割り当てます。

ロールタイトル [名前]	ロールの説明
atf_test_admin	自動テストフレームワーク (ATF) プロパティを作成または編集します。次の権限があります： • テストページの表示 • テストの作成/編集/削除 • テスト ステップの作成/編集/削除 • ステップ設定ページの表示 • テスト ランナーページの表示 • テストスイートの結果、テスト結果、結果アイテムのページの表示 • ユーザーテストの実行 • テストスイートの表示、作成、編集、削除、実行 • ステップ設定レコードの作成/編集 • 自動テストフレームワーク (ATF) プロパティの作成/編集
atf_test_designer	自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティを表示するだけです (プロパティの作成および編集はできません)。次の権限があります： • テストページの表示 • テストの作成/編集/削除 • テスト ステップの作成/編集/削除 • ステップ設定ページの表示 • テスト ランナーページの表示 • テストスイートの結果、テスト結果、結果アイテムのページの表示 • ユーザーテストの実行 • テストスイートの表示、作成、編集、削除、実行 • 自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティの表示

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールタイトル [名前]	ロールの説明
atf_ws_designer	認証を必要とする REST エンドポイントに必要なベーシック認証プロファイルを表示または設定します。詳細については、「REST カテゴリ」を参照してください。

ATF は Next Experience の次の要素をサポートしていませんが、将来のリリースでこれらの機能のサポートが予定されています。

- UI ビルダーでビルドされたページ (リストとフォームコンポーネントを含むページを含む)。
- ランディングページ

注: ATF は、クラシック環境 (クラシックリストやフォームなど) を含むコア UI を引き続きサポートします。

自動テストフレームワーク (ATF) を使い始める

自動テストフレームワーク (ATF) にまだ慣れていない場合は、この概要を読んで、このフレームワークが何を実行できるかを理解してください。次に、チュートリアルにしたがって、最も基本的なATF機能を使用するテストを作成して実行します。基本に慣れたら、ATFが提供するより高度な機能を試してみます。

ATF 機能は、インスタンスのテスト方法に柔軟性をもたらします。

テストステップ構成カテゴリ

カテゴリ	説明
サービスポータルのサービスカタログ	サービスポータル でカタログアイテムのエンドツーエンドテストを実行します。 • レコードプロデューサ、カタログアイテム、または注文ガイドを開きます。 • 変数の値とカタログアイテムの数量を設定します。 • 注文ガイドに含まれている変数値、状態、価格、およびアイテムを検証します。 • 注文ガイドで移動します。 • 注文ガイドでカタログアイテムを開くか、または切り替えます。 • アイテムまたは注文ガイドをカートに追加します。 • カタログアイテムまたは注文ガイドを注文します。 • レコードプロデューサを送信します。
アプリケーションナビゲーター	ナビゲーション機能を確認するためのテストを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	説明
	• アプリケーションメニューが左側のナビゲーションバーに表示されていることを確認します。 • アプリケーションモジュールが左側のナビゲーションバーに表示されていることを確認します。 • ユーザーが左側のナビゲーションバーでモジュールをクリックしたかのように、モジュールに移動します。
カスタム UI	スクリプティングなしでユーザーアクションを模倣する単純なテストを作成します。 • コンポーネント値を設定します。 • 指定されたテキストがページ上にあるか、またはないかをアサートします。 • コンポーネント値を検証します。 • コンポーネントをクリックします。 • コンポーネントの状態を検証します (読み取り専用または非読み取り専用)。
フォーム	フォームのテストを作成します。 • 新しいフォームまたは既存のレコードを開きます。 • フィールド値を設定します。 • フィールド値またはフィールド状態 (必須、任意、読み取り専用、非読み取り専用、表示、非表示など) を検証します。 • UI アクションが表示されているかどうかを検証します。 • モーダルページのボタンをクリックします。 • UI アクションをクリックします。 • フォームを送信します。
サービスカタログ	カタログアイテムのエンドツーエンドテストを実行します。 • カタログアイテムまたはレコードプロデューサのオープン • カタログアイテムの検索 • 変数の値とカタログアイテムの数量を設定します。 • 変数値、状態、および価格を検証します。 • 買い物かごにアイテムを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	説明
	• カタログアイテムを注文します。 • レコードプロデューサを送信します。
サービスポータルのフォーム	サービスポータル でフォームのテストを作成します。 • フォームを開きます。 • フィールド値を設定します。 • フィールド値またはフィールド状態 (必須、任意、読み取り専用、非読み取り専用、表示、非表示など) を検証します。 • UI アクションが表示されているかどうかを検証します。 • UI アクションをクリックします。 • フォームを送信します。
REST	インバウンド REST 要求を作成して送信し、対応を検証します。 • インスタンス上の REST エンドポイントのテスト • 以前のテストステップで作成されたレコードまたはインスタンスに既に存在したレコードの検索、更新、または削除だけでなく、REST 要求を使用してレコードを作成します。 • 応答ステータスコード、応答ヘッダー、応答時間、および応答ペイロードの検証
サーバー	以下を含む、より複雑な操作を実行します。 • Jasmine テストフレームワークを使用したテストを含め、JavaScript を使用して単体テストの実行 • ビジネスルール、スクリプトインクルード、その他のスクリプトのテスト • 定義したデータを操作するテストの作成

出力変数

多くのテスト ステップでは出力変数が戻るので、その値を後のステップへの入力として使用できます。たとえば、出力変数を使用すると、次のタスクを実行できます。

- 以前に挿入したレコードに対するサーバー側の確認を実行します。
- あるユーザーとしてレコードを作成した後、別のユーザーとしてのそのフォームを再オープンします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタムテストステップ構成

自動テストフレームワーク (ATF) に組み込まれたステップに加えて、カスタムのテストステップ構成を作成できます。これらのカスタム ステップでは、入力変数を取込み、定義した出力変数を返せます。

注: サーバー上で実行されるカスタムテスト ステップのみを定義できます。自動テストフレームワーク (ATF) は、ブラウザーで実行されるカスタムステップ構成の作成をサポートしていません。

データ保存

自動テストフレームワーク (ATF) は、テストの実行によって作成されたすべてのデータを自動的に追跡して削除し、テスト後に自動的に変更をロールバックします。

テストスイート

テストスイートを使用すると、指定した順序で一連のテストを実行できます。さらに、テストスイートは階層化することができ、スイートは他のスイートにネストします。テストスイートを実行するタイミングを決定するスケジュールに、テストスイートを関連付けることができます。

最初の自動テストをビルドして実行する

これらのステップバイステップの手順に従って、最初の自動テストを作成し実行します。このテストでは、新しいユーザーレコードが作成されます。

- 自動テストフレームワーク (ATF) (com.glide.automated_testing_framework) プラグインを有効にする必要があります。zBoot またはアップグレードではデフォルトで有効になっています。
- 必要であれば、テスト実行を有効にします。手順については、「自動テストフレームワーク (ATF) テストの実行を有効または無効にする」を参照してください。

  注: デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは、実稼働システムでは実行できないように無効になっています。データの破損や機能停止を避けるため、開発、テスト、および他の非本番インスタンスでのみテストを実行してください。

- 必要なロール：admin

テストの新規作成

新しい自動テストレコードを作成します。

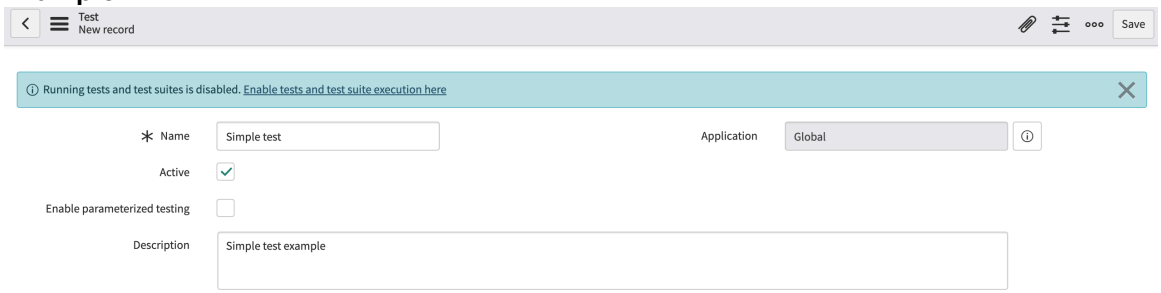
始める前に
必要なロール：atf_test_admin または admin

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 新しいレコードテストフォームで、[名] フィールドにテストの名前を入力します。
   システムは、(テストモジュールの下など) テストのリストを表示する場合はいつでも、この名前でこのテストを識別します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example



4. 説明フィールドの中に、テストの説明を入力します。
5. [保存] をクリックします。

タスクの結果

新しいテスト レコードが作成され、テストのリストに戻ります。新しい自動テストの作成の詳細については、「自動化された新しいテストの作成」を参照してください。

新しいテストに最初のステップを追加

最初の3つのステップを自動テストに追加します。

始める前に

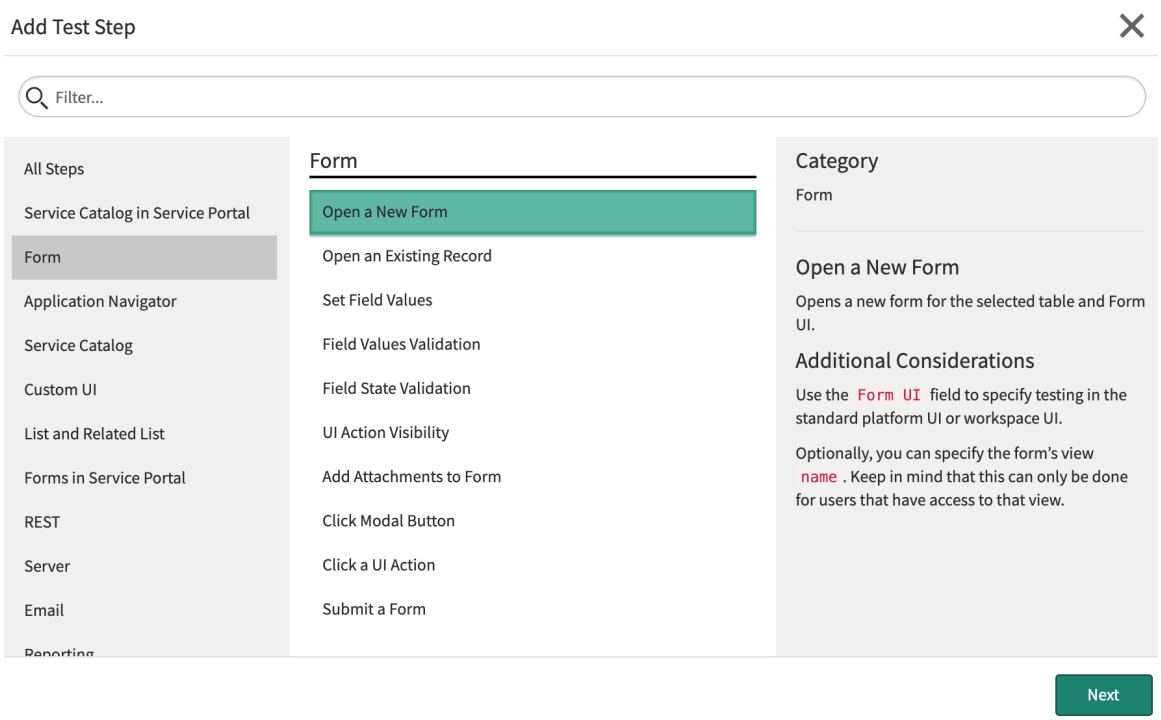
必要なロール：atf_test_admin または admin

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [テスト] に移動します。
2. 新しいテストステップを含むテストをクリックします。
3. テストフォームの下部にある [テストステップ] 関連リストで、[テストステップを追加] をクリックします。
4. 中央の列で、ステップタイプ [新しいフォームを開く] の行をクリックして [次へ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

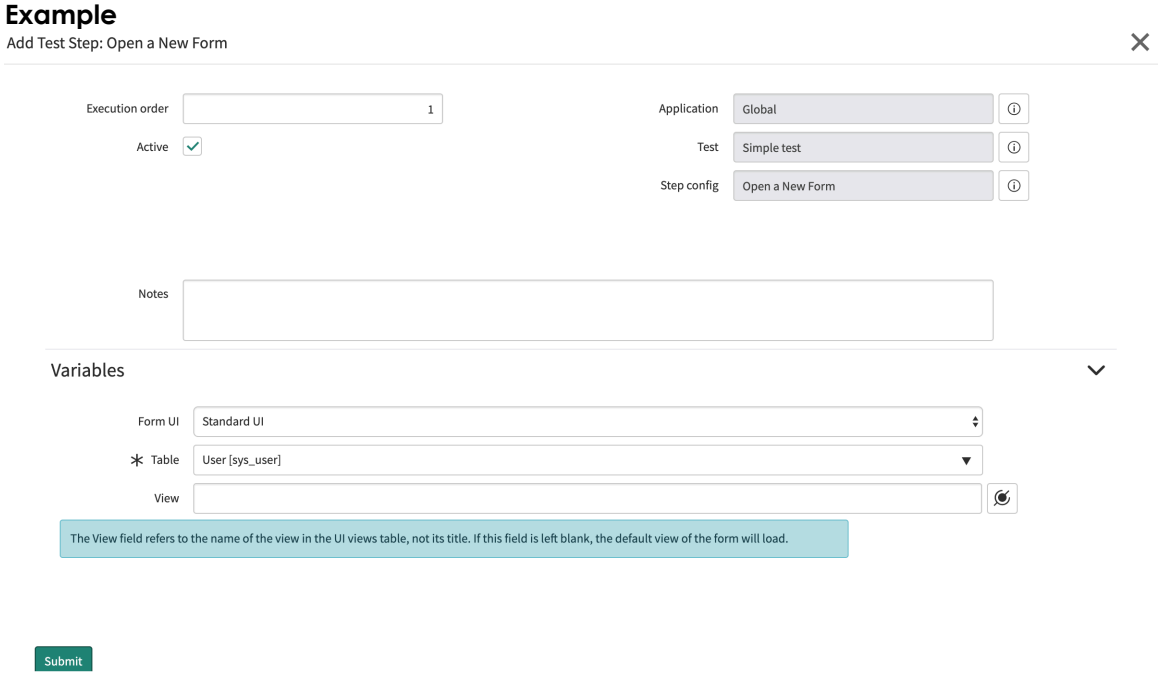
Example



システムは、新しいフォームを開くステップのための テスト ステップを追加するフォームを表示します。

5. [テーブル] フィールドで、[ユーザー **[sys_user]]** テーブルを選択し、[送信] をクリックします。

Example



新しいステップが作成され、テストレコードに戻ります。

6. [更新] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
新しいテスト レコードが作成され、テストのリストに戻ります。自動テストに手順を追加する方法の詳細については、「自動テストにステップを追加する」を参照してください。

次のタスク
自動テストフレームワーク (ATF)についてどのように学習を継続するかについてのいくつかのアイデアについては、自動テストフレームワーク (ATF) での次のステップを参照してください。

自動テストに 2 番目のステップを追加する

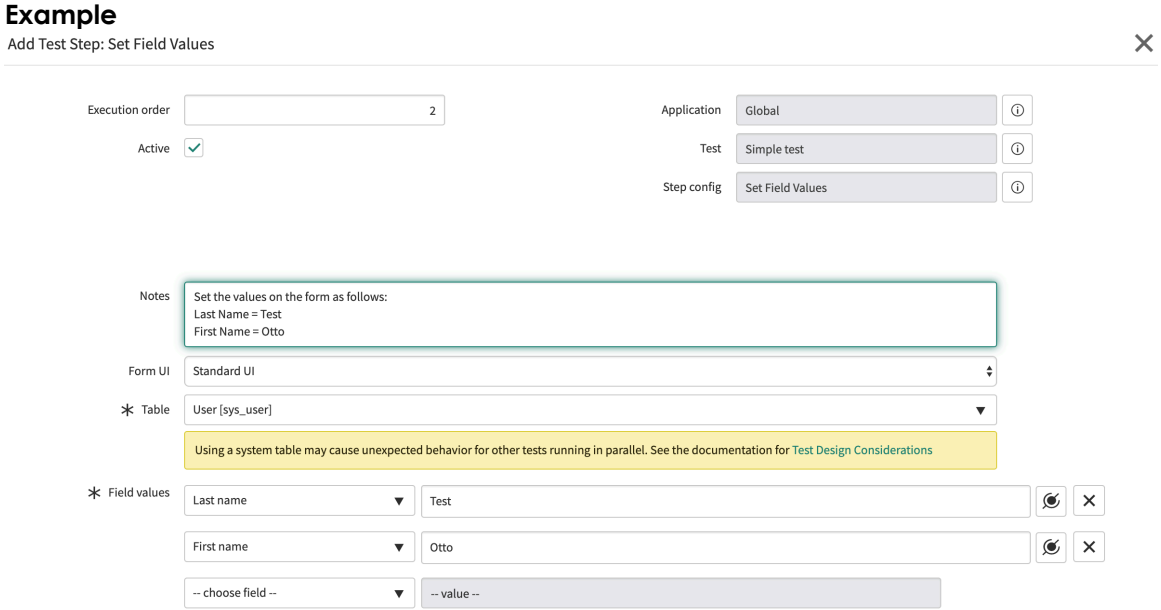
3 つのステップのうちの 2 つ目を自動テストに追加します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または admin

手順

1. 新しいテストステップを含むテストをクリックします。
2. テストフォームの下部にある [テストステップ] 関連リストで、[テストステップを追加] をクリックします。
3. 中央の列で、フィールド値の設定をクリックし、そして次をクリックします。
   システムは、テスト ステップを追加するフォームで値を設定するステップを表示します。
4. フィールド値セクションで、苗字にテストそしてファーストネームにオットー (または任意の他の名前)を設定します。

Example



5. [送信] をクリックします。

タスクの結果
新しいステップが作成され、テスト レコードに戻ります。自動テストに手順を追加する方法の詳細については、「自動テストにステップを追加する」を参照してください。

テストに 3 番目のステップを追加する

３つの内最後のステップを自動テストに追加します。

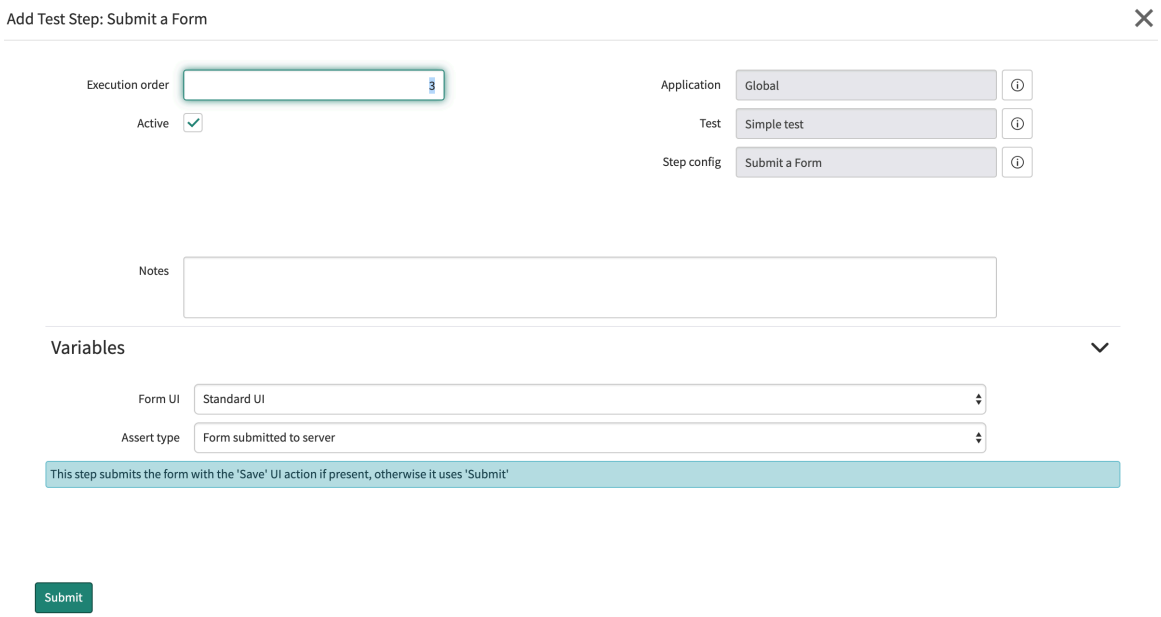
始める前に
必要なロール：atf_test_admin または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

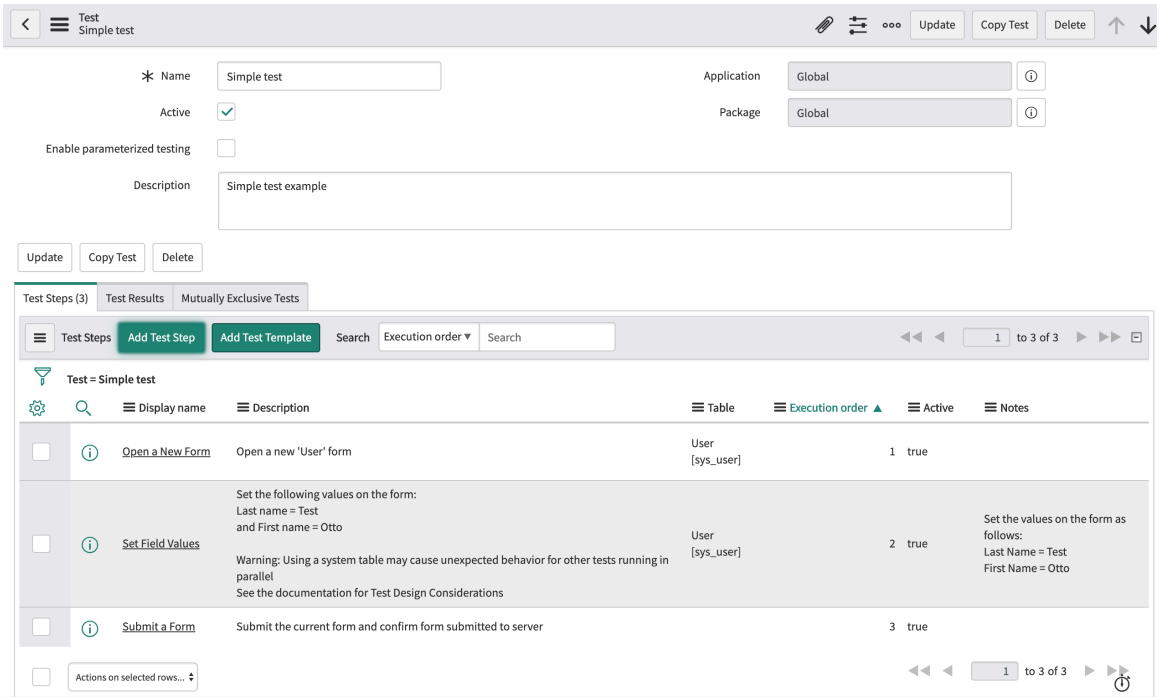
1. 新しいテストステップを含むテストをクリックします。
2. テストフォームの下部にある [テストステップ] 関連リストで、[テストステップを追加] をクリックします。
3. 中央の列で、[フォームを送信] をクリックして、[次へ] をクリックします。
   システムは、フォームを提出するステップのためのテスト ステップを追加するフォームを表示します。
4. すべての値をデフォルトで設定されたままにしておき、提出するをクリックします。

Example



新しいステップが作成され、テスト レコードに戻ります。テスト レコードに、今追加した３つのステップが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [更新] をクリックします。

タスクの結果

システムはテストのリストに戻ります。自動テストに手順を追加する方法の詳細については、「自動テストにステップを追加する」を参照してください。

テストを実行

テストステップを追加した後、実行し、自動テストの進行状況を監視します。

始める前に

必要なロール：atf_test_admin または admin

手順

1. 必要に応じてテストリストを表示するには、[テスト] をクリックします。
2. 作成したテストが含まれている行をクリックします。
   システムは、[テスト] フォームを表示します。
3. [テストを実行] をクリックします。
   このテストにはフォームステップ (UI 関連のステップ) が含まれているため、現在実行中のテスト クライアントの中から選択するか、新しいテスト ランナーを開始するかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。続行するには、新しいテスト ランナーを開始するを選択し、そしてテストを実行する をクリックします。

タスクの結果

実行テスト進行ダイアログが表示されます。自動テストの実行の詳細については、自動テストを実行するを参照してください。

テストの進捗状況を監視し、テスト結果を見る

自動テストの進行状況を監視し、テスト結果をみます。

始める前に

必要なロール：atf_test_admin または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
必要に応じて、テストの実行中でも テストをキャンセルできます。詳細については、「自動テストとテストスイートのキャンセル」を参照してください。

手順

1. テスト実行状況ダイアログでテストの進行を監視します。

   注: テストがデータを生成すると、システムはテストの全てのステップの後でそのデータを元に戻す。

2. 完了すると、実行テスト進行ダイアログで 結果に進むをクリックし、試験結果リストを表示し結果を表示して分析できます。

自動テストフレームワーク (ATF) での次のステップ

簡単なテストの作成と実行に慣れたら、自動テストフレームワーク (ATF) のより高度な機能を試してみてください。

テストスイートと共にバッチテスト

一般的に一連のテストを一緒に実行する場合は、テストスイートを使用してテストをグループ化できます。テストスイートについては、自動テストスイートのビルドと実行を参照してください。

1つのテスト ステップから別のテスト ステップに入力変数と出力変数を使用してデータを渡す

あるテスト ステップから別のテスト ステップにデータを渡すには、入力変数そして出力変数を用います。詳細については、「1 つの自動テストステップから別の自動テストステップにデータを渡す」を参照してください。

共通のシーケンスのステップをテンプレートで再利用

同じ手順をテストに頻繁に追加する場合は、テンプレートを作成して時間を節約します。テンプレートの詳細については、 自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

ドメインセパレーションと自動テストフレームワーク (ATF)

ドメインセパレーションは 自動テストフレームワーク (ATF) でサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：標準*

サポートレベルは標準ですが、いくつかの例外または特別な条件があります。

- ベーシックレベルを含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダー (SP) によって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスオーナーは、MVP (minimum viable product) ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。この構成は、特定のアプリケーションで前提とされているように、テナントごとに行います。

サンプルユースケース：アドミニストレーターは、レコードを他のテナントに対してはクローズしないが、1 つのテナントに対してクローズする場合、コメントを必須にすることができる必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

ATF のユースケース

自動テストフレームワーク (ATF) の設計とランタイムアクセスは、インスタンスの所有者がドメイン固有のプロセスを検証するためのものです。顧客のためにテストを設計することで、テナントごとの結果を確認します。

テスト

ATF のテストステップ中にドメインセパレーションをテストする場合は、最初にドメインを設定する必要があります。各 ATF テストステップが設定中のドメインに依存する場合、これはその最初の代理操作ステップの一部になります。ドメインセパレーションの推奨プラクティスの詳細については、「サービスプロバイダー向けのドメインセパレーションの推奨プラクティス」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

自動テストフレームワーク (ATF) のヘッドレスブラウザ

自動テストフレームワーク (ATF) ユーザーインターフェイス (UI) テストを処理するブラウザの作成を自動化することで、UI テストを改善します。この機能はヘッドレスブラウザと呼ばれ、ローカルブラウザで UI テストを処理するクライアントテストランナーのためにブラウザを手動で開かなくても、UI 機能をテストできます。

重要: ヘッドレスブラウザは ATF のレガシー機能です。代わりに、ATF テストジェネレーターとクラウドランナーアプリケーションを使用することをお勧めします。クラウドランナーは、簡単なセットアップとシームレスなユーザーエクスペリエンスを提供します。ストアアプリからクラウドランナーをインストールできます。

オンプレミスインスタンスユーザーの場合は、ヘッドレスブラウザオプションを引き続き使用する必要があります。現在、クラウドランナーはオンプレミスインスタンスでは使用できません。

背景

ServiceNow の顧客は、自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) を使用してアプリケーションとインスタンスをテストします。ServiceNow プラットフォームで開発する場合、ATF は変更がユーザーの予想どおりに動作し、既存の機能を損なわないようにします。

ServiceNow Orlando リリース以降、顧客はアプリケーションのテストと展開を自動化するために、継続的統合/継続的デリバリ (CI/CD) API を使用できるようになっています。

概要

ServiceNow の ATF 用ヘッドレスブラウザによって提供される自動化では、テスト中にブラウザを手動で開く手順がスキップされます。1 回限りのセットアップでは、いくつかの連続する手順に従う必要があります。Linux と Windows の両方のセットアップ手順を以下に示します。

サポートモデルの詳細については、「ATF 用ヘッドレスブラウザ」を参照してください。

Linux 用のヘッドレスブラウザーのセットアップ

ServiceNow® の 自動テストフレームワーク (ATF) 用ヘッドレスブラウザーによって自動化が提供されて、テスト中にブラウザーを手動で開く手順がスキップされます。ヘッドレス ブラウザーのセットアップは、Linux と Microsoft Windows の両方で使用できます。このトピックでは、Linux のセットアップについて説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: ヘッドレスブラウザは ATF のレガシー機能です。代わりに、ATF テストジェネレーターとクラウドランナーアプリケーションを使用することをお勧めします。クラウドランナーは、簡単なセットアップとシームレスなユーザーエクスペリエンスを提供します。ストアアプリからクラウドランナー をインストールできます。

オンプレミスインスタンスユーザーの場合は、ヘッドレスブラウザオプションを引き続き使用する必要があります。現在、クラウドランナーはオンプレミスインスタンスでは使用できません。

1 回限りのセットアップでは、いくつかの連続する手順に従う必要があります。

前提条件

注: ヘッドレスブラウザオプションを使用するには、インスタンスで MFA を無効にする必要があります。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

- Docker アプリケーション をインストールします。
- Java Runtime Environment (JRE) 1.8 をインストールします (keytool ユーティリティに必要)。

  注: バージョンは Java 1.8 である必要があります。そうでない場合、keytool ユーティリティで作成された証明書を検証しようとすると ServiceNow インスタンスでエラーが発生します。詳細については、「Java KeyStore keytool を使用して暗号化キーを作成する 」を参照してください。

- OpenSSL をインストールします。
- 双方向通信
  - インスタンス URL とサーバーの間で双方向通信が行われる必要があります。
  - サーバーの IP アドレスを検索し、ホスト名を取得します。そのいずれかまたは両方を使用できますが、少なくとも 1 つは必要です。アドレスまたはホスト名が ServiceNow インスタンスで表示されることを確認します。
  - インスタンスの IP アドレス範囲を確認するには、「自分の IP アドレス 」を参照してください。指定したすべての IP アドレス/範囲への受信アクセスを許可するようにサーバーを構成できます。
  - この手順では、ポート 2376 または自分のデフォルトポートを使用します。サーバーのファイアウォールルールで、インスタンスから取得した IP アドレスからのこのポートでの受信要求が許可されていることを確認してください。

    注: ホスト名がなく、IP アドレスを介して接続している場合は、IP アドレスを入力して、Hostname 環境変数に「localhost」と入力します。

Linux 用のヘッドレスブラウザの設定手順

Linux 用のヘッドレスブラウザーを設定するには、次の 6 つの手順 (および検証) に従います。

Linux 用にヘッドレスブラウザをセットアップするための証明書の生成

Docker REST API を保護し、HTTP 要求を認証するための TLS/SSL 証明書を生成します。

始める前に

「Linux 用のヘッドレスブラウザーのセットアップ」トピックに記載されている前提条件を満たしてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

このタスクについて

⚠ 警告: 信頼できる認証局から認証局キーを取得します。

デフォルトでは、Docker API を公開すると要求が認証されないため、ホストマシンが攻撃に対して脆弱になる可能性があります。ただし、Docker API は、HTTPS 暗号化で提供される公開鍵と秘密鍵に対して要求が検証される TLS 認証をサポートしています。この手順では、サーバーとクライアントに対して鍵を作成します。

ヒント: これらを覚えやすくするには、Linux ターミナルで次のコマンドを入力します。注意：これらの環境変数をターミナルのプロファイルに追加しないでください。セキュリティ上の理由から、それらは現在のセッション中にのみ存在する必要があります。

- `export PASSWORD="<証明書を生成するためのパスワード>"`
- `export SERVERIP="<このサーバーの IP アドレス>"`
- `export HOSTNAME="<このサーバーのホスト名>"`

詳細については、「TLS (HTTPS) を使用して Docker デーモンソケットを保護する (Use TLS (HTTPS) to protect the Docker daemon socket)」を参照してください。

手順

1. コマンドラインを開きます。
2. 自己署名認証局のキーを生成するか、信頼できる認証局からキーペアを取得します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。
   - `openssl genrsa -aes256 -passout pass:$PASSWORD -out ca-key.pem 4096`
   - `openssl req -passin pass:$PASSWORD -new -x509 -days 365 -key ca-key.pem -sha256 -out ca.pem`
   - `chmod 0400 ca-key.pem`
   - `chmod 0444 ca.pem`
3. 認証局キーを使用してサーバーのキーペアを生成します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。
   - `openssl genrsa -out server-key.pem 4096`
   - `openssl req -subj "/CN=$HOSTNAME" -new -key server-key.pem -out server.csr`
   - `echo "subjectAltName = DNS:$HOSTNAME,IP:$SERVERIP,IP:127.0.0.1" > extfile.cnf`
   - `openssl x509 -passin pass:$PASSWORD -req -days 365 -in server.csr -CA ca.pem -CAkey ca-key.pem -CAcreateserial -out server-cert.pem -extfile extfile.cnf`
4. 認証局キーを使用してクライアントのキーペアを作成します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。
   - `openssl genrsa -out client-key.pem 4096`
   - `openssl req -subj "/CN=$HOSTNAME" -new -key client-key.pem -out client.csr`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- `echo "extendedKeyUsage = clientAuth" > extfile.cnf`
- `openssl x509 -passin pass:$PASSWORD -req -days 365 -in client.csr -CA ca.pem -CAkey ca-key.pem -CAcreateserial -out client-cert.pem -extfile extfile.cnf`

これで、すべての暗号化キーが作成されました。

5. CA 公開鍵とクライアントのキーペアを Java キーストアにインポートします。
次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。

キーストアファイルを作成し、そのパスワードを作成します (後で使用するために保存します)：`keytool -genkey -keyalg RSA -alias dse -keystore my.keystore`

キーストアファイルからデフォルトのエントリを削除します：`keytool -delete -alias dse -keystore my.keystore`

CA 公開鍵をキーストアにインポートします：`keytool -import -keystore my.keystore -trustcacerts -alias ca -file ca.pem`

クライアントのキーペアをインポートします。

> **注:** 新しい pkcs12 キーストアファイルを作成し、そのファイルにキーペアをインポートします。次に、その内容を元のキーストアファイルにコピーします。

- `openssl pkcs12 -export -name clientkeypair -in client-cert.pem -inkey client-key.pem -out clientkeypair.p12`
- `keytool -importkeystore -destkeystore my.keystore -srckeystore clientkeypair.p12 -srcstoretype pkcs12 -alias clientkeypair`

これで、すべての証明書をキーストアファイルに追加したので、後で ServiceNow インスタンスにアップロードするためにファイル **my.keystore** を保存します。また、キーストアファイルの作成を要求されたときに入力したパスワードを覚えておいてください。ServiceNow インスタンスのフォームに、そのパスワードを入力する必要があります。

Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用に Docker を構成する

ServiceNow® の ATF 用ヘッドレスブラウザーを Linux 用にセットアップするステップ 2「すべての要求を認証するように Docker サーバーを構成します」を完了します。

始める前に

ステップ 1：Linux 用にヘッドレスブラウザをセットアップするための証明書の生成 を完了します。

このタスクでは、ステップ 1 の指示に従ってクライアントキーとサーバーキーを作成した後、これらのキーを使用してすべての要求を認証し、ポート 2376 で Docker API を公開するように、Docker サーバーを構成します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

手順

1. ステップ 1 で生成した証明書を使用するように Docker を構成します。
   a. /etc/docker/daemon.json ファイルを検索または作成します。次を実行できます：`touch /etc/docker/daemon.json`
   b. daemon.json ファイルを編集し、次の JSON 値を追加します。自分の証明書への正しいパスに置き換えてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
{
"debug": true,
"tlscacert": "<path to your certificates>/ca.pem",
"tlscert": "<path to your certificates>/server-cert.pem",
"tlskey": "<path to your certificates>/server-key.pem",
"tlsverify": true
}
```

詳細については、「Docker デーモンの構成 (Configure the Docker daemon)」を参照してください。

2. ポートでリモート API を公開するように Docker を構成します (ポート 2376 を推奨)。
最新バージョンの RedHat、CentOS、Ubuntu、SLES などの **systemd** を使用する Linux ディストリビューションでは、docker.service systemd ユニットファイルを使用してリモート接続を受け入れるように Docker を構成できます。また、daemon.json ファイルを使用してリモート接続を受け入れるようにも構成できますが、これは systemd を使用しない Linux ディストリビューションで推奨されます。

   systemd (systemctl) を使用する場合：

   a. `sudo systemctl edit docker.service` コマンドを使用して、docker.service の上書きファイルをテキストエディターで開きます。

   b. 次の行を追加または変更します。ポート 2376 を使用していない場合は、自分のポートで置き換えます。

   ```
   [Service]
   ExecStart=
   ExecStart=/usr/bin/dockerd -H tcp://0.0.0.0:2376
   ```

   c. ファイルを保存します。

   d. systemctl 構成を再ロードします。

   ```
   sudo systemctl daemon-reload
   ```

   e. Docker を再起動します。

   ```
   sudo systemctl restart docker.service
   ```

3. 現在のユーザーがコマンドラインで Docker にアクセスできるようにするには、ユーザーの Docker ホームディレクトリに証明書をコピーします。
   - `mkdir -pv ~/.docker`
   - `cp ca.pem ~/.docker`
   - `cp client-key.pem ~/.docker/key.pem`
   - `cp client-cert.pem ~/.docker/cert.pem`

4. ユーザーの DOCKER_HOST および DOCKER_TLS_VERIFY 環境変数を設定します。
   - `echo "export DOCKER_HOST=tcp://${SERVERIP}:2376 DOCKER_TLS_VERIFY=1" >> ~/.bash_profile`
   - `source ~/.bash_profile`

   詳細については、「非ルートユーザーとして Docker を管理 (Manage Docker as a non-root user)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Linux でのヘッドレスブラウザセットアップ用の Docker イメージとコンテナの作成

公開レジストリから Docker イメージをプルします。

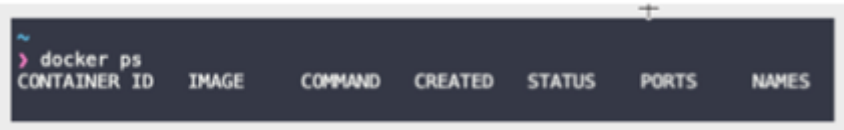
始める前に

ステップ 2：Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用に Docker を構成する を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

手順

1. コマンドラインで `docker ps` を実行して、Docker が機能していることを確認します。
   結果は次のようになります。



2. GitHub リポジトリの ATF ヘッドレスランナー から、最新の Docker イメージをプルします。
   このコマンドは一例です。これらのイメージは変更される可能性があるためです。
   `docker pull ghcr.io/servicenow/atf-headless-runner:lin-1.0.0`

   > **注:** インスタンスとイメージの互換性により、Docker イメージ内の自動化スクリプトはインスタンスコードと互換性があることになります。ユーザーインターフェイスなどの要素は、時間の経過とともに、新しい機能やアップグレードをサポートするために変更される可能性があります。

Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加する

テストを実行するためにインスタンスにログインする、ServiceNow ユーザーのパスワードを格納する Docker シークレットを作成します。Docker シークレットは、コンテナで使用されるパスワードを安全に保存するための ServiceNow® 機能です。

始める前に

ステップ 3：Linux でのヘッドレスブラウザセットアップ用の Docker イメージとコンテナの作成 を完了します。

このタスクについて

Docker コンテナの内部に自動化スクリプトがあり、それが Web ブラウザを開き、インスタンスにログインし、[クライアントテストランナー] ページを開きます。ServiceNow インスタンスにログインするには、ユーザーパスワードが必要です。この手順では、**Docker** シークレットと呼ばれる Docker 機能を使用して、パスワードを安全に保存できるようにします。コンテナを実行すると、インスタンスにログインするためのパスワードが自動的に使用可能になります。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

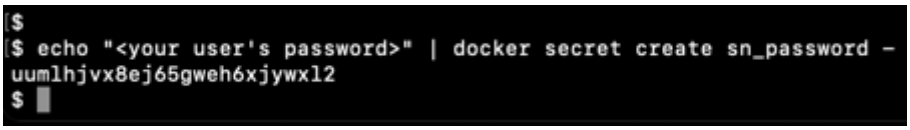
手順

1. コマンドラインに「`docker swarm init`」と入力します。
2. 「`echo "<your user's password>" | docker secret create sn_password -`」と入力します。

   > **注:** `<your user's password>` をそのユーザーの ServiceNow パスワードで置き換えます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

結果は次のようになります。



タスクの結果
結果はシークレット ID であり、後で使用するために保存する必要があります。シークレット ID は、ServiceNow インスタンスの **sys_property** `sn_atf.headless.secret_id` に追加されます。

Linux でヘッドレスブラウザーのインスタンスを設定する

ServiceNow® の ATF 用ヘッドレスブラウザーを Linux 用にセットアップするステップ 5： ヘッドレスブラウザーをサポートできるようにインスタンスを設定します。

始める前に
ステップ 5：Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加する を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

このタスクでは、インスタンスを設定し、ホストマシンと正常に通信して認証されるようにします。

手順

1. ユーザーを作成します。
   a. [ユーザー管理] > [ユーザー] に移動して、[新規] を選択します。
   b. ユーザーを作成します。ユーザー ID (任意の ID) とユーザー名、パスワードを指定します。パスワードは、Docker シークレットコンテナ用に作成したものと同じにする必要があります。
   c. このユーザーに **atf_test_designer** ロールを追加します(詳細については、「ATF を使用したアプリのテスト」トピックの「ユーザーロール」セクションを参照してください)。
2. 証明書を作成します。
   a. [システム定義] > [外部審査済み書] に移動して、**[sys_ certificate]** テーブルを開きます。新しい証明書を作成します (任意の名前を指定できます)。
      - [タイプ]：Java キーストア
      - [パスワード]：ステップ 1 (Linux 用にヘッドレスブラウザをセットアップするための証明書の生成) で作成したキーストアのパスワード。
   b. [添付] (ペーパー クリップ) アイコンを選択して、以前に保存したキーストアファイルをこのレコードに添付します。
   c. [送信] を選択します。
   d. [証明書を検証 **(Validate certificate)]** をクリックし、成功メッセージが表示されることを確認します。
3. プロトコルプロファイルを作成します。
   a. **[System Security]** > [プロトコルプロファイル] に移動して、**[sys_protocol_profile]** テーブルを開きます。新しいプロトコルプロファイルレコードを作成します。

オプション	説明
プロトコル	1 単語 (小文字)：「docker」

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
デフォルトポート	2376 (または使用するために選択したポート)
キーストア	Docker ホストのキーストア

b. [送信] を選択します。

4. Docker スポーク接続を作成します。
   a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス] に移動して、**[sys_alias]** テーブルを開きます。
   b. **Docker** という名前のエイリアスを選択します。
   c. [接続] 関連リストで、[新規] を選択します。
   d. フィールドに入力します。
      - [名前]：任意のテキスト
      - [認証情報フィールド]：空白のまま
   e. **[URL** ビルダー **(URL Builder)]** チェックボックスをオンにします。
   f. [相互認証] チェックボックスをオンにします。
   g. [プロトコルプロファイル] フィールドで、以前に作成したプロトコルプロファイルを選択します。
   h. [ホスト] フィールドに、サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
   i. [送信] を選択します。
   接続 URL がシステムによって自動的に作成されます。
5. プロパティを変更します。

> ⚠ **警告:** デフォルトでは、*com.glide.communications.trustmanager_trust_all* プロパティは **false** に設定されています。Now Platform は、JVM 証明書ストアに対して検証できる証明書のみを信頼します。自己署名証明書およびエンタープライズ署名証明書は信頼されません。詳細については、「証明書の信頼 (インスタンスセキュリティ強化)」トピックを参照してください。

これは、自己署名証明書を使用する場合にのみ必要です。詳細については、「Linux 用にヘッドレスブラウザをセットアップするための証明書の生成」を参照してください。

- `com.glide.communications.httpclient.verify_hostname`：false
- `com.glide.communications.trustmanager_trust_all`：true

Linux でヘッドレスブラウザーの ATF を構成する

ServiceNow® の ATF 用ヘッドレスブラウザーを Linux 用にセットアップするステップ 6：プロパティを使用して ATF を構成します。

始める前に

ステップ 5：Linux でヘッドレスブラウザーのインスタンスを設定する を完了します。

必要なロール

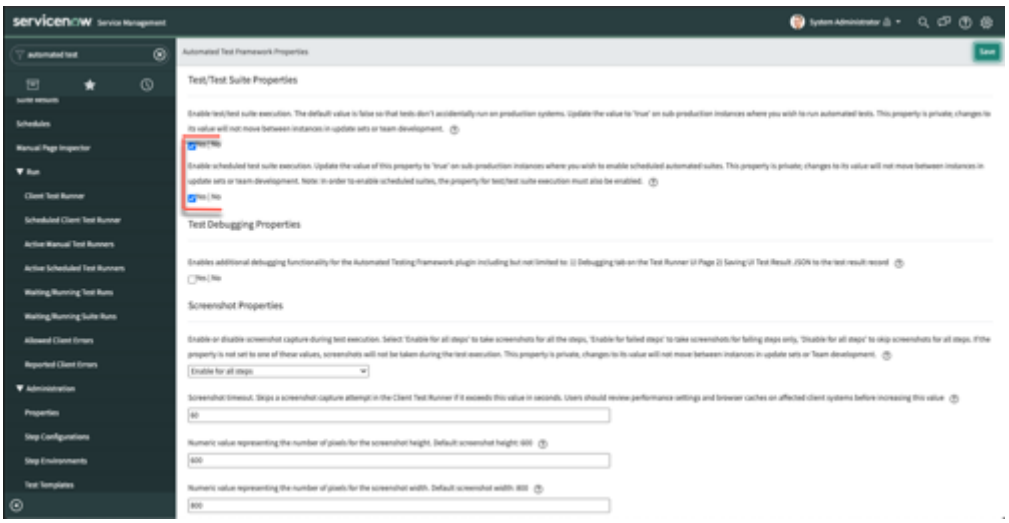
自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

接続と認証を設定したので、このタスクでは、いくつかのプロパティを使用して ATF を構成し、ホストマシンでコンテナを正常に起動できるようにします。

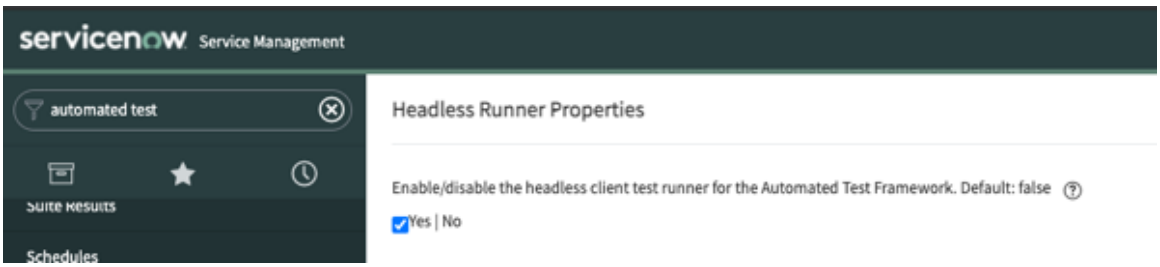
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 自分のインスタンスで、**[ATF]** > [アドミニストレーション] > [プロパティ] に移動します。
2. 上の 2 つのプロパティ、[テストまたはテストスイートの実行を有効にします] と [スケジュール設定されたテストスイートの実行を有効化します] を有効にします。



3. [ヘッドレスランナーのプロパティ] セクションまで下にスクロールします。
4. 上にあるチェックボックスをオンにします。



5. [ヘッドレスランナーのプロパティ] フォームに次の値を入力します。

フォームラベル	プロパティ名	入力する値
ヘッドレスクライアントテストランナーからログインしてテストを開始するために使用されるユーザーアカウント	sn_atf.headless.username	Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加する で作成した統合ユーザーのユーザー名
ユーザーアカウントのパスワードが格納されている Docker シークレット ID	sn_atf.headless.secret_id	以前に取得した Docker の「シークレット ID」と、Linux でヘッドレスブラウザーセットアップ用の Docker にシークレットを追加する の手順のステップ 2 で作成した Docker シークレット名。
ヘッドレスクライアントテストランナーに使用される Docker イメージ。	sn_atf.headless.docker_image	ダウンロードしたタグ付きのイメージ名：`ghcr.io/servicenow/`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームラベル	プロパティ名	入力する値
		`atf-headless-runner:<tagname>`

注: シークレット ID を忘れた場合は、Docker ホストに移動してコマンド `docker secret list` を実行します。

6. 残りのフィールドはそのままにします。
7. [保存] を選択します。

Linux でのヘッドレスブラウザの手順の検証

ServiceNow® の ATF 用ヘッドレスブラウザを Linux 用にセットアップするステップ 7 (最後のステップ)： ヘッドレスブラウザのセットアップ手順が正常に終了したことを確認します。

始める前に
必要なロール：admin

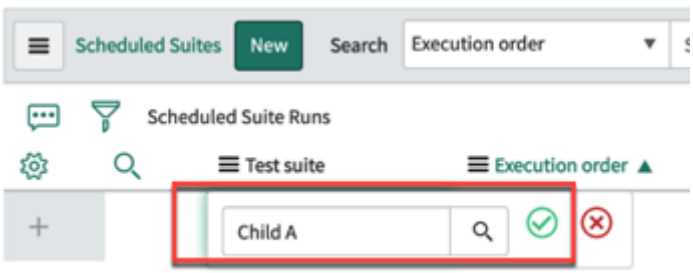
ステップ 6：Linux でヘッドレスブラウザーの ATF を構成する を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

このタスクでは、ヘッドレスブラウザのセットアップ手順のステップ 1 ～ 6 が正常に終了したことを確認します。

手順

1. **[ATF** のスケジュール **(ATF Schedules)]** に移動し、 [スイートスケジュール] リンクの横にある [新規] を選択します。
2. [実行] ボックスで、[オンデマンド]を選択します。
3. [保存] を選択します。
4. [スケジュール済みスイート] 関連リストで、**[+]** 記号をダブルクリックしてテストスイートの新しいレコードを追加し、使用するブラウザ名 (**[Chrome]** または **[Firefox]**) を選択します。
実行する適切な例として、**[Child A]** を使用します。



5. OS 名を Linux に設定します。
6. [今すぐ実行] を選択します。
7. テストに合格したことを検証します。
検証に成功すると、スケジュール済みスイートまたは CICD 経由で UI テストが実行されるスイートでは、[スケジュール設定済みのクライアントテストランナー] ページを手動で開かなくても、自動的にヘッドレステストランナーが作成されるようになりました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Windows 用のヘッドレスブラウザのセットアップ

ServiceNow® の 自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) 用ヘッドレスブラウザによる自動化によって、テスト中にブラウザを手動で開く必要がなくなります。ヘッドレス ブラウザのセットアップは、Linux と Microsoft Windows の両方で使用できます。このトピックでは、Windows のセットアップについて説明します。

重要: ヘッドレスブラウザは ATF のレガシー機能です。代わりに、ATF テストジェネレーターとクラウドランナーアプリケーションを使用することをお勧めします。クラウドランナーは、簡単なセットアップとシームレスなユーザーエクスペリエンスを提供します。ストアアプリからクラウドランナー をインストールできます。

オンプレミスインスタンスユーザーの場合は、ヘッドレスブラウザオプションを引き続き使用する必要があります。現在、クラウドランナーはオンプレミスインスタンスでは使用できません。

1 回限りのセットアップでは、いくつかの連続する手順に従う必要があります。Microsoft Windows のセットアップ手順を以下に示します。

前提条件

注: ヘッドレスブラウザオプションを使用するには、インスタンスで MFA を無効にする必要があります。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

警告: ホストとして Microsoft Windows がサポートするバージョンは、Windows Server 2019 v10.0.17763.737 のみです。他のバージョンはサポートされていません。これらの要件を満たすことができない場合は、Linux ホストをお勧めします。

- Windows サーバーに次のプログラムがインストールされていることを確認します。
  - Docker：Microsoft Windows のヘッドレスブラウザーセットアップ用に Docker をインストールする
  - Java keytool：javaruntime 用の Chocolatey ツール
  - OpenSSL：openssl 用の Chocolatey ツール
- 双方向通信
  - インスタンス URL とサーバーの間で双方向通信が行われる必要があります。
  - サーバーの IP アドレスを検索し、ホスト名を取得します。そのいずれかまたは両方を使用できますが、少なくとも 1 つは必要です。アドレスまたはホスト名が ServiceNow インスタンスで表示されることを確認します。
  - インスタンスの IP アドレス範囲を確認するには、「自分の IP アドレス」を参照してください。指定したすべての IP アドレス/範囲への受信アクセスを許可するようにサーバーを構成できます。
  - この手順では、ポート 2376 または自分のデフォルトポートを使用します。サーバーのファイアウォールルールで、インスタンスから取得した IP アドレスからのこのポートでの受信要求が許可されていることを確認してください。

    注: ホスト名がなく、IP アドレスを介して接続している場合は、IP アドレスを入力して、Hostname 環境変数に「localhost」と入力します。

- 詳細については、「TLS (HTTPS) を使用して Docker デーモンソケットを保護する (Use TLS (HTTPS) to protect the Docker daemon socket)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Windows 用のヘッドレスブラウザの設定手順

Windows 用のヘッドレスブラウザを設定するには、次の 7 つの手順 (および検証) に従います。

Microsoft Windows のヘッドレスブラウザーセットアップ用に Docker をインストールする

ServiceNow® の 自動テストフレームワーク (ATF) 用ヘッドレスブラウザーを Windows 用にセットアップするステップ 1：Docker をインストールします。

始める前に
必要なロール：admin

- 「Microsoft Windows 用のヘッドレスブラウザのセットアップ」トピックの「前提条件」を参照してください。
- ヒント: これらを覚えやすくするには、次の環境変数を設定します。
  - set PASSWORD=<password>
  - set SERVERIP=<server ip>
  - set HOSTNAME=<hostname>

⚠ 警告: ホストとして Microsoft Windows がサポートするバージョンは、Windows Server 2019 v10.0.17763.737 のみです。他のバージョンはサポートされていません。これらの要件を満たすことができない場合は、Linux ホストをお勧めします。

手順

1. 昇格された PowerShell セッションを開き、 PowerShell ギャラリー から Docker-Microsoft PackageManagement プロバイダーをインストールします。
   PowerShell

   ```
   Install-Module -Name DockerMsftProvider -Repository PSGallery -Force
   ```

   NuGet プロバイダーのインストールを求められた場合は、「Y」と入力してインストールします。

2. PackageManagement PowerShell モジュールを使用して、最新バージョンの Docker をインストールします。
   PowerShell

   ```
   Install-Package -Name docker -ProviderName DockerMsftProvider
   ```

   PowerShell でパッケージソース「DockerDefault」を信頼するかどうかを尋ねられたら、「A」と入力してインストールを続行します。

3. インストールが完了したら、コンピューターを再起動します。
   PowerShell

   ```
   Restart-Computer -Force
   ```

Microsoft Windows 用にヘッドレスブラウザをセットアップするための証明書の生成

Docker REST API を保護し、HTTP 要求を認証するための TLS/SSL 証明書を生成します。

始める前に
必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

⚠ 警告: ホストとして ServiceNow がサポートする Microsoft Windows のバージョンは、Windows Server 2019 v10.0.17763.737 のみです。他のバージョンはサポートされていません。これらの要件を満たすことができない場合は、Linux ホストをお勧めします。

- 「Microsoft Windows 用のヘッドレスブラウザのセットアップ」トピックに記載されている前提条件を満たしてください。Windows サーバーに次のプログラムがインストールされていることを確認します。
  - Docker：Windows 用 Docker アプリケーション
  - Java keytool：javaruntime 用の Chocolatey ツール
  - OpenSSL：openssl 用の Chocolatey ツール

次の要件に注意してください。

- 双方向通信

⚠ 警告: 信頼できる認証局から認証局キーを取得します。

  - インスタンス URL とサーバーの間で双方向通信が行われる必要があります。
  - サーバーの IP アドレスを検索し、ホスト名を取得します。そのいずれかまたは両方を使用できますが、少なくとも 1 つは必要です。

ℹ 注: ホスト名がなく、IP アドレスを介して接続している場合は、IP アドレスを入力して、Hostname 環境変数に「localhost」と入力します。

💡 ヒント: これらを覚えやすくするには、次の環境変数を設定します。

  - `export PASSWORD="<証明書を生成するためのパスワード>"`
  - `export SERVERIP="<このサーバーの IP アドレス>"`
  - `export HOSTNAME="<このサーバーのホスト名>"`

- ポート：この手順では、ポート 2376 または自分のデフォルトポートを使用します。

ℹ 注: このポートのファイアウォールルールで、受信要求が許可されていることを確認してください。

- 詳細については、「TLS (HTTPS) を使用して Docker デーモンソケットを保護する (Use TLS (HTTPS) to protect the Docker daemon socket)」を参照してください。

このタスクについて

デフォルトでは、Docker API を公開すると要求が認証されないため、ホストマシンが攻撃に対して脆弱になる可能性があります。ただし、Docker API は、HTTPS 暗号化で提供される公開鍵と秘密鍵に対して要求が検証される TLS 認証をサポートしています。この手順では、サーバーとクライアントに対して鍵を作成します。

手順

1. コマンドラインを開きます。
2. 自己署名認証局のキーを生成するか、信頼できる認証局からキーペアを取得します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。

```
openssl genrsa -aes256 -passout pass:%PASSWORD% -out ca-key.pem 4096
openssl req -passin pass:%PASSWORD% -new -x509 -days 365 -key
 ca-key.pem -sha256 -out ca.pem
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 認証局キーを使用してサーバーのキーペアを生成します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。

```
openssl genrsa -out server-key.pem 4096
openssl req -subj /CN=%HOSTNAME% -new -key server-key.pem -out
 server.csr
echo extendedKeyUsage = clientAuth > extfile.cnf
openssl x509 -passin pass:%PASSWORD% -req -days 365 -in server.csr -CA
 ca.pem -CAkey ca-key.pem -CAcreateserial -out server-cert.pem -extfile
 extfile.cnf
```

4. 認証局キーを使用してクライアントのキーペアを作成します。
   次のコマンドは一例です。構成によって異なる場合があることに注意してください。

```
openssl genrsa -out client-key.pem 4096
openssl req -subj /CN=%HOSTNAME% -new -key client-key.pem -out
 client.csr
echo subjectAltName = DNS:%HOSTNAME%,IP:%SERVERIP%,IP:127.0.0.1 >
 extfile.cnf
openssl x509 -passin pass:%PASSWORD% -req -days 365 -in client.csr -CA
 ca.pem -CAkey ca-key.pem -CAcreateserial -out client-cert.pem -extfile
 extfile.cnf
```

5. CA 公開鍵とクライアントのキーペアを Java キーストアにインポートします。
   この手順は一例であり、構成によって異なる場合があります。

   キーストアファイルを作成し、そのパスワードを作成します (後で使用するために保存します)：`keytool -genkey -keyalg RSA -alias dse -keystore my.keystore`

   キーストアファイルからデフォルトのエントリを削除します：`keytool -delete -alias dse -keystore my.keystore`

   注: このエントリは自動生成されるため、必要ありません。

   CA 公開鍵をキーストアにインポートします：`keytool -import -keystore my.keystore -trustcacerts -alias ca -file ca.pem`

   クライアントのキーペアをインポートします。

   注: 新しい pkcs12 キーストアファイルを作成し、そのファイルにキーペアをインポートします。次に、その内容を元のキーストアファイルにコピーします。

   - `openssl pkcs12 -export -name clientkeypair -in client-cert.pem -inkey client-key.pem -out clientkeypair.p12`
   - `keytool -importkeystore -destkeystore my.keystore -srckeystore clientkeypair.p12 -srcstoretype pkcs12 -alias clientkeypair`

   これで、すべての証明書をキーストアファイルに追加したので、後で ServiceNow インスタンスにアップロードするためにファイル **my.keystore** を保存します。また、キーストアファイルの作成を要求されたときに入力したパスワードを覚えておいてください。ServiceNow インスタンスのフォームに、そのパスワードを入力する必要があります。

Microsoft Windows でヘッドレスブラウザセットアップ用に Docker を構成する

すべての要求を認証するように Docker サーバーを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
ステップ 2：Microsoft Windows 用にヘッドレスブラウザをセットアップするための証明書の生成 を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

このタスクについて
クライアントキーとサーバーキーを作成した後、これらのキーを使用してすべての要求を認証し、ポート 2376 で Docker API を公開するように、Docker サーバーを構成します。

手順

1. ステップ 2 で生成した証明書を使用するように Docker を構成します。
2. `C:\ProgramData\docker\config\daemon.json` ファイルを検索または作成します。
3. 次のプロパティを daemon.json ファイルに追加します。
   これらのコマンドの項目を、自分の証明書への正しいパスに置き換えます。

   注: 二重スラッシュは正確にコピーすることが重要です。

```
{
"tlscacert": "C:\\Users\\Administrator\\certs\\ca.pem",
"tlscert": "C:\\Users\\Administrator\\certs\\server-cert.pem",
"tlscert": "C:\\Users\\Administrator\\certs\\server-cert.pem",
"tlskey": "C:\\Users\\Administrator\\certs\\server-key.pem",
"tlsverify": true,
"hosts": ["tcp://0.0.0.0:2376", "npipe://"]
}
```

   詳細については、「Docker デーモンの構成 (Configure the Docker daemon)」を参照してください。
4. アドミン PowerShell で、「`restart-service *docker*`」を実行します。

Microsoft Windows でのヘッドレスブラウザセットアップ用の **Docker** イメージとコンテナの作成

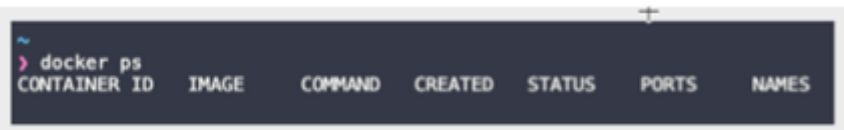
公開レジストリから Docker イメージをプルします。

始める前に
ステップ 3：Microsoft Windows でヘッドレスブラウザセットアップ用に Docker を構成する を完了します。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

手順

1. アドミニストレーターコマンドラインで `docker ps` を実行して、Docker が機能していることを確認します。
   結果は次のようになります。



2. GitHub リポジトリの ATF ヘッドレスランナー から、最新の Docker イメージをプルします。
   このコマンドは一例です。これらのイメージは変更される可能性があるためです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
docker pull ghcr.io/servicenow/atf-headless-runner:win-1.0.0
```

> **注:** インスタンスとイメージの互換性により、Docker イメージ内の自動化スクリプトはインスタンスコードと互換性があることになります。ユーザーインターフェイスなどの要素は、時間の経過とともに、新しい機能やアップグレードをサポートするために変更される可能性があります。

Microsoft Windows でヘッドレスブラウザセットアップ用の Docker にシークレットを追加する

テストを実行するためにインスタンスにログインする、ServiceNow ユーザーのパスワードを格納する Docker シークレットを作成します。Docker シークレットは、コンテナで使用されるパスワードを安全に保存するための ServiceNow® 機能です。

始める前に

ステップ 4：Microsoft Windows でのヘッドレスブラウザセットアップ用の Docker イメージとコンテナの作成 を完了します。

必要なロール：ServiceNow インスタンスに移動して、Docker コンテナがログインに使用する新しいユーザーを作成します。このユーザーに **admin** または **atf_test_admin** のロールを付与します。次の手順のステップ 2 で使用するパスワードを保存します。

このタスクについて

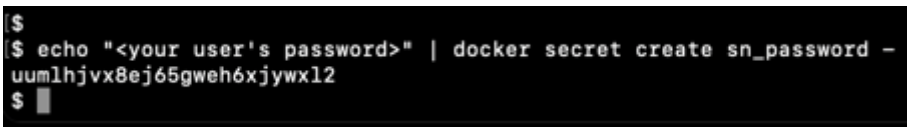
Docker コンテナの内部に自動化スクリプトがあり、それが Web ブラウザを開き、インスタンスにログインし、[クライアントテストランナー] ページを開きます。ServiceNow インスタンスにログインするには、ユーザーパスワードが必要です。このステップでは、[Docker シークレット (Docker Secrets)] と呼ばれる Docker 機能を使用して、パスワードを安全に保存できるようにします。それによって、コンテナを実行すると、パスワードを使用して自動的にインスタンスにログインできるようになります。

手順

1. アドミンコマンドラインに次のように入力します：`docker swarm init`
2. アドミンコマンドラインに次のように入力します：`echo <your user's password> | docker secret create sn_password -`

   > **注:** `<your user's password>` をそのユーザーの ServiceNow パスワードで置き換えます。

   結果は次のようになります。



タスクの結果

結果はシークレット ID であり、後で使用するために保存する必要があります。シークレット ID は、ServiceNow インスタンスの sys_property `sn_atf.headless.secret_id` に追加されます。

Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーのインスタンスを設定する

ServiceNow® の ATF 用ヘッドレスブラウザーを Microsoft Windows 用にセットアップするステップ 6： ヘッドレスブラウザーをサポートできるようにインスタンスをセットアップします。

始める前に

ステップ 5：Microsoft Windows でヘッドレスブラウザセットアップ用の Docker にシークレットを追加する を完了します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

ホストマシンを構成したので、このタスクではインスタンスを設定して、ホストマシンと正常に通信して認証できるようにします。

手順

1. ユーザーを作成します。
   a. [ユーザー管理] > [ユーザー] に移動して、[新規] を選択します。
   b. ユーザーを作成します。ユーザー ID (任意の ID) とユーザー名、パスワードを指定します。パスワードは、Docker シークレットコンテナ用に作成したものと同じにする必要があります。
   c. このユーザーに **atf_test_designer** ロールを追加します(詳細については、「ATF を使用したアプリのテスト」トピックの「ユーザーロール」セクションを参照してください)。
2. 証明書を作成します。
   a. [システム定義] > [外部審査済み書] に移動して、**[sys_ certificate]** テーブルを開きます。新しい証明書を作成します (任意の名前を指定できます)。
      - [タイプ]：Java キーストア
      - [パスワード]：ステップ 2 (Microsoft Windows 用にヘッドレスブラウザをセットアップするための証明書の生成) で作成したキーストアのパスワード。
   b. [添付] (ペーパー クリップ) アイコンを選択して、以前に保存したキーストアファイルをこのレコードに添付します。
   c. [送信] を選択します。
   d. [証明書を検証 **(Validate certificate)]** をクリックし、成功メッセージが表示されることを確認します。
3. プロトコルプロファイルを作成します。
   a. **[System Security]** > [プロトコルプロファイル] に移動して、**[sys_protocol_profile]** テーブルを開きます。新しいプロトコルプロファイルレコードを作成します。

オプション	説明
プロトコル	1 単語 (小文字)：「docker」
デフォルトポート	2376 (または使用するために選択したポート)
キーストア	Docker ホストのキーストア

   b. [送信] を選択します。
4. Docker スポーク接続を作成します。
   a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス] に移動して、**[sys_alias]** テーブルを開きます。
   b. **Docker** という名前のエイリアスを選択します。
   c. [接続] 関連リストで、[新規] を選択します。
   d. フィールドに入力します。
      - [名前]：任意のテキスト
      - [認証情報フィールド]：空白のまま
   e. **[URL** ビルダー **(URL Builder)]** チェックボックスをオンにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. [相互認証] チェックボックスをオンにします。

g. [プロトコルプロファイル] フィールドで、以前に作成したプロトコルプロファイルを選択します。

h. [ホスト] フィールドに、サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

i. [送信] を選択します。
接続 URL がシステムによって自動的に作成されます。

5. プロパティを変更します。

- `com.glide.communications.httpclient.verify_hostname`：false
- `com.glide.communications.trustmanager_trust_all`：true

> ⚠ **警告:** デフォルトでは、*`com.glide.communications.trustmanager_trust_all`* プロパティは **false** に設定されています。Now Platform は、JVM 証明書ストアに対して検証できる証明書のみを信頼します。自己署名証明書およびエンタープライズ署名証明書は信頼されません。詳細については、「証明書の信頼 (インスタンスセキュリティ強化)」トピックを参照してください。

これは、自己署名証明書を使用する場合にのみ必要です。詳細については、「Microsoft Windows 用にヘッドレスブラウザをセットアップするための証明書の生成」を参照してください。

Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーの 自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) を構成する

ServiceNow® の ATF 用ヘッドレスブラウザーを Microsoft Windows 用にセットアップするステップ 7：プロパティを使用して ATF を構成します。

始める前に

ステップ 6：Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーのインスタンスを設定する を完了します。

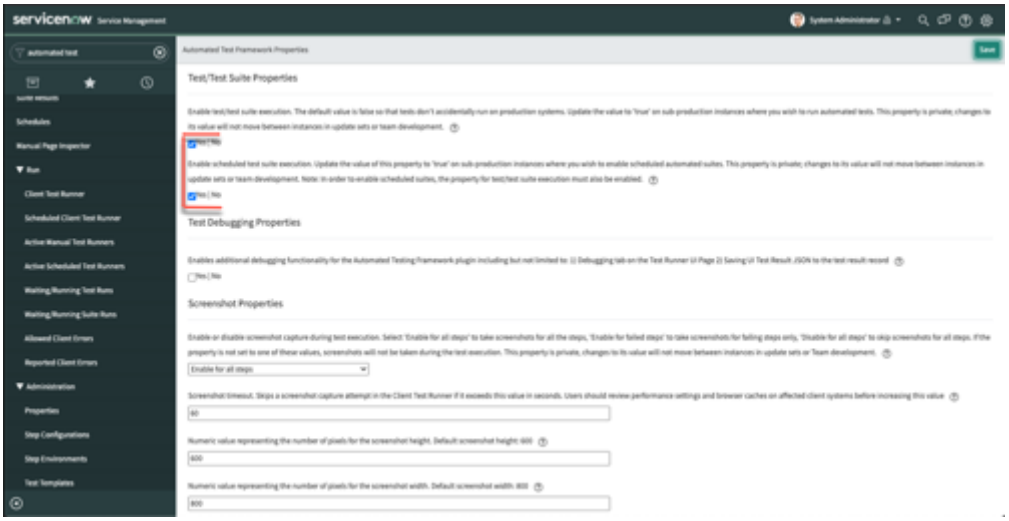
必要なロール：自分の ServiceNow インスタンスの admin、およびホストマシンのローカルアドミニストレーター。

接続と認証が設定されたので、いくつかのプロパティを使用して ATF を構成し、ホストマシンでコンテナを正常に起動できるようにします。

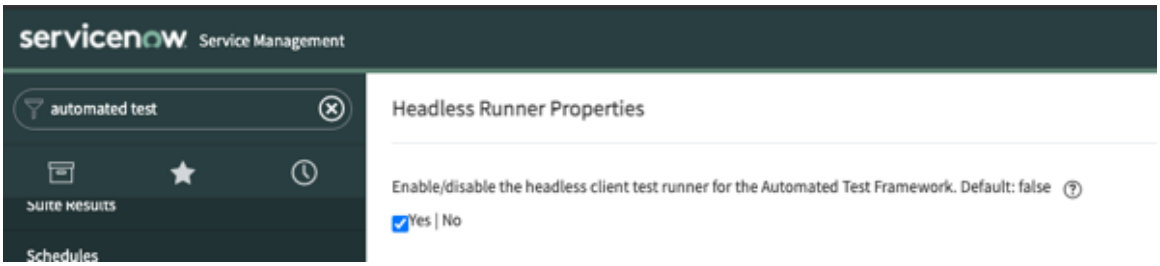
手順

1. 自分のインスタンスで、**[ATF]** > [アドミニストレーション] > [プロパティ] に移動します。
2. 上の 2 つのプロパティ、[テストまたはテストスイートの実行を有効にします] と [スケジュール設定されたテストスイートの実行を有効化します] を有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. [ヘッドレスランナーのプロパティ] セクションまで下にスクロールします。
4. 上にあるチェックボックスをオンにします。



5. [ヘッドレスランナーのプロパティ] フォームに次の値を入力します。

フォームラベル	プロパティ名	入力する値
ヘッドレスクライアントテストランナーからログインしてテストを開始するために使用されるユーザーアカウント	sn_atf.headless.username	Microsoft Windows でヘッドレスブラウザセットアップ用の Docker にシークレットを追加する で作成した統合ユーザーのユーザー名
ユーザーアカウントのパスワードが格納されている Docker シークレット ID	sn_atf.headless.secret_id	以前に取得した Docker の「シークレット ID」と、Microsoft Windows でヘッドレスブラウザセットアップ用の Docker にシークレットを追加する の手順のステップ 2 で作成した Docker シークレット名。
ヘッドレスクライアントテストランナーに使用される Docker イメージ。	sn_atf.headless.docker_image_name	ダウンロードしたタグ付きのイメージ名：`ghcr.io/servicenow/atf-headless-runner:<tagname>`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: シークレット ID を忘れた場合は、Windows ホストに移動してコマンド「docker secret list」を実行します。

6. **[Docker** コンテナ上のシークレットファイルの絶対パス] フィールドに、「`C:\ProgramData\Docker\secrets\<ユーザーのシークレット名>`」と入力します。
7. 残りのフィールドはそのままにします。
8. [保存] を選択します。

Microsoft Windows での ATF 用ヘッドレスブラウザの手順の確認

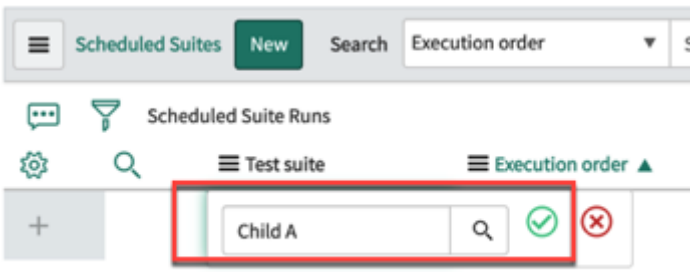
ヘッドレスブラウザのセットアップ手順が正常に終了したことを確認します。

始める前に
ステップ 7：Microsoft Windows でヘッドレスブラウザーの 自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) を構成する を完了します。

必要なロール：admin

手順

1. **[ATF** のスケジュール **(ATF Schedules)]** に移動し、 [スイートスケジュール] リンクの横にある [新規] を選択します。
2. [実行] ボックスで、[オンデマンド]を選択します。
3. [保存] を選択します。
4. [スケジュール済みスイート] 関連リストで、**[+]** 記号をダブルクリックしてテストスイートの新しいレコードを追加し、使用するブラウザ名 (**[Chrome]** または **[Firefox]**) を選択します。
実行する適切な例として、**[Child A]** を使用します。



5. OS 名を Windows に設定します。
6. [今すぐ実行] を選択します。
7. テストに合格したことを検証します。
検証に成功すると、スケジュール済みスイートまたは CICD 経由で UI テストが実行されるスイートでは、[スケジュール設定済みのクライアントテストランナー] ページを手動で開かなくても、自動的にヘッドレステストランナーが作成されるようになりました。

ヘッドレスブラウザーのシステムプロパティ

次の表に、ServiceNow® の 自動テストフレームワーク (ATF) 用ヘッドレスブラウザーを設定するときに必要なプロパティを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムプロパティ

プロパティ名	タイプ	デフォルト値	目的
sn_atf.headless.browser_options	文字列	"--no-sandbox,--disable-gpu"	CLI オプションは起動時にブラウザーに渡されます
sn_atf.headless.default_browser	文字列	Chrome	ヘッドレス要求を開始するときに使用されるデフォルトのブラウザー
sn_atf.headless.default_os	文字列	Linux	ホストマシンのオペレーティングシステム
sn_atf.headless.docker_image_name	文字列		名前：ホストマシン上の Docker イメージのタグ
sn_atf.headless.docker_window_seconds	整数	60	Docker コンテナがこの時間内に 2 回起動に失敗した場合、サービスは再起動を試行しません
sn_atf.headless.enabled	True/False	false	スケジュール設定された UI テスト実行に対して、インスタンスがヘッドレスクライアントテストランナーの作成を試行するかどうかを決定します
sn_atf.headless.heartbeat_enabled	True/False	true	プロパティが true の場合、Docker コンテナはインスタンスに REST API 要求を毎分送信して sys_atf_agent がまだオンラインであることを確認し、レコードステータスが「オフライン」である場合、またはレコードが存在しなくなった場合は、そのコンテナを停止します。
sn_atf.headless.heartbeat_url	文字列	/api/now/atf_agent/online	ハートビートエンドポイントの URL で、ブラウザーがまだ応答することをコンテナが確認できるようにします。
sn_atf.headless.images_cache_enabled	True/False	false	このプロパティが true の場合、テスト実行の前に、インスタンスは要求された Docker image:tag がホストに

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムプロパティ (続く)

プロパティ名	タイプ	デフォルト値	目的
			存在することを確認します。
sn_atf.headless.login_button_id	文字列	sysverb_login	ログインページの [送信/ログイン] ボタンの HTML ID。
sn_atf.headless.login_page	文字列	login.do	ブラウザーが移動するログインページの URL
sn_atf.headless.password_field_id	文字列	user_password	ログインページのパスワードの入力フィールドの HTML ID
sn_atf.headless.request_timeout_sec	int	200	Docker ホストに送信される HTTP 要求がタイムアウトするまでの秒数
sn_atf.headless.retry_count	int	10	テスト実行をキャンセルする前に、エージェントがオンラインになるかどうかをインスタンスがチェックする回数
sn_atf.headless.runner_banner_id	文字列	test_runner_banner	[クライアントテストランナー] ページが正しくロードされたことを確認する要素の ID
sn_atf.headless.runner_url	文字列	atf_test_runner.do?sysparm_nostack=true&sysparm_scheduled_tests_only=true&	[スケジュール設定済みのクライアントテストランナー] ページの URL とそのクエリパラメーター
sn_atf.headless.secret_gid	文字列	1000	Docker コンテナのデフォルトユーザーの GID
sn_atf.headless.secret_id	文字列		ホストマシン上の Docker シークレットの ID
sn_atf.headless.secret_name	文字列		ホストマシン上の Docker シークレットの名前
sn_atf.headless.secret_path	文字列	/run/secrets/<secret_name>	Docker シークレットファイルが存在するパス：(詳細：https://docs.docker.com/engine/swarm/secrets/#how-docker-manages-secrets)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムプロパティ (続く)

プロパティ名	タイプ	デフォルト値	目的
sn_atf.headless.secret_uid	文字列	1000	Docker コンテナのデフォルトユーザーの UID
sn_atf.headless.service_cleanup_exclude_list	文字列		インスタンスサービスのクリーンアップジョブ中に削除すべきでないサービス ID の例外。このジョブは毎晩実行され、ホスト上にあって有効期限が過ぎているサービスを削除します。
sn_atf.headless.service_stop_deletes	true/false	false	テスト実行の完了時に、このプロパティが true の場合、インスタンスはサービス削除要求を送信しないため、サービスとコンテナはホスト上に保持されます。デバッグに役立ちます。
sn_atf.headless.timeout_mins	整数	1440	Docker サービスが自動的にシャットダウンするまでの時間 (分)
sn_atf.headless.user_field	文字列	user_name	ログインページのユーザー名の入力フィールドの HTML ID
sn_atf.headless.username	文字列		インスタンスにログインするユーザー名
sn_atf.headless.validation_id	文字列	headless_vp_validation	検証ページがロードされたことを確認する要素の ID
sn_atf.headless.validation_page	文字列	atf_headless_validation_page	インスタンスの検証ページの URL
sn_atf.headless.vp_has_role_id	文字列	headless_vp_has_role	ユーザーが正しいロールを持っていることを検証する要素の ID
sn_atf.headless.vp_success_id	文字列	headless_vp_success	ページ全体が正常にロードされたことを示す要素の ID

関連情報

自動テストフレームワーク (ATF) のヘッドレスブラウザ

ATF を使用したアプリのテスト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ヘッドレスブラウザーのトラブルシューティング

これらのヒントは、ServiceNow® の 自動テストフレームワーク (ATF) 用ヘッドレスブラウザーの Linux または Microsoft Windows セットアップのトラブルシューティングに役立ちます。

ヘッドレスブラウザーのセットアップのトラブルシューティングでは、次の 3 つの基本的な項目を確認します。

Docker コンテナ

エラーログ：ヘッドレステストが完了したとき、エラーがある場合は Docker コンテナに生成されます。操作が失敗するか成功するかにかかわらず、コンテナの **stdout/stderr** ログは **sn_atf_docker_service** テーブルに格納されます。

[ヘッドレスクライアントテストランナーが割り当てられた時間に開始されませんでした]：このメッセージは、通常、Docker コンテナの初期化中または起動中にエラーが発生したことを意味します。これは、Docker コンテナのセットアップに何か問題があることを示している可能性があります。**sn_atf_docker_service** テーブルに移動してログを読み取り、エラーメッセージを確認します。

インスタンス

ATF テストの開始時のメッセージ **[Docker** フローの実行中にエラーが発生しました]：URL アドレスをたどって、エラーログを含むフローコンテキストを見つけます。たとえば、上記のエラーメッセージは、インスタンスが Docker ホストにアクセスできない場合に表示されます。

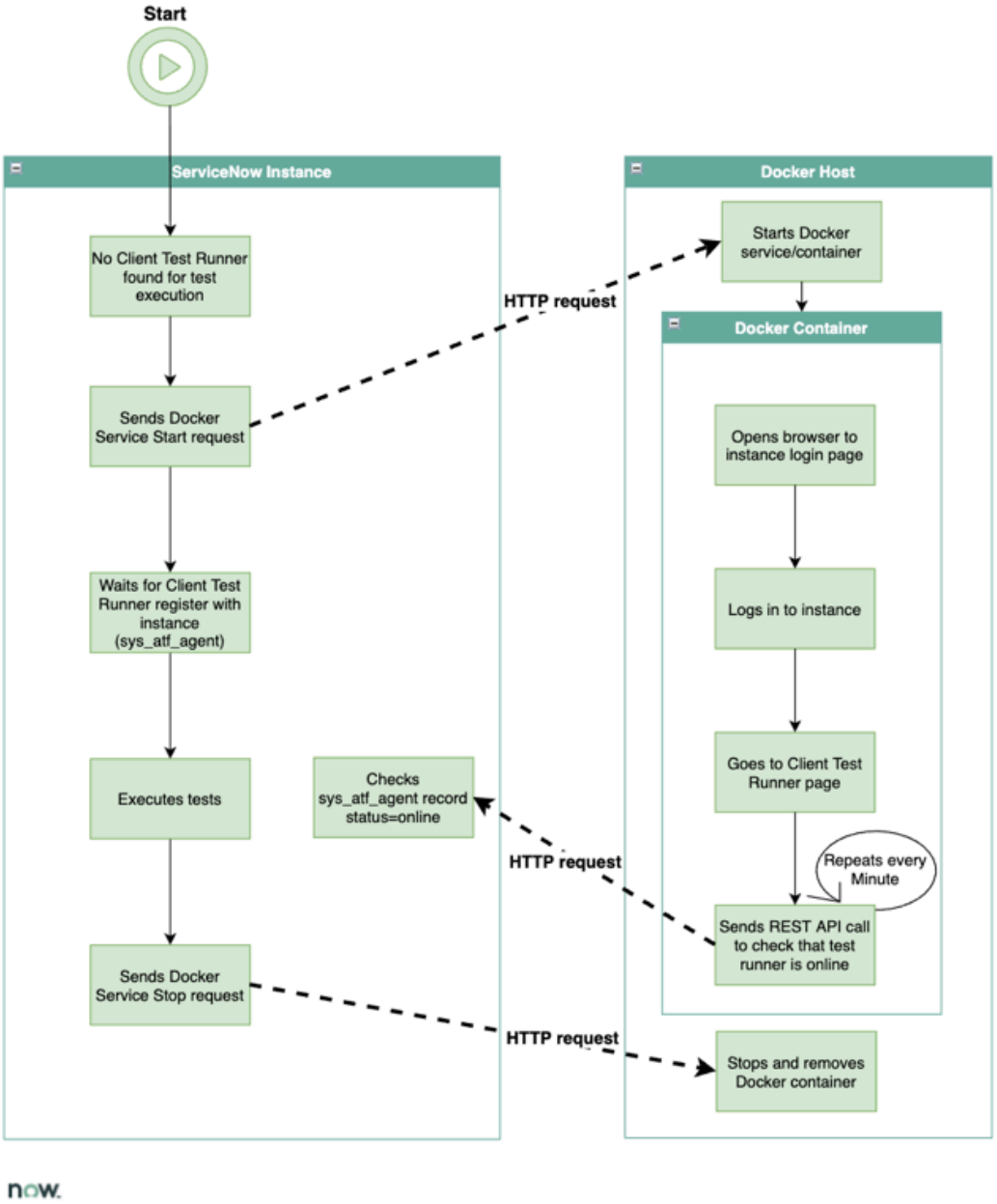
ネットワークエラー

ファイアウォール：ファイアウォールがセットアップされ、インスタンスがホストとポートにアクセスでき、サーバーがインスタンスにアクセスできることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ヘッドレスブラウザーのアクションフロー図

フロー図の例



自動テストフレームワーク **(ATF)** による自動テストのビルドと実行

自動テストフレームワーク (ATF) での基本タスク。

テストをビルドして実行するには、常に特定の操作を実行します。

- 自動化された新しいテストの作成
- 自動テストにステップを追加する
- 自動テストを実行する
- 自動テストの進行状況の表示
- テスト結果と自動テスト結果の表示

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

他の操作は頻繁に行うが、必ずしもすべてのテストに必要ではありません。

- フォームステップを含むテストの場合、自動化されたテストから結果のスクリーンショットを見る必要がある場合があります。
- テストによっては、１つの自動テストステップから別の自動テストステップにデータを渡す について知っておく必要がある場合があります。
- ステップの中には、多くの異なるテストで同じ順序で頻繁に行われるものもあるので、自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する できます。

自動化された新しいテストの作成

実行する一連のステップを含む名前付き自動テストを作成します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 新しいレコードテストフォームで、テストの [名前] を入力します。
   システムは、(テストモジュールの下など) テストのリストを表示する場合はいつでも、この名前でこのテストを識別します。
4. オプション: 実行ごとに異なるテストデータでテストを複数回実行するためのパラメータ化されたテストを有効にします。
   詳細については、「パラメーター化されたテスト」を参照してください。
5. テストの [説明] を入力します。
6. [保存] をクリックします。
   新しいテスト レコードが作成され、テストのリストに戻ります。

次のタスク
自動テストにステップを追加する。

自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

テストテンプレートを使用すると、定義済みのステップリストをテストに追加できます。設定されたパターンに従うステップのリストは、テンプレートの好適な候補になります。

始める前に
ステップを追加したいテストを作成しておく必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

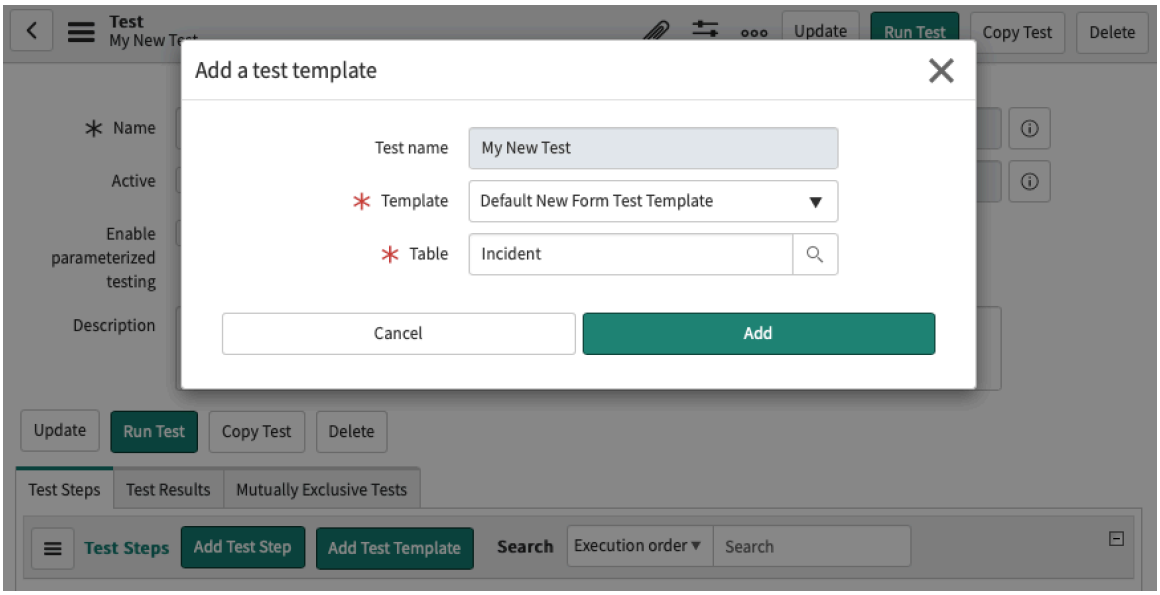
このタスクについて
多くのテストが同様のパターンを踏襲します。よくあるパターンの１つは、例えば、フォームを開き、あるフィールドの値を設定し、あるフィールドの値を検証し、UI アクションをクリックし、そして現状のフォームを提出することです。これらのステップを含むテンプレートが存在する場合、それらを全て一度にテストに追加できます。自動テストフレームワーク (ATF)にはデフォルトのテンプレートが付属しています。カスタムテストテンプレートを作成することもできます。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. ステップを追加したいテストの行をクリックします。
   システムは、テストフォームを表示します。
3. [テストステップ] 関連リストで、[テンプレートを追加] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムは、 テストテンプレートを追加するダイアログを表示します。



4. 表フィールドで、これらの手順でテストしたいテーブルを選択します。
5. テンプレートフィールドで、追加したいステップが含まれているテンプレートを選択します。
6. [追加] をクリックします。
   システムがテンプレートステップをテストに追加します。また、このテンプレートからテストを完了する方法に関する一連の指示をテスト記述に追加します。
7. テスト記述の指示に従って、テンプレートによって追加された各ステップを編集し、必要な情報を追加します。

次のタスク
通常どおりにテストを編集または保存します。

関連情報

自動テストステップテンプレートの作成

自動テストにステップを追加する

自動テストを指定された順序で実行するための一連のステップを作成します。

始める前に
テストにステップを追加する前に、テストを作成する必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

このタスクについて
この手順では、ステップを 1 ステップずつ追加できます。ステップのバッチを一度に追加することもできます。詳細については、「自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する」を参照してください。

手順
1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. 新しいテストステップを含むテストをクリックします。
3. テストフォームの下部にある [テストステップ] 関連リストで、[テストステップを追加] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [テストステップを追加] フォームの左側のパネルから、テストステップカテゴリを選択するか、または [すべてのステップ] を選択し、すべてのテストカテゴリで利用可能なすべてのテストステップを表示します。
   たとえば、特定のテストステップカテゴリを選択する場合、 フォーム関連のテストステップについては、フォームを選択し、アプリケーションメニューまたはモジュールの可視化をテストするには アプリケーションナビゲーターを、またサーバー上で実行するテストにはサーバーを選択します。

   注: 特定のタイプのサーバーテストを選択する際に、正または負のテスト結果がテスト結果を成功させるかどうかを指定できます。詳細については、ATF を使用したアプリのテスト で「アサーションタイプ」を参照してください。

5. 選択するテストステップのタイプをクリックします。
   たとえば、フォームカテゴリを選択した場合、[フィールド値の設定] を選択してフィールド値をフォームに設定します。

   フォームを使用して作業する一連の手順のいずれかを新しいフォームを開くまたは既存のフォームを開くステップで開始します。フォームを提出するステップで閉じます。

6. 該当する場合は、[後に挿入] ドロップダウンリストから、このステップに先行させるステップを選択します。
   これがテストの最初のステップである場合、[後に挿入] ドロップダウンリストは表示されません。
7. [次へ] をクリックします。
8. [テストステップを追加] フォームの テーブルリストから、この手順でテストする表を選択します。
9. オプション: [実行命令] フィールドで、テストでこのステップを実行する順序を表す整数を入力します。
   実行命令の詳細については、自動テストステップ順序の編集を参照してください。
10. このステップに適用するフィールドに記入します。

    手順については、「テストステップのカテゴリ」を参照してください。

    いくつかのステップは、後続のステップの入力に渡したい出力値を戻します。詳細については、「1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡す」を参照してください。

11. [送信] をクリックします。
    ステップが作成され、テスト レコードが表示されます。
12. ステップ 3～11 を繰り返して、このテストに追加ステップを追加します。

次のタスク
自動テストを実行する。

関連情報

自動テストフレームワーク (ATF) ユースケースの例

自動テストステップの変更

必要に応じて、作成後にテスト ステップを編集します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. 編集したいテストが含まれる行をクリックします。
3. [テストステップ] 関連リストで、編集したいステップが含まれる行をクリックします。
   システムは、フィールド値の設定フォームを表示します。
4. 変更したいフィールドを編集します。
5. [更新] をクリックします。

自動テストステップ順序の編集

デフォルトでは、ステップは作成した順に実行します。この順序を変更するには、実行命令フィールドを編集します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

このタスクについて
デフォルトでは、システムによってテスト用に作成された最初のステップに実行順の値 1 が割り当てられます。ステップを追加すると、使用可能な次の整数値が割り当てられます。言い換えると、テストの任意のステップの最も高い実行順が値 7 を持つ場合、システムは 8 を新しいステップに割り当てます。これらの値を編集することで、テストがステップを実行する順序を変更できます。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. 編集したいテストが含まれる行をクリックします。
   [テスト] フォームが表示されます。
3. テスト ステップ関連するリストで、実行順の列の値を編集すしてステップの新しい順序を決定します。
4. [更新] をクリックします。

自動テストをコピーする

既存のテストをコピーし、名前を付け直して変更できます。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. コピーするテストを含む行をクリックして開きます。
3. テスト レコードフォームの右上にあるコピーテストをクリックします。
   システムがテストをコピーしたことを確認する注釈が表示されます。この注釈を確認すると、コピーしたレコードと名だけが異なる新しいテストレコードが表示されます。
4. 名フィールドで、この新しいテストに割り当てる名前を入力します。
5. 必要に応じてテスト ステップを編集し、新しいテストと同じように進めます。
6. 変数の追加が完了したら、[更新]をクリックする。

> **注:** ATF テストのスコープ管理は、他のスコープ内のテストのコピーを特定して制限するのに役立ちます。テストをコピーする場合は、テストと同じスコープ内で操作する必要があります。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストを実行する

自動化されたテストを作成すると、非本番インスタンスを実行します。

始める前に

実行するテストを作成しておく必要があります。
テスト実行プロパティを有効にする必要があります。これを行うには、admin または atf_test_admin ロールが必要です。

> **注:** 本番システムでテストを実行できないようにするために、テスト実行プロパティはデフォルトでは無効になっています。開発、テスト、およびその他の準本番インスタンスでのみテストを実行してください。

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. 必要に応じてテストリストを表示するには、テストをクリックします。
3. 実行するテストが含まれる行をクリックします。
   システムは、[テスト] フォームを表示します。
4. [テストを実行] をクリックします。

   > **注:** テスト実行プロパティが有効でない場合、[テストを実行] ボタンが表示されません。このケースでは、フォーム上部の注釈を参照し、リンクをクリックして、テスト実行を有効にします。

   テストにフォームステップ (UI を含むステップ) またはその他の種類のUI テストステップ が含まれる場合、テストを実行する前に ブラウザの選択ダイアログが表示されます。現在実行中のテストクライアントの中から選択するのにそれを使うか、あるいは新しいランナーを起動します。詳細についてはすべてのテストおよびスイートのためのブラウザ推奨を参照してください。テストにサーバテスト ステップのみを含んでいる場合、システムは「ブラウザを選択」ダイアログを表示せずにテストを実行します。

次のタスク

テスト実行状況ダイアログでテストの進行を監視します。完了すると、(テスト実行の進行ダイアログにある)結果に進むをクリックしてテスト結果リストを表示し、テスト結果の表示と分析ができます。

> **注:** テストがデータを生成すると、システムはテストの全てのステップの後でそのデータを元に戻す。

関連情報

自動テストとテストスイートのキャンセル

ブレークポイントの実装

ブレークポイントを使用すると、テスト実行の任意のステップでテストを一時停止して、トラブルシューティングとテスト作成を行うことができます。

ブレークポイントは、テストが失敗した場合に役立ちます。テストをデバッグするために、テストステップにブレークポイントを追加できます。テストステップを再度確認して、テスト失敗の理由を見つけることもできます。

> **注:** ブレークポイントはユーザー固有です。自分で作成したブレークポイントのみを表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストデータのロールバック

テストデータのロールバックの直前にテスト実行を一時停止することもできます。[ロールバック前に一時停止] オプションをオンにすると、テストの完了後にテストデータのロールバックが発生する直前に、テストが一時停止します。テスト実行でのロールバックオプションの使用の詳細については、「ブレークポイントを使用した自動テストのデバッグ」を参照してください。

ブレークポイントを使用した自動テストのデバッグ

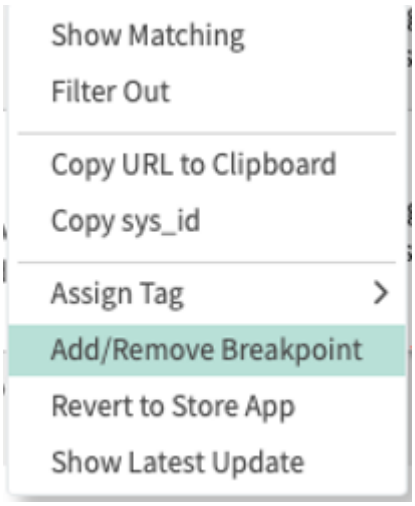
特定のテストステップにブレークポイントを追加して、失敗または予期しない動作をトラブルシューティングするためにテストを一時停止します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

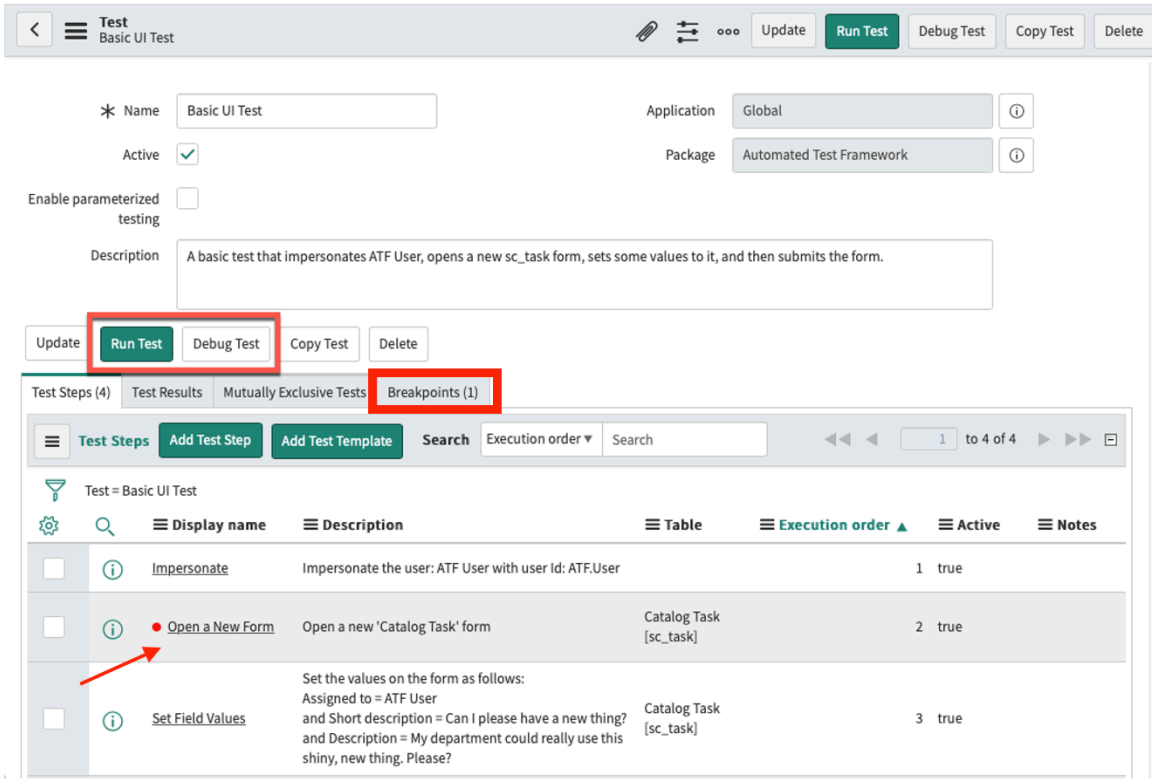
1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. 実行するテストを選択します。
3. [テストステップ] 関連リストを選択すると、選択したテストのすべてのテストステップが一覧表示されます。
4. ブレークポイントを追加または削除するテストステップを右クリックします。
5. リストから [ブレークポイントを追加/削除] を選択します。



変更されたブレークポイントがテストステップにマークされます。

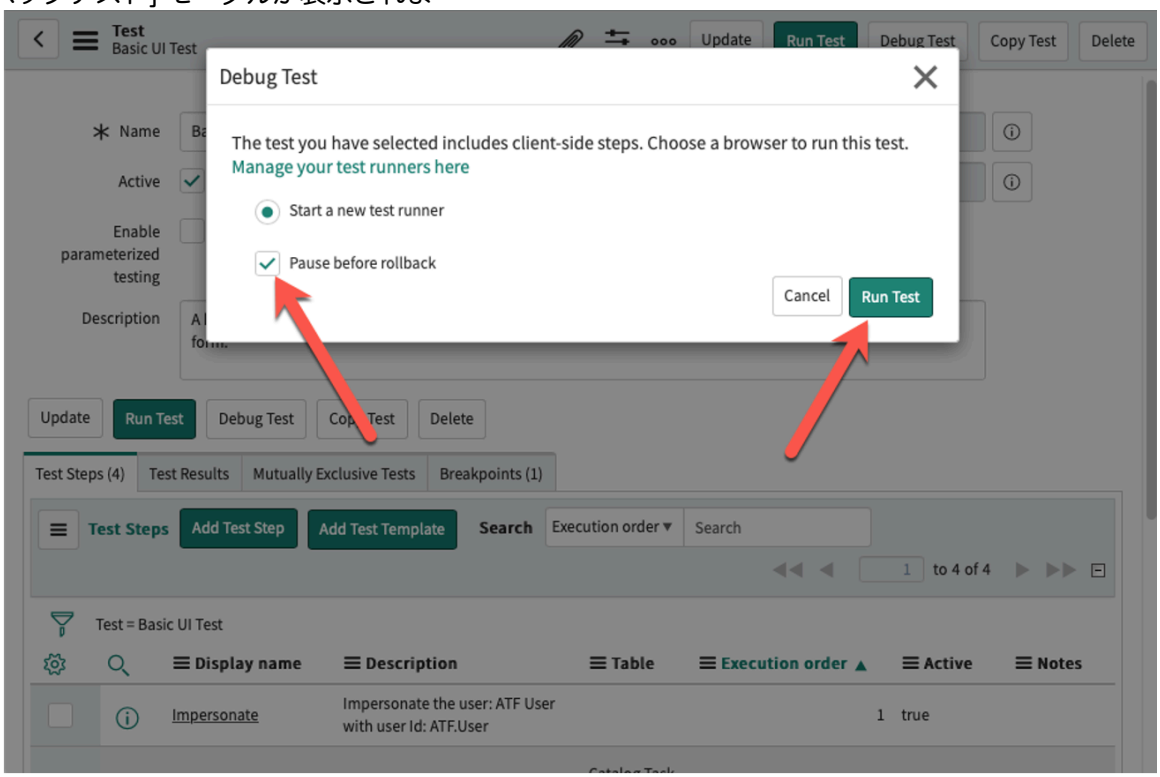
> **注:** ステップのブレークポイントのマークは、ブレークポイントがアクティブで、[デバッグテスト] を使用してテストが実行されると、そのブレークポイントテストステップの直前でテストが一時停止することを示します。[テストを実行] をクリックしてテストを実行すると、ブレークポイントは考慮されません。
>
> テストに設定するブレークポイントはユーザー固有です。他のユーザーがテストのブレークポイントを表示したり変更したりすることはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: 1 つのテストに複数のブレークポイントを設定できますが、テストステップごとに 1 つのブレークポイントしか設定できません。

6. オプション: [ブレークポイント] 関連リストをクリックすると、テスト内のブレークポイントを持つすべてのテストステップが表示されます。
7. [デバッグテスト] をクリックして、ブレークポイントを使用してテストを実行します。
   [デバッグテスト] モーダルが表示されま

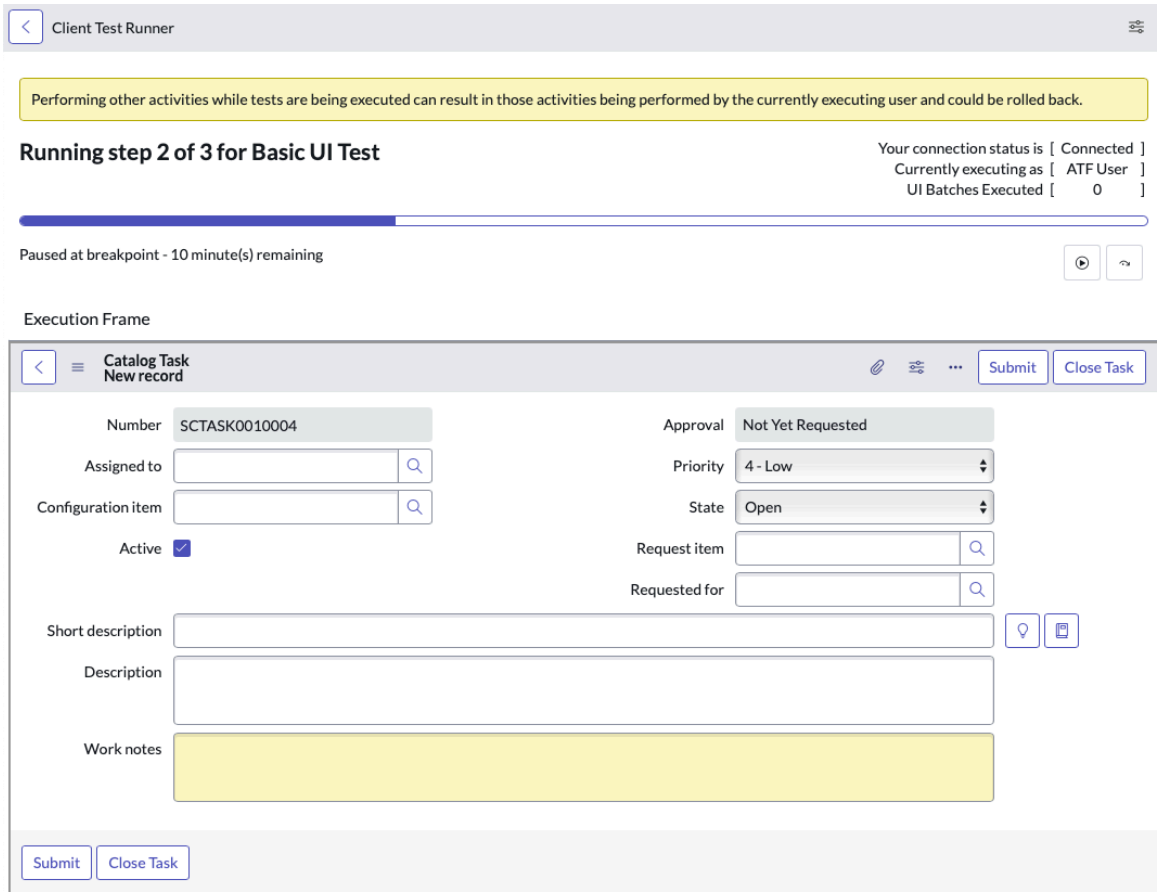


す。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Safari – 選択したテストのクライアント側ステップの実行に使用されるブラウザー
- [ロールバック前に一時停止] – テストの完了後にロールバックが発生する直前に、テストを一時停止するオプション

8. ブレークポイントが実装されているステップを分析およびデバッグします。



> **注:** すべてのブレークポイントで、テストの実行が 10 分間一時停止します。割り当てられた 10 分以内にテストステップをデバッグし、テストを再開して次のブレークポイントに達するまで実行できます。
>
> 次のオプションは、テストがブレークポイントで一時停止されている場合にのみ表示されます。
>
> - 続行：次のブレークポイントまでテストの実行を続行します。
> - ステップオーバー：すべてのステップでテストが一時停止します。現在のステップで一時停止しない場合は、[ステップオーバー] オプションを選択して次のステップにジャンプします。

テスト結果と自動テスト結果の表示

完成したテストおよびテストスイートの実行結果を表示します。自動テスト実行の結果を慎重に検討し、明らかになった問題を解決するために必要な修正措置を実行します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

テストとテストスイートの結果は、システムのテスト実行時間と失敗したステップを示します。フォームステップのスクリーンショットが含まれることもあります。また、同じテストスイートの異なる実行を比較するレポートを表示することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーインターフェイスのどこにあるかに応じて、テスト結果に移動するための複数のオプションがあります。たとえば、テスト実行の進捗状況ダイアログが表示された場合は、[結果に移動] を選択できます。この手順では、ユーザーインターフェイスの任意の場所からテスト結果を表示できます。

手順

1. 自動テスト フレームワーク > 試験結果に行きます。
2. 行をクリックすると、特定のテストの結果にアクセスできます。
   システムは、テスト結果レコード を表示します。
3. 選択したテストのステップ結果を表示します。

   a. [ステップ結果] 関連リストをクリックします。

   b. 下にスクロールして、表示するステップ結果の行をクリックします。
   システムは、ステップ結果レコード を表示します。

4. このテスト結果のテストログを表示します。

   a. [テストログ] 関連リストをクリックします。

   b. スクロールダウンして、表示するテストログの行をクリックします。
   システムは、テストログレコード を表示します。

自動テスト結果の表示

テスト結果、ステップ結果、またはテストログを表示するときに、[許可されたクライアントエラー] テーブルでクライアントエラーを無視または警告エントリとして許可できます。これにより、将来のテストでクライアントのエラーが発生しても、テストの実行が継続します。

自動テストの結果スクリーンショットを表示する

テストに UI コンポーネントがある場合、システムは UI のスクリーンショットを取得します。これらのスクリーンショットを見ると、テスト結果をさらに詳しく知ることができます。

始める前に

結果を表示したいテストが実行されている必要があります。

注: 最適なスクリーンショットの結果を得るには、ブラウザーのズームレベルを 100% のままにします。

必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. 自動テスト フレームワーク > 試験結果に行きます。
2. 結果を表示するテストが含まれる行をクリックします。
   [テスト結果] フォームが表示されます。
3. 添付ファイルリストで必要なスクリーンショットを見つけて、テスト中に取得したスクリーンショットを表示します。
   スクリーンショットにはスクリーンショットの単語が付いておりシステムがショットを記録したときのタイムスタンプ (常に UTC 時間) がそれに続きます。ステップとスクリーンショットのタイムスタンプを比較することで、スクリーンショットをテスト ステップに一致させることができます。

テストスイート結果の自動表示

自動テストスイートの結果を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

注: ユーザーインターフェイスのどこにあるかに応じて、テストスイートの結果に移動するための複数のオプションがあります。たとえば、テスト実行進行ダイアログが表示された場合は、代わりに結果に進むをクリックできます。ここで説明する手順を使用すると、ユーザーインターフェイスの任意の場所からテストスイートの結果を表示できます。

手順

1. [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [スイート結果] に移動します。
2. 結果を表示するテストが含まれる行をクリックします。
   システムは、テストスイート結果レコード を表示します。

関連情報

クライアントエラーの特定と解決

テスト結果からクライアントエラーを許可

ステップ結果からクライアントエラーを許可

テストログからクライアントエラーを許可

クライアントエラーの特定と解決

クライアントエラーを特定し、クライアント側スクリプトで解決します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
クライアントエラーが発生すると、自動テストフレームワーク (ATF)はエラーが発生したときに実行中のステップでテストに失敗する。手順の実行中に JavaScript エラーが発生するとクライアント側スクリプトがサイレントで失敗する可能性がありますが、それでもエラーはデータおよび実行中の手順に影響を与える可能性があります。自動テストフレームワーク (ATF) では、これらのエラーを検証エラーとみなします。

手順

1. [すべて] > [アプリケーション] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動し、フォームとやり取りする自動テストフレームワーク (ATF) テストを実行します。
2. このテストのテスト結果では、次の要約でステップの結果を確認します。

   テスト中のページで「詳細なエラーメッセージ」というクライアントエラーが検出されたため、このステップは失敗しました。不合格のテストログを表示します。次回のテスト実行でこれらのエラーを無視するには、[すべてのクライアントエラーを警告/無視リストに追加 `(Add all client errors to warning/ignored list)`] リンクを使用します。

   このステップの結果は、UI と対話するステップでのみ表示します。

3. これらのスクリプトエラーを特定して解決するには、クライアントテスト ランナーページ上の開発者ツールのブラウザコンソールを開きます。

   注: ブラウザコンソールを開く方法については、 http://webmasters.stackexchange.com/questions/8525/how-to-open-the-javascript-console-in-different-browsers を参照

4. エラーが表示される場合は、次のいずれかのベースシステムテーブルにある可能性がある、問題のあるクライアント側スクリプトを特定してトラブルシューティングしてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow クライアントスクリプト
- UI アクション
- UIマクロ (HTMLスクリプト)
- UIページ (HTMLスクリプト)
- UI ポリシー
- UI スクリプト
- 上記のベースシステムテーブルを拡張するテーブル

5. スクリプトにエラーがないか確認し、修正したらテストを再度実行します。

次のタスク
スクリプトのバージョン履歴を確認して、クライアントエラーの原因を特定します。ベースシステムスクリプトをカスタマイズした場合は、アップグレード中にスキップされた新しいバージョンがスクリプトに含まれている可能性があります。

クライアントエラーの例

一般的なクライアントエラーにはいくつかの種類があります。

クライアントのJavaScriptエラー

クライアントスクリプトでエラーが発生すると、ブラウザコンソールに次の例のようなエラーが表示します。

```
************************************************
A script has encountered an error in render events
TypeError: Cannot read property 'id' of undefined
Script ends. Continuing happily
************************************************
[00:00:00.002] onLoad Modify Comments Label
```

この例では、クライアントスクリプトコメントラベルの変更が原因でエラーが発生しました。

その他のクライアントスクリプトエラー

その他のタイプのスクリプトエラーは、発生時に任意のフォーマットでブラウザコンソールに直接報告します。

TypeError：コールバック `(id)` が定義されていません

Sys ID によるスクリプトリソースリンク

場合によっては、コンソールエラーは Sys ID を使用してスクリプトリソースファイルへのリンクを提供します。このリンクの後には、スクリプトがそれを実行したコンテキストを与えることができます。

```
Uncaught ReferenceError: myobj is not defined
    at incident.do?sys_id=12345678901234567890123456789012
(anonymous) @ incident.do?sys_id=12345678901234567890123456789012  <----
 LINK
```

スクリプトのアクセス許可

問題のあるスクリプトを特定しながら、スクリプトにデータへのアクセス権があることを確認します。以下をチェックしてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テーブルとフィールドのアクセスコントロールルールのアクセスを許可します。
- スクリプトがプライベートスコープ内のアプリケーションにアクセスする場合のアプリケーションアクセスを許可します。
- ドメインセパレーションが設定されている場合は、ドメインセパレーションを許可します。

関連情報

許可されたクライアントエラー

UI テストステップ

ユーザーのアクションを模倣し、ページの表示されるコンポーネントを操作することで、ユーザーインターフェイスをテストします。

クライアントテストランナーの依存関係

UI テストステップでは、アクティブなクライアントテストランナーがページの表示コンポーネントに直接作用する必要があります。テスト担当者は、UI テストのために 1 つ以上のクライアントテストランナーを手動で起動する必要があります。テスト設計者は、テストスイートからオープンクライアントのテストランナーを選択することをスケジュールできます。「クライアントテストランナーでの作業」を参照してください。

インテリジェント待機メカニズム

UI テストステップには、コンポーネントのクリックや値の設定などの UI 変更によってトリガーされるインテリジェントな待機メカニズムがあります。待機メカニズムでは、次の UI テストステップに進む前に UI 変更が完了する必要があります。テスト設計者は、UI テストステップ間に手動で待機メカニズムを追加する必要はありません。

カスタム UI テストステップ

HTML および JavaScript ページコンポーネントを取得し、それらがサポートするテストアクションを特定することによって、UI ページや UI マクロなどのカスタマイズされたユーザーインターフェイスをテストします。

カスタム UI テストステップでは、自動テストフレームワーク (ATF) はターゲット Web ページからテスト可能なコンポーネントを取得して識別する必要があります。

注: Now UI は、カスタム UI テストステップではサポートされていません。

テスト可能なコンポーネント

テスト可能なページコンポーネントは、これらの特性を備えた標準の HTML と JavaScript で構成されています。

ユーザーの操作によって設定またはクリックされる

テスト可能なページコンポーネントを使用すると、ユーザーは値を設定したりクリックしたりできます。

DOM (Document Object Model) からアクセス可能

テスト可能なページコンポーネントは DOM からアクセスでき、DOM の JavaScript 操作をサポートします。カスタム UI テストステップは、シャドウ DOM 内のページコンポーネントにアクセスできません。

JavaScript にアクセスできる

テスト可能ページコンポーネントは JavaScript でアクセスできます。カスタム UI テストステップは、ファイルフィールドなどのオペレーティングシステムと直接やり取りす

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

るページコンポーネントにアクセスしたり、Excel ファイルや PDF ファイルなどの非 HTML コンテンツを表示したりすることはできません。

新しいブラウザータブまたはウィンドウは、カスタム UI テストステップではサポートされていません。

カスタム UI テストから除外されない

テスト可能なページコンポーネントは、カスタム UI テストから除外されません。自動テストフレームワーク (ATF) は、他のテストステップカテゴリで既にテスト可能なページコンポーネントを除外し、Now Platform 機能に関連づけられたページコンポーネントも除外します。

ページインスペクターにアクセス可能

テスト可能なページコンポーネントは、ページインスペクター から表示したときに結果を返さなければなりません。テスト設計者は、ページのテスト可能なコンポーネントを識別するためにページインスペクターを使用できます。

テスト可能なページコンポーネントの例には、これらの UI 要素があります。

- ボタン
- リンク
- ページテキスト
- UI コントロール
- UI マクロ
  - ui_date
  - ui_date_time
  - ui_reference
- UI ページ
- ウィザード

テスト不可能なページコンポーネントの例としては、これらの UI 要素があります。

テスト不可能なページコンポーネントの例

テスト不可能な理由	テスト不可能なページコンポーネント
設定またはクリックできない	非表示のコントロール
	HTML コメント
	div、section、span などの HTML レイアウト要素
	HTML スクリプト要素
DOM からアクセスできない	ダッシュボード
	イメージ
	リスト
	レポート
	シャドウ DOM
JavaScript でアクセスできる	Excel ファイル
	ファイルフィールド

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テスト不可能なページコンポーネントの例 (続く)

テスト不可能な理由	テスト不可能なページコンポーネント
	PDF ファイル
Now Platform の機能である	フローデザイナー
	Studio
	アップグレードモニター
他のテストステップカテゴリでテスト可能	フォームフィールドラベル
	フォームフィールド値
	サービスカタログ
	ワークスペース

設定可能なページコンポーネント

設定可能コンポーネントは、テキスト入力フィールドなどの動的な値を持つ UI 要素です。設定可能コンポーネントは、これらのテストアクションとテストステップをサポートします。

設定可能コンポーネントのテストオプション

ページインスペクターのアクション	カスタム **UI** テストステップ
コンポーネント値を設定	コンポーネント値 (カスタムUI) の設定
コンポーネント値を取得	ページ (カスタムUI) のテキストをアサートする
	コンポーネント値の検証 (カスタム UI)
コンポーネントが無効	コンポーネント ステータスの検証 (カスタム UI)

設定可能なコンポーネントには、カスタム UI テストステップで設定できる値を決定するデータタイプがあります。たとえば、特定のレコードへの参照を表示するためのページコンポーネントは、システム ID 値のみを表示するための参照データタイプを持つことができます。

自動テストフレームワーク (ATF) では、UI 開発者は、カスタム UI テスト中に使用するデータタイプを指定できます。UI 開発者は、ページコンポーネントにデータタイプをアサインして、テストステップで有効な値が設定されるように確保できます。次のデータタイプがサポートされています。

- 日付
- 日時
- 参照

詳細については、「コンポーネントデータタイプを上書きする」を参照してください。

クリック可能なページコンポーネント

クリック可能なコンポーネントとは、チェックボックスやラジオの入力など、ユーザーがクリックすることで操作できる UI 要素のことです。クリック可能なコンポーネントはこれらのテストアクションをサポートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリック可能なコンポーネントのテストオプション

ページインスペクターのアクション	カスタム **UI** テストステップ
コンポーネントをクリック	[コンポーネント (カスタム UI)] をクリックします
コンポーネント値を取得	ページ (カスタムUI) のテキストをアサートする
	コンポーネント値の検証 (カスタム UI)
コンポーネントが無効	コンポーネント ステータスの検証 (カスタム UI)

クリック可能なコンポーネントは動的な値を持たないのでデータ型を持ちません。

取得されたページコンポーネント

自動テストフレームワーク (ATF) は、テストするカスタム UI ページごとに取得したページコンポーネントのリストを格納します。カスタム UI テストステップは、[コンポーネント] と [コンポーネント値 **(Component values)]** フィールドから取得したコンポーネントのリストを表示します。

デフォルトでは、ページコンポーネントのリストは静的であり、テスト設計者が手動で [コンポーネントの取得] をクリックしたときにのみ更新されます。アドミニストレーターは、システムプロパティ *sn_atf.page_data_capture.enabled* を有効にして、カスタム UI テストステップが実行されるたびにページコンポーネントのリストを更新できます。テスト設計時にこのプロパティを有効にすると、テスト設計者は常に最新のページコンポーネントリストにアクセスできるようになります。テスト設計が完了した後にこのプロパティを無効にすると、テストステップは以前に取得したページコンポーネントのリストを使用できるため、テストの実行速度が向上します。

Now Platform は、取得したページコンポーネントのリストをデータとして扱い、それらを更新セットまたはアプリケーションファイルに含めません。あるインスタンスから別のインスタンスにテストを転送するとき、テスト設計者は手動でページコンポーネントを再度取得する必要があります。

設計上の考慮事項

カスタム UI ページとページコンポーネントをテストするときは、これらの設計上の考慮事項に従ってください。

ページインスペクターを使用してテスト可能なページコンポーネントを識別する

ページインスペクターは、どのページコンポーネントがカスタム UI テストに使用できるかを決定します。ページインスペクターに利用できないページコンポーネントは、カスタム UI テストには利用できません。

テストするカスタム UI に移動する

ターゲットのカスタム UI に移動するには、既存のテストステップを使用します。たとえば、ナレッジベース記事をテストするには、既存のテストステップを使用してモジュールに移動するか、既存のレコードを開きます。ほとんどのカスタム UI テストでは、テストの一部として既存のテストステップカテゴリを使用する必要があります。

コンポーネント領域を使用してページコンポーネントを識別します

コンポーネント領域は、`<div>` または `<section>` 要素などのコンポーネントを含む HTML レイアウト要素を表します。この領域は、テストデザイナーがページレイアウト内の場所を指定することによってコンポーネントを区別するのに役立ちます。

Now Platform UI ではなくカスタム UI をテストする

自動テストフレームワーク (ATF) は、Now Platform 機能のカスタム UI テストを回避します。たとえば、ダッシュボードやグラフィカルデザイナーをテストすることはできません。代わりに、カスタム UI ページと要素を検証するためのテストをビルドします。これらのユーザーインターフェイスは直接制御できるからです。

HTML 属性を使用してページコンポーネントのテストプロパティを上書きする

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストフレームワーク (ATF) 固有の HTML 属性を使用して、特定のページコンポーネントのテストプロパティを変更します。 「コンポーネントテストアクションを上書きする」を参照してください。

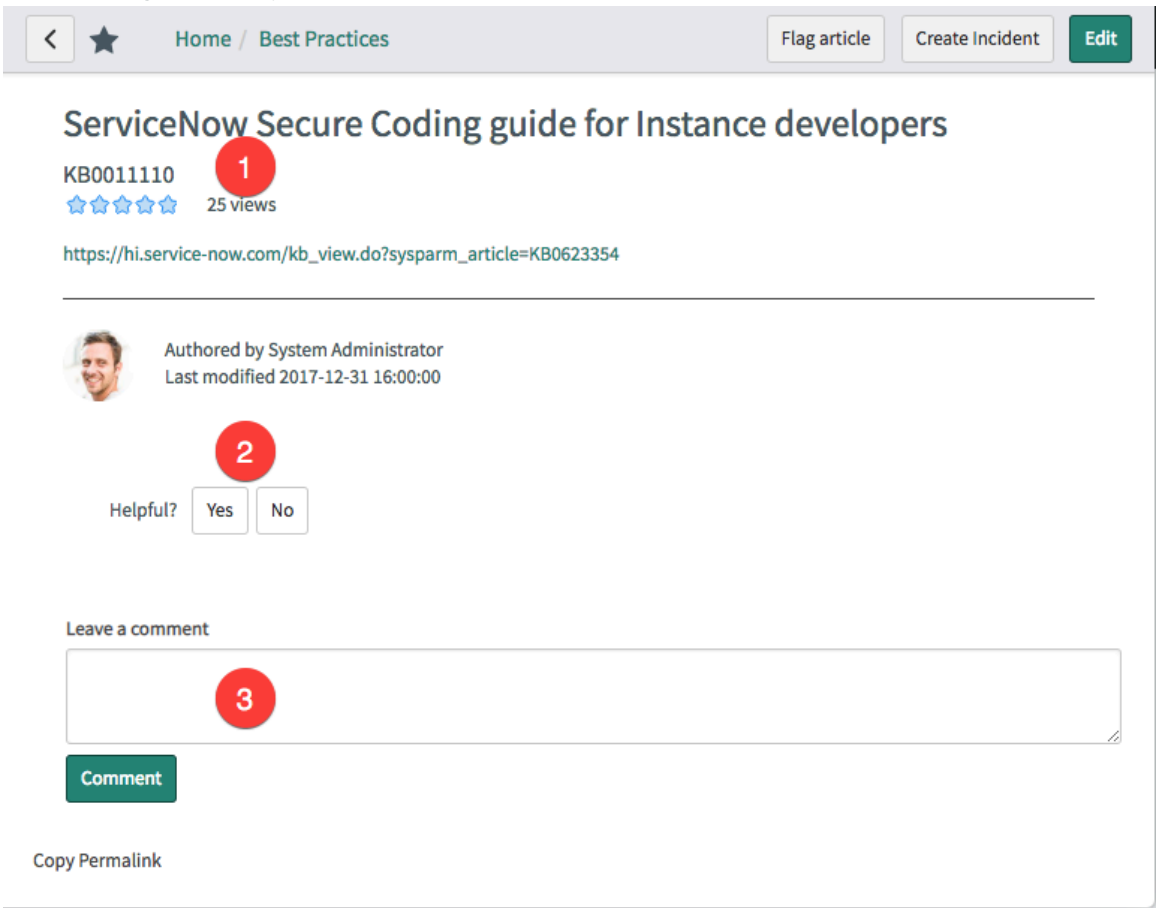
テストを別のインスタンスに移動するときはページコンポーネントを再度取得する

カスタム UI テストステップは、UI コンポーネントをメタデータとして格納しません。テスト担当者がインスタンス間でテストを移動するときは、ページコンポーネントを手動で再度取得する必要があります。

カスタム UI テストの例

取得したコンポーネントのリストを使用して、カスタム UI テストステップを設計できます。たとえば、ナレッジベース記事のレビューとコメントをテストしたいとします。ナレッジベース記事には、カスタム UI 手順がテストする必要があるページコンポーネントがいくつか含まれています。

ナレッジ記事ページの例



たとえば、これらのページコンポーネントはカスタム UI テストステップが必要です。

1. 記事の閲覧数。
2. 記事を役に立ったとしてマークするボタン。
3. コメントを残すテキスト領域。

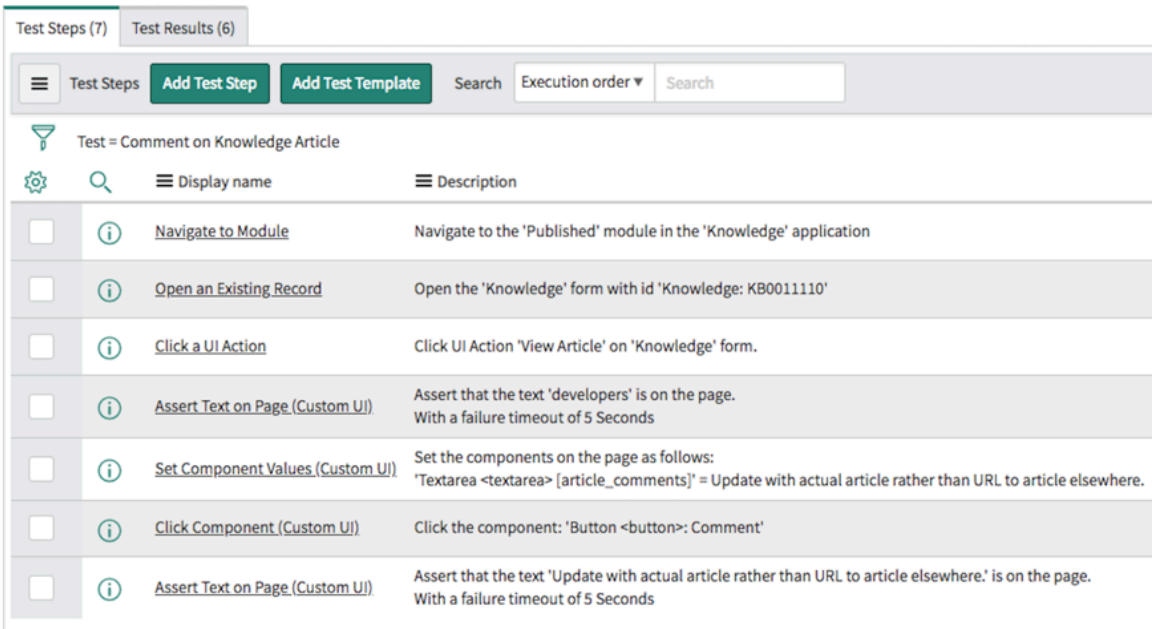
これらのステップは、ナレッジベース記事へのカスタム UI テストを示しています。サンプルテストは、これらの既存の UI テストステップとカスタム UI テストステップで構成されています。

1. モジュールに移動。「ナレッジ」アプリケーションの「発行済み」モジュールに移動します。
2. 既存のレコードを開く。ID が「Knowledge：KB0011110」の「ナレッジ」フォームを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. **UI** アクションをクリックします。「ナレッジ」フォームの UI アクション「記事の表示」をクリックします。
4. ページ (カスタム **UI)** のテキストをアサートする。「開発者」というテキストがページにあることをアサートします。
5. コンポーネント値を設定（カスタムUI）。次のようにページ上のコンポーネントを設定します。'Textarea <textarea>[article_comments]' = 他の場所の記事への URL ではなく実際の記事で更新する。
6. コンポーネント (カスタム **UI)** をクリック。「ボタン <button>：コメント」コンポーネントをクリックします。
7. ページ (カスタム **UI)** のテキストをアサートする。「他の場所の記事への URL ではなく実際の記事で更新する。」というテキストがページ上にあることをアサートします。

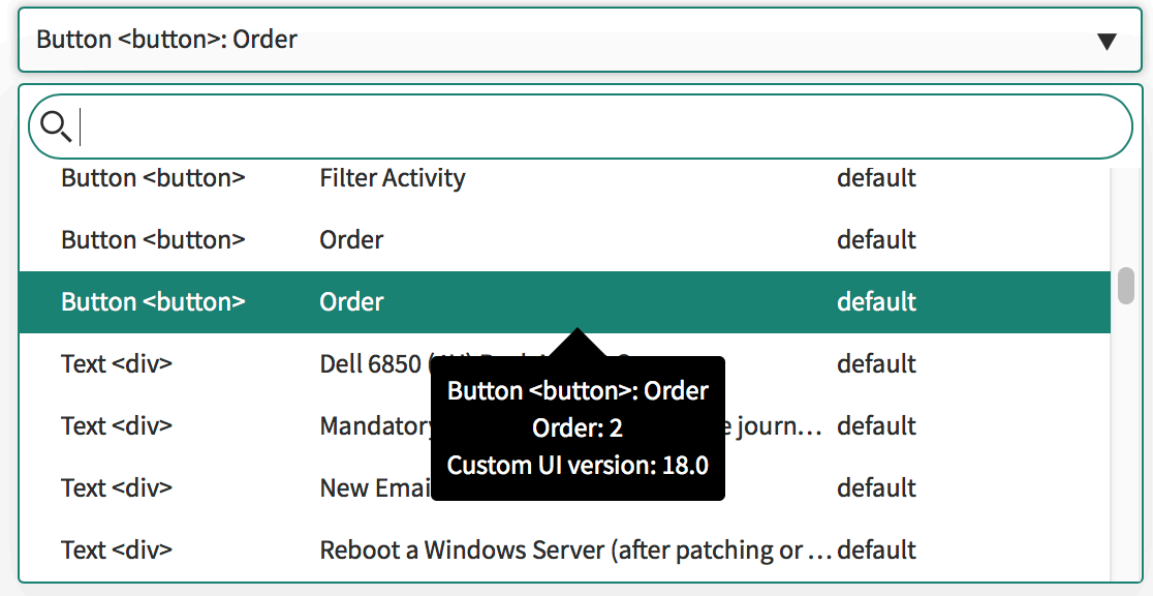
ナレッジベース記事テストのテストステップの例



カスタム UI コンポーネントのバージョンと順序

カスタム UI テストステップのいずれかでコンポーネントを選択すると、カスタム UI バージョンが表示される場合があります。複数の重複するコンポーネントがある場合は、コンポーネントの順序が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:

- カスタム UI バージョンは、カスタム UI バージョンが異なるコンポーネントが少なくとも 2 つある場合にのみ表示されます。
- 順序は、コンポーネントのドロップダウンメニューに重複するコンポーネントがある場合にのみ表示されます。表示された順序に従って、それらを明確にすることができます。
- 異なる複数の重複コンポーネントがある場合は、[カスタム UI バージョン] と [順序] の両方が表示されます。

コンポーネントの識別

sn-atf-id 属性を使用して、コンポーネントを識別する代替方法を実装します。これは、コンポーネントの名前または ID 属性が動的で、テストが実行されるたびに変わる場合に便利です。一貫した値を持つ sn-atf-id 属性を追加して、テストの実行時に ATF がコンポーネントを識別できるようにします。また、テストをビルドするときにコンポーネントを識別することもできます。たとえば、ボタンコンポーネントで

```
<button sn-atf-id="consistentValue">Test</button>
```

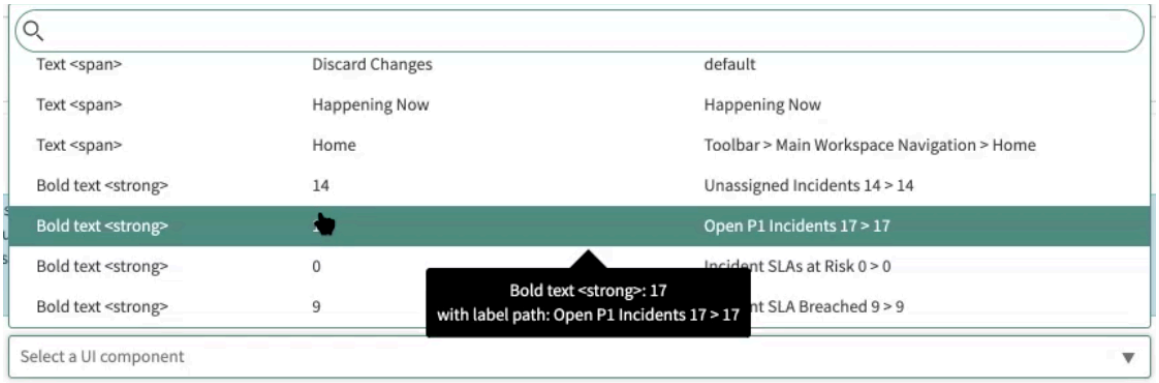
注: Rome リリース以降、sn-atf-id 属性を持つコンポーネントがページ上に 1 つだけある場合、ATF はそのコンポーネントの他の属性に関係なくそのコンポーネントを検索します。

ATF コンポーネントの識別の改善

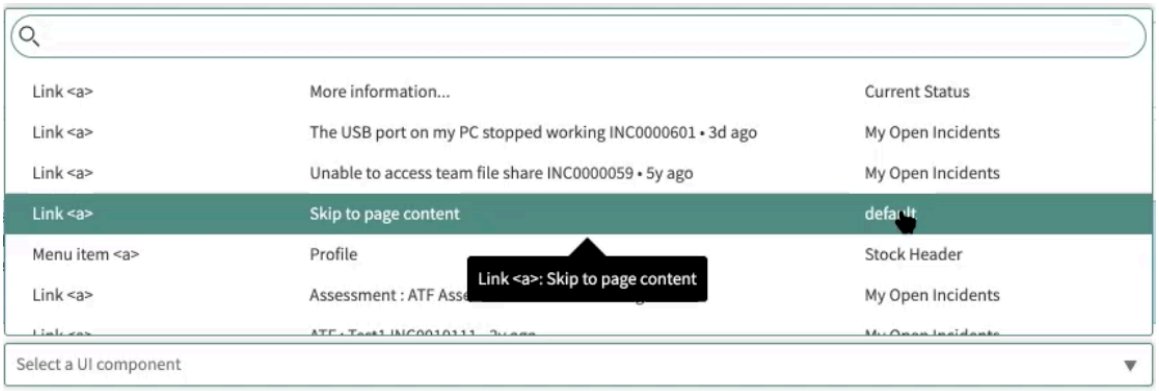
[ページ領域] 列に含まれるラベルパスを使用して、コンポーネントを識別します。Rome リリース以降、 `sn_atf.element.use_label_path` プロパティはデフォルトで true に設定されています。

コンポーネントに `sn-atf-area` 属性がある場合、[ページ領域] 列には `sn-atf-area` 値が表示されます。 `sn-atf-area` 属性が存在しない場合、そのコンポーネントのラベルパスが [ページ領域] 列に表示されます。

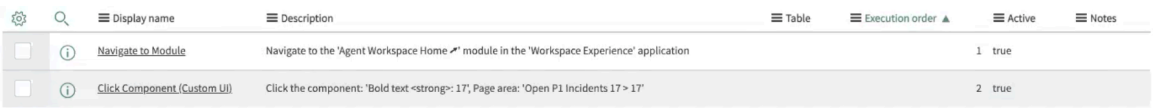
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: 同じ名前の [ラベル] 値が複数ある場合、ラベルパスは正しいコンポーネントを識別するのに役立ちます。コンポーネントに `sn-atf-area` 属性またはラベルパスがない場合は、デフォルトとして表示されます。



リストから必要なコンポーネントを選択して [送信] をクリックすると、テストステップの説明も詳細な情報で更新されます。



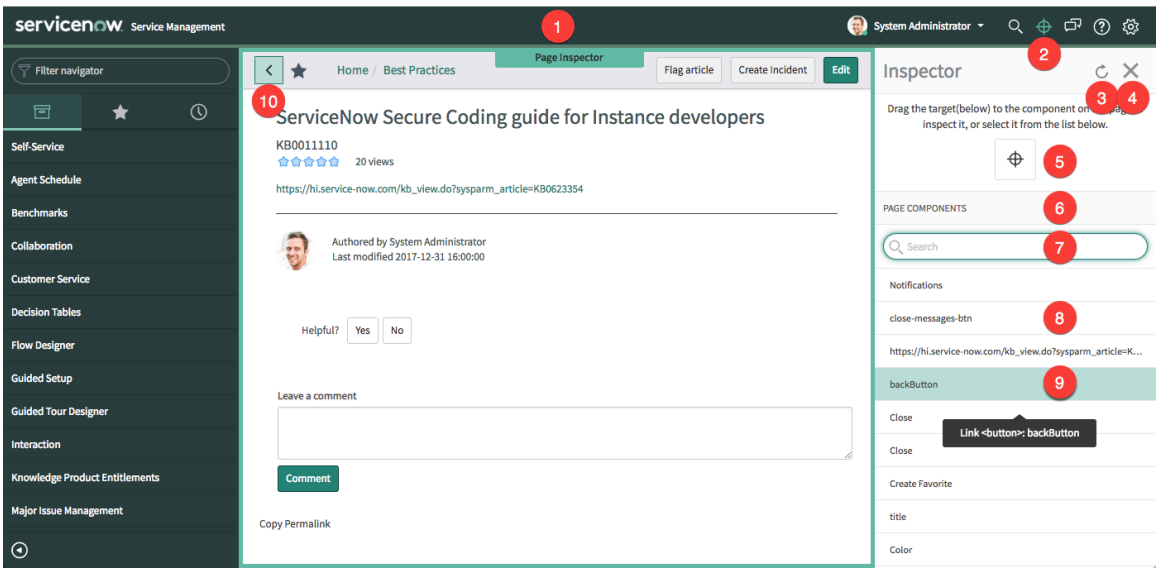
ページインスペクター

カスタム UI テストに使用できるユーザーインターフェイスの HTML および JavaScript ページコンポーネントを特定します。ユーザーインターフェイスにテスト可能なページコンポーネントのみが含まれていることを確認して、自動テストを有効にします。

ページインスペクターは、現在表示されている Now Platform ページの横に新しいペインを開く開発者設定です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ナレッジベース記事 **KB0011110** のページインスペクタービュー



ページインスペクターはこれらの機能を提供します。

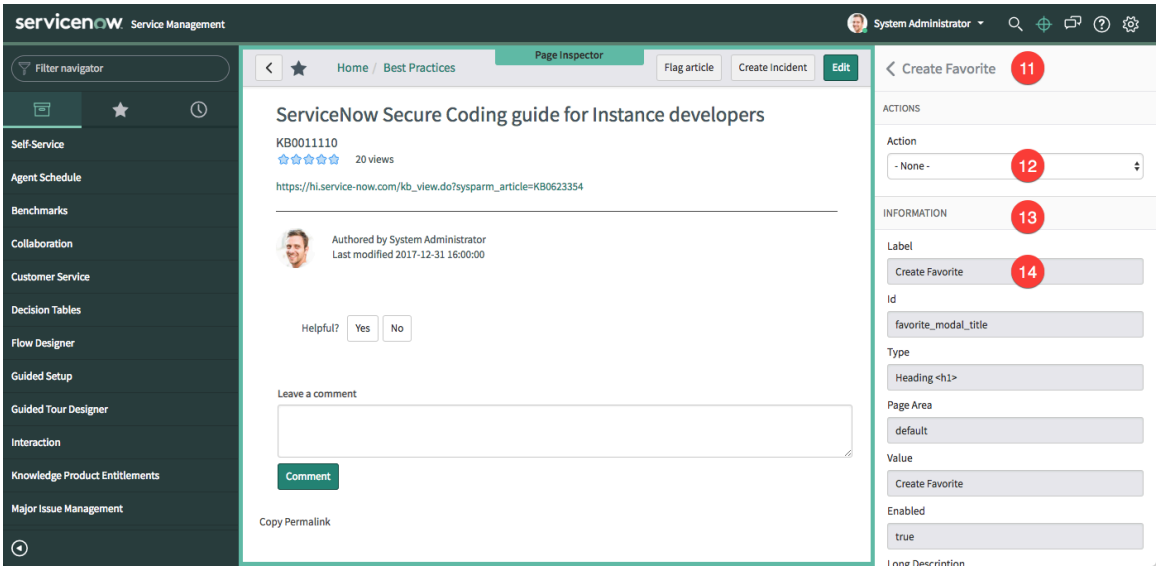
1. 現在検査されているページを識別する強調表示されたフレーム。
2. インスペクターペインを表示または非表示にするバナーアイコン。
3. ページコンポーネントのリストを更新するボタン。
4. インスペクターペインを非表示にするボタン。
5. ページ上の特定のコンポーネントを識別するインスペクターボタン。
6. カスタム UI テストに使用できるページコンポーネントのリスト。
7. ページコンポーネント検索フィルター。
8. ページコンポーネントに関する詳細情報を表示する場合にクリックする行。
9. 現在検査されているコンポーネントに関する情報をプレビューするためのハイライト表示された行とツールヒント。
10. ページ上で現在検査されているコンポーネントを識別するために強調表示されたページコンポーネント。
11. ページコンポーネントのリストに戻るためのコンポーネントラベルと戻るボタン。
12. 現在のページコンポーネントに対して実行するアクションのリスト。
13. 現在のページコンポーネントの属性情報のリスト。
14. ページコンポーネントの属性名と値のペア。

> **注:** [ラベルパス] フィールドを使用して、ページ上のコンポーネントを検査するときに、要素の周囲の階層ページコンテキストを表示できます。要素の「先祖」ラベルパスが多い場合、表示できるのは 3 つだけです。各ラベルパス要素は > で区切られます。これは外観が似ている 2 つのコンポーネントを区別するために使用できます。

注: アイコン付きの UI ボタンがページインスペクターに表示されるようになりました。

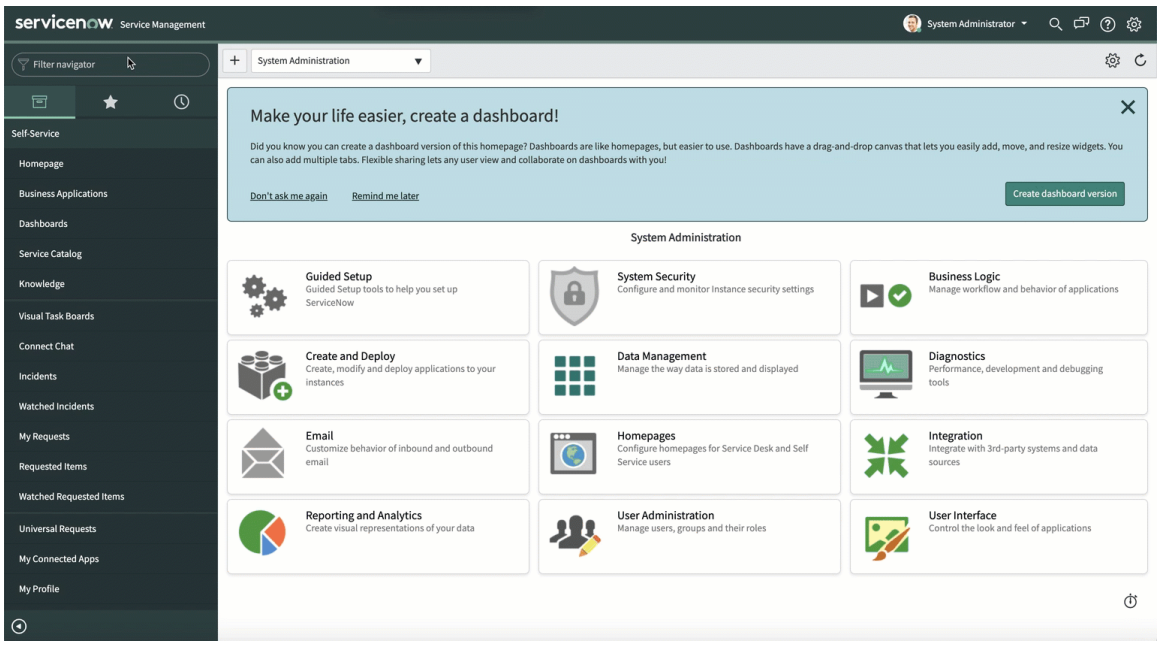
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンポーネント詳細のページインスペクタービュー



ページインスペクターランチャー

ページインスペクターランチャーは、ページインスペクター内の特定のページを選択して起動するのに役立ちます。詳細については、「さまざまなページタイプの検査」を参照してください。



テスト可能なページコンポーネント

ページを最初にロードしたときに、ページインスペクターがテスト可能なページコンポーネントのリストを取得します。テスト可能なコンポーネントは、自動テストフレームワーク (ATF) にアクセス可能な標準の HTML と JavaScript で構成されています。テストデザイナーは、これらのコンポーネントをカスタム UI テストの一部として使用できます。

テスト不可能なページコンポーネント

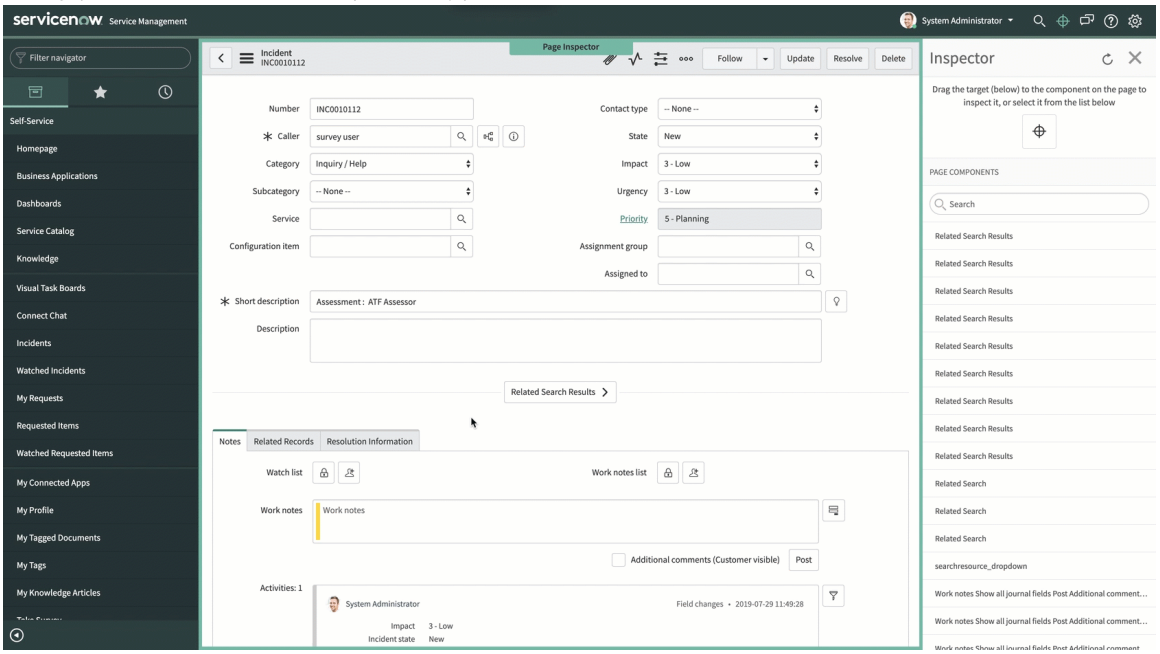
ページインスペクターは、このタイプのテスト不可能なページコンポーネントを識別します。

除外リスト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

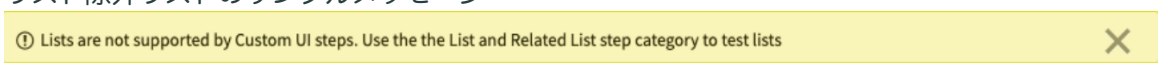
[除外リスト] ページコンポーネントは、カスタム **UI** テストステップを使用してテストすることはできません。[除外リスト] ページコンポーネントには、通常、特殊な Now Platform ユーザーインターフェイスと、他の方法ですでにテスト可能なコンポーネントが含まれています。テストデザイナーは、[除外リスト] ページコンポーネントのカスタム UI テストを作成できません。これらのコンポーネントをテストするには、フォームや サービスカタログ などのサポートされている別のテストカテゴリを使用する必要があります。

ページインスペクターで、検査アイコンを除外リストインターフェイスの上にドラッグすると、背景が灰色で表示されます。除外リストコンポーネントに検査アイコンをドロップすると、これらのコンポーネントのテストに必要なステップカテゴリに関する詳細なメッセージが表示されます。



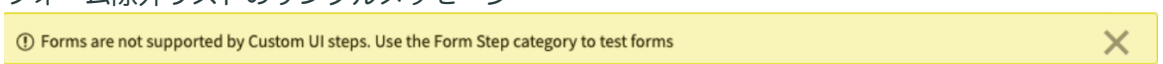
- リストをカスタム UI テストステップを使用してテストすることはできません。リストをテストするには、リストと関連リスト テストステップカテゴリを使用します。

  リスト除外リストのサンプルメッセージ

- カスタム UI テストステップを使用してフォームをテストすることはできません。フォームをテストするには、フォームカテゴリ テストステップを使用します。

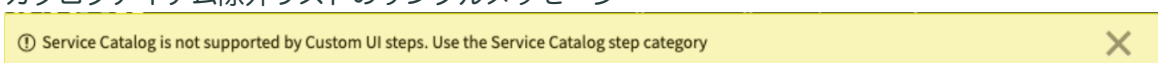
  フォーム除外リストのサンプルメッセージ

  注: フォーム内の UI フォーマッターは、カスタム UI テストステップを使用してアクセスしてテストできます。詳細については、「カスタム UI テストの作成」を参照してください。

- サービスカタログアイテムは、カスタム UI テストステップを使用してテストすることはできません。カタログアイテムをテストするには、サービスカタログ カテゴリ テストステップを使用します。

  カタログアイテム除外リストのサンプルメッセージ

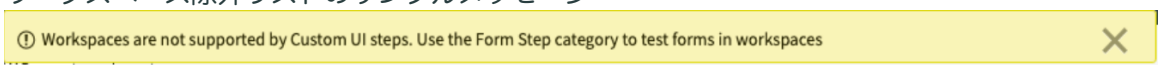
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 特定のコンポーネントはカスタム UI ページから除外され、テストすることはできません。

  コンポーネント除外リストのサンプルメッセージ

- ワークスペースをカスタム UI テストステップを使用してテストすることはできません。利用可能なワークスペースでフォームをテストするには、 フォームカテゴリ テストステップを使用します。

  ワークスペース除外リストのサンプルメッセージ

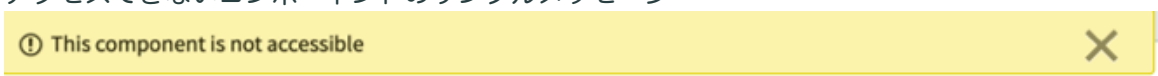
  

アクセス不可能

アクセス不可能ページコンポーネントは、構成上の問題のため、自動テストフレームワーク (ATF) が識別できないか、またはテストする権限を持っていない要素です。アクセス不可能ページコンポーネントには、通常、第三者 JavaScript ライブラリまたは Shadow DOM を含む要素が含まれます。テスト設計者は、アクセス不可能ページコンポーネントに対するカスタム UI テストを作成することはできませんが、自動テストフレームワーク (ATF) にアクセス可能なコンポーネントを使用するようにページを再設計できる場合があります。

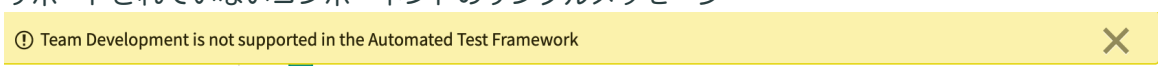
- 特定のコンポーネントは 自動テストフレームワーク (ATF) ではアクセスできません

  アクセスできないコンポーネントのサンプルメッセージ

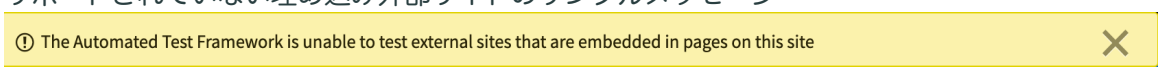
- チーム開発は 自動テストフレームワーク (ATF) ではサポートされていません

  サポートされていないコンポーネントのサンプルメッセージ

- プラットフォームページに埋め込まれた外部サイトのテストは、自動テストフレームワーク (ATF) ではサポートされていません

  サポートされていない埋め込み外部サイトのサンプルメッセージ

さまざまなページタイプの検査

ページインスペクターを使用して、**UI** ページ、サービスポータル、標準 **UI**、カスタム **URL** などのさまざまなページタイプの機能を調べてトラブルシューティングを行います。

始める前に

必要なロール：admin、atf_test_designer、atf_test_admin

手順

1. [すべて] > [ページインスペクター] > [手動インスペクター] に移動します。
2. 検査する [ページタイプ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

フィールド	説明
UI ページ	既存の UI ページ。利用可能リストから開始ページを選択します。
標準 UI	標準プラットフォームのフォーム、リスト、一部の UI ページ。[開始ページ] フィールドで、フォーム、リスト、または UI ページを選択します。 **注:** オプションの [レコード] フィールドは、[開始ページ] フィールドでフォームを選択した場合にのみ表示されます。
サービスポータル	インスタンス内の利用可能なポータル。利用可能なポータルと検査する開始ページを選択します。 **注:** [ポータル] フィールドは、[サービスポータル] を [ページタイプ] として選択した場合にのみ表示されます。
カスタム	検査するカスタムプラットフォーム URL。 **注:** 完全な URL を [開始ページの **URL]** フィールドにコピーして貼り付けないでください。たとえば、`https://instance.service-now.com/home.do` を検査する場合は、入力として `/home.do` のみを含めます。

3. [検査] をクリックします。

ページインスペクターを有効にして使用する

開発者設定を有効にして、プラットフォーム内で開く UI ページを検査します。手動ページインスペクターを使用して、サービスポータル ページなどの新しいタブで開くページを検査します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
カスタム UI テストに使用できるユーザーインターフェイスの HTML および JavaScript ページコンポーネントを特定します。ユーザーインターフェイスにテスト可能なページコンポーネントのみが含まれていることを確認して、自動テストを有効にします。

手順
1. 検査する必要があるカスタム UI ページの種類に応じて、ページインスペクターを有効にします。一部のカスタム UI ページは、新しいタブで開き、手動でしか検査できないため、注意してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	手順
Now Platform で開いているページを検査する。	**a.** 検査するページのレコードまたは URL に移動します。 **b.** [システムの設定] を開き、[開発者] タブを選択します。 **c.** [自動テストフレームワーク **(ATF)** ページインスペクター] を有効にします。 ページがページインスペクターで開き、検査アイコンがバナーフレームに表示されます。
サービスポータル ページなどの新しいタブで開いているページを検査する。	**a.** [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [手動ページインスペクター] に移動します。 **b.** [ページタイプ **(Page Type)]** を設定し、ページを選択します。ページタイプが サービスポータル の場合、ページが開くポータルを選択します。 **c.** [検査] をクリックします。 ページインスペクターでページが開きます。

2. 検査するコンポーネントを選択します。
   - 検査アイコン ( ) をページインスペクターペインからページ上のコンポーネントまでドラッグします。
   - [ページインスペクター] ペインから使用可能なコンポーネントを選択します。

   ページを最初にロードしたときに、ページインスペクターがテスト可能なページコンポーネントのリストを取得します。テスト可能なコンポーネントは、自動テストフレームワーク (ATF) にアクセス可能な標準の HTML と JavaScript で構成されています。テストデザイナーは、これらのコンポーネントをカスタム UI テストの一部として使用できます。
3. コンポーネント情報を表示して、[アクション] フィールドで使用可能なアクションを実行します。使用可能なアクションを実行すると、コンポーネントに利用可能なテストステップを手動で確認できます。たとえば、[コンポーネントをクリック] を選択すると、ページインスペクターはコンポーネントを選択し、結果のページを表示します。

次のタスク
カスタム UI テストの作成

カスタム **UI** テストの作成

カスタム UI ページでコンポーネントをテストします。

始める前に

- ページインスペクターを使用してテスト可能なカスタム UI コンポーネントを識別します。「ページインスペクターを有効にして使用する」を参照してください。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [テスト] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. テストの名前と説明を入力します。
4. [保存] をクリックします。
5. [テストステップ] 関連リストで、[テストステップを追加] をクリックします。
6. ターゲットのカスタム UI に移動するには、テストステップを追加します。

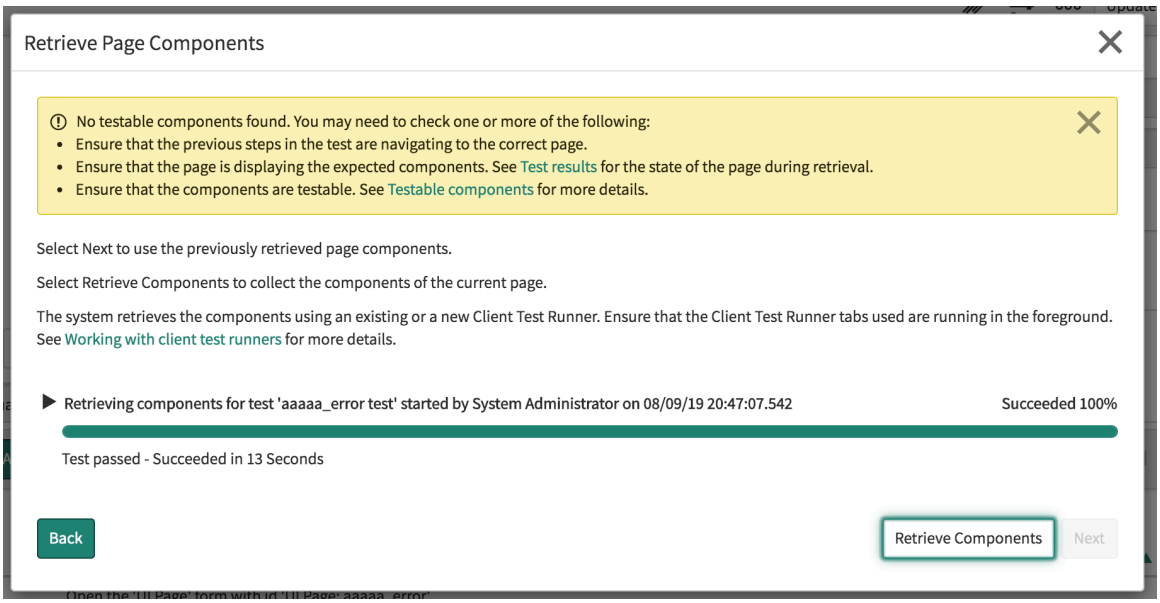
   Example
   [モジュールに移動] を使用して、アプリケーションナビゲーターモジュールがあるページを開きます。 [サービスポータルページを開く] ステップを使用して、ポータルページを開きます。
   UI ページを開くには、次のテストステップを実行します。

   a. [既存のレコードを開く] : ページのレコードを開きます。

   b. **[UI** アクションをクリック] : [試す **(Try It)]** UI アクションをクリックしてページを開きます。
7. カスタム UI コンポーネントの動作を検証するために、カスタム UI カテゴリからテストステップを追加します。
   利用可能なカスタム UI テストステップのリストについては、「カスタム UI カテゴリ」を参照してください。
8. テストステップを追加するときに UI コンポーネントを取得します。

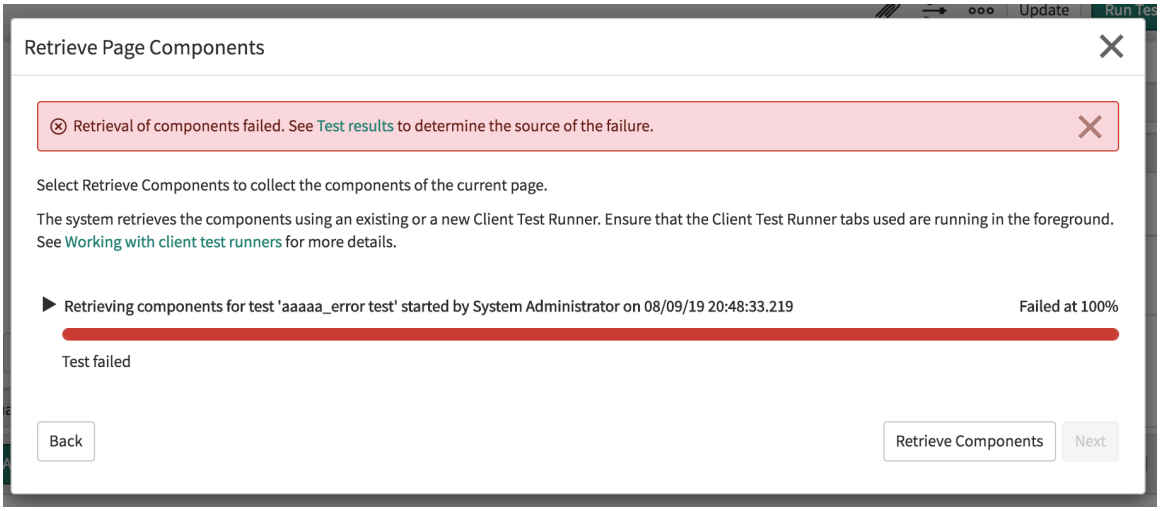
   テストステップの UI コンポーネントのリストを取得して、カスタム UI ページのテスト可能なページコンポーネントを識別します。[コンポーネントを取得] を選択して、現在のページのコンポーネントを収集します。

   既存または新しいクライアントテストランナーを使用して、コンポーネントが取得されます。取得プロセスで使用されるクライアントテストランナータブがフォアグラウンドで実行されていることを確認します。[コンポーネントを取得] を選択してもコンポーネントが生成されないテストの場合は、次の警告メッセージが表示され、[次へ] ボタンが無効になります。

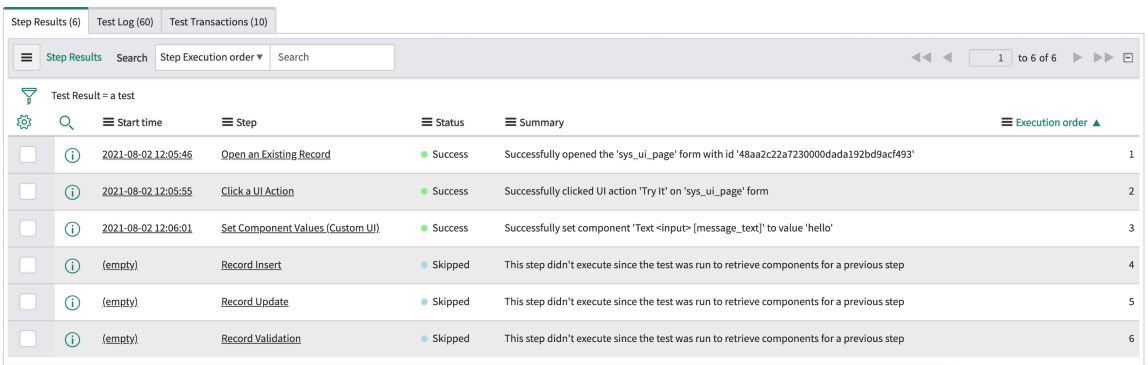


   ページコンポーネントのリストを既に取得している場合は、[次へ] をクリックして、以前に取得したリストを使用します。[コンポーネントを取得] をクリックして、現在のステップを再実行し、テスト可能なページコンポーネントのリストをリフレッシュすることもできます。コンポーネントの取得中にテストが失敗した場合は、次の警告通知が表示されます。通知のリンクをクリックすると、テスト結果を確認できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: テストのステップを更新する必要がある場合は、そのステップの [コンポーネントを取得] をクリックすると、その特定のステップまでのみテストが実行されます。選択したステップ以降のステップに対するテストは実行されません。更新されたすべてのステップが失敗なしで合格すると、テストは合格です。



自動テストフレームワーク (ATF) はページコンポーネントのリストを保存し、テストステップフォームの [コンポーネント値] または [コンポーネント] フィールドにリストを表示します。フィールドには、各コンポーネントに関する次の情報が表示されます。

フィールド	説明
タイプ	HTML 要素の説明とタグ。たとえば、`Text<input>`。
ラベル	HTML コンポーネントラベル。
値	コンポーネントの値。たとえば、コンポーネントが検索入力の場合、値は **Search** のようになります。
ページエリア	`<div>` や `<section>` 要素などのコンポーネントを含む HTML レイアウト要素。

カスタム UI テストステップを含むパラメーター化されたテストを作成した場合、システムは最初のデータセットのみを使用してコンポーネントを取得します。

次のタスク
テストスイートにテストを追加することを検討してください。詳細については、「自動テストスイートのビルドと実行」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンポーネントテストアクションを上書きする

自動テストフレームワーク (ATF) 固有の HTML 属性を使用して、特定のページコンポーネントのテストプロパティを変更します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
自動テストフレームワーク (ATF) がコンポーネントを取得するとき、それが設定可能なコンポーネントかクリック可能なコンポーネントかなど、サポートする対話式操作を決定します。コンポーネントが設定可能な場合、自動テストフレームワーク (ATF) は設定できるフィールドタイプを決定します。自動テストフレームワーク (ATF) がカスタムコンポーネントのアクションまたはフィールドタイプを誤って決定する場合、またはコンポーネントに 1 つのエンティティとして扱う必要がある複数の DOM 要素が含まれている場合は、自動テストフレームワーク (ATF) 固有の HTML 属性を使用してそれらを明示的に設定します。

sn-atf-clickable 属性と sn-atf-settable 属性の使用

`sn-atf-clickable` 属性と `sn-atf-settable` 属性を使用して、要素とその子要素をカスタムのクリック可能コンポーネントまたはカスタム設定可能なコンポーネントとして扱う必要があることを指定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. テストするカスタム UI ページを開きます。
2. `sn-atf-clickable` または `sn-atf-settable` 属性をテスト対象の要素に追加します。

   Example

   ```
   <div sn-atf-clickable="true" sn-atf-disabled id="customClickable">
    <button id="customButton">Click me</button>
   </div>
   ```

   ```
   <div sn-atf-settable="true" id="customSettable"
    sn-atf-component-value="A default value">
    <input id="customInput" value="A default value"></input>
   </div>
   ```

   注: `sn-atf-clickable` 属性または `sn-atf-settable` 属性のいずれかを使用して、要素をカスタムのクリック可能コンポーネントまたはカスタム設定可能なコンポーネントとして扱う必要があるかどうかを指定します。同じ要素で両方の属性を使用することはできません。

3. `sn-atf-clickable` 属性または `sn-atf-settable` 属性のいずれかを使用します。

   - `sn-atf-clickable`： `sn-atf-clickable` 属性を追加した場合、ATF は `sn-atf-clickable` 属性を持つ DOM 要素に `sn-atf-click` イベントを送信することによってコンポーネントをクリックします。この DOM 要素にイベントリスナーを追加し (たとえば、`addEventListener` を使用)、コンポーネントのカスタムクリックロジックを実装する必要があります。[コンポーネントをクリック] テストステップを使用して、クリック可能なカスタムコンポーネントを操作できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリック可能なコンポーネント属性

属性の名前	説明
sn-atf-disabled	このオプションの属性が存在すると、(その値に関係なく) このコンポーネントが無効であることを ATF が認識します 注: この属性が指定されていない場合、ATF はこのコンポーネントがデフォルトで有効になっていると見なします。
sn-atf-component-value	このコンポーネントの現在の値を ATF に通知する文字列または JSON オブジェクト

- `sn-atf-settable`： `sn-atf-settable` 属性を追加した場合、ATF は `sn-atf-settable` 属性を持つ DOM 要素に `sn-atf-setvalue` イベントを送信することによってコンポーネント値を設定します。この DOM 要素にイベントリスナーを追加し (たとえば、`addEventListener` を使用)、コンポーネントのカスタム設定値ロジックを実装する必要があります。設定する必要がある値には、`event.detail.newvalue` を使用してアクセスできます。イベント引数がイベントハンドラーに渡されます。[コンポーネント値の設定] テストステップを使用して、設定可能なカスタムコンポーネントを操作できます。

設定可能なコンポーネント属性

属性の名前	説明
sn-atf-disabled	このオプションの属性の存在は (値に関係なく)、このコンポーネントが無効であることを ATF に通知します。 注: この属性が指定されていない場合、ATF はこのコンポーネントがデフォルトで有効になっていると見なします。
sn-atf-component-value	このコンポーネントの現在の値を ATF に通知する文字列または JSON オブジェクト。
sn-atf-data-type	ステップをビルドするときにユーザーに表示するオプションのフィールドタイプ。デフォルトは文字列です。たとえば、`glide_date_time`、reference、boolean などです。
sn-atf-data-type-params	データタイプの詳細を含む JSON オブジェクト。

Example:

```
//A custom clickable component

<div sn-atf-clickable="true" sn-atf-disabled id="customClickable">
 <button id="customButton">Click me</button>
</div>
<script>
 var customClickableDiv = document.getElementById("customClickable");
 customClickableDiv.addEventListener('sn-atf-click', function() {
  document.getElementById('customButton').click();
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
 });
</script>
```

```
//A custom settable component

<div sn-atf-settable="true" id="customSettable" sn-atf-component-value="A
 default value">
 <input id="customInput" value="A default value"></input>
</div>
<script>
 var customSettableDiv = document.getElementById("customSettable");
 customSettableDiv.addEventListener('sn-atf-setvalue', function(event) {
  var newValue = event.detail.newValue;
  document.getElementById("customInput").value = newValue;
 });
</script>
```

sn-atf-class 属性の使用

カスタムのクリック可能または設定可能コンポーネントをテストするときに使用する JavaScript オブジェクトを指定するには、`sn-atf-class` 属性を使用します。カスタム JavaScript オブジェクトを書いて、カスタムコンポーネントに使用できるテストアクションを指定します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
テスト設計者は、カスタムの JavaScript オブジェクトを書き、コンポーネントに `sn-atf-class` 属性を割り当てることで、カスタムコンポーネントに使用できるテストアクションを手動で指定できます。属性の値を、コンポーネントテストアクションを含む JavaScript オブジェクトの名前に設定します。テスト可能なカスタムコンポーネントはクリック可能か設定可能のいずれかである必要があります。この分類によって、JavaScript オブジェクトに必要な機能とプロパティが決まります。テスト可能なページコンポーネントの要件については、「カスタム UI テストステップ」を参照してください。

手順

1. テストするカスタム UI ページを開きます。
2. `sn-atf-class` 属性をテスト対象の要素に追加し、getValue()、setValue()、click()、または isDisabled() の関数を処理するページに埋め込まれた JavaScript オブジェクトの名前に値を設定します。

   Example

   ```
   <div sn-atf-class="MyClickableComponent">
       <label for="a_clickable_checkbox">MyClickableComponent</label>
       <input type="checkbox" id="a_clickable_checkbox" checked="true"/>
   </div>
   ```

3. `sn-atf-class` 属性に指定された JavaScript オブジェクトを作成し、カスタムページコンポーネントをクリック可能または設定可能ページコンポーネントとして識別するために必要な機能と属性を追加します。

   クリック可能なコンポーネント関数

関数名	説明
initialize()	コンポーネントの初期値を取得します。次のように入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関数名	説明
	`$super(element, area)`
click()	コンポーネントを選択します。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。 成功：コンポーネントをクリックできる場合は true です。 注: UI テストステップのインテリジェント待機メカニズムをトリガーします。
getValue()	要素の値を取得します。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。 ◦成功：値が取得された場合は true です。 ◦結果：コンポーネントの値。
isDisabled()	コンポーネントが無効かどうか。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。 ◦成功：コンポーネントが無効の場合は true です。 ◦結果：コンポーネントが無効の場合は true です。

設定可能なコンポーネント関数

関数名	説明
initialize()	コンポーネントの初期値を取得します。次のように入力します。 `$super(element, area)`
setValue(newValue)	コンポーネントの値を設定します。下記の 2 番目の例を参照してください。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。 成功：値が設定されている場合は true です。 注: UI テストステップのインテリジェント待機メカニズムをトリガーします。
getValue()	要素の値を取得します。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。 ◦成功：値が取得された場合は true です。 ◦結果：コンポーネントの値。
isDisabled()	コンポーネントが無効かどうか。これらのプロパティを持つ JSON オブジェクトを返します。 ◦成功：コンポーネントが無効の場合は true です。 ◦結果：コンポーネントが無効の場合は true です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

設定可能なコンポーネント属性

属性の名前	説明
isSettable: true	設定可能なページコンポーネントとしてコンポーネントを識別します。

4. Jelly でカスタムコンポーネントを作成するときは、`sn-atf-class` 属性で指定された JavaScript オブジェクトの周囲に `<g2:atf_only>` タグを追加します。
これらのタグにより、自動テスト中にのみ JavaScript オブジェクトが実行されます。

Example:

```
//A custom clickable component

<form>
     <div sn-atf-class="MyClickableComponent">
         <label for="a_clickable_checkbox">MyClickableComponent</label>
         <input type="checkbox" id="a_clickable_checkbox"
 checked="true"/>
     </div>
</form>
<script>
var MyClickableComponent = {

    // The constructor must have this signature, but you can perform
 additional setup after the $super(element, area) call
    initialize: function($super, element, area) {
        $super(element, area);
    },

    click: function() {
        document.getElementById('a_clickable_checkbox').click();
        return {success: true};
    },

    // The function returns an object with a result attribute of type
 String
    getValue: function() {
        var isChecked =
 document.getElementById('a_clickable_checkbox').checked ? "true" :
 "false";
        return {success: true, result: isChecked};
    },

    // The function returns an object with a result attribute of type
 Boolean
    isDisabled: function() {
        if (document.getElementById('a_clickable_checkbox').disabled)
            return {success: true, result: true};

        return {success: true, result: false};
    },

};
</script>
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
//A custom settable component

<form>
    <div sn-atf-class="MySettableComponent">
        <label for="a_settable_checkbox">MySettableComponent</label>
        <input type="checkbox" id="a_settable_checkbox" checked="true"/>
    </div>
</form>
<script>
var MySettableComponent = {

    // This attribute is required for settable components
    isSettable: true,

    // The constructor must have this signature, but you can perform
 additional setup after the $super(element, area) call
    initialize: function($super, element, area) {
        $super(element, area);
    },

    // The value parameter is a string
    setValue: function(value) {
        document.getElementById('a_settable_checkbox').checked = (value
 == "true");
        return {success: true};
    },

    // The function returns an object with a result attribute of type
 String
    getValue: function() {
        var isChecked =
 document.getElementById('a_settable_checkbox').checked ? "true" :
 "false";
        return {success: true, result: isChecked};
    },

    // The function returns an object with a result attribute of type
 Boolean
    isDisabled: function() {
        if (document.getElementById('a_settable_checkbox').disabled)
            return {success: true, result: true};

        return {success: true, result: false};
    },

};
</script>
```

参照とレコードピッカー

カスタム UI ステップを使用して、`sn-reference-picker` および `sn-record-picker` 角度ディレクティブの値を操作します。参照ピッカーの値は、選択されたレコードの `sys_id` を返します。レコードピッカーの値は、そのレコードピッカーに対して選択された値フィールドを返します。値として設定するレコードを選択することで、両方の要素を設定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンポーネントデータタイプを上書きする

「コンポーネント値を設定」テストステップに表示されるフィールドのタイプを上書きするには、`sn-atf-data-type` 属性と `sn-atf-data-type-params` 属性を使用します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
設定可能なコンポーネントには、カスタム UI テストステップで設定できる値を決定するデータタイプがあります。たとえば、特定のレコードへの参照を表示するためのページコンポーネントは、システム ID 値のみを表示するための参照データタイプを持つことができます。

手順

1. テストするカスタム UI ページを開きます。
2. `sn-atf-data-type` 属性を設定可能コンポーネントに追加し、「コンポーネント値を設定」テストステップに表示するフィールドタイプに値を設定します。

   この属性には、テスト可能なデータタイプの文字列が含まれます。使用可能な値には、次の表に示す値が含まれます。

属性値	説明
glide_date	特定の日を指定する文字列を含みます。
glide_date_time	特定の日時を指定する文字列を含みます。
参照	関連レコードへの Sys ID が含まれています。このデータタイプでは追加情報を `sn-atf-data-type-params` 属性に指定する必要があります。

3. `sn-atf-data-type` の値が `reference` のときに追加情報を提供するには、`sn-atf-data-type-params` 属性を追加します。

   この属性には、JSON 形式のキーと値のペアが含まれます。使用可能なキー値ペアには、次の表に示す値が含まれます。

キー	値
参照	参照フィールドに表示するレコードが含まれているテーブルの名前。たとえば、インシデントテーブルのレコードを表示するには、`"reference":"incident"` を追加します。
reference_qual	クエリーに適用するフィルター。たとえば、アクティブなインシデントレコードのみを表示するには、`"reference_qual":"active=true"` を追加します。「参照修飾子」を参照してください。

Example:

```
<input id="someTextField" value="someSysId" sn-atf-data-type="reference"
 sn-
atf-data-type-params='{"reference":"incident","reference_qual":"active=tr
ue"}'/>
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ATF の Select2 機能

Select2 コンポーネントを使用すると、ドロップダウンメニューからオプションを簡単に検索して選択できます。

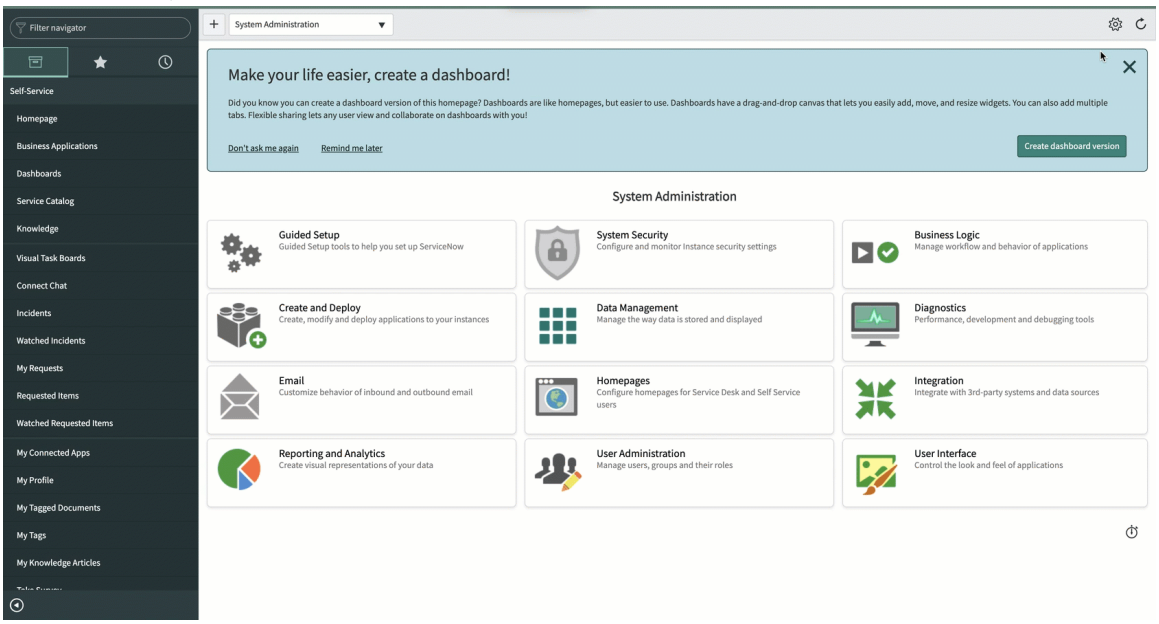
select2 の値をテストで設定できます。次に、Select2 の検索バーで値を検索します。コンポーネントのドロップダウンで最初の有効な結果が選択されます。

ページインスペクターを必要なドロップダウンメニューにドラッグアンドドロップします。選択したコンポーネントの右側のパネルが開きます。ページインスペクター内のコンポーネント値設定ステップで、検索するテキストを指定できます。

[アクション] の [コンポーネント値を設定] オプションを選択して、コンポーネントを検索します。右側のパネルにテキストを入力し、[送信] をクリックします。これにより、コードで select2 を開いてそのコンポーネントを検索し、表示される最初のオプションを選択できます。

注: 同じような名前のコンポーネントオプションが複数表示された場合は、最初のオプションのみが選択されます。

Select2 コンポーネント



select2 サポートの制限

- select2 ライブラリの特定のバージョン (3.5.1-3.5.4 および 4.0.0-4.0.13) のみがサポートされています。
- select2 のサポートは、jquery ライブラリに依存します。そのため、 select2 の値を設定しようとして、jquery ライブラリの名前が変更された場合、テストは失敗します。
- 検索バーがない場合、Select2 による検索は機能しません。

設計上の考慮事項

オプションを効率的に検索して選択するには、次の設計上の考慮事項を検討します。

- 一意に検索可能なテストデータを使用する (推奨)
- 現在の要素が設定されるのを待ってから、[コンポーネント値 (カスタム UI) の設定] テストステップで [Select2] の値を設定しながら次の要素の設定に進みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- jquery ライブラリ名の変更を回避してテストの失敗を防ぐ
- Select2 のアダプターおよびデコレーター機能はサポートされていません

自動テストフレームワーク (ATF) のブラウザーの推奨事項

自動テストを実行するようにクライアントテストランナーのブラウザーを設定し、パフォーマンスの低下を回避します。

定期的なブラウザーの再起動

これらのブラウザーには、クライアントテストランナーを実行しているときに時折ブラウザーを閉じて再起動することが必要になるメモリ管理制限があります。

- Internet Explorer
- エッジ
- 古いバージョンの Firefox

ブラウザを閉じる頻度は、ブラウザアプリケーションのメモリ割り当てによって決まります。

ブラウザーの CPU 調整

一部のブラウザーは、焦点がはずれているウィンドウの CPU 使用率を調整します。CPU 調整の問題を回避するには、次のガイドラインに従ってください。

- 独自のブラウザーウィンドウで各クライアントテストランナーを実行します。
- クライアントテストランナーのブラウザーウィンドウの一部が常に画面に表示されるようにします。
- システム画面がロックやシャットオフされていないことを確認します。

ブラウザーのズームレベル

クライアントテストランナーは、テストの実行時にスクリーンショットを取得します。 最適なスクリーンショットの結果を得るには、ブラウザーのズームレベルを 100% のままにします。

OS X の CPU 調整

Chrome または Safari でクライアントテストランナーを使用する OS X の場合：システムがテストスイートを実行しようとしたときに、画面がロックされるかクライアントテストランナータブが表示されない場合、テストの実行速度が非常に遅くなり、タイムアウトになることがあります。最高のパフォーマンスを得るには、画面がロックされたり無効になったりすることがない仮想マシン (VM) 環境でスケジュール済みスイートに対してクライアントテストランナーを実行します。

ブラウザーセッションでのロールバック

セッション cookie は、テスト中に行われたすべての変更をロールバックします。テストの実行中は、そのセッションで実行されたすべての処理がロールバック用に記録されます。同じブラウザーセッションでテストが実行されている場合は、インスタンスを変更しないでください。たとえば、同じセッションでテストを実行しながらレコードを変更した場合は、テストが完了した後に変更がロールバックされます。 同じセッション内で他のタブに移動すると、作業がロールバックされ、暗黙的なナビゲーションに依存するテストが妨げられる可能性があります。

並列テスト

複数のテストを並列で実行する場合は、問題を避けるために次のガイドラインに従ってください。

シークレットウィンドウまたはプライベートウィンドウで各クライアントテストランナーを実行する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

並列テストでは、同じブラウザーセッションに関連付けられたすべての変更がロールバックされるため、別のブラウザータブで行われた正当な変更が、並列テスト中にロールバックされる可能性があります。不要な変更のロールバックを防ぐために、常に別個のブラウザーセッションでクライアントテストランナーを実行してください。シークレットウィンドウまたはプライベートウィンドウでクライアントテストランナーを開くと、常に別個のブラウザーセッションが実行されます。

テストが完了したら、クライアントテストランナーウィンドウを閉じる

不要な変更のロールバックを防ぐために、テストの完了後は必ずクライアントテストランナーを閉じてください。ブラウザーウィンドウを閉じると、別のブラウザータブで行われた正当な変更が、テストロールバックによって元に戻ることはなくなります。

クライアントテストランナーでの作業

自動テストにフォームやその他のユーザーインターフェイス (UI) 要素が絡むステップが含まれている場合は、テスト ランナーまたはクライアントテスト ランナー と呼ぶブラウザ タブまたはウィンドウでこれらのステップを実行します。

自動テストフレームワーク (ATF) は、手動で開始したテスト用のクライアントテストランナーとスケジュールによって開始されたテスト用のクライアントテストランナーの 2 つのタイプのクライアントテストランナーをサポートします。

テスト実行が有効になっているときに、クライアントテスト ランナーモジュールをクリックすると、現在のブラウザーセッションにあるクライアントテスト ランナーが開きます。テストが実行待ちの場合、クライアントテスト ランナーは待機テストを実行します。テストが実行されていない場合、テストの実行を待機中のメッセージがクライアントテスト ランナーに表示されます。

クライアントテスト ランナーがアイドル状態の間、待機テストの開始を5秒ごとにチェックします。これにより、適切な構成のクライアントが利用できなかったためにシステムが起動できなかった可能性のあるテストを実行するのを確実にします。

注: クライアントテスト ランナーは、現在のセッションからテストを監視し、それらのテストをログインユーザーとして実行する (偽装ユーザーステップを実行しない限り)。クライアントテスト ランナーを起動した場合、現在のセッションからログアウトしてから再度ログインすると、クライアントテスト ランナーは新しいセッションを使用して実行します。

クライアントランナーがアクティブになると、現在実行中のテストのアクティビティーを実行フレームに表示します。

注: これで、一度に複数のテストを実行できるようになりました。

テスト実行プロパティ

クライアントテスト ランナーモジュールを使用するには、テスト実行プロパティを有効にする必要があります。

注: デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは、実稼働システムでは実行できないように無効になっています。データの破損や機能停止を避けるため、開発、テスト、および他の非本番インスタンスでのみテストを実行してください。

このモジュールを選択したときにテスト実行プロパティが無効になっていると、メッセージと自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティページへのリンクが表示され、そこでプロパティを有効にすることができます。

追加のデバッグ機能

追加のデバッグ機能を有効にしている場合、クライアントテスト ランナーモジュールには実行フレームおよびデバッグ情報の２つのタブが表示されます。実行フレームはクライアントテスト ランナーによって通常表示される情報を表示し デバッグ情報は追加のデバッグ情報を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[実行フレーム] タブのテストからスクリーンショットが取得され、テスト結果レコードに記録されます。

すべてのテストおよびスイートのためのブラウザ推奨

- 一部のブラウザにはメモリ管理上の制限があり、クライアントテスト ランナーを実行するときにブラウザを閉じて再起動する必要があります。これらのブラウザには、Internet Explorer、Edge、および古いバージョンのFirefoxが含まれます。ブラウザを閉じる頻度は、ブラウザアプリケーションのメモリ割り当てによって決まります。
- いくつかのブラウザには、CPU時間を調整する機能があります。問題を回避するには、次のガイドラインに従ってください。
  - 独自のブラウザウィンドウでクライアントテスト ランナーを実行します。
  - クライアントテスト ランナーを少なくとも部分的に画面に表示しておきます。
  - 画面がロックされたり閉鎖されたりしていないことを確認します。
- クライアントテストランナーは、テストが実行されるときにスクリーンショットを取得します。最適なスクリーンショットの結果を得るには、ブラウザーのズームレベルを 100% のままにします。

スケジュールされたスイートのブラウザ推奨

スケジュールされたスイートのクライアントテスト ランナーには、追加のブラウザー要件があります。

- Chrome または Safari でクライアントテストランナーを使用する OS X の場合：システムがテストスイートを実行しようとしたときに、画面がロックされるかクライアントテストランナータブが表示されない場合、テストの実行速度が非常に遅くなり、タイムアウトになることがあります。最高のパフォーマンスを得るには、画面がロックされたり無効になったりすることがない仮想マシン (VM) 環境でスケジュール済みスイートに対してクライアントテストランナーを実行します。
- ブラウザは、スケジュール済みのスイート実行レコードで指定した条件を満たす必要があります。
- スケジュール済みのスイート実行レコードで指定した基準を満たすクライアントテストランナーはスケジュールされた時間にテストスイートを実行するために利用可能でなければなりません。システムは自動的にクライアントテスト ランナーセッションを開くことができません。

Javascript ウィンドウコマンドインターセプト

クライアントテストランナーは、console.log、console.error、alert、confirm、および prompt を含むウィンドウオブジェクトコマンドをキャプチャし、必要に応じてデフォルトの応答をキャプチャします。

- **window.confirm** を呼び出すスクリプトはいずれも、ブーリアン **true** の応答を受け取ります。
- **window.prompt** を呼び出すスクリプトはいずれも、文字列応答 **test value** を受け取ります。
- アラートへのスクリプト呼び出しは無視されます。

アクティブなテスト ランナー

クライアントテスト ランナーを起動すると、システムはそのランナーをアクティブテスト ランナーテーブルに登録します。あなたはこのテーブルをアクティブな手動テスト ランナーモジュールとアクティブスケジュールテスト ランナーモジュールで見ることができます。これらの2つのモジュールは、手動またはスケジュールされたテスト ランナーのみを表示するようにフィルタリングされた同じテーブルのビューを提供します。

アクティブでスケジュールされたテスト ランナーモジュールは、スケジュールあれたスイートの実行を作成するときに便利です。スケジュールされたスイートの実行では、使用するブラウザを指定でき

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ます。使用するブラウザの名前とバージョンを決定するには、スケジュール済みのテスト ランナーをそのブラウザで開始し、次にスケジュール済みのアクティブテスト ランナーモジュール内のそのランナーのレコードを調べます。

このテーブルのデータは一時的です。ランナーは、アクティブである間、指定された間隔でシステムにレポートします。ランナーが予定時刻にレポートしない場合、システムはそのランナーを非アクティブとしてマークします。しばらくすると、ランナーは削除されます。[自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティ] ページでこれらの間隔を変更できます。

関連情報

- クライアントテストランナー
- スケジュール済みのクライアントテスト ランナー
- 許可されたクライアントエラー

ブラウザの選択

実行しているテストまたはテストスイートフォームにフォーム (UI を含むステップ) を使用するステップ、またはその他の UI テストステップ要素 (自動サービスカタログのテストステップなど) が含まれている場合、[ブラウザを選択] ダイアログを操作します。

始める前に

実行するテストを作成しておく必要があります。

テスト実行プロパティを有効にする必要があります。これを行うには、admin または atf_test_admin ロールが必要です。

> **注:** 本番システムでテストを実行できないようにするために、テスト実行プロパティはデフォルトでは無効になっています。開発、テスト、およびその他の準本番インスタンスでのみテストを実行してください。

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて

[テストを実行] または [テストスイートを実行] をクリックすると、[ブラウザを選択] ダイアログが表示されます。ダイアログは現在実行中のテストクライアントの中から選択するか、新しいテストランナーを起動するかを尋ねます。

手順

1. テストまたはテストスイートを実行するブラウザ、またはテストが失敗した場合に再実行するブラウザを選択します。
   現在アクティブな登録済みのクライアントテスト ランナーが、ブラウザの選択ダイアログに表示されます。(現在のセッション) は、ブラウザが現在実行中であることを示します。「クライアントテストランナーでの作業」を参照してください。
2. 必要に応じてテスト ランナーをここで管理するをクリックし現在のユーザーに登録されているすべてのクライアントテスト ランナーを表示します。
   「アクティブ手動テストランナー」を参照してください。
3. このブラウザセッションでクライアントテストランナーを開く場合は、[新しいテストランナーを開始] をクリックします。これは、クライアントテストランナーが現在のユーザーの他のブラウザでのみ使用可能な場合に表示されます。
4. 適切なボタンをクリックしてテストを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 単一のテストを実行している場合は、[テストを実行] をクリックします。
- テストスイートを実行している場合は、[テストスイートを実行] をクリックします。
- 不合格になったテストを再実行する場合は、[不合格になったテストを再実行] をクリックします。

タスクの結果
テスト、テストスイート、または失敗したテストは、選択したブラウザまたはクライアントテストランナーで実行します。テスト実行の進行状況を監視するために、進行状況ビューアーが表示されます。

クラウドランナーブラウザー

テストまたはテストスイートを実行する場合は、[クラウドランナー] ブラウザーオプションを選択して、クラウドブラウザーでテストを実行します。

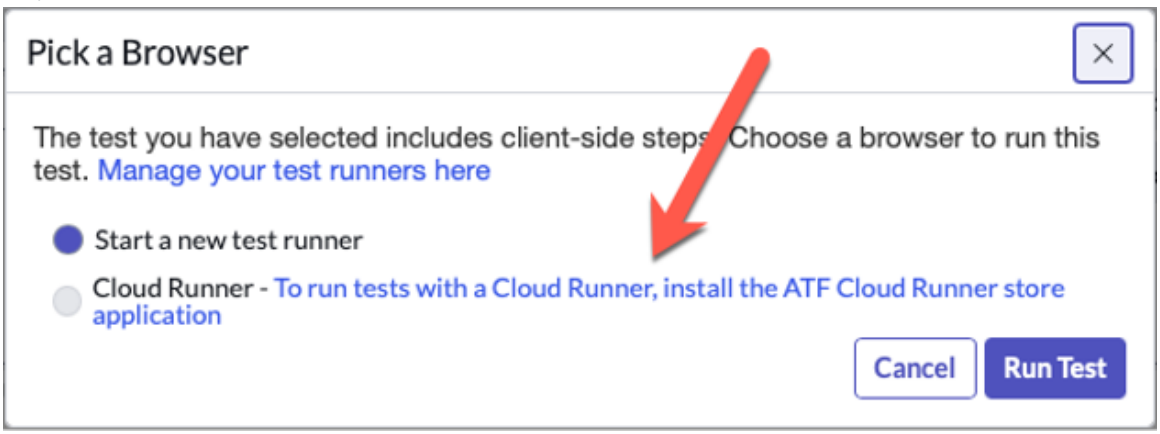
[クラウドランナー] ブラウザーオプションを使用する場合は、以下を完了する必要があります。

- ATF Test Generator and Cloud Runner ストアアプリケーションをインストールします。
- テストを実行して生成するユーザーを構成します。

クラウドランナーブラウザーのユースケース

- ATF Test Generator and Cloud Runner ストアアプリケーションをインストールしていない場合

  ATF Test Generator and Cloud Runner ストアアプリケーションをインストールします

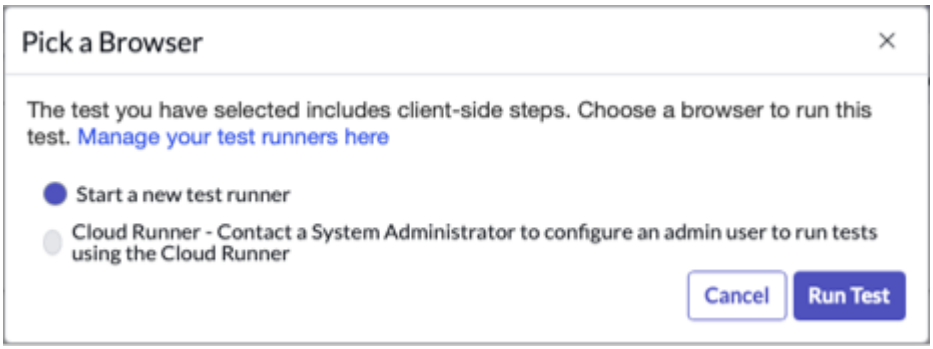
- テストを実行して生成するようにユーザーを構成していない場合
  - アドミンの場合

    アドミンの場合は、ユーザーを構成します

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

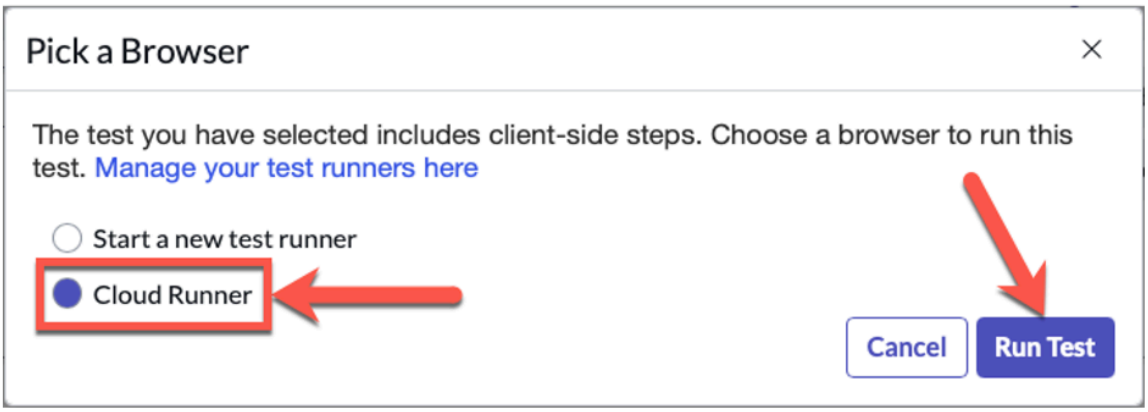
◦ アドミンでない場合

アドミンでない場合は、ユーザーを構成します



- アプリケーションがインストールされ、ユーザーが構成されている場合

クラウドランナーオプションの使用



サーバーのテストステップ

サーバーで操作を実行して、ビジネスロジックとバックグラウンドプロセスをテストします。

サーバーのテストステップは、ユーザーの偽装、レコードの送信または保存、サーバー側スクリプトの実行、または REST コールの実行など、非インタラクティブアクションを模倣します。サーバーのテストステップはサーバー上で直接実行されるため、クライアントテストランナーは必要ありません。サーバーのテストステップの詳細については、「サーバーカテゴリ」を参照してください。

REST テストステップ

REST 呼び出しを行って、カスタム受信 Web サービスと下位互換性をテストします。

REST 要求は現在のインスタンスのみに送信可能です。別のインスタンスまたはリモートアドレスの第三者に要求を送信することはできません。

REST テスト構成では、XML および JSON 応答形式のみがサポートされています。バイナリ形式はサポートされていません。

各テストステップ設定カテゴリのステップを含むテストを作成できます。REST テスト構成カテゴリには、REST 要求の送信 - 受信、および確認テスト構成が含まれています。アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。 REST テストステップの詳細については、「REST カテゴリ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

認証

自動テストフレームワーク (ATF) の一部として、REST 要求を送信する状況には 2 つあります。

- REST API エクスプローラーを使用して要求を作成してテストする場合
- **REST** 要求の送信 - インバウンドステップが含まれているテストを実行する場合

REST API エクスプローラーを使用して要求を作成およびテストし、その要求に認証が必要な場合、REST API エクスプローラーはユーザーの認証情報を使用します。ATF がテストを実行すると、REST API エクスプローラーはテストをスケジュールしたユーザーの認証情報を使用します。これは、テストを作成したユーザーとテストを実行しているユーザーの権限の違いにより、テストが意図せず失敗する可能性があることを意味します。

ユーザー認証情報の問題に対処するには、テストユーザー用の基本認証プロファイルを作成し、次に **[REST** 要求の送信 - 受信] フォームで、テストの実行時にそのプロファイルを使用するように指定します。

添付ファイルのテストステップ

フォームまたはサーバー側 API 呼び出しから添付ファイルをアップロードすることにより、添付ファイルに依存するビジネスルールをテストします。たとえば、スクリーンショットなどの添付ファイルがないとインシデントをクローズできないビジネスルールを使用できます。

フォームからアップロード

UI テストステップとして、添付ファイルのアップロードステップでは、フォームへのナビゲーションが必要です。このフォームは、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかを使用して開くことができます。[添付ファイルをアップロード] を使用して、テストステップでフォームに追加する添付ファイルを選択します。フォームに追加する添付ファイルを選択すると、システムは次のテストステップに進む前に添付ファイルのロードを待機します。UI テストの依存関係と待機メカニズムの詳細については、「UI テストステップ」を参照してください。

サーバー API からアップロード

サーバーのテストステップとして、添付ファイルのアップロードステップに UI 依存関係はありません。[添付ファイルをアップロード] を使用して、テストステップでレコードに追加する添付ファイルを選択します。フォームに追加する添付ファイルを選択すると、システムは次のテストステップに進む前に添付ファイルのロードを待機します。詳細については、「サーバーのテストステップ」を参照してください。

設計上の考慮事項

添付ファイルのテストステップでは、次の設計上の考慮事項に従ってください。

- すべての添付ファイルのステップで、1 つ以上の添付ファイルを追加する必要があります。
- テストの完了後、ステップごとに添付ファイルがロールバックされます。
- テストの完了後に、システムが既存の添付ファイルをロールバックすることはできません。
- データの依存関係を排除するため、既存の添付ファイルを使用してレコードをテストすることは避けてください。
- UI テストが関係している場合は、添付ファイルをフォームに追加します。
- UI テストが関係していない場合は、添付ファイルをサーバー API に追加します。

リストの **UI** アクションのテストステップ

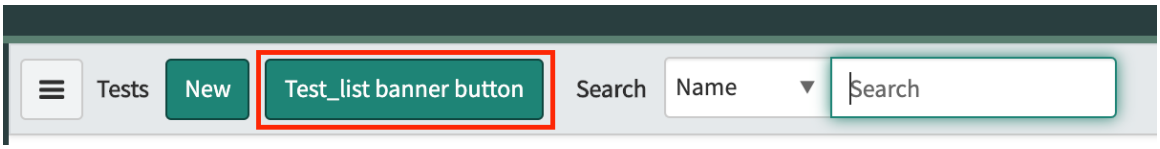
リストから UI アクションを選択して、リストまたは関連リストに対してさまざまなアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタイプの新しい UI アクションを作成できます。詳細については、「UI アクションの作成」を参照してください。

- [リストバナーボタン]：リストのバナーにボタンを作成します。

バナーリストボタン

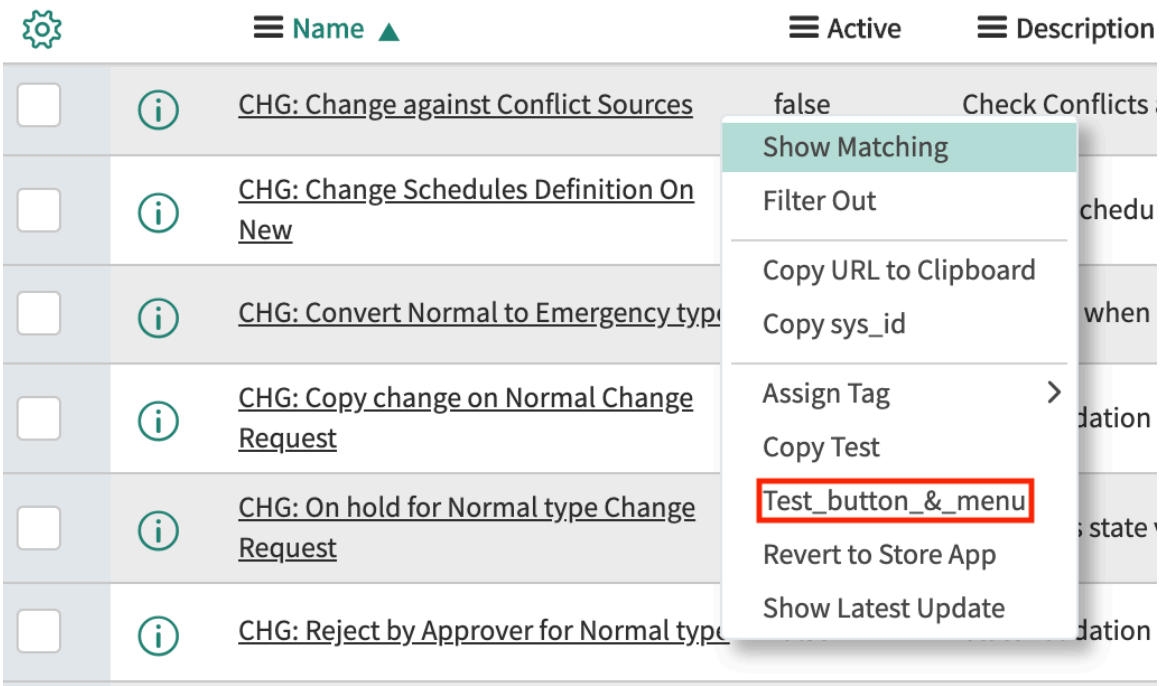


- [リスト下部ボタン]：リストの下部にボタンを作成します。

リスト下部ボタン

- [リストコンテキストメニュー]：リストのコンテキストメニューにオプションを追加します。

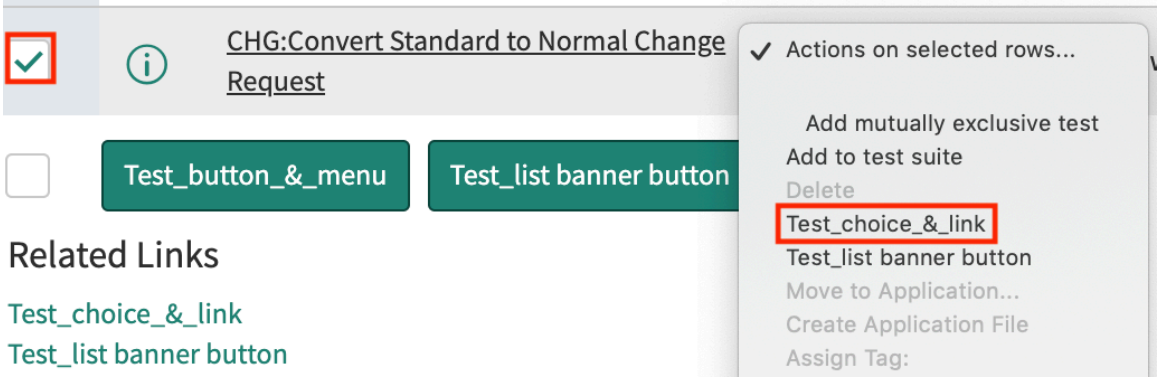
リストコンテキストメニュー



- [リスト選択肢]：リストの下部にあるリストの選択肢にオプションを追加します。最近追加されたリストの選択肢を有効にするには、1 つ以上のテストを選択する必要があります。

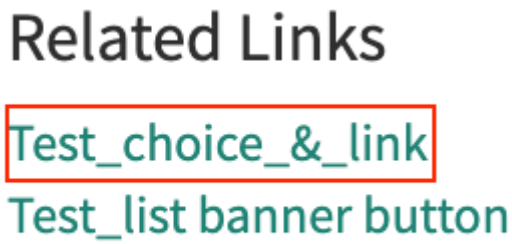
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスト選択肢



- [リストリンク]： [関連リンク] リストにリンクを追加します。

  リストリンク

設計上の考慮事項

- [リスト **UI** アクションをクリック] テストステップを使用するには、テストの最初に UI アクションを含むリストまたは関連リストがあるフォームに移動する必要があります。
- [関連リスト] フィールドは、[リストタイプ] として [関連リスト] を選択した場合にのみ表示されます。
- [アクションタイプ] は、選択した [リストアクション] に応じてほぼ自動フィルタリングされます。
- [レコード] フィールドは、適用する UI アクションに [単一レコード] を選択した場合にのみ表示されます。
- [単一レコード] を選択して UI アクションを適用した場合は、特定のレコードを識別します。
- [タイムアウト] フィールドを表示するには、[アサーションタイプ] として [ページのリロードまたはリダイレクト] を選択します。

パラメーター化されたテスト

実行ごとに異なるテストデータを使用して、テストを複数回実行します。各テスト実行のテストデータを保存するパラメーターを作成します。

パラメーター化テストはテスト設計者にこれらの利点を提供します。

- ただテストデータを変更するためだけにテストステップを複製する必要がありません。
- テストアクションをテストデータから分離することでテストの再利用を拡大します。
- データセットごとに個別のテスト結果を生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストが実行されると、自動テストフレームワーク (ATF) はパラメーターをデータセット値で置き換えます。たとえば、サブカテゴリフィールドと優先順位フィールドにパラメーター値を使用するインシデントフォームのテストを作成できます。1 つのデータセットを使用して、ウイルス対策カテゴリが優先順位の高いインシデントを生成することをテストし、別のデータセットを使用して、メールカテゴリが優先順位が低いインシデントを生成することをテストすることができます。

注: [サーバー側スクリプトを実行] テストステップは、パラメーター化されたテストではサポートされません。

パラメーター化されたテストのコンポーネント

パラメーター化テストは、これらのコンポーネントで構成されています。

パラメーター

パラメーターは、特定のタイプのテストデータを格納する変数です。各パラメーターには、一意のラベルとデータタイプがあります。たとえば、参照フィールドのシステム ID または選択フィールドの整数値を格納するパラメーターを作成できます。 テスト設計中にパラメーターを定義します。

パラメーターは共有または排他にすることができます。共有パラメーターは、すべてのパラメーター化されたテストで使用できます。排他パラメーターは、それらが作成されたテストでのみ使用できます。各共有パラメーターは、データセットのテスト実行 [sys_atf_parameter_set] テーブルの列です。各排他パラメーターは、パラメーター変数 [sys_atf_parameter_variable] テーブルのレコードです。

データ セット

データセットは、テスト実行データセットとも呼ばれ、テストの実行時に使用されるランタイムデータが含まれています。現在のテストで使用可能なすべてのパラメーターの値を設定できます。データセットは、テスト実行中のパラメーター値を指定します。 テスト用のデータセットを手動で作成することも、ファイルからデータをインポートすることもできます。各データセットは、データセットのテスト実行 [sys_atf_parameter_set] テーブルのレコードです。

データセットが定義されていないと、パラメーター化テストは失敗します。

設計上の考慮事項

パラメーター化テストを作成するときは、これらの設計に関する考慮事項に従ってください。

- パラメーター化テストは、レポート、テストスイート、およびデータロールバックなどの標準 自動テストフレームワーク (ATF) 機能をサポートします。パラメーター化テストをコピーすると、すべてのパラメーター、テスト実行データセット、およびテストステップがコピーされます。
- カスタム UI テストステップを含むパラメーター化されたテストを作成した場合、システムは最初のデータセットのみを使用してコンポーネントを取得します。

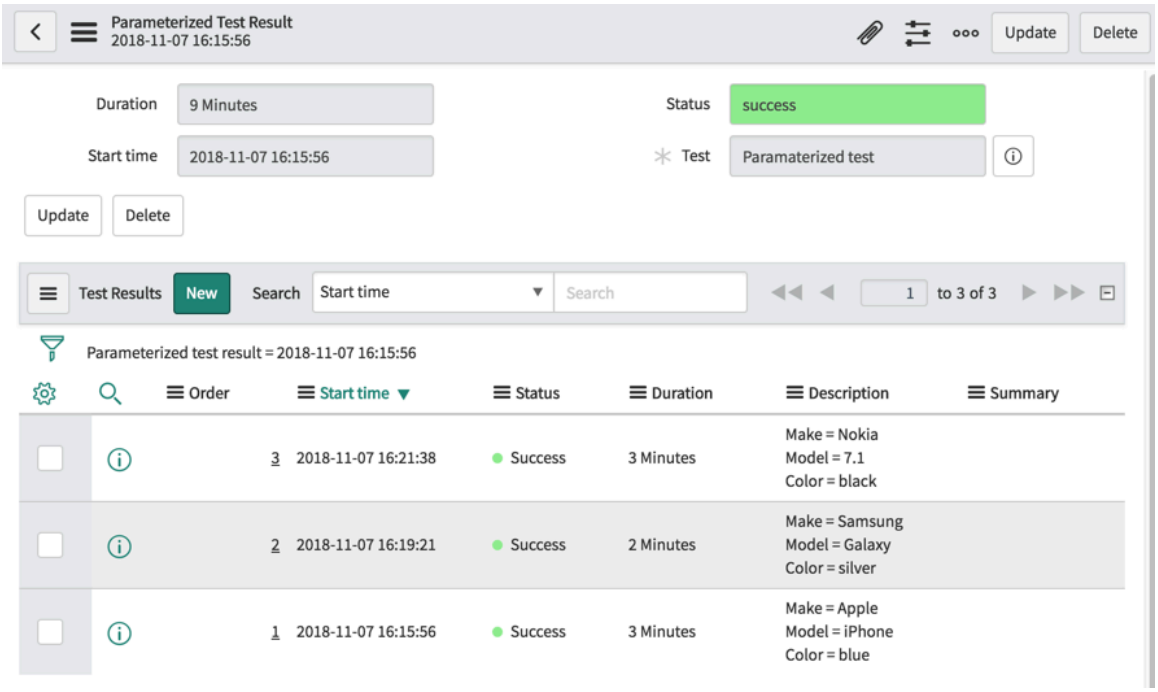
パラメーター化されたテストの実行

自動テストフレームワーク (ATF) は、同じテストステップと実行順序を使用して、パラメーター化された各テストをデータセットごとに 1 回実行します。たとえば、パラメーター化されたテストに 5 つのデータセットがある場合、自動テストフレームワーク (ATF) はデータセットごとに 1 回ずつ、全部で 5 回のテストを実行します。

パラメーター化されたテスト結果

パラメーター化されたテストでは、データセットの実行順序でテスト結果が表示されます。テストの詳細を表示するには、各テスト結果レコードを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



パラメーター化されたテスト結果レコードの [説明] フィールドには、テスト実行で使用されたパラメーターとデータセットがリストされます。

パラメーター化されたテストの作成

テストデータを格納する変数を使用するテストをビルドします。

始める前に

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   空白のテストレコードが開きます。
3. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	テストの名前を入力します。
有効	有効化
パラメーター化テストの有効化	有効化
説明	テストの説明を入力します。

4. [保存] をクリックします。
   パラメーター化されたテスト関連リストが表示されます。
5. テスト実行データを保持するパラメーターを作成します。
   パラメーターは、特定のタイプのテストデータを格納する変数です。各パラメーターには、一意のラベルとデータタイプがあります。たとえば、参照フィールドのシステム ID または選択フィールドの整数値を格納するパラメーターを作成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [パラメーター定義] 関連リストに、パラメーターを追加します。
   - [排他的パラメーターを追加 **(Add Exclusive Parameters)**]：このテストでのみ利用可能なパラメーターを追加します。
   - [共有パラメーターを追加 **(Add Shared Parameters)**]：任意のパラメーター化されたテストに使用可能なパラメーターを追加します。

b. 変数とデータタイプの名前を定義します。
   フォームのパラメーターを作成するときは、パラメーターのデータタイプはフィールドのデータタイプと一致する必要があります。たとえば、フォーム上の参照フィールドをテストするパラメーターを作成している場合は、Reference タイプのパラメーターを作成する必要があります。Now Platform データタイプの詳細については、「フィールドタイプ」を参照してください。

c. [送信] をクリックします。

次のタスク
テストステップへのパラメーターの追加

テストステップへのパラメーターの追加

テスト実行時に特定のタイプのデータを保持するために、テストステップに変数を追加します。

始める前に

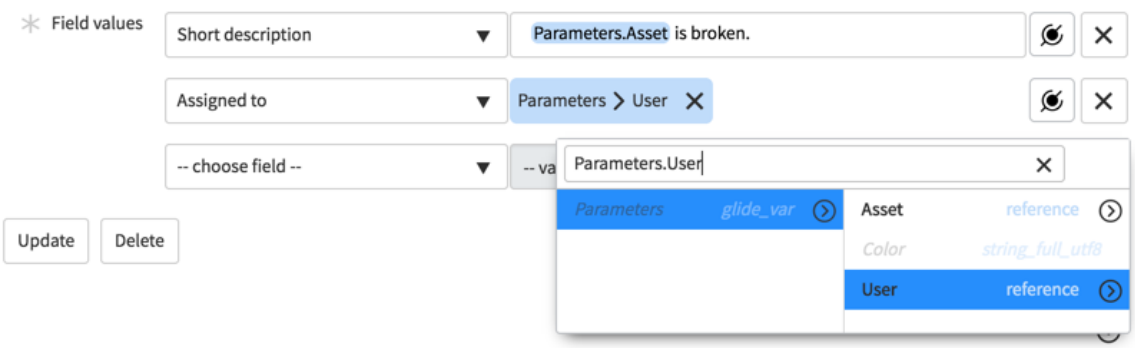
- パラメーター化されたテストの作成
- 必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて

注: [サーバー側スクリプトを実行] テストステップは、パラメーター化されたテストではサポートされません。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. パラメーター化されたテストを開きます。
3. [ストステップ] 関連リストで、テストステップを作成するか、既存のステップを開きます。
4. をクリックし、パラメーターを選択してフィールドに追加します。
   パラメーターがフィールドに表示されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
テストが実行されるときに、自動テストフレームワーク (ATF) はパラメーターをテスト実行データに置き換えます。

次のタスク
パラメーター化されたデータセットの追加。

パラメーター化されたデータセットの追加
テストデータを追加またはインポートして、パラメーターのランタイム値を指定します。

始める前に
- パラメーター化されたテストの作成
- テストステップへのパラメーターの追加
- 必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて
データセットは、テスト実行データセットとも呼ばれ、テストの実行時に使用されるランタイムデータが含まれています。現在のテストで使用可能なすべてのパラメーターの値を設定できます。データセットは、テスト実行中のパラメーター値を指定します。

テスト設計者は、データセットを手動で追加するか、またはファイルからデータをインポートすることができます。

注: カスタム UI テストステップを含むパラメーター化されたテストを作成した場合、システムは最初のデータセットのみを使用してコンポーネントを取得します。

手順
1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. パラメーター化されたテストを開きます。
3. [テスト実行データセット] 関連リストで、データセットを追加またはインポートします。

オプション	説明
追加	[新規パラメーター値の設定] フォームが開きます。このフォームには、現在のテストで利用可能なすべてのパラメーターが含まれています。 **a.** データセットの実行順序を設定する [順序] フィールドを定義します。 **b.** テスト実行時にパラメーター値を指定します。 **c.** [送信] をクリックします。
インポート	[テスト実行データセットをインポート (Import Test Run Data Sets)] フォームが開きます。 **a.** インポート動作を定義します。 ▪ [追加]：ファイル内のデータを「テスト実行データセット」テーブルの既存のテスト実行データセットに追加します。詳細については、「テンプレートにレコードを追加する」を参照してください。 ▪ [置換 **(Replace)**]：「テスト実行データセット」テーブルに既存のデータセットが含まれているテンプレートをダウンロードします。「テスト実行データセッ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	ト」テーブル内の一致する Sys ID を持つすべての既存のデータセットを、アップロードされたファイルのデータと置き換えます。詳細については、「テンプレートのレコードを更新する」を参照してください。 **b.** [テストの実行データファイルをアップロードします] セクションで、[はい] を選択して、必要なフィールドを含む Excel テンプレートをダウンロードし、完了したファイルをアップロードします。または、[いいえ] を選択して、完了したファイルをアップロードします。 ファイルの各行は、「テスト実行データセット」テーブルのエントリになります。

次のタスク
[テストを実行] をクリックします。 自動テストフレームワーク (ATF) は、同じテストステップと実行順序を使用して、パラメーター化された各テストをデータセットごとに 1 回実行します。たとえば、パラメーター化されたテストに 5 つのデータセットがある場合、自動テストフレームワーク (ATF) はデータセットごとに 1 回ずつ、全部で 5 回のテストを実行します。

パラメーター化されたテストでは、データセットの実行順序でテスト結果が表示されます。テストの詳細を表示するには、各テスト結果レコードを開きます。

許可されたクライアントエラー

既知のクライアントエラーを許可されたクライアントエラーリストに追加して、特定のエラーが発生したときにテストとステップを引き続き実行できるようにします。レポートレベルを設定して、今後のテストでエラーが発生したときの 自動テストフレームワーク (ATF) の動作を指定します。

クライアントエラーを許可するシナリオ

テスト設計者と開発者は、通常、クライアント側の JavaScript エラーを許可して、特定のタイプの既知の障害がテストの設計と結果に影響を与えないようにします。クライアントエラーが許可されるシナリオには、次のようなものがあります。

時間の制約
: 開発者が問題を調査して解決するまで、クライアントエラーを一時的に許可します。たとえば、長期にわたるバグを含む古いフォームをテストする場合などです。

古いライブラリの影響を最小限に抑える
: 修正することができない、または将来のテスト実行への影響を排除するために操作に重要でないクライアントエラーを無視します。たとえば、古いライブラリーのバグを見つけたときなどです。

テストデザインの時間
: テストを作成してエラーを調査するまで、一時的にクライアントエラーを許可します。たとえば、開発者の１人がUIポリシーを変更し、その変更によってエラーが発生します。

プラットフォームのバグの可能性
: 修正が利用可能になるまで、一時的にクライアントエラーを許可します。プラットフォームのバグをServiceNowテクニカルサポートにレポートする前に、エラーを調査し、カスタマイズエラーではないことを確認し、関連するプラットフォームのバグの種類を特定します。たとえば、UIポリシーはテスト中にエラーを生成します。調査では、問題がカスタマイズエラーではないことが確認され、UIポリシーでプラットフォームの問題が特定されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 許可されたクライアントエラーリストにクライアントエラーを追加すると、テストフレームワークはテストを続行できますが、テストの合格は保証されません。 テストデザイナーと開発者は、常にクライアントエラーを調査して、ビジネスプロセスに問題があるかどうかを判断する必要があります。詳細については、「クライアントエラーの特定と解決」を参照してください。

許可されたクライアントエラーのレポートレベル

レポートレベルは、テストフレームワークが将来のエラーの発生を警告として報告するのか、それとも無視するのかを示します。許可されたエラーのレポートレベルはいつでも変更できます。たとえば、最初に警告としてエラーを追加した場合、後でレポートレベルを無視して変更するできます。

レポートレベル	説明
Warning	許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功（警告あり)] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。
無視	許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。

合わせ手続き

自動テストフレームワーク (ATF) は、完全な文字列一致ではなく、包含検索を使用して、許可されたクライアントエラーを特定します。許可されたクライアントエラー [sys_atf_whitelist] レコードからのメッセージがクライアントエラーに含まれている場合、一致となります。たとえば、エラーメッセージ「テストメッセージ」に対して [無視] のレポートレベルで [許可されたクライアントエラー] レコードを作成すると、この文字列を含むすべてのクライアントエラーは無視されます。

注: 許可されたクライアントエラーレコードを作成または変更すると、クライアントテストランナーは自動的に更新されます。

クライアントエラーの特定と解決

クライアントエラーが発生すると、自動テストフレームワーク (ATF) はエラーが発生したときに実行されていたステップでテストに失敗します。

テスト結果からクライアントエラーを許可

テスト結果を確認してクライアントエラーを許可します。

始める前に

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて

複数または個々のクライアントエラーを許可できます。クライアントエラーごとに、クライアントエラーの今後のインスタンスをレポートする方法を決定する必要があります。レポートレベルのオプションは次のとおりです。

- 警告：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功（警告あり)] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。
- 無視：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト結果] に移動します。
2. 特定のテストのテスト結果を選択します。
   テスト結果レコードが表示されます。
3. 関連リンクから、次のいずれかのオプションを選択できます。
   - [すべてのクライアントエラーを警告リストに追加]：このテストのすべてのクライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。
   - [すべてのクライアントエラーを無視リストに追加]：このテストのすべてクライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。

   自動テストフレームワーク (ATF) は、選択されたクライアントエラーを許可し、フォームの上部にステータスメッセージを表示します。

関連情報

許可されたクライアントエラー

ステップ結果からクライアントエラーを許可

ステップ結果を確認してクライアントエラーを許可します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて
複数または個々のクライアントエラーを許可できます。クライアントエラーごとに、クライアントエラーの今後のインスタンスをレポートする方法を決定する必要があります。レポートレベルのオプションは次のとおりです。

- 警告：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功（警告あり）] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。
- 無視：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト結果] に移動します。
2. 特定のテストのテスト結果を選択します。
   テスト結果レコードが表示されます。
3. 許可するクライアントエラーを選択します。

オプション	説明
ステップ結果関連リストの具体的なステップ結果	**a.** [ステップ結果] 関連リストで、許可するクライアントエラーを含むステップ結果を右クリックします。 **b.** コンテキストメニューから、次のいずれかのオプションを選択します： ▪ [すべてのクライアントエラーを警告リストに追加]：このステップのすべてのクライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。 ▪ [すべてのクライアントエラーを無視リストに追加]：このステップのすべてクライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
ステップ結果関連リストからの複数ステップ結果	**a.** [ステップ結果] 関連リストで、許可するクライアントエラーを含む各ステップ結果の最初の列にあるチェックボックスをオンにします。 **b.** 必要に応じて、リストから次のいずれかのオプションを選択します。 ▪ [すべてのクライアントエラーを警告リストに追加]：このステップのすべてのクライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。 ▪ [すべてのクライアントエラーを無視リストに追加]：このステップのすべてクライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。
ステップ結果レコードの具体的なステップ結果	**a.** [ステップ結果] 関連リストで、許可するクライアントエラーを含む [ステップ結果] レコードを選択します。 **b.** 関連リンクから、次のいずれかのオプションを選択できます。 ▪ [すべてのクライアントエラーを警告リストに追加]：このステップのすべてのクライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。 ▪ [すべてのクライアントエラーを無視リストに追加]：このステップのすべてクライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。

自動テストフレームワーク (ATF) は、選択されたクライアントエラーを許可し、フォームの上部にステータスメッセージを表示します。

関連情報

許可されたクライアントエラー

テストログからクライアントエラーを許可

テストログを確認してクライアントエラーを許可します。

始める前に

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて

複数または個々のクライアントエラーを許可できます。クライアントエラーごとに、クライアントエラーの今後のインスタンスをレポートする方法を決定する必要があります。レポートレベルのオプションは次のとおりです。

- 警告：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功（警告あり）] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。
- 無視：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト結果] に移動します。
2. 特定のテストのテスト結果を選択します。
   テスト結果レコードが表示されます。
3. 許可するクライアントエラーを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
テストログ関連リストからの特定のテストログ	**a.** [テストログ] 関連リストで、許可するテストログのクライアントエラーを右クリックします。 **b.** コンテキストメニューから、次のいずれかのオプションを選択します： ▪ [クライアントエラーを無視リストに追加]：クライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。 ▪ [クライアントエラーを警告リストに追加]：クライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。
テストログ関連リストからの複数のテストログ	**a.** [テストログ] 関連リストで、許可する各テストログクライアントエラーの最初の列にあるチェックボックスをオンにします。 **b.** 必要に応じて、 リストから次のいずれかのオプションを選択します： ▪ [クライアントエラーを無視リストに追加]：クライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。 ▪ [クライアントエラーを警告リストに追加]：クライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。
テスト結果アイテムレコードからの特定のテストログ	**a.** [テストログ] 関連リストで、許可するクライアントエラーを含むテストログ ([テスト結果] アイテムレコード) を選択します。 **b.** 関連リンクから、次のいずれかのオプションを選択できます。 ▪ [すべてのクライアントエラーを警告リストに追加]：このステップのすべてのクライアントエラーを [警告] のレポートレベルで許可します。 ▪ [すべてのクライアントエラーを無視リストに追加]：このステップのすべてクライアントエラーを [無視] のレポートレベルで許可します。

自動テストフレームワーク (ATF) は、選択されたクライアントエラーを許可し、フォームの上部にステータスメッセージを表示します。

関連情報

許可されたクライアントエラー

クライアントエラーを手動で許可

必要に応じて、[許可されたクライアントエラー] テーブルで、許可されるクライアントエラーエントリを手動で作成します。

始める前に

必要なロール：atf_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて

通常は、テスト結果、ステップ結果、またはテストログから直接クライアントエラーを許可しますが、手動で許可することもできます。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [実行] > [許可されたクライアントエラー] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[許可されたクライアントエラー] フォーム

フィールド	説明
レポートレベル	クライアントエラーが発生した場合に実行するレポートアクション。次のオプションが含まれます。 ◦警告 - ステップおよびテストが成功 (警告あり) を報告します。：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功（警告あり)] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。 ◦無視 - ステップおよびテストの成功を報告します。：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。
アクティブ	クライアントエラーの許可を有効または無効にするチェックボックス。
エラーメッセージ	許可するクライアントエラーのメッセージ。
説明	許可するエラーの説明。このクライアントエラーがテスト結果、ステップ結果、またはテストログから許可された場合、テストログの説明がこのフィールドにコピーされます。

4. [送信] をクリックします。

関連情報

許可されたクライアントエラー

自動テストの進行状況の表示

自動化されたテストが実行されているときは、テストの進行状況ダイアログで進行状況を確認します。

始める前に

システムはテストを実行している必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

このタスクについて

テストまたはテストスイートを実行すると、テスト実行の進行状況ダイアログが自動的に表示されます。このダイアログを閉じると、現在実行中のテストまたはテストスイートの結果リストまたは結果ページから再表示できます。

手順

1. 必要に応じて、現在実行中のテストまたはテストスイートのテスト結果リストまたはテスト結果ページに移動します。
   - システムが現在テストスイートを実行している場合は、[自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [スイート結果] に移動します。必要に応じて、実行中のテストスイートの行をクリックすると、そのテストスイートのスイート結果ページが表示します。
   - システムが現在テストスイートに含まれていないテストを実行している場合は、[自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [テスト結果] に移動します。必要に応じて、実行中のテストの行をクリックすると、そのテストのテスト結果ページが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. テストの実行ダイアログを表示します。
   - 現在、テスト結果ページまたはスイート結果ページが表示されている場合は、関連リンクの下にある 進行状況を表示をクリックします。
   - 現在、[テスト結果] リストまたは [スイート結果] リストを表示している場合は、実行中のテストまたはテストスイートの行を右クリックしてから、[進行状況の表示] をクリックします。

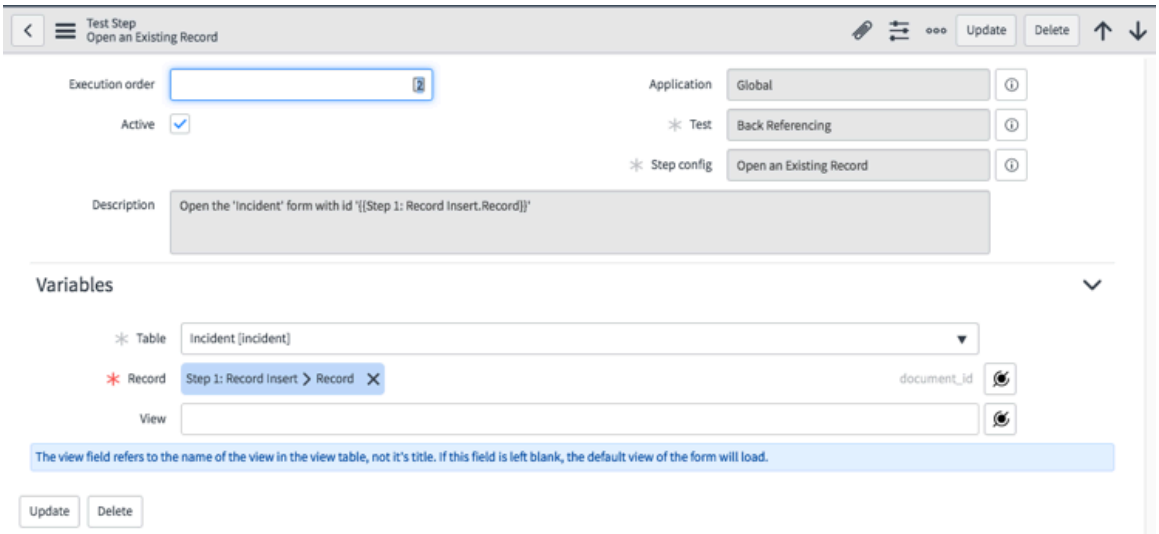
１つの自動テストステップから別の自動テストステップにデータを渡す

いくつかの自動テスト ステップでは、後続のステップへの入力として使用できるデータを作成します。

あるテスト ステップから別のテスト ステップにデータを渡すには、入力変数そして出力変数を用います。

用語入力変数はステップに関連付けられたフィールド値の別の名前です。これらの値は、ステップがそのタスクを完了するために必要な入力を提供するため、入力変数です。たとえば、[フォームを開く (Open Form)] ステップには、[テーブル]、[レコード]、[表示] の入力変数があります。

入力変数を示すテスト ステップの例



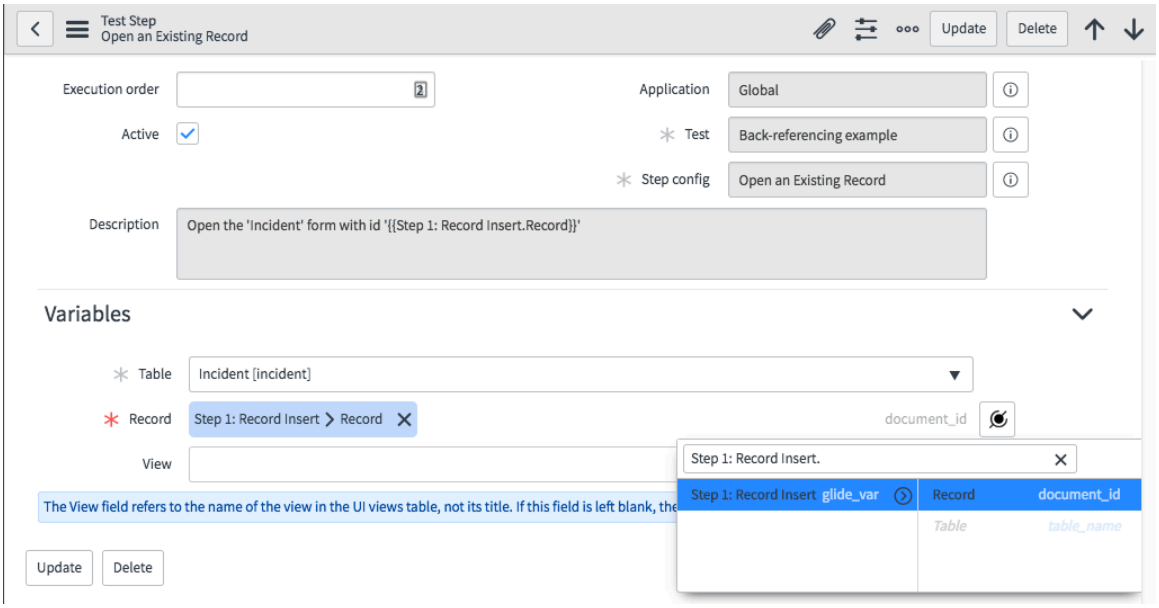
一部のステップタイプには出力変数もあります。これらは、同じテストの後のステップで入力として使用できる値です。たとえば、レコードの挿入ステップには、新しく作成されたレコードの sys_id を含むレコードと呼ばれる出力変数があります。

注: 入力データは、`.csv` ファイルなどの外部ソースから自動テストケースに渡すこともできます。

テストステップフォームは、テストステップに出力変数があるかどうかを示しません。指定された入力変数に値を提供できる出力変数があるかどうかは、簡単に判断できます。あるステップの出力変数の値を現在のステップの入力変数にマッピングできる場合は、その入力フィールドの右側に、マッピングアイコン ( ) が表示されます。変数マッピングアイコンをクリックすると、前の手順で使用可能な出力変数にアクセスするためのツリーが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力変数を示すテストステップの例



出力変数の値を別のステップの入力変数に割り当てる方法については、1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡すを参照してください。

入力変数と出力変数を使用して変数を渡すテストの例については、「自動テストフレームワーク (ATF) ユースケース：前のステップの値の参照」を参照してください。

1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡す

フォームフィールドに前のステップから戻った 出力変数 の値を割り当てます。

始める前に

適切な 出力変数 を返す前のテスト ステップが必要です。

必要なロール：admin、atf_test_admin、atf_test_designer

手順

1. 値をアサインするフィールドの右側にある 入力値アイコン ( ) をクリックします。
   入力値 マッピングコントロールは、出力変数 を作成する前のステップをリストします。前のステップで 出力変数 が作成されていない場合、コントロールには「 表示する要素がありません 」というメッセージが表示されます。
2. 入力として使いたいと思う 出力変数 を含むステップの行をクリックします。
3. 使いたい 出力変数 をクリックします。
   出力変数 が Glide レコードの ID である場合、コントロールはこのレコードのフィールドへのアクセスを提供するツリーピッカーを表示します。
4. ツリーピッカー階層を移動し、目的の値を見つけて選択します。

関連情報

自動テストフレームワーク (ATF) ユースケース：前のステップの値の参照

自動テストスイートのビルドと実行

特定の順序でテストのグループを実行して、アプリケーションまたは関連する機能のグループをテストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストスイートには個々のテストやその他のテストスイートを含むことができます。別のテストスイートを含むテストスイートは親と呼ばれ、親の中に含まれているテストスイートは子と呼ばれます。テストスイートは個々のテストとテストスイートの両方を子として持つことができますが、テストはその他のテストを子として持つことはできません。テストにはテストステップのみを含めることができます。

利点

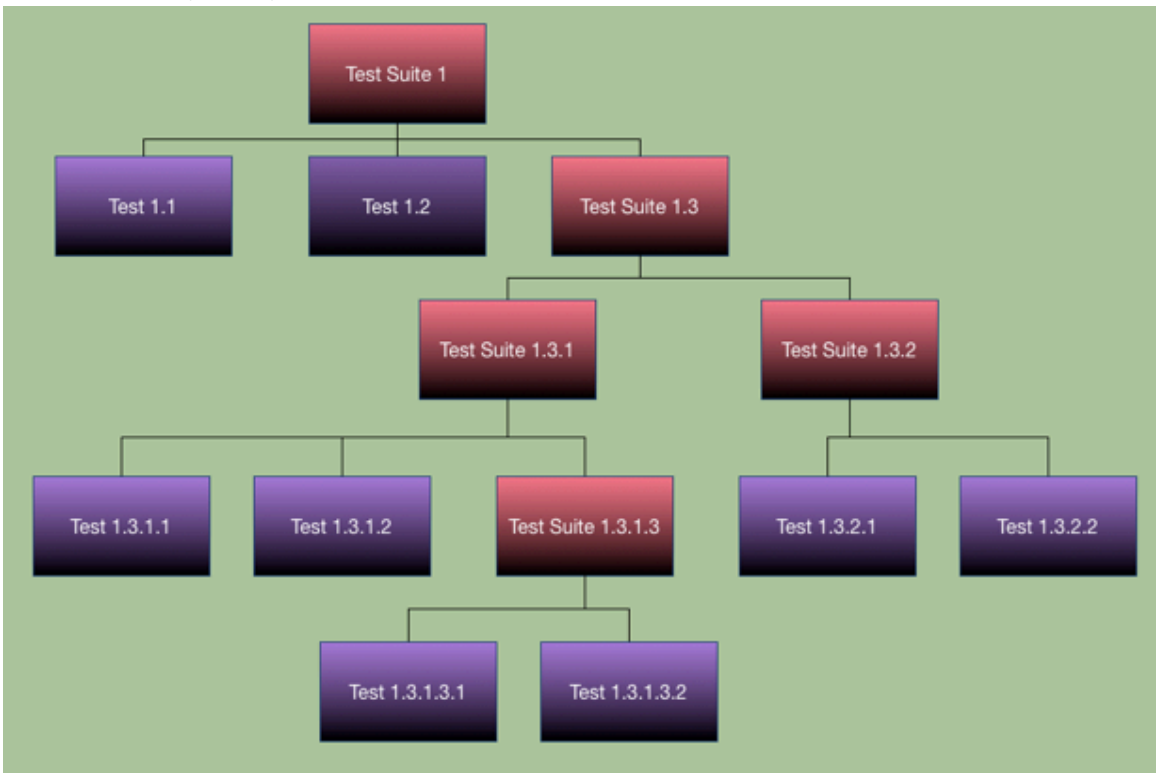
テストをテストスイートにグループ化すると、これらの利点が得られます。

- テスト担当者はテストスイート内のすべてのテストを 1 回のアクションで実行できます。
- テスト担当者は親テストスイート内のすべての子テストスイートを実行できます。
- テスト担当者はテストスイート内のすべてのテストのテスト結果を確認できます。
- テスト設計者とテスト担当者はテストスイートを実行するタイミングをスケジュールできます。
- テスト設計者とテスト担当者は、テスト実行をサポートするクライアントテストランナーの開始をスケジュールできます。

階層

自動テストフレームワーク (ATF) は、テストスイートが親と子の両方になることができる複数レベルの階層のビルドをサポートします。たとえば、この図は階層の最上位の親としての Test Suite 1 を示しています。Test Suite 1.3 は Test Suite 1 の子であり、Test Suite 1.3.1 および Test Suite 1.3.2 の親でもあります。

テストスイート階層の例



スケジュール

テストスイートをスケジュールするには、次の3 つのコンポーネントが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テストスイートレコード
- システムにテストスイートを実行させる時刻を指定するスケジュールレコード
- テストスイートを、それを実行するスケジュールと関連付けるスケジュールされたスイート実行レコード

このモデルでは、さまざまなテストスイートにスケジュールを関連付けることができます。

注: スケジュールできるのは、個々のテストではなくテストスイートのみです。スケジュール済みのテストは、スケジュール済みのスイートのブラウザー条件に一致するスケジュール済みのクライアントテストランナーページが開いている場合にのみ実行されます。スケジュール済みのテストは、ロックされている、電源が切れている、またはブラウザが開いていないマシンでは実行できません。

テストスイート実行レコードのウォッチリストでは、システムがテストスイート実行を完了したときに、ユーザーが電子メールを受け取るように指定することもできます。

テストスイートに 1 つ以上のフォームステップ(ユーザーインターフェイスを含むステップ)が含まれている場合は、スケジュールでスイートを実行する時に、スケジュール済みのクライアントテスト ランナーがブラウザでアクティブに実行されていることを保証する必要があります。

注: クライアントテスト ランナーを実行するための推奨事項と要件については、ブラウザの推奨事項と要件を参照してください。

テストスイートをスケジュールする方法のステップについては、「自動テストスイートのスケジュール」を参照してください。

フィルター

フィルターを使用して、テストがフィルター条件に一致したときにテストをテストスイートに動的に追加することで、テストスイートの作成を自動化します。テストデザイナーが手動でテストスイートを作成して維持するために費やす時間を短縮します。

関連情報

スイート

ステップ結果レコード

自動テストスイートの作成

自動テストをバッチとして実行できるスイートにグループ化します。

始める前に
テストスイートに含めるテストは、存在している必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [スイート] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   システムは、テスト スイートの新しいレコードフォームを表示します。
3. 名フィールドで、このスイートの名前を入力します。
4. このスイートに含めるテストを選択します。

オプション	説明
フィルター	フィルターを使用してテストを動的に追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	a. [フィルター] フィールドで、条件ビルダーを使用して、テストスイートに含めるためにテストが一致する必要がある条件を作成します。 **b.** [保存] をクリックします。 フィルター条件に一致するすべてのテストが [テストスイートテスト] 関連リストに表示されます。スイートは動的なので、条件に一致する新しいテストがあれば自動的にスイートに追加されます。
テストスイートテスト	手動でテストを追加します。 **a.** [テストスイートテスト] 関連リストで、[新しい行を挿入する...] をクリックします。 **b.** テストフィールドで、このテストスイートに追加するテストの名前を入力します。

5. 説明フィールドで、このテストスイートの説明を入力します。
6. [テストスイートテスト] 関連リストで、テストに対するオプションを指定します。

オプション	説明
実行順序	このテストがテストスイート内で実行される順序を指定する値を入力します。
失敗時に中止	このテストが失敗した場合にテストスイートを停止するか続行するかを示す値を入力します。 ◦ デフォルトでは、システムがこのフィールドに**false**値を割り当てます。このテストが失敗しても、システムはテストスイート内でそれ以降のテストを実行します。 ◦ このテストが失敗した場合にテストスイートを停止するには、値を **true** に設定します。

7. このテストスイートに含めるすべてのテストについて、手順 4 ～ 6 を繰り返します。
8. [送信] をクリックします。

自動テストスイートのコピー

テストスイート全体をコピーすることで、テストの作成時間を短縮します。コピー後にテストスイートの名前を変更し、さらに変更を加えます。テストスイートフォームの [テストスイートをコピー] ボタンは、テストスイート内のすべてのネストされたテストと子テストスイートをコピーします。

始める前に

必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

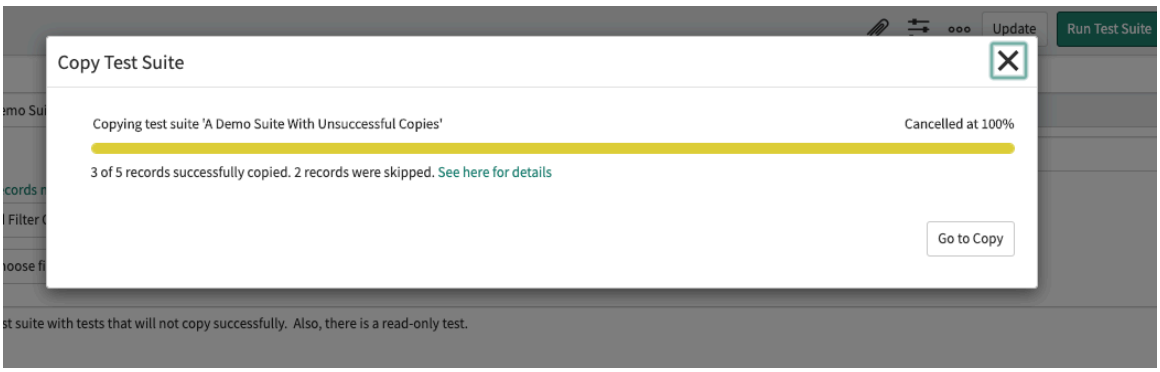
1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [スイート] に移動します。
2. コピーするテストスイートを含む行を選択します。
3. テストスイートフォームの上隅付近にある [テストスイートをコピー] を選択します。
   ステータスを確認するための進捗状況トラッカーが表示されます。[コピーに移動 **(Go to Copy)]** を選択すると、[名前] 以外はコピーしたレコードと同じ新しいテストスイートレコードが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

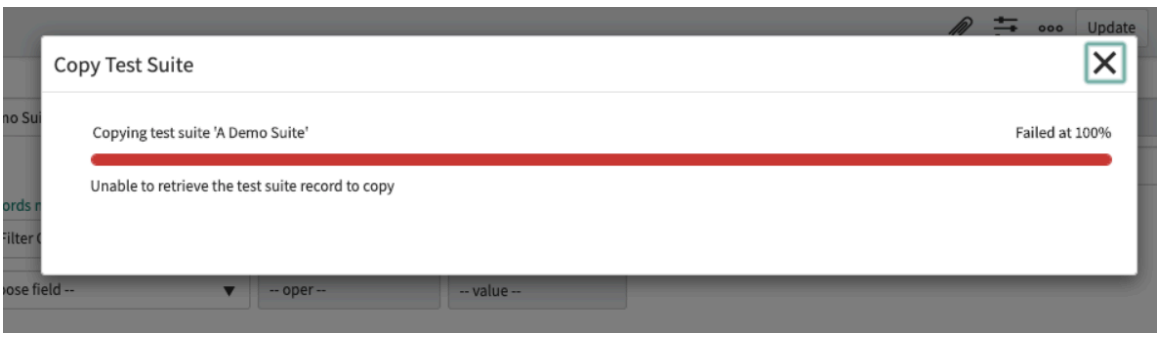
注: フィルター条件を適用すると、条件が満たされた場合に、コピーされたテストがテストスイートに追加されます。

テストまたは子テストスイートがコピーに失敗すると、それらはスキップされ、残りのテストと子のテストスイートのコピーが続行されます。部分的に成功したことを示す警告メッセージが進捗状況バーの下に表示されます。

注: テストスイートは、現在のスコープと同じスコープ内にある場合にのみコピーできます。[テストスイートをコピー] ボタンは、テストスイートが同じスコープ内にある場合にのみ表示されます。スイート内のテストのスコープは、テストスイートをコピーするときに保持されます。詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。



コピー操作に失敗した場合は、進捗状況バーの下にエラーメッセージが表示されます。



4. [名前] フィールドで、この新しいテストスイートにアサインする名前を入力します。
5. コピーしたテストスイート内のテストとテストスイートを編集します。
6. 変更が完了したら、[更新] をクリックします。

タスクの結果
すべてのネストされたテストおよび子テストスイートとともに、テストスイートのコピーが作成されます。

フィルターを使用したスイートへのテストの追加

フィルターを使用して、テストがフィルター条件に一致したときにテストをテストスイートに動的に追加することで、テストスイートの作成を自動化します。テストデザイナーが手動でテストスイートを作成して維持するために費やす時間を短縮します。

始める前に
テストスイートに含めるテストは、存在している必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [スイート] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   システムは、テスト スイートの新しいレコードフォームを表示します。
3. 名フィールドで、このスイートの名前を入力します。
4. [フィルター] に対して、条件ビルダーを使用して、テストスイートに追加するためにテストが満たす必要がある条件を指定します。

   注: フィルター条件が設定されていない場合は無視され、スイートを手動でビルドできます。

5. [保存] をクリックします。

タスクの結果

フィルター条件に一致するすべてのテストが [テストスイートテスト] 関連リストに表示されます。スイートは動的なので、条件に一致する新しいテストがあれば自動的にスイートに追加されます。

既存の自動テストスイートへのテストの追加

すでに存在するテストスイートにテストを追加します。

始める前に

テストスイートに含めるテストとテストスイートは、存在している必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [スイート] に移動します。
2. テストスイートが含まれている行をクリックします。
   システムは、テストスイートフォームを表示します。
3. [テストスイートテスト] 関連リストで、[新しい行を挿入する...] をクリックします。
4. テストフィールドで、このテストスイートに追加するテストの名前を入力します。
5. 注文フィールドで、このテストがテストスイート内で実行される順序を決定する値を入力します。
   デフォルトでは、テストを追加する順序に従ってこのフィールドに値が割り当てられます。
6. この行の失敗時の中止フィールドで、この個別テストが失敗した場合にテストスイートを停止するか続行するかを示す値を入力します。
   デフォルトでは、システムがこのフィールドに**false**値を割り当てます。**false**はこのテストが失敗しても、システムはテストスイート内でそれ以降のテストを実行することを意味します。
7. このテストスイートに含めるすべてのテストについて、手順 3 ～ 6 を繰り返します。
8. [送信] をクリックします。

親テストスイートへの子テストスイートの追加

親テストスイート内に子テストスイートを組み込んで、複数レベルのテストスイートを追加します。

始める前に

親のテストスイートは存在していなければなりません。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [スイート] に移動します。
2. 子テストスイートにアクセスします。
   - 子テストスイートが存在する場合は、編集のために子テストスイートフォームを開きます。
   - 子テストスイートがまだ存在しない場合はそれを作成します。
3. [親スイート] フィールドのテストスイートに、この子の親として機能させるテストスイートの名前を入力します。
4. 必要に応じて、1つまたは複数のテストを子テストスイートに追加します。
5. [送信] をクリックします。

自動テストスイートの実行

自動化されたテストスイートを作成した後、非本番インスタンスで実行します。

始める前に

実行したいテストスイートを作成しておく必要があります。
テスト実行プロパティを有効にする必要があります。これを行うには、adminまたはatf_test_adminロールが必要です。

> **注:** 本番システムでテストを実行できないようにするために、テスト実行プロパティはデフォルトでは無効になっています。開発、テスト、およびその他の準本番インスタンスでのみテストを実行してください。

必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて

この手順では、テストスイートを手動で開始する方法を概説します。テストスイートを後で実行するようにスケジュールすることもできます。詳細については、「スケジュール済みのテストスイートの操作」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [スイート] に移動します。
2. テストスイートリストを表示する必要がある場合は、テストスイート をクリックします。
3. 実行するテストスイートを含む行をクリックします。
   システムは、テストスイートフォームを表示します。
4. テストスイートの実行をクリックします。

   > **注:** テスト実行プロパティが有効でない場合、[実行スイート] ボタンが表示されません。このケースでは、フォーム上部の注釈を参照し、リンクをクリックして、テスト実行を有効にします。

   テストスイートに関連するテストにフォームステップ (UI を含む任意のステップ) が含まれる場合、または他の種類の UI テストステップ が絡む場合、テストを実行する前にブラウザを選ぶダイアログが表示されます。

5. 現在実行中のテストクライアントの中から選択するか、新しいランナーを開始します。

   詳細についてはすべてのテストおよびスイートのためのブラウザ推奨を参照してください。

   テストスイートがサーバーテストステップのみを含むテストスイートに関連する場合、システムは [ブラウザを選択] ダイアログを表示せずにテストを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
テストの進捗状況を監視します。完了したら、進捗ダイアログウィンドウで [結果に移動 **(Go to results)**] をクリックして [テスト結果] リストを表示し、そこで結果を表示して分析できます。

自動テストスイートのスケジュール

1 つまたは複数のテストスイートを特定の日時に実行するようにスケジュールします。

始める前に
スケジュールを設定するテストスイートを作成しておく必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

このタスクについて
テストスイートをスケジュールするには、次の3 つのコンポーネントが必要です。

- テストスイートレコード
- システムにテストスイートを実行させる時刻を指定するスケジュールレコード
- テストスイートを、それを実行するスケジュールと関連付けるスケジュールされたスイート実行レコード

スケジュールされたテストスイートの機能と要件の詳細については、スケジュール済みのテストスイートの操作 を参照してください。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [スケジュール] に移動します。
   既存のテストスイートスケジュールのリストが表示されます。
2. 新規のスケジュールを作成するには、新規をクリックします。
   スイートスケジュールレコードフォームが表示されます。
3. スイートスケジュールレコードフォーム上で、スケジュールの名前、関連するスイートを実行する頻度、関連するスイートを実行する時間、およびこのスケジュールのタイムゾーンを入力します。
4. オプション: [条件付き] を選択して関連するテストスイートを実行するために満たす必要のある条件を指定し、[条件] テキストボックスに適切なスクリプトを入力します。
5. [スケジュール済みのスイート] 関連リストに移動し、[新規] をクリックして、実行するテストスイートを追加します。
   システムは [スケジュール済みのスイート実行] レコードフォームを表示します。
6. スケジュールされたスイートランレコードフォームに適切なデータを入力します。

   a. 実行するテストスイートを入力します。

   b. スイートにUI手順が含まれている場合は、適用するクライアント制約(ブラウザの使用など)を入力します。
   クライアントの制約の詳細については、スケジュールされたスイートランを参照してください。

   c. スケジュールされたスイートが終了したときに、システムに (メールで) 通知するユーザーをレコードのウォッチリストに追加します。

   d. **[Submit** (送信)] をクリックします。

7. オプション: 手順 5 と 6 を繰り返して、このスケジュールにテストスイートを追加します。
8. **[Update** (更新)] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. スイートにフォームまたはクライアント側の他の要素で動作するテストステップが含まれている場合は、スケジュールされたテストのクライアント部分を実行するためのブラウザウィンドウを開きます。
   a. ブラウザーの推奨事項と要件をすべてのテストとスイート、およびスケジュールされたスイートランにのみ適用されるテストに関してレビューします。
   b. ナビゲーターで、[スケジュールされたクライアントテストランナー] を右クリックしてから、必要に応じて別のタブまたはウィンドウで開くオプションをクリックします。
   c. クライアントテストランナーを実行しているブラウザーウィンドウを開いたままにして、[ナビゲーター] を含むブラウザーウィンドウに戻ります。

スクリプトを使用したスケジュール済みテストスイートの実行

スケジュール済み UI テストスイートを、スケジュールされた時間を待つ必要なく、スクリプトを使用して即座に実行します。この方法は、テストの実行のプロセスを自動化する際に使用できます。

始める前に
実行するテストスイートを作成してスケジュールを設定しました。詳細については、「自動テストスイートの作成」および「自動テストスイートのスケジュール」を参照してください。

必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

このタスクについて
次のステップは、ソフトウェア構成と一致しない場合があります。

手順
1. 必要なブラウザーを備えたオペレーティングシステム上で仮想マシン (VM) を起動します。
2. インスタンスでブラウザーを開き、スケジュール済みのクライアントテストランナーに移動します。
3. スクリプト可能メソッド `new sn_atf.ScheduledRunsExecutor().setScheduleSysId("SYS_ATF_SCHEDULE_SYS_ID_HERE").start();` を呼び出して、スケジュール済みスイートをすぐに実行します。
   スクリプトが呼び出されたときにのみテストを実行するには、スケジュールフォームで [実行] フィールドを [オンデマンド] に設定します。

   注: `start()` メソッドは、進捗ワーカーの `sys_progress_worker.sys_id` を返します。

自動テストスイートでの失敗したテストの再実行

スイート全体を再実行せずに、不合格になったテストをテストスイート内で再実行します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin、atf_test_designer、または admin

このタスクについて
失敗したテストを含むスイートが完了した後に、[スイート結果] フォームとスイート実行進捗状況ビューアーに [不合格になったテストを再実行] ボタンが表示されます。テスト実行が無効になっている場合、スイートが非アクティブ化されている場合、スイートが合格した場合、またはユーザーが必要なロールのいずれかを持っていない場合は表示されません。

[不合格になったテストを再実行] ボタンをクリックすると、ステータスがキャンセル、スキップ、失敗、エラーのテストを含む、すべての不合格になったテストが再実行されます。それには警告のある成功状態を持つ結果が含まれません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. テストに失敗したスイートのスイート結果フォームまたはスイート実行進捗ビューアのいずれかに移動します。
2. 不合格になったテストを再実行をクリックします。
   再実行テストにフォームステップ (UI を含む任意のステップ) または他の種類の UI テストステップが含まれている場合、テストを実行する前に [ブラウザを選択] ダイアログが表示されます。
3. ダイアログボックスで、現在実行中のテストクライアントの中から選択するか、新しいランナーを開始します。
   再実行テストにサーバーテスト ステップのみが含まれている場合、システムは [ブラウザを選択] ダイアログを表示せずにテストを実行します。詳細については、「すべてのテストおよびスイートのためのブラウザ推奨」および「サーバーのテストステップ」を参照してください。

タスクの結果
システムは、失敗したテストを再実行します。

- システムは、再実行テスト用の新しいスイート結果階層を作成します。進行中の作業者、テスト結果、およびテストスイートの結果フォームは、以前のテストスイートと同じスイート階層を示します。以前実行したテストやスイートは含まれていません。
- 失敗した子スイートまたはテストを削除または無効化してから再実行すると、再実行時にそのスイートまたはテストが実行されません。
- 失敗したテストのスイートに子スイートまたはテストを追加してから再実行すると、システムは追加されたスイートまたはテストを再実行しません。

次のタスク
テストまたはスイートの前回の実行結果を表示するには、テスト結果フォームの [前回のテスト結果] またはテストスイート結果フォームの [前回のスイートの結果] をクリックします。これらのフィールドは、再実行されたテストとスイートについてのみ表示されます。

ATF テストを自動生成

テストを自動生成モジュールまたはテスト/スイートモジュールのいずれかから自動生成オプションを選択して、ATF テストを自動生成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 次のいずれかの方法を使用して、テストの自動生成機能にアクセスします。

オプション	ステップ
テストの自動生成モジュールの使用	a. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テストを自動生成] に移動します。 注: ATF Test Generator and Cloud Runner ストアアプリリンクが表示されます。テストを自動生成モジュールは、ATF Test Generator and Cloud Runner ストアアプリがインストールされていない場合にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	ステップ
	b. [ストアでアプリをチェックアウト **(Check out the app on Store)]** オプションを選択します。 **注:** ATF Test Generator and Cloud Runner ストアアプリページが表示されます。
テストまたはスイートモジュールの使用	**a.** [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [テスト] に移動します。 **注:** [テスト] の代わりに [スイート] モジュールを選択することもできます。 **b.** 下にスクロールして、[テストを自動生成] リンクを選択します。 **注:** ストアアプリがインストールされている場合は、このリンクから Test Generator のホームページに移動します。

2. オプション: ATF Test Generator and Cloud Runner ストアアプリをインストールします。

注: この手順は、ストアアプリがインスタンスにインストールされていない場合にのみ適用されます。ストアアプリをインストールするためにリダイレクトされます。

並列テスト

複数のテストとテストスイートを並列で実行することで、テストの設計時間を短縮します。リソースの競合とデータの依存関係を回避することで、並列で実行されるテストを設計します。

注: 複数のユーザーが同時にテストを開発している場合、並列テストによりテストの設計時間を短縮できます。テスト設計が完了したら、テストを単一の階層スイート構造に整理し、テストを単一の基本スイートとして実行することをお勧めします。

並列テストの制限

並列テストでは、複数の自動テストを同時に実行できます。このプロセスは、並列実行テストの数が次の式に従うまで続行されます。

```
Number of parallel tests = max(1, number of worker threads - 2)
```

注: インスタンスのワーカースレッドが 2 つ以下の場合は、構成の改善の見直しをお勧めします。

非本番インスタンスがサポートできる並列テストの実際の数は、インスタンスがプロビジョニングされたときのシステムリソースによって異なります。並列テストの制限により、インスタンスは常に他の非テストタスクが利用できるシステムリソースを確保できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テスト待機キュー

システムが並列テストの上限に達すると、テストは後で実行するように再スケジュールされます。これによりテストは、ワーカースレッドがテストを取得できるようになるまで、自動的に sys_trigger に戻されます。待機キュー内の各テストには、次回のテスト実行時のスケジュールが設定されます。

設計上の考慮事項

複数のテストとテストスイートを並列で実行して、テストの設計時間を短縮します。並列実行テストを設計することで、リソースの競合とデータの依存関係を回避します。新しく生成されたデータまたは自己作成したデータのみに依存するテストを設計するか、リソースを共有するテスト間で相互除外ルールを定義することで、リソースの競合とデータの依存関係を回避します。

並列テスト間のリソース競合の防止

独自のデータを作成するテストを実行して、リソースの競合を防止します。既存のデータを使用して実行するテストでは、同じデータを必要とする他のテストは並列で実行できません。

注: リソースの競合があるテストが複数ある場合は、「テストを相互に排他的としてマーク」を参照して、テストが並列に実行されないようにする相互除外ルールを作成します。

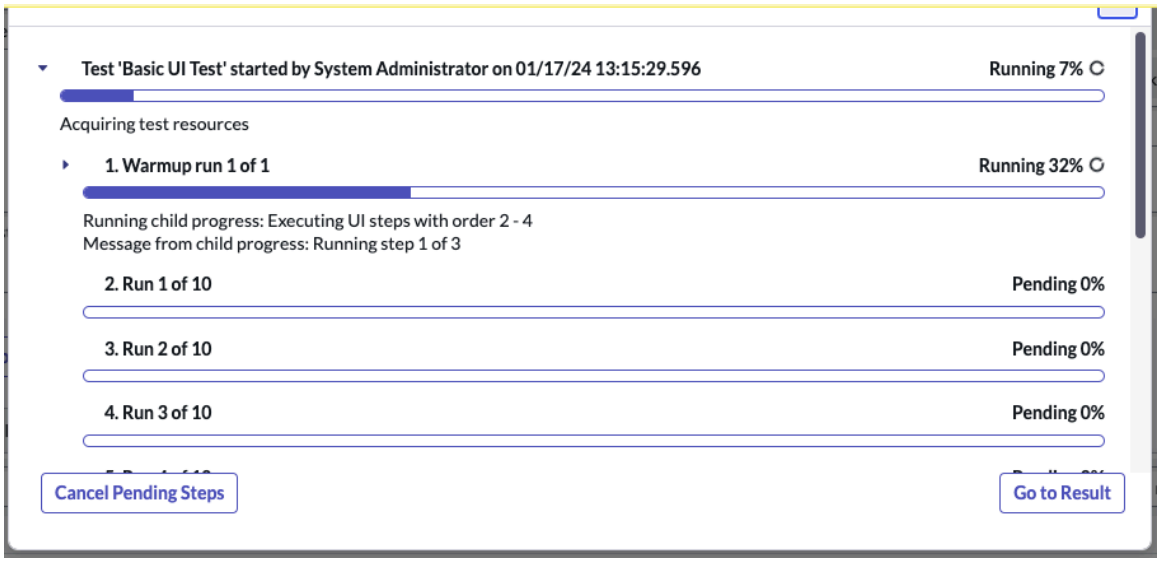
パフォーマンスプロファイリング

パフォーマンスプロファイリングを使用すると、インスタンスでパフォーマンステストを実行できます。

ATF は、インスタンスに変更が加えられたときに破損がないことを確認する機能テスト用メディアであるだけでなく、アップグレード中のパフォーマンス低下を検出することもできます。原因を把握し、調査し、パフォーマンスの問題を修正できます。

任意の ATF テストまたはスイートでパフォーマンスプロファイリングを実行できます。各テストまたはスイートのデフォルトのテスト実行は 10 です。スイートでは、各テストが 10 回連続で実行されます。最初の実行は、キャッシュ値のウォームアップに役立つウォームアップであり、テストまたはスイートの 10 回のテスト実行にはカウントされません。

注: パフォーマンスプロファイリングは、複数のテストで同時に実行することはできません。並列パフォーマンスアセスメントはサポートされていません。



注: パフォーマンステスト実行を実行すると、システムは一時停止し、進行中のジョブが完了するまで待機してから、テスト実行を開始します。これは、インスタンスの速度低下を回避するのに役立ちます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パフォーマンスプロファイリングの実行

インスタンスでのパフォーマンステストのために、テストまたはスイートに対して、パフォーマンスプロファイリングを実行します。また、インスタンスをアップグレードするときにパフォーマンスの低下を検出した場合に、問題を調査して修正することもできます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [テスト] に移動します。

   注: スイートでパフォーマンスプロファイリングを実行する場合は、スイートモジュールを選択することもできます。

   テストまたはスイートのリストが表示されます。
2. パフォーマンスプロファイリングを実行するテストを選択します。
3. [テスト] フォームで [パフォーマンステストを実行] を選択します。
   [テストを実行] モーダルが表示されます。モーダルには、選択したテストまたはスイートのウォームアップ実行と、10 回すべてのテスト実行が表示されます。テスト実行が開始されると、すべての実行を追跡できます。

   注: パフォーマンスプロファイリング用のスイートを選択した場合は、[パフォーマンススイートを実行] を選択できます。

4. 下にスクロールして、[パフォーマンステスト結果] 関連リストを選択します。
5. 必要なパフォーマンス番号を選択して、選択したパフォーマンステスト内のすべてのテスト実行の結果を表示します。
   [パフォーマンス実行] フォームが表示されます。[すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [テスト] > [パフォーマンスプロファイリング] > [パフォーマンス実行] に直接移動して、[パフォーマンス実行] フォームを表示することもできます。スクリーンショットを追加します

   注: テスト名、テスト実行のステータス、テスト実行の時間を表示できます。[ウォームアップである] の値が true の場合、これはキャッシュ値をウォームアップするために実行される最初のテスト実行です。残りのテスト実行では、[ウォームアップである] の値が false に設定されます。ウォームアップテストは、各テストまたは各スイートの 10 回のテスト実行のうちの 1 回としてカウントされません。

6. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [テスト] > [パフォーマンスプロファイリング] > [パフォーマンスの比較] に移動します。
   [パフォーマンスの比較] フォームが表示されます。<フォームのスクリーンショットを追加します>
7. 1 回目と 2 回目の実行を選択して、比較結果を表示します。
   完全なスクリーンショットを追加します。パフォーマンス平均値やデルタ平均値などの情報を表示できます。

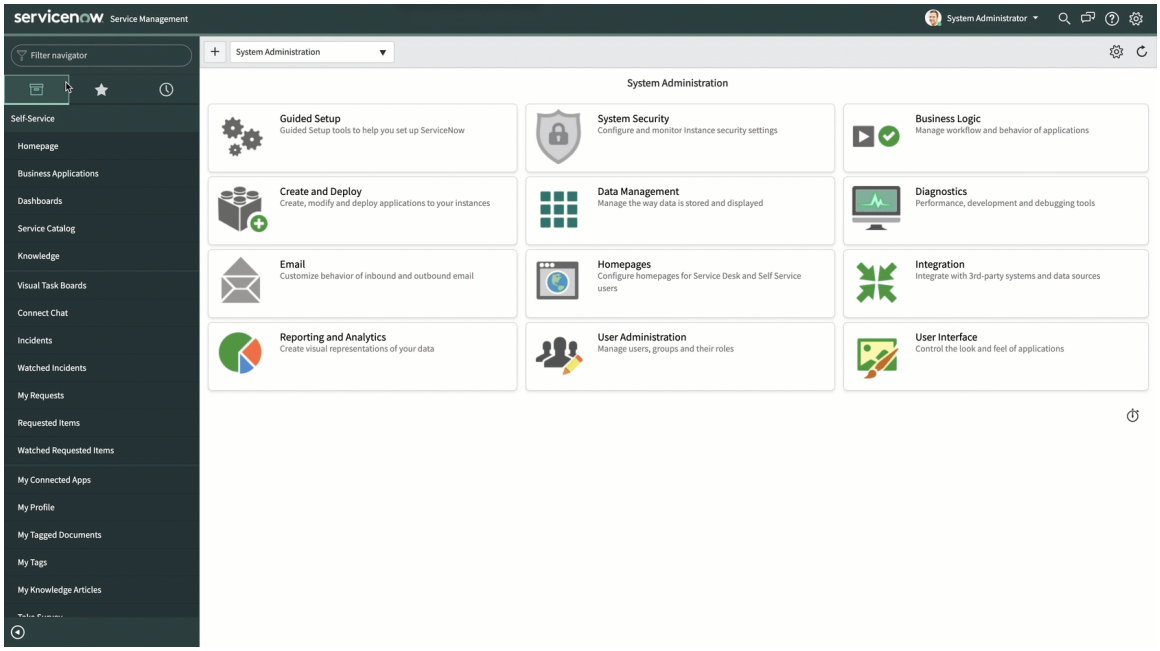
   注: 一度に比較できるテスト実行は 2 つだけです。次の比較では、前のいずれかのテスト実行を、次のテスト実行と比較するベースラインと見なすことができます。

相互に排他的なテスト

相互に排他的としてマークすることにより、競合するテストが並列で実行されないようにします。たとえば、同じレコードを変更するテストが識別されると、システムはこれらのテストを相互に排他的になるようにします。テストを相互に排他的として手動でマークすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

潜在的なリソースの競合がある場合、テストは相互に排他的であるとマークされます。システムがリソースの競合を自動的に検出できない場合は、独自の相互除外ルールを作成して、競合するテストが並列で実行されないようにすることができます。たとえば、テストで sys_properties レコードが変更された場合、そのレコードはそのテストの [変更されたレコード] の下に表示されます。別のテストの検証パスが変更なしで同じ sys_properties レコードに依存している場合、そのテストは失敗します。これは、前のテストが同時に実行された場合に発生する可能性がありま



す。

テストフォームの [相互に排他的なテスト] 関連リストで、相互に排他的なテストを表示できます。この関連リストには、現在のテストと並列で実行されないすべてのテストとその理由が表示されます。複数の理由がある場合、同じテストがリストに複数回表示されることがあります。

相互に排他的なテストの理由

テストは、次の理由で相互に排他的であるとマークされます。

- 2 つ以上のテストが同じレコードを変更する。
- それ自体と並列で実行するテストがある。
- システムがリソースの競合を自動的に検出できない場合、独自の相互除外ルールを作成できます。

テストを相互に排他的としてマーク

次のいずれかの方法を使用して、テストを相互に排他的としてマークできます。

[相互に排他的なテスト] タブ

[テスト] リストからテストを選択し、[相互に排他的なテスト] > [相互排他を追加] に移動して、選択したテストを別のテストと相互に排他的にします。

[テスト] リスト

[テスト] リストから 1 つ以上のテストを選択し、選択した行のコンテキストメニューの [アクション] から [相互に排他的なテストを追加] を選択します。[相互に排他的なテストを追加] ダイアログボックスに 1 つのテストを入力して、選択したテストを現在のテストと相互に排他的にします。

[並列テストの実行] タブ

2 つ以上のテストを並列して実行する場合は、[テスト結果] > [並列テストの実行] に移動します。1 つ以上のテストを選択し、選択した行のコンテキストメニューの [アクション] から [相互に排他的なテストを追加] を選択し、選択したテストを相互に排他的とマークします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** [並列テストの実行] タブは、テストが 1 つ以上のテストと並列で実行される場合にのみ表示されます。

自動テストフレームワーク (ATF) の設計上の考慮事項

次の設計上の考慮事項に従って、信頼性が高くスケーラブルで効率的なテストを作成します。

一般的なテスト

システムの動作を変更する可能性のある ServiceNow システムテーブル、またはアプリケーションファイル [sys_metadata] を拡張するテーブルの変更は避けてください。テスト間の予期しない結果を防ぐために、既存のレコードを使用したり変更したりしないでください。予期しない結果を引き起こす可能性のあるシステムデータ変更の、いくつかの一般的な例を次に示します。

- 既存のアカウントを代理操作する
- 既存のレコードを削除する
- ビジネスルールまたはシステムのプロパティを無効にするテストを実行する
- 既存のレコードを使用して検証する

並列テスト

複数のテストとテストスイートを並列で実行することで、テストの設計時間を短縮します。リソースの競合とデータの依存関係を回避することで、並列で実行されるテストを設計します。

並列テスト間のリソース競合の防止

独自のデータを作成するテストを実行して、リソースの競合を防止します。既存のデータを使用して実行するテストでは、同じデータを必要とする他のテストは並列で実行できません。

> **注:** リソースの競合があるテストが複数ある場合は、「テストを相互に排他的としてマーク」を参照して、それらのテストが並列に実行されないようにする相互除外ルールを作成します。

パラメーター化されたテスト

実行ごとに異なるテストデータを使用して、テストを複数回実行します。各テスト実行のテストデータを保存するパラメーターを作成します。詳細については、「パラメーター化されたテストのコンポーネント」を参照してください。

- 各テスト実行のテストデータを保存するパラメーターを作成します。
- パラメーター化されたテストが、レポート、テストスイート、およびデータロールバックなどの標準自動テストフレームワーク (ATF) 機能をサポートしていることを確認します。パラメーター化テストをコピーすると、すべてのパラメーター、テスト実行データセット、およびテストステップがコピーされます。

> **注:** カスタム UI テストステップを含むパラメーター化されたテストを作成した場合、システムは最初のデータセットのみを使用してコンポーネントを取得します。

カスタム UI テスト

HTML および JavaScript ページコンポーネントを取得し、それらがサポートするテストアクションを特定することによって、UI ページや UI マクロなどのカスタマイズされたユーザーインターフェイスをテストします。

ページインスペクターを使用してテスト可能なページコンポーネントを識別する

ページインスペクターは、どのページコンポーネントがカスタム UI テストに使用できるかを決定します。ページインスペクターに利用できないページコンポーネントは、カスタム UI テストには利用できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストするカスタム UI に移動する

ターゲットのカスタム UI に移動するには、既存のテストステップを使用します。たとえば、ナレッジベース記事をテストするには、既存のテストステップを使用してモジュールに移動するか、既存のレコードを開きます。ほとんどのカスタム UI テストでは、テストの一部として既存のテストステップカテゴリを使用する必要があります。

コンポーネント領域を使用してページコンポーネントを識別します

コンポーネント領域は、`<div>` または `<section>` 要素などのコンポーネントを含む HTML レイアウト要素を表します。この領域は、テストデザイナーがページレイアウト内の場所を指定することによってコンポーネントを区別するのに役立ちます。

Now Platform UI ではなくカスタム UI をテストする

自動テストフレームワーク (ATF) は、Now Platform 機能のカスタム UI テストを回避します。たとえば、ダッシュボードやグラフィカルデザイナーをテストすることはできません。代わりに、カスタム UI ページと要素を検証するためのテストをビルドします。これらのユーザーインターフェイスは直接制御できるからです。

HTML 属性を使用してページコンポーネントのテストプロパティを上書きする

自動テストフレームワーク (ATF) 固有の HTML 属性を使用して、特定のページコンポーネントのテストプロパティを変更します。 「コンポーネントテストアクションを上書きする」を参照してください。

テストを別のインスタンスに移動するときはページコンポーネントを再度取得する

カスタム UI テストステップは、UI コンポーネントをメタデータとして格納しません。テスト担当者がインスタンス間でテストを移動するときは、ページコンポーネントを手動で再度取得する必要があります。

本番システムからテストをクローン

テストを本番システムに移動して、テスト用に最新のインスタンスをクローン作成します。本番システムから準本番インスタンスにテストを直接コピーまたはクローン作成することで、テスト時間を短縮します。

注: デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは、実稼働システムでは実行できないように無効になっています。データの破損や機能停止を避けるため、開発、テスト、および他の非本番インスタンスでのみテストを実行してください。

すべてのテストの警告メッセージ

警告メッセージ	設計上の考慮事項
既存のユーザーを代理操作すると、このテストで予期しない動作が発生する可能性があります。代わりに「ユーザーを作成」ステップを追加することで、潜在的な問題を回避します。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。	新しいユーザーを作成して適切なロールとグループを確保し、既存のレコードを使用しないようにします。詳細については、「一般的なテスト」を参照してください。
アプリケーションファイル `[sys_metadata]` を拡張するテーブルを使用すると、並列で実行されている他のテストで予期しない動作が発生する可能性があります。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。	他のテストに影響を与える可能性があるため、アプリケーションファイルを拡張するテーブルを使用してテストを実行しないでください。詳細については、「並列テスト」を参照してください。
システムテーブルを使用すると、並列で実行されている他のテストで予期しない動作が発生す	並列で実行されている他のテストに影響を与える可能性があるため、システムテーブルの使用

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

警告メッセージ	設計上の考慮事項
る可能性があります。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。	は避けてください。詳細については、「並列テスト」を参照してください。
既存のレコードを使用すると、このテストで予期しない動作が発生する可能性があります。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。	既存のレコードは使用しないでください。これらのレコードには、テストで想定されるステータスと値が含まれていない可能性があります。テスト中に作成されたレコードを使用して、適切な状況と値を確認します。詳細については、「一般的なテスト」を参照してください。
既存のレコードを変更すると、並列で実行されている他のテストで予期しない動作が発生する可能性があります。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。	他のテストに影響を与える可能性があるため、既存のレコードは使用しないでください。テスト中に作成されたレコードを使用します。詳細については、「一般的なテスト」を参照してください。
アサーションタイプ「--なし--」を使用すると、サーバー UI アクションで予期しない動作が発生する可能性があります。アサーションタイプを設定し、タイムアウトを使用することで、潜在的な問題を回避します。テスト設計の考慮事項についてのドキュメントを参照してください。	サーバー UI アクションにより、現在のフォームが送信され、ページが再ロードされます。サーバー UI アクションの予期しない動作を回避するには、[なし] 以外のアサーションタイプを選択します。タイムアウトを設定して、次のステップに進む前に、テストがフォームの送信または未送信を必ず待機するようにします。サーバー UI アクションをテストする場合、アサーションタイプ [なし] は自動的に [サーバーにフォームを送信] に設定されます。

ドメインセパレーションテスト

ドメインセパレーションをテストする場合は、最初にドメインを設定する必要があります。各 ATF テストステップが設定中のドメインに依存する場合、これはその最初の代理操作ステップの一部になります。ドメインセパレーションの推奨プラクティスの詳細については、「サービスプロバイダー向けのドメインセパレーションの推奨プラクティス」を参照してください。

自動テストとテストスイートのキャンセル

実行中または実行待ちの自動テストおよび自動テストスイートを取り消すことができます。

自動テストまたは自動テストスイートをキャンセルする方法は、テストまたはテストスイートが現在実行されているか、または実行するためにキューに入れられているかに応じて異なります。

キューに入れられた自動テストスイートのキャンセル

キューに入れられているがまだ実行されていない自動テストスイートを取り消すことができます。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [実行] > [テスト実行の待機中/実行中] に移動します。
2. キャンセルするテストスイートのアクションチェックボックスを選択します。
3. アクション選択リストから、[削除] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストスイートで実行中および処理待ちのテストのキャンセル

実行中のスイートテストで実行中および処理待ちのテストをキャンセルします。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. 必要であれば、テストの実行の進行状況ダイアログを表示します。
2. 処理待ちの手順をキャンセルするをクリックします。
   このテストの実行をキャンセルすることを確認するダイアログが表示されます。
3. 確認ダイアログで、はいをクリックします。

タスクの結果
このテストスイート内の実行中および処理待ちのテストはすべてキャンセルされ、テストスイート内のテストが変更した可能性のあるデータはすべてロールバックされます。

自動テストの実行のキャンセル

実行テスト進行状況ダイアログから実行中のテストを取り消すことができます。

始める前に
システムはテストを実行している必要があります。
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. 必要であれば、テストの実行の進行状況ダイアログを表示します。
2. 処理待ちの手順をキャンセルするをクリックします。
   このテストの実行をキャンセルすることを確認するダイアログが表示されます。
3. 確認ダイアログで、はいをクリックします。

タスクの結果
実行中のテストがキャンセルされ、テストによるデータ変更がロールバックされます。

待機中の自動テストのキャンセル

待機/実行中テスト実行モジュールから待機中の自動テストを取り消すことができます。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [実行] > [テスト実行の待機中/実行中] に移動します。
2. キャンセルするテストのアクションチェックボックスを選択します。
3. アクション選択リストから、[削除] を選択します。

自動テストフレームワーク **(ATF)** の管理

自動テストフレームワーク (ATF) を有効または無効にし、リテンションポリシーの変更、インスタンス間のテストの移動、自動テストフレームワーク (ATF) へのユーザーアクセスの制御、およびカスタムテストステップ構成とステップ環境の作成を行います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストフレームワーク (ATF) の動作を制御する各プロパティの詳細については、「プロパティ」を参照してください。

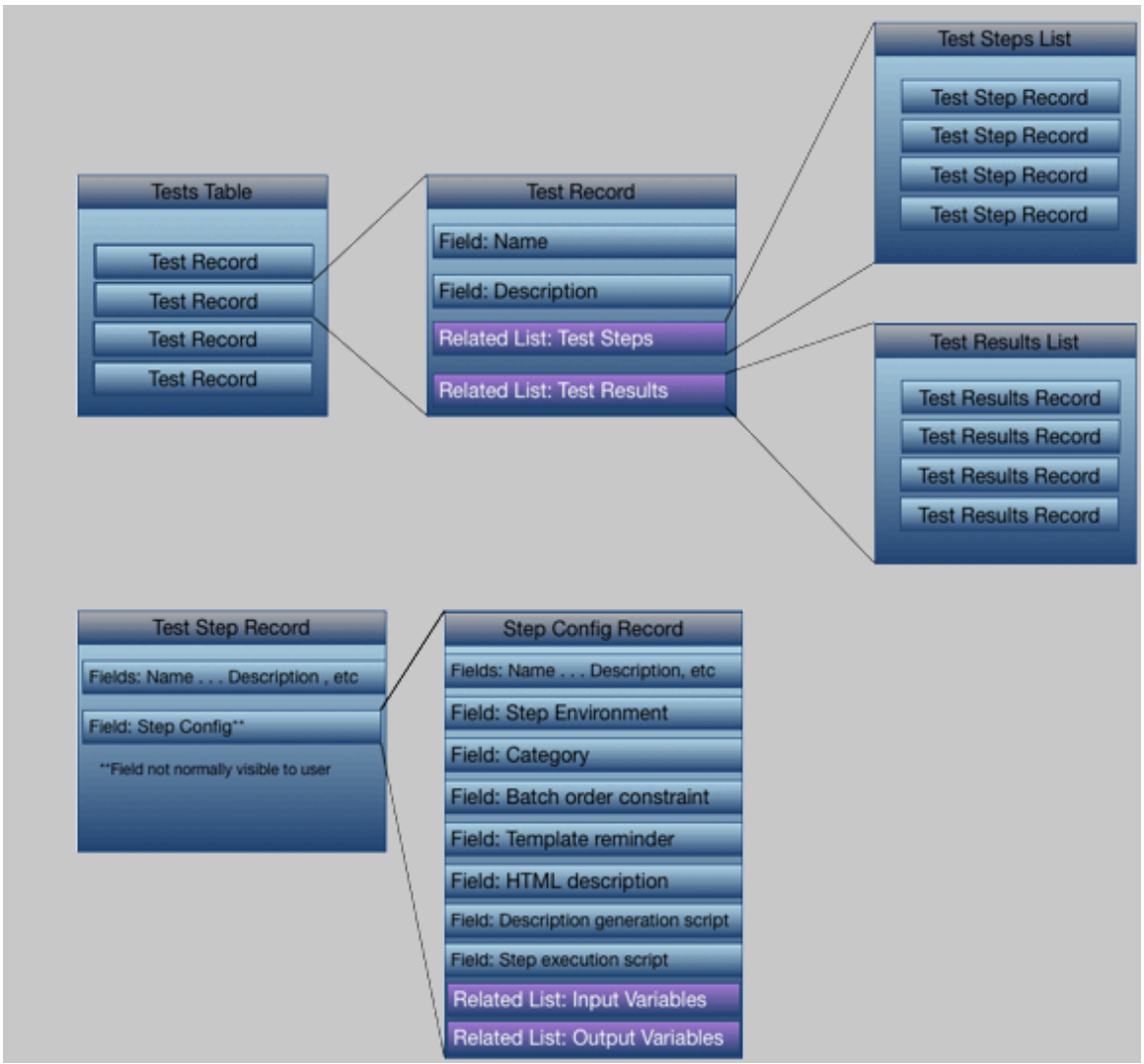
カスタムテストステップ構成の作成

ステップ設定レコード (またはステップ設定) は各ステップ タイプの振る舞いを定義します。サーバー上で実行されるカスタム ステップを定義する新しいステップ構成を作成できます。

自動テストにステップを追加すると、そのステップにはフィールド値の設定、またはレコード挿入のような定義済みのタイプがあります。各ステップ構成には、必要な入力、実行されたアクションなど、そのタイプのステップがどのように振る舞うかに影響する多くの特性があります。

これらの特性は、ステップ設定レコードのステップで定義されます。

テスト ステップアーキテクチャ



[ステップ実行スクリプト] フィールドは、この構成でステップが実行されたときにシステムが実行するアクションを決定します。

関連情報

- ステップ構成
- ステップ実行スクリプト

カスタムステップ構成の作成

サーバー上で実行される新しいステップの基礎を形成できるカスタム ステップ構成を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin

> **注:** 構成の作成はサーバーステップでのみサポートされており、UI ステップ (ブラウザで実行) はサポートされていません。また、スクリプト化されたステップのみがサポートされており、カスタム Java ベースのステップはサポートされていません。

このタスクについて
自動テストフレームワーク (ATF) は フォームを開く、値を設定、値を確認などの特定のタイプのステップが含まれています。ステップ構成モジュールでは、指定したアクションを実行するステップを作成できます。サーバー上で実行されるステップの構成のみ作成できます。ブラウザで実行されるステップの設定は作成できません。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [アドミニストレーション] > [ステップ構成] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   システムは、テスト ステップ設定フォームを表示します。
3. 名フィールドで、ステップ タイプの名前を入力します。
4. アクティブチェック済みで残します。
5. ステップ環境設定をサーバーに依存しないで残します。
   サーバー上で実行されるステップ構成のみを定義でき、ブラウザで実行されるステップ構成を定義することはできません。
6. オプション: カテゴリフィールドで、このステップを割り当てるカテゴリを選択します。
   カテゴリは、ダイアログでステップリストをフィルターにかけるために使用します。詳細については、「カテゴリフィールドの例」を参照してください。
7. オプション: バッチ注文制約フィールドで、次のいずれかの値を選択します。
   - [なし]：この構成に基づくステップはテストの任意の場所に現れることがあります。
   - [一括実行を開始]：このテストでこのステップのバッチが含まれている場合、このステップはバッチの最初のものでなければなりません。
   - [実行中に実行する]：テストにこのステップを含むバッチが含まれている場合、このステップはバッチの最初のステップの後と最後のステップの前に現れなければなりません。
   - [実行を停止する]：テストにこのステップを含むバッチが含まれている場合、このステップはバッチの最後のステップでなければなりません。
8. 順序フィールドで、この構成を持つステップがテスト ステップの追加ダイアログのステップリストに表示される場所を指定する整数を入力します。
   詳細は、「順番フィールドの例」で [順序] フィールドの使用例を参照してください。
9. [テンプレートリマインダー]フィールドに、このステップがテンプレートの一部としてテストに含まれている場合に表示する指示を入力します。
   詳細は、テンプレートリマインダーフィールドの使用例を参照してください。
10. **[HTML** の説明] フィールドで、[新規ステップの作成 (Create New Step)] ダイアログでカーソルがこのステップを強調表示したときに表示するテキストを入力します。

    詳細は、「HTML の説明の例」で [HTML の説明] フィールドの使用例を参照してください。

    > **注:** 次の 2 つのステップではスクリプトを記述しますが、入力変数と出力変数を追加するまで完了を待つ必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

11. 記述生成スクリプトフィールドで、このタイプのステップがテストに含まれている場合は、テストステップレコードに割り当てられた説明を生成するために、提供されたテンプレートにコードを追加します。
このスクリプトの作成の詳細については、ステップ説明生成スクリプト を参照してください。システムがこの説明を表示する場所の例を表示するには、説明生成スクリプトの例 を参照してください。
12. ステップ実行スクリプトフィールドで、このタイプのステップが実行されるときに実行されるスクリプトを定義するために、提供されたテンプレートにコードを追加します。
スクリプトテンプレートには、ステップの入力、出力、およびステップの結果を処理するための手順と例が示されています。ステップ実行スクリプトの詳細については、ステップ実行スクリプト を参照してください。
13. [送信] をクリックします。
新しいテスト ステップ構成が作成され、テスト構成のリストに戻ります。
14. オプション: このステップ構成に入力変数を追加します。
    a. ステップ構成レコードにアクセスします。
    b. [入力変数] タブまでスクロールし、[新規] をクリックします。
    c. 新しい変数に必要なフィールドを入力します。
    d. **[Submit** (送信)] をクリックします。
    e. 必要なすべての入力変数を追加するまで、これらの手順を繰り返します。
    f. オプション: 入力変数関連リストの [順番] 列の値を編集して、入力変数が新しいステップフォームに表示される順序をコントロールします。
15. オプション: このステップ構成に出力変数を追加します。
    a. [出力変数] タブまでスクロールし、[新規] をクリックします。
    b. 新しい変数に必要なフィールドを入力します。
    c. [送信] をクリックします。
    d. 必要なすべての出力変数を追加するまで、これらの手順を繰り返します。

関連情報

ステップ実行スクリプト

ステップ構成

自動テストフレームワーク (ATF) ステップ構成レコード

自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

カスタムステップ構成カテゴリの作成

カスタムステップ設定カテゴリを作成します。

始める前に

必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて

カテゴリは、ダイアログでステップリストをフィルターにかけるために使用します。詳細については、「カテゴリフィールドの例」を参照してください。

手順

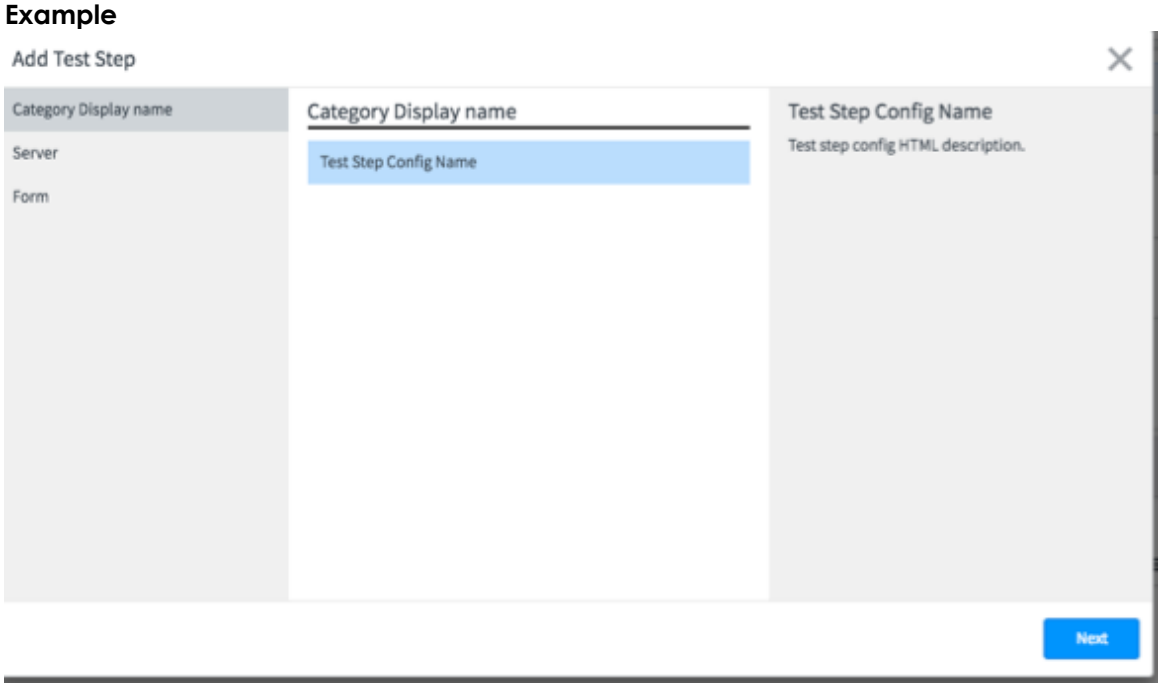
1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [アドミニストレーション] > [ステップ構成カテゴリ] に移動します。
2. [新規] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムは、テスト ステップ設定カテゴリーフォームを示します。

3. 名フィールドで、ステップカテゴリの名前を入力します。
4. ステップ環境フィールドで、このカテゴリのステップが実行するステップ環境を入力します。
   - サーバー独立型：このカテゴリにサーバー上で実行されるステップが含まれるようにする場合。
   - UI：このカテゴリにブラウザで実行されるステップを含める場合。
   - サーバー - REST：インスタンスに受信 REST メッセージを提出するステップをこのカテゴリに含める場合。
5. 表示名フィールドで、このカテゴリが選択されている場合は、[テストステップの追加] ダイアログの中央の列に表示するカテゴリ名を入力します。

Example



6. [送信] をクリックします。
   システムはテストステップカテゴリを作成し、テストステップ環境のリストに戻ります。

テストステップテンプレートの操作

テスト ステップテンプレートには、一度に自動テストに追加するステップのリストが含まれています。

関連情報

自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

自動テストステップテンプレートの作成

自動テストに一度に追加するステップのリストを含むテンプレートを作成することで、テスト時間を短縮します。

始める前に

必要なロール：atf_test_admin および atf_test_designer

このタスクについて

多くのテストが同様のパターンを踏襲します。よくあるパターンの 1 つは、たとえばフォームを開き、フィールドの値を設定し、フィールドの値を検証し、UI アクションをクリックし、レコードプロデューサーを開き、カタログアイテムを開き、現在のフォームを送信することです。これらのステップを含むテンプレートが存在する場合、それらを全て一度にテストに追加できます。自動テス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トフレームワーク (ATF) にはベースシステムにデフォルトのテンプレートが付属します。この手順では、独自のテンプレートを作成します。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [アドミニストレーション] > [テストテンプレート] に移動します。
   システムはテストテンプレートリストを表示します。
2. [新規] をクリックします。
   テストテンプレートフォームが表示されます。
3. 名フィールドで、テンプレートの名前を入力します。
4. テストテンプレートフィールドで、ロックアイコン( )をクリックします。
   [テストテンプレート] フィールドはロック解除されて拡張され、編集可能となります。
5. テストテンプレートフィールドで、このテンプレートに追加する最初のテスト ステップの名前を入力します。
   テストステップがテストテンプレートリストに追加されます。
6. リストに含めるすべてのステップの追加が完了するまで、表示する順序でテストステップの追加を続行します。

   注: テストテンプレートは、テーブル、カタログアイテム、レコードプロデューサーをサポートしています。

7. [説明] フィールドで、このテンプレートの説明を入力します。
8. [送信] をクリックします。

関連情報

自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

自動テストステップテンプレートの編集

既存のテストテンプレートを編集します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin および atf_test_designer

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [アドミニストレーション] > [テストテンプレート] に移動します。
   システムはテストテンプレートリストを表示します。
2. 編集するテストテンプレートの行をクリックします。
   テストテンプレートフォームが表示されます。
3. テストテンプレートフィールドで、ロックアイコン( )をクリックします。
   テストtンプレートフィールドは編集を可能とするためにロックが解除され編集可能となります。
4. 注: リスト内の任意の場所でステップを削除できますが、リストの最後にのみステップを追加できます。テンプレートを使用してテストを追加した後にステップを並べ替えることができますが、テンプレート自体のステップを並べ替えることはできません。

   ステップをテンプレートに追加または削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ステップを削除するには、そのステップを選択し、バツ**(X)**アイコンをクリックします。
- ステップを追加するには、テストテンプレートフィールドに、追加するステップの名前を入力します。

5. テスト ステップが必要なステップを含むまで、テスト ステップの追加と削除を続けます。
6. [送信] をクリックします。

関連情報

自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する

自動テストフレームワーク **(ATF)** テストの実行を有効または無効にする

このインスタンスでテストおよびテストスイートを実行することを許可または禁止します。

始める前に

必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて

デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは、実稼働システムでは実行できないように無効になっています。データの破損や機能停止を避けるため、開発、テスト、および他の非本番インスタンスでのみテストを実行してください。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [管理] > [プロパティ] に移動します。
2. テスト実行プロパティを設定します。
   - テストおよびテストスイートの実行を有効にするには、 [テストまたはテストスイートの実行を有効にします] を選択します。
   - テストおよびテストスイートの実行を無効にするには、 [テストまたはテストスイートの実行を有効にします] を選択します。
3. [保存] を選択します。

ATF テスト結果のデータ保持ポリシーの変更

自動フラッシュデータ保存ポリシーを変更します。これは、システムがデータを保持する期間と、データを参照することにより、テストおよびテストスイートの結果を指定します。sys_atf_test_result または sys_atf_test_suite_result 基本表のフラッシュ回数を変更できます。この設定では、テスト結果データが利用可能な時間を調整します。

始める前に

必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて

システムは、sys_atf_test_result および sys_atf_test_suite_result のベーステーブル (およびオプションでデータ参照) のデータを定期的にフラッシュします。 デフォルトでは、テストおよびテストスイートの結果のデータは作成から 30 日後に削除されます。 このタスクでは、特定のベーステーブル (sys_atf_test_result または sys_atf_test_suite_result) に格納されているデータの自動フラッシュ保持ポリシーを変更できます。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [アドミニストレーション] > [テーブルのクリーンアップ] に移動します。
   自動テスト結果表のために保持する保持ポリシー(自動フラッシュ)のリストが表示されます。
2. 変更する保持ポリシー (sys_atf_test_result または sys_atf_test_suite_result) を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この保存ポリシーのレコードが表示されます。

> **注:** タブ名フィールドには、選択した自動フラッシュ保持ポリシーが適用されるテーブルの名前が表示されます。このフィールドの別のタブ名を選択すると、自動フラッシュレコードの整合性が損なわれます。既存の ATF ポリシーの tablename を ATF データ保持動作に悪影響を及ぼさないように、基本システム (デフォルト) の値にしておきます。

3. システムがデータを保持してデータを参照する時間を決定する方法を指定します。

   a. **Matchfield** フィールドで、システムが継続時間を監視するために使用するフィールドを入力します。
   たとえば、データを削除するように指定するにはバツシステムがそれを作成した後の時間、**Matchfield** セットを **sys_created_on** のデフォルト値に残します。

   b. 年齢フィールドで、関連するデータを削除してデータを参照するまでにシステムが待機する時間(秒)を入力します。

4. 指定したデータ (たとえば、sys_atf_test_result) にポリシーを適用し、そのポリシーを参照するデータを選択する場合は、[カスケード削除] (デフォルト値) を選択します。
   影響を受ける参照データは、sys_atf_test_result_item、sys_atf_test_result_step、および sys_attachment (table_name = sys_atf_test_result の場合) のテーブルに格納します。ポリシーで選択したテーブル (sys_atf_test_resultなど) のデータを単純にフラッシュし、参照元データのフラッシュをスキップしてから、カスケード削除を消去します。
5. 条件フィールドで、この自動フラッシュ保持ポリシーのデータ選択(および、オプションでデータの参照)に使用するフィルタ条件を指定します。
   デフォルトは無限に保持するのは偽で、なぜならテスト結果レコードはまた、特定のテスト結果の自動フラッシュを無効にできる 無期限に保持するチェックボックスを含んでいるからです。
6. [更新] をクリックします。

自動テストクライアントランナーのステータスと保持ポリシーの管理

アクティブなクライアントテスト ランナーがシステムに報告する頻度と、システムが非アクティブなクライアントテスト ランナーのレコードを保持する期間を変更します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて
クライアントテストランナーを開始すると、そのランナーがアクティブとして登録されます。これは、テストを実行しているか、テストを実行するために使用できることを意味します。 ランナーは、アクティブである間、指定された間隔でシステムにレポートします。ランナーが予定時刻にレポートしない場合、システムはそのランナーを非アクティブとしてマークします。しばらくすると、ランナーは削除されます。このタスクにより、これらの間隔を制御する 自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティを変更するできるようになります。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [アドミニストレーション] > [プロパティ] に移動します。
2. テスト ランナーのプロパティセクションに移動します。
3. アクティブなクライアントテストランナーがシステムにレポートする間隔を設定するには、[テストランナーのハートビート間隔] フィールドで、レポート間隔を秒単位で入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. システムがテストランナーを削除する前にテストランナーが非アクティブのままにできる期間を設定するには、[テストランナーのタイムアウト] フィールドで、時間を秒単位で入力します。
5. [保存] をクリックします。

関連情報

クライアントテストランナーでの作業

アクティブ手動テストランナー

スケジュール済みのアクティブテストランナー

あるインスタンスから別のインスタンスへの自動テストの移動

更新セットの通常のプロセスを使用して、自動テストをあるインスタンスから別のインスタンスに移動します。

必要なロール：atf_test_admin

更新セットを使用して、自動化されたテスト、自動化されたテストスイート、および関連するデータを移動できます。詳細については、「システムアップデートセット」を参照してください。

さまざまな自動テストおよびスイート結果の結果と実行時間の比較

自動化されたテストまたは自動化されたテストスイートの異なる実行の実行時間を比較できます。 1 つの自動化されたテストスイートの結果を時間の経過と共に比較することもできます。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または atf_test_designer

自動テストのさまざまな実行の実行時間を比較する

同じテストの異なる実行でシステムが各テスト ステップを実行するのにかかった時間を比較します。

手順

1. [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト]に移動します。
2. 結果を比較するテストの行を選択します。
   システムは、テストフォームを表示します。
3. テスト結果関連リストに行きます。
4. 比較するテスト結果の行を確認します。
5. 選択した行に対するアクションコントロールから、テスト ステップの結果を比較する をクリックします。
   テスト結果の実行時間の棒グラフの比較が表示されます。

同じ自動テストスイートの異なる実行の実行時間を比較する

同じテストスイートの異なる実行間でシステムが各テストを実行するのにかかった時間を比較します。

手順

1. [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [スイート] に移動します。
2. 結果を比較するテストスイートの行を選択します。
   システムは、テストスイートフォームを表示します。
3. テストスイートの結果関連リストに行きます。
4. 比較したいテストスイートの結果がある行を確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 選択した行に対するアクションコントロールから、テスト結果の比較をクリックします。
   テスト結果の実行時間の棒グラフの比較が表示されます。

テストスイートの自動実行の結果を比較する(エージングレポート)

同じテストスイートの異なるランで合格したテスト数と失敗したテスト数を比較します。

手順

1. [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [スイート] に移動します。
2. 結果を比較するテストスイートの行を選択します。
   システムは、テストスイートフォームを表示します。
3. 関連リンクで、 エージングレポートを表示するをクリックします。
   テストスイートエージングレポートが表示されます。

REST テストステップ構成の管理

要求と応答のペイロードサイズ、フィルタ要求と応答ヘッダーを設定し、基本認証プロファイルを作成します。

自動テストフレームワーク **(ATF)** を使用した基本認証プロファイルの作成

ベーシック認証プロファイルを作成して、提出要求 - 受信テストステップのベーシック認証情報を指定します。

始める前に
必要なロール：web_service_admin

このタスクについて
ユーザー名とパスワードは、プロファイルを使用するテストが実行されるインスタンスで有効な認証情報でなければなりません。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [テスト] に移動します。
2. Send Request - Inbound ステップを使用するテストを選択します。
3. 送付要求 - 受信ステップを選択します。
4. ベーシック認証フィールドで、使用可能なプロファイルを調べる砂時計を選択します。
5. 基本認証構成フォームで、新規を 選択します。
6. 名フィールドで、このプロファイルの名前を入力します。
7. ユーザー名フィールドで、ユーザー名を入力します。
8. パスワードフィールドに、パスワードを入力します。
9. [送信] をクリックします。

REST 要求ヘッダーと応答ヘッダーのフィルタリング

ステップ結果レコードに保存されないREST要求ヘッダーと応答ヘッダーのリストを追加できます。認証情報またはその他の機密情報が含まれているヘッダーをフィルタリングできます。代わりに、「セキュリティのために編集されたヘッダー」というフレーズが保存されます。

フィルタリングするヘッダを指定するには、フィルターに掛けるヘッダー名のコンマ区切りのリストとしてシステムプロパティ `glide.atf.rest.log.header_blacklist` を作成します。プロパティの追加については、「システムプロパティを追加する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストフレームワーク (ATF) の REST プロパティ

これらのプロパティは、ATF RESTとともにインストールします。

注: システムのプロパティ [sys_properties] テーブルを開くには、ナビゲーションフィルターに「`sys_properties.list`」と入力します。

プロパティ	使用法
glide.atf.rest.log.header_blacklist	その内容をログに追加しないか、フォームに表示するヘッダーのリスト。代わりに、「セキュリティのために編集されたヘッダー」というフレーズが保存されます。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：空 • その他の可能な値 ：コンマで区切られたヘッダー名のリスト。 • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
glide.atf.rest.request_payload_max_size	要求ペイロードの最大サイズ。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：100 • 最大値：1024 Kb • 場所：システムプロパティ [sys_properties] テーブル
glide.atf.rest.response_payload_max_size	応答ペイロードの最大サイズ。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：100 • 最大値：5120 Kb • 最大値：システムプロパティ [sys_properties] テーブル

自動テストパフォーマンスの最適化

自動テストでスクリーンショットをキャプチャする頻度を調整することで、システムトランザクションログレコードを調べたり、実行時間を短縮したりすることで、自動テストパフォーマンスのトラブルシューティングを行うことができます。

自動テストのスクリーンショット設定の管理

多くのスクリーンショットをキャプチャすると、テストのパフォーマンスが低下する可能性があります。この影響を最小限に抑えるために、システムがキャプチャするスクリーンショットの種類をコントロールできます。

デフォルトでは、フォームテスト ステップを実行するたびにスクリーンショットがキャプチャします。この情報は、テスト結果の理解に役立ちますが、システムがテストを実行する速度を遅くする可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストフレームワーク (ATF) の設定を変更して、システムがすべてのスクリーンショットをキャプチャするようにしたり (デフォルト)、スクリーンショットをキャプチャしないようにしたり、または失敗したテストステップのスクリーンショットのみをキャプチャするようにしたりすることができます。

これらの設定を変更して、このインスタンスで実行されるすべてのテストに影響を与えたり、現在のクライアントテスト ランナーセッションだけに影響を与えることができます。このインスタンスで実行されるすべてのテストに反映するには、自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティを 自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティページから設定します。現在のクライアントテストランナーセッションだけに影響を与えるには、クライアントテストランナーブラウザーウィンドウからスクリーンショットモードを設定します。

システムプロパティを設定して、自動テストフレームワーク **(ATF)** がスクリーンショットをキャプチャするタイミングを制御する

このインスタンスがフォームテストステップのスクリーンショットをキャプチャする頻度をコントロールするには、自動テストフレームワークのプロパティページでスクリーンショットキャプチャモードを設定します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または admin

このタスクについて
自動テストフレームワーク (ATF) プロパティページからのスクリーンショットモードの設定は、このインスタンスで開始された新しいクライアントテストランナーに反映されます。この設定は、現在実行中のテスト ランナーには影響しません。

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)**] > [アドミニストレーション] > [プロパティ] に移動します。
2. スクリーンショットのキャプチャを有効または無効にするプロパティをドロップダウンメニューからセットします。
   - すべてのステップのスクリーンショットを作成するには、すべてのステップで有効を選択します。
   - 失敗したステップだけのスクリーンショットをキャプチャするには、すべての失敗したステップで有効にするを選択します。
   - スクリーンショットを取り入れない場合は、すべてのステップで無効を選択します。
3. スクリーンショットのタイムアウト時間間隔を秒でセットします。
   試行の長さがこの値を超える場合、クライアントテスト実行ではスクリーンショットキャプチャが実行されません。この値を増やす前に、影響を受けるクライアントシステムのパフォーマンス設定とブラウザのキャッシュを確認してください
4. [保存] をクリックします。

クライアントテストランナープロパティを設定して、自動テストフレームワーク **(ATF)** がスクリーンショットをキャプチャするタイミングを制御する

現在のクライアントテストランナーがフォームテストステップのスクリーンショットをキャプチャする頻度をコントロールするには、クライアントテストランナーブラウザウィンドウでスクリーンショットキャプチャモードを設定します。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
クライアントテスト ランナーのブラウザウィンドウからのスクリーンショットモードの設定は、このクライアントテスト ランナーのみに影響し、このテスト ランナーセッションが終了するまで続きます。この設定は、実行中の他のテスト ランナーや今後のテスト ランナーには影響しません。

手順

1. クライアントのテスト ランナーのブラウザウィンドウで、フォーム設定アイコン( )をクリックします。
2. スクリーンショットモードオプションをクリックします。
   - すべてのステップのスクリーンショットを作成するには、すべてのステップで有効を選択します。
   - 失敗したステップだけのスクリーンショットをキャプチャするには、すべての失敗したステップで有効にするを選択します。
   - スクリーンショットを取り入れない場合は、すべてのステップで無効を選択します。
3. [保存] をクリックします。

自動テスト結果のトランザクションデータの表示

自動テストでパフォーマンスの問題をトラブルシューティングするために、トランザクションログエントリ [syslog_transaction] テーブルから関連レコードを検査できます。

始める前に
必要なロール：test_admin または admin

このタスクについて
注: システムでは、短時間の一部のトランザクションをログに記録できない場合があります。

手順

システムトランザクションログの関連するトランザクションレコードに移動します。

- ステップ結果レコードから、ステップトランザクション関連リスト内のトランザクションを表示します。
- テスト結果レコードから、[テストトランザクション] 関連リスト内のトランザクションを表示します。

スケジュール済みのテストスイートの操作

指定した日時にテストスイートを実行するようにスケジュールすることができます。

テストスイートをスケジュールするには、次の3 つのコンポーネントが必要です。

- テストスイートレコード
- システムにテストスイートを実行させる時刻を指定するスケジュールレコード
- テストスイートを、それを実行するスケジュールと関連付けるスケジュールされたスイート実行レコード

このモデルでは、さまざまなテストスイートにスケジュールを関連付けることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: スケジュールできるのは、個々のテストではなくテストスイートのみです。スケジュール済みのテストは、スケジュール済みのスイートのブラウザ条件に一致するスケジュール済みのクライアントテスト ランナーページが開いている場合にのみ実行されます。スケジュール済みのテストは、ロックされている、電源が切れている、またはブラウザが開いていないマシンでは実行できません。

テストスイート実行レコードのウォッチリストでは、システムがテストスイート実行を完了したときに、ユーザーが電子メールを受け取るように指定することもできます。

テストスイートに 1 つ以上のフォームステップ(ユーザーインターフェイスを含むステップ)が含まれている場合は、スケジュールでスイートを実行する時に、スケジュール済みのクライアントテスト ランナーがブラウザでアクティブに実行されていることを保証する必要があります。

注: クライアントテスト ランナーを実行するための推奨事項と要件については、ブラウザの推奨事項と要件を参照してください。

テストスイートをスケジュールするための段階的な手順については、「自動テストスイートのスケジュール」を参照してください。

スケジュール済みのテストスイートの実行完了時にメールを受け取るユーザーの指定

スケジュール済みのテストスイートの実行が終了したときに、通知を受けるユーザーを指定できます。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin

手順

1. スケジュール済みのテストスイートの実行レコードに移動します。
2. このスケジュール済みのテストスイートの実行完了時に通知するすべてのユーザーを、レコードのウォッチリストに追加します。

自動テストフレームワーク (ATF) のスケジュール済みテストスイートの完了通知メール

システムがスケジュール済みのテストスイートの実行を完了すると、スケジュール済みのテストスイート実行レコードウォッチリストのユーザーに電子メールが送信されます。この電子メールには、スケジュール済みのスイート実行およびその結果に関する詳細情報へのリンクと情報が含まれています。

注: メールを送信するには、メール機能を有効にする必要があります。

スイート統計情報

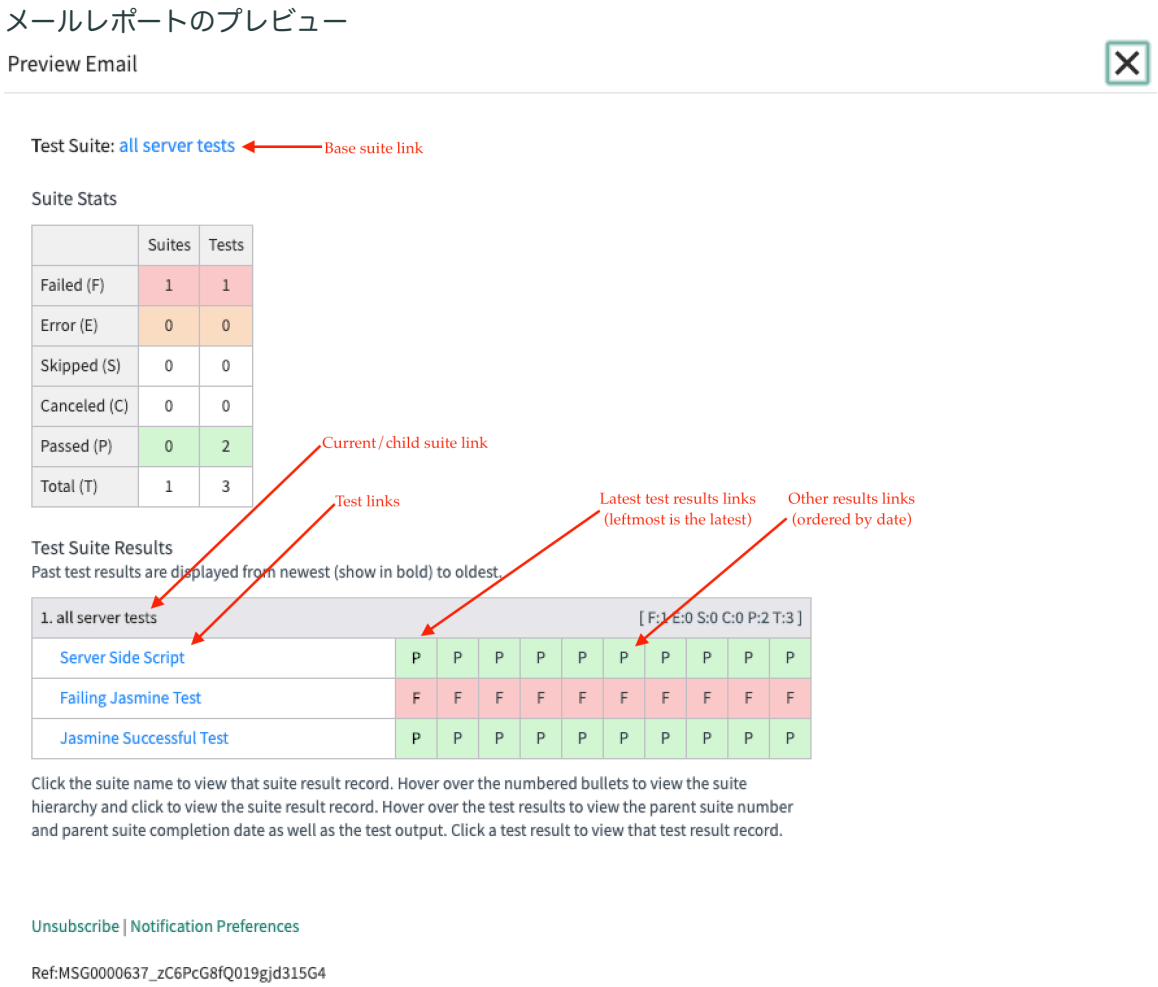
電子メールの「スイート統計」セクションには、スイート数および結果のステータス (失敗 (F)、エラー (E)、スキップ (S)、キャンセル (C)、合格 (P)) 別の詳細が示されています。各ステータスの意味については、「テストスイート結果レコード」を参照してください。

テストスイート結果

電子メールの「テストスイートの結果」セクションでは、時間の経過とともにテストスイートの結果がレポートされます。

注: デフォルトでは、このレポートには失敗したテストのあるスイートのみが含まれていますが、この設定はプロパティページのメールプロパティフィールドで変更できます。デフォルトに設定すると、テストスイート内の失敗したテストのみが報告されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: ATF は、最近のテスト結果のみをメールレポートで報告します。設定された保持時間制限内であれば、以前のテスト結果はすべて存在しています。ATF テスト結果の保持ポリシーの詳細については、「テーブルクリーンアップ」を参照してください。

テスト結果キー

文字	色	説明
F	赤	不合格のテスト
P	緑	合格したテスト
S	白	スキップされたテスト
C	白	キャンセルされたテスト
E	オレンジ	テストにエラーがあります

各エントリは、その実行の結果レコードへのリンクとして機能します。これらの項目のいずれかにマウスを合わせると、親スイート番号、親スイート終了時刻、およびテスト結果出力が表示されます。

電子メールの内容に影響するプロパティ

[自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティ]フォームでは、メールの形式と内容に影響するオプションを設定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストフレームワーク (ATF) ユースケースの例

ユースケースは、一般的なシナリオのテストをビルドするのに役立ちます。

自動テストフレームワーク (ATF) ユースケース：基本的なフォーム操作のテスト

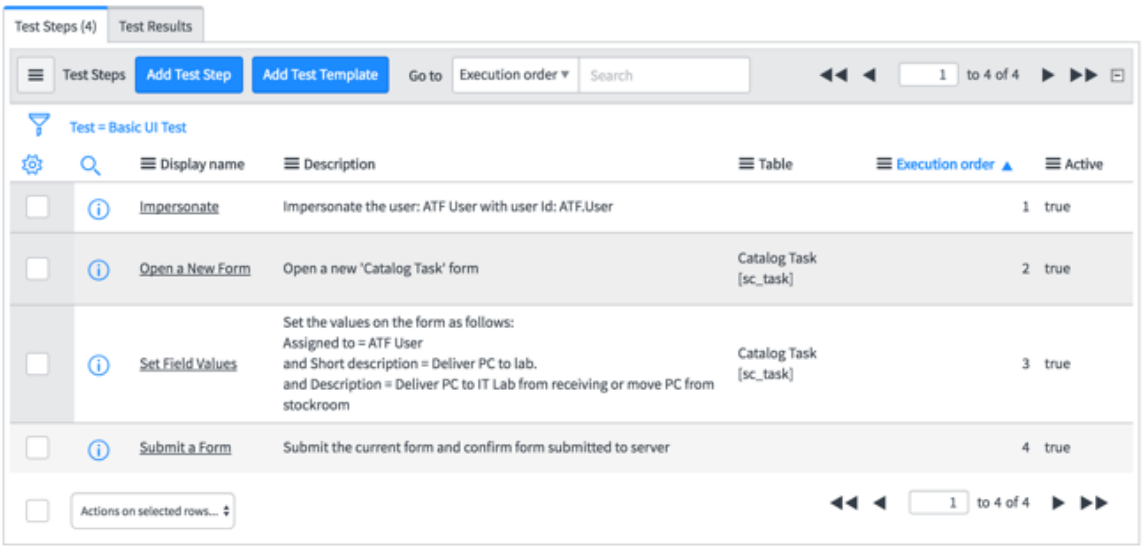
このユースケースは次のことを説明します は基本的なフォーム操作 自動テストフレームワーク (ATF) を使用して をテストします。

始める前に

必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて

テストのステップ

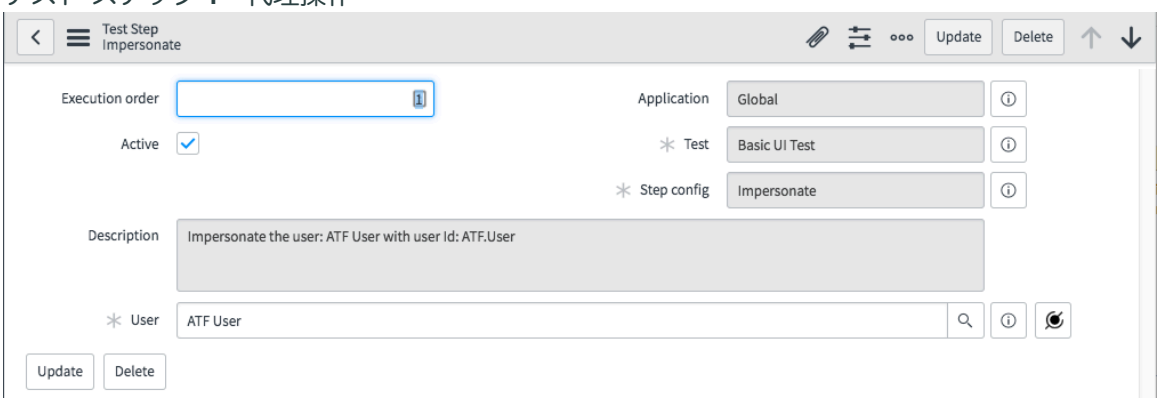


手順

1. これらのステップを実行するために必要なアクセス許可(この例では ATF.User)で代理操作します。

Example

テスト ステップ 1 - 代理操作

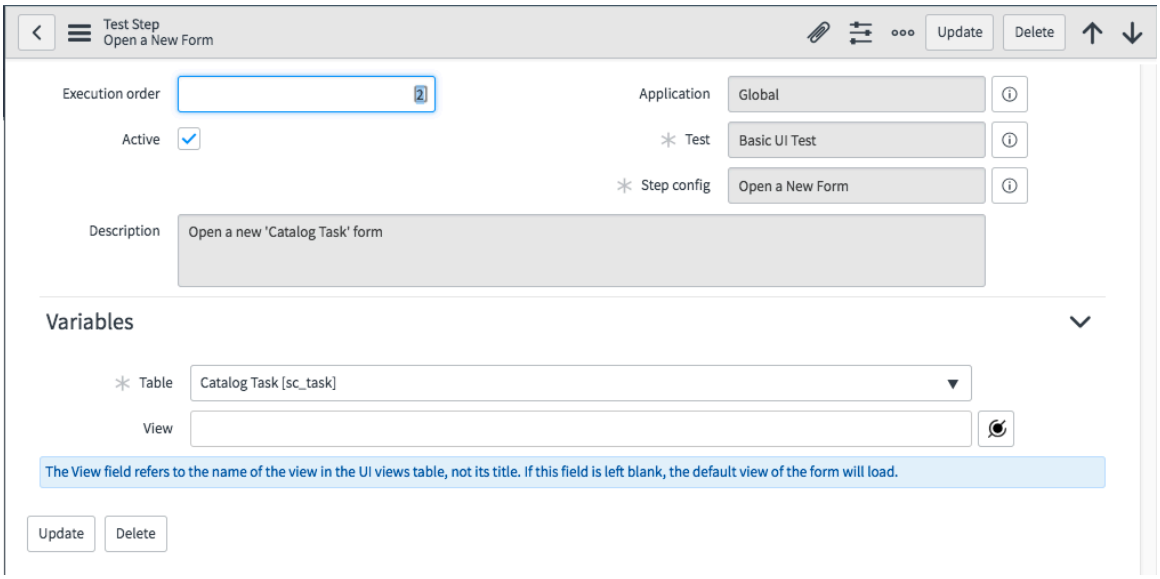


2. フォーム(この例ではカタログタスクフォーム)を開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example

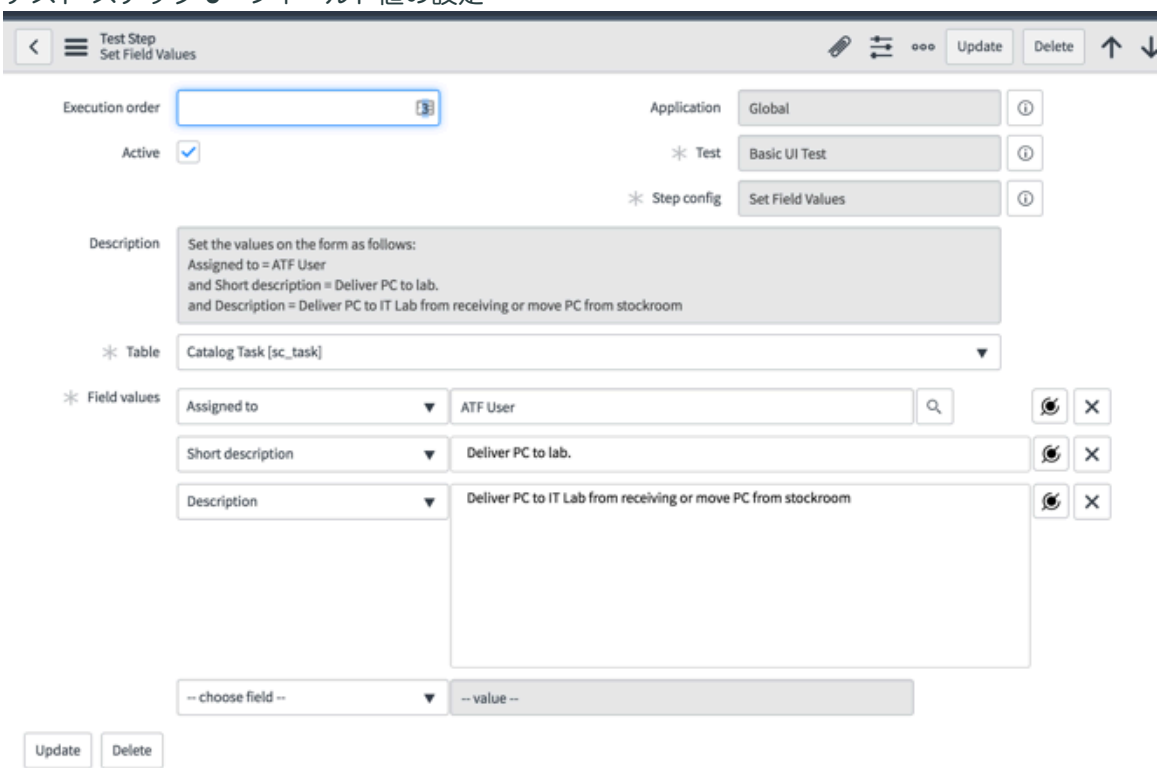
テスト ステップ **2 -** 新しいフォームを開く



3. 開いているフォームで、任意の必須フィールドを含むフィールド値を設定します。
この例では、担当者、簡単な説明、および説明のフィールド値を設定します。

Example

テスト ステップ **3 -** フィールド値の設定

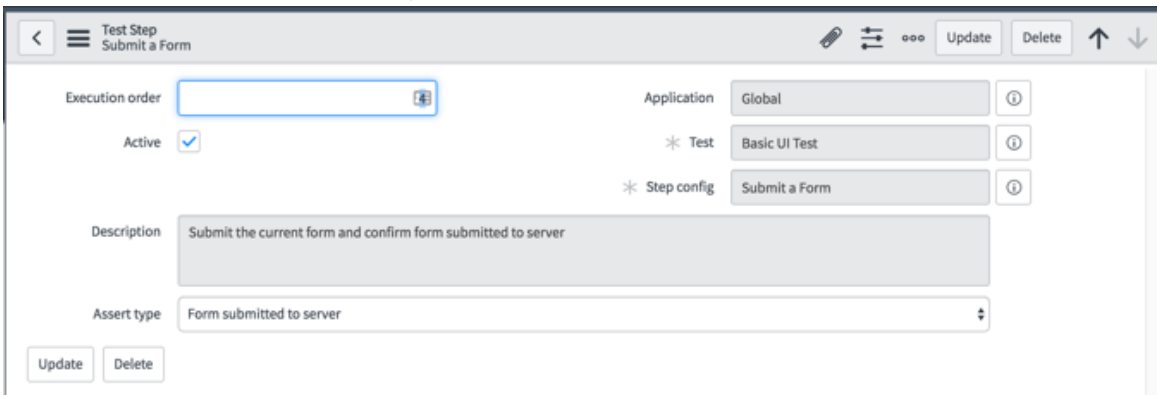


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 開いているフォームを送信します。

Example

テスト ステップ **4** - フォームを送信

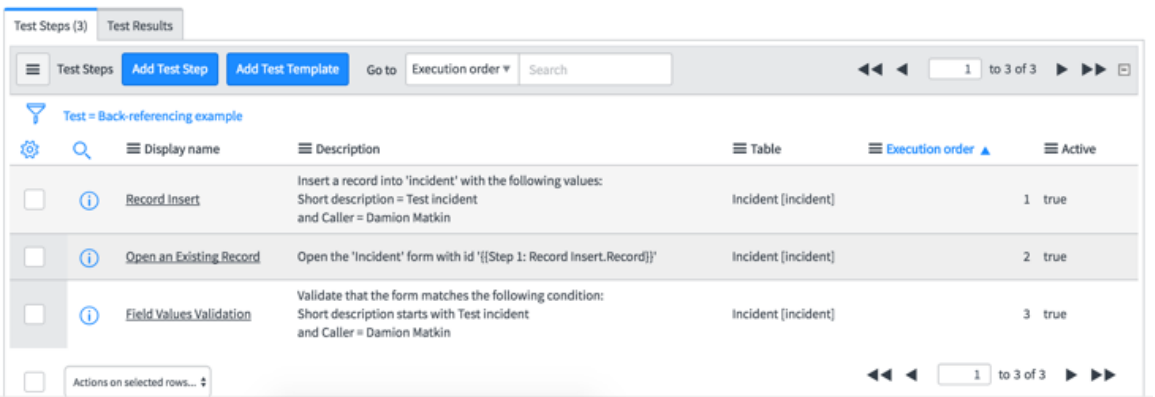


自動テストフレームワーク **(ATF)** ユースケース：前のステップの値の参照

このユースケースは次のことを説明します前のステップからの出力変数の値をフォームフィールドに割り当てます。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて
自動テストフレームワーク (ATF)：この例では、2 番目のステップが最初のステップの出力値を参照しています。あるステップからの値を別の例に渡します。



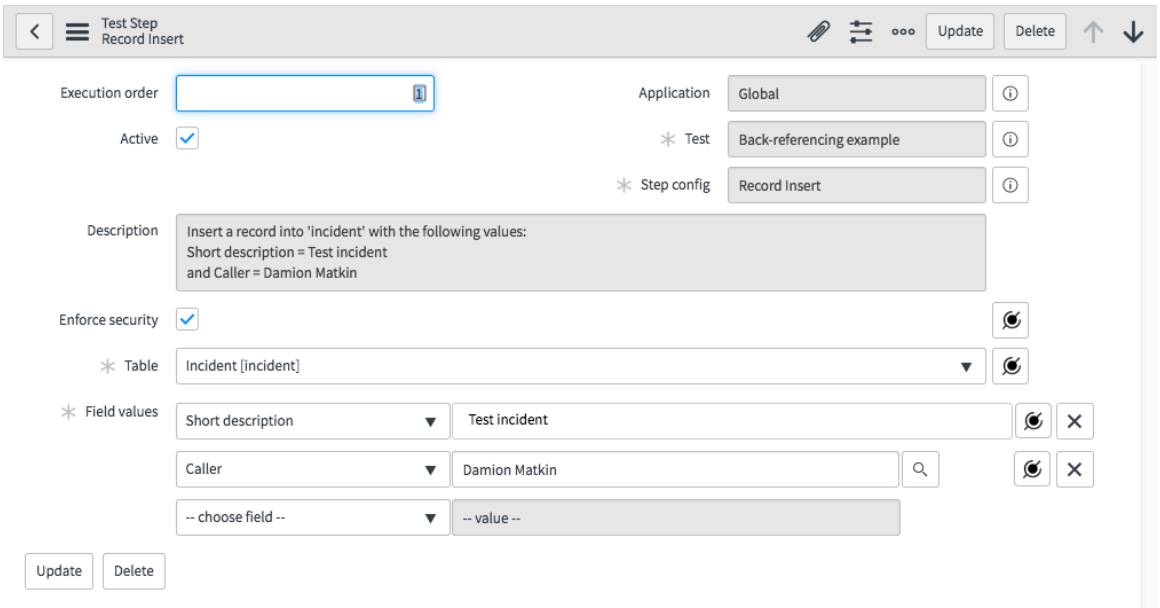
手順

1. レコードをインシデントテーブルに挿入します。
   この例では、インシデントテーブルにレコードを挿入します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example

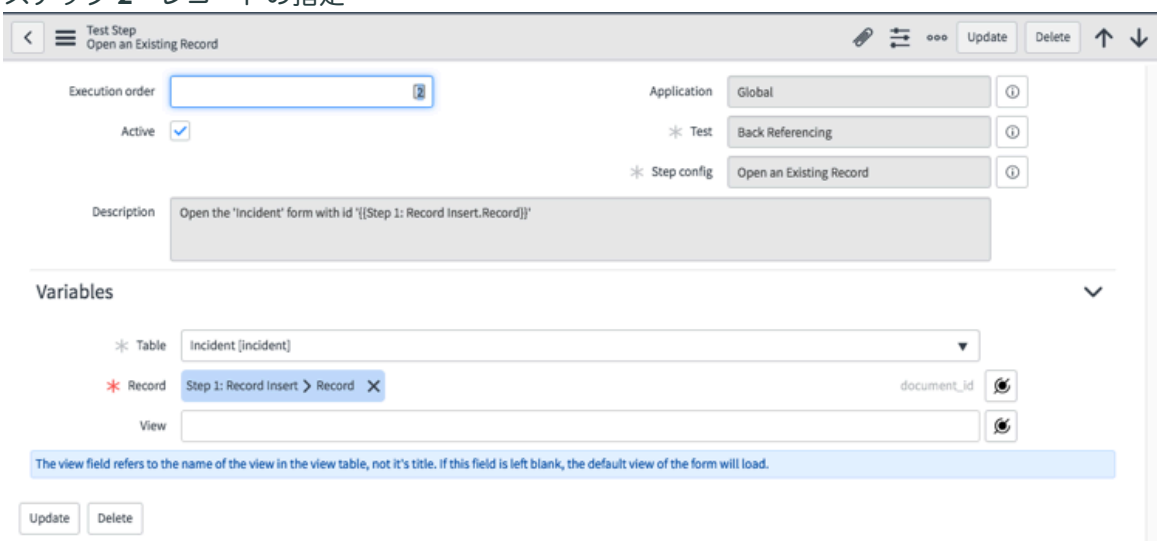
ステップ **1 -** レコードの挿入



2. [*Record*] フィールドにステップ 1 の出力変数をアサインして、挿入したレコードを開きます。

Example

ステップ **2 -** レコードの指定

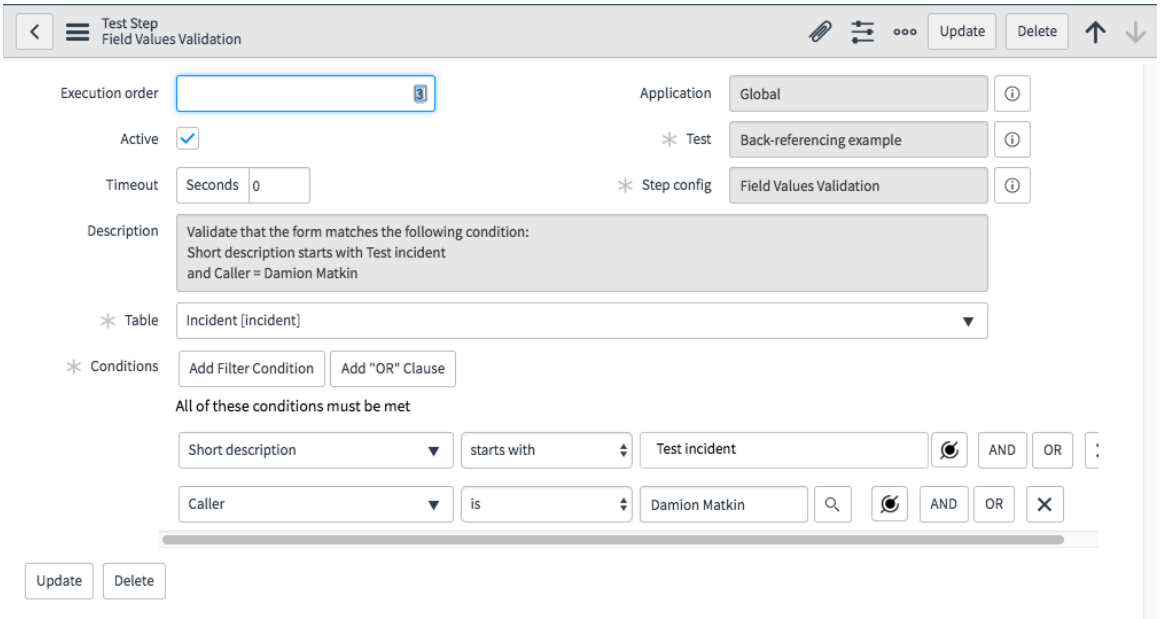


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 開いているレコードのフィールドに、想定される値があることを検証します。

Example

ステップ **3 -** フィールド値の検証



関連情報

1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡す

自動テストフレームワーク **(ATF)** ユースケース：ビジネスルールのテスト

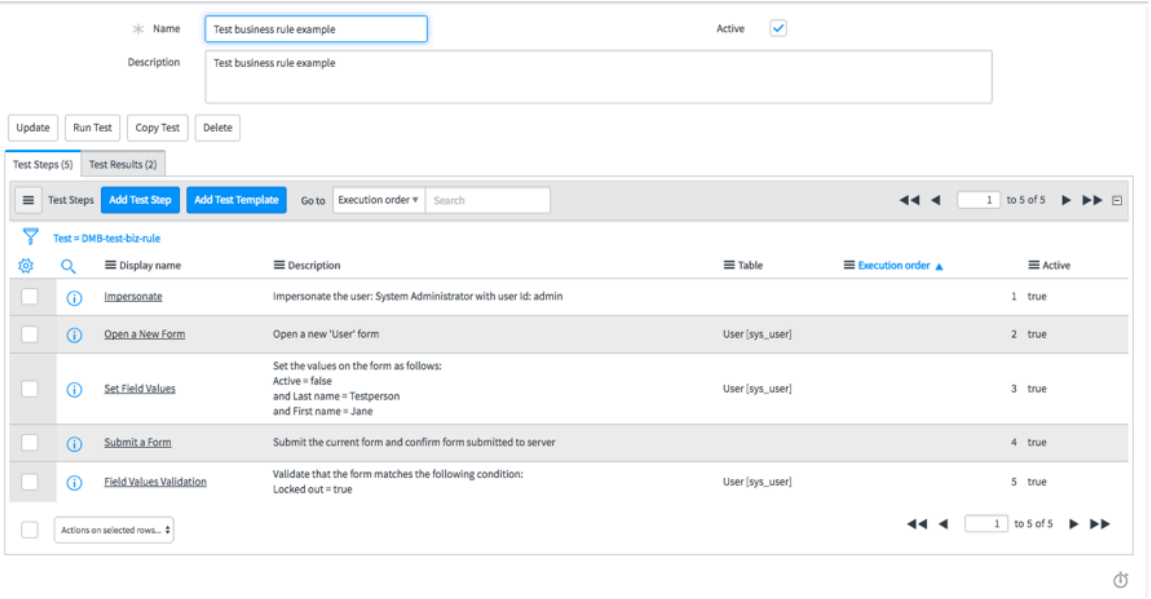
このユースケースは次のことを説明します ビジネスルール 自動テストフレームワーク (ATF) を使用して のテスト

始める前に
必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて
この例では、**active** が **false** に設定されている場合に、**Locked out** の値を **true** に設定するビジネスルールをテストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストフレームワーク **(ATF):** ビジネスルールの例

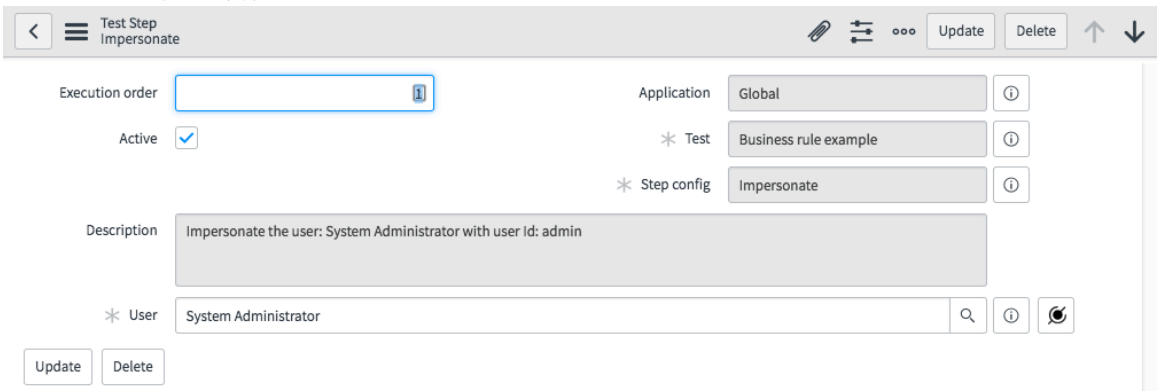


手順

1. 必要な権限を持つユーザーの代理操作を実行します。
   この例では、ステップは管理ユーザーの代理操作を実行します。

   Example

   ステップ **1 -** 代理操作

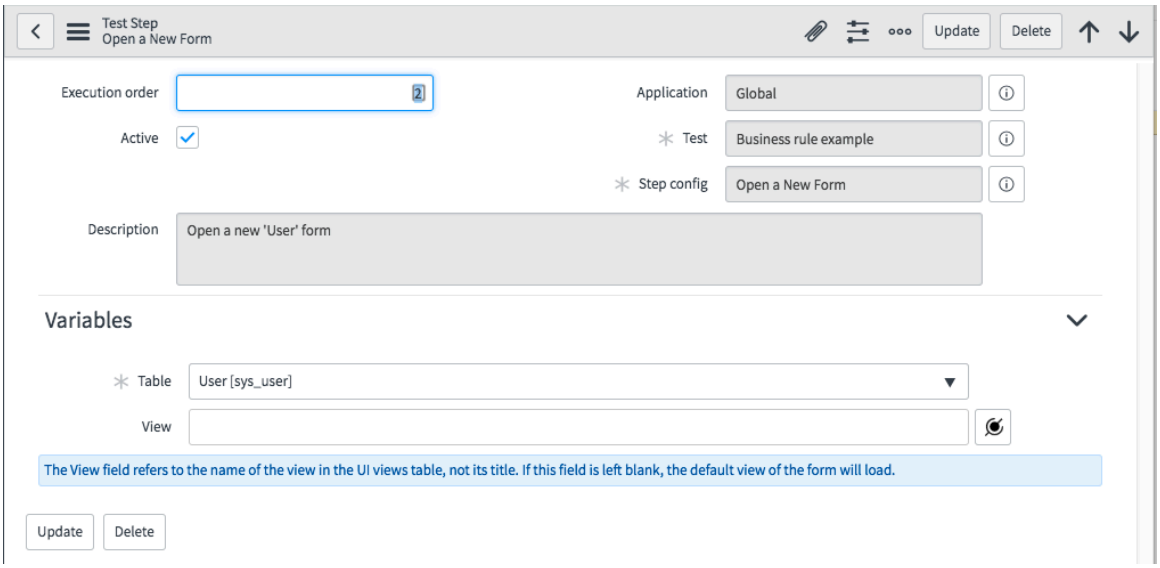
   

2. このビジネスルールが適用されるテーブルのフォームを開きます。
   この例では、新しいユーザーフォームを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example

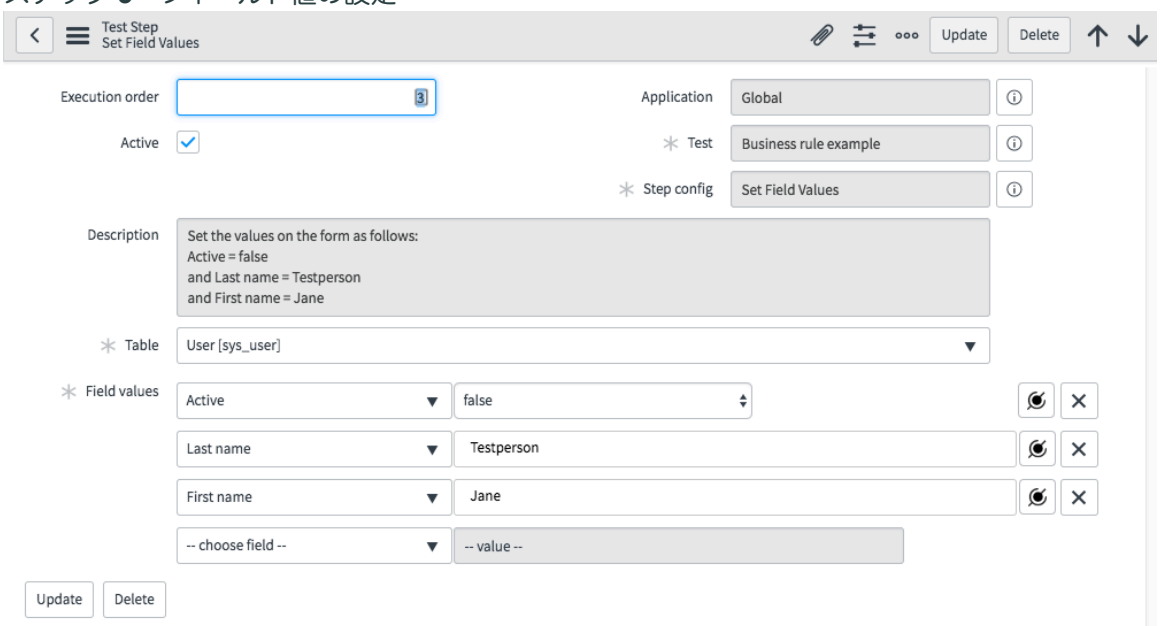
ステップ 2 - 新しいフォームを開く



3. フォーム送信およびビジネスルールのトリガーの要件を満たす値をフォームに設定します。
この例では、[アクティブ]、[姓]、[名] フィールドの値を設定します。

Example

ステップ **3** - フィールド値の設定

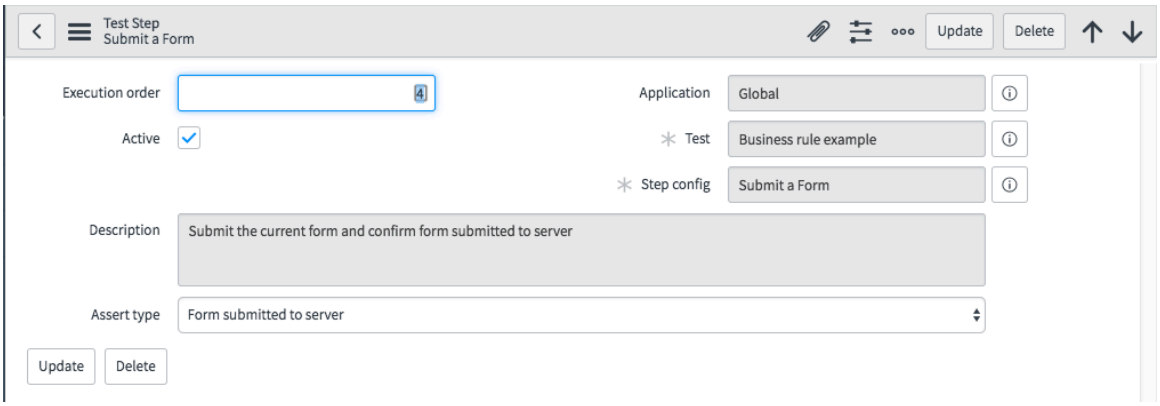


4. フォームを送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example

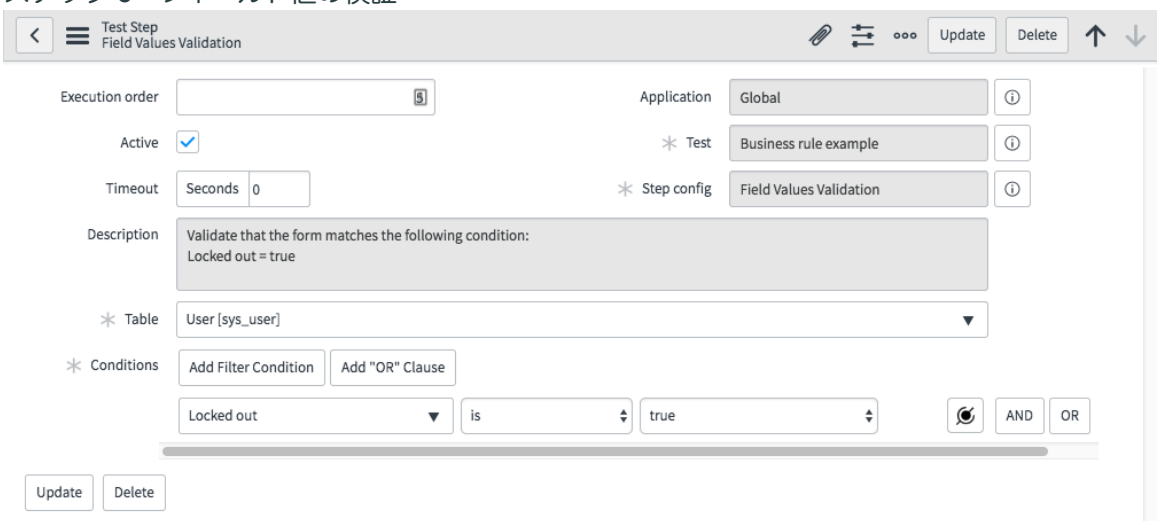
ステップ **4 -** フォームを送信する



5. ビジネスルールが実行されたことを検証します。
この例では、テストされるビジネスルールは、アクティブが**false**に設定されるとロックアウトに**true**をセットします。

Example

ステップ **5 -** フィールド値の検証



自動テストフレームワーク **(ATF)** ユースケース：データポリシーのテスト

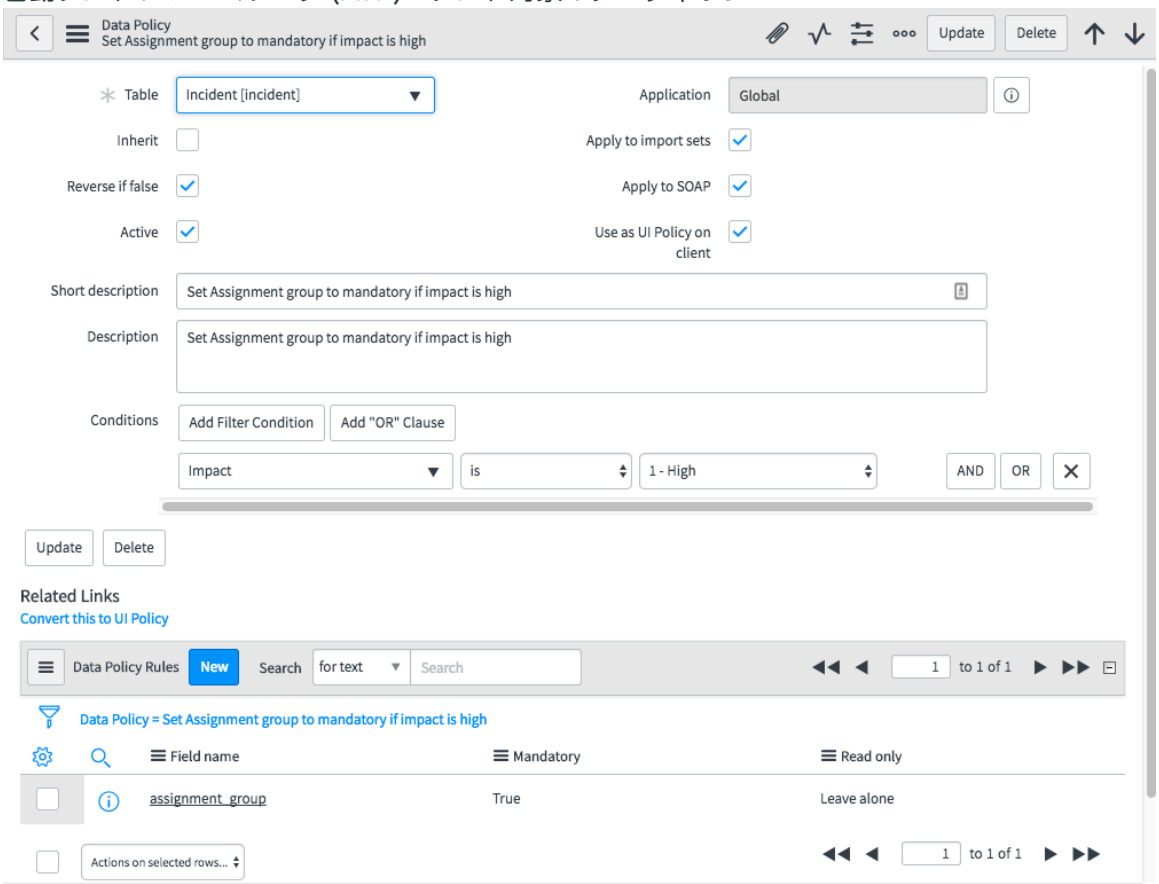
このユースケースは次のことを説明します はデータポリシー 自動テストフレームワーク (ATF) を使用して をテストします。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin

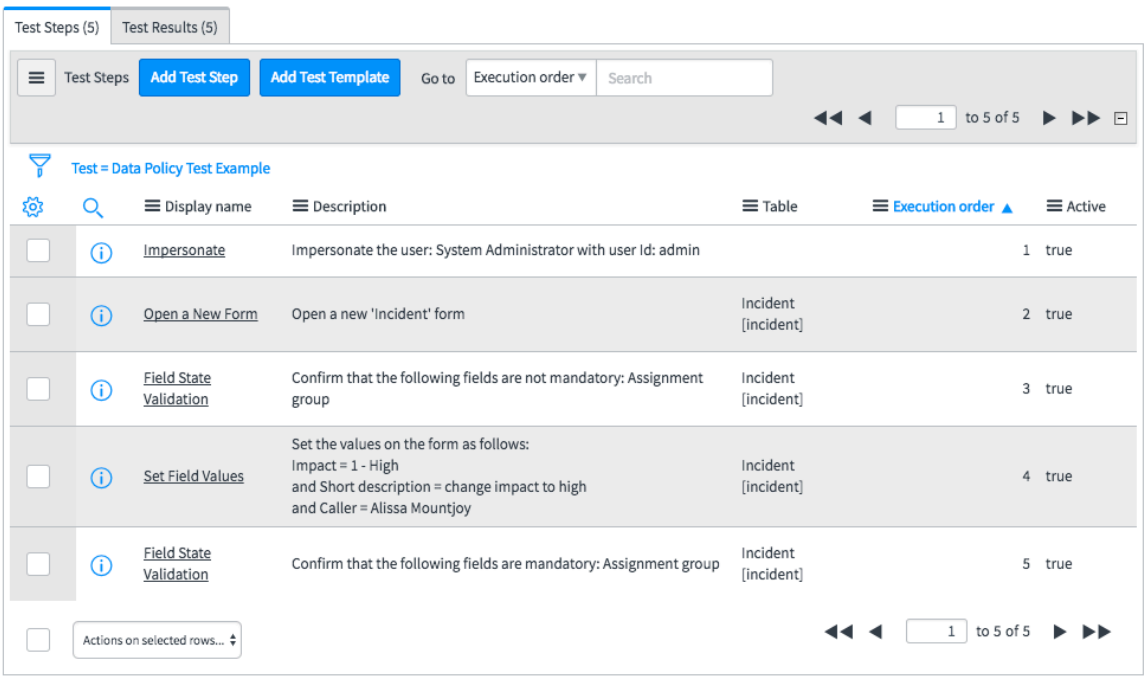
このタスクについて
この例では、影響が高い場合に [アサイン先グループ] フィールドを [必須] に設定するデータポリシーをテストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストフレームワーク (ATF)：テスト対象のデータポリシー



自動テストフレームワーク **(ATF)** ：データポリシーの例



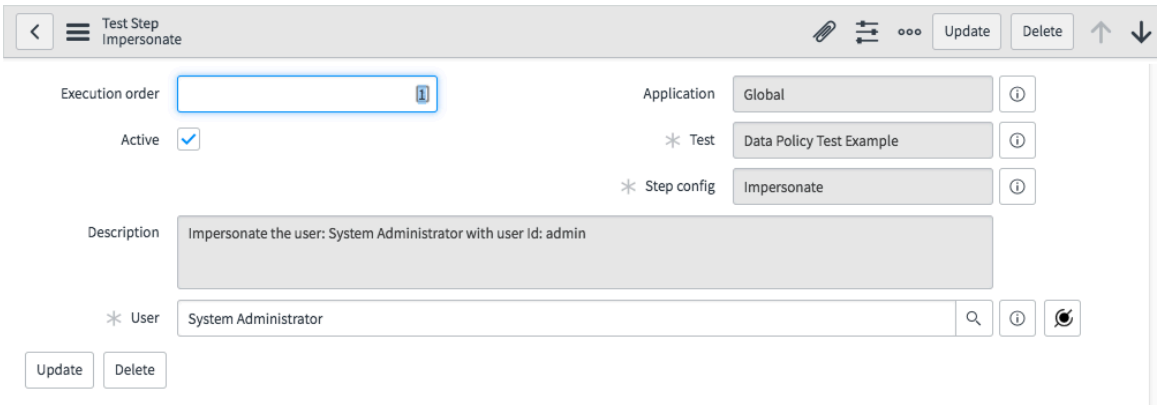
手順

1. 必要な権限を持つユーザーの代理操作を実行します。
   この例では、ステップは管理ユーザーの代理操作を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example

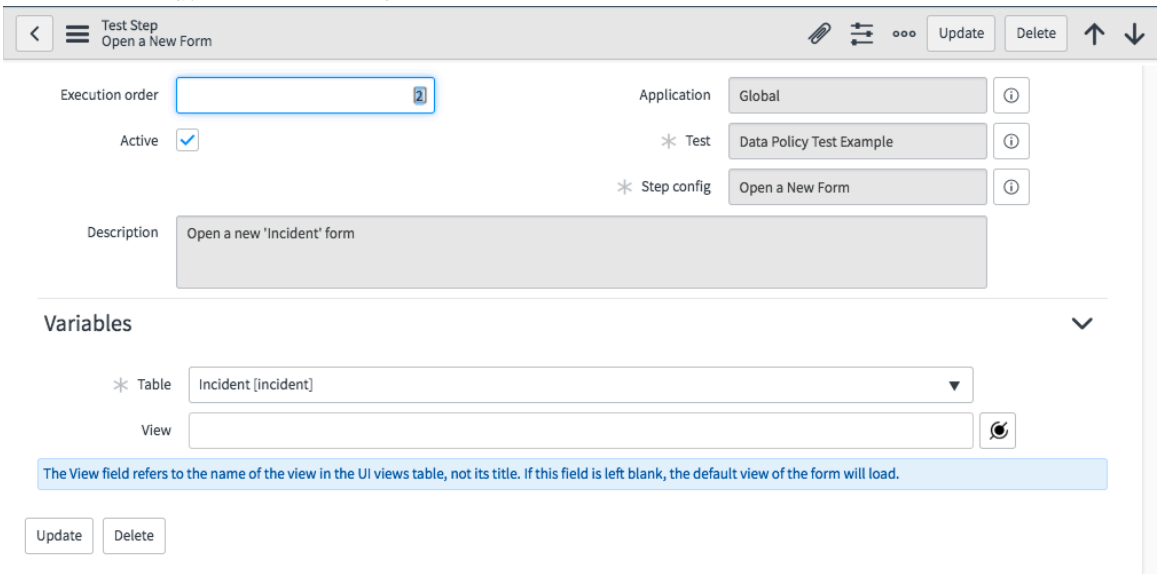
ステップ 1 - 代理操作



2. このデータポリシーが適用されるテーブルのフォームを開きます。
この例では、新しいインシデントフォームを開きます。

Example

ステップ 2 - 新しいフォームを開く

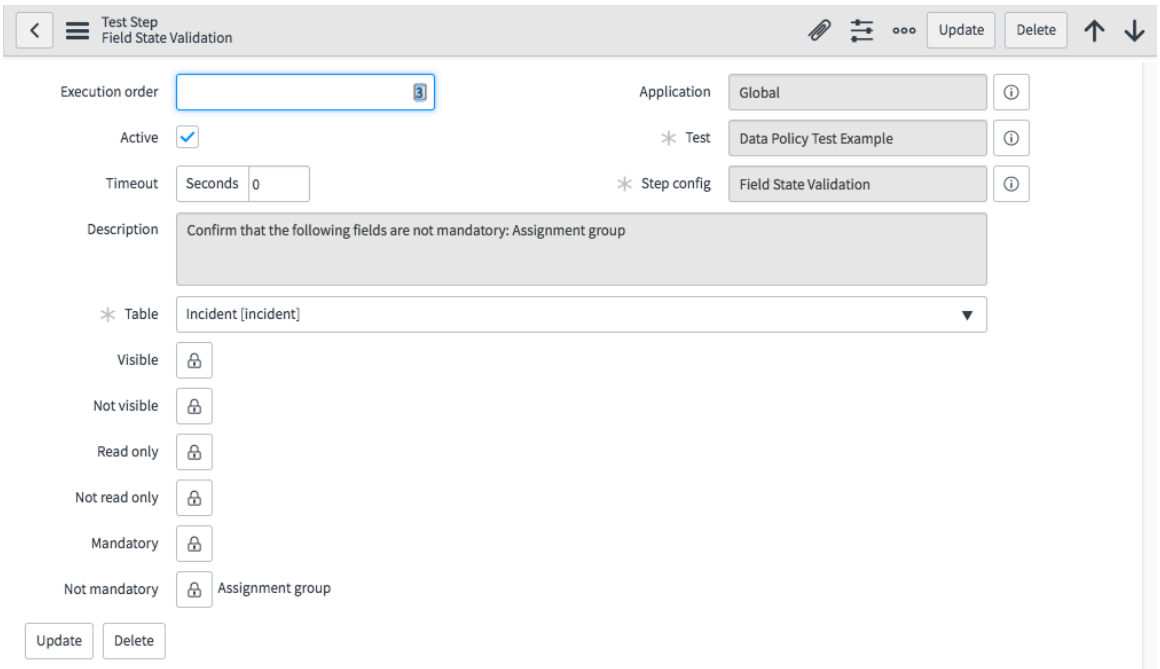


3. データポリシーがまだトリガーされていないことを確認してください。
この例では、ステップは、アサイン先グループが必須でないことを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example

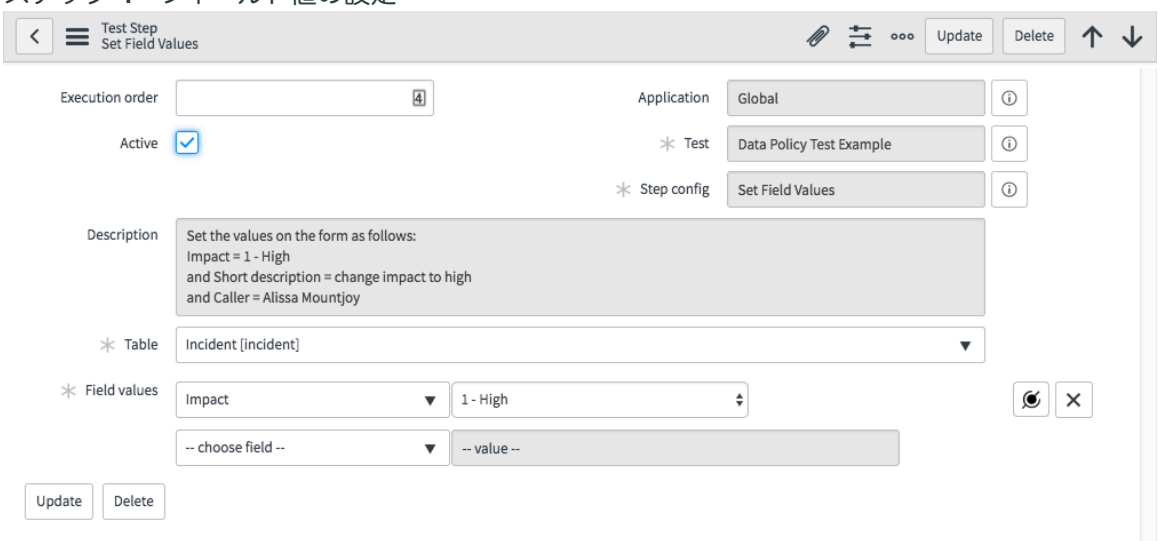
ステップ **3 -** フィールド状態の検証



4. 該当する場合は、データポリシーをトリガーする条件を設定します。
この例では、影響度を高に設定します。

Example

ステップ **4 -** フィールド値の設定



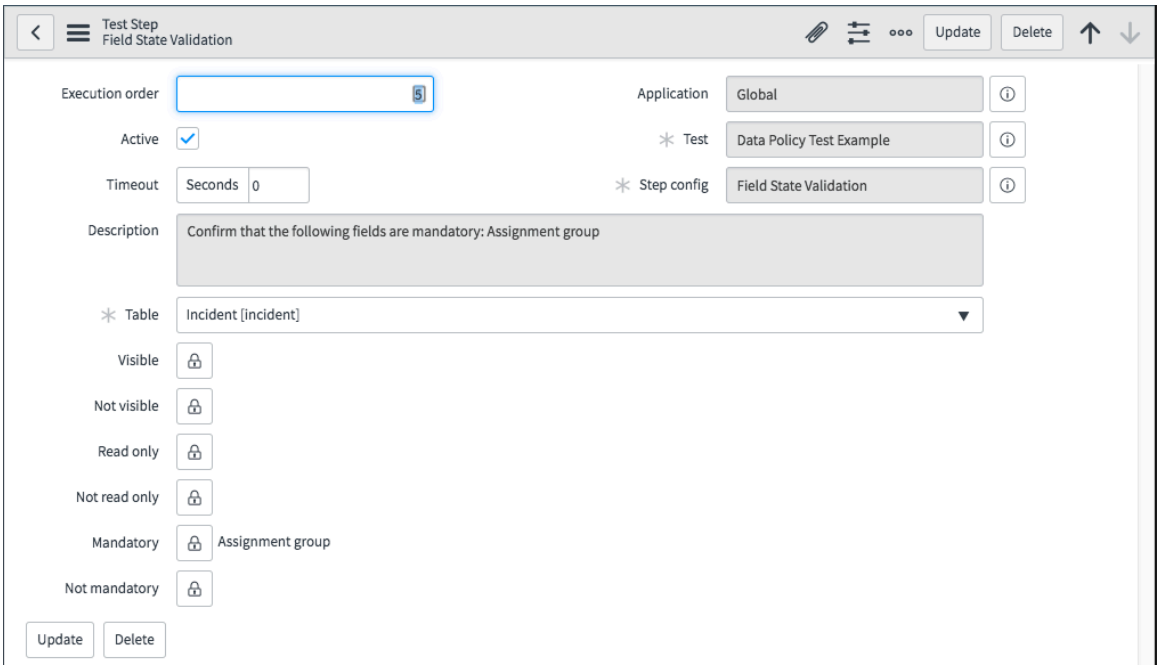
5. データポリシーが適用されていることを検証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この例では、データポリシーが、前のステップで影響度を高に設定した後、アサイン先グループに高をセットすることをテストで確認します。

Example

ステップ **5 -** フィールド状態の検証



自動テストフレームワーク **(ATF)** ユースケース：スクリプトインクルードのテスト

このユースケースは次のことを説明します はスクリプトインクルードを 自動テストフレームワーク (ATF) でテストします。

自動テストフレームワーク (ATF) を使用してスクリプトインクルードをテストするには、 次のステップを実行するテストを作成します。

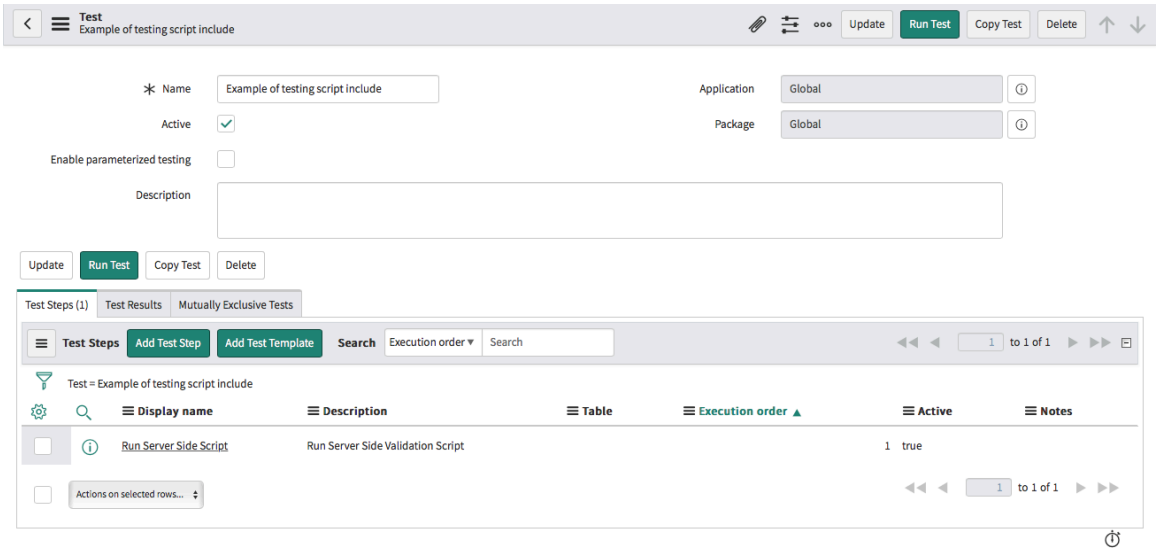
- スクリプトインクルードをシステムに実行させるステップ。例：
  - スクリプトインクルードを呼び出す [サーバー側スクリプトを実行] テストステップ。
  - スクリプトインクルードを起動する、フォームを開く、フォームを送信する、またはフィールド値を設定するなどのフォームアクションステップスクリプト。
- スクリプトインクルードが想定されるアクションを取ったことを検証するステップ。この検証の具体的なテスト ステップは、スクリプトインクルードが何を実行するように設計されているかによって異なります。例：
  - スクリプトがフィールド値を設定する場合、フィールド値の検証
  - スクリプトがフィールドの状態を変更する場合、フィールド状態の検証
  - スクリプトが新しいレコードを生成する場合、レコードのクエリー

この例では、1 つのテストステップ、サーバー側スクリプトの実行を使用したテストを示しています。このテスト ステップに関連付けられたスクリプトは、引数の値に 3 を加えたスクリプトインクルードを呼び出します。スクリプトインクルードから返された値が 8 の場合、スクリプトインクルードは意図したとおりに動作し、テストは合格です。

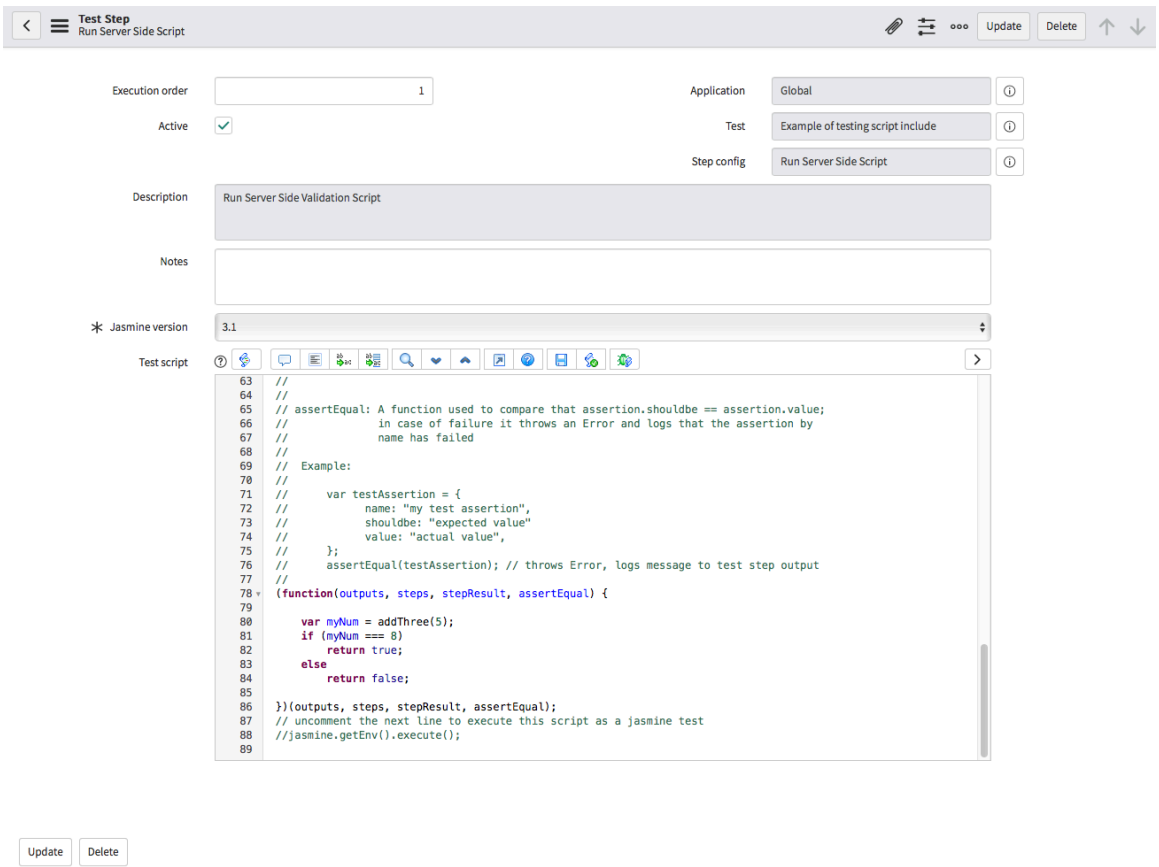
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

servicenow

スクリプトインクルードをテストする自動テスト

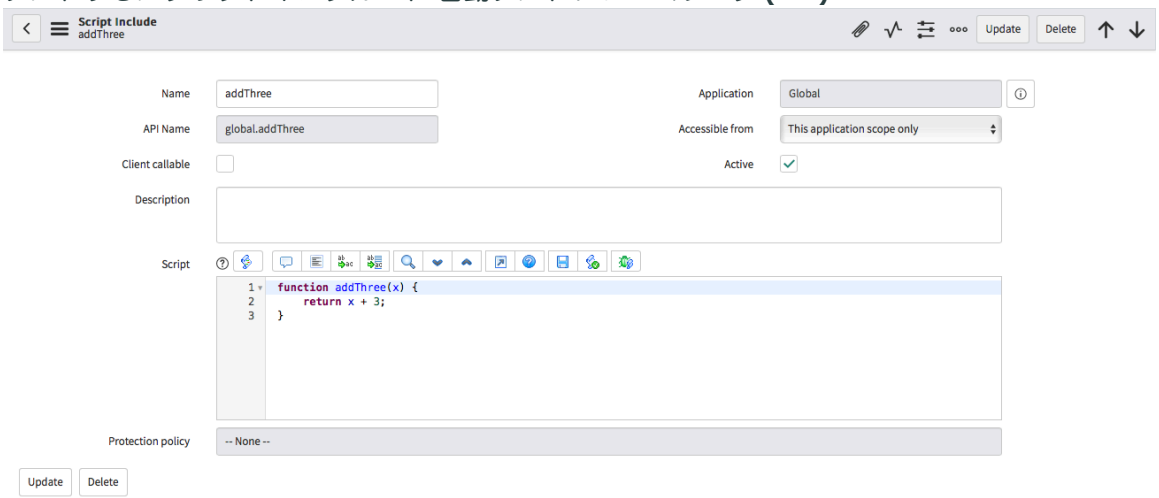


スクリプトインクルードをテストするための自動テスト ステップ



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストするスクリプトインクルード 自動テストフレームワーク **(ATF)**



自動テストフレームワーク **(ATF)**ユースケース：サービスカタログ要求のテスト

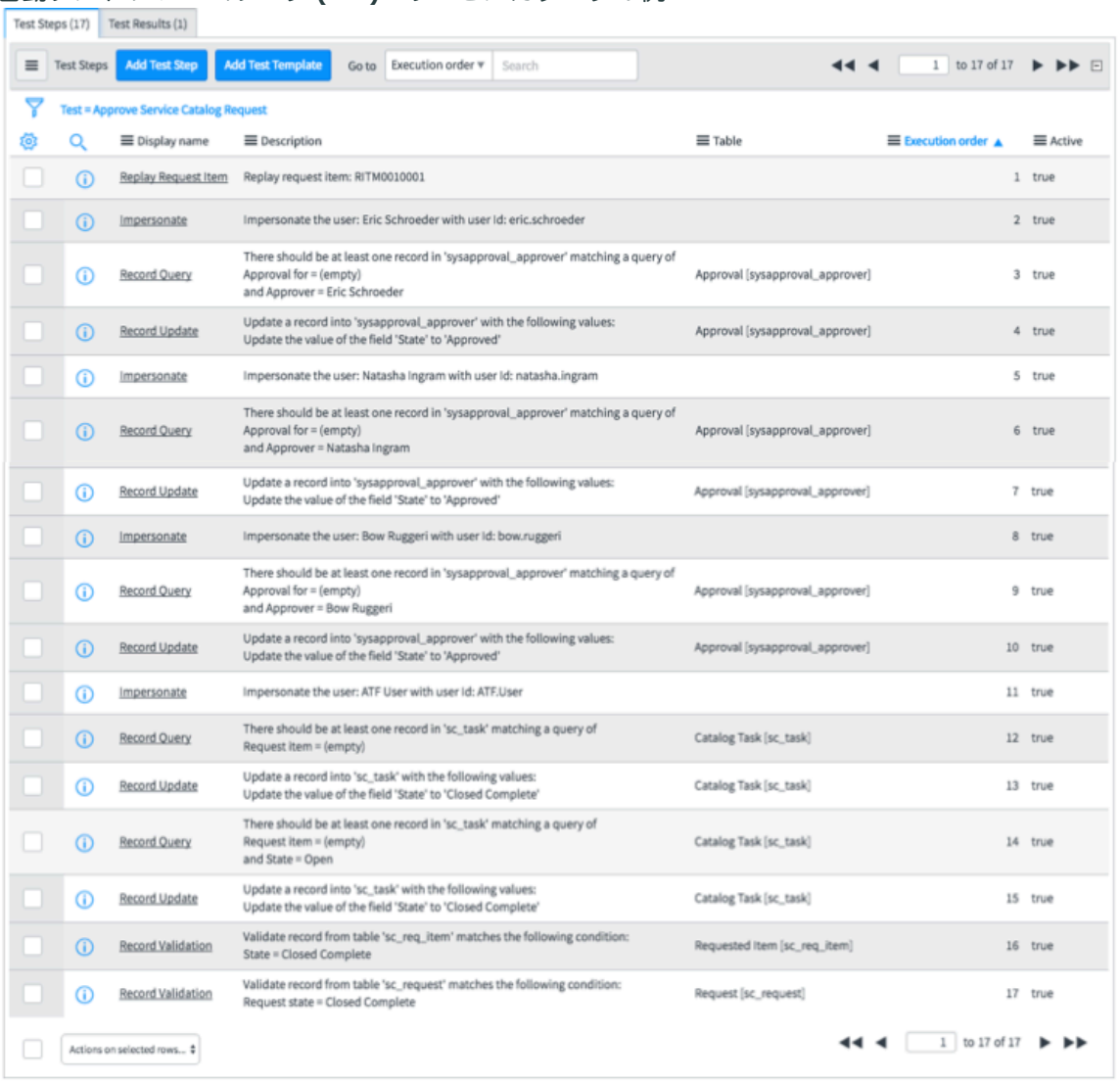
このユースケースは次のことを説明します はサービスカタログ要求 自動テストフレームワーク (ATF) を使用して をテストします。

始める前に
必要なロール：atf_test_admin

このタスクについて
要求アイテムを再現テストステップでは、要求が存在し、要求アイテムテーブルにレコードがある場合に、サービスカタログの注文プロセスをテストできます。Xanaduリリースでは、ユーザーが新しい要求を作成するプロセスの自動テストを作成することはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストフレームワーク **(ATF)**：サービスカタログの例



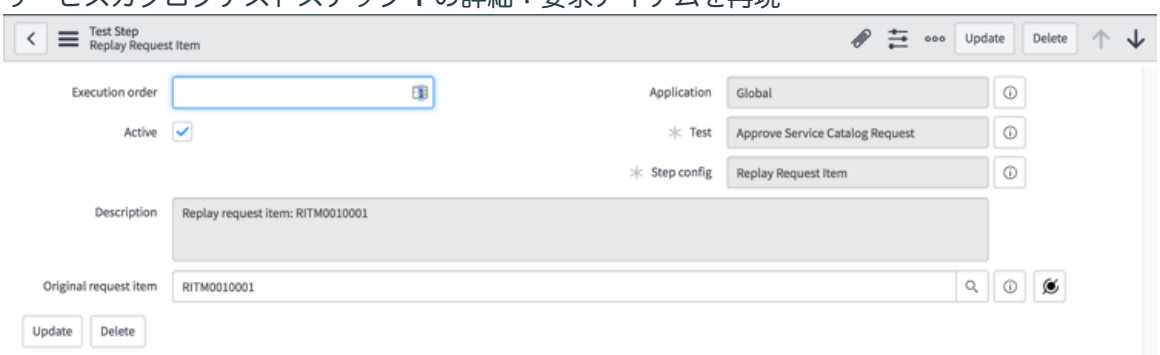
手順

1. 既存のサービスカタログ要求アイテムの再現。

   このテスト ステップは、カタログ要求アイテム RITM0010001 に対して [sc_request] テーブルに新しいレコードを挿入します。

   Example

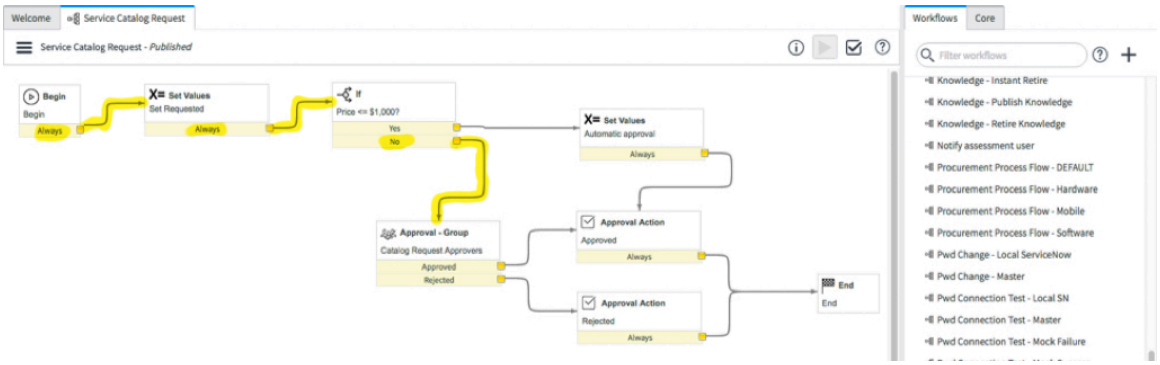
   サービスカタログテストステップ **1** の詳細：要求アイテムを再現



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この挿入によりサービスカタログ要求ワークフローがトリガーされ、アイテムの価格をチェックして $1000.00 を超えていると判断されるため、カタログ要求承認グループに属するユーザーの承認レコードが生成されます。この例では、1 人のユーザー(Eric Schroeder)のみがこのグループに属しています。

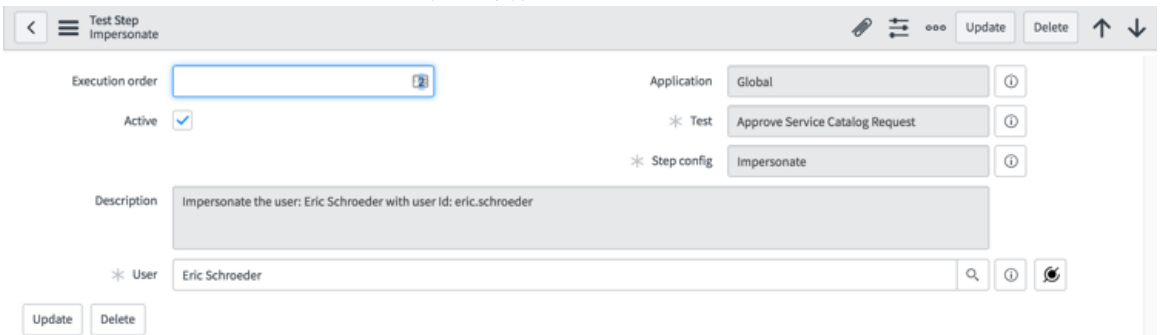
トリガーされたサービスカタログ要求ワークフローのスクリーンショット



2. このサービスカタログ要求を承認する必要があるユーザー Eric Schroeder の代理操作をします。

Example

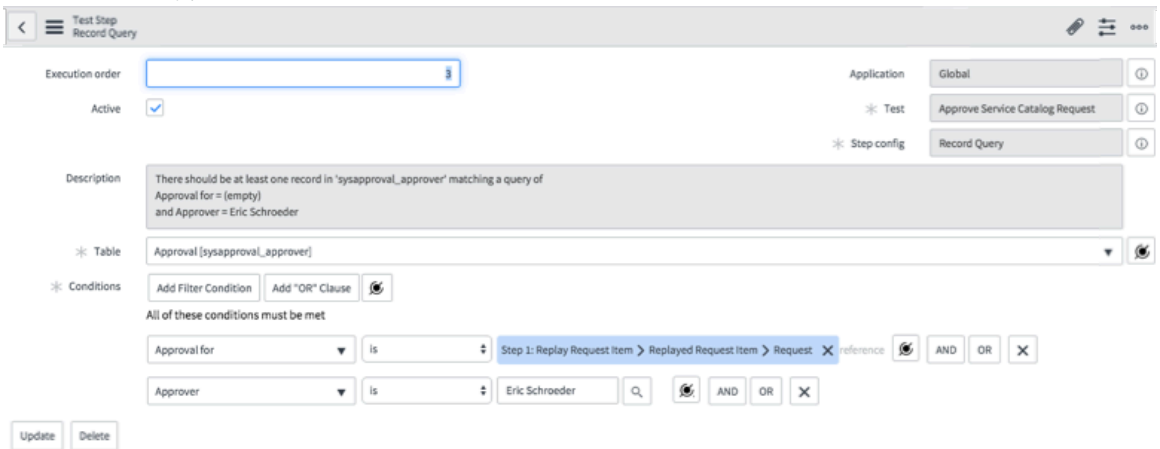
テスト ステップ - **Eric Schroder** の代理操作



3. システムが Eric Schroede rの承認レコードとこの要求を作成したことを確認します。
[承認対象] フィールドには、ステップ 1 からの出力値を割り当てます。

Example

ステップ **3**の詳細：承認レコードのレコードのクエリー

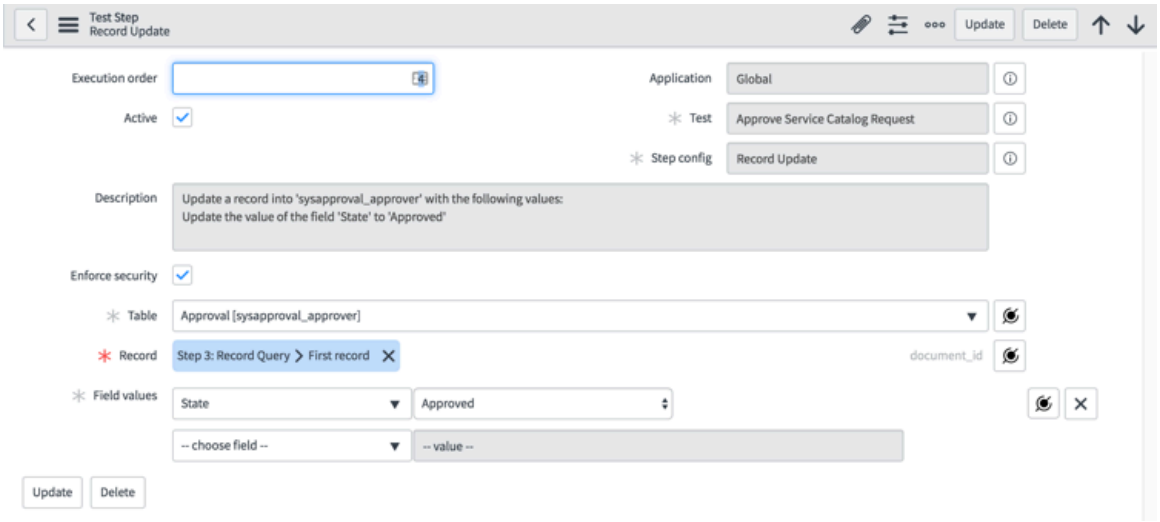


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. この承認レコードのステータスを [承認済み] に設定します。

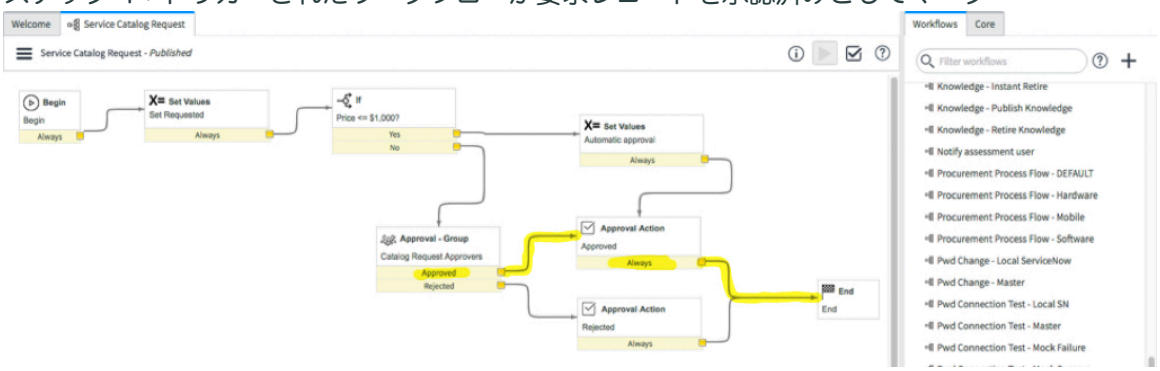
Example

ステップ **4**の詳細：承認レコードを承認済みに設定する



サービスカタログ要求ワークフローでは、すべての必要な承認レコードのステータスは [承認済み] と表示され、要求レコード [sc_request] を [承認済み] としてマークする承認アクションに移行します。

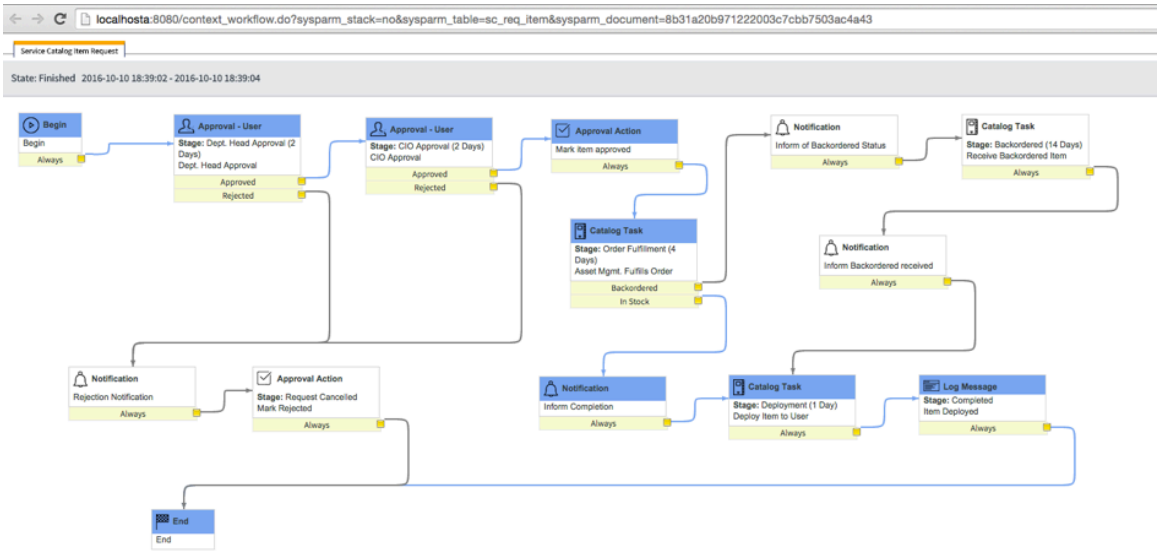
ステップ 4：トリガーされたワークフローが要求レコードを承認済みとしてマーク



[sc_request] 内のレコードが承認済み状態に変わると、関連付けられたビジネス ルールは要求内の各アイテムに対して要求アイテム [sc_request_item] を生成します。この例では、要求には 1 つの項目しか含まれていないため、ビジネス ルールは [sc_request_item] テーブルにレコードを 1 つ挿入します。この挿入により、サービスカタログアイテム要求ワークフローがトリガーされます。

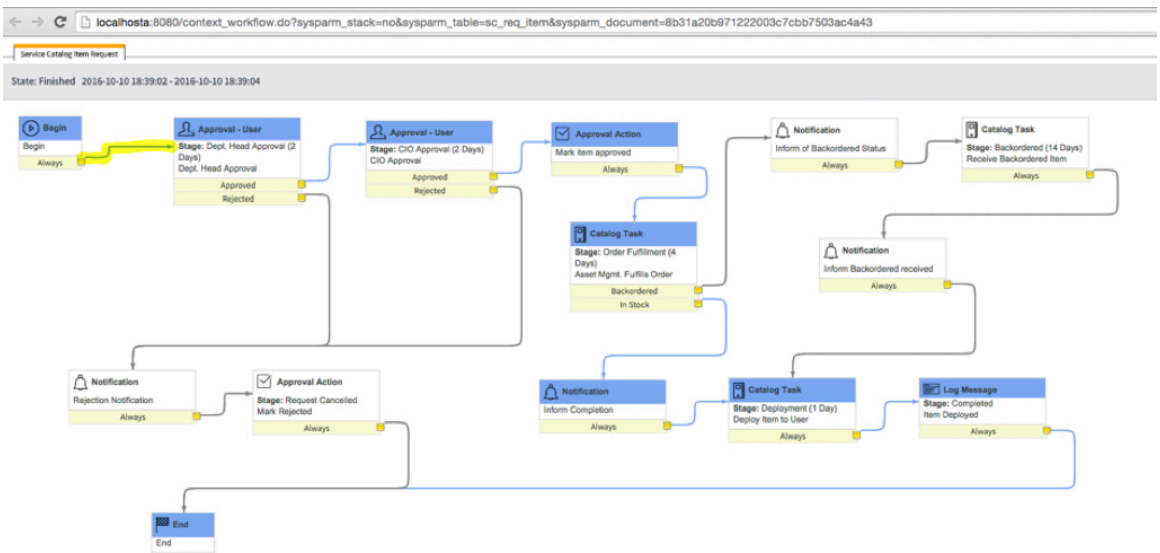
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスカタログアイテムワークフロー



サービスカタログアイテム要求ワークフローの最初のアクティビティでは、要求元のユーザーが所属する部門の責任者の承認レコードが生成されます。この例では、部長は Natasha Ingram です。

サービスカタログアイテムワークフロー：ステップ **4**

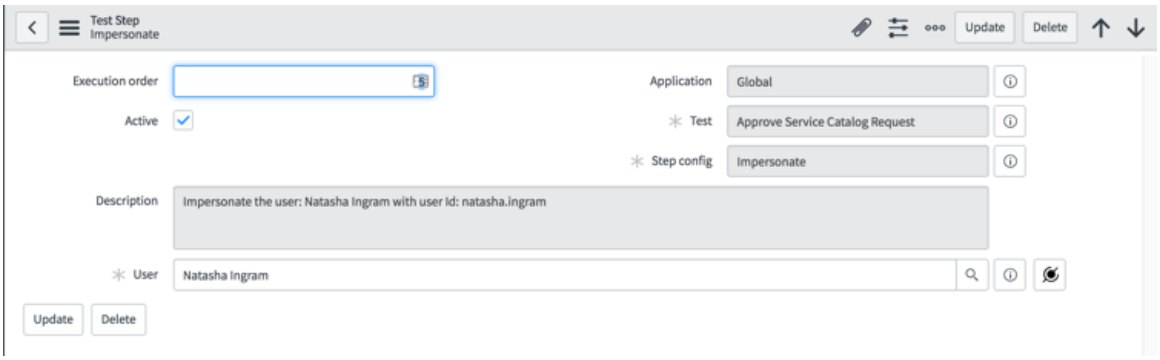


5. 部門長が承認するまでワークフローは続行されないので、次のテスト ステップは Natasha Ingram の代理操作をします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example

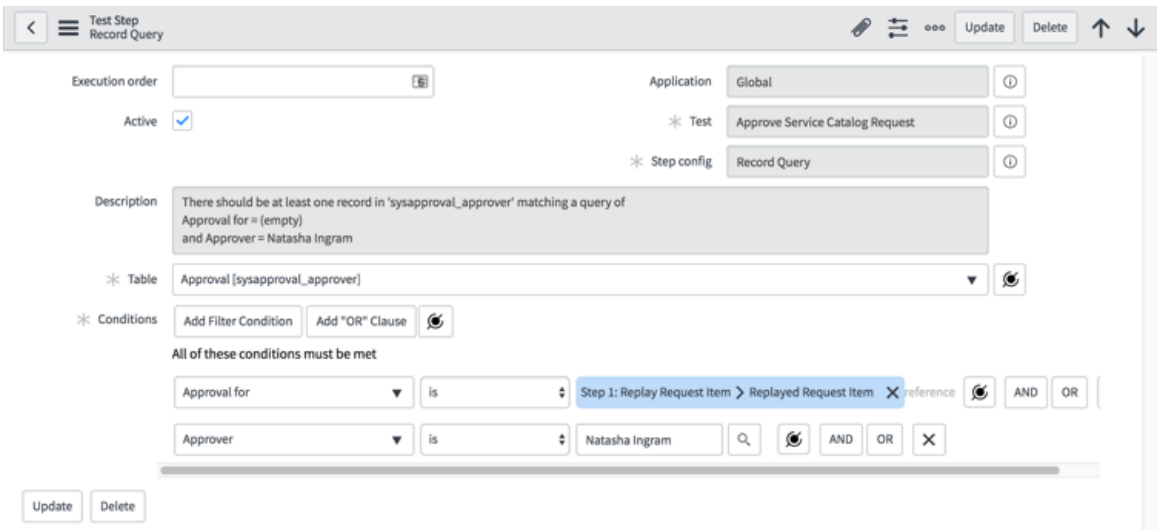
ステップ **5 -** 代理操作ユーザー



6. レコードのクエリーステップを使用して、新しい承認レコードの sys_id を取得します。
レコードのクエリーは、クエリーから返された最初のレコードの sys_id を持つ出力変数を作成します。

Example

ステップ **6 -** レコードのクエリーテスト ステップ

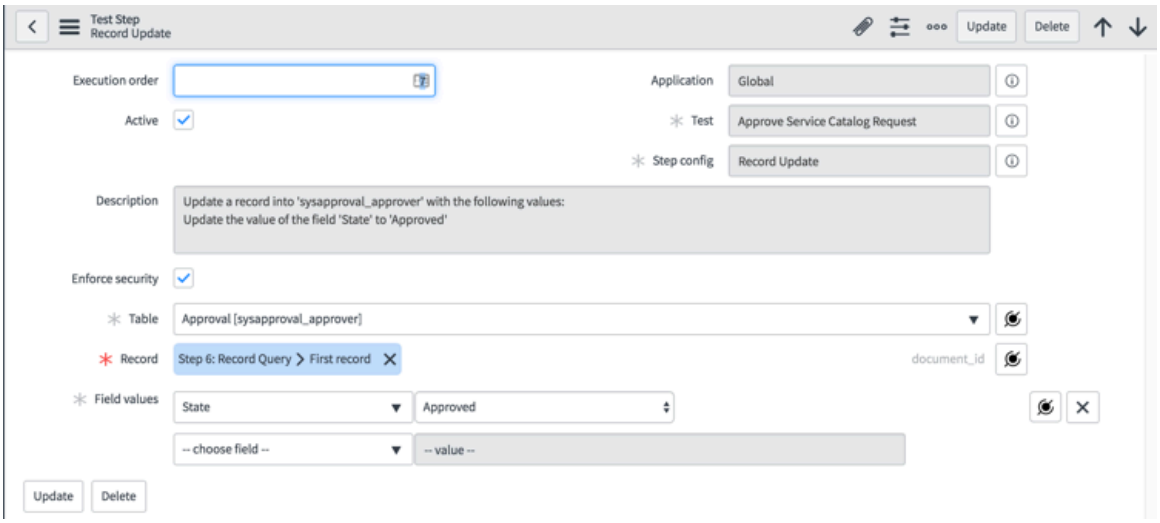


7. この承認レコードを [承認済み] に設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

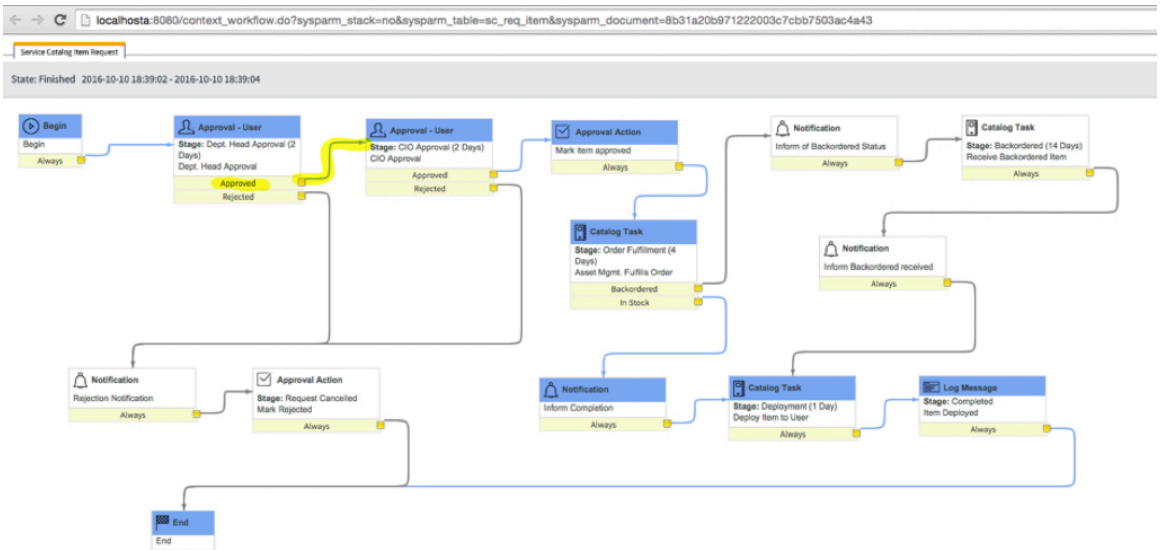
Example

ステップ **7 -** 承認ユーザーテスト ステップ



ステップ 7 での、ステップ 6 の *First record* 出力変数を参照して、承認するレコードを指定する方法に注意してください。レコードが承認されると、ワークフローは次の承認 - ユーザーアクティビティに移行し、CIO の承認レコードが生成されます。この例では、CIO は Bow Ruggeri です。

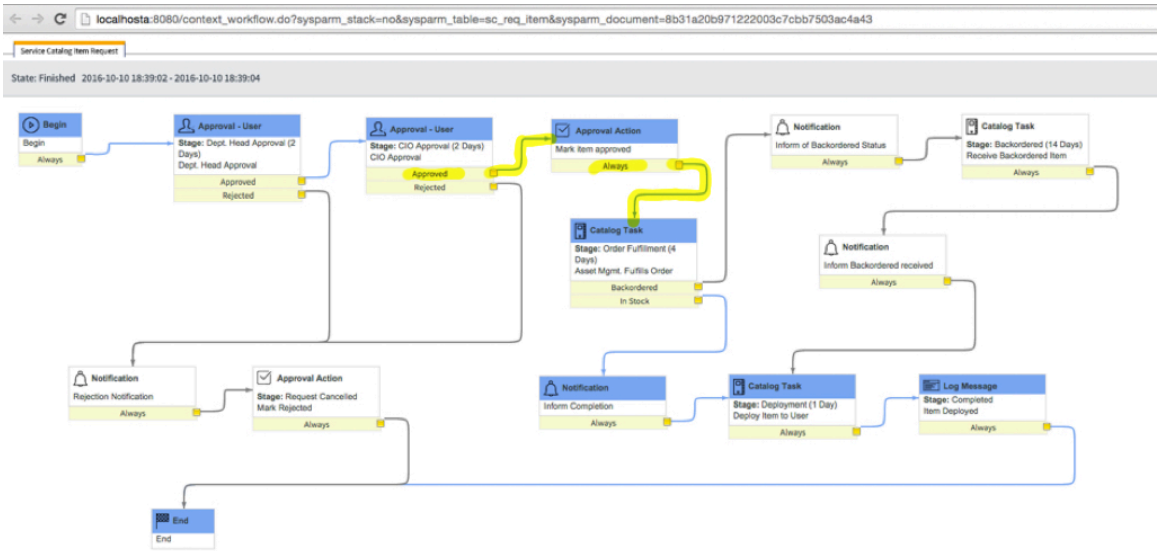
ステップ **7** の詳細 **-** サービスカタログアイテムのワークフロー



8. Bow Ruggeri の代理操作をします。
9. Bow Ruggeri の承認レコードの sys_id を取得します。
10. この承認レコードを [承認済み] に設定します。
    レコードが承認されると、ワークフローは [sc_request_item] テーブル内のこのアイテムのレコードを *Approved* に設定する [承認アクション] アクティビティに移行します。ワークフローは、資産管理注文処理というラベルのカタログタスクアクティビティに遷移します。このカタログタスクアクティビティでは、実行グループのユーザーにアイテムの注文を指示する新しいレコードが、[sc_task] テーブルに生成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

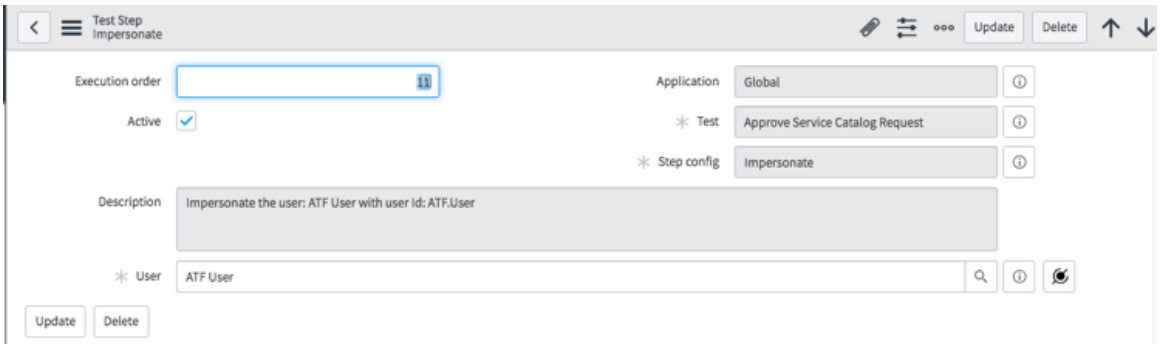
ステップ **10 -** サービスカタログアイテムワークフロー



11. 実行グループのユーザー(この例では ATF.User)の代理操作をします。

Example

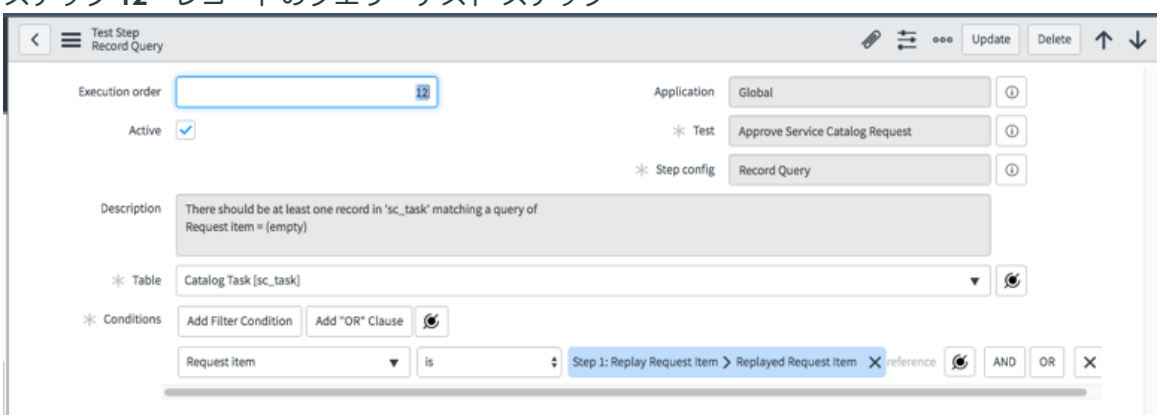
ステップ **11 -** 代理操作ユーザーテストステップ



12. レコードのクエリーステップを使用して、新しいカタログタスクの sys_id を取得します。
レコードのクエリーは、クエリーから返された最初のレコードの sys_id を持つ出力変数を作成します。

Example

ステップ **12 -** レコードのクエリーテスト ステップ

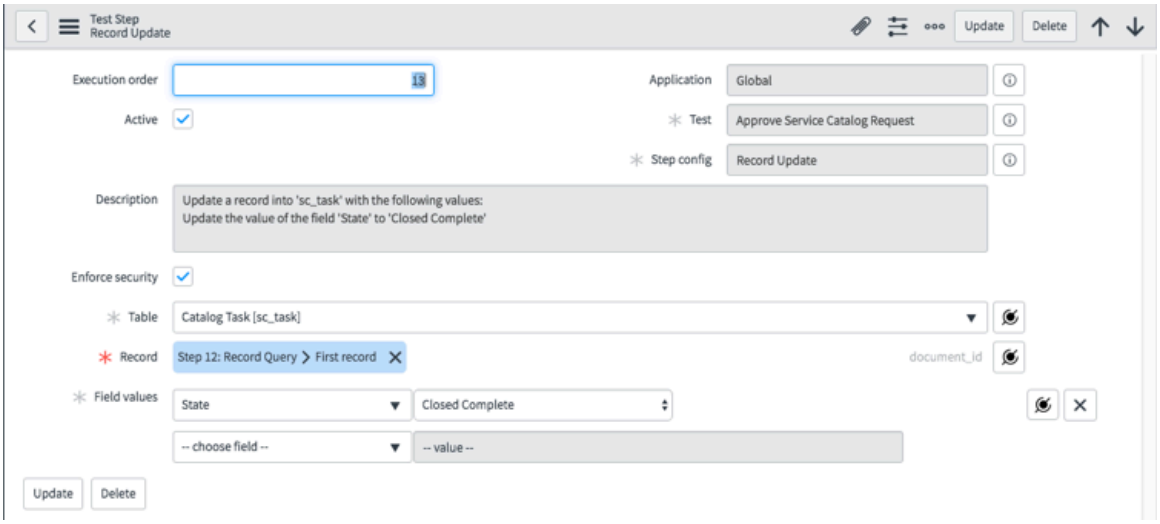


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

13. [sc_task] レコードを *Closed Complete* とマークします。

Example

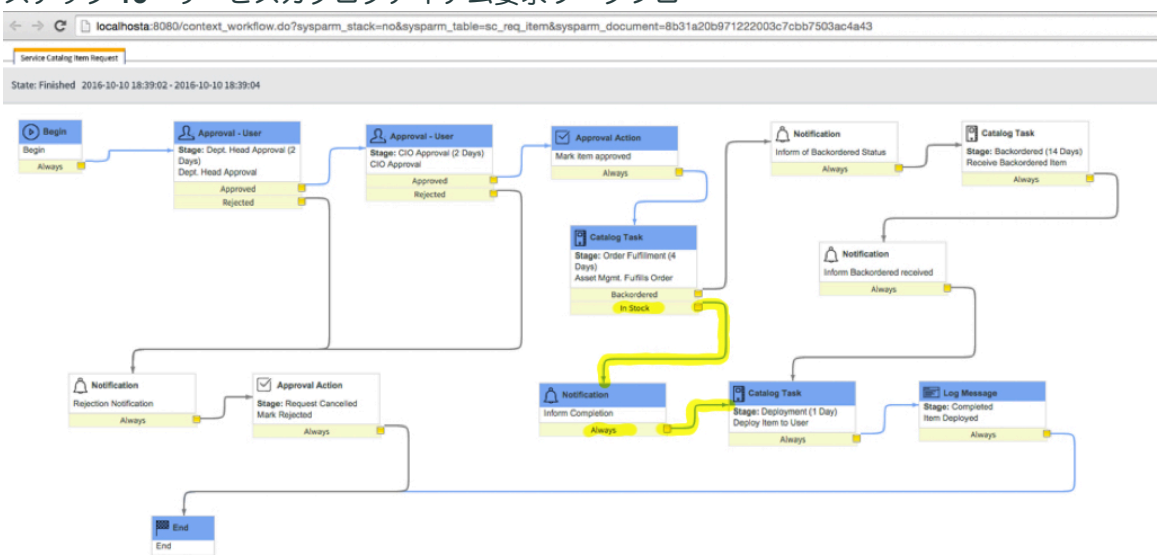
ステップ **13 -** レコード更新テスト ステップ



ステップ 13 で、ステップ 12 の *First record* 出力変数をどのように使用して、どのレコードを *Closed Complete* とマークするかに注意してください。

レコードが *Closed Complete* とマークされると、ワークフローは [在庫あり] 終了パスに沿ってカタログタスクアクティビティを終了します。

ステップ **13 -** サービスカタログアイテム要求ワークフロー



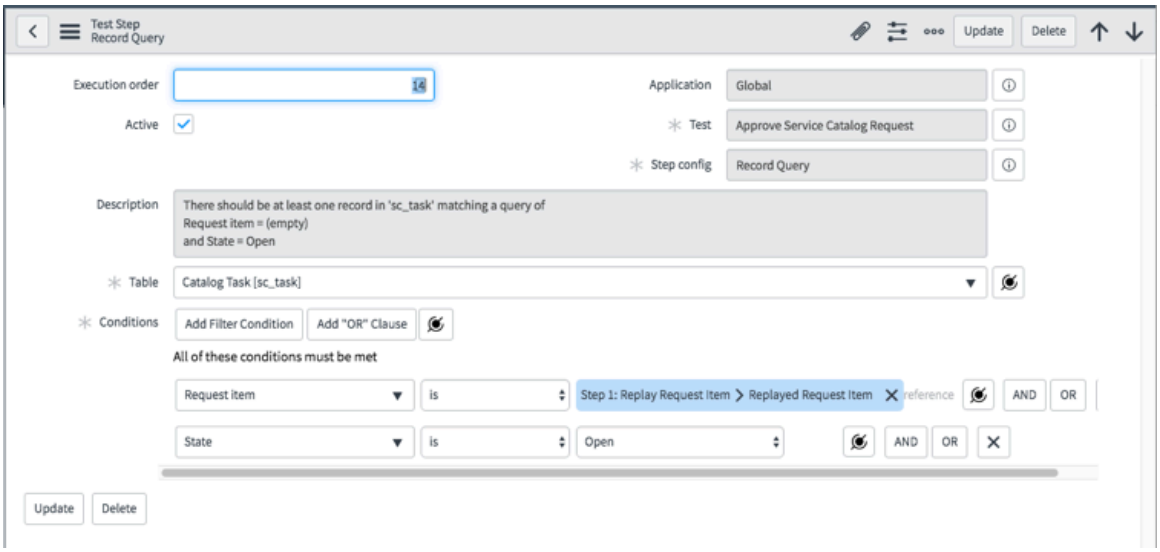
ワークフローは通知アクティビティに移行し、その後ユーザーにアイテムを展開カタログタスクアクティビティに移行します。ユーザーにアイテムを展開タスクアクティビティでは、展開グループ内のユーザーにアイテムの配信を指示する新しいレコードが、[sc_task] テーブルに挿入されます。

14. レコードのクエリーステップを使用して、新しいカタログタスクの sys_id を取得します。
レコードのクエリーは、クエリーから返された最初のレコードの sys_id を持つ出力変数を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example

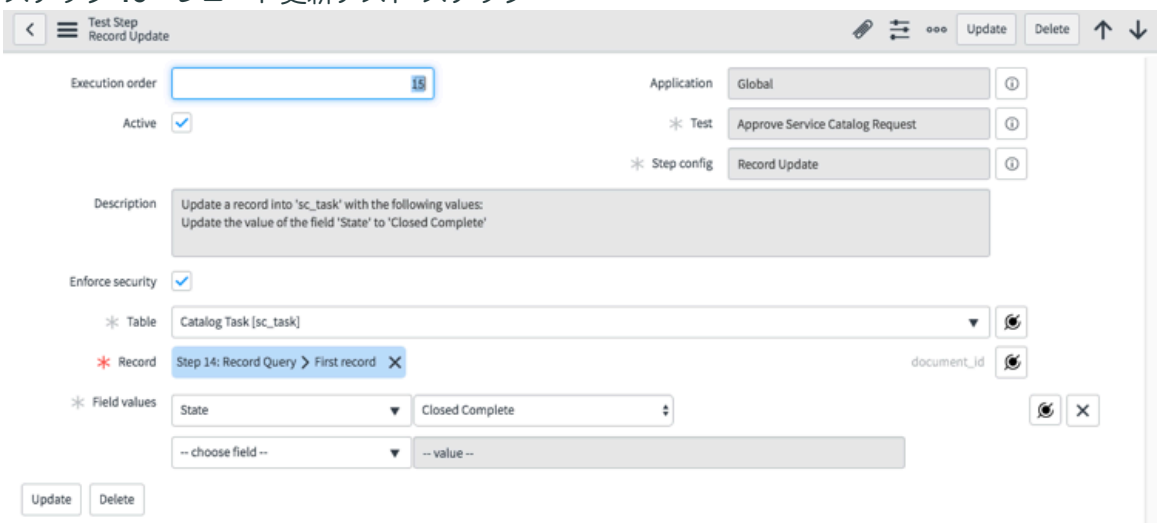
ステップ **14 -** レコードのクエリーテスト ステップ



15. [sc_task] レコードを完了してクローズとマークします。
ステップ 15 で、ステップ 14 の *First record* 出力変数をどのように使用して、どのレコードを [完了してクローズ] とマークするかに注意してください。

Example

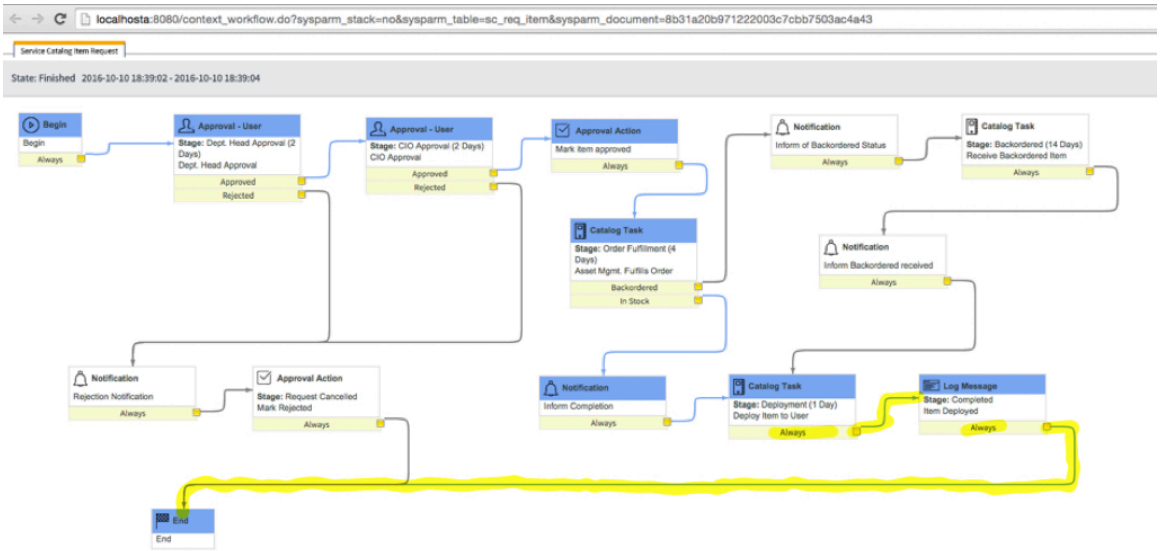
ステップ **15 -** レコード更新テスト ステップ



レコードが「完了してクローズ」とマークされると、ワークフローはカタログタスクアクティビティを終了し、メッセージを記録して終了します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

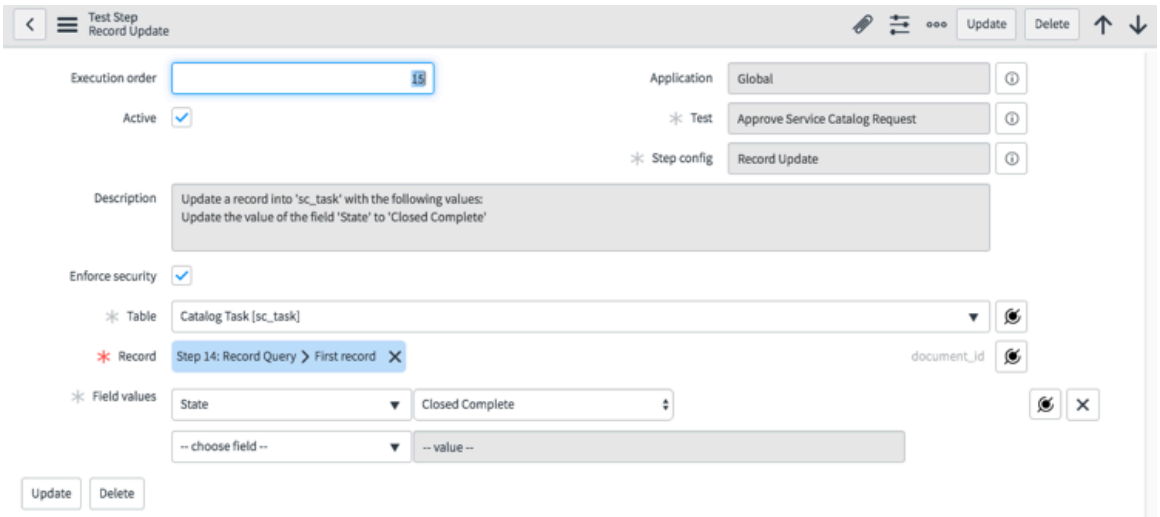
ステップ 15 - サービスカタログアイテム要求ワークフロー



16. [sc_request_item] 内の要求アイテムの状態が完了してクローズであることを確認します。

Example

ステップ 15 の詳細 - レコードの妥当性確認

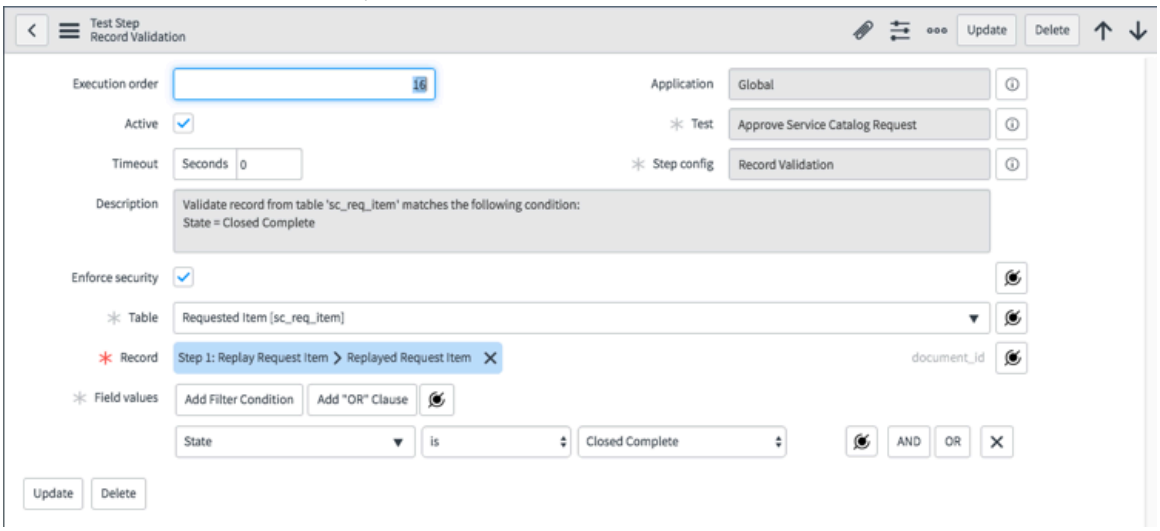


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

17. 要求 [sc_request_item] の状態が完了してクローズであることを確認します。

Example

ステップ **16 -** レコードの妥当性確認テスト ステップ



関連情報

要求アイテムを再現

自動テストフレームワーク **(ATF)** ユースケース：**REST** 受信を使用したインシデントの取得

REST API テストを使用して新しく作成されたリソースを取得テストには自動テストフレームワーク (ATF)があり、REST 受信と確認のステップを使用します。

始める前に
このテストを作成する前に、「REST API」と「REST 要求の送信 - 受信 - REST API エクスプローラー」の構成ステップ情報を確認してください。

必要なロール：atf_ws_designer

このタスクについて
このテストではインシデント レコードを作成し、REST 受信ステップを使用してレコードを取得し、次に確認ステップを使用して要求が成功したかどうかを判別します。
REST 要求送信 - 受信 REST API エクスプローラーステップを使用して、要求をビルドしてテストするか、または REST 要求送信 - 受信ステップを使用して手動で要求を作成することができます。いずれのケースでも、REST 要求-受信ステップフォームでベーシック認証情報を指定する必要があります。

テストを作成するときは、まず REST API を起動し、検証する動作を判断します。次に、作成するテストデータを決定します。他のテストステップ設定カテゴリを使用してレコードを作成、更新、または削除した後、REST 受信送信ステップを使用してテストデータを取得、更新、または削除することができます。逆に、REST受信ステップを使用してレコードを作成し、他のテストステップ設定カテゴリを使用して、レコードが正しく作成されたことを検証できます。

このタスクでは、**REST API** テストを使用して新しく作成されたリソースを取得テストの作成を順を追って説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. テストを作成します。

   a. [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [テスト] に移動し、[新規] をクリックします。
   新規レコードのテストフォームが表示されます。

   b. テスト名と説明を入力し、送信をクリックします。

   c. 前のステップで作成したテストをクリックします。
   テストフォームが表示されます。

2. テストデータを作成します。

   a. テスト ステップを追加ボタンをクリックします。
   テスト ステップの追加フォームが表示されます。

   b. テスト構成カテゴリをクリックし、テスト構成をクリックします。
   REST API テストを使用して新しく作成されたリソースを取得するテストを複製するには、サーバー > レコードの挿入をクリックしてから、次へ をクリックします。
   選択したテスト構成フォームが表示されます。

   c. 選択したテスト構成に必要な情報を入力します。
   REST API テストを使用して新しく作成されたリソースを取得するテストを複製するには、レコードの挿入フォームでインシデントテーブルを指定し、簡単な説明 フィールドに値を追加してから送信をクリックします。

3. REST 要求を作成します。

   a. テスト ステップを追加ボタンをクリックします。
   テスト ステップの追加フォームが表示されます。

   b. テスト構成カテゴリをクリックし、テスト構成をクリックします。
   REST API テストを使用して新しく作成されたリソースを取得するテストを複製するには、**REST** > **REST** 要求送信 **-** 受信 **REST API** エクスプローラーをクリックしてから、次へをクリックします。
   REST API エクスプローラー が表示されます。

   c. REST 要求に必要な情報を入力し、送信をクリックします。
   REST API テストを使用して新しく作成されたリソースを取得するテストを複製するには、フィールドに記入します。

名前	値
名前空間	今
API 名	テーブル API
API バージョン	最新
tableName	incident

   ベーシック認証を指定しなかった場合、REST API エクスプローラーはユーザーの認証情報を使用します。

   送信をクリックすると、自動テスト ステップの作成が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. 準備ができたら、自動テスト ステップを作成をクリックします。
REST 要求送信 - 受信テスト ステップが作成されます。

e. [REST 要求送信 - 受信] ステップをクリックします。 ベーシック認証フィールドにベーシック認証設定を指定します。
構成が利用できない場合は、基本認証構成フォームの新規をクリックして基本認証設定を作成できます。

f. **REST API** テストを使用して新しく作成されたリソースを取得するテストを複製するには、パスフィールドで、コンテキスト検索ボタンをクリックしてから、レコードの挿入 > レコードをクリックします。

g. [更新] をクリックします。

4. 確認ステップを作成して、REST 応答を検証します。

a. テスト ステップを追加ボタンをクリックします。
テスト ステップの追加フォームが表示されます。

b. テスト構成カテゴリをクリックし、テスト構成をクリックします。
REST API テストを使用して新しく作成されたリソースを取得するテストを複製するには、**REST** > 確認状態コードをクリックしてから、次へをクリックします。
確認状態コードフォームが表示されます。

c. フォームに必要な情報を入力し、送信をクリックします。
REST API テストを使用して新しく作成されたリソースを取得するテストを複製するには、[運用] フィールドで [は] を選択し、[状態コード] フィールドに **200** を入力します。

「**REST API** テストを使用して新しく作成されたリソースを取得する」テストを複製するには、このステップを繰り返して、「**JSON** 応答ペイロードが有効であることを確認」および「**JSON** 応答ペイロード要素を確認」テストステップを作成します。

クイックスタートテスト

構成変更を行った後に、Now Platform® によって提供されたクイックスタートテストをコピーしてカスタマイズし、インスタンスが機能することを検証します。たとえば、アップグレードを適用するか、アプリケーションを開発する場合です。

テストでは、アプリケーションまたは機能プラグインで提供されているデフォルトのデモデータを使用して実行した場合にのみ、「合格」の結果が生成されます。

注: QST が失敗する場合は、テストがインスタンスのカスタマイズと一致していない可能性があります。各テストステップの [メモ] フィールドを使用して、テストをデータで更新して「合格」にします。テストに関連付けられたビジネスプロセスをカスタマイズした場合は、カスタマイズに合わせてテストを改訂します。

インスタンス固有のデータにクイックスタートテストを適用するには、クイックスタートテストをコピーしてカスタムデータを追加します。

注: 個々のクイックスタートテストまたはクイックスタートテストスイート全体のいずれかをコピーできます。

詳細については、「Getting started with quick start tests (クイックスタートテストの概要)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティベーション

各アプリケーションまたは機能には、クイックスタートテストを有効にするための独自のプラグインアクティブ化要件があります。アクティブ化情報については、「アプリケーションまたは機能別に利用可能なクイックスタートテスト」を参照してください。

コピーの管理

テストをコピーすると、自動テストフレームワーク (ATF) は [コピー元] フィールドをコピーしたテストの名前で入力します。アップグレードによってクイックスタートテストが変更されると、自動テストフレームワーク (ATF) はテスト設計者にテストフォーム上の通知で変更を通知します。テストデザイナーは、ベースシステムへのコピーを戻す UI アクションで、コピーしたテストをアップグレードされたバージョンに戻すことができます。

ヒント: QST が更新されると、以前にコピーされたバージョンの QST には最新の変更が反映されません。関連する警告メッセージがあるすべてのテストについて、[レビューするコピー] を使用して古いコピーをレビューします。

アプリケーションまたは機能別に利用可能なクイックスタートテスト

アプリケーションの開発やアップグレードの適用などの構成変更を行った後も、インスタンスが変わらず正常に動作するかを検証します。ServiceNow によって提供されたクイックスタートテストをコピーしてカスタマイズし、インスタンス固有のデータを使用する際に渡します。

危険: デフォルトでは、自動テストを実行するためのシステムプロパティは、実稼働システムでは実行できないように無効になっています。データの破損や機能停止を避けるため、開発、テスト、および他の非本番インスタンスでのみテストを実行してください。「自動テストフレームワーク (ATF) テストの実行を有効または無効にする」を参照してください。

アジャイル開発 2.0

アジャイル開発 2.0 クイックスタートテストには、アジャイル開発 2.0 プラグイン (com.snc.sdlc.agile.2.0) および Agile Development 2.0 - ATF テストプラグイン (com.snc.sdlc.agile.2.0.atf) を有効にする必要があります。

アジャイル開発 2.0 クイックスタートテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
ストーリーの作成時にグローバルランクが追加されていることの確認	作成後にストーリーのグローバルランクを確認します。	Madrid
アクティブなストーリーでスプリントの終結が防止されていることの確認	アクティブなストーリーを含むスプリントを閉じることができないことを確認します。	Madrid
スプリントが同じグループ内で重ならないことの確認	同じグループ内のスプリントが重ならないことを確認します。	Madrid
スプリントポイントが更新されることの確認	ストーリーへの変更が正確なスプリントポイント合計を生成することを確認します。	Madrid
現在のステータスを保持できるのはグループ内の 1 スプリントのみであることの確認	スプリントのステータスを確認します。	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アジャイル開発 **2.0** クイックスタートテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
スプリント終了日がスプリント開始日より後であることの確認	スプリントの開始日と終了日を確認します。	Madrid
ストーリーの更新がエピックにロールアップしていることの確認	ストーリーの追加、推定、削除、消去、更新、またはキャンセルによって、エピックレベルのロールアップが正しく更新されることを確認します。	Orlando
現在のスプリントのスコープを変更しても、コミットポイント合計の値が変わらないことの確認	スプリントのスコープの状態が [現在] に変更されても、[コミットポイント合計] の値が変わらないことを確認します。	Orlando
Agile ストーリーの状態が [完了]/[キャンセル] に変更されたときに、アクティブフラグが false に設定されることの確認	Agile ストーリーのアクティブフラグが次のように設定されることを確認します。 • ステータスが [完了] または [キャンセル] に変更された場合は false • その他すべての状況の場合は true	Orlando
チーム/グループキャパシティを更新すると、将来のすべてのスプリントのキャパシティが上書きされることを確認する	アサイン先グループの [グループキャパシティ] フィールドが更新されると、このアサイン先グループに関連付けられているさまざまなスプリントの [グループキャパシティ] フィールドに以下の変更があることを確認してください。 • ドラフトおよび計画ステータスのスプリントの場合: ◦ グループキャパシティが新しい値に更新されます。 ◦ [グループキャパシティ] フィールドは編集可能です。 • 現在、完了、またはキャンセル済みの各ステータスのスプリントの場合: ◦ グループキャパシティは古い値のままです。 ◦ [グループキャパシティ] フィールドは読み取り専用です。 [ドラフト] または [計画] ステータスのスプリントについ	Paris

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アジャイル開発 **2.0** クイックスタートテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	ては、後でいつでもスプリントのグループキャパシティを個別に編集できます。これにより、このスプリントに関連付けられているアサイン先グループのグループキャパシティが変更されることはありません。	
スクラムプログラムのバックログのエピックの作成および編集機能を確認する	• Agile ボードの [バックログ] タブでスクラムプログラムのバックログのエピックを作成できることを確認します。 • Agile ボードの [バックログ] タブから、スクラムプログラムの既存のバックログのエピックを更新できることを確認します。 • バックログにリストされているエピックは、選択したバックログのエピックに属している必要があります。	Quebec
デマンドがスクラムストーリーに変換されていることを確認する	PPM Standard プラグイン (com.snc.financial_planning_pmo) が有効である場合は、デマンドフォームの [ストーリーの作成] 関連リンクを使用して、デマンドを Agile 2.0 ストーリーに変換できることを確認してください。 Agile 2.0 ストーリーをデマンドから作成する方法の詳細については、「デマンドからアーティファクトを作成する」を参照してください。	Quebec
デマンドがスクラムエピックに変換されていることを確認する	PPM Standard プラグイン (com.snc.financial_planning_pmo) が有効である場合は、デマンドフォームの [エピックの作成] 関連リンクを使用して、デマンドを Agile 2.0 エピックに変換できることを確認してください。 Agile 2.0 エピックをデマンドから作成する方法の詳細については、「デマンドからアーティファクトを作成する」を参照してください。	Quebec

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Agile Development 2.0 の詳細については、「Agile 開発 2.0」を参照してください。

エンタープライズアーキテクチャ (旧 アプリケーションポートフォリオ管理)

エンタープライズアーキテクチャ クイックスタートテストでは、エンタープライズアーキテクチャ - ATF Tests プラグイン (com.snc.apm.atf) を有効にする必要があります。

エンタープライズアーキテクチャ：ビジネスアプリケーションおよび機能テストスイートの作成

テスト	説明	リリースバージョン
エンタープライズアーキテクチャ：ビジネスアプリケーションの作成	アプリケーションカテゴリの作成、apm_user ロールを持つユーザーのビジネスアプリケーションの作成の順に確認します。	Madrid
エンタープライズアーキテクチャ：ビジネス機能を作成	親と子のビジネスケイパビリティの作成、そのフィールド値の順に確認します。	Madrid
エンタープライズアーキテクチャ：ビジネスサービス、ビジネスアプリケーション、ソフトウェアモデルに関連するテスト	既存のソフトウェアモデルを使用したビジネスアプリケーションおよびビジネスサービスの作成と、それらの関係を確認します。	Orlando
エンタープライズアーキテクチャ：インジケータースコアとアプリケーションスコア生成のテスト	インジケーターの作成、採点プロファイル、インジケータースコアとアプリケーションスコアの生成を確認します。	Paris
エンタープライズアーキテクチャ：情報オブジェクトおよびデータドメインを使用するビジネスアプリケーション	ビジネスアプリケーションと情報オブジェクトが作成され、関係属性に CRUD 操作が追加されていることを確認します。	Quebec

エンタープライズアーキテクチャ (旧アプリケーションポートフォリオ管理) の詳細については、「アプリケーションポートフォリオ管理」を参照してください。

アセスメントとサーベイ

アセスメントとサーベイ クイックスタートテストでは、自動テストフレームワーク (ATF) 調査プラグイン (com.glide.automated_testing_impl. サーベイ) を有効にする必要があります。

調査用のテストスイート

名前	説明	リリースバージョン
サーベイ：基本的なプラットフォームベースのテスト	プラットフォーム UI アクションを使用して調査を作成します。	Madrid
サーベイ：動的検証のためのプラットフォームテスト	サーベイを動的に検証します。	Madrid
サーベイ：クローンアクション	サーベイのクローンを作成し、元のサーベイとクローンされた	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

調査用のテストスイート (続く)

名前	説明	リリースバージョン
	サーベイのレコードを検証します。	
サーベイ：質問集フロー	サーベイに対する質問集の追加を確認します。	New York
サーベイ：サーベイクリエーター作業フロー	サーベイクリエーターは、サーベイを作成し、実施と送信を行えるユーザーにサーベイを割り当てることができます。	New York
アセスメント：アセスメントの査定人へのアサイン	アセスメントを査定人にアサインし、査定人にインスタンスが作成されたことを確認します。	Orlando
アセスメント：サーベイの作成者としてアセスメントを作成	サーベイの作成者としてアサインを作成します。	Orlando
アセスメント：スケールとテンプレートのサポート	アセスメントを作成、公開、およびアサインします。次に、アセスメントを実施します。	Rome
アセスメント：基本テストフロー	アセスメントの基本フローを確認します。	Orlando

アセスメントとサーベイの詳細については、「サービス管理」を参照してください。

変更管理

変更管理 クイックスタートテストでは、変更管理 - ATF テストプラグイン (com.snc.change_management.atf) をアクティブ化する必要があります。

CHG ：緊急タイプの変更の要求テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
緊急タイプの変更の要求ワークフロー	緊急の変更の要求を新規からクローズ済みに処理します。	Madrid
緊急タイプの変更の要求の保留	保留中の緊急の変更の要求の承認ステータスを検証します。	Madrid
緊急タイプの変更の要求の変更のコピー	コピーした緊急の変更の要求のステータスを検証します。	Madrid
緊急タイプの承認者による拒否	拒否された緊急の変更の要求のステータスを検証します。	Madrid
緊急タイプを新規に戻す	[新規に戻す] UI アクションを使用した後、緊急の変更の要求のステータスを検証します。	Madrid
緊急から通常タイプへの変換	緊急の変更の要求から通常の変更の要求への変換を検証します。	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CHG ：緊急タイプの変更の要求テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
緊急タイプの変更の要求のキャンセル	キャンセルされた緊急の変更の要求のステータスを検証します。	Madrid

CHG：通常タイプの変更の要求テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
通常タイプの変更の要求ワークフロー	通常の変更の要求を新規からクローズ済みに変更します。	Madrid
通常から緊急タイプへの変換	通常の変更の要求から緊急の変更の要求への変換を検証します。	Madrid
通常の変更の要求の変更をコピーする	コピーした通常の変更の要求のステータスを検証します。	Madrid
通常タイプの変更の要求の保留	保留中の通常の変更の要求の承認ステータスを検証します。	Madrid
承認者による通常タイプの変更の要求拒否時のステータス検証	拒否された通常の変更の要求のステータスを検証します。	Madrid
通常タイプの変更の要求を新しい機能に戻す	[新規に戻す] UI アクションを使用した後、通常の変更の要求のステータスを検証します。	Madrid
通常タイプの変更の要求のキャンセル	キャンセルされた通常の変更の要求のステータスを検証します。	Madrid

CHG：標準的な変更提案テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
標準的な変更提案	ユーザーが標準的な変更提案の作成、承認、テンプレート公開プロセスを正常に実行できるかどうかを検証します。	Madrid

CHG：標準タイプの変更の要求テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
標準的な変更の要求ワークフロー	標準的な変更の要求を新規からクローズ済みに処理します。	Madrid
標準から緊急の変更の要求への変換	標準的な変更の要求から緊急の変更の要求への変換を検証します。	Madrid
標準から通常の変更の要求への変換	標準的な変更の要求から通常の変更の要求への変換を検証します。	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CHG：許可されてない変更の要求と機能停止テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
許可されていない変更の要求ワークフロー	許可されていない変更の要求を新規からクローズ済みに処理します。	Orlando
変更の要求から予定されている機能停止タイプの機能停止を作成	変更の要求から予定されている機能停止タイプの機能停止が作成されたことを検証します。	Orlando
変更の要求から機能停止タイプの機能停止を作成	変更の要求から機能停止タイプの機能停止が作成されたことを検証します。	Orlando

CHG：ベストプラクティスプラグインのリスク条件テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
中リスクを UI アクションプロパティで	中リスクを UI アクションプロパティで処理します。	Orlando
低リスクを UI アクションプロパティで	低リスクを UI アクションプロパティで処理します。	Orlando
放置リスクを UI アクションプロパティで	放置リスクを UI アクションプロパティで処理します。	Orlando
高リスクを UI アクションプロパティで	高リスクを UI アクションプロパティで処理します。	Orlando
高リスクをビジネスルールプロパティで	高リスクをビジネスルールプロパティで処理します。	Orlando
中リスクをビジネスルールプロパティで	中リスクをビジネスルールプロパティで処理します。	Orlando

CHG：競合ソースに対する変更の要求テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
ブラックアウト期間に対する変更	ブラックアウト期間に対する変更の要求を処理します。	Orlando
既にスケジュールされている CI の競合のチェック	既にスケジュールされている CI の競合を検証します。	Orlando
競合ソースに対する変更	競合ソースに対する変更の要求を検証します。	Orlando

CHG：変更スケジュール定義と共有テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
新規の変更スケジュール定義の変更	[変更スケジュール] ランディングページの [新規] ボタンからの変更スケジュール定義の作成を処理します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CHG：変更スケジュール定義と共有テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
変更スケジュール定義のパネルを共有	変更スケジュール定義の共有パネルを検証します。	Orlando
変更スケジュール定義の共有	変更スケジュール定義の共有を検証します。	Orlando
サービスポータルを使用して標準的な変更を作成する	サービスポータルから標準的な変更を作成する	Xanadu

変更管理 の詳細については、「変更管理」を参照してください。

クラウドプロビジョニングとガバナンス

クラウドプロビジョニングとガバナンス クイックスタートテストでは、次の クラウドプロビジョニングとガバナンス プラグインをアクティブ化する必要があります。

- クラウドプロビジョニングとガバナンス (com.snc.cloud.mgmt)
- ドメインサポート：ドメイン拡張インストーラープラグイン (com.glide.domain.msp_extensions.installer)
- サービスカタログ：ドメインセパレーションプラグイン (glideapp.servicecatalog.domain_separation)

クラウドプロビジョニングとガバナンス: **Azure** テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
CMP：Azure 認証情報の追加	[認証情報] テーブルにフィールドを挿入して、Azure 認証情報を追加します。	Orlando
CMP：Azure サービスアカウント	サービスアカウントテーブルにフィールドを挿入して、Azure サービスアカウントを追加します。	Orlando
CMP：データセンタータイプの更新	データセンタータイプでクラウドサービスアカウントを更新します。	Orlando
CMP：リソースグループの作成	ARM テンプレートを使用して、Azure スタックをプロビジョニングするリソースグループを作成します。	Orlando
CMP：Azure 論理データセンターの作成	リソースをプロビジョニングするための Azure 論理データセンターを作成します。	Orlando
CMP：「Contains：Contained by」関係の作成	リソースグループと Azure データセンターの間に「Contains：Contained by」関係を作成します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラウドプロビジョニングとガバナンス: **Azure** テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
CMP：「Hosted on」関係の作成	論理データセンターとクラウドサービスアカウントの間に「Hosted on」関係を作成します。	Orlando
CMP：クラウドアカウントの作成	クラウドアカウントテーブルにフィールドを挿入して、クラウドアカウントを作成します。	Orlando
CMP：クラウドアカウントと論理データセンターの関連付け	CMP クラウドアカウントと論理データセンターの間に関連付けを作成します。	Orlando
CMP：カタログアイテムの作成	ARM テンプレートを使用してクラウドカタログアイテムを作成します。	Orlando
CMP：テンプレートバージョンの作成	クラウドカタログアイテムのクラウドテンプレートバージョンを作成します。	Orlando
CMP：ARM テンプレート本文	クラウドテンプレートバージョンを ARM テンプレート本文で更新します。	Orlando
CMP：[ServiceNow クラウドテンプレートバージョン] を開く	[ServiceNow クラウドテンプレートバージョン] GUI ページを開きます。	Orlando
CMP：クラウドテンプレートバージョンのアクティブ化	リソースブロック、詳細計画、およびカタログを作成するために、クラウドテンプレートバージョンを有効にします。	Orlando
CMP：クラウドテンプレートのバージョンの確認	アクティベーション操作後、クラウドテンプレートバージョンでステータスが成功、アクティブになっているかどうかを検証します。	Orlando
CMP：クラウドカタログアイテムのアクティブ化	クラウドカタログアイテムを有効にし、カタログ注文フォームをクラウドユーザーに表示します。	Orlando
CMP：カタログアイテムへのスタックとリソースグループ名の追加	カタログアイテムのスタック名とリソースグループのデフォルト値を設定します。	Orlando
CMP：スタックが存在するかどうかの確認	「ATFARMStack」という名前でスタックが利用可能かどうかを検証します。	Orlando
CMP：クラウドカタログアイテムページを開く	サービスポータルの [クラウドカタログアイテム] ページを開きます。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラウドプロビジョニングとガバナンス: **Azure** テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
CMP：カタログフォームの送信	カタログフォームを送信して、ARM スタックのプロビジョニングを開始します。	Orlando
CMP：スタックステータスがアクティブかどうかの確認	スタックのプロビジョニング後にスタックのステータスを検証します。	Orlando
CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - 停止操作	停止操作後に、スタックのステータスが「オン」から「オフ」に変更されたことを検証します。	Orlando
CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - 開始操作	開始操作後に、スタックのステータスが「オフ」から「オン」に変更されたことを検証します。	Orlando
CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - プロビジョニング解除操作	プロビジョニング解除操作後に、スタックのステータスが「オン」から「終了」に変更されたことを検証します。	Orlando

クラウドプロビジョニングとガバナンス: **AWS** テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
CMP：AWS 認証情報の追加	[認証情報] テーブルにフィールドを挿入して、AWS 認証情報を追加します。	Orlando
CMP：AWS サービスアカウント	サービスアカウントテーブルにフィールドを挿入して、AWS サービスアカウントを追加します。	Orlando
CMP：データセンタータイプの更新	データセンタータイプでクラウドサービスアカウントを更新します。	Orlando
CMP：論理データセンターの作成	リソースをプロビジョニングするための論理データセンターを作成します。	Orlando
CMP：「Hosted on」関係の作成	論理データセンターとクラウドサービスアカウントの間に「Hosted on」関係を作成します。	Orlando
CMP：クラウドアカウントの作成	クラウドアカウントテーブルにフィールドを挿入して、クラウドアカウントを作成します。	Orlando
CMP：クラウドアカウントと論理データセンターの関連付け	CMP クラウドアカウントと論理データセンターの間に関連付けを作成します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラウドプロビジョニングとガバナンス: **AWS** テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
CMP：カタログアイテムの作成	CFT テンプレートを使用してクラウドカタログアイテムを作成します。	Orlando
CMP：テンプレートバージョンの作成	クラウドカタログアイテムのクラウドテンプレートバージョンを作成します。	Orlando
CMP：CFT テンプレート本文	クラウドテンプレートバージョンを CFT テンプレート本文で更新します。	Orlando
CMP：[ServiceNow クラウドテンプレートバージョン] を開く	[ServiceNow クラウドテンプレートバージョン] GUI ページを開きます。	Orlando
CMP：クラウドテンプレートバージョンのアクティブ化	リソースブロック、詳細計画、およびカタログを作成するために、クラウドテンプレートバージョンを有効にします。	Orlando
CMP：クラウドテンプレートのバージョンの確認	アクティベーション操作後、ステータスが成功でアクティブになっているかどうか、クラウドテンプレートバージョンを検証します。	Orlando
CMP：クラウドカタログアイテムのアクティブ化	クラウドカタログアイテムを有効にし、カタログ注文フォームをクラウドユーザーに表示します。	Orlando
CMP：カタログアイテムへのスタック名の追加	カタログアイテムのスタック名のデフォルト値を設定します。	Orlando
CMP：スタックが存在するかどうかの確認	「ATFCFTStack」という名前のスタックがあるかどうかを検証します。	Orlando
CMP：クラウドカタログアイテムページを開く	サービスポータルの [クラウドカタログアイテム] ページを開きます。	Orlando
CMP：カタログフォームの送信	カタログフォームを送信して CFT スタックのプロビジョニングを開始します。	Orlando
CMP：スタックステータスがアクティブかどうかの確認	スタックのプロビジョニング後にスタックのステータスを検証します。	Orlando
CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - 停止操作	停止操作後に、スタックのステータスが「オン」から「オフ」に変更されたことを検証します。	Orlando
CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - 開始操作	開始操作後に、スタックのステータスが「オフ」から「オ	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラウドプロビジョニングとガバナンス: **AWS** テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	ン」に変更されたことを検証します。	
CMP：2 日後のスタックステータスの確認 - プロビジョニング解除操作	プロビジョニング解除操作後に、スタックのステータスが「オン」から「終了」に変更されたことを検証します。	Orlando

Cloud Provisioning and Governance の詳細については、「Cloud Provisioning and Governance 」を参照してください。

コーチング

コーチング クイックスタートテストでは、コーチング プラグイン (com sn_coaching) をアクティブ化する必要があります。

コーチングテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
コーチング：コーチとしてログインしているときにアセスメントを手動で作成する	コーチとして、アセスメントを作成し、研修生にアサインできることを確認します。	Orlando
コーチング：機会にスキルを追加し、研修生にスキルが付与されたことを確認する	コーチング機会にスキルを追加し、研修生がアセスメントを完了した後に、これらのスキルが付与されていることを確認します。	Orlando
コーチング：仮想コーチとしてアセスメントを完了する	仮想コーチが機会に関連付けられている場合に、仮想コーチがアセスメントを完了し、研修生にフィードバックを提供することを確認します。	Orlando
コーチング：アセスメントにスキルを追加し、研修生にスキルが付与されたことを確認する	コーチングアセスメントにスキルを追加し、アセスメントを完了した後に、これらのスキルが研修生に付与されていることを確認します。	Orlando
コーチング：推奨事項にスキルを追加し、研修生にスキルが付与されたことを確認する	コーチング推奨事項にスキルを追加し、研修生がアセスメントを完了した後に、これらのスキルが付与されていることを確認します。	Orlando
コーチング：コーチとしてログインしているときに、アセスメントをあるステータスから別のステータスに変更する	コーチとして、アセスメントをあるステータスから別のステータスに変更できることを確認します。	Orlando
コーチング：推奨される学習をアセスメントに添付する	アセスメントを生成するときに、機会について推奨される学	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コーチングテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	習がアセスメントに追加されることを確認します。	
コーチング：コーチング機会が非アクティブである場合、アセスメントは生成されない	コーチング機会が非アクティブのステータスになっている場合、アセスメントは生成されないことを確認します。	Orlando
コーチング：コーチユーザーとしてコーチングのサーベイを送信します。	コーチが研修生のサーベイを送信できることを確認します。	Quebec
コーチング：研修生ユーザーとしてコーチングのサーベイを送信します。	研修生がコーチのサーベイを送信できることを確認します。	Quebec

コーチングの詳細については、「コーチング」を参照してください。

Communities

Communities クイックスタートテストでは、カスタマー Communities プラグイン (com.sn_customer_communities) および Communities デモデータプラグイン (com.sn_communities_demo) をアクティブ化する必要があります。

Communities：コミュニティテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
質問の投稿およびフィードの検証	コミュニティに質問が投稿されたことを確認し、その質問がコンテンツフィードに表示されるかどうかを検証します。	Madrid
ビデオの投稿	ビデオがコミュニティに投稿されたことを確認します。	Madrid
フォーラムメンバーシップの承認	フォーラムへのメンバーシップ要求が承認されたことを確認します。	Madrid
フォーラムメンバーシップの拒否	フォーラムへのメンバーシップ要求が却下されたことを確認します。	Madrid
モデレートタスクの承認	モデレートタスクが承認されていることを確認します。	Madrid
モデレートタスクの拒否	モデレートタスクが却下されたことを確認します。	Madrid
トピックのサブスクリプションとアクティビティフィードの検証	トピックがに登録されていることと、トピックアクティビティがアクティビティフィードに表示されていることを確認します。	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Communities：コミュニティテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
質問に対するコンテンツ承認ワークフロータスクの承認	質問のコンテンツ承認ワークフローを確認します。	New York
質問の自動サブスクリプションとアクティビティフィードの検証	作成者が自動的に質問に登録され、質問のアクティビティがアクティビティフィードに表示されていることを確認します。	New York
ユーザーをフォロー	コミュニティユーザーが別のコミュニティユーザーをフォローできることを確認します。	New York
質問に対するコンテンツ承認ワークフロータスクを却下	コンテンツが却下された場合の質問のコンテンツ承認ワークフローを確認します。	New York
ビデオ投稿のゲーミフィケーション	ビデオの投稿時に得られたゲーミフィケーションポイントを確認します。	New York
フォーラムのサブスクリプションとアクティビティフィードの検証	フォーラムが登録されおり、フォーラムのアクティビティがアクティビティフィードに表示されていることを確認します。	New York
質問のサブスクリプションとアクティビティフィードの検証	質問が登録されおり、質問のアクティビティがアクティビティフィードに表示されていることを確認します。	New York
[コメントの無効化] オプションを使用してビデオを投稿	[コメントを無効化] オプションが選択された状態でビデオが投稿されることを確認します。	Orlando
ビデオを特集として固定	フォーラムおよびコミュニティのホームページで、コミュニティアドミニストレーターがビデオを特集としてマークしていることを確認します。	Orlando

Communities の詳細については、「Communities」を参照してください。

コンフィグレーションコンプライアンス

コンフィグレーションコンプライアンス クイックスタートテストでは、コンフィグレーションコンプライアンス アプリケーション (sn_vulc) をアクティブ化してデモデータをロードする必要があります。

コンフィグレーションコンプライアンス クイックスタートテスト

テスト	説明	リリースバージョン
コンフィギュレーションコンプライアンスアサインルール	アサインルールを作成します。	Xanadu

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンフィグレーションコンプライアンス クイックスタートテスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
コンフィグレーションコンプライアンス - グループルールを最適用	テスト結果グループルールを再適用します。	Xanadu
コンフィグレーションコンプライアンス - グループルールを削除	テスト結果グループルールを削除します。	Xanadu

コンフィグレーションコンプライアンスの詳細については、「コンフィグレーションコンプライアンス」を参照してください。

構成管理データベース (CMDB)

構成管理データベース (CMDB) クイックスタートテストでは、構成管理 (CMDB) プラグイン (com.snc.cmdb) と CMDB - ATF テストプラグイン (com.snc.cmdb.atf) をアクティブ化する必要があります。

CMDB BSM：依存関係ビューテストスイート
依存関係ビュー *API* の機能をチェックするテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
CMDB BSM：依存関係ビュー	依存関係ビュー API の機能をテストします。これらの API は、指定された CI sys_id に対して、また itil ユーザーロールを使用して、依存関係ビューおよび関連マップアイテム (コンテキストメニューアイテムなど) を取得します。	New York

CMDB ヘルス：**CMDB** ヘルスダッシュボードテストスイート
基本的なレベルで *CMDB* ヘルスダッシュボードが機能しているかどうかを確認するテストスイート。

テスト	説明	リリースバージョン
CMDB ヘルス: 健全性ジョブステータス	30 日以上前に開始された CMDB ヘルスダッシュボードジョブが、まだ処理中かどうかを確認します。	New York
CMDB ヘルス：CMDB ヘルスの完全性/推奨	推奨される測定基準 (CMDB ヘルス完全性 KPI など) がフル機能しているか確認します。 このテストの検証対象：	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CMDB ヘルス：**CMDB** ヘルスダッシュボードテストスイート
基本的なレベルで *CMDB* ヘルスダッシュボードが機能しているかどうかを確認するテストスイート。

(続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	• 推奨評価指標の健全性包含ルールの作成。 • 健全性包含ルールを満たす推奨フィールドを作成します。 • 推奨フィールドにデータが欠落しているテストレコードに対して、健全性包含ルールが正しく適用されていることを検証します。	

CMDB IRE: 識別調整エンジンテストスイート
識別および調整エンジン *(IRE)* 機能を確認するためのテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
CMDB IRE: IRE 検証	CI ID および調整の定義を検証し、CI ID のインデックスをチェックします。	Madrid
CMDB IRE: 調整ルール	調整ルールの操作を、itil と itil_admin の各ロールを使用して CI クラスマネージャーで確認します。操作には、調整ルールの作成、編集、削除が含まれます。 また、アクティブまたは非アクティブな設定と派生したルールを確認します。	Paris
CMDB IRE: 識別ルール	識別ルールの操作を、itil と itil_admin の各ロールを使用して CI クラスマネージャーで確認します。操作には、識別ルールの作成、編集、削除が含まれます。 また、アクティブまたは非アクティブな設定と派生したルールを確認します。	Paris

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CMDB QB: クエリビルダーテストスイート

2つの関連するユーザーロール - *cmdb_query_builder* と *cmdb_query_builder_read* を使用して、クエリーの作成、クエリーの読み込み、クエリーの実行などの *CMDB* クエリービルダー機能を検証するためのテストスイート。

テスト	説明	リリースバージョン
CMDB QB: クエリビルダー - cmdb_query_builder ロール	cmdb_query_builder ユーザーロールが、CMDB クエリービルダーでクエリーを保存し、保存されたすべてのクエリーにアクセスして実行できることを確認します。	New York
CMDB QB: クエリビルダー - cmdb_query_builder_read ロール	CMDB クエリービルダーで、cmdb_query_builder ユーザーロールが保存されたクエリーにアクセスして実行でき、クエリーの保存はできないことを確認します。	New York

CMDB REL: 関係エディターとフォーマッターのテストスイート

関係エディターと関係フォーマッターの機能を確認するためのテストスイート。

テスト	説明	リリースバージョン
CMDB REL EDITOR: 関係エディター	itil ユーザーロールを使用して、CI への関係の追加と CI からの関係の削除を確認します。	New York
CMDB REL FORMATTER: 関連フォーマッター	itil ユーザーロールを使用して、関係フォーマッターの特定の CI に対して表示される CI 情報、関係性タイプ、関係性、変更チケットなどの関連レコード、および CMDB ビュー (関係フィルター) などの設定が正しいかどうかを確認します。	New York

CMDB SDK: SDK REST API テストスイート

CMDB SDK REST API の機能を検証するためのテストスイート。

テスト	説明	リリースバージョン
CMDB SDK: CMDB メタデータのクエリ	CMDB メタデータのクエリをテストします。	New York
CMDB SDK: REST API を使用した CI に対する関係性の作成	CMDB REST API を使用して、CMDB 内の CI に対する関係性の作成をテストします。	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CMDB SDK: SDK REST API テストスイート
CMDB SDK REST API の機能を検証するためのテストスイート。

(続く)

テスト	説明	リリースバージョン
CMDB SDK: REST API を使用した CI に対する関係性の削除	CMDB REST API を使用して、CI に対する関係性の削除をテストします。	New York
CMDB SDK: REST API を使用した CI の作成	CMDB REST API を使用して CI の作成をテストします。	New York
CMDB SDK: REST API を使用した CMDB のクエリ	CMDB REST API を使用して CMDB のクエリをテストします。	New York
CMDB SDK: REST API を使用した CI の更新	CMDB REST API を使用して CI の更新をテストします。	New York
CMDB SDK: REST API を使用した CI のクエリ	CMDB REST API を使用して CI のクエリをテストします。	New York

構成管理データベース (CMDB) の詳細については、「構成管理データベース (CMDB)」を参照してください。

継続的改善管理

継続的改善管理 クイックスタートテストでは、継続的改善管理 自動テストプラグイン (com.sn_cim.atf) をアクティブ化する必要があります。

継続的改善管理 テスト

テスト	説明	リリースバージョン
CIM：アセスメントからのインバウンド統合	アセスメントから改善のイニシアティブを作成します。	Paris
CIM：インシデント管理からのインバウンド統合	インシデントから改善のイニシアティブを作成します。	Paris
CIM：問題管理からのインバウンド統合	問題から改善のイニシアティブを作成します。	Paris
CIM：サーベイ管理からのインバウンド統合	サーベイから改善のイニシアティブを作成します。	Paris

継続的改善管理の詳細については、「継続的改善管理」を参照してください。

カスタマーサービス管理 (CSM)

カスタマーサービス管理 (CSM) のクイックスタートテストでは、常にカスタマーサービス管理 (CSM) デモデータプラグイン (com.snc.customerservice.demo) をアクティブ化する必要があります。一部のクイックスタートテストでは、次のプラグインをアクティブにする必要があります。

- 事業所 (com.snc.business_location)
- Case Playbook for Complaints(sn_complaint)
- Case Playbook for Onboarding (sn_onboarding)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 消費者サービスポータルプラグイン (com.glide.service-portal.consumer-portal) をアクティブにします。
- CSM 貢献者ユーザー (com.snc_csm_contributor_user)
- プロキシ連絡先の CSM 拡張 (com.snc.csm_proxy_contacts)
- カスタマーサービス世帯 (com.snc.household)
- 注文のカスタマーサービス管理 (CSM) (com.snc.csm.order)
- カスタマーサービスポータル (com.glide.service-portal.customer-portal)
- 要求管理によるカスタマーサービス (com.sn_cs_sm_request)
- サービス管理によるカスタマーサービス (com.sn_cs_sm)
- ガイド付きディシジョンエクスペリエンス - com.snc.guided_decisions_playbook_experience
- ガイド付きデシジョン - ネクストベストアクション (com.snc.next_best_action)
- 重大な問題管理 (com.sn_majorissue_mgt)
- イベント管理によるプロアクティブカスタマーサービスオペレーションプラグイン (com.snc.proactive_cs_ops)
- スキル決定 (com.snc.skill_determination)
- CSM 向け Walk-Up (com.snc.walkup_for_csm)

CSM：ケース管理のテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
CSM: 製品ケースを作成	製品に対してケースを作成します。	Madrid
CSM：エージェントにケースをアサイン	ケースを作成して、カスタマーサービスエージェントに割り当てます。	Madrid
CSM：ケースに資産を割り当てる	ケースに資産を割り当てます。	Madrid
CSM：エンタイトルメント割り当て	ケースにエンタイトルメントを割り当てます。	Madrid
CSM：アカウントをエスカレート	アカウントをエスカレートします。	Madrid
CSM：ケースをエスカレート	ケースをエスカレートします。	Madrid
CSM：特別処理メモを作成	ケースに特別処理メモを作成します。	Madrid
CSM：ケースをクローズ	ケースをクローズします。	Madrid
CSM：時間記録	ケースに取り組んだ時間を記録します。	Madrid
CSM：ケースから CHG を作成する	ケースから変更レコードを作成します。	Madrid
CSM：ケースからインシデントを作成する	ケースからインシデントレコードを作成します。	Madrid
CSM：オーダーケースを作成	注文に対してケースを作成します。	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ケース管理のテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	注: 注文のカスタマーサービス管理 (CSM) が必要です。	
CSM：CSM ポータルから顧客としてオーダーケースを作成	カスタマーサービスポータルから顧客として注文ケースを作成します。 **注:** カスタマーサービスポータルが必要です。また、アドミンとしてテストを実行する必要があります。	Madrid
CSM：ケースから問題を作成する	ケースから問題レコードを作成します。	Madrid
CSM：NOC オペレーターによるプロアクティブケースの作成	プロアクティブケースが作成されているかどうかを確認します。 **注:** イベント管理によるプロアクティブカスタマーサービスオペレーションが必要です。	New York
CSM：ケース OBO 顧客を作成する社員	プロキシの連絡先ロール (sn_customerservice_proxy_contact) を持つ社員として、顧客の代わりにセルフサービスポータルからケースを作成します。 **注:** プロキシ連絡先の CSM 拡張が必要です。	New York
CSM：ルックアップタイプのスキル決定ルールテスト	ルックアップタイプのスキル決定ルールを作成します。 **注:** スキルを決定する必要があります。	New York
CSM：CSM ポータルから要求 OBO 顧客を作成するマネージャー	ケースマネージャーロールを持つユーザーとして、カスタマーサービスポータルから顧客の代わりにケースを作成します。 **注:** カスタマーサービス要求のデータ連携が必要です。	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ケース管理のテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
CSM：単純なタイプのスキル決定ルールテスト	単純なタイプのスキル決定ルールを作成します。 注: スキルを決定する必要があります。	New York
CSM： 新しいケースタイプの登録	ケースタイプを登録し、レコードが作成されたことを確認します。	Orlando
CSM： プロジェクトマネージャーがアカウントのプロジェクトを作成	プロジェクトマネージャーがアカウントのプロジェクトを作成します。 注: 顧客プロジェクト管理 (PM) が必要です。	Orlando
CSM：プロジェクトマネージャーがプロジェクトの連絡先を特定	プロジェクトマネージャーがプロジェクトの顧客を特定します。 注: 顧客プロジェクト管理 (PM) が必要です。	Orlando
CSM：プロジェクトマネージャーがプロジェクトタスクを作成して顧客にアサイン	プロジェクトマネージャーがプロジェクトタスクを作成して、顧客にアサインします。 注: 顧客プロジェクト管理 (PM) が必要です。	Orlando
CSM：プロジェクトからケースを作成	プロジェクトからケースを作成します。	Orlando
CSM：プロジェクトタスクからケースを作成	プロジェクトタスクからケースを作成します。	Orlando
CSM：ケースからタスクを作成	ケースからケースタスクを作成します。	Orlando
CSM：顧客の要求を作成するエージェント	カスタマーサービスエージェントとして、顧客の要求を作成します。 注: カスタマーサービス要求のデータ連携が必要です。	Orlando
CSM：エージェントがプロジェクトからケースを作成	カスタマーサービスエージェントとして、プロジェクトからケースを作成します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ケース管理のテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	注: 顧客プロジェクト管理 (PM) が必要です。	
CSM：エージェントがプロジェクトタスクからケースを作成	カスタマーサービスエージェントとして、プロジェクトタスクからケースを作成します。 **注:** 顧客プロジェクト管理 (PM) が必要です。	Orlando
CSM：エージェントがプロジェクトの変更の要求を作成	カスタマーサービスエージェントとして、プロジェクトの変更の要求を作成します。	Orlando
CSM：重大なケースとその子ケースの作成	受信者リスト内の顧客アカウントに対して、重大なケースと関連する子ケースを作成します。 **注:** 重大な問題管理が必要です。	Orlando
CSM：高度なタイプのスキル決定ルールテスト	高度なタイプのスキル決定ルールを作成します。 **注:** スキルを決定する必要があります。	Orlando
CSM：販売済み製品の対象のサービス契約	販売済み製品とサービス契約を作成し、サービス契約を販売済み製品に関連付けます。アクティブな契約と販売済み製品の間の関連性を確認します。 **注:** カスタマーサービスインストールベース管理が必要です。	Orlando
AWA：新規サービスチャネルの作成	高度なワークアサインメントアプリケーションで新しいサービスチャネルを作成します。 **注:** CSM 向け高度なワークアサインメントが必要です。	Orlando
CSM-ITOM：積極的な重大なケースの子ケースを作成	受信者リストを使用して、プロアクティブで重大なケースの子ケースを作成します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ケース管理のテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	注: イベント管理によるプロアクティブカスタマーサービスオペレーションが必要です。	
CSM - 機能停止を ケースから作成	新規作成した機能停止がケースにリンクされているかどうかを検証します。	Paris
CSM：世帯での販売済み製品の作成	世帯とそのメンバーに販売された製品を作成します。 注: [デモデータのロード] が有効になっているカスタマーサービスインストールベース管理とカスタマーサービスの世帯が必要です。	Quebec
CSM：[アカウント] および [ケース] ページからインストールベースアイテムの健全性ステータスを表示する	[アカウント] および [ケースレコード] ページの [インストールベースの健全性をリフレッシュ] ボタンの機能を検証します。	Quebec
CSM：ケースタスクエージェントにケースタスクをアサイン	カスタマーサービスエージェントは、ケースタスクを作成してケースタスクエージェントにアサインします。	Rome
CSM：アサインされたケースタスクをケースタスクエージェントが表示	アサインされたケースタスクをケースタスクエージェントが表示できることを確認します。	Rome
CSM：アサインされたタスクをケースタスクエージェントが完了	アサインされたケースタスクをケースタスクエージェントが完了します。	Rome
CSM：エージェントワークスペース のケースからナレッジギャップを報告	ケースに関連するナレッジギャップがエージェントワークスペースで報告されたことを確認します。	Rome
CSM：「ケースの作成 (POST)」API を使用してケースを作成	「ケースの作成 (POST)」API を使用してケースを作成します。 注: ATF のステップ 1 で [ベーシック認証] フィールドにアサインされたユーザー認証レコードが必要です。	Rome

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM：ケース管理のテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
CSM：「ケースのクエリ (GET)」API を使用してケースをクエリ	「ケースのクエリ (GET)」API を使用してケースをクエリします。 **注:** ATF のステップ 1 で [ベーシック認証] フィールドにアサインされたユーザー認証レコードが必要です。	Rome
CSM：OCS マネージャーが新しい OSP を作成	新しいアウトソーシングサービスプロバイダー (OSP) が OCS 内部マネージャーによって作成されていることを確認します。 **注:** カスタマーサービスのアウトソーシングが必要です。	Rome
CSM：OCS エージェントによるケースの作成	カスタマーサービスのアウトソーシングエージェントがケースを作成できることを確認します。 **注:** カスタマーサービスのアウトソーシングが必要です。	Rome
CSM：消費者プロファイルの場所の管理	消費者の場所を作成して管理し、消費者プロファイルにマッピングします。	Washington DC
CSM：アカウント間での住所の共有	アカウントに再利用可能な住所を実装して、複雑なカスタマーオペレーションとビジネスモデルをサポートします。	Washington DC

CSM 構成可能ワークスペースのテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
CSM ワークスペース：ケース作成のワークフロー	CSM/FSM 構成可能ワークスペースで、カスタマーサービスマネージャーによるケースレコードの作成をテストします。	Xanadu
CSM ワークスペース：ケースフォローアップのワークフロー	CSM/FSM 構成可能ワークスペースで、カスタマーサービスマネージャーによる顧客からの情報要求をテストします。	Xanadu

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM 構成可能ワークスペースのテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
CSM ワークスペース：ナレッジギャップの報告のワークフロー	CSM/FSM 構成可能ワークスペースで、カスタマーサービスマネージャーによるケースレコードのナレッジフィードバックタスクの作成をテストします。	Xanadu
CSM ワークスペース：ケース解決のワークフロー	CSM/FSM 構成可能ワークスペースでカスタマーサービスマネージャーによるケースレコードの解決をテストします。	Xanadu
CSM ワークスペース：ケースからインシデントを作成	CSM/FSM 構成ワークスペースで、カスタマーサービスエージェントによるケースレコードからのインシデントレコードの作成をテストします。	Xanadu
CSM ワークスペース：ケースから問題を作成	CSM/FSM 構成可能ワークスペースで、カスタマーサービスエージェントによるケースレコードからの問題レコードの作成をテストします。	Xanadu
CSM ワークスペース：ケースから通常の変更を作成	CSM/FSM 構成可能ワークスペースで、カスタマーサービスエージェントによるケースレコードからの変更レコードの作成をテストします。	Xanadu

CSM: ケースタイプ **-** 苦情

テスト	説明	リリースバージョン
苦情ケース を作成	ユーザーがタイプ「苦情」のケースを sn_complaint_case テーブルで作成できるかどうかをテストします。	Paris
苦情ケース をエスカレート	ユーザーがタイプ「苦情」のケースを sn_complaint_case テーブルでエスカレートできるかどうかをテストします。	Paris

CSM: ケースタイプ **-** オンボーディング

テスト	説明	リリースバージョン
オンボーディングケース を作成	ユーザーがタイプ「オンボーディング」のケースを sn_onboarding_case テーブルで作成できるかどうかをテストします。	Paris

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM: ケースタイプ - オンボーディング (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
オンボーディングケース をエスカレート	ユーザーがタイプ「オンボーディング」のケースを sn_onboarding_case テーブルで作成できるかどうかをテストします。	Paris

CSM：運用ダッシュボードテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
awa_admin_operations_dashboard	Orl ロール awa_admin を持つユーザーが、運用ダッシュボードの [高度なワークアサインメント] メニュー、未アサインのインタラクションモジュール、および未アサインのタスク作業アイテムモジュールを表示できることを確認します。	Orlando
awa_manager_operations_dashboard	Orl ロール awa_manager を持つユーザーが、運用ダッシュボードの [高度な作業アサイン] メニュー、未アサインのインタラクションモジュールおよび未アサインのタスク作業アイテムモジュールを表示できることを確認します。	Orlando

CSM ポータルテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
CSM：CSM ポータルから顧客として製品ケースを作成	カスタマーサービスポータルから顧客として製品ケースを作成します。 **注:** カスタマーサービスポータルが必要です。また、アドミンとしてテストを実行する必要があります。	Madrid
CSM：CSM ポータルからパートナーとして製品ケースを作成	カスタマーサービスポータルからパートナーとして製品ケースを作成します。 **注:** カスタマーサービスポータルが必要です。また、アドミンとしてテストを実行する必要があります。	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM ポータルテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
CSM：ホームページの検索	カスタマーサービスポータルから情報を検索します。検索には、ケース、ナレッジ記事、およびコミュニティスレッドが含まれます。	New York
CSM ：サポートプロファイルの更新	カスタマーサービスポータルから連絡先のプロファイルを更新します。	New York
CSM ：ケースに関して要求された情報を提供	カスタマーサービスポータルから、連絡先はエージェントによって要求されたケースの情報を提供できます。	New York
CSM ：ケースに提案されたソリューションを承認	カスタマーサービスポータルから、ケースに提案されたソリューションを承認します。	New York
CSM：サーベイについてのフィードバックを提供	カスタマーサービスポータルからケースがクローズされた後、サーベイについてのフィードバックを提供します。	New York
CSM：すべてのデスクトップ通知を表示	すべてのカスタマーサービス管理 (CSM) 固有のデスクトップ通知を表示します。	Orlando
CSM：CSM ポータルの公開物を表示	カスタマーサービス管理 (CSM) ポータルの公開物を表示します。	Orlando
CSM：CSM ポータルで連絡先を作成	カスタマーサービス管理 (CSM) ポータルで連絡先を作成します。	Orlando
CSM：CSM ポータルの機能停止ウィジェットを検証	さまざまなタイプの機能停止と、カスタマーサービスポータルのホームページおよびインストールベースページに表示される対応するウィジェットを検証します。	Quebec
CSM - コンシューマ貢献者としてポータルからケースを作成	コンシューマ貢献者ユーザーロール (sn_customerservice.consumer_contributor) を持つユーザーによってポータルから顧客ケースを作成します。 **注:** 事業所、カスタマーサービス世帯、および CSM 貢献者ユーザーが必要です。	Rome

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSM ポータルテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
CSM - アカウント貢献者としてポータルからケースを作成	アカウント貢献者ユーザーロール (sn_customerservice.account_contributor) を持つユーザーによってポータルから顧客ケースを作成します。 **注:** 事業所、カスタマーサービス世帯、および CSM 貢献者ユーザーが必要です。	Rome
CSM：ケースに関係者を追加し、関係者としてケースのアクションを実行	ケースに関係者を追加し、CSM ポータルを介して関係者としてケースに対してアクションを実行できることを確認します。	Rome

CSP ポータルテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
CSP：CSP ポータルから消費者として製品ケースを作成	消費者サービスポータルから消費者として製品ケースを作成します。 **注:** 消費者サービスポータルが必要です。また、アドミンとしてテストを実行する必要があります。	Madrid
CSP：ホームページの検索	消費者サービスポータルから情報を検索します。検索には、ケース、ナレッジ記事、およびコミュニティスレッドが含まれます。	New York
CSP：サポートプロファイルの更新	消費者サービスポータルから消費者プロファイルを更新します。	New York
CSP：製品を登録	消費者サービスポータルから製品を登録します。	New York
CSP ：ケースに関して要求された情報を提供	消費者サービスポータルから、消費者はエージェントによって要求されたケースの情報を提供できます。	New York
CSP ：ケースに提案されたソリューションを承認	消費者サービスポータルから、ケースに対して提案されたソリューションを承認します。	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSP ポータルテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
CSP：サーベイについてのフィードバックを提供	消費者サービスポータルからケースがクローズされた後、サーベイについてのフィードバックを提供します。	New York
CSP：CSP ポータルの公開物を表示	カスタマーサービスポータルの公開物を表示します。	Orlando

ガイド付きディシジョン - 次のベストアクション ATF テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
ネクストベストアクションリストの検証 - ガイド付きデシジョン	構成されたルールに基づいて推奨されるネクストベストアクションのリストを検証します。	San Diego
次のベストアクションランキングの検証 - ガイド付きデシジョン	構成されたルールに基づいて推奨されるネクストベストアクションのリストを検証します。	San Diego

TC：ターゲットコミュニケーションテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
TC：受信者リストの作成	必要なパラメーターを使用して受信者リストを作成します。[受信者] 関連リスト内の新しい受信者リストを確認します。	Orlando
TC：公開物の作成	公開物を作成します。公開物は公開日に基づいて公開されます。受信者リストのユーザーが公開物を取得したかどうかを確認します。	Orlando

CSM Walkup Experience テスト

テスト	説明	リリースバージョン
CSM Walkup：ウォークアップユーザーとしてチェックインし、キューを確認してサーベイを送信	ウォークアップユーザーとして、チェックインを実行し、キューを確認して、サーベイを通じてフィードバックを送信します。 **注:** このテストは、デモデータで利用可能なシアトルの場所が利用可能な場合に機能します。	Rome

カスタマーサービス管理 (CSM) の詳細については、「カスタマーサービス管理 (CSM)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダッシュボード

ダッシュボード クイックスタートテストでは、自動テストフレームワーク - レスポンシブダッシュボードプラグイン (com.glide.automated_testing_impl.dashboards) を有効にする必要があります。このプラグインはインスタンスの zBoot で有効になります。

ダッシュボード クイックスタートテスト

テスト	説明	リリースバージョン
レスポンシブダッシュボードの共有	代理操作をしているユーザーによるダッシュボードの共有を確認します。	Madrid
レスポンシブダッシュボードの可視化	代理操作をしているユーザーによるダッシュボードの可視化を確認します。	Madrid

ダッシュボードの詳細については、「ダッシュボード」を参照してください。

DevOps

DevOps クイックスタートテストは、ServiceNow アプリケーションを DevOps ストアからインストールするときに利用できます。

DevOps テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
DevOps コードツールフロー	DevOps コーディングツールのフローデザイナーフローを確認します。	Madrid
CR による DevOps オーケストレーションフロー	変更の要求を含む DevOps オーケストレーションツールのフローデザイナーフローを確認します。	Madrid
DevOps オーケストレーションツールフロー	DevOps オーケストレーションツールのフローデザイナーフローを確認します。	Madrid
DevOps 計画立案ツールフロー	DevOps 計画立案ツールのフローデザイナーフローを確認します。	Madrid

DevOps の詳細については、「DevOps チェンジベロシティ」を参照してください。

従業員センターおよび従業員センタープロ

従業員センター クイックスタートテスト

テスト	説明	リリースバージョン
承認タスクのアドホック委任を作成する	従業員センター で [自分のタスク (My Tasks)] フォームから承認タスクのアドホック委任を作成できることを確認します。	San Diego

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

従業員センター クイックスタートテスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
HR タスクのアドホック委任を作成する	従業員センター で [自分のタスク] フォームから HR タスクのアドホック委任を作成できることを確認します。	San Diego
従業員センター - お気に入り	従業員センター のお気に入り機能を検証します。KB 記事またはカタログアイテムがお気に入りウィジェットに追加された場合も確認します。	San Diego
従業員センター - 承認ハブ 承認要求	従業員センター の承認機能を検証します。また、要求が承認されたときに、ユーザーの [完了] 列に表示されることも確認します。	San Diego
従業員センター - 承認ハブ 却下要求	却下機能を確認します。また、要求が却下されたときに、ユーザーの [完了] 列に表示されることも確認します。	San Diego
従業員センター - 従業員プロファイルの生成	従業員プロファイルが従業員の定義に従って生成されていることを確認します。	Xanadu
従業員センター - トピックページ	KB 記事またはカタログアイテムをトピックに関連付け、トピックページに表示されることを確認します。	San Diego
従業員センター： ホームページウィジェットを検証	従業員センター ホームページに次のウィジェットが存在することを検証します。 • 関連分野 • 人気のトピック • 自分のアクティブなアイテム • クイックタスク • ホームページ検索	San Diego
従業員センタープロ - アプリランチャー	[自分のアプリケーション] ページで次を検証します。 • アプリケーションを作成し、アプリケーションページに表示されることを確認します。 • トピック/カテゴリを作成し、アプリケーションを関連付けて、トピックとカテゴリの下に表示されることを検証します。	San Diego

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

従業員センター クイックスタートテスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
従業員センタープロ - ホームページウィジェットを検証	従業員センタープロ ホームページに次のウィジェットが存在することを検証します。 • コンテンツエクスペリエンス • おすすめ • 人気のトピック • 予定されているイベント • 自分のアクティブなアイテム • ビデオ • アプリランチャー • ホームページ検索	San Diego
ESC：従業員はチケットの更新を表示できる	従業員はチケットの更新を表示できます。	Quebec
ESC：人事に関する一般的な問い合わせの質問を ESC ポータルに投稿	人事の従業員が一般的な問い合わせケースを作成し、人事に関する一般的な問い合わせの質問を ESC に投稿できることを確認します。	Quebec
ESC：ユニバーサル要求および人事ケースを作成するレコードプロデューサーを送信	ユーザーがユニバーサル要求を作成する人事カタログアイテムを送信できることを確認します。また、ユニバーサル要求および人事ケースが作成およびリンクされていることを確認します。	Quebec
ESC：人事ケースに関する ESC の標準チケットページを確認	サービスポータルから一般的な問い合わせケースを作成し、標準チケットページに表示されていることを確認します。	Quebec
ESC：カタログアイテムのウィジェットのコンテンツの確認	カタログページのウィジェットコンテンツを確認します。	Orlando
ESC：ナレッジページのウィジェットコンテンツの確認	ナレッジページのウィジェットコンテンツを確認します。	Orlando
HR：ESC でのカタログアイテムと KB の検索	ESC の検索機能を検証します。	Quebec
分類とトピックの作成	分類とトピックを作成し、トピックにコンテンツを追加します。	San Diego

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 以下のプラグインのアクティベーションが必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- 従業員センターコア [app-ex-employee-center-core]
- 従業員センター [app-ex-employee-center]
- 従業員センタープロ [app-ex-employee-center-pro-content]
- コンテンツ公開 [app-content-publishing]
- コンテンツエクスペリエンス [app-content-experiences]

コンテンツエクスペリエンス

テスト	説明	リリースバージョン
コンテンツエクスペリエンス：キャンペーンの作成と公開	ポータルコンテンツを含むキャンペーンを作成して公開し、コンテンツエクスペリエンスポータルに対して検証します。	Orlando
コンテンツエクスペリエンス：ポータルプレビュー	キャンペーンマネージャーがポータルプレビューを使用してポータルコンテンツをプレビューできることを確認します。	Rome
コンテンツエクスペリエンス：キャンペーンを公開する前の個々のコンテンツのプレビュー	キャンペーンマネージャーがキャンペーンの個々のコンテンツをプレビューできることを確認します。	San Diego

注: 以下のプラグインのアクティベーションが必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- 従業員センターコア [app-ex-employee-center-core]
- 従業員センター [app-ex-employee-center]
- 従業員センタープロ [app-ex-employee-center-pro-content]
- コンテンツエクスペリエンス [app-content-experiences]

コンテンツガバナンス

テスト	説明	リリースバージョン
コンテンツガバナンス - 新規コンテンツ要求 E2E ワークフロー	コンテンツ要求の作成からコンテンツの公開までのエンドツーエンドのテストを提供します。	San Diego

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 以下のプラグインのアクティベーションが必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- 従業員センターコア [app-ex-employee-center-core]
- 従業員センター [app-ex-employee-center]
- 従業員センタープロ [app-ex-employee-center-pro-content]
- コンテンツ公開 [app-content-publishing]
- コンテンツエクスペリエンス [app-content-experiences]
- コンテンツガバナンス [app-content-governance]

コンテンツ公開

テスト	説明	リリースバージョン
コンテンツ公開：対象者	コンテンツ公開の対象者の構成をテストします。	Orlando
コンテンツ公開：SCA でのバナータイプのコンテンツの作成	コンテンツ公開モジュールで Streamlined Content Authoring (SCA) を使用するときに [バナーを作成] タイプを作成できるようにします。	Rome
コンテンツ公開：SCA でのスタイルコンテンツ (ビデオ) タイプのコンテンツの作成	アドミンがコンテンツ公開を使用してビデオタイプであるスタイルコンテンツを作成できることを確認します。	Rome
コンテンツ公開：ポータルコンテンツのスケジュール	コンテンツ公開デモポータルのテストコンテンツを作成してスケジュールします。	Orlando
コンテンツライブラリでのコンテンツの新規作成	ニュース記事を作成し、ポータルに公開します。	Xanadu

注: 以下のプラグインのアクティベーションが必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- 従業員センターコア [app-ex-employee-center-core]
- 従業員センター [app-ex-employee-center]
- 従業員センタープロ [app-ex-employee-center-pro-content]
- コンテンツ公開 [app-content-publishing]
- コンテンツエクスペリエンス [app-content-experiences]

Essential SAFe

Essential SAFe クイックスタートテストには、Agile - Scaled Agile Framework - Essential SAFe プラグイン (com.snc.sdlc.safe) と Agile - Scaled Agile Framework - Essential SAFe - ATF テストプラグイン (com.snc.sdlc.safe.atf) を有効にする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Essential SAFe テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
Essential SAFe：機能テスト	機能のグローバルランクの更新を確認します。	Madrid
	SAFe 機能について以下を確認します。 • 実際の開始日は、ステータスが [実装]、[ステージング時の検証]、または [展開] に変更された後に入力されます。 • 実際の終了日は、ステータスが [リリース済み] または [キャンセル] に変更された後に入力されます。 • アクティブフラグが次の適切な値に設定されています。 ◦ ステータスが [リリース済み] または [キャンセル] に変更された場合は **false**、 ◦ その他すべてのステータスでは **true** です。	Orlando
	PPM Standard プラグイン (com.snc.financial_planning_pmo) が有効である場合は、デマンドフォームの **[SAFe** 機能の作成] 関連リンクを使用して、デマンドを SAFe 機能に変換できることを確認してください。 SAFe 機能をデマンドから作成する方法の詳細については、「デマンドからアーティファクトを作成する」を参照してください。	Quebec
Essential SAFe：プログラム増分テスト	プログラムの増分の日付が重複していることを確認してください。	Madrid
Essential SAFe：スプリントテスト	ART スプリントとチームスプリントの生成、およびスプリントポイントと日付の更新を確認します。	Madrid
	アサイン先グループの [グループキャパシティ] フィールドが更新されると、このアサイン先グループに関連付けられてい	Paris

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Essential SAFe テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	るさまざまなスプリントの [グループキャパシティ] フィールドに以下の変更があることを確認してください。 • [ドラフト] または [計画] の状況のスプリントの場合： ◦ グループキャパシティが新しい値に更新されます。 ◦ [グループキャパシティ] フィールドは編集可能です。 • [現在]、[完了]、または [キャンセル] の状況のスプリントの場合： ◦ グループキャパシティは古い値のままです。 ◦ [グループキャパシティ] フィールドは読み取り専用です。 [ドラフト] または [計画] ステータスのスプリントについては、後でいつでもスプリントのグループキャパシティを個別に編集できます。これにより、このスプリントに関連付けられているアサイン先グループのグループキャパシティが変更されることはありません。	
Essential SAFe：ストーリーテスト	ストーリーのグローバルランクの更新を確認します。	Madrid
	SAFe ストーリーのアクティブフラグが次のように適切な値に設定されることを確認します。 • ステータスが [完了] または [キャンセル] に変更された場合、**False**。 • その他すべてのステータスでは True です。	Orlando
	SAFe ストーリーの追加、評価、削除、削除、更新、またはキャンセルによって、SAFe 機能レベルとエピックレベルの	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Essential SAFe テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	ロールアップが正しく更新されることを確認します。	
	SAFe ストーリーへの機能の追加、更新、または削除によって、[SAFe ストーリー] フォームの [エピック] フィールドが更新されることを確認します。	
	PPM Standard プラグイン (com.snc.financial_planning_pmo) が有効である場合は、デマンドフォームの **[SAFe** ストーリーの作成] 関連リンクを使用して、デマンドを SAFe ストーリーに変換できることを確認してください。 SAFe ストーリーをデマンドから作成する方法の詳細については、「デマンドからアーティファクトを作成する」を参照してください。	Quebec
Essential SAFe：チームテスト	ART とチームの関連付けを確認します。	Madrid
Essential SAFe：エピックテスト	SAFe エピックについて以下を確認します。 • 実際の開始日は、ステータスが [実装] に変更された後に入力されます。 • 実際の終了日は、ステータスが [完了] に変更された後に入力されます。 • アクティブフラグが次の適切な値に設定されています。 ◦ 状況が [リリース済み] または [キャンセル] に変更された場合は、**false**。 ◦ その他すべてのステータスでは **true** です。	Orlando
	PPM Standard プラグイン (com.snc.financial_planning_pmo) が有効である場合は、デマンドフォームの **[SAFe** エピックの作成] 関連リンクを使用して、デマンドを SAFe エピックに変	Quebec

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Essential SAFe テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	換できることを確認してください。 SAFe エピックをデマンドから作成する方法の詳細については、「デマンドからアーティファクトを作成する」を参照してください。	
Essential SAFe：プログラム PI 目標テスト	PI 目標の作成と更新の機能を確認します。 • プログラムインクリメントレベルの目標を作成できることを確認します。 • 作成された PI 目標を計画されたビジネス価値 (PBV) と実際のビジネス価値 (ABV) で更新できることを確認します。 • PI のプログラムの PBV と比較して、達成されたビジネス価値のパーセンテージが、コミットされた PI 目標のみを対象とした ABV 完了率として計算されていることを確認します。	Rome
Essential SAFe：チーム PI 目標テスト	チーム PI 目標を作成および更新する機能を確認します。 • チームレベル PI 目標を作成できることを確認します。 • 作成された PI 目標を計画されたビジネス価値 (PBV) と実際のビジネス価値 (ABV) で更新できることを確認します。 • PI のチームの PBV と比較して、達成されたビジネス価値のパーセンテージが、コミットされた PI 目標のみを対象とした ABV 完了率として計算されていることを確認します。	Rome

Essential SAFe の詳細については、「Essential SAFe」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベント管理

イベント管理 クイックスタートテストでは イベント管理 プラグイン (com.glideapp.itom.snac) をアクティブ化する必要があります。

イベント管理 クイックスタートテスト

テスト	説明	リリースバージョン
EMSelfMonitoring	アップグレード後に、イベント管理 プラグインで問題を追跡します。検出された問題の詳細を理解するには、すべてのアラートのリストを開き、`EMSelfMonitoring` がソースになっていて、アップグレード後に開かれたか再び開かれた、失敗したアラートを検索します。フィルタリングの正確な時間はエラーメッセージで見つけることができます。	Madrid

イベント管理の詳細については、「イベント管理」を参照してください。

フィールドサービス管理 **(FSM)**

フィールドサービス管理 (FSM) のクイックスタートテストは、フィールドサービス管理 (FSM) プラグイン (com.snc.work_management) を有効にすると実施できます。非本番インスタンスでデモデータプラグイン (com.snc.work_management.demo) を有効にして、アプリケーションで使用できるクイックスタートテストを開始します。フィールドサービスコントラクター管理プラグイン (com.snc.fsm_contractor_management) を有効にして、外部請負会社関連のテストを実行します。また、既存のデータを変更してカスタマイズし、クイックテストを実行することもできます。

FSM：フィールドサービス管理 **(FSM)** テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
FSM：認定ディスパッチの開始および作業指示書タスクの割り当て	• 作業指示書を作成します。 • 作業指示書を開始して認定します。 • 作業指示書をディスパッチします。 • 作業指示書タスクをエージェントに割り当てます。	Madrid
FSM：部品調達	• 作業指示書タスクからエージェントのストックルームに任意の部品を調達します。 • 部品調達の転送注文明細を作成します。	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FSM：フィールドサービス管理 **(FSM)** テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	• この部品を任意の作業指示書に使用し、部品使用率アクションを使用して消費します。	
FSM：部品使用率	• 作業指示書タスクからエージェントのストックルームに任意の部品を調達します。 • この部品を任意の作業指示書に使用し、部品使用率アクションを使用して消費します。	Madrid
FSM：アンケート	アンケートを作成し、作業指示書タスクに関連付けます。	Madrid
FSM：フィールドサービス構成	タスクアサイン方法、認定要件、PDF サマリー、エージェントがタスクを承認または却下する機能など、デフォルト設定が保持されていることを確認します。	New York
FSM：計画済みメインテナンス	印刷メインテナンスの週次間隔で計画済みメインテナンス作業指示を作成します。	New York
FSM：予約の設定	予約のデフォルト設定が保持されていることと、POS サービスとカタログアイテムがシステムに存在することを確認します。	New York
FSM：作業またはパーソナルスケジュールを作成	エージェントのパーソナルまたは作業スケジュールを作成します。	Orlando
FSM：フィールドサービスプロパティ設定	フィールドサービスシステムのプロパティに必要な値が保存されていることを確認します。	Orlando
FSM：ワークグループ	フィールドサービスエージェントをワークグループに追加できることを確認します。	Orlando
FSM: 動的スケジューリング - 必須部品の予約を含む優先技術者のアサイン	動的スケジューリングでは以下を行えます。	Paris

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FSM：フィールドサービス管理 **(FSM)** テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	• 優先技術者はタスクのアサインに選択する必要があります。 • 必須部品はエージェントストックルームで予約する必要があります。 **注:** カスタマーサービス管理 (CSM) デモデータプラグインをアクティブ化	
FSM：タイムカードの作成	作業指示タスクでエージェントのタイムカードが作成されていることを確認します。	Quebec
FSM：雑費を作成	作業指示タスクでエージェントの雑費が作成されていることを確認します。	Quebec
FSM：請負会社のオンボーディング	請負会社がアサイン先グループ、外部マネージャー、および外部エージェントにオンボーディングされていることを確認します。 **注:** フィールドサービスコントラクター管理プラグインを有効にします。	Quebec
FSM：外部マネージャーによる請負会社のオンボーディング	外部請負会社マネージャーがフィールドサービス 請負会社管理ポータルから外部エージェントをオンボーディングできることを確認します。	Quebec
FSM：外部請負会社マネージャーが作業指示タスクを履行	請負会社マネージャーまたはエージェントが、アサインされた作業指示タスクを履行できることを確認します。	Quebec
FSM：ベンダーグループに作業指示タスクをアサイン	タスクの場所、設定パラメーターなど、定義された基準に基づいて作業指示タスクが外部アサイン先グループにアサインされていることを確認します。	Quebec
FSM：作業指示タスクの一時停止と再開	エージェントが作業指示タスクの作業を一時停止および再開できることを確認します。	Rome
FSM：動的スケジューリング - 一致するスキルを持つ技術者にアサイン	動的スケジューリングの場合：作業指示タスクが、タスクで言及されているすべての必須スキ	Rome

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FSM：フィールドサービス管理 **(FSM)** テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	ルを持つ技術者にアサインされていることを確認します。	
FSM：外部マネージャーによる請負会社エージェントのオフボーディング	外部請負会社マネージャーがフィールドサービス 請負会社管理ポータルから外部エージェントをオフボーディングできることを確認します。	Rome
FSM：外部請負会社マネージャーの資産の調達と使用	外部請負会社マネージャーが次のアクションを実行できることを検証します。 • 倉庫に部品を要求します。 • 部品を選択します。 • 転送注文をクローズします。 • 部品を使用して作業を実行します。	San Diego
FSM：外部請負会社エージェントが作業指示タスクを履行	請負会社エージェントが、外部請負会社外マネージャーからアサインされた作業指示タスクを履行できることを確認します。	San Diego
FSM：キャパシティスケジューリング - キャパシティに基づいてフィールドサービスエージェントに作業をアサイン	キャパシティ定義およびキャパシティアサインモジュールに記載されているルールと値が評価され、キャパシティに基づいてエージェントに作業がアサインされていることを確認します。	Tokyo
FSM：外部アサイン先グループの追加マネージャーとしての外部請負会社エージェントのオンボーディング	請負会社の外部エージェントをオンボーディングするときに、追加のマネージャーロールをエージェントにアサインできることを確認します。	Tokyo
FSM：ディスパッチャワークスペース - タスクを実行するエージェントのグループを必要とする作業指示書タスクにクルーをアサイン	• クルーモデレーターロールを持つディスパッチャーがディスパッチャワークスペースでクルーを作成できることを確認します。 • クルーモデレーターロールを持つディスパッチャーがディスパッチャワークスペースで予定されているクルーに作業指示タスクを割り当て可能であることを確認します。	Tokyo
FSM：作業指書示タスクは複数日タスクのスケジューリングをサポート	複数日タスクスケジューリング機能を検証します。	Tokyo

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FSM：フィールドサービス管理 **(FSM)** テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	• 作業指示、作業指示タスク、およびエージェントスケジュールレコードを作成します。 • 作業指示タスクで [複数のスケジュールエントリでアサイン] オプションを選択します。 • タスク期間が 1 日を超える作業指示タスクにエージェントをアサインします。 • 作業指示タスクがエージェントに正常にアサインされ、予定終了時間が正しく設定されていることを確認します。	
ケースからの作業指示の作成と、CSM/FSM 構成可能ワークスペースからのエージェントへの作業指示タスクのアサインを確認します。	• ケースから作業指示を作成できることを確認します。 • 作業指示を認定し、作業指示タスクが作成されたことを確認します。 • 作業指示タスクをエージェントにアサインし、アサインされているエージェントが正しく更新されていることを確認します。	Xanadu

ファイナンスクローズオートメーション

ファイナンスクローズオートメーション クイックスタートテストは、ServiceNow アプリケーションを ファイナンスクローズオートメーション ストアからインストールすると利用できます。

FCA テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
FCA：該当する月のサブセットテスト	適用される月が、機能しているワークブックのサブセットのみであることを確認します。	New York
FCA：日付の検証	日付に関連する計算が正しいことを確認します。	New York
FCA：タスクリレーションシップ	関係があるタスクについて、日付と状況が正常に更新されていることを確認します。	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FCA テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
FCA：親タスクとの関係	親タスクとの関係を持つタスクの日付と状況が正しく更新されていることを確認します。	New York
FCA：タスクのリセット	タスクがリセットされたときに、FCA ワークフローを確認します。	New York
FCA：タスクの却下	タスクが却下されたときに、FCA ワークフローを確認します。	New York
FCA：JE タスクを作成	ジャーナルエントリータスクタイプに対して ERP ソースが利用できることを確認します。	New York
FCA：クローズ日としての負の値	クローズ日に正の値と負の値の両方が許容されることと、予定日が正しく計算されていることを確認します。	New York
FCA：日次決算処理チェックリストのクローズ日チェック	日次決算ワークブックのクローズ日を検証します。	New York
FCA：日次決算の予定終了日チェック	日次決算ワークブックの予定終了日を確認します。	New York
FCA：キックスタートエラー	キックスタート検証がすべて実行されていることを確認します。	New York
FCA：最終タスク 1 件の検証	各職務ワークブックに最終タスクが 1 件だけ存在することを確認します。	New York
FCA：機密タスク	機密タスクの所有者、レビュー担当者、承認者のみがタスクを表示できることを確認します。	New York
FCA：チェックリストの一意検証	特定の日または期間に対して、ワークブックが 1 件だけ作成されていることを確認します。	New York
FCA：マイルストーンと JE の検証	マイルストーンとジャーナルエントリータスクに子タスクが含まれていないことを確認します。	New York

ファイナンシャルマネジメント

ファイナンシャルマネジメント クイックスタートテストでは ファイナンシャルマネジメント Core - ATF テストプラグイン (com.snc.financial_management.atf) をアクティブ化する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ITFM：ファイナンシャルモデリングフローテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
FM コスト割り当てフローの確認	ファイナンシャルモデリングにおけるコスト割り当てフローを確認します。	Madrid

ファイナンシャルマネジメントの詳細については、「ファイナンシャルマネジメント」を参照してください。

Granular Delegation

Granular Delegation クイックスタートテストには、Granular Delegation (com.glide.granular_service_delegation) プラグインのアクティブ化が必要です。

テスト	説明	リリースバージョン
[委任] アドミン - 委任者および委任ユーザーの基準を含む委任ルールを追加	代理人または委任者が HR タスクにアサインされたユーザー基準を遵守するようにします。	Xanadu

GRC 監査管理

GRC: 監査管理 クイックスタートテストでは 監査管理 プラグイン (com.sn_audit) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

GRC: 監査管理 テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
GRC: 監査エンゲージメントを作成し、監査タスクを生成	監査エンゲージメントの作成を検証し、エンティティを関連付けてコントロールとテスト計画を生成します。テスト計画に関連付けられた監査タスクを生成します。	Paris
GRC：マイルストーンを作成して処理	エンゲージメントにマイルストーンを作成します。なお、期限日を過去の、完了日を未来の日付することはできません。オープン状態のマイルストーンの場合、完了率は 0 で、マイルストーンのステータスの変化に応じて変わります。	Paris
GRC：コストとリソースプランのロールアップ	監査プランを作成し、それにエンゲージメントを関連付けます。このエンゲージメントにコストプランとリソース計画を追加すると、これらのコストがプランにロールアップされる点に注意してください。エンゲージメントにおけるこれらのコスト	Paris

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC: 監査管理 テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	に対するすべての編集は、プランに反映されます。	
GRC：エンゲージメントプロジェクトマニュアルの作成および自動作成	検証ステータスのエンゲージメントについては、[詳細計画を有効にする] UI アクションが実行されている場合、エンゲージメントプロジェクトが作成され、「詳細計画機能」を持つ監査計画に関連付けられたエンゲージメントのステータスが [検証] に変更されると、エンゲージメントプロジェクトが自動的に作成されます。	Paris
GRC：詳細なリスクアセスメントを含む監査可能ユニット	「詳細なリスクアセスメント」としてメソッドを含む監査可能ユニットを作成し、査定人を追加してリスクアセスメントを評価することを要求します。査定人が応答し、コントロールアセスメントと残存アセスメントを実行してアセスメントを完了としてマークした後、リスクアセスメントフィールドが自動的に更新される必要があります。	Paris

Audit Management の詳細については、「Audit Management」を参照してください。

GRC 継続的な承認とモニタリング

GRC：継続的な承認とモニタリング クイックスタートテストでは 継続的な承認とモニタリング プラグイン (com.sn_compliance) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

GRC: 継続的な承認とモニタリング クイックスタートテストテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
GRC：システム所有者による AB および AP の責任とロールの作成と検証	システム所有者は、認証境界と認証パッケージの責任とロールを作成および検証します。 情報所有者とシステムユーザーは、認証境界を選択したときにあらかじめ設定されています。	Quebec (Paris および Orlando と互換性がある)
GRC：システム所有者によるアプリモジュールの可視化の検証	システム所有者ペルソナが [継続的な承認と監視] アプリケーションメニューを表示することでき、そのメニューに次のモ	Quebec (Paris および Orlando と互換性がある)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC: 継続的な承認とモニタリング クイックスタートテストテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	ジュールを表示できることを確認します。 • すべての認証境界 • すべての認証パッケージ • 情報タイプライブラリー • コントロールオーバーレイ • コントロール目標 • コントロール • すべてのエンゲージメント	
GRC：システム所有者による要求の最初の認証と自分の認証モジュール	システム所有者が承認を要求します。	Quebec (Paris および Orlando と互換性がある)
SO：AB および AP の責任とロールの作成と検証	システム所有者が認証境界フォームのフィールドに入力して認証境界を作成できるかどうかを検証します。 また、同じ SO がフォームビューから認証パッケージを作成できるかどうかも検証します。	Quebec (Paris および Orlando と互換性がある)

継続的な承認とモニタリング の詳細については、「Continuous Authorization and Monitoring」を参照してください。

GRC ポリシーとコンプライアンス管理

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 クイックスタートテストでは ポリシーとコンプライアンス管理 プラグイン (com.sn_compliance) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

GRC: ポリシーとコンプライアンス管理 クイックスタートテストテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
GRC：コントロールの作成	コントロールの作成を検証します。	Madrid
GRC: ポリシー例外とフローを作成	ポリシー例外を作成して、その状況内を移動します。	Paris
GRC: ポリシーライフサイクル	ポリシーを作成して、その状況内を移動します。	Paris

ポリシーとコンプライアンス管理の詳細については、「ポリシーとコンプライアンス管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC リスク管理

GRC：リスク管理 クイックスタートテストでは リスク管理 プラグイン (com.sn_risk) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

GRC: リスク管理 クイックスタートテストテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
GRC：プロファイルの作成	プロファイルの作成を検証します。	Madrid
GRC：リスクの作成	リスクの作成を検証します。	Madrid
GRC：コントロールの作成	コントロールの作成を検証します。	New York
GRC：コントロール目標の作成とコントロールの生成	コントロール目標の作成を検証し、プロファイルを関連付けてコントロールを生成します。	New York
GRC：問題の作成	問題の作成を検証	New York
GRC：問題を承認	問題の受け入れによってクローズされるまで、問題のすべての状況を検証します。	New York
GRC：問題を修復	未解決の修復タスクを使用して、検証の問題をクローズすることはできません。	New York
GRC：インジケーター向け ATF フロー (マニュアル)：	Type manual を使用してインジケーターテンプレートを作成し、コントロール目標をそれに関連付けます。インジケーターの 1 つを実行して、形成します。クローズ済みとして作成されたインジケータータスクのステータスをマークし、失敗として結果を示します。関連コントロールは非適合となり、問題が発生します。	New York
GRC：インジケーター向け ATF フロー (ベーシック)	タイプが「基本」で、結果が「失敗」であるインジケーターテンプレートを作成します。コントロール目標をそれに関連付け、サポートデータを提供します。インジケーターの 1 つを実行して、形成します。関連コントロールは非適合となり、問題が発生します。	New York
GRC：インジケーター向け ATF フロー (スクリプト)	タイプスクリプトを使用してインジケーターテンプレートを作成し、スクリプトを入力し、結果の値を設定します。渡します。結果の値。コントロール目標を関連付けます。インジケーターの 1 つを実行します。関連	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC: リスク管理 クイックスタートテストテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	コントロールは非適合となり、問題が生成されます。	

リスク管理の詳細については、「リスク管理」を参照してください。

ハードウェア資産管理

ハードウェア資産管理クイックスタートテストは、ハードウェア資産管理 (HAM) アプリケーションを ServiceNow Store からインストールするときに利用できます 。

ハードウェア資産管理 テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
HAM - ハードウェア正規化	正規化されたメーカー、製品、およびモデルに基づいて、さまざまな正規化ステータス値を検証します。	Orlando
HAM - ハードウェア資産処分ワークフロー	資産処分ワークフローを検証します。	Paris
HAM - 資産展開の自動化ワークフロー	資産展開ワークフローを検証します。	Paris
HAM - 資産スワップワークフローの自動化	資産の交換/スワップワークフローを検証します。 注: デモデータが必要です。	Paris
HAM - 標準ハードウェア資産要求フロー	ハードウェア資産管理 アプリケーションの一部である標準ハードウェア資産要求フローを検証します。	Paris
HAM - ハードウェア資産のリフレッシュフロー	資産リフレッシュワークフローを検証します。	Quebec
HAM - 貸与資産の割り当てフロー	貸与資産ワークフローを検証します。	Quebec
HAM - リース契約資産有効期限	リース契約資産有効期限のエンドツーエンドワークフローを検証し、リース契約の対象となる資産の返却または延長を実行します。	Quebec
HAM - 資産 RMA フロー	インベントリユーザーで資産返品許可 (RMA) ワークフローを検証します。	Rome
HAM：資産 RMA フロー (SP)	サービスポータルからの資産返品承認 (RMA) ワークフローを検証します。	Rome

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ハードウェア資産管理 テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
HAM - リース資産の返却	インベントリアドミンユーザーで貸与資産割り当てワークフローを検証します。	Rome
HAM - 契約更改フロー	契約マネージャーユーザーとの契約更改フローを検証します。	Tokyo

ハードウェア資産管理の詳細については、「ハードウェア資産管理」を参照してください。

HR サービスデリバリ (HRSD)

HR サービスデリバリ (HRSD)ケーステスト

テスト	説明	リリースバージョン
ケース作成の構成	HR サービスにケース作成構成があり、その HR サービスの HR ケースを作成するときに [人事ケース] フォームに入力されることを検証します。	Xanadu
ドキュメントテンプレートのブロックおよびブロックコンテンツの作成	ドキュメントテンプレートのブロックとドキュメントテンプレートのコンテンツがブロックコンテンツ用に作成されていることを確認します。	Xanadu
HR 従業員ドキュメントの作成	従業員ドキュメントを作成し、添付ファイル [sys_attachment] テーブルが従業員ドキュメント [sn_hr_ef_employee_document] テーブル内のレコードをポイントしていることを確認します。 従業員ドキュメントが、従業員人事プロファイルを介して 従業員センター または 従業員センタープロ からアクセス可能であることを確認します。	
アクティブ化されているドキュメントタイプで従業員ドキュメントを作成	次のアイテムの作成を検証します。 • 1 つのアクティブなドキュメントタイプ • 1 つの非アクティブなドキュメントタイプ • アクティブなドキュメントタイプを持つ従業員ファイル	Xanadu

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HR サービスデリバリ (HRSD)ケーステスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	注: ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：コア (com.sn_hr_core) および従業員ドキュメント管理 (com.sn_employee_document_management) をアクティブ化する必要があります。	
[委任] アドミン - 委任者および委任ユーザーの基準を含む委任ルールを追加	委任ルールのユーザー基準が正しく機能していることを確認します。	San Diego
一括ケース作成の E2E テスト	特定のユーザーセグメントの選択したユーザーに対して一括ケースを作成できることを確認します。	San Diego
ER：ケースの制限	制限付きケースを表示できるのは、sn_hr_er.confidential ロールを持つユーザーのみであることを検証します。	San Diego
人事：従業員に表示されるケースの更新	人事エージェントによって作成され、更新されたケースは、依頼者または対象者に表示されます。	Quebec
人事：ポータルからの 401k 登録ケースの作成	従業員センター または 従業員センタープロ から 401(k) 登録ケースを作成します。 ケースが正常に作成されたことを確認します。	Madrid
人事：ESC ポータルから 労務 (ER) ケースを作成	従業員センター または 従業員センタープロ から懲戒対象問題ケースを作成します。 ケースが正常に作成されたことを確認します。	New York
人事： ESC ポータルから雇用検証レターケースを作成	従業員センター または 従業員センタープロ から雇用確認レターケースを作成します。 ケースが正常に作成されたことを確認します。	Madrid
人事：ESC ポータルから給与ケースを作成	従業員センター または 従業員センタープロ から給与口座セットアップケースを作成します。	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HR サービスデリバリ (HRSD)ケーステスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	ケースが正常に作成されたことを確認します。	
人事：ポータルからの授業料払い戻し要求の作成	従業員センター または 従業員センタープロ から、奨学金制度のリクエストケースを作成します。 ケースが正常に作成されたことを確認します。	Madrid
HR：実行手順	オープン対象ユーザーの特定の条件に対して、実行手順が作成されることを確認します。 また、ケースの詳細が変更されたときに、実行手順が変更されることを確認します。	Orlando
人事：CoE 固有のフィールドの作業手順条件	CoE 固有の作業手順の条件を確認します。 作業手順は、作業手順で定義された条件に基づいて人事ケースで更新します。	Quebec
人事：一般的な利点問い合わせケースの作成	ネイティブ UI を使用して一般的な福利厚生ケースを作成します。 また、ケースの作成後にケースが開き、更新できることも確認します。	Madrid
人事：給与不一致ケースの作成	ネイティブ UI を使用して給与不一致ケースを作成します。 また、ケースの作成後にケースが開き、更新できることも確認します。	Madrid
HR：ケース転送の再分類	再分類手法を使用して (人事ケース番号は不変)、人事ケースがある COE (人事サービス) から別の COE に転送されることをテストします。	Orlando
人事：応答テンプレート構成	給与ケースの応答テンプレートを作成し、作業メモに応答を貼り付けます。	Quebec
HR：ESC でのカタログアイテムと KB の検索	従業員センター または 従業員センタープロ の検索機能を検証します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HR サービスデリバリ **(HRSD)**ケーステスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
HR：標準ケースの転送	標準ケース転送を使用して (人事ケース番号を作成し、古い番号を削除)、人事ケースがある COE (人事サービス) から別の COE に転送されることをテストします 。	Orlando
人事：ケースフローの一時停止	人事ケースを一時停止し、後でそのケースを再開する機能をテストします。	Rome
HR：奨学金制度ケースの作成	奨学金制度人事ケースをを作成します。	Orlando
HR：人員管理ケースの作成	人員管理ケースを作成し、雇用証明書に署名し、書類を生成します。	Orlando
JA：計画詳細の公開および編集	アクションプランの既存のタスクを削除できるかどうかを確認します。	San Diego
ジャーニーデザイナー：ステージの作成とステージの編集	ユーザーが新しいステージの作成、ステージへのタスクテンプレートの追加、ステージ名の編集、ステージの削除を実行できることを確認します。	Vancouver
ジャーニーデザイナー：タスクテンプレートのゼロからの追加と編集	ユーザーが [ゼロから構築します] オプションを使用してタスクテンプレートを追加でき、その後で編集できることを確認します。	Vancouver
ジャーニーデザイナー：既存のタスクテンプレートの追加と削除	[テンプレートを使用] オプションを使用してタスクテンプレートを Journey テンプレートに追加でき、その後で削除できることを確認します。	Vancouver
ラーニングコアタスクのアサイン	学習カタログの学習タスクをユーザーにアサインできることを確認します。	San Diego

注: 以下のプラグインのアクティベーションが必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- 従業員サービスセンター (ESC) [com.sn_hr_service_portal]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ライフサイクルイベント：ライフサイクルイベントの確認テスト

テスト	説明	リリースバージョン
自動ケースクローズ用に人事サービスを設定	ライフサイクルイベントケースが自動的にクローズされることを確認します。	Orlando
従業員リクエストを作成し、LEケースに関連付ける	従業員リクエストを作成し、ライフサイクルイベントケースのアクションリストに表示されることを検証します。	Rome
古いチケットページの従業員リクエストを作成	従来のチケットページから従業員リクエストを作成できるかどうかを検証します。	Xanadu
[委任] アドミン - 委任者および委任ユーザーの基準を含む委任ルールを追加	委任者および委任ユーザーの委任ルールに対してユーザー基準が機能していることを確認します。	Xanadu
人事ライフサイクル：従業員サービスセンター (ESC) の NewHire オンボーディングケースのチケットページにアクセス	新規雇用の作成と、従業員サービスセンター (ESC) のチケットページにアクセスできることを確認します。	Orlando
HR ライフサイクル：ESC チケットページおよびタスクページにアクセスしてアサインされたタスクを完了	従業員サービスセンター (ESC) から奨学金の要求ケースを作成し、対象者から完全な NDA タスクを作成します。	Orlando
人事 LifeCycle ：新入社員研修依頼ケースの作成	ネイティブ UI を使用して新入社員研修依頼ケースを作成し、作成後にケースを更新します。	Madrid
人事ライフサイクル：取り消しトリガーワークフロー	新規雇用オンボーディングライフサイクルイベントケースの取り消しワークフローをトリガーします。	Quebec
HR ライフサイクル：オープンおよびクローズ済みケースの要求ページを確認	[要求] ページでオープンケースとクローズ済みケースを確認します。	Orlando
HR ライフサイクル：[要求] ページで検索を確認	[要求] ページでオープンケースとクローズ済みケースの検索機能を確認します。	Orlando
[LE]：アドホックタスクを追加	ライフサイクルイベントケースのアドホックタスクを追加できることを確認します。	Xanadu

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 以下のプラグインのアクティベーションが必要です。

- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core プラグイン (com.sn_hr_core)
- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：ライフサイクルイベント [com.sn_hr_lifecycle_events]
- ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：企業向けライフサイクルイベント プラグイン [com.sn_hr_lifecycle_ent]
- 従業員サービスセンター (ESC) [com.sn_hr_service_portal]

KB：ナレッジブロックテスト

テスト	説明	リリースバージョン
ナレッジブロックを作成し、ブロックを記事に添付	ナレッジブロックを作成し、ブロックを公開し、ブロックをナレッジ記事に添付します。	New York
ナレッジ記事とナレッジブロックのプレビュー	ナレッジブロックを含むナレッジ記事のプレビューをテストします。	New York

注: ヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリのプラグインのアクティブ化が必要です：コアプラグイン (com.sn_hr_core)

HR サービスデリバリ (HRSD) の詳細については、「HR サービスデリバリ (HRSD)」を参照してください。

インシデント管理

インシデント管理 クイックスタートテストでは インシデント管理 - ATF テストプラグイン (com.snc.incident.atf) をアクティブ化する必要があります。

インシデント管理テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
INCIDENT MGMT：インシデント解決 SLA	インシデント解決 SLA ベースライン機能を確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデント応答 SLA	インシデント応答 SLA ベースライン機能を確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデントをコピー	元のインシデントのフィールドが新しいインシデントに正しくコピーされているかどうかを確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：クローズ済みインシデントからインシデントをコピーします。	クローズ済みインシデントに対して [インシデントをコピー] UI アクションが表示されることを確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデントからの標準的な変更の作成	インシデントからの標準的な変更の作成を確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデントからの緊急の変更の作成	インシデントからの緊急の変更の作成を確認するテスト	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インシデント管理テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
INCIDENT MGMT：インシデントからの通常の変更の作成	インシデントからの通常の変更の作成を確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデントからの問題の作成	インシデントからの問題の作成を確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデントからのナレッジの作成	インシデントからのナレッジの作成を確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデント状況フロー	インシデントの状況フローを確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデントの再開	インシデントの再開機能を確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデントアサイン	インシデントアサイン機能を確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：UI アクションを使用して子インシデントを作成し、そのフィールドを確認します。	[子インシデントを作成] UI アクションを使用して、インシデントからの子インシデントの作成を確認するテスト。このテストは、子インシデントのフィールドが親インシデントから子インシデントに正しくコピーされたことも確認します。	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデントの作成 - セルフサービス	[インシデントの作成] カタログアイテムを使用して、インシデントの作成を確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：親と子のインシデントのステータスの同期	子インシデントが作成されたときに、子インシデントのステータスが親インシデントと同期されていることを確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデントを再開した後に、親と子のインシデントのステータスが同期されます。	親インシデントが再開されたときに、子インシデントのステータスが親インシデントと同期されていることを確認するテスト	Madrid
INCIDENT MGMT：インシデントからのナレッジ記事の作成の確認	インシデントフォームで [ナレッジの作成] UI アクションを使用して、インシデントからナレッジ記事を作成できることを確認するテスト。UI アクションは、インシデント管理プラグイン (com.snc.incident.knowledge) の KCS 統合をアクティブ化すると表示されます。	Orlando

インシデント管理の詳細については、「インシデント管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスオペレーションワークスペースの インシデント管理

サービスオペレーションワークスペースのインシデント管理クイックスタートテストは、サービスオペレーションワークスペース ITSM アプリケーション (sn-sow-itsm-cont) 6.0 バージョンをインストールするか、更新すると、ベースシステムで使用できます。

サービスオペレーションワークスペースのインシデント管理テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
SOW インシデント：インシデントから問題を作成する	インシデントフォームで、[問題の作成] UI アクションを使用してインシデントから問題レコードを作成できるか検証するテスト。	Xanadu (8 月のストアリリース、6.0 バージョン)
SOW インシデント：[自分にアサイン] ボタン機能の確認	[インシデント] フォームの [レコード情報] サイドパネルにある [自分にアサイン] UI オプションを使用して、ログインしているユーザーにインシデントレコードがアサインされていることを確認するテスト。	Xanadu (8 月のストアリリース、6.0 バージョン)

サービスオペレーションワークスペースのインシデント管理に関する詳細については、「サービスオペレーションワークスペース での インシデント管理」を参照してください。

CMDB 共通統合

CMDB INT：CMDB 統合検証テストスイート
複数のテストを使用して統合の整合性を検証するためのテストスイート。

テスト	説明	リリースバージョン
CMDB INT：テストセッションアプリケーションを設定	サーバー側スクリプトを変更して、1 つのデータ連携のみをテストできるようにアプリケーション名を設定します。それ以外の場合は、すべての統合がテストされます。	Paris
CMDB INT：ソース分析に対するテスト	CMDB データ連携ソース分析 (sn_cmdb_int_util_cmdb_integration_source_analysis) テーブルの値とのデータ連携をテストします。	Paris
CMDB INT：アプリケーションフィードを検証	データ連携内のすべてのアプリケーションフィードを検証します。	Paris
CMDB INT：ディスカバリーソースを検証	ディスカバリーソースが存在することを検証します。	Paris
CMDB INT: エンティティマッピングを検証	データ連携のすべてのエンティティマッピングを検証します。	Paris
CMDB INT：フィールドを検証	CMDB 統合のフィールドを検証します。	Paris

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CMDB INT：**CMDB** 統合検証テストスイート
複数のテストを使用して統合の整合性を検証するためのテストスイート。

(続く)

テスト	説明	リリースバージョン
CMDB INT：ルックアップを検証	CMDB データ連携ルックアップを検証します。	Paris
CMDB INT：必須操作を検証	マップされたフィールドに必須操作のすべての統合が存在することを検証します。	Paris
CMDB INT：操作を検証	データ連携のすべての操作を検証します。	Paris
CMDB INT：参照を検証します	CMDB データ連携リファレンスを検証します。	Paris
CMDB INT：関連エントリを検証します	関連するエントリーのデータディクショナリに対して、関連するすべてのクラスを検証します。	Paris
CMDB INT：リレーションシップを検証	CMDB 統合リレーションシップを検証します。	Paris

CMDB 共通統合 の詳細については、「CMDB 共通統合」を参照してください。

投資枠管理

投資枠管理 クイックスタートテストでは 投資枠管理 - ATF Tests プラグイン (com.snc.investment_planning.atf) をアクティブ化する必要があります。

投資枠管理 クイックスタートテスト

テスト	説明	リリースバージョン
トップダウンの資金提供と資金回収の検証	• 資金提供時に、上位投資から子投資に正確な金額が割り当てられていることを確認します。 • 資金回収時に、子投資から上位投資に正確な金額が回収されていることを確認します。	Orlando
ボトムアップ資金調達の検証	• 子投資から親投資に正確な金額が要求されていることを確認します。 • 子投資から親投資に正確な金額が分配されていることを確認します。	Paris

投資枠管理の詳細については、「投資枠管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ナレッジ管理

ナレッジ管理クイックスタートテストでは、Knowledge Management Core プラグイン (com.glideapp.knowledge)、Knowledge Management Advanced Installer プラグイン (com.snc.knowledge_advanced.installer)、ナレッジブロックプラグイン (com.snc.knowledge_blocks)、Customer Service Management Demo Data プラグイン (com.snc.customerservice.demo) のアクティブ化が必要です。

KM ：ナレッジ管理テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
KM：承認公開ワークフローを使用して KCS テンプレート記事を作成する	承認公開ワークフローを使用して、KCS テンプレート記事の作成を確認します。 注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	Madrid
KM：承認公開ワークフローを使用してマルチバージョンの標準記事を作成する	承認公開ワークフローを使用して、マルチバージョン管理された標準記事の作成を確認します。 注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	Madrid
KM：記事レベルのサブスクリプション	ユーザーがナレッジ記事に登録できることを確認します。 注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	New York
KM：ナレッジベースの canRead と canContribute および記事レベルでの canRead をカバーするユーザー基準	ナレッジベースに対して canRead および canContribute ユーザー基準が作成され、記事に対して canRead ユーザー基準が作成されていることを確認します。 注: ナレッジ管理コアプラグインが必要です。	Madrid
KM：ケースから KCS 記事を作成する	ケースから KCS 記事が作成されたことを確認します。 注: 高度なナレッジ管理インストーラーおよびカスタマーサービス管理 (CSM) デモデータプラグインが必要です。	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

KM ：ナレッジ管理テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
KM：ナレッジベースレベルのサブスクリプション	ユーザーが ナレッジベース に登録できることを確認します。 注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	New York
KM：AQI	AQI チェックリストの作成、アサイン、レビューを確認します。 注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	New York
KM：要求者が検索を実行して、記事を表示し、フィードバックを提供 (フィードバックタスクには役立たない)	検索リクエスト、レビュー、役に立たないというフィードバックのプロビジョン、ナレッジ管理 サービスポータル での記事へのフィードバックタスクの作成を確認します。 注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	New York
KM：フィードバックタスクフォームから記事を作成および編集する	[記事の作成] および [記事の編集] ボタンが [ナレッジフィードバックタスク] フォームで利用できることを確認します。 注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	New York
KM：固定記事を検索し、最高クリックランクを確認	検索要求を検証して、ナレッジ検索 (ts_query_kb) テーブルに固定記事のクリックランク値が追加されていることを確認します。 注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	New York
KM：所有グループを作成し、編集権限およびサブスクリプションを確認	所有権グループに記事をアサインしたことを確認し、その所有権グループのメンバー全員が記事に登録され、編集権限が割り当てられていることを確認します。	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

KM ：ナレッジ管理テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	
KM：ナレッジ記事とナレッジブロックの作成、検索、および表示	ナレッジブロックの作成とナレッジ記事への追加を確認します。また、ナレッジブロックコンテンツが検索可能であることを確認します。 **注:** ナレッジブロックプラグインが必要です。	Orlando
KM：ナレッジ - 廃止承認ワークフローの検証	公開されたナレッジ記事を廃止して、ナレッジ - 承認の廃止ワークフローが成功することを確認します。 **注:** 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	Orlando
KM：所有グループマネージャーへのフィードバックタスクアサインの検証	ナレッジ記事の所有権グループマネージャーへのフィードバックタスクのアサインを確認します。 **注:** 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	Orlando
KM：記事テンプレートセレクターにナレッジベースと記事テンプレートが含まれていることの検証	記事テンプレートセレクターに、寄稿アクセス権のあるすべてのナレッジベースと各ナレッジベースに適用可能な記事テンプレートが含まれていることを確認します。 **注:** 高度なナレッジ管理インストーラーが必要です。	Orlando
KM：公開承認ワークフローの検証	承認プロセスを通じて、ナレッジ記事を取り消し、却下してから承認することで、ナレッジ - 承認公開ワークフローが成功することを確認します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

KM ：ナレッジ管理テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	
KM：古いバージョンの記事を最新バージョンにする	古いバージョンのナレッジ記事が最新バージョンになることを確認します。 **注:** 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	Orlando
KM：関連記事ウィジェットにマップされた関連記事が表示されることの検証	ナレッジ記事にマップされた関連記事が、 ナレッジ記事ビューページの関連記事ウィジェットに表示されることを確認します。 **注:** 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	Orlando
KM：マップされた関連カタログアイテムが関連アイテムウィジェットに表示されることの検証	ナレッジ記事にマップされた関連カタログアイテムが、ナレッジ記事ビューページの関連アイテムウィジェットに表示されることを確認します。 **注:** 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	Orlando
KM：バージョンニングされた記事が作成、公開、チェックアウト、および廃止されたことを検証	エージェントワークスペース でナレッジ記事を作成、公開、更新、および廃止することで、バージョニングされたナレッジ記事での UI アクションの成功を確認します。 **注:** 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	Quebec
KM：ナレッジ記事のスケジュール済みの公開機能を確認	公開承認ワークフローで記事を作成し、その記事を公開するためにスケジュールを設定し、ステータスが[公開予定] から [公開済み] に変更することを確認することで、ナレッジ記事のス	Quebec

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

KM ：ナレッジ管理テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	ケジュール済みの公開機能を確認します。 注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	
KM：エージェントワークスペースでのナレッジ - 廃止承認ワークフローの検証	エージェントワークスペースでの承認プロセスを通じて、ナレッジ記事を取り消してから承認することで、ナレッジ - 承認公開ワークフローが成功することを確認します。 注: 高度なナレッジ管理インストーラープラグインが必要です。	Quebec

ナレッジ管理の詳細については、「ナレッジ管理」を参照してください。

法務要求管理

法務要求管理 クイックスタートテストでは、次のアプリをインストールする必要があります。

- 法務要求管理 (sn_lg_ops)
- 法務顧問センター (sn_lg_workspace)

法務要求テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
LRM：プライバシー要求テスト	プライバシーに関する法務要求の送信と履行を検証するテスト	Utah

法務要求管理 の詳細については、「法務要求管理」を参照してください　。

重大なインシデント 重大インシデント管理

重大インシデント管理 クイックスタートテストでは、インシデント管理 - 重大インシデント管理プラグイン (com.snc.incident.mim) をアクティブ化する必要があります。

MIM：重大インシデント管理テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
MIM：重大なインシデントの作成	アプリケーションナビゲーションモジュールから重大なインシデントを作成できることを確認するテスト	Orlando
MIM：重大なインシデント候補の作成	ナビゲーションメニューから[重大なインシデント候補の作	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MIM：重大インシデント管理テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	成] モジュールを確認するテスト	
MIM：重大なインシデント候補からの重大なインシデントの作成	重大なインシデント候補から重大なインシデントを作成できることを確認するテスト	Orlando
MIM：重大インシデント管理トリガールールに一致したときに重大なインシデント候補を作成	重大なインシデントを作成する条件が重大インシデント管理トリガールールに一致したときに、重大なインシデント候補が作成されることを確認するテスト	Orlando
MIM：重大なインシデントの提案 (アサイン先グループが空のとき)	インシデントが重大なインシデントとして提案されたときに [アサイン先グループ] フィールドと [担当者] フィールドが空の場合に、重大なインシデント候補が自動アサインされることを確認するテスト	Orlando
MIM：重大なインシデントの提案 (アサイン先グループが空でないとき)	インシデントが重大なインシデントとして提案されたときに [アサイン先グループ] フィールドと [担当者] フィールドが空でない場合に、重大なインシデントが自動アサインされることを確認するテスト	Orlando
MIM：候補を重大なインシデントに昇格 (アサイン先グループが空のとき)	候補が重大なインシデントに昇格したときに [アサイン先グループ] が空の場合に、重大なインシデントが自動アサインされることを確認するテスト	Orlando
MIM：候補を重大なインシデントに昇格 (アサイン先グループが空でないとき)	候補が重大なインシデントに昇格したときに [アサイン先グループ] が空でない場合に、重大なインシデントが自動アサインされることを確認するテスト	Orlando
MIM：重大なインシデント候補の却下	重大なインシデント候補の却下を確認するテスト	Orlando
MIM：重大なインシデントの降格	重大なインシデントがインシデントに降格したかどうかを確認するテスト	Orlando
MIM：重大なインシデントのクローズ	重大なインシデントのクローズ機能を検証するテスト	Orlando
MIM：ICP および ICT とのステータス同期	インシデントコミュニケーション計画およびインシデントコミュニケーションタスクとのステータスの同期を確認するテストです。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MIM：重大インシデント管理テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
MIM：条件に基づいてインシデントが ICP に添付され、ステータスが ICT と同期される	定義された条件に基づいてインシデントコミュニケーション計画がインシデントに関連付けられることを確認するテストです。	Orlando
MIM：MI と PIR の解決	重大なインシデントの解決とインシデントの事後レポートを確認するテストです。	Orlando
MIM：重大なインシデントワークベンチレイアウト確認	重大なインシデントワークベンチレイアウトを確認するテストです。	Orlando
MIM：MI ワークベンチからのコミュニケーションタスクの確認	MI ワークベンチからのコミュニケーションタスクを確認するテストです。	Orlando

重大インシデント管理の詳細については、「重大インシデント管理」を参照してください。

オンコールスケジューリング

オンコールスケジューリングプラグイン (com.snc.on_call_rotation) をアクティブ化して、オンコールスケジューリング クイックスタートテストを実行します。

オンコール：オンコールスケジューリング **ATF** スイート

テスト	説明	リリースバージョン
オンコール：PTO 承認設定が許可されていない場合の休暇の要求の確認	PTO 承認設定が [許可されていません] に設定されている場合に休暇を要求できるかどうかを確認します。	Orlando
オンコール：テンプレートを選択せずに重複するシフトを作成	テンプレートを選択せずに、重複するシフトを作成できるかどうかを確認します。	Orlando
オンコール：シフトの重複を許可する設定が [いいえ] に設定されている場合の重複するシフトの作成	[重複を許可 **(Allow overlap)**] が [いいえ] に設定されている場合に、重複するシフトを作成できるかどうかを確認します。	Orlando
オンコール：PTO 承認設定が [承認あり] の場合の休暇の要求	PTO 承認設定が [承認あり] に設定されている場合に休暇を要求できるかどうかを確認します。	Orlando
オンコール：オンコールスケジュールを維持するシフトマネージャーのアサイン	シフトマネージャーがオンコールスケジュールを維持できるかどうかを確認します。	Orlando
オンコール：ユーザー名でオンコールスケジュールを検索	ユーザー名でオンコールスケジュールを検索できるかどうかを確認します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オンコール：オンコールスケジューリング **ATF** スイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
オンコール：グループ名またはスケジュール名でオンコールスケジュールを検索	グループ名またはスケジュール名でオンコールスケジュールを検索できるかどうかを確認します。	Orlando
オンコール：エスカレーションルールが「着信シフトにエスカレート」の重複シフトの勤務表詳細	エスカレーションルールが [着信シフトにエスカレート] に設定されている場合の重複するシフトの勤務表の詳細を確認します。	Orlando
オンコール：タイムゾーンオプションを使えるカレンダープレビュー	カレンダープレビューでタイムゾーンオプションを利用できるかどうかを確認します。	Orlando
オンコール：テンプレートを選択して重複するシフトを作成	重複するシフトをテンプレートを選択して作成できるかどうかを確認します。	Orlando
オンコール：アクティブなシフトを表示		Orlando
オンコール：シフトフォームからシフトのドラフトを作成/公開	シフトを公開/公開中止できるかどうか、勤務表のステータスを [ドラフト] と [公開] でフォームから切り替えられるかどうかを確認します。	Orlando
オンコール：エスカレーションルールが「送信シフトにエスカレート」の重複シフトの勤務表詳細	エスカレーションルールが [送信シフトにエスカレート] に設定されている場合の重複するシフトの勤務表の詳細を確認します。	Orlando
オンコール：エスカレーションルールが「すべてのシフトにエスカレート」の重複シフトの勤務表詳細	エスカレーションルールが [すべてのシフトにエスカレート] に設定されている場合の重複するシフトの勤務表の詳細を確認します。	Orlando
オンコール：オンコールワークベンチの確認	オンコールワークベンチのレイアウトを確認するテスト	Orlando
オンコール：シフトを非表示または表示	オンコールカレンダーからシフトを非表示または表示にできるかどうかを確認します。	Orlando

オンコールスケジューリングの詳細については、「オンコールスケジューリング」を参照してください。

メトリックインテリジェンス

メトリックインテリジェンス クイックスタートテストでは メトリックインテリジェンス プラグイン (com.snc.sa.metric) をアクティブ化する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メトリックインテリジェンス クイックスタートテスト

テスト	説明	リリースバージョン
OI：健全性メトリクスの収集	以下を検証する個別のテストです。 • 実行中の メトリックインテリジェンス メトリクス拡張機能が少なくとも 1 つあること。 • メトリクスから CI テーブルに「健全性評価指標」のエントリーがあること。 • 現在実行中の各 メトリックインテリジェンス メトリクス拡張機能について、メトリックベースにデータが格納されていること。 テストが最初に失敗した場合は、メトリックインテリジェンス メトリクス拡張機能が少なくとも 10 ～ 15 分間実行されるまで待ちます。それからもう一度やり直してください。	Madrid

メトリックインテリジェンス の詳細については、「メトリックインテリジェンス」を参照してください。

予測インテリジェンス

予測インテリジェンスクイックスタートテストでは、予測インテリジェンス [com.glide.platform_ml] プラグインを有効にする必要があります。既存の機械学習ソリューションで重要なアップグレードテストを実行するには、基本認証設定テーブル (sys_auth_profile_basic.list) で ml_atf という名前の基本認証プロファイルを作成する必要があります。テストを正常に実行するには、 ml_atf 認証プロファイルに添付されたユーザーに ml_admin ロールを割り当てる必要があります。

予測インテリジェンス：分類と類似ソリューションの予測テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
PI ： ML モデルのアーティファクトの存在を Glide に保持	ML の予測呼び出しを正常に完了させるため、モデルトレーニング/インスタンスのクローン後に、トレーニング済み ML モデルアーティファクトがすべて Glide (sys_attachments テーブル) に保存されていることを確認します。	New York
PI ： Glide 内の ML ユーザー (sharedservice. worker) のセットアップが有効	モデルトレーニングを成功させるため、Glide 内の ML ユーザー (sharedservice.worker) がアクティブであり、ログアウ	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

予測インテリジェンス：分類と類似ソリューションの予測テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	トしていないことを検証します。	
PI ：分類ソリューションのための Glide アップグレードテスト	Glide アップグレード後に、既存のアクティブなモデルでの分類モデル予測が、クラスメンバーシップと信頼値に関して同じ結果を生成していることを検証します。	New York
PI ：類似ソリューションのための Glide アップグレードテスト	Glide アップグレード後に、アクティブなモデルで類似性モデル予測 API が正しく呼び出されることを検証します。	New York

問題管理

問題管理 クイックスタートテストでは、問題管理ベストプラクティス - Madrid プラグイン (com.snc.best_practice.problem.madrid) および 問題管理 - ATF テストプラグイン (com.snc.problem.atf) をアクティブ化する必要があります。すべてのステータスに関連するテストでは、問題管理状況モデル (com.snc.best_practice.problem.madrid.state_model) プラグインがアクティブである必要があります。

PRB MGMT ： 問題管理テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
PRB MGMT：問題のステータスが [評価] の場合に問題をキャンセルする	[評価] 状態の問題がキャンセルされたときに、問題の状態が[クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [キャンセル済み] になっていることを確認します。	Madrid
PRB MGMT：問題のステータスが [根本原因分析] の場合に問題をキャンセル	問題が [根本原因分析] 状態でキャンセルされたときに、問題の状態が [クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [キャンセル済み] になっていることを確認します。	Madrid
PRB MGMT：問題のステータスが [評価] の場合に問題を重複としてマークする	問題が [評価] 状態で、重複としてマークされたときに、問題の状態が [クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [重複] になっていることを確認します。	Madrid
PRB MGMT：問題のステータスが [根本原因分析] の場合に問題を重複としてマークする	問題が [根本原因分析] 状態で、重複としてマークされたときに、問題の状態が [クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [重複] になっていることを確認します。	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PRB MGMT ： 問題管理テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
PRB MGMT：問題のリスクを受け入れる (problem.acceptrisk.move_to_closed in Progress)	問題の状態が [解決の進行中] で、リスクが受け入れられたときに、問題の状態が [解決済み] に変更され、[解決コード] が [リスク受け入れ済み] になっていることを確認します。 **注:** 問題のプロパティ [リスクを受け入れたときに、問題を解決済み状態ではなくクローズ済み状態に移行] *(problem.acceptrisk.move_to_closed)* が false である場合にテストは有効です。	Madrid
PRB MGMT：問題のリスクを受け入れる (problem.acceptrisk.move_to_closed true、状態：解決の進行中)	問題の状態が [解決の進行中]で、リスクが受け入れられたときに、問題の状態が [クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [リスク受け入れ済み] になっていることを確認します。 **注:** 問題のプロパティ [リスクを受け入れたときに、問題を解決済み状態ではなくクローズ済み状態に移行] *(problem.acceptrisk.move_to_closed)* が true である場合にテストは有効です。	Madrid
PRB MGMT：問題のリスクを受け入れる (problem.acceptrisk.move_to_closed false、状態：根本原因分析)	問題の状態が [根本原因分析] で、リスクが受け入れられたときに、問題の状態が [解決済み] に変更され、[解決コード] が [リスク受け入れ済み] になっていることを確認します。 **注:** 問題のプロパティ [リスクを受け入れたときに、問題を解決済み状態ではなくクローズ済み状態に移行] *(problem.acceptrisk.move_to_closed)* が false である場合にテストは有効です。	Madrid
PRB MGMT：問題のリスクを受け入れる	問題の状態が [根本原因分析] で、リスクが受け入れられたと	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PRB MGMT ： 問題管理テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
(problem.acceptrisk.move_to_closed true、状態：根本原因分析)	問題の状態が [クローズ済み] に変更され、[解決コード] が [リスク受け入れ済み] になっていることを確認します。 **注:** 問題のプロパティ [リスクを受け入れたときに、問題を解決済み状態ではなくクローズ済み状態に移行] *(problem.acceptrisk.move_to_closed)* が true である場合にテストは有効です。	
PRB MGMT：ステータスが [根本原因分析] から [クローズ済み] で [リスク受け入れ済み] の問題を再分析する	問題が [クローズ済み] で [解決コード] が [リスク受け入れ済み] になった後に問題が再分析されたときに、問題の状態が [根本原因分析] に変更されたことを確認します。	Madrid
PRB MGMT：問題からの緊急の変更の作成	問題からの緊急の変更の作成を確認します。	Madrid
PRB MGMT：問題からの通常の変更の作成	問題からの通常の変更の作成を確認します。	Madrid
PRB MGMT：問題状況管理	問題状況管理を確認します。	Madrid
PRB MGMT：完了からの問題の再分析	問題が [クローズ済み] で [解決コード] が [修正適用済み] になった後に問題が再分析されたときに、問題の状態が [根本原因分析] に変更されたことを確認します。	Madrid
PRB MGMT：ステータス評価からキャンセルされた問題の再分析	問題が [クローズ済み] で [解決コード] が [キャンセル済み] になった後に問題が再分析されたときに、問題の状態が [根本原因分析] に変更されたことを確認します。	Madrid
PRB MGMT：ステータスの根本原因分析からキャンセルされた問題を再分析する	問題が [クローズ済み] で [解決コード] が [キャンセル済み] になった後に問題が再分析されたときに、問題の状態が [根本原因分析] に変更されたことを確認します。	Madrid
PRB MGMT：解決の進行中ステータスからクローズ済みリスク受け入れ済みになった問題を再分析する	問題が [クローズ済み] で [解決コード] が [リスク受け入れ済み] になった後に問題が再分析されたときに、問題の状態が	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PRB MGMT ： 問題管理テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	[根本原因分析] に変更されたことを確認します。	
PRB MGMT：問題からの既知のエラー記事の作成	問題から既知のエラー記事が作成されたことを確認します。	Madrid
PRB MGMT：インシデントのリスク受け入れの理由	リスク受け入れ済みの理由が、問題の解決を待機しているインシデントにコピーされたことを確認します。	Madrid
PRB MGMT：修正の連絡	修正の連絡機能を確認します。	Madrid
PRB MGMT：ワークアラウンドの連絡	ワークアラウンドの連絡機能を確認します。	Madrid
PRB MGMT：インシデントの情報の修正	問題が解決されたときに、問題の解決を待機しているインシデントの状態が [解決済み] に変更されたことを確認します。問題の修正メモがインシデントにコピーされます。	Madrid
PRB MGMT：問題タスク (タイプ：全般) 状況管理	全般タイプの問題の問題タスク状況管理を確認します。	Madrid

問題管理の詳細については、「問題管理」を参照してください。

プロジェクトポートフォリオ管理

プロジェクトポートフォリオ管理 クイックスタートテストでは、PPM 標準 - ATF テストプラグイン (com.snc.financial_planning_pmo.atf) をアクティブ化する必要があります。

PMO：コストロールアップとプロジェクト変換テストスイートに対するデマンドを確認するための財務テスト

テスト	説明	リリースバージョン
PMO：プロジェクト/デマンドおよびプログラムへのコスト計画のロールアップを確認	プロジェクトからの総計画コストのロールアップとプログラムへのデマンドを検証します。	Madrid
PMO：プロジェクト/デマンド、プログラム、ポートフォリオへのコスト計画のロールアップを確認	プロジェクトからの総計画コストのロールアップとポートフォリオへのデマンドを検証します。	Madrid
PMO：デマンドから作成されたプロジェクトの財務を確認 - 単純な財務	デマンドから作成されたプロジェクトの財務タブフィールドを検証します。	Madrid
PMO：デマンドから作成されたプロジェクトの財務を確認 - 予算、コスト計画、利益計画を使用	デマンドから作成されたプロジェクトの予算、コスト計画、利益計画を検証します。	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PMO：コストロールアップとプロジェクト変換テストスイートに対するデマンドを確認するための財務テスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
PMO：コスト計画ブレークダウンとプロジェクトレベルで ETC/EAC を確認	コスト計画ブレークダウンとプロジェクトレベルで EAC と ETC の値を確認します。	Tokyo

PMO：アイデアのライフサイクルを検証するための **Innovation Management** テスト

テスト	説明	リリースバージョン
アイデアのステータス変更を検証	アイデアが承認、却下、またはその他のタスクがアイデアから作成されたときに、アイデアのステータスが変更されることを検証します。	San Diego

PMO：基本的なライフサイクルとプロジェクトロールアップテストスイートを検証するためのプロジェクト管理テスト

テスト	説明	リリースバージョン
アイデアから、デマンド、プロジェクト終了までの PPM サイクルを検証する	アイデアを作成し、そのアイデアをデマンドに変換してから、そのデマンドをプロジェクトに変換するまでのフローを検証します。 **注:** PPM Standard Multicurrency (com.snc.ppm_multicurrency) プラグインが有効である場合、このテストは失敗します。	Madrid
自動プロジェクトのためのステータスおよび日付のロールアップの検証	自動タイプのプロジェクトのタスクから日付とステータスのロールアップを検証します。	Madrid
手動プロジェクトのためのステータスおよび日付のロールアップの検証	手動タイプのプロジェクトのタスクから日付とステータスのロールアップを検証します。	Madrid
すべてのタスクが未完了でクローズされた場合のプロジェクト完了率の検証	すべてのタスクが「未完了でクローズ」としてクローズされた場合に、プロジェクトの完了率を検証します。	Orlando
少なくとも 1 つのタスクが未完了でクローズされた場合にプロジェクトの完了率が 100% でないことを検証	少なくとも 1 つのタスクが「未完了でクローズ」またはタスク完了率が 100% でない「スキップしてクローズ」としてクローズされた場合に、タスクの完了率が 100% でないことを検証します。	Orlando
ウォーターフォールプロジェクトにアジャイル計画	ウォーターフォールプロジェクトが以下を使用できないことを検証します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PMO：基本的なライフサイクルとプロジェクトロールアップテストスイートを検証するためのプロジェクト管理テスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
ボードが表示されないことを検証	• ストーリーまたはエピックを追加 • アジャイルフェーズの追加 • プロジェクトからアジャイルボードにアクセス	
検証日は既存のプロジェクトからプログラムにロールアップされます。	プロジェクトの開始日と終了日が、プロジェクトが属するプログラムにロールアップされていることを検証します。	Paris
検証日は新しいプロジェクトからプログラムにロールアップされます。	新しいプロジェクトの開始日と終了日が、プロジェクトが属するプログラムにロールアップされていることを検証します。	Paris
リスクまたは問題のあるプロジェクトとデマンドをプログラムに追加	リスクまたは問題レコードが関連付けられているプロジェクトとデマンドがプログラムに追加されていることを検証します。	Paris
給付制度を含むプロジェクトとデマンドのプログラムへの追加	給付制度が関連付けられているプロジェクトとデマンドがプログラムに追加されていることを検証します。	Paris
コスト計画を含むプロジェクトとデマンドのプログラムへの追加	コスト計画が関連付けられているプロジェクトとデマンドがプログラムに追加されていることを検証します。	Paris
既存のデマンドの追加時に、プログラムの日付を検証	既存のデマンドの追加時に、プログラムの開始日と終了日が調整されていることを検証します。	Paris
新しいデマンドの追加時に、プログラムの日付を検証する	新しいデマンドの追加時に、プログラムの開始日と終了日が調整されていることを検証します。	Paris
プログラムのステータスのロールアップを検証	プログラムのステータスが、プログラムにあるすべてのプロジェクトのステータスからロールアップされていることを検証します。	Paris
デマンドタスクの期日列フィールド値が空であることを検証	新しいデマンドタスクの [期日] フィールドが空であることを検証します。	Rome
デマンドがプロジェクトに変換されるときに、プロジェクトとデマンドにベースラインが作成されることを検証	デマンドがプロジェクトに変換されるときに、プロジェクトとデマンドのベースラインが作成されることを検証します。	Rome
タイムカードがデマンドタスクに対して送信されたときに、タイムカード財務情報がオンデマンドで表示されることを検証	デマンドタスクのタイムカードが処理されるときに、デマンドの実際のコストが更新されることを検証します。	Rome

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PMO：基本的なライフサイクルとプロジェクトロールアップテストスイートを検証するためのプロジェクト管理テスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
デマンド承認日の検証	デマンドとそのデマンドから作成されたプロジェクトの承認日が同じであることを検証します。	Tokyo
プロジェクト設定「作業ステータスに移行したら、プロジェクトマイルストーンタスクを閉じる」を検証	プロジェクト設定「作業ステータスに移行したら、プロジェクトマイルストーンタスクを閉じる」を設定した後に、ステータスが [対応中] に変更されたときにマイルストーンタスクが閉じることを検証します。	Tokyo
プロジェクト設定「WIP プロジェクトのプロジェクトの移動を有効にする」を検証	プロジェクト設定「WIP プロジェクトのプロジェクトの移動を有効にする」を設定した後に、プロジェクト開始日が変更されたときに、WIP ステータスのプロジェクトのプロジェクト開始日が適切に変更されることを検証します。	Tokyo
プロジェクト設定「タスクに基づくプロジェクト開始日のロールアップ」を検証	プロジェクト設定「タスクからプロジェクト開始日をロールアップ」を選択解除した後、プロジェクト予定日がプロジェクトタスク開始日と異なる場合に、プロジェクトタスクの開始日がプロジェクトにロールアップされないことを検証します。	Tokyo
子テストスイート：プロジェクト移動アクションの検証		
プロジェクト移動アクションを使用してプロジェクトの開始予定日をシフトできることを検証	[プロジェクト移動] 関連リンクを使用して、ステータスが [計画] または [オープン] のプロジェクトの開始予定日を現在の開始予定日より前または後の日付に更新できることを検証します。	Orlando
プロジェクトの実行が選択されているときに [プロジェクト移動] が無効であることを検証	プロジェクトが実行フェーズである場合は、[プロジェクト移動] オプションが使用できないことを検証します。	Orlando
アジャイルフェーズ用に入力されたスプリント日付で、プロジェクト移動機能を検証	[プロジェクト移動] 関連リンクを使用してプロジェクトを移動したときに、スプリントの開始日と終了日がクリアされることを検証します。 **注:** このテストは、アジャイル開発 2.0 プラグイン (com.snc.sdlc.agile.2.0) がアクティブな場合にのみ利用できます。	Orlando
外部依存関係と関連エンティティを使用してプロジェクト移動機能を検証	[プロジェクト移動] 関連リンクを使用してプロジェクトを移動した場合に、外部依存関係と関連するエンティティもシフトされ、再描画されることを検証します。	Orlando
さまざまなプロジェクト状況を使用して、プロジェクト移動機能を検証	プロジェクトが [対応中] または [完了してクローズ] ステータスのときに、[プロジェクト移動] が動作しないことを検証します。	Orlando
子テストスイート：プロジェクトの RIDAC フローを検証		
リスクの RIDAC フローの確認	プロジェクトに関連付けられたリスクの RIDAC フローを検証します。	Quebec

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PMO：基本的なライフサイクルとプロジェクトロールアップテストスイートを検証するためのプロジェクト管理テスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
問題の RIDAC フローの確認	プロジェクトに関連付けられた問題の RIDAC フローを検証します。	Quebec
決定の RIDAC フローの確認	プロジェクトに関連付けられた決定の RIDAC フローを検証します。	Quebec
アクションの RIDAC フローの確認	プロジェクトに関連付けられたアクションの RIDAC フローを検証します。	Quebec
リスクフォームのフィールドの変更を検証	リスクのランク、リスク値、および可能性などのリスクフォームフィールドが送信時に正常に更新されているかどうかを検証します。	Quebec
子テストスイート：デマンドの RIDAC フローを確認する		
リスクの RIDAC フローの確認	デマンドに関連付けられたリスクの RIDAC フローを検証します。	Quebec
問題の RIDAC フローの確認	デマンドに関連付けられた問題の RIDAC フローを検証します。	Quebec
決定の RIDAC フローの確認	デマンドに関連付けられた決定の RIDAC フローを検証します。	Quebec
アクションの RIDAC フローの確認	デマンドに関連付けられたアクションの RIDAC フローを検証します。	Quebec
リスクフォームのフィールドの変更を検証	リスクのランク、リスク値、および可能性などのリスクフォームフィールドが送信時に正常に更新されているかどうかを検証します。	Quebec

PMO：リソース計画フローテストスイートを確認するための **Resource Management** テスト

テスト	説明	リリースバージョン
計画済みからキャンセル済みステータスへのユーザーのリソース計画のフローを確認する	プロジェクトのリソース計画を計画済みステータスからキャンセル済みステータスに移行できることを確認します。	Madrid
計画済みから完了ステータスへのグループのリソース計画のフローを確認する	プロジェクトのリソース計画を計画済みステータスから完了ステータスに移行できることを確認します。	Madrid
計画済みから割り当て済みステータスへのロールのリソース計画のフローを確認する	プロジェクトのリソース計画を計画済みステータスから割り当て済みステータスに移行できることを確認します。	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PMO：リソース計画フローテストスイートを確認するための **Resource Management** テスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
対応するプロジェクトまたはデマンドフィールドにロールアップするすべてのリソース計画の集計コストを確認	プロジェクトまたは需要のすべてのリソース計画の集計コストが、[予定コスト] および [割り当てられたコスト] フィールド、それぞれプロジェクトおよびデマンドの [リソースコスト] セクションにロールアップされることを検証します。	Orlando
[リソースプランをコピー] オプションの確認	[リソース計画をコピー] オプションで、元のリソース計画の正確なコピーが [計画] ステータスで作成できることを検証します	Orlando
プロジェクト/デマンドからプログラムにリソース計画の集計がロールアップすることの確認	プロジェクトまたはデマンドのすべてのリソース計画の集計コストが、関連するプログラムの総計画コストにロールアップされていることを検証します。	Orlando
リソース計画の完了時のレコードを確認	完了時にリソース計画の以下の変更を検証します。 • リソース計画の状況が [完了] に更新されます。 • 完了日がリソースプランの終了日よりも前の日付である場合、リソース計画の終了日が完了日で更新されます。入力された完了日がリソース計画の終了日より後の場合、リソース計画の終了日が保持されます。 • 完了日より後の期間のリソース計画の要求されたレコードと割り当てレコードは、すべて削除されます。割り当てに対して実際の時間が記録されている場合、その割り当ては削除されません。これらの割り当てレコードについては、割り当てられた時間はゼロになり、実際の時間は保持されます。 • リソースの利用可能な時間と割り当てられた時間がアグリゲートテーブルで更新されます。	Orlando
割り当てタイプが [計画された期間] のリソース計画の完了時にレコードを検証	割り当てタイプが [計画された期間] のリソース計画の完了時に以下を検証します。 • リソース計画の状況が [完了] に更新されます。 • 割り当ては削除されません。 • 割り当ての終了日が完了日に更新されます。	Orlando
RP 再計画機能の確認	キャンセルされたリソース計画が再計画されたときに、リソース計画の状態が [計画] に変更されることを検証します。	Orlando
リソース計画の変更が対応するコスト計画に反映されているかどうかを検証	リソース計画が更新されると、対応するコスト計画がそれに応じて更新されることを検証します。たとえば、予定コストの合計が 500 USD で、予定時間が 10 の場合、予定時間を 20 に変更すると、予定コストの合計が 1000 USD に更新されます。	Paris
リソース - リソース計画の開始日と終了日の	デマンドの関連リストからユーザーまたはグループのリソース計画を作成するときに、以下を検証します。	Paris

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PMO：リソース計画フローテストスイートを確認するための **Resource Management** テスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
デフォルト入力をテスト	• 開始日と終了日がないデマンドが作成された場合は、ユーザーまたはグループのリソース計画にはタスクがデマンドとしてあり、開始日と終了日はありません。 • 開始日と終了日を含むデマンドが作成された場合は、ユーザーのリソース計画にはタスクがデマンドとしてあり、開始日と終了日がデマンドに追加されます。	
運用リソース計画とタイムカードの実際の時間が等しいことを検証	タイムカードカテゴリが運用作業タイプにマップされている場合、その作業タイプに関連付けられた運用リソースプランのタイムカードを送信するときに、リソース計画の実際の時間とタイムカードが同じであることを検証します。	Quebec
運用リソースプランのリソースプラン自動入力を検証	タイムカードに関連付けられた運用リソース計画が、時間が記録されたときにタイムカードで自動的に取得されることを検証します。	Rome
非運用リソース計画のリソースプラン自動入力を検証	プロジェクト、プロジェクトタスク、またはタイムカードのデマンドに関連付けられたリソース計画が、時間が記録されたときにタイムカードで自動的に取得されることを検証します。	Rome

プロジェクトポートフォリオ管理の詳細については、「プロジェクトポートフォリオ管理」を参照してください。

プロジェクト通貨テストスイート

プロジェクト通貨クイックスタートでは、PPM Standard Multicurrency – ATF Tests プラグイン (com.snc.ppm_multicurrency.atf) をアクティブ化する必要があります。

プロジェクト通貨テストスイートのテスト

テスト	説明	リリースバージョン
コスト計画のプロジェクト通貨でコストを確認	予算参照レートを使用してコスト行ブレークダウンの計算を検証し、コスト計画へのロールアップを確認します。プロジェクト通貨でプロジェクトについても確認します。	Orlando
プロジェクト通貨で利益計画の利益を確認	予算参照レートを使用して利益行ブレークダウンの計算を検証し、利益計画へのロールアップを確認します。プロジェクト通貨でプロジェクトについても確認します。	Orlando

PPM Standard の詳細については、「PPM Standard」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポート

レポート クイックスタートテスト自動テストフレームワーク (ATF) - レポートプラグイン (com.glide.automated_testing_impl.report) は、デフォルトまたはインスタンスの再起動時にアクティブ化されます。

注: レポート クイックスタートテストはダッシュボードからのレポートアクセスをテストしません。ダッシュボードをテストするには、「ダッシュボードのクイックスタートテスト」を参照してください。

レポート クイックスタートテスト

テスト	説明	リリースバージョン
レポートの可視化	レポートを共有しているユーザーにレポートが表示されるかどうかを確認します。	Madrid

ソフトウェア資産管理の基盤プラグイン ソフトウェア資産管理

ソフトウェア資産管理の基盤プラグイン ソフトウェア資産管理 クイックスタートテストでは、ソフトウェア資産管理プロ プラグイン (com.snc.samp) をアクティブ化する必要があります。一部のクイックスタートテストでは、以下の追加プラグインをアクティブ化する必要があります。

- ソフトウェア資産管理 - 支出検出 (com sn_sam_spend)
- ソフトウェア資産管理プロ - Microsoft 向け (com.snc.samp.microsoft)
- ソフトウェア資産管理プロ - SAP 向け (com.sn_samp_sap)
- Oracle 用の ソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.oracle)
- ソフトウェア資産管理 - SaaS ライセンス管理統合 (com sn_sam_saas_int)

ソフトウェア資産管理 テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
SAM - 新しく公開された PPN およびコンテンツへのカスタム PPN/DMAP のマッピング	カスタム公開者の部品番号 (PPN) が新しい ソフトウェア資産管理 コンテンツサービス PPN に置き換えられたことを検証します。	San Diego
SAM：Oracle PaaS BYOL	• PaaS デバイスに関する情報を格納する新しいサーバーレスハードウェア [cmdb_ci_serverless_hardware] テーブルの追加を検証します。 • Amazon Web サービス (AWS) PaaS 環境の Oracle データベースサーバーのライセンスコンプライアンスを検証します。	Rome

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア資産管理 テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	注: ソフトウェア資産管理プロ for Oracle (com.snc.samp.oracle) プラグインと CMDB CI クラスモデルストアアプリケーションが必要です。	
SAM：ソフトウェアモデルのソフトウェア製品ライフサイクルレコード	ソフトウェアモデルフォームの [ソフトウェアライフサイクル] タブにレコードが表示されていることを確認します。 注: デモデータと Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。	Quebec
SAM：BYOL	• ソフトウェアエンタイトルメントフォームの購入日を検証 • ライセンスメトリクスの結果 [samp_license_metric_result] およびライセンスの位置レポート [samp_license_position_report] テーブルに、新しく追加された列 legacy_license の追加を検証します。 • ソフトウェアインストール [cmdb_sam_sw_install] テーブルに、新しく追加された列、cloud_license_type および cloud_license_type_source を検証します。 注: Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。	Quebec
SAM - CIS スイートを検証	ダウングレード権限で、コアインフラストラクチャサーバー (CIS) スイートの調整を検証します。	Paris

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア資産管理 テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	注: デモデータと Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。	
SAM - PerCoreForMSCluster	Microsoft の調整機能をクラスターのコアごとに検証します。 注: Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。	Paris
SAM - アップグレード/ダウングレードを Microsoft Publisher の調整中に検証	アップグレードとダウングレードの権限を、Microsoft 製品の調整中に検証します。 注: デモデータと Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。	Paris
SAM - SaaS アプリケーションを統合するデマンドを生成	SaaS アプリケーションでデマンドの生成と送信を検証します。 注: ソフトウェア資産管理 - Spend Detection (com.sn_sam_spend) プラグインと PPM standard (com.snc.financial_planning_pmo) プラグインが必要です。	Paris
SAM - SAP エンジンのソフトウェアモデルとソフトウェアエンタイトルメント	製品が SAP エンジンである場合、ソフトウェアモデルとソフトウェアエンタイトルメントの各フォームが変更されたことを確認します。 注: SAP 向けソフトウェア資産管理プロ (com.sn_samp_sap) プラグインが必要です。	Paris
SAM：ソフトウェアモデルのダウングレード権限	コンテンツサービスからプッシュされたダウングレード権限が、ソフトウェアモデルフォー	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア資産管理 テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	ムの [ダウングレード権限] 関連リストで正しく設定されていることを検証します。	
SAM：ソフトウェアエンタイトルメントに関するマルチコアパック検証	ソフトウェアエンタイトルメントに関するマルチコアパックの新しいフィールドの機能を検証します。 注: Microsoft 向けソフトウェア資産管理プロ (com.snc.samp.microsoft) プラグインが必要です。	Orlando
SAM：ソフトウェアエンタイトルメントのダウングレード権限	コンテンツサービスからプッシュされたダウングレード権限が、ソフトウェアエンタイトルメントフォームの [ダウングレード権限] 関連リストで正しく設定されていることを検証します。	Orlando
SAM：ソフトウェア支出トランザクション	ソフトウェア消費トランザクションの作成を検証します。 注: ソフトウェア資産管理 - 支出検出 (com.sn_sam_spend) プラグインが必要です。	Orlando
SAM：ソフトウェアモデルとソフトウェアエンタイトルメント	ユーザーがソフトウェアモデルとソフトウェアエンタイトルメントを作成し、それらのレコードを検証できることをテストします。	New York
SAM：ソフトウェアのインストールとディスカバリーモデル	ユーザーがソフトウェアのインストールとディスカバリーのモデルを作成し、それらのレコードを検証できることをテストします。	New York
SAM - カスタム PPN を使用するソフトウェアエンタイトルメントの作成	カスタムソフトウェア製品、カスタム製品のカスタム DMAP、カスタム DMAP のカスタム部品番号、カスタム部品番号を使用するソフトウェアエンタイトルメントを作成して、ソフトウェアモデルが自動で作成されていることを確認します。	New York
SAM - SAP の名前付きユーザーのソフトウェアモデルチェック	公開者が SAP で製品が名前付きユーザーである場合に、ソフ	New York

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア資産管理 テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	トウェアモデルフォームが変更することをテストします。 **注:** SAP 向けソフトウェア資産管理プロ (com.sn_samp_sap) プラグインが必要です。	
SAM：SaaS のソフトウェアモデルチェック	SaaS 製品が選択された際に、ソフトウェアモデルフォームが変更することをテストします。 **注:** ソフトウェア資産管理 - SaaS ライセンス管理統合 (com.sn_sam_saas_int) プラグインが必要です。	New York
SAM：SaaS ソフトウェア製品のフィールドを検証	[サブスクリプションソフトウェア] と [インストールを無視] フィールドがソフトウェア製品フォームに存在することをテストします。 **注:** ソフトウェア資産管理 - SaaS ライセンス管理統合 (com.sn_sam_saas_int) プラグインが必要です。	New York

ソフトウェア資産管理の詳細については、「ソフトウェア資産管理」を参照してください。

セキュリティインシデントレスポンス

セキュリティインシデントレスポンス クイックスタートテストではセキュリティインシデントレスポンスプラグイン (com.snc.security_incident) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

セキュリティインシデントレスポンス テスト

テスト	説明	リリースバージョン
SIR：セキュリティインシデントの作成	ユーザーがセキュリティインシデントフォームからセキュリティインシデントを正常に作成できるかどうかを判断します。	Xanadu
SIR：セキュリティインシデントカタログからセキュリティインシデントを作成する	ユーザーがカタログからセキュリティインシデントを正常に作成できるかどうかを判断します。	Xanadu

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セキュリティインシデントレスポンス テスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
SIR：セキュリティインシデントライフサイクル	ポリシー違反ワークフローの対応タスクを検証します。	Xanadu
SIR：脅威のルックアップ	脅威のルックアップ機能を検証します。	Xanadu
SIR：PIR アセスメント OOTB 構成	このテストを使用して、PIR アセスメントとベースシステム構成を検証します。	Xanadu
SIR：PIR アセスメントの条件付き構成	インシデントの事後アセスメントを完了せずに、必須の条件付きルールに一致するセキュリティインシデントがクローズされていないことを確認します。 インシデントの事後アセスメントを完了せずに、オプションの条件付きルールに一致するセキュリティインシデントがクローズされていないことを確認します。 ルールに一致しないセキュリティインシデントに対してアセスメントが生成されていないことを確認します。	Xanadu
SIR：PIR 実行時間検証	新しい設計に従って PIR レポートが構成され、セキュリティインシデントに添付されていることを検証します。	Xanadu
SIR：PIR デザイン時間セットアップ検証	アドミニストレーターの構成に基づいて、セキュリティインシデントがレポートテンプレートにマップされていることを検証します。	Xanadu
SIR：セキュリティインシデントを既存の重大なセキュリティインシデントにリンク	セキュリティインシデントを既存の重大なセキュリティインシデントにリンクし、重大なセキュリティインシデントにロールアップされたセキュリティインシデントからのデータを検証します。	Xanadu
SIR：セキュリティインシデントを重大なセキュリティインシデントとして昇格	セキュリティインシデントを重大なセキュリティインシデントとして昇格し、重大なセキュリティインシデントにロールアップされたセキュリティインシデントのデータを検証します。	Xanadu

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セキュリティインシデントレスポンス テスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
SIR：重大なセキュリティインシデントとしてセキュリティインシデントを提案	セキュリティインシデントを重大なセキュリティインシデントとして提案し、重大なセキュリティインシデントにロールアップされたセキュリティインシデントからのデータを検証します。	Xanadu
[制限の適用] がオンになっていると、許可されたメンバーのみがセキュリティインシデントにアクセスできることを確認します。	[制限の適用] が有効になると、許可されたメンバーのみがセキュリティインシデントにアクセスできることを確認します。	Xanadu
[制限の適用] がオンになっていると、許可されたグループのみがセキュリティインシデントにアクセスできることを確認します。	[制限の適用] が有効になると、許可されたグループのみがセキュリティインシデントにアクセスできることを確認します。	Xanadu
読み取りアクセスを検証する	表示アクセスを検証します。	Xanadu
書き込みアクセスを検証する	編集アクセスを検証します。	Xanadu

セキュリティインシデントレスポンスの詳細については、「セキュリティインシデントレスポンス」を参照してください。

サービスレベル管理

サービスレベル管理 クイックスタートテストでは、サービスレベル管理 - ATF Tests プラグイン (com.snc.service_level_management.atf) をアクティブ化する必要があります。

サービスレベル管理 クイックスタートテスト

テスト	説明	リリースバージョン
SLM：サービスレベル管理タスク SLA の完了ワークフロー	ユーザーがタスク SLA を作成し、ワークフローを完了できることをテストします。	Orlando
SLM：サービスレベル管理タスク SLA のキャンセルワークフロー	ユーザーがタスク SLA を作成し、ワークフローをキャンセルできることをテストします。	Orlando
SLM: サービスレベル管理タスク SLA タイマー REST API	SLA タイマー API 応答が SLA タイマー重大コンポーネントで想定されているデータと一致することをテストします。	Paris

サービスレベル管理の詳細については、「Service Level Management」を参照してください。

サービスマッピング

サービスマッピング クイックスタートテストではサービスマッピング (com.snc.service-mapping) プラグインをアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスマッピング クイックスタートテスト

テスト	説明	リリースバージョン
SM OOTB：ロールによる SM アプリケーションの可視化をテストする	さまざまなロールの サービスマッピング アプリケーションとモジュールの可視化を検証します。たとえば、このテストでは、service_mapping_user ロールでログインしたユーザーが、サービスマッピング で管理モジュールにアクセスできないことを検証します。	Madrid
SM OOTB：サービスマップの確認	このテストテンプレートを使用して、最も重要なサービスのトポロジが変更されていないことを確認するカスタムテストを作成します。 [データセットのテスト実行] の値を設定し、テストするサービスの名前と、このサービスで見つかると予期されるノードを識別します。 ノード名の値には、マップでそのまま表示されるノード属性を入力します (「Apache サーバー」など)。ノードの属性名が切り詰められている場合、またはノードが CI クラスターであることが示されている場合は、このノード名の値を、マップで表示される方法を反映するように設定します (11 台の Exchange FrontEnd サーバーのグループに対して「11x ExchangeF」など)。 **注:** このテストを使用して、最上位より上の未展開レベルのサービスコンテンツを確認することはできません。	Orlando、更新された Paris
SM OOTB：アップグレード後に UI アクセシビリティを確認	このテストを実行して、アップグレード後に サービスマッピング の UI が完全に機能することを確認します。	Orlando

サービスマッピングの詳細については、「サービスマッピング」を参照してください。

サービスポートフォリオ管理プレミアム

サービスポートフォリオ管理プレミアムクイックスタートテストでは、サービスポートフォリオ管理プレミアム プラグイン (com.snc.spm) をアクティブ化する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスポートフォリオ管理プレミアム - ATF テストのテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
ポートフォリオエディター：ポートフォリオオーナーではなく、読み取り専用の分類アクセス	関連付けられているが所有していないポートフォリオの分類に対し、ポートフォリオエディターが読み取りしかできないことを確認します。	Orlando
ポートフォリオエディター：新規ポートフォリオの作成不可	ポートフォリオエディターが、ポートフォリオを新しく作成できないことを確認します。	Orlando
ポートフォリオエディター：有効なポートフォリオ所有者の分類アクセス	ポートフォリオ所有者が、所有するポートフォリオ内部の分類にアクセスできることを確認します。	Orlando
サービスエディター：アクセス	サービスエディターが、所有するサービスとオファリングのみを編集できることを確認してください。	Orlando
ポートフォリオエディター：所有するポートフォリオを変更可能	ポートフォリオエディターが、所有するポートフォリオの変更と更新を行えることを確認します。	Orlando
ポートフォリオの作成	ポートフォリオアドミンがポートフォリオを新しく作成できることを確認します。	Orlando
ポートフォリオエディター：所有していないポートフォリオは変更不可	ポートフォリオエディターが、所有していないポートフォリオを変更できないことを確認します。	Orlando
サービスワークフロー	サービスポートフォリオ、分類ノード、サービスオファリングが添付されていないと、サービスがカタログフェーズに進めないことを確認してください。 サービスをカタログフェーズからパイプラインフェーズに戻せないことを確認します。	Orlando
サービスポートフォリオ (標準)	サービスポートフォリオ、分類レイヤー、および分類ノードを作成します。	Orlando
ポートフォリオ + 3 層の分類レイヤーを作成	3 つの分類レイヤーを含むサービスポートフォリオを作成します。	Orlando
サービスポートフォリオ (例外) - 分類レイヤー定義セット 01	サービスポートフォリオ、分類レイヤー、および分類ノードを作成します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスポートフォリオ管理プレミアム - ATF テストのテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
SPM: ポートフォリオを作成	サービスポートフォリオを作成します。	Paris
SPM: ポートフォリオ + 3 層の分類レイヤーを作成	3 つの分類レイヤーを含むサービスポートフォリオを作成します。	Paris
SPM: サービスポートフォリオ (標準)	サービスポートフォリオ、分類レイヤー、および分類ノードを作成します。	Paris
SPM: サービスポートフォリオ (例外) - 分類レイヤー定義セット 01	サービスポートフォリオ、分類レイヤー、および分類ノードを作成します。	Paris
SPM: ポートフォリオエディター: 所有するポートフォリオを変更可能	ポートフォリオエディターが、所有しているポートフォリオを変更できることを確認します。	Paris
SPM: ポートフォリオエディター: 所有していないポートフォリオは変更不可	ポートフォリオエディターが、所有していないポートフォリオを変更できないことを確認します。	Paris
SPM: ポートフォリオエディター: 新規ポートフォリオが作成不可	ポートフォリオエディターが、新規ポートフォリオを作成できないことを確認します。	Paris
SPM: ポートフォリオエディター: 有効なポートフォリオ所有者の分類アクセス	ポートフォリオ所有者が、所有する分類にアクセスできることを確認します。	Paris
SPM: ポートフォリオエディター: ポートフォリオ所有者ではなく、読み取り専用の分類アクセス	ポートフォリオエディターが、所有していないポートフォリオの分類の読み取りのみを許可されていることを確認します。	Paris
SPM: サービスエディター: アクセス	サービスエディターが、所有するかまたは委任されているサービスとオファリングのみを編集できることを確認します。	Paris
SPM: サービスビューアー: アクセス	サービスビューアーが、サービスを表示するためのアクセスを持っていることを確認します。	Paris
SPM: サービスワークフロー	サービスポートフォリオ、分類ノード、サービスオファリングが添付されていないと、サービスがカタログフェーズに進めないことを確認してください。	Paris

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスポートフォリオ管理プレミアム - ATF テストのテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	サービスをカタログフェーズからパイプラインフェーズに戻せないことを確認します。	

サービスポートフォリオ管理の詳細については、「サービスポートフォリオ管理」を参照してください。

スキル管理

スキル管理 のクイックスタートテストでは、スキル管理 プラグイン (com.snc.skills_management) をアクティブ化する必要があります。

スキル管理テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
スキル管理：ユーザーが複数のグループに属している場合のユーザースキルレベルの継承	ユーザーが、異なるスキルレベルを持つ同じスキルを割り当てられた複数のグループに属する場合に、ユーザーが最も高いスキルレベルに割り当てられていることを確認します。	New York
スキル管理 ：最も低いレベルのカテゴリーにスキルを追加	スキルを最低レベルのカテゴリに追加できることを確認します。	New York
スキル管理 ：親カテゴリの下に子カテゴリを作成	親カテゴリでフラグ [スキルを追加] がオフになっている場合に、下位レベルのカテゴリが作成できることを確認します。	New York
スキル管理 ：スキルカテゴリの作成	[スキルカテゴリ] フォームでスキルカテゴリを作成できることを確認します。	New York
スキル管理 ：スキルレベルタイプとスキルレベルの作成	タイプに対してスキルレベルタイプと異なるスキルレベルを定義します。	New York
スキル管理 ：グループからユーザーへのスキルレベルの継承	スキルレベルをグループからグループのユーザーに継承でき、[継承] および [継承されたスキルレベル] フィールドが true に設定されることを確認します。	New York
スキル管理 ：[IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスからスキルを作成	IT スキルの管理ユーザーインターフェイスを使用してスキルを作成できることを確認します。	Orlando
スキル管理 ：[IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスで、スキルとスキルレベルをユーザーに追加	[IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスで、スキルと関連するスキルレベルをユーザーに追加できることを確認します。	Orlando
スキル管理 ：[IT スキルの管理] ユーザーインターフェイス	[IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスで、スキルと関連す	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スキル管理テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
で、スキルを選択し、スキルにユーザーを追加します。	るスキルレベルを 1 名以上のユーザーに追加できることを確認します。	
スキル管理 ：[IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスで、スキルレベルのないスキルを選択し、そのスキルにユーザーを追加	[IT スキルの管理] ユーザーインターフェイスで、スキルレベルのないスキルを選択し、そのスキルを 1 名以上のユーザーに追加できることを確認します。	Orlando

スキル管理の詳細については、「スキル管理」を参照してください。

テスト管理 2.0

テスト管理 2.0 クイックスタートテストでは、テスト管理 2.0 プラグイン (com.snc.test_management.2.0) および テスト管理 2.0 - ATF テストプラグイン (com.snc.test_management.2.0.atf) をアクティブ化する必要があります。

テスト管理 2.0：テストバージョンテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
テストバージョンを作成するとテストが作成される	テストの作成とバージョンを検証します。	Madrid
検証手順が含まれている場合、テストバージョンを準備完了としてマークすることができる	テストに検証手順があるときにテストのステータスを検証します。	Madrid
検証手順が含まれていない場合、テストバージョンを準備完了としてマークすることができない	テストに検証手順がないときにテストのステータスを検証します。	Madrid
テストバージョンを準備完了としてマークしたときに、準備完了ステータスの他のテストバージョンを廃止する	テストを準備完了としてマークしたときにテストのステータスを検証します。	Madrid

テスト管理 2.0：テスト結果ロールアップテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
テスト実行が終了したときに実行スイートの進行状況を更新する	実行状況の進行状況を検証します。	Madrid
準備完了ステータスではないテストを割り当てることができない	テストの割り当てを検証します。	Madrid
テストの進行状況をテスト計画とテストサイクルのためにロールアップする	テスト計画とテストサイクルについてテストの進行状況を検証します。	Madrid

テスト管理 2.0 の詳細については、「テスト管理 2.0」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユニバーサル要求

ユニバーサル要求 クイックスタートテストでは ユニバーサル要求 (com.snc.universal_request)、ユニバーサル要求：インシデント管理用統合 (com.snc.incident.universal_request)、およびヒューマンリソース (HR) スコープ対象のアプリ：Core (com.sn_hr_core) プラグインをアクティブ化する必要があります。

ユニバーサル要求 クイックスタートテスト

テスト	説明	リリースバージョン
UR：人事ケースのインシデントへの転送	人事ケースがインシデントに転送され、インシデントが作成されたかどうかを検証します。	Quebec
UR：ユニバーサル要求を制限または制限解除	以下を検証します。 • ルーティングエージェントが UR を制限すると、フィールドは制限されて非表示になります。 • *sensitiveinfo_agent* ロールを持つエージェントのみが要求の制限を解除できます。 • また、要求の制限が解除されると、すべてのフィールドが表示されます。 • エージェントは sys-audit ログアクセスを利用できます。	Xanadu
UR：RITM を使用したユニバーサル要求の作成	ユニバーサル要求 Certified が有効になっている場合に、セルフサービスの任意のアイテムのカタログ要求を作成できることを検証します。	San Diego

ベンダー管理ワークスペース

ベンダー管理ワークスペース クイックスタートテストでは。ベンダーマネージャーワークスペースプラグイン (com.snc.vlm.vmw) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

ベンダー管理ワークスペース - テストのテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
VLM：ベンダーの作成	アップグレード後に、ベンダーマネージャーワークスペース プラグインで問題を追跡します。新しいベンダーを作成します。	New York

ベンダー管理ワークスペースの詳細については、「ベンダー管理ワークスペース」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベンダーマネージャーワークスペース および サードパーティリスク管理

GRC：ベンダーマネージャーワークスペース および サードパーティリスク管理 クイックスタートテストでは ベンダーマネージャーワークスペース および サードパーティリスク管理 プラグイン (com.sn_vdr_risk_asmt) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

GRC：ベンダーリスク管理 および サードパーティリスク管理 クイックスタートテスト

テスト	説明
GRC：エンゲージメントリスクアセスメントの作成	エンゲージメントリスクアセスメントを作成し、エンゲージメントに送信します。
GRC：ベンダーリスクスコアリング - エンゲージメントのアセスメントをキャンセル	エンゲージメントの 1 つのアセスメントがキャンセルされた後、リスク評価を再計算する要求がエンゲージメントおよびサードパーティに対して自動的に作成されることを確認します。
GRC：ベンダー発行 ATF	サードパーティのリスク問題フォームとサードパーティのリスクタスクフォームを作成して送信します。
GRC：ベンダーリスクアセスメントの作成	ベンダーリスクアセスメントを作成し、ベンダーに送信します。
GRC：ベンダーポータル - アセスメントの回答および返送	ベンダー連絡先が Service Vendor Portal でアセスメントに回答し、送信します。
GRC：ベンダー階層アセスメント	期間を変更した後、アセスメントを選択して各査定人に送信します。

アップグレードの適用やアプリケーションの開発などの構成変更を行った後も、TPRM が変わらず正常に動作することを検証します。クイックスタートテストをコピーしてカスタマイズし、インスタンス固有のデータを使用する際に渡します。

脆弱性対応

脆弱性対応 クイックスタートテストでは、脆弱性対応 アプリケーション (sn_vul) をアクティブ化してデモデータをロードする必要があります。

脆弱性対応 テスト

テスト	説明	リリースバージョン
VR：修正ターゲットルールの作成	修正ターゲットルールを作成します。	Madrid
VR：脆弱性グループルールの作成	脆弱性グループルールを作成します。	Madrid
VR：フォームを介した脆弱性一致アイテムの作成	ユーザーが脆弱性一致アイテムフォームから脆弱性一致アイテムを正常に作成できるかどうかを判断します。	Madrid
VR：脆弱性グループのライフサイクル	ユーザーが脆弱性グループを正常に解決できるかどうかを判断します。	Madrid
VR：脆弱性一致アイテムのライフサイクル	ユーザーがライフサイクルを通して脆弱なアイテムを正常に移動できるかどうかを判断し、ク	Madrid

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

脆弱性対応 テスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	ローズ済みの脆弱性一致アイテムを再度開くことができるかどうかを判断します。	
VR：ロールアップ計算機	ロールアップリスク計算機が、脆弱性グループのすべての脆弱なアイテムのスコアを使用して、脆弱なアイテムのグループ全体の全体的なリスクスコアを算出できるかどうかを判断します。	New York
VR：脆弱性対応 アサインルール	アサインルールのサンプルセットが脆弱なアイテムをアサイングループに自動アサインして修復できるかどうかを確認します。	New York
VR：脆弱性計算機	脆弱性計算機をテストします。	New York
VR：CI ルックアップ - Qualys	「field_matching」メソッドを使用して、Qualys 用の「ネットワークアダプターによるルックアップ」という名前の新しいルックアップルールを作成します。新しいルックアップルールを使用し、ネットワークアダプターおよび IP アダプターで、[検出されたアイテム] テーブルの構成アイテムに一致させることができるかどうかを確認します。	Orlando
VR：通常および緊急の変更要求の作成	ユーザーが脆弱性グループから通常および緊急の変更要求を作成できるかどうかを確認します。	Orlando
VR：脆弱性グループの分割	ユーザーが脆弱性グループを分割できるかどうかを確認します。	Orlando
VR：CHG がキャンセルされたときに VG ステータスを更新	脆弱性グループに関連付けられている変更要求がキャンセルされたときに、脆弱性グループの [ステータス] フィールドが正常に移行するかどうかを確認します。	Orlando
VR：CHG が [レビュー] に移行したときに VG ステータスを更新	脆弱性グループに関連付けられている変更要求が [レビュー] ステータスに移行したときに、脆弱性グループの [ステータス] フィールドが正常に移行するかどうかを確認します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

脆弱性対応 テスト (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
VR：CI ルックアップ - Rapid7	既存の Rapid7 Vulnerability Integration ルックアップルール、 **IP** アドレスを使用して CI ルックアップをテストします。	Orlando
VR：CI ルックアップ - Qualys	Qualys Vulnerability Integration に対する新しいルックアップルールを作成して CI ルックアップをテストします。	Orlando
VR：VI の例外承認ワークフロー	例外要求を作成し、承認プロセスが機能していることを確認します。	Orlando
VR：VI の誤検出承認ワークフロー	誤検出の例外要求を作成し、承認プロセスが機能していることを確認します。	Orlando
VR: アプリケーション脆弱性対応 (AVR)	ルールと計算機が正しく機能しているかどうかを判定します。更新が機能していることを検証します。	Orlando
修復ターゲットルール：VI インポートテスト	インポート中に VR 修復ターゲットルールをテストします。	Paris
VR：分類ルール	脆弱性を自動的に分類するサンプル分類ルール	Tokyo

脆弱性対応 の詳細については、「脆弱性対応」を参照してください。

ウォークアップエクスペリエンス

ウォークアップエクスペリエンス クイックスタートテストでは、ウォークアップエクスペリエンス プラグイン (com.snc.walkup) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

ウォークアップエクスペリエンス - テストのテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
場所の作成	ウォークアップア ドミニストレーター [sn_walkup.walkup_admin] ロールを持つユーザーが既存のすべてのウォークアップキューにアクセスでき、新しいキューの場所を作成し、キューを適切に設定できることを確認します。	Orlando
オンサイトチェックイン (ITIL ユーザー)	ITIL ロールを持つユーザーがオンサイトキューの場所にチェックインできることを確認します。	Orlando

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ウォークアップエクスペリエンス - テストのテストスイート (続く)

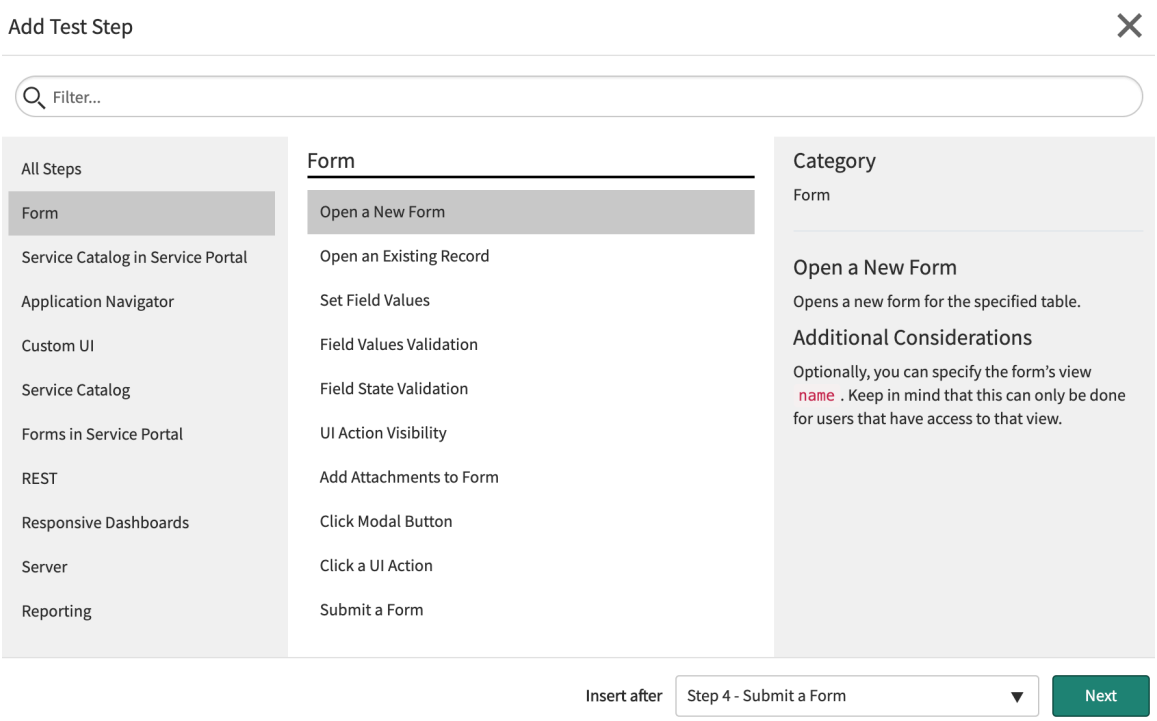
テスト	説明	リリースバージョン
オンサイトチェックイン (ESS ユーザー)	ESS ロールを持つユーザーがオンサイトキューの場所にチェックインできることを確認します。	Orlando
オンサイトチェックイン (ゲスト)	ゲストユーザーがオンサイトキューの場所にチェックインできることを確認します。	Orlando

ウォークアップエクスペリエンスの詳細については、「ウォークアップエクスペリエンス 」を参照してください。

テストステップのカテゴリ

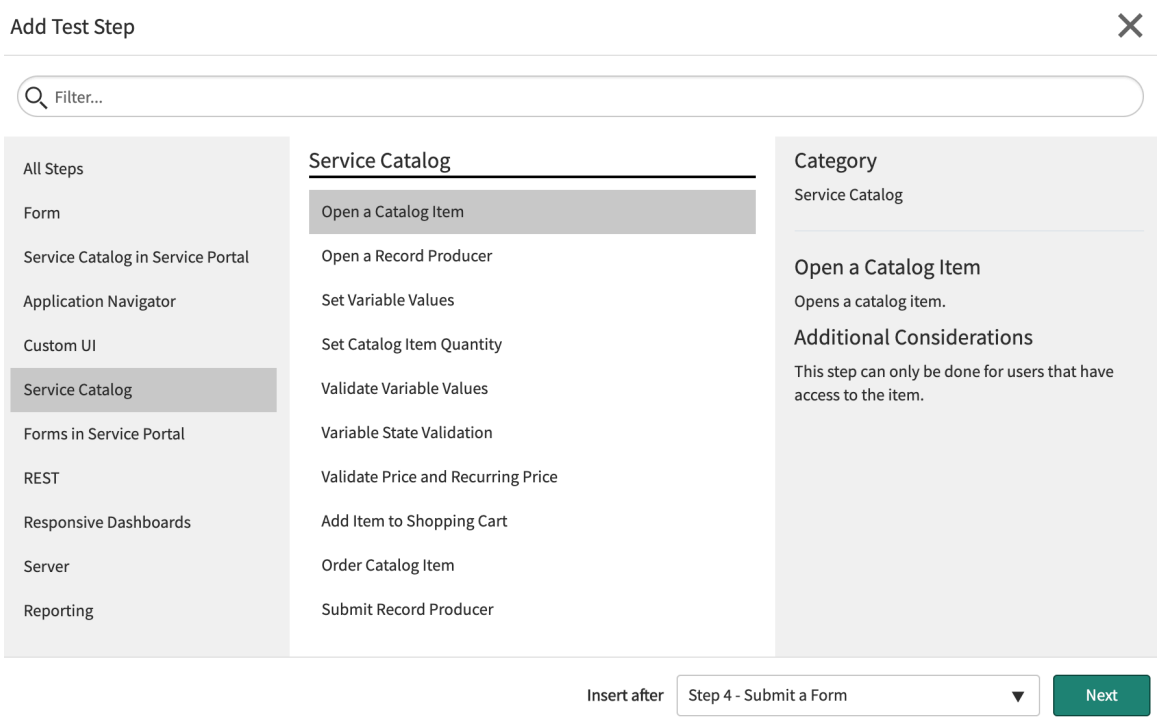
特定のユーザーインターフェイスまたは Now Platform 機能のテストステップを見つけます。

[テストステップを追加] パネルの左ペインにテストカテゴリがリストされます。パネルの上部にある検索フィールドで、特定のテストステップをその名前で直接検索できます。左ペインで [すべての手順] を選択して、使用可能なすべてのテストステップを中央ペインにリストすることもできます。選択したステップの説明が右ペインに表示されます。



特定のテストカテゴリを選択して、そのテストカテゴリで利用可能なテストステップのみを中央パネルに一覧表示できます。選択したステップの説明が右側のパネルに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



サービスポータルのサービスカタログカテゴリ

サービスポータル からのカタログアイテムトランザクションと要求者フローを検証します。

サービスポータルのサービスカタログの自動テストフレームワーク (ATF) のアクティブ化

ATF テストステップでは、自動テストフレームワーク (ATF) サービスカタログサービスポータル (com.glide.automated_testing_impl.service_catalog_portal) プラグインのアクティブ化が必要です。これは新しいインスタンスでデフォルトでアクティブになっています。アドミニストレーターは、以前のバージョンからアップグレードしたインスタンスでプラグインをアクティブにする必要がある場合があります。

パラメーター化されたテストのサポート

サービスポータルのサービスカタログステップ構成は、パラメーター化されたテストをサポートしています。パラメーター化されたテストの詳細については、「パラメーター化されたテスト」を参照してください。

レコードプロデューサーを開く (SP)

サービスポータルでレコードプロデューサを開きます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
ポータル	このステップをテストするポータル。
ページ	テストステップに関連付けられたサービスカタログページ。
レコードプロデューサー	開くレコードプロデューサー。 注: レコードプロデューサーへのアクセス権を持っている必要があります。
クエリパラメーター	ページの URL クエリパラメーター (*sys_id*など)。

カタログアイテムを開く (SP)

サービスポータルでカタログアイテムを開きます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
ポータル	このステップをテストするポータル。
ページ	テストステップに関連付けられたサービスカタログページ。
カタログアイテム	開くカタログアイテム。 注: このカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。
クエリパラメーター	ページの URL クエリパラメーター (*sys_id*など)。

注文ガイド (SP) を開く

サービスポータルで注文ガイドを開きます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
ポータル	このステップをテストするポータル。
ページ	テストステップに関連付けられたサービスカタログページ。
注文ガイド	開く注文ガイド。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	注: この注文ガイドへのアクセス権を持っている必要があります。
クエリパラメーター	ページの URL クエリパラメーター (*sys_id* など)。

複数行の変数セット (SP) に行を追加

サービスポータルの現在のカタログアイテムに含まれる複数行の変数セットに行を追加します。このステップ構成は、現在のカタログアイテムに複数行の変数セットが含まれている場合にのみ使用できます。

このステップは、カタログアイテムを開く (SP) ステップ、レコードプロデューサを開く (SP) ステップ、または注文ガイドを開く (SP) ステップの後に使用します。カタログアイテムを開く (SP) ステップ、レコードプロデューサを開く (SP) ステップ、または注文ガイドを開く (SP) ステップにコンテキスト値が使用されている場合、このステップでカタログアイテムを設定します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
カタログアイテム	複数行の変数セットに行を追加する必要があるカタログアイテム。アイテムがまだ選択されていない場合は、そのアイテムを検索するか、使用可能なパラメーターのリストからそのアイテムのコンテキスト値への参照を挿入できます。
複数行の変数セット	行を追加する複数行の変数セット。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複数行変数セット (SP) の現在の行を保存する

サービスポータルの現在のカタログアイテムに含まれる複数行の変数セットの現在の行を保存します。このステップ構成は、現在のカタログアイテムに複数行の変数セットが含まれている場合にのみ使用できます。複数行の変数セット (SP) に行を追加ステップの後にこのステップを使用します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	テストに合格するための基準。 複数行の変数セットに行を正常に保存しました 複数行の変数の現在の行が保存された場合のみテストに合格します。 複数の行の変数セットに行を保存できません 複数行の変数の現在の行が保存されなかった場合のみテストに合格します。

変数値の設定 (SP)

サービスポータルのカタログアイテムまたはレコードプロデューサの変数値を設定します。カタログアイテムの場合、カタログアイテムを開く (SP) ステップを使用した後、およびカタログアイテムの注文 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。

レコード プロデューサの場合は、レコード プロデューサを開く (SP) のステップを使用した後、レコード プロデューサの送信 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。 注: 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。
アイテム	変数値を設定するカタログアイテムまたはレコードプロデューサー。
複数行の変数セット	変数値を設定する複数行の変数セット。 注: 現在のステップ構成の前に複数行の変数セット (SP) に行を追加ステップ構成を使用します。
変数値	変数とそれらに設定する値のリスト。 注: 複数の変数の値を設定できます。

注: [変数値の設定] ステップ構成では、カスタム変数とラベル付きカスタム変数はサポートされていません。

変数値の検証 (SP)

サービスポータルのカタログアイテムまたはレコードプロデューサの変数値を検証します。カタログアイテムの場合、カタログアイテムを開く (SP) ステップを使用した後、およびカタログアイテムの注文 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。

レコード プロデューサの場合は、レコード プロデューサを開く (SP) のステップを使用した後、レコード プロデューサの送信 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。 **注:** 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。
アイテム	変数を検証する必要があるカタログアイテムまたはレコードプロデューサー。
複数行の変数セット	変数値を検証する複数行の変数セット **注:** 現在のステップ構成の前に複数行の変数セット (SP) に行を追加ステップ構成を使用します。
カタログ状態	変数の検証の条件。条件を満たしている場合、テストは合格です。 **注:** 変数セットに関連付けられた変数のラベルは、変数セット名が反映されます。形式は *variable_set_name » variable_name* です。

注: [変数値の検証] ステップ構成では、カスタム変数とラベル付きカスタム変数はサポートされていません。

変数ステータスの検証 (SP)

サービスポータルの変数の状態を検証します。変数の状態は、必須、任意、読み込み専用、非読み込み専用、表示、非表示です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
アイテム	変数を検証する必要があるカタログアイテムまたはレコードプロデューサー。
複数行の変数セット	変数の状態を検証する複数行の変数セット。 **注:** 現在のステップ構成の前に複数行の変数セット (SP) に行を追加ステップ構成を使用します。
表示	ステップが合格するために表示する必要があるカタログアイテム変数のリスト。
非表示	ステップが合格するために非表示にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。
読み取り専用	ステップが合格するために読み取り専用にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。
非読み取り専用	ステップが合格するために読み取り専用にしてはならないカタログアイテム変数のリスト。
必須	ステップが合格するために必須にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。
任意	ステップが合格するために必須にしてはならないカタログアイテム変数のリスト。

注: [変数値ステータスの検証] ステップ構成では、カスタム変数とラベル付きカスタム変数はサポートされていません。

価格および繰り返し発生料金の検証 (SP)

サービスポータルでカタログアイテムの価格および繰り返し発生料金を検証します。カタログアイテムを開く (SP) ステップを使用した後で、カタログアイテムの注文 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。このステップはレコード プロジューサには適用されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
価格	ステップが合格するためのカタログアイテムの価格。
繰り返し発生料金	ステップが合格するためのカタログアイテムの繰り返し発生料金。
繰り返し発生料金の頻度	ステップが合格するためのカタログアイテムの繰り返し発生料金の頻度。

注文ガイド (SP) 内を移動する

注文ガイド内を移動します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
ガイドステップ	ナビゲートする注文ガイドステップ： • ニーズを説明 • オプションを選択 • サマリー
アサーションタイプ	テストに合格するための基準。 ナビゲーションに成功しました ナビゲーションが成功した場合にのみ、テストに合格します。 ナビゲーションに失敗しました ナビゲーションが失敗した場合にのみ、テストに合格します。

カタログアイテム数量の設定 (SP)

サービスポータルのカタログアイテムの数量を設定します。このステップはレコード プロジューサには適用されません。カタログアイテムを開く (SP) ステップを使用した後で、カタログアイテムの注文 (SP) ステップを使用する前に、このステップを使用します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
数量	注文するカタログアイテムの数量。

注文ガイドアイテム (SP) の検証

注文ガイドに含まれているアイテムを確認します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
カタログアイテム	検証するカタログアイテム。 注: これらのカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。

注文ガイドの概要のレビュー (SP)

サービスポータルで注文ガイドの概要をレビューします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
カタログアイテム	レビューするカタログアイテム。 注: これらのカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。
価格	ステップが合格するためのカタログアイテムの価格。

注文ガイド (SP) のアイテムをレビューする

注文ガイドで個々のアイテムをレビューし、そのアイテムを含めるかどうかを選択します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
カタログアイテム	レビューするカタログアイテム。 **注:** このカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。
包含済み	カタログアイテムを注文ガイドに含める必要がある場合に選択し、それ以外の場合は選択しません。

買い物かごへのアイテムの追加 (SP)

サービスポータルの買い物かごに現在のカタログアイテムを追加します。カタログアイテムを開く (SP) ステップを使用した後、このステップを使用します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	テストに合格するための基準。 買い物かごにアイテムを正常に追加しました カタログアイテムが買い物かごに正常に追加された場合にのみ、テストに合格します。 買い物かごにアイテムを追加できません カタログアイテムをカートに追加できない場合にのみ、テストに合格します。

出力

フィールド	説明
cart_item_id	追加されたカタログアイテムの sys_id。

買い物かご (SP) に注文ガイドを追加する

買い物かごに注文ガイドを追加します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	テストに合格するための基準。 買い物かごに注文ガイドを追加できません 注文ガイドをカートに追加できない場合にのみ、テストに合格します。 買い物かごに注文ガイドを正常に追加しました 注文ガイドが買い物かごに正常に追加された場合にのみ、テストに合格します。

カタログアイテムの注文 (SP)

サービスポータルで現在のカタログアイテムに対して [今すぐ注文] をクリックします。カタログアイテムを開く (SP) ステップを使用した後、このステップを使用します。

このステップを実行すると、カタログアイテムに対して他のステップを使用することはできません。2 ステップチェックアウトが false の場合、カタログアイテムの要求が生成されます。2 ステップチェックアウトが true の場合、買い物かごプレビューページにリダイレクトされます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	テストに合格するための基準。 カタログアイテムを正常に注文しました カタログアイテムが正常に注文された場合にのみ、テストに合格します。 カタログアイテムを注文できません カタログアイテムを注文できない場合にのみ、テストに合格します。

出力

フィールド	説明
テーブル	送信された要求が属するテーブル。
record_id	送信された要求の sys_id。

注文ガイド (SP) を送信する

[今すぐ注文] をクリックして注文ガイドを注文します。注文ガイドに複数のレコードプロデューサーを追加しないでください。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	テストに合格するための基準。 注文ガイドを注文できません。 注文ガイドを注文できない場合にのみ、テストに合格します。 正常に注文ガイドを注文しました 注文ガイドが正常に注文された場合にのみ、テストに合格します。

出力

フィールド	説明
テーブル	送信された注文ガイドを含むテーブル。
record_id	送信された注文ガイドの sys_id。

レコードプロデューサーの送信 (SP)

サービスポータルで現在のレコードプロデューサを送信します。レコード プロデューサを開く (SP) のステップを使用した後、このステップを使用します。このステップの後、レコード プロデューサで他のステップを使用することはできません。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	テストに合格するための基準。 レコードプロデューサーを正常に送信 レコードプロデューサーが正常に送信された場合にのみ、テストに合格します。 レコードプロデューサーを送信できません レコードプロデューサーを送信できない場合にのみ、テストに合格します。

出力

フィールド	説明
テーブル	レコードプロデューサーのターゲットレコードを含むテーブル。

アプリケーションナビゲーターカテゴリ

アプリケーションナビゲーターのメニューとモジュールの機能を確認します。

アプリケーションメニューの表示

アプリケーションナビゲーター(左側のナビゲーションバー)で選択されたアプリケーションメニューの可視化または可視化の欠如を検証します。たとえば、まずユーザーの代理操作を実行してから、指定したアプリケーションメニュー(セルフサービスやレポートなど)がそのユーザーに表示されているかまたは表示されていないかを確認するテストを作成します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのテストまたはテストスイートを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
ナビゲーター	アサートするナビゲーターバージョン • コア UI (UI16)：新しいステップを作成する場合は、デフォルトで コア UI があります。 • ネクストエクスペリエンス： ネクストエクスペリエンス が有効になっている場合、ネクストエクスペリエンス がデフォルトのナビゲーターです。無効になっている場合、コア UI がデフォルトのナビゲーターです。
表示されるアサーションタイプ	[表示されるアプリケーションメニュー] フィールドで選択されたアプリケーションメニューの可視化をアプリケーションナビゲーターでテストする方法を指定します。 • 少なくともこれらのアプリケーションメニューは表示されます：最小限でも、選択したすべてのアプリケーションメニューがアプリケーションナビゲーターに表示されます。 • これらのアプリケーションメニューのみが表示されます：選択したアプリケーションメニューのみがアプリケーションナビゲーターに表示されます。
表示されるアプリケーションメニュー	アプリケーションナビゲーターでの可視化が検証されているアプリケーションメニュー。
表示されないアサーションタイプ	[表示されないアプリケーションメニュー] フィールドで選択されたアプリケーションメニューの可視化の欠如をアプリケーションナビゲーターでテストする方法を指定します。 • 少なくともこれらのアプリケーションメニューは表示されません：最小限でも、選択したすべてのアプリケーションメニューがアプリケーションナビゲーターに表示されません。 • これらのアプリケーションメニューのみが表示されません：選択したアプリケーションメニューのみがアプリケーションナビゲーターに表示されません。
表示されないアプリケーションメニュー	アプリケーションナビゲーターでの可視化の欠如が検証されているアプリケーションメニュー。

関連情報

アプリケーションメニューの作成

アプリケーションメニューの作成

アプリケーションメニューは、ユーザーがアプリケーションナビゲーターでアクセスできるメインコンテンツを定義します。アプリケーションナビゲーターに表示するアプリケーションを構成できます。

始める前に

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
アプリケーションメニューを作成するときは、モジュールなどを統合アプリケーションメニューにグループ化することを検討してください。既存のメニューを編集するときは、アプリケーションメニューに有用なモジュールをさらに追加し、不要なモジュールを削除します。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [アプリケーションメニュー] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
タイトル	アプリケーションメニューの表示名を定義します。
ロール	指定されたロールにアクセスを制限します。アプリケーションメニューがアクティブな場合は、すべてのユーザーがそれを表示できます。
カテゴリ	ナビゲーションメニューのスタイルを定義するメニューカテゴリを指定します (デフォルト値は [カスタムアプリケーション] です)。
ヒント	ユーザーがこのアプリケーションメニューにカーソルを合わせたときにツールヒントに表示されるテキストを定義します。
有効	アプリケーションメニューをアクティブ化するには、チェックボックスをオンにします。アクティブなアプリケーションメニューのみが、アプリケーションナビゲーターに表示されます。
説明	このアプリケーションの機能について、より詳細な説明を提供します。
その他のフィールド	
順番	アプリケーションナビゲーター内のアプリケーションメニューの相対位置を定義します。順序を指定しない場合は、メニューカテゴリのデフォルトの順序が使用されます。
デフォルトのデバイスタイプ	このフィールドは使用されません。モバイルデバイス用のアプリケーションメニューは別のテーブルで定義できます。

注: すべてのフィールドが表示されるようにフォームを設定する必要がある場合があります。

4. [送信] をクリックします。
5. アプリケーションメニューに表示されるモジュールを作成します。
モジュールを含むアプリケーションメニューのみがアプリケーションナビゲーターに表示されます。

モジュールの作成

モジュールは子、つまりアプリケーションナビゲーター内のアプリケーションの第 2 階層のナビゲーションオプションです。多くの場合、モジュールはプラットフォーム内の他のページやレコードにリンクされています。アプリケーションナビゲーターにどのモジュールを表示するかを、アプリケーションメニューモジュールを使用して構成できます。

アプリケーションナビゲーターにアプリケーションメニューとモジュールを追加する方法については、この 5 分間のビデオをご覧ください。 アプリケーションナビゲーターにアプリケーションメニューとモジュールを追加する方法を示します

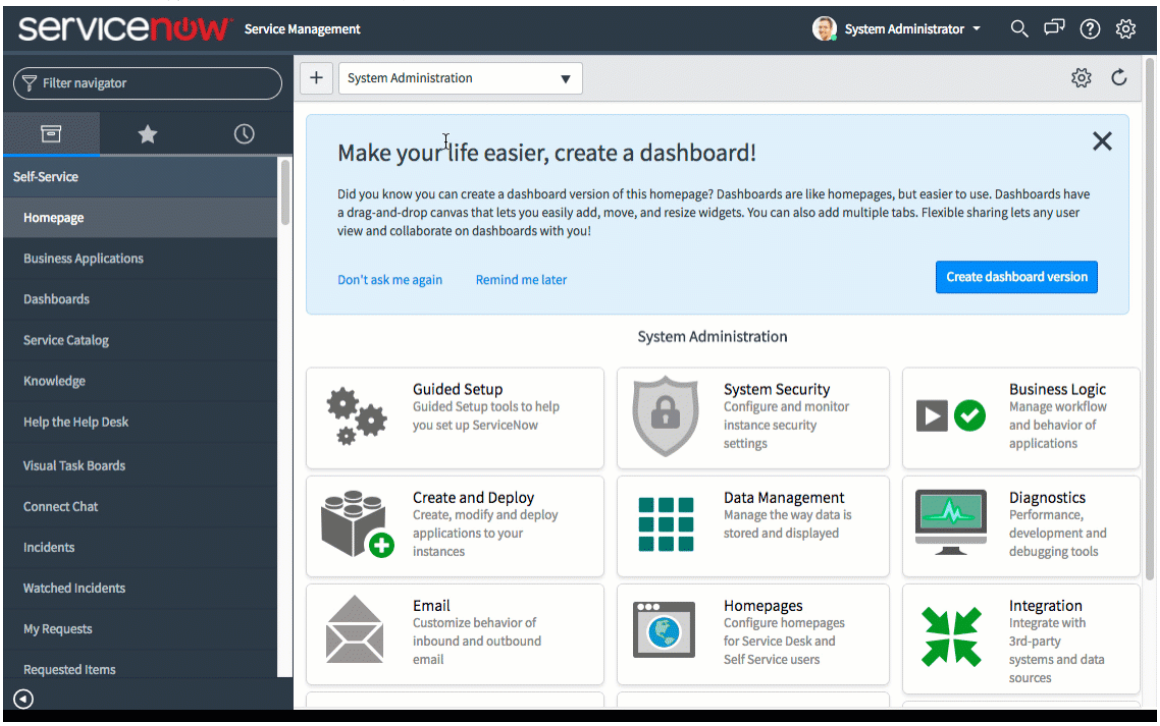
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 次のいずれかの方法を使用して、アプリケーションメニューレコードを開きます。
   - [システム定義] > [アプリケーションメニュー] に移動し、リストからアプリケーションメニューを選択します。
   - アプリケーションメニューをポイントし、[アプリケーションの編集] (鉛筆) アイコンをクリックします。

モジュールを作成する 2 つの方法



2. [モジュール] 関連リストまで下にスクロールし、[新規] をクリックします。
3. [モジュール] フォームのフィールドに入力して、モジュールを定義します。

モジュールフォーム

フィールド	説明
タイトル	モジュール名を定義します。モジュールを明確に識別するタイトルを選択します。
アプリケーションメニュー	モジュールが表示されるアプリケーションメニューの名前を指定します。
ヒント	ユーザーがモジュール名をポイントするときに表示されるツールヒントを定義します。 注: モジュールヒントは コア UI で廃止されました
順番	他のモジュールに関連してモジュールが表示される順序。

4. [可視化] タブで、フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[可視化] タブ

フィールド	説明
ロール	モジュールのアクセスを指定されたロールに制限します。このフィールドを空白のままにすると、モジュールはアプリケーションメニューにアクセスできるすべてのユーザーに表示されます。
有効	モジュールがアプリケーションナビゲーターに表示されるようにするかどうかを定義します。
アプリケーションメニューロールを上書き	含まれているアプリケーションメニューを表示する権限がない場合でも、ユーザーにこのモジュールへのアクセスを許可します。ユーザーはこのモジュールのロール要件を満たしている必要があります。

5. [リストタイプ] タブで、フィールドに入力します。

表示されるフィールドは、選択した [リンクタイプ] によって異なります。すべてのモジュール URI をエンコードする必要があります。モジュール URI に引数を指定する場合は、ユーザー自身または ServiceNow のいずれかが指定します。モジュール URI をエンコードする方法の詳細については、「モジュール URI のエンコーディング」を参照してください。

[リストタイプ] タブ

フィールド	説明
リンクタイプ	このモジュールで開かれる関連付けのタイプを指定します。リンクタイプに基づいて追加情報を指定する必要があります。「モジュールのリンクタイプ」を参照してください。
テーブル	モジュールが使用するテーブルを指定します。 注: このリストには、モジュールと同じスコープ内にあるテーブルビューとデータベースビューのみが表示されます。
フィルター	モジュールに表示されるアイテムの条件。たとえば、「アクティブ = **true**」などです。
Argument	モジュール URI を作成するために URI に追加される文字列。sysparm_query を指定できます。これらの値は、 ユーザー自身または ServiceNow がエンコードする必要があります。モジュール URI をエンコードする方法の詳細については、「モジュール URI のエンコーディング」を参照してください。
順番	アプリケーションでモジュールが表示される順序を指定します。

モジュールのリンクタイプ

[モジュール] フォームの [リンクタイプ] フィールドは、モジュールが開くリンクのタイプを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュールのリンクタイプ

リンクタイプ	説明
アセスメント	[アセスメント] 参照フィールドで選択したアセスメントベースのサーベイへのリンク。「サーベイモジュールの作成」を参照してください。
コンテンツページ	[コンテンツページ] 参照フィールドで選択したコンテンツページを表示します。「コンテンツページの作成」を参照してください。
ドキュメントリンク	ドキュメントページにリンクし、新しいタブまたはウィンドウで開きます。このリンクタイプは、ドキュメントトピックの埋め込みメタデータとともに使用されます。モジュールから内部ドキュメントを開くには、**[URL** ([引数] から)] モジュールリンクタイプを使用します。
ホームページ	[ホームページ] 参照フィールドで選択したホームページが表示されます。
HTML (引数から)	アプリケーションナビゲーターに HTML を配置します。このリンクタイプは、フラット URL では十分にカスタマイズできない複雑なリンクに使用します。 注: • **[HTML** ([引数] から)] リンクタイプは、従来の UI15 および UI11 インターフェイスでのみサポートされています。コア UI では、代わりに **[URL** ([引数] から)] リンクタイプを使用します。 • [引数] フィールドに値を入力します。
リストフィルター	[テーブル] フィールドで選択したテーブルの未設定のリストビューを表示します。最初にリストをロードせずにユーザーがフィルターを指定できるようにします。[フィルター] フィールドを使用して、リストのデフォルトのフィルターを定義します。[ビュー名] フィールドを使用して、[ビュー管理] を指定します。
レコードリスト	[テーブル] フィールドで選択したテーブルのリストビューを表示します。[フィルター] フィールドを使用して、リストのデフォルトのフィルターを定義します。[ビュー名] フィールドを使用してビューを指定します。
マップページ	[マップページ] 参照フィールドで選択したマップページが表示されます。
新規レ	[テーブル] フィールドで選択したテーブルにレコードを作成するためのフォームを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュールのリンクタイプ (続く)

リンクタイプ	説明
コード	• [ビュー名] フィールドを使用してビューを指定します。 • [引数] フィールドを使用してテンプレートを適用します。「テンプレートのモジュールを作成する」を参照してください。
レポートを実行	[レポート] フィールドで選択した保存済みレポートを実行します。
スクリプト (引数から)	[引数] フィールドで定義されているスクリプトを実行します。 注: [引数] フィールドに値を入力します。
検索画面	テーブル内のレコードを検索するための空白のフォームを表示するリンク。[ビュー名] フィールドを使用してビューを指定します。 注: パラメーター *&sysparm_result_view=view_name* を使用して、結果がレンダリングされるビューを定義します。 すべての検索では、[は次の値で始まる] クエリを使用して、一致するテキストを検索します。他のクエリタイプは検索画面ではサポートされていません。
セパレーター	モジュール間の分割を作成します。[タイトル] フィールドに名前を入力して、ユーザーが折りたたみまたは展開できるセクション名を追加します。
単一レコード	テーブル上の単一のレコードのフォームを表示します。[ビュー名] フィールドを使用してビューを指定します。
サーベイ	[サーベイ] 参照フィールドで選択した旧サーベイへのリンク。[サーベイの上書き] チェックボックスを使用して、サーベイを複数回実施できるかどうかを決定します。 注: [サーベイ] リンクタイプは旧サーベイでのみ使用され、アセスメントベースのサーベイに置き換えられます。モジュールをアセスメントベースのサーベイにリンクするには、[アセスメント] リンクタイプを選択します。
タイムラインページ	[タイムラインページ] 参照フィールドで選択したタイムラインページが表示されます。「タイムラインページ」を参照してください。
URL (引数から)	[引数] フィールドで定義されている URL を開きます。 オプション：[ウィンドウ名] フィールドを使用して、新しいウィンドウで開くリンクを定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュールのリンクタイプ (続く)

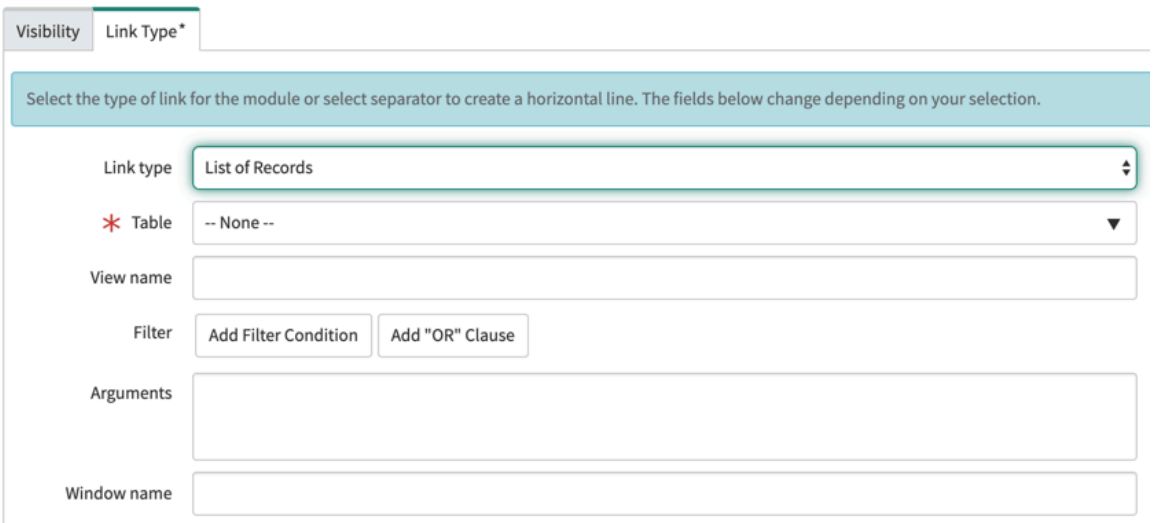
リンクタイプ	説明
	注: • 内部リンクの場合は、`./catalog_home.do?sysparm_view=catalog_default` または `catalog_home.do?sysparm_view=catalog_default` などの相対リンクを常に使用します。ServiceNow インスタンスへの絶対リンクは使用しないでください。URL は引き続き開発インスタンスを参照しているため、更新セットを開発インスタンスから本番インスタンスに移動すると問題が発生します。 • [引数] フィールドに値を入力します。

モジュール URI のエンコーディング

ナビゲーションペインでモジュール名をクリックすると、コンテンツペインでモジュールのページを開く URI が実行されます。モジュール URI のすべての文字を URL エンコードする必要があります。そうしないと、リンクは破損します。

注: New York より前のリリースから New York リリース以降にアップグレードする場合に、このトピックに記載されている規則に従わないと、モジュール UI が破損する可能性があります。

モジュールを作成するときは、コンテンツペインに表示される結果の数をソートしたり減らしたりする引数条件とフィルター条件を追加できます。[システム定義] > [アプリケーション定義**(Application Definitions)]** でモジュール名をクリックすると、これらの条件と引数が [リンクタイプ] タブに表示されます。



[引数] の引数の定義と、[フィルター] で定義されたフィルター条件は、モジュールの URI の一部になり、URL エンコードする必要があります。ServiceNow はフィルター条件を自動的に URL エンコードし、sysparm_query を使用してモジュール URI に追加します。たとえば、フィルター条件「アクティブ **= true**」を追加すると、`sysparm_query=active%3Dtrue` がモジュールの URI に追加されます。%3D は、等号 (=) の URL エンコーディングです。

次の表は、[引数] フィールドの引数を URL エンコードする必要がある場合と、ServiceNow で引数を URL エンコードする場合を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

引数のエンコーディングのルール

フィルター条件はありますか？	次で始まる引数の定義	誰が引数をエンコードしますか？	引数の処理方法
なし	^	ServiceNow	引数からキャレット (^) を削除してエンコードし、sysparm_query を使用してモジュール URI に追加します。
なし	&	あなた	引数からアンパサンド (&) を削除し、モジュール URI に追加します。
なし	その他	ServiceNow	引数をエンコードし、sysparm_query を使用してモジュール URI に追加します。
あり	^	ServiceNow	フィルター定義と引数を URL エンコードし、sysparm_query を使用して、この組み合わせをモジュール URI に追加します。
あり	その他	あなた	フィルター定義を URL エンコードし、sysparm_query を使用して、それと (未変更の) 引数をモジュール URI に追加します。

glide.ui.encode_module_uri プロパティを使用して、モジュール UI の URL エンコーディング要件をオン (デフォルト) またはオフにすることができます。

例

次の例は、[引数] の引数定義を URL エンコードする必要がある状況を示しています。

- フィルター条件がなく、[引数] の引数定義がアンパサンドで始まる (`&sysparm_fixed_query=assigned_to=javascript:gs.user_id()` など)。

  等号とコロンが URL エンコードされておらず、アンパサンドによって ServiceNow が引数を URL エンコードできないため、この引数によりモジュール URI が破損します。引数を URL エンコードします： `&sysparm_fixed_query=assigned_to%3Djavascript%3Ags.user_id()`

- フィルター条件があり、[引数] の引数定義がキャレット (^) で始まっていない (`sysparm_name=Barnes & Noble's` など)。

  アンパサンドとスペースが URL エンコードされていないため、この引数によりモジュール URI が破損します。引数を URL エンコードします： `sysparm_name=Barnes%20%26%20Nobel`

モジュールの可視化

アプリケーションナビゲーター (左側のナビゲーションバー) で選択されたモジュールの可視化または可視化の欠如を確認します。たとえば、まずユーザーの代理操作を実行してから、次に指定したモジュール (ホームページや自分の要求など) がそのユーザーに表示されているかまたは表示されていないかを確認するテストを作成します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのテストまたはテストスイートを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
ナビゲーター	アサートするナビゲーターバージョン • コア UI (UI16)：新しいステップを作成する場合は、デフォルトで コア UI があります。 • ネクストエクスペリエンス： ネクストエクスペリエンス が有効になっている場合、ネクストエクスペリエンス がデフォルトのナビゲーターです。無効になっている場合、コア UI がデフォルトのナビゲーターです。
表示されるアサーションタイプ	[表示されるモジュール] フィールドで選択されたモジュールの可視化をアプリケーションナビゲーターでテストする方法を指定します。 • 少なくともこれらのモジュールが表示されます：最小限でも、[表示されるモジュール] フィールドで選択されたモジュールがアプリケーションナビゲーターに表示されます。 • これらのモジュールのみが表示されます：[表示されるモジュール] フィールドで選択された特定のモジュールのみがアプリケーションナビゲーターに表示されます。
表示されるモジュール	アプリケーションナビゲーターでの可視化が検証されているモジュール。
表示されないアサーションタイプ	[表示されないモジュール] フィールドで選択されたモジュールの可視化の欠如をアプリケーションナビゲーターでテストする方法を指定します。 • 少なくともこれらのモジュールは表示されません：最小限でも、[表示されないモジュール] フィールドで選択されたモジュールはアプリケーションナビゲーターに表示されません。 • これらのモジュールのみが表示されません：[表示されないモジュール] フィールドで選択された特定のモジュールのみがアプリケーションナビゲーターに表示されません。
表示されないモジュール	アプリケーションナビゲーターでの可視化の欠如が検証されているモジュール。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

モジュールを作成

モジュールに移動

ユーザーがクリックしたかのように、アプリケーションナビゲーターからモジュールを開きます。モジュールに移動するには、現在実行中のユーザーにモジュールが表示されている必要があります。

注: 現在、テスト可能でないページがあります。モジュールからの移動先にかかわらず、自己責任で移動してください。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
モジュール	開く必要があるモジュール。選択したモジュールに移動するには、アプリケーションナビゲーターで現在実行中のユーザーにモジュールが表示されている必要があります。 次のモジュールは、サポートされていないため、テストできません。 • セパレーターであるモジュール • 特定のページにリンクしない代わりにクライアント側の JavaScript を実行するモジュール (スタジオやスクリプトデバッガーなど) • ServiceNow ドキュメントサイト (docs.servicenow.com) などの外部 Web サイトにリンクするモジュール • ページ全体を再ロードまたはリダイレクトするモジュール

関連情報

モジュールを作成

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタム UI カテゴリ

カスタムユーザーインターフェイスでのページコンポーネントの動作を検証します。

コンポーネント値 (カスタム UI) の設定

カスタム UI ページにコンポーネント値を設定します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
コンポーネント値	テストするページコンポーネントと、ステップを成功させるために各ページコンポーネントに必要な値。 **注:** [値] フィールドのデフォルトは、選択したコンポーネントの最後に取得した値です。

ページ (カスタム UI) のテキストをアサートする

指定されたテキストがカスタム UI ページ上にあるか、またはないかをアサートします。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行され

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	ます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
テキスト	ページ上のテキストと比較されるテキスト。

注:

- 検索対象テキストでは、大文字と小文字が区別されます。
- Rome リリース以降、このテストステップは新しいテストのワークスペースでも機能します。
- [ページのテキストをアサートする] テストステップでは、空白を含むテキストも受け入れられます。

コンポーネント値の検証 (カスタム UI)

カスタム UI ページのコンポーネント値を検証します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
コンポーネント値	テストするページコンポーネントと、ステップを成功させるために各ページコンポーネントに必要な値。 注: [値] フィールドのデフォルトは、選択したコンポーネントの最後に取得した値です。

[コンポーネント (カスタム **UI)]** をクリックします

カスタム UI ページ上のコンポーネントをクリックします。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
コンポーネント	このステップでテストするコンポーネント。

コンポーネントステータスの検証 (カスタム UI)

カスタム UI ページ上の指定されたコンポーネントの状態を検証します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
コンポーネント	このステップでテストするコンポーネント。
アサーションタイプ	アサーションのタイプ： • 無効 • 有効

サービスポータルページを開く

ポータルページを開きます。テストデザイナーは、ページで UI コンポーネントをテストする前に、ポータルでページを開く必要があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
ポータル	ポータルを選択します。
ページ	開くページを選択します。
クエリパラメーター	ページに必要なクエリパラメーターを追加します。たとえば、フォームページでレコードを開くには、テーブルと sys_id パラメーターを入力します。サービスポータル クエリパラメーターの詳細については、「URL によるページナビゲーション」を参照してください。

フォームカテゴリ

フォームのフィールドと UI アクションの機能を検証します。

> **注:** [フォームの **UI]** フィールドを含むテストステップでは、利用可能な UI を選択できます。利用可能なワークスペースでは、タブ間のナビゲーションはサポートされていません。「新しいフォームを開く」または「既存のレコードを開く」のステップを使用して、フォームを再度開きます。

エージェントワークスペース はプラットフォームから削除されていることに留意してください。エージェントワークスペース テストまたはテストスイートがある場合、それらは機能しなくなります。

新しいフォームを開く

指定されたテーブルと [フォームの **UI]** の新しいレコードにフォームを開きます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ
フォームの UI	利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。 **注:** ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。
テーブル	新しいフォームのテーブルの名前。
表示	このフォームを開くビューの名前。テストユーザーは、そのビューへのアクセス権を持っている必要があります。名前が有効なフォームビューでない場合、フォームはデフォルトのビューで開かれます。 **注:** このフィールドは、フォーム **UI** から標準 **UI** が選択されたときに表示されます。

既存のレコードを開く

指定されたテーブルと [フォームの **UI**] の既存のレコードにフォームを開きます。

注: 既存のレコードを使用すると、このテストで予期しない動作が発生する可能性があります。詳細については、「自動テストフレームワーク (ATF) の設計上の考慮事項」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ
フォームの UI	利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。 **注:** ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。
テーブル	新しいフォームのテーブルの名前。
レコード	開くレコードのレコード ID と開くドキュメントの名前。
ビュー	このフォームを開くビューの名前。テストユーザーは、そのビューへのアクセス権を持っている必要があります。名前が有効なフォームビューでない場合、フォームはデフォルトのビューで開かれます。 **注:** このフィールドは、フォーム **UI** から標準 **UI** が選択されたときに表示されます。

フィールド値の設定

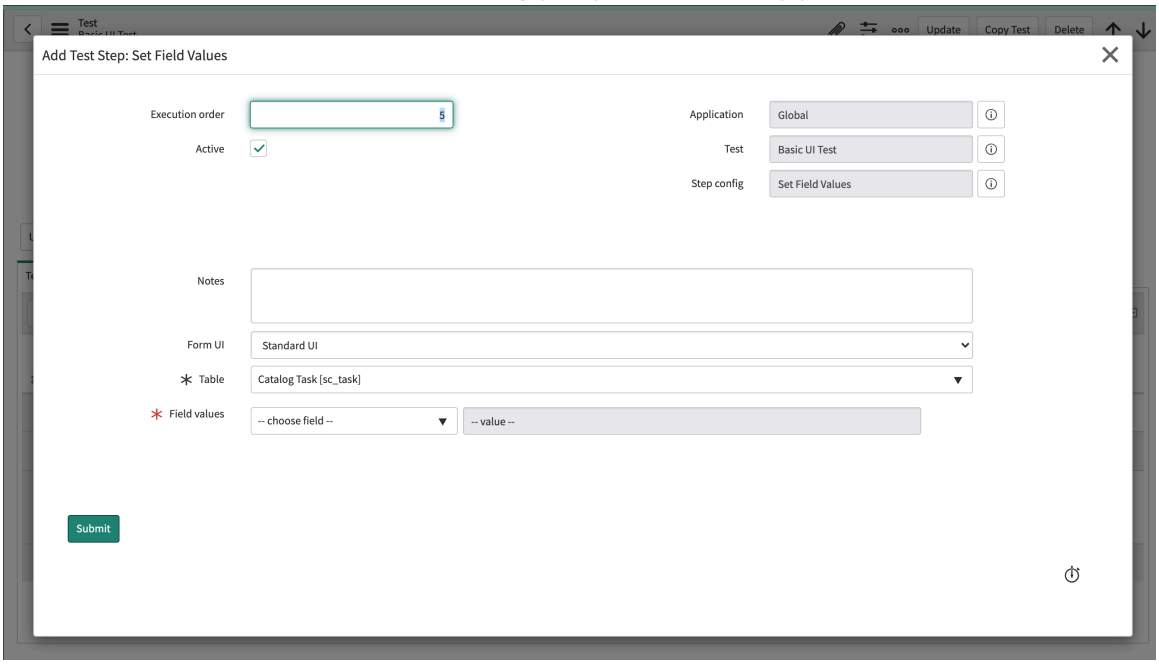
現在のフォームのフィールドを指定された値に設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このステップを実行するには、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかのステップを使用して、テストでフォームが事前に開かれている必要があります。[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] ステップの直後にこのステップを実行しないことをお勧めします。これは、インスタンスのナビゲーションスタック構成またはクリックされた UI アクションで定義されたスクリプトに基づいて、テストが別のページにリダイレクトされる可能性があるためです。UI アクションによって特定のページに移動することが確実である場合を除き、[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] の後に [新しいフォームを開く] ステップを明示的に使用して、テストが想定どおりのフォーム上に確実に表示されるようにする必要があります。テストがスイートに追加されたときに一貫して進行していることを確認します。

[フィールド値の検証]、[フィールド値の設定]、[フィールドステータスの検証]、**[UI** アクション可視化] の各ステップは、任意の順序で表示できます。

注: このステップでは、フィールド値を設定する前にフォームが読み込まれるのを待ちます。このステップは、テスト設計時でもテスト実行時でも、参照修飾子をサポートしていません。モーダルフォームは、別のフォームまたはリストの上に表示されます。フィールド値を設定した後にモーダルフォームを送信するには、テストでそれがフォームまたはリスト上に事前に開かれている必要があります。



入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ
フォームの UI	利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。 注: ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。
テーブル	新しいフォームのテーブルの名前。
フィールド値の設定	開いているフォームのフィールドに値を割り当てます。

フィールド値の検証

現在のフォームのフィールド値を検証します。

このステップを実行するには、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかのステップを使用して、テストでフォームが事前に開かれている必要があります。[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] ステップの直後にこのステップを実行しないことをお勧めします。これは、インスタンスのナビゲーションスタック構成またはクリックされた UI アクションで定義されたスクリプトに基づいて、テストが別のページにリダイレクトされる可能性があるためです。UI アクションによって特定のページに移動することが確実である場合を除き、[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] の後に [新しいフォームを開く] ステップを明示的に使用して、テストが想定どおりのフォーム上に確実に表示されるようにする必要があります。テストがスイートに追加されたときに一貫して進行していることを確認します。

[フィールド値の検証]、[フィールド値の設定]、[フィールドステータスの検証]、**[UI** アクション可視化] の各ステップは、任意の順序で表示できます。

[フィールド値の検証] ステップでは、標準条件ビルダーを使用してテストする値を指定します。同じフィールドに対して複数の条件をテストできます。全体的な条件が満たされている場合、このステップは合格し、条件が満たされていない場合は失敗します。[条件] フィールドでは大文字と小文字が区別されます。フォームと同じ値を指定する必要があります。互いに独立して個々のフィールドの値をテストするには、テストする各値に対して個別の [フィールド値の検証] ステップを含めます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: [フィールド値の検証] ステップは、開いているフォームのレコードに属するフィールドでのみ機能します。たとえば、インシデントテーブルでは、[追加コメント]、[承認履歴]、[コメント]、または [作業メモ] フィールドは、このステップでは検証できません。これらの UI コントロールがインシデントレコードの実際のフィールドではないためです。これらの UI コントロールを使用すると、関連するテーブルを簡単に操作できます。これらのケースを検証するには、代わりにサーバーテストステップの [レコードの検証] を使用します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ 注: 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。
フォームの UI	利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	注: ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。
テーブル	新しいフォームのテーブルの名前。
条件	検証するフィールドと値。開いているフォームに表示されるフィールドのみが含まれます。このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。

フィールドステータスの検証

指定されたフィールドの状態を検証します。検証される状態には、必須、任意、読み込み専用、非読み込み専用、可視および非可視が含まれます。

フィールドの状態がこのステップの条件と一致するのを待つ最大時間を指定できます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
フォームの UI	利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。 注: ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。
テーブル	新しいフォームのテーブルの名前。
表示	このフォームのフィールドが表示されるかどうかを検証します。フィールドが表示されない場合、テストは失敗します。
非表示	このフォームのフィールドが表示されるかどうかを検証します。フィールドが表示される場合、テストは失敗します。
読み取り専用	このフォームのフィールドが読み取り専用かどうかを検証します。フィールドが読み取り専用ではない場合、テストは失敗します。
非読み取り専用	このフォームのフィールドが読み取り専用かどうかを検証します。フィールドが読み取り専用である場合、テストは失敗します。
必須	このフォームのフィールドが必須かどうかを検証します。フィールドが必須ではない場合、テストは失敗します。
任意	このフォームのフィールドが必須かどうかを検証します。フィールドが必須である場合、テストは失敗します。

UI アクション可視化

現在のフォームに UI アクションが表示されるかどうかを検証します。このステップを実行するには、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかのステップを使用して、テストでフォームが事前に開かれている必要があります。

デフォルトで表示される UI アクションは、現在代理操作しているユーザーによって異なります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行され

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	ます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ
フォームの UI	利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。 **注:** ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。
テーブル	新しいフォームのテーブルの名前。
表示	このフォームの UI アクションが表示されるかどうかを検証します。UI アクションが表示されない場合、テストは失敗します。
非表示	このフォームの UI アクションが表示されるかどうかを検証します。UI アクションが表示される場合、テストは失敗します。

宣言アクションの可視化

現在のフォームに宣言アクションが表示されるかどうかを検証します。

デフォルトで表示される宣言アクションは、現在代理操作しているユーザーによって異なります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
メモ	テストステップに関するメモ
フォームの UI	利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。 **注:** ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。
テーブル	新しいフォームのテーブルの名前。
表示	このフォームの宣言アクションが表示されるかどうかを検証します。宣言アクションが表示されない場合、テストは失敗です。
非表示	このフォームの宣言アクションが表示されるかどうかを検証します。宣言アクションが表示される場合、テストは失敗です。

添付ファイルをフォームに追加

現在のフォームに 1 つ以上の必須の添付ファイルを追加します。テストステップでフォームに追加する添付ファイルを、[添付ファイルのアップロード] リストから選択します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	ストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
メモ	テストステップに関するメモ
添付ファイルをアップロード	フォームに 1 つ以上の必須の添付ファイルを追加するためのボタン。

注: [添付ファイルをフォームに追加] テストステップでは、新しく追加された UI ワークスペースオプションにアクセスできません。

モーダルボタンをクリック

指定された [フォームの **UI]** のモーダル内のボタンをクリックします。

[フォームの **UI]** フィールドから標準プラットフォーム UI またはワークスペース UI のいずれかを選択して、テストを指定します。標準プラットフォーム UI を選択すると、このテストステップは指定されたモーダルの ID でボタンを選択し、次の条件を検証します。

- UI ページがモーダルで開かれている。
- ボタンが表示され、有効になっている。

利用可能なワークスペース UI を選択すると、このテストステップで [確認] または [キャンセル] アクションが選択され、オプションでモーダル内のフィールド値が設定されます。このステップは、フォームでモーダルダイアログが開いていて、指定されたボタンがそのモーダルダイアログに存在する場合にのみ成功します。

次の g_modal 関数で開かれたモーダルのみがサポートされます。

- アラート
- confirm
- confirmDestroy
- showFields

注: [モーダルボタンをクリック] で、グローバルおよびスコープ対象のアプリケーションモーダルがサポートされるようになりました。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	モーダルとボタンが表示される秒数。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ
フォームの UI	利用可能な UI を選択するオプション。 **注:** ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。
UI ページ	テストする UI のモーダルダイアログ。 **注:** このフィールドは、フォーム **UI** から標準 **UI** が選択された場合にのみ表示されます。
ボタン	ボタン要素の ID 属性。たとえば、**[OK]** ボタンの UI モーダルダイアログでの ID は `OK_button` です。 **注:** このフィールドは、フォーム **UI** から標準 **UI** が選択された場合にのみ表示されます。
モーダルの値	モーダルに設定するフィールド値。 **注:** このフィールドは、フォーム **UI** としてワークスペースが選択された場合にのみ表示されます。
モーダルのアクション	モーダルで選択されるアクション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	注: このフィールドは、フォーム **UI** としてワークスペースが選択された場合にのみ表示されます。
アサーションタイプ	モーダルボタンをクリックしたときのテストへの影響。 • モーダルがクローズされ、ページがリロードまたはリダイレクトされました：モーダルがクローズされ、ページがリロードまたは別のページにリダイレクトされた場合にのみ、テストに合格します。 • モーダルがクローズし、ページはリロードまたはリダイレクトされませんでした：モーダルがクローズされ、ページがリロードまたは別のページにリダイレクトされなかった場合にのみ、テストに合格します。 • モーダルはクローズされませんでした：モーダルがまだ存在し、クローズされなかった場合にのみ、テストに合格します。
アサーションタイムアウト	アサーションが失敗するまでの秒数。アサーションに失敗すると、タイムアウトの時間になるまでアサーションが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。

注: [モーダルボタンをクリック] テストステップでは、新しく追加された UI ワークスペースオプションにアクセスできません。

UI アクションをクリック

現在のフォームの UI アクションをクリックします。

このステップが実行されると、システムはそのコントロールによって通常アクティブ化されるアクションを実行します。このテストステップでは、現在のフォームにコントロールが含まれていること、およびコントロールが表示されて有効になっていることも検証します。 このステップを実行するには、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかのステップを使用して、テストでフォームが事前に開かれている必要があります。[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] ステップの直後にこのステップを実行しないことをお勧めします。これは、インスタンスのナビゲーションスタック構成またはクリックされた UI アクションで定義されたスクリプトに基づいて、テストが別のページにリダイレクトされる可能性があるためです。UI アクションによって特定のページに移動することが確実である場合を除き、[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] の後に [新しいフォームを開く] ステップを明示的に使用して、テストが想定どおりのフォーム上に確実に表示されるようにする必要があります。テストがスイートに追加されたときに一貫して進行していることを確認します。

Xanadu リリースでは、このステップはフォームコンテキストメニュータイプの UI アクションをサポートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: [フォームを送信] または **[UI アクションをクリック]** ステップを実行した後の特定のページの表示をシステムに依存するテストを記述しないでください。これらのテストステップの後、システムはフォームを開く前に開いていたページに戻ります。テストではそのページが何であったかを特定できないため、特定のページを想定したテストを記述すると、予測できない結果が生じる可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ
フォームの UI	利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。 注: ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。
テーブル	新しいフォームのテーブルの名前。
UI アクション	クリックする UI アクション。 注: 宣言アクションボタンと UI アクションボタンの外観はまったく同じです。選択したテストステップ ([UI アクションをクリック] または [宣言アクションをクリック]) に応じて、ボタンのタイプを識別できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
アサーションタイプ	UI アクションのクリックによるテストへの影響。 • ブラウザーでフォームの送信をキャンセル：フォームの送信がキャンセルされた場合にのみ、ステップが合格します。 • サーバーにフォームを送信：フォームが送信された場合にのみ、ステップが合格します。

出力

フィールド	説明
テーブル	この UI アクションを含むフォームのテーブル
record	アクションがクリックされたレコードの sys_id。

宣言アクションをクリック

現在のフォームの宣言アクションをクリックします。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
メモ	テストステップに関するメモ
フォームの UI	利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	注: ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。
テーブル	新しいフォームのテーブルの名前。
宣言アクション	リストから宣言アクションを選択するオプション。 注: 宣言アクションボタンと UI アクションボタンの外観はまったく同じです。選択したテストステップ ([UI アクションをクリック] または [宣言アクションをクリック]) に応じて、ボタンのタイプを識別できます。
アサーションタイプ	UI アクションのクリックによるテストへの影響。 • ブラウザーでフォームの送信をキャンセル：フォームの送信がキャンセルされた場合にのみ、ステップが合格します。 • サーバーにフォームを送信：フォームが送信された場合にのみ、ステップが合格します。

フォームを送信

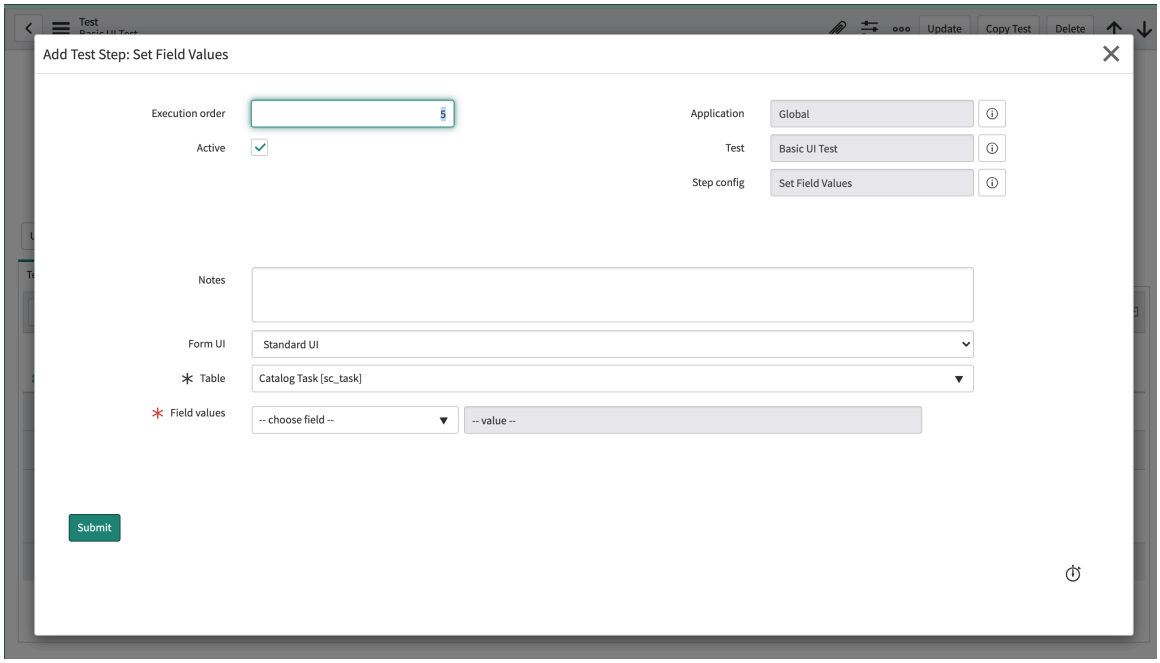
現在のフォームを送信します。

このステップを実行するには、[新しいフォームを開く] または [既存のレコードを開く] のいずれかのステップを使用して、テストでフォームが事前に開かれている必要があります。[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] ステップの直後にこのステップを実行しないことをお勧めします。これは、インスタンスのナビゲーションスタック構成またはクリックされた UI アクションで定義されたスクリプトに基づいて、テストが別のページにリダイレクトされる可能性があるためです。UI アクションによって特定のページに移動することが確実である場合を除き、[フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] の後に [新しいフォームを開く] ステップを明示的に使用して、テストが想定どおりのフォーム上に確実に表示されるようにする必要があります。テストがスイートに追加されたときに一貫して進行していることを確認します。

注: [フォームを送信] または **[UI** アクションをクリック] ステップを実行した後の特定のページの表示をシステムに依存するテストを記述しないでください。これらのテストステップの後、システムはフォームを開く前に開いていたページに戻ります。テストではそのページが何であったかを特定できないため、特定のページを想定したテストを記述すると、予測できない結果が生じる可能性があります。

モーダルフォームは、別のフォームまたはリストの上に表示されます。モーダルフォームを送信するには、テストでそれがフォームまたはリスト上に事前に開かれている必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。 **注:** このフィールドは、フォーム **UI** から利用可能なワークスペースが選択されたときに表示されます。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
メモ	テストステップに関するメモ
フォームの UI	利用可能な UI を選択するオプション。標準 UI とは別に、他のワークスペースを選択できます。選択したワークスペースによって、UI が異なる場合があります。 注: ワークスペースは Internet Explorer (IE) ではサポートされていません。詳細については、KB0683275 を参照してください。
アサーションタイプ	フォームの送信時のテストへの影響。 • サーバーにフォームを送信：フォームが送信された場合にのみ、ステップが合格します。 • ブラウザーでフォームの送信をキャンセル：フォームの送信がキャンセルされた場合にのみ、ステップが合格します。 • なし：フォームの送信時にアサーションを行いません。このアサーションタイプを使用する場合、フォームの送信の結果に関係なく、ステップは常に成功します。

出力

フィールド	説明
テーブル	提出されたレコードのテーブル。
record	送信されたレコードの sys_id。

サービスカタログ カテゴリ

サービスカタログ での単一カタログアイテムトランザクションと要求者および履行者のフローを検証します。

サービスカタログの自動テストフレームワーク (ATF) のアクティブ化

これらのテストステップでは、自動テストフレームワーク (ATF) サービスカタログ (com.glide.automated_testing_impl.service_catalog) プラグインのアクティブ化が必要です。これは新しいインスタンスでデフォルトでアクティブになっています。アドミニストレーターは、以前のバージョンからアップグレードしたインスタンスでプラグインをアクティブにする必要がある場合があります。

パラメーター化されたテストのサポート

サービスカタログステップ構成は、パラメーター化されたテストをサポートしています。パラメーター化されたテストの詳細については、「パラメーター化されたテスト」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変数エディターのサポート

変数エディターをサポートするレコード (要求されたアイテム、カタログタスク、またはインシデント) を開いた後、ステップ構成を追加して、変数値を設定したり、変数の状態や値を検証したりできます。変数エディターをサポートするには、次の順序でステップ構成を使用します。

1. サービスカタログカテゴリでのカタログアイテムまたはレコードプロデューサを注文するステップ構成。
2. フォームカテゴリでの既存のレコードを開くステップ構成。
3. サービスカタログカテゴリでの変数値を設定する、変数値を検証する、または変数状態検証ステップ構成。

注: [変数値の設定]、[変数値の検証]、[変数ステータスの検証] ステップの構成では、カスタム変数とラベル付きカスタム変数はサポートされていません。

カタログアイテムを開く

カタログアイテムを開きます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
カタログアイテム	開くカタログアイテム。 注: このカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。

レコードプロデューサーを開く

レコードプロデューサを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
レコードプロデューサー	開くレコードプロデューサー。 注: レコードプロデューサーへのアクセス権を持っている必要があります。

変数値の設定

現在のカタログアイテムまたはレコードプロデューサページに変数の値を設定します

カタログアイテムの場合は、カタログアイテムを開くステップを使用してカタログアイテムページを開いた後、カタログアイテムの注文ステップを使用する前にこのステップを使用します。レコードプロデューサの場合は、レコードプロデューサを開くステップを使用してレコードプロデューサページを開いた後、レコードプロデューサの送信ステップを使用する前に、このステップを使用します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。 注: 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。
アイテム	変数値を設定するカタログアイテムまたはレコードプロデューサー。
変数値	変数とそれらに設定する値のリスト。 注: 複数の変数の値を設定できます。

カタログアイテム数量の設定

現在のカタログアイテムの数量を設定します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
アイテム	数量を設定するカタログアイテム。
数量	カタログアイテムに設定する数量。

変数値の検証

現在のカタログアイテムまたはレコードプロデューサ変数の値を検証します

カタログアイテムの場合は、カタログアイテムを開くステップを使用してカタログアイテムページを開いた後、カタログアイテムの注文ステップを使用する前にこのステップを使用します。レコードプロデューサの場合は、レコードプロデューサを開くステップを使用してレコードプロデューサページを開いた後、レコードプロデューサの送信ステップを使用する前に、このステップを使用します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。 **注:** 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
アイテム	変数を検証する必要があるカタログアイテムまたはレコードプロデューサー。
カタログ状態	変数の検証の条件。条件を満たしている場合、テストは合格です。 注: 変数セットに関連付けられた変数のラベルは、変数セット名が反映されます。形式は *variable_set_name » variable_name* です。

変数ステータスの検証

変数の状態を検証します。変数の状態は、必須、任意、読み込み専用、非読み込み専用、表示、非表示です。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
カタログアイテム	ステータスを検証するカタログアイテム。 注: このカタログアイテムへのアクセス権を持っている必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
表示	ステップが合格するために表示する必要があるカタログアイテム変数のリスト。
非表示	ステップが合格するために非表示にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。
読み取り専用	ステップが合格するために読み取り専用にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。
非読み取り専用	ステップが合格するために読み取り専用にしてはならないカタログアイテム変数のリスト。
必須	ステップが合格するために必須にする必要があるカタログアイテム変数のリスト。
任意	ステップが合格するために必須にしてはならないカタログアイテム変数のリスト。

価格および反復課金の検証

カタログアイテムの価格および繰り返し発生料金を検証します。カタログアイテムを開くステップを使用してカタログアイテムページを開いた後、カタログアイテムの注文ステップを使用する前にこのステップを使用します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
価格	ステップが合格するためのカタログアイテムの価格。
繰り返し発生料金	ステップが合格するためのカタログアイテムの繰り返し発生料金。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
繰り返し発生料金の頻度	ステップが合格するためのカタログアイテムの繰り返し発生料金の頻度。

買い物かごへのアイテムの追加

買い物かごにカタログアイテムを追加します。カタログアイテムを開くステップを使用してカタログアイテムページを開いたら、このステップを使用します。このステップを実行すると、カタログアイテムに対して他のステップを使用することはできません。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	テストに合格するための基準。 買い物かごにアイテムを正常に追加しました カタログアイテムが買い物かごに正常に追加された場合にのみ、テストに合格します。 買い物かごにアイテムを追加できません カタログアイテムをカートに追加できない場合にのみ、テストに合格します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

フィールド	説明
cart_item_id	追加されたカタログアイテムの sys_id。

カタログアイテムの注文

カタログアイテムの[今すぐ注文]をクリックします。カタログアイテムを開くステップを使用してカタログアイテムページを開いたら、このステップを使用します。

このステップを実行すると、カタログアイテムに対して他のステップを使用することはできません。2 ステップチェックアウトが false の場合、カタログアイテムの要求が生成されます。2 ステップチェックアウトが true の場合、買い物かごプレビューページにリダイレクトされます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	テストに合格するための基準。 カタログアイテムを正常に注文しました カタログアイテムが正常に注文された場合にのみ、テストに合格します。 カタログアイテムを注文できません カタログアイテムを注文できない場合にのみ、テストに合格します。

出力

フィールド	説明
request_id	作成されたカタログ要求の sys_id。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力 (続く)

フィールド	説明
買い物かご	カタログアイテムが入っている買い物かごの sys_id。

レコードプロデューサーの送信

現在のレコード プロデューサを送信します。レコードを開くプロデューサのステップを使用してレコード プロデューサを開いた後、このステップを使用します。このステップを実行すると、カタログアイテムに対して他のステップを使用することはできません。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	テストに合格するための基準。 レコードプロデューサーを正常に送信 レコードプロデューサーが正常に送信された場合にのみ、テストに合格します。 レコードプロデューサーを送信できません レコードプロデューサーを送信できない場合にのみ、テストに合格します。

出力

フィールド	説明
record_id	レコードプロデューサーのターゲットレコードの sys_id。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスポータル のフォームカテゴリ

サービスポータル フォームウィジェットのフィールドと UI アクションの機能を検証します。

サービスポータル 依存関係

自動 サービスポータルステップの作成には、ServiceNow データモデルおよび サービスポータル フォームとデータの構造の知識が必要です。

フォームを開く **(SP)**

ポータルでフォームを開きます。

このステップは、ベースシステムのフォームページに使用します。カスタムフォームページの場合は、[カスタム UI] カテゴリの サービスポータルページを開く ステップを使用します。

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
ポータル	定義されたフォームが開くポータル。サービスポータル がデフォルトです。
ページ	定義されたポータルで開くページ。フォームページがデフォルトです。
テーブル	開くフォームを含むテーブル。
sys_id	開くレコードの sys_id。デフォルトは `-1` で、新しいレコードが開きます。
表示	開くフォームビュー。空白の場合は、デフォルトのビューが使用されます。
クエリパラメーター	フォームの追加の URL クエリパラメーターと値。

フィールド値の設定 **(SP)**

フォームのフィールドの値を設定します。この手順を使用するには、フォームを開く **(SP)** テスト ステップを使用してフォームを既に開いている必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。 **注:** 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。
テーブル	フィールド値を設定するフォームのテーブル。値は、[フォームを開く **(SP)]** ステップのテーブルである必要があります。
フィールド値	値を設定するフィールドと、それらのフィールドに設定する値。

フィールド値の検証 **(SP)**

定義された条件に基づいて、現在のフォームのフィールド値を検証します。この手順を使用するには、フォームを開く **(SP)** テスト ステップを使用してフォームを既に開いている必要があります。

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。
テーブル	フィールドを検証するフォームを含むテーブル。値は、[フォームを開く **(SP)]** ステップのテーブルである必要があります。
条件	フォーム上の 1 つ以上のフィールドを検証するために使用する条件。条件が true と評価された場合、ステップは合格します。

フィールドステータスの検証 **(SP)**

サービスポータルのフォームのフィールド状態を検証します。

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
テーブル	フィールドの状況を検証するフォームのテーブル。値は、[フォームを開く **(SP)]** ステップのテーブルである必要があります。
表示	このフォームのフィールドが表示されるかどうかを検証します。フィールドが表示されない場合、テストは失敗します。
非表示	このフォームのフィールドが表示されるかどうかを検証します。フィールドが表示される場合、テストは失敗します。
読み取り専用	このフォームのフィールドが読み取り専用かどうかを検証します。フィールドが読み取り専用ではない場合、テストは失敗します。
非読み取り専用	このフォームのフィールドが読み取り専用かどうかを検証します。フィールドが読み取り専用である場合、テストは失敗します。
必須	このフォームのフィールドが必須かどうかを検証します。フィールドが必須ではない場合、テストは失敗します。
任意	このフォームのフィールドが必須かどうかを検証します。フィールドが必須である場合、テストは失敗します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

添付ファイルをフォームに追加 (SP)

サービスポータル フォームウィジェットにファイルを添付する機能をテストします。

この手順を使用するには、[フォームを開く (SP)] テストステップまたは [サービスポータルページを開く] ステップを使用してフォームが事前に開かれている必要があります。このステップは、[フォームを送信] ステップまたは [UI アクションをクリック] ステップが使用された後には使用できません。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
添付ファイルをアップロード	フォームに 1 つ以上のファイルを添付するためのボタン。

UI アクション可視化の検証 (SP)

現在のサービスポータルフォーム上に、UI アクションが表示されているかどうかを判定します。この手順を使用するには、フォームを開く (SP) テスト ステップを使用してフォームを既に開いている必要があります。

サービスポータル サーバー UI アクションのみがサポートされています。setRedirectURL() メソッドおよびクライアント UI アクションはサポートされていません。UI アクション可視化は、現在ログイン中のユーザーまたは代理操作の対象であるユーザーによって異なる場合があります。

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
テーブル	UI アクション可視化を確認するフォームのテーブル。値は、[フォームを開く **(SP)**] ステップのテーブルである必要があります。
表示	可視化を確認する UI アクションテーブルのフィールド。フォームベースの UI アクションのみが含まれます。現在ログインしているユーザーのフォームに UI アクションが表示されていない場合、テストは不合格になります。 **注:** リストに同じ名前の UI アクションが含まれている場合は、フォームを確認して要素の sys_id を判別します。次に、UI アクションテーブルで sys_id でフィルタリングして、ステップで正しい要素を選択します。
非表示	可視化を確認する UI アクションテーブルのフィールド。フォームベースの UI アクションのみが含まれます。現在ログインしているユーザーのフォームに UI アクションが表示されている場合、テストは不合格になります。 **注:** リストに同じ名前の UI アクションが含まれている場合は、フォームを確認して要素の sys_id を判別します。次に、UI アクションテーブルで sys_id でフィルタリングして、ステップで正しい要素を選択します。

UI アクションのクリック (SP)

現在の サービスポータル フォームで UI アクションを選択し、アクションが選択されたレコードのテーブルと sys_id を出力します。

この手順を使用するには、フォームを開く **(SP)** テスト ステップを使用してフォームを既に開いている必要があります。このステップを使用した後、他のフォームステップは使用できません。

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
テーブル	UI アクションをクリックするフォームのテーブル。値は、[フォームを開く **(SP)]** ステップのテーブルである必要があります。
UI アクション	クリックする UI アクション。UI アクションテーブルから選択します。フォームベースの UI アクションのみが含まれます。
アサーションタイプ	UI アクションをクリックした後にフォームの送信を確認する場所を指定します。 • **[--**なし**--]**：必須フィールドまたはその他のフィールドを検証せずに UI アクションを選択します。 • ブラウザーでフォームの送信をキャンセル：検証またはその他の問題のために、ブラウザーでフォームがキャンセルされて、サーバーに到達しなかったかどうかを確認します。 • サーバーにフォームを送信：フォームがサーバーに送信されたかどうかを確認します。

出力

フィールド	説明
record_id	アクションがクリックされたレコードの sys_id。
テーブル	クリックされた UI アクションを含むテーブル。

フォームの送信 **(SP)**

サービスポータルページに現在のフォームを送信し、テーブルと送信されたレコードの sys_id を出力します。

この手順を使用するには、フォームを開く **(SP)** テスト ステップを使用してフォームを既に開いている必要があります。このステップを実行すると、ページが閉じます。現在のページで他のステップを使用することはできません。

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	フォームの送信を確認する場所を指定します。 • **[--**なし--]：必須フィールドまたはその他のフィールドを検証せずにフォームを送信します。 • サーバーにフォームを送信：フォームがサーバーに送信されたかどうかを確認します。 • ブラウザーでフォームの送信をキャンセル：検証またはその他の問題のために、ブラウザーでフォームがキャンセルされて、サーバーに到達しなかったかどうかを確認します。

出力

フィールド	説明
record_id	送信されたレコードの sys_id。
テーブル	送信されたレコードのテーブル。

リストと関連リスト

リストおよび関連リスト内のレコードと UI アクションの機能と可視化を検証します。

関連リストの可視化を検証

フォーム上の選択された関連リストの可視化を検証します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
テーブル	関連リストの可視化が検証される親フォームのテーブルの名前。
表示	表示としてアサートする関連リストのリスト。
非表示	非表示としてアサートする関連リストのリスト。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィルターをリストに適用

リストにフィルターを適用して、必要なレコードを見つけます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
リストタイプ	リストのタイプを選択するオプション。 • リスト • 関連リスト
アサーションタイプ	テストステップ実行時のアサーションを指定します。 • 一致するレコードが少なくとも **1** 件見つかりました：一致するレコードが少なくとも 1 件ある場合、ステップは成功します。 • 一致するレコードが見つかりません：一致するレコードがない場合、ステップは失敗します。 • 一致するレコードが **1** 件見つかりました：一致するレコードが 1 件だけある場合、ステップは成功します。
テーブル	[リストタイプ] が [リスト] の場合、このフィールドは開いているリストのテーブルです。 [リストタイプ] が [関連リスト] の場合、このフィールドはリストが属する親フォームのテーブルの名前を示します。
関連リスト	フィルターの適用先の関連リスト。 **注:** このフィールドは、[リストタイプ] から [関連リスト] が選択されている場合に使用できます。
リストフィルター	リストに適用するフィルター条件。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

フィールド	説明
first_record	指定されたフィルターを適用した後にリストで見つかった最初のレコード。

リストに存在するレコードを検証

リスト内のレコードのプレゼンスを検証します。続行するには、有効なフォームを開き、レコードを含むリストを表示する必要があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
リストタイプ	リストのタイプを選択するオプション。 • リスト • 関連リスト
アサーションタイプ	テストステップ実行時のアサーションを指定します。 • レコードがリストに存在します • レコードがリストに存在しません
テーブル	リストが属する親テーブルの名前。
関連リスト	検証するレコードを含む関連リスト。 注: このフィールドは、[リストタイプ] から [関連リスト] が選択されている場合に使用できます。
レコード	プレゼンスが検証されたレコード。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスト内のレコードを開く

リスト内の特定のレコードを開きます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
リストタイプ	リストのタイプを選択するオプション。 • リスト • 関連リスト
テーブル	リストが属する親テーブルの名前。
関連リスト	開くレコードを含む関連リスト。 **注:** このフィールドは、[リストタイプ] から [関連リスト] が選択されている場合に使用できます。
レコード	開くレコード。

リスト UI アクションの可視化を検証

UI アクションがリストに表示されていることを検証します。ユーザーを代理操作している場合、UI アクションの可視化は、代理操作されているユーザーによって異なります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
リストタイプ	リストのタイプを選択するオプション。 • リスト • 関連リスト
テーブル	親フォームのテーブルの名前。
関連リスト	UI アクションを含む関連リスト。 注: このフィールドは、[リストタイプ] から [関連リスト] が選択されている場合に使用できます。
表示	表示としてアサートする UI アクションのリスト。
非表示	非表示としてアサートする UI アクションのリスト。

リスト UI アクションをクリック

フォームのリストでリスト UI アクションを選択します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
ステップ構成	ステップの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
メモ	テストステップに関するメモ。
リストタイプ	リストのタイプを選択するオプション。 • リスト • 関連リスト
テーブル	UI アクションが属するテーブルの名前。
関連リスト	UI アクションを含む関連リスト。 注: このフィールドは、[リストタイプ] から [関連リスト] が選択されている場合に使用できます。
リストアクション	クリックされるリスト UI アクション。
アクションタイプ	クリックされる UI アクションのタイプ。
適用先	UI アクションが適用されるレコード。
アサーションタイプ	ステップの実行時に作成されたアサーション。 • なし：UI アクションをクリックし、アサーションを行わずに続行します。 • ページのリロードまたはリダイレクト：UI アクションをクリックし、ページがリロードまたはリダイレクトされたことをアサートします。このアサーションタイプはフォーム送信をアサートしません。
レコード	UI アクションが適用されるレコード。 注: このフィールドは、[適用先] フィールドで [単一レコード] を選択すると表示されます。

REST カテゴリ

REST 呼び出しの機能を確認します。

REST 要求の送信 - 受信 - REST API エクスプローラー

このテスト ステップは、REST API エクスプローラーから始まります。REST API エクスプローラーを使用して、現在のインスタンスへの REST 要求の HTTP メソッド、パス、クエリー パラメーター、要求ヘッダー、本文を作成して指定します。

要求をテストすると、[自動テストステップの作成] ボタンが表示されます。[自動テストステップの作成] をクリックしてテストステップを作成します。このボタンは、要求が送信されるまで表示されません。要求ペイロードが最大要求ペイロードサイズプロパティより大きい場合は、テスト ステップを作成できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このテストステップは、**REST** 要求送信 **-** インバウンドテストステップと同じテストレコードを作成します。テストステップを作成した後は、戻って REST API エクスプローラーを使用してテストを更新することはできません。すべての変更は、**REST** 要求の送信 **-** インバウンドテストステップフォームで行う必要があります。

このステップの一部として HTTP 応答の検証が実行されることはありません。応答ペイロードのサイズが大きすぎる場合、要求パラメーターが無効な場合、または要求を送信できなかった場合、ステップは失敗します。アサーションステップを使用して応答を検証します。

このステップを使用して、別のインスタンスまたは第三者/リモートアドレスに要求を送信することはできません。

これらの入力は、REST API エクスプローラー用です。表示されるフィールドは、選択した API によって異なります。インスタンスで REST API を使用する方法の詳細については、「REST API」を参照してください。

入力

フィールド	説明
名前空間	要求の名前空間。リストから選択します。
API 名	使用する API。リストから選択します。
API バージョン	使用する API バージョン。インスタンスで利用可能なバージョンをリストから選択します。
パスパラメーター	API 名の後のパスの部分。パスパラメーターは通常、許容値がリスト内にある名前と値のペアです。
クエリパラメーター	パスの後の URI に追加されるクエリパラメーターの名前と値のペア。 REST API エクスプローラーは URI をエンコードするため、クエリのパラメーターと値をエンコードする必要はありません。
要求ヘッダー	要求ヘッダーに含まれる名前と値のペア。現在のユーザーの認証情報を使用するには、認証ヘッダーを [自分で送信 **(Send as me)]** に設定します。本番環境でテストステップを使用するには、**[REST** を送信 **-** 受信 **(Send REST - Inbound)]** テストステップの [認証タイプ **(Authentication Type)]** フィールドを変更する必要が生じる場合があります。 名前または値をエンコードしないでください。
要求本文	要求コンテンツ。一部の要求には本文がありません。

REST 要求の送信 **-** 受信

現在のインスタンスに REST 要求を送信するテスト ステップを作成します。REST 要求の HTTP メソッド、パス、クエリー パラメーター、要求ヘッダー、および本文を指定します。

このステップの一部として HTTP 応答の検証が実行されることはありません。応答ペイロードのサイズが大きすぎる場合、要求パラメーターが無効な場合、または要求を送信できなかった場合、ステップは失敗します。アサーションステップを使用して応答を検証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このステップを使用して、別のインスタンスまたは第三者/リモートアドレスに要求を送信することはできません。

REST API を使用する方法の詳細については、REST API を参照してください。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
認証タイプ	使用する認証のタイプ。パブリック API の場合は、[なし **(None)]** を選択します。 基本認証または相互認証を構成するには、ユーザーに atf_ws_designer ロールが必要です。詳細については、「自動テストフレームワーク (ATF) ロール」を参照してください。
ベーシック認証	テストを行うときに使用するベーシック認証プロファイル。テスト実行時の認証の問題を回避するために、テストステップに割り当てるベーシック認証プロファイルを作成または選択する必要があります。詳細については、「自動テストフレームワーク (ATF) を使用した基本認証プロファイルの作成」を参照してください。
相互認証	相互認証用の X.509 証明書。テスト実行時の認証の問題を回避するために、テストステップにアサインするクライアント証明書を作成または選択する必要があります。詳細については、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	「証明書ベースの認証の設定」を参照してください。
メソッド	使用する HTTP メソッド： • **GET** • **POST** • **PUT** • **DELETE** • **PATCH**
パス	使用するパス。このフィールドは、URI のインスタンス名の後の部分のみを受け入れます。`https://<インスタンス名>` を使用した場合、エラーが発生します。
クエリパラメーター	クエリパラメーターの名前と値。パラメーター名または値をエンコードしないでください。
ヘッダー	ヘッダーの名前と値。ヘッダー名または値をエンコードしないでください。
本文	要求の本文。

ステータスコードのアサート

HTTP 応答ステータスコードが、指定された値と指定された関係にあることを確認します。ステータスコードと関係には数値を指定します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
運用	値間で実行する比較： • 次の値に等しい • ではない • 次の値未満 **(<)** • **>** • 次の値以下 • 以上
ステータスコード	応答コードに対してテストするステータスコード。

ステータスコード名のアサート

HTTP 応答ステータスコード名が、指定された値と指定された関係にあることを確認します。ステータスコード名と関係の値を指定します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
運用	値間で実行する比較： • 次の値を含む • 次の値を含まない • 次の値に等しい • ではない
ステータスコード名	テストするステータスコード名。

応答時間のアサート

HTTP 応答応答時間が、指定された値と指定された関係にあることを確認します。応答時間と関係の値を指定します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
運用	入力された応答時間と実際の応答時間の間で実行される比較： • 次の値未満 **(<)** • **>**
応答時間 (ミリ秒)	実際の応答時間と比較する時間 (ミリ秒)。

応答ヘッダーのアサート

HTTP 応答ヘッダーが存在するか、ヘッダーが指定された値と指定された関係にあることを確認します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
ヘッダー	ヘッダー名。
運用	値間で実行する比較： • 次の値を含む • 次の値を含まない • 次の値に等しい • ではない • は空でない
値	テストで使用する要素値。[運用] が空でない場合は表示されません。

応答 JSON ペイロードのアサートが有効

応答ペイロードが有効な JSON 形式であることを確認します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

応答 XML ペイロードのアサート形式が適切

応答のペイロードの形式が適切な XML であることを確認します

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。

XML ペイロード要素のアサート

XML 応答のペイロード要素が存在するか、または指定された値と指定された関係にあることを確認します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行され

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	ます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
要素パス	評価する要素への XML パス。例：`/result/short_description` `{ "result": { "number": "INC0020001", "short_description": "test" } }`
運用	値間で実行する比較： • 次の値を含む • 次の値を含まない • 次の値に等しい • ではない • は空でない
値	テストで使用する要素値。[運用] が空でない場合は表示されません。

JSON 応答ペイロード要素のアサート

JSON 応答のペイロード要素が存在するか、または指定された値と指定された関係にあることを確認します。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
要素パス	評価する要素への SNC パス。例：`/result/short_description` `{ "result": { "number": "INC0020001", "short_description": "test" } }` 詳細については、「JSON ファイルをインポートする」を参照してください。
運用	値間で実行する比較： • 次の値を含む • 次の値を含まない • 次の値に等しい • ではない • は空でない
値	テストで使用する要素値。[運用] が空でない場合は表示されません。

応答ペイロードのアサート

HTTP 応答応答ペイロードが、指定された値と指定された関係にあることを確認します。値と関係を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アサーションステップは、**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップの直後に実行される必要があります。**[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップに続いて複数の REST アサーションステップを実行できますが、他のテストカテゴリのステップによってアサーションステップを **[REST** 要求の送信 **-** 受信] ステップから分離することはできません。

注: 一致を探すためにペイロード全体が使用されます。ペイロードが大きいとパフォーマンスに影響する可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
運用	値間で実行する比較： • 次の値を含む • 次の値を含まない • 次の値に等しい • ではない • は空でない
応答本文	テストで使用する応答本文の値。 応答ペイロードに表示されるときに比較される名前と値を含める必要があります。中括弧を含めることはできません。 [運用] が空でない場合は表示されません。

応答ペイロードの簡単な説明を確認するには

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
{"result":{"number":"INC0010040","short_description":"Test ATF
 Incident"}}
```

応答本文に以下のものが含まれなければなりません。

```
"short_description":"Test ATF Incident"
```

これらの形式は正しくないため、ステップは失敗します。

- `{"short_description":"ATF インシデントのテスト"}`
- `"{"short_description":"ATF インシデントのテスト"}"`
- `short_description: ATF インシデントのテスト`
- `short_description:"ATF インシデントのテスト"`

メールのカテゴリ

自動テストフレームワーク (ATF) (ATF) を使用して、メール通知、送信メールフロー、および受信メール応答をテストします。

送信メールの検証

メール [sys_email] テーブルで特定の送信メールを検索して、そのメールが存在することを確認します。

このステップを使用して、フローによって生成された送信メールを検証 または 通知によって生成された送信メールを検証 のテストステップでキャプチャされないメール生成スクリプトをテストします。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
条件	送信メールのフィルタリングに使用される条件。たとえば、user@example.com に送信されたメールを検索するには、条件を [受信者] [次の値に等しい] **[user@example.com]** に設定します。
テーブル	クエリされるテーブル。デフォルトでは、このステップは、メール [sys_email] テーブルのみのクエリを実行します。

注: テスト中は、このステップの実行に予想以上の時間がかかる場合があります。デフォルトでは、ステップは 2 分後にタイムアウトになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローによって生成された送信メールを検証

メール [sys_email] テーブルで特定の送信メールを検索して、そのメールが存在することを確認します。 このステップを使用して、フローが想定どおりにトリガーされることをテストします。

注: このステップでは、フローの [メール送信] アクションによって作成されたメールのみが検索されます。フローで通知がトリガーされた後に送信されたメールを検索するには、代わりに 通知によって生成された送信メールを検証 ステップを使用します。カスタムスクリプトアクションなど、他のフローアクションで作成されたメールを検索するには、代わりに 送信メールの検証 ステップを使用します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
ソースのフロー	送信メールが作成されたフロー。
条件	送信メールのフィルタリングに使用される条件。たとえば、user@example.com に送信されたメールを検索するには、条件を [受信者] [次の値に等しい] **[user@example.com]** に設定します。
テーブル	クエリされるテーブル。デフォルトでは、このステップは、メール [sys_email] テーブルのみのクエリを実行します。

注: テスト中は、このステップの実行に予想以上の時間がかかる場合があります。デフォルトでは、ステップは 2 分後にタイムアウトになります。

通知によって生成された送信メールを検証

メール [sys_email] テーブルで特定の送信メールを検索して、そのメールが存在することを確認します。 このステップを使用して、メール通知が想定どおりにトリガーされることをテストします。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
ソースの通知	送信メールの作成元の通知。このフィールドは、通知 [sysevent_email_action] テーブルを参照します。
条件	送信メールのフィルタリングに使用される条件。たとえば、user@example.com に送信されたメールを検索するには、条件を [受信者] [次の値に等しい] **[user@example.com]** に設定します。
テーブル	クエリされるテーブル。デフォルトでは、このステップは、メール [sys_email] テーブルのみのクエリを実行します。

注: テスト中は、このステップの実行に予想以上の時間がかかる場合があります。デフォルトでは、ステップは 2 分後にタイムアウトになります。

受信メールを生成

受信メールレコードを作成して、受信メールフローまたは受信メールアクションをテストします。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
送信元	送信者のメールアドレス。メールアドレスを手動で入力するか、ユーザーレコードからメールアドレスを参照することができます。メールアドレスを手動で入力した場合、テスト中にアドレスが既存のユーザーレコードと照合されます。
宛先	受信者のメールアドレス。メールアドレスを手動で入力するか、ユーザーレコードからメールアドレスを参照することができます。メールアドレスを手動で入力した場合、テスト中にアドレスが既存のユーザーレコードと照合されます。
件名	メールの件名。テキストを入力するか、前のテストステップからの文字列出力を参照できます。
本文	メッセージ本文の内容。テキストを入力するか、前のテストステップからの文字列出力を参照できます。

出力

フィールド	説明
output_email_record	メール [sys_email] テーブルのレコードです。 [受信タイプ] は [新規] で、[タイプ] は [送信 - 準備完了]です。これらのフィールドの意味の詳細については、「システムメールログおよびメールボックス」を参照してください。

受信返信メールを生成

返信メールレコードを作成して、メール通知に対するユーザーの応答がどのように処理されるかをテストします。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
ターゲットテーブル	ターゲットレコードのテーブル。
ターゲットレコード	返信メールが更新されたことを記録します。ターゲットレコードを選択すると、返信メールにもウォーターマークが適用されます。
送信元	送信者のメールアドレス。メールアドレスを手動で入力するか、ユーザーレコードからメールアドレスを参照することができます。メールアドレスを手動で入力した場合、テスト中にアドレスが既存のユーザーレコードと照合されます。
宛先	受信者のメールアドレス。メールアドレスを手動で入力するか、ユーザーレコードからメールアドレスを参照することができます。メールアドレスを手動で入力した場合、テスト中にアドレスが既存のユーザーレコードと照合されます。
件名	メールの件名。テキストを入力するか、前のテストステップからの文字列出力を参照できます。
本文	メッセージ本文の内容。テキストを入力するか、前のテストステップからの文字列出力を参照できます。

出力

フィールド	説明
output_reply_email_record	メール [sys_email] テーブルのレコードです。 [受信タイプ] は [返信] で、[タイプ] は [送信 - 準備完了]です。これらのフィールドの意味の詳細については、「システムメールログおよびメールボックス」を参照してください。

ランダム文字列を生成

別のステップのテストデータとして使用できるランダムな英数字の文字列を生成します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
長さ	生成される文字列の文字数。最大長は 10,000 文字です。このフィールドを空白のままにすると、文字列の長さはデフォルトで 10 文字になります。

出力

フィールド	説明
random_string	ランダムな英数字の文字列。

サーバーカテゴリ

サーバー側の操作を実行します。たとえば、レコードのクエリと更新、ユーザーの代理操作、サーバー側スクリプトの実行などです。

ユーザーを作成

テスト用に指定されたロールとグループを持つユーザーを作成します。ユーザーレコードはテスト完了後にロールバックされます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
名	ユーザーの名前 (名)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
姓	ユーザーの名前 (姓)。
ロール	ユーザーにアサインされたロール。
グループ	ユーザーにアサインされたグループ。
このユーザーを代理操作	新しいユーザーを代理操作するためのオプション。

出力

フィールド	説明
ユーザー	代理操作されるユーザーのユーザー ID。

代理操作

テスト用に、指定されたユーザーの代理操作をします。

代理操作では、このテストで後続のステップを実行するユーザーを指定します。サーバー側とブラウザ側の両方のステップで動作し、別の代理操作ステップで変更されるか、またはテストが終了するまで有効です。テストが終了すると、代理操作は自動的に終了します。

注:

- テスト作成者ロールを持つユーザーの代理操作は実行しないでください。実行すると、テストの実行を妨げる競合が発生する可能性があります。
- 存在しなくなった代理操作ユーザーが関与するテストは失敗します。

  ヒント: データの依存関係を避けるために、新しいユーザーを作成することをお勧めします。詳細については、「ユーザーを作成」を参照してください。

- 異なるインスタンス間でユーザー ID が一貫していることを前提としないでください。システムはユーザー ID を動的に割り当てるため、特定のユーザーの ID がインスタンスごとに異なることがよくあります。
- 自動テストをエクスポートしてインポートする場合、ユーザーフィールドは更新セットによって更新されないことに注意してください。
- テストは、snc_external ロールを持つユーザーに偽装できます。これにより、ログインアクセスを持たないユーザーをテストできます。snc_external ロールの要件については、「明示的なロール」を参照してください。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
	ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ユーザー	代理操作するテストのユーザー ID。

出力

フィールド	説明
ユーザー	代理操作されるユーザーのユーザー ID。

カタログアイテムの検索

指定したカタログとカテゴリで、カタログアイテムまたはレコードプロデューサの検索を実行します。このステップは、プラットフォームとサービスポータルの両方で実行できます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
ポータル内の	検索がサービスポータルのみに制限されている場合に選択します。それ以外の場合は選択しません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
みを検索	
検索用語	カタログアイテムを検索するために使用される用語。
カタログ	カタログアイテムを検索するカタログ。
カテゴリ	カタログアイテムを検索するカテゴリ。
アサーションアイテム	検索結果で利用可能なカタログアイテム。
アサーションタイプ	カタログアイテムの検索がテストにどのように影響するかを指定します。 • 検索結果にアサーションアイテムが存在する：アサーションアイテムが検索結果に存在する場合にのみ、テストは合格します。 • 検索結果にアサーションアイテムが存在しない：アサーションアイテムが検索結果に存在しない場合にのみ、テストは合格します。

出力

フィールド	説明
catalog_item_id	ユーザーが表示できる最初のカタログアイテムの sys_id。

レコードのクエリー

データベースに対してクエリーを実行し、このステップで設定した条件に一致するレコードが存在することを確認します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
セキュリティを強制	ACL を強制する場合に選択します。それ以外の場合は選択しません。
メモ	テストステップに関するメモ。 **注:** 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。
アサーションタイプ	レコードのクエリがテストにどのように影響するかを指定します。 • 少なくとも 1 つのレコードがクエリに一致します：クエリに一致するレコードがない場合、テストは不合格になります。 • クエリに一致するレコードはありません：クエリに一致するレコードがある場合、テストは不合格になります。
テーブル	クエリされるテーブル。
条件	クエリの実行に使用される条件。

出力

フィールド	説明
テーブル	クエリーされたテーブル。
first_record	クエリー結果の最初のレコード。

注: レコードクエリテストステップを更新しない場合、元のレコードクエリテストステップは、(使用廃止) と示されているかどうかに関係なく、以前と同じように機能します。

レコードの挿入

指定したフィールド値を持つレコードをテーブルに挿入します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。 **注:** 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。
アサーションタイプ	レコードの挿入がテストにどのように影響するかを指定します。 • レコードが正常に挿入されました：レコードが正常に挿入されなかった場合、テストは不合格になります。 • レコードが挿入されませんでした：レコードが正常に挿入された場合、テストは不合格になります。
セキュリティを強制	ACL と読み取り専用ロールを強制する場合に選択します。それ以外の場合は選択しません。
テーブル	レコードを挿入するテーブル。
条件	テストでこのステップが実行されたときに設定する特定のフィールド値。

出力

フィールド	説明
テーブル	新規レコードが属するテーブル。
record_id	新規レコードの sys_id。

レコードの更新

サーバー上でレコードのフィールド値を変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 変更が適用されたことを確認するため、このステップの後にレコードの検証のステップを実施してください。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。 注: 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。
アサーションタイプ	レコードの更新がテストにどのように影響するかを指定します。 • レコードが正常に更新されました：レコードが正常に更新されなかった場合、テストは不合格になります。 • レコードが更新されませんでした ：レコードが正常に更新された場合、テストは不合格になります。
セキュリティを強制	ACL と読み取り専用ロールを強制する場合に選択します。それ以外の場合は選択しません。
テーブル	更新するレコードを含むテーブル。
レコード	更新されるレコードの ID。
フィールド値	値を設定するフィールドと、それらのフィールドに設定する値。 注: 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: レコードのフィールドが ACL によってブロックされている場合でも、[レコードの更新] ステップは成功します。[レコードの更新] 後に [レコードの検証] ステップを使用して、特定のフィールドが変更されたかどうかを確認するか、または [フォームのステップ] を使用して、レコードの個々のフィールドの ACL 条件を評価します。

レコードの削除

テーブル内の指定されたレコードを削除します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	レコードの更新がテストにどのように影響するかを指定します。 • レコードが正常に削除されました：レコードが正常に削除されなかった場合、テストは不合格になります。 • レコードが削除されませんでした：レコードが正常に削除された場合、テストは不合格になります。
セキュリティを強制	ACL と読み取り専用ロールを強制する場合に選択します。それ以外の場合は選択しません。
テーブル	削除するレコードを含むテーブル。
レコード	削除されるレコードの ID。

レコードの検証

レコードが、サーバー側の指定された条件を満たすことを検証します。

レコードの妥当性確認ステップでは、標準条件ビルダーを使用してテストする値を指定します。同じフィールドに複数の条件を適用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

全体的な条件が満たされている場合、このステップは合格し、そうでない場合は失敗します。お互いに独立して個々のフィールドの値をテストする必要がある場合は、テストする各値に対して個別のレコードの妥当性確認ステップを追加します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。 **注:** 条件ビルダーを使用してフィールド値を設定します。条件ビルダーには、フィールドのデータタイプに適したコントロールが表示されます。たとえば、参照フィールドにはルックアップレコードコントロールが表示されます。
アサーションタイプ	レコードの検証がテストにどのように影響するかを指定します。 • レコードが正常に検証されました：レコードが条件と一致しない場合、テストは不合格になります。 • レコードが見つかりません：レコードが見つかった場合、テストは不合格になります。
テーブル	検証するフィールドを含むテーブル。
レコード	検証するフィールドを含むレコード。
フィールド値	テストでこのステップが実行されたときに検証される特定のフィールド。

サーバー側スクリプトの実行

サーバーでスクリプトを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
Jasmine バージョン	サーバー側スクリプトの実行に使用する Jasmine テスティングフレームワークのバージョン。 作成する新しいスクリプトはすべて Jasmine バージョン 3.1 を使用します。既存のスクリプトで Jasmine バージョン 1.3 を引き続き使用することも、Jasmine バージョン 3.1 にアップグレードすることもできます。
テストスクリプト	実行するサーバーの javascript。Jasmine テスティングフレームワークをサポートします。 **注:** ステップ (SYS_ID) は、テストで以前に実行されたステップから出力変数データを取得する機能として定義できます。 [サーバー側スクリプトを実行] テストステップは、ステップ入力としてパラメーターをサポートするようになりました。

出力

フィールド	説明
record_id	サーバー側スクリプトによる sys_id 出力。
テーブル	サーバー側スクリプトによるテーブル出力。

注: スクリプトでデータが作成された場合、テストのすべてのステップが終了した後、システムはそのデータをロールバックします。[サーバー側実行スクリプトを実行] のテストステップの出力に、失敗の原因の行と行番号が表示されるようになりました。

- テストスクリプト

```
//  Test step 1 - add data
var now_GR = new GlideRecord('sc_task');
//  this sample step's Step config has Output variables named table and
 record_id
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
outputs.table = 'sc_task';
outputs.record_id = gr.insert();
//  Test step 2 - access added data and validate
//  check that the record exists (or that business logic changed it)
var now_GR = new GlideRecord("sc_task");
gr.get(steps(PREVIOUS_STEP_SYS_ID).record_id);
assertEqual({name: "task gr exists", shouldbe: true, value:
 gr.isValidRecord()});
stepResult.setOutputMessage: Log a message to step results after step
 executes.
                              Can only be called once or will overwrite
 previous message
```

- テストスクリプトのスイートを作成します

```
var now_GR = new GlideRecord('sc_task');
gr.setValue('short_description', 'verify task can be inserted');
var grSysId = gr.insert();
var justCreatedGR = new GlideRecord('sc_task');
if (justCreatedGR.get(grSysId)) {
stepResult.setOutputMessage("Successfully inserted task record");
return true; // pass the step
} else {
stepResult.setOutputMessage("Failed to insert task record");
return false; // fail the step
}
```

- Jasmine テスト

```
describe('my suite of script tests', function() {
it('should meet expectations', function() {
expect(true).not.toBe(false);
});
});
//  make sure to uncomment jasmine.getEnv().execute(); outside the
 function body
assertEqual: A function used to compare that assertion.shouldbe ==
 assertion.value;
in case of failure it throws an Error and logs that the assertion by
 name has failed
```

> **注:** `describe` はグローバルスコープでのみサポートされています。`describe` を使用してテストスクリプトのスイートを作成し、`it` を使用してテストの期待値を定義します。

- メッセージをテストステップ出力に記録します

```
var testAssertion = {
name: "my test assertion",
shouldbe: "expected value"
value: "actual value",
};
assertEqual(testAssertion); // throws Error, logs message to test step
 output
```

- サーバー側実行スクリプトの例については、「ステップ実行スクリプト」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要求アイテムを再現

既存の要求アイテムからアイテムと依頼者を取得し、そのアイテムを新しいカートに追加して、そのアイテムを注文します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
元の要求アイテム	再現される要求アイテム。

出力

フィールド	説明
テーブル	再実行された要求アイテムが属するテーブル。
要求	再現された要求アイテム。

関連情報

自動テストフレームワーク (ATF)ユースケース：サービスカタログ要求のテスト

ログ

メッセージをログに記録し、ステップの結果として保存します。

ログメッセージには、テストに関連する変数やその他の情報を含めることができます。メッセージはステップの結果として保存されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
ログ	記録されるメッセージ。以前のステップの出力変数の値を含めるには、入力値アイコン( ) をクリックし、「1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡す」の手順に従います。

既存のレコードに添付ファイルを追加

指定されたレコードに 1 つ以上の必須の添付ファイルを追加します。[添付ファイルをアップロード] を使用して、テストステップでレコードに追加する添付ファイルを選択します。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
テスト	ステップを追加するテストの名前。
ステップ構成	ステップの名前。
メモ	テストステップに関するメモ。
テーブル	リストからの有効なテーブルの選択。
レコード	テスト前の既存のレコード、またはテストの一部として挿入されたレコード。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力 (続く)

フィールド	説明
添付ファイルをアップロード	レコードに 1 つ以上の必須の添付ファイルを追加するためのボタン。

買い物かごのチェックアウト

買い物かごを送信して要求を生成します。このステップは、Now Platformおよびサービスポータルで実行できます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
タイムアウト	ステップが失敗するまでの秒数。検証に失敗すると、タイムアウトの時間になるまでステップが繰り返されます。タイムアウト経過後に検証が失敗すると、ステップは失敗します。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
アサーションタイプ	テストに合格するための基準。 空の買い物かご 買い物かごが空でない場合、テストは不合格になります。 買い物かごを正常にチェックアウトしました 買い物かごが正常にチェックアウトされない場合、テストは不合格になります。
要求元	要求が生成されたユーザー。
配送先	要求の配送先住所。
特別な指示	要求に関する特別な指示。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

フィールド	説明
request_id	送信された要求の sys_id。

カスタムスクリプト StepConfig

カスタム ステップ設定用のスクリプトの例を示します。

この例では、指定されたユーザー名が文字 A で始まるかどうかを確認します。このステップは、主に [atf_test_admin] ロールを持つユーザーに役立ちます。[atf_test_admin] ロールを持つユーザーは、このステップのレコードをステップ構成で開くことによって、スクリプトの例を表示できます。

入力

フィールド	説明
実行順序	テストのこのステップの実行順序を指定する整数。 ステップを作成すると、各ステップに増分値が自動的に割り当てられます。この値により、テストでは、ステップが作成された順に実行されます。このデフォルトを変更するには、[実行命令] 値を編集します。
有効	このテストステップの使用をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	システムがこのステップを実行するアプリケーションスコープ。
テスト	ステップを追加するテストの読み取り専用の名前。
ステップ構成	ステップの読み取り専用の名前。
説明	テストステップの説明。このフィールド値はテストステップのフィールド値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは、テストステップが送信された後に表示されます。
メモ	テストステップに関するメモ。
ユーザー	名前が **A** という文字で始まるかどうかがチェックされるユーザー。以前のステップの出力変数の値を含めるには、入力値アイコン( ) をクリックし、「1 つの自動テストステップから別の自動テストステップに値を渡す」の手順に従います。

出力

フィールド	説明
value	ユーザーの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- カスタムステップ構成の作成
- ステップ実行スクリプト
- ステップ説明生成スクリプト

自動テストフレームワーク (ATF) 参照

自動テストフレームワーク (ATF)のリファレンス情報。

ATF 機能を使用するためのヒントについては、「https://players.brightcove.net/6274575390001/nUx4EKfUz_default/index.html?videoId=6286204365001」をご覧ください。

自動テストの実行後にロールバックから除外されるテーブル

自動テストフレームワーク (ATF) は、テストの実行によって作成されたデータを追跡し、テスト後に変更をロールバックします。システムは、テスト中に特定のテーブルが追跡されないようにします。

システムは、特定のテーブルを追跡またはロールバックから除外します。

- 履歴 [sys_history_line] テーブル
- ECC キューテーブル [ecc_queue]。
- メール [sys_email] メールログ [sys_email_log] テーブル
- レポート実行 [report_executions] テーブルと ReportStats [report_stats] テーブル。
- 実行トラッカー [sys_execution_tracker] テーブル
- 進捗ワーカー [sys_progress_worker] テーブル
- スキーマの変更 [sys_schema_change]
- アップグレード履歴 [sys_upgrade_history] テーブルとアップグレード履歴ログ [sys_upgrade_history_log] テーブル
- ミューテックス [sys_mutex] テーブル
- プラグインログ [sys_plugin_log] テーブル
- ステータス [sys_status] テーブル
- 数カウンタ [sys_number_counter] テーブル
- AMB チャネルプレゼンス [sys_amb_channel_presence] テーブル
- 除外テーブルを拡張するテーブル。
- 次のプリフィックスで始まるテーブルも除外されます。
  - syslog
  - sys_amb_message
  - sys_cluster
  - cmdb_metric
  - ts_
  - v_
  - sys_delete_recovery

除外されたテーブルのレコードがテスト実行によって変更 (挿入/更新/削除) された場合、システムはテスト後に変更をロールバックしません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テスト

テストモジュールは、テスト テーブルを開きます。ここから、テストを追加、編集、実行することができます。個々のテスト レコードを開くと、そのテストを構成するステップを表示および編集できます。

関連情報

自動テストスイートのビルドと実行

レコードのテストフォーム

テスト レコードフォームでは、テスト レコードのフィールドの値を表示および編集します。

フィールド

フィールド/ UI 要素	説明
名前	テスト名。
説明	テストの説明。
アクティブ	このテストがアクティブな場合、**true** です。そうでない場合は **false**。
アプリケーション	システムがこのテストまたはテストスイートを実行するアプリケーションスコープ。
関連テスト ステップリスト	このテストが実行するステップ。
関連テスト結果リスト	このテストの個々の実行結果。
サーバーエラーで失敗	サーバーでの UI ステップの実行中に検出され、テストに失敗したエラー。

UI アクション

名前	説明
更新	クリックしてテスト レコードを更新します。
テストを実行	クリックしてテストを実行します。
テストをコピー	クリックしてテストをコピーします。
削除	クリックしてこのテストを削除します。

スイート

スイートモジュールは、テストスイートテーブルを開きます。このテーブルからテストスイートを作成、編集、実行することができます。

関連情報

自動テストスイートのビルドと実行

テストスイートフォーム

テストスイートフォームには、1 つのテストスイートに関する情報が含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド

フィールド/要素	説明
名前	テストスイートの名前
有効	このテストスイートをアクティブにするには、このフィールドをオンにします。
説明	(オプション) このテストスイートの目的を識別する説明を入力します。
アプリケーション	システムがこのテストまたはテストスイートを実行するアプリケーションスコープ。
親スイート	このテストスイートを別のテストスイートの子にするには、ここに親テストスイートの名前を入力します。
テストスイートテスト (関連リスト)	このテストスイートに含まれるテスト
子テストスイート (関連リスト)	このテストスイートの子であるすべてのテストスイート
テストスイートの結果 (関連リスト)	このテストスイートを実行した結果
テストスイートのスケジュール (関連リスト)	このテストスイートを含むすべてのテストスイートスケジュール。

テスト結果

テストを実行するたびに、自動テストフレームワーク (ATF) によりテスト結果の記録が作成されます。テスト結果モジュールを使用して、個々のテストの結果とテスト内の個々のステップの詳細を表示します。テストでスクリーンショットが生成された場合は、テスト結果レコードに添付ファイルとして表示されます。

各テスト結果レコードには、1 回のテスト実行に関する詳細な結果情報が表示され、詳細なステップ結果とテストログへのリンクが含まれています。ステップ結果レコードにはテスト結果の 1ステップに関する情報が表示され、テストログ (テスト結果アイテム) レコードには詳細なコンソールログとテスト実行情報が含まれています。

デフォルトでは、テストおよびテストスイートの結果のデータは作成から 30 日後に削除されます。このデフォルト保持ポリシーは、必要に応じてテーブルクリーンアップモジュールで変更できます。

関連情報

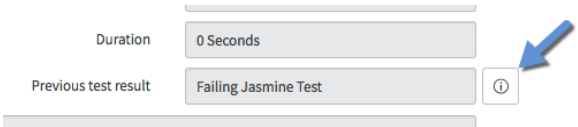
- ATFテスト結果のデータ保持ポリシーの変更
- テーブルクリーンアップモジュール

テスト結果レコード

テスト結果レコードには、1 回のテスト実行に関する詳細な結果情報が含まれています。クライアントエラーの詳細と障害の詳細のセクションは、エラー状態によってテストが失敗した場合に表示され、トラブルシューティングの目的で使用できる詳細なエラー情報が含まれています。

フィールド	説明
テスト	テストの名前

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ステータス	テスト実行の結果： 成功 テストは合格 失敗 テストは不合格 成功 (警告あり) テスト実行は合格しましたが、[許可されたクライアントエラー] テーブルで警告として許可されたクライアントエラーが発生しました。 待機中 テストの開始を待っています。 実行中 テストが実行中です。 スキップ スイート内の以前のテストが失敗し、失敗時に中止が**true**に設定されている場合に発生します。 エラー テストフレームワークでエラーが発生しました。たとえば、テストランナーが停止したか、サーバーが意図しないシナリオに遭遇しました。エラー メッセージは、エラーをスローしたステップに対するステップ結果レコードの [サマリー] フィールドに表示されます。 キャンセル ユーザーがテストをキャンセルしました。
無期限保存	指定されたデータ保持期間が経過した後もこのレコードを保持するためのチェックボックス。詳細については、「テーブルのクリーンアップ」を参照してください。
開始時間	このテストの実行が開始された日時
終了時間	このテストの実行が終了した日時
期間	このテストを実行するのにかかった時間
前回のテスト結果	テストが成功したか失敗したかを含む、以前のテスト実行の結果。このテスト結果が、失敗したテストの再実行用で、admin、atf_test_admin、または atf_test_designer ロールでログオンしている場合にのみ表示されます。情報アイコン (ⓘ) をクリックして、元のテスト結果にナビゲートします。 

注: このテストでスクリーンショットが作成された場合、添付ファイルを管理に添付ファイルとして表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントエラーの詳細

このセクションは、クライアントエラーのためにテストが失敗した場合にのみ表示されます。

フィールド	説明
失敗したステップ	このテスト中に失敗した最初のテスト ステップの結果への参照してください。情報アイコン ( ) をクリックして、ステップ結果フォームに詳細なステップ結果とエラー情報を表示します。
サマリー	次のテキストでは、クライアント エラーがこのステップで発生したことを詳細なエラーメッセージとともに表示します。 テスト中のページで「詳細なエラーメッセージ」というクライアントエラーが検出されたため、このステップは失敗しました。不合格のテストログを表示します。次回のテスト実行でこれらのエラーを無視するには、[すべてのクライアントエラーを警告/無視リストに追加 (Add all client errors to warning/ignored list)] リンクを使用します。 テストデザイナーと開発者は、常にクライアントエラーを調査して、ビジネスプロセスに問題があるかどうかを判断する必要があります。詳細については、「クライアントエラーの特定と解決」を参照してください。
最初の失敗時のクライアントエラー	テスト中に失敗した最初のクライアントエラーへの参照してください。情報アイコン ( ) をクリックして、テストログフォームに詳細なテスト結果とエラー情報を表示します。 **注:** クライアントエラーを無視または警告エントリとして許可する方法の詳細については、「許可されたクライアントエラー」を参照してください。
失敗したステップのスクリーンショット	失敗したステップのスクリーンショット。 をクリックして、スクリーンショットをダウンロードします。

障害の詳細

このセクションは、クライアントエラー以外の原因でテストが失敗した場合にのみ表示されます。

フィールド	説明
失敗したステップ	このテスト中に失敗した最初のステップの結果を参照への参照してください。 をクリックして、スクリーンショットをダウンロードします。
サマリー	失敗したステップの出力。
失敗のスクリーンショット	失敗したステップのスクリーンショット。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

追加情報

このセクションは、すべてのテスト結果で表示されます。

フィールド	説明
出力	テスト ステップ用に生成された出力。 • テスト結果 (多くの場合、合格または失敗)。 • 失敗したテストの場合、失敗した最初のテスト ステップの フィールドに表示されるエラーメッセージの詳細が表示されます。上記のクライアントエラーの詳細を参照してください。
関連するブラウザ	テストを実行したブラウザから返されたユーザーエージェント文字列。

関連リスト

関連リスト	説明
ステップ結果	各ステップ結果のレコードと、このテストのログエントリ。
テストログ	このテスト結果レコードに関連する各テストログのレコード。
テストトランザクション	このレコードに関連するシステムトランザクションログ [syslog_transaction] からの各トランザクションのレコード。 トランザクションに関連するステップ結果を表示するには、ステップ結果列の適切なリンクをクリックします。 トランザクションに関連するトランザクションログを表示するには、トランザクション列の適切なリンクをクリックします。 **注:** システムでは、短時間の一部のトランザクションをログに記録できない場合があります。
警告	警告ステータスのクライアントエラーを含むテストログのリスト。[警告] 関連リストは、警告のあるテスト結果についてのみ表示されます。

関連情報

- テスト結果と自動テスト結果の表示
- テストログレコード
- ステップ結果レコード
- 許可されたクライアントエラー
- ステップ結果からクライアントエラーを許可
- テストログからクライアントエラーを許可

ステップ結果レコード

ステップ結果レコードには、テスト結果の 1ステップに関する情報が含まれています。特定のステップ結果には、テスト結果レコードのステップ結果関連リストからアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ステータス	ステップの結果： 成功 テスト ステップは合格しました。 失敗 テスト ステップは不合格となりました。 成功 (警告あり) テストステップは合格しましたが、[許可されたクライアントエラー] テーブルで警告として許可されたクライアントエラーが発生しました。 スキップ スイート内の以前のテストが失敗し、失敗時に中止が**true**に設定されている場合に発生します。 エラー テストフレームワークでエラーが発生しました。たとえば、テストランナーが停止したか、サーバーが意図しないシナリオに遭遇しました。 キャンセル ユーザーがテストまたはスイートをキャンセルしました。
タイプ	テスト結果アイテムのタイプ：ステップ結果
サマリー	出力フィールドのサマリーバージョン。 テスト ステップでエラーが発生した場合、次のテキストは、このステップでクライアントエラーが発生したことを示し、詳細な例外/エラーメッセージが含まれています。 テスト中のページで「詳細なエラーメッセージ」というクライアントエラーが検出されたため、このステップは失敗しました。不合格のテストログを表示します。次回のテスト実行でこれらのエラーを無視するには、[すべてのクライアントエラーを警告/無視リストに追加 (Add all client errors to warning/ignored list)] リンクを使用します。 テストデザイナーと開発者は、常にクライアントエラーを調査して、ビジネスプロセスに問題があるかどうかを判断する必要があります。詳細については、「クライアントエラーの特定と解決」を参照してください。 [REST 要求の送信 - 受信] ステップの場合は、要求のエンドポイントの URL と応答コードです。例： `HTTP 要求がエンドポイント「https://demonightlyus.service-now.com/api/now/table/kb_knowledge」に送信されました`
出力	テストステップ用に生成された出力 • ステップ結果の場合は、ステップが失敗またはスキップされた理由の説明を含んだステップからの出力です。 • [REST 要求の送信 - 受信] ステップの場合は、REST 要求と応答本文を含んだ応答です。出力フィールドは 4096 文字で切り捨てられます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦機密情報がログに追加されないように、REST 要求と応答ヘッダーはフィルターリングされます。フィルターリングされたヘッダー テキストは、「セキュリティのためヘッダーが編集されました」というテキストに置き換えられます。 ◦フィルターリングする REST 要求と応答ヘッダーのリストを追加する方法については、『REST 要求と応答ヘッダーをフィルターリングする』を参照してください。 テスト ステップのコンソール ログとテスト実行に関する追加情報は、 レコードを参照してください。
ステップ	実行されたステップの名前。
テスト結果	このステップの結果に関連付けられたテスト結果への参照してください。情報アイコン (ⓘ) をクリックして、詳細なテスト結果情報を表示します。
説明	このテスト ステップの実行される特定のアクションの説明 (たとえば、インシデントの作成レポートプロデューサを開く、フォームが次の条件に一致することを検証する、など) クライアントログの場合は、ブランク。
開始時間	このステップまたはログエントリが開始された日時。
終了時間	このステップまたはログエントリが終了された日時。
期間	このテストを実行するのにかかった時間
ステップトランザクション (関連リスト)	このステップ結果に関連するシステムトランザクションログ [syslog_transaction] からの各トランザクションのレコード。

関連情報

テスト結果レコード

テストログレコード

許可されたクライアントエラー

ステップ結果からクライアントエラーを許可

テストログレコード

テスト結果アイテム (テストログ) レコードには、コンソールログとテスト実行情報が含まれています。

テストの実行中、環境に報告されたすべての情報は、テストログ (sys_atf_test_result_item) テーブルに記録されます。この情報には、ステップ環境で記録されたブラウザーコンソールのログ、結果、およびエラーメッセージが含まれています。特定のテストログには、テスト結果フォームのテストログ関連リストからアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ステータス	テストログの結果： 成功 テスト ステップ実行は合格しました。 失敗 テスト ステップ実行に失敗しました。 成功 (警告あり) テストステップは合格しましたが、[許可されたクライアントエラー] テーブルで警告として許可されたクライアントエラーが発生しました。 無視 [無視] のレポートレベルで許可されたクライアントエラー。 Warning [警告] のレポートレベルで許可されたクライアントエラー。 待機中 テストまたはスイートは開始を待機しています。 実行中 テストまたはスイートが実行されています。 スキップ スイート内の以前のテストが失敗し、失敗時に中止が**true**に設定されている場合に発生します。 エラー テストフレームワークでエラーが発生しました。たとえば、テストランナーが停止したか、サーバーが意図しないシナリオに遭遇しました。エラーをスローしたステップのステップ結果レコードの フィールドに、エラーメッセージが表示されます。 キャンセル ユーザーがテストまたはスイートをキャンセルしました。
タイプ	テストログの種類： • ステップ結果 • クライアントログ • クライアントエラー **注:** クライアントエラーの場合、オプションでそれを [許可されたクライアントエラー] で無視または警告エントリとして追加できます。こうすることで、許可されたクライアントエラーが今後のテスト実行で再発した際に、ATF テストの実行に影響を与えなくなります。詳細については、「許可されたクライアントエラー」を参照してください。
出力	テストログ用に生成された出力。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• ステップ結果については、ステップが失敗した理由またはスキップされた理由の説明を含む、コーンソールログとテスト実行の出力。 • クライアントログの場合は、ログエントリテキスト。 • クライアントエラーの場合、実際のクライアントエラーが表示されます。
ステップ	実行されたステップの名前。このフィールドは、クライアントログの場合は空白になることがあります。
テスト結果	このステップの結果に関連付けられたテスト結果への参照してください。 をクリックして、詳細なテスト結果情報を表示します。
説明	ステップ結果の場合は、このテスト ステップで実行されたアクション。 クライアントログの場合は、ブランク。 クライアントの場合、このメッセージは次のように表示されます。 このクライアントエラーは、ブラウザタイプブラウザバージョンのページで発生しました (Chrome 62.0.3202.62など)。
開始時間	このテスト ステップの実行が開始された時刻。
終了時間	このテスト ステップの実行が終了された時刻。
期間	このテスト ステップの実行に要した時間。
記録時間	このステップまたはログエントリが記録された時刻。
リストされたクライアントエラーを許可	許可されたクライアントエラーレコードへの参照 (存在する場合)。 をクリックして、このクライアントエラーの [許可されたクライアントエラー] レコードを表示します。

関連情報

- テスト結果レコード
- ステップ結果レコード
- テストログからクライアントエラーを許可
- 許可されたクライアントエラー

スイート結果

スイート結果モジュールは、スイート結果テーブルを開きます。

テスト結果レコードにドリルダウンして、個々のテストスイートの結果、それらのテストスイート内の個々のテスト、子テストスイート (ある場合) などの詳細を表示できます。

関連情報

- 自動テストスイートのビルドと実行

テストスイート結果レコード

テストスイート結果レコードは、1 つのテストスイートの 1 回の実行結果に関する情報を表示します。

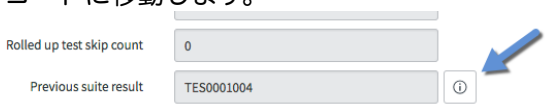
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド

フィールド/要素	説明
開始時間	(レコードリストには表示されますが、デフォルトレコードフォームには表示されません)。このテストスイートが開始された時刻。
テストスイート	実行されたテストスイート
番号	このテストスイート結果レコードの一意の ID
ベーステストスイートの結果	このテストスイートがテストスイートの階層内の子である場合、ベーステストスイート結果は、階層の最上位レベルのスイートの結果レコードの一意の ID です。詳細については、「例：ベーステストスイートの結果」を参照してください。
親	このテストスイートに親がある場合、これは親スイートのテスト結果レコードです。詳細については、「例：親テストスイートの結果」を参照してください。
ステータス	テストまたはテストスイートの実行の結果： • キャンセル済み：ユーザーがテストまたはテストスイートの実行をキャンセルしました。 • エラー ： テストフレームワークでエラーが発生しました。たとえば、テストランナーが停止したか、サーバーが意図しないシナリオに遭遇しました。エラーメッセージは、エラーを含むテストステップに対するステップ結果フォームの [サマリー] フィールドに表示されます。 • 失敗：エラーのためにテスト、テストスイート、またはテストステップが失敗しました。 • 無視：テストステップは成功しましたが、[無視] のレポートレベルで [許可されたブラウザーエラー (Allowed Browser Error)] テーブルに入力されたクライアント側の JavaScript エラーが含まれています。 • 実行中：テストまたはテストスイートが実行中です。 • スキップ済み：スイート内の以前のテストが失敗し、[失敗時に中止] が **[true]** に設定されている場合に発生します。 • 成功：テスト、テストスイート、またはテストステップの実行が成功しました。 • 成功 (警告あり)：テストまたはテストスイートの実行は成功しましたが、[警告] のレポートレベルで [許可されたブラウザーエラー (Allowed Browser Error)] テーブルに入力されたクライアント側の JavaScript エラーがあるテストステップが含まれています。 • 待機中：テストまたはスイートの実行の開始が待機されています。 • 警告：テストまたはスイートに、[警告] のレポートレベルで [許可されたブラウザーエラー (Allowed Browser Error)] テーブルに入力されたクライアント側の JavaScript エラーが含まれています。
実行時間	このテストスイートを実行するのに要した時間
無期限保存	指定されたデータ保持期間が経過した後もこのレコードを保持するためのチェックボックス。詳細については、「テーブルのクリーンアップ」を参照してください。
テスト成功合計数	成功したテストの数。ロールアップの一部としてカウントされるテストは、このスイートに含まれるすべてのテストと、このスイートの子孫であるスイートに含まれる他のすべてのテストです。詳細については、「テストスイートの結果のロールアップ数」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド (続く)

フィールド/要素	説明
テスト失敗合計数	失敗したテストの数。ロールアップの一部としてカウントされるテストは、このスイートに含まれるすべてのテストと、このスイートの子孫であるスイートに含まれる他のすべてのテストです。詳細については、「テストスイートの結果のロールアップ数」を参照してください。
テストエラー合計数	エラーとなったテストの数。ロールアップの一部としてカウントされるテストは、このスイートに含まれるすべてのテストと、このスイートの子孫であるスイートに含まれる他のすべてのテストです。詳細については、「テストスイートの結果のロールアップ数」を参照してください。
テストスキップ合計数	スキップされたテストの数。ロールアップの一部としてカウントされるテストは、このスイートに含まれるすべてのテストと、このスイートの子孫であるスイートに含まれる他のすべてのテストです。詳細については、「テストスイートの結果のロールアップ数」を参照してください。
テスト結果 (関連リスト)	このテストスイートに含まれる個々のテストの結果
子テストスイート結果 (関連リスト)	このテストスイートの子であるテストスイートの結果
すべてのテストスイートの結果 (関連リスト)	このテストスイートとすべての子孫テストスイートの結果
スイート内の失敗したテスト (関連リスト)	このテストスイートに含まれる、失敗したテストの結果
前回のスイートの結果	このスイート結果が、失敗したテストの再実行用で、atf_test_admin、atf_test_designer、または admin ロールでログオンしている場合にのみ表示されます。情報アイコンをクリックすると、「元」のスイート結果レコードに移動します。 

関連情報

テスト結果

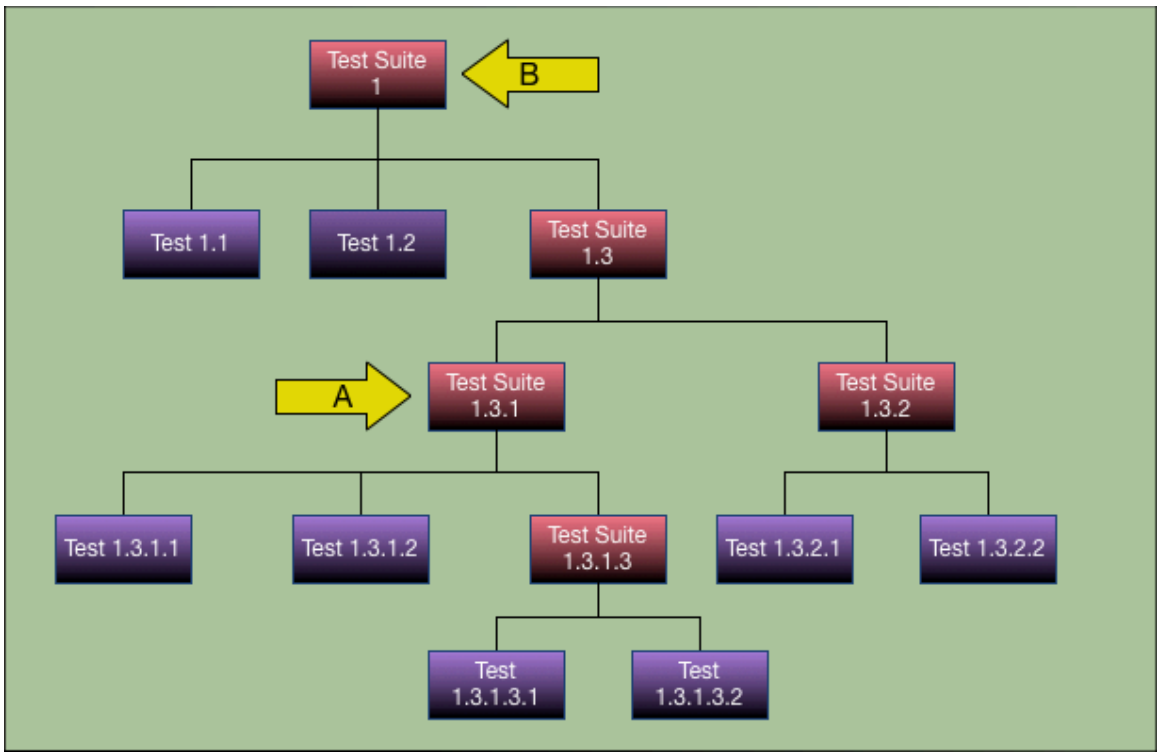
テストスイート結果の例

関係用語の例と、集計結果がテストスイート用にロールアップする仕組みです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例：ベーステストスイートの結果

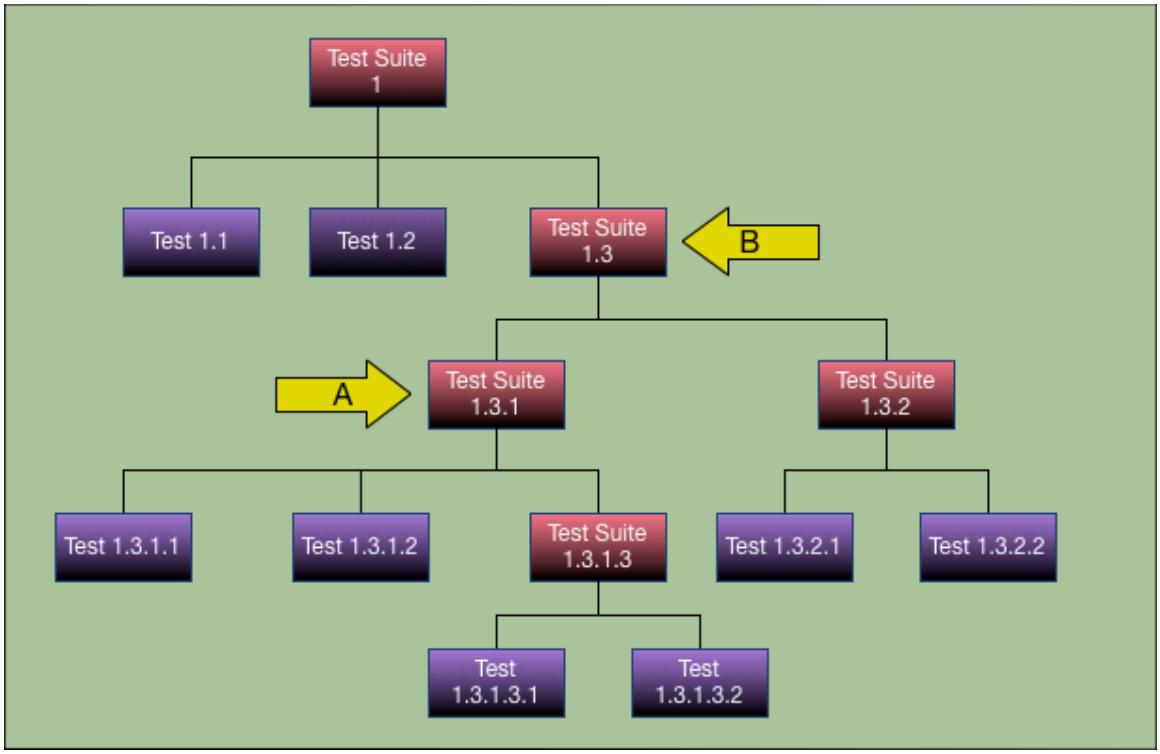
ベーステストスイートとは、階層内のトップレベルのテストスイートです。たとえば、(A) Test Suite 1.3.1のテストスイート結果レコードを表示している場合、ベーステストスイート結果フィールドは (B) Test Suite 1のテストスイート結果レコードにリンクします。



例：親テストスイートの結果

親テストスイートとは、現在表示しているテストスイートのすぐ上のテストスイートです。たとえば、(A) Test Suite 1.3.1のテストスイート結果レコードを表示している場合、親フィールドは (B) Test Suite 1.3のテストスイート結果レコードにリンクします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



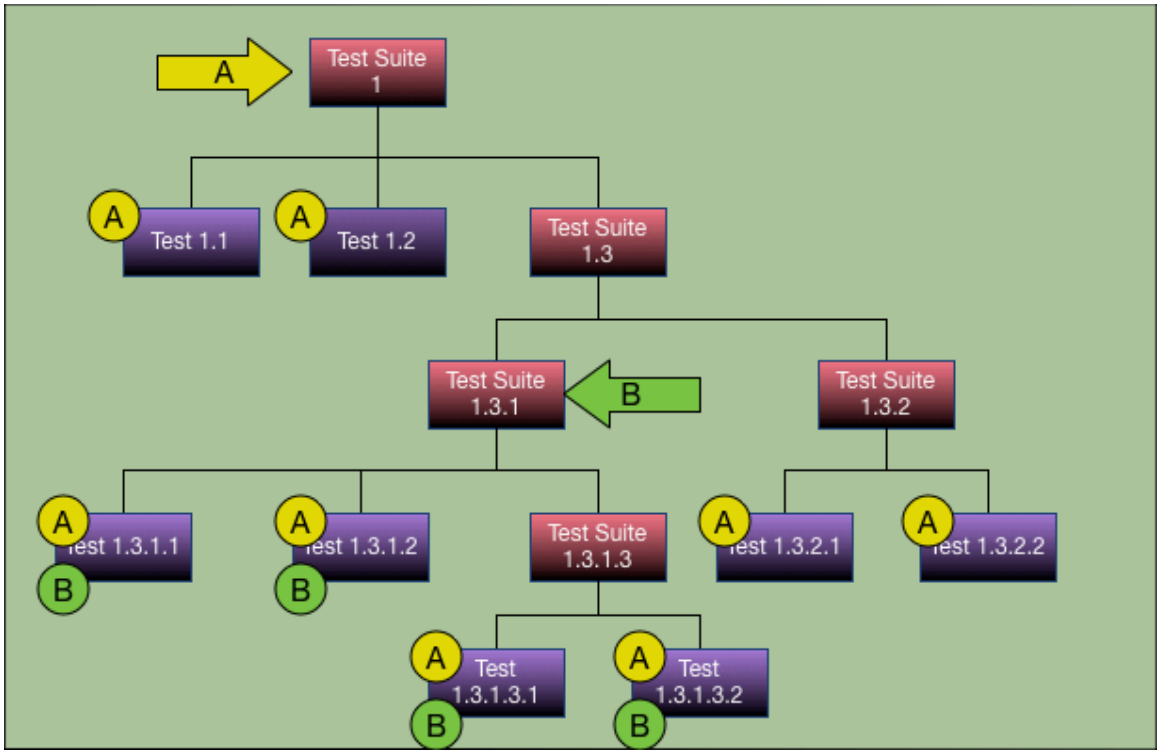
テストスイートの結果のロールアップ数

テスト成功、失敗、エラー、およびスキップの 4 つのメトリクスについて、テストスイートのロールアップ数を表示できます。これらのそれぞれは、テストスイート内のすべてのテストのデータと、テストスイートの子孫のすべてのテストの合計データです。

たとえば、(A)Test Suite 1.3.1 のテストスイート結果レコードを表示している場合は、テスト成功合計数フィールドは、 A のラベルの付いたボックスで表されるすべてのテストの結果を数える成功回数の合計を示します。

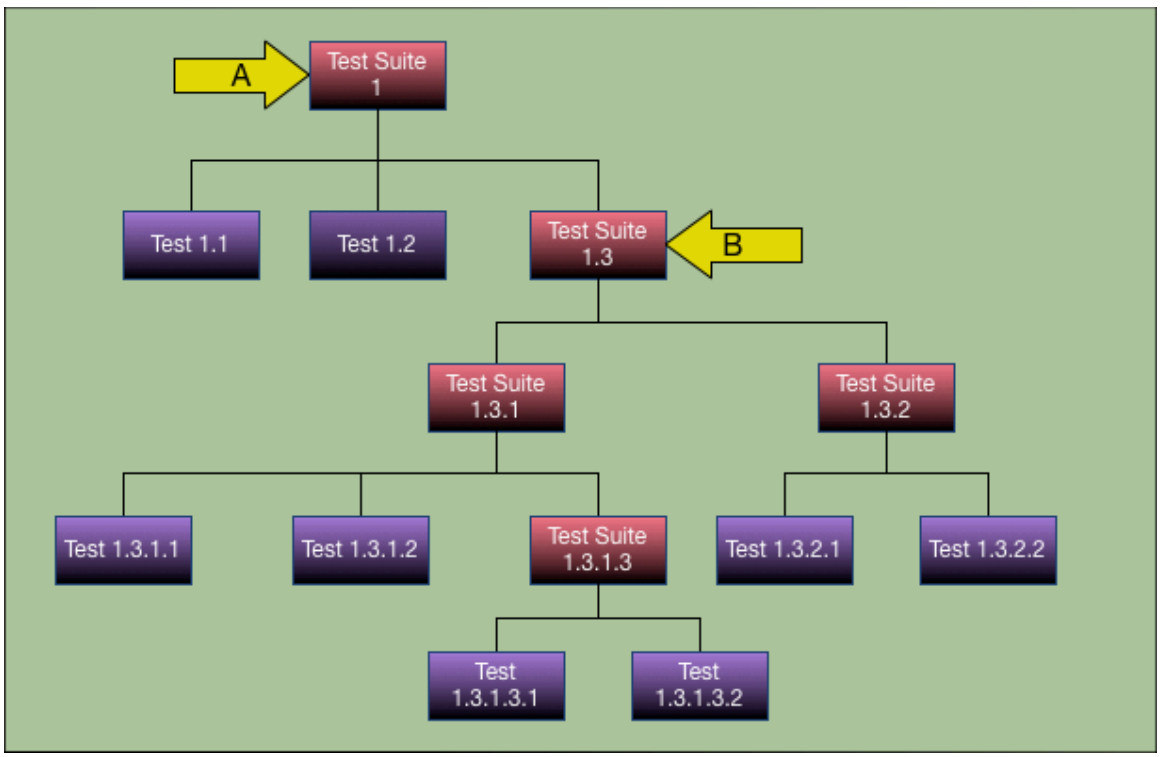
(B) Test Suite 1.3.1 のテストスイート結果レコードを表示している場合は、テスト成功合計数フィールドは、 B のラベルの付いたボックスで表されるすべてのテストの結果を数える成功回数の合計を示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



子テストスイート結果

(A) Test Suite 1のテストスイート結果レコードを表示している場合は、子テストスイート結果関連するリストには、Test Suite 1.3 (B) の結果レコードが表示されます。

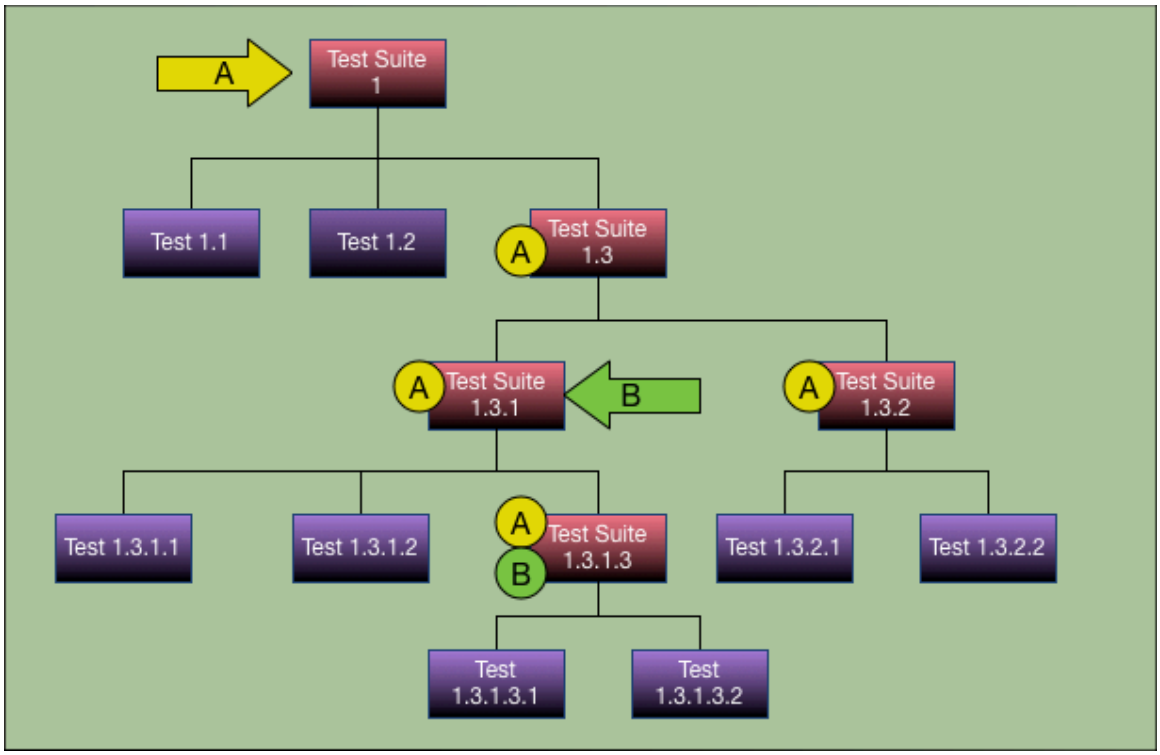


すべてのテストスイート結果

(A) Test Suite 1 のテストスイート結果レコードを表示している場合は、すべてのテストスイート結果関連するリストには、A というラベルのボックで示されるすべてのテストスイートの結果レコードが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

(B) Test Suite 1.3 のテストスイート結果レコードを表示している場合は、すべてのテストスイート結果関連するリストには、(B というスラベルのボックで示される) Test Suite 1.3.1 のみの結果レコードが表示されます。



スイートスケジュール

スイートスケジュールテーブルを開きます。ドリルダウンして個々のスケジュールの結果に関する詳細を表示したり、新しいスケジュールを作成したりできます。

関連情報

自動テストスイートのビルドと実行

スイートスケジュールレコード

スイート結果レコードには、1 つのテストスイートスケジュールに関する情報が表示されます。

フィールド

フィールド/要素	説明
名前	このテストスイートスケジュールの名前
説明	このテストスイートスケジュールの説明
アクティブ	このスケジュールがアクティブな場合、**true**です。そうでない場合は**false**。
アプリケーション	このテストスイートスケジュールのアプリケーションスコープ。
実行	システムがこのスケジュールに属するテストスイートを実行する頻度
実行時のタイムゾーン	時間フィールドに使用されるタイムゾーン
時刻	システムがこのスケジュールに属するテストスイートを実行する時刻
日	実行が に設定されている場合、システムがこのスケジュールに属するテスト スイートを実行する曜日。 が に設定されている場合は、日付。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド (続く)

フィールド/要素	説明
繰り返し間隔	[実行] が [定期的] に設定されている場合、このスケジュールで実行するスイートの繰り返し間隔を構成する日数と時間数。
条件付き	スクリプトがこのスケジュールでテストスイートを実行する条件を定義するには、このチェックボックスをオンにします。
条件	条件節がチェックされている場合、このスケジュールでシステムがテストスイートを実行する条件を決定するために実行されるスクリプト
スケジュール済みのスイートの実行 (関連リスト)	このスケジュールでシステムが実行するテストスイート。

関連情報

自動テストスイートのスケジュール

スケジュール済みのスイート実行レコード

スケジュール済みのスイート実行レコードは、スイートスケジュールレコードをテストスイートに関連付けます。

フィールド

フィールド/要素	説明
スケジュール	使用するスケジュール
テストスイート	実行するテストスイート
アプリケーション	このスケジュール済みのスイート実行のアプリケーションスコープ
ウォッチリスト	このスケジュール済みのスイートの実行が完了したときにシステムが通知するユーザー
ブラウザ名	テストスイートに UI コンポーネントが含まれている場合、使用する必要のあるブラウザ。このブラウザでクライアントテスト ランナーが利用できない場合、システムはスイートを実行しません。
次で始まるブラウザバージョン	テストスイートに UI コンポーネントが含まれている場合、クライアントテストランナーのブラウザのバージョンは、この文字列で始まる必要があります。このブラウザのバージョンでクライアントテスト ランナーが利用できない場合、システムはスイートを実行しません。
OS 名	テストスイートに UI コンポーネントが含まれている場合、クライアントテストランナーはこの OS で実行する必要があります。この OS でクライアントテストランナーが利用できない場合、システムはスイートを実行しません。
次で始まる OS バージョン	テストスイートに UI コンポーネントが含まれている場合、クライアントテスト ランナーの OS のバージョンは、この文字列で始まる必要があります。この OS バージョンでクライアントテスト ランナーが利用できない場合、システムはスイートを実行しません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド (続く)

フィールド/要素	説明
テストスイートの結果 (関連リスト)	このスケジュール済みの実行からのすべてのテストスイート結果

使用するブラウザーのブラウザー名とバージョンを特定するには、スケジュール済みのテストランナーをそのブラウザーで起動し、アクティブなスケジュール済みのテストランナーモジュール内のランナーのレコードを調べます。

関連情報

自動テストスイートのスケジュール

実行

クライアントテスト ランナーを開始し、テスト ランナーとテスト実行に関する情報を表示します。

テストランナーの操作方法については、「クライアントテストランナーでの作業」を参照してください。

クライアントテストランナー

クライアントテスト ランナーは、手動で開始されたクライアント自動テストを実行するためのブラウザーウィンドウまたはタブを開きます。

クライアントテスト ランナーを手動テスト ランナーまたはスケジュール済みのクライアントテストランナーのいずれかに切り替えることができます。テストスイートのスケジュールの詳細については、「自動テストスイートのスケジュール」を参照してください。

クライアントランナーテストウィンドウのフィールド

フィールド/ UI 要素	説明
フォーム設定アイコン( )	クリックすると、フォーム設定パネルが表示されます。
フォーム設定パネル：スクリーンショットモード	次から選択： • すべてのステップで有効にする • 失敗したステップで有効にする • すべてのステップで無効にする 詳細については次を参照してください。 システムプロパティを設定して、自動テストフレームワーク (ATF) がスクリーンショットをキャプチャするタイミングを制御する
フォーム設定パネル：スケジュール済みのテストのみを実行する	クリックすると次のように切り替わります： • オン (緑色)：このクライアントテストランナーを使用して、スケジュール済みのテストおよびスイートのみを実行します。 • オフ (グレー)：このクライアントテストランナーを使用して、手動で開始したテストおよびスイートのみを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュール済みのクライアントテスト ランナー

スケジュール済みのクライアントテスト実行は、スケジュール済みのクライアント自動テストを実行するためのブラウザウィンドウを開きます。

自動テストのスケジュール設定の詳細については、「自動テストスイートのスケジュール」および「スケジュール済みのテストスイートの操作」を参照してください。クライアントテスト ランナーを手動テスト ランナーまたはスケジュール済みのクライアントテスト ランナーのいずれかに切り替えることができます。

クライアントランナーテストウィンドウのフィールド

フィールド/ UI 要素	説明
フォーム設定アイコン( )	クリックすると、フォーム設定パネルが表示されます。
フォーム設定パネル：スクリーンショットモード	次から選択： • すべてのステップで有効にする • 失敗したステップで有効にする • すべてのステップで無効にする 詳細については次を参照してください。 システムプロパティを設定して、自動テストフレームワーク (ATF) がスクリーンショットをキャプチャするタイミングを制御する
フォーム設定パネル：スケジュール済みのテストのみを実行する	クリックすると次のように切り替わります： • オン (緑色)：このクライアントテストランナーを使用して、スケジュール済みのテストおよびスイートのみを実行します。 • オフ (グレー)：このクライアントテストランナーを使用して、手動で開始したテストおよびスイートのみを実行します。

アクティブ手動テストランナー

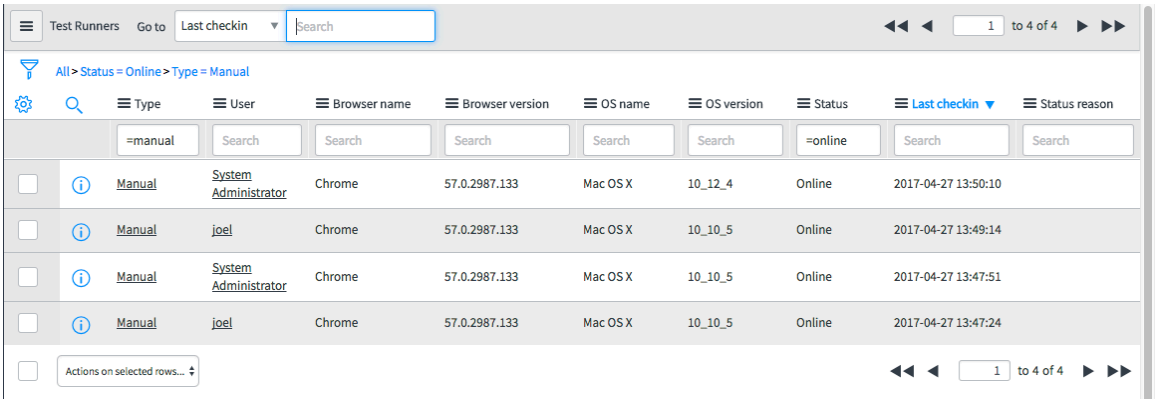
手動で開始したテストを実行できるランナーのみを表示するようにフィルターされたクライアントテスト ランナーテーブルを表示します。

手動クライアントテスト ランナーを起動すると、そのランナーはテスト ランナーテーブルに active として登録されます。

このテーブルのデータは一時的です。ランナーは、アクティブである間、指定された間隔でシステムにレポートします。ランナーが予定時刻にレポートしない場合、システムはそのランナーを非アクティブとしてマークします。しばらくすると、ランナーは削除されます。[自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティ] ページでこれらの間隔を変更できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティブ手動クライアントランナーテスト テーブルの例



クライアントランナーテスト テーブルのフィールド

フィールド/ UI 要素	説明
タイプ	このテスト ランナーが手動テスト用かスケジュール済みのテスト用かを示します。アクティブ手動テスト ランナーモジュールでは、タイプは常にマニュアルです。
ユーザー	ブラウザセッションにログインしたユーザー。
ブラウザ名	ブラウザ名。
ブラウザバージョン	ブラウザバージョン。
OS 名	ブラウザを実行しているオペレーティングシステムの名前。
OS バージョン	ブラウザーを実行しているオペレーティングシステムのバージョン。
ステータス	このランナーが現在オンラインかオフラインか。アクティブ手動テストランナーモジュールでは、ステータスは常にオンラインです。
前回のチェックイン	このランナーがシステムに最後に報告した日時。
ステータスの理由	ステータスがオフラインの場合は、その理由を示します。アクティブ手動テストランナーモジュールでは、[ステータスの理由] は常に空です。

スケジュール済みのアクティブテストランナー

スケジュールにより開始されるテストを実行できるランナーのみを表示するようにフィルターされたクライアントテスト ランナーテーブルを表示します。

スケジュール済みのクライアントテスト ランナーを起動すると、そのランナーがアクティブテスト ランナーテーブルに登録されます。

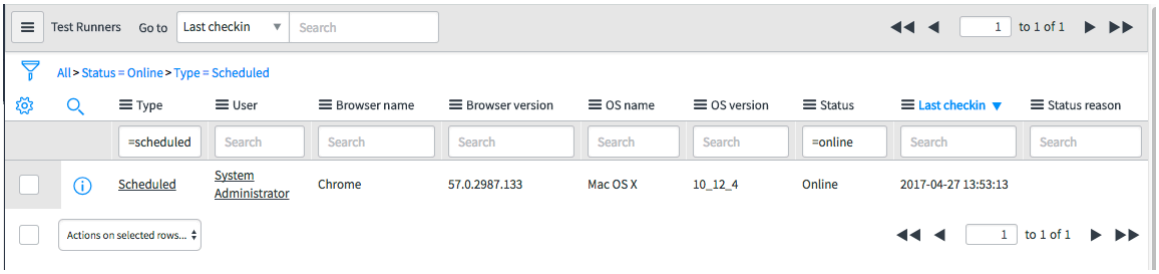
アクティブでスケジュールされたテスト ランナーモジュールは、スケジュールあれたスイートの実行を作成するときに便利です。スケジュールされたスイートの実行では、使用するブラウザを指定できます。使用するブラウザの名前とバージョンを決定するには、スケジュール済みのテスト ランナーをそのブラウザで開始し、次にスケジュール済みのアクティブテスト ランナーモジュール内のそのランナーのレコードを調べます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このテーブルのデータは一時的です。 ランナーは、アクティブである間、指定された間隔でシステムにレポートします。ランナーが予定時刻にレポートしない場合、システムはそのランナーを非アクティブとしてマークします。しばらくすると、ランナーは削除されます。

自動テストフレームワーク (ATF) のプロパティページで、これらの間隔を変更できます。

スケジュール済みのクライアントランナーテスト テーブルの例



クライアントランナーテスト テーブルのフィールド

フィールド/ UI 要素	説明
タイプ	このテスト ランナーが手動テスト用かスケジュール済みのテスト用かを示します。スケジュール済みのアクティブテスト ランナーモジュールでは、タイプは常にスケジュール済みです。
ユーザー	ブラウザセッションにログインしたユーザー。
ブラウザ名	ブラウザ名。
ブラウザバージョン	ブラウザバージョン。
OS 名	ブラウザを実行しているオペレーティングシステムの名前。
OS バージョン	ブラウザーを実行しているオペレーティングシステムのバージョン。
ステータス	このランナーが現在オンラインかオフラインか。アクティブ手動テスト ランナーモジュールでは、ステータスは常にオンラインです。
前回のチェックイン	このランナーがシステムに最後に報告した日時。
ステータスの理由	ステータスがオフラインの場合は、その理由を示します。スケジュール済みのアクティブテストランナーモジュールでは、[ステータスの理由] は常に空です。

待機中/実行中のテスト実行

待機中/実行中のテスト実行モジュールは、実行待ちのテストを示すレコードリストを開きます。

注: 競合を防ぐために、システムでは一度に 1 つのテストのみを実行できます。これは、複数のクライアントテストランナーウィンドウが開かれている場合でも同様です。別のテストが既に実行されているときに実行するテストを送信すると、システムは後で実行するために新しいテストをキューに保持します。テストが 10 分以上キューに残っている場合、システムはテストをキャンセルします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

待機中の自動テストの実行をキャンセルできます。

待機中/実行中のスイート実行

待機中/実行中のスイート実行モジュールは、実行を待機しているテストスイートを示すレコードリストを開きます。

許可されたクライアントエラーレコード

既存の許可されたクライアントエラー [sys_atf_whitelist] レコードリストを確認して、どのクライアントエラーが警告を生成し、どのクライアントエラーが無視されているかを確認します。必要に応じて既存の許可されたクライアントエラーレコードを変更するか、新しいレコードを作成します。

[許可されたクライアントエラー] フォーム

フィールド	説明
レポートレベル	クライアントエラーが発生した場合に実行するレポートアクション。次のオプションが含まれます。 • 警告 - ステップおよびテストが成功 (警告あり) を報告します。：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功（警告あり）] でレポートします。エラーメッセージがテスト結果出力に表示され、ステータスが [警告] でテストログに記録されます。 • 無視 - ステップおよびテストの成功を報告します。：許可されたクライアントエラーを含むテストステップは、ステータスを [成功] でレポートします。エラーは [無視] ステータスでテストログに記録されます。
アクティブ	クライアントエラーの許可を有効または無効にするチェックボックス。
エラーメッセージ	許可するクライアントエラーのメッセージ。
説明	許可するエラーの説明。このクライアントエラーがテスト結果、ステップ結果、またはテストログから許可された場合、テストログの説明がこのフィールドにコピーされます。

関連情報

許可されたクライアントエラー

報告されたクライアントエラー

報告されたクライアントエラーモジュールには、クライアントエラーであり失敗したすべてのテストのテストログが一覧表示されます。個々のテストログレコードを確認し、必要に応じて、許可されたクライアントエラーが今後のテスト実行に悪影響を与えないようにすることができます。

フィールド	説明
開始時間	このテスト ステップの実行が開始された時刻。
ステップ	実行されたステップの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ステータス	テストログの結果： 失敗：テストステップ実行に失敗しました。
出力	テストログ用に生成された出力。クライアントエラーの場合、実際のクライアントエラーが表示されます。
期間	このテスト ステップの実行に要した時間。
タイプ	テストログのタイプ： クライアントエラー **注:** オプションでクライアントエラーを [許可されたクライアントエラー] で無視または警告エントリとして追加できます。こうすることで、許可されたクライアントエラーが今後のテスト実行で再発した際に、ATF テストの実行に影響を与えなくなります。詳細については、許可されたクライアントエラーを参照してください。
記録時間	このステップまたはログエントリが記録された時刻。

関連情報

許可されたクライアントエラー

クライアントエラーを手動で許可

クライアントエラーの特定と解決

自動テストフレームワーク **(ATF)** ロール

自動テストフレームワーク (ATF) はこれらのロールに併せてインストールされます。

ATF テストアドミニストレーター [atf_test_admin]

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「 サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理 」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

自動テストフレームワーク (ATF) プロパティを作成または編集します。次の権限があります：

- テストページの表示
- テストの作成/編集/削除
- テスト ステップの作成/編集/削除
- ステップ設定ページの表示
- テスト ランナーページの表示
- テストスイートの結果、テスト結果、結果アイテムのページの表示
- ユーザーテストの実行
- テストスイートの表示、作成、編集、削除、実行
- ステップ設定レコードの作成/編集
- 自動テストフレームワーク (ATF) プロパティの作成/編集

含まれるロール

ロール内に含まれるロールのリスト。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- impersonator
- personalize_dictionary

グループ

このロールがデフォルトでアサインされているグループのリスト。

なし

昇格

ロールが昇格されたロールかどうか。昇格されたロールはユーザーまたはグループにアサインされず、昇格で使用する必要があります。詳細については、「特権ロールへの昇格」を参照してください。

いいえ。

特別な考慮事項

なし。

ATF テストデザイナー [atf_test_designer]

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「 サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

自動テストフレームワークのプロパティを表示するだけです (プロパティの作成および編集はできません)。次の権限があります：

- テストページの表示
- テストの作成/編集/削除
- テスト ステップの作成/編集/削除
- ステップ設定ページの表示
- テスト ランナーページの表示
- テストスイートの結果、テスト結果、結果アイテムのページの表示
- ユーザーテストの実行
- テストスイートの表示、作成、編集、削除、実行
- 自動テストフレームワーク (ATF) プロパティの表示

含まれるロール

ロール内に含まれるロールのリスト。

impersonator

グループ

このロールがデフォルトでアサインされているグループのリスト。

なし

サブスクリプション

このロールが、このロールを持つユーザーをサブスクリプションに割り当てる必要がある課金可能ユーザーロールかどうか。

昇格

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールが昇格されたロールかどうか。昇格されたロールはユーザーまたはグループにアサインされず、昇格で使用する必要があります。詳細については、「特権ロールへの昇格」を参照してください。

いいえ。

特別な考慮事項

なし。

ATF ワークスペースデザイナー [atf_ws_designer]

ユーザーごとのサブスクリプション管理の詳細については、「 サブスクリプション管理 でのユーザーごとのサブスクリプションの管理」を参照し、アカウント担当者にお問い合わせください。

認証を必要とする REST エンドポイントに必要なベーシック認証または相互認証を表示または設定します。

含まれるロール

ロール内に含まれるロールのリスト。

- atf_test_designer
- web_service_admin

グループ

このロールがデフォルトでアサインされているグループのリスト。

なし

サブスクリプション

このロールが、このロールを持つユーザーをサブスクリプションに割り当てる必要がある課金可能ユーザーロールかどうか。

いいえ。

昇格

ロールが昇格されたロールかどうか。昇格されたロールはユーザーまたはグループにアサインされず、昇格で使用する必要があります。詳細については、「特権ロールへの昇格」を参照してください。

いいえ。

特別な考慮事項

なし。

管理

管理モジュールには、自動テストフレームワーク (ATF) を設定および管理するためのフォームが含まれています。

プロパティ

[プロパティ] フォームでは、自動テストおよびテストスイートの実行方法をコントロールするパラメーターを設定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テストおよびテストスイートプロパティ

フィールド/要素	説明
テスト/テストスイートの実行を有効にする *sn_atf.runner.enabled*	オンにすると、このインスタンスでテストおよびテストスイートを実行できます。この設定は、ユーザーが本番インスタンスで意図せずにテストを実行しないように、デフォルトではオフになっています。
スケジュール済みのテストスイートの実行を有効にする。 sn_atf.schedule.enabled	オンにすると、このインスタンスのテストスイートをスケジュールできます。

テストデバッグプロパティ

フィールド/要素	説明
追加のデバック機能を有効にする *sn_atf.debug*	クライアントテスト ランナー UI ページへのデバッグタブの追加、UI テスト結果 JSON のテスト結果レコードへの保存をはじめとする、追加のデバッグ機能を有効にします。

スクリーンショットプロパティ

フィールド/要素	説明
テストの実行中にスクリーンショットキャプチャを有効または無効にします。 *sn_atf.screenshots.mode* **注:** 詳細については次を参照してください。 システムプロパティを設定して、自動テストフレームワーク (ATF) がスクリーンショットをキャプチャするタイミングを制御する	• すべてのステップのスクリーンショットを作成するには、すべてのステップで有効を選択します。 • 失敗したステップだけのスクリーンショットをキャプチャするには、すべての失敗したステップで有効にするを選択します。 • スクリーンショットを取り入れない場合は、すべてのステップで無効を選択します。
GlideScreenshot 機能を有効にする *sn_atf.screenshots.use_glide_screenshot*	ワークスペースやその他のインターフェイスのスクリーンショットの精度を向上させます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリーンショットプロパティ (続く)

フィールド/要素	説明
	注: IE と Safari はこのプロパティをサポートしていません。 このプロパティが無効になっている場合、または現在のブラウザーでサポートされていない場合は、html2canvas を使用してスクリーンショットを取得します。 新しいリリースバージョンにアップグレードする場合、このプロパティはデフォルトで false に設定されます。
スクリーンショットを撮るときにページ全体のキャプチャを有効にする *sn_atf.screenshots.capture_full_page*	スクリーンショットを撮るときに、テストフレームの動的なサイズ変更とページ全体のキャプチャを有効にします。 **注:** デフォルトでは、このプロパティは false に設定されています。テストの実行時間が大幅に延びる可能性があるためです。 このプロパティを無効にすると、テストフレームに表示されているページの部分のみがキャプチャされます。
スクリーンショットのタイムアウト *sn_atf.atf_test_runner.screenshot_timeout*	この値 (秒) を超えると、クライアントテスト ランナーでのスクリーンショットのキャプチャがスキップされます。この値を増やす前に、影響を受けるクライアントシステムのパフォーマンス設定とブラウザのキャッシュを確認してください
スクリーンショット高さのピクセル数 *sn_atf.atf_test_runner.testframe.min_height*	スクリーンショットの高さを表す数値 (ピクセル数)。 デフォルト値：600
スクリーンショット幅のピクセル数 *sn_atf.atf_test_runner.testframe.min_width*	スクリーンショットの幅を表す数値 (ピクセル数)。 デフォルト値：800

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタム UI ページのデータキャプチャプロパティ

フィールド/要素	説明
カスタム UI の手順でテストできるようにし、実行ごとにページデータをキャプチャします。 *sn_atf.page_data_capture.enabled*	true の場合、カスタム UI テストの手順は、テストが実行されるたびにページデータを取得します。常に最新のページバージョンでテストを実行するようにカスタム UI ページを開発しているときは、このプロパティを true に設定します。 false の場合、テスト設計者がテスト設計中に [コンポーネントの取得] を手動で選択しない限り、カスタム UI テストの手順はページデータを取得しません。より迅速なテスト実行を可能にする UI 開発が完了したら、このプロパティを false に設定してください。

テスト ランナープロパティ

フィールド/要素	説明
テストランナータイムアウト *sn_atf.runner.heartbeat.timeout*	この期間 (秒単位) 内にテストランナーからのハートビートがない場合、ステータスはオンラインからオフラインに変更されます。このプロパティの値は 120 ～ 1800 でなければなりません。 デフォルト値：120
テスト ランナーのハートビート間隔 *sn_atf.runner.heartbeat.interval*	テストランナーからサーバーにハートビートを送信する時間間隔 (秒)
オフラインテスト ランナー保持期間 *sn_atf.runner.offline_retention.timeout*	オフラインテスト ランナーがこの日数の間システムと通信しなかった場合、そのテストランナーは削除されます。

テストスイートレポートプロパティ

フィールド/要素	説明
テストスイートレポートプロパティ *sn_atf.schedule.reports.suite.aging_threshold*	テストスイートエイジングレポートで表示するテストスイートの結果の数

メールプロパティ

フィールド/要素	説明
スケジュール済みのスイート結果の電子メールに表示される結果のブール値 *sn_atf.schedule.suite_result_email.only_show_failed_results*	true の場合、スケジュール済みのスイートテスト結果の電子メールは、失敗した結

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メールプロパティ (続く)

フィールド/要素	説明
	果のみを表示します。false の場合、すべての結果が表示されます。
スケジュールされたスイートの結果メールに表示される、テスト結果の最大数です。 *sn_atf.schedule.suite_result_email.max_test_history*	スケジュールされたスイートの結果メールに表示される、テスト結果の最大数です。
スイートの結果メールで結果を印刷する最大深度 *sn_atf.schedule.suite_result_email.max_depth*	スイートの結果メールで結果を印刷する最大深度
スケジュール済みスイートの結果メールで不合格だった ATF テストを示す色 *sn_atf.schedule.suite_result_email.fail_color*	スケジュール済みスイートの結果メールで不合格だった ATF テストを示す 16 進コード
スケジュール済みスイートの結果メールでエラーだった ATF テストを示す色 *sn_atf.schedule.suite_result_email.error_color*	スケジュール済みスイートの結果メールでエラーだった ATF テストを示す 16 進コード
スケジュール済みスイートの結果メールで合格した ATF テストを示す色 *sn_atf.schedule.suite_result_email.pass_color*	スケジュール済みスイートの結果メールで合格した ATF テストを示す 16 進コード
スケジュール済みスイートの結果メールでスキップされた ATF テストを示す色 *sn_atf.schedule.suite_result_email.skip_color*	スケジュール済みスイートの結果メールでスキップされた ATF テストを示す 16 進コード
スケジュール済みスイートの結果メールでキャンセルされた ATF テストを示す色 *sn_atf.schedule.suite_result_email.cancel_color*	スケジュール済みスイートの結果メールで、ATF テストがキャンセルされたことを示す色の 16 進コード

ステップ構成

ステップ設定レコードは、各タイプのステップのふるまいを定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動テストフレームワーク (ATF) ステップ構成レコード

ステップ設定レコードは、このタイプのテストステップがどのようにふるまうかをコントロールします。

フィールド

フィールド/要素	説明
名前	このテストステップ設定の名前。
アクティブ	このステップ設定がアクティブな場合 **True**です。そうでない場合は **false**。
ステップ環境	この設定でステップを実行できるステップ環境
カテゴリ	この設定でステップに割り当てられたカテゴリ
アプリケーション	この設定でシステムがステップを実行するアプリケーションスコープ
バッチ順序の制約	この設定のステップがテストに現れることができる場所に関する制約 • [なし]：この構成に基づくステップはテストの任意の場所に現れることがあります。 • [一括実行を開始]：テストにこの設定に基づくステップが含まれている場合は、テストの最初のステップでなければなりません。 • [実行中に実行する]：テストにこの設定に基づくステップが含まれている場合は、最初または最後のステップにすることはできません。 • [実行を停止する]：テストにこの設定に基づくステップが含まれている場合は、テストの最後のステップでなければなりません。
クラスタータイプ	カスタム ステップ設定では、このフィールドは常にスクリプトです。
順番	この設定のステップが [テスト ステップを追加] ダイアログのステップリストに表示される場所を指定する整数。詳細は、「順序フィールドの使用例」を参照してください。
テンプレートリマインダー	この設定のステップがテンプレートの一部としてテストに含まれる場合に表示される指示。詳細は、「テンプレートリマインダーフィールドの使用例」を参照してください。
HTML の説明	ダイアログで、この設定のステップをカーソルが強調表示したときに表示されるテキスト。詳細は、「HTML の説明フィールドの使用例」を参照してください。
説明生成スクリプト	テストに含まれるステップを記述するテキストを生成します。詳細については、「説明生成スクリプトの使用例」を参照してください。
ステップ実行スクリプト	この設定でステップが実行されたときに実行されるスクリプト (javascript)。
入力変数関連リスト	この設定のステップで、入力として機能する変数。
出力変数関連リスト	この構成のステップで、出力として機能する変数。

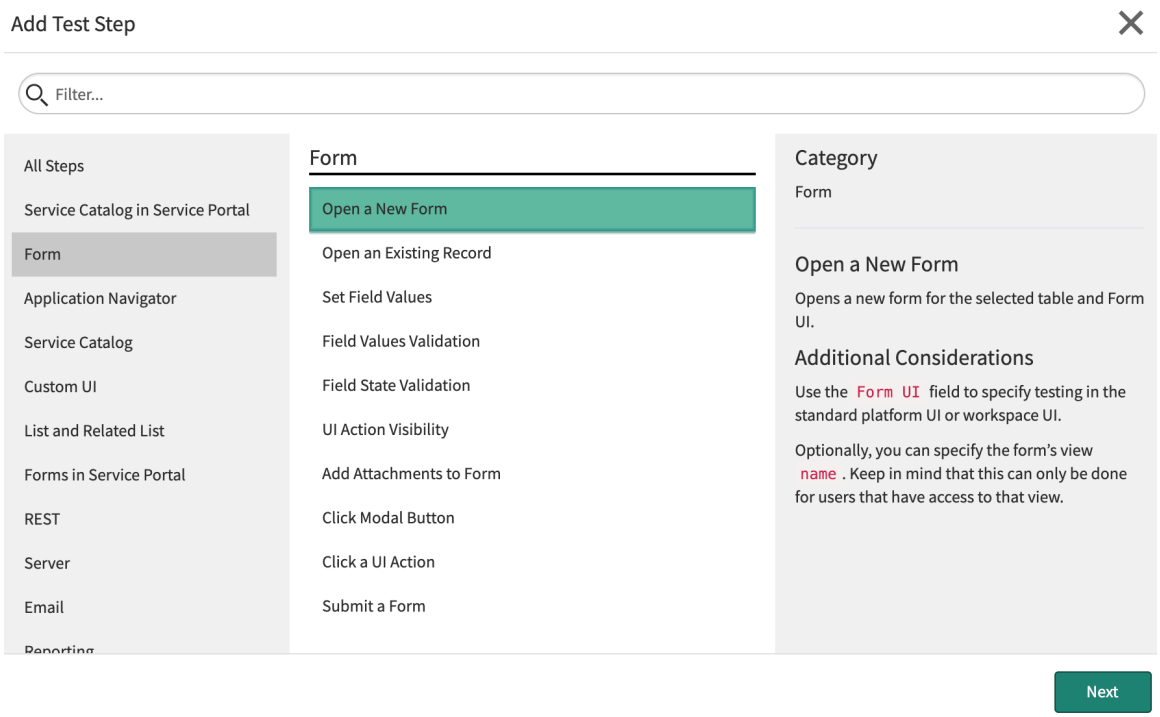
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステップ構成フィールド値の例

ステップ設定フィールドの一部に割り当てられた値が表示される例です。

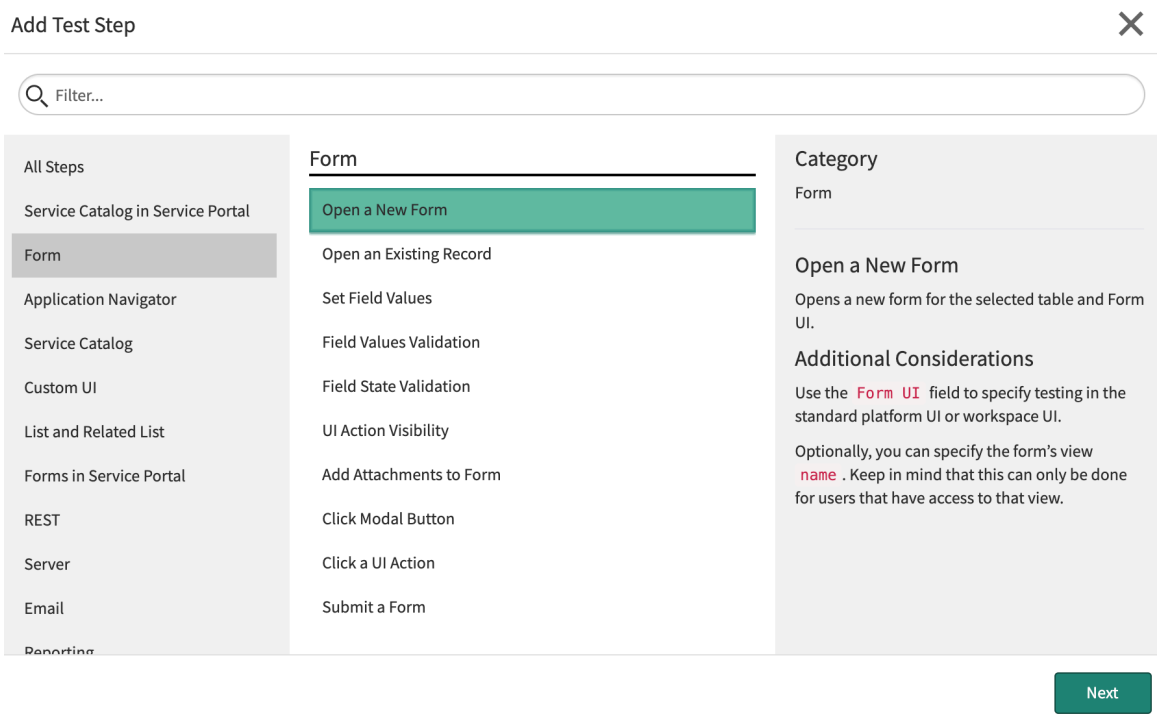
順番フィールドの例

中央の列のステップは、順番フィールドの値に従ってソートされます。



カテゴリフィールドの例

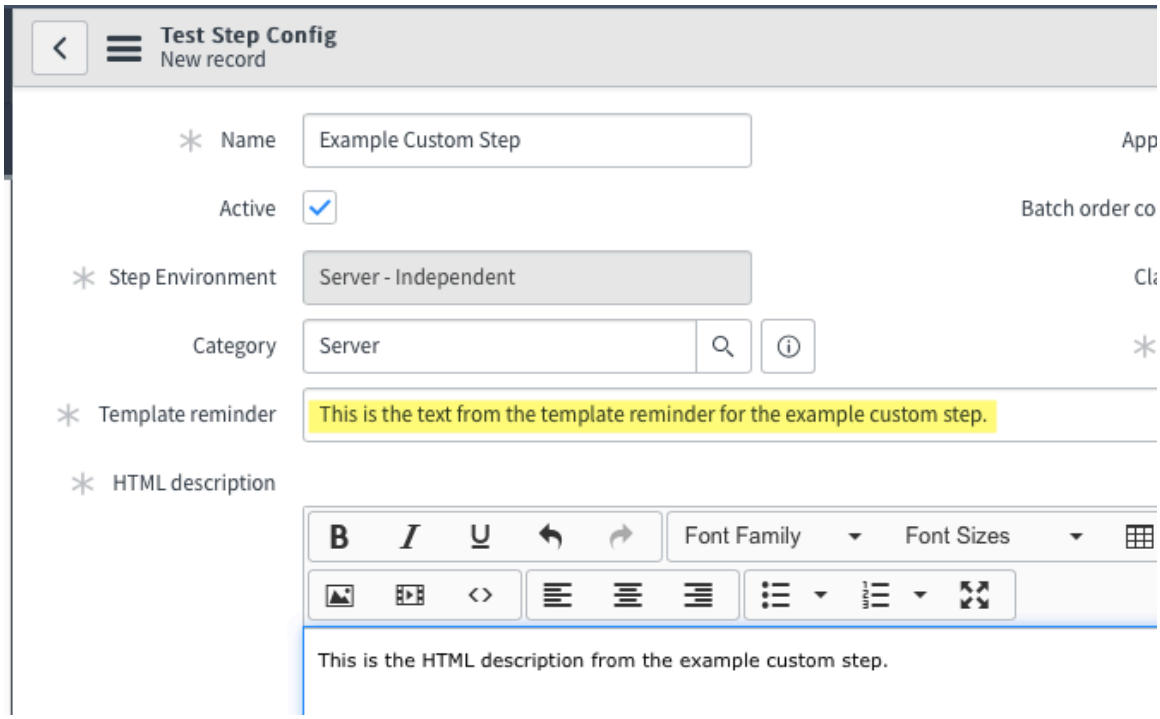
左側の列のラベルには、使用可能なステップのカテゴリが表示されています。左側の列でカテゴリを選択すると、中央の列のリストをフィルタリングできます。



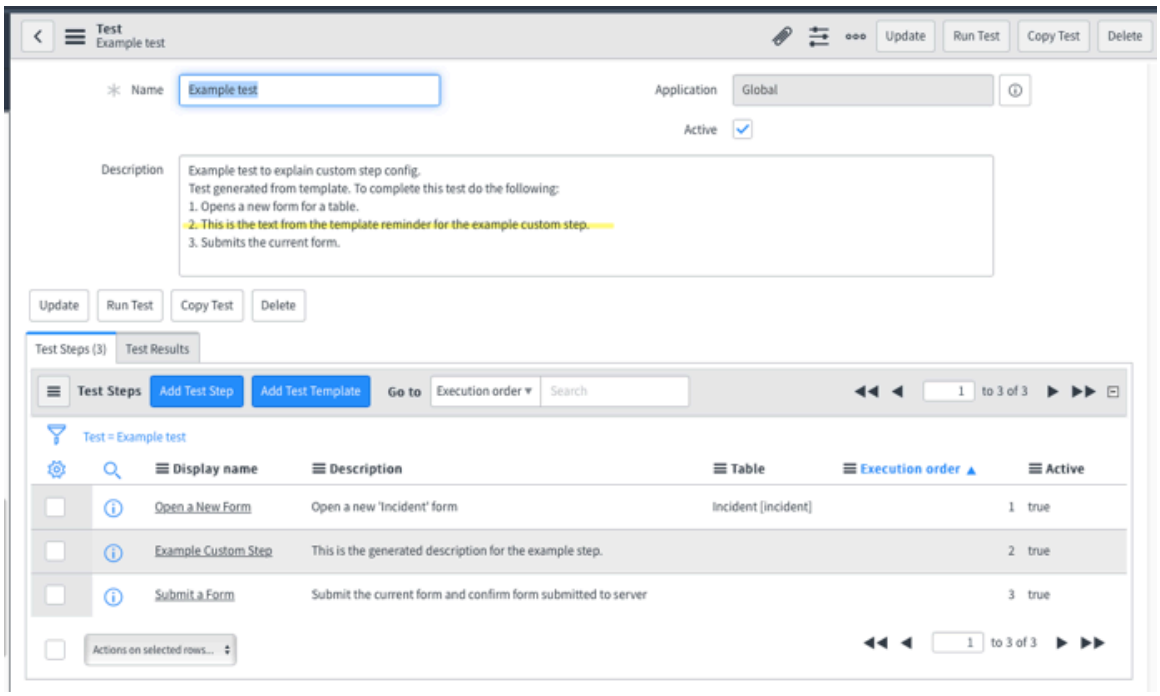
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレートリマインダーの例

ここには、カスタム ステップの例のテスト ステップ設定の新しいレコードフォームの一部があります。



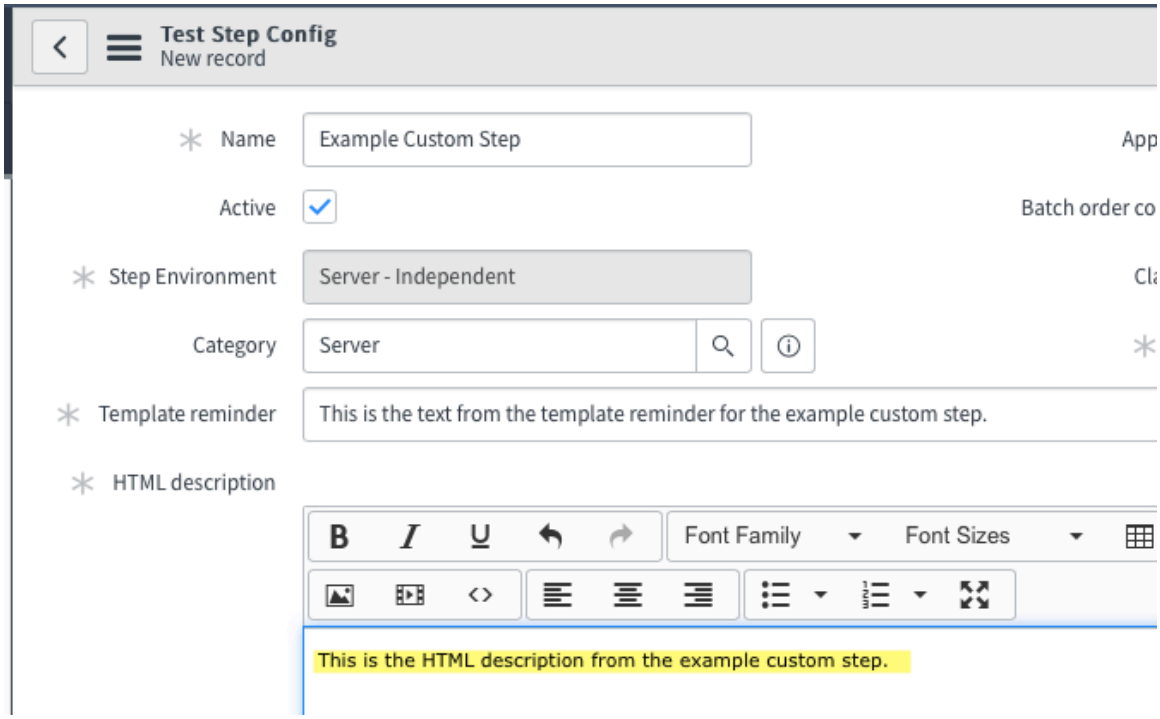
テストにテンプレートを追加すると、テンプレートステップを完了するための一連の指示が生成され、テストの説明フィールドに保存されます。ステップ設定のテンプレートリマインダーフィールドのテキストは、対応するステップの指示として表示されます。



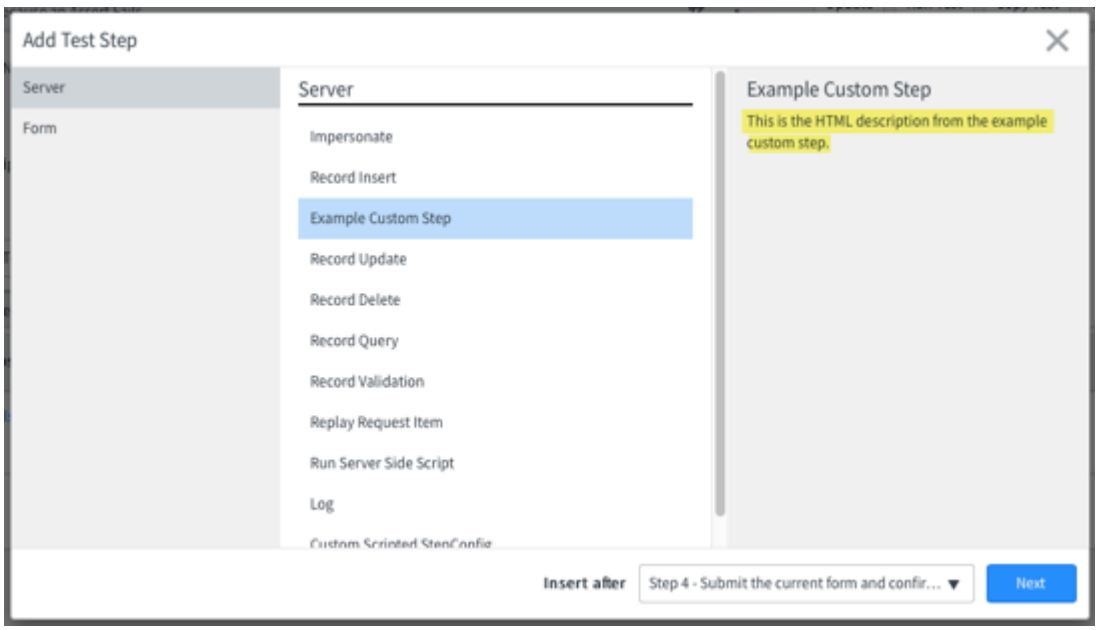
HTML の説明の例

ここには、カスタム ステップの例という名前のカスタム ステップの新しいレコードフォームの一部があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



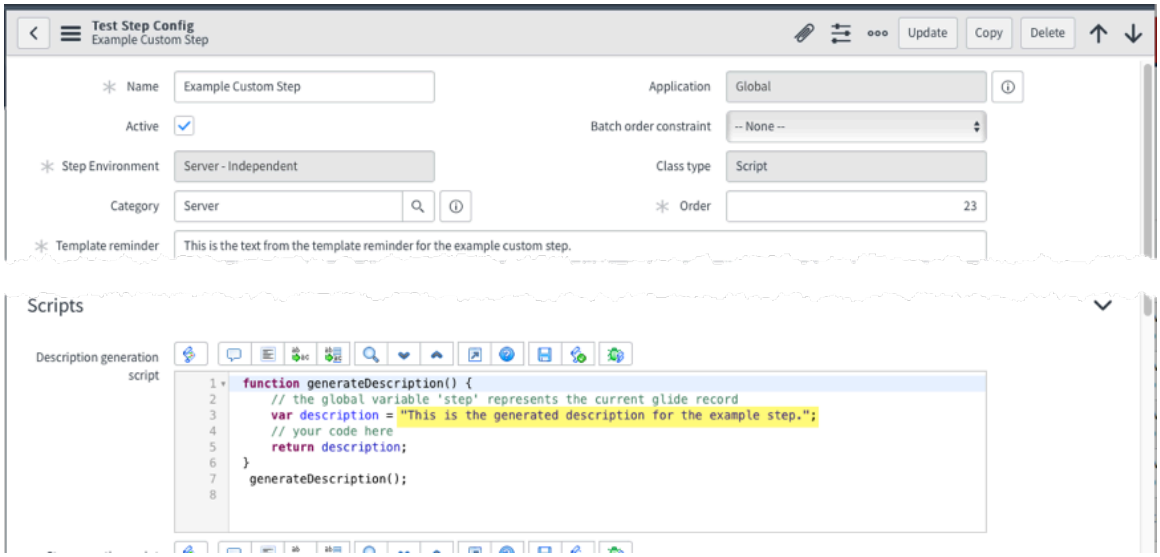
[テスト ステップの追加] ダイアログにステップが表示される方法は次のとおりです。



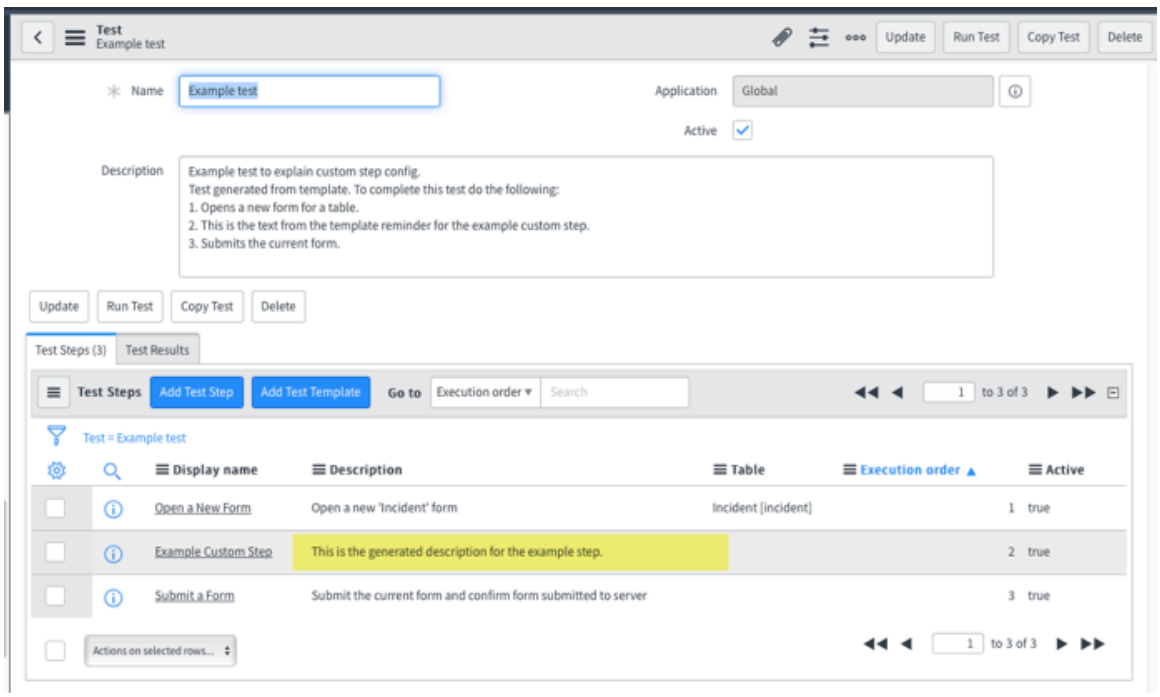
説明生成スクリプトの例

ここには、カスタム ステップの例という名前のカスタム ステップの新しいレコードフォームの一部があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



このタイプのステップがテストに含まれている場合、生成される説明がテスト ステップ関連リストに表示されます。



ステップ実行スクリプト

ステップ設定レコードでは、ステップ実行スクリプトフィールドによって、この設定のステップが行う実行内容が決定します。

ステップ入力

ステップへの入力変数は、ステップ設定レコード内の入力関連リストによって決定されます。`executeScript()` の *`inputs`* パラメーターにより、スクリプトはこれらの変数にアクセスできます。たとえば、入力関連リストに 2 つのレコード *`var1`* と *`var2`* が含まれる場合、スクリプトは `inputs.var1` という表現で *`var1`* を、`inputs.var2` で *`var2`* を参照できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステップ出力

ステップへの出力変数は、ステップ設定レコード内の出力関連リストによって決定されます。`executeScript()` の *outputs* パラメーターにより、スクリプトはこれらの変数にアクセスできます。たとえば、出力関連リストに 2 つのレコード *out1* と *out2* が含まれる場合、スクリプトは `outputs.out1` という表現で *out1* を、`outputs.out2` で *out2* を参照できます。

ステップ結果

stepResult パラメーターは、ステップの成功/失敗を制御する API へのアクセスを提供します。また、ステップがログに書き込むメッセージも決定されます。

メソッド `stepResult.setSuccess()` はステップを成功させます。メソッド `stepResult.setFailed()` はステップを失敗させます。

メソッド `stepResult.setOutputMessage()` は、ステップが成功または失敗したときにログに書き込まれるメッセージを設定します。1 つのパラメーター、ログに書き込む文字列が必要です。スクリプトが `stepResult.setOutputMessage()` を複数回呼び出すと、最新の値セットで以前の値が上書きされます。

Example: レコードのクエリーステップ実行スクリプト

```
   (function executeStep(inputs, outputs, stepResult) {
        if (gs.nil(inputs.table)) {
           stepResult.setOutputMessage(gs.getMessage("The '{0}' input
variable was not specified",
              'table'));
        stepResult.setFailed();
         return;
   }
   var query = new GlideRecord(inputs.table);
   query.addEncodedQuery(inputs.field_values);
   query.query();
   if (!query.next()) {
        stepResult.setOutputMessage(gs.getMessage("No records matching
query:\n{0}",
            inputs.field_values));
         stepResult.setFailed();
   } else {
        stepResult.setSuccess();
        outputs.table = inputs.table;
        outputs.first_record = query.getUniqueValue();
        stepResult.setOutputMessage(gs.getMessage("Found {0} {1} records
matching query:\n{2}",
                                                  [query.getRowCount(),
                                                   inputs.table,

inputs.field_values]));
   }
   }(inputs, outputs, stepResult));
```

Example: カスタムスクリプト化されたステップの構成

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
    ((function executeStep(inputs, outputs, stepResult, timeout) {
 // Waits up to the timeout for some asynchronous logic to finish
 // This script checks for completion once a second for up to 60 seconds
 var counter = 1;
 // Try for up to 60 seconds
 while (counter <= timeout) {
  // If the asynchronous logic is finished, return "true" to pass the
 step
  // isMyAsyncLogicFinished() can be replaced with any asynchronous event
 that needs to be tested
  if (isMyAsyncLogicFinished()) {
   stepResult.setOutputMessage("Success!");
   stepResult.setSuccess();
   return;
  }
  // Wait one second, and log the total number of seconds waited
  gs.info("Waited " + counter + " seconds for asynchronous logic to
 finish");
  sn_atf.AutomatedTestingFramework.waitOneSecond();
  counter++;
 }
 // If this point is reached, the retry loop ran out of tries; return
 false to fail the step
 stepResult.setOutputMessage("FAILURE: Timed out after waiting for " +
 timeout + " seconds");
 stepResult.setFailed();
}(inputs, outputs, stepResult, timeout));
```

注: 上記の例は、サーバー側実行スクリプトで `stepResult.setSuccess()"` と `stepResult.setFailed()` を `return true` と `return false`に置き換えて使用することもできます。

ステップ説明生成スクリプト

ステップ設定レコードでは、ステップの説明生成スクリプトフィールドによって、このタイプのステップがテストに追加されたときにシステムが生成するステップの説明が決定されます。

このスクリプトによって生成された説明がどこに表示されるかを示す例については、「説明生成スクリプトの例」を参照してください。

ステップ

`generateDescription()` の *`step`* パラメーターは、スクリプトにステップオブジェクトへのアクセスを提供し、ステップ構成レコードで定義されている入力変数へのアクセスを提供します。(入力変数は関連リストに定義されています。)

たとえば、ステップ設定レコードで、入力関連リストに2つのレコード *`var1`* と *`var2`* が含まれる場合、スクリプトは `step.inputs.var1` という表現で *`var1`* を、 `step.inputs.var2` で *`var2`* を参照できます。

Example: レコードクエリ説明生成スクリプト

```
    (function generateDescription(step) {
    var td = GlideTableDescriptor.get(step.inputs.table);
    if (!td) {
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
        gs.log("Invalid table name in test step: " + step.inputs.table);
        return gs.getMessage("Set field values");
   }
   var descriptionGenerator = new ATFStepDescriptionGenerator();
   var description = gs.getMessage("There should be at least one record
in '{0}' matching " +
                    "a query of\n{1}",
                    [step.inputs.table.getDisplayValue(),

descriptionGenerator.getConditionDescription(step.inputs.table,
step.inputs.field_values)]);

   return description;
   })(step);
```

スクリプト化されたステップへの出力変数の追加

次の手順を実行して、[サーバー側実行スクリプト] および [カスタムスクリプト StepConfig] テストステップに出力を追加します。

[サーバー側実行スクリプト] テストステップへの出力の追加

[サーバー側実行スクリプト] テストステップのテストスクリプトを変更して、任意の追加出力を作成します。

始める前に
必要なロール: admin あたは atf_test_admin

手順

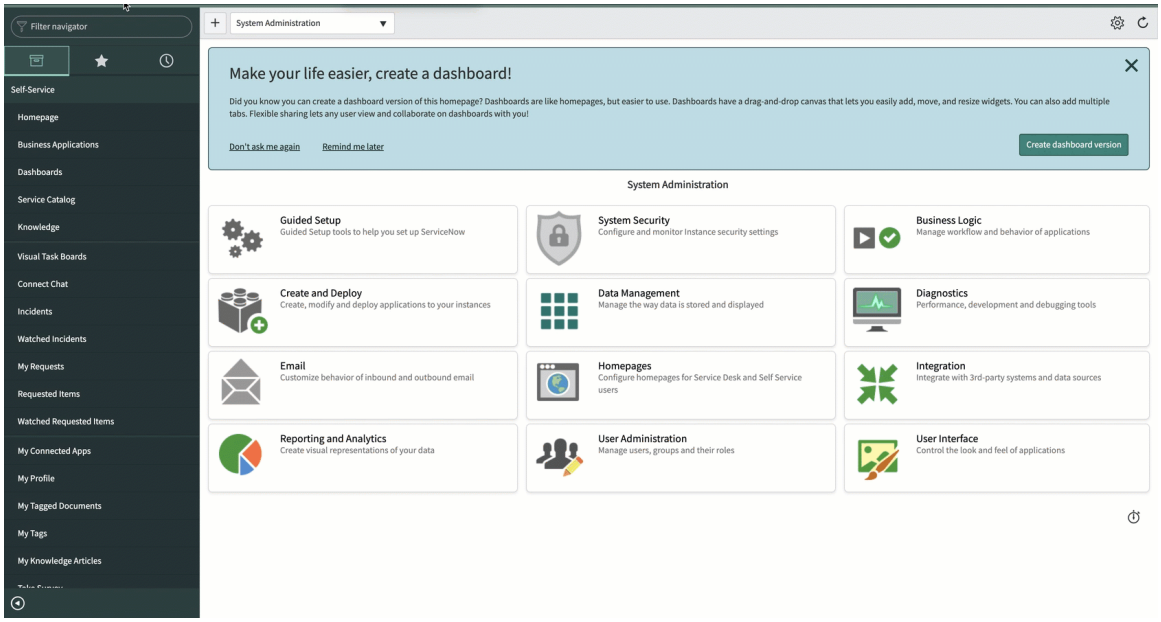
1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [管理] > [ステップ構成] に移動します。
2. [サーバー側実行スクリプト] を検索して選択します。
   読み取り専用の [テストステップ構成] フォームが表示されます。

   注: フォームは読み取り専用ですが、新しい出力変数を作成できます。

3. [出力変数] 関連リストまで下にスクロールします。
   デフォルトの出力変数のリストが表示されます。
4. [新規] をクリックして新しい出力変数を作成します。

フィールド	入力値
タイプ	出力変数のタイプ
アプリケーション	ユーザーのスコープ
ラベル	ユーザーに表示される出力変数の名前
列名	スクリプトで使用される変数名
最大長	データタイプの長さ。 注: このフィールドは、すべてのデータタイプに表示されるわけではありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



新しい出力変数が [出力変数] 関連リストに追加されます。

5. [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [テスト] に移動します。
6. 新しい出力変数を実装するテストを選択します。
7. [テストステップを追加] をクリックします。
8. [サーバー側実行スクリプト] テストステップを検索して選択します。
9. 指示に従って、[テストスクリプト] に記載される出力を変更します。

```
outputs.<column_name> = "<desired value>";
```

10. [送信] をクリックします。
    これで、新しく作成された出力変数をテストの後続のステップで使用する準備ができました。

[カスタムスクリプト **StepConfig]** テストステップでの出力の追加

[カスタムスクリプト StepConfig] テストステップをコピーし、コピーしたバージョンに出力を追加してカスタマイズします。

始める前に

必要なロール: admin あたは atf_test_admin

手順

1. [すべて] > [自動テストフレームワーク **(ATF)]** > [管理] > [ステップ構成] に移動します。
2. [カスタムスクリプト StepConfig] を検索して選択します。
   読み取り専用の [テストステップ構成] フォームが表示されます。

   注: フォームは読み取り専用であるため、テストステップをコピーし、それに出力変数を追加してカスタマイズする必要があります。

3. [コピー] を選択して、テストステップのコピーを作成します。

   注: コピーされたバージョンは読み取り専用ではなくなります。

4. 次の手順を実行して、コピーしたバージョンに出力変数を追加します。

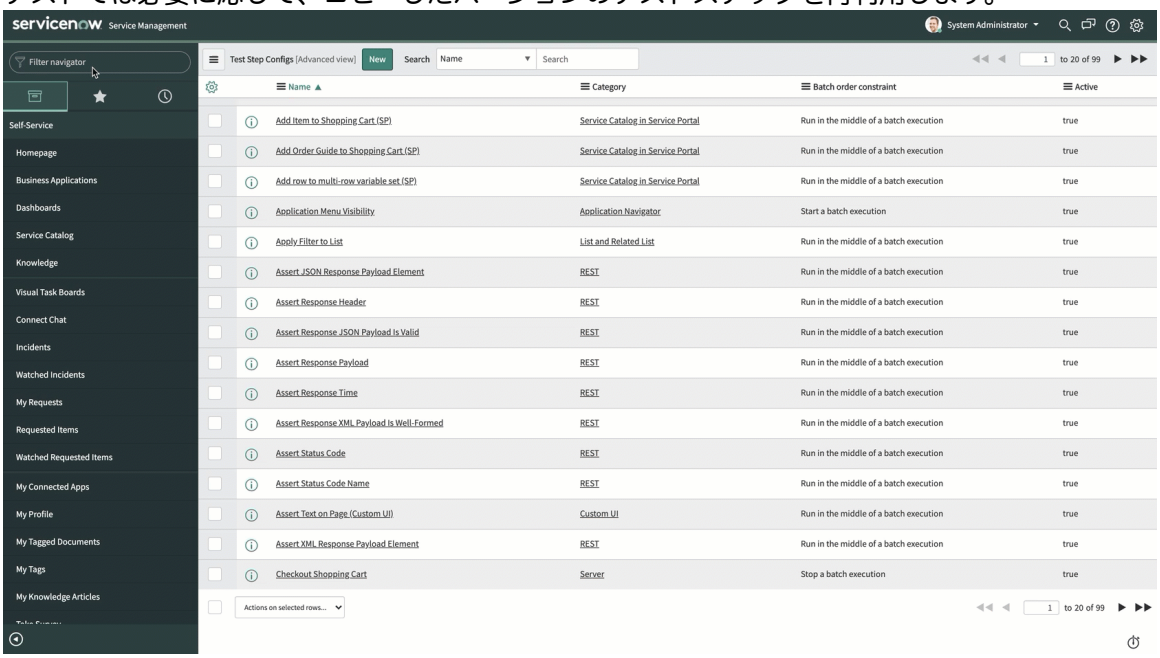
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [出力変数] 関連リストで [新規] を選択します。

b. 出力変数を追加して [ステップ実行スクリプト] を変更します。
出力変数を追加するには、「[サーバー側実行スクリプト] テストステップへの出力の追加」を参照してください。

> 注: コピーされたバージョンでのみ、これらの手順を使用してテストステップをカスタマイズできます。

5. テストでは必要に応じて、コピーしたバージョンのテストステップを再利用します。



テストテンプレート

テストテンプレートモジュールは使用可能なテンプレートのリストを開きます。このモジュールから、テストテンプレートを作成、表示、および編集します。

テストテンプレートを表示または編集するには、目的のテンプレートの行をクリックします。詳細については、「自動テストステップテンプレートの編集」を参照してください。

新しいテンプレートを追加する方法については、「自動テストステップテンプレートの作成」を参照してください。テストの作成時にテンプレートを使用する方法については、「自動テストにステップ (テンプレート) の定義済みリストを追加する」を参照してください。

自動テストテンプレートレコード

テストテンプレートレコードには、1 つのテストテンプレートに関する情報が含まれています。

フィールド

フィールド/要素	説明
名前	このテストテンプレートの名前。
アプリケーション	システムがこのテストまたはテストスイートを実行するアプリケーションスコープ。
テストテンプレート	このテンプレートに含めるテスト。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド (続く)

フィールド/要素	説明
説明	(オプション) このテストテンプレートの目的を識別するための説明を入力します。

ステップ構成カテゴリ

ステップ設定カテゴリモジュールは、[ステップの追加] ダイアログでステップカテゴリを指定するレコードリストを開きます。このモジュールから、これらのカテゴリを追加、削除、および編集できます。

カテゴリは、ダイアログでステップリストをフィルターにかけるために使用します。詳細については、「カテゴリフィールドの例」を参照してください。

テストステップ設定カテゴリフォーム

テストステップ設定カテゴリフォームでは、特定のテスト結果テーブルのレコードセットに対する保持ポリシーを指定します。

フィールド

フィールド/要素	説明
名前	このステップ設定カテゴリの名前。
ステップ環境	このステップの設定カテゴリのステップ環境。
表示名	このカテゴリが選択されたときに、[テストステップの追加] ダイアログの中央の列に表示されるカテゴリ名。「ステップ設定カテゴリ表示名」の例を参照してください。
アプリケーションスコープ	このポリシーが適用されるアプリケーションスコープ。

テーブルクリーンアップ

テーブルのクリーンアップモジュールは、テスト結果テーブルおよびテストスイートの結果テーブル、およびその中のレコードの、保持ポリシーを指定するレコードリストをオープンします。このモジュールから、これらのポリシーを表示および変更できます。

デフォルトでは、テスト結果およびテストスイートの結果に関連するレコードは作成から 30 日後に削除されます。 テーブルとそのレコードの保持ポリシーを変更するには、ポリシーを変更するテーブルをクリックします。詳細についてはATF テスト結果のデータ保持ポリシーの変更 を参照してください。

> **注:** テーブルクリーンアップポリシーはプラットフォーム固有のポリシーです。詳細については、「テーブルクリーナー 」を参照してください。

自動フラッシュフォーム

自動フラッシュフォームでは、特定のテスト結果表のレコードセットに対する保存ポリシーを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド

フィールド/要素	説明
テーブル名	ポリシーが適用されるレコードを含むテーブル。
一致フィールド	システムが期間を監視するフィールド。
経過時間(秒)	レコードを削除するまでにシステムが待機する時間(秒)。
アクティブ	このポリシーがアクティブな場合は **True**です。そうでない場合は **false**。
アプリケーションスコープ	このポリシーが適用されるアプリケーションスコープ。
カスケード削除	オンにすると、一致するすべてのレコードとそれを参照するレコードがすべて削除されます。チェックを外すと、一致するレコードは削除されますが、それを参照するレコードは参照されません。
条件	ポリシーが適用されるこのテーブルのレコードを定義するフィルター条件。

注: テーブルクリーンアップポリシーはプラットフォーム固有のポリシーです。詳細については、「テーブルクリーナー」を参照してください。

ステップ環境

テストステップ環境は、ステップが実行される場所を指定します (サーバーかブラウザーか、など)。このリリースでは、カスタムステップ設定はサーバー独立環境のみを使用できます。

このリリースでは、カスタムテストステップ環境を追加することはできません。

アプリケーションの展開

アプリケーションを本番環境に公開して、ユーザーに提供します。

ネクストエクスペリエンス でのアプリケーションの展開

パイプラインと展開を使用したアプリケーション展開の管理

パイプラインと展開を使用して、App Engine Studio でビルドされたアプリケーションをレビューおよび公開します。

AEMC を使用した展開の管理

App Engine 管理センター (AEMC) ダッシュボードを使用して、複数のパイプラインを表示し、展開のすべてのステージでアプリケーションを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パイプラインと展開 を使用したアプリの展開の管理

パイプラインと展開を使用して、App Engine Studio でビルドされたアプリケーションをレビューおよび公開します。

AEMC でのパイプラインを使用した展開の管理

App Engine 管理センター (AEMC) ダッシュボードを使用して、複数のパイプラインを表示し、展開のすべてのステージでアプリケーションを管理します。

コア UI でのアプリケーションの展開

ServiceNowアプリケーションリポジトリ	システムアップデートセット
ServiceNow アプリケーションリポジトリ は、ServiceNow のすべての顧客によって公開されている、すべてのスコープ対象のアプリケーションの中心的な場所です。カスタムアプリケーションを開発してテストした後、アプリケーションをこのリポジトリに公開することで、会社のインスタンスでアプリケーションを使用できるようにすることができます。	更新セットはあるインスタンスから別のインスタンスに移動できる構成変更のグループです。この機能により、アドミニストレーターは一連の変更を名前付きセットにグループ化し、テストまたは展開のために別のシステムにユニットとして移動できます。

ServiceNow アプリケーションリポジトリ

ServiceNow アプリケーションリポジトリは、ServiceNow のすべての顧客によって公開されている、すべてのスコープ対象のアプリケーションの中心的な場所です。カスタムアプリケーションを開発してテストした後、アプリケーションをこのリポジトリに公開することで、会社のインスタンスでアプリケーションを使用できるようにすることができます。

システムアップデートセット

更新セットはあるインスタンスから別のインスタンスに移動できる構成変更のグループであります。この機能により、アドミニストレーターは一連の変更を名前付きセットにグループ化し、テストまたは展開のために別のシステムにユニットとして移動できます。

システムアップデートセット

更新セットはあるインスタンスから別のインスタンスに移動できる構成変更のグループであります。この機能により、アドミニストレーターは一連の変更を名前付きセットにグループ化し、テストまたはデプロイメントのために別のシステムにユニットとして移動できます。

注: 更新セットが切り戻された場合、顧客更新の削除時に sys_upgrade_state レコードを削除する OOB ビジネスルールがあります。これは想定される動作です。

更新セットは、次を含む XML ファイルです:

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 更新セットを一意に識別するレコード詳細のセット。
- 構成変更のリスト。
- 別のインスタンスが構成変更を取得して適用できるかどうかを決定する状態。

更新セットは、アプリケーションおよびシステムプラットフォーム機能の変更を追跡します。これにより、開発者は非本番インスタンスで新しい機能を作成し、その変更を別のインスタンスに昇格させることができます。

⚠ **警告:** 更新セットを使用すると、異なるバージョンのファミリーリリースや異なる機能を実行しているインスタンス間で変更を移行できます。以前のファミリーリリースで作成された更新セットを新しいファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードすることはいつでも可能です。新しいファミリーリリースで作成された更新セットを以前のファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードする場合は、互換性を確認するために追加のテストが必要になります。新しいファミリーリリースで行われた更新を以前のファミリーリリースに移行しても、同じ機能が生成されない場合があります。極端なケースでは、新しいファミリーリリースの更新が原因で、以前のファミリーリリースのインスタンスで機能停止やデータ損失が発生することがあります。可能であれば、新しいファミリーリリースから以前のファミリーリリースに更新を移行することは避けてください。異なるバージョンの ServiceNow Store アプリを実行しているインスタンス間で更新を移行する場合でも、同様の制約があります。

システムプロパティ

アドミニストレーターは、システムプロパティを非公開にすることで更新セットから除外できます。システムプロパティを private にすると、あるインスタンスの設定が別のインスタンスの値を上書きすることをなくします。たとえば、本番インスタンスのシステムプロパティに開発インスタンスの特定の値を使用させたくない場合があります。「システムプロパティを追加する」を参照してください。

アプリケーション

アプリケーション開発者には、次のような更新セットの追加オプションがあります。

- アプリケーションの特定のバージョンの更新セットを作成する。
- 更新セットで追跡するアプリケーションテーブルを指定する。

更新セットテーブル

各更新セットは、更新セット `[sys_update_set]` テーブル、および更新セットに関連付けられたカスタマイゼーション(Customer Updateのエントリ) `[sys_update_xml]` 更新セットレコードの関連リストとして表示されます。

追跡対象オブジェクトをカスタマイズすると、対応するレコードが顧客更新 `[sys_update_xml]` で追加または更新されユーザーの現在の更新セットに関連付けられます。関連するアプリケーションファイルのプロパティはカスタマイズされたオブジェクトとともに１つの更新レコードで追跡および転送します。対応するレコードもバージョン `[sys_update_version]` 表に追加されます。

カスタマーアップデートテーブルには、更新セットごとにカスタマイズされたオブジェクトごとに1つのレコードが含まれています。バージョンテーブルには、カスタマイズされたオブジェクトに対する変更ごとに１つのレコードが含まれています。

- アドミニストレーターは２つのバージョンを比較し、特定のバージョンのオブジェクトに戻せる。
- アドミニストレーターは特定のテーブルのバージョンを非表示にできる。
- アドミニストレーターは、レコードの残りの部分をスキップすることなく変更できる追跡対象テーブルのフィールドを指定できる(フィールドを更新から除外する。)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 顧客の更新 `[sys_update_xml]` レコードを直接変更してはならない。

更新セットによって追跡されるカスタマイズ

更新セットは、アプリケーションテーブル、フィールド、およびレコードに対するカスタマイズを追跡できます。

更新セットでは、次の条件でカスタマイズを追跡します:

- テーブルが *update_synch* ディクショナリー属性を持つところ。
- 複数のテーブルに対する変更を追跡する特別なハンドラーがあるところ。
- アドミニストレーターが更新からフィールドを除外しなかったところ。

一般に、更新セットは構成情報を取得しますが、タスクまたはプロセスデータは取得しません。たとえば、更新セットは、サービスカタログアイテムの定義と、変数や変数の選択などの関連する構成データを追跡します。ただし、注文を出してサービスカタログをテストすると、更新セットは注文要求、アイテム、およびカタログタスクを追跡しません。

更新セットには、アプリケーションファイルとしてデータを転送するキャパシティが限られています。大規模なデータ転送の場合は、インポートセットまたは Web サービスでデータをエクスポートしまたはインポートします。

スコープ対象アプリの開発では、更新セットとアプリケーションリポジトリの両方の使用を併用しないでください。これにより、変更のスキップやコミットエラーなど、多くの問題が発生します。アプリケーションリポジトリからアプリケーションをインストールしたら、今後のすべての開発のために開発とアプリケーションリポジトリへの公開を継続する必要があります。更新セットを使用してアプリケーションを開発する場合は、引き続きその方法を排他的に使用する必要があります。

update_synch 属性

カスタマイズが追跡されているテーブルのリストを表示するには、 システム定義 > ディクショナリに行きそしてアトリビュートに *update_synch* を含む 上にフィルターをかけます。

警告: `update_synch` プロパティをディクショナリレコードに追加しません。不適切に使用された場合、この属性はパフォーマンス上の大きな問題を引き起こすか、インスタンスを使用不可能にする可能性があります。このため、顧客は `update_synch` 属性にアクセスできません。

デフォルトのルールでは、次の問題を避けるために、事前定義されていない表 `update_synch` プロパティの使用を閉鎖します。

- 一部のコアテーブルは、複数のテーブルの情報を表すため、特別な更新処理が必要。`update_synch` プロパティがこれらのテーブルに追加されると、重複した更新レコードが作成され、トラブルシューティングや修復が困難な重大な競合が発生する。
- update_synch プロパティを使用してインスタンス間でデータレコードを移行すると、パフォーマンス上の問題が発生する可能性がある。なぜならこれはこの目的を意図したものではない。データを移行するには、インスタンスからインスタンスへのインポートを使用する。

「インポートセット」を参照してください。

特別ハンドラー

いくつかの変更は、複数のテーブルに関する情報を表すため、特別なハンドラを必要とします。これらの変更は、カスタマイズが収容されたときにすべてのレコードが適切に更新されるように、１つの更新セットエントリにパッケージ化します。特別なハンドラでは、以下の変更が追跡されます。

- ワークフロー
- フォームセクション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- リスト
- 関連リスト
- 選択リスト
- システムディクショナリーの入力
- フィールドラベル

⚠ **警告:** フォームセクション、リスト、関連リスト、選択リスト、およびフィールドラベルの特別なハンドラーは、レコードを削除して再挿入します。これにより、テーブルを参照するフィールドがある場合は、予期しない結果が発生してデータが失われる可能性があります。

選択リスト

更新セットは、新規および更新された選択肢の両方のオプションを、更新バージョン `[sys_update_version]` および顧客の更新 `[sys_update_xml]` テーブルの分離されたレコードとして保存します。たとえば、タスクテーブルを拡張する新しいアクティビティ `[u_activity]` テーブルを作成します。次に、新しい選択肢オプションをタスク状態フィールドに追加します。これは、拡張テーブル(たとえば、私の状態)に対してのみ表示されます。

これらの変更を更新セットとして発行すると、更新プログラムには、u_activity テーブルに追加した選択肢の更新レコードとバージョンレコードのみが含まれます。タスクテーブルの選択肢オプションは影響を受けません。

⚠ **警告:** 更新セットでは大きな選択リストを使用しないでください。使用すると、更新セットのコミットに非常に時間がかかるようになります。

ディクショナリーの変更

通常、更新セットを使用すると、データが失われるディクショナリーの変更の適用を防止します。ブロックされたディクショナリーの変更には次を含みます：

- テーブルの削除
- 列データ型の変更

更新セットは、システムディクショナリーからのテーブルの削除を追跡しません。代わりに、顧客は手動でターゲットインスタンスからテーブルを削除する必要があります。更新セットはデータ型の変更を追跡しますが、ターゲットインスタンスはデータ損失の原因となる変更をスキップし、代わりにアクションに関するログメッセージを追加します。顧客は、ログを使用して、ターゲットインスタンス上で手動でデータタイプを変更できます。

ℹ **注:** 更新セットのプレビューでは、ターゲットインスタンスが変更をスキップしてデータが失われるため、タイプの不一致の問題はチェックされません。また、更新セットを使用してテーブルから列を削除すると、特定の状況でデータが失われる可能性があります。ターゲットインスタンスの列にデータがある場合、そのデータは、更新セットが収容されたときに、列自身と共に削除します。列を削除する更新セットを収容しようとすると、警告メッセージが表示されます。このメッセージには、データの削除を引き起こす 1 つ以上の削除更新が存在し、削除の更新内容が特定されています。

ホームページとコンテンツページ

ホームページとコンテンツページは、デフォルトで更新セットに追加されません。現在の更新セットをアンロードしてページを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要:

インスタンスからの情報を整理してデータに関するストーリーを伝える、ホームページの機能は、新しいインスタンスのダッシュボードにあります。ネクストエクスペリエンス を有効にしてアップグレードされたインスタンスでは、ユーザーは直接 URL を持っている場合は既存のホームページを表示できますが、作成や編集はできません。レスポンシブダッシュボードと アナリティクスセンター ダッシュボードがホームページの機能を引き継ぎます。

ホームページ廃止ヘルプツール を使用して、インスタンスのホームページをレスポンシブダッシュボードに変換します。

詳細については、以下を参照してください。

- アナリティクスセンターでのダッシュボード
- レスポンシブダッシュボードの操作。

アプリケーションの変更

システムは、アプリケーションに関連付けられた変更のみを含むアプリケーションごとに個別の更新セットを作成します。これにより、各アプリケーションのアクセス設定が適切に評価され、更新セットの変更を収容するときに確実に適用される。

デフォルトの更新セット

アプリケーションスコープのデフォルトセットは、1つの更新セットだけです。

更新セットをデフォルトセットに設定するには、デフォルトセットフィールドを true に設定します。デフォルトセット= *true* と設定すると、次の操作が行われます。

- 更新セットは、そのスコープのデフォルトの更新セットになる。
- システムは同じスコープを持つ他のすべての更新セットに対してデフォルトセット= *false* と設定する。これにより、各スコープにデフォルトの更新セットが1つしかないことが保証される。

グローバルデフォルトセット

グローバルなデフォルトの更新セットを使用して、ユーザーが作成した更新セットに変更を加えずにインスタンスを変更します。グローバルなデフォルトの更新セットは、デフォルトセット= *true* でありアプリケーションスコープがグローバル であるところのセットであります。グローバルなデフォルトセット(そのセットの 名に関わらず)はシステムの機能を与え、システム間で変更、削除、移動することはできません。この更新セットを使用して、どのユーザーが作成した更新セットにも変更を加えずにインスタンスを変更します。

自動生成されたデフォルトセット

インスタンスの更新が失われないように、システムは常に、ユーザーの現在のスコープのデフォルト設定があることを確認します。現スコープにデフォルトの更新セットが存在しないことが検知された場合(または無視されたまたは完了したとマークされている場合)、システムは更新セットを自動生成し、デフォルトセット= **true** と設定します。

これらは、システムがデフォルトの更新セットを自動生成するいくつかの一般的なケースであります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アドミニストレーターが初めてログインすると、システムはシステムのグローバルなデフォルトの更新セットをアドミンの更新セットとして設定します。さらに、アプリケーションピッカーはアドミンのアプリケーションスコープをグローバルと設定します。

  グローバルなデフォルトの更新セットが存在しない場合(または無視されたまたは完了したとマークされている場合)、システムはグローバルアプリケーションスコープの新しい更新セットを作成し、次のアクションを実行します。

  - システムは新しいセットのためにデフォルトセット= *true* と設定します。
  - システムは、新しい既定のセットの名前を元のデフォルトセットの名前で設定し、次の数字を追加します(SetName、SetName 1、SetName 2、...、SetName nの順序で)。
  - システムは、新しく作成されたセットをアドミンの更新セットとして設定します。
- ユーザーがスコープのデフォルトセットを無視されたまたは完了した とマークした場合(推奨される方法ではない)、システムは直ちにスコープの新しいデフォルトセットを自動生成します。
- 次のすべての条件が発生した場合、スコープの新しいデフォルトの更新セットが自動的に生成されます。
  - アプリケーションスコープを変更した。
  - あなたの優先更新セットが完了したまたは無視された場合。
  - 新しいスコープに対して進行中のデフォルトの更新セットはありません。

更新セットでスタートする

更新セットはインスタンスを変更するため、この情報をレビューして、エラーやパフォーマンスの問題を回避します。更新プロセスを計画し、よくある間違いを避ける方法を学びます。

更新セットを使用するタイミング

展開オプション	適する場面	今後の検討事項
更新セット	ベースシステムまたはインストールされたアプリケーションに変更を保存する。 特定のバージョンのアプリケーションを保存して適用する。 エクスポート用のファイルを作成する。	特定のアプリケーションバージョンを格納する更新セットを手動で作成できます。 更新セットを使用して、インストールされているアプリケーションへのパッチまたは変更を展開します。 **注:** アプリケーションをインストールするために更新セットを使用しないでください。代わりに、アプリケーションリポジトリまたはServiceNow Storeを使ってアプリケーションをインストールします。
アプリケーションリポジトリ	すべての会社インスタンスでのアプリケーションのインストールと更新。 アプリケーション更新セットを自動的に管理する。 同じ会社にアプリケーションへのアクセスを制限する。	アプリケーションを他のユーザーと共有するようServiceNow Storeにアップロードすることを検討します。 最新のアプリケーションバージョンのみのインストールと更新を許可します。 更新セットを使用して、以前のアプリケーションのバージョンを保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

展開オプション	適する場面	今後の検討事項
	完成したアプリケーションをエンドユーザーに展開します。	注: チーム開発と使用する場合は、親インスタンスからアプリケーションのみを発行します。

更新プロセスの計画

更新セットで作業する前に、このチェック リストを使用して、インスタンス間でカスタマイズを移動するための標準プロセスを作成します：

1. 両方のインスタンスが同じバージョンであることを確認します。バージョン間で変更されたコードに依存する場合、カスタマイズは機能しない可能性があります。
2. １つの更新セットで行う変更を決定します。小規模から中規模の作業を完了すると、更新セットを完成します。更新セットが大きくなるにつれて、それらをレビューすることが難しくなり、変更を識別するのに時間がかかり、他の更新セットとの競合のリスクが高まり、プレビューや収容に時間がかかます。これは、更新セットにスキーマの変更や大きなワークフローのリビジョンが含まれている場合や、セットを取り消す必要がある場合に特に当てはまります。
3. すべての基本システムレコードがに合致する sys_id フィールドを持つことを確認します。一部の基本システムレコードは、プロビジョニング後のインスタンスで作成され、異なるインスタンス間で一致しないため、更新セットに問題が発生します。この問題を回避する最善の方法は次のとおりです：
   - 本番インスタンスと非本番インスタンスを使えるようにします。
   - 本番インスタンスを非本番インスタンスにクローンします。
4. 更新セットがインスタンスからインスタンスに移動し、そのモデルを維持するように共通パスを特定します。複数のソースから同じ更新セットを移行しません。更新セットをdevからtestに移動し、次にテストから運用に移動します。
5. 運用に更新セットを収容する時期を計画します。営業時間中に本番インスタンスに更新セットを収容することは避けます。更新セットが適用されると、インスタンスの効率が一時的に低下することがあります。この効率低下は一時的なものですので、安心してください。
6. 更新セット名が明確であることを確認します。複数の開発者の変更を調整し、変更を別のインスタンスに収容するときに参照するための命名規則を作成します。
   - 更新セットが問題の修正として生成されている場合は、問題チケットを名前に含めることを検討します(たとえば、 **PR10005 -** 重複する電子メールの問題の修正)。
   - 問題に対処するために複数の更新セットが必要な場合は、命名規則にシーケンス番号を含めます。こうすることで、更新セットが作成された順序で適用されるようになります (たとえば「**PR10005 -** 重複する電子メールの問題の修正」と「 **PR10005.2 -** 重複する電子メールの問題の修正」など)。
7. 更新セットについて次のことを理解します。
   - どのレコードが生成されるか。
   - どのカスタマイズが追跡されるか。
   - どのディクショナリの変更が有効なのか。
   - どのカスタマイズを適用後に取り消せる (元に戻せる) のか。
8. カスタマイズを行う前に、正しい更新セットが選択されていることを再度確認します。

更新セットで作業

エラーとパフォーマンスの問題を回避するには、この情報をレビューします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 更新セットを削除しないでください。更新セットが削除された場合、更新されたレコードは次の更新で上書きされる可能性があります。
- **system_id** フィールドを更新セットの ldap_server_config レコードからインクルードしないでください。作業中の構成から作成した更新セットがターゲットインスタンスの間違った system_id ノードを指し、機能しなくなります。
- デフォルトの更新セットを取り消さないでください。この操作によりシステムが損傷します。
- 顧客更新レコード(sys_update_xml)中の更新セット フィールド値(update_set)を決して変更しません。誤った更新セットでカスタマイズを行った場合は、次のアクションを行います：

  1. 目的の更新セットに切り替えます。
  2. 最初に変更されたオブジェクト(レコード)を変更します。フィールドを追加するなど、簡単な変更を行えます。
  3. レコードを保存します。
  4. 実行したばかりの変更を取り消し、レコードを再度保存します。

     このアクションにより、オブジェクトの最新バージョンが目的の更新セットに含まれ、単一の更新セット内の同じオブジェクトの重複した更新が防止されます。

- 移行する準備が整うまで更新セットを完了とマークしません。更新セットを完了した後、それを元の進行中に戻さないでください。代わりに、残りの変更について別の更新セットを作成し、作成された順序で一緒に収容します。このケースでは、命名規則が役立ちます(たとえば、パフォーマンスの向上とパフォーマンスの向上2)。
- 手動で更新を更新セットに結合しないでください。[更新セットを結合] モジュールを使用します。このツールは、更新セット間の重複ファイルを比較し、最新のバージョンを選択します。
- 収容された更新セットがテストインスタンスに問題がある場合は、開発インスタンスの別の更新セットに修正プログラムを作成します。このセットをテストインスタンスに収容してから、両方のセットが本番インスタンスにマイグレーションされ、作成された順序で収容されていることを確認します。
- 収容する前に常に更新セットをプレビューします。
- 本番インスタンスの完了した更新セットを無視する にセットします。この状態により、インスタンスのクローン作成時に更新セットが確実に再適用されなくなります。
- 更新セットが適用された後に完了する必要がある手動変更とデータロードのリストを作成します。
- 一度に多くの変更を加えすぎないようにしてください。正しい変更が段階的に行われたことを確認する。
- 単一の更新を複数のドメイン (グローバルドメインと TOP ドメイン) にまたがる更新に変更することはできません。この機能は Now Platform ではサポートされていません。

セット管理を更新

更新セットでインスタンス間の構成変更を保存、取得、プレビュー、適用する方法を管理します。

アドミニストレーターは、更新セットで次のオプションを使用できます。

- ローカル変更を格納する更新セットを作成します。
- ローカル変更を保存する現在の更新セットを選択します。
- 配布用に準備するため更新セットを収容します。
- 更新セットの内容に関するレポートです。
- 更新セットを比較して、それらが持つ違いを判断します。
- 複数の更新セットの更新を単一のセットに結合します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 更新セットから外部ファイルを作成します。
- リモートインスタンスから更新セットを取得します。
- 取得した更新セットを適用します。
- 更新セットから適用された変更を取り消します。
- 更新セットに関連するシステムプロパティを設定します。

更新セット ピッカーへのアクセスを許可する

更新セット ピッカーを使用すると、ユーザーはカスタマイズを作成および追跡するための更新セットを選択できます。既定では、アドミンのみが更新セットの選択ツールを使用できます。あなたは追加ユーザーへのアクセスを許可することができます。

取得した更新セットを自動的にプレビューする

既定では、システムは更新セットを取得するとすぐに更新セットを自動的にプレビューします。この動作をオフにするには、システムプロパティ **glide.update_set.auto**_プレビュー に偽 を設定し：ナビゲータフィルタで次のように入力し **sys_properties.list** 、その後 **glide.update_set.auto**_プレビュー プロパティに行き値フィールドを編集します。

アプリケーションテーブルを追跡する

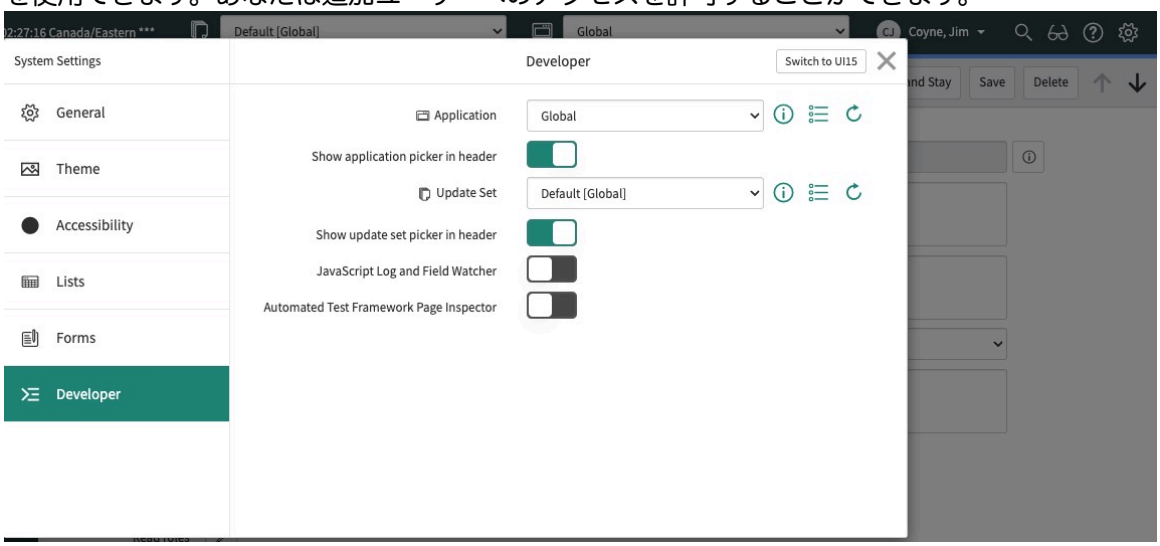
アプリケーション開発者は、特定のバージョンのアプリケーションを保存または配布するための更新セット内のアプリケーションの変更を追跡できます。テーブルの作成中に、 テーブルを拡張をアプリケーション ファイル[sys_metadata]にセットします。

更新セット ピッカーへのアクセスを許可する

アドミン以外のユーザーが更新セット ピッカーを使用できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
更新セットピッカーがパネルに現れます。ピッカーを使用すると、ユーザーはカスタマイズを作成および追跡するための更新セットを選択できます。既定では、アドミンのみが更新セットの選択ツールを使用できます。あなたは追加ユーザーへのアクセスを許可することができます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 更新セットテーブル [sys_update_set] への 読み取りアクセス権をユーザーロールに付与 します。
2. ユーザーが設定パネルで更新セットピッカーを表示できるようにします。
   a. [システムのプロパティ] テーブルに システムのプロパティを追加 *glide.ui.update_set_picker.role*します。
   b. *glide.ui.update_set_picker.role* の値をアクセス権を付与したいロールに割り当てる。

アップグレード中にカスタマイズを上書きする

次のアップグレード時に交換するカスタマイズ済みオブジェクトを指定します。デフォルトでは、アップグレードプロセスはカスタマイズ済みオブジェクトへの変更をスキップします。

このタスクについて
システムは、テーブルやフィールドに対する辞書レコードの変更など、ユーザーが行った構成の変更を追跡します。構成の変更ごとに、対応するレコードが顧客アップデート `[sys_update_xml]` テーブルにあり、そこでは [アップグレード時に交換] フィールドが [false] に設定されています。カスタマイズを次のソフトウェアバージョンで上書きできます。たとえば、スクリプトを変更して、次のバージョンで修正される問題の一時的なワークアラウンドを実装できます。スクリプトの将来の拡張機能を確実に受け取るために、次のバージョンにアップグレードする際にワークアラウンドを上書きする必要があります。

手順

1. カスタマイズされたオブジェクトを開きます(たとえば、 *ArrayUtil* スクリプトインクルード)。
2. ヘッダーを右クリックし、最近の更新を表示 を選択します。
3. 必要であれば、フォームをアップグレード時に交換フィールドを追加するよう設定します。
4. アップグレード時に交換チェックボックスをオンにして更新をクリック します。
   カスタマイズされたオブジェクトは、次回のアップグレード時に置き換えられます。

カスタマイズの作成、テスト、および移動

これらの手順を使用して、開発システムから実動システムへのカスタマイズを作成、テスト、および移動します。

3 段階インポートプロセス

更新セットを使用してカスタマイズを開発する一般的なプロセスでは、変更を開発からテスト、本番インスタンスに移動します。

1. 開発インスタンスに更新セットを作成します。
2. 開発インスタンスのカスタマイズと変更を行います。
3. 更新セットを完了とマークします。
4. テストインスタンスにログインし、開発インスタンスから完成した更新セットを取得します。
5. テストインスタンスで更新セットを収容し、カスタマイズを完全にテストします。
6. 更新セットにテストインスタンスに問題がある場合は、ステップ1～5を繰り返して、別の更新セットを使用して開発インスタンス上で修正を開発します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. 本番インスタンスにログインし、開発インスタンスから完了した更新セットを取得します。更新セットで修正が必要な場合は、両方の更新セットを取得します。
8. 本番環境で更新セットを収容します。更新セットで修正が必要な場合は、両方の更新セットを作成順に収容します。

2段階インポートプロセス

開発環境が2つのインスタンスのみで構成されている場合は、開発インスタンスとテストインスタンスを1つのステージングインスタンスに結合できます。

1. ステージングインスタンスに更新セットを作成します。
2. ステージングインスタンスのカスタマイズと変更を行います。
3. 更新セットを完了とマークします。
4. ステージングインスタンスでカスタマイズを完全にテストします。
5. 更新セットに問題がある場合は、手順1～4を繰り返して、別の更新セットを使用してステージングインスタンスの修正を開発します。
6. 本番インスタンスにログインし、完成した更新セットをステージング インスタンスから取得します。更新セットで修正が必要な場合は、両方の更新セットを取得します。
7. 本番環境で更新セットを収容します。更新セットで修正が必要な場合は、両方の更新セットを作成順に収容します。

更新セットの使用

これらの手順は、カスタマイズを管理し、潜在的な競合を別のインスタンスに移動する前に解決するのに役立ちます。

更新セットを使用する前に、更新セットでスタートするをレビューし、更新セットを使用する時期と使用しない時期、そして更新プロセスを計画してよくある間違いを回避する方法について学びます。次に、更新セットを作成し、それを使用して開発インスタンスを変更します。更新を報告し、更新セットを結合し、更新セットを比較して、希望の変更が移動する準備が整ったことを確認することができます。

更新セットが完了すると、テストプロセスに従って別のインスタンスに更新セットを転送できます。詳細については、「更新セットを転送」を参照してください。

更新セットを現在のセットとして作成し選択する

カスタマイズの変更を保存する更新セットを作成し、現在のセットとして選択します。

このタスクについて

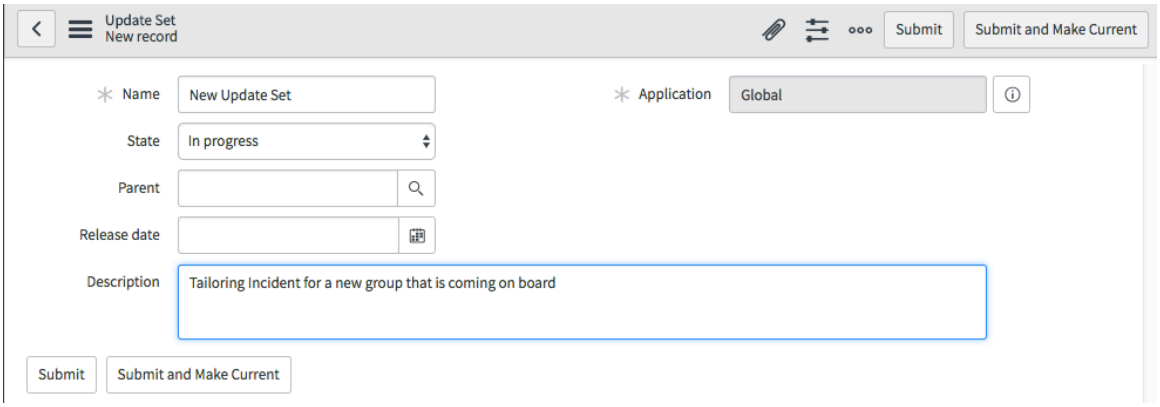
更新セットは、作成したときに現在のセットとして選択することも、後で [設定] パネルから選択することもできます。

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [ローカル更新セット] に移動して、[新規] をクリックします。
2. そのテーブルのフィールドからフォームを完成します。
3. 提出をクリックし、更新セットを作成します。
4. ピッカーが有効で更新セットが [処理中 *(in progress)*] ステータスの場合は、[送信して最新にする] をクリックして新しい更新セットを構成変更のターゲットとして選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい更新セット



更新セットフィールド

フィールド	説明
名前	更新セットに対してユニークな名前を入力します。命名規則を使用して更新セットを整理できます。たとえば、修正する更新の名前に問題番号を追加してアプリケーションスコープを識別するか、シーケンス番号を使用して収容する必要がある更新セットの順序を追跡します。
状況	新しい更新セットに対して進行中を選択します。進行中 更新セットを選択して更新セット内のカスタマイズを追跡します。更新セットピッカーは進行中更新セットを表示するのみであります。 更新セットが完了したことが確実な場合にのみ完了を選択します。完了したとマークされた後では、それを元の進行中に戻せません。代わりに、さらにカスタマイズされた新しい更新セットを作成し、確実に完了とマークされた順序で更新セットを収容します。完了更新セットを用いて、変更をあるインスタンスから別のインスタンスに移します。 ある更新セットをもはや使用していないがそれが別のインスタンスに転送されるのを望まない場合には、無視するを選択します。本番インスタンスのセットを無視するする際には常に完了としなければなりません。この状態は、インスタンスのクローン作成時に確実にその更新セットが再度収容されないようにします。 更新セットピッカーは進行中更新セットのみを表示します。「統一ナビゲーション で現在の更新セットを選択する」を参照してください。 更新セットが完了したことが確実な場合にのみ完了を選択します。完了したとマークされた後では、それを元の進行中に戻せません。代わりに、さらにカスタマイズされた新しい更新セットを作成し、確実に完了とマークされた順序で更新セットを収容します。完了更新セットを用いて、変更をあるインスタンスから別のインスタンスに移します。 ある更新セットをもはや使用していないがそれが別のインスタンスに転送されるのを望まない場合には、無視するを選択します。本番インスタンスのセットを無視するする際には常に完了としなければなりません。この状態は、インスタンスのクローン作成時に確実にその更新セットが再度収容されないようにします。
リリース日	更新セットをリリースする予定の日付を入力します。
アプリケー	アプリケーションピッカーで現在選択されているアプリケーションスコープを埋めます。更新セット内のすべての変更は、現在のスコープにのみ適用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ション	
説明	更新セットの説明を入力する。

統一ナビゲーション で現在の更新セットを選択する

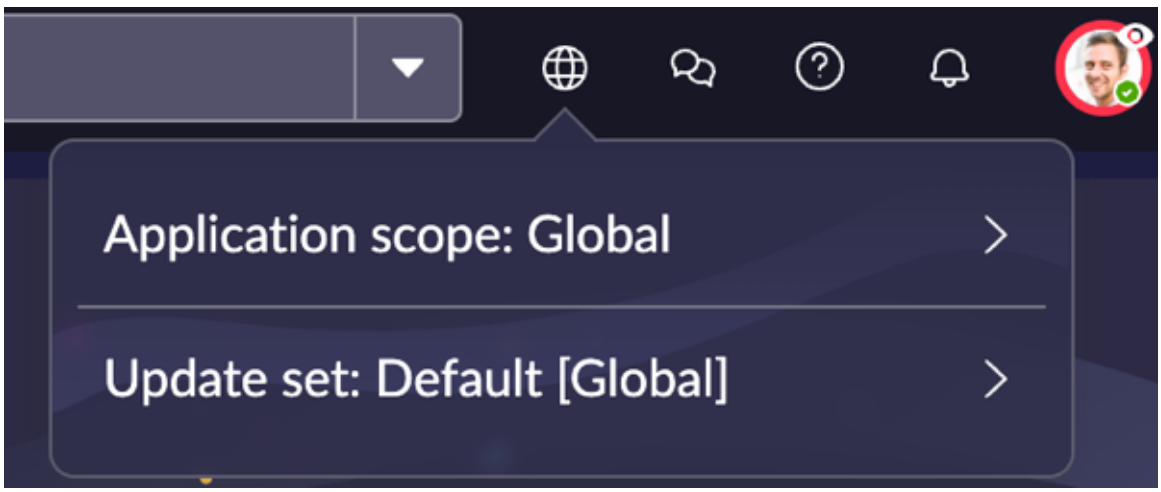
現在の更新セットは、統一ナビゲーション の更新セットピッカーを使用していつでも変更できます。

始める前に
必要なロール：admin。

このタスクについて
アプリケーションスコープを変更すると、現在の更新セットがアプリケーションのデフォルトの更新セットになるように自動的に切り替わります。ただし、別の更新セットを選択することもできます。

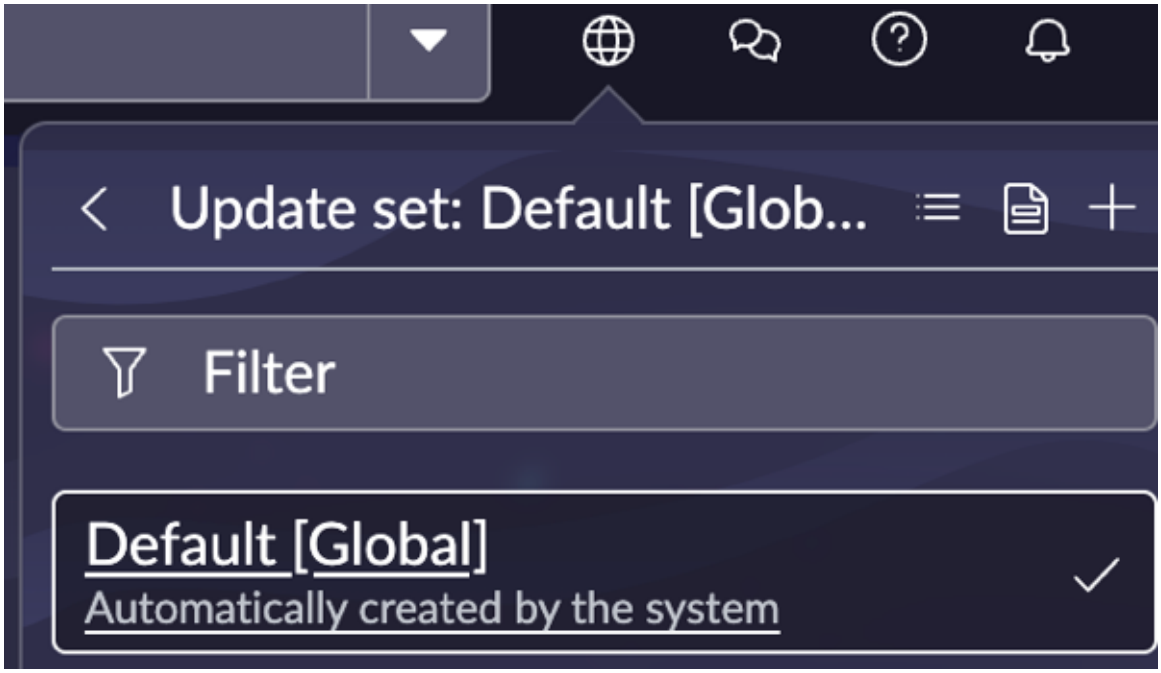
手順

1. 統一ナビゲーション でアプリケーションスコープアイコン ( ) を選択します。



2. 必要に応じて [フィルター] を使用して、[更新セット] フィールドで使用可能なリストから現在の更新セットを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



選択した更新セットは、チェックマークアイコンで確定されます。

3. オプション: 必要な更新セットがリストにない場合は、プラスアイコン (+) を選択して更新セットを作成できます。

次のタスク
更新セットピッカーは、ネクストエクスペリエンス ピッカーの一部です。詳細については、「ネクストエクスペリエンス ピッカーの探索」を参照してください。

アプリケーションスコープの詳細については、「アプリケーションスコープ」を参照してください。

カスタマイズを表示し現バージョンと比較する

更新セットを構成するカスタマイズを表示し、更新を現バージョンと比較します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
顧客アップデート *[sys_update_xml]* テーブルには、カスタマイズされたオブジェクトごとに 1 つのレコードが含まれています。

カスタマーアップデートレコードは次を指定します：

- カスタマイズされたオブジェクトを含む更新セット。
- カスタマイズされたオブジェクトに適用されるアクションのタイプ。
  - 挿入
  - INSERT_OR_UPDATE
  - 更新
  - 消去
- カスタマイズされたオブジェクトのタイプ。
- 更新の対象オブジェクト。

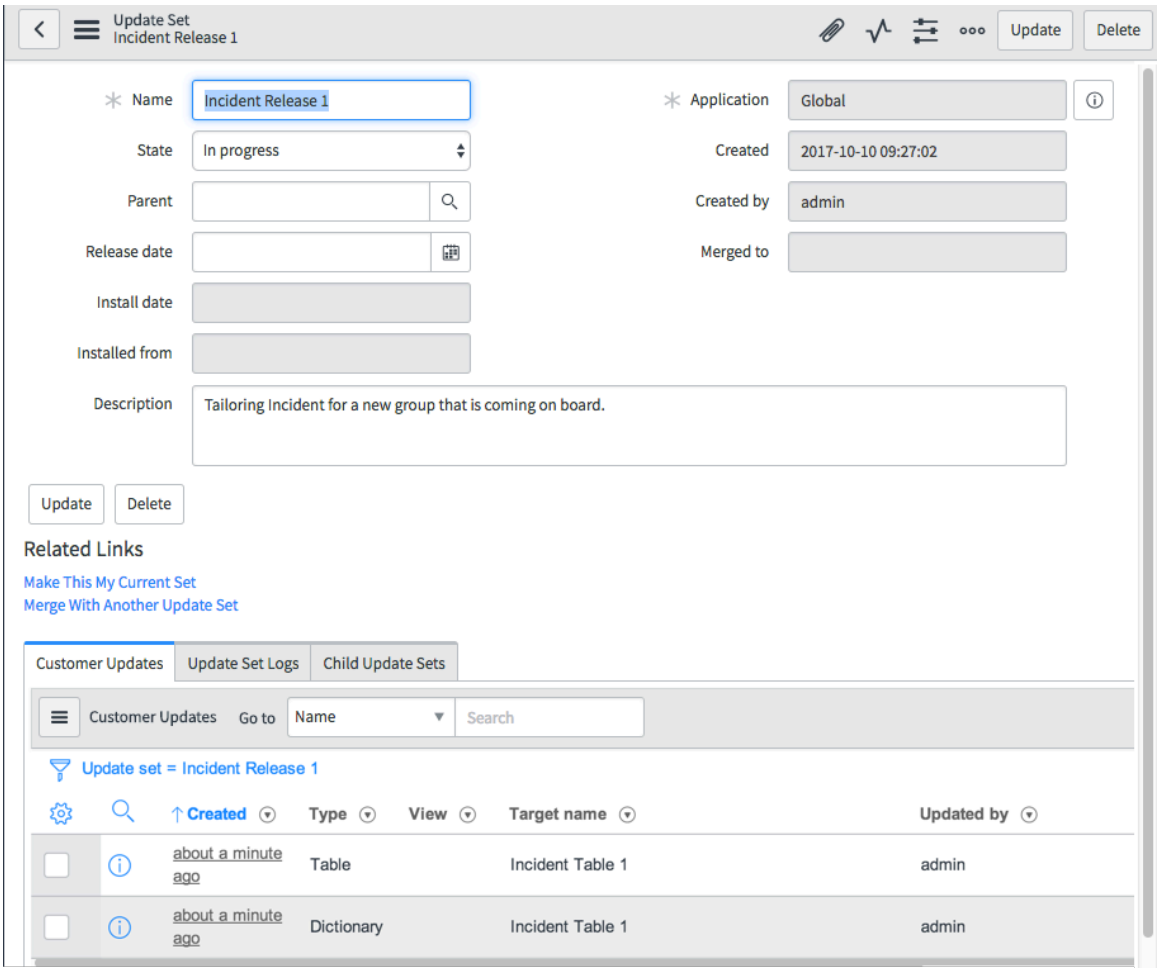
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- カスタマイズされたオブジェクトのsys_id(特定のレコードへの変更の場合)。
- オブジェクトをカスタマイズしたユーザー。
- オブジェクトがカスタマイズされた日時。

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [ローカル更新セット] に移動します。
2. 更新セット名をクリックします。
3. カスタマーアップデート関連リストを見ます。

   現在のバージョンに対する更新があれば比較できます。更新レコードを右クリックし、現在と比較を選択します。



関連情報

記事の 2 つのバージョンの比較

個々のレコードの競合の解決

レコード間のナビゲーション

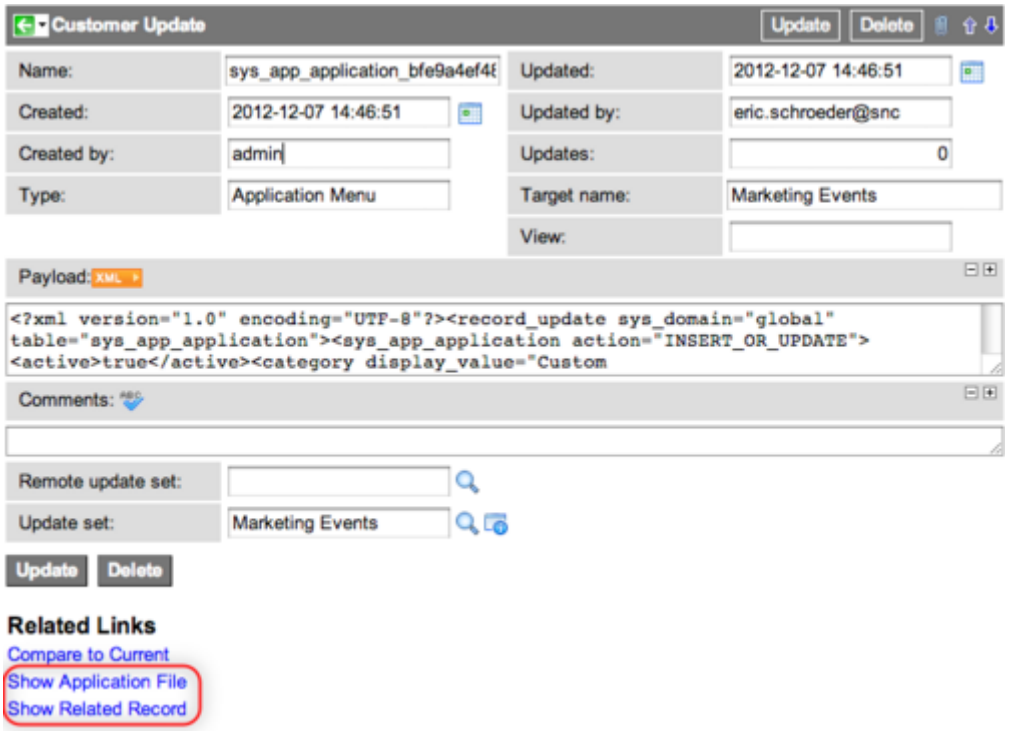
カスタマーアップデートレコードとカスタマイズされたオブジェクトまたはそのオブジェクトのアプリケーションファイルの中でナビゲートできます。

更新レコードから次の場所に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

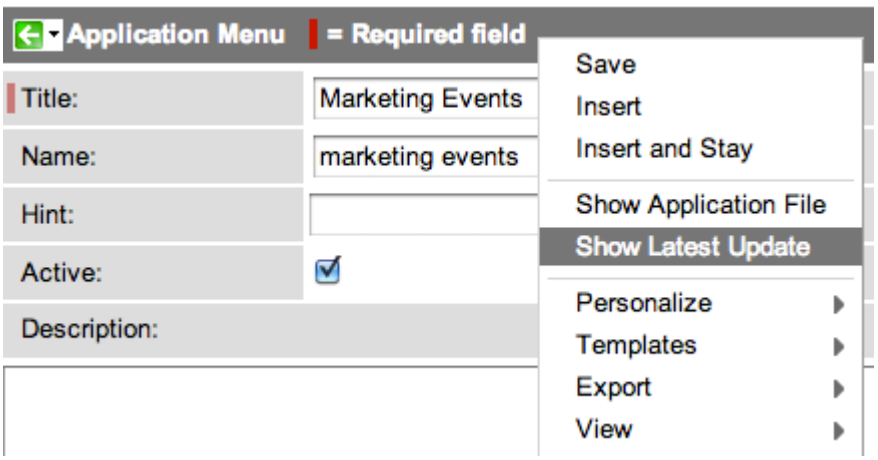
- アプリケーションメニューレコードなどのカスタマイズされたオブジェクトをカストマイズするには： 関連レコードを表示関連リンクをクリックします。
- オブジェクトのアプリケーションファイルレコード： アプリケーションファイルを表示する関連リンクをクリックする。

アプリケーションファイルへ行く



カスタマイズされたオブジェクトまたはアプリケーションファイルから現在のカスタマーアップデートレコードに行くには：フォームヘッダーをクリックし、最新の更新を表示を選択します。

カスタマーアップデート r レコードへ行く



カスタマイズと設定の変更に関するレポートを表示する

ベースシステムは、インシデントテーブルへの変更および現在のユーザーによる変更に関するレポートを提供します。

手順

1. [すべて] > [レポート] > [表示/実行] に移動して、[顧客アップデート] セクションを見つけます。
2. 使用可能なレポートを実行するかまたは新しいレポートを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のレポートを利用できます。

- アプリケーションの変更(インシデント) ：インシデントテーブルに加えられたすべての変更を表示します。別のテーブルを選択し、レポートを再度実行して、別のアプリケーションのすべての変更を表示します。
- 私の変更 ：現ユーザーが作成または更新したすべての変更をテーブル名でグループ化して表示する。

更新セットを結合

複数の更新セットの更新を単一のセットに結合します。この機能は、以前のServiceNow®プラットフォームのリリースとの逆方向互換性をサポートします。新しいバッチ更新セット機能はより予測可能で堅牢なソリューションで同じ結果を達成します。

始める前に

注: 更新セットが結合されると、更新セットを「結合を戻す」ことはできません。詳細については、「更新セットのバッチ処理 (Update Set Batching)」を参照してください。

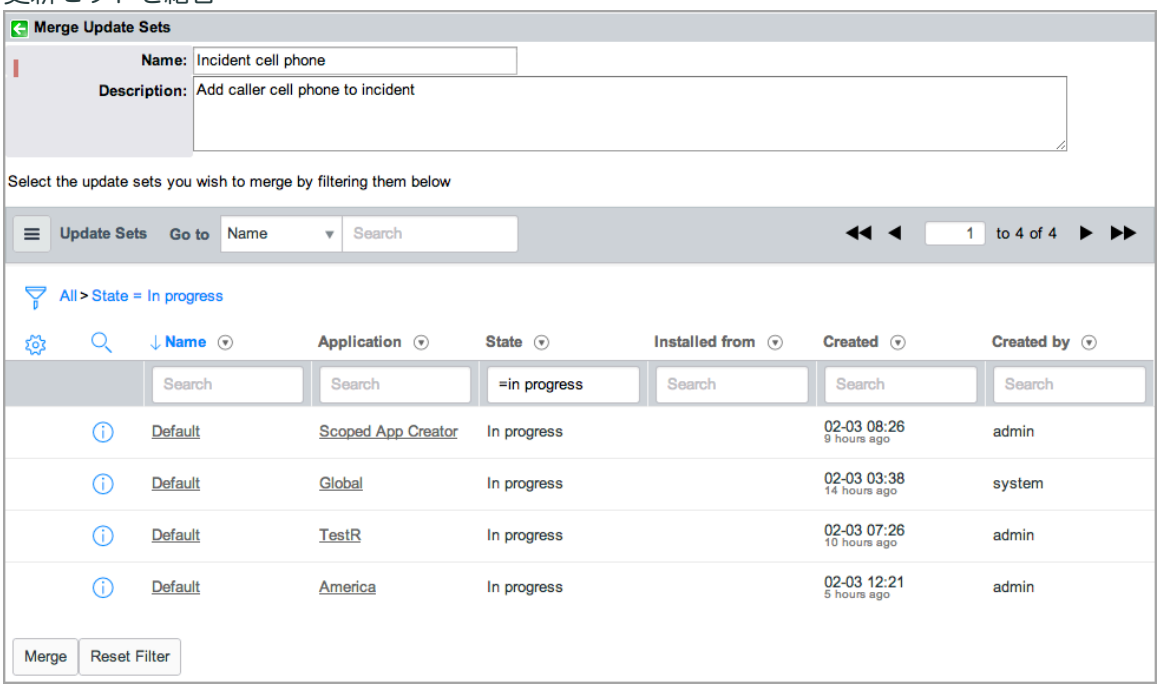
手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > **[Update Sets を結合]** に移動します。
   デフォルトでは、リストはフィルタリングされて、進行中である更新セットのみを表示します。

   または、システムアップデートセット > 完了したセットを結合する に行きます。デフォルトでは、そのリストはフィルタリングされて、完了状況にある更新セットのみを表示します。たとえば、変更をプッシュしたり開発セットからテストインスタンスに更新セットを転送したりした後に、このフィルタを使用したくなるかもしれません。

2. 結合したい更新セットのみを表示するようにリストをフィルタリングします。
   同じアプリケーションに属する更新セットのみを結合できます。

更新セットを結合



3. 更新セットの名前を入力します。
   結合処理中にこの新しい更新セットに更新が移動します。
4. オプション: 更新セットの説明を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 結合をクリックします。
6. 確認ダイアログボックスで **OK**をクリックします。
   - 新しい更新セットが作成されます。
   - 各オブジェクトの最新の変更は、元のセットから新しいセットに移動します。新しいセットに結合されない変更のみが元のセットに残ります。移動した更新の数とスキップした更新の数を示すメッセージが表示します。たとえば、両方の更新セットがインシデントフォームを変更した場合は、最新の変更のみが新しい更新セットに移動します。他の変更は、移動されなかった変更のレコードを提供するように元の更新セットにとどまります。

     注: システムは、 **sys_updated_on** の値ではなく、 更新済みフィールドと比較してどのレコードが最新であるかを決めます。

7. [結合された更新セット *(Merged Update Sets)]* 関連リストまでスクロールダウンし、古い更新セットレコードを開いて、正しい変更が新しいセットに移動したことを確認します。
8. 誤って古い変更をコミットしないように、元の更新セットを削除または空にします。
   新しいセットに結合されなかった更新は削除しません。古いセットの「残された」更新を新しいセットに移動しないでください。

ローカルな更新セットの比較

アドミニストレーターは、ローカルおよびリモートの(取得した)更新セットをプレビューし、それらのセットを互いに比較して、競合する変更を解決するできます。

このタスクについて

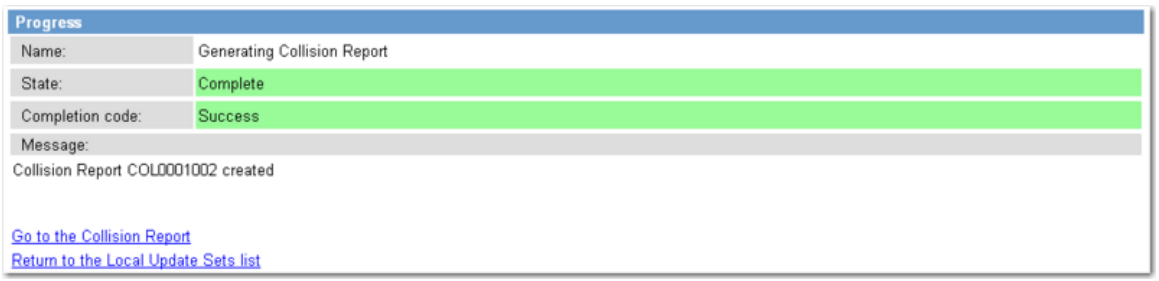
ローカルの更新セットを比較して、競合を特定し、適切な変更が収容されていることを確認します。インスタンス間で更新セットを移動する前に、すべての競合を解決します。

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [ローカル更新セット] に移動します。
2. 比較する更新セットの横にあるチェックボックスをオンにします。
3. アクション選択リストで 更新セットを比較を選択します。

   ServiceNowが競合レポートを生成すると進捗画面が現れます。

   競合レポート

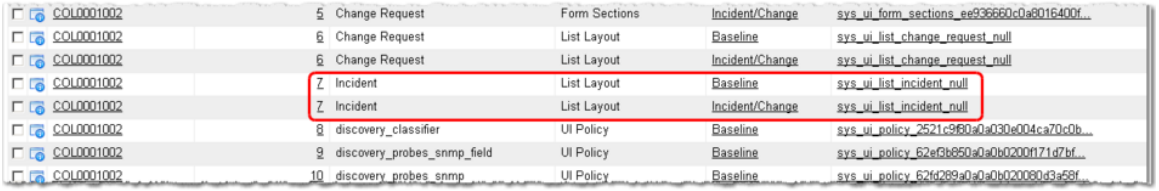
4. レポートが完了したとき競合レポートに行くをクリックします。

   更新セット競合リストが表示され、選択したセットのすべての変更が表示されます。

5. リストを調べ、別々の更新セットで同じ変更を示している重複した競合番号を探すこと競合を見つけます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セット競合

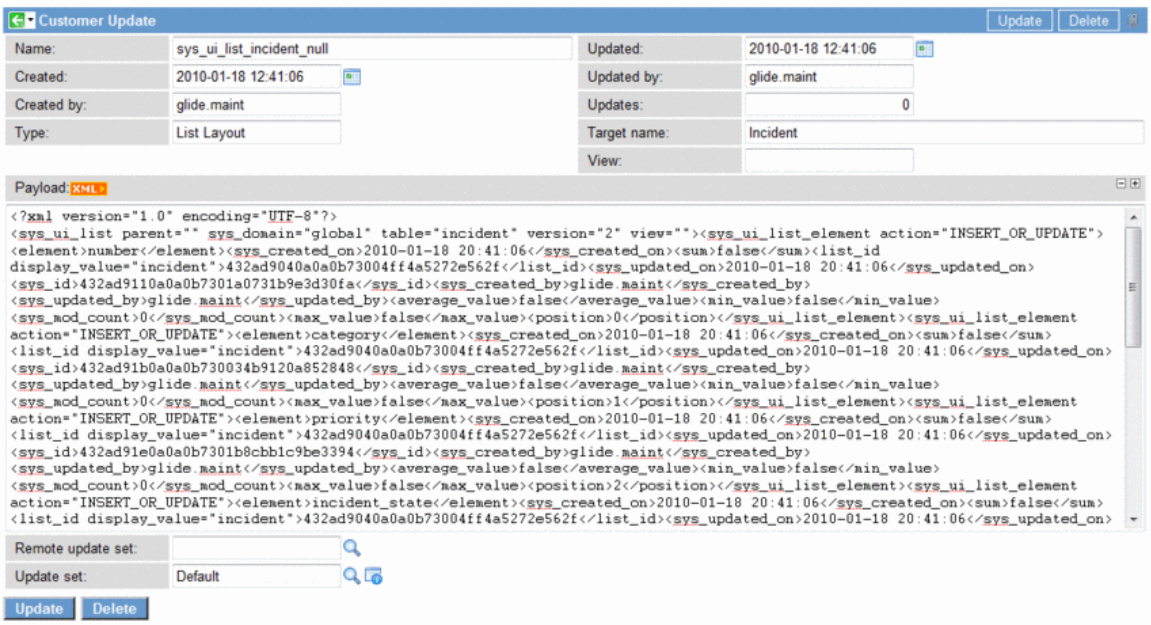


COL0001002	5	Change Request	Form Sections	Incident/Change	sys_ui_form_sections_ee936660c0a8016400f...
COL0001002	6	Change Request	List Layout	Baseline	sys_ui_list_change_request_null
COL0001002	6	Change Request	List Layout	Incident/Change	sys_ui_list_change_request_null
COL0001002	7	Incident	List Layout	Baseline	sys_ui_list_incident_null
COL0001002	7	Incident	List Layout	Incident/Change	sys_ui_list_incident_null
COL0001002	8	discovery_classifier	UI Policy	Baseline	sys_ui_policy_2521c9f80a0a030e004ca70c0b...
COL0001002	9	discovery_probes_snmp_field	UI Policy	Baseline	sys_ui_policy_62ef3b850a0a0b0200f171d7bf...
COL0001002	10	discovery_probes_snmp	UI Policy	Baseline	sys_ui_policy_62fd289a0a0a0b020080d3a58f...

6. いずれかの更新セットから不要な更新レコードを削除して競合を解決します。
   a. 不要な更新に対する システム更新列にあるリンクをクリックします(この例では `sys_ui_list_incident_null`)。
   b. [削除] をクリックします。

> **注:** レコードを削除するには、更新レコードを開く必要があります。更新セット競合リストの項目のチェックボックスをオンにして削除アクションを用いることで更新を削除することはできません。更新レコードを削除すると、カスタマイズはインスタンスから取り消しされません。カスタマイズのレコードのみが削除されます。

カスタマーアップデート



7. 比較をもう一度実行して、すべての競合が解決されていることを確認する。

更新セット競合の解決

競合は新しいローカル更新を持つ更新です。

プラットフォームは各更新セットからのカスタマーアップデートレコードの名と更新済みフィールドの値を比較することで競合を検知します。名前が一致しても更新日の値が異なる場合は、競合が存在します。

カスタマーアップデートがあるインスタンスから別のインスタンスに移動されると、そのインスタンスはターゲットインスタンスと一致するように書き直される可能性があります。書き換えには、顧客の更新の名前の更新とその更新中の1つまたは複数の `sys_id` 変更が絡むことがあります。レコードまたは参照フィールドが合体戦略を使用するテーブルに対するものの場合再書き込みが行われます。これによりカスタマーアップデートが正しいレコードに確実に適用されます。たとえば、`sys_dictionary` 〜のためのレコード `tablename.fieldname` がインスタンスAで `sys_id`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

`123456789` を持ちインスタンスBで `sys_id 987654321` 持つと、そのレコードを参照する顧客の更新がインスタンスAから取得され、インスタンスBのsys_update_xmlテーブルに記録されると、`123456789` への参照は `987654321` に更新されます。

合体戦略

更新セットは、別々のインスタンスで独立に作成する同一のレコード間の競合を検知できます。このような競合を検知するには、レコードは合体する列に基づく合体戦略が必要です。競合の検出は表の一意性に依存するため、テーブルの合体する列を結合するときそのテーブルは一意でなければなりません。同じレコードが異なるインスタンスで別々に作成されている場合、ここにリストされていないレコードは競合しません。

タイプ	列の合体
sys_db_object	name
sys_dictionary	名前、要素
sys_choice_set	名前、要素、言語
sys_documentation	名前、要素、言語
sys_properties	name
sys_report_chart_color	名前、要素、値
sys_ui_form	名前、表示、sys_domain
sys_ui_message	documentkey, language
sys_ui_list	名前、ビュー、sys_domain、要素、関係、親
sys_ui_section	名前、表示、キャプション、sys_domain
sys_ui_related_list	名前、表示、関連リスト、sys_domain
sys_ui_view	name
sys_user_role	name
sys_user_group	name
sys_wizard	name

カスタマーアップデートレコード名が競合にどのように影響するか

合体を理解するには、合併しないレコードがどのように機能するかを理解することが役立ちます。ほとんどのレコードタイプでは、カスタマーアップデートを新しいインスタンスに移動すると、システムは次の理由で競合を検知しません：

- レコードを作成すると、一意のsys_idを受け取ります。ほとんどのレコードタイプでは、sys_idは顧客更新レコード名の一部になります。例えば：`sysevent_email_template_9e1998c078b71100a92ecacd80df1d39` 。
- 別のインスタンスの同じテーブルに同じレコードを作成すると、異なるsys_idを持つ顧客更新レコード名が生成されます。例えば：`sysevent_email_template_10b958c8653311005840134572f8e020`

その結果、たとえレコードがそうでなければ同一かもしれませんが、レコードは異なる名前になり、システムは競合を検知しません。

対照的に、レコードの合体は、レコードの命名と競合の判定に次の方法を使用します：次の顧客更新レコードタイプは、名前にsys_idの代わりに合体列の一部またはすべてを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- sys_dictionary
- sys_documentation
- sys_choice_set
- sys_ui_list
- sys_ui_related_list

各インスタンスで結果として同一のレコード名を使用すると、レコードに異なる sys_id があってもシステムが衝突を識別するのに役立ちます。

カスタマーアップデートがあるインスタンスから別のインスタンスに移動されると、そのインスタンスはターゲットインスタンスと一致するように書き直される可能性があります。書き換えには、顧客更新の名前の更新とその更新中の1つまたは複数の sys_id 変更が絡むことがあります。レコードまたは参照フィールドが合体戦略を使用するテーブルに対するものの場合再書き込みが行われます。これによりカスタマーアップデートが正しいレコードに確実に適用されます。たとえば、tablename.fieldname の sys_dictionary レコードのインスタンス A に sys_id「123456789」、インスタンス B に sys_id「987654321」がある場合、そのレコードを参照する顧客の更新がインスタンス A から取得され、インスタンス B の sys_update_xml テーブルに記録されると、「123456789」への参照が更新されて「987654321」を読み取ります。

重複レコードの防止

- 別々のインスタンスで再作成するのではなく、更新セット を使ってデータを転送することで、レコードが同じ sys_id を持つようにします。
- レコードを XML ファイルとしてエクスポートおよびインポートし、レコードが同じ sys_id を持つようにします。「XML ファイルのエクスポートとインポート」を参照してください。
- システムディクショナリーからテーブルへのユニークなインデックスを有効にします。「テーブルアドミニストレーション」を参照してください。

> **注:** ベースラインシステムに含まれるデフォルトレコードは、インスタンスのプロビジョニングの際にインスタンスが XML ファイルとしてレコードをインポートするため、常に同じ Sys ID を持ちます。

更新セットを完了としてマーク

カスタマイズを完了し、ローカル更新セットを比較して競合を解決すると、更新セットを完了とマークします。

このタスクについて

移行の準備が整っている場合に限り更新セットを 完了とマークします。更新セットが完了すると、それを元の進行中に戻さません。代わりに、残りの変更のために別の更新セットを作成し、それらが作成された順に一緒に収容します。このケースでは、命名規則が役立ちます(たとえば、パフォーマンスの向上とパフォーマンスの向上2)。

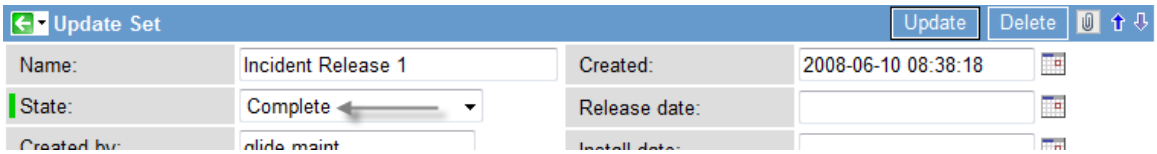
手順

1. 更新セットレコードを開きます。
2. 更新セットの状態を進行中から完了に変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 更新セットは他のインスタンスを取り出すために使用できます。
- 更新セットでは追加のカスタマイズは追跡されません。

更新セットのレコード



更新セットをローカルの XML ファイルとして保存する

アドミニストレーターは、更新セットを XML ファイルとしてエクスポートして、特定のバージョンのアプリケーションまたは一連の変更を保存できます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

通常、次のいずれかの条件が当てはまる場合、更新セットの XML ファイルを作成します。

- ２つのインスタンスにはネットワーク接続がないため、リモートインスタンスから更新セットを取得することも、ソースインスタンスから直接データをプルまたはインポートするためデータソースを作成することもできません。
- ソースインスタンスにアドミンの認証情報を提供したくない場合 (たとえば、アドミンパスワードを会社外のユーザーと共有したくない場合など)、更新セットを取得したり、データソースを作成したりすることができません。
- 重要なカスタマイズをローカルにバックアップする必要があります。

カスタマイズを XML ファイルとしてエクスポートおよびインポートする機能は、次の UI アクションによって提供されます。

- 更新セット [sys_update_set]テーブルを **XML**へのエクスポート
- 取得された更新セット[sys_remote_update_set]テーブルを **XML**へのエクスポート
- 取得された更新セット[sys_remote_update_set]テーブルに **XML**から更新セットをインポート

更新セット[sys_update_set]テーブルの **XML** へのエクスポートUIアクションは、`UnloadRetrievedUpdateSet` と呼ばれるプロセッサを呼び出し、それはローカル更新セットを取り出した更新セットに変換し、取り出した更新セットを関連リストとともにエクスポートし、必要に応じて一時更新セットを削除します。

どちらの **XML** へのエクスポート UI アクションも、`ExportWithRelatedLists`を含むスクリプトに依存し、それはレコードと手動で定義された関連リストを1つの XML ファイルにエクスポートします。

手順

1. システムアップデートセットに行き、ローカル更新セットまたは取得された更新セット のいずれかをクリックします。

   注: エクスポートするには、[取得済み更新セット] がロード済み状態である必要があります。

2. 完了状態にある更新セットを選択します。
3. 更新セットフォームで、 **XML** へのエクスポート関連リンクをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. XML ファイルを保存します。
   XML ファイルが作成されます。ファイルが別のインスタンスにアップロードされると、ファイルが作成されたインスタンスでローカルであるか検索されたかにかかわらず、取得された更新セットとして表示される。

単一の XML ファイルからカスタマイズをロードする

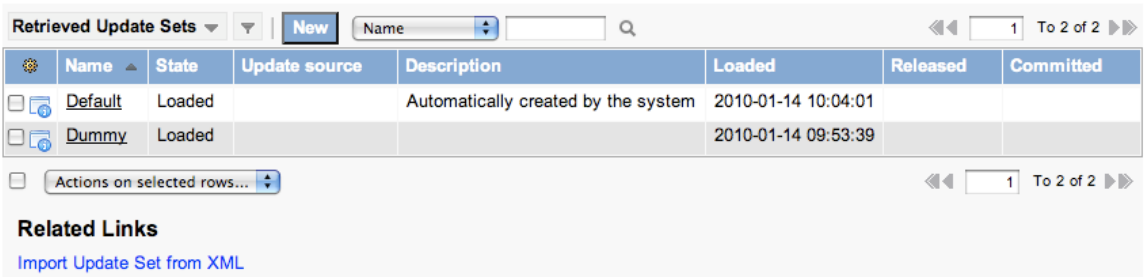
アドミニストレーターは、更新セットの XML ファイルをロードして、特定のバージョンのアプリケーションまたは変更セットを適用できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 特権を security_admin ロールに昇格させます。
2. [システムアップデートセット] > [取得済み **Update Sets**]に移動します。
3. リンク **[XML** から更新セットをインポート] をクリックします。
4. [ファイルを選択] をクリックし、XML ファイルを選択します。
5. [アップロード] をクリックします。
   このカスタマイズは、[ロード完了] 状態の取得済み更新セットとして利用できるようになりました。
6. 標準的な手順に従って、更新セットを収容します。

取得した更新セット



更新セットを転送

更新セットが完了すると、インスタンス間で転送して、カスタマイズを開発から、テストを通って、本番に移動できます。

⚠ **警告:** 更新セットを使用すると、異なるバージョンのファミリーリリースや異なる機能を実行しているインスタンス間で変更を移行できます。以前のファミリーリリースで作成された更新セットを新しいファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードすることはいつでも可能です。新しいファミリーリリースで作成された更新セットを以前のファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードする場合は、互換性を確認するために追加のテストが必要になります。新しいファミリーリリースで行われた更新を以前のファミリーリリースに移行しても、同じ機能が生成されない場合があります。極端なケースでは、新しいファミリーリリースの更新が原因で、以前のファミリーリリースのインスタンスで機能停止やデータ損失が発生することがあります。可能であれば、新しいファミリーリリースから以前のファミリーリリースに更新を移行することは避けてください。異なるバージョンの ServiceNow Store アプリを実行しているインスタンス間で更新を移行する場合でも、同様の制約があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IP アクセスコントロールによる転送

ソースインスタンスで IP アドレスアクセスコントロールが有効になっている場合、またはソースインスタンスがターゲットインスタンスとは異なるデータセンターにある場合は、更新セットを転送する前に次の作業を完了します。

1. カスタマーサービス & サポート に連絡して、インスタンスをサポートするすべてのアプリケーションノードの IP アドレスを確認してください。
2. ソースインスタンスで、システムセキュリティのIPアドレスのアクセス制御に移動します。ステップ 1 のIPアドレスを例外として追加します。

ベーシック認証による転送

ソースインスタンスで SOAP 要求に対してベーシック認証が有効になっている場合は、有効な認証情報を使用して更新セットを取得する必要があります。

XML ファイルを使用した転送

更新セットを XML ファイルとしてアンロードし、別のインスタンスに転送できます。詳細については、「更新セットをローカルの XML ファイルとして保存する」を参照してください。

更新セットを取得

完了した更新セットを別のインスタンスから取得します。

このタスクについて

⚠ **警告:** 更新セットを使用すると、異なるバージョンのファミリーリリースや異なる機能を実行しているインスタンス間で変更を移行できます。以前のファミリーリリースで作成された更新セットを新しいファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードすることはいつでも可能です。新しいファミリーリリースで作成された更新セットを以前のファミリーリリースを実行しているインスタンスにロードする場合は、互換性を確認するために追加のテストが必要になります。新しいファミリーリリースで行われた更新を以前のファミリーリリースに移行しても、同じ機能が生成されない場合があります。極端なケースでは、新しいファミリーリリースの更新が原因で、以前のファミリーリリースのインスタンスで機能停止やデータ損失が発生することがあります。可能であれば、新しいファミリーリリースから以前のファミリーリリースに更新を移行することは避けてください。異なるバージョンの ServiceNow Store アプリを実行しているインスタンス間で更新を移行する場合でも、同様の制約があります。

手順

1. ソースインスタンスで IP アドレスアクセスコントロールが有効になっている場合は、ターゲットインスタンスを例外として設定します。
2. ターゲットインスタンスで、システムアップデートセット > ソースの更新に行きそして新しいをクリックします。
3. テーブルの説明に従って接続設定を指定します。

フィールド	説明
名前	そのインスタンスにユニークな名前を入力します。
タイプ	リモートインスタンスが開発、テスト、またはUATインスタンスのいずれであるかを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
有効	ローカルインスタンスが更新セットをリモートインスタンスに転送できるかどうかを指定します。更新セットはアクティブなリモートインスタンスにのみ転送できます。
URL	適切な転送プロトコルを使用してリモートインスタンスのURLを指定します。各リモートインスタンスレコードにはユニークなURLが必要です。同じURLを持つ重複レコードを作成すると、エラーが発生する可能性があります。リモートインスタンスは、ローカルインスタンスと同じリリースファミリにあるものとします。 **注:** システムが接続を確認した後で、URLを変更することはできません。アクティブフィールドを使用して、不要なリモートインスタンスを非アクティブにします。
ユーザー名	このインスタンスに更新セットを転送する権限を持つユーザーをリモートインスタンスに入力します。このユーザーアカウントには、リモートインスタンスに対して admin ユーザーロールが必要です。
パスワード	承認ユーザーのパスワードを入力します。
簡単な説明	[オプション]リモートインスタンスに関するその他の関連情報を入力します。

4. [テスト接続] をクリックします。
   - 接続に成功すると、確認メッセージが表示されます。
   - 接続が失敗した場合、警告メッセージによって障害の原因が特定されます。
5. 接続が失敗した場合は、設定を変更して接続を確立します。
   - 接続設定を保存する前に接続を確立する必要があります。
   - ソースインスタンスを変更することができます(たとえば、パスワードを変更する)。
6. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
7. 関連リンク の下で、完了した更新セットを取得するをクリックします。
   - 完了とマークされた更新セットはソースインスタンスからターゲットインスタンスに転送されます。ターゲットインスタンス上にすでに存在する更新セットはスキップされます。
   - 確認ページには、転送された更新セットの数とスキップされた更新セットの数に関する詳細なメッセージが表示されます。
   - 取得した更新セットを表示するには、システムアップデートセット > 取得された更新セットに行きます。

次のタスク
システムプロパティ **glide.update_set.auto_preview** が**true**に設定されていると、更新セットが取得された後、システムは自動的にプレビュー処理を開始します。このプロパティが**false**であると、プレビュー処理は手動で開始する必要があります。プレビュー処理の詳細については、リモート更新セットのプレビューを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモート更新セットのプレビュー

プレビューによって、リモートインスタンスから取得した更新セットとローカルインスタンス上の更新が比較され、潜在的な問題が検出されます。更新セットをプレビューし、すべての問題を解決してから、更新セットを収容する必要があります。

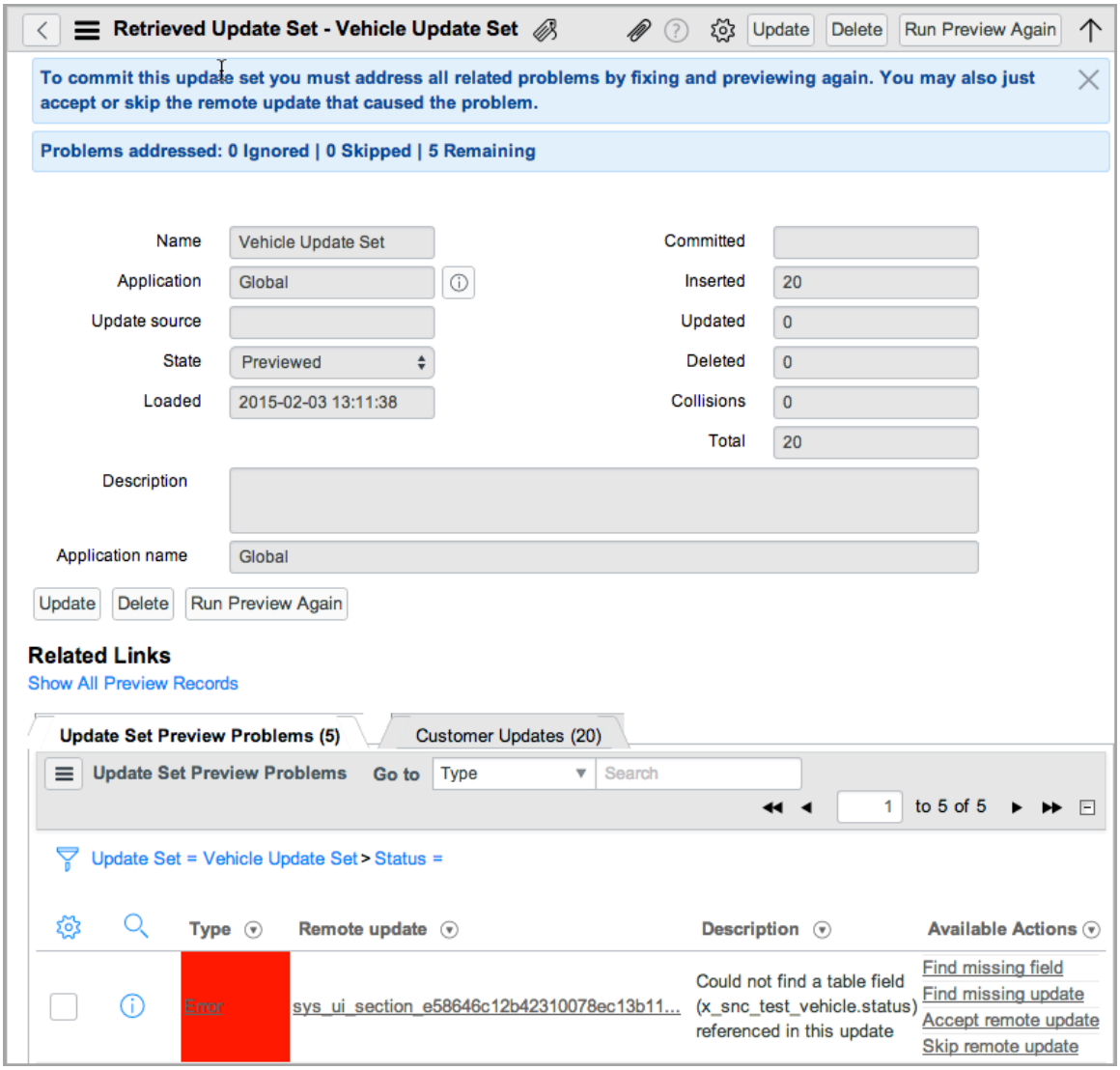
手順

1. システムプロパティ **glide.update_set.auto_preview** が**true**に設定されていると、更新セットが取得された後、システムは自動的にプレビュー処理を開始します。
   このプロパティが**false**であると、プレビュー処理は手動で開始する必要があります。
   a. [システムアップデートセット] > [取得済み **Update Sets]** に移動します。
   b. 更新セットのプレビューをクリックします。
   大規模な更新セットの場合、プレビュー処理にかなりの時間がかかることがあります。必要に応じて、進捗状況ダイアログボックスのキャンセルボタンをクリックしてプレビュープロセスをキャンセルできます。
   更新セットプレビューページに結果が表示され、問題がリスト表示されます。情報を読んで閉じるをクリックします。
2. [取得済み更新セット] フォームで、選択します。

オプション	アクション
問題が検知されなかった場合	更新セット収容 をクリックしてプレビュー結果を確認せずにインスタンスのすべての変更を収容します。
問題が検知された場合	更新セットプレビューでの問題点関連リストの各問題に対処します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

取得された更新セットフォーム



3. オプション: レコードをプレビューします。
   a. 更新セットレコードを開き、すべてのプレビューレコードを表示するをクリックして、正しい更新が収容されていることを確認します。
   b. 更新セットレコードを開き、プレビューをもう一度実行するをクリックして比較を再度実行します。
   c. そのプレビューの問題関連リストをレビューし正しい更新が収容されていることを確認する。

更新セットのプレビューレコードをレビューする

更新セットをプレビューするプロセスでは、更新ごとにプレビューレコードを作成します。プレビューレコードを確認して、正しい更新が収容されていることを確認できます。

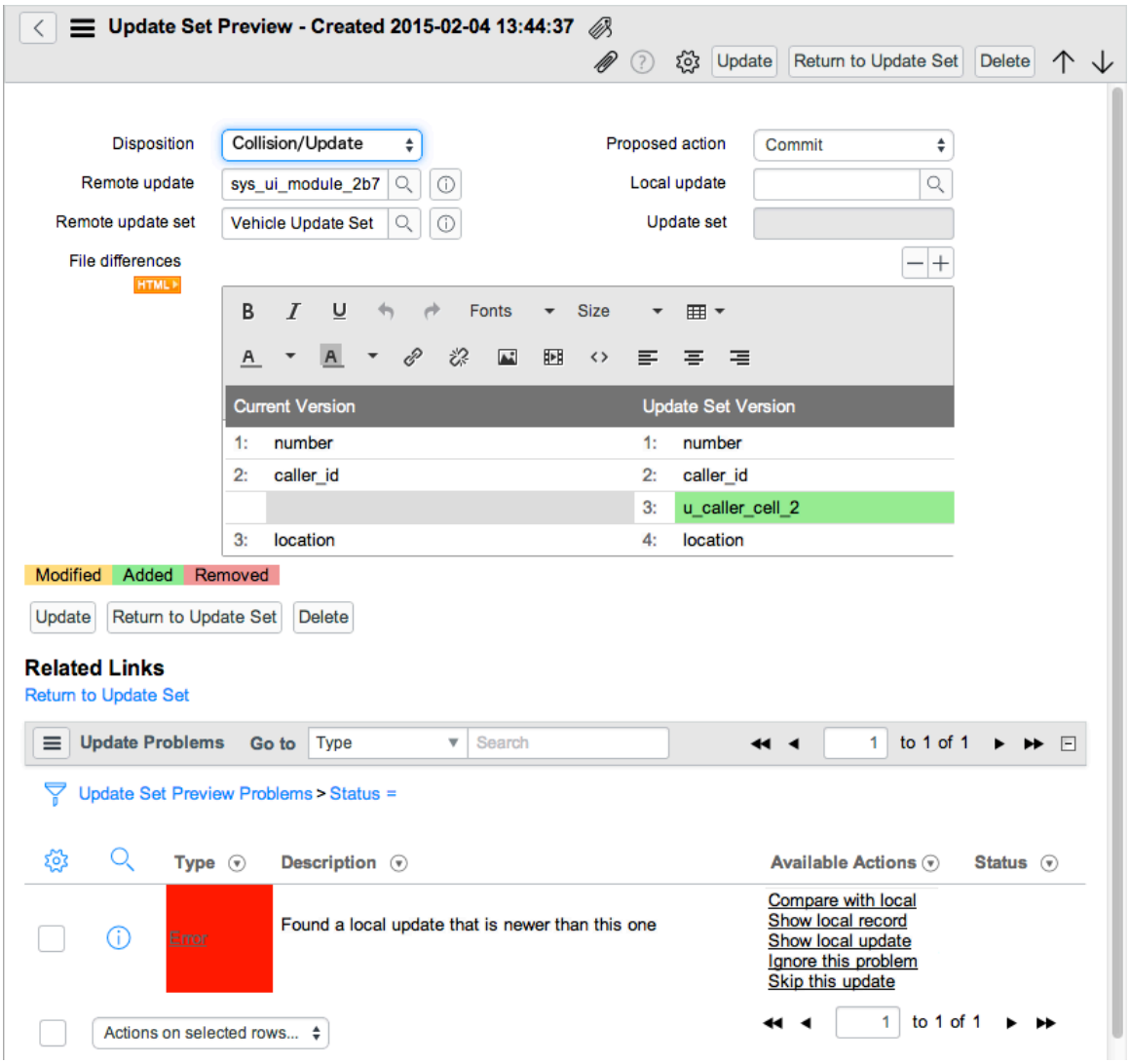
手順

1. 更新セットレコードを開き、更新セットをプレビューします。
2. すべてのプレビューレコードを表示する関連リンクをクリックします。
3. Disposition(整理)をクリックしてプレビューレコードを開き、情報を確認します(テーブルを参照)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 必要に応じて、フォームのフィールドに入力します。

更新セット プレビュー



フィールド	説明
処分	競合が検知されたときを示します： ◦競合/更新、 競合/挿入、または競合/削除：その変更はローカルインスタンス上の同じオブジェクトへの変更より古いです。 ◦変更を更新、インサート、または削除することはローカルインスタンスの変更と競合しません。
ファイルの差異	ローカルインスタンス上のオブジェクトの最新バージョンと更新セット内のバージョンを比較します。違いにはカラーキーが付いています。削除は赤で、追加は緑で、そして変更は黄色で強調表示されます。
提案されたアクション	更新セットが収容されたときの変更の処理方法を示します。 ◦収容：はリモート更新の変更を受け入れます。新しい更新がインスタンスに存在する場合でも、どのプレビューレコードに対してもデフォルトで提案されたアクションが収容です。 ◦スキップ：変更を拒否します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 必要に応じて、更新の問題関連リストにリストされたいずれかの問題を解決します。
6. フィールドで、更新セットを収容するときに実行するアクションを選択します。
7. 更新をクリックしてアクションを保存します。
8. すべてのプレビューレコードに対してこのプロセスを繰り返する。

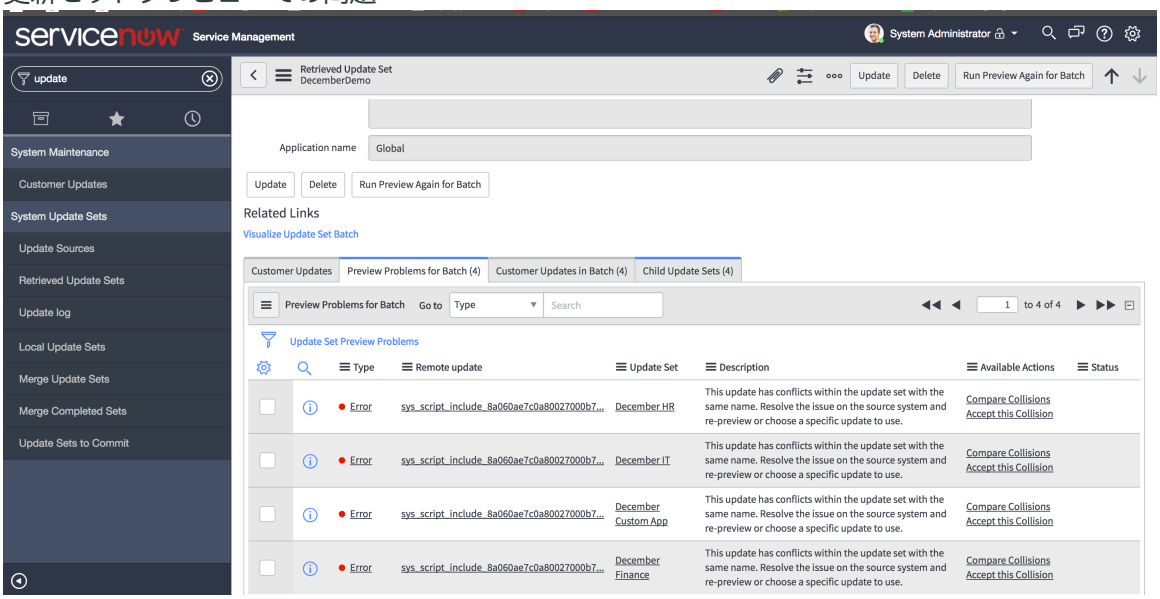
更新セットでプレビューの問題を解決する

更新セットをプレビューし、ローカルインスタンスで更新を収容する場合に発生する可能性のある問題を検知して解決します。

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [取得済み **Update Sets]** に移動します。
2. 更新セットレコードを開き、更新セットプレビューでの問題を修正する関連リストをスクロールして見ます。

更新セットプレビューでの問題



3. 各問題の説明をレビューして原因を判断し、問題を解決します。
   更新セットプレビューの問題

   オブジェクトが見つからない

   問題記述文の例：この更新で参照されている `sys_ui_policy` にレコードが見つからません。

   説明：オブジェクトまたは参照されたオブジェクトがターゲットインスタンスに存在しません。例：

   - 更新はローカルインスタンスで作成されていないテーブルのフォームレイアウトを変更します。
   - UIポリシーアクションは更新セットに含まれているが、親 UI ポリシーは含まれていません。
   - 解決策：欠落しているオブジェクトをローカルインスタンスに転送するために、ソースインスタンスに別の更新セットを作成するか、ローカルインスタンスにオブジェクトを作成します。利用可能なアクションを用いて問題の解決を支援します：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 不足しているフィールドを検索 **(Find missing field)** または 不足しているレコードを検索 **(Find missing record)**：新しいウィンドウを開き、不足しているフィールド (辞書エントリ) またはレコードのソースインスタンスを検索します。
- 不足している更新を検索 **(Find missing update)**：新しいウィンドウを開き、不足しているフィールドまたはレコードに対応する更新レコードのソースインスタンスを検索します。

衝突

問題記述文の例： この更新より新しいローカル更新が見つかりました

説明：更新セットの変更は、ローカルインスタンス上の同じオブジェクトへの変更より古いです。

解決策：2つの更新を比較し、どちらのバージョンを使用するかを決定します。ローカルインスタンスのバージョンを使用するには、リモート更新をスキップする を選択します。更新セット内のバージョンを使用するには、リモート更新を受け入れるを選択します。利用可能なアクションを用いて問題の解決を支援します：

- ローカルと比較：プレビューレコードが開いて、ローカルバージョンと更新セット内のバージョンの違いが比較されます。
- ローカルフィールドを表示するまたはローカルレコードを表示します
- ローカルの更新を表示

収容されていない更新

問題記述文の例： この更新で参照されているテーブルフィールド (`u_case.u_reference`) が見つかりませんが、収容されていない別の更新セットが見つかりました。

説明：オブジェクトは収容されていない別のリモート更新セットに存在します。

解決策：最初に他のリモート更新セットを収容するか、この更新を別の更新セットに移動します。利用可能なアクションを用いて問題の解決を支援します：

- 収容されていない更新を表示する ：他のリモート更新セットに更新レコードを開きます。
- 収容されていない更新セットを表示する ：他のリモート更新セットレコードを開きます。

削除するテーブルにデータがある

問題記述文の例：その表の中に削除されるべき行が見つかりました

説明：テーブルの削除とその他のメタデータの削除の違いの１つは、テーブルが削除されるとテーブルのデータが失われることです。(テーブルが空の場合(行がない場合)、問題は発生しません。)

解決策：更新セットを収容する前に、この問題を無視(削除が行われる)またはスキップ(削除が行われない)する必要があります。テーブルを回復することはできますが、その回復によってデータは復元できません。

システムテーブル (ServiceNow テーブル) またはアプリケーションスコープ外のテーブルは削除できません。

アプリケーションスコープ検証の問題

説明：プレビューアは、次の状態の組み合わせを問題として識別します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 更新セットのスコープはグローバルではありません。
- アプリケーションがターゲットインスタンス上に見つかりません。
- アプリケーションは更新セットに含まれていません。
- アプリケーションがServiceNow Storeに見つかりません。

解決策：更新プログラムセットだけをアプリケーションスコープを含むインスタンスに転送するか、更新セットがアプリケーションを含むことを確認します。

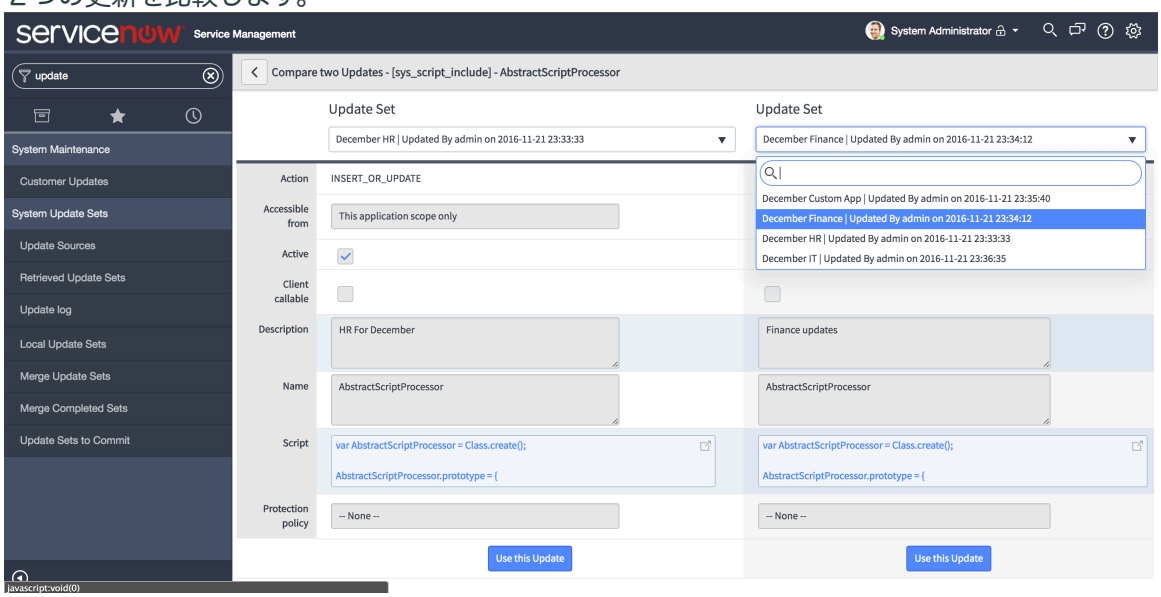
1 つのバッチ内の競合

問題記述文の例： この更新では、同じ名前の更新セット内で競合が発生しています。その問題をソースシステム上で解決し、再度プレビューするか使用すべき特定の更新を選んでください。

説明：同じバッチ内の２つ以上の更新セットに競合する変更があります。[更新セットプレビューの問題] リストには、競合する変更を含む各更新セットのレコードが含まれています。

解決策：競合する更新セットを比較し、使用するバージョンを決定します。どの更新セットを使用するのが正しいかどうかわかっている場合は、そのセットの行を選択して この競合を受け入れるをクリックします。それ以外の場合は、競合を比較するをクリックして競合する更新セットを比較します。

２つの更新を比較します。



この画面では、競合する更新セットのいずれか２つを比較し、収容する更新セットを選択できる。

更新セットを収容

更新セットをプレビューして問題を解決すると、更新セットを収容します。更新セットをコミットすると、すべての変更がインスタンスに適用され、各変更の更新レコードを含んだ更新セットのローカルコピーが作成されます。

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [取得済み **Update Sets]** に移動して、更新セットを開きます。
2. 問題の解決

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべての問題が解決されるまで、更新セットを収容することはできません。

3. 更新セットの収容をクリックします。
   - キャンセルをクリックし、プレビューに戻って変更を再評価します。どの更新も収容されません。
   - **OK** をクリックし、変更をスキップし、収容とマークされた変更を収容します。

   スキーマの更新セットに1つ以上の消去が含まれていると、警告が表示されます。警告には、問題を含む可能性のある5つまでの更新がリスト表示されます。5つ以上の更新に潜在的な問題がある場合、システムはリンクを提供します。

   システムが更新セットを正常に収容すると、完了ページが表示されます。

4. 確認ページで [ログをコミット **(Commit log)]** をクリックするか、または[システムアップデートセット] > [更新ログ **(Update log)]**に移動して更新セット名でフィルタリングします。
   - 安全でない編集のテキストを含む警告を探します。データが含まれているフィールドのタイプを変更するような、データが失われることになる変更は自動的にスキップします。必要に応じて、これらの変更を手動で行う必要があります。運用データに影響を与える変更を行う場合は注意が必要です。
   - 収容に失敗したレコードとその理由を示すエラーを探す。必要に応じて、これらの障害に対処するための新しい更新セットを作成します。
5. 更新セットの作業は終了したものの、別のインスタンスに転送しない場合は、[システムアップデートセット] > [ローカル **Update Sets (Local Update Sets)]**に移動してローカル更新セットレコードを開きます。
   状態を無視するに変更します。

次のタスク
本番インスタンスで完了した更新セットに対しては、常に状態を無視に変更する必要があります。この状態は、確実にインスタンスのクローン作成時に更新セットが再度収容されないようにする。

更新セットを切り戻し

収容された更新セットの既存レコードの変更を取り消せます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
更新セットを取り消すと、現在の更新セット内に削除更新が作成されます。リモート更新セットを収容、切り戻し、再適用すると、削除された更新がより最近の変更で競合が発生するとみなされるため、プレビューアにエラーが表示されます。

⚠ **警告:** デフォルトの更新セットを取り消してはなりません。このアクションは、そのインスタンスの構成を損なう可能性があります。

切り戻しプロセスは、レコードレベルの更新とディクショナリーへの変更の両方を元に戻します。切り戻しによって引き起こされるいくつかの変更は、データ損失を招く可能性があります。切り戻しプロセスで予想される結果は次のとおりです。

顧客アップデート	切り戻しアクションの結果
新しいテーブル	そのテーブルはデータベースから削除され、そこからデータが削除されます。
新しいフィールド	そのフィールドはデータベースから削除され、そこからのいずれのデータも削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

顧客アップデート	切り戻しアクションの結果
削除された フィールド	フィールドはデータベースに回復されますが、元のデータは失われます。
サイズ変更されたフィールド	フィールドのサイズ変更は戻されます。フィールドが増加した場合は、エラーを避けるためにデータが最初に切り捨てられます。
設定された フォーム	フォームは前の状態に戻ります。
レコードが挿入されました。	レコードは削除されました。(以下の注意を参照)
レコードは削除されました。	レコードは元のデータで回復しました。

⚠ **警告:** 更新セットバッチに属する更新セットを取り消すと、バッチ内の他の更新セットに影響することがあります。詳細については、「バッチ更新セットの取り消し」を参照してください。

- sys_package がグローバルの場合は削除されます。
- sys_package がグローバルではなく、値が設定されている場合は、削除がないことを示す警告が表示されます。代わりに、sys_update_xml がデフォルトの更新セットに入れられ、レコードはそのまま残されます。

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [ローカル更新セット] に移動します。
2. 更新セットレコードを開きます。
   それが完了していて [リリース日] フィールドに日付が設定されていることを確認します。

   ℹ **注:** 現在選択されているアプリケーションは、更新セットで使用できるオプションに影響します。更新セットの内容に一致する(グローバルのような)アプリケーションを選択していることを確認します。

3. 更新セットの内容を慎重に確認し、取り消された場合に問題が発生するかどうかを検討します。
   更新セットを取り消すだけで十分でない場合、または問題を引き起こす場合は、カスタマイズを元に戻すように新しい更新セットを作成して収容します。
4. 取り消しをクリックします。
   進捗状況ページには、アクション、進捗状況、および問題が表示されます。問題は、取り消しされている更新セットに影響するより新しい更新セットの変更です。取り消しプレビュープロセスは、問題ごとに警告を生成します。
5. 取り消しを続行する前に、各問題を解決します。
   - 最新バージョンを使用するには、現在の状態を維持すると決定する をクリックします。
   - 以前のバージョンに戻すには、前の使用を決めるをクリックします。

   すべての変更はテーブルに記載されているように逆になります。現在の更新セットは、発生したすべての新しい変更を追跡します。

   更新セットと関連するすべての更新レコードが削除されます。必要に応じて、取得した更新セットにナビゲートしてプレビューし、再度収容できます。

   ℹ **注:** リモート更新セットを収容し、取り消しそれから再適用すると、更新セットの取り消しは現在の更新セット内に削除更新を作成するため、更新エラーがプレビューアに表示されます。削除はより最近の変更とみなされ、衝突を引き起こします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セットの削除に関する注意事項

更新セットを削除するのは悪い習慣です。カスタマイズを元に戻すには、削除するのではなく、更新セットを取り消してください。

アドミニストレーターは、それが現在の更新セットでなく、空の場合(それに関連付けられた `sys_update_xml` エントリがない)にのみ更新セットを削除できます。たとえば、更新セットを結合した後、元のセットを削除できます。この機能は、更新セット [sys_update_set]テーブルのアクセス制御ルール(ACL)によって制限されます。

`sys_update_xml` 項目を削除しないでください。なぜならこのアクションは：

- 更新を元に戻せません。
- カスタマイズを適用したレコードを削除します。
- 更新セットに関連付けられた `sys_update_xml` 項目を除去する、するとインスタンスのアップグレード時にカスタマイズが上書きされます。

更新エントリを削除しようとすると、警告メッセージが表示されます。**[OK]** をクリックして削除を確認します。

更新セットの一括

バッチ 更新セットを使用すると、更新セットをグループ化できるので、一括でプレビューおよび収容ができます。

複数の更新セットを扱うと、間違った順序で更新セットを収容したり、誤って1つ以上のセットを残したりするなどの問題に繋がる可能性があります。完了した更新セットをバッチにすることで、これらの問題を回避できます。

> **注:** クローン作成中に更新セットのバッチ階層を保持するには、親の更新セットのみを「無視」ステータスに設定し、他のすべての更新セットを「完了」のままにします。これにより、バッチセットのクローン作成が防止され、バッチ更新セット階層が保持されます。

更新セットのバッチを階層に編成します。１つの更新セットは、複数の子更新セットに対する親として行動できます。与えられたセットは子と親の両方になれるので、複数レベルの階層を可能にします。階層の最上位にある1つの更新セットは、更新セットのベースとして働きます。

基本更新セットをプレビューまたは収容すると、バッチ全体をプレビューまたは収容することになります。システムは処理の順序を決定し、変更が記録された日付とその逐次祖先に基づいて競合をチェックします。彼らの祖先は、更新セットの変更が行われた特定のインスタンスです。

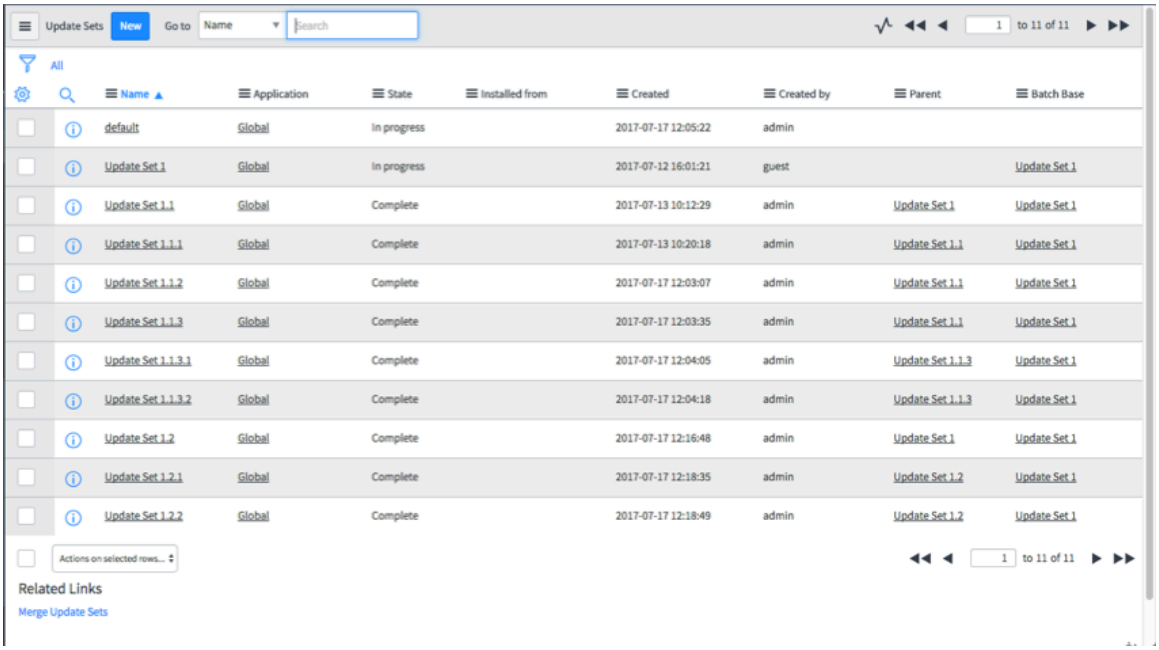
> **注:** 詳細については、「ローカルな更新セットの比較」と「カスタマイズを表示し現バージョンと比較する」を参照してください。

バッチ更新セットの例

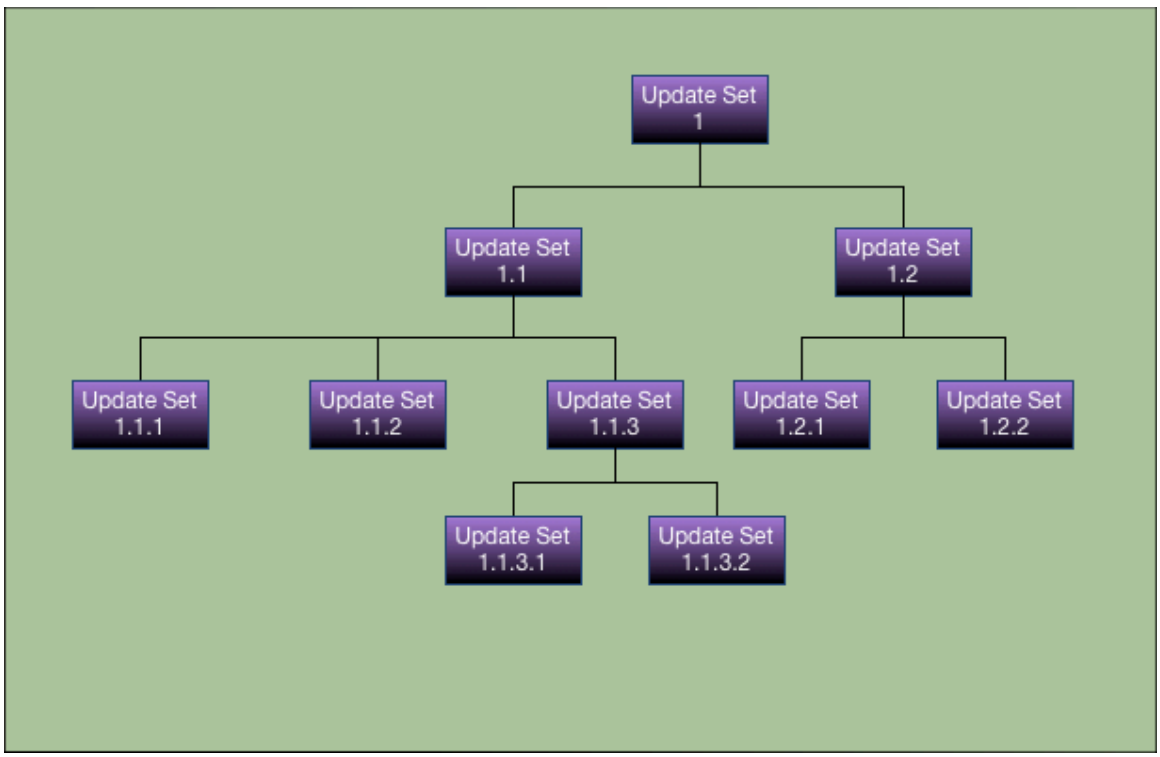
更新セットレコードリストは、[親] および [バッチベース] 列のバッチ階層を反映しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

バッチ更新セットのリスト



バッチ更新セット階層の図



バッチ更新セットの作成

その親として別の更新セットを指定することにより、更新セットをバッチに含めます。

始める前に

必要なロール：admin

完了したバッチに WIP 更新セットを追加してバッチベースを WIP にリセットします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [ローカル更新セット] に移動します。
2. バッチの子として含めたい更新セットに対するレコードを選択します。
3. 更新セットレコードで、親フィールドに行きそして親として機能するように更新セットを選択します。
4. [更新] をクリックします。
   システムは更新セットのリストに戻ります。親列が表示されている場合は、それは新しく作成された子の親を表示している。

バッチ済み更新セットを取得する

個々の更新セットと同じプロセスを使用して更新セットのバッチを取得します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

検索するには個々の更新セットのバッチは、個別の更新セットに対するのと同じように、バッチベースに対しても同じプロセスを実行します。
システムはバッチ全体を一度に処理します。詳細については、「更新セットを取得」を参照してください。

更新セットのバッチをプレビューする

一度にバッチに属するすべての更新セットをプレビューできます。

始める前に
必要なロール：admin
ソースインスタンスから更新セットを取得しておく必要があります。

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [取得済み **Update Sets]** に移動します。
2. 取得した更新セットのリストから、プレビューしたいそのバッチに対するバッチベースを選択します。
   バッチでの子の更新セットを個別にプレビューすることはできません。バッチベースをプレビューすることで、バッチ全体をプレビューする必要があります。必要に応じて、レコードの親フィールドを編集してバッチから子の更新セットを削除することができます。
3. プレビュー 更新セット **Batch**をクリックします。
4. システムが問題を検出した場合は、問題をプレビューします。
   a. [バッチの問題をプレビュー **(Preview Problems for Batch)]**をクリックし、通常の更新セットと同様に問題を解決します。
   b. すべての問題を解決すると、バッチのプレビューを再度実行するをクリックする。

更新セットのバッチを収容

バッチに属するすべての更新セットを一度に収容できます。

始める前に
必要なロール：admin
収容する前に、ソースインスタンスから更新セットをプレビューし、競合を解決しておく必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [取得済み **Update Sets]** に移動します。
2. 取得した更新セットのリストから、プレビューするバッチのバッチベースを選択します。
   バッチの子の更新セットを個別にコミットすることはできません。バッチベースを収容することによってバッチ全体を収容する必要があります。必要に応じて、そのレコードの親フィールドを編集して、バッチから子の更新セットを削除することができます。
3. 全ての更新セットを収容するをクリックする。

更新セットのバッチを再編成する

個々の更新セットをバッチから削除するか、その親を変更できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムアップデートセット] > [ローカル更新セット] に移動します。
2. バッチ内で子として移動または削除したい更新セットのレコードを選択します。
3. 更新セットレコードで、親フィールドに行き、親として機能する新しい更新セットを選択します。
4. バッチから更新セットを削除するには、親フィールドからいずれのテキストも消去しそれを空白のままにします。
5. [更新] をクリックします。
   システムは更新セットのリストに戻ります。もしバッチベース列が表示されている場合は、新しく作成された子の親を示します。

次のタスク
システムプロパティ **glide.update_set.auto_preview**が**true**に設定されていると、レコードが新しい親で更新された後、システムは自動的にプレビュー処理を開始します。このプロパティが**false**であると、プレビュー処理は手動で開始する必要があります。プレビュー手続きの詳細は更新セットのバッチをプレビューするを参照してください。

バッチ更新セットの取り消し

バッチのベース更新セットの切り戻し手順に従って、バッチ処理された更新セットを切り戻します。任意の子更新セットを個別に取り消すこともできます。

バッチに属する更新セットを取り消しするときは、次の規則が適用されます。

- 更新セットに親の値がある場合、システムは親の値をクリアし、更新セットを独立した更新セット、または子があれば新しいバッチベースとして扱います。
- システムは、選択した更新セットと、加えて削除された更新セットの子があれば取り消します。

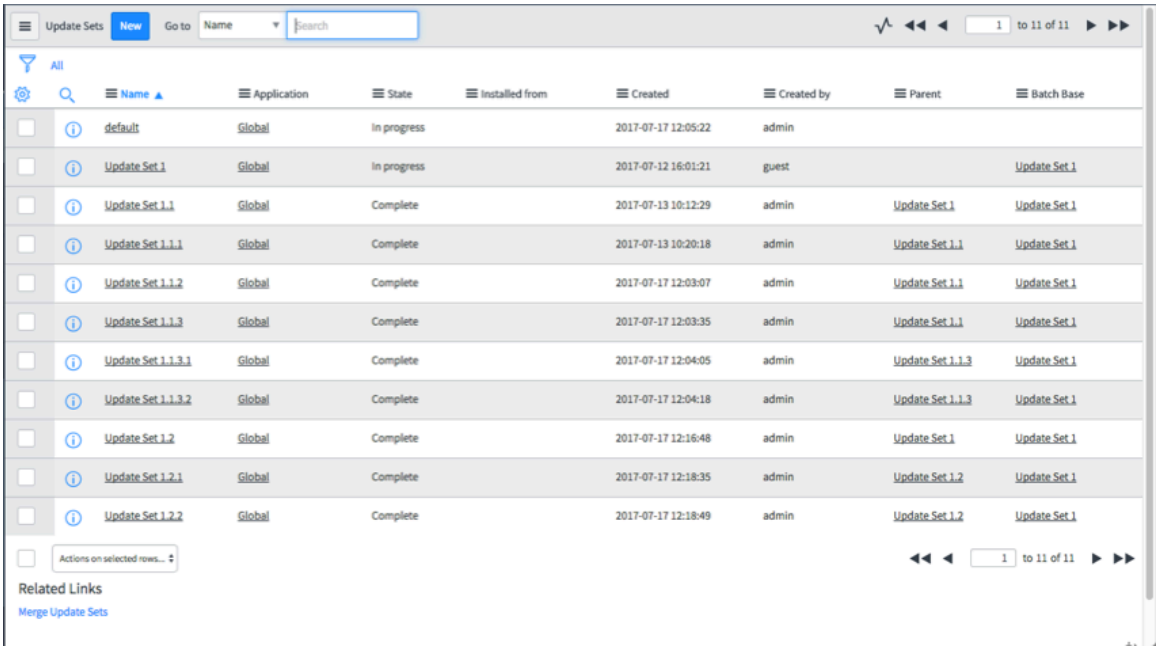
詳細については、「更新セットの切り戻し (Back out an update set)」と「更新セットのバッチ処理 (Update Set Batching)」を参照してください。

バッチ更新セットを取り消しする例

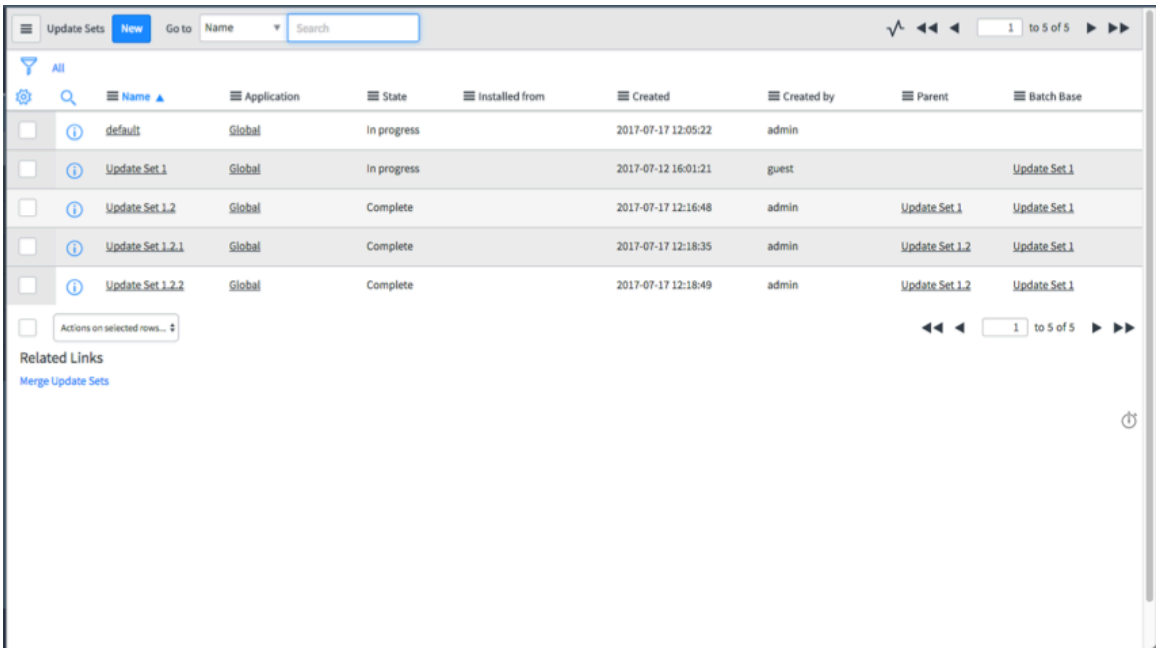
更新セットを取り消しする前のバッチ更新セットのリストに示される更新セット 1.1 を次のバッチから削除した場合、結果は更新セット 1.1 を取り消しした後のバッチ更新セットのリストに示されるバッチになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セットを取り消しする前のバッチ更新セットのリスト



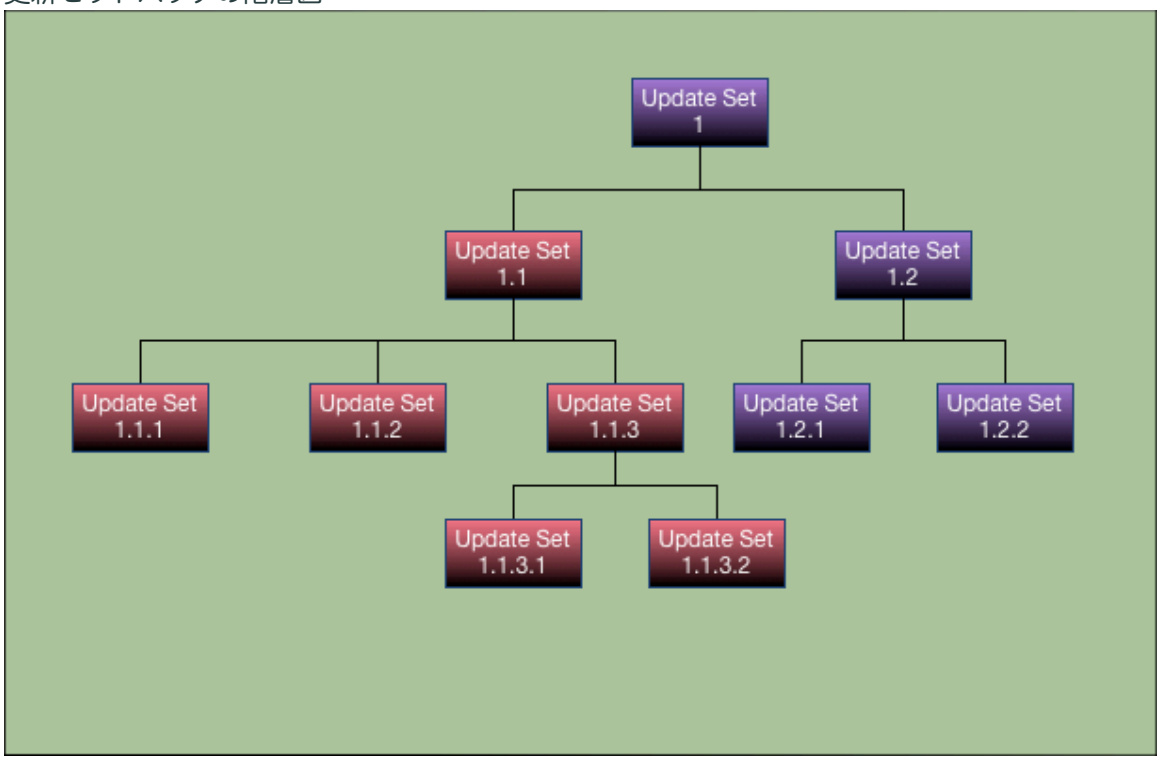
更新セット **1.1** を取り消しした後のバッチ更新セットのリスト



更新セットバッチの階層図 取り消しの前と後の両方の階層を示します。赤いボックスは更新セット 1.1 を取り消した場合にシステムが取り消す更新セットを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セットバッチの階層図



アプリケーションの管理

アプリケーションを管理する方法は複数用意されています。これらの手順を実行するには、admin ロールが必要です。

従来のアプリケーションマネージャー

従来のアプリケーションマネージャーは、インスタンスでのアプリケーション管理方法に関する情報を提供します。アプリケーションのインストール、更新、または削除の詳細については、「従来のアプリケーションマネージャー」を参照してください。

アプリケーションマネージャー

新しい アプリケーションマネージャー エクスペリエンスが利用可能になりました。新しいエクスペリエンスでは、ライセンス済みアプリケーションを 1 つの便利な場所に統合し、すべてのライセンス済みアプリケーション、プラグイン、インストール済みアプリケーション、利用可能な更新を表示することで、管理プロセスを簡素化します。詳細については、「アプリケーションマネージャー」を参照してください。

アプリケーションの共有

アドミニストレーターは、アプリケーションリポジトリへの公開、ServiceNow Store への公開、更新セットへの公開、またはチーム開発インスタンスへのプッシュによって、完了して他のインスタンスで使用できる状態にあるアプリケーションを共有できます。詳細については、「アプリケーションの共有」を参照してください。

アプリケーションの共有

アドミニストレーターは、完了して他のインスタンスで使用できるようになっているアプリケーションを共有できます。

アプリケーション開発者は、次のいずれか 1 つの方法でアプリケーションを共有できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションの共有方法

共有方法	に利用可能にする	典型的なユースケース
アプリケーションリポジトリに公開する	同じ会社に割り当てられているすべてのインスタンス	アプリケーションをテスト環境または本番環境に転送します。
ServiceNow Store に公開する	全てのServiceNow顧客	アプリケーションを他の企業に共有または販売します。
更新セットに公開する	更新セットファイルにアクセスする任意のインスタンス	コンプライアンスまたはバックアップの理由で、アプリケーションのバージョンを保存します。
チーム開発インスタンスにプッシュする	チーム開発環境内の他のインスタンス	開発者の変更を親インスタンスにプッシュする。

注:

「スキーマのトラッキング」：スコープ対象のアプリケーションのテーブルや列の削除は、新たに zBoot されたインスタンスではデフォルトで有効になっています。これを行うには、システムプロパティ `com.glide.apps.include_my_schema` を「true」に設定します。

アップグレードされたインスタンスの場合、カスタムアプリケーションがインストールされていないか開発中である場合、「スキーマの削除のトラッキング」がデフォルトで有効になります。それ以外の場合、このプロパティは「false」に設定されているため、お客様は、Paris 以前のリリースと同じエクスペリエンスで、アプリケーション内でスキーマを削除できます。詳細については、ServiceNow コミュニティサイトの「New York and Scoped Applications New Features (New York およびスコープ対象のアプリケーションの新機能)」の記事を参照してください。

ISV アプリケーションのカスタムライセンス

共有しているアプリケーションの場合、アプリケーションの使用状況メトリクスを追跡するための定義を作成できます。詳細については、「ISV アプリケーションのカスタムライセンス」を参照してください。

ServiceNow アプリケーションリポジトリ

カスタムアプリケーションを開発してテストした後、アプリケーションを ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開することで、会社のインスタンスで使用できるようにすることができます。

ServiceNow アプリケーションリポジトリは、すべての ServiceNow の顧客によって公開されている、すべてのスコープ対象アプリケーションの中央リポジトリです。

注: ServiceNow アプリケーションリポジトリは、自己ホスト (オンプレミス) のお客様は利用できません。

アプリケーションリポジトリを使用すると、ServiceNow の顧客はインスタンス間でアプリケーションをアップロードして配布できます。アプリケーションリポジトリにアクセスした場合、自分の組織が公開しているアプリケーションのみを表示および管理できます。他の組織が公開しているアプリケーションを表示または管理することはできません。

カスタムアプリケーションを設計、開発し、テストが成功したら、そのアプリケーションを ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開して、社内の他のインスタンスで共有できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンタイトルメント

エンタイトルメントは、アプリケーションリポジトリからスコープ対象アプリケーションをインストールするために、インスタンスに付与される権限です。インスタンスにアプリケーションをインストールするには、そのインスタンスにアプリケーションのエンタイトルメントが付与されている必要があります。

デフォルトでは、アプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開すると、会社のすべてのインスタンスにアプリケーションに対するエンタイトルメントが自動的に付与されます。アプリケーションに対するエンタイトルメントを持つ会社のインスタンスを制限するには、https://apprepo.service-now.com にアクセスしてアプリケーションのエンタイトルメントタイプを変更します。 アプリケーションエンタイトルメントが既に削除されている場合は、インスタンスに再度エンタイトルメントを付与することもできます。詳細については、「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理」を参照してください。

アプリケーションリポジトリの使用

アプリケーションリポジトリにアクセスするには、https://apprepo.service-now.com に移動します。

> **注:** Federal Store を使用している顧客は、HIWave にログインし、ページの下部にある [Federal Store] オプションを選択する必要があります。次に、会社名の下にある [自分のリポジトリ (My Repository)] を選択して続行します。

アプリケーションをアプリケーションリポジトリに発行すると、次の操作ができるようになります。

- アプリケーションリポジトリからのアプリケーションのインストール
- アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理
- アプリケーションリポジトリからのアプリケーションの削除
- アプリケーションリポジトリからのスコープの解放

アプリケーションを管理する

ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開するアプリケーションの管理方法を説明します。

カスタムアプリケーションを設計、開発し、テストが成功したら、そのアプリケーションを ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開して、社内の他のインスタンスで共有できます。自身の組織によって公開されたアプリケーション、または ServiceNow アプリケーションリポジトリを使用してプラグインを介してインストールされたスコープ対象のアプリケーションのみを表示、管理、カスタマイズできます。他の組織が公開しているアプリケーションを表示、管理、カスタマイズすることはできません。

> **注:** スコープ対象アプリの開発では、更新セットとアプリケーションリポジトリの両方の使用を併用しないでください。これにより、変更のスキップやコミットエラーなど、多くの問題が発生します。アプリケーションリポジトリからアプリケーションをインストールしたら、今後のすべての開発のために開発とアプリケーションリポジトリへの公開を継続する必要があります。更新セットを使用してアプリケーションを開発する場合は、引き続きその方法を排他的に使用する必要があります。

概要

アプリケーションリポジトリは ServiceNow Store の一部です。ServiceNow の顧客インスタンスは、特定のストアインスタンス (商用または規制市場など) に接続されます。アプリケーションリポジトリに公開された顧客アプリケーションは、マルチテナントのアーティファクトストレージに保存されますが、顧客が他の顧客の公開アプリケーションを表示したりアクセスしたりすることはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションリポジトリでは、特定のアプリケーションのバージョン数は最大 20 に制限されています。チームが同時に 20 を超える数のアプリケーションのビルドまたはバージョンを生成している場合は、最も古いものが削除されます。

アプリケーションリポジトリでは、アプリケーションのファイルサイズは 1 GB に制限されています。このファイルサイズを超えるアプリケーションは、公開プロセス時に受け入れられません。

アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理

アプリケーションのエンタイトルメントを追加または削除して、アプリケーションをインストールできるインスタンスを制限します。

始める前に

管理できるのは、アプリケーションリポジトリに公開したアプリケーションのみです。詳細については、「アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

デフォルトでは、アプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開すると、会社のすべてのインスタンスにアプリケーションに対するエンタイトルメントが自動的に付与されます。アプリケーションに対するエンタイトルメントを持つ会社のインスタンスを制限するには、https://apprepo.service-now.com にアクセスしてアプリケーションのエンタイトルメントタイプを変更します。 アプリケーションエンタイトルメントが既に削除されている場合は、インスタンスに再度エンタイトルメントを付与することもできます。

手順

1. https://apprepo.service-now.com に移動します。
2. HI 認証情報を使用してログインします。

> **注:** Federal Store を使用している顧客は、HIWave にログインし、ページの下部にある [Federal Store] オプションを選択する必要があります。次に、会社名の下にある [自分のリポジトリ (My Repository)] を選択して続行します。

3. アプリケーションリストの横にある [アクションを選択] をクリックし、[エンタイトルメントを管理 **(Manage Entitlements)**] をクリックします。
4. アプリケーションのエンタイトルメントタイプを選択します。

オプション	説明
すべてのエンタイトルメントを解除する (Remove all existing entitlements)	会社のどのインスタンスもアプリケーションをインストールできません。
すべてのインスタンスにエンタイトルメント (Entitle all instances)	会社のどのインスタンスでもアプリケーションをインストールできます。アプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開すると、このオプションがデフォルトで選択されます。
選択したインスタンスにエンタイトルメント (Entitle selected instances)	選択したインスタンスのみがアプリケーションをインストールできます。[利用可能なインスタンス **(Available Instances)**] リストから [選択したインスタンス **(Selected Instances)**] リストにインスタンスを移動して、エンタイトルメントを付与するインスタンスを選択します。

5. **[OK]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションリポジトリからのスコープの解放

スコープを使用して新しいスコープ対象アプリケーションを作成できるように、アプリケーションリポジトリからスコープを解放します。

始める前に

アプリケーションスコープを解放できるのは、スコープがアプリケーションによって使用されていない場合のみです。スコープがアプリケーションによって使用されている場合は、スコープを解放する前に「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションの削除」の手順に従ってください。

必要なロール：アカウントのプライマリカスタマーアドミン

このタスクについて

アプリケーションリポジトリには、すべてのカスタムアプリケーションのスコープが格納されます。アプリケーションリポジトリに格納されているスコープを使用して新しいアプリケーションを作成することはできません。スコープを解放するということは、アプリケーションリポジトリからスコープを解除し、そのスコープを使用する新しいアプリケーションを作成できるようになることを意味します。

手順

1. https://apprepo.service-now.com に移動します。
2. HI 認証情報を使用してログインします。

> **注:** Federal Store を使用している顧客は、HIWave にログインし、ページの下部にある [Federal Store] オプションを選択する必要があります。次に、会社名の下にある [自分のリポジトリ (My Repository)] を選択して続行します。

3. [スコープ] タブを開きます。
4. スコープリストの横にあるごみ箱アイコン ( ) をクリックします。

アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開

カスタムアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開して、組織内の他のインスタンスにインストールできるようにします。

始める前に

開発者がアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開できるようにするには、[アプリリポジトリに公開 (Publish to App Repo)] 権限を開発者に委任します。詳細については、「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。

必要なロール：admin、または [アプリリポジトリに公開 (Publish to App Repo)] 権限を有効にした delegated_developer

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。
2. [開発中] タブをクリックします。
3. アプリケーションリポジトリに公開するアプリケーションレコードを開きます。
4. [自分のアプリケーションリポジトリに公開] 関連リンクを選択します。
5. [送信] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

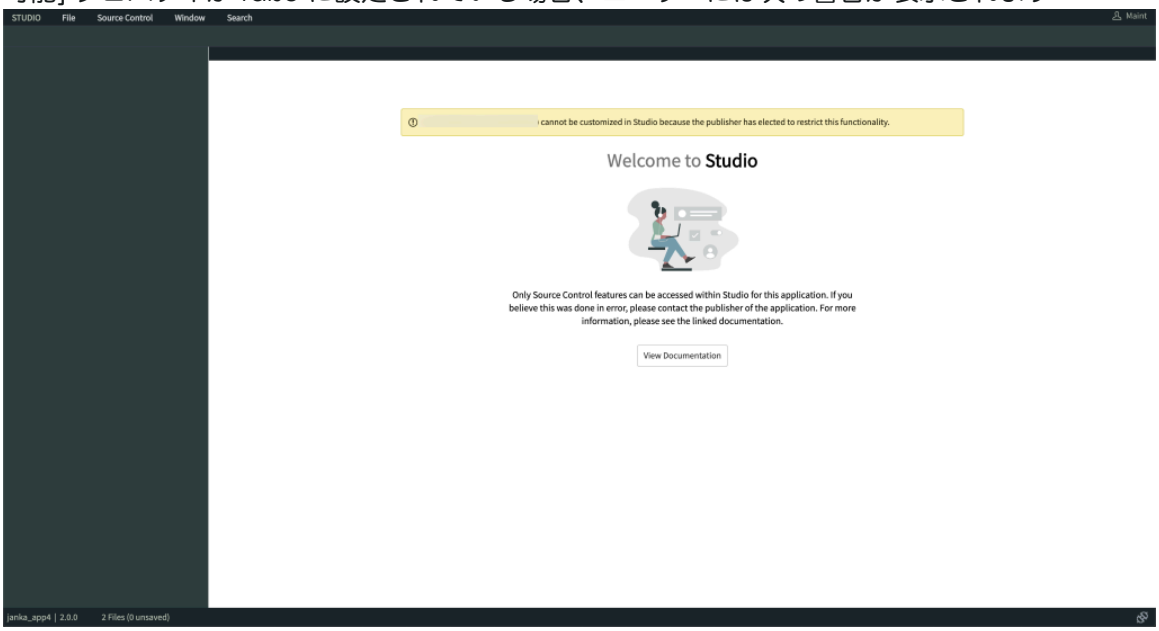
次のタスク
会社のインスタンスにアプリケーションをインストールして、会社がその使用を開始できるようにします。詳細については、「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションのインストール」を参照してください。

デフォルトでは、アプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開すると、会社のすべてのインスタンスにアプリケーションに対するエンタイトルメントが自動的に付与されます。アプリケーションに対するエンタイトルメントを持つ会社のインスタンスを制限するには、https://apprepo.service-now.com にアクセスしてアプリケーションのエンタイトルメントタイプを変更します。

注:

[Studio でアプリケーションの編集が可能] プロパティは、新しいアプリケーションの場合はデフォルトで true に設定されていますが、公開前に false に設定できます。

スタジオで、アプリケーションのカスタマイズの [スタジオでアプリケーションの編集が可能] プロパティが false に設定されている場合、ユーザーには次の警告が表示されます：



詳細については、「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理」と「ServiceNow Studio へのアクセス」を参照してください。

アプリケーションリポジトリからのアプリケーションのインストール

インスタンスにアプリケーションをインストールし、開発したアプリケーションの使用を従業員が開始できるようにします。

始める前に

- アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開。
- アプリケーションのエンタイトルメントタイプを確認して、インスタンスにアプリケーションに対するエンタイトルメントが付与されていることを確認します。詳細については、「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理」を参照してください。

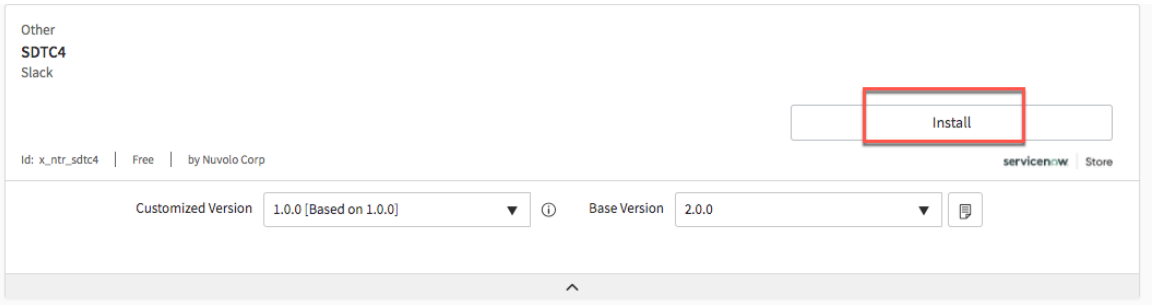
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。
2. アプリケーションを見つけます。
3. アプリケーションリストの横で、インストールするバージョンを選択します。
4. [インストール] をクリックします。

アプリケーションのインストール



アプリケーションリポジトリからのアプリケーションの削除

アプリケーションリポジトリからアプリケーションを削除して、会社のインスタンスで使用できないようにします。

始める前に

- アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開
- アプリケーションを削除できるのは、アプリケーションが会社のどのインスタンスにもインストールされていない場合のみです。アプリケーションをアプリケーションリポジトリから削除する前に、そのアプリケーションをすべてのインスタンス上でアンインストールしてください。

必要なロール：アカウントのプライマリカスタマーアドミン

手順

1. https://apprepo.service-now.com に移動します。
2. HI 認証情報を使用してログインします。

> **注:** Federal Store を使用している顧客は、HIWave にログインし、ページの下部にある [Federal Store] オプションを選択する必要があります。次に、会社名の下にある [自分のリポジトリ (My Repository)] を選択して続行します。

3. アプリケーションリストの横にある [アクションを選択] をクリックし、[削除フラグを設定 **(Flag for Deletion)]** をクリックします。
4. [確認] ウィンドウで、[はい] をクリックします。
   アプリケーションに削除用のフラグを付けると、そのアプリケーションは 90 日後に自動的に削除されます。
5. アプリケーションをすぐに削除するには、次のようにします。
   a. [フラグ付きアプリ (Flagged Apps)] タブを開きます。
   b. アプリケーションリストの横にある [アクションを選択] をクリックし、[今すぐ削除 **(Delete Immediately)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションのカスタマイズの管理

他の組織に属するアプリケーションまたはスコープ対象 ServiceNow プラグイン向けの、会社用のカスタマイズを管理できます。

始める前に

必要なロール：admin

会社のアプリケーションのカスタマイズのエンタイトルメントは、個々のストアまたはベンダーリリースのアプリケーションのエンタイトルメントによってのみ制御されます。アプリケーションのカスタマイズには個別のエンタイトルメントがないため、ベースストアアプリケーションに対するエンタイトルメントがないインスタンスはカスタマイズできません。

アプリケーションのカスタマイズの作成に使用する開発インスタンスには、個々のストア、またはエンタイトルメントが付与されてインストールされているプラグインアプリケーションが必要です。

注: 独自のアプリケーションをカスタマイズする ISV パートナーは、アプリケーションリポジトリを介してアプリケーションのカスタマイズを使用する前に、まずアプリケーションを ServiceNow Store に公開し、インスタンスにインストールする必要があります。これは、すべてのレコードが同じスコープ内にある場合でも同様です。インスタンスにインストールすると、ISV パートナーは、 ServiceNow Store アプリケーションに対して、独自の用途で社内使用する拡張機能とは異なる機能セットを公開できます。

このタスクについて

他の組織に属する実際のアプリケーション (ストアから購入) または ServiceNow ベースシステムで提供されるグローバルプラグインは変更できません。ただし、ストアアプリケーション、または ServiceNow アプリケーションリポジトリを使用し、プラグインを介してインストールされたスコープ対象のアプリケーションに対しては、会社のカスタマイズを作成および管理できます。

アプリケーションのカスタマイズを作成する方法は 2 とおりあります。

- ServiceNow スタジオ からの作成
- ナビゲーションペインからの作成

重要: アプリのカスタマイズパッケージは、信頼性を確保し、その上にビルドしているアプリケーションの必要な変更またはカスタマイズを完全に示すことを目的としています。このため、(通常は sys_update_xml に関連付けられている) ローカルのカスタマイズ は優先されません。特定のフィールド (MID サーバーなど) を永続化する必要がある場合は、ローダー免除属性の使用を検討してください。「辞書属性を使用したテーブルとフィールドの変更」を参照してください。特定のプロパティを設定する必要がある場合は、「プライベート」にすることを検討してください。「利用可能なシステムプロパティ」を参照してください。

手順

1. ServiceNow スタジオ からアプリケーションのカスタマイズを作成するには、次のステップに従います。

   a. ストアアプリケーションまたは ServiceNow スタジオ からプラグインを介してインストールされたアプリケーションを開きます
   詳細については、ServiceNow Studio へのアクセス を参照してください。
   アプリケーションが スタジオで開きます。

   b. スタジオ からアプリケーションを変更します。

2. ナビゲーションペインからアプリケーションのカスタマイズを作成するには、次のステップに従います。

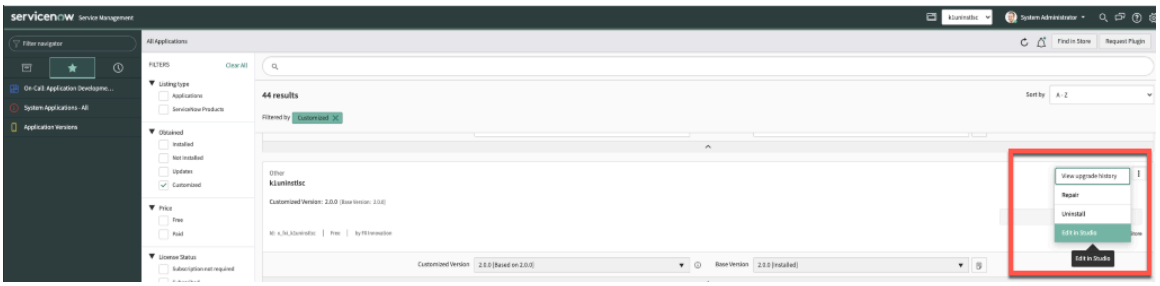
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [システムアプリケーション] > [すべて] に移動します。

b. カスタマイズするインストール済みアプリケーションを検索します。

> 注: アプリケーションは、Studio で開くか、ストアアプリケーションレコードから現在の作業アプリケーションとして選択できます。

c. スタジオ でこのアプリケーションを開くには、スタックメニューを選択し、**[Studio** で編集] を選択します。



アプリケーションが スタジオで開きます。アプリケーションは スタジオ で変更できます。

d. ストアアプリケーションレコードを編集するには、アプリケーションの名前を選択します。

e. ストアアプリケーションレコードの [関連リンク] セクションで、[このアプリケーションに切り替え] を選択します。
アプリケーションピッカーで、アプリケーションが現在の作業中アプリケーションになります。
ストアアプリケーションレコードからアプリケーションを変更できます。

関連情報

アプリケーションリポジトリからのアプリケーションエンタイトルメントの管理

アプリケーションリポジトリへのカスタマイズの公開

ストアアプリケーションまたはスコープ対象プラグインのカスタマイズを設計、開発し、テストが成功したら、それを ServiceNow アプリケーションリポジトリに公開して、社内の他のインスタンスで共有できます。

始める前に

必要なロール：admin、または [アプリリポジトリに公開 (Publish to App Repo)] 権限を有効にした delegated_developer

ストアおよびアプリリポジトリに登録されているベンダーまたは顧客コードごとに 1 つのカスタマイズのみを作成できます。

開発者がアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開できるようにするには、[アプリリポジトリに公開 (Publish to App Repo)] 権限を開発者に委任します。詳細については、「開発と展開の権限を担当者に委任する」を参照してください。

手順

1. [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて] に移動します。
2. フィルターナビゲーションボックスに名前を入力して、アプリケーションを検索します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. カスタマイズをアプリケーションリポジトリに公開するアプリケーションレコードを開きます。
4. [カスタマイズを自分のアプリリポジトリに公開] 関連リンクをクリックするか、ServiceNow スタジオ で [ファイル] [公開] メニューアイテムを使用します。
5. [送信] をクリックします。

アプリケーションリポジトリでカスタムアプリケーションを変換してアップグレードする

アプリケーションがカスタムアプリケーションテーブル [sys_app] に配置されている場合、アプリケーションリポジトリを介して直接アップグレードすることはできません。この手順は、アプリケーションリポジトリを使用してアプリケーションの展開を移行する場合に、1 回限りの変換を行うのに役立ちます。

始める前に

必要なロール：admin

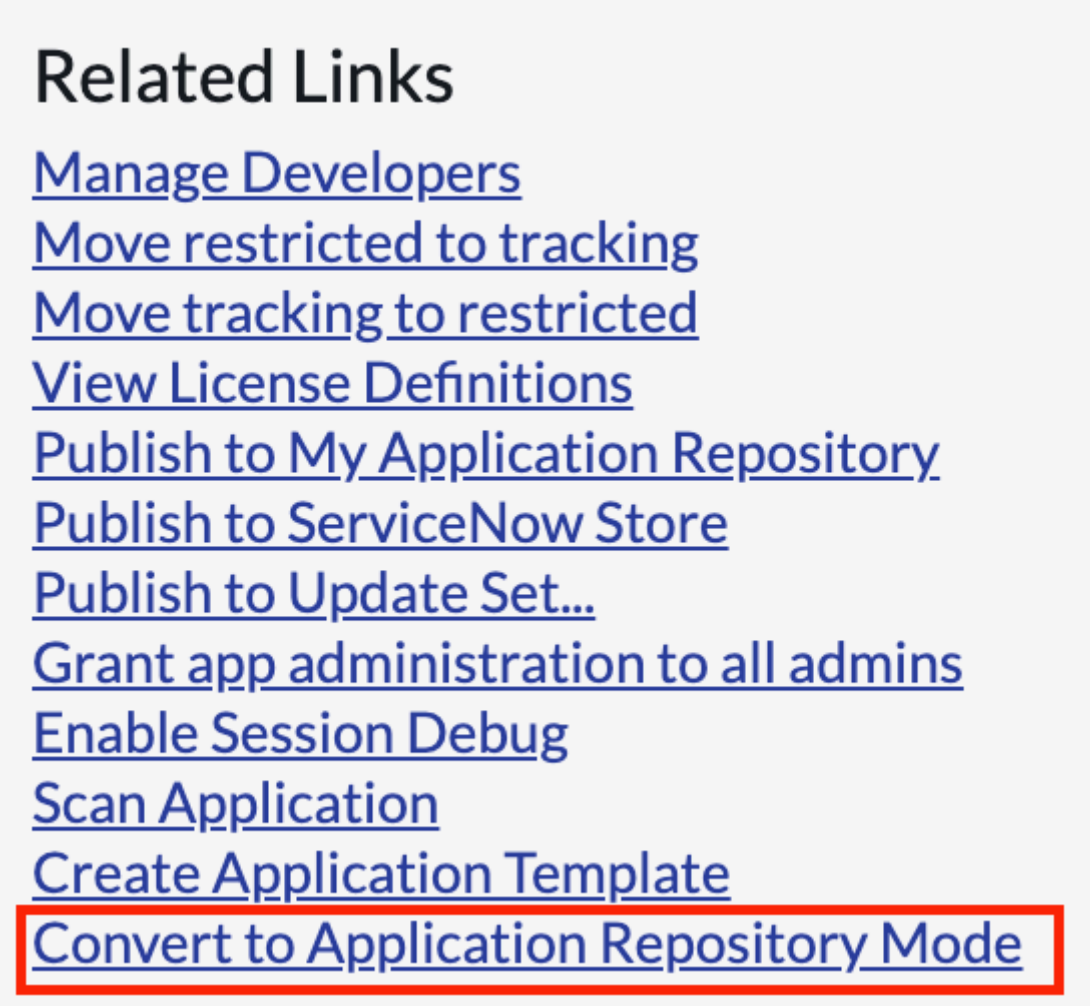
更新セットで開始すると、すべてのインスタンスのすべてのアプリケーションがカスタムアプリケーションテーブル [sys_app] に配置されます。ただし、CI/CD パイプラインでアプリケーションリポジトリを使用するのに、推奨されるServiceNow® 継続的統合/継続的デリバリ API/スポーク ガイダンスを使用しようとしても、アプリケーションがすでに [カスタムアプリケーション] テーブルに存在するため、アップグレードは許可されません。それらは ServiceNow ストアテーブル [sys_store_app] に移動して、アプリケーションリポジトリからインストールできるようになりますが、これが理由でそのインスタンス上では開発できなくなります。

アプリケーションを変換すると、変換が実行されるインスタンス上では開発はできなくなります。スコープ対象のカスタムアプリケーションの場合、顧客アップデートテーブル内にある、このアプリケーションのすべての関連レコードが削除されます。

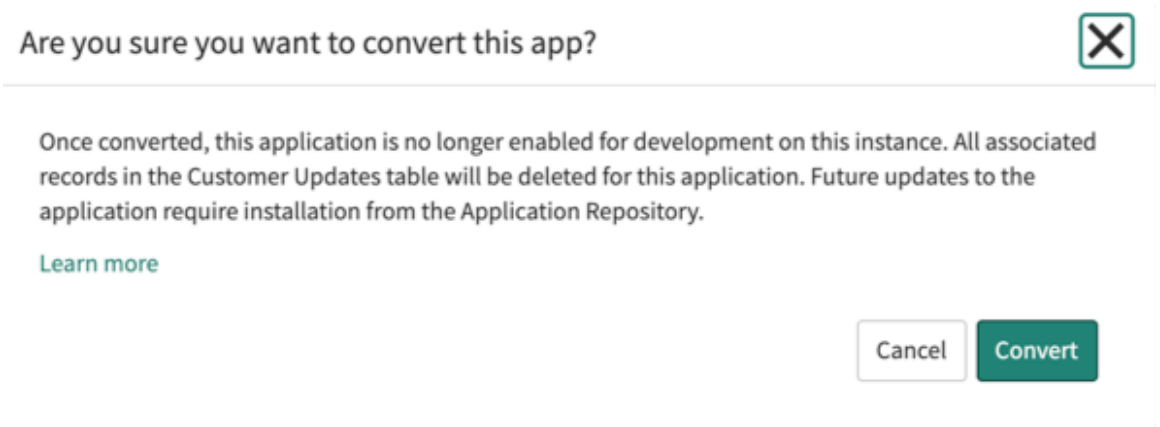
手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。
2. [開発中] タブをクリックします。
3. 変換するアプリケーションレコードの名前をクリックします。
4. [アプリケーションリポジトリモードに変換] 関連リンクを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

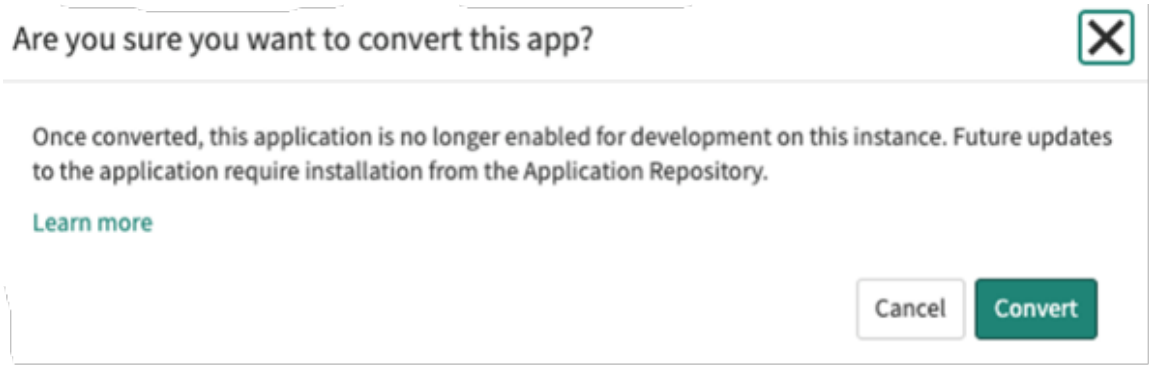


5. [変換] を選択します。
   - スコープ対象カスタムアプリケーションで、次のメッセージが表示されます。

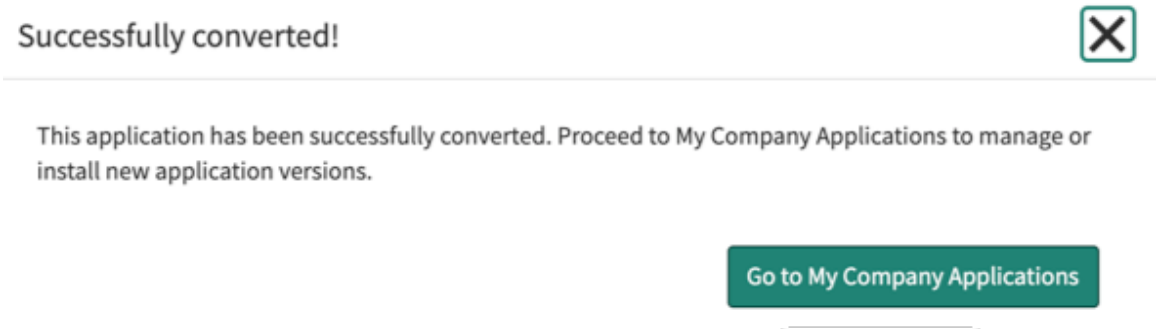


   - グローバルカスタムアプリケーションで、次のメッセージが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



◦ 変換に成功すると、次のメッセージが表示されます。



次のタスク
[システムアプリケーション] -> [会社のアプリケーション] に移動し、アプリケーションリポジトリからソフトウェアを使用してアプリケーションを更新します。詳細については、「アプリケーションリポジトリからのアプリケーションのインストール」を参照してください。

インストールされたアプリケーションの開発モードへの変換

アプリケーションを開発用に非本番インスタンスにインストールした後、または本番インスタンスを開発用に非本番インスタンスにクローンした後、会社で所有しているインストール済みのアプリケーションを開発モードに変換します。この変換により、新しいバージョンのアプリケーションを作成、コミット、公開できるようになります。

始める前に
インスタンススコープを目的のアプリケーションスコープに設定する必要があります。たとえば、Agent Workspace を変換する場合、アプリケーションスコープは Agent Workspace に設定されます。

必要なロール：admin

このタスクについて
システムプロパティ機能 [sn_appclient.store_app_convert_enabled] は、このアクションを制御します。この機能はデフォルトで有効になっています。sn_appclient.store_app_convert_enabled を false に設定することで、この機能を無効にできます。

変換できるのは、会社が所有しているアプリケーションのみです。アプリケーションスコープは、sn_appauthor.all_company_keys で設定されているキーと一致する必要があります。

注: インストールされているグローバルアプリケーションは変換の対象となります。

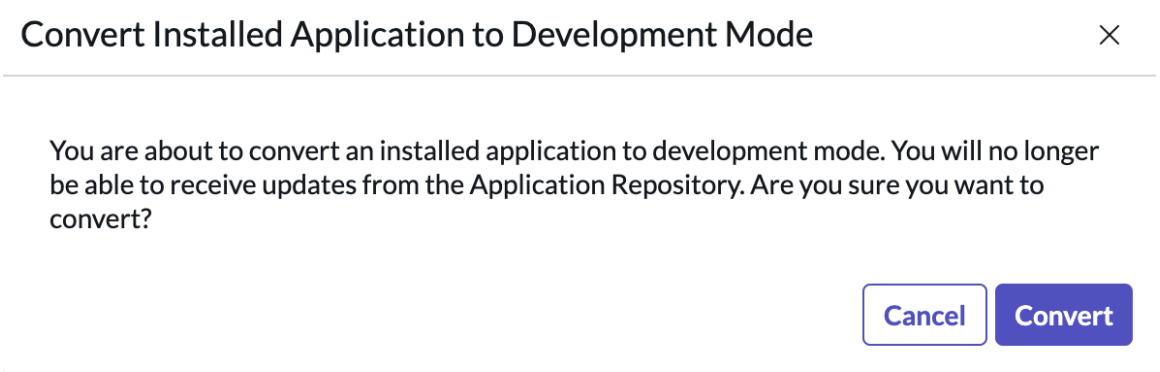
アプリケーションを変換すると、このインスタンスでアプリケーションリポジトリから更新を受け取ることができなくなります。インスタンスにインストールされているアプリケーションのバージョンが、新しいバージョンとして開発するバージョンであることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

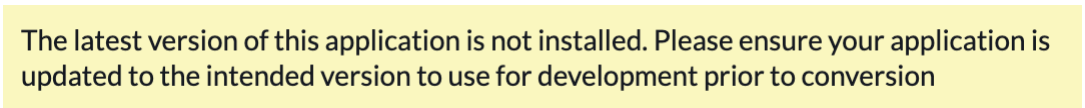
注: デモデータとともにインストールされたアプリケーションは、インストール時にそのデータを参照できなくなります。アプリケーションが変換された場合は、アプリケーションをソースコントロールにリンクするか新しいバージョンを公開する前に、デモデータに対する sys_metadata_link レコードを再作成する必要があります。

手順

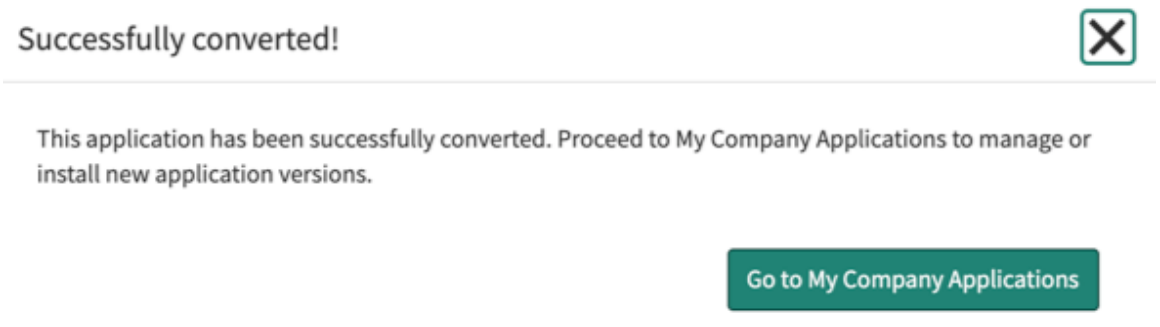
1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。
2. [インストール済み] タブで、変換するアプリケーションレコードの名前をクリックします。
3. [開発モードに変換] 関連リンクを選択します。
4. [変換] を選択します。
   - インストールされているアプリケーションのバージョンが、アプリケーションリポジトリに公開されている最新バージョンである場合、次のダイアログが表示されます。



   - インストールされているアプリケーションのバージョンが、アプリケーションリポジトリに公開されている最新バージョンより前のバージョンである場合、次の警告が表示されます。



     - インスタンスが自己ホストアプリケーションリポジトリに接続されている場合、リポジトリ内のより新しいバージョンの使用可否に関係なく、この警告が表示されることがあります。この場合、リポジトリをチェックして、必要な開発バージョンがインストールされていることを確認してください。
   - 変換に成功すると、次のメッセージが表示されます。



     - ウィンドウを閉じると、開発アプリケーションフォームにリダイレクトされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションリポジトリへのカスタマイズのインストール

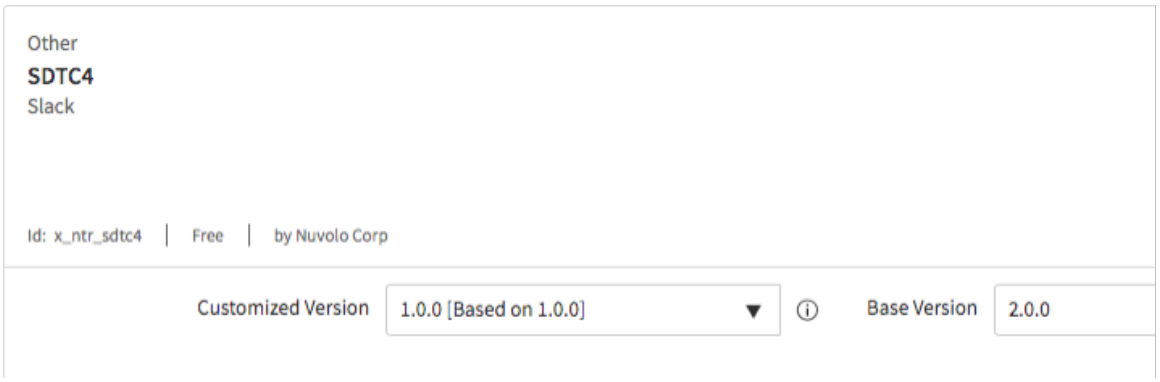
インスタンスのストアアプリケーションにカスタマイズをインストールします。

始める前に
必要なロール：admin

アプリケーションリポジトリにストアアプリケーションのカスタマイズを公開します。アプリケーションのエンタイトルメントタイプを確認して、インスタンスにアプリケーションに対するエンタイトルメントが付与されていることを確認します。

手順

1. [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて] に移動します。
2. アプリケーションを見つけます。
3. インストールするカスタマイズバージョンを選択します。



注: プラグインを介してインストールされたスコープ対象アプリケーションの場合、ベースシステムバージョンは、現在使用している ServiceNow リリースバージョン (Paris、Quebec、Rome など) です。

4. [インストール]をクリックします。

システムクローン中の開発におけるアプリケーションとカスタマイズの保持

アプリケーションバージョンをターゲット (開発) インスタンスにクローンする前に、現在開発中の各アプリケーションとカスタマイズ内容のコピーを手動で保持します。

始める前に
アプリケーションレコードに対する書き込みアクセス権があることを確認します。

ソースコントロールリポジトリへのアクセス権があることを確認します。

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
クローンプロセスでは、開発中のアプリケーションとアプリのカスタマイズのバージョンの差異は保存されません。代わりに、システムでは、ソースインスタンスにインストールされているアプリケーションとアプリのカスタマイズのバージョンのコピーのみを、ターゲットインスタンスにクローンします。ターゲットインスタンスに同じアプリケーションの開発バージョンがある場合、そのアプリケーションはクローン作成後に編集可能になりますが、そのバージョンはソースインスタンスにインストールされているものと同じになります。アプリケーションがソースインスタンスから失われていた場合は、クローン作成プロセスによりターゲットインスタンスからアプリケーションが削除されます。

手順

1. 次のいずれかのアクションを行い、クローンターゲットインスタンスでアプリケーションを保持します。

インスタンス間のバージョンの差異

アプリケーションバージョンの状態	実行するアクション
クローンターゲットインスタンスのアプリケーションバージョンが、ソースインスタンスバージョンと異なります。	クローンターゲットインスタンスから各アプリケーションをエクスポートします。次の選択肢があります。 ◦各アプリケーションをソースコントロールリポジトリにリンクします。 **注:** アプリケーションが既にソースコントロールリポジトリにリンクされている場合は、最新のバージョンをコミットします。 ◦各アプリケーションを更新セットに公開します。
アプリケーションは、クローンターゲットインスタンスでのみ利用できます。	
クローンターゲットインスタンスのアプリケーションバージョンは、ソースインスタンスと同じです。	なし。システムクローン作成プロセスにより、クローン作成中にこのアプリケーションバージョンがターゲットインスタンスにコピーされます。

2. ターゲットインスタンスに対するソースインスタンスのシステムクローンを要求します。

Example
たとえば、開発インスタンスに対して本番インスタンスのクローンを作成します。

3. クローン作成プロセスが終了したら、クローンターゲットインスタンスにログインします。

4. **注:** ソースコントロールがリンクされている場合、クローン後に、プラットフォームはアプリケーションとカスタマイズされたアプリケーションを自動的に取得します。これが `glide.source_control.post_clone_import_enabled` で無効になっている場合は、次の手順を使用して手動で取得する必要があります。

各アプリケーションをソースコントロールリポジトリに保存した場合は、次のいずれかのアクションを使用してソースコントロールリポジトリからアプリケーションを取得します。

注: アプリケーションのカスタマイズのクローンの後に起こることについては、「アプリケーションのカスタマイズのクローン後の結果」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースコントロールリポジトリからのアプリケーションの取得

アプリケーションのインストール状態	クローンターゲットで実行するアクション
アプリケーションとカスタマイズ内容は以前にソースインスタンスにインストールされていました。	ソースコントロールリポジトリからリモート変更を適用します。
アプリケーションはソースインスタンスにインストールされていませんでした。	リポジトリ構成 (sys_repo_config) を削除し、ソースコントロールリポジトリからカスタマイズをインポートします。

クローン後のリモート変更

フィールド	説明
glide.source_control.post_clone_import_enabled	リモート変更の適用の自動化を無効にするには、**False** に設定します。デフォルト値は **True** です。
glide.source_control.post_clone_import_delay_time_sec	スケジュールされた処理を遅延させる遅延時間を指定するには、値を指定します。デフォルト値は 0 です。
glide.source_control.post_clone_import_pause_refresh_hours	リポジトリのリフレッシュジョブを実行しない間隔を指定するには、値を指定します。デフォルトは 3 時間 (10800) です。

5. 各アプリケーションを更新セットに保存した場合は、次のいずれかのアクションを行って更新セットからアプリケーションを取得します。

更新セットからのアプリケーションの取得

アプリケーションのインストール状態	クローンターゲットで実行するアクション
アプリケーションは以前にソースインスタンスにインストールされていました。	a. ソースインスタンスからクローンされたアプリケーションバージョンを削除します。 b. 現在のアプリケーションバージョンを含む更新セットをロードします。
アプリケーションはソースインスタンスにインストールされていませんでした。	現在のアプリケーションバージョンを含む更新セットをロードします。

タスクの結果
以前に開発していたアプリケーションを利用して、クローンターゲットインスタンスでさらに開発を進めることができます。

Example: Marketing Events アプリケーションの保存

あなたの会社が、以前に Marketing Events という名前のカスタムアプリケーションのバージョン 1.0 を作成していたとします。Marketing Events アプリケーションのバージョン 1.0 をアプリケーションリポジトリに既に公開していて、本番インスタンスにインストールしています。

時間の経過とともに、ユーザーからアプリケーションの拡張の要求が提出され、この要求に対処するために、非本番インスタンスで Marketing Events アプリケーションのバージョン 2.0 を開発することに決めました。開発が完了に近づくと、包括的なテストのために、非本番インスタンスを最新の本番環境のコピーに更新する必要が生じました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

以前にソースコントロール統合を使用して Marketing Events アプリケーションのバージョン 1.0 を開発していたため、既に Marketing Events アプリケーションをソースコントロールリポジトリにリンクしています。Marketing Events アプリケーションのバージョン 2.0 をソースコントロールリポジトリにコミットします。

開発インスタンスに対する本番インスタンスのクローン作成をスケジュール設定します。完了したら、開発インスタンスにログインし、Marketing Events アプリケーションのバージョン 1.0 があることを確認します。このバージョンが、ソースインスタンスにインストールされたバージョンのためです。

アプリケーションが既にソースインスタンスにインストールされているため、ソースコントロールリポジトリからリモート変更を適用して、最新のアプリケーションバージョンを受信します。開発インスタンスに、今後の開発とテストに利用できる Marketing Events アプリケーションのバージョン 2.0 が追加されました。

アプリケーションのカスタマイズのクローン後の結果

アプリケーションのカスタマイズのクローン後に予想される結果には、アプリケーションの状態に基づいて予想される動作と、アプリケーションのカスタマイズを復旧するアクションが表示されます。

アプリケーションのカスタマイズの状態に基づく予想と、カスタマイズを復旧するアクションは次のとおりです。

クローン後のアプリケーションのカスタマイズの予想

ソースインスタンスのアプリのカスタマイズのステータス	クローン前のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズのステータス	クローン後のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズのステータス	クローン後のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズを復旧するためのアクション
ベースアプリケーションはインストールされていません	ベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0	ベースアプリケーションはインストールされていません	ベースアプリケーションとアプリのカスタマイズの再インストール
ベースアプリケーションはインストールされていません	ソースコントロール内のベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズ	ベースアプリケーションがインストールされておらず、sys_repo_config のアプリフィールドが空です。	(アプリフィールドが空になっている) リポジトリ構成 (sys_repo_config) レコードを削除し、ソースコントロールから再度インポートして、ベースアプリケーションをインストールします。
ベースアプリケーションバージョン 1.0	ベースアプリケーションバージョン 1.0 アプリのカスタマイズバージョン 1.0	ベースアプリケーションバージョン 1.0	アプリのカスタマイズの再インストール
ベースアプリケーションバージョン 1.0	ソースコントロール内のベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズ	ベースアプリケーションバージョン 1.0 の場合、repo_config は保持され、アプリのカスタマイズバージョンはすべてのアプリページで [なし] として表示されます。	Git リポジトリからのリモート変更を適用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クローン後のアプリケーションのカスタマイズの予想 (続く)

ソースインスタンスのアプリのカスタマイズのステータス	クローン前のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズのステータス	クローン後のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズのステータス	クローン後のターゲット (開発) インスタンスのアプリのカスタマイズを復旧するためのアクション
ベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0	ベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0	ベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0	アプリのカスタマイズバージョン 2.0 とベースアプリケーションバージョン 2.0 の再インストール
ベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0	ソースコントロール内のベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0	ベース アプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0、sys_reconfig は保持されます	Git リポジトリからのリモート変更を適用します。
ベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0	ベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0	ベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0 がインストールされています。	ベースとアプリのカスタマイズの両方が最新バージョンです。
ベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0	ソースコントロール内のベースアプリケーションバージョン 1.0 とアプリのカスタマイズバージョン 1.0	ベースアプリケーションバージョン 2.0 とアプリのカスタマイズバージョン 2.0 は repo_config を保持した状態でインストールされるため、分岐バージョンは 1.0 上になります	ベースとアプリのカスタマイズの両方が最新バージョンです。

自己ホスト型でエアギャップの顧客向けのアプリケーションリポジトリ

このアプリケーション機能により、自己ホスト型の顧客は、クラウドの顧客と同じように独自の内部アプリケーションリポジトリを使用できます。これらの顧客は、ServiceNow® Store を介してアプリケーションリポジトリをインストールせず、別の方法を使用します。

概要

ServiceNow® クラウドでインスタンスがホストされている顧客は、デフォルトでパブリック ServiceNow® Store を介してアプリケーションリポジトリにアクセスできます。ただし、自己ホスト型でエアギャップの顧客はこのようなアクセス権を持たないため、高度なアプリケーション開発機能を利用できません。

⚠ **警告:** ほとんどの顧客は、ServiceNow® Store からネットワーク経由でアプリケーションをインストールします。このトピックでは、ネットワークソースを使用していない顧客について説明します。

「エアギャップ」という用語は、コンピューターまたはネットワークに、有線/無線のどちらでも、外部ネットワークに接続されたネットワークインターフェイスがない状態を指します。あるソースから別のソースにデータを移動する場合は、別の方法を使用する必要があります。ネットワーク上にないソース間でデータを移動するには、このトピックで説明されているような代替手段を使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow® アプリケーションリポジトリは、顧客のインスタンスにインストールできるスコープ対象のアプリケーションです。外部ネットワークと通信せずに、独自のプライベートネットワーク内で最新のアプリケーション開発機能を使用できます。

推奨インストール

その目的でのみ使用される専用インスタンスにアプリケーションリポジトリをインストールすることをお勧めします。この方法でインストールすると、他のトランザクションからの他のインスタンスの負荷が軽減され、他のストアアプリケーションのインストールエクスペリエンスが向上します。アプリケーションが正常にインストールされると、他のネットワーク接続されたクライアントインスタンスは、このインスタンスとの間でアプリケーションアーティファクトを公開したりインストールしたりできます。

アプリケーションの取得

アプリケーションをインストールする前に、ServiceNow の自己ホスト型で「エアギャップ」の顧客は、それぞれのアカウント担当者に連絡を取る必要があります。サポート担当者およびチームと協力して、インストールプロセスを設定します。詳細については、ナレッジベースの記事「Downloading applications from the ServiceNow Store for self-hosted instances without internet access (インターネットアクセスのない自己ホスト型インスタンスのための ServiceNow Store からのアプリケーションのダウンロード)」を参照してください。

セットアッププロセスの仕組み

インスタンスは、サーバー側でインスタンス認証情報を格納する「ペアリング」プロセスを介してリポジトリで認証されます。このプロセスはインスタンスごとに 1 回だけ実行する必要があります。インスタンスをリポジトリと「ペアリング」すると、インスタンスはさまざまなアプリケーション開発機能を介してリポジトリとのやり取りを開始できます。

エアギャップインスタンスへのアプリケーションリポジトリストアアプリのインストール

自己ホスト型でエアギャップの顧客は、インスタンスが外部ネットワークと通信することを許可していないため、ServiceNow® Store から直接アプリケーションリポジトリをインストールすることはありません。これらの顧客は、代わりに次の手順を実行する必要があります。

始める前に

注: アプリケーションリポジトリのカスタマイズは、サポートされていないか、推奨されていません。

必要なロール： インストールと構成には maint ロールが必要です。構成が完了すると、必要とされるのは admin ロールのみとなります。

警告: インスタンスがすでにパブリック ServiceNow® Store に接続されている場合は、アプリケーションリポジトリをインストールしないでください。これを行うと、それらのインスタンスはアクセスできなくなります。この製品は、パブリックストアに接続できない顧客を対象としています。

注: 他のインスタンスとは別の専用 ServiceNow® インスタンスにインストールします。

手順

1. ナレッジベースの記事「Downloading applications from the ServiceNow Store for self-hosted instances without internet access (インターネットアクセスのない自己ホスト型インスタンスのための ServiceNow Store からのアプリケーションのダウンロード)」の指示に従って、アプリケーションリポジトリをインストールします。
2. インストール後、「エアギャップインスタンス上でのアプリケーションリポジトリの構成」の手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エアギャップインスタンス上でのアプリケーションリポジトリの構成

アプリケーションリポジトリをインストールしたら、次の手順を使用して構成する必要があります。

始める前に

必要なロール：インストールと構成には maint ロールが必要です。構成が完了すると、必要とされるのは admin ロールのみとなります。

手順

1. インスタンスをアプリケーションリポジトリとペアリングします。

   a. アプリケーションリポジトリに接続するインスタンスにログインします。

   b. システムプロパティ *sn_appclient.repository_base_url* をアプリケーションリポジトリインスタンスの URL に設定します。
   たとえば、`http://localhost:8080/` などです。

   c. *sn_appclient.upload_base_url* および *sn_appauthor.upload_base_url* プロパティの値をクリアします。

   d. グローバルスコープの *sn_apprepo.credential* プロパティの値を「secret」などの null 以外の値に設定します。

      i. インスタンスに SSH で接続します。

      ii. `cd /root/instance/instance_<portno>/conf/overrides.d` を使用して、ディレクトリーを `/root/instance/instance_<portno>/conf/overrides.d` に変更します。

      iii. `glide.properties` ファイルを開くか作成します。

      iv. 認証情報プロパティを最後に追加し、ファイル `[sn_apprepo.credential=<value>]` を保存します。

      v. (Shutdown.sh/Startup.sh) Glide を再起動するか、バックグラウンドスクリプトで `Packages.com.glide.util.GlideProperties.loadPropertyFile(new Packages.java.io.File(gs.getProperty("glide.home.dist")+"/conf/overrides.d/glide.properties"));` を実行して、インスタンスを再起動することなく、実行時にプロパティファイルを動的にロードします。

      vi. バックグラウンドスクリプト `gs.info(gs.getProperty("sn_apprepo.credential"));` でプロパティを出力して検証します。

   e. 値として **sn_repo.AppRepo** を含む *sn_appclient.repo_auth_name* を追加します。

   f. アプリケーションリポジトリインスタンスとクライアントインスタンスの両方で *glide.test_instance* プロパティを **false** に設定します。

   g. *sn_appclient.client_calls_allowed* プロパティを **True** に設定します。

      注: 接続されていない場合、スケジュール済みジョブによって **False** に設定される場合があります。

   h. クライアントインスタンスで *sn_appclient.app.install.offline* プロパティを **false** に設定します。

   i. [送信] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. アプリケーションリポジトリがインストールされているインスタンスにログインし、次の手順を実行します。

   a. **core_company.list** テーブルに移動し、[プライマリ] フィールドが **True** に設定されているレコードがあることを確認するか、任意のユーザー定義名でレコードを作成します。

      注: このレコードの詳細情報は重要ではありません。

   b. **sn_repo_instance.do** 画面にアクセスし、接続するクライアントインスタンスの新しいインスタンスレコードを作成します。

      i. [ステータス] が [ペアリング (Pairing)] に設定されていることを確認します。

      ii. [名前] フィールドに、(接続するインスタンスの **stats.do** 画面上にある) インスタンス名を入力します。

      iii. その他のフィールドはすべて空のままにします。これらは自動的に入力されます。

   c. 接続する追加のインスタンスに対して、前のステップを繰り返します。

3. ステップ 1 で使用したインスタンス (アプリケーションリポジトリとペアリングするインスタンス) に再度ログインし、[スクリプト - バックグラウンド] モジュールに移動します。

   a. ドロップダウンリストから **[sn_appauthor scope]** を選択します。

   b. 次のスクリプトを実行します：`new ConfigChecker().checkForChanges()`。

4. オプション: インスタンスを削除するには、インスタンスレコード (sn_repo_instance テーブル) に移動して、[ステータス] を [ブロック済み] に変更します。これにより、インスタンスへのアクセスが一時的に制限されるか、インスタンスが削除されます。
   インスタンスが再度必要な場合は、[ステータス] を [ペアリング済み] に再び変更できます。

   警告: ペアリングされたインスタンスのインスタンス名、インスタンス ID、または認証情報が変更された場合は、再度ペアリングする必要があります。インスタンスレコードのこれらの値を手動で更新することはお勧めしません。

次のタスク

インスタンスをペアリングすると、アプリケーションリポジトリの使用のために完全に設定されます。「アプリケーションリポジトリへのアプリケーションの公開」の説明に従ってスコープ対象のアプリケーションを公開することで、構成をテストできます。公開後、[すべて] > [アプリケーションリポジトリ] > [アーティファクト] > [内部アプリ **(Internal Apps)]** でアプリを見つけて、アプリが正常に公開されたことを確認できます。

ServiceNow Store にアプリケーションを公開する

アプリケーションをServiceNow Store誰もが利用できるように発行します。

始める前に

アプリケーションをServiceNow Storeに発行するには：

- プライベート アプリケーションスコープ内でアプリケーションを作成する。
- テクノロジーパートナープログラム に参加する。
- アプリケーションの認定を受ける。

注: グローバルスコープ内のアプリケーションは、ServiceNow Store へ公開できません。

必要なロール：admin、またはPublish To App Store許可を有効にしたdelegated_developer

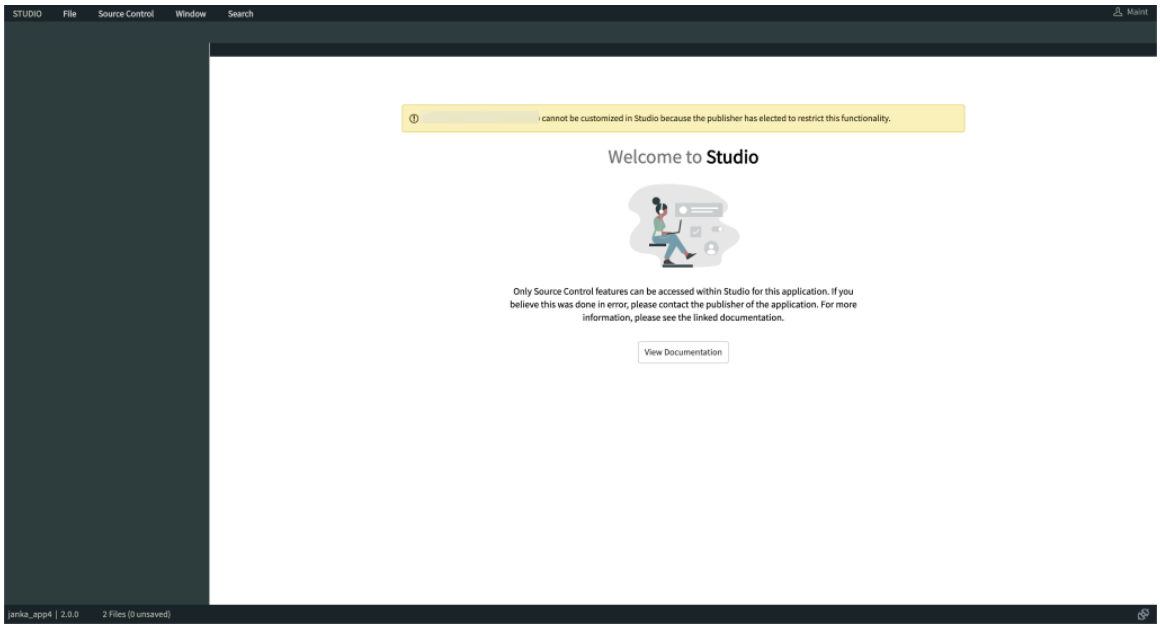
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
前提条件を満たした後、アプリケーションを ServiceNow Store に公開できます

注:

[Studio でアプリケーションの編集が可能] プロパティは、新しいアプリケーションの場合はデフォルトで true に設定されていますが、公開前に false に設定できます。

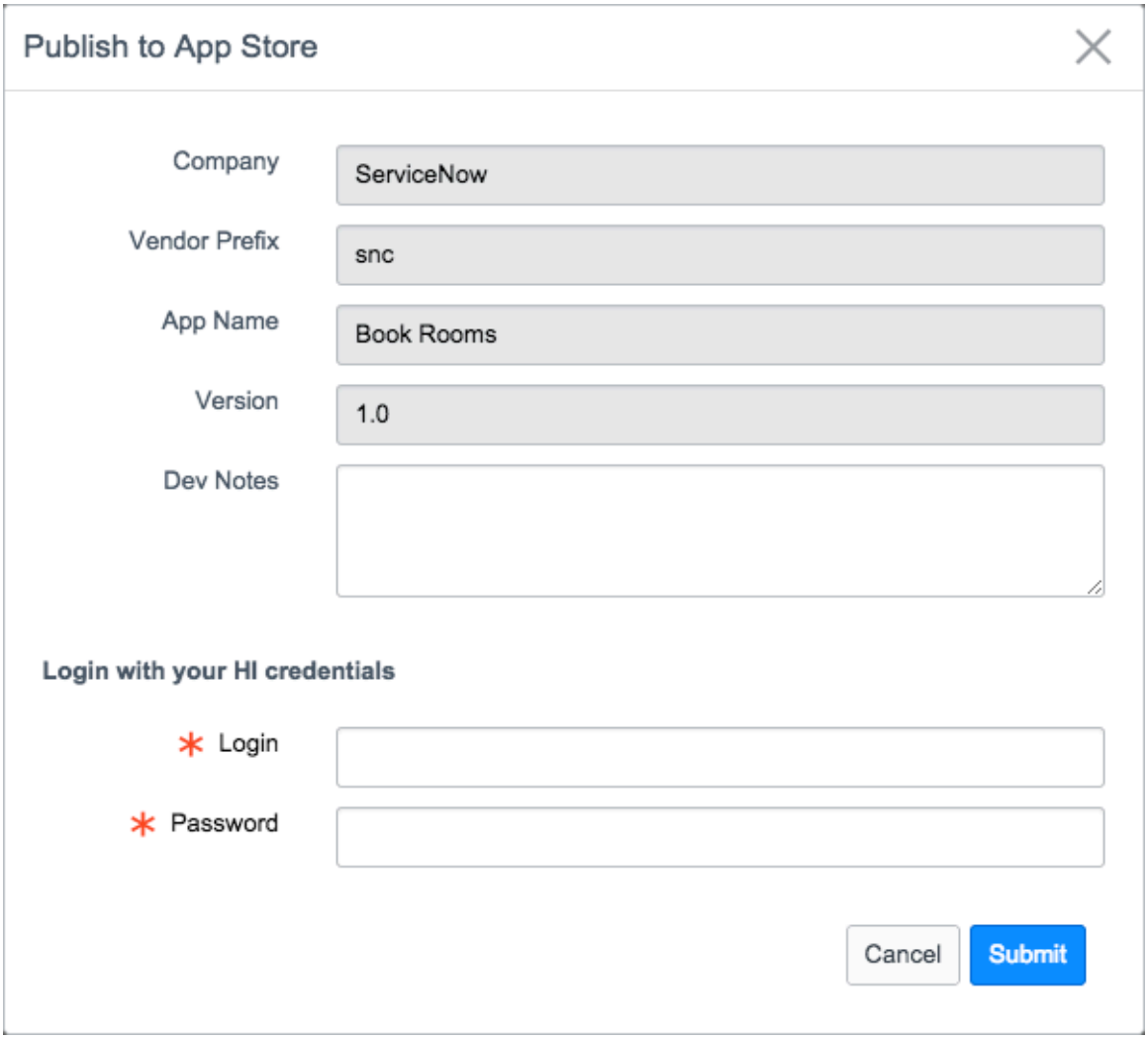
Studio のアプリケーションのカスタマイズで **[Studio** でアプリケーションの編集が可能] プロパティが false に設定されている場合、次の警告が表示されます。



手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [アプリケーション] に移動します。
2. [開発中 **(In Development)]** タブをクリックします。
3. ServiceNow Storeに発行したいアプリケーションレコードを開きます。
4. ストアに発行に関連するリンクをクリックします。
5. オプション: 適切にそのフィールドに値を入力します (テーブルを参照ください)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. あなたの HI 認証情報を入力します。
7. [送信] をクリックします。
   システムは最新バージョンのアプリケーションを ServiceNow Store にアップロードして、他のユーザーがダウンロードできるようにします。

関連情報

開発と展開の権限を担当者に委任する

サンプルデータを含めるアプリケーションファイルを作成する

カスタムアプリケーションを共有するときにアプリケーションデータテーブルのサンプルレコードをインクルードします。

このタスクについて

システムは、選択したレコードを、共有するときにアプリケーション更新セットの一部として含まれたアプリケーションファイルとしてエクスポートできます。更新セットにアプリケーションファイルを含めることは、インスタンス間で多数のレコードをエクスポートおよびインポートするためのものではありません。インスタンス間でデータを移動しようとしている場合は、「Import from another instance (別のインスタンスからインポート)」を参照してください。

アプリケーションデータには、レコードの共有時に存在していたレコードのバージョンのみをインクルードします。レコードが変更されると、システムはこのアプリケーションデータのスナップショットを更新しません。アプリケーション設計者は、テーブル単位でデータをインクルードできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

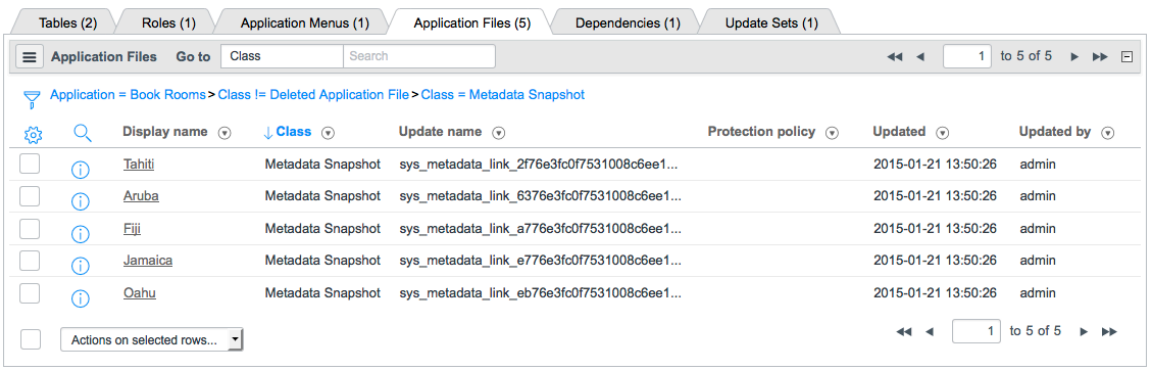
1. アプリケーションデータテーブルのリストに移動します。
2. そのリストをフィルタリングして、インクルードしたいレコードを表示します。
3. リストのバージョンに合わせて適切なアクションを実行します。

バージョン	アクション
リスト v2	任意の列のコンテキストメニューを開き、アプリケーションファイルの作成を選択します。
リスト v3	リストのタイトルメニューを開き、アプリケーションファイルの作成を選択します。

4. いつロードに対して、アプリケーションレコードがアプリケーションデータをインクルードするときを選択します。

オプション	説明
新しいインストールとアップグレード	アプリケーションがインストールまたはアップグレードされるたびにアプリケーションデータをインクルードします。
新規インストール	アプリケーションがインストールされている場合にのみアプリケーションデータをインクルードします。
デモデータと共に新規インストール	アプリケーションデータがデモデータと共にインストールされている場合にのみ、アプリケーションデータをインクルードします。

5. [**OK**] をクリックします。
システムは、レコードをアプリケーションファイル関連リストに追加します。



6. 含めるアプリケーションデータテーブルごとに手順 1 ～ 5 を繰り返します。

更新セットにアプリケーションを公開する

アプリケーションを発行すると、すべてのアプリケーション構成レコードの現行バージョンを含む更新セットが作成されます。

始める前に

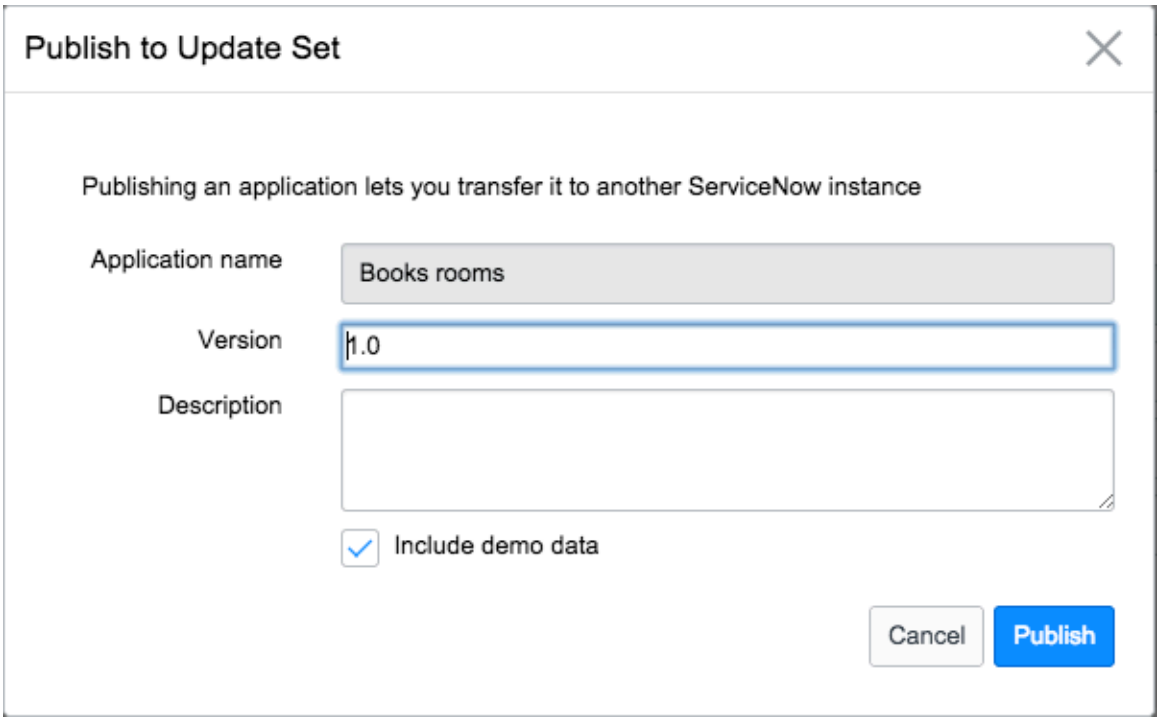
必要なロール：admin、または更新セットへの発行に有効な許可を持つ delegated_developer

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
この更新セットは、監査目的またはアプリケーションを別のインスタンスに転送するためのバックアップファイルとして使用できます。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。
2. [開発中 **(In Development)**] タブをクリックします。
3. 更新セットを作成するアプリケーションレコードを開きます。
4. 更新セットに発行する関連リンクをクリックします。
5. オプション: 必要に応じて、フィールドに値を入力します (表を参照)。



更新セットに発行

フィールド	説明
アプリケーション名	[読み取り専用]発行するアプリケーションの名前を表示します。
バージョン	(Optional) 更新セット名に 1.2.3 のようにドット表記でバージョン情報を添付します。プラットフォームはここに入力した情報をアプリケーションバージョンフィールドに保存します。 更新セットの名前は<アプリケーション名> - <バージョン>です。このフィールドを空白のままにすると、最初の更新セットの名前は<アプリケーション名>になり、後続の更新セットの名前は<アプリケーション名> - <順次番号>になります。
説明	更新セットの説明を入力します。デフォルトでは、このフィールドはアプリケーションの簡単な説明を含みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
データを含む	(Optional) このチェックボックスをオンにすると、アプリケーションの各テーブルのデータレコード数を制限します。この機能を使用して、サンプルデータをアプリケーションにパッケージします。 **⚠ 警告:** この機能を使用してインスタンス間で大量のデータレコードを移行すると、この目的には考慮していないため、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。データを移行するには、インスタンスからインスタンスへのインポートを使用する。アドミニストレーターは、アプリケーションでインクルードするデータレコードの最大数を調整できます。 「インポートセット」を参照してください。 ◦ サンプルデータにレコード番号の付いたテーブルが含まれている場合は、現在のカウンタの値も転送します。更新セットを別のインスタンスに適用すると、カウンタはサンプルデータまたはターゲットインスタンスカウンタのうち大きい方に設定されます。 ◦ 翻訳されたフィールドの場合、英語のレコードのみが転送される。

6. [公開] をクリックします。
   新しい更新セットが作成され、アプリケーション内の各アプリケーションファイルの最新の更新がアプリケーションにコピーされます。更新セットは完了とマークされます。
7. テスト手順に応じて更新セットを別のインスタンスに転送します。
   - ソースインスタンスから更新セットを取得します。
   - 更新セットを XML ファイルとして保存します。
8. アプリケーションに含まれる修正スクリプトを実行します。

関連情報

- 更新セットを取得
- 更新セットをローカルの XML ファイルとして保存する
- 修正スクリプトの実行
- 開発と展開の権限を担当者に委任する

キューに格納されたアプリケーション操作

要求された操作を実行するために更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] を取得する必要がある CICD API は、更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] が他の操作によって占有されている場合、却下されずにキューに格納されます。

Tokyo 以降、要求された操作を実行するために更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] を取得する必要がある CICD API は、更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] が他の操作によって占有されている場合、却下されずにキューに格納されます。CICD 要求を受信すると、対応する CICD サービスはアプリケーション操作 NowMQ (Now Message Queue) メッセージを作成し、NowMQ API を使用してキューにメッセージを挿入します。キューに格納されたメッセージは、スケジュール設定されたジョブによってポーリングされ、1 つずつ処理されるか、または並列に処理されます (並列処理が有効で操作が必要な基準を満たしている場合)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

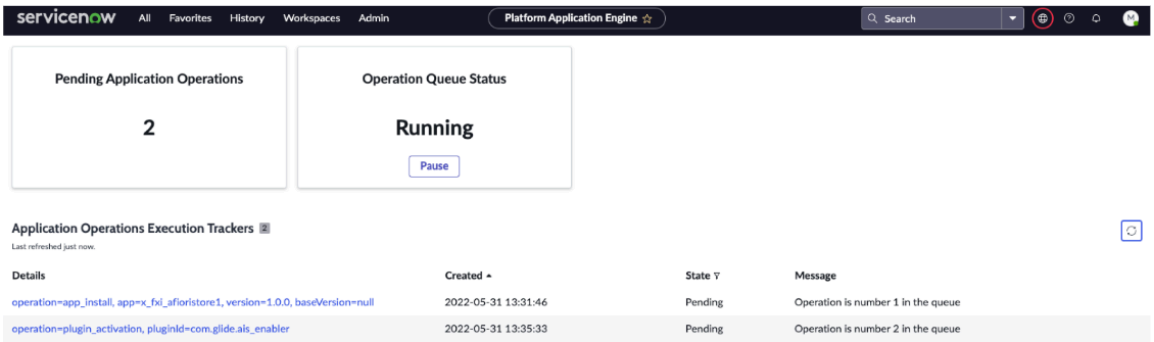
アプリケーション操作の NowMQ メッセージ

アプリケーション操作の NowMQ メッセージの共通の件名は「sys.applifecycle.operation」です。アプリケーション操作 NowMQ メッセージのメッセージ本文には、実行トラッカーの sys_id (CICD API 応答で返される進捗 ID とも呼ばれる) を含む JSON オブジェクトが含まれています。操作タイプは、app_install、plugin_activation、batch_install、rollback、import_app、apply_changes のいずれかになります。また、プラグインをアクティブ化するためのプラグイン ID、アプリケーションをインストールするためのアプリ ID またはスコープなどの情報も含まれます。

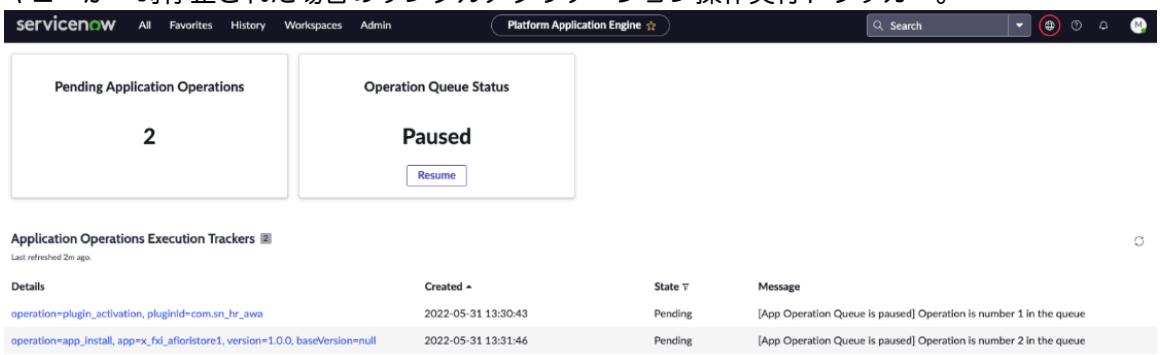
アプリケーション操作の実行トラッカー

アプリケーション操作 NowMQ メッセージが作成されて挿入されると、対応する CICD 要求の実行トラッカーレコードが作成され、その sys_id が NowMQ メッセージの本文に追加されます。実行トラッカーは最初は [処理待ち] ステータスです。実行トラッカーの [詳細] 列には、操作のタイプに関する情報と CICD 要求の重要な入力パラメーターが含まれています。その [メッセージ] 列には、キューの位置に関する情報が含まれています。キューが一時停止されると、メッセージには「[アプリ操作キューが一時停止されました]」というプリフィックスが付加されます。

キュー実行時のサンプルアプリケーション操作実行トラッカー。



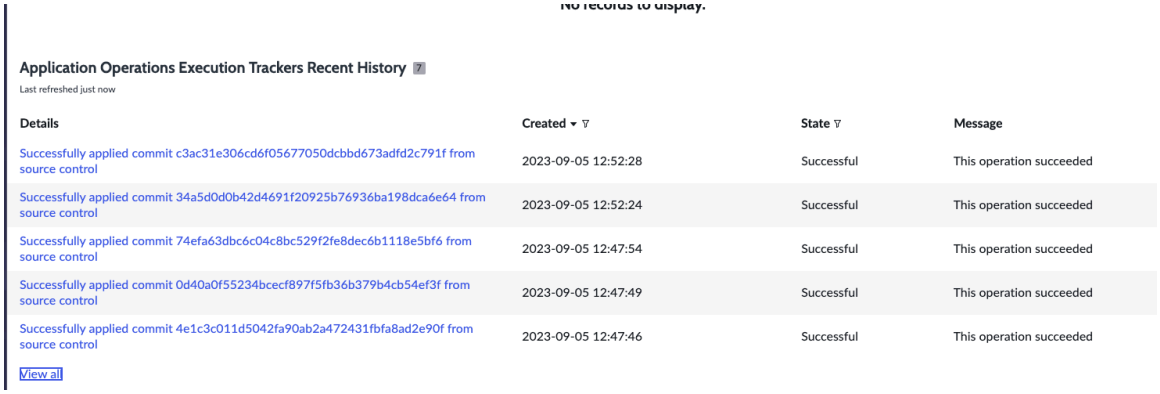
キューが一時停止された場合のサンプルアプリケーション操作実行トラッカー。



注: 処理待ちステータスの操作は、最近の履歴には表示されません。

アプリケーション操作実行トラッカーの最近の履歴のサンプル。最近の履歴には、過去 24 時間にキューに入れられて処理された操作の履歴が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



アプリケーション操作キューの管理

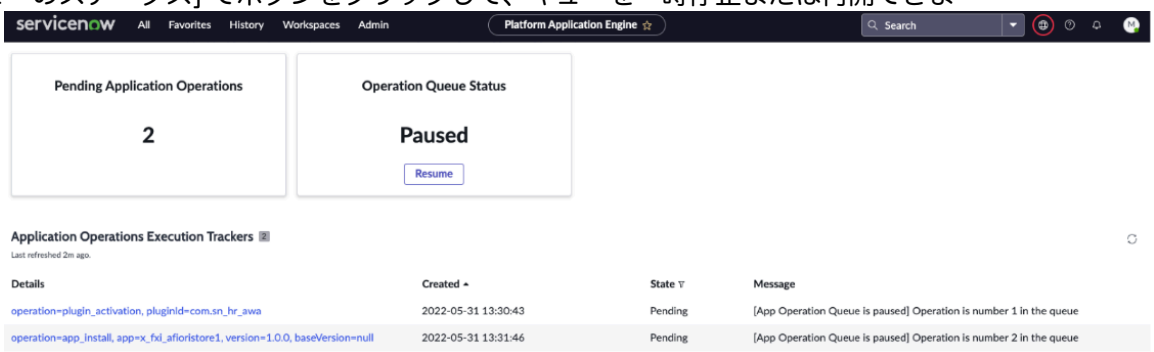
[すべてのアプリケーション] からの製品の手動インストールはキューに格納されますが、 [すべてのアプリケーション] または [アプリケーションマネージャー] などの UI からのアプリケーションの手動インストールはキューに格納されません。

インスタンスが大量の CICD 要求を受信、キューに格納、および処理していると、更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] が不足し、UI からの手動インストールが必要になる場合があります。これが発生した場合、アドミニストレーターはアプリケーション操作キューを一時的に停止できます。

アドミニストレーターは、[システム診断] -> [アプリケーション操作キュー] UI ページでアプリケーション操作キューを管理できます。[操作キューのステータス] パネルで、アドミニストレーターはキューを一時停止または再開できます。アドミニストレーターは処理待ちの実行トラッカーをキャンセルすることもできます。これにより、アプリ操作キュー健全性監視ジョブによって、対応するキューに格納されたメッセージが NowMQ から最終的に削除されます。

[アプリケーション操作キュー] UI ページ

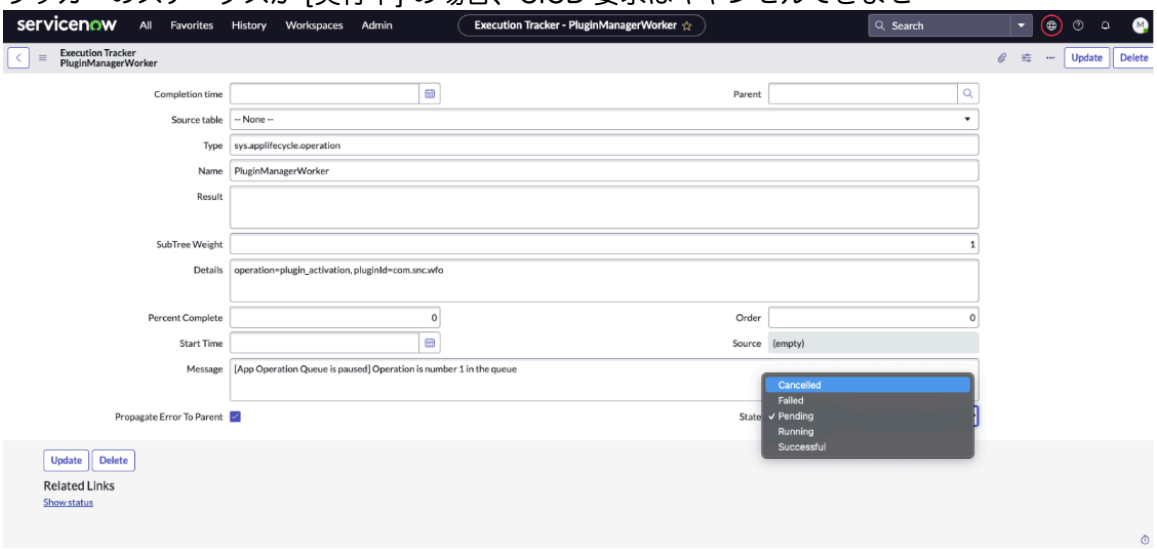
サンプル [アプリケーション操作キュー] UI ページ。アドミニストレーターは、[操作キューのステータス] でボタンをクリックして、キューを一時停止または再開できます。



[アプリケーション操作実行トラッカー] リストアイテムをクリックすると、実行トラッカーフォームが開きます。キューに格納されたメッセージがキュー内で処理待ちの場合、実行トラッカーのステータスを [キャンセル] に更新して変更を保存すると、対応するキューに格納された CICD 要求がキャンセルされます。注意：実

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

行トラッカーのステータスが [実行中] の場合、CICD 要求はキャンセルできませ

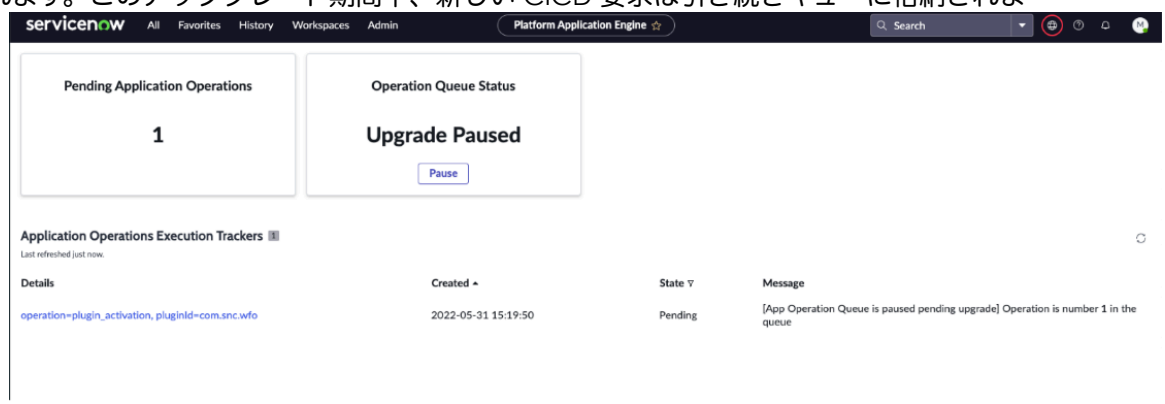


ん。

アプリケーション操作キューとアップグレード期間

デフォルトでは、スケジュールされたアップグレードの 2 時間前に (sys プロパティ「com.glide.update_operation.queue_upgrade_window」でカスタマイズ可能)、アプリケーション操作キューはキューに格納されたメッセージの処理を停止します。

アプリケーション操作キューのステータスが [アップグレードが一時停止しました] に変更されます。このアップグレード期間中、新しい CICD 要求は引き続きキューに格納されま



す。

アップグレードが完了すると、アプリケーション操作キューはキューに格納されたメッセージの処理を自動的に再開します。

CICD パイプラインへの影響

CICD API の既存の要求/応答契約は変更されません。Tokyo より前のリリースで見られた、更新 [インスタンス全体のロック/ミューテックス] の競合に起因する操作の失敗は、発生しなくなります。要求は、ジョブタイプに応じて 1 つずつ、または並行してキューに格納されて処理されます。

キューへの格納をサポートする CICD API

次の CICD API が処理のためにキューに格納されます。

- api/sn_cicd/app_repo/install
- api/sn_cicd/v1/app_repo/install
- api/sn_cicd/v2/app_repo/install
- api/sn_cicd/app_repo/rollback

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- api/sn_cicd/v1/app_repo/install
- api/sn_cicd/v2/app_repo/rollback
- api/sn_cicd/sc/apply_changes
- api/sn_cicd/v1/sc/apply_changes
- api/sn_cicd/v2/sc/apply_changes
- api/sn_cicd/app/batch/install
- api/sn_cicd/sc/import
- api/sn_cicd/plugin/{plugin_id}/activate
- api/sn_cicd/plugin/{plugin_id}/rollback

アプリケーションのインストールとプラグインのアクティブ化を並列化

Tokyo 以降、次の操作を他の操作と並行して実行できます。

- api/sn_cicd/app_repo/install
- api/sn_cicd/v1/app_repo/install
- api/sn_cicd/v2/app_repo/install
- api/sn_cicd/plugin/{plugin_id}/activate

すべてのキュー処理は、[インスタンス全体のロック/ミューテックス] を取得し、キューに格納された操作が完了するまでこのミューテックスを保持します。このロックは [更新ミューテックス] と呼ばれ、そのステータスは **[sys_mutex]** テーブルで表示できます。この間、この同じロックを取得する操作 (アプリのインストール、プラグインのアクティブ化、ソースコントロール操作) は UI を介して実行できません。現在実行中のジョブが完了した後でも、[アプリケーション操作キュー] ページでキューを一時停止してロックを解除できます。

並列化はデフォルトで有効になっています。これはプロパティ `com.glide.update_operation.parallel_operation_enabled` を使用してオフにすることができます。この場合、すべての操作は以前のリリースと同様にキューから順番に実行されます。

並列化の制限

キュープロセッサーは、キューに格納されたジョブを実行できるかどうかを判断します。ジョブが実行可能な場合、最初に使用可能になった時点でインスタンスノードによって取得されるようにスケジュールされます。可能でない場合は、キューに戻され、プロセッサーは処理のためにキュー内の次のジョブを評価します。

並列実行できるジョブの最大数には制限があり、デフォルトは 2 です。このプロパティは `glide.update.app_operation_queue.parallel.max` で切り替えることができますが、利用可能なスレッド数に上限があることに注意してください。インストールを実行して並列化を増やすと、アクティブなユーザーのインスタンスが遅くなる可能性があります。

リソースロックの取得

次のプラグインとアプリケーションは並行してインストールできません。

- カスタマイズを含む同じスコープを共有する 2 つの操作。
- スキーマを変更する 2 つの操作。
- 修正スクリプトを含む任意の 2 つの操作。

キューの処理は、キューに格納された操作がこれらの基準を満たしているかどうかを判断し、必要に応じて処理不可能なジョブを保留します。操作が適切なリソースロックの取得を待機しているかどう

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

かを反映して、ジョブの進捗状況 ID が更新されます。実行中の操作は、sys_padlock テーブル内のリソース (スコープ、スキーマ、存在する修正スクリプト) のリストを維持します。これらのロックの挿入と解除は、進行 ID によって確認できます。リソースに対して必要なロックを取得できないためにキューに格納されたジョブが保留されると、他のメッセージを処理できるようになります。クールダウン期間は、プロパティ `com.glide.update_operation.job_cancel_timeout_minutes` で変更できます。ジョブはまだキューにあり、[アプリケーション操作キュー] ページに表示されます。

キューがアプリケーションパッケージをダウンロードできない場合、または取得する必要があるリソースを確認するプラグインが見つからない場合は、そのキューに格納された操作に対してエラーをログに記録します。指定された回数リソースのプレビューに失敗すると、トラッカーは失敗し、ジョブはキューから削除されます。最大回数はデフォルトで 3 に設定され、`com.glide.update_operation.max_failure_count` プロパティで変更できます。

注: 必要なロックの取得に失敗しても、失敗とは見なされません。AppRepo からアプリケーションパッケージをダウンロードできないなど、発生したエラーのみがカウントされます。

ISV アプリケーションのカスタムライセンス

サブスクリプション管理 を使用して ISV アプリケーションの使用状況を監視します。収集するメタデータを含むストアアプリケーションの定義を作成します。アプリケーションを定義と共にストアに公開すると、使用状況アナリティクスが実行され、定義したメトリクスが集計されます。

概要

作成したアプリケーションは、ServiceNow Store に公開できます。カスタムライセンスを持つアプリケーションの使用状況を監視します。

次の基準を満たしている場合は、ServiceNow Store に公開する ISV アプリケーションでカスタムライセンスを使用できます。

- アプリケーションがライセンス可能である。
- アプリケーションが ServiceNow または Global でスコープ対象でない。
- アプリケーションにキャパシティサブスクリプションモデルがある。

カスタムライセンスは、使用状況アナリティクス (com.glide.usageanalytics) およびスコープ対象のアプリ作成者 (com.sn_appauthorr) プラグインを介して機能します。これらのプラグインは、App Engine ではデフォルトでアクティブです。さらに、インスタンスはアプリケーションリポジトリまたはアプリケーションストアインスタンスに接続されている必要があります。

カスタムライセンスの定義

カスタムライセンスは、定義を作成することで達成されます。定義は、アプリケーションについて収集する使用状況情報に基づいて定義する一連のライセンスメトリクスです。ストアアプリケーションの定義の作成 を参照してください。

ストアアプリケーションの定義の作成

ストアアプリの定義を作成して、収集するライセンスメトリクスを定義します。

始める前に

必要なロール：admin または developer

このタスクについて

開発中のアプリケーションまたは公開済みのアプリケーションの定義を作成します。ただし、公開されたアプリケーションに定義をアサインする場合は、新しい定義で再公開する必要があります。また、アプリケーションにアサインできる定義は 1 つだけです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: キャパシティサブスクリプションの定義のみを作成できます。「サブスクリプション管理のサブスクリプションのタイプ」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [会社のアプリケーション] に移動します。
2. アプリケーションを選択します。
3. [サブスクリプション管理] セクションで、[サブスクリプションモデル] を [キャパシティ] に設定します。
4. [ライセンス定義] の横にある検索アイコンを選択します。
   [アプリケーションライセンス定義] ポップアップがロードされます。
5. [新規] を選択します。
6. [アプリケーションライセンス定義] レコードを入力します。

フィールド	説明
名前	定義の名前。
説明	定義の簡単なサマリー。
メトリクスタイプ	収集されるメトリクスのタイプ。
周期	メトリクスの収集頻度。
パフォーマンス検証済み	定義のパフォーマンスをテスト済みの場合は、ボックスをオンにします。
テーブル	使用状況の判別に使用されるテーブル。 注: 現在のアプリケーションに関連付けられているテーブルのみがリスト表示されます。
クエリ	テーブルで使用する基準。
アグリゲーション	アグリゲーションのタイプ ◦ すべてのレコードをカウントするには、[カウント] に設定します。 ◦ 一意のレコードのみをカウントするには、[個別のカウント] に設定します。
アグリゲーション列	アグリゲーションに使用されるテーブル列。 注: 集計するには列のインデックスを作成する必要があります。
グループ	データをグループ化する基準となるテーブルの列。最大 3。 警告: 大文字と小文字を区別します。

7. [送信] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい定義が [アプリケーションライセンス定義] ポップアップに表示されます。

8. 定義を選択してアプリケーションに適用します。

次のタスク
アプリケーションの新しいバージョンを作成し、ServiceNow Store に公開します。アプリケーションのレビュー中に定義を変更すると、アプリケーションの後続のバージョンが却下される場合があります。アプリケーションが承認されて ServiceNow Store に公開されると、定義は読み取り専用になります。

既に ServiceNow Store にあるアプリケーションの定義を変更するには、新しい定義を作成し、新しいバージョンのアプリケーションを送信して、レビュープロセスを行う必要があります。

ドメインセパレーションと Creator Workflow アプリ

ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

ドメインセパレーションは、Creator Workflow アプリではサポートされていません。

サポートレベル: サポートなし

- ドメインフィールドがデータテーブル に存在している可能性がありますが、データを管理するロジックがありません。
- このレベルでは、ドメイン分割は考慮されません。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

アプリケーションのメンテナンス

アプリビルダーツールを使用して、アプリケーションを更新および変更します。テストツールを使用して、アプリケーションが引き続き正常に機能することを検証します。

分析とダッシュボード

パフォーマンスアナリティクスレポート	アナリティクスハブ
データの可視化と分析機能をワークスペースエクスペリエンスに統合します。	このインジケーターの探索的ビューを使用して、より詳細な分析を行います。特定のインジケーターの傾向、予測、ブレークダウン、および関連レコードを表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アナリティクスセンター

インスタンスのすべてのダッシュボード、可視化、分析回答、およびインサイトを 1 つのページで表示するプラットフォームアナリティクスワークスペースを使用します。

パフォーマンスアナリティクスダッシュボード

ロールベースのダッシュボードでリアルタイムのプロセスの健全性に関する統計情報の履歴を継続的に視覚化することで、個々のステークホルダーが情報に基づいた意思決定を行うことができるようにします。

セキュリティ

ソフトウェア資産管理

ソフトウェアライセンス、コンプライアンス、最適化を体系的に追跡、評価、管理します。

Security Operations

セキュリティツールからのインシデントデータを構造化された応答エンジンに取り込みます。このエンジンは、インテリジェントなワークフロー、自動化、IT との緊密な連携により、組織に与える影響に基づいて脅威の優先順位付けと解決を行います。

サービスマッピング

組織内のすべてのアプリケーションサービスを検出し、これらのアプリケーションサービスで使用されるすべてのデバイス、アプリケーション、および構成プロファイルの包括的なマップをビルドします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションの健全性の監視

アプリケーションサービスダッシュボードを使用して、アプリケーションサービスの健全性ステータスを監視します。次に、不完全なアプリケーションサービスを設定し、不足している詳細を追加することで、不完全なアプリケーションサービスの数を減らすことができます。

その他の情報について

アナリティクスセンター

App Engine Studio のアナリティクスセンターページで新しいワークスペースを作成するか、アナリティクスセンターページテンプレートからページを作成できます。いずれの方法でも、プラットフォームアナリティクスワークスペースのアナリティクスセンターと同じ機能を使用できます。

アナリティクスハブ

アナリティクスハブで、データの集計、スコアの比較、経時変化の表示によってインジケータースコアを分析し、ブレークダウンでスコアをフィルタリングします。ターゲット、しきい値、トレンドライン、重要な変更に関する有用なコメントを追加して、アナリティクスハブを拡張します。

アプリケーション健全性の監視

アプリケーションサービスダッシュボードを使用して、アプリケーションサービスの健全性ステータスを表すカウントを監視します。次に、不完全なアプリケーションサービスを設定し、不足している詳細を追加することで、不完全なアプリケーションサービスの数を減らします。アプリケーションサービスを効果的に使用するために、アプリケーションサービスが完全に構成され、設定されていることを確認します。

パフォーマンスアナリティクスダッシュボード

従業員は、データベースやスプレッドシートからデータをエクスポートする代わりに、ボタンをクリックするだけで、関連するパーソナライズされたインサイトを得ることができます。すぐに古くなってしまうレポートを手動で作成する必要はありません。

パフォーマンスアナリティクスレポート

KPI を確認し、分析に関する回答とインサイトを得ます。プラットフォームアナリティクスワークスペース内では、自然言語で質問し、関連する分析をその場でビジュアル化して表示したり、所有または共有している Next Experience ダッシュボードを表示したり、ワークスペースランタイムからダッシュボードやデータのビジュアル化を作成したりできます。

Security Operations

ServiceNow® セキュリティインシデントレスポンスアプリケーションは、検出と初期分析から、封じ込め、根絶、および最終的なインシデントの事後レビュー、ナレッジ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベース記事の作成、およびクローズに至るまで、セキュリティインシデントの進捗状況を追跡します。

サービスマッピング

サービスマッピングでは、 PaaS (Platform as a Service) を提供する企業、組織、クラウド企業の IT 部門が、インフラストラクチャのサービス認識型ビューを作成できるようにします。

ソフトウェア資産管理

ServiceNow® ソフトウェア資産管理 (SAM) アプリケーションは、ソフトウェアライセンス、コンプライアンス、および最適化を体系的に追跡、評価、および管理します。未使用のソフトウェア権限を再利用したり、新しいソフトウェア権限を購入したり、エンタイトルメントの割り当てを管理したりできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。